

2016 年度

授業計画/シラバス



基礎科目

キリスト教概論A（A）		CHRI-O-101
担当教員：吉岡 光人		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 111001A1
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 聖学院大学の建学の精神とキリスト教</div> <div>02. キリスト教と人生</div> <div>03. キリスト教と現代世界</div> <div>04. 礼拝へ招き</div> <div>05. 聖書の世界 旧約（1） 創世記</div> <div>06. 聖書の世界 旧約（2） 出エジプトと十戒</div> <div>07. 聖書の世界 旧約（3） ダビデ王朝</div> <div>08. 聖書の世界 旧約（4） 王国の滅亡とバビロン捕囚</div> <div>09. 聖書の世界 新約（1） 新約聖書の全体像</div> <div>10. 聖書の世界 新約（2） イエスの奇跡</div> <div>11. 聖書の世界 新約（3） イエスのたとえ話</div> <div>12. 聖書の世界 新約（4） イエスの受難と復活</div> <div>13. 聖書の世界 新約（5） 使徒の働き</div> <div>14. 聖書の世界 新約（6） 黙示録</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>キリスト教とはどんな宗教なのかということを知るによって、世界の歴史や現代社会など目に見える世界を理解すること、そして人間存在とは何か、自分とは何か、人を愛するとは何かなど人間が生きてゆく上での基本的な課題に対しても理解を深めることを学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>聖書を中心に、聖書の宗教観・人間観を学ぶ。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>聖書および教科書『神を仰ぎ人に仕う』でその日の授業に該当する箇所を読んでおく。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>キリスト教に初めて触れる学生には馴染みが薄い分野ですので、わからない箇所は遠慮なく質問してください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>各回の講義配布されたレジュメを読み返しておく。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加度 40%</div> <div>(2) 教会出席レポート及び全学礼拝レポート 30%</div> <div>(3) 期末試験もしくは期末レポート 30%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 聖書の世界観を学ぶ</div> <div>・ 聖書が示す生き方を学ぶ</div>	<div>教科書</div> <div>日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）</div> <div>聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）</div> <div>聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラルサービス）</div> <div>参考書</div> <div>講義の中で指示する。</div>	

キリスト教概論A（C-1）		CHRI-0-101
担当教員：石田 学		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：111001C1
学部教育の関連目 【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		授業計画 01. 序論（1）：ようこそ、聖学院大学へ。なぜこの大学では「キリスト教概論を学ぶのか」、講義要領説明 02. 序論（2）：キリスト教と人生。キリスト教が人生に持つ意味。本学の精神と課題レポートの説明。 03. キリスト教と現代世界。キリスト教礼拝の持つ意味。聖書・賛美歌の解説と使い方、キリスト教礼拝の説明。 04. 礼拝への招き：礼拝紹介と、キリスト教の伝統と歴史入門。 05. キリスト教とは何か：教会の儀式と暦、習慣を知ろう。 06. 旧約聖書（1）：旧約聖書と新約聖書、どう違うか。古代オリエント世界の紹介。 07. 旧約聖書（2）：天地創造と、アブラハム、イサク、ヤコブの物語。 08. 旧約聖書（3）：ヨセフ物語前編。売られたヨセフ。 09. 旧約聖書（4）：ヨセフ物語後編。神の摂理とは何か。 10. 旧約聖書（5）：出エジプトの物語、前編。神の人モーセ。 11. 旧約聖書（6）：出エジプトの物語、後編。「エクソダス」。 12. 旧約聖書（7）：「十戒」を学ぶ。 13. 旧約聖書（8）：「約束の地」カナン定住とダビデ王の物語。 14. 旧約聖書（9）：ソロモンと王国の物語。 15. 旧約聖書（10）：その後のイスラエルの歴史と預言者たち。
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 この講座は、キリスト教についての基本的な知識を紹介し、聖書の内容を概説します。まずプロテスタント・キリスト教主義の大学で学ぶ意義からはじめ、キリスト教の礼拝、行事などをとりあげ、ついで前期はおもに旧約聖書を紹介します。 聖書は、文学、芸術、音楽、思想など文化のあらゆる面で大きな影響を与えてきました。キリスト教主義の大学で学ぶ特権を生かして、キリスト教に触れる機会を持っていただき、キリスト教についての基礎知識を知りたいと思います。		
(2) 学びの意義と目標 今日、日本人のキリスト教人口比率は1%未満にすぎません。しかし、キリスト教が日本の文化と社会に与えて来た影響は、歴史的に見てとても大きいのです。政治、経済、思想、社会の仕組みなどはもちろん、文学や音楽、芸術の分野でもキリスト教抜きには、近代日本を正しく理解することはできません。日本という枠を超えて、世界に目を向けるとき、キリスト教抜きには、世界の歴史と現況を理解することはできないといっても過言ではありません。いろいろな意味において、キリスト教は人類の価値観、文化形成に影響を与え、人類の思想的発展を促して		
受講者に対する要望 なるべく皆さんが興味を持つことのできる内容を心がけますので、皆さんも前向きに受講してください。		準備学習(予習) 1) 教科書の指定箇所を予め読んで来て下さい。 2) 聖書を必ず持参して下さい。 3) ダウンロードしたファイルに予め目を通しておいてください。授業はファイルに沿って進めます。
		準備学習(復習) 1) ワークシートは皆さまのノートになりますので、内容を確認しながら、ダウンロードしたファイルを見直して下さい。
		評価方法 (1) 学期末試験 80% ノート・配布資料持ち込み可での記述式試験。 (2) レポート 10% 必須課題 (3) 授業への参加度、平常点 10% 総合的に評価します。 <small>毎回、パワーポイントを用いたプレゼンテーションをおこないます。毎回のプレゼンテーションの内容は、pdfファイル化したものをUNIPAから入る当講座の資料欄にアップします。皆さんそれぞれダウンロードして、予習・復習に利用して下さい。授業時にはパワーポイントの内容に対応したワークシートを配布します。それをノートとして利用して下さい。</small>
学びのキーワード ・礼拝 ・聖書 ・芸術 ・文化 ・歴史		教科書 日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会） 聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院大学出版会） 聖学院キリスト教センター編 『聖学院の歴史と源流』（聖学院ゼナラル・サービス） 参考書

キリスト教概論A（C-2）		CHRI-0-101							
担当教員：五十嵐 成見									
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：111001C2							
学部教育の関連目		授業計画							
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける									
カリキュラム上の位置付け									
(1) 内容									
「物語」（ストーリー）や、「言葉」を知っていくことが、どのように人生を歩んでいくかを深く考えたり、あるいは、苦境に立たされる時の重要な手助けや支えとなる。特に幼児・子どもへの教育に対しては、言葉・物語の伝授が成長の鍵となるが、聖書が語るストーリーや言葉は、よき感化を与え続けてきている。本講義では、聖書の中の、特に旧約聖書において語られているストーリーや言葉を、特に中盤以降から学んでいく。前半は、本学がその教育理念としているキリスト教とその精神を学ぶ。主にキリスト教に初めて接する学生を対象にしているが、以前		01. ようこそ、聖学院大学へ～あなたのミッションを見つける旅へ～ 02. キリスト教と人生～目からウロコの生き方～ 03. キリスト教と現代世界～地球を俯瞰する見方のために～ 04. 礼拝への招き～真のスピリットを生み出す場～ 05. 聖書とは何か～旧約聖書を知ると世界がわかる～ 06. 旧約聖書を学ぶ① 世界と人間の創造 07. 旧約聖書を学ぶ② 人間の罪とは何か 08. 旧約聖書を学ぶ③ 人間の欲望がもたらすもの 09. 旧約聖書を学ぶ④ グランドラインに立つアブラハム 10. 旧約聖書を学ぶ⑤ 約束の地へ踏み出せ～出エジプト～ 11. 旧約聖書を学ぶ⑥ 約束の地へ踏み出せ～出エジプトⅡ～ 12. 旧約聖書を学ぶ⑦ 神の言葉を託されたもの～預言者～ 13. 旧約聖書を学ぶ⑧ それでも人生にイエスと言う～ヨブの苦難から～ 14. 旧約聖書を学ぶ 総括 15. まとめ及び試験							
(2) 学びの意義と目標									
キリスト教の知識及びその精神を理解することによって、世界に通用する幅広い教養を身に着けることができる。また、旧約聖書は、神と人間を巡るドラマや描かれ、また知恵の言葉が語られているが、その内容の意味や意義を把握することによって、人間らしい生き方を模索するための思考力を形成する。									
準備学習(予習)									
毎講義の最後に指定する聖書箇所及び指定テキストの頁をあらかじめ読んでおくことを必須とする。		準備学習(復習)							
講義毎に言及した本や映画等を積極的に読んだり、鑑賞することを勧める。									
評価方法									
<table><tr><td>(1) 出席及び参加度</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 試験</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 全学礼拝レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 教会出席レポート</td><td>20%</td></tr></table> <p>試験と礼拝レポートの詳細については講義で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は、評価の対象としない。</p>			(1) 出席及び参加度	40%	(2) 試験	20%	(3) 全学礼拝レポート	20%	(4) 教会出席レポート
(1) 出席及び参加度	40%								
(2) 試験	20%								
(3) 全学礼拝レポート	20%								
(4) 教会出席レポート	20%								
受講者に対する要望		教科書							
授業では、各学生の積極的な発言を求める。グループディスカッションも予定しているため、活発な意見交換を求める。									
学びのキーワード									
・キリスト教精神 ・愛 ・言葉 ・物語（ストーリー） ・教育									
		参考書							
		講義において指示する。							

キリスト教概論A（D）		CHRI-0-101						
担当教員： 田中 かおる								
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 111001D1						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 「ようこそ、聖学院大学へ」 02. キリスト教と人生 03. キリスト教と現代社会 04. 礼拝への招き 05. 旧約聖書（１）…天地創造（創世記1章） 06. 旧約聖書（２）…アダムとエバ（創世記１～３章） 07. 旧約聖書（３）…カインとアベル（創世記４：１～１５） 08. 旧約聖書（４）…箱舟物語（創世記６～８章） 09. 旧約聖書（５）…アブラハム とイサク（創世記１２章他） 10. 旧約聖書（６）…ヤコブ（創世記２５：１９～他） 11. 旧約聖書（７）…ヨセフとその兄弟たち（創世記３７章他） 12. 旧約聖書（８）…モーセ（１）（出エジプト1章他） 13. 旧約聖書（９）…モーセ（２）（出エジプト１４章他） 14. 旧約聖書（１０）…十戒（出エジプト２０：１～１７） 15. まとめ</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>この授業は、聖学院大学の建学の精神であるキリスト教への理解を深めることを目的とする。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>キリスト教は、現在の私達の日常生活、また明治以降の日本の教育界にもいろいろな形で影響を与えてきた。そういうことを点検しながら、キリスト教に親しみ、聖書のメッセージに直接触れて、理解を深めていきたい。 聖書は旧約聖書を取り上げ、そこに示されている人間観とそれに対する神の関わりという視点から学び、今日の社会の問題との接点を共に考えていく。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>聖書の該当箇所を読んでおく。
</div>							
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回、聖書を持参すること。
</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義内容を確認する。</div>							
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 建学の精神（聖学院の歴史） ・ 日本の教育界への影響 ・ 聖書の人間観（旧約）</div></div>	<div>評価方法</div> <table><tr><td>（１）毎回の小レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>（２）礼拝レポート</td><td>30%</td></tr><tr><td>（３）試験</td><td>50%</td></tr></table> <div>教科書</div> <div>日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会） 聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会） 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）</div> <div>参考書</div>		（１）毎回の小レポート	20%	（２）礼拝レポート	30%	（３）試験	50%
（１）毎回の小レポート	20%							
（２）礼拝レポート	30%							
（３）試験	50%							

キリスト教概論A（J-1）		CHRI-0-101								
担当教員：柳田 洋夫										
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 111001J1								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ようこそ、聖学院大学へ 02. キリスト教と人生 03. キリスト教と現代世界 04. 礼拝への招き 05. 三位一体の神・神の国・教会 06. プロテスタントとは何か 07. 神の創造と人間の墮罪 08. 神の救済と人間の自己栄化 09. 族長たちの活躍（1） 10. 族長たちの活躍（2） 11. 出エジプトと「十戒」 12. イスラエル王国の盛衰と預言者たち 13. 諸書の世界：「ヨブ記」・「詩篇」・「箴言」（1） 14. 諸書の世界：「ヨブ記」・「詩篇」・「箴言」（2） 15. まとめ</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>キリスト教は、民主主義や資本主義を柱とするこの近代世界を成立させた原動力であるとともに、私たちに生きる勇気と指針を与えるものでもある。春学期は、初学者にも理解できるキリスト教入門を心がけつつ、キリスト教信仰の概略と旧約聖書について学ぶ。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>聖書に親しみ、キリスト教についての基礎知識を習得するとともに、キリスト教によって培われる新しい生き方とは何かについて考察し、それぞれの実践に生かす。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業においてその都度指示する。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業においてその都度指示する。</div>									
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>50%</td><td>規定に満たない場合は評価の対象としない</td></tr><tr><td>(2) 試験</td><td>30%</td><td>規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない</td></tr><tr><td>(3) 礼拝レポート</td><td>20%</td><td>必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない</td></tr></table> <div>授業への参加度、試験、礼拝レポートをすべて満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。</div>		(1) 授業への参加度	50%	規定に満たない場合は評価の対象としない	(2) 試験	30%	規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない	(3) 礼拝レポート	20%
(1) 授業への参加度	50%	規定に満たない場合は評価の対象としない								
(2) 試験	30%	規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない								
(3) 礼拝レポート	20%	必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない								
<div>学びのキーワード</div> <div>・キリスト教 ・旧約聖書</div>	<div>教科書</div> <div>『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会） 聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会） 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）</div> <div>参考書</div>									

キリスト教概論A（J-2）

CHRI-0-101

担当教員：東野 尚志

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：111001J2

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、聖書に初めて触れる学生に配慮しながら、キリスト教の基本的な教えを聖書に即して学んでいく。春学期は、特に、聖書の世界観、人間観、救済観等について、旧約聖書の物語を味わいながら解説する。

(2) 学びの意義と目標

キリスト教の基本的な知識を得ることによって、キリスト教大学である聖学院大学で学ぶことの意味を捉え直す。さらに、旧約聖書の物語に描かれた神と人間の問題を学ぶことを通して、自分自身の存在と生き方を問い直すための確かな足場を築く。

受講者に対する要望

出席を重視する。授業に遅刻しないように心がけ、積極的に参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・旧約聖書
- ・神と人間
- ・罪
- ・契約
- ・預言

授業計画

01. オリエンテーションーようこそ、聖学院大学へ
02. キリスト教と人生ーキリスト教を学ぶ意味
03. 礼拝への招きー聖書・讃美歌の用い方
04. キリスト教の基礎知識
05. 聖書の世界
06. （キリスト教週間の振り返り）
07. 天地創造
08. 人間の創造
09. 人間の罪
10. 族長の物語
11. エジプト脱出
12. 契約と律法
13. 約束の地
14. 王国物語
15. 預言

準備学習(予習)

あらかじめ指示されたテキストをよく読んで、授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業において、その都度指示する

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------|
| (1) 平常点 | 30% | 3分の2以上出席すること |
| (2) レポート提出 | 30% | 教会出席と全学礼拝出席 |
| (3) 試験 | 40% | |

教科書

日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）
聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人になうーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）
聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

参考書

キリスト教概論A（P-1）		CHRI-0-101									
担当教員： 菊地 順											
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 111001P1									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ようこそ、聖学院大学へ 02. キリスト教と人生 03. キリスト教と現代世界 04. 礼拝への招き 05. 聖書と啓示 06. 人間とは何か(1)（人間の創造） 07. 人間とは何か(2)（人間の墮罪） 08. イスラエルの歴史と信仰(1)（アブラハムの生涯） 09. イスラエルの歴史と信仰(2)（ヤコブの生涯） 10. イスラエルの歴史と信仰(3)（ヨセフの生涯） 11. 出エジプト 12. 十戒と律法 13. 預言者たちの活動 14. 預言者とメシア思想 15. まとめ—ユダヤ教からキリスト教へ</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。春学期は、初めの4回は、初年児教育として、大学およびキリスト教への導入の授業を行います。その後、旧約聖書に基づいて、キリスト教の背景をなすユダヤ教（イスラエル宗教）の世界について、特にその世界観・人間観、その歴史、及びキリスト教との関連について学びます。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけではなく、現代世界の一つの重要な精神文化を担っている宗教ですので、この授業をとおして、大学での学びの基礎を身に付けると同時に、世界や歴史を見る目を養うことを目指します。</div>											
<div>受講者に対する要望</div> <div>初めてキリスト教に触れる人も多いと思いますが、上述したキリスト教を学ぶ意義を理解し、開かれた心をもって授業に臨んでほしいと思います。また、授業で学んだことだけにとどまるのではなく、関心のあるところを自分で深めていく努力をしてほしいと思います。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>この授業は基本的にテキストに添って行ないます。予習としては、毎回授業の最後に次回の予告をしますので、それに従って予めテキストの下読みをしてください。</div>									
		<div>準備学習(復習)</div> <div>復習としてはノートとテキストの内容の確認を中心に行ってください。また自分の関心のあるところを調べ、知識を深めてください。</div>									
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 試験</td><td>60%</td><td>最後の授業時に1回行う</td></tr><tr><td>(2) 平常点</td><td>20%</td><td>3分の2以上出席すること</td></tr><tr><td>(3) 課題</td><td>20%</td><td>教会出席レポートと全学礼拝レポート</td></tr></table> <div>以上の3点を総合して成績を出します。ただし、欠席が3分の1以上の人、あるいは課題の未提出者は、試験を受けることができませんので、注意すること。</div>	(1) 試験	60%	最後の授業時に1回行う	(2) 平常点	20%	3分の2以上出席すること	(3) 課題	20%	教会出席レポートと全学礼拝レポート
(1) 試験	60%	最後の授業時に1回行う									
(2) 平常点	20%	3分の2以上出席すること									
(3) 課題	20%	教会出席レポートと全学礼拝レポート									
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・キリスト教・聖書・神・人間・歴史</div>		<div>教科書</div> <div>日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会） 聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会） 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）</div> <div>参考書</div>									

キリスト教概論A（P-2）		CHRI-0-101	
担当教員： 野島 邦夫			
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 111001P2	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける			
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
キリスト教は聖学院大学の精神的土台です。この大学で初めてキリスト教に触れる方が多いでしょう。それで、まず「宗教」は皆様のような若い人たちにも必要かどうか、必要であるならどのように必要なのかを考えます。自分との「関わり」がわからなくては、学ぼうという意欲がわかないでしょうから。さらに、宗教が必要だと言っても、「なぜキリスト教なのか」を考えます。キリスト教は、あなたのどのような求めに対して、どのように答えてくれるのでしょうか。次に、キリスト教会（とくに礼拝）の実際を、写真や資料などを用いてわかりやすく説明しま		01. はじめに：ようこそ、聖学院大学へ 02. キリスト教とあなたの人生 03. キリスト教と現代社会 04. 礼拝（教会）への招き 05. 聖書（旧約＋新約）とは何か、どんな内容か？ 06. キリスト教の神（「神」はただひとり） 07. 神は創造者（人間は創られたもの） 08. 私たちの心の中の悪 09. アダムの墮落 10. 善悪の基準 11. モーセの十戒 12. キリスト教の救い 13. 旧約の歴史（1）アダムからモーセまで 14. 旧約の歴史（2）モーセからバビロン捕囚まで 15. まとめ	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
「キリスト教国」ではない日本で、若い時キリスト教に触れることは一生の掛け替えのない財産となるにちがいありません。 キリスト教は二千年来この世界を導いてきた精神的支柱の一つです。キリスト教を知らなくては、世界の歴史も現代社会の動きもよく理解できないでしょう。哲学を始め様々な学問の分野でも、音楽を始め芸術の分野でも大きな影響を与えて来ました。また、今世紀に入って、世界の情勢によい意味でも悪い意味でも諸宗教が深くかかわっています。その中でキリスト教の真の姿を知っておくことが、どうしても必要です。 しかし、それ以			
受講者に対する要望			準備学習(復習)
素直な気持ちでキリスト教を知りたいと思っている方々は、どなたでも歓迎します。授業中に聖書をしばしば使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不可）を毎回持って来てください。			
学びのキーワード		評価方法	
・キリスト教 ・宗教 ・旧約聖書 ・神 ・人間			
教科書			参考書
日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会） 聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会） 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）			

キリスト教概論A（P-3）

CHRI-0-101

担当教員：山ノ下 恭二

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：111001P3

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義ではキリスト教の基礎であるキリスト教の神、聖書について詳しく解説し、旧約聖書の内容を詳しく解説していく。

キリスト教に触れるのは初めての学生も多いと考えているので、キリスト教の中心的メッセージを明確にしつつ、特に旧約聖書の中心的な用語についても詳しく解説していく。

(2) 学びの意義と目標

キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的な内容を理解すると共に、自分の生き方を聖書から考えることを目標とする。

受講者に対する要望

授業に遅刻せず、真剣に講義を聴き、全学礼拝レポート、教会礼拝レポートを指定された日時に提出してほしい。

学びのキーワード

- ・礼拝とは何だ
- ・キリスト教の神とは
- ・旧約聖書には何が書いてある
- ・契約とは。戒めとは。
- ・預言とは何だ

授業計画

01. キリスト教を学ぶ意味
02. 聖学院の精神について
03. 全学礼拝・教会礼拝について
04. キリスト教の基礎知識
05. 聖書について
06. 創造について（1）
07. 創造について（2）
08. 堕落と滅びについて
09. 族長物語
10. 出エジプト
11. 契約と律法
12. 預言書（1）
13. 預言書（2）
14. 知恵文学（1）
15. 知恵文学（2）

準備学習(予習)

『聖書』『神を仰ぎ、人に仕う』は、毎回、必ず持参すること。
『神を仰ぎ、人に仕う』を予め、読んでくること。

準備学習(復習)

講義で触れた聖書、教科書、をよく読むこと

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点・態度 | 40% |
| (2) レポート提出 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）
聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人にはうーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）
聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

参考書

キリスト教概論A (W-1)

CHRI-0-101

担当教員：阿部 洋治

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：111001W1

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、日本におけるキリスト教の歴史に目を向けながら、キリスト教に否定的であった日本社会の問題と、弾圧にもかかわらず信仰を貫いた人々の信仰と生活を学びたい。

(2) 学びの意義と目標

弾圧の下にあって信仰を貫いた人々の信仰と生活に思いをめぐらすことで、自分たちの生きる意味を模索するきっかけをつかんでほしい。

受講者に対する要望

ただ知識を学ぶのではなく、自分自身の生き方を探求する姿勢を養ってほしい。

学びのキーワード

- ・ 生きる意味
- ・ キリスト
- ・ 歴史の担い手
- ・ 個人の尊厳

授業計画

01. ようこそ、聖学院大学へ
02. キリスト教と人生
03. キリスト教と現代世界
04. 礼拝への招き
05. I キリシタン時代 | 1 キリシタンの伝来 |
06. 2. キリシタンに出会った人々
07. 3. 秀吉による弾圧
08. 4. 迫害下の信仰者たち
09. II 開国とキリスト教 | 1. 開国に関わった人々(ペリーとハリス)
10. 2. 宣教師たちの働き(ヘップボーン、フルベック)
11. 3 明治政府のキリシタン弾圧
12. III 明治政府とキリスト者 | 1. 新島 襄とその働き
13. 2. 儒教重視とキリスト教批判
14. 3. 不敬事件とキリスト教学校弾圧
15. まとめ

準備学習(予習)

指定の教科書を自分で読んでほしい。

準備学習(復習)

授業で触れたことで興味のあることについて図書館でさらに調べる姿勢をもってほしい。また授業で示唆する図書を自分で読んでほしい。

評価方法

- | | |
|-----------------------------|------|
| (1) 試験 | 100% |
| (2) 欠席が3分の2以上の場合には単位取得は不可とな | 欠席は |
| (3) レポート提出は必須。完了しない場合は単位取得 | |

教科書

日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)
聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人になう—キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)
聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』(聖学院ゼネラル・サービス)

参考書

片岡弥吉『日本キリシタン殉教史』(時事通信社)

キリスト教概論 A (W-2)

CHRI-0-101

担当教員：東野 尚志

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：111001W2

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、聖書に初めて触れる学生に配慮しながら、キリスト教の基本的な教えを聖書に即して学んでいく。春学期は、特に、聖書の世界観、人間観、救済観等について、旧約聖書の物語を味わいながら解説する。

(2) 学びの意義と目標

キリスト教の基本的な知識を得ることによって、キリスト教大学である聖学院大学で学ぶことの意味を捉え直す。さらに、旧約聖書の物語に描かれた神と人間の問題を学ぶことを通して、自分自身の存在と生き方を問い直すための確かな足場を築く。

受講者に対する要望

出席を重視する。授業に遅刻しないように心がけ、積極的に参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・旧約聖書
- ・神と人間
- ・罪
- ・契約
- ・預言

授業計画

01. オリエンテーションーようこそ、聖学院大学へ
02. キリスト教と人生ーキリスト教を学ぶ意味
03. 礼拝への招きー聖書・讃美歌の使い方
04. キリスト教の基礎知識
05. 聖書の世界
06. (キリスト教週間の振り返り)
07. 天地創造
08. 人間の創造
09. 人間の罪
10. 族長の物語
11. エジプト脱出
12. 契約と律法
13. 約束の地
14. 王国物語
15. 預言

準備学習(予習)

あらかじめ指示されたテキストをよく読んで、授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業において、その都度指示する

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------|
| (1) 平常点 | 30% | 3分の2以上出席すること |
| (2) レポート提出 | 30% | 教会出席と全学礼拝出席 |
| (3) 試験 | 40% | |

教科書

日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)
聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人になうーキリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)
聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』(聖学院ゼネラル・サービス)

参考書

キリスト教概論B（A①）		CHRI-0-102
担当教員：吉岡 光人		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 111002A3
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. キリスト教会の歴史（1） 初代教会～古代教会 02. キリスト教会の歴史（2） 中世の教会 03. キリスト教会の歴史（3） 宗教改革時代1 04. キリスト教会の歴史（4） 宗教改革時代2 05. キリスト教会の歴史（5） 17世紀～18世紀 06. キリスト教会の歴史（6） 18世紀～19世紀 07. キリスト教会の歴史（7） 20世紀前半 08. キリスト教会の歴史（8） 20世紀後半 09. 日本におけるキリスト教会の歴史（1） キリシタン時代 10. 日本におけるキリスト教会の歴史（2） 明治時代1 11. 日本におけるキリスト教会の歴史（3） 大正時代～昭和初期 12. 日本におけるキリスト教会の歴史（4） 第二次世界大戦下の時代 13. 日本におけるキリスト教会の歴史（5） 敗戦後 14. 日本におけるキリスト教会の歴史（6） 現代 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>キリスト教会の歴史を学ぶことを通して、そこに現れているキリスト教の人間観、倫理観、世界観などを学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>キリスト教会の歴史は、世界の歴史に大切な価値観を提供してきた。それを学ぶことにより、現代において、適切な判断力を見出していきたい。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>馴染みのない事柄もあると思うが、わからないことは積極的に質問して頂きたい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>キリスト教概論Aで学んだ基礎知識を前提に講義を進めるので聖書と教科書の内容をよく理解しておくこと。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>レジュメを配布するのでそれを読み返しておくこと</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への参加度50%</div><div>(2) 教会出席レポート及び全学礼拝レポート20%</div><div>(3) 試験30%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・キリスト教がわかると「ああ、そうだったのか!」と世界が見えてくる。</div>	<div>教科書</div> <div>日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会） 聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会） 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）</div> <div>参考書</div> <div>授業で指示する。</div>	

キリスト教概論B（C-1）		CHRI-0-102
担当教員：石田 学		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 111002C3
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. はじめに:講座の概要説明、イエスとその時代を知ろう。ヘレニズムとローマ帝国</div> <div>02. イエス・キリストの生涯（1）:クリスマスの出来事。</div> <div>03. イエス・キリストの生涯（2）:教えと働き、「よいサマリヤ人」のたとえ。</div> <div>04. イエス・キリストの生涯（3）:愛と憐れみ、「王の裁き」「放蕩息子」のたとえ。</div> <div>05. イエス・キリストの生涯（4）:十字架と復活(前編)。</div> <div>06. イエス・キリストの生涯（5）:十字架と復活（後編）。</div> <div>07. イエス・キリストの生涯（6）:ビデオ鑑賞。</div> <div>08. パウロの働き:「異邦人」への教会の拡がり。</div> <div>09. 人間とはなにか:キリスト教的人間観に触れる。</div> <div>10. 罪とはなにか:キリスト教的罪理解を学ぶ。</div> <div>11. 「いのち」について考えてみよう:生命倫理と科学技術</div> <div>12. キリスト教は結婚をどのように考えるか。</div> <div>13. イエスからキリスト教へ:キリスト教の教えと歴史概略。</div> <div>14. 真の霊性を求めて:キリスト教のスピリチュアリティ。</div> <div>15. まとめ:人間の未来と教会の役割。</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この講座では、前半に新約聖書の内容を学びます。イエス・キリストの教えと働き、その生涯と死、復活の意味、そして教会の誕生までを概観します。</div> <div>後半では、キリスト教思想に基づく人間観、歴史観、倫理観などについて、なるべく具体的な話を交えながら、紹介します。</div> <div>基本的にパワーポイントを用いたプレゼンテーションをおこないます。後半ではビデオや映像による資料も用いるようにします。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現代世界は、いろいろな問題が複雑に絡み合い、善悪を単純に判断することのできない世の中です。そのような中で「善く生きる」を主題として、価値観を共に考えてゆきましょう。よりよい社会を築くため、どのような生き方をすべきかを考える手がかりを得ていただけたらと思います。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の指定箇所を読んできて下さい。前半は聖書必修です。Elearning のファイルに目を通してください。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ワークシートとpdfファイルを用いて復習して下さい。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>1) 授業への積極的な参加を期待します。</div> <div>2) 予習・復習を心がけてください。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 学期末試験80%</div><div>(2) 課題レポート10%</div><div>(3) 授業への参加度および平常点10%</div></div> <div>ノート・配布資料持ち込み可の記述試験。</div> <div>キリスト教概論共通の必修課題です。</div> <div>最終的に総合評価します。</div> <div>授業はパワーポイントを用いて進めます。パワーポイントのデータはpdfファイル化して、Elearningの当講座にアップロードします。各自ダウンロードして予習・復習をしてください。授業時には書き込みスペースを設けたワークシートを配布します。それをノートとして利用して下さい。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・キリスト</div> <div>・十字架</div> <div>・復活</div> <div>・人間観</div> <div>・キリスト教倫理</div>		<div>教科書</div> <div>日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）</div> <div>聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院大学出版会）</div> <div>参考書</div>

キリスト教概論B（C-2）		CHRI-0-102
担当教員：五十嵐 成見		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：111002C4
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
イエス・キリストが語り、実践し、達成した出来事が、キリスト教精神を支えている核である。本講義では、前半から中盤にかけて、イエス・キリストの語った言葉と行った出来事を集中的に学ぶ。後半にかけては、キリスト教が、世界の歴史や、デモクラシー及び人権思想を形成したことを学ぶ。さらにその影響が日本にも及んでいることを学ぶ（人権思想は、幼児・子どもの良き教育を営むために、不可欠なものである）。最後に、現代のキリスト教が抱えている問題を共有する。		01. 「キリスト」教たる理由～イエス・キリストと新約聖書～ 02. イエス・キリストの福音Ⅰ～山上の説教～ 03. イエス・キリストの福音Ⅱ～続・山上の説教～ 04. イエス・キリストの福音Ⅲ～続々・山上の説教～ 05. イエス・キリストの福音Ⅳ～失われた兄弟たち～ 06. イエス・キリストの福音Ⅴ～「隣る人」になりなさい～ 07. イエス・キリストの生涯Ⅰ～なぜ教会に十字架がついているのか～ 08. イエス・キリストの生涯Ⅱ～イースターの神秘～ 09. イエス・キリストの弟子たちの働き～愛の賛歌～ 10. 教会の歴史と世界の歴史～古代・中世教会～ 11. クリスマスの意味 12. 宗教改革・プロテスタンティズム・デモクラシー 13. キリスト教美術日本におけるキリスト教～少年よ、大志を抱け～ 14. 現代におけるキリスト教の課題 15. まとめ及び試験
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
聖書に描かれているイエス・キリストの言葉と行為とを理解することによって、キリスト教精神の根幹を理解する。さらに、全ての人間が、人格的存在として受容されるべき国家及び共同体秩序の形成のためにキリスト教が果たしている役割を把握することによって、日本及び世界のデモクラシーの擁護と促進の重要性を理解する。		毎講義の最後に指定する聖書箇所及び指定テキストの頁をあらかじめ読んでおくことを必須とする。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
授業では、各学生の積極的な発言を求める。グループディスカッションも予定しているため、活発な意見交換を求める。		講義毎に言及した本や映画等を積極的に読んだり、鑑賞することを勧める。
学びのキーワード		評価方法
・ イエス・キリスト ・ 愛 ・ 歴史形成 ・ 人権 ・ デモクラシー		(1) 出席及び参加度 40% (2) 試験 20% (3) 全学礼拝レポート 20% (4) 教会出席レポート 20%
		試験と礼拝レポートの詳細については講義で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は、評価の対象としない。
		教科書
		日本聖書協会『新共同訳聖書』（日本聖書協会） 聖学院大学キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会） 聖学院大学キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史ー神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院ゼネラル・サービス）
		参考書

キリスト教概論B（D-1）

CHRI-0-102

担当教員：田中 かおる

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：111002D3

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

春学期の授業内容を前提に、新約聖書におけるイエス・キリストのメッセージを学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

今学期は、イエス・キリストの生涯・教えと業から、聖書のメッセージを学ぶ。また教会の誕生と発展を確認する。更に、神の導きに従った人々の生涯に触れ、キリスト者として歩んだ人々の生き方を学ぶ。

受講者に対する要望

毎回、聖書を持参して欲しい。

学びのキーワード

- ・イエス・キリスト
- ・聖書の人間観（新約）
- ・神の導きに従った人々

授業計画

01. オリエンテーション
02. 新約聖書（1）・・・イエス誕生の背景
03. 新約聖書（2）・・・イエス・キリストの生涯
04. 新約聖書（3）・・・イエス・キリストの教え
05. 新約聖書（4）・・・イエス・キリストの教え（譬話）
06. 新約聖書（5）・・・イエス・キリストの業
07. 新約聖書（6）・・・十字架と復活
08. 新約聖書（7）・・・クリスマス
09. 新約聖書（8）・・・教会の誕生
10. 新約聖書（9）・・・教会の発展
11. 神の導きに従った人々（1）アシジのフランチェスコ
12. 神の導きに従った人々（2）マザー・テレサ
13. 神の導きに従った人々（3）星野富弘
14. 絵本「大切なきみ」から
15. まとめ

準備学習（予習）

聖書箇所を予告するので、読んでおくこと。

準備学習（復習）

講義内容を確認する。①講義終了後、小レポートにより振り返る。②ノートによって内容を振り返る。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 毎回の小レポート | 20% |
| (2) 礼拝レポート | 30% |
| (3) 試験 | 50% |

教科書

日本聖書協会『聖書（新共同訳）訳』（日本聖書協会）
聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人になるキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）
聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

参考書

キリスト教概論B（J-1）		CHRI-0-102									
担当教員： 柳田 洋夫											
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 111002J3									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イエス・キリストの生涯（1） 02. イエス・キリストの生涯（2） 03. イエス・キリストの教え（1） 04. イエス・キリストの教え（2） 05. イエス・キリストの働き 06. 十字架・復活・昇天（1） 07. 十字架・復活・昇天（2） 08. 十字架・復活・昇天（3） 09. 教会の誕生と使徒たちの活躍 10. 古代教会 11. 中世教会 12. 宗教改革とピューリタニズム 13. 日本のキリスト教 14. 現代における教会とその希望 15. まとめ</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>（1）内容</div> <div>キリスト教は、民主主義や資本主義を柱とするこの近代世界を成立させた原動力であるとともに、私たちに生きる勇気と指針を与えるものでもある。秋学期は、初学者にも理解できるキリスト教入門を心がけつつ、新約聖書と教会の歴史について学ぶ。</div>											
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>聖書に親しみ、キリスト教についての基礎知識を習得するとともに、キリスト教によって培われる新しい生き方とは何かについて考察し、それぞれの実践に生かす。</div>		<div>準備学習（予習）</div> <div>授業においてその都度指示する。</div>									
		<div>準備学習（復習）</div> <div>授業においてその都度指示する。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>（1）授業への参加度</td><td>50%</td><td>規定に満たない場合は評価の対象としない</td></tr><tr><td>（2）試験</td><td>30%</td><td>規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない</td></tr><tr><td>（3）礼拝レポート</td><td>20%</td><td>必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない</td></tr></table> <div>授業への参加度、試験、礼拝レポートをすべて満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。</div>	（1）授業への参加度	50%	規定に満たない場合は評価の対象としない	（2）試験	30%	規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない	（3）礼拝レポート	20%	必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない
（1）授業への参加度	50%	規定に満たない場合は評価の対象としない									
（2）試験	30%	規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない									
（3）礼拝レポート	20%	必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない									
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・キリスト教</div><div>・新約聖書</div><div>・教会の歴史</div></div>		<div>教科書</div> <div>『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会） 聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）</div> <div>参考書</div>									

キリスト教概論B（J-2）

CHRI-0-102

担当教員：東野 尚志

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：111002J4

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

春学期の授業内容を前提として、特にキリスト教信仰の中心をなすイエス・キリストの生涯と教えについて、また十字架と復活の救いについて、新約聖書を通して学ぶ。さらに、教会の誕生と今日まで続くキリスト教会の歴史を概観しつつ、現代におけるキリスト教の影響と可能性を考える。

(2) 学びの意義と目標

新約聖書にしるされたイエス・キリストの救いと教会の働きを学ぶことを通して、キリスト教信仰の神髄に触れる。また2000年の歴史の中で、キリストと出会い、信仰に導かれた人たちが、どのような証しに生きたかを学ぶことを通して、自らの生き方を問い直す。

受講者に対する要望

必ず、聖書と教科書を持参すること。

学びのキーワード

- ・新約聖書
- ・イエス・キリスト
- ・救い
- ・教会

授業計画

01. オリエンテーション
02. 新約聖書の時代背景
03. イエス・キリストの生涯
04. イエス・キリストと出会った人たち
05. イエス・キリストの教え（1）
06. イエス・キリストの教え（2）
07. イエス・キリストの働き
08. 十字架と復活（1）
09. 十字架と復活（2）
10. 教会の誕生
11. パウロの回心と伝道
12. 古代・中世の教会
13. 宗教改革
14. 現代世界とキリスト教
15. まとめ

準備学習(予習)

あらかじめ指示されたテキストをよく読んで、授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業において、その都度指示する。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------|
| (1) 平常点 | 30% | 3分の2以上出席すること |
| (2) レポート提出 | 30% | 教会出席と全学礼拝出席 |
| (3) 試験 | 40% | |

教科書

日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）
聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人になる—キリスト教概論 改訂21世紀版』（聖学院大学出版会）
聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

参考書

担当教員：菊地 順

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：111002P4

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。

秋学期は、春学期の学びを踏まえ、主にキリスト教の中心をなすイエス・キリストの生涯と教えについて、新約聖書を用いて学びます。また授業では、できるだけ映像なども取り入れて、親しみやすい内容にしたいと思います。

(2) 学びの意義と目標

キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけではなく、現代世界の一つの重要な精神文化を担っている宗教ですので、この授業をとおして、大学での学びの基礎を身に付けると同時に、世界や歴史を見る目を養うことを目指します。

受講者に対する要望

たえず開かれた心を持って授業に臨んでほしいと思います。また、授業での学びのみならず、自分から積極的に学びを深めていってほしいと思います。

学びのキーワード

- ・イエス・キリスト
- ・新約聖書
- ・神の国
- ・贖（あがな）い
- ・十字架

授業計画

01. イエス・キリストに関する資料—4つの福音書—
02. イエス・キリストの時代背景
03. イエス・キリストの生涯(1)—誕生から幼年時代—
04. イエス・キリストの生涯(2)—公生涯への備え—
05. イエス・キリストの生涯(3)—宣教の開始と弟子たちの召命—
06. イエス・キリストの生涯(4)—山上での説教(1)(マタイ5章)—
07. イエス・キリストの生涯(5)—山上での説教(2)(マタイ6章)—
08. イエス・キリストの生涯(6)—山上での説教(3)(マタイ7章)—
09. イエス・キリストの生涯(7)—弟子たちの派遣—
10. イエス・キリストの生涯(8)—たとえ話—
11. イエス・キリストの生涯(9)—奇跡—
12. イエス・キリストの生涯(10)—論争と対立—
13. イエス・キリストの生涯(11)—十字架への道(1)(最後の晩餐まで)—
14. イエス・キリストの生涯(12)—十字架への道(2)(十字架の出来事)—
15. まとめ—現代にとってキリスト教とは？

準備学習(予習)

この授業は基本的にテキストに添って行ないます。予習としては、毎回授業の最後に次回の予告を行いますので、それに従って予めテキストの下読みをしてください。

準備学習(復習)

復習としてはノートとテキストの内容の確認を中心に行ってください。また授業をとおして関心を持ったところを調べ、自分の知識を深めてください。

評価方法

- | | |
|---------|------------------|
| (1) 試験 | 60% 最後の授業で1回行う |
| (2) 平常点 | 20% 3分の2以上出席すること |
| (3) 課題 | 20% 教会出席と礼拝出席 |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、欠席が3分の1以上の人、あるいは課題の未提出者は試験を受けることができませんので、注意すること。

教科書

日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)
聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人はいはう—キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)
聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』(聖学院ゼネラル・サービス)

参考書

キリスト教概論B（P-2）		CHRI-0-102	
担当教員： 野島 邦夫			
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 111002P5	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける			
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
キリスト教の主な教えと聖書の概略を、それらをまだよく知らないという方々のために説明します。この講義は一応、同一講師の「キリスト教概論A」の続きですが、それを受講されていない方々にもわかるように構成されています。 まず、もう一度「宗教」、特に「キリスト教」は皆様のような若い人たちにも必要かどうか、必要であるならどのように必要なかを考えます。自分との「関わり」がわからなくては、学ぼうという意欲がわかないでしょうから：キリスト教は、あなたのどのような求めに対して、どのように答えてくれるのか。次に、キリスト教会		01. はじめに：オリエンテーション 02. あなたとキリスト教 03. 教会では何が行われているか？ 04. 聖書（旧約＋新約）概観 05. イエス・キリストとは誰か？ 06. イエス・キリストの生涯 07. イエス・キリストの行ったこと 08. イエス・キリストの教え 09. イエス・キリストの十字架の死 10. イエス・キリストの復活と教会の誕生 11. 十二使徒とパウロ 12. 最初の教会の様子 13. キリスト教のその後（1）古代から中世まで 14. キリスト教のその後（2）宗教改革時代以後 15. まとめ	
(2) 学びの意義と目標		準備学習（予習）	
キリスト教は聖学院大学の精神的土台です。この大学で初めてキリスト教に触れる方が多いでしょう。「キリスト教国」ではない日本で、若い時キリスト教に触れることは一生の掛け替えのない財産となるにちがいありません。 キリスト教は二千年来この世界を導いてきた精神的支柱の一つです。キリスト教を知らなくては、世界の歴史も現代社会の動きもよく理解できないでしょう。哲学を始め様々な学問の分野でも、音楽を始め芸術の分野でも大きな影響を与えて来ました。また、今世紀に入って、世界の情勢によい意味でも悪い意味でも諸宗教が深くかわつ			この講義は、基本的に指定教科書（特に「神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版」）に従って聖書を用いておこないますので、毎回、指示される聖書箇所を読んでください。その準備によって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。
受講者に対する要望			準備学習（復習）
素直な気持ちでキリスト教を知りたいと思っている方々は、どなたでも歓迎します。授業中にも聖書をしばしば使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不可）を毎回持って来てください。			
学びのキーワード		評価方法	
・キリスト教 ・新約聖書 ・神 ・イエス・キリスト ・人間			
			欠席が三分の一以上の人と、課題・レポートを提出しない人は、試験を受けることができません。
			教科書
		日本聖書協会、『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会） 聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会） 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）	
		参考書	

キリスト教概論B（P-3）

CHRI-0-102

担当教員：山ノ下 恭二

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：111002P6

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

キリスト教の基礎である新約聖書の内容に詳しく解説する。イエスの生涯、十字架と復活、教会の成立、ヨーロッパ世界への伝道を解説する。新約聖書の鍵となる言葉、上ノ国、償い、信仰、義、愛、などの用語について解説する。

(2) 学びの意義と目標

新約聖書の内容を学生が把握し、イエスが伝えた神の国について、従事者の死と復活について、パウロの伝道と手紙のついて詳しく知ること为目标とする。

受講者に対する要望

授業に遅刻せず、真剣に講義を聴き、全学礼拝レポート、教会礼拝レポートを指定された日時までに提出してほしい。

学びのキーワード

- ・イエスとはどのような人か
- ・神の国とは
- ・神の国のたとえ話とは
- ・十字架とは
- ・どうしてキリスト教は広まったのか

授業計画

01. 授業のオリエンテーション
02. 新約聖書の概要、基礎知識
03. イエスの生涯
04. イエスの時代
05. 神の国の福音
06. イエスの活動
07. 神の国のたとえ話（1）
08. 神の国のたとえ話（2）
09. 神の国のたとえ話（3）
10. メシア（キリスト）の十字架の死と復活
11. 教会の誕生
12. 使徒たちの宣教
13. パウロの伝道活動と手紙
14. キリスト教の歴史
15. 日本のキリスト教の歴史

準備学習(予習)

授業で予告されている『神を仰ぎ、人に仕う』を予め、読んでくること。

準備学習(復習)

講義で触れた聖書・教科書をよく読むこと

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点・態度 | 40% |
| (2) レポート提出 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）
聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）
聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

参考書

キリスト教概論B（W①）		CHRI-0-102
担当教員：阿部 洋治		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：111002W3
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. はじめに 02. 聖書とは何か―旧約聖書と新約聖書 03. 天地創造について 04. 人間について 05. 人間の墮落について 06. アブラハムの経験 07. ヨセフの経験 08. イスラエルの苦悩とエジプト脱出 09. バビロン補修の苦悩と解放 10. イエスの教え 11. イエスの十字架の死 12. サウロの回心 13. ルターの苦悩と福音の発見 14. 宗教改革のきっかけ 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>旧約聖書から新約聖書の主なトピックを取り上げて、聖書に親しむ手がかりを模索したい。後半ではルターの宗教改革に注目し、聖書が投げかけているメッセージがどのような意味をもっているかを学びたい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>聖書が一つ一つのトピックをとおして語りかけていることが、現代に生きる私たちにどんな意味があるかを体得してほしい。そして神を信じているということのリアリティを実感してほしい。取るに足りない小さな存在がどのように導かれ、用いられ、生かされるかということに目を向けたい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に示唆する聖書の箇所を自分で読んで授業に出席すること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業でも、礼拝においても、聖書に親しみ、聖書の語りかけるメッセージに触れることの意義を実感してほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業のノートをしっかり取って、特に印象に残ったことについての思索をすること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 試験100%</div>	
	<div>教科書</div> <div>日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会） 聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、共に仕う―キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会） 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス） 三浦 綾子『光あるうちに―道ありき第3部 信仰入門編（新潮文庫）』（新潮社）</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・実存・生きる意味・人間の弱さと惨めさ・十字架・復活</div>	<div>参考書</div>	

キリスト教概論B (W-2)

CHRI-0-102

担当教員：東野 尚志

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：111002W4

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

春学期の授業内容を前提として、特にキリスト教信仰の中心をなすイエス・キリストの生涯と教えについて、また十字架と復活の救いについて、新約聖書を通して学ぶ。さらに、教会の誕生と今日まで続くキリスト教会の歴史を概観しつつ、現代におけるキリスト教の影響と可能性を考える。

(2) 学びの意義と目標

新約聖書にしるされたイエス・キリストの救いと教会の働きを学ぶことを通して、キリスト教信仰の神髄に触れる。また2000年の歴史の中で、キリストと出会い、信仰に導かれた人たちが、どのような証しに生きたかを学ぶことを通して、自らの生き方を問い直す。

受講者に対する要望

必ず、聖書と教科書を持参すること。

学びのキーワード

- ・新約聖書
- ・イエス・キリスト
- ・救い
- ・教会

授業計画

01. オリエンテーション
02. 新約聖書の時代背景
03. イエス・キリストの生涯
04. イエス・キリストと出会った人たち
05. イエス・キリストの教え（1）
06. イエス・キリストの教え（2）
07. イエス・キリストの働き
08. 十字架と復活（1）
09. 十字架と復活（2）
10. 教会の誕生
11. パウロの回心と伝道
12. 古代・中世の教会
13. 宗教改革
14. 現代世界とキリスト教
15. まとめ

準備学習(予習)

あらかじめ指示されたテキストをよく読んで、授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業において、その都度指示する。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------|
| (1) 平常点 | 30% | 3分の2以上出席すること |
| (2) レポート提出 | 30% | 教会出席と全学礼拝出席 |
| (3) 試験 | 40% | |

教科書

日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）
聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人になるキリスト教概論 改訂21世紀版』（聖学院大学出版会）
聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

参考書

基礎教育入門(書き方) (P-3)

INTD-0-101

担当教員：新井 尚子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11100307

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くことになり
ます。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章
力の土台作りを目的にします。

カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必
要となる日本語表現の基本を身につける授業で
す。

(2) 学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人に
だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく
述べる力

(2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述
べる力
を付けることを目標とします。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。
初回の授業で説明しますから欠席しないようにし
てください。電子辞書を持っている人は持ってきて
ください。

学びのキーワード

- ・思考力
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション・・・課題1
02. 文章の種類
03. 表現のルール1・・・課題2（説明文を書く）
04. 表現のルール2・・・課題3（マニュアルを書く）
05. 表現のルール3・・・課題4（話し言葉と書き言葉）
06. 書く内容を考える1・・・考えの広げ方
07. 書く内容を考える2・・・グループで考える
08. 文章の構成・・・課題5（主張の伝え方）
09. 知識の入手法1・・・メモの取り方
10. 知識の入手法2・・・文献・資料の読み方
11. レジュメの作り方・・・課題6
12. レポートの書き方1
13. レポートの書き方2
14. レポートの書き方3・・・課題7
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。毎回の課題作
成で、新聞記事やインターネット等で正しい知識を入手し、正
しく文章化する作業をしてください。

準備学習(復習)

返却された文章の訂正箇所を確認し、できれば全文書き直し
をすることが文章力向上に効果的です。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 宿題と授業への参加度 | 20% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

参考書

基礎教育入門(書き方) (P-1)

INTD-0-101

担当教員：上嶋 康道

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11100308

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くこととなります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。

カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

(2) 学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力

(2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力
を付けることを目標とします。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。ボールペン、ノート持参のこと。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

学びのキーワード

- ・視点の切り替え
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション
02. よい文章とはどういうものか 1
03. よい文章とはどういうものか 2
04. 主観的記述に対する根拠の表現
05. 具体化について考える
06. 要約演習 1
07. 要約演習 映像情報を要約する 2
08. 事実の記述 4 映像素材
09. 紹介する 1
10. 紹介する ブックレビュー 2
11. 紹介する 自己について 3
12. 総合演習 1
13. 総合演習 2
14. レポートの書き方
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。まずは新聞の文章に慣れ親しむことから始めましょう。気になった記事について、感想ではなく、事実のまとめを授業のたびに提出してもらいます。詳しくは初回授業で指示します。

準備学習(復習)

返却された文章を書きなおしてみることが効果的です。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------|
| (1) 平常点 | 60% | 受講生は毎回文章を書きます。 |
| (2) 宿題 | 20% | |
| (3) レポート | 20% | |

教科書

参考書

基礎教育入門(書き方) (P-2)

INTD-0-101

担当教員：上嶋 康道

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11100309

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くこととなります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。

カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

(2) 学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力

(2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力
を付けることを目標とします。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。ボールペン、ノート持参のこと。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

学びのキーワード

- ・視点の切り替え
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション
02. よい文章とはどういうものか 1
03. よい文章とはどういうものか 2
04. 主観的記述に対する根拠の表現
05. 具体化について考える
06. 要約演習 1
07. 要約演習 映像情報を要約する 2
08. 事実の記述 4 映像素材
09. 紹介する 1
10. 紹介する ブックレビュー 2
11. 紹介する 自己について 3
12. 総合演習 1
13. 総合演習 2
14. レポートの書き方
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。まずは新聞の文章に慣れ親しむことから始めましょう。気になった記事について、感想ではなく、事実のまとめを授業のたびに提出してもらいます。詳しくは初回授業で指示します。

準備学習(復習)

返却された文章を書きなおしてみることが効果的です。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------|
| (1) 平常点 | 60% | 受講生は毎回文章を書きます。 |
| (2) 宿題 | 20% | |
| (3) レポート | 20% | |

教科書

参考書

基礎教育入門(書き方) (P-4)

INTD-0-101

担当教員：上嶋 康道

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11100310

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くこととなります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。

カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

(2) 学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力

(2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力を付けることを目標とします。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。ボールペン、ノート持参のこと。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

学びのキーワード

- ・視点の切り替え
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション
02. よい文章とはどういうものか 1
03. よい文章とはどういうものか 2
04. 主観的記述に対する根拠の表現
05. 具体化について考える
06. 要約演習 1
07. 要約演習 映像情報を要約する 2
08. 事実の記述 4 映像素材
09. 紹介する 1
10. 紹介する ブックレビュー 2
11. 紹介する 自己について 3
12. 総合演習 1
13. 総合演習 2
14. レポートの書き方
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。まずは新聞の文章に慣れ親しむことから始めましょう。気になった記事について、感想ではなく、事実のまとめを授業のたびに提出してもらいます。詳しくは初回授業で指示します。

準備学習(復習)

返却された文章を書きなおしてみることが効果的です。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------|
| (1) 平常点 | 60% | 受講生は毎回文章を書きます。 |
| (2) 宿題 | 20% | |
| (3) レポート | 20% | |

教科書

参考書

基礎教育入門(書き方) (J-1)		INTD-0-101						
担当教員： 太田 ミユキ								
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11100320						
<div>学部教育の関連目</div> <p>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</p>	<div>授業計画</div> <p>01. 自己紹介の仕方・ノートのとり方 02. 敬語の基礎 03. 確実な連絡メモ 04. メールの書き方 05. 手紙の書き方 06. 説明のコツ 07. 大学生の調べ方 1 08. 大学生の調べ方 2 09. アンケートのとり方 10. 資料の読み取り 11. プレゼンテーション 12. レポートの書き方 1 13. レポートの書き方 2 14. レポートの書き方 3 15. まとめ</p>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div>								
<div>(1) 内容</div> <p>表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。</p>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。（自習の成果は最終回の試験で確認する）</p>							
	<div>準備学習(復習)</div> <p>授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。</p>							
<div>受講者に対する要望</div> <p>大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法での学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。</p>	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 試験</td><td>35%</td></tr><tr><td>(3) 提出物</td><td>35%</td></tr></table> <p><small>出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。</small></p>		(1) 授業への参加度	30%	(2) 試験	35%	(3) 提出物	35%
(1) 授業への参加度	30%							
(2) 試験	35%							
(3) 提出物	35%							
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none">表現力論理的思考コミュニケーション	<div>教科書</div> <p>橋本 修、福岡 健伸、安部 朋世『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』（三省堂） 日本語検定委員会『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』（東京書籍）</p> <div>参考書</div>							

基礎教育入門(書き方) (J-3)

INTD-0-101

担当教員： 中島 佐和子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 11100330

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

(2) 学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

受講者に対する要望

大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法での学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。

学びのキーワード

- ・ 表現力
- ・ 論理的思考
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. 自己紹介の仕方・ノートのとり方
02. 敬語の基礎
03. 確実な連絡メモ
04. メールの書き方
05. 手紙の書き方
06. 説明のコツ
07. 大学生の調べ方 1
08. 大学生の調べ方 2
09. アンケートのとり方
10. 資料の読み取り
11. プレゼンテーション
12. レポートの書き方 1
13. レポートの書き方 2
14. レポートの書き方 3
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 35% |
| (3) 提出物 | 35% |

出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。

教科書

橋本 修、福岡 健伸、安部 朋世『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』(三省堂)
日本語検定委員会『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』(東京書籍)

参考書

基礎教育入門(書き方) (J-2)

INTD-0-101

担当教員： 副田 恵

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 11100340

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

(2) 学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

受講者に対する要望

大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法での学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。

学びのキーワード

- ・ 表現力
- ・ 論理的思考
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. 自己紹介の仕方・ノートのとり方
02. 敬語の基礎
03. 確実な連絡メモ
04. メールの書き方
05. 手紙の書き方
06. 説明のコツ
07. 大学生の調べ方 1
08. 大学生の調べ方 2
09. アンケートのとり方
10. 資料の読み取り
11. プレゼンテーション
12. レポートの書き方 1
13. レポートの書き方 2
14. レポートの書き方 3
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 35% |
| (3) 提出物 | 35% |

出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。

教科書

橋本 修、福岡 健伸、安部 朋世『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』(三省堂)
日本語検定委員会『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』(東京書籍)

参考書

基礎教育入門(書き方) (再履修用)		INTD-0-101
担当教員： 副田 恵		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11100350
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. 自己紹介の仕方・ノートのとり方 02. 敬語の基礎 03. 確実な連絡メモ 04. メールの書き方 05. 手紙の書き方 06. 説明のコツ 07. 大学生の調べ方 1 08. 大学生の調べ方 2 09. アンケートのとり方 10. 資料の読み取り 11. プレゼンテーション 12. レポートの書き方 1 13. レポートの書き方 2 14. レポートの書き方 3 15. まとめ
表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。		
(2) 学びの意義と目標		
相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。		準備学習(予習)
		テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。（自習の成果は最終回の試験で確認する）
		準備学習(復習)
		授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。
		評価方法
		(1) 授業への参加度 30%
		(2) 試験 35%
		(3) 提出物 35%
		出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、A Hレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。
受講者に対する要望		教科書
大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法での学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。		
学びのキーワード		参考書
・表現力 ・論理的思考 ・コミュニケーション		橋本 修、福岡 健伸、安部 朋世『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』（三省堂） 日本語検定委員会『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』（東京書籍）

基礎教育入門(書き方) (A-1)

INTD-0-101

担当教員：新井 尚子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11100380

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くことになり
ます。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章
力の土台作りを目的にします。

カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必
要となる日本語表現の基本を身につける授業で
す。

(2) 学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人に
だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく
述べる力

(2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述
べる力
を付けることを目標とします。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。
初回の授業で説明しますから欠席しないようにし
てください。電子辞書を持っている人は持ってきて
ください。

学びのキーワード

- ・思考力
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション・・・課題1
02. 文章の種類
03. 表現のルール1・・・課題2（説明文を書く）
04. 表現のルール2・・・課題3（マニュアルを書く）
05. 表現のルール3・・・課題4（話し言葉と書き言葉）
06. 書く内容を考える1・・・考えの広げ方
07. 書く内容を考える2・・・グループで考える
08. 文章の構成・・・課題5（主張の伝え方）
09. 知識の入手法1・・・メモの取り方
10. 知識の入手法2・・・文献・資料の読み方
11. レジュメの作り方・・・課題6
12. レポートの書き方1
13. レポートの書き方2
14. レポートの書き方3・・・課題7
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。毎回の課題作
成で、新聞記事やインターネット等で正しい知識を入手し、正
しく文章化する作業をしてください。

準備学習(復習)

返却された文章の訂正箇所を確認し、できれば全文書き直し
をすることが文章力向上に効果的です。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 宿題と授業への参加度 | 20% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

参考書

基礎教育入門(書き方) (A-2)

INTD-0-101

担当教員：新井 尚子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11100381

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くことになり。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。

カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

(2) 学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力

(2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力
を付けることを目標とします。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

学びのキーワード

- ・思考力
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション・・・課題1
02. 文章の種類
03. 表現のルール1・・・課題2（説明文を書く）
04. 表現のルール2・・・課題3（マニュアルを書く）
05. 表現のルール3・・・課題4（話し言葉と書き言葉）
06. 書く内容を考える1・・・考えの広げ方
07. 書く内容を考える2・・・グループで考える
08. 文章の構成・・・課題5（主張の伝え方）
09. 知識の入手法1・・・メモの取り方
10. 知識の入手法2・・・文献・資料の読み方
11. レジュメの作り方・・・課題6
12. レポートの書き方1
13. レポートの書き方2
14. レポートの書き方3・・・課題7
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。毎回の課題作成で、新聞記事やインターネット等で正しい知識を入手し、正しく文章化する作業をしてください。

準備学習(復習)

返却された文章の訂正箇所を確認し、できれば全文書き直しをすることが文章力向上に効果的です。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 宿題と授業への参加度 | 20% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

参考書

基礎教育入門(留学生用書き方) A J 用		INTD-0-101					
担当教員： 副田 恵							
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11100500					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 自己紹介の仕方・ノートのとり方 02. 敬語の基礎 03. 確実な連絡メモ 04. メールの書き方 05. 手紙の書き方 06. 説明のコツ 07. 大学生の調べ方 1 08. 大学生の調べ方 2 09. アンケートのとり方 10. 資料の読み取り 11. プレゼンテーション 12. レポートの書き方 1 13. レポートの書き方 2 14. レポートの書き方 3 15. まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。</div>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。（自習の成果は最終回の試験で確認する）</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法での学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。</div>						
	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 試験</td><td>35%</td></tr><tr><td>(3) 提出物</td><td>35%</td></tr></table><div>出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、A Hレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。</div></div>		(1) 授業への参加度	30%	(2) 試験	35%	(3) 提出物
(1) 授業への参加度	30%						
(2) 試験	35%						
(3) 提出物	35%						
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">表現力論理的思考コミュニケーション</div>	<div>教科書</div> <div>橋本 修、福岡 健伸、安部 朋世『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』（三省堂） 日本語検定委員会『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』（東京書籍）</div> <div>参考書</div>						

基礎教育入門(留学生用書き方) P用

INTD-0-102

担当教員： 中島 佐和子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 11100501

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

◆内容◆

自己紹介、敬語の使い方、手紙の作成などから始め、エッセイやレポート、意見文などを書くことで、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。なるべく多くの文章を書くようにしたい。適宜ドリルなどを併用する。

(2) 学びの意義と目標

レポートや論文の書き方の基礎を身に付け、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育てることを目標とする。併せて日本文化への理解を深めたい。

受講者に対する要望

授業に積極的に参加し、活発に発言してほしい。当然のことだが、どのような場合でも自分自身の意見を発表すること。

学びのキーワード

- ・ 調べる
- ・ 書く
- ・ 読む
- ・ 独自の意見

授業計画

01. ガイダンス／自己紹介
02. 敬語の基礎 (1)
03. 敬語の基礎 (2)
04. 手紙を書く (1) 形式を学ぶ
05. 手紙を書く (2) 恩師に近況報告を出そう
06. 天声人語を読む (1) 書写・難読語・要旨・テーマ
07. 天声人語を読む (2) 表記・構造・故事来歴・風習
08. エッセイを書く (1) テーマの設定・材料の収集
09. エッセイを書く (2) 構成を考えて書く
10. 意見文を書く (1) テーマの設定・材料の収集
11. 意見文を書く (2) 構成を考えて書く
12. レポートの書き方 (1) テーマの設定・材料の収集
13. レポートの書き方 (2) 用語・構成・書式・体裁
14. 自己アピール文を書く
15. まとめ

準備学習(予習)

テーマに沿って材料を収集する。

準備学習(復習)

出された課題をする。＜br /＞添削された文章を清書して提出する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 授業態度 | 30% |
| (2) 提出物 | 70% |

教科書

参考書

基礎教育入門(話し方) (P-1)

COMM-0-101

担当教員： 風見 雅章

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 11100604

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。つまり、相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力です。今、日本人は親しい人とのお喋りは得意でも、ゼミの発表や就職面接など公の場面で筋道立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。この講義はそのノウハウを獲得するのが目的です。つ

(2) 学びの意義と目標

この講義は実践形式ですすすめていきますが、話が上手い、下手は問いません。講義をすすめる中で自分の課題を発見し、わかりやすく話すための多くのヒントをみつけて、それを身につけて下さい。これからの学生生活、ゼミでの発表や卒業論文、さらには就職時の面接、社会人になった時など必ず役に立ちます。こうした能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきます。

受講者に対する要望

講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。
「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。

学びのキーワード

- ・「話しことば」は音のことば
- ・相手意識を持つ
- ・組み立てて話す
- ・テーマを絞って具体的に話す
- ・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力

授業計画

01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは ～書きことばと話しことばの違い～
02. 「点検・あなたの話しことば」 ～自己紹介～
03. 「聞きやすい音声表現」 ～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～
04. わかりやすく話す(1) ～話す順序を工夫しよう～
05. わかりやすく話す(2) ～情報の整理と組み立て～
06. わかりやすく話す(3) ～説明力を磨く～
07. 「きく力」(1) 傾聴力 ～人の話を聴きとる時の心構え～
08. 「きく力」(2) 質問力 ～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～
09. 社会人のことば(1) ～敬語の基本 役割と分類～
10. 社会人のことば(2) ～間違えやすい日本語・常識のことば～
11. 伝わるスピーチ(1) ～思いを具体化する～
12. 伝わるスピーチ(2) ～意見・主張を明確にする～
13. 総合実践スピーチ ～効果測定(テスト)に備える～
14. 効果測定(期末テスト) ～成果を生かし話してみよう!～
15. 講座のまとめ

準備学習(予習)

毎回、講義の最後に翌週の講義テーマを伝えるとともに、話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日までその準備をしっかりと行ってください。

準備学習(復習)

毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、皆さんの理解度によっては同じ内容を繰り返すなど講義の順番を変更することもあります。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) スキルの理解度 | 30% |
| (2) 実践での評価 | 40% |
| (3) 取り組みの積極性 | 30% |

話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価します。

教科書

プリントを配布する。

参考書

基礎教育入門(話し方) (P-2)

COMM-0-101

担当教員： 幸田 儔朗

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 11100612

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。つまり、相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力です。今、日本人は親しい人とのお喋りは得意でも、ゼミの発表や就職面接など公の場面で筋道立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。この講義はそのノウハウを獲得するのが目的です。つ

(2) 学びの意義と目標

この講義は実践形式ですすすめていきますが、話が上手い、下手は問いません。講義をすすめる中で自分の課題を発見し、わかりやすく話すための多くのヒントをみつけて、それを身につけて下さい。これからの学生生活、ゼミでの発表や卒業論文、さらには就職時の面接、社会人になった時など必ず役に立ちます。こうした能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきます。

受講者に対する要望

講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。
「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。

学びのキーワード

- ・「話しことば」は音のことば
- ・相手意識を持つ
- ・組み立てて話す
- ・テーマを絞って具体的に話す
- ・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力

授業計画

01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは ～書きことばと話しことばの違い～
02. 「点検・あなたの話しことば」 ～自己紹介～
03. 「聞きやすい音声表現」 ～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～
04. わかりやすく話す(1) ～話す順序を工夫しよう～
05. わかりやすく話す(2) ～情報の整理と組み立て～
06. わかりやすく話す(3) ～説明力を磨く～
07. 「きく力」(1) 傾聴力 ～人の話を聴きとる時の心構え～
08. 「きく力」(2) 質問力 ～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～
09. 社会人のことば(1) ～敬語の基本 役割と分類～
10. 社会人のことば(2) ～間違えやすい日本語・常識のことば～
11. 伝わるスピーチ(1) ～思いを具体化する～
12. 伝わるスピーチ(2) ～意見・主張を明確にする～
13. 総合実践スピーチ ～効果測定(テスト)に備える～
14. 効果測定(期末テスト) ～成果を生かし話してみよう!～
15. 講座のまとめ

準備学習(予習)

毎回、講義の最後に翌週の講義テーマを伝えるとともに、話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日までその準備をしっかりと行ってください。

準備学習(復習)

毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、皆さんの理解度によっては同じ内容を繰り返すなど講義の順番を変更することもあります。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) スキルの理解度 | 30% |
| (2) 実践での評価 | 40% |
| (3) 取り組みの積極性 | 30% |

話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価します。

教科書

プリントを配布する。

参考書

基礎教育入門(話し方) (P-3)		COMM-0-101
担当教員： 風見 雅章		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11100620
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは ～書きことばと話しことばの違い～ 02. 「点検・あなたの話しことば」 ～自己紹介～ 03. 「聞きやすい音声表現」 ～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～ 04. わかりやすく話す（１） ～話す順序を工夫しよう～ 05. わかりやすく話す（２） ～情報の整理と組み立て～ 06. わかりやすく話す（３） ～説明力を磨く～ 07. 「きく力」（１） 傾聴力 ～人の話を聴きとる時の心構え～ 08. 「きく力」（２） 質問力 ～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～ 09. 社会人のことば（１） ～敬語の基本 役割と分類～ 10. 社会人のことば（２） ～間違えやすい日本語・常識のことば～ 11. 伝わるスピーチ（１） ～思いを具体化する～ 12. 伝わるスピーチ（２） ～意見・主張を明確にする～ 13. 総合実践スピーチ ～効果測定（テスト）に備える～ 14. 効果測定（期末テスト） ～成果を生かし話してみよう！～ 15. 講座のまとめ
就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。つまり、相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力です。今、日本人は親しい人とのお喋りは得意でも、ゼミの発表や就職面接など公の場面で筋道立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。この講義はそのノウハウを獲得するのが目的です。つ		
(2) 学びの意義と目標		
この講義は実践形式ですすすめていきますが、話が上手い、下手は問いません。講義をすすめる中で自分の課題を発見し、わかりやすく話すための多くのヒントをみつけて、それを身につけて下さい。これからの学生生活、ゼミでの発表や卒業論文、さらには就職時の面接、社会人になった時など必ず役に立ちます。こうした能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきます。		準備学習(予習)
		毎回、講義の最後に翌週の講義テーマを伝えるとともに、話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日までその準備をしっかりと行ってください。
		準備学習(復習)
		毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、皆さんの理解度によっては同じ内容を繰り返すなど講義の順番を変更することもあります。
受講者に対する要望		評価方法
講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。 「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。		
学びのキーワード		
・「話しことば」は音のことば ・相手意識を持つ ・組み立てて話す ・テーマを絞って具体的に話す ・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力		教科書
		プリントを配布する。
		参考書

基礎教育入門(話し方) (J-1)		COMM-0-101
担当教員： 幸田 儔朗		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11100629
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは ～書きことばと話しことばの違い～ 02. 「点検・あなたの話しことば」 ～自己紹介～ 03. 「聞きやすい音声表現」 ～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～ 04. わかりやすく話す（１） ～話す順序を工夫しよう～ 05. わかりやすく話す（２） ～情報の整理と組み立て～ 06. わかりやすく話す（３） ～説明力を磨く～ 07. 「きく力」（１） 傾聴力 ～人の話を聴きとる時の心構え～ 08. 「きく力」（２） 質問力 ～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～ 09. 社会人のことば（１） ～敬語の基本 役割と分類～ 10. 社会人のことば（２） ～間違えやすい日本語・常識のことば～ 11. 伝わるスピーチ（１） ～思いを具体化する～ 12. 伝わるスピーチ（２） ～意見・主張を明確にする～ 13. 総合実践スピーチ ～効果測定（テスト）に備える～ 14. 効果測定（期末テスト） ～成果を生かし話してみよう！～ 15. 講座のまとめ
(1) 内容		
就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。つまり、相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力です。今、日本人は親しい人とのお喋りは得意でも、ゼミの発表や就職面接など公の場面で筋道立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。この講義はそのノウハウを獲得するのが目的です。つ		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
この講義は実践形式ですすすめていきますが、話が上手い、下手は問いません。講義をすすめる中で自分の課題を発見し、わかりやすく話すための多くのヒントをみつけて、それを身につけて下さい。これからの学生生活、ゼミでの発表や卒業論文、さらには就職時の面接、社会人になった時など必ず役に立ちます。こうした能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきます。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。 「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。		
学びのキーワード		教科書
・「話しことば」は音のことば ・相手意識を持つ ・組み立てて話す ・テーマを絞って具体的に話す ・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力		
		参考書

基礎教育入門(話し方) (J-2)		COMM-0-101						
担当教員： 幸田 儔朗								
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11100637						
学部教育の関連目		授業計画						
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける								
カリキュラム上の位置付け		01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは ～書きことばと話しことばの違い～ 02. 「点検・あなたの話しことば」 ～自己紹介～ 03. 「聞きやすい音声表現」 ～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～ 04. わかりやすく話す（１） ～話す順序を工夫しよう～ 05. わかりやすく話す（２） ～情報の整理と組み立て～ 06. わかりやすく話す（３） ～説明力を磨く～ 07. 「きく力」（１） 傾聴力 ～人の話を聴きとる時の心構え～ 08. 「きく力」（２） 質問力 ～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～ 09. 社会人のことば（１） ～敬語の基本 役割と分類～ 10. 社会人のことば（２） ～間違えやすい日本語・常識のことば～ 11. 伝わるスピーチ（１） ～思いを具体化する～ 12. 伝わるスピーチ（２） ～意見・主張を明確にする～ 13. 総合実践スピーチ ～効果測定（テスト）に備える～ 14. 効果測定（期末テスト） ～成果を生かし話してみよう！～ 15. 講座のまとめ						
(1) 内容								
<p>就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。つまり、相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力です。今、日本人は親しい人とのお喋りは得意でも、ゼミの発表や就職面接など公の場面で筋道立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。この講義はそのノウハウを獲得するのが目的です。つ</p>								
(2) 学びの意義と目標								
<p>この講義は実戦形式ですすめていきますが、話が上手い、下手は問いません。講義をすすめる中で自分の課題を発見し、わかりやすく話すための多くのヒントをみつけて、それを身につけて下さい。これからの学生生活、ゼミでの発表や卒業論文、さらには就職時の面接、社会人になった時など必ず役に立ちます。こうした能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきます。</p>								
受講者に対する要望		準備学習(予習)						
<p>講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。</p> <p>「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。</p>		<p>毎回、講義の最後に翌週の講義テーマを伝えるとともに、話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日までその準備をしっかりと行ってください。</p>						
学びのキーワード		準備学習(復習)						
<ul style="list-style-type: none">・「話しことば」は音のことば・相手意識を持つ・組み立てて話す・テーマを絞って具体的に話す・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力		<p>毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、皆さんの理解度によっては同じ内容を繰り返すなど講義の順番を変更することもあります。</p>						
		評価方法						
		<table><tr><td>(1) スキルの理解度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 実践での評価</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) 取り組みの積極性</td><td>30%</td></tr></table>	(1) スキルの理解度	30%	(2) 実践での評価	40%	(3) 取り組みの積極性	30%
(1) スキルの理解度	30%							
(2) 実践での評価	40%							
(3) 取り組みの積極性	30%							
		話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価します。						
		教科書						
		プリントを配布する。						
		参考書						

基礎教育入門(話し方) (P-4)		COMM-0-101						
担当教員： 幸田 儔朗								
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11100638						
学部教育の関連目		授業計画						
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける								
カリキュラム上の位置付け		01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは ～書きことばと話しことばの違い～ 02. 「点検・あなたの話しことば」 ～自己紹介～ 03. 「聞きやすい音声表現」 ～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～ 04. わかりやすく話す（１） ～話す順序を工夫しよう～ 05. わかりやすく話す（２） ～情報の整理と組み立て～ 06. わかりやすく話す（３） ～説明力を磨く～ 07. 「きく力」（１） 傾聴力 ～人の話を聴きとる時の心構え～ 08. 「きく力」（２） 質問力 ～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～ 09. 社会人のことば（１） ～敬語の基本 役割と分類～ 10. 社会人のことば（２） ～間違えやすい日本語・常識のことば～ 11. 伝わるスピーチ（１） ～思いを具体化する～ 12. 伝わるスピーチ（２） ～意見・主張を明確にする～ 13. 総合実践スピーチ ～効果測定（テスト）に備える～ 14. 効果測定（期末テスト） ～成果を生かし話してみよう！～ 15. 講座のまとめ						
(1) 内容								
<p>就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。つまり、相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力です。今、日本人は親しい人とのお喋りは得意でも、ゼミの発表や就職面接など公の場面で筋道立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。この講義はそのノウハウを獲得するのが目的です。つ</p>								
(2) 学びの意義と目標								
<p>この講義は実践形式ですすめていきますが、話が上手い、下手は問いません。講義をすすめる中で自分の課題を発見し、わかりやすく話すための多くのヒントをみつけて、それを身につけて下さい。これからの学生生活、ゼミでの発表や卒業論文、さらには就職時の面接、社会人になった時など必ず役に立ちます。こうした能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきます。</p>								
受講者に対する要望		準備学習(予習)						
<p>講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。</p> <p>「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。</p>		<p>毎回、講義の最後に翌週の講義テーマを伝えるとともに、話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日までその準備をしっかりと行ってください。</p>						
		準備学習(復習)						
		<p>毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、皆さんの理解度によっては同じ内容を繰り返すなど講義の順番を変更することもあります。</p>						
		評価方法						
		<table><tr><td>(1) スキルの理解度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 実践での評価</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) 取り組みの積極性</td><td>30%</td></tr></table>	(1) スキルの理解度	30%	(2) 実践での評価	40%	(3) 取り組みの積極性	30%
(1) スキルの理解度	30%							
(2) 実践での評価	40%							
(3) 取り組みの積極性	30%							
		話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価します。						
学びのキーワード		教科書						
<ul style="list-style-type: none">・「話しことば」は音のことば・相手意識を持つ・組み立てて話す・テーマを絞って具体的に話す・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力		プリントを配布する。						
		参考書						

基礎教育入門(話し方) (再履修用)		COMM-0-101
担当教員： 風見 雅章		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11100650
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは ～書きことばと話しことばの違い～ 02. 「点検・あなたの話しことば」 ～自己紹介～ 03. 「聞きやすい音声表現」 ～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～ 04. わかりやすく話す（１） ～話す順序を工夫しよう～ 05. わかりやすく話す（２） ～情報の整理と組み立て～ 06. わかりやすく話す（３） ～説明力を磨く～ 07. 「きく力」（１） 傾聴力 ～人の話を聴きとる時の心構え～ 08. 「きく力」（２） 質問力 ～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～ 09. 社会人のことば（１） ～敬語の基本 役割と分類～ 10. 社会人のことば（２） ～間違えやすい日本語・常識のことば～ 11. 伝わるスピーチ（１） ～思いを具体化する～ 12. 伝わるスピーチ（２） ～意見・主張を明確にする～ 13. 総合実践スピーチ ～効果測定（テスト）に備える～ 14. 効果測定（期末テスト） ～成果を生かし話してみよう！～ 15. 講座のまとめ
(1) 内容		
<p>就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。つまり、相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力です。今、日本人は親しい人とのお喋りは得意でも、ゼミの発表や就職面接など公の場面で筋道立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。この講義はそのノウハウを獲得するのが目的です。つ</p>		
(2) 学びの意義と目標		
<p>この講義は実戦形式ですすめていきますが、話が上手い、下手は問いません。講義をすすめる中で自分の課題を発見し、わかりやすく話すための多くのヒントをみつけて、それを身につけて下さい。これからの学生生活、ゼミでの発表や卒業論文、さらには就職時の面接、社会人になった時など必ず役に立ちます。こうした能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきます。</p>		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
<p>講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。</p> <p>「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。</p>		
学びのキーワード		準備学習(復習)
<p>・「話しことば」は音のことば</p> <p>・相手意識を持つ</p> <p>・組み立てて話す</p> <p>・テーマを絞って具体的に話す</p> <p>・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力</p>		
		評価方法
		話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価します。
教科書		参考書
プリントを配布する。		

基礎教育入門(話し方) (再履修用)		COMM-0-101						
担当教員： 風見 雅章								
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11100655						
学部教育の関連目		授業計画						
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける								
カリキュラム上の位置付け		01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは ～書きことばと話しことばの違い～ 02. 「点検・あなたの話しことば」 ～自己紹介～ 03. 「聞きやすい音声表現」 ～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～ 04. わかりやすく話す（１） ～話す順序を工夫しよう～ 05. わかりやすく話す（２） ～情報の整理と組み立て～ 06. わかりやすく話す（３） ～説明力を磨く～ 07. 「きく力」（１） 傾聴力 ～人の話を聴きとる時の心構え～ 08. 「きく力」（２） 質問力 ～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～ 09. 社会人のことば（１） ～敬語の基本 役割と分類～ 10. 社会人のことば（２） ～間違えやすい日本語・常識のことば～ 11. 伝わるスピーチ（１） ～思いを具体化する～ 12. 伝わるスピーチ（２） ～意見・主張を明確にする～ 13. 総合実践スピーチ ～効果測定（テスト）に備える～ 14. 効果測定（期末テスト） ～成果を生かし話してみよう！～ 15. 講座のまとめ						
(1) 内容								
<p>就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。つまり、相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力です。今、日本人は親しい人とのお喋りは得意でも、ゼミの発表や就職面接など公の場面で筋道立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。この講義はそのノウハウを獲得するのが目的です。つ</p>								
(2) 学びの意義と目標								
<p>この講義は実戦形式ですすめていきますが、話が上手い、下手は問いません。講義をすすめる中で自分の課題を発見し、わかりやすく話すための多くのヒントをみつけて、それを身につけて下さい。これからの学生生活、ゼミでの発表や卒業論文、さらには就職時の面接、社会人になった時など必ず役に立ちます。こうした能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきます。</p>								
受講者に対する要望		準備学習(予習)						
<p>講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。</p> <p>「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。</p>		<p>毎回、講義の最後に翌週の講義テーマを伝えるとともに、話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日までその準備をしっかりと行ってください。</p>						
		準備学習(復習)						
		<p>毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、皆さんの理解度によっては同じ内容を繰り返すなど講義の順番を変更することもあります。</p>						
		評価方法						
		<table><tr><td>(1) スキルの理解度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 実践での評価</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) 取り組みの積極性</td><td>30%</td></tr></table>	(1) スキルの理解度	30%	(2) 実践での評価	40%	(3) 取り組みの積極性	30%
(1) スキルの理解度	30%							
(2) 実践での評価	40%							
(3) 取り組みの積極性	30%							
		話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価します。						
学びのキーワード		教科書						
<ul style="list-style-type: none">・「話しことば」は音のことば・相手意識を持つ・組み立てて話す・テーマを絞って具体的に話す・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力		プリントを配布する。						
		参考書						

基礎教育入門(話し方) (A-1)		COMM-0-101
担当教員： 幸田 儔朗		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11100687
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは ～書きことばと話しことばの違い～ 02. 「点検・あなたの話しことば」 ～自己紹介～ 03. 「聞きやすい音声表現」 ～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～ 04. わかりやすく話す（1） ～話す順序を工夫しよう～ 05. わかりやすく話す（2） ～情報の整理と組み立て～ 06. わかりやすく話す（3） ～説明力を磨く～ 07. 「きく力」（1） 傾聴力 ～人の話を聴きとる時の心構え～ 08. 「きく力」（2） 質問力 ～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～ 09. 社会人のことば（1） ～敬語の基本 役割と分類～ 10. 社会人のことば（2） ～間違えやすい日本語・常識のことば～ 11. 伝わるスピーチ（1） ～思いを具体化する～ 12. 伝わるスピーチ（2） ～意見・主張を明確にする～ 13. 総合実践スピーチ ～効果測定（テスト）に備える～ 14. 効果測定（期末テスト） ～成果を生かし話してみよう！～ 15. 講座のまとめ
(1) 内容		
就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。つまり、相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力です。今、日本人は親しい人とのお喋りは得意でも、ゼミの発表や就職面接など公の場面で筋道立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。この講義はそのノウハウを獲得するのが目的です。つ		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
この講義は実戦形式ですすめていきますが、話が上手い、下手は問いません。講義をすすめる中で自分の課題を発見し、わかりやすく話すための多くのヒントをみつけて、それを身につけて下さい。これからの学生生活、ゼミでの発表や卒業論文、さらには就職時の面接、社会人になった時など必ず役に立ちます。こうした能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきます。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。 「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。		
学びのキーワード		評価方法
・「話しことば」は音のことば ・相手意識を持つ ・組み立てて話す ・テーマを絞って具体的に話す ・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力		
		教科書
		プリントを配布する。
		参考書

基礎教育入門(話し方) (A-2)		COMM-0-101
担当教員： 風見 雅章		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11100695
学部教育の関連目	【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける	
	カリキュラム上の位置付け	
(1) 内容	<p>就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。つまり、相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力です。今、日本人は親しい人とのお喋りは得意でも、ゼミの発表や就職面接など公の場面で筋道立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。この講義はそのノウハウを獲得するのが目的です。つ</p>	
	(2) 学びの意義と目標	
受講者に対する要望	<p>この講義は実戦形式ですすすめていきますが、話が上手い、下手は問いません。講義をすすめる中で自分の課題を発見し、わかりやすく話すための多くのヒントをみつけて、それを身につけて下さい。これからの学生生活、ゼミでの発表や卒業論文、さらには就職時の面接、社会人になった時など必ず役に立ちます。こうした能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきます。</p>	
	<p>講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。</p> <p>「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。</p>	
学びのキーワード	<ul style="list-style-type: none">・「話しことば」は音のことば・相手意識を持つ・組み立てて話す・テーマを絞って具体的に話す・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力	
	授業計画	
		01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは ～書きことばと話しことばの違い～ 02. 「点検・あなたの話しことば」 ～自己紹介～ 03. 「聞きやすい音声表現」 ～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～ 04. わかりやすく話す（1） ～話す順序を工夫しよう～ 05. わかりやすく話す（2） ～情報の整理と組み立て～ 06. わかりやすく話す（3） ～説明力を磨く～ 07. 「きく力」（1） 傾聴力 ～人の話を聴きとる時の心構え～ 08. 「きく力」（2） 質問力 ～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～ 09. 社会人のことば（1） ～敬語の基本 役割と分類～ 10. 社会人のことば（2） ～間違えやすい日本語・常識のことば～ 11. 伝わるスピーチ（1） ～思いを具体化する～ 12. 伝わるスピーチ（2） ～意見・主張を明確にする～ 13. 総合実践スピーチ ～効果測定（テスト）に備える～ 14. 効果測定（期末テスト） ～成果を生かし話してみよう！～ 15. 講座のまとめ
		準備学習(予習)
		毎回、講義の最後に翌週の講義テーマを伝えるとともに、話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日までその準備をしっかりと行ってください。
		準備学習(復習)
		毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、皆さんの理解度によっては同じ内容を繰り返すなど講義の順番を変更することもあります。
		評価方法
		(1) スキルの理解度 30% (2) 実践での評価 40% (3) 取り組みの積極性 30%
		話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価します。
学びのキーワード	教科書	
	プリントを配布する。	
		参考書

担当教員：川野 一字

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11101409

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「少し改まった場で話をする際、どう話せばよいのか、そのためには何が必要なのか」を習得する。課題に対する素材の選び方、その素材の組み立て方、具体例は何か、表現は適切か、制限時間を守れたか（例3分）など、講座で録音したスピーチを随時再生しながら、多角的に吟味する実践演習を基本とする。

(2) 学びの意義と目標

この講座は原則として、1年生必修の「基礎教育入門（話し方）」で、授業に対する姿勢、成績ともに良好な2年生以上を対象とするハイレベルの講座である。1年生で培った基礎をもとに、「一定時間内に、整理した形で話が出来、その内容を明確に聞き手に伝えられる応用力」を養うことを目標とする。

受講者に対する要望

与えられた課題について、必ず準備をしておくこと。話の素材を集め、どう組み立てるのが一番効果的か、時間内におさまるか、声に出して試してみたい。授業にのぞんでもらいたい。

学びのキーワード

- ・課題に沿った素材の選択
- ・話をどう組み立てるか。
- ・具体例は何か。
- ・時間内にまとめるか。
- ・日々の暮らしを掘り下げる。

授業計画

- | | |
|------------------|-------------------|
| 01. オリエンテーション | 改まった場での話 |
| 02. 自分を語る | 内容と時間の感覚 |
| 03. 発音、発声の基礎 | 自分の声の特質を知る |
| 04. 私の家族を語る | 自分の家族について話す |
| 05. 私の住んでいる町 | 今住んでいる町について話す |
| 06. 話は具体的に | 実例をあげる ある部分は細かく |
| 07. 季節感を表現する | 何によって季節を感じるか |
| 08. 私の専攻科目（私の専門） | 今学ぶ内容と将来の方向 |
| 09. 聞いて質問をする | 自分の趣味について話し質問をし合う |
| 10. 敬語の確認と実践 | 難しいのは謙譲語だ |
| 11. 自分をアピールする | 面接で聞かれること 1 |
| 12. 自分をアピールする | 面接で聞かれること 2 |
| 13. 総合復習 | 課題スピーチに備える |
| 14. 課題スピーチ | 積み重ねた力を全開する |
| 15. 課題スピーチ | 予備と全体のまとめ |

準備学習（予習）

話す内容を事前にメモでまとめ、声に出して 時間を計るなどの下準備が必要であることは、受講者に対する要望で触れたとおりである。

準備学習（復習）

教室での実践で指摘された点を生かして、どうまとめるか、真摯に復習をしてもらいたい。合わせて、日々の自分の暮らしを点検して、話のテーマになりそうなことを探してみることも大切である。また自分をどうアピールできるかを、日ごろからメモで良い、まとめておくと後々非常に役に立つ。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 講義ごとの実践 | 30% |
| (2) 授業に対する姿勢 | 10% |
| (3) 課題スピーチ | 60% |

課題スピーチを重く見るのは当然としても、毎回の講義での実践も重要である。出席だけでは準備が十分にできていないようでは効果はほとんどないことを承知して欲しい。

教科書

参考書

担当教員：堀川 裕介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101700

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。実習は模擬的な資料作成のプロセスをたどるように組み立てられており、授業中に行った作業は毎回授業内課題として提出してもらう。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

(2) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・資料作成
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス、ワード① 基本操作
02. ワード② 文書の編集
03. ワード③ 表とオブジェクトの活用
04. 講義① コンピュータとネットワークの仕組み
05. エクセル① 基本操作
06. エクセル② 関数の利用
07. エクセル③ グラフの作成
08. エクセル④ オブジェクトの活用
09. 講義② 情報セキュリティとモラル
10. パワーポイント① 基本操作
11. パワーポイント② オブジェクトの活用
12. パワーポイント③ スライドの編集と高度な機能の活用
13. 講義③ 社会の中のIT
14. 総合課題① ワードとエクセルを使った資料作成
15. 総合課題② パワーポイントを使った資料作成

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内課題 | 70% | ・各授業の最終に、その日の授業内容を振り返ってもらう。
・授業中発表、質疑応答、グループワークなどを通じて行う。授業時間内に完了する。 |
| (2) 総合課題 | 30% | 授業中に指示する。 |

- ・開始後15分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101705

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。実習は模擬的な資料作成のプロセスをたどるように組み立てられており、授業中に行った作業は毎回授業内課題として提出してもらう。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

(2) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・資料作成
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス、ワード① 基本操作
02. ワード② 文書の編集
03. ワード③ 表とオブジェクトの活用
04. 講義① コンピュータとネットワークの仕組み
05. エクセル① 基本操作
06. エクセル② 関数の利用
07. エクセル③ グラフの作成
08. エクセル④ オブジェクトの活用
09. 講義② 情報セキュリティとモラル
10. パワーポイント① 基本操作
11. パワーポイント② オブジェクトの活用
12. パワーポイント③ スライドの編集と高度な機能の活用
13. 講義③ 社会の中のIT
14. 総合課題① ワードとエクセルを使った資料作成
15. 総合課題② パワーポイントを使った資料作成

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内課題 | 70% |
| (2) 総合課題 | 30% |
- ・授業中の最終に、その日の授業内容を確認してもらう。
・授業中の最終に、その日の授業内容を確認してもらう。
・授業中の最終に、その日の授業内容を確認してもらう。
- ・授業中に指示する。

- ・開始後15分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101710

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。実習は模擬的な資料作成のプロセスをたどるように組み立てられており、授業中に行った作業は毎回授業内課題として提出してもらう。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

(2) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・資料作成
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス、ワード① 基本操作
02. ワード② 文書の編集
03. ワード③ 表とオブジェクトの活用
04. 講義① コンピュータとネットワークの仕組み
05. エクセル① 基本操作
06. エクセル② 関数の利用
07. エクセル③ グラフの作成
08. エクセル④ オブジェクトの活用
09. 講義② 情報セキュリティとモラル
10. パワーポイント① 基本操作
11. パワーポイント② オブジェクトの活用
12. パワーポイント③ スライドの編集と高度な機能の活用
13. 講義③ 社会の中のIT
14. 総合課題① ワードとエクセルを使った資料作成
15. 総合課題② パワーポイントを使った資料作成

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内課題 | 70% |
| (2) 総合課題 | 30% |
- ・授業中の最終に、その日の授業内容を振り返ってもらう。
・授業中の最終に、その日の授業内容を振り返ってもらう。
・授業中の最終に、その日の授業内容を振り返ってもらう。
- ・授業中に指示する。

- ・開始後15分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101715

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。実習は模擬的な資料作成のプロセスをたどるように組み立てられており、授業中に行った作業は毎回授業内課題として提出してもらう。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

(2) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・資料作成
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス、ワード① 基本操作
02. ワード② 文書の編集
03. ワード③ 表とオブジェクトの活用
04. 講義① コンピュータとネットワークの仕組み
05. エクセル① 基本操作
06. エクセル② 関数の利用
07. エクセル③ グラフの作成
08. エクセル④ オブジェクトの活用
09. 講義② 情報セキュリティとモラル
10. パワーポイント① 基本操作
11. パワーポイント② オブジェクトの活用
12. パワーポイント③ スライドの編集と高度な機能の活用
13. 講義③ 社会の中のIT
14. 総合課題① ワードとエクセルを使った資料作成
15. 総合課題② パワーポイントを使った資料作成

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内課題 | 70% |
| (2) 総合課題 | 30% |
- ・授業中の最終に、その日の授業内容を確認してもらう。
・授業中の最終に、その日の授業内容を確認してもらう。
・授業中の最終に、その日の授業内容を確認してもらう。
- ・授業中に指示する。

- ・開始後15分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：加藤 裕康

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101720

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、オフィスのワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎を習得します。特にワード（ワープロ）とエクセル（表計算）の習得に力を注ぎます。

また、大学生活を有意義に過ごすために、情報社会における倫理を学びます。

(2) 学びの意義と目標

大学で研究を進める上で、ワープロや表計算ソフトは欠かせません。また、就職の際には、ワープロ、表計算が使えるかどうかによって給料や任される仕事内容が変わります。

これらを踏まえ、この授業では、ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を習得し、レポート作成や卒論などで活用できるようにする。

受講者に対する要望

教科書は、必ず購入しておくこと。
出席は評価の対象ではありません。しかし、5回以上休むと単位を取得できません。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的な理解
- ・情報社会に参画する態度

授業計画

01. ワードとエクセル、パワーポイントの基本操作
02. ワード|文字入力と編集の基本操作
03. ワード|文書の編集、印刷
04. ワード|文書の作成|【パワーポイントの基礎1】
05. ワード|表を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎2】
06. ワード|図形や画像を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎3】
07. ワード|総合学習問題|【パワーポイントの基礎4】
08. エクセル|データの編集|【情報社会】
09. エクセル|表の編集|【情報倫理】
10. エクセル|ブックの印刷|【ネチケット】
11. エクセル|グラフと図形の作成
12. エクセル|ブックの利用と管理
13. エクセル|関数
14. エクセル|データベース機能
15. エクセル|総合学習問題

準備学習(予習)

テキストに目を通し、わからない単語を調べましょう。

準備学習(復習)

オフィスソフトは、繰り返し作業することで身につきます。授業の復習をすると同時に、授業中に達成できなかった課題は、次週までの宿題です。

評価方法

(1) 課題(テスト)

100%

教科書

『Word2010クイックマスター』（ウイネット）【978-4-87284-664-5】
『Excel2010クイックマスター』（ウイネット）【978-4-87284-665-2】

参考書

担当教員： 加藤 裕康

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 2 コード： 11101725

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、オフィスのワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎を習得します。特にワード（ワープロ）とエクセル（表計算）の習得に力を注ぎます。また、大学生活を有意義に過ごすために、情報社会における倫理を学びます。

(2) 学びの意義と目標

大学で研究を進める上で、ワープロや表計算ソフトは欠かせません。また、就職の際には、ワープロ、表計算が使えるかどうかによって給料や任される仕事内容が変わります。これらを踏まえ、この授業では、ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を習得し、レポート作成や卒論などで活用できるようにする。

受講者に対する要望

教科書は、必ず購入しておくこと。出席は評価の対象ではありません。しかし、5回以上休むと単位を取得できません。

学びのキーワード

- ・ パソコン
- ・ オフィス系ソフト
- ・ 情報活用の実践力
- ・ 情報の科学的な理解
- ・ 情報社会に参画する態度

授業計画

01. ワードとエクセル、パワーポイントの基本操作
02. ワード|文字入力と編集の基本操作
03. ワード|文書の編集、印刷
04. ワード|文書の作成|【パワーポイントの基礎1】
05. ワード|表を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎2】
06. ワード|図形や画像を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎3】
07. ワード|総合学習問題|【パワーポイントの基礎4】
08. エクセル|データの編集|【情報社会】
09. エクセル|表の編集|【情報倫理】
10. エクセル|ブックの印刷|【ネチケット】
11. エクセル|グラフと図形の作成
12. エクセル|ブックの利用と管理
13. エクセル|関数
14. エクセル|データベース機能
15. エクセル|総合学習問題

準備学習(予習)

テキストに目を通し、わからない単語を調べましょう。

準備学習(復習)

オフィスソフトは、繰り返し作業することで身につきます。授業の復習をすると同時に、授業中に達成できなかった課題は、次週までの宿題です。

評価方法

(1) 課題 (テスト)

100%

教科書

『Word2010クイックマスター』（ウイネット）【978-4-87284-664-5】
『Excel2010クイックマスター』（ウイネット）【978-4-87284-665-2】

参考書

担当教員：原島 大輔

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101730

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

パソコンの基本操作、オフィス系ソフト（ワープロ・表計算・プレゼンテーション）の基本操作、インターネットを利用した情報検索と情報発信について、実習します。また、情報倫理や、情報という概念そのものについての学術的な理解の基礎について、講義します。

(2) 学びの意義と目標

大学での学習や研究に必要となる、情報技術の基礎的な利用法の習得を目指します。それから、学生として、さらには社会人として、情報社会で生きていくうえで身につけておくべき情報倫理の習得を目指します。

受講者に対する要望

積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・インターネット
- ・情報倫理
- ・基礎情報学

授業計画

01. オリエンテーション、パソコンの基本操作
02. 文字入力、ファイル管理
03. インターネットとメールの利用
04. 情報検索
05. ワードプロソフトの活用
06. ワードプロソフトの活用
07. 表計算ソフトの活用
08. 表計算ソフトの活用
09. 表計算ソフトの活用
10. プレゼンテーションソフトの活用
11. プレゼンテーションソフトの活用
12. インターネットを利用した情報発信
13. 情報倫理と情報セキュリティ
14. 基礎情報学
15. まとめ

準備学習(予習)

用語の意味を調べる課題を出します。

準備学習(復習)

授業で実習したことを復習するための課題を出します。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 課題 | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

単位取得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とします。

教科書

参考書

担当教員：原島 大輔

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101735

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

パソコンの基本操作、オフィス系ソフト（ワープロ・表計算・プレゼンテーション）の基本操作、インターネットを利用した情報検索と情報発信について、実習します。また、情報倫理や、情報という概念そのものについての学術的な理解の基礎について、講義します。

(2) 学びの意義と目標

大学での学習や研究に必要となる、情報技術の基礎的な利用法の習得を目指します。それから、学生として、さらには社会人として、情報社会で生きていくうえで身につけておくべき情報倫理の習得を目指します。

受講者に対する要望

積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・インターネット
- ・情報倫理
- ・基礎情報学

授業計画

01. オリエンテーション、パソコンの基本操作
02. 文字入力、ファイル管理
03. インターネットとメールの利用
04. 情報検索
05. ワードプロソフトの活用
06. ワードプロソフトの活用
07. 表計算ソフトの活用
08. 表計算ソフトの活用
09. 表計算ソフトの活用
10. プレゼンテーションソフトの活用
11. プレゼンテーションソフトの活用
12. インターネットを利用した情報発信
13. 情報倫理と情報セキュリティ
14. 基礎情報学
15. まとめ

準備学習(予習)

用語の意味を調べる課題を出します。

準備学習(復習)

授業で実習したことを復習するための課題を出します。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 課題 | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

単位取得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とします。

教科書

参考書

情報基礎（再履修用）

COMM-0-101

担当教員：鈴木 省吾

學期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101740

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。

(2) 学びの意義と目標

コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。

この授業では、教職課程履修者が、パソコンの
基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に
必要な文書作成や正しい情報の取扱ができるよう
にする。

受講者に対する要望

継続的に実習に参加し、PCになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出するまでも必要となる。
授業では、わからないことを分らないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。

学びのキーワード

- ・実習課題の完成
- ・ビジネスソフト操作の精通
- ・教えあい
- ・積極的な参加

授業計画

01. イントロダクション、ワードの概略
02. ワード文書作成の基本
03. ワードにおける作表
04. ワードオブジェクトの利用
05. ワード高度な編集
06. ワード総合問題
07. エクセルの概略、エクセル入力の基本
08. エクセルでの作表・表計算
09. エクセル関数の利用
10. エクセルデータベース機能の利用
11. ワードとエクセルの連携
12. エクセル総合問題
13. パワーポイントの概略、パワーポイントスライド作成
14. パワーポイントオブジェクト、アニメーション昨日の利用
15. パワーポイント総合問題

準備學習(予習)

授業で出された課題の反復練習。

準備學習(復習)

毎回の講義の学習した内容について、次の講義までに自宅で実際にパソコンを使用して、よく復習しておくこと。

評価方法

- (1) 課題 100% 毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。

出席は課面割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。

教科書

参考書

情報基礎（C-1）		COMM-0-101
担当教員： 鈴木 省吾		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 11101745
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. イントロダクション、ワードの概略 02. ワード文書作成の基本 03. ワードにおける作表 04. ワードオブジェクトの利用 05. ワード高度な編集 06. ワード総合問題 07. エクセルの概略、エクセル入力の基本 08. エクセルでの作表・表計算 09. エクセル関数の利用 10. エクセルデータベース機能の利用 11. ワードとエクセルの連携 12. エクセル総合問題 13. パワーポイントの概略、パワーポイントスライド作成 14. パワーポイントオブジェクト、アニメーション昨日の利用 15. パワーポイント総合問題 </div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div> <p>現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。</p> </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で出された課題の反復練習。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <p>コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。</p> <p>この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱いができるようにする。</p> </div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div> <p>継続的に実習に参加し、PCになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。
 授業では、わからないことを分からないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。</p> </div>	<div>準備学習(復習)</div> <div> <p>毎回の講義の学習した内容について、次の講義までに自宅で実際にパソコンを使用して、よく復習しておくこと。</p> </div>	
<div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習課題の完成 ・ ビジネスソフト操作の精通 ・ 教えあい ・ 積極的な参加 </div>		
		<div>評価方法</div> <div> (1) 課題 <div>100% 毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。</div> </div> <div>出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。</div>
		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

担当教員：二神 常爾

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101750

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、

(2) 学びの意義と目標

コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

学びのキーワード

- ・ノートパソコン
- ・エクセル
- ・グラフ
- ・表
- ・ワード

授業計画

01. ガイダンス
02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存
03. エクセルのセルへの文字、数値の入力
04. エクセルでの表の作成
05. エクセルでの折れ線グラフの作成
06. エクセルでの棒グラフの作成
07. エクセルのシート見出しの編集
08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え
09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する
10. エクセルで数式を利用する
11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける
12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける
13. ワード文書のレイアウトを整える
14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 授業中の課題 | 40% |
| (3) 総合課題 | 30% |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

参考書

担当教員：二神 常爾

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101755

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、

(2) 学びの意義と目標

コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

学びのキーワード

- ・ノートパソコン
- ・エクセル
- ・グラフ
- ・表
- ・ワード

授業計画

01. ガイダンス
02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存
03. エクセルのセルへの文字、数値の入力
04. エクセルでの表の作成
05. エクセルでの折れ線グラフの作成
06. エクセルでの棒グラフの作成
07. エクセルのシート見出しの編集
08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え
09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する
10. エクセルで数式を利用する
11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける
12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける
13. ワード文書のレイアウトを整える
14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 授業中の課題 | 40% |
| (3) 総合課題 | 30% |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

参考書

担当教員：二神 常爾

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101760

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、

(2) 学びの意義と目標

コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

学びのキーワード

- ・ノートパソコン
- ・エクセル
- ・グラフ
- ・表
- ・ワード

授業計画

01. ガイダンス
02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存
03. エクセルのセルへの文字、数値の入力
04. エクセルでの表の作成
05. エクセルでの折れ線グラフの作成
06. エクセルでの棒グラフの作成
07. エクセルのシート見出しの編集
08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え
09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する
10. エクセルで数式を利用する
11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける
12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける
13. ワード文書のレイアウトを整える
14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 授業中の課題 | 40% |
| (3) 総合課題 | 30% |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

参考書

話し方表現実践演習		COMM-0-301
担当教員： 幸田 儔朗		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11101850
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. ことばによる自己表現とは ～情報の整理と組み立て～ 02. 点検！自己紹介 ～各自の話し方を点検～ 03. 模擬面接 ① 自分の長所短所を分析する ～自己PR～ 04. 模擬面接 ② 自分の成長の糧を知る ～学生生活で得たもの～ 05. 模擬面接 ③ 自分がしたい仕事を明確にする ～志望理由～ 06. 模擬面接 ④ 自分と社会の動きを関連付ける ～社会的関心事 07. 模擬面接 ⑤ 自分を売り込む材料をもつ ～セールスポイントの伝え方 08. 小論文と面接の関係 ① 話材の選択 ～文の構成と発想～ 09. 小論文と面接の関係 ② 内容の整理 ～要約と意見発表～ 10. 集団討論 ① ～テーマ 「リーダーの条件」～ 11. 集団討論 ② ～テーマ 「自由課題」～ 12. 要約と主張 ① 文章素材を話しことばで伝える ～課題を要約し解析 「読み解く・主張する」～ 13. 要約と主張 ② 内容の共有と質疑応答 ～問題を解決 「話し合う」～ 14. ことば常識・敬語と慣用語・時事用語など ～社会人に必要な言葉遣い～ 15. まとめ模擬面接 ； 本番に臨むために ～テーマ「私の将来の夢」～
この講義では新3年生を対象にして「就職活動に役立つ話し方」を学びます。とりわけ面接試験の際に求められる「説明力」と「対応力」を磨くために、実践的な表現法のトレーニングを行います。「新入社員の選考で最も重視する点」は、「コミュニケーション能力」とする企業は経済団体の調査でも80%に上ります。社会が今、「話す力」「聞く力」を通して多面的な総合力と発想力の向上を求めていることが分かります。対面で行う面接試験は人間性を含めて直接本人の力を確かめる絶好の場であり、質問の意図を受け止めて的確にコミュニケーションできる		
(2) 学びの意義と目標		
この講義は初対面の他人（例えば面接官、同僚、顧客など）に対してきちんと自己表現できる力を磨くものです。「就職対策」に特化した内容にはなっていますが、広い意味で「オーラルコミュニケーション（話しことばによる意思疎通）」の向上に繋がる講義です。口頭による音声言語表現は文系理系を問わずあらゆる分野の問題解決に不可欠のものです。一方で文字言語とは異なり曖昧になりがちです。その上に相互性や瞬発力が求められることから、それなりのトレーニングが必要なのです。ことばで表現する行為は考えることに他なりません。「ものの見方		
準備学習(予習)		毎回、講義の最後に翌週の授業内容の概要を伝え、実践トレーニングは話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日までに話材を選択し準備をしっかりと行ってください。特に事前に一度は音声化して表現してみることが大切です。
準備学習(復習)		毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、理解度によっては同じ内容を繰り返すこともあります。
評価方法		(1) スキルの理解度 30% (2) 実践演習での評価 40% (3) 取り組みの積極性 30%
話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性などから評価する。		
教科書		授業の中で指示する。
参考書		
受講者に対する要望		
随時、各自の発表を録音・録画し、全員で視聴点検をします。受講生は積極的な意見交換をお願いします。他人の話をきちんと聞くことが自分の話し方の向上に繋がります。発表者の話に耳を傾けることが重要です。段階を踏む講義の性格上、欠席は効果を半減させますので無欠席をお願いします。		
学びのキーワード		
・「話しことば」は「音のことば」である ・ことば表現は自分の考えを明確にする ・分かりやすく話すには整理と組み立てが必要 ・好印象なコミュニケーションをはかる ・日本語力と社会的常識力を身に付ける		

ECA (Speaking) I (ALL)		ECA-0-101
担当教員：L. アーノルド		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 2 コード： 11200110
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】 大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業について、挨拶 02. 挨拶、人々の描写 03. 人々の描写 04. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 05. 日課、健康、スポーツ 06. 日課、健康、スポーツ 07. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 08. できること 09. できること 10. 比較対照 11. 比較対照 12. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 13. 中間復習 14. 中間テスト（スピーキング） 15. 時間、日付、イベント 16. 時間、日付、イベント、好み 17. イベント、好みの選択とお誘い 18. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 19. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 20. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 21. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 22. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 23. 話と行うこと 24. 話と行うこと 25. 話と行うこと、紙芝居・話をするの紹介 26. 紙芝居・話をしている 27. 将来のこと 28. 将来のこと、予定 29. 期末復習 30. まとめ（スピーキング）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回参加しよう！</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 会話 ・ コミュニケーション ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム ・ 文法 ・ ヴォキャブラーリ</div>	<div>教科書</div> <div>M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウイルトシーア「English Firsthand Success」(4E)、ピアソン・エデュケーション</div> <div>参考書</div> <div>M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウイルトシーア「English Firsthand Success Workbook」、ピアソン・エデュケーション</div>	

ECA (Speaking) I (ALL)		ECA-0-101											
担当教員：L. アーノルド													
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 2 コード： 11200120											
<div>学部教育の関連目</div> <p>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 01. 授業について、挨拶 02. 挨拶、人々の描写 03. 人々の描写 04. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 05. 日課、健康、スポーツ 06. 日課、健康、スポーツ 07. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 08. できること 09. できること 10. 比較対照 11. 比較対照 12. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 13. 中間復習 14. 中間テスト（スピーキング） 15. 時間、日付、イベント 16. 時間、日付、イベント、好み 17. イベント、好みの選択とお誘い 18. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 19. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 20. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 21. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 22. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 23. 話と行うこと 24. 話と行うこと 25. 話と行うこと、紙芝居・話をするの紹介 26. 紙芝居・話をしている 27. 将来のこと 28. 将来のこと、予定 29. 期末復習 30. まとめ（スピーキング） 												
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <p>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目</p>													
<div>(1) 内容</div> <p>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</p>													
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>様々な場面において、実際に使える英語力を身につけていく。</p>													
<div>受講者に対する要望</div> <p>毎回参加しよ！</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>課題を準備、行う、ブログのチェック、予習する。</p>												
	<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。</p>												
	<div>評価方法</div> <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>25%</td><td>70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。</td></tr> <tr> <td>(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学</td><td>25%</td><td></td></tr> <tr> <td>(3) 課題</td><td>25%</td><td></td></tr> <tr> <td>(4) 中間テスト（スピーキング）・まとめ（スピーキ</td><td>25%</td><td></td></tr> </table>		(1) 平常点	25%	70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。	(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学	25%		(3) 課題	25%		(4) 中間テスト（スピーキング）・まとめ（スピーキ	25%
(1) 平常点	25%	70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。											
(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学	25%												
(3) 課題	25%												
(4) 中間テスト（スピーキング）・まとめ（スピーキ	25%												
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会話 ・ コミュニケーション ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム ・ 文法 ・ ヴォキャブラーリ 	<div>教科書</div> <p>M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウイルトシーア「English Firsthand Success」(4E)、ピアソン・エデュケーション</p> <div>参考書</div> <p>M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウイルトシーア「English Firsthand Success Workbook」、ピアソン・エデュケーション</p>												

担当教員：L. アーノルド

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 2 コード： 112001AA

学部教育の関連目

【全】 大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目

【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

【全】 小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

毎回参加しよう！

学びのキーワード

- ・ 会話
- ・ リスニング
- ・ コミュニケーション、プレゼンテーション
- ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム
- ・ 文法

授業計画

01. プリーテスト
02. 授業内容説明、生徒達のクラスIDカード作り、挨拶
03. 挨拶の練習
04. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
05. 過去
06. 経験、過去
07. 過去、経験
08. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
09. 好み
10. 好み
11. 物、ことの好み
12. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
13. 中間復習
14. 中間テスト（スピーキング）
15. 場所、位置
16. 場所、位置の描写
17. 面白い場所、位置ことの描写
18. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
19. global-glocalテーマの紹介、活動
20. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの紹介
21. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの練習
22. global-glocalのショートプレゼンテーション
23. 娯楽、お誘い
24. 娯楽、お誘い
25. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
26. 将来の会話、予定
27. 将来予定、スピーキング練習
28. 期末復習
29. まとめ（スピーキング）
30. テキストレビュー、まとめ

準備学習(予習)

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

準備学習(復習)

テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習、プレゼンテーションの準備、スピーキングテストの前に練習する。

評価方法

- | | | |
|----------------------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 25% | 70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。 |
| (2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学 | 25% | |
| (3) 課題 | 25% | |
| (4) スピーキングテスト(2回)・テキストレビュー | 25% | |

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 (4E)』(ピアソン・エデュケーション)

参考書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア、A. グレイ 『English Firsthand 1 Workbook』(ピアソン・エデュケーション)

ECA (Speaking) I (A) Level b		ECA-0-101
担当教員： チェンバレン 暁子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001AB
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. Orientation & プリテスト <small>Unit 1 It's nice to meet you. Introducing yourself and friends. Greetings and leave-taking.</small></div> <div>02.</div> <div>03. Unit 1 Video Activity & Unit Practice</div> <div>04. Unit review <small>Unit 2 What's this? Naming objects, asking for and giving the locations of objects.</small></div> <div>05.</div> <div>06. Unit 2 Video Activity & Unit Practice</div> <div>07. Unit Review and Progress Check</div> <div>08. <small>Unit 3 Where are you from? Cities and countries, adjectives of personality and appearance.</small></div> <div>09. Unit 3 Video Activity & Unit Practice</div> <div>10. Unit Review</div> <div>11. <small>Unit 4 Whose jeans are these? Clothing, weather, and seasons.</small></div> <div>12. Unit 4 Video Activity & Unit Practice</div> <div>13. Unit Review and Progress Check</div> <div>14. スピーキングテスト</div> <div>15. <small>Unit 5 What are you doing? Clock time & everyday activities.</small></div> <div>16. Unit 5 Video Activity & Unit Practice</div> <div>17. Progress Check</div> <div>18. <small>Unit 6 My sister works downtown. Transportation and family relationships.</small></div> <div>19. Unit 6 Video Activities & Unit Practice</div> <div>20. Unit Review and Progress Check</div> <div>21. <small>Unit 7 Does it have a view? Houses & apartments, furniture</small></div> <div>22. Unit 7 Video Activities & Unit Practice</div> <div>23. Unit Review</div> <div>24. <small>Unit 8 What do you do? Jobs and workplaces.</small></div> <div>25. Unit 8 Video Activities & Unit Practice</div> <div>26. Unit review and Progress check</div> <div>27. Speaking Test</div> <div>28. Cultural Understanding</div> <div>29. 総復習</div> <div>30. まとめ </div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業内参加態度 20% 授業内での様々な Activitiesの参加度が授業内での態度が評価される。</div> <div>(2) 小テスト 20% 2Unit 毎に行われるProgress checkテスト点。</div> <div>(3) 宿題 20% 授業内で課される課題に対する評価。</div> <div>(4) Speaking Test & Final Exam 40% Speaking test と期末試験の評価点。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>リスニング力の養成や英語の発音、文法、語彙、様々な言い回しなどを学びながら、英語コミュニケーション能力を高めてゆく。異文化理解。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 異文化理解 ・ Listening ・ 正しい発音 ・ Speaking ・ 英文法</div>	<div>教科書</div> <div>Jack Richards / interchange Intro Full Contact A Fourth Edition (Cambridge University Press)</div> <div>参考書</div>	

ECA (Speaking) I (C) Level a		ECA-0-101											
担当教員：L. アーノルド													
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001CA											
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. プリーテスト 02. 授業内容説明、生徒達のクラスIDカード作り、挨拶 03. 挨拶の練習 04. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 05. 過去 06. 経験、過去 07. 過去、経験 08. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 09. 好み 10. 好み 11. 物、ことの好み 12. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 13. 中間復習 14. 中間テスト（スピーキング） 15. 場所、位置 16. 場所、位置の描写 17. 面白い場所、位置ことの描写 18. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 19. global-glocalテーマの紹介、活動 20. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの紹介 21. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの練習 22. global-glocalのショートプレゼンテーション 23. 娯楽、お誘い 24. 娯楽、お誘い 25. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 26. 将来の会話、予定 27. 将来予定、スピーキング練習 28. 期末復習 29. まとめ（スピーキング） 30. テキストレビュー、まとめ </div>												
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div> 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目 </div>													
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。</div>													
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。</div>													
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回参加しよう！</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。</div>												
	<div>準備学習(復習)</div> <div>テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習、プレゼンテーションの準備、スピーキングテストの前に練習する。</div>												
	<div>評価方法</div> <div> <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>25%</td><td>70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。</td></tr> <tr> <td>(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学</td><td>25%</td><td></td></tr> <tr> <td>(3) 課題</td><td>25%</td><td></td></tr> <tr> <td>(4) スピーキングテスト(2回)・テキストレビュー</td><td>25%</td><td></td></tr> </table> </div>		(1) 平常点	25%	70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。	(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学	25%		(3) 課題	25%		(4) スピーキングテスト(2回)・テキストレビュー	25%
(1) 平常点	25%	70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。											
(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学	25%												
(3) 課題	25%												
(4) スピーキングテスト(2回)・テキストレビュー	25%												
<div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会話 ・ リスニング ・ コミュニケーション、プレゼンテーション ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム ・ 文法 </div>	<div>教科書</div> <div>M. ヘルゲセン, S. ブラウン, J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 (4E)』 (ピアソン・エデュケーション)</div> <div>参考書</div> <div>M. ヘルゲセン, S. ブラウン, J. ウィルトシーア, A. グレイ 『English Firsthand 1 Workbook』 (ピアソン・エデュケーション)</div>												

ECA (Speaking) I (C) Level b		ECA-0-101
担当教員： チェンバレン 暁子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001CB
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. Orientation & プリテスト <small>Unit 1 It's nice to meet you. Introducing yourself and friends. Greetings and leave-taking.</small></div> <div>02.</div> <div>03. Unit 1 Video Activity & Unit Practice</div> <div>04. Unit review <small>Unit 2 What's this? Naming objects, asking for and giving the locations of objects.</small></div> <div>05.</div> <div>06. Unit 2 Video Activity & Unit Practice</div> <div>07. Unit Review and Progress Check</div> <div>08. <small>Unit 3 Where are you from? Cities and countries, adjectives of personality and appearance.</small></div> <div>09. Unit 3 Video Activity & Unit Practice</div> <div>10. Unit Review</div> <div>11. <small>Unit 4 Whose jeans are these? Clothing, weather, and seasons.</small></div> <div>12. Unit 4 Video Activity & Unit Practice</div> <div>13. Unit Review and Progress Check</div> <div>14.スピーキングテスト</div> <div>15. <small>Unit 5 What are you doing? Clock time & everyday activities.</small></div> <div>16. Unit 5 Video Activity & Unit Practice</div> <div>17. Progress Check</div> <div>18. <small>Unit 6 My sister works downtown. Transportation and family relationships.</small></div> <div>19. Unit 6 Video Activities & Unit Practice</div> <div>20. Unit Review and Progress Check</div> <div>21. <small>Unit 7 Does it have a view? Houses & apartments, furniture</small></div> <div>22. Unit 7 Video Activities & Unit Practice</div> <div>23. Unit Review</div> <div>24. <small>Unit 8 What do you do? Jobs and workplaces.</small></div> <div>25. Unit 8 Video Activities & Unit Practice</div> <div>26. Unit review and Progress check</div> <div>27. Speaking Test</div> <div>28. Cultural Understanding</div> <div>29. 総復習</div> <div>30. まとめ </div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業参加態度 20% 授業内での様々な Activitiesの参加度が授業内での態度が評価される。</div> <div>(2) 小テスト 20% 2Unit 毎に行われるProgress checkテスト点。</div> <div>(3) 宿題 20% 授業内で課される課題に対する評価。</div> <div>(4) Speaking Test & Final Exam 40% Speaking test と期末試験の評価点。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>リスニング力の養成や英語の発音、文法、語彙、様々な言い回しなどを学びながら、英語コミュニケーション能力を高めてゆく。異文化理解。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 異文化理解 ・ Listening ・ 正しい発音 ・ Speaking ・ 英文法</div>	<div>教科書</div> <div>Jack Richards / interchange Intro Full Contact A Fourth Edition (Cambridge University Press)</div> <div>参考書</div>	

担当教員：中川 英幸

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001CC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------------|
| (1) 平常点 | 60% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 定期試験 | 40% (スピーキングテスト、Post-testの成績を含む) |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001CD

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. 授業について、プリテスト
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. 復習
15. スピーキングテスト #1
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. 復習
29. スピーキングテスト #2
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | |
|--------------------|----------------------|
| (1) 平常点 | 60% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 期末試験・スピーキングテスト | 40% |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

参考書

ECA (Speaking) I (D) Level a		ECA-0-101
担当教員：L. アーノルド		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001DA
学部教育の関連目		授業計画
【全】 大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目		
(1) 内容		01. プリーテスト 02. 授業内容説明、生徒達のクラスIDカード作り、挨拶 03. 挨拶の練習 04. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 05. 過去 06. 経験、過去 07. 過去、経験 08. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 09. 好み 10. 好み 11. 物、ことの好み 12. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 13. 中間復習 14. 中間テスト（スピーキング） 15. 場所、位置 16. 場所、位置の描写 17. 面白い場所、位置ことの描写 18. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 19. global-glocalテーマの紹介、活動 20. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの紹介 21. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの練習 22. global-glocalのショートプレゼンテーション 23. 娯楽、お誘い 24. 娯楽、お誘い 25. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 26. 将来の会話、予定 27. 将来予定、スピーキング練習 28. 期末復習 29. まとめ（スピーキング） 30. テキストレビュー、 まとめ
「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。		
(2) 学びの意義と目標		
様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。		
準備学習(予習)		課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。
準備学習(復習)		テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習、プレゼンテーションの準備、スピーキングテストの前に練習する。
評価方法		(1) 平常点 25% 70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。 (2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学 25% (3) 課題 25% (4) スピーキングテスト（2回）・テキストレビュー 25%
受講者に対する要望		教科書 M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand I (4E)』（ピアソン・エデュケーション）
毎回参加しよう！		
学びのキーワード		
・ 会話 ・ リスニング ・ コミュニケーション、プレゼンテーション ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム ・ 文法		
		参考書 M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア、A. グレイ 『English Firsthand I Workbook』（ピアソン・エデュケーション）

ECA (Speaking) I (D) Level b		ECA-0-101
担当教員： チェンバレン 暁子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001DB
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. Orientation & プリテスト <small>Unit 1 It's nice to meet you. Introducing yourself and friends. Greetings and leave-taking.</small></div> <div>02.</div> <div>03. Unit 1 Video Activity & Unit Practice</div> <div>04. Unit review <small>Unit 2 What's this? Naming objects, asking for and giving the locations of objects.</small></div> <div>05.</div> <div>06. Unit 2 Video Activity & Unit Practice</div> <div>07. Unit Review and Progress Check</div> <div>08. <small>Unit 3 Where are you from? Cities and countries, adjectives of personality and appearance.</small></div> <div>09. Unit 3 Video Activity & Unit Practice</div> <div>10. Unit Review</div> <div>11. <small>Unit 4 Whose jeans are these? Clothing, weather, and seasons.</small></div> <div>12. Unit 4 Video Activity & Unit Practice</div> <div>13. Unit Review and Progress Check</div> <div>14. スピーキングテスト</div> <div>15. <small>Unit 5 What are you doing? Clock time & everyday activities.</small></div> <div>16. Unit 5 Video Activity & Unit Practice</div> <div>17. Progress Check</div> <div>18. <small>Unit 6 My sister works downtown. Transportation and family relationships.</small></div> <div>19. Unit 6 Video Activities & Unit Practice</div> <div>20. Unit Review and Progress Check</div> <div>21. <small>Unit 7 Does it have a view? Houses & apartments, furniture</small></div> <div>22. Unit 7 Video Activities & Unit Practice</div> <div>23. Unit Review</div> <div>24. <small>Unit 8 What do you do? Jobs and workplaces.</small></div> <div>25. Unit 8 Video Activities & Unit Practice</div> <div>26. Unit review and Progress check</div> <div>27. Speaking Test</div> <div>28. Cultural Understanding</div> <div>29. 総復習</div> <div>30. まとめ</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業内態度・参加度 20% 授業内での様々な Activitiesの参加度が授業内での態度が評価される。</div> <div>(2) 小テスト 20% 2Unit 毎に行われるProgress checkテスト点。</div> <div>(3) 宿題 20% 授業内で課される課題に対する評価。</div> <div>(4) Speaking Test & Final Exam 40% Speaking test と期末試験の評価点。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>リスニング力の養成や英語の発音、文法、語彙、様々な言い回しなどを学びながら、英語コミュニケーション能力を高めてゆく。異文化理解。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 異文化理解 ・ Listening ・ 正しい発音 ・ Speaking ・ 英文法</div>	<div>教科書</div> <div>Jack Richards / interchange Intro Full Contact A Fourth Edition (Cambridge University Press)</div> <div>参考書</div>	

担当教員：中川 英幸

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001DC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------------|
| (1) 平常点 | 60% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 定期試験 | 40% (スピーキングテスト、Post-testの成績を含む) |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

参考書

ECA (Speaking) I (J) Level a		ECA-0-101
担当教員：L. アーノルド		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001JA
学部教育の関連目		授業計画
【全】 大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		01. プリーテスト 02. 授業内容説明、生徒達のクラスIDカード作り、挨拶 03. 挨拶の練習 04. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 05. 過去 06. 経験、過去 07. 過去、経験 08. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 09. 好み 10. 好み 11. 物、ことの好み 12. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 13. 中間復習 14. 中間テスト（スピーキング） 15. 場所、位置 16. 場所、位置の描写 17. 面白い場所、位置ことの描写 18. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 19. global-glocalテーマの紹介、活動 20. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの紹介 21. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの練習 22. global-glocalのショートプレゼンテーション 23. 娯楽、お誘い 24. 娯楽、お誘い 25. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 26. 将来の会話、予定 27. 将来予定、スピーキング練習 28. 期末復習 29. まとめ（スピーキング） 30. テキストレビュー、まとめ
カリキュラム上の位置付け		
【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目		
(1) 内容		
「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。		
(2) 学びの意義と目標		
様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。		
準備学習(予習)		課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。
準備学習(復習)		テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習、プレゼンテーションの準備、スピーキングテストの前に練習する。
評価方法		(1) 平常点 25% 70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。 (2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学 25% (3) 課題 25% (4) スピーキングテスト（2回）・テキストレビュー 25%
受講者に対する要望		
毎回参加しよう！		
学びのキーワード		教科書
・ 会話 ・ リスニング ・ コミュニケーション、プレゼンテーション ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム ・ 文法		M. ヘルゲセン, S. ブラウン, J. ウィルトシーア 『English Firsthand I (4E)』（ピアソン・エデュケーション） 参考書 M. ヘルゲセン, S. ブラウン, J. ウィルトシーア, A. グレイ 『English Firsthand I Workbook』（ピアソン・エデュケーション）

ECA (Speaking) I (J) Level b		ECA-0-101
担当教員： チェンバレン 暁子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001JB
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. Orientation & プリテスト <small>Unit 1 It's nice to meet you. Introducing yourself and friends. Greetings and leave-taking.</small></div> <div>02.</div> <div>03. Unit 1 Video Activity & Unit Practice</div> <div>04. Unit review <small>Unit 2 What's this? Naming objects, asking for and giving the locations of objects.</small></div> <div>05.</div> <div>06. Unit 2 Video Activity & Unit Practice</div> <div>07. Unit Review and Progress Check</div> <div>08. <small>Unit 3 Where are you from? Cities and countries, adjectives of personality and appearance.</small></div> <div>09. Unit 3 Video Activity & Unit Practice</div> <div>10. Unit Review</div> <div>11. <small>Unit 4 Whose jeans are these? Clothing, weather, and seasons.</small></div> <div>12. Unit 4 Video Activity & Unit Practice</div> <div>13. Unit Review and Progress Check</div> <div>14. スピーキングテスト</div> <div>15. <small>Unit 5 What are you doing? Clock time & everyday activities.</small></div> <div>16. Unit 5 Video Activity & Unit Practice</div> <div>17. Progress Check</div> <div>18. <small>Unit 6 My sister works downtown. Transportation and family relationships.</small></div> <div>19. Unit 6 Video Activities & Unit Practice</div> <div>20. Unit Review and Progress Check</div> <div>21. <small>Unit 7 Does it have a view? Houses & apartments, furniture</small></div> <div>22. Unit 7 Video Activities & Unit Practice</div> <div>23. Unit Review</div> <div>24. <small>Unit 8 What do you do? Jobs and workplaces.</small></div> <div>25. Unit 8 Video Activities & Unit Practice</div> <div>26. Unit review and Progress check</div> <div>27. Speaking Test</div> <div>28. Cultural Understanding</div> <div>29. 総復習</div> <div>30. まとめ </div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業内態度・参加度 20% 授業内での様々な Activitiesの参加度が授業内での態度が評価される。</div> <div>(2) 小テスト 20% 2Unit 毎に行われるProgress checkテスト点。</div> <div>(3) 宿題 20% 授業内で課される課題に対する評価。</div> <div>(4) Speaking Test & Final Exam 40% Speaking test と期末試験の評価点。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>リスニング力の養成や英語の発音、文法、語彙、様々な言い回しなどを学びながら、英語コミュニケーション能力を高めてゆく。異文化理解。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 異文化理解 ・ Listening ・ 正しい発音 ・ Speaking ・ 英文法</div>	<div>教科書</div> <div>Jack Richards / interchange Intro Full Contact A Fourth Edition (Cambridge University Press)</div> <div>参考書</div>	

担当教員：中川 英幸

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001JC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------------|
| (1) 平常点 | 60% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 定期試験 | 40% (スピーキングテスト、Post-testの成績を含む) |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

参考書

担当教員：M. サベット

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001SA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目
 【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目
 【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

この授業では受講生が自分の考えや意見を効果的に英語で表現できるよう指導していく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において実践できるだけの必要な英語運用能力を身につけ、自信をもって英語でコミュニケーションができるようになることを目指す。

受講者に対する要望

語学の授業においては出席が重要である。授業では、学生の積極的な参加が強く求められる。

学びのキーワード

- ・ Communication
- ・ Strategies
- ・ Culture
- ・ Fluency
- ・ Interaction

授業計画

01. Class policy and course introduction
02. Module 1: Personal information
03. Exchanging personal information about self and family
04. Exchanging personal information about school and work
05. Exchanging personal information about friends
06. Summary and review
07. Module Two: Personality traits
08. Talking about personality traits
09. Discussing how we relate to others
10. Discussing how we relate to others
11. Summary and review
12. Module Three: Routines
13. Talking about daily routines
14. Talking about what we do for fun
15. Talking about what we do for fun
16. Summary and review
17. Preparation for mid-term presentation
18. Mid-term presentation
19. Module Four: Expressing opinions and preferences
20. Making comparisons and stating opinions
21. Making comparisons and stating opinions
22. Making comparisons and stating opinions
23. Summary and review
24. Module Five: Asking for and giving advice: making requests
25. Asking for and giving advice when facing difficulty
26. Making requests
27. Making requests
28. Summary and review
29. Preparation for final presentation
30. Final presentation

準備学習(予習)

Some speaking and discussion activities require prior preparation. Therefore, students are expected to prepare for these activities beforehand.

準備学習(復習)

Additional writing and listening tasks will be assigned in order to reinforce materials covered in the class.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 40% |
| (2) Homework | 30% |
| (3) Presentations | 30% |

教科書

David Paul 『Communication Strategies 1』 (Heinle & Heinle)
 『』 〇

参考書

担当教員：L. アーノルド

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001WA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目
 【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目
 【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

毎回参加しよう！

学びのキーワード

- ・ 会話
- ・ リスニング
- ・ コミュニケーション、プレゼンテーション
- ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム
- ・ 文法

授業計画

01. プリーテスト
02. 授業内容説明、生徒達のクラスIDカード作り、挨拶
03. 挨拶の練習
04. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
05. 過去
06. 経験、過去
07. 過去、経験
08. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
09. 好み
10. 好み
11. 物、ことの好み
12. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
13. 中間復習
14. 中間テスト（スピーキング）
15. 場所、位置
16. 場所、位置の描写
17. 面白い場所、位置ことの描写
18. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
19. global-glocalテーマの紹介、活動
20. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの紹介
21. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの練習
22. global-glocalのショートプレゼンテーション
23. 娯楽、お誘い
24. 娯楽、お誘い
25. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
26. 将来の会話、予定
27. 将来予定、スピーキング練習
28. 期末復習
29. まとめ（スピーキング）
30. テキストレビュー、まとめ

準備学習(予習)

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

準備学習(復習)

テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習、プレゼンテーションの準備、スピーキングテストの前に練習する。

評価方法

- | | | |
|----------------------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 25% | 70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。 |
| (2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学 | 25% | |
| (3) 課題 | 25% | |
| (4) スピーキングテスト(2回)・テキストレビュー | 25% | |

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 (4E)』(ピアソン・エデュケーション)

参考書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア、A. グレイ 『English Firsthand 1 Workbook』(ピアソン・エデュケーション)

ECA (Speaking) I (W) Level b		ECA-0-101
担当教員： チェンバレン 暁子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001WB
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. Orientation & プリテスト <small>Unit 1 It's nice to meet you. Introducing yourself and friends. Greetings and leave-taking.</small></div> <div>02.</div> <div>03. Unit 1 Video Activity & Unit Practice</div> <div>04. Unit review <small>Unit 2 What's this? Naming objects, asking for and giving the locations of objects.</small></div> <div>05.</div> <div>06. Unit 2 Video Activity & Unit Practice</div> <div>07. Unit Review and Progress Check</div> <div>08. <small>Unit 3 Where are you from? Cities and countries, adjectives of personality and appearance.</small></div> <div>09. Unit 3 Video Activity & Unit Practice</div> <div>10. Unit Review</div> <div>11. <small>Unit 4 Whose jeans are these? Clothing, weather, and seasons.</small></div> <div>12. Unit 4 Video Activity & Unit Practice</div> <div>13. Unit Review and Progress Check</div> <div>14.スピーキングテスト</div> <div>15. <small>Unit 5 What are you doing? Clock time & everyday activities.</small></div> <div>16. Unit 5 Video Activity & Unit Practice</div> <div>17. Progress Check</div> <div>18. <small>Unit 6 My sister works downtown. Transportation and family relationships.</small></div> <div>19. Unit 6 Video Activities & Unit Practice</div> <div>20. Unit Review and Progress Check</div> <div>21. <small>Unit 7 Does it have a view? Houses & apartments, furniture</small></div> <div>22. Unit 7 Video Activities & Unit Practice</div> <div>23. Unit Review</div> <div>24. <small>Unit 8 What do you do? Jobs and workplaces.</small></div> <div>25. Unit 8 Video Activities & Unit Practice</div> <div>26. Unit review and Progress check</div> <div>27. Speaking Test</div> <div>28. Cultural Understanding</div> <div>29. 総復習</div> <div>30. まとめ </div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業内参加態度 20% 授業内での様々な Activitiesの参加度が授業内での態度が評価される。</div> <div>(2) 小テスト 20% 2Unit 毎に行われるProgress checkテスト点。</div> <div>(3) 宿題 20% 授業内で課される課題に対する評価。</div> <div>(4) Speaking Test & Final Exam 40% Speaking test と期末試験の評価点。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>リスニング力の養成や英語の発音、文法、語彙、様々な言い回しなどを学びながら、英語コミュニケーション能力を高めてゆく。異文化理解。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">異文化理解 Listening正しい発音Speaking英文法</div>	<div>教科書</div> <div>Jack Richards / interchange Intro Full Contact A Fourth Edition (Cambridge University Press)</div> <div>参考書</div>	

担当教員：島田 洋子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001WC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. 授業について、プリテスト
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. review
15. ふりかえり # 1
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. review
29. ふりかえり # 2
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 期末試験・スピーキングテスト | 60% |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

参考書

ECA (Speaking) II (A) Level a		ECA-0-102
担当教員：L. アーノルド		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目		単位： 2 コード： 112002AA
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。		01. 夏の思い出、場所・位置の描写 02. 人々の描写 03. 人々、場所・位置の描写 04. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 05. 物・値段の描写 06. 物・値段の描写 07. 買い物、ショッピング 08. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 09. 日課・スケジュール 10. 日課・スケジュール 11. 日課・スケジュール 12. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 13. 中間復習 14. 中間テスト（スピーキング） 15. 過程 16. 過程・手順 17. 過程・手順、テキストメッセージ 18. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 19. global・glocalのテーマ 20. global・glocalのテーマ 21. global・glocalテーマのスピーキング練習、ショートプレゼンテーションの紹介 22. global・glocalテーマのショートプレゼンテーション 23. 方向 24. 方向 25. 方向、場所・位置方向の教える 26. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 27. テキストレビュー 28. テキストレビュー・期末復習 29. まとめ（スピーキング） 30. テキストレビュー、まとめ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
毎回参加しよう！		
学びのキーワード		評価方法
・ 会話 ・ リスニング ・ コミュニケーション、プレゼンテーション ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム ・ 文法		(1) 平常点 25%
		(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学 25%
		(3) 課題 25%
		(4) スピーキングテスト（2回）・テキストレビュー 25%
教科書		参考書
M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 (4E)』（ピアソン・エデュケーション） M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア、A. グレイ 『English Firsthand 1 Workbook』（ピアソン・エデュケーション）		

担当教員： チェンバレン 暁子

學期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112002AB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習するとともに、Speaking & Listeningの練習を行い、自然なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において実際に使える英語コミュニケーション能力の向上を目指す。異文化理解。

受講者に対する要望

授業の積極的な参加を望む。予習＆復習、課題は必ず行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力の養成
- ・文法と語彙力の強化
- ・Listening能力の強化
- ・正しい発音を学ぶ
- ・異文化理解

授業計画

01. Orientation: Class policy and procedures, Pre-test
02. Unit 9 Do we need any eggs? Basic Foods and meals.
03. Unit 9 Video Activity and Unit Practice
04. Unit review
05. Unit 10 What sports do you play? Ability and talents.
06. Unit 10 Video Activity and Unit Practice
07. Unit Review and Progress Check
08. Unit 11 What are you going to do? Month and dates. Holiday, festival, and special days.
09. Unit 11 Video Activity and Unit Practice
10. Unit review
11. Unit 12 What's the matter? Health problems and advice. |
12. Unit 12 Video Activity and Unit Practice
13. Unit Review and Progress Check
14. Speaking Test
15. Unit 13 You can't miss it. Store and things you can buy there. Tourist attraction.
16. Unit 13 Video Activity and Unit Practice
17. Unit Review
18. Unit 14 Did you have fun? Weekends; Chores and fun activities.
19. Unit 14 Video Activity and Unit Practice
20. Unit Review and Progress Check
21. Unit 15 Where did you grow up? Biographic information.
22. Unit 15 Video Activity and Unit Practice
23. Unit Review
24. Unit 16 Can she call you later? Location, telephone calls, and invitations. |
25. Unit 16 Video Activity and Unit Practice
26. Unit Review and Progress Check
27. Cultural Understanding
28. Speaking Test
29. Review
30. まとめ

準備學習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備學習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

(1) 授業内態度・参加度	20%
(2) 小テスト	20%
(3) 宿題	20%
(4) Speaking Test & Final Exam	40%

教科書

Jack C. Richards 『Interchange Intro Full Contact B (Fourth Edition)』 (Cambridge University Press)

参考書

担当教員：M. サベット

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112002SA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では受講生が自分の考えや意見を効果的に英語で表現できるよう指導していく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において実践できるだけの必要な英語運用能力を身につけ、自信をもって英語でコミュニケーションができるようになることを目指す。

受講者に対する要望

語学の授業においては出席が重要である。授業では、学生の積極的な参加が強く求められる。

学びのキーワード

- ・ Communication
- ・ Strategies
- ・ Culture
- ・ Fluency
- ・ Discussion

授業計画

01. Class policy and course introduction
02. Module 1: Discussing past experiences
03. Talking about past experiences, memories, and vacations
04. Talking about personal history
05. Talking about personal history
06. Summary and review
07. Module 2: Home lifestyles
08. Talking about cities, neighborhoods, and living environments
09. Comparing neighborhoods and living environments
10. Comparing neighborhoods and living environments
11. Summary and review
12. Module 3: Culture and tradition
13. Talking about cultures, values, and traditions
14. Talking about cultures, values, and traditions
15. Talking about cultures, values, and traditions
16. Summary and review
17. Preparation for mid-term presentation
18. Mid-term presentation
19. Module 4: Global issues
20. Talking about local and global issues
21. Talking about local and global issues
22. Talking about local and global issues
23. Summary and review
24. Module 5: Future plans
25. Discussing near future plans
26. Discussing long term plans and goals
27. Discussing long term plans and goals
28. Summary and review
29. Preparation for final presentation
30. Final presentation

準備学習(予習)

Some speaking and discussion activities require prior preparation. Therefore, students are expected to prepare for these activities beforehand.

準備学習(復習)

Additional writing and listening tasks will be assigned in order to reinforce materials covered in the class.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 40% |
| (2) Homework | 30% |
| (3) Presentations | 30% |

教科書

David Paul 『Communication Strategies 1』 (Heinle & Heinle)
『』 〇

参考書

担当教員：能町 和子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：1 コード：11200310

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

映画School of Rockを教材にして、リスニング／語彙／会話表現を中心に学習する。また、スクリーン・プレイを読み、場面描写に使われる表現を学ぶ。MoodleのForumを用いて英語で意見交換する。

(2) 学びの意義と目標

立場や場面に応じた英語表現を理解する。自然な速度で話される英語を聞き取り、強弱や抑揚をつけて英語を話せるようにする。授業以外でも自主的に映画を見て英語学習に取り組む姿勢を育てる。

受講者に対する要望

発音練習・会話練習に積極的に取り組む。
予習・復習を継続的に行う。

学びのキーワード

- ・リスニング
- ・スピーキング
- ・語彙
- ・ライティング

授業計画

01. オリエンテーション、Chapter 1～3 視聴
02. Chapter 1
03. Chapter 2
04. Chapter 3
05. Test 1, Chapter 4～6視聴
06. Chapter 4
07. Chapter 5
08. Chapter 6
09. Test2, Chapter 7-10 視聴
10. Chapter 7
11. Chapter 8
12. Chapter 9, 10
13. Test 3, 会話作成
14. 会話作成・発表
15. まとめ、In-class paper 作成・提出

準備学習(予習)

プリントで指示された語句の意味を調べる。

準備学習(復習)

授業で学習した会話表現／語彙の確認。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|----------------------------|
| (1) 平常点 | 20% | 授業への参加と貢献、課題、発表 |
| (2) テスト | 30% | 語彙・会話表現・聞き取りのテストを学期中に3回行う。 |
| (3) 会話作成・発表 | 20% | |
| (4) 宿題 | 15% | |
| (5) レポート | 15% | |

教科書

マイク ホワイト（著）高瀬 文広（監修）『スクール・オブ・ロック（名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ）』（スクリーンプレイ）

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11200320

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

映画を授業に取り入れることで、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現やアメリカ文化を学習する。

(2) 学びの意義と目標

映画を鑑賞しながら、リスニング力の向上を目指すとともに、英語表現や文法の解説、ロールプレイなどのアクティビティを通して、コミュニケーション能力の向上も目指す。

受講者に対する要望

辞書を必ず授業に持参すること。＜br /＞復習を行い、宿題や課題は必ず期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・リスニング
- ・英語表現 / 会話
- ・アメリカ文化
- ・語彙
- ・文法

授業計画

01. 授業オリエンテーション、映画鑑賞 (Ch. 1-5)
02. Chapter 1: Serving Society
03. Chapter 2: The Man
04. Chapter 3: Required Class Project
05. Chapter 4: Creating Musical Fusion
06. Chapter 5: Ticked Off
07. 中間試験
08. 映画鑑賞 (Ch. 6-10)
09. Chapter 6: Field Trip
10. Chapter 7: Stevie Nicks
11. Chapter 8: A Fraud
12. Chapter 9: One Great Rock Show
13. Chapter 10: Encore
14. 期末試験に向けた総復習、課題発表
15. まとめ

準備学習(予習)

次の授業で学習するチャプターの英語スクリプトに目を通して
おく。意味の分からない語彙や表現を辞書を使って調べて
おく。

準備学習(復習)

学習したチャプターの復習問題（授業内で配布）に取り組む。
＜br /＞授業で学んだ単語、文法、表現などを必ず復習する。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験、中間試験 | 50% | |

教科書

マイク ホワイト、高瀬 文広、Mike White 『スクール・オブ・ロック (名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11200350

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

映画を授業に取り入れることで、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現やアメリカ文化を学習する。

(2) 学びの意義と目標

映画を鑑賞しながら、リスニング力の向上を目指すとともに、英語表現や文法の解説、ロールプレイなどのアクティビティを通して、コミュニケーション能力の向上も目指す。

受講者に対する要望

辞書を必ず授業に持参すること。＜br /＞復習を行い、宿題や課題は必ず期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・リスニング
- ・英語表現 / 会話
- ・アメリカ文化
- ・語彙
- ・文法

授業計画

01. 授業オリエンテーション、映画鑑賞 (Ch. 1-5)
02. Chapter 1: Serving Society
03. Chapter 2: The Man
04. Chapter 3: Required Class Project
05. Chapter 4: Creating Musical Fusion
06. Chapter 5: Ticked Off
07. 中間試験
08. 映画鑑賞 (Ch. 6-10)
09. Chapter 6: Field Trip
10. Chapter 7: Stevie Nicks
11. Chapter 8: A Fraud
12. Chapter 9: One Great Rock Show
13. Chapter 10: Encore
14. 期末試験に向けた総復習、課題発表
15. まとめ

準備学習(予習)

次の授業で学習するチャプターの英語スクリプトに目を通しておく。意味の分からない語彙や表現を辞書を使って調べておく。

準備学習(復習)

学習したチャプターの復習問題（授業内で配布）に取り組む。＜br /＞授業で学んだ単語、文法、表現などを必ず復習する。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験、中間試験 | 50% | |

教科書

マイク ホワイト、高瀬 文広、Mike White 『スクール・オブ・ロック (名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)

参考書

ECA (Cinema) I (ALL)

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 11200355

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

映画を授業に取り入れ、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現やアメリカ文化を学習する。

(2) 学びの意義と目標

映画を鑑賞しながら、リスニング力の向上を目指すとともに、英語表現や文法の解説、ロールプレイなどのアクティビティを通して、コミュニケーション能力の向上も目指す。

受講者に対する要望

辞書を必ず授業に持参すること。
復習を行い、宿題や課題は必ず期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ リスニング
- ・ 英語表現／会話
- ・ アメリカ文化
- ・ 語彙
- ・ 文法

授業計画

01. オリエンテーション／映画鑑賞 (Ch. 1－5)
02. Chapter 1: Serving Society
03. Chapter 2: The Man
04. Chapter 3: Required Class Project
05. Chapter 4: Creating Musical Fusion
06. Chapter 5: Ticked Off
07. ふりかえり
08. 映画鑑賞 (Ch. 6－10)
09. Chapter 6: Field Trip
10. Chapter 7: Stevie Nicks
11. Chapter 8: A Fraud
12. Chapter 9: One Great Rock Show & Chapter 10: Encore
13. プレゼンテーション
14. プレゼンテーション&review
15. まとめ

準備学習(予習)

次の授業で学習するチャプターの英語スクリプトに目を通しておく。

準備学習(復習)

授業でやったプリントに出ている表現、語彙、文法などを必ず家で復習する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験、中間試験 | 50% |

教科書

マイク・ホワイト、高瀬 文広 『スクール・オブ・ロック (名作映画完全セリフ集スクリーン・プレイ・シリーズ)』(スクリーン・プレイ)

参考書

担当教員：能町 和子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：1 コード：11200410

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

イギリスの映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。

(2) 学びの意義と目標

映画に出てくるさまざまな英語表現を学ぶ。文化背景についても学ぶ。LL機能を用い聞き取り、発音練習も行う。大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。

受講者に対する要望

声に出して英語を読む、覚えた英文をクラスで発表する、ペアワークを行う。以上のアクティビティに積極的に参加して下さい。

学びのキーワード

- ・イギリス映画
- ・聞き取り
- ・発音練習

授業計画

01. オリエンテーション、1～3章の映画視聴
02. 第1章
03. 第2章
04. 第3章
05. テスト1、4～6章の映画視聴
06. 第4章
07. 第5章
08. 第6章
09. テスト2、7～10章の映画視聴
10. 第7章
11. 第8章
12. 第9章、第10章
13. テスト3、会話作成
14. 会話作成・発表
15. まとめ、In-class paper作成・提出

準備学習(予習)

前もってテキストで学習箇所のあらすじを理解してくる。語彙プリントを事前に学習しておく。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントをもとに、学習した語彙を復習する。

評価方法

- | | |
|----------------|-------------------|
| (1) 取り組み | 20% |
| (2) 宿題 | 15% 各チャプターの語彙プリント |
| (3) 聴き取り・語彙テスト | 30% 3回のテストの平均点 |
| (4) 会話作成・発表 | 15% |
| (5) レポート | 10% |

学期末に発表（日本語または英語）をしてもらいます。1つはペアで会話文を作り、暗記してactする。2つめは英語音声の映画・ドラマの紹介。

教科書

亀山 太一 『アバウト・ア・ボーイ（名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ）』（スクリーンプレイ）

参考書

ECA (Cinema) II (ALL)		ECA-0-108														
担当教員：メイス みよ子																
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：1 コード：11200430																
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、1～5章の映画視聴と感想 02. 第1の練習問題 03. 第2の練習問題 04. 第3の練習問題 05. テスト1 (1～3 章のまとめ) 4章の練習問題 06. 第4の練習問題の続き 07. 第5の練習問題 08. 6～10章の映画視聴と感想, 6の練習問題 09. 第6章の練習問題 10. テスト1 (4～6 章のまとめ), 第7章の練習問題 11. 第8の練習問題 12. 第9章の練習問題 13. 第10の練習問題 14. テスト3 (7～9 章のまとめ) と、まとめ 15. まとめ</div>															
<div>カリキュラム上の位置付け</div>																
<div>(1) 内容</div> <div>イギリスの映画を通して、英語のコミュニケーション能力を養う。</div>																
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>映画に出てくるさまざまな英語表現と文化背景について学ぶ。LL機能を用い聞き取り、発音練習も行う。大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>語彙プリントを事前に学習しておく。</div>															
	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で配布されたプリントをもとに、学習した語彙を復習する。</div>															
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業参加への積極性</td><td>10%</td><td>授業中の作業に積極的に取り組む。ペアワークを積極的に行なう。</td></tr><tr><td>(2) 宿題</td><td>20%</td><td>各チャプターの語彙プリント</td></tr><tr><td>(3) 小テスト</td><td>30%</td><td>3回のテストの平均点</td></tr><tr><td>(4) 期末試験</td><td>30%</td><td></td></tr><tr><td>(5) 会話の発音テスト</td><td>10%</td><td>会話を暗唱でき、発音・イントネーションが流暢であるかどうか</td></tr></table> <div>ドラマの会話を暗記してペアーで発表してもらったり、発音記号の読み方を覚えて発音の練習も授業に取り入れていきます、</div>		(1) 授業参加への積極性	10%	授業中の作業に積極的に取り組む。ペアワークを積極的に行なう。	(2) 宿題	20%	各チャプターの語彙プリント	(3) 小テスト	30%	3回のテストの平均点	(4) 期末試験	30%		(5) 会話の発音テスト	10%
(1) 授業参加への積極性	10%	授業中の作業に積極的に取り組む。ペアワークを積極的に行なう。														
(2) 宿題	20%	各チャプターの語彙プリント														
(3) 小テスト	30%	3回のテストの平均点														
(4) 期末試験	30%															
(5) 会話の発音テスト	10%	会話を暗唱でき、発音・イントネーションが流暢であるかどうか														
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業だけでは十分ではないので、家でも何度もDVDを聴いてセリフを覚えられるくらいにする。映画のスク립トを声に出して読んでみたり役になりきって演じてみるなど積極的に勉強してください。</div>	<div>教科書</div> <div>亀山 太一 『アバウト・ア・ボーイ (名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)</div>															
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・イギリス英語・リスニング力・発音練習・会話表現・異文化理解</div>	<div>参考書</div>															

ECA(Reading)Ⅰ (ALL) Level a		ECA-0-105						
担当教員： 中川 英幸 学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目 単位： 1 コード： 1120051U								
学部教育の関連目 【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける	授業計画 01. オリエンテーション、授業シラバスの説明 02. Unit 1: Who Is J. K. Rowring? 03. Unit 2: What Are Some New Year's Customs? 04. Unit 3: Where Is Buckingham Palace? 05. Unit 4: Why Are Cows Special in India? / Critical Thinking Activity #1 06. Unit 5: Why Do People Give Gifts for Weddings? 07. Unit 7: Who Are the Sami? 08. Unit 8: Why Are Rain Forests Important? / Critical Thinking Activity #2 09. Unit 11: Who Was Andrew Carnegie? 10. Unit 12: What Is Life Like in Antarctica? 11. Unit 13: Where Do People Live Under the Ground? / Critical Thinking Activity #3 12. Unit 14: Why Do People Decorate Their Bodies? 13. Unit 18: Why Is the Elephant Important in Thailand? / Critical Thinking Activity #4 14. Unit 20: How Did the Red Cross Start? / リサーチプロジェクトの発表 #1 15. リサーチプロジェクトの発表 #2 / まとめ							
カリキュラム上の位置付け								
(1) 内容 様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で学習する話題や時事問題に関してグループで簡単なリサーチを行い、意見や考えをまとめ発表してもらう。	準備学習(予習) 授業で学習予定のユニットにあるボキャブラリーは、あらかじめ調べておくこと。							
(2) 学びの意義と目標 語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関してリサーチを行い、世界的な視野で自分の意見や考えをまとめられる能力(Critical Thnking)の養成にも努める。								
受講者に対する要望 テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出すること。	準備学習(復習) 授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をすること。							
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ボキャブラリー 読解 文法 多読(ブックレポート) Critical Thinking 	評価方法 <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>50%</td><td>(授業内の作業、小テスト、参加態度、プレゼンテーション、宿題・課題の提出)</td></tr> <tr> <td>(2) 定期試験</td><td>50%</td><td></td></tr> </table>		(1) 平常点	50%	(授業内の作業、小テスト、参加態度、プレゼンテーション、宿題・課題の提出)	(2) 定期試験	50%	
(1) 平常点	50%	(授業内の作業、小テスト、参加態度、プレゼンテーション、宿題・課題の提出)						
(2) 定期試験	50%							
教科書 Milada Broukal 『What a World 1 Reading』 (Pearson Longman)	参考書							

担当教員：能町 和子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：1120052L

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、基本文法、語彙表現などを学習する。また、英語らしい発音、イントネーションで英文を読めるように、音読練習を行う。文中に出てきた文化や発話の発想などについて考える。

(2) 学びの意義と目標

基礎文法の復習、語彙表現の学習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

辞書を引くのも大切な勉強です。事前にわからない語句表現は調べておくこと。授業に辞書を持参すること。積極的に発言してください。

学びのキーワード

- ・英語の基礎文法
- ・語彙表現
- ・音読
- ・読解
- ・ブックレポート

授業計画

01. クラスガイダンス、プリントを使っの英語学習
02. Unit1
03. Unit2
04. Unit3
05. Unit4
06. Unit5
07. Unit1-5のまとめ、復習、応用
08. Unit6
09. Unit7
10. Unit8
11. Unit9
12. Unit10
13. Unit6-10のまとめ、復習、応用
14. ふりかえり
15. まとめ

準備学習(予習)

授業で学習するUnitの英単語の意味を事前に調べておくこと。音読、発音の暗記の宿題。

準備学習(復習)

教官が配布する復習プリントに取り組み、翌週のクラスで提出する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

Sandra Heyer 著、「Easy True Stories: A Picture-based Beginner Reader」(Pearson Japan 出版)

参考書

担当教員：遠藤 由佳里

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：1120055U

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見を正しい英文で書けるようにする。より自然な発音で音読出来るよう、指導していく。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・多読〔ブックレポート〕
- ・読解
- ・ライティング

授業計画

01. Orientation、授業シラバスの説明、プリント教材
02. Unit 1
03. Unit 2
04. Unit 3
05. Unit 4
06. Review
07. Unit5
08. Unit 6
09. Unit 7
10. Unit 8
11. Review
12. Unit 9
13. Unit 10
14. Unit 11
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストを読んでおくこと。語彙調べの宿題を済ませておくこと。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習。

評価方法

- | | |
|----------|----------------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% (授業の作業、小テスト、ブックレポート、宿題、参加態度) |

教科書

Sandra Heyer 『More True Stories』 (Pearson Education) 【9780138143428】

参考書

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 1120056L

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

様々なタイプの文章を読みながら、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。
また音読をしながら、正しい発音、イントネーションの指導も行う。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加することを望む。
提出物は必ず期日までにやり、辞書は必ず持参すること。

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ 文法
- ・ 音読
- ・ ブックレポート

授業計画

01. オリエンテーション、ブックレポートとリーディングラボの説明
02. Unit 1: How's the Weather?
03. Unit 1: The Groundhog Weather Report
04. Unit 2: Life Above Ground
05. Unit 2: Life Below Ground
06. Unit 3: Teresa's Web Page
07. Unit 3: Computer Talk
08. Unit 4: A Yurt: A Home to Go
09. Unit 4: At Home on a Houseboat
10. Unit 5: Smart Supermarket Shopping
11. Unit 5: Read for Your Health!
12. Unit 6: Norma's Restaurant Review
13. Unit 6: Breakfast at Nat's
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

授業までに、指定された単語の意味を調べる。

準備学習(復習)

授業で学習した単語や英語表現、文法を復習し、知識の定着に努める。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |

教科書

S. Iannuzzi & R. Weiss 『Read All About It, Starter』 (Oxford)

参考書

ECA (Reading) I (A) Level a

ECA-0-105

担当教員： チェンバレン 暁子

學期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112005AA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングのよう、指導していく。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、プリテストの実施
02. Unit 1: A Special Teacher / be 動詞について、テキスト練習問題
03. Unit 1: A Difficult Beginning / 一般動詞について、テキスト練習問題
04. Unit 2: For the Love of Children / 命令文について、テキストの練習問題
05. Unit 2: The Test Part 1 & 2 / 現在進行形について、テキストの練習問題
06. Unit 3: Hearts and Hands Build Homes / 過去形について、テキストの練習問題
07. Unit 3: E-Z Home / 過去形について、テキストの練習問題
08. Unit 4: What's Cooking / 助動詞について、テキストの練習問題
09. Unit 4: Knoxville, Tennessee / 助動詞について、テキストの練習問題
10. Unit 5: Dressing Down / 前置詞について、テキストの練習問題
11. Unit 5: Coolhunters / 受動態について、テキストの練習問題
12. Unit 6: No More Pain / 受動態について、テキストの練習問題
13. Unit 6: An Apple a Day / to不定詞について、テキストの練習問題
14. to不定詞について、テキストの練習問題、復習
15. まとめ

準備學習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を
予習しておく。

準備學習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% | |
| (2) 平常点 | 50% | (ブックレポート、授業内参加態度、小テスト、宿題) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))

参考書

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112005AB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で学習する話題や時事問題に関してグループで簡単なリサーチを行い、意見や考えをまとめ発表してもらう。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関してリサーチを行い、世界的な視野で自分の意見や考えをまとめられる能力(Critical Thnking)の養成にも努める。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・読解
- ・文法
- ・多読（ブックレポート）
- ・Critical Thinking

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1: The Smell of Bread 文法: be 動詞
03. Unit 1: You Are a Winner! 文法: 一般動詞
04. Unit 2: Two of a Kind / Critical Thinking Activity #1
05. Unit 2: A Double Wedding 文法: 過去形
06. Unit 3: Sarah Winchester and the Mystery House 文法: 命令文
07. Unit 3: Portrait by a Neighbor / Critical Thinking Activity #2
08. Unit 4: Fresh is Bes 文法: 前置詞
09. Unit 4: Greg's Purple Potato Salad / Critical Thinking Activity #3
10. Unit 5: What Will They Think of Next? 文法: 受動態
11. Unit 5: Jeane Today 文法: 不定詞
12. Unit 6: Astronauts in Space 文法: 比較級、最上級、原級
13. Unit 6: Keeping Clean in Space / Critical Thinking Activity #4
14. リサーチプロジェクトの発表 文法: 助動詞
15. Post-testの実施、期末試験

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----------------------|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% (Post-testの成績を含む) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))
『ECA Learning Goals (Reading I)』

参考書

ECA (Reading) I (C) Level a

ECA-0-105

担当教員： チェンバレン 暁子

學期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位：1 コード：112005CA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、テキストに出る様々な情報や知識を積極的に取り入れ、自分の意見が形成できるように授業で指導をしていく。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、プリテストの実施
02. 教育問題: A Special Teacher / be 動詞の復習
03. 教育問題: A Difficult Beginning / 一般動詞の復習
04. 福祉問題: For the Love of Children / 命令文の復習
05. 道德について: The Test Part 1 & 2 / 現在進行形の復習
06. 奉仕について: Hearts and Hands Build Homes / 過去形の復習
07. 色々な家: E-Z Home / 過去形の復習
08. 食文化とライフスタイル: What's Cooking / 助動詞の復習
09. Catch up/ 助動詞の復習
10. 変わりゆく職場の服装について: Dressing Down / 前置詞の復習
11. ファッション文化: Coolhunters / 受動態の復習
12. 針治療について: No More Pain / 受動態の復習
13. 健康と食文化: An Apple a Day / to不定詞の復習
14. Review
15. まとめ

準備學習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を
予習しておく。

準備學習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% | |
| (2) 平常点 | 50% | (ブックレポート、授業の作業、小テスト、参加態度、宿題) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))

参考書

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112005CB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で学習する話題や時事問題に関してグループで簡単なリサーチを行い、意見や考えをまとめ発表してもらう。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関してリサーチを行い、世界的な視野で自分の意見や考えをまとめられる能力(Critical Thnking)の養成にも努める。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・読解
- ・文法
- ・多読（ブックレポート）
- ・Critical Thinking

授業計画

01. オリエンテーション, Pre-testの実施
02. Unit 1: The Smell of Bread 文法: be 動詞
03. Unit 1: You Are a Winner! 文法: 一般動詞
04. Unit 2: Two of a Kind
05. Unit 2: A Double Wedding 文法: 過去形
06. Unit 3: Sarah Winchester and the Mystery House 文法: 命令文
07. Unit 3: Portrait by a Neighbor
08. Unit 4: Fresh is Bes 文法: 前置詞
09. Unit 4: Greg's Purple Potato Salad
10. Unit 5: What Will They Think of Next? 文法: 受動態
11. Unit 5: Jeane Today 文法: 不定詞
12. Unit 6: Astronauts in Space 文法: 比較級、最上級、原級
13. Unit 6: Keeping Clean in Space
14. review 文法: 助動詞
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----------------------|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% (Post-testの成績を含む) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))
『ECA Learning Goals (Reading I)』

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112005CC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
07. 文法の復習（Unit 1－5）
08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
13. 文法の復習（Unit 6－10）
14. 授業で学習した語彙、英語表現の復習（Unit 1－10）
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Learning Goalsの各文法項目を

予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|--------------------------|
| (1) 定期試験 | 50%（Post-testの成績を含む） |
| (2) 平常点 | 50%（授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題） |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan)
- 『ECA Learning Goals』 (-)

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112005CD

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
07. 文法の復習
08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
13. 文法の復習
14. 文法の復習
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Learning Goalsの各文法項目を

予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|-------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50%（授業の作業、小テスト、参加態度、宿題） |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan)
- 『ECA Learning Goals』 (-)

参考書

ECA (Reading) I (D) Level a		ECA-0-105
担当教員： 中川 英幸		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 112005DA
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、テキストに出て来る様々なグローバルトピックに関する記事を読み、知識を養い、自分の意見が形成できるよう授業で指導をしていく。		01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、Pre-testの実施 02. 教育問題： A Special Teacher / be 動詞の復習 03. 教育問題： A Difficult Beginning / 一般動詞の復習 04. 福祉問題： For the Love of Children / 命令文の復習 05. 道徳について： The Test Part 1 & 2 / 現在進行形の復習 06. 奉仕について： Hearts and Hands Build Homes / 過去形の復習 07. 色々な家： E-Z Home / 過去形の復習 08. 食文化とライフスタイル： What's Cooking / 助動詞の復習 09. Catch up/ 助動詞の復習 10. 変わりゆく職場の服装について： Dressing Down / 前置詞の復習 11. ファッション文化： Coolhunters / 受動態の復習 12. 針治療について： No More Pain / 受動態の復習 13. 健康と食文化： An Apple a Day / to不定詞の復習 14. 授業で学習した項目の総復習 15. まとめ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。		ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を 予習しておく。
		準備学習(復習)
		各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習
		評価方法
		(1) 定期試験 50% (Post-testの成績を含む) (2) 平常点 50% (ブックレポート、授業の作業、小テスト、参加態度、宿題)
受講者に対する要望		教科書
テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。		
学びのキーワード		
・ボキャブラリー ・文法演習 ・音読 ・多読 (ブックレポート) ・読解		参考書

ECA(Reading)Ⅰ (D) Level b

ECA-0-105

担当教員：チェンバレン 暁子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112005DB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で学習する話題や時事問題に関してグループで簡単なリサーチを行い、意見や考えをまとめ発表してもらう。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関してリサーチを行い、世界的な視野で自分の意見や考えをまとめられる能力(Critical Thnking)の養成にも努める。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・読解
- ・文法
- ・多読（ブックレポート）
- ・Critical Thinking

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1: The Smell of Bread 文法: be 動詞
03. Unit 1: You Are a Winner! 文法: 一般動詞
04. Unit 2: Two of a Kind / Critical Thinking Activity #1
05. Unit 2: A Double Wedding 文法: 過去形
06. Unit 3: Sarah Winchester and the Mystery House 文法: 命令文
07. Unit 3: Portrait by a Neighbor / Critical Thinking Activity #2
08. Unit 4: Fresh is Bes 文法: 前置詞
09. Unit 4: Greg's Purple Potato Salad / Critical Thinking Activity #3
10. Unit 5: What Will They Think of Next? 文法: 受動態
11. Unit 5: Jeane Today 文法: 不定詞
12. Unit 6: Astronauts in Space 文法: 比較級、最上級、原級
13. Unit 6: Keeping Clean in Space / Critical Thinking Activity #4
14. リサーチプロジェクトの発表 文法: 助動詞
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をすること。

評価方法

- | | |
|----------|--------------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% (授業内参加度、小テスト、プレゼンテーション、宿題・課題の提出) |
| (2) 期末試験 | 50% (Post-testの成績を含む) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))
『ECA Learning Goals (Reading I)』

参考書

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112005DC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
07. 文法の復習
08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
13. 文法の復習
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Learning Goalsの各文法項目を

予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan)
- 『ECA Learning Goals』 (-)

参考書

ECA(Reading)Ⅰ (J) Level a		ECA-0-105
担当教員： 中川 英幸		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 112005JA
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、Pre-testの実施 02. 教育問題： A Special Teacher / be 動詞の復習 03. 教育問題： A Difficult Beginning / 一般動詞の復習 04. 福祉問題： For the Love of Children / 命令文の復習 05. 道徳について： The Test Part 1 & 2 / 現在進行形の復習 06. 奉仕について： Hearts and Hands Build Homes / 過去形の復習 07. 色々な家： E-Z Home / 過去形の復習 08. 食文化とライフスタイル： What's Cooking / 助動詞の復習 09. Catch up/ 助動詞の復習 10. 変わりゆく職場の服装について： Dressing Down / 前置詞の復習 11. ファッション文化： Coolhunters / 受動態の復習 12. 針治療について： No More Pain / 受動態の復習 13. 健康と食文化： An Apple a Day / to不定詞の復習 14. 授業で学習した項目の総復習 15. まとめ
(1) 内容		
英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、テキストに出て来る様々なグローバルトピックに関する記事を読み、知識を養い、自分の意見が形成できるよう授業で指導をしていく。		
(2) 学びの意義と目標		
語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。		準備学習(予習)
		ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を 予習しておく。
		準備学習(復習)
		各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習
		評価方法
		(1) 定期試験 50% (Post-testの成績を含む) (2) 平常点 50% (ブックレポート、授業の作業、小テスト、参加態度、宿題)
受講者に対する要望		教科書
テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。		
学びのキーワード		参考書
・ボキャブラリー ・文法演習 ・音読 ・多読 (ブックレポート) ・読解		Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112005JB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で学習する話題や時事問題に関してグループで簡単なリサーチを行い、意見や考えをまとめ発表してもらう。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関してリサーチを行い、世界的な視野で自分の意見や考えをまとめられる能力(Critical Thnking)の養成にも努める。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・読解
- ・文法
- ・多読（ブックレポート）
- ・Critical Thinking

授業計画

01. オリエンテーション、Pre-test
02. Unit 1: The Smell of Bread 文法: be 動詞
03. Unit 1: You Are a Winner! 文法: 一般動詞
04. Unit 2: Two of a Kind
05. Unit 2: A Double Wedding 文法: 過去形
06. Unit 3: Sarah Winchester and the Mystery House 文法: 命令文
07. Unit 3: Portrait by a Neighbor
08. Unit 4: Fresh is Bes 文法: 前置詞
09. Unit 4: Greg's Purple Potato Salad
10. Unit 5: What Will They Think of Next? 文法: 受動態
11. Unit 5: Jeane Today 文法: 不定詞
12. Unit 6: Astronauts in Space 文法: 比較級、最上級、原級
13. Unit 6: Keeping Clean in Space
14. review 文法: 助動詞
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----------------------|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% (Post-testの成績を含む) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))
『ECA Learning Goals (Reading I)』

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112005JC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
07. 文法の復習
08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
13. 文法の復習
14. 文法の復習
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Learning Goalsの各文法項目を

予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|-------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50%（授業の作業、小テスト、参加態度、宿題） |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan)
- 『ECA Learning Goals』 (-)

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112005PA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、テキストに出て来る様々なグローバルトピックに関する記事を読み、知識を養い、自分の意見が形成できるよう授業で指導をしていく。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、フリテストの実施
02. 教育問題: A Special Teacher / be 動詞の復習
03. 教育問題: A Difficult Beginning / 一般動詞の復習
04. 福祉問題: For the Love of Children / 命令文の復習
05. 道徳について: The Test Part 1 & 2 / 現在進行形の復習
06. 奉仕について: Hearts and Hands Build Homes / 過去形の復習
07. 色々な家: E-Z Home / 過去形の復習
08. 食文化とライフスタイル: What's Cooking / 助動詞の復習
09. Catch up/ 助動詞の復習
10. 変わりゆく職場の服装について: Dressing Down / 前置詞の復習
11. ファッション文化: Coolhunters / 受動態の復習
12. 針治療について: No More Pain / 受動態の復習
13. 健康と食文化: An Apple a Day / to不定詞の復習
14. キャッチアップと復習
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を
予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|----------------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% (ブックレポート、授業の作業、小テスト、参加態度、宿題) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))

参考書

ECA(Reading) I (P) Level b		ECA-0-105
担当教員： 中川 英幸		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 112005PB
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で学習する話題や時事問題に関してグループで簡単なリサーチを行い、意見や考えをまとめ発表してもらう。		01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施 02. Unit 1: The Smell of Bread 文法: be 動詞 03. Unit 1: You Are a Winner! 文法: 一般動詞 04. Unit 2: Two of a Kind / Critical Thinking Activity #1 05. Unit 2: A Double Wedding 文法: 過去形 06. Unit 3: Sarah Winchester and the Mystery House 文法: 命令文 07. Unit 3: Portrait by a Neighbor / Critical Thinking Activity #2 08. Unit 4: Fresh is Bes 文法: 前置詞 09. Unit 4: Greg's Purple Potato Salad / Critical Thinking Activity #3 10. Unit 5: What Will They Think of Next? 文法: 受動態 11. Unit 5: Jeane Today 文法: 不定詞 12. Unit 6: Astronauts in Space 文法: 比較級、最上級、原級 13. Unit 6: Keeping Clean in Space / Critical Thinking Activity #4 14. リサーチプロジェクトの発表 文法: 助動詞 15. まとめ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関してリサーチを行い、世界的な視野で自分の意見や考えをまとめられる能力(Critical Thnking)の養成にも努める。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出すること。		
学びのキーワード		評価方法
・ボキャブラリー ・読解 ・文法 ・多読（ブックレポート） ・Critical Thinking		
		教科書
		Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd)) 『ECA Learning Goals (Reading I)』
		参考書

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112005PC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
07. 文法の復習
08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
13. 文法の復習
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Learning Goalsの各文法項目を

予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan)
- 『ECA Learning Goals』 (-)

参考書

担当教員：チェンバレン 暁子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112005PD

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、フリテストの実施
02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
07. 文法の復習
08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
13. 文法の復習
14. Review
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Learning Goalsの各文法項目を

予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|---------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50%（授業参加態度、小テスト、宿題） |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan)
- 『ECA Learning Goals』 (-)

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112005SA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、グローバルなトピックに対し、知識を深め自分の意見を組み立て、そして発信できるよう授業の中で指導していく。英語による授業展開の中で、国際社会に通用する英語運用能力養えるよう、リーディング・ディスカッションに重点を置く。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習、多読の練習を通して、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また、自分の意見を英語で述べる発信型の授業を目指す。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・多読〔ブックレポート〕
- ・読解
- ・ライティング

授業計画

01. Orientation, 授業について, Pretest
02. Culture: Love
03. Culture: Love
04. Preparing for Natural Disasters
05. Preparing for Natural Disasters
06. Cultural Similarities and Differences
07. Cultural Similarities and Differences
08. Health Issues
09. Health Issues
10. Difficulty of the Generation Gap
11. Difficulty of the Generation Gap
12. Ancient Culture of Pompeii
13. Ancient Culture of Pompeii
14. Review and Exam Preparation
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストを数回読んでおくこと。語彙調べの宿題を済ませておくこと。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |
- (ブックレポート、オンラインリーディングレポート、授業の作業、小テスト、宿題、参加態度)

教科書

Sandra Heyer 『Even More True Stories』 (Pearson Education)

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112005WA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、テキストに出て来る様々なグローバルトピックに関する記事を読み、知識を養い、自分の意見が形成できるよう授業で指導をしていく。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、プリテストの実施
02. 教育問題: A Special Teacher / be 動詞の復習
03. 教育問題: A Difficult Beginning / 一般動詞の復習
04. 福祉問題: For the Love of Children / 命令文の復習
05. 道徳について: The Test Part 1 & 2 / 現在進行形の復習
06. 奉仕について: Hearts and Hands Build Homes / 過去形の復習
07. 色々な家: E-Z Home / 過去形の復習
08. 食文化とライフスタイル: What's Cooking / 助動詞の復習
09. Catch up/ 助動詞の復習
10. 変わりゆく職場の服装について: Dressing Down / 前置詞の復習
11. ファッション文化: Coolhunters / 受動態の復習
12. 針治療について: No More Pain / 受動態の復習
13. 健康と食文化: An Apple a Day / to不定詞の復習
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を
予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))

参考書

ECA (Reading) I (W) Level b		ECA-0-105
担当教員： 中川 英幸 学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目 単位： 1 コード： 112005WB		
学部教育の関連目 【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける	授業計画 01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施 02. Unit 1: The Smell of Bread 文法: be 動詞 03. Unit 1: You Are a Winner! 文法: 一般動詞 04. Unit 2: Two of a Kind / Critical Thinking Activity #1 05. Unit 2: A Double Wedding 文法: 過去形 06. Unit 3: Sarah Winchester and the Mystery House 文法: 命令文 07. Unit 3: Portrait by a Neighbor / Critical Thinking Activity #2 08. Unit 4: Fresh is Bes 文法: 前置詞 09. Unit 4: Greg's Purple Potato Salad / Critical Thinking Activity #3 10. Unit 5: What Will They Think of Next? 文法: 受動態 11. Unit 5: Jeane Today 文法: 不定詞 12. Unit 6: Astronauts in Space 文法: 比較級、最上級、原級 13. Unit 6: Keeping Clean in Space / Critical Thinking Activity #4 14. リサーチプロジェクトの発表 文法: 助動詞 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で学習する話題や時事問題に関してグループで簡単なリサーチを行い、意見や考えをまとめ発表してもらう。		
(2) 学びの意義と目標 語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関してリサーチを行い、世界的な視野で自分の意見や考えをまとめられる能力 (Critical Thnking) の養成にも努める。	準備学習(予習) ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておくこと。	
	準備学習(復習) 授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をすること。	
受講者に対する要望 テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出すること。	評価方法 (1) 平常点 50% (授業内の作業、小テスト、参加態度、プレゼンテーション、宿題・課題の提出) (2) 定期試験 50% (Post-testの成績を含む)	
学びのキーワード ・ボキャブラリー ・読解 ・文法 ・多読 (ブックレポート) ・Critical Thinking	教科書 Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd)) 『ECA Learning Goals (Reading I)』 参考書	

担当教員：メイス みよ子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112005WC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
07. 文法の復習
08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
13. 文法の復習
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Learning Goalsの各文法項目を

予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|-------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50%（授業の作業、小テスト、参加態度、宿題） |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan)
- 『ECA Learning Goals』 (-)

参考書

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112006AB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で学習する話題や時事問題に関してグループで簡単なリサーチを行い、意見や考えをまとめ発表してもらう。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関してリサーチを行い、世界的な視野で自分の意見や考えをまとめられる能力(Critical Thnking)の養成にも努める。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・読解
- ・文法
- ・多読（ブックレポート）
- ・Critical Thinking

授業計画

01. オリエンテーション、Pre-testの実施
02. Unit 7: Mall of america 文法： be動詞 / 一般動詞
03. Unit 7: Problems in Malls 文法： 未来形
04. Unit 8: A New World of Transportation
05. Unit 8: Poetry in Motion 文法： 疑問詞
06. Unit 9: A Different Child 文法： 現在完了形
07. Unit 9: Circus School
08. Unit 10: Alex、Koko 文法： 接続詞
09. Unit 10: Koko、Gorilla Saves Boy 文法： 句動詞
10. Unit 11: How to Find an Occupation You Love
11. Unit 11: Dream Benefits 文法： 関係代名詞
12. Unit 12: Bebe's Early Life
13. Unit 12: TV Sports Fans 文法： to不定詞
14. review 文法： Ifを使った文
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----------------------|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% (Post-testの成績を含む) |

教科書

Lori Howardt (Oxford Picture D. 『Read All About It, Book 1』 (Oxford Univ Pr (Sd))
『ECA Learning Goals (Reading II)』

参考書

ECA(Reading)II (P) Level a		ECA-0-106						
担当教員：メイス みよ子 学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 コード：112006PA								
学部教育の関連目 【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける	授業計画 01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、プリテストの実施 02. Unit 7: Friends in Need / be動詞の復習、テキストの練習問題 03. Unit 7: El Nino / 一般動詞の復習、テキストの練習問題 04. Unit 8: Traveling Through Time / 復習 05. Unit 8: Get Out of Your Car ! / 時制の復習、テキストの練習問題 06. Unit 9: A Woman's Place / 関係代名詞について、テキストの練習問題 07. Unit 9: Encyclopedia of Woman in Science 08. Unit 10: Kudzu / 接続詞について、テキストの練習問題 09. Unit 10: The Real Flower / 助動詞の復習、テキストの練習問題 10. Unit 11: Work for the Future/ 句動詞の表現について、テキストの練習問題 11. Unit 11: Make It Your Business 12. Unit 12: Dream Adventures, Scuba Diving / 現在完了について、テキストの練習問題 13. まとめ、現在完了 14. まとめ、Ifを使った条件文について、テキストの練習問題 15. 総まとめ							
カリキュラム上の位置付け <small>文法の復習を行いながら、様々なスタイルのテキストを読むことで英語読解能力を養成することを主眼とする。また、テキストを通して異文化への理解を深めてゆく。</small>								
(1) 内容 英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見を正しい英文で書けるようにする。正確な発音で音読出来るよう指導を行う。								
(2) 学びの意義と目標 語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。	準備学習(予習) ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を 予習しておく。							
	準備学習(復習) 各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習							
受講者に対する要望 テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。	評価方法 <table> <tr> <td>(1) 期末試験</td><td>50%</td><td></td></tr> <tr> <td>(2) 平常点</td><td>50%</td><td>(授業の作業、小テスト、参加態度、宿題)</td></tr> </table> <small>小テスト、期末試験、Book レポートや授業内で出された課題、授業参加度などで評価される。</small>		(1) 期末試験	50%		(2) 平常点	50%	(授業の作業、小テスト、参加態度、宿題)
(1) 期末試験	50%							
(2) 平常点	50%	(授業の作業、小テスト、参加態度、宿題)						
学びのキーワード ・ボキャブラリー ・文法演習 ・多読（ブックレポート） ・音読 ・読解	教科書 Read All About It Book 2 Oxford University Press 参考書							

ECA(Reading) II (P) Level b		ECA-0-106
担当教員： 中川 英幸		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 112006PB
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施 02. Unit 7: Mall of america 文法： be動詞 / 一般動詞 03. Unit 7: Problems in Malls 文法： 未来形 04. Unit 8: A New World of Transportation / Critical Thinking Activity #1 05. Unit 8: Poetry in Motion 文法： 疑問詞 06. Unit 9: A Different Child 文法： 現在完了形 07. Unit 9: Circus School / Critical Thinking Activity #2 08. Unit 10: Alex、Koko 文法： 接続詞 09. Unit 10: Koko、Gorilla Saves Boy 文法： 句動詞 10. Unit 11: How to Find an Occupation You Love / Critical Thinking Activity #3 11. Unit 11: Dream Benefits 文法： 関係代名詞 12. Unit 12: Bebe's Early Life / Critical Thinking Activity #4 13. Unit 12: TV Sports Fans 文法： to不定詞 14. リサーチプロジェクトの発表 文法： Ifを使った文 15. まとめ
(1) 内容		
様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で学習する話題や時事問題に関してグループで簡単なリサーチを行い、意見や考えをまとめ発表してもらう。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関してリサーチを行い、世界的な視野で自分の意見や考えをまとめられる能力(Critical Thnking)の養成にも努める。		
準備学習(復習)		ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておくこと。
授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をすること。		
評価方法		(1) 平常点 50% (授業内の作業、小テスト、参加態度、プレゼンテーション、宿題・課題の提出) (2) 定期試験 50% (Post-testの成績を含む)
受講者に対する要望		
テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出すること。		
学びのキーワード		教科書
・ボキャブラリー ・読解 ・文法 ・多読（ブックレポート） ・Critical Thinking		
		参考書
Lori Howardt (Oxford Picture D. 『Read All About It, Book 1』 (Oxford Univ Pr (Sd)) 『ECA Learning Goals (Reading II)』		

担当教員：島田 洋子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112006PC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の練習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題、課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、フリテストの実施
02. Unit 11: The Power of Love 文法：be動詞の復習
03. Unit 12: No More housework! 文法：一般動詞の復習
04. Unit 13: An Accidental Success 文法：時制の復習
05. Unit 14: Anna's Choice 文法：関係代名詞（主格）
06. Unit 15: The Escape from Cuba 文法：関係代名詞（目的格）
07. 文法の復習
08. Unit 16: The Twins and the Truth 文法：接続詞
09. Unit 17: Family for Rent 文法：助動詞の復習
10. Unit 18: Quality Control 文法：句動詞の表現
11. Unit 19: The Cheap Apartment 文法：現在完了形
12. Unit 20: Something in Return 文法：Ifを使った条件文
13. 文法の復習
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Learning Goalsの各文法項目を予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan)
- 『ECA Learning Goals』 (-)

参考書

ECA(Reading)II (P) Level d		ECA-0-106
担当教員：チェンバレン 暁子		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目		単位：1 コード：112006PD
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、ブリテストの実施</div> <div>02. Unit 11: The Power of Love 文法：be動詞の復習</div> <div>03. Unit 12: No More housework! 文法：一般動詞の復習</div> <div>04. Unit 13: An Accidental Success 文法：時制の復習</div> <div>05. Unit 14: Anna's Choice 文法：関係代名詞（主格）</div> <div>06. Unit 15: The Escape from Cuba 文法：関係代名詞（目的格）</div> <div>07. 文法の復習</div> <div>08. Unit 16: The Twins and the Truth 文法：接続詞</div> <div>09. Unit 17: Family for Rent 文法：助動詞の復習</div> <div>10. Unit 18: Quality Control 文法：句動詞の表現</div> <div>11. Unit 19: The Cheap Apartment 文法：現在完了形</div> <div>12. Unit 20: Something in Return 文法：Ifを使った条件文</div> <div>13. 文法の復習</div> <div>14. review</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>語彙表現の学習、文法の練習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>ボキャブラリーの予習、ECA Learning Goalsの各文法項目を予習しておく。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題、課題を期限内に提出することを期待する。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 期末試験 50%</div> <div>(2) 平常点 50% （参加態度、小テスト、課題、宿題）</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">ボキャブラリー文法演習音読多読（ブックレポート）読解</div>	<div>教科書</div> <div>Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan) - 『ECA Learning Goals』 (-)</div> <div>参考書</div>	

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112006SA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

国際社会や文化に関する様々なテーマをとりあげ、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、リーディングのテーマに関する知識を養い、自分の意見を正しい英文で表現できるようにする。英語による授業の中で、英語運用能力を高めて行く。

(2) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習、読解演習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力／英語力を養成する。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・多読〔ブックレポート〕
- ・読解
- ・ライティング

授業計画

01. Orientation、授業シラバスの説明、Pretest の実施
02. be動詞の復習、世界の迷信について：Black Cats and Broken Mirrors
03. 一般動詞の復習、世界の迷信について
04. 飛行機事故：Flight 5390
05. 時制の復習、様々な飛行機事故
06. 関係代名詞の復習、Catch-up
07. 世界の秘宝：The Treasure Hunt
08. 接続詞の復習、世界の秘宝
09. 助動詞の復習、Catch-Up
10. 句動詞の復習、文化と偏見（アーミッシュ）：The Plain People
11. 現在完了形の復習、文化と偏見
12. 現在完了形の復習、人間の寿命について：Does Death Take A Holiday?
13. If を使った条件文の復習、詐欺について：Sucker Day
14. 口頭発表と試験対策
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストを読んでおくこと。語彙調べの宿題を済ませておくこと。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |
- (授業の作業、小テスト、ブックレポート、オンラインリーディングレポート、宿題、参加態度)

教科書

Sandra Heyer 『Even More True Stories』 (Pearson Education)

参考書

ECA(英語基礎表現)Ⅰ (ALL)

ECA-0-103

担当教員：能町 和子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11200810

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また教科書にのっている基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食べ物 (疑問詞)
07. Unit 6 コンサート (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書に付属しているCDを何度も聞く。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

ECA(英語基礎表現)Ⅰ (ALL)

ECA-0-103

担当教員：能町 和子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11200820

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語＋動詞＋～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食べ物 (疑問詞)
07. Unit 6 コンサート (How＋形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|------------------------------|-----|
| (1) 平常点 (出席、授業参加態度、課題、宿題、小テ) | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員： チェンバレン 暁子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112008AA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

パラグラフの理解、文法の復習や単語の使い方などを学び、身近なテーマに基づいて英文を書く練習を行う。

(1) 内容

英作文の基礎を学ぶ。単文からパラグラフがかけられるように英語Writingの基礎を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

パラグラフの理解、文法の復習や単語の使い方などを学び、身近なテーマに基づいて英文を書く練習を行う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加が求められる。授業毎に出された課題をきちんと行う。

学びのキーワード

- Writing
- Grammar
- Paragraph Writing
- Vocabulary

授業計画

01. Orientation
02. Preview the Process
03. Chapter 1 All About Me Getting Started
04. Chapter 1 Revising and Editing Your Writing
05. Chapter 2 Home Sweet Home Getting Started
06. Chapter 2 Revising Your Writing
07. Chapter 3 Work, Play, Sleep Getting Started
08. Chapter 3 Revising Your Writing
09. Chapter 4 Families Getting Started
10. Chapter 4 Revising Your Writing
11. Chapter 5 That's Entertainment! Getting Started
12. Chapter 5 Revising Your Writing
13. Review
14. Presentation
15. まとめ|

準備學習(予習)

各課ごとの文法項目は事前に予習しておくこと。

準備學習(復習)

各課で学んだ文法事項やWritingのルールを復習する。

評価方法

- | | | |
|----------------------|-----|--|
| (1) 授業参加度 | 20% | 授業内で与えられた課題や授業内態度に対する評価。 |
| (2) 課題 | 30% | 授業内で出された課題に対する評価。 |
| (3) 小テスト & プレゼンテーション | 20% | 各課で学ぶ新しいVocabularyや文法、作文を書く上での決まりについての小テストの評価。 |
| (4) Final Exam | 30% | 期末試験 & 作文に対する評価。 |

チャプターごとのテーマに従った Writing の課題、Vocabulary や文法事項、Writing のルールの習得度が主な評価対象となる。また、授業中の参加態度や課題提出も重視される。

教科書

Laurie Blass, Debora Gordon / *Writers at Work: From Sentences to Paragraph* Student's Book (Cambridge University Press)

参考書

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112008AB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語＋動詞＋～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How＋形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員：K. J. マクレン

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112008CA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

Grammar, vocabulary and writing that is important for basic English Communication.

(2) 学びの意義と目標

This class will teach how to properly structure written and spoken English for communication

受講者に対する要望

Please bring a dictionary, textbook and notebook to class each time and review the lesson after finishing.

学びのキーワード

- ・ Grammar
- ・ Vocabulary
- ・ Reading
- ・ Writing
- ・ Speaking

授業計画

01. Introduction, Chapter 1 Parts of speech, sentence making.
02. Chapter 2 Prepositions, adjectives, adverbs
03. Chapter 3 Talk about your country and city
04. Chapter 3 "To be" and adverbs of time
05. Chapter 4 Talk about people and feelings
06. Chapter 4 Phrases of location
07. Chapter 4 Phrases of location
08. Review of first half
09. Chapter 5 Talk about animals and people
10. Chapter 5 Using a / an
11. Ch 5 Sentence pattern for "have." Ch 6 And, or, but
12. Chapter 6 Talking about hobbies and interests.
13. Chapter 6 Sentence patters for action verbs, gerunds.
14. Chapter 6 Sentence patters for action verbs, gerunds. ||
15. Review of second half

準備学習(予習)

Follow the text book and in class assignments.

準備学習(復習)

Review the homework after each class.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Assignments | 30% |
| (2) Tests | 40% |
| (3) In class work | 30% |

教科書

Dorothy E. Zemach 『Writing Sentences: The basics of Writing』 (MacMillian)

参考書

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112008CB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112008CC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業参加態度、課題、宿題、小テスト、授業内作業) |
| (2) 定期試験 | 50% | |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112008CD

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語＋動詞＋～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食べ物 (疑問詞)
07. Unit 6 コンサート (How＋形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|------------------------------|-----|
| (1) 平常点 (授業参加態度、課題、宿題、小テスト、) | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：112008DA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

映画を授業に取り入れることで、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現やアメリカ文化を学習する。

(2) 学びの意義と目標

映画を鑑賞しながら、リスニング力の向上を目指すとともに、英語表現や文法の解説、ロールプレイなどのアクティビティを通して、コミュニケーション能力の向上も目指す。

受講者に対する要望

辞書を必ず持参すること。＜br /＞復習を行い、宿題や課題は必ず期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・語彙
- ・文法
- ・リスニング
- ・英語表現 / 会話
- ・アメリカ文化

授業計画

01. 授業オリエンテーション、映画鑑賞 (Chapter 1-5)
02. Chapter 1: Serving Society
03. Chapter 2: The Man
04. Chapter 3: Required Class Project
05. Chapter 4: Creating Musical Fusion
06. Chapter 5: Ticked Off
07. Chapter 1-5のまとめ
08. 映画鑑賞 (Chapter 6-10)
09. Chapter 6: Field Trip
10. Chapter 7: Stevie Nicks
11. Chapter 8: A Fraud
12. Chapter 9: One Great Rock Show
13. Chapter 10: Encore
14. Chapter 6-10のまとめ、課題発表
15. 総まとめ (Chapter 1-10)、課題発表

準備学習(予習)

次の授業で学習するチャプターのスクリプトに目を通しておく。意味の分からない語彙や表現を辞書を使って調べておく。

準備学習(復習)

学習したチャプターの復習問題（授業内で配布）に取り組む。＜br /＞授業で学んだ語彙、文法、表現などを必ず復習する。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題・課題の提出) |
| (2) 定期試験 | 50% | |

教科書

マイク ホワイト、高瀬 文広、Mike White 『スクール・オブ・ロック (名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：112008DB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

映画を授業に取り入れることで、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現や会話を学習する。

(2) 学びの意義と目標

映画に出て来る実用的な語彙表現を学ぶことで、コミュニケーションに必要な表現力を養い、リスニング・ロールプレイなどのアクティビティを通して、実際に会話のやり取りができるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

辞書を必ず授業に持参すること。
復習を行い、宿題や課題は必ず期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・リスニング
- ・英語表現 / 会話
- ・アメリカ文化
- ・語彙
- ・文法

授業計画

01. 授業オリエンテーション、映画鑑賞 (Ch. 1-5)
02. 登場人物と映画設定について - Serving Society
03. アメリカの小学校での1日: The Man
04. ロックバンドについて - Required Class Project
05. 役割分担について - Creating Musical Fusion
06. 怒りの語彙表現について - Ticked Off
07. 中間試験
08. 映画鑑賞 (Ch. 6-10)
09. 校外学習について - Field Trip
10. 音楽に関する様々な語彙表現とアーティストについて - Stevie Nicks
11. 保護者会について - A Fraud
12. バンドバトルへの出場 - One Great Rock Show
13. 効果後音楽レッスン - Encore
14. 期末試験に向けた総復習、ロールプレイテスト
15. まとめ

準備学習(予習)

次の授業で学習するチャプターの英語スクリプトに目を通して
おく。意味の分からない語彙や表現を辞書を使って調べておく。

準備学習(復習)

学習したチャプターの復習問題（授業内で配布）に取り組む。

授業で学んだ単語、文法、表現などを必ず復習する。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験、中間試験 | 50% | |

教科書

マイク ホワイト、高瀬 文広、Mike White 『スクール・オブ・ロック (名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)

参考書

ECA(英語基礎表現)Ⅰ (J) Level a		ECA-0-103
担当教員： 中川 英幸		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 112008JA
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. オリエンテーション、授業シラバスの説明 02. Unit 1: Self Introduction (I) 英文の基本構造 03. Unit 1: Self Introduction (II) 主部と述部の関係 04. Unit 2: Past Memories (I) 時制について 05. Unit 2: Past Memories (II) 現在進行形、過去進行形の使い方 06. Unit 3: My Daily Life 接続詞の使い方 07. Unit 4: My Beliefs (I) パラグラフの書き方 (トピックセンテンスについて) 08. Unit 4: My Beliefs (II) パラグラフの書き方 (トピックセンテンスについて) 09. Unit 5: My Future Profession (I) パラグラフの書き方 (メジャーサポートセンテンスについて) 10. Unit 5: My Future Profession (II) パラグラフの書き方 (メジャーサポートセンテンスについて) 11. Unit 6: People I Respect (I) パラグラフの書き方 (マイナーサポートセンテンスについて) 12. Unit 6: People I Respect (II) パラグラフの書き方 (マイナーサポートセンテンスについて) 13. Unit 7: Things I Treasure (I) パラグラフの書き方 (コンクルージョンについて) 14. Unit 7: Things I Treasure (II) パラグラフの書き方 (コンクルージョンについて) 15. まとめ
ライティングの基礎を学ぶ。簡単な文からパラグラフ(段落)を作成できるようにする。さらには、自分の意見や経験をいくつかのパラグラフで構成された文章で書けるようにする。またこの授業では、ライティングに必要な文法、語彙、英語表現も学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標		
基礎的な文法、語彙、英語表現を習得し、身近なテーマに基づいた事柄を英文で書けるようになる。パラグラフの構造を理解し、英語で文章を書くことに慣れる。最終的には、自分の意見や考えを2～3パラグラフの文章で書けるようになる。		準備学習(予習)
		授業で学習予定のユニットをあらかじめ読んでおくこと。また分からない語彙を調べておくこと。
		準備学習(復習)
		授業で学んだ文法、語彙、英語表現を復習すること。 宿題として出されたテーマに関する課題作文を行うこと。
		評価方法
		(1) 平常点 50% (授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題・課題の提出) (2) 定期試験 50%
受講者に対する要望		教科書
必ず辞書を持って毎回の授業に出席すること。 宿題・課題をきちんと行い、期限までに提出すること。		
学びのキーワード		
・ライティング ・文法 ・語彙 ・英語表現 ・パラグラフライティング		参考書
		Kohki・Endo 『Passage to Paragraph Writing Student Book』 (センゲージ・ラーニング)

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112008JB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112008JC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|------------------------------|-----|
| (1) 平常点 (授業参加態度、課題、宿題、小テスト、) | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員：L. アーノルド

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112008PA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

リスニング、文法、リーディング、文書書きを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディング、文書書きでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。

(2) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目指し、リスニング、文法、リーディング、文書書きなど多面的に学習し、今後のスピーキングや読んだり、文書書いているなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。

受講者に対する要望

英和辞典を必ず授業に持参する。
宿題、課題は必ず行い、期日に提出する。

学びのキーワード

- ・ 文法、語彙
- ・ 文書書き・作文
- ・ 表現方法／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション、プリー・ティチングアンケート
02. Unit 1 Personal Correspondance (1) 現在形・現在進行形・1
03. Unit 2 Personal Correspondance (2) 現在形・現在進行形・2
04. Unit 3 Biography (1) 過去形・過去進行形・1
05. Unit 4 Biography (1) 過去形・過去進行形・2
06. 文書書きの作文
07. Unit 5 Events & Festivals 未来形
08. Unit 6 Directions & Locations (1) 前置詞・1
09. Unit 7 Directions & Locations (2) 前置詞・2
10. 文書書きの作文
11. Unit 8 Directions & Locations (3) There is/are
12. Unit 9 Occupations (1) 代名詞
13. Unit 10 Occupations (1) 代名詞/再帰代名詞
14. 文書書きの作文
15. 期末まとめ

準備学習(予習)

学習予定のユニットの文法説明を読み、例文でわからない語句は調べておく。

準備学習(復習)

授業で扱った問題をやり直し、理解できているかどうか確認する。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 期末まとめ | 50% |
| (2) 課題、書き・作文、平常点 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会『総合英語パワーアップ—リスニングからリーディング BASIC—Power—Up English』(南雲堂)
塩見 佳代子『TOEICテスト総合英読演習』(成美堂)

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112008PB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|----------|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% (授業参加態度、課題、宿題、小テスト、授業内作業) |
| (2) 定期試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112008PC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

ECA(英語基礎表現)Ⅰ (P) Level d

ECA-0-103

担当教員：チェンバレン 暁子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112008PD

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|-----------------------------|-----|
| (1) 平常点 (授業参加態度、課題、宿題、小テスト) | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

ECA(英語基礎表現)Ⅰ (Super A)		ECA-0-103								
担当教員：L.アーノルド										
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 112008SA								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業内容説明、プリーティチングアンケート、ブログの紹介</div> <div>02. 物・ことの描写、節、主事、賛成文、根本的な接続詞の紹介（レビュー）</div> <div>03. 物・ことの描写の活動・練習書き</div> <div>04. 作文1の説明、あらすじ、ワードマップしているなど</div> <div>05. 作文1のチェック・提出</div> <div>06. 人物、動物の描写、形容詞を使てる、編集している（レビュー）、練習書き</div> <div>07. 人物、動物、場所の描写、活動、ピアエディチングの紹介</div> <div>08. 作文2の説明、あらすじ、ワードマップしているなど</div> <div>09. 作文2のチェック・提出</div> <div>10. global・glocalのテーマを練習書き</div> <div>11. 作文3の説明、あらすじ、ワードマップしているなど</div> <div>12. 作文3のチェック・提出</div> <div>13. 期末作文のプロジェクトの紹介、説明</div> <div>14. 期末作文のチェック、ピアエディチング</div> <div>15. 期末作文の提出、まとめ</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>学習した節の作文しながら流暢に書くができることを主眼におく。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>様々な場面において、書きことが取れるような英語力を身につけることを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題はテキスト章「文法、語彙」文、節を練習、完成する。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>辞書、授業に学習する、作文の締め切りに提出</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>テキスト、課題の復習。講師のブログをチェック。</div>									
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点、練習の書き、課題</td><td>25%</td><td>70%以上出席：欠席数4回、遅刻2回 以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。</td></tr><tr><td>(2) プリーティチングアンケート・作文 1、2、3</td><td>50%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 期末作文</td><td>25%</td><td></td></tr></table>		(1) 平常点、練習の書き、課題	25%	70%以上出席：欠席数4回、遅刻2回 以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。	(2) プリーティチングアンケート・作文 1、2、3	50%		(3) 期末作文	25%
(1) 平常点、練習の書き、課題	25%	70%以上出席：欠席数4回、遅刻2回 以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。								
(2) プリーティチングアンケート・作文 1、2、3	50%									
(3) 期末作文	25%									
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 書き</div><div>・ 節</div><div>・ 作文</div><div>・ global-glocal</div><div>・ 文法・ヴォキャブラーリ</div></div>	<div>教科書</div> <div>ドロシー E.ゼマック・カルロス・イスラム 『Paragraph Writing Student Book』（マクミラン・ランゲージハウス）</div> <div>参考書</div>									

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112008WA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。

(2) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目指し、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Test Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。
さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

英和辞典を必ず授業に持参する。
宿題、課題は必ず行い、期日に提出する。

学びのキーワード

- ・ 英語表現／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション
02. Unit 1 Personal Correspondence (1) 現在形・現在進行形・1
03. Unit 2 Personal Correspondence (2) 現在形・現在進行形・
04. Unit 3 Biography (1) 過去形・過去進行形・1
05. Unit 4 Biography (1) 過去形・過去進行形・2
06. Catch-up
07. Unit 5 Events & Festivals 未来形
08. Unit 6 Directions & Locations (1) 前置詞・1
09. Unit 7 Directions & Locations (2) 前置詞・2
10. Unit 8 Directions & Locations (3) There is/are
11. Catch-up
12. Unit 9 Occupations (1) 代名詞
13. Unit 10 Occupations (1) 代名詞/再帰代名詞
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストに付属のCDを何度も聴く。

準備学習(復習)

授業でやったことは必ず復習する。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 学期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『総合英語パワーアップ—リスニングからリーディング BASIC—Power—Up English』 (南堂堂)

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112008WB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|----------|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% (授業参加態度、課題、宿題、小テスト、授業内作業) |
| (2) 定期試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員：能町 和子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112008WC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語＋動詞＋～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How＋形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|------------------------------|-----|
| (1) 平常点 (出席、授業参加態度、課題、宿題、小テ) | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

ECA(英語基礎表現)Ⅱ (A) Level a		ECA-0-104											
担当教員： チェンバレン 暁子													
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 112009AA											
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01.Orientation 02. Chapter 6 People Getting Started 03.Chapter 6 Revising Your Writing 04.Chapter 7 Job and Careers Getting Started 05.Chapter 7 Revising Your Writing 06.Chapter 8 Important Life Event Getting Started 07.Chapter 8 Revising Your Writing 08.Review 09.Chapter 9 Going Places Getting Started 10.Chapter 9 Revising Your Writing 11.Chapter 10 In the Future Getting Started 12.Chapter 10 Revising Your Writing 13.Review 14.Presentation 15. まとめ</div>												
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>パラグラフの理解、文法の復習や単語の使い方などを学び、身近なテーマに基づいて英文を書く練習を行う。</div>													
<div>(1) 内容</div> <div>英作文の基礎を学ぶ。単文からパラグラフがかけられるように英語Writingの基礎を学ぶ。</div>													
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>パラグラフの理解、文法の復習や単語の使い方などを学び、身近なテーマに基づいて英文を書く練習を行う。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各課の文法問題は予習として必ず行うこと。</div>												
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加が求められる。授業毎に出された課題をきちんと行う。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>各課で学んだ語彙、文法事項、Writing のルールは必ず復習する。課題を行い、期限までに提出すること。</div>												
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業参加度</td><td>20%</td><td>授業内で与えられた課題や授業内態度に対する評価。</td></tr><tr><td>(2) 課題</td><td>30%</td><td>課題に対する評価。</td></tr><tr><td>(3) 小テスト & プレゼンテーション</td><td>20%</td><td>新しく学んだ Vocabularyや文法事項、英作文の規則についての習得度確認テストの評価。</td></tr><tr><td>(4) Final Exam</td><td>30%</td><td>英作文に学んだ Vocabularyや文法事項、英作文の規則が正しく用いられているかが評価される。</td></tr></table> <div>チャプターごとの英作文の課題、文法やWritingのルールの習得度により評価する。授業中の参加態度や課題の提出も重視する。</div>		(1) 授業参加度	20%	授業内で与えられた課題や授業内態度に対する評価。	(2) 課題	30%	課題に対する評価。	(3) 小テスト & プレゼンテーション	20%	新しく学んだ Vocabularyや文法事項、英作文の規則についての習得度確認テストの評価。	(4) Final Exam	30%
(1) 授業参加度	20%	授業内で与えられた課題や授業内態度に対する評価。											
(2) 課題	30%	課題に対する評価。											
(3) 小テスト & プレゼンテーション	20%	新しく学んだ Vocabularyや文法事項、英作文の規則についての習得度確認テストの評価。											
(4) Final Exam	30%	英作文に学んだ Vocabularyや文法事項、英作文の規則が正しく用いられているかが評価される。											
<div>学びのキーワード</div> <div><div>▪ Writing ▪ Grammarの強化 ▪ Paragraph Writingの学習 ▪ 語彙力の強化 ▪ Composition</div></div>	<div>教科書</div> <div>Laurie Blass, Deborah Gordon/ Writers at Work : From Sentence to Paragraph Student's Book (Cambridge University Press)</div> <div>参考書</div>												

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112009AB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ

(2) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目指し、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Test Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。
さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

英和辞典は必ず持参する。＜br />宿題、課題は必ず行い、期日に提出する。

学びのキーワード

- ・ 英語表現／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション
02. Unit 13: 機内で
03. Unit 14: 空港で
04. Unit 15: ホテル
05. Unit 16: レストランで
06. Unit 17: ショッピング
07. Unit 18: ベースボール
08. Unit 19: ミュージカル鑑賞
09. Unit 20: 旅行案内
10. Unit 21: トラブル・シューティング
11. Unit 22: 体調不良
12. Unit 23: 電話での申し込み
13. Unit 24: さよなら、アメリカ！
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストに付属のCDを何度も聴く。

準備学習(復習)

授業でやったことは必ず復習する。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 学期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員：L. アーノルド

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112009PA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

リスニング、文法、リーディング、文書書きを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディング、文書書きでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。

(2) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目指し、リスニング、文法、リーディング、文書書きなど多面的に学習し、今後のスピーキングや読んだり、文書書いているなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。

受講者に対する要望

英和辞典は必ず持参する。＜br /＞宿題、課題は必ず行い、期日に提出する。

学びのキーワード

- ・ 文法、語彙
- ・ 文書書き・作文
- ・ 表現方法／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション
02. Unit 11 Instructions / 命令文
03. Unit 12 Health & Physical Condition / Yes/No疑問文
04. Unit 13 Service Requests / 現在完了
05. 文書書きの作文
06. Unit 14 Special Orders / 疑問詞を用いた疑問文
07. Unit 15 Money / 疑問詞Howを用いた疑問文
08. Unit 16 Public Signs / 助動詞(1)
09. Unit 17 Sports / 助動詞(2)
10. 文書書きの作文
11. Unit 18 History / 受動態
12. Unit 19 Sightseeing / 原級・比較級・最上級
13. Unit 20 Science / 比較級・最上級
14. 文書書きの作文
15. 期末まとめ

準備学習(予習)

学習予定のユニットの文法説明を読み、わからない語句を調べておく。

準備学習(復習)

授業で扱った練習問題を解き直す。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 期末まとめ | 50% |
| (2) 課題、書き・作文、平常点 | 50% |

教科書

JAGETリスニング研究会『総合英語パワーアップ—リスニングからリーディング BASIC—Power—Up English』(南雲堂)
塩見 佳代子『TOEICテスト総合英読練習』(成美堂)

参考書

ECA(英語基礎表現)Ⅱ (P) Level b

ECA-0-104

担当教員： 中川 英幸

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112009PB

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ

(2) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目指し、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Test Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。
さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

英和辞典は必ず持参する。＜br />宿題、課題は必ず行い、期日に提出する。

学びのキーワード

- ・ 英語表現／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明
02. Unit 13: 機内で (時・天候などを表すIt)
03. Unit 14: 空港で (接続詞)
04. Unit 15: ホテル (不定詞)
05. Unit 16: レストランで (形容詞)
06. Unit 17: ショッピング (頻度を表す副詞)
07. Unit 18: ベースボール (比較級)
08. Unit 19: ミュージカル鑑賞 (現在完了)
09. Unit 20: 旅行案内 (受動態 1)
10. Unit 21: トラブル・シューティング (受動態 2)
11. Unit 22: 体調不良 (分詞)
12. Unit 23: 電話での申し込み (動名詞)
13. Unit 24: さよなら、アメリカ! (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストに付属のCDを何度も聴く。

準備学習(復習)

授業でやったことは必ず復習する。

評価方法

- | | |
|----------|-----------------------|
| (1) 定期試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% 小テスト、宿題、課題、参加態度など |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112009PC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ

(2) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目指し、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Test Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。
さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

英和辞典は必ず持参する。＜br /＞宿題、課題は必ず行い、期日に提出する。

学びのキーワード

- ・ 英語表現／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション
02. Unit 13: 機内で
03. Unit 14: 空港で
04. Unit 15: ホテル
05. Unit 16: レストランで
06. Unit 17: ショッピング
07. Unit 18: ベースボール
08. Unit 19: ミュージカル鑑賞
09. Unit 20: 旅行案内
10. Unit 21: トラブル・シューティング
11. Unit 22: 体調不良
12. Unit 23: 電話での申し込み
13. Unit 24: さよなら、アメリカ！
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストに付属のCDを何度も聴く。

準備学習(復習)

授業でやったことは必ず復習する。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 学期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員：チェンバレン 暁子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：112009PD

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ

(2) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目指し、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Test Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。
さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

英和辞典は必ず持参する。＜br /＞宿題、課題は必ず行い、期日に提出する。

学びのキーワード

- ・ 英語表現／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション
02. Unit 13: 機内で
03. Unit 14: 空港で
04. Unit 15: ホテル
05. Unit 16: レストランで
06. Unit 17: ショッピング
07. Unit 18: ベースボール
08. Unit 19: ミュージカル鑑賞
09. Unit 20: 旅行案内
10. Unit 21: トラブル・シューティング
11. Unit 22: 体調不良
12. Unit 23: 電話での申し込み
13. Unit 24: さよなら、アメリカ！
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストに付属のCDを何度も聴く。

準備学習(復習)

授業でやったことは必ず復習する。

評価方法

- | | |
|-----------|-----------------------|
| (1) 学期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% 小テスト、宿題、課題、参加態度など |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

ECA(英語基礎表現)II (Super A)

ECA-0-104

担当教員：L.アーノルド

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 112009SA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

学習した文法を活用しながら流暢に書くができることを主眼におく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、書きことが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

毎回参加しよう！

学びのキーワード

- ・ 書き
- ・ 節
- ・ 作文
- ・ global-glocal
- ・ 文法、ヴォキャブラーリ

授業計画

01. 夏休みを書いている、メール、ブログレビュー
02. 節と他のことレビュー
03. 説明、申し訳、問題の紹介、活動、練習書き
04. 作文4の説明、あらすじ、ワードマップなど
05. 作文4の提出・チェック
06. 比較対照の紹介、説明
07. 音楽の比較対照の活動、練習書き
08. 作文5の説明、あらすじ、ワードマップなど
09. 作文5の提出・チェック
10. 時表現、話すをする、global・glocalのテーマ紹介、説明
11. 時表現、話すをする、global・glocalテーマの活動、練習書き、作文6の説明
12. 作文6の提出・チェック
13. 期末作文のプロジェクトの説明
14. 期末作文のチェック
15. 期末作文の提出

準備学習(予習)

課題はテキスト章「文法、語彙」文を練習、完成する。

準備学習(復習)

テキスト、課題の復習。講師のブログをチェックする。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---|
| (1) 平常点、練習書き、課題 | 25% | 70%以上出席：欠席数4回、遅刻2回 以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。 |
| (2) 作文4、5、6 | 50% | |
| (3) 期末作文 | 25% | |

教科書

ドロシー E. ゼマック・カルロス・イスラム 『Paragraph Writing Student Book』 (マクミラン・ランゲージハウス)

参考書

担当教員： 中川 英幸

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 11202010

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、語彙や文法といった言語的側面だけを学ぶのではなく、映画を鑑賞しながらアメリカの文化や歴史、社会情勢といった文化的側面についても学んでいく。また新聞やインターネットを利用し、映画のテーマに関するリサーチも行う。授業内では、ディスカッションやプレゼンテーションを通して自分の意見や考えを発表してもらう。映画の内容を理解するために、リスニング演習や読解練習も行われる。

(2) 学びの意義と目標

映画を通して、アメリカの文化や歴史、社会情勢に関する知識を深める。またリサーチした内容をまとめ、自分の意見や考えを発表できるようにする。

受講者に対する要望

授業内容が難しいので、毎回辞書を持参して授業に出席すること。
ディスカッションやグループワークといった授業内活動に積極的に参加すること。

学びのキーワード

- ・アメリカ文化・歴史
- ・アメリカ社会情勢
- ・リサーチ
- ・語彙・文法
- ・リスニング

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、映画鑑賞 (Unit 1-6)
02. Unit 1: The Ku Klux Klan
03. Unit 2: Elvis Presley
04. Unit 3: John F. Kennedy
05. Unit 4: The Folk Song Movement
06. Unit 5: The Vietnam War
07. Unit 6: Vietnam War Veterans and PTSD
08. 映画の前半部分 (Unit 1-6) に関するディスカッション、映画鑑賞 (Unit 7-12)
09. Unit 7: Hippies
10. Unit 8: John Lennon
11. Unit 9: Watergate
12. Unit 10: Apple Computer
13. Unit 11: Bicentennial Celebrations
14. Unit 12: AIDS、映画の後半部分 (Unit 7-12) に関するディスカッション、リサーチプロジェクトのプレゼンテーション (I)
15. リサーチプロジェクトのプレゼンテーション (II)

準備学習(予習)

次の授業で学習するユニットの語彙を調べておくこと。
宿題として配られる資料を読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙、文法、表現を復習しておくこと。
教科書やノートを読み返し、授業で学習した内容を復習すること。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|-----------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題・課題の提出) |
| (2) レポート | 40% | |
| (3) プレゼンテーション | 10% | |

教科書

橋本治美、濱田真由美、映画『フォレスト・ガンブ 一期一会』で学ぶアメリカ現代史 『American History in Focus Student Book (Macmillan cinema English)』 (マクミラン・ランゲージハウス)

参考書

担当教員：K. J. マクレン

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11202600

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

This class will feature a broad range of music in English. The songs will focus on words that have been put into use from music, or songs that are easy and fun to learn and sing. There will be background information on each song, as well as grammar and vo

(2) 学びの意義と目標

The goal of each lesson is to learn the meanings of the words in the songs and how they are used in everyday English.

受講者に対する要望

This class is for anyone who loves music and wants to learn the words to popular songs. There will also be a chance for students to choose some music as well.

学びのキーワード

- ・ Expressing feelings
- ・ Rhyming words
- ・ Common vernacular

授業計画

01. Introduction, Traditional songs
02. Early American songs
03. Pre-rock'n roll songs
04. Songs from the 1950s
05. Songs from the 1960s
06. Songs from the 1970s
07. Student choice songs
08. Review of first half
09. Songs from 1980s
10. Songs from 1990s
11. Songs from 2000s/ Modern Music
12. Songs from 2000s/ Modern music
13. Student choice song
14. Student choice song
15. Review of second half

準備学習(予習)

Please prepare for each song by listening before class

準備学習(復習)

Please study the key words on the printouts given each class.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Assignments | 30% |
| (2) Participation | 40% |
| (3) Tests | 30% |

Please make sure to attend all classes

教科書

参考書

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 1 コード： 11202610

01. Unit 1 FLY ME TO THE MOON
02. Unit 2 WHEN YOU WISH UPON A STAR
03. Unit 3 AUTUMN LEAVES
04. Unit 4 MISTY
05. Unit 5 I LEFT MY HEART IN SAN FRANCISCO
06. Unit 6 THE NEARNESS OF YOU
07. Unit 7 ALL OF ME
08. Unit 8 SMILE
09. Unit 9 IF
10. Unit 10 BECAUSE
11. Unit 11 EVERY BREATH YOU TAKE
12. Unit 12 WHAT A WONDERFUL WORLD
13. Unit 13 A SONG FOR YOU
14. Unit 14 THAT'S WHAT FRIENDS ARE FOR
15. まとめ

スタンダードとして歌い継がれている英語の
ジャズやポップスを題材にして英語を学びます。
歌詞の内容理解を通して語彙・文法を身につ
け、歌を聴き、歌うことによってリスニング・ス
ピーキングの練習をします。
また、歌の背景に関する短いエッセイを読み、
読解練習を行うとともに歌への理解を深めます。

- 基本的な語彙・文法事項を身につける。
- 英語の音声の特徴を理解し、リスニング力・スピーキング力を高める。
- 英文を読み、要旨をつかむ。

- 歌詞の中でわからない単語の意味を調べる。
- 歌の背景に関するエッセイを読み、問題に答える。

テキスト付属MP3 CD-ROMで歌詞の聞き取りをする。
語彙・文法事項の復習をし、小テストに備える。

(1) 授業参加態度	20%
(2) 課題	30%
(3) 小テスト・期末試験	50%

- 指定された部分の予習は必ず行い授業に臨むこと。
- 授業では学習活動に積極的に取り組むこと。特に歌を歌う場面では大きな声を出すこと。
- テキスト付属の音声教材を活用してリスニング・発音練習を行うこと。

- ・リスニング
- ・発音
- ・語彙
- ・文法
- ・読解

『Learn English through Jazz and Pops ジャズとポップスで学ぶ大学英語』 (KINSEIDO) 【978-4-7647-3928-4】

ECA(English through Songs) B		ECA-0-113							
担当教員： 能町 和子									
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11202750							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. クラスガイダンス、歌を使っでの学習 02. Unit1 03. Unit2 04. Unit3 05. Test 1 (Unit1-3) 06. Unit 4 07. Unit 5 08. Unit7 09. Test 2 (Unit4, 5, 7) 10. Unit8 11. Unit9 12. Christmas Songs を使って（発表あり） 13. Unit10 14. Unit12 15. Test 3 (Unit8, 9, 10, 12)／発表</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>英語の歌を使って、聞き取り、歌詞の理解、英文法の復習を行う。また、歌手や歌に関する読み物を読解する。</div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>英語の発音のルールを学習し、歌詞の中に現れる文法を理解することによってより歌を理解していく。自分なりに歌詞を読解し、考えを発表する。歌詞に現れた語彙表現を覚える。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>配布された提出プリントをやっておく</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業中に聞き取り練習、発音練習がありますので、休まず参加してください。 文法や意味の読解はノートをとって、復習してください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>学習したvocabularyや発音のポイント、文法を復習する。</div>								
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 参加 ・取り組み</td><td>20%</td></tr><tr><td>(2) 宿題</td><td>15%</td></tr><tr><td>(3) 発表</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) テスト</td><td>45%</td></tr></table> <div>毎回の宿題は授業開始時に集めます。そのあとは受け取りませんので、気をつけて下さい。聞き取り問題のあと、意味の確認作業がありますので、必ず辞書を持参してください。辞書を持ってこず、activityに参加できない場合は参加点から減点します。発音練習、感想の発表など積極的に参加してください。</div>		(1) 参加 ・取り組み	20%	(2) 宿題	15%	(3) 発表	20%	(4) テスト
(1) 参加 ・取り組み	20%								
(2) 宿題	15%								
(3) 発表	20%								
(4) テスト	45%								
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 語彙表現</div><div>・ 発音・聞き取り</div><div>・ 基礎文法</div></div>	<div>教科書</div> <div>角山照彦、Simon Capper 著、「English with Pop Hitsーヒットソングで学ぶ総合英語」（成美堂）</div> <div>参考書</div>								

担当教員：遠藤 由佳里

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11202751

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

『English with Pop Hits』をテキストとして使用し、ポップスのヒット曲を通して英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、リスニング力および発音の向上させることを目指します。さらに歌詞を理解するために必要な語彙・文法項目を学習します。

(2) 学びの意義と目標

○英語特有の音声変化やリズムを理解し、英語を聴いたり発音したりする力を向上させる。
○基礎的な語彙・文法を身につける。
○比喻や押韻を理解し歌詞を味わう。

受講者に対する要望

○指定された箇所を必ず予習して授業に臨むこと。
○授業中の学習活動に積極的に参加すること。
○学習内容を復習し、小テストに備えること。

学びのキーワード

- ・英語の音声変化とリズム
- ・語彙
- ・文法

授業計画

01. Introduction, UNIT 1 Complicated
02. UNIT 2 S. O. S.
03. UNIT 3 You Are Not Alone
04. UNIT 4 Don' t Wanna Lose You
05. UNIT 5 How Crazy Are You?
06. UNIT 6 Sunday Morning
07. UNIT 7 I Want It That Way
08. UNIT 8 Suddenly I See
09. UNIT 9 How Am I Supposed To Live Without You?
10. UNIT 10 Save The Best For Last
11. UNIT 11 Last Christmas
12. UNIT 12 Torn
13. UNIT 13 La La
14. UNIT 14 With You
15. まとめ

準備学習(予習)

Warm-up, Notesを参考にして歌詞の和訳を完成させる。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙・文法事項を確認する。音声ファイルをダウンロードしてテキストのリスニング問題を復習する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業参加態度 | 20% |
| (2) 課題 | 30% |
| (3) 小テスト・期末テスト | 50% |

教科書

『English with Pop Hits ヒットソングで学ぶ総合英語』 (成美堂) 【978-4-7919-3387-7】

参考書

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 11203210

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）を行う。

Graded Readersというレベル別に分かれた本の中から、興味や好みに基づいて本を選び、授業の外で本を読み進めていき、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をしたり、アクティビティを行なう、学生主導の授業。

(2) 学びの意義と目標

英語で読む習慣を身につけ、自分のペースで読むことにより無理なく自然に英語力を伸ばし、英語で読むことの楽しさ（pleasure of reading）を知ることを目指す。

受講者に対する要望

英語の習熟度と関係なく、英語の本をよむことを楽しみ、自分の世界を広げ見識を深めることを目標とする。
授業前にリーディングラボで本を2冊借りて授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・ Pleasure in reading
- ・ Pleasure in sharing
- ・ Pleasure in presenting

授業計画

01. オリエンテーション／ジャーナル記載方法／リーディング・ラボ案内
02. 読書とリーディングアクティビティ (1)
03. 読書とリーディングアクティビティ (2)
04. 読書とリーディングアクティビティ (3)
05. 読書とリーディングアクティビティ (4)
06. 読書／プレゼンテーション準備
07. 読書／プレゼンテーション準備
08. 読書とリーディングアクティビティ (5)
09. 読書とリーディングアクティビティ (6)
10. 読書とリーディングアクティビティ (7)
11. 読書とリーディングアクティビティ (8)
12. 読書／プレゼンテーション
13. 読書／プレゼンテーション
14. 読書／プレゼンテーション
15. まとめ

準備学習(予習)

図書館で本を借りて、できる限り読書に努める。

準備学習(復習)

読んでいる本の読書記録（ジャーナル）を毎日記入する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 読書量 | 30% |
| (3) プレゼンテーション | 30% |

学期末試験は記述式ではなく、プレゼンテーション形式の実技試験とする。

教科書

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11203350

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）を行う。

Graded Readersというレベル別に分かれた本の中から、興味や好みに基づいて本を選び、授業の外で本を読み進めていき、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をしたり、アクティビティを行なう、学生主導の授業。

(2) 学びの意義と目標

英語で読む習慣を身につけ、自分のペースで読むことにより無理なく自然に英語力を伸ばし、英語で読むことの楽しさ（pleasure of reading）を知ることを目指す。

受講者に対する要望

英語の習熟度と関係なく、英語の本をよむことを楽しみ、自分の世界を広げ見識を深めることを目標とする。
授業前にリーディングラボで本を2冊借りて授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・Pleasure in reading
- ・Pleasure in sharing
- ・Pleasure in presenting

授業計画

01. オリエンテーション／ジャーナル記載方法／リーディング・ラボ案内
02. 読書とリーディングアクティビティ (1)
03. 読書とリーディングアクティビティ (2)
04. 読書とリーディングアクティビティ (3)
05. 読書とリーディングアクティビティ (4)
06. 読書／プレゼンテーション準備
07. 読書／プレゼンテーション準備
08. 読書とリーディングアクティビティ (5)
09. 読書とリーディングアクティビティ (6)
10. 読書とリーディングアクティビティ (7)
11. 読書とリーディングアクティビティ (8)
12. 読書／プレゼンテーション
13. 読書／プレゼンテーション
14. 読書／プレゼンテーション
15. まとめ

準備学習(予習)

図書館で本を借りて、できる限り読書に努める。

準備学習(復習)

読んでいる本の読書記録（ジャーナル）を毎日記入する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 読書量 | 30% |
| (3) プレゼンテーション | 30% |

学期末試験は記述式ではなく、プレゼンテーション形式の実技試験とする。

教科書

参考書

ECA (Business)		ECA-0-204
担当教員： 中川 英幸		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11204610
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、授業シラバスの説明 02. Part I： ビジネス通信の基本 (1. 手紙) 03. Part I： ビジネス通信の基本 (2. ファックス) 04. Part I： ビジネス通信の基本 (3. 電子メール) 05. Part I： ビジネス通信の基本 (4. 電話) 06. Part II： 社交関係の英語 (5. 面会の申し入れ) 07. Part II： 社交関係の英語 (6. ホテルの予約) 08. Part II： 社交関係の英語 (9. レセプションの招待) 09. Part II： 社交関係の英語 (10. アンケートの回答依頼) 10. Part III： 社内の英語 (13. 会議の通知) 11. Part III： 社内の英語 (15. 物品の購入) 12. Part IV： 取引関係の英語 (21. 注文) 13. Part V： 雇用関係の英語 (24. 履歴書) 14. Part V： 雇用関係の英語 (27. 面接) 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>ビジネスシーンにおける英会話や電話でのやりとり、電子メールや手紙の読み書きなどのアクティビティーを通して、実践的なビジネス英語を学んでいく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ビジネスのグローバル化にともない、海外で仕事をする人たちだけでなく、日本国内のオフィスに勤務する人たちも英語が必要となってきた。この授業では、典型的なビジネスシーンを想定し、「読み」、「書き」、「聞き」、「話す」の4技能の習得を目標とする。また授業で学習したことを応用し、TOEICなどの資格試験対策にも役立てる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で学習予定の章にある意味の分からない語彙は、あらかじめ調べておくこと。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業や教科書で学習した語彙や表現をしっかりと復習すること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業に毎回参加すること。
辞書を必ず持参すること。
必修授業に比べると語彙が難しいので、予習を必ず行ってくること。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 50% (授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題・課題の提出)</div> <div>(2) 定期試験 50%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ ビジネス英語・ リーディング・ リスニング・ 語彙・文法・ スピーキング</div>	<div>教科書</div> <div>豊田 暁 『Essentials of Global Business English—ビジネス英語エッセンシャルズ』 (南雲堂)</div> <div>参考書</div>	

ECA (Business)		ECA-0-204
担当教員： 中川 英幸		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11204630
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. オリエンテーション、授業シラバスの説明 02. Part I： ビジネス通信の基本 (1. 手紙) 03. Part I： ビジネス通信の基本 (2. ファックス) 04. Part I： ビジネス通信の基本 (3. 電子メール) 05. Part I： ビジネス通信の基本 (4. 電話) 06. Part II： 社交関係の英語 (5. 面会の申し入れ) 07. Part II： 社交関係の英語 (6. ホテルの予約) 08. Part II： 社交関係の英語 (9. レセプションの招待) 09. Part II： 社交関係の英語 (10. アンケートの回答依頼) 10. Part III： 社内の英語 (13. 会議の通知) 11. Part III： 社内の英語 (15. 物品の購入) 12. Part IV： 取引関係の英語 (21. 注文) 13. Part V： 雇用関係の英語 (24. 履歴書) 14. Part V： 雇用関係の英語 (27. 面接) 15. まとめ
ビジネスシーンにおける英会話や電話でのやりとり、電子メールや手紙の読み書きなどのアクティビティーを通して、実践的なビジネス英語を学んでいく。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
ビジネスのグローバル化にともない、海外で仕事をする人たちだけでなく、日本国内のオフィスに勤務する人たちも英語が必要となってきた。この授業では、典型的なビジネスシーンを想定し、「読み」、「書き」、「聞き」、「話す」の4技能の習得を目標とする。また授業で学習したことを応用し、TOEICなどの資格試験対策にも役立てる。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
授業に毎回参加すること。 辞書を必ず持参すること。 必修授業に比べると語彙が難しいので、予習を必ず行ってくること。		
学びのキーワード		評価方法
・ ビジネス英語 ・ リーディング ・ リスニング ・ 語彙・文法 ・ スピーキング		(1) 平常点 50% (授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題・課題の提出) (2) 定期試験 50%
		教科書
		豊田 暁 『Essentials of Global Business English—ビジネス英語エッセンシャルズ』 (南雲堂)
		参考書

担当教員：遠藤 由佳里

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11204840

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本の文化・習慣についての会話文を主な教材とし、リスニング・スピーキングを行う。質問や説明に必要な語句を学習し、ペアやグループで会話活動を行う。日本の文化・習慣について調べ、英語で発表を行う。

(2) 学びの意義と目標

日本の文化・習慣を英語で説明するための語彙・表現を身につける。質問を正確に聞き取り、適切な情報を提供できるリスニングスキルとスピーキングスキルを養う。

受講者に対する要望

指定された箇所の予習して授業に臨むこと。授業中は積極的にペアワークやグループワークに参加し、授業に貢献すること。

学びのキーワード

- ・スピーキング
- ・リスニング
- ・日本の文化・習慣
- ・語彙

授業計画

01. イントロダクション
02. Unit 1 Knowing Me, Knowing You
03. Unit 2 My Hometown
04. Unit 3 Japanese Food
05. Unit 4 Mind your Manners!
06. Unit 5 Explaining Japanese Things
07. Unit 6 The Japanese Language
08. Unit 7 Visiting Temples and Shrines
09. Unit 8 The Traditional Japanese House
10. Unit 9 Special Days and Events
11. Unit 10 School and College Life
12. Unit 11 Famous Japanese People
13. Unit 12 Japanese Movies & TV
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

授業で配布するワークシートの問いに答える。

準備学習(復習)

授業で取り上げた語句・表現を覚える。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 10% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

『This Is Japan Student Book』(マクミラン・ランゲージハウス)【9784777363834】

参考書

担当教員：遠藤 由佳里

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11204850

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本の文化・習慣についての会話文を主な教材とし、リスニング・スピーキングを行う。質問や説明に必要な語句を学習し、ペアやグループで会話活動を行う。日本の文化・習慣について調べ、英語で発表を行う。

(2) 学びの意義と目標

日本の文化・習慣を英語で説明するための語彙・表現を身につける。質問を正確に聞き取り、適切な情報を提供できるリスニングスキルとスピーキングスキルを養う。

受講者に対する要望

指定された箇所の予習して授業に臨むこと。授業中は積極的にペアワークやグループワークに参加し、授業に貢献すること。

学びのキーワード

- ・スピーキング
- ・リスニング
- ・日本の文化・習慣
- ・語彙

授業計画

01. イントロダクション
02. Unit 1 Knowing Me, Knowing You
03. Unit 2 My Hometown
04. Unit 3 Japanese Food
05. Unit 4 Mind your Manners!
06. Unit 5 Explaining Japanese Things
07. Unit 6 The Japanese Language
08. Unit 7 Visiting Temples and Shrines
09. Unit 8 The Traditional Japanese House
10. Unit 9 Special Days and Events
11. Unit 10 School and College Life
12. Unit 11 Famous Japanese People
13. Unit 12 Japanese Movies & TV
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

授業で配布するワークシートの問いに答える。

準備学習(復習)

授業で取り上げた語句・表現を覚える。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 10% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

サイモン・カッパー 『This Is Japan Student Book』(マクミラン・ランゲージハウス)【9784777363834】

参考書

ECA(Travel English)		ECA-0-204
担当教員： K. J. マクレン		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11204960
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01.Orientation 02.Here’s Your Boarding Pass 03.So, Where Are You From? 04.A Good Hotel At a Great Price 05.Next Stop, Chicago! 06.A Buffalo Burger? 07.Review of first half 08.Walking Around Oxford 09.Shopping in London 10.Oh, No! Where’s My Passport? 11.Ouch! That Hurts! 12.Tell Me About Your Trip 13.Be a Street-Smart Traveler 14.Getting ready to return 15.Review of second half</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>海外旅行で遭遇する様々なシチュエーションで役立つ英語会話や表現を学ぶ。リスニングや会話を通して、実践的な英語コミュニケーション能力の養成を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>海外旅行における様々なシチュエーションで役立つ英語表現を学習し、英語コミュニケーション能力の向上を図る。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>新しく学ぶユニットの知らない単語は事前に辞書で調べておく。また、課題を行うこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加が求められる。授業で学んだ表現が将来役立つように、予習・復習を必ず行うこと。
</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で新しく学んだ単語や表現を復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) Assignments</div><div>30%</div></div><div><div>(2) In class work</div><div>40%</div></div><div><div>(3) Tests</div><div>30%</div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 旅行英会話</div><div>・ Listening</div><div>・ 英語コミュニケーション能力</div></div>	<div>教科書</div> <div>Dale Fuller/ Kevin Cleary 『Adventures Abroad English for Successful Travel』 (MACMILLAN LANGUAGE HOUSE)</div> <div>参考書</div>	

ECA(Travel English)		ECA-O-204
担当教員：メイス みよ子		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：11204980
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. シラバスの説明・異文化について 02. 入国・出国手続き・依頼と許可 03. 出入国の手続き 04. 道案内の表現 05. 情報の尋ね方・観光 06. ショッピングの会話 07. ショッピングの会話 08. レストランでの注文の仕方 09. レストランでの注文の仕方 10. 異文化について 11. 娯楽・イベントについて 12. 娯楽、イベント、祭り 13. 健康の問題に関する会話 14. 健康問題・口頭発表 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>英語圏への旅行で遭遇する様々な場面での実践的な英会話を学ぶ。旅行先や滞在先の国の文化についての理解を深め、国際人としての心得やマナーも学ぶ。また、メニューの見方や注文の仕方、症状の説明の仕方、道の聞き方、値段の聞き方や買い物の仕方など、さまざまな状況でサバイバルすることができる語学力を養う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>英語圏への短期間の旅行や滞在に必要なスピーキングとリスニングのスキルを高めることを目的とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>前回の授業の見直しをしておく。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>口頭発表の練習をきちんとやりましょう。テキストを読み、分からない単語は調べておく。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 50% 平常点 (活発な授業参加 20%: 小テスト2 (2) 30% (期末試験) 20% (口頭発表)</div> <div>スマホを使用したり居眠りをしていると、授業参加と見なされません。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回参加しましょう。</div>	<div>教科書</div> <div>デール・フラー『Adventures Abroad (ワクワク旅行英会話)』(マクミラン・ランゲージハウス)</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 出入国の手続き・ ショッピングの会話・ レストランでの注文・ 娯楽についての会話・ 健康問題に関する会話</div>		

ECA(Travel English)		ECA-0-204
担当教員： K. J. マクレン		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11204990
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01.Orientation 02.Here's Your Boarding Pass 03.So, Where Are You From? 04.A Good Hotel At a Great Price 05.Next Stop, Chicago! 06.A Buffalo Burger? 07.Review of first half 08.Walking Around Oxford 09.Shopping in London 10.Oh, No! Where's My Passport? 11.Ouch! That Hurts! 12.Tell Me About Your Trip 13.Be a Street-Smart Traveler 14.Getting ready to return 15.Review of second half</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>海外旅行で遭遇する様々なシチュエーションで役立つ英語会話や表現を学ぶ。リスニングや会話を通して、実践的な英語コミュニケーション能力の養成を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>海外旅行における様々なシチュエーションで役立つ英語表現を学習し、英語コミュニケーション能力の向上を図る。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>新しく学ぶユニットの知らない単語は事前に辞書で調べておく。また、課題を行うこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加が求められる。授業で学んだ表現が将来役立つように、予習・復習を必ず行うこと。
</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で新しく学んだ単語や表現を復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) Attendance</div><div>30%</div></div><div><div>(2) In class work</div><div>40%</div></div><div><div>(3) Tests</div><div>30%</div></div></div>	
	<div>学びのキーワード</div> <div><div>・旅行英会話</div><div>・Listening</div><div>・英語コミュニケーション能力</div></div>	<div>教科書</div> <div>Dale Fuller/ Kevin Cleary 『Adventures Abroad English for Successful Travel』 (MACMILLAN LANGUAGE HOUSE)</div> <div>参考書</div>

ECA(Basic TOEIC) A

担当教員： 島田 洋子

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 11205010

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

初級者対象のTOEICリーディングセクション（Part 5－7）に特化した、TOEIC受験対策授業。
必要な語彙、基本の英文法、読解のテクニック習得に努める。

(2) 学びの意義と目標

難解とされるリーディングセクションを集中的に学習することで、就職に必要とされるTOEICのスコアアップを図る。

受講者に対する要望

卒業までにTOEIC受験を考えてはいるが、英語力に自信のない学生、または英語の文法力、読解力を伸ばしたい学生を対象とする。
授業には辞書を持参すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ スピード、手順

授業計画

01. オリエンテーション
02. Unit 1&2 文法：現在時制、過去時制
03. Unit 3&4 文法：未来形、進行形
04. Unit 5 文法：完了時制、Unit 6 Mini Test 1
05. Unit 7&8 文法：受動態、使役動詞
06. Unit 9&10 文法：to不定詞、動名詞
07. Unit 11 文法：助動詞、Unit 12 Mini Test
08. Unit 13&14 文法：名詞と代名詞、冠詞
09. Unit 15&16 文法：形容詞、副詞
10. Unit 17 文法：比較、Unit 18 Mini Test
11. Unit 19&20 文法：関係詞、仮定法
12. Unit 21&22 文法：前置詞、接続詞
13. Unit 23 文法：数詞、Unit 24 Mini Test
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

授業内で疑問点が解決できるよう、予習として指定された箇所を必ずやり、授業に参加する。

準備学習(復習)

授業で学んだ文法や語彙などを、必ず家で復習して知識の定着に努める。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 学期末試験 | 50% |

教科書

ジョシュア・コーエン、三原 京、中村 善雄、木村 博晃 『Reading Breakthrough for the TOEIC Test : TOEICテストのリーディング攻略』(南雲堂)

参考書

ECA(Basic TOEIC) B

担当教員：能町 和子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択

単位：1 コード：11205120

学部教育の関連目

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

聞き取り問題、語彙表現力をつける問題に取り組み、TOEICのListening Sectionのスコアアップを図る。

(2) 学びの意義と目標

TOEIC 350点を目指す、リスニング練習に特化したクラスです。音が聞き取れるだけでは正解へはたどり着けないため、語彙表現や基本の英文法の学習も行います。

受講者に対する要望

毎回、辞書を持参すること。発音練習など積極的に取り組んでください。

学びのキーワード

- ・リスニング
- ・語彙表現
- ・発音練習

授業計画

01. クラスガイダンス、聞き取りエクササイズ
02. Unit1&2
03. Unit3&5
04. Unit6&7
05. Unit4&8 (Review Test)/vocabulary Test
06. Review Test の復習、vocabulary exercise
07. Unit9&10
08. Unit11&13
09. Unit14&15
10. Unit12&16 (Review Test)/Vocabulary Test
11. Review Test の復習、vocabulary exercise
12. Unit17&18
13. Unit19&21
14. Unit22&23
15. Unit20&24 (Review Test)/ Vocabulary Test

準備学習(予習)

指定された部分の語彙を調べる

準備学習(復習)

vocabularyセクションの語彙表現の意味を覚え、発音を練習する

評価方法

- | | |
|-------------------------------|-----|
| (1) 参加・取り組み | 25% |
| (2) 宿題 | 25% |
| (3) ReviewTest/VocabularyTest | 50% |

教科書

Eiichi Yubune, Bill Benfield 著 「Bottom Up Listening for the TOEIC Test」 (成美堂)

参考書

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 1 コード： 11205210

01. オリエンテーションと発音のテスト|英語の母音のまとめ
02. 母音の聞き取りと発音練習
03. 母音の聞き取りと発音練習
04. 母音の復習、子音のまとめ
05. 子音 (th) (f) (v) の聞き取りと発音練習
06. 子音 (r) (l) (y) の聞き取りと発音練習
07. 語尾の発音、単数／複数、現在時制／過去時制の聞き分けと発音練習
08. 難しい子音、複数の子音の発音練習
09. 強弱・リズム・イントネーションについて
10. さまざまな語彙の種類と強弱
11. 文中の強弱
12. 英語の発音の特徴である、「音の融合」、「同化」の聞き取りと発音練習。
13. さまざまなイントネーションの聞き取りと発音練習
14. 暗唱の発表
15. まとめ

(1) 内容

[illegible]

発音が悪いために正しい英語でも理解してもらえないことがある。国際人の一人として、自信を持って英語が話せるようになる為には、発音も大事である。今までの発音を見直し、よりクリアな発音で英語が話せるようになることを目標とする。

準備學習(復習)

学習した母音や子音は、発音記号で読めるよう、復習すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 暗唱 | 20% |
| (4) 小テスト | 30% |

積極的に発音練習をおこなうこと。

毎回出席し、発音練習できる学生の受講を期待します。

学びのキーワード

- ・ 母音の特徴
- ・ 子音の特徴
- ・ ストレス
- ・ 音の融合
- ・ イントネーション

教科書

Focus on Pronunciation 1、 著者Linda Lane、 Pearson 出版

参考書

ECA(やり直しの発音)			
担当教員：メイス みよ子			
学期：週間授		科目：	必修・選択：
		単位：1	コード：11205220
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーションと発音のテスト 英語の母音のまとめ 02. 母音の聞き取りと発音練習 03. 母音の聞き取りと発音練習 04. 母音の復習、子音のまとめ。 05. 日本人が苦手な子音 (th) (f) (v) の聞き取りと発音練習 06. 日本人が苦手な子音 (r) (l) (y) の聞き取りと発音練習 07. 語尾の発音、単数／複数、現在時制／過去時制の聞き分けと発音練習 08. 複数の子音の組み合わせと発音練習 09. 強弱・リズム・イントネーションについて 10. 発音と強弱 11. 文中の強弱 12. 英語の発音の特徴である、「音の融合」、「同化」の聞き取りと発音練習。 13. さまざまなイントネーションの聞き取りと発音練習 14. 暗唱の発表 15. まとめ	
(1) 内容			
英語の発音が苦手な学生や、今以上に発音を上達させたい学生を対象に、発音の基礎を徹底的に指導する。まずは英語と日本語の音の違いを学び、英語らしい発音の特徴を学習する。聞き取りや発音練習をとおり、発音の上達に努める。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
発音が悪いために正しい英語でも理解してもらえないことがある。国際人の一人として、自信を持って英語が話せるようになる為には、発音も大事である。今までの発音を見直し、よりクリアな発音で英語が話せるようになることを目標とする。			
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
毎回出席し、発音練習できる学生の受講を期待します。		学習した母音や子音は発音記号でも読めるよう復習すること。	
		評価方法	
		(1) 平常点 20% 宿題、積極的な授業参加 (2) 期末試験 30% (3) 暗唱発表 20% (4) 小テスト 30%	
		平常点には、授業での積極的な練習も入ります。	
学びのキーワード		教科書	
・母音の特徴 ・子音の特徴 ・強弱 ・音の融合 ・イントネーション		Focus on Pronunciation 1、 著者Linda Lane、 Pearson 出版	
		参考書	

ECA(Global Understanding)

担当教員：L.アーノルド

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 11205310

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業に学習したglobal・glocalのテーマ、話題しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）と研究に必要なスキルの学習に重点をおき、現在テーマに練習、プレゼンテーションを行う。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、研究、プレゼンテーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

毎回参加しよ！

学びのキーワード

- ・ global・glocal
- ・ プレゼンテーション
- ・ 研究
- ・ 文化、社会、問題
- ・ 文法・ヴォキャブラーリ

授業計画

01. 授業内容説明、フリー・ティチングアンケート
02. 正体の紹介、こと、問題
03. 正体のこと、附記・読書
04. テキストレビューとかショートプレゼンテーション
05. 生活、働いてこと
06. 生活、働いてこと、附記・読書
07. 中間プレゼンテーションの紹介、準備
08. 中間プレゼンテーション
09. 住んでいること、多様性
10. 住んでいること、多様性、附記・読書
11. テキストレビューとかショートプレゼンテーション
12. 期末プレゼンテーションの紹介
13. 期末プレゼンテーションの研究、準備
14. 期末プレゼンテーションのチェック
15. 期末プレゼンテーション、まとめ

準備学習(予習)

課題する、クラス中学習する。

準備学習(復習)

プレゼンテーションの研究、準備する。

評価方法

- | | | |
|---------------------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点、課題 | 25% | 欠席数4回 以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす |
| (2) ショート・中間プレゼンテーション、レビュー | 50% | |
| (3) 期末プレゼンテーション | 25% | |

教科書

N. ダグラス、A. ブーン「Inspire」(ナショナル・ジオグラフィックラーニング「センゲージラーニング」)

参考書

ECA(Global Understanding)

担当教員：L.アーノルド

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 11205320

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業に学習したglobal・glocalのテーマ、話題しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）と研究に必要なスキルの学習に重点をおき、現在テーマに練習、プレゼンテーションを行う。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、研究、プレゼンテーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

毎回参加しよ！

学びのキーワード

- ・ global・glocal
- ・ プレゼンテーション
- ・ 研究
- ・ 文化、社会、問題
- ・ 文法・ヴォキャブラーリ

授業計画

01. 授業内容説明
02. 環境のこと、問題の紹介：天気、気候
03. 気候変更、社会的なインパクト、附記・読書
04. テキストレビューとかショートプレゼンテーション
05. 本場のこと、水道、水利
06. 水道、水利、附記・読書
07. 中間プレゼンテーションの紹介、準備
08. 中間プレゼンテーション
09. 神話、附記・読書
10. 海外の教育、附記・読書
11. テキストレビューとかショートプレゼンテーション
12. 期末プレゼンテーションの紹介
13. 期末プレゼンテーションの研究、準備
14. 期末プレゼンテーションのチェック
15. 期末プレゼンテーション、まとめ

準備学習(予習)

課題する、クラス中学習する。

準備学習(復習)

プレゼンテーションの研究、準備する。

評価方法

- | | | |
|---------------------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点、課題 | 25% | 欠席数4回 以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす |
| (2) ショート・中間プレゼンテーション、レビュー | 50% | |
| (3) 期末プレゼンテーション | 25% | |

教科書

N. ダグラス、A. ブーン「Inspire」(ナショナル・ジオグラフィックラーニング「センゲージラーニング」)

参考書

ドイツ語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-116
担当教員：小谷 哲夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300100		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス 02. アルファベット・ドイツ語の単語の発音 03. 前回の続き 04. ビデオ教材の用いた発音練習 05. 同上 06. 同上 07. 第0課 ドイツ語のあいさつ・数詞 08. 第1課 人称代名詞・動詞の現在人称変化等 09. 第1課の練習問題 10. 第2課 名詞の性・語順等 11. 第2課の続き 12. 第2課の練習問題 13. 第3課 定冠詞と名詞の格変化等 14. 第3課の続き 15. 第3課の練習問題 16. 第4課 不定冠詞・所有冠詞等 17. 第4課の続き 18. 第4課の練習問題 19. 第5課 現在人称変化の不規則な動詞（1）等 20. 第5課の続き 21. 第5課の練習問題 22. 第6課 現在人称変化の不規則な動詞（2）等 23. 第6課の続き 24. 第6課の練習問題 25. 第1課から第6課までの文法補足 26. 同上の続き 27. まとめとこれまでの学習内容の理解度の確認 28. 同上の続き 29. 同上の続き 30. 定期試験問題の説明
(1) 内容		
講義の目標及び概要 1. 本講義はドイツ語の学習未経験者を対象としたクラスです。アルファベットの読み方から始め単語・文章への読み、そして文法を一つずつ丁寧に学習していき、ドイツ語の文章読解へと進めていきます。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎教育科目のなかの第二外国語の科目で、欧米文化学科の学生は「フランス語」とともに、選択必修科目です。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
国際化・情報化の時代の今日、英語以外の外国語を学ぶことは大きな意義があり、欧米の文化をより深く理解する上でも、必須条件であると思います。 本講義では、先ず読みの徹底、そして文法と読解へと進みながら、初級ドイツ語を学んでいきます。日常的な表現による易しい文章であれば、自分で辞書を引いて読むことが出来る水準に達することを目標とします。		次の授業に対する予習の内容は毎回指示しますので、必ずやってくること。
		準備学習(復習)
		毎回学習した内容の中で、特に重要な部分は必ず指摘しますので、必ず再確認して下さい。
		評価方法
		(1) 定期試験 60% (2) 小テスト 20% (3) 授業態度等の平常点 20%
受講者に対する要望		教科書
短期間で語学を習得するには、まず自分で積極的に取り組む必要があります。休まずに、授業に参加して下さい。		
学びのキーワード		参考書
		秋田 静男 他 『ドイツ語インフォメーション neu2』（朝日出版社）

ドイツ語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-116
担当教員： 清水 威能子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300110		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス（ドイツ語とドイツ語圏の国について） 02. アルファベットと発音練習（母音を中心として） 03. 発音練習（変母音を中心として） 04. 発音練習（子音を中心として） 05. 基本的な挨拶表現 06. 1 課 動詞の現在人称変化 07. 1 課 疑問詞と疑問文 08. 1 課 自己紹介、人を紹介する 09. 2 課 語順、決定疑問文と答え方 10. 2 課 現在形の応用練習、ドイツの都市を学ぶ 11. 1～2 課の復習（テキストの巻末の問題） 12. 3 課 定冠詞と名詞の格変化 13. 3 課 定冠詞類、発表の準備（テーマとグループの分類） 14. 3 課 数詞と買い物に関する表現 15. 中間試験、映像を通してドイツの文化を学ぶ 16. 映像を通してドイツ語圏の現代の問題を学ぶ 17. 4 課 不定冠詞、不定冠詞類 18. 4 課 否定冠詞を用いた否定文 19. 5 課 不規則動詞の現在人称変化 20. 6 課 特殊な現在人称変化 21. ドイツ語圏の都市（南部）についての発表：第一グループ 22. ドイツ語圏の都市（中部）についての発表：第二グループ 23. ドイツ語圏の都市（北部）についての発表：第三グループ 24. 6 課 人称代名詞 25. 6 課 非人称esの表現 26. 5 課 テキストの会話文、日常会話の基礎表現 27. 6 課 テキストの会話文、パートナー練習 28. 3～4 課の復習（テキストの巻末の問題） 29. 5～6 課の復習（テキストの巻末の問題） 30. これまでの総復習と理解度の確認
(1) 内容		
ドイツ、オーストリア、スイスなどの公用語のドイツ語を修得する第一歩として、正確な発音や基礎的な文法事項を学び、その応用として実践的な会話練習や読解練習を行います。またドイツ語圏のニュース映像や映画などを通して、ドイツ語圏の歴史、文化、社会も学びます。さらにグループあるいは個人で、ドイツ語圏の都市や文化について発表してもらい、情報を共有します。		
(2) 学びの意義と目標		
今日のグローバル化時代においては、外国語でのコミュニケーション能力や情報活用能力を養うことにより、将来の選択肢が広がります。この授業は、そのようなドイツ語の運用力の修得を目指し、ドイツ語技能検定試験5級程度の語学力を身につけて、ドイツ語で簡単な自己表現ができることを目標とします。 ドイツ語圏はサッカー強国であると共に、宗教（ルターなど）、音楽（バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンなど）、哲学（カント、ニーチェなど）、文学（ゲーテ、グリム兄弟、ヘッセなど）の分野で著名な人物を輩出した、歴史的・文化的に重		
受講者に対する要望		準備学習（予習）
ノートを取り、ドイツ語を書いて覚えることを求めます。独和辞典も必要ですが、開講時に紹介します。		毎回の指示に従い、テキストやプリントの問題練習、あるいは単語の意味調べなどの課題を行うこと。
学びのキーワード		準備学習（復習）
・ドイツ語圏の国（ドイツ、オーストリア、スイス） ・言語と文化		前回の授業の要点をノートで確認し、CDを聴き、内容を理解しながら発音練習を行うこと。ドイツ語の基本表現を暗記すること。
		評価方法
		(1) 平常点 20% 授業時の課題達成度などの積極的な姿勢を評価 (2) 発表 20% (3) 中間試験 30% (4) 期末試験 30%
		教科書
		秋田 幹男、江口 陽子、神谷 善弘、河村 麻里子、小林 繁吉、黒澤 優子、森川 元之、中野 有希子、竹村 恭一郎、田村 江里子『ドイツ語インフォメーション neu2』（朝日出版社）
		参考書
		授業時に紹介します。

ドイツ語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-116
担当教員：清水 威能子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300120		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス（ドイツ語とドイツ語圏の国について） 02. アルファベットと発音練習（母音を中心として） 03. 発音練習（変母音を中心として） 04. 発音練習（子音を中心として） 05. 基本的な挨拶表現 06. 1 課 動詞の現在人称変化 07. 1 課 疑問詞と疑問文 08. 1 課 自己紹介、人を紹介する 09. 2 課 語順、決定疑問文と答え方 10. 2 課 現在形の応用練習、ドイツの都市を学ぶ 11. 1～2 課の復習（テキストの巻末の問題） 12. 3 課 定冠詞と名詞の格変化 13. 3 課 定冠詞類、発表の準備（テーマとグループの分類） 14. 3 課 数詞と買い物に関する表現 15. 中間試験、映像を通してドイツの文化を学ぶ 16. 映像を通してドイツ語圏の現代の問題を学ぶ 17. 4 課 不定冠詞、不定冠詞類 18. 4 課 否定冠詞を用いた否定文 19. 5 課 不規則動詞の現在人称変化 20. 6 課 特殊な現在人称変化 21. ドイツ語圏の都市（南部）についての発表：第一グループ 22. ドイツ語圏の都市（中部）についての発表：第二グループ 23. ドイツ語圏の都市（北部）についての発表：第三グループ 24. 6 課 人称代名詞 25. 6 課 非人称esの表現 26. 5 課 テキストの会話文、日常会話の基礎表現 27. 6 課 テキストの会話文、パートナー練習 28. 3～4 課の復習（テキストの巻末の問題） 29. 5～6 課の復習（テキストの巻末の問題） 30. これまでの総復習と理解度の確認
(1) 内容		
ドイツ、オーストリア、スイスなどの公用語のドイツ語を修得する第一歩として、正確な発音や基礎的な文法事項を学び、その応用として実践的な会話練習や読解練習を行います。またドイツ語圏のニュース映像や映画などを通して、ドイツ語圏の歴史、文化、社会も学びます。さらにグループあるいは個人で、ドイツ語圏の都市や文化について発表してもらい、情報を共有します。		
(2) 学びの意義と目標		
今日のグローバル化時代においては、外国語でのコミュニケーション能力や情報活用能力を養うことにより、将来の選択肢が広がります。この授業は、そのようなドイツ語の運用力の修得を目指し、ドイツ語技能検定試験5級程度の語学力を身につけて、ドイツ語で簡単な自己表現ができることを目標とします。 ドイツ語圏はサッカー強国であると共に、宗教（ルターなど）、音楽（バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンなど）、哲学（カント、ニーチェなど）、文学（ゲーテ、グリム兄弟、ヘッセなど）の分野で著名な人物を輩出した、歴史的・文化的に重		
受講者に対する要望		準備学習（予習）
ノートを取り、ドイツ語を書いて覚えることを求めます。独和辞典も必要ですが、開講時に紹介します。		毎回の指示に従い、テキストやプリントの問題練習、あるいは単語の意味調べなどの課題を行うこと。
学びのキーワード		準備学習（復習）
・ドイツ語圏の国（ドイツ、オーストリア、スイス） ・言語と文化		前回の授業の要点をノートで確認し、CDを聴き、内容を理解しながら発音練習を行うこと。ドイツ語の基本表現を暗記すること。
		評価方法
		(1) 平常点 20% 授業時の課題達成度などの積極的な姿勢を評価 (2) 発表 20% (3) 中間試験 30% (4) 期末試験 30%
		教科書
		秋田 幹男、江口 陽子、神谷 善弘、河村 麻里子、小林 繁吉、黒澤 優子、森川 元之、中野 有希子、竹村 恭一郎、田村 江里子『ドイツ語インフォメーション neu2』（朝日出版社）
		参考書
		授業時に紹介します。

ドイツ語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-116
担当教員：宮崎 泰行		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11300130		
学部教育の関連目 【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		授業計画 01. アルファベットの紹介 1 02. アルファベットの紹介 2 母音と子音 03. 発音 1 母音 1 04. 発音 2 母音 2 05. 発音 3 子音 1 06. 発音 4 子音 2 07. 発音 5 子音 3 確認・小テスト 08. 実際の文を声に出して読んでみる 数詞の紹介 09. Lektion1-1 人称代名詞 10. Lektion1-2 動詞の人称変化 11. Lektion1-3 現在人称変化 規則変化 12. Lektion2-1 現在人称変化 不規則変化sein 13. Lektion2-2 現在人称変化 不規則変化haben 14. Lektion2-3 文中の語順、疑問文 15. Lektion3-1 品詞説明、名詞の性・数・格 16. Lektion3-2 名詞の格変化（単数形） 17. Lektion3-3 名詞の格変化（複数形） 18. Lektion4-1 動詞・名詞の辞書での調べ方の注意 19. Lektion4-2 冠詞についての説明 20. Lektion4-3 定冠詞 21. Lektion5-1 不定冠詞 22. Lektion5-2 定冠詞類 23. Lektion5-3 不定冠詞類 24. Lektion6-1 一部不規則変化をする動詞 25. Lektion6-3 3格の使い方 26. 補足1 読本練習1（教材はプリントで配布します） 27. 補足2 読本練習2（教材はプリントで配布します） 28. 補足3 読本練習3（教材はプリントで配布します） 29. 補足4 読本練習4（教材はプリントで配布します） 30. 補足5 読本練習5（教材はプリントで配布します）
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 ドイツ語未習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、文字の説明（名前・読み方）から始め、つづりと音の関係等、丁寧に時間をかけて進んでいきたいと思っています。言葉の勉強ですので、文字だけではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進めていきたいと思っています。辞書の使い方（記述の約束事・必要な情報の取り出しかた・略語の理解の仕方等）も実際に教室で確認しながら進めます。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解のてがかりが得られるようになることを目標にしたいと思います。授業の後半に		
(2) 学びの意義と目標 まず文法の説明を聞いて理解することから始め、外国語の学びに慣れていきましょう。基礎的なことを覚える努力は何をするにも大事なことです。		準備学習(予習) 語学の授業ですので授業出席が基本になります。授業内容を聞いて理解する、理解したものを応用する練習をする、必要ならば辞書その他の参考資料にあたる、この繰り返しに慣れていきましょう。
		準備学習(復習) 授業中に課題を出すことがありますのでその課題をこなすことが復習につながっていきます。だれでも聞いただけでは理解したり使いこなすことができるようにはなりません。失敗したり、勘違いしたりしながら少しずつ進んでいくものです。
受講者に対する要望 こつこつと物事を覚え理解することは時間がかかることですが、大切なことだと思うのでくじけないでつづけてください。くり返しが大切です。遅刻・欠席をなるべくしないようにしてください。		評価方法 (1) 中間試験 50% (2) 期末試験 50%
学びのキーワード ・ドイツ語 ・語学 ・文法事項の学習 ・聴解 ・書き取り		教科書 秋田 他 『ドイツ語インフォメーションneu3』（朝日出版社） 参考書

ドイツ語II（初級B）		WLAG-O-117
担当教員：宮崎 泰行		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300200		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
ドイツ語I既習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、ドイツ語Iで学んだ内容を受け、文法事項の学習を続けていきます。言葉の勉強ですので、文字だけからではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進めていきたいと思います。辞書の使い方（記述の約束事・必要な情報の取り出ししかた・略語の理解の仕方等）も実際に教室で確認しながら進めることはドイツ語Iと同じですが、さらに使い込みができるよう練習をしましょう。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解さらに磨きをかけましょう。授業の後半で、		01. 発音とつづりの規則の復習 02. 名詞の変化の復習 03. 冠詞の変化の復習 04. 現在人称変化の復習 05. Lektion7-1 数詞の復讐 06. Lektion7-2 前置詞（格支配の説明）1 07. Lektion7-3 前置詞（格支配の説明）2 08. Lektion8-1 前置詞（格支配の説明）練習問題 09. Lektion8-2 話法の助動詞 10. Lektion8-3 話法の助動詞を含む文検討 11. 復習と確認 話法の助動詞練習問題 12. Lektion9-1 複合動詞（分離・非分離動詞）の紹介 13. Lektion9-2 複合動詞（分離・非分離動詞）の実際例 14. Lektion9-3 複合動詞（分離・非分離動詞）の練習問題 15. Lektion9-4 形容詞の三用法 16. Lektion10-1 名詞を修飾する用法 17. Lektion10-2 形容詞の名詞化 18. Lektion11-1 再帰動詞 19. Lektion11-2 再帰動詞の注意点 20. Lektion12-1 動詞の三基本形、過去形 21. Lektion12-2 現在完了 22. Lektion12-3 現在完了と過去形 23. 受動態 24. 関係代名詞1 25. 関係代名詞2 26. 接続法1 27. 接続法2 28. 接続法3 29. 補足3 読本練習3（教材はプリント配布します） 30. 補足4 読本練習4（教材はプリント配布します）
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
ドイツ語Iで習ったことについて他の文法事項を積み上げていきます。こつこつと着実に進んでいけばいくつもある山を越えられます。実際の独文を読む訓練も後半になれば出来ると思います。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
一足飛びに目標に近づくことはできません。デジタル的な進み方ではなく、あくまでアナログ的なやり方で進んでいきましょう。こつこつやれば進歩していきます。		
学びのキーワード		評価方法
・ドイツ語 ・語学 ・文法事項の学習 ・聴解 ・書き取り		(1) 中間試験 50% (2) 期末試験 50%
教科書		参考書
秋田 他 『ドイツ語インフォメーションneu3』（朝日出版社）		

ドイツ語II（初級B）

WLAG-O-117

担当教員：小谷 哲夫

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11300210

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

ドイツ語 I に続く講義です。この講義をもってして、ドイツ語初級の内容が終了することになります。

(2) 学びの意義と目標

国際化が叫ばれる今日、英語以外の語学に興味をもち学習する意義は大きいと思われます。ドイツ語 I に続くドイツ語 II の学習はより深くドイツ語を理解する上でも必要不可欠な学習になります。

受講者に対する要望

毎回課題が出されますので、必ず自分でやってくことを心掛けて下さい。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. ドイツ語の発音とドイツ語 I の総復習
03. 同上の続き
04. 同上の続き
05. 第7課 前置詞の学習
06. 本文の読みと和訳・練習問題
07. 同上の続き
08. 第8課 話法の助動詞の学習
09. 本文の読みと和訳・練習問題
10. 同上の続き
11. 第9課 分離動詞等の学習
12. 本文の読みと和訳・練習問題
13. 同上の続き
14. 第10課 形容詞の格変化と再帰動詞の学習
15. 本文の読みと和訳・練習問題
16. 同上の続き
17. 第11課 動詞の三基本形と過去人称変化の学習
18. 本文の読みと和訳・練習問題
19. 同上の続き
20. 第12課 現在完了形と分離動詞の現在完了形の学習
21. 本文の読みと和訳・練習問題
22. 同上の続き
23. 第7課から第12課までの文法補足
24. テキスト以外のプリントによるドイツ語の学習
25. 同上の続き
26. 同上の続き
27. 定期試験の問題に関する学習
28. 同上の続き
29. 同上の続き
30. まとめ

準備学習(予習)

予習よりも復習に重点を置いて学習してください。

準備学習(復習)

次回の講義までの課題が出されますので、復習としてそれを必ず自分でやってきて下さい。その課題をやりながら、学習内容を確認して下さい。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 定期試験 | 60% |
| (2) 平常点 | 40% |

教科書

秋田静男他 『ドイツ語インフォメーション』（朝日出版社）

参考書

フランス語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-118
担当教員：石田 明夫		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11300500		
学部教育の関連目 【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		授業計画 01. 0課 ガイダンス ABC 02. 0課 簡単なあいさつ表現 03. 1課 自己紹介をする。動詞?tre (英語のbe動詞にあたる)の練習 04. 1課 動詞?treの小テスト 会話文の反復練習 05. 1課 音読練習 この課の復習(練習問題) 06. 2課 物を示す。名詞について 07. 2課 会話文の練習 形容詞について 08. 2課 音読練習 この課の復習(練習問題) 09. 3課 規則動詞の練習 疑問文について 10. 3課 規則動詞の小テスト 会話文の反復練習 11. 3課 音読と訳 この課の復習(練習問題) 12. 4課 動詞avoirについて(英語のhaveにあたる) 否定文について 13. 4課 家族、年齢を言う。数字1から20 14. 4課 動詞avoirの小テスト 会話文の反復練習 15. 4課 この課の復習(練習問題) 中間テスト対策 16. 中間テスト 17. 5課 テスト返却 動詞「行くaller」「するfaire」 18. 5課 動詞「行く aller」と「するfaire」の活用小テスト 疑問詞「誰」「何」 19. 5課 会話文の反復練習 20. 5課 音読と訳 この課の復習(練習問題) 21. 6課 所有の表現(「私の」「君の」「彼の」など)について 疑問詞「どんな」 22. 6課 所有の表現(「私の」「君の」「彼の」など)の小テスト 会話文の反復練習 23. 6課 会話文の反復練習 24. 6課 音読と訳 この課の復習(練習問題) 25. 7課 代名詞について 願望表現 26. 7課 会話文の反復練習 27. 7課 音読と訳 この課の練習問題 28. 7課 仏検5級の練習問題 29. まとめ(予備日)1 30. まとめ(予備日)2
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 フランス語を初めて学ぶ学生のための授業です。ですから、ABCから始めてじっくりと、なんども繰返して会話表現、基礎的な文法を教科書にそって学んでいきます。また、DVD付きの教材ですので、フランスの町や生活スケッチを見ることができます。 時間の許すかぎり、フランスの音楽コンサートやミュージカルのDVDを用いたいと思っています。生きたフランス語に接し、フランスのさまざまな文化にも触れてもらいたいからです。		
(2) 学びの意義と目標 外国語を学ぶことの意義は論を待ちませんが、とりわけフランス語は、IOC(国際オリンピック委員会)の第1公用語であり、国際サッカー連盟の略語FIFA(F?d?ration Internationale de Football Association)がフランス語からであることから、その重要性はつとに知られています。 ですから、この授業でフランス語の基礎を学ぶことは、世界への窓をほんのわずかでも開けることです。そうすれば、多様な価値観に触れることができ、自己形成に、必ずや役立つと思います。		準備学習(予習) 予定の学習箇所を付属のCDとともに音読し、初出の語をノートに書き留めておくこと
		準備学習(復習) 終了した学習箇所の、単語と表現を必ずなんとか音読すること 宿題や小テストに対応すること
受講者に対する要望 簡単な言語というものは存在しません。どんな言語でも、ひとつひとつ覚えていかなければなりません。授業のペースはゆっくりですので、あわてず、丹念に覚えることと思います。疑問に思ったら、フランス語学以外のことも含めて、なんでも質問してください。		評価方法 (1) 平常点 40% 授業への参加度、授業態度、小テストなど (2) 中間テスト 20% (3) 学期末テスト 40%
学びのキーワード ・フランス語 ・フランス文化 ・パリ ボルドー		教科書 藤田裕二 『Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1』 (朝日出版社) 参考書

フランス語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-118
担当教員：石田 明夫		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11300510		
学部教育の関連目 【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		授業計画 01. 0課 ガイダンス ABC 02. 0課 簡単なあいさつ表現 03. 1課 自己紹介をする。動詞?tre (英語のbe動詞にあたる)の練習 04. 1課 動詞?treの小テスト 会話文の反復練習 05. 1課 音読練習 この課の復習(練習問題) 06. 2課 物を示す。名詞について 07. 2課 会話文の練習 形容詞について 08. 2課 音読練習 この課の復習(練習問題) 09. 3課 規則動詞の練習 10. 3課 規則動詞の小テスト 疑問文について 11. 3課 会話文の反復練習 12. 3課 会話文の反復練習 13. 3課 この課の復習(練習問題) 14. 4課 動詞avoirについて(英語のhaveにあたる) 15. 4課 動詞avoirの小テスト 否定文の作り方 中間テスト対策 16. 中間テスト 17. 5課 テスト返却 動詞「行くaller」「するfaire」 18. 5課 動詞「行く aller」と「するfaire」の活用小テスト 疑問詞「誰」「何」 19. 5課 会話文の反復練習 20. 5課 音読と訳 この課の復習(練習問題) 21. 6課 所有の表現(「私の」「君の」「彼の」など)について 疑問詞「どんな」 22. 6課 所有の表現(「私の」「君の」「彼の」など)の小テスト 会話文の反復練習 23. 6課 会話文の反復練習 24. 6課 音読と訳 この課の復習(練習問題) 25. 7課 代名詞について 願望表現 26. 7課 会話文の反復練習 27. 7課 音読と訳 この課の練習問題 28. 7課 仏検5級の練習問題 29. まとめ(予備日)1 30. まとめ(予備日)2
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 フランス語を初めて学ぶ学生のための授業です。ですから、ABCから始めてじっくりと、なんども繰返して会話表現、基礎的な文法を教科書にそって学んでいきます。また、DVD付きの教材ですので、フランスの町や生活スケッチを見ることができます。 時間の許すかぎり、フランスの音楽コンサートやミュージカルのDVDを用いたいと思っています。生きたフランス語に接し、フランスのさまざまな文化にも触れてもらいたいからです。		
(2) 学びの意義と目標 外国語を学ぶことの意義は論を待ちませんが、とりわけフランス語は、IOC(国際オリンピック委員会)の第1公用語であり、国際サッカー連盟の略語FIFA(F?d?ration Internationale de Football Association)がフランス語からであることから、その重要性はつとに知られています。 ですから、この授業でフランス語の基礎を学ぶことは、世界への窓をほんのわずかでも開けることです。そうすれば、多様な価値観に触れることができ、自己形成に、必ずや役立つと思います。		準備学習(予習) 予定の学習箇所を付属のCDとともに音読し、初出の語をノートに書き留めておくこと
		準備学習(復習) 終了した学習箇所の、単語と表現を必ずなんとか音読すること 宿題や小テストに対応すること
受講者に対する要望 簡単な言語というものは存在しません。どんな言語でも、ひとつひとつ覚えていかなければなりません。授業のペースはゆっくりですので、あわてず、丹念に覚えることと思います。疑問に思ったら、フランス語学以外のことも含めて、なんでも質問してください。		評価方法 (1) 平常点 40% 授業への参加度、授業態度、小テストなど (2) 中間テスト 20% (3) 学期末テスト 40%
学びのキーワード ・フランス語 ・フランス文化 ・パリ ボルドー		教科書 藤田裕二『Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅 1』朝日出版社 参考書

フランス語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-118
担当教員：小室 廉太		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11300520		
学部教育の関連目 【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		授業計画 01. ガイダンス 自己紹介 簡単なあいさつ フランスの世界遺産 02. 0課 アルファベ 簡単な自己紹介 つづり字の読み方 03. 0課 綴り字の読み方 フランスについて 04. 1課 ディアローグの発音練習 人称代名詞と動詞 ?tre 05. 1課 さまざまな国籍表現 名前の言い方 06. 1課 練習問題 読解問題 文化紹介：世界の中のフランス語 07. 2課 ディアローグの発音練習 名詞と不定冠詞 形容詞の性数一致と位 08. 2課 様々な名詞と形容詞 練習問題 09. 2課 読解問題 文化紹介：フランス人から見た日本 3課 ディアローグ 10. 3課 ディアローグの確認 第一群規則動詞 定冠詞 疑問文の作り方 11. 3課 場所に関する名詞 練習問題 12. 3課 住んでいる場所の尋ね方 読解問題 文化紹介：パリのモンパルナ 13. 1-3課 ディアローグと文法の復習 14. 仏検5級練習問題1 15. 1-3課のまとめ 16. 中間試験の解説 4課 ディアローグの発音練習 指示形容詞 動詞 avoir 17. 4課 否定文の作り方 数（1-30） 練習問題 値段の尋ね方、聞き取り 18. 4課 読解問題 文化紹介：市場での買い物 5課 ディアローグの発音練習 19. 5課 ディアローグの確認 動詞 aller と近接未来 関係代名詞 que / qu'il 動詞 faire / partir 20. 5課 フランスの地図と都市名 練習問題 応用問題 文章読解 文化紹介：フランス鉄道の旅 21. 6課 ディアローグの発音練習 所有形容詞 疑問形容詞 22. 6課 日常の挨拶表現（復習） 練習問題 文章読解 文化紹介：フランス南西部の都市、ボルドー 23. 6課 文化紹介：南西部の都市ボルドー 7課 ディアローグの発音練習 人称代名詞強勢形 指示代名詞 24. 7課 提示表現と願望の表現 観光に関する語彙 練習問題 25. 7課 行きたい場所の尋ね方、答え方 文章読解 文化紹介：ボルドーワイン 26. 4-7課 ディアローグと文法の復習 27. 仏検5級練習問題2-1 文法問題 28. 仏検5級練習問題2-2 聞き取り問題 29. 4-6課のまとめ 30. 総まとめ
(1) 内容 この授業では、フランス語発音の基礎を学びながら、簡単な会話表現を学んでいきます。 発音の規則を身につけてゆくと同時に、様々な文法項目や動詞活用を学んでもらいます。文法や動詞活用も口頭で発音することによって、音から覚えるようにしましょう。 授業は皆さんの理解を確認しながら、ゆっくりと進めます。フランス語だけでなく、フランス文化や慣習についても随時紹介してゆくつもりです。また、フランス語検定問題も随時授業に取り入れていきます。 楽しく、また活気のある授業にしていきたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待してい		
(2) 学びの意義と目標 ・積極的なコミュニケーションがとれるようになる。 ・フランス語の発音の基礎が理解できるようになる。 ・綴り字と発音の対応が分かるようになる。 ・挨拶表現や簡単な質疑応答ができるようになる。 ・自己紹介や他者紹介ができ、また理解できるようになる。 ・日常の簡単なやりとりがフランス語でできるようになる。 ・初級フランス語の文法が理解できるようになる。 ・フランス文化についての理解が深まる。		準備学習(予習) 事前に授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。各課にあるLecture（文章読解）は宿題とする予定です。「注」を参考にしながら、辞書を調べて自分で訳してみましょう。
受講者に対する要望 なるべく遅刻、欠席をしないように心がけてください。 授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。		準備学習(復習) 毎回ディアローグ形式での発音練習をします。例文の発音は丸暗記するように心がけてください。 また、練習問題を宿題にしたり、動詞活用や単語に関する小テストを行う予定です。しっかり準備しておいてください。
学びのキーワード ・フランス語 ・フランス文化 ・仏検 ・異文化理解 ・異文化コミュニケーション		教科書 藤田裕二 『パリ・ボルドー』（朝日出版社、2016年） 参考書 清岡智比古『フラ後入門、わかりやすいにもホドがある！』（白水社、2003年）

WLAG-0-118

参考書

フランス語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-118
担当教員：小室 廉太		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11300540		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		01. ガイダンス 自己紹介 簡単なあいさつ フランスの世界遺産 02. 0課 アルファベ 簡単な自己紹介 つづり字の読み方 03. 0課 綴り字の読み方 フランスについて 04. 1課 ディアローグの発音練習 人称代名詞と動詞 ?tre 05. 1課 さまざまな国籍表現 名前の言い方 06. 1課 練習問題 読解問題 文化紹介：世界の中のフランス語 07. 2課 ディアローグの発音練習 名詞と不定冠詞 形容詞の性数一致と位 08. 2課 様々な名詞と形容詞 練習問題 09. 2課 読解問題 文化紹介：フランス人から見た日本 3課 ディアローグ 10. 3課 ディアローグの確認 第一群規則動詞 定冠詞 疑問文の作り方 11. 3課 場所に関する名詞 練習問題 12. 3課 住んでいる場所の尋ね方 読解問題 文化紹介：パリのモンパルナ 13. 1-3課 ディアローグと文法の復習 14. 仏検5級練習問題1 15. 1-3課のまとめ 16. 中間試験の解説 4課 ディアローグの発音練習 指示形容詞 動詞 avoir 17. 4課 否定文の作り方 数（1-30） 練習問題 値段の尋ね方、聞き取り 18. 4課 読解問題 文化紹介：市場での買い物 5課 ディアローグの発音練習 19. 5課 ディアローグの確認 動詞 aller と近接未来 関係代名詞 que / qu'il 動詞 faire / partir 20. 5課 フランスの地図と都市名 練習問題 応用問題 文章読解 文化紹介：フランス鉄道の旅 21. 6課 ディアローグの発音練習 所有形容詞 疑問形容詞 22. 6課 日常の挨拶表現（復習） 練習問題 文章読解 文化紹介：フランス南西部の都市、ボルドー 23. 6課 文化紹介：南西部の都市ボルドー 7課 ディアローグの発音練習 人称代名詞強勢形 指示代名詞 24. 7課 提示表現と願望の表現 観光に関する語彙 練習問題 25. 7課 行きたい場所の尋ね方、答え方 文章読解 文化紹介：ボルドーワイン 26. 4-7課 ディアローグと文法の復習 27. 仏検5級練習問題2-1 文法問題 28. 仏検5級練習問題2-2 聞き取り問題 29. 4-6課のまとめ 30. 総まとめ
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
この授業では、フランス語発音の基礎を学びながら、簡単な会話表現を学んでいきます。 発音の規則を身につけてゆくと同時に、様々な文法項目や動詞活用を学んでもらいます。文法や動詞活用も口頭で発音することによって、音から覚えるようにしましょう。 授業は皆さんの理解を確認しながら、ゆっくりと進めます。フランス語だけでなく、フランス文化や慣習についても随時紹介してゆくつもりです。また、フランス語検定問題も随時授業に取り入れていきます。 楽しく、また活気のある授業にしていきたいと思いますので、皆さんの積極的な授業参加を期待してい		
(2) 学びの意義と目標		
・積極的なコミュニケーションがとれるようになる。 ・フランス語の発音の基礎が理解できるようになる。 ・綴り字と発音の対応が分かるようになる。 ・挨拶表現や簡単な質疑応答ができるようになる。 ・自己紹介や他者紹介ができ、また理解できるようになる。 ・日常の簡単なやりとりがフランス語でできるようになる。 ・初級フランス語の文法が理解できるようになる。 ・フランス文化についての理解が深まる。		
受講者に対する要望		
なるべく遅刻、欠席をしないように心がけてください。 授業で取り上げる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。		
学びのキーワード		教科書
・フランス語 ・フランス文化 ・仏検 ・異文化理解 ・異文化コミュニケーション		藤田裕二 『パリ・ボルドー』（朝日出版社、2016年）
		参考書
		清岡智比古『フラ後入門、わかりやすいにもホドがある！』（白水社、2003年）

フランス語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-118
担当教員：小室 廉太		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11300550		
学部教育の関連目 【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		授業計画 01. ガイダンス 自己紹介 簡単なあいさつ フランスの世界遺産 02. 0課 アルファベ 簡単な自己紹介 つづり字の読み方 03. 0課 綴り字の読み方 フランスについて 04. 1課 ディアローグの発音練習 人称代名詞と動詞 ?tre 05. 1課 さまざまな国籍表現 名前の言い方 06. 1課 練習問題 読解問題 文化紹介：世界の中のフランス語 07. 2課 ディアローグの発音練習 名詞と不定冠詞 形容詞の性数一致と位 08. 2課 様々な名詞と形容詞 練習問題 09. 2課 読解問題 文化紹介：フランス人から見た日本 3課 ディアローグ 10. 3課 ディアローグの確認 第一群規則動詞 定冠詞 疑問文の作り方 11. 3課 場所に関する名詞 練習問題 12. 3課 住んでいる場所の尋ね方 読解問題 文化紹介：パリのモンパルナ 13. 1-3課 ディアローグと文法の復習 14. 仏検5級練習問題1 15. 1-3課のまとめ 16. 中間試験の解説 4課 ディアローグの発音練習 指示形容詞 動詞 avoir 17. 4課 否定文の作り方 数（1-30） 練習問題 値段の尋ね方、聞き取り 18. 4課 読解問題 文化紹介：市場での買い物 5課 ディアローグの発音練習 19. 5課 ディアローグの確認 動詞 aller と近接未来 関係代名詞 que / qu'il 動詞 faire / partir 20. 5課 フランスの地図と都市名 練習問題 応用問題 文章読解 文化紹介：フランス鉄道の旅 21. 6課 ディアローグの発音練習 所有形容詞 疑問形容詞 22. 6課 日常の挨拶表現（復習） 練習問題 文章読解 文化紹介：フランス南西部の都市、ボルドー 23. 6課 文化紹介：南西部の都市ボルドー 7課 ディアローグの発音練習 人称代名詞強勢形 指示代名詞 24. 7課 提示表現と願望の表現 観光に関する語彙 練習問題 25. 7課 行きたい場所の尋ね方、答え方 文章読解 文化紹介：ボルドーワイン 26. 4-7課 ディアローグと文法の復習 27. 仏検5級練習問題2-1 文法問題 28. 仏検5級練習問題2-2 聞き取り問題 29. 4-6課のまとめ 30. 総まとめ
(1) 内容 この授業では、フランス語発音の基礎を学びながら、簡単な会話表現を学んでいきます。 発音の規則を身につけてゆくと同時に、様々な文法項目や動詞活用を学んでもらいます。文法や動詞活用も口頭で発音することによって、音から覚えるようにしましょう。 授業は皆さんの理解を確認しながら、ゆっくりと進めます。フランス語だけでなく、フランス文化や慣習についても随時紹介してゆくつもりです。また、フランス語検定問題も随時授業に取り入れていきます。 楽しく、また活気のある授業にしてください、皆さんの積極的な授業参加を期待してい		
(2) 学びの意義と目標 ・積極的なコミュニケーションがとれるようになる。 ・フランス語の発音の基礎が理解できるようになる。 ・綴り字と発音の対応が分かるようになる。 ・挨拶表現や簡単な質疑応答ができるようになる。 ・自己紹介や他者紹介ができ、また理解できるようになる。 ・日常の簡単なやりとりがフランス語でできるようになる。 ・初級フランス語の文法が理解できるようになる。 ・フランス文化についての理解が深まる。		準備学習(予習) 事前に授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。各課にあるLecture（文章読解）は宿題とする予定です。「注」を参考にしながら、辞書を調べて自分で訳してみましょう。
		準備学習(復習) 毎回ディアローグ形式での発音練習をします。例文の発音は丸暗記するように心がけてください。 また、練習問題を宿題にしたり、動詞活用や単語に関する小テストを行う予定です。しっかり準備しておいてください。
受講者に対する要望 なるべく遅刻、欠席をしないように心がけてください。 授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。		評価方法 (1) 定期テスト 60% 中間試験と期末試験の合計点 (2) 平常点 40% 授業参加態度、宿題や小テストなどの結果点
学びのキーワード ・フランス語 ・フランス文化 ・仏検 ・異文化理解 ・異文化コミュニケーション		教科書 藤田裕二 『パリ・ボルドー』（朝日出版社、2016年） 参考書 清岡智比古『フラ後入門、わかりやすいにもホドがある！』（白水社、2003年）

フランス語II（初級B）		WLAG-O-119
担当教員：小室 廉太		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11300600		
学部教育の関連目 【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		授業計画 01. ガイダンス / 自己紹介 / 1課から6課の復習① 02. 1課から第6課の復習② 03. 7課 ディアローグの発音と意味の確認 時刻表現の解説 04. 7課 さまざまな時の尋ね方、答え方 05. 7課 動詞 faire と様々な表現 第2群規則動詞 06. 7課 練習問題 応用問題 文化紹介 07. 8課 ディアローグの発音と意味の確認 近接未来 近接過去 08. 8課 動詞 vouloir / pouvoir / prendre / voyager の表現 09. 8課 動詞 pourquoi – parce que / avoir mal ?~ の表現 10. 8課 練習問題 応用問題 文化紹介 11. 9課 ディアローグの発音と意味の確認 代名動詞の解説 12. 9課 指示形容詞 天候表現 さまざまな時の表現 13. 9課 練習問題 応用問題 文化紹介 14. 7課から9課までのまとめ その① 15. 7課から9課までのまとめ その② 16. まとめ 17. 中間試験の解説 10課 ディアローグの発音と意味の確認 18. 10課 定冠詞の縮約 命令形 19. 10課 道順を表す表現 序数 場所を表す名詞 20. 10課 練習問題 応用問題 文化紹介 21. 11課 ディアローグの発音と意味の確認 複合過去の解説 22. 11課 複合過去の解説（助動詞 avoir / ?tre の使い分け） 23. 11課 複合過去の否定形、疑問形 中性代名詞 en 24. 11課 練習問題 応用問題 文化紹介 25. 12課 ディアローグの発音と意味の確認 ?tre を用いた複合過 26. 12課 さまざまな否定形 中性代名詞 y 場所の副詞 y / en 27. 12課 練習問題 応用問題 文化紹介 28. 10課から12課までのまとめ その① 29. 10課から12課までのまとめ その② 30. 実用フランス語技能検定試験練習問題 総まとめ
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 この授業では、フランス語 I（初級A）に引き続き、簡単な会話表現を学んでいきます。発音の規則を身につけてゆくと同時に、様々な動詞活用や文法項目を学んでもらいます。文法や動詞活用も口頭で発音することによって、音から覚えるようにしましょう。授業は皆さんの理解を確認しながら、ゆっくりと進めます。フランス語だけでなく、フランス文化や慣習についても随時紹介してゆくつもりです。楽しく、また活気のある授業にしてゆきたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待しています。		
(2) 学びの意義と目標 ・積極的なコミュニケーションがとれるようになる。 ・フランス語の発音の基礎が身につく。 ・フランス語圏への旅行に行ったときに使える、簡単なやりとりがフランス語でできるようになる。 ・初級フランス語の文法が理解できるようになる。 ・フランス文化についての理解が深まる。		準備学習(予習) 事前に授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。
受講者に対する要望 フランス語 I の内容を復習しておいてください。 また、事前に授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。各課で小テストを行う予定です。しっかり準備をしておいてください。		準備学習(復習) 各課の練習問題を宿題にしたり、動詞活用や単語に関する小テストを行う予定です。しっかり準備をしておいてください。
学びのキーワード ・フランス語 ・フランス文化 ・仏検 ・異文化理解 ・異文化コミュニケーション		評価方法 (1) 定期試験 60% 中間試験と期末試験の合計点 (2) 平常点 40% 授業参加態度、小テストや宿題の結果点
		教科書 田辺孝子／中野久子／田口勝子／李永朱編、『やさしいサリュ』（駿河台出版社） ★2016年度審判用「フランス語II」のみの採用になります。秋学期からは違う教科書になるので注意してください。
		参考書

フランス語II（初級B）		WLAG-O-119
担当教員：石田 明夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300620		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス 02. フランス語I(7課まで)の復習 仏検5級の練習問題 03. 8課 目的語代名詞について 04. 8課 目的語代名詞の練習 会話文の反復練習 05. 8課 音読と訳 06. 8課 この課の練習問題 07. 9課 新たな動詞と、特殊な代名詞について 08. 9課 趣味についての会話文を反復練習 09. 9課 音読と訳 10. 9課 この課の練習問題 11. 10課 天候時間を表現する 12. 10課 会話文の反復練習 13. 10課 音読と訳 14. 10課 この課の練習問題 中間テスト対策 15. 中間テスト 16. 試験講評 仏検4級レベルの練習問題 17. 11課 特殊な代名詞と数量表現 18. 11課 食べ物飲み物の単語の練習 19. 11課 食べ物飲み物の単語の小テスト 会話文の反復練習 20. 11課 この課の練習問題 21. 12課 比較する 22. 12課 未来を表現する 会話文の反復練習 23. 12課 動詞未来形の小テスト 会話文の反復練習 24. 12課 この課の練習問題 25. 13課 過去形(1)について 26. 13課 過去分詞の小テスト 過去形の練習 27. 13課 会話文の反復練習 過去形(2)について 28. 13課 動詞過去形の小テスト 会話文の反復練習 29. 13課 この課の練習問題 30. まとめ(予備日)
(1) 内容		
基礎のフランス語Iを復習しながら、内容をさらに発展させ、表現の幅を現在から、未来へと広げます。多種・多様な表現を身につけることにより、フランス語の完全な基礎作りを目指します。 付属のDVDはもちろん、いろいろなビデオを駆使して、フランス及びフランス文化の理解にも目を向けるつもりです。		
(2) 学びの意義と目標		
外国語を学ぶことの意義は論を待ちませんが、とりわけフランス語は、IOC(国際オリンピック委員会)の第1公用語であり、国際サッカー連盟の略語FIFA(Federation Internationale de Football Association)がフランス語からであることから、その重要性はつとに知られています。 ですから、この授業でフランス語の基礎を発展させ、世界への窓をさらに開けることです。そうすれば、多様な価値観に触れることができ、自己形成に、必ずや役立つと思います。		
受講者に対する要望		
フランス語Iを終了していること。 簡単な言語というものには存在しません。どんな言語でも、ひとつひとつ覚えていかなければなりません。授業のペースはゆっくりですので、あわてず、丹念に覚えるとよいと思います。疑問に思ったら、フランス語学以外のことも含めて、なんでも質問してください。		
学びのキーワード		
・フランス語 ・フランス文化 ・パリ ボルドー		
教科書		
藤田裕二 『Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1』 (朝日出版社)		
参考書		

スペイン語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-120
担当教員： 越智 直子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300900		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. アルファベット、発音</div> <div>03. アクセント、音節</div> <div>04. 主語人称代名詞</div> <div>05. 動詞 ser</div> <div>06. 文型、国名・国籍</div> <div>07. 名詞の性と数</div> <div>08. 定冠詞と不定冠詞</div> <div>09. 動詞 hay</div> <div>10. 動詞 estar</div> <div>11. 形容詞</div> <div>12. 指示形容詞と指示代名詞</div> <div>13. ser + 形容詞</div> <div>14. estar + 形容詞</div> <div>15. 復習（1）</div> <div>16. 復習（2）</div> <div>17. まとめ</div> <div>18. 動詞 tener</div> <div>19. 動詞 hacer</div> <div>20. 天候表現</div> <div>21. 所有形容詞（前置形）</div> <div>22. 規則活用動詞（-ar動詞）</div> <div>23. 規則活用動詞（-er動詞）</div> <div>24. 規則活用動詞（-ir動詞）</div> <div>25. 語幹母音変化動詞（e → ie 型）</div> <div>26. 語幹母音変化動詞（o → ue 型）</div> <div>27. 語幹母音変化動詞（e → i 型）</div> <div>28. 復習（1）</div> <div>29. 復習（2）</div> <div>30. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>（1）内容</div> <div>この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。</div>		
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。</div>	<div>準備学習（予習）</div> <div>事前に教科書に目を通すこと。

</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加するようにして下さい。</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>（1）平常点25%</div><div>（2）単語テスト、提出物25%</div><div>（3）中間試験、期末試験50%</div></div>	
	<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ スペイン語</div><div>・ 名詞</div><div>・ 動詞</div><div>・ ser</div><div>・ estar</div></div>	<div>教科書</div> <div>時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol「気ままにスペイン語」』（三修社）</div> <div>参考書</div>

スペイン語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-120	
担当教員：越智 直子			
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300910			
学部教育の関連目		授業計画	
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		01. オリエンテーション 02. アルファベット、発音 03. アクセント、音節 04. 主語人称代名詞 05. 動詞 ser 06. 文型、国名・国籍 07. 名詞の性と数 08. 定冠詞と不定冠詞 09. 動詞 hay 10. 動詞 estar 11. 形容詞 12. 指示形容詞と指示代名詞 13. ser + 形容詞 14. estar + 形容詞 15. 復習（1） 16. 復習（2） 17. まとめ 18. 動詞 tener 19. 動詞 hacer 20. 天候表現 21. 所有形容詞（前置形） 22. 規則活用動詞（-ar動詞） 23. 規則活用動詞（-er動詞） 24. 規則活用動詞（-ir動詞） 25. 語幹母音変化動詞（e → ie 型） 26. 語幹母音変化動詞（o → ue 型） 27. 語幹母音変化動詞（e → i 型） 28. 復習（1） 29. 復習（2） 30. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。		事前に教科書に目を通すこと。 	
		準備学習(復習)	
		CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。	
		評価方法	
		(1) 平常点 25% (2) 単語テスト、提出物 25% (3) 中間試験、期末試験 50%	
受講者に対する要望		教科書	
積極的に授業に参加するようにして下さい。		時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol「気ままにスペイン語」』（三修社）	
学びのキーワード		参考書	
・スペイン語 ・名詞 ・動詞 ・ser ・estar			

スペイン語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-120					
担当教員：宮内 ふじ乃							
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300920							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. アルファベット、発音 03. アクセント、音節 04. 主語人称代名詞 05. 動詞 ser 06. 文型、国名・国籍 07. 名詞の性と数 08. 定冠詞と不定冠詞 09. 動詞 hay 10. 動詞 estar 11. 形容詞 12. 指示形容詞と指示代名詞 13. ser + 形容詞 14. estar + 形容詞 15. 復習（1） 16. 復習（2） 17. まとめ 18. 動詞 tener 19. 動詞 hacer 20. 天候表現 21. 所有形容詞（前置形） 22. 規則活用動詞（-ar動詞） 23. 規則活用動詞（-er動詞） 24. 規則活用動詞（-ir動詞） 25. 語幹母音変化動詞（e → ie 型） 26. 語幹母音変化動詞（o → ue 型） 27. 語幹母音変化動詞（e → i 型） 28. 復習（1） 29. 復習（2） 30. まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>（1）内容</div> <div>この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。</div>							
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。</div>	<div>準備学習（予習）</div> <div>事前に教科書に目を通すこと。

</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加するようにして下さい。</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。</div>						
	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>（1）平常点</td><td>25%</td></tr><tr><td>（2）単語テスト、提出物</td><td>25%</td></tr><tr><td>（3）中間試験、期末試験</td><td>50%</td></tr></table></div>		（1）平常点	25%	（2）単語テスト、提出物	25%	（3）中間試験、期末試験
（1）平常点	25%						
（2）単語テスト、提出物	25%						
（3）中間試験、期末試験	50%						
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・スペイン語</div><div>・名詞</div><div>・動詞</div><div>・ser</div><div>・estar</div></div>	<div>教科書</div> <div>時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol「気ままにスペイン語」』（三修社）</div> <div>参考書</div>						

スペイン語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-120
担当教員：宮内 ふじ乃		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300930		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. アルファベット、発音 03. アクセント、音節 04. 主語人称代名詞 05. 動詞 ser 06. 文型、国名・国籍 07. 名詞の性と数 08. 定冠詞と不定冠詞 09. 動詞 hay 10. 動詞 estar 11. 形容詞 12. 指示形容詞と指示代名詞 13. ser + 形容詞 14. estar + 形容詞 15. 復習（1） 16. 復習（2） 17. まとめ 18. 動詞 tener 19. 動詞 hacer 20. 天候表現 21. 所有形容詞（前置形） 22. 規則活用動詞（-ar動詞） 23. 規則活用動詞（-er動詞） 24. 規則活用動詞（-ir動詞） 25. 語幹母音変化動詞（e → ie 型） 26. 語幹母音変化動詞（o → ue 型） 27. 語幹母音変化動詞（e → i 型） 28. 復習（1） 29. 復習（2） 30. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>（1）内容</div> <div>この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。</div>		
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書に目を通すこと。

</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加するようにして下さい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>（1）平常点</div><div>25%</div></div><div><div>（2）単語テスト、提出物</div><div>25%</div></div><div><div>（3）中間試験、期末試験</div><div>50%</div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・スペイン語</div><div>・名詞</div><div>・動詞</div><div>・ser</div><div>・estar</div></div>	<div>教科書</div> <div>時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol「気ままにスペイン語」』（三修社）</div> <div>参考書</div>	

スペイン語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-120					
担当教員： 越智 直子							
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300940							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. アルファベット、発音 03. アクセント、音節 04. 主語人称代名詞 05. 動詞 ser 06. 文型、国名・国籍 07. 名詞の性と数 08. 定冠詞と不定冠詞 09. 動詞 hay 10. 動詞 estar 11. 形容詞 12. 指示形容詞と指示代名詞 13. ser + 形容詞 14. estar + 形容詞 15. 復習（1） 16. 復習（2） 17. まとめ 18. 動詞 tener 19. 動詞 hacer 20. 天候表現 21. 所有形容詞（前置形） 22. 規則活用動詞（-ar動詞） 23. 規則活用動詞（-er動詞） 24. 規則活用動詞（-ir動詞） 25. 語幹母音変化動詞（e → ie 型） 26. 語幹母音変化動詞（o → ue 型） 27. 語幹母音変化動詞（e → i 型） 28. 復習（1） 29. 復習（2） 30. まとめ</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書に目を通すこと。

</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加するようにして下さい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。</div>						
	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 平常点</td><td>25%</td></tr><tr><td>(2) 単語テスト、提出物</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 中間試験、期末試験</td><td>50%</td></tr></table></div>		(1) 平常点	25%	(2) 単語テスト、提出物	25%	(3) 中間試験、期末試験
(1) 平常点	25%						
(2) 単語テスト、提出物	25%						
(3) 中間試験、期末試験	50%						
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ スペイン語・ 名詞・ 動詞・ ser・ estar</div>	<div>教科書</div> <div>時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol「気ままにスペイン語」』（三修社）</div> <div>参考書</div>						

スペイン語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-120					
担当教員： 越智 直子							
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300950							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. アルファベット、発音 03. アクセント、音節 04. 主語人称代名詞 05. 動詞 ser 06. 文型、国名・国籍 07. 名詞の性と数 08. 定冠詞と不定冠詞 09. 動詞 hay 10. 動詞 estar 11. 形容詞 12. 指示形容詞と指示代名詞 13. ser + 形容詞 14. estar + 形容詞 15. 復習（1） 16. 復習（2） 17. まとめ 18. 動詞 tener 19. 動詞 hacer 20. 天候表現 21. 所有形容詞（前置形） 22. 規則活用動詞（-ar動詞） 23. 規則活用動詞（-er動詞） 24. 規則活用動詞（-ir動詞） 25. 語幹母音変化動詞（e → ie 型） 26. 語幹母音変化動詞（o → ue 型） 27. 語幹母音変化動詞（e → i 型） 28. 復習（1） 29. 復習（2） 30. まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>（1）内容</div> <div>この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。</div>							
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。</div>	<div>準備学習（予習）</div> <div>事前に教科書に目を通すこと。

</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加するようにして下さい。</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。</div>						
	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>（1）平常点</td><td>25%</td></tr><tr><td>（2）単語テスト、提出物</td><td>25%</td></tr><tr><td>（3）中間試験、期末試験</td><td>50%</td></tr></table></div>		（1）平常点	25%	（2）単語テスト、提出物	25%	（3）中間試験、期末試験
（1）平常点	25%						
（2）単語テスト、提出物	25%						
（3）中間試験、期末試験	50%						
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ スペイン語・ 名詞・ 動詞・ ser・ estar</div>	<div>教科書</div> <div>時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol「気ままにスペイン語」』（三修社）</div> <div>参考書</div>						

スペイン語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-120
担当教員： 宮内 ふじ乃		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300960		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. アルファベット、発音 03. アクセント、音節 04. 主語人称代名詞 05. 動詞 ser 06. 文型、国名・国籍 07. 名詞の性と数 08. 定冠詞と不定冠詞 09. 動詞 hay 10. 動詞 estar 11. 形容詞 12. 指示形容詞と指示代名詞 13. ser + 形容詞 14. estar + 形容詞 15. 復習（1） 16. 復習（2） 17. まとめ 18. 動詞 tener 19. 動詞 hacer 20. 天候表現 21. 所有形容詞（前置形） 22. 規則活用動詞（-ar動詞） 23. 規則活用動詞（-er動詞） 24. 規則活用動詞（-ir動詞） 25. 語幹母音変化動詞（e → ie 型） 26. 語幹母音変化動詞（o → ue 型） 27. 語幹母音変化動詞（e → i 型） 28. 復習（1） 29. 復習（2） 30. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>（1）内容</div> <div>この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。</div>		
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書に目を通すこと。

</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加するようにして下さい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>25%</div></div><div><div>(2) 単語テスト、提出物</div><div>25%</div></div><div><div>(3) 中間試験、期末試験</div><div>50%</div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・スペイン語</div><div>・名詞</div><div>・動詞</div><div>・ser</div><div>・estar</div></div>	<div>教科書</div> <div>時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol「気ままにスペイン語」』（三修社）</div> <div>参考書</div>	

スペイン語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-120
担当教員：宮内 ふじ乃		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11300970		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. アルファベット、発音 03. アクセント、音節 04. 主語人称代名詞 05. 動詞 ser 06. 文型、国名・国籍 07. 名詞の性と数 08. 定冠詞と不定冠詞 09. 動詞 hay 10. 動詞 estar 11. 形容詞 12. 指示形容詞と指示代名詞 13. ser + 形容詞 14. estar + 形容詞 15. 復習（1） 16. 復習（2） 17. まとめ 18. 動詞 tener 19. 動詞 hacer 20. 天候表現 21. 所有形容詞（前置形） 22. 規則活用動詞（-ar動詞） 23. 規則活用動詞（-er動詞） 24. 規則活用動詞（-ir動詞） 25. 語幹母音変化動詞（e → ie 型） 26. 語幹母音変化動詞（o → ue 型） 27. 語幹母音変化動詞（e → i 型） 28. 復習（1） 29. 復習（2） 30. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>（1）内容</div> <div>この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。</div>		
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。</div>	<div>準備学習（予習）</div> <div>事前に教科書に目を通すこと。

</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加するようにして下さい。</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>（1）平常点</div><div>25%</div></div><div><div>（2）単語テスト、提出物</div><div>25%</div></div><div><div>（3）中間試験、期末試験</div><div>50%</div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・スペイン語</div><div>・名詞</div><div>・動詞</div><div>・ser</div><div>・estar</div></div>	<div>教科書</div> <div>時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol「気ままにスペイン語」』（三修社）</div> <div>参考書</div>	

スペイン語II（初級B）

WLAG-0-121

担当教員：越智 直子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301000

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「スペイン語I」で学んだ基礎をベースに、さらに新しい表現を身に付け、初級文法の取得を目指します。また、映画などに出てくる生き生きとした表現を学び、スペイン語を使って自己表現ができるようにしていきます。また、希望があれば、スペイン語検定の練習問題も授業で取りあげる予定です。

(2) 学びの意義と目標

様々な表現や初級文法を取得することにより、歌を訳したり、簡単な手紙、メールなどを書くという楽しみができることと思います。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加するようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ スペイン語
- ・ 比較級
- ・ 不規則動詞
- ・ gustar
- ・ 再帰動詞

授業計画

01. オリエンテーション
02. 復習 (1)
03. 復習 (2)
04. 7課 (1)
05. 7課 (2)
06. 7課 (3)
07. 8課 (1)
08. 8課 (2)
09. 8課 (3)
10. 9課 (1)
11. 9課 (2)
12. 9課 (3)
13. 復習 (1)
14. 復習 (2)
15. まとめ
16. 10課 (1)
17. 10課 (2)
18. 10課 (3)
19. 11課 (1)
20. 11課 (2)
21. 11課 (3)
22. 12課 (1)
23. 12課 (2)
24. 12課 (3)
25. 13課 (1)
26. 13課 (2)
27. 13課 (3)
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. まとめ

準備學習(予習)

事前に教科書に目を通すこと。

準備學習(復習)

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 単語テスト、提出物 | 25% |
| (3) 中間試験、期末試験 | 50% |

教科書

時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol 』 (三修社)

参考書

スペイン語II（初級B）		WLAG-O-121
担当教員： 越智 直子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301010		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 復習 (1)</div> <div>03. 復習 (2)</div> <div>04. 7課 (1)</div> <div>05. 7課 (2)</div> <div>06. 7課 (3)</div> <div>07. 8課 (1)</div> <div>08. 8課 (2)</div> <div>09. 8課 (3)</div> <div>10. 9課 (1)</div> <div>11. 9課 (2)</div> <div>12. 9課 (3)</div> <div>13. 復習 (1)</div> <div>14. 復習 (2)</div> <div>15. まとめ</div> <div>16. 10課 (1)</div> <div>17. 10課 (2)</div> <div>18. 10課 (3)</div> <div>19. 11課 (1)</div> <div>20. 11課 (2)</div> <div>21. 11課 (3)</div> <div>22. 12課 (1)</div> <div>23. 12課 (2)</div> <div>24. 12課 (3)</div> <div>25. 13課 (1)</div> <div>26. 13課 (2)</div> <div>27. 13課 (3)</div> <div>28. 復習 (1)</div> <div>29. 復習 (2)</div> <div>30. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「スペイン語I」で学んだ基礎をベースに、さらに新しい表現を身に付け、初級文法の取得を目指します。また、映画などに出てくる生き生きとした表現を学び、スペイン語を使って自己表現ができるようにしていきます。また、希望があれば、スペイン語検定の練習問題も授業で取りあげる予定です。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>様々な表現や初級文法を取得することにより、歌を訳したり、簡単な手紙、メールなどを書くという楽しみができることと思います。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書に目を通すこと。
</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>25%</div></div><div><div>(2) 単語テスト、提出物</div><div>25%</div></div><div><div>(3) 中間試験、期末試験</div><div>50%</div></div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加するようにして下さい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・スペイン語</div><div>・比較級</div><div>・不規則動詞</div><div>・gustar</div><div>・再帰動詞</div></div>	<div>教科書</div> <div>時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol 』（三修社）</div> <div>参考書</div>	

中国語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-124
担当教員： 閻 子謙		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301310		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 単母音、子音 03. 単母音、子音の確認 04. 複母音 05. 複母音の確認 06. 鼻音 07. 鼻音の確認 08. 発音編の総まとめ 09. 第1課のポイント、本文 10. 第1課トレーニング 11. 第2課のポイント、本文 12. 第2課のトレーニング 13. 第3課のポイント、本文 14. 第3課のトレーニング 15. 第1～3課の復習 16. 第4課のポイント、本文 17. 第4課のトレーニング 18. 第5課のポイント、本文 19. 第5課のトレーニング 20. 第6課のポイント、本文 21. 第6課のトレーニング 22. 第4～6課の復習 23. 第7課のポイント、本文 24. 第7課のトレーニング 25. 第8課のポイント、本文 26. 第8課のトレーニング 27. 第9課のポイント、本文 28. 第9課トレーニング 29. 第7～9課の復習 30. 総復習</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1. 目的 本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。</div> <div>2. カリキュラム上の位置づけ 初級段階で、入門的な位置づけである。</div> <div>3. 学びの意義と目標 中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>中国語を初めて学ぶ学生を対象にした講義なので、中国語の基礎、特に発音の基礎を固めることに重点を置きます。「発音編」は教科書を使用せず説明を最小限にとどめ、オリジナルの発音表を参照しつつ、発音の基本と表記・ピンインのルールを丁寧に教えます。誰でも無理なく、中国語に興味を持ち、発音表を頼って自力で正確な中国語を音読出来ることを目標にしています。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>より効果的に授業を進められるように、学生の皆様のご協力が欠かせません。休まずに授業に出ることはもちろんですが、やむなく遅刻する場合、授業への影響を配慮し、そつと教室に入り、音を立てず開始の支度してほしいです。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書を読んでおくこと</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>前回の授業内容をもう一度おさらいすること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点20%</div><div>(2) 受講態度40%</div><div>(3) 定期試験40%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・教科書と発音表を忘れずに持ってくること。</div><div>・毎回筆記用具とノートを持参し、ルーズリーフを用意すること。</div><div>・間違いを恐れず声に出して発音の練習をすること。</div><div>・授業中携帯をいじらず、私語を控えること。</div></div>	<div>教科書</div> <div>開講時に指示します。</div> <div>参考書</div>	

中国語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-124					
担当教員： 福田 素子							
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301311							
学部教育の関連目		授業計画					
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける							
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス・中国語とはどのような言語か・声調 02. 発音（単母音・複母音） 03. 発音（子音） 04. 発音（鼻音） 05. 発音（補足と総合練習）・挨拶 06. 第一課 動詞「是」を使った文・名前の名乗り方。 07. 第一課練習 08. 第一課予備・第二課助詞「的」・疑問詞の使用。 09. 第二課練習 10. 第二課予備 11. 第三課 動詞述語文・連動文。 12. 第三課練習 13. 第三課予備 14. 復習 15. 中間まとめ 16. まとめ問題解説 17. 第四課 助動詞「想」・反復疑問文・形容詞述語文 18. 第四課練習 19. 第四課予備 20. 第五課 数字の言い方・動詞「有」を使った文。 21. 第五課 年齢の言い方・比較構文。 22. 第五課練習 23. 第六課 経験の言い方。「～するのが好きだ」の言い方。 24. 第六課 助動詞「要」 25. 第六課練習 26. 第七課 年月日・曜日・時刻の言い方。 27. 第七課 前置詞・文末の「了」 28. 第七課練習 29. 総復習 30. まとめ					
(1) 内容							
ピンインという中国語の発音記号とその発音方法を身につけ、さらに基礎語彙・基本のセンテンスを学習する。							
(2) 学びの意義と目標							
中国語の基礎を身につけるとともに、日本語や英語と比較しながら中国語とは（また日本語とは）どのような言語であるかを考える視座を身につける。また外国語を学ぶとはどういうことかを考える。							
準備学習(予習)							
各課の新出単語は事前に目を通しておく。							
準備学習(復習)							
発音は直された点を忘れず、練習して身につける。学習した単語と構文はそのつど覚えていくこと。							
評価方法							
<table><tr><td>(1) 期末試験</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 中間まとめ</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 課のまとめチェック</td><td>25%</td></tr></table> 課のまとめチェックは、原則として課の終了ごとに実施。		(1) 期末試験	50%	(2) 中間まとめ	25%	(3) 課のまとめチェック	25%
(1) 期末試験	50%						
(2) 中間まとめ	25%						
(3) 課のまとめチェック	25%						
欠席が十回を越えると、期末試験の受験が出来ない。							
受講者に対する要望							
本講義は、基本的に初めて中国語に触れる、中国語を母語としない学生を対象とする。個別の発音や文法の練習を重視するので、積極的に授業に参加することを要望する。							
学びのキーワード							
・ 発音 ・ 文法 ・ 異文化理解 ・ 中国語							
教科書							
相原茂／陳淑梅／飯田敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 978-4-255-45193-0							
参考書							
辞書の購入は義務づけない。購入する場合は授業内で辞書についての説明を受けた後で購入することを勧める。							

中国語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-124
担当教員：新田 小雨子		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11301312		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		01. ガイダンス：中国語について・簡単な挨拶表現など 02. 発音1：声調・単母音・複母音 03. 発音2：声母表・無気音と有気音・そり舌音 04. 発音3：鼻音を伴う母音・eのヴァリエーションなど 05. 発音4：3声の変調・[不]の変調・[一]の変調・軽声など 06. まとめ 07. 第1課「こんにちは」：動詞“是”・名前の言い方・挨拶ことばなど 08. 第1課「こんにちは」：本文・練習・ドリル 09. 第2課「学校」：助詞“的”・疑問詞など 10. 第2課「学 校」：本文・練習・ドリル 11. 第3課「新 宿」：動詞述語文・副詞“也”・連動文など 12. 第3課：「新宿」：本文・練習・ドリル 13. 第4課「カメラを買う」：助動詞の”想”・反復疑問文など 14. 第4課「カメラを買う」：本文・練習・ドリル 15. 中間試験とその解説 16. 第5課「家族を語る」：動詞“有”・比較の言い方など 17. 第5課「家族を語る」：本文・練習・ドリル 18. 第6課「富士山」：経験を表す表現・助動詞の“要”など 19. 第6課「富士山」：本文・練習・ドリル 20. 第7課「喫茶店」：年月日・曜日・時刻の言い方・前置詞など 21. 第7課「喫茶店」：本文・練習・ドリル 22. 第8課「街」：前置詞その2“从”“往”・動詞につく“了”など 23. 第8課「街」：本文・練習・ドリル 24. 第8課「街」：中国語学習のための基礎知識・練習プリント 25. 第9課「京都」：動詞の“在”・“是…的”構文など 26. 第9課「京都」：本文・練習・ドリル 27. 第9課「京都」：練習プリント 28. 総復習 29. 総復習 30. 理解度の確認
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
本講義は、VT法（Verbo-Tonal Method）を用い、日本語母語話者の中国語学習者に対する発音指導を行う。使用テキストには基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。		
(2) 学びの意義と目標		
本講義を受講することによって、中国語の発音、基礎文法を身につけるだけでなく、簡単な自己紹介、日常の挨拶表現もできるようになる。中国語を学ぶと同時に、中国の文化や風習などについても知ることができる。本講義では、発音指導や文法導入を行う際、常に日中対照研究に関する知識を取り入れており、受講者は中国語を学ぶことを通して、目標言語（中国語）及び母語（日本語）のメカニズムについて一層わかるようになる。		
受講者に対する要望		
1) 受動的ではなく主動的な学習態度を取ること。 2) 講義中発音練習やロールプレイなどの授業活動に積極的に取り組むこと。 3) 目標言語を学ぶ際に、言語だけではなく、その国の文化などにも興味を持つこと。 4) 宿題を丁寧に書くことかつ提出期限を守ること。		
学びのキーワード		教科書
・発音 ・日常挨拶表現 ・疑問文 ・動詞、形容詞述語文		相原茂・陳淑梅・飯田敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』（朝日出版社）
		参考書

中国語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-124
担当教員： 閻 子謙		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301315		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 単母音、子音 03. 単母音、子音の確認 04. 複母音 05. 複母音の確認 06. 鼻音 07. 鼻音の確認 08. 発音編の総まとめ 09. 第1課のポイント、本文 10. 第1課トレーニング 11. 第2課のポイント、本文 12. 第2課のトレーニング 13. 第3課のポイント、本文 14. 第3課のトレーニング 15. 第1～3課の復習 16. 第4課のポイント、本文 17. 第4課のトレーニング 18. 第5課のポイント、本文 19. 第5課のトレーニング 20. 第6課のポイント、本文 21. 第6課のトレーニング 22. 第4～6課の復習 23. 第7課のポイント、本文 24. 第7課のトレーニング 25. 第8課のポイント、本文 26. 第8課のトレーニング 27. 第9課のポイント、本文 28. 第9課トレーニング 29. 第7～9課の復習 30. 総復習</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1. 目的 本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。 2. カリキュラム上の位置づけ 初級段階で、入門的な位置づけである。 3. 学びの意義と目標 中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書を読んでおくこと</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>中国語を初めて学ぶ学生を対象にした講義なので、中国語の基礎、特に発音の基礎を固めることに重点を置きます。「発音編」は教科書を使用せず説明を最小限にとどめ、オリジナルの発音表を参照しつつ、発音の基本と表記・ピンインのルールを丁寧に教えます。誰でも無理なく、中国語に興味を持ち、発音表を頼って自力で正確な中国語を音読出来ることを目標にしています。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>より効果的に授業を進められるように、学生の皆様のご協力が欠かせません。休まずに授業に出ることはもちろんですが、やむなく遅刻する場合、授業への影響を配慮し、そつと教室に入り、音を立てず開始の支度してほしいです。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>前回の授業内容をもう一度おさらいすること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・教科書と発音表を忘れずに持ってくること。 ・毎回筆記用具とノートを持参し、ルーズリーフを用意すること。 ・間違いを恐れず声に出して発音の練習をすること。 ・授業中携帯をいじらず、私語を控えること。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点20% (2) 受講態度40% (3) 定期試験40%</div>	
	<div>教科書</div> <div>開講時に指示します。</div> <div>参考書</div>	

中国語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-124					
担当教員： 福田 素子							
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301316							
学部教育の関連目		授業計画					
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける							
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス・中国語とはどのような言語か・声調 02. 発音（単母音・複母音） 03. 発音（子音） 04. 発音（鼻音） 05. 発音（補足と総合練習）・挨拶 06. 第一課 動詞「是」を使った文・名前の名乗り方。 07. 第一課練習 08. 第一課予備・第二課助詞「的」・疑問詞の使用。 09. 第二課練習 10. 第二課予備 11. 第三課 動詞述語文・連動文。 12. 第三課練習 13. 第三課予備 14. 復習 15. 中間まとめ 16. まとめ問題解説 17. 第四課 助動詞「想」・反復疑問文・形容詞述語文 18. 第四課練習 19. 第四課予備 20. 第五課 数字の言い方・動詞「有」を使った文。 21. 第五課 年齢の言い方・比較構文。 22. 第五課練習 23. 第六課 経験の言い方。「～するのが好きだ」の言い方。 24. 第六課 助動詞「要」 25. 第六課練習 26. 第七課 年月日・曜日・時刻の言い方。 27. 第七課 前置詞・文末の「了」 28. 第七課練習 29. 総復習 30. まとめ					
(1) 内容							
ピンインという中国語の発音記号とその発音方法を身につけ、さらに基礎語彙・基本のセンテンスを学習する。							
(2) 学びの意義と目標							
中国語の基礎を身につけるとともに、日本語や英語と比較しながら中国語とは（また日本語とは）どのような言語であるかを考える視座を身につける。また外国語を学ぶとはどういうことかを考える。							
準備学習(予習)							
各課の新出単語は事前に目を通しておく。							
準備学習(復習)							
発音は直された点を忘れず、練習して身につける。学習した単語と構文はそのつど覚えていくこと。							
評価方法							
<table><tr><td>(1) 期末試験</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 中間まとめ</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 課のまとめチェック</td><td>25%</td></tr></table> 課のまとめチェックは、原則として課の終了ごとに実施。		(1) 期末試験	50%	(2) 中間まとめ	25%	(3) 課のまとめチェック	25%
(1) 期末試験	50%						
(2) 中間まとめ	25%						
(3) 課のまとめチェック	25%						
欠席が十回を越えると、期末試験の受験が出来ない。							
受講者に対する要望							
本講義は、基本的に初めて中国語に触れる、中国語を母語としない学生を対象とする。個別の発音や文法の練習を重視するので、積極的に授業に参加することを要望する。							
学びのキーワード							
・ 発音 ・ 文法 ・ 異文化理解 ・ 中国語							
教科書							
相原茂／陳淑梅／飯田敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 978-4-255-45193-0							
参考書							

中国語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-124
担当教員：新田 小雨子		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11301320		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		01. ガイダンス：中国語について・簡単な挨拶表現など 02. 発音1：声調・単母音・複母音 03. 発音2：声母表・無気音と有気音・そり舌音 04. 発音3：鼻音を伴う母音・eのヴァリエーションなど 05. 発音4：3声の変調・[不]の変調・[一]の変調・軽声など 06. まとめ 07. 第1課「こんにちは」：動詞“是”・名前の言い方・挨拶ことばなど 08. 第1課「こんにちは」：本文・練習・ドリル 09. 第2課「学校」：助詞“的”・疑問詞など 10. 第2課「学 校」：本文・練習・ドリル 11. 第3課「新 宿」：動詞述語文・副詞“也”・連動文など 12. 第3課：「新宿」：本文・練習・ドリル 13. 第4課「カメラを買う」：助動詞の”想”・反復疑問文など 14. 第4課「カメラを買う」：本文・練習・ドリル 15. 中間試験とその解説 16. 第5課「家族を語る」：動詞“有”・比較の言い方など 17. 第5課「家族を語る」：本文・練習・ドリル 18. 第6課「富士山」：経験を表す表現・助動詞の“要”など 19. 第6課「富士山」：本文・練習・ドリル 20. 第7課「喫茶店」：年月日・曜日・時刻の言い方・前置詞など 21. 第7課「喫茶店」：本文・練習・ドリル 22. 第8課「街」：前置詞その2“从”“往”・動詞につく“了”など 23. 第8課「街」：本文・練習・ドリル 24. 第8課「街」：中国語学習のための基礎知識・練習プリント 25. 第9課「京都」：動詞の“在”・“是…的”構文など 26. 第9課「京都」：本文・練習・ドリル 27. 第9課「京都」：練習プリント 28. 総復習 29. 総復習 30. 理解度の確認
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
本講義は、VT法（Verbo-Tonal Method）を用い、日本語母語話者の中国語学習者に対する発音指導を行う。使用テキストには基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。		
(2) 学びの意義と目標		
本講義を受講することによって、中国語の発音、基礎文法を身につけるだけでなく、簡単な自己紹介、日常の挨拶表現もできるようになる。中国語を学ぶと同時に、中国の文化や風習などについても知ることができる。本講義では、発音指導や文法導入を行う際、常に日中対照研究に関する知識を取り入れており、受講者は中国語を学ぶことを通して、目標言語（中国語）及び母語（日本語）のメカニズムについて一層わかるようになる。		準備学習(予習)
		1) 各課の単語と文型を事前に目を通すこと。 2) 単語の意味と読み方を事前に確認すること。
		準備学習(復習)
		1) 発音記号（ピンイン）の読む練習を常に行うこと。 2) 既習単語の読み書きを練習すること。 3) 既習単語を読み流すのではなく、暗記すること。 4) 既習文型を理解し、応用できるように準備しておくこと。
受講者に対する要望		評価方法
1) 受動的ではなく主動的な学習態度を取る。こと。 2) 講義中発音練習やロールプレイなどの授業活動に積極的に取り組むこと。 3) 目標言語を学ぶ際に、言語だけではなく、その国の文化などにも興味を持つこと。 4) 宿題を丁寧に書くことかつ提出期限を守る。		(1) 授業への参加度 30% (2) 試験 30% (3) 平常点 40% 受講態度、小テスト、課題など
学びのキーワード		教科書
・発音 ・日常挨拶表現 ・疑問文 ・動詞、形容詞述語文		相原茂・陳淑梅・飯田敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』（朝日出版社）
		参考書

中国語II（初級B）		WLAG-O-125
担当教員：新田 小雨子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301421		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		授業計画
本講義の使用テキストには基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。		
(2) 学びの意義と目標		
本講義では、会話を中心とし、いろいろな場面に応じた表現を理解した上で、応用できるようにロールプレイによる会話練習を行う。中国語発音を強化し、文法への理解を深める。より複雑な自己紹介、日常挨拶表現、旅行などの時に使用される表現を話せるようになる。また、中国語を学ぶことを通じて、目標言語（中国語）及び母語（日本語）のメカニズムについて一層わかるようになる。言語そのものだけではなく、中国という国についても知ってもらう。		01. ガイダンス 02. 発音復習 03. 発音復習 04. 基礎文型の復習 05. 基礎文型の復習 06. 基礎文型の復習 07. 第10課「寿司」：主述述語文・助動詞“能”・結果補語 08. 第10課「寿司」：本文・練習・ドリル 09. 第11課「スキー」：助動詞“会”・様態補語など 10. 第11課「スキー」：本文・練習・ドリル 11. 第12課「動物園」：方向補語・動詞の重ね型など 12. 第12課「動物園」：本文・練習・ドリル 13. 第12課「動物園」：中国語学習のための基礎知識・練習プリント 14. まとめ 15. 中間試験とその解説 16. 第13課：「春休み」：疑問詞の不定用法など 17. 第13課：「春休み」：本文・練習・ドリル 18. 第13課：「春休み」：練習プリント 19. 第14課「空港の外」：可能補語・“把”構文など 20. 第14課「空港の外」：本文・練習・ドリル 21. 第14課「空港の外」：練習プリント 22. 第15課「ホテル」：選択疑問文・形容詞の重ね型など 23. 第15課「ホテル」：本文・練習・ドリル 24. 第15課「ホテル」：練習プリント 25. 第16課「部屋の中」：“就要～了”・“被”構文など 26. 第16課「部屋の中」：本文・練習・ドリル 27. 第16課「部屋の中」：練習プリント 28. 総復習 29. 総復習 30. 理解度の確認
準備学習(予習)		1) 各課の単語と文型を事前に目を通すこと。 2) 単語の意味と読み方を事前に確認すること。
準備学習(復習)		1) 既習単語の読み書きを練習すること。 2) 既習単語を読み流すのではなく、暗記すること。 3) 声調に気を付けながら、各課の会話文を熟読すること。 4) 既習文型を理解し、応用できるように準備しておくこと。
評価方法		(1) 授業への参加度 30% (2) 試験 30% (3) 平常点 40% 受講態度、小テスト、宿題など
受講者に対する要望		教科書 相原茂・陳淑梅・飯田敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』（朝日出版社）
1) 受動的ではなく主動的な学習態度を取ること。 2) 講義中発音練習やロールプレイなどの授業活動に積極的に取り組むこと。 3) 目標言語を学ぶ際に、言語だけではなく、その国の文化などにも興味を持つこと。 4) 宿題を丁寧に書くことかつ提出期限を守ること。		
学びのキーワード		
・発音（声調の正確さ） ・疑問文 ・前置詞 ・助動詞 ・補語		参考書

中国語II（初級B）		WLAG-O-125
担当教員： 閻 子謙		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301427		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス</div> <div>02. 単母音、子音</div> <div>03. 単母音、子音の確認</div> <div>04. 複母音</div> <div>05. 複母音の確認</div> <div>06. 鼻音</div> <div>07. 鼻音の確認</div> <div>08. 発音編の総まとめ</div> <div>09. 第7課のポイント、本文</div> <div>10. 第7課トレーニング</div> <div>11. 第8課のポイント、本文</div> <div>12. 第8課のトレーニング</div> <div>13. 第9課のポイント、本文</div> <div>14. 第9課のトレーニング</div> <div>15. 第7～9課の復習</div> <div>16. 第10課のポイント、本文</div> <div>17. 第10課のトレーニング</div> <div>18. 第11課のポイント、本文</div> <div>19. 第11課のトレーニング</div> <div>20. 第12課のポイント、本文</div> <div>21. 第12課のトレーニング</div> <div>22. 第10～12課の復習</div> <div>23. 第13課のポイント、本文</div> <div>24. 第13課のトレーニング</div> <div>25. 第14課のポイント、本文</div> <div>26. 第14課のトレーニング</div> <div>27. 第15課のポイント、本文</div> <div>28. 第15課トレーニング</div> <div>29. 第13～15課の復習</div> <div>30. 総復習</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1. 目的</div> <div>本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。</div> <div>2. カリキュラム上の位置づけ</div> <div>初級段階で、入門的な位置づけである。</div> <div>3. 学びの意義と目標</div> <div>中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>中国語を初めて学ぶ学生を対象にした講義なので、中国語の基礎、特に発音の基礎を固めることに重点を置きます。「発音編」は教科書を使用せず説明を最小限にとどめ、オリジナルの発音表を参照しつつ、発音の基本と表記・ピンインのルールを丁寧に教えます。誰でも無理なく、中国語に興味を持ち、発音表を頼って自力で正確な中国語を音読出来ることを目標にしています。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書を読んでおくこと</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>より効果的に授業を進められるように、学生の皆様のご協力が欠かせません。休まずに授業に出ることはもちろんですが、やむなく遅刻する場合、授業への影響を配慮し、そつと教室に入り、音を立てず開始の支度してほしいです。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>前回の授業内容をもう一度おさらいすること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点20%</div> <div>(2) 受講態度40%</div> <div>(3) 定期試験40%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・教科書と発音表を忘れずに持ってくること。</div> <div>・毎回筆記用具とノートを持参し、ルーズリーフを用意すること。</div> <div>・間違いを恐れず声に出して発音の練習をすること。</div> <div>・授業中携帯をいじらず、私語を控えること。</div>	<div>教科書</div> <div>開講時に指示します。</div> <div>参考書</div>	

韓国語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-126
担当教員： 溝口 カブスン		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301710		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。 文法については「助詞」に重点を置く。 また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。 講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。		01. 第1部 ハングル、「アリラン」の歌 02. 第1課 講義開始にあたって 03. 第2課 ハングルの覚えよう（母音） 04. 第2課 ハングルの覚えよう（子音） 05. 第2課 ハングルの覚えよう（練習） 06. 第3課 ハングルのまとめ（激音濃音） 07. 第3課 ハングルのまとめ（練習） 08. 第3課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記） 09. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説） 10. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習） 11. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認） 12. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説） 13. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習） 14. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認） 15. 第1部の総復習 16. 第2部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌 17. 第6課 私は中村です。（例文解説） 18. 第6課 私は中村です。（文法解説） 19. 第6課 私は中村です。（練習） 20. 第6課 私は中村です。（演習） 21. 第7課 故郷はどこですか。（例文解説） 22. 第7課 故郷はどこですか。（文法解説） 23. 第7課 故郷はどこですか。（練習） 24. 第7課 故郷はどこですか。（演習） 25. 第8課 お昼の約束がありますか。（例文解説） 26. 第8課 お昼の約束がありますか。（文法解説） 27. 第8課 お昼の約束がありますか。（練習） 28. 第8課 お昼の約束がありますか。（演習） 29. 第2部の復習 30. 韓国の文化に触れるⅠ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
以下の能力を養成し、知識を深める。 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」 3 韓国文化理解の初歩的知識		第一部は復習のみ。 第二部では、本文の翻訳、単語帳作成を指示する。
		準備学習(復習)
		毎回、学習内容から課題を指示する。 プリントを配布する場合もある。
受講者に対する要望		評価方法
韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。		(1) 定期試験 50% (2) 小テスト・提出物 30% (3) 授業態度 20%
学びのキーワード		教科書
・ハングル文字 ・韓国語の発音 ・韓国語文法 ・現代の韓国		溝口甲順 『アルギシウン韓国語』（白帝社）
		参考書

韓国語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-126
担当教員： 溝口 カブスン		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301711		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。 文法については「助詞」に重点を置く。 また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。 講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。		01. 第1部 ハングル、「アリラン」の歌 02. 第1課 講義開始にあたって 03. 第2課 ハングルの覚えよう（母音） 04. 第2課 ハングルの覚えよう（子音） 05. 第2課 ハングルの覚えよう（練習） 06. 第3課 ハングルのまとめ（激音濃音） 07. 第3課 ハングルのまとめ（練習） 08. 第3課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記） 09. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説） 10. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習） 11. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認） 12. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説） 13. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習） 14. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認） 15. 第1部の総復習 16. 第2部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌 17. 第6課 私は中村です。（例文解説） 18. 第6課 私は中村です。（文法解説） 19. 第6課 私は中村です。（練習） 20. 第6課 私は中村です。（演習） 21. 第7課 故郷はどこですか。（例文解説） 22. 第7課 故郷はどこですか。（文法解説） 23. 第7課 故郷はどこですか。（練習） 24. 第7課 故郷はどこですか。（演習） 25. 第8課 お昼の約束がありますか。（例文解説） 26. 第8課 お昼の約束がありますか。（文法解説） 27. 第8課 お昼の約束がありますか。（練習） 28. 第8課 お昼の約束がありますか。（演習） 29. 第2部の復習 30. 韓国の文化に触れるⅠ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
以下の能力を養成し、知識を深める。 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」 3 韓国文化理解の初歩的知識		第一部は復習のみ。 第二部では、本文の翻訳、単語帳作成を指示する。
		準備学習(復習)
		毎回、学習内容から課題を指示する。 プリントを配布する場合もある。
		評価方法
		(1) 定期試験 50% (2) 小テスト・提出物 30% (3) 授業態度 20%
受講者に対する要望		教科書
韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。		
学びのキーワード		参考書
・ハングル文字 ・韓国語の発音 ・韓国語文法 ・現代の韓国		溝口甲順 『アルギシウン韓国語』（白帝社）

韓国語Ⅰ（初級A）

WLAG-0-126

担当教員：金 娜玄

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301712

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。
文法については「助詞」に重点を置く。
また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。
講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

(2) 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。

- 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」
- 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」
- 3 韓国文化理解の初歩的知識

受講者に対する要望

韓国語について全く知識のない段階からはじまる、入門者を対象とした初級講座である。

学びのキーワード

- ・ ハングル文字
- ・ 韓国語の発音
- ・ 韓国語文法
- ・ 現代の韓国

授業計画

01. 第1部 ハングル、「アリラン」の歌
02. 第1課 講義開始にあたって
03. 第2課 ハングルを覚えよう（母音）
04. 第2課 ハングルを覚えよう（子音）
05. 第2課 ハングルを覚えよう（練習）
06. 第3課 ハングルのまとめ（激音濃音）
07. 第3課 ハングルのまとめ（練習）
08. 第3課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記）
09. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説）
10. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習）
11. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認）
12. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説）
13. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習）
14. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認）
15. 第1部の総復習
16. 第2部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌
17. 第6課 私は中村です。（例文解説）
18. 第6課 私は中村です。（文法解説）
19. 第6課 私は中村です。（練習）
20. 第6課 私は中村です。（演習）
21. 第7課 故郷はどこですか。（例文解説）
22. 第7課 故郷はどこですか。（文法解説）
23. 第7課 故郷はどこですか。（練習）
24. 第7課 故郷はどこですか。（演習）
25. 第8課 お昼の約束がありますか。（例文解説）
26. 第8課 お昼の約束がありますか。（文法解説）
27. 第8課 お昼の約束がありますか。（練習）
28. 第8課 お昼の約束がありますか。（演習）
29. 第2部の復習
30. 韓国の文化に触れるⅠ

準備學習(予習)

第一部は復習のみ。第二部では、本文の翻訳、単語帳作成を指示する。

準備學習(復習)

毎回、学習内容から課題を指示する。＜br /＞プリントを配布する場合もある。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 定期試験 | 50% |
| (2) 小テスト・提出物 | 30% |
| (3) 授業態度 | 20% |

教科書

溝口甲順 『アルギシウン韓国語』 (白帝社)

参考書

韓国語Ⅰ（初級Ａ）		WLAG-O-126
担当教員：金 娜玄		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301713		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。 文法については「助詞」に重点を置く。 また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。 講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。		01. 第１部 ハングル、「アリラン」の歌 02. 第１課 講義開始にあたって 03. 第２課 ハングルの覚えよう（母音） 04. 第２課 ハングルの覚えよう（子音） 05. 第２課 ハングルの覚えよう（練習） 06. 第３課 ハングルのまとめ（激音濃音） 07. 第３課 ハングルのまとめ（練習） 08. 第３課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記） 09. 第４課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説） 10. 第４課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習） 11. 第４課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認） 12. 第５課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説） 13. 第５課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習） 14. 第５課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認） 15. 第１部の総復習 16. 第２部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌 17. 第６課 私は中村です。（例文解説） 18. 第６課 私は中村です。（文法解説） 19. 第６課 私は中村です。（練習） 20. 第６課 私は中村です。（演習） 21. 第７課 故郷はどこですか。（例文解説） 22. 第７課 故郷はどこですか。（文法解説） 23. 第７課 故郷はどこですか。（練習） 24. 第７課 故郷はどこですか。（演習） 25. 第８課 お昼の約束がありますか。（例文解説） 26. 第８課 お昼の約束がありますか。（文法解説） 27. 第８課 お昼の約束がありますか。（練習） 28. 第８課 お昼の約束がありますか。（演習） 29. 第２部の復習 30. 韓国の文化に触れるⅠ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
以下の能力を養成し、知識を深める。 １ 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」 ２ 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」 ３ 韓国文化理解の初歩的知識		第一部は復習のみ。 第二部では、本文の翻訳、単語帳作成を指示する。
		準備学習(復習)
		毎回、学習内容から課題を指示する。 プリントを配布する場合もある。
		評価方法
		(1) 定期試験 50% (2) 小テスト・提出物 30% (3) 授業態度 20%
受講者に対する要望		教科書
韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。		
学びのキーワード		参考書
・ ハングル文字 ・ 韓国語の発音 ・ 韓国語文法 ・ 現代の韓国		溝口甲順 『アルギシウン韓国語』（白帝社）

韓国語Ⅰ（初級Ａ）		WLAG-O-126
担当教員： 溝口 カブスン		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301714		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。 文法については「助詞」に重点を置く。 また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。 講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。		01. 第１部 ハングル、「アリラン」の歌 02. 第１課 講義開始にあたって 03. 第２課 ハングルの覚えよう（母音） 04. 第２課 ハングルの覚えよう（子音） 05. 第２課 ハングルの覚えよう（練習） 06. 第３課 ハングルのまとめ（激音濃音） 07. 第３課 ハングルのまとめ（練習） 08. 第３課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記） 09. 第４課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説） 10. 第４課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習） 11. 第４課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認） 12. 第５課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説） 13. 第５課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習） 14. 第５課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認） 15. 第１部の総復習 16. 第２部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌 17. 第６課 私は中村です。（例文解説） 18. 第６課 私は中村です。（文法解説） 19. 第６課 私は中村です。（練習） 20. 第６課 私は中村です。（演習） 21. 第７課 故郷はどこですか。（例文解説） 22. 第７課 故郷はどこですか。（文法解説） 23. 第７課 故郷はどこですか。（練習） 24. 第７課 故郷はどこですか。（演習） 25. 第８課 お昼の約束がありますか。（例文解説） 26. 第８課 お昼の約束がありますか。（文法解説） 27. 第８課 お昼の約束がありますか。（練習） 28. 第８課 お昼の約束がありますか。（演習） 29. 第２部の復習 30. 韓国の文化に触れるⅠ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
以下の能力を養成し、知識を深める。 １ 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」 ２ 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」 ３ 韓国文化理解の初歩的知識		第一部は復習のみ。 第二部では、本文の翻訳、単語帳作成を指示する。
		準備学習(復習)
		毎回、学習内容から課題を指示する。 プリントを配布する場合もある。
受講者に対する要望		評価方法
韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。		(1) 定期試験 50% (2) 小テスト・提出物 30% (3) 授業態度 20%
学びのキーワード		教科書
・ハングル文字 ・韓国語の発音 ・韓国語文法 ・現代の韓国		溝口甲順 『アルギシウン韓国語』（白帝社）
		参考書

韓国語Ⅰ（初級A）		WLAG-O-126
担当教員： 溝口 カブスン		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301715		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。 文法については「助詞」に重点を置く。 また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。 講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。		01. 第1部 ハングル、「アリラン」の歌 02. 第1課 講義開始にあたって 03. 第2課 ハングルの覚えよう（母音） 04. 第2課 ハングルの覚えよう（子音） 05. 第2課 ハングルの覚えよう（練習） 06. 第3課 ハングルのまとめ（激音濃音） 07. 第3課 ハングルのまとめ（練習） 08. 第3課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記） 09. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説） 10. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習） 11. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認） 12. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説） 13. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習） 14. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認） 15. 第1部の総復習 16. 第2部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌 17. 第6課 私は中村です。（例文解説） 18. 第6課 私は中村です。（文法解説） 19. 第6課 私は中村です。（練習） 20. 第6課 私は中村です。（演習） 21. 第7課 故郷はどこですか。（例文解説） 22. 第7課 故郷はどこですか。（文法解説） 23. 第7課 故郷はどこですか。（練習） 24. 第7課 故郷はどこですか。（演習） 25. 第8課 お昼の約束がありますか。（例文解説） 26. 第8課 お昼の約束がありますか。（文法解説） 27. 第8課 お昼の約束がありますか。（練習） 28. 第8課 お昼の約束がありますか。（演習） 29. 第2部の復習 30. 韓国の文化に触れるⅠ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
以下の能力を養成し、知識を深める。 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」 3 韓国文化理解の初歩的知識		第一部は復習のみ。 第二部では、本文の翻訳、単語帳作成を指示する。
		準備学習(復習)
		毎回、学習内容から課題を指示する。 プリントを配布する場合もある。
受講者に対する要望		評価方法
韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。		(1) 定期試験 50% (2) 小テスト・提出物 30% (3) 授業態度 20%
学びのキーワード		教科書
・ハングル文字 ・韓国語の発音 ・韓国語文法 ・現代の韓国		溝口甲順 『アルギシウン韓国語』（白帝社）
		参考書

韓国語Ⅰ（初級Ａ）		WLAG-O-126
担当教員：金 娜玄		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修科目 単位： 2 コード： 11301716		
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。 文法については「助詞」に重点を置く。 また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。 講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。		01. 第１部 ハングル、「アリラン」の歌 02. 第１課 講義開始にあたって 03. 第２課 ハングルの覚えよう（母音） 04. 第２課 ハングルの覚えよう（子音） 05. 第２課 ハングルの覚えよう（練習） 06. 第３課 ハングルのまとめ（激音濃音） 07. 第３課 ハングルのまとめ（練習） 08. 第３課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記） 09. 第４課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説） 10. 第４課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習） 11. 第４課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認） 12. 第５課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説） 13. 第５課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習） 14. 第５課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認） 15. 第１部の総復習 16. 第２部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌 17. 第６課 私は中村です。（例文解説） 18. 第６課 私は中村です。（文法解説） 19. 第６課 私は中村です。（練習） 20. 第６課 私は中村です。（演習） 21. 第７課 故郷はどこですか。（例文解説） 22. 第７課 故郷はどこですか。（文法解説） 23. 第７課 故郷はどこですか。（練習） 24. 第７課 故郷はどこですか。（演習） 25. 第８課 お昼の約束がありますか。（例文解説） 26. 第８課 お昼の約束がありますか。（文法解説） 27. 第８課 お昼の約束がありますか。（練習） 28. 第８課 お昼の約束がありますか。（演習） 29. 第２部の復習 30. 韓国の文化に触れるⅠ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
以下の能力を養成し、知識を深める。 １ 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」 ２ 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」 ３ 韓国文化理解の初歩的知識		第一部は復習のみ。 第二部では、本文の翻訳、単語帳作成を指示する。
		準備学習(復習)
		毎回、学習内容から課題を指示する。 プリントを配布する場合もある。
受講者に対する要望		評価方法
韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。		(1) 定期試験 50% (2) 小テスト・提出物 30% (3) 授業態度 20%
学びのキーワード		教科書
・ ハングル文字 ・ 韓国語の発音 ・ 韓国語文法 ・ 現代の韓国		溝口甲順 『アルギシウン韓国語』（白帝社）
		参考書

韓国語II（初級B）

WLAG-O-127

担当教員：溝口 カブスン

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11301820

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

正確な発音に基づく反復指導をする。特に語彙を増やすことに重点を置く。
文法については「語尾変化」に力を入れ、韓国文化の紹介も行う。
授業は講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

(2) 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。
1 韓国語で簡単な会話をする能力
2 初歩的な文章を読むための「文法知識」
3 韓国文化理解のための基礎知識

受講者に対する要望

「韓国語I」の既履修者及び同程度の知識を持つ者を対象とする。
入門レベルに続き、初級レベルを完成させる。

学びのキーワード

- ・韓国語会話
- ・韓国語初級文法
- ・現代の韓国

授業計画

01. 韓国語Iの復習（文字と発音）
02. 韓国語Iの復習（発音の変化）
03. 韓国語Iの復習（文法事項）
04. 第9課 女友達といっしょに行きます。（例文解説）
05. 第9課 女友達といっしょに行きます。（文法解説）
06. 第9課 女友達といっしょに行きます。（練習）
07. 第9課 女友達といっしょに行きます。（演習）
08. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（例文解説）
09. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（文法解説）
10. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（練習）
11. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（演習）
12. 第3部 韓国旅行、「モダンアップル」の歌
13. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（例文解説）
14. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（文法解説1）
15. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（文法解説2）
16. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（練習）
17. 第12課 いくらですか。（例文解説）
18. 第12課 いくらですか。（文法解説1）
19. 第12課 いくらですか。（文法解説2）
20. 第12課 いくらですか。（練習）
21. 第13課 私はキムチチゲにします。（例文解説）
22. 第13課 私はキムチチゲにします。（文法解説1）
23. 第13課 私はキムチチゲにします。（文法解説2）
24. 第13課 私はキムチチゲにします。（練習）
25. 第14課 ここがオンドル部屋です。（例文解説）
26. 第14課 ここがオンドル部屋です。（文法解説1）
27. 第14課 ここがオンドル部屋です。（文法解説2）
28. 第14課 ここがオンドル部屋です。（練習）
29. 第3部の総復習
30. 韓国の文化に触れるII

準備学習(予習)

本文の翻訳、単語帳作成を指示する。
韓国語の日記作成。

準備学習(復習)

毎回、学習内容から課題を指示する。
プリントを配布する場合もある。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 定期試験 | 50% |
| (2) 小テスト・提出物 | 30% |
| (3) 授業態度 | 20% |

教科書

溝口甲順 『アルギシウン韓国語』（白帝社）

参考書

韓国語Ⅱ（初級Ｂ）

WLAG-O-127

担当教員：溝口 カプスン

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11301825

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

正確な発音に基づく反復指導をする。特に語彙を増やすことに重点を置く。
文法については「語尾変化」に力を入れ、韓国文化の紹介も行う。
授業は講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

(2) 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。
1 韓国語で簡単な会話をする能力
2 初歩的な文章を読むための「文法知識」
3 韓国文化理解のための基礎知識

受講者に対する要望

「韓国語Ⅰ」の既履修者及び同程度の知識を持つ者を対象とする。＜br /＞入門レベルに続き、初級レベルを完成させる。

学びのキーワード

- ・韓国語会話
- ・韓国語初級文法
- ・現代の韓国

授業計画

01. 韓国語Ⅰの復習（文字と発音）
02. 韓国語Ⅰの復習（発音の変化）
03. 韓国語Ⅰの復習（文法事項）
04. 第9課 女友達といっしょに行きます。（例文解説）
05. 第9課 女友達といっしょに行きます。（文法解説）
06. 第9課 女友達といっしょに行きます。（練習）
07. 第9課 女友達といっしょに行きます。（演習）
08. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（例文解説）
09. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（文法解説）
10. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（練習）
11. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（演習）
12. 第3部 韓国旅行、「モダンアップル」の歌
13. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（例文解説）
14. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（文法解説1）
15. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（文法解説2）
16. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（練習）
17. 第12課 いくらですか。（例文解説）
18. 第12課 いくらですか。（文法解説1）
19. 第12課 いくらですか。（文法解説2）
20. 第12課 いくらですか。（練習）
21. 第13課 私はキムチチゲにします。（例文解説）
22. 第13課 私はキムチチゲにします。（文法解説1）
23. 第13課 私はキムチチゲにします。（文法解説2）
24. 第13課 私はキムチチゲにします。（練習）
25. 第14課 ここがオンドル部屋です。（例文解説）
26. 第14課 ここがオンドル部屋です。（文法解説1）
27. 第14課 ここがオンドル部屋です。（文法解説2）
28. 第14課 ここがオンドル部屋です。（練習）
29. 第3部の総復習
30. 韓国の文化に触れるⅡ

準備学習(予習)

本文の翻訳、単語帳作成を指示する。＜br /＞韓国語の日記作成。

準備学習(復習)

毎回、学習内容から課題を指示する。＜br /＞プリントを配布する場合もある。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 定期試験 | 50% |
| (2) 小テスト・提出物 | 30% |
| (3) 授業態度 | 20% |

教科書

溝口甲順 『アルギシウン韓国語』（白帝社）

参考書

イタリア語I（初級A）

WLAG-O-122

担当教員：高津 美和

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11302100

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、イタリア語の初級文法を学び、簡単な日常会話と作文の練習を行います。教科書に加えてCDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、文法・会話・聴解・読解の能力をバランスよく習得することを目指します。

(2) 学びの意義と目標

日本に住んでいても、料理、美術、映画、サッカーなど、イタリアの様々な文化に触れる機会が多くあります。「イタリア語」を学ぶことで、魅力的なイタリアの文化をさらに身近に感じることができるでしょう。

受講者に対する要望

イタリア語だけでなくイタリアの文化にも関心のある人の受講を歓迎します。

学びのキーワード

- ・イタリア語
- ・イタリア

授業計画

01. ガイダンス
02. アルファベートと発音
03. 第1課：名詞と形容詞 (1)
04. 第1課：名詞と形容詞 (2)
05. 第1課：名詞と形容詞 (3)
06. 第1課：名詞と形容詞 (4)
07. 第2課：essereとavere (1)
08. 第2課：essereとavere (2)
09. 第2課：essereとavere (3)
10. 第2課：essereとavere (4)
11. 第3課：are動詞 (1)
12. 第3課：are動詞 (2)
13. 第3課：are動詞 (3)
14. 第3課：are動詞 (4)
15. 復習 (第1～3課)
16. まとめ
17. 第4課：ere動詞 (1)
18. 第4課：ere動詞 (2)
19. 第4課：ire動詞 (1)
20. 第4課：ire動詞 (2)
21. 第5課：piacere (1)
22. 第5課：piacere (2)
23. 第5課：piacere (3)
24. 第5課：piacere (4)
25. 第6課：不規則動詞 (1)
26. 第6課：不規則動詞 (2)
27. 第6課：再帰動詞 (1)
28. 第6課：再帰動詞 (2)
29. 復習 (第4～6課)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通し、疑問がある場合は授業中に質問できるように準備する。

準備学習(復習)

授業で学んだ新出単語や表現を暗記する。教科書付属のCDを聴いて発音練習する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 授業態度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

遠藤礼子 『Un piatto d' italianoイタリア語ひとさら』 (白水社)

参考書

イタリア語I（初級A）

WLAG-O-122

担当教員：高津 美和

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11302120

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、イタリア語の初級文法を学び、簡単な日常会話と作文の練習を行います。教科書に加えてCDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、文法・会話・聴解・読解の能力をバランスよく習得することを目指します。

(2) 学びの意義と目標

日本に住んでいても、料理、美術、映画、サッカーなど、イタリアの様々な文化に触れる機会が多くあります。「イタリア語」を学ぶことで、魅力的なイタリアの文化をさらに身近に感じることができるでしょう。

受講者に対する要望

イタリア語だけでなくイタリアの文化にも関心のある人の受講を歓迎します。

学びのキーワード

- ・イタリア語
- ・イタリア

授業計画

01. ガイダンス
02. アルファベートと発音
03. 第1課：名詞と形容詞 (1)
04. 第1課：名詞と形容詞 (2)
05. 第1課：名詞と形容詞 (3)
06. 第1課：名詞と形容詞 (4)
07. 第2課：essereとavere (1)
08. 第2課：essereとavere (2)
09. 第2課：essereとavere (3)
10. 第2課：essereとavere (4)
11. 第3課：are動詞 (1)
12. 第3課：are動詞 (2)
13. 第3課：are動詞 (3)
14. 第3課：are動詞 (4)
15. 復習 (第1～3課)
16. まとめ
17. 第4課：ere動詞 (1)
18. 第4課：ere動詞 (2)
19. 第4課：ire動詞 (1)
20. 第4課：ire動詞 (2)
21. 第5課：piacere (1)
22. 第5課：piacere (2)
23. 第5課：piacere (3)
24. 第5課：piacere (4)
25. 第6課：不規則動詞 (1)
26. 第6課：不規則動詞 (2)
27. 第6課：再帰動詞 (1)
28. 第6課：再帰動詞 (2)
29. 復習 (第4～6課)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通し、疑問がある場合には授業中に質問できるように準備する。

準備学習(復習)

授業で学んだ新出単語や表現を暗記する。教科書付属のCDを聴いて発音練習する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 授業態度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

遠藤礼子 『Un piatto d' italianoイタリア語ひとさら』 (白水社)

参考書

イタリア語II（初級B）

WLAG-O-123

担当教員：高津 美和

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修科目 単位：2 コード：11302200

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「イタリア語 I」に引き続き、イタリア語の初級文法を学び、会話・作文・読解の練習を行います。CDやDVDなどの視聴覚教材を活用することによって、聴解力の強化も目指します。

(2) 学びの意義と目標

「イタリア語 II」の履修によって、イタリア語の初級文法の習得が完了します。授業の後半には映画やアニメーションなども教材として取り上げる予定ですが、授業が進むにつれ、その内容をよく理解できるようになるでしょう。

受講者に対する要望

「イタリア語 I」を履修した学生の受講を望みます。

学びのキーワード

- ・イタリア語
- ・イタリア

授業計画

01. ガイダンス
02. 復習：名詞と形容詞
03. 復習：規則動詞（are動詞、ere動詞、ire動詞）
04. 復習：不規則動詞
05. 第7課：補助動詞（1）
06. 第7課：補助動詞（2）
07. 第7課：補助動詞（3）
08. 第7課：補助動詞（4）
09. 第7課：補助動詞（5）
10. 第8課：近過去（1）
11. 第8課：近過去（2）
12. 第8課：近過去（3）
13. 第8課：近過去（4）
14. 第8課：近過去（5）
15. 復習（第7～8課）
16. まとめ
17. 第9課：半過去（1）
18. 第9課：半過去（2）
19. 第9課：半過去（3）
20. 第9課：半過去（4）
21. 第10課：未来（1）
22. 第10課：未来（2）
23. 第10課：未来（3）
24. 第10課：未来（4）
25. 第11課：命令法（1）
26. 第11課：命令法（2）
27. 第11課：命令法（3）
28. 第11課：命令法（4）
29. 復習（第9～11課）
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通し、疑問がある場合には授業中に質問できるように準備する。

準備学習(復習)

授業で学んだ新出単語や表現を暗記する。教科書付属のCDを聴いて発音練習する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 授業態度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

遠藤礼子 『Un piatto d' italiano イタリア語ひとさら』（白水社）

参考書

日本語 1（調査・発表）A		WLAG-O-144
担当教員： 太田 ミュキ		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11311530
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. 講義ガイダンス、発音練習導入、自己紹介 02. ミニスピーチ①ー1「私の大切なもの」原稿作成・練習 03. ミニスピーチ①ー2「私の大切なもの」発表 04. キーボード入力練習 05. 発表1ー1「旅行に行くなら〇〇〇」導入、資料まとめ 06. 発表1ー2「旅行に行くなら〇〇〇」レジュメ作成 07. 発表1ー3「旅行に行くなら〇〇〇」原稿作成・練習 08. 発表1ー4「旅行に行くなら〇〇〇」発表 09. ミニスピーチ②「おもしろかったこと」原稿作成・練習・発表 10. 発表2ー1「こちらの方が〇〇〇」導入 11. 発表2ー2「こちらの方が〇〇〇」資料集め 12. 発表2ー2「こちらの方が〇〇〇」資料まとめ 13. 発表2ー3「こちらの方が〇〇〇」レジュメ作成 14. 発表2ー4「こちらの方が〇〇〇」原稿作成・練習 15. 発表2ー5「こちらの方が〇〇〇」練習・発表
(1) 内容		
大学の授業で必要な口頭発表の表現や、具体的に調査や発表をする方法について学ぶ。発音練習を行うとともに、日本語での発表に慣れるため、学期中に複数回スピーチや発表を行う。あるテーマについて各自調べた内容をまとめて発表したり、そこから自分で考えたことについて発表したりする。また、他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることも行い、発表用レジュメの書き方も併せて学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標		
日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。毎回、発音練習をすることで、日本語のリズムに慣れ親しみ、自律した学習が進められるよう導く。その後の大学での活動や就職活動・仕事上のプレゼンテーションの基本となる授業である。		
受講者に対する要望		
口頭発表のために、毎回発音練習（フレージング練習）をするので、積極的に参加すること。また、発表においては、自分の発表だけでなく、他の学生の発表をきちんと聞くことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。		
学びのキーワード		
・ 口頭発表 ・ 発音練習（フレージング練習） ・ 資料収集のしかた ・ レジュメの作成方法		
教科書		
プリントを配布する		
参考書		

日本語 1（調査・発表）A		WLAG-O-144
担当教員： 新井 智子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11311531
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
大学の授業で必要な口頭発表の表現や、具体的に調査や発表をする方法について学ぶ。発音練習を行うとともに、日本語での発表に慣れるため、学期中に複数回スピーチや発表を行う。あるテーマについて各自調べた内容をまとめて発表したり、そこから自分で考えたことについて発表したりする。また、他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることも行い、発表用レジュメの書き方も併せて学ぶ。		01. 講義ガイダンス、発音練習導入、自己紹介 02. ミニスピーチ①－1「私の大切なもの」原稿作成・練習 03. ミニスピーチ①－2「私の大切なもの」発表 04. キーボード入力練習 05. 発表1－1「旅行に行くなら〇〇〇」導入、資料まとめ 06. 発表1－2「旅行に行くなら〇〇〇」レジュメ作成 07. 発表1－3「旅行に行くなら〇〇〇」原稿作成・練習 08. 発表1－4「旅行に行くなら〇〇〇」発表 09. ミニスピーチ②「おもしろかったこと」原稿作成・練習・発表 10. 発表2－1「こちらの方が〇〇〇」導入 11. 発表2－2「こちらの方が〇〇〇」資料集め 12. 発表2－2「こちらの方が〇〇〇」資料まとめ 13. 発表2－3「こちらの方が〇〇〇」レジュメ作成 14. 発表2－4「こちらの方が〇〇〇」原稿作成・練習 15. 発表2－5「こちらの方が〇〇〇」練習・発表
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。毎回、発音練習をすることで、日本語のリズムに慣れ親しみ、自律した学習が進められるよう導く。その後の大学での活動や就職活動・仕事上のプレゼンテーションの基本となる授業である。		資料収集や発表原稿など、毎回なんらかの宿題が課されるので、きちんとこなすこと。自分の原稿は、何度も口頭練習をすること。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
口頭発表のために、毎回発音練習（フレージング練習）をするので、積極的に参加すること。また、発表においては、自分の発表だけでなく、他の学生の発表をきちんと聞くことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。		資料収集や発表原稿書きなど、毎回なんらかの宿題が課される。また、授業内で練習した「発音練習シート」を1日に10回程度、口頭練習すること。
学びのキーワード		評価方法
・ 口頭発表 ・ 発音練習(フレージング練習) ・ 資料収集のしかた ・ レジュメの作成方法		(1) 中間発表 30% (2) 期末発表 40% (3) 平常点（提出物・発音練習・ミニスピーチなど） 20% (4) 授業への参加度 10% * 欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。
		教科書
		プリントを配布する
		参考書

日本語 1（調査・発表）B		WLAG-O-145	
担当教員： 前川 孝子			
学期： 週間授		科目： 基礎科目	必修・選択： 選択科目
単位： 1		コード： 11311635	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		01. 講義ガイダンス、自己紹介 02. ミニスピーチ①「くらべてみましょう」原稿作成・練習・発表 03. 発表 1－1 「気になるニュース」 導入・資料探し 04. 発表 1－2 「気になるニュース」 資料まとめ 05. 発表 1－3 「気になるニュース」 レジュメ作成 06. 発表 1－4 「気になるニュース」 原稿作成・練習 07. 発表 1－5 「気になるニュース」 発表 08. ミニスピーチ②「わたしのストレス解消法」原稿作成・練習・発表 発表 2－1 「日本の〇〇〇」 導入 09. 図書館ツアー 10. 発表 2－2 「日本の〇〇〇」 資料集め 11. 発表 2－3 「日本の〇〇〇」 資料まとめ 12. 発表 2－4 「日本の〇〇〇」 レジュメ作成 13. 発表 2－5 「日本の〇〇〇」 原稿作成 14. 発表 2－6 「日本の〇〇〇」 練習 15. 発表 2－7 「日本の〇〇〇」 発表	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
大学の授業で必要な口頭発表の表現や、具体的に調査や発表をする方法について学ぶ。発音練習を行うとともに、日本語での発表に慣れるため、学期中に複数回スピーチや発表を行う。あるテーマについて各自調べた内容をまとめて発表したり、そこから自分で考えたことについて発表したりする。また、他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることも行い、発表用レジュメの書き方も併せて学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。毎回、発音練習をすることで、日本語のリズムに慣れ親しみ、自律した学習が進められるよう導く。その後の大学での活動や就職活動・仕事上のプレゼンテーションなどの口頭表現の基礎となる授業である。		資料収集や発表原稿など、毎回なんらかの宿題が課されるので、きちんとこなすこと。自分の原稿は、何度も口頭練習をすること。	
		準備学習(復習)	
		資料収集や発表原稿書きなど、毎回なんらかの宿題が課される。また、授業内で練習した「発音練習シート」を1日に10回程度、口頭練習すること。	
受講者に対する要望		評価方法	
口頭発表のために、毎回発音練習（フレージング練習）をするので、積極的に参加すること。また、発表においては、自分の発表だけでなく、他の学生の発表をきちんと聞くことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。		(1) 中間発表 30% (2) 期末発表 40% (3) 平常点（提出物・発音練習・ミニスピーチなど） 30%	
* 欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。			
学びのキーワード		教科書	
・ 口頭発表 ・ 発音練習(フレージング練習) ・ 資料収集のしかた ・ レジュメの作成方法		参考書	

日本語 1 (調査・発表) B

WLAG-0-145

担当教員：太田 ミユキ

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位：1 コード：11311636

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

大学の授業で必要な口頭発表の表現や、具体的に大調査や発表をする方法について学ぶ。発音練習を
行うとともに、日本語での発表に慣れるため、学
期中に複数回スピーチや発表を行う。あるテーマ
について各自調べた内容をまとめて発表したり、そ
こから自分で考えた発表を聞いて、質問したり、
意見を述べたりする。また、他の学生の発表用レ
ジューメの書き方も併せて学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。毎回、発音練習をすることで、日本語のリズムに慣れ親しみ、自律した学習が進められるよう導く。その後の大学での活動や就職活動・仕事上のプレゼンテーションなどの口頭表現の基礎となる授業である。

受講者に対する要望

口頭発表のために、毎回発音練習（フレージング練習）をするので、積極的に参加すること。また、発表においては、自分の発表だけでなく、他の学生の発表をきちんと聞くことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。

学びのキーワード

- ・口頭発表
- ・発音練習(フレージング練習)
- ・資料収集のしかた
- ・レジュメの作成方法

授業計画

01. 講義ガイダンス、自己紹介
02. ミニスピーチ①「くらべてみましょう」原稿作成・練習・発表
03. 発表１－１「気になるニュース」導入・資料探し
04. 発表１－２「気になるニュース」資料まとめ
05. 発表１－３「気になるニュース」レジュメ作成
06. 発表１－４「気になるニュース」原稿作成・練習
07. 発表１－５「気になるニュース」発表
08. ミニスピーチ②「わたしのストレス解消法」原稿作成・練習・発表|発表２－１「日本の〇〇〇」導入
09. 図書館ツアー
10. 発表２－２「日本の〇〇〇」資料集め
11. 発表２－３「日本の〇〇〇」資料まとめ
12. 発表２－４「日本の〇〇〇」レジュメ作成
13. 発表２－５「日本の〇〇〇」原稿作成
14. 発表２－６「日本の〇〇〇」練習
15. 発表２－７「日本の〇〇〇」発表

準備學習(予習)

資料収集や発表原稿など、毎回なんらかの宿題が課されるので、きちんとこなすこと。自分の原稿は、何度も口頭練習をすること。

準備學習(復習)

資料収集や発表原稿書きなど、毎回なんらかの宿題が課される。また、授業内で練習した「発音練習シート」を1日に10回程度、口頭練習すること。

評価方法

- | | |
|-----------------------------|-----|
| (1) 中間発表 | 30% |
| (2) 期末発表 | 40% |
| (3) 平常点 (提出物・発音練習・ミニスピーチなど) | 30% |

* 欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

参考書

日本語 1（文章表現）A		WLAG-O-146								
担当教員： 大熊 美佳										
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11311740								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業説明 02. 作文の基本（1） 03. 作文の基本（2） 04. 書き言葉の文体 05. 理由を考えて書いてみよう 06. 話し言葉から書き言葉へ 07. 理解度チェック 08. 理解度チェックのフィードバック 09. 文の構造(1) 10. 文の構造(2) 11. 文章のつながり(1) 12. 文章のつながり(2) 13. 段落(1) 14. 段落(2) 15. 総まとめ</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>大学で必要となるレポートや論文などの書き方を基礎から学ぶ。具体的には、構成を考え、日本語で600～800字の文章が書けることを目指す。そのために、まずは正確に一文が書けることから始め、レポートを書くための表現方法を学んでいく。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>予習箇所を指示するので、分からない言葉を辞典で調べ、授業に参加すること。</div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>大学での講義レポートや卒業論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけること。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>自分が書いたレポートが、それを読んでいる人にどのように伝わるのかを考えながら、課題に臨んでください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>課題を出すので、自分の言葉で丁寧に書き、提出すること。授業で作成した原稿や教師から添削された原稿をきちんと見直すこと。</div>									
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ レポート</div><div>・ 書く力</div><div>・ 表現力</div><div>・ 読み手意識</div><div>・ 客観的な書き方</div></div>	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 中間試験</td><td>20%</td></tr><tr><td>(2) 期末試験</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 宿題</td><td>30%</td></tr><tr><td>(4) 授業参加度</td><td>20%</td></tr></table> <div>欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。</div>		(1) 中間試験	20%	(2) 期末試験	30%	(3) 宿題	30%	(4) 授業参加度	20%
	(1) 中間試験	20%								
(2) 期末試験	30%									
(3) 宿題	30%									
(4) 授業参加度	20%									
	<div>教科書</div> <div>友松悦子 『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）</div> <div>参考書</div>									

担当教員： 前川 孝子

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 11311741

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

大学で必要となるレポートや論文などの書き方を基礎から学ぶ。具体的には、構成を考え、日本語で600～800字の文章が書けることを目指す。そのために、まずは正確に一文が書けることから始め、レポートを書くための表現方法を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

大学での講義レポートや卒業論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけること。

受講者に対する要望

自分が書いたレポートが、それを読んでいる人にどのように伝わるのかを考えながら、課題に臨んでください。

学びのキーワード

- ・ レポート
- ・ 書く力
- ・ 表現力
- ・ 読み手意識
- ・ 客観的な書き方

授業計画

01. 授業説明
02. 作文の基本 (1)
03. 作文の基本 (2)
04. 書き言葉の文体
05. 理由を考えて書いてみよう
06. 話し言葉から書き言葉へ
07. 理解チェック
08. 理解チェックのフィードバック
09. 文の構造 (1)
10. 文の構造 (2)
11. 文章のつながり (1)
12. 文章のつながり (2)
13. 段落 (1)
14. 段落 (2)
15. 総まとめ

準備学習(予習)

予習箇所を指示するので、分からない言葉を辞典で調べ、授業に参加すること。

準備学習(復習)

課題を出すので、自分の言葉で丁寧に書き、提出すること。
授業で作成した原稿や教師から添削された原稿をきちんと見直すこと。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 中間試験 | 20% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 宿題 | 30% |
| (4) 授業参加度 | 20% |

欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

友松悦子 『小論文への12のステップ』 (スリーエーネットワーク)

参考書

日本語 1（文章表現）B		WLAG-O-147								
担当教員： 内藤 みち										
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11311845								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、表記・文体、スピーチのテーマを考える。 02. 表記・文体②、スピーチのテーマを決める。 03. スピーチに向けての小発表、スピーチ原稿を書く① 04. スピーチ原稿①を書き直す① 05. スピーチ原稿を書く② 06. スピーチ原稿②を書き直す② 07. スピーチ原稿を書く（まとめ） 08. 理解度チェック 09. レポートの書き方（目的） 10. レポートの書き方（引用） 11. レポートの書き方（出典） 12. 意見を述べる（賛成意見） 13. 意見を述べる（反対意見） 14. レポートの書き方（まとめ） 15. 総まとめ</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、日本語を母語としない外国人留学生が講義レポートを日本語で書けるようになるための基礎力を養成するものである。学生自身の文章作成とともに、日本語の文章の特徴を学習しする。学期前半は、大学で開催される日本語の弁論大会に向けての文章作成を文章を書くに必要なルールを学びつつおしすすめる。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>大学での講義やレポート、更に就職活動や卒業論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけることを学びの目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>予習箇所を指示するので、きちんと丁寧に勉強してくること。</div>								
		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎時間、課題を出すため、きちんと丁寧に課題に取り組むこと。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>「ただ書く」のではなく、「学んだことを生かす」ことを念頭においてほしい。誤用を自身で気づき直せるようにする。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>25%</td></tr><tr><td>(2) 課題</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 中間試験</td><td>25%</td></tr><tr><td>(4) 期末試験</td><td>25%</td></tr></table> <div>多少%が変更されることもある。授業の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とならない。</div>	(1) 授業への参加度	25%	(2) 課題	25%	(3) 中間試験	25%	(4) 期末試験	25%
(1) 授業への参加度	25%									
(2) 課題	25%									
(3) 中間試験	25%									
(4) 期末試験	25%									
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・日本語</div><div>・文章表現力</div><div>・日本語弁論大会</div><div>・表現力</div><div>・思考力</div></div>		<div>教科書</div> <div>初回の授業で紹介する。</div> <div>参考書</div>								

日本語 1（文章表現）B		WLAG-O-147
担当教員： 大熊 美佳		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11311846
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション、表記・文体、スピーチのテーマを考える。 02. 表記・文体②、スピーチのテーマを決める。 03. スピーチに向けての小発表、スピーチ原稿を書く① 04. スピーチ原稿①を書き直す① 05. スピーチ原稿を書く② 06. スピーチ原稿②を書き直す② 07. スピーチ原稿を書く（まとめ） 08. 理解度チェック 09. レポートの書き方（目的） 10. レポートの書き方（引用） 11. レポートの書き方（出典） 12. 意見を述べる（賛成意見） 13. 意見を述べる（反対意見） 14. レポートの書き方（まとめ） 15. 総まとめ
(1) 内容		
本講義は、日本語を母語としない外国人留学生が講義レポートを日本語で書けるようになるための基礎力を養成するものである。学生自身の文章作成とともに、日本語の文章の特徴を学習しする。学期前半は、大学で開催される日本語の弁論大会に向けての文章作成を文章を書くに必要なルールを学びつつおしすすめる。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
大学での講義やレポート、更に就職活動や卒業論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけることを学びの目標とする。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
「ただ書く」のではなく、「学んだことを生かす」ことを念頭においてほしい。誤用を自身で気づき直せるようにする。		
学びのキーワード		評価方法
・日本語 ・文章表現力 ・日本語弁論大会 ・表現力 ・思考力		(1) 授業参加度 25%
		(2) 課題 25%
		(3) 中間試験 25%
		(4) 期末試験 25%
		多少%が変更されることもある。授業の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とならない。
		教科書
		初回の授業で紹介する。
		参考書

日本語 1（基礎文法）A		WLAG-O-136
担当教員：李 テイ		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11311911
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. オリエンテーション、チェックテスト 02. 1-1 「てある」「ている」 03. 1-2 「ておく」「てみる」「てしまう」 04. 1-3 「ていく」「てくる」 05. 2-1 受給表現「てあげる」 06. 2-2 受給表現「てもらう」 07. 2-3 受給表現「てあげる」 08. 理解度チェック、3 「くなる」「ようになる」「くする」「ようにする」 09. 4-1 様態の「そうだ」と伝聞の「そうだ」 10. 4-2 「ようだ」「みたいだ」「らしい」 11. 5-1 条件表現「と」「ば」 12. 5-2 条件表現「たら」「なら」 13. 6-1 敬語その一 14. 6-2 敬語その二 15. 総まとめ
基礎文法の復習を通して、より高度な理解力と表現力を身につける。 ① 異なる文脈における基礎文法の理解度を高める。 ② 用法練習を通して、基礎文法の習熟度を高める。 ③ 具体的な文脈において自分にとって意義のあることを語り、表現力を高める。 ④ 定期的に既習文法の小テストを行い、定着度を確認する。		
(2) 学びの意義と目標		
日本語を母語としない留学生のための授業。聴解と基礎文法を組み合わせ、文法の定着のみならず、異なる文脈における文法の理解力、具体的な文脈における文法の表現力を向上させることで、コミュニケーション能力の養成を目的とする。		準備学習(予習)
		次の週に行う授業のプリントを渡すので、事前学習をしておくこと。
		準備学習(復習)
		習ったところは復習すること。課が終わるごとに復習テストを行う。習った文法項目を使った作文を課することがある。
		評価方法
		(1) 中間テスト 20% (2) 期末テスト 30% (3) 小テスト及び宿題 30% (4) 授業への参加度 20%
		欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。
受講者に対する要望		教科書
積極的に授業に参加してもらいたい。		
学びのキーワード		
・日本語の文法 ・基礎文法 ・文脈 ・理解力 ・表現力		プリントを配布する
		参考書

日本語 1 (基礎文法) B		WLAG-O-137								
担当教員： 李 テイ										
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11312013								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、チェックテスト</div> <div>02. 1-1 受け身</div> <div>03. 1-2 使役</div> <div>04. 1-3 受け身使役</div> <div>05. 2 命令形</div> <div>06. 3 「のは」「のが」「のを」</div> <div>07. 理解度チェック、 4 「から」「ので」「のに」</div> <div>08. 5-1 「はずだ」「べきだ」その一</div> <div>09. 5-2 「はずだ」「べきだ」その二</div> <div>10. 5-3 「なければならない」「なくてはいけない」</div> <div>11. 6-1 「のだ」その一</div> <div>12. 6-2 「のだ」その二</div> <div>13. 7-1 「わけだ」その一</div> <div>14. 7-2 「わけだ」その二</div> <div>15. 総まとめ</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>基礎文法Aと平行して、基礎文法の復習を通して、より高度な理解力と表現力を身につける。</div> <div>① 異なる文脈における基礎文法の理解度を高める。</div> <div>② 用法練習を通して、基礎文法の習熟度を高める。</div> <div>③ 具体的な文脈において自分にとって意義のあることを語り、表現力を高める。</div> <div>④ 定期的に既習文法の小テストを行い、定着度を確認する。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語を母語としない留学生のための授業。聴解と基礎文法を組み合わせ、文法の定着のみならず、異なる文脈における文法の理解力、具体的な文脈における文法の表現力を向上させることで、コミュニケーション能力の養成を目的とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>次の週に行う授業のプリントを渡すので、事前学習をしておくこと。</div>								
		<div>準備学習(復習)</div> <div>習ったところは復習すること。課が終わるごとに復習テストを行う。習った文法項目を使った作文を課することがある。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加してもらいたい。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 中間テスト</td><td>20%</td></tr><tr><td>(2) 期末テスト</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 小テストおよび宿題</td><td>30%</td></tr><tr><td>(4) 授業への参加度</td><td>20%</td></tr></table> <div>欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。</div>	(1) 中間テスト	20%	(2) 期末テスト	30%	(3) 小テストおよび宿題	30%	(4) 授業への参加度	20%
(1) 中間テスト	20%									
(2) 期末テスト	30%									
(3) 小テストおよび宿題	30%									
(4) 授業への参加度	20%									
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・日本語の文法</div><div>・基礎文法</div><div>・文脈</div><div>・理解力</div><div>・表現力</div></div>		<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div> <div>参考書</div>								

日本語 1（表現文型）A		WLAG-O-138								
担当教員： 内藤 みち										
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11312116								
<div>学部教育の関連目</div> <p>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</p>		<div>授業計画</div> <p>01. ガイダンス、実力テスト 02. N2レベル文法1課① 03. N2レベル文法1課② 04. N2レベル文法2課① 05. N2レベル文法2課② 06. N2レベル文法3課① 07. N2レベル文法3課② 08. まとめ 09. 理解度チェック 10. 理解度チェックのフィードバック 11. N2レベル文法4課① 12. N2レベル文法4課② 13. N2レベル文法5課① 14. N2レベル文法5課② 15. 総まとめ</p>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <p>1. 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。 2. 日本語能力試験N3、N2レベルの文法項目を学習する。 3. 短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。 4. 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。 5. 課ごとに文法の確認の小テストを行う。 6. 中間試験と期末試験を行う。</p>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>1. 外国人留学生のための授業で大学の講義を受ける上での不可欠な、四技能の基礎である文法能力の養成のためのものである。 2. 大学で講義を受けレポートを書くために必要な基礎的な日本語の文法力の向上とその定着を目指す。</p>		<div>準備学習(予習)</div> <p>・ 予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておく。
</p>								
<div>受講者に対する要望</div> <p>N2レベルの文型は実際の大学の授業やレポート作成によく使われるものが多いので、しっかり学習し身につけてほしい。</p>		<div>準備学習(復習)</div> <p>・ 復習クイズに備え復習をしておく。</p>								
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 中間テスト</td><td>25%</td></tr><tr><td>(2) 期末テスト</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 復習クイズ・宿題・短文作成</td><td>30%</td></tr><tr><td>(4) クラスワーク</td><td>20%</td></tr></table> <p>多少%が変更されることもある。欠席が3分の1を超える場合は、評価の対象とならない。</p>	(1) 中間テスト	25%	(2) 期末テスト	25%	(3) 復習クイズ・宿題・短文作成	30%	(4) クラスワーク	20%
		(1) 中間テスト	25%							
(2) 期末テスト	25%									
(3) 復習クイズ・宿題・短文作成	30%									
(4) クラスワーク	20%									
<div>学びのキーワード</div> <p>・ 表現文型 ・ N2レベルの文型 ・ 短文作成 ・ 読解力 ・ 語彙力</p>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>								

日本語 1（表現文型）B		WLAG-O-139								
担当教員： 内藤 みち										
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11312218								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス・実力テスト</div> <div>02. N2レベル文法 6 課①</div> <div>03. N 2 レベル文法 6 課②</div> <div>04. N2レベル文法7課①</div> <div>05. N2レベル文法7課②</div> <div>06. N2レベル文法8課①</div> <div>07. N2レベル文法8課②</div> <div>08. まとめ</div> <div>09. 中間試験</div> <div>10. 中間試験のフィードバック</div> <div>11. N2レベル文法9課①</div> <div>12. N2レベル文法8課②</div> <div>13. N2レベル文法9課①</div> <div>14. N2レベル文法9課②</div> <div>15. 総まとめ</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>1. 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。</div> <div>2. 日本語能力試験N3、N2レベルの文法項目を学習する。</div> <div>3. 短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。</div> <div>4. 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。</div> <div>5. 課ごとに文法の確認の小テストを行う。</div> <div>6. 中間試験と期末試験を行う。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 外国人留学生のための授業で大学の講義を受ける上での不可欠な、四技能の基礎である文法能力の養成のためのものである。</div> <div>2. 大学で講義を受けレポートを書くために必要な基礎的な日本語の文法力の向上とその定着を目指す。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>・ 予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておく。
</div>									
	<div>準備学習(復習)</div> <div>・ 復習クイズに備え復習をしておく。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>N2レベルの文型は実際の大学の授業やレポート作成によく使われるものが多いので、しっかり学習し身につけてほしい。</div>	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 中間テスト</td><td>25%</td></tr><tr><td>(2) 期末テスト</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 復習クイズ・宿題・短文作成</td><td>30%</td></tr><tr><td>(4) クラスワーク</td><td>20%</td></tr></table> <div>多少%が変更されることもある。欠席が3分の1を超える場合は、評価の対象とならない。</div>		(1) 中間テスト	25%	(2) 期末テスト	25%	(3) 復習クイズ・宿題・短文作成	30%	(4) クラスワーク	20%
(1) 中間テスト	25%									
(2) 期末テスト	25%									
(3) 復習クイズ・宿題・短文作成	30%									
(4) クラスワーク	20%									
<div>学びのキーワード</div> <div>・ N3レベルの文型</div> <div>・ N2レベルの文型</div> <div>・ 短文作成</div> <div>・ 文法力の向上と定着</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div>									

日本語 1 (総合) A		WLAG-O-140									
担当教員： 太田 ミユキ											
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11312320									
<div>学部教育の関連目</div> <p>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</p>		<div>授業計画</div> <p>01. 授業概要、文体の導入、自己紹介文作成 02. 読解「心のバリアフリー」① 03. 読解「心のバリアフリー」② 04. 音声言語理解「富士山」 クイズ1「心のバリアフリー」 05. 読解「30代ビジネスマン「心の病」を考える」① クイズ2「富士山」 06. 読解「30代ビジネスマン「心の病」を考える」② 07. 音声言語理解「信号の話」 クイズ3「30代ビジネスマン「心の病」 08. 読解導入① 理解チェック 09. 読解「少女マンガ家ぐらしへ」② 10. 読解「少女マンガ家ぐらしへ」③ 11. 音声言語理解「水族館」 クイズ4「少女マンガ家ぐらしへ」 12. 読解「緑のカーテン」① クイズ5「水族館」 13. 読解「緑のカーテン」② 14. 音声言語理解「失敗学」クイズ6「緑のカーテン」 15. 総まとめ</p>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>(1) 内容</div> <p>主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。</p>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>大学での学習に必要な日本語力を身につけるためにその基礎力の定着向上をはかる。</p>		<div>準備学習(予習)</div> <p>各読解教材に入る前には、必ずその課の読み物を各自で読み、語彙の意味や文型を調べ、内容把握をする。</p>									
		<div>準備学習(復習)</div> <p>一つの内容が終了後、語彙や表現、文法内容につ授業概要、チェックテストいての復習テストを行うのでよく復習すること。また、文章を音読して内容を確認すること。</p>									
<div>受講者に対する要望</div> <p>語彙の意味や漢字などの予習を十分に行い、積極的に授業に参加すること。</p>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 中間試験</td><td>20%</td></tr><tr><td>(2) 期末試験</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) 復習クイズ (漢字・語彙・文法など)</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) クラスワーク (提出物・授業参加度など)</td><td>20%</td></tr></table> <p>上記項目の総合評価による。＊欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。</p>		(1) 中間試験	20%	(2) 期末試験	40%	(3) 復習クイズ (漢字・語彙・文法など)	20%	(4) クラスワーク (提出物・授業参加度など)	20%
(1) 中間試験	20%										
(2) 期末試験	40%										
(3) 復習クイズ (漢字・語彙・文法など)	20%										
(4) クラスワーク (提出物・授業参加度など)	20%										
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none">・ 日本語力・ 日本語読解力・ 日本語聴解力・ 基礎日本語力		<div>教科書</div> <p>奥田純子監修 『読む力 中級』 (くろしお出版)</p> <div>参考書</div>									

日本語 1（総合）B		WLAG-O-142
担当教員：李 テイ		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11312525
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. 授業概要、チェックテスト 02. 読解「「早朝時間」のフル活用で成功した人たち」① 03. 読解「「早朝時間」のフル活用で成功した人たち」② 04. 音声言語理解「ゴリラの食事」 05. 読解「環境立国ニッポンの挑戦」① 06. 読解「環境立国ニッポンの挑戦」② 07. 音声言語理解「失敗学」 08. 理解度チェック 09. 読解「渡り鳥はなぜ迷わない？」① 10. 読解「渡り鳥はなぜ迷わない？」② 11. 音声言語理解「からくり人形」 12. 読解「フリーズする脳」① 13. 読解「フリーズする脳」② 14. 音声言語理解「長寿の理由」 15. まとめ
主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。		
(2) 学びの意義と目標		
大学での学習に必要な日本語力を身につけるためにその基礎力の定着向上をはかる。		準備学習(予習)
		読解文章の、新しい語彙や表現を調べておくこと。また、文法など分からないことを明確にしておくこと。
		準備学習(復習)
		一つの内容が終了後、語彙や表現、文法内容についての復習テストを行うのでよく復習すること。また、文章を音読して内容を確認すること。
受講者に対する要望		評価方法
予習・復習をして、積極的に授業に参加すること。		
学びのキーワード		教科書
・日本語読解力 ・日本語聴解力 ・基礎日本語力		参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11321111

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本語非母語話者を対象に実施されている日本語能力試験N1の文法を総復習する。普段、あまり目にするものがない文法・文型・語彙が多いが、硬い文章や小説等の読解等では必要になるものであるため、実例を見ながら、その使われ方を確認する。

(2) 学びの意義と目標

日本語能力試験N1合格を目指すだけでなく、その学びの過程で、さまざまなジャンルで用いられる日本語に触れ、幅広い日本語に対応できる能力を身に付けることを目標とする。

受講者に対する要望

文の文法（1課から8課）の文法事項に関する自学習課題を適宜与える。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 文の文法
- ・ 日本語能力試験
- ・ N1
- ・ 文法形式の整理

授業計画

01. ガイダンス・模擬試験
02. 動詞の意味に着目 1－1
03. 動詞の意味に着目 1－2
04. 動詞の意味に着目 2
05. 古い言葉をつかった言い方
06. 「もの・こと・ところ」を使った言い方
07. 助詞・複合動詞
08. 文法的性質の整理
09. テスト（1）
10. フィードバック
11. 文の組み立て-1 決まった形
12. 文の組み立て-2 名詞を説明する形式
13. 文の組み立て-3 接続に注意
14. テスト（2）
15. フィードバック

準備学習(予習)

課題を与える。

準備学習(復習)

授業で学んだことに関連する復習課題を与える。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業参加度 | 25% |
| (2) 試験（1） | 25% |
| (3) 試験（2） | 25% |
| (4) 課題（宿題） | 25% |
| (5) 課題（授業内） | 25% |

教科書

友松悦子・福島佐知・中村 かおり（2011）『新完全マスター 文法 日本語能力試験N1』スリーエーネットワーク

参考書

日本語 2 (文法) B		WLAG-O-149									
担当教員： 黒崎 佐仁子											
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11321216									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 模擬試験 02. 時制 03. 条件を表す文 04. 視点を動かさない手段 1 05. 視点を動かさない手段 2 06. 視点を動かさない手段 3 07. 視点を動かさない手段 4 08. テスト（１） 09. フィードバック 10. 指示表現「こ・そ・あ」の使い分け 11. 「は・が」の使い分け 12. 接続表現、省略・繰り返し、言い換え 13. 文体の一貫性、話の流れを考える 14. テスト（２） 15. フィードバック</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>日本語非母語話者を対象に実施されている日本語能力試験N1の文法を総復習する。普段、あまり目にする事のない文法・文型・語彙が多いが、硬い文章や小説等の読解等では必要になるものであるため、実例を見ながら、その使われ方を確認する。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語能力試験N1合格を目指すだけでなく、その学びの過程で、さまざまなジャンルで用いられる日本語に触れ、幅広い日本語に対応できる能力を身に付けることを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題を与える</div>										
<div>受講者に対する要望</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだことに関連する課題を与える。</div>										
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業参加度</td><td>25%</td></tr><tr><td>(2) テスト（１）</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) テスト（２）</td><td>25%</td></tr><tr><td>(4) 課題（宿題）</td><td>25%</td></tr><tr><td>(5) 課題（授業内）</td><td>25%</td></tr></table> <div>文の文法（１課から20課）の文法事項に関する自学習課題を適宜与える。</div>		(1) 授業参加度	25%	(2) テスト（１）	25%	(3) テスト（２）	25%	(4) 課題（宿題）	25%	(5) 課題（授業内）
(1) 授業参加度	25%										
(2) テスト（１）	25%										
(3) テスト（２）	25%										
(4) 課題（宿題）	25%										
(5) 課題（授業内）	25%										
<div>学びのキーワード</div> <div><div><div>・ 日本語</div><div>・ 日本語能力試験</div><div>・ N1</div><div>・ 文法</div><div>・ 文章</div></div></div>	<div>教科書</div> <div>友松悦子・福島佐知・中村かおり（2011）『新完全マスター 文法 日本語能力試験N1』 スリーエーネットワーク</div> <div>参考書</div>										

日本語 2 (調査・発表) A		WLAG-O-154								
担当教員： 前川 孝子										
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11321530								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業説明・自己紹介と関心事について〔小発表①〕 02. 調査計画〔小発表②〕 03. 図書館オリエンテーション 04. アンケート作成① 05. アンケート作成② 06. アンケート作成③とインタビューの仕方 07. 図形の説明の仕方 08. 発表の構成と表現〔小発表③〕 09. 発表原稿作り① 10. 発表原稿作り② 11. レジューメの作り方、質疑応答の仕方〔小発表④〕 12. レジューメ作り① 13. レジューメ作り②と最終発表の練習 14. 最終発表① 15. 最終発表②、課題提出</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>大学の授業・演習に必要な基礎的な発表方法を学ぶ。内容は、アンケート調査をしてその結果を発表するものである。具体的には、あるテーマについてアンケート内容を考え、アンケート調査を実施し、その結果を集計・分析して発表原稿を作成し発表する。また、発音練習を行うとともに、日本語での発表に慣れるため、学期中に複数回の小発表を行う。他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることも行い、発表用レジューメの書き方も併せて学ぶ。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>大学の演習での発表に自信を持って臨めるような日本語でのプレゼンテーションの基礎能力を身につけること。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>資料収集や発表原稿の作成など、毎回なんらかの宿題が課されるので、ていねいに予習をすること。 自分の原稿は、何度も声に出して読む練習をすること。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>口頭発表のために、発音練習をするので、積極的に参加してください。 自分が発表したプレゼンテーションが、それを聞いている人にどのように伝わるのかを考えながら、課題に取り組んでください。 また、発表では、他の学生の発表をきちんと聞くことも大切なので、「白い聞き手」になる努力をお願いします。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で作成した原稿や教師から添削された原稿をきちんと見直すこと。 また、授業内で練習した「発音練習シート」を1日に10回程度、口頭練習すること。</div>									
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 期末発表</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 小発表</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 課題提出</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 授業参加度</td><td>20%</td></tr></table> <div>欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。</div>		(1) 期末発表	40%	(2) 小発表	20%	(3) 課題提出	20%	(4) 授業参加度	20%
	(1) 期末発表	40%								
(2) 小発表	20%									
(3) 課題提出	20%									
(4) 授業参加度	20%									
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・発音練習</div><div>・アンケート調査</div><div>・レジューメの作成方法</div><div>・発表の仕方</div><div>・質問の仕方</div></div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>									

単位：1 コード：11321531

参考書

日本語 2 (調査・発表) B

WLAG-0-155

担当教員： 岡村 佳代

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11321635

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

口面す練、場習をく、にな練「いい」特ク「返す」すミるれば指デス振伸を力考「伸を力考」力アを長アを伸う表め話力行「とで語にな本心う「本日本中よ」日のをる、の生成長す、の育で踐が留の応実な部力対「し学能も」返頭になるり

(2) 学びの意義と目標

に觀のれ
らをとら
さか、え
さ、るし考
え、直ら
考てめ自
をしつを
か現見か
る表をる。
すに語であ
現う本で
表よ日要標
にの必目
うど分がが
よが自習と
の者、学こ
と語で語る
ら語と本な
な母こ日に
分語るなう
自本すうよ
日察よる

受講者に対する要望

遅刻や欠席をしないようにし授業に積極的に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・話す
- ・書く
- ・まとめる
- ・インタビューする
- ・報告する

授業計画

- | | | | | | |
|-----|------------|--------------|------|----|------|
| 01. | オリエンテーション | | | | |
| 02. | 見たことを報告する | | | | |
| 03. | 聞いたことを報告する | | | | |
| 04. | 課題1 | 準備 | 練習 | | |
| 05. | 課題1 | 調査1 | | | |
| 06. | 課題1 | 報告書の作成 | | | |
| 07. | 課題1 | 報告会 | 課題2 | 準備 | 練習 |
| 08. | 課題2 | 調査2 | | | |
| 09. | 課題2 | 報告書の作成 | | | |
| 10. | 課題2 | 報告会 | | | |
| 11. | 課題3 | プロジェクトの構想を練る | | | 原稿作成 |
| 12. | 課題3 | 原稿作成 | 予行練習 | | |
| 13. | 課題3 | プロジェクトの実施 | | | |
| 14. | 課題3 | 報告書の作成 | | | |
| 15. | 課題3 | 発表会 | | | |

準備學習(予習)

発表のための準備などは、宿題となることがある。

準備學習(復習)

インタビュー等の終了後には、レポートなどの提出を求める。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 発表 | 30% |
| (2) 提出物 | 30% |
| (3) 平常点 | 40% |

学期中の欠席率が15回授業の1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員：内藤 みち

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11321636

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

学部留学生の日本語力伸長を目指す。特に、口頭能力の育成を中心に行う。アカデミックな場面にも対応できるような「表現を考える」「練習する」「実践する」「まとめる」「振り返る」を繰り返しながら、日本語で話す力を伸ばしていく。

(2) 学びの意義と目標

自分ならどのように表現するかを考え、さらに日本語母語話者がどのように表現しているかを観察することで、自分の日本語を見つめ直し、どのような日本語学習が必要であるかを自ら考えられるようになることが目標である。

受講者に対する要望

遅刻や欠席をしないようにし授業に積極的に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・話す
- ・書く
- ・まとめる
- ・インタビューする
- ・報告する

授業計画

01. オリエンテーション
02. 見たことを報告する
03. 聞いたことを報告する
04. 課題 1 準備 練習
05. 課題 1 調査 1
06. 課題 1 報告書の作成
07. 課題 1 報告会 課題 2 準備 練習
08. 課題 2 調査 2
09. 課題 2 報告書の作成
10. 課題 2 報告会
11. 課題 3 プロジェクトの構想を練る 原稿作成
12. 課題 3 原稿作成 予行練習
13. 課題 3 プロジェクトの実施
14. 課題 3 報告書の作成
15. 課題 3 発表会

準備学習(予習)

発表のための準備などは、宿題となることがある。

準備学習(復習)

インタビュー等の終了後には、レポートなどの提出を求める。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 発表 | 30% |
| (2) 提出物 | 30% |
| (3) 平常点 | 40% |

学期中の欠席率が15回授業の1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11321740

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

前半では、日本語学習者の文章に多く見られる文法の間違いを取り上げ、集中的に練習し、ミスのない正確な文章が書けるようにする。後半では、まとまった文章を書く練習を行う。

(2) 学びの意義と目標

大学生活の中では、レポートや卒業論文などの執筆が要求される。この授業は、レポート作成や卒業論文執筆の際に必要な日本語での「書く力」の養成を目標としている。

受講者に対する要望

積極的な態度で授業に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・レポート
- ・文章表現力
- ・文体
- ・文法・文型
- ・語彙

授業計画

01. オリエンテーション、作文
02. 文体・表記①
03. 引用文の書き方
04. 出典の書き方
05. 意見を述べる
06. 「はじめに」の書き方
07. 理解度チェック
08. 理解度チェックのフィードバック
09. レポートの基本的な書き方 意見と事実 (1)
10. レポートの基本的な書き方 意見と事実 (2)
11. レポートの基本的な書き方 意見と事実 (3)
12. レポートフォーム
13. 注・注の付け方
14. 「おわりに」の書き方
15. 総まとめ

準備学習(予習)

予習プリントを配布する。

準備学習(復習)

復習プリントおよび課題(宿題)を配布する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 中間テスト | 25% |
| (2) 期末テスト | 25% |
| (3) 宿題・提出物 | 30% |
| (4) 授業への参加度 | 20% |

多少%が変更されることもある。3分の1を超えての欠席は授業成績対象とはならない。

教科書

初回の授業で紹介する。

参考書

担当教員： 内藤 みち

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 11321741

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

前半では、日本語学習者の文章に多く見られる文法の間違いを取り上げ、集中的に練習し、ミスのない正確な文章が書けるようにする。後半では、まとまった文章を書く練習を行う。

(2) 学びの意義と目標

大学生活の中では、レポートや卒業論文などの執筆が要求される。この授業は、レポート作成や卒業論文執筆の際に必要な日本語での「書く力」の養成を目標としている。

受講者に対する要望

積極的な態度で授業に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・ レポート
- ・ 文章表現力
- ・ 文体
- ・ 文法・文型
- ・ 語彙

授業計画

01. オリエンテーション、作文
02. 文体・表記①
03. 引用文の書き方
04. 出典の書き方
05. 意見を述べる
06. 「はじめに」の書き方
07. 理解度チェック
08. 理解度チェックのフィードバック
09. レポートの基本的な書き方 意見と事実 (1)
10. レポートの基本的な書き方 意見と事実 (2)
11. レポートの基本的な書き方 意見と事実 (3)
12. レポートフォーム
13. 注・注の付け方
14. 「おわりに」の書き方
15. 総まとめ

準備学習(予習)

予習プリントを配布する。

準備学習(復習)

復習プリントおよび課題(宿題)を配布する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 中間テスト | 25% |
| (2) 期末テスト | 25% |
| (3) 宿題・提出物 | 30% |
| (4) 授業への参加度 | 20% |

多少%が変更されることもある。3分の1を超えての欠席は授業成績対象とはならない。

教科書

初回の授業で紹介する。

参考書

日本語 2 (文章表現) B		WLAG-O-157	
担当教員： 太田 ミユキ			
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11321845	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		01. オリエンテーション、オリエンテーション、さまざまな表記、課題1：自己紹介（200字） 02. 書き言葉 03. 段落分け、課題2：3段落構成で作文を書く（400字） 04. は」と「が」の使い方、課題3：私の国の有名人（400字） 05. アカデミックライティングの入門①、課題4：栄養食品（200字） 06. アカデミックライティングの入門② 07. 400～500字で記述する①、課題5：スマートフォン（400字） 08. 理解チェック 09. 400～500字で記述する② 10. 理解チェックのフィードバック、記述③ 11. 引用、課題6：引用を用いた作文（300字） 12. 小論文①-1資料を読む 13. 小論文①-2課題7：参考資料を引用する（800～1000字） 14. 小論文②課題8：グラフを引用する（800～1000字） 15. 総まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
前半では、適切な表現の選び方やわかりやすい文章の書き方、基本的なレポートの構成について学ぶ。後半では、より複雑な内容を整理し、他の文献や資料から引用してわかりやすく書く技術を学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標			
大学生活では、レポートや卒業論文の執筆が課せられる。この授業では、レポート作成や卒業論文執筆に必要な日本語の「書く力」の伸長を目指し、最終的には他の文献から引用しながら1000字程度の小論文の作成を目指す。		準備学習(予習)	
		予習プリントを配布する。	
		準備学習(復習)	
		復習プリントまたは宿題（課題）を配布する。	
受講者に対する要望		評価方法	
積極的な態度で授業に参加してもらいたい。		(1) 中間テスト 20% (2) 期末テスト 30% (3) 宿題 30% (4) 授業参加態度 20%	
学びのキーワード		教科書	
・ 書き言葉 ・ 構成 ・ 引用 ・ 小論文 ・ 書く力		コピーを配布する	
		参考書	
		『大学・大学院留学生の日本語②作文編』アカデミックジャパニーズ研究会編著 アルク 『日本語の論文力練習帳』倉八順子著 古今書院	

日本語 2 (文章表現) B		WLAG-O-157
担当教員： 前川 孝子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11321846
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション、オリエンテーション、さまざまな表記、課題1：自己紹介（200字） 02. 書き言葉 03. 段落分け、課題2：3段落構成で作文を書く（400字） 04. は」と「が」の使い方、課題3：私の国の有名人（400字） 05. アカデミックライティングの入門①、課題4：栄養食品（200字） 06. アカデミックライティングの入門② 07. 400～500字で記述する①、課題5：スマートフォン（400字） 08. 理解チェック 09. 400～500字で記述する② 10. 理解チェックのフィードバック、記述③ 11. 引用、課題6：引用を用いた作文（300字） 12. 小論文①-1資料を読む 13. 小論文①-2課題7：参考資料を引用する（800～1000字） 14. 小論文②課題8：グラフを引用する（800～1000字） 15. 総まとめ
(1) 内容		
前半では、適切な表現の選び方やわかりやすい文章の書き方、基本的なレポートの構成について学ぶ。後半では、より複雑な内容を整理し、他の文献や資料から引用してわかりやすく書く技術を学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
大学生活では、レポートや卒業論文の執筆が課せられる。この授業では、レポート作成や卒業論文執筆に必要な日本語の「書く力」の伸長を目指し、最終的には他の文献から引用しながら1000字程度の小論文の作成を目指す。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
積極的な態度で授業に参加してもらいたい。		
学びのキーワード		評価方法
・ 書き言葉 ・ 構成 ・ 引用 ・ 小論文 ・ 書く力		(1) 中間テスト 20% (2) 期末テスト 30% (3) 宿題 30% (4) 授業参加態度 20%
		教科書
		コピーを配布する
		参考書
		『大学・大学院留学生の日本語②作文編』アカデミックジャパニーズ研究会編著 アルク 『日本語の論文力練習帳』倉八順子著 古今書院

日本語 2（音声表現理解）A

WLAG-O-158

担当教員： 吉沢 由香里

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 11321950

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

大学の講義、テレビ番組、インターネットの動画などを視聴し、音声や映像などの情報を理解して対応したり、自分の言葉でまとめたり、自分の考えを発信したりできるような日本語のコミュニケーション能力を養成することを目標とする。
授業では以下のことを行う。
①聞き取れた音声などの情報から、意味を再構築できるように聴解ストラテジーを学ぶ。
②大意をわかりやすく文章にまとめる練習を行う。
③語彙・表現を増やし、文型を定着させるために聞き取りクイズを行う。
④理解した情報をもとに自分の考えを述べ、話し合う。
⑤日本語能力試

(2) 学びの意義と目標

留学生が、大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通して日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。日本語 2（音声表現理解）Aでは必要な情報を正確に理解して対応することや、講義を聴いてノートをとるような「受信型」のスキルの習得に重点を置く。

受講者に対する要望

聴解とは各自が学んできた言語知識や背景知識を最大限に活用して、音声から日本語のメッセージを自分の頭の中で再構築する積極的な過程です。様々な音声や映像を、意味ある言葉に結びつけて理解できるように、日々ニュースなどを見て、背景となる知識を増やす努力をしてほしいです。

学びのキーワード

・ 音声表現

・ 聴解活動

・ 聴解ストラテジー

・ ノート・テイキング

授業計画

01. ガイダンス 聴解能力の自己評価 ペアディクテーション 聴解ストラテジー（反応する）

02. アカデミック・ジャパニーズ 聴解ストラテジー（文法を意識して聞く）

03. 講義を聴く 聴解ストラテジー（文法を意識して聞く）

04. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（情報を選別する）

05. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（情報を選別する）

06. 講義を聴く 聴解ストラテジー（推測する）

07. 講義を聴く 聴解ストラテジー（モニターする）

08. 中間試験

09. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（予測する）

10. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（キーワード）

11. 講義を聴く 聴解ストラテジー（違いに注目する）

12. 講義を聴く 聴解ストラテジー（スキミング）

13. ドラマを見る 聴解ストラテジー（話の展開を予測する）

14. ドラマを見る 聴解ストラテジー（大意をまとめる）

15. 期末試験

準備学習(予習)

単語リストを配布するので単語や表現の予習をすること。予習クイズを行うことがある。

準備学習(復習)

授業で学んだことに対して復習クイズを行うことがある。

評価方法

(1) 課題

30%

予習クイズ、復習クイズを含む

(2) 試験

40%

(3) 平常点

30%

※欠席が3分の1を超える場合には単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

教科書

プリントを配布する。

参考書

日本語 2（音声表現理解）B

WLAG-O-159

担当教員： 吉沢 由香里

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 11322055

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

大学の講義の他、ニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、バラエティーなど幅広いジャンルのテレビ番組を視聴し、正確に内容を理解すると同時に、大意をまとめられるようになることを目指す。背景知識として必要な最新の日本社会の情報や現代日本の若者の考え方についても学ぶ。さらに、視聴したものに対する自分の考えを発信できるようになることを目指す。
授業では以下のことを行う。
①聴解のストラテジーを学ぶ。
②聞き取った内容の大意を文章にまとめる。
③上級の語彙・表現を増やし、文型を定着させる。
④テーマについて意見を述べ合い

(2) 学びの意義と目標

留学生が、大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通して日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。日本語 2（音声表現理解）Bでは、聞いて理解したことをもとに、意見をまとめたり発表したりする「発信型」のスキルの取得に重点を置く。

受講者に対する要望

聴解とは各自が学んできた言語知識や背景知識を最大限に活用して、音声から日本語のメッセージを自分の頭の中で再構築する積極的な過程です。様々な音声や映像を、意味ある言葉に結びつけて理解できるように、日々ニュースなどを見て、背景となる知識を増やす努力をしてほしいです。

学びのキーワード

・ 音声表現

・ 聴解活動

・ 聴解ストラテジー

・ ノート・テイキング

・ メディア・リテラシー

授業計画

01. ガイダンス 聴解ストラテジー（予測する）

02. 講義を視聴する 聴解ストラテジー（キーワードや数字）

03. 講義を視聴する 聴解ストラテジー（情報の選別）

04. ドキュメンタリーを視聴する、 聴解ストラテジー（大意をまとめる）

05. ドキュメンタリーを視聴する

06. ニュース特集を視聴する、聴解ストラテジー（カタカナのことば）

07. ニュース特集を視聴する、聴解ストラテジー（カタカナのことば）

08. 中間試験

09. ドラマを視聴する、聴解ストラテジー（聞き取りにくい音）

10. ドラマを視聴する 聴解ストラテジー（音の変化）

11. 動画を視聴する

12. 動画を視聴する、番組の分析（1）

13. 動画を視聴する、番組の分析（2）

14. まとめ

15. 期末試験

準備学習（予習）

語彙や表現の予習をすること。予習クイズを行うことがある。

準備学習（復習）

授業で視聴した動画の復習をすること。復習クイズを行うことがある。

評価方法

(1) 課題

30%

予習クイズ、復習クイズを含む

(2) 試験

40%

(3) 平常点

30%

※欠席が3分の1を超える場合には単位は与えられない。 出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

教科書

プリントを配布する。

参考書

日本語 2 (総合) A

WLAG-0-150

担当教員：棚橋 明美

學期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位：1 コード：11322120

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本語を母語としない留学生の日本語力の伸張を目ざす授業である。特にこの授業では、読解力に力を入れている。ウオーミングアップとしてN2の試験問題を用いて試験の解答の仕方のコツを学習した後、エッセイや小説を読み、日本語の様々な表現を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

分かる語彙だけを拾うのではなく、精読し、正確に文章の表現しているものを読み取る力を付けることを目標とする。

受講者に対する要望

ただ授業をこなすという態度ではなく、積極的に日本語力を伸ばさせようという努力を期待したい。また、「日本語の勉強」ということを超えて、小説やエッセイの楽しさを知り、好きになってほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 読解
- ・ 精読
- ・ 速読
- ・ 読む ・ 書く

授業計画

01. オリエンテーション
02. 日本語能力試験 N 2 の問題練習
03. 日本語能力試験 N 2 の問題練習
04. エッセイを読む
05. エッセイを読む
06. エッセイを読む
07. 短編小説を読む
08. 短編小説を読む
09. 理解度チェック
10. 理解度チェック フィードバック
11. 短編小説を読む
12. 短編小説を読む
13. 短編小説を読む
14. 短編小説を読む
15. 総まとめ

準備學習(予習)

学ぶ範囲の予習をきちんと丁寧にしてくること。毎時間、予習ノートの提出を義務付ける。

準備學習(復習)

授業前に、先週の範囲を必ず音読しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 参加度、クラス貢献度 | 30% |
| (2) 課題提出 | 10% |
| (3) 中間試験 | 30% |
| (4) 期末試験 | 30% |

教科書

参考書

日本語 2 (総合) B

WLAG-0-152

担当教員：棚橋 明美

學期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位：1 コード：11322326

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本語を母語としない留学生の日本語力の伸長を目ざす授業である。エッセー、新聞、小説など多様な文章を読む力を付ける。学内の留学生日本語弁論大会への出場も視野に入れる。

(2) 学びの意義と目標

正確に練習する。正確な原稿を一つ、しつこく読む。精読の力は、全部の文章を読み取らなければならない。速読のためには、速読の方法を自分で練習する。拾ったものを自分で練習する。表現とまとめる。一歩ずつ進める。目標とする。文章の目的と構成。文ともなる。

受講者に対する要望

ただ授業をこなすのではなく、能動的に日本語力を伸ばす努力をしてもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 読解
- ・ スピーチ
- ・ エッセー
- ・ 小説

授業計画

01. オリエンテーション、作文課題アナウンス
02. JPT練習問題練習、エッセイを読む|
03. 作文提出、エッセイを読む
04. 作文返却第一回～直し～提出
05. 作文返却第二回～直し～提出
06. 作文返却第二回～完成～作文読み練習
07. スピーチ練習
08. 中間テストに代わるスピーチ発表会
09. 弁論大会参加レポート提出、スピーチふりかえり
10. 短編小説を読む
11. 短編小説
12. 短編小説
13. 短編小説
14. 短編小説
15. 総まとめ

準備學習(予習)

学ぶ範囲の予習をきちんと丁寧にしていくこと。毎回、予習ノートの提出を義務付ける。

準備學習(復習)

必ず課題は締切に間に合うように提出すること。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業貢献度 | 30% |
| (2) 課題提出 | 10% |
| (3) 中間試験（スピーチ発表） | 30% |
| (4) 期末試験（筆記） | 30% |

教科書

参考書

日本語 3 (調査・発表) A		WLAG-O-160
担当教員： 太田 ミュキ		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11331320
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション・自己紹介・自身の関心事について[小発表] 02. アイデアゲーム 03. テーマの検討・調査の目的 04. テーマの検討・調査の目的 05. 図書館ツアー 06. 文献調査 07. 発表のアウトライン [小発表] 08. 引用・参考文献の扱い 09. レジューメの作成 10. 発表原稿の作成 11. 質問の仕方と答え方、討論の仕方、発表練習 12. 最終発表 1 13. 最終発表 2 14. レポート作成 15. まとめ
(1) 内容		
留学生が大学の授業において口頭発表・討論を行う力を養成する。内容としては、資料の集め方とまとめ方、レジューメの作り方、発表や討論の仕方などを学びながら、最終的には、自分の関心のあるテーマについての調査結果を発表し、それをレポートにまとめて提出する。また、相手に伝わる話し方を身につけるために、発音練習も行う。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
自分でテーマを探し、適切な調査が行える。調べたことを取捨選択して、レジューメにまとめられる。聞き手に理解してもらえる発表が工夫できる。討論に参加できる。発表における聞き手の重要性を知り役割を果たす。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
調査の目的を明確にし、テーマ設定をしっかりとすること。その際には互いに意見を出し合い調査が有意義なものになるよう努めること。また、発表の際にも聞き手として積極的な参加を望みたい。 		
学びのキーワード		教科書
・ 発表 ・ 発音練習 ・ 文献調査 ・ レジューメ		
		参考書
		『さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳』中川千恵子・中村則子・許舜貞著 (2009) ひつじ書房

日本語 3（調査・発表）B		WLAG-O-161								
担当教員：川口 さち子										
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11331425								
学部教育の関連目		授業計画								
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける										
カリキュラム上の位置付け		01. 授業説明、自己紹介と関心事について〔小発表〕 02. 調査計画について〔小発表〕 03. 調査の基本（アンケート、インタビュー）、発表構成検討 04. アウトラインについて〔小発表〕 05. アンケートやインタビューの仕方 調査シート作成準備 06. 調査シートについて〔小発表と検討〕 07. 調査シート完成 08. 図表の説明の仕方 09. 資料のまとめ方 10. 発表の仕方、質問の仕方と答え方、討論の仕方 11. レジューメの作り方、発音練習 12. 最終発表 1 司会と発表 13. 最終発表 2 司会と発表 14. 最終発表 3 司会と発表 15. まとめ、課題提出								
(1) 内容										
<p>＜内容＞</p> <p>留学生が大学の授業において口頭発表・討論を行う力を養成する。内容としては、資料の集め方、アンケートなどの調査の仕方、データ分析とまとめ方、レジューメの作り方、発表や討論の仕方などを学びながら、最終的には、自分の関心のあるテーマについての調査結果を発表し、それをレポートにまとめて提出する。</p>										
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)								
<p>自分でテーマを探し、適切な調査が行える。調べたことを取捨選択して、レジューメにまとめられる。聞き手に理解してもらえる発表が工夫できる。討論に参加できる。発表における聞き手の重要性を知り役割を果たす。</p>										
受講者に対する要望		準備学習(復習)								
<p>アンケートやインタビューのテーマ設定をしっかりとすること</p>										
学びのキーワード		評価方法								
<ul style="list-style-type: none">・プレゼンテーション・アンケート（インタビュー）・分析・レジューメ・発表		<table><tr><td>(1) 発表</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 課題提出</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 授業への参加度</td><td>20%</td></tr></table>	(1) 発表	40%	(2) レポート	20%	(3) 課題提出	20%	(4) 授業への参加度	20%
(1) 発表	40%									
(2) レポート	20%									
(3) 課題提出	20%									
(4) 授業への参加度	20%									
		教科書								
		参考書								

担当教員： 李 テイ

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 11332130

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

基本的な敬語を復習し、相手との関係（上下・親疎）やいろいろな場面において適切な待遇表現が選択できるように応用練習をする。具体的には、問い合わせや依頼などについて、口頭でのやりとりとメールの書き方を学ぶ。また、仕事や進学の面接場面での対応や、自己アピールの表現についても学習する。また、仕事のための日本語でのコミュニケーションも学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

日本語での会話をスムーズに運ぶためには、人間関係や場面を考慮して表現を選ばなければならない。本講義では、そのような日本語での潤滑なコミュニケーションのための表現を学び、様々な場面において実際に応用できるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

自ら考える姿勢を持ち、授業に真剣に取り組んでほしい。遅刻・欠席をしないこと。

学びのキーワード

- ・待遇表現
- ・コミュニケーション
- ・人間関係（上下・親疎）
- ・敬語

授業計画

01. 講義ガイダンス、敬語と待遇表現について
02. 敬語のまとめ(1) 尊敬語・謙譲語
03. 敬語のまとめ(2) 丁寧語・お／ご
04. 日本の会社(1) ビデオ教材
05. 対面や電話での会話(1) 問い合わせる
06. メールを書く(1) 問い合わせる
07. 日本の会社(2) ビデオ教材
08. 理解度チェック
09. 対面や電話での会話(2) 目上の人を誘う
10. 対面や電話での会話(3) 依頼する
11. メールを書く(2) 依頼する
12. 電話を受ける・伝言メモを書く
13. 日本の会社(3) ビデオ教材
14. 敬語で仕事をしてみよう
15. まとめ

準備学習(予習)

敬語・待遇表現の基本事項を予習すること。会話作成・メールを出すなどの宿題を課す。毎回何らかの自宅学習が必要である。

準備学習(復習)

敬語・待遇表現の学習事項を復習すること。会話作成・メールを出すなどの宿題を課す。毎回何らかの自宅学習が必要である。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 中間・期末テスト | 60% |
| (2) 授業中の発表と課題の提出 | 20% |
| (3) 平常点（授業への参加度） | 20% |

* 欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。

教科書

参考書

日本語 3 (ビジネス日本語) B

WLAG-O-163

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11332235

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

場面、立場、身分、職業によって異なる日本語の表現を学び、日本社会の中で円滑なコミュニケーションが行えるよう知識を身につける。また、敬語を復習し、適切な待遇表現ができるように練習をする。電話会話や日本語メールの書き方、進学や会社面接での対応や、自己アピールの表現についても学習する。

(2) 学びの意義と目標

日本社会の様々な場面における円滑なコミュニケーションのための日本語表現を学び、身に付けることを目標とする。

受講者に対する要望

学びのキーワード

- ・敬語
- ・日本社会
- ・上下関係
- ・ウチとソト
- ・就職活動

授業計画

01. ガイダンス
02. 立場で異なる日本語 (1)
03. 立場で異なる日本語 (2)
04. 立場で異なる日本語 (3)
05. 立場で異なる日本語 (4)
06. 自己アピールを考える (1)
07. 自己アピールを考える (2)
08. 職業で異なる日本語 (1)
09. 職業で異なる日本語 (2)
10. 職業で異なる日本語 (3)
11. 職業で異なる日本語 (4)
12. 就職活動の日本語 (1)
13. 就職活動の日本語 (2)
14. 電話・メールの日本語
15. まとめ

準備学習(予習)

課題を与える。

準備学習(復習)

授業内容に関連した発表およびテストを行うため、各自、十分に復習し、準備しておくこと。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 参加度 | 25% |
| (2) 課題 | 25% |
| (3) 発表 | 25% |
| (4) テスト | 25% |

教科書

参考書

日本語 3（小説で学ぶ）		WLAG-O-164								
担当教員： 太田 ミュキ										
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11333145								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス・自己紹介・「靴」 安倍公房 02. 「わすれ傘」 吉田道子 03. 「デューク」 江國香織 04. 「貨幣」 太宰治 (ジグソーリーディング) 05. 「来訪者」 阿刀田高著（予測しながらの読解とディスカッション） 06. 「来訪者」 阿刀田高著（予測しながらの読解とディスカッション） 07. 「来訪者」 阿刀田高著（予測しながらの読解とディスカッション） 08. 理解チェック・フィードバック 09. 「高瀬舟」 森鷗外著（背景理解・読解） 10. 「高瀬舟」 森鷗外著（読解） 11. 「高瀬舟」 森鷗外著（読解とDVD視聴、ディスカッション） 12. ビブリオバトル 13. 読解 14. 読解・ディスカッション 15. 総まとめ</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>①様々な短編小説を通して、日本語の語彙力を高めるとともに文法の多様性を学ぶ。 ②視聴覚教材を通して作品の時代背景や作者の素顔なども学習していく。 ③学期の最後には各自が推薦する小説のプレゼンをおこない、その中から最も読みたいと思うものを選んで全員で講読する。（ビブリオバトル） ④各自、語彙ノートを作成し、読んだ後には読書ノートを記録し提出する。 ⑤最終課題は、学期中に授業で読んだものの中から一つを選び、レビューを提出する。 ※授業内容は、学生の読書歴によって変更することがある。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>留学生が日本人と共に学ぶために必要な日本語力の向上を学習目標とする。 この授業では、小説を読むことを通して、日本語の語彙力を培うとともに、日本語文法の多様性や作品の背景や内容を理解し、日本の小説を楽しむようになることがこの授業の目標である。</div>										
<div>準備学習(予習)</div> <div>準備学習（予習）
1つの作品を1～3週かけて扱うので、必ず言葉などの予習を行ってから授業に臨むこと.

</div>										
<div>準備学習(復習)</div> <div>読書ノートと語彙ノートを作成すること</div>										
<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 中間試験</td><td>25%</td></tr><tr><td>(2) 期末試験</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 課題（最終レポート・読書ノート・語彙ノート）</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 平常点（授業参加度など）</td><td>30%</td></tr></table><div>※出席が2／3に満たないものは評価の対象とならない。</div></div>			(1) 中間試験	25%	(2) 期末試験	25%	(3) 課題（最終レポート・読書ノート・語彙ノート）	20%	(4) 平常点（授業参加度など）	30%
(1) 中間試験	25%									
(2) 期末試験	25%									
(3) 課題（最終レポート・読書ノート・語彙ノート）	20%									
(4) 平常点（授業参加度など）	30%									
<div>受講者に対する要望</div> <div>2レベル履修後でないと受講が難しい.
遅刻・欠席をしないこと.
</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>								
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">短編小説読解ストラテジー語彙力文法の多様性</div>										

日本語 3 (ニュースで学ぶ)		WLAG-O-165
担当教員： 吉沢 由香里		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11333250
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション レベルチェック</div> <div>02. 新聞の基礎知識</div> <div>03. 地震</div> <div>04. 異常気象</div> <div>05. 事故</div> <div>06. 科学技術</div> <div>07. まとめ</div> <div>08. 中間試験</div> <div>09. 調査</div> <div>10. トラブル</div> <div>11. 裁判</div> <div>12. 経済</div> <div>13. 金融</div> <div>14. 国際関係</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>日本語のテレビや動画のニュース、新聞記事などを通して時事問題を理解し、上級の語彙・表現を習得し、メディアの解読ができるようになることを目指す。授業では①新聞記事の解読と話し合い、②ニュースの解読と話し合いを行う。報道に使われる語彙や表現の理解と習得に重点を置く。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に配布したプリントや語彙リストを予習してくること。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>留学生が、大学での研究・学習生活に支障のない日本語でのメディア解読能力を身につけ、日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>今、日本や世界で何が起こっているのかに興味を持ち、新聞やニュースを見て授業に備えるようにしてほしい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 新聞、ニュース</div><div>・ 時事問題</div><div>・ 語彙</div><div>・ 聴解</div><div>・ 読解</div></div>	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) クイズ</div><div>15%</div></div><div><div>(2) 提出物</div><div>15%</div></div><div><div>(3) 試験</div><div>40%</div></div><div><div>(4) 平常点</div><div>30%</div></div></div> <div>※欠席が3分の1を超える場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。</div>	<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div> <div>参考書</div>

日本語 3（ドラマで学ぶ）		WLAG-O-166
担当教員： 内藤 みち		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11333365
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. 授業概要、ニーズ分析・アンケート、視聴覚教材①の語彙・文型導入 02. 視聴覚教材①視聴後内容に関してのディスカッション 03. 視聴覚教材①のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答 04. 視聴覚教材①のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答 05. 視聴覚教材①の復習試験、視聴覚教材②の語彙・文型導入 06. 視聴覚教材②視聴後内容に関してのディスカッション 07. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答 08. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答 09. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答 10. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答 11. 視聴覚教材②の復習試験、視聴覚教材③の語彙・文型導入 12. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答 13. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答 14. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答 15. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
(1) 内容		
日本語での会話からなるドラマおよび邦画から、上級・趙上級レベルの文型・語彙や日本的表現・音変化などを習得する。またそれらの視聴覚教材にある日本社会やその背景にある事柄に触れ、それらを学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
学生のための日本語授業である。大学の講義を聴く力をつけつつ、日本人とスムーズなコミュニケーションを行うために必要な表現を学び、使えるようにする。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
ディクテーションおよび語彙や文型の予習・復習等々、個々人の積極的な授業への参加が不可欠となる。		
学びのキーワード		評価方法
・ 日本語 3 レベル ・ 音声言語理解 ・ ドラマ・邦画 ・ 語彙・文型・表現 ・ 日本社会		(1) 試験 60%
		(2) クイズ 10%
		(3) クラスワーク等 30%
		多少%が変更されることもある。3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とならない。
教科書		参考書
教師作成教材		

日本語 3（創作で学ぶ）

WLAG-O-167

担当教員： 岡村 佳代

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 11333470

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義は、日本語を母語としない留学生の日本語による自己表現力の育成、向上を支援するものである。春学期は、新聞への投書、スピーチ原稿、小論文を書くことを通して、多様な表現形態を学ぶ。これらの作品を可能な限り外部へ投稿することで自己の意見を発信していくことを目指す。

(2) 学びの意義と目標

本学における留学生対象の日本語科目では、最高位のレベルにあるクラスなので、アカデミックな文語体表現で自己表現ができることを目標とする。また、日本文化や日本語での表現形式を学びながら、日本語で表現することの楽しさを感じてもらいたい。

受講者に対する要望

文章表現力とディスカッション能力を伸ばすことに意欲と熱意のある学生の履修が望ましい。

学びのキーワード

・自己表現力
・アカデミックな文語体表現
・コミュニケーション能力

授業計画

01. オリエンテーション
02. 新聞の投稿（1） 投書欄を読む、記事を書く準備
03. 新聞の投稿（2） 投稿記事を書く
04. スピーチ（1） 昨年度のスピーチ大会の視聴、スピーチのテーマ・内容を考える
05. スピーチ（2） スピーチ原稿を書く、ピアリーディング・修正
06. スピーチ（3） スピーチ原稿を書く、ピアリーディング・修正
07. スピーチ（4） クラス内スピーチ大会
08. 小論文（1） コンテスト入賞作品を読む、テーマの検討
09. 小論文（2） 図書館学習：テーマに関するインターネット資料検索、アウトライン作成
10. 小論文（3） 図書館学習：テーマに関する文献資料の検索、アウトライン作成
11. 小論文（4） アウトライン発表、小論文執筆
12. 小論文（5） 執筆、ピアリーディング・修正
13. 小論文（6） 執筆、ピアリーディング・修正
14. 小論文（7） 仕上げ、要約の作成
15. 小論文（8） 小論文口頭発表会・まとめ

準備学習(予習)

小論文鑑賞時は、授業前に読んでくること。

準備学習(復習)

創作活動の過程における推敲・仕上げ、発表の練習などは宿題となる。課題の期日を守らないと、授業時にクラス全体の迷惑になるので、責任を持った取り組みが大切である。

評価方法

(1) 創作作品	50%
(2) 発表	30%
(3) 平常点	20%

学期中の欠席率が15回授業の1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

教科書

プリントを配布する。

参考書

健康・体力づくり実習A（ボールスポーツ）		PHED-0-101
担当教員：小澤 治夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500110
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 1. オリエンテーション、グループング、簡易ゲーム（タグラグビー） ゴール型、ネット型、ベースボール型の解説 </div> <div>02. タグラグビー</div> <div>03. フラグフットボール</div> <div>04. ザースボール（1）</div> <div>05. ザースボール（2）</div> <div>06. ミニサッカー（1）</div> <div>07. ミニサッカー（2）</div> <div>08. フットサルと大会運営</div> <div>09. テニス（1）</div> <div>10. テニス（2）</div> <div>11. ソフトボール（1）</div> <div>12. ソフトボール（2）</div> <div>13. クライマックスイベント（1）サッカー大会とその運営</div> <div>14. クライマックスイベント（1）ザースボール大会とその運営</div> <div>15. クライマックスイベント（1）テニス大会とその運営</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>スポーツ、ニュースポーツと呼ばれるゲーム型の運動は約1000種類ありますが、教育においてすべて取り扱うことは不可能であるため、日本における初等・中等教育の学校教育では8つの領域から教育が展開されています。その中の一つが球技であり、さらにそこで扱われる球技は1）ゴール型、2）ネット型、3）ベースボール型であり、本授業ではこの三つの型のスポーツを学習内容として授業を進めます。また授業では、練習の方法や大会運営の方法も学習します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>スポーツは音楽や文学と同様に人類が創出してきた文化であり、こうした文化を有した動物をホモルーデンスと言います。つまり「人間」を人間たらしめているのは文化を享受しながら生きていくことでもあります。本授業では、そうした文化としてのボールスポーツを学び、これからの人生に活かしていくことのできるような力をつけることを大きな目標とし、扱われるボールスポーツの技術・戦術・ルールなどを習得し、また練習の方法と大会運営の方法を理解し実際に活用できる能力を養う。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>これまでの球技経験を振り返り、まとめておく、ルールを事前に調べておく。ザースボールについては小澤治夫研究室のホームページを閲覧して調べること。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>集団での活動が中心になるので、積極的に参加すること。
 必ず運動着に着替え、運動用シューズを着用すること。暑熱対策として水分補給ができるように準備しておくこと。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>グループで話し合った内容を、自分自身の経験と照らし合わせ、翌週の話し合い活動で自分なりの見解を発表できるように準備を行う。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業態度60% 授業への参加度</div><div>(2) 授業レポート40% レポートの内容の充実度</div></div> <div>学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。
 グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードおよびレポートにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。</div>
		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>中学校や高校で用いた実技の副読本があれば準備しておいていただきたい。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・球技</div><div>・ゴール型</div><div>・ネット型</div><div>・ベースボール型</div><div>・クライマックスイベント</div></div>		

健康・体力づくり実習A（複合スポーツ）

PHED-0-101

担当教員：松永 直人

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500120

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

生涯スポーツとして親しまれているテニス及びゴルフを中心に授業を行う。
それぞれの種目の特徴を捉え、健康づくりとしてのスポーツ参加の動機付けの機会と位置付ける。

(2) 学びの意義と目標

生涯スポーツであるテニス・ゴルフのルールを理解し、ゲームとして行える技術を習得する。
また、動いているボールと止まったボールを打つことの違いを理解する。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. テニス①（基本ストローク①）
03. テニス②（基本ストローク②）
04. テニス③（ルールの習得）
05. テニス④（シングルのゲーム）
06. テニス⑤（ダブルスのゲーム①）
07. テニス⑥（ダブルスのゲーム②）
08. テニス⑦（ダブルスのゲーム③）
09. ゴルフ①（グリップ・スタンス）
10. ゴルフ②（スイング①）
11. ゴルフ③（スイング②）
12. ゴルフ④（スイング③）
13. ゴルフ⑤（コース練習①）
14. ゴルフ⑥（コース練習②）
15. ゴルフ⑦（コース練習③）

準備学習（予習）

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習（復習）

ルールや用語、ストロークやスイングを確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 積極的態度、行動を評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

健康・体力づくり実習A（テニス）		PHED-0-101
担当教員：小澤 治夫		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：11500130
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、グルーピング、簡易ゲーム 用具と設備の使い方 </div> <div>02. ボールジャグリングと簡易ゲーム、ラダートレーニング</div> <div>03. ラダートレーニング、ウォームアップ、ショートラリー</div> <div>04. ショートラリー、フォアハンドストローク</div> <div>05. ストロークの技術（フォアハンド、バックハンド）、簡易ゲーム</div> <div>06. サービスの技術、簡易ゲーム</div> <div>07. サービスの技術、簡易ゲーム</div> <div>08. ロングラリー（目指せ連続30回！）</div> <div>09. ボレーの技術（目指せ連続20回！）</div> <div>10. 4人組のロングラリー（目指せ30回！）</div> <div>11. 簡易ゲームを楽しむ・ルール理解、ダブルスのテストマッチ</div> <div>12. 大会：開会式、チーム対抗戦第1節</div> <div>13. チーム対抗戦第2節</div> <div>14. チーム対抗戦第3節</div> <div>15. 大会：閉会式、チーム対抗戦、まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>【テニス】 本講義では、体力を高め健康な体をつくるためのトレーニング及びテニスを主教材として学習を進めます。体力づくりでは、ラダーやボールを用いたトレーニングあるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたトレーニングを学習します。またテニスにおいては主に初心者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていきます。授業後半では大会を通して運営の方法も学習します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>健康でアクティブな体を維持するために体力づくりのための運動やスポーツを若い時期に学習し、その方法を習得することは長い人生において有意義なことといえます。そしてスポーツは、音楽や文学と同様に人類が創出してきた文化であり、本授業では、そうした文化としてのスポーツのうちの一つであるテニスを学び、これからの人生に活かしていくことのできるような力をつけることを大きな目標とし、テニスの技術・ルールなどを習得し、また練習の方法と大会運営の方法を理解し実際に活用できる能力を養います。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的参加すること</div> <div>テニスシューズを必ず用意すること</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>テニスの試合のテレビ観戦、テニスの実技本を事前に閲覧することを心掛けていただきたい</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業態度 60% 授業への参加度</div> <div>(2) 授業レポート 40% レポートの内容の充実度</div>	
	<small>学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。
グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードおよびレポートにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。</small>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・テニス</div> <div>・生涯スポーツ</div> <div>・コミュニケーション</div> <div>・マナー</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>中学校や高校で用いた実技の副読本があれば準備しておいていただきたい</div>	

健康・体力づくり実習A（ニュースポーツ）		PHED-0-102
担当教員： 神田 良太郎		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500140
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ストレッチ運動 02. 1人で行う体力づくり運動 03. 体力づくり運動(マシンを使用したトレーニング) 04. ターゲットバードゴルフ(基本練習、ルールの理解) 05. ターゲットバードゴルフ(ゲーム) 06. ストレッチ運動 07. 2人組で行う体力づくり運動 08. ボールを使った運動 09. ソフトバレーボール(基本練習) 10. ソフトバレーボール(ゲーム) 11. ストレッチ運動 12. 筋力トレーニング 13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習) 14. 簡易ホッケー(ゲーム) 15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目 【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。 スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>・授業に対してまじめに取り組む
・積極性と協調性が大切
・シューズを用意すること</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること</div>
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>(2) 評価点</div></div><div><div>60% 欠席－6点、遅刻・早退－2点</div><div>40% 授業態度、技能面、シューズ等の忘れ</div></div></div>
		<div>とにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・授業に対して欠席をしないで取り組める ・他との協調性又協力</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

担当教員：鈴木 由美

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500150

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

「健康」について、実技と理論の両面から学習します。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング）・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチングなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。

エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるよう複数の

(2) 学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。

生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

受講者に対する要望

服装は、運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。

学びのキーワード

- ・フィットネス
- ・健康への自己教育力の向上
- ・実践方法

授業計画

01. ガイダンスと基本動作 ■以降、ストレッチングは毎回実施
02. エアロビクス運動とは ■エアロビクス（フットワークI）
03. 健康を支える要素・運動の必要性と効果 ■エアロビクス（フットワークII）
04. 自分の身体を知る（体組成測定） ■エアロビクス
05. 自分の身体を知る（姿勢・ゆがみチェック） ■エアロビクス
06. 自分に適した運動を知る（運動強度） ■ステップエアロビクス
07. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度） ■ステップエアロビクス
08. 筋コンディショニングの必要性と効果 ■バランスボール
09. トレーニングの原則 ■バランスボール
10. ライフスタイルと健康（食生活Ⅰ） ■パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康（食生活Ⅱ） ■パワーヨガ
12. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介
13. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介
14. リクエストウィーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ）
15. まとめ

準備学習（予習）

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

準備学習（復習）

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度 | 15% |
| (3) 授業記録 | 10% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

健康・体力づくり実習A（サッカー）		PHED-0-101				
担当教員： 檜山 康						
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500160				
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション・導入 02. ボール無しの動き（1）集団で動くことの難しさ 03. ボール無しの動き（2）サポートの方法（タイミング、角度） 04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係 05. プレーの先取り スペースを創って使う 06. 判断のスピード 3人目の動きのタイミング 07. 1対1の対応 局面と全体の関係 08. チームワークとは何か 09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動 10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る 11. 攻撃の連動（1） 幅を使う 動き出す 12. 攻撃の連動（2） 切り替え コンパクト 13. 数的優位を作る 生かす 14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ 15. まとめ</div>				
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>						
<div>(1) 内容</div> <div>技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サッカーの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本授業ではサッカーにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サッカーの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。</div>				
<div>受講者に対する要望</div> <div>サッカーに強い関心がある学生に受講してもらいたい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしておくこと。</div>				
		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) レポート</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 実技試験</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 参加態度</td><td>20%</td></tr></table></div> <div>実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。</div>	(1) レポート	50%	(2) 実技試験	30%
(1) レポート	50%					
(2) 実技試験	30%					
(3) 参加態度	20%					
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・スポーツ指導・チーム戦術・グループ戦術・個人戦術・戦術的なゲーム</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>				

健康・体力づくり実習A（ソフトボール）		PHED-0-101
担当教員： 神田 良太郎		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500170
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 学習内容を理解・安全性と用具の使用法・ストレッチ、ランニング、補助運動、キャッチボール</div> <div>02. ストレッチ、ランニング、補助運動(ウォーミングアップ)、キャッチボール、ゴロ・フライの打球処理、ノックでの捕球の仕方等</div> <div>03. ウォーミングアップ パント、トスバッティング、ボールの打ち方等</div> <div>04. ウォーミングアップ 攻守走投の応用</div> <div>05. 同上 関係プレイの確認等</div> <div>06. ウォーミングアップ ゲームに対する基本練習。ハーフバッティング</div> <div>07. ウォーミングアップ 8-10人制のゲーム 対戦表を作り勝敗を記入、目標を立てる</div> <div>08. 同上</div> <div>09. 同上</div> <div>10. 同上</div> <div>11. シートバッティング シートノック ピッチングと守備など</div> <div>12. ウォーミングアップ ゲーム(攻守走投のゲーム内容評価)</div> <div>13. 同上</div> <div>14. 同上</div> <div>15. 同上</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>・歴史 ソフトボールは1887年にアメリカで室内ベースボールとして考案された。わが国には、1921(大正10)年に大谷武一より紹介された。1949年(昭和24)年に軟式野球連盟から独立して②日本ソフトボール協会が発足された。</div> <div>・特性 ①大きいボールを細いバットで打つので打ちやすく狭い場所で老若男女が安全に気軽に楽しめる。</div> <div>②投手と捕手の距離が短く、投手は下手投げで投球するのでだれでも簡単にできる。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>・ソフトボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。</div> <div>・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。</div> <div>・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと歯科大を持って臨むようにする。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 40%</div> <div>(2) 行動・協調・積極性 20%</div> <div>(3) テスト 40% ノック・バッティングなど</div> <div>とにかく欠席をしないこと</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・協調性</div> <div>・協力性</div> <div>・積極的に行動する姿勢</div> <div>・努力</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

健康・体力づくり実習B（バドミントン）

PHED-0-102

担当教員：松永 直人

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500210

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

バドミントン競技は、トップ選手では初速が時速400kmを越えるハードなスポーツである一方、地域レベルでは競技人口も増え老若男女楽しめる生涯スポーツとなっている。バドミントン競技を通じて健康と運動の関わり合いを理解し、生涯スポーツへの動機づけの機会と位置付ける。

(2) 学びの意義と目標

ラケットの握り方から基本ストローク及びルールを習得し、ゲーム形式の実践を繰り返し、各種目の競技形態や競技特性を理解する。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全て運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. シャトル・ラケットに慣れる
03. 基本ストロークの習得①
04. 基本ストロークの習得②
05. 簡易ラリー
06. 競技規則、審判の方法の習得
07. シングルのゲーム①
08. シングルのゲーム②
09. ダブルスのゲーム①
10. ダブルスのゲーム②
11. トリプルのゲーム
12. 団体戦①
13. 団体戦②
14. 団体戦③
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

各ショットの名前と軌道、ルール、戦術論等を確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 積極的態度、行動を評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

健康・体力づくり実習B（ソフトボール）		PHED-0-101
担当教員： 神田 良太郎		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500220
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. 学習内容を理解・安全性と用具の使用法・ストレッチ、ランニング、補助運動、キャッチボール 02. ストレッチ、ランニング、補助運動(ウォーミングアップ)、キャッチボール、ゴロ・フライの打球処理、ノックでの捕球の仕方等 03. ウォーミングアップ バント、トスバッティング、ボールの打ち方等 04. ウォーミングアップ 攻守走投の応用 05. 同上 関係プレイの確認等 06. ウォーミングアップ ゲームに対する基本練習。ハーフバッティング 07. ウォーミングアップ 8-10人制のゲーム 対戦表を作り勝敗を記入、目標を立てる 08. 同上 09. 同上 10. 同上 11. シートバッティング シートノック ピッチングと守備など 12. ウォーミングアップ ゲーム(攻守走投のゲーム内容評価) 13. 同上 14. 同上 15. 同上
(1) 内容		
・歴史 ソフトボールは1887年にアメリカで室内ベースボールとして考案された。わが国には、1921(大正10)年に大谷武一より紹介された。1949年(昭和24)年に軟式野球連盟から独立して②日本ソフトボール協会が発足された。 ・特性 ①大きいボールを細いバットで打つので打ちやすく狭い場所で老若男女が安全に気軽に楽しめる。 ②投手と捕手の距離が短く、投手は下手投げで投球するのでだれでも簡単にできる。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
・ソフトボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。 ・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。 ・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと歯科大を持って臨むようにする。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)		
学びのキーワード		評価方法
・協調性 ・協力性 ・積極的に行動する姿勢 ・努力		(1) 平常点 40% (2) 行動・協調・積極性 20% (3) テスト 40% ノック・バッティングなど とにかく欠席をしないこと
		教科書
		参考書

健康・体力づくり実習B（テニス）		PHED-0-102
担当教員：小澤 治夫		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：11500230
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、グルーピング、簡易ゲーム 用具と設備の使い方 </div> <div>02. ボールジャグリングと簡易ゲーム、ラダートレーニング、ウェイトトレーニング</div> <div>03. ラダートレーニング、ウェイトトレーニング、チューブトレーニング、ウォームアップのプログラミング、ショートラリー</div> <div>04. ショートラリー、フォアハンドストローク、バックハンドストローク</div> <div>05. サービスの技術、簡易ゲーム、シングルス</div> <div>06. ロングラリー（目指せ30回！）、ボレーの技術（目指せ20回！）</div> <div>07. 4人組のロングラリー（目指せ30回！）、ダブルのテストマッチ</div> <div>08. シングルのテストマッチ</div> <div>09. チームの練習会とゲームプラン</div> <div>10. ダブルス予選会</div> <div>11. シングルス予選会</div> <div>12. 大会：開会式、チーム対抗戦第1節</div> <div>13. 大会：チーム対抗戦第2節</div> <div>14. 大会：チーム対抗戦第3節</div> <div>15. 大会：閉会式、チーム対抗戦第4節、まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>【テニス】 本講義では、テニスを主教材としつつ、生涯をアクティブに生きていくことを可能にする強い体をつくりためのトレーニングも実施しながら学習を進めます。トレーニングでは、ラダーやボールを用いたり、あるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたりしたトレーニングを学習します。またテニスにおいては主に中級・上級レベル程度の経験者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていきます。授業後半では大会を通して運営の方法も学習します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>生涯を健康でアクティブな体を維持するためにスポーツを若い時期に学習し、その方法を習得することは長い人生において有意義なことといえます。そしてスポーツは、音楽や文学と同様に人類が創出してきた文化であり、本授業では、そうした文化としてのスポーツのうちの一つであるテニスを学び、これからの人生に活かしていくことのできるような力をつけることを大きな目標とし、テニスの技術・ルールなどを習得し、また練習の方法と大会運営の方法を理解し実際に活用できる能力を養います。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に参加すること</div> <div>テニスシューズを必ず用意すること</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>テニスの試合観戦（テレビ中継）、テニスに関する参考図書を見覧しておいていただきたい</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業態度 60% 授業への参加度</div> <div>(2) 実習点 40% レポート内容の充実度</div>	
	<small>学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない、 グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードおよびレポートにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける</small>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・テニス</div> <div>・生涯</div> <div>・コミュニケーション</div> <div>・マナー</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div> <div>中学校及び高校で用いた体育の副読本があれば用意しておいていただきたい</div>

健康・体力づくり実習B（ニュースポーツ）		PHED-0-102
担当教員： 神田 良太郎		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500240
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ストレッチ運動 02. 1人で行う体力づくり運動 03. 体力づくり運動(マシーンを使用したトレーニング) 04. ターゲットバードゴルフ(基本練習、ルールの理解) 05. ターゲットバードゴルフ(ゲーム) 06. ストレッチ運動 07. 2人組で行う体力づくり運動 08. ボールを使った運動 09. ソフトバレーボール(基本練習) 10. ソフトバレーボール(ゲーム) 11. ストレッチ運動 12. 筋力トレーニング 13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習) 14. 簡易ホッケー(ゲーム) 15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目 【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。 スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>・授業に対してまじめに取り組む
・積極性と協調性が大切
・シューズを用意すること</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること</div>
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>(2) 評価点</div></div><div><div>60% 欠席－6点、遅刻・早退－2点</div><div>40% 授業態度、技能面、シューズ等の忘れ</div></div></div> <div>とにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む</div>
		<div>教科書</div> <div> </div> <div>参考書</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・授業に対して欠席をしないで取り組める ・他との協調性又協力</div>		

健康・体力づくり実習B（バレーボール）

PHED-0-104

担当教員：鈴木 由美

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500250

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。

(2) 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。
履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで（1）個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで（2）集団技能の向上、さらに（3）身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

受講者に対する要望

経験不問。できないできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

学びのキーワード

- ・バレーボール
- ・技術・戦術・マナー・ルール
- ・コミュニケーションスキルの向上

授業計画

01. ○ガイダンス
02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本
03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
04. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
05. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
06. ○個人的技能練習（パス・スパイク）
07. ○集団的技能練習 ●チャンスボールをセッターへ
08. ○集団的技能練習 ●チャンスボールから攻撃へ
09. ○集団的技能練習（攻撃へのつなぎ） ●攻撃にチャレンジ
10. ○集団的技能練習（3段攻撃のバリエーション） ●速攻を含んだゲーム
11. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
12. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ●ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ●ゲーム（リーグ戦）学年別
15. ●ゲーム

準備学習（予習）

必ず運動着・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

準備学習（復習）

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度 | 15% |
| (3) 授業記録 | 10% |

教科書

参考書

健康・体力づくり実習B（サロンフットボール）		PHED-0-102
担当教員： 檜山 康		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500260
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション・導入</div> <div>02. ボール無しの動き（1）集団で動くことの難しさ</div> <div>03. ボール無しの動き（2）サポートの方法（タイミング、角度）</div> <div>04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係</div> <div>05. プレーの先取り スペースを創って使う</div> <div>06. 判断のスピード 3人目の動きのタイミング</div> <div>07. 1対1の対応 局面と全体の関係</div> <div>08. チームワークとは何か</div> <div>09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動</div> <div>10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る</div> <div>11. 攻撃の連動（1） 幅を使う 動き出す</div> <div>12. 攻撃の連動（2） 切り替え コンパクト</div> <div>13. 数的優位を作る 生かす</div> <div>14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ</div> <div>15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サロンフットボールの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本授業ではサロンフットボールにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サロンフットボールの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>サロンフットボールに強い関心がある学生に受講してもらいたい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしておくこと。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・スポーツ指導</div> <div>・チーム戦術</div> <div>・グループ戦術</div> <div>・個人戦術</div> <div>・戦術的なゲーム</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) レポート50%</div><div>(2) 実技試験30%</div><div>(3) 参加態度20%</div></div> <div>実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。</div>
		<div>教科書</div>
		<div>参考書</div>

健康・体力づくり実習B（ボールスポーツ）

PHED-0-102

担当教員：鈴木 直樹

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500270

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

バスケットボールを中心にしてゴール型のゲームについて内容とする。

(2) 学びの意義と目標

生涯にわたって運動に親しむ資質と能力を「運動とのかかわり（運動への参加）」とし、技能レベルや性別に関係なく、ゲームの特性に触れてプレイすることのできる力を育むことを目標とする。

受講者に対する要望

積極的に学習に参加することと、安全に運動を行うための自己管理をお願いしたい。

学びのキーワード

- ・バスケットボール
- ・ゴール型
- ・生涯スポーツ
- ・いつでも、どこでも、だれとでも
- ・ボールゲーム

授業計画

01. オリエンテーション（教室にて）
02. バルシューレ（1）
03. バルシューレ（2）
04. ゴール型ゲーム__タッチダウン・ポートボール
05. ゴール型ゲーム__ハンドボール
06. ゴール型ゲーム__ポートボール
07. ゴール型ゲーム__セストボール
08. ゴール型ゲーム__ネットボール
09. 戦術学習によるバスケットボール教材の学習（1）
10. 戦術学習によるバスケットボール教材の学習（2）
11. 戦術学習によるバスケットボール教材の学習（3）
12. スポーツ教育モデルによるバスケットボール教材の学習（1）
13. スポーツ教育モデルによるバスケットボール教材の学習（2）
14. スポーツ教育モデルによるバスケットボール教材の学習（3）
15. まとめ

準備学習（予習）

前時の学習内容を想起しておくこと。

準備学習（復習）

学習したことを整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-------------------------|
| (1) 態度 | 20% 学習への取り組み |
| (2) 思考判断 | 30% 戦術的理解参加の為の工夫 |
| (3) 技能 | 30% パフォーマンスの「変化」（個人・集団） |
| (4) 社会的スキル | 20% 仲間とのかかわり |

教科書

参考書

生涯スポーツ実習 A (ゴルフ)

PHED-0-103

担当教員： 和田 雅史

学期： 集中講 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 11500310

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

生涯スポーツとしてのゴルフを、身体活動という視点から学ぶ授業である。通常の授業形態とは異なり、集中授業として3泊4日の日程で構成されている。ゴルフの基礎技術（グリップ、スタンス、スイング）を習得した後、練習場で実際にボールを打ち、その後ゴルフコースをラウンドする。そこでは、実際のプレーを技術という観点からだけではなく、ルールを尊び、ゴルフ特有の厳格なマナーなどの学習も含まれる。

(2) 学びの意義と目標

これからの社会で必要とされる生涯スポーツとして人気の高いゴルフは、得てして高齢者のスポーツ、お金のかかるスポーツというイメージが付きまとうが、この授業では純粋にゴルフスポーツが身体活動として優れた運動種目であるということと、精神性を養うことにおいても優れた運動種目である事を理解したい。そこに大学生の時期に身体活動としてのゴルフを学ぶことによる優位性がある。

また、別の観点からも自然の中で展開されるスポーツ活動は、他の種目にはない醍醐味があると同時に、この授業は、3泊4日に亘る集中授業でもあり、その間は宿泊

受講者に対する要望

学生集団での宿泊を伴う授業形態であるところから、規律ある生活、行動のできないものは参加できない。＜br /＞また、宿泊、交通、施設利用料は、個人負担となるため受講にあたっては別途定める経費を徴収する。

学びのキーワード

- ・ ゴルフ
- ・ 生涯スポーツ

授業計画

01. 事前オリエンテーション
02. 実技（グリップ、スタンス）
03. 実技（スイング①）
04. 講習（講義）
05. 実技（スイング②）
06. 実技（スイング③）
07. 実技（コース練習）
08. 実技（コース練習）
09. 講習（技術解説）
10. 実技（スイング④）
11. 実技（スイング⑤）
12. 実技（コース練習）
13. 実技（コース練習）
14. 実技（コース練習）
15. 実技（コース練習）

準備学習(予習)

オリエンテーションの出席は必須。そこで説明される内容をよく聞き、実際の授業への心構えを理解する。

準備学習(復習)

学んだ知識技術が、それからの生活の中で生かされるよう心がける。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業参加の状況 | 50% |
| (2) 授業態度 | 30% |
| (3) 実践の状況 | 20% |

教科書

参考書

生涯スポーツ実習 A （コンバインドスポーツ）		PHED-0-104
担当教員： 鈴木 由美		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500320
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（授業の概要や受講ルールの説明）</div> <div>02. チャレンジ ザ ゲーム①</div> <div>03. チャレンジ ザ ゲーム②</div> <div>04. ディスクゴルフ①</div> <div>05. ディスクゴルフ②</div> <div>06. ディスクゴルフ③</div> <div>07. ディスクゴルフ④</div> <div>08. アルティメット①</div> <div>09. アルティメット②</div> <div>10. アルティメット③</div> <div>11. アルティメット④</div> <div>12. ラージボール卓球①</div> <div>13. ラージボール卓球②</div> <div>14. ラージボール卓球③</div> <div>15. ラージボール卓球④</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>ニュースポーツ（チャレンジ ザ ゲーム、ディスクゴルフ、アルティメット、ラージボール卓球）の実践を通して、①基本的技術・戦術の習得、②ルール、マナーの理解、③コミュニケーションスキルの向上、④ニュースポーツの意義と実践方法の理解を目指す。 身体の直接的経験を基盤としながら、取り扱う各種目の成り立ち、楽しむための工夫等を学習しながら実践を行う。 毎回、個人的技能練習～（集団的技能練習（チーム練習））～ゲームという流れで学習を進める。また、運動実践を行う際、コミュニケーションスキルの習得・向上を重視して（学習</div>	<div>準備学習（予習）</div> <div>必ず着替え・体育館シューズを着用すること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ニュースポーツの実践を通して、これまで経験した競技スポーツとは異なる楽しさを体感することで、生涯スポーツへの志向性を養い、健康への自己教育力を高める。 履修者の主体的条件（体力差や経験の有無）に応じて、基本的な用具（ボール、ディスク等）の操作法を習得し、ゲームに有効に参加することができるようになることを通じて、身体を動かすことの楽しさや爽快感を味わうとともに、チームメイトと協力しコミュニケーションを深めることの意義を理解し実践することを目標とする。また、ゲームコートの設営、ゲームの運営・用具の管理、について</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>経験不問。自分なりの技能の向上を求め、運動・ゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ ニュースポーツ</div> <div>・ 基本的技術・戦術の習得と理解</div> <div>・ コミュニケーション・スキル</div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点75%</div><div>(2) 課題への積極的参加度15%</div><div>(3) 授業記録10%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div>	

生涯スポーツ実習 A (複合スポーツ)

PHED-0-103

担当教員： 松永 直人

學期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500330

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】小學校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

生涯スポーツとして親しまれているテニス及びゴルフを中心に授業を行う。
それぞれの種目の特徴を捉え、健康づくりとしてのスポーツ参加の動機付けの機会と位置付ける。

(2) 学びの意義と目標

生涯スポーツであるテニス・ゴルフのルールを理解し、ゲームとして行える技術を習得する。
また、動いているボールと止まったボールを打つことの違いを理解する。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. テニス①（基本ストローク①）
03. テニス②（基本ストローク②）
04. テニス③（ルールの習得）
05. テニス④（シングルのゲーム）
06. テニス⑤（ダブルスのゲーム①）
07. テニス⑥（ダブルスのゲーム②）
08. テニス⑦（ダブルスのゲーム③）
09. ゴルフ①（グリップ・スタンス）
10. ゴルフ②（スイング①）
11. ゴルフ③（スイング②）
12. ゴルフ④（スイング③）
13. ゴルフ⑤（コース練習①）
14. ゴルフ⑥（コース練習②）
15. ゴルフ⑦（コース練習③）

準備學習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備學習(復習)

ルールや用語、ストロークやスイングを確認しておくこと。

評価方法

- (1) 平常点 100% 積極的態度、行動を評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

生涯スポーツ実習 A （テニス）		PHED-0-103
担当教員： 小澤 治夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500340
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、グルーピング、簡易ゲーム 用具と設備の使い方 </div> <div>02. ボールジャグリングと簡易ゲーム、ラダートレーニング、ウェイトトレーニング</div> <div>03. ラダートレーニング、ウェイトトレーニング、チューブトレーニング、ウォームアップのプログラミング、ショートラリー</div> <div>04. ショートラリー、フォアハンドストローク</div> <div>05. ショートラリー、フォアハンドストローク、簡易ゲーム</div> <div>06. サービスの技術、簡易ゲーム</div> <div>07. ロングラリー（目指せ30回！）、ボレーの技術（目指せ20回！）</div> <div>08. 4人組のロングラリー（目指せ30回！）、ダブルのテストマッチ</div> <div>09. ダブルスのテストマッチ</div> <div>10. ダブルス予選会1回戦</div> <div>11. ダブルス予選会2回戦</div> <div>12. 大会：開会式、チーム対抗戦第1節</div> <div>13. 大会：チーム対抗戦第2節</div> <div>14. 大会：チーム対抗戦第3節</div> <div>15. 大会：閉会式、チーム対抗戦第4節、まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>【テニス】 本講義では、テニスを主教材としつつ体力を高め健康な体をつくるためのトレーニングも実施しながら学習を進めます。体力づくりでは、ラダーやボールを用いたトレーニングあるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたトレーニングを学習します。またテニスにおいては主に初心者及び中級レベル程度の経験者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていきます。授業後半では大会を通して運営の方法も学習します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本講義では、テニスを主教材としつつ体力を高め健康な体をつくるためのトレーニングも実施しながら学習を進めます。体力づくりでは、ラダーやボールを用いたトレーニングあるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたトレーニングを学習します。またテニスにおいては主に初心者及び中級レベル程度の経験者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていきます。授業後半では大会を通して運営の方法も学習します。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>テニスの試合観戦（テレビ中継）</div> <div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業態度60% 授業への参加度</div><div>(2) 授業レポート40% レポートの内容の充実度</div></div> <div>学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。
 グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードおよびレポートにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に参加すること。 テニスシューズを必ず用意すること</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・テニス</div> <div>・生涯</div> <div>・コミュニケーション</div> <div>・マナー</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>中学校、高校で用いた体育の副読本があれば用意しておいていただきたい</div>

生涯スポーツ実習 A （ボールスポーツ）		PHED-0-103									
担当教員： 鈴木 直樹											
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500350									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（講義）</div> <div>02. ネット型ゲーム（バレー, テニス, 卓球, キンボールのようなゲーム） 1</div> <div>03. ネット型ゲーム（バレー, テニス, 卓球, キンボールのようなゲーム） 2</div> <div>04. ネット型ゲーム（バレー, テニス, 卓球, キンボールのようなゲーム） 3</div> <div>05. ネット型ゲーム（バレー, テニス, 卓球, キンボールのようなゲーム） 4</div> <div>06. ゴール型ゲームA（サッカー, バスケット, ハンドボールのようなゲーム） 1</div> <div>07. ゴール型ゲームA（サッカー, バスケット, ハンドボールのようなゲーム） 2</div> <div>08. ゴール型ゲームA（サッカー, バスケット, ハンドボールのようなゲーム） 3</div> <div>09. ゴール型ゲームB（ラグビー, アメフトのようなゲーム） 1</div> <div>10. ゴール型ゲームB（ラグビー, アメフトのようなゲーム） 2</div> <div>11. ゴール型ゲームB（ラグビー, アメフトのようなゲーム） 3</div> <div>12. ベースボール型ゲーム（野球, ソフト, クリケットのようなゲーム） 1</div> <div>13. ベースボール型ゲーム（野球, ソフト, クリケットのようなゲーム） 2</div> <div>14. ベースボール型ゲーム（野球, ソフト, クリケットのようなゲーム） 3</div> <div>15. まとめ（レポートの作成）</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>ゲーム中心の指導アプローチにより、「ゲームを通してゲームでゲームがうまくなる」ようにしていく。また、技能の違い、ゲームの状況判断能力の違いを超え、様々な集団でゲームを楽しむことができるように工夫していく。さらに、授業内で学んだことがいろいろなスポーツ種目に使える力になっていくことができるように配慮していく。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>生涯にわたって運動に親しむための「運動とかかわる力」を育成していくことを目指す。授業を通して、性別、年齢、体力の違いを超えて運動実践を楽しく行うことができるようになっていくことができることが目標である。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>課題を確認し、課題を明確にしておく。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>運動着、体育館シューズを持参すること。また、積極的な参加を期待する。
</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業を振り返り、課題をもつ。</div>									
<div>学びのキーワード</div> <div>・ボールゲーム</div> <div>・生涯スポーツ</div> <div>・ゲーム中心の指導</div> <div>・「いつでも」「どこでも」「誰とでも」</div> <div>・体育</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) パフォーマンス評価</td><td>50%</td><td>「運動とかかわる力」に関して授業内で発揮したことを評価の対象とする。</td></tr><tr><td>(2) 授業への取り組み</td><td>30%</td><td>授業中の態度など</td></tr><tr><td>(3) まとめのレポート</td><td>20%</td><td>授業の最終時間に作成をする</td></tr></table> <div>授業中における運動や仲間とのかかわり、授業への取り組みが評価対象となる。また、授業の最終時間に学びを振り返り、学習目標の到達状況を確認する。</div>	(1) パフォーマンス評価	50%	「運動とかかわる力」に関して授業内で発揮したことを評価の対象とする。	(2) 授業への取り組み	30%	授業中の態度など	(3) まとめのレポート	20%	授業の最終時間に作成をする
(1) パフォーマンス評価	50%	「運動とかかわる力」に関して授業内で発揮したことを評価の対象とする。									
(2) 授業への取り組み	30%	授業中の態度など									
(3) まとめのレポート	20%	授業の最終時間に作成をする									
		<div>教科書</div>									
		<div>参考書</div>									

生涯スポーツ実習 A (フィットネスエクササイズ)

PHED-0-103

担当教員：鈴木 由美

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500360

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

「健康」について、実技と理論の両面から学習します。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋力コンディショニング運動(自重を使ったトレーニング)・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチングなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるような複数の動作

(2) 学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。
生活全般(食事・運動・睡眠)にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

受講者に対する要望

服装は、運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。

学びのキーワード

- ・フィットネス
- ・健康への自己教育力の向上
- ・実践方法

授業計画

01. ガイダンスと基本動作 ■以降、ストレッチングは毎回実施
02. エアロビクス運動とは ■エアロビクス(フットワークI)
03. 健康を支える要素・運動の必要性と効果 ■エアロビクス(フットワークII)
04. 自分の身体を知る(体組成測定) ■エアロビクス
05. 自分の身体を知る(姿勢・ゆがみチェック) ■エアロビクス
06. 自分に適した運動を知る(運動強度) ■ステップエアロビクス
07. 自分に適した運動を知る(運動の種類・頻度) ■ステップエアロビクス
08. 筋コンディショニングの必要性と効果 ■バランスボール
09. トレーニングの原則 ■バランスボール
10. ライフスタイルと健康(食生活I) ■パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康(食生活II) ■パワーヨガ
12. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介
13. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介
14. リクエストウィーク(これまでに実施のリクエストエクササイズ)
15. まとめ

準備学習(予習)

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

準備学習(復習)

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について整理する。また、解決策や疑問点について調べてみる。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度・習熟度 | 15% |
| (3) 授業記録ノート | 10% |

教科書

参考書

生涯スポーツ実習 A （サッカー）		PHED-0-103					
担当教員： 檜山 康							
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500370					
学部教育の関連目		授業計画					
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける							
カリキュラム上の位置付け							
【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目							
(1) 内容		01. オリエンテーション・導入 02. ボール無しの動き（１）集団で動くことの難しさ 03. ボール無しの動き（２）サポートの方法（タイミング、角度） 04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係 05. プレーの先取り スペースを創って使う 06. 判断のスピード ３人目の動きのタイミング 07. １対１の対応 局面と全体の関係 08. チームワークとは何か 09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動 10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る 11. 攻撃の連動（１） 幅を使う 動き出す 12. 攻撃の連動（２） 切り替え コンパクト 13. 数的優位を作る 生かす 14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ 15. まとめ					
技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サッカーの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を２種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。							
(2) 学びの意義と目標							
本授業ではサッカーにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サッカーの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでももらいたいと考えている。							
準備学習(予習)							
前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。							
準備学習(復習)							
最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしておくこと。							
評価方法							
<table><tr><td>(1) レポート</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 実技試験</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 参加態度</td><td>20%</td></tr></table> <p>実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。</p>			(1) レポート	50%	(2) 実技試験	30%	(3) 参加態度
(1) レポート	50%						
(2) 実技試験	30%						
(3) 参加態度	20%						
受講者に対する要望		教科書					
サッカーに強い関心がある学生に受講してもらいたい。							
学びのキーワード		参考書					
・スポーツ指導 ・チーム戦術 ・グループ戦術 ・個人戦術 ・戦術的なゲーム							

生涯スポーツ実習B（バスケットボール）

PHED-0-104

担当教員：松永 直人

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500410

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

バスケットボールは走る、跳ぶ、投げるという運動を含み、瞬発力、持久力を必要とするスポーツである。スポーツの基本的な動作を多く含んだバスケットボールを通じて、様々な身体活動を行い、生涯スポーツに取り組む動機付けと位置付ける。

(2) 学びの意義と目標

個人的な技術の向上だけでなく、チームスポーツを通して協調性の向上や戦術を理解することで相手の行動を先読みする精神的な充実を目標とする。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。

学びのキーワード

- ・チームスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. コーディネーショントレーニング
03. 実技①（基本的な技術の習得①）
04. 実技②（基本的な技術の習得②）
05. 実技③（基本的な技術の習得③）
06. 実技④（ルールの理解）
07. 実技⑤（ゲーム①）
08. 実技⑥（ゲーム②）
09. 実技⑦（戦術論①）
10. 実技⑧（戦術論②）
11. 実技⑨（ゲーム③）
12. 実技⑩（ゲーム④）
13. 実技⑪（ゲーム⑤）
14. 実技⑫（ゲーム⑥）
15. まとめ

準備学習（予習）

これまでのボールスポーツの経験を振り返り、まとめておく。

準備学習（復習）

ルールや技術・戦術を確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 積極的態度、行動を評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

生涯スポーツ実習B（バレーボール）		PHED-0-102
担当教員： 鈴木 由美		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500420
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ○ガイダンス（以降、肩慣らし・基本練習は毎週行う）</div> <div>02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム</div> <div>03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム</div> <div>04. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）</div> <div>05. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）</div> <div>06. ○個人的技能練習（パス・スパイク） ●チャンスボールをセッターへ</div> <div>07. ○集団的技能練習（チャンスボールからの攻撃） ●チャンスボールをセッターへ</div> <div>08. ○集団的技能練習（シートレシーブ） ●チャンスボールから攻撃へ</div> <div>09. ○集団的技能練習（攻撃へのつなぎ） ●攻撃にチャレンジ</div> <div>10. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合</div> <div>11. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合</div> <div>12. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合</div> <div>13. ●ゲーム（リーグ戦）男女別</div> <div>14. ●ゲーム（リーグ戦）学年別</div> <div>15. ●ゲーム</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。</div> <div>履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>必ず着替え・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>75%</div></div><div><div>(2) 課題への積極的参加度・習熟度</div><div>15%</div></div><div><div>(3) 授業記録ノート</div><div>10%</div></div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>経験不問。できるできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・バレーボール</div><div>・技術・戦術・マナー・ルール</div><div>・コミュニケーションスキルの向上</div></div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div> <div>参考書</div>	

生涯スポーツ実習B (バドミントン)

PHED-0-104

担当教員：松永 直人

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500430

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

バドミントン競技は、トップ選手では初速が時速400kmを越えるハードなスポーツである一方、地域レベルでは競技人口も増え老若男女楽しめる生涯スポーツとなっている。バドミントン競技を通じて健康と運動の関わり合いを理解し、生涯スポーツへの動機づけの機会と位置付ける。

(2) 学びの意義と目標

ラケットの握り方から基本ストローク及びルールを習得し、ゲーム形式の実践を繰り返し、各種目の競技形態や競技特性を理解する。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全て運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス (運動は行わない)
02. シャトル・ラケットに慣れる
03. 基本ストローク①
04. 基本ストローク②
05. 簡易ラリー
06. 競技規則、審判の方法の習得
07. シングルのゲーム①
08. シングルのゲーム②
09. ダブルスのゲーム①
10. ダブルスのゲーム②
11. トリプルのゲーム
12. 団体戦①
13. 団体戦②
14. 団体戦③
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

各ショットの名前と軌道、ルール、戦術論等を確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 積極的態度、行動を評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

生涯スポーツ実習B（テニス）		PHED-0-104
担当教員：小澤 治夫		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：11500440
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、グルーピング、簡易ゲーム 02. ボールジャグリングと簡易ゲーム、ラダートレーニング、ウェイトトレーニング、チューブトレーニング 03. ショートラリー、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、ロングラリー 04. サービスの技術、ロングラリー（目指せ30回！）、ボレーの技術（目指せ20回！） 05. 4人組のロングラリー（目指せ30回！）、ダブルのテストマッチ 06. シングルのテストマッチ、チームによる練習会 07. ダブルス予選会 08. シングルス予選会 09. 大会：開会式、チーム対抗戦第1節 10. 大会：チーム対抗戦第2節 11. 大会：チーム対抗戦第3節 12. チームによる練習会、上級者に学ぶクリニック 13. 大会：チーム対抗戦第4節 14. 大会：チーム対抗戦第5節 15. 閉会式、チーム対抗戦第6節、まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>【テニス】 本講義では、テニスを主教材としつつ、生涯をアクティブに生きていくことを可能にする強い体をつくりためのトレーニングも実施しながら学習を進めます。トレーニングでは、ラダーやボールを用いたり、あるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたりしたトレーニングを学習します。またテニスにおいては主に中級・上級レベル程度の経験者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていきます。授業後半では大会を通して運営の方法も学習します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>生涯を健康でアクティブな体を維持するためにスポーツを若い時期に学習し、その方法を習得することは長い人生において有意義なことといえます。そしてスポーツは、音楽や文学と同様に人類が創出してきた文化であり、本授業では、そうした文化としてのスポーツのうちの一つであるテニスを学び、これからの人生に活かしていくことのできるような力をつけることを大きな目標とし、テニスの技術・ルールなどを習得し、また練習の方法と大会運営の方法を理解し実際に活用できる能力を養います。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に参加すること テニスシューズを必ず用意すること</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>試合観戦（テレビ中継）</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業態度60% 授業への参加度</div><div>(2) 授業レポート40% レポートの内容の充実度</div></div> <div>学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードおよびレポートにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・テニス ・生涯スポーツ ・コミュニケーション ・マナー</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>！中学校「および高校で用いた体育の副読本があれば用意していただきたい</div>	

生涯スポーツ実習B（ボールスポーツ）		PHED-0-104
担当教員：鈴木 直樹		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500450
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（講義） 02. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 1 03. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 2 04. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 3 05. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 4 06. ゴール型ゲームA（サッカー， バス케， ハンドボールのようなゲーム） 1 07. ゴール型ゲームA（サッカー， バス케， ハンドボールのようなゲーム） 2 08. ゴール型ゲームA（サッカー， バスケ， ハンドボールのようなゲーム） 3 09. ゴール型ゲームB（ラグビー， アメフトのようなゲーム） 1 10. ゴール型ゲームB（ラグビー， アメフトのようなゲーム） 2 11. ゴール型ゲームB（ラグビー， アメフトのようなゲーム） 3 12. ベースボール型ゲーム（野球， ソフト， クリケットのようなゲーム） 1 13. ベースボール型ゲーム（野球， ソフト， クリケットのようなゲーム） 2 14. ベースボール型ゲーム（野球， ソフト， クリケットのようなゲーム） 3 15. まとめ（レポートの作成）</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題を確認し， 課題を明確にしておく。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業を振り返り， 課題をもつ。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) パフォーマンス評価 50% 「運動とかかわる力」に関して授業内で発揮したことを評価の対象とする。 (2) 授業への取り組み 30% 授業中の態度など (3) まとめのレポート 20% 授業の最終時間に作成をする</div> <div>授業中における運動や仲間とのかかわり、授業への取り組みが評価対象となる。また、授業の最終時間に学びを振り返り、学習目標の到達状況を確認する。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>ゲーム中心の指導アプローチにより，「ゲームを通してゲームでゲームがうまくなる」ようにしていく。また，技能の違い，ゲームの状況判断能力の違いを超え，様々な集団でゲームを楽しむことができるように工夫していく。さらに，授業内で学んだことがいろいろなスポーツ種目に使える力になっていくことができるように配慮していく。</div>	<div>学びのキーワード</div> <div>・ ボールゲーム ・ 生涯スポーツ ・ ゲーム中心の指導 ・ 「いつでも」「どこでも」「誰とでも」 ・ 体育</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>生涯にわたって運動に親しむための「運動とかかわる力」を育成していくことを目指す。授業を通して，性別，年齢，体力の違いを超えて運動実践を楽しく行うことができるようになっていくことができることが目標である。</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>運動着， 体育館シューズを持参すること。また，積極的な参加を期待する。
</div>		

生涯スポーツ実習B（フィットネスエクササイズ）

PHED-0-104

担当教員：鈴木 由美

學期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500460

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

「健康」について実践と理論の両方から同時進行で学習します。エアロビックダンス・ステップ台を使ったストレップエアロ・筋コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング）・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるような複数

(2) 学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。
生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

受講者に対する要望

様々なエクササイズに備え、体調を整えておくこと。運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。

学びのキーワード

- ・フィットネス
- ・健康への自己教育力の向上
- ・実践方法

授業計画

01. ガイダンスと基本動作■以降、ストレッチングは毎回実施
02. エアロビクス運動とは■エアロビクス（フットワークI）■体組成測定
03. 健康を支える要素・運動の必要性と効果■エアロビクス（フットワークII）
04. 自分の身体を知る（体組成測定）■エアロビクス
05. 自分の身体を知る（姿勢・ゆがみチェック）■エアロビクス
06. 自分に適した運動を知る（運動強度）■ステップエアロビクス
07. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度）■ステップエアロビクス
08. 筋コンディショニングの必要性と効果■バランスボール
09. トレーニングの原則■バランスボール
10. ライフスタイルと健康（食行動Ⅰ）■パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康（食行動Ⅱ）■パワーヨガ
12. ヨガ＆流行のエクササイズ紹介
13. ヨガ＆流行のエクササイズ紹介
14. リクエストワーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ）
15. まとめ

準備學習(予習)

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

準備學習(復習)

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について整理し、解決策や疑問点について調べておく。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度・習熟度 | 15% |
| (3) 授業記録ノート | 10% |

教科書

参考書

生涯スポーツ実習B（サロンフットボール）		PHED-0-104	
担当教員： 檜山 康			
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500470	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション・導入 02. ボール無しの動き（１）集団で動くことの難しさ 03. ボール無しの動き（２）サポートの方法（タイミング、角度） 04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係 05. プレーの先取り スペースを創って使う 06. 判断のスピード ３人目の動きのタイミング 07. １対１の対応 局面と全体の関係 08. チームワークとは何か 09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動 10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る 11. 攻撃の連動（１） 幅を使う 動き出す 12. 攻撃の連動（２） 切り替え コンパクト 13. 数的優位を作る 生かす 14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>			
<div>（１）内容</div> <div>技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サロンフットボールの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を２種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。</div>			
<div>（２）学びの意義と目標</div> <div>本授業ではサロンフットボールにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サロンフットボールの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。</div>		<div>準備学習（予習）</div> <div>前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>サロンフットボールに強い関心がある学生に受講してもらいたい。</div>		<div>準備学習（復習）</div> <div>最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしておくこと。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div><div>（１）レポート</div><div>（２）実技試験</div><div>（３）参加態度</div></div><div><div>50%</div><div>30%</div><div>20%</div></div></div> <div>実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・スポーツ指導</div><div>・チーム戦術</div><div>・グループ戦術</div><div>・個人戦術</div><div>・戦術的なゲーム</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

体育(講義)

PHED-0-105

担当教員：鈴木 直樹

学期：集中講 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500500

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

高等学校までの保健体育の学習を基礎として、生涯を健康に生きるために必要な人間の身体特性について、様々な角度から学習する。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための必修科目

(2) 学びの意義と目標

健康の柱である運動・休養・栄養や身体の特性について科学的理論に基づいた幅広い教養を身につけることで、自身の健康だけではなく、まわり（社会）の健康についても、積極的に働きかけるように人になることを期待する。

受講者に対する要望

日ごろから健康や運動・スポーツに関心を持ってほしい。

学びのキーワード

- ・健康とスポーツ
- ・生涯スポーツ
- ・身体的特性
- ・発達
- ・身体活動

授業計画

01. 体力低下の問題 新体力テストの結果から
02. 人間の健康と身体活動
03. 心身の発達・発達と運動・スポーツ
04. プレイ論から考える生涯スポーツ
05. ライフステージ別に見た運動・スポーツ（児童・青年期）
06. ライフステージ別に見た運動・スポーツ（中高年・女性）
07. 身体特性を踏まえた学齢期における運動・スポーツ指導
08. 栄養・睡眠・環境と運動・スポーツ

準備学習(予習)

前週に課題を出すので調べてくる。

準備学習(復習)

課題を適宜指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 定期試験 | 60% |
| (2) ミニレポートorミニテスト | 20% |
| (3) 授業への取り組み | 20% |

(1)講義のまとめとして学習の達成度をペーパーテストにより評価する
(2)毎回授業の最後に確認のテストかレポート作成を行う
(3)授業への積極性

教科書

参考書

聖書の世界 A		CHRI-0-201						
担当教員： 野島 邦夫								
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11600116						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. はじめに：オリエンテーション 02. 若者と宗教 03. 教会（礼拝）の実際 04. 聖書とは何か？（聖書の概観・おさらい） 05. 旧約聖書の教えは非人道的か？ 06. 人間の価値とヒューマニズム 07. ただ一人の神と人間の価値 08. 人間は「共に生きる」存在 09. エゴイズムの問題 10. モーセの十戒 11. ダビデー聖人か罪人か？ 12. ヨブー苦しみの中から叫ぶ 13. イザヤによる救いの予言 14. 旧約から新約へ 15. まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>キリスト教と聖書の初歩的な知識（一年時の「キリスト教概論」程度の）を前提にします。（しかし、その復習を加えて講義を進めますから、すこし忘れたかなと思う人でも心配いりません。） 聖書の世界は大変深くまた複雑です。それだけにはじめ取っ付きにくいですが、なれて来るとそのおもしろさのとりこになるでしょうし、聖書に照らして人間、また自分がわかってきます。 一般的・抽象的な解説はなるべく避けて、複雑な内容を整理しつつ、毎回、聖書の中から特に興味深く重要なテーマを、具体的な人物や出来事に即して考えます。それらの人物の生</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>学生の皆様は、やがて社会に出られます。社会生活について期待と不安をもっておられるでしょう。大切なことは主体性を確立しておくこと、言葉を換えれば「自分で考える」人になること、そのために「考えの土台・人生の背骨になるもの」を見つけておくことです。キリスト教は、まさにそのためにあります。死後のことを説明するためだけではなく。キリスト教の教えをまとめた本（教典）が聖書です。 「聖書」は宗教の教典で二・三千年前に書かれた古文書・・・と聞くと、はじめ誰でもたいてい「読む気が起こらない」と敬遠するでしょう。しかし</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>これは「聖書」そのものを学ぶ授業です。授業中にも聖書を頻繁に使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不可）を毎回持って来てください。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、指示されている聖書箇所を必ず読んできてください。それによって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。</div>						
		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回、講義の詳しいプリントを渡します。それを講義後必ず読み返してください。
さらに、講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、毎回の講義の内容に関係するテーマで、定期的に「小作文」（200字）の時間を取ります。</div>						
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">旧約聖書悪愛苦しみ救い</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業参加度・課題</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 礼拝出席レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 試験</td><td>50%</td></tr></table> <div>欠席が三分の一以上の人と、課題・レポートを提出しない人は、試験を受けることができません。</div>	(1) 授業参加度・課題	30%	(2) 礼拝出席レポート	20%	(3) 試験	50%
(1) 授業参加度・課題	30%							
(2) 礼拝出席レポート	20%							
(3) 試験	50%							
		<div>教科書</div> <div>共同訳聖書実行委員会 『聖書 - 新共同訳』（日本聖書協会）</div>						
		<div>参考書</div>						

聖書の世界B		CHRI-0-202
担当教員： 野島 邦夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11600217
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. はじめに：オリエンテーション 02. 教会（礼拝）の実際 03. 人間の掛け替えのなさ 04. 隣人愛 05. 人間は一人では生きられない 06. ひとの生き方の基準—十戒 07. 自分を見つめる 08. イエスを見て自分を知る 09. 赦（ゆる）しの問題 10. キリストになろう 11. キリストを信じる 12. あなたは「天使」か「悪魔」か？ 13. あなたは「悪魔」か「天使」か？ 14. 自分が変わるために 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>キリスト教と聖書の初歩的な知識（一年時の「キリスト教概論」程度の）を前提にします。（しかし、その復習を加えて講義を進めますから、すこし忘れたかなと思う人でも心配いりません。）また、この講義は一応、同一講師の「聖書の世界A」の続きですが、それを受講されていない方々にもわかるように構成されています。 聖書の世界は大変深くまた複雑です。それだけにはじめ取っ付きにくいですが、なれて来るとそのおもしろさのとりこになるでしょうし、聖書に照らして人間、また自分がわかってきます。 一般的・抽象的な解説はなるべく避けて、複</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>学生の皆様は、やがて社会に出られます。社会生活について期待と不安をもっておられるでしょう。大切なことは主体性を確立しておくこと、言葉を換えれば「自分で考える」人になること、そのために「考えの土台・人生の背骨になるもの」を見つけておくことです。キリスト教は、まさにそのためにあります。死後のことを説明するためだけではなく。キリスト教の教えをまとめた本（教典）が聖書です。 「聖書」は宗教の教典で二・三千年前に書かれた古文書・・・と聞くと、はじめ誰でもたいてい「読む気が起こらない」と敬遠するでしょう。しかし</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>これは「聖書」そのものを学ぶ授業です。授業中にも聖書を頻繁に使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不可）を毎回持って来てください。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・新約聖書</div><div>・イエス・キリスト</div><div>・愛</div><div>・赦（ゆる）し</div><div>・共に</div></div>		<div>教科書</div> <div>共同訳聖書実行委員会 『聖書 - 新共同訳』（日本聖書協会）</div> <div>参考書</div>

キリスト教と国際社会 A

担当教員：鄭 鎬碩

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：11601610

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、国際社会と民主主義のあり方を多面的に規定してきたキリスト教思想のダイナミックな相貌について学ぶ。テキストおよび映像資料をもとに、キリスト教が植民地主義、民族解放運動、公民権運動、反差別運動とかかわってきた歴史について学習し、現代文化におけるキリスト教の意味について考えていく。

(2) 学びの意義と目標

- (1) 現代国際社会の形成におけるキリスト教のかかわりについての基礎知識を手に入れる。
- (2) テキストを読み、意見をまとめる力を養う。

受講者に対する要望

世界史および社会運動に関心のある学生の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 国際社会
- ・ キリスト教的普遍主義
- ・ 市民的不服従・非暴力主義
- ・ 社会運動

授業計画

01. イントロダクション
02. 国際社会の形成とキリスト教 (1) : 「国際社会」という考え方
03. 国際社会の形成とキリスト教 (2) : キリスト教的普遍主義
04. キリスト教と植民地主義 (1)
05. キリスト教と植民地主義 (2)
06. キリスト教と植民地主義 (3)
07. キリスト教と民族解放運動 (1)
08. キリスト教と民族解放運動 (2)
09. キリスト教と公民権運動 (1)
10. キリスト教と公民権運動 (2)
11. 「寄留の民」の神学 (1)
12. 「寄留の民」の神学 (2)
13. 「寄留の民」の神学 (3)
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)

準備学習(予習)

指定するテキストと聖書の箇所を熟読する。

準備学習(復習)

毎回の授業内容に対する自分のコメントを文章でまとめる。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 礼拝レポート | 20% |
| (2) 試験 | 40% |
| (3) 平常点 | 40% |

教科書

授業内でプリントを配布する。

参考書

キリスト教と国際社会B

担当教員：鄭 鎬碩

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：11601719

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、現代の国際社会と民主主義のあり方を多面的に規定してきたキリスト教思想のダイナミックな相貌について学ぶ。テキストおよび映像資料をもとに、キリスト教が植民地主義、民族解放運動、公民権運動、反差別運動とかかわってきた歴史について学習し、現代文化におけるキリスト教の意味について考えていく。

(2) 学びの意義と目標

(1) 現代国際社会の形成におけるキリスト教のかかわりについての基礎的な歴史的知識を手に入れる。
(2) テキストを読み、自分の意見をまとめる力を養う。

受講者に対する要望

世界史および社会運動に関心のある学生の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 国際社会
- ・ キリスト教的普遍主義
- ・ 市民的不服従・非暴力主義
- ・ 社会運動

授業計画

01. イントロダクション
02. 国際社会の形成とキリスト教(1)：「国際社会」という考え方
03. 国際社会の形成とキリスト教(2)：キリスト教的普遍主義
04. キリスト教と植民地主義(1)
05. キリスト教と植民地主義(2)
06. キリスト教と植民地主義(3)
07. キリスト教と民族解放運動(1)
08. キリスト教と民族解放運動(2)
09. キリスト教と公民権運動(1)
10. キリスト教と公民権運動(2)
11. 「寄留の民」の神学(1)
12. 「寄留の民」の神学(2)
13. 「寄留の民」の神学(3)
14. まとめ(1)
15. まとめ(2)

準備学習(予習)

指定するテキストと聖書の箇所を熟読する。

準備学習(復習)

毎回の授業内容に対する自分のコメントを文章でまとめる。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 礼拝レポート | 20% |
| (2) 試験 | 40% |
| (3) 平常点 | 40% |

教科書

授業内でプリントを配布する。

参考書

キリスト教と日本社会 A		CHRI-0-224									
担当教員： 柳田 洋夫											
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11601820									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ところ変われば宗教も変わる―和辻哲郎の風土論― 02. キリスト教の迫害と解禁（1） 03. キリスト教の迫害と解禁（2） 04. キリスト教の迫害と解禁（3） 05. 聖書はじめて物語（1） 06. 聖書はじめて物語（2） 07. 讃美歌・唱歌・近代化 08. ヘボンとフルベッキ 09. ニコライ神父と明治日本 10. 福沢諭吉 11. 新島襄と新島八重（1） 12. 新島襄と新島八重（2） 13. リデル・ライトのハンセン病救済運動 14. 教会と現代社会―藤藪庸一 15. まとめ</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>1年次でのキリスト教概論の内容をふまえ、キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について、時代背景も鑑みながら具体的な人物・事項に即して学ぶ。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について理解を深めるとともに、この学びを手がかりとして広く宗教と社会との関連についても自ら考えることを目指す。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業においてその都度指示する。</div>										
	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業においてその都度指示する。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは、授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。</div>	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>50%</td><td>規定に満たない場合は評価の対象としない</td></tr><tr><td>(2) 試験</td><td>30%</td><td>規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない</td></tr><tr><td>(3) 礼拝レポート</td><td>20%</td><td>必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない</td></tr></table> <div>授業への参加度、試験、礼拝レポートすべてを満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。</div>		(1) 授業への参加度	50%	規定に満たない場合は評価の対象としない	(2) 試験	30%	規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない	(3) 礼拝レポート	20%	必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない
(1) 授業への参加度	50%	規定に満たない場合は評価の対象としない									
(2) 試験	30%	規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない									
(3) 礼拝レポート	20%	必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない									
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">日本近代とキリスト教日本におけるキリスト教の歴史</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>										

キリスト教と日本社会B		CHRI-0-225
担当教員： 柳田 洋夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11601921
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 内村鑑三（１） 02. 内村鑑三（２） 03. 熊本バンドと徳富蘇峰 04. 新渡戸稲造と「武士道」（１） 05. 新渡戸稲造と「武士道」（２） 06. 田中正造と谷中村 07. 植村正久 08. 山室軍平と救世軍 09. 八木重吉と三木露風 10. 岡倉天心（１） 11. 岡倉天心（２） 12. 矢内原忠雄 13. 森有正 14. 三浦綾子 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1年次でのキリスト教概論の内容をふまえ、キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について、時代背景も鑑みながら具体的な人物・事項に即して学ぶ。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業においてその都度指示する。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について理解を深めるとともに、この学びを手がかりとして広く宗教と社会との関連についても自ら考えることを目指す。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業においてその都度指示する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 日本近代とキリスト教 ・ 日本におけるキリスト教の歴史</div>	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業への参加度</div><div>50%</div><div>規定に満たない場合は評価の対象としない</div></div><div><div>(2) 試験</div><div>30%</div><div>規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない</div></div><div><div>(3) 礼拝レポート</div><div>20%</div><div>必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない</div></div></div> <div>授業への参加度、試験、礼拝レポートすべてを満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

キリスト教と日本宗教		CHRI-0-226						
担当教員： 濱田 辰雄								
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11602024						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業全体と「日本人と宗教」についてのオリエンテーション</div> <div>02. 「はじめに」と「序章」①</div> <div>03. 「序章」②、第一章 神と地名の古代学①</div> <div>04. 同上、②</div> <div>05. 第二章 原恩主義の論理</div> <div>06. 第三章 「モリ」に祈る万葉びとたち①</div> <div>07. 同上、②</div> <div>08. 第四章 「カムナビ」と呼ばれた祭場、聖地</div> <div>09. 第五章 神の帯にする川①</div> <div>10. 同上、②</div> <div>11. 第六章 ミモロは人の守る山</div> <div>12. 第七章 畏怖と愛情という感情①</div> <div>13. 同上、②</div> <div>14. 第八章 人と天皇と神と①</div> <div>15. 同上②</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>宗教は「聖なるもの」との出会い、共なる生活である。しかしその「聖なるもの」の性質や生活のしかたには民族や時代によってそれぞれ大きな違いがある。キリスト教と日本宗教の関わりや違いを考察するにあたり、この「聖なるもの」という概念を中心にしていきたい。</div> <div>また「聖」と対極概念である「俗」についても考察し、日本人の宗教性のあり方をキリスト教と共に考えていく。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>一般に日本人の多くが「自分は無宗教だ」という自覚を持っている。しかし一方で圧倒的多数の日本人が初詣に神仏を参拝するために寺社を訪れる。</div> <div>キリスト教と比較しながら私たち日本人の宗教性について考察していきたい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書を良く読むこと。そして「宗教」というものに関心をもって授業に臨んで欲しい。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>教科書を良く読むこと。そして「宗教」というものに関心をもって授業に臨んで欲しい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>復習は講義内容のノートを読み返し、当日の講義の意図がどこにあったかを考える。</div>						
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 日本</div> <div>・ 国際</div> <div>・ 宗教</div> <div>・ 人間</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 試験</td><td>70%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 授業態度（平常点）</td><td>10%</td></tr></table> <div>毎回の出席が大前提となる。欠席は減点の対象となる。</div> <div>教科書</div> <div>上野誠『日本人にとって聖なるものとは何か』中央新書 880円＋税</div> <div>参考書</div>	(1) 試験	70%	(2) レポート	20%	(3) 授業態度（平常点）	10%
(1) 試験	70%							
(2) レポート	20%							
(3) 授業態度（平常点）	10%							

キリスト教とアメリカ文化A		CHRI-0-233					
担当教員： 森田 美千代							
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11602681					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. はじめに 02. 概説（１） 03. 概説（２） 04. 『アンクル・トム的小屋』を読む 第1章を読む, ディスカッション 05. 第2章を読む, ディスカッション 06. 第3章を読む, ディスカッション 07. 第4章を読む, ディスカッション 08. 第5章を読む, ディスカッション 09. 第6章を読む, ディスカッション 10. 第7章を読む, ディスカッション 11. 第8章を読む, ディスカッション 12. 第9章を読む, ディスカッション 13. 第10章を読む, ディスカッション 14. 第11章を読む, ディスカッション 15. おわりに</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>今後数年間にわたって、キリスト教がアメリカ文化に与えた影響を、時代順にみていく予定である。今年度の春学期は、19世紀のアメリカにおいて、キリスト教と文化（生活）との相互関係のドラマがどのように展開されていったかを、ハリエット・ビーチャー・ストウの『アンクル・トム的小屋』を通して学ぶことにする。</div>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>アメリカにおけるキリスト教と文化の最初の頃（19世紀頃まで）をしっかりと学んでおくことは、その後のアメリカー20世紀と21世紀ーを理解するうえで大きな助けになる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>配布されたプリントを読んで、授業に出席する。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>キリスト教とアメリカ文化の深い関わりについて興味と関心を持ち続けることができること。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業のポイントを書き留めておく。</div>						
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 礼拝レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 期末レポート</td><td>50%</td></tr></table> <div>授業計画にあるディスカッションとは、定められたテーマについてグループ・ディスカッションをすること、グループで話された内容を他のグループと分かち合うことを指す。</div>		(1) 平常点	30%	(2) 礼拝レポート	20%	(3) 期末レポート
(1) 平常点	30%						
(2) 礼拝レポート	20%						
(3) 期末レポート	50%						
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・キリスト教</div><div>・アメリカ文化</div><div>・奴隷制</div><div>・『アンクル・トム的小屋』</div><div>・ハリエット・ビーチャー・ストウ</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>					

キリスト教とアメリカ文化B		CHRI-0-234					
担当教員： 森田 美千代							
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11602782					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. はじめに 02. 概説（１） 03. 概説（２） 04. 『アンクル・トム的小屋』第１１章までの要約 05. 『アンクル・トム的小屋』を読む 第１２章を読む，ディスカッション 06. 第１３章を読む，ディスカッション 07. 第１４章を読む，ディスカッション 08. 第１５章を読む，ディスカッション 09. 第１６章を読む，ディスカッション 10. 第１７章を読む，ディスカッション 11. 第１８章を読む，ディスカッション 12. 第１９章を読む，ディスカッション 13. 第20章を読む，ディスカッション 14. 第21章を読む，ディスカッション 15. おわりに</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>今後数年間にわたって、キリスト教がアメリカ文化に与えた影響を、時代順にみていく予定である。今年度の秋学期は、19世紀のアメリカにおいて、キリスト教と文化（生活）との相互関係のドラマがどのように展開されていったかを、ハリエット・ビーチャー・ストウの『アンクル・トム的小屋』を通して学ぶことにする。</div>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>アメリカにおけるキリスト教と文化の最初の頃（19世紀頃まで）をしっかりと学んでおくことは、その後のアメリカー20世紀と21世紀—のアメリカを理解するうえで大きな助けになる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>配布されたプリントを読んで、授業に出席する。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>キリスト教とアメリカ文化の深い関わりについて興味と関心を持ち続けることができること。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業のポイントを書き留めておく。</div>						
	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 礼拝レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 期末レポート</td><td>50%</td></tr></table><div>授業計画にあるディスカッションとは、定められたテーマについてグループ・ディスカッションをすること、グループで話された内容を他のグループと分かち合うことを指す。</div></div>		(1) 平常点	30%	(2) 礼拝レポート	20%	(3) 期末レポート
(1) 平常点	30%						
(2) 礼拝レポート	20%						
(3) 期末レポート	50%						
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・キリスト教・アメリカ文化・奴隷制・『アンクル・トム的小屋』・ハリエット・ビーチャー・ストウ</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>					

キリスト教と日本思想		CHRI-0-227
担当教員： 濱田 辰雄		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11602929
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業全体のオリエンテーション、 「はじめに」</div> <div>02. 序章「神国思想・再考への道」①</div> <div>03. 同上、②</div> <div>04. 第一章「変動する神々の世界」①</div> <div>05. 同上、②</div> <div>06. 第二章「神と仏との交渉」①</div> <div>07. 同上、②</div> <div>08. 第三章「神国思想の成立と変容」①</div> <div>09. 同上、②</div> <div>10. 第四章「神国思想の歴史的意義」①</div> <div>11. 同上、②</div> <div>12. 第五章「疎外される天皇」①</div> <div>13. 同上、②</div> <div>14. 終章「神国の行方」①</div> <div>15. 同上、②</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>日本は古くより「神国日本」を自認してきている国である。本授業では佐藤弘夫著『神国日本』をテキストとして「神国日本」の思想と歴史を学んでいきたい。その上でキリスト教と聖書に示されている「神の国」思想と比較しながら、日本における共同体形成の課題について考察していきたい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>人間は社会性を持っており、共同体形成をする動物である。その共同体は家庭であり、ご近所であり、そして村や町、最後に国となる。それらの共同体形成のし方に、民族や時代によってそれぞれ特徴や特色がある。そこに文化が生じる。日本は古くより八百万の神々を中心とする「神の国」であることを自認して「神国日本」と称してきた。一方キリスト教にも「神の国」思想がある。それらを対照・比較しながら現代における共同体形成のあるべき姿を模索していきたい。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>復習は講義内容のノートを読み返し、当日の講義の意図がどこにあったかを考える。</div>		
<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 試験</div><div>70%</div></div><div><div>(2) レポート</div><div>20%</div></div><div><div>(3) 授業態度（平常点）</div><div>10%</div></div></div> <div>毎回の出席が大前提となる。欠席は減点の対象となる。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 日本</div><div>・ 国際社会</div><div>・ 公共</div><div>・ 市民</div><div>・ 宗教</div></div>		<div>教科書</div> <div>佐藤弘夫『神国日本』 ちくま新書 720円＋税</div> <div>参考書</div>

キリスト教と自然科学A		CHRI-0-240
担当教員： 村瀬 天出夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11603320
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション</div> <div>02. 自然科学とは何か</div> <div>03. 科学的自然観</div> <div>04. キリスト教とは何か</div> <div>05. キリスト教的自然観</div> <div>06. ディスカッション</div> <div>07. 古代・中世の自然観：キリスト教と古代ギリシャ哲学の融合（1）古代ギリシアの宇宙</div> <div>08. 古代・中世の自然観：キリスト教と古代ギリシャ哲学の融合（2）中世キリスト教の宇宙</div> <div>09. 近代の自然観：「科学革命」論</div> <div>10. コペルニクス：太陽中心の宇宙</div> <div>11. ケプラー：世界の調和</div> <div>12. ガリレオ：学問と教会と権力</div> <div>13. ニュートン：自然哲学と聖書研究</div> <div>14. ディスカッション</div> <div>15. まとめとふりかえり</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「自然科学」とは私たちを取り囲む自然世界を研究する、さまざまな学問の総称です。物理学、化学、生物学、天文学といった「理系」の学問、「科学」のことです。自然のさまざまな法則を探求しようとするこれら科学は、そもそも自然世界をどのように眺め、理解し、その法則性を見つけ出そうとしているのでしょうか。その一方で「キリスト教」は自然世界をどのように眺め、理解しているのでしょうか。「科学」と「キリスト教」との間に、自然理解の違いはあるのでしょうか。</div> <div>このような問題を考えるために、本講義では自然科学とキリスト教それぞれ</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本講義では、「科学」という現代社会において大きな価値と影響力をもつ学問体系に「批判的」な視点を持つことを目標とします。「批判的」とは「科学」を「宗教」と比較して、どちらかを優れているものとして賞賛したり、また劣っているものとして「非難」することではありません。「科学」の歴史をみることによって、その自然理解の方法と、その限界を考えることが「批判的」な視点を持つということです。</div> <div>そして、このような「歴史」と「限界」を問うという視点は、ひるがえって「キリスト教」に対しても向けられるものです。両者を「批判的」</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の欄に載せた村上陽一郎『新しい科学論』（講談社ブルーバックス）は、授業内容を理解するためのテキストですので、少しずつでよいので読んでください。他の文献はコピーを配布します。試験でもこれらの文献の内容にかかわる設問が出ます。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>「理系」科目の知識は必要ありません。「科学」とは何だろう、「キリスト教」とは何だろう、という興味・問題意識だけが必要です。授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票のコメント欄で確認するか、授業後に質問にきてください。</div>
<div>評価方法</div> <div>(1) 期末テスト60%</div> <div>(2) 授業への参加度40%</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・キリスト教と自然科学</div> <div>・科学の歴史</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>村上 陽一郎 『新しい科学論―「事実」は理論をたおせるか（ブルーバックス）』（講談社）</div> <div>村上 陽一郎 『科学史の逆遠近法―ルネサンスの再評価（講談社学術文庫）』（講談社）</div> <div>標 宣男 『科学史の中のキリスト教―自然の法からカオス理論まで』（教文館）</div>

キリスト教と自然科学B		CHRI-0-241
担当教員： 村瀬 天出夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11603421
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. キリスト教と科学：対立構造はいつ生まれたか？ 03. 「科学者」とは誰か？ 04. 「科学」はいつ誕生したのか？ 05. 16～17世紀の「自然神学」 06. 18世紀の「聖俗革命」 07. 19世紀：「科学者」の登場 08. 学問の歴史と「科学」 09. 「科学」と「科学者」：知識を生産する 10. 「科学」と「技術」の融合：「科学技術」 11. 科学の目的とは？：「科学研究」と「科学政策」 12. 「科学的である」とはどういう意味か？ 13. 学問と大学とキリスト教 14. ディスカッション 15. まとめとふりかえり</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>キリスト教と自然科学はしばしば対立するものと考えられています。キリスト教信仰の「誤り」を否定し、教会の権威に「勝利」することによって、自然科学は成立したと言われます。また、16・17世紀の「科学者」ガリレオ・ガリレイは、「それでも地球は回っている」と言っ て、地動説を認めないキリスト教会と対立したと考えられています。 このようなキリスト教と科学の対立という見方は、ガリレオより数世紀後の19世紀後半に生まれたものです。このことを自然科学の歴史を振り返ることによって学びます。特に近代科学が生まれたとされる「科学</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現在私たちが知っている自然科学の原型は、ヨーロッパの中世・初期近代の時代に、キリスト教世界で生まれた自然理解の方法です。その意味で科学はきわめて特殊な、キリスト教文化の一つとして理解できます。授業では、キリスト教の考え方、信仰、歴史観が、近代科学の発展を推し進めたことを学びます。近代科学の歴史を振り返ることによって、キリスト教（信仰）と科学（知識）が、互いに協力的な関係にあったことを学習します。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の欄に載せた村上陽一郎『新しい科学論』（講談社ブルーバックス）は、授業内容を理解するためのテキストです で、少しずつでよいので読んでください。他の文献はコ ピーを配布します。試験でもこれらの文献の内容にかかわる設 問が出ます。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分から ない点があったら、出席票または授業後に質問に来てくださ い。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 期末テスト60%</div><div>(2) 授業への参加度40%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・キリスト教と自然科学 ・科学の歴史 ・現代の科学・医学の問題</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>村上 陽一郎 『新しい科学論―「事実」は理論をたおせるか（ブルーバックス）』（講談社） 村上 陽一郎 『科学史の逆遠近法―ルネサンスの再評価（講談社学術文庫）』（講談社） 標 宣男 『科学史の中のキリスト教―自然の法からカオス理論まで』（教文館）</div>

キリスト教と音楽A		CHRI-0-243
担当教員： 渡辺 善忠		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11603672
学部教育の関連目		授業計画
【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. 第1回 ガイダンス 02. 第2回 J. S. バッハ「ロ短調ミサ曲」(1) 03. 第3回 J. S. バッハ「ロ短調ミサ曲」(2) 04. 第4回 J. ハイドン/A. コーブランド「天地創造」(1) 05. 第5回 J. ハイドン/A. コーブランド「天地創造」(2) 06. 第6回 B. ブリテン「ノアの洪水」 07. 第7回 G. F. ヘンデル「エジプトのイスラエル人」 08. 第8回 F. メンデルスゾーン「エリヤ」(1) 09. 第9回 F. メンデルスゾーン「エリヤ」(2) 10. 第10回 T. タリス「エレミヤの哀歌」 11. 第11回 詩編による作品(1) 12. 第12回 詩編による作品(2) 13. 第13回 詩編による作品(3) 14. 第14回 旧約聖書と音楽(前期のまとめ) 15. 第15回 旧約聖書と音楽(試験)
(1) 内容		
(1) 聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学びます。 (2) 聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。 「キリスト教と音楽A」(前期)では、旧約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。なお、「キリスト教と音楽B」(後期)では新約聖書による作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。		
(2) 学びの意義と目標		
キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、現代に至るまで親しまれている音楽の背景にどのような歴史があるかなどを、古今の名曲に親しみながら学びたいと思います。		
受講者に対する要望		
授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながらCDに耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて音楽を学ぶ場としています。		
学びのキーワード		
・ 聖書の言葉 ・ 音楽表現 ・ 作曲家の時代背景 ・ 教会の歴史 ・ 皆さんの感性		
教科書		
参考書		
参考文献 ・ 聖書(旧約聖書両方を用います) ・ 「聖書と音楽」(大野恵正著/新教出版社 2000年) ・ 「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社 2000年) ・ 「大作曲家の信仰と生涯」(P. カヴァノー著・吉田幸弘訳/教文館 2000年) ・ 「教会音楽史と讃美歌字」(横坂康彦著/日本キリスト教団出版局 1993年)		

キリスト教と音楽B		CHRI-0-244
担当教員： 渡辺 善忠		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11603780
学部教育の関連目 【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける		授業計画 01. 第1回 ガイダンス 02. 第2回 G. F. ヘンデル「メサイア」(1) 03. 第3回 G. F. ヘンデル「メサイア」(2) 04. 第4回 C. フランク「至福」 05. 第5回 J. S. バッハ「マタイ受難曲」(1) 06. 第6回 J. S. バッハ「マタイ受難曲」(2) 07. 第7回 H. シュッツ/J. S. バッハ「ヨハネ受難曲」 08. 第8回 F. メンデルスゾーン「聖パウロ」(1) 09. 第9回 F. メンデルスゾーン「聖パウロ」(2) 10. 第10回 新約聖書とクリスマスの讃美歌 11. 第11回 F. シュミット「七つの封印の書」 12. 第12回 聖書と讃美歌の関わりについて(1) 13. 第13回 聖書と讃美歌の関わりについて(2) 14. 第14回 新約聖書と音楽(後期のまとめ) 15. 第15回 新約聖書と音楽(試験)
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 (1) 聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学びます。 (2) 聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。 「キリスト教と音楽B」(後期)では、新約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。		
(2) 学びの意義と目標 キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、現代に至るまで親しまれている音楽の背景にどのような歴史があるかなどを、古今の名曲に親しみながら学びたいと思います。		準備学習(予習) 図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯を調べたり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。
		準備学習(復習) 授業で毎回配布するレジメ(内容の要約)をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。
受講者に対する要望 授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながらCDに耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて音楽を学ぶ場としています。		評価方法 (1) 試験 50% (2) 平常点 30% (3) レポートなど 20%
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> 聖書の言葉 音楽表現 作曲家の時代背景 教会の歴史 皆さんの感性 		教科書 参考書 参考文献 ・聖書(旧新約聖書両方を用います) ・「聖書と音楽」(大野恵正著/新教出版社 2000年) ・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社 2000年) ・「大作曲家の信仰と生涯」(P. カヴァーニ著・吉田幸弘訳/教文館 2000年) ・「教会音楽史と讃美歌学」(横坂康彦著/日本キリスト教団出版局 1993年)

キリスト教音楽史 A		CHRI-0-245
担当教員： 渡辺 善忠		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11603898
学部教育の関連目		授業計画
【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
(1)キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学びます。 (2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。 「キリスト教音楽史 A」では、キリスト教音楽のルーツであるユダヤ教音楽から宗教改革時代までの教会音楽について、聖書解釈と作品の時代背景から論じつつ作品に耳を傾けます。聖書と音楽史との関わりをふまえて音楽を理解することを目的とします。なお、「キリスト教音楽史 B」では宗教改革以降の作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。		01. 第 1 回 ガイダンス 02. 第 2 回 旧約聖書が書かれた時代の音楽(1) 03. 第 3 回 旧約聖書が書かれた時代の音楽(2) 04. 第 4 回 グレゴリオ聖歌(1) 05. 第 5 回 グレゴリオ聖歌(2) 06. 第 6 回 ミサ曲の成立と発展(1) 07. 第 7 回 ミサ曲の成立と発展(2) 08. 第 8 回 オラトリオの成立と発展(1) 09. 第 9 回 オラトリオの成立と発展(2) 10. 第 10 回 レクイエムの成立と発展 11. 第 11 回 宗教改革直前の教会音楽(1) 12. 第 12 回 宗教改革直前の教会音楽(2) 13. 第 13 回 宗教改革時代の教会音楽 14. 第 14 回 前期のまとめ(総論) 15. 第 15 回 前期のまとめ(試験)
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、教会音楽がどのように発展したかを、歴史的な視点で学びたいと思います。		図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯を調べたり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながらCDに耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて音楽を学ぶ場としています。		授業で毎回配布するレジメ(内容の要約)をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。
学びのキーワード		評価方法
・ 聖書の言葉 ・ 音楽表現 ・ ユダヤ教～教会の歴史 ・ 時代背景 ・ 皆さんの歴史理解		(1) 試験 50% (2) 平常点 30% (3) レポートなど 20%
		教科書
		参考書
		参考文献 ・聖書(旧約聖書両方を用います) ・「キリスト教音楽の歴史」(金澤正剛著/日本キリスト教団出版局、2001年) ・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社2000年) ・「ユダヤ音楽の旅」(水野信男著/ミルトス、2000年) その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。

キリスト教音楽史B		CHRI-0-246
担当教員： 渡辺 善忠		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11603906
学部教育の関連目		授業計画
【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. 第1回 ガイダンス 02. 第2回 J. S. バッハ(1) 03. 第3回 J. S. バッハ(2) 04. 第4回 G. F. ヘンデル 05. 第5回 M. ハイドンとJ. ハイドン 06. 第6回 A. モーツァルト 07. 第7回 L. V. ベートーヴェン 08. 第8回 F. シューベルト 09. 第9回 F. メンデルスゾーン 10. 第10回 J. ブラームス 11. 第11回 後期ロマン派のキリスト教音楽(1) 12. 第12回 後期ロマン派のキリスト教音楽(2) 13. 第13回 現代のキリスト教音楽 14. 後期のまとめ(総論) 15. 後期のまとめ(試験)
(1) 内容		
(1)キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学びます。 (2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。 「キリスト教と音楽史B」(後期)では、宗教改革から現代までのキリスト教合唱作品を中心に、教会の歴史・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、教会音楽がどのように発展したかを、歴史的な視点で学びたいと思います。		図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯をたどったり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながらCDに耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて音楽を学ぶ場としています。		授業で毎回配布するレジメ(内容の要約)をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。
学びのキーワード		評価方法
・ 聖書の言葉 ・ 音楽表現 ・ 教会の歴史 ・ 社会的背景 ・ 皆さんの歴史観		(1) 試験 50% (2) 平常点 30% (3) レポートなど 20%
		教科書
		参考書
		参考文献 ・ 聖書 (旧新約聖書両方を用います) ・ 「キリスト教音楽の歴史」(金澤正剛著/日本キリスト教団出版局 2001年) ・ 「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川勝雄他著/キリスト新聞社2000年) ・ 「大作曲家の信仰と生涯」(P. カヴァノー著・吉田幸弘訳/教文館 2000年) その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。

キリスト教と美術 A		CHRI-0-247
担当教員： 喜田 敬		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11604014
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. フランコ・カンタブリア美術 03. メソポタミア美術 04. エジプト美術 05. エジプト美術 06. 中間試験 07. クレタ美術とミュケナイ美術 08. ギリシア美術 09. ギリシア美術 10. エトルリア美術 11. ローマ美術 12. ローマ美術 13. 初期キリスト教美術 14. ビザンティン美術 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>民族と宗教と美術の関係を通し、美術の何たるかを考える。 イタリア、トルコ等で収集した資料を加え、聖書の世界を旅する。 本講義は、キリスト教関連科目のひとつであり、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く修得することを目指す。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>旧・新約聖書の記された時代の文化、文明を学び、聖書理解の幅を広げることを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定した教科書の箇所を熟読する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>歴史の講義であるため、考えるとともに憶えることが多くある。
美術とともに歴史に強い関心のある者の受講を望む。
</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布したプリントを再読し、ノートとともにファイルする。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験90%</div><div>(2) レポート10%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 時代</div><div>・ 民族</div><div>・ 宗教</div><div>・ 政治</div><div>・ 美術</div></div>	<div>教科書</div> <div>口語訳もしくは新共同約 『聖書』（日本聖書協会） 高階 秀爾 『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）</div> <div>参考書</div>	

担当教員：喜田 敬

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：11604122

学部教育の関連目

【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「キリスト教と美術A」に引き続き、欧州中世から北方ルネサンスまでのキリスト教造形芸術の図像と歴史を学ぶ。

今回は2012年に独、仏、西で収集した資料を講義に加える。

本講義は、キリスト教関連科目のひとつであり、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く習得することを目指す。

(2) 学びの意義と目標

中世からルネサンス期に至るキリスト教美術の世界に広く親しみ、その魅力に触れることを目標としている。

受講者に対する要望

西洋美術とその歴史に関心のある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・教会
- ・神学
- ・哲学
- ・神話
- ・信仰

授業計画

01. オリエンテーション
02. 初期中世美術
03. ロマネスク美術
04. ゴシック美術
05. ゴシック美術
06. 中間試験
07. イタリア初期ルネサンス美術
08. イタリア初期ルネサンス美術
09. 15世紀の北方美術
10. 15世紀の北方美術
11. イタリア盛期ルネサンス美術
12. イタリア初期ルネサンス美術
13. 北方ルネサンス美術
14. 北方ルネサンス美術
15. まとめ

準備学習(予習)

指定する教科書の箇所を必ず読むこと。

準備学習(復習)

配布されたプリントを再読し、その日制作したノートとともにファイルすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 90% |
| (2) レポート | 10% |

教科書

口語訳もしくは新共同約 『聖書』 (日本聖書協会)
高階 秀爾 『カラー版 西洋美術史』 (美術出版社)

参考書

キリスト教と法		CHRI-0-221
担当教員： 加藤 恵司		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11605515
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. はじめに/契約と信仰 02. モーセの律法 03. 旧約時代の法生活 04. 預言者の法思想 05. イエス・キリストの法的環境 06. イエス・キリストの裁判 07. パウロとその法思想 08. 原始教会と教会法の成立 09. 教父の活躍と教会会議 10. 中世教会法と魔女裁判、異端審問 11. 宗教改革と改革者の法思想 12. アメリカのキリスト教と法 13. プロテスタント教会法 14. 日本におけるキリスト教と法 15. おわりに</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>キリスト教は、聖書を正典としています。もし、聖書以外の文献に権威を置くならば異端、異宗教と言わざるをえません。それに基づいて、前半では聖書の中に表わされた法、法生活、法環境について講義します。19世紀にゾームという学者は「教会法は教会の本質とは矛盾する」という名言を残しました。（第11講目に講義）彼の主張は、聖書は愛の教えのゆえに法律にはなじまないという主張です。ところが、聖書の生活の中には多くの法的な考え方が多く見られます。「法」は正義が価値ですが、愛と正義は、ベクトル的には同じ方向に向いています。で</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>ノート中心なので欠席をしないこと。あらかじめ、指示されたテキストを読んでください。提出されたノートは、次週に返却をしますので注意箇所をよく読んで同じ誤りをしないようにしてください。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>返されたノートを再読してください。</div> <div>評価方法</div> <div><div>(1) ノート80%</div><div>(2) 参加度20%</div></div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>聖書と教会の歴史を追究します。毎回、ノートを取り、それを提出します。ノートをとることの大切さを知ってください。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>ノートには、感想、疑問、意見を書いていただきます。きっと、新たな発見があることを確信します。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">聖書教会法思想</div>	<div>教科書</div> <div>加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』（ジオー企画出版） 日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）</div> <div>参考書</div>	

キリスト教とアジア文化B		CHRI-0-235
担当教員：松本 周		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：11605686
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. キリスト教とアジア社会 02. キリスト教の歴史とアジア 03. 近現代東アジア史とキリスト教 04. 日韓関係史とキリスト教 05. アジアにおける宣教師の活動 06. 日本の韓半島支配とキリスト教 07. 1907年信仰復興運動と1910年日韓併合 08. 1919年三・一独立運動とキリスト教 09. 1923年関東大震災における悲劇 10. 軍国主義下の日本とアジアの教会 11. 韓国と日本の中で生きたキリスト者 12. 中国と日本の中で生きたキリスト者 13. グローバル化時代のキリスト教会 14. ふりかえり あなたにとっての「アジア史とキリスト教」 15. まとめ アジアの将来とキリスト教</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本学の基盤であるキリスト教と文化諸領域との関わりを考究する、「キリスト教関連科目」の一科目です。 本講義では東アジアの近現代史と関連させながら、キリスト教会から社会への影響、また社会からキリスト教会への影響を考えます。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業時に配布するプリントにより、指示されたテキストを確認し、自分の意見等をまとめておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>世界中の往来が活発化する現代においては、文化的背景を異にする隣人への理解と共生が重要な課題となっています。「キリスト教とアジア文化」を切り口としてこの現代的課題を考え、取り組む力を養っていただきたいと思います。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>質問やコメントによる積極的な授業参加を期待します。またスタディツアー等の参加経験を紹介してくださったり、今後の参加への準備学習にもしててください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリントを読み返したり、紹介した資料を読むことにより、内容理解を深めてほしい。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・東アジア ・近現代史 ・キリスト教と社会 ・グローバル化</div>		
		<div>評価方法</div> <div>(1) リアクションペーパー 40% 授業参加度を含みます。 (2) テスト 40% (3) 全学礼拝・教会レポート 20%</div> <div>以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。</div>
		<div>教科書</div> <div>隅谷三喜男『アジアの問いかけと日本 あなたはどこにいるのか』（聖学院大学出版会）</div> <div>参考書</div>

キリスト教カウンセリング論			
担当教員： 藤掛 明			
学期： 週間授 科目：			必修・選択：
単位： 2			コード： 11607001
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. キリスト教カウンセリングの歴史と現在 02. 臨床の知（相互作用性）と人間理解 03. 臨床の知（多義性）と人間理解 04. 臨床の知（個別性）と人間理解 05. 現代社会の病理とキリスト教（ストレスと多忙さ） 06. 現代社会の病理とキリスト教（買い物依存） 07. 現代社会の病理とキリスト教（アルコール依存） 08. 現代社会の病理とキリスト教（自助グループ） 09. 牧会の心理療法的視点（フロイトとその影響） 10. 牧会の心理療法的視点（ロジャーズとその影響） 11. 牧会の心理療法的視点（ナラティブ・セラピーと物語神学） 12. ライフサイクル（こども時代ときょうだい関係） 13. ライフサイクル（思春期・青年期） 14. ライフサイクル（中年期・老年期） 15. まとめ</div>		
カリキュラム上の位置付け			
<div>(1) 内容</div> <div>現代社会の病理や、心理療法的な考え方を学び、そうした心理カウンセリングの営みとキリスト教の人間観がどのようにつながるのかを理解する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画や、授業内での次回予告を参考に、インターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>キリスト教の教理や人間理解を、カウンセリングという新しい視点から見つめ直し、その理解を深めることができる。</div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>学んだ事柄を、たえず自分に重ね、自己分析していく姿勢が必要である。また聖書について一定の知識と関心があることが望ましい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>配付資料を再読し、授業の中心点を考え、学習したことをまとめる</div>		
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) ミニテスト25% 適宜授業内で行う</div><div>(2) 授業態度25%</div><div>(3) 授業内テスト50% 最終授業内で行う</div></div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 臨床の知</div><div>・ 依存症</div><div>・ ライフサイクル</div></div>	<div>教科書</div> <div>毎回、関連資料を配付する</div> <div>参考書</div> <div>「ありのままの自分を生きる」（藤掛明著、一麦出版）</div>		

キリスト教と心のケア

担当教員：村上 純子

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：2 コード：11607101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、「心のケア」とは何か、それとキリスト教はどう関係し、どう取り扱っていくべきなのかを見ていきます。社会的にも「カウンセリング」「心のケア」の重要性が取り上げられることが多いのですが、その中には間違った情報や歪曲された考え方も多いのが現状です。この授業はカウンセラーになることを目的としたものではなく、心のケアに関して正しい基礎知識を持つことを目標としています。

また、キリスト教的視点から「心のケア」をどう考え、実践していけばいいのかを検証していきます。

(2) 学びの意義と目標

この授業を通して、「心のケア」の基礎知識を得ること、またキリスト教の人間観を理解すること、そして各自が自分に対する理解、また他者に対する理解を深めることを目的としています。

受講者に対する要望

グループディスカッションやミニレポートなども多用する予定です。
授業から何を学び取っていくかは自分次第です。
その意識を持って授業に臨んでください。

学びのキーワード

- ・カウンセリング
- ・キリスト教信仰
- ・心のケア

授業計画

01. 「心のケア」の必要性
02. カウンセラーの役割と治療 聴くことの意味
03. カウンセリングのプロセス 1 (初回面接)
04. カウンセリングのプロセス 2 (中断と終結)
05. カウンセリング理論 1 (クライエント中心療法)
06. カウンセリング理論 2 (精神分析)
07. カウンセリング理論 3 (認知行動療法)
08. 心のケアのいろいろ 1 (児童期の心のケア)
09. 心のケアのいろいろ 2 (思春期の心のケア)
10. 心のケアのいろいろ 3 (グリーフケア)
11. ケアをする人の自己理解 1
12. ケアをする人の自己理解 2
13. 心のケアと社会
14. 信仰と心のケア
15. まとめ

準備学習(予習)

講義内容に関する資料を読んできてください。

準備学習(復習)

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 15% |
| (2) ミニレポート | 25% |
| (3) 学期末試験 | 60% |

教科書

随時指定

参考書

随時指定

キリスト教とアジア文化 A		CHRI-0-236
担当教員： 松本 周		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11607685
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 序—キリスト教「と」アジア文化 02. アジアの多様性 03. 礼拝—キリスト教の命の源泉 04. 日本のキリスト教とアジア 05. キリスト教—伝道する宗教の誕生 06. プロテスタント教会の誕生とその影響 07. ローマ・カトリック教会のアジア布教 08. アメリカ型教派の誕生と海外宣教 09. プロテスタント・キリスト教のアジア宣教—ヘボン、アンダーウッド、マカイ 10. 台湾のキリスト教 11. 中国大陆のキリスト教 12. 韓半島のキリスト教 13. 韓半島の分断とキリスト教 14. ふりかえり あなたにとっての「キリスト教とアジア文化」 15. まとめ「キリスト教」と「アジア文化」</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本学の基盤であるキリスト教と文化諸領域との関わりを考究する、「キリスト教関連科目」の一科目です。 欧米文化を歴史的背景とするキリスト教が、アジアの地に伝来してどのような展開をしたか、共に確認していきたいと思います。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業時に配布するプリントにより、指示されたテキストを確認し、自分の意見等をまとめておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>世界中の往来が活発化する現代においては、文化的背景を異にする隣人への理解と共生が重要な課題となっています。「キリスト教とアジア文化」を切り口としてこの現代的課題を考え、取り組む力を養っていただきたいと思います。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>質問やコメントによる積極的な授業参加を期待します。またスタディツアー等の参加経験を紹介してくださったり、今後の参加への準備学習にもしてください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリントを読み返したり、紹介した資料を読むことにより、内容理解を深めてほしい。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 宗教と文化</div><div>・ 伝道と宣教</div><div>・ 多様性</div><div>・ 共生</div></div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) リアクションペーパー40% 授業参加度を含みます。</div><div>(2) テスト40%</div><div>(3) 全学礼拝・教会レポート20%</div></div> <div>以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。</div>	
	<div>教科書</div> <div>隅谷三喜男『アジアの問いかけと日本 あなたはどこにいるのか』（聖学院大学出版会）</div> <div>参考書</div>	

キリスト教と歴史形成A		CHRI-0-212
担当教員：石田 学		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11607794
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 歴史とは何か：「歴史形成」ということの意味。 02. ヘレニズム世界とローマ帝国：キリストの生きた世界 03. キリスト教の原点としてのイエス：何を教え、何を成し遂げたのか 04. 国家とキリスト教（１）：なぜキリスト教は迫害されたか 05. 国家とキリスト教（２）：なぜキリスト教は広まったか 06. 国家とキリスト教（３）：古くて新しい国家と宗教の問題 07. 国家とキリスト教（４）：「キリスト教世界」の成立と展開 08. 西欧古代世界の終わりとキリスト教：混沌の時代に教会の果たした役割 09. 古代から中世ヨーロッパへの道のり：アウグスティヌスの生涯と思想 10. 中世ヨーロッパの社会構造と教会：キリスト教的封建社会 11. 写本の話：聖書はどのようにして伝えられたか 12. 「スコラ学」の発展：西ヨーロッパで栄えた学問の方法 13. 石で建てる：大聖堂に込めた信仰と情熱 14. 十字軍とはなんだったのか：キリスト教世界とイスラム世界の不幸な邂逅 15. 天使と悪魔：中世のイマジネーションと表象。学期末試験</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1. 講座の目的 キリスト教は二千年の歴史をとおして、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方で・どのような意味において、歴史形成に関与してきたかを概観し、そのことを通して、わたしたちが生きる現代の世界を理解する一助にしたいと思います。 本講座は、教会のはじまりから西暦1500年までを区切りとして、十四の主題に焦点を当てる仕方で、キリスト教がどのように歴史形成の上で役割を果たしてきたかを概観します。できるだけ多くの画像、図版などを用いて理解の助けとし、楽</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>西欧の歴史形成は、キリスト教との関わりを抜きには考えることができません。特に、西欧古代後期から近代はじめまでは、西欧世界はキリスト教世界そのものでした。近代から現代にかけての西欧文化・社会は、古代から中世までの西欧社会を基礎としていますので、この時代の歴史形成を知することは、現代を知ることに通じます。今の世界を見るための歴史的な視点を持つことを目指します。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>とにかく楽しんで受講して下さい。
</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>アップロードされたファイルに目を通しておいてください。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>pdfファイルとワークシートを用いて復習をしてください。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 学期末試験 90% ノート・配布プリント持ち込み可の記述試験 (2) 課題レポート 10% キリスト教関連科目共通の課題です。</div> <div>パワーポイントを用いての講義です。毎回のデータはpdfファイルにしてUNIPAから入る当講座の資料欄にアップロードします。各自ダウンロードして予習・復習に利用して下さい。授業時にはその時間の内容に合わせたワークシートを用意します。出席は+評価の材料にします。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ローマ帝国 ・迫害 ・キリスト教世界 ・中世ヨーロッパ ・スコラ哲学</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

キリスト教と歴史形成B		CHRI-0-213
担当教員：石田 学		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：11607895
学部教育の関連目 【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける	授業計画 01. 新たな時代の幕開け:ルネサンスの光と影 02. キリスト教の拡大:大航海時代とキリスト教宣教 03. 中世の黄昏:宗教改革前夜の西ヨーロッパと教会 04. マルティン・ルター（1）:「我ここに立つ」 05. マルティン・ルター（2）:プロテスタント教会の誕生 06. その後のドイツ宗教改革:動乱の時代の教会 07. スイスの宗教改革:ツヴィングリとカルヴァン 08. イングランドの宗教改革:ヘンリ八世からエリザベスへ 09. ピューリタン革命とその結末:市民革命のさきがけ 10. 新大陸アメリカ:人々は新世界に何を夢見たか 11. 北アメリカの独立とその後の歴史:マニフェスト・デスティニー 12. 三十年戦争と啓蒙主義:近代世界とキリスト教 13. 二つの世界大戦とファシズム:教会はどう対応したか 14. 教会の新たな使命:正義と人権のための闘い 15. キリスト教の今と将来:現代教会が果たした役割と、教会の未来	
	カリキュラム上の位置付け	
(1) 内容 キリスト教は二千年の歴史をとおして、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方で・どのような意味において、近代から現代までの歴史形成に関与してきたかを概観します。皆さんが現代に至るまでの世界の歴史をよりよく理解し、そのことを通して現代社会についての認識を深め、よりよい未来を築いてゆく手がかりとなることを願っています。 本講座は、十五世紀から現代までを十五の主題に焦点を当てる仕方で、キリスト教がどのように歴史形成と関係してきたかを学びます。中世に対する対	準備学習(予習) Elearningにアップロードされたファイルに目を通しておいてください。 	
	準備学習(復習) pdfファイルとワークシートを用いて復習してください。	
受講者に対する要望 楽しんで受講していただきたいと思います。	評価方法 (1) 学期末試験 90% ノート・配布プリント持ち込み可の記述試験 (2) 課題レポート 10% キリスト教関連科目共通の必修課題です。	
	<small>パワーポイントを用いての講義です。毎回のデータはpdfファイルにしてUNIPAから入る当講座の資料欄にアップロードします。各自ダウンロードして予習・復習に利用して下さい。授業時にはその時間の内容に合わせたワークシートを用意します。</small>	
学びのキーワード ・ルネサンス ・宗教改革 ・市民革命 ・アメリカ合衆国 ・人権	教科書	
	参考書	

単位：2 コード：11608191

【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、キリスト教思想の表現であるヨーロッパ文化、特に教会建築、美術、音楽、さらにキリスト教の世界観・自然観を学びます。キリスト教の歴史を概観しつつ、現在にも残るキリスト教建築（ロマネスク、ゴシック）、美術（中世、ルネサンス、バロック、東方教会）、音楽（ルネサンス、バロック、クラシック、ロマン派）を通じて、キリスト教の考え方・世界観を学習します。

(2) 学びの意義と目標

キリスト教思想を文化として理解することは、キリスト教の世界観を歴史的に把握するだけでなく、現在の欧米世界を理解するためにも重要なものです。それは同時に、現在私たちが住む日本におけるキリスト教文化の影響を理解することにも通じます。

受講者に対する要望

授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

学びのキーワード

- ・キリスト教文化
- ・建築・美術・音楽・自然科学
- ・世界観

授業計画

01. イントロダクション
02. キリスト教と一神教
03. ユダヤ教との比較
04. イスラムとの比較
05. イエスの登場とその活動
06. 原始キリスト教の誕生
07. 新約聖書の成立
08. 三位一体論の成立
09. ディスカッション
10. 古代のキリスト教建築
11. 中世のキリスト教建築
12. アウグスティヌス
13. 中世の女性神学者
14. 宗教改革へ
15. まとめとふりかえり

準備學習(予習)

授業内で配布される資料・テキストを読んできてください。また課題についても授業内で指示します。

準備學習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 期末テスト | 60% |
| (2) 授業への参加度 | 40% |

教科書

参考書

キリスト教思想史B		CHRI-0-217
担当教員： 村瀬 天出夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11608292
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. キリスト教の世界観・歴史観（1） 03. キリスト教の世界観・歴史観（2） 04. 神：創造主・善と悪の根拠 05. 三位一体論：神と子と聖霊 06. キリスト：人と神・十字架の救い主 07. 救済：罪・贖い・神の国 08. 人間：神との関係・地上の生の意味 09. 教会：地上の「集会」 10. サクラメント：秘跡・通過儀礼 11. 奇跡：神の業と魔術 12. 他宗派・他宗教との関係：エキュメニズム・宗教対話 13. 終末論：救済史とその成就 14. ディスカッション 15. まとめとふりかえり</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、キリスト教の重要な教理を歴史的に捉えることで、キリスト教思想の多様性を理解することを目指します。 神とは誰か、人間とはどのような存在で、どのように生きるべきかといった問題にかんする、キリスト教の考え方（教理）について、それらがどのような歴史的・社会的な背景で生まれ、発展、変化していったのかを学習します。同時に、それらの教理が、カトリック教会やプロテスタント教会の諸宗派でどのように異なるのか、その歴史的な背景も学びます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>キリスト教の思想は、2000年間の間に変化・発展しただけでなく、分裂もしてきました。分裂を経たこの多様性を歴史的に理解することは、現在のキリスト教を理解する助けになります。また、思想の分裂を越えて、さまざまな宗派・宗教の間で対話を進めようとする努力も、現代のキリスト教の重要な問題です。これら分裂と対話の歴史は、さまざまな宗教的な対立が見られる現代社会を理解する助けになります。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業内で配布される資料・テキストを読んでください。また課題についても授業内で指示します。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業前に毎回、前回のノートを見直してください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 期末テスト60%</div><div>(2) 授業への参加度40%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・キリスト教の世界観</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

キリスト教と福祉活動の実際 A

CHRI-0-253

担当教員：吉岡 光人

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：11608398

学部教育の関連目

【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

キリスト教は「神を愛すること」と「隣人を自分のように愛すること」を最も大切にしてきた。キリスト教会が隣人援助的に社会とかかわってきた歴史を学ぶことによって、今日の社会福祉やボランティア活動の基礎が築かれてきたことを学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

福祉活動のキリスト教的土台を見出していただきたい。

受講者に対する要望

出席を重視する。

学びのキーワード

- ・被造物としての人間を理解する
- ・自分を愛すること
- ・隣人を愛すること

授業計画

01. キリスト教と他者援助との関係
02. 聖書から見た人間理解
03. キリスト教的他者援助の歴史（1） 初代教会～古代教会
04. キリスト教的他者援助の歴史（2） 中世
05. キリスト教的他者援助の歴史（3） 宗教改革時代
06. キリスト教的他者援助の歴史（4） 17世紀～19世紀
07. キリスト教的他者援助の歴史（5） 20世紀前半
08. キリスト教的他者援助の歴史（6） 20世紀後半～21世紀
09. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（1） 宣教師の働き
10. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（2） 大正～昭和初期
11. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（3） 戦前～戦後
12. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（4） 電話相談
13. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（5） ボランティア活動
14. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（6） その他
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回の授業で必要なことは指示する。

準備学習(復習)

配布された教材を再読し、次回の授業に備えること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への積極的参加 | 50% |
| (2) 礼拝レポート | 20% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

参考書

キリスト教と福祉活動の実際B

CHRI-0-254

担当教員：吉岡 光人

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：11608499

学部教育の関連目

【全】キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

- 1 「他者のこころを聞く」ための基本的方法を学ぶ
- 2 それぞれのケースにおける基本的な関わり方を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

キリスト教会が継承してきた「他者援助」の中で、「聞く」という援助の方法の大切さを知り、それを社会生活の中で活かせるように基本的な方法を身に着ける。

受講者に対する要望

演習形式を取り入れる時もあるので積極的に参加することを希望する。

学びのキーワード

- ・「こころを聞く」ために何をすればよいか
- ・自分のこころを偽らずに他者を関わるためには
- ・あなたもOK、わたしもOKとなるためには

授業計画

01. 今学期の授業の概説
02. 傾聴による援助の実際（1）
03. 傾聴による援助の実際（2）
04. 傾聴による援助の実際（3）
05. 傾聴による援助の実際（4）
06. 傾聴による援助の実際（5）
07. 傾聴による援助の実際（6）
08. 傾聴による援助の実際（7）
09. 高齢者に対する関わり方
10. 心の病を持っている人に対する関わり方
11. 喪失体験者に対する関わり方
12. 自殺願望を抱いている人に対する関わり方
13. 入院患者への関わり方（ターミナルケアを含む）
14. 被災者に対する関わり方
15. まとめ

準備学習(予習)

必要なことは授業中に指示する。

準備学習(復習)

配布された教材を再読し、次回の授業に備えること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への積極的参加 | 50% |
| (2) 礼拝レポート | 20% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

参考書

時事問題演習（P・L用）		CREE-0-101									
担当教員：森脇 健介 学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目/選択科目/選択必修科目 単位：1 コード：11651111											
学部教育の関連目 【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する	授業計画 01. イントロダクション 02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ 03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ 04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ 05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ 06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ 07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ 08. 前半部までのまとめ 09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ 10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ 11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ 12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ 13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ 14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験（必修履修者のみ対象） 15. 講義全体を通してのまとめ										
カリキュラム上の位置付け											
(1) 内容 本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式教材を主に用いながら身につけていきます。 検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。 なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的											
(2) 学びの意義と目標 「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。 同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。	準備学習(予習) 日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、必ず終えておきましょう。										
	準備学習(復習) その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。										
受講者に対する要望 授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。	評価方法 <table> <tr> <td>(1) まとめのテスト</td><td>60%</td><td>内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。</td></tr> <tr> <td>(2) 日頃の取り組み</td><td>30%</td><td>演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。</td></tr> <tr> <td>(3) E-learning（ハコブネの取り組み）</td><td>10%</td><td>E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。</td></tr> </table> <p>「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験（6月実施）に合格できた場合には最終評価に上乘せします。ただし、上記100%の評価があくまでもベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準（C判定相当以上の成績）を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乘せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。</p>		(1) まとめのテスト	60%	内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。	(2) 日頃の取り組み	30%	演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。	(3) E-learning（ハコブネの取り組み）	10%	E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。
(1) まとめのテスト	60%	内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。									
(2) 日頃の取り組み	30%	演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。									
(3) E-learning（ハコブネの取り組み）	10%	E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。									
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ・ ニュース検定 ・ 政治経済 ・ 社会問題 ・ 社会的知識の基本の復習 ・ E-learning（ハコブネ） 	教科書 参考書 日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所） 日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）										

時事問題演習（P・L用）		CREE-0-101									
担当教員：森脇 健介 学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目/選択科目/選択必修科目 単位：1 コード：11651112											
学部教育の関連目 【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		授業計画 01. イントロダクション 02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ 03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ 04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ 05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ 06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ 07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ 08. 前半部までのまとめ 09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ 10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ 11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ 12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ 13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ 14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験（必修履修者のみ対象） 15. 講義全体を通してのまとめ									
カリキュラム上の位置付け											
(1) 内容 本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式教材を主に用いながら身につけていきます。 検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。 なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的											
(2) 学びの意義と目標 「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。 同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。		準備学習(予習) 日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、必ず終えておきましょう。									
		準備学習(復習) その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。									
受講者に対する要望 授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。		評価方法 <table> <tr> <td>(1) まとめのテスト</td><td>60%</td><td>内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。</td></tr> <tr> <td>(2) 日頃の取り組み</td><td>30%</td><td>演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。</td></tr> <tr> <td>(3) E-learning（ハコブネの取り組み）</td><td>10%</td><td>E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。</td></tr> </table> <small>「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験（6月実施）に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでもベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準（C判定相当以上の成績）を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。</small>	(1) まとめのテスト	60%	内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。	(2) 日頃の取り組み	30%	演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。	(3) E-learning（ハコブネの取り組み）	10%	E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。
(1) まとめのテスト	60%	内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。									
(2) 日頃の取り組み	30%	演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。									
(3) E-learning（ハコブネの取り組み）	10%	E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。									
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ・ ニュース検定 ・ 政治経済 ・ 社会問題 ・ 社会的知識の基本の復習 ・ E-learning（ハコブネ） 		教科書 参考書 <small>日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所） 日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）</small>									

時事問題演習（P・L用）

CREE-0-101

担当教員：森脇 健介

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目/選択必修科目 単位： 1 コード： 11651113

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式教材を主に用いながら身につけていきます。
検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。
なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的

(2) 学びの意義と目標

「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。
同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。

受講者に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。

学びのキーワード

・ ニュース検定

・ 政治経済

・ 社会問題

・ 社会的知識の基本の復習

・ E-learning（ハコブネ）

授業計画

01. イントロダクション

02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ

03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ

04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ

05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ

06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ

07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ

08. 前半部までのまとめ

09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ

10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ

11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ

12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ

13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ

14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験（必修履修者のみ対象）

15. 講義全体を通してのまとめ

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、必ず終えておきましょう。

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。

評価方法

(1) まとめのテスト

60%

内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。

(2) 日頃の取り組み

30%

演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。

(3) E-learning（ハコブネの取り組み）

10%

E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。

「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験（6月実施）に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでもベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準（C判定相当以上の成績）を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。

教科書

参考書

日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）

日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）

時事問題演習（P・L用）

CREE-0-101

担当教員：山本 祥弘

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目/選択必修科目 単位： 1 コード： 11651114

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式教材を主に用いながら身につけていきます。
検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。
なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的

(2) 学びの意義と目標

「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。
同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。

受講者に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。

学びのキーワード

・ ニュース検定

・ 政治経済

・ 社会問題

・ 社会的知識の基本の復習

・ E-learning（ハコブネ）

授業計画

01. イントロダクション

02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ

03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ

04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ

05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ

06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ

07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ

08. 前半部までのまとめ

09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ

10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ

11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ

12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ

13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ

14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験（必修履修者のみ対象）

15. 講義全体を通してのまとめ

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、必ず終えておきましょう。

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。

評価方法

(1) まとめのテスト

60%

内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。

(2) 日頃の取り組み

30%

演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。

(3) E-learning（ハコブネの取り組み）

10%

E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。

「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験（6月実施）に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでもベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準（C判定相当以上の成績）を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。

教科書

参考書

日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）

日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）

時事問題演習（P・L用）		CREE-0-101									
担当教員： 山本 祥弘 学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目/選択必修科目 単位： 1 コード： 11651115											
学部教育の関連目 【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		授業計画 01. インTRODakション 02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ 03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ 04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ 05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ 06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ 07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ 08. 前半部までのまとめ 09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ 10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ 11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ 12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ 13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ 14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験（必修履修者のみ対象） 15. 講義全体を通してのまとめ									
カリキュラム上の位置付け											
(1) 内容 本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式教材を主に用いながら身につけていきます。 検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。 なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的											
(2) 学びの意義と目標 「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。 同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。		準備学習(予習) 日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、必ず終えておきましょう。									
		準備学習(復習) その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。									
受講者に対する要望 授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。		評価方法 <table> <tr> <td>(1) まとめのテスト</td><td>60%</td><td>内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。</td></tr> <tr> <td>(2) 日頃の取り組み</td><td>30%</td><td>演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。</td></tr> <tr> <td>(3) E-learning（ハコブネの取り組み）</td><td>10%</td><td>E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。</td></tr> </table> <p>「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験（6月実施）に合格できた場合には最終評価に上乘せします。ただし、上記100%の評価があくまでもベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準（C判定相当以上の成績）を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乘せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。</p>	(1) まとめのテスト	60%	内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。	(2) 日頃の取り組み	30%	演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。	(3) E-learning（ハコブネの取り組み）	10%	E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。
(1) まとめのテスト	60%	内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。									
(2) 日頃の取り組み	30%	演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。									
(3) E-learning（ハコブネの取り組み）	10%	E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。									
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ・ ニュース検定 ・ 政治経済 ・ 社会問題 ・ 社会的知識の基本の復習 ・ E-learning（ハコブネ） 		教科書 参考書 日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所） 日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）									

時事問題演習（P・L用）		CREE-0-101
担当教員：山本 祥弘		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目/選択必修科目 単位： 1 コード： 11651116		
学部教育の関連目		授業計画
【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. イントロダクション 02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ 03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ 04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ 05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ 06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ 07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ 08. 前半部までのまとめ 09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ 10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ 11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ 12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ 13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ 14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験（必修履修者のみ対象） 15. 講義全体を通してのまとめ
本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式教材を主に用いながら身につけていきます。 検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。 なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的		
(2) 学びの意義と目標		
「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。 同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。		準備学習(予習)
		日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、必ず終えておきましょう。
		準備学習(復習)
		その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。
		評価方法
		(1) まとめのテスト 60% 内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。 (2) 日頃の取り組み 30% 演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。 (3) E-learning（ハコブネの取り組み） 10% E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。
		「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験（6月実施）に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでもベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準（C判定相当以上の成績）を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。
学びのキーワード		教科書
・ ニュース検定 ・ 政治経済 ・ 社会問題 ・ 社会的知識の基本の復習 ・ E-learning（ハコブネ）		参考書
		日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所） 日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）

時事問題演習（A J C D W用）		CREE-0-101									
担当教員： 森脇 健介 学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目/選択必修科目 単位： 1 コード： 11651121											
学部教育の関連目 【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		授業計画 01. イン트로ダクション 02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ 03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ 04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ 05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ 06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ 07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ 08. 前半部までのまとめ 09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ 10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ 11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ 12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ 13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ 14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験（必修履修者のみ対象） 15. 講義全体を通してのまとめ									
カリキュラム上の位置付け											
(1) 内容 本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式教材を主に用いながら身につけていきます。 検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。 なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的											
(2) 学びの意義と目標 「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。 同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。		準備学習(予習) 日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、必ず終えておきましょう。									
		準備学習(復習) その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。									
受講者に対する要望 授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。		評価方法 <table> <tr> <td>(1) まとめのテスト</td><td>60%</td><td>内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。</td></tr> <tr> <td>(2) 日頃の取り組み</td><td>30%</td><td>演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。</td></tr> <tr> <td>(3) E-learning（ハコブネの取り組み）</td><td>10%</td><td>E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。</td></tr> </table> <p>「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験（6月実施）に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでもベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準（C判定相当以上の成績）を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。</p>	(1) まとめのテスト	60%	内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。	(2) 日頃の取り組み	30%	演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。	(3) E-learning（ハコブネの取り組み）	10%	E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。
(1) まとめのテスト	60%	内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。									
(2) 日頃の取り組み	30%	演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。									
(3) E-learning（ハコブネの取り組み）	10%	E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。									
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ・ ニュース検定 ・ 政治経済 ・ 社会問題 ・ 社会的知識の基本の復習 ・ E-learning（ハコブネ） 		教科書 参考書 日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所） 日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）									

時事問題演習（A J C D W用）

CREE-0-101

担当教員： 山本 祥弘

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目/選択必修科目 単位： 1 コード： 11651122

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式教材を主に用いながら身につけていきます。
検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。
なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的

(2) 学びの意義と目標

「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。
同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。

受講者に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。

学びのキーワード

・ ニュース検定

・ 政治経済

・ 社会問題

・ 社会的知識の基本の復習

・ E-learning（ハコブネ）

授業計画

01. イントロダクション

02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ

03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ

04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ

05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ

06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ

07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ

08. 前半部までのまとめ

09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ

10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ

11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ

12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ

13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ

14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験（必修履修者のみ対象）

15. 講義全体を通してのまとめ

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、必ず終えておきましょう。

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。

評価方法

(1) まとめのテスト

60%

内容はニュース検定準2級相当程度の内容です。

(2) 日頃の取り組み

30%

演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。

(3) E-learning（ハコブネの取り組み）

10%

E-learningを予習・復習用教材として指示し、指定範囲を修了できたかを評価します。

「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験（6月実施）に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでもベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準（C判定相当以上の成績）を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。

教科書

参考書

日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）

日本ニュース時事能力検定（監）『2016年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）

担当教員：森脇 健介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11651231

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題（SPIや公務員試験など）の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、基本的にE-learning（ハコブネ） 数学「スタンダードコース」

(2) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する（＝橋渡しする）ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験（SPI、公務員試験など）
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning
- ・ レベルA

授業計画

01. 基礎数学（計算）
02. 基礎数学（計算）
03. 基礎数学（方程式等）
04. 基礎数学（方程式・関数・グラフ等）
05. 基礎数学（関数・グラフ等）
06. 基礎数学（図形等）
07. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
08. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | |
|----------------------|-------------------------------------|
| (1) まとめのテスト | 50% |
| (2) 授業への取り組み | 40% |
| (3) E-learning（ハコブネ） | 10% 「数学」スタンダードコースまたはベーシックコースを使用します。 |

教科書

参考書

担当教員：森脇 健介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11651232

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題（SPIや公務員試験など）の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、基本的にE-learning 数学「スタンダードコース」相当で、必要

(2) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する（＝橋渡しする）ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・数学
- ・就職試験（SPI、公務員試験など）
- ・図表・資料
- ・E-learning
- ・レベルB

授業計画

01. 基礎数学（計算）
02. 基礎数学（計算）
03. 基礎数学（方程式等）
04. 基礎数学（方程式・関数・グラフ等）
05. 基礎数学（関数・グラフ等）
06. 基礎数学（図形等）
07. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
08. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|---------------------------------|
| (1) E-learning | 10% | 「数学」スタンダードコースまたはベーシックコースを使用します。 |
| (2) まとめのテスト | 50% | |
| (3) 授業への取り組み | 40% | |

教科書

参考書

担当教員：森脇 健介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11651233

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題（SPIや公務員試験など）の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、E-learning（ハコブネ）数学「ベーシックコース」相当です。

(2) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する（＝橋渡しする）ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・数学
- ・就職試験（SPI、公務員試験など）
- ・図表・資料
- ・E-learning
- ・レベルC

授業計画

01. 基礎数学（計算）
02. 基礎数学（計算）
03. 基礎数学（方程式等）
04. 基礎数学（方程式・関数・グラフ等）
05. 基礎数学（関数・グラフ等）
06. 基礎数学（図形等）
07. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
08. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|---------------------|
| (1) E-learning | 10% | 「数学」ベーシックコースを使用します。 |
| (2) まとめのテスト | 50% | |
| (3) 授業への取り組み | 40% | |

教科書

参考書

担当教員：山本 祥弘

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11651234

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題（SPIや公務員試験など）の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、基本的にE-learning（ハコブネ） 数学「スタンダードコース」

(2) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する（＝橋渡しする）ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験（SPI、公務員試験など）
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning
- ・ レベルA

授業計画

01. 基礎数学（計算）
02. 基礎数学（計算）
03. 基礎数学（方程式等）
04. 基礎数学（方程式・関数・グラフ等）
05. 基礎数学（関数・グラフ等）
06. 基礎数学（図形等）
07. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
08. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) まとめのテスト | 50% |
| (2) 授業への取り組み | 40% |
| (3) E-learning（ハコブネ） | 10% |

「数学」スタンダードコースまたはベーシックコースを使用します。

教科書

参考書

担当教員：山本 祥弘

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11651235

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題（SPIや公務員試験など）の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、基本的にE-learning 数学「スタンダードコース」相当で、必要

(2) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する（＝橋渡しする）ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験（SPI、公務員試験など）
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning
- ・ レベルB

授業計画

01. 基礎数学（計算）
02. 基礎数学（計算）
03. 基礎数学（方程式等）
04. 基礎数学（方程式・関数・グラフ等）
05. 基礎数学（関数・グラフ等）
06. 基礎数学（図形等）
07. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
08. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|---------------------------------|
| (1) E-learning | 10% | 「数学」スタンダードコースまたはベーシックコースを使用します。 |
| (2) まとめのテスト | 50% | |
| (3) 授業への取り組み | 40% | |

教科書

参考書

担当教員：山本 祥弘

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11651236

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題（SPIや公務員試験など）の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、E-learning（ハコブネ）数学「ベーシックコース」相当です。

(2) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する（＝橋渡しする）ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験（SPI、公務員試験など）
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning
- ・ レベルC

授業計画

01. 基礎数学（計算）
02. 基礎数学（計算）
03. 基礎数学（方程式等）
04. 基礎数学（方程式・関数・グラフ等）
05. 基礎数学（関数・グラフ等）
06. 基礎数学（図形等）
07. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
08. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|---------------------|
| (1) E-learning | 10% | 「数学」ベーシックコースを使用します。 |
| (2) まとめのテスト | 50% | |
| (3) 授業への取り組み | 40% | |

教科書

参考書

担当教員：森脇 健介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11651241

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題（SPIや公務員試験など）の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、E-learning 数学（ハコブネ）「ベーシックコース」相当です。

(2) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する（＝橋渡しする）ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験（SPI、公務員試験など）
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning

授業計画

01. 基礎数学（計算）
02. 基礎数学（計算）
03. 基礎数学（方程式等）
04. 基礎数学（方程式・関数・グラフ等）
05. 基礎数学（関数・グラフ等）
06. 基礎数学（図形等）
07. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
08. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|---------------------|
| (1) E-learning | 10% | 「数学」ベーシックコースを使用します。 |
| (2) まとめのテスト | 50% | |
| (3) 授業への取り組み | 40% | |

教科書

参考書

担当教員：山本 祥弘

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：11651242

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題（SPIや公務員試験など）の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、E-learning 数学（ハコブネ）「ベーシックコース」相当です。

(2) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する（＝橋渡しする）ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験（SPI、公務員試験など）
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning

授業計画

01. 基礎数学（計算）
02. 基礎数学（計算）
03. 基礎数学（方程式等）
04. 基礎数学（方程式・関数・グラフ等）
05. 基礎数学（関数・グラフ等）
06. 基礎数学（図形等）
07. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
08. 基礎数学（組合せ・確率・統計等）
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|---------------------|
| (1) E-learning | 10% | 「数学」ベーシックコースを使用します。 |
| (2) まとめのテスト | 50% | |
| (3) 授業への取り組み | 40% | |

教科書

参考書

キャリアデザインA（P・L用）			CREE-0-100
担当教員： 萬年山 啓			
学期： 週間授		科目： 基礎科目	必修・選択： 必修科目/選択科目
単位： 1		コード： 11652101	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		01. はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレーキング） 02. キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識を理解する） 03. 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる） 04. 自分を知る（2） 自己分析（これまでの経験や体験を分析して、自分のことを理解する） 05. 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像・能力像を理解し、具体的な習得方法を考える） 06. 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、キャリア挫折をなくす方法を考える） 07. 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える） 08. 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する） 09. 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する） 10. 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える） 11. 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する） 12. 社会人基礎力を高める（1） コミュニケーション力など 13. 社会人基礎力を高める（2） 意思決定力など 14. 社会人基礎力を高める（3） プレゼンテーション力など 15. 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
この科目では、学生が、自分の生き方、働き方などを設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法について学びます。この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。 この科目は、「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、そうしたキャリアを「デザイン」とするという未来志向であることを特長とします。 多くの学生が大学を最終学歴として社会へ移行することを前提に、社会への移行をスムーズに行うことができるように、大学時代に教養科目・専門科目で得た知識を活		授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと	
		準備学習(復習)	
		配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること	
受講者に対する要望		評価方法	
授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます（詳しくは、最初の授業で説明します）。 大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、勉強・社会体験・サークル活動など、大学時代に取り組んで得たことを活かせるようにしてください。		(1) 授業への取組 50% (2) ワークへの取組 25% 個人ワークとグループワーク (3) 課題レポート 25%	
この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。			
学びのキーワード		教科書	
・ 自己理解 ・ 職業理解（仕事理解） ・ 社会人基礎力		参考書	
		毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。	

キャリアデザインA（P・L用）			CREE-0-100
担当教員： 萬年山 啓			
学期： 週間授		科目： 基礎科目	必修・選択： 必修科目/選択科目
単位： 1		コード： 11652102	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		01. はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレーキング） 02. キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識を理解する） 03. 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる） 04. 自分を知る（2） 自己分析（これまでの経験や体験を分析して、自分のことを理解する） 05. 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像・能力像を理解し、具体的な習得方法を考える） 06. 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、キャリア挫折をなくす方法を考える） 07. 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える） 08. 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する） 09. 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する） 10. 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える） 11. 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する） 12. 社会人基礎力を高める（1） コミュニケーション力など 13. 社会人基礎力を高める（2） 意思決定力など 14. 社会人基礎力を高める（3） プレゼンテーション力など 15. 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
この科目では、学生が、自分の生き方、働き方などを設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法について学びます。この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。 この科目は、「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、そうしたキャリアを「デザイン」とするという未来志向であることを特長とします。 多くの学生が大学を最終学歴として社会へ移行することを前提に、社会への移行をスムーズに行うことができるように、大学時代に教養科目・専門科目で得た知識を活		授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと	
		準備学習(復習)	
		配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること	
		評価方法	
		(1) 授業への取組 50% (2) ワークへの取組 25% 個人ワークとグループワーク (3) 課題レポート 25%	
		この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。	
学びのキーワード		教科書	
・ 自己理解 ・ 職業理解（仕事理解） ・ 社会人基礎力		参考書	
		毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。	

キャリアデザインA（P・L用）		CREE-0-100						
担当教員： 萬年山 啓								
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目		単位： 1 コード： 11652103						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div>								
<div>(1) 内容</div> <p>この科目では、学生が、自分の生き方、働き方などを設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法について学びます。この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。</p>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。</p> <p>この科目は、「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、そうしたキャリアを「デザイン」とするという未来志向であることを特長とします。</p> <p>多くの学生が大学を最終学歴として社会へ移行することを前提に、社会への移行をスムーズに行うことができるように、大学時代に教養科目・専門科目で得た知識を活かす</p>								
<div>準備学習(予習)</div> <p>授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと</p>								
<div>準備学習(復習)</div> <p>配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること</p>								
<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への取組</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) ワークへの取組</td><td>25% 個人ワークとグループワーク</td></tr><tr><td>(3) 課題レポート</td><td>25%</td></tr></table> <p>この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。</p>			(1) 授業への取組	50%	(2) ワークへの取組	25% 個人ワークとグループワーク	(3) 課題レポート	25%
(1) 授業への取組	50%							
(2) ワークへの取組	25% 個人ワークとグループワーク							
(3) 課題レポート	25%							
<div>教科書</div>								
<div>参考書</div> <p>毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。</p>								
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none">自己理解職業理解（仕事理解）社会人基礎力								

キャリアデザインA（P・L用）		CREE-0-100	
担当教員： 上田 信一郎			
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11652104	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する			
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
1) <内容> キャリアデザインは、広くは人生設計全体に関わりますが、具体的には将来の進路・職業について、将来なりたいもの、やりたい仕事、自分の適性、職業の現状を考え整理し、目標を企画・設計していくことです。そして、現在学ぶもの、身につけるもの、体験行動すべきテーマを発見・具体化し、目標の設定と行動に移すきっかけとなるものです。また職業紹介に関するビデオを上映し職業理解を進めます。さらにコミュニケーション力、プレゼンテーション力向上のために、就職面接で決め手になる自己PRを取り入れた自己PRプレゼン（みんな		01. キャリアデザインとは何か 02. 社会で生きる力とコミュニケーション力・マナーの意味 03. 自分と向き合う：やりたいこと、適性、できること、価値観 04. 資格、スキル、社会体験の習得：就職力育成・能力開発プランづくり 05. 自分の適性と職業による適性：適性試験 06. 働く意義とやりがい感、モチベーションとは 07. 仕事の選択基準：自分の価値観、考え方と職業の一致とは 08. 人に役立つ仕事とは：自分の職業選択と仕事のやりがい、仕事の意義との関係を深める。 09. 社会に役立つ仕事とは：自分の職業選択と仕事のやりがい、仕事の意義との関係を深める。 10. 社会人基礎力とは：①自己表現、行動力、リーダーシップなど。インターンシップとは。 11. 社会人基礎力とは：②他者理解、傾聴力、人間関係、チームワークなど。人間関係と敬語の使い方。 12. 大企業と中小企業の違い。仕事と自己実現一雇われない仕事もある。 13. 公務員と民間の仕事：法人の種類や民間の業界と職種を知る。 14. キャリアデザインAまとめ 何のために、誰のために、どのように働くか 15. 期末レポート提出・個人面談	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
自分自身のなりたいもの、やりたいことを明確にし、自分のできごととのすり合わせの中で、進路を明確にし、目標設定できるようになること。将来の進路目標が設定されるとモチベーションが生まれやる気が出ます。そして今やるべきことの目標設定が出来ます。なりたい職業につくためには身につけなければならない能力・スキルや試験合格が必要だからです。公務員試験、各種資格試験、パソコンスキル、コミュニケーション能力、社会体験などの学習目標を設定しましょう。			
受講者に対する要望			準備学習(復習)
自分の将来の夢や希望を作っていきます。自分がやりたいもの、やりがい感が感じられる職業は何か、自分に向いている職業は何かについて考えましょう。自分の適性や能力、やりたいこと発見のため自分を見つめなおしましょう。			
学びのキーワード		評価方法	
・ 自分を知るー自己分析 ・ 職業を知るー職業研究 ・ 仕事のやりがい感 ・ 自分にとっての仕事の選択基準 ・ 職業・生活の安定性			
教科書			(1) 演習・発表・期末レポート 50% 筆記演習、プレゼン演習実施 (2) 授業への参加度 50% 積極性重視、私語離席減点 出席は学生証による電子入力で、遅刻3回で1回欠席のペナルティとなります。
参考書			

キャリアデザインA（P・L用）		CREE-0-100	
担当教員： 上田 信一郎			
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11652105	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. キャリアデザインとは何か</div> <div>02. 社会で生きる力とコミュニケーション力・マナーの意味</div> <div>03. 自分と向き合う：やりたいこと、適性、できること、価値観</div> <div>04. 資格、スキル、社会体験の習得：就職力育成・能力開発プランづくり</div> <div>05. 自分の適性と職業による適性：適性試験</div> <div>06. 働く意義とやりがい感、モチベーションとは</div> <div>07. 仕事の選択基準：自分の価値観、考え方と職業の一致とは</div> <div>08. 人に役立つ仕事とは：自分の職業選択と仕事のやりがい、仕事の意義との関係を深める。</div> <div>09. 社会に役立つ仕事とは：自分の職業選択と仕事のやりがい、仕事の意義との関係を深める。</div> <div>10. 社会人基礎力とは：①自己表現、行動力、リーダーシップなど。インターンシップとは。</div> <div>11. 社会人基礎力とは：②他者理解、傾聴力、人間関係、チームワークなど。人間関係と敬語の使い方。</div> <div>12. 大企業と中小企業の違い。仕事と自己実現一雇われない仕事もある。</div> <div>13. 公務員と民間の仕事：法人の種類や民間の業界と職種を知る。</div> <div>14. キャリアデザインAまとめ 何のために、誰のために、どのように働くか</div> <div>15. 期末レポート提出・個人面談</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>1) <内容> キャリアデザインは、広くは人生設計全体に関わりますが、具体的には将来の進路・職業について、将来なりたいもの、やりたい仕事、自分の適性、職業の現状を考え整理し、目標を企画・設計していくことです。そして、現在学ぶもの、身につけるもの、体験行動すべきテーマを発見・具体化し、目標の設定と行動に移すキッカケとなるものです。また職業紹介に関するビデオを上映し職業理解を進めます。さらにコミュニケーション力、プレゼンテーション力向上のために、就職面接で決め手になる自己PRを取り入れた自己PRプレゼン（みん</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>自分自身のなりたいもの、やりたいことを明確にし、自分のできごととのすり合わせの中で、進路を明確にし、目標設定できるようになること。将来の進路目標が設定されるとモチベーションが生まれやる気が出ます。そして今やるべきことの目標設定が出来ます。なりたい職業につくためには身につけなければならない能力・スキルや試験合格が必要だからです。公務員試験、各種資格試験、パソコンスキル、コミュニケーション能力、社会体験などの学習目標を設定しましょう。</div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>自分の将来の夢や希望を作っていきます。自分がやりたいもの、やりがい感が感じられる職業は何か、自分に向いている職業は何かについて考えましょう。自分の適性や能力、やりたいこと発見のため自分を見つめなおしましょう。</div>			
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 自分を知るー自己分析</div><div>・ 職業を知るー職業研究</div><div>・ 仕事のやりがい感</div><div>・ 自分にとっての仕事の選択基準</div><div>・ 職業・生活の安定性</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

キャリアデザインA（P・L用）		CREE-0-100
担当教員： 上田 信一郎		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11652106
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. キャリアデザインとは何か</div> <div>02. 社会で生きる力とコミュニケーション力・マナーの意味</div> <div>03. 自分と向き合う：やりたいこと、適性、できること、価値観</div> <div>04. 資格、スキル、社会体験の習得：就職力育成・能力開発プランづくり</div> <div>05. 自分の適性と職業による適性：適性試験</div> <div>06. 働く意義とやりがい感、モチベーションとは</div> <div>07. 仕事の選択基準：自分の価値観、考え方と職業の一致とは</div> <div>08. 人に役立つ仕事とは：自分の職業選択と仕事のやりがい、仕事の意義との関係を深める。</div> <div>09. 社会に役立つ仕事とは：自分の職業選択と仕事のやりがい、仕事の意義との関係を深める。</div> <div>10. 社会人基礎力とは：①自己表現、行動力、リーダーシップなど。インターンシップとは。</div> <div>11. 社会人基礎力とは：②他者理解、傾聴力、人間関係、チームワークなど。人間関係と敬語の使い方。</div> <div>12. 大企業と中小企業の違い。仕事と自己実現一雇われない仕事もある。</div> <div>13. 公務員と民間の仕事：法人の種類や民間の業界と職種を知る。</div> <div>14. キャリアデザインAまとめ 何のために、誰のために、どのように働くか</div> <div>15. 期末レポート提出・個人面談</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1) <内容> キャリアデザインは、広くは人生設計全体に関わりますが、具体的には将来の進路・職業について、将来なりたいもの、やりたい仕事、自分の適性、職業の現状を考え整理し、目標を企画・設計していくことです。そして、現在学ぶもの、身につけるもの、体験行動すべきテーマを発見・具体化し、目標の設定と行動に移すキッカケとなるものです。また職業紹介に関するビデオを上映し職業理解を進めます。さらにコミュニケーション力、プレゼンテーション力向上のために、就職面接で決め手になる自己PRを取り入れた自己PRプレゼン（みん</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>自分自身のなりたいもの、やりたいことを明確にし、自分のできごととのすり合わせの中で、進路を明確にし、目標設定できるようになること。将来の進路目標が設定されるとモチベーションが生まれやる気が出ます。そして今やるべきことの目標設定が出来ます。なりたい職業につくためには身につけなければならない能力・スキルや試験合格が必要だからです。公務員試験、各種資格試験、パソコンスキル、コミュニケーション能力、社会体験などの学習目標を設定しましょう。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>自分の将来の夢や希望を作っていきます。自分がやりたいもの、やりがい感が感じられる職業は何か、自分に向いている職業は何かについて考えましょう。自分の適性や能力、やりたいこと発見のため自分を見つめなおしましょう。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 自分を知るー自己分析</div><div>・ 職業を知るー職業研究</div><div>・ 仕事のやりがい感</div><div>・ 自分にとっての仕事の選択基準</div><div>・ 職業・生活の安定性</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

キャリアデザインA（C・W用）			CREE-0-100
担当教員： 萬年山 啓			
学期： 週間授		科目： 基礎科目	必修・選択： 必修科目/選択科目
		単位： 1	コード： 11652107
学部教育の関連目		授業計画	
【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		01. はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレーキング） 02. キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識を理解する） 03. 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる） 04. 自分を知る（2） 自己分析（これまでの経験や体験を分析して、自分のことを理解する） 05. 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像・能力像を理解し、具体的な習得方法を考える） 06. 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、キャリア挫折をなくす方法を考える） 07. 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える） 08. 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する） 09. 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する） 10. 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える） 11. 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する） 12. 社会人基礎力を高める（1） コミュニケーション力など 13. 社会人基礎力を高める（2） 意思決定力など 14. 社会人基礎力を高める（3） プレゼンテーション力など 15. 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
この科目では、学生が、自分の生き方、働き方などを設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法について学びます。この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。 この科目は、「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、そうしたキャリアを「デザイン」とするという未来志向であることを特長とします。 多くの学生が大学を最終学歴として社会へ移行することを前提に、社会への移行をスムーズに行うことができるように、大学時代に教養科目・専門科目で得た知識を活		授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと	
		準備学習(復習)	
		配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること	
受講者に対する要望		評価方法	
授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます（詳しくは、最初の授業で説明します）。 大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、勉強・社会体験・サークル活動など、大学時代に取り組んで得たことを活かせるようにしてください。		(1) 授業への取組 50% (2) ワークへの取組 25% 個人ワークとグループワーク (3) 課題レポート 25%	
		この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。	
学びのキーワード		教科書	
・ 自己理解 ・ 職業理解（仕事理解） ・ 社会人基礎力			
		参考書	
		毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。	

キャリアデザインB（P・L用）

CREE-0-100

担当教員： 萬年山 啓

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目 単位： 1 コード： 11652201

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

後期に配賦されるこの科目は、前期で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一歩深めていきます。さらに、大学（教育）から職場（社会）へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいきます。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成します。

(2) 学びの意義と目標

この科目では、社会的活動が協働の場であることを理解し、学生がこれまで体験してきた競争の場とは異なる考え方や能力が求められることを意識します。21世紀の「知識基盤社会」において働くとはどういう意義を持ち、どのような人間的資質が求められており、評価されるのかを理解していくのが主眼です。
この科目では、日々活動している社会の中で自分を位置付けること、業種・企業・職種を自分の適性や興味・関心と結びつけて理解すること、社会にでてから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます（詳しくは、最初の授業で説明します）。
 社会の動きや大学生の状況などを概説しますので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の成り行きについて考えるようにしてください。

学びのキーワード

・ 社会の中での自分のあり方

・ 業種・職種・働き方

・ 社会で活躍するために必要な力

・ 協働するために必要な力

授業計画

01. 働く意味について考える（仕事や働き方を選ぶ基準について理解する）
02. なりたい自分を創る（自分が大切にしていることが何かを把握する）
03. 学生と社会人の違いを認識する（大学で求められることと社会が必要としていることを理解する）
04. 業種と企業について理解する（1） 人に対するサービスを中心
05. 業種と企業について理解する（2） 事物に対するサービスを中心に
06. 職種について理解する（1） 自分の生活との関わりから職種を理解する
07. 職種について理解する（2） 職業の意味と多様性について理解する
08. 社会に出てから必要な力を養う（1） 読んで理解する力
09. 社会に出てから必要な力を養う（2） 聴いて理解する力
10. 社会に出てから必要な力を養う（3） 話して自分を伝える力
11. 社会に出てから必要な力を養う（4） 書いて自分を伝える力
12. ゲスト・スピーチから学ぶ（キャリア・コンサルタントによる講演）
13. 協働するために必要な能力を養う（1） 言葉だけの意思疎通
14. 協働するために必要な能力を養う（2） コミュニケーション力
15. 協働するために必要な能力を養う（3） 論理的思考と表現

準備学習(予習)

授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと

準備学習(復習)

配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生生活に活用すること

評価方法

(1) 授業への取組

50%

(2) ワークへの取組

25% 個人ワークとグループワーク

(3) 課題レポート

25%

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。理由のない遅刻や欠席は認めません。

教科書

参考書

毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

キャリアデザインB（P・L用）		CREE-0-100
担当教員： 萬年山 啓		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目		単位： 1 コード： 11652202
学部教育の関連目		授業計画
【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. 働く意味について考える（仕事や働き方を選ぶ基準について理解する） 02. なりたい自分を創る（自分が大切にしていることが何かを把握する） 03. 学生と社会人の違いを認識する（大学で求められることと社会が必要としていることを理解する） 04. 業種と企業について理解する（1） 人に対するサービスを中心 05. 業種と企業について理解する（2） 事物に対するサービスを中心に 06. 職種について理解する（1） 自分の生活との関わりから職種を理解する 07. 職種について理解する（2） 職業の意味と多様性について理解する 08. 社会に出てから必要な力を養う（1） 読んで理解する力 09. 社会に出てから必要な力を養う（2） 聴いて理解する力 10. 社会に出てから必要な力を養う（3） 話して自分を伝える力 11. 社会に出てから必要な力を養う（4） 書いて自分を伝える力 12. ゲスト・スピーチから学ぶ（キャリア・コンサルタントによる講演） 13. 協働するために必要な能力を養う（1） 言葉だけの意思疎通 14. 協働するために必要な能力を養う（2） コミュニケーション力 15. 協働するために必要な能力を養う（3） 論理的思考と表現
後期に配賦されるこの科目は、前期で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一歩深めていきます。さらに、大学（教育）から職場（社会）へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいきます。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成します。		
(2) 学びの意義と目標		
この科目では、社会的活動が協働の場であることを理解し、学生がこれまで体験してきた競争の場とは異なる考え方や能力が求められることを意識します。21世紀の「知識基盤社会」において働くとはどういう意義を持ち、どのような人間的資質が求められており、評価されるのかを理解していくのが主眼です。 この科目では、日々活動している社会の中で自分を位置付けること、業種・企業・職種を自分の適性や興味・関心と結びつけて理解すること、社会にでてから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重		準備学習(予習)
		授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと
		準備学習(復習)
		配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること
		評価方法
		(1) 授業への取組 50% (2) ワークへの取組 25% 個人ワークとグループワーク (3) 課題レポート 25%
		この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。理由のない遅刻や欠席は認めません。
受講者に対する要望		教科書
授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます（詳しくは、最初の授業で説明します）。 社会の動きや大学生の状況などを概説しますので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の成り行きについて考えるようにしてください。 		
学びのキーワード		
・ 社会の中での自分のあり方 ・ 業種・職種・働き方 ・ 社会で活躍するために必要な力 ・ 協働するために必要な力		参考書
		毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

キャリアデザインB（P・L用）		CREE-0-100
担当教員： 萬年山 啓		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目		単位： 1 コード： 11652203
学部教育の関連目		授業計画
【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. 働く意味について考える（仕事や働き方を選ぶ基準について理解する） 02. なりたい自分を創る（自分が大切にしていることが何かを把握する） 03. 学生と社会人の違いを認識する（大学で求められることと社会が必要としていることを理解する） 04. 業種と企業について理解する（1） 人に対するサービスを中心 05. 業種と企業について理解する（2） 事物に対するサービスを中心に 06. 職種について理解する（1） 自分の生活との関わりから職種を理解する 07. 職種について理解する（2） 職業の意味と多様性について理解する 08. 社会に出てから必要な力を養う（1） 読んで理解する力 09. 社会に出てから必要な力を養う（2） 聴いて理解する力 10. 社会に出てから必要な力を養う（3） 話して自分を伝える力 11. 社会に出てから必要な力を養う（4） 書いて自分を伝える力 12. ゲスト・スピーチから学ぶ（キャリア・コンサルタントによる講演） 13. 協働するために必要な能力を養う（1） 言葉だけの意思疎通 14. 協働するために必要な能力を養う（2） コミュニケーション力 15. 協働するために必要な能力を養う（3） 論理的思考と表現
後期に配賦されるこの科目は、前期で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一歩深めていきます。さらに、大学（教育）から職場（社会）へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいきます。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成します。		
(2) 学びの意義と目標		
この科目では、社会的活動が協働の場であることを理解し、学生がこれまで体験してきた競争の場とは異なる考え方や能力が求められることを意識します。21世紀の「知識基盤社会」において働くとはどういう意義を持ち、どのような人間的資質が求められており、評価されるのかを理解していくのが主眼です。 この科目では、日々活動している社会の中で自分を位置付けること、業種・企業・職種を自分の適性や興味・関心と結びつけて理解すること、社会にでてから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重		準備学習(予習)
		授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと
		準備学習(復習)
		配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること
受講者に対する要望		評価方法
授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます（詳しくは、最初の授業で説明します）。 社会の動きや大学生の状況などを概説しますので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の成り行きについて考えるようにしてください。		
学びのキーワード		教科書
・社会の中での自分のあり方 ・業種・職種・働き方 ・社会で活躍するために必要な力 ・協働するために必要な力		参考書
		毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

キャリアデザインB（P・L用）		CREE-0-100
担当教員：上田 信一郎		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11652204
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会を知り産業を知り職業を知る。仕事の面白さを知る。 02. 社会と企業の役割。企業組織とはどのようなものか。 03. 産業構造と伸びる業種・縮む業種 04. 雇用の形態：正社員、非正規雇用とは。ブラック企業とは。 05. 業種と仕事の研究―製造業の仕事 06. 業種と仕事の研究―地方公務員の仕事 07. 業種と仕事の研究―流通小売業の仕事 08. 業種と仕事の研究―福祉、医療の仕事 09. 業種と仕事の研究―教育、育児支援、スポーツの仕事 10. 業種と仕事の研究―観光、ホテル、飲食の仕事 11. 業種と仕事の研究―金融業・アパレル業の仕事 12. 業種と仕事の研究―Web、ITの仕事。環境ビジネスの仕事。 13. 業種と仕事の研究―商社・貿易・国際ビジネスの仕事。運輸業の仕事。 14. キャリアデザインBまとめ自分の興味、適性にあった仕事とは 15. 期末レポート提出、個人面談</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>(1) 内容 キャリアデザインAでは比較的「自分を知る」ことを重点に進路目標をたてることを柱にしましたが、キャリアデザインBでは「職業を知る」ことを重点に、自分とのマッチングの可能性を探ります。また、職業を通して社会的な役割をになう意味、職業をもち生きていく力を身につける意味を考えます。職業を紹介するビデオを随時上映します。 (2) カリキュラム上の位置づけ 職業について、業種・職種の種類、特性などを知り、職業への関心を高め、自分自身の関心のある仕事発見につなげます。関心のある仕事の発見のため職業をリサ</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>講義及び演習でのリサーチ発表を通じて、自分の関心のある職業についての業種・職種の内容、職業につくための要件・方法、労働条件、職業につくための競争条件などを調べることを通じて知り、仕事に対するモチベーションを高め、進路を明確にすること。また、アクティブラーニングではリサーチ発表を通してプレゼンテーション力を身につけること。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>職業研究を情報収集、身近な人の話を聞くなどしていき、自分のやりたい仕事・進路を具体的に把握していきましょう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>まず自分のやりたい仕事や興味のある仕事について調べることから始めます。そしてその仕事につくための要件を調べましょう。次回の講義のテーマを予告していきますので関連項目を調べておいて下さい。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 職業研究 ・ 自分の興味のある業種 ・ 自分の適性にあった職種 ・ 公務員と民間 ・ 成長性と安定性</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>関心のある業界・職種についてインターネット、書籍などで更に詳しく調べ、自分の進路・職業の目標を設定できるようにしましょう。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 演習・発表・期末レポート 50% 職業リサーチ発表演習など (2) 授業への参加度 50% 積極性・自分で考える視点重視</div>
		<div>遅刻3回で1回の欠席となるペナルティがあります。演習・発表は職業リサーチ発表中心となります。</div>
<div>教科書</div>		<div>参考書</div>

キャリアデザインB（P・L用）		CREE-0-100
担当教員： 上田 信一郎		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11652205
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会を知り産業を知り職業を知る。仕事の面白さを知る。</div> <div>02. 社会と企業の役割。企業組織とはどのようなものか。</div> <div>03. 産業構造と伸びる業種・縮む業種</div> <div>04. 雇用の形態：正社員、非正規雇用とは。ブラック企業とは。</div> <div>05. 業種と仕事の研究―製造業の仕事</div> <div>06. 業種と仕事の研究―地方公務員の仕事</div> <div>07. 業種と仕事の研究―流通小売業の仕事</div> <div>08. 業種と仕事の研究―福祉、医療の仕事</div> <div>09. 業種と仕事の研究―教育、育児支援、スポーツの仕事</div> <div>10. 業種と仕事の研究―観光、ホテル、飲食の仕事</div> <div>11. 業種と仕事の研究―金融業・アパレル業の仕事</div> <div>12. 業種と仕事の研究―Web、ITの仕事。環境ビジネスの仕事。</div> <div>13. 業種と仕事の研究―商社・貿易・国際ビジネスの仕事。運輸業の仕事。</div> <div>14. キャリアデザインBまとめ自分の興味、適性にあった仕事とは</div> <div>15. 期末レポート提出、個人面談</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>(1) 内容 キャリアデザインAでは比較的「自分を知る」ことを重点に進路目標をたてることを柱にしましたが、キャリアデザインBでは「職業を知る」ことを重点に、自分とのマッチングの可能性を探ります。また、職業を通して社会的な役割をになう意味、職業をもち生きていく力を身につける意味を考えます。職業を紹介するビデオを随時上映します。</div> <div>(2) カリキュラム上の位置づけ 職業について、業種・職種の種類、特性などを知り、職業への関心を高め、自分自身の関心のある仕事発見につなげます。関心のある仕事の発見のため職業をリサ</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>講義及び演習でのリサーチ発表を通じて、自分の関心のある職業についての業種・職種の内容、職業につくための要件・方法、労働条件、職業につくための競争条件などを調べることを通じて知り、仕事に対するモチベーションを高め、進路を明確にすること。また、アクティブラーニングではリサーチ発表を通してプレゼンテーション力を身につけること。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>職業研究を情報収集、身近な人の話を聞くなどしていき、自分のやりたい仕事・進路を具体的に把握していきましょう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>まず自分のやりたい仕事や興味のある仕事について調べることから始めます。そしてその仕事につくための要件を調べましょう。次回の講義のテーマを予告していきますので関連項目を調べておいて下さい。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>関心のある業界・職種についてインターネット、書籍などで更に詳しく調べ、自分の進路・職業の目標を設定できるようにしましょう。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 演習・発表・期末レポート 50% 職業リサーチ発表演習など</div> <div>(2) 授業への参加度 50% 積極性・自分で考える視点重視</div> <div>遅刻3回で1回の欠席となるペナルティがあります。演習・発表は職業リサーチ発表中心となります。</div>
		<div>教科書</div> <div>参考書</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 職業研究</div> <div>・ 自分の興味のある業種</div> <div>・ 自分の適性にあった職種</div> <div>・ 公務員と民間</div> <div>・ 成長性と安定性</div>		

キャリアデザインB（P・L用）		CREE-0-100
担当教員：上田 信一郎		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11652206
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会を知り産業を知り職業を知る。仕事の面白さを知る。</div> <div>02. 社会と企業の役割。企業組織とはどのようなものか。</div> <div>03. 産業構造と伸びる業種・縮む業種</div> <div>04. 雇用の形態：正社員、非正規雇用とは。ブラック企業とは。</div> <div>05. 業種と仕事の研究―製造業の仕事</div> <div>06. 業種と仕事の研究―地方公務員の仕事</div> <div>07. 業種と仕事の研究―流通小売業の仕事</div> <div>08. 業種と仕事の研究―福祉、医療の仕事</div> <div>09. 業種と仕事の研究―教育、育児支援、スポーツの仕事</div> <div>10. 業種と仕事の研究―観光、ホテル、飲食の仕事</div> <div>11. 業種と仕事の研究―金融業・アパレル業の仕事</div> <div>12. 業種と仕事の研究―Web、ITの仕事。環境ビジネスの仕事。</div> <div>13. 業種と仕事の研究―商社・貿易・国際ビジネスの仕事。運輸業の仕事。</div> <div>14. キャリアデザインBまとめ自分の興味、適性にあった仕事とは</div> <div>15. 期末レポート提出、個人面談</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>(1) 内容 キャリアデザインAでは比較的「自分を知る」ことを重点に進路目標をたてることを柱にしましたが、キャリアデザインBでは「職業を知る」ことを重点に、自分とのマッチングの可能性を探ります。また、職業を通して社会的な役割をになう意味、職業をもち生きていく力を身につける意味を考えます。職業を紹介するビデオを随時上映します。</div> <div>(2) カリキュラム上の位置づけ 職業について、業種・職種の種類、特性などを知り、職業への関心を高め、自分自身の関心のある仕事発見につなげます。関心のある仕事の発見のため職業をリサ</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>講義及び演習でのリサーチ発表を通じて、自分の関心のある職業についての業種・職種の内容、職業につくための要件・方法、労働条件、職業につくための競争条件などを調べることを通じて知り、仕事に対するモチベーションを高め、進路を明確にすること。また、アクティブラーニングではリサーチ発表を通してプレゼンテーション力を身につけること。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>職業研究を情報収集、身近な人の話を聞くなどしていき、自分のやりたい仕事・進路を具体的に把握していきましょう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>まず自分のやりたい仕事や興味のある仕事について調べることから始めます。そしてその仕事につくための要件を調べましょう。次回の講義のテーマを予告していきますので関連項目を調べておいて下さい。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>関心のある業界・職種についてインターネット、書籍などで更に詳しく調べ、自分の進路・職業の目標を設定できるようにしましょう。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 演習・発表・期末レポート 50% 職業リサーチ発表演習など</div> <div>(2) 授業への参加度 50% 積極性・自分で考える視点重視</div> <div>遅刻3回で1回の欠席となるペナルティがあります。演習・発表は職業リサーチ発表中心となります。</div>
		<div>教科書</div> <div>参考書</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 職業研究</div> <div>・ 自分の興味のある業種</div> <div>・ 自分の適性にあった職種</div> <div>・ 公務員と民間</div> <div>・ 成長性と安定性</div>		

キャリアデザインB（C・W用）		CREE-0-100
担当教員： 萬年山 啓		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目		単位： 1 コード： 11652207
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>後期に配賦されるこの科目は、前期で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一歩深めていきます。さらに、大学（教育）から職場（社会）へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいきます。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この科目では、社会的活動が協働の場であることを理解し、学生がこれまで体験してきた競争の場とは異なる考え方や能力が求められることを意識します。21世紀の「知識基盤社会」において働くとはどういう意義を持ち、どのような人間的資質が求められており、評価されるのかを理解していくのが主眼です。 この科目では、日々活動している社会の中で自分を位置付けること、業種・企業・職種を自分の適性や興味・関心と結びつけて理解すること、社会にでてから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます（詳しくは、最初の授業で説明します）。
 社会の動きや大学生の状況などを概説しますので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の成り行きについて考えるようにしてください。
</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・社会の中での自分のあり方</div><div>・業種・職種・働き方</div><div>・社会で活躍するために必要な力</div><div>・協働するために必要な力</div></div>		
<div>授業計画</div> <div>01. 働く意味について考える（仕事や働き方を選ぶ基準について理解する）</div> <div>02. なりたい自分を創る（自分が大切にしていることが何かを把握する）</div> <div>03. 学生と社会人の違いを認識する（大学で求められることと社会が必要としていることを理解する）</div> <div>04. 業種と企業について理解する（1） 人に対するサービスを中心</div> <div>05. 業種と企業について理解する（2） 事物に対するサービスを中心に</div> <div>06. 職種について理解する（1） 自分の生活との関わりから職種を理解する</div> <div>07. 職種について理解する（2） 職業の意味と多様性について理解する</div> <div>08. 社会に出てから必要な力を養う（1） 読んで理解する力</div> <div>09. 社会に出てから必要な力を養う（2） 聴いて理解する力</div> <div>10. 社会に出てから必要な力を養う（3） 話して自分を伝える力</div> <div>11. 社会に出てから必要な力を養う（4） 書いて自分を伝える力</div> <div>12. ゲスト・スピーチから学ぶ（キャリア・コンサルタントによる講演）</div> <div>13. 協働するために必要な能力を養う（1） 言葉だけの意思疎通</div> <div>14. 協働するために必要な能力を養う（2） コミュニケーション力</div> <div>15. 協働するために必要な能力を養う（3） 論理的思考と表現</div>		
<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと</div>		
<div>準備学習(復習)</div> <div>配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること</div>		
<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業への取組</div><div>50%</div></div><div><div>(2) ワークへの取組</div><div>25% 個人ワークとグループワーク</div></div><div><div>(3) 課題レポート</div><div>25%</div></div></div>		
<div>この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。理由のない遅刻や欠席は認めません。</div>		
<div>教科書</div>		
<div>参考書</div> <div>毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。</div>		

キャリアデザイン（A用）		CREE-0-201									
担当教員： 奥 富美子											
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11652331									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 大学生活とキャリアデザイン（1） ～大学生活もキャリアの一</div> <div>03. 大学生活とキャリアデザイン（2） ～好きなこととストレスマネジメン</div> <div>04. 大学生活とキャリアデザイン（3） ～自信創出力と豊かな感情表現</div> <div>05. 自分らしさの探究～特徴</div> <div>06. 自分らしさの探究～価値観</div> <div>07. 自分らしさの探究～リーダーシップ</div> <div>08. 生き方研究～職業人インタビュー（1）</div> <div>09. 生き方研究～職業人インタビュー（2）</div> <div>10. 生き方研究～人生ゲームを用いて</div> <div>11. 「働く」と自分自身～社会人基礎力と自分との接点</div> <div>12. 「働く」と自分自身～説明力の鍛え方</div> <div>13. 「働く」と自分自身～職業興味タイプ診断</div> <div>14. 大学生活とキャリアデザイン（4）～将来とのつながり</div> <div>15. まとめ レポート提出</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>自分自身のこれまでと今をみつめ、将来をどう設計していくかを考えることがキャリアデザインです。この科目では、キャリア（＝学生生活、家庭生活を含め、卒業後の職業生活を加えた生き方）について考え、生涯にわたる自分自身のキャリアをデザインするうえで必要な考え方を、理論と実践とで学びます。大学卒業後に過ごす社会には正解がありません。自分で考え、自分で決断し、自分で行動する人が求められています。こうした力を養うため、キャリアの主人公は自分自身であることを意識しながら、将来職業に就き社会で活動するための準備をする科目</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>自己のキャリア形成に重要な能力とは何か、「熟考する・調べる・自分の考えを述べる・他者の考えを聴く」「自らの意思で決断する・行動する」などが大切であることを理解します。毎回、講義と演習（個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、発表など）を行います。授業中のこれらの実践を通して、生きる力の基盤となるコミュニケーション力を高めます。様々なワークを通して、自分に興味を持ち、自分の持ち味・強みを明確にします。人の生き方に興味を持ち、自分のキャリアに関心を向け、これからの自分のキャリアビジョンを描きます。社会</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、自己PRや気になる新聞記事の発表、学びのシェアなど、ミニプレゼンテーションがあります。テーマに基づき準備をしておいてください。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>学生生活を充実させ、その延長線上にある職業人生の充実へとつなげるため、授業での取り組み・体験の蓄積によりその力を養います。よって、「授業において積極的に参加する」ことが重要です。この科目で何を得られるかは自分次第です。堅苦しく考える必要はありません。「気楽に楽しく取り組む」ことで、気づきや学びが得やすくなります。自己との対話・他者との対話を通して自分自身を受け止め、発見や変化を喜び、可能性を広げていく場です。互いを尊重し、強みを引き出しあい、応援し合うクラスをつくっていきましょう。
「キャリアフ</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回、授業についてのふりかえりと感想を授業シートに記述し提出します。授業で行ったワークのプリントを再読し、学びを定着させておいてください。</div>									
<div>学びのキーワード</div> <div>・自己分析・自己理解・自分らしさ・自己肯定</div> <div>・将来設計・キャリア・生き方</div> <div>・コミュニケーション</div> <div>・社会人基礎力・職業興味</div> <div>・社会人との交流・ビジネスマナー</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>50%</td><td>演習・ワークへの参加、発表</td></tr><tr><td>(2) 課題への取り組み</td><td>40%</td><td>授業時提出物</td></tr><tr><td>(3) 期末レポート</td><td>10%</td><td></td></tr></table>	(1) 平常点	50%	演習・ワークへの参加、発表	(2) 課題への取り組み	40%	授業時提出物	(3) 期末レポート	10%	
(1) 平常点	50%	演習・ワークへの参加、発表									
(2) 課題への取り組み	40%	授業時提出物									
(3) 期末レポート	10%										
		<div>教科書</div> <div>プリントを配布します。</div> <div>参考書</div> <div>プリントを配布します。</div>									

キャリアデザイン（J用）		CREE-0-201
担当教員： 奥 富美子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11652341
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 大学生活とキャリアデザイン（1） ～大学生活もキャリアの一 03. 大学生活とキャリアデザイン（2） ～好きなこととストレスマネジメン 04. 大学生活とキャリアデザイン（3） ～自信創出力と豊かな感情表現 05. 自分らしさの探究～特徴 06. 自分らしさの探究～価値観 07. 自分らしさの探究～リーダーシップ 08. 生き方研究～職業人インタビュー（1） 09. 生き方研究～職業人インタビュー（2） 10. 生き方研究～人生ゲームを用いて 11. 「働く」と自分自身～社会人基礎力と自分との接点 12. 「働く」と自分自身～説明力の鍛え方 13. 「働く」と自分自身～職業興味タイプ診断 14. 大学生活とキャリアデザイン（4）～将来とのつながり 15. まとめ レポート提出</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>自分自身のこれまでと今をみつめ、将来をどう設計していくかを考えることがキャリアデザインです。この科目では、キャリア（＝学生生活、家庭生活を含め、卒業後の職業生活を加えた生き方）について考え、生涯にわたる自分自身のキャリアをデザインするうえで必要な考え方を、理論と実践とで学びます。 大学卒業後に過ごす社会には正解がありません。自分で考え、自分で決断し、自分で行動する人が求められています。こうした力を養うため、キャリアの主人公は自分自身であることを意識しながら、将来職業に就き社会で活動するための準備をする科目</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>自己のキャリア形成に重要な能力とは何か、「熟考する・調べる・自分の考えを述べる・他者の考えを聴く」「自らの意思で決断する・行動する」などが大切であることを理解します。 毎回、講義と演習（個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、発表など）を行います。授業中のこれらの実践を通して、生きる力の基盤となるコミュニケーション力を高めます。 様々なワークを通して、自分に興味を持ち、自分の持ち味・強みを明確にします。 人の生き方に興味を持ち、自分のキャリアに関心を向け、これからの自分のキャリアビジョンを描きます。 社会</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、自己PRや気になる新聞記事の発表、学びのシェアなど、ミニプレゼンテーションがあります。テーマに基づき準備をしておいてください。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>学生生活を充実させ、その延長線上にある職業人生の充実へとつなげるため、授業での取り組み・体験の蓄積によりその力を養います。よって、「授業において積極的に参加する」ことが重要です。この科目で何を得られるかは自分次第です。堅苦しく考える必要はありません。「気楽に楽しく取り組む」ことで、気づきや学びが得やすくなります。自己との対話・他者との対話を通して自分自身を受け止め、発見や変化を喜び、可能性を広げていく場です。互いを尊重し、強みを引き出しあい、応援し合うクラスをつくっていきましょう。
「キャリアフ</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回、授業についてのふりかえりと感想を授業シートに記述し提出します。授業で行ったワークのプリントを再読し、学びを定着させておいてください。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 自己分析・自己理解・自分らしさ・自己肯定 ・ 将来設計・キャリア・生き方 ・ コミュニケーション ・ 社会人基礎力・職業興味 ・ 社会人との交流・ビジネスマナー</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点50% 演習・ワークへの参加、発表</div><div>(2) 課題への取り組み40% 授業時提出物</div><div>(3) 期末レポート10%</div></div>
<div>教科書</div> <div>プリントを配布します。</div>		<div>参考書</div> <div>プリントを配布します。</div>

キャリアデザイン（J用）		CREE-0-201
担当教員：奥 富美子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 11652342
学部教育の関連目		授業計画
【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. オリエンテーション 02. 大学生活とキャリアデザイン（1） ～大学生活もキャリアの一 03. 大学生活とキャリアデザイン（2） ～好きなこととストレスマネジメン 04. 大学生活とキャリアデザイン（3） ～自信創出力と豊かな感情表現 05. 自分らしさの探究～特徴 06. 自分らしさの探究～価値観 07. 自分らしさの探究～リーダーシップ 08. 生き方研究～職業人インタビュー（1） 09. 生き方研究～職業人インタビュー（2） 10. 生き方研究～人生ゲームを用いて 11. 「働く」と自分自身～社会人基礎力と自分との接点 12. 「働く」と自分自身～説明力の鍛え方 13. 「働く」と自分自身～職業興味タイプ診断 14. 大学生活とキャリアデザイン（4）～将来とのつながり 15. まとめ レポート提出
自分自身のこれまでと今をみつめ、将来をどう設計していくかを考えることがキャリアデザインです。この科目では、キャリア（＝学生生活、家庭生活を含め、卒業後の職業生活を加えた生き方）について考え、生涯にわたる自分自身のキャリアをデザインするうえで必要な考え方を、理論と実践とで学びます。 大学卒業後に過ごす社会には正解がありません。自分で考え、自分で決断し、自分で行動する人が求められています。こうした力を養うため、キャリアの主人公は自分自身であることを意識しながら、将来職業に就き社会で活動するための準備をする科目		
(2) 学びの意義と目標		
自己のキャリア形成に重要な能力とは何か、「熟考する・調べる・自分の考えを述べる・他者の考えを聴く」「自らの意思で決断する・行動する」などが大切であることを理解します。 毎回、講義と演習（個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、発表など）を行います。授業中のこれらの実践を通して、生きる力の基盤となるコミュニケーション力を高めます。 様々なワークを通して、自分に興味を持ち、自分の持ち味・強みを明確にします。 人の生き方に興味を持ち、自分のキャリアに関心を向け、これからの自分のキャリアビジョンを描きます。 社会		準備学習(予習)
		毎回、自己PRや気になる新聞記事の発表、学びのシェアなど、ミニプレゼンテーションがあります。テーマに基づき準備をしておいてください。
		準備学習(復習)
		毎回、授業についてのふりかえりと感想を授業シートに記述し提出します。授業で行ったワークのプリントを再読し、学びを定着させておいてください。
受講者に対する要望		評価方法
学生生活を充実させ、その延長線上にある職業人生の充実へとつなげるため、授業での取り組み・体験の蓄積によりその力を養います。よって、「授業において積極的に参加する」ことが重要です。この科目で何を得られるかは自分次第です。堅苦しく考える必要はありません。「気楽に楽しく取り組む」ことで、気づきや学びが得やすくなります。自己との対話・他者との対話を通して自分自身を受け止め、発見や変化を喜び、可能性を広げていく場です。互いを尊重し、強みを引き出しあい、応援し合うクラスをつくっていきましょう。 「キャリアフ		
学びのキーワード		教科書
・ 自己分析・自己理解・自分らしさ・自己肯定 ・ 将来設計・キャリア・生き方 ・ コミュニケーション ・ 社会人基礎力・職業興味 ・ 社会人との交流・ビジネスマナー		プリントを配布します。
		参考書
		プリントを配布します。

業界・企業研究		CREE-0-303
担当教員： 酒井 俊行		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11653001
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 就活の仕組みを知る</div> <div>03. 業界・企業研究とエントリーシート・面接</div> <div>04. 業界研究の必要性</div> <div>05. 業界（産業）と職業の体系的構造</div> <div>06. いくつかの業界例</div> <div>07. 企業研究の必要性</div> <div>08. 企業研究の方法</div> <div>09. 働く場としての中堅・中小企業</div> <div>10. 業界研究の実習（1）</div> <div>11. 業界研究の実習（2）</div> <div>12. 企業研究の実習（1）</div> <div>13. 企業研究の実習（2）</div> <div>14. 企業研究の実習（3）</div> <div>15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>就活を意識した場合に、まず押さえておかなければならないのは就活の仕組みを知ることです。昨今の就活においては、無手勝流でチャレンジすることは極めて非効率と言えます。孫子の兵法に言うとおおり、百戦を危うくしないためには、敵を知り、己を知らなければなりません。「己を知ること」は自己分析ということですが、ここで「敵を知ること」が『業界・企業分析』の作業ということになります。就職を希望する企業が必ずしも敵ということではありません。しかし相手を知らないでチャレンジすることは無謀ですし、何よりも先方企業に失礼です。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>就活を意識した場合、準備しなければならないことがいくつかあります。中でもエントリーシートを書いたり、面接に臨んだりするための準備は周到にしなければなりません。エントリーシートというのは読んで名のごとし。志望先にアプローチするためのツールです。これの書き方によって先に進めるか否かが大きく左右されます。エントリーシートで重要なのは、自己PRと志望の動機がきっちり書けていることです。この授業では志望動機を過不足なく書けるようになるために不可欠な「業界・企業研究」について勉強します。これまでの先輩がたの</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>格別の準備は必要ありませんが、受講する学生は、並行して、マナー、言葉遣い、一般常識等のシェーブアップについても心掛けるようにして下さい。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>真面目に就活に取り組む意欲の強い学生の受講を希望します。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>実践が大事です。その都度指示する課題が復習になりますので、作業指示は絶対に守るようにして下さい。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 就活の仕組みを知る</div> <div>・ エントリーシートを知る</div> <div>・ 業界・企業＝敵を知る</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への貢献40% 授業への積極的参加状況を量りながら、貢献度を評価</div> <div>(2) 演習結果30% 計5回実施する全ての演習が対象</div> <div>(3) 最終レポート30% 総合的な完成度尾を確認</div>
<div>教科書</div>		<div>参考書</div>

業界・企業研究		CREE-0-303
担当教員： 中田 順平		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11653002
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 業界・企業研究とは？ 就職活動の基礎理解</div> <div>03. 事業理解 (1)</div> <div>04. 事業理解 (2)</div> <div>05. 職種理解 (1)</div> <div>06. 職種理解 (2)</div> <div>07. 企業理解を深める 企業風土・職場環境</div> <div>08. 企業理解を深める 産業構造・雇用環境</div> <div>09. 企業と自分との接点をつかむ</div> <div>10. 社会人インタビュー</div> <div>11. 業界・企業研究実習 (1) 各自で業界・企業研究の計画を立てる</div> <div>12. 業界・企業研究実習 (2) グループで業界・企業研究を行う</div> <div>13. 業界・企業研究実習 (3) グループ発表</div> <div>14. 業界・企業研究実習 (4) 個人レポートの作成・発表</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この講座では、業界・企業研究の方法を学びます。ところで、何のために業界・企業研究を行うのでしょうか？この講座では、あなたが自分自身の卒業後の進路を考えること、また、就職活動において望む結果を得ること、そのために役立つ業界・企業研究の方法を学んでいきます。</div> <div>現在、日本国内だけでも多くの企業が存在しており、そのすべてを詳細に理解することは実質的に不可能です。ただ、業界・企業を理解するためのポイントがあります。そうしたポイントをひとつひとつ学んでいきます。事業内容の理解、職種の理解から、より踏み込んだ企業の特徴</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>自分自身の将来を考えるうえで、業界・企業研究は欠かせません。業界・企業によって働き方も、求めている人材も様々です。あなたがどんな将来を実現していきたいのか？それを実現できるのはどのようなフィールドなのか？業界・企業研究ができるようになることで、自分がのぞむキャリアを実現するためにどのような業界・企業を選べば良いのか、を判断する力が身につきます。また、就職活動の選考においては、ほとんどの場合企業から志望理由（なぜその会社に応募したのか？）を問われます。志望理由を説得力を持って伝えるためには、企業理解が欠か</div>		
<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回の授業でワークやミニプレゼンテーションを実施します。特別な準備は必要ありません。自分から積極的に取り組む気持ちを準備しておいてください。</div>		
<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回授業についての振り返りシート（感想・自己評価）を記述し提出します。実践と振り返りをくり返し行うことで、着実に力がついていきます。授業内で学んだ内容や自分自身の気づき・課題を振り返り、学びを定着させてください。</div>		
<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への貢献40% 出席率と演習・ワークへの参加、発表</div> <div>(2) 課題への取り組み40% 授業時提出物</div> <div>(3) 期末レポート20%</div>		
<div>教科書</div>		
<div>参考書</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>実際に自分自身で業界・企業研究ができるようになるためには、知識だけでなく、実践練習が欠かせません。真剣に授業を聴くだけでなく、ワークに取り組む、発表するなど自分から積極的に授業に参加してください。難しく考える必要はありません。楽しみながらリラックスして取り組める雰囲気を一緒につくっていきましょう。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・就職活動の基礎</div> <div>・業界・企業研究の方法を知る</div> <div>・自分がどんな業界・企業に興味を持てるかを知る</div> <div>・将来設計・キャリア・生き方</div> <div>・コミュニケーション</div>		

業界・企業研究		CREE-0-303
担当教員： 酒井 俊行		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11653003
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 就活の仕組みを知る</div> <div>03. 業界・企業研究とエントリーシート・面接</div> <div>04. 業界研究の必要性</div> <div>05. 業界（産業）と職業の体系的構造</div> <div>06. いくつかの業界例</div> <div>07. 企業研究の必要性</div> <div>08. 企業研究の方法</div> <div>09. 働く場としての中堅・中小企業</div> <div>10. 業界研究の実習（1）</div> <div>11. 業界研究の実習（2）</div> <div>12. 企業研究の実習（1）</div> <div>13. 企業研究の実習（2）</div> <div>14. 企業研究の実習（3）</div> <div>15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>就活を意識した場合に、まず押さえておかなければならないのは就活の仕組みを知ることです。昨今の就活においては、無手勝流でチャレンジすることは極めて非効率と言えます。孫子の兵法に言うとおおり、百戦を危うくしないためには、敵を知り、己を知らなければなりません。</div> <div>「己を知ること」は自己分析ということですが、ここで「敵を知ること」が『業界・企業分析』の作業ということになります。就職を希望する企業が必ずしも敵ということではありません。しかし相手を知らないでチャレンジすることは無謀ですし、何よりも先方企業に失礼です。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>就活を意識した場合、準備しなければならないことがいくつかあります。中でもエントリーシートを書いたり、面接に臨んだりするための準備は周到にしなければなりません。エントリーシートというのは読んで名のごとし。志望先にアプローチするためのツールです。これの書き方によって先に進めるか否かが大きく左右されます。</div> <div>エントリーシートで重要なのは、自己PRと志望の動機がきっちり書けていることです。この授業では志望動機を過不足なく書けるようになるために不可欠な「業界・企業研究」について勉強します。</div> <div>これまでの先輩がたの</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>真面目に就活に取り組む意欲の強い学生の受講を希望します。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>格別の準備は必要ありませんが、受講する学生は、並行して、マナー、言葉遣い、一般常識等のシェーブアップについても心掛けるようにして下さい。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>実践が大事です。その都度指示する課題が復習になりますので、作業指示は絶対に守るようにして下さい。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への貢献</div><div>40%</div><div>授業への積極的参加状況を量りながら、貢献度を評価</div></div> <div><div>(2) 演習結果</div><div>30%</div><div>計5回実施する全ての演習が対象</div></div> <div><div>(3) 最終レポート</div><div>30%</div><div>総合的な完成度尾を確認</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 就活の仕組みを知る</div> <div>・ エントリーシートを知る</div> <div>・ 業界・企業＝敵を知る</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

業界・企業研究		CREE-0-303
担当教員： 中田 順平		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11653004
学部教育の関連目		授業計画
【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. オリエンテーション 02. 業界・企業研究とは？ 就職活動の基礎理解 03. 事業理解 (1) 04. 事業理解 (2) 05. 職種理解 (1) 06. 職種理解 (2) 07. 企業理解を深める 企業風土・職場環境 08. 企業理解を深める 産業構造・雇用環境 09. 企業と自分との接点をつかむ 10. 社会人インタビュー 11. 業界・企業研究実習 (1) 各自で業界・企業研究の計画を立てる 12. 業界・企業研究実習 (2) グループで業界・企業研究を行う 13. 業界・企業研究実習 (3) グループ発表 14. 業界・企業研究実習 (4) 個人レポートの作成・発表 15. まとめ
この講座では、業界・企業研究の方法を学びます。ところで、何のために業界・企業研究を行うのでしょうか？この講座では、あなたが自分自身の卒業後の進路を考えること、また、就職活動において望む結果を得ること、そのために役立つ業界・企業研究の方法を学んでいきます。 現在、日本国内だけでも多くの企業が存在しており、そのすべてを詳細に理解することは実質的に不可能です。ただ、業界・企業を理解するためのポイントがあります。そうしたポイントをひとつひとつ学んでいきます。事業内容の理解、職種の理解から、より踏み込んだ企業の特徴		
(2) 学びの意義と目標		
自分自身の将来を考えるうえで、業界・企業研究は欠かせません。業界・企業によって働き方も、求めている人材も様々です。あなたがどんな将来を実現していきたいのか？それを実現できるのはどのようなフィールドなのか？業界・企業研究ができるようになることで、自分がのぞむキャリアを実現するためにどのような業界・企業を選べば良いのか、を判断する力が身につきます。 また、就職活動の選考においては、ほとんどの場合企業から志望理由（なぜその会社に応募したのか？）を問われます。志望理由を説得力を持って伝えるためには、企業理解が欠か		準備学習(予習)
		毎回の授業でワークやミニプレゼンテーションを実施します。特別な準備は必要ありません。自分から積極的に取り組む気持ちを準備しておいてください。
		準備学習(復習)
		毎回授業についての振り返りシート（感想・自己評価）を記述し提出します。実践と振り返りをくり返し行うことで、着実に力がついていきます。授業内で学んだ内容や自分自身の気づき・課題を振り返り、学びを定着させてください。
		評価方法
		(1) 授業への貢献 40% 出席率と演習・ワークへの参加、発表 (2) 課題への取り組み 40% 授業時提出物 (3) 期末レポート 20%
受講者に対する要望		教科書
実際に自分自身で業界・企業研究ができるようになるためには、知識だけでなく、実践練習が欠かせません。真剣に授業を聴くだけでなく、ワークに取り組む、発表するなど自分から積極的に授業に参加してください。難しく考える必要はありません。楽しみながらリラックスして取り組める雰囲気を一緒につくっていきましょう。		
学びのキーワード		参考書
・就職活動の基礎 ・業界・企業研究の方法を知る ・自分がどんな業界・企業に興味を持てるかを知る ・将来設計・キャリア・生き方 ・コミュニケーション		

インターンシップI（事前学習）		CREE-0-301									
担当教員：酒井 俊行											
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11653111									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 映画から学ぶインターンシップ① 03. 映画から学ぶインターンシップ② 04. 改めてインターンシップを考える＋CANPUSWEBの登録法 05. 実習前チェックⅠ（社会の期待①＋マナー①＋語感①＋SPI①） 06. 実習前チェックⅡ（社会の期待②＋マナー②＋語感②＋SPI②） 07. 実習前チェックⅢ（社会の期待③＋マナー③＋語感③＋SPI③） 08. 実習前チェックⅣ（社会の期待④＋マナー④＋語感④＋SPI④） 09. 実習前チェックの中間確認と自己チェック 10. 実習前チェックⅤ（社会の期待⑤＋マナー⑤＋語感⑤＋SPI⑤） 11. 実習前チェックⅥ（社会の期待⑥＋マナー⑥＋語感⑥＋SPI⑥） 12. 実習前チェックⅦ（社会の期待⑦＋マナー⑦＋語感⑦＋SPI⑦） 13. 実習前チェックⅧ（社会の期待⑧＋マナー⑧＋語感⑧＋SPI⑧） 14. 実習前チェックの最終確認＋ビデオに見るPBL型インターンシッ 15. まとめ：インターンシップを楽しもう！</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、基本的にインターンシップ実習に出るための事前準備を行います。事前準備ですから、当然のこと実習（インターンシップⅡ）に出ることが大前提となります。実習に出ないのであればこの授業を履修する意味がありません。就活を意識した場合、採用企業がインターンシップへの参加を高く評価していることは間違いありません。企業によっては、インターンシップに参加した学生を選考上無条件で次のステップに進ませることもあります。インターンシップは、そこまで重要視されているのだということをまず理解して下さい。 また事前準備</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この授業の最終目標は、皆さんをインターンシップ実習に出せるか出せないかの見極めと、社会人として活躍するために足りない能力の自覚を促すことです。 またここで単位を無事取得出来た場合には、一応社会人としてのスタートラインに着くことが認められると理解されます。ただ言うまでもなく、ここで単位を取ったからと言ってこれで免許皆伝ということにはなりません。社会に出しても大丈夫であるとの最低限の見極めが出来たということにすぎません。 インターンシップは飽くまでも教育の一環です。完璧なパフォーマンスはそもそもインターン</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>格別の準備は必要ありません。ただこれまでの学生生活において何をしてきたかは、折に触れて整理しておいて下さい。また就活を意識すれば、長髪や茶髪などはそろそろ卒業した方がよいと思います。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>どの授業でもそうなのですが、特にこの授業は短い時間に盛り沢山のことを学びます。したがって1回でも欠席すれば、身に付けるべきことが身に付かないこととなります。そのため履修者には100%の出席率が求められます。100%の出席に自信がない皆さんは、履修を遠慮してもらった方が賢明かもしれません。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>この授業で学んだことはインターンシップ実習に出た時に、有形無形に有効です。その都度、しっかりノートを取り、学んだことを確実に自分のものにして下さい。</div>									
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 就活の仕組みを知る ・ 自分の足りないところを知る ・ キャリアプランを描く</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への貢献</td><td>40%</td><td>授業への積極的参加状況を量りながら、貢献度を評価</td></tr><tr><td>(2) 中間レポート</td><td>30%</td><td>課題に従って学期中に4~5回程度提出（含む確認テスト）</td></tr><tr><td>(3) 最終レポート</td><td>30%</td><td>インターンシップ実習の課題を記述</td></tr></table> <div>教科書</div> <div>塚谷正彦 『大学生の生き方・考え方』（実教出版）</div> <div>参考書</div>	(1) 授業への貢献	40%	授業への積極的参加状況を量りながら、貢献度を評価	(2) 中間レポート	30%	課題に従って学期中に4~5回程度提出（含む確認テスト）	(3) 最終レポート	30%	インターンシップ実習の課題を記述
(1) 授業への貢献	40%	授業への積極的参加状況を量りながら、貢献度を評価									
(2) 中間レポート	30%	課題に従って学期中に4~5回程度提出（含む確認テスト）									
(3) 最終レポート	30%	インターンシップ実習の課題を記述									

インターンシップI（事前学習）		CREE-0-301
担当教員：酒井 俊行		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11653112
学部教育の関連目		授業計画
【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション 02. 映画から学ぶインターンシップ① 03. 映画から学ぶインターンシップ② 04. 改めてインターンシップを考える＋CANPUSWEBの登録法 05. 実習前チェックⅠ（社会の期待①＋マナー①＋語感①＋SPI①） 06. 実習前チェックⅡ（社会の期待②＋マナー②＋語感②＋SPI②） 07. 実習前チェックⅢ（社会の期待③＋マナー③＋語感③＋SPI③） 08. 実習前チェックⅣ（社会の期待④＋マナー④＋語感④＋SPI④） 09. 実習前チェックの中間確認と自己チェック 10. 実習前チェックⅤ（社会の期待⑤＋マナー⑤＋語感⑤＋SPI⑤） 11. 実習前チェックⅥ（社会の期待⑥＋マナー⑥＋語感⑥＋SPI⑥） 12. 実習前チェックⅦ（社会の期待⑦＋マナー⑦＋語感⑦＋SPI⑦） 13. 実習前チェックⅧ（社会の期待⑧＋マナー⑧＋語感⑧＋SPI⑧） 14. 実習前チェックの最終確認＋ビデオに見るPBL型インターンシッ 15. まとめ：インターンシップを楽しもう！
(1) 内容		
この授業では、基本的にインターンシップ実習に出るための事前準備を行います。事前準備ですから、当然のこと実習（インターンシップⅡ）に出ることが大前提となります。実習に出ないのであればこの授業を履修する意味がありません。就活を意識した場合、採用企業がインターンシップへの参加を高く評価していることは間違いありません。企業によっては、インターンシップに参加した学生を選考上無条件で次のステップに進ませることもあります。インターンシップは、そこまで重要視されているのだということをまず理解して下さい。 また事前準備		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
この授業の最終目標は、皆さんをインターンシップ実習に出せるか出せないかの見極めと、社会人として活躍するために足りない能力の自覚を促すことです。 またここで単位を無事取得出来た場合には、一応社会人としてのスタートラインに着くことが認められると理解されます。ただ言うまでもなく、ここで単位を取ったからと言ってこれで免許皆伝ということにはなりません。社会に出しても大丈夫であるとの最低限の見極めが出来たということにすぎません。 インターンシップは飽くまでも教育の一環です。完璧なパフォーマンスはそもそもインターン		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
どの授業でもそうなのですが、特にこの授業は短い時間に盛り沢山のことを学びます。したがって1回でも欠席すれば、身に付けるべきことが身に付かないこととなります。そのため履修者には100%の出席率が求められます。100%の出席に自信がない皆さんは、履修を遠慮してもらった方が賢明かもしれません。		
学びのキーワード		評価方法
・ 就活の仕組みを知る ・ 自分の足りないところを知る ・ キャリアプランを描く		
		教科書
		参考書
		塚谷正彦 『大学生の生き方・考え方』（実教出版）

インターンシップI（事前学習）		CREE-0-301
担当教員：酒井 俊行		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11653113
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 映画から学ぶインターンシップ① 03. 映画から学ぶインターンシップ② 04. 改めてインターンシップを考える＋CANPUSWEBの登録法 05. 実習前チェックⅠ（社会の期待①＋マナー①＋語感①＋SPI①） 06. 実習前チェックⅡ（社会の期待②＋マナー②＋語感②＋SPI②） 07. 実習前チェックⅢ（社会の期待③＋マナー③＋語感③＋SPI③） 08. 実習前チェックⅣ（社会の期待④＋マナー④＋語感④＋SPI④） 09. 実習前チェックの中間確認と自己チェック 10. 実習前チェックⅤ（社会の期待⑤＋マナー⑤＋語感⑤＋SPI⑤） 11. 実習前チェックⅥ（社会の期待⑥＋マナー⑥＋語感⑥＋SPI⑥） 12. 実習前チェックⅦ（社会の期待⑦＋マナー⑦＋語感⑦＋SPI⑦） 13. 実習前チェックⅧ（社会の期待⑧＋マナー⑧＋語感⑧＋SPI⑧） 14. 実習前チェックの最終確認＋ビデオに見るPBL型インターンシッ 15. まとめ：インターンシップを楽しもう！</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、基本的にインターンシップ実習に出るための事前準備を行います。事前準備ですから、当然のこと実習（インターンシップⅡ）に出ることが大前提となります。実習に出ないのであればこの授業を履修する意味がありません。就活を意識した場合、採用企業がインターンシップへの参加を高く評価していることは間違いありません。企業によっては、インターンシップに参加した学生を選考上無条件で次のステップに進ませることもあります。インターンシップは、そこまで重要視されているのだということをまず理解して下さい。 また事前準備</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この授業の最終目標は、皆さんをインターンシップ実習に出せるか出せないかの見極めと、社会人として活躍するために足りない能力の自覚を促すことです。 またここで単位を無事取得出来た場合には、一応社会人としてのスタートラインに着くことが認められると理解されます。ただ言うまでもなく、ここで単位を取ったからと言ってこれで免許皆伝ということにはなりません。社会に出しても大丈夫であるとの最低限の見極めが出来たということにすぎません。 インターンシップは飽くまでも教育の一環です。完璧なパフォーマンスはそもそもインターン</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>どの授業でもそうなのですが、特にこの授業は短い時間に盛り沢山のことを学びます。したがって1回でも欠席すれば、身に付けるべきことが身に付かないこととなります。そのため履修者には100%の出席率が求められます。100%の出席に自信がない皆さんは、履修を遠慮してもらった方が賢明かもしれません。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>格別の準備は必要ありません。ただこれまでの学生生活において何をしてきたかは、折に触れて整理しておいて下さい。また就活を意識すれば、長髪や茶髪などはそろそろ卒業した方がよいと思います。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 就活の仕組みを知る ・ 自分の足りないところを知る ・ キャリアプランを描く</div>		
<div>教科書</div> <div>塚谷正彦 『大学生の生き方・考え方』（実教出版）</div> <div>参考書</div>		

インターンシップI（事前学習）		CREE-0-301
担当教員： 中田 順平		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11653114
学部教育の関連目		授業計画
【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する		
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション 02. インターンシップとは？ インターンシップと就職活動の基礎理 03. コミュニケーション基礎 社会人に求められるコミュニケーションを理解する 04. 自己理解（1） アセスメントを用いた自己理解 05. 自己理解（2） 経験を振り返る 06. 業界・企業理解（1） 事業理解 07. 業界・企業理解（2） 職種理解 08. 業界・企業理解（3） 企業風土・職場環境 09. 履歴書・エントリーシート 履歴書・エントリーシートの書き方 10. 自己PR（1） エピソードを探る 11. 自己PR（2） 文章にする 12. ビジネスマナー 基本的なビジネスマナーを理解する 13. グループワーク実習 グループワークを通して「働く」を体感す 14. インターンシップに向けて インターンシップの計画を立てる 15. まとめ
(1) 内容		
この講座はインターンシップ実習の事前学習の講座です。インターンシップに向けて準備をしていく内容になりますので、受講においてはインターンシップに参加することが前提となります。インターンシップに参加することで何が得られるのか、また、就職活動とインターンシップの関係など、インターンシップに参加することの意義をまず確認します。そのうえで、インターンシップを充実したものにするために必要な準備を行なっていきます。実習先を決めるための準備として必要な、自己理解と業界・企業理解。これらは自分自身の将来設計にも直結します		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
大学卒業後、自分がどんな道を歩んでいくのか？これは簡単に決められるものではありません。インターンシップは実習を通して働くことを実感できる貴重な機会です。自分自身の将来を考える機会として存分に活用してください。また、インターンシップは近年では就職活動においても欠かせないものになってきています。採用選考にインターンシップを導入している企業もあります。この講座で学ぶことは、インターンシップ実習の場面だけでなく、自分自身の将来設計や就職活動にも役立てることが出来ます。インターンシップ実習先や就職活動での企業選		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
インターンシップの実習先では、社会人としてのマナーやコミュニケーションが求められます。これらができるようになるためには、知識として知っているだけでなく、実践練習が欠かせません。人の話を聴く、発言する、ワークをするなど、授業内での実践に積極的に参加することで力をつけてください。難しく考える必要はありません。楽しみながらリラックスして取り組める雰囲気と一緒につくっていきましょう。		
学びのキーワード		評価方法
・ インターンシップと就職活動、履歴書・エントリーシート ・ コミュニケーション ・ 自己理解・自己PR、キャリア・将来設計 ・ 業界・企業理解 ・ ビジネスマナー		
		教科書
		参考書

インターンシップI（事前学習）

CREE-0-301

担当教員： 中田 順平

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 11653115

学部教育の関連目

【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この講座はインターンシップ実習の事前学習の講座です。インターンシップに向けて準備をしていく内容になりますので、受講においてはインターンシップに参加することが前提となります。インターンシップに参加することで何が得られるのか、また、就職活動とインターンシップの関係など、インターンシップに参加することの意義をまず確認します。そのうえで、インターンシップを充実したものにするために必要な準備を行なっていきます。実習先を決めるための準備として必要な、自己理解と業界・企業理解。これらは自分自身の将来設計にも直結します

(2) 学びの意義と目標

大学卒業後、自分がどんな道を歩んでいくのか？これは簡単に決められるものではありません。インターンシップは実習を通して働くことを実感できる貴重な機会です。自分自身の将来を考える機会として存分に活用してください。また、インターンシップは近年では就職活動においても欠かせないものになってきています。採用選考にインターンシップを導入している企業もあります。この講座で学ぶことは、インターンシップ実習の場面だけでなく、自分自身の将来設計や就職活動にも役立てることが出来ます。インターンシップ実習先や就職活動での企業選

受講者に対する要望

インターンシップの実習先では、社会人としてのマナーやコミュニケーションが求められます。これらができるようになるためには、知識として知っているだけでなく、実践練習が欠かせません。人の話を聴く、発言する、ワークをするなど、授業内での実践に積極的に参加することで力をつけてください。難しく考える必要はありません。楽しみながらリラックスして取り組める雰囲気と一緒につくっていきましょう。

学びのキーワード

・インターンシップと就職活動、履歴書・エントリーシート

・コミュニケーション

・自己理解・自己PR、キャリア・将来設計

・業界・企業理解

・ビジネスマナー

授業計画

01. オリエンテーション

02. インターンシップとは？|インターンシップと就職活動の基礎理

03. コミュニケーション基礎|社会人に求められるコミュニケーションを理解する

04. 自己理解（1）|アセスメントを用いた自己理解

05. 自己理解（2）|経験を振り返る

06. 業界・企業理解（1）|事業理解

07. 業界・企業理解（2）|職種理解

08. 業界・企業理解（3）|企業風土・職場環境

09. 履歴書・エントリーシート|履歴書・エントリーシートの書き方

10. 自己PR（1）|エピソードを探る

11. 自己PR（2）|文章にする

12. ビジネスマナー|基本的なビジネスマナーを理解する

13. グループワーク実習|グループワークを通して「働く」を体感す

14. インターンシップに向けて|インターンシップの計画を立てる

15. まとめ

準備学習(予習)

毎回の授業でワークやミニプレゼンテーションを実施します。特別な準備は必要ありません。自分から積極的に取り組む気持ちを準備しておいてください。

準備学習(復習)

毎回授業についての振り返りシート（感想・自己評価）を記述し提出します。実践と振り返りをくり返し行うことで、着実に力がついていきます。授業内で学んだ内容や自分自身の気づき・課題を振り返り、学びを定着させてください。

評価方法

(1) 授業への貢献

40%

出席率と演習・ワークへの参加、発表

(2) 課題への取り組み

40%

授業時提出物

(3) 期末レポート

20%

教科書

参考書

インターンシップI（事前学習）		CREE-0-301									
担当教員： 中田 順平											
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11653116									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. インターンシップとは？ インターンシップと就職活動の基礎理</div> <div>03. コミュニケーション基礎 社会人に求められるコミュニケーションを理解する</div> <div>04. 自己理解（1） アセスメントを用いた自己理解</div> <div>05. 自己理解（2） 経験を振り返る</div> <div>06. 業界・企業理解（1） 事業理解</div> <div>07. 業界・企業理解（2） 職種理解</div> <div>08. 業界・企業理解（3） 企業風土・職場環境</div> <div>09. 履歴書・エントリーシート 履歴書・エントリーシートの書き方</div> <div>10. 自己PR（1） エピソードを探る</div> <div>11. 自己PR（2） 文章にする</div> <div>12. ビジネスマナー 基本的なビジネスマナーを理解する</div> <div>13. グループワーク実習 グループワークを通して「働く」を体感す</div> <div>14. インターンシップに向けて インターンシップの計画を立てる</div> <div>15. まとめ</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>この講座はインターンシップ実習の事前学習の講座です。インターンシップに向けて準備をしていく内容になりますので、受講においてはインターンシップに参加することが前提となります。インターンシップに参加することで何が得られるのか、また、就職活動とインターンシップの関係など、インターンシップに参加することの意義をまず確認します。そのうえで、インターンシップを充実したものにするために必要な準備を行なっていきます。実習先を決めるための準備として必要な、自己理解と業界・企業理解。これらは自分自身の将来設計にも直結します</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>大学卒業後、自分がどんな道を歩んでいくのか？これは簡単に決められるものではありません。インターンシップは実習を通して働くことを実感できる貴重な機会です。自分自身の将来を考える機会として存分に活用してください。また、インターンシップは近年では就職活動においても欠かせないものになってきています。採用選考にインターンシップを導入している企業もあります。この講座で学ぶことは、インターンシップ実習の場面だけでなく、自分自身の将来設計や就職活動にも役立てることが出来ます。インターンシップ実習先や就職活動での企業選</div>											
<div>受講者に対する要望</div> <div>インターンシップの実習先では、社会人としてのマナーやコミュニケーションが求められます。これらができるようになるためには、知識として知っているだけでなく、実践練習が欠かせません。人の話を聴く、発言する、ワークをするなど、授業内での実践に積極的に参加することで力をつけてください。難しく考える必要はありません。楽しみながらリラックスして取り組める雰囲気と一緒につくっていきましょう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回の授業でワークやミニプレゼンテーションを実施します。特別な準備はありません。自分から積極的に取り組む気持ちを準備しておいてください。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>毎回授業についての振り返りシート（感想・自己評価）を記述し提出します。実践と振り返りをくり返し行うことで、着実に力がついていきます。授業内で学んだ内容や自分自身の気づき・課題を振り返り、学びを定着させてください。</div> <div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への貢献</td><td>40%</td><td>出席率と演習・ワークへの参加、発表</td></tr><tr><td>(2) 課題への取り組み</td><td>40%</td><td>授業時提出物</td></tr><tr><td>(3) 期末レポート</td><td>20%</td><td></td></tr></table>	(1) 授業への貢献	40%	出席率と演習・ワークへの参加、発表	(2) 課題への取り組み	40%	授業時提出物	(3) 期末レポート	20%	
(1) 授業への貢献	40%	出席率と演習・ワークへの参加、発表									
(2) 課題への取り組み	40%	授業時提出物									
(3) 期末レポート	20%										
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・インターンシップと就職活動、履歴書・エントリーシート・コミュニケーション・自己理解・自己PR、キャリア・将来設計・業界・企業理解・ビジネスマナー</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>									

インターンシップII（実習）		CREE-0-302															
担当教員：酒井 俊行																	
学期： 集中講 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11653221															
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 実習先企業の事前研究(1) 02. 実習先企業の事前研究(2) 03. インターンシップ先での実習：日報作成(1) 04. インターンシップ先での実習：日報作成(2) 05. インターンシップ先での実習：日報作成(3) 06. インターンシップ先での実習：日報作成(4) 07. インターンシップ先での実習：日報作成(5) 08. インターンシップ先での実習：日報作成(6) 09. インターンシップ先での実習：日報作成(7) 10. インターンシップ先での実習：日報作成(8) 11. インターンシップ先での実習：日報作成(9) 12. インターンシップ先での実習：日報作成(10) 13. まとめレポート作成(1) 14. まとめレポート作成(2) 15. 報告会での発表</div>																
<div>カリキュラム上の位置付け</div>																	
<div>(1) 内容</div> <div>本授業は民間企業、NPO、自治体等において正味10日の実務実習を行うプログラムです。この授業を選択する場合は、インターンシップⅠ（事前学習）の単位取得が前提となります。</div>																	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>インターンシップ実習を受けた結果として、就活に際して業界・企業を選択する場合の判断力が養われます。これまでのケースでは、実際の職場経験を踏むとより自覚が芽生え、就活成功への階段を駆け上る例も少なからず見られます。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>インターンシップ先で当日学んだことを必ず復習して、明日の仕事の改善に繋げるよう準備する。</div>																
<div>受講者に対する要望</div> <div>実習に行く諸君は大学を代表するわけです。これまでの例では、実習を通じて本学の評価が高まり、就職に即繋がったり、求人票を出してもらえるようになったりするなどの効果もみられます。しっかりとした自覚を持って実習に臨むようにして下さい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>学んだことを毎日振り返り、特に上手く行かなかったことを念入りに復習する。</div>																
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 実習先事前研究</td><td>10%</td><td>実習先についての事前調査。実習先が決定次第実施</td></tr><tr><td>(2) 実習</td><td>35%</td><td>実際の実習</td></tr><tr><td>(3) 実習ノート</td><td>5%</td><td>実習についての日報</td></tr><tr><td>(4) 実習レポート</td><td>20%</td><td>10日間を通じての課題の達成状況、感想等</td></tr><tr><td>(5) 報告会</td><td>30%</td><td>実習レポートを元に、学生・教職員等の前で報告</td></tr></table>		(1) 実習先事前研究	10%	実習先についての事前調査。実習先が決定次第実施	(2) 実習	35%	実際の実習	(3) 実習ノート	5%	実習についての日報	(4) 実習レポート	20%	10日間を通じての課題の達成状況、感想等	(5) 報告会	30%	実習レポートを元に、学生・教職員等の前で報告
	(1) 実習先事前研究	10%	実習先についての事前調査。実習先が決定次第実施														
(2) 実習	35%	実際の実習															
(3) 実習ノート	5%	実習についての日報															
(4) 実習レポート	20%	10日間を通じての課題の達成状況、感想等															
(5) 報告会	30%	実習レポートを元に、学生・教職員等の前で報告															
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 業界を知る</div><div>・ 仕事を知る</div><div>・ ビジネスマナーを実践する</div></div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>																

インターンシップII（実習）		CREE-0-302
担当教員：酒井 俊行		
学期： 集中講 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11653223
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 実習先企業の事前研究(1) 02. 実習先企業の事前研究(2) 03. インターンシップ先での実習：日報作成(1) 04. インターンシップ先での実習：日報作成(2) 05. インターンシップ先での実習：日報作成(3) 06. インターンシップ先での実習：日報作成(4) 07. インターンシップ先での実習：日報作成(5) 08. インターンシップ先での実習：日報作成(6) 09. インターンシップ先での実習：日報作成(7) 10. インターンシップ先での実習：日報作成(8) 11. インターンシップ先での実習：日報作成(9) 12. インターンシップ先での実習：日報作成(10) 13. まとめレポート作成(1) 14. まとめレポート作成(2) 15. 報告会での発表</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本授業は民間企業、NPO、自治体等において正味10日の実務実習を行うプログラムです。この授業を選択する場合は、インターンシップI（事前学習）の単位取得が前提となります。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>インターンシップ実習を受けた結果として、就活に際して業界・企業を選択する場合の判断力が養われます。これまでのケースでは、実際の職場経験を踏むとより自覚が芽生え、就活成功への階段を駆け上る例も少なからず見られます。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>インターンシップ先で当日学んだことを必ず復習して、明日の仕事の改善に繋げるよう準備する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>実習に行く諸君は大学を代表するわけです。これまでの例では、実習を通じて本学の評価が高まり、就職に即繋がったり、求人票を出してもらえるようになったりするなどの効果もみられます。しっかりとした自覚を持って実習に臨むようにして下さい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>学んだことを毎日振り返り、特に上手く行かなかったことを念入りに復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 実習先事前研究</div><div>(2) 実習</div><div>(3) 実習ノート</div><div>(4) 実習レポート</div><div>(5) 報告会</div></div><div><div>10%</div><div>35%</div><div>5%</div><div>20%</div><div>30%</div></div><div><div>実習先についての事前調査。実習先が決定次第実施</div><div>実際の実習</div><div>実習についての日報</div><div>10日間を通じての課題の達成状況、感想等</div><div>実習レポートを元に、学生・教職員等の前で報告</div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 業界を知る</div><div>・ 仕事を知る</div><div>・ ビジネスマナーを実践する</div></div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

ビジネス日本語対策講座 A		CREE-0-304						
担当教員： 内藤 みち								
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11655151						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業概要、BJT実力試験 02. ビジネス日本語／漢字①、聴解① 03. ビジネス日本語／漢字②、聴解② 04. ビジネス日本語／漢字③、聴解③ 05. ビジネス日本語／文法・語彙① 06. ビジネス日本語／文法・語彙② 07. ビジネス日本語／文法・語彙③ 08. 中間試験 09. ビジネス日本語／読解① 10. ビジネス日本語／読解② 11. ビジネス日本語／読解③ 12. ビジネス会話①、ビジネス文書① 13. ビジネス会話②、ビジネス文書② 14. ビジネス会話③、ビジネス文書③ 15. 総まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>「ビジネス日本語能力テスト」に向けての授業となる。高いレベルの語彙・文型や敬語などの丁寧な表現以外にも、日本語での会議・商談・電話での対応などの様々なビジネスの場面において、語彙・文法力は十分にあるがビジネスの場での日本語話者と同等のコミュニケーション能力を主にビジネス日本語能力に関する問題を解くことにより身につける。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語を使用する社会において、日本語力以外の非言語的情報や常識等を通し、日本語を理解・運用し、日常の特にビジネス活動上の課題に対して適切に行動する能力を身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>数多くのビジネス日本語能力テストに関連した問題を各自が事前に解いてくることが課せられる。授業では、特に難しい表現・文法・語彙についての解説等々が主になされるので、授業に向けての授業外学習が多くもとめられる。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>ビジネス日本語能力テストのJ1・J1+を目指すクラスであるので、日本語能力試験N1に合格している、もしくは、日本語能力がN1相当であることが強くのぞまれる。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>学習した表現・文型・語彙の定着に向けての練習問題等が課題となる。</div>						
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 中間試験</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 期末試験</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 課題への取り組み</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 平常点等</td><td>20%</td></tr></table> <div>多少%が変更されることもある。授業を3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とならない。</div>	(1) 中間試験	30%	(2) 期末試験	30%	(3) 課題への取り組み	20%
(1) 中間試験	30%							
(2) 期末試験	30%							
(3) 課題への取り組み	20%							
(4) 平常点等	20%							
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ ビジネス日本語能力試験(BJT)・ ビジネス日本語能力試験J1+・ ビジネス日本語能力試験J1・ 日本企業での就業・ 日本での就業</div>		<div>教科書</div> <div>(初回の授業にて紹介する)</div> <div>参考書</div>						

ビジネス日本語対策講座B		CREE-0-305								
担当教員：内藤 みち										
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11655252								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業概要、BJT実力試験 02. ビジネス日本語／漢字①、聴解① 03. ビジネス日本語／漢字②、聴解② 04. ビジネス日本語／漢字③、聴解③ 05. ビジネス日本語／文法・語彙① 06. ビジネス日本語／文法・語彙② 07. ビジネス日本語／文法・語彙③ 08. 中間試験 09. ビジネス日本語／読解① 10. ビジネス日本語／読解② 11. ビジネス日本語／読解③ 12. ビジネス会話①、ビジネス文書① 13. ビジネス会話②、ビジネス文書② 14. ビジネス会話③、ビジネス文書③ 15. 総まとめ</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>「ビジネス日本語能力テスト」に向けての授業となる。高いレベルの語彙・文型や敬語などの丁寧な表現以外にも、日本語での会議・商談・電話での対応などの様々なビジネスの場面において、語彙・文法力は十分にあるがビジネスの場での日本語話者と同等のコミュニケーション能力を主にビジネス日本語能力に関する問題を解くことにより身につける。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語を使用する社会において、日本語力以外の非言語的情報や常識等を通し、日本語を理解・運用し、日常の特にビジネス活動上の課題に対して適切に行動する能力を身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>数多くのビジネス日本語能力テストに関連した問題を各自が事前に解いてくることが課せられる。授業では、特に難しい表現・文法・語彙についての解説等々が主になされるので、授業に向けての授業外学習が多くもとめられる。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>ビジネス日本語能力テストのJ1・J1+を目指すクラスであるので、日本語能力試験N1に合格している、もしくは、日本語能力がN1相当であることが強くのぞまれる。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>学習した表現・文型・語彙の定着に向けての練習問題等が課題となる。</div>								
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ビジネス日本語能力試験・ビジネス日本語試験J1+・ビジネス日本語試験J1・日本企業での就業・日本での就業</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 中間試験</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 期末試験</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 課題への取り組み</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 平常点等</td><td>20%</td></tr></table> <div>多少%が変更されることもある。授業の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とはならない。</div>	(1) 中間試験	30%	(2) 期末試験	30%	(3) 課題への取り組み	20%	(4) 平常点等	20%
(1) 中間試験	30%									
(2) 期末試験	30%									
(3) 課題への取り組み	20%									
(4) 平常点等	20%									
		<div>教科書</div> <div>初回の授業にて紹介する。</div>								
		<div>参考書</div>								

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： 11656510

授業計画

01. はじめに 「地元学」とはなにか
02. お互いに知り合おう
03. 戸崎を知ろう 1 (風景の視点)
04. 戸崎を知ろう 2 (歴史の視点)
05. テキストのまとめ方を練習しよう
06. テキストをまとめる (ワーク 1)
07. テキストをまとめる (ワーク 2)
08. グループごとに課題を設定しよう
09. 課題について調べる 1
10. 課題について調べる 2
11. 課題について調べる 3
12. 課題について調べる 4
13. 調査結果を持ち寄ろう
14. 発表の準備をしよう
15. まとめ 発表

「地元学」は、地域とは何か、地域に住むとはどのような関係性の中で暮らすことなのか、そこには大学の学びの専門性とどのようなかわりがあるのか、といった基礎知識と理解をすることを目的とする。そのため、講義及び実際にこの周辺を歩いて学ぶ。実際にフィールドワークを行い、その成果をまとめ、発表するといった流れで、アクティブラーニングを主体とする。

普段暮らしている「地元」であっても、意外と知らないことは多い。また、最近のまちおこしなどでも、地元の資産を当たり前に気づかぬことを掘り起こしていく手法も常套である。こうしたことから地元への気づきをどのように行うのか、という手法を実践的に学ぶ。

次回授業のための準備調査は必ず行うこと

授業活動のとりまとめ

(1) ポートフォリオの作成	50%	授業時の資料、調査内容等をまとめたポートフォリオの作成
(2) まとめレポートの作成	50%	グループで取り組んだ研究課題に対する個人的な考察を記したレポート

授業活動に関するものはすべて評価対象となる。

授業はワークを主体とするので、積極的に関わる
こと。

- ・地元
- ・地域連携
- ・アクティブラーニング

授業時に指示する

吉本哲郎『地元学をはじめよう』（岩波ジュニア新書）
結城登美雄『地元学からの出発』（農文協）

日本国憲法		INTD-0-103	
担当教員：石川 裕一郎			
学期： 週間授		科目： 基礎科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 11700110	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		01. はじめに 02. 憲法とは何か：誤認逮捕事件を題材に 03. 国民・国家・憲法の関係 04. 日本国憲法の構造：人権保障 05. 日本国憲法の構造：統治機構 06. 公務員と憲法尊重擁護義務（１）：政治家の人権を題材に 07. 公務員と憲法尊重擁護義務（２）：公立学校教員の人権を題材に 08. 個人の尊重・幸福追求権・公共の福祉 09. 平等原則 10. 教育権・学問の自由 11. 日本国憲法の制定過程 12. 平和主義（１）：前史 13. 平和主義（２）：日本国憲法制定から冷戦終結まで 14. 平和主義（３）：冷戦終結以降から現在まで 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
教養科目・教職科目としての役割に鑑み、日本国憲法全体を総花的に取り上げるのではなく、「人権総論」と「平和主義」（条文でいえば前文および9～14条）に重点を置いて講義を行います。また、条文の細かい解釈にこだわるのではなく、現代日本（と世界）を考える手がかりとしての憲法にこだわりたいと思います。			
ところで、憲法の条文は、他の法律の条文と比べるとはるかに読みやすいのですが、それだけに一読しただけでは具体的に何が言いたいのかわかりにくいものです。本講義では、こういった憲法のわかりにくさに配慮して、できるだけ			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
日本国憲法の窮極の目的である「個人の尊重」と「幸福追求権の保障」（13条）、そして、そのために公務員に課される「憲法尊重擁護義務」（99条）の意義に徹底的にこだわりながら、人権保障と統治機構についてバランスよく触れ、（憲）法という視点から政治・経済・社会、そして人間を考察する能力を身に付けることをめざします。		原則として事前にレジュメを配布するので、必ず目を通しておくことを求められます。毎回かなりの分量なので、ある程度の時間と集中力を必要とします。	
具体的には、まず日本国憲法のオーソドックスな通説・判例の理解をめざしますが、資格試験の予備校ではない、大学の講義ですから、それに留まらず、ポストモダン、フェミニズム、マルキシズム、マルチカルチ		準備学習(復習)	
		毎回の講義の後で、習得した知識の確認と講義への主体的な取り組み姿勢を評価することを目的としたリアクションペーパーの作成および提出を課し、次の回までに講義内容の理解を定着させることを求められます。	
受講者に対する要望		評価方法	
本講義の受講者は1年生、とりわけ一般的には法学に親しみを覚えないであろう人文・人間福祉両学部生が多いので、最初から高いことは要求しません。まずはきちんと講義に出席し、聴講することを徹底してほしいと思います。さらに、取り上げる内容も、高校の「政治・経済」や「現代社会」とは質的にまるで違います。求められる姿勢は、知識獲得よりも批判的思考です。「法律はどう定めているか」ではなく、「なぜ法律はそう定めているのか」、さらには「法律が定めていることはおかしくないか」といった視点を常に意識してください。		(1) 平常点 80% リアクションペーパーの記述内容によって評価します。 (2) 期末試験 20% 場合によっては期末レポートに変更する可能性もあります。	
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。 また、私語等の授業妨害行為は大幅な減点対象とします。			
学びのキーワード		教科書	
・ 法学 ・ 公法学 ・ 憲法学 ・ 人権 ・ 統治機構		参考書	

日本国憲法		INTD-0-103	
担当教員： 加藤 恵司			
学期： 週間授		科目： 基礎科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 11700111	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 憲法とはなにか。 02. 憲法、国家、国民とは。 03. 憲法の機能と類別 04. 憲法の構造と明治憲法 05. 日本国憲法の成立とその内容 06. 日本国憲法の基本原理① 自由主義 07. 日本国憲法の基本原理② 平等主義 08. 日本国憲法の基本原理③ 福祉主義 09. 日本国憲法の基本原理④ 平和主義 10. 日本国憲法の基本原理⑤ 個人の尊厳 11. 日本国憲法の前文を読む 12. 天皇制の謎 13. 三権分立の意義 14. 憲法の改正について 15. 終わりに</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>三部構成とします。第一は、憲法とはどんな法律なのかを考察します。第二は日本国憲法の基本原理について5つの項目を設けました。第三は、憲法と親しくなるためのトピックスについて、できるだけ具体的に語ってみたいと思います。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>教養科目として、教職科目として、大学教育の基礎的なことを学びます。憲法の通説、判例を材料としながら幅広く学習いたしましょう。大学での講義をただ聞くだけでなく、自分でノートを取り、まとめましょう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>必ず、次回のテーマを告げます。シラバスに従って講義しますので、あらかじめ下調べをしておきましょう。講義の時、指示します。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートで訂正された箇所、指摘されたことをきちんと整理し、再検討してください。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回、ノートを提出していただきます。次の時間には返却します。欠席すると自動的に点数が付きません。しっかりノートを取り出席してください。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点90%</div><div>(2) 講義態度10%</div><div>ノート用紙の提出を点数化します。 居眠り、おしゃべり禁止です。</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 国家の基本法</div><div>・ 基本的人権</div><div>・ 社会権</div><div>・ 平和主義</div><div>・ 個人の尊厳</div></div>		<div>教科書</div> <div>教科書ではないが、六法を持参する。</div> <div>参考書</div> <div>必要な資料はプリントすることを考えている。</div>	

日本国憲法		INTD-0-103
担当教員： 齋藤 美沙		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11700112
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 憲法を学ぶ意義</div> <div>02. 憲法の基礎、日本国憲法史</div> <div>03. 象徴天皇制、国民主権、平和主義</div> <div>04. 人権総論、基本的人権の限界、人権の享有主体性</div> <div>05. 幸福追求権、プライバシーの権利、自己決定権</div> <div>06. 法の下の平等</div> <div>07. 思想・良心の自由、信教の自由と政教分離、学問の自由</div> <div>08. 表現の自由</div> <div>09. 経済的自由</div> <div>10. 人身の自由</div> <div>11. 生存権、労働基本権、教育を受ける権利</div> <div>12. 国会、参政権</div> <div>13. 内閣、裁判所</div> <div>14. 財政、地方自治</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、基本的人権の保障を中心に、憲法について学びます。身近な憲法問題や具体的事件を手がかりに、学習していきます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>条文の解釈に加え、身近な問題や具体的事件を手がかりに、憲法の基本的知識や考え方を習得することを目的とします。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業の最後に翌週の授業範囲を明示します。 授業中に照会した参考書の該当箇所を読むに加え、関係する時事にも関心を払うようにして下さい。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリントを再読して下さい。必要に応じて参考文献を紹介します。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 出席・平常点 20%</div> <div>(2) 試験 80%</div> <div>試験の成績をもとに、コメントシート等への記載を考慮し、総合的に評価します。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>憲法や法律に関する報道に注意を払うようにして下さい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 自由・ 権利・ 平等・ 権力分立・ 立憲主義</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

日本国憲法		INTD-0-103	
担当教員： 平松 直登			
学期： 週間授		科目： 基礎科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 11700115	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		01. ガイダンス／憲法の基礎知識 02. 日本国憲法の歴史と構成／憲法改正 03. 国民主権と象徴天皇制 04. 平和主義 05. 国会／財政 06. 内閣／地方自治 07. 裁判所 08. 基本的人権（総論） 09. 法の下での平等 10. 精神的自由Ⅰ（思想・良心・信教の自由） 11. 精神的自由Ⅱ（表現の自由） 12. 経済的自由／人身の自由 13. 社会権／参政権・国務請求権 14. 教育をめぐる憲法問題 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
受講者が，「〔近代〕立憲主義〔constitutionalism〕」という思想およびそれを基礎とする日本国憲法の歴史・特徴を学んだ上で（第1～4回），国政を行うための機構が憲法上どのように設計されているかを把握し（第5～7回），憲法の保障する人権について深い理解を得る（第8～15回）ことが可能となるような講義を行います。			
(2) 学びの意義と目標			
講義を通じて，憲法学の基本的思考方法を身につけることを目標とします。 最終的には，日本国憲法がすべての国民を「個人として尊重」している意義を踏まえて，現実の憲法に関する諸問題を自ら分析・検討できるようになることが本講義の目標です。		準備学習(予習)	
		シラバス（授業計画）を参考とし，各回の講義内容に該当する教科書のページに目を通しておいってください。	
		準備学習(復習)	
		講義中に紹介する参考文献を精読し，講義内容のより深い理解を目指して復習に取り組んでください。	
受講者に対する要望		評価方法	
法学の予備知識は特に必要としませんが，きちんと予習した上で講義に臨んでください。		(1) 試験 70% (2) 平常点 30% 講義中に配布するリアクション・ペーパー等で評価します。	
		試験の結果をもとに，平常点を考慮し，総合的に評価します。	
学びのキーワード		教科書	
・ 憲法学 ・ 立憲主義 ・ 個人の尊重 ・ 自由 ・ 平等		毛利透『グラフィック 憲法入門〔補訂版〕』（新世社）【9784883842360】	
		参考書	
		開講時に指示します。	

釜石学		INTD-0-113
担当教員： 渡辺 正人、平 修久、金谷 京子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11702000
学部教育の関連目 【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける	授業計画 01. はじめに 本学と釜石市の関係を巡って 02. 東北の歴史① 豊かな縄文世界～奥州三代の繁栄 03. 東北の歴史② 江戸期の東北世界～現代 04. 釜石市の歴史 近代製鉄の幕開けとラグビーの町釜石 05. 東北の民俗と文学 遠野物語と宮沢賢治の世界 06. 釜石市の民俗―海と山の世界― 07. 東北とキリスト教 08. 震災とボランティア―阪神淡路大震災から東日本大震災を巡って 09. 東日本大震災とボランティア活動―本学も含めて 10. 東日本大震災とこども 11. 釜石市における復興支援ボランティア活動 12. 釜石市民による復興と応援団―三陸ひとつなぎ自然学校・釜援隊ほか 13. 釜石の漁業の被災と復興への取組 14. 復興まちづくり 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 2011年の東日本大震災で、東北は大きな被害を受けた。東北は、歴史的にも数度の地震やそれに伴う津波による被害を受けながらも、そのたびに立ち上がり、今日を迎えている。それには、東北の持つ風土的な特性があり、そこに暮らす人々の精神性が深く関係していると言われる。そうした東北の中でも、本学と関係を深めてきている釜石市とその周辺を取り上げる。釜石市は、他方ではラグビーの町としてグローバル的な地域でもある。本学の掲げる「グローバル」な場としてのモデルとして考えていく。「東北に生きる」ということを通じて「地域で生きる		
(2) 学びの意義と目標 聖学院大学と釜石市の提携関係の中、本学学生の釜石地域に対する理解を深め、今後の連携関係を進めてゆく基盤をつくる。	準備学習(予習) 適宜、授業時に指示する。	
受講者に対する要望 授業で触れる歴史や文化、現実ほんの一部にすぎない。自分で膨らませてゆく想像力・行動力を期待する。	準備学習(復習) 適宜、授業時に指示するが、自分で積極的に調べを広げてほしい。	
	評価方法 (1) コメントシート 30% (2) 最終レポート 70%	
	教科書 参考書	
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none">・ 釜石・ 地域連携・ 震災・ グローバル化・ ボランティア		

古典日本語Ⅰ		WLAG-O-128
担当教員：上宇都ゆりほ		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1J411520
学部教育の関連目 【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		授業計画 01. 授業概説と歴史的仮名遣い 02. 歴史的仮名遣いと品詞―用言と体言 03. 品詞（１）―名詞と動詞 04. 品詞（２）―動詞・形容詞・形容動詞 05. 品詞（３）連体詞・副詞・感動詞・接続詞 06. 品詞（４）―助詞・助動詞 07. 四段活用動詞（１）―活用の種類と活用形を覚える 08. 四段活用動詞（２）―活用の種類と活用形の用例 09. 上一段・下一段活用動詞（１）―活用の種類と活用形を覚える 10. 上一段・下一段活用動詞（２）―活用の種類と活用形の用例 11. 上二段活用動詞（１）―活用の種類と活用形を覚える 12. 上二段活用動詞（２）―活用の種類と活用形の用例 13. 下二段活用動詞（１）―活用の種類と活用形を覚える 14. 下二段活用動詞（２）―活用の種類と活用形の用例 15. 動詞の活用の総復習 16. 動詞の活用のまとめ 17. サ行変格活用動詞・カ行変格活用動詞の活用の種類と活用形を覚える 18. ラ行変格活用動詞・ナ行変格活用動詞の活用の種類と活用形を覚える 19. 変格活用動詞の活用の用例 20. 動詞の活用の音便 21. 動詞の活用の総復習 22. 形容詞の活用の種類と活用形を覚える 23. 形容動詞の活用の種類と活用形の用例 24. 形容動詞の活用（２） 25. 形容動詞の活用の種類と活用形を覚える 26. 形容動詞の活用の種類と活用形の用例 27. 用言の活用の総復習（１） 28. 用言の活用の総復習（２） 29. 用言の活用の総復習（３） 30. 学期末試験
カリキュラム上の位置付け 【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目 【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目 【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目		
(1) 内容 私たちが使う日本語は、長い歴史の中で変化し続けてきたものであり、私たちにとって古典日本語は、現代日本語とは全く異なる言語のように感じるかもしれない。日本文学を専門的に学ぶためには、古典文学を専攻する者だけでなく、近・現代文学を正しく考察するためにも、日本文学史の中で古典文学を把握し、理解することが必要である。そのために、古典文法は必ず身に付けなくてはならないものである。 この授業では、古典日本語の基本的な読み方、品詞の分類や動詞・形容詞・形容動詞といった用言の活用の種類や活用形を習得し、古典日本語を学ぶ上		
(2) 学びの意義と目標 歴史的仮名遣いや古文の読み方という初歩から始め、動詞・形容詞・形容動詞という用言の活用を習得する。まずは古文の読み方に慣れ、用言の活用を習得することによって、日本語の構造を理解し、古典文学作品を原文で読むための基礎を固める。		準備学習(予習) 『詳説古典文法』の教科書で、次の講義に指定した範囲を読んでくこと。
		準備学習(復習) 講義で学んだ範囲について、毎回次の講義の10分間で小テストを実施するので、必ず学んだことについての復習を行うこと。
受講者に対する要望 毎回小テストを行って平常点とするので、しっかり予習・復習をすること。教科書は必ず購入し、毎回到授業はもとより、予習・復習に役立てること。		評価方法 (1) 中間試験 30% (2) 学期末試験 30% (3) 小テスト 40% 毎回の授業の最後に、前回学んだ内容の小テストを実施する。
学びのキーワード ・ 古典文法 ・ 用言の活用 ・ 小テスト		教科書 角川書店編 『ビギナーズ・クラシックス蜻蛉日記』（角川書店） 仲光雄『必携 古典文法ハンドブック』（Z会出版）【ISBN: 978-4860667832】 参考書

古典日本語Ⅰ		WLAG-O-129
担当教員： 渡辺 正人		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J411635
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業概説</div> <div>02. 秋のけは入り立つままに 歴史的仮名遣い 文・文節</div> <div>03. 渡殿の戸口の局に見出だせば 単語・品詞の種類</div> <div>04. 九日、菊の綿を 動詞（1）</div> <div>05. 御帳の東おもては 動詞（2）</div> <div>06. 御いだだきの御髪おろしたてまつり 動詞（3）</div> <div>07. 午の時に、空晴れて 動詞（4）</div> <div>08. 動詞のまとめ</div> <div>09. 五日の夜は 形容詞・形容動詞（1）</div> <div>10. 十月十余日までと 形容詞・形容動詞（2）</div> <div>11. 行幸ちかくなりぬとて 副詞・連体詞</div> <div>12. おそろしかるべき夜の御酔ひなめりと見て 接続詞・感動詞</div> <div>13. 中間試験</div> <div>14. 宮の御前聞こしめすや 助動詞（1）</div> <div>15. 入らせたまふべきことも近うなりぬれど 助動詞（2）</div> <div>16. 御前の池に、水鳥どもの 助動詞（3）</div> <div>17. こころみに、物語をとりて見れど 助動詞（4）</div> <div>18. 師走の二十九日に参る 助動詞（5）</div> <div>19. 宮の内侍ぞ 助動詞（6）</div> <div>20. 和泉式部といふ人こそ 助動詞（7）</div> <div>21. 丹波の守の北の方をば 助動詞（8）</div> <div>22. 助動詞まとめ</div> <div>23. 清少納言こそ、したり顔に 助詞（1）</div> <div>24. よろずのこと、人によりてことごとなり 助詞（2）</div> <div>25. それ、心よりほかのわが面影をば 助詞（3）</div> <div>26. 助詞のまとめ</div> <div>27. さまよう、すべて人はおいらかに 敬語（1）</div> <div>28. 左衛門の内侍といふ人はべり 敬語（2）</div> <div>29. いかに、いまは言忌みしはべらじ まとめ</div> <div>30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>古典文法の習熟を図っていきます。『紫式部日記』という古典作品の中でもかなり手応えのある文章を読んでいくことで、古典の文法・読解力をつけていきます。授業内容は、中宮の出産の場面や道長の屋敷の様子など、当時の風俗風習などが描かれているので、随時解説を加えながら、無理なく深化させていきます。</div> <div>『紫式部日記』を読解することにより、紫式部が仕えた彰子（一条天皇中宮）や、権力者藤原道長（彰子の父）などの姿をとらえていきます。また、そのきらびやかな生活を見つめる紫式部の眼差しから「作家紫式部」への理解も深めていきます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>古典作品を、自力で辞書を引きながら適切に読解できる文法力を養うことが目標です。『紫式部日記』を読むことによって平安文学の頂点を極めた紫式部の体験した世界を知ること。当時の上流貴族の生活一行事や、冊子作りなど日常生活の描写は、歴史的にも価値のあるものです。また、紫式部の精神を理解することは『源氏物語』を始めとし、その後の日本文学に流れる精神への理解につながります。幅広い古典作品へアプローチする力を高めるための講座になります。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>古典研究を目指す学生、教職希望の学生の古典日本語の習熟を図る講座で、「古典日本語」を履修済みの学生を対象としています。日文の学生の第2外国語の選択必修科目になります。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 古典日本語</div> <div>・ 古典文法</div> <div>・ 紫式部日記</div> <div>・ 平安貴族の生活</div>		<div>教科書</div> <div>授業時に指示する</div> <div>参考書</div>

教養科目・総合科目

政治学		POSC-P-100	
担当教員： 高橋 愛子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 4		コード： 12A00101	
学部教育の関連目		授業計画	
【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る		01. 導入:政治学とは何か（１）—歴史的考察— 02. 導入:政治学とは何か（２）—権力とは何か— 03. 現代における政治:全面的政治化の時代（１）—現代とはいかなる社会か— 04. 現代における政治:全面的政治化の時代（２）—全体国家の時代— 05. 政治にとっての文脈としての歴史（１）—20世紀の世界大戦— 06. 政治にとっての文脈としての歴史（２）—東京裁判— 07. 政治にとっての文脈としての歴史（３）—サンフランシスコ条約— 08. 政治にとっての文脈としての歴史（４）—憲法と自衛隊— 09. 政治にとっての文脈としての歴史（５）—アジアと日本— 10. 政治の場としての国会（１）—言論の府— 11. 政治の場としての国会（２）—立法過程— 12. 政治の場としての自治体（１）—分権改革— 13. 政治の場としての自治体（２）—「条例」、「自治体憲章」— 14. 政治における主体（１）—政治家、官僚、諸団体— 15. 政治における主体（２）—メディア、NGO、NPO— 16. 政治における主体（３）—主権者としてのわたしたち— 17. 合法性と正当性（１）—民主的正当性— 18. 合法性と正当性（２）—合法性と正当性との背反— 19. 公益とは何か（１）—公共利益団体の活動— 20. 公益とは何か（２）—公益と私益、官益、国益— 21. 公益とは何か（３）—公益の決定と実現— 22. メディアリテラシー（１）—さまざまなメディア— 23. メディアリテラシー（２）—メディアと権力— 24. メディアリテラシー（３）—メディアリテラシーと市民— 25. 民主主義と選挙（１）—日本の選挙制度— 26. 民主主義と選挙（２）—選挙制度と民主的正当性— 27. 民主主義と教育（１）—シティズンシップ教育— 28. 民主主義と教育（２）—海外の事例から— 29. 一学期間のまとめ—復習— 30. 一学期間のまとめ—さらなる政治学の学びに向けて	
カリキュラム上の位置付け			
【P】 高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
現実の政治的な課題、諸現象について、歴史的に捉える視座（座標軸）、自分で考える基本的な思考力を身につけることを目的とする講義である。今日の歴史的な位置としては、1945年の「敗戦」から始まった「戦後政治」が国際社会における「冷戦終結」、国内における「政界再編」という転換点を経て新たな国際秩序、国内秩序を模索する過渡期であると同時に、21世紀という新たな時代の諸課題と否応なく直面することを余儀なくされている。こうした「現在（についての）認識」に立ち、現代の「文脈」（コンテクスト）の中でさまざまな政治課題・現象を「政治学的に」思考するとはどのようなことを学ぶことを目的とする。つまり、「政治学」の個々の概念、理論を学ぶだけではなく、「政治現象」を「週刊誌的に」「ワイドショー的に」取り上げるのとは異なる「政治学的な考察、思考」とは何か、という点を、できる限りリアルタイムな時事問題を素材としつつ考えてゆく。 <カリキュラム上の位置づけ>政治学を学ぶための入門的な講座であり、かつそのための基礎的な概念、理論を学ぶ講座である。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) 政治学とはどのような学問であるかを理解する。 2) 基本的な概念、「権力」「合法性」「正当性」「公益」などの概念を理解する。 3) 現実の政治現象について、「政治学的に」思考する資質を学ぶ。		各回の授業の際に配布されるペーパーを予めよく読んでくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業で取り上げた課題についてのレスポンス・シートに記入して次回授業で提出することにより、各回の授業の基本概念をよく理解する。	
		評価方法	
		(1) 授業へのコミットメント 0.4 (2) 新聞コメントの提出 0.3 (3) ブックレポート 0.3	
受講者に対する要望			
リアルタイムな政治現象に関心を持ち、新聞の政治経済欄に毎日目を通すこと。			
学びのキーワード		教科書	
・ 政治の文脈 ・ 権力 ・ 合法性と正当性 ・ 公益決定 ・ メディアリテラシー		授業の中で指示、もしくは、配布する。	
		参考書	

担当教員：森分 大輔

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：4 コード：12A0010K

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念史的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。

政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。

(2) 学びの意義と目標

転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。

受講者に対する要望

社会や政治について関心を持つことが望ましい。新聞やテレビなどから入手可能な時事的なニュースについても折を見て触れるので、それらに関する知識を持っていることが求められる。

学びのキーワード

- ・政治
- ・社会
- ・国家
- ・権力

授業計画

01. 政治学とは何か1 政治的認識について
02. 政治学とは何か2 学問と政治
03. 人間の権利と民主主義について1 人権論の基礎
04. 人間の権利と民主主義について2 民主主義の理論
05. 国家の機能1 国家概念の基礎
06. 国家の機能2 国家機能の変遷
07. 国家の機能3 福祉国家の役割
08. 政党1 政党の分類
09. 政党2 党派と政党
10. 政党3 政党の機能
11. 圧力団体1 圧力団体の定義
12. 圧力団体2 圧力団体の機能
13. 圧力団体3 圧力団体の評価
14. 官僚制1 官僚制の定義
15. 官僚制2 官僚制の機能
16. 官僚制3 官僚制の役割
17. 政治的リーダーシップ1 リーダーシップの種類
18. 政治的リーダーシップ2 リーダーシップの史的類型
19. 政治的リーダーシップ3 組織とリーダー
20. 地方自治と政治構造1 自治と行政
21. 地方自治と政治構造2 住民参加の可能性
22. 地方自治と政治構造3 地方分権の意味
23. 住民参加と参加型民主主義1 デモクラシーと参加
24. 住民参加と参加型民主主義2 グラスルーツの持つ意義
25. 住民参加と参加型民主主義3 参加と組織
26. 政治の担い手に関する考察1 世論
27. 政治の担い手に関する考察2 ジャーナリズム
28. グローバル化と政治1 グローバル化のもたらす影響
29. グローバル化と政治2 グローバル化と現代社会
30. まとめ

準備学習(予習)

政治学に対する専門的な知識を必要とはしないが、それらに関する積極的な関心を抱いていることが望ましい。1日15分～1時間程度のニュースの視聴が必要である。

準備学習(復習)

講義後1時間程度の復習をすることを求める。加えて、授業内で示された関連テーマに関する書籍を購読することが望ましい。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業参加 | 40% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末テスト | 30% |

教科書

授業内にて指定

参考書

政治学

POSC-P-100

担当教員：宮本 悟

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目

単位： 4 コード： 12A00120

学部教育の関連目

【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】 高等学校教諭一種免許：公民必修科目口
【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

政治学の入門として政治学の基礎を学びます。授業では、政治学の中心となっている制度論によって、各政治分野について実際にどのようなことが行われているのかを解説していきます。教科書と参考書にそって、授業を進めていきますが、本授業では国際政治学の分野における極めて基礎的な部分も含めて解説します。

(2) 学びの意義と目標

授業では、まず政治を理解するための政治学の基本的な視角や理論を学ぶことを目標としています。授業の内容はあくまで基礎的な内容ばかりですが、国際政治学、比較政治学などより専門的な授業を理解するために必要な概念を学ぶ入門になります。

受講者に対する要望

受講生は、（1）各授業に対応する教科書と参考書の該当部分を予習してきて、（2）授業を聴き、理解し、質問に答えてもらいます。原則、教科書と参考書に沿って授業を進めていきます。ほぼ毎回、授業内レポート（BRC）を作成してもらいます。

学びのキーワード

・ 本人・代理人モデル

・ 共通の目的

・ フリーライダー

・ 制度論

・ 多元的民主主義

授業計画

01.

イントロダクション：「本人と代理人」で考える政治（参考書序章「『七人の侍』の政治学」 プリント配布）

02.

古代の民主政から近代の自由民主主義体制の成立（参考書第18章「デモクラシー」 プリント配布）

03.

現代民主主義論（参考書第18章「デモクラシー」 プリント配布）

04.

社会中心主義と国家論（参考書第17章「制度と政策」 プリント配布）

05.

歴史的制度論と合理的選択制度論（参考書第17章「制度と政策」 プリント配布）

06.

鉄の三角同盟（教科書第1章「組織された集団」1）

07.

少数者たちが支配する？～多元的民主主義～（教科書第1章「組織された集団」2）

08.

規制緩和と何が変わったか？（教科書第2章「官と民の関係」1）

09.

市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章「官と民の関係」2）

10.

大企業が政治を支配している？（教科書第3章「大企業と政治」1）

11.

大企業の構造的な影響力と政治的紛争（教科書第3章「大企業と政治」2）

12.

政策で選挙は戦えるか（教科書第4章「選挙と政治」1）

13.

政策に代わる手がかりは？（教科書第4章「選挙と政治」2）

14.

自治体には2つの役割がある（教科書第5章「地方分権」1）

15.

国と地方の相互依存（教科書第5章「地方分権」2）

16.

マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章「マスメディアと政治」1）

17.

マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章「マスメディアと政治」2）

18.

ねじれ国会（教科書第7章「国会」1）

19.

国会の影響力（教科書第7章「国会」2）

20.

総理大臣と大統領（教科書第8章「内閣と総理大臣」1）

21.

総理大臣の影響力（教科書第8章「内閣と総理大臣」2）

22.

大臣と官僚のバトル（教科書第9章「官僚」1）

23.

キャリア官僚のキャリア（教科書第9章「官僚」2）

24.

戦後の国際環境（教科書第10章「冷戦の終わりからテロとの戦いへ」1）

25.

日本の対外政策（教科書第10章「冷戦の終わりからテロとの戦いへ」2）

26.

貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章「経済交渉」1）

27.

経済交渉の行われ方（教科書第11章「経済交渉」2）

28.

ビリヤードゲームのような国際政治（教科書第12章「国境を超える政治」1）

29.

裸になる国家（教科書第12章「国境を超える政治」2）

30.

政治学と政治問題についてのまとめ

準備学習(予習)

参考書(プリント配布)と教科書の各該当部分を読んで予習する。授業内レポート(BRC：授業内で書き上げる簡単な論述400字程度。これについては、イントロダクションで説明する)の作成を通して予習する。加えて、教科書及び参考書で予習する。イントロダクションで、授業内レポート(BRC)についての別紙シラバスを配布する。

準備学習(復習)

授業内レポート(BRC)を再読する。授業内予習時間に書き残した未完成の授業内レポート(BRC)を授業後に完成させる。それにより、授業後の理解を深める。加えて、教科書と参考書で復習する。

評価方法

(1) 平常点

(2) 授業内レポート（BRC）

(3) 期末試験

10%

50%

40%

各々の授業予習や、授業中に付いてくる課題に回答することがある。また、授業時間の10分ほどの自由時間があり、その時間中に質問を受ける。

各回授業の授業内レポート（BRC）を完成させ、全てをまとめてUNIPAで提出

論述試験

教科書

北山俊哉、久米郁男、真淵勝著『はじめて出会う政治学 - 構造改革の向こうに- 第3版 』（有斐閣、2009年04月）

参考書

久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝著『政治学 補訂版』（有斐閣、2011年12月）

政治学		POSC-P-100/POSC-L-1							
担当教員： 榎本 珠良									
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目						
単位： 4		コード： 12A001K1							
学部教育の関連目		授業計画							
<div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>01. 本講義のガイダンス</div> <div>02. 政治とは何か（1）</div> <div>03. 政治とは何か（2）</div> <div>04. 民主主義とは何か（1）</div> <div>05. 民主主義とは何か（2）</div> <div>06. 政治制度（1）</div> <div>07. 政治制度（2）</div> <div>08. 政党制</div> <div>09. 選挙制度</div> <div>10. 政治参加・投票行動・世論</div> <div>11. 議会制度・執政部</div> <div>12. 官僚制</div> <div>13. 司法</div> <div>14. 利益集団</div> <div>15. 前半のまとめ</div> <div>16. 中央と地方</div> <div>17. 国家と福祉</div> <div>18. メディア</div> <div>19. 市民社会</div> <div>20. NGO・NPO</div> <div>21. 国内社会と世界（1）</div> <div>22. 国内社会と世界（2）</div> <div>23. 安全保障（1）</div> <div>24. 安全保障（2）</div> <div>25. 国家と国際法</div> <div>26. 国家と難民</div> <div>27. 国家と開発</div> <div>28. 現代の課題（1）</div> <div>29. 現代の課題（2）</div> <div>30. まとめ</div>							
カリキュラム上の位置付け									
<div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>									
(1) 内容									
<p>政治とは何か。民主主義とは何か。市民とは誰のことか。グローバル化の時代の国内政治をどう捉えるか。</p> <p>本講義は、政治学を学ぶための必要な基礎知識を習得し、それに基づいて今日の日本および世界における政治に関わる諸問題を考察し分析する力を高めるものである。</p>									
(2) 学びの意義と目標									
<p>政治学の基礎を理解することで、最終的には、政治をめぐる自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。</p>		<div>準備学習(予習)</div> <p>授業で扱う予定のテーマについて、事前に新聞や著作などでよく調べておくこと。</p>							
		<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で配布するレジュメと授業中のノートをよく再読すること。</p>							
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 中間試験</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 期末試験</td><td>40%</td></tr></table>		(1) 授業への参加度	30%	(2) 中間試験	30%	(3) 期末試験	40%
(1) 授業への参加度	30%								
(2) 中間試験	30%								
(3) 期末試験	40%								
受講者に対する要望									
<p>現在の政治や時事問題に関心があることが望ましい。</p>									
学びのキーワード		教科書							
<div><div>・民主主義</div><div>・政党制</div><div>・官僚制</div><div>・政治参加</div><div>・国内政治と国際政治</div></div>		<div>参考書</div> <div>北山 俊哉・久米 郁男・真淵 勝『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』第3版、2009年。</div>							

政治学

POSC-P-100/POSC-L-1

担当教員： 森 達也

學期：週間授 科目：教養科目 必修・選択：必修科目

単位：4 コード：12A001K2

学部教育の関連目

【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ
 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る
 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能

カリキュラム上の位置付け

[L] 高等学校教諭一種免許：公民必修科目
[M] 中学校教諭一種免許：社会必修科目 [P] 高等学校教諭一種免許：公民必修科目
[P] 中学校教諭一種免許：社会必修科目
[P] 高等学校教諭一種免許：公民必修科目
[P] 中学校教諭一種免許：社会必修科目 [全] 高等学校教諭一種免許：公民必修科目
[全] 中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

＜テーマ＞ 政治の基礎知識／政治学の基礎

政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。

本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。

(2) 学びの意義と目標

- ・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。
- ・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。
- ・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

受講者に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。
と。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

学びのキーワード

- 政治
- 經濟
- 公共政策
- 社會保障
- 國際關係

授業計画

01. 講義の概要と趣旨の説明
02. 政治とは何か（教科書序章）
03. 民主主義の基本原理（プリント）
04. 政治学とは何か（教科書第1章）
05. 各国の政治体制（プリント）
06. 政治体制論（教科書第2章）
07. 日本国憲法の成立（プリント）
08. 現代政治学の歴史（教科書第11章）
09. 国会と内閣（プリント）
10. 政治過程（教科書第4章）
11. 政党と選挙（プリント）
12. マスメディアと政治（教科書4・6章）
13. 平和主義と安全保障（プリント）
14. 政策の決定（教科書第5章）
15. 映像で見る政治（1）
16. これまでの講義内容のまとめと復習
17. 到達度確認課題の解説
18. 資本主義／社会主義経済（プリント）
19. 映像で見る政治（2）
20. 政策の実施と行政（教科書第5章）
21. 日本の財政（プリント）
22. 貨幣と金融政策（プリント）
23. 日本の社会保障制度（プリント）
24. 労働市場と労働問題（プリント）
25. 福祉国家の国際比較（教科書第3章）
26. 福祉国家の危機と再編（教科書第3章）
27. 国際社会と国際法（プリント、教科書第9章）
28. 国際機関（プリント）
29. ナショナリズムと民族問題（プリント、映像）
30. 総括

準備學習(予習)

配布プリントを各自で可能な限り完成させ、次回の講義に備えること。

準備學習(復習)

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して小テストに備えること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------|
| (1) 中間課題 | 35% | 論述問題を含む |
| (2) 最終試験 | 35% | 論述問題を含む |
| (3) 授業内課題 | 30% | 小テスト・コメントシート |

教科書

加茂利男ほか著 『現代政治学 第4版』 (有斐閣)

参考書

高等学校「政治・経済」資料集
(たとえば『最新図説政経』(浜島書店、2015年)など)
手持ちのものがあれば代用してよい。

政治学		POSC-P-100/POSC-L-1	
担当教員： 森 達也			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目
単位： 4		コード： 12A001K3	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>01. 講義の概要と趣旨の説明</div> <div>02. 政治とは何か（教科書序章）</div> <div>03. 民主主義の基本原理（プリント）</div> <div>04. 政治学とは何か（教科書第1章）</div> <div>05. 各国の政治体制（プリント）</div> <div>06. 政治体制論（教科書第2章）</div> <div>07. 日本国憲法の成立（プリント）</div> <div>08. 現代政治学の歴史（教科書第11章）</div> <div>09. 国会と内閣（プリント）</div> <div>10. 政治過程（教科書第4章）</div> <div>11. 政党と選挙（プリント）</div> <div>12. マスメディアと政治（教科書4・6章）</div> <div>13. 平和主義と安全保障（プリント）</div> <div>14. 政策の決定（教科書第5章）</div> <div>15. 映像で見る政治（1）</div> <div>16. これまでの講義内容のまとめと復習</div> <div>17. 到達度確認課題の解説</div> <div>18. 資本主義／社会主義経済（プリント）</div> <div>19. 映像で見る政治（2）</div> <div>20. 政策の実施と行政（教科書第5章）</div> <div>21. 日本の財政（プリント）</div> <div>22. 貨幣と金融政策（プリント）</div> <div>23. 日本の社会保障制度（プリント）</div> <div>24. 労働市場と労働問題（プリント）</div> <div>25. 福祉国家の国際比較（教科書第3章）</div> <div>26. 福祉国家の危機と再編（教科書第3章）</div> <div>27. 国際社会と国際法（プリント、教科書第9章）</div> <div>28. 国際機関（プリント）</div> <div>29. ナショナリズムと民族問題（プリント、映像）</div> <div>30. 総括</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>			
(1) 内容			
<p><テーマ> 政治の基礎知識／政治学の基礎</p> <p>政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。</p> <p>本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。</p>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。</div> <div>・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。</div> <div>・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<p>高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。</p> <p>普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。</p>		<p>配布プリントを各自で可能な限り完成させ、次回の講義に備えること。</p>	
		準備学習(復習)	
		<p>授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して小テストに備えること。</p>	
		評価方法	
		<div>(1) 中間課題35% 論述問題を含む</div> <div>(2) 最終試験35% 論述問題を含む</div> <div>(3) 授業内課題30% 小テスト・コメントシート</div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・政治</div> <div>・経済</div> <div>・公共政策</div> <div>・社会保障</div> <div>・国際関係</div>		<p>加茂利男ほか著『現代政治学 第4版』（有斐閣）</p>	
		参考書	
		<p>高等学校「政治・経済」資料集（たとえば『最新図説政経』（浜島書店、2015年）など）</p> <p>手持ちのものがあれば代用してよい。</p>	

担当教員：鈴木 真実哉

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：4 コード：12A00202

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

- 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目
- 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目
- 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

経済学の特徴の考え方、理論の構成のし方に力点をおく。なぜ経済学が必要なのか、現実を経済学的にどのように理解できるか、経済社会はどのようにあるべきか、経済的意思決定主体はどのような行動すべきか、などについて解説する。

(2) 学びの意義と目標

政治経済学科1年生の必修専門科目であり、他学部の学生にとっては教養科目である。「経済」に無縁ではられない現代人にとって「生活必須」科目でもあろう。

経済学的思考によって、学習以前とは異なる次元から現実をみることができるようになる。また、合理性の経済学的意味が理解できるようになる。

☆参考文献 福岡正夫 『経済学入門』（日本経済新聞社）

受講者に対する要望

毎回新しい知識に触れることになるので、必ず十分な復習の時間をとること。板書は全体の構成(毎回の講義における)を理解するのに必要なもので、必ずノートにとること。

学びのキーワード

- ・経済学の本質と意義
- ・人間の幸福と経済
- ・稀少性の解決
- ・効率性と公正

授業計画

01. 経済学とは何か
02. 資源の稀少性と解決 (1)
03. 資源の稀少性と解決 (2)
04. 生産可能性フロンティア
05. 機会費用 (1)
06. 機会費用 (2)
07. 消費者の行動 (1) 効用と無差別曲線
08. 消費者の行動 (2) 予算制約と消費可能領域
09. 消費者の行動 (3) 効用最大化
10. 消費者の行動 (4) 需要曲線
11. 生産者の行動 (1) 生産関数と収入
12. 生産者の行動 (2) 費用と費用関数
13. 生産者の行動 (3) 利潤最大化
14. 供給曲線
15. 需要と供給——市場 (1)
16. 需要と供給——市場 (2)
17. マクロ経済学1 (生産物市場) 45°線モデル
18. マクロ経済学2 (乗数理論)
19. マクロ経済学3 (貨幣市場)
20. マクロ経済学4 (労働市場)
21. IS曲線
22. LM曲線
23. 総需要曲線
24. 総供給曲線
25. オープンマクロ (1)
26. オープンマクロ (2)
27. オープンマクロ (3)
28. オープンマクロ (4)
29. 経済変動と景気循環
30. まとめ

準備学習(予習)

シラバスの講義予定テーマについてメモを作成しておくこと。

準備学習(復習)

板書を中心にノートを整理し、関連書籍によって補充しながら毎回清書ノートをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 定期試験 | 90% |
| (2) 出席状況 | 10% |

定期試験の一部を補充する目的のレポートを課する場合もある。

教科書

参考書

担当教員：大森 達也

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：4 コード：12A00203

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

- 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目
- 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目
- 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

本講義では、「まんがDE入門 経済学」というのを教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。

(2) 学びの意義と目標

本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。

受講者に対する要望

漫画を使っていることで、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。

学びのキーワード

- ・経済用語
- ・経済理論
- ・ミクロ経済
- ・マクロ経済

授業計画

01. 経済学とは
02. ミクロ経済学とマクロ経済学
03. 分業と取引の発生
04. 価格の決定と価格弾力性
05. 消費者と需要の決定
06. 所得と価格の変化を需要
07. 代替財と補完財
08. 労働供給と余暇
09. 生産関数
10. 生産費用と規模の経済
11. 市場均衡とパレート効率性
12. 寡占市場
13. まとめ
14. 不確実性と不完全情報
15. まとめ
16. 質疑応答
17. マネタリストとケインジアン
18. 産業関連表
19. 国民総生産（GNP）
20. 財政と金融政策
21. 貯蓄と投資の均衡
22. 消費関数
23. 投資の決定
24. 乗数効果（IS曲線）
25. 貨幣市場（LM曲線）
26. ハイパワードマネーと公定歩合
27. 総需要
28. 労働市場と総供給曲線
29. インフレーションと景気循環
30. まとめ

準備学習(予習)

教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|---------------------|
| (1) 中間試験 | 35% |
| (2) 期末試験 | 35% |
| (3) ブックレポート | 30% 1200文字程度 3回×10% |

教科書

西村和雄 『まんがDE入門 経済学』（日本評論社）

参考書

担当教員：大森 達也

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：4 コード：12A00210

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

- 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目
- 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目
- 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

本講義では、「まんがDE入門 経済学」というのを教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。

(2) 学びの意義と目標

本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。

受講者に対する要望

漫画を使っていることで、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。

学びのキーワード

- ・経済用語
- ・経済理論
- ・ミクロ経済
- ・マクロ経済

授業計画

01. 経済学とは
02. ミクロ経済学とマクロ経済学
03. 分業と取引の発生
04. 価格の決定と価格弾力性
05. 消費者と需要の決定
06. 所得と価格の変化を需要
07. 代替財と補完財
08. 労働供給と余暇
09. 生産関数
10. 生産費用と規模の経済
11. 市場均衡とパレート効率性
12. 寡占市場
13. まとめ
14. 不確実性と不完全情報
15. まとめ
16. 質疑応答
17. マネタリストとケインジアン
18. 産業関連表
19. 国民総生産（GNP）
20. 財政と金融政策
21. 貯蓄と投資の均衡
22. 消費関数
23. 投資の決定
24. 乗数効果（IS曲線）
25. 貨幣市場（LM曲線）
26. ハイパワードマネーと公定歩合
27. 総需要
28. 労働市場と総供給曲線
29. インフレーションと景気循環
30. まとめ

準備学習(予習)

教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|---------------------|
| (1) 中間試験 | 35% |
| (2) 期末試験 | 35% |
| (3) ブックレポート | 30% 1200文字程度 3回×10% |

教科書

西村和雄 『まんがDE入門 経済学』（日本評論社）

参考書

経済学		ECON-P-100/ECON-L-1						
担当教員： 高橋 聡								
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 必修科目		単位： 4 コード： 12A002K1						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 国内総生産 03. 国内総支出 04. 戦後日本経済の歩み（1）復興期から高度経済成長 05. 国内総所得と三面等価の原則 06. 戦後日本経済の歩み（2）戦後日本の経済成長と寄与度 07. 「総」概念と「純」概念 08. 働く人から見た日本経済（1）労働力に関する定義 09. 物価 10. 働く人から見た日本経済（2）日本的雇用慣行とその変化 11. 投資理論 12. 企業から見た日本経済（1）企業と競争の役割 13. 貨幣供給 14. 企業から見た日本経済（2）株式会社 15. 貨幣需要 16. 貿易・国際金融から見た日本経済（1）戦後日本の貿易構造の推 17. IS-LM分析（1）IS曲線の導出 18. 貿易・国際金融から見た日本経済（2）国際収支と外国為替相場 19. IS-LM分析（2）LM曲線の導出 20. 財政の役割と仕組み（1）財政の役割 21. 財政政策 22. 財政の役割と仕組み（2）租税 23. 金融政策 24. 社会保障の役割と仕組み（1）社会保障制度の確立 25. 経済成長論 26. 社会保障の役割と仕組み（2）医療保険制度とその他の保険制度 27. 国際マクロ経済学 28. 税の仕組み（1）主要三税（所得税・法人税・消費税） 29. 貿易理論 30. 税の仕組み（2）控除制度</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉主事任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>経済現象の診断に必要な基礎理論を習得し、日本経済の現状分析を行う。2コマの内容を2部構成とし、第1部は理論の習得、第2部は日本経済の現状の解説とレポートとする。なお、第1部は、岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』（新世社）に準拠したプリントを用いるので、必要に応じてこの書を手入してほしい。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>意義 直感や好き嫌いではなく、理論にもとづく分析によって社会の仕組みを理解し、問題を解明する。これが学生が大学で身につけるべき思考法である。経済学によってそのトレーニングを効果的に行うことができる。</div> <div>目標 文法を理解していなければ外国語を理解することはできない。それと同じように、複雑な経済現象を読み解くためには経済理論という「文法」をマスターする必要がある。その最低限の知識を習得することが講義の第1の目標である。これにより、文法を無視した経済ニュースがいかに多く世間に流通しているかもわかるだろう。そこで、経済ニュースの読み方を身に着けることが第2の目標となる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の指定ページを読み、疑問点を自ら調べるなり、質問できる用意をすること。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>受講にあたっては、レポート、講義中の発言など積極的な姿勢が問われる。また遅刻や私語には厳正に対処する。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>①練習問題をくりかえすこと。②授業で取り上げた問題に関する経済ニュースを収集すること。</div>						
<div>学部のキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">GDP物価財政・金融経済成長貿易</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 試験</td><td>70%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 平常点</td><td>10%</td></tr></table> <div>教科書</div> <div>八田幸二・佐藤拓也・武田勝『攻略！！日本経済』（学文社）</div> <div>参考書</div> <div>岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』（新世社）</div>	(1) 試験	70%	(2) レポート	20%	(3) 平常点	10%
(1) 試験	70%							
(2) レポート	20%							
(3) 平常点	10%							

経済学		ECON-P-100/ECON-L-1	
担当教員： 由川 稔			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目
単位： 4		コード： 12A002K2	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>01. 需要と供給（１）～需要曲線と供給曲線</div> <div>02. 需要と供給（２）～「古典派」の考え方</div> <div>03. インフレーションとデフレーション（１）～インフレーションの種類と効果・影響</div> <div>04. インフレーションとデフレーション（２）～デフレーションの効果・影響</div> <div>05. 社会経済の近代化と思想・・・古典派とケインズ派（１）～近代化と古典派</div> <div>06. 社会経済の近代化と思想・・・古典派とケインズ派（２）～ケインズ派の形成とその後の展開</div> <div>07. GDPをめぐって（１）～フローとストック、三面等価</div> <div>08. GDPをめぐって（２）～国民所得とは</div> <div>09. GDPをめぐって（３）～45度線分析</div> <div>10. GDPをめぐって（４）～国民所得の決定</div> <div>11. GDPをめぐって（５）～デフレギャップとインフレギャップ</div> <div>12. GDPをめぐって（６）～乗数効果</div> <div>13. マネーと金融（１）～「貨幣」（おかね）とは</div> <div>14. マネーと金融（２）～中央銀行の役割</div> <div>15. マネーと金融（３）～貨幣供給の仕組み</div> <div>16. マネーと金融（４）～金融政策</div> <div>17. 無差別曲線と予算制約（１）～無差別曲線</div> <div>18. 無差別曲線と予算制約（２）～予算制約線と最適消費点</div> <div>19. 財の種類、代替効果と所得効果（１）～財の種類</div> <div>20. 財の種類、代替効果と所得効果（２）～代替効果と所得効果</div> <div>21. 市場と企業行動（１）～市場の種類</div> <div>22. 市場と企業行動（２）～生産量の決定</div> <div>23. 市場と企業行動（３）～損益分岐点</div> <div>24. 市場と企業行動（４）～操業停止点</div> <div>25. 効率と公平（１）～パレート最適</div> <div>26. 効率と公平（２）～ローレンツ曲線とジニ係数</div> <div>27. 国際経済（１）～比較生産費説</div> <div>28. 国際経済（２）～国際収支</div> <div>29. 国際経済（３）～外国為替レートの変動</div> <div>30. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【L】社会福祉士任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】社会福祉士任用資格：選択科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】社会福祉士任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>			
(1) 内容			
<p>経済学は抽象化や理論化という「科学的な方法」に基づいています。なぜでしょうか。それは、日常生活の中で、しばしば「感情」や「常識」に埋没してわからなくなりがちな経済現象の「本質」を見抜き、そこから、「新しい経済」や「人間のあり方」などを構想するためです。しかし、理論を理解することだけで頭が一杯になってしまうと、かえって現実を見る目を曇らせてしまう危険もあります。授業では、このバランスを重視したいと思います。</p>			
(2) 学びの意義と目標			
<p>本来、「経済が人間のためにあるのであって、人間が経済のためにあるのではない」はずですが。しかし現実の経済は、人間を奴隷化してしまうほどの恐ろしい面も持っています。究極的には、私たちが英知と勇気を持って、少なくとも経済の面で明るい未来を築いていくことが、経済学を学ぶ意義であり、目標であると言えるでしょう。</p>			
受講者に対する要望			
<p>「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにします。教科書は、後々、資格や公務員等の各種試験対策にも利用できるものにしてありますが、授業は初学者向けに丁寧に進めます。試験対策向けのスピーディーな展開を希望する学生は、他を当たってください。なお、授業では時事問題を中心とした資料も配布します。きちんと整理しておくようにしてください。</p>			
学びのキーワード		教科書	
<div>・ 経済</div> <div>・ 友愛</div> <div>・ 自由</div> <div>・ 公正</div> <div>・ 競争・効率</div>		<div>『1項目3分でわかる 石川秀樹の経済学入門ゼミ』（石川秀樹著、日本実業出版社（2010年）1,600円＋税）</div>	
		参考書	

社会学（W用）		SOCI-0-101	
担当教員： 齋藤 圭介			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 12A00356	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける。論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>		<div>01. 社会学の成立と展開</div> <div>02. 社会学の研究視点</div> <div>03. 現代社会の理解（1）社会システム① 社会システムの概念、文化・規範、社会意識</div> <div>04. 現代社会の理解（2）社会システム② 産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標</div> <div>05. 現代社会の理解（3）法と社会システム</div> <div>06. 現代社会の理解（4）経済と社会システム</div> <div>07. 現代社会の理解（5）社会変動① 社会変動の概念</div> <div>08. 現代社会の理解（6）社会変動② 近代化、産業化、情報化</div> <div>09. 現代社会の理解（7）人口① 人口の概念、人口構造</div> <div>10. 現代社会の理解（8）人口② 人口問題、少子高齢化</div> <div>11. 現代社会の理解（9）地域① 地域の概念、コミュニティの概念</div> <div>12. 現代社会の理解（10）地域② 都市化と地域社会、過疎化と地域社会</div> <div>13. 現代社会の理解（11）地域③ 地域社会の集団・組織</div> <div>14. 現代社会の理解（12）社会集団① 社会集団の概念、第一次集団、第二次集団</div> <div>15. 現代社会の理解（13）社会集団② ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション</div> <div>16. 現代社会の理解（14）社会集団③ 組織の概念、官僚制</div> <div>17. 生活の理解（1）家族① 家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態</div> <div>18. 生活の理解（2）家族② 家族の変容、家族の機能</div> <div>19. 生活の理解（3）生活の捉え方</div> <div>20. 人と社会との関係（1）社会関係と社会的孤立</div> <div>21. 人と社会との関係（2）社会的行為</div> <div>22. 人と社会との関係（3）社会的役割</div> <div>23. 人と社会との関係（4）社会的ジレンマ</div> <div>24. 社会問題の理解（1）社会問題の捉え方</div> <div>25. 社会問題の理解（2）具体的な社会問題① 貧困、失業</div> <div>26. 社会問題の理解（3）具体的な社会問題② 差別、社会的排除、自殺</div> <div>27. 社会問題の理解（4）具体的な社会問題③ 犯罪、非行</div> <div>28. 社会問題の理解（5）具体的な社会問題④ DV、ハラスメント</div> <div>29. 社会問題の理解（6）具体的な社会問題⑤ 児童虐待、いじめ</div> <div>30. 社会問題の理解（7）具体的な社会問題⑥ 公害、環境破壊</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【W】社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div> <div>【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div>			
(1) 内容			
<div>・社会学の成立と展開</div> <div>・社会学の研究視点</div> <div>・現代社会の理解</div> <div>・生活の理解</div> <div>・人と社会との関係</div> <div>・社会問題の理解</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>・社会理論による現代社会の捉え方を理解する。</div> <div>・生活について理解する。</div> <div>・人と社会の関係について理解する。</div> <div>・社会問題について理解する。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
「社会」「他人」に対する何らかの興味関心を持っていること。		<div>毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>講義終了後、配布プリントを再読し、①興味関心を抱いた事柄と、②その理由について考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。</div>	
		評価方法	
		<div><div>(1) 授業への参加度</div><div>40%</div></div> <div><div>(2) 期末試験</div><div>40%</div></div> <div><div>(3) レポートなど</div><div>20%</div></div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・コミュニケーション</div> <div>・社会学的想像力</div> <div>・他者理解</div> <div>・アイデンティティ</div> <div>・ジェンダー</div>		<div>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（3）社会理論と社会システム—社会学【第3版】』（中央法規出版）</div>	
		参考書	

SOCI-0-101/SOCI-P-1

社会学

担当教員： 加藤 敦也

学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 12A003K1

学部教育の関連目

【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【L】社会福祉主事任用資格：選択科目

【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【P】社会福祉主事任用資格：選択科目

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

本講義は社会問題を解釈するための方法論ないし理論枠組みとしての社会学の内容を概観していく。授業では、教科書の内容を、雑誌記事や、テレビドラマ、映画、ニュース番組などの映像を補助資料として用い、日常生活における身近な現象がいかに社会学のテーマとして取り上げられ、どのように社会学の対象領域として説明されるかについて解説していく。また、授業期間内にテーマに応じて小レポート作成やディスカッションを課すことで、社会学の取り扱う問題を自ら考えることを促す。

(2) 学びの意義と目標

受講者自身が社会問題を解釈する認知枠組みとして社会学的な視点を身につけてもらうことを目標とする。受講者各自はそれぞれ成長してきた過程で問題を解釈する認知の枠組みを身につけてきたはずである。本講義は、その認知のあり方を一つの価値観と見なしながら、その価値観に従うだけでなく、ものごとを社会通念にとらわれず、社会学的に理解するための基礎的な知識を身につけてもらいたいと思っている。

受講者に対する要望

他の受講者に迷惑のかかる行為は謹んでほしい。
例えば私語厳禁。

学びのキーワード

・社会学

・都市とグローバリゼーション

・階級・階層

・ジェンダー

・エスニシティ

授業計画

01. 社会学とは何か（1）——社会学の誕生と歴史について

02. 社会学とは何か（2）——社会学の理論について

03. 社会調査の方法―量的調査と質的調査

04. 家族をめぐる社会学（1）——家族の類型と結婚の現在

05. 家族をめぐる社会学（2）——性別役割分業の実態と家族関係の問題

06. 家族をめぐる社会学（3）——近代家族論

07. 地域をめぐる社会学（1）——都市の特徴

08. 地域をめぐる社会学（2）——グローバリゼーションと都市、または郊外について

09. メディアと情報化をめぐる社会学（1）——メディアの歴史

10. メディアと情報化をめぐる社会学（2）——メディア・リテラシー

11. 階級・階層をめぐる社会学（1）——階級・階層概念による社会の読み解き方について

12. 階級・階層をめぐる社会学（2）——日本社会の階層意識と不平等問題

13. インナートリップとしての社会学（1）——アイデンティティを役割取得などの理論から考える

14. インナートリップとしての社会学（2）——人間関係を相互行為論から考える

15. ジェンダーの社会学（1）——ジェンダー概念の説明とジェンダー不平等について

16. ジェンダーの社会学（2）——女性就労の問題、性暴力の問題など

17. セクシュアリティの社会学——セクシュアル・マイノリティと社会

18. エスニシティの社会学

19. 社会運動の社会学（1）——社会運動の類型と脱産業社会について

20. 社会運動の社会学（2）——新しい社会運動とアイデンティティ・ポリティクスについて

21. 教育社会学（1）——教育の社会的機能

22. 教育社会学（2）——教育と階級・階層の関係性、または教育空間における人権問題について

23. 相互行為論、社会構築主義

24. 社会学の歴史：ヴェーバーとデュルケム

25. 社会学の歴史：アメリカの社会学史

26. ヨーロッパの現代：ルーマン、ギデンズ、ブルデュー

27. 日本の社会学史：意味社会学と統合理論

28. 近代と脱近代（1）——後期近代という社会認識（ギデンズとハーバーマスを中心に）

29. 近代と脱近代（2）——ポストモダンという社会認識

30. 社会学のまとめ

準備学習(予習)

授業前の予習としては教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

準備学習(復習)

授業後の復習としては講義をまとめた自筆ノートを教科書とあわせて見直すことをすすめる。

評価方法

(1) 平常点

30%

(2) 小レポート

30% 授業期間内に課す

(3) 定期試験

40%

平常点(30点)、授業期間内に課される小レポート(30点)、定期試験(40点)により評価する。なお、教科書を用いて授業を行う。

教科書

宇都宮京子 『よくわかる社会学（第2版）』（ミネルヴァ書房）

参考書

社会学の理解を促すうえで重要な文献は授業中に適宜指示する。

社会学		SOCI-0-101/SOCI-P-1
担当教員： 新津 尚子		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A003K2
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会学とは何か（1） 基礎編：相互行為の重要性 02. 社会学とは何か（2） 応用編：信頼と社会 03. 家族社会学（1） 基礎編：家族とは何か 04. 家族社会学（2） 応用編：日本の産業構造の変化と家族の変化 05. 都市社会学（1）基礎編：都市とは何か 06. 都市社会学（2）応用編：都市における貧困問題 07. メディアと情報の社会学（1）基礎編：メディアの社会にもたらした影響 08. メディアと情報の社会学（2）応用編：情報化社会 09. 階級・階層と社会（1）基礎編：日本の階層と不平等 10. 階級・階層と社会（2）応用編：世界と日本の不平等の比較 11. アイデンティティと社会（1）基礎編：自分と社会との関係 12. アイデンティティと社会（2）応用編：感情労働 13. ジェンダーと社会（1）基礎編：ジェンダーとは何か 14. ジェンダーと社会（2）応用編：「ジェンダー」を歴史的に考える 15. 国際社会とエスニシティ（1）基礎編：エスニシティとは何か 16. 国際社会とエスニシティ（2）応用編：日本の中のエスニシティ 17. 社会運動（1）基礎編：現代社会と社会運動 18. 社会運動（2）応用編：インターネットと社会運動 19. 社会学の歴史とさまざまな研究:社会学の始まり（1）コントから20世紀初頭までのヨーロッパの社会学 20. 社会学の歴史とさまざまな研究:社会学の始まり（2） 米国での社会学の始まり 21. 社会学の歴史とさまざまな研究:デュルケム（1）デュルケムの生きた時 22. 社会学の歴史とさまざまな研究:デュルケム（2）『自殺論』 23. 社会学の歴史とさまざまな研究:ヴェーバー（1）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 24. 社会学の歴史とさまざまな研究:ヴェーバー（2）合理化 25. 社会学の歴史とさまざまな研究:マートン 26. 社会学の歴史とさまざまな研究:パーソンズ 27. 社会学の歴史とさまざまな研究:シュッツ 28. 社会学の歴史とさまざまな研究:ブルデュー 29. 社会学的想像力 30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉主事任用資格：選択科目 【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この講義では「家族」「地域」「ジェンダー」など、社会学を総合的に学ぶことを目的とする。また後半（19回目以降）は社会学の歴史についても学ぶ。授業では教科書を用いて講義を行うほか、関連する資料を読んだのディスカッションや小レポート作成など、履修者が自分自身で考える機会を設け、「理解する」→「考える」→「身につける」というプロセスで確実に内容を身につけることを目指す。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この講義の目標は、毎回の授業を通じて「社会学的な思考を身につける」ことにある。この思考を身につけることによって、「個人的」と思われる問題の中にある社会的な要素や、「社会的」と思われる問題の中にある個人的な要素を理解できるようになる。これにより将来、履修生がさまざまな問題に直面した際、その問題を多角的に考えられるようになるだろう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>予習として教科書の当該箇所を読み、概要を理解しておくこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>私たちを取り囲む身近な「社会」に関心がある者の受講を望む。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>復習として教科書と講義ノートを見直すこと。不明な点があれば自分で調べたり、質問するなどして解決すること。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・家族 ・産業 ・メディア ・ジェンダー ・階層</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点30%</div><div>(2) 提出物30%</div><div>(3) 学期末試験40%</div></div> <div>教科書</div> <div>宇都宮京子編『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）</div> <div>参考書</div>

社会学		SOCI-0-101/SOCI-P-1
担当教員： 加藤 裕康		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A003K4
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会学とは 02. 社会学の理論はどのようなものかー理論の必要性 03. 社会学の理論はどのようなものかーモデルとは何か 04. 社会学の理論はどのようなものかー方法論的全体主義 05. 社会学の理論はどのようなものかー社会学の対象 06. 社会学はいかに成立したのかー近代社会科学の誕生 07. 社会学はいかに成立したのかー進化論と比較文明史 08. 社会学はいかに成立したのかーモダニズムの精神 09. 社会学はいかに成立したのかー学問におけるモダニズム 10. 社会学はいかに成立したのかーデュルケムによる近代の反省 11. 社会学はいかに成立したのかーウェーバーとマルクス主義 12. 多元化する時代と社会学ー危機についての学問 13. 多元化する時代と社会学ー理論社会学 14. 多元化する時代と社会学ー社会学の可能性 15. アイデンティティと社会学 16. コミュニケーションと社会学 17. 家族の社会学 18. 政治の社会学 19. 都市の社会学 20. 身体 of 社会学 21. メディアの社会学 22. 情報化社会と消費社会 23. 階級・階層の社会学 24. ジェンダーとセクシュアリティ 25. 共同体と市民社会 26. 国民国家と多文化社会 27. グローバル化 28. 社会学史（1）西洋編 29. 社会学史（2）日本編 30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉主事任用資格：選択科目 【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「当事者でなければわからない」という言葉を耳にします。果たしてそれは本当でしょうか。他人に指摘されてハッとすることがあるように、自分の中には自分では気付かない「他者性」があります。同じように当事者だからこそ見えないこともあります。社会学は、その他者に迫る学問と言えるでしょう。 本講義では、社会学の歴史と理論を学んでいきます。さらに抽象的な議論と具体的な事例を織り交ぜ、社会学の視点を解説します。また授業では、リアクションペーパーやソーシャル・メディアを活用する中で、講義内容を主体的に捉える契機とします。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>社会学とはどのような学問なのか、その歴史と理論を学ぶことで、社会学的な視点を身につけることを目標とします。混沌とした社会を分析するためのツールを駆使して、自分なりの考えをもって行動できる人間になる、その第一歩としたいと 생각합니다。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書をあらかじめ読んでおいてください。参考文献は適宜、紹介します。
【参考文献】
『社会学のすすめ』（筑摩書房）大澤真幸編 『社会学入門』（岩波書店）見田宗介
『新版 社会学のエッセンス』（有斐閣）友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵
『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）宇都宮京子編</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>授業後にノートをまとめ直しましょう。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>私語、遅刻は厳禁です。出席は評価の対象ではありませんが、5回休んだ者は大学の規定通り、単位を取得できません。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) レポート20% (2) 期末試験80%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・アイデンティティ ・コミュニケーション ・メディア ・政治と権力 ・都市と消費社会</div>		<div>教科書</div> <div>稲葉振一郎 『社会学入門』（日本放送出版協会）【978-4140911365】</div> <div>参考書</div>

環境学		SOC1-0-101/POSC-P-100/POSC-L-100	
担当教員： 村上 公久			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 12A004K5	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】市民力：地域社会を支えるために必要な知識		01. 地球環境問題（１） ー自然破壊の実態 砂漠化 02. 地球環境問題（２） ー自然破壊の実態 森林破壊 03. 地球環境問題（３） ー地球温暖化問題 04. 自然の中の人間 ー「自然の支配」か「自然と共存」か 05. 自然と環境 06. 〔人間ー環境〕系（１） 07. 〔人間ー環境〕系（２） 08. 「自然」が「環境」に変わるとき ー主体（ヒト）が帯びている生命圏への責任 09. ガイアGaia仮説 ー地球も宇宙も生きている 10. さまざまな自然観と風土（１） ー温度・降水量と植生区 11. さまざまな自然観と風土（２） ー世界各地の自然と「風土」 12. わが国の自然、風土の特徴 13. 水文循環 14. エコロジーに関する概念 生命圏（生態圏）の理解 15. 「命」とは ーエントロピーの概念 16. 人口問題（１） ー人口増加と環境容量 17. 人口問題（２） ー人口増加と、環境・天然資源 18. 森と人間（１） ー森と人と文化 19. 森と人間（２） ー森林の科学、木の文化の復権 20. 「破壊」と「保護」の対立から「保全」へ ー第三の立場「環境保全」 21. 環境関連法と制度 ーわが国の「環境基本法」と「環境基本計画」 22. 地球環境問題の課題『アジェンダ21』の検討 23. 新しい課題「保続（持続）可能な開発」（１） 24. 新しい課題「保続（持続）可能な開発」（２） 25. N G O の役割 ー「お団子」が、未来を担う（お団子＝ODA＋NGO） 26. 環境N G O の事例（１） 27. 環境N G O の事例（２） 28. 「宇宙船地球号」から「地球村」へ Spaceship Earth → Global Village 29. 〔人間ー環境〕系 を保つための課題 30. 総括 と 新しい問題提起	
カリキュラム上の位置付け		準備学習（予習）	
【全】社会福祉主事任用資格：選択科目 【全】社会福祉主事任用資格：選択科目		岩波ジュニア新書 の中で環境をテーマとしている 「地球をこわさない生き方の本」 「世界の環境都市に行く」 など を読んでおくこと。	
(1) 内容		準備学習（復習）	
大学生の君たちが生まれた頃から現在まで、つまり君たちの平均年齢に相当する約20年間の間に私たちの地球の生命圏の環境は、急速に悪化し、この間日本列島の約6倍の面積の熱帯の森林が失われ、中国の耕地面積に相当する陸地が砂漠化した。 今日、世界的規模での最大の問題は、環境の急激な悪化による生命圏（生態圏）の全的壊滅の危険、すなわち地球環境問題である。かつては環境問題の問題意識の中心は産業公害だったが、現在ではこの問題は国境を突破した生命圏全体の存続を懸けた「地球環境問題」であり、いわゆる汚染・公害問題はその一部として意識されている。この科目では「ヒトと環境」が相互に影響し呼応し合うシステム〔人間ー環境〕系を理解し、主に「ヒトと森林の関係」を例にとって考える。		各自、各回の講義内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めて講義記録のノートに記録する。 また、各回のリアクション・ペーパーを作成し次回に提出する。	
(2) 学びの意義と目標		評価方法	
NGOの果たす大きな役割を含め、私たちと生き物たちのこの世界を全体的な壊滅から救うほとんど唯一の戦略「保続的開発」の可能性を探る。		(1) クラスへの 参加と貢献 40% 欠席回数が講義回数の3分の1以下の者のみを、評価の対象とする。 (2) 2回以上の試験と期末試験 60%	
受講者に対する要望		教科書	
専門科目「環境保全論」履修の準備となる科目でもあるので学びを進めて「環境保全論」を履修する予定の者は 予めこの科目を学んでおくことが望ましい。		なし、講義資料を配布する。	
学びのキーワード		参考書	
・ 自然観 ・ 〔人間ー環境〕系 ・ 地球環境問題 ・ ガイアGaia仮説 ・ 保続可能(持続可能)な発展		文献・資料のリスト と 講義資料を配布する。	

担当教員：松村 芳明

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：12A00564

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

- ・社会生活と法
- ・憲法・民法・行政法
- ・利用者の人権と個人情報保護

(2) 学びの意義と目標

- ・社会生活における法の作用や役割について理解する。
- ・憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。
- ・基本的人権、権利擁護、成年後見制度等、社会福祉士に必要な内容について理解する。

受講者に対する要望

①社会保障・社会福祉に関連する法規を中心に学ぶ授業ではなく、それらを含め、法学の基礎について全般的に学ぶ授業である点、注意すること。②授業に積極的に参加すること。③分からないことがあれば遠慮なく授業中や授業後などに質問すること。

学びのキーワード

- ・基本的人権
- ・日本国憲法
- ・成年後見制度
- ・近代私法の基本原則

授業計画

01. 社会生活と法 (1) 社会規範としての法
02. 社会生活と法 (2) 社会福祉士と法のかかわり
03. 憲法 (1) 憲法の基本概念
04. 憲法 (2) 日本国憲法の基本原理 ①国民主権・平和主義
05. 憲法 (3) 日本国憲法の基本原理 ②基本的人権の性質と分類
06. 憲法 (4) 日本国憲法の基本原理 ③基本的人権 i. 自由権
07. 憲法 (5) 日本国憲法の基本原理 ④基本的人権 ii. 社会権
08. 憲法 (6) 日本国憲法の基本原理 ⑤基本的人権 iii. 新しい人権
09. 憲法 (7) 日本国憲法の基本原理 ⑥統治機構・財政
10. 憲法 (8) 日本国憲法の基本原理 ⑦地方自治
11. 民法 (1) 権利能力・意志能力・代理
12. 民法 (2) 契約の成立と有効要件・売買契約
13. 民法 (3) 契約の目的物・債権の担保
14. 民法 (4) 不法行為
15. 民法 (5) 親族 ①婚姻・離婚
16. 民法 (6) 親族 ②親子・扶養
17. 民法 (7) 法定相続・遺言
18. 民法 (8) 成年後見制度 ①成年後見制度の創設・法定後見制度の仕組み
19. 民法 (9) 成年後見制度 ②任意後見制度の仕組み
20. 民法 (10) 成年後見制度 ③成年後見制度の現状と課題
21. 行政法 (1) 行政法の基本・行政行為
22. 行政法 (2) 行政手続き
23. 行政法 (3) 行政不服審査
24. 行政法 (4) 行政訴訟
25. 行政法 (5) 国家賠償
26. 行政法 (6) 情報公開
27. 行政法 (7) 地方行政組織
28. 行政法 (8) 行政契約・社会福祉サービスの利用関係
29. 利用者の人権と個人情報保護 (1) 個人情報保護法の概要
30. 利用者の人権と個人情報保護 (2) 社会福祉サービスと個人情報の保護

準備学習(予習)

次回の内容について、指示されたプリント等の該当箇所を読み、六法等を参照しておくこと。

準備学習(復習)

プリント・講義ノートを読み返すことにより講義で得た知識を整理すること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 課題 | 40% |
| (2) 試験 | 50% |
| (3) 授業への参加状況 | 10% |

教科書

山下友信・山口厚編 『ポケット六法』 (有斐閣)

参考書

法学		LAW-O-101/LAW-P-100
担当教員： 木村 裕二		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A005K1
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 子ども・少年と法①（民事法・社会法） 03. 子ども・少年と法②（刑事法） 04. 人・労働者・消費者①（民法・民事訴訟法） 05. 人・労働者・消費者②（労働法・消費者法） 06. 男女・夫婦①（民事法） 07. 男女・夫婦②（刑事法・社会法） 08. 企業の法①（会社法） 09. 企業の法②（経済法） 10. 主権者の法①（憲法） 11. 主権者の法②（行政法） 12. 被疑者・被告人・被害者①（刑法） 13. 被疑者・被告人・被害者②（刑事訴訟法） 14. 高齢者・相続①（社会保障法） 15. 高齢者・相続②（民法） 16. 憲法①（統治） 17. 憲法②（統治） 18. 民法①（人・法律行為・財産） 19. 民法②（契約・不法行為） 20. 刑法①（総論） 21. 刑法②（各論） 22. 商法①（株式） 23. 商法②（機関） 24. 民事訴訟法①（請求、弁論） 25. 民事訴訟法②（証拠、判決） 26. 刑事訴訟法①（捜査） 27. 刑事訴訟法②（公判） 28. 法とは何か 29. 法とは何か（続） 30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【全】社会福祉主事任用資格：選択科目 【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>人は一生の間に、家庭や職場でいろいろな役割を担います。それぞれの場面で、様々な法律が特徴のある仕方、かかわってきます。前半は、こうして次々と遭遇する法律を素材として、法のいろいろな働きを見ていきます。後半は、基本六法のそれぞれのまとまりの中に位置づけて、前半で取り扱ったテーマを振り返ります。最後のまとめは「答え」ではなく、法とは何かという「問い」をもってしめくくります。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業後の生活の中で、いろいろな問題で迷うことがあるでしょう。そのとき使える自分用の「地図」を作っていくために、法律問題の基本を理解することが、本講義の目的です。また教職を目指す人には、教える側の自分が何を分かっているのか、その核心をつかむことを目標としてもらいたいと思います。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>それは知らない、これは何だと思ったときには、まずは「調べる」ひと手間かけて、自分なりに理解するために「考える」こと。知らないことがたくさんあるのは当たり前で、そのまま放っておくのか、何とかしようとするのか。その習慣の違いが、社会に出てからの自分自身の可能性を大きく左右します。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>配布資料に目を通しておくこと。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 公法と私法 ・ 一般法と特別法 ・ 実体法と手続法 ・ 民事と刑事 ・ 法と道徳</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>分かったこと、疑問点、自分なりの意見・感想などを、配布資料やノートに書き留めておくこと。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加度 50% (2) 試験 50%</div>
<div>教科書</div> <div>特に指定せず、レジュメを配布します。</div>		
<div>参考書</div> <div>授業の中で適宜、紹介します。</div>		

法学					
LAW-P-100/LAW-L-101					
担当教員： 齋藤 美沙					
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目/必修科目 単位： 4 コード： 12A005K2					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 法学の学ぶことについて／法を学ぶ意義、「法学」・「解釈」とは何か、リーガルマインド 03. 法とは何か／法の体系、法の分類 04. 法とは何か／法の歴史、法と道徳 05. 裁判の仕組と役割／民事訴訟、刑事訴訟、家庭裁判所 06. 裁判の仕組と役割／裁判員裁判、裁判外紛争解決手続 07. 民法／日常生活と契約 08. 民法／権利能力、未成年者と契約 09. 民法／意思表示、錯誤、詐欺、強迫 10. 民法／損害賠償請求、債務不履行、不法行為 11. 生活の中の法／消費者問題、マルチ商法、クーリング・オフ 12. 生活の中の法／保証契約、連帯保証 13. 家族と法／親族法（婚姻、離婚、生殖医療と親子関係） 14. 家族と法／相続法（相続、遺言） 15. 民法と刑法／民事責任と刑事責任 16. 民法と刑法／交通事故を起こしたら？ 17. 労働と法／労働条件、労働組合、パワハラ・セクハラ 18. 労働と法／アルバイト・就職活動と法的トラブル 19. 刑法／罪と罰、罪刑法定主義 20. 刑法／犯罪の成立要件 21. 憲法／人権の理念、近代立憲主義 22. 憲法／国民主権、象徴天皇制 23. 憲法／平和主義、安保法制、集団的自衛権 24. 憲法／法の下での平等、幸福追求権 25. 憲法／表現の自由、知る権利 26. 憲法／生存権、労働基本権、教育を受ける権利 27. 憲法／権力分立、国会 28. 憲法／内閣、裁判所 29. まとめ① 30. まとめ②</div>				
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉士主任任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士主任任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士主任任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>					
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、様々な法規範の中から、おもに憲法、民法及び刑法を扱います。 身近な問題を手がかりに、法・法律の基本的理論や知識を確認していきます。</div>					
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>社会では、法的視点が必要とされる場面が多くあります。 本講義では、基本的な法的思考・知識を身につけることを目標とします。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>前週に指示します。</div>				
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリントを再読して下さい。必要に応じて参考文献を紹介します。</div>				
<div>受講者に対する要望</div> <div>新聞やニュースなどで、法に関する事柄に注意を払うようにして下さい。</div>	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 試験</td><td>80%</td></tr><tr><td>(2) 平常点</td><td>20%</td></tr></table><div>試験の成績をもとに、出席やコメントシート等を考慮し、総合的に評価します。</div></div>	(1) 試験	80%	(2) 平常点	20%
(1) 試験	80%				
(2) 平常点	20%				
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 法学・ 憲法・ 基本的人権・ 民法・ 刑法</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>池田真朗編『プレステップ法学＜第2版＞』弘文堂、2013年</div>				

法学		LAW-P-100/LAW-L-101
担当教員： 渡辺 英人		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 4 コード： 12A005K4
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 法を守る精神： 社会における信頼関係 02. 法を守る精神： 社会（コミュニティ）の形成 03. 法と道徳 04. 法の概念 05. 法の存在形式（法源） 06. 法の種類 07. 法の効力 その範囲と限界 08. 「自然法論」と「法実証主義」 09. 法と道徳（2） 10. 自己決定権 11. 法がめざすもの（法の目的） 12. 罪刑法定主義とデュー・プロセス 13. 法の目的（2） 14. 適法性と違法性 15. 「犯罪」とは何か？ 16. 「犯罪」とは何か？（2） 17. モラルの低下した社会に生きる 18. 法の目的（3） 19. 「公」と「私」 20. 「責任」とは何か？ 21. 「権利」とは何か？ 22. 「正義」とは何か？ 23. 「市民社会」に生きる 24. 「法」を守る精神 25. 諸外国の法 26. 諸外国の法（2） 27. 市民社会の法 28. 消費者と法 29. 知的財産権と法（1） 30. 知的財産権と法（2）</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉士任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「法を守る精神・法令遵守と責任」 「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人との社会の中でいかに上手く生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人、良き市民として、社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。講義内容の中心は「法の概念」「市民社会の法」「消費者と法」「知的財産権」などです。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>受講者の在籍学部を問わず、具体例をあげながら、全員にわかりやすく解説します。遅刻、欠席の無いように積極的に授業に参加してください。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業中の態度、積極的発言など</div><div>40%</div></div><div><div>(2) 課題作成</div><div>30%</div></div><div><div>(3) 試験</div><div>30%</div></div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・法を守る精神</div><div>・「公」と「私」</div><div>・権利と義務</div><div>・責任</div><div>・市民社会に生きる</div></div>		<div>教科書</div> <div>井上 正仁 『ポケット六法 平成28年版』（有斐閣）</div> <div>参考書</div>

欧米文学		EALI-0-101/HIST-0-1
担当教員： 塩谷 祐人		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 4 コード： 12B0031K
学部教育の関連目		授業計画
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. ガイダンス 02. 17世紀のフランスの童話作家シャルル・ペロー 03. シャルル・ペローの『眠れる森の美女』と『ろばの皮』 04. 18世紀のフランスの童話作家ボーモン夫人 05. ボーモン夫人の『美女と野獣』 06. 18世紀末から19世紀初頭のドイツの作家ホフマンの『くるみ割り人形』と『砂男』 07. ホフマンの『砂男』とフロイトの精神分析／フランスのオペラ、オッフェンバック作曲の『ホフマン物語』 08. ソフォクレスのギリシア悲劇『オイディプス王』の舞台化 09. 19世紀のフランスの作家ヴィクトル・ユゴーとその時代 10. ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』 11. フランス映画『レ・ミゼラブル』とミュージカル映画『レ・ミゼラブル』 12. 19世紀の歴史・冒険物語の作家アレクサンドル・デュマ 13. アレクサンドル・デュマの『三銃士』 14. 19世紀末に活躍したアイルランド出身の作家オスカー・ワイルドと世紀末のヨーロッパ 15. 世紀末文学とは何か？オスカー・ワイルドの『ドリアン・グレイの肖像』 16. 中間まとめ 17. 19世紀末のフランスの作家ガストン・ルルー 18. ガストン・ルルーの『オペラ座の怪人』 19. 小説とミュージカル、二つの『オペラ座の怪人』 20. 20世紀の偉大なるドイツ語圏の作家フランツ・カフカの『審判』と『変身』 21. カフカの作品の映画化や舞台化 22. 20世紀のフランスの作家サン＝テグジュペリ 23. サン＝テグジュペリの『星の王子さま』 24. 20世紀のフランスの詩人ジャック・プレヴェール 25. ジャック・プレヴェールと映画／フランスのアニメ映画『王と鳥』 26. 20世紀のフランスの哲学者・作家のジャン＝ポール・サルトルと実存主義 27. 20世紀のフランスの作家ジャン・コクトー 28. ジャン・コクトーの『恐るべき子どもたち』 29. ミラン・クンデラと世界文学 30. 総合まとめ
(2) 学びの意義と目標		
教養として知っておくべき有名な作家を知り、その作品から自身のことや社会のことを考えるための材料を手に入れる。また語り継がれてきている名作を通すことで想像力や表現力を養い、何よりも「文学」という言葉を使った芸術を楽しむ感受性と知識を得ることが目標です。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
常に何か新しい知識や見方を得ようとアンテナを張っている学生を望みます。		
学びのキーワード		
・ヨーロッパ文化 ・異文化理解 ・芸術 ・映画 ・文学		教科書 プリントを配布 参考書 講義内で内容毎に適宜指示する。

欧米文学		EALI-0-101/HIST-0-1
担当教員： 塩谷 祐人		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 4 コード： 12B0033K
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 17世紀のフランスの童話作家シャルル・ペロー 03. シャルル・ペローの『眠れる森の美女』と『ろばの皮』 04. 18世紀のフランスの童話作家ボーモン夫人 05. ボーモン夫人の『美女と野獣』 06. 18世紀末から19世紀初頭のドイツの作家ホフマンの『くるみ割り人形』と『砂男』 07. ホフマンの『砂男』とフロイトの精神分析／フランスのオペラ、オッフェンバック作曲の『ホフマン物語』 08. ソフォクレスのギリシア悲劇『オイディプス王』の舞台化 09. 19世紀のフランスの作家ヴィクトル・ユゴーとその時代 10. ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』 11. フランス映画『レ・ミゼラブル』とミュージカル映画『レ・ミゼラブル』 12. 19世紀の歴史・冒険物語の作家アレクサンドル・デュマ 13. アレクサンドル・デュマの『三銃士』 14. 19世紀末に活躍したアイルランド出身の作家オスカー・ワイルドと世紀末のヨーロッパ 15. 世紀末文学とは何か？オスカー・ワイルドの『ドリアン・グレイの肖像』 16. 中間まとめ 17. 19世紀末のフランスの作家ガストン・ルルー 18. ガストン・ルルーの『オペラ座の怪人』 19. 小説とミュージカル、二つの『オペラ座の怪人』 20. 20世紀の偉大なるドイツ語圏の作家フランツ・カフカの『審判』と『変身』 21. カフカの作品の映画化や舞台化 22. 20世紀のフランスの作家サン＝テグジュペリ 23. サン＝テグジュペリの『星の王子さま』 24. 20世紀のフランスの詩人ジャック・プレヴェール 25. ジャック・プレヴェールと映画／フランスのアニメ映画『王と鳥』 26. 20世紀のフランスの哲学者・作家のジャン＝ポール・サルトルと実存主義 27. 20世紀のフランスの作家ジャン・コクトー 28. ジャン・コクトーの『恐るべき子どもたち』 29. ミラン・クンデラと世界文学 30. 総合まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>主にヨーロッパの作家とその作品を紹介していきます。 本講義では、映画化や舞台化されている文学作品を選び、その作者の考えや時代背景、また映画との違いなどを見ながら、文学に慣れ親しんでいきます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>教養として知っておくべき有名な作家を知り、その作品から自身のことや社会のことを考えるための材料を手に入れる。また語り継がれてきている名作を通すことで想像力や表現力を養い、何よりも「文学」という言葉を使った芸術を楽しむ感受性と知識を得ることが目標です。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>前もって読んでおくべき資料や作品を指示するので、それをきちんと読んでおくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>常に何か新しい知識や見方を得ようとアンテナを張っている学生を望みます。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内で紹介した作品を積極的に読み、DVDなどで入手可能な昔の映画なども実際に観てみること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 40% 授業中の発言やリアクションペーパーでの意見、確認シートなどでの理解を評価します。 (2) 期末試験 60% 学期末に行う論述テストの点数で評価します。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ヨーロッパ文化・異文化理解・芸術・映画・文学</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

哲学		PHIL-0-101	
担当教員： 高橋 章仁			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目/選択科目
学部教育の関連目		単位： 4 コード： 12B0045K	
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ			
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（春学期）では、近代以降の哲学史の流れを、実際に哲学者が語ったテキストを通じて丹念にたどり、ともに考えながら、なるべくわかりやすく解説していきたいと思っている。なお、一人の哲学者の思想をじっくりと読みたいという人は、秋学期の「哲学」を受講されたい。			
(2) 学びの意義と目標			
取り上げる思想のどれもが、単なる過ぎ去った思想ではなく、現代にも十分通用しうるものを備えており、そこから学ぶべきところは決して少なくないはずである。この講義を通じて、受講者それぞれが、今の、そして、これからの自分の生きる糧となりうるような思想を見つけ出すことを期待している。			
受講者に対する要望			
テキストを忍耐強く読み進めていくという覚悟をもって受講してほしい。			
学びのキーワード			
・ 西洋哲学 ・ 哲学入門			
授業計画			
01. ガイダンスと哲学とは何か 02. 歴史的概観 03. デカルト（１）——近代的自我の確立 04. デカルト（２）——道徳の問題 05. スピノザ——エチカ 06. ライブニッツ——モナドロジー 07. パスカル——理性と信仰 08. イギリス経験論（１）——ロックとバークリ 09. イギリス経験論（２）——ヒューム 10. 功利主義——ベンサムとJ. S. ミル 11. カント（１）——理性の特殊な運命 12. カント（２）——義務と定言命法 13. フィヒテ——自我の三原則 14. ドイツ観念論の展開 15. ヘーゲル（１）——弁証法の確立 16. ヘーゲル（２）——自由と歴史 17. キルケゴール（１）——実存哲学の誕生 18. キルケゴール（２）——実存の三段階 19. ニーチェ（１）——強者の生 20. ニーチェ（２）——ニヒリズムを生きる 21. ハイデガー（１）——現存在と実存 22. ハイデガー（２）——死への存在 23. サルトル（１）——即自存在と対自存在 24. サルトル（２）——対他存在 25. 実存思想概観 26. ヤスパーズ（１）——交わり 27. ヤスパーズ（２）——限界状況・その１ 28. ヤスパーズ（３）——限界状況・その２ 29. マックス・ウェーバー——責任倫理 30. 理解度の確認			
準備学習(予習)			
毎回授業の最後に、次回取り上げる哲学者を伝達するので、何らかの哲学史の本などを利用して、その思想に関する予備的な知識を得ておくこと。詳しくは最初の授業のときに指示する。			
準備学習(復習)			
授業で提示されたテーマや事柄についてもう一度深く考え、可能なかぎり自分の言葉に置き換える努力してほしい。そうした言語化の作業を通じて、自身の立場や思想を明確にしていくことを求めたい。			
評価方法			
(1) 学期末試験		70% 教場での論述試験を行う。	
(2) 平常点		30% 出席・授業態度の他に、状況に応じて小テストを行う。	
教科書			
参考書			

哲学

PHIL-0-101

担当教員：高橋 章仁

学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 必修科目/選択科目 単位： 4 コード： 12B0047K

学部教育の関連目

【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ。

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（秋学期）では、20世紀ドイツの哲学者カール・ヤスパースの『哲学入門』（新潮文庫）を精読し、その思想を解説していく。「入門」を銘打った著作ではあるが、内容は必ずしも平易ではないので、哲学史的な知識をつねに確認しながら、読み進めていくことにしたい。なお、様々な哲学者のテキストを読みたいという人は、春学期の「哲学」を受講されたい。

(2) 学びの意義と目標

哲学の正確な知識を身につけることは必要であるが、単なる暗記に終始しては意味がない。テキストの内容理解を深めることはもちろんであるが、自らが主体的に哲学と向き合うことを通じて、哲学することの意義を体感してほしいと思っている。

受講者に対する要望

テキストを忍耐強く読み進めていくという覚悟をもって受講してほしい。

学びのキーワード

- ・西洋哲学
- ・哲学入門

授業計画

01. ガイダンスと予備的講義
02. 第1講「哲学とは何ぞや」(1)
03. 第1講「哲学とは何ぞや」(2)
04. 第1講「哲学とは何ぞや」(3)
05. 第2講「哲学の根源」(1)
06. 第2講「哲学の根源」(2)
07. 第2講「哲学の根源」(3)
08. 第3講「包括者」(1)
09. 第3講「包括者」(2)
10. 第3講「包括者」(3)
11. 第4講「神の思想」(1)
12. 第4講「神の思想」(2)
13. 第4講「神の思想」(3)
14. 第5講「無制約的な要求」(1)
15. 第5講「無制約的な要求」(2)
16. 第6講「人間」(1)
17. 第6講「人間」(2)
18. 第7講「世界」(1)
19. 第7講「世界」(2)
20. 第8講「信仰と啓蒙」(1)
21. 第8講「信仰と啓蒙」(2)
22. 第9講「人類の歴史」(1)
23. 第9講「人類の歴史」(2)
24. 第10講「哲学する人間の独立性」(1)
25. 第10講「哲学する人間の独立性」(2)
26. 第11講「哲学的な生活態度」(1)
27. 第11講「哲学的な生活態度」(2)
28. 第12講「哲学の歴史」(1)
29. 第12講「哲学の歴史」(2)
30. 理解度の確認

準備學習(予習)

次回読み進めることになる箇所を、予め読み込んでおくこと。そして、どこが分かって、どこが分からないかを把握したうえで、授業にのぞんでほしい。

準備學習(復習)

授業で提示されたテーマや事柄についても一度深く考え、可能な限り自分の言葉に置き換える努力してほしい。そうした言語化の作業を通じて、自身の立場や思想を明確にしていくことを求めたい。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------------------|
| (1) 学期末試験 | 70% | 教場での論述試験を行う。 |
| (2) 平常点 | 30% | 出席・授業態度の他、状況に応じて小テストを行う。 |

教科書

参考書

西洋史		HIST-0-101						
担当教員： 田中 史高								
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 必修科目/選択科目		単位： 4 コード： 12B0050K						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【A】グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. エーゲ文明 03. ポリスの成立と発展（スパルタとアテネ） 04. 古代ギリシアの古典文化 05. ヘレニズム史（アレクサンドロスの帝国と文化） 06. 共和政期のローマ 07. 帝政期のローマ 08. ゲルマン人の大移動と部族国家 09. ローマ・カトリック教会の発展 10. 十字軍の諸相 11. 封建社会（封建制と荘園制） 12. 西欧中世都市の成立と諸特質 13. 西欧中世の文化 14. イタリア・ルネサンス 15. 西欧諸国の国王巡行、小テスト(1) 16. ヨーロッパ世界の拡大（大航海時代） 17. 西欧諸国の宗教改革 18. 絶対主義（一般論的特徴、モスクワ大公国～ロシア帝国） 19. オランダ共和国の独立と繁栄 20. 市民革命（アメリカ独立革命） 21. ナポレオン時代 22. 西欧ユダヤ人の歴史 23. ドイツの統一とドイツ帝国成立、小テスト(2) 24. 第一次・第二次産業革命 25. 帝国主義（一般的特徴、イギリスの帝国主義） 26. 第一次世界大戦 27. ファシズムと第二次世界大戦 28. 20世紀の欧米諸文化 29. 20世紀後半の西欧諸国の動向とEUの成立・発展 30. 20世紀後半の東欧諸国の動向、小テスト(3)</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>この科目では、古代、中世、近世、近代、さらに現代へ、年代順にヨーロッパ史の重要な事象や人物などを論じていきます。毎回、講義の概要と図版のプリント（レジュメ、A3版）を配布します。また、10分ていど、視覚教材（DVD）を用いる予定です。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>西洋史の基本的な認識をつちかい確認する序論的講義です。全部で30回の内容は、毎回別々のテーマをあつかい、西洋史の基本的な流れをつかめるように配列してあります。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>高校で世界史を履修していた場合には、できればこの受講前に、その教科書を、西洋史関連の部分だけでもう一度目を通しておくとういでしょう。</div>						
		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回授業の最後10分ていどをあてて、配布レジュメに即した内容のまとめを作成し提出してもらいます。このまとめは、後日の提出も可とします。小テストへの準備作業もかねています。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>まとめの作成など、毎回の作業内容が多めなので、1回1回こまめにこなしていくように努力してください。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業出席点</td><td>25%</td></tr><tr><td>(2) 授業内容のまとめ</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 小テスト（3回）</td><td>50%</td></tr></table> <div>小テストは3回のうちの最高点をメインに評価します。</div>	(1) 授業出席点	25%	(2) 授業内容のまとめ	25%	(3) 小テスト（3回）	50%
(1) 授業出席点	25%							
(2) 授業内容のまとめ	25%							
(3) 小テスト（3回）	50%							
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 国家・ 宗教・ 社会制度・ 戦争・ 統合と分化</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>教科書は使わず、前記毎回のレジュメのほか、必要に応じて補足的な参考資料類もプリントを用意します。</div>						

西洋史		HIST-0-101	
担当教員：森 齊丈			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目/選択科目
単位： 4		コード： 12B0051K	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【A】グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める		01. 歴史とは何か？ 02. 古代オリエント 03. 地中海世界 04. 古代ギリシア 05. 共和政ローマ 06. 帝政ローマ 07. ローマ帝国の社会とキリスト教 08. ゲルマン世界の誕生 09. 中世ヨーロッパ 10. 十字軍とイスラム世界 11. 中世ヨーロッパの社会 12. キリスト教と世俗君主 13. ヨーロッパ世界の拡大 14. 大航海時代 15. ルネサンス 16. 宗教改革 17. 宗教戦争とウェストファリア条約 18. 絶対王政 19. 英米の革命 20. フランス革命 21. 産業革命と労働問題 22. 帝国主義と民族主義 23. 第一次世界大戦 24. 戦間期のヨーロッパ 25. 第二次世界大戦 26. 東西冷戦の開始から終結まで 27. 欧州統合の歴史 28. 冷戦後の世界 29. ポストコロニアリズムとグローバリズム 30. 現代の世界	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。 また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
西洋史は、西洋文化を学ぶ上で必要な基本的知識の宝庫であり、西洋文化がいかにして発展してきたかを知るために必須の分野であるとともに、社会に出たあと、現状を分析し必要な判断をするための基本的知識になるものである。 個々の事項を細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。		毎授業の最後に次回のテーマを発表するので、教科書の該当部分に目を通すことを勧める。大事なところは板書するので、各自プリント、ノート等書き込み、補足し復習するのが望ましい。	
		準備学習(復習)	
		授業で学んだ人物、事項についてプリント・ノート等を見ながら思い出せるようにするとよい。	
受講者に対する要望		評価方法	
講義中の私語は厳禁とする。携帯電話はマナーモード設定すること。		(1) 平常点 20% (2) 授業内レポート 20% (3) 小テスト1 20% (4) 小テスト2 20% (5) 小テスト3 20%	
学びのキーワード		教科書	
・ 歴史 ・ 西洋史 ・ 欧米文化		成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美緒、桑島 良平 『山川世界史総合図録』(山川出版社)	
		参考書	

西洋史		HIST-0-101							
担当教員： 田中 史高									
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目/選択科目						
単位： 4		コード： 12B0052K							
学部教育の関連目		授業計画							
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【A】グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める		01. オリエンテーション 02. エーゲ文明 03. ポリスの成立と発展（スパルタとアテネ） 04. 古代ギリシアの古典文化 05. ヘレニズム史（アレクサンドロスの帝国と文化） 06. 共和政期のローマ 07. 帝政期のローマ 08. ゲルマン人の大移動と部族国家 09. ローマ・カトリック教会の発展 10. 十字軍の諸相 11. 封建社会（封建制と荘園制） 12. 西欧中世都市の成立と諸特質 13. 西欧中世の文化 14. イタリア・ルネサンス 15. 西欧諸国の国王巡行、小テスト(1) 16. ヨーロッパ世界の拡大（大航海時代） 17. 西欧諸国の宗教改革 18. 絶対主義（一般的特徴、モスクワ大公国からロシア帝国） 19. オランダ共和国の独立と繁栄 20. 市民革命（アメリカ独立革命） 21. ナポレオン時代 22. 西欧ユダヤ人の歴史 23. ドイツの統一とドイツ帝国成立、小テスト(2) 24. 第一次・第二次産業革命 25. 帝国主義（一般的特徴、イギリスの帝国主義） 26. 第一次世界大戦 27. ファシズムと第二次世界大戦 28. 20世紀の欧米諸文化 29. 20世紀後半の西欧諸国の動向とEUの成立・発展 30. 20世紀後半の東欧諸国の動向、小テスト(3)							
カリキュラム上の位置付け									
(1) 内容									
この科目では、古代、中世、近世、近代、さらに現代へ、年代順にヨーロッパ史の重要な事象や人物などを論じていきます。毎回、講義の概要と図版のプリント（レジュメ、A3版）を配布します。また、10分ていど、視覚教材（DVD）を用いる予定です。									
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)							
西洋史の基本的な認識をつちかい確認する序論的講義です。全部で30回の内容は、毎回別々のテーマをあつかい、西洋史の基本的な流れをつかめるように配列してあります。		高校で世界史を履修していた場合には、できればこの受講前に、その教科書を、西洋史関連の部分だけでもう一度目を通しておくとういでしょう。							
		準備学習(復習)							
		毎回授業の最後10分ていどをあてて、配布レジュメに即した内容のまとめを作成し提出してもらいます。このまとめは、後日の提出も可とします。小テストへの準備作業もかねています。							
受講者に対する要望		評価方法							
まとめの作成など、毎回の作業内容が多めなので、1回1回こまめにこなしていくように努力してください。		<table><tr><td>(1) 授業出席点</td><td>25%</td></tr><tr><td>(2) 授業内容のまとめ</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 小テスト（3回）</td><td>50%</td></tr></table> <p>小テストは3回のうちの最高点をメインに評価します。</p>		(1) 授業出席点	25%	(2) 授業内容のまとめ	25%	(3) 小テスト（3回）	50%
(1) 授業出席点	25%								
(2) 授業内容のまとめ	25%								
(3) 小テスト（3回）	50%								
学びのキーワード		教科書							
<ul style="list-style-type: none">国家宗教社会制度戦争統合と分化		参考書							
		教科書は使わず、前記毎回のレジュメのほか、必要に応じて補足的な参考資料類もプリントを用意します。							

西洋史		HIST-0-101	
担当教員：森 齊丈			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目/選択科目
単位： 4		コード： 12B0053K	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【A】グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める		01. 歴史とは何か？ 02. 古代オリエント 03. 地中海世界 04. 古代ギリシア 05. 共和政ローマ 06. 帝政ローマ 07. ローマ帝国の社会とキリスト教 08. ゲルマン世界の誕生 09. 中世ヨーロッパ 10. 十字軍とイスラム世界 11. 中世ヨーロッパの社会 12. キリスト教と世俗君主 13. ヨーロッパ世界の拡大 14. 大航海時代 15. ルネサンス 16. 宗教改革 17. 宗教戦争とウェストファリア条約 18. 絶対王政 19. 英米の革命 20. フランス革命 21. 産業革命と労働問題 22. 帝国主義と民族主義 23. 第一次世界大戦 24. 戦間期のヨーロッパ 25. 第二次世界大戦 26. 東西冷戦の開始から終結まで 27. 欧州統合の歴史 28. 冷戦後の世界 29. ポストコロニアリズムとグローバリズム 30. 現代の世界	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。 また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
西洋史は、西洋文化を学ぶ上で必要な基本的知識の宝庫であり、西洋文化がいかにして発展してきたかを知るために必須の分野であるとともに、社会に出たあと、現状を分析し必要な判断をするための基本的知識になるものである。 個々の事項を細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。		毎授業の最後に次回のテーマを発表するので、教科書の該当部分に目を通すことを勧める。大事なところは板書するので、各自プリント、ノート等書き込み、補足し復習するのが望ましい。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
講義中の私語は厳禁とする。携帯電話はマナーモード設定すること。		授業で学んだ人物、事項についてプリント・ノート等を見ながら思い出せるようにするとよい。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 歴史 ・ 西洋史 ・ 欧米文化		(1) 平常点 20% (2) 授業内レポート 20% (3) 小テスト1 20% (4) 小テスト2 20% (5) 小テスト3 20%	
		教科書	
		成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美緒、桑島 良平 『山川世界史総合図録』(山川出版社)	
		参考書	

西洋史			
担当教員： 村瀬 天出夫			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 選択科目
		単位： 4	コード： 12B0054K
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. 古代オリエント世界 03. 古代ギリシアとヘレニズム 04. 古代ローマ帝国 05. 古代ユダヤ人 06. イランの古代国家 07. 西ヨーロッパ世界の成立 08. 中世の東ヨーロッパ 09. 中世後期のヨーロッパ 10. 近代文化の誕生 11. 近代初期の国際政治 12. 主権国家体制の確立 13. 大革命前夜のヨーロッパ 14. アメリカの独立戦争 15. フランス革命とナポレオン 16. 産業革命 17. ウィーン体制とその崩壊 18. ナショナリズムの発展 19. 大国主義の成立と列強の国内情勢 20. 植民地支配の拡大 21. 列強の対立激化と三国協定の成立 22. 第一次世界大戦 23. ロシア革命とヴェルサイユ体制 24. 大戦後のヨーロッパとアメリカ 25. 世界恐慌とファシズムの台頭 26. 第二次世界大戦 27. 二大陣営の対立 28. 米ソの動揺と多元化する世界 29. 20世紀末から21世紀へ 30. まとめとふりかえり</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業ごとに考えたことや疑問点を書いてもらう。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>個々の事項を細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業内で配布される資料・テキストを読んでください。また課題についても授業内で指示します。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業では毎回、出席票に授業内容についての疑問・意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 期末テスト60% (2) 授業への参加度40%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">西洋史欧米文化歴史</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>「世界の歴史」編集員編『もういちど読む山川世界史』山川出版社、2009年。</div>	

日本史			
担当教員： 松井 慎一郎			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
		単位：	4
		コード：	12B50320
学部教育の関連目		授業計画 01. はじめにーオリエンテーションー 02. 大塩平八郎は本当に民衆の味方なのか。 03. 幕府は黒船が来るのを知っていた？ 04. 幕末のヒーローたち 05. 西郷隆盛と大久保利通 06. 台湾と朝鮮 07. 「革命」を認めた幻の憲法 08. 歴史の舞台となった秩父 09. 「脱亜論」の真実 10. アジアで2 番目に制定された近代的憲法 11. なぜ大隈重信像は杖をついているのか。 12. すべてを失った内村鑑三の悲劇 13. 最初に朝鮮と戦った「日清戦争」 14. 「正露丸」誕生の背景 15. 漱石が書けなかった朝鮮 16. 『中央公論』を大雑誌に発展させた吉野作造 17. 五・四運動と三・一運動 18. 植民地は損であると主張した石橋湛山 19. 日本にもあった二大政党の時代 20. 満洲は本当に「我国の生命線」であったのか？ 21. 民意に反した枢密院の暗躍 22. 軍事クーデターを批判した河合栄治郎の戦闘性 23. 人気総理が招いた中国との戦争 24. 日本外交の混迷 25. なぜアメリカと戦う羽目になったのか。 26. 「大東亜共栄圏」建設のための戦争？ 27. 「玉砕」という作戦 28. 多くの生命と財産をを奪った空襲 29. 占領によって実現した民主化 30. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容 本講義では、幕末から敗戦までの約100年間の歴史を、できるだけ面白くわかりやすく解説する。政治史を中心に、中国・朝鮮との関係や思想家の言説についても詳しく触れる。			
(2) 学びの意義と目標 単に知識を得るのではなく、我々がこれから生きていくうえで必要な知恵を引き出すことができるような学びの場にしていきたい。		準備学習(予習) 各回で取り扱う事項に関する予備知識を得たうえで講義に臨むこと。	
		準備学習(復習) 授業終了後は、プリントを読み返すなどして、しっかり理解すること。	
受講者に対する要望 日本近現代史はもちろんのこと、現代の社会について関心がある者の受講を望む。		評価方法 (1) 期末試験 80% (2) 平常点 20%	
学びのキーワード ・ 日本近現代史 ・ 中国・朝鮮 ・ アジア認識 ・ 政治 ・ 思想		教科書 プリントを配布する。 参考書	

言語学		LING-0-101									
担当教員： 小林 茂之											
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12B50500									
学部教育の関連目 【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ		授業計画 01. 千年の歴史と五大陸への展開 (Video 1) 02. テキスト Ch.1 (1): An English-speaking World 03. テキスト Ch.1 (2): Nation Shall Speak Peace unto Nation 04. テキスト Ch.1 (3): The Best Kind of English 05. テキスト Ch.1 (4): The Voice of America 06. テキスト Ch.1 (5): The Network Standard 07. テキスト Ch.1 (6): English Where It's at 08. テキスト Ch.1 (7): Wealth, Wisdom and Strict Economy 09. 第1章のまとめ 10. 異文化との出会い (Video 2) 11. テキスト Ch.2 (1): The Mother Tongue 12. テキスト Ch.2 (2): The Making of English 13. テキスト Ch.2 (3): The Words of God 14. テキスト Ch.2 (4): The Norman Invasion 15. テキスト Ch.2 (5): Common Men Know No French 16. テキスト Ch.2 (6): Middle English 17. テキスト Ch.2 (7): First Founder and Embellisher of Our English 18. 第2章のまとめ 19. シェイクスピアの時代 (Video 3) 20. テキスト Ch.3 (1): A Muse of Fire 21. テキスト Ch.3 (2): The Bard of Avon 22. テキスト Ch.3 (3): Shakespearean Idioms 23. テキスト Ch.3 (4): The Authorized Version 24. 第3章のまとめ 25. スコットランド人海を渡る (Video 4) 26. 大英帝国の遺産 (Video 7) 27. 英語の未来 (Video 9) 28. テキスト Epilogue: Next Year's Words 29. 第25-27回, Epilogue のまとめ 30. 補足：英語史と映画									
カリキュラム上の位置付け											
(1) 内容 英語は、多くの日本人にとってもっとも身近な外国語である。しかし、英語はもともとブリテン島にやってきたゲルマン系部族の弱小な方言に過ぎず、世界語に発展するまでの過程には、歴史的変遷に伴う多くの変化が起きた。16Cに現代英語 (PDE) に近い初期近代英語 (EModE) が成立し、現代でも普通に用いられる最も古い英語訳聖書である欽定訳聖書は、初期近代英語による傑出した作品である。本講義では、BBC製作の日本語版DVDを楽しみながら、やさしい英語に書き直された教科書を読み進めていく。英国の風景をパワーポイントで楽しみながら、楽しく英語の歴史を紹介したい。また、実用的知識としても、イギリス英語とアメリカ英語が異なる理由を知るとは、英語学習に大変役立つ。											
(2) 学びの意義と目標 言語と文化との関係を歴史を通して学ぶ。英語を教養として学ぶことで、英語を学ぶ楽しさを経験する。		準備学習(予習) 教科書の進度に合わせて予習してくる。原文の日本語訳があるので、内容を把握しておく。									
		準備学習(復習) 受講者各自の必要に応じて、原文の日本語訳を活用する。									
受講者に対する要望 授業時に電子辞書などで調べてもらうので、必ず持ってくる。		評価方法 <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>30%</td><td>教科書を常に所持しないで、受講することは認められない。なお、随時、教科書を所持しているかをチェックする。</td></tr> <tr> <td>(2) 期末レポート</td><td>30%</td><td>期末にレポート作成用のブックリストを配布する。</td></tr> <tr> <td>(3) 授業への積極性</td><td>40%</td><td>課題へのレスポンス</td></tr> </table>	(1) 平常点	30%	教科書を常に所持しないで、受講することは認められない。なお、随時、教科書を所持しているかをチェックする。	(2) 期末レポート	30%	期末にレポート作成用のブックリストを配布する。	(3) 授業への積極性	40%	課題へのレスポンス
(1) 平常点	30%	教科書を常に所持しないで、受講することは認められない。なお、随時、教科書を所持しているかをチェックする。									
(2) 期末レポート	30%	期末にレポート作成用のブックリストを配布する。									
(3) 授業への積極性	40%	課題へのレスポンス									
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史言語学 ・ 英語文化史 ・ 古英語 (アングロサクソン語) ・ 中英語 ・ 初期近代英語 		教科書 寺澤 芳雄 『BBC：英語ものがたり』 (朝日出版社) 【978-4-255-15296-7】 参考書 授業時に指示する。									

言語学		LING-0-101
担当教員： 小林 茂之		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12B50505
学部教育の関連目		授業計画
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
英語は、多くの日本人にとってもっとも身近な外国語である。しかし、英語はもともとブリテン島にやってきたゲルマン系部族の弱小な方言に過ぎず、世界語に発展するまでの過程には、歴史的変遷に伴う多くの変化が起きた。16Cに現代英語（PDE）に近い初期近代英語（EModE）が成立し、現代でも普通に用いられる最も古い英語訳聖書である欽定訳聖書は、初期近代英語による傑出した作品である。本講義では、BBC製作の日本語版DVDを楽しみながら、やさしい英語に書き直された教科書を読み進めていく。英国の風景をパワーポイントで楽しみながら、楽しく英語の歴史を紹介したい。また、実用的知識としても、イギリス英語とアメリカ英語が異なる理由を知るとは、英語学習に大変役立つ。		01. 千年の歴史と五大陸への展開 (Video 1) 02. テキスト Ch.1 (1): An English-speaking World 03. テキスト Ch.1 (2): Nation Shall Speak Peace unto Nation 04. テキスト Ch.1 (3): The Best Kind of English 05. テキスト Ch.1 (4): The Voice of America 06. テキスト Ch.1 (5): The Network Standard 07. テキスト Ch.1 (6): English Where It's at 08. テキスト Ch.1 (7): Wealth, Wisdom and Strict Economy 09. 第1章のまとめ 10. 異文化との出会い (Video 2) 11. テキスト Ch.2 (1): The Mother Tongue 12. テキスト Ch.2 (2): The Making of English 13. テキスト Ch.2 (3): The Words of God 14. テキスト Ch.2 (4): The Norman Invasion 15. テキスト Ch.2 (5): Common Men Know No French 16. テキスト Ch.2 (6): Middle English 17. テキスト Ch.2 (7): First Founder and Embellisher of Our English 18. 第2章のまとめ 19. シェイクスピアの時代 (Video 3) 20. テキスト Ch.3 (1): A Muse of Fire 21. テキスト Ch.3 (2): The Bard of Avon 22. テキスト Ch.3 (3): Shakespearean Idioms 23. テキスト Ch.3 (4): The Authorized Version 24. 第3章のまとめ 25. スコットランド人海を渡る (Video 4) 26. 大英帝国の遺産 (Video 7) 27. 英語の未来 (Video 9) 28. テキスト Epilogue: Next Year's Words 29. 第25-27回, Epilogue のまとめ 30. 補足：英語史と映画
(2) 学びの意義と目標		準備学習 (予習)
言語と文化との関係を歴史を通して学ぶ。英語を教養として学ぶことで、英語を学ぶ楽しさを経験する。		
受講者に対する要望		
授業時に電子辞書などで調べてもらうので、必ず持ってくる。		
学びのキーワード		準備学習 (復習)
・ 歴史言語学 ・ 英語文化史 ・ 古英語（アングロサクソン語） ・ 中英語 ・ 初期近代英語		受講者各自の必要に応じて、原文の日本語訳を活用する。
		評価方法
		(1) 平常点 30% 教科書を常に所持しないで、受講することは認められない。なお、随時、教科書を所持しているかをチェックする。 (2) 期末レポート 30% 期末にレポート作成用のブックリストを配布する。 (3) 授業への積極性 40% 課題へのレスポンス
		教科書
		参考書
		授業時に指示する。

文学		JLIT-0-101	
担当教員： 上宇都ゆりほ			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 12B50610	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ		01. 授業概説、古典の色彩 02. 「伊勢物語」を読む（１）―成立について 03. 「伊勢物語」を読む（２）―時代背景と在原業平について 04. 「伊勢物語」を読む（３）―初段、第四段 05. 「伊勢物語」を読む（４）―第四段の史実と物語 06. 「源氏物語」を読む（１）―成立と時代背景 07. 「源氏物語」を読む（２）―義母への愛 08. 「源氏物語」を読む（３）―紫の上の苦悩と自立 09. 「源氏物語」を読む（４）―「宇治十帖」のテーマ 10. 「源氏物語」を読む（５）―母恋慕と「オイディプス王」 11. 「源氏物語」を読む（６）―「オイディプス王」と「阿闍世」 12. 「今昔物語集」を読む（１）―説話とは何か 13. 「今昔物語集」を読む（２）―成立と時代背景 14. 「今昔物語集」を読む（３）―「羅生門」の原話 15. 「今昔物語集」を読む（４）―姥捨て説話 16. 中間試験 17. 「平家物語」を読む（１）―成立について 18. 「平家物語」を読む（２）―武士とは何か 19. 「平家物語」を読む（３）―白拍子と清盛 20. 「平家物語」を読む（４）―熊谷直実の発心 21. 「平家物語」を読む（５）―頼朝と義経 22. 「平家物語」を読む（６）―平家の最期 23. 「曽根崎心中」を読む（１）―成立と時代背景 24. 「曽根崎心中」を読む（２）―大坂の町と花魁 25. 「曽根崎心中」を読む（３）―道行を読む 26. 「冥途の飛脚」を読む（１）―時代背景について 27. 「冥途の飛脚」を読む（２）―大坂から大和路へ 28. 「冥途の飛脚」を読む（３）―道行を読む 29. 「冥途の飛脚」を読む（４）―関連作品について 30. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
文学作品とは、人間の普遍的な精神活動を基盤として、政治のあり方や人々の暮らしなどの、社会的背景が深く関わって成り立つものである。とすれば、日本の古典文学に触れることを通して、日本の社会のあり方によって今とは異なるもの、反対に、何百年経っても変わらないものがわかるだろう。日本を知るために、文学作品を系統的に辿ってみよう。原文そのものに触れて、当時の人々の思想や暮らしに思いを馳せてみよう。現在の日本や日本人を考える時、日本の古典文学を知ることは、様々な価値観を相対化するための一つの物差しとなるはずである。			
(2) 学びの意義と目標			
文学研究を専門としない学生のための教養としての科目として位置づける。しかし文学を広く見渡し、時代と思想のあり方を考えるために複合的な視野を導入した講義を進める。講義では教科書、プリントの音読を学生自身にしてもらう他、授業で取り上げた作品に関するDVDなどを用いて、日本文化の立体的な把握に迫りたい。教科書は毎回学生に音読してもらうので、教科書・参考資料の予習は必須である。また、授業の習熟度を測るために毎回小さなレポートを書いてもらって平常点とするので、受講に際しては真剣に授業を聞くこと。様々な時代の古典文学作品について、立体的な視点を通して、当時の社会的背景を考え、日本人の思想の成り立ちを俯瞰し、普遍的な人間の精神に迫ることを目標とする。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
毎回授業で扱った内容について、小さなレポートを書いてもらい、それを平常点とするので、ただ出席しているだけでは単位は取れないとしっかり認識し、まじめに授業に取り組んでほしい。また、毎回古典作品を原文で音読してもらうので、予習・復習は必ずすること。他の学生の迷惑となるので、私語は厳禁する。		毎回、教科書や関連するプリントを数名に読んでもらうので、教科書を予習してくること。	
学びのキーワード		準備学習(復習)	
・ 日本古典文学 ・ 音読 ・ レポート ・ 日本人の思想		授業中に読めなかった文字やことばについては必ず復習すること。	
		評価方法	
		(1) 中間試験 30% (2) 学期末試験 30% (3) レポート 40%	
		毎回授業で扱った内容について、小さなレポートを提出してもらい、平常点とする。	
		教科書	
		小林保治 『あらすじで読む日本の古典』（新人物往来社）	
		参考書	

文学		JLIT-0-101
担当教員： 中島 佐和子		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12B50615
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス</div> <div>02. 樋口一葉の作品を読む（1）</div> <div>03. 樋口一葉の作品を読む（2）</div> <div>04. 樋口一葉の作品を読む（3）</div> <div>05. 樋口一葉の作品を読む（4）</div> <div>06. 田山花袋の作品を読む（1）</div> <div>07. 田山花袋の作品を読む（2）</div> <div>08. 田山花袋の作品を読む（3）</div> <div>09. 田山花袋の作品を読む（4）</div> <div>10. 夏目漱石の作品を読む（1）</div> <div>11. 夏目漱石の作品を読む（2）</div> <div>12. 夏目漱石の作品を読む（3）</div> <div>13. 夏目漱石の作品を読む（4）</div> <div>14. 芥川龍之介の作品を読む（1）</div> <div>15. 芥川龍之介の作品を読む（2）</div> <div>16. 芥川龍之介の作品を読む（3）</div> <div>17. 芥川龍之介の作品を読む（4）</div> <div>18. 宮沢賢治の作品を読む（1）</div> <div>19. 宮沢賢治の作品を読む（2）</div> <div>20. 宮沢賢治の作品を読む（3）</div> <div>21. 宮沢賢治の作品を読む（4）</div> <div>22. 金子みすゞの作品を読む（1）</div> <div>23. 金子みすゞの作品を読む（2）</div> <div>24. 金子みすゞの作品を読む（3）</div> <div>25. 田村俊子の作品を読む</div> <div>26. 太宰治の作品を読む（1）</div> <div>27. 太宰治の作品を読む（2）</div> <div>28. 俵万智の作品を読む（1）</div> <div>29. 俵万智の作品を読む（2）</div> <div>30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>明治から現代に至る短編小説を主にした近現代日本文学を講読する。作品を鑑賞し、時代背景を探り、小説技法を学ぶ。人は、自分ひとりで存在しているのではなく、必ず周囲の人々との関係性の中にある。文学を読むということは、様々な関係性を体験するということに他ならない。また文学は時代を映す鏡である。明治から現代に至る道筋を文学でたどる事によって、現在の私たちがどのような位置にいるのかを確認したい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>第一に、文学の楽しさを知ること。次に、様々な文学作品を読むことは、人間関係が希薄化し、いじめや引きこもりが問題になっている今の時代にあって、他者を思いやり、他者との関わりについて考える絶好の機会となるだろう。自分の今いる場が、唯一絶対のものではないということにも気づくはずである。さらに、明治以降の日本社会について考察し、漢字、語彙、慣用句などの知識を得ることによる日本語能力の増進と、創作技法を分析することによるメディアリテラシー（情報を読み取り発信する能力）の強化を図りたい。文学を通しての人間理解は、どのような専門科目を学ぶ者にも非常に有益である。（取り上げる作家・作品は変更する可能性があります。）</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業を漫然と受けるのではなく、積極的に参加して、発展的な学習をしてほしい。
</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・読書の楽しみ</div> <div>・人間</div> <div>・歴史</div> <div>・関係性</div>		
		<div>教科書</div>
		<div>参考書</div>

担当教員：坂巻 理恵子

学期：週間授 科目：教養科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：12B50855

学部教育の関連目

【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

2011年の東日本大震災で、秩序を保ち忍耐を持ってみんなのために尽くす日本人の姿は海外で絶賛されました。私たちは長いこと忘れていた日本人らしさを再認識したように思います。

本講義では、当たり前のようにまわりにある日本のよき文化について、言葉・文字という観点から考えます。後半は「和本」といわれる昔の書物を実際に手にとってみたり、出版の仕組みについてもふれてみたいと思っています。

また社会にでてからの素養となる基本的な日本語語彙についてのドリル学習、短い文章の作成・添削もあわせてやっていくつもりです。

(2) 学びの意義と目標

言葉を取りまく様々な文化について、これからの学びの糸口をつかむ入門的な授業とします。

日本の文化・伝統に興味を持ち理解を深めていくこと。そして自身がこれらを世界に、また後の世代の子供達に伝える担い手であるという自覚をひとりひとりにもってほしいと考えます。

受講者に対する要望

残念なことに毎年三分の一ほどの学生を落とすことになってしまいます。評価は厳しいと思ってください。きちんと出席し、授業に参加する気持ちのある学生を希望します。

学びのキーワード

授業計画

01. 授業ガイダンス
02. 言葉の力
03. ものの名称 (1)
04. ものの名称 (2)
05. 言葉の由来 (1)
06. 言葉の由来 (2)
07. 日本のしきたり (1)
08. 日本のしきたり (2)
09. 敬語について (1)
10. 敬語について (2)
11. 敬語について (3)
12. 漢字について (1)
13. 漢字について (2)
14. 平仮名・片仮名について (1)
15. 平仮名・片仮名について (2)
16. 物語を生み出す力
17. 日本の神話 (1)
18. 日本の神話 (2)
19. 日本の昔話 (1)
20. 日本の昔話 (2)
21. 中間試験 (語彙復習テスト)
22. 翻訳ということ (1)
23. 翻訳ということ (2)
24. 本のはなし (1)
25. 本のはなし (2)
26. 本のはなし (3)
27. 本のはなし (4)
28. 本のはなし (5)
29. 本のはなし (6)
30. まとめ

準備学習(予習)

毎回ワークの時間を設けます。必ず国語辞典または電子辞書を持参してください。知らないこと、あやふやなことはその場で調べて覚える。知らないうちに語彙力がつきます。

準備学習(復習)

授業で取り上げる語彙のプリントの内容は、社会に出た際に知っていなければ恥ずかしいものばかりです。必ず身に付けるという気持ちをもって、もう一度確認し復習しておくこと。
また配布するプリントはかなりの分量になります。きちんと整理保管しておくよう心がけてください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 授業時のワーク | 20% |
| (3) 中間試験 | 15% |
| (4) 課題レポート | 15% |

教科書

参考書

異文化間コミュニケーション（教養）

担当教員：鄭 鎬碩

学期： 週間授 科目：

必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 12B50910

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

わたしたちの日常には異質なもの（＝他者）との出会いであふれている。本講義では、多様な映像資料やテキストをもとに、異質性とどのような関係を築いていくかという視点から現代文化のダイナミズムについて学習する。

(2) 学びの意義と目標

- (1) 現代世界において文化とコミュニケーションが問われる文脈について理解する。
- (2) 異文化間コミュニケーションの基礎概念が分かる。
- (3) 映像資料や文献を批判的に読みとく力を鍛える。

受講者に対する要望

授業では講義のほか、小グループで討論を行い、短く発表してもらう。自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ 異文化
- ・ コミュニケーション
- ・ 他者
- ・ メディア
- ・ グローバリゼーション

授業計画

01. なぜ異文化間コミュニケーションが問題なのか
02. 文化とは何か
03. 野蛮と文明（１）
04. 野蛮と文明（２）
05. オリエンタリズム（１）
06. オリエンタリズム（２）
07. 練習・討論：異文化へのまなざし（１）
08. 練習・討論：異文化へのまなざし（２）
09. アイデンティティとは何か（１）
10. アイデンティティとは何か（２）
11. 自我と他者（１）
12. 自我と他者（２）
13. 言語とカテゴリー（１）
14. 言語とカテゴリー（２）
15. マイノリティとマジョリティ（１）
16. マイノリティとマジョリティ（２）
17. 多文化主義の挑戦（１）
18. 多文化主義の挑戦（２）
19. 練習・討論：アイデンティティと文化（１）
20. 練習・討論：アイデンティティと文化（２）
21. 公共性とは何か（１）
22. 公共性とは何か（２）
23. 公共性からの排除（１）
24. 公共性からの排除（２）
25. グローバリゼーションと民主主義（１）
26. グローバリゼーションと民主主義（２）
27. 練習・討論：異文化と公共性（１）
28. 練習・討論：異文化と公共性（２）
29. まとめ（１）
30. まとめ（２）

準備学習(予習)

受講生は、毎回の文献を予め読んで授業に参加する。

準備学習(復習)

授業で?学んだ内容を文章で?まとめ、自分のコメントを加えておく。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

講義内で紹介する。

演奏形式とその音楽

CHCL-0-101

担当教員：池上 真理子

学期：週間授 科目：教養科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：12C00725

学部教育の関連目

【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

西洋音楽史の概要を、作曲家、作品を軸としながら、時代背景、社会、文化、宗教など幅広い視点から学んでいきます。各時代の音楽に出来るだけ生きた形で触れられるよう、CD、DVD、画像資料なども多く取り上げます。様々な音楽に触れ、西洋音楽に親しむと同時に、社会・文化的な観点から音楽を学ぶことにより、人間にとって音楽とは何なのか、という本質的な問いを持ち、音楽に対する視野を広げてもらいたいと思います。

(2) 学びの意義と目標

「音楽は学ぶものではなく、感覚的に楽しむもの」と思っている人もいるかもしれませんが、しかし、他文化の音楽を真に理解し味わうためには、感覚的な好き嫌いではなく、その音楽の生まれた背景や音楽の文法を学ぶことが不可欠です。西洋において、音楽は古来、精神的素養や学問の対象、あるいはキリスト教の祈りの手段として、非常に知的な土壌の下に発展してきました。そのような多様な音楽のあり方を知ることにより、西洋音楽だけではなく様々な文化の音楽をより深く理解し、楽しむようになることを目指します。

受講者に対する要望

まずは各時代の音楽に馴染み、親しみを持つことが知的好奇心の出発点です。音楽に対する印象と知識が定着するよう、特に音楽史の各時代の特徴と流れに関しては、復習や繰り返し学習も随時行いますので、好奇心を持って積極的に学んで下さい。また講義、音楽を聴くマナーとして私語は厳禁です。

学びのキーワード

- ・西洋音楽
- ・西洋音楽史
- ・音楽様式
- ・作曲家

授業計画

01. ガイダンス、西洋音楽史の概略
02. 西洋音楽史概略
03. 音楽とは何か (1)
04. 音楽とは何か (2)
05. 音楽とは何か (3)
06. 古代ギリシアの音楽と音楽思想
07. 中世の音楽 (1)
08. 中世の音楽 (2)
09. ルネサンスの音楽 (1)
10. ルネサンスの音楽 (2)
11. バロックの音楽 (1)
12. バロックの音楽 (2)
13. バロックの音楽 (3)
14. 古典派の音楽 (1)
15. 古典派の音楽 (2)
16. 前半のまとめ
17. 古典派の音楽 (3)
18. ロマン派の音楽 (1)
19. ロマン派の音楽 (2)
20. ロマン派の音楽 (3)
21. 20世紀の音楽
22. ポピュラー音楽 (1)
23. ポピュラー音楽 (2)
24. ポピュラー音楽 (3)
25. 映画音楽 (1)
26. 映画音楽 (2)
27. 日本音楽と西洋音楽 (1)
28. 日本音楽と西洋音楽 (2)
29. 日本音楽と西洋音楽 (3)
30. ふりかえり

準備学習(予習)

授業で取り上げる内容に関して、予め調べたり、音楽を聴いておいて下さい。

準備学習(復習)

授業で学んだ内容を、ノートや配布資料、音楽などで復習し、定着させて下さい。

評価方法

- | | |
|--------------|-------------------------|
| (1) 学期末試験 | 50% |
| (2) 授業への取り組み | 50% 中間試験、リアクション・ペーパー など |

教科書

プリントを配布する

参考書

絵本文化		CHCL-0-101							
担当教員：上原 里佳									
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12C01040							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div>	<div>カリキュラム上の位置付け</div>	<div>授業計画</div> <div>01. イン트로ダクション ～絵本とは何か～ 初回アンケート 02. 絵本の画面展開・描写の手法 03. 世界の絵本の歩み 1 ～『世界図絵』からチャップ・ブックへ～ 04. 世界の絵本の歩み 2 ～近代絵本の発展・イギリスを中心に～ 05. 世界の絵本の歩み 3 ～ビアトリクス・ポターの登場～ 06. ポストモダンの絵本 1 ～ポストモダン絵本の登場～ 07. ポストモダンの絵本 2 08. ポストモダンの絵本 3 09. 子どもの発達と絵本 10. 赤ちゃん絵本 1 11. 赤ちゃん絵本 2 12. 幼児と絵本 13. 小・中学生と絵本 14. 視覚表現と色彩表現 15. 絵本の画材と技法 16. 日本の絵本の歩み 1 ～絵巻物から赤本まで～ 17. 日本の絵本の歩み 2 ～新しい時代の幕開け～ 18. 言葉の絵本 1 19. 言葉の絵本 3 20. 言葉の絵本 3 21. 文字なし絵本 1 22. 文字なし絵本 2 23. 文字なし絵本 3 ～物語を作ってみよう～ 24. 写真絵本 25. 数の絵本 26. 時間・比較の絵本 27. ファンタジー絵本 28. ナンセンス絵本・パロディ絵本 29. 統括・復習 30. 理解度の確認と振り返り</div>							
		<div>準備学習(予習)</div> <div>子ども時代に読んだ絵本を読み返しておくこと。日頃から絵本に触れる機会を積極的に増やし、絵本に馴染むようにしてください。様々なタイプの絵本を読むことで、授業の理解が深まります。大学図書館の他に、地元の図書館で検索・リクエストをかけるなど上手に活用しましょう。</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>絵本とは、「絵」と「文字」の絶妙なバランスによって成立する極めて特殊な文化であるため、その切り口も多様である。また、そこには物語だけでなく、自然科学、人間の在り方の基盤となる哲学などが、極力単純化された形で展開される。ここでは、絵本の歴史と発展を学びながら、できるだけ多くの絵本に触れその魅力と特徴について考えたい。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この講義は、幅広く深い教養を学ぶ観点から絵本文化を通して子どもの世界を知るための入門的なものである。 子ども時代に親しんできた絵本、現代の子どもたち（そして大人たち）が楽しんでいる絵本、世界の絵本を通して、子ども文化の一端を担う「絵本文化」の奥深さについて学ぶ。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義で解説した絵本は、図書館・書店などを利用し、各自必ず目を通すこと。特に、各回で紹介した作家の作品は、授業でとりあげた以外の絵本も積極的に読むようにすること。</div>							
		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>20%</td><td>授業中の途中退室は禁止します。体調不良など正当な理由がない場合、欠席扱いとなるので注意すること。</td></tr><tr><td>(2) コメントペーパーへの記入・回答</td><td>30%</td><td>出席確認だけでなく、講義理解度、積極性を判断し、成績に反映するものなので、必ず回答すること。</td></tr><tr><td>(3) 期末テスト</td><td>50%</td><td>期末テストでは、授業でとりあげた作品を既読であることを前提に出題します。</td></tr></table><div>復習、期末テストで必要となるので、講義中必ずノートをとること。最低必須出席日数が大学の規定に満たない場合は期末テストを受けることが出来ません。</div></div>	(1) 授業への参加度	20%	授業中の途中退室は禁止します。体調不良など正当な理由がない場合、欠席扱いとなるので注意すること。	(2) コメントペーパーへの記入・回答	30%	出席確認だけでなく、講義理解度、積極性を判断し、成績に反映するものなので、必ず回答すること。	(3) 期末テスト
(1) 授業への参加度	20%	授業中の途中退室は禁止します。体調不良など正当な理由がない場合、欠席扱いとなるので注意すること。							
(2) コメントペーパーへの記入・回答	30%	出席確認だけでなく、講義理解度、積極性を判断し、成績に反映するものなので、必ず回答すること。							
(3) 期末テスト	50%	期末テストでは、授業でとりあげた作品を既読であることを前提に出題します。							
<div>受講者に対する要望</div> <div>久しぶりに触れる絵本の世界から、子ども時代には気づかなかった新たな魅力を新鮮な気持ちで感じとり、その奥深さを考えていきましょう。多くの作品を読む必要があるので、絵本・読書に興味のある人の受講を希望します。
なお、授業開始後の退室は、体調不良など緊急時以外は認めません。同様に、私語など、他の受講生に迷惑がかかる行為があった場合も、欠席扱いとなることがあるので、注意すること。</div>	<div>学びのキーワード</div> <div>・ 絵本 ・ 幼児教育</div>	<div>教科書</div> <div>適宜、プリント配布</div> <div>参考書</div> <div>配布プリントはあくまでも補助的なものです。授業中の板書、プロジェクターでの説明が主になるので、各自必ずノートをとるようにして下さい。</div>							

障害児（者）の理解と社会		HUWL-0-101					
担当教員： 吉田 昌義							
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12C30220					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとられない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（授業内容・方法、学習方法等） 02. 障害の理解と教育（視覚障害） 03. 障害の理解と教育（聴覚障害） 04. 障害の理解と教育（知的障害） 05. 障害の理解と教育（肢体不自由） 06. 障害の理解と教育（病弱） 07. 障害の理解と教育（発達障害） 08. 障害児の教育の歴史と今後 09. 障害と医学（胎児診断の問題）講義 10. 障害者の権利条約 11. 障害者の権利条約 12. 障害者の社会生活（バリアフリー・ユニバーサルデザイン）講義 13. 障害者の社会生活の課題とレポート発表・協議 14. 障害者の社会福祉制度（手帳・年金・施設等） 15. 障害者の社会生活（契約、選挙権、氏名等の筆記等） 16. 障害者の社会生活の課題とレポート発表・協議 17. 障害者の福祉機器 18. 福祉機器に関するレポート発表と協議 19. 障害者と労働（職業訓練、雇用促進・雇用率、最低賃金） 20. 障害者と労働の課題についてのレポート発表・協議 21. 障害者と犯罪（取調べ段階における問題、責任能力、累犯等） 22. 障害者と犯罪に関するレポート発表・協議 23. 戦争と障害者（地雷・枯葉剤等） 24. 薬物と障害者（サリドマイド、水銀中毒等） 25. 差別用語問題 26. いじめ問題，障害者虐待 27. 障害者の理解推進 28. 障害者の理解推進のレポート協議・発表 29. インクルーシブ教育 30. まとめ</div>					
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>今日、共生社会の形成が求められており、その実現に向けて、障害者の権利条約の批准について障害者の諸制度改革が行われている。今後の共生社会の形成を目指して、一層の視野を拡げるために、障害者の社会生活を直視し、その諸問題を明らかにしながら、共生社会のあるべき姿を考える。 授業では、講義のほか、各課題に沿った調査等のレポート（約7～8回）を提出・発表し、協議を通して、あるべき姿や、今後の問題解決の方向を検討する。</div> <div>【共生社会】共生社会とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。</div>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div><学びの意義> 障害者の社会生活における医療・福祉・労働・社会生活等における今日的な諸問題を明らかにし、諸制度等の基本的な考え方を押さえながら、望ましい共生社会の実現に向けた方向を探る。</div> <div><目標> 1 共生社会の実現に向けて、障害の種類や程度により、どのような指導や支援、配慮が必要であるかを理解する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業の資料は、あらかじめ配布するので、必ず目を通すとともに、重要な事項は調べておくこと。</div>					
<div>受講者に対する要望</div> <div>1 新聞やテレビで報道される障害者問題，児童問題，高齢者問題に関心を持って視聴し，問題の背景や解決方法等について考えて欲しい。
2 年齢・性別・障害の有無に限らず，個人の尊厳が尊重され，共に助け合い，一人一人が生き甲斐を持って生活することができる社会とは，どのような社会であるかを，考えて欲しい。
3 授業時の飲食・携帯電話，私語は禁止する。
</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>配布資料やレポートに眼を通し，授業内容を振り返り，理解を図ること。</div>					
		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) レポート</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 試験</td><td>60%</td></tr></table></div> <div>成績評価全体に対するコメント
1 レポートは必ず提出のこと。
</div>		(1) レポート	40%	(2) 試験	60%
		(1) レポート	40%				
(2) 試験	60%						
<div>教科書</div> <div>資料を配布</div> <div>参考書</div>							
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 障害者 ・ 教育・福祉・労働 ・ 共生社会</div>							

障害児(者)の理解と社会		HUWL-0-101	
担当教員： 吉田 昌義			
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12C30230	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとられない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（授業内容・方法，学習方法等） 02. 障害の理解と教育（視覚障害） 03. 障害の理解と教育（聴覚障害） 04. 障害の理解と教育（知的障害） 05. 障害の理解と教育（肢体不自由） 06. 障害の理解と教育（病弱） 07. 障害の理解と教育（発達障害） 08. 障害児の教育の歴史と今後 09. 障害と医学（胎児診断の問題）講義 10. 障害者の権利条約 11. 障害者の権利条約 12. 障害者の社会生活（バリアフリー・ユニバーサルデザイン）講義 13. 障害者の社会生活の課題とレポート発表・協議 14. 障害者の社会福祉制度（手帳・年金・施設等） 15. 障害者の社会生活（契約，選挙権，氏名等の筆記等） 16. 障害者の社会生活の課題とレポート発表・協議 17. 障害者の福祉機器 18. 福祉機器に関するレポート発表と協議 19. 障害者と労働（職業訓練，雇用促進・雇用率，最低賃金） 20. 障害者と労働の課題についてのレポート発表・協議 21. 障害者と犯罪（取調べ段階における問題，責任能力，累犯等） 22. 障害者と犯罪に関するレポート発表・協議 23. 戦争と障害者（地雷・枯葉剤等） 24. 薬物と障害者（サリドマイド，水銀中毒等） 25. 差別用語問題 26. いじめ問題，障害者虐待 27. 障害者の理解推進 28. 障害者の理解推進のレポート協議・発表 29. インクルーシブ教育 30. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>今日，共生社会の形成が求められており，その実現に向けて，障害者の権利条約の批准について障害者の諸制度改革が行われている。今後の共生社会の形成を目指して，一層の視野を拡げるために，障害者の社会生活を直視し，その諸問題を明らかにしながら，共生社会のあるべき姿を考える。 授業では，講義のほか，各課題に沿った調査等のレポート（約7～8回）を提出・発表し，協議を通して，あるべき姿や，今後の問題解決の方向を検討する。</div> <div>【共生社会】共生社会とは，これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が，積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあい，人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div><学びの意義> 障害者の社会生活における医療・福祉・労働・社会生活等における今日的な諸問題を明らかにし，諸制度等の基本的な考え方を押さえながら，望ましい共生社会の実現に向けた方向を探る。</div> <div><目標> 1 共生社会の実現に向けて，障害の種類や程度により，どのような指導や支援，配慮が必要であるかを理解する。</div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>1 新聞やテレビで報道される障害者問題，児童問題，高齢者問題に関心を持って視聴し，問題の背景や解決方法等について考えて欲しい。
2 年齢・性別・障害の有無に限らず，個人の尊厳が尊重され，共に助け合い，一人一人が生き甲斐を持って生活することができる社会とは，どのような社会であるかを，考えて欲しい。
3 授業時の飲食・携帯電話，私語は禁止する。
</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業の資料は，あらかじめ配布するので，必ず目を通すとともに，重要な事項は調べておくこと。</div>	
<div>準備学習(復習)</div> <div>配布資料やレポートに眼を通し，授業内容を振り返り，理解を図ること。</div>			
<div>評価方法</div> <div>(1) レポート 40% (2) 試験 60%</div> <div>成績評価全体に対するコメント
1 レポートは必ず提出のこと。
</div>			
<div>教科書</div>			
<div>参考書</div>			
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 障害者 ・ 教育・福祉・労働 ・ 共生社会</div>			

心理学概論		PSYC-0-102
担当教員： 中原 純		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12C50220
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 心をどう捉えるか？：心理学の見方・考え方 02. 自分とは何か？(1)：自己を知る 03. 自分とは何か？(2)：社会の中での自己 04. 血液型は語るか？：パーソナリティ 05. 社会から個人へのみえない影響 06. 人を助けるとき：援助行動の心理 07. 人と人をむすぶ：対人的コミュニケーション 08. 他人を理解する：第一印象、対人認知、対人関係を築く 09. 脳の機能と心理学 10. 記憶のメカニズム 11. 学習すること 12. 見えている世界は真実か？(1)：知覚認知の働き 13. 見えている世界は真実か？(2)：図と地、錯視 14. 注意と思考 15. まとめ(1) 16. 動機づけと欲求 17. 泣くから悲しい？悲しいから泣く？ 18. 生涯を通した発達：発達課題 19. 赤ちゃんに出来ること 20. 赤ちゃんがかわいいのはなぜ？：愛着の発達、ベビーシエマ 21. ことばの発達 22. 学校への適応：家族以外の他者との関わり 23. 反抗期とは？ 24. 職業選択と就労への適応 25. ストレス社会を乗り切る 26. 人生をまとめる 27. カウンセリングとは？ 28. 様々な心理療法 29. 心理状態をアセスメントする 30. まとめ(2)</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】社会福祉主事任用資格：選択科目 【全】認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>多くの人が『人のこころが読めたらいいのにな』と考えたことがあると思います。「心理学」とは文字通り、「こころ」を「理解」することを目指す「学問」です。物理学や化学と同じように、人のこころの働きやその仕組み、知覚、記憶、対人関係、感情、発達、パーソナリティなどの様々な「こころ」を、実験や調査、面接といった科学的な方法を用いて研究を行う学問の1つです。この「心理学概論」では、受講生の興味関心を内容に含めつつ、心理学という学問を広く取り上げ、各分野で研究されている「こころ」の捉え方について紹介し、一緒に学んでいきたいと思います。基本的には講義が中心ですが、回によってはアンケート形式の心理検査を実施したり、簡単な実験のような内容を含むことがあります。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>心理学に関心をもつ最初の一步となるよう、講義を通じて心理学の基本的な知識・考え方を身に付けてもらいたいと考えています。また、講義を通じて、自分自身や周囲の他者の「こころ」を考える機会があると思います。心理学に触れる中で、そういった自己理解・他者理解のきっかけとなるような体験を逃さないよう、授業に参加するように心がけてください。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>特に必要はありません。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>成績の評価には、授業内容に関する小レポートの提出が大きく反映されます。欠席は極力しないようにしてください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>試験での成績評価を行うため、各回の配布資料等を保管し、復習が可能なように心がけてください。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業内容に関する小レポート 50% (2) 試験 50% 持ち込み不可の試験を行います。</div> <div>第1回目の講義で評価方法の説明を行いますので、受講を考えている場合にはできるだけ出席するようにしてください。</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・社会心理学 ・認知心理学 ・発達心理学 ・教育心理学 ・臨床心理学</div>		

福祉環境学		HUWL-0-102	
担当教員： 山田 義文			
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12C50635	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ		01. オリエンテーション スケジュールと講義概要、講義のねらいと成績評価について 02. 福祉環境学を学ぶ意義と社会における位置付け 03. 福祉に関する基本的な考え方 04. ノーマライゼーションの考え方 05. 人間の生活機能と私たちを取り巻く様々なバリアの分析 06. 障がいを持つ人の身体的特性と行動特性に関する基礎的事項 07. 車いすを利用する方々の生活環境 08. 視覚に障がいを持つ方々の生活環境 09. 障がいを持つ方々の生活環境改善 環境整備の方法と事例紹介 10. 実習 障がいを持つ人の立場に立ったキャンパス環境の検証（１） 実習の意義及び課題の説明と実習 11. 実習 障がいを持つ人の立場に立ったキャンパス環境の検証（２） プレゼンテーションの作成、改善案の考察、指導、質疑 12. 実習 障がいを持つ人の立場に立ったキャンパス環境の検証（３） 代表学生による発表とまとめ 13. 高齢者の身体的特性と行動特性に関する基礎的事項 14. 高齢者の生活環境（１） 環境整備の方法 15. 高齢者の生活環境（２） 事例紹介 16. 高齢の人や障がいを持つ方々への社会的支援 17. 介護保険制度とは 18. 介護保険制度を利用した高齢者住宅改修の現状と課題 19. バリアフリーデザインに関する基本的な考え方 20. ユニバーサルデザインに関する基本的な考え方 21. 身近な製品やサービスに見るユニバーサルデザインのプロセス 22. バリアフリー新法と福祉のまちづくり条例 23. 高齢者の居住環境におけるユニバーサルデザインの適用状況 24. 医療施設におけるユニバーサルデザインの適用状況 25. 実習 身近な環境におけるユニバーサルデザインの達成度に関する検証（１） 実習の意義及び課題の説明と実習 26. 実習 身近な環境におけるユニバーサルデザインの達成度に関する検証（２） プレゼンテーションの作成、指導、質疑応答 27. 実習 身近な環境におけるユニバーサルデザインの達成度に関する検証（３） 代表学生による発表とまとめ 28. 世界の福祉環境（１） 北欧諸国における社会福祉 29. 世界の福祉環境（２） ノルウェーにおけるサイン計画と高齢者の居住環境に関する事例 30. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
皆さんはそれぞれに趣味や生きがいを持ち、様々な製品やサービス、情報、建物や交通機関などを利用しながら毎日を過ごしていることと思います。しかし、それらを利用した時に不便に感じた経験も少なくないかと思えます。その悩みは、障がいを持つ人や高齢の人も全く同じです。福祉環境学の講義では、高齢者や障がいを持つ人に限らず、皆さんも含めた誰にでも便利で快適な環境を実現するための具体的な改善手法に関して考察を重ねてゆきます。			
(2) 学びの意義と目標			
様々な立場の人々が抱くバリアを実体験として捉え、皆さん自身が考える福祉環境像を提言できるよう、体験型の実習も実施します。今後も、常にすべての人々が安全で快適な環境を構築するための大切な意識を持ち続けられるようになることを目標とします。		準備学習(予習)	
		シラバスの授業計画の中に含まれる福祉環境に関わる用語の意味や背景を各自で調べ、講義前により深く学びたい部分を明確にしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		講義で紹介した事例を身近な環境の中で問題意識を持ちながら各自で見つめ直し、考察を深めてゆくこと。関連する参考図書や新聞記事等の中で紹介されている最新の事例にも目を向けることが望ましい。節目ごとにテーマを決め、各自でリアクションペーパーに考察する機会を設けます。その内容を書画カメラを用いて全体にも紹介します。他の学生の考察内容と比較することを通じ、復習と同時に自身の考察をさらに深めること。	
受講者に対する要望		評価方法	
数値や専門用語などを暗記するのではなく、講義で紹介した事例を身近な環境の中で問題意識を持ちながら各自で検証してください。困ったことや質問などが生じた場合は、気軽に相談してください。グループワークも適宜織り交ぜます。学年や学科の枠を超え、活発に意見交換をしながら相互に高めあえる講義環境づくりに協力してください。		(1) 平常点 30% 考察の深さ、発表、自主的な検証、グループワークの取組 (2) 演習課題に対する取り組み 30% 実習レポート２編 (3) 定期試験 40% 暗記ではなく、独自の独自の分析や考え方を見る。	
		出席が3分の2以下の場合は、単位を認定しません。	
学びのキーワード		教科書	
・ 高齢者 ・ 障がい者 ・ 生活環境 ・ バリアフリー ・ ユニバーサルデザイン		参考書	

社会福祉概論		SWEL-0-101
担当教員：山本 博之		
学期：週間授 科目：教養科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：12C50755
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 社会福祉を理解する視点Ⅰ：社会福祉とは 02. 社会福祉を理解する視点Ⅱ：狭義、広義の社会福祉 03. 社会福祉の思想・理念 04. 欧米の社会福祉の歴史 05. 日本の社会福祉の歴史 06. 技術としての社会福祉の展開Ⅰ：近代 07. 技術としての社会福祉の展開Ⅱ：現代 08. 日本の社会保障制度 09. 社会福祉の機関と施設 10. 高齢者と社会福祉Ⅰ：高齢者の心理社会的困窮と社会福祉 11. 高齢者と社会福祉Ⅱ：高齢者福祉の現状と課題 12. 障害者と社会福祉Ⅰ：身体障害者と社会福祉 13. 障害者と社会福祉Ⅱ：知的障害者と社会福祉 14. 障害者と社会福祉Ⅲ：精神障害者と社会福祉 15. 医療と社会福祉Ⅰ：慢性疾患の時代における医療福祉の現状 16. 医療と社会福祉Ⅱ：慢性疾患の時代における医療福祉の課題 17. 低所得者と社会福祉 18. 事例を通じた低所得者支援の現状と課題 19. ホームレス状態にある人と社会福祉 20. 事例を通じたホームレス状態にある人への支援の現状と課題 21. 子どもと社会福祉 22. 事例を通じた子どもへの支援の現状と課題 23. 就労支援と社会福祉 24. 事例を通じた就労支援の現状と課題 25. 社会福祉実践（ソーシャルワーク）における連携 26. 事例を通じた連携の現状と課題 27. 社会福祉専門職に必要とされる価値：社会福祉専門職の倫理 28. 事例を通じた倫理的ジレンマについて 29. まとめ 30. 試験</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本授業では、「社会福祉」を全般的に学ぶ。一口に「社会福祉」といっても、その範囲は非常に広い。授業においては、まず一般的な社会福祉を理解する視点を学び、理念、歴史、思想、制度といった基礎的な内容を学ぶ。その後、対象者や社会問題ごとのテーマを取り上げ、支援の現状について具体的な理解を深める。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>日ごろから、社会福祉の関心を持ち、新聞や電子媒体等で社会福祉に関する記事を積極的に目を通すように心がけること。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本授業は、これから社会福祉/ソーシャルワークについて専門的な学びを行おうとする学生の基礎科目と位置つける。生活に密接に関わっている社会福祉の基礎とより新しい情報もふまえながら学ぶことを目的とする。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>高い集中力と緊張感を維持しながら授業に出席すること。授業とは関係のない作業をしている学生については厳格に対処する。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ内容をしっかり復習し、整理すること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・社会福祉 ・ソーシャルワーク</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業に対する積極的参加態度 30% (2) 試験 70%</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

担当教員：戸邊 治朗

学期：週間授 科目：教養科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：12D00200

学部教育の関連目

【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本が多文化社会に更に進むのは不可避です。しかし日本人にとっては未知の世界で、何もかもが初めての経験で不能化する恐れがでてきました。次代を担う世代が対岸視せず当事者として登場するにはどうするか、有効な情報の入手が急務です。本講座では未来への扉の前に立つことを主眼にします。

(2) 学びの意義と目標

ヨーロッパの多文化経験国の問題、アジアの多文化社会の実状を見ることは、大いに参考になり示唆的なもので、まず世界の現実と問題点に立脚すること。未知・社会に出るにあたってしっかりと備えをしておくことを目標とする。

受講者に対する要望

受け身で講義を聴くのではなく、アクティブに情報を入手することを望む。特に世界を広く鳥瞰する態度を日に日に強めていってほしい。授業前に新しい情報をゲットして報告できる状態で臨んでほしい。発表の機会があります。

学びのキーワード

- ・多文化社会・コーディネート
- ・多文化社会と経済活動
- ・異民族と文化
- ・多宗教と文化
- ・日本社会の特徴

授業計画

01. 授業全体のイメージをもとに多文化社会をイメージする
02. 多民族国ドイツ・カナダなどを例にとり問題点などを検証する
03. 自分が起業することを考える
04. 起業家から話を聞く①
05. 2. 4のまとめ・討論
06. 起業家との討論
07. アジアにおける多民族と多文化社会の問題把握
08. 外部起業家の話・体験から学ぶ②
09. 8のまとめと有志のモデル案発表
10. 起業家の話③
11. パネルディスカッション
12. まとめと発展
13. パネルディスカッション
14. まとめ小論作成
15. まとめ

準備学習(予習)

多文化社会国の情報をあらかじめ収集アトランダムで可

準備学習(復習)

実社会とくに国際社会で起きていることを検証しておく

評価方法

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| (1) レポート | 60% どれだけ新しい観点/視点を取り入れられたか実践的視点の有無 |
| (2) 討論参加 | 40% 積極的な参加度、独走性創造性など |

教科書

参考書

プリントなどを使う

共生を考える		INTD-0-100							
担当教員： 阿久戸 光晴									
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 選択科目						
単位： 2		コード： 12D00300							
学部教育の関連目		授業計画							
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ		01. この講義のオリエンテーション「共生とは何か？」 02. 「イスラム国 (ISIS) のテロリズム」に関する学生グループによる調査発表・グループ討論・総括 03. 「米軍などによるテロリスト爆撃」に関する学生グループによる調査発表・グループ討論・総括 04. 「欧州シリア難民事件」に関する学生グループによる調査発表・グループ討論・総括 05. 「宗教対立、特に十字軍戦争」に関する学生グループによる調査発表・グループ討論・総括 06. 中間総括① 07. 「日本国内でのいじめ事件①（学校内）」に関する学生グループによる調査発表・グループ討論・総括 08. 「日本国内でのいじめ事件②（学校外）」に関する学生グループによる調査発表・グループ討論・総括 09. 「日本国内での福祉施設虐待事件」に関する学生グループによる調査発表・グループ討論・総括 10. 「日本国内でのヘイト・スピーチ事件」に関する学生グループによる調査発表・グループ討論・総括 11. 中間総括② 12. 共生の本質「寛容」 13. 共生の歴史的起源 14. 共生の現代的実践課題 15. 全体総括							
カリキュラム上の位置付け									
(1) 内容									
海外でも国内でも様々で深刻な社会対立や流血が生まれている。こうした中で、私たちは、本当の平和を希求し、今こそ「共生」をテーマに、私はこの授業で皆さんと一緒に考えたいと思う。									
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)							
社会に出て行って、複雑にもつれた人間関係の中で生きねばならないことの多いであろう皆さんが、この科目を学ぶことによって、考える方法を身につけることを目標とする。		毎回資料を配布するので、予習として事前に必ず目を通しておくこと。またグループを編成し、グループによる調査発表をする際に予習学習が必要となる。							
		準備学習(復習)							
		復習として、理解度を確認するために、過去の授業での主題を想起させ、レスポンスペーパーに書いてもらうことがある。							
受講者に対する要望		評価方法							
毎回の授業につながりを持たせていくので、積極的出席を期待する。また資料を豊富に用意するので、必ず事前に目を通しておいてほしい。		<table><tr><td>(1) 毎回のレスポンスペーパー、出席点</td><td>併せて</td></tr><tr><td>(2) 調査発表</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 最終定期試験</td><td>50%</td></tr></table> (1)～(3)を総合して評価する。		(1) 毎回のレスポンスペーパー、出席点	併せて	(2) 調査発表	25%	(3) 最終定期試験	50%
(1) 毎回のレスポンスペーパー、出席点	併せて								
(2) 調査発表	25%								
(3) 最終定期試験	50%								
学びのキーワード		教科書							
・共生 ・平和 ・正義 ・寛容 ・赦し		参考書							
		特に指定せず、授業の中で前の週にプリントを配布する。							

情報と社会

担当教員：鄭 鎬碩

学期： 週間授 科目：

必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 12D00510

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義ではマス・メディアと社会変容について学習する。文献、記事、映像など多様な資料をとおり、社会と情報のあり方についての歴史的な知識を習得し、社会変容にダイナミックに関わるマス・メディアの諸側面について考えていく。

(2) 学びの意義と目標

- (1) マス・メディアと社会変容を考えるための基礎知識を身につける。
- (2) 文献や映像資料を批判的に読みとく力を鍛える。

受講者に対する要望

授業では講義のほか、小グループで討論を行い、短く発表してもらい、自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ マス・メディア
- ・ 社会変容
- ・ グローバリゼーション
- ・ 社会運動

授業計画

01. イントロダクション：歴史のなかの情報メディア（1）
02. イントロダクション：歴史のなかの情報メディア（2）
03. 印刷革命と宗教改革（1）
04. 印刷革命と宗教改革（2）
05. 新聞とナショナリズム（1）
06. 新聞とナショナリズム（2）
07. コーヒーハウスと公共圏（1）
08. コーヒーハウスと公共圏（2）
09. 練習・討論①
10. 練習・討論②
11. マス・メディアと民主主義（1）
12. マス・メディアと民主主義（2）
13. マス・メディアと戦争（1）
14. マス・メディアと戦争（2）
15. 練習・討論③
16. 練習・討論④
17. 反植民地主義運動とマス・メディア（1）
18. 反植民地主義運動とマス・メディア（2）
19. 公民権運動とテレビ（1）
20. 公民権運動とテレビ（2）
21. 練習・討論⑤
22. 練習・討論⑥
23. マス・メディアとジャーナリズム（1）
24. マス・メディアとジャーナリズム（2）
25. テロリズムとマス・メディア（1）
26. テロリズムとマス・メディア（2）
27. 練習・討論⑦
28. 練習・討論⑧
29. まとめ（1）
30. まとめ（2）

準備学習(予習)

受講生は、毎回の文献を予め読んで授業に参加する。

準備学習(復習)

授業で?学んだ内容を文章で?まとめ、自分のコメントを加えておく。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

講義内で紹介する。

経済学研究							
担当教員： 柴田 武男							
学期： 集中講		科目：	必修・選択：				
学部教育の関連目							
カリキュラム上の位置付け							
(1) 内容		授業計画					
<p>本講義では、修士論文作成のために必要とされる経済学に関する理解力の強化を目標とする。日本経済新聞の「経済教室」をテキストとして、そこで展開されるトピックスから理論的背景を説明し、論文執筆のために必要とされる論旨の読解力と批判的理解力も涵養したい。</p> <p>＜講義概要＞</p> <p>論文作成に何より必要なのは、批判的理解力である。批判的理解力とは、論者の主張をまず正確に理解し、そのうえで論理の矛盾や欠陥を指摘して、内容を的確に評価する知的作業のことである。論文作成に不可欠なものである。徹底した「経済教室」の読み込みと、担当教員を交えた受講者全員との相互の議論で、批判的理解力とは何か、その一端を解き明かしていく。講義担当期間の日本経済新聞掲載の「経済教室」を教材として使用する。</p>		<p>01. 講義の概要についての説明、および担当教員による経済論文の読解の仕方を教示</p> <p>02. 担当教員の論文を用いての読解講座 その2</p> <p>03. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 1</p> <p>04. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 2</p> <p>05. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 3</p> <p>06. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 4</p> <p>07. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 5</p> <p>08. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 6</p> <p>09. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 7</p> <p>10. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 8</p> <p>11. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 9</p> <p>12. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 10</p> <p>13. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 11</p> <p>14. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 12</p> <p>15. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 13</p>					
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)					
<p>日本経済新聞の経済教室を集中的に読解していくことで、経済論文の論理が読み取る能力が養われ、論文作成時に参考となることを目標とする。</p>		<p>月曜から金曜まで掲載される日本経済新聞「経済教室」は必ず読むこと。経済用語は必ず事前に調べて内容を把握すること。</p>					
		準備学習(復習)					
		<p>講義中に理解困難な経済の専門用語については必ず復習しておくこと。</p>					
受講者に対する要望		評価方法					
<p>とにかく180分の集中力の持続を期待する。もちろん、トイレなどの中座は容認するが、講義は連続180分、途中休憩無しで集中して行う予定である。</p>		<table><tr><td>(1) 平常点</td><td>50</td></tr><tr><td>(2) 講義で課せられるレポート</td><td>50</td></tr></table> <p>さらに積極的な受講態度、講義中の質疑等も評価に加味する。</p>		(1) 平常点	50	(2) 講義で課せられるレポート	50
(1) 平常点	50						
(2) 講義で課せられるレポート	50						
学びのキーワード		教科書					
<ul style="list-style-type: none">・ 経済教室・ 日本経済新聞・ 読解力・ 論文作成・ 集中力の持続		参考書					

地球環境論研究			
担当教員： 村上 公久			
学期： 集中講 科目：		必修・選択：	単位： 2 コード： 1Y033001
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. Scienceサイエンス について 02. genetic／functional approach 発生論的接近 と 機能論的接近 03. 「相の転換」phase transition 04. 地球環境問題とは何か 一環境問題概論 05. 生態学におけるいくつかの重要な概念について 06. 地球環境問題をめぐる理念の変遷一環境史概観 07. 処方箋Agenda 21とその背景の検討 08. 環境関連 国際機関・機構 09. 法・制度 10. 「保続的(持続的)発展」Sustainable Development 11. 環境はいくらか 一環境の経済的評価 12. OECD モデルの検討 13. 事例研究 14. 合意形成の方途、第4セクターの重要性 15. 「全球」時代の地球環境問題と国際的資源管理	
(1) 内容			
まず環境史を概観し産業革命以後の環境問題を省みた上で、特にUnited Nations Conference on the Human Environment（ストックホルム「国連人間環境会議」）1972年から、United Nations Conference on Environment and Development, “UNCED”（リオ・デジャネイロ「国連 地球サミット」）1992年、さらに一連のCOP（国連気候変動枠組条約締約国会議）など近年の地球環境問題を巡る国際会議、およびUnited Nations Conference on Sustainable Development (Rio+20)（「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」）2012年 COP21パリ協定2015年などのアジェンダの変遷とその背景を考察する。			
次に、国際化・地球化における地球環境問題への取り組みのあり方を検討する。急速な国際化の進展に伴い、国民国家の枠組みが解消してゆき、世界の担い手がコミュニティ・自治体と超国家機構・国際的組織とに分極してゆく中で、「水と空気に 国境はない」環境問題の解決の方途を、保続的開発(持続的発展) Sustainable Developmentを実現させるための環境政策の視野で考える。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
国際化・地球化における地球環境問題への取り組みのあり方を検討する。急速な国際化の進展に伴い、国民国家の枠組みが解消してゆき、世界の担い手がコミュニティ・自治体と超国家機構・国際的組織とに分極してゆく中で、「水と空気に 国境はない」環境問題の解決の方途を、汚染・公害防止策を超える保続的開発(持続的発展) Sustainable Developmentを実現させるための環境政策の視野で考える。		各省・国際機関の白書・報告書 類の「環境」関連項目を、読んでおくこと。 農水、経産、外務、環境、各省資料。特に「エネルギー白書」「日本の国際協力」、IBRD, OECD, ADB(Asian Development Bank), UNDP, UNEP 関連資料。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
大学院科目を 学部の「新総合科目」として開講するので、学部生で履修を希望する者は履修に先立って予め「環境保全論」「環境学」の一つ以上の科目でSまたはAの成績評価を得ておくこと。		各回の講義内容について、各自関連する資料を学び、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めディスカッションを通じて理解を深める。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 地球環境問題 ・ Sustainable Development保続的開発（持続的発展） ・ 国際化・地球化（全球化） ・ 「水と空気に 国境はない」 ・ 環境政策		(1) ディスカッション への参画 と寄与・貢献 60% (2) 複数回の レポート 40%	
		ディスカッションへの参画と寄与・貢献を主に評価する。	
		教科書	
		ナシ、講義資料を配布する。	
		参考書	
		参考文献・資料のリスト、講義資料を配布する。	

社会的企業論

担当教員： 大高 研道

学期： 集中講 科目：

必修・選択：

単位： 2 コード： 1Y043005

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

社会的企業は、必ずしもコンセンサスが形成された概念ではない。とりわけ、「社会的目的に焦点を当てる企業家精神」の目新しさが強調される一方で、当事者参加やエンパワメント、さらには社会的関係性の形成（再構築）といった視点は希薄で、「社会性」の内実が目的レベルでのみ語られる傾向にある。本講義では、「社会問題に取り組む事業体」としての社会的企業が対象とすべき課題を「社会的排除」との関連で捉えた上で、おもに労働者協同組合やワーカーズコレクティブ等の協同実践の蓄積に学びつつ、既存の社会的企業理論の批判的考察および日本型社会的企業モデル構築の可能性について論じる。

(2) 学びの意義と目標

ポスト福祉国家体制下において、準市場領域での主要アクターとして位置付けられている「社会的企業」の批判的・創造的考察を通して、コミュニティ組織・市民社会組織の今日的 position と今後の展開方向を確認・理解することを目的とする。

受講者に対する要望

- ・一方通行の講義ではなく、対話的な議論を中心に進めるので、積極的に発言・参加してほしい。
- ・時事問題等を取りあげて議論することもあるので、新聞等には日常的に目を通しておくこと。

学びのキーワード

- ・社会的企業・NPO
- ・コミュニティ
- ・社会的排除・貧困
- ・当事者性
- ・エンパワメント

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会的企業とは
03. 社会的企業論の系譜（アメリカ）
04. 社会的企業論の系譜（ヨーロッパ）
05. 社会的企業論の系譜（日本）
06. 企業サイドアプローチ
07. 社会的企業の組織特性
08. 労働統合的社会的企業
09. 社会的企業とサードセクター
10. 日本における労働統合的社会的企業
11. 社会的企業の実践（1）
12. 社会的企業の実践（2）
13. 社会的企業の実践（3）
14. 社会的企業と法制度
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの該当箇所は必ず読み、分からない用語等は事前に調べてくること。

準備学習(復習)

講義後、「学んだこと」/「疑問に思ったこと」を整理すること。次回講義冒頭で共通討論の場を設ける。

評価方法

- | | |
|---------------------|----|
| (1) 授業への参加状況および課題発表 | 50 |
| (2) レポート | 50 |

発表日などは、各自の都合や要望に応じて、話し合いながら調整・決定する。

教科書

藤井敦史・原田晃樹・大高研道編著『闘う社会的企業』（勁草書房、2013）

参考書

授業の中で指示する

日本思想特論			
担当教員：村松 晋			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 4		コード： 1Y062001	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 授業担当者の研究紹介 02. 研究文献の講読 03. 同上 04. 同上 05. 同上 06. 同上 07. 同上 08. 同上 09. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 同上	
(1) 内容 近現代日本の思想・キリスト教を対象とした最新の研究論文や著作を講読する。ゼミ形式で行う。選定は受講者の関心を重視し相談の上で行う。			
(2) 学びの意義と目標 その分野における先行研究を時代ごとにとつづけ、その根底なる問題意識と対峙すること。その作業を通じて己の関心を問い直し、研究の独自性を練り上げること。		準備学習(予習) 文献に注記されている先行研究には、原則として、すべてに目を通していただくこと。発表の際には対論を必ず出すこと。	
		準備学習(復習) 自己の研究テーマや方法との交錯および分岐を意識し、みずからの独自性をめぐって思索を深めること。	
受講者に対する要望 最新の研究成果に謙虚に学ぶ姿勢を堅持しつつも、自己の世界、自己の課題を見失うことのないよう、緊張感を持って対峙してほしい。		評価方法 (1) 研究発表と討論 100 研究発表と討論が全てである。	
学びのキーワード ・ 近代日本史 ・ 現代日本史 ・ 思想史 ・ キリスト教史 ・ 文学史		教科書 参考書	

児童学研究			
担当教員： 田澤 薫			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 4		コード： 1Y072001	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 児童を研究するということ 02. 児童を研究する方法論 03. 児童研究の動向①理論研究 04. 児童研究の動向②実践研究 05. 児童理解の方法 06. 幼児理解の方法 07. 児童理解の実際 08. 幼児理解の実際 09. 子どもの時間と発達理解 10. 子どもの時間と発達支援 11. 制度からみる子ども 12. 制度からみる保育・教育 13. 保育の制度史 14. 保育の実践史 15. 保育課程の理解 16. 子ども・子育て新制度と今日の保育 17. 児童理解における実践記録の意味 18. 児童理解における実践記録の実際 19. 児童理解における実践記録の分析①子どもへの着目 20. 児童理解における実践記録の分析②関わりへの着目 21. 保育・教育・援助の実践研究の方法 22. 保育・教育・援助の実践研究の実際 23. 保育・教育・援助の場面記録分析の方法 24. 保育・教育・援助の場面記録分析の実際 25. 保育・教育・援助の実践研究分析の方法 26. 保育・教育・援助の実践研究分析の実際 27. 今日の児童をめぐる諸課題の提起 28. 今日の児童をめぐる諸課題の分析 29. 今日の児童をめぐる諸課題に対する検討 30. 総括	
(1) 内容			
児童を研究する意味や目的を根本から問い、福祉的な視座に立った児童研究の基礎を学ぶ。福祉学の諸分野の中でも児童福祉は、子ども一人ひとりのしあわせを願い、そのために私たちに出来ることを模索する学問領域である。生まれたときから、あるいは育つ過程で様々な困難にであっても、どの子どもの育ちもしあわせであってほしいと願う視座に立って研究を進めるためには、もう、子どものしあわせとは何だろうと考えることからはじめたい。さらには、そもそも「子ども」という存在の特性をどれだけ客観的に捉えているかを自問することは必須である。その力を身につけたい。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
児童学の視座に立って子どもを研究する際の基本的な観点について学んだあとで、子どもの育ちを援助する保育や教育の論文を読み解いたり実践記録を分析したりすることを通して、子どもの姿や保育・教育・援助の実践から子どもを研究する方法を修得する。		配布した論文・資料を指定した授業回までに必ず読み込んでおく。授業での課題報告はレジュメを作成し、主体的に準備を行う。	
		準備学習(復習)	
		慣れるまでは、ノート整理をお勧めします。また、修士論文研究に直結する資料を多く扱います。自分の研究に関連深い資料は、授業でのディスカッションをふまえて、授業後にさらに読み込みましょう。	
受講者に対する要望		評価方法	
子どもについて、自らの経験則に沿った印象や感覚を、理論的に問い直す作業領域に関心をもって履修してほしいと願っています。資料による情報収集が多くなります。文字資料を読み解くことに積極的に取り組んでください。		(1) 積極的参加 30% (2) 課題報告 40% (3) レポート 30%	
学びのキーワード		教科書	
・ 児童学 ・ 児童理解 ・ 保育 ・ 教育 ・ 子育て支援		授業のなかで指示する。	
		参考書	

単位：4 コード：1Y082001

01. 子ども家庭福祉おける「子ども」観①
02. 子ども家庭福祉おける「子ども」観②
03. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題①
04. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題②
05. 少子社会と福祉環境①
06. 少子社会と福祉環境②
07. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ①
08. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ②
09. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷①
10. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷②
11. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点①
12. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点②
13. 具体的なサービス内容と課題点①
14. 具体的なサービス内容と課題点②
15. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源①
16. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源②
17. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職①
18. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職②
19. 「子ども虐待」をとりまく神話①
20. 「子ども虐待」をとりまく神話②
21. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」①
22. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」②
23. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし①
24. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし②
25. 子ども虐待の社会的対応と限界①
26. 子ども虐待の社会的対応と限界②
27. スクールソーシャルワークの実際①
28. スクールソーシャルワークの実際②
29. ディスカッション①
30. ディスカッション②

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、講義担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれ立場で活用、実践につなげられ幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。

1. 子ども家庭福祉の基礎概念
2. 子ども家庭福祉を取り巻く状況
3. 子どもの権利保障
4. 子ども家庭福祉の展開
5. 子ども家庭福祉行政のしくみと機関・施設
6. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実際
7. 子ども家庭福祉に關連する地域活動
8. 子ども家庭福祉サービスを支える人
9. 子ども虐待・「子ども虐待」をとりまく神話・「見える虐待」と「見えない虐待」、 「優しい虐待」・子ども虐待に関する人々の意識とまなざし・その社会的対応と限界・子ども家庭福祉におけるジェンダー問題
10. スクールソーシャルワークの実際

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につなげれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

(1) 出席率	20
(2) ディスカッション参加状況	40
(3) レポート	40

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

参考書

障害者福祉特論			
担当教員： 木下 大生			
学期： 集中講		科目：	必修・選択：
単位： 4		コード： 1Y083001	
学部教育の関連目		授業計画 01. 障害者の置かれている状況① 02. 障害者の置かれている状況② 03. ノーマライゼーション原理の成立と発展① 04. ノーマライゼーション原理の成立と発展② 05. 国際連合の人権思想の展開① 06. 国際連合の人権思想の展開② 07. 日本の障害者福祉施策の歴史的展開―概要―① 08. 日本の障害者福祉施策の歴史的展開―概要―② 09. 大規模保護収容施設実現に至る道のり① 10. 大規模保護収容施設実現に至る道のり② 11. 日本の施設の整備促進と在宅福祉政策の萌芽① 12. 日本の施設の整備促進と在宅福祉政策の萌芽② 13. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（１）① 14. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（１）② 15. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（２）① 16. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（２）② 17. 現代の障害者福祉の課題（１）① 18. 現代の障害者福祉の課題（１）② 19. 現代の障害者福祉の課題（２）① 20. 現代の障害者福祉の課題（２）② 21. 障害者福祉の研究動向（１）① 22. 障害者福祉の研究動向（１）② 23. 障害者福祉の研究動向（２）① 24. 障害者福祉の研究動向（２）② 25. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（１）① 26. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（１）② 27. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（２）① 28. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（２）② 29. まとめと課題① 30. まとめと課題②	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容 この講義では、障害のある人たちの「人権」を念頭に置きつつ、主として知的障害者施設入所者の地域移行促進の観点からこれまでの障害者政策を顧み、これらの障害者政策を考える。 今や障害者政策の大きな課題とされる施設入所者の地域移行促進の視点から、これまでの国連の取り組みや、日本の障害者政策を顧みる。関係法令の変遷、政策転換の契機となった審議会答申等の資料を手がかりとしつつ、収容主義から地域移行へ方向転換、近年の障害者施策による計画的・制度的な地域移行推進という流れを確認し、地域移行の必然性を検証する。さらに、今後の地域移行の進展に伴う障害者施設機能の変容を予測する。また、24回の講義を通じて履修者が特に興味を持ったトピックについて、各々文献等を利用し、まとめ、その内容を報告する。それにより研究の方法、研究成果の報告の方法、並びに障害者福祉についての理解を深める。			
(2) 学びの意義と目標 現在の障害者福祉制度の成立過程と内容を理解し、障害者福祉に対する自身の価値を構築する。		準備学習(予習) 双方向的な授業とするため、院生から積極的な発言を期待する。そのため、授業前にはシラバスを毎回必ず確認し、テーマについて自分なりに理解を深める作業をしておくこと。	
		準備学習(復習) 配布した資料、授業内容の振り返りを各自行っていただきたい。	
		評価方法 (1) 講義への参加姿勢、課題への取り組み姿勢と報告 100 講義への参加姿勢、課題への取り組み姿勢と報告内容から総合的に評価する。	
受講者に対する要望 積極的な学習姿勢と発言を期待する。			
学びのキーワード ・ 人権 ・ 地域移行 ・ 障害者の権利条約		教科書 プリントを配布する 参考書	

政治経済学科

政治学		POSC-P-100	
担当教員： 高橋 愛子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 4		コード： 12A00101	
学部教育の関連目		授業計画	
【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る		01. 導入:政治学とは何か（１）—歴史的考察— 02. 導入:政治学とは何か（２）—権力とは何か— 03. 現代における政治:全面的政治化の時代（１）—現代とはいかなる社会か— 04. 現代における政治:全面的政治化の時代（２）—全体国家の時代— 05. 政治にとっての文脈としての歴史（１）—20世紀の世界大戦— 06. 政治にとっての文脈としての歴史（２）—東京裁判— 07. 政治にとっての文脈としての歴史（３）—サンフランシスコ条約— 08. 政治にとっての文脈としての歴史（４）—憲法と自衛隊— 09. 政治にとっての文脈としての歴史（５）—アジアと日本— 10. 政治の場としての国会（１）—言論の府— 11. 政治の場としての国会（２）—立法過程— 12. 政治の場としての自治体（１）—分権改革— 13. 政治の場としての自治体（２）—「条例」、「自治体憲章」— 14. 政治における主体（１）—政治家、官僚、諸団体— 15. 政治における主体（２）—メディア、NGO、NPO— 16. 政治における主体（３）—主権者としてのわたしたち— 17. 合法性と正当性（１）—民主的正当性— 18. 合法性と正当性（２）—合法性と正当性との背反— 19. 公益とは何か（１）—公共利益団体の活動— 20. 公益とは何か（２）—公益と私益、官益、国益— 21. 公益とは何か（３）—公益の決定と実現— 22. メディアリテラシー（１）—さまざまなメディア— 23. メディアリテラシー（２）—メディアと権力— 24. メディアリテラシー（３）—メディアリテラシーと市民— 25. 民主主義と選挙（１）—日本の選挙制度— 26. 民主主義と選挙（２）—選挙制度と民主的正当性— 27. 民主主義と教育（１）—シティズンシップ教育— 28. 民主主義と教育（２）—海外の事例から— 29. 一学期間のまとめ—復習— 30. 一学期間のまとめ—さらなる政治学の学びに向けて—	
カリキュラム上の位置付け			
【P】 高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
現実の政治的な課題、諸現象について、歴史的に捉える視座（座標軸）、自分で考える基本的な思考力を身につけることを目的とする講義である。今日の歴史的な位置としては、1945年の「敗戦」から始まった「戦後政治」が国際社会における「冷戦終結」、国内における「政界再編」という転換点を経て新たな国際秩序、国内秩序を模索する過渡期であると同時に、21世紀という新たな時代の諸課題と否応なく直面することを余儀なくされている。こうした「現在（についての）認識」に立ち、現代の「文脈」（コンテクスト）の中でさまざまな政治課題・現象を「政治学的に」思考するとはどのようなことを学ぶことを目的とする。つまり、「政治学」の個々の概念、理論を学ぶだけではなく、「政治現象」を「週刊誌的に」「ワイドショー的に」取り上げるのとは異なる「政治学的な考察、思考」とは何か、という点を、できる限りリアルタイムな時事問題を素材としつつ考えてゆく。 <カリキュラム上の位置づけ>政治学を学ぶための入門的な講座であり、かつそのための基礎的な概念、理論を学ぶ講座である。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) 政治学とはどのような学問であるかを理解する。 2) 基本的な概念、「権力」「合法性」「正当性」「公益」などの概念を理解する。 3) 現実の政治現象について、「政治学的に」思考する資質を学ぶ。		各回の授業の際に配布されるペーパーを予めよく読んでくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業で取り上げた課題についてのレスポンス・シートに記入して次回授業で提出することにより、各回の授業の基本概念をよく理解する。	
		評価方法	
		(1) 授業へのコミットメント 0.4 (2) 新聞コメントの提出 0.3 (3) ブックレポート 0.3	
受講者に対する要望			
リアルタイムな政治現象に関心を持ち、新聞の政治経済欄に毎日目を通すこと。			
学びのキーワード		教科書	
・政治の文脈 ・権力 ・合法性と正当性 ・公益決定 ・メディアリテラシー		授業の中で指示、もしくは、配布する。	
		参考書	

担当教員：森分 大輔

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：4 コード：12A0010K

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念史的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。

政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。

(2) 学びの意義と目標

転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。

受講者に対する要望

社会や政治について関心を持つことが望ましい。新聞やテレビなどから入手可能な時事的なニュースについても折を見て触れるので、それらに関する知識を持っていることが求められる。

学びのキーワード

- ・政治
- ・社会
- ・国家
- ・権力

授業計画

01. 政治学とは何か1 政治的認識について
02. 政治学とは何か2 学問と政治
03. 人間の権利と民主主義について1 人権論の基礎
04. 人間の権利と民主主義について2 民主主義の理論
05. 国家の機能1 国家概念の基礎
06. 国家の機能2 国家機能の変遷
07. 国家の機能3 福祉国家の役割
08. 政党1 政党の分類
09. 政党2 党派と政党
10. 政党3 政党の機能
11. 圧力団体1 圧力団体の定義
12. 圧力団体2 圧力団体の機能
13. 圧力団体3 圧力団体の評価
14. 官僚制1 官僚制の定義
15. 官僚制2 官僚制の機能
16. 官僚制3 官僚制の役割
17. 政治的リーダーシップ1 リーダーシップの種類
18. 政治的リーダーシップ2 リーダーシップの史的類型
19. 政治的リーダーシップ3 組織とリーダー
20. 地方自治と政治構造1 自治と行政
21. 地方自治と政治構造2 住民参加の可能性
22. 地方自治と政治構造3 地方分権の意味
23. 住民参加と参加型民主主義1 デモクラシーと参加
24. 住民参加と参加型民主主義2 グラスルーツの持つ意義
25. 住民参加と参加型民主主義3 参加と組織
26. 政治の担い手に関する考察1 世論
27. 政治の担い手に関する考察2 ジャーナリズム
28. グローバル化と政治1 グローバル化のもたらす影響
29. グローバル化と政治2 グローバル化と現代社会
30. まとめ

準備学習(予習)

政治学に対する専門的な知識を必要とはしないが、それらに関する積極的な関心を抱いていることが望ましい。1日15分～1時間程度のニュースの視聴が必要である。

準備学習(復習)

講義後1時間程度の復習をすることを求める。加えて、授業内で示された関連テーマに関する書籍を購読することが望ましい。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業参加 | 40% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末テスト | 30% |

教科書

授業内にて指定

参考書

政治学

POSC-P-100

担当教員：宮本 悟

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：4 コード：12A00120

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目口
【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

政治学の入門として政治学の基礎を学びます。授業では、政治学の中心となっている制度論によって、各政治分野について実際にどのようなことが行われているのかを解説していきます。教科書と参考書にそって、授業を進めていきますが、本授業では国際政治学の分野における極めて基礎的な部分も含めて解説します。

(2) 学びの意義と目標

授業では、まず政治を理解するための政治学の基本的な視角や理論を学ぶことを目標としています。授業の内容はあくまで基礎的な内容ばかりですが、国際政治学、比較政治学などより専門的な授業を理解するために必要な概念を学ぶ入門になります。

受講者に対する要望

受講生は、（1）各授業に対応する教科書と参考書の該当部分を予習してきて、（2）授業を聴き、理解し、質問に答えてもらいます。原則、教科書と参考書に沿って授業を進めていきます。ほぼ毎回、授業内レポート（BRC）を作成してもらいます。

学びのキーワード

・ 本人・代理人モデル
・ 共通の目的
・ フリーライダー
・ 制度論
・ 多元的民主主義

授業計画

01. イントロダクション：「本人と代理人」で考える政治（参考書序章「『七人の侍』の政治学」 プリント配布）
02. 古代の民主政から近代の自由民主主義体制の成立（参考書第18章「デモクラシー」 プリント配布）
03. 現代民主主義論（参考書第18章「デモクラシー」 プリント配布）
04. 社会中心主義と国家論（参考書第17章「制度と政策」 プリント配布）
05. 歴史的制度論と合理的選択制度論（参考書第17章「制度と政策」 プリント配布）
06. 鉄の三角同盟（教科書第1章「組織された集団」1）
07. 少数者たちが支配する？～多元的民主主義～（教科書第1章「組織された集団」2）
08. 規制緩和と何が変わったか？（教科書第2章「官と民の関係」1）
09. 市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章「官と民の関係」2）
10. 大企業が政治を支配している？（教科書第3章「大企業と政治」1）
11. 大企業の構造的な影響力と政治的紛争（教科書第3章「大企業と政治」2）
12. 政策で選挙は戦えるか（教科書第4章「選挙と政治」1）
13. 政策に代わる手がかりは？（教科書第4章「選挙と政治」2）
14. 自治体には2つの役割がある（教科書第5章「地方分権」1）
15. 国と地方の相互依存（教科書第5章「地方分権」2）
16. マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章「マスメディアと政治」1）
17. マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章「マスメディアと政治」2）
18. ねじれ国会（教科書第7章「国会」1）
19. 国会の影響力（教科書第7章「国会」2）
20. 総理大臣と大統領（教科書第8章「内閣と総理大臣」1）
21. 総理大臣の影響力（教科書第8章「内閣と総理大臣」2）
22. 大臣と官僚のバトル（教科書第9章「官僚」1）
23. キャリア官僚のキャリア（教科書第9章「官僚」2）
24. 戦後の国際環境（教科書第10章「冷戦の終わりとテロとの戦いへ」1）
25. 日本の対外政策（教科書第10章「冷戦の終わりとテロとの戦いへ」2）
26. 貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章「経済交渉」1）
27. 経済交渉の行われ方（教科書第11章「経済交渉」2）
28. ビリヤードゲームのような国際政治（教科書第12章「国境を超える政治」1）
29. 裸になる国家（教科書第12章「国境を超える政治」2）
30. 政治学と政治問題についてのまとめ

準備学習(予習)

参考書(プリント配布)と教科書の各該当部分を読んで予習する。授業内レポート(BRC：授業内で書き上げる簡単な論述400字程度。これについては、イントロダクションで説明する)の作成を通して予習する。加えて、教科書及び参考書で予習する。イントロダクションで、授業内レポート(BRC)についての別紙シラバスを配布する。

準備学習(復習)

授業内レポート(BRC)を再読する。授業内予習時間に書き残した未完成の授業内レポート(BRC)を授業後に完成させる。それにより、授業後の理解を深める。加えて、教科書と参考書で復習する。

評価方法

(1) 平常点	10%	各々の授業予習や、授業中に付いてくる課題に回答することがある。また、授業時間の10分ほどの自由時間があり、その時間中に質問を受ける。
(2) 授業内レポート（BRC）	50%	各回授業の授業内レポート（BRC）を完成させ、全てをまとめてUNIPAで提出
(3) 期末試験	40%	論述試験

教科書

北山俊哉、久米郁男、真淵勝著『はじめて出会う政治学 - 構造改革の向こうに- 第3版 』（有斐閣、2009年04月）

参考書

久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝著『政治学 補訂版』（有斐閣、2011年12月）

政治学		POSC-P-100/POSC-L-1							
担当教員： 榎本 珠良									
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目						
単位： 4		コード： 12A001K1							
学部教育の関連目		授業計画							
<div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>01. 本講義のガイダンス</div> <div>02. 政治とは何か（1）</div> <div>03. 政治とは何か（2）</div> <div>04. 民主主義とは何か（1）</div> <div>05. 民主主義とは何か（2）</div> <div>06. 政治制度（1）</div> <div>07. 政治制度（2）</div> <div>08. 政党制</div> <div>09. 選挙制度</div> <div>10. 政治参加・投票行動・世論</div> <div>11. 議会制度・執政部</div> <div>12. 官僚制</div> <div>13. 司法</div> <div>14. 利益集団</div> <div>15. 前半のまとめ</div> <div>16. 中央と地方</div> <div>17. 国家と福祉</div> <div>18. メディア</div> <div>19. 市民社会</div> <div>20. NGO・NPO</div> <div>21. 国内社会と世界（1）</div> <div>22. 国内社会と世界（2）</div> <div>23. 安全保障（1）</div> <div>24. 安全保障（2）</div> <div>25. 国家と国際法</div> <div>26. 国家と難民</div> <div>27. 国家と開発</div> <div>28. 現代の課題（1）</div> <div>29. 現代の課題（2）</div> <div>30. まとめ</div>							
カリキュラム上の位置付け									
<div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>									
(1) 内容									
<p>政治とは何か。民主主義とは何か。市民とは誰のことか。グローバル化の時代の国内政治をどう捉えるか。</p> <p>本講義は、政治学を学ぶための必要な基礎知識を習得し、それに基づいて今日の日本および世界における政治に関わる諸問題を考察し分析する力を高めるものである。</p>									
(2) 学びの意義と目標									
<p>政治学の基礎を理解することで、最終的には、政治をめぐる自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。</p>		<div>準備学習(予習)</div> <p>授業で扱う予定のテーマについて、事前に新聞や著作などでよく調べておくこと。</p>							
		<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で配布するレジュメと授業中のノートをよく再読すること。</p>							
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 中間試験</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 期末試験</td><td>40%</td></tr></table>		(1) 授業への参加度	30%	(2) 中間試験	30%	(3) 期末試験	40%
(1) 授業への参加度	30%								
(2) 中間試験	30%								
(3) 期末試験	40%								
受講者に対する要望									
<p>現在の政治や時事問題に関心があることが望ましい。</p>									
学びのキーワード		教科書							
<div>・民主主義</div> <div>・政党制</div> <div>・官僚制</div> <div>・政治参加</div> <div>・国内政治と国際政治</div>		<div>参考書</div> <p>北山 俊哉・久米 郁男・真淵 勝『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』第3版、2009年。</p>							

政治学		POSC-P-100/POSC-L-1	
担当教員： 森 達也			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目
単位： 4		コード： 12A001K2	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>01. 講義の概要と趣旨の説明</div> <div>02. 政治とは何か（教科書序章）</div> <div>03. 民主主義の基本原則（プリント）</div> <div>04. 政治学とは何か（教科書第1章）</div> <div>05. 各国の政治体制（プリント）</div> <div>06. 政治体制論（教科書第2章）</div> <div>07. 日本国憲法の成立（プリント）</div> <div>08. 現代政治学の歴史（教科書第11章）</div> <div>09. 国会と内閣（プリント）</div> <div>10. 政治過程（教科書第4章）</div> <div>11. 政党と選挙（プリント）</div> <div>12. マスメディアと政治（教科書4・6章）</div> <div>13. 平和主義と安全保障（プリント）</div> <div>14. 政策の決定（教科書第5章）</div> <div>15. 映像で見る政治（1）</div> <div>16. これまでの講義内容のまとめと復習</div> <div>17. 到達度確認課題の解説</div> <div>18. 資本主義／社会主義経済（プリント）</div> <div>19. 映像で見る政治（2）</div> <div>20. 政策の実施と行政（教科書第5章）</div> <div>21. 日本の財政（プリント）</div> <div>22. 貨幣と金融政策（プリント）</div> <div>23. 日本の社会保障制度（プリント）</div> <div>24. 労働市場と労働問題（プリント）</div> <div>25. 福祉国家の国際比較（教科書第3章）</div> <div>26. 福祉国家の危機と再編（教科書第3章）</div> <div>27. 国際社会と国際法（プリント、教科書第9章）</div> <div>28. 国際機関（プリント）</div> <div>29. ナショナリズムと民族問題（プリント、映像）</div> <div>30. 総括</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>			
(1) 内容			
<div>＜テーマ＞ 政治の基礎知識／政治学の基礎</div> <div>政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ工具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。</div> <div>本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。</div> <div>・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。</div> <div>・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<div>高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。</div> <div>普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。</div>		<div>配布プリントを各自で可能な限り完成させ、次回の講義に備えること。</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して小テストに備えること。</div>	
		評価方法	
		<div>(1) 中間課題35% 論述問題を含む</div> <div>(2) 最終試験35% 論述問題を含む</div> <div>(3) 授業内課題30% 小テスト・コメントシート</div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・政治</div> <div>・経済</div> <div>・公共政策</div> <div>・社会保障</div> <div>・国際関係</div>		<div>加茂利男ほか著『現代政治学 第4版』（有斐閣）</div>	
		参考書	
		<div>高等学校「政治・経済」資料集</div> <div>（たとえば『最新図説政経』（浜島書店、2015年）など）</div> <div>手持ちのものがあれば代用してよい。</div>	

政治学		POSC-P-100/POSC-L-1	
担当教員： 森 達也			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目
単位： 4		コード： 12A001K3	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>01. 講義の概要と趣旨の説明</div> <div>02. 政治とは何か（教科書序章）</div> <div>03. 民主主義の基本原理（プリント）</div> <div>04. 政治学とは何か（教科書第1章）</div> <div>05. 各国の政治体制（プリント）</div> <div>06. 政治体制論（教科書第2章）</div> <div>07. 日本国憲法の成立（プリント）</div> <div>08. 現代政治学の歴史（教科書第11章）</div> <div>09. 国会と内閣（プリント）</div> <div>10. 政治過程（教科書第4章）</div> <div>11. 政党と選挙（プリント）</div> <div>12. マスメディアと政治（教科書4・6章）</div> <div>13. 平和主義と安全保障（プリント）</div> <div>14. 政策の決定（教科書第5章）</div> <div>15. 映像で見る政治（1）</div> <div>16. これまでの講義内容のまとめと復習</div> <div>17. 到達度確認課題の解説</div> <div>18. 資本主義／社会主義経済（プリント）</div> <div>19. 映像で見る政治（2）</div> <div>20. 政策の実施と行政（教科書第5章）</div> <div>21. 日本の財政（プリント）</div> <div>22. 貨幣と金融政策（プリント）</div> <div>23. 日本の社会保障制度（プリント）</div> <div>24. 労働市場と労働問題（プリント）</div> <div>25. 福祉国家の国際比較（教科書第3章）</div> <div>26. 福祉国家の危機と再編（教科書第3章）</div> <div>27. 国際社会と国際法（プリント、教科書第9章）</div> <div>28. 国際機関（プリント）</div> <div>29. ナショナリズムと民族問題（プリント、映像）</div> <div>30. 総括</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>			
(1) 内容			
<div>＜テーマ＞ 政治の基礎知識／政治学の基礎</div> <div>政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ工具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。</div> <div>本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。</div> <div>・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。</div> <div>・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<div>高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。</div> <div>普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。</div>		<div>配布プリントを各自で可能な限り完成させ、次回の講義に備えること。</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して小テストに備えること。</div>	
		評価方法	
		<div>(1) 中間課題35% 論述問題を含む</div> <div>(2) 最終試験35% 論述問題を含む</div> <div>(3) 授業内課題30% 小テスト・コメントシート</div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・政治</div> <div>・経済</div> <div>・公共政策</div> <div>・社会保障</div> <div>・国際関係</div>		<div>加茂利男ほか著『現代政治学 第4版』（有斐閣）</div>	
		参考書	
		<div>高等学校「政治・経済」資料集</div> <div>（たとえば『最新図説政経』（浜島書店、2015年）など）</div> <div>手持ちのものがあれば代用してよい。</div>	

担当教員： 鈴木 真実哉

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目

単位： 4 コード： 12A00202

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

- 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目
- 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目
- 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

経済学の特徴の考え方、理論の構成のし方に力点をおく。なぜ経済学が必要なのか、現実を経済学的にどのように理解できるか、経済社会はどのようにあるべきか、経済的意思決定主体はどのような行動すべきか、などについて解説する。

(2) 学びの意義と目標

政治経済学科 1 年生の必修専門科目であり、他学部の学生にとっては教養科目である。「経済」に無縁ではられない現代人にとって「生活必須」科目でもあろう。

経済学的思考によって、学習以前とは異なる次元から現実をみることができるようになる。また、合理性の経済学的意味が理解できるようになる。

☆参考文献 福岡正夫 『経済学入門』（日本経済新聞社）

受講者に対する要望

毎回新しい知識に触れることになるので、必ず十分な復習の時間をとること。板書は全体の構成(毎回の講義における)を理解するのに必要なので、必ずノートにとること。

学びのキーワード

- ・経済学の本質と意義
- ・人間の幸福と経済
- ・稀少性の解決
- ・効率性と公正

授業計画

01. 経済学とは何か
02. 資源の稀少性と解決 (1)
03. 資源の稀少性と解決 (2)
04. 生産可能性フロンティア
05. 機会費用 (1)
06. 機会費用 (2)
07. 消費者の行動 (1) 効用と無差別曲線
08. 消費者の行動 (2) 予算制約と消費可能領域
09. 消費者の行動 (3) 効用最大化
10. 消費者の行動 (4) 需要曲線
11. 生産者の行動 (1) 生産関数と収入
12. 生産者の行動 (2) 費用と費用関数
13. 生産者の行動 (3) 利潤最大化
14. 供給曲線
15. 需要と供給——市場 (1)
16. 需要と供給——市場 (2)
17. マクロ経済学 1 (生産物市場) 45° 線モデル
18. マクロ経済学 2 (乗数理論)
19. マクロ経済学 3 (貨幣市場)
20. マクロ経済学 4 (労働市場)
21. I S 曲線
22. L M 曲線
23. 総需要曲線
24. 総供給曲線
25. オープンマクロ (1)
26. オープンマクロ (2)
27. オープンマクロ (3)
28. オープンマクロ (4)
29. 経済変動と景気循環
30. まとめ

準備学習(予習)

シラバスの講義予定テーマについてメモを作成しておくこと。

準備学習(復習)

板書を中心にノートを整理し、関連書籍によって補充しながら毎回清書ノートをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 定期試験 | 90% |
| (2) 出席状況 | 10% |

定期試験の一部を補充する目的のレポートを課する場合もある。

教科書

参考書

<div> <div>経済学</div> <div>ECON-P-100</div> </div>						
担当教員：大森 達也 学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 コード：12A00203						
<div>学部教育の関連目</div> <p>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 01. 経済学とは 02. ミクロ経済学とマクロ経済学 03. 分業と取引の発生 04. 価格の決定と価格弾力性 05. 消費者と需要の決定 06. 所得と価格の変化を需要 07. 代替財と補完財 08. 労働供給と余暇 09. 生産関数 10. 生産費用と規模の経済 11. 市場均衡とパレート効率性 12. 寡占市場 13. まとめ 14. 不確実性と不完全情報 15. まとめ 16. 質疑応答 17. マネタリストとケインジアン 18. 産業関連表 19. 国民総生産（GNP） 20. 財政と金融政策 21. 貯蓄と投資の均衡 22. 消費関数 23. 投資の決定 24. 乗数効果（IS曲線） 25. 貨幣市場（LM曲線） 26. ハイパワードマネーと公定歩合 27. 総需要 28. 労働市場と総供給曲線 29. インフレーションと景気循環 30. まとめ 					
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <p>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目</p>						
<div>(1) 内容</div> <p>本講義では、「まんがDE入門 経済学」というのを教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。</p>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。</p>						
<div>受講者に対する要望</div> <p>漫画を使っていることで、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。</p>					
	<div>準備学習(復習)</div> <p>試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。</p>					
	<div>評価方法</div> <table> <tr> <td>(1) 中間試験</td><td>35%</td></tr> <tr> <td>(2) 期末試験</td><td>35%</td></tr> <tr> <td>(3) ブックレポート</td><td>30% 1200文字程度 3回×10%</td></tr> </table>	(1) 中間試験	35%	(2) 期末試験	35%	(3) ブックレポート
(1) 中間試験	35%					
(2) 期末試験	35%					
(3) ブックレポート	30% 1200文字程度 3回×10%					
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none"> ・経済用語 ・経済理論 ・ミクロ経済 ・マクロ経済 	<div>教科書</div> <p>西村和雄 『まんがDE入門 経済学』（日本評論社）</p> <div>参考書</div>					

経済学		ECON-P-100
担当教員：大森 達也		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 4 コード： 12A00210
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 経済学とは 02. ミクロ経済学とマクロ経済学 03. 分業と取引の発生 04. 価格の決定と価格弾力性 05. 消費者と需要の決定 06. 所得と価格の変化を需要 07. 代替財と補完財 08. 労働供給と余暇 09. 生産関数 10. 生産費用と規模の経済 11. 市場均衡とパレート効率性 12. 寡占市場 13. まとめ 14. 不確実性と不完全情報 15. まとめ 16. 質疑応答 17. マネタリストとケインジアン 18. 産業関連表 19. 国民総生産（GNP） 20. 財政と金融政策 21. 貯蓄と投資の均衡 22. 消費関数 23. 投資の決定 24. 乗数効果（IS曲線） 25. 貨幣市場（LM曲線） 26. ハイパワードマネーと公定歩合 27. 総需要 28. 労働市場と総供給曲線 29. インフレーションと景気循環 30. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】 高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、「まんがDE入門 経済学」というのを教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 中間試験35%</div><div>(2) 期末試験35%</div><div>(3) ブックレポート30% 1200文字程度 3回×10%</div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>漫画を使っていることで、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 経済用語</div><div>・ 経済理論</div><div>・ ミクロ経済</div><div>・ マクロ経済</div></div>	<div>教科書</div> <div>西村和雄 『まんがDE入門 経済学』（日本評論社）</div>	<div>参考書</div>

<div>経済学</div> <div>ECON-P-100/ECON-L-1</div>	
<div>担当教員：高橋 聡</div> <div>学期：週間授 科目：教養科目 必修・選択：必修科目</div> <div>単位：4 コード：12A002K1</div>	
<div>学部教育の関連目</div> <div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div> </div>	<div>授業計画</div> <div> 01. ガイダンス 02. 国内総生産 03. 国内総支出 04. 戦後日本経済の歩み（1）復興期から高度経済成長 05. 国内総所得と三面等価の原則 06. 戦後日本経済の歩み（2）戦後日本の経済成長と寄与度 07. 「総」概念と「純」概念 08. 働く人から見た日本経済（1）労働力に関する定義 09. 物価 10. 働く人から見た日本経済（2）日本的雇用慣行とその変化 11. 投資理論 12. 企業から見た日本経済（1）企業と競争の役割 13. 貨幣供給 14. 企業から見た日本経済（2）株式会社 15. 貨幣需要 16. 貿易・国際金融から見た日本経済（1）戦後日本の貿易構造の推 17. IS-LM分析（1）IS曲線の導出 18. 貿易・国際金融から見た日本経済（2）国際収支と外国為替相場 19. IS-LM分析（2）LM曲線の導出 20. 財政の役割と仕組み（1）財政の役割 21. 財政政策 22. 財政の役割と仕組み（2）租税 23. 金融政策 24. 社会保障の役割と仕組み（1）社会保障制度の確立 25. 経済成長論 26. 社会保障の役割と仕組み（2）医療保険制度とその他の保険制度 27. 国際マクロ経済学 28. 税の仕組み（1）主要三税（所得税・法人税・消費税） 29. 貿易理論 30. 税の仕組み（2）控除制度 </div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【L】社会福祉主事任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> </div>	
<div>（1）内容</div> <div> <p>経済現象の診断に必要な基礎理論を習得し、日本経済の現状分析を行う。2コマの内容を2部構成とし、第1部は理論の習得、第2部は日本経済の現状の解説とレポートとする。なお、第1部は、岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』（新世社）に準拠したプリントを用いるので、必要に応じてこの書を手入してほしい。</p> </div>	
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div> <div>意義</div> <p>直感や好き嫌いではなく、理論にもとづく分析によって社会の仕組みを理解し、問題を解明する。これが学生が大学で身につけるべき思考法である。経済学によってそのトレーニングを効果的に行うことができる。</p> <div>目標</div> <p>文法を理解していなければ外国語を理解することはできない。それと同じように、複雑な経済現象を読み解くためには経済理論という「文法」をマスターする必要がある。その最低限の知識を習得することが講義の第1の目標である。これにより、文法を無視した経済ニュースがいかにも多く世間に流通しているかもわかるだろう。そこで、経済ニュースの読み方を身に着けることが第2の目標となる。</p> </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の指定ページを読み、疑問点を自ら調べるなり、質問できる用意をすること。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div> <p>受講にあたっては、レポート、講義中の発言など積極的な姿勢が問われる。また遅刻や私語には厳正に対処する。</p> </div>	<div>準備学習(復習)</div> <div> ①練習問題をくりかえすこと。②授業で取り上げた問題に関する経済ニュースを収集すること。 </div>
	<div>評価方法</div> <div> <div>(1) 試験70%</div> <div>(2) レポート20%</div> <div>(3) 平常点10%</div> </div>
<div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> GDP 物価 財政・金融 経済成長 貿易 </div>	<div>教科書</div> <div>八田幸二・佐藤拓也・武田勝『攻略！！日本経済』（学文社）</div> <div>参考書</div> <div>岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』（新世社）</div>

経済学		ECON-P-100/ECON-L-1	
担当教員： 由川 稔			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目
単位： 4		コード： 12A002K2	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>01. 需要と供給（１）～需要曲線と供給曲線</div> <div>02. 需要と供給（２）～「古典派」の考え方</div> <div>03. インフレーションとデフレーション（１）～インフレーションの種類と効果・影響</div> <div>04. インフレーションとデフレーション（２）～デフレーションの効果・影響</div> <div>05. 社会経済の近代化と思想・・・古典派とケインズ派（１）～近代化と古典派</div> <div>06. 社会経済の近代化と思想・・・古典派とケインズ派（２）～ケインズ派の形成とその後の展開</div> <div>07. GDPをめぐって（１）～フローとストック、三面等価</div> <div>08. GDPをめぐって（２）～国民所得とは</div> <div>09. GDPをめぐって（３）～45度線分析</div> <div>10. GDPをめぐって（４）～国民所得の決定</div> <div>11. GDPをめぐって（５）～デフレギャップとインフレギャップ</div> <div>12. GDPをめぐって（６）～乗数効果</div> <div>13. マネーと金融（１）～「貨幣」（おかね）とは</div> <div>14. マネーと金融（２）～中央銀行の役割</div> <div>15. マネーと金融（３）～貨幣供給の仕組み</div> <div>16. マネーと金融（４）～金融政策</div> <div>17. 無差別曲線と予算制約（１）～無差別曲線</div> <div>18. 無差別曲線と予算制約（２）～予算制約線と最適消費点</div> <div>19. 財の種類、代替効果と所得効果（１）～財の種類</div> <div>20. 財の種類、代替効果と所得効果（２）～代替効果と所得効果</div> <div>21. 市場と企業行動（１）～市場の種類</div> <div>22. 市場と企業行動（２）～生産量の決定</div> <div>23. 市場と企業行動（３）～損益分岐点</div> <div>24. 市場と企業行動（４）～操業停止点</div> <div>25. 効率と公平（１）～パレート最適</div> <div>26. 効率と公平（２）～ローレンツ曲線とジニ係数</div> <div>27. 国際経済（１）～比較生産費説</div> <div>28. 国際経済（２）～国際収支</div> <div>29. 国際経済（３）～外国為替レートの変動</div> <div>30. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【L】社会福祉士任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】社会福祉士任用資格：選択科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】社会福祉士任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>			
(1) 内容			
<p>経済学は抽象化や理論化という「科学的な方法」に基づいています。なぜでしょうか。それは、日常生活の中で、しばしば「感情」や「常識」に埋没してわからなくなりがちな経済現象の「本質」を見抜き、そこから、「新しい経済」や「人間のあり方」などを構想するためです。しかし、理論を理解することだけで頭が一杯になってしまうと、かえって現実を見る目を曇らせてしまう危険もあります。授業では、このバランスを重視したいと思います。</p>			
(2) 学びの意義と目標			
<p>本来、「経済が人間のためにあるのであって、人間が経済のためにあるのではない」はずですが。しかし現実の経済は、人間を奴隷化してしまうほどの恐ろしい面も持っています。究極的には、私たちが英知と勇気を持って、少なくとも経済の面で明るい未来を築いていくことが、経済学を学ぶ意義であり、目標であると言えるでしょう。</p>			
受講者に対する要望			
<p>「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにします。教科書は、後々、資格や公務員等の各種試験対策にも利用できるものにしてありますが、授業は初学者向けに丁寧に進めます。試験対策向けのスピーディーな展開を希望する学生は、他を当たってください。なお、授業では時事問題を中心とした資料も配布します。きちんと整理しておくようにしてください。</p>			
学びのキーワード		教科書	
<div>・ 経済</div> <div>・ 友愛</div> <div>・ 自由</div> <div>・ 公正</div> <div>・ 競争・ 効率</div>		<div>『1項目3分でわかる 石川秀樹の経済学入門ゼミ』（石川秀樹著、日本実業出版社（2010年）1,600円＋税）</div>	
		参考書	

社会学（W用）		SOCI-0-101							
担当教員： 齋藤 圭介									
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A00356							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける。論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会学の成立と展開</div> <div>02. 社会学の研究視点</div> <div>03. 現代社会の理解（1）社会システム① 社会システムの概念、文化・規範、社会意識</div> <div>04. 現代社会の理解（2）社会システム② 産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標</div> <div>05. 現代社会の理解（3）法と社会システム</div> <div>06. 現代社会の理解（4）経済と社会システム</div> <div>07. 現代社会の理解（5）社会変動① 社会変動の概念</div> <div>08. 現代社会の理解（6）社会変動② 近代化、産業化、情報化</div> <div>09. 現代社会の理解（7）人口① 人口の概念、人口構造</div> <div>10. 現代社会の理解（8）人口② 人口問題、少子高齢化</div> <div>11. 現代社会の理解（9）地域① 地域の概念、コミュニティの概念</div> <div>12. 現代社会の理解（10）地域② 都市化と地域社会、過疎化と地域社会</div> <div>13. 現代社会の理解（11）地域③ 地域社会の集団・組織</div> <div>14. 現代社会の理解（12）社会集団① 社会集団の概念、第一次集団、第二次集団</div> <div>15. 現代社会の理解（13）社会集団② ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション</div> <div>16. 現代社会の理解（14）社会集団③ 組織の概念、官僚制</div> <div>17. 生活の理解（1）家族① 家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態</div> <div>18. 生活の理解（2）家族② 家族の変容、家族の機能</div> <div>19. 生活の理解（3）生活の捉え方</div> <div>20. 人と社会との関係（1）社会関係と社会的孤立</div> <div>21. 人と社会との関係（2）社会的行為</div> <div>22. 人と社会との関係（3）社会的役割</div> <div>23. 人と社会との関係（4）社会的ジレンマ</div> <div>24. 社会問題の理解（1）社会問題の捉え方</div> <div>25. 社会問題の理解（2）具体的な社会問題① 貧困、失業</div> <div>26. 社会問題の理解（3）具体的な社会問題② 差別、社会的排除、自殺</div> <div>27. 社会問題の理解（4）具体的な社会問題③ 犯罪、非行</div> <div>28. 社会問題の理解（5）具体的な社会問題④ DV、ハラスメント</div> <div>29. 社会問題の理解（6）具体的な社会問題⑤ 児童虐待、いじめ</div> <div>30. 社会問題の理解（7）具体的な社会問題⑥ 公害、環境破壊</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div> <div>【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div>									
<div>(1) 内容</div> <div><div>・社会学の成立と展開</div><div>・社会学の研究視点</div><div>・現代社会の理解</div><div>・生活の理解</div><div>・人と社会との関係</div><div>・社会問題の理解</div></div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div><div>・社会理論による現代社会の捉え方を理解する。</div><div>・生活について理解する。</div><div>・人と社会の関係について理解する。</div><div>・社会問題について理解する。</div></div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。</div>							
		<div>準備学習(復習)</div> <div>講義終了後、配布プリントを再読し、①興味関心を抱いた事柄と、②その理由について考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。</div>							
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 期末試験</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) レポートなど</td><td>20%</td></tr></table>		(1) 授業への参加度	40%	(2) 期末試験	40%	(3) レポートなど	20%
(1) 授業への参加度	40%								
(2) 期末試験	40%								
(3) レポートなど	20%								
<div>受講者に対する要望</div> <div>「社会」「他人」に対する何らかの興味関心を持っていること。</div>									
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・コミュニケーション</div><div>・社会学的想像力</div><div>・他者理解</div><div>・アイデンティティ</div><div>・ジェンダー</div></div>		<div>教科書</div> <div>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（3）社会理論と社会システム—社会学【第3版】』（中央法規出版）</div> <div>参考書</div>							

SOCI-0-101/SOCI-P-1

社会学

担当教員： 加藤 敦也

学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 12A003K1

学部教育の関連目

【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【L】社会福祉主事任用資格：選択科目

【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【P】社会福祉主事任用資格：選択科目

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

本講義は社会問題を解釈するための方法論ないし理論枠組みとしての社会学の内容を概観していく。授業では、教科書の内容を、雑誌記事や、テレビドラマ、映画、ニュース番組などの映像を補助資料として用い、日常生活における身近な現象がいかに社会学のテーマとして取り上げられ、どのように社会学の対象領域として説明されるかについて解説していく。また、授業期間内にテーマに応じて小レポート作成やディスカッションを課すことで、社会学の取り扱う問題を自ら考えることを促す。

(2) 学びの意義と目標

受講者自身が社会問題を解釈する認知枠組みとして社会学的な視点を身につけてもらうことを目標とする。受講者各自はそれぞれ成長してきた過程で問題を解釈する認知の枠組みを身につけてきたはずである。本講義は、その認知のあり方を一つの価値観と見なしながら、その価値観に従うだけでなく、ものごとを社会通念にとらわれず、社会学的に理解するための基礎的な知識を身につけてもらいたいと思っている。

受講者に対する要望

他の受講者に迷惑のかかる行為は謹んでほしい。
例えば私語厳禁。

学びのキーワード

・社会学

・都市とグローバリゼーション

・階級・階層

・ジェンダー

・エスニシティ

授業計画

01. 社会学とは何か（１）——社会学の誕生と歴史について

02. 社会学とは何か（２）——社会学の理論について

03. 社会調査の方法―量的調査と質的調査

04. 家族をめぐる社会学（１）——家族の類型と結婚の現在

05. 家族をめぐる社会学（２）——性別役割分業の実態と家族関係の問題

06. 家族をめぐる社会学（３）——近代家族論

07. 地域をめぐる社会学（１）——都市の特徴

08. 地域をめぐる社会学（２）——グローバリゼーションと都市、または郊外について

09. メディアと情報化をめぐる社会学（１）——メディアの歴史

10. メディアと情報化をめぐる社会学（２）——メディア・リテラシー

11. 階級・階層をめぐる社会学（１）——階級・階層概念による社会の読み解き方について

12. 階級・階層をめぐる社会学（２）——日本社会の階層意識と不平等問題

13. インナートリップとしての社会学（１）——アイデンティティを役割取得などの理論から考える

14. インナートリップとしての社会学（２）——人間関係を相互行為論から考える

15. ジェンダーの社会学（１）——ジェンダー概念の説明とジェンダー不平等について

16. ジェンダーの社会学（２）——女性就労の問題、性暴力の問題など

17. セクシュアリティの社会学——セクシュアル・マイノリティと社会

18. エスニシティの社会学

19. 社会運動の社会学（１）——社会運動の類型と脱産業社会について

20. 社会運動の社会学（２）——新しい社会運動とアイデンティティ・ポリティクスについて

21. 教育社会学（１）——教育の社会的機能

22. 教育社会学（２）——教育と階級・階層の関係性、または教育空間における人権問題について

23. 相互行為論、社会構築主義

24. 社会学の歴史：ヴェーバーとデュルケム

25. 社会学の歴史：アメリカの社会学史

26. ヨーロッパの現代：ルーマン、ギデンズ、ブルデュー

27. 日本の社会学史：意味社会学と統合理論

28. 近代と脱近代（１）——後期近代という社会認識（ギデンズとハーバーマスを中心に）

29. 近代と脱近代（２）——ポストモダンという社会認識

30. 社会学のまとめ

準備学習(予習)

授業前の予習としては教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

準備学習(復習)

授業後の復習としては講義をまとめた自筆ノートを教科書とあわせて見直すことをすすめる。

評価方法

(1) 平常点

30%

(2) 小レポート

30% 授業期間内に課す

(3) 定期試験

40%

平常点(30点)、授業期間内に課される小レポート(30点)、定期試験(40点)により評価する。なお、教科書を用いて授業を行う。

教科書

宇都宮京子 『よくわかる社会学（第2版）』（ミネルヴァ書房）

参考書

社会学の理解を促すうえで重要な文献は授業中に適宜指示する。

社会学		SOCI-0-101/SOCI-P-1
担当教員： 新津 尚子		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A003K2
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会学とは何か（1） 基礎編：相互行為の重要性 02. 社会学とは何か（2） 応用編：信頼と社会 03. 家族社会学（1） 基礎編：家族とは何か 04. 家族社会学（2） 応用編：日本の産業構造の変化と家族の変化 05. 都市社会学（1）基礎編：都市とは何か 06. 都市社会学（2）応用編：都市における貧困問題 07. メディアと情報の社会学（1）基礎編：メディアの社会にもたらした影響 08. メディアと情報の社会学（2）応用編：情報化社会 09. 階級・階層と社会（1）基礎編：日本の階層と不平等 10. 階級・階層と社会（2）応用編：世界と日本の不平等の比較 11. アイデンティティと社会（1）基礎編：自分と社会との関係 12. アイデンティティと社会（2）応用編：感情労働 13. ジェンダーと社会（1）基礎編：ジェンダーとは何か 14. ジェンダーと社会（2）応用編：「ジェンダー」を歴史的に考える 15. 国際社会とエスニシティ（1）基礎編：エスニシティとは何か 16. 国際社会とエスニシティ（2）応用編：日本の中のエスニシティ 17. 社会運動（1）基礎編：現代社会と社会運動 18. 社会運動（2）応用編：インターネットと社会運動 19. 社会学の歴史とさまざまな研究:社会学の始まり（1）コントから20世紀初頭までのヨーロッパの社会学 20. 社会学の歴史とさまざまな研究:社会学の始まり（2） 米国での社会学の始まり 21. 社会学の歴史とさまざまな研究:デュルケム（1）デュルケムの生きた時 22. 社会学の歴史とさまざまな研究:デュルケム（2）『自殺論』 23. 社会学の歴史とさまざまな研究:ヴェーバー（1）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 24. 社会学の歴史とさまざまな研究:ヴェーバー（2）合理化 25. 社会学の歴史とさまざまな研究:マートン 26. 社会学の歴史とさまざまな研究:パーソンズ 27. 社会学の歴史とさまざまな研究:シュッツ 28. 社会学の歴史とさまざまな研究:ブルデュー 29. 社会学的想像力 30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉主事任用資格：選択科目 【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この講義では「家族」「地域」「ジェンダー」など、社会学を総合的に学ぶことを目的とする。また後半（19回目以降）は社会学の歴史についても学ぶ。授業では教科書を用いて講義を行うほか、関連する資料を読んだのディスカッションや小レポート作成など、履修者が自分自身で考える機会を設け、「理解する」→「考える」→「身につける」というプロセスで確実に内容を身につけることを目指す。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この講義の目標は、毎回の授業を通じて「社会学的な思考を身につける」ことにある。この思考を身につけることによって、「個人的」と思われる問題の中にある社会的な要素や、「社会的」と思われる問題の中にある個人的な要素を理解できるようになる。これにより将来、履修生がさまざまな問題に直面した際、その問題を多角的に考えられるようになるだろう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>予習として教科書の当該箇所を読み、概要を理解しておくこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>私たちを取り囲む身近な「社会」に関心がある者の受講を望む。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>復習として教科書と講義ノートを見直すこと。不明な点があれば自分で調べたり、質問するなどして解決すること。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・家族 ・産業 ・メディア ・ジェンダー ・階層</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点30%</div><div>(2) 提出物30%</div><div>(3) 学期末試験40%</div></div> <div>教科書</div> <div>宇都宮京子編『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）</div> <div>参考書</div>

社会学		SOCI-0-101/SOCI-P-1
担当教員： 加藤 裕康		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A003K4
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会学とは 02. 社会学の理論はどのようなものかー理論の必要性 03. 社会学の理論はどのようなものかーモデルとは何か 04. 社会学の理論はどのようなものかー方法論的全体主義 05. 社会学の理論はどのようなものかー社会学の対象 06. 社会学はいかに成立したのかー近代社会科学の誕生 07. 社会学はいかに成立したのかー進化論と比較文明史 08. 社会学はいかに成立したのかーモダニズムの精神 09. 社会学はいかに成立したのかー学問におけるモダニズム 10. 社会学はいかに成立したのかーデュルケムによる近代の反省 11. 社会学はいかに成立したのかーウェーバーとマルクス主義 12. 多元化する時代と社会学ー危機についての学問 13. 多元化する時代と社会学ー理論社会学 14. 多元化する時代と社会学ー社会学の可能性 15. アイデンティティと社会学 16. コミュニケーションと社会学 17. 家族の社会学 18. 政治の社会学 19. 都市の社会学 20. 身体 of 社会学 21. メディアの社会学 22. 情報化社会と消費社会 23. 階級・階層の社会学 24. ジェンダーとセクシュアリティ 25. 共同体と市民社会 26. 国民国家と多文化社会 27. グローバル化 28. 社会学史（1）西洋編 29. 社会学史（2）日本編 30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】高等学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉主事任用資格：選択科目 【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「当事者でなければわからない」という言葉を耳にします。果たしてそれは本当でしょうか。他人に指摘されてハッとすることがあるように、自分の中には自分では気付かない「他者性」があります。同じように当事者だからこそ見えないこともあります。社会学は、その他者に迫る学問と言えるでしょう。 本講義では、社会学の歴史と理論を学んでいきます。さらに抽象的な議論と具体的な事例を織り交ぜ、社会学の視点を解説します。また授業では、リアクションペーパーやソーシャル・メディアを活用する中で、講義内容を主体的に捉える契機とします。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>社会学とはどのような学問なのか、その歴史と理論を学ぶことで、社会学的な視点を身につけることを目標とします。混沌とした社会を分析するためのツールを駆使して、自分なりの考えをもって行動できる人間になる、その第一歩としたいと 생각합니다。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書をあらかじめ読んでおいてください。参考文献は適宜、紹介します。
【参考文献】
『社会学のすすめ』（筑摩書房）大澤真幸編 『社会学入門』（岩波書店）見田宗介
『新版 社会学のエッセンス』（有斐閣）友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵
『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）宇都宮京子編</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>授業後にノートをまとめ直しましょう。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>私語、遅刻は厳禁です。出席は評価の対象ではありませんが、5回休んだ者は大学の規定通り、単位を取得できません。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) レポート20% (2) 期末試験80%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・アイデンティティ ・コミュニケーション ・メディア ・政治と権力 ・都市と消費社会</div>		<div>教科書</div> <div>稲葉振一郎『社会学入門』（日本放送出版協会）【978-4140911365】</div> <div>参考書</div>

環境学		SOC1-0-101/POSC-P-100/POSC-L-100
担当教員： 村上 公久		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A004K5
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】市民力：地域社会を支えるために必要な知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 地球環境問題（１） ー自然破壊の実態 砂漠化 02. 地球環境問題（２） ー自然破壊の実態 森林破壊 03. 地球環境問題（３） ー地球温暖化問題 04. 自然の中の人間 ー「自然の支配」か「自然と共存」か 05. 自然と環境 06. 〔人間－環境〕系（１） 07. 〔人間－環境〕系（２） 08. 「自然」が「環境」に変わるとき ー主体（ヒト）が帯びている生命圏への責任 09. ガイアGaia仮説 ー地球も宇宙も生きている 10. さまざまな自然観と風土（１） ー温度・降水量と植生区 11. さまざまな自然観と風土（２） ー世界各地の自然と「風土」 12. わが国の自然、風土の特徴 13. 水文循環 14. エコロジーに関する概念 生命圏（生態圏）の理解 15. 「命」とは ーエントロピーの概念 16. 人口問題（１） ー人口増加と環境容量 17. 人口問題（２） ー人口増加と、環境・天然資源 18. 森と人間（１） ー森と人と文化 19. 森と人間（２） ー森林の科学、木の文化の復権 20. 「破壊」と「保護」の対立から「保全」へ ー第三の立場「環境保全」 21. 環境関連法と制度 ーわが国の「環境基本法」と「環境基本計画」 22. 地球環境問題の課題『アジェンダ21』の検討 23. 新しい課題「保続（持続）可能な開発」（１） 24. 新しい課題「保続（持続）可能な開発」（２） 25. N G O の役割 ー「お団子」が、未来を担う（お団子＝ODA＋NGO） 26. 環境N G O の事例（１） 27. 環境N G O の事例（２） 28. 「宇宙船地球号」から「地球村」へ Spaceship Earth → Global Village 29. 〔人間－環境〕系 を保つための課題 30. 総括 と 新しい問題提起</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】社会福祉主事任用資格：選択科目 【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>大学生の君たちが生まれた頃から現在まで、つまり君たちの平均年齢に相当する約20年間の間に私たちの地球の生命圏の環境は、急速に悪化し、この間日本列島の約6倍の面積の熱帯の森林が失われ、中国の耕地面積に相当する陸地が砂漠化した。 今日、世界的規模での最大の問題は、環境の急激な悪化による生命圏（生態圏）の全的壊滅の危険、すなわち地球環境問題である。かつては環境問題の問題意識の中心は産業公害だったが、現在ではこの問題は国境を突破した生命圏全体の存続を懸けた「地球環境問題」であり、いわゆる汚染・公害問題はその一部として意識されている。この科目では「ヒトと環境」が相互に影響し呼応し合うシステム〔人間－環境〕系を理解し、主に「ヒトと森林の関係」を例にとって考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>NGOの果たす大きな役割を含め、私たちと生き物たちのこの世界を全体的な壊滅から救うほとんど唯一の戦略「保続的開発」の可能性を探る。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>岩波ジュニア新書 の中で環境をテーマとしている 「地球をこわさない生き方の本」 「世界の環境都市に行く」 など を読んでおくこと。</div>
<div>準備学習(復習)</div> <div>各自、各回の講義内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めて講義記録のノートに記録する。 また、各回のリアクション・ペーパーを作成し次回に提出する。</div>		
<div>評価方法</div> <div>(1) クラスへの参加と貢献 40% 欠席回数が講義回数の3分の1以下の者のみを、評価の対象とする。 (2) 2回以上の試験と期末試験 60%</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>専門科目「環境保全論」履修の準備となる科目でもあるので学びを進めて「環境保全論」を履修する予定の者は 予めこの科目を学んでおくことが望ましい。</div>		<div>複数回の試験の成績、複数回のレポートとリアクション・ペーパー、受講態度、質問等による知的好奇心の強さと熱意、などを総合的に評価する。
</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 自然観 ・ 〔人間－環境〕系 ・ 地球環境問題 ・ ガイアGaia仮説 ・ 保続可能(持続可能)な発展</div>		<div>教科書</div> <div>なし、講義資料を配布する。</div> <div>参考書</div> <div>文献・資料のリスト と 講義資料を配布する。</div>

担当教員：松村 芳明

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：12A00564

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

- ・社会生活と法
- ・憲法・民法・行政法
- ・利用者の人権と個人情報保護

(2) 学びの意義と目標

- ・社会生活における法の作用や役割について理解する。
- ・憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。
- ・基本的人権、権利擁護、成年後見制度等、社会福祉士に必要な内容について理解する。

受講者に対する要望

①社会保障・社会福祉に関連する法規を中心に学ぶ授業ではなく、それらを含め、法学の基礎について全般的に学ぶ授業である点、注意すること。②授業に積極的に参加すること。③分からないことがあれば遠慮なく授業中や授業後などに質問すること。

学びのキーワード

- ・基本的人権
- ・日本国憲法
- ・成年後見制度
- ・近代私法の基本原則

授業計画

01. 社会生活と法 (1) 社会規範としての法
02. 社会生活と法 (2) 社会福祉士と法のかかわり
03. 憲法 (1) 憲法の基本概念
04. 憲法 (2) 日本国憲法の基本原理 ①国民主権・平和主義
05. 憲法 (3) 日本国憲法の基本原理 ②基本的人権の性質と分類
06. 憲法 (4) 日本国憲法の基本原理 ③基本的人権 i. 自由権
07. 憲法 (5) 日本国憲法の基本原理 ④基本的人権 ii. 社会権
08. 憲法 (6) 日本国憲法の基本原理 ⑤基本的人権 iii. 新しい人権
09. 憲法 (7) 日本国憲法の基本原理 ⑥統治機構・財政
10. 憲法 (8) 日本国憲法の基本原理 ⑦地方自治
11. 民法 (1) 権利能力・意志能力・代理
12. 民法 (2) 契約の成立と有効要件・売買契約
13. 民法 (3) 契約の目的物・債権の担保
14. 民法 (4) 不法行為
15. 民法 (5) 親族 ①婚姻・離婚
16. 民法 (6) 親族 ②親子・扶養
17. 民法 (7) 法定相続・遺言
18. 民法 (8) 成年後見制度 ①成年後見制度の創設・法定後見制度の仕組み
19. 民法 (9) 成年後見制度 ②任意後見制度の仕組み
20. 民法 (10) 成年後見制度 ③成年後見制度の現状と課題
21. 行政法 (1) 行政法の基本・行政行為
22. 行政法 (2) 行政手続き
23. 行政法 (3) 行政不服審査
24. 行政法 (4) 行政訴訟
25. 行政法 (5) 国家賠償
26. 行政法 (6) 情報公開
27. 行政法 (7) 地方行政組織
28. 行政法 (8) 行政契約・社会福祉サービスの利用関係
29. 利用者の人権と個人情報保護 (1) 個人情報保護法の概要
30. 利用者の人権と個人情報保護 (2) 社会福祉サービスと個人情報の保護

準備学習(予習)

次回の内容について、指示されたプリント等の該当箇所を読み、六法等を参照しておくこと。

準備学習(復習)

プリント・講義ノートを読み返すことにより講義で得た知識を整理すること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 課題 | 40% |
| (2) 試験 | 50% |
| (3) 授業への参加状況 | 10% |

教科書

山下友信・山口厚編 『ポケット六法』（有斐閣）

参考書

法学		LAW-O-101/LAW-P-100
担当教員： 木村 裕二		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A005K1
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 子ども・少年と法①（民事法・社会法） 03. 子ども・少年と法②（刑事法） 04. 人・労働者・消費者①（民法・民事訴訟法） 05. 人・労働者・消費者②（労働法・消費者法） 06. 男女・夫婦①（民事法） 07. 男女・夫婦②（刑事法・社会法） 08. 企業の法①（会社法） 09. 企業の法②（経済法） 10. 主権者の法①（憲法） 11. 主権者の法②（行政法） 12. 被疑者・被告人・被害者①（刑法） 13. 被疑者・被告人・被害者②（刑事訴訟法） 14. 高齢者・相続①（社会保障法） 15. 高齢者・相続②（民法） 16. 憲法①（統治） 17. 憲法②（統治） 18. 民法①（人・法律行為・財産） 19. 民法②（契約・不法行為） 20. 刑法①（総論） 21. 刑法②（各論） 22. 商法①（株式） 23. 商法②（機関） 24. 民事訴訟法①（請求、弁論） 25. 民事訴訟法②（証拠、判決） 26. 刑事訴訟法①（捜査） 27. 刑事訴訟法②（公判） 28. 法とは何か 29. 法とは何か（続） 30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【全】社会福祉主事任用資格：選択科目 【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>人は一生の間に、家庭や職場でいろいろな役割を担います。それぞれの場面で、様々な法律が特徴のある仕方、かかわってきます。前半は、こうして次々と遭遇する法律を素材として、法のいろいろな働きを見ていきます。後半は、基本六法のそれぞれのまとまりの中に位置づけて、前半で取り扱ったテーマを振り返ります。最後のまとめは「答え」ではなく、法とは何かという「問い」をもってしめくくります。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業後の生活の中で、いろいろな問題で迷うことがあるでしょう。そのとき使える自分用の「地図」を作っていくために、法律問題の基本を理解することが、本講義の目的です。また教職を目指す人には、教える側の自分が何を分かっているのか、その核心をつかむことを目標としてもらいたいと思います。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>それは知らない、これは何だと思ったときには、まずは「調べる」ひと手間かけて、自分なりに理解するために「考える」こと。知らないことがたくさんあるのは当たり前で、そのまま放っておくのか、何とかしようとするのか。その習慣の違いが、社会に出てからの自分自身の可能性を大きく左右します。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 公法と私法・ 一般法と特別法・ 実体法と手続法・ 民事と刑事・ 法と道徳</div>		<div>教科書</div> <div>特に指定せず、レジュメを配布します。</div> <div>参考書</div> <div>授業の中で適宜、紹介します。</div>

法学		LAW-P-100/LAW-L-101
担当教員： 齋藤 美沙		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 4 コード： 12A005K2
学部教育の関連目		授業計画
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能		01. ガイダンス 02. 法学の学ぶことについて／法を学ぶ意義、「法学」・「解釈」とは何か、リーガルマインド 03. 法とは何か／法の体系、法の分類 04. 法とは何か／法の歴史、法と道徳 05. 裁判の仕組と役割／民事訴訟、刑事訴訟、家庭裁判所 06. 裁判の仕組と役割／裁判員裁判、裁判外紛争解決手続 07. 民法／日常生活と契約 08. 民法／権利能力、未成年者と契約 09. 民法／意思表示、錯誤、詐欺、強迫 10. 民法／損害賠償請求、債務不履行、不法行為 11. 生活の中の法／消費者問題、マルチ商法、クーリング・オフ 12. 生活の中の法／保証契約、連帯保証 13. 家族と法／親族法（婚姻、離婚、生殖医療と親子関係） 14. 家族と法／相続法（相続、遺言） 15. 民法と刑法／民事責任と刑事責任 16. 民法と刑法／交通事故を起こしたら？ 17. 労働と法／労働条件、労働組合、パワハラ・セクハラ 18. 労働と法／アルバイト・就職活動と法的トラブル 19. 刑法／罪と罰、罪刑法定主義 20. 刑法／犯罪の成立要件 21. 憲法／人権の理念、近代立憲主義 22. 憲法／国民主権、象徴天皇制 23. 憲法／平和主義、安保法制、集団的自衛権 24. 憲法／法の下での平等、幸福追求権 25. 憲法／表現の自由、知る権利 26. 憲法／生存権、労働基本権、教育を受ける権利 27. 憲法／権力分立、国会 28. 憲法／内閣、裁判所 29. まとめ① 30. まとめ②
カリキュラム上の位置付け		
【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉士主任任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士主任任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士主任任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目		
(1) 内容		
本講義では、様々な法規範の中から、おもに憲法、民法及び刑法を扱います。 身近な問題を手がかりに、法・法律の基本的理論や知識を確認していきます。		
(2) 学びの意義と目標		
社会では、法的視点が必要とされる場面が多くあります。 本講義では、基本的な法的思考・知識を身につけることを目標とします。		準備学習(予習) 前週に指示します。
		準備学習(復習) 配布プリントを再読して下さい。必要に応じて参考文献を紹介します。
受講者に対する要望		評価方法
新聞やニュースなどで、法に関する事柄に注意を払うようにして下さい。		(1) 試験 80% (2) 平常点 20%
		試験の成績をもとに、出席やコメントシート等を考慮し、総合的に評価します。
学びのキーワード		教科書
・ 法学 ・ 憲法 ・ 基本的人権 ・ 民法 ・ 刑法		参考書 池田真朗編『プレステップ法学＜第2版＞』弘文堂、2013年

法学		LAW-P-100/LAW-L-101
担当教員： 渡辺 英人		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 4 コード： 12A005K4
学部教育の関連目		授業計画
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能		
カリキュラム上の位置付け		
【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉士任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目		
(1) 内容		01. 法を守る精神： 社会における信頼関係 02. 法を守る精神： 社会（コミュニティ）の形成 03. 法と道徳 04. 法の概念 05. 法の存在形式（法源） 06. 法の種類 07. 法の効力 その範囲と限界 08. 「自然法論」と「法実証主義」 09. 法と道徳（2） 10. 自己決定権 11. 法がめざすもの（法の目的） 12. 罪刑法定主義とデュー・プロセス 13. 法の目的（2） 14. 適法性と違法性 15. 「犯罪」とは何か？ 16. 「犯罪」とは何か？（2） 17. モラルの低下した社会に生きる 18. 法の目的（3） 19. 「公」と「私」 20. 「責任」とは何か？ 21. 「権利」とは何か？ 22. 「正義」とは何か？ 23. 「市民社会」に生きる 24. 「法」を守る精神 25. 諸外国の法 26. 諸外国の法（2） 27. 市民社会の法 28. 消費者と法 29. 知的財産権と法（1） 30. 知的財産権と法（2）
(2) 学びの意義と目標		
法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。		
法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。		
準備学習(予習)		受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。
準備学習(復習)		受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。
評価方法		(1) 授業中の態度、積極的発言など 40% (2) 課題作成 30% (3) 試験 30%
受講者に対する要望		教科書 井上 正仁 『ポケット六法 平成28年版』（有斐閣） 参考書
受講者の在籍学部を問わず、具体例をあげながら、全員にわかりやすく解説します。遅刻、欠席の無いように積極的に授業に参加してください。		
学びのキーワード		
・ 法を守る精神 ・ 「公」と「私」 ・ 権利と義務 ・ 責任 ・ 市民社会に生きる		

キリスト教社会倫理 A

LAW-P-200

担当教員：松本 周

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15100101

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

本学の基盤であるキリスト教の視点から、「よく生きる」「よき社会を形成する」という社会倫理的課題を探究します。
本講義では現代社会が直面している、倫理的諸問題の具体例を取り上げながら、キリスト教と倫理の関係について考察します。

(2) 学びの意義と目標

現代社会における諸文化価値とキリスト教使信との関係を、具体的事例を通して学びます。それによって現代社会における倫理的諸問題への判断力を養っていただきたいと思います。

受講者に対する要望

キリスト教や『聖書』の知識が、専門分野の学びとどのように関わるかを意識しつつ受講してほしいと願います。

学びのキーワード

- ・ 平和
- ・ 人間の尊厳
- ・ 「いのち」と「生命」
- ・ 神の国

授業計画

01. キリスト教社会倫理の目標「神の国の平和」
02. 「神の国」と「いのち」 現代社会の諸問題
03. いのちの尊厳をめぐって
04. 基本的人権の保障—強制収容所問題
05. 社会の危機といのちの危機
06. 現代におけるテロリズムの問題
07. 「宗教的寛容」「教会と国家の分離」について
08. 死をめぐる問題（1）安楽死
09. 死をめぐる問題（2）「終活」
10. 死をめぐる問題（3）終末期患者と家族
11. 出生をめぐる問題（1）出生前診断、中絶
12. 出生をめぐる問題（2）新生児医療について
13. グローバル社会と「いのちの格差」問題
14. ふりかえり 現代社会の倫理的諸問題と私たち
15. まとめ 「よりよく生き、よりよい社会を形成する」

準備学習(予習)

授業時に配布するプリントにより、指示されたテキストを確認し、自分の意見等をまとめておくこと。

準備学習(復習)

配布プリントを読み返したり、紹介した資料を読むことにより、内容理解を深めてほしい。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|-------------|
| (1) リアクションペーパー | 40% | 授業参加度を含みます。 |
| (2) 期末試験 | 40% | |
| (3) 全学礼拝・教会レポート | 20% | |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

教科書

『聖書 新共同訳』（日本聖書協会）ただし「キリスト教概論」受講者は同じ教科書なので改めて購入する必要はない。

参考書

キリスト教社会倫理 A		LAW-L-200
担当教員： 菊地 順		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 15100102
学部教育の関連目		授業計画
【L】 知の基礎力：政治や社会のしくみの理解		01. 「良き隣人となるために」序(1)—20世紀の時代精神 02. 「良き隣人となるために」序(2)—20世紀と大衆社会 03. 「良き隣人となるために」序(3)—20世紀と平和論 04. 「良き隣人となる」(1)—コルベ神父 05. 「良き隣人となる」(2)—ボンヘッファー 06. 「良き隣人となる」(3)—新渡戸稲造(1)（その生涯） 07. 「良き隣人となる」(4)—新渡戸稲造(2)（その思想） 08. 「良き隣人となる」(5)—賀川豊彦 09. 「良き隣人となる」(6)—マハトマ・ガンディ(1)（その生涯） 10. 「良き隣人となる」(7)—マハトマ・ガンディ(2)（その思想） 11. 「良き隣人となる」(8)—マザー・テレサ(1)（その生涯） 12. 「良き隣人となる」(9)—マザー・テレサ(2)（映画を通して） 13. 「良き隣人となる」(10)—ダイアナ元皇太子妃 14. 「良き隣人となる」(11)—エレノア・ルーズベルトと世界人権宣言 15. まとめ—「良き隣人になる」とは？
カリキュラム上の位置付け		
【L】 高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目		
(1) 内容		
倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、春学期は「良き隣人となる」というテーマの下で、さまざまな分野で「平和」の実現のために貢献した人たちを取り上げて行います。「平和」というのは、単に戦争のない状態のことではなく、もっと豊かな積極的内容を持つ言葉で、さまざまな分野で活動した人たちの具体的な事例を見ながら、「良き隣人となる」ということはどういうことか考えたいと思います。 具体的には、まずキリスト教の考える「平和」について考察します。そこには、いわゆる戦争のない平和ともっと広い意味での平和が認められますが、そのそれぞれを吟味したあと、特に20世紀にいくつかの事例を求め、その具体的な内容を検討し、人間の生き方について学びます。		
(2) 学びの意義と目標		
この授業では、平和に関する具体的な事例を学ぶことをとおして、特に人間の尊厳および人格・人権という価値の尊さの理解を深め、現代世界に通用する倫理観を身に付けることが目指されています。		
準備学習(予習)		
		予習としては、シラバスを読んで授業内容を確認すると共に、毎回授業の最後に次回の予告をするので、予め下調べをしておくこと。
準備学習(復習)		
		復習として、毎回授業で配布される講義内容のプリントを読み直すこと。また必要や関心に応じて、自分で調べ、知識を深めること。特に、この授業では復習に重点を置いてください。
評価方法		
		(1) 試験 70% (2) 平常点 20% (3) 課題 10%
受講者に対する要望		
倫理というと堅苦しい印象を受けるかもしれませんが、人間のよりよい生き方を学ぶもので、たえず社会に関心を持ち、問題を共有しながら、開かれた心で臨んでほしいと思います。		以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。
学びのキーワード		教科書
・ 平和 ・ 戦争 ・ 社会 ・ 人格 ・ 人権		参考書
		毎回授業の初めにプリントを配布します。

キリスト教社会倫理B

LAW-P-200

担当教員：松本 周

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15100203

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

本学の基盤であるキリスト教の視点から、「よく生きる」「よき社会を形成する」という社会倫理的課題を探究します。

本講義では『聖書』に記されている「十戒」を基軸として、キリスト教社会倫理の現代的意義を考えていきます。

(2) 学びの意義と目標

現代社会における諸文化価値とキリスト教使信との関係を、具体的事例を通して学びます。それによって現代社会における倫理的諸問題への判断力を養っていただきたいと思います。

受講者に対する要望

「キリスト教概論」「キリスト教関連科目」を含めて学んだキリスト教や『聖書』の知識が、専門分野の学びとどのように関わるかを意識しつつ受講してほしいと願います。

学びのキーワード

- ・ 現代社会
- ・ 十戒
- ・ 文化価値

授業計画

01. 「キリスト教」「社会倫理」について
02. キリスト教社会倫理の要諦「十戒」
03. キリスト教社会倫理の土台「礼拝」
04. 「十戒」の背景と第一戒
05. 第二戒 神の像、神のイメージ
06. 第三戒 神の名を利用する問題
07. 第四戒 安息日—時間の秩序
08. 第五戒 親の責任と子の倫理
09. 第六戒 いのちとはなにか
10. 第七戒 聖書の示す自由とは
11. 第八戒 基本的人権の宗教的根拠
12. 第九戒 宣誓ということ
13. 第十戒 経済活動の倫理
14. ふりかえり 「十戒」は何を語りかけているか
15. まとめ 現代社会の倫理的指針

準備学習(予習)

授業時に配布するプリントにより、指示されたテキストを確認し、自分の意見等をまとめておくこと。

準備学習(復習)

配布プリントを読み返したり、紹介した資料を読むことにより、内容理解を深めてほしい。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|-------------|
| (1) リアクションペーパー | 40% | 授業参加度を含みます。 |
| (2) 期末試験 | 40% | |
| (3) 全学礼拝・教会レポート | 20% | |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

教科書

『聖書 新共同訳』（日本聖書協会）ただし「キリスト教概論」受講者は同じ教科書なので改めて購入する必要はない。

参考書

キリスト教社会倫理B

LAW-L-200

担当教員：菊地 順

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15100204

学部教育の関連目

【L】 知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

【L】 高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、秋学期は人種問題に注目して行います。具体的には、アメリカ合衆国における黒人問題を中心にヨーロッパ世界におけるユダヤ人問題にも触れ、その歴史とその問題に取り組んだ人々の活動について学びます。そのことを通し、人間の生き方について、特に人間の尊厳とか人格・人権といった価値の尊さについて学びます。

(2) 学びの意義と目標

この授業では、人種問題の学びをとおして、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などの価値についての理解を深め、現代世界に通用する倫理を身に付けることが目指されています。

受講者に対する要望

人種問題は、世界中にある問題です。この学びのために、特に人間の尊厳とか人権ということにより敏感となり、社会や世界に広く関心を持ち、開かれた心で授業に臨んでほしいと思います。

学びのキーワード

- ・アフリカ系アメリカ人（黒人）
- ・奴隷制度、人種隔離制度
- ・公民権（市民権）
- ・ユダヤ人
- ・人格・人権

授業計画

01. アメリカの宗教的多元化と右派化
02. アメリカ教会史
03. アメリカ黒人の歴史
04. フレデリック・ダグラスの生涯と奴隷制度
05. 南北戦争と奴隷解放宣言
06. 動画で見るアメリカの奴隷制度
07. 人種隔離制度と黒人たちの闘い
08. 公民権運動への序章
09. M. L. キングと公民権運動（1）（その歩み）
10. M. L. キングと公民権運動（2）（その思想）
11. マルコムXの闘い
12. ドイツとユダヤ人—その差別と迫害の歴史（1）（近代まで）
13. スペインとユダヤ人—その差別と迫害の歴史
14. ドイツとユダヤ人—その差別と迫害の歴史（2）（現代）
15. まとめ—人間の尊厳と人権

準備学習(予習)

予習としては、シラバスで授業内容を確認すると共に、毎回授業の最後に次回の予告をするので、下調べをしておくこと。

準備学習(復習)

復習としては、授業で毎回配布される講義内容のプリントを読み返すこと。また必要と関心に応じて、自分でさらに調べ、知識を深めること。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 課題 | 10% |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は、試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

教科書

参考書

毎回授業の初めにプリントを配布します。

日本史概説 A		TEAT-P-200/TEAT-L-200/HIST-J-10 0
担当教員： 松井 慎一郎		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目/選択科目 単位： 2 コード： 1J120381		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける 【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 02. 邪馬台国はどこにあったのか？ 03. 稲荷山古墳出土鉄剣銘の衝撃 04. 聖徳太子は本当に偉人なのか。 05. 「天皇」と「日本」の誕生 06. 聖武天皇の憂鬱と天皇制の危機 07. 桓武天皇のコンプレックス 08. 極楽浄土に憧れた道長・頼通父子 09. 畠山重忠の怪力伝説 10. 「官軍」はなぜ負けたのか？－承久の乱をめぐる－ 11. 「冬は必ず春となる」－蒙古襲来と鎌倉新仏教－ 12. 尊治と尊氏 13. くじ引きで決めた征夷大將軍 14. 北条氏に支配された武蔵国 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】日本語教員養成課程：選択必修科目 【L】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】日本語教員養成課程：選択必修科目 【L】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】日本語教員養成課程：選択必修科目 【P】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>概説Aでは、古代・中世の日本史を対象とする。ここ北武蔵の地は、古代においては、埼玉古墳群に象徴されるように、東国豪族が活躍する舞台であり、中世期には、畠山重忠や熊谷直実らの武蔵武士を輩出し、彼らの活躍が鎌倉幕府成立に大きく貢献した。できるだけ北武蔵の状況について触れながら、古代・中世における政治の変遷について解説していく。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各回で取り扱う事項に関する予備知識を得たうえで講義に臨むこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>高校までの歴史の学びは、人物名、事件名、年号などをひたすら頭にいれるという暗記物であったかもしれないが、大学での歴史の授業は、史料を解説しながら、過去の時代を考察するという作業が中心となる。史料読解力や論理的思考力を養っていきたい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業終了後は、プリントを読み返すなどして、しっかり理解すること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>日本の歴史について関心がある者の受講を望む。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 期末試験 80% (2) 平常点 20%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 日本 ・ 古代 ・ 中世 ・ 武蔵国 ・ 政治史</div>	<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div> <div>参考書</div>	

TEAT-P-200/TEAT-L-200/HIST-J-10
0

毎授業、複数冊、紹介する。

SOCI-J-100

担当教員： 横山 寿世理

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1J312800

学部教育の関連目

【J】実践力：社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 内容

本講義の目的は、社会調査によってデータや資料を収集して、それらを整理して、基礎的な分析の具体的な手法を学ぶことにある。単に社会調査の方法を知るだけではなく、講義内で受講生を対象に模擬的に調査を実施する。これに加えて、データ収集・整理の方法、および初歩的な統計データやグラフの読み方などを実際の作業を通じて体験 することで理解を深める。講義の中で、作業の体験を重視するのは、「社会調査実習」（社会調査士G科目）で、社会調査を実施するための準備を本講義で行うためである。

本講義は、日本文化学科専門科目の文化論・比較文化系に位置する科目であるとともに、社会調査士認定B科目およびC科目に該当するので、A科目「社会調査入門」に引き 続き受講することを強く勧める。なお、資格取得を希望しない学生も受講することができる。

(2) 学びの意義と目標

この講義では、公的統計や簡単な調査報告・調査論文が読めるようになることを目標とする。受講生には、主にアンケート調査の実施方法やアンケート票の作成方法を学ぶ 講義だと考えて欲しい。さらに、グループ・ワークも取り入れる予定なので、コミュニケーション能力の育成にも役立つだろう。

受講者に対する要望

講義内での課題はUNIPAへ提出することが求められるので、パソコンを受講者自身が操作することになる。データを一時的に保存する必要性もあるので、USBメモリを用意してほしい。

学びのキーワード

・社会調査

・アンケート

・インタビュー

・社会調査士

授業計画

01.

社会調査の目的と方法|（「社会調査入門」の復習、調査の実施方法とその特徴を学ぶ）

02.

社会調査の企画と設計|（調査票調査を理解した上で、調査票調査の企画と設計方法について学ぶ）

03.

仮説と変数|（仮説および作業仮説、変数とは何か、独立変数および従属変数について学ぶ）

04.

仮説と質問文の関係|（仮説と質問文の関係を理解して、仮説の作り方を学ぶ）

05.

仮説と質問文の関係|（仮説と質問文の関係を理解して、質問文と質問方法による問題を学ぶ）

06.

質問文と選択肢の作り方|（意識と事実の問い方、ワーディング・回答の選択肢に関する問題、尺度の種類）

07.

仮説を作る【グループ作業】|（講義内で実施する模擬調査のため、仮説を立てる）

08.

仮説を作る【グループ作業】|（講義内で実施する模擬調査のため、仮説を立てる）

09.

質問と選択肢を作る【グループ作業】|（講義内で実施する模擬調査のため、質問と選択肢を作る）

10.

調査票の構成【グループ作業】

11.

プリテスト

12.

質問と選択肢を作る【グループ作業】|（講義内で実施する模擬調査のため、質問と選択肢を作る）

13.

データ入力とデータ・クリーニング|（実際にPCもしくは集計表を使ったデータ入力、データ・クリーニングを行う）

14.

サンプリングの考え方と理論|（全数調査と標本調査、無作為抽出、正規分布、標本誤差、標本数の決め方）

15.

サンプリングの考え方と理論|（全数調査と標本調査、無作為抽出、正規分布、標本誤差、標本数の決め方）

16.

サンプリングの実際|（サンプリングの種類と方法について学び、実際のサンプリング作業を知る）

17.

17.単純集計と度数分布|（尺度の種類、講義内模擬調査から度数分布表を作成する）

18.

平均・分散・標準偏差|（講義内模擬調査から得た変数を使って、平均・分散・標準偏差を理解する）

19.

クロス集計表の読み方|（さまざまなクロス集計結果から仮説を検証することを学ぶ）

20.

クロス集計表を読む|（さまざまなクロス集計結果から仮説を検証することを学ぶ）

21.

クロス集計表を作る|（模擬調査結果からクロス集計表の作成、仮説の検証、簡単な報告書の執筆）

22.

調査結果のまとめかた|（模擬調査による仮説の検証、簡単な報告書執筆

23.

カイニ乗検定|（模擬調査結果分析を精緻化するために、カイニ乗検定の考え方を学ぶ）

24.

カイニ乗検定|（模擬調査結果分析からカイニ乗検定の考え方を学び、実践してみる）

25.

クロス集計表のエロポレイション|（模擬調査結果分析をより精緻化するために、第3変数と疑似連関について学ぶ）

26.

相関関係と因果関係|（共分散および相関関係、相関係数について学ぶ）

27.

相関関係と因果関係|（相関係数の注意点と、関連および相関関係と因果関係との違いについて学ぶ）

28.

質的データの読み方|（インタビュー記録や文書などの質的データの分析方法について概観する）

29.

質的データを読む|（実際に、用意された記録や文書を簡単に分析してみる）

30.

まとめ

準備学習(予習)

前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくこと。

準備学習(復習)

UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。

評価方法

(1) 講義内課題

40%

出席点は設けない。ほぼ毎回課される講義によって評価される。

(2) 報告書

20%

(3) 期末試験

40%

持ち込み不可

前の講義内容への積み重ねで理解できる講義であるため、欠席しないことが重要になる。

教科書

大谷 信介、後藤 範章、小松 洋、木下 栄二 『新・社会調査へのアプローチ―理論と方法』（ミネルヴァ書房）

参考書

Civilization & Environment

担当教員：村上 公久

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：2 コード：1P200110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

Culture is a spiritual abstraction or a blueprint of civilization, and civilization is the concrete substance of culture. No civilization was ever established with a small population that could survive within a framework of consuming no more than excessive production out of the ecosystem. People survived within the carrying capacity of nature until civilization was built.

Civilization has emerged as the population growth support system. In this course, we will comprehend civilization as a 'man-institution system'. The man-institution system may be carried out under the restraints of man-environment system. It is worthwhile to study cultivation and agriculture as population growth support instruments and to study cities as over population accumulation instruments.

(2) 学びの意義と目標

Environmental issues of the world today could be well understood through studying these two instruments. Determination of the expansion limit of the man-institution system and controlling it through study of the man-environment system will provide a suitable strategy for Sustainable Development.

受講者に対する要望

This course is provided only in English. Proficiency in English is requisite for taking the course.

学びのキーワード

- ・ Civilization and Culture
- ・ Civilization Crises
- ・ Agriculture
- ・ City
- ・ Environmental Revolution

授業計画

01. Life and Environment
02. Definition of Life
03. Global Environmental Issues and Civilization Problem
04. Three Civilization Crises in history (1) — ancient civilization crisis
05. Three Civilization Crises in history (2) — medieval civilization crisis
06. Crisis of Modern Civilization (The third crisis)
07. Civilization and Culture (1) — substance and sketch
08. Civilization and Culture (2) — physical environment and civilization
09. Civilization and Culture (3) — cultural climate and civilization
10. Tool Revolution and Agriculture Revolution
11. Agriculture (population support instrument)
12. City (over population accumulation instrument)
13. Limit of self-domestication of man
14. Limit determination of man-institution system
15. Pursuit of Environmental Revolution

準備学習(予習)

Reading lists are provided.

準備学習(復習)

Reaction papers and reports are assigned at each class.

評価方法

- | | |
|---|-----|
| (1) class contribution through discussion | 50% |
| (2) reaction papers | 25% |
| (3) reports | 25% |

class contribution through discussion is appreciated.

教科書

No textbook: reading lists, handouts, and visual aids are provided throughout the course

参考書

reading lists, handouts, and visual aids are provided throughout the course

政治過程論

POSC-L-200

担当教員：高橋 愛子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P200330

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る
【L】知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

政治学の学問史のなかにおける「政治過程論」の史的
位置づけ・特徴について考察し、その後、各論をテキスト
を参考にしながら学んでいく。基本的なテキストとして
下記の教科書を使い、必要に応じて資料を配布する。
リアルな政治現象への認識を得るため新聞やニュース映
像を適宜使用する。受講者は、政治にかかわる新聞記事
のスクラップに各自のコメントを付したコメント・シー
トの提出が課せられる。
<カリキュラム上の位置づけ>必修の専門基礎科目「政
治学」修得済みの学生が、政治過程に」についてより専門
的に学ぶための科目である。

(2) 学びの意義と目標

本講義の狙いは以下の三点である。第一に、政治
現象の分析や考察において不可欠かつ主要な位置
を占める「権力（power）」概念の多面的な学びを
通して、政治プロセスの各局面で「権力」がどの
ように作用しているかを考察すること、第二に、
政策決定過程の全体像についての概観を得ること
と、そして第三に、政策決定の各プロセスの中に
潜む様々な問題が私達にとってどのような「意
味」を持っているかを考えることである。

受講者に対する要望

(1) リアルタイムに進行している国内外の政治
現象に対し積極的な関心をもつこと、(2) ネット
やテレビでのニュースを見るだけでなく、新聞を
できる限り毎日読むこと。

学びのキーワード

- ・大衆社会
- ・権力とは何か
- ・政治文化
- ・立法過程
- ・「公益」とは何か

授業計画

01. 導入：講義計画の説明
02. 導入：政治過程論とはどのような学問か
03. 大衆社会の登場
04. 大衆社会における人間
05. 大衆社会の帰結
06. 大衆社会における人間観の変化
07. E. フロム『自由からの逃走』
08. さまざまの権力観（1）
09. さまざまの権力観（2）
10. さまざまの権力観（3）
11. 政策決定過程と課題設定過程（1）
12. 政策決定過程と課題設定過程（2）
13. 政治システム論（1）
14. 政治システム論（2）
15. 前半のまとめ、学生からのコメントや質問への応答
16. 前半のふりかえりに基づくグループワーク
17. 政治文化論（1）
18. 政治文化論（2）
19. 政治的社会化
20. 脱物質主義的価値観
21. 人間関係資本
22. 組織による決定（1）
23. 組織による決定（2）
24. 議会と立法過程（1）
25. 議会と立法過程（2）
26. 利益集団とNGO（1）
27. 利益集団とNGO（2）
28. 選挙制度と政治参加（1）
29. 選挙制度と政治参加（2）
30. 一学期間のまとめ

準備学習（予習）

予め配布するペーパーあるいは教科書の該当箇所を読
んでくること。

準備学習（復習）

授業のポイントについてのレスポンス・シートの作成、
提出。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 40% |
| (2) 期末テスト | 30% |
| (3) 新聞コメントの提出 | 30% |

教科書

伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』（有斐閣）【ISBN:978-4641120938】

参考書

公共政策論

ECON-P-200/POSC-L-2

担当教員：久保 善慎

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P200440

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
【L】市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

【L】 行政コース：基幹科目 【P】 P0EC020
【P】 P0EC020

(1) 内容

公共政策とは、政府または公共部門が行う公共的公共問題の解決策のことをいう。政府または公共部門が行う公共的な政策全般を指す総称である。家庭から出る資源のリサイクルから安全保障の問題まで、社会のあらゆる領域に及ぶ。

現代において公的な課題を解決する担い手は、国や自治体など公的機関にかぎらない。履修者の希望する就職先が、例えば民間企業であったとしても、その事業が公的な役割を果たしている事業とはもちろんである。広く社会に貢献できる事業だからこそ、その組織は継続もするし拡大していくのである。

この講義では、公共政策を意図（なぜ）、主体（だれ）が、行動（どのように）という観点から読み解いていく。それを通じて公共的問題の本質を理解することを目指す。具体的には、これまでに公政策の蓄積を利用し、公共政策がどのように決定され、実施、評価されているかという公共政策のプロセスを説明する。

(2) 学びの意義と目標

受講者が将来どのような職業に就くにせよ、公
共政策についての常識的な判断力を持ち合わせる
おかなければならない。将来の進路を決める際
も、また就職面接でも、公務員試験の論文や面接
においても、各自がどのような社会課題に注目
し、どのような考えを持っているのかを問われ
ることになる。履修者が社会課題に対して、それ
この意見や考えを持ち、意見を述べられるよう
なることを目標とする。

受講者に対する要望

毎回の講義で実施する小テスト、学期中に複数回実施するレポート報告とディスカッションを通じ、自ら考えをまとめて適切に表現する能力を養う。履修者が積極的な態度で授業に貢献することを望んでいる。

学びのキーワード

- ・ 公共政策と公共問題
- ・ 政策決定
- ・ 政策実施
- ・ 政策評価

授業計画

01. イントロダクション
02. 公共政策とは何か (1) 公共政策の基本構造
03. 公共政策とは何か (2) 公共政策へのアプローチ
04. 公共政策学の系譜 (1) 第1期・第2期
05. 公共政策学の系譜 (2) 第3期
06. アジェンダ設定 (1) アジェンダ設定理論
07. アジェンダ設定 (2) 政策決定
08. 政策問題の構造化
09. 公共政策の手段 (1) 直接供給と直接規制
10. 公共政策の手段 (2) 誘因およびその他の手段
11. 規範的判断 (1) 公平、効率性、安全・安心、自由
12. 規範的判断 (2) 価値の対立と政策の判断基準
13. 政策決定と合理性 (1) 政策決定の合理化への試み
14. 政策決定と合理性 (2) 合理的意思決定の限界
15. 政策決定と利益 (1) 利益調整としての政策決定過程
16. 政策決定と利益 (2) 利益と政治
17. 政策決定と制度
18. レポートの報告とディスカッション (1)
19. 政策決定とアイディア (1) アイディアの概念、アイディアによる影響
20. 政策決定とアイディア (2) 政策へのプロセス
21. 公共政策の実施 (1) 位置づけと構造、実施の現場
22. 公共政策の実施 (2) 実施研究のアプローチ
23. 公共政策の評価 (1) 評価のロジック、政策評価の種類と機能
24. 公共政策の評価 (2) 政策評価の政治性と参加
25. 公共政策管理のシステム (1) 市場メカニズムの活用
26. 公共政策管理のシステム (2) 地方分権とガバナンス
27. レポート報告とディスカッション (2)
28. 応用問題 (1) 国際紛争
29. 応用問題 (2) 社会保障と税負担
30. 期末試験

準備學習(予習)

公共政策は現実の社会問題の解決に寄与することを志す実践的学問である。日ごろからニュース、新聞、書籍などを通じて、時事問題に関心を払っておくことが求められる。

準備學習(復習)

毎回の授業時に示す課題について、各自が次回までに自主的に準備することが望まれる。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業での積極的な貢献 | 30% |
| (2) レポート | 30% |
| (3) 試験 | 40% |

教科書

授業計画にあわせて、適宜授業時に示す。

参考書

倫理学概論			
担当教員： 井上 兼生			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	
学部教育の関連目		授業計画	
		01. イントロダクション：科学技術文明の彼方から「倫理」を考えるー「風の谷のナウシカ」を手掛かりとして	
		02. 「ナウシカ」から考える文明と自然と倫理	
		03. 「よく生きる」とは？ーソクラテスの問い	
		04. クマのプーさんの目的は？ーアリストテレスの目的論的倫理	
		05. 利己主義は道徳に反するか？ーカントとベンサム	
		06. 多数のために誰かを犠牲にしてよいか？ー功利主義と人格の尊厳	
		07. 困っている人を助けるのは義務か？ーよきサマリア人の喩えとボランティア精神、カントの不完全義務	
		08. 生命倫理①「生命の選別」は許されるか？	
		09. 生命倫理②脳死は人の死か？	
		10. 生命倫理③エンハンスメント(能力増強)は許容可能か？	
		11. 環境倫理①自然にも権利はあるか？	
		12. 環境倫理②未来世代に責任を負わなければならないか？	
		13. 高度情報社会と倫理ー情報公開と個人のプライバシー保護をどう両立するか？	
		14. アトムかターミネーターか？ー知能ロボットの進化と倫理	
		15. まとめー現代と倫理	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
倫理学は、「〈よく生きる〉とはどういうことか」、あるいは、その「よさ」つまり「善」とは何かを理論的に探究する学問である。しかし、科学技術の進歩が著しい現代社会においては、従来とは異なる新たな倫理も必要とされるようになっている。たとえば、さまざまな先端医療技術の実用化により、人間の生と死のあり方に関しても人為的な選択の幅が拡大されて、これまでになかった多くの倫理問題が発生し、それらに取り組むために生命倫理という分野が成立している。また、現在の最速コンピュータの性能は、30年前のものの1000万倍以上といわれる。その間、インターネットも世界中をくまなく覆うようになった。私たちは、もうスマホやネットのない生活は考えられなくなっている。しかし、ネットトラブルやサイバー犯罪が広がり、情報倫理という分野が必要となった。また、人工知能が進歩し、今後、雇用の半分を奪うのではないかと予測されている。こうした、ただ生きるだけでも大変な現代社会で、〈よく生きる〉ためには、どう生きていけばよいのだろうか。さまざまな倫理的問題を具体的に考えながら、ともに考えてみよう。			
(2) 学びの意義と目標			
対話の参加者とともに主題となっている問いについて深く考える「哲学対話」と、テキストの読解、論述などを通して、深く考える力を育成することに力点をおいた授業をめざします。この科目は、社会科の教職科目でもあります。		準備学習(予習)	
		各回の授業は1時間ずつ異なったテーマを取り上げていきます。事前にテーマについての基礎知識を収集するなど、関心を高めておくこと。	
		準備学習(復習)	
		レポートも課します。授業で取り上げたテーマについて各自、深く考える努力を求めます。	
受講者に対する要望		評価方法	
積極的に自分で考えたり、議論したり、調べようとする態度で臨んでほしい。		(1) 授業への参加 30%	
		(2) 授業内レポート 40%	
		(3) 学期末レポート 30%	
学びのキーワード		教科書	
・よく生きる		プリントを配布する	
・哲学対話			
・深く考える力の育成		参考書	

国際政治論		POSC-P-200									
担当教員：宮本 悟											
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1P200770									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 分析枠組みとしての国際政治学（教科書序章、プリント配布） 02. 国際政治の悲劇性とリアリズム（教科書第1章「国際政治学の見取り図」1） 03. リアリズムへの挑戦（教科書第1章「国際政治学の見取り図」2） 04. 三つの分析レベル（教科書第1章「国際政治学の見取り図」3） 05. 国際政治から世界政治へ？国際政治の悲劇性とリアリズム（教科書第1章「国際政治学の見取り図」4） 06. 主権国家体制以前の「世界秩序」（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」1） 07. 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」2） 08. 世界大戦と主権国家体制のグローバル化（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」2） 09. 冷戦期の国際政治（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」4） 10. 冷戦終結後の国際政治（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」5） 11. 外交 ●同意確保の政治過程（教科書第3章「対外政策の選択」1） 12. 国内政治と対外政策（教科書第3章「対外政策の選択」2） 13. 国家間の戦略的相互依存（教科書第3章「対外政策の選択」3） 14. 認識と行動（教科書第3章「対外政策の選択」4） 15. 威嚇と約束（教科書第3章「対外政策の選択」5） 16. 領域主権国家体制 ●国内類推論の系譜（教科書第4章「国際秩序」1） 17. 秩序の設計と生成 ●市場類推論の系譜（教科書第4章「国際秩序」2） 18. 国際秩序の変動と国内秩序の変動 ●共振論の挑戦（教科書第4章「国際秩序」3） 19. 戦争から安全保障へ（教科書第5章「安全保障」1） 20. 軍事的安全保障（教科書第5章「安全保障」2） 21. 安全保障の諸問題（教科書第5章「安全保障」3） 22. 国際の平和と国内の平和（教科書第5章「安全保障」4） 23. 歴史と思想（教科書第6章「国際政治経済」1） 24. 国際経済の制度（教科書第6章「国際政治経済」2） 25. 国際政治経済の過程（教科書第6章「国際政治経済」3） 26. グローバリゼーションとパワーシフト（教科書第6章「国際政治経済」4） 27. 平和と正義の相克（教科書第7章「越境的世界」1） 28. 越境問題の実相（教科書第7章「越境的世界」2） 29. 文明論と国際政治 ●「へだて」と「つながり」（教科書第7章「越境的世界」1） 30. 国際政治学と現代の国際問題についてのまとめ</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民選択科目 【P】中学校教諭一種免許：社会選択科目</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の各該当部分を読んで予習する。授業内レポート(BRC：授業内で書き上げる簡単な論述400字程度。これについては、オリエンテーションで説明する)の作成を通して予習する。加えて、教科書で予習する。イントロダクションで、授業内レポート(BRC)についての別紙シラバスを配布する。</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>授業は教科書にそって、国際政治学の総論から始まって各分野を学んでいきます。国際政治学の基本概念と国際政治の歴史、対外政策論や国際秩序、安全保障論、国際政治経済論、さらにグローバルイズムの問題として越境的世界について学びます。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内レポート(BRC)を再読する。授業内予習時間に書き残した未完成の授業内レポート(BRC)を授業後に完成させる。それにより、授業後の理解を深める。加えて、教科書で復習する。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>国際政治には数多くの側面があり、これを理解するには多くの分析枠組みを学ぶ必要があります。ある一面でしか国際政治を理解できないことは、大きな誤りをおかすことになりかねません。この授業では国際政治学の基礎的な分析枠組みや視角を一通り学ぶことになります。本授業は、第一に、国際政治学の基礎的な分析枠組みや視角を習得すること、第二に、それらの基礎知識に基づいて、国際政治の諸問題をより深く理解し、自ら解決方法を考える能力を養うことを目標とします。</div>	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>10%</td><td>予習の準備学習や、授業中に提出する課題を評価することがある。また、授業出席の状況なども出席記録がなければ評価対象とされていない。</td></tr><tr><td>(2) 授業内レポート（BRC）</td><td>50%</td><td>各回授業の授業内レポート（BRC）を完成させ、全てをまとめてUNIPAで提出</td></tr><tr><td>(3) 期末試験</td><td>40%</td><td>論述試験</td></tr></table>		(1) 平常点	10%	予習の準備学習や、授業中に提出する課題を評価することがある。また、授業出席の状況なども出席記録がなければ評価対象とされていない。	(2) 授業内レポート（BRC）	50%	各回授業の授業内レポート（BRC）を完成させ、全てをまとめてUNIPAで提出	(3) 期末試験	40%	論述試験
(1) 平常点	10%	予習の準備学習や、授業中に提出する課題を評価することがある。また、授業出席の状況なども出席記録がなければ評価対象とされていない。									
(2) 授業内レポート（BRC）	50%	各回授業の授業内レポート（BRC）を完成させ、全てをまとめてUNIPAで提出									
(3) 期末試験	40%	論述試験									
<div>受講者に対する要望</div> <div>受講生は、（1）各授業に対応する教科書の該当部分を予習してきて、（2）講義を聴き、理解し、質問に答えてもらいます。原則、教科書に沿って講義を進めていきます。ほぼ毎回、授業内レポート（BRC）を作成してもらいます。</div>	<div>教科書</div> <div>中西寛、石田淳、田所昌幸著『国際政治学』（有斐閣、2013年4月）</div>										
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">リアリズムグローバリズム対外政策論国際政治経済論安全保障論</div>	<div>参考書</div>										

地域圏研究(アジア)		POSC-P-200/POSC-L-2										
担当教員： 宮本 悟												
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P201110										
学部教育の関連目		授業計画										
<div>【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る</div> <div>【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>01. イントロダクション：授業説明とアジアの情勢</div> <div>02. 韓国の現代政治史</div> <div>03. 韓国の大統領と国会</div> <div>04. 韓国の選挙：大統領選挙・国会選挙・統一地方選挙</div> <div>05. 韓国政府と韓国国軍及び在韓米軍</div> <div>06. 日韓関係・米韓関係・中韓関係</div> <div>07. 北朝鮮の現代政治史</div> <div>08. 北朝鮮の政治システム：党と国家</div> <div>09. 北朝鮮の党と軍隊</div> <div>10. 北朝鮮の統治イデオロギー：主体思想と先軍思想</div> <div>11. 北朝鮮の外交関係</div> <div>12. 中国の現代政治史</div> <div>13. 中国の政治システム：党と国家</div> <div>14. 中国の党と軍隊</div> <div>15. 中国における社会主義と市場経済</div> <div>16. 米中関係と日中関係</div> <div>17. 台湾(中華民国)の現代政治史</div> <div>18. 台湾(中華民国)の総統と立法院</div> <div>19. 台湾(中華民国)の選挙：総統選挙・立法委員選挙・地方選挙</div> <div>20. 台湾(中華民国)政府と軍隊</div> <div>21. 台湾(中華民国)の国際関係</div> <div>22. 東南アジアの現代史</div> <div>23. 東南アジア諸国の紛争</div> <div>24. 東南アジアの経済発展</div> <div>25. ASEANの役割</div> <div>26. モンゴルや中央アジア諸国の政治経済、日本との関係</div> <div>27. 南アジア：インドとパキスタンの関係</div> <div>28. 中東情勢：アラブの春</div> <div>29. 「イスラム国(IS)」をめぐる国際情勢</div> <div>30. アジアにおける国際交流と紛争のまとめ</div>										
カリキュラム上の位置付け												
<div>【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目</div> <div>【L】 中学校教諭一種免許：社会選択科目【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目</div> <div>【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目</div> <div>【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目</div> <div>【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目</div>												
(1) 内容												
<p>本講義では、おおよそ第2次世界大戦終戦後からのアジア諸国全般の情勢について考察する。東アジアの韓国、北朝鮮、中国、台湾に多くの時間を割いて、その現代政治史や政治システム、外交関係などを考察する。さらに東南アジアや中央アジア、南アジア、中東にも触れていきたい。</p> <p>日本では、中台や朝鮮半島に対して関心は高くとも、その政治システムや現代史については、憶測も含めて様々な情報が行き来しており、実態としてはあまり理解されていないと思われる。その中でも、社会主義国家である中国や北朝鮮は、日本とは著しく異なる政治システムに基づいており、日本ではなかなか理解し難いものがある。しかし、東アジアは地理的に日本にも近く、一定の知識を持つておく必要がある地域である。</p> <p>グローバル化に伴って、東アジア以外の地域も日本にとって身近な存在となっており、とりわけ東南アジアや、南アジア、中東の情勢については日本でもよく知られるようになった。それらの地域に足を踏み入れ、教育活動や経済協力、ビジネスをするにしても、基礎的な知識を備える必要がある。</p>												
(2) 学びの意義と目標												
<p>第1に、講義への参加をきっかけにアジアへの関心を高め、一定の知識を獲得し、アジアに対する理解を深めることを目標とする。</p> <p>第2に、アジアに対する理解を深めた上で、自らがアジアに対する中立的な観点からの分析や評価を行えるような論理的思考を育成することを目標とする。</p>												
受講者に対する要望		準備学習(予習)										
<p>東アジアだけではなく、中東や東南アジアなどの現代政治史や政治システム、国際政治全般に関心がある者の受講を望む。</p>		<p>授業計画を参照し、トピックに関連する情報を集めること。事前に参考資料が指定された場合は読んでおくことが望ましい。</p>										
		準備学習(復習)										
		<p>配布プリントを再読し、各項目を説明できるようにしておくこと。</p>										
		評価方法										
		<table><tr><td>(1) 平常点</td><td>10%</td><td>予習の課題学習や、授業中に提出する小論文などによる。また、授業出席の状況なども評価材料がなければ評価が厳格にされない。</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>40%</td><td>1月中旬にUNIPAで提出。課題や詳しい締切は12月中旬までに指示する。</td></tr><tr><td>(3) 試験</td><td>50%</td><td>論述試験</td></tr></table>		(1) 平常点	10%	予習の課題学習や、授業中に提出する小論文などによる。また、授業出席の状況なども評価材料がなければ評価が厳格にされない。	(2) レポート	40%	1月中旬にUNIPAで提出。課題や詳しい締切は12月中旬までに指示する。	(3) 試験	50%	論述試験
(1) 平常点	10%	予習の課題学習や、授業中に提出する小論文などによる。また、授業出席の状況なども評価材料がなければ評価が厳格にされない。										
(2) レポート	40%	1月中旬にUNIPAで提出。課題や詳しい締切は12月中旬までに指示する。										
(3) 試験	50%	論述試験										
学びのキーワード		教科書										
<div>・ アジア</div> <div>・ 朝鮮半島</div> <div>・ 中国</div> <div>・ 台湾</div> <div>・ 東南アジア</div>												
		参考書										
		<p>参考文献については、以下以外にも授業の中で指示する。</p> <p>大西裕『先進国・韓国の変遷 少子高齢化、経済格差、グローバル化』(中公新書、2014年)</p> <p>木村幹『韓国現代史 大統領たちの栄光と醜談』(中央公論新社、2008年)</p> <p>宮本悟『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか?』(南雲英光人社、2013年)</p> <p>関分良生『現代中国の政治と官僚制』(慶應義塾大学出版会、2004年)</p>										

担当教員：佐々木 一如

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1P201220

学部教育の関連目

【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
【L】 市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

【L】 行政コース：基幹科目 【P】 行政コース：基幹科目
【P】 行政コース：基幹科目

(1) 内容

この講義では、これまでの地方自治研究の蓄積を利用し、日本の地方自治について(1)制度、(2)機構、(3)政策、(4)管理、(5)住民という視点から説明する。

この講義は、政治学、行政学、公共政策論などの政治学関係科目のほか、憲法および行政法などの法律学系科目を学習するうえで重要なポイントとなる地方自治に関する知識を提供している。

(2) 学びの意義と目標

自治体は私たちの日常生活から縁遠い存在であると思われがちだが、自治体の提供する行政サービスの良し悪しは人々の暮らしを大きく左右している。

この講義は、受講者が地域における様々な問題や地方自治の仕組みを考察できるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

この講義ではアクティブラーニングを重視する。学期中に複数回実施する小テスト、レポート報告とディスカッションを通じて、自ら考えをまとめて適切に表現する能力を養う。積極的な態度で授業に臨むこと。

学びのキーワード

- ・ 住民自治と団体自治
- ・ 地方自治制度
- ・ 自治体運営
- ・ 自治体政策

授業計画

01. ガイダンス
02. 自治体と地方自治制度
03. 日本の地方自治制度の歴史
04. 地方分権改革
05. 都道府県と市区町村
06. 「制度論のまとめ」
07. 自治体の政治機構
08. 自治体の行政機関
09. 自治体統治機構の国際比較
10. 「機構論」のまとめ
11. 自治体の政策と総合計画
12. 政策法務と条例
13. まちづくりと公共事業
14. 環境政策と自治体
15. 産業政策と地域振興
16. 福祉政策と介護保険
17. 教育政策と自治体
18. 「政策論」のまとめ
19. レポート報告とディスカッション(1)
20. 自治体の組織管理
21. 財政運営と財政改革
22. 職員の職務と人事管理
23. 行政統制と自治体改革
24. 「管理論」のまとめ
25. 住民と自治体
26. コミュニティの自治
27. 「住民論」のまとめ
28. ケーススタディ(1)
29. レポート報告とディスカッション(2)
30. 学期末試験

準備学習(予習)

受講者は、政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを利用して情報を収集し、自分が問題意識をもつテーマについて説明できるようにしておくこと。

準備学習(復習)

適宜、実施する小テストの内容を十分に確認しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

『ホーンブック 地方自治 [第3版] 』（2014年）北樹出版。
{<http://www.hokuju.jp/books/view.cgi?cmd=dp&num=907&Tfile=Data>}

参考書

行政学		POSC-P-100/POSC-L-2
担当教員： 佐々木 一如		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P201330
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る</div> <div>【L】 知の基礎力：政治や社会のしくみの理解</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 行政、行政学とは何か</div> <div>02. 絶対王政と官房学 自由主義と小さな政府</div> <div>03. 政治・行政二分論とアメリカ行政学 20世紀の政府機能の拡大</div> <div>04. 福祉国家と行政国家 新自由主義と小さな政府論</div> <div>05. 公共性とガバナンス?：公共性の意味内容 公共性とガバナンス?：公共性の実現主体</div> <div>06. 行政と公共政策における価値基準?：5種類の価値 行政と公共政策における価値基準?：総合的な評価</div> <div>07. 日本の行政原理?：明治憲法の時代 日本の行政原理?：日本国憲法の時代 政府・行政の規模：国際比較</div> <div>08. 組織とは何か：行政組織の場合 科学的管理法</div> <div>09. 人間関係論 古典的組織論から新たな展開へ</div> <div>10. サイモンとサイモン以後 意思決定論</div> <div>11. 組織のイノベーション</div> <div>12. 内閣と政治的任命職 中央省庁とその内部構成、中央省庁改革</div> <div>13. 行政委員会と審議会 公企業の設立理由とその形態 公企業改革の歴史</div> <div>14. 計画による行政 ラインとスタッフ</div> <div>15. コミュニケーションと稟議制 リーダーシップ</div> <div>16. 公務員制度の諸原理 公務員のライフサイクル：採用・昇進・退</div> <div>17. 公務員を支える組織：人事院・総務省・内閣人事局 公務員の義務とモラル 公務員を取り巻く環境の変化：近年の公務員制度改革</div> <div>18. 財政制度 予算編成の年間スケジュールと参加者</div> <div>19. 予算編成の技術 決算と会計検査院 日本財政の争点口</div> <div>20. 行政責任の概念 リードリッピ・ファイナー論争と説明責任 行政統制の類型化 執行過程における行政裁量と統制</div> <div>21. M. ウェーバーの官僚制論 官僚制の限界と病理 官僚制モデルを超えて ストリート・レベルの官僚制</div> <div>22. 執政制度 立法過程?：立法過程の実態 立法過程?：政官関係論 立法過程?：議会過程 日本の国会をどう見るか</div> <div>23. 利益団体の機能と課題 利益団体の活動口</div> <div>24. 行政と政策主体の多様化 市民参加の機能と課題 市民活動・NPOの登場と広がり 広報・広聴の広がり 情報公開と市民と行政</div> <div>25. 不届申立て等による行政救済 議会：監査委員への働きかけ 司法による行政救済 オプスマンの機能と制度 直接請求と住民投票</div> <div>26. 団体自治と住民自治 地方自治の展開と役割</div> <div>27. 「集権・分権」と「分離・融合」 国の法的統制と事務制度 国の財政的な統制と支援 地方分権改革 道州制と大府都（大阪府廃止分割）構想</div> <div>28. 二代表表制 選挙と住民参加口</div> <div>29. まとめ</div> <div>30. 学期末試験</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 行政コース：基幹科目</div> <div>【L】 行政コース：基幹科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>中央省庁改革、地方分権改革、公務員制度改革・・・・日本では20年以上にわたって行政をめぐる「改革」が実行されてきたが、それらの改革は当初の目標をどの程度達成できたのだろうか。何よりも国民の生活にどのような影響を与えたのだろうか。</div> <div>そこで、この講義では、これまでの行政学の蓄積を利用し、行政の基本的な仕組みとその改革の内容を中心に説明する。</div> <div>この講義は、政治学、憲法（統治）、政治過程論、地方自治論、公共政策論などを学習するうえで重要なポイントとなる行政の仕組みに関する知識を提供している。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>行政サービスが暮らしの隅々にまで行き渡っている今日では、行政に関する正確かつ体系的な知識を持つことは社会人にとっての基本的素養である。</div> <div>この講義では、受講者が(1)行政の主要な仕組みを理解できるようになること、(2)行政をめぐる「改革」について総合的に評価できるようになることを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>受講者は、政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを利用して情報を収集し、自分が問題意識をもつテーマについて説明できるようにしておくこと。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>適宜、実施する小テストの内容を十分に確認しておくこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>この講義ではアクティブラーニングを重視する。学期中に複数回実施する小テスト、レポート報告とディスカッションを通じて、自ら考えをまとめて適切に表現する能力を養う。積極的な態度で授業に臨むこと。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 50% 授業貢献度、小テスト</div> <div>(2) 期末試験 30%</div> <div>(3) レポート 20%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 公務員制度</div> <div>・ 内閣と中央省庁</div> <div>・ 官民関係</div> <div>・ 中央地方関係</div>		<div>教科書</div> <div>『よくわかる行政学【第2版】』（2016年）ミネルヴァ書房[http://www.minervashobo.co.jp/book/b213825.html]</div> <div>参考書</div>

国際機構論			
担当教員： 小松崎 利明			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 4 コード： 1P201510
学部教育の関連目		授業計画	
		01. イントロダクション 02. 国際機構論史 03. 国際機構小史（１）国民国家体系 04. 国際機構小史（２）ヨーロッパ協調とハーグ平和会議 05. 国際機構小史（３）国際行政連合 06. 国際機構小史（４）国際連盟の制度 07. 国際機構小史（５）国際連盟の活動 08. 国際連合（１）成立の経緯と特徴 09. 国際連合（２）冷戦期の変化 10. 国際連合（３）冷戦終焉後の錯綜 11. 国際連合（４）特徴と課題 12. 国連改革（１）国連改革とは 13. 国連改革（２）国連改革論の軌跡と系譜 14. 国連改革（３）冷戦後世界と「改革」の本質的焦点 15. 前半のまとめ 16. 地域的国際機構（１）地域的国際機構の出現と増殖 17. 地域的国際機構（２）欧州連合の組織 18. 地域的国際機構（３）欧州連合の法と超国家性 19. 地域的国際機構（４）非超国家的統合：北欧共同体 20. 地域的国際機構（５）人権保障共同体：欧州審議会 21. 地域的国際機構（６）地域主義 22. 国際機構創設の動因（１）共通利益と国益 23. 国際機構創設の動因（２）具体的類型 24. 構造・機能・意思決定（１）構造 25. 構造・機能・意思決定（２）意思決定 26. 国際機構論の方法：法学的アプローチと政治学的アプローチ 27. 国際機構の理論化（１）理論と理論化 28. 国際機構の理論化（２）リアリズム、相互依存論、レジーム論、グローバル・ガバナンス論 29. 国際機構の理論化（３）連邦主義、機能主義、新機能主義、構築主義 30. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
国際機構は、戦争の処理とその後の秩序構築について話し合うための会議や、１８世紀以降の産業革命の結果生み出された国境を越える問題への対処を目的とした、国民国家体系における国家間の協力関係に端を発する。２０世紀に入り、非政府組織（NGO）も含め、その数は飛躍的に増大し、世界的な貿易体制、金融制度、安全保障、飢餓や貧困への援助など、現代の国際が直面する問題への対応にあたって、国連およびその関連諸機関をはじめとする国際機構の存在や役割は日に日にその重要性を増している。。			
この授業では、日々の具体的な事象や個々の国際機構の制度・活動の理解にとどまらず、国際機構がなぜ存在するのか、それが歴史上どのような意味を持ってきたのか、さらに、国際関係において国際機構を舞台としたアクター間の政治にはどのような意味があるのかという問題について考えること、さらに、国際機構論の学問的方法論や理論を学ぶことを目的とする。			
なお受講生は、国際法関連、国際政治関連、もしくは近現代史関連の授業を履修済みであることが望ましい。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
現代の国際的な問題への対応を行う際に重要な役割を果たす国連を中心とした国際機構の存在意義、機能、活動を学ぶことによって、国際社会の制度の問題に対する理解が深まる。		教科書の該当部分を読んでおく。	
この授業の目標は、受講生が国際社会の諸現象を観察し考える際に、個々の国家や人びとの言動に注目するのみならず、その背景に存在する国際機構という構造にも目を向けられるようになることである。			
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
授業中の私語、スマホいじりはご遠慮ください。		授業内容、教科書の要点をまとめておく。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 国際連合 ・ 国際行政連合 ・ 多国間主義 ・ 欧州連合 ・ 普遍主義、地域主義		(1) 平常点 10% ・教科書の指定箇所を事前に読んでいるか。 ・授業で積極的に発言し、授業内容の充実に貢献したか。 (2) リアクション・ペーパー 30% その日の授業内容を理解しているか。 (3) 定期試験 60% ・基本用語および概念を理解しているか。 ・与えられた設問に対して、国際機構論の観点から論じることができるか。	
		教科書	
		最上敏樹『国際機構論（第２版第３刷）』東京大学出版会、2012年 ISBN 9784130323369 {http://www.utp.or.jp/bd/4-13-032336-9.html}	
		参考書	
		授業内で紹介します。	

環境保全論			
担当教員： 村上 公久			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
学部教育の関連目		単位： 4 コード： 1P201620	
カリキュラム上の位置付け		授業計画	
(1) 内容		01. 体系的認識の重要性（「何故 大学で学ぶのか」） 02. 自然と環境 03. エコロジーの重要ないくつかの概念（1） — エントロピー entropy の法則 04. エコロジーの重要ないくつかの概念（2） — 生態系の五つの法則 05. 自然観の変遷（1） — 中世までの自然観 06. 自然観の変遷（2） — 近代からの自然観 07. 「3つの文化型」 man-in-nature の文化（1） — 人為artとしての文明と自然 08. 「3つの文化型」 man-in-nature の文化（2） — 文明を帯びたヒトの管理責任 09. 〔人間－環境〕系（1） — 主体と環境 10. 〔人間－環境〕系（2） — 動的な呼応関係 11. 21世紀の環境問題 生命圏の全的壊滅の危機 「突然」はあるか 12. 環境史（1） — 古代からconservationismまで 13. 環境史（2） — 現代環境意識の出現 14. 環境問題の歴史 15. 自然保護運動の歴史 16. 無思慮な悲観論とセンチメンタリズムの危険 17. 個体群生態学と環境容量 18. 「地球温暖化問題」（1） — 地質時代 第4紀以降の経緯 19. 「地球温暖化問題」（2） — 産業革命以降の温暖化 20. 「地球温暖化問題」（3） — 4つのシナリオと未来予測 21. 自然保護と環境保全 「自然破壊」と「自然保護」の対立、第三の立場「環境保全」 22. 保続的（持続的）社会 Sustainable Societyを考える 23. 資源の分類（1） — 再生産可能な資源 24. 資源の分類（2） — 枯渇性資源 25. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（1） — 再生可能資源 26. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（2） — 再生可能エネルギー 27. 保続する 〔人間－環境〕系 をめざして 28. 全球化globalization の中の環境問題 29. 「我々の家」としての地球 30. 総括と新しい問題提起	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
教養・総合科目「環境学」の内容を基礎として展開する内容を扱う専門科目。 この科目は 総合科目「環境学」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているので、準備として 「環境学」を予め履修しておくことが望ましい。		講義の各回については、事前に配布する講義資料をよく学び覚えておくこと。 この科目は 総合科目「環境学」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているので、準備として 「環境学」を予め履修しておくことが望ましい。「環境学」を履修済みの者はよく復習しておくこと。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
この科目は 総合科目「環境学」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているので、準備として 「環境学」を予め履修しておくことが望ましい。		各自、各回の講義内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めて講義記録のノートに記録する。また、各回の講義後リアクション・ペーパーを作成し次回の講義の始めに提出する。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 自然保護と環境保全 ・ 自然観の変遷 ・ 個体群生態学と環境容量 ・ 再生産可能な資源 と 枯渇性資源 ・ 保続的（持続的）発展		(1) クラスへの 参加と貢献 40% (2) 2回以上の 試験と 期末試験 60%	
		複数回の試験の成績、複数回のレポートとリアクション・ペーパー、受講態度、質問等による知的好奇心の強さと熱意、などを総合的に評価する。	
		教科書	
		なし、講義資料を配布する。	
		参考書	
		文献・資料のリスト と 講義資料を配布する。	

日本政治史		POSC-P-200/POSC-L-3
担当教員： 吉田 博司		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P201880
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】知の基礎力：政治や社会のしくみの理解</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 概観 02. 明治維新と公議輿論（幕藩体制） 03. 明治維新と公議輿論（幕閣専制とペリー来航） 04. 明治維新と公議輿論（雄藩-長州と薩摩） 05. 明治維新と公議輿論（朝廷と倒幕運動） 06. 復習授業 07. 明治憲法のできるまで（岩倉使節） 08. 明治憲法のできるまで（公議思想と自由民権） 09. 明治憲法のできるまで（政府と立憲思想） 10. 明治憲法の特徴（伊藤の憲法取調） 11. 明治憲法の特徴（主権、内閣、議会） 12. 復習授業 13. 初期議会（山県と自由党） 14. 初期議会（松方の解散総選挙） 15. 官僚と政党（自由党と山県派） 16. 官僚と政党（進歩党と松方） 17. 政友会（伊藤と憲政党） 18. 復習授業 19. 桂園時代（桂と西園寺政友会） 20. 桂園時代（情意投合とその破綻） 21. 大正政変 22. 政党政治化状況（山本内閣と大隈内閣） 23. 政党政治化状況（寺内内閣以後） 24. 復習授業 25. 憲政常道時代（第2次護憲運動） 26. 憲政常道時代（加藤内閣から田中内閣へ） 27. 憲政常道時代（浜口内閣から犬養内閣へ） 28. 昭和維新（政党政治への不信） 29. 昭和維新（血盟団事件から2.26事件へ） 30. 復習授業</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目 【L】中学校教諭一種免許：社会選択科目【P】高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目 【P】中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目 【P】中学校教諭一種免許：社会選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>明治、大正、昭和前期の政治史を日本の政党政治発展と挫折というテーマを根底に据えて振り返ります。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現代政治と日本国家の位置は、明治維新以降の歴史に連なります。内政外政上多難な現在を乗り切る知恵を歴史から学びましょう。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>次回のテーマについて指示を出しますので、一定要領で報告してください。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業は、聞くだけでなく、書くことでよりよい成果が得られます。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>穴埋めテスト返却後、間違いを確認し、復習テストに備えること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>60%</div></div><div><div>(2) 復習テスト</div><div>40%</div></div></div> <div>平常点は授業後の穴埋めテスト2.5回でつきます。復習テストは5回分の授業の小テストです。</div>	
	<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 明治維新</div><div>・ 明治憲法</div><div>・ 藩閥官僚</div><div>・ 政党内閣</div><div>・ 憲政常道</div></div>	
<div>教科書</div>		
<div>参考書</div>		

日本政治思想史		POSC-P-300					
担当教員： 吉田 博司							
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目				
		単位： 4	コード： 1P201910				
<div>学部教育の関連目</div> <p>【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る</p>		<div>授業計画</div> <div>01. 福沢諭吉と啓蒙思想</div> <div>02. 同</div> <div>03. 同</div> <div>04. 同</div> <div>05. 同</div> <div>06. 復習授業</div> <div>07. 国体の思想</div> <div>08. 同</div> <div>09. 同</div> <div>10. 同</div> <div>11. 同</div> <div>12. 復習授業</div> <div>13. 明治社会主義</div> <div>14. 同</div> <div>15. 大正デモクラシーの思想</div> <div>16. 吉野作造と民本主義</div> <div>17. 同</div> <div>18. 復習授業</div> <div>19. 新人会の思想</div> <div>20. 同</div> <div>21. 大山郁夫の思想</div> <div>22. 同</div> <div>23. 昭和維新の思想</div> <div>24. 復習授業</div> <div>25. 血盟団の思想</div> <div>26. 同</div> <div>27. 馬場恒吾の自由主義</div> <div>28. 同</div> <div>29. 総括</div> <div>30. 復習授業</div>					
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <p>近代日本の代表的な政治思想を自由主義から国家主義まで幅広く概観しましょう。</p>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>人間の思想の幅と根底に接することにより、寛容と理解という自由社会に不可欠な精神態度を養いましょう。</p>		<div>準備学習(予習)</div> <p>次回授業のテーマについて指示をだすので、所定の仕方 で報告すること。</p>					
		<div>準備学習(復習)</div> <p>穴埋めテストの返却後、間違いを確認し、復習テストに そなえること。</p>					
<div>受講者に対する要望</div> <p>授業は聞くだけでなく、書くことによりより成果 が上がります。</p>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>60%</td></tr><tr><td>(2) 復習テスト</td><td>40%</td></tr></table> <p>平常点は、授業後の穴埋めテスト25回でつけます。復習テストは5回分授業の小テストです。</p>		(1) 平常点	60%	(2) 復習テスト	40%
(1) 平常点	60%						
(2) 復習テスト	40%						
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・開かれた社会</div><div>・閉じた社会</div><div>・国体</div><div>・大正デモクラシー</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <p>吉田博司「近代日本の政治精神」 芦書房を教室で配布します。</p>					

西洋政治思想史 ― 近代政治思想							
担当教員： 森分 大輔							
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目							
単位： 4 コード： 1P202010							
<div>学部教育の関連目</div> <div>獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る</div>	<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクションI 政治学と思想 02. イントロダクションII 政治思想史の課題 03. プラトンI 政治思想の始まり 04. プラトンII 政治と善の問題 05. アリストテレスI 徳と政治 06. アリストテレスII 目的論と政治的行為 07. 中世の政治思想I アウグスティヌス 08. 中世の政治思想II アキナス 09. マキアヴェリI ルネサンスと政治思想 10. マキアヴェリII 共和主義と君主論 11. 宗教改革I ルターとプロテスタンティズム 12. 宗教改革II プロテスタンティズムの影響 13. ホッブズI コンフェッショナルリズムと政治哲学 14. ホッブズII 主権論の成立 15. ロックI 社会的課題と政治 16. ロックII 理性的個人の析出 17. ルソーI 不平等の起源 18. ルソーII 社会契約論と理性 19. アメリカ革命I 連邦制の成立 20. アメリカ革命II 共和国の伝統 21. バークI 保守主義とイギリス 22. バークII 政治家の役割 23. ミルI 功利主義と自由の問題 24. ミルII 市民社会の課題 25. トクヴィルI アメリカのデモクラシー 26. トクヴィルII フランス革命論 27. カントI 政治と倫理 28. カントII 政治の役割 29. ヘーゲル 近代社会と政治哲学 30. まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>古代と中世の政治思想を概観した後、16世紀から19世紀までの政治思想の成立と展開を追う。まず、私達が生きる近代国家のうちにどのような理念がこめられ、またそれがどのような歴史に支えられて成り立ってきたかを考察する。とはいえいたずらに近代国家を礼賛するのではなく、最初に古代と中世を学ぶことを通じて、近代が置き忘れてきたものについても合わせて目を向けたい。</div>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>近代国家を成り立たせている基本的な考え方を学ぶという意味では基礎的な科目である。しかし抽象的な概念が多いため、実際には難しく感じられるかもしれない。必修の「政治学」よりは難しい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に取り上げる思想家について指示するので、関連する書籍に目を通しておくこと。</div>						
	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義内容を踏まえて、自己の関心を明らかにしておくこと。また疑問については講義内のリアクションペーパーに記載し、疑問のままにしておかないこと。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>現代の政治への関心のみならず、そこにおいて交わされる政治的議論の内容に対する関心と、それが過去の様々な理論家の議論から組み立てられているという認識をもって講義に臨んでほしい。</div>	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 授業貢献</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 期末テスト</td><td>40%</td></tr></table></div>	(1) 授業貢献	40%	(2) レポート	20%	(3) 期末テスト	40%
(1) 授業貢献	40%						
(2) レポート	20%						
(3) 期末テスト	40%						
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">政治思想西洋歴史</div>	<div>教科書</div> <div>授業内に指示する</div> <div>参考書</div>						

社会福祉行政論			
担当教員： 神 伴夫			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
		単位： 4	コード： 1P202210
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 社会福祉を学ぶ意義 02. 社会福祉の歴史を学ぶ意義 03. 社会福祉の歴史 1 (世界) 04. 社会福祉の歴史 2 (世界) 05. 社会福祉の歴史 3 (日本) 06. 社会福祉の歴史 4 (日本) 07. 社会福祉制度の見直し・社会福祉基礎構造改革 08. 三権分立・社会福祉の行政組織 09. 社会福祉行政の役割 10. 社会福祉の行財政 11. 社会福祉行政の実施体制 12. 福祉行政と民間の役割 13. 高齢者福祉行政の概要と課題 14. 障害者福祉行政の概要と課題 15. 母子福祉行政の概要と課題 16. 児童福祉行政の概要と課題 17. 低所得者行政と生活保護、生活困窮者支援 18. 生活保護行政 1 19. 生活保護行政 2 20. 生活保護行政 3 21. プレゼンテーション 1 22. プレゼンテーション 2 23. 医療・年金制度について 24. 社会福祉施設の概要 25. 司法福祉制度（更生保護、人権擁護） 26. 家族の役割と地域社会 27. 社会福祉の国際動向 28. 現代社会と社会福祉（職業としての社会福祉） 29. 社会福祉行政の課題と展望 30. まとめ	
(1) 内容 児童虐待、DV、高齢者虐待、こどもの貧困の背景は何か。家庭機能の減退、晩婚化、単身世帯の増加、雇用形態の多様化などを要因として社会保障制度は転換を迫られている。保育・教育・介護などの機能を社会が担うことはどこまで可能か。高齢化・少子化などを背景として、社会福祉を取り巻く環境が大きく変わりつつある。福祉における行政と民間の役割は。福祉にたずさわる人材の育成をどのように進めていくか。法律や制度は社会の進展につれてどのように発展してきたのか。「介護の社会化」「措置から契約へ」「自立・自助・自己責任」「格差社会」などの意味するところを学びます。		準備学習(予習)	
(2) 学びの意義と目標 社会福祉関係の基本的法制度を社会の進展とともに学ぶ。、児童・障害者・高齢者・母子・生活保護行政などの施策を学び、今日の課題を家族の役割の変化や、地域社会の変化との関連で学ぶ。社会福祉・医療・年金など生活に大きく関わる分野を、行政や民間活動などと関連させて体系的に学び論理的思考を培う。		様々な考え方や、価値観を尊重するために、教科書だけでなく、福祉はもとより、文化、歴史、文学、芸術などについて、幅広く興味を持ち、書物を読んでください。授業の中でも書物の紹介をします。 1社会福祉の歴史 2高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉など各行政の課題(行政と民間の役割)	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
社会福祉を学び、社会、文学、歴史など幅広く興味を持ち、豊かな人間性を養い、社会人としての豊かな教養を身に着けてほしい。		1社会福祉の発展過程において、行政の果たしてきた役割をまとめる。 2高齢者福祉行政など各福祉分野についてその課題を新聞記事などから検証する。 3新聞の社説(社会会福祉に関するもの)を読む。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 社会福祉の歴史 ・ 福祉行政 ・ 行政と民間の役割 ・ 社会保障制度の概要 ・ 格差社会、生きずらさなどといわれる現代社会の課題		(1) プレゼンテーション 20% テーマ、方法は事前に指示します。 (2) まとめ 80% 800字の論文作成。テーマは当日指示します。教科書、ノート持ち込み可。	
		教科書	
		プリントを配布します。	
		参考書	
		岩田正美・武川正吾・永岡正己・平岡公一編「社会福祉の原理と思想」有斐閣ISBN4-641-05525-4 岩田正美・上野谷加代子・藤村正之著「社会福祉入門」有斐閣ISBN-641-12066-8	

埼玉地域政策研究（院）		POSC-P-400/POSC-L-3	
担当教員：大塚 健司			
学期：集中講		科目：専門科目	必修・選択：選択科目
単位：2		コード：1P202440	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る</div> <div>【L】市民力：地域社会を支えるために必要な知識</div>		<div>01. 人口減少、少子・高齢社会、福祉の体系</div> <div>02. 人口減少、少子・高齢社会、福祉の体系</div> <div>03. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化</div> <div>04. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化</div> <div>05. 埼玉県政の方向</div> <div>06. 埼玉県政の方向</div> <div>07. 環境問題の取り組み</div> <div>08. 環境問題の取り組み</div> <div>09. “住む、を見直す</div> <div>10. “住む、を見直す</div> <div>11. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み</div> <div>12. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み</div> <div>13. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～</div> <div>14. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～</div> <div>15. 埼玉地域政策研究のまとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】行政コース：応用科目</div> <div>【L】コミュニティコース：応用科目</div> <div>【L】行政コース：応用科目</div> <div>【L】コミュニティコース：応用科目</div>			
(1) 内容			
<div>人口減少、少子・高齢社会、グローバル化の中において、地方自治体としての埼玉県がどんな政策決定をしてきたか、また、ますます厳しさを増す財政状況のなかでどのような政策展開しようとしてしているのか、具体的な事例等を通して実践的な視点からその取り組みなどを研究対象として考察する。</div> <div>なお、本講座は必要に応じて埼玉県庁職員等の外部講師を招いて講義を行う。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>人口減少、少子・高齢化が社会にどんな影響を与えているか。社会構造、地域社会の変化に行政はどう対応しようとしているのかを市民目線で考察する。</div> <div>特に国と県、市町村（地方自治体）の関係について、その役割について考える。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>日本の人口構成、国と地方自治体の関係、福祉の体系、環境問題について調べておくこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>配布した資料等を参考にさらに論考すること。</div>	
受講者に対する要望		評価方法	
<div>身近な地方自治体、コミュニティ政策に関心のある者の受講を望む。</div>		<div>(1) レポート100%</div> <div>次回の授業までにレポートを提出、講義の要点をまとめ、討論を踏まえて感想をまとめること。</div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・人口減少、少子・高齢社会</div> <div>・国と地方自治体の関係、財政構造</div> <div>・土地政策、コミュニティ</div> <div>・福祉の体系、年金、医療、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、地域福祉</div> <div>・環境問題、環境福祉</div>		<div>参考書</div> <div>厚生労働白書、統計からみた埼玉県のすがた（編集・発行埼玉県総務部統計課）</div>	

公共哲学		POSC-P-300/POSC-L-3
担当教員： 谷口 隆一郎		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P202660
学部教育の関連目 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】知の基礎力：政治や社会のしくみの理解		授業計画 01. オリエンテーション 02. 【総論1】 公共哲学とは何か（1） 03. 【総論2】 公共哲学とは何か（2） 04. 【序章】 3.11の衝撃と公共哲学（1） 05. 【序章】 3.11の衝撃と公共哲学（2） 06. 【第1章】 公共哲学の「人間－社会」観と倫理観（1） 07. 【第1章】 公共哲学の「人間－社会」観と倫理観（2） 08. 【第2章】 メディアと宗教の公共的役割（1） 09. 【第2章】 メディアと宗教の公共的役割（2） 10. 【第3章】 新しい「公共的な諸学」の構想（1） 11. 【第3章】 新しい「公共的な諸学」の構想（2） 12. 【第4章】 正義と人権（1） 13. 【第4章】 正義と人権（2） 14. 【中間まとめ】 レポート発表 15. 【発展的テーマ】（1） 16. 【発展的テーマ】（2） 17. 【発展的テーマ】（3） 18. 【発展的テーマ】（4） 19. 【発展的テーマ】（5） 20. 【発展的テーマ】（6） 21. 【発展的テーマ】（7） 22. 【発展的テーマ】（8） 23. 【発展的テーマ】（9） 24. 【発展的テーマ】（10） 25. 【受講生による研究報告】 26. 【受講生による研究報告】 27. 【受講生による研究報告】 28. 【受講生による研究報告】 29. 【受講生による研究報告】 30. まとめと結論
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが帰属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要です。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅったい）の経緯と動向について学びます。 公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとつてのコミュニティの意味、コミュニタリアニズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げます。 期末試験として、テキストおよび授業内で言及された著作の中から1冊から2冊を選んで、その内容をまとめて報告し、そのうえでそれをレポートないし小論文にまとめて提出してもらう。 授業計画はあくまでも予定である。オリエンテーションで実際に受講者と合って方向性と内容と深度を決定する。		
(2) 学びの意義と目標 将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくといいいテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根底から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれています。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができます。行政系コースの専門科目の一つです。		準備学習(予習) テキストの各章を読んで予習する。さらに学習ノートを作成する。
		準備学習(復習) 学習ノートで授業中に得た知見と知識を確認・吟味する。
受講者に対する要望 参加度が悪ければ単位は与えない。下記の評価方法を参照。勉強はあまり好きでなくてもかまわないが、まじめに真剣に取り組むことを強く期待する。		評価方法 (1) 授業への参加度と貢献度 50% 出席はもちろんのこと、授業の学習に取り組む積極性。 (2) レポート 25% 中間的学習習得を知るためにレポートを課す。 (3) 論文 25% 後期試験の代わりに論文を課す。 受講者が少数の場合、ゼミ形式で授業を行う。 学則に従って、出席回数が授業回数の3分の2以上なければ単位を与えない。
学びのキーワード ・ 公共 ・ 公共倫理 ・ コミュニティ ・ コミュニタリアニズム ・ 正義・自由・平等・ニード		教科書 授業において適宜指示する。 参考書 その他、必要に応じて授業の中でプリントを配布したり、入手する文献を指示したりする。

政治哲学		POSC-P-200	
担当教員： 森分 大輔			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P202770	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 政治学と政治哲学1 政治哲学の課題 02. 政治学と政治哲学2 近現代における政治哲学の定義 03. 近代政治哲学の課題1 功利主義的人間像の形成 04. 近代政治哲学の課題2 政治と社会との関係 05. 近代政治哲学の課題3 社会的安定性と功利的人間像 06. 政治哲学における近代と現代1 産業社会の形成と政治の課題 07. 政治哲学における近代と現代2 階級対立と労働の価値 08. 政治哲学における近代と現代3 労働者の理想社会 09. 帝国主義と国民国家1 国民国家の形成 10. 帝国主義と国民国家2 帝国の形成 11. 国家機能と代表制民主主義の課題1 多元国家論にみられる倫理性 12. 国家機能と代表制民主主義の課題2 社会民主主義の可能性 13. 政治的なる物の概念と現代国家1 政治的なるものの概念 14. 政治的なる物の概念と現代国家2 議会主義批判と実存的倫理 15. 統治構造とイデオロギー1 社会と意識 16. 統治構造とイデオロギー2 コミュニケーションにみられるイデオロギー 17. 政治理論と専門職業人1 社会科学の課題 18. 政治理論と専門職業人2 資本主義形成の論理 19. 共和主義とデモクラシーの伝統1 共和主義的統治の意義 20. 共和主義とデモクラシーの伝統2 デモクラシーと自由 21. 共和主義とデモクラシーの伝統3 公共性の論理 22. 共和主義とデモクラシーの伝統4 連邦共和制の課題 23. 公正としての正義1 正義論の可能性 24. 公正としての正義2 契約論と社会制度 25. 全体主義とナショナリズム1 ヨーロッパナショナリズムの類型 26. 全体主義とナショナリズム2 植民地ナショナリズム 27. 全体主義とナショナリズム3 日本のナショナリズム 28. 現代政治哲学の諸問題 29. 政治哲学の有効性 30. 講義を振り返って</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>政治学の専門単位として、現代政治を考察する際に手助けとなる、様々な政治哲学、政治理論について取り扱う。とりわけ、20世紀以降の政治理論家の議論を参照することで、現代に通ずる政治認識の一端を紹介することを目的とする。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>必修の専門基礎科目「政治学」の知識を踏まえて、より専門的、抽象的な議論を学ぶことを目的とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>必修の政治学を履修していることを前提にしておくため、基本的な政治学の用語は習得済みであると見なして講義を進める。各テーマに関する簡単な用語の確認をしておくことが望ましい。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>講義後にノートをもとめるなど、1時間程度の復習をすること、および関連する書籍に目を通すことが望ましい。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>現実の問題を取り扱うことが政治学の重要な役割であるが、本講義ではそれを取り扱うための抽象的ツール、およびその思考様式に触れ、親しむことに意義を見出している。したがって、それらの思考を理解し、使いこなすことができるようになることが求められる。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業貢献40%</div><div>(2) 中間レポート20%</div><div>(3) 期末テスト40%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・政治</div><div>・哲学</div><div>・思想</div><div>・現代</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

平和学		POSC-P-200	
担当教員： 小松崎 利明			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 1P202880	
学部教育の関連目		授業計画	
【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る		01. 平和学の基本視座 02. 暴力概念と紛争解決モデル 03. 現代世界の戦争 04. ケーススタディとディスカッション（１）「対テロ戦争」 05. 平和維持（１）国連平和維持活動 06. ケーススタディとディスカッション（２）ルワンダ 07. 平和維持（２）核抑止と安全保障のジレンマ 08. ケーススタディとディスカッション（３）冷戦期の核抑止政策 09. 平和創造（１）人道的介入論 10. ケーススタディとディスカッション（４）カンボジア 11. 平和創造（２）ジェノサイド 12. ケーススタディとディスカッション（５）ホロコースト 13. 平和創造（３）惨事便乗型資本主義 14. ケーススタディとディスカッション（６）イラク 15. 構造的平和構築（１）グローバル経済システム 16. ケーススタディとディスカッション（７）金融資本主義システム 17. 構造的平和構築（２）医療保険制度 18. ケーススタディとディスカッション（８）アメリカ 19. 構造的平和構築（３）暴力性の社会構造 20. ケーススタディとディスカッション（９）銃規制問題 21. 構造的平和構築（４）イスラエル＝パレスチナ紛争 22. ケーススタディとディスカッション（１０）パレスチナ入植 23. 文化的平和構築（１）芸術を通じた平和構築の試み 24. ケーススタディとディスカッション（１１）ダニエル・バレンボイム 25. 文化的平和構築（２）人間の安全保障 26. ケーススタディとディスカッション（１２）遺伝子組み換え作物 27. 文化的平和構築（３）非暴力主義 28. ケーススタディとディスカッション（１３）ガンディーとインド独立 29. 文化的平和構築（４）和解 30. ケーススタディとディスカッション（１４）日本国憲法の平和主義	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
平和学は、第二次世界大戦後に国際関係研究のなかから生み出された学問分野である。当初は戦争の防止をその主たる目的としていたが、次第に、戦争がなくとも平和とはいえない（peacelessness）状況（たとえば、政治的抑圧や貧困）を生み出す諸要因の解決を目指すようになってきた。そして、現代の平和学は、個人間の利害対立の原因から国家間紛争を誘発する構造のあり方まで、幅広い問題をその射程に置く学際的研究分野として位置づけられている。			
この授業では、これまで蓄積されてきた平和研究の学問的成果を基礎に、われわれが生きる社会に生起する問題を通して「平和」について考える。ただし、この平和ということば／概念自体が多義的かつ論争的であり、またその平和を実現するための手段や方法も、人や文化、また時代によって多様な姿を見せ、さらには、平和に関する研究があらゆる学問分野を含むがゆえに、平和について包括的に学修することは困難である。			
したがってこの授業では、アクティブ・ラーニングの観点から、「平和とは何か」「平和はどうすれば実現できるのか」といった問いへの「唯一の答え」を「提示する」ことはせず、基本知識の理解および習得と映像資料の視聴をもとにしたディスカッションによって、学生一人ひとりが自ら平和の諸問題と格闘することを目的とする。			
(2) 学びの意義と目標			
まずは、社会科学の領域において蓄積されてきた平和研究の学問的成果を学び、それを現代世界が抱える問題と結びつけて考察する。そこから、自分自身、そして他者との対話を通じて、現代世界における「平和」について多様な視点から考察する技術を習得する。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
予備知識は必要ありませんが、授業を通して知り、学び、考えることを積極的に行ってほしいと思います。なお、授業中の私語、スマホいじりはご遠慮ください。		予習課題文献を読んでおく。	
		準備学習(復習)	
		復習課題文献を読み、リアクションペーパーに取り組む。	
		評価方法	
		(1) 平常点 10% 授業内での発言等、積極的に参加したかどうか。 (2) リアクションペーパー 30% ① 授業内容と密着して取り組んでいるか。 ② 授業内容と密着して取り組んでいるか。 (3) 中間レポート 30% ① 課題、達成し、授業内容と密着しているか。 ② 授業内容と密着して取り組んでいるか。 (4) 期末レポート 30% ① 課題、達成し、授業内容と密着しているか。 ② 授業内容と密着して取り組んでいるか。	
学びのキーワード		教科書	
・ 平和 ・ 暴力 ・ 戦争 ・ 人権 ・ 人間の安全保障		なし	
		参考書	
		毎回の授業で配布または紹介します。	

法思想史		LAW-P-300
担当教員： 加藤 恵司		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P300220
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 法思想史とはどんな学問か 02. 法・思想・歴史（歴史観） 03. 社会あるところに法あり（先史の法） 04. 古代オリエントの法思想 05. ハムラビ法典 06. 古代イスラエルの法思想Ⅰ（イスラエル民族） 07. 古代イスラエルの法思想Ⅱ（旧約時代の法生活） 08. 古代イスラエルの法思想Ⅲ（イエスと原始教会） 09. 古代ギリシャの法思想Ⅰ（ソクラテス） 10. プラトンの法思想 11. アリストテレスの法思想 12. ローマの法思想Ⅰ（十二表法を中心として） 13. ローマの法思想Ⅱ（万民法を中心として） 14. ローマの法思想Ⅲ（法典編纂） 15. ゲルマン封建制Ⅰ（ゲルマン人の移動） 16. ゲルマン封建制Ⅱ（ローマ法の受容） 17. 教会法の成立Ⅰ（アウグスチヌス） 18. 教会法の成立Ⅱ（トマス・アクイナス） 19. 近代法の足音（ルネッサンス） 20. 宗教改革と法思想 21. 市民革命と人権 22. 近代自然法思想 23. 法の支配と法治主義Ⅰ（イギリス・アメリカ） 24. 法の支配と法治主義Ⅱ（法治主義との比較） 25. 観念法の法思想Ⅰ（カント） 26. 観念法の法思想Ⅱ（ヘーゲル） 27. 法実証主義の法思想Ⅰ（歴史法学を中心に） 28. 法実証主義の法思想Ⅱ（自然法の夢はのみつくされた） 29. 自然法の回復時代 30. おわりに</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>法思想史は、法とは何か、法の拘束力は必要なのか、正義とは、人権とは、という法理論を内包しながら、政治、経済、社会などに目を向けた幅広い学問である。 わが国の近代化は、近代西欧の影響を決定的に受けており、法制度についても同様である。にもかかわらず、西欧の精神的所産に十分な理解をしているとはいえない。そこで、本講義は西欧の法思想に限定する。古代では、オリエントにおける法思想を中心に語り、ギリシャ・ローマの法思想へと展開する。中世では、ローマ法を継承したゲルマン法、教会法に焦点を当てる。現代の法思想の原理的なルーツを探求しながら、将来にどのような法制度が必要であるかを考えてみたい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>法は生活と切り離すことができない。古代から現代にいたる法と思想を講義する。疑問を抱いて学んでほしい。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>自らで考える力をつけたい。出席を重視する。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 法</div><div>・ 思想</div><div>・ 歴史</div></div>		<div>教科書</div> <div>加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』（ジーオー企画出版）</div> <div>参考書</div>

民法A（総則・物権）		LAW-P-300/LAW-L-200
担当教員： 木村 裕二		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P300330
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】 問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 民法を学ぶ 02. 民法の基本原則 03. 「人」と権利・義務 04. 法律行為、無効・取消 05. 未成年 06. 成年後見 07. 法人 08. 心裡留保、通謀虚偽表示 09. 錯誤 10. 詐欺、強迫 11. 条件、期限、期間 12. 代理 13. 表見代理 14. 無権代理 15. 消滅時効 16. 取得時効 17. 民法総則のまとめ 18. 「物」と物権 19. 所有権、物権的請求権 20. 不動産物権変動 21. 登記と対抗要件 22. 登記と対抗要件（続） 23. 動産物権変動 24. 共同所有、用益物権 25. 占有権 26. 担保物権 27. 抵当権 28. 質権、留置権、先取特権 29. 非典型担保 30. 物権法のまとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 ビジネスコース：応用科目 【L】 ビジネスコース：応用科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>個人は、他人との自由な約束によって、財産（モノとカネ）を交換します。約束は互いに守られるべきだから、契約に基づいて権利・義務が発生します。誰が契約相手に選ばれるかは、自由競争です。それが原則ですが、ハンディを負った人はどうなるのか。団体に活動したいとき、他人に任せたいときはどうするのか。本心でない約束をしたときはどうなるか（民法総則）。物に対してどんな権利が成立するか。どのようにして、目に見えない権利を安全・確実なものにするか（物権法）。そのような問題を取り扱います。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>重要な条文について、制度趣旨に沿って、要件・効果の意味を理解する。事実の中にどんな法律問題が含まれているかを読み取る。基本的な判例を通じて、法解釈を学ぶ。民法を攻略すれば、法律全体の理解が大いに進みます。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>レジュメを通読して、分かるところと分からないところの目星をつけておく。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>切れ切れに言葉を覚えるのではなく、話の流れの中に言葉を置いて、使ってみる、書いてみるという練習をしておくとういいます。スマホの操作手順が頭に入るなら、それなりの対応能力はあるはずです。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>自分なりの方法で理解・疑問・意見・感想などを記録に残し、前回以前の資料や自分の記録と相互参照すること。重点は事後学習にあります。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 要件・効果 ・ 権利・義務 ・ 人と物 ・ 意思表示 ・ 取引の安全</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への参加度50%</div><div>(2) 試験50%</div></div>
		<div>教科書</div> <div>特に指定せず、レジュメを配布します。</div>
		<div>参考書</div> <div>潮見佳男・中田邦博「18歳からはじめる民法」法律文化社。その他は授業の中で適宜、紹介します。</div>

民法B（債権）		LAW-P-300/LAW-L-200
担当教員： 木村 裕二		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P300440
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】 問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識</div>		
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 ビジネスコース：応用科目</div> <div>【L】 ビジネスコース：応用科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>契約を実現するため、互いのなすべきこと、つまり債務を履行します。どうすれば債務を履行したといえるのか、相手が履行しないときどうするか（債権総論）。債務が履行できないものだったときや、途中で履行できなくなったとき、契約はどうなるか（契約総論）。取引の種類に応じて、どのような内容の債権・債務が発生するか（契約各論）。契約は結んでいないが、自分との関わりで他人に損害や損失が生じたとき、どういう場合に、どんな範囲で責任を負うか（不法行為・不当利得）。そのような問題を取り扱います。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>重要な条文について、制度趣旨に沿って、要件・効果の意味を理解する。事実の中にどんな法律問題が含まれているかを読み取る。基本的な判例を通じて、法解釈を学ぶ。民法を攻略すれば、法律全体の理解が大いに進みます。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>切れ切れに言葉を覚えるのではなく、話の流れの中に言葉を置いて、使ってみる、書いてみるという練習をしておくとういいます。スマホの操作手順が頭に入るなら、それなりの対応能力はあるはずです。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 債権・債務</div> <div>・ 責任財産</div> <div>・ 信義則</div> <div>・ 過失</div> <div>・ 因果関係</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 債権法の見取り図</div> <div>02. 債権の目的</div> <div>03. 弁済</div> <div>04. 相殺</div> <div>05. 強制履行・損害賠償</div> <div>06. 責任財産の保全</div> <div>07. 債権譲渡</div> <div>08. 連帯債務、保証債務</div> <div>09. 債権総論のまとめ</div> <div>10. 契約法の見取り図</div> <div>11. 契約の成立</div> <div>12. 契約の効力</div> <div>13. 契約の終了</div> <div>14. 売買</div> <div>15. 売買（続）</div> <div>16. 贈与</div> <div>17. 賃貸借</div> <div>18. 賃貸借（続）</div> <div>19. 使用貸借</div> <div>20. 消費貸借</div> <div>21. 寄託</div> <div>22. 雇傭</div> <div>23. 請負</div> <div>24. 委任</div> <div>25. 契約法のまとめ</div> <div>26. 不法行為の要件</div> <div>27. 不法行為の効果</div> <div>28. 特殊な不法行為</div> <div>29. 不当利得</div> <div>30. 債権法のまとめ</div>	
<div>準備学習(予習)</div> <div>レジュメを通読して、分かるところと分からないところの目星をつけておく。</div>		
<div>準備学習(復習)</div> <div>自分なりの方法で理解・疑問・意見・感想などを記録に残し、前回以前の資料や自分の記録と相互参照すること。重点は事後学習にあります。</div>		
<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加度 50%</div> <div>(2) 試験 50%</div>		
<div>教科書</div> <div>特に指定せず、レジュメを配布します。</div>		
<div>参考書</div> <div>潮見佳男・中田邦博「18歳からはじめる民法」法律文化社。その他は授業の中で適宜、紹介します。</div>		

民法C（親族・相続）		LAW-P-300/LAW-L-200			
担当教員： 加藤 恵司					
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P300550			
学部教育の関連目		授業計画			
【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】 問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識					
カリキュラム上の位置付け					
【L】 ビジネスコース：応用科目 【L】 ビジネスコース：応用科目		01. 家族とは（民法と家族法） 02. 近代家族法の理念 03. 親族の意義 04. 親等について 05. 婚姻の制度と日本国憲法 06. 婚姻の成立 07. 婚姻の効果 08. 現代の婚姻事情 09. 離婚（婚姻の解消） 10. 離婚の法的効果と問題点 11. 現代の離婚の実態 12. 親子法の理念 13. 親子の種類（実子、養子）、 14. 親子の種類（特例実子） 15. 未成年者の保護 16. 親権と親の責任 17. 後見と保佐 18. 現代親子の諸問題（赤ちゃんポスト、人工授精） 19. 現代少子化について 20. 高齢社会と扶養 21. 現代の扶養制度と政策 22. 相続の理念 23. 法定相続と相続人 24. 相続の効力と相続の放棄 25. 相続人の不存在と相続回復請求権 26. 遺産分割をめぐる諸問題 27. 遺言の意義とその方法 28. 遺言の効力と遺留分 29. 相続遺言の現代の諸問題 30. 家族とは何か			
(1) 内容					
本講座は、民法の家族法に関する講義である。人は両親によって生を受け、家族と生活し、家族に看取られつつ亡くなっていく。家族は最も基本的、自然的な社会集団である。 わが国の民法典は、旧民法といわれる法典があり、戸主を中心とする家族制度、家督相続制度があった。もう一つは、敗戦後の新憲法に基づいて、夫婦中心の家族制度、遺産相続制度がある。本講座は、当然後者であるが、旧民法をも意識して学習する。 近年の家族形態には、核家族、高齢家族、晩婚・非婚化、少子化の傾向が家族観に変化をもたらせている。「法律は家庭に入らず」という法諺があるが、法律と家族関係は無関係でよいのだろうか。たしかに「夫婦は愛し合うべきである」とか、「こどもを大切に育てよ」とか、「親を敬え」というような道徳観だけでは支えきれずに崩壊していく。裁判によって破綻を決定的にする家族が多く見られる。このような意識を抱きながら講義する。 民法では、結婚、離婚など夫婦関係、親子関係を取り扱った「親族編」、相続、遺言などを取り扱った「相続編」をあわせた部分を家族法と称している。法律と現実を見つめ、判例など具体例を挙げながら現代の家族事情を分析してみたい。					
(2) 学びの意義と目標					
人生で出会うであろう出来事について民法に従って学ぶ。判例などを用いて身近に民法を知ること为目标とする。					
準備学習(予習)					
講義の要綱をあらかじめ配布しておくので、わからない言葉を調べておきたい。					
準備学習(復習)					
六法の条文を開いて、講義で紹介された事件を調べる。					
評価方法					
<table><tr><td>(1) 講義参加度</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>50%</td></tr></table>		(1) 講義参加度	50%	(2) レポート	50%
(1) 講義参加度	50%				
(2) レポート	50%				
必修のレポート2回、そのほか、2回提出する。					
教科書					
西田 典之、高橋 宏志、能見 善久『ポケット六法 平成28年版』（有斐閣） 鎌田 薫『デイリー六法2016 平成28年版』（三省堂）					
参考書					
受講者に対する要望					
六法は必携。予習レポートをしっかりと書いていただきます。					
学びのキーワード					
・ 家族とは ・ 結婚 ・ 親子 ・ 現代の家族の諸問題 ・ 相続・遺言					

商法概論

LAW-P-300/LAW-L-200

担当教員：佐藤 文彦

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P300660

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
【L】問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

【L】 ビジネスコース：基幹科目

【L】ビジネスコース：基幹科目

(1) 内容

わが国にとどまらず、世界の経済を中心的に担っているのは株式会社である。本授業では、商法のうち、この株式会社を規整している会社法を中心に解説する。ここでは、会社をはじめとする商人がなぜ世に必要とされ、認められる存在であるのか、そしてなぜ株式会社が、世の起業家に、また世界経済に受け入れられているのかという疑問にはじまり、株式会社制度が抱える法的諸問題を会社法がどのように処理しているのかを主に学んでもらう。

(2) 学びの意義と目標

商法を基軸として、民法を基礎とする私法全般にわたる基本的知識とともに、企業実務家としての素養を身に付けてもらうことを目標とする。

受講者に対する要望

真摯に講義に臨む学生を歓迎する。授業では商
法、会社法とどまらず、また法律の条文
を参照する。各自六法を用意する。

学びのキーワード

- ・ 商法の意義
- ・ 会社法の意義
- ・ 私法の意義
- ・ 株式会社「制度」の意義
- ・ 「法」というものの意義

授業計画

01. ガイダンス
02. 商法・会社法の意義
03. 個人商人，商人としての会社
04. 商人資格要件
05. 絶対的商行為
06. 営業的商行為
07. 商行為法総論
08. 消費者保護法総論
09. 商法が規定する共同事業制度
10. 会社法が規定する各種会社制度
11. 持分制度とは
12. 株式制度とは
13. 会社法の具体的目的
14. 組織法としての会社法
15. 会社の設立
16. 商業登記制度
17. 会社の組織再編行為総論
18. 合併，組織変更
19. 株式交換・移転
20. 事業譲渡，解散，清算
21. 株式・新株予約権の発行
22. 自己株式の取得，社債
23. 会社の機関総説
24. 株主総会
25. 取締役会
26. 取締役，代表取締役
27. 役員等の責任追及制度
28. 監査役（会），会計監査人，会計参与
29. 委員会設置会社とは
30. 会社の情報開示制度

準備學習(予習)

教科書等により関連事項の全体像を自分なりに理解しておくこと。

準備學習(復習)

講義で示された条文・制度の内容を教科書等を参考にしながら理解すること。〈br /〉

評価方法

(1) 学期末試験	100%
-----------	------

なお、出席状況・授業態度が悪い場合、これを減点評価要素とする。

教科書

山本忠弘ほか編 『やさしい企業法改訂版』 (嵯峨野書院)

参考書

税法概論		LAW-P-300/LAW-L-200
担当教員： 田口 安克		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P300770
学部教育の関連目		授業計画
【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】 知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識		
カリキュラム上の位置付け		
【L】 ビジネスコース：基幹科目 【L】 ビジネスコース：基幹科目		
(1) 内容		01. 税法総論（1） 税の機能、税の種類、税法の法源 02. 税法総論（2） 税に関する基本原則（租税法主義、租税公平主義、自主課税主義） 03. 税法総論（3） 課税制度と税法解釈 04. 税法総論（4） 税務調査と納税者の救済 05. 税法総論（5） その他（脱税と租税回避、附帯税） 06. 所得税法（1） 所得の種類、納税義務者、 利子所得・配当所得 07. 所得税法（2） 不動産所得、事業所得、必要経費と家事関連費 08. 所得税法（3） 給与所得、退職所得、譲渡所得 09. 所得税法（4） 一時所得・雑所得、源泉徴収、青色申告（所得税） 10. 所得税法（5） 所得計算、所得控除（医療費控除等）、税額控除（住宅ローン控除等） 11. 法人税法（1） 法人税の意義、法人税額の計算、益金・損金 12. 法人税法（2） 収益の計上、同族会社、棚卸資産 13. 法人税法（3） 減価償却、資本的支出、役員給与、交際費等 14. 法人税法（4） 寄附金、貸倒損失、貸倒引当金、使途秘匿金課税 15. 法人税法（5） リース取引、欠損金、租税公課 16. 法人税法（6） 繰延資産、確定申告、青色申告（法人税） 17. 消費税法（1） 消費税のしくみ、納税義務者、課税方法 18. 消費税法（2） 非課税取引、仕入税額控除、簡易課税 19. 消費税法（3） 消費税の経理処理、申告・納付、届出等 20. 相続税法（1） 相続税のしくみ、計算、課税財産 21. 相続税法（2） 財産評価 22. 相続税法（3） 基礎控除、配偶者控除等 23. 相続税法（4） 特例、納税、贈与税関連 24. 地方税法（1） 地方税のしくみと基本原理、個人住民税、個人事業税 25. 地方税法（2） 法人住民税、法人事業税、固定資産税、都市計画税 26. 地方税法（3） 不動産取得税、自動車関係税 27. 地方税法（4） 法定外税、その他の地方税 28. 諸税と国際税務 （ 印紙税、登録免許税、租税条約、移転価格税制） 29. 税務行政 30. まとめ
(2) 学びの意義と目標		
税法は、税金を徴収する側の国や地方公共団体のためという視点だけでなく、納税者である私たちのためにあるということも理解し、現在のわが国の税法全体の概要を把握する。		
受講者に対する要望		
入門講座であるため、必須ではないが、財政学、会計学、簿記と関連するので、できうるかぎり、これらも受講してほしい。		
学びのキーワード		教科書
・ 租税法主義 ・ 租税公平主義 ・ 自主課税主義 ・ 応能負担と応益負担 ・ 申告納税と賦課課税		林 仲宣, 四方田 彰, 角田 敬子, 竹内 進 『ガイダンス 税法講義』（税務経理協会）
		参考書

国際法		
担当教員： 小松崎 利明		
学期： 週間授 科目：		必修・選択：
学部教育の関連目		単位： 4 コード： 1P300810
カリキュラム上の位置付け		授業計画
(1) 内容		01. イントロダクション（講義概要の説明） 02. 国際法の基本的特徴 03. 国際法の主体（１）国家、国家承認、政府承認 04. 国際法の主体（２）国家以外の主体 05. 国家管轄権 06. 法源（１）条約 07. 法源（２）慣習法、国際機構の決議 08. 国際責任 09. 紛争の平和的解決（１）非裁判手続 10. 紛争の平和的解決（２）国際司法裁判所 11. 紛争の平和的解決（３）各種国際裁判所 12. 陸の国際法 13. 海の国際法（１）領海 14. 海の国際法（２）公海、深海底 15. 空の国際法 16. 宇宙の国際法 17. 前半のまとめ 18. 環境と国際法（１）越境汚染、有害廃棄物 19. 環境と国際法（２）地球温暖化、生物多様性 20. 経済と国際法 21. 人と国際法（１）国際人権規約 22. 人と国際法（２）難民 23. 人と国際法（３）人種差別、女性、児童 24. 人と国際法（４）国際犯罪 25. 平和と国際法（１）武力行使の規制 26. 平和と国際法（２）戦争犯罪 27. 平和と国際法（３）国際人道法 28. 国際連合と国際法 29. 日本、アジアと国際法 30. まとめ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
国際法を学ぶことの意義は、国際社会の現象の体系的な理解を可能にし、さらに国際的な裁判所の判例学習を通じてリーガルマインドを身につけることができるようになることにある。		教科書の該当箇所を読んでおく。
受講生が目指すべき目標は、対話を中心としたアクティブ・ラーニングを通じて、国際社会に生起する諸現象を法的な観点から観察し、記述し、評価を行うことができるようになることである。		準備学習(復習)
受講者に対する要望		授業ノート、配布資料の要点をまとめておく。
授業中の私語、スマホいじりはご遠慮ください。		評価方法
学びのキーワード		(1) 平常点 10% ・教科書の指定箇所を事前に読んでいるか。 ・授業で積極的に発言し、授業内容の充実に貢献したか。 (2) リアクション・ペーパー 30% ・その日の授業内容を理解しているか。 (3) 定期試験 60% ・与えられた問題に対して、法的観点から議論を行い、評価を下すことができるか。 ・論述式、持ち込み可
教科書		大森正仁編著『よくわかる国際法〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2014年 { http://www.minervashobo.co.jp/book/b165902.html }
参考書		中谷和弘／植木俊哉／河野真理子／森田章夫／山本良『国際法〔第3版〕』有斐閣、2016年 { http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641220638 } 酒井啓亘／寺谷広司／西村弓／濱本正太郎『国際法』有斐閣、2011年 { http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641046559 }

<div> <div>憲法（統治）</div> <div></div> </div>							
担当教員： 松村 芳明 学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 4 コード： 1P300910							
<div>学部教育の関連目</div>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 01. はじめに：この講義の説明と憲法を学ぶ意義 02. 憲法とは何か①立憲主義 03. 憲法とは何か②憲法尊重擁護義務 04. 憲法とは何か③個人の尊重 05. 憲法の保障と改正①憲法保障制度 06. 憲法の保障と改正②憲法改正 07. 憲法の保障と改正③改憲案の検討 08. 日本憲法史①明治憲法の特徴 09. 日本憲法史②日本国憲法制定過程 10. 日本憲法史③戦後憲法史 11. 国民主権 12. 天皇制 13. 平和主義①9条の成立と解釈 14. 平和主義②安保体制と自衛隊の海外出動 15. 中間試験とその解説 16. 権力分立 17. 代表制と政党 18. 選挙制度 19. 国会①国会の地位 20. 国会②国会・議院の権能 21. 内閣①議院内閣制 22. 内閣②解散権と内閣の権能 23. 内閣③議院内閣制・大統領制・首相公選制 24. 裁判所①裁判の概念 25. 裁判所②裁判の独立・裁判員制度 26. 地方自治 27. 人権の概念と主体 28. 公共の福祉 29. 新しい人権 30. 期末試験とその解説 						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <p>憲法の学習事項は通常、①憲法総論、②人権、③統治機構の3領域に分けられる。この講義はそのうち、①③の領域を扱うことに主眼をおき、それに関係する限りで②の領域にも触れることになる。</p>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>大卒社会人として最低限必要な憲法（なかでも総論、統治機構分野）に関する知識を得ることで、憲法や政治に関する問題について自ら思考し判断するための基盤をつくること。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>教科書を読んでくこと</p>						
	<div>準備学習(復習)</div> <p>教科書や授業プリントを読み返ししながら授業で学んだ事項についての理解を確認するとともに、意見の分かれる論点について自分なりに考察すること。</p>						
<div>受講者に対する要望</div> <p>①教科書を毎回持参すること。②積極的に授業に参加すること。③できれば六法も持参すること。</p>	<div>評価方法</div> <table> <tr> <td>(1) 中間試験</td><td>40%</td></tr> <tr> <td>(2) 期末試験</td><td>50%</td></tr> <tr> <td>(3) 授業への参加状況</td><td>10%</td></tr> </table>	(1) 中間試験	40%	(2) 期末試験	50%	(3) 授業への参加状況	10%
(1) 中間試験	40%						
(2) 期末試験	50%						
(3) 授業への参加状況	10%						
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 憲法 ・ 日本国憲法 ・ 統治機構 	<div>教科書</div> <p>渋谷秀樹『憲法への招待 新版』（岩波新書）</p> <div>参考書</div> <p>講義で紹介する</p>						

LAW-P-300/LAW-L-200

初回の講義時にお知らせする。配布レジュメの中に明記し、その中で幾つかの文献について説明する。

EU法		
担当教員：倉西 雅子		
学期：週間授	科目：	必修・選択：
単位：4		コード：1P301410
学部教育の関連目	授業計画	
	01. はじめに 02. 欧州経済共同体の成立 03. 通貨協力の始動 04. 欧州市場の形成 05. ユーロの誕生 06. 欧州連合の成立 07. 一次法と二次法 08. EU法と国内法 09. EU法の直接効果 10. EUの諸機関その1 11. EUの諸機関その2 12. EUの立法過程その1 13. EUの立法過程その2 14. EUの執行過程 15. EUの司法過程その1 16. EUの司法過程その2 17. 関税同盟 18. 通商政策と通商法 19. EUと加盟国の財政 20. 共通農業政策 21. 産業政策 22. 地域政策 23. 競争政策 24. 市場の規制 25. 会社法 26. 労働法 27. 金融政策 28. 共通外交安全保障政策 29. 警察・法務協力 30. まとめ	
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容	EUは、EECの発足以来、ヨーロッパを枠組みとして、地域的な経済統合のプロジェクトが積み重ねられてきました。加えて現在では、政治や法務分野にも活動の範囲を広げています。このため、EU法には、多様な目的と政策領域があり、国際法的な要素と国内法的な要素が混在するユニークな法体系を構築しています。本講義では、EUの歩みや機構の仕組みを分かりやすく説明すると共に、特に重要となる政策分野を解説することで、EUと加盟国から構成される法空間を体系的に描き出してゆきます。	
(2) 学びの意義と目標	EU法は、共通の政策を実施するために制定されています。EU法を学ぶことは、各政策分野と法との具体的な関係を理解することでもあります。本講義では、EU理解に留まらず、実社会においても役立つ知識や情報を身に着けることをも目標としています。	
受講者に対する要望	準備学習(予習) 講義プリントは一週間前に配布しますので、講義までの間に熟読し、予め概要を掴んでおくこと。ポイントや疑問点などを整理しておけば、さらに学習効果が上がります。 準備学習(復習) 講義に使用したプリントを再読するとともに、関心の高い事項については、さらに調べるなどして学習の幅を広げること。 評価方法 (1) レポート 50% テーマや文字数等の詳細は講義で指示 (2) 平常点 50% 毎回提出を求めている講義内容をノートしたペーパー、並びに、講義時の質疑応答等で評価します。 公平な評価となるよう、上記項目を点数化して評価しています。	
学びのキーワード	教科書 参考書	
	・ヨーロッパ ・経済統合 ・欧州市場 ・共通政策 ・単一通貨	

単位：4 コード：1P301510

授業計画

05 環境法の

10 廃棄物処理と
断説。「おかし

1. 廃棄物処理法と法（2）—監視（審判）による産業廃棄物不法投棄公訴調停事件について。廃棄物の不法投棄への対応と処罰について考える。不法投棄を監視する取り組みについて。
2. 廃棄物処理法（3）—廃棄物処理施設の設置について。エコテック社事件について。
3. 廃棄物処理法（4）—改善命令と措置命令について。マニフェスト制度について。
4. リサイクル法と法（1）—「循環型社会形成推進基本法」、「循環型社会」とは？、「家電リサイクル法」、家電リサイクル券センターについて。引き取り家電の構造と事件について。
5. リサイクル法（2）—「容器包装リサイクル法」について。日本容器包装リサイクル協会について。
6. 水質汚濁防止法（1）—法目的、規制対象、公共用水域、対象施設、濃度規制、健康項目と生活環境項目、計画変更命令について。
7. 水質汚濁防止法（2）—前回の続き。瀬戸内法、湖沼法について。
8. 大気汚染防止法（1）—日立建機事件、足尾銅山鉱毒事件、ばい煙規制法、大気汚染の歴史について。
9. 大気汚染防止法（2）—K規制について。ばい煙とは？ばい煙発生施設、一般排出基準などについて。計画変更命令について。燃費規制（アセスメント）について。
10. 大気汚染防止法（3）—PM_{2.5}、SPMについて。VOC規制、自動車排気ガス規制について。大気汚染訴訟について。スバクタイヤ粉塵公害について。
11. 土壌汚染対策法（1）—土壌汚染対策法の基本的な仕組みについて。
12. 土壌汚染対策法（2）—土壌汚染に係る裁判例について。
13. 化学物質管理法と法—化審法、P R T R法について。
14. 環境影響評価と法—環境アセスメントの法的仕組みについて。
15. 種の保存と法—種の保存法、希少野生動植物種、ワシントン条約、保護増進事業、生息地等保護区について。
16. 生物多様性と法—生物多様性条約と生物多様性基本法について。
17. 地球温暖化対策と法（1）—国際的動向、気候変動枠組条約、京都議定書、京都メカニズム、第二約束期間以降の諸外国の目標について。パリ協定について。先進国、途上国、新興国の動向について。C O P 21について。
18. 地球温暖化対策と法（2）—国内動向、地球温暖化対策推進法について。排出枠取引制度について。二国間クレジット制度（J C I）について。温室効果ガスの算定と削減制度について。
19. 原子力法—原子力基本法、原子炉規制法、原子力規制委員会について。原発訴訟について。放射性廃棄物の処理に係る法的問題について。福島原発事故と東京電力の賠償責任について。
20. 総括—東日本大震災と「環境法」。これからの「環境法」。

準備學習(予習)

準備學習(復習)

受講者に対する要望

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---|
| (1) 期末試験 | 70% | 単位取得を望む学生諸氏は、必ず受験すること。但し、一定の出席が確保されていない者は評価対象とはしない。 |
| (2) レポート | | <small>20%以内の範囲で指定されたテーマから、または指定された論文の中から一つ、「指導書」に従って行い、規定の字数及び題名の範囲について執筆するもの。</small> |
| (3) リアクション・ペーパー | 10% | <small>授業の講義に基づいて、授業内容に関連する、その問題、授業の趣旨に照らし、必ず読むこと、議論を行うものである。報告者および聞き手双方が学ぶ姿勢を示す。</small> |
| (4) 発言 | 10% | 授業内に発言を求める。必ず意見を述べることを。 |

教科書

- ・環境問題
- ・法学（法学）
- ・生物多様性
- ・地球環境問題
- ・環境ビジョン

参考書

初回の講義時配布資料において、網羅的に指示する。同資料、参照のこと。

担当教員： 木村 裕二

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1P301881

学部教育の関連目

【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

民事法は、財産取引や団体をどのように規律しているか。民法総則・物権総論・債権各論の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

(2) 学びの意義と目標

条文の文言、定義・概念、立法趣旨を用いた法解釈の技術を学ぶことを通して、法律的文書の読み・書きの方法論を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

法律用語はトリセツ（取扱説明書）の用語と似たようなものだとしきり切って、まずは心理的な抵抗感を自分で取りはらって欲しい。

学びのキーワード

- ・ 私的自治の原則
- ・ 表意者の保護
- ・ 取引の安全
- ・ 公示
- ・ 対抗要件

授業計画

01. 法の機能と条文の読み方
02. 法の解釈と判例の読み方
03. 契約と意思表示
04. 人・法人
05. 代理
06. 契約の効力
07. 契約のプロセス
08. 物と所有権
09. 物権変動
10. 占有、時効
11. 売買、贈与
12. 賃貸借、消費貸借
13. 役務型契約、信託
14. 不法行為
15. 会社

準備学習(予習)

レジュメ（事前配布）で引用した条文を読んでおくこと。

準備学習(復習)

レジュメで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布する。

参考書

授業の中で適宜、紹介する。

担当教員：木村 裕二

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1P301982

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

民事法は、金融取引や相続をどう規律しているか。民法の債権総論、担保物権、親族・相続の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

(2) 学びの意義と目標

民事訴訟法・家事事件手続法など手続法の基本構造にも触れつつ、権利実現・権利保護のプロセスについて学ぶ。
制度趣旨、条文の要件・効果を構造的に理解する。

受講者に対する要望

条文の文言と一つ一つ照らし合わせながら、何が問題なのかを確認すること。

学びのキーワード

- ・債権者平等
- ・優先弁済
- ・弁論主義
- ・過去の事実
- ・継続的關係

授業計画

01. 債権と金融取引
02. 弁済、相殺
03. 強制履行、損害賠償
04. 債権譲渡、保証
05. 抵当権
06. 訴訟・執行・破産
07. 夫婦
08. 親子
09. 要保護者
10. 相続人
11. 相続財産
12. 相続分
13. 遺産分割
14. 遺言
15. まとめと課題

準備学習(予習)

レジュメ（事前配布）で引用した条文を読んでおくこと。

準備学習(復習)

レジュで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布する。

参考書

授業の中で適宜、紹介する。

税務行政の現場 A

担当教員： 野田 扇三郎

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： 1P302010

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本の財政の「現状と問題点」を認識する。

(2) 学びの意義と目標

日本の財政は今どうなっているかについて身近な例を挙げて検証する
社会人になったら必ず直面する税務問題を常識としていち早くマスターする。
また公務員試験等（国税専門官試験）のきっかけとなったら幸いである。

受講者に対する要望

全 15 回の受講。

学びのキーワード

- ・ 社会人としての常識
- ・ 誠実な人柄
- ・ あくなき探究心

授業計画

01. 所得税 アルバイトの税金
02. 所得税 基本的しくみ
03. 所得金額の計算
04. 人的控除
05. 手続きの電子化
06. 法人税 会社の税金
07. 法人税制度の概要
08. 法人税の所得計算
09. 連結納税制度
10. 企業再編制度
11. 相続税 贈与税
12. 今話題の消費税 その他の国税
13. 地方税
14. 国税庁の機構と役割
15. 国税専門官試験

準備学習(予習)

新聞・スマホ等の経済記事に注視

準備学習(復習)

配布資料での確認

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発言・意見 | 20% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

特に使用しない。資料配布。

参考書

「日本の税制」平成27年度版 財経詳報社

税務行政の現場B

担当教員： 野田 扇三郎

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： 1P302110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

現在の国際課税制度について事例でわかりやすく解説する

(2) 学びの意義と目標

今後より経済のグローバル化は避けられない現状を税の視点で検証する。
国際社会の動向をいち早くキャッチする感覚を磨く。

受講者に対する要望

経済事象に興味をもっていただきたい。本講座は社会に出て必ず役に立つ

学びのキーワード

- ・ 鋭い感覚
- ・ 広い視野
- ・ ひたむきな探究心

授業計画

01. 国際課税制度 概要
02. 外国税額控除制度
03. 外国子会社合算税制
04. 移転価格税制
05. 過少資本税制
06. 過大支払利子税制
07. 非居住者に対する課税制度
08. 租税条約
09. 情報交換とは
10. 国際取引の税務調査の現場
11. 付加価値税非課税品目
12. 小規模事業者の特例
13. 各国の税收構造
14. 国際的二重課税の排除措置
15. 今後国税庁の果たすべき役割

準備学習(予習)

新聞等の経済記事に注視

準備学習(復習)

配布資料での確認

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発言 意見 | 20% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

使用しない。資料配布

参考書

「日本の税制」平成27年度版・各種経済紙（エコノミスト等）

ミクロ経済学		ECON-P-200/ECON-L-2									
担当教員： 中野 宏											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P400220									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】 知の基礎力：政治や社会のしくみの理解</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 経済学とは何か (1) ／経済学の目的 02. 経済学とは何か (2) ／必要な数学 03. 価格の決定 (1) ／市場の需要曲線と供給曲線 04. 価格の決定 (2) ／完全競争市場の価格調整メカニズム 05. 余剰の概念 (1) ／消費者余剰 06. 余剰の概念 (2) ／生産者余剰 07. 消費者の行動 (1) ／消費者余剰の最大化 08. 消費者の行動 (2) ／個別需要曲線の導出 09. 消費者の行動 (3) ／需要の価格弾力性 10. 企業の行動 (1) ／生産関数と費用曲線 11. 企業の行動 (2) ／生産者余剰（利潤）の最大化 12. 企業の行動 (3) ／個別供給曲線の導出 13. 供給独占 (1) ／市場の分類 14. 供給独占 (2) ／独占企業の利潤最大化行動 15. 厚生経済学の基本定理 (1) ／総余剰最大化の条件 16. 厚生経済学の基本定理 (2) ／競争と独占 17. 課税と補助金 (1) ／課税の方法 18. 課税と補助金 (2) ／課税の効果 19. 貿易と関税 (1) ／自由貿易の利益 20. 貿易と関税 (2) ／保護貿易と関税 21. 外部性 (1) ／外部性と市場の失敗 22. 外部性 (2) ／ピグー税とコースの定理 23. 公共財 (1) ／公共財と市場の失敗 24. 公共財 (2) ／リンダールの方法 25. ゲームの理論 (1) ／標準型ゲームとナッシュ均衡 26. ゲームの理論 (2) ／囚人のジレンマ 27. 消費者の行動：再論 (1) ／無差別曲線分析 28. 消費者の行動：再論 (2) ／代替効果と所得効果 29. 講義のまとめ (1) 30. 講義のまとめ (2)</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 行政コース：応用科目 【L】 ビジネスコース：基幹科目 【L】 行政コース：応用科目 【L】 ビジネスコース：基幹科目</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>ミクロ経済学の基礎および応用理論を学習します。ミクロ経済学は一人ひとりの経済主体や一つひとつの財（生産物のこと）を分析の対象とする分野です。この授業では、消費者が財を買う、企業が財を作る、市場で財の価格や取引量が決まる、政府が課税や規制を行う、など身の回りで日常的に行われている様々な経済活動の背後にある行動法則や決定原理を明らかにすることで、いかなる経済の状態が社会的に最も望ましいのか、またそれを実現するためにはどうすればよいかを理論的に考察します。その中で、多くの国の政府が積極的に進めている規制緩和や公的企業の民営化、自由貿易の推進といった競争促進政策の意義と問題点も明らかにされるでしょう。 近代経済学は数学を援用することで発展してきた学問であり、授業ではほとんどの説明はグラフを描くことで行われます。なるべく数学を用いないようにして進めたいとは考えていますが、どうしても必要な最小限の数学については折に触れて授業内で説明します。基本的には講義形式ですが、理解を助けるために、数値例を用いた簡単な計算演習などもやってもらおうと思っています。 なお、必ず専門科目「経済学」を履修した上で受講して下さい。 下の授業計画は予定です。学生の皆さんの理解度に応じて変更することもあります。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>将来学生諸君がどのような職業に就こうと、社会に出れば「経済」と付き合わずに済ますことは出来ません。景気の動向や、金利・物価・為替レート の動きなどから必要なことを読み取り、あるいはそれらの動きを予想し、仕事や人生に反映させていくことになります。また、少子高齢化・人口減少社会に突入した我が国においては、これまでのような年金に依存した老後は期待すべくもなく、皆さんは投資により自らの手腕において老後のための資産形成を行っていかねばなりません。今後必要となるのは、テレビや新聞、ネットなどのマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具です。それらを身に付けるために本講義が少しでも役に立てばと願っています。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>次回の講義について指示された項目を、各自で調べておくこと。ただし、予習よりは復習のほうがはるかに重要であると認識してください。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>経済学の講義は積み重ねで進んでいくため、一度わからなくなるとその後が続かなくなる恐れがあります。毎回講義の復習プリントを配布しますので、次の講義日までに各自仕上げてくること。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>今までより少しでいいですから、テレビやネットで日々報道される経済ニュースに関心を持つ努力をしてみてください。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td><td>聴講や板書のノート取りなど授業における集中度、および発言や質問など授業への参加の積極度を総合的に評価します。</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>30%</td><td>講義期間半ばに1回レポート課題を出します。</td></tr><tr><td>(3) 期末試験</td><td>40%</td><td></td></tr></table> <div>定められたとおり3分の2（20回）以上の出席がなければ成績評価の対象とはなりません。また、レポート提出と期末試験受験のどちらが欠けても成績評価の対象とはなりませんので注意してください。</div>	(1) 平常点	30%	聴講や板書のノート取りなど授業における集中度、および発言や質問など授業への参加の積極度を総合的に評価します。	(2) レポート	30%	講義期間半ばに1回レポート課題を出します。	(3) 期末試験	40%	
(1) 平常点	30%	聴講や板書のノート取りなど授業における集中度、および発言や質問など授業への参加の積極度を総合的に評価します。									
(2) レポート	30%	講義期間半ばに1回レポート課題を出します。									
(3) 期末試験	40%										
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 費用便益分析 ・ 完全競争市場 ・ 厚生経済学の基本定理 ・ 供給独占 ・ 市場の失敗</div>		<div>教科書</div> <div>特に指定はしません。毎回講義レジュメを用意します。</div> <div>参考書</div> <div>賀川昭夫、浜野忠司、戸田学著『FIRST STEPミクロ経済学（有斐閣ブックス）』（有斐閣） 岩田規久男著『ゼミナールミクロ経済学入門』（日本経済新聞社）</div>									

マクロ経済学		ECON-P-200/ECON-L-2
担当教員： 由川 稔		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P400330
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】 知の基礎力：政治や社会のしくみの理解</div>		<div>授業計画</div> <div>01. マクロ経済学とは何か（１）</div> <div>02. GDPについて（１）</div> <div>03. GDPについて（２）</div> <div>04. GDPについて（３）</div> <div>05. 三面等価の原則</div> <div>06. 名目と実質</div> <div>07. 財市場の分析（１）</div> <div>08. 財市場の分析（２）</div> <div>09. 有効需要の原理（１）</div> <div>10. 有効需要の原理（２）</div> <div>11. インフレギャップとデフレギャップ（１）</div> <div>12. インフレギャップとデフレギャップ（２）</div> <div>13. 乗数理論（１）</div> <div>14. 乗数理論（２）</div> <div>15. 乗数理論（３）</div> <div>16. 乗数理論（４）</div> <div>17. 貨幣と債券（１）</div> <div>18. 貨幣と債券（２）</div> <div>19. 利子率の決定（１）</div> <div>20. 利子率の決定（２）</div> <div>21. 金融政策（１）</div> <div>22. 金融政策（２）</div> <div>23. 金融政策（３）</div> <div>24. 金融政策（４）</div> <div>25. IS-LM分析（１）</div> <div>26. IS-LM分析（２）</div> <div>27. IS-LM分析（３）</div> <div>28. IS-LM分析（４）</div> <div>29. まとめと復習（１）</div> <div>30. まとめと復習（２）</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 行政コース：基幹科目</div> <div>【L】 ビジネスコース：基幹科目</div> <div>【L】 行政コース：基幹科目</div> <div>【L】 ビジネスコース：基幹科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>概論的な経済学から一歩進んで、世の中の経済現象をより理論的に考えてみましょう。特に経済を「マクロ的に」（＝巨視的に）捉えるのが「マクロ経済学」です。金融や、財政や、国際経済の動向等、私たちの今と将来を考えるため、目を向けるべき領域はたくさんあります。気分や情緒ではなく、理論に根差した理解に挑戦しましょう。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>理論面では、「基礎レベルの習熟」に目標を置きたいと思います。そしてそれを踏まえて、或る経済現象をどう捉えるべきか、自分の頭で、しかし独り善がりでない考え方で当たっていけるようにする、それがこの授業の意義と目標です。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の予習ポイントは毎回指示します。国内外の政治経済動向に十分注意する姿勢を持ち続けてください。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業の話をつただ聞き流すだけでは、身につけません。理解しようという主体性が求められます。また、「マクロ経済学」という一つのまとまりがある分野ですので、出席したりしなかったり「ムラ」がある人や、試験前の一夜漬けに賭けるような人も、成果をつかみにくいと思います。ただし、やむを得ない事情で欠席回数が増えたような場合は、相談してください。</div> <div>教科書については、資格や公務員等の各種試験対策にも利用できるものにしてありますが、授業は、スピード感よりも、基本的なポイントを確実に理解することを重視して、丁寧に進めます。なお、授業では時事問題を中心とした資料も配布します。理論と現実との関連を、考えてみましょう。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>復習は絶対に必要です。何度でも、読んで、書いて…、「頭で」というよりもむしろ「身体で」覚えるくらいの意識で臨んでください。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 国民所得</div> <div>・ GDP、国内総生産</div> <div>・ 財政</div> <div>・ 金融</div> <div>・ 市場経済</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 定期試験60%</div><div>(2) 受講態度20% 出席状況や授業内小テスト。</div><div>(3) レポート等20% 諸提出物。 ノートの写しを見せてもらうこともあります。</div></div>
<div>教科書</div> <div>『単位が取れるマクロ経済学ノート』（石川秀樹著、講談社（2012年）1,900円＋税）</div>		<div>参考書</div>

金融論

担当教員：鈴木 真実哉

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P400501

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

金融に関する基礎概念の修得に力点をおく。その上で、日本における金融現象を中心に、理論、政策、トピックスについて解説する。とくに、1990年代から現在に至るまでの日本金融史上でも稀である大変革期について、その本質と今後の方向性について解説する。たとえば、金融ビッグ・バン、大蔵省の改組、日本銀行法改正、郵便貯金の民営化、不良債権問題、などである。

(2) 学びの意義と目標

「金融」に無縁で生活できない現代において、すべての学生に学んでもらいたい科目である。社会科学系統の科目にとして、政治経済学部における両学科学生にとって共通専門科目となっている。現代の人間として知っておくべき知識を提示している。
 現代に生きる人間として知っておくべき「金融」に関する基礎知識を修得できる。難解な金融現象の理解が深まる。

受講者に対する要望

金融の世界は日々変化している。テキストやその他の書籍ではカバーしきれないものも講義するので、毎回ノートを取る必要がある。

学びのキーワード

- ・金融の本質と意義
- ・デフレ下の金融
- ・貨幣の未来

授業計画

01. 金融とは何か
02. 金融とは何か
03. 金融とは何か
04. 金融システム
05. 金融システム
06. 金融市場
07. 金融市場
08. 金融構造
09. 金融構造
10. 貨幣とは何か？
11. 貨幣とは何か？
12. 貨幣とは何か？
13. 貨幣の供給
14. 貨幣の供給
15. 貨幣の供給
16. 貨幣の需要
17. 貨幣の需要
18. 貨幣と利子
19. 貨幣と利子
20. 日本の金融機関
21. 日本の金融市場
22. 日本の金融政策
23. 金融の自由化・国際化
24. 金融の自由化・国際化
25. 不良債権問題
26. 円高
27. 金融界の未来
28. 金融界の未来
29. まとめ
30. まとめ

準備学習(予習)

指定する教科書の講義予定箇所をレポート用紙1枚にまとめておくこと。
 シラバスの講義予定テーマについてテキスト(第1回講義において指定する)の相当箇所をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

テキストの講義箇所、板書をまとめて、清書ノートを作成しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 定期試験 | 90% |
| (2) 出席状況 | 10% |

定期試験90%には、レポートによる評価を含むこともある。

教科書

参考書

財政学		ECON-P-200/ECON-L-2
担当教員： 正上 常雄		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P400660
学部教育の関連目		授業計画
【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】 知の基礎力：政治や社会のしくみの理解		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. 財政学とは 02. 財政の範囲と規模 03. 財政の3機能 04. 予算と何か 05. 公共財とは 06. 公共財の政治的な選択 07. 国と地方自治体の公共財の供給 08. 地方分権と公共財の供給 09. 社会資本 10. 租税のあり方 11. 税負担の公平 12. 課税の経済効果 13. 租税の帰着 14. 租税による所得再分配 15. 租税体系 16. 累進税と逆進税 17. 所得課税 18. 消費課税 19. 法人課税 20. 公債とは 21. 財政の持続可能性 22. 公債の負担 23. 地方財政の役割 24. 地方財政の資金の流れ 25. 地方交付税 26. 社会保障とは 27. 公的年金 28. 医療保険と介護保険 29. 生活保護 30. 少子高齢化の進展
(2) 学びの意義と目標		
この授業ではわかりやすいテキストを使って財政を基礎から学んでいこうと思います。教科書に書いてあることを学ぶだけでなく、現在の財政に関する現実の問題についても色々と議論してみたいと思います。 財政学は公務員試験などでも出題されますので、過去問題などを使いながら、どのような形で出題されているのかも学びます。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
授業中の私語は厳禁です。それ以外のルールは、最初の授業で相談して決めます。		教科書は初心者向けのやさしいものを選びましたが、もっと詳しい財政についての知識も授業で補完していくつもりです。難しい話はちょっと苦手という人も、まずは教科書を一読してみてください。
		準備学習(復習)
		授業では教科書に書かれていることだけでなく、公務員試験などにも対応できるように、専門用語の解説なども行うので、ノートやプリントでしっかり復習して下さい。
		評価方法
		(1) 中間試験 40% (2) 期末試験 40% (3) 平常点 20%
		大学の規定に従い、出席率60%以上を単位取得の条件とします。基本的に中間試験と期末試験で評価します。
学びのキーワード		教科書
・ 財政民主主義 ・ 租税 ・ 公共政策		上村 敏之 『コンパクト 財政学 第2版』 (新世社)
		参考書

経済政策

担当教員： 中野 宏

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 4 コード： 1P400710

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

(2) 学びの意義と目標

受講者に対する要望

学びのキーワード

授業計画

準備学習(予習)

準備学習(復習)

評価方法

教科書

参考書

政府および中央銀行が行う経済政策の実例と理論を学習します。バブル崩壊以降「失われた20年」とも称されるように、我が国経済は長きにわたって低迷を続け、経済成長率の鈍化、止まらないデフレ、巨額の政府債務、非正規雇用の拡大、所得格差と特に若年層の貧困化、少子高齢化と年金や医療制度の疲弊、企業の国際競争力の低下等々、様々な問題が顕在化してきています。その中には早急な解決が求められるものも多く、現在ではかつてないほど経済政策の重要性は高まっていると言えます。この授業では、我が国で実際に行われた（行われている）政策例をとりあげながら、その理論的背景を学習し、これからの日本経済つまりは皆さんの将来のために今何をすべきかを考えていきます。

授業の前半は景気対策を中心としたマクロ経済政策を、後半は競争と規制の市場政策を中心としたミクロ経済政策を講義します。経済理論をふんだんに取り入れますので、グラフ等を多用しますが、なるべく数学は用いないで授業を進めるつもりでいます。

なお、必ず専門科目「経済学」を履修した上で受講して下さい。

下の授業計画は予定です。学生の皆さんの理解度に応じて変更することもあります。

将来学生諸君がどのような職業に就こうと、社会に出れば「経済」と付き合わずに済ますことは出来ません。景気の動向や、金利・物価・為替レートの動きなどから必要なことを読み取り、あるいはそれらの動きを予想し、仕事や人生に反映させていくことになります。また、少子高齢化・人口減少社会に突入した我が国においては、これまでのような年金に依存した老後は期待すべくもなく、皆さんは投資により自らの手腕において老後のための資産形成を行っていかねばなりません。今後必要となるのは、テレビや新聞、ネットなどのマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具です。それらを身に付けるために本講義が少しでも役に立てばと願っています。

今までより少しでいいですから、テレビやネットで日々報道される経済ニュースに関心を持つ努力をしてみてください。

財政政策

金融政策

規制緩和

所得格差

市場の失敗

01. 経済政策の目的（１）／最適な資源配分と公平な所得配分

02. 経済政策の目的（２）／景気の安定化と成長戦略

03. GDP基礎論（１）／我が国の経済成長率と経済の現況

04. GDP基礎論（２）／GDPの決定要因

05. 財政の仕組み（１）／政府一般会計予算

06. 財政の仕組み（２）／財政の機能

07. 政府の財政政策と乗数理論

08. 政府の累積債務問題

09. 金融基礎論（１）／貨幣と金融市場

10. 金融基礎論（２）／貨幣の供給

11. 中央銀行の金融政策（１）／金融政策の手段

12. 中央銀行の金融政策（２）／ゼロ金利政策と異次元の緩和

13. 経済成長の促進

14. 費用便益分析基礎論（１）／限界便益と限界費用

15. 費用便益分析基礎論（２）／余剰の概念

16. 厚生経済学の基本定理（１）／最適資源配分の条件

17. 費用便益分析基礎論（２）／完全競争市場の調整メカニズム

18. 規制緩和と民営化

19. 自然独占と料金規制

20. 課税と補助金（１）／課税の原則

21. 課税と補助金（２）／課税の効果

22. 貿易と関税（１）／自由貿易の利益とＴＰＰ

23. 貿易と関税（２）／保護貿易と関税

24. 所得再分配政策

25. 市場の失敗：外部性（１）／外部不経済と地球温暖化問題

26. 市場の失敗：外部性（２）／ピグー課税と補助金

27. 市場の失敗：公共財（１）／公共財の性質

28. 市場の失敗：公共財（２）／リンダールの方法とフリーライダー

29. 講義のまとめ（１）

30. 講義のまとめ（２）

次回の講義について指示された項目を、各自で調べておくこと。ただし、予習よりは復習のほうがはるかに重要であると認識してください。

経済学の講義は積み重ねで進んでいくため、一度わからなくなるとその後が続かなくなる恐れがあります。毎回講義の復習プリントを配布しますので、次の講義日までに各自仕上げてくること。

(1) 平常点	30%	聴講や板書のノート取りなど授業における集中度、および発言や質問など授業への参加の積極度を総合的に評価します。
(2) レポート	30%	講義期間半ばに1回レポート課題を出します。
(3) 期末試験	40%	

定められたとおり3分の2（20回）以上の出席がなければ成績評価の対象とはなりません。また、レポート提出と期末試験受験のどちらが欠けても成績評価の対象とはなりませんので注意してください。

特に指定はしません。毎回講義レジュメを用意します。

岩田規久男、飯田泰之著『ゼミナール経済政策入門』（日本経済新聞社）

社会保障論		ECON-L-200
担当教員： 宮寺 良光		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P401001
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 市民力：地域社会を支えるために必要な知識</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 現代社会における社会保障制度の課題 (1) 人口動態の変化、少子・高齢・人口減少社会</div> <div>02. 現代社会における社会保障制度の課題 (2) 労働・雇用環境の変化</div> <div>03. 現代社会における社会保障制度の課題 (3) 少子高齢・人口減少社会・政治・経済的な問題と社会保障の課題</div> <div>04. 社会保障の概念や対象およびその理念</div> <div>05. 社会保障の歴史 (1) 欧米における歴史的展開</div> <div>06. 社会保障の歴史 (2) 日本における歴史的展開</div> <div>07. 社会保障の財源と費用 (1) 社会保障の財源及び給付費</div> <div>08. 社会保障の財源と費用 (2) 国民負担率と財源・費用に関する国家的課</div> <div>09. 社会保険と社会扶助の関係 (1) 社会保険の概念と範囲</div> <div>10. 社会保険と社会扶助の関係 (2) 社会扶助の概念と範囲</div> <div>11. 社会保障制度の体系</div> <div>12. 年金保険制度 (1) 年金保険制度の沿革と概要</div> <div>13. 年金保険制度 (2) 国民年金</div> <div>14. 年金保険制度 (3) 厚生年金・共済年金</div> <div>15. 年金保険制度 (4) 年金制度をめぐる最近の動向</div> <div>16. 医療保険制度 (1) 医療保険制度の沿革と最近の動向</div> <div>17. 医療保険制度 (2) 国民健康保険</div> <div>18. 医療保険制度 (3) 健康保険と共済組合制度</div> <div>19. 医療保険制度 (4) 後期高齢者医療制度</div> <div>20. 介護保険制度 (1) 創設の経緯</div> <div>21. 介護保険制度 (2) 介護保険制度の概要</div> <div>22. 介護保険制度 (3) 介護保険制度をめぐる最近の動向</div> <div>23. 労働保険制度 (4) 労働保険制度の沿革と最近の動向</div> <div>24. 労働保険制度 (1) 労災保険</div> <div>25. 労働保険制度 (2) 雇用保険</div> <div>26. 社会手当制度</div> <div>27. 公的保険制度と民間保険制度の関係 (1) 民間保険に期待される役割</div> <div>28. 公的保険制度と民間保険制度の関係 (2) 民間保険の概要</div> <div>29. 諸外国における社会保障制度の概要 (1) 社会保障の国際比較</div> <div>30. 諸外国における社会保障制度の概要 (2) 先進諸国における社会保障制度の概要</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 社会福祉士任用資格：選択科目</div> <div>【L】 行政コース：応用科目</div> <div>【L】 コミュニティコース：基幹科目</div> <div>【L】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div> <div>【L】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目【W】 社会福祉士任用資格：選択科目</div> <div>【W】 行政コース：応用科目</div> <div>【W】 コミュニティコース：基幹科目</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div> <div>【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>・ 現代社会における社会保障制度の課題</div> <div>・ 社会保障の概念や対象およびその理念</div> <div>・ 社会保障の歴史</div> <div>・ 社会保障の財源と費用</div> <div>・ 社会保険と社会扶助の関係</div> <div>・ 社会保障制度の体系</div> <div>・ 社会保障制度の概要（年金保険・医療保険・介護保険・労働保険・その他社会手当）</div> <div>・ 公的保険制度と民間保険制度の関係</div> <div>・ 諸外国における社会保障制度の概要</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>・ 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。</div> <div>・ 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。</div> <div>・ 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。</div> <div>・ 社会保障制度の体系と概要について理解する。</div> <div>・ 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。</div> <div>・ 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>・ 出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。
・ 集中講義であるため、長時間受講するのは苦痛を伴うと思うので、お互いにメリハリを付けて取り組みましょう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>「参考書」に提示したのうち、1冊の文献を読解してくる。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回出題する小レポートを作成し、提出する。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 30%</div> <div>(2) 小レポート 30%</div> <div>(3) 試験 40%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 人口の少子・高齢化</div> <div>・ 皆保険・皆年金</div> <div>・ 介護保険</div> <div>・ 労働保険</div> <div>・ 国際比較</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>唐鍾直義（2012）『読解図の社会保障』旬報社、中山貴・加美喜史（2014）『社会福祉士養成シリーズ 社会保障』東山書房、榎野美智子・田中耕太郎（2001）『はじめての社会保障（第1～12版）』有斐閣</div>

社会保障論

担当教員： 高橋 聡

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 4 コード： 1P401051

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

ブラック企業・解雇・長時間労働・貧困がもはや珍しくない。今、自分の身を守る最後の切り札となるのが社会保障制度である。これを知っているかいがないかが、大げさではなく人生を大きく左右する。その意味で、社会保障は社会に出る前の学生が学ぶべき必修科目といえる。ぜひ、この機会に学んでほしい。社会保障では、日常生活では使わない用語が多く用いられる。また少々深刻な社会問題も話す。そこで、講義は、受講者がリラックスして気楽に取り組めるような雰囲気で行いたいと考えている。

全体は大きく二つに分かれる。ニコマ分の前半(奇数回)の授業では、わが国の社会保障制度のしくみを学ぶ。後半(偶数回)の授業では、社会保障と労働に関わる具体的な問題を取り上げ、現在の日本社会が抱える問題を考える時間とする。基本は講義形式であるが、映画やドキュメンタリー番組なども活用して、さまざまな形で社会保障・福祉・労働のあり方を考えていく予定である。

(2) 学びの意義と目標

意義

社会保障の仕組みと利用法を知ること、一人一人の今後の労働と生活の中で必ず起こる困難な問題に対処する術を知ることができる。

目標

- (1) 社会保障制度のしくみとその活用法を知る。
- (2) 今日の社会におきている労働・福祉・社会保障にかかわる諸問題を考える。

受講者に対する要望

制度がいく分複雑であったり、日常生活では用いない言葉がひんぱんに用いられる。わからないことがあったらそのまま放置せず、授業中でもかまわないからすぐに質問してほしい。

学びのキーワード

- ・ 医療保険
- ・ 福祉
- ・ 年金
- ・ 雇用
- ・ 税と社会保障

授業計画

01. 社会保障とは何か 保険と税のちがい
02. カントと人権概念
03. 医療保険 (1) 健康保険制度の概要
04. ハンセン病問題
05. 医療保険制度 (2) 高額療養費制度など
06. ハンセン病訴訟
07. 医療保険 (3) 医療費の増加
08. 路上生活者(ホームレス)の現状
09. 公的扶助 (1) 生活保護
10. 「ホームレス自立支援法」とその問題点
11. 公的扶助 (2) 社会福祉制度
12. 障害とセンの潜在能力論
13. 公的扶助 (3) 社会手当
14. 「障害者自立支援法」とその問題点
15. 年金 (1) 年金制度の概要
16. 就学援助制度とロールズの正義論
17. 年金 (2) 猶予・免除制度とその方法
18. 子供の貧困
19. 年金 (3) 年金財政と年金破たん論
20. J. S. ミルと女性労働
21. 雇用保険
22. 女性の貧困とワークライフバランス
23. 労働者災害補償保険
24. ウエップ夫妻とナショナル・ミニマム
25. 社会保障の財政
26. ベヴァリッジと福祉国家体制
27. 税と社会保障の関係
28. ミュルダール夫妻と少子化対策
29. 控除制度と手当制度の問題点
30. 全体のまとめ

準備学習(予習)

労働条件、解雇、医療、少子化・高齢化、年金などに関するニュースに敏感になり、収集を心がけること。

準備学習(復習)

配布プリントをきちんと読み返し内容を把握すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

なし。配布プリントをもとにすすめる。

参考書

授業において随時指示する。

労働経済論

担当教員：金子 良事

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 4 コード： 1P401210

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では「労働」に関係する基本的な事柄を賃金を中心に歴史や現在の状況などを踏まえて教えます。社会では誰もが「労働」をしているのであり、それぞれが「労働」についてのイメージを持っています。しかし、その分、雑誌等には十分に考えを煮詰めていない議論も流布しています。折に触れて、そういう言説にも言及します。

現代の経済学は統計を利用をします。この講義では「労働統計」は説明しますが、統計学の説明をしませんので、各自「統計学」等で補ってください。

(2) 学びの意義と目標

社会に出て働くことの意義はそれぞれ自分で探さなければなりません。本講義では逆に社会の中における「働く（＝労働）」の意味は何かを学び、考えることになります。最終的に自分で考えながら、白書を読めることを目指します。

受講者に対する要望

自分のペースでよいので、関心のあるトピックを深めて行ってください。メールアドレス等はウェブ上で公開していますので、分からない点などは気軽に質問してください。

学びのキーワード

- ・ 賃金
- ・ 労働統計
- ・ 労働市場
- ・ 能力形成
- ・ 労使関係

授業計画

01. 二つの賃金（ガイダンス）
02. 二つの賃金
03. 組織と雇用
04. 組織と雇用
05. 賃金に関わる主要プレイヤー
06. 賃金に関わる主要プレイヤー
07. 賃金思想
08. 賃金思想
09. 基本給を中心とした賃金体系
10. 基本給を中心とした賃金体系
11. 雇用類型と組織 内部労働市場の論理
12. 雇用類型と組織 内部労働市場の論理
13. 賃金政策と賃金決定機構
14. 賃金政策と賃金決定機構
15. 社会生活のなかの賃金 賃金格差の諸相
16. 社会生活のなかの賃金 賃金格差の諸相
17. 労働の需要と供給
18. 労働の需要と供給
19. 労働時間
20. 労働時間
21. 労働統計
22. 労働統計
23. 労働政策
24. 労働政策
25. 労働経済白書を読む
26. 労働経済白書を読む
27. 教育と労働
28. 演習問題
29. 予備
30. テスト

準備学習(予習)

教科書を一通り自分のペースで読むこと。

準備学習(復習)

講義内で紹介するWEBページ（厚労省など）や本など、自分が関心をもったものでよいので、調べてみる。

評価方法

(1) テスト

100 28回の演習問題で事前にテスト問題の練習と解説を行います。

教科書

金子良事『日本の賃金を歴史から考える』旬報社、2013年

参考書

日本経済論		ECON-P-300
担当教員：大森 達也		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1P401550
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div>		<div>授業計画</div> <div>01. はじめに</div> <div>02. 経済体制とは</div> <div>03. 古典的資本主義と古典的社会主義</div> <div>04. 現代混合資本主義</div> <div>05. 経済体制としての日本型資本主義（歴史的背景）</div> <div>06. 経済体制としての日本型資本主義（目的、課題）</div> <div>07. 経済体制としての日本型資本主義（モデルとして）</div> <div>08. 戦後日本経済の発展過程（戦後復興期）</div> <div>09. 戦後日本経済の発展過程（高度経済成長期）</div> <div>10. 戦後日本経済の発展過程（低経済成長期）</div> <div>11. 戦後日本経済の発展過程（バブル経済へ-1）</div> <div>12. 戦後日本経済の発展過程（バブル経済へ-2）</div> <div>13. 戦後日本経済の発展過程（まとめ）</div> <div>14. 前半講義のまとめ</div> <div>15. 質疑応答</div> <div>16. 戦後日本経済の発展過程のおさらい</div> <div>17. 戦後日本経済の成長の仕組み（設備投資競争ついて）</div> <div>18. 戦後日本経済の成長の仕組み（その他の企業競争）</div> <div>19. 産業構造の変化</div> <div>20. 産業構造の変化（課題）</div> <div>21. 日本の金融・財政政策（経済政策とは）</div> <div>22. 日本の金融・財政政策（政策手段に見る日本の特徴）</div> <div>23. 日本の金融・財政政策（課題）</div> <div>24. 日本の貿易構造（貿易の意味）</div> <div>25. 日本の貿易構造（貿易摩擦から経済摩擦へ）</div> <div>26. 日本の貿易構造（課題）</div> <div>27. 日本経済:21世紀における課題</div> <div>28. 日本経済:21世紀における課題</div> <div>29. 後半講義まとめ</div> <div>30. 質疑応答</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、1990年代の日本経済は、まさに過去の成功の故に、制度的に疲弊し、矛盾を露呈するにいたったと理解し、サブプライム問題以降、混迷する世界経済において日本経済は今後どのような方向に進んでいくか、あるいは、どのように変化するを、戦後の歴史等を踏まえて考えていくこととする。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本講義では、戦後の日本経済の成立、その発展の軌跡、経済政策あるいは体制上の特徴などについての講義を通じ、日本経済の現状と将来的な展望を得ることを目的とする。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>盛りだくさんの内容で、講義のスピードは当然のことながら早くなるので、しっかりした受講姿勢で臨むこと。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>内容的に、盛りだくさんなので、事前に文献等を読んでおくこと。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>試験は、講義内容をもとに行われるので、ノートをしっかりと作っておくこと。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 中間試験35%</div> <div>(2) 期末試験35%</div> <div>(3) ブックレポート30% 1,200文字程度 3回×10%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・資本主義</div> <div>・戦後日本経済</div> <div>・産業構造</div> <div>・貿易構造</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： 1P401610

01. 1. 日本の金融市場の歴史・・・戦前編(1)|
02. 2. 日本の金融市場の歴史・・・戦前編(2)|
03. 3. 日本の金融市場の歴史・・・戦後編(1)|
04. 4. 日本の金融市場の歴史・・・戦後編(2)|
05. 5. 日本の金融制度の特徴 総論(1)|
06. 6. 日本の金融制度の特徴 総論(2)|
07. 7. 日本の銀行制度|
08. 8. 海外の銀行制度 特に米国を中心に|
09. 9. 日本の証券市場|
10. 10. 海外の証券市場 特に米国を中心に|
11. 11. アジアの証券市場 特に中国を中心に|
12. 12. 地域金融制度 地方銀行・信用金庫・信用組合など|
13. 13. 保険会社 損保と生保の違いとは|
14. 14. 雑金融 貸金業の問題点|
15. 15. 日本の金融市場の歴史的展望と課題|

講義中に指示する。また、講義の進行に応じて資料配付する。

<div> <div> <div>金融市場論B</div> <div></div> </div> </div>		
<div> <div>担当教員：柴田 武男</div> <div> <div>学期： 週間授</div> <div>科目：</div> <div>必修・選択：</div> </div> <div>単位： 2 コード： 1P401710</div> </div>		
<div>学部教育の関連目</div>	<div> <div>授業計画</div> <div> <div>01. 1. 金融市場で何が起こっているのか・・・論点の提供 その(1) </div> <div>02. 2. 金融市場で何が起こっているのか・・・論点の提供 その(2) </div> <div>03. 3. 経済記事の読み方・・・日経新聞に何が書かれているのか(1) </div> <div>04. 4. 経済記事の読み方・・・日経新聞に何が書かれているのか(2) </div> <div>05. 5. 田レビ放送から金融市場を学ぶ・・・必見の放送番組とは </div> <div>06. 6. 銀行市場とその役割 (1) 都市銀行を中心に </div> <div>07. 7. 銀行市場とその役割 (2) 地域金融機関を中心に </div> <div>08. 8. 証券市場とその役割 (1) 証券会社を中心に </div> <div>09. 9. 証券市場とその役割 (2) 機関投資家を中心に </div> <div>10. 10. 国債市場から日本経済を考える </div> <div>11. 11. 株式市場から日本経済を考える </div> <div>12. 12. 証券市場と消費者 われわれの生活に関わる証券市場とは (1) </div> <div>13. 13. 証券市場と消費者 われわれの生活に関わる証券市場とは (2) </div> <div>14. 14. 金融市場の理論と現実 まとめ (1) </div> <div>15. 15. 金融市場の理論と現実 まとめ (2) </div> </div> </div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div> <div>(1) 内容</div> <div> <p>金融市場論Bは、「金融市場の理論と現実」をメインテーマに行う。我が国では、出資法と利息制限法という二つの法律を中心に金利規制の体系が構築されているが、深刻な多重債務問題から大きく法律が改正された。ここでは改正貸金業法を取りあげ、改正された経緯を明らかにするとともに、そこから理論と現実の対立関係を具体的に詳述していきたい。</p> <p>2011年6月18日に改正貸金業法が完全施行され、その影響と是非が論じられている。後期の講義では、現在行われている議論をもとに日本の金融市場の問題点と課題を明らかにしていきたい。金融市場はすさまじい勢いで変貌する市場であり、一年、二年遅れの教科書では現実の金融市場を講義できない。したがって、本講義では、講義当日の日本経済新聞を教材の一つとして、金融問題を中心に経済記事を詳細に解説する時間を設ける。また、NHKスペシャルとして話題となった「マネー資本主義」などのテレビ番組も積極的に取り上げて解説していきたい。</p> </div> </div>		
<div> <div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <p>本講義を通して、金融市場の社会的役割の理解と同時に日経新聞をビジネスツールとして活用する方法まで教授することが目的である。金融市場の現代的理解は、単に政治経済の知識としてあるのではなく社会人として生活する上で、ローンの利用、保証人問題等で必須の知識である。難解で複雑な金融商品を使いこなすことが期待される。□</p> </div> </div>	<div> <div>準備学習(予習)</div> <div> <p>日頃から日経新聞は是非読んで欲しい。また、経済を中心とするテレビ番組等の視聴も期待している。そこで出会う専門用語について、自発的にインターネット等で学習しておくこと。</p> </div> </div>	
	<div> <div>準備学習(復習)</div> <div> <p>配布した教材について理解できない用語については必ず確認すること。それでも理解できない場合は担当教員にメール等で質問すること。</p> </div> </div>	
<div> <div>受講者に対する要望</div> <div> <p>遅刻・欠席は厳禁である。平常点の割合は高いので、単位取得のためにも必ず出席すること。また、講義資料はPDF等で配付するので、オンライン・ストレージに対応してインターネット環境は整備しておくこと。</p> </div> </div>	<div> <div>評価方法</div> <div> <div> <div>(1) 平常点</div> <div>25%</div> <div>講義終了後必ず出席票を提出</div> </div> <div> <div>(2) 講義後のレポート</div> <div>50%</div> <div>講義後提出する出席票にレポート課題を書いて貰う。その内容を精査して、講義の理解度を評価する。</div> </div> <div> <div>(3) 定期末試験、あるいはそれに代わるレポート提出</div> <div>25%</div> <div></div> </div> </div> <div> <p>平常点及び出席票に書かれたレポート課題のウェイトは大きいので、講義には欠席せず、また、講義も集中して内容を理解してレポート課題を書く準備が必要です。</p> </div> </div>	
<div> <div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 1. 日本経済新聞 2. 金融革新 ヘッジファンド マネー資本主義 基軸通貨 </div> </div>	<div> <div>教科書</div> <div> <p>講義の進行に応じて指示する。特に、教科書として事前に購入の指示はしない。</p> </div> </div> <div> <div>参考書</div> <div> <p>講義の進行に応じて適宜講義中に配付する。</p> </div> </div>	

ECON-P-300/ECON-L-3

単位：4 コード：1P402190

参考書

ECON-P-200/ECON-L-3

単位：4 コード：1P402200

参考書

国際金融論 A

MGMT-P-400/MGMT-L-4

担当教員：柴田 武男、石橋 満、鈴木 成高、柳沢 真人

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

【L】問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

ボーダーレスの時代を迎え、実体経済の需要を遥かに越えた大量のマネーが世界を駆け巡っています。ITの進化に伴い国際金融の手法は高度化、複雑化しています。マネーの動きは国際情勢に敏感に反応して、たちまち世界の金融市場に影響を与え、各国の経済・金融政策を左右します。それらのメカニズムの基本を講義するのが、本講座の第一の趣旨です。

一方国内経済を見ると、アベノミックスの一環である異次元の金融緩和策がそれなりに効果を発揮する一方で、政策遂行の成果を疑問視する声も多く聞かれます。アベノミックスの動向も含めた形で、国際金融の実務面から見た基礎的な問題点や課題などを講義するのが、本講座の第二の趣旨です。

本講座は、それぞれが立場の違う国際金融の専門家三名が講師を務める、オムニバス方式を採用します。日本銀行で金融行政に携わった講師、三菱東京UFJ銀行で外国業務に携わった講師、丸紅で国際ビジネスのファイナンスに携わった講師の三名が、本講座のテーマを、それぞれの専門の立場や視点から語ることで、今日的な国際金融における基礎的な問題を浮き彫りにします。

講義は、理論的側面より、実務的側面に重点を置き、実務の現場の状況を語ることで、受講者全員が国際金融に関心を持ち、基礎的知識を身につけることを目指します。

(2) 学びの意義と目標

我々の生活に欠かせないおカネが、どのような仕組みで流れ、それが仕事や生活にどのような影響を及ぼしているのか、本講座では国際金融のメカニズムの基礎をまず学ぶことになる。金利や為替レートはどのように決められ、またそれらが実体経済にどのようなインパクトを与えるのか。それらの中で果たされる中央銀行、民間金融機関、民間企業などの役割や機能は何かを知る。さらには、現在日本政府が遂行中の「アベノミックス」という経済政策の基礎知識を持ち、その中における国際金融の位置づけ、また、それらが自らの生活にいかなる影響を与えるかについても理解して欲しい。

たとえ国内での仕事に就くにしても、国際金融の基礎的な知識は不可欠であり、グローバル化が進む中で、特に将来ビジネスの世界を目指す人にとり、本講座で学ぶ知識は必須であります。

国際金融というとな難解で敷居が高く思えて、受講を躊躇する学生もいるかもしれないが、本講座についてはそのような心配は無用です。本講座の講師は国際金融実務の経験者であり、実務にはすべて明確な手順があり、その理由があります。単なる国際金融の教科書では学べない、その理由がなぜそのような仕組みで行われるのか、その理由が理解できれば国際金融は容易に理解できます。国際金融を難解だと思っている学生にこそ、受講を強く勧めます。

受講者に対する要望

理解が及ばない内容に接した時は、臆せず質問し、あるいは問いかけ、できる限り講義に参加する姿勢が求められる。

国際金融の更なる理解のため、本講座の姉妹講座である、「国際金融論B～グローバル経済と国際金融～」(2017年秋学期開講) も、受講することを勧める。

学びのキーワード

・ 国際金融の仕組み

・ 国際金融と実体経済

・ 国際金融と日本経済（アベノミックス）

授業計画

01. 第1部：金融当局の立場から見た国際金融|講師：柳沢真人講師（元日本銀行）|（1-1）世界経済の現状と拡大する国際金融取引|リーマンショック以降の国際金融の現状と課題について

02. （1-2）国際収支の構造と最近の輸出構造の変化|国際収支の中長期的変化、円安と輸出の関係など

03. （1-3）金融グローバル化と国際金融危機|リーマンショックの原因や、日米バブル経済とその対応の違いなど

04. （1-4）最近の国際金融情勢を巡る動き|欧米、中国の最近の動向を中心に語る

05. （1-5）アベノミックスの現状と今後の課題|その政策評価と今後の問題点など

06. 第2部：銀行の立場から見た国際金融 |講師：鈴木成高講師（元三菱東京UFJ銀行）|（2-1）銀行優位の日本の金融市場の特色

07. （2-2）世界経済のグローバル化と日本の金融市場の国際化/グローバル化

08. （2-3）外国為替の基礎、為替リスクの理解の重要性とグローバル経済

09. （2-4）商業銀行業務と投資銀行業務 銀行/証券の分離の歴史

10. （2-5）米国発の新自由主義の流れとユーロ危機問題

11. 第3部資金需要者の立場から見た国際金融|講師：石橋満講師（元丸紅）|（3-1）海外決済・支払1 外国送金

12. （3-2）海外決済・支払2 信用状無し取引

13. （3-3）海外決済・支払3 信用状付取引

14. （3-4）為替市場1 外国為替市場とは何か

15. （3-5）為替市場2 外国為替市場の動き

準備学習(予習)

本講座に関連する世界の話題が、日々マスコミの情報にあふれている。それらを敏感に拾い上げて、講義に臨んで欲しい。その実践によって、講義への興味や理解度は格段に増す。

準備学習(復習)

講義の内容の中から、自らの興味ある部分を選んで、その中身を自ら調べるなどして掘り下げて欲しい。不明な点などあれば、次回の講義時に講師に質問して、さらに理解を深めるように試みる。

評価方法

(1) 平常点による加点減点

10%

(2) 課題レポート提出

90%

3人の講師がそれぞれの最終講義で、レポート課題を提示する

出席日数がコマ数の2/3未満は評価対象外

教科書

プリントを配布する。

参考書

経営学		MGMT-P-200/MGMT-L-1	
担当教員：酒井 祐太郎			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P500110	
学部教育の関連目		授業計画	
【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】 知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識		01. 履修上の注意、企業の役割、環境変化に対する企業の対応（1） 02. 環境変化に対する企業の対応（2）～特に国際的要因を中心とし 03. 国際的要因への対応＜円高・円安の問題等＞ 04. 企業内の階層と経営者（水平的分業と垂直的分業①） 05. <small>企業内の階層（水平的分業と垂直的分業②）</small> <small>【管理者層（トップマネジメント、ミドルマネジメント、ロワマネジメント）のそれぞれの役割</small> 06. 経営組織について① ライン組織、ライン・アンド・スタッフ組織とは 07. 経営組織について② 事業部制組織 08. 経営組織について③ 応用的経営組織に関して 09. 人的資源管理① 労働条件－賃金管理を中心として 10. 人的資源管理② 労働条件－労働時間管理など 11. 人的資源管理③ 人事制度－職能資格制度の考え方 12. 人的資源管理④ 人事制度－職能資格制度の考え方 13. 人的資源管理⑤ 企業内福利厚生制度 法定福利厚生 14. 人的資源管理⑥ 企業内福利厚生制度 法定外福利厚生 15. 人的資源管理⑦ 労使関係 16. 財務管理の基本① 企業内財務の課題とは 17. 財務管理の基本② 貸借対照表の内容 資産とは 18. 財務管理の基本③ 貸借対照表の内容 負債と純資産とは 19. 財務管理の基本④ 損益計算書の内容 20. 財務管理の基本⑤ 経営分析の基礎① 収益性の分析 21. 財務管理の基本⑥ 経営分析の基礎② 財務的安定性の分析 22. 財務管理の基本⑦ 経営分析の基礎③ 成長性の分析 23. 企業形態について－企業の法的分類 24. 株式会社の基本① 株式会社設立の方法 25. 株式会社の基本② 株式とは、配当、上場とは 26. 株式会社の基本③ 増資、株主総会や取締役会等の会社機関について 27. 経営戦略とマーケティングの基本① 競争戦略、成長戦略、マーケティングの4Pとは 28. 経営戦略とマーケティングの基本② マーケティングミックスの基本について 29. 総まとめ① 30. 総まとめ②	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 ビジネスコース：基幹科目 【L】 ビジネスコース：基幹科目			
(1) 内容			
当科目は企業の経営・管理の体系的な知識を基本的なレベルから学ぶことを目的とします。現代は、企業の時代と呼ばれるほど、我々の生活は企業の活動なしには成立しません。我々は消費者や労働者という意味でも企業に深くかかわっています。その意味で、企業という組織を多面的に考察することは、社会の構成員としても必須の事と言えよう。 実際の講義では、まず我々と企業とが基本的にどのようなかわりを持つか、企業が社会の中でどのような役割を持って存在しているか、また企業が社会の様々な要因の変化にどのように対応していくべきかを考えたい。 入門レベルの授業を考えています。 経営学のより深い専門的な内容の導入となる科目としてとらえて頂きたい。			
(2) 学びの意義と目標			
当科目の到達目標は、①経営学の基礎としての専門用語を理解できるようにすること、②経済・経営に関する新聞記事を理解し、読めるようにすること、③経営学の中の各専門分野をさらに深く学ぶための基礎力を身につけること、④経営学上の財務分析、経営分析の基礎が自分でできるようにすること。			
受講者に対する要望			
経済・経営に関する内容なので、毎日の新聞、ニュースに関心を持ってほしい。また、授業の内容に基づき、課題を積極的に行い、理解をさらに深めてほしい。 テキストは使用しますが、テキストに載っていない内容も授業で学ぶことも多いので、必ず授業に出席することが必須です。			
学びのキーワード		教科書	
		上林・奥林・園 他著 『経験から学ぶ経営学入門』（有斐閣ブックス）	
		参考書	

経営学		MGMT-P-200/MGMT-L-1	
担当教員：酒井 祐太郎			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P500111	
学部教育の関連目		授業計画	
【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】 知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識		01. 履修上の注意、企業の役割、環境変化に対する企業の対応（1） 02. 環境変化に対する企業の対応（2）～特に国際的要因を中心とし 03. 国際的要因への対応＜円高・円安の問題等＞ 04. 企業内の階層と経営者（水平的分業と垂直的分業①） 05. <small>企業内の階層（水平的分業と垂直的分業②） 管理者層（トップマネジメント、ミドルマネジメント、ボトムマネジメント）のそれぞれの役割</small> 06. 経営組織について① ライン組織、ライン・アンド・スタッフ組織とは 07. 経営組織について② 事業部制組織 08. 経営組織について③ 応用的経営組織に関して 09. 人的資源管理① 労働条件－賃金管理を中心として 10. 人的資源管理② 労働条件－労働時間管理など 11. 人的資源管理③ 人事制度－職能資格制度の考え方 12. 人的資源管理④ 人事制度－職能資格制度の考え方 13. 人的資源管理⑤ 企業内福利厚生制度 法定福利厚生 14. 人的資源管理⑥ 企業内福利厚生制度 法定外福利厚生 15. 人的資源管理⑦ 労使関係 16. 財務管理の基本① 企業内財務の課題とは 17. 財務管理の基本② 貸借対照表の内容 資産とは 18. 財務管理の基本③ 貸借対照表の内容 負債と純資産とは 19. 財務管理の基本④ 損益計算書の内容 20. 財務管理の基本⑤ 経営分析の基礎① 収益性の分析 21. 財務管理の基本⑥ 経営分析の基礎② 財務的安定性の分析 22. 財務管理の基本⑦ 経営分析の基礎③ 成長性の分析 23. 企業形態について－企業の法的分類 24. 株式会社の基本① 株式会社設立の方法 25. 株式会社の基本② 株式とは、配当、上場とは 26. 株式会社の基本③ 増資、株主総会や取締役会等の会社機関について 27. 経営戦略とマーケティングの基本① 競争戦略、成長戦略、マーケティングの4Pとは 28. 経営戦略とマーケティングの基本② マーケティングミックスの基本について 29. 総まとめ① 30. 総まとめ②	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 ビジネスコース：基幹科目 【L】 ビジネスコース：基幹科目			
(1) 内容			
当科目は企業の経営・管理の体系的な知識を基本的なレベルから学ぶことを目的とします。現代は、企業の時代と呼ばれるほど、我々の生活は企業の活動なしには成立しません。我々は消費者や労働者という意味でも企業に深くかかわっています。その意味で、企業という組織を多面的に考察することは、社会の構成員としても必須の事と言えよう。 実際の講義では、まず我々と企業とが基本的にどのようなかわりを持つか、企業が社会の中でどのような役割を持って存在しているか、また企業が社会の様々な要因の変化にどのように対応していくべきかを考えたい。 入門レベルの授業を考えています。経営学のより深い専門的な内容の導入となる科目としてとらえて頂きたい。			
(2) 学びの意義と目標			
当科目の到達目標は、①経営学の基礎としての専門用語を理解できるようにすること、②経済・経営に関する新聞記事を理解し、読めるようにすること、③経営学の中の各専門分野をさらに深く学ぶための基礎力を身につけること、④経営学上の財務分析、経営分析の基礎が自分でできるようにすること。			
受講者に対する要望			
経済・経営に関する内容なので、毎日の新聞、ニュースに関心を持ってほしい。また、授業の内容に基づき、課題を積極的に行い、理解をさらに深めてほしい。 テキストは使用しますが、テキストに載っていない内容も授業で学ぶことも多いので、必ず授業に出席することが必須です。			
学びのキーワード		教科書	
		上林・奥林・園 他著 『経験から学ぶ経営学入門』（有斐閣ブックス）	
		参考書	

経営学		MGMT-P-200/MGMT-L-1										
担当教員： 八木 規子												
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P500112										
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】 知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 本科目の進め方について。経営学とは何か</div> <div>02. 経営学の位置づけー社会科学における経営学</div> <div>03. 企業の特徴</div> <div>04. 企業の分類</div> <div>05. 株式会社の特徴と仕組み</div> <div>06. 所有と経営の分離</div> <div>07. 所有と経営に関する日本企業の現状</div> <div>08. ケース分析：カゴメ</div> <div>09. コーポレート・ガバナンス</div> <div>10. 前期まとめ</div> <div>11. 経営学の発生：経済学と経営学</div> <div>12. テイラーと科学的管理法</div> <div>13. ヘンリー・フォードとフォードイズム</div> <div>14. メイヨーと人間関係論</div> <div>15. 行動科学と統合理論</div> <div>16. 近代管理論からコンティンジェンシー理論へ</div> <div>17. 組織とは何か</div> <div>18. さまざまな組織形態</div> <div>19. 中期まとめ、ケース分析：フォードとGM</div> <div>20. 経営戦略論</div> <div>21. SWOT分析：富士フィルム</div> <div>22. ケース分析：マクドナルドとモスバーガー</div> <div>23. マーケティング論</div> <div>24. ケース分析：ライオン</div> <div>25. 生産管理論</div> <div>26. ケース分析：トヨタの生産方式</div> <div>27. 人事管理：人の活かし方から見た日本的経営</div> <div>28. ケース分析：ブラザー工業</div> <div>29. 国際人的管理と内なる国際化</div> <div>30. 最終まとめ</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 ビジネスコース：基幹科目</div> <div>【L】 ビジネスコース：基幹科目</div>												
<div>(1) 内容</div> <div>現代の経営学は、複雑、多様化する現実の企業経営に対応すべく、その考察対象を広範にし、また細分化している。経営学の入門編としての本科目は、まず、その全体像を把握することを目指す。経営学の基礎的概念、基本用語、各理論の概要について解説し、経営学の考察対象である企業の特徴・諸側面について学ぶこととする。</div>												
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>経営学の主な研究・考察対象は「企業」である。現在の我々の経済社会は、「企業」に大きく依存し、また影響を受けている。現在の社会現象の多くは、企業との関わりを考慮することなくしては、それらを正しく理解することは困難である。また、企業は、多くの人々の仕事の場である。したがって、企業の仕組みや性質を知することは、すべてのひとびとにとって重要である。経営学では、企業を理解し、判断するための「見地（ものをみる見方・視点）」を養うことを目標とする。「企業もしくは会社と呼ばれているものは、いったい何なのか」「会社の組織はどうなっていて、それがどのように活動するのか」「企業は、それを取り巻く諸環境とどう結びつき、関わっているか」「どの国の企業もそれぞれ独自性をもつが、日本の企業の特徴は何か」「時代の動きに対応しつつ、望ましい企業経営を行うには、どのようにしたらよいか」これらさまざまな問題について考えていこうとするのが、経営学の目的である。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の該当箇所を読んでおく。参考資料が指定された場合は、それらも読んでおく。これらに関しては、適宜質問を出すので、クラス・ディスカッションの準備をしておくこと。参考資料はUNIPAにアップロードするので、学生は使い方に習熟しておくこと</div>										
		<div>準備学習(復習)</div> <div>試験は、講義内容をもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>企業という存在に関心を持ち、企業を継続的、計画的に存在させ、一定の成果を挙げる営みー経営ーについて多くの学生が興味をもって学んでくれることを要望する。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への貢献</td><td>15%</td><td>授業中の建設的な発言、クラスメイトの発言に対する反応、ディスカッションへの参加率を含む</td></tr><tr><td>(2) ケース分析レポート</td><td>25%</td><td>授業内で指示する</td></tr><tr><td>(3) 試験</td><td>60%</td><td>2回</td></tr></table>		(1) 授業への貢献	15%	授業中の建設的な発言、クラスメイトの発言に対する反応、ディスカッションへの参加率を含む	(2) ケース分析レポート	25%	授業内で指示する	(3) 試験	60%	2回
(1) 授業への貢献	15%	授業中の建設的な発言、クラスメイトの発言に対する反応、ディスカッションへの参加率を含む										
(2) ケース分析レポート	25%	授業内で指示する										
(3) 試験	60%	2回										
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 経営</div> <div>・ 企業</div> <div>・ 組織</div>		<div>教科書</div> <div>井原 久光 『テキスト経営学ー基礎から最新の理論まで (MINERVA TEXT LIBRARY)』 (ミネルヴァ書房)</div> <div>参考書</div>										

<div> <div>会計学</div> <div>MGMT-P-300/MGMT-L-2</div> </div>							
<div> <div>担当教員：山田 ひとみ</div> <div> <div>学期：週間授</div> <div>科目：専門科目</div> <div>必修・選択：選択科目</div> </div> <div>単位：4 コード：1P500220</div> </div>							
<div>学部教育の関連目</div> <div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】問題解決力 & 表現力：経営環境の体系的把握と実務知識</div> </div>	<div>授業計画</div> <div> 01. ガイダンス/授業の進め方、試験の方法、評価の方法など 02. 総論 (1) 会計情報の意義 03. 総論 (2) 会計情報の有用性と限界 04. 財務諸表 (1) 貸借対照表 05. 財務諸表 (2) 損益計算書 06. 財務諸表 (3) キャッシュ・フロー計算書 07. 財務諸表 (4) 連結財務諸表 08. 資産会計 (1) 棚卸資産 09. 資産会計 (2) 有形固定資産 10. 資産会計 (3) 金融資産 11. 負債会計 12. 純資産会計 13. 損益会計 (1) 意義、諸原則、分類 14. 損益会計 (2) 法人税等 15. まとめ 16. 財務諸表の監査 17. 財務諸表の読み方 (1) 収益性、安全性 18. 財務諸表の読み方 (2) 成長性 19. 財務諸表の読み方 (3) その他の指標 20. 財務諸表分析実践 (1) 21. 財務諸表分析実践 (2) 22. 財務諸表分析実践 (3) 23. 財務諸表分析実践 (4) 24. 合併の会計 25. 製造業の会計 (1) 26. 製造業の会計 (2) 27. 経営管理のための会計 (1) 28. 経営管理のための会計 (2) 29. 税効果会計 30. まとめ </div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div> <div>【L】ビジネスコース：基幹科目</div> <div>【L】ビジネスコース：基幹科目</div> </div>							
<div>(1) 内容</div> <div> <p>企業の経済活動を貨幣単位で測定・記録・報告する一連の行為を会計といいます。会計行為によって得られた情報は財務諸表として企業の外部利害関係者(株主や債権者)に公開され、企業の受託責任を明らかにしたり、意思決定のための情報提供をしたり、多数の関係者の利害を調整したりする役割を担っています。本講義では典型的な企業形態である株式会社を対象とした会計を学びます。</p> </div>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <p>会計情報である財務諸表の作成原理を理解した上で、株式会社の利害関係者が財務諸表をどのように用い、意思決定に役立てているのかについて理解できるようになる。また自ら財務諸表を入手して基礎的な経営分析ができるようになることを目標としています。</p> </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> <p>授業中に指示したキーワードについて、新聞や専門辞書で情報収集をしてから授業に臨んで下さい。</p> </div>						
	<div>準備学習(復習)</div> <div> <p>授業中に出された課題を復習し、各項目について次回までに説明できるようにして下さい。</p> </div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div> <p>簿記(初級)の単位を修得済、または日商簿記検定3級レベルの基礎知識がある学生を履修対象とします。理解度を確認するため、適宜、ミニテストを行います。</p> </div>	<div>評価方法</div> <div> <table> <tr> <td>(1) 試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>(2) 課題</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>(3) ミニテスト</td> <td>20%</td> </tr> </table> </div>	(1) 試験	50%	(2) 課題	30%	(3) ミニテスト	20%
(1) 試験	50%						
(2) 課題	30%						
(3) ミニテスト	20%						
<div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会計情報 ・ 企業経営 ・ 経営分析 ・ 連結会計 ・ 国際会計 </div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div> <p>第1回目の授業で指示します。</p> </div>						

マーケティング論

MGMT-P-300/MGMT-L-2

担当教員： T. アサモア

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P500440

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
【L】問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

我々を取り巻く環境の進展は、企業の行動や消費者の生活に絶え間なく影響している。マーケティングで取り扱われている問題は、企業だけでなく、消費者の行動に密接に関連している。さらに、マーケティングは物的商品との関係する企業だけでなく、新たにサービス企業も対象としても研究されるようになっていく。

本授業においては、マーケティングの基礎理論も、マーケティング環境を説明するために当然考慮する。企業のマーケティングに力点が置かれるが、消費者行動にも言及する。

引用する例の大部分は、日本企業に関するものであるが、様々な国における企業のケースにも触れてみたい。

最初の講義へマーケティング論の運営方法及び評価方法について説明する。

(2) 学びの意義と目標

マーケティングの基礎理論と事例研究を通じて、
社会におけるビジネス活動を結び付けて理解し、
マーケティングと企業、消費者の関わりについて
理解を深める。

受講者に対する要望

授業内容の予習・復習を積極的に行うこと。

学びのキーワード

- ・ 組織
- ・ 市場
- ・ 企業
- ・ 經營
- ・ 國際化

授業計画

01. マーケティングとマーケティング論
02. マーケティング・コンセプト
03. マーケティング論の範囲
04. マーケティング論の課題
05. マーケティング展開の事例研究
06. マーケティング論の基本的構造
07. マーケティングの基本構造の事例研究
08. マーケティング戦略の基本
09. 市場対応戦略
10. 市場対応戦略の事例研究
11. 競争対応戦略
12. 競争対応戦略の事例研究
13. ドメイン戦略
14. ドメイン戦略の事例研究
15. 技術対応戦略
16. 技術対応の事例研究
17. マーケティングマネジメントの基本
18. マーケティングマネジメントの事例研究
19. マーケティングミックス戦略
20. 商品戦略の基本
21. 商品開発
22. 商品開発の事例
23. PLCの基本
24. PLC展開の事例研究
25. サービス戦略の基本
26. サービス戦略と商品戦略の枠組み
27. プロモーション戦略の基礎
28. プロモーション展開の事例
29. 流通戦略
30. 価格戦略

準備學習(予習)

その都度、授業にて指示を出す。

準備學習(復習)

その都度、授業にて指示を出す。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------|
| (1) 小テスト | 40% | 授業終了後、毎回行う |
| (2) 臨時試験 | 40% | 授業時間中に行う |
| (3) レポート | 20% | 中間レポート |

総まとめテストを実施する。成績は、試験の結果及び、出席に基づいて総合的に評価する。

教科書

参考書

簿記(初級)

MGMT-P-200/MGMT-L-2

担当教員：山田 ひとみ

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P500550

学部教育の関連目

- 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る
【L】知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

- 【L】ビジネスコース：基幹科目
【L】ビジネスコース：基幹科目

(1) 内容

会計に関する知識はビジネスパーソンにとって必須といわれています。企業が公表する会計情報は複式簿記にもとづいて作成されており、複式簿記の原理は世界共通です。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。簿記の学習で重要なのは予習よりも復習です。復習と自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

(2) 学びの意義と目標

勘定の仕組みを理解して取引を仕訳し、決算の手続きを経て貸借対照表と損益計算書の作成に至るまでの、簿記一巡の手続きを理解することができる（日商簿記3級程度）。「簿記（中級）A」や「簿記（中級）B」履修するための知識を身につけることができる。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きます。

受講者に対する要望

簿記の基礎を学びますので、最初が肝心です。

第1回目から第8回目までは休まず出席してください。
第9回目以降も、休んだ場合は次回までに必ず自習して下さい。

学びのキーワード

- ・複式簿記
- ・企業会計
- ・財務諸表
- ・会計学
- ・経営学

授業計画

01. ガイダンス（授業の進め方、採点方法）
02. 仕訳（1）
03. 仕訳（2）
04. 転記
05. 試算表（1）
06. 現金・預金
07. 商品売買
08. 小口現金・約束手形
09. 為替手形
10. 手形の裏書・割引
11. その他の期中取引（1）
12. その他の期中取引（2）
13. 有価証券
14. 資本金・税金
15. 試算表（2）
16. 補助簿
17. 決算整理仕訳（1）
18. 決算整理仕訳（2）
19. 決算整理仕訳（3）
20. 決算整理仕訳（4）
21. 決算整理仕訳（5）
22. 決算整理仕訳（6）
23. 8桁精算表（1）
24. 8桁精算表（2）
25. 貸借対照表・損益計算書の作成
26. 伝票・訂正仕訳
27. 総合問題演習（1）
28. 総合問題演習（2）
29. 総合問題演習（3）
30. まとめ

準備学習(予習)

理解が不十分な箇所は、講師に質問するなどして、次回までに理解するようにしましょう。欠席した場合は、テキストの該当箇所の練習問題を必ず解答して下さい。

準備学習(復習)

講義中に解答した練習問題を、次回までに反復解答練習しましょう。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 40% |
| (2) ミニテスト | 30% |
| (3) 平常点 | 30% |

教科書

参考書

第1回目にテキストを指定します。

簿記(初級)

MGMT-P-200/MGMT-L-2

担当教員：山田 ひとみ

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P500551

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る
【L】知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

【L】ビジネスコース：基幹科目
【L】ビジネスコース：基幹科目

(1) 内容

会計に関する知識はビジネスパーソンにとって必須といわれています。企業が公表する会計情報は複式簿記にもとづいて作成されており、複式簿記の原理は世界共通です。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。簿記の学習で重要なのは予習よりも復習です。復習と自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

(2) 学びの意義と目標

勘定の仕組みを理解して取引を仕訳し、決算の手続きを経て貸借対照表と損益計算書の作成に至るまでの、簿記一巡の手続きを理解することができる（日商簿記3級程度）。「簿記（中級）A」や「簿記（中級）B」履修するための知識を身につけることができる。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きます。

受講者に対する要望

簿記の基礎を学びますので、最初が肝心です。

第1回目から第8回目までは休まず出席してください。
第9回目以降も、休んだ場合は次回までに必ず自習して下さい。

学びのキーワード

- ・複式簿記
- ・企業会計
- ・財務諸表
- ・会計学
- ・経営学

授業計画

01. ガイダンス（授業の進め方、採点方法）
02. 仕訳（1）
03. 仕訳（2）
04. 転記
05. 試算表（1）
06. 現金・預金
07. 商品売買
08. 小口現金・約束手形
09. 為替手形
10. 手形の裏書・割引
11. その他の期中取引（1）
12. その他の期中取引（2）
13. 有価証券
14. 資本金・税金
15. 試算表（2）
16. 補助簿
17. 決算整理仕訳（1）
18. 決算整理仕訳（2）
19. 決算整理仕訳（3）
20. 決算整理仕訳（4）
21. 決算整理仕訳（5）
22. 決算整理仕訳（6）
23. 8桁精算表（1）
24. 8桁精算表（2）
25. 貸借対照表・損益計算書の作成
26. 伝票・訂正仕訳
27. 総合問題演習（1）
28. 総合問題演習（2）
29. 総合問題演習（3）
30. まとめと試験

準備学習(予習)

理解が不十分な箇所は、講師に質問するなどして、次回までに理解するようにしましょう。欠席した場合は、テキストの該当箇所の練習問題を必ず解答して下さい。

準備学習(復習)

講義中に解答した練習問題を、次回までに反復解答練習しましょう。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 40% |
| (2) ミニテスト | 30% |
| (3) 平常点 | 30% |

教科書

参考書

第1回目にテキストを指定します。

組織行動論

MGMT-P-200/MGMT-L-2

担当教員：八木 規子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P500770

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
【L】知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

【L】ビジネスコース：基幹科目
【L】ビジネスコース：基幹科目

(1) 内容

組織行動論は、組織という文脈のなかで、人間が行動する際に見せるさまざまな法則性について学ぶ。個人が、個人として、また、小集団・組織の成員として行動し、認知し、また感情を抱く際にみせるさまざまな法則性に関する理論やフレームワークの習得に基礎を置き、それらの法則性の活用を、実際の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決に、どのように適用できるか、ケース・スタディ、ロール・プレイ、グループ・プロジェクト等の学習手法を通じて、身に着ける。

(2) 学びの意義と目標

われわれが社会生活を営む上では、いずれかの組織に所属することなしに生きていくことはできない。組織は、個人だけでは達成できない目標を達成しうる仕組みとして、人類の発明した仕組みの中でも最も価値のあるもののひとつといえる。しかしながら、組織が所期の目標を達成するためには、所属する成員が協力しあうことが重要となる。組織成員の協力を引き出し、目的に向かって成員を動かすためには、さまざまなスキルが必要とされる。組織行動論を学ぶことの意義は、こうしたスキルを身につけるとともに、人間の認知、行動、感情を動かす原理原則を学ぶことで、自分自身と他者をより良く理解することにある。組織行動論の学びを通じて、自らが組織の良き一員となるだけでなく、後年、部下をもったときには、良き上司として、部下を導き、育成する力を磨くことを目標とする。

受講者に対する要望

自分自身と他者をよく理解したいという意欲をもち、学びの実践のために、自分自身のcomfort zoneの外にすこし出て、新しいことに挑戦してほしい。

学びのキーワード

- ・組織
- ・小集団
- ・個人
- ・行動
- ・働くこと

授業計画

01. 本科目の進め方について。組織行動論とは何か
02. 組織行動論の歴史。科学的研究方法と組織行動論
03. 学習と知識（Kolbのモデル）
04. パーソナリティ：個人レベルでの違い
05. チーム分け発表【要出席】チーム・プロジェクトの説明
06. 集団行動の基礎
07. チームを理解する
08. 組織文化1：組織における文化とは何か
09. 組織文化2：組織と文化の相互関係
10. コミュニケーション
11. コンフリクトと交渉1：概念モデル
12. コンフリクトと交渉2：ロール・プレイによる実践
13. 個人行動の基礎—価値観、態度
14. 個人行動の基礎—認知、学習
15. 前半まとめ
16. 動機付けの基本的なコンセプト—動機付けとはなにか、初期の理論
17. 動機付けの基本的なコンセプト—現代の理論、国民文化の影響
18. 動機付け：コンセプトから応用—給与制度設計と動機付け
19. 動機付け：コンセプトから応用—職務再設計
20. 動機付け：コンセプトから応用—多様化する労働力を動機付ける
21. 個人の意思決定
22. パワーと政治
23. リーダーシップ1：初期の理論
24. リーダーシップ2：状況を理論に組み入れる
25. 組織構造の基礎
26. 組織変革と組織開発1：理論的枠組み
27. 組織変革と組織開発2：現実組織での実践
28. チームプロジェクト発表—1【要出席】
29. チームプロジェクト発表—2【要出席】
30. 後半まとめ

準備学習(予習)

教科書の該当箇所を読んでおく。参考資料が指定された場合は、それらも読んでおく。これらに関しては、適宜質問を出すので、クラス・ディスカッションの準備をしておくこと。参考資料はUNIPAにアップロードするので、学生は使い方に習熟しておくこと。

準備学習(復習)

授業中に取ったノートを整理しておく。とくに理論やフレームワークを、現実の諸問題にどのように適用できるか。逆に理論やフレームワークの限界はなんなのか、復習しておくことは、試験の良い準備となる。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|----------------------------------|
| (1) 平常点 | 15% | 授業中に行う小テストの結果、ディスカッションへの参加、等を含む。 |
| (2) チーム・プロジェクト | 25% | 授業内で詳細を指示する |
| (3) 試験 | 60% | 2回の総合 |

教科書

ロビンス、S.P. (2009) (高木晴夫訳) 『新版組織行動のマネジメント：入門から実践へ』ダイヤモンド社。
アマゾン、出版元、等から購入可能。

参考書

教科書の各章に相当するような準備資料を、事前にUNIPAにアップロードしておくので、学生は、授業出席前にそれらをダウンロードして読んでおくこと。

経営管理

MGMT-P-200/MGMT-L-2

担当教員：金子 毅

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P500880

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
【L】知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では経営における人間の復権をテーマに、経営管理をめぐる様々な問題を管理組織と労務管理の2点から検討する。また、これに基づき、企業経営の国際間比較を行ない、人間を中心とする企業経営が日本においては成立しにくい要因を浮き彫りにする。

(2) 学びの意義と目標

机上の理論よりも実践力を養う問題解決を目的とする意義を有する。学習を通して今後の不透明な21世紀アジアを含む世界情勢をシュミレートし、かつ生き抜く上での学知を獲得させることを目標とする。

受講者に対する要望

講義を通して「企業で働く、仕事をする」際の自己の立ち位置を確認するようにしてもらいたい。

学びのキーワード

- ・企業経営
- ・組織・人事管理
- ・リーダーシップ
- ・労務管理

授業計画

01. プロローグ：経営管理とは何か？
02. 企業経営の形1：個人主義による企業経営
03. 企業経営の形2：経営家族主義による企業経営
04. 組織・人事管理1：組織って何？
05. 組織・人事管理2：企業目的を達成するためのしくみ
06. 組織・人事管理3：等級制度のしくみ
07. 組織・人事管理4：評価制度
08. 生産管理1：品質・コスト・納期
09. 生産管理2：生産管理の進め方
10. イノベーション：企業の中身をいかに変革するか
11. マーケティング1：マーケティングって何？
12. マーケティング2：お客とどのように関わるか
13. マーケティング3：お客にどんな価値を提供するか
14. 能力主義と成果主義；なじみにくい個人主義
15. リーダーシップ1：経営の成否の決め手
16. リーダーシップ：管理型マネジャーと変革型リーダー
17. NPOとNGO1：ボランティアとスタッフによる管理
18. NPOとNGO2：企業利益とどこが異なるのか
19. 労務管理1：労働組合の誕生（社会主義を旗印とした闘争）
20. 労務管理2：労働組合対策1（分裂する組合闘争）
21. 労務管理3：労働組合対策2（労使協調による団体交渉）
22. 労務管理4：福利厚生による従業員管理1（安全とリスク管理）
23. 労務管理5：教育訓練の導入（OJT、Off-JTとQC管理）
24. 労務管理6：従業員福利1（労働科学の研究：大原総研）
25. 労務管理7：従業員福利2（安全活動の矛盾）
26. 労務管理8：従業員福利3（ハインリッヒの法則と誤用）
27. 労務管理9：従業員福利4（健康管理1）
28. 労務管理10：従業員福利5（健康管理2）
29. 労務管理11：キャリア・デザイン（働く自分の将来像）
30. エピローグ：全体の総括、および討議

準備学習(予習)

配布プリント（A3、2枚程度）の事前の「音読」を通し、発問されると考えられる箇所をつかんでおく。

準備学習(復習)

配布プリントのアンダーラインの語句を中心に概念とその意味や結びつきを捉えながら、ノートに書き記す。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 80% |
| (2) 参加姿勢 | 10% |
| (3) 感想文 | 10% |

教科書

参考書

企業情報システム論									
担当教員： 竹井 潔									
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 4 コード： 1P500910						
学部教育の関連目			授業計画 01. 情報社会と企業経営 02. 企業活動と経営資源としての情報 03. 企業における情報システムの意義 04. 経営情報の基礎 1 経営管理の台頭 05. 経営情報の基礎 2 管理の系譜 06. 経営情報の基礎 3 科学的管理とIE 07. 経営情報の基礎 4 経営組織論と経営情報システム 08. 経営情報の基礎 5 経営戦略論の展開 09. 経営と情報の基礎 6 システムズ・アプローチとネットワーク 10. 企業情報システムの変遷 1 EDPS、伝統的経営情報システム（MIS）、意思決定支援システム（DSS） 11. 企業情報システムの変遷 2 戦略的情報システム（SIS）、ビジネス・プロセス・リエンジニアリング（BPR） 12. 情報通信技術の進展と企業活動 1 データ処理能力の向上と標準化 13. 情報通信技術の進展と企業活動 2 コミュニケーションネットワーク 14. 企業情報システムの設計・開発1 情報システムの開発方法論、伝統的情報システム開発方法論SDLC 15. 企業情報システムの設計・開発 2 システム設計・開発方法論の革新、組織戦略・事業戦略との融合 16. 中間まとめ 17. 企業情報システムの管理 1 情報化推進体制、情報化投資評価 18. 企業情報システムの管理2 情報セキュリティ、システム監査 19. 企業情報システムとビジネスプロセスの革新1 プロセス革新と企業戦略 20. 企業情報システムとビジネスプロセスの革新 2 プロセス革新と情報通信技術 21. ネットビジネス 1 ネットビジネスの展開 22. ネットビジネス 2 ソーシャルメディアの進展 23. 企業情報システムと組織変革 1 情報通信技術と組織 24. 企業情報システムと組織変革 2 組織構造の変革 25. 情報通信技術と組織コミュニケーション 1 情報通信技術と組織のコミュニケーション・モデル 26. 情報通信技術とコミュニケーション2 ナレッジ・マネジメントと情報システム 27. 企業の情報行動と倫理 28. 企業行動と情報倫理の諸課題 29. 企業情報システムの今後の課題 30. まとめ						
カリキュラム上の位置付け									
(1) 内容 企業における情報システムは、情報通信技術（ICT）を駆使してネットビジネスなどめざましく発展してきている。しかし、企業情報システムが単なる情報技術的側面のみで効率化を図ることは、企業組織の実態と齟齬をきたすことになりかねない。企業情報システムは経営、組織の人間的な側面との相互作用を含めたシステムが有効なものとなり得る。講義では経営と情報の観点から企業情報システムの変遷を確認するとともに、企業情報システムの現代的な意義や役割について論じる。企業情報システムの戦略論から設計・開発方法論、さらに管理、改善の考え方や社会的影響について理解する。そして、社会的存在としての企業の倫理的・社会的責任としての情報倫理の重要性や企業情報システムの今後の展望について概観する。									
(2) 学びの意義と目標 情報社会において、企業や社会の実態に即した情報システムを構築・管理することの重要性と、企業における情報システムの社会的影響や課題について理解する。			準備学習(予習) 授業では、経営情報システムの用語や知識が出てくるが、事前に授業で指示された参考文献等で重要用語を調べておくこと。						
			準備学習(復習) 授業で十分理解できなかった専門用語や知識について、各自調べておくこと。						
受講者に対する要望 講義内容は企業情報システムの基本的な事柄である。経営、情報分野を志す多くの学生に履修してほしい。授業では、グループ討議をする機会もあるので、積極的に参画してほしい。			評価方法 <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>20%</td></tr><tr><td>(2) 中間試験</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) 期末試験</td><td>40%</td></tr></table>	(1) 平常点	20%	(2) 中間試験	40%	(3) 期末試験	40%
(1) 平常点	20%								
(2) 中間試験	40%								
(3) 期末試験	40%								
学びのキーワード ・ 企業情報システム ・ 情報通信技術 ・ 経営管理 ・ IE			教科書 プリントを配布する 参考書 遠山暁・村田潔・岸真理子『経営情報論』有斐閣アルマ						

経営倫理

担当教員：金子 毅

学期：週間授 科目：経営倫理 必修・選択：選択

単位：2 コード：1P501010

学部教育の関連目

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

経営倫理学は企業の内外を取り巻く環境条件が大きな転換を遂げる時代背景のもとで必要とされる学問である。つまり、経営倫理の問題とは時代の変化に即応した企業経営における価値観、すなわち企業活動という共同生活を営む際に不可欠となる心や意識のルールの確立と遵守という点に求められる。

(2) 学びの意義と目標

机上の理論よりも実践力を養う問題解決を目的とする意義を有する。学習を通して今後の不透明な21世紀アジアを含む世界情勢をシュミレートし、かつ生き抜く上での学知を獲得させることを目的とする。

受講者に対する要望

講義を通して「企業で働く、仕事をする」際の自己の立ち位置を確認するようにしてもらいたい。

学びのキーワード

- ・経営倫理
- ・コンプライアンス
- ・CSR

授業計画

01. プロローグ：学問、そして実践としての経営倫理とは？
02. コンプライアンスに気をつけろ1：茶髪って違反か？
03. コンプライアンスに気をつけろ2：個人情報危険
04. コンプライアンスに気をつけろ3：この請求書、会社に請求しちゃっていいの？
05. コンプライアンスに気をつけろ4：それってセクハラになるの？
06. コンプライアンスに気をつけろ5：接待づけは身を滅ぼす
07. コンプライアンスに気をつけろ6：クレームだ、どう対応する？
08. コンプライアンスに気をつけろ7：パワハラは連鎖する
09. コンプライアンスに気をつけろ7：不確実な情報にどう対応する？
10. CSRを考えよ1：続発する企業不祥事
11. CSRを考えよ2：企業は社会の一員
12. CSRを考えよ3：CSRの考え方
13. CSRを考えよ4：ではどこからはじめればよいか
14. CSRを考えよ5：CSRの可能性
15. エピローグ：全体の総括、および討議

準備学習(予習)

配布するプリントの事前の「音読」を通し、発問されると考えられる箇所をつかんでおく。

準備学習(復習)

講義時にアンダーラインを引いた語句を中心に概念とその意味や結びつきを捉えながら、ノートに書き記す。

評価方法

- | | |
|----------|----|
| (1) レポート | 80 |
| (2) 参加姿勢 | 10 |
| (3) 感想文 | 10 |

教科書

参考書

簿記(中級) B

担当教員： 山田 ひとみ

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 2 コード： 1P501210

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

中級程度の工業簿記と、初歩的な原価計算について学習する。製造業における生産活動の記録方法の一巡を学ぶ。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。
予習、復習、自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

(2) 学びの意義と目標

製造業の簿記一巡理解と財務諸表を読む力がつき、損益分岐点や利益計画の分析ができるようになる(日商簿記2級程度)。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上で必要な基礎知識が身に付きます。

受講者に対する要望

「簿記」または「簿記(初級)」の単位取得後、もしくは日商簿記3級合格後に履修して下さい。
「簿記(中級) A」の前に履修することもできます。

学びのキーワード

- ・ 工業簿記
- ・ 原価計算
- ・ 経営分析
- ・ 会計学
- ・ 経営学

授業計画

01. 工業簿記の一巡
02. 材料費
03. 労務費
04. 経費
05. 個別原価計算 (1)
06. 個別原価計算 (2)
07. 部門別個別原価計算
08. 総合原価計算 (1) 基礎
09. 総合原価計算 (2) 月初仕掛品
10. 総合原価計算 (3) 減損
11. 標準原価計算 (1) 基礎
12. 標準原価計算 (2) 差異分析
13. 直接原価計算 (1) 基礎
14. 直接原価計算 (2) CVP分析、固変分解
15. 総合問題

準備学習(予習)

授業計画を参照し、テキストの該当箇所を一読しておきましょう。

準備学習(復習)

講義中に解答した箇所&指示された問題を次回までに反復解答練習しましょう。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) ミニテストI | 30% |
| (2) 定期試験 | 40% |
| (3) 平常点I | 30% |

教科書

第1回目の講義でテキストを指定します。

参考書

担当教員：山田 ひとみ

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P501320

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

企業は日々の取引を複式簿記で記録して会計情報を作成して決算を行い、その決算に基づいて所得を計算して納税申告をします。ですから、企業会計の一連の手続を学ぶには、会計と税務の両方について理解することが重要です。

会計分野は、「簿記とは何か」からスタートし、企業の会計情報の意義や種類について学びます。税務分野は、わが国の「税金とは何か」からスタートし、主として企業の所得に対して課税される法人税の理論と計算について学びます。

(2) 学びの意義と目標

企業会計の一巡を理解し、企業の所得の計算プロセスや法人課税の基礎を理解することができる。会計学・経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きます。

受講者に対する要望

簿記・会計初学者でも受講できます。「簿記（初級）」履修後または、同時に履修することをお勧めします。理解度チェックのため、適宜、レポートを提出してもらいます。

学びのキーワード

- ・企業会計
- ・簿記
- ・租税法
- ・会計学
- ・経営学

授業計画

01. ガイダンス（授業の進め方、採点方法について）
02. くらしと会計
03. くらしと租税
04. 株式会社の仕組みと税務・会計（1）
05. 株式会社の仕組みと税務・会計（2）
06. 会計の意義と会計学の研究対象
07. 複式簿記の仕組み（1）仕訳
08. 複式簿記の仕組み（2）貸借対照表
09. 複式簿記の仕組み（3）損益計算書
10. 複式簿記の仕組み（4）簿記一巡
11. 企業会計の仕組み（1）財産法と損益法
12. 企業会計の仕組み（2）棚卸法と誘導法
13. 企業会計の仕組み（3）会計公準
14. 企業会計の仕組み（4）会計原則
15. 企業会計制度（1）会社法
16. 企業会計制度（2）金融商品取引法
17. 企業会計制度（3）法人税法
18. 国際会計基準の取り扱い
19. 租税および租税法の意義
20. 租税法律関係の特色
21. 租税法の基本原則（1）租税法律主義
22. 租税法の基本原則（2）租税公平主義
23. 租税法規について
24. 納税義務について
25. 法人と法人税の意義
26. 法人税の課税根拠
27. 課税所得の計算（1）基礎構造
28. 課税所得の計算（2）益金の額
29. 課税所得の計算（3）損金の額
30. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、推薦図書等で該当箇所を確認しておくこと。推薦図書→(1)『現代会計学（第12版）』（新井清光 著、中央経済社、2011年）(2)『現代税法の基礎知識』（岸田貞夫、柳裕治、他 著、ぎょうせい、2011年）

準備学習(復習)

配布プリントの再読と、講義中に指示された課題を次回までに終えること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 提出課題 | 30% |
| (2) 定期試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 40% |

教科書

参考書

社会福祉施設経営論		MGMT-L-300
担当教員： 榑 伴夫		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P501410
学部教育の関連目 知の基礎力：政治や社会のしくみの理解		授業計画 01. 福祉を学ぶ意義 02. 社会福祉経営環境の変化 社会福祉基礎構造改革 03. 社会福祉施設の概要 04. 社会福祉事業・施設の歴史と役割 1 05. 社会福祉事業・施設の歴史と役割 2 06. 社会福祉事業の関連法制度 1 07. 社会福祉事業の関連法制度 2 08. 行政と社会福祉事業の経営管理 09. 経営と管理 人材の育成 10. 組織と管理 1 11. 組織と管理 2 12. 施設サービスの基本的理解・ケースワーク・人間の理解 13. 人事管理・労務管理 14. 組織理論 15. 管理理論 16. 社会保障制度（医療・年金など）の概要 17. 高齢者福祉施設の概要 18. 障害者福祉施設の概要 19. 児童福祉施設・母子福祉施設の概要 20. 生活保護等低所得者施設の概要 21. プレゼンテーション 1 22. プレゼンテーション 2 23. 財務会計・建物・設備管理 24. サービス管理・情報管理・危機管理 25. 記録・仕事の進め方・職場づくり 26. 家族の変容と社会福祉施設の経営管理 27. 地域社会と社会福祉施設 28. 現代社会と社会福祉施設 29. 社会福祉施設経営管理の課題と展望 30. まとめ
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 高齢化・少子化などを背景として、社会福祉を取り巻く環境が大きく変わりつつあります。社会福祉施設の経営環境も従来の「措置」から「契約」へと転換され、サービスの質の重視、地域福祉の拠点としての施設へ、地域との連携強化など大きく変化しています。各種施設の多様な経営実態を踏まえ施設の現状と課題を明らかにしつつ施設経営のあるべき姿について学びます。社会福祉施設の歴史、社会保障制度の基礎的理解、経営管理論の基礎、人材育成、福祉サービス従事者に求められる基礎的な知識と理論を学びます。		
(2) 学びの意義と目標 社会福祉施設の経営管理と関連法制度を社会の進展とともに学びます。施設経営の今日的課題をコミュニティとの関連とともに学びます。また、社会福祉施設経営と密接にかかわる社会保障制度の概略や、行政・民間法人の活動の意義と実際を体系的に学ぶとともに、社会福祉事業の運営に資する基礎理論を身につけます。社会福祉施設の経営を学び、広く社会に視野を広げ様々な社会問題に関心を持ち、共助社会の実現に努力する社会人となること。		準備学習(予習) 様々な考え方や価値観を尊重するために、福祉施設の経営に関する書物や教科書だけでなく、文化・歴史・文学・芸術などについて幅広く興味を持ち、書物にふれてください。次の項目を、講義で取り上げます。 1 社会福祉の歴史 古代、中世、近世、近代そして現代につづく社会の発展過程
受講者に対する要望 社会福祉関係以外にも興味を持ち、組織論、管理論など広く勉強して欲しい。		準備学習(復習) 教科書や配布されたプリントを再読し、さらに広く研究する分野を選んで課題を明らかにしておくこと。 1学んだ内容が、社会福祉の体系のどの分野に関連しているのかを常に考えながら振り返ること。 2組織とは何か。社会福祉の分野だけでなく、今日、ほとんどすべての人が組織に属して活動している。 組織の意義や理論に興味を持ちさらに理解を深めること。
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉の歴史 組織論 人材育成論 施設サービス理論 社会保障制度 		評価方法 (1) プレゼンテーション 20% テーマ、方法は別途事前に指示。 (2) まとめ 80% 800字の論文。教科書・ノート持ち込み可。 積極的な授業参加を前提の総合評価です。
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉の歴史 組織論 人材育成論 施設サービス理論 社会保障制度 		教科書 プリントを配布して、理解を深めます。 参考書 宇山勝義・小林 理編著 『社会福祉事業経営論』（光生館）【ISBN978-4-332-60100-5】

担当教員： 関水 信和

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1P501540

学部教育の関連目

【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
【L】 問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

【L】 ビジネスコース：応用科目 【P】 ビジネスコース：応用科目
【P】 ビジネスコース：応用科目

(1) 内容

当科目はベンチャー企業の現状と問題点やあり方などを学ぶものです。ベンチャー企業と取引をしたり、さらに起業したりする時に役に立ちます。またベンチャー企業経営の勉強を通して、企業と経営の本質について、理解を深められるような授業を行うので、ベンチャー企業と関わりを持たない人にも有意義なはずです。講義では、録画したテレビ番組/DVDをいろいろと見て、ベンチャー企業を実体験できるようにします。

尚、専門科目ではありますが、企業経営における財務ないし法務などとの関係を解説するので、会計や法律などを勉強する意義などが理解できて、それらの科目を勉強するモチベーションが増すはずです。よって財務や法律をまだ勉強していない人にも受講をお勧めします。

(2) 学びの意義と目標

企業経営の意義・あり方とリスクをベンチャー企業の経営を通して理解することです。就職先を選ぶ時にも役に立つはずです。

また、出席票に記入されたいくつかのコメントに対して、解説を加え、双方向性のある情報交換が行えるように努めています。

受講者に対する要望

知識を増やすというよりも、企業経営の本質を理解することに力点を置いて講義をします。また毎週配布するコメント票に質問ないし意見を記入してください。次週の講義の中で、なるべく回答するようにし、双方向性を持った授業とします。

学びのキーワード

- ・ベンチャー企業
- ・経営
- ・ビジネス
- ・知的財産
- ・企業

授業計画

01. 履修ガイダンス、ベンチャービジネスを勉強する意義など
02. 企業とは、ベンチャー企業とは
03. 企業経営と財務管理・法務管理などとの関係
04. 日本のベンチャー企業の現状
05. 産学連携とベンチャー企業
06. 産学連携の日・米・欧比較
07. 産学連携と知的財産
08. ベンチャー企業の特許戦略 1
09. ベンチャー企業の特許戦略 2
10. ベンチャー企業の資金計画と資本政策 1
11. ベンチャー企業の資金計画と資本政策 2
12. ベンチャー企業の目標と株式上場
13. 事例研究
14. 起業のリスクと意義
15. まとめ、理解度の確認

準備学習(予習)

授業の中で、次回のテーマを説明するので、基礎的事項を勉強し、問題意識を持って受講するようにしてください。

準備学習(復習)

授業で説明した内容の具体的な事例を文献ないしインターネットなどで調べて、確認するようにしてください。そして配布するコメント票などに記入するように心掛けてください。記入されている質問に対しては、次の講義で回答するようにしています。

評価方法

- | | |
|------------|---------------------------|
| (1) 出席・平常点 | 30% 出席票の記述内容を平常点として評価します。 |
| (2) 課題 | 30% レポート形式の課題を出します。 |
| (3) 期末試験 | 40% 配布資料・ノートなど持込み可 |

教科書

参考書

(毎週)

経営史		MGMT-P-300	
担当教員：金子 毅			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P501650	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div>		<div>授業計画</div> <div>01. プロローグ：なぜ経営史を学ぶのか 02. 経営における歴史の扱い方 03. 基礎理論 1：テイラーの科学的管理法 04. 電器産業：パナソニック 1 05. 基礎理論 2：フォーディズムの誕生とその浸透 1 06. 電器産業 2：パナソニック 2 07. 基礎理論 3：フォーディズムの誕生とその浸透 2 08. 自動車産業：トヨタ自動車 1 09. 基礎理論 4：フォーディズムの問題点 10. 自動車産業トヨタ自動車 2 11. 基礎理論 5：ホーソン実験と人間関係論 12. 自動車産業：トヨタ自動車 3 13. 基礎理論 6：マズローの欲求 5 段階説 14. 家電産業：ソニー 1 15. 基礎理論 7：デシの自己決定の理論 16. 家電産業：ソニー 2 17. 基礎理論 8：企業内教育 1 18. 化粧品産業：資生堂 1 19. 基礎理論 9：企業内教育 2 20. 化粧品産業：資生堂 2 21. 基礎理論 10：個人主義による企業経営 22. 小売業：ダイエー 1 23. 基礎理論 11：家族主義による経営 1（温情主義） 24. 小売業：ダイエー 2 25. 基礎理論 12：家族主義による経営 2（恩情主義） 26. 小売業：ユニクロ 1 27. 基礎理論 13：リスクと安全の経営史 1 28. 小売業：ユニクロ 2 29. 基礎理論 14：リスクと安全の経営史 2 30. エピローグ：集団討議（経営史から見える日本企業）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>世界恐慌のさなか、多くの企業が倒産へと追い込まれる中、経営の基礎を固め業績を伸ばした企業もまた存在することからこれを教訓として生み出されたのが経営史という学問である。本講義では、その基礎になる理論とともに社史を主な資料とする産業別の企業発展史を支柱に話を進めることにしたい。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>机上の理論よりも不況を経営の方向を見定めるビジネスチャンスを生き抜きの知恵として活かすことを学ぶ点にこそ経営史の意義が存在するといえる。講義形式で進めるが、一方向的な講義に終始せず、常に受講生との「対話」を重視し、経営に対する鋭敏な時代感覚を養わせるようにしたい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>配布プリント（A3、2枚程度）を事前に「音読」し、自分で「読みながら聞く」作業をした上で必ず講義に参加すること。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリントの下線部や概念などについての書き込みを中心に音読し、これをノートに整理していく。
</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義には柔軟な頭と軽いフットワークで知の迷宮に挑んでほしい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) レポート80%</div><div>(2) 参加姿勢10%</div><div>(3) 感想文10%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 経営における歴史の位置づけ</div><div>・ 人間</div><div>・ 理論史</div><div>・ 企業史</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

MGMT-P-400/MGMT-L-4

単位：2 コード：1P501761

参考書

MGMT-P-400/MGMT-L-4

単位：2 コード：1P501862

参考書

International Business

担当教員：八木 規子

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：4 コード：1P502110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

This course will provide students with a comprehensive introduction to the field of international business. Specifically the course analyzes the global business environment, including economic, financial, political, demographic, and cultural elements. Particular emphasis will be placed on Japan and Japanese companies that play a vital role in the global economy. In addition to the general topics that cover international trade, foreign direct investment, the global monetary system, and regional economic integration, several specific and controversial business-related issues will be discussed, such as globalization, migration, workers' rights, outsourcing, and so on.

(2) 学びの意義と目標

After completing this course, students will possess: (a) greater awareness and understanding of economic, financial, political, demographic, and cultural elements of the global business environment; (b) awareness and understanding of the international institutions, such as WTO, IMF, and UN, and the regional organizations, such as EU, NAFTA, ASEAN, and Mercosur; (c) the ability to explain causes and effects of the globalization of business; and (d) increased interest in, and understanding of, current global issues and events and their effects on international business.

受講者に対する要望

Minimum test scores (such as TOEFL, TOEIC, and 英検) to take the course are not set. Students, however, should be aware that the course will be conducted entirely in English.

学びのキーワード

- Business
- Globalization
- Culture
- Economy
- International institutions

授業計画

01. Course introduction and overview
02. Globalization of markets and the internationalization of firms
03. What is international business?
04. Guest speaker presentation: Dr. Jill Kleinberg
05. Organizational participants that make international business happen
06. Team project discussion
07. Theories of international trade and investment?1: Nation level explanations
08. Theories of international trade and investment?2: Firm level explanations
09. International monetary and financial environment
10. Regional economic integration
11. Political and legal systems in national environment
12. Government intervention in international business
13. Emerging markets, developing economies, and advanced economies
14. Review of the phase 1 of the team project
15. Midterm review
16. Cultural environment of international business?1: Basics of culture
17. Cultural environment of international business?2: Implications of crossing cultures
18. Strategy and organization in the international firm?1: Basic theories
19. Strategy and organization in the international firm ?2: Application to the firms
20. Global market opportunity assessment
21. Exporting and countertrade
22. Foreign Direct Investment and collaborative ventures?1: What is FDI?
23. Foreign Direct Investment and collaborative ventures?2: Types of FDI and experience of firms
24. Marketing in the global firm
25. Human resource management in the global firm-1: Strategic role of HRM in international business
26. Human resource management in the global firm-2: Managing diversity in the international workforce
27. Team project day
28. International business and ethics
29. Presentation of team project
30. Final review

準備学習(予習)

Students are expected to read the assigned section(s) of the textbook and other materials to prepare for class discussion. Additional materials are uploaded on the UNIPA system.

準備学習(復習)

After each class, students should review the course contents and discussion in class.

評価方法

- | | | |
|---------------------------|-----|--|
| (1) Contribution to class | 15% | Active and constructive participation to the class discussion. |
| (2) Team project | 25% | Details will be provided in class |
| (3) Exams | 60% | 2 times per semester |

教科書

参考書

コミュニティ・ビジネス論		MGMT-L-300
担当教員：平 修久		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択		単位：2 コード：1P502310
学部教育の関連目 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る		授業計画 01. 1. コミュニティとは①（コミュニティの構成要素と担い手） 02. 1. コミュニティとは②（コミュニティの問題） 03. 2. コミュニティの問題への対応 04. 3. コミュニティ・ビジネス①（必要性、定義、特徴） 05. 3. コミュニティ・ビジネス②（タイプ、組織） 06. 3. コミュニティ・ビジネス③（進め方） 07. 3. コミュニティ・ビジネス④（資金、成長プロセス、効果） 08. 4. コミュニティ・ビジネスの事例①（高齢者の生活支援） 09. 4. コミュニティ・ビジネスの事例②（子育て支援） 10. 4. コミュニティ・ビジネスの事例③（空き家・空き地の維持管理） 11. 4. コミュニティ・ビジネスの事例④（コミュニティ・カフェ） 12. 4. コミュニティ・ビジネスの事例⑤（地域密着型店舗） 13. 4. コミュニティ・ビジネスの事例⑥（農業＋就労支援） 14. 4. コミュニティ・ビジネスの事例⑦（雇用創出） 15. 4. コミュニティ・ビジネスの事例⑧（地域資源の活用）
カリキュラム上の位置付け 【P】コミュニティコース：応用科目		
(1) 内容 市民が主体となって、地域が抱えている問題をビジネスの手法により解決し、より良い地域をつくる活動が広がっている。このようなコミュニティ・ビジネスは、高齢者の生活支援、子育て支援、居場所づくり、雇用創出などと多分野にわたって展開されている。活動の継続性を図るために、受益者に費用を負担してもらうことが、一般的なまちづくりと大きく異なる。行政も一般企業も対応しづらい問題にチャレンジするコミュニティ・ビジネスは人口減少社会の中で、地域を維持し、活性化する重要な手法である。 授業では、コミュニティを改めて問い直し、コミュニティの問題への対応方法を概観し、そして、コミュニティ・ビジネスについて、必要性、定義、特徴、タイプ、組織、進め方、資金、成長プロセス、効果を学習する。最後に、8つの分野について、コミュニティ・ビジネスの実例を学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標 コミュニティ・ビジネスを学ぶことにより、これからの日本にとって、地域の問題解決の重要な手法の一つの知識を得ることができる。この知識は、卒業後、業務の面でも、地域活動の面でも活用できる。したがって、身近なまちの問題や課題、コミュニティ・ビジネスの特徴や手法などを理解し、説明できるようになることが学びの目標である。		準備学習(予習) 事前に指示する参考文献や配布物などを読んでおくこと。
		準備学習(復習) 毎回の講義内容を整理し、まとめること。また、授業に関連する課題については、授業内容の理解を深める復習として、期日までに提出すること。
受講者に対する要望 自分の居住しているまちや大学周辺のまちとまちの問題に対する関心を高め、どのようにしたら、よいまちになるかという意識を持って受講してもらいたい。		評価方法 (1) 授業参加度 40% (2) 課題 20% (3) 期末レポート 40%
学びのキーワード ・コミュニティ ・ビジネス ・活性化 ・社会貢献		教科書 なし 参考書 授業中に紹介する

[illegible]

単位： 4 コード： 1P600320

授業の中で指示する

社会心理学		SOCI-P-300/SOCI-L-2
担当教員： 中原 純		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P600660
<div>学部教育の関連目</div> <div><div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div><div>【L】問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識</div><div>【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける。論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける</div></div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会心理学とは</div> <div>02. 自己概念(1)</div> <div>03. 自己概念(2)</div> <div>04. 文化的自己</div> <div>05. 対人認知(1)</div> <div>06. 対人認知(2)</div> <div>07. 社会的感情—怒り、不安、羞恥心—(1)</div> <div>08. 社会的感情—怒り、不安、羞恥心—(2)</div> <div>09. 態度と態度変容(1)</div> <div>10. 態度と態度変容(2)</div> <div>11. 人間関係の進展(1)</div> <div>12. 人間関係の進展(2)</div> <div>13. 人間関係の進展(3)</div> <div>14. 幸福感</div> <div>15. まとめ(1)</div> <div>16. 社会からの影響(1)</div> <div>17. 社会からの影響(2)</div> <div>18. 社会からの影響(3)</div> <div>19. 集団と集団間関係(1)</div> <div>20. 集団と集団間関係(2)</div> <div>21. 集団と集団間関係(3)</div> <div>22. 集団と集団間関係(4)</div> <div>23. 現代的問題と社会心理学—インターネット—</div> <div>24. 現代的問題と社会心理学—性—</div> <div>25. 現代的問題と社会心理学—キャリア—</div> <div>26. 現代的問題と社会心理学—超高齢社会—</div> <div>27. 応用課題(1)</div> <div>28. 応用課題(2)</div> <div>29. 応用課題(3)</div> <div>30. まとめ(2)</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div><div>【L】情報コース：応用科目【P】認定心理士認定資格(W学科)：選択科目</div><div>【P】認定心理士認定資格(W学科)：選択科目【W】認定心理士認定資格(W学科)：選択科目</div></div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「第1印象はどのように決まるのか」、「なぜ人はだまされてしまうのか」、「恋愛をするのはどういう時か」、「“イイネ”をたくさんもらうと安心するのはなぜか」、「どうすれば少数派の意見を通すことができるか」といった身近な疑問を社会心理学的に解説します。授業の最終盤では、受講生のみなさん自身が、社会心理学の知識を用いて、身近な疑問を解決していく練習を企画しています。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この授業には、日常生活の中で私たちがどのように考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれています。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってください。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>特に必要ありません。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>試験に備えて、授業で触れた重要なキーワードは説明できるようにしておいてください。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業中でも内容に関する積極的な発言、質問は歓迎します。また、随時コメントシートを配布しますので、わからないことがあればシートに質問を記入してください。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業内容に関する小レポート</div><div>35%</div><div>(2) 応用課題</div><div>15%</div><div>(3) 試験</div><div>50% 持ち込み不可の試験を行います。</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・自己</div><div>・他者</div><div>・集団</div><div>・社会</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

理論社会学		SOCI-P-300/SOCI-L-2							
担当教員： 土方 透									
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目						
単位： 4		コード： 1P600770							
学部教育の関連目		授業計画							
<p>【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</p> <p>【L】 知の基礎力： 市民および職業人としての基本的知識と技能</p>		<p>01. 科学の危機： イントロダクション</p> <p>02. 科学の危機： 概要</p> <p>03. 主観／客観</p> <p>04. 20世紀初頭の諸科学の危機とパラダイム転換</p> <p>05. 自然科学における転換</p> <p>06. 人文科学における転換</p> <p>07. 社会科学における転換</p> <p>08. 現代思想の境位</p> <p>09. 小括</p> <p>10. 古典的科学観</p> <p>11. 近代の科学観と社会科学の成立</p> <p>12. マルクスの科学観</p> <p>13. ヴェーバーの科学観</p> <p>14. 社会科学における客観性</p> <p>15. 客観性問題： 存在と当為</p> <p>16. 規範科学と事実科学</p> <p>17. 文献解題 1</p> <p>18. 文献解題</p> <p>19. 小括</p> <p>20. 脱構築</p> <p>21. コスモスと複雑性</p> <p>22. 部分と全体</p> <p>23. 客観性と客観化可能性</p> <p>24. 規範と構造</p> <p>25. 小括</p> <p>26. 自己言及性</p> <p>27. 脱一パラドクス化</p> <p>28. 自己塑性的社会システム</p> <p>29. 総括 1</p> <p>30. 総括 2</p>							
カリキュラム上の位置付け									
<p>【L】 情報コース： 応用科目</p> <p>【P】 情報コース： 応用科目</p>									
(1) 内容									
<p>本講義では、現代の社会学理論が到達した学問的境位を、人間の知の展開として位置づけることを目的とする。</p> <p>講義では、まず人類の思想の歴史的展開を概観する。そのことにより、はじめて最新の理論と呼ばれるものの「新しさ」が明らかになる。すなわち、思想史上の連続的側面と非連続的側面から、現代の理論というものが理解可能となるわけである。そうした作業を経たうえで、現代社会において、所与のものとして市民権を得た諸思想ならびに諸価値の限界を指摘しつつ、いま考えられる可能な選択肢を提示したい。</p>									
(2) 学びの意義と目標									
<p>大学での勉学で「役に立つ」ことを学ぼうとするのであれば、他の科目を履修することが望ましい。そのような「想定内」の問題に応える叡智は、大学での学問とは関係がない。想定外の問題がこれまで指摘されている現代社会にあって、必要なことは、過去の人類の知的な蓄積を学ぶことで、自己の確かな推理力・判断力を養うことである。それが学びの意義であり、それをどのように獲得し、我がものとするかは、各受講者にゆだねる。</p>									
受講者に対する要望		準備学習(予習)							
<p>本講義では、広範な領域におよぶ知的好奇心と、高度に抽象的な議論に耐えられる能力が要求される。</p>		<p>なお、講義に際しては、毎回レジメを配布するほか、具体的な時事問題にも触れながら、各トピックスを扱っていく。レジメに目を通した上で参加し、終了後に配布された資料と併せて再読すること。</p>							
		準備学習(復習)							
		<p>前回の議論を、そのつど確認してそのつどの講義に臨んで欲しい。</p>							
		評価方法							
		<table><tr><td>(1) 出席</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 試験</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) レポート</td><td>30%</td></tr></table> <p>各ステップにおける受講者の理解状況を確認する意味で、何度か小テストとそのフォローを行う。</p> <p>議論が毎回積み上げられていくので、出席をすることがすべての評価の前提となる。</p>		(1) 出席	30%	(2) 試験	40%	(3) レポート	30%
(1) 出席	30%								
(2) 試験	40%								
(3) レポート	30%								
学びのキーワード		教科書							
<ul style="list-style-type: none">・ 理論・ 社会・ 自己言及性・ 複雑性・ システム		<p>土方 透 『法という現象』（ミネルヴァ書房）</p>							
		参考書							
		<p>テキストの他、プリントを配布する。</p>							

家族社会学

SOCI-P-300/HMSC-W-2

担当教員： 齋藤 圭介

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1P600990

学部教育の関連目

- 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る
【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

現代社会における、家族をめぐる問題について総合的に学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

今日、家族はとても多義的な存在となっており、さまざまな社会問題を理解する上で不可欠のものとなっている。授業を通して家族をめぐる問題についての基礎を学ぶとともに、今後、一人世帯を含め多様な家族形態を形成するにあたって役に立つような知識や考え方を身につけてもらいたい。

受講者に対する要望

・「家族」について問題関心を持っていること。

・社会学についてある程度知識があることが望ましい。

学びのキーワード

- ・近代家族
- ・親密性・親密圏
- ・多様な家族
- ・ジェンダー
- ・家父長制

授業計画

01. 家族とは（１）
02. 家族とは（２）
03. 家族の類型（１）
04. 家族の類型（２）
05. 性と愛（１）
06. 性と愛（２）
07. 結婚の意味と機能（１）
08. 結婚の意味と機能（２）
09. 離婚・再婚（１）
10. 離婚・再婚（２）
11. 家族の危機（１）
12. 家族の危機（２）
13. 家族と役割（１）
14. 家族と役割（２）
15. 家族と子育て（１）
16. 家族と子育て（２）
17. 家族と介護（１）
18. 家族と介護（２）
19. 多様な家族（１）
20. 多様な家族（２）
21. 母子世帯・父子世帯（１）
22. 母子世帯・父子世帯（２）
23. フェミニズム思想と家族（１）
24. フェミニズム思想と家族（２）
25. 生殖補助技術と家族観（１）
26. 生殖補助技術と家族観（２）
27. 晩婚化・非婚化（１）
28. 晩婚化・非婚化（２）
29. 近代家族論（１）
30. 近代家族論（２）

準備学習(予習)

毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

準備学習(復習)

講義終了後、配布プリントを再読し、①自分が興味関心を抱いた事柄、②その理由について考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

参考書

マスコミュニケーション論

担当教員：鄭 鎬碩

学期： 週間授 科目：

必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1P601000

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義ではマス・コミュニケーションと社会変容について学習する。コミュニケーションという視点から歴史を捉えるための基礎知識を学び、文献、新聞記事、映像など多様な資料をとおして、現代文化のあり方としてのマス・コミュニケーションの諸側面について考えていく。

(2) 学びの意義と目標

- (1) マス・コミュニケーションと社会変容を考えるための基礎知識を身につける。
- (2) 文献や映像資料を批判的に読みとく力を鍛える。

受講者に対する要望

授業では講義のほか、小グループで討論を行い、短く発表してもらう。自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ マス・コミュニケーション
- ・ マス・メディア
- ・ 社会変容
- ・ 社会運動
- ・ グローバリゼーション

授業計画

01. イントロダクション：コミュニケーションと社会（１）
02. イントロダクション：マス・メディアと社会変容（２）
03. 「マス」の時代、近代（１）資本主義
04. 「マス」の時代、近代（２）国民国家
05. 「マス」の時代、近代（３）自由主義
06. 「マス」の時代、近代（４）大衆メディアの浮上
07. 練習・討論①
08. 練習・討論②
09. 印刷革命と想像の共同体（１）
10. 印刷革命と想像の共同体（２）
11. マス・メディアと民主主義（１）
12. マス・メディアと民主主義（１）
13. マス・メディアと戦争（１）
14. マス・メディアと戦争（２）
15. 練習・討論③
16. 練習・討論④
17. 声の文化と文字の文化（１）
18. 声の文化と文字の文化（２）
19. 視覚イメージと現代社会（１）
20. 視覚イメージと現代社会（２）
21. 練習・討論⑤
22. 練習・討論⑥
23. マス・メディアとジャーナリズム（１）
24. マス・メディアとジャーナリズム（２）
25. グローバル情報ネットワークと社会運動（１）
26. グローバル情報ネットワークと社会運動（２）
27. 練習・討論⑦
28. 練習・討論⑧
29. まとめ（１）
30. まとめ（２）

準備学習(予習)

受講生は、毎回の文献を予め読んで授業に参加する。

準備学習(復習)

授業で?学んだ内容を文章で?まとめ、自分のコメントを加えておく。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

講義内で紹介する。

現代社会論		SOCI-P-200
担当教員：土方 透		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P601210
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 社会科学の到達点 02. 社会科学の到達点 03. 分析のための諸前提 04. 分析のための諸前提 05. リスク社会 06. リスク社会 07. 安全のパラドクス 08. 安全のパラドクス 09. 社会の免疫 10. 社会の免疫 11. 共生社会 12. 共生社会 13. 自然との共存 14. 異文化との共存 15. 包摂と排除 16. 包摂と排除 17. ヒステリーと狂気 18. ヒステリーと狂気 19. 近代社会と合理性 20. 近代社会と合理性 21. 自由からの逃走 22. 自由からの逃走 23. 集団の暴走 24. 集団の暴走 25. 科学と宗教 26. 科学と宗教 27. ポスト合理性 28. ポスト合理性 29. 総括 1 30. 総括 2</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>現代社会に特徴的な問題をピックアップし、社会を定式化する諸説の紹介とともに、本講義では、現代社会を読み込むための前提とするであろう学問的基盤を出発点に、このようにして定式化された見地によって、アクチュアルな問題がいかに取り扱われるか、現実の社会問題に言及しつつ、その様態を描出する。講義は映像資料なども多く用いる予定。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>講義の進行がその積み重ねを前提としているため、毎回の講義で確認された事項を、受講者において次回の講義までに確認してくる作業が予習として求められる。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>講義で展開された議論を、身近なところに応用し、教室での学びを自分の問題として受け取る訓練をすること。</div> <div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 出席</div><div>30%</div></div><div><div>(2) テスト</div><div>40%</div></div><div><div>(3) レポート</div><div>30%</div></div></div> <div>受講者の理解状況の確認のために、何度か小テストおよびそのフォローを行う。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>受講生の批判的推察力と、自ら社会を構成する主体としての意識を惹起したい。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義で展開される議論を、他人事として理解せず、自分の問題として理解できるよう、普段から新聞やニュースで採り上げられるさまざまな問題について、注意をはらっていただきたい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 社会</div><div>・ 狂気</div><div>・ 個人</div><div>・ 自由</div><div>・ 安全</div></div>	<div>教科書</div> <div>土方 透(編著)『現代社会におけるポスト合理性の問題』(聖学院大学出版会)</div> <div>参考書</div> <div>適宜、指示ないし配布する。</div>	

コミュニケーション学		
担当教員： 小笠原 尚宏		
学期： 週間授 科目：		必修・選択：
単位： 4		コード： 1P601310
学部教育の関連目		授業計画
カリキュラム上の位置付け		01. 入門 コミュニケーションとは何か？ 02. 現代社会とコミュニケーション 03. コミュニケーション学の基礎(1)コミュニケーションの仕組みとタイプ 04. コミュニケーション学の基礎(2)コミュニケーションツールとしてのメディア 05. コミュニケーション学の基礎(3)伝わるコミュニケーション／伝わらないコミュニケーション 06. コミュニケーション学の基礎(4)パーソナル・コミュニケーションとマス・コミュニケーション 07. コミュニケーション学の基礎(5)公衆から大衆へ：マス・コミュニケーションの基礎理解 08. 発達とコミュニケーション(1)動物／人間の違い 09. 発達とコミュニケーション(2)自我の形成とコミュニケーション 10. 発達とコミュニケーション(3)自己開示と自己呈示 11. 発達とコミュニケーション(4)演技 12. 発達とコミュニケーション(5)感情規則と感情管理 13. 対人コミュニケーションの基礎理解(1)対人コミュニケーションの特徴 14. 対人コミュニケーションの基礎理解(2)説得・支配・欺瞞・交 15. 対人コミュニケーションの基礎理解(3)言語コミュニケーション 16. 対人コミュニケーションの基礎理解(4)非言語コミュニケーション 17. 対人コミュニケーションの基礎理解(5)「空気」とコミュニケーション 18. メディアとコミュニケーション(1)声の文化 19. メディアとコミュニケーション(2)文字とコミュニケーション 20. メディアとコミュニケーション(3)電話の誕生 21. メディアとコミュニケーション(4)ケータイのコミュニケーション 22. メディアとコミュニケーション(5)インターネットと匿名社会 23. 集団・組織とコミュニケーション(1)社会集団におけるコミュニケーションの基礎理解 24. 集団・組織とコミュニケーション(2)地域社会のコミュニケーション 25. 集団・組織とコミュニケーション(3)家族のコミュニケーション 26. 集団・組織とコミュニケーション(4)公式／非公式組織におけるコミュニケーション 27. 集合行為とコミュニケーション 28. 異文化コミュニケーション 29. 現代若者のコミュニケーション 30. まとめ：現代社会におけるコミュニケーション特性と課題
(1) 内容		
私たちは家族、友人、あるいは集団・組織内での人間関係といった多様な他者との関わりの中で生きている。感情、意思、情報などを交換するコミュニケーションなしに、私たちの生活は成立しない。 この講義では、「コミュニケーション」という視点を通して、私たちの日常生活を捉え直し、多様な関係性とそのあり方を考える視点の形成を目的とする。具体的には、(1)コミュニケーション論の基礎的知識の習得、(2)多様なコミュニケーションの道具（コミュニケーション・ツール）の特質の理解、(3)事例検討による実践的・実際のコミュニケーションをめぐる問題解決のための視点と方法を学ぶ。 また、この授業は関連領域の学習に際して必要になる「コミュニケーション」を理解するための基礎的内容となる。また、たとえば地域社会論、家族関係論、人間関係論、組織論等の入門としても位置づけられるので、積極的な履修を期待したい。		
(2) 学びの意義と目標		
個人化、私事化の進行が指摘される現代社会にあって、あらためて「絆」をつなぐコミュニケーションの役割が重要視されている。つながりや関係性の喪失、コミュニケーション不全といった問題を理解し、さらにはそれらを解決していくために必要な基礎的知識の習得を目標としたい。 コミュニケーションは、私たちの日々の生活の中でごく当たり前に営まれている。しかし、あいさつ、会話、あるいは、しぐさ、といったコミュニケーションのあり方は、それぞれの社会や文化の中で形成された「暗黙のルール」に基づいて営まれている。それらの社会的・文化的ルールをひもときながら、コミュニケーションの特質を考察する。また、コミュニケーションは、常に伝わるものであるとは限らない。「伝わらない」経験をした人も多いと思うが、「伝わる」と「伝わらない」の違いをみながら、「伝える」ための技法を、具体的な事例を基に考える。 これらを通して、コミュニケーションを理解し、身近な問題をコミュニケーション学の視点から捉えることのできる基礎的な能力の形成を、この授業の目標とする。 コミュ障（コミュニケーション障害）が取りざたされ、コミュ力（コミュニケーション力）が過剰に求められる現代日本社会において、コミュニケーション学の視点を身につけることは、皆さんのこれからに大きな意義をもつものと思う。		
受講者に対する要望		
広く「社会」に関心を持っている学生の履修を希望する。		
学びのキーワード		教科書
・自己と他者 ・かわり ・メディア ・社会変動とコミュニケーション ・集合行為		指定しない。
		参考書
		授業内で適宜指示する。
		準備学習(予習)
		時事問題を事例として取り上げるため新聞に目を通しておくこと。また、翌週の学習に関連した資料を配付し、事前課題を課す場合がある。
		準備学習(復習)
		各単元の終了時に、復習課題および小レポート課題を課す。これによって講義内容の確実な定着を図ってほしい。
		評価方法
		(1) 期末課題 60% 評価のポイント・基準は授業内で示す (2) 単元別小課題 30% 授業内に課す小レポート課題 (3) 授業への貢献度 10% 授業内での発言等を評価する
		期末課題は課さず、期末課題と授業・単元の終了ごとに課す小課題および授業への貢献度を総合して評価する。

NPO・NGO論(国際協力)			
担当教員：榎本 珠良			
学期：週間授		科目：	必修・選択：
		単位：4	コード：1P601410
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 授業のガイダンス 02. NGO・NPOの日常業務紹介 03. NGO・NPO・市民社会をめぐる概念整理（1） 04. NGO・NPO・市民社会をめぐる概念整理（2） 05. 国内社会におけるNGO・NPO 06. 「グローバル市民社会」とは？ 07. 国際社会におけるNGO・NPO 08. 日本のNPO・NGO 09. 海外のNPO・NGO（1） 10. 海外のNPO・NGO（2） 11. 開発・安全保障とNGO（1） 12. 開発・安全保障とNGO（2） 13. 開発・安全保障とNGO（3） 14. 開発・安全保障とNGO（4） 15. 前半のまとめ 16. NGO・NPOの援助プロジェクト 17. NGO・NPOのアドボカシー・キャンペーン 18. NGO・NPOの広報・メディアワーク 19. NGO・NPOの運営・労務・財務・ファンドレイジング 20. 事例：人道支援 21. 事例：KONY2012 22. 事例：ミレニアム開発目標（MDGs）とその後の展開 23. 事例：対人地雷禁止条約 24. 事例：クラスター弾条約 25. 事例：小型武器・軽兵器規制 26. 事例：武器貿易条約（ATT） 27. 事例：日本の安全保障関連法制 28. 事例：日本の武器輸出問題 29. 国内政治・国際政治におけるNGO・NPO 30. まとめ	
(1) 内容 近年、NPO（非営利組織）やNGO（非政府組織）は、国内政治や国際政治における重要な存在として注目されるようになった。しかし、NPOやNGOと称される主体は多様であり、NPO、NGO、市民社会といった概念も多様に用いられている。本講義は、NPOやNGOをめぐる諸概念を整理し、これらアクターの活動をとらえようとする研究を紹介・検討する。同時に、本講義は、講師がこれまで13年間NPO・NGOに関与してきた経験をもとに、国際的な政策論議や実践におけるNPO・NGOの活動についても紹介し、検討を加える。			
(2) 学びの意義と目標 NPO・NGOをめぐる概念や先行研究を理解するとともに、実際のNPO・NGOの活動に関する見識を深めることにより、現代におけるNPO・NGOの存在意義や課題について概念・理論と実践の双方から考察できるようになる。		準備学習(予習)	
		授業中に次回以降の授業予告を伝える。関連するテーマや団体について、自身で調べておくこと	
		準備学習(復習)	
		授業で配布するレジュメと授業中にとるノートを再読すること	
		評価方法	
		(1) 授業への参加度 30% (2) 中間試験 30% (3) 期末試験 40%	
受講者に対する要望 国際協力分野に関心を持っていることが望ましい。			
学びのキーワード ・市民社会 ・国内政治 ・国際政治 ・開発 ・平和構築		教科書	
		特になし	
		参考書	
		-国森貴「『市民社会』論：グローバルな適用の可能性と問題」、『国際問題』2000年（7月号） -目加田悦子『国境を超える市民ネットワーク：トランスナショナル・シビルソサエティ』東洋経済新報社、2003年	

NPO・NGO論(非営利組織)	
担当教員： 大高 研道	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目	
単位： 4 コード： 1P601510	
学部教育の関連目	授業計画
カリキュラム上の位置付け	01. NPO論の射程 02. グループ討論—NPOと企業— 03. グループ討論—NPOとボランティア— 04. グループ報告—NPOとは何か— 05. NPO—行政・企業・NGO・ボランティアとの比較— 06. NPOと公益法人制度 07. NPOの定義 08. NPO・行政・自治会 09. NPO実践の歴史—NPO法以前 10. NPO実践の歴史—NPO法以後 11. NPO法とNPO法人（１） 12. NPO法とNPO法人（２） 13. NPO法人の活動領域（１） 14. NPO法人の活動領域（２）グループワーク 15. 埼玉県NPOの現状 16. NPOの実践（１） 17. NPOの実践（２） 18. NPOの実践（３） 19. NPOの実践（４） 20. NPOから社会的企業へ(1) 国家と企業社会を超えて 21. NPOから社会的企業へ(2) 新しい公共性論 22. 社会的排除問題とたたかう社会的企業 23. 社会的事業体としての協同組合の実践（１） 24. 社会的事業体としての協同組合の実践（２） 25. 社会的事業体としての協同組合の実践（３） 26. 社会的事業体としての協同組合の実践（４） 27. NPOの現在と未来(1) 公共領域再編とNPO 28. NPOの現在と未来(2) NPOの事業化と社会的企業 29. NPOの現在と未来(3) 社会の変革者としての市民社会組織 30. まとめ
(1) 内容 福祉社会の到来にともない、地域で活動を展開する市民組織の役割が国際的に注目されている。わが国でも1995年の阪神・淡路大震災以降、NPOの役割が広く一般に認知され、1998年には、その支援を目的とした特定非営利活動促進法（NPO法）が制定された。本講義では、1) 非営利活動をめぐる国際的動向やわが国のNPOの実態、2) NPOが注目されるようになった現代的背景や構造的要因、3) 近年の一つの特徴であるNPOの事業活動の展開過程において注目されるようになった「社会的企業」の検討を通して、市民活動・市民事業の現在と未来についてともに考えたい。	
(2) 学びの意義と目標 現代社会におけるNPOの全体像を把握することが主要な目的となる。福祉・教育・文化・環境・まちづくり等、社会的・経済的領域を網羅したNPO活動は20世紀末から21世紀にかけてもっとも成長した分野の一つと言われており、その動向を理解しておくことは、とりわけ地域社会を基盤とした労働や生活の未来を構想する上でも有益であろう。	準備学習(予習) 毎回の講義の最後に、次回講義のテーマおよびキーワードについて触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。
	準備学習(復習) 毎回の講義終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと」さらに「学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、次回講義の冒頭に、前回講義の復習・解説という形で質疑応答・意見交換の時間を設ける。
受講者に対する要望 ・ 時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。 ・ 講義中の携帯電話（スマートフォン等）の使用は禁ずる。漢字・用語などを調べたい場合は、電子辞書等を使用すること。	評価方法 (1) 試験 70% ノート持ち込み不可 (2) 平常点 30% 3回の遅刻は欠席1回分とする。 ・ 毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。 ・ 講義の内容理解を深めるためにグループ討論・報告を実施する。討論の参加状況も成績評価に含める。
学びのキーワード ・ NPO ・ 社会的企業 ・ 協同組合 ・ ボランティア ・ 協同労働	教科書 授業の中で指示する 参考書 授業の中で指示する

ボランティア概論

SOCI-P-300/SOCI-L-3

担当教員：川田 虎男

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1P601660

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

【L】コミュニティコース：基幹科目 【P】コミュニティコース：基幹科目
【P】コミュニティコース：基幹科目

(1) 内容

講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。ボランティアについての基礎的な知識、また実際の活動内容について学びます。受講人数によっては、参加者同士のグループワークも複数回実施する予定です。

また、課題レポートでは実際の活動に参加した上での感想と考察が求められますので、講義外でのボランティア活動にも参加していただくことになります。

基礎的なボランティアの知識を身につけるものですので、ボランティアの経験の有無は問いません。

(2) 学びの意義と目標

東日本大震災においても多くのボランティア活動が注目されていますが、自分たちの日常レベルに落として現代社会におけるボランティアの実情と意義を学びます。

「ボランティア=いいこと」という理解ではなく、その問題点も理解した上で、受講生一人一人が自分なりの「ボランティア観」を持てることを目標としています。

受講者に対する要望

参加型の授業が多く、グループワークや発表などがありますので、積極的な参加をお願いします。

学びのキーワード

- ・ ボランティア
- ・ 市民活動
- ・ NPO

授業計画

01. オリエンテーション
02. ボランティアの定義と活動分野
03. ボランティア活動者に聞く「バリアフリーマップとボランティア」
04. 市民活動・NPO法人とボランティア
05. 大学生とボランティアⅠ
06. 大学生とボランティアⅡ
07. ワークショップ「ボランティアの種を探す」
08. ボランティアセンターとボランティアコーディネーション
09. 実際のボランティア活動を知るⅠ「災害ボランティア」
10. 実際のボランティア活動を知るⅡ「コミュニティ活動ボランティア」
11. 実際のボランティア活動を知るⅢ「環境ボランティア」
12. 実際のボランティア活動を知るⅣ「国際ボランティア」
13. まとめと振り返りⅠ
14. まとめと振り返りⅡ
15. まとめと振り返りⅢ

準備學習(予習)

実際のボランティア活動への参加があるとより学びが深まります。
授業では毎回一定程度の分量の振り返りシートの記入をしていただく予定です。

準備學習(復習)

まふるを分
生い動自
がう関活
くよのア
クエセカ
エセカ一
ジカ一
ブ活ビ
プにス
や動ト
活動ス
活のゲ
活の用
々実活
々実活
様をに
をにを
らこ一
らこ一
かだ具
びん／
学学セ
で業推
業授イン
授イン
もたさ
年度た
年まで
昨れし

評価方法

- | | |
|-------------|--|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 授業への参加度 | 25% |
| (3) 中間レポート | 20% 授業期間中にボランティア体験を行いレポートの提出をしていただきます。 |
| (4) 試験 | 30% |

教科書

参考書

担当教員： 庄嶋 孝広

学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 1P601710

学部教育の関連目

【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

フィールドワークは、社会調査の一つの方法です。社会学や文化人類学をはじめ様々な学問で活用されるとともに、ビジネスや非営利活動の現場でも有効な方法です。＜br /＞ 現地社会（コミュニティ）に入り、人々と関係を築きながら、生活を観察したり、話を聞いたり、行事に参加したりして、調査地や調査対象について理解を深めていきます。＜br /＞ 理論が現実をうまく説明できているかを確認できると同時に、現実をもとに新たな理論を構築していく楽しみがあります。＜br /＞ 本講義では、コミュニティ現場でのフィールドワーク演習を通じて、フィールドワークの基本を身につけます。

(2) 学びの意義と目標

本講義で、フィールドワークの考え方と方法の基本を学ぶことで、卒業論文等で応用してください。＜br /＞ また、フィールドワークは、まずもって他者に寄り添い、相手を理解しようとする方法です。社会人となって、他者と信頼関係を築きながら、よりよい職業生活、市民生活を送るうえでも、大いに役立つ作法といえます。

受講者に対する要望

頭も身体もたくさん動かしますので、気力と体力だけは必要ですが、みんなで一緒に楽しく、和気あいあいと行いましょう。

学びのキーワード

- ・ 社会調査
- ・ コミュニティ
- ・ フィールドワーク
- ・ 聴き取り
- ・ 参与観察

授業計画

01. フィールドワークとは何か？
02. フィールドワークの方法、インタビュー練習
03. 調査地の紹介と事前準備
04. 現地調査・第1日 ― ガイドによる調査地案内
05. 現地調査・第1日（つづき） ― 1日目のまとめ
06. 現地調査・第2日 ― 自由見学
07. 現地調査・第2日（つづき） ― 調査項目の整理
08. 現地調査・第2日（つづき） ― 聴き取り
09. 現地調査・第2日（つづき） ― 参与観察
10. 現地調査・第2日（つづき） ― 2日目のまとめ
11. 調査のまとめ
12. レポート作成
13. レポート作成（つづき）
14. グループ発表準備
15. グループ発表

準備学習（予習）

集中講義のため、前日に行ったことをおさらいして臨んでください。

準備学習（復習）

集中講義のため、作業に遅れがあれば、各自で追いつくようにしてください。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) レポート | 25% |
| (2) グループ発表 | 25% |
| (3) 授業態度 | 25% |
| (4) 出欠 | 25% |

教科書

参考書

佐藤郁哉『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』（新曜社）

地域社会と生協		SOCI-P-300/SOCI-L-3									
担当教員： 大高 研道											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1P601880									
学部教育の関連目 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識 【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける		授業計画 01. ガイダンス 02. 世界と日本の協同組合 03. コープみらいの事業と活動 04. 地域福祉と高齢者疑似体験 05. 福祉ボランティア体験 06. 宅配事業の現場での実践事例報告 07. 店舗事業の現場での実践事例報告 08. 食と食料生産の取り組み 09. ユニセフの活動とは何か—ユニセフの取り組みと生協の課題 10. 食の安全の最前線（品質管理の現場） 11. コープ商品開発の最前線 12. 商品を通じた社会貢献 13. 農業の現状と生協の今日的課題 14. コープみらいの組合員活動と地域の課題 15. まとめ—地域社会と生協—									
カリキュラム上の位置付け											
(1) 内容 今日、世界的な金融・財政危機、環境問題、少子高齢化、不安定雇用、地域紛争など、私たちの経済・社会生活はその根幹をゆるがすさまざまな課題に直面している。また、日本を襲った未曾有の大災害、東日本大震災からの復興プロセスは、日本の経済・社会のあり方そのものの見直しをわれわれに迫っているが、震災から5年が経過した今もなお、福島放射能問題をはじめ、復興にむけたシナリオは不透明なままである。いまこそ、地域における協同と連帯によってこれらの問題を解決することが求められている。 1844年、英国において誕生した非営利の協同組織・事業体である消費生活協同組合（以下、生協）の取り組みは、その後、日本を含む世界中の国々に広がっていった。日本は、とりわけ生協運動が発展した国であり、今日では、組合員数が2,600万人を超え、世帯加入率は約5割にまで達している。本講義では、今日の社会で協同組合、そして生協がどのような位置にあり、私たちの暮らしと社会生活の向上にどのような役割を果たしているのか、その現実と可能性について、地域社会に基盤をおいた協同組織・事業といった観点から学ぶ。 本講義は、「生活協同組合コープみらい」による寄附講義である。講義は、ゲストスピーカーによる講義および実践紹介を中心に構成され、現場実習、グループワーク等も実施する予定である。											
(2) 学びの意義と目標 本講義における学びの意義は、地域生活者としての視点から、自らの暮らしを見つめなおす機会を提供する点にある。商業的世界が日常の生活の隅々を支配している今日、私たちは「消費者」として他者と接する場面が多い。身近な地域の暮らしの現実の中で生成するさまざまな問題（現代的課題）に対応している協同組合（生協）は、商品を媒介としながらも、単なる「消費者」を超えた「生活者」としての視点に立った事業・運動に取り組んでいる。おもに日常的な購買事業・福祉事業の現場経験にもとづく講義は、自ら考え行動するなかで生まれた実践知を学ぶ貴重な機会になるとともに、グループワークおよび現場実習を通して、その実践知を共有・体験することもできる。 本講義では、地域社会における生協の位置と役割について理解することを第一義的な目的とするが、その学びの先には、「閉じられた関係性」のなかに生きる私たち現代人の歩むべき方向性について、一定程度のビジョンを提示できるようにすることをめざしている。											
受講者に対する要望 現場実習（介護体験）を土曜日（終日）に1回実施する。実習参加とレポートが成績評価の重要な要素になるので、必ず参加すること。											
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ・ 生協 ・ 地域社会 ・ 食の安全性 ・ 地域福祉 ・ 協同・連帯 		評価方法 <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>45%</td><td>3回の遅刻は欠席1回分とみなす。</td></tr> <tr> <td>(2) 実習レポート</td><td>30%</td><td></td></tr> <tr> <td>(3) 期末レポート</td><td>25%</td><td></td></tr> </table> <p>・ 出席カードには①今回の講義で学んだこと、②疑問点/さらに学びたいことを記入してもらい、その内容は出席評価に加味する。</p>	(1) 平常点	45%	3回の遅刻は欠席1回分とみなす。	(2) 実習レポート	30%		(3) 期末レポート	25%	
(1) 平常点	45%	3回の遅刻は欠席1回分とみなす。									
(2) 実習レポート	30%										
(3) 期末レポート	25%										
教科書 授業の中で指示する											
参考書 授業の中で指示する											

ジェンダー論(女性学)			
担当教員： 加藤 敦也			
学期： 週間授 科目： 必修・選択：			単位： 2 コード： 1P602110
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. イントロダクション：ジェンダーとは何か 02. 女性学の歴史①第1波フェミニズムから第2波フェミニズムまで 03. 女性学の歴史②第2波フェミニズムから第3波フェミニズム、現代の論点まで 04. 教育とジェンダー：女性と教育 05. 性別役割分業の問題点①家事・育児など再生産労働の問題 06. 性別役割分業の問題点?女性と就労(ジェンダー格差について) 07. ポルノグラフィと性差別 08. セクシュアル・ハラスメント 09. DV、デートDVの問題 10. 若年女性の恋愛意識と結婚(晩婚化・未婚化) 11. セクシュアル・マイノリティと社会①(LGBTQAについて) 12. セクシュアル・マイノリティと社会②(同性婚をめぐる動向) 13. 女性向けファッションとジェンダー 14. ケアとジェンダー(少子高齢化社会のジェンダー問題) 15. ジェンダー論(女性学)のまとめ	
(1) 内容			
女／男という性別の区分は、性差を定める社会的背景に応じて意味が変わると考えるのがジェンダー論である。いいかえれば、ジェンダー論は性のありように関する認知の枠組みによって編成されている社会を念頭に置き、性差を決め、それを有効にしている権力のあり方を固定的・絶対的なものと見ないとする視点を持つ学問領域である。本講義では、主に現代社会における女性の問題に焦点を当て、それをジェンダー研究の知見から説明していく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
ジェンダー論の視座を理解することにより、女性に対する性差別の問題と現代社会におけるジェンダーに基づく不平等問題、または女性が志向するライフコースの在り方を理解してもらうことを目標とする。		各授業時に紹介する女性とジェンダーの問題について、シラバスのキーワードに沿い、関連する書籍などで調べることが望ましい。	
		準備学習(復習)	
		講義内容をまとめたノートを見直し、講義の要点を抑えておくこと。また、配布資料に沿い、講義で紹介したキーワードを関連する書籍などで調べることが望ましい。	
受講者に対する要望		評価方法	
私語は控えること。また、講義でわからないことがあった場合には、遠慮なく質問してほしい。		(1) 定期試験 70% (2) 平常点 30%	
		成績は平常点と定期試験の点数を総合的に加味して評価する。なお、毎回の授業終了時に授業に関するコメントペーパーを提出してもらう。戻れたコメントペーパーを書いたものには、加算して評価する(ただし、加算された場合も成績評価は100点を上限とする)。	
学びのキーワード		教科書	
・ジェンダー ・フェミニズム ・セクシュアリティ ・人権 ・ジェンダー・フリー		特になし。	
		参考書	
		ジェンダー論(女性学)を理解する上で重要な文献は授業中適宜指示する。	

情報処理			
担当教員： 二神 常爾			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
学部教育の関連目		単位： 4 コード： 1P700210	
カリキュラム上の位置付け		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. コンピュータの発展の歴史 03. パソコンの構成 04. 2進数、10進数、16進数 05. 文字の表現 06. 論理回路 07. 加算器と加算回路 08. 補数を用いた減算と減算回路 09. 中央処理装置とその動作 10. 主記憶装置 11. 補助記憶装置 12. 記憶装置の階層構造 13. 入力装置と出力装置 14. アナログとデジタル 15. ソフトウェアとファイル 16. オペレーティング・システム 17. クラウド・コンピューティング 18. 人工知能 19. ネットワークの概要 20. インターネット 21. ホームページ 22. ホームページの検索と印刷 23. メールの仕組み 24. データベース(1) 25. データベース(2) 26. エクセル実習(1)：条件に合ったデータを抽出する 27. エクセル実習(2)：テーブル機能を利用する 28. エクセル実習(3)：アウトライン機能を利用する 29. エクセル実習(4)：ピボットテーブルとグラフを利用する 30. まとめ</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>コンピュータの動作の仕組みやコンピュータが現代社会で果たす役割について学ぶ。教師は配布したプリントに沿って、またその内容をプロジェクターでスクリーンに映し出しながら、説明を行う。その日学んだことを整理し、理解を深めるために、授業の後半には簡単な課題をやってもらう。コンピュータを用いた実習も数回行う予定である。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>今日、多くの人がコンピュータを使うようになった。個人がパソコンでアプリケーション・ソフトを使う、あるいはインターネットに接続するにとどまらず、スマートフォン・タブレット端末など小型で高機能の機器もかなり普及している。また、配送物の現在位置の確認や交通渋滞の解消などにも、コンピュータを利用することが行われ、研究されている。コンピュータは、身近な様々なところで利用されているが、その基本原理は共通である。授業では、コンピュータの構成やネットワークとの接続、データベースの構成など、コンピュータの基本的事項を学び、理解することを目標とする。コンピュータの基本的事項を学び、理解することは、個人がコンピュータの様々な機能を使いこなす上でも必要不可欠である。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>帰宅してからプリントを見ながら授業で習ったことを復習すること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>遅刻・欠席をしないこと</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>30%</div></div><div><div>(2) 授業中の課題</div><div>30%</div></div><div><div>(3) 試験</div><div>40%</div></div></div> <div>2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・コンピュータ</div><div>・アナログとデジタル</div><div>・中央処理装置</div><div>・インターネット</div><div>・データベース</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

情報倫理		INFO-P-200/INFO-L-2
担当教員： 竹井 潔		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P700330
学部教育の関連目		授業計画
【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】 問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識		
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション 02. 工業社会から情報社会へ 03. 情報とは 04. 情報の価値 05. 個人情報の価値 06. 個人情報とプライバシー 07. 個人情報 事例研究（1） 08. 個人情報 事例研究（2） 09. 個人情報 事例研究（3） 10. 個人情報漏洩の原因と対策 11. 情報化と社会の変遷 地域情報化 12. インターネットの役割とデジタルデバイド（情報格差） 13. 情報のボーダレス化とOECD8原則 14. インターネットとビジネス（1） 電子商取引、ネット売買トラブル 15. インターネットとビジネス（2） ビッグデータの活用とプライバシーの問題 16. 中間まとめ 17. インターネットとビジネス（3） 忘れられる権利、消費者プライバシー権利章典 18. 情報化による人間生活の変化 19. 情報化による光の側面と影の側面 20. 著作権について 21. 著作権 事例研究（1） 22. 著作権 事例研究（2） 23. 著作権 事例研究（3） 24. 著作権 事例研究（4） 25. ネット社会におけるマナー、ネチケットについて 26. 情報セキュリティと暗号技術 27. インターネット犯罪 28. 情報倫理の総合演習 29. 情報倫理・情報モラルの構築 30. まとめ
(1) 内容		
私たちは、携帯電話やスマホ、パソコンなど、さまざまな情報端末を使い、情報社会の中で生活をしてきている。情報社会の急速な進展により、個人情報の保護や著作権などの問題も含めて「情報倫理」がますます重要となってきた。「情報倫理」は我々が情報社会の中でより良く生きていく上で必要となる。「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけ、「社会における情報」をキーワードに、その「社会性」や「責任」といった問題に関しても対応できる人材を養成することを目的とする。講義においては、広い意味での「情報」を扱い、現代社会と情報、情報倫理などを解説する。情報社会をとりにくく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題について取り上げる。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
情報倫理は、情報社会の新しい分野である。これからの情報社会を生きていくためには情報倫理は必要条件である。そこで、授業を通して、情報倫理とは何か、その必要性を一緒に考えてみたい。とくに情報倫理について「時代とともに変化する『情報』」の観点から、学生自身身が情報倫理の変容をどう受け取るべきか、ディスカッション形式で提案させるよう、授業を展開する。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
グループディスカッションの時は積極的に参画すること。またプレゼンテーションも随時行うので積極的に取り組んでほしい。 		
学びのキーワード		評価方法
・ 情報の価値 ・ 個人情報 ・ インターネットと情報格差 ・ 著作権 ・ 情報倫理・情報モラル		
		教科書
		プリントを配布する
		参考書

デジタルメディア論

INFO-P-200/INFO-L-2

担当教員：原島 大輔

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P700440

学部教育の関連目

- 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る
【L】問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

- 【L】高等学校教諭一種免許：情報必修科目
【L】高等学校教諭一種免許：情報必修科目

(1) 内容

デジタルメディアは、現代のグローバルな情報社会の基盤であり、強い影響力を持っています。そのようなデジタルメディアの諸問題と可能性について講義します。

(2) 学びの意義と目標

デジタルメディアが、現代のグローバルな情報社会において、どのような問題に直面しており、あるいはどのような可能性を開きつつあるのかについて、とくに政治経済学的・文化理論的な視座から、基礎情報学的な思考法の習得を目指します。

受講者に対する要望

積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・メディア
- ・情報
- ・技術

授業計画

01. イントロダクション1
02. イントロダクション2
03. 情報理論とサイバネティクス
04. デジタル・コンピュータ
05. パソコンとインターネット
06. ウェブ2.0
07. ヴァーチャル・リアリティ
08. エントロピー
09. 人工知能とポストヒューマン
10. 基礎情報学1：情報
11. 基礎情報学2：コミュニケーション
12. リスクとセキュリティ：ノイズ、エラー、アクシデント
13. リスクとセキュリティ：制御、予測、予防
14. 創造力1：クリエイティブ産業と消費者生成メディア
15. 創造力2：著作権、クリエイティブ・コモンズ、作者性
16. 創造力3：コンテンツとプラットフォーム
17. メディア・アートの歴史1
18. メディア・アートの歴史2
19. メディア・アートの歴史3
20. メディア・アートの歴史4
21. メディア・アートの歴史5
22. メディア・アートの歴史6
23. メディア・アートの歴史7
24. メディア・アートの歴史8
25. メディア・アートの歴史9
26. インターネットと生態系
27. ビッグデータと集合知
28. 情報と生命
29. デジタルメディアと政治経済／倫理感性
30. まとめ

準備学習(予習)

毎回の授業で、次回の予告をおこなうので、そこで提示されたキーワードについて調べておいてください。

準備学習(復習)

授業で配布する資料や紹介する文献などを参考にして、授業内容を復習してください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |

単位取得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とします。

教科書

参考書

法政情報論		INFO-P-200/INFO-L-2	
担当教員： 渡辺 英人			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 1P700550	
学部教育の関連目		授業計画	
【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】 問題解決力＆表現力：情報コミュニケーションに関する知識		01. 現代社会における法情報、政治情報（1） 02. 現代社会における法情報、政治情報（2） 03. 情報と法（国内編）（1） 04. 情報と法（国内編）（2） 05. 情報と法（海外編）（1） 06. 情報と法（海外編）（2） 07. 情報化社会と国際法（1） 08. 情報化社会と国際法（2） 09. 情報化社会における犯罪（国内編）（1） 10. 情報化社会における犯罪（国内編）（2） 11. 情報化社会における犯罪（海外編）（1） 12. 情報化社会における犯罪（海外編）（2） 13. 情報化社会とマスメディア（1） 14. 情報化社会とマスメディア（2） 15. 情報と政治行政（1） 16. 情報と政治行政（2） 17. 情報と政治行動（1） 18. 情報と政治行動（2） 19. 情報化社会と個人情報（1） 20. 情報化社会と個人情報（2） 21. 情報公開と情報の保護（1） 22. 情報公開と情報の保護（2） 23. 知的財産権（1） 24. 知的財産権（2） 25. 情報化社会と労働環境、労働感（1） 26. 情報化社会と労働環境、労働感（2） 27. 情報化社会のさらなる法問題、政治問題（1） 28. 情報化社会のさらなる法問題、政治問題（2） 29. 情報化社会の将来予測（1） 30. 情報化社会の将来予測（2）	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 情報コース：基幹科目 【L】 高等学校教諭一種免許：情報必修科目 【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報必修科目 【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報必修科目			
(1) 内容			
現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では「法学」「政治学」分野におけるさまざまな「情報」問題について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。			
(2) 学びの意義と目標			
法情報、政治情報の発見と分析を行う授業です。この授業で学んだことは、将来、資格試験や就職試験にも必ず役立ちます。予習、復習ともに積極的に取り組んでください。		準備学習(予習)	
		授業内容に沿った資料を前週までに提供する。資料の熟読など、予習を授業までに行っておくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作成すること。	
受講者に対する要望		評価方法	
遅刻、欠席などせず、積極的に参加してください。		(1) 授業内容の理解度 40% 客観的視点での理解 (2) 課題作成 30% 自分の意見をまとめる (3) 試験 30% 文献、速次刊行物、新聞、あるいはネット上の情報を調査し、レポート形式にまとめる 試験、または自分の調査研究テーマについてのプレゼンテーションを行う。	
学びのキーワード		教科書	
・ 法と情報 ・ 政治と情報 ・ 情報化社会に生きる ・ 生活の中から見た法と行政		開講時に提示する	
		参考書	
		授業中に提示する	

情報メディア史（P用）		INFO-P-200									
担当教員： 若松 昭子											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1P700660									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 情報メディア史の意義 02. 文字・記録のはじまり 03. 粘土板と古代の図書館 04. パピルスからパーチメントへ 05. 中世の書物文化と修道院図書館 06. 大学の誕生と書物 07. 印刷術の発明と普及 08. 読書様式の変化 09. 国家形成と国立図書館 10. コーヒーハウスと貸本屋 11. 公共図書館の誕生 12. コンピュータと図書館 13. 日本の図書館と書物文化（1） 14. 日本の図書館と書物文化（2） 15. まとめとディスカッション</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報必修科目【全】 司書資格：選択必修科目 【全】 司書資格：選択必修科目</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>情報メディアの変遷と歴史を概観し、それらの変化が人々の知的活動や社会の状況にどのような影響を与えてきたかを考える。また、知識の体系化を担う図書館が、「知識は一部の人々の所有物」という考え方から、「知識は万人の公共財産」という理念に向かって、どのような展開をとげてきたのかを各時代の社会的状況や文化的役割との関わりで考察する。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>情報メディアの歴史と変遷は人間の思考パターンやコミュニケーションのあり様をどのように変化させたのか、また様々なメディアを収集・保存し、利用に供する市民のための図書館はどのような発展を経たのかなどに注目し、メディアと人間のかかわりについて理解を深める。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書に目を通し、課題をきちんとこなすこと。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業への積極的な参加を望む。授業に関連する施設見学や、展示会等の観覧を課すことがある。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内容の理解に努め、与えられた課題をきちんとこなすこと。</div>									
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 情報メディア</div><div>・ 図書</div><div>・ 図書館</div><div>・ 書物</div></div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 試験</td><td>50%</td><td>試験に代わるレポートあり</td></tr><tr><td>(2) 小課題</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 授業参加状況</td><td>30%</td><td>授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など</td></tr></table> <div>毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる</div>	(1) 試験	50%	試験に代わるレポートあり	(2) 小課題	20%		(3) 授業参加状況	30%	授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など
(1) 試験	50%	試験に代わるレポートあり									
(2) 小課題	20%										
(3) 授業参加状況	30%	授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など									
<div>教科書</div> <div>ブリュノ ブラセル、荒俣 宏、Bruno Blasselle、木村 恵一 『本の歴史（「知の再発見」双書）』（創元社）</div>		<div>参考書</div>									

情報システム論

担当教員： 鈴木 省吾

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 4 コード： 1P700710

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

コンピュータ及びネットワークの処理がどのように行われるかを学ぶ。
コンピュータやネットワークの構成、機構などの基本的な知識に加え、プログラミングなど実際の運用上必要な能力も身に着ける。

(2) 学びの意義と目標

現代社会において情報システムはあらゆるところに存在し、それに関する知識は必須のものとなりつつある。
また、専門的な知識を蓄えることでエキスパートとして自身の将来の仕事につながる知識にもなってくる。
数学的な思考プラスどのように社会に生かしていくかという視点を持ってコンピュータ及びネットワークについて深く学んでほしい。

受講者に対する要望

情報システム論はシステムエンジニアやプログラマーを養うための知識体系である。
コンピュータのエキスパートになるつもりで貪欲に学んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 知的好奇心
- ・ 実践

授業計画

01. コンピュータの構成
02. ハードウェア
03. プロセッサ
04. メモリ
05. バス、入出力装置
06. ソフトウェア
07. OS
08. OS(続き)
09. プログラムの実行制御
10. オープンソースソフトウェア
11. システムの構成
12. ネットワークプロトコル
13. イーサネットとLAN
14. TCP/IP
15. WWW、メール、DNS
16. インターネット技術
17. JAVA開発の基礎知識
18. 式と演算子
19. 条件分岐と繰り返し
20. 配列
21. メソッド
22. パッケージ、API
23. オブジェクト指向
24. インスタンス
25. クラス機構
26. カプセル化
27. 継承
28. 多態性
29. 標準クラス
30. 例外

準備学習(予習)

小テストのために授業で配布するプリントを記憶するまで読み直す。

準備学習(復習)

特にプログラミングに関して知識の定着を図るために授業で行った課題を復習すること。
プログラミングは漸進的に授業を進めるので一度学んだことがそれ以降の授業の前提知識となる。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 知識に関する小テスト | 50% |
| (2) プログラミング課題 | 50% |

出欠は評価に含めないが、欠席10回で不合格とする。
遅刻は3回で欠席一回と数える。

教科書

参考書

コンピュータ応用実習 A		INFO-P-200/INFO-L-2
担当教員： 鈴木 省吾		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1P700880
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】 問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識</div>	<div>授業計画</div> <div>01. Excelの概要／データの入力 02. 表の作成・編集・印刷 03. グラフの作成 04. Excel関数 05. ワークシートの活用 06. データベース機能の利用 07. ピボットテーブル 08. マクロの作成 09. Excel VBAプログラミングの基礎 10. Excel VBAプログラミング 1 11. Excel VBAプログラミング 2 12. Excel VBAプログラミング 3 13. 統計処理 14. 文書作成 15. 資料処理</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 情報コース：基幹科目 【L】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目 【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目 【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>Microsoft Excelの高度な操作法を学ぶ。基礎的な内容の復習からはじめ、Excelの機能を最大限に生かす使い方を習得する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>Excelの基本的な操作を既に学んだ学生が、より有効かつ幅広くExcelを使うために必要となる操作法を学ぶ。単なる表計算を超え、統計処理や文書作成が行えるようにする。社会での実用に耐えうるExcelの操作能力を身につける。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で出された課題の反復練習。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>実習授業なので、実際に授業内で課題を完成させることが重要となるが、課題ごとの内容は、次の週からの前提になるので、復習を必ず行うこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>継続的に実習に参加し、PCになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。
 授業では、わからないことを分からないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 課題 100% 毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。</div> <div>出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 実習課題の完成・ Excelへの精通・ 教えあい・ 積極的な参加</div>	<div>教科書</div>	
	<div>参考書</div>	

コンピュータ応用実習B		INFO-P-200/INFO-L-2	
担当教員： 二神 常爾			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1P700990	
学部教育の関連目		授業計画	
【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】 問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識		01. ガイダンス 02. Gメールでメールの送受信を行う 03. ファイルを圧縮してメールに添付して送る 04. Gメールでチャットを行う 05. ネット上のワープロソフトを利用する 06. ネット上の表計算ソフトを利用する 07. ネット上のプレゼンテーション・ソフトを利用する 08. グーグル・カレンダーで予定を共有する 09. ブログで新しい記事を書く 10. ブログの記事に画像を挿入する 11. ブログでコメントを書く 12. ツイッターでツイートを投稿する、フォロワーになる 13. ツイッターでリスト、ダイレクトメッセージを利用する 14. メールを検索を行う。これまでの履歴を削除する。 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 情報コース：基幹科目 【L】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目 【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目 【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目			
(1) 内容			
ノートパソコンを用いた実習により、メール、ブログ、ツイッターなどの様々なコミュニケーション・ツールを利用してコミュニケーションを行い、それぞれの特徴を理解する。また、グーグルは、近年ネット上で文書ファイルや表計算ファイルや予定表を共有するサービスを提供している。グーグルはネット上でチャット（文字によるオンライン・リアルタイムでのメッセージのやり取り）を行うサービスも提供している。グーグルが提供しているこの種のサービスを利用して、ネット上でのファイルの共有等を行う。 授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクターを用いてデモを行い、各人は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。各人は二人一組になってメッセージのやり取りやファイルの共有を行う。質問は随時受け付ける。また、時間がある場合には、授業内容について理解を深めるために、授業時間内に行う課題を出題する。			
(2) 学びの意義と目標			
インターネットやコンピュータ技術の発達とともに、メール、ブログ、ツイッターなど様々なコミュニケーション・ツールが出現し、多くの人に利用されている。これらのツールの多くは、情報の送り手だけでなく、情報の受け手も情報を発信できる双方向の特徴を持つ。双方向性は便宜性をもたらす一方で、一度発信した情報は回収できないことから、様々な問題が起きている。ルールを守りつつ、これらのツールを使いこなすことは現代社会に生きる我々にとって必要不可欠である。授業ではこれらのツールを実際に利用し、その特徴を習得することを目標とし、時間があればネチケットについても学習する。 また、グーグルはインターネット上で様々なファイルを共有できるサービスを提供している。これらのサービスを利用すれば、従来のメールにファイルを添付してデータをやり取りするという手間を省くことができる。これらのサービスについても学ぶ。			
準備学習(予習)		シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと	
準備学習(復習)		帰宅してからプリントを見ながら、授業で行った手順を復習すること。	
評価方法		(1) 平常点 30% (2) 授業中の課題 40% (3) 期末試験 30%	
受講者に対する要望			
遅刻・欠席をしないこと。			
学びのキーワード		教科書	
・Gメール ・ブログ ・ツイッター ・グーグル ・インターネット		参考書	

コンピュータ応用実習C		INFO-P-200/INFO-L-2
担当教員： 二神 常爾		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1P701000
学部教育の関連目		授業計画
【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】 問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識		01. ガイダンス 02. ウィンドウズ・フォトギャラリー（またはピクチャ・マネジャー）で静止画像を編集する 03. デジタルカメラで静止画像を撮影し、コンピュータに取り込む 04. 音楽CDの楽曲を空のCD-Rに書き込む（焼く） 05. デジタルカメラで動画像を撮影し、コンピュータに取り込む 06. 撮影した動画像をウィンドウズ・ムービーメーカーで短くする 07. 動画像にウィンドウズ・ムービーメーカーでテキストや音声を挿入し、DVD-Rに書き込む 08. ウィンドウズ・ムービーメーカーによる動画像の編集のまとめの実習を行う 09. パワーポイントで動画を再生する 10. 静止画像をもとにスライドショーを作成し、DVD-Rに書き込む 11. アニメーションGIFで動画を作成する(1) 12. アニメーションGIFで動画を作成する(2) 13. グーグル・ピカサでコラージュ画像を作成する 14. ウィンドウズ・フォトギャラリーで画像の検索を行う 15. まとめ
カリキュラム上の位置付け		
【L】 情報コース：基幹科目 【L】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目 【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目 【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目		
(1) 内容		
ノートパソコンを用いた実習を通して、デジタルカメラで撮影した静止画像や動画像をノートパソコンで編集したり、編集した画像をCDやDVDに書き込む方法について学ぶ。また、自分の音声や音楽CDの楽曲をこれらの記憶メディアに書き込む方法についても学ぶ。写真の画像や動画像を編集するソフトにより、パソコン上で写真の明るさ、コントラストを調整したり、トリミングをしたり、縮小する。また、動画像を短くしたり、動画像にテキストや音声を挿入する。複数枚の写真を一定の時間間隔で連続して表示するスライドショーを作成する方法も学ぶ。 また、イラストや文字などの静止画像を複数枚作成し、一定の時間間隔で表示させ、簡単なアニメーションを作ることも学ぶ。タグを使って速く画像を検索する方法についても学ぶ。 授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクターを用いてデモを行い、各人は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。質問は随時受け付ける。また、時間がある場合には、授業内容について理解を深めるために、授業時間内を行う課題を出題する。		
(2) 学びの意義と目標		
デジタル技術の進歩とともに、静止画像や動画像を記憶する記憶メディアは日進月歩のスピードで大容量になっている。これらの記憶メディアを利用すれば、高精細な画像を再生することが可能である。静止画像や動画像などの記憶メディアとして、CD、DVD、BD（ブルーレイ・ディスク）などの光ディスクがある。授業では、デジタルカメラにより写真や動画を撮影し、CD-RやDVD-Rに画像ファイルを書き込む方法を学ぶことを通して、マルチメディアに関する基本技術を習得することを目標とする。CD-RやDVD-Rは安価で使いやすいことから、今後情報化がますます進む中でも、利用価値を失わないと思われる。画像ファイルを編集した後、CD-RやDVD-Rに書き込むことは、これからの社会人にとって不可欠の技術である。また、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで自分で編集する方法を習得していれば、スマートフォンなどで撮影した画像をブログ、SNS、ホームページなどにアップロードすることも容易にできるであろう。		準備学習(予習)
		シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと
		準備学習(復習)
		授業前に授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら、授業で行った手順を復習すること。
受講者に対する要望		評価方法
遅刻・欠席をしないこと。		(1) 平常点 30% (2) 授業中の課題 40% (3) 期末試験 30%
学びのキーワード		教科書
・マルチメディア ・画像編集 ・CD ・DVD ・デジタルカメラ		参考書

情報通信ネットワーク論

担当教員：竹井 潔

学期： 週間授 科目： 必修・選択：

単位： 4 コード： 1P701110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

インターネットや携帯電話・スマートフォンが普及し、ICTの急速な進展により情報ネットワークを取り巻く環境の変化は非常にめまぐるしい。そのような環境下で我々は情報通信ネットワークを日常的に使って様々なコミュニケーションを行っている。現代社会はまさに情報通信ネットワークによるデータ通信に基礎をおく高度情報通信社会となっている。講義ではこのことを踏まえ、情報通信ネットワークの基本的仕組みの理解とともに具体的なネットワークの構築及び設計についての基礎的な技術と知識について学ぶ。ネットワークの伝送技術及びLAN、インターネットの仕組みや携帯電話・スマートフォン、衛星通信など仕組みやサービスについても取り扱う。

(2) 学びの意義と目標

情報社会では、生活においてもビジネス社会においてもネットワークは不可欠なものとなっている。情報伝達の手段としてのネットワークの基本的な構造や特徴を理解することは、これから情報社会に生きる者にとって必須の基礎知識となる。これらを学ぶことによりネットワーク社会におけるコミュニケーションのあり方について考えてもらいたい。

受講者に対する要望

講義内容は情報通信ネットワークの基本的な事柄である。経営、情報分野を志す多くの学生に履修してほしい。

学びのキーワード

- ・通信ネットワーク
- ・LAN
- ・インターネット
- ・通信サービス
- ・伝送技術

授業計画

01. オリエンテーション |
02. 情報と通信 |
03. 通信ネットワークとは |
04. 通信ネットワークの歴史 |
05. 通信方式とネットワークの構成 |
06. 通信サービスの歴史
07. 通信サービスの自由化と種類 |
08. 専用回線サービス、交換回線サービス |
09. 総合ディジタル通信サービス (ISDN) |
10. 衛星通信サービス
11. 移動体通信サービス |
12. 携帯電話の通信方式
13. 携帯電話のサービス |
14. 伝送方式1 同期方式
15. 伝送方式2 アナログ伝送、ディジタル伝送 |
16. 中間まとめ |
17. 伝送制御手順1 ベーシック制御手順 |
18. 伝送制御手順2 HDLC手順
19. 誤り制御方式1 水平垂直パリティ検査方式 |
20. 誤り制御方式2 誤り訂正方式 |
21. 通信回線の多重化1 周波数多重化、時分割多重化 |
22. 通信回線の多重化2 PCM多重化、パケット多重化 |
23. 交換方式1 回線交換方式、蓄積交換方式 |
24. 交換方式2 フレームリレー方式、ATM交換方式 |
25. ネットワークアーキテクチャー／OSI参照モデル |
26. LANとは |
27. LAN構築の方法 |
28. インターネット TCP/IPプロトコル |
29. 今後のネットワーク社会 |
30. まとめ

準備学習(予習)

授業では、ネットワーク特有の用語や知識が出てくるが、事前に授業で指示された参考文献等で重要用語を調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で十分理解できなかった専門用語や知識について、各自調べておくこと。

評価方法

- | | | |
|----------|------|---------------|
| (1) 平常点 | 20 % | 課題、理解度小テストの実施 |
| (2) 中間試験 | 40 % | |
| (3) 期末試験 | 40 % | |

教科書

プリントを配布する

参考書

情報と職業

INFO-P-300/INFO-L-3

担当教員： 渡辺 英人

学期： 週間授 科目： 社会教育 必修・選択： 選択科目/資格課程 単位： 4 コード： 1P701220

学部教育の関連目

【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

【L】問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

【L】社会教育主事資格：選択必修科目

【L】情報コース：基幹科目

【L】高等学校教諭一種免許：情報必修科目【P】社会教育主事資格：選択必修科目

【P】情報コース：基幹科目

【P】高等学校教諭一種免許：情報必修科目

【P】社会教育主事資格：選択必修科目

【P】情報コース：基幹科目

【P】高等学校教諭一種免許：情報必修科目【全】社会教育主事資格：選択必修科目

【全】情報コース：基幹科目

(1) 内容

現代社会におけるさまざまな「活動」ととり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。

(2) 学びの意義と目標

社会と情報との関係を具体的な例を使いながら、詳しく説明する。社会の中で生きるために必要不可欠な知識となるように学ぼう。

受講者に対する要望

各種資格試験、就職試験でも必ず役に立つ内容である。積極的に学ぶこと。

学びのキーワード

・社会における情報

・情報化社会に生きる

・法、政治、経済、生活と情報

授業計画

01. 現代社会と情報(1)

02. 現代社会と情報(2)

03. 情報と職業(国内)(1)

04. 情報と職業(国内)(2)

05. 行政と情報(1)

06. 行政と情報(2)

07. 企業活動と情報(1)

08. 企業活動と情報(2)

09. 情報の収集、蓄積、再利用(1)

10. 情報の収集、蓄積、再利用(2)

11. インターネット・ビジネス(1)

12. インターネット・ビジネス(2)

13. 情報化社会と労働環境、労働感(1)

14. 情報化社会と労働環境、労働感(2)

15. 課題作成(1)

16. 課題作成(2)

17. 情報と職業(海外)(1)

18. 情報と職業(海外)(2)

19. 情報化社会の諸問題2(1)

20. 情報化社会の諸問題2(2)

21. 情報化社会の諸問題(1)

22. 情報化社会の諸問題(2)

23. 情報化社会の将来予測(1)

24. 情報化社会の将来予測(2)

25. 課題作成(1)

26. 課題作成(2)

27. 情報化社会とマスメディア(1)

28. 情報化社会とマスメディア(2)

29. 課題作成(1)

30. 課題作成(2)

準備学習(予習)

前週までにテーマと資料を提供するので、復習および予習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作ること。

評価方法

(1) 授業への積極的参加、発言など

40%

(2) 課題作成

30%

(3) 試験

30%

教科書

参考書

情報リスク論		INFO-P-400/INFO-L-4
担当教員： 鈴木 省吾		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1P701330
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】 問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識</div>	<div>授業計画</div> <div>01. インターネット社会と情報倫理 02. インターネット社会が抱える問題 03. インターネット上のトラブル 04. インターネット上の脅威 05. 情報セキュリティの技術的対策 06. 情報セキュリティ対策の要点 07. 技術的対策の実際（１） 08. 技術的対策の実際（２） 09. インターネット社会と法 10. 不正アクセス禁止法 11. プロバイダ責任制限法 12. 著作権保護の必要性 13. 著作権保護の課題 14. 個人情報の保護 15. 情報倫理教育へむけて</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 情報コース：基幹科目 【L】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目 【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>インターネット社会における情報伝達に関わる脅威とその実情や対策を学ぶ。クイズやディスカッションを通して各トピックの理解を深め、日常のPC利用、ネット利用に活かせる知識を身につける。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>情報社会に参画する態度を育てる上で、重要なトピックの一つとなる情報リスクについて学ぶ。 個人の倫理観のみならず、法規制や技術的対策により情報社会が支えられていることを、授業への積極的な参加を通して理解する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の該当箇所を熟読の上授業に臨むこと。
</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>小論文、課題を完成させること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 小論文 50% 授業内のディスカッションを通して、完成させる (2) 課題 50% クイズ形式で知識の定着を目指す</div> <div>出席は評価割合に含まないが、5回の出席で不合格とする。遅刻は15分まででそれ以降は欠席扱い。3回の遅刻を欠席1回とみなす。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業での講義やディスカッションを通して、小論文にまとめたり、クイズによって知識の確認を行ったりする。積極的に授業に参加し、貪欲に知識を吸収するとともに、学生自身が知っていることを持ち寄って貢献してほしい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 授業への積極的参加</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

図書館情報技術論（P用）		LIS-0-204	
担当教員： 三日市 紀子			
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 1P701440	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 図書館情報技術論とは・基本用語の確認 02. コンピュータの基礎 03. ネットワークの基礎 04. インターネットサービスの仕組み 05. 検索エンジンの仕組み 06. インターネット上の情報発信（1）(X)HTML／CSS 07. インターネット上の情報発信（2）ウェブユーザビリティ、ウェブアクセシビリティ 08. データベースの基礎（1）データベースの仕組み 09. データベースの基礎（2）データベースの運用 10. 電子資料と図書館（1）電子書籍の基礎知識 11. 電子資料と図書館（2）電子資料の保存および管理 12. コンピュータシステムの管理 13. 図書館における情報技術・デジタルアーカイブ 14. 情報技術と社会、最新の情報技術と図書館 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】司書資格：必修科目【全】司書資格：必修科目 【全】司書資格：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>コンピュータ技術やインターネット技術の基礎、図書館の業務システム、サーチエンジンやデータベースの仕組み、電子資料（電子ジャーナル、電子書籍）などについて解説し、必要に応じて演習を行う。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>今日の図書館ではコンピュータやネットワークを活用した多様な業務やサービスが展開されている。そのような環境の中で、図書館員は単にそれを扱う技術だけではなく、仕組みや現在の動向など幅広い知識を身につけておくことが必要となる。この授業では一般的なコンピュータやネットワークの仕組みのほかに、図書館業務やサービスに関わる情報技術について理解する。</div>		<div>準備学習（予習）</div> <div>毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。</div>	
		<div>準備学習（復習）</div> <div>授業で触れた内容を振り返り、思考を整理することを求める。（内容を振り返る課題を課することもある）</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業では、コンピュータ技術や図書館情報学の用語が多数紹介される。参考図書で用語を調べるなどして、みずからの理解を補うことが必要である。またグループ討論を行うときは積極的に参加すること。携帯電話を授業中に使用しないこと。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験50%60%以上の正解率であること。</div><div>(2) 課題提出・授業内ミニテスト50%授業内および授業外で課する課題（プリント）提出</div></div> <div>ただし、単位修得にあたっては、出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。</div>	
<div>学びのキーワード</div>		<div>教科書</div> <div>プリントを配布する。</div> <div>参考書</div>	

情報サービス論（P用）

INFO-P-200

担当教員：吉田 隆

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1P701550

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】司書資格：必修科目

(1) 内容

図書館における情報サービスの意義・理論・方法を考える。

(2) 学びの意義と目標

「演習」にむけての技能を習得する。

受講者に対する要望

授業＜経営＞に積極的に挑んでください。

学びのキーワード

- ・情報サービス
- ・情報源
- ・利用者
- ・図書館司書
- ・著作権法

授業計画

01. ガイダンス・情報社会と図書館の情報サービス
02. 図書館における情報サービスの理論的展開
03. 図書館における情報サービスの理論的展開
04. レファレンスサービスの理論と実践
05. レファレンスサービスの実際
06. 情報サービスの理論と方法
07. 各種情報源の特質と利用法（1）：情報メディア・文献を探す
08. 各種情報源の特質と利用法（2）：論文・記事を探す
09. 各種情報源の特質と利用法（3）：事項・事実の検索
10. 各種情報源の評価と解説
11. 各種情報源の組織化
12. 発信型情報サービスの意義と方法
13. 情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識
14. 図書館利用教育と情報リテラシーの育成
15. 展望：IT社会と図書館・図書館司書

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで授業に出席してください。

準備学習(復習)

板書・配布資料の要点を自筆のノートに整理してください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 試験 | 60% |

教科書

9784762021947 竹之内禎編著 情報サービス論 学文社

参考書

情報サービス演習 A (P 用)

INFO-P-200

担当教員：吉田 隆

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1P701660

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】司書資格：必修科目

(1) 内容

図書館利用者サービスを情報検索サービス、レファレンスサービスの基本的なプロセスから考える。

(2) 学びの意義と目標

図書館所蔵の情報資源とWeb情報源を駆使して回答するための演習です、図書館・類縁機関の職域だけでなく企業の職域でも活かすことができる情報検索の技能を習得することを目指します。果敢に本演習に挑んでください。

受講者に対する要望

紙媒体資料と電子媒体資料について熟知することが大切です。図書館の蔵書構成について理解を深めてください。

学びのキーワード

- ・レファレンス質問
- ・レファレンスブック
- ・印刷資料
- ・電子資料

授業計画

01. ガイダンス・情報サービスのプロセス
02. 図書情報についての設問
03. 雑誌についての設問
04. 雑誌記事についての設問
05. 新聞記事についての設問
06. 言葉・事柄についての設問
07. 統計についての設問
08. 歴史・日時についての設問
09. 法律についての設問
10. 判例についての設問
11. 特許についての設問
12. 人物・団体についての設問
13. ウィキペディアを検証する
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービスについて

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで出席してください。

準備学習(復習)

課題については、印刷物のレファレンスブックとWeb情報源の両方を併用して回答してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 課題 | 20% |
| (3) 試験 | 60% |

教科書

参考書

9784883672073 原田智子編著 情報サービス演習 樹村房

情報サービス演習 A (P 用)

INFO-P-200

担当教員：吉田 隆

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1P701661

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】司書資格：必修科目

(1) 内容

図書館利用者サービスを情報検索サービス、レファレンスサービスの基本的なプロセスから考える。

(2) 学びの意義と目標

図書館所蔵の情報資源とWeb情報源を駆使して回答するための演習です、図書館・類縁機関の職域だけでなく企業の職域でも活かすことができる情報検索の技能を習得することを目指します。果敢に本演習に挑んでください。

受講者に対する要望

紙媒体資料と電子媒体資料について熟知することが大切です。図書館の蔵書構成について理解を深めてください。

学びのキーワード

- ・レファレンス質問
- ・レファレンスブック
- ・印刷資料
- ・電子資料

授業計画

01. ガイダンス・情報サービスのプロセス
02. 図書情報についての設問
03. 雑誌についての設問
04. 雑誌記事についての設問
05. 新聞記事についての設問
06. 言葉・事柄についての設問
07. 統計についての設問
08. 歴史・日時についての設問
09. 法律についての設問
10. 判例についての設問
11. 特許についての設問
12. 人物・団体についての設問
13. ウィキペディアを検証する
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービスについて

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで出席してください。

準備学習(復習)

課題については、印刷物のレファレンスブックとWeb情報源の両方を併用して回答してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 課題 | 20% |
| (3) 試験 | 60% |

教科書

9784883672073 原田智子編著 情報サービス演習 樹村房

参考書

情報サービス演習B（P）

INFO-P-200/INFO-L-3

担当教員：坂内 悟

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1P701770

学部教育の関連目

- 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る
【L】問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

- 【L】情報コース：基幹科目
【L】高等学校教諭一種免許：情報選択科目 【P】司書資格：必修科目
【P】司書資格：必修科目

(1) 内容

二次情報をはじめとする各種情報資源を対象とする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

(2) 学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通じ実践的な情報検索能力を身につける。

受講者に対する要望

WindowsおよびInternet Explorerが操作できることを前提とした講義を行う。漢字、英字や記号の半角入力等を含めWindowsおよびInternet Explorerの基本的操作をできるようにしておくこと。教科書を毎回持参すること。

学びのキーワード

- ・ 二次情報
- ・ 索引
- ・ 論理演算
- ・ OPAC
- ・ 雑誌記事

授業計画

01. 情報検索とは何か
02. データベースの構造と索引作成
03. 検索の基本方針、検索語とフィールド
04. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
05. 図書検索システム演習
06. 図書検索システム演習
07. 図書検索システム演習
08. 図書検索システム演習
09. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

準備学習(予習)

次回講義に予定している内容に該当する教科書のUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

演習については、同様の課題についての的確に資料を探すことができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

安形 輝, 大谷 康晴 『情報検索演習 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-6)』 (日本図書館協会)

参考書

情報サービス演習B（P用）

INFO-P-200/INFO-L-3

担当教員：坂内 悟

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1P701771

学部教育の関連目

- 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る
【L】問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

- 【L】情報コース：基幹科目
【L】高等学校教諭一種免許：情報選択科目 【P】司書資格：必修科目
【P】司書資格：必修科目

(1) 内容

二次情報をはじめとする各種情報資源を対象とする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

(2) 学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通じ実践的な情報検索能力を身につける。

受講者に対する要望

WindowsおよびInternet Explorerが操作できることを前提とした講義を行う。漢字、英字や記号の半角入力等を含めWindowsおよびInternet Explorerの基本的操作をできるようにしておくこと。教科書を毎回持参すること。

学びのキーワード

- ・ 二次情報
- ・ 索引
- ・ 論理演算
- ・ OPAC
- ・ 雑誌記事

授業計画

01. 情報検索とは何か
02. データベースの構造と索引作成
03. 検索の基本方針、検索語とフィールド
04. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
05. 図書検索システム演習
06. 図書検索システム演習
07. 図書検索システム演習
08. 図書検索システム演習
09. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

準備学習(予習)

次回講義に予定している内容に該当する教科書のUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

演習については、同様の課題についての的確に資料を探すことができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

安形 輝, 大谷 康晴 『情報検索演習 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-6)』 (日本図書館協会)

参考書

政治経済学特論A（日本の裁判を考える）

担当教員：石川 裕一郎

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1PC00510

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

法律学の基礎知識があることを前提に、裁判に関する様々な著作、あるいは判例を丁寧に読解・解釈してゆきます。法解釈の難しさと面白さを存分に味わってください。また、裁判傍聴等のイベント実施も考えています。

取り上げる事件・判例は、担当教員の専門との関係上、憲法裁判が多くなります。しかし、「憲法裁判」といっても、元々は種々雑多な民事事件、刑事事件、行政事件です。丁寧に読んでゆけば、堅苦しい日本語で書かれている判決文に記されている事実、当事者の主張、裁判官の判断を通して、生き生きとした人間世界の営みが垣間見える...はずです。

なお、本講義は少人数のゼミ形式をとることから定員制とし、希望者多数の場合は、希望者の過去の単位修得状況等を参考に選抜を行います。履修希望者は、必ず事前に担当教員に連絡を取るようになしてください。

(2) 学びの意義と目標

日本の裁判制度の基本を理解し、あわせてそれが抱える諸問題を考察することにより、日本の政治・経済・社会の諸問題を法的に考える視座を獲得することをめざします。

受講者に対する要望

「特論」科目ですので、演習科目と同様に、受講者が主体的に授業に参加する」ことが強く求められます。

学びのキーワード

- ・ 法学
- ・ 裁判法学
- ・ 訴訟法学
- ・ 憲法学
- ・ 法社会学

授業計画

01. 授業の進め方（講義）
02. 報告と討論
03. 報告と討論
04. 報告と討論
05. 報告と討論
06. 報告と討論
07. 報告と討論
08. 中間総括（講義）
09. 報告と討論
10. 報告と討論
11. 報告と討論
12. 報告と討論
13. 報告と討論
14. 報告と討論
15. 報告と討論

準備学習(予習)

毎回の講義に臨むに当たっては、事前のテキストの読み込みは必須です。また、レジュメの担当が定期的に回ってきます。相応の予習量になります。

準備学習(復習)

毎回の講義の後の討論内容を踏まえ、自分が準備したプレゼンテーションの内容を補訂し、後に提出することを求めます。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 80% | プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。 |
| (2) 期末レポート | 20% | |

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

教科書

授業内で指示します。

参考書

授業内で指示します。

政治経済学特論 A (20世紀の法文化)		
担当教員： 石川 裕一郎		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1PC02110
学部教育の関連目	授業計画	
	01. 授業の進め方（講義） 02. 報告と討論 03. 報告と討論 04. 報告と討論 05. 報告と討論 06. 報告と討論 07. 報告と討論 08. 中間総括（講義） 09. 報告と討論 10. 報告と討論 11. 報告と討論 12. 報告と討論 13. 報告と討論 14. 報告と討論 15. 報告と討論	
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
<p>法律学の基礎知識があることを前提に、それが現実の社会・文化との間にどのような相互作用関係にあるのか、法に関する様々なテキスト・イメージ・映像・音楽を用いて考えてゆきます。また、裁判傍聴等のイベント実施も考えています。</p> <p>取り上げる法分野は、担当教員の専門との関係上憲法が中心となりますが、民事・刑事・行政事件等も取り上げる予定です。</p> <p>なお、本講義は少人数のゼミ形式をとることから定員制とし、希望者多数の場合は、希望者の過去の単位修得状況等を参考に選抜を行います。不明な点は、事前に担当教員に確認してください。</p>		
(2) 学びの意義と目標		
<p>日本の法制度の基本を理解し、あわせてそれが抱える諸問題を考察することにより、日本の政治・経済・社会・文化の諸問題を法的に考える視座を獲得することをめざします。</p>		
受講者に対する要望		
<p>「特論」科目ですので、演習科目と同様に、受講者が主体的に授業に参加する」ことが強く求められます。</p>		
学びのキーワード	教科書 授業内で指示します。	
	参考書 授業内で指示します。	

政治経済学特講(西洋政治思想講読A)

POSC-P-400

担当教員：高橋 愛子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1PC10001

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講座では、西洋の政治思想に関する高度の専門性をもつ文献を講読する。受講者がそれぞれ分担のうえ、レジュメに基づくプレゼン及び議論を行っていく。卒論執筆指導を伴う。
＜カリキュラム上の位置づけ＞3年次必修の「卒業研究A」「卒業研究B」を修得済みである4年次生が、さらに自らの研究テーマを掘り下げて学ぼうとする際に高度の専門性を身につけるための場として提供される。

(2) 学びの意義と目標

西洋政治思想の諸概念についての理解を深め、一層掘り下げた議論ができるようになること。特に、大学院進学希望者にとって不可欠となる文献の読解力および論文執筆に必要とされる基礎的な能力を養成することを狙いとする。卒論を完成する。
＜受講の条件＞3年次に「卒業研究A」「卒業研究B」を修得済みであること、卒論執筆予定であること（講義担当者の「専門演習」「卒業研究」履修者には限らないが、それ以外の演習履修者の場合には事前にコンタクトをとること）。

受講者に対する要望

独自の研究テーマを持ち、そのテーマに関する専門的文献への積極的な問題意識を持つこと。

学びのキーワード

- ・文献リサーチ
- ・アーティクル・レビュー

授業計画

01. 導入：一学期間の進め方のオリエンテーション、分担の決定
02. 共通テキストの講読・議論
03. 共通テキストの講読・議論
04. 共通テキストの講読・議論
05. 共通テキストの講読・議論
06. 共通テキストの講読・議論
07. 共通テキストの講読・議論
08. 共通テキストの講読・議論
09. 共通テキストの講読・議論
10. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
11. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
12. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
13. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
14. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
15. 一学期間のまとめ

準備学習(予習)

自らの研究テーマについての明確な問題意識をもち、それを文字化して記述すること。

準備学習(復習)

議論で指摘された点についてのレポート作成。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 20% |
| (2) プレゼン | 40% |
| (3) 小論文 | 40% |

教科書

初回授業において指示する。

参考書

政治経済学特講(西洋政治思想講読B)

POSC-P-400

担当教員：高橋 愛子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1PC10102

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講座では、西洋の政治思想に関する高度の専門性をもつ文献を講読する。受講者がそれぞれ分担のうえ、レジュメに基づくプレゼン及び議論を行っていく。卒論執筆指導を伴う。
＜カリキュラム上の位置づけ＞3年次必修の「卒業研究A」「卒業研究B」を修得済みである4年次生が、さらに自らの研究テーマを掘り下げて学ぼうとする際に高度の専門性を身につけるための場として提供される。

(2) 学びの意義と目標

西洋政治思想の諸概念についての理解を深め、一層掘り下げた議論ができるようになること。特に、大学院進学希望者にとって不可欠となる文献の読解力および論文執筆に必要とされる基礎的な能力を養成することを狙いとする。卒論を完成する。
＜受講の条件＞3年次に「卒業研究A」「卒業研究B」を修得済みであること、卒論執筆予定であること（講義担当者の「専門演習」「卒業研究」履修者には限らないが、それ以外の演習履修者の場合には事前にコンタクトをとること）。

受講者に対する要望

独自の研究テーマを持ち、そのテーマに関する専門的文献への積極的な問題意識を持つこと。

学びのキーワード

- ・文献リサーチ
- ・アーティクル・レビュー

授業計画

01. 導入：一学期間の進め方のオリエンテーション、分担の決定
02. 共通テキストの講読・議論
03. 共通テキストの講読・議論
04. 共通テキストの講読・議論
05. 共通テキストの講読・議論
06. 共通テキストの講読・議論
07. 共通テキストの講読・議論
08. 共通テキストの講読・議論
09. 共通テキストの講読・議論
10. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
11. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
12. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
13. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
14. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
15. 一学期間のまとめ

準備学習(予習)

自らの研究テーマについての明確な問題意識をもち、それを文字化して記述すること。

準備学習(復習)

議論で指摘された点についてのレポート作成。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 20% |
| (2) プレゼン | 40% |
| (3) 小論文 | 40% |

教科書

初回授業において指示する。

参考書

政治経済学特講(法学)		LAW-P-400				
担当教員： 石川 裕一郎						
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1PC11103				
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業の進め方（講義） 02. 卒業論文の書き方（講義） 03. 報告と討論 04. 報告と討論 05. 報告と討論 06. 報告と討論 07. 報告と討論 08. 中間総括（講義） 09. 報告と討論 10. 報告と討論 11. 報告と討論 12. 報告と討論 13. 報告と討論 14. 報告と討論 15. 報告と討論</div>					
<div>カリキュラム上の位置付け</div>						
<div>(1) 内容</div> <div>原則として「卒業演習（比較憲法）」の履修者を対象とする。 より発展的な事例研究を行う授業。ゼミ形式とし、自身の研究の報告と参加者による討論を中心とする。</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>論理的思考力と文章の書き方を身につけると、またそれをプレゼンテーションする実践力を身につける。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>自身の研究の進捗状況は毎回チェックされるので、報告できるようにしておくこと。また、他の報告者の内容について、質問ができるように予習しておくことも必要となる。</div>					
	<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回質疑応答で答えられなかった問いについては、Web上で次回授業までに回答することで復習されたとみなす。</div>					
<div>受講者に対する要望</div> <div>研究テーマを明確にもっていること。また発表と討論に積極的に加わる意欲のある者。</div>	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 報告</td><td>50%</td></tr></table> <div>平常点は、普段の議論への参加態度による。</div>		(1) 平常点	50%	(2) 報告	50%
(1) 平常点	50%					
(2) 報告	50%					
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 卒論執筆を前提にした研究報告</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>					

政治経済学特論B (ジェンダー法)

LAW-P-400

担当教員： 武藤 健一

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位：4 コード：1PC30101

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

ジェンダー法の範囲は法すべてに渡っていますが、当然そのすべてを扱うことは不可能です。

そこでこの授業では、下記にあるような現代の状況を踏まえ、本年度も労働に見られる構造と、最近特に若い人達に増えてきた非正規労働について、統計資料を使いながら、そしてその法制度についての検討を、ジェンダーの観点から講義することになります。

そして、その内容を踏まえて、各人で意見を持てるように、受講者の皆さんでディスカッションをしてもらいます(予定)。

(2) 学びの意義と目標

最近増加し、全体の4割ほどを占めるパートや派遣などの非正規雇用が不安定な状況におかれています。これは、昨今いわれている「格差社会」をもたらす原因でもあります。この不安定な状況におかれている非正規労働者で報道されたりしているのはほとんど男性です。しかしながら、非正規労働の今までの流れを見ると、その代表的存在である派遣もパートも、元々多かったのは女性の方です。言い換えれば、日本の社会の中で前から格差社会が存在し、最近で生きてきたのは女性であるとも言えるのです。更に言えば、その中で非正規の流れで若い世代の人が正社員として就職できないということも由々しき事態です。

そこで、この労働の場面をジェンダーという側面から検討することで、昨今いわれている非正規労働論や格差社会論が落としてきた側面を理解し、法制度がどうなっているかを学んでいくのが、この授業の内容です。労働におけるジェンダー問題を法学というフィルターを通して考えることをこの講義の目的とします。

ただし、法学科目であるにもかかわらず、ジェンダー法学の前提となる社会科学の成果を大いに取り入れて、授業を進めることになります(特に統計資料を大いに利用します)。

受講者に対する要望

授業の支障になること以外は何をやっても構いませんが、お喋りや10分以上の遅刻などはまったくもって許されません。
授業の最後にリアクション=ペーパーを作成してもらうので(=小テスト)、授業をしっかり聴く意欲のない場合は単位を取得できない可能性が極めて高いと断言しておきます。

学びのキーワード

- ・労働
- ・ジェンダー法
- ・派遣労働
- ・パート労働
- ・育児休業

授業計画

01. (0) ガイダンス
02. (1) 労働の基本構造 ～ 戦後の労働構造
03. (1) 労働の基本構造 ～ M字型雇用形態
04. (1) 労働の基本構造 ～ M字型雇用形態の変化等
05. (1) 労働の基本構造 ～ 周辺労働・事務・非正規労働
06. (1) 労働の基本構造 ～ 現在の労働構造
07. (1) ディスカッション
08. (2) 派遣労働 ～ 派遣の仕組み
09. (2) 派遣労働 ～ その類型
10. (2) 派遣労働 ～ 事務と不本意派遣
11. (2) 派遣労働 ～ 紹介予定派遣等
12. (2) 派遣労働 ～ 労働者派遣法①
13. (2) 派遣労働 ～ 労働者派遣法②
14. (2) 派遣労働 ～ 安倍政権と派遣法改悪
15. (2) ディスカッション
16. (3) パート労働 ～ あらゆる所に広がるパート
17. (3) パート労働 ～ 母親たちの自発的パート
18. (3) パート労働 ～ 若者に広がる不本意パート
19. (3) パート労働 ～ 103・130万円の壁
20. (3) パート労働 ～ 年金の3号問題
21. (3) パート労働 ～ 配偶者特別控除等
22. (3) パート労働 ～ パートタイム労働法
23. (3) パート労働 ～ オランダのハーフタイム労働
24. (3) ディスカッション
25. (4) 育児休業 ～ 女性の大半は辞める
26. (4) 育児休業 ～ 育児・介護休業法
27. (4) 育児休業 ～ 育休と男性
28. (4) 育児休業 ～ パパ=クォータ制
29. (4) ディスカッション
30. (5) ディスカッション試験とその解説

準備學習(予習)

授業内容が最新のものを扱うので、事前に学生が調べたりする予習は不可能ですが、プリント(レジュメ)にあるもので、知らない言葉があれば、事前に調べておくことは必須事項です。

準備學習(復習)

解答後に添削され返却されるリアクション=ペーパーの内容について、授業での解説を踏まえて復習しておくこと。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------------------------|
| (1) 授業 | 67% | リアクション=ペーパーとディスカッションの評価による |
| (2) 学期末試験 | 33% | ディスカッション試験の予定 |

教科書

参考書

政治経済学特論B (ジェンダーと憲法)

LAW-P-400

担当教員：武藤 健一

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1PC30202

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

憲法学の中心的存在である人権とジェンダーの関係を
考えていくと、家族の枠組みが人権のあり方に影響を及
ぼしていることが見て取れます。

そこで、ジェンダー憲法学から問題視される中心的な存在である家族単位主義の問題点を理解するために、人権と家族単位がどの様に関係しているかを人権の歴史からまず紐解き、それを踏まえて、現代でも家族単位が人権のあり方にどの様な影響を与えているかを明らかにします。

それによって、多くの人にとって身近な家族(単位主義)という存在が人権にとっていかに重要なポイントであるかを理解してもらうことが、本講義の内容であり目的です。

また、人権論において従来見逃されがちであった性(セクシュアリティ)の観点からも考察を行います。

(2) 学びの意義と目標

法学専攻でもなく法解釈学の基礎を知らない学生からすれば、一般的な法学の授業によく見られるような各条文の解釈論を展開していくことは難しいと思われるので、それを扱うことはありません。

特に卒業後、子どもに関わる職業を選択する学生にとって、子どもの虐待に関する法律論や子どもの人権論は理解しておくことが必要だと思われます。そのような学生でなくとも、家族のあり方に繋がるポイントから人権のあり方を理解しておくことは、将来自分が家族を持つか持たないかどうにかかわらず、必要なことだと考えられます。

なお、講義内容を踏まえて、各人で意見を持てるよう
に、受講者の皆さんでディスカッションをしてもらいま
す(予定)。

受講者に対する要望

授業の支障になること以外は何をやっても構いませんが、お喋りや10分以上の遅刻などはまったくもって許されません。
また、授業を聴いていないと書けないリアクション＝ペーパー(＝授業内テスト)を作成してもらうので、意欲のない学生は単位を取得できない可能性が極めて高いことを明示しておきます。
教職科目の単位取得のためといった履修目的のみでは、学生の負担が重たい授業であることを充分考慮して下さい。

学びのキーワード

- ・ジェンダー
- ・人権論
- ・暴力と人権
- ・子どもの虐待
- ・性暴力

授業計画

01. (0) ガイダンス
02. (1) ジェンダー憲法学の基礎～ 人権の誕生と家族単位：フランス革命①
03. (1) ジェンダー憲法学の基礎～ 人権の誕生と家族単位：フランス革命②
04. (1) ジェンダー憲法学の基礎～ 家族単位主義的人権：ジェンダーとの関
05. (1) ジェンダー憲法学の基礎～ 家族単位主義的人権：労働と人
06. (1) ジェンダー憲法学の基礎～ 家族単位主義的人権：人権と性、家事労働論
07. (2) 子どもの「虐待」～ 虐待とChild Abuse
08. (2) 子どもの「虐待」～ 虐待防止法：虐待の定義
09. (2) 子どもの「虐待」～ 虐待防止法：通告義務と密室性
10. (2) 子どもの「虐待」～ 虐待防止法：改正内容
11. (2) 子どもの「虐待」～ 虐待防止法：その問題と限界
12. (2) 子どもの「虐待」～ 虐待防止法：懲戒権という「しつけ」
13. (2) ディスカッション
14. (3) LGBTと性同一性障害 ～ 性的指向の多様性
15. (3) LGBTと性同一性障害 ～ 性同一性障害(GID)と性別
16. (3) LGBTと性同一性障害 ～ GID特例法①：定義・変更要件
17. (3) LGBTと性同一性障害 ～ GID特例法②：問題点
18. (3) ディスカッション
19. (4) ストーカーとDV ～ ストーカー(ストーカー行為)とDVとは
20. (4) ストーカーとDV ～ DV防止法
21. (4) ストーカーとDV ～ ストーカー規制法
22. (4) ストーカーとDV ～ 法律の限界・問題点
23. (4) ディスカッション
24. (5) 性暴力と性犯罪 ～ 刑法犯と性暴力
25. (5) 性暴力と性犯罪 ～ わいせつとは何か？
26. (5) 性暴力と性犯罪 ～ 有形力の行使が必要？
27. (5) 性暴力と性犯罪 ～ 刑法犯とジェンダー
28. (5) 性暴力と性犯罪 ～ 世界基準の犯罪要件
29. (5) ディスカッション
30. (6) ディスカッション試験とその解説

準備學習(予習)

授業内容の關係上、事前に學生が予習できる項目は少ないですが、プリント(レジュメ)を見て、自分が知らない言葉があれば、その意味等を調べておくことは最低限要求されます。

準備學習(復習)

授業内で解答し、添削・返却されるリアクション=ペーパーの内容に関しては、次の授業での解説を踏まえてしっかりと復習しておくこと。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-------------------|
| (1) 授業 | 67% | リアクション=ペーパーの評価による |
| (2) 学期末試験 | 33% | ディスカッション試験の予定 |

教科書

参考書

担当教員： 田口 安克

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1PC70110

学部教育の関連目

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

ファイナンシャル・プランナー（FP）は、金融、保険、不動産、税金など、「お金」回りの知識を備え、個々人の夢や目標実現のために、将来的な生活設計と一緒に作成し、必要な「お金」の使い方や貯め方などを総合的にアドバイスする職業である。本講義では、FPのもっとも根幹である「お金」について学ぶ。これは、学生生活はもとより、社会人になっても役立つ知識である。「お金」に関する基本的な知識を身につけたのち、FPの初級レベルである3級技能士レベルの金融、保険、税金、不動産の概要を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

「お金」に関する知識を高めることで、合理的な選択、トラブル回避、将来的な生活設計が立てられる。くわえて、FP資格取得のための入門的知識が得られる。

受講者に対する要望

FPの仕事に興味を感じたら、資格取得のための勉強もはじめてほしい。

学びのキーワード

- ・ お金
- ・ ライフプランニング
- ・ リスク管理
- ・ 税金
- ・ 金融資産・不動産

授業計画

01. お金を知る
02. お金を使う
03. お金を稼ぐ
04. お金を貯める・増やす
05. お金を借りる
06. お金のトラブル回避
07. 社会参加費用としての税金
08. 万が一のために—社会保険と民間保険
09. ライフプランとお金
10. 金融資産の基礎知識
11. 不動産の基礎知識
12. リスク管理の基礎知識
13. タックスプランニング
14. 相続・事業承継
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に指定した教科書の当該箇所を読んでくること。

準備学習(復習)

小テストでの解説を再読し、各項目の理解を深めること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|---|
| (1) 講義への参加度 | 30% | 講義開始前に出席していることはもちろん、講義への参加の積極性を発言等を通じて評価する。 |
| (2) 小テスト | 30% | 講義内容の理解度をみる。 |
| (3) 期末試験 | 40% | 講義内容の総合的な理解度をみる。 |

教科書

「10代から学ぶ パーソナルファイナンス」日本FP協会

参考書

担当教員：永井 キクヨ

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1PC70220

学部教育の関連目

【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

ビジネスの世界で求められるビジネスマナー・社会人基礎力を学び、身につけます。学校から社会への橋渡しをイメージし、実践形式で進めます。

(2) 学びの意義と目標

ビジネスマナー、社会人基礎力は社会で生きていくために必要な能力です。なぜ必要なのかというスタートから激変するビジネスの世界での対応力まで、様々な角度から学びます。学んだことを身につけ、発揮できることを目標とします。後半には驚異のノート術というマインドマップを学びます。このノート術は、学習・記憶・プレゼンテーション等々、さまざまなことに応用できます。

受講者に対する要望

社会に出る自分を想像しながら授業に取り組みましょう。講義、グループワーク、発表からさまざまなことを学び取ってください。

学びのキーワード

- ・ビジネスマナー
- ・社会人基礎力
- ・コミュニケーション
- ・マインドマップ

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学生と社会人の違い
03. 社会人基礎力とは～主体性と働きかけ力～
04. コミュニケーション
05. 好感をもたれる聴き方
06. 社会人基礎力～傾聴力～
07. 信頼される話し方
08. 社会人基礎力～発信力～
09. 電話対応基礎①
10. 電話対応基礎②
11. 社会人に要求されるストレス耐性とは
12. 社会人基礎力～ストレスコントロール力～
13. 社会人基礎力～現状把握力～
14. 前半のまとめ
15. 社会人基礎力～柔軟性～
16. リフレーミングの重要性
17. ビジネス文書
18. 訪問のマナー
19. 冠婚葬祭のマナー
20. 社会人基礎力～実行力～
21. 社会人基礎力～創造力～
22. マインドマップ①
23. マインドマップ②活用術
24. マインドマップ③活用術
25. マインドマップ④自分を表現しよう！
26. マインドマップ⑤自分を表現しよう！
27. 社会人に求められるホスピタリティ①
28. 社会人に求められるホスピタリティ②
29. 強い社会人になるためには
30. まとめ

準備学習(予習)

テーマに基づき課題を出しますので、事前準備をしてください。

準備学習(復習)

毎回振り返りを行います。適宜、小テストや課題を提出し、理解度を確認します。

評価方法

- | | |
|-------------|------------|
| (1) テスト | 30% |
| (2) 授業の取り組み | 40% 授業時提出物 |
| (3) 授業への参加度 | 30% |

教科書

仮題「伝え方の方程式」 2015年春出版予定 (出版社 株式会社 シーアンドアール)

参考書

秘書学概論

INTD-P-200/INTD-L-2

担当教員：永井 キクヨ

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1PC70310

学部教育の関連目

【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

秘書学で学ぶ、資質・言動・技能は社会人として求められるスキルです。上司のためだけでなく、社会の一員としてどう振る舞えばよいのかを学びます。秘書検定2級の過去問題を解いていくので、受験する学生には試験対策にもなります。

(2) 学びの意義と目標

秘書学概論の学びは、秘書を目指す人だけでなく社会に出る全ての人に役立ちます。ビジネスマナー、組織内外の基本的な知識と技能、コミュニケーションなどの幅広い学びは社会に出て必要なことばかりです。問題の正誤だけでなく、意味を理解し、社会人として行動できるようになることを目標とします。

受講者に対する要望

毎回の講義、グループワーク、ロールプレイングからテキスト以外の部分をたくさん学んでください。

学びのキーワード

- ・秘書検定
- ・ビジネスマナー
- ・コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション
02. 職業人としての自覚と心構え
03. 求められる能力
04. 求められる能力～対人関係能力～
05. 秘書の機能
06. あいさつと話し方、聞き方①
07. あいさつと話し方、聞き方②
08. あいさつと話し方、聞き方③
09. 仕事の進め方①
10. 仕事の進め方②
11. 電話対応①
12. 電話対応②
13. 来客対応①
14. 来客対応②
15. 前半のまとめ
16. 社会常識①
17. 経営知識①
18. 経営知識②
19. 社会常識②
20. 会議
21. 交際業務①
22. 交際業務②
23. ビジネス文書の作成
24. ビジネス文書の取り扱い
25. 資料管理
26. スケジュール管理
27. 環境整備
28. 接遇マナー
29. よい秘書（社会人）とは
30. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、事前にテキストを読んでください。

準備学習(復習)

毎回振り返りを行います。適宜、小テストや課題を提出し、理解度を確認します。

評価方法

- | | |
|--------------|------------|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 授業への取り組み | 30% 授業時提出物 |
| (3) 授業への参加度 | 20% |

教科書

実務技能検定協会 『新秘書特講：秘書検定で学ぶオフィスの常識と心構え』（早稲田教育出版社）

参考書

法政情報基礎 A

INTD-P-100/LCP0-L-2

担当教員： 渡辺 英人

學期： 週間授 科目： 專門科目 必修・選択： 必修科目

単位：2 コード：1PC70410

学部教育の関連目

【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

(2) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・導入科目
- ・演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備學習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備學習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

西洋史概説A		TEAT-P-200/TEAT-L-1	
担当教員：南 祐三			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD00431	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. ガイダンス 02. 先史ヨーロッパと古代オリエント 03. 地中海世界(1)：ギリシア 04. 地中海世界(2)：ローマ 05. キリスト教世界について 06. 西欧中世世界の成立 07. キリスト教の浸透と中世の文化 08. 中世ヨーロッパ諸国の変遷 09. ルネサンスについて 10. 宗教改革について 11. ヨーロッパ主権国家体制(1)：三十年戦争 12. ヨーロッパ主権国家体制(2)：イギリス複合国家体制 13. ヨーロッパ主権国家体制(3)：フランス絶対王政 14. 近世ヨーロッパの国際秩序 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
「我われが生きているこの世界はどのようにして成立しているのか」という問題意識のもと、西洋世界の歴史について学ぶ。各時代や地域を特徴づける出来事を紹介し、歴史が動くメカニズムを意識しながら時代順に解説していく。西洋史概説Aでは、古代世界からフランス革命勃発以前の歴史を取り上げる。 なお本講義では、毎回の授業終了時に、講義内容についての確認や疑問点を記したレビューシートを提出してもらい、双方向のやり取りを心掛けたい。また、この提出をもって、出席状況をチェックする。			
(2) 学びの意義と目標			
西洋は、日本にとって近代化のモデルであっただけでなく、長きにわたり、多方面で大きな影響や刺激を与えてくれている存在である。つまり、西洋は我われにとって「他者」であると同時に、自分自身を映し出す鏡でもある。本講義では、このような歴史感覚を養いながら、現代世界の成り立ちを理解することをめざす。		準備学習(予習)	
		受講にあたって世界史や西洋史の基礎知識は必須ではないが、興味のあるテーマについて、自ら進んで文献を読んでみてほしい。	
		準備学習(復習)	
		各回の講義内容の要点を確認するだけでなく、より理解を深めるために、さらに自分で調べてみるのが望ましい。	
受講者に対する要望		評価方法	
講義中に解説できることは、西洋史のエッセンスの一部分でしかない。疑問に思ったことや関心を持ったことについては、積極的に自ら調べてみてほしい。		(1) 平常点 40% 出席状況と受講態度 (2) テスト 60%	
学びのキーワード		教科書	
・ 西洋史 ・ 国際関係 ・ グローバリゼーション		成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美緒、桑島 良平 『山川世界史総合図録』 (山川出版社)	
		参考書	

西洋史概説B		TEAT-P-200/TEAT-L-1	
担当教員：南 祐三			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD00532	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. ガイダンス 02. アメリカ合衆国の独立と発展 03. フランス革命(1)：革命はなぜ起きたのか 04. フランス革命(2)：革命は何を変えたのか 05. 19世紀ヨーロッパ社会・政治・経済の変容 06. 19世紀ヨーロッパの国際秩序 07. 第一次世界大戦(1)：勃発と経過 08. 第一次世界大戦(2)：国家・社会の変化 09. 両大戦間期(1)：ヴェルサイユ体制と平和の模索 10. 両大戦間期(2)：世界恐慌とファシズム 11. 第二次世界大戦(1)：勃発と経過 12. 第二次世界大戦(2)：協力と抵抗 13. 戦後のヨーロッパ(1)：冷戦 14. 戦後のヨーロッパ(2)：ヨーロッパ統合へ 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目			
(1) 内容			
「我われが生きているこの世界はどのようにして成立しているのか」という問題意識のもと、西洋世界の歴史について学ぶ。各時代や地域を特徴づける出来事を紹介し、歴史が動くメカニズムを意識しながら時代順に解説していく。西洋史概説Bでは、アメリカ独立革命およびフランス革命からヨーロッパ統合までの歴史を取り上げる。 なお本講義では、毎回の授業終了時に、講義内容についての確認や疑問点を記したレビューシートを提出してもらい、双方向のやり取りを心掛けたい。また、この提出をもって、出席状況をチェックする。			
(2) 学びの意義と目標			
西洋は、日本にとって近代化のモデルであっただけでなく、長きにわたり、多方面で大きな影響や刺激を与えてくれている存在である。つまり、西洋は我われにとって「他者」であると同時に、自分自身を映し出す鏡でもある。本講義では、このような歴史感覚を養いながら、現代世界の成り立ちを理解することをめざす。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
講義中に解説できることは、西洋史のエッセンスの一部分でしかない。疑問に思ったことや関心を持ったことについては、積極的に自ら調べてみてほしい。		受講にあたって世界史や西洋史の基礎知識は必須ではないが、興味のあるテーマについて、文献を読むなどして調べておくことが望ましい。	
学びのキーワード		準備学習(復習)	
・ 西洋史 ・ 国際関係 ・ グローバリゼーション		各回の講義内容の要点を確認するだけでなく、より理解を深めるために、さらに自分で調べてみることを望ましい。	
		評価方法	
		(1) 平常点 40% 出席状況と受講態度 (2) テスト 60%	
		教科書	
		成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美緒、桑島 良平 『山川世界史総合図録』(山川出版社)	
		参考書	

東洋史概説 A		TEAT-P-200/TEAT-L-2	
担当教員： 赤坂 恒明			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD00771	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 序 02. アジアとヨーロッパ 03. 「東洋」という概念 04. 歴史編纂をめぐる諸問題 05. 中華思想 06. 冊封体制論 07. 志賀島出土の金印と、邪馬台国女王 卑弥呼をめぐる諸問題 08. 倭の五王 09. 遣隋使(1) 「日、出ずるところの天子」の国書に対する隋の煬帝の対処 10. 遣隋使(2) 小野妹子が隋の煬帝から授かった返書を紛失した事件 11. 古朝鮮 12. 高句麗 13. 渤海 14. 吐蕃（古代チベット） 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
前近代のアジア各地域の歴史を取り上げる。特に東アジアについては、国際秩序としての「冊封体制」について具体的に詳論する。また、東洋史をも含む歴史全般に興味を持つ受講者に、自主的にさらに関心を深めていくことができるように、歴史研究の基礎ならびに方法論についても簡単に紹介する。 この授業のカリキュラム上の位置づけは、東洋史に関する入門的な位置づけであり、基礎的な講義である。日本史を学ぼうとする学生にも適している。			
(2) 学びの意義と目標			
アジアの多様性を理解すると同時に、歴史事象を正確に把握できるようになる。そして、主観的・独断的な判断をすることなく、それらの歴史的意味を解釈する歴史的思考法を持つことができるようになること。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
授業への積極的な参加が望まれる。 漢字を読めない留学生には、履修が困難である。		講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。	
		準備学習(復習)	
		復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認する。 各自の自主的な復習を期待する。	
		評価方法	
		(1) 平常点 10% (2) 試験（小テスト含む） 90%	
		期末試験は、論述形式（問題は選択）で行い、教材の持ち込みを不可とする。	
学びのキーワード		教科書	
・ 歴史 ・ 東アジア ・ 東洋 ・ 中国 ・ 日中関係		資料を配布するので、教科書は使用しない。	
		参考書	
		世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。参考文献等は講義中に紹介する。	

東洋史概説B		TEAT-P-200/TEAT-L-2	
担当教員： 赤坂 恒明			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD00872	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 序 02. 「オホーツク文化」と東北アジア 03. 「もうひとつの蒙古襲来」：元（モンゴル）軍の樺太（サハリン）侵攻 04. 山丹交易：「鎖国」の江戸時代と清朝を、毛皮と絹が結んだ、北まわりの交易 05. アムール川中・下流域と樺太の先住諸民族と近代 06. 貿易立国、琉球王国の繁栄 07. 「琉球処分」をめぐる日清関係：清朝領となるはずであった先島諸島（八重山・宮古列島） 08. 韓国併合への道 09. 日本による朝鮮半島の植民地支配（1）第一期 10. 日本による朝鮮半島の植民地支配（2）第二期と第三期 11. 「戦争抛棄二関スル条約」（パリ不戦条約）と満洲事変 12. 内蒙古におけるモンゴル人のまなざしから見た日本の「侵略」 13. 熱河作戦 14. 「支那事変」：盧溝橋事件から「南京大虐殺」へ 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 中学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目			
(1) 内容			
東アジアの一地域としての日本が他の諸地域といかなる関係にあったか、という問題を中心に、主に近現代の歴史のなかから関連するいくつかの事例をとりあげ、個別に論じる。「日本史」の立場からはしばしば看過される問題を積極的に取り上げ、近代的な国民歴史学によって体系化された「一国史」の枠組についても批判的に分析する。 この授業のカリキュラム上の位置づけは、入門的な位置づけの基礎的な講義であり、日本史を学ぼうとする学生にも適している。			
(2) 学びの意義と目標			
「日本史」の枠にとらわれることなく、日本列島の歴史を、より広い視野から見るができるようになること。近現代の東アジアにおいて日本が関わった具体的な歴史事象を正確に把握するのみならず、体系化された歴史の枠組がいかに我々の同時代的な状況と密接な関係にあるかについても、理解できるようになること。		準備学習(予習) 講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。	
		準備学習(復習) 復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認する。各自の自主的な復習を期待する。	
受講者に対する要望		評価方法	
授業への積極的な参加が望まれる。 なお、漢字を読めない留学生には、履修が困難である。		(1) 平常点 10% (2) 試験（小テスト含む） 90%	
		期末試験は、論述形式（問題は選択）で行い、教材の持ち込みを不可とする。	
学びのキーワード		教科書	
・ 歴史 ・ 東アジア ・ 沖縄 ・ 朝鮮 ・ 中国		資料を配布するので、教科書は使用しない。	
		参考書	
		世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。参考文献等は講義中に紹介する。	

自然地理学概説		TEAT-P-200/TEAT-L-1	
担当教員： 秋山 秀一			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD01010	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 導入 02. 地形図を読む 03. 地形を読む 04. 自然地理学と暮らし 05. 地震と暮らし 06. 日本の温泉 07. 世界の温泉①（ドイツ、イタリア、アメリカ） 08. 世界の温泉②（アイスランド、ロシア、アジア諸国） 09. 海岸の地形 10. 砂漠 11. アジアの自然 12. ヨーロッパの自然 13. 世界の自然遺産①（中国、ベトナム、韓国） 14. 世界の自然遺産②（カナダ、スイス、クロアチア） 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
世界の各地ではいろいろな人々が生活基盤となるその土地の自然環境を理解し、土地に根ざして工夫しながら暮らしています。この授業では、日本、アメリカ、そしてスイスを中心としたヨーロッパ諸国における自然を自然地理学の視点から具体的に取り上げ、学びます。			
(2) 学びの意義と目標			
自然地理学の知識を身につけることは、とても大切なことであり、国際理解度を高めることにも大きく寄与します。そのことは卒業後どのような仕事に就こうと、意義があり重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た自然地理の映像、資料、それに書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
日頃から自然を意識する人、関心がある人、大好きな人、また、自然を観る目を学び身につけたいと考えたことのある人、そんな人たちの受講を望みます。		授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。	
		準備学習(復習)	
		配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。	
		評価方法	
		(1) 日頃の授業への貢献度 30% (2) 平常点 30% (3) 小レポート、それにまとめたレポート 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 国立公園 ・ 水と暮らし ・ 地震 ・ 温泉 ・ ハザードマップ		秋山 秀一 『世界、この魅力ある街・人・自然』（八千代出版）	
		参考書	

地誌学概説 A		TEAT-P-200/TEAT-L-2	
担当教員： 秋山 秀一			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD01451	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 導入 02. 現代社会と交通 03. 地図を読む 04. アジアの中の日本 05. 韓国 06. ベトナム 07. ミャンマー 08. マレーシア 09. 香港・マカオ 10. 中国・台湾 11. タイ 12. ラオス、カンボジア 13. フィジーと太平洋の島々 14. オーストラリア、ニュージーランド 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにアジア諸国と太平洋の島々における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的にに取り上げながら、地域の今を学んでいきます。			
(2) 学びの意義と目標			
卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。		準備学習(予習)	
		授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。	
		準備学習(復習)	
		配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。	
		評価方法	
		(1) 日頃の授業への貢献度 30% (2) 平常点 30% (3) 小レポート、それにまとめとしてのレポート 40%	
受講者に対する要望			
地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。			
学びのキーワード		教科書	
・ 地域研究 ・ 地図 ・ アジア ・ フィールドワーク ・ 観光写真		秋山 秀一 『フィールドワークのススメーアジア観光・文化の旅』（学文社）	
		参考書	

地誌学概説B		TEAT-P-200/TEAT-L-2	
担当教員： 秋山 秀一			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD01552	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 導入 02. メンタルマップ 03. 東京はアフリカだ 04. 国際化の中の日本 05. 日本①（東京） 06. 日本②（関東地方） 07. 日本③（日本全国） 08. アメリカ①（東海岸） 09. アメリカ②（西海岸） 10. ヨーロッパ 11. イギリス 12. ロンドン 13. フランス 14. イタリア 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会選択科目【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目			
(1) 内容			
世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにヨーロッパ諸国並びにアメリカ、そして、日本の各地、における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げながら、地域の今を学び、街歩きの楽しさも修得していきます。			
(2) 学びの意義と目標			
卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。		準備学習(予習)	
		授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。	
		準備学習(復習)	
		配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。	
受講者に対する要望		評価方法	
地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。		(1) 日頃の授業への貢献度 30% (2) 平常点 30% (3) 小レポート、それにまとめとしてのレポート 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ ヨーロッパ ・ アメリカ ・ 日本 ・ 街歩き ・ フィールドワーク		秋山秀一 『大人のまち歩き』（新典社）	
		参考書	

哲学概論		TEAT-P-200/TEAT-L-2	
担当教員：大賀 祐樹			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD01660	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 「哲学」とはどのようなものか 02. 「愛」について（プラトン） 03. 「真理」について（プラトン） 04. 「正義」について（アリストテレス） 05. 「私」とは誰か（デカルト） 06. 人間の「自由」と「道徳」（カント） 07. 「言葉」についてⅠ（ラッセル） 08. 「言葉」についてⅡ（ウィットゲンシュタイン） 09. 「心」とは何か 10. 「可能世界」について 11. 科学の正しさと「真理」（クーン） 12. ニヒリズムとポストモダン（ニーチェ、フーコー） 13. プラグマティズム 14. 「信じる」ことについて 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：公民選択必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会選択必修科目【P】 高等学校教諭一種免許：公民選択必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 高等学校教諭一種免許：公民選択必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目			
(1) 内容			
人間はどのように生きるべきなのか？人間にとって幸せとは何か？ 一般的に「哲学」といえばそういった問題について考えるものだと思われるかもしれませんが。 しかし、哲学とは何よりも「真理」とは何かについて考えるものです。 「真理」を知ることでは人は正しく生きることができ幸せになれると、長い間考えられてきました。 でも「真理」＝「絶対に正しくてこれ以上変えようがない唯一の答え」など、本当にあるのでしょうか？ 現代の私たちの感覚からすると疑問に感じるかもしれません。 とはいえ、「正しい」ことが何もないのかというと、それもまた疑問に感じることでしょ。う。 この授業では、古代から現代までの間、哲学が「正しさ」をどのように探し求めてきたのかについてのストーリーをお話します。			
(2) 学びの意義と目標			
哲学で大切なことは、答えを知ることよりも、当たり前と感じていたことの中に潜む疑問を見つけて問いを立てることである。様々な哲学者がどのような問いを立て、答えを見つけるために試行錯誤したのか。その道筋を追うことによって、日常生活においても浮上する様々な問題に対して、自分なりの問いを立て、本質を見抜き、答えを出す力を養うことを目標とする。 「哲学」について全く知識がない初学者を対象とする。できるだけ理解しやすいように、日常的な出来事や、SF、アニメ作品等の事例を例えに置き換えて説明する。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
予習・復習に関しては準備学習の項目を参照。		前の回で紹介した考え方を受けて次の回で批判・展開することが多いので、復習をきっちりとしておくことが同時に予習にもなる。また、次回に扱う思想家の大まかな情報や時代背景などを自主的に調べておくと、より理解をしやすい。	
		準備学習(復習)	
		毎回PowerPointのスライドを使用し、プリントを配布する予定なので、興味を持った話題があればその点を掘り下げて、自分なりの問題意識やそれに対する答えを考えておく。	
		評価方法	
		(1) 試験 60% 期末に実施 (2) レポート 30% 中間に実施 (3) 出席 10% 最低限以上の出席回数が必要 (4) 授業態度 0% <small>※本学に2年度連続または3年度連続で留年したことはありませんが、授業中の出席率が低い場合、成績評価の劣化に対する可能性がります。</small>	
学びのキーワード		教科書	
・ 西洋哲学史 ・ 真理 ・ 現代思想		参考書	
		参考書 毎回の授業内で参考文献を随時紹介する。	

公務員講座(数的・判断推理)		1PE00110	
担当教員： 吉澤 剛士			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 1PE00110	
学部教育の関連目		授業計画	
地域社会を支えるために必要な知識・スキル		01. 数的推理 数の計算と数列	
		02. 判断推理 集合とその要素	
		03. 数的推理 約数・倍数	
		04. 判断推理 命題の真偽	
		05. 数的推理 覆面算・方陣算	
		06. 判断推理 発言の真偽	
		07. 数的推理 整数問題・記数法	
		08. 判断推理 暗号の解読	
		09. 数的推理 最大・最小問題	
		10. 判断推理 対応関係	
		11. 数的推理 方程式・不等式の応用	
		12. 判断推理 順序関係	
		13. 数的推理 連立方程式の応用	
		14. 判断推理 位置関係	
		15. 数的推理 割合・比・濃度	
		16. 判断推理 試合の勝敗	
		17. 数的推理 速さ	
		18. 判断推理 整数の性質と数量関係	
		19. 数的推理 仕事算・時計算・年齢算	
		20. 判断推理 操作の手順	
		21. 数的推理 場合の数・順列・組み合わせ	
		22. 判断推理 平面図形の移動と軌跡	
		23. 数的推理 確率	
		24. 判断推理 平面図形の構成と分割	
		25. 数的推理 直線図形	
		26. 判断推理 立体図形とその組み立て	
		27. 数的推理 円・扇形	
		28. 判断推理 展開図・投影図	
		29. 数的推理 立体図形	
		30. 判断推理 立体の切断	
(1) 内容		準備学習(予習)	
本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定される。過去の出題傾向や実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、ポイントとなる重要項目を講義したのち、演習を取り入れながら進めていく。本講義では教養試験の中の判断推理・数的推理を取り扱う。「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。		事前に該当の項目内容を理解しておくこと。	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)	
公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験に合格する力をつけることが、本講義の目標である。		講義で取り上げた項目を復習し、確実に身に付けるようにすること。	
受講者に対する要望		評価方法	
試験のための知識だけではなく、合格するためのポイントやテクニックも伝授するので、毎回必ず出席し、必ず公務員試験に合格してもらいたい。		(1) 授業への参加度 30%	
		(2) 試験 70%	
		試験は中間試験と期末試験の結果をもって評価する。	
学びのキーワード		教科書	
・ 公務員試験			
・ 数的推理			
・ 判断推理			
		参考書	
		[大卒程度] 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 数的推理	
		[大卒程度] 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 判断推理	

公務員講座（人文・社会）		PUSE-P-200/PUSE-L-2
担当教員：金沢 はるえ		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1PE00220
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 政治「各国の政治制度」 02. 政治「わが国の政策」 03. 政治「選挙制度」 04. 政治「地方自治」 05. 政治「日本国憲法の基本原理」 06. 政治「基本的人権の保障と制約」 07. 政治「国会・内閣」 08. 政治「裁判所・国会の権限」 09. 経済「ミクロ 余剰分析」 10. 経済「ミクロ 消費者行動」 11. 経済「マクロ 経済循環と国民所得」 12. 経済「マクロ 貨幣数量説と物価変動」 13. 経済「国内経済事情」 14. 経済「世界経済事情」 15. 社会・時事「現代社会の諸相」 16. 社会・時事「国際社会の諸相」 17. 日本史「幕藩体制の変遷」 18. 日本史「両世界大戦と日本」 19. 日本史「通史 土地・貨幣・税制」 20. 日本史「通史 文化・仏教・教育史」 21. 世界史「市民革命と産業革命」 22. 世界史「近代国家の成立」 23. 世界史「第二次大戦後の国際政治」 24. 世界史「中国近・現代史」 25. 地理「気候・農林水産業」 26. 地理「地誌 民族と国家」 27. 補足・追加（1） 28. 補足・追加（2） 29. 補足・追加（3） 30. 補足・追加（4）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】PUPR-SUBJ 【P】PUPR-SUBJ 【P】PUPR-SUBJ</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知識分野の人文科学と社会科学を対象にして、特に過去において繰り返し出題されてきた頻出分野を重点的に取扱う。 コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。</div>	<div>準備学習（予習）</div> <div>効率的に知識を習得するため、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>公務員試験に合格できるかどうかは予習・復習によって決まるといっても過言ではない。公務員試験の合格を目指す学生向けの特別な講座であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。</div>		<div>準備学習（復習）</div> <div>知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 試験 100%</div> <div>中間試験および期末試験の結果で成績をつける。実際の公務員試験の合格ラインを基準に評価する。期末試験は、第16週目に行う。中間試験は、15回目を目安に実施する。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・公務員試験 ・社会科学 ・人文科学</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>資格試験研究会『〔大卒程度〕警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』（実務教育出版） 資格試験研究会『〔大卒程度〕警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学』（実務教育出版）</div>	

公務員講座(文章理解)		PUSE-P-200/PUSE-L-2	
担当教員：大槻 岳			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1PE00330	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 文章理解 概要解説（以下は2015年度の実施結果であり、実際の進度は学生の状況等を鑑みて決定する） 02. 論作文 概要解説 03. 文章理解 要旨把握（人文） 04. 文章理解 要旨把握（哲学） 05. 文章理解 内容把握（人文） 06. 論作文演習 07. 文章理解 内容把握（哲学） 08. 文章理解 傍線部問題 09. 文章理解 空欄補充 10. 論作文演習 11. 文章理解 文章整序 12. 資料解釈 13. 文章理解 古文要旨把握 14. 文章理解 古文傍線部問題 15. 文章理解 確認演習 16. 文章理解 確認演習 17. 文章理解 英文要旨把握 18. 文章理解 英文内容把握 19. 文章理解 英文空欄補充 20. 論作文演習 21. 文章理解 総合演習 22. 資料解釈 総合演習 23. 文章理解 英文対策演習 24. 文章理解 英文対策演習 25. 文章理解 総合演習 26. 論作文演習 27. 文章理解 総合演習 28. 文章理解 総合演習 29. 文章理解 総合演習 30. 授業内試験を予定	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 PUPR-SUBJ 【P】 PUPR-SUBJ 【P】 PUPR-SUBJ			
(1) 内容			
本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知能分野の核となる文章理解を取り上げるとともに、二次試験で課される教養論文の対策にも触れていく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。 この講座はコミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つであるので、公務員試験を意識している学生にはぜひ受講してもらいたい。		前回内容の解法の復習。特に文章理解の四分野に関しては、それぞれの設問に応じた解法があるので、その解法について習得できるように各自のペースに合わせて演習を行ってください。	
		準備学習(復習)	
		授業内で演習した問題の復習。各問題の解答を覚えるのではなく、なぜその選択肢が正解となるのか（なぜその選択肢が不正解となるのか）の根拠を理解するように心がけてください。	
		評価方法	
		(1) 出席点 50% (2) 毎回の課題演習 10% (3) 学期末テスト 40%	
受講者に対する要望			
新しいことを事前に学んでくる必要はありませんが、反復演習を中心とした講義となるので、前回の内容をしっかりと復習することが次回の予習となることを自覚して講義に臨んでください。			
学びのキーワード		教科書	
・ 文章読解力 ・ 客観的解答力 ・ 反復演習 ・ 公務員観の養成		プリントなど、講師が用意した教材で行う（学生が負担する必要はない）。	
		参考書	

公務員講座演習 A (数的・判断推理)		1PE00410
担当教員：吉澤 剛士		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1PE00410
<div>学部教育の関連目</div> <div>地域社会を支えるために必要な知識・スキル</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 数的推理 数の計算と数列 判断推理 集合とその要素</div> <div>02. 数的推理 約数・倍数 判断推理 命題の真偽</div> <div>03. 数的推理 覆面算・方陣算 判断推理 発言の真偽</div> <div>04. 数的推理 整数問題・記数法 判断推理 暗号の解読</div> <div>05. 数的推理 最大・最小問題 判断推理 対応関係</div> <div>06. 数的推理 方程式・不等式の応用 判断推理 順序関係</div> <div>07. 数的推理 連立方程式の応用 判断推理 位置関係</div> <div>08. 数的推理 割合・比・濃度 判断推理 試合の勝敗</div> <div>09. 数的推理 速さ 判断推理 整数の性質と数量関係</div> <div>10. 数的推理 仕事算・時計算・年齢算 判断推理 操作の手順</div> <div>11. 数的推理 場合の数・順列・組み合わせ 判断推理 平面図形の移動と軌跡</div> <div>12. 数的推理 確率 判断推理 平面図形の構成と分割</div> <div>13. 数的推理 直線図形 判断推理 立体図形とその組み立て</div> <div>14. 数的推理 円・扇形 判断推理 展開図・投影図</div> <div>15. 数的推理 立体図形 判断推理 立体の切断</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>公務員試験対策プログラム科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定される。過去の出題傾向や実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を中心としながら進めていく。本講義では教養試験の中の判断推理・数的推理を取り扱う。「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験に合格する力をつけることが、本講義の目標である。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に該当の項目内容を理解しておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>試験のための知識だけではなく、合格するためのポイントやテクニックも伝授するので、毎回必ず出席し、必ず公務員試験に合格してもらいたい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義で取り上げた項目を復習し、確実に身に付けるようにすること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加度 30%</div> <div>(2) 試験 70%</div> <div>試験は中間試験と期末試験の結果をもって評価する。</div>	
	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>[大卒程度] 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 数的推理 [大卒程度] 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 判断推理</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 公務員試験 ・ 数的推理 ・ 判断推理</div>		

公務員講座演習 A (人文・社会)			
担当教員：久保 善慎			
学期：週間授		科目：	必修・選択：
単位：1		コード：1PE00710	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス及び政治の基礎理論（履修者の関心を相互に確認しながら授業計画を再度検討する） 02. 政治（基本的人権） 03. 政治（国会・内閣・裁判所・各法律の基本問題） 04. 政治（政治制度） 05. 政治（選挙制度・国際政治） 06. 経済（財政政策・金融政策） 07. 経済（ミクロ経済・マクロ経済） 08. 経済（世界の経済事情） 09. 社会・時事（国際社会・国内問題） 10. 世界史（現代・近代） 11. 世界史（近世・中世・古代） 12. 日本史（古代～江戸時代） 13. 日本史（近代・現代） 14. 地理（自然地形・気候） 15. 地理（世界の産業・諸地域）	
(1) 内容		準備学習(予習)	
本講座は、一般行政職、警察官、消防官などの採用試験（大卒程度）に合格することを目的とし、教養試験で出題される一般知識分野（人文・社会）を対象に演習中心の授業形態です。同時に、なぜ教養試験の準備、対策が公務員試験対策にとって重要なのか、早いうちからどのような準備をしておくことが試験対策として大切なのかについて検討する授業である。 過去に出題された試験問題を取り上げ、履修者自身による試験対策演習を基本としながら、出題傾向の把握と頻出テーマの開設なども行う。		効率的に授業をすすめるために、指定する該当ページを各自が事前に学習しておくことが望まれる。	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)	
教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験での高得点を獲得することを目指す。特に、将来の自分が就く仕事として公務員を視野に入れて試験準備を考えている履修生には、なぜ公務員を目指すのか、仕事を通じてどのような社会貢献がしたいのか、みなさんの将来の希望を叶えるために学生時代に何を学ぶべきなのかを考える機会にしてもらいたい。（参考書リスト 参照）		知識の定着には反復して復習することが不可欠です。	
受講者に対する要望		評価方法	
		(1) 授業での積極的な貢献 30% (2) レポート 30% (3) 試験 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 公務員試験 ・ 一般行政職 ・ 警察官・消防官 ・ 社会科学 ・ 人文科学		適宜授業中に示す。	
		参考書	
		司馬遼太郎(1999)『坂の上の雲』文春文庫 城山 三郎(1980)『官僚たちの夏』新潮文庫 横石知二(2007)『そうだ、葉っぱを売ろう!』ソフトバンククリエイティブ	

公務員特講（自治体研究 A）		POSC-P-300/PUSE-L-3	
担当教員：猪狩 廣美			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1PE01061	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る</div> <div>【L】 市民力：地域社会を支えるために必要な知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション</div> <div>02. 地方自治体の役割（1）</div> <div>03. 地方自治体の役割（2）</div> <div>04. 地方自治体の役割（3）</div> <div>05. 自治体の業務（1）</div> <div>06. 自治体の業務（2）</div> <div>07. 自治体の業務（3）</div> <div>08. 自治体の業務（4）</div> <div>09. 自治体の業務（5）</div> <div>10. 自治体の業務（6）</div> <div>11. 自治体の業務（7）</div> <div>12. 自治体の業務（8）</div> <div>13. 自治体で働くということ（1）</div> <div>14. 自治体で働くということ（2）</div> <div>15. 公務員になるために・まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 行政コース：基幹科目</div> <div>【L】 PUPR-SUBJ</div> <div>【L】 行政コース：基幹科目</div> <div>【L】 PUPR-SUBJ</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>最近の地方自治体を取り巻く状況を前提として</div> <div>(1) 公務員の仕事の特性</div> <div>(2) 自治体の業務の実際</div> <div>(3) 進路としての公務員 等について、</div> <div>実例を題材として学び、理解を深める。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>自治体が社会の中でどのような役割を担い、どのような事業を展開しているのか、理解を深めるとともに、その業務を担う地方公務員の取り組みを学ぶことを通して、自らの進路を考える一助としたい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>開講までに、高等学校の政治経済の教科書を読み返しておきましょう。
 開講後は、逐次指示します。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>受講後は、内容を取りまとめ、知識として整理するとともに、新聞等マスコミで報道される自治体の取り組みなどにも注意を払い、一人の住民・主権者としての意識を涵養していくことを望みます。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>公務員試験対策プログラムの一環として開講する講座である。
 なお、現実社会においては、例えば民間企業へ進んだとしても、自治体との関わりは広範であり、その実情を理解することは重要であると考える。進路を選択する力を身につける意味から、公務員志望でない学生にも受講を期待する。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 出席状況 30%</div> <div>(2) 一言メモ提出 30% 毎回の授業の感想メモです</div> <div>(3) レポート 40% 詳細は授業で指示します</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 統治機構としての地方公共団体</div> <div>・ 自治とは</div> <div>・ 自治機関としての自治体</div> <div>・ 自治体の具体的な取り組み</div> <div>・ 自治体職員の使命</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

公務員特講(自治体研究B)

POSC-P-300/PUSE-L-3

担当教員：北川 嘉昭、阿部 忠資、池田 洋子、小林 直彦、五味 智子、松崎 保昌

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1PE01162

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
【L】市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

【L】行政コース：基幹科目
【L】PUPR-SUBJ
【L】行政コース：基幹科目
【L】PUPR-SUBJ

(1) 内容

福祉や教育、防災、街づくりなど、自治体の基幹的な業務に加え、タバコのポイ捨て禁止やレジ袋規制、ゆるキャラやB1グランプリ、ゴミ屋敷対策など、全国自治体の特色ある施策などについて、その背景、期待される効果、課題等をわかりやすく説明する。

(2) 学びの意義と目標

地域社会の抱える課題と対策について認識を深めることを通じて、自治体等への就職に対するモチベーションを高めることを目標とする。

受講者に対する要望

地域社会に関心をもち、新聞もできるだけ目を通してください

学びのキーワード

- ・地域社会
- ・地方自治体
- ・地方公務員
- ・住民福祉
- ・公共サービス

授業計画

01. 地方自治・公共政策について
02. 事例研究（震災対策）
03. 事例研究（子育て支援）
04. 事例研究（教育）
05. 事例研究（地域活性化①）
06. 事例研究（地域活性化②）
07. 事例研究（産業振興）
08. 事例研究（高齢者福祉）
09. 事例研究（障害者福祉など）
10. 事例研究（環境・リサイクル）
11. 事例研究（防犯、感染症、ICT等の危機管理）
12. 事例研究（行政改革）
13. 事例研究（都市計画）
14. 事例研究（道路、再開発、景観）
15. これからの公共サービス、公務員

準備学習(予習)

新聞を読み、地域のイベントへ参加に参加するなど、地域社会の出来事や課題に関心をもってください。

準備学習(復習)

テレビや新聞などで講義に関連した情報に接したとき、自治体や住民はどうすべきかについて、自分なりの考え方をまとめてみてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 出席 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

参考書

公務員演習Ⅰ		PUSE-P-300/PUSE-L-2
担当教員：久保 善慎		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1PE01271
学部教育の関連目 【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける	授業計画 01. イントロダクション 02. 演習問題Ⅰ 03. 演習問題Ⅱ 04. 演習問題Ⅲ 05. 演習Ⅰ～Ⅲの復習 06. 演習問題Ⅳ 07. 演習問題Ⅴ 08. 演習問題Ⅵ 09. 演習Ⅳ～Ⅵの復習 10. 演習問題Ⅶ 11. 演習問題Ⅷ 12. 演習問題Ⅸ 13. 演習Ⅶ～Ⅸの復習 14. まとめ 15. 最終試験とその解説	
カリキュラム上の位置付け 【L】PUPR-SUBJ 【L】PUPR-SUBJ		
(1) 内容 公務員試験の教養試験は、社会科学、人文科学、自然科学、数的・判断推理、文章理解・資料解釈など出題範囲が幅広いため、要領よく集中して学習をすることが求められる。 この講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とする。そこで、次のことを行う。 （１）受講生が教養試験の演習問題を実際に解くことで実力の養成を図る。 （２）指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習したうえで、講義で他の学生に解説する。学生同士で教え合うことを基本とし、教員はそれを支援する。	準備学習(予習) 理解を深めるため、指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習したうえで、講義で他の学生に解説すること。	
(2) 学びの意義と目標 教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目指す。 受講生の苦手分野を中心に過去問に取り組むことにより実力の底上げを図る。		
受講者に対する要望 公務員試験の合格を目指す学生向けの演習であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。	準備学習(復習) 知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。	
	評価方法 (1) 授業への積極的な貢献 70% (2) 試験 30%	
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none">地方公務員試験警察官消防官一般行政職教養試験	教科書 適宜授業中に示す。 参考書 司馬遼太郎(1999)『坂の上の雲』文春文庫 城山 三郎(1980)『官僚たちの夏』新潮文庫 横石知二(2007)『そうだ、葉っぱを売ろう!』ソフトバンククリエイティブ	

公務員演習Ⅱ		PUSE-P-300/PUSE-L-2
担当教員：久保 善慎		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1PE01372
学部教育の関連目	授業計画	
【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【L】PUPR-SUBJ 【L】PUPR-SUBJ		
(1) 内容	01. イントロダクション 02. 演習問題Ⅰ 03. 演習問題Ⅱ 04. 演習問題Ⅲ 05. 演習Ⅰ～Ⅲの復習 06. 演習問題Ⅳ 07. 演習問題Ⅴ 08. 演習問題Ⅵ 09. 演習Ⅳ～Ⅵの復習 10. 演習問題Ⅶ 11. 演習問題Ⅷ 12. 演習問題Ⅸ 13. 演習Ⅶ～Ⅸの復習 14. まとめ 15. 最終試験とその解説	
公務員試験の教養試験は、社会科学、人文科学、自然科学、数的・判断推理、文章理解・資料解釈など出題範囲が幅広いため、要領よく集中して学習をすることが求められる。 この講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とする。そこで、次のことを行う。 （１）受講生が教養試験の演習問題を実際に解くことで実力の養成を図る。 （２）指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習したうえで、講義で他の学生に解説する。学生同士で教え合うことを基本とし、教員はそれを支援する。		
(2) 学びの意義と目標		
教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目指す。 受講生の苦手分野を中心に過去問に取り組むことにより実力の底上げを図る。		
準備学習(予習)	理解を深めるため、指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習したうえで、講義で他の学生に解説すること。	
準備学習(復習)	知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。	
評価方法	(1) 授業への積極的な貢献 70% (2) 試験 30%	
受講者に対する要望	公務員試験の合格を目指す学生向けの演習であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。	
学びのキーワード	教科書 適宜授業中に示す。 参考書 司馬遼太郎(1999)『坂の上の雲』文春文庫 城山 三郎(1980)『官僚たちの夏』新潮文庫 横石知二(2007)『そうだ、葉っぱを売ろう!』ソフトバンククリエイティブ	
地方公務員試験 警察官 消防官 一般行政職 教養試験		

公務員講座(専門A)		PUSE-P-400/PUSE-L-2	
担当教員：猪狩 廣美、渡辺 英人、北川 嘉昭、佐藤 安夫、米澤 貴幸、池田 洋子、小林 直彦、五味 智子、澤田 千秋			
学期：週間授		科目：専門科目	必修・選択：選択科目
単位：4		コード：1PE01481	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. ガイダンス、講義と演習「行政法1」、文章技法 02. 講義と演習「行政法2」、文章技法 03. 講義と演習「行政法3」、文章技法 04. 講義と演習「行政法4」、文章技法 05. 講義と演習「憲法1」 06. 講義と演習「憲法2」 07. 講義と演習「憲法3」 08. 講義と演習「憲法4」 09. 講義と演習「憲法5」 10. 講義と演習「憲法6」 11. 講義と演習「憲法7」 12. 講義と演習「憲法8」 13. 講義と演習「行政学1」 14. 講義と演習「行政学2」 15. 講義と演習「行政学3」 16. 講義と演習「行政学4」 17. 講義と演習「マクロ経済学1」 18. 講義と演習「マクロ経済学2」 19. 講義と演習「マクロ経済学3」 20. 講義と演習「マクロ経済学4」 21. 講義と演習「ミクロ経済学1」 22. 講義と演習「ミクロ経済学2」 23. 講義と演習「ミクロ経済学3」 24. 講義と演習「ミクロ経済学4」 25. 講義と演習「民法(1)1」、表現方法 26. 講義と演習「民法(1)2」、表現方法 27. 講義と演習「民法(1)3」、表現方法 28. 講義と演習「民法(1)4」、表現方法 29. 講義と演習「民法(1)5」、表現方法 30. 講義と演習「民法(1)6」、表現方法、春期のまとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】PUPR-SUBJ【P】PUPR-SUBJ 【P】PUPR-SUBJ			
(1) 内容			
この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。 専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。過去の出題傾向・実際試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取入れながら授業を進める。 また、授業の中では、公務員に求められる文章技法(論作文)や表現方法(面接技法)についても指導を行う。 なお、受講生の希望進路を踏まえ、授業内容を適宜変更する場合がある。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験(警察・消防・保育士等を含む)の1次試験に合格する力をつけることが、本講義の目標である。		公務員試験の受験を真剣に考えている学生向けの特別の講義であることをわきまえ、事前準備のうえ、積極的に授業に臨むこと。	
		準備学習(復習)	
		授業内容について、自ら確認し、定着を図ること。	
		評価方法	
		(1) 授業参加度 50% 出席、質疑応答等 (2) 期末試験 50%	
受講者に対する要望		授業参加度、期末試験を総合的に評価する	
「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義及び秋学期の公務員講座(専門B)も合わせて受講することを強くすすめる。		教科書	
学びのキーワード		参考書	
		東京工学院専門学校『最新最強の地方公務員問題 初級(15年版)』(成美堂出版) 資格試験研究会『「大卒程度」警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』(実務教育出版)	

公務員講座(専門B)		PUSE-P-400/PUSE-L-2
担当教員：猪狩 廣美、渡辺 英人、高梨 博和、阿部 忠資、池田 洋子、小林 直彦、五味 智子、澤田 千秋、松崎 保昌		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1PE01582
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. ガイダンス、講義と演習「政治学1」 02. 講義と演習「政治学2」 03. 講義と演習「政治学3」 04. 講義と演習「政治学4」 05. 講義と演習「政治学5」 06. 講義と演習「政治学6」 07. 講義と演習「財政学1」 08. 講義と演習「財政学2」 09. 講義と演習「財政学3」 10. 講義と演習「財政学4」 11. 講義と演習「財政学5」 12. 講義と演習「財政学6」 13. 講義と演習「社会学1」 14. 講義と演習「社会学2」 15. 講義と演習「社会学3」 16. 講義と演習「社会学4」 17. 講義と演習「社会学5」 18. 講義と演習「社会学6」 19. 講義と演習「社会学7」 20. 講義と演習「社会学8」 21. 講義と演習「経営学1」、文章技法 22. 講義と演習「経営学2」、文章技法 23. 講義と演習「経営学3」、文章技法 24. 講義と演習「経営学4」、文章技法 25. 講義と演習「民法(2)1」、表現方法 26. 講義と演習「民法(2)2」、表現方法 27. 講義と演習「民法(2)3」、表現方法 28. 講義と演習「民法(2)4」、表現方法 29. 講義と演習「民法(2)5」、表現方法 30. 講義と演習「民法(2)6」、表現方法、秋学期のまとめ </div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div> 【L】PUPR-SUBJ 【P】PUPR-SUBJ 【P】PUPR-SUBJ </div>		
<div>(1) 内容</div> <div> 1. 内容 この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。 専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。公務員講座(専門A)に引き続き、過去の出題傾向・実際試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取入れながら授業を進める。 また、授業の中では、公務員に求められる文章技法(論作文)や表現方法(面接技法)についても指導を行う。 なお、受講生の希望進路を踏まえ、授業内容を適宜変更する場合がある。 </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>公務員試験の受験を真剣に考えている学生向けの特別の講義であることをわきまえ、事前準備のうえ、積極的に授業に臨むこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> 公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験(警察・消防・保育士等を含む)の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。 </div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div> 「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義及び春学期の公務員講座(専門A)も合わせて受講することを強くすすめる。 </div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内容について、自ら確認し、定着を図ること。</div>
		<div>評価方法</div> <div> (1) 授業参加度 50% 出席、質疑応答等 (2) 期末試験 50% </div> <div>授業参加度、期末試験を総合的に評価する。</div>
<div>学びのキーワード</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div> <div> 東京工学院専門学校『最新最強の地方公務員問題 初級(15年版)』(成美堂出版) 資格試験研究会『「大卒程度」警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』(実務教育出版) </div>

生涯学習概論 A		ADED-P-200/ADED-L-2	
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 社会教育 必修・選択： 選択科目/資格課程	単位： 2 コード： 1PF00111
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)</div> <div>03. 社会教育の定義（教育基本法、社会教育法）</div> <div>04. 生涯教育の理念(1)</div> <div>05. 生涯教育の理念(2)</div> <div>06. 社会教育から生涯教育そして生涯学習へ（何がちがうのか？）</div> <div>07. 生涯教育の理念と社会背景(1)（各国の生涯教育の事情）</div> <div>08. 生涯教育の理念と社会背景(2)（わが国の教育改革と生涯学習体系への移行）</div> <div>09. 生涯教育の理念と社会背景(3)（急激な社会変化への適応）</div> <div>10. 生涯教育の理念と社会背景(5)（平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題）</div> <div>11. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？）</div> <div>12. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、戦後の青少年の非行など）</div> <div>13. 生涯教育の理念への批判</div> <div>14. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【L】PUPR-SUBJ【P】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【P】PUPR-SUBJ</div> <div>【P】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【P】PUPR-SUBJ【全】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【全】PUPR-SUBJ</div>			
(1) 内容			
<p>2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。</p> <p>また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。</p>			
(2) 学びの意義と目標			
<p>生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につなげる事項の理解を目指す。</p>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<p>前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。
資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。</p>		<p>毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。</p>	
		準備学習(復習)	
		<p>授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。</p>	
		評価方法	
		<div>(1) 出席点30%</div> <div>(2) 試験70%</div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・社会教育の理念</div> <div>・生涯教育・生涯学習</div> <div>・生涯発達論</div> <div>・発達課題</div> <div>・学歴社会の是正</div>		鈴木眞理 『生涯学習概論』（樹村房）	
		参考書	

生涯学習概論B		ADED-P-200/ADED-L-2							
担当教員： 小池 茂子									
学期： 週間授		科目： 社会教育 必修・選択： 選択科目/資格課程	単位： 2 コード： 1PF00212						
学部教育の関連目		授業計画							
【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得 【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける									
カリキュラム上の位置付け		01. 教育の民主化と社会教育 02. 教育基本法・社会教育法と社会教育 03. 社会教育から生涯学習の理念へ（1）何が新たな展開として出現したか 04. 社会教育から生涯学習の理念へ（2）生涯学習と社会教育の違いとは？ 05. 生涯学習振興と公民館（1）公民館の成り立ちから今日へ 06. 生涯学習振興と公民館（2）公民館とコミュニティ 07. 生涯学習振興と公民館（3）学習機会の設定に関する理論（学習要求と必要課題の視点から） 08. まちづくりと公民館活動（特色ある公民館活動の紹介） 09. 自分の住んでいるまちの公民館を調べてみよう 10. 私の暮らしているまちの地域課題（調べた結果の紹介） 11. 生涯学習振興と博物館（1）博物館の成り立ち 12. 生涯学習振興と博物館（2）博物館・学校・地域との連携事業 13. まちづくりと博物館（特色ある博物館活動の紹介） 14. 指定管理者制度と社会教育施設をめぐる議論 15. まとめ							
【L】社会教育主事資格：必修科目 【L】PUPR-SUBJ【P】社会教育主事資格：必修科目 【P】PUPR-SUBJ 【P】社会教育主事資格：必修科目 【P】PUPR-SUBJ【全】社会教育主事資格：必修科目 【全】PUPR-SUBJ									
(1) 内容									
本講義では第1に、我が国戦後の社会教育の理念について学ぶ。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年代半ば以降の教育答申等の内容を通して捉える。第3に、社会教育施設として設置された、公民館、公共図書館、博物館活動について成り立ちと機能について取り上げ、生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズや、まちづくりとの関連において21世紀に求められる諸機能と課題について展望する。									
社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられている。（勿論、資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。）									
(2) 学びの意義と目標									
社会教育から生涯学習の時代へと、今日いわれるところの生涯学習振興政策がどのような経緯から生まれて来たのか、また生涯学習社会の実現に向けて、今日の社会教育施設に求められる教育的機能について理解する。									
受講者に対する要望		準備学習(予習)							
配布資料を事前に読みこんで、毎回の授業に臨むこと。									
		準備学習(復習)							
授業時に配布した資料を、講義終了後ノートと照合し、学びの内容を定着させること。									
		評価方法							
<table><tr><td>(1) 出席点</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 平常点</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 試験</td><td>50%</td></tr></table>				(1) 出席点	30%	(2) 平常点	20%	(3) 試験	50%
(1) 出席点	30%								
(2) 平常点	20%								
(3) 試験	50%								
学びのキーワード		教科書							
・ 社会教育 ・ 生涯学習 ・ 公民館とまちづくり ・ 博物館 ・ 社会教育施設の今日的課題		鈴木眞理 『生涯学習概論』（樹村房）							
		参考書							

社会教育計画 A		ADED-P-200/ADED-L-2	
担当教員： 安斎 聡子			
学期： 週間授		科目： 社会教育	必修・選択： 選択科目/資格課程
単位： 2		コード： 1PF00321	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>01. ガイダンス</div> <div>02. 社会教育の概念</div> <div>03. 社会教育計画の概念（１）</div> <div>04. 社会教育計画の概念（２）</div> <div>05. 社会教育における地域</div> <div>06. 社会教育における施設</div> <div>07. 社会教育における集団（１）</div> <div>08. 社会教育における集団（２）</div> <div>09. 社会教育におけるボランティア（１）</div> <div>10. 社会教育におけるボランティア（２）</div> <div>11. 社会教育における参加（１）</div> <div>12. 社会教育における参加（２）</div> <div>13. 社会教育における学習プログラム（１）</div> <div>14. 社会教育における学習プログラム（２）</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【P】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【全】社会教育主事資格：必修科目</div>			
(1) 内容			
<p>この授業では、秋学期の「社会教育計画B」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を解説する。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていくこととする。</p>			
(2) 学びの意義と目標			
<p>社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とする。</p> <p>すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。</p>			
		準備学習(予習)	
		<p>受講前の予備知識は特に問わない。事前配布等資料の指定があった場合は、その資料に目を通してくこと。</p>	
		準備学習(復習)	
		<p>各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めること。</p>	
		評価方法	
		<div>(1) 授業内応答40%</div> <div>(2) 期末試験60%</div> <div>15回目の授業内で実施する。</div>	
受講者に対する要望			
<p>授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。</p>			
学びのキーワード		教科書	
<div>・生涯学習</div> <div>・社会教育</div>		参考書	

社会教育計画B

AEED-P-200/AEED-L-2

担当教員： 安齋 聡子

學期：週間授 科目：社會教育 必修・選拔：選拔科目/資格課程

単位：2 コード：1PF00422

学部教育の関連目

【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得
【1】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける。

カリキュラム上の位置付け

【L】社会教育主事资格：必修科目 【P】社会教育主事资格：必修科目
【P】社会教育主事资格：必修科目 【全】社会教育主事资格：必修科目

(1) 内容

この授業では、春学期の「社会教育計画A」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を解説する。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていくこととする。

(2) 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とする。

このことは、社会教育計画に關するものとして、社会教育をめぐっての事項を理解する上では、基礎的な事項について、目標とする。

受講者に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

学びのキーワード

- 生涯學習
- 社會教育

授業計画

01. 社会教育における学習者（１）
02. 社会教育における学習者（２）
03. 社会教育における学習支援（１）
04. 社会教育における学習支援（２）
05. 社会教育における学習情報
06. 社会教育における大学
07. 社会教育における連携（１）
08. 社会教育における連携（２）
09. 社会教育における評価（１）
10. 社会教育における評価（２）
11. 社会教育行政の変遷
12. 社会教育計画をめぐる課題（１）
13. 社会教育計画をめぐる課題（２）
14. 社会教育計画をめぐる課題（３）
15. まとめ

準備學習(予習)

受講前の予備知識は特に問わない。事前配布等資料の指定があった場合は、その資料に目を通してくること。

準備學習(復習)

各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めること。

評価方法

- (1) 授業内応答 40%
- (2) 期末試験 60% 15回目の授業内で実施する。

教科書

参考書

社会教育課題研究 A		ADED-P-200/ADED-L-2
担当教員： 安斎 聡子		
学期： 週間授 科目： 社会教育 必修・選択： 選択科目/資格課程		単位： 2 コード： 1PF00531
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成. 多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得 【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 社会教育における施設の体系 03. 社会教育における施設の作られ方 04. 社会教育における施設（１） 05. 社会教育における施設（２） 06. 社会教育における施設（３） 07. 社会教育における施設（４） 08. 社会教育における施設（５） 09. 社会教育における施設（６） 10. 社会教育における施設（７） 11. 社会教育における施設（８） 12. 社会教育施設をめぐる環境（１） 13. 社会教育施設をめぐる環境（２） 14. 社会教育施設をめぐる環境（３） 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 社会教育主事資格：選択必修科目【P】 社会教育主事資格：選択必修科目 【P】 社会教育主事資格：選択必修科目【全】 社会教育主事資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、生涯学習支援のための社会教育施設を概観した上で、各施設における活動や運営における課題について把握する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる事項を身につけることを目標とする。 すべての受講生においては、社会教育をめぐる現状を把握し、それらの諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>受講前の予備知識は特に問わないが、授業ごとに必要となる予習内容について指示をする。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業内応答 40% (2) 期末試験 60%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 生涯学習 ・ 社会教育</div>	<div>教科書</div>	
	<div>参考書</div>	

社会教育課題研究 B

AEED-P-200/AEED-L-2

担当教員： 安齋 聡子

學期：週間授 科目：社會教育 必修・選修：選修科目/資格課程

単位：2 コード：1PF00632

学部教育の関連目

【金】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得
【イ】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける。

カリキュラム上の位置付け

【L】社会教育主事資格：選択必修科目 【P】社会教育主事資格：選択必修科目
【P】社会教育主事資格：選択必修科目 【全】社会教育主事資格：選択必修科目

(1) 内容

春学期の「社会教育課題研究 A」をふまえ、社会教育施設における学習機会とそれぞれの特徴、課題を整理する。

また、それらの具体的な活動について、受講者自身で資料収集、現地見学等を行い報告をしよう。

(2) 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる事項を身につけることを目標とする。

すべての受講生に対しては、社会教育をめぐる現状を把握し、それら諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

受講者自身がそれぞれの視点で社会教育施設に
おける学習機会を確認するとともに、自らの学
習・教育活動の経験とあわせて、各施設で展開さ
れている活動の意義を考えられるようになること
を希望する。

学びのキーワード

- 生涯學習
- 社會教育

授業計画

01. 前期のまとめと後期のガイダンス
02. 社会教育施設における学習機会 (1)
03. 社会教育施設における学習機会 (2)
04. 社会教育施設における学習機会 (3)
05. 社会教育施設における学習機会 (4)
06. 社会教育施設における学習機会 (5)
07. 授業内報告 (1)
08. 授業内報告 (2)
09. 授業内報告 (3)
10. 授業内報告 (4)
11. 授業内報告 (5)
12. 授業内報告 (6)
13. 授業内報告 (7)
14. 授業内報告 (8)
15. まとめ

準備學習(予習)

受講前の予備知識は特に問わない。授業内報告にあたり、事前に資料収集や現地見学を行い発表内容をまとめること（具体的な方法については授業内で説明する）。

準備學習(復習)

各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めること。

評価方法

- | | |
|-----------|--------------------|
| (1) 授業内応答 | 10% |
| (2) 授業内報告 | 40% 原則1人1回の報告とする。 |
| (3) 期末試験 | 50% 15回目の授業内で実施する。 |

出席を前提とする。

教科書

参考書

現代社会と社会教育 A		ADED-P-200/ADED-L-3	
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 社会教育 必修・選択： 選択科目/資格課程	単位： 2 コード： 1PF00741
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>01. 日本社会の高齢化の状況と将来推計</div> <div>02. 戦前の高齢者の社会的地位（家長制度、尊属優位の民法規定）</div> <div>03. 1960年代以降のわが国の高齢者を対象とする政策の変遷</div> <div>04. 高齢期の幸せな生活をめぐる主張（活動理論と離脱理論等）</div> <div>05. 生涯発達理論について</div> <div>06. 加齢と知的能力(1)</div> <div>07. 加齢と知的能力(2)</div> <div>08. 成人後期の発達と危機（高齢期の発達課題）</div> <div>09. 成人後期の発達と危機（高齢期の生活課題）</div> <div>10. 高齢者の特性を活かした教育学(gerogogy)の理論</div> <div>11. 高齢者の特性を活かした、有効な学習方法</div> <div>12. 高齢者の学習関心・学習要求（1）</div> <div>13. 高齢者の学習関心・学習要求（2） </div> <div>14. 具体的な教育実践</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】コミュニティコース：応用科目【P】コミュニティコース：応用科目</div> <div>【P】コミュニティコース：応用科目【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>			
(1) 内容			
<div>1. 内容</div> <div>本講義では、高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なかんずく高齢者の教育学（gerogogy）理論について論じることとする。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。</div>			
<div>2. カリキュラム上の位置づけ</div> <div>資格取得を目指さない学生の受講もちろん歓迎する。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>成人の生涯発達の支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として（或いは一個人として）、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<div>遅刻、無断欠席は厳禁とする。</div>		<div>講義の中で紹介する、文献、資料等に事前に目を通して講義に臨むこと。
</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>毎回、授業の講義ノートの整理をすること。</div>	
		評価方法	
		<div>(1) 出席点25%</div> <div>(2) 平常点25%</div> <div>(3) 試験50%</div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・ 少子高齢化</div> <div>・ 老年学</div> <div>・ 成人の学習理論</div> <div>・ ジェロゴジー</div> <div>・ 加齢と知能</div>		<div>堀薫夫・三輪建二 『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会）</div>	
		参考書	

現代社会と社会教育B		ADED-P-200/ADED-L-3	
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 社会教育	必修・選択： 選択科目/資格課程
単位： 2		コード： 1PF00842	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>01. オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向</div> <div>02. 青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化</div> <div>03. 青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題</div> <div>04. 非行原因論の系譜（１）</div> <div>05. 非行原因論の系譜（２）</div> <div>06. 教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論</div> <div>07. 学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論</div> <div>08. 学校教育における奉仕活動の必修化をどう考えるか（協議）</div> <div>09. 青少年教育における奉仕活動をめぐる議論のまとめ</div> <div>10. わが国における「死の準備教育」提唱の背景とその内容</div> <div>11. 「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」をめぐる議論について</div> <div>12. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果</div> <div>13. 学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム</div> <div>14. 初等・中等教育学校段階における「死の準備教育―実践事例の紹介―」</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【L】コミュニティコース：応用科目【P】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【P】コミュニティコース：応用科目</div> <div>【P】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【P】社会教育主事資格：選択必修科目【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【全】コミュニティコース：応用科目</div>			
(1) 内容			
<div>1. 内容</div> <div>第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。</div>			
<div>2. カリキュラム上の位置づけ</div> <div>資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<div>本講義では現代社会の中に存在する青年期の教育を取り巻く課題について取り上げる。そして、そこには正答というものがない。したがって受講生が、あるいは受講生同士が意見の交換を通じて一つ一つの課題について、自分の問題として考えることを期待したい。</div>		<div>講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>講義の中で小リポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題リポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。</div>	
学びのキーワード		評価方法	
<div>・ 青少年期の発達特性</div> <div>・ ポストモダン</div> <div>・ 奉仕活動の義務化</div> <div>・ シティズンシップ教育</div> <div>・ 生と死の準備教育</div>		<div>(1) 出席点25%</div> <div>(2) 平常点25%</div> <div>(3) レポート点50%</div>	
		教科書	
		参考書	
		<div>講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。</div>	

予備演習 A

INTD-P-100/LCPO-L-2

担当教員：石川 裕一郎

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：1PX00101

学部教育の関連目

【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイド
 的授業である。大学で学びを始めるために必要な基
 礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション
 能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高め
 訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異
 なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定』公
 テキストを使った要約や発表の練習、それにもとづく
 ディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケ
 ジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

(2) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備學習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備學習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

予備演習 A		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 大森 達也			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00102	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. 図書館ツアー 03. 読解の練習 04. 要約の練習 05. レポートの書き方解説 06. 討論の練習 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダ ンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基 礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション 能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高め る訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異 なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式 テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづく ディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケ ジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>大学での学びにつまずかないように、高校とは違 う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を 高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門 科目や専門演習においてレポートを書いたり発 表・議論をすることが楽に行えるようになるだろ う。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成され たい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加する ことを求める。詳細は各授業で説明する。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求め る。詳細は各授業で指示する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめ て重要な時期である。心して臨むようにされた い。欠席は厳禁である。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 課題60%</div><div>(2) 授業への参加貢献度40%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 導入科目 ・ 演習科目</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

予備演習 A		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 加藤 恵司			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00103	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. イントロダクション 02. 図書館ツアー 03. 読解の練習 04. 要約の練習 05. レポートの書き方解説 06. 討論の練習 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
大学生生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。		指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。	
		準備学習(復習)	
		授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。	
受講者に対する要望		評価方法	
1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。		(1) 課題 60% (2) 授業への参加貢献度 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 導入科目 ・ 演習科目		参考書	

予備演習 A		INTD-P-100/LCPO-L-2
担当教員：金子 毅		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 1PX00104
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. 図書館ツアー 03. 読解の練習 04. 要約の練習 05. レポートの書き方解説 06. 討論の練習 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 課題70% (2) 参加による貢献度30%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 導入科目 ・ 演習科目</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

予備演習 A

INTD-P-100/LCPO-L-2

担当教員：菊地 順

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：1PX00105

学部教育の関連目

【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

(2) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・導入科目
- ・演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

<div> 予備演習 A <div>INTD-P-100/LCPO-L-2</div> </div>	
担当教員： 小松崎 利明	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目 <div>単位： 1 コード： 1PX00106</div>	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. イン트로ダクション 02. 図書館ツアー 03. 読解の練習 04. 要約の練習 05. レポートの書き方解説 06. 討論の練習 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ </div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>	
<div>(1) 内容</div> <p>大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</p>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。</p>
	<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。</p>
<div>受講者に対する要望</div> <p>1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。</p>	<div>評価方法</div> <div> (1) 課題60% (2) 授業への参加貢献度40% </div>
<div>学びのキーワード</div> <div> ・ 導入科目 ・ 演習科目 </div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>

予備演習 A

INTD-P-100/LCPO-L-2

担当教員：柴田 武男

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：1PX00107

学部教育の関連目

【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイド
 的授業である。大学で学びを始めるために必要な基
 礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション
 能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高め
 訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異
 なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定』公
 テキストを使った要約や発表の練習、それにもとづく
 ディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケ
 ジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

(2) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・導入科目
- ・演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備學習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備學習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

予備演習 A		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 高橋 愛子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00108	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. イントロダクション 02. 図書館ツアー 03. 読解の練習 04. 要約の練習 05. レポートの書き方解説 06. 討論の練習 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
大学生生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。		指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。	
		準備学習(復習)	
		授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。	
受講者に対する要望		評価方法	
1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。		(1) 課題 60% (2) 授業への参加貢献度 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 導入科目 ・ 演習科目		参考書	

予備演習 A		INTD-P-100/LCPO-L-2
担当教員： 竹井 潔		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 1PX00109
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. 図書館ツアー 03. 読解の練習 04. 要約の練習 05. レポートの書き方解説 06. 討論の練習 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 課題 60% (2) 授業への参加貢献度 40%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 導入科目 ・ 演習科目</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

<div> 予備演習 A <div>INTD-P-100/LCPO-L-2</div> </div>	
<div> 担当教員： 渡辺 英人 </div>	
<div> 学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目 <div>単位： 1 コード： 1PX00111</div> </div>	
<div> <div>学部教育の関連目</div> <div> 【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う </div> </div>	<div> <div>授業計画</div> <div> 01. イントロダクション 02. 図書館ツアー 03. 読解の練習 04. 要約の練習 05. レポートの書き方解説 06. 討論の練習 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ </div> </div>
<div> <div>カリキュラム上の位置付け</div> </div>	
<div> <div>(1) 内容</div> <div> <p>大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</p> </div> </div>	
<div> <div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <p>大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。</p> </div> </div>	<div> <div>準備学習(予習)</div> <div> <p>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。</p> </div> </div>
	<div> <div>準備学習(復習)</div> <div> <p>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。</p> </div> </div>
<div> <div>受講者に対する要望</div> <div> <p>1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。</p> </div> </div>	<div> <div>評価方法</div> <div> <div> (1) 課題60% </div> <div> (2) 授業への参加貢献度40% </div> </div> </div>
<div> <div>学びのキーワード</div> <div> ・ 導入科目 ・ 演習科目 </div> </div>	<div> <div>教科書</div> </div> <div> <div>参考書</div> </div>

予備演習 A

INTD-P-100/LCPO-L-2

担当教員：宮本 悟

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：1PX00112

学部教育の関連目

【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

(2) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・導入科目
- ・演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

予備演習 A		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 村上 公久			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00113	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. 1. 大学では自分の時間割を 自分で組む — 大学での学びは高校までとは 違う	
		02. 2. 大学での授業	
		03. 3. 卒業に必要な要件	
		04. 4. 図書館実習 — 図書館の使い方 BiblioLab	
		05. 5. ノートを取る (1) — 講義を聴き、ノートを取る	
		06. 6. ノートを取る (2) — 板書写しは、ノートではない	
		07. 7. ノートを取る (3) — 使えるノートと、使えないノート	
		08. 8. ノートを取る (4) — 「誰の考えなのか」ははっきり区別する	
		09. 9. ノートを取る (5) — 自分の 印し・記号を作って使う	
		10. 10. ノートを取る (6) — マインド・マップ を作る	
		11. 11. 自分で調べる	
		12. 12. メディア・リテラシー	
		13. 13. インターネットで調べる	
		14. 14. 文献を自分で読む	
		15. 15. 自分の主張を、明確にする	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
大学での学びを始めることが出来るように、「大学での学びはどうなっているか」、「講義を聴き、ノートを取る」、「自分で調べる」、「学術的な文章を読む」、「他人と議論して、自分で考える」、「レポートを書く」、「プレゼンテーション」、「ネットの活用」を学び、訓練する。			
(2) 学びの意義と目標			
大学での学びは、学ぶ目的も学ぶ方法も高校までの勉強とは違っている。高校までの与えられた教育の中では、問題が与えられて、そしてすでに決まっている正解に至る方法を身に付ける訓練が中心だった。大学では、先ず問題があることに自分で気づき、その問題を自分で明確にして、自分でその正解を作って行くことが求められる。この演習では、大学での学びに必要な基礎力を身に付けるための手ほどきをする。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
大学での「自分で、自分の課題に取り組む」ための学びは、高校までの受け身の教育とは全く違っている。高校までの教育では、問題が与えられて、そしてすでに決まっている正解に至る方法を身に付ける訓練が中心だった。この演習では、先ず問題があることに自分で気づき、その問題を自分で明確にして、自分でその正解を作って行くことを学ぶ。		示された資料の探索と得た資料の理解、レポートを書く訓練、指定された回のプレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーションの準備。	
		準備学習(復習)	
		演習で学んだ内容を復習し、各回のリアクション・ペーパーを作成する。	
		評価方法	
		(1) 各回の リアクション・ペーパー 40%	
		(2) 演習クラスへの 参画と貢献 30%	
		(3) 課題レポート 30%	
		各回のリアクション・ペーパー、資料の探索と資料の理解、レポートを書く訓練、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討議、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等、などを総合的に評価する。	
学びのキーワード		教科書	
・ 大学での講義		なし、 講義資料を配布する。	
・ ノートを取る			
・ 自分で調べる		参考書	
・ 学術的な文章		文献・資料のリスト と 講義資料を配布する。	
・ プレゼンテーション			

予備演習 A

INTD-P-100/LCPO-L-2

担当教員： 森分 大輔

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：1PX00114

学部教育の関連目

【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイド
 ンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基
 礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション
 能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高め
 る訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異
 なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式
 テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづく
 ディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケ
 ジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

(2) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうできわめて重要な時期である。心して臨むようにされた。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備學習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備學習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

<div> 予備演習 A <div>INTD-P-100/LCPO-L-2</div> </div>	
担当教員： 吉田 博司	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目 <div>単位： 1 コード： 1PX00115</div>	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. イントロダクション 02. 図書館ツアー 03. 読解の練習 04. 要約の練習 05. レポートの書き方解説 06. 討論の練習 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ </div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>	
<div>(1) 内容</div> <p>大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</p>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。</p>	
<div>受講者に対する要望</div> <p>1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。</p>
	<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。</p>
	<div>評価方法</div> <div> <div>(1) 課題</div> <div>60%</div> </div> <div> <div>(2) 授業への参加貢献度</div> <div>40%</div> </div>
<div>学びのキーワード</div> <div> ・ 導入科目 ・ 演習科目 </div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

予備演習 A		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 山田　ひとみ			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00116	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. イントロダクション 02. 図書館ツアー 03. 読解の練習 04. 要約の練習 05. レポートの書き方解説 06. 討論の練習 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
大学生生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダ ンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基 礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション 能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高め る訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異 なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式 テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづく ディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケ ジュールは前後する可能性があることを付記しておく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
大学での学びにつまずかないように、高校とは違 う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を 高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門 科目や専門演習においてレポートを書いたり発 表・議論をすることが楽に行えるようになるだろ う。		指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成され たい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加する ことを求める。詳細は各授業で説明する。	
		準備学習(復習)	
		授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求め る。詳細は各授業で指示する。	
受講者に対する要望		評価方法	
1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめ て重要な時期である。心して臨むようにされた い。欠席は厳禁である。		(1) 課題 60% (2) 授業への参加貢献度 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 導入科目 ・ 演習科目		参考書	

予備演習 A		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 土方 透			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00117	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. イントロダクション 02. 図書館ツアー 03. 読解の練習 04. 要約の練習 05. レポートの書き方解説 06. 討論の練習 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
大学生生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダ ンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基 礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション 能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高め る訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異 なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式 テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづく ディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケ ジュールは前後する可能性があることを付記しておく。			
(2) 学びの意義と目標			
大学での学びにつまずかないように、高校とは違 う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を 高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門 科目や専門演習においてレポートを書いたり発 表・議論をすることが楽に行えるようになるだろ う。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめ て重要な時期である。心して臨むようにされた い。欠席は厳禁である。		指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成され たい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加する ことを求める。詳細は各授業で説明する。	
		準備学習(復習)	
		授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求め る。詳細は各授業で指示する。	
		評価方法	
		(1) 課題 60% (2) 授業への参加貢献度 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 導入科目 ・ 演習科目		参考書	

<div> 予備演習B <div>INTD-P-100/LCPO-L-2</div> </div>	
担当教員： 石川 裕一郎	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目 <div>単位： 1 コード： 1PX00201</div>	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ </div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>	
<div>(1) 内容</div> <p>2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</p>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。</p>
<div>受講者に対する要望</div> <p>1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。</p>	<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。</p>
	<div>評価方法</div> <div> <div>(1) 課題</div> <div>60%</div> </div> <div> <div>(2) 授業への参加貢献度</div> <div>40%</div> </div>
<div>学びのキーワード</div> <div> ・ 導入科目 ・ 演習科目 </div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>

予備演習 B

INTD-P-100/LCPO-L-2

担当教員：大森 達也

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：1PX00202

学部教育の関連目

【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

(2) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨みたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・導入科目
- ・演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備學習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備學習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

予備演習B		INTD-P-100/LCPO-L-2
担当教員： 加藤 恵司		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 1PX00203
<div>学部教育の関連目</div> <div>論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 導入科目 ・ 演習科目</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 課題60% (2) 授業への参加貢献度40%</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

予備演習B		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員：金子 毅			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00204	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。		指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。	
		準備学習(復習)	
		授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。	
受講者に対する要望		評価方法	
1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。		(1) 課題 70% (2) 授業への参加貢献度 30%	
学びのキーワード		教科書	
・ 導入科目 ・ 演習科目		参考書	

予備演習B		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 菊地 順			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00205	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。		指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。	
		準備学習(復習)	
		授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。	
受講者に対する要望		評価方法	
1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。		(1) 課題 60% (2) 授業への参加貢献度 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 導入科目 ・ 演習科目		参考書	

予備演習B		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 小松崎 利明			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00206	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。		指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。	
		準備学習(復習)	
		授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。	
受講者に対する要望		評価方法	
1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。		(1) 課題 60% (2) 授業への参加貢献度 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 導入科目 ・ 演習科目		参考書	

予備演習 B

INTD-P-100/LCPO-L-2

担当教員：柴田 武男

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：1PX00207

学部教育の関連目

【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

(2) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨みたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・導入科目
- ・演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備學習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備學習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

予備演習B		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 高橋 愛子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00208	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。		指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。	
		準備学習(復習)	
		授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。	
受講者に対する要望		評価方法	
1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。		(1) 課題 60% (2) 授業への参加貢献度 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 導入科目 ・ 演習科目		参考書	

予備演習B		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 竹井 潔			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00209	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。		指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。	
		準備学習(復習)	
		授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。	
受講者に対する要望		評価方法	
1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。		(1) 課題 60% (2) 授業への参加貢献度 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 導入科目 ・ 演習科目		参考書	

<div> 予備演習B <div>INTD-P-100/LCPO-L-2</div> </div>	
担当教員：宮本 悟	
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 <div>単位：1 コード：1PX00212</div>	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ </div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>	
<div>(1) 内容</div> <div> 2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。 </div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> 専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。 </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> 指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。 </div>
<div>受講者に対する要望</div> <div> 1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。 </div>	<div>準備学習(復習)</div> <div> 授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。 </div>
	<div>評価方法</div> <div> (1) 課題60% (2) 授業への参加貢献度40% </div>
<div>学びのキーワード</div> <div> ・導入科目 ・演習科目 </div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

予備演習B		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 村上 公久			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00213	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. 1. 他人と議論して、自分で考える 02. 2. 議論して、初めて自分が解かる 03. 3. 正しく推論する 04. 4. 図書館実習 ― 図書館の使い方 BiblioLab データ・ベース検索 05. 5. レポートを書く（1） ― レポートとは何か 06. 6. レポートを書く（2） ― レポートを読むのは、自分ではない 07. 7. レポートを書く（3） ― 全体を考えて、構成を作り、まとめる 08. 8. レポートを書く（4） ― パラグラフを考えて、清書する 09. 9. レポートを書く（5） ― 正確な文章に仕上げる 10. 10. レポートを書く（6） ― 引用・注・参考文献 11. 11. プレゼンテーション（1） ― プレゼンテーションとは何か 12. 12. プレゼンテーション（2） ― プレゼンテーションによる発表の準備 13. 13. プレゼンテーション（3） ― プレゼンテーション資料の作成 14. 14. 大学生活とインターネット 15. 15. インターネットにひそむ危険	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
「予備演習A」に引き続いて、大学での学びを始めることが出来るように、「大学での学びはどうなっているか」、「講義を聴き、ノートを取る」、「自分で調べる」、「学術的な文章を読む」、「他人と議論して、自分で考える」、「レポートを書く」、「プレゼンテーション」、「ネットの活用」を学び、訓練する。			
(2) 学びの意義と目標			
大学での学びは、学ぶ目的も学ぶ方法も高校までの勉強とは違っている。高校までの与えられた教育の中では、問題が与えられて、そしてすでに決まっている正解に至る方法を身に付ける訓練が中心だった。大学では、先ず問題があることに自分で気づき、その問題を自分で明確にして、自分でその正解を作っていくことが求められる。この演習では、大学での学びに必要な基礎力を身に付けるための手ほどきをする。		準備学習(予習)	
		示された資料の探索と得た資料の理解、レポートを書く訓練、指定された回のプレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーションの準備。	
		準備学習(復習)	
		演習で学んだ内容を復習し、各回のリアクション・ペーパーを作成する。	
		評価方法	
		(1) 各回の リアクション・ペーパー 40% (2) 演習クラスへの 参画と貢献 30% (3) 課題レポート 30%	
		各回のリアクション・ペーパー、資料の探索と資料の理解、レポートを書く訓練、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等、などを総合的に評価する。	
受講者に対する要望			
大学での「自分で、自分の課題に取り組む」ための学びは、高校までの受け身の教育とは全く違っている。高校までの教育では、問題が与えられて、そしてすでに決まっている正解に至る方法を身に付ける訓練が中心だった。この演習では、先ず問題があることに自分で気づき、その問題を自分で明確にして、自分でその正解を作っていくことを学ぶ。			
学びのキーワード		教科書	
・議論・討論 ・レポート ・プレゼンテーション ・インターネット ・SNSの危険		なし、講義資料を配布する。	
		参考書	
		文献・資料のリスト と 講義資料を配布する。	

<div> 予備演習B <div>INTD-P-100/LCPO-L-2</div> </div>	
担当教員： 森分 大輔	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目 <div>単位： 1 コード： 1PX00214</div>	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ </div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>	
<div>(1) 内容</div> <p>2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</p>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。</p>
<div>受講者に対する要望</div> <p>1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。</p>	<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。</p>
	<div>評価方法</div> <div> <div>(1) 課題</div> <div>60%</div> </div> <div> <div>(2) 授業への参加貢献度</div> <div>40%</div> </div>
<div>学びのキーワード</div> <div> ・ 導入科目 ・ 演習科目 </div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>

<div> 予備演習B <div>INTD-P-100/LCPO-L-2</div> </div>	
担当教員： 吉田 博司	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目 <div>単位： 1 コード： 1PX00215</div>	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ </div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>	
<div>(1) 内容</div> <p>2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</p>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。</p>
<div>受講者に対する要望</div> <p>1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。</p>	<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。</p>
	<div>評価方法</div> <div> <div>(1) 課題</div> <div>60%</div> </div> <div> <div>(2) 授業への参加貢献度</div> <div>40%</div> </div>
<div>学びのキーワード</div> <div> ・ 導入科目 ・ 演習科目 </div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>

予備演習B		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 山田　ひとみ			
学期： 週間授　科目： 専門科目　必修・選択： 必修科目		単位： 1　コード： 1PX00216	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 課題60%</div><div>(2) 授業への参加貢献度40%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 導入科目 ・ 演習科目</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

予備演習B		INTD-P-100/LCPO-L-2	
担当教員： 渡辺 英人			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 1		コード： 1PX00217	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。		指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。	
		準備学習(復習)	
		授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。	
受講者に対する要望		評価方法	
1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。		(1) 課題 60% (2) 授業への参加貢献度 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 導入科目 ・ 演習科目		参考書	

予備演習B		INTD-P-100/LCPO-L-2
担当教員：土方 透		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 1PX00218
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. 図書館ツアー：データベース編 03. 自己分析 04. 交流分析 05. 担当者による発表 06. 担当者による発表 07. 担当者による発表 08. 担当者による発表 09. 担当者による発表 10. 担当者による発表 11. 担当者による発表 12. 担当者による発表 13. 担当者による発表 14. キャリアガイダンス 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 課題60% (2) 授業への参加貢献度40%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 導入科目 ・ 演習科目</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

専門演習 A (環境保全論)		POSC-P-200	
担当教員： 村上 公久			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 1		コード： 1PX10305	
学部教育の関連目		授業計画	
【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. 地球環境の劣化の現状（1） — 森林の消失・劣化 02. 地球環境の劣化の現状（2） — 砂漠の拡大 03. 地球環境の劣化の現状（3） レポート 04. 地球環境の劣化の現状（4） 討論 05. 生態学におけるいくつかの重要な概念について（1） — [人間—環境]系 06. 生態学におけるいくつかの重要な概念について（2） — エコロジーの4つの法則 07. 生態学におけるいくつかの重要な概念について（3） 討論 08. 環境問題をめぐる理念の変遷（1） — 未開の時代 09. 環境問題をめぐる理念の変遷（2） — 文明の時代 10. 環境問題をめぐる理念の変遷（3） — 共生の時代 11. 環境問題をめぐる理念の変遷（4） レポート1 12. 環境問題をめぐる理念の変遷（5） レポート2 13. 環境問題をめぐる理念の変遷（6） レポート3 14. 環境問題をめぐる理念の変遷（7） 討論 15. 環境問題をめぐる理念の変遷（8） 討論2 と 総括	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
この演習では先ず、システム “人間—環境” 系 の考察を中心に環境史を概観して、環境問題をめぐる理念の変遷を資料により学び、古代から近代まで（地中海文明から近代合理主義まで）の環境論の変遷を辿る。次に、人口の急増と共に急速に生命の環境が劣化した産業革命以降今日までの環境問題を考え、その解決に貢献した先駆者達の歩みを振り返り、21世紀の人類の課題 Sustainable Development 保続的(持続的)開発(地球サミットUNCEDの決議『アジェンダ21』)の可能性を探る。			
(2) 学びの意義と目標			
環境問題の事例研究を通じて、解決への実際的な方途について学び、環境問題にみられるような複雑な問題と取り組み問題解決に挑む模擬経験を積む。		準備学習(予習)	
		総合科目「環境学」、専門科目「環境保全論」、特にこの演習の前提である「環境保全論」を、準備として予め復習しておくこと。演習開始以降の予習については、各回に指示する。	
		準備学習(復習)	
		各回のゼミ内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めてゼミ記録を作成する。	
受講者に対する要望		評価方法	
大学の「授業」は、講義と演習（ゼミ）と二つの要素から成る。この科目「専門演習A（環境保全論）」は、講義である専門科目の「環境保全論」で学んだ内容の具体的事例を扱う演習（ゼミ）科目である。履修する予定の者は、予めこの演習科目を履修するための導入と基礎となる本学の環境分野関連科目「環境学」「環境保全論」の2科目のうち1科目以上を、履修しておくことが望ましい。		（1）プレゼンテーション と 討論 40% 欠席回数が講義回数の3分の1を超える者には、単位を認定しない。 （2）演習クラス への参画と 貢献 30% （3）レポート 30%	
資料の探索と資料の理解、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等 などを総合的に評価する。			
学びのキーワード		教科書	
・ 自然保護と環境保全 ・ 自然観の変遷 ・ 個体群生態学と環境容量 ・ 再生産可能な資源 と 枯渇性資源 ・ 保続的（持続的）発展		なし、演習の資料を配布する。	
		参考書	
		文献・資料のリスト と 演習の資料を配布する。	

専門演習 A (キリスト教社会倫理)		LAW-P-200
担当教員： 菊地 順		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX10509
学部教育の関連目		授業計画
【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
この授業では、キリスト教社会倫理に関連する人物や思想に、テキストや映像をとおして触れてもらい、それぞれの世界を学ぶことをとおして、人間の生き方について考えます。 具体的には、アメリカで1950年代後半から60年代に活躍したマーティン・ルーサー・キングを中心に、その戦い、生き方、思想について学びます。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
春学期は、キングの背景と、キングの活動の原点ともなったモンゴメリーでの戦いを中心に学びます。そのことをとおし、その背後にあるキリスト教の精神を尋ねつつ、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などについて考えます。		
		準備学習(復習)
		評価方法
受講者に対する要望		教科書
日本人にはあまりなじみのない人種問題を扱いますが、そこには人類に共通な普遍的問題があります。アメリカの歴史や黒人問題、また人間そのものに関心を寄せる人に受講してほしいと思います。また、授業では、学びつつ、議論しつつ、授業をしていきますので、積極的に参加してください。		
学びのキーワード		参考書
・ マーティン・ルーサー・キング		
・ アフリカ系アメリカ人（黒人）		
・ 人種隔離政策		
・ 非暴力		プリントを配布します。またプリント以外にも映像等を用いて授業を行います。
・ 人権		

専門演習 A (企業経済論)		ECON-P-200				
担当教員： 柴田 武男						
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX10713				
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 教員によるゼミの進め方を解説</div> <div>02. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論</div> <div>03. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論</div> <div>04. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論</div> <div>05. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論</div> <div>06. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論</div> <div>07. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論</div> <div>08. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論</div> <div>09. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論</div> <div>10. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論</div> <div>11. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論10</div> <div>12. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論11</div> <div>13. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論12</div> <div>14. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論13</div> <div>15. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論14</div>				
<div>カリキュラム上の位置付け</div>						
<div>(1) 内容</div> <div>専門演習 A (企業経済論) では、経済情報のアクセス方法とその活用方法を教授する。中心的な情報源は日本経済新聞である。特に日本経済新聞電子版を用いて、インターネット時代に即して情報収集・活用の方法を指示していく。また、ゼミの教材としては『週刊ダイヤモンド』『週刊東洋経済』『週刊エコノミスト』という三大経済誌を活用し、その中から企業経済論に相応しい題材を提供し、議論していく。また、受講者からもこれらの情報媒体から題材提供を指示し、議論していく。</div> <div>本ゼミは、現在日本経済を中心として何が起きているのか、日々起きている現実の経済問題と取り組むことを目的として、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本ゼミの目的は、現在日本経済を中心として何が起きているのか、日々起きている現実の問題と取り組むことである。また、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>ゼミの出席は無遅刻・無欠席をお願いしたい。また、できるだけ政治経済学科主催の講演会および公開講義、AH等のシンポジウムにも積極的に参加できる学生の受講を期待する。</div>				
<div>受講者に対する要望</div> <div>日々、日本経済新聞など経済記事を日頃から読む習慣を期待している。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>講義で取り上げたテーマについて、質疑応答で生じた疑問点についてレポートを復習課題とする。</div>				
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">日本経済新聞週刊エコノミスト週刊東洋経済週刊ダイヤモンドデータベース</div>		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 平常点</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>50%</td></tr></table></div>	(1) 平常点	50%	(2) レポート	50%
(1) 平常点	50%					
(2) レポート	50%					
<div>教科書</div>		<div>参考書</div>				

専門演習 A (経営管理)

MGMT-P-200

担当教員：金子 毅

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX10925

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本の企業経営者の思考法について学ぶ。松下幸之助著作の『実践経営哲学』などを扱い、毎時これに関するテーマを学生各自が選んで発表をする形式で進める。

(2) 学びの意義と目標

学生たちの将来に差し迫った就職活動に不可欠なプレゼン能力を養うことを通して、グローバル化により混迷する企業社会を生き抜く知性を獲得させる。

受講者に対する要望

ちょっと柔らかい頭と軽いフットワークで知の迷宮にチャレンジして下さい。

学びのキーワード

- ・企業の使命感
- ・経営理念
- ・ダム経営
- ・水道哲学

授業計画

01. イントロダクション：松下式経営とは？
02. 発表に取り掛かる前に：分担の取り決めなど
03. 発表 1
04. 発表 2
05. 発表 3
06. 発表 4
07. 発表 5
08. 中間整理
09. 発表 6
10. 発表 7
11. 発表 8
12. 発表 9
13. 発表 10
14. 発表 11
15. エピローグ：まとめ（松下式経営は可能か？）

準備学習(予習)

発表者はテキストを熟読し、テーマを抽出し、レジュメを作成しておく。それ以外の者はテキストに目を通し、想定される問題点を確認しておく。

準備学習(復習)

レジュメに付された板書による訂正・追加箇所を次回の該当箇所との関連を踏まえながら熟読する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 発表 | 70% |
| (2) 参加による貢献度 | 30% |

教科書

参考書

専門演習 A (憲法)		LAW-P-200
担当教員： 石川 裕一郎		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX11169
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 導入：演習の進め方に関する討議及び決定</div> <div>02. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>03. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>04. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>05. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>06. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>07. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>08. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>09. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>10. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>11. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>12. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>13. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>14. テキスト輪読・発表・議論</div> <div>15. テキスト輪読・発表・議論</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>憲法に関連するテキストを用い、内容の読解・要約、さらに意見を発表する作業を重ねます。受講者には以下のことが求められます。</div> <div>* 本をたくさん読む。若者に限らず、とにかく現代日本人は本を読まなさ過ぎです。そのため、知識量が圧倒的に少ない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、活字情報を活用することによって異質な他者を知り、その現実を追体験する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。</div> <div>* 現場を多く見る。若者に限らず、とにかく現代日本人は現場を知らなさ過ぎです。そのため、現実を知らない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、直接その目と耳で触れることによって異質な他者を理解し、それに共感する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>具体的な意義と目標は、各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力（国家）や社会的権力（企業）から一方的に搾取されない、賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>演習科目なので、とりわけプレゼンテーションの準備には各受講者の自発的かつ継続的な対応の分量の予習が求められます。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>「演習」科目ですので、受講者が主体的に授業に参加する」ことが強く求められます。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>プレゼンテーション後においても、卒業研究に向けて対応の分量の復習が求められます。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点80% プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。</div> <div>(2) 期末レポート20%</div> <div>単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。</div>
		<div>教科書</div> <div>参考書</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 演習科目</div> <div>・ 法律学</div> <div>・ 憲法学</div> <div>・ 比較法学</div>		

専門演習 A (政治過程論)

POSC-P-200

担当教員：高橋 愛子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX11541

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

今日の政治社会が直面するさまざまな問題を理解するためには二つのアプローチが必要とされる。すなわち、政治過程の具体的なダイナミズムについて実証的な認識をもつこと、および、現実政治を理解する際に必要とされる理念的・思想的な次元における自分なりの認識のための座標軸をもつことである。

以上の基本的な考え方に立ち、本年は「日本国憲法をめぐる政治過程」を一つの切り口としながら、共通のテキストを輪読しつつ学び議論をしてゆく。一学期間を通して学んだことを「学期末レポート」として提出することが求められる。

(2) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（著者の主張の要点を把握し、発表用のレジュメを作成し、プレゼンを行う）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、政治にかかわる独自の研究テーマを見出すこと。

受講者に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

学びのキーワード

- ・そもそも憲法とはなにか
- ・日本国憲法の成立過程
- ・憲法をめぐるさまざまな争点

授業計画

01. 導入：一学期間の進め方のオリエンテーション、分担の決定
02. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
03. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
04. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
05. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
06. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
07. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
08. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
09. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
10. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
11. 個人の研究テーマのプレゼン・議論
12. 個人の研究テーマのプレゼン・議論
13. 個人の研究テーマのプレゼン・議論
14. 個人の研究テーマのプレゼン・議論
15. 一学期間のまとめ

準備学習(予習)

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

準備学習(復習)

ゼミで議論になったポイントについての理解を深めるためのレポート作成。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 20% |
| (2) プレゼン | 40% |
| (3) 学期末レポート | 40% |

教科書

参考書

專門演習 A (政治哲学)

POSC-P-200

担当教員： 森分 大輔

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX11945

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

政治哲学の専門演習として、洋の東西にまたが
る近・現代の政治理論家のテクストを読み込むこ
とを主眼とする。また、それに関連する議論をお
こなうことで参加者の政治学的素養を深める。

(2) 学びの意義と目標

これまでに身に着けてきた、様々な社会科学的教養を前提として、政治哲学に興味、関心を持つ学生諸君の問題意識を深めることを目的としている。

受講者に対する要望

アカデミックな専門的知識のみならず、それらを現実の問題に適用する能力の獲得を目的とする少人数のゼミ形式授業であることを、時事問題を議論すること、現実理解能力を鍛えることをねらいとする。受講者にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極的に取り組む姿勢が求められる。

学びのキーワード

- 政治学
- 思想
- 討論

授業計画

01. 導入：講義計画の説明、担当についての分担
02. 政治理論と現代政治に関する導入
03. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
04. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
05. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
06. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
07. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
08. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
09. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
10. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
11. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
12. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
13. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
14. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
15. まとめ

準備學習(予習)

現実の政治現象に関心を持つだけでなくその理解に必要な政治哲学的観点への関心をもつこと。

準備學習(復習)

発表、討論内容について自身の考えを整理することが必要とされる。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業貢献 | 40% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) 学期末レポート | 30% |

教科書

参考書

専門演習 A (日本政治思想史)		POSC-P-200					
担当教員： 吉田 博司							
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX12365					
<div>学部教育の関連目</div> <p>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</p>		<div>授業計画</div> <p>01. プリントの輪読と討論 02. 同 03. 同 04. 同 05. 同 06. 同 07. 同 08. 個人発表と討論 09. 同 10. 同 11. 同 12. 同 13. 同 14. 同 15. 予備</p>					
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <p>近代日本の思想家・政治家の思想と行動に触れることにより、現代政治の思想と行動への批判的基準を確認する。</p>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>現代政治に対し、空理空論で立ち向かうのではなく、歴史に腰をすえた批評眼を養うには、近代の生きた思想を学ばねばならない。</p>		<div>準備学習(予習)</div> <p>プリントを中心に討議に備えること。</p>					
		<div>準備学習(復習)</div> <p>知識不足等を指摘するので次回まで調べ報告すること。</p>					
<div>受講者に対する要望</div> <p>積極的な発言を期待します。</p>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 報告</td><td>60%</td></tr></table> <p>平常点は日頃の討論を評価します。報告は資料、論理、オリジナリティを評価します。</p>		(1) 平常点	40%	(2) 報告	60%
(1) 平常点	40%						
(2) 報告	60%						
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none">・ 啓蒙思想・ 帝国主義・ 国体・ 大正デモクラシー		<div>教科書</div> <div>参考書</div>					

専門演習 A (法思想史)		LAW-P-200				
担当教員： 加藤 恵司						
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX12977				
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. テキスト購読・要約 02. テキスト購読・要約 03. テキスト購読・要約 04. テキスト購読・要約 05. テキスト購読・要約 06. テキスト購読・要約 07. テキスト購読・要約 08. テキスト購読・要約 09. テキスト購読・要約 10. テキスト購読・要約 11. テキスト購読・要約 12. テキスト購読・要約 13. テキスト購読・要約 14. テキスト購読・要約 15. テキスト購読・要約</div>					
<div>カリキュラム上の位置付け</div>						
<div>(1) 内容</div> <div>「法思想史」の講義を基礎として、その内容を更に深める。本年度の主たるテーマとして、法制度の源流に焦点をあて、そこから流れ出す法思想を学ぶ。</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>書物、論文を読むことを目標とする。また、与えられた課題を深く追求する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>テキストを要約してレポートする。</div>					
<div>受講者に対する要望</div> <div>まじめに出席する。テキストを読む。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>話題になった事柄を調べる。</div>					
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 参加度</td><td>60%</td></tr><tr><td>(2) 報告</td><td>40%</td></tr></table> <div>参加度は重視されるので留意されたい。</div>		(1) 参加度	60%	(2) 報告	40%
	(1) 参加度	60%				
(2) 報告	40%					
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 法</div><div>・ 思想</div><div>・ 歴史</div></div>	<div>教科書</div> <div>加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』（ジーオー企画出版）</div> <div>参考書</div>					

単位：1 コード：1PX13110

01. オリエンテーション
02. 文献の選定
03. 文献講読
04. 文献講読
05. 文献講読
06. プレゼンテーション
07. プレゼンテーション
08. 中間総括
09. 文献講読
10. 文献講読
11. 文献講読
12. プレゼンテーション
13. プレゼンテーション
14. 総括
15. 卒業演習へのオリエンテーション

(1) 内容

文献講読、討論を通じて、ゼミ形式でしか得られない知的刺激と学的鍛錬を目標とする。

(2) 学びの意義と目標

ゼミは一方方向的な講義とは異なり、一つのテーマをめぐるゼミ員同士が議論するという水平的なコミュニケーションから成り立つ。したがってここでは自らが能動的に考え、発し、それに対する反応を自らにおいて反省し、かつリプライするというもっとも知的な力が必要とされることとなる。そうした醍醐味を得るとともに、かかる能力を高めていくことが当科目の主たる意義と目標になる。

準備學習(予習)

毎回の課題の準備

準備學習(復習)

前回の成果を必ず次回に積み上げていくこと

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|-----------------------------------|
| (1) 出席 | 60% | ただ出席しているのではなく、議論を展開する姿勢に対する評価となる。 |
| (2) プレゼンテーション | 40% | プレゼンテーションの内容、レジュメに完成度などを評価の対象とする。 |

受講者に対する要望

受講する以上、能動的に参加すること。それに尽きる。

学びのキーワード

- ・現代社会
- ・社会学理論
- ・社会問題

教科書

受講生と話し合いのうえ、教室で指示する。

参考書

専門演習 A (平和学)

POSC-P-200

担当教員：小松崎 利明

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX13273

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

これまでの歴史において、人々は平和をどのように捉え、また平和について何を考えてきたのか、といったテーマについて学び考えることを目的に、平和に関する歴史的・思想的文献を輪読する。

(2) 学びの意義と目標

文献を丁寧に読むことによって、これまで積み重ねられてきた知識に対する理解を深め、論理的思考力や生涯学習力を養うことができるようになる。さらに、発表と討論によって、コミュニケーション・スキルや自己管理能力を養い高めることができるようになる。

受講者に対する要望

本を読んで考え、議論することの楽しさを一緒に味わいましょう。

学びのキーワード

- ・ 平和
- ・ 輪読
- ・ 演習

授業計画

01. イントロダクション
02. 文献輪読 (学生による発表と討論)
03. 文献輪読 (学生による発表と討論)
04. 文献輪読 (学生による発表と討論)
05. 文献輪読 (学生による発表と討論)
06. 文献輪読 (学生による発表と討論)
07. 文献輪読 (学生による発表と討論)
08. 文献輪読 (学生による発表と討論)
09. 文献輪読 (学生による発表と討論)
10. 文献輪読 (学生による発表と討論)
11. 文献輪読 (学生による発表と討論)
12. 文献輪読 (学生による発表と討論)
13. 文献輪読 (学生による発表と討論)
14. 文献輪読 (学生による発表と討論)
15. 文献輪読 (学生による発表と討論)

準備学習(予習)

文献の指定箇所を読んでおく。

準備学習(復習)

授業での討論をふまえ、期末レポート作成に向けてノートを作成しておく。

評価方法

- | | |
|------------|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 文献講読、担当箇所の発表内容、討論への参加 |
| (2) 期末レポート | 50% 授業で扱った文献の書評レポート |

教科書

参考書

専門演習 A (公共哲学)												
担当教員： 谷口 隆一郎												
学期： 週間授 科目：		必修・選択： 必修	単位： 1 コード： 1PX14010									
学部教育の関連目		授業計画										
		01. オリエンテーション 02. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 03. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 04. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 05. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 06. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 07. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 08. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 09. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 12. ゼミ生による発表 13. ゼミ生による発表 14. ゼミ生による発表 15. まとめ										
カリキュラム上の位置付け												
(1) 内容												
<p>現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが帰属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要である。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅったい）の経緯と動向について学ぶ。</p> <p>公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとってのコミュニティの意味、コミュニタリアニズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げる。</p> <p>(1) 公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。(2) 文献をレジメにまとめ報告・議論する。(3) 卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。</p>												
(2) 学びの意義と目標												
<p>(1) 公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにある。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していく。</p> <p>(2) 将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくというテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根底から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれている。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができる。</p> <p>(3) 論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛える。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができる。</p>												
受講者に対する要望		準備学習(予習)										
年に数回合宿を行う。全員参加を基本とする。		授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。										
		準備学習(復習)										
		学習ノートを自主的に作成して、これを読み返し、次の授業に質問等を行う。										
		評価方法										
		<table><tr><td>(1) 授業への参加度と貢献度</td><td>50%</td><td>毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等</td></tr><tr><td>(2) 研究成果（小論文）ないしレポート</td><td>50%</td><td>ゼミ論文・レポートに対する評価</td></tr><tr><td>(3) 出欠について</td><td></td><td>学期を 出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。</td></tr></table>		(1) 授業への参加度と貢献度	50%	毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等	(2) 研究成果（小論文）ないしレポート	50%	ゼミ論文・レポートに対する評価	(3) 出欠について		学期を 出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。
(1) 授業への参加度と貢献度	50%	毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等										
(2) 研究成果（小論文）ないしレポート	50%	ゼミ論文・レポートに対する評価										
(3) 出欠について		学期を 出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。										
		遅刻が常習の者や授業の取組が著しく消極的な者については評価を厳しくする。										
学びのキーワード		教科書										
<ul style="list-style-type: none">・ 公共・ 公共倫理・ コミュニティ・ グローバリズム・ ナショナリティ		授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。										
		参考書										
		授業内で指示する。										

専門演習 A (情報倫理)

INFO-P-200

担当教員：竹井 潔

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX14237

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は我々が情報社会の中でより良く生きていく上で必要となる。「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。

(2) 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく

受講者に対する要望

コミュニティ情報系の科目の履修をすることが望まれる。

学びのキーワード

- ・ 情報社会における諸課題
- ・ 情報倫理

授業計画

01. オリエンテーション
02. 課題研究 1
03. 課題研究 2
04. 課題研究 3
05. 課題研究 4
06. ビジネビジネスゲームによる企業活動と情報社会の理解
07. ビジネスゲーム演習 1
08. ビジネスゲーム演習 2
09. ビジネスゲーム演習 3
10. 企業活動と情報社会の課題
11. 情報社会における倫理的課題
12. テーマの形成
13. テーマの検討 1
14. テーマの検討 2
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に指示する参考図書を読んで用語などを調べておくこと。発表演習には事前に発表資料を作成してくること。演習は必ず出席し、積極的に参画すること。

準備学習(復習)

演習でできなかった個所や理解できなかった専門用語は各自調査して十分に理解しておくこと。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------|
| (1) 演習 | 40% | 課題提出・発表演習 |
| (2) レポート | 60% | |

教科書

授業の中で指示する

参考書

専門演習 A (組織行動論)		MGMT-P-200	
担当教員： 八木 規子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 1		コード： 1PX14349	
学部教育の関連目		授業計画	
【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. イントロダクション：自己紹介、ゼミの進め方について 02. 第 1 章 キャリアを考える：個人の欲求と会社の目的 03. 分担決定、レジュメの作り方 04. 第 2 章 入社する：社会化と組織文化 05. 第 3 章 会社と仕事に慣れる：モチベーションと規則の関係 06. 第 4 章 人事異動：会社のなかでのキャリア開発 07. 第 5 章 部下を持つ：リーダーシップ 08. 第 6 章 部内をまとめる：集団のダイナミズム 09. 第 7 章 トラブル発生：コンフリクト・マネジメント 10. 第 8 章 あこがれの経営企画室へ：組織のデザイン 11. 第 9 章 部長たちの奮闘：環境のマネジメント 12. 第10章 事業を背負う：組織変革とトップの役割 13. 第11章 ついに社長就任：経営理念とビジネスシステム 14. 第12章 ビジネスのさらに先：経営にできること 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
組織行動論の諸概念を、テキスト『キャリアで語る経営組織』の輪読を通じて、学んでいく。専門演習 A では、履修生が組織行動論の中で、興味のある概念を選び、卒業研究レポートの研究・執筆につなげていく、第一段階として、組織行動論の諸概念に親しむながら、レポートの書き方の基本を再確認する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
組織行動論は、組織において、人間が行動する際にみせる様々な法則性について学ぶ学問である。実際の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題を、組織行動論の理論やフレームワークの視点から吟味することは、履修生が、将来組織人として生きる上で、問題解決の選択肢を増やすという意義がある。また、卒業研究レポートの研究・執筆にあたっては、普遍的な科学的研究手法に沿った研究のやり方を習得することを目標とする。こうした研究手法の習得は、我々が生きる複雑な社会と、それに関する膨大な情報に対して、我々が下していかなければならない「判断」と「選択」の「品質」を上げるという意義がある。		次回テキスト、文献は必ず読み、自分の考え、意見をまとめておくこと。報告者・発表者は、前日までにレジュメを提出すること。	
		準備学習(復習)	
		各回のゼミ終了後、理解したこと、疑問に思ったことをまとめておくこと。UNIPA上に、それらの考えをアップロードする場を設けるので、利用すること。	
受講者に対する要望		評価方法	
理論・フレームワークを学ぶことは、自分の考え方を、一つの枠組みに強制的に嵌めてみることに他ならない。窮屈に感じるかもしれないが、一度そうしたトレーニングを経ることで、ものの見方、考え方が広がるはずだ。そういう体験にチャレンジするつもりでゼミに臨んでほしい。		(1) 授業への貢献 50% クラス討議への参加、発言、クラスメイトの発言に対する反応 (2) 期末レポート 50%	
学びのキーワード		教科書	
・ 組織行動 ・ 調査研究手法 ・ 企業 ・ 個人		稲葉祐之、他著『キャリアで語る経営組織 ― 個人の論理と組織の論理』（有斐閣）【978-4-641-12393-9】	
		参考書	

専門演習 A (地域社会論)

SOCI-P-200

担当教員： 大高 研道

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1PX14457

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

生活の個別化が進み、家族や地域社会を取り巻く環境も様変わりを見せる中、就業、結婚、子育て、福祉、教育など、社会のあらゆる場面において発生する諸問題や不安の増大を背景に「危機の時代」が叫ばれつつある。その「危機感」を高めている重要な要素のひとつが「関係性の希薄化」であるという認識のもと、本演習では、「人と人がつながる現代的な形」について考えたい。

演習は、おもにコミュニティ活動の実践と文献講読・討論によって構成される。前者は、宮原駅コンコース緑化活動を実施する。後者は、地域社会を規定している「現代社会」そのものが抱える問題点（雇用やニート問題、子ども犯罪、いじめ、引きこもり、高齢化社会、女性の社会的地位、結婚・離婚問題など）について、テキストをもとに各自が興味のあるテーマを設定して報告・議論する。その上で、現代的課題を解決する舞台として期待されている「地域社会（コミュニティ）」の可能性と課題について検討する。

(2) 学びの意義と目標

現代社会は、人とつながりにくい社会だといわれている。しかし、私たちは決して1人では生きていけない。人と、社会と、どのようにつながるのか。地域社会（コミュニティ）について学ぶということは、現代社会、そして未来社会において、私たちがどのように（他者とともに）生きるかを考えることに他ならない。

演習を通して、最終的には、現代における社会的諸問題を解決する舞台として期待されている「地域社会（コミュニティ）」のすすむ方向性を、「現代的協同（人とつながる現代的な形）」をキーワードに検討する。とりわけ、地域を基盤に活動する新しい協同の形として注目されるNPO、社会的企業等の協同実践が展開するための可能性と課題について、一定程度のヴィジョンが提起できるようにすることを目指す。

受講者に対する要望

・時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。

学びのキーワード

- ・ 地域社会
- ・ N P O
- ・ 社会的排除
- ・ 社会的企業
- ・ 現代的協同性

授業計画

01. 地域社会論演習について
02. コミュニティ活動の理論と実践
03. コミュニティ活動の実践(1)
04. コミュニティ活動の実践(2)
05. コミュニティ活動の実践(3)
06. 報告の基礎と技法 (1)
07. 報告の基礎と技法 (2)
08. コミュニティ活動の実践(4)
09. 調査報告(1)
10. 調査報告(2)
11. 調査報告(3)
12. 調査報告(4)
13. 調査報告(5)
14. コミュニティ活動の実践(5)
15. まとめ

準備学習(予習)

・ 次回テキストの該当箇所は必ず読み、分からない用語等は事前に調べておくこと。報告者は前日までにレジュメを提出すること。

準備学習(復習)

・ 各自、ゼミ終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと/さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、ゼミの冒頭に共通討論の場を設ける。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 70% |
| (2) レポート | 30% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

専門演習 A (日本経済論)		ECON-P-200	
担当教員： 大森 達也			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 1		コード： 1PX14561	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. はじめに 02. 市場経済の特徴 03. 現代資本主義の特徴 04. 戦後復興規から高度成長期まで 05. 石油危機にはじまる低成長期 06. 経済成長の仕組み(1) 07. 経済成長の仕組み(2) 08. 日本的市場競争の仕組み(銀行グループ) 09. 日本的市場競争の仕組み(日本的経営) 10. 円高不況からバブルへ(背景) 11. 円高不況からバブルへ(政策対応) 12. 「失われた10年」の意味 13. 「失われた10年」における政策対応 14. 「失われた10年」の間の世界の変化 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本演習では、1990年代に入るまで順調な経済成長を持続してきた日本経済の特徴を、欧米経済先進国との制度的な比較から理解すると共に、90年代の「失われた10年」を経て、21世紀を迎えた今日においてもいまだ問題を抱える日本経済についての講義、ディスカッションを通して、各自考えることをする。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本演習では、日本経済のの基礎知識を、各自深めることからはじめ、卒業研究で取り扱う問題に対する意識を高めることを目的とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>日本経済に関する書籍を前もって読み、講義の問題提起に対して発言できるように準備しておくこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>各時間の後、ノートをまとめておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>秋学期にある「日本経済論」を履修すること。 また、15回の講義で、日本経済の基礎を概観するので、しっかりと勉強をすること。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) ノート75% 15回×5%</div><div>(2) ブックレポート25% 1,200文字程度 1回</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 日本経済</div><div>・ 市場経済</div><div>・ 現在資本主義</div><div>・ 失われた10年</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

専門演習 A (法政情報論)

INFO-P-200

担当教員：渡辺 英人

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX14681

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらう。2016年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

(2) 学びの意義と目標

生活の中から見た法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

受講者に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

学びのキーワード

- 生活の中から見た法と行政
- 消費者保護法
- 消費者保護行政

授業計画

01. 現代社会と法（その種類と仕組み）
02. 法と道徳
03. 法が強制的であるということ
04. 法の機能
05. 「犯罪」とは何か？
06. 現代社会と裁判制度
07. デュー・プロセスについて
08. 消費者を守る法
09. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

準備学習(予習)

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作成すること。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業への積極的参加、発言など | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 課題作成 | 30% |

教科書

参考書

専門演習 A (まちづくり学)

SOCI-P-200

担当教員：平 修久

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1PX14785

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。何気なく毎日を過ごしている身近なまちをもう一度見直し、埋もれている価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きが各地で見られる。あるいは、まちの問題に自ら市民が取り組む動きも起きている。

そこで、本演習では、具体的なまちの課題を取り上げ、実際のまちづくり活動を行うとともに、まちの見方・歩き方など、まちの理解の仕方を学ぶ。授業の性格上、グループ作業があるとともに、学外で行うこともある。また、キャンパス内で行うほたる祭りに参加し、イベントの運営方法などを学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

身近な大学周辺のまちを題材に、まちの見方、問題などへの対応方法を学ぶとともに、実際のまちづくりを体験することにより、考える力と行動する力を身につけること。

受講者に対する要望

グループ作業などに積極的に関わることを期待する。

学びのキーワード

- ・ まちづくり
- ・ 地域活動
- ・ 景観

授業計画

01. ガイダンス
02. まちづくり活動（コンコース緑化活動の準備）
03. まちづくり活動（コンコース緑化活動の準備）
04. まちづくり活動（コンコース緑化活動の準備）
05. 法まちづくり活動（コンコース緑化の実施）
06. まちの構成要素
07. まちの見方・歩き方
08. まち歩き
09. まち歩きのとめ
10. レジメの作成方法について
11. まちづくりに関する本の輪読
12. まちづくりに関する本の輪読
13. まちづくりに関する本の輪読
14. まちづくり活動（コンコース緑化活動の後片付け）
15. まちづくり活動（コンコース緑化活動の振り返り）

準備学習(予習)

事前に、教科書の指定箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

グループワークやフィールドワークの場合は、振り返りを行い、輪読の場合は、指定箇所を再度読み直す。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加度合 | 30% |
| (2) グループワーク | 20% |
| (3) 小課題 | 10% |
| (4) 発表 | 15% |
| (5) レポート | 25% |

教科書

参考書

田村明 『まちづくりの実践』（岩波新書）

専門演習B (環境保全論)

POSC-P-200

担当教員：村上 公久

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1PX20305

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

始めに全員で地球環境問題を扱った英文の報告書（5つの英文報告書）を学び、その中から各自がテーマを選んで、レポートをまとめる。

この演習ではまず、システム [人間—環境] 系の考察を中心に環境史を概観する。

次に、人口の急増と共に急速に生命の環境が劣化した産業革命以降今日までの環境問題を考え、その解決に貢献した先駆者達の歩みを振り返り、自然保護と環境保全という立場の違いの検討を手がかりに21世紀の人類の課題 Sustainable Development 保続的(持続的)開発(地球サミットUNCEDの決議『アジェンダ21』)の可能性を探る。

次に複数のグループに分かれてグループ毎に地球環境問題に関わる課題を設定し、解決への提言をまとめる。

(2) 学びの意義と目標

専門科目「環境保全論」、「専門演習A（環境保全論）」で得た知見を、グループで提言にまとめ発表する能力の獲得。環境問題の事例研究を通じて、解決への実地的な方途について学び、環境問題にみられるような複雑な問題と取り組み問題解決に挑む模擬経験を積む。

受講者に対する要望

大学の「授業」は、講義と演習（ゼミ）と二つの要素から成る。この科目「卒業研究（環境保全論）」は、講義である専門科目の「環境保全論」で学んだ内容の具体的な事例を扱う演習（ゼミ）科目である。履修する予定の者は、予めこの演習科目を履修するための導入と基礎となる本学の環境分野関連科目「環境学」「環境保全論」の2科目のうち1科目以上を、履修しておくことが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 自然保護と環境保全
- ・ 自然観の変遷
- ・ 個体群生態学と環境容量
- ・ 再生産可能な資源 と 枯渇性資源
- ・ 保続的（持続的）発展

授業計画

01. The Club Of Rome : Agenda For The End Of The Century (1)
02. The Club Of Rome : Agenda For The End Of The Century (2)
03. The Global 2000 Report (1)
04. The Global 2000 Report (2)
05. The Global 2000 Report (3)
06. Our Common Future (1)
07. Our Common Future (2)
08. Our Common Future (3)
09. State Of The World, World Watch Institute
10. 既存の各種報告書の検討 — Agenda 21 (1)
11. 既存の各種報告書の検討 — Agenda 21 (2)
12. 既存の各種報告書の検討 — COP 21, Paris Climate Change Conference 2015
13. テーマを設定してレポートを発表・討論 (1)
14. テーマを設定してレポートを発表・討論 (2)
15. テーマを設定してレポートを発表・討論 (3) 総括

準備学習(予習)

総合科目「環境学」、専門科目「環境保全論」、特にこの演習の前提である「環境保全論」を、準備として予め復習しておくこと。演習開始以降の予習については、各回に指示する。

準備学習(復習)

各回のゼミ内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めてゼミ記録を作成する。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 出席 | 40% |
| (2) プレゼンテーションと討論 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

資料の探索と資料の理解、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等 などを総合的に評価する。

教科書

なし、講義資料を配布する。

参考書

文献・資料のリスト と 講義資料を配布する。

専門演習B（キリスト教社会倫理）		LAW-P-200				
担当教員： 菊地 順						
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX20509				
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業のオリエンテーション 02. キングと公民権運動の戦い・後半（１）（バーミングハム闘争への道） 03. キングと公民権運動の戦い・後半（２）（バーミングハム闘争） 04. キングと公民権運動の戦い・後半（３）（バーミングハム獄中からの書簡） 05. キングとケネディ兄弟（１）（その出会い） 06. キングとケネディ兄弟（２）（その関係） 07. ワシントン大行進（１）―その背景と意義― 08. ワシントン大行進（２）―” I have a dream” 09. キングとノーベル平和賞（１）（苦境の中で） 10. キングとノーベル平和賞（２）（受賞講演） 11. 公民権法の成立（１）（1964年） 12. 公民権法の成立（２）（1965年） 13. キングとマルコムX（１）（両者の社会的背景） 14. キングとマルコムX（２）（両者の思想的特色） 15. まとめ</div>				
<div>カリキュラム上の位置付け</div>						
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、キリスト教社会倫理に関連する人物や思想に、テキストや映像をとおして触れてもらい、それぞれの世界を学ぶことをとおして、人間の生き方について考えます。 具体的には、アメリカで1950年代後半から60年代に活躍したマーティン・ルーサー・キングを中心に、その戦い、生き方、思想について学びます。</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>秋学期は、1964年と65年に公民権法等が成立しますが、それに至るまでのキングたちの戦い（公民権運動）を中心に学びます。また、同時代に生きたキングと関連のある指導者たちについても学びます（特にケネディとマルコムX）。この学びをとおして、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などについて考えたいと思います。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>予習としては、読むことが中心となりますので、予め配布されたプリントを下読みし、特に英文は必ず下調べをしておくこと。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>復習としては、学んだ内容をまとめ、整理し、必要に応じて調べ、レポートの作成に備えること。</div> <div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>50%</td></tr></table> <div>授業に積極的に参加することを重視します。また最後にレポートを書いてもらいます。その総合的判断で成績を出します。</div>	(1) 平常点	50%	(2) レポート	50%
(1) 平常点	50%					
(2) レポート	50%					
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業は、学びつつ、議論しつつ、進められますので、積極的に参加してください。</div>						
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・マーティン・ルーサー・キング・公民権運動・非暴力・人間の尊厳・アメリカン・ドリーム</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>				

専門演習B(企業経済論)

ECON-P-200

担当教員：柴田 武男

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX20713

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習B(企業経済論)では、経済情報のアクセス方法とその活用方法を教授する。中心的な情報源は日本経済新聞である。特に日本経済新聞電子版を用いて、インターネット時代に即して情報収集・活用の方法を指示していく。また、ゼミの教材としては『週刊ダイヤモンド』『週刊東洋経済』『週刊エコノミスト』という三大経済誌を活用し、その中から企業経済論に相応しい題材を提供し、議論していく。また、受講者からもこれらの情報媒体から題材提供を指示し、議論していく。

本ゼミは、現在日本経済を中心として何が起きているのか、日々起きている現実の経済問題と取り組むことを目的として、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。

(2) 学びの意義と目標

本ゼミの目的は、現在日本経済を中心として何が起きているのか、日々起きている現実の問題と取り組むことである。また、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。

受講者に対する要望

日頃から日本経済新聞など経済記事を読む習慣を期待している。講義のメーリングリストを活用するのでパソコン・メール環境を準備してください。

学びのキーワード

- ・日経電子版
- ・週刊東洋経済
- ・週刊エコノミスト
- ・週刊ダイヤモンド
- ・PDFファイル

授業計画

01. 教員によるゼミの進め方を解説
02. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
03. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
04. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
05. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
06. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
07. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
08. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
09. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
10. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
11. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論10
12. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論11
13. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論12
14. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論13
15. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論14

準備学習(予習)

ゼミの出席は無遅刻・無欠席をお願いしたい。また、できるだけ政治経済学科主催の講演会および公開講義、AH等のシンポジウムにも積極的に参加できる学生の受講を期待する。

準備学習(復習)

ゼミの質疑応答で生じた疑問点をレポート課題として提出させる。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

参考書

専門演習B(経営管理)

MGMT-P-200

担当教員：金子 毅

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX20925

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本の企業の思考法について学ぶ。小売業を主な題材とし、ユニクロの柳井正の著作など（講義時に指示）をテキストとし、毎時これに関連するテーマを学生各自が発表する形式で進める。

(2) 学びの意義と目標

学生たちの将来に差し迫った就職活動に不可欠なプレゼンテーション能力を養い、これを通してグローバル化により混迷する企業社会を生き抜く処方箋を提供する。

受講者に対する要望

ちょっと柔らかい頭と軽いフットワークで知の迷宮にチャレンジして下さい。

学びのキーワード

- 顧客創造
- 知識労働
- 社会の公器

授業計画

01. イントロダクション：ユニクロ的経営とは？
02. 発表に取り掛かる前に：分担の取り決めなど
03. 発表1
04. 発表2
05. 発表3
06. 発表4
07. 発表5
08. 中間整理
09. 発表6
10. 発表7
11. 発表8
12. 発表9
13. 発表10
14. 発表11
15. エピローグ：ユニクロ式経営のゆくえ

準備学習(予習)

発表者はテキストを熟読し、テーマを抽出し、レジュメを作成しておく。それ以外の者はテキストの該当箇所に目を通し、想定される疑問点を確認しておく。

準備学習(復習)

レジュメに付された板書による訂正・加筆箇所を次回の発表箇所との関連を踏まえながら熟読する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 発表 | 70% |
| (2) 参加による貢献度 | 30% |

教科書

参考書

専門演習B (憲法)		LAW-P-200
担当教員： 石川 裕一郎		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX21169
学部教育の関連目		授業計画
【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
春学期に引き続き、憲法に関連するテキストを用い、内容の読解・要約、さらに意見を発表する作業を重ねます。受講者には以下のことが求められます。		01. 導入：演習の進め方に関する討議及び決定
* 本をたくさん読む。若者に限らず、とにかく現代日本人は本を読まなさ過ぎです。そのため、知識量が圧倒的に少ない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、活字情報を活用することによって異質な他者を知り、その現実を追体験する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。		02. テキスト輪読・発表・議論
		03. テキスト輪読・発表・議論
		04. テキスト輪読・発表・議論
		05. テキスト輪読・発表・議論
		06. テキスト輪読・発表・議論
		07. テキスト輪読・発表・議論
		08. テキスト輪読・発表・議論
		09. テキスト輪読・発表・議論
		10. テキスト輪読・発表・議論
		11. テキスト輪読・発表・議論
		12. テキスト輪読・発表・議論
		13. テキスト輪読・発表・議論
		14. テキスト輪読・発表・議論
		15. テキスト輪読・発表・議論
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
具体的な意義と目標は、各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力（国家）や社会的権力（企業）から一方的に搾取されない、賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。		
準備学習(復習)		準備学習(復習)
プレゼンテーション後においても、卒業研究に向けて相応の分量の復習が求められます。		
評価方法		評価方法
(1) 平常点 80% プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。		
(2) 期末レポート 20%		
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		参考書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。		教科書
単なる出席		

専門演習B (政治過程論)

POSC-P-200

担当教員：高橋 愛子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX21541

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

基本的に、学期の前半は、「日本国憲法をめぐる政治過程」に関する共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の研究課題についての進捗状況を報告、議論する。報告と議論を重ねて次年度以降に取り組む「卒業論文」の土台・骨格の形成を図る。学期末に「学期末レポート」の提出が求められる。

(2) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（要点を把握し、レジュメを作成し、プレゼンする）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、独自の研究テーマへの問題意識を深めること。

受講者に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

学びのキーワード

- ・そもそも憲法とは何か
- ・日本国憲法の成立過程
- ・憲法をめぐるさまざまな争点

授業計画

01. オリエンテーション
02. 共通テキストの講読、議論
03. 共通テキストの講読、議論
04. 共通テキストの講読、議論
05. 共通テキストの講読、議論
06. 共通テキストの講読、議論
07. 共通テキストの講読、議論
08. 共通テキストの講読、議論
09. 各自の研究課題のプレゼン、議論
10. 各自の研究課題のプレゼン、議論
11. 各自の研究課題のプレゼン、議論
12. 各自の研究課題のプレゼン、議論
13. 各自の研究課題のプレゼン、議論
14. 各自の研究課題のプレゼン、議論
15. 一学期間のまとめ

準備学習(予習)

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

準備学習(復習)

ゼミで議論になったポイントについてのレポート作成。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 20% |
| (2) プレゼン | 40% |
| (3) 学期末レポート | 40% |

教科書

参考書

専門演習B (政治哲学)		POSC-P-200
担当教員： 森分 大輔		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX21945
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入：講義計画の説明、担当についての分担</div> <div>02. 各自の関心のあるテーマの選択</div> <div>03. 各自のプレゼン・議論</div> <div>04. 各自のプレゼン・議論</div> <div>05. 各自のプレゼン・議論</div> <div>06. 各自のプレゼン・議論</div> <div>07. 各自のプレゼン・議論</div> <div>08. 各自のプレゼン・議論</div> <div>09. 各自のプレゼン・議論</div> <div>10. 各自のプレゼン・議論</div> <div>11. 各自のプレゼン・議論</div> <div>12. 各自のプレゼン・議論</div> <div>13. 各自のプレゼン・議論</div> <div>14. 各自のプレゼン・議論</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>政治哲学の専門演習として、各人の問題意識にあわせた議論を行うことを主眼に置く。同時に関連する議論をおこなうことで参加者の政治学的素養を深める。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>これまでに身に着けてきた、様々な社会科学的教養を前提として、政治哲学に興味、関心を持つ学生諸君の問題意識を深めることを目的としている。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>現実の政治現象に関心を持つだけでなくその理解に必要な政治哲学的観点への関心をもつこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>アカデミックな専門的知識のみならず、それらを現実の問題に適用する能力の獲得を目的とする少人数のゼミ形式授業であることから、時事的問題を議論することで、現実理解能力を鍛えることをねらいとする。受講者にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極的に取り組む姿勢が求められる。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>発表、討論内容について自身の考えを整理することが必要とされる。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業貢献</div><div>40%</div></div> <div><div>(2) プレゼンテーション</div><div>30%</div></div> <div><div>(3) 学期末レポート</div><div>30%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 政治学</div><div>・ 思想</div><div>・ 討論</div></div>	<div>教科書</div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </div> <div> </</div>	

専門演習B（日本政治思想史）		POSC-P-200
担当教員： 吉田 博司		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX22365
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. プリントの輪読と討論 02. 同 03. 同 04. 同 05. 同 06. 同 07. 同 08. 個人発表と討論 09. 同 10. 同 11. 同 12. 同 13. 同 14. 同 15. 予備</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>近代日本の思想家・政治家の思想と行動に触れることにより、現代政治への批判的基準を確認する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現代政治に対し空理空論で立ち向かうのではなく、歴史に腰を据えた批評眼を養うには生きた思想を学ばねばならない。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>プリントを討論に備えて読んでおくこと。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>知識不足等を指摘するので、次回に報告すること。
/></div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>40%</div></div><div><div>(2) 報告</div><div>60%</div></div></div> <div>平常点は日頃の討論を見ます。報告は、資料、論理、オリジナリティを評価します。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な発言を期待します。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 啓蒙思想</div><div>・ 帝国主義</div><div>・ 国体</div><div>・ 大正デモクラシー</div></div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

専門演習B (法思想史)		LAW-P-200				
担当教員： 加藤 恵司						
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX22977				
<div>学部教育の関連目</div> <p>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</p>	<div>授業計画</div> <div>01. テキスト購読・要約</div> <div>02. テキスト購読・要約</div> <div>03. テキスト購読・要約</div> <div>04. テキスト購読・要約</div> <div>05. テキスト購読・要約</div> <div>06. テキスト購読・要約</div> <div>07. テキスト購読・要約</div> <div>08. テキスト購読・要約</div> <div>09. テキスト購読・要約</div> <div>10. テキスト購読・要約</div> <div>11. テキスト購読・要約</div> <div>12. テキスト購読・要約</div> <div>13. テキスト購読・要約</div> <div>14. テキスト購読・要約</div> <div>15. テキスト購読・要約</div>					
<div>カリキュラム上の位置付け</div>						
<div>(1) 内容</div> <p>法思想史の中で、暗黒といわれる西欧の中世から近代の黎明までに焦点をあてる。</p>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>書物、論文を読むことを目標とする。また、与えられた課題を深く追求する。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>テキストを要約してレポートする。特に、復習は求めない。</p>					
	<div>準備学習(復習)</div> <p>話題になった事柄を調べる。</p>					
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 参加度</td><td>60%</td></tr><tr><td>(2) 授業態度</td><td>40%</td></tr></table>		(1) 参加度	60%	(2) 授業態度	40%
(1) 参加度	60%					
(2) 授業態度	40%					
<div>受講者に対する要望</div> <p>まじめに出席する。テキストを読む。</p>						
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 法</div><div>・ 思想</div><div>・ 歴史</div></div>	<div>教科書</div> <p>加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』（ジーオー企画出版）</p> <div>参考書</div>					

専門演習B (理論社会学)

担当教員：土方 透

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 1PX23110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習Aに準ずる。内容は、基本的にAのものを継承する。

(2) 学びの意義と目標

大学での専門演習の名に恥じないように、深く深く考えていく訓練をする。

受講者に対する要望

秋学期の専門演習は、ある意味で四年間のうちもっとも重要な位置を占めているといえる。心して、真剣に取り組んで欲しい。

学びのキーワード

- ・ 専門演習Aに準ずる。

授業計画

01. オリエンテーション
02. プレゼンテーション
03. プレゼンテーション
04. プレゼンテーション
05. プレゼンテーション
06. プレゼンテーション
07. プレゼンテーション
08. 全体討論
09. プレゼンテーション
10. プレゼンテーション
11. プレゼンテーション
12. プレゼンテーション
13. プレゼンテーション
14. 全体討論
15. 総括

準備学習(予習)

毎回、必ず課題をこなすこと。

準備学習(復習)

成果を必ず次のプレゼンテーションに活かすこと。

評価方法

- | | |
|-----------|----------------|
| (1) 出席 | 50% 専門演習Aに準ずる。 |
| (2) 報告の内容 | 50% 専門演習Aに準ずる。 |

教科書

参考書

担当教員：小松崎 利明

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX23273

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

現代世界において平和を実現するためにはどのような取り組みが求められるのか、またそうした取り組みの実例にはどのようなものがあるのか、といったテーマについて学び考えることを目的に、平和に関する現代的な事象を論じた文献を輪読する。

(2) 学びの意義と目標

文献を丁寧に読むことによって、これまで積み重ねられてきた知識に対する理解を深め、論理的思考力や生涯学習力を養うことができるようになる。さらに、発表と討論によって、コミュニケーション・スキルや自己管理能力を養い高めることができるようになる。

受講者に対する要望

本を読んで考え、議論することの楽しさを一緒に味わいましょう。

学びのキーワード

- ・ 平和
- ・ 輪読
- ・ 演習

授業計画

01. イントロダクション
02. 文献輪読 (学生による発表と討論)
03. 文献輪読 (学生による発表と討論)
04. 文献輪読 (学生による発表と討論)
05. 文献輪読 (学生による発表と討論)
06. 文献輪読 (学生による発表と討論)
07. 文献輪読 (学生による発表と討論)
08. 文献輪読 (学生による発表と討論)
09. 文献輪読 (学生による発表と討論)
10. 文献輪読 (学生による発表と討論)
11. 文献輪読 (学生による発表と討論)
12. 文献輪読 (学生による発表と討論)
13. 文献輪読 (学生による発表と討論)
14. 文献輪読 (学生による発表と討論)
15. 文献輪読 (学生による発表と討論)

準備学習(予習)

文献の指定箇所を読んでおく。

準備学習(復習)

授業での討論をふまえ、期末レポート作成に向けてノートを作成しておく。

評価方法

- | | |
|------------|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 文献講読、担当箇所の発表内容、討論への参加 |
| (2) 期末レポート | 50% 授業で扱った文献の書評レポート |

教科書

参考書

専門演習B (公共哲学)			
担当教員： 谷口 隆一郎			
学期： 週間授 科目：		必修・選択： 必修	単位： 1 コード： 1PX24010
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション 02. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 03. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 04. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 05. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 06. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 07. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 08. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 09. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 12. ゼミ生による発表 13. ゼミ生による発表 14. ゼミ生による発表 15. まとめ	
(1) 内容			
現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが帰属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要である。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅったい）の経緯と動向について学ぶ。 公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策に与るコミュニティの意味、コミュニティアリズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げる。 (1) 公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。(2) 文献をレジメにまとめ報告・議論する。(3) 卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
(1) 公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにある。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していく。 (2) 将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくというテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根底から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれている。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができる。 (3) 論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛える。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができる。		授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
年に数回合宿を行う。全員参加を基本とする。		学習ノートを自主的に作成して、これを読み返し、次の授業に質問等を行う。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 公共 ・ 公共倫理 ・ コミュニティ ・ グローバリズム ・ ナショナリティ		(1) 授業への参加度と貢献度 50% 毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等 (2) 研究成果（小論文）ないしレポート 50% ゼミ論文・レポートに対する評価 (3) 出席率 学期を 出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。 遅刻が常習の者や授業の取組が著しく消極的な者については評価を厳しくする。	
		教科書	
		授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。	
		参考書	
		授業内で指示する。	

専門演習B (情報倫理)

INFO-P-200

担当教員：竹井 潔

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1PX24237

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は我々が情報社会の中でより良く生きていく上で必要となる。「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。

(2) 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく

受講者に対する要望

「情報倫理」を平行履修することが望ましい。
演習は必ず出席し、グループワークやグループディスカッションに積極的に参画すること。

学びのキーワード

- ・ 情報倫理
- ・ BAG
- ・ 企業倫理
- ・ 経営

授業計画

01. オリエンテーション
02. BAG (ビジネスゲーム)
03. BAG (ビジネスゲーム) 演習1
04. BAG (ビジネスゲーム) 演習2
05. BAG (ビジネスゲーム) 演習3
06. BAG (ビジネスゲーム) 演習4
07. BAG (ビジネスゲーム) 演習5
08. BAG (ビジネスゲーム) 演習6
09. 情報倫理 課題研究 1
10. 情報倫理 課題研究2
11. 情報倫理 課題研究3
12. 情報倫理 課題研究4
13. 情報倫理 課題研究5
14. 情報倫理 課題研究6
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に指示する参考図書を読んで用語などを調べておくこと。

発表演習には事前に発表資料を作成してくること。

準備学習(復習)

演習でできなかった個所や理解できなかった専門用語は各自調査して十分に理解しておくこと。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------|
| (1) 演習 | 40% | 課題提出、発表演習 |
| (2) レポート | 60% | |

教科書

授業の中で指示する

参考書

専門演習 B（組織行動論）		MGMT-P-200										
担当教員： 八木 規子												
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX24349										
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション：ゼミの進め方について</div> <div>02. 興味のある概念の選択</div> <div>03. 図書館の使い方</div> <div>04. 担当回の決定</div> <div>05. 個別報告とディスカッション</div> <div>06. 個別報告とディスカッション</div> <div>07. 個別報告とディスカッション</div> <div>08. 個別報告とディスカッション</div> <div>09. 個別報告とディスカッション</div> <div>10. 個別報告とディスカッション</div> <div>11. 個別報告とディスカッション</div> <div>12. 個別報告とディスカッション</div> <div>13. 個別報告とディスカッション</div> <div>14. 個別報告とディスカッション</div> <div>15. まとめ</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div>												
<div>(1) 内容</div> <div>専門演習 A を通じて学んだ組織行動論の諸概念の中から、卒業研究につながる、履修生が興味のある概念の選択を目指す。専門演習 B では、研究文献の読み方、まとめ方の実習を行う。</div>												
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>組織行動論は、組織において、人間が行動する際にみせる様々な法則性について学ぶ学問である。実際の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題を、組織行動論の理論やフレームワークの視点から吟味することは、履修生が、将来組織人として生きる上で、問題解決の選択肢を増やすという意義がある。また、卒業研究レポートの研究・執筆にあたっては、普遍的な科学的研究手法に沿った研究のやり方を習得することを目標とする。こうした研究手法の習得は、我々が生きる複雑な社会と、それに関する膨大な情報に対して、我々が下していかなければならない「判断」と「選択」の「品質」を上げるという意義がある。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>次回テキスト、文献は必ず読み、自分の考え、意見をまとめておくこと。報告者・発表者は、前日までにレジュメを提出すること。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>理論・フレームワークを学ぶことは、自分の考え方を、一つの枠組みに強制的に嵌めてみることに他ならない。窮屈に感じるかもしれないが、一度そうしたトレーニングを経ることで、ものの見方、考え方が広がるはずだ。そういう体験にチャレンジするつもりでゼミに臨んでほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>各回のゼミ終了後、理解したこと、疑問に思ったことをまとめておくこと。UNIPA上に、それらの考えをアップロードする場を設けるので、利用すること。</div>										
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への貢献</td><td>50%</td><td>クラス討議への参加、発言、クラスメイトの発言に対する反応</td></tr><tr><td>(2) 先行文献のレジュメと発表</td><td>30%</td><td>3本</td></tr><tr><td>(3) 期末レポート</td><td>20%</td><td></td></tr></table>		(1) 授業への貢献	50%	クラス討議への参加、発言、クラスメイトの発言に対する反応	(2) 先行文献のレジュメと発表	30%	3本	(3) 期末レポート	20%	
		(1) 授業への貢献	50%	クラス討議への参加、発言、クラスメイトの発言に対する反応								
(2) 先行文献のレジュメと発表	30%	3本										
(3) 期末レポート	20%											
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 組織行動</div><div>・ 調査研究手法</div><div>・ 企業</div><div>・ 個人</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>										

専門演習B (地域社会論)		SOCI-P-200
担当教員： 大高 研道		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX24457
学部教育の関連目 【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		授業計画 01. 演習の課題と方法 02. 現代コミュニティの諸課題—各自の問題関心— 03. 個別調査報告(1) 04. 個別調査報告(2) 05. 個別調査報告(3) 06. 個別調査報告(4) 07. NPO・社会的企業ヒアリング調査 08. NPO・社会的企業の実際 09. グループ調査報告(1) 10. グループ調査報告(2) 11. 調査レポートの作成指導(1) 12. 調査レポートの作成指導(2) 13. 報告書作成・製本作業(1) 14. 報告書作成・製本作業(2) 15. まとめ
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 生活の個別化が進み、家族や地域社会を取り巻く環境も様変わりを見せる中、就業、結婚、子育て、福祉、教育など、社会のあらゆる場面において発生する諸問題や不安の増大を背景に「危機の時代」が叫ばれつつある。その「危機感」を高めている重要な要素のひとつが「関係性の希薄化」であるという認識のもと、本演習では、「人と人がつながる現代的な形」について考えたい。 演習Ⅱでは、演習Ⅰで醸成された問題意識・関心をもとに、各自が興味を持った（さらに深めたいと思った）課題を選び、調査・報告する。併せて、『コンコース緑化活動報告書』作成、および問題解決主体としてのNPOや社会的企業の現地調査（資料収集やヒアリング）を行う。		
(2) 学びの意義と目標 現代社会は、人とつながりにくい社会だといわれている。しかし、私たちは決して1人では生きていけない。人と、社会と、どのようにつながるのか。地域社会（コミュニティ）について学ぶということは、現代社会、そして未来社会において、私たちがどのように（他者とともに）生きるかを考えることに他ならない。 演習を通して、最終的には、現代における社会的諸問題を解決する舞台として期待されている「地域社会（コミュニティ）」のすすむ方向性を、「現代的協同（人とつながる現代的な形）」をキーワードに検討する。とりわけ、地域を基盤に活動する新しい協同の形として注目されるNPO、社会的企業等の協同実践が展開するための可能性と課題について、一定程度のヴィジョンが提起できるようにすることを目指す。		準備学習(予習) ・ 報告担当者には、前の週のゼミで、①報告テーマ、②キーワードについて発表してもらおう。参加者は、関連するニュースを読み、分からない用語等は事前に調べてくること。報告者は前日までにレジュメを提出すること。
		準備学習(復習) ・ 各自、ゼミ終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと/さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、次回ゼミの冒頭に共通討論の場を設ける。
受講者に対する要望 ・ 時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。		評価方法 (1) 平常点 70% 報告内容および討論への参加状況（積極性）を含む。 (2) レポート 30%
学びのキーワード ・ 地域社会 ・ NPO ・ 社会的排除 ・ 社会的企業 ・ 現代的協同性		教科書 授業の中で指示する 参考書 授業の中で指示する

専門演習B（日本経済論）

ECON-P-200

担当教員：大森 達也

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX24561

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本演習では、専門演習Ⅰで学んだ日本経済の抱える問題に関する基礎知識をもとに、各自、レポート課題を設定した上で、それぞれの課題に関する文献を読み、発表、そして発表に対するクラスディスカッションを行ないつつ、レポート（レジメを含む）をまとめることを目的としている。

(2) 学びの意義と目標

本演習では、卒業研究Ⅰ及びⅡで、10,000字程度のレポートをまとめることになるが、そのためのレジメの作成をすることを目的としている

受講者に対する要望

日本経済における自分の関心事項をはっきりさせること。そのためには、幅広く文献調査をし、知識を蓄えることが求められる。

学びのキーワード

- ・文献調査
- ・発表
- ・レポート作成

授業計画

01. 問題の整理
02. 予定課題の発表
03. 予定課題に関する文献調査(1)
04. 文献内容の発表(1)
05. 文献内容の発表(2)
06. 予定課題に関する文献調査(2)
07. 文献内容の発表(3)
08. 文献内容の発表(4)
09. 予定課題に関する文献調査(3)
10. 文献内容の発表(5)
11. 文献内容の発表(6)
12. レポートの発表(1)
13. レポートの発表(2)
14. レポートの発表(3)
15. まとめ

準備学習(予習)

3週サイクルで、文献調査、内容の発表となっている。十分に時間をかけ、準備することが望まれる。

準備学習(復習)

次の発表に向けて、終わったサイクルがどうであったかを振り返ること。

評価方法

- | | |
|--------------|--------------|
| (1) ディスカッション | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 期末レポート | 40% 4,000字程度 |

教科書

参考書

専門演習B（法政情報論）

INFO-P-200

担当教員：渡辺 英人

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX24681

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらう。2016年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

(2) 学びの意義と目標

生活の中から見た法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

受講者に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・生活の中から見た法と行政
- ・消費者保護法
- ・消費者保護行政

授業計画

01. 現代社会と法（その種類と仕組み）
02. 法と道徳
03. 法が強制的であるということ
04. 法の機能
05. 「犯罪」とは何か？
06. 現代社会と裁判制度
07. デュー・プロセスについて
08. 消費者を守る法
09. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

準備学習(予習)

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作成すること。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業への積極的参加、発言など | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 課題作成 | 30% |

教科書

参考書

専門演習B (まちづくり学)		SOCI-P-200	
担当教員： 平 修久			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX24785	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 都市のデータの読み方① 03. 都市のデータの読み方② 04. 都市のデータの読み方③ 05. 人口減少とまち 06. 高齢化とまち 07. 少子化とまち 08. まちの安全 09. まちの魅力・活力 10. まちのにぎわい 11. 総合計画① 12. 総合計画② 13. 総合計画③ 14. 総合計画④ 15. 総合計画⑤</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。身近なまちを見直し、まちの価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きも各地で見られる。あるいは、まちの問題を市民が取り組む動きも起きている。 本演習では、まず、まちや都市を理解するために必要なデータとその分析方法を学ぶ。次に、近年、まちや都市にとって重要な問題である、人口減少、高齢化、少子化、安全、活力などの低下の状況と原因を考える。最後に、それらの問題に自治体がどのように取り組んでいるかについて、総合計画を読む。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現代のまちの問題を理解するとともに、問題の分析方法などを学ぶことにより、考える力を身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に、参考資料の指定箇所を読んでおくこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>参考資料の指定箇所を再度読み直す。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>まちの問題に関心を持ち、主体的に調べることを期待する。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への参加度合40%</div><div>(2) 発表30%</div><div>(3) レポート30%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・まちづくり</div><div>・人口減少</div><div>・安全</div><div>・活性化</div><div>・総合計画</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>授業の中で指定する。</div>	

卒業研究Ⅰ（環境保全論）			
担当教員：村上 公久			
学期： 週間授	科目：	必修・選択：	単位： 1 コード： 1PX30310
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 地球環境の劣化の現状（１） — 森林の劣化・減少 02. 地球環境の劣化の現状（２） — 沙漠の拡大 03. 地球環境の劣化の現状（３） — レポート 04. 地球環境の劣化の現状（４） — 討論 05. 生態学におけるいくつかの重要な概念について（１） — 資料 06. 生態学におけるいくつかの重要な概念について（２） — レポート 07. 生態学におけるいくつかの重要な概念について（３） — 討論 08. 環境問題をめぐる理念の変遷（１） — 自然破壊批判 09. 環境問題をめぐる理念の変遷（２） — 自然保護意識の始まり 10. 環境問題をめぐる理念の変遷（３） — 環境保全の理念 11. 環境問題をめぐる理念の変遷（４） レポート１ 12. 環境問題をめぐる理念の変遷（５） レポート２ 13. 自然保護運動の先駆者たち — G. Catlin, H. Thoreau 14. 保護から保全への道程 — G. Pinchot, T. Roosevelt 15. エコロジーの誕生 — R. Carson, R. Nader, G. Snyder	
(1) 内容			
この演習ではまず、システム“人間—環境”系の考察を中心に環境史を概観して、環境問題をめぐる理念の変遷を資料により学び、古代から近代まで（地中海文明から近代合理主義まで）の環境論の変遷を辿る。次に、人口の急増と共に急速に生命の環境が劣化した産業革命以降今日までの環境問題を考え、その解決に貢献した先駆者達の歩みを振り返り、特に事例研究のテーマに「北米の森林史における森林保護思想と実践」を選び、自然保護と環境保全という立場の違いの検討を手がかりに21世紀の人類の課題 Sustainable Development 保続的（持続的）開発（地球サミットUNCEDの決議『アジェンダ21』）の可能性を探る。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
専門科目「環境保全論」、「専門演習（環境保全論）」で得た知見を、グループで提言にまとめ発表する能力の獲得。環境問題の事例研究を通じて、解決への実際的な方途について学び、環境問題にみられるような複雑な問題と取り組み問題解決に挑む模擬経験を積む。		総合科目「環境学」、専門科目「環境保全論」を、特にこの演習の前提である「環境保全論」を、準備として予め復習しておくこと。演習開始以降の予習については、各回に指示する。	
		準備学習(復習)	
		各回のゼミ内容について、関係する情報・資料を探して参考資料を整備し、各回のゼミに参加し自分で考えたことを含めてゼミ記録を作成する。	
受講者に対する要望		評価方法	
大学の「授業」は、講義と演習（ゼミ）と二つの要素から成る。この科目「卒業研究A（環境保全論）」は、授業の中で講義部分である専門科目の「環境保全論」で学んだ内容の具体的事例を扱う演習（ゼミ）科目である。履修する予定の者は、予めこの演習科目を履修するための導入と基礎となる本学の環境分野関連科目「環境学」「環境保全論」の2科目のうち1科目以上を、履修しておくことが望ましい。		(1) プレゼンテーション と討論 40% (2) 演習クラスへの 参画と貢献 30% (3) レポート 30%	
学びのキーワード		教科書	
・ 自然保護と環境保全 ・ 自然観の変遷 ・ 個体群生態学と環境容量 ・ 再生産可能な資源 と 枯渇性資源 ・ 保続的（持続的）発展		なし、講義資料を配布する。	
		参考書	
		文献・資料のリスト と 講義資料を配布する。	

卒業研究Ⅰ（キリスト教社会倫理）		LCP0-L-300	
担当教員： 菊地 順			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 1		コード： 1PX30510	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. 授業のオリエンテーション 02. アメリカとベトナム戦争 03. キングと反戦運動（１）（1967年4月まで） 04. キングと反戦運動（２）（1967年4月以降） 05. キングと貧困撲滅運動（１）（シカゴでの闘い） 06. キングと貧困撲滅運動（２）（「貧者の行進」） 07. キングの死（１）―その背景― 08. キングの死（２）―その意味― 09. キングの見たアメリカ社会の悪の構造（１）（人種問題） 10. キングの見たアメリカ社会の悪の構造（２）（経済問題） 11. キング後のアメリカ（１）（黒人暴動） 12. キング後のアメリカ（２）（ベトナム戦争） 13. キング後のアメリカ（３）（ブラック・パワー） 14. キング後のアメリカ（４）（黒人神学） 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
この授業では、キリスト教倫理に関連する人物や思想に、テキストや映像をとおして触れてもらい、それぞれの世界を学ぶこととおして、人間の生き方について考えます。具体的には、アメリカで1950年代から60年代に活躍したマーティン・ルーサー・キングたちの活動を踏まえ、その後のアメリカにおける人種問題を学びます。			
(2) 学びの意義と目標			
春学期は、公民権法成立後のキングの活動を学びます。それは、一方ではベトナム戦争に対する反戦運動であり、他方では貧困撲滅のための戦いでしたが、それをとおしてみられるアメリカ社会の悪の構造と、それに対するキングの戦いを学び、キングとその運動の意義について考えます。		準備学習(予習)	
		予習として、読むことが中心となりますので、予め配布されるプリントを下読みし、特に英文は必ず下調べをしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		復習としては、学んだことをまとめ、整理し、必要に応じて調べ、レポート作成に備えること。	
受講者に対する要望		評価方法	
授業は、学びつつ、議論しつつ、進められますので、積極的に参加してください。		(1) 平常点 50% (2) レポート 50%	
		授業に積極的に参加することを重視します。また最後にレポートを書いてもらいます。その総合的な判断で成績を出します。	
学びのキーワード		教科書	
・ マーティン・ルーサー・キング ・ ベトナム戦争 ・ 貧困問題 ・ 悪の構造 ・ 贖罪		参考書	
		プリントを配布します。またプリント以外にも映像等を用いて授業を行います。	

卒業研究Ⅰ（企業経済論）		ECON-P-300					
担当教員： 柴田 武男							
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目				
単位： 1		コード： 1PX30710					
学部教育の関連目		授業計画					
【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. 最初の数回は、論文読解のコツを教える。 02. 次に、論文のレポート方法を教える。 03. さらに、論文のテーマ選定方法を教える。 04. 最終的に、選定したテーマで論文作成の方法を教える。 05. 確定したテーマでレポートを作成する。 06. 卒業研究レポートの中間報告1 07. 卒業研究レポートの中間報告2 08. 卒業研究レポートの中間報告3 09. 卒業研究レポートの中間報告4 10. 卒業研究レポートの中間報告5 11. 卒業研究レポートの中間報告6 12. 卒業研究レポートの中間報告7 13. 卒業研究レポートの中間報告8 14. 卒業研究レポートの中間報告9 15. 卒業研究レポートの中間報告10					
カリキュラム上の位置付け							
(1) 内容							
<p>「卒業研究（企業経済論）」では、金融市場に関する論文作成の指導を行う。まず、関連する論文の読解から初めて、専門論文を読みとる方法を学んで、次に、基本的なテーマの選定、論文の書き方を指導する。原則として、担当教員の金融市場論講義・専門演習を受けた上で選択して欲しい。金融市場というテーマ自体が幅広く、大きいので、銀行とか証券だけがテーマだと選択を狭くするつもりはない。幅広く受講生の関心のあるテーマで自発的に取り組んで欲しい。</p> <p>ただし、日頃新聞の経済記事を読み、日本の企業を取り巻く経営環境についてある程度の知識を有していないと、論文作成は困難であることは留意して欲しい。 株式・社債、派遣法など様々な問題に日頃関心を持っている受講者であれば、大歓迎である。</p>							
(2) 学びの意義と目標							
<p>卒業研究はレポート作成を単位認定条件とするので、そのためのテーマ決定、情報収集、作文能力などが育成される。レポート作成記述を身につけることが目標となる。</p>		準備学習(予習)					
		<p>無断欠席は認められない。病欠等仕方ないが、必ず連絡をお願いする。主に三年次選択科目となるので、就職活動に関するアドバイスも行うので、就職意識の強い学生を期待する。</p>					
		準備学習(復習)					
		<p>発表したテーマに関して追加的な課題を設定する。</p>					
		評価方法					
		<table><tr><td>(1) 平常点</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>50%</td></tr></table>		(1) 平常点	50%	(2) レポート	50%
(1) 平常点	50%						
(2) レポート	50%						
受講者に対する要望							
<p>ゼミでは、ゼミ生相互の議論が重要であるので欠席しないことと議論に積極的に参加して発言することを期待する。メーリングリストを活用するのでパソコン・メール環境を準備してください。</p>							
学びのキーワード		教科書					
<ul style="list-style-type: none">・ 議論への参加・ テーマの設定・ 情報収集・ データベースの利用・ 日本経済新聞		参考書					

卒業研究Ⅰ（経営管理）

MGMT-P-300

担当教員：金子 毅

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1PX30910

学部教育の関連目

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

経営管理のベースとなる基本文献の抽出から引用、参考を含めた研究レポート作成に向けた文献研究までを扱う。

(2) 学びの意義と目標

発表と討論を通じて、卒業レポートを書く上での基本的な「論文作法」を習得する。卒業レポートを書くための基礎固めを行なう。

受講者に対する要望

受講生には、自分の問題関心を持つように心がけ、講義の中でそれとのすり合わせを行なうつもりで参加してもらいたい。なお、ネット情報からのコピー引用は厳禁とする。

学びのキーワード

- ・ 論理的流れ
- ・ 理論枠組
- ・ 文献検索
- ・ 文献リストの作成

授業計画

01. プロローグ：経営管理として焦点となるテーマは何か
02. 基本文献の紹介と購読 1
03. 基本文献の紹介と購読 2
04. 基本文献の紹介と購読 3
05. 文献検索の方法
06. 文献検索の実践 1：図書館での検索
07. 文献検索の実践 2：ネットで検索してみよう
08. 文献リストの作成 1：課題でチャレンジ
09. 文献リストの作成 2：課題でチャレンジ 2
10. 文献研究 1
11. 文献研究 2
12. 文献研究 3
13. 文献研究 4
14. 文献研究 5
15. エピローグ：小括

準備学習(予習)

シラバスに記した手順を参照して、卒業レポートに向けた自己の論点を整理しておく。

準備学習(復習)

講義で討論した内容や教員からの指摘に基づき、卒業レポートの構成や論点を練り直す。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 課題発表 | 70% |
| (2) 参加による貢献度 | 30% |

教科書

参考書

卒業研究Ⅰ（憲法）			
担当教員：石川 裕一郎			
学期：週間授		科目：	必修・選択：
		単位：1	コード：1PX31110
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 導入:担当の決定 02. 各自の個別テーマの発表・議論 03. 各自の個別テーマの発表・議論 04. 各自の個別テーマの発表・議論 05. 各自の個別テーマの発表・議論 06. 各自の個別テーマの発表・議論 07. 各自の個別テーマの発表・議論 08. 各自の個別テーマの発表・議論 09. 各自の個別テーマの発表・議論 10. 各自の個別テーマの発表・議論 11. 各自の個別テーマの発表・議論 12. 各自の個別テーマの発表・議論 13. 各自の個別テーマの発表・議論 14. 各自の個別テーマの発表・議論 15. まとめ	
(1) 内容			
2年次の「専門演習（憲法）」の成果を踏まえ、受講者各々が各自の研究テーマを設定し、調査・研究・発表・討論を重ねることにより、最終的に一定量の論文を完成させます。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
具体的な意義と目標は、法律上は「成年」であるところの各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力（国家）や社会的権力（企業）から一方的に搾取されない賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。		演習科目なので、とりわけプレゼンテーションの準備には各受講者の自発的かつ継続的な相応の分量の予習が求められます。	
		準備学習(復習)	
		プレゼンテーション後においても、卒業研究に向けて相応の分量の復習が求められます。	
		評価方法	
		(1) 平常点 80% プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。 (2) 期末レポート 20%	
受講者に対する要望		単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。	
「演習」科目ですので、受講者が主体的に授業に参加する」ことが強く求められます。			
学びのキーワード		教科書	
・演習科目 ・法律学 ・憲法学 ・比較法学 ・人権論		授業内で指示します。	
		参考書	
		授業内で指示します。	

担当教員：高橋 愛子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX31510

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

今日の政治社会が直面するさまざまな問題を理解するためには二つのアプローチが必要とされる。すなわち、政治過程の具体的なダイナミズムについて実証的な認識をもつこと、および、現実政治を理解する際に必要とされる理念的・思想的な次元における自分なりの認識のための座標軸をもつことである。

以上の基本的な考え方に立ち、本年は、「今日の社会が直面する貧困」を一つの切り口としながら、共通のテキストを輪読しつつ学び議論をしてゆく。一学期間を通して学んだことを「学期末レポート」として提出することが求められる。

<カリキュラム上の位置づけ> 3年次春学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。

(2) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（著者の主張の要点を把握し、発表用のレジュメを作成し、プレゼンを行う）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、政治にかかわる独自の研究テーマを見出すこと。

受講者に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。
2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

学びのキーワード

- ・ 貧困と格差
- ・ 貧困と子どもたち
- ・ ワーキングプア
- ・ 国際社会における貧困

授業計画

01. 導入：講義計画の説明、担当についての分担
02. どのような観点からテーマを位置づけるか
03. テキストの輪読・各自のプレゼン
04. テキストの輪読・各自のプレゼン
05. テキストの輪読・各自のプレゼン
06. テキストの輪読・各自のプレゼン
07. テキストの輪読・各自のプレゼン
08. テキストの輪読・各自のプレゼン
09. テキストの輪読・各自のプレゼン
10. テキストの輪読・各自のプレゼン
11. 個人のテーマについてのプレゼン
12. 個人のテーマについてのプレゼン
13. 個人のテーマについてのプレゼン
14. 個人のテーマについてのプレゼン
15. 一学期の振り返り・まとめ

準備学習(予習)

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

準備学習(復習)

ゼミで議論になったポイントについての理解を深めるためのレポート作成。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 20% |
| (2) プレゼン | 40% |
| (3) 学期末レポート | 40% |

教科書

初回授業において指示する。

参考書

卒業研究 A (政治・経済)		SOCI-P-300
担当教員：土方 透		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX31710
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 各自、論文作成へ向けてテーマの選定 02. テーマの検討と文献の選択 03. 文献講読とプレゼンテーション 04. 同上 05. 同上 06. 同上 07. 文献の検討 08. 文献講読とプレゼンテーション 09. 同上 10. 同上 11. 討論 12. 文献講読とプレゼンテーション 13. 同上 14. 同上 15. 同上</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>専門演習（理論社会学）の成果をふまえ、卒論の完成へ向けて指導を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒論を仕上げるという作業は、多くの学生にとって最初で最後の論文作成となる。学士号取得にふさわしい能力を身につけたことの証である。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>ただひたすら勤勉であることを要求する。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回、前回に指摘された点の進捗状況を報告できるように、作業を進めてくること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 毎回の報告 20% (2) 卒論 80%</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>けっしてくじけないこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

卒業研究Ⅰ（政治哲学）

POSC-P-300

担当教員：森分 大輔

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX31910

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

＜内容＞「専門演習（政治哲学）」の延長線上に位置づけられており、本演習履修者は「専門演習」を必修とする。専門演習での学習を前提として、新たなテキストの講読と議論を行う。基本的に、学期の前半は共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の進捗状況を報告、議論する。

(2) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（読む、書く、話すという社会科学の必要な基本スキルの習得）、政治学的な関心を深めること、独自の研究テーマへの理解を深めることの三点である。

受講者に対する要望

3年次に位置づけられた必修の演習科目の一つであるという自覚の下、積極的に自身のテーマを追求し、議論に参加することが望まれる。

学びのキーワード

- ・政治
- ・思想
- ・討論

授業計画

01. イントロダクション
02. 共通のテキストの講読・議論
03. 共通のテキストの講読・議論
04. 共通のテキストの講読・議論
05. 共通のテキストの講読・議論
06. 共通のテキストの講読・議論
07. 共通のテキストの講読・議論
08. 共通のテキストの講読・議論
09. 共通のテキストの講読・議論
10. 共通のテキストの講読・議論
11. 共通のテキストの講読・議論
12. 共通のテキストの講読・議論
13. 共通のテキストの講読・議論
14. 共通のテキストの講読・議論
15. 共通のテキストの講読・議論

準備学習(予習)

政治に関する積極的な関心を持つのみならず、理論的な視点、継続的に文献に取りかかることのできる忍耐力、自己の思考を提示することへの興味をもち、必要な学習をすることが必要である。

準備学習(復習)

自身のテーマとの関連をゼミの議論を振り返り反省すること、そしてそれらをまとめることが求められる。あわせて関連書籍の購読をすることが望ましい。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業貢献 | 40% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

松尾秀哉・臼井陽一郎 『紛争と和解の政治学』（ナカニシヤ出版）

卒業研究Ⅰ（日本政治思想史）		POSC-P-300				
担当教員： 吉田 博司						
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX32310				
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. テーマ設定</div> <div>02. 同</div> <div>03. 同</div> <div>04. 資料収集指導</div> <div>05. 同</div> <div>06. 以下、学生報告と討論</div> <div>07. 同</div> <div>08. 同</div> <div>09. 同</div> <div>10. 同</div> <div>11. 同</div> <div>12. 同</div> <div>13. 同</div> <div>14. 同</div> <div>15. 同</div>					
<div>カリキュラム上の位置付け</div>						
<div>(1) 内容</div> <div>近代日本の政治家及び思想家の研究指導をします。学生のテーマ設定、報告、討論の時間です。</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>歴史に興味をもち、人間への深い洞察を養って下さい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>学生報告のプリントを用意させ、事前に調査研究事項を割り当てる。授業後、他からのコメントを照らし合わせる。</div>					
<div>受講者に対する要望</div> <div>報告が主体となるので、怠情を克服してほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>報告のあと、質問、アドバイスを参考に修正する。</div>					
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 報告</td><td>70%</td></tr><tr><td>(2) 質問</td><td>30%</td></tr></table> <div>報告は資料、論理、オリジナリティをみます。質問は、中身が大切です。</div>		(1) 報告	70%	(2) 質問	30%
	(1) 報告	70%				
(2) 質問	30%					
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 近代日本、憲政、明治維新、藩閥</div> <div>・ 超然主義、政党内閣、元老</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>					

卒業研究Ⅰ（法思想史）		LAW-P-300				
担当教員： 加藤 恵司						
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX32910				
<div>学部教育の関連目</div> <p>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</p>	<div>授業計画</div> <div>01. テキスト購読・要約</div> <div>02. テキスト購読・要約</div> <div>03. テキスト購読・要約</div> <div>04. テキスト購読・要約</div> <div>05. テキスト購読・要約</div> <div>06. テキスト購読・要約</div> <div>07. テキスト購読・要約</div> <div>08. テキスト購読・要約</div> <div>09. テキスト購読・要約</div> <div>10. テキスト購読・要約</div> <div>11. テキスト購読・要約</div> <div>12. テキスト購読・要約</div> <div>13. テキスト購読・要約</div> <div>14. テキスト購読・要約</div> <div>15. テキスト購読・要約</div>					
<div>カリキュラム上の位置付け</div>						
<div>(1) 内容</div> <p>「法思想史」の講義・専門演習を基礎として、その内容を更に深める。本年度の主たるテーマとして、法制度の源流に焦点をあて、そこから流れ出す法思想を学んでみたい。</p>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>書物、論文を読むことを目標とする。また、読んだことを要約して、発表する力量を養う。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>テキストを要約してレポートする。</p>					
	<div>準備学習(復習)</div> <p>話題になった事柄を調べる。</p>					
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 参加度</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 発表</td><td>60%</td></tr></table>		(1) 参加度	40%	(2) 発表	60%
(1) 参加度	40%					
(2) 発表	60%					
<div>受講者に対する要望</div> <p>まじめに出席する。テキストを読み、まとめる。</p>						
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 法・ 思想・ 歴史</div>	<div>教科書</div> <p>加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』（ジーオー企画出版）</p> <div>参考書</div>					

担当教員：小松崎 利明

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX33210

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

平和に関する現代的な問題について学び、考えることを目的に、「紛争と和解」というテーマで文献を輪読する。

(2) 学びの意義と目標

文献を丁寧に読むことによって、これまで積み重ねられてきた知識に対する理解を深め、論理的思考力や生涯学習力を養うことができるようになる。さらに、発表と討論によって、コミュニケーション・スキルや自己管理能力を養い高めることができるようになる。

受講者に対する要望

本を読んで考え、議論することの楽しさを一緒に味わいましょう。

学びのキーワード

- ・平和
- ・輪読
- ・演習

授業計画

01. イントロダクション
02. 文献輪読（学生による発表と討論）
03. 文献輪読（学生による発表と討論）
04. 文献輪読（学生による発表と討論）
05. 文献輪読（学生による発表と討論）
06. 文献輪読（学生による発表と討論）
07. 文献輪読（学生による発表と討論）
08. 文献輪読（学生による発表と討論）
09. 文献輪読（学生による発表と討論）
10. 文献輪読（学生による発表と討論）
11. 文献輪読（学生による発表と討論）
12. 文献輪読（学生による発表と討論）
13. 文献輪読（学生による発表と討論）
14. 文献輪読（学生による発表と討論）
15. 文献輪読（学生による発表と討論）

準備学習（予習）

文献の指定箇所を読んでおく。

準備学習（復習）

授業での討論をふまえ、期末レポート作成に向けてノートを作成しておく。

評価方法

- | | |
|------------|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 文献講読、担当箇所の発表内容、討論への参加 |
| (2) 期末レポート | 50% 授業で扱った文献の書評レポート |

教科書

参考書

松尾 秀哉、臼井 陽一郎編 『紛争と和解の政治学』 ナカニシヤ出版、2013年
{<http://www.nakanishiya.co.jp/book/b135039.html>}

卒業研究I (公共哲学)		LCP0-L-300
担当教員： 谷口 隆一郎		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX34010
学部教育の関連目 【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		授業計画 01. オリエンテーション 02. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 03. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 04. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 05. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 06. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 07. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 08. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 09. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 12. ゼミ生による発表 13. ゼミ生による発表 14. ゼミ生による発表 15. まとめ
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが帰属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要である。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅったい）の経緯と動向について学ぶ。 公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとつてのコミュニティの意味、コミュニタリアニズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げる。 (1) 公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。(2) 文献をレジメにまとめ報告・議論する。(3) 卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。		
(2) 学びの意義と目標 (1) 公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにある。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していく。(2) 将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくというテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根底から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれている。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができる。(3) 論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛える。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができる。		準備学習(予習) 授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。
受講者に対する要望 私の「倫理学」（開講年度に注意）と「公共哲学」を併せて履修すること。予習・復習をすること。研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやっていきたいと考えている。		準備学習(復習) 学習ノートを自主的に作成して、これを読み返し、次の授業に質問等を行う。
学びのキーワード ・ 公共 ・ 公共倫理 ・ コミュニティ ・ グローバリズム ・ リベラリズム コミュニタリアニズム ナショナリティ		評価方法 (1) 授業への参加度と貢献度 50% 毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等 (2) 研究成果（小論文・レポート） 50% ゼミ論文・レポートに対する評価 (3) 出欠について 学期を 出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。 遅刻の常習の者や授業への取組が著しく消極的な者については評価を厳しくする。
		教科書 授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。
		参考書 授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。

卒業研究I (情報倫理)

担当教員： 竹井 潔

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 1PX34210

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は我々が情報社会の中でより良く生きていく上で必要となる。「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。

(2) 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく。

受講者に対する要望

自分の研究テーマについて、積極的に取り組むこと。
また、発表演習担当のときに無断欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 情報社会における諸課題 |
- ・ 情報倫理 |

授業計画

01. 情報社会と情報倫理の課題 |
02. 個別研究テーマの検討 |
03. 研究計画書作成 |
04. 個別研究テーマの発表
05. 個別研究テーマの調査 1 |
06. 個別研究テーマの発表 1
07. 個別研究テーマの調査 2 |
08. 個別研究テーマの発表 2 |
09. 個別研究テーマの調査 3 |
10. 個別研究テーマの発表 3
11. 個別研究テーマの調査 4
12. 個別研究テーマの発表 4 |
13. 個別研究テーマの調査 5
14. 個別研究テーマの発表 5
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に指示する参考図書を読んで用語などを調べておくこと。
発表演習には事前に発表資料を作成してくること。演習は必ず出席し、積極的に参画すること。

準備学習(復習)

演習でできなかった個所や理解できなかった専門用語は各自調査して十分に理解しておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|------|-----------|
| (1) 演習 | 40 % | 課題提出、発表演習 |
| (2) 期末レポート | 60 % | |

教科書

授業の中で指示する

参考書

卒業研究Ⅰ（組織行動論）	
担当教員： 八木 規子	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 コード： 1PX34310	
学部教育の関連目	授業計画
【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う	01. 卒業研究の進め方について 02. 調査課題・対象の絞り込み 03. 先行文献の調査方法 04. 調査方法 1：定性的研究 05. 定性的研究の事例 06. 調査方法 2：定量的研究 07. 定量的研究の事例 08. 文献購読・報告 09. 文献購読・報告 10. 文献購読・報告 11. 文献購読・報告 12. 文献購読・報告 13. 文献購読・報告 14. 文献購読・報告 15. 研究計画書の報告発表・まとめ
カリキュラム上の位置付け	
(1) 内容	
専門演習を通じて学んだ組織行動論の諸概念の中から、履修生が興味のある概念を選び、卒業研究レポートの研究・執筆を行う。卒業研究Ⅰでは、レポートの研究・執筆に向けて、研究計画書を完成させるところまでを行う。	
(2) 学びの意義と目標	
組織行動論は、組織において、人間が行動する際にみせる様々な法則性について学ぶ学問である。実際の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題を、組織行動論の理論やフレームワークの視点から吟味することは、履修生が、将来組織人として生きる上で、問題解決の選択肢を増やすという意義がある。また、卒業研究レポートの研究・執筆にあたっては、普遍的な科学的研究手法に沿った研究のやり方を習得することを目標とする。こうした研究手法の習得は、我々が生きる複雑な社会と、それに関する膨大な情報に対して、我々が下していかなければならない「判断」と「選択」の「品質」を上げるという意義がある。	準備学習(予習)
	次回テキスト、文献は必ず読み、自分の考え、意見をまとめておくこと。報告者・発表者は、前日までにレジュメを提出すること。
	準備学習(復習)
	各回のゼミ終了後、理解したこと、疑問に思ったことをまとめておくこと。UNIPA上に、それらの考えをアップロードする場を設けるので、利用すること。
	評価方法
	(1) 授業への貢献 50% クラス討議への参加、発言、クラスメイトの発言に対する反応 (2) 研究計画書 50%
受講者に対する要望	
理論・フレームワークを学ぶことは、自分の考え方を、一つの枠組みに強制的に嵌めてみることに他ならない。窮屈に感じるかもしれないが、一度そうしたトレーニングを経ることで、ものの見方、考え方が広がるはずだ。そういう体験にチャレンジするつもりでゼミに臨んでほしい。	
学びのキーワード	教科書
・ 組織行動 ・ 調査研究手法 ・ 企業 ・ 個人	参考書

卒業研究I(地域社会論)

LCP0-L-300

担当教員： 大高 研道

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1PX34410

学部教育の関連目

【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒業研究の中心テーマは、現代的課題克服の主体研究である。グローバル化する現代社会において噴出している労働問題・生活問題の現実を、自分なりの観点から検討した「専門演習」を踏まえて、より具体的な解決主体としての市民・コミュニティ（組織）のあり方、可能性について検討することがその内容となる。

本演習では、まず「専門演習」での学びを通して醸成された知見にもとづいて選択されたテキストを題材に、各自関心のある課題を取り上げ、自由に報告・議論する。その上で、卒業レポートのテーマを確定し、調査方法論および論文執筆の基本的技法について学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

最終的には、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや社会的企業の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のヴィジョンを提起できるようになることを目指す。

その集大成のひとつとして位置づけられるのが、「卒業研究レポート」である。今学期の学びは、卒業研究レポート作成にむけて問題関心を具体化し、理論化するための基盤を形成するとともに、大学生活を通じた学びを省察的に検討し、意義づけるための重要な機会をも提供するであろう。

受講者に対する要望

・時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。

学びのキーワード

- ・ 地域社会
- ・ NPO
- ・ 社会的企業
- ・ 社会的排除
- ・ 現代的協同性

授業計画

01. 卒業研究について
02. 調査方法論
03. 調査課題・対象の焦点化にむけて(1)
04. 調査課題・対象の焦点化に向けて(2)
05. 文献購読・報告
06. 文献購読・報告
07. 文献購読・報告
08. 文献購読・報告
09. 文献購読・報告
10. 調査方法論の再確認
11. 調査領域・調査事例の選定
12. 個別報告
13. 個別報告
14. 個別報告
15. まとめと反省

準備学習(予習)

・次回テキストの該当箇所は必ず読み、分からない用語等は事前に調べてくること。報告者は前日までにレジュメを提出すること。

準備学習(復習)

・各自、ゼミ終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと/さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、次回ゼミの冒頭に共通討論の場を設ける。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 70% | 報告内容および討論への参加状況（積極性）を含む。 |
| (2) レポート | 30% | |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

卒業研究Ⅰ（日本経済論）

LCP0-L-300

担当教員：大森 達也

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX34510

学部教育の関連目

【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒業研究Ⅰの目的は、専門演習Ⅱで選んだ各自の課題についての卒業研究レポートを作成する準備を進めることである。

(2) 学びの意義と目標

研究レポート作成を通じて、それぞれの問題意識を高めるという意義もあるが、同時に、「報連相」の重要性を理解することを目的としている。

受講者に対する要望

各自、調査・研究の自己管理を徹底すること。

学びのキーワード

- ・研究計画
- ・文献調査

授業計画

01. 目的と進め方
02. 研究計画書の作成
03. 研究計画書の発表(1)
04. 研究計画書の発表(2)
05. 文献リストの作成
06. 文献調査の発表(1)
07. 文献調査の発表(2)
08. 中間発表(1)
09. 中間発表(2)
10. 研究計画書の変更と発表(1)
11. 文献リストの変更と発表(1)
12. 追加文献調査の発表(1)
13. 追加文献調査の発表(2)
14. 中間発表(3)
15. 中間発表(4)

準備学習(予習)

研究レポート作成を目的としているため、個別テーマごとの指導が重要とならざるを得ないので、各自、調査・研究の時間を充分にとること。

準備学習(復習)

個別指導に従い、各自、発表後に問題点を整理し、次回につなげること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 研究計画書作成 | 15% |
| (2) 文献リスト作成 | 15% |
| (3) 発表 | 30% |
| (4) 中間レポート | 40% |

教科書

参考書

卒業研究I (法政情報論)

LCP0-L-300

担当教員： 渡辺 英人

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1PX34610

学部教育の関連目

【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらう。2016年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

(2) 学びの意義と目標

生活の中から見た法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

受講者に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 生活の中から見た法と行政
- ・ 消費者保護法
- ・ 消費者保護行政

授業計画

01. 現代社会と法（その種類と仕組み）
02. 法と道徳
03. 法が強制的であるということ
04. 法の機能
05. 「犯罪」とは何か？
06. 現代社会と裁判制度
07. デュー・プロセスについて
08. 消費者を守る法
09. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

準備学習(予習)

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作成すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 授業参加 | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 課題作成 | 30% |

教科書

参考書

卒業研究I(まちづくり学)

担当教員：平 修久

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：1 コード：1PX34710

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

大学周辺地域を対象にして、活性化計画もしくはまちの改善計画を検討する。具体的内容を取上げ、詳細な計画を作成する。これらの作業を通して、計画作成の流れを学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

専門演習で修得した知識、作業経験を活かし、さらに、まちづくりに関する知識を深める。まちに対する観察力を深め、フィールドワークを行うことにより、考える力を身につけること。

受講者に対する要望

まちづくり計画作成に積極的に参画するとともに、まちに対する視野を拡大してもらいたい。

学びのキーワード

- ・まちづくり
- ・活性化
- ・フィールドワーク

授業計画

01. ガイダンス
02. まちづくり計画①
03. まちづくり計画②
04. まちづくり計画③
05. まちづくり計画④
06. 卒業研究の進め方
07. 図書館ガイダンス
08. 卒業研究レポート作成準備
09. まちづくり計画⑤
10. まちづくり計画⑥
11. まちづくり計画⑦
12. 卒業研究中間発表①
13. 卒業研究中間発表②
14. 卒業研究中間発表③
15. まとめ

準備学習(予習)

グループ作業に際しては、事前に担当する内容を事前に調べておくこと。発表に際しては、十分に準備して臨むこと。

準備学習(復習)

まちづくり計画に関しては、毎回振り返りを行い、発表に関しては、質問や意見を踏まえ卒業研究レポートに反映させること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加度合 | 40% |
| (2) グループ作業 | 20% |
| (3) 課題 | 40% |

教科書

なし

参考書

卒業研究II（環境保全論）			
担当教員：村上 公久			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 1 コード： 1PX40310
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. テーマを設定してレポートを作成（1） — 分野別 テーマ設定 02. テーマを設定してレポートを作成（2） — 分野別 テーマ設定 03. テーマを設定してレポートを作成（3） — 分野別 テーマ設定 04. テーマを設定してレポートを作成（4） — 討議 05. テーマを設定してレポートを作成（5） — 討議と質疑応答 06. 地球環境問題について 解決への提言（1） — 提言の検討 07. 地球環境問題について 解決への提言（2） — 討議 08. 地球環境問題について 解決への提言（3） — 討議と質疑応答 09. 解決への提言をパワー・ポイント発表（1） 10. 解決への提言をパワー・ポイント発表（2） 11. 「卒業研究」レポート作成の準備 テーマと構成 12. 「卒業研究」レポート作成の準備 資料 13. 「卒業研究」レポート（1） — レポートの配布と質疑応答 14. 「卒業研究」レポート（2） — レポートの配布と質疑応答 15. 「卒業研究」 総括	
(1) 内容			
始めに全員で地球環境問題を扱った英文の報告書（6つの英文報告書）を学び、その中から各自がテーマを選んで、レポートをまとめる。 この演習ではまず、システム “人間—環境” 系の考察を中心に環境史を概観する。 次に、人口の急増と共に急速に生命の環境が劣化した産業革命以降今日までの環境問題を考え、その解決に貢献した先駆者達の歩みを振り返り、自然保護と環境保全という立場の違いの検討を手がかりに21世紀の人類の課題 Sustainable Development 保続的(持続的)開発(地球サミットUNCEDの決議『アジェンダ21』)の可能性を探る。 次に複数のグループに分かれてグループ毎に地球環境問題に関わる課題を設定し、解決への提言をまとめる。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
専門科目「環境保全論」、「卒業研究I（環境保全論）」で得た知見を、グループで提言にまとめ発表する能力の獲得。環境問題の事例研究を通じて、解決への実地的な方途について学び、環境問題にみられるような複雑な問題と取り組み問題解決に挑む模擬経験を積む。		総合科目「環境学」、専門科目「環境保全論」、特にこの演習の前提である「環境保全論」を、準備として予め復習しておくこと。演習開始以降の予習については、各回に指示する。	
		準備学習(復習)	
		各回のゼミ内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めてゼミ記録を作成する。	
受講者に対する要望		評価方法	
大学の「授業」は、講義と演習（ゼミ）と二つの要素から成る。この科目「卒業研究II（環境保全論）」は、講義である専門科目の「環境保全論」で学んだ内容の具体的事例を扱う演習（ゼミ）科目で、前学期の「卒業研究I」に次ぐ演習科目である。「卒業研究I」と同様に、履修する予定の者は予めこの演習科目を履修するための導入と基礎となる本学の環境分野関連科目「環境学」「環境保全論」の2科目のうち1科目以上を履修しておくことが望ましい。		(1) プレゼンテーション と討論 40% (2) 演習クラス への参画 と貢献 30% (3) レポート 30%	
学びのキーワード		教科書	
・ 自然保護と環境保全 ・ 自然観の変遷 ・ 個体群生態学と環境容量 ・ 再生産可能な資源 と 枯渇性資源 ・ 保続的（持続的）発展		なし、講義資料を配布する。	
		参考書	
		文献・資料のリスト と 講義資料を配布する。	

卒業研究II（キリスト教社会倫理）		LCP0-L-400
担当教員：菊地 順		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX40510
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業のオリエンテーション 02. 古代世界と反ユダヤ主義 03. 卒業研究レポートのテーマ発表 04. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史（1）（ドイツを中心として—中世まで） 05. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史（2）（ドイツを中心として—近現代） 06. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史（3）（スペインを中心として—1492年まで） 07. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史（4）（スペインを中心として—1492年以降） 08. 卒業研究レポートの中間発表 09. 基本的人権の歴史（1）（近代） 10. 基本的人権の歴史（2）（現代） 11. 基本的人権の理念（1）（ヨーロッパ） 12. 基本的人権の理念（2）（アメリカ） 13. 基本的人権と日本 14. 卒業研究レポートの発表 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、各自が自分のテーマを決め、最終的に卒業研究レポートを書くことを目指します。そのために、レポートを巡って何度か発表をしてもらいます。また同時に、基本的人権について、ユダヤ人問題を中心に学びます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>秋学期は、ヨーロッパにおけるユダヤ人問題を中心にしながら、改めて人権について考えたいと思います。そして、そのおことをとおして、人間の生き方について、理解を深めたいと思います。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>予習としては、読むことが中心となりますので、予め配布されるプリントを下読みし、特に英文は必ず下調べをしておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業は、学びつつ、議論しつつ、進められますので、積極的に参加してください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>復習としては、学んだ内容をまとめ、整理し、必要に応じて調べ、レポートの作成に備えること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点50%</div><div>(2) レポート50%</div></div> <div>授業に積極的に参加することを重視します。また最後に卒業研究レポートを書いてもらいます。その総合的な判断で成績を出します。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 反ユダヤ主義</div><div>・ ユダヤ人問題</div><div>・ 基本的人権</div><div>・ 憲法</div><div>・ 人間の尊厳</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div> <div>プリントを配布します。またプリント以外にも映像等を用いて授業を行います。</div>

卒業研究II (企業経済論)		ECON-P-300
担当教員： 柴田 武男		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX40710
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 最初の数回は、論文読解のコツを教える。 02. 次に、論文のレポート方法を教える。 03. さらに、論文のテーマ選定方法を教える。 04. 最終的に、選定したテーマで論文作成の方法を教える。 05. 確定したテーマでレポートを作成する。 06. 卒業研究レポートの中間報告1 07. 卒業研究レポートの中間報告2 08. 卒業研究レポートの中間報告3 09. 卒業研究レポートの中間報告4 10. 卒業研究レポートの中間報告5 11. 卒業研究レポートの中間報告6 12. 卒業研究レポートの中間報告7 13. 卒業研究レポートの中間報告8 14. 卒業研究レポートの中間報告9 15. 卒業研究レポートの中間報告10</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「卒業研究（企業経済論）」では、金融市場に関する論文作成の指導を行う。まず、関連する論文の読解から初めて、専門論文を読みとる方法を学んで、次に、基本的なテーマの選定、論文の書き方を指導する。原則として、担当教員の金融市場論講義・専門演習を受けた上で選択して欲しい。金融市場というテーマ自体が幅広く、大きいので、銀行とか証券だけがテーマだと選択を狭くするつもりはない。幅広く受講生の関心のあるテーマで自発的に取り組んで欲しい。 ただし、日頃新聞の経済記事を読み、日本の企業を取り巻く経営環境についてある程度の知識を有していないと、論文作成は困難であることは留意して欲しい。 株式・社債、派遣法など様々な問題に日頃関心を持っている受講者であれば、大歓迎である。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業研究はレポート作成を単位認定条件とするので、そのためのテーマ決定、情報収集、作文能力などが育成される。レポート作成記述を身につけることが目標となる。</div>		
<div>準備学習(予習)</div> <div>無断欠席は認められない。病欠等仕方ないが、必ず連絡をお願いする。主に三年次選択科目となるので、就職活動に関するアドバイスも行うので、就職意識の強い学生を期待する。</div>		
<div>準備学習(復習)</div> <div>発表したテーマに関して追加的な課題を設定する。</div>		
<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点50%</div><div>(2) レポート50%</div></div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>ゼミでは、ゼミ生相互の議論が重要であるので欠席しないことと議論に積極的に参加して発言することを期待する。メーリングリストを活用するのでパソコン・メール環境を準備してください。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 議論への参加</div><div>・ テーマの設定</div><div>・ 情報収集</div><div>・ データベースの利用</div><div>・ 日本経済新聞</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

卒業研究II（経営管理）

MGMT-P-300

担当教員：金子 毅

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1PX40910

学部教育の関連目

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

作成した文献リストをもとに、自己の問題関心に
基づく研究レポートを完成させる。

(2) 学びの意義と目標

発表と討論を通じて、卒業レポートを書く上での
基本的な「論文作法」を習得する。学生自身の問
題関心を踏まえた卒業レポートの作成を目標とす
る。

受講者に対する要望

受講者には、自分の問題関心を持つように心が
け、講義の中でそれとのすり合わせを行なうつも
りで参加してもらいたい。なお、ネット情報から
のコピー引用は厳禁とする。

学びのキーワード

- ・ 論理の流れ
- ・ 理論枠組
- ・ 文献検索
- ・ 文献リストの作成

授業計画

01. プロローグ：研究レポートに取り掛かる前に
02. 論文の二つのパターン1：理論研究
03. 論文の二つのパターン2：実証研究
04. 実証研究の二つのパターン1：量的調査
05. 実証研究の二つのパターン2：質的調査
06. サンプル文献購読1：理論
07. サンプル文献購読2：量的調査に基づく実証
08. サンプル文献購読3：質的調査を元とする実証
09. サンプル文献購読4：量的・質的調査を組み合わせた実証
10. 論文の書き方：要旨の作成と章の立て方
11. 註の打ち方、引用と参照の違い
12. 成果報告1
13. 成果報告2
14. 成果報告3
15. エピローグ：総括

準備学習(予習)

シラバスに記した手順を参照して、卒業レポートに向け
た自己の論点を整理しておく。

準備学習(復習)

講義で討論した内容や教員からの指摘に基づき、卒業レ
ポートの構成や論点を練り直す。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 課題発表 | 70% |
| (2) 参加による貢献度 | 30% |

教科書

参考書

卒業研究II（憲法）		LAW-P-300
担当教員：石川 裕一郎		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1PX41110
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入:担当の決定 02. 各自の個別テーマの発表・議論 03. 各自の個別テーマの発表・議論 04. 各自の個別テーマの発表・議論 05. 各自の個別テーマの発表・議論 06. 各自の個別テーマの発表・議論 07. 各自の個別テーマの発表・議論 08. 各自の個別テーマの発表・議論 09. 各自の個別テーマの発表・議論 10. 各自の個別テーマの発表・議論 11. 各自の個別テーマの発表・議論 12. 各自の個別テーマの発表・議論 13. 各自の個別テーマの発表・議論 14. 各自の個別テーマの発表・議論 15. まとめ</div>	
	<div>カリキュラム上の位置付け</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>春学期に引き続き、受講者各々が各自の研究テーマを設定し、調査・研究・発表・討論を重ねることにより、最終的に一定量の論文を完成させます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>具体的な意義と目標は、法律上は「成年」であるところの各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力（国家）や社会的権力（企業）から一方的に搾取されない賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>演習科目なので、とりわけプレゼンテーションの準備には各受講者の自発的かつ継続的な相応の分量の予習が求められます。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>プレゼンテーション後においても、卒業研究に向けて相応の分量の復習が求められます。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>「演習」科目ですので、受講者が主体的に授業に参加する」ことが強く求められます。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 80% プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。 (2) 期末レポート 20%</div>	
	<div>単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 演習科目・ 法律学・ 憲法学・ 比較法学・ 人権論</div>	<div>教科書</div> <div>授業内で指示します。</div>	
	<div>参考書</div> <div>授業内で指示します。</div>	

担当教員：高橋 愛子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX41510

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

今日の政治社会が直面するさまざまな問題を理解するためには二つのアプローチが必要とされる。すなわち、政治過程の具体的なダイナミズムについて実証的な認識をもつこと、および、現実政治を理解する際に必要とされる理念的・思想的な次元における自分なりの認識のための座標軸をもつことである。

以上の基本的な考え方に立ち、前半は、「今日の社会が直面する貧困」を切り口としながら、共通のテキストを輪読し議論をしてゆく。後半は各自のテーマについての進捗状況を報告し議論する。学期末に各自のテーマについての「小論文」（10,000字）を提出することが求められる。

<カリキュラム上の位置づけ> 3年次秋学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。

(2) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（著者の主張の要点を把握し、発表用のレジュメを作成し、プレゼンを行う）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、独自の研究テーマを「卒業論文」執筆へと掘り下げることに。

受講者に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。
2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

学びのキーワード

- ・文献リサーチ
- ・アーティクル・レビュー

授業計画

01. 導入：講義計画の説明、担当についての分担
02. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
03. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
04. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
05. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
06. 各自の研究課題のプレゼン・議論
07. 各自の研究課題のプレゼン・議論
08. 各自の研究課題のプレゼン・議論
09. 各自の研究課題のプレゼン・議論
10. 各自の研究課題のプレゼン・議論
11. 各自の研究課題のプレゼン・議論
12. 各自の研究課題のプレゼン・議論
13. 各自の研究課題のプレゼン・議論
14. 各自の研究課題のプレゼン・議論
15. 各自の研究課題のプレゼン・議論

準備学習(予習)

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

準備学習(復習)

ゼミで議論になったポイントについての理解を深めるためのレポート作成。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 20% |
| (2) プレゼン | 40% |
| (3) 小論文 | 40% |

教科書

初回授業において指示する。

参考書

卒業研究B (政治・経済)

SOCI-P-300

担当教員：土方 透

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX41710

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒論の完成へ向けて指導を行う。

(2) 学びの意義と目標

卒論を仕上げるという作業は、多くの学生にとって最初で最後の論文作成となる。学士号取得にふさわしい能力を身につけたことの証である。

受講者に対する要望

けっしてくじけないこと。

学びのキーワード

授業計画

01. これまでの総括と報告
02. これまでの総括と報告
03. プレゼンテーション
04. 同上
05. 同上
06. 同上
07. 同上
08. プレゼンテーション
09. 同上
10. 同上
11. 中間報告
12. プレゼンテーション
13. 同上
14. 同上
15. 同上

準備学習(予習)

ただひたすら勤勉であることを要求する。

準備学習(復習)

毎回、前回に指摘された点の進捗状況を報告できるように、作業を進めてくること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 毎回の報告 | 20% |
| (2) 卒論 | 80% |

教科書

参考書

担当教員：森分 大輔

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX41910

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

＜内容＞「専門演習（政治哲学）」の延長線上に位置づけられており、本演習履修者は「専門演習」を必修とする。専門演習での学習を前提として、新たなテキストの講読と議論を行う。基本的に、学期の前半は共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の進捗状況を報告、議論する。

(2) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（読む、書く、話すという社会科学の必要な基本スキルの習得）、政治学的な関心を深めること、独自の研究テーマへの理解を深めることの三点である。

受講者に対する要望

3年次に位置づけられた必修の演習科目の一つであるという自覚の下、積極的に自身のテーマを追求し、議論に参加することが望まれる。

学びのキーワード

- ・政治
- ・思想
- ・討論

授業計画

01. イントロダクション
02. 共通のテキストの講読・議論
03. 共通のテキストの講読・議論
04. 共通のテキストの講読・議論
05. 共通のテキストの講読・議論
06. 共通のテキストの講読・議論
07. 共通のテキストの講読・議論
08. 共通のテキストの講読・議論
09. 共通のテキストの講読・議論
10. 共通のテキストの講読・議論
11. 共通のテキストの講読・議論
12. 共通のテキストの講読・議論
13. 共通のテキストの講読・議論
14. 共通のテキストの講読・議論
15. 共通のテキストの講読・議論

準備学習(予習)

政治に関する積極的な関心を持つのみならず、理論的な視点、継続的に文献に取りかかることのできる忍耐力、自己の思考を提示することへの興味をもち、必要な学習をすることが必要である。

準備学習(復習)

自身のテーマとの関連をゼミの議論を振り返り反省すること、そしてそれらをまとめることが求められる。あわせて関連書籍の購読をすることが望ましい。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 出席 | 40% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

卒業研究II（日本政治思想史）		POSC-P-300	
担当教員： 吉田 博司			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 1		コード： 1PX42310	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. テーマ設定</div> <div>02. 同</div> <div>03. 同</div> <div>04. 資料収集指導</div> <div>05. 同</div> <div>06. 以下、学生報告と討論</div> <div>07. 同</div> <div>08. 同</div> <div>09. 同</div> <div>10. 同</div> <div>11. 同</div> <div>12. 同</div> <div>13. 同</div> <div>14. 同</div> <div>15. 同</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>近代日本の政治家及び思想家の研究指導をします。学生のテーマ設定、報告、討論の時間です。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>歴史に興味をもち、人間への深い洞察を養って下さい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>学生報告のプリントを用意させ、事前に調査研究事項を割り当てる。授業後、他からのコメントを照らし合わせる。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>報告のあと、質問、アドバイスを参考に修正する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>報告が主体となるので、怠情を克服してほしい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 報告</div><div>70%</div></div><div><div>(2) 質問</div><div>30%</div></div></div> <div>報告は論理、資料、オリジナリティをみます。質問は中身が大切です。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 近代日本、憲政、明治維新、藩閥</div><div>・ 超然主義、政党内閣、元老</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

卒業研究II（法思想史）		LAW-P-300
担当教員： 加藤 恵司		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX42910
<div>学部教育の関連目</div> <div>論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. テキスト購読・要約 02. テキスト購読・要約 03. テキスト購読・要約 04. テキスト購読・要約 05. テキスト購読・要約 06. テキスト購読・要約 07. テキスト購読・要約 08. テキスト購読・要約 09. テキスト購読・要約 10. テキスト購読・要約 11. テキスト購読・要約 12. テキスト購読・要約 13. テキスト購読・要約 14. テキスト購読・要約 15. テキスト購読・要約</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>法思想史の中で、暗黒といわれる西欧の中世から近代の黎明までに焦点をあてる。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>書物、論文を読むことを目標とする。また、与えられた課題を深く追求する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>テキストを要約してレポートする。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>まじめに出席する。テキストを読む。 また、進級論文を完成させる。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>話題になった事柄を調べる。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 出席60%</div><div>(2) 授業態度40%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 法</div><div>・ 思想</div><div>・ 歴史</div></div>	<div>教科書</div> <div>加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』（ジーオー企画出版）</div> <div>参考書</div>	

担当教員：小松崎 利明

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX43210

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

平和に関する現代的な問題について学び、考えることを目的に、「国際社会の規範」というテーマで文献を輪読する。

(2) 学びの意義と目標

文献を丁寧に読むことによって、これまで積み重ねられてきた知識に対する理解を深め、論理的思考力や生涯学習力を養うことができるようになる。さらに、発表と討論によって、コミュニケーション・スキルや自己管理能力を養い高めることができるようになる。

受講者に対する要望

本を読んで考え、議論することの楽しさを一緒に味わいましょう。

学びのキーワード

- ・平和
- ・輪読
- ・演習

授業計画

01. イントロダクション
02. 文献輪読（学生による発表と討論）
03. 文献輪読（学生による発表と討論）
04. 文献輪読（学生による発表と討論）
05. 文献輪読（学生による発表と討論）
06. 文献輪読（学生による発表と討論）
07. 文献輪読（学生による発表と討論）
08. 文献輪読（学生による発表と討論）
09. 文献輪読（学生による発表と討論）
10. 文献輪読（学生による発表と討論）
11. 文献輪読（学生による発表と討論）
12. 文献輪読（学生による発表と討論）
13. 文献輪読（学生による発表と討論）
14. 文献輪読（学生による発表と討論）
15. 文献輪読（学生による発表と討論）

準備学習（予習）

文献の指定箇所を読んでおく。

準備学習（復習）

授業での討論をふまえ、期末レポート作成に向けてノートを作成しておく。

評価方法

- | | |
|------------|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 文献講読、担当箇所の発表内容、討論への参加 |
| (2) 期末レポート | 50% 授業で扱った文献の書評レポート |

教科書

臼井陽一郎編 『EUの規範政治—グローバルヨーロッパの理想と現実』 ナカニシヤ出版、2015年
[<http://www.nakanishiya.co.jp/book/b200748.html>]

参考書

卒業研究II (公共哲学)		LCP0-L-300									
担当教員： 谷口 隆一郎											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1PX44010									
学部教育の関連目 【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		授業計画 01. オリエンテーション 02. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 03. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 04. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 05. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 06. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 07. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 08. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 09. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う 12. ゼミ生による発表 13. ゼミ生による発表 14. ゼミ生による発表 15. まとめ									
カリキュラム上の位置付け											
(1) 内容 現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが帰属する、社会の各領分に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要である。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅったい）の経緯と動向について学ぶ。 公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとつてのコミュニティの意味、コミュニタリアニズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げる。 (1) 公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。(2) 文献をレジメにまとめ報告・議論する。(3) 卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。											
(2) 学びの意義と目標 (1) 公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにある。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していく。(2) 将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくというテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根底から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれている。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができる。(3) 論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛える。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができる。		準備学習(予習) 授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。									
受講者に対する要望 私の「倫理学」（開講年度に注意）と「公共哲学」を併せて履修すること。予習・復習をすること。研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやっていきたいと考えている。		準備学習(復習) 学習ノートを自主的に作成して、これを読み返し、次の授業に質問等を行う。									
学びのキーワード ・ 公共 ・ 公共倫理 ・ コミュニティ ・ グローバリズム ・ リベラリズム コミュニタリアニズム ナショナリティ		評価方法 <table> <tr> <td>(1) 授業への参加度と貢献度</td><td>50%</td><td>毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等</td></tr> <tr> <td>(2) 研究成果（小論文・レポート）</td><td>50%</td><td>ゼミ論文・レポートに対する評価</td></tr> <tr> <td>(3) 出欠について</td><td></td><td>学期を 出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。</td></tr> </table> <p>遅刻の常習の者や授業への取組が著しく消極的な者については評価を厳しくする。</p>	(1) 授業への参加度と貢献度	50%	毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等	(2) 研究成果（小論文・レポート）	50%	ゼミ論文・レポートに対する評価	(3) 出欠について		学期を 出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。
(1) 授業への参加度と貢献度	50%	毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等									
(2) 研究成果（小論文・レポート）	50%	ゼミ論文・レポートに対する評価									
(3) 出欠について		学期を 出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。									
教科書 授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。		参考書 授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。									

卒業研究II (情報倫理)

担当教員： 竹井 潔

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 1PX44210

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は我々が情報社会の中でより良く生きていく上で必要となる。「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。

(2) 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく。

受講者に対する要望

自分の研究テーマについて、積極的に取り組むこと。
また、発表演習担当のときに無断欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 情報倫理
- ・ 情報社会と諸課題

授業計画

01. 情報社会と課題形成
02. 個別研究テーマの形成
03. 個別研究テーマの研究計画書作成
04. 個別研究テーマの調査 1
05. 個別研究テーマの発表 1
06. 個別研究テーマの調査 2
07. 個別研究テーマの発表 2
08. 個別研究テーマの調査 3
09. 個別研究テーマの発表 3
10. 個別研究テーマの調査 4
11. 個別研究テーマの発表 4
12. 個別研究テーマの調査 5
13. 個別研究テーマの発表 5
14. 総合発表
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に指示する参考図書を読んで用語などを調べておくこと。
発表演習には事前に発表資料を作成してくること。演習は必ず出席し、積極的に参画すること。

準備学習(復習)

演習でできなかった箇所や理解できなかった専門用語は各自調査して十分に理解しておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|------|-----------|
| (1) 演習 | 40 % | 課題提出、発表演習 |
| (2) 期末レポート | 60 % | |

教科書

参考書

授業の中で指示する

卒業研究Ⅱ（組織行動論）	
担当教員： 八木 規子	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 コード： 1PX44310	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション：卒業研究レポート執筆に向けて 02. 研究計画書内容の再確認 03. 研究調査方法の再確認 04. 各自の調査研究に関連したトピックに関するディスカッション1 05. 各自の調査研究に関連したトピックに関するディスカッション2 06. 仮説とその検証方法に関する個別報告1 07. 仮説とその検証方法に関する個別報告2 08. 調査研究の進捗状況に関する個別報告1 09. 調査研究の進捗状況に関する個別報告2 10. 調査研究の進捗状況に関する個別報告3 11. 調査研究の進捗状況に関する個別報告4 12. 調査研究の進捗状況に関する個別報告5 13. 卒業研究レポート草稿の発表・検討1 14. 卒業研究レポート草稿の発表・検討2 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>専門演習を通じて学んだ組織行動論の諸概念の中から、履修生が興味のある概念を選び、卒業研究レポートの研究・執筆を行う。卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで作成した研究計画書に基づく、研究の遂行、レポートの執筆を実践する。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>組織行動論は、組織において、人間が行動する際にみせる様々な法則性について学ぶ学問である。実際の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題を、組織行動論の理論やフレームワークの視点から吟味することは、履修生が、将来組織人として生きる上で、問題解決の選択肢を増やすという意義がある。また、卒業研究レポートの研究・執筆にあたっては、普遍的な科学的研究手法に沿った研究のやり方を習得することを目標とする。こうした研究手法の習得は、我々が生きる複雑な社会と、それに関する膨大な情報に対して、我々が下していかなければならない「判断」と「選択」の「品質」を上げるという意義がある。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>次回テキスト、文献は必ず読み、自分の考え、意見をまとめておくこと。報告者・発表者は、前日までにレジュメを提出すること。</div>
	<div>準備学習(復習)</div> <div>各回のゼミ終了後、理解したこと、疑問に思ったことをまとめておくこと。UNIPA上に、それらの考えをアップロードする場を設けるので、利用すること。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>理論・フレームワークを学ぶことは、自分の考え方を、一つの枠組みに強制的に嵌めてみることに他ならない。窮屈に感じるかもしれないが、一度そうしたトレーニングを経ることで、ものの見方、考え方が広がるはずだ。そういう体験にチャレンジするつもりでゼミに臨んでほしい。</div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への貢献50%</div><div>(2) 卒業研究レポート50%</div><div>クラス討議への参加、発言、クラスメイトの発言に対する反応</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 組織行動</div><div>・ 調査研究手法</div><div>・ 企業</div><div>・ 個人</div></div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>

卒業研究II (地域社会論)

LCP0-L-400

担当教員： 大高 研道

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1PX44410

学部教育の関連目

【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本卒業研究の共通テーマは、現代的課題克服の主体研究である。グローバル化する現代社会において噴出している労働問題・生活問題の中で、自分なりの関心から選択した「現代的課題」をより深く掘り下げ、その解決主体としての市民・コミュニティ（組織）のあり方と可能性について検討することがその内容となる。

具体的には、設定したテーマ（課題）についての多面的な観点からの検討を通して、関連する領域において活動を展開する市民社会組織（NPO、社会的企業、協同組合、ボランティア団体等）調査を実施する。その成果を報告してもらい、最終的には卒業研究レポートとしてまとめてもらう。

(2) 学びの意義と目標

卒業研究を通して、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや市民社会組織の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のヴィジョンを提起できるようになることを目指す。その集大成のひとつとして位置づけられるのが、「卒業研究レポート」である。「卒業研究」を通じた学びは、自身の生涯にわたる社会への問題意識・関心の基本的スタンスを醸成するうえでも、重要な意義を有しているであろう。

受講者に対する要望

・時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。

学びのキーワード

- ・ 地域社会
- ・ NPO
- ・ 社会的企業
- ・ 社会的排除
- ・ 現代的協同性

授業計画

01. 卒業研究レポート執筆にむけて
02. 調査方法論の再確認
03. 調査テーマの検討・確定
04. 個別報告(1)
05. 個別報告(2)
06. 共同調査
07. 個別報告(3)
08. 個別報告(4)
09. 個別報告(5)
10. 共同調査
11. 卒業研究レポート草稿の検討I
12. 卒業研究レポート草稿の検討II
13. 現代社会における「コミュニティの担い手」を考えるI
14. 現代社会における「コミュニティの担い手」を考えるII
15. まとめと反省

準備学習(予習)

・ 報告者は、前回報告で指摘された箇所の修正および新たに執筆した箇所の要旨をまとめたレジュメ等を準備し、事前に提出すること。報告を担当しないものも、毎回、簡単な卒レポ進行状況を報告すること。

準備学習(復習)

・ ゼミでの検討会をとおして指摘された修正点等は、その週のうちに加筆・修正すること。次回ゼミの冒頭に、簡単な進行状況の報告をしてもらう。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

50% 報告内容および討論への参加状況（積極性）を含む。

50%

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

卒業研究II(日本経済論)

LCP0-L-400

担当教員：大森 達也

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1PX44510

学部教育の関連目

【L】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒業研究Ⅱの目的は、卒業研究Ⅰで進めてきた卒業研究レポート準備をさらに進め、卒業研究レポートを完成することである。

(2) 学びの意義と目標

研究レポート作成を通じて、それぞれの問題意識を高めるという意義とともに、「報連相」の重要性を理解することにある。

受講者に対する要望

各自、調査・研究の自己管理を手一定すること。

学びのキーワード

- ・研究計画
- ・文献調査
- ・レポート発表

授業計画

01. 研究計画書の変更と発表 (2)
02. 文献リストの変更と発表 (2)
03. 追加文献調査の発表 (3)
04. 追加文献調査の発表 (4)
05. 中間発表 (5)
06. 中間発表 (6)
07. 研究計画書の変更と発表 (3)
08. 文献リストの変更と発表 (3)
09. 追加文献調査の発表 (5)
10. 追加文献調査の発表 (6)
11. 最終研究発表 (1)
12. 最終研究発表 (2)
13. 最終研究発表 (3)
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)

準備学習(予習)

研究レポート作成を目的としているため、個別テーマごとの指導が重要とならざるを得ない。各自、調査・研究の時間を充分にとることが重要となる。

準備学習(復習)

個別指導に従い、各自、発表後に問題点を整理し、最終の研究レポートに反映すること。

評価方法

- | | |
|------------|---------------|
| (1) 中間発表 | 20% |
| (2) 最終発表 | 30% |
| (3) 研究レポート | 50% 10,000字程度 |

教科書

参考書

卒業研究II (法政情報論)

LCP0-L-400

担当教員： 渡辺 英人

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1PX44610

学部教育の関連目

【L】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらう。2016年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

(2) 学びの意義と目標

生活の中から見た法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

受講者に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 生活の中から見た法と行政
- ・ 消費者保護法
- ・ 消費者保護行政

授業計画

01. 現代社会と法（その種類と仕組み）
02. 法と道徳
03. 法が強制的であるということ
04. 法の機能
05. 「犯罪」とは何か？
06. 現代社会と裁判制度
07. デュー・プロセスについて
08. 消費者を守る法
09. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

準備学習(予習)

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作成すること。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業への積極的参加、発言など | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 課題作成 | 30% |

教科書

参考書

卒業研究II(まちづくり学)

担当教員：平 修久

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 1PX44710

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

各自、興味あるまちづくり、あるいはまちの問題・課題について、調査研究を行う。テーマとしては、(1)都市問題、(2)地域コミュニティの活性化・維持、(3)食によるまちづくり、(4)観光まちづくり、(5)安全なまちづくり、(6)福祉のまちづくり、(7)まちの環境保全・再生・創造、(8)まちのイベントなどを想定している。

(2) 学びの意義と目標

自ら課題を設定し、調査し、レポートを作成できるようにすること。

受講者に対する要望

主体的に課題に取り組むとともに、他の受講生の課題や取り組み方法にも関心を持ち、自らの卒業研究レポートづくりに役立ててもらいたい。

学びのキーワード

・まちづくり

授業計画

01. 埼玉県地域問題
02. レポート発表①
03. レポート発表②
04. レポート発表③
05. 公共政策の概要①
06. 公共政策の概要②
07. 卒業研究中間発表①
08. 卒業研究中間発表②
09. 卒業研究中間発表③
10. 政策評価①
11. 政策評価②
12. 卒業研究最終発表①
13. 卒業研究最終発表②
14. 卒業研究最終発表③
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に、配布資料を読んでおくこと。レポートの発表に関しては、その内容をまとめ、準備しておくこと。

準備学習(復習)

発表の場合はコメントをまとめ、講義の場合はノートをまとめる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加度合 | 30% |
| (2) 発表 | 20% |
| (3) 卒業研究レポート | 50% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

西洋思想史		TEAT-P-200
担当教員： 谷口 隆一郎		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 2PD00540
学部教育の関連目		授業計画
【P】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. イントロダクション：近代とは何か（1）近代に通底するテーマについて 02. 近代とは何か（2） 03. トマス・ホッブス（Thomas Hobbes, 1588-1679）（1） 04. トマス・ホッブス（2） 05. ジョン・ロック（John Locke, 1632-1704）（1） 06. ジョン・ロック（2） 07. ジャン=ジャック・ルソー（Jean-Jacques Rousseau, 1712-1778）（1） 08. ジャン=ジャック・ルソー（2） 09. デイヴィッド・ヒューム（David Hume, 1711-1776）（1） 10. デイヴィッド・ヒューム〔2） 11. アレクシ・ド・トクヴィル（Alexis de Tocqueville, 1805-1859） 12. ジョン・シュチュアート・ミル（John Stuart Mill, 1806-1873） 13. ジョン・ロールズ（John Rawls, 1921-2002）（1） 14. ジョン・ロールズ（2） 15. 結論的所見および中間レポート 16. アダム・スミス（Adam Smith, 1723-1791） 17. イマヌエル・カント（Immanuel Kant, 1724-1804） 18. ジェレミー・ベンサム（Jeremy Bentham, 1748-1832） 19. G・F・W・ヘーゲル（Georg Wilhelm Friedrich Hegel, 1770-1831） 20. カール・マルクス（Karl Marx, 1818-1883） 21. フリードリヒ・ニーチェ（Friedrich Wilhelm Nietzsche, 1844-1900）（1） 22. フリードリヒ・ニーチェ（2） 23. オルテガ（Jos? Ortega y Gasset, 1883-1955） 24. オズワルド・シュペンラー（Oswald Arnold Gottfried Spengler, 1880-1936） 25. エドマンド・バーク（Edmund Burke, 1729-1797） 26. マイケル・オークショット（Michael Oakeshott, 1901-1990） 27. F・A・ハイエク（Friedrich August von Hayek, 1899-1992）（1） 28. F・A・ハイエク（2） 29. 結論的所見および期末論文 30. 結論的所見および期末論文
(1) 内容		
私たちは、近代という時代状況の精神的な正と負の遺産から逃れられないほどの制約を受けて生きている。 この講義の前半は、西洋において18世紀中葉あたりから始まったとされる「近代」という時代精神が規定する（日本を含める自由民主主義諸国の）社会・経済・政治に関する思想的原動力を（近代社会のスローガンとしての）自由・平等・人権・博愛・合理の観念に見定め、この思想がどのように私たちの精神を規定しているか、その展開と陥穽（落とし穴）について、西洋思想史における主要な思想家たち??特に、社会契約論の思想家??の言説を概観することを通じて考察していく。 後半では、進歩主義思想を探りあげる。進歩主義とは、時代が進むごとに国家および社会全体が抱える矛盾を増幅する知識と道徳と技術により変革していくことによって、（自由・平等・より豊かな生活が限りなく実現された）理想に近い未来へと私たち人類は前進していくのだ、という世界観であり信念である。そして、保守主義の思想の特徴を概観し、保守主義の観点から進歩主義を批判的に吟味することにより、近代主義の陥穽について考察する。		
(2) 学びの意義と目標		
①いわゆる自虐史観や進歩主義史観を批判的に吟味する。 ②①から得られる視座を日本の近現代思想（史）に接続する。 ③現在の国際情勢のゆくえ――特に、アジアにおける政治・経済――を考える視点を養う。		
受講者に対する要望		
参加度が悪ければ単位は与えない。下記の評価方法を参照。勉強はあまり好きでなくてもかまわないが、まじめに真剣に取り組むことを強く期待する。		
学びのキーワード		
・自由・平等・人権 ・進歩主義 ・合理主義 ・グローバリズム ・気概・欲望・理性		
教科書		
授業において適宜指示する。		
参考書		
佐伯啓思『西欧近代を問い直す――人間は進歩してきたのか』（PHP文庫） 西部邁『思想の英雄たち――保守の源流を尋ねて』（角川春樹事務所）		

教師論（中高教職）		TEAT-0-101
担当教員：井上 兼生		
学期：週間授 科目：教職課程/ 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：5T100101
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 教師に求められる資質・能力とは（１）－現状と課題</div> <div>03. 教師に求められる資質・能力とは（２）－生徒の求める教師像</div> <div>04. 教師に求められる資質・能力とは（３）－教師としての自覚</div> <div>05. 教師の仕事（１）教師の専門性－教育に関する知識と教科に関する知識</div> <div>06. 教師の仕事（２）教師の力量向上－研修の義務と機会</div> <div>07. 教師の地位（１）教師をめぐる法令－教育基本法・地方公務員法など</div> <div>08. 教師の地位（２）現代社会と教師</div> <div>09. 教師の環境（１）組織の一員としての教師－教師の多様な職務の理解</div> <div>10. 教師の環境（２）教育改革と教師－近年の教育関連法の改正と教員</div> <div>11. 教師の環境（３）最近の環境変化の動向－地域社会や保護者との協力など</div> <div>12. 教師養成（１）その歴史－戦前期および戦後改革</div> <div>13. 教師養成（２）－教員養成を巡る近年の動向と教職選択の自覚</div> <div>14. 教育計画とは何か</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【D】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。</div> <div>教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。</div> <div>その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>１）教師に求められる資質・能力について、学生たち自身の経験から考えさせ、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気付かせ、教職について深い考察を促す（教職の意義・教員の役割）。</div> <div>２）地方公務員法、教育公務員特例法など、教員の地位に関する法令についての正確な知識を身に付け、教師の権利・義務について理解を深める（教員の職務内容と身分）。</div> <div>３）戦前期の教員身分および免許制度などについて概観し、現在の教員免許法の有り様と現在、課題とされる点についての理解を深め、教員として必要な資格について考えさせる（進路選択）。</div> <div>４）近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例を取り上げながら理解を深め、これからの教員に求められる姿勢や能力について深い考えを育てる（教員の環境）。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、次の授業のテーマを示します。テーマについてあらかじめ調べてきてもらいます。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>「教えられる」側から「教える」側へ立場が変わったときに、見えてくるものはいろいろあるはずである。教師についての今までの考え方を見直して、自分なりの教師観をしっかりとつくってほしい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 職場としての学校</div> <div>・ 教員の特殊性</div> <div>・ 教員の社会的役割</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	
		<div>評価方法</div> <div>(1) 期末テスト 30%</div> <div>(2) 授業への参加 40% 授業中の討論への参加など</div> <div>(3) レポート 30% 教師に関するレポートを一本提出してもらいます。</div>

道徳教育の研究（PLAJW教職）

TEAT-0-206

担当教員： 秋池 功

学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目

単位： 2 コード： 5T300311

学部教育の関連目

【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目

【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

(1) 内容

中学校における「道徳の時間」についてのアンケート内容などを参考とし、「道徳の時間」の意義と課題を学ぶとともに、いくつかの資料を基に望ましい資料の見方、考え方を把握する。また、道徳授業の指導過程の基本を理解し、学習指導案の作成、模擬授業等をとおして授業の進め方を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

中学校における道徳教育や「道徳の時間」の目標及び内容を理解するとともに、「道徳の時間」の望ましい資料の収集と指導過程や指導方法を学び、学習指導を構想する力を身に付けることができる。

受講者に対する要望

道徳性を高めるには、どうすればよいか。講義をとおしながら学び続けて欲しい。

学びのキーワード

・道徳教育の変遷と学習指導要領

・望ましい資料の見方、考え方

・授業を深める学級つくりと学習作法

・学習指導案

・模擬授業

授業計画

01. オリエンテーション、「道徳」と「道徳授業」について話し合う。

02. 道徳教育の変遷について、事例資料等をとおして学ぶ。

03. 学習指導要領と道徳授業のあり方について（1）

04. 学習指導要領と道徳授業のあり方について（2）

05. 事例研究（1）主な諸外国の道徳教育について、調べ発表する。（事前にも調べておく。）

06. 事例研究（2）主な諸外国の道徳教育やわが国の道徳教育や道徳授業についてのアンケート内容を調べ、発表する。

07. 望ましい資料の追求（1）

08. 望ましい資料の追求（2）と学級つくり・学習作法

09. 学習指導案の作成（1）

10. 学習指導案の作成（2）

11. 実践授業の視聴と模擬授業の準備

12. 模擬授業（1）

13. 模擬授業（2）

14. 実践授業の視聴と道徳の授業、道徳教育の評価について

15. 中学校における道徳教育のまとめ

準備学習(予習)

予習的課題が出された時は、しっかり行ってきて欲しい。

準備学習(復習)

毎回の授業のポイントをノートや資料をとおしながら整理する。

評価方法

(1) 授業への参加態度

20%

(2) 指導案作成・提出資料の作成

25%

(3) 理解度の確認|（試験）

55%

毎回出席が大前提である。遅刻が多く、授業への参加意欲の低いことが目立つ場合は、減点の対象となる。

教科書

文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版）

参考書

社会科公民的分野教育法（中高教職）		SUBP-P-203
担当教員：増田 正博		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T302141
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。</div> <div>02. 「生きる力」と戦前の公民教育—戦前の公民教育、戦後の公民科、社会科へ至る経緯について理解する。</div> <div>03. 戦後の社会科教育の推移と社会科の目標—現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の内容とその推移を理解する。</div> <div>04. 公民的分野の目標と学習内容（1）—公民・公民的資質の概念、現在までの公民的分野の内容・目標の推移を理解する。</div> <div>05. 公民的分野の目標と学習内容（2）—公民的分野の内容とその推移について理解する。</div> <div>06. 公民的内容の指導計画と指導事例—指導計画の作成方法を理解するとともに、中項目を選択し、指導計画を作成する。</div> <div>07. 「政治」的単元の扱い—政治的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。</div> <div>08. 「政治」的単元の学習指導案の作成—〈演習〉教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、発問計画もたてる。</div> <div>09. 「経済」的単元の扱い—経済的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。</div> <div>10. 「経済」的単元の学習指導案の作成—〈演習〉教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、板書計画もたてる。</div> <div>11. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の扱い—「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の内容を理解する。</div> <div>12. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の学習指導案の作成—〈演習〉学習指導案を作成、発問・板書計画をてる。</div> <div>13. 公民的分野の授業評価と方法—評価基準について具体的に理解するとともに、評価方法について知る。</div> <div>14. テスト問題の作成と実践例の紹介—テスト問題の作成の方法を理解するとともに、先進的な実践事例について知る。</div> <div>15. 講義のまとめ—公民的な見方・考え方についてまとめる。</div>	
	<div>準備学習（予習）</div> <div>最初の講義の際、学生にファイルを配布する。そのファイルに必ずレジュメを綴じる。それぞれの講義の終わり5分前に次の講義のレジュメと予習課題を説明する。講義の際、生徒の予習課題を取り入れた講義を行う。最後に予習課題の提出をする。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>授業内で指示する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 35%</div> <div>(2) 新聞発表、レポート、テスト 65%</div> <div>必ず指示された提出物は提出すること。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の2教科となった。本講義は高校の公民科も視野に入れながら、中学校における「公民的分野」の内容について考察する。本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。 ○戦前の「公民教育」と戦後の社会科教育の関係について理解する。 ○「公民的資質」の概念、公民的分野の内容について理解する。 ○「政治」的単元、「経済」的単元、「国際政治・経済学習、現代社会」的単元について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。 ＜学びの目標＞ ○「公民」「公民的資質」における「公民」の概念を理解できる。 ○公民的分野の内容と学習方法を理解できる。 ○公民的分野の学習指導案を作成することができると。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>○休まずに出席するように努めて欲しい。 ○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。 ○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。 ○レポートは必ず提出するようにして欲しい。</div>	<div>教科書</div> <div>文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版） 教科書（中学）『新しい社会 公民（平成28年度）』（東京書籍）</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。 ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。 ・政治・経済・社会の動きに興味・関心を持とう。</div>		

社会科地理・歴史的分野教育法（中高教職）			SUBP-P-204
担当教員：増田 正博			
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T302245	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。</div> <div>02. 地理・歴史教育の沿革（戦前期）—戦前の地理・歴史教育の内容とそのねらいについて理解する。</div> <div>03. 戦後の社会科教育の変遷と社会科の目標—現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の推移とその内容を理解する。</div> <div>04. 歴史的分野教育法（歴史的分野の目標）—歴史的分野の目標の推移とその内容について理解する。</div> <div>05. 歴史的分野教育法（歴史的分野の内容）—歴史分野の内容とその推移について理解する。</div> <div>06. 歴史的分野教育法（指導計画と指導事例）—＜演習＞指導計画の方法を知るとともに中項目を選択し、指導計画を作成する。</div> <div>07. 歴史的分野教育法（学習指導案の作成）—学習指導案（細案）を作成する方法について理解する。</div> <div>08. 歴史的分野教育法（学習指導案の作成）—＜演習＞教材を選択し、学習指導案を作成する。</div> <div>09. 地理的分野教育法（地理的分野の目標）—地理的分野の目標の推移とその内容について理解する。</div> <div>10. 地理的分野教育法（地理的分野の内容）—地理的分野の内容とその推移について理解する。</div> <div>11. 地理的分野教育法（指導計画と指導事例）—地理的分野の指導計画を知り、学習指導案（略案）の書き方を理解する。</div> <div>12. 地理的分野教育法（学習指導案の作成）—＜演習＞教材を選択し、学習指導案（略案）を作成する。</div> <div>13. 地理的分野教育法（略図の作成）—＜演習＞日本、世界の略図を作成する。</div> <div>14. 地理的分野教育法（略図を用いた板書・テスト問題の作成）—テスト問題の作成の方法、略図を用いた板書を理解する。</div> <div>15. 講義のまとめ—地理的・歴史的分野の見方・考え方についてまとめる。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の2教科となった。本講義は高校の地歴科も視野に入れながら、中学校における「地理的分野」、「歴史的分野」の内容について考察する。</div> <div>本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。</div> <div>○戦前の「地理教育」「歴史教育」のねらいを知るとともに、戦後の社会教育の変遷を理解する。</div> <div>○社会科の教科構造、地歴分野の学習内容について理解する。</div> <div>○「歴史的分野」、「地理的分野」について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。</div> <div>＜学びの目標＞</div> <div>○「公民的資質」の概念を理解できる。</div> <div>○地理的分野・歴史的分野の内容と学習方法を理解できる。</div> <div>○日本・世界の略図を描きことができ、地理的分野・歴史的分野の学習指導案を作成することができる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>第一回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルにレジュメを綴じるように指示する。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義は予習課題を生かしながら実践する。講義後、予習課題を提出する。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内で指示する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>○休まずに出席するように努めて欲しい。</div> <div>○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。</div> <div>○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。</div> <div>○レポートは必ず提出して欲しい。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 35%</div> <div>(2) 新聞発表、レポート、テスト 65%</div> <div>必ず指示された提出物は提出すること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。</div> <div>・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。</div> <div>・略図を描くスキルを獲得しよう。</div>		<div>教科書</div> <div>文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版）</div> <div>教科書（中学校）『新しい社会 地理（平成28年度）』（東京書籍）</div> <div>教科書（中学校）『新しい社会 歴史（平成28年度）』（東京書籍）</div> <div>参考書</div>	

社会科授業研究Ⅰ（中高教職）			SUBP-P-301
担当教員： 増田 正博			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T302361	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。</div> <div>02. 社会科教育の沿革と教科構造—戦前の「地理・歴史」学習、戦後の社会科教育の推移、社会科の構造を理解する。</div> <div>03. 現代における社会科教育の役割—「同和教育」を通じて社会科教育の果たす役割を理解する。</div> <div>04. 中学校社会科の目標と内容—社会科の目標と内容を理解するとともに、「総合的学習の時間」との関連について知る。</div> <div>05. 小学校社会科・高等学校「地歴科」「公民科」との関連—小・中・高の関連について理解する。</div> <div>06. 地理的分野「身近な地域の学習」—二万五千分の一の地形図について理解する。</div> <div>07. 地理的分野「身近な地域の学習」—＜演習＞地形図をもとにフィールドワークを行う。</div> <div>08. 歴史的分野「郷土」の扱い—「郷土」の扱いの変遷と「郷土」を扱う意義について理解する。</div> <div>09. 歴史的分野「生活文化」の学習と博物館—「生活文化」の概念を理解するとともに、博学連携について知る。</div> <div>10. 歴史的分野「人物」の扱い—歴史における人物の果たす役割について理解する。</div> <div>11. 公民的分野「消費者教育」—消費者教育の変遷と消費者教育の意義について理解する。</div> <div>12. 公民的分野「法教育」—法教育の内容と意義を理解するとともに、裁判員制度について知る。</div> <div>13. 「学習指導案」の作成—＜演習＞地域にこだわった学習指導案を作成する。</div> <div>14. 「考古学の利用」・補遺—考古学を利用する意義について理解するとともに、実践例を紹介する。</div> <div>15. 講義のまとめ—社会科教育では「地域」が重要であることを理解する。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>中学校社会科3分野の教育法の発展として、本講義を位置づける。本講義表の内容は小・中の社会科・高の「地歴科」「公民科」の関連に注目するとともに、地理・歴史・公民的各分野で「地域」にこだわり、「身近な地域」のフィールドワークを実施する。 ○戦前に実践された「社会科」学習の内容を理解する。 ○歴史的分野における「郷土」・「人物」・「生活文化」、地理的分野における「身近な地域」、公民的分野における「消費者文化」・「法教育」、等の実践について理解する。 ○地理的分野における二万五千分の一の地形図の読図を行う。 ○教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。 ＜学びの目標＞ ○中学校社会科は講義ではなく、学習であること理解する。そのために生徒の住んでいる「地域」に注目することが生徒の興味・関心を喚起できることに気づく。 ○フィールドワークの重要性を理解できる。 ○地域にこだわった学習指導案を作成することができる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>第一回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルに講義のレジュメを綴じるようにする。講義の終了5分前目に予習課題を説明する。講義ではその予習課題を生かしながら実践にする。講義の後、予習課題を提出する。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内で指示する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>○休まずに出席するように努めて欲しい。 ○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。 ○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。 ○レポートは必ず提出して欲しい。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 35%</div> <div>(2) 新聞発表、レポート、テスト 65%</div> <div>必ず指示された提出物は提出すること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。 ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。 ・社会科は道具教科であることを認識しよう。</div>		<div>教科書</div> <div>文部科学省 文科省『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版） 教科書（中学校）『新しい社会 地理（平成28年度）』（東京書籍） 教科書（中学校）『新しい社会 歴史（平成28年度）』（東京書籍） 教科書（中学校）『新しい社会 公民（平成28年度）』（東京書籍）</div> <div>参考書</div>	

社会科授業研究Ⅱ（中高教職）		SUBP-P-302
担当教員： 増田 正博		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T302462
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。</div> <div>02. 指導計画の作成と教材研究—アメリカ社会科の変遷を理解する。あわせて単元学習のありようについて知る。</div> <div>03. 学習指導過程の工夫—「オープンマインド」・「オープンプロセス」・「オープンエンド」の3つのオープンを理解する。</div> <div>04. 学習指導の評価と方法—「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の3つの評価を理解する。</div> <div>05. 学習方法の工夫—「問題解決学習」、「発見学習」をはじめ多様な学習方法を理解する。</div> <div>06. 授業過程の工夫—「受容的課題」、「選択的課題」、「発見的課題」について理解する。</div> <div>07. 学習資料の開発—実物資料、加工資料の実際に触れ、資料の重要性を理解する。</div> <div>08. 地図帳と地理的分野の授業—地理的分野の学習において、空間的認識の育成と地図帳の関連を理解する。</div> <div>09. 年表と歴史的分野の授業—歴史的歴分野の学習において、時間的認識を育成するには年表が大きな役割を果たすことについて理解する。</div> <div>10. 新聞と公民的分野の授業—公民的分野は現実の政治・経済・社会を扱うために新聞が大きな役割を果たしていることについて理解する。</div> <div>11. 統計の活用—3分野の教科書には多くの統計が所載されている。この統計の見方について理解する。</div> <div>12. 学習指導案の作成—＜演習＞卒業としての社会科学学習指導案作成を2時間にわたって行う。</div> <div>13. 「学習指導案」の作成—同上</div> <div>14. 授業研究と教師のありかた—社会科実践家の事例を紹介し、教材研究の重要性を理解する。</div> <div>15. 講義のまとめ—教育実習への意欲を喚起する。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>中学校社会科3分野の教育法の発展として、さらに「社会科授業研究Ⅰ」をふまえて本講義を位置づける。本講義の内容は社会科の資料論、指導論を中心に構成した。 ○学習方法について、「問題解決学習」、「検証学習」をはじめ多様な方法論を理解する。 ○学習過程の多様な方法論と評価論について理解する。 ○実物資料による体験、古文書資料の読解などを行う。 ○地理的分野における地図帳、歴史的分野における年表、公民的分野における新聞、等の扱いについて理解する。 ○教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。 ＜学びの目標＞ ○中学校社会科は講義ではなく、学習であること 理解する。そのために一斉画一指導を克服して多様な学習方法があることに気づく。 ○「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の内容・方法について理解する。 ○学習指導案を作成することができる。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>○休まずに出席するように努めて欲しい。 ○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。 ○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んで欲して欲しい。 ○レポートを必ず提出して欲しい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。 ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。 ・社会科は道具教科であることを認識しよう。</div>		
		<div>準備学習(予習)</div> <div>第一回の講義の際、ファイルを学生に配布する。レジュメを必ずそのファイルに綴じる。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義はその予習課題を生かしながら実践する。授業後予習課題を提出する。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内で指示する。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 35%</div> <div>(2) 新聞発表、レポート、テスト 65%</div> <div>必ず指示された提出物は提出すること</div>
		<div>教科書</div> <div>文部科学省 文科省『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文芸出版） 教科書（中学校）『新しい社会 地理（平成28年度）』（東京書籍） 教科書（中学校）『新しい社会 歴史（平成28年度）』（東京書籍） 教科書（中学校）『新しい社会 公民（平成28年度）』（東京書籍） 地図帳（中学校）『中学校社会科地図（Teikoku's Atlas）』（帝國書院）</div>
		<div>参考書</div>

公民科教育法（中高教職）		SUBP-P-201	
担当教員：井上 兼生			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T303151	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 「学習指導要領」の「公民科」の変遷と構成</div> <div>02. 授業作りのポイントと学習指導案の作り方</div> <div>03. 授業のスキル：教材研究、話し方、発問、板書 教材作成 授業管理</div> <div>04. 「現代社会」の学習指導法(1) 青年期の課題</div> <div>05. 「現代社会」の学習指導法(2) 現代社会の諸課題(1) 地球環境とエネルギー問題</div> <div>06. 「現代社会」の学習指導法(3) 現代社会の諸課題(2) ITの普及・AIの進歩と雇用問題</div> <div>07. 「政治・経済」の学習指導法(1) 経済分野(1) 市場取り引きと「市場の失敗」</div> <div>08. 「政治・経済」の学習指導法(2) 経済分野(2) 経済格差の問題</div> <div>09. 「政治・経済」の学習指導法(3) 政治分野(1) 日本国憲法の成立</div> <div>10. 「政治・経済」の学習指導法(4) 政治分野(2) 「機会の平等」と「結果の平等」</div> <div>11. 「倫理」の学習指導法(1) 在り方生き方</div> <div>12. 「倫理」の学習指導法(2) 現代の倫理的課題</div> <div>13. 学習指導案発表と模擬授業(1) 調べ学習</div> <div>14. 学習指導案発表と模擬授業(2) レポート</div> <div>15. 研究協議／ まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>1. 内容:まず「公民」教科の構成について、学習指導要領の変遷および現在の指導要領の内容について学習する。基本的知識として求められる。そのうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業のスキル・教材提示の仕方とともに、教材作成の手がかりとなる教科内容にあった教材や方法を紹介する。具体的には、公民科の授業構成方法、学習指導案の作成方法、教材研究の考え方、板書や発問の仕方、教材作成方法などの従来からの授業展開スキルに加え、グループ・ディスカッション、ディベート、ジグソー法などのアクティブ・ラーニング型授業展開のスキルの修得も目指す。後半の授業では、学習指導案の発表と模擬授業を実施する。</div> <div>2. カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「公民」の教育職員免許状取得に必要となる必修科目であり、基本的に3年次に履修し、教育実習の準備の性格も持つ。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>高校の公民の範囲は広い。科目としては「現代社会」「政治・経済」「倫理」がありますが、それぞれの教科書を利用しながら、授業方法について目標設定からコマの授業計画まで、実践的な力をつけることを目指します。そして、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度の育成を目標とします。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>学習指導案などの作成や模擬授業までこなしてもらうので、不足する知識などは事前に幅広く吸収すること。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>学習指導案やレポートなどを授業中に完成させることは時間的にも不可能です。課題の作業内容について指摘された問題点など、丁寧に振り返って、よりよいものとする。こと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>教育実習の前年の科目でもあり、真剣勝負で臨んでほしい。</div>			
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・実践的</div><div>・教材研究</div><div>・教育計画</div></div>		<div>教科書</div> <div>文部科学省『高等学校学習指導要領（平成21年3月）』＜東山書房＞</div> <div>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編（平成22年6月）』＜教育出版＞</div>	
		<div>参考書</div>	

地理歴史科教育法（中高教職）		SUBP-P-202	
担当教員：小川 洋			
学期： 週間授		科目： 教職課程	必修・選択： 教職科目
単位： 2		コード： 5T304155	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 「学習指導要領」の「地理歴史科」の変遷と構成</div> <div>02. 地歴科の教育目標など</div> <div>03. 「日本史」科目の教育目標など</div> <div>04. 「日本史」の学習指導法(1) 前近代史</div> <div>05. 「日本史」の学習指導法(2) 近現代史</div> <div>06. 「世界史」の教育目標など</div> <div>07. 「世界史」の学習指導法(1) 前近代史</div> <div>08. 「世界史」の学習指導法(2) 近現代史</div> <div>09. 「地理」の教育目標など</div> <div>10. 「地理」の学習指導法(1) 系統地理分野</div> <div>11. 「地理」の学習指導法(2) 地誌分野</div> <div>12. 教材づくり</div> <div>13. 教材の活用法</div> <div>14. 授業の技術</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>1. 内容:まず「地理」・「日本史」・「世界史」の3科目からなる「地理歴史」教科の構成について、「学習指導要領」の変遷および現在の指導要領の構成・内容について学習する。これは基本的な知識として求められる。これらの基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを決めて、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成も行う。後半の授業では模擬授業を行う。</div> <div>2. カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「地理歴史」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、教育実習準備の性格も持つ。したがって、より実践的な学習に取り組むことを通じて、教科指導に必要な知識と技術などを習得することを目指す。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>地歴科の科目を一通り、授業ができるように指導します。高校で履修していない学生もいますが、その部分については自助努力に期待することになります。十分な知識が教授法の前提となります。自分にどのような知識が足りないかを常に意識して取り組み、ある程度の自信をもってもらうことが目標です。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>各科目ごとに作業を進めるので、あらかじめ自分に知識が不足している科目・単元については自発的に学習準備をすること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>教授法に必要な知識は授業では補えません。知識の部分は個人差も大きいので、自ら積極的に取り組むこと。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で指摘された不十分な箇所や内容については次の授業までに確実に修正しておくこと。</div>	
<div>評価方法</div> <div>(1) 授業中の学習活動</div> <div>100% 単元計画から一コマの授業計画あるいは模擬授業を課します。</div>			
<div>学びのキーワード</div> <div>・教材研究</div> <div>・授業計画</div>		<div>教科書</div> <div>文部科学省『高等学校学習指導要領』</div>	
		<div>参考書</div>	

介護等体験及び事前事後指導（教職）		TEAT-0-404
担当教員：吉田 昌義、高山 法子		
学期：前期（ 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T700103
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 社会福祉施設における「介護等体験の意義」 特別支援学校における「介護等体験の意義」（高山） 02. コミュニケーション（高山） 03. 事例を通して考える（受容と共感）（高山） 04. 事例を通して考える（個別性）（高山） 05. 社会福祉施設の目的及び原則（高山） 06. 福祉施設利用者の理解（高山） 07. 高齢者疑似体験（高山） 08. 基本介護技術（移動・食事・着脱）（高山） 09. 介護等体験の始まり 教員に求められるもの（吉田） 10. 障害とは 障害の種類と教育の場・指導内容（吉田） 11. 知的障害の理解と指導（吉田） 12. 自閉症の理解と指導（吉田） 13. 通常の学級における障害児への配慮（吉田） 14. 人権について 介護等体験に行くに当たって（吉田） 15. 介護等体験の振り返り、事後指導（9月）</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書を読み、内容の理解に努めること
また、介護等体験に行く前から、教員（社会人）として、望ましい姿を考え、適切な言動に努めること。
</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>介護等体験で出会った高齢者・障害者・指導員などの関係者等との関わりを振り返り、介護等体験の意義や、本授業の概要にあるように「個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点・コメント・受講態度 50% (2) 実習態度・実習記録 50%</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行えば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。 事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。 ※2201教室は、土足厳禁であるので、上履きを用意しておくこと。また、介護技術の演習を数回行なう予定である。その際、動きやすい服装で参加すること。</div>	<div>学書のキーワード</div> <div>教科書 全国特別支援学校長会『フィリア インクルーシブシステム版』（ジアース教育新社） 全国社会福祉協議会『よくわかる社会福祉施設』（全国社会福祉協議会出版部）</div> <div>参考書</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div><学びの意義> 1 教員を目指す者が、介護等体験を行うことにより、視野を拡げ、個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深める。 2 高齢者や障害者とのかかわりの基本を学び、介護等体験を通して具体的に経験する。 <目標> ①介護等体験を行うに当たって必要とされる、最小限の基本的な知識や技能等を学ぶ。 ②教員を目指す者が、個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深め、教員としての資質を考え、今後の大学生活で身につけておくべきことを追究する。</div>	<div>受講者に対する要望</div>	

欧米文化学科

キリスト教文化論 A

CHRI-A-201

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目

単位： 2 コード： 15200100

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

内容： この講義は、キリスト教文化論Bと連結した講座で、キリスト教が、世界の様々な領域において貢献してきた歴史上の事実 zu 焦点を当て考えていきます。第一の重点は、キリスト教の世界観が政治体制と市民の自由・権利解放にどのように影響を及ぼしたかに着目し、次に一般的文化、又、大衆文化の分野に目を移し、そして、後半は特にアメリカ合衆国における影響を概観していきます。

(2) 学びの意義と目標

第一の目的は、キリスト教があらゆる分野で成してきた著しい貢献が、今日受講者個人個人の気づかなかった領域に至っても大いに関係していることを認識することができるように導くものです。

受講者に対する要望

講義は日本語と英語の両言語を用いて進められます。付随的、又、必然的に受講者は英語力上達の学びの場となりますが、主眼は講義内容です。

学びのキーワード

- ・ worldview (世界観)
- ・ Christianity (キリスト教)
- ・ culture (文化)
- ・ happiness (幸福)
- ・ civil rights (民権)

授業計画

01. キリスト教的世界観の梗概
02. キリスト教と政府 I: 自由と民主主義
03. キリスト教と 政府 II: 奴隷制度廃止
04. キリスト教と 政府 III: アメリカ合衆国における市民権運動
05. 芸術におけるキリスト教のインパクト (強い影響)
06. 建築におけるキリスト教のインパクト
07. 音楽におけるキリスト教のインパクト
08. 文学におけるキリスト教のインパクト
09. 映画におけるキリスト教のインパクト I
10. 映画におけるキリスト教のインパクト II
11. キリスト教の祭日、言葉、記号
12. キリスト教と大衆文化 (ポップカルチャー) I
13. キリスト教と大衆文化 II
14. キリスト教と大衆文化 III
15. 期末テスト

準備学習(予習)

既定の読書を都度終え、講義の予習としてその中の主要着想点と専門用語に精通することを求められます。

準備学習(復習)

学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。

評価方法

- | | |
|------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 全学礼拝レポート及び教会出席レポート | 35% |
| (3) 中間テスト | 15% |
| (4) 期末テスト | 15% |

教科書

『聖書』 (日本聖書協会)

参考書

印刷物；プリント

キリスト教文化論 A

CHRI-J-301

担当教員：柳田 洋夫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15200110

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

世界の歴史や現状を知るために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠であることは言うまでもない。また、日本人は「無宗教」であるというが、ほんとうにそうであろうか。この授業においては、宗教学的アプローチを援用しつつ、宗教とは何かについて考えていきたい。

(2) 学びの意義と目標

宗教一般についての基本的理解を得るとともに、特にキリスト教と文化との関連について学び考察する。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・キリスト教と文化
- ・キリスト教と諸宗教
- ・民俗と宗教

授業計画

01. 宗教の「始まり」について
02. 宗教・呪術・科学
03. さまざまな宗教のかたち
04. 何を信じるのか－宗教的实在観について
05. 宗教から見た人間－宗教的人間観について
06. 宗教から見た世界－宗教的世界観について（1）
07. 宗教から見た世界－宗教的世界観について（2）
08. 宗教儀礼・修行について（1）
09. 宗教儀礼・修行について（2）
10. 宗教集団について
11. 宗教体験と人格（1）
12. 宗教体験と人格（2）
13. 民俗と宗教の深層（1）折口信夫
14. 民俗と宗教の深層（2）柳田國男
15. まとめ

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 礼拝レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

授業への参加度・礼拝レポートの三つを満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

教科書

参考書

脇本平也『宗教学入門』 岸本英夫『宗教学』
A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』

キリスト教文化論B		CHRI-A-202								
担当教員： E. D. オズバーン										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 15200200								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イエス・キリストが降誕していなかったら？ 世の中はどう違っていたであろうか？</div> <div>02. 世界観と宗教 I:概観</div> <div>03. 世界観と宗教 II:二例——無神論 対 キリスト教唯一神論</div> <div>04. ダーウィンの進化論 対 キリスト教の天地創造論:両者の論理的結果</div> <div>05. 人間の生命の尊厳</div> <div>06. キリスト教の女性に対する尊厳の向上</div> <div>07. キリスト教道徳と倫理 I</div> <div>08. キリスト教道徳と倫理 II</div> <div>09. 中間テスト</div> <div>10. 教育におけるキリスト教の強い影響:普遍的教育と大学</div> <div>11. キリスト教の慈愛と利他主義 I: 病院と医療施設、チャリティーとボランティア・グループ</div> <div>12. 現代科学とキリスト教の関係</div> <div>13. 労働階級と経済におけるキリスト教の影響</div> <div>14. キリスト教と人権</div> <div>15. 期末テスト</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>1. 内容：この講義は、キリスト教概論A及びBに続く講座として設けられた科目で、キリスト教が世界にもたらした深遠なる影響の概観を学び探ります。“もし、イエス・キリストが降誕していなかったら？”という仮説質問から始まり、講義は、イエス・キリストの存在しなかった仮説を設け進み、そして、イエス・キリストとキリスト教徒が歴史を通して人類に建設的に影響を及ぼした多くの領域の輪郭を描いていきます。特に人間の尊厳と人権の領域についても学びます。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>第一の（基本的）目的は、キリスト教の遍在する影響を包括的、又、個人的、両観点から探索し学びます。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>既定の読書を都度終え、講義の予習としてその中の主要着想点と専門用語に精通することを求められます。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義は、日本語と英語の両言語を用いて進められます。付随的、又、必然的に受講者は英語力上達の学びの場となりますが、主眼は、講義内容です。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。</div>								
<div>学びのキーワード</div> <div>・worldview（世界観） ・creationism（創造論） ・morality（道徳） ・ethics（倫理） ・(human) rights（人権／権利）</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>35%</td></tr><tr><td>(2) 全学礼拝レポート、及び教会出席レポート</td><td>35%</td></tr><tr><td>(3) 中間テスト</td><td>15%</td></tr><tr><td>(4) 期末テスト</td><td>15%</td></tr></table> <div>教科書</div> <div>『聖書』（日本聖書協会）</div> <div>参考書</div> <div>印刷物；プリント</div>	(1) 平常点	35%	(2) 全学礼拝レポート、及び教会出席レポート	35%	(3) 中間テスト	15%	(4) 期末テスト	15%
(1) 平常点	35%									
(2) 全学礼拝レポート、及び教会出席レポート	35%									
(3) 中間テスト	15%									
(4) 期末テスト	15%									

キリスト教文化論B		CHRI-J-302									
担当教員： 柳田 洋夫											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 15200210									
学部教育の関連目 【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		授業計画 01. 「神学」とそのよりどころ 02. 神はどのようにして知られるか—啓示と自然— 03. 神学と諸思想（1）神学と哲学との微妙な関係 04. 神学と諸思想（2）ロマン主義・マルクス主義 05. 神学と諸思想（3）フェミニズム・ポストモダニズム 06. 神学と諸思想（4）解放の神学・黒人神学 07. 神についての探求（1） 08. 神についての探求（2） 09. 神と創造 10. 救いとは何か（1） 11. 救いとは何か（2） 12. 聖霊と「霊性」 13. キリスト教と文化（1） 14. キリスト教と文化（2） 15. まとめ									
カリキュラム上の位置付け											
(1) 内容 「神学こそは、およそ人が学びたいと願いうるものの中で最も魅力的なものだ」とイギリスの神学者A・E・マクグラスは言う。キリスト教神学は、欧米文化のみならず日本文化の深層からの理解にも資するものである。この授業においては、キリスト教神学について、また、人格・人権思想へのキリスト教の貢献について学ぶ。											
(2) 学びの意義と目標 キリスト教神学思想についての基礎的理解を得ることによって、神学や哲学についての文献や議論にある程度対応できるようになるとともに、抽象的な問題にも自ら積極的に挑む姿勢を身につける。		準備学習(予習) 授業においてその都度指示する。									
		準備学習(復習) 授業においてその都度指示する。									
受講者に対する要望 授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。		評価方法 <table> <tr> <td>(1) 授業への参加度</td><td>50%</td><td>規定に満たない場合は評価の対象としない</td></tr> <tr> <td>(2) 試験</td><td>30%</td><td>規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない</td></tr> <tr> <td>(3) 礼拝レポート</td><td>20%</td><td>必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない</td></tr> </table> <p>授業へ参加度・試験・礼拝レポートをすべて満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。</p>	(1) 授業への参加度	50%	規定に満たない場合は評価の対象としない	(2) 試験	30%	規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない	(3) 礼拝レポート	20%	必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない
(1) 授業への参加度	50%	規定に満たない場合は評価の対象としない									
(2) 試験	30%	規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない									
(3) 礼拝レポート	20%	必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない									
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教と文化 ・キリスト教神学 ・キリスト教と諸思想 		教科書 参考書 A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』									

基礎ゼミ A

EAEL-A-101

担当教員： 和田 光司

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 1A100511

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。秋学期の基礎ゼミBと連続して受講することになります。基礎ゼミAでは、特に、読む力と考える力の習得のため、テキストの読解方法や、読解に必要な予備知識の習得、批判的な思考の方法、統計情報の読解や処理方法などを学びます。あわせて、図書館の使い方の実践的ガイダンスや、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャーも実施します。

(2) 学びの意義と目標

本科目をとおして、学びに必要な読解力と思考力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、大学で調査・研究をおこなうのに必要な、やや難易度の高い文章を読みこなせるようになることが目標です。

受講者に対する要望

毎回の講義内で、様々な課題に取り組むほか、講義の外でも多くの課題に継続的に取り組んでもらいますので、積極的な取組を期待します。また、講義内で積極的に発言することを望みます。

学びのキーワード

- ・ 読み方
- ・ 考え方
- ・ 初年次教育
- ・ 論理的思考

授業計画

01. ガイダンス
02. ノートを取る (1)
03. 小テスト1 (学びの基礎用語) / ノートを取る (2)
04. 文章に読んだ足跡をつける
05. 小テスト2 (学びの基礎用語) / 文章を段落ごとに要約する (1)
06. 文章を段落ごとに要約する (2)
07. 小テスト3 (学びの基礎用語) / 文章全体の要旨を作成する (1)
08. 文章全体の要旨を作成する (2)
09. 小テスト4 (学びの基礎用語) / 図書館を使う
10. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 1
11. 小テスト5 (学びの基礎用語) / 新聞の読み比べ
12. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2
13. 小テスト6 (論理トレーニング) / グラフ・画像を読む (1)
14. グラフ・画像を読む (2)
15. 小テスト7 (論理トレーニング) / 総合演習

準備学習(予習)

小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。

準備学習(復習)

各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。

評価方法

- | | |
|----------|-------------------|
| (1) 小テスト | 30% 全7回の合計 |
| (2) 平常点 | 70% 参加態度、課題への取組など |

教科書

参考書

基礎ゼミ A		EACL-A-101
担当教員： 島田 由紀		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 1A100512
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. ノートを取る (1) 03. 小テスト1 (学びの基礎用語) / ノートを取る (2) 04. 文章に読んだ足跡をつける 05. 小テスト2 (学びの基礎用語) / 文章を段落ごとに要約する (1) 06. 文章を段落ごとに要約する (2) 07. 小テスト3 (学びの基礎用語) / 文章全体の要旨を作成する (1) 08. 文章全体の要旨を作成する (2) 09. 小テスト4 (学びの基礎用語) / 図書館を使う 10. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 1 11. 小テスト5 (学びの基礎用語) / 新聞の読み比べ 12. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2 13. 小テスト6 (論理トレーニング) / グラフ・画像を読む (1) 14. グラフ・画像を読む (2) 15. 小テスト7 (論理トレーニング) / 総合演習</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。秋学期の基礎ゼミBと連続して受講することになります。基礎ゼミAでは、特に、読む力と考える力の習得のため、テキストの読解方法や、読解に必要な予備知識の習得、批判的な思考の方法、統計情報の読解や処理方法などを学びます。あわせて、図書館の使い方の実践的ガイダンスや、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャーも実施します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本科目をとおして、学びに必要な読解力と思考力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、大学で調査・研究をおこなうのに必要な、やや難易度の高い文章を読みこなせるようになることが目標です。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回の講義内で、様々な課題に取り組むほか、講義の外でも多くの課題に継続的に取り組んでもらいますので、積極的な取組を期待します。また、講義内で積極的に発言することを望みます。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 小テスト 30% 全7回の合計 (2) 平常点 70% 参加態度、課題への取組など</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">読み方考え方初年次教育論理的思考</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

担当教員： 畠山 宗明

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目

単位： 1 コード： 1A100513

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。秋学期の基礎ゼミBと連続して受講することになります。基礎ゼミAでは、特に、読む力と考える力の習得のため、テキストの読解方法や、読解に必要な予備知識の習得、批判的な思考の方法、統計情報の読解や処理方法などを学びます。あわせて、図書館の使い方の実践的ガイダンスや、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャーも実施します。

(2) 学びの意義と目標

本科目をとおして、学びに必要な読解力と思考力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、大学で調査・研究をおこなうのに必要な、やや難易度の高い文章を読みこなせるようになることが目標です。

受講者に対する要望

毎回の講義内で、様々な課題に取り組むほか、講義の外でも多くの課題に継続的に取り組んでもらいますので、積極的な取組を期待します。また、講義内で積極的に発言することを望みます。

学びのキーワード

- ・ 読み方
- ・ 考え方
- ・ 初年次教育
- ・ 論理的思考

授業計画

01. ガイダンス
02. ノートを取る (1)
03. 小テスト1 (学びの基礎用語) / ノートを取る (2)
04. 文章に読んだ足跡をつける
05. 小テスト2 (学びの基礎用語) / 文章を段落ごとに要約する (1)
06. 文章を段落ごとに要約する (2)
07. 小テスト3 (学びの基礎用語) / 文章全体の要旨を作成する (1)
08. 文章全体の要旨を作成する (2)
09. 小テスト4 (学びの基礎用語) / 図書館を使う
10. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 1
11. 小テスト5 (学びの基礎用語) / 新聞の読み比べ
12. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2
13. 小テスト6 (論理トレーニング) / グラフ・画像を読む (1)
14. グラフ・画像を読む (2)
15. 小テスト7 (論理トレーニング) / 総合演習

準備学習(予習)

小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。

準備学習(復習)

各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。

評価方法

- | | |
|----------|-------------------|
| (1) 小テスト | 30% 全7回の合計 |
| (2) 平常点 | 70% 参加態度、課題への取組など |

教科書

参考書

基礎ゼミ B		EACL-A-102
担当教員： 村瀬 天出夫		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 1A100616
学部教育の関連目		授業計画
<div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める</div>		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。春学期の基礎ゼミAとあわせて受講することになります。基礎ゼミBでは、特に、調べる力と書く力の習得のため、図書館の使い方や、情報の調べ方、レポートの作成法などを学びます。あわせて、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャー・アクティビティーも実施します。		
(2) 学びの意義と目標		
本科目をとおして、学びに必要な調査力や書く力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、他の科目でも応用できるような、大学生としてふさわしいレポートを書けるようになることを目指します。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
講義の内外で、様々な課題に取り組んでもらうため、積極的な取組を期待します。また、講義内で、積極的に発言するようにしましょう。		
準備学習(復習)		
各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。		
評価方法		準備学習(復習)
(1) 小テスト 20% 全7回の合計		
(2) 期末レポート 40%		
(3) 平常点 40% 授業への参加態度、課題の提出状況など		
学びのキーワード		教科書
・書く力		
・調べる力		
・初年次教育		
参考書		

基礎ゼミ B		EACL-A-102									
担当教員： 東 仁美											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 1A100617									
<div>学部教育の関連目</div> <div><small>【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める</small></div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 短い文章を書く 03. 小テスト1（社会人の基礎用語）／論理的なつながりを表現する 04. 全体ガイダンス（学びを社会に生かす）2 05. 小テスト2（社会人の基礎用語）／段落と論理の関係を学ぶ 06. 段落から章立てを構成する（1） 07. 小テスト3（社会人の基礎用語）／段落から章立てを構成する 08. レポートのための図書館ガイダンス 09. 小テスト4（社会人の基礎用語）／感想文や作文とレポートの違い 10. 課題を設定する 11. 小テスト5（社会人の基礎用語）／資料の調べ方 12. 全体ガイダンス（学びを社会に生かす）2 13. 小テスト6（社会人の基礎用語）／総合演習（レポートの中間評価） 14. 総合演習（レポートの準備） 15. 小テスト7（社会人の基礎用語）／総合演習（レポートの準備）</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。春学期の基礎ゼミAとあわせて受講することになります。基礎ゼミBでは、特に、調べる力と書く力の習得のため、図書館の使い方や、情報の調べ方、レポートの作成法などを学びます。あわせて、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャー・アクティビティーも実施します。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本科目をとおして、学びに必要な調査力や書く力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、他の科目でも応用できるような、大学生としてふさわしいレポートを書けるようになることを目指します。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義の内外で、様々な課題に取り組んでもらうため、積極的な取組を期待します。また、講義内で、積極的に発言するようにしましょう。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。</div>									
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">書く力調べる力初年次教育</div>		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 小テスト</td><td>20%</td><td>全7回の合計</td></tr><tr><td>(2) 期末レポート</td><td>40%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 平常点</td><td>40%</td><td>授業への参加態度、課題の提出状況など</td></tr></table></div>	(1) 小テスト	20%	全7回の合計	(2) 期末レポート	40%		(3) 平常点	40%	授業への参加態度、課題の提出状況など
(1) 小テスト	20%	全7回の合計									
(2) 期末レポート	40%										
(3) 平常点	40%	授業への参加態度、課題の提出状況など									
<div>教科書</div>											
<div>参考書</div>											

基礎ゼミ B		EACL-A-102
担当教員： 畠山 宗明		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 1 コード： 1A100618
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 短い文章を書く 03. 小テスト1（社会人の基礎用語）／論理的なつながりを表現する 04. 全体ガイダンス（学びを社会に生かす） 2 05. 小テスト2（社会人の基礎用語）／段落と論理の関係を学ぶ 06. 段落から章立てを構成する（1） 07. 小テスト3（社会人の基礎用語）／段落から章立てを構成する 08. レポートのための図書館ガイダンス 09. 小テスト4（社会人の基礎用語）／感想文や作文とレポートの違い 10. 課題を設定する 11. 小テスト5（社会人の基礎用語）／資料の調べ方 12. 全体ガイダンス（学びを社会に生かす） 2 13. 小テスト6（社会人の基礎用語）／総合演習（レポートの中間評価） 14. 総合演習（レポートの準備） 15. 小テスト7（社会人の基礎用語）／総合演習（レポートの準備）</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。春学期の基礎ゼミAとあわせて受講することになります。基礎ゼミBでは、特に、調べる力と書く力の習得のため、図書館の使い方や、情報の調べ方、レポートの作成法などを学びます。あわせて、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャー・アクティビティーも実施します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本科目をとおして、学びに必要な調査力や書く力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、他の科目でも応用できるような、大学生としてふさわしいレポートを書けるようになることを目指します。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義の内外で、様々な課題に取り組んでもらうため、積極的な取組を期待します。また、講義内で、積極的に発言するようにしましょう。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 小テスト20% 全7回の合計</div><div>(2) 期末レポート40%</div><div>(3) 平常点40% 授業への参加態度、課題の提出状況など</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・書く力 ・調べる力 ・初年次教育</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

埼玉学		AREA-A-200/AREA-J-2	
担当教員： 清水 均、氏家 理恵			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目/選択科目
単位： 2		コード： 1A100830	
学部教育の関連目		授業計画	
【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける 【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う		01. はじめに：埼玉のイメージ／オリエンテーション 清水正之／氏家理恵 02. 川西実三と埼玉―新渡戸・内村門下の“理想主義”官僚 村松晋 03. 荻野吟子―日本初の女医、キリスト者 柳田洋夫 04. 埼玉での多文化共生推進 D. バーガー 05. 埼玉から世界へ―英語を駆使して活躍する 小川隆夫 06. 埼玉から世界へ―映画を通じた地域活性・情報発信 氏家理恵 07. 「街の映画館」活動―交流の場としての映画館 特別外部講師 08. 新しい郊外の風景 畠山宗明 09. 埼玉在住外国人の方々から見た日本 川口さち子／特別外部講師 10. 塙保己一の古典学：群書類従の出版と和学講談所 木下綾子 11. 特別外部講師招聘予定 12. 県内南米系在留者の背景としてのキリスト教 島田由紀 13. ツール・ド・フランスの歴史的位相―フランスからさいたまへ 和田光司 14. 埼玉が生んだプラグマチスト・田中王堂 松井慎一郎 15. まとめ／期末レポートについて 清水均／氏家理恵	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
人は地域の中で生まれ、育ち、生活をしています。同時に、生活のなかで、場所的限定をこえて、人間の生き方を考えもします。現代では、生活の場自体が、通有の世界的な問題や状況（人権、経済的困窮など）のなかにあります。地域に生きることと、他方でのグローバル化、そうしたなかに生きる私たちを、埼玉・北関東という場をてがかりに考えていく授業です。			
(2) 学びの意義と目標			
地域という場にまずは、視点を設定して、現代のグローバル化した時代に生きるとはどういうことかを、埼玉の歴史、文学、思想、言語、芸術等の多様な視点から考え、大学で学ぶことの意味を、具体的な事象をふまえつつ、大きく広く考えていくことをめざします。		準備学習(予習)	
		さまざまな埼玉学という書籍が出版されています。それらを読むことも参考になります。またグローバル化についての書籍も多くでています。目を通しておくとういでしょう。	
		準備学習(復習)	
		授業で得た知識や視点を、日常の生き方、あり方とむすびつけながら、書籍、メディア等でえたものと連関させて考える、あるいは調べる、足を運ぶ、という自発的な復習をしてください。授業で興味を持った主題を復習しておくことで、期末レポートの準備にもなります。	
受講者に対する要望		評価方法	
オムニバス形式の授業です。必ずや関心を引く主題があるかと思います。地域の問題をふまえながら、私たちが学ぶ意味を考える機会です。積極的な参加を希望します。		(1) 平常点 75% 各回ごとに小テストあるいは小レポートを課します (2) 期末レポート 25%	
学びのキーワード		教科書	
・ 埼玉 ・ 北関東 ・ 地域 ・ グローバル化 ・ 共生		各回の授業でプリントを配布する。	
		参考書	
		最初のガイダンスおよび各回授業の配布プリントで指示する。	

国際社会の基礎知識							
担当教員： 島田 由紀 学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 コード： 1A101010							
学部教育の関連目 【A】 グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める	授業計画 01. 導入 02. 北米の地理・歴史・文化 1 03. 北米の地理・歴史・文化 2 04. 北米の地理・歴史・文化 3 05. 現代北米の人種・宗教事情 1 06. 現代北米の人種・宗教事情 2 07. 現代北米の人種・宗教事情 3 08. 西欧の地理・文化 09. 西欧 20 世紀・21 世紀の歴史 1 10. 西欧 20 世紀・21 世紀の歴史 2 11. 西欧 20 世紀・21 世紀の歴史 3 12. 現代西欧の人種・宗教事情 1 13. 現代西欧の人種・宗教事情 2 14. 現代西欧の人種・宗教事情 3 15. まとめ						
カリキュラム上の位置付け							
(1) 内容 この授業では、北米や西欧の現代社会を理解するための基礎知識を学んでいく。地理・歴史・文化の基本的な知識を確認するほか、現代の北米・西欧各国が置かれた社会情勢を理解するために、特に人種・宗教事情にも注目して学ぶ。							
(2) 学びの意義と目標 北米・西欧各地域の現代社会をめぐる基礎知識を身につけることで、新聞・テレビニュースなどさまざまなメディアで報道されるこれらの地域についての情報に関心を持ち、国際的な視野を養う基礎とすることを目指す。	準備学習(予習) 配布する資料などに目を通し、小テストに備えること						
	準備学習(復習) 資料や小テストの復習を行なうこと						
	評価方法 <table> <tr> <td>(1) 小テスト</td><td>60%</td></tr> <tr> <td>(2) リアクションペーパーへの記述など、授業への参</td><td>20%</td></tr> <tr> <td>(3) 期末テスト</td><td>20%</td></tr> </table>	(1) 小テスト	60%	(2) リアクションペーパーへの記述など、授業への参	20%	(3) 期末テスト	20%
(1) 小テスト	60%						
(2) リアクションペーパーへの記述など、授業への参	20%						
(3) 期末テスト	20%						
受講者に対する要望 北米・西欧の事情をめぐる報道等に目を向け、特に自分の関心の持てる分野を見つけて、継続的にニュースを追ったり基礎的な文献などを読んだりしてほしい。							
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ・ 北米 ・ 西欧 ・ 地理・歴史 ・ 文化 ・ 人種・宗教 	教科書 授業の中で指示する 参考書 授業の中で指示する						

社会人のための表現力演習

EACL-A-105

担当教員： 作田 奈苗

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1A102070

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、大学生生活、および卒業後社会で必要となる言語技術のうち、会話または文書によって場面に応じて適切にコミュニケーションをとる技術を学ぶ。まず、敬語の規範的な文法や慣用を確認する。また、運用について、書きことば話し言葉ともに、具体的な実践練習を行う。〈br〉〈b〉?※要求される日本語のレベルが高いので、留学生の場合、レベル3の学生でなければ勧めない。〈/b〉

(2) 学びの意義と目標

- ・必要な場面で適切で流暢な敬語が使えるようになること。
- ・社会人として恥ずかしくないメールが書けるようになること。

受講者に対する要望

この授業は座って講義を聴くだけの授業ではない。グループワークをしたり、発表をしたりして、クラス内で活動し、社会人としてのコミュニケーション力を養成する。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 敬語
- ・ 文法
- ・ コミュニケーション
- ・ メール

授業計画

01. 敬語の概要（敬語以前、相手と場面、敬語の種類）
02. 尊敬語（動詞）／1分スピーチ
03. 尊敬語（形容詞・名詞）／他己紹介ワーク
04. 謙譲語Ⅰ／他己紹介発表
05. 謙譲語Ⅱ／改まったインタビュー
06. 丁寧語／インタビュー発表
07. 敬語の「ている」／プロジェクトワーク1
08. 敬語の「可能」／プロジェクトワーク2
09. 「いただく・くださる」を使った敬語／メールの書き方1
10. 敬語の短い言い方・特殊な表現／メールの書き方2
11. 恩恵表現／メールの書き方3
12. 敬語文法まとめ・目上の人に対する特別な注意
13. 身内と敬語／面接について
14. 面接実習
15. 面接のふりかえり、敬語の文法まとめ

準備学習(予習)

UNIPAの教材に目を通しておくこと。〈br /〉毎回授業の始め10分で敬語の復習テストをするので、準備すること。

準備学習(復習)

課題が完成しなかった場合、次の授業までに課題を完成させ、提出すること。〈br〉次の授業で発表課題がある場合は発表できるよう準備しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 復習テスト(13回) | 30% |
| (2) 授業内課題(13回) | 40% |
| (3) 期末試験 | 30% |

合計60点以上を単位取得の条件とする。

教科書

参考書

教材はUNIPAにアップロードしておく。

基礎ゼミ C

担当教員：D. バーガー

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1A103210

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本科目では、基礎ゼミA、Bを踏まえて、より高度な読み書き能力を身につけることを目標とします。基本的には基礎ゼミABで使った教科書を使用し、読解、レポート作成のための技術を学びますが、それぞれ、より高度な内容に踏み込んで演習を行います。さらに、ビブリオバトルや図書館ワークショップを通じて、講義のための読み書きだけでなく、総合的な読む力を身に付けていきます。また、プレゼンテーションやキャリアガイダンスなども実施します。

(2) 学びの意義と目標

引用のしかたやレポートのより詳細な章立てのやり方など、1年次の基礎ゼミではなかなか身につかない読み書きの技術を学ぶことと、書物そのものに親しむことで、より総合的な「読む力」を身につけることが本科目の目標です。

受講者に対する要望

基礎ゼミA、Bに続き、読む力、書く力を養っていきますが、基礎ゼミCではレポートにとどまらず、本を読む事そのものに親しんでいきます。書かれた言葉に広く親しむことによって、さらに上位の表現を身につけていけるようにして下さい。

学びのキーワード

- ・書く力
- ・読む力
- ・ビブリオバトル

授業計画

01. ガイダンス＋昨年度の復習＋良いレポートとは？
02. 見通しを立てる①—「全体」から考える、主題と目的の違い、概要の作り方。
03. キャリアガイダンス①
04. 文章の構造①—論理関係をつかむ
05. 文章の構造②—文と段落
06. プレゼンテーションガイダンス①
07. プレゼンテーションガイダンス②
08. 論文の構造
09. 論文でよく使う表現
10. キャリアガイダンス②
11. その他①—引用、参照のしかた
12. その他②—引用を本文に組み込む
13. ビブリオバトル①
14. ビブリオバトル②
15. ビブリオバトル③およびまとめ

準備学習(予習)

基礎ゼミA、Bでの取り組みをよく思い出し、反省点を明確にして下さい。また講義スケジュールを初回に配布するので、テーマとなる教科書の項目をよく読んできて下さい。

準備学習(復習)

返却された課題によく目を通し、しっかりと復習して下さい。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-------------------------|
| (1) 平常点 | 70% | ワークショップへの参加、演習課題なども含まれる |
| (2) ブックレポート | 30% | |

学期末のブックレポートの他、各回の課題も評価対象とする。

教科書

教室で指定

参考書

教室で指定

基礎ゼミ D

担当教員：D. バーガー

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1A103310

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

The main goal of this course is to teach students how to write a research paper/report in English.

(2) 学びの意義と目標

Students are expected submit their assigned homework in a timely manner.

受講者に対する要望

Active participation, regular attendance, and focus on writing will be highly emphasized.

学びのキーワード

- ・ Research
- ・ Outline
- ・ Paragraph
- ・ Writing
- ・ Project

授業計画

01. How to do research? What is a research paper?
02. What is an “outline” and how to develop it?
03. キャリアガイダンス①
04. What is an “introduction” and how do you write it?
05. What is a “paragraph” and what should a good paragraph contain?
06. プレゼンテーションガイダンス①
07. プレゼンテーションガイダンス②
08. Linking paragraphs and topics
09. How to use references and references style (MLA)
10. キャリアガイダンス②
11. How to write a “conclusion”
12. Putting it all together
13. ビブリオバトル①
14. ビブリオバトル②
15. ビブリオバトル③およびまとめ

準備学習(予習)

Since this course is about research and writing, students must prepare their writing before the next class.

準備学習(復習)

This class requires preview and review of lessons on a weekly basis.

評価方法

- | | |
|----------------------------------|-----|
| (1) Attendance and Participation | 30% |
| (2) Mini Projects | 40% |
| (3) Final Project | 30% |

教科書

Class handouts.

参考書

グローバル世界の歴史 A		HIST-A-101
担当教員： 和田 光司		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1A200220
学部教育の関連目		授業計画
【A】 グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. ガイダンス グローバルな世界を歴史のなかでよみとく 02. オリент文明 03. エジプト文明 04. 古代オリент帝国 05. ギリシャ文明 06. アレクサンドロス大王とヘレニズム 07. ローマ文明 08. キリスト教 09. ビザンツ文明 10. ゲルマン民族 11. ヨーロッパ文明 1 12. ヨーロッパ文明 2 13. イスラム文明 1 14. イスラム文明 2 15. 十字軍 1 16. 十字軍 2 17. シルクロード 1 18. シルクロード 2 19. 海の道と港市国家 1 20. 海の道と港市国家 2 21. モンゴル帝国 22. 大航海時代 1 23. 大航海時代 2 24. オランダの覇権 25. イギリス東インド会社 26. アメリカ植民地 27. まとめ 1 28. まとめ 2 29. 予備 30. 予備
現代社会に生きるうえで、「グローバリゼーション」という言葉を聞かない日はありません。しかし、グローバリゼーションとは実際のところなんなのでしょうか。私たちの暮らしにどのようにかかわっているのでしょうか。この授業では、人やモノ、資本や情報が地球規模で行き交うようになった歴史と、人々への影響をたどります。毎回の授業で提出していただくレスポンスシート（講義内容の要約、疑問点等をまとめていただきます）、トピックごとの小テストおよび期末テストが課題となります。		
(2) 学びの意義と目標		
高校世界史等で学んだ歴史上のさまざまなできごとを、グローバルな観点から見直し、国境を越えたつながりを意識した視点を身につけることを目標とします。それによって、現代社会のさまざまな問題を広い視野で考えることができるようになるでしょう。		準備学習(予習)
		歴史のなかで関心のあるできごとや人物などに関連する本を読んで下さい。
		準備学習(復習)
		授業では教科書とプリントを併用します。講義内容を復習し、歴史の流れを意識しながら次の講義にのぞんでください。
受講者に対する要望		評価方法
受け身で受講するのではなく、歴史上のさまざまなできごとの空間的・時間的相互関係やプロセスを思考する態度でのぞんでください。		
学びのキーワード		教科書
・ 歴史 ・ グローバリゼーション ・ 西洋史 ・ 世界史		成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美緒、桑島 良平 『山川世界史総合図録』（山川出版社）
		参考書

グローバル世界の歴史B		HIST-A-102
担当教員：南 祐三		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1A200330
学部教育の関連目		授業計画
【A】 グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
我われが生きているこの世界は、どのような出来事や思想を背景にして「いま」に至っているのか。本講義では、現代ヨーロッパ世界に注目し、その特徴である「統合」や「越境」、「協調」などの事象に焦点を当てる。とりわけ、EUの牽引役を担っているフランスとドイツの關係に注目し、「仏独關係からみたヨーロッパ統合」という視点から、グローバル世界の成り立ちと課題について検討する。 授業はプリントや参考書を用いた解説を基本として進めるが、ドキュメンタリー作品や映画作品などの映像資料をもできる限り利用して、グローバル世界の実態について総合的に学習することをめざす。		01. ガイダンス 02. 大航海時代と近代世界システム 03. 19世紀ヨーロッパ(1)：近代国民国家の特徴 04. 19世紀ヨーロッパ(2)：人びとの暮らしの変容 05. 19世紀ヨーロッパ(3)：国際關係 06. 19世紀ヨーロッパ(4)：映像で見る19世紀ヨーロッパ 07. 第一次世界大戦の歴史(1)：「現代」の出发点 08. 第一次世界大戦の歴史(2)：総力戦 09. 第一次世界大戦の歴史(3)：世界性 10. 第一次世界大戦の歴史(4)：持続性 11. 第一次世界大戦の歴史(5)：映像で見る第一次世界大戦 12. 両大戦間期のヨーロッパ(1)：戦後処理とヴェルサイユ体制 13. 両大戦間期のヨーロッパ(2)：平和の模索 14. 両大戦間期のヨーロッパ(3)：世界經濟と大恐慌 15. 両大戦間期のヨーロッパ(4)：共産主義とファシズムの革命 16. 両大戦間期のヨーロッパ(5)：映像で見る1930年代 17. 第二次世界大戦の歴史(1)：戦争の原因 18. 第二次世界大戦の歴史(2)：戦争の経過 19. 第二次世界大戦の歴史(3)：戦争の結末 20. 第二次世界大戦の歴史(4)：肅清裁判 21. 第二次世界大戦の歴史(5)：映像で見る第二次世界大戦 22. 冷戦時代のヨーロッパ(1)：米ソの対立 23. 冷戦時代のヨーロッパ(2)：東西ドイツの分裂 24. 冷戦時代のヨーロッパ(3)：脱植民地化 25. 冷戦時代のヨーロッパ(4)：映像で見る冷戦時代 26. ヨーロッパ統合の歴史(1)：統合の理論 27. ヨーロッパ統合の歴史(2)：仏独のパートナーシップ 28. ヨーロッパ統合の歴史(3)：EUの発足 29. ヨーロッパ統合の歴史(4)：映像で見るヨーロッパ統合 30. まとめ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
歴史を学ぶことは、つねに「自分が生きている世界の仕組みを知る」ことにつうじる。本講義では、EUによるヨーロッパ統合の歴史的背景や、その成果と課題について学んでいくなかで、現代世界の仕組みを把握するための広い視野を養うことをめざす。		各回の講義におけるポイントは何であったか、という点をしっかり意識しながら、できるだけ自分で文献を探して読んでみてほしい。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
受講にあたって、ヨーロッパ統合の歴史についての基礎知識は必須ではないが、わからないことは積極的に自分で調べようとする態度で臨んでほしい。		講義中にこちらが強調したことを復習するだけでなく、そのなかで疑問として残った点について、自分なりに調べてみてほしい。
学びのキーワード		評価方法
・ 西洋史 ・ グローバリゼーション ・ ヨーロッパ統合 ・ 国際關係		(1) 平常点 50% 受講態度およびレスポンスシート (2) レポート 50%
		教科書
		成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美緒、桑島 良平 『山川世界史総合図録』 (山川出版社)
		参考書

単位： 4 コード： 1A200510

01. ローマ帝国
02. ローマ帝国の分裂・ビザンツ文明
03. ヨーロッパ世界の成立
04. キリスト教世界
05. ヴァイキング、封建社会
06. 都市の勃興
07. 大学、十字軍
08. 中世後期の世界 1
09. 中世後期の世界 2
10. 大航海時代
11. ルネサンス
12. 宗教改革
13. スペインの覇権
14. イングランド
15. 反宗教改革
16. 宗教戦争
17. 絶対王政 1
18. 絶対王政 2
19. 科学革命
20. イギリス革命
21. 市民社会
22. プロイセン、ロシア
23. 啓蒙主義 1
24. 啓蒙主義 2
25. ロココ美術
26. 英仏植民地戦争 1
27. 英仏植民地戦争 2
28. 啓蒙専制主義
29. アメリカ独立
30. 総括

(内容) この授業は、もうひとつの「ヨーロッパ近現代史」とセットで、ヨーロッパ史の大まかな流れを追い、各時代の基本的な事件や社会的特徴を解説する。ヨーロッパ近代と現代（19・20世紀）については、「ヨーロッパ近現代史」で私が講義する。それに先立つ中世と近世（8－18世紀）を扱うのが、この「ヨーロッパ文明の形成」である。歴史の流れを順序を立てて追っていく。理解の助けのため視聴覚教材も用いる。

現代世界においてもなお重要な位置を占め続けるヨーロッパ文明の基本的特質について、基礎知識を提供する。

次回の学習内容を教科書で確認し、要点を把握しておくこと。

毎回、学習内容を個別のもので終わらせることなく、初回からの全体的な流れの中に位置づけ、歴史理解を総合的なものにしていくこと。

(1) 平常点	40%
(2) 学期末レポート	60%

新聞・TVなどのヨーロッパについての報道・特集
などに親しみ、日ごろよりヨーロッパについての
関心を高めること。

- ・ ヨーロッパ
- ・ 文明
- ・ 中世
- ・ 近世
- ・ 異文化

成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美緒、桑島 良平 『山川世界史総合図録』 (山川出版社)

参考書

国際ボランティア入門A

INTL-A-201

担当教員：金沢 はるえ

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1A210860

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

なぜ、国際ボランティアが必要とされているのかを理解してもらうため、開発途上国がどんな問題を抱えているのか、私たちの生活とどのようなつながりがあるのか、また途上国の抱える問題解決の基本的な視点を、ワークショップ形式で考えていきます。また、国際ボランティアとして関わりたいと思っている学生に、ゲストから話を聞き、ボランティアの多様なあり方を紹介していきます。

(2) 学びの意義と目標

途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何ができるかを考えていきます。また、現在自分に何ができるのか、また自分の持つ資格や特性が国際ボランティアへの一歩を踏み出すきっかけとなるように、何ができるかを考えていきます。

受講者に対する要望

「国際ボランティア入門B」と同様に、入門的な位置づけです。私たちの生活と途上国のつながりやその問題を理解し、ボランティアとしての関わりを積極的に考えてほしいと思います。

学びのキーワード

- ・援助・支援・協力
- ・ボランティアの定義
- ・ボランティア支援の方法
- ・持続可能な開発
- ・人間の安全保障

授業計画

01. 世界一大きな授業
02. タイ・バーン村(1) アイコの援助は是非か？
03. タイ・バーン村(2) ロールプレイ 村の生活と問題
04. タイ・バーン村(3) プロジェクトを選ぶ
05. ボランティアの定義(1) 非営利性
06. ボランティアの定義(2) 自発性
07. ボランティアの定義(3) 公共性
08. ボランティアの定義(4) 先駆性
09. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
10. 支援の方法と評価
11. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
12. 持続可能な開発とは
13. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
14. 人間の安全保障
15. まとめ

準備学習(予習)

ワークショップ形式で議論をするので、国際協力に関心を持ち、自分の考えが言えるようにしておくこと

準備学習(復習)

授業で学んだことをプリントの指示に従い復習すること

評価方法

- | | 授業への参加度 |
|-----------|---------|
| (1) 出席状況 | |
| (2) レポート | 60% |
| (3) 授業の課題 | 40% |

出席については、毎回の出席が大前提となり、やむを得ない事情がある時も、3分の2以上出席しないと単位は認められません。レポートも授業に出席しないと書けないものがあるので注意すること

教科書

参考書

参考文献『ボランティア~もうひとつの情報社会』金子郁容、岩波新書

国際ボランティア入門B

INTL-A-202

担当教員：金沢 はるえ

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1A210970

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

なぜ、国際協力が必要とされているのかを理解してもらうため、開発途上国が抱えている人権・環境・開発と、その根本にある貧困とはどういうことなのかを、ワークショップ形式で考えていきます。また、こうした問題に対し、国際ボランティアがどのような活動をし、どのように問題解決をしているのかを紹介していきます。

(2) 学びの意義と目標

開発途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何ができるかを考えていきたいと思っています。そのために、国際協力に関わりたいと思っている学生に、異文化理解や貧困について、また自立のための支援のあり方を自分のことと関わらせて考えてほしいと思います。

受講者に対する要望

「国際ボランティア入門A」と同様に、入門的な位置づけです。国際協力の対象となる、開発途上国の抱える問題と、それに取り組む支援のあり方を学んでいきます。国際協力や問題解決に関心のある学生に主体的に学んでほしいと考えています。

学びのキーワード

- ・異文化理解
- ・豊かさ貧しさ
- ・援助・支援・協力
- ・開発
- ・問題解決

授業計画

01. 世界の現状～格差・貧困について～
02. もし世界が100人の村だったら
03. 世界の子どもたち～児童労働～
04. 途上国の生活～フォトランゲージ～
05. 誰を援助するか～途上国の男性・女性・子ども・政府～
06. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
07. 豊かさ・貧しさの見方・考え方～ランキング・ウェビング～
08. 援助の見方・考え方～誰が援助するか～
09. 開発の見方・考え方～プロジェクトを選ぶ～
10. 国際ボランティアの実際（ゲスト）～自立のための支援とは～
11. 問題分析とシステム思考～貧困の悪循環～
12. 主体的な参加とは～参加のはしご～
13. 主体性を高めるために～識字教育と問題解決～
14. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
15. フェアトレード～民衆交易とは～

準備学習(予習)

ワークショップ形式で議論をするので、国際協力に関心を持ち、自分の考えが言えるようにしておいてください。

準備学習(復習)

授業で学んだことをプリントの指示に従い復習すること

評価方法

- | | |
|------------|---------|
| (1) 出席状況 | 授業への参加度 |
| (2) レポート | 60% |
| (3) 授業での課題 | 40% |

出席については、毎回の出席が大前提となります。レポートも授業に出席しないと書けないものがあるので注意すること

教科書

参考書

参考文献『ボランティア もうひとつの情報社会』金子郁容、岩波新書

多文化共生論			
担当教員： 島田 由紀			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A224210	
学部教育の関連目			授業計画
【A】 グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める			
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
私たちはますます多様化する社会を生きている。宗教はときに対立・紛争等の原因ともなってきたが、いっぽうで多くの宗教者がそれぞれの信仰の確信に基づいてすべての人々の共生を訴え、人々を動かしてきた。この講義では、人種的反目や戦争による憎しみの現実の前で、共生を説いたキリスト者の思想に学ぶ。特に、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師と彼以降のアメリカ黒人キリスト教、アパルトヘイト撤廃前後の南アフリカ・キリスト教、第2次世界大戦をめぐるドイツ・キリスト教から、重要な思想家に焦点を当てる。			01. 導入 02. マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師と公民権運動① 03. マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師と公民権運動② 04. キング牧師と非暴力主義① 05. キング牧師と非暴力主義② 06. キング牧師と市民的不服従① 07. キング牧師と市民的不服従② 08. キング牧師とキリスト教信仰① 09. キング牧師とキリスト教信仰② 10. キング牧師の共生思想① 11. キング牧師の共生思想② 12. アメリカ黒人キリスト教の伝統と21世紀の共生思想―バラク・オバマに生きる伝統① 13. アメリカ黒人キリスト教の伝統と21世紀の共生思想―バラク・オバマに生きる伝統② 14. アメリカ黒人キリスト教の伝統と21世紀の共生思想―バラク・オバマに生きる伝統③ 15. アメリカ黒人キリスト教の伝統と21世紀の共生思想―周縁に置かれた者たちへのまなざし① 16. アメリカ黒人キリスト教の伝統と21世紀の共生思想―周縁に置かれた者たちへのまなざし② 17. アメリカ黒人キリスト教の伝統と21世紀の共生思想―周縁に置かれた者たちへのまなざし③ 18. アメリカ黒人キリスト教の伝統と21世紀の共生思想―9.11テロ以降の宗教的・人種的反目を超えて① 19. アメリカ黒人キリスト教の伝統と21世紀の共生思想―9.11テロ以降の宗教的・人種的反目を超えて② 20. アメリカ黒人キリスト教の伝統と21世紀の共生思想―9.11テロ以降の宗教的・人種的反目を超えて③ 21. キリスト教と共生の民主主義―南アフリカ・アパルトヘイトとキリスト教① 22. キリスト教と共生の民主主義―南アフリカ・アパルトヘイトとキリスト教② 23. キリスト教と共生の民主主義―アパルトヘイトを超えて① 24. キリスト教と共生の民主主義―アパルトヘイトを超えて② 25. キリスト教と共生の民主主義―第2次世界大戦とドイツ① 26. キリスト教と共生の民主主義―第2次世界大戦とドイツ② 27. キリスト教と共生の民主主義―ドイツ・キリスト教と和解を求める試み① 28. キリスト教と共生の民主主義―ドイツ・キリスト教と和解を求める試み② 29. まとめ 1 30. まとめ 2
(2) 学びの意義と目標			準備学習(予習)
違いや反目を超えてどのようにして人々は共に生きていくことができるのだろうか。この講義では、キリスト教における共生の思想に焦点を当てるが、キリスト教信仰を持たずとも、学び共有することのできる視点を発見することができるはずである。異なった社会背景に置かれた様々な思想家の異なるアプローチに学ぶことで、学生自身が、違いを受容し対話に開かれた態度を身につけることをめざす。			思想家のテキストを頻繁に配布する。やや難しいテキストも含まれるが、できるだけわかりやすく解説するので、自分自身でもあらかじめ目を通して理解に努めてほしい。
受講者に対する要望			準備学習(復習)
授業のなかで自分の意見を記述したり発言したりする機会を多くとるので、積極的に参加してほしい。			授業のノートを復習し、再度テキストに目を通してみる こと。
学びのキーワード			評価方法
・キリスト教 ・共生 ・民主主義 ・アメリカ ・ドイツ			(1) 平常点 70% 授業内での提出物・議論への参加など (2) 期末テスト 30%
			教科書
			授業のなかで指示する。基本的には教員がコピー資料を配布する。
			参考書
			授業の中で指示する。

言語とグローバル社会											
担当教員： D. バーガー											
学期： 週間授 科目：		必修・選択：									
学部教育の関連目		単位： 4 コード： 1A224501									
カリキュラム上の位置付け		授業計画									
(1) 内容		01. 授業紹介、「言語に関する誤った通念か、事実か?」という調査により授業の内容を考える（グループワーク） 02. 「言語に関する誤った通念か、事実か?」の解答についての解説 03. 言語変種： 国語、公用語、標準語、共通語」（グループワークとディスカッション） 04. 言語変種： 方言、なまり、言語使用域」（グループワークとディスカッション） 05. 言語変種： 標準語と方言（グループワークとディスカッション） 06. ニ言語使用、ダイグロシア（二言語変種使い分け）」（グループワークとディスカッション） 07. 言語偏見と言語不平等」（グループワークとディスカッション） 08. 危機言語と言語復興：アイヌ語の例（グループワークとディスカッション） 09. 危機言語と言語復興：アイヌ語と琉球諸言語の例 10. 危機言語と言語復興：琉球諸言語の例 11. 危機言語と言語復興：ハワイ語の例 12. 危機言語と言語復興：アメリカ先住民の諸言語の例 13. 「礼儀正しい」についての異なった考え方（グループワークとディスカッション） 14. 発話行為（グループワークとディスカッション） 15. ポライトネス理論（丁寧さ）：レイコフとリーチ（グループワークとディスカッション） 16. ポライトネス理論：ブラウンとレヴィンソン、「フェイス」（グループワークとディスカッション） 17. ポライトネス理論：「ポジティブ・ポライトネス」、「ネガティブ・ポライトネス」（グループワークとディスカッション） 18. 世界の敬語：日本語と他言語の比較（グループワークとディスカッション） 19. 謝罪の発話行為（グループワークとディスカッション） 20. 謝罪：日本語と英語の比較（グループワークとディスカッション） 21. 言語変化 22. 差別語という課題の紹介 23. 日本とアメリカ社会で差別されているグループに対する用語の発展 24. 日本における差別語：ガイドライン 25. 英語圏における差別語：ガイドライン 26. 言語とジェンダー：性差別語と非性差別語変革（グループワークとディスカッション） 27. 非性差別語変革 28. 英語圏における差別語：包括語 29. 英語の聖書訳における包括語 30. 春学期の内容をまとめる：「言語に関する神話…」の再検討（グループワークとディスカッション）									
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)									
言語と社会の研究の主な課題を概観することを通して、受講生は社会的関係において自分の母語や言語全般の役割をグローバル理解することが目標である。		与えられた資料、講義内容のプリントを事前に読むこと。									
		準備学習(復習)									
		各資料についてリアクションペーパーを書き、小テストのために各課題のプリントを復習すること。									
受講者に対する要望		評価方法									
言語の社会的役割に関心がある者や積極的に他学生と講義内容についてディスカッションをしたい者の受講を望む。		<table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>20%</td></tr><tr><td>(2) リアクションペーパー</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 小テスト</td><td>25%</td></tr><tr><td>(4) 期末試験</td><td>30%</td></tr></table>		(1) 授業への参加度	20%	(2) リアクションペーパー	25%	(3) 小テスト	25%	(4) 期末試験	30%
(1) 授業への参加度	20%										
(2) リアクションペーパー	25%										
(3) 小テスト	25%										
(4) 期末試験	30%										
学びのキーワード		教科書									
・ 言語変種 ・ 危機言語 ・ 丁寧語・敬語 ・ 差別語 ・ 言語とジェンダー		参考書									
		バウワー、ローリー/トラッドギル、ピーター【編】/町田 健【監訳】/水嶋 いづみ【訳】『言語学的にいえば——ことばにまつわる「常識」をくつがえす』研究社、2003 イ ヨンスク『「国語」という思想—近代日本の言語認識』岩波書店、2012 斎野 庄『アイヌの魂』朝日文庫、1990 ダニエル・ネトル、スザンヌ・ロメイシ 訳 島村宜男『消えゆく言語たち 失われることば、失われる世界』新曜社2001 バトリック・ハインリッヒ 『東アジアにおける言語復興 中国・台湾・沖縄を焦点に 』?三元社、2010									

イスラム文明		INFO-A-201
担当教員： 赤坂 恒明		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1A224660
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 序</div> <div>02. イスラム信仰の柱(1) 神、天使、預言者</div> <div>03. イスラム信仰の柱(2) 啓典、来世、天命</div> <div>04. イスラム信仰の実践の基準</div> <div>05. イスラム法</div> <div>06. ムハンマド（マホメット）とイスラム教の成立</div> <div>07. ムハンマド死後のイスラム教の発展</div> <div>08. スンナ派とシーア派</div> <div>09. 東方キリスト教諸派の概観と、イスラム以前の西アジアにおける学術</div> <div>10. アッバース朝期におけるイスラム文明の発展</div> <div>11. イスラム哲学と新プラトン主義ギリシア哲学</div> <div>12. イスラム世界における実用的学問の展開</div> <div>13. 中世ヨーロッパへの影響(1) スペインにおけるアラビア語文献のラテン語翻訳活動</div> <div>14. 中世ヨーロッパへの影響(2) シチリア王国：ルッジェーロ2世とフリードリヒ2世</div> <div>15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、まず、イスラム教に関する基礎を、キリスト教・ユダヤ教と比較しつつ明らかにします。また、イスラム教徒の生活の規範となっている「イスラム法」についても具体的な事例を紹介します。次に、古代ギリシア・インド・中国・エジプトなどの諸文化の要素を摂取・融合して形成・発展したイスラム文化の諸相を取り上げ、イスラム文化が近代以前のヨーロッパ文化に与えた影響の世界史的意義について論じます。なお、本講義では、「忘れられたキリスト教」とも呼ばれる東方キリスト教諸派についても概観します。なぜなら、例えばネストリウス派キリスト教徒がイスラム文化の成立に重要な役割を果たしたことから明らかなように、東方キリスト教諸派はイスラムと密接な関係を持っているからです。</div> <div>本授業のカリキュラム上の位置づけは、概説で、入門的な講義です。イスラム教に関する基礎知識を身につけ、他宗教・異文化に対する関心を養う基礎的な講義です。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>世界史上におけるイスラム文化の重要性についての認識を深めることができるようになること。</div> <div>イスラム教に関する最低限の基礎を説明できるようになること。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>多くの受講者には、なじみの薄い分野の講義となつてゐると思われまふので、特に、授業への積極的な参加が望まれます。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 宗教</div> <div>・ 文化</div> <div>・ 文明</div> <div>・ 歴史</div> <div>・ イスラム</div>		<div>教科書</div> <div>資料を配布するので、教科書は使用しません。</div> <div>参考書</div> <div>授業に世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参してください。参考文献等は講義中に紹介します。</div>

イスラムと現代世界		INFO-A-301
担当教員： 赤坂 恒明		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1A224770
学部教育の関連目		授業計画
【A】グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. 序 02. イスラム教についての基礎知識 03. 日本人とイスラム 04. 中国におけるイスラム(1)：回民 05. 中国におけるイスラム(2)：トルコ系諸民族 06. ロシアにおけるイスラム(1)：ヴォルガ=ウラル地方 07. ロシアにおけるイスラム(2)：北コーカサス 08. 南コーカサスにおけるイスラム(1)：アゼルバイジャン 09. 南コーカサスにおけるイスラム(2)：アルメニア問題 10. バルカン半島におけるイスラム(1)：ブルガリアのトルコ人 11. バルカン半島におけるイスラム(2)：旧ユーゴスラヴィアのイスラム教徒 12. 西欧におけるイスラム：労働者移民の定着と社会問題 13. アメリカ合衆国におけるイスラム：マルコムXとその周辺 14. 「オリエンタリズム」の虚実 15. まとめ
本講義では、「東アジアと欧米におけるイスラム」を主題として、地域社会における宗教的ないし民族的少数集団に関する諸問題について考察します。まず、イスラム教についての基礎知識を確認します。次いで、東アジア、旧ソ連のヨーロッパ部分、バルカン半島のムスリム（イスラム教徒）住民について個別に論じます。そして、最後に、欧米におけるイスラムをめぐる諸問題と、対イスラム認識として「オリエンタリズム」を取り上げる予定です。 なお、本講義では、時事的な問題をも積極的に取りあげる予定ですので、授業計画は国際状況の変化等により若干変更されることもあります。 この授業のカリキュラム上の位置づけは、他宗教・異文化に対する理解を深める、やや専門的な側面もある講義です。教養を高めるために宗教・民族文化・歴史等を学ぼうとする学生にも適しています。		
(2) 学びの意義と目標		
イスラム教に関する基礎的な知識を持ち、非ムスリム（非イスラム教徒）住民が多数を占める東アジアと欧米において、少数集団としての立場に置かれたムスリム（イスラム教徒）の状況を理解し、他宗教・異文化に関する国際的な視野を持てるようになることを、学びの意義と目標とします。		準備学習(予習)
		講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認してください。
		準備学習(復習)
		復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認するようにしてください。
		評価方法
		(1) 平常点 10% (2) 試験（小テスト含む） 90%
受講者に対する要望		期末試験は、複数の問題から選択して回答する形式で行います。
学びのキーワード		教科書
・宗教 ・文化 ・イスラム教 ・民族問題 ・オリエンタリズム		資料を配布するので、教科書は使用しません。
		参考書
		授業に世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参してください。参考文献等は講義中に紹介します。

現代ヨーロッパ事情		EURO-A-102	
担当教員： 和田 光司			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
		単位： 4	コード： 1A311100
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】 グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション</div> <div>02. 背景、産業革命、第一次世界大戦</div> <div>03. 背景、社会主義、ファシズム、第二次世界大戦</div> <div>04. 東西冷戦</div> <div>05. ヨーロッパと植民地</div> <div>06. ヨーロッパと植民地、 2</div> <div>07. ヨーロッパ統合の開始、雪解け</div> <div>08. ソ連と東欧、 1</div> <div>09. ソ連と東欧、 2</div> <div>10. ドイツ統一、 冷戦終結</div> <div>11. EUの成立</div> <div>12. EUの発展</div> <div>13. ユーゴ内戦、 1</div> <div>14. ユーゴ内戦、 2</div> <div>15. 移民問題 1</div> <div>16. 移民問題 2</div> <div>17. 移民問題 3</div> <div>18. ドイツ概観</div> <div>19. ドイツ概観 2、オーストリア概観</div> <div>20. 中欧概観</div> <div>21. フランス概観</div> <div>22. フランス概観、 2</div> <div>23. イタリア概観</div> <div>24. スペイン概観</div> <div>25. ギリシャ、南欧とユーロ</div> <div>26. イギリス概観</div> <div>27. イギリス概観、 2</div> <div>28. ベネルクス 3 国概観</div> <div>29. 北欧概観</div> <div>30. ロシア概観</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>現在のヨーロッパの状況を理解するために全ヨーロッパ的な歴史的経緯や政治、経済、社会、文化面の特徴、主要国・主要地域ごとの現在の状況を解説する。またウクライナ問題やユーロ危機、イスラム過激派によるテロなどの今日的課題について解説する。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>国際人としてグローバルに活躍する基礎的教養の一つとして、国際情勢や各国・各地域の文化・社会的特徴などの理解が絶対的に必要であり、この授業は今日の国際社会においてなお大きな影響力を有しているヨーロッパについての、基礎的理解を進めるものである。TV, 新聞、インターネットなどの時事記事のある程度まで理解できる力をつけることを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業内で指示した事件などについて、事典や新聞などで調べておくこと</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内容を次回までに要約し、十分に把握すること</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>現在の情勢が授業の内容になるので、TV, 新聞、インターネットなどの国際情勢の報道に日頃関心を持って親しむこと</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点、授業内レポート 50%</div> <div>(2) 学期末レポート 50%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ ヨーロッパ</div> <div>・ EU</div> <div>・ 国際情勢</div> <div>・ グローバリゼーション</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

グローバル化時代の倫理B		PHIL-A-201
担当教員： 島田 由紀		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1A312300
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入</div> <div>02. 大災害と助け合い？―一人はなぜ助け合うのか</div> <div>03. 大災害と助け合い？―一人はなぜ助け合うのか</div> <div>04. 人間の自由とは？</div> <div>05. 人間の自由とは？</div> <div>06. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること</div> <div>07. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること</div> <div>08. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること</div> <div>09. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること</div> <div>10. 個人の自由の範囲とは？―薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食</div> <div>11. 個人の自由の範囲とは？―薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食</div> <div>12. 個人の自由の範囲とは？―薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食</div> <div>13. 個人の自由の範囲とは？―薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食</div> <div>14. 人間の自由と人格</div> <div>15. 人間の自由と人格</div> <div>16. 公平であるとは？―車椅子のチャリーダー</div> <div>17. 公平であるとは？―なぜ大学で学ぶのか？</div> <div>18. 公平であるとは？―公平な社会とは？</div> <div>19. 公平であるとは？―公平な社会とは？</div> <div>20. 私たちが所属する集団に負うもの―親子・兄弟姉妹の関わり</div> <div>21. 私たちが所属する集団に負うもの―家族と民族</div> <div>22. 私たちが所属する集団に負うもの―民族と国家</div> <div>23. 私たちが所属する集団に負うもの―民族・国家を超えて</div> <div>24. 民主主義と連帯</div> <div>25. 民主主義と連帯</div> <div>26. 民主主義と連帯</div> <div>27. 宗教とグローバル社会</div> <div>28. 宗教とグローバル社会</div> <div>29. 宗教とグローバル社会</div> <div>30. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>誰も一人で生きているわけではない。多くの人は、人と交わりつつその関係に生じる価値観や規範に沿って生きている。私たちはどのような価値観や規範に沿って人との関係を築いているのだろうか？ 「私が隣人や社会と共に生きること」を様々なテーマに沿って、クラスで共に考えていきたい。また、折に触れて、ユダヤ・キリスト教等の思想家も含む西洋思想家の見解を紹介したい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>人の行動の善悪・正否をめぐるさまざまな異なる考え方を学ぶことで、異なった価値観と対話に開かれた態度を身につけることを目指す。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>配布するプリント類を自宅で読み返すこと</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>様々な映像資料やテキストをもとに、自分自身の意見を持ち、それを積極的にクラスのなかでシェアすることを目指してほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義ノートと配布物の復習を行なうこと</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 70% 授業内での提出物・議論への参加など</div> <div>(2) 期末テスト 30%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 個人と隣人・社会</div> <div>・ 助け合い</div> <div>・ 家族・民族・国家</div> <div>・ 民主主義</div> <div>・ 宗教と社会</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

グローバル化時代の倫理B		PHIL-A-201
担当教員： 島田 由紀		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1A312310
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入</div> <div>02. 大災害と助け合い？―一人はなぜ助け合うのか</div> <div>03. 大災害と助け合い？―一人はなぜ助け合うのか</div> <div>04. 人間の自由とは？</div> <div>05. 人間の自由とは？</div> <div>06. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること</div> <div>07. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること</div> <div>08. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること</div> <div>09. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること</div> <div>10. 個人の自由の範囲とは？―薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食</div> <div>11. 個人の自由の範囲とは？―薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食</div> <div>12. 個人の自由の範囲とは？―薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食</div> <div>13. 個人の自由の範囲とは？―薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食</div> <div>14. 人間の自由と人格</div> <div>15. 人間の自由と人格</div> <div>16. 公平であるとは？―車椅子のチャリーダー</div> <div>17. 公平であるとは？―なぜ大学で学ぶのか？</div> <div>18. 公平であるとは？―公平な社会とは？</div> <div>19. 公平であるとは？―公平な社会とは？</div> <div>20. 私たちが所属する集団に負うもの―親子・兄弟姉妹の関わり</div> <div>21. 私たちが所属する集団に負うもの―家族と民族</div> <div>22. 私たちが所属する集団に負うもの―民族と国家</div> <div>23. 私たちが所属する集団に負うもの―民族・国家を超えて</div> <div>24. 民主主義と連帯</div> <div>25. 民主主義と連帯</div> <div>26. 民主主義と連帯</div> <div>27. 宗教とグローバル社会</div> <div>28. 宗教とグローバル社会</div> <div>29. 宗教とグローバル社会</div> <div>30. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>誰も一人で生きているわけではない。多くの人は、人と交わりつつその関係に生じる価値観や規範に沿って生きている。私たちはどのような価値観や規範に沿って人との関係を築いているのだろうか？ 「私が隣人や社会と共に生きること」を様々なテーマに沿って、クラスで共に考えていきたい。また、折に触れて、ユダヤ・キリスト教等の思想家も含む西洋思想家の見解を紹介したい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>人の行動の善悪・正否をめぐるさまざまな異なる考え方を学ぶことで、異なった価値観と対話に開かれた態度を身につけることを目指す。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>配布するプリント類を自宅で読み返すこと</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>様々な映像資料やテキストをもとに、自分自身の意見を持ち、それを積極的にクラスのなかでシェアすることを目指してほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義ノートと配布物の復習を行なうこと</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 70% 授業内での提出物・議論への参加など</div> <div>(2) 期末テスト 30%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 個人と隣人・社会</div> <div>・ 助け合い</div> <div>・ 家族・民族・国家</div> <div>・ 民主主義</div> <div>・ 宗教と社会</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

単位：1 コード：1A312410

『深層文化 異文化理解の真の課題とは何か』 大修館書店
『異文化理解力 相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教養』 英治出版
『木を見る西洋人 森を見る東洋人 思考の違いはいかにして生まれるか』 タイヤモンド社

グローバル映像文化		TART-A-200/TART-J-3
担当教員： 畠山 宗明		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A317280
学部教育の関連目		授業計画
【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける 【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		01. イントロダクション 02. 映像文化の現在① デジタル技術とグローバリズム 03. 映像文化の現在② アメリカとハリウッド 04. 映像文化の現在③ アメリカとハリウッド② 05. グローバル時代の映画① 「ワールド・シネマ」から考える 06. グローバル時代の映画② 東アジアの映画① 07. グローバル時代の映画③ 東アジアの映画② 08. グローバル時代の映画④ 東アジアの映画③ 09. グローバル時代の映画⑤ 東南アジア、中東の映画① 10. グローバル時代の映画⑥ 東南アジア、中東の映画② 11. グローバル時代の映画⑦ 東南アジア、中東の映画③ 12. グローバル時代の映画⑧ 西ヨーロッパの映画① 13. グローバル時代の映画⑨ 西ヨーロッパの映画② 14. グローバル時代の映画⑩ ロシア・東欧の映画① 15. グローバル時代の映画⑪ ロシア・東欧の映画② 16. グローバル時代の映画⑫ 中南米、アフリカの映画 17. グローバル時代の映画⑬ 英語圏の映画① 18. グローバル時代の映画⑭ 英語圏の映画② 19. もう一つのグローバリズム(歴史編)① 映画の誕生とアメリカの転換期 20. もう一つのグローバリズム② チャップリン、グリフィスと新しいアメリカ 21. もう一つのグローバリズム③ 世界に広がる映画 22. もう一つのグローバリズム④ トーキーの誕生と現代アメリカへの道 23. もう一つのグローバリズム⑤ ハリウッドの成熟とアメリカの黄金期 24. もう一つのグローバリズム⑥ 映像文化の成熟と新しいグローバル社会 25. 世界の中の日本映画① 日本映画の誕生 26. 世界の中の日本映画② 日本映画第一の黄金期 27. 世界の中の日本映画③ 日本映画第二の黄金期 28. 世界の中の日本映画④ 1960年代の日本映画 29. 世界の中の日本映画③ 1970年代～現代の日本映画 30. 全体まとめ
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
本講義では、映画を中心に、映像文化のグローバルな広がりを跡付ける。映画は今日グローバル・メディアとして世界中で流通している。しかし同時に、映画は文脈依存度の高いメディアであり、ローカルな文化のあり方に強く依存している。本講義では映画の歴史をグローバル化の進展の中に位置づけながら、グローバル時代における映像文化はどのようなものなのか、どのようにそれが成立したのかを考えていきたい。		
(2) 学びの意義と目標		
本講義では、映像文化の意義を、世界史的な視点から考えていきたい。その作業を通じて、①映像言語の基本的特徴を学ぶだけでなく、②内容面における、個々の表現が持っている社会的・歴史的な意味を理解することを大きな目標としている。		
準備学習(予習)		授業での予告に従って、該当する地域や歴史的出来事、扱う作家について予習するのが望ましい。
準備学習(復習)		プリントを参考に、用語などを調べてさらに理解を深めてほしい。
評価方法		(1) 平常点 20% (2) 期末レポート 50% (3) ミニレポート 30% ミニレポートについて 一つの大きな話題(2～5回)が終わるごとにミニレポートを適宜実施する。
受講者に対する要望		
本講義では映画の上映を積極的に行っていくが、単なる娯楽として楽しむのではなく、その形式的特徴や表現が持っている意味を理解するつもりで見てもらいたい。		
学びのキーワード		教科書
・映画 ・映像 ・グローバル社会 ・日本映画		参考書
		参考文献：『日本映画史100年』四方田犬彦著、集英社、2000年。『ハリウッド100年史講義—夢の工場から夢の王国へ』北野圭介著、平凡社、2001年。『日本映画はアメリカでどう観られてきたか』北野圭介著、平凡社、2005年。『ハリウッド映画史講義—銀りの歴史のために』蓮實重彦著、筑摩書房、1993年など。『フランス映画史の誘惑』中条省平著、集英社、2003年。

担当教員： 畠山 宗明

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 4 コード： 1A412040

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

芸術は日常的な社会活動とは全く切り離されたものと理解されがちである。しかし、作品に値段がついたり表現が規制されたりするのは、芸術もまたさまざまな社会的実践の一つであるということの意味している。また芸術活動の中には、積極的に社会との関わりを目指すものもある。この講義では、そのような芸術と社会の関わりを様々な観点から検討してみたい。

(2) 学びの意義と目標

この授業では、①芸術と社会、②社会に向かう芸術、③制度としての芸術という三つのテーマを中心に考えてみたい。これらのアプローチを通じて、ある作品を取り巻いていた社会環境を知るだけでなく、芸術そのものが持っている社会的性格を理解することが、この講義の目標である。

受講者に対する要望

この授業では、「なぜ芸術はわからないものなのか」、という問題にも立ち入っていきたいと思っているので、芸術の「わからなさ」の前に尻込みしている学生も、怖がらずに受講して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 芸術
- ・ アート
- ・ 欧米文化
- ・ グローバル社会

授業計画

01. イントロダクション
02. 「芸術」とは何だろうか？
03. 何が芸術の価値を決めるのか？
04. 芸術における「近代」
05. 芸術と非芸術
06. 第一部 まとめ
07. 西洋社会と芸術① イントロダクション
08. 西洋社会と芸術② 芸術の始まりと西洋の誕生
09. 西洋社会と芸術③ 西洋芸術の形成
10. 西洋社会と芸術④ ルネッサンス
11. 西洋社会と芸術⑤ バロック
12. 第二部 まとめ
13. 近代の芸術① イントロダクション
14. 近代の芸術② 印象派
15. 近代の芸術③ ゴシック・リバイバルと世紀末芸術
16. 近代の芸術④ 抽象芸術の誕生
17. 第三部 まとめ
18. 20世紀の芸術① 前衛芸術の登場
19. 20世紀の芸術② 前衛芸術と大衆文化、テクノロジー
20. 20世紀の芸術③ 戦後の芸術 ヨーロッパとアメリカ
21. 20世紀の芸術④ 大衆の時代の芸術
22. 20世紀の芸術⑤ 消費社会、情報社会における芸術
23. 第四部 まとめ
24. グローバル時代の芸術① 現代日本の芸術
25. グローバル時代の芸術② 世界の現代美術
26. グローバル時代の芸術③ 日本美術史を考える①
27. グローバル時代の芸術④ 日本美術史を考える②
28. 舞台芸術と言語芸術
29. 音楽と芸術
30. 全体のまとめ

準備学習(予習)

授業で次の予告を行い、参考文献の指示などもその時に行う。

準備学習(復習)

授業でプリントを配布するので、その内容や掲載されている参考文献を図書館で調べるなどして欲しい。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 期末レポート | 40% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) ミニッツレポート | 30% |

期末レポートと平常点で評価するが、授業後にミニッツレポート(その場で提出する小レポート)の提出を求める場合がある。

教科書

教室で指定する

参考書

プリント以外の参考文献に関しては、まず高橋 秀賢『近代絵画史—ゴッダからモンドリアンまで(上)(下)』(中公新書)が授業にかかわる中でもっとも広い範囲を扱っている。その他の個別のテーマに関しては、適宜指示する。

社会と芸術文化B		TART-A-102
担当教員： 畠山 宗明		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1A412045
学部教育の関連目		授業計画
【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. イントロダクション 02. 「芸術」とは何だろうか？ 03. 何が芸術の価値を決めるのか？ 04. 芸術における「近代」 05. 芸術と非芸術 06. 第一部 まとめ 07. 西洋社会と芸術① イントロダクション 08. 西洋社会と芸術② 芸術の始まりと西洋の誕生 09. 西洋社会と芸術③ 西洋芸術の形成 10. 西洋社会と芸術④ ルネッサンス 11. 西洋社会と芸術⑤ バロック 12. 第二部まとめ 13. 近代の芸術① イントロダクション 14. 近代の芸術② 印象派 15. 近代の芸術③ ゴシック・リバイバルと世紀末芸術 16. 近代の芸術④ 抽象芸術の誕生 17. 第三部まとめ 18. 20世紀の芸術① 前衛芸術の登場 19. 20世紀の芸術② 前衛芸術と大衆文化、テクノロジー 20. 20世紀の芸術③ 戦後の芸術 ヨーロッパとアメリカ 21. 20世紀の芸術④ 大衆の時代の芸術 22. 20世紀の芸術⑤ 消費社会、情報社会における芸術 23. 第四部まとめ 24. グローバル時代の芸術① 現代日本の芸術 25. グローバル時代の芸術② 世界の現代美術 26. グローバル時代の芸術③ 日本美術史を考える① 27. グローバル時代の芸術④ 日本美術史を考える② 28. 舞台芸術と言語芸術 29. 音楽と芸術 30. 全体のまとめ
(1) 内容		
芸術は日常的な社会活動とは全く切り離されたものと理解されがちである。しかし、作品に値段がついたり表現が規制されたりするのは、芸術もまたさまざまな社会的実践の一つであるということの意味している。また芸術活動の中には、積極的に社会との関わりを目指すものもある。この講義では、そのような芸術と社会の関わりを様々な観点から検討してみたい。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
この授業では、①芸術と社会、②社会に向かう芸術、③制度としての芸術という三つのテーマを中心に考えてみたい。これらのアプローチを通じて、ある作品を取り巻いていた社会環境を知るだけでなく、芸術そのものが持っている社会的性格を理解することが、この講義の目標である。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
この授業では、「なぜ芸術はわからないものなのか」、という問題にも立ち入っていきたいと思っているので、芸術の「わからなさ」の前に尻込みしている学生も、怖がらずに受講して欲しい。		
学びのキーワード		評価方法
・ 芸術 ・ アート ・ 欧米文化 ・ グローバル社会		
教科書		参考書
教室で指定する		
		プリント以外の参考文献に関しては、まず高橋 秀賢『近代絵画史—ゴッダからモンドリアンまで (上)(下)』（中公新書）が授業にかかわる中でもっとも広い範囲を扱っている。その他の個別のテーマに関しては、適宜指示する。

英米文学概論		EALI-A-201									
担当教員：氏家 理恵											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A510242									
学部教育の関連目 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける		授業計画 01. イントロダクション：「文学」とは 02. 英米文学以前：ヨーロッパ文学の流れ 03. 英文学の成立：言語と国の確立 04. 英文学史概観 05. 英詩の隆盛：イギリス・ルネサンス 06. 詩を「読む」：詩の伝統と形式 07. ソネットとバラッド 08. イギリスにおける演劇の隆盛：エリザベス調演劇 09. シェイクスピア：『ロミオとジュリエット』『ハムレット』『ベニスの商人』 10. シェイクスピア以後のイギリス演劇 11. 小説夜明け前—市民革命の時代 12. コーヒーハウスと近代小説の誕生 13. 最初の近代小説：『ロビンソン・クルーソー』 14. ジャーナリズムと風刺小説：『ガリヴァー旅行記』 15. 小説を「読む」：物語における語り・語り手・視点 16. 語りの発達：書簡体小説『パメラ』 17. 小説の展開：反小説『トリストラム・シャンディ』 18. 古典主義とロマン主義 19. ワーズワース『虹』、ウィリアム・ブレイク『病んだバラ』 20. ゴシック小説『フランケンシュタイン』 21. 女性作家：ジェイン・オースティンとブロンテ姉妹 22. アメリカにおける文学の発達 23. ピューリタン文学 24. アメリカ・ロマン主義とリアリズム 25. 大衆文化と大衆小説の誕生：チャールズ・ディケンズとマーク・トウェイン 26. 19世紀の出版事情と読者・読書行為 27. ミステリの誕生：『シャーロック・ホームズの冒険』 28. 教育学と児童文学の成立：『不思議の国のアリス』 29. SFとファンタジーの誕生 30. まとめ									
カリキュラム上の位置付け 【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目 【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目											
(1) 内容 本講義は、英米文学の歴史をたどりながら、そのジャンルの展開と作品の多様性について概観する。各ジャンルからなるべく多くの作品例を読み、英米文学の特徴をまとめ、英米文学とは何なのかを考える。また、ヨーロッパの文化的土壌であるヘレニズムとヘブライズム、英米の風土・歴史・社会・生活からも文学作品を読み解いていく。 「文学」と聞くと堅苦しいイメージを抱いてしまう人、作品や物語を「読む」とはどういうことかよく分からないと感じている人に、英米文学の面白さや作品を読む楽しさを知ってもらいたい。											
(2) 学びの意義と目標 英米文学のヨーロッパ文学における位置づけを知り、その歴史的・文化的発展と作品の多様性を学ぶ。英米文学におけるさまざまな思潮やジャンル、批評用語などの基礎的な知識を得、英米文学を理解するために必要な知識を確認する。また、さまざまな作品や物語を楽しむためのコツ、読み解くための言葉と力を養う。		準備学習(予習) 授業で扱う作品の引用部分は事前に読んでおくこと。また、期末レポートの一部として作品批評レポートを課すので、学期中にブックリストから選択した作品を読み、レポート作成準備をしておくこと。									
		準備学習(復習) 課題やレポートでは授業で学んだ知識・用語などを活用しながらの作成を求めるので、授業のポイントやキーワードは随時復習しておくこと。									
受講者に対する要望 文学に興味がある意欲的な学生の受講を希望する。また、この講義は2年生以上対象の専門科目であり、教職課程履修者にとっては必修科目であるため、ある程度の欧米芸術文化の基礎知識を持っている学生の履修を推奨する。なお、授業で取り上げる作品はなるべく読んでほしい。		評価方法 <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>50%</td><td>ミニッツノート・小テスト</td></tr> <tr> <td>(2) 作品読解課題（3回）</td><td>30%</td><td></td></tr> <tr> <td>(3) 期末レポート</td><td>20%</td><td></td></tr> </table>	(1) 平常点	50%	ミニッツノート・小テスト	(2) 作品読解課題（3回）	30%		(3) 期末レポート	20%	
(1) 平常点	50%	ミニッツノート・小テスト									
(2) 作品読解課題（3回）	30%										
(3) 期末レポート	20%										
学びのキーワード ・英米文学 ・英米文学史 ・ロマン主義 ・大衆文学とミステリ ・SFとファンタジー		教科書 適宜プリントを配布する。 参考書									

英米児童文学

EAL I-A-203

担当教員： 松本 祐子

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1A510743

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 高等学校教諭一種免許：英語選択科目

【A】 中学校教諭一種免許：英語選択科目

(1) 内容

この授業では、必ずしも読者を子どもと想定して
いたわけではない昔話からイギリス児童文学の始
まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定
的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジ
ーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の
児童文学の抱える諸問題について触れながら、英
米児童文学の歴史と概要を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

[illegible]

受講者に対する要望

できるだけ多くの作品を読んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 昔話
- ・ ファンタジー
- ・ エヴリディ・マジック
- ・ リアリズム

授業計画

01. 授業説明
02. 伝承文芸: シャルル・ペローの昔話
03. 伝承文芸: グリム兄弟の昔話
04. 伝承文芸: イギリスの妖精「フェアリー・ゴッドマザーとチェンジリング
05. 伝承文芸: イギリスの妖精「伝説の妖精とコッティング・フェアリー」
06. 伝承文芸: マザーグースに見る英語表現
07. 伝承文芸: 物語の中のマザーグース
08. イギリス児童文学の始まりと児童文学の分類
09. 近代ファンタジー: ルイス・キャロル
10. 近代ファンタジー: ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』の構造
11. 家庭小説: オルコット
12. 家庭小説: バーネット『小公子』と『小公女』
13. 家庭小説: バーネット『秘密の花園』
14. 動物ファンタジー: ベアトリクス・ポター
15. 動物ファンタジー: マイケル・ポンド、A. A. ミルン
16. エヴリディ・マジックの世界: ネズビット
17. エヴリディ・マジックの世界: トラヴァース
18. エヴリディ・マジックの世界: メアリ・ノートン
19. エヴリディ・マジックの世界: メアリ・ノートン『床下の小人たち』
20. ハイ・ファンタジー: C. S. ルイス
21. ハイ・ファンタジー: トールキン
22. ハイ・ファンタジー: ル・グウィン
23. ハイ・ファンタジー: フィリップ・プルマン
24. 現代のリアリズム児童文学: カニグズバーク
25. 〈人形〉の物語: ゴッデン
26. 〈人形〉の物語: シルヴィア・ウォー
27. 現代の魔法: ローリング
28. 現代の魔法: ダイアナ・ウィン・ジョーンズ
29. 魔法と現実の間: ルイス・サッカー
30. まとめ

準備學習(予習)

最初の授業で配布する読書リストにしたがって、授業で扱う作品を読んでおくこと。授業時に指示されたレポートはきちんと提出すること。

準備學習(復習)

授業時のノートを整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 期末試験 | 40% |
| (2) 学期末レポート | 30% |
| (3) 課題レポート | 20% |
| (4) 出席 | 10% |

教科書

参考書

ファンタジー論		EALI-A-204								
担当教員：松本 祐子										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A510850								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ファンタジーとは何か 02. 神話・伝説：ファンタジーの原型 03. 神話・伝説：予言の意味 04. 神話・伝説：ギリシャ神話「神々と英雄たち」 05. 神話・伝説：ギリシャ神話「トロイ戦争の顛末」 06. 神話・伝説：北欧神話の世界観 07. 神話・伝説：北欧神話の神々 08. 神話・伝説：アーサー王伝説 09. ファンタジーの生き物：伝説の中のドラゴン 10. ファンタジーの生き物：ファンタジー作品の中のドラゴン 11. ファンタジーの生き物：ユニコーン、その他 12. ファンタジーの空間：現実から異世界への移動法 13. ファンタジーの空間：異世界の物語 14. ファンタジーの空間：ディズニーランド 15. ファンタジーの空間：おとぎ話とディズニー・アニメ 16. ファンタジーの空間：ディズニー・アニメのプリンセス像 17. ファンタジーの空間：日常の中の魔法 18. ファンタジーの空間：「私」の中の「他人」 19. ファンタジーの空間：夢 20. ファンタジーの空間：バーチャル・リアリティー 21. ファンタジーの時間：過去と未来 22. ファンタジーの時間：時間旅行の方法 23. 異形のものたち：ヴァンパイアの原型 24. 異形のものたち：物語の中のヴァンパイア 25. 異形のものたち：マッドサイエンティストと人造人間 26. 異形のものたち：生命創造というタブー 27. 異形のものたち：不老不死 28. 魔法使いと魔女 29. 魔法の食べ物 30. まとめ</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、まず、神話・伝説・昔話の中にファンタジーの源流を探り、次に、魔法の生き物、ファンタジーの空間、ファンタジーの時間、異形のものたち（ヴァンパイア、人造人間、不老不死）、魔法使いと魔女など、様々な項目ごとにファンタジー作品の分析を試みる。また、おとぎ話、児童文学を下敷きにしたディズニー映画をその原作と比較しつつ、ディズニー映画の人気の理由とその功罪について考える。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「夢とおとぎの国への逃避」といったような一般的なファンタジーのイメージに疑問を投げかけ、むしろ、人間の本質を見つめ、現実を生きる力を身につけるためのファンタジーの在り方について考えたい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業内で毎回配布するレジュメをよく読み、扱われる作品を読んでおくこと。ほぼ1ヶ月に1本の提出となるレポート執筆のために、各自の具体的なテーマ探し、資料集めが必要である。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回のミニレポートの他、3本のレポートを書いてもらうが、提出期限に遅れないように、よく準備をしてレポートを作成してほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回の授業の最後に出す課題をきちんと提出すること。</div>								
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 神話・伝説 ・ ファンタジーの空間 ・ ファンタジーの時間 ・ 不老不死・生命創造 ・ 魔法</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 毎回の課題</td><td>20%</td></tr><tr><td>(2) 第一レポート</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 第二レポート</td><td>25%</td></tr><tr><td>(4) 第三レポート</td><td>30%</td></tr></table>	(1) 毎回の課題	20%	(2) 第一レポート	25%	(3) 第二レポート	25%	(4) 第三レポート	30%
(1) 毎回の課題	20%									
(2) 第一レポート	25%									
(3) 第二レポート	25%									
(4) 第三レポート	30%									
		<div>教科書</div>								
		<div>参考書</div>								

西洋美術		TART-A-201
担当教員： 瀧井 直子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A610460
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. 古代ギリシアの美術と建築 (1) 03. 古代ギリシアの美術と建築 (2) 04. 古代ローマの美術 05. ビザンティン美術 06. ロマネスクの美術と建築 07. ゴシックの美術と建築 08. ルネサンスの美術 (1) 09. ルネサンスの美術 (2) 10. 北方ルネサンスの美術 11. バロックの美術 12. ロココの美術 13. 講義のまとめ (1) 14. 中間試験とその解説 15. 新古典主義の美術 16. ロマン主義の美術 (1) 17. ロマン主義の美術 (2) 18. 写実主義 19. 印象主義 (1) 20. 印象主義 (2) 21. ポスト印象主義 (1) 22. ポスト印象主義 (2) 23. 世紀末芸術と象徴主義の美術 (1) 24. 世紀末芸術と象徴主義の美術 (2) 25. キュビズム 26. 近現代の彫刻 27. ダダイズムとシュルレアリスムの美術 28. 抽象表現主義 29. ポップ・アート 30. 講義のまとめ (2)</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、古代ギリシアから20世紀までの西洋美術を時代にそって見ていきます。対象とする地域はヨーロッパと北アメリカ、また取り上げる美術は絵画だけでなく、彫刻、建築、装飾美術など多岐にわたります。講義は具体的な作品に焦点をあてながら進め、美術の作り手と受け手、作品の形態、作品が作られた時代の社会や文化背景などの諸問題について考察します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>西洋美術の歴史を学ぶことを通して、今後各自の専門的関心を深めるための基礎を養うことができます。様々な美術作品に親しむと同時に、その背後に宿っているメッセージを読み解く力を身につけましょう。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義中の私語、居眠りを厳禁します。講義では短時間ながらも討論の時間を設けることがありますので、積極的に参加してください。また、展覧会や講義で紹介する文献を見ることで、具体的な作品を心に刻みつけてください。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 美術史・ 西洋美術・ 美術作品の作り手と受け手・ 美術作品に親しむ・ 読み解く力</div>		<div>教科書</div> <div>プリントを配布する。</div> <div>参考書</div> <div>高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）</div>

異文化理解		CMPC-A-201
担当教員： 島田 由紀		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A610620
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】 グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 導入</div> <div>02. 「あたりまえ」を問い直す①—初詣の起源</div> <div>03. 「あたりまえ」を問い直す②—近代日本における「宗教」理解</div> <div>04. 「あたりまえ」を問い直す③—西洋における死の理解の諸事例</div> <div>05. 「あたりまえ」を問い直す④—日本における死の理解の諸事例</div> <div>06. アイデンティティを育むものとしての文化①—音楽</div> <div>07. アイデンティティを育むものとしての文化②—文学</div> <div>08. アイデンティティを育むものとしての文化③—宗教</div> <div>09. アイデンティティを育むものとしての文化④—共同体の役割</div> <div>10. 異文化に対する偏見の諸事例①—ユダヤ人</div> <div>11. 異文化に対する偏見の諸事例②—植民地時代北米の黒人</div> <div>12. 異文化に対する偏見の諸事例③—20世紀・21世紀のアメリカの黒人</div> <div>13. 異文化に対する偏見の諸事例④—異文化とアイデンティティ</div> <div>14. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ①—宗教的マイノリティ</div> <div>15. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ②—民族的マイノリティ</div> <div>16. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ③—女性の視点から見た労働文化</div> <div>17. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ④—女性の視点から見た性文化</div> <div>18. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ⑤—黒人から見たアメリカ社会</div> <div>19. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ⑥—黒人女性から見たアメリカ社会</div> <div>20. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ⑦—アメリカにおける貧困</div> <div>21. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ⑧—アメリカにおける貧困と人種</div> <div>22. 多文化共生に向けて①—自文化・異文化の自覚的理解</div> <div>23. 多文化共生に向けて②—私的空間・公共空間での多文化共生</div> <div>24. 多文化共生に向けて③—共通の倫理を模索すること</div> <div>25. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）①—近代以降の北米と日本</div> <div>26. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）②—現代日本の多文化</div> <div>27. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）③—北米</div> <div>28. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）④—世界の諸地域</div> <div>29. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）⑤—まとめ</div> <div>30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【A】 高等学校教諭一種免許：英語必修科目</div> <div>【A】 中学校教諭一種免許：英語必修科目</div> <div>【A】 日本語教員養成課程：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>私たちにとっては違和感なく自然に思われる考え方や生活様式が、他の文化や時代の人々にとってはまったく異なるふうに捉えられることがある。異なった文化を背景として生きてきた者同士が同じ社会で生きようとするとき、そこには交流だけでなく衝突が起きることもある。この授業では、特に北米英語圏における、様々な異文化交流・衝突の事例において文化がアイデンティティに及ぼす影響を考察しながら、多文化共生の道筋を考察する。</div> <div>学期の終わりには、履修者全員が異文化交流・多文化共生の事例を一つ選び、事例研究報告をクラスの中で行なう。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>異なる文化（特に北米英語圏）に根差した価値観を知ることで、自分自身の生きる文化を相対化する視点を持つとともに、文化的差異を越えて共に生きる意識を身につけることを目指す。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>様々な映像資料やテキストをもとに、自分自身の意見を持ち、それを積極的にクラスのなかでシェアすることを目指してほしい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 北米</div> <div>・ 差別</div> <div>・ 文化</div> <div>・ アイデンティティ</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

担当教員：氏家 理恵

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1A611810

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目

【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目

(1) 内容

本講義では、映画作品を社会的・文化的な視点から分析していく。「映像の世紀」と呼ばれた20世紀が過ぎ去った現在、映画もその技術的・理論的発展によって、単なる娯楽として片づけられない地位を占めるに至った。そこで、総合芸術である映画の歴史をたどりながら、映画が培ってきた映像文化の特徴とその社会的・政治的・経済的功罪を振り返り、さらに映画の限界と可能性を考察していく。また、映画の「文法」を確認し、映画作品の「読み方」、つまり分析方法を紹介する。

(2) 学びの意義と目標

映像の持つ「力」を知り、ちまたにあふれている映像を客観的に分析する力を養う。また、映画が理論を併せ持った研究分野として確立していることを踏まえ、受講後も映画鑑賞の際に役立つような、映画を「読む」ための知識を獲得する。

受講者に対する要望

映画に興味のある意欲的な学生の受講を希望する。映画・映像そのものだけでなく、欧米の歴史や社会・芸術文化の知識を持って映像作品を分析することが望まれる。また、学期中に10作品以上は自主的に映画作品を観てほしい。

学びのキーワード

- ・映像文化
- ・映画批評
- ・映画分析
- ・映像理論

授業計画

01. イントロダクション
02. 映画の構成要素＝批評要素
03. 映画が誕生するまで
04. 初期映画の特徴
05. 物語装置としての映画
06. 映像を読む1—レンズの使い分け
07. 映像を読む2—カメラの使い分け
08. 映像を読む3—カメラアイとショットⅠ
09. 映像を読む4—カメラアイとショットⅡ
10. 映像を読む5—特殊なショット
11. 映像を読む6—ショットの切り替え
12. 映像を読む7—モンタージュ（編集）
13. 映画の時間・物語の時間
14. 映像を読む8—光のコントロール（照明）
15. 映像を読む9—映画の色Ⅰ
16. 映像を読む10—映画の色Ⅱ
17. 映像を読む11—映画の音
18. 映像を読む12—映画音楽
19. SFXとVFX—虚構の映像化
20. アニメーション
21. ジャパニメーション
22. 映画の政治性
23. 戦争とプロパガンダ映画
24. 映画の社会性
25. 西部劇・戦争映画—社会性の視点から
26. 映画のなかの女性—社会性の視点から
27. 映画の経済学—映画産業
28. リメイク作品とその功罪
29. 映画賞・映画祭とその功罪
30. まとめ

準備学習(予習)

授業内容に沿ったテーマで作品批評レポートを2回課すので、その準備として、気になる映像作品をチェックしておくこと。

準備学習(復習)

期末レポートは授業の総復習として課すので、講義内容を常に復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 映画作品分析レポート（2回） | 30% |
| (3) 期末レポート | 30% |

その他、自主課題として任意の映画鑑賞評価表を受け付ける（加算対象）

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

翻訳文化論															
担当教員：氏家 理恵															
学期： 週間授		科目：	必修・選択：												
学部教育の関連目															
カリキュラム上の位置付け															
(1) 内容		授業計画													
<p>本講義では、英語と日本語との間の翻訳事情について、その歴史と文化を概観し考察する。授業は講義形式で行う。毎回少しずつテーマを変え、ものの名前や概念、作品タイトルやキャッチコピー、小説や詩などの文学作品、映画字幕、歌詞、漫画作品など、なるべく多くの題材を扱いながら、翻訳傾向の特徴や時代による変容を見ていく。それと同時に、翻訳の限界や、翻訳を通して生じる危険性、翻訳作品の伝達上の問題点なども指摘したい。</p>		<p>01. イントロダクション 02. 日本語と英語 1—言語的差異概観 03. 日本語と英語 2—言語的差異の翻訳への影響 04. 西洋文化の翻訳事情 1—外国語の翻訳の歴史 05. 西洋文化の翻訳事情 2—明治期の翻訳とその必要性 06. 西洋文化の翻訳事情 3—翻訳語の傾向とパターン 07. 外来語翻訳とカタカナ表記 08. 学問用語：文芸用語の翻訳 09. 文学作品の翻訳事情 10. 翻訳作品の傾向と翻訳パターン—シェイクスピアを例に 11. シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』 12. シェイクスピア『ロミオとジュリエット』 13. 日本文学作品の翻訳事情 14. 夏目漱石『吾輩は猫である』『坊ちゃん』 15. 川端康成と芥川龍之介 16. 『源氏物語』と『平家物語』 17. 韻文の翻訳—英詩と短歌・俳句の違い 18. 韻文翻訳の問題—リズムと韻 19. 『百人一首』と『奥の細道』 20. 『マザーグース』—詩と歌詞 21. 『マザーグース』の翻訳事情 22. 児童文学作品と翻訳 23. 『不思議の国のアリス』—言葉遊び 24. 映画作品タイトルの翻訳 25. 映画字幕 26. 聖書と讃美歌翻訳事情 27. 「きよしこの夜」「諸人こぞりて」 28. コミックと漫画—翻訳の特徴 29. 漫画（Manga）翻訳事情 30. まとめ—翻訳をめぐる諸問題</p>													
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)													
<p>翻訳という行為が、単なる言語変換という行為だけにとどまるものではなく、既存の文化や思想に影響を与え、さらには新たな文化や概念を形成する行為であることを学ぶ。また、身の回りにあふれている翻訳語に気づき、その翻訳事情や翻訳傾向について考察できるようにする。</p>		<p>大きなテーマごとに予習課題を課す。また、事前に配布したプリントは必ず読んでおくこと。</p>													
		準備学習(復習)													
		<p>中間・期末レポートのテーマは授業の総復習とするので、レポート準備として常に授業内容の復習をするとともに、身の回りにある翻訳例の収集を随時しておくこと。</p>													
受講者に対する要望		評価方法													
<p>意欲のある学生の受講を希望する。授業には積極的に参加してほしい。常に言語に対する感覚を鋭敏にし、身の回りの翻訳語に気づき、収集するようにしてほしい。</p>		<table><tr><td>(1) 平常点</td><td>40%</td><td>ミニッツノートと確認テスト</td></tr><tr><td>(2) 課題</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 中間レポート</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(4) 期末レポート</td><td>20%</td><td></td></tr></table>		(1) 平常点	40%	ミニッツノートと確認テスト	(2) 課題	20%		(3) 中間レポート	20%		(4) 期末レポート	20%	
(1) 平常点	40%	ミニッツノートと確認テスト													
(2) 課題	20%														
(3) 中間レポート	20%														
(4) 期末レポート	20%														
学びのキーワード		教科書													
<ul style="list-style-type: none">・ 翻訳文化・ 翻訳学・ 近代日本における翻訳事情・ 英語と日本語の言語的差異と翻訳・ 翻訳語の傾向		<p>随時講義テーマに沿ったプリントを配布する。</p>													
		参考書													

視覚文化		
担当教員： 畠山 宗明		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A613010
学部教育の関連目		授業計画
【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		授業計画
<p>視覚文化とは、文化表現を、特に眼に見えるものの領域から考えるものである。私達の文化活動の多くは、視覚に訴えることを大きな目的としている。そしてそうした傾向は、絵画や彫刻などの芸術にとどまらず、映画、マンガ、アニメ、ファッションなど、文化の幅広い領域に広がっている。本講義ではこのようなさまざまな視覚芸術、視覚文化を広く概観しながら、映像を「読む」技術を学んでいく。</p> <p>しかし同時に、視覚とは嗅覚、聴覚などの五感のうちの一つにすぎない。にも関わらず私たちはとすれば視覚を中心に考えてしまいがちである。視覚文化とはこうした私達の「偏り」の歴史を示すものでもある。近年では、このような視覚を中心とした文化の捉え方は批判的に捉えられてもいる。こうした観点から本講義では、文化における聴覚、触覚、味覚などの感覚経験の意味も考えながら、その中で改めて視覚文化の歴史と意義を位置づけていきたい。</p>		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
<p>①文化における視覚の役割を歴史的に概観することで、芸術論や大衆文化論などに限定されない幅広い包括的な文化観を養う。②言事は異なった伝達メカニズムを学ぶことで、メディアを読む力(メディア・リテラシー)を養う。</p>		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
<p>マンガやアニメは今日では日常的に触れることができるが、そこから一歩踏み出して視野を広げるつもりで参加してほしい。</p>		
学びのキーワード		評価方法
<p>・映像</p> <p>・イメージ</p> <p>・文化</p> <p>・メディア・リテラシー</p>		
教科書		参考書
教室で指示		
教科書		参考書
教室で指示		
参考書		参考書
『視覚文化「超」講義』、石田良治、フィルムアート社、2014年		
『ヴァジュアル・カルチャー入門—美術史を超えるための方法論』、ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン著、前川修他訳、晃洋書房、2001年		参考書

現代英文法

EGLI-A-201

担当教員：小川 隆夫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1A710160

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目
【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目

(1) 内容

本講義は、四半世紀にわたり世界中の英語学習者にコミュニケーションに「使える」文法書として利用されてきたテキストを用い、専門用語に依存した文法解説を最小限にとどめ、直観による理解を推進するイラストや平易な例文を用いて英文法を基礎から学ぶ。今まで英文法が苦手としてきた受講生にもわかりやすい内容である。本科目を修了することで日常生活や資格試験の英文法をほぼ網羅できる。

(2) 学びの意義と目標

コミュニケーションのための活きた英文法を学び、文法知識を整理することで、自信を持って英語で話す力と書く力を身につけることができる。各種試験、教職、就職にも役立つ。特に英語の教職を目指すものにとっては文法の教授法の練習にもなる。

受講者に対する要望

英文法を基礎から総復習したいという熱意ある者の受講を望む。基礎から日常生活や資格試験に使える文法までを要領よく学べる絶好のチャンスであり、正しい文法知識は将来の仕事にも役に立つ。欧米文化学科の学生はぜひとも受講して欲しい。

学びのキーワード

・ コミュニケーションのための英文法
・ 使える英文法
・ 直観による理解の推進
・ 活きた英語
・ 話す力と書く力

授業計画

01. コミュニケーション英文法の学習法と現在形（be動詞の肯定文、否定文、疑問文）
02. 現在形（現在進行形と疑問文、単純現在形と否定文）
03. 現在形（単純現在形の疑問文、現在進行形と単純現在形、I have とI' ve got）
04. 過去形（be動詞の過去形、単純過去形と否定文と疑問文）
05. 過去形と現在完了形（過去進行形、I used to ＋動詞の原形、現在までの経験）
06. 現在完了形（現在までの動作や状態の継続、for・since・ago、I have doneと過去単純形I did、just alreadyとyet）
07. 現在完了形と受動態（I' ve lost my key.とI lost my key last week.）（is doneと was done）
08. 受動態と動詞の形（is being doneとhas been done）(be/ have / do現在形と過去形における助動詞、規則変化動詞と不規則変化動詞)
09. 未来表現（What are you doing tomorrow? 未来を表すbe+ ing、I' m going to+動詞の原形、will）
10. 法助動詞と命令文（might, canとcould, must）
11. 法助動詞と命令文（I have to・動詞の原形、Would you like …?, I' d like…、I' d rather・動詞の原形、Do this! Don' t do it!, Let' s do this!命令文）
12. there と it（there is there are, there was/were, there has/ have been, there will be、それ」と物をささないit）
13. 助動詞（I am、I don' t など肯定文、否定文における後に続く語句の省略、聞き返し疑問と付加疑問、too/ either、so am I/neither do Iなど、I' m 't、haven' t、don' t など）
14. 疑問文（Is it…?, Have you …?, Do they …?など、Who saw you? Who did you see? Who is she talking to? What is it like? What…? Which…? How…?）
15. 疑問文と間接話法（How long does it take to+動詞の原形?, Do you know where…? I don' t know what…?などの間接疑問文、She said that… He told me that …間接話法）
16. -ingと「to＋動詞の原形」（動詞の原形とing、動詞の後ろにくるto+動詞の原形とing、want/ tell+人+to+動詞の原形、I went to the store to＋動詞の原形（目的語を表す不定詞））
17. go, get, do, make, have（基本的な動詞を用いた表現）
18. 代名詞と所有格（代名詞の主格と目的格、所有格、独立所有格）
19. 代名詞と所有格（代名詞の格、再帰代名詞、一’ s）
20. a と the（不定冠詞、単数形と複数形、可算名詞と不可算名詞）
21. a と the（不定冠詞と定冠詞、theのつく形とつかない形、the+場所の名前）
22. 限定詞と代名詞（this/that/these/those、one/ ones、someとany）
23. 限定詞と代名詞（not+any+名詞、no+名詞・none、everyとall、all most some any no/none/both/either/ neither、a lot/ much/ many、a/ littleとa/ few）
24. 形容詞と副詞（old/ nice/ interesting、quickly /badly/suddenlyなど、old/older 比較級）
25. 形容詞と副詞（not as …as原級を用いた比較、最上級、enough、too）
26. 接続（動詞・目的語、場所・時、文中で動詞とともに生じる副詞、still、yetとalready、「動詞+物+to人」と「動詞+人+物」）
27. 接続詞と節（and but or so because 2つの文をつなぐ接続詞、when時を表す節、起きるかもしれない出来事を仮定するif節、事実に反することを仮定するif節、関係副詞：主語であることを示す関係代名詞、目的語であることを示す関係代名詞と
28. 前置詞（時、期間、前・後・間を表す前置詞/接続詞、場所を前置詞）
29. 前置詞と句動詞（位置関係、方向を表す前置詞、「形容詞+前置詞」、「前置詞+ing」、「動詞+前置詞」、go in、fall off、run away 句動詞と動作の方向、put on your shoes、put your shoes on 句動詞と目的語）
30. 理解度の確認

準備学習(予習)

毎回、指定ページの予習をすること。テキストにそのまま記入してよい。

準備学習(復習)

授業の復習をし、次回の確認テストに備える。毎回、いくつもの文法事項について学習するため、復習を必須とする。

評価方法

(1) 授業への参加度	10%
(2) 確認テスト	30%
(3) 中間テスト	30%
(4) 期末テスト	30%

予習復習を重視し、毎回の確認テストで努力を評価する。

教科書

Raymond Murphy, William R. Smalzer, 渡辺 雅仁、田島 祐規子『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)』（Cambridge University Press）

参考書

英語音声学		EGLI-A-301															
担当教員： 加曽利 実																	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A710290															
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション ― 「音声無くして言語無し」を認識する 02. 英語音声学入門―言語学習上における音声学習の重要性 03. 英語音声学の基礎理論 (1) ― 言語音の分析方法 04. 英語音声学の基礎理論 (2) ― 調音音声学・音響音声学・聴覚音声学 05. 英語音声学の基礎理論 (3) ― 声門上部発音器官 06. 英語音声学の基礎理論 (4) ― 音素と興音、音声記号とIPA、母音の分類と定義、子音と分類と定義 07. 英語音声学の基礎理論 (5) ― イギリスの標準発音(RP)とアメリカの標準発音(GA) 08. 子音の発音・理論と練習 (1) ― 破裂音 09. 子音の発音・理論と練習 (2) ― 摩擦音 10. 子音の発音・理論と練習 (3) ― 破擦音 11. 子音の発音・理論と練習 (4) ― 歯茎側音、反転音 12. 子音の発音・理論と練習 (5) ― 鼻音、半母音 13. 母音の発音・理論と練習 (1) ― 単母音(高前舌母音、中前舌母音、低前舌母音) 14. 母音の発音・理論と練習 (2) ― 単母音(低中舌母音、中中舌母音) 15. 母音の発音・理論と練習 (3) ― 単母音(高後舌母音、低後舌母音) 16. 母音の発音・理論と練習 (4) ― 二重母音(上昇二重母音、集中二重母音) 17. 母音の発音・理論と練習 (5) ― 反転二重母音 18. 音の結合 (1) ― 子音連結、音素配列論 19. 音の結合 (2) ― 同化作用、有声音化、無声音化、鼻音化、口蓋音化、擦音化 20. 音の結合 (3) ― 異化作用、音の脱落、語中音添加、音位転換、重音脱落 21. リダクション ― 英文法と英語音声学との関係(品詞と強勢) 22. 英語の三段階強勢 23. 強形発音と弱形発音 (1) ― 人称代名詞、関係代名詞、不定代名詞 24. 強形発音と弱形発音 (2) ― 助動詞、be動詞、have動詞 25. 強形発音と弱形発音 (3) ― 前置詞、接続詞、その他 26. 名詞句と合成名詞 27. 日本語のリズムと英語のリズム 28. 文強勢の移動 29. イントネーション ― 内部開放連接、内部閉鎖連接、末尾下降連接、末尾上昇連接 30. 総合練習・まとめ</div>															
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【A】高等学校教諭一種免許：英語選択科目 【A】中学校教諭一種免許：英語選択科目</div>																	
<div>(1) 内容</div> <div>英語を学習する際、最も大切な事は、その発音を学ぶことです。いくら一生懸命、英語を学習しても、発音が英米等のネイティブ・スピーカーに通じなかったり、誤解されてしまったり、その学習は、結局、徒労となってしまいます。そうならない様にするためには、まず第一に、英語の発音を学習することです。発音を良くすると、聴き取る力もアップして来て、英会話が出来るようになるのです。応用を学ぶ前に基礎事項をしっかりとおきましょう。 授業では、プリント教材を用いて、英語音声学の基礎理論(発音器官・母音・子音・音の結合・強勢・イントネーション等)を学習すると同時に、DVD教材を用いて英語らしい発音・リズムを身につける練習を行います。主としてアメリカ英語を対象とし、必要に応じてイギリス英語や他の様々な種類の英語についても触れます。CALL(L L)教室を使用します。最初の授業の時に、プリントで授業の詳細について説明します。</div>																	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>言語は、相手に通じて初めて意味を持ちます。日本語とは、全く異なる音声構造を持つ英語の音声構造と音声学の基礎理論を学び、実際にネイティブ・スピーカーに通じる発音の習得を目指します。つまり、ネイティブ・スピーカーの言う事を正しく理解できるようになり、また自らの意思を相手のネイティブ・スピーカーに正しく伝えられるようになります。アメリカ英語を中心に授業を進めて行きます。イギリス英語についても、主だった差異について触れます。現在日本社会において、英語能力は、今や常識となりつつあります。学生時代の間に確実に英語を身に付けたい人、そして中学校や高等学校などの英語教師を目指す人に受講を強く勧めます。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、必ず10頁程度、テキストを予習して、ノートに重要点と思われる箇所をまとめておいて下さい。予習・復習ノートの提出のため、ノートまとめを励行しておいて下さい。</div>															
<div>受講者に対する要望</div> <div>音声学は、英語学習の中核を成す基礎科目なので、1-2年次生の間に履修することを勧めます。言語学習は、相手に通じることを前提とします。また、学生の間に、予習・受講・復習というHop-Step-Jumpの「三段跳び学習法」を必ず身に付けるようにして下さい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>復習を励行して下さい。毎回、授業後、なるべく早いうちに、学習した項目をノートに纏めて復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。</div>															
<div>学びのキーワード</div> <div>・英語学習の中核を成す基礎科目 ・ネイティブに通じる発音の習得 ・英語らしい発音とリズム ・実学としての英語学習 ・CALL(L L)教室、フォーマット形式(mp3、wav、mp4、DVDなど)</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>20%</td><td>授業への参加度</td></tr><tr><td>(2) 予習・復習ノート</td><td>10%</td><td>ノート提出</td></tr><tr><td>(3) 発音チェックテスト</td><td>10%</td><td>発音学習事項の練習度</td></tr><tr><td>(4) 中間試験</td><td>30%</td><td>中間試験の成績</td></tr><tr><td>(5) 期末試験</td><td>30%</td><td>期末試験の成績</td></tr></table> <div>予習と復習を励行するかどうか、定期試験などの成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。</div>	(1) 平常点	20%	授業への参加度	(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出	(3) 発音チェックテスト	10%	発音学習事項の練習度	(4) 中間試験	30%	中間試験の成績	(5) 期末試験	30%	期末試験の成績
(1) 平常点	20%	授業への参加度															
(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出															
(3) 発音チェックテスト	10%	発音学習事項の練習度															
(4) 中間試験	30%	中間試験の成績															
(5) 期末試験	30%	期末試験の成績															
<div>教科書</div> <div>プリント教材</div>		<div>参考書</div> <div>学習指導要領。その他は、授業中に提示します。</div>															

英語学概論		EGLI-A-202												
担当教員： 加曽利 実														
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A710380												
学部教育の関連目 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける		授業計画 01. イントロダクション 02. 英語学の諸分野 03. 国際語としての英語 04. 英語の音構造 1 ― 音声器官 05. 英語の音構造 2 ― 母音の分類、子音の分類 06. 英語の音構造 3 ― 音韻論 07. 英語の語構造 1 ― 形態論 08. 英語の語構造 2 ― 語の分類 09. 英語の語構造 3 ― 語形成 10. 英語の文構造:伝統文法 1 ― 科学的伝統文法の成立 11. 英語の文構造:伝統文法 2 ― スウィートとイエスパーセン 12. 英語の文構造:アメリカ構造主義 1 ― 構造主義の言語観 13. 英語の文構造:アメリカ構造主義 2 ― IC分析 14. 英語の文構造:生成変形文法 1 ― 生成変形文法的アプローチ 15. 英語の文構造:生成変形文法 2 ― 句構造規則 16. 英語の文構造:生成変形文法 3 ― 変形規則 17. 英語の意味構造 1 ― 意味論と比較文化論 18. 英語の意味構造 2 ― ChomskyとSaussureの理論的比較 19. インド・ヨーロッパ語族 20. 英語の歴史:古英語 1 ― 古英語の成立 21. 英語の歴史:古英語 2 ― 発音と文字 22. 英語の歴史:古英語 3 ― 文法 23. 英語の歴史:中英語 1 ― 発音と綴り字 24. 英語の歴史:中英語 2 ― 語彙と文法 25. 英語の歴史:近代英語 1 ― 近代英語の成立(シェイクスピアと欽定英訳聖書) 26. 英語の歴史:近代英語 2 ― 大母音推移と規範文法の成立 27. アメリカ英語 1 ― アメリカ英語の発音 28. アメリカ英語 2 ― アメリカ英語の語法・文法 29. 英語の未来像 30. 総合的まとめ												
カリキュラム上の位置付け 【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目 【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目														
(1) 内容 英語学に関する様々な分野、即ち音韻論・形態論・統語論・英語史等について概観します。統語論においては、伝統文法・アメリカ構造主義文法・生成変形文法を中心に講義します。本講義の一大特徴は、日本では、なかなか入手困難な、イギリスの著名な学者の朗読による「古英語や中英語などの当時の貴重な再現音声」を聞くことが出来る点です。授業の詳細については、最初の授業の時に、プリントで説明します。														
(2) 学びの意義と目標 グローバリゼーションという現代社会にあって、英会話にとどまらず、英語全般に関する様々な知識が、必須事項となって来ています。英語を学習、研究、教育する者ならば、知っておかなければならない知識を網羅します。		準備学習(予習) 毎回、10頁程度予習しましょう。テキストを予習して、ノートに重要点を纏めておいて下さい。予習・復習ノートは、提出してもらい、評価の一部とすることもありますので、日頃、予習・復習を励行して下さい。												
		準備学習(復習) 毎回、受講後すぐに、学習した項目を復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。												
受講者に対する要望 ある程度、英語基礎力の付いた2-4年次生に履修することをお勧めします。Word Formation(語形成)や古(いにしえ)の英語音の発音などに関心のある学生や教職課程履修者にお勧めします。		評価方法 <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>20%</td><td>授業への参加度</td></tr> <tr> <td>(2) 予習・復習ノート</td><td>10%</td><td>ノート提出</td></tr> <tr> <td>(3) 中間試験</td><td>35%</td><td>中間試験の成績</td></tr> <tr> <td>(4) 期末試験</td><td>35%</td><td>期末試験の成績</td></tr> </table> <p>予習と復習を励行するかどうか、定期試験の成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。</p>	(1) 平常点	20%	授業への参加度	(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出	(3) 中間試験	35%	中間試験の成績	(4) 期末試験	35%	期末試験の成績
(1) 平常点	20%	授業への参加度												
(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出												
(3) 中間試験	35%	中間試験の成績												
(4) 期末試験	35%	期末試験の成績												
学びのキーワード ・ 英語学の必須知識 ・ 音韻論・形態論・統語論・英語史 ・ 伝統文法 ・ アメリカ構造主義文法 ・ 生成変形文法		教科書 石黒 昭博 『現代の英語学』(金星堂) 参考書 学習指導要領。その他は、授業中に提示します。												

言語学概論		LING-A-202
担当教員： D. バーガー		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A710470
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける 【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業紹介、言語の本質 02. 言語について何が分かっているか（講義とディスカッション） 03. 言語知識：音体系・意味の知識、言語知識の創造性（講義とディスカッション） 04. 言語知識：文法の知識、記述文法、規範文法（講義とディスカッション） 05. 言語普遍性：文法の発達、手話：言語生得の証拠（講義とディスカッション） 06. 動物の「言語」（講義とディスカッション） 07. 人間の脳：脳の2つの側面、一側化の証拠、失語症の研究（講義とディスカッション） 08. 人間の脳、言語の文法的側面 I：形態論 — 単語の構造（講義とディスカッション） 09. 形態論—内容語と機能語（講義とディスカッション） 10. 形態論—形態素：意味の最小単位（講義とディスカッション） 11. 形態論—拘束形態素と自由形態素；グループワーク：形態論に関する問題を解決する 12. 言語の文法的側面 II：統語論 — 文構造（講義とディスカッション） 13. 統語論— 統語範疇、句構造樹等（講義とディスカッション） 14. 統語論— 句構造規則、グループワーク：統語論に関する問題を解決する 15. 言語の文法的側面 III：意味論 — 語の意味（講義とディスカッション） 16. 意味論— 意味特性、意味役割（講義とディスカッション） 17. 意味論—文の真実性、含意、隠喩、直示；グループワーク：意味論に関する問題を解決する 18. 言語の文法的側面 IV：音声学 — 言語の音（講義とディスカッション） 19. 音声学— 音標文字、調音音声学：子音（講義とディスカッション） 20. 音声学— 調音の位置、調音の方法（講義とディスカッション） 21. 音声学—調音音声学：母音、グループワーク：音声学に関する問題を解決する 22. 言語の文法的側面 V：音韻論 — 言語の音型（講義とディスカッション） 23. 音韻論— 音素：言語の音韻単位（講義とディスカッション） 24. 音韻論—形態素の発音；グループワーク：音韻論に関する問題を解決する 25. 言語変化：音変化の規則性、音韻変化（講義とディスカッション） 26. 言語変化：形態変化、統語変化（講義とディスカッション） 27. 言語変化：語彙変化、借用語、グループワーク：言語変化に関する問題を解決する 28. 言語習得：幼児言語習得の段階（講義とディスカッション） 29. 言語習得：言語習得の生物学的基盤、「生得説」（講義とディスカッション） 30. 言語習得：「臨界期仮説」、第2言語習得理論、グループワーク：言語習得に関する問題を解決する</div>
<div>(1) 内容</div> <div>この授業は言語学の入門講座である。言語の色々な様式（話しことば、手話、書き言葉）、人間の言語は動物のコミュニケーション手段とどのように異なるか等、われわれの言語知識の構成要素などを含む言語の本質を考察することから始まる。次に、人間の脳の言語機能についての簡単な紹介に続き、形態論、統語論、意味論、音声学、音韻論という言語研究の主な分野をそれぞれ順に概説する。最後に、言語がどのように変化するか、人間がどのように言語を習得するかについて紹介する。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ポントック語、チカソー語、トルコ語、アカン語等々）の事例を考察する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この授業を通して言語学の理解を深めると同時に、普段、無意識的に用いる言語の性質を認識することを望んでいる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>当日のワークシートを参照すること。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>言語の本質について関心がある者の受講を望む。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>講義を聞きながら記入したワークシートを復習すること。小テストのためにワークシートを復習すること。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">形態論統語論意味論音声学・音韻論言語習得</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>ビクトリア フロムキン、ニーナ ヒアムズ（著）、ロバート ロッドマン（著）、緒方 孝文（監修）『フロムキンの言語学』第7版、ピー・エヌ・エヌ新社 2006</div>

担当教員：M. サベット

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1A710710

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目

【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目

(1) 内容

This course focuses on writing and giving speech. Skills such as how to start and end a speech are taught. Students will be given many opportunities to give speeches in front of their classmates.

(2) 学びの意義と目標

(1) (全般) 聴衆の前でのスピーキング・スキルを上達させる。
(2) (言語) 英語で自分の考えを表現できる能力を上達させる。
(3) (文化) 英語と日本語におけるスピーキングの違いの理解を深める。

受講者に対する要望

Students should be able to give speeches in front of others, keeping in mind skills taught during the course.

学びのキーワード

- ・ public speaking
- ・ body language
- ・ intonation
- ・ content
- ・ ending

授業計画

01. Class Introduction and Course Information
02. Part I: The Physical Message
03. Informative Speech; Gestures
04. Informative Speech; Body Language
05. Speech #1
06. Layout Speech; Voice Inflection
07. Layout Speech; VoiceTone
08. Demonstration Speech Preparation
09. Demonstration Speech
10. Part II: The Story Message; Introduction
11. Part II: The Story Message; Main Body
12. Speech #2
13. Persuasive Speech (Script Format)
14. Persuasive Speech (Introduction)
15. The Body; Transitions
16. The Body; Sequencers
17. Persuasive Speech (Paragraphs)
18. Persuasive Speech (Main Body)
19. The Conclusion; Persuasive Speech Script
20. The Conclusion; Small Group Presentation
21. Speech #3
22. Part III: The Visual Message Using Graphs
23. Part III: The Visual Message Using Charts and Data
24. Making Visual Aids; Graphs
25. Making Visual Aids; PowerPoint
26. Part IV: Preparation for Full Presentation; Outline
27. Part IV: Preparation for Full Presentation; Script
28. Part IV: Preparation for Full Presentation; Small Group Practice
29. Part IV: Preparation for Full Presentation; Practice with Teacher
30. Final Speech

準備学習(予習)

Giving a speech requires preparation and students must write the main body of their speech before coming to class.

準備学習(復習)

Students are required to prepare for their speeches and come to class prepared.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 20% |
| (2) mini speeches | 60% |
| (3) final speech | 20% |

教科書

参考書

担当教員：M. サベット

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1A710820

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目

【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目

(1) 内容

Speech & Debate B focuses on debating skills in English.
Students start with simple debates and then slowly move to more difficult topics.

(2) 学びの意義と目標

The goals of the course are:
Speech and Debate Bは、英語のディベート・スキルに重きを置く。このコースの目標：

1. (general) to improve general debating skills; that is, effectively arguing for or against a proposition;
 2. (language) to improve your ability to express your opinions in English;
 3. (culture) to gain a better understanding of the importance of the exchange of ideas and opinions in a free society.
1. (全般) 効果的な議論および主張への反論をするためのディベート・スキルを上達させる。
 2. (言語) 英語で自分の意見を主張できる能力を上達させる。
 3. (文化) 自由社会において自分の考えおよび見解を意見交換することが、いかに重要であるかという理解を深める。

受講者に対する要望

Students should be able to express their opinions clearly.

学びのキーワード

- Debate
- Data
- Research
- Discussion
- Opinion

授業計画

01. Class Introduction and Course Information
02. Opinions
03. Agreeing
04. Disagreeing
05. Explaining Your Personal Opinion
06. Explaining Your Opinion with Facts
07. Preparation for Debate #1
08. Debate #1
09. Supporting Your Opinion with Expert Opinion
10. Supporting Your Opinion with Data
11. Organizing Your Opinion with Supporting Paragraphs
12. Organizing Your Opinion; Forming the Main Body
13. The “1AC”
14. Preparation for Debate #2
15. Debate #2
16. Refuting Explanations Using Polite Language
17. Refuting Explanations Using Firm Language
18. Tennis Debate: Affirmative
19. Tennis Debate: Negative
20. Challenging Supports
21. Preparation for Debate #3
22. Debate #3
23. Organizing Your Refutation: the “1NC” : Gathering Data
24. Organizing Your Refutation: the “1NC” : Forming the Body
25. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches: Controlled Debate
26. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches: Small Group Work
27. Preparation for Formal Debate During Test Week: Outline
28. Preparation for Formal Debate During Test Week: Script
29. Preparation for Formal Debate During Test Week: Group Practice
30. Final Debate

準備学習(予習)

Students are required to do research and collect data before each debate. Must work as a team and contribute to their group.

準備学習(復習)

Students must search for data and information in order to be ready for next debate.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 40% |
| (2) Mini Debate | 40% |
| (3) Final Debate | 20% |

教科書

参考書

担当教員：東 仁美

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1A711510

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】小学校英語指導者資格：必修科目

(1) 内容

児童英語教育についての概要や背景となる理論を学ぶ。また小学校外国語活動の目的と意義、国際理解教育、第二言語習得についても理解を深める。授業は講義のほか、経験的に学んでいくグループワークを実施する。児童英語教育科目の中の入門的な講座である。

(2) 学びの意義と目標

児童英語教育の概要と共に、英語運用力についても学ぶ。子どもに英語を教えるという観点から、「自分の学び」とともに「教える」という視点と責任感が求められる。

受講者に対する要望

「教える」ことを学ぶ以上、他者と積極的にかかわり学びを共有しながら共に成長していこうとする意識を持って参加すること。

学びのキーワード

- ・外国語教育の目的
- ・母語習得と第二言語習得
- ・国際理解教育
- ・4技能の指導
- ・指導技術

授業計画

01. イントロダクション 外国語教育の意義
02. 母語習得と第二言語習得
03. 指導者の役割、小学校英語指導者の登録制度
04. 領域としての外国語活動の意義、外国語活動の教材
05. 学習指導要領の理解、年間指導計画
06. 言語材料と4技能の指導
07. 教材研究
08. 国際理解教育
09. 指導法と指導技術
10. 教材・教具の活用法
11. 評価の在り方、進め方
12. 教室運営、授業づくり
13. これからの小学校英語教育 領域から教科へ
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーション、まとめ

準備学習(予習)

前時に指示された教科書の指定箇所及びプリントを読んでから授業に臨むこと。

準備学習(復習)

リフレクションシートに授業の振り返りを記入し、次授業に備える。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加、貢献 | 20% |
| (2) リフレクションシート | 20% |
| (3) プレゼンテーション | 30% |
| (4) レポート | 30% |

教科書

文部科学省 『Hi, friends! 1』 (東京書籍)
 文部科学省 『Hi, friends! 2』 (東京書籍)
 樋口 忠彦, 加賀田 哲也, 泉 恵美子, 衣笠 知子 『小学校英語教育法入門』 (研究社)

参考書

児童英語教育(カリキュラム・デザイン)		ENGE-A-202							
担当教員： 澁井 とし子									
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1A711620							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】 人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 小学校における英語教育の意義 02. 小学生の特徴と英語活動の役割 03. 英語教育方法と評価方法 04. カリキュラム作りのポイント 05. 指導者に求められる資質 06. クラスルームイングリッシュの活用 07. 小中連携 08. 1回の授業の組み立て方 09. 授業の流れ① 10. 授業の流れ② 11. 授業の振り返り、自己評価 12. カリキュラム作り① 13. カリキュラム作り② 14. カリキュラム作り③ 15. プレゼンテーション</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【A】 小学校英語指導者資格：必修科目</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>2011年に小学校5、6年生で年間35時間の外国語活動が必修化されたが、その後学校英語教育は更に大きな転換期を迎えている。それにより小学校で英語を教える指導者が益々求められている。この授業では、公立小学校での英語活動の基礎知識を身につけ、カリキュラム作りに必要な学習目標、学習内容、指導方法などを研究していく。様々な活動例を基に、実際に単元計画と1時間の指導案を作成することを課題とする。</div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>公立小学校での外国語活動必修化後の最新の動向を把握しつつ、指導者として今何をすべきかを検証していく。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>40ポケット程度のファイルを用意すること。レポート作成の課題が多いが、教える立場になったことを考えてレポートを作成してほしい。指導計画作成、授業準備をクラスで協力して行うこと。</div>							
<div>受講者に対する要望</div> <div>参加型の授業である。教壇に立って教えることを見据えて積極的に取り組んでほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>自分が将来行う授業をイメージしていけるよう、毎回講義で学んだことの見直しをすること。プレゼンテーション後のフィードバックを参考に自身の指導力を振り返ること。</div>							
		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 指導案作成</td><td>30%</td></tr><tr><td>(4) 学期末課題</td><td>20%</td></tr></table></div>		(1) 授業への参加度	30%	(2) レポート	20%	(3) 指導案作成	30%
(1) 授業への参加度	30%								
(2) レポート	20%								
(3) 指導案作成	30%								
(4) 学期末課題	20%								
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 小学校英語教育・ 外国語活動・ 指導案作成・ 模擬授業</div>		<div>教科書</div> <div>岡秀夫、金森強著 小学校外国語活動の進め方「ことばの教育」として 成美堂 文部科学省 Hi, friends! 1 東京書籍 文部科学省 Hi, friends! 2 東京書籍</div> <div>参考書</div> <div>文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語活動編 東洋館出版社</div>							

児童英語教育(ワークショップA)

ENGE-A-203

担当教員：A. クラウス

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1A711830

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】小学校英語指導者資格：必修科目

(1) 内容

Teaching English to children is different from teaching English to older learners. Teachers need techniques and methods specifically for children. In this class, you will learn about these methods and the theories behind them. You will also have a chance to polish your classroom language and your teaching skills by preparing activities, songs, and picture books to present to classmates. Halloween and Christmas activities will also be included, as well as online resources.

(2) 学びの意義と目標

The goals are learning how children learn languages and learning methods to teach languages to children.

受講者に対する要望

Students are expected to read about the topics, pass daily quizzes on material presented in the class before, and practice presenting activities designed for children.

学びのキーワード

- ・ teaching methods
- ・ children
- ・ teaching materials

授業計画

01. Introduction to teaching children
02. Classroom language
03. Warm-up activities
04. Warm-up activities (Student presentation 1)
05. Lesson planning
06. Activities using pictures
07. What is Halloween?
08. Halloween activities
09. The importance of listening
10. Activities for teaching listening, TPR
11. Materials for teaching children 1
12. Materials for teaching children 2
13. Online resources 1
14. Online resources 2
15. Songs and chants
16. Songs and chants (Student presentation 2)
17. Activities for teaching speaking
18. Teaching dialogs
19. Multiple intelligence theory
20. Teaching to different learning styles
21. Activities using cards 1
22. Activities using cards 2
23. What is Christmas? Christmas songs
24. Christmas activities
25. Picture books 1
26. Picture books 2
27. Theme-based lessons
28. Teaching reading and writing
29. Picture books (Student presentation 3)
30. Picture books (Student presentation 3) cont.

準備学習(予習)

Before class, students will prepare activities to present.

準備学習(復習)

Before and after class, students will read materials about the topics presented in class.

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) class participation | 20% |
| (2) presentations | 50% |
| (3) quizzes | 20% |
| (4) assignments | 10% |

教科書

松香洋子 『小学生は英語が大好き ―72 Activities 1 基礎編』 (松香フォニックス研究所)

参考書

児童英語教育(ワークショップB)		ENGE-A-204	
担当教員：小川 隆夫			
学期：週間授		科目：専門科目	必修・選択：選択科目
単位：4		コード：1A711940	
学部教育の関連目		授業計画	
【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける		01. 自らの英語習得を振り返る 02. 小学校外国語活動の変遷とこれから 03. 子どもの言語習得 04. 英語教授法 05. Classroom English 06. Teacher talkとジェスチャー 07. レッスンプランの立て方 08. アクティビティー 09. 歌とチャンツ 10. 絵本の活用とストーリーテリング 11. 語彙学習に有効な活動 12. 低学年の指導—理論と実践 13. 中学年の指導—理論と実践 14. Hi friends!1に見る小学校英語活動分析 15. Hi friends!1を使用した実践 16. Hi friends!2に見る小学校英語活動分析 17. Hi friends!2を使用した実践 18. 文字指導とその意義 19. フォニックス 20. 授業の組み立て方と運営 21. Team Teaching 22. Team Teachingの実践 23. ICTの活用 24. 評価 25. 小学校外国語活動と中学校英語の接続 26. 研究実践発表 1 27. 研究実践発表振り返り 1 28. 研究実践発表2 29. 研究実践発表振り返り 2 30. まとめと振り返り	
カリキュラム上の位置付け			
【A】小学校英語指導者資格：必修科目			
(1) 内容			
小学校における英語指導は、平成23年度から高学年で必修となったが、現在は高学年の教科化、中学年の必修化が目前となっている。指導者もその流れを敏感に感じ取り、柔軟に対応出来る力を身につける必要がある。また、中学校、高等学校教員免許取得の場合にも、小学校で英語学習を行ってきた生徒をいかに受け入れ、指導していくかが課題となってくる。従って、本講義では、小学校外国語活動を指導するにあたり必要な理論、指導法の知識を得るとともに、小学校中学校の教育現場で役立つ具体的な活動の実践演習を行う。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
教師として教壇に立つ前に、小学校で使用頻度の高い教材について十分に把握することや、子供の反応を知っておくことは大切である。現場での事例を知り、学生間で議論を交わしながら、小学校外国語活動の様々な事項にも柔軟に対応できる力を身に付けることを目標とする。		指導書Hi, friends!の指定箇所に通してから授業に臨むこと。実践発表前には、活動案及び教材準備をして臨むこと。	
		準備学習(復習)	
		各回で配布された資料及びその内容をノートまたはファイルに整理し、演習で使った教材なども含めてファイリングしておくこと。レポートが課された場合は、期日までに仕上げて提出すること。	
受講者に対する要望		評価方法	
話にしっかり耳を傾け、積極的な講義への参加を期待する。講義においては、小学校英語指導に関わる事柄を紹介し、学生間の意見交換も行うため、全講義出席を基本とする。 小学校英語指導者資格を目指す学生のみならず、小学校教員を目指す学生、中高英語教員を目指す学生も受講して欲しい。		(1) 授業への参加度 20% (2) 実践発表 30% (3) レポート 30% (4) 指導案 20%	
		授業では活発な意見交換や討議を実施するため積極性を評価する。	
学びのキーワード		教科書	
・ 小学校外国語活動 ・ 子供のための指導法 ・ 教室英語 ・ 歌、絵本、アクティビティー ・ ティーム・ティーチング		文部科学省 『Hi, friends! 1』 (東京書籍) 文部科学省 『Hi, friends! 2』 (東京書籍)	
		参考書	
		小川隆夫『先生、英語やろうよ! 1』 mp1松香フォニックス、小川隆夫『高学年のための小学校英語 先生英語やろうよ! 2』 mp1松香フォニックス、佐藤久美子・松香洋子『きょうから私も英語の先生』玉川大学出版	

児童英語教育(インターンシップI)		ENGE-A-302	
担当教員： 東 仁美			
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1A712060	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】 人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 事前指導事後指導を含めて60時間の実習を課する。実習までに指導案作成、教材作成、模擬授業などの事前指導を行う。</div> <div>02. 観察実習 1</div> <div>03. 観察実習 2</div> <div>04. 観察実習 3</div> <div>05. 観察実習 4</div> <div>06. 観察実習 5</div> <div>07. 観察実習 6</div> <div>08. 観察実習 7</div> <div>09. 観察実習 8</div> <div>10. 観察実習 9</div> <div>11. 観察実習 10</div> <div>12. 観察実習 11</div> <div>13. 観察実習 12</div> <div>14. 観察実習 13</div> <div>15. 観察実習 14 事後指導 </div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【A】 小学校英語指導者資格：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>児童英語教育の観察実習をする。公立小学校での授業を見学する。週1回の観察実習のほかに、実習の事前指導がある。授業観察後、毎回実習レポートを提出する。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>小学校英語指導者資格の必修科目である。小学校現場で実際の英語活動の実践を見学し、児童英語教育への理解を深める。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で使う指導案を理解した上で事前指導を受け、授業に参加する。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>実習終了後、速やかに実習レポートを作成し、提出する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>「学生」ではなく、公教育の場で「指導者」としてふるまい、責任を持った行動をしてほしい。児童英語教育の他科目をできるだけ多く履修し、小学校英語の理論と実践を身に付けた上でインターンシップIを履修してほしい。英検二級程度の英語力を持った学生の履修が望ましい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 実習60%</div><div>(2) レポート20%</div><div>(3) 事前事後指導20%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 観察実習</div><div>・ 英語活動</div><div>・ 振り返り</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

児童英語教育（インターンシップII）		ENGE-A-401	
担当教員： 東 仁美			
学期： 集中講		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1A712170	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】 人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 事前指導事後指導を含めて60時間の実習を課する。実習までに指導案作成、教材作成、模擬授業などの事前指導を行う。</div> <div>02. 授業実習 1</div> <div>03. 授業実習 2</div> <div>04. 授業実習 3</div> <div>05. 授業実習 4</div> <div>06. 授業実習 5</div> <div>07. 授業実習 6</div> <div>08. 授業実習 7</div> <div>09. 授業実習 8</div> <div>10. 授業実習 9</div> <div>11. 授業実習 10</div> <div>12. 授業実習 11</div> <div>13. 授業実習 12</div> <div>14. 授業実習 13</div> <div>15. 事後指導</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【A】 小学校英語指導者資格：選択科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>児童英語教育の授業実習をする。公立小学校での英語活動での授業を担当する。週1回の授業実習のほかに、指導案作成、教材作り、模擬授業など週2～3回の事前指導がある。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>児童英語教育科目の集大成として、英語のみで1時間の授業を指導する力をつけていく。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>指導案作成、教材研究をする。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業を振り返り、実習レポートを作成する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>「学生」ではなく、公教育の場で「指導者」としてふるまい、責任を持った行動をしてほしい。児童英語教育の他科目をできるだけ多く履修し、小学校英語の理論と実践を身に付けた上でインターンシップIIを履修してほしい。英検二級程度の英語力を持った学生の履修が望ましい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 実習60%</div><div>(2) レポート20%</div><div>(3) 事前事後指導20%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 英語活動</div><div>・ 授業実習</div><div>・ 指導案作成</div><div>・ 模擬授業</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

単位： 4 コード： 1A712701

01. オリエンテーション
02. Focus on Form、コミュニケーションのための文法
03. 名詞、冠詞、代名詞
04. 形容詞と副詞
05. 動詞と文型
06. 動詞と文型、ワークショップ（品詞）
07. 動詞と時制
08. 動詞と時制
09. 動詞と時制、完了形
10. 動詞と時制、完了形、ワークショップ（時制）
11. 助動詞
12. 態、ワークショップ（助動詞、態）
13. 不定詞
14. 不定詞と動名詞
15. 不定詞と動名詞、ワークショップ（不定詞と動名詞）
16. 分詞
17. 分詞、分詞構文、ワークショップ（分詞）
18. 比較
19. 関係詞
20. 関係詞
21. 関係詞、アクティビティ（関係詞）
22. 模擬授業について
23. 仮定法
24. 仮定法
25. 否定、ワークショップ（仮定法と否定）
26. 模擬授業準備
27. 模擬授業（1）
28. 模擬授業（2）
29. 模擬授業（3）
30. まとめ

(1) 内容

中学および高校の既習英文法を復習しながら、その指導法を学ぶ。学習者としての経験から、理解・習得が困難であった文法項目について考察し、いかなるアプローチが学習者にとって有効であるかを検討する。また、文法の基礎知識はコミュニケーションに不可欠であることを念頭におき、英語を実践的に使用する際に必要とされる文法について考える。

(2) 学びの意義と目標

本講義の目的は、英文法の学習者の視点と指導する立場からの視点とを同時に持つことで、英文法への理解を深め、効果的な指導法を考え、こころを高める。自らの英語コミュニケーション能力を高め、基本的文法知識を身につけ、かつ英語を教える際の指導法の可能性について考察を深める。

受講者に対する要望

英語教育に関心があり、英文法の基礎を復習する
意欲のある者の受講を望む

学びのキーワード

- 英文法
- 英語教育

準備學習(予習)

授業計画を参照し、扱われる項目について英文法の参考書で確認をしておくこと

準備學習(復習)

既習の文法項目についてまとめ、ミニテストへの準備、および模擬授業にいかに関与するかを検討すること

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 出席・授業参加 | 30% |
| (2) ミニテスト・レポート提出等 | 30% |
| (3) 模擬授業・マイクロティーチング | 20% |
| (4) 試験・レポート提出 | 20% |

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』(開隆館出版販売)
高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1』(三省堂)2016年度版
高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2』(三省堂)2016年度版
高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3』(三省堂)2016年度版

参考書

担当教員：村瀬 天出夫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1A712890

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

現在私たちが生活する世界では、人やモノ、お金、さらに文化現象が国境を越えて「地球的」（「グローバル」）な規模で移動・伝播し、また国籍や文化的な出自が異なる人同士が一緒に生活し働いています。このように様々な国籍と多様な文化が共存している世界が「グローバル化」した社会であると説明されます。しかし、このような社会は現在、日本で生活する大学生にとって、特別に新しいことではなく、もはや当たり前の状況でもあります。また同時に「グローバル」という言葉自体が使い古されて陳腐化した言葉になりつつあると言えます。

本講義はこの「グローバル」という言葉を批判的に捉えつつ、その背後にある身近な（「ローカル」な）社会現象を見ていきます。いわば私たちが生活する「ローカル」な空間における「グローバル」な事柄を学んでいきます。そして、そのような状況で発生しうる社会的な問題だけでなく、そこで大学生や若者が漠然と抱くであろう「とまどい」を明らかにし、それらを希望へと変えていく態度を学んでいきます。そのことによって現在の日本で生活する大学生が身につけるべき視点と考え方を習得します。

(2) 学びの意義と目標

他者・異文化に対するとまどい・恐れを越えるための方法・アプローチを考える能力を養う。同時に、日本で生活する大学生としての自分自身をみつめ、社会人をめざすにあたっての課題と展望を考え、希望を想像する能力を培う。

受講者に対する要望

授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

学びのキーワード

- ・異文化
- ・大学生と社会人
- ・アイデンティティ
- ・他者理解
- ・現代社会

授業計画

01. イントロダクション
02. 問題設定：「グローバルであるとはどういう意味だろうか？」
03. 「グローバル文化」を理解するためのキーワード
04. 私たちの身近にある「グローバル文化」を見つけてみる
05. 国籍と国境：その意味、その限界
06. 経済の「グローバル化」
07. 「日本人」とはどのような人を指すのか？
08. ディスカッション①
09. 問題設定：「大学生はグローバル文化とどう接するのだろうか？」
10. 隣の留学生：異文化との接触
11. 留学：「外国人」になってみることは？
12. 外国語教育と日本語教育
13. メディアとのつきあい方
14. ディスカッション②
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業内で配布される資料・テキストを読んでください。また課題についても授業内で指示します。

準備学習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 期末レポート | 60% |
| (2) 授業への参加度 | 40% |

教科書

参考書

小林誠ほか編『グローバル文化学：文化を超えた協働』法律文化社、2011年。

グローバル文化特論		EACL-A-303
担当教員： 村瀬 天出夫		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1A712891
学部教育の関連目		授業計画
【A】 人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
現在私たちが生活する世界では、人やモノ、お金、さらに文化現象が国境を越えて「地球的」（「グローバル」）な規模で移動・伝播し、また国籍や文化的な出自が異なる人同士が一緒に生活し働いています。このように様々な国籍と多様な文化が共存している世界が「グローバル化」した社会であると説明されます。しかし、このような社会は現在、日本で生活する大学生にとって、特別に新しいことではなく、もはや当たり前の状況でもあります。また同時に「グローバル」という言葉自体が使い古されて陳腐化した言葉になりつつあると言えます。本講義はこの「グローバル」という言葉を批判的に捉えつつ、その背後にある身近な（「ローカル」な）社会現象を見ていきます。いわば私たちが生活する「ローカル」な空間における「グローバル」な事柄を学んでいきます。そして、そのような状況で発生しうる社会的な問題だけでなく、そこで大学生や若者が漠然と抱くであろう「とまどい」を明らかにし、それらを希望へと変えていく態度を学んでいきます。そのことによって現在の日本で生活する大学生が身につけるべき視点と考え方を習得します。		01. イントロダクション 02. 問題設定：「グローバルであるとはどういう意味だろうか？」 03. 「グローバル文化」を理解するためのキーワード 04. 私たちの身近にある「グローバル文化」を見つけてみる 05. 国籍と国境：その意味、その限界 06. 経済の「グローバル化」 07. 「日本人」とはどのような人を指すのか？ 08. ディスカッション① 09. 問題設定：「大学生はグローバル文化とどう接するのだろうか？」 10. 隣の留学生：異文化との接触 11. 留学：「外国人」になってみることは？ 12. 外国語教育と日本語教育 13. メディアとのつきあい方 14. ディスカッション② 15. まとめとふりかえり
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
他者・異文化に対するとまどい・恐れを越えるための方法・アプローチを考える能力を養う。同時に、日本で生活する大学生としての自分自身をみつめ、社会人をめざすにあたっての課題と展望を考え、希望を想像する能力を培う。		授業内で配布される資料・テキストを読んでください。また課題についても授業内で指示します。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。		授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。
学びのキーワード		評価方法
・ 異文化 ・ 大学生と社会人 ・ アイデンティティ ・ 他者理解 ・ 現代社会		(1) 期末レポート 60% (2) 授業への参加度 40%
		教科書
		参考書
		小林誠ほか編『グローバル文化学：文化を超えた協働』法律文化社、2011年。

担当教員：K. O. アンドスン

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1A802280

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

This course is designed to provide students with opportunities to learn the necessary academic vocabulary and intermediate to advance level English listening and speaking skills that will serve as the foundation for further preparatory work as they prepare to study abroad in a university environment.

(2) 学びの意義と目標

The purpose of this course is to help students develop critical thinking and be able to formulate and discuss their views and ideas.

受講者に対する要望

Students should fully prepare and finish any homework or presentations before they are due and they are encouraged to consult with the teacher outside of class if they need help.

学びのキーワード

- belonging to a group
- gender roles
- media and society
- crime and criminals
- cultural cha

授業計画

01. Course Introduction: TOEFL Listening; vocabulary building
02. word lists and learning strategies
03. focus on the family: marriage
04. focus on the family: marriage, cont.
05. focus on the family: home life
06. focus on the family: home life, continued
07. comparison of Japanese, American, etc., family life
08. groupthink: what is it?
09. groupthink: how does it affect family life?
10. groupthink: how does it affect family life?, continued
11. groupthink: how does it affect family life?, continued
12. cultural values: gender roles and education
13. cultural values: gender roles and education, cont.
14. cultural values: gender roles and education, cont.
15. cultural values: gender roles and education, cont.
16. midterm exam
17. gender issues in society: the world
18. gender issues in society: American society
19. gender issues in society: Japanese, etc. society
20. cultural change: why do cultures change?
21. cultural change: how do cultures change?
22. cultural change: is change positive or negative?
23. presentations
24. presentations
25. global issues: war and peace
26. global issues: war and peace
27. global issues: environmental concerns
28. global issues: environmental concerns, cont.
29. global issues: becoming "global citizens"
30. over all review of class content

準備学習(予習)

Students should have homework done and be totally prepared for presentations and class discussions before the next class and should consult the teacher outside of class when they need help.

準備学習(復習)

Students should review what they have covered in class and take comments on their classwork under consideration in preparing for future classes.

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) homework | 20% |
| (2) class participation | 15% |
| (3) presentation | 25% |
| (4) two exams | 40% |

教科書

参考書

Kim Sanabria 『Academic Listening Encounters Life in Society Student Book』 (Cambridge University Press)

TOEFL B									
担当教員： 櫻井 智美 学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： 1A802650									
学部教育の関連目	授業計画								
カリキュラム上の位置付け	01. オリエンテーション、Placement Test <small>Module 1: Lesson 1 Listening: Understanding agreement and disagreement (short dialogues)</small> 02. <small>Module 1: Lesson 2 Listening: Understanding gist(extended conversations/academic mini-talks)</small> 03. <small>Module1: Lesson 3 Structure: Verb tenses (present simple, present progressive, past simple, past progressive)</small> 04. <small>Module1: Lesson 4 Structure: Verb tenses (present perfect, past perfect, future perfect)</small> 05. Module 1: Lesson 5 Reading: Understanding gist 07. Module 1: Lesson 6 Reading: Understanding purpose 08. Progress Test 1 <small>Module 2: Lesson 1 Listening: Understanding negatives (short dialogues)</small> 09. <small>Module 2: Lesson 2 Listening: Understanding specific information (extended conversations/ academic mini-talks)</small> 10. 11. Module 2: Lesson 3 Structure: Articles 12. Module 2: Lesson 4 Structure: Comparatives and superlative 13. Module 2: Lesson 5 Reading: Understanding specific information 14. Module 2: Lesson 6 Reading: Understanding pronoun referenc 15. Progress Test 2 <small>Module 3: Lesson 1 Listening: Understanding idiomatic expressions (short dialogues)</small> 16. <small>Module 3: Lesson 2 Listening: Understanding implication (extended conversations/ academic mini-talks)</small> 17. 18. Module 3: Lesson 3 Structure: Participles 19. Module 3: Lesson 4 Structure: Prespositions 20. Module 3: Lesson 5 Reading: Understanding unfamiliar words 21. Module 3: Lesson 6 Reading: Understanding implication 22. Progress Test 3 <small>Module 4: Lesson 1 Listening: Understanding wishes and the conditional (short dialogues)</small> 23. <small>Module 4: Lesson 2 Listening: Integrating listening skills (extended conversations/ academic mini-talks)</small> 24. <small>Module 4: Lesson 3 Structure: Plurals (including count and noncount nouns)</small> 25. Module 4: Lesson 4 Structure: Present modals 27. Module 4: Lesson 5 Reading: Understanding attitude 28. Module 4: Lesson 6 Reading: Integrating reading skills 29. Progress Test 4 30. Summary								
(1) 内容 TOFELとはTest of English as a Foreign Languageの略称で世界中で受験されている英語運用能力テストである。TOEICがビジネスコミュニケーション重視であるのに対し、TOEFLは北米の大学で学ぶことができる英語力を測るテストであるため、アカデミックな内容が多く出題される。 本講義ではリスニングとリーディングに重点を置き、問題を解くためのスキルの習得、重要なポイントの解説、基礎・応用練習、そして試験問題と同じ形式の問に答える実践練習を行う。さまざまな練習問題を通じ、TOEFLに必要なリスニング力、単語力、読解力、文法理解力など総合的な英語能力の養成を目指す。また日常会話力の向上のための活動も行う。									
(2) 学びの意義と目標 1. TOEFLの出題形式と内容を知ること。 2. 自己学習の方法を学ぶこと。 3. 授業中で学んだ単語・熟語を各自復習して覚えること。	準備学習(予習) 授業で次の予告をするので、予告された部分に目を通しわからない部分を明確にしておくこと。								
	準備学習(復習) 毎回単語のクイズを行うので、授業で学んだ単語や熟語を復習すること。 授業中に間違った練習問題は必ず復習し、不明な点をなくしておくこと。								
受講者に対する要望 1. 授業に集中して取り組むこと。 2. 単語クイズのための自主学習をすること。 3. 定期試験は時間をかけて準備すること。 4. T O EFLーIPを受験すること。	評価方法 <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>15</td></tr> <tr> <td>(2) 単語テスト</td><td>3 0</td></tr> <tr> <td>(3) プログレステスト&期末テスト</td><td>5 0</td></tr> <tr> <td>(4) TOEFLー ITP</td><td>5</td></tr> </table>	(1) 平常点	15	(2) 単語テスト	3 0	(3) プログレステスト&期末テスト	5 0	(4) TOEFLー ITP	5
(1) 平常点	15								
(2) 単語テスト	3 0								
(3) プログレステスト&期末テスト	5 0								
(4) TOEFLー ITP	5								
学びのキーワード ・ TOEFL Test ・ ITP & IBT ・ リスニング ・ リーディング ・ 文法	教科書 Boost Your English-Practice for TOEFL ITPー 1 参考書								

担当教員：D. バーガー

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1A803890

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

This is an introductory course in reading for academic purposes; in other words, students will learn reading skills they will need to be successful in a college-level class in an English-speaking country. In order to read successfully, students must increase their vocabulary and read outside of class, so vocabulary learning and extensive reading (多読) are major focuses of the course. In addition, students will discuss and write about what they have read in order learn to think more critically.

(2) 学びの意義と目標

This course will benefit students who want to improve their English and is particularly important for students who want to study abroad. Students who take both College Reading Skills and College Writing Skills can learn two of the most important skills they need to study abroad.

受講者に対する要望

Actively reading outside class, learning new vocabulary, and participating in class are absolutely essential.

学びのキーワード

- Extensive Reading (多読)
- English for academic purposes (学問上の目的のための英語)
- Vocabulary
- Study Abroad
- College-level

授業計画

01. Course introduction; Academic Reading Topic 1
02. Pre-reading, reading strategies
03. Pre-reading, reading strategies
04. Reading comprehension
05. Reading comprehension
06. Reading comprehension
07. Vocabulary learning
08. Vocabulary learning
09. Review: Talking and writing about reading
10. Review: Talking and writing about reading
11. Academic Reading Topic 2
12. Pre-reading, reading strategies
13. Pre-reading, reading strategies
14. Reading comprehension
15. Reading comprehension
16. Reading comprehension Academic Reading Focus 4: Geology
17. Vocabulary learning Pre-reading, reading strategies
18. Vocabulary learning Reading comprehension
19. Review: Talking and writing about reading
20. Review: Talking and writing about reading
21. Academic Reading Topic 3
22. Pre-reading, reading strategies
23. Pre-reading, reading strategies
24. Reading comprehension
25. Reading comprehension
26. Reading comprehension
27. Vocabulary learning
28. Vocabulary learning
29. Review: Talking and writing about reading
30. Review: Talking and writing about reading

準備学習(予習)

Students should preview the text lesson, read other English materials every day, and keep a list of new vocabulary.

準備学習(復習)

Quizzes and class discussion, as well as recycling of vocabulary, will help students review what they have studied.

評価方法

- | | | |
|-------------------------|-----|---------|
| (1) Class participation | 25% | 授業への参加度 |
| (2) Homework | 25% | 宿題 |
| (3) Quizzes | 25% | 小テスト |
| (4) Final exam | 25% | 期末試験 |

教科書

Cheryl Benz 『College Reading Book 1 (256 pp) (Houghton Mifflin English for Academic Success)』(センゲージ・ラーニング)

参考書

担当教員：K. O. アンダスン

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1A803900

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

1. 内容: この授業では英語論文を書くために必要な技能を修得する。段落の組み立て方、文章のまとめ方、時間的順位、原因と結果、比較と対象などを論文中にどのように用いまとめ、立証的な論文を作成するかを学ぶ。また他人の文章、考えの盗用の危険性を強調し、MLA Handbook for Writers of Research Paper, Sixth Edition を用い研究方法、出典文献の用い方なども身につける。

(2) 学びの意義と目標

The purpose of this class is to help student improve their writing skills through learning how to brainstorm and organize their ideas; better understand writing structure in English and practice writing on assigned themes; improve essays through self-editing, peer review and consultations with the teacher; and learning how to use and cite sources as specified by the MLA Handbook. The ultimate goal of this class is to raise students' writing ability enough to gain higher scores on tests of English needed for studying overseas.

受講者に対する要望

Students should always come prepared to class and should meet deadlines. They should be willing to work with other students in editing their own or other students' papers. They should also be willing to revise their papers as needed to improve their essays.

学びのキーワード

- ・ structure and organization
- ・ chronological order
- ・ process essays
- ・ cause and effect essays

授業計画

01. types of sentences
02. types of sentences, continued
03. types of sentences, continued
04. from paragraph to essay
05. from paragraph to essay, continued
06. from paragraph to essay, continued
07. chronological order: process essays
08. process essays, continued
09. process essays, continued
10. process essays, continued
11. process essays, continued
12. cause and effect essays
13. cause and effect essays, continued
14. cause and effect essays, continued
15. cause and effect essays, continued
16. cause and effect essays, continued
17. comparison/contrast essays
18. comparison/contrast essays continued
19. comparison/contrast essays, continued
20. comparison/contrast essays, continued
21. comparison/contrast essays, continued
22. paraphrase and summary
23. paraphrase and summary, continued
24. paraphrase and summary, continued
25. paraphrase and summary, continued
26. argumentative essays
27. argumentative essays, continued
28. argumentative essays, continued
29. argumentative essays, continued
30. review for the final exam

準備学習(予習)

予習を必ず行い、宿題は必ず締め切り厳守で提出する。遅刻をせず毎回の授業への出席を心がける。

準備学習(復習)

Students should read the teachers' comments on their work carefully, understand them, and be able to discuss the ideas in their completed ideas.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) participation | 10% |
| (2) homework | 30% |
| (3) quizzes | 30% |
| (4) final exam | 30% |

教科書

Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』 (Pearson/Longman 2006)

参考書

英語スピーチ発音法

ENGL-A-203

担当教員： 加曽利 実

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 2 コード： 1A804050

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

英語音声学で築いた基礎知識と発音能力を、更にブラッシュアップする。

(1) 内容

ネイティブ・スピーカーに通じる「英語の表現力と聴解力」を身につけるためには、まず基本的な発声法と英語の発音ができていなければなりません。ネイティブ・スピーカーとコミュニケーションを行ったり、人前でスピーチを行うためには、ネイティブ・スピーカーが用いる「自然な英文」を覚え、スピーキング力とリスニング力をアップさせて行くことが効果的です。
更に、英語の常識を身につけましょう。特に、この授業では、米国独立宣言や米国大統領の演説を用いて、現代日本社会で生きて行くために必須となる「民主主義の本質」を学んだり、実用的な英会話教材により、スピーチの発音法を練習したりします。CALL(L L)教室を使用します。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。

(2) 学びの意義と目標

生きた英語表現を身につけるための理論と実践を行います。発音練習を行いながら、機能語を中心とする「演説に基づく表現力とリスニングのポイント」を学習し、実践力を養います。

受講者に対する要望

本授業は、春学期の「英語音声学」を履修した後に、履修した方が、より効果的に学習できます。英語学習の基盤となる「英語音声学」との大きな違いは、呼吸法・解剖学的考察・省略発音・米語演説法などといった「応用理論の実践」にあります。

学びのキーワード

・英語音声学の実践・応用

・呼吸を中心とした解剖学入門

・日米比較音声学

・省略発音英語・実用英会話

・大統領の演説の練習

授業計画

01. 効果的な英語学習方法について

02. 呼吸法・発声法概観

03. 音声学的見地からの解剖学 1 ― 人体解剖学と呼吸法

04. 音声学的見地からの解剖学 2 ― 呼吸法(胸式呼吸と腹式呼吸)と発声法

05. 音声学的見地からの解剖学 3 ― 効果的な発声練習の仕方

06. 日米比較音声学 1 ― 英語と日本語の母音

07. 日米比較音声学 2 ― 英語と日本語の子音

08. 日米比較音声学 3 ― 英語と日本語の音声的特徴の比較

09. 省略発音英語 1 ― 非省略英語と省略英語

10. 省略発音英語 2 ― 非省略英語と省略英語の階層的・発想的差

11. 省略発音英語 3 ― 非省略英語と省略英語の口頭練習

12. リンカーン大統領の演説の分析と練習 1 ― ゲティスバーグ演説の歴史的意義

13. リンカーン大統領の演説の分析と練習 2 ― ゲティスバーグ演説の内容分析

14. リンカーン大統領の演説の分析と練習 3 ― ゲティスバーグ演説と民主主義の本質

15. リンカーン大統領の演説の分析と練習 4 ― ゲティスバーグ演説と日本国憲法

16. ケネディ大統領の演説の分析と練習 1 ― ケネディ大統領の演説に見られる傾向と特性

17. ケネディ大統領の演説の分析と練習 2 ― 大統領就任演説の解説・分析

18. ケネディ大統領の演説の分析と練習 3 ― 就任演説の口頭反復練習

19. ケネディ大統領の演説の分析と練習 4 ― 就任演説と日本の民主主義

20. キング牧師の演説の分析と練習 1 ― 「私には夢がある」の内容解説・分析

21. キング牧師の演説の分析と練習 2 ― 「私には夢がある」の歴史的意義

22. キング牧師の演説の分析と練習 3 ― 「私には夢がある」とオバマ大統領

23. キング牧師の演説の分析と練習 4 ― 「私には夢がある」の演説と日本における民主主義のレベル

24. 実用英会話の分析と練習 1 ― Roommates

25. 実用英会話の分析と練習 2 ― Make Your Bed

26. 実用英会話の分析と練習 3 ― Don't Be Chicken

27. 実用英会話の分析と練習 4 ― Meeting New Friends

28. 実用英会話の分析と練習 5 ― Driving Class

29. 小テスト・英語発音のブラッシュアップ方法

30. 総合練習・まとめ

準備学習(予習)

毎回、テキストを5頁程度予習し、配布プリントも熟読し、添付のCDを聞いて、練習してから、授業に望んで下さい。予習・復習ノートを提出してもらい、評価の一部とします。

準備学習(復習)

復習を励行して下さい。毎回、授業後、早期に復習し、何回か繰り返すと、記憶が定着します。

評価方法

(1) 平常点	20%	授業への参加度
(2) 予習・復習ノート	10%	ノートの提出
(3) 発音テスト	10%	発音テストの成績
(4) 中間試験	30%	中間試験の成績
(5) 期末試験	30%	期末試験の成績

予習と復習を励行するかどうか、成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。

教科書

荒井 良雄 編、 尾崎 寔 注釈 『英語名演説集』 (英光社)

参考書

授業中に提示します。

フランス語コミュニケーションA (総合)		WLAG-A-301
担当教員： F. ルテュール		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1A804620
学部教育の関連目		授業計画
【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. フランスとヨーロッパ、フランス語圏の国の紹介 02. 同上 03. アルファベット/数字/ヨーロッパの通貨（ユーロ）+ゲーム 04. 同上 05. 紹介の練習 （自己、家族、三人称の使い方） 06. 同上 07. 趣味について話す 08. 同上 09. 時間と日常生活について話す 10. 同上 11. フランスへの旅：飛行機/列車の切符を買う 12. 同上 13. フランスへの旅：ホテルを探す 14. 同上 15. フランスへの旅：料理／レストランへ行く 16. 同上 17. フランスへの旅：市場での買い物 18. 同上 19. フランスへの旅：買い物（服を買う） 20. 同上 21. フランスへの旅：観光客としてアンケートに答える 22. 同上 23. 過去形の練習（複合過去） 24. 同上 25. 過去形の練習（半過去） 26. 同上 27. 未来形の練習 28. 同上 29. まとめ 30. まとめ
本年のクラスは、教科書は使用せずプリントを使用します。文法、語彙、コミュニケーション、リスニングとロールプレイ形式で行い、クイズなども取り入れ、楽しく学べるようにします。プリントは、各種テキスト（LE NOUVEAU TAXI 1（Hachette社）/ MOI JE... COMMUNICATION（Alma社）/ LE NOUVEAU SANS FRONTIERE（CI? International社）/ FESTIVAL（CI? International社）/ LE NOUVEAU ROND POINT（Maison des Langues社）。）から、抜粋したものを用意します。各テーマの終わりには、会話の練習を行います。毎週1つのテーマを学びます。2週に渡ることもあります。読む、書く、聞く、話すことを練習します。リスニングは、CD、DVD、またはインターネット（ポッドキャスト）を使用する予定です。		
(2) 学びの意義と目標		
フランス語を基礎から学びながら、簡単な日常会話ができるようにします。自己紹介や趣味、さまざまな場面を設定しての（レストラン、買い物、旅行等々）会話の練習。現在形、過去形、未来形の習得。		準備学習(予習)
		翌週のプリントを配りますので、前もって語彙について調べておくと、授業に余裕をもって入っていけると思います。
		準備学習(復習)
		発音を確認しながら音読の練習。語彙の再確認。
受講者に対する要望		評価方法
積極的に話しましょう。		
		(1) テスト 50% 学年末にテストを1回 (2) 平常点 25% (3) 授業態度 25%
学びのキーワード		教科書
・興味を持って ・楽しみながら ・積極的に		参考書

フランス語コミュニケーションB (総合)		WLAG-A-302
担当教員： F. ルテュール		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1A804730
学部教育の関連目		授業計画
【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. フランスとヨーロッパ、フランス語圏の国の紹介 02. 同上 03. アルファベット/数字/ヨーロッパの通貨（ユーロ）+ゲーム 04. 同上 05. 紹介の練習 （自己、家族、三人称の使い方） 06. 同上 07. 趣味について話す 08. 同上 09. 時間と日常生活について話す 10. 同上 11. フランスへの旅：飛行機/列車の切符を買う 12. 同上 13. フランスへの旅：ホテルを探す 14. 同上 15. フランスへの旅：料理／レストランへ行く 16. 同上 17. フランスへの旅：市場での買い物 18. 同上 19. フランスへの旅：買い物（服を買う） 20. 同上 21. フランスへの旅：観光客としてアンケートに答える 22. 同上 23. 過去形の練習（複合過去） 24. 同上 25. 過去形の練習（半過去） 26. 同上 27. 未来形の練習 28. 同上 29. テスト 30. まとめ
(2) 学びの意義と目標		
フランス語を基礎から学びながら、簡単な日常会話ができるようにします。 自己紹介や趣味、さまざまな場面を設定しての（レストラン、買い物、旅行等々）会話の練習。 現在形、過去形、未来形の習得。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
積極的に話しましょう。		
学びのキーワード		
・興味を持って ・楽しみながら ・積極的に		準備学習(復習)
		準備学習(復習)
		評価方法
		教科書
		参考書

映画を通して学ぶ文化と英語		ENGL-A-201
担当教員： 森 容子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修		単位： 2 コード： 1A805030
学部教育の関連目		授業計画
表現力・リテラシー・文章や文化現象を読解する力を身に着ける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
この授業では、いくつかの映画を通して、独特の英語表現を理解したり、英語のリスニング力を強化したりします。同時に、英語の学習だけではなく、各々の映画で取り扱われるアメリカ社会の抱える問題や文化にも目を向け、アメリカについて学んでいきます。また、講義を聴くだけの受け身の授業ではなく、能動的かつ積極的な授業参加ができるように、各自にさらに映画のテーマに関して詳しく調べ発表してもらいます。		01. オリエンテーション 02. アメリカの医療制度と臓器移植 03. Unit 3 Joh Q ― Organ Transplant Today and Tomorrow 04. Unit 3 Joh Q ― Organ Transplant Today and Tomorrow 05. エイズ感染者と差別・レッドリボン 06. Unit 8 Philadelphia ― AIDS and Discrimination 07. Unit 8 Philadelphia ― AIDS and Discrimination 08. Unit 8 Philadelphia ― AIDS and Discrimination 09. 結婚と離婚 10. Unit4 Mrs. Doubtfire ― Who Takes Care of Children 11. Unit4 Mrs. Doubtfire ― Who Takes Care of Children 12. 再婚と継父母 13. Unit 5 Stepmom ― Meeting a New Family 14. Unit 5 Stepmom ― Meeting a New Family 15. まとめテスト【前半】 16. アメリカ社会における職場と女性進出 17. Unit 7 Working Girl ― Women in Business 18. Unit 7 Working Girl ― Women in Business 19. アメリカの教育制度とハーレム 20. Unit 9 Music of the Heart ― Scenes from American School 21. Unit 9 Music of the Heart ― Scenes from American School 22. Unit 9 Music of the Heart ― Scenes from American School 23. Unit 9 Music of the Heart ― Scenes from American School 24. アメリカの裁判制度及び弁護士 25. Unit 10 The Rainmaker ― Tough Business of Lawyer: 26. Unit 10 The Rainmaker ― Tough Business of Lawyer: 27. NASAと宇宙飛行 28. Unit 11 Space Cowboys ― NASA’ s Continued Challenges 29. Unit 11 Space Cowboys ― NASA’ s Continued Challenges 30. まとめテスト【後半】
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
映画を通してアメリカ文化に対する理解を深め、楽しみながら英語のリスニング能力と英語表現能力を向上させることを目標としています。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
週をまたいて、映画を見ながら授業を進めていく可能性が多いので、欠席すると映画の部分を見落とし授業についていくのが難しくなります。ですから、きちんと出席することが受講の前提です。授業には、教科書と辞書は必帯です。		
学びのキーワード		評価方法
・アメリカの社会情勢 ・アメリカ文化 ・リスニング ・英語会話表現 ・リサーチ		(1) 積極的な授業参加 20 % 授業態度・出席・宿題提出 (2) 課題提出と発表 20 % 課題はアメリカ情勢と文化に関して (3) 英語テスト 40 % リスニング・英語表現・語彙 (4) 異文化理解テスト 20 % アメリカの文化と社会情勢に関して
		英語のテストのみで評価しないので、課題提出も忘れないでください。また出席や授業態度も評価対象になりますから休まないように、授業中はおしゃべりしたり眠らないようにしましょう。
		教科書
		梶本浩美・濱田真由美 Cinema English 「American Society in Focus」 Macmillan Languagehouse
		参考書

音楽を通して学ぶ文化と英語

ENGL-A-202

担当教員：K. O. アンダスン

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1A805140

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

10のエピソードから成るThe History of Rock and Roll のDVDを教材とする。各エピソードで紹介される音楽を聴き、英語の歌詞の意味や表現、さらに歴史的背景や文化を学ぶ。DVDの内容に関する宿題を課し、またエピソードごとに小テストも行う。

(2) 学びの意義と目標

英語の歌詞の意味を多方面から分析し、理解力を養う。The purpose of this course is to learn and understand the history behind rock music, the cultural attitudes behind the music (including negative attitudes such as racism), and to come to a better appreciation of not only rock, but also music of other genres and other countries and cultures.

受講者に対する要望

Students should attend every class, be on time, have their homework prepared before each class, be diligent in preparing for quizzes and exams, and be willing to ask and answer questions in class discussions of popular music.

学びのキーワード

- ・ the blues, R and B, rockabilly
- ・ the British Invasion, soul music
- ・ glam rock, punk, new wave

授業計画

01. introduction to the class; episode 1: Rock and Roll Explodes
02. episode 1, continued
03. episode 1, continued
04. episode 2: Good Rockin' Tonight
05. episode 2, continued
06. episode 3: Britain Invades America, America Fights Back
07. episode 3, continued
08. episode 3, continued
09. episode 4: The Sounds of Soul
10. episode 4, continued
11. episode 4, continued
12. episode 5: Plugging In
13. episode 5, continued
14. episode 5, continued
15. episode 6: My Generation
16. episode 6, continued
17. episode 6, continued
18. episode 7: Guitar Heroes
19. episode 7, continued
20. episode 7, continued
21. episode 8: The 70s: Have a Nice Decade
22. episode 8, continued
23. episode 8, continued
24. episode 9: Punk
25. episode 9, continued
26. episode 9, continued
27. episode 10: Up from the Underground
28. episode 10, continued
29. episode 10, continued
30. review for the final exam

準備学習(予習)

予習は必ずしてくること。授業時には必ず辞書を持って来ること。遅刻をせず、全授業に出席し、積極的に参加する。

準備学習(復習)

Students should conduct research outside of class to find out more about the kinds of music and musicians covered in class and to study how these kinds of music and musicians have affected both national and world culture.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) participation | 10% |
| (2) homework | 30% |
| (3) quizzes | 30% |
| (4) final exam | 30% |

教科書

参考書

フランス語(総合)		WLAG-A-201
担当教員： 塩谷 祐人 学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 2 コード： 1A805400		
学部教育の関連目 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける		授業計画 01. ガイダンス 02. フランスの絵本を読んでみよう。1（読み方の復習） 03. フランスの絵本を読んでみよう。2（文法の復習①） 04. フランスの絵本を読んでみよう。3（文法の復習②） 05. フランスの絵本を読んでみよう。4（読解の練習①） 06. フランスの絵本を読んでみよう。5（読解の練習②） 07. 日本の漫画のフランス語訳を読んでみよう。1（新しい文法項目の学習①） 08. 日本の漫画のフランス語訳を読んでみよう。2（セリフの読解と会話の練習①） 09. 日本の漫画のフランス語訳を読んでみよう。3（セリフの読解と会話の練習②） 10. 日本の漫画のフランス語訳を読んでみよう。4（新しい文法項目の学習②） 11. 日本の漫画のフランス語訳を読んでみよう。5（新しい文法項目の学習③） 12. 日本の漫画のフランス語訳を読んでみよう。6（日本語とフランス語訳を比較してみる①） 13. 日本の漫画のフランス語訳を読んでみよう。7（日本語とフランス語訳を比較してみる②） 14. 日本の漫画のフランス語訳を読んでみよう。（まとめ） 15. BDを読んでみよう。1（BDの特徴をしてみる） 16. BDを読んでみよう。2（BDの会話を読解する①） 17. BDを読んでみよう。3（BDの会話を読解する②） 18. BDを読んでみよう。4（新しい文法項目の学習④） 19. BDを読んでみよう。5（新しい文法項目の学習⑤） 20. BDを読んでみよう。6（BDで会話練習） 21. BDを読んでみよう。7（BDの読解） 22. BDを読んでみよう。8（まとめ） 23. フランスの絵本を読んでみよう。レベル2 1（新しい文法項目の学習⑥） 24. フランスの絵本を読んでみよう。レベル2 2（読解練習①） 25. フランスの絵本を読んでみよう。レベル2 3（読解練習②） 26. フランスの絵本を読んでみよう。レベル2 4（読解練習③） 27. フランスの絵本を読んでみよう。レベル2 5（翻訳の工夫①） 28. フランスの絵本を読んでみよう。レベル2 6（翻訳の工夫②） 29. フランスの絵本を読んでみよう。レベル2 7（まとめ） 30. まとめと総復習
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 フランス語IおよびIIを終了した学生が対象です。 実際にフランスで出ている絵本や子ども向けの本を読みながら、新しい文法や言い回しを勉強していきます。また同時に、フランス語の漫画（BDといいますが）や日本の漫画のフランス語訳を読みつつ、会話の練習をおこなったり、日本語をフランス語に置き換える時に必ず出てくる言葉や文化の壁をどのように工夫して乗り越えていくのかという点に注目したりしたいと思います。		
(2) 学びの意義と目標 フランス語ⅠとⅡで覚えたフランス語の知識を、実際にフランスで読まれているフランス語を通して定着させ、更に活きたフランス語、より豊かなフランス語を体験することが目標です。 フランス語という語学にとどまるのではなく、フランスでは第9の芸術と呼ばれているBD（フランスのマンガ）、そしてMangaとして紹介されている日本の漫画の翻訳を見ることで、国際社会の中での文化の交流について考える姿勢が身につく、日本の文化を外から見るという思考も生まれることでしょう。		準備学習(予習) 事前に学習する箇所を辞書を引いて自分なりの訳文を作っておくこと。
		準備学習(復習) 予習で訳したものを授業中に検討し、間違えた箇所をどうして間違えたのかを考え、修正していくこと。新しく習った文法や単語は、配布するプリントなどで確認直すこと。
受講者に対する要望 必ず予習・復習ができる学生のみ履修してください。		評価方法 (1) 平常点 40% 授業中に行う練習問題への取り組みや訳出の取り組みを評価します。 (2) 試験 60% 期末試験の点数で評価します。
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ・ フランス語 ・ フランス文化 ・ 比較文化 ・ 翻訳 ・ 異文化理解 		教科書 プリントを配布 参考書 辞書を必ず準備すること。（スマートフォンなどのネット上の辞書は不可）

WLAG-A-201

単位：2 コード：1A805410

プリントの歌詞テキストは、読みやすいようになるべく多くの「注」を付けてあります。

ドイツ語(総合)		WLAG-A-202
担当教員：小谷 哲夫		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：2 コード：1A805740
学部教育の関連目		授業計画
【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける		01. ガイダンス 02. 第1課 動詞の現在人称変化/練習問題 03. 同上の続き 04. 第2課 名詞の性・格と冠詞の変化/練習問題 05. 同上の続き 06. 第3課 不規則動詞と名詞の複数形/練習問題 07. 同上の続き 08. 第4課 人称代名詞/練習問題 09. 同上の続き 10. 第5課 所有冠詞・否定冠詞・指示代名詞/練習問題 11. 同上の続き 12. 第6課 前置詞/練習問題 13. 同上の続き 14. 第7課 分離動詞と非分離動詞/練習問題 15. 同上の続き 16. 第8課 再帰代名詞と再帰動詞/練習問題 17. 同上の続き 18. 第9課 形容詞の格変化と比較変化/練習問題 19. 同上の続き 20. 第10課 話法の助動詞と未来の助動詞/練習問題 21. 同上の続き 22. 第11課 副文と命令形/練習問題 23. 第12課 過去形/練習問題 24. 第13課 現在完了形/練習問題 25. 同上の続き 26. 第14課 zu 不定詞/練習問題 27. 受動文/練習問題 28. 関係代名詞/練習問題 29. 同上の続き 30. 定期試験問題の説明
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
1. 本講義はドイツ語Ⅰ・Ⅱで学習したドイツ語をブラッシュ・アップするために、ドイツ語の作文練習をします。また、文法も一から再確認していきます。更に、Ⅰ・Ⅱで学習できなかった文法内容も学習していきます。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎教育科目のなかの第二外国語の科目であり、ドイツ語Ⅰ・Ⅱを学んだ学生が、更に具体的にドイツ語の文章に触れ、より深くドイツ語を理解するための選択必修科目です。 3. 学びの意義と目標 ドイツ語の作文練習を通して、これまでのドイツ語を「知っている」というレベルから「使える」レベルに高め、更には、日本語とドイツ語の表現法の違いも理解出来ることとなります。また、それは文法内容の再確認にもつながります。文章構造を詳しく捉えることは、一年次での学習内容とは大きな隔たりがあるかもしれませんが、本講義をもってしてドイツ語の総合的な理解に結び付けていきます。		
(2) 学びの意義と目標		
独作文を通してより深くドイツ語の文章構造や特徴が理解できるようになります。		
		準備学習(予習)
		ほぼ毎回予習の内容を指示しますので、必ずやってきてもらいます。
		準備学習(復習)
		各回で学習した文法と作文の再確認。特に注意しなければならない箇所は、必ず指摘します。
		評価方法
		(1) 定期試験 40% (2) 中間試験 30% (3) 出席・授業態度等の平常点 30%
受講者に対する要望		
休まず、積極的に授業に参加して下さい。独作文は間違えることを恐れずに必ず自分でやってきて下さい。各文章は授業中に全て詳しく説明していきますので、先ずは自分で取り組んで下さい。		
学びのキーワード		教科書 池内宣夫 『ドイツ語表現への誘い〈新訂版〉』 (郁文堂)
		参考書

ドイツ語 (総合)		WLAG-A-202
担当教員： 清水 威能子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1A805750
学部教育の関連目		授業計画
【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. ガイダンス（これからの学習とドイツ語圏の国について） 02. 会話とリスニングの練習(1)＜動詞の現在形の復習と応用＞ 03. 会話とリスニングの練習(2)＜動詞の語彙を増やす＞ 04. 会話とリスニングの練習(3)＜数詞と序数を使った日常表現＞ 05. 会話とリスニングの練習(4)＜助動詞を使った日常表現＞ 06. 会話とリスニングの練習(5)＜名詞の語彙を増やす＞ 07. 会話とリスニングの練習(6)＜命令形の応用＞ 08. 会話とリスニングの練習(7)＜現在完了形を使った表現＞ 09. 会話とリスニングの練習(8)＜過去形を使った表現＞ 10. 映画を通して、ドイツの日常表現と文化を学ぶ 11. 文法と作文練習(1)＜比較表現、zu不定詞＞ 12. 文法と作文練習(2)＜受動態＞ 13. 文法と作文練習(3)＜関係代名詞＞ 14. 文法と作文練習(4)＜接続法＞ 15. 中間試験、ニュース映像を通して、ドイツの日常表現と現代事情を学ぶ 16. 読解練習(1)＜ドイツ語圏の家庭での習慣＞、発表の準備（テーマとグループの分類） 17. 読解練習(2)＜ドイツ人の音に対する意識＞ 18. 読解練習(3)＜ドイツ語圏の食事の作法＞ 19. 読解練習(4)＜ドイツ人のおもてなし＞ 20. 読解練習(5)＜日独の個人主義と集団的意識＞ 21. 読解練習(6)＜ドイツ語圏の食文化＞ 22. 映画を通して、ドイツの日常表現と歴史を学ぶ 23. ドイツ語圏の文化についての発表 24. ドイツ語圏の社会についての発表 25. 読解練習(7)＜日独の時間感覚の違い＞ 26. 読解練習(8)＜日独の公共でのマナー＞ 27. 読解練習(9)＜ドイツ人から見た日本の習慣＞ 28. 読解練習(10)＜ドイツ人から見た日本の文化＞ 29. 読解練習(11)＜言語表現での文化の違い＞ 30. これまでの復習と理解度の確認
(2) 学びの意義と目標		
今日のグローバル化時代においては、外国語でのコミュニケーション能力や情報活用能力を養うことにより、将来の選択肢が広がります。この授業は、そのようなドイツ語の運用力の修得を目指し、ドイツ語技能検定試験4～3級程度の語学力を身につけて、ドイツ語で自分の考えを表現できることを目標とします。 ドイツ語圏はサッカー強国であると共に、宗教（ルターなど）、音楽（バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンなど）、哲学（カント、ニーチェなど）、文学（ゲーテ、グリム兄弟、ヘッセなど）の分野で著名な人物を輩出した、歴史的・文化的に重要な地域です。一方で、昨年から日本のニュースでも度々報じられているように、移民問題など多くの国際的な問題に直面しています。そこで、ドイツ語を学ぶだけではなく、このような問題や異文化の理解を深めることで、グローバルな視点で国際的な問題について議論できるようになることも目指します。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
ノートを取り、ドイツ語を書いて覚えることを求めます。		
学びのキーワード		
・ドイツ語圏の国（ドイツ、オーストリア、スイス） ・言語と文化		準備学習(復習)
		評価方法
		教科書
		参考書

就職に役立つ基礎英語

ENGL-A-204

担当教員：小川 隆夫

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 2 コード： 1A805860

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本授業では、就職に役立つ英語だけでなく、日常生活、海外旅行、短期留学でもすぐに使える英語表現を基礎から学んでいく。文法をもう一度学び直したりするわけではなく、中学校、高等学校などで学んだ英語の基礎表現を「使える表現」にしていくことを目的とする。ポイントは「使う」ということで、ただ単に英語の知識を増やすだけではなく「英語表現を使って何かできる」ことを増やしていくことにある。
授業中はDVDを利用しながら、積極的に口に出して英語を言うことに時間をかけて使える英語を目指す。また、国際語としての英語の観点からアジアで使われている英語を聞く機会を取り入れている。

(2) 学びの意義と目標

何年も英語を学んで知識を増やしても実際に「使う」ことは難しい。本授業では英語を自分の言葉として表現することを第一とし、とにかく「使ってみる」ことに重点を置き、「使う」ことができるようになることを目指す。
30回の授業を通して、やさしい表現でもどんどん使い、相手とコミュニケーションをとろうとする積極的な態度を養いたい。使用するテキストとDVDには、主人公美佳が自分の英語を駆使して様々なことにチャレンジし、時には身振り手振りを交えながら、自分のしたいことを自分の言葉で表現する積極的な姿勢が描かれている。この姿勢こそがこれから就職活動や実生活にも求められることである。

受講者に対する要望

本授業は毎回大きな声を出して英語表現を練習することを前提とする。自分の持っている英語力を最大限に生かして相手とコミュニケーションをとる方法を学ぶため、積極的に参加して欲しい。予習、復習でも声に出して練習をすることを望む。

学びのキーワード

・「使う」ということ
・アジアの英語
・積極的なコミュニケーション
・自分の言葉

授業計画

01. オリエンテーション タクシーを拾える場所をたずねる 所要時間についてたずねる
02. 両替してもらう 道順をたずねる
03. 食事ができる場所をたずねる 食べ物についてたずねる
04. 食べ物を注文する 席を確保する
05. 写真を撮ってもらう 相手のことについてたずねる
06. ローカルフードを食べてみる 別れの挨拶をする
07. どこに連れて行ってくれるのかをたずねる 決心がついたことを表現する
08. 冗談だということを伝える 値引きをお願いする
09. 自分が感じていることを表現する 初めての経験であることを説明する
10. 申し出をやんわりと断る 相手を落ち着かせる
11. 相手に指示・助言を求める 相手が作っている料理への期待感を表現する
12. やり方を教わる 食べきれなかったことを謝る
13. なにかせざるをえない状況にあることを説明する しなくてはならない事柄を説明する
14. 電話の要件を説明する 誰に何をあげるのかを説明する
15. レストランを予約したと伝える 会えなくなることを寂しがる
16. 乾杯を提案する 相手を丁寧に誘う
17. 場所をたずねる 誤解していると思うと伝える
18. 自分がするはずだったことを伝える 緊急の場合に助けを求めているかをたずねる
19. 重大な問題が起きたことを伝える 丁寧に助けを求める
20. どういう問題なのかを伝える 修理をしてもらったお礼を言う
21. 仮定の話をする 行った方向をたずねる
22. 手がかりがないと言う 相手が肝心なことを忘れてしていると暗示する
23. 自分で確かめると伝える ぶらついていたところだと説明する
24. フォーマルな挨拶をする 体験についてポジティブなコメントをする
25. 他の言語でどう言うかをたずねる 少し強めてもらうように暗示する
26. 誰が最もよいのかをたずねる ずっと興味を持っていたことを伝える
27. 食事をごちそうすると伝える 料理について質問する
28. 料理の感想を述べる 値段についてコメントをする
29. どこに痛みがあるのかを伝える 注射や病院が嫌いであることを伝える
30. 学習のまとめと振り返り

準備学習(予習)

毎回、指定ページを読みDVDを観て、英語を口に出して言う練習をすること。

準備学習(復習)

復習を欠かさず行い、授業でやった内容を自分のものにしていくこと。次回の授業で小テストを行い理解度をチェックする。小テストはペーパーのみでなく口頭表現でも行う。

評価方法

(1) 授業への参加度

20%

(2) 小テスト

30% ペーパーテストだけでなく口頭表現をチェックする。

(3) 中間試験

25%

(4) 期末試験

25%

教科書

監修：松本茂NHKテレビDVD BOOK『おとなの基礎英語』主婦の友社 978-4-07-287527-8

参考書

武藤 克彦（著）、荒井 貴和（著）、吉田 研作（監修、監修）『起きてから寝るまで英語表現700 オフィス編』

職場で役立つ基礎英語

ENGL-A-205

担当教員： 櫻井 智美

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 2 コード： 1A805970

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

将来会社で遭遇するであろう場面を設定し、その各場面で必要とされる英語の知識とスキルを身につけると共に、日本で就職活動を行う際の知識やビジネスマナーにも触れる。具体的には就職活動で必要とされる履歴書の書き方や面接、そして入社してからの電話応対など、学生である主人公の物語に沿って学習する。また、簡単なビジネスレターやメールの作成にも取り組む。

リスニングとリーディング、会話を中心にスキルアップを目指し、会話においては基本的な表現のビジネス・コミュニケーションについて活動を交えながら習得する。

(2) 学びの意義と目標

国際社会において、英語の需要は益々高まっている。異文化を理解し受け入れる柔軟な態度や、世界とコミュニケーションを図ることができる能力が必要とされている。これは日本の会社でも例外ではない。

この授業では、リスニング力とリーディング力を強化し、会話力の向上へつなげていくことを目標とする。職場で良く使われる簡単で基礎的な英語表現を習得し、的確に失礼のない対応ができることを目指す。

受講者に対する要望

授業への積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・就職
- ・ビジネス
- ・リスニング
- ・英会話
- ・リーディング

授業計画

01. ガイダンス
02. 就職活動 1 : 履歴書を書く①
03. 就職活動 1 : 履歴書を書く②
04. 就職活動 2 : 就職申し込みの手紙を書く①
05. 就職活動 2 : 就職申し込みの手紙を書く②
06. 復習
07. 就職活動 3 : 面接の手はずを整える①
08. 就職活動 3 : 面接の手はずを整える②
09. 就職活動 4 : 面接①
10. 就職活動 4 : 面接②
11. 採用通知①
12. 採用通知②
13. 復習
14. ふりかえり 1
15. ふりかえり 2
16. 入社日①
17. 入社日②
18. 仕事への準備①
19. 仕事への準備②
20. 電話 1 : 電話に対応する①
21. 電話 1 : 電話に対応する②
22. 復習
23. 電話 2 : 伝言を受ける①
24. 電話 2 : 伝言を受ける②
25. 電話 3 : 面会の予約をする①
26. 電話 3 : 面会の予約をする②
27. 復習
28. プレゼンテーション
29. プレゼンテーション・復習
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で次の予告をするので、予告された内容に目を通すこと。

準備学習(復習)

毎回単語のクイズを行うので、授業で学んだ単語や熟語を復習すること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) プレゼンテーション | 25% |
| (3) 中間試験 | 25% |
| (4) 期末試験 | 25% |

教科書

城由紀子 『やさしいオフィス英語』 (成美堂)

参考書

担当教員：東 仁美

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1A806040

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

TOEIC400点～500点取得を目標とする学生を対象とする。英語の基礎力を育成し、自律した学習者になれるよう、英語の勉強の仕方についてもトレーニングをする。TOEICテストで出題されるテーマごとにリーディング・リスニングの問題を扱う。小テストを通して単語力をつけ、テスト形式に慣れることを主眼に置いて、6月のTOEIC受験を目指す。

(2) 学びの意義と目標

1. TOEICテストの出題傾向と内容を知り、TOEIC受験の準備を進めていく。
2. 自分の英語力を自己診断し、自分に合った英語学習方法を見つける。
3. 英語学習への意欲を高め、英語学習の習慣を身に付ける。

受講者に対する要望

1. 積極的に授業に参加すること。
2. 単語クイズ、中間試験、期末試験のために時間をかけてテスト勉強をすること。
3. 6月のTOEIC-IPを受験すること。

学びのキーワード

- ・ TOEIC-IP
- ・ 語彙習得
- ・ 自律学習

授業計画

01. オリエンテーション、TOEIC模擬試験
02. Unit 1 Daily Life 1
03. Unit 1 Daily Life 2
04. Unit 2 Places 1
05. Unit 2 Places 2
06. Unit 3 People 1
07. Unit 3 People 2
08. Unit 4 Travel 1
09. Unit 4 Travel 2
10. Unit 5 Business 1
11. Unit 5 Business 2
12. Unit 6 Office 1
13. Unit 6 Office 2
14. 復習 中間試験
15. Unit 7 Technology 1
16. Unit 7 Technology 2
17. Unit 8 Personnel 1
18. Unit 8 Personnel 2
19. Unit 9 Management 1
20. Unit 9 Management 2
21. Unit 10 Purchasing 1
22. Unit 10 Purchasing 2
23. Unit 11 Finances 1
24. Unit 11 Finances 1
25. Unit 11 Finances 2
26. Unit 12 Media 1
27. Unit 12 Media 2
28. Unit 13 Entertainment 1
29. Unit 13 Entertainment 2
30. 授業のまとめ

準備学習(予習)

テキスト巻末のリスニング課題をやってくること。

準備学習(復習)

テキストの各ユニット終了後に単語リストを復習すること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 単語クイズ | 25% |
| (3) 中間試験 | 20% |
| (4) 期末試験 | 20% |
| (5) TOEIC-IP受験 | 5% |

教科書

水本 篤, Mark D. stafford, Mark D. stafford 『SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST INTRO』 (桐原書店)

参考書

TOEIC(初級) B									
担当教員： 森 容子 学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： 1A806541									
学部教育の関連目	授業計画 01. オリエンテーション 02. TOEIC模擬試験 03. リスニング攻略法 04. U n i t 1：リスニング写真描写問題 05. U n i t 2：リスニング応答問題 06. U n i t 3：否定疑問文と付加疑問文 07. リスニング応答問題 08. U n i t 4：リスニング会話問題 09. U n i t 5：リスニング会話問題 10. 小テストと解説 11. リスニング問題 (1) 12. リスニング問題 (2) 13. リスニング問題 (3) 14. リスニング問題 (4) 15. 文法・語彙問題攻略法 16. Unit 6：品詞と動詞の時制 17. U n i t 7：単語とイディオム 18. 文法・語彙問題 (1) 19. 文法・語彙問題 (2) 20. 文法・語彙問題 (3) 21. 小テストと解説 22. 読解問題攻略法 23. U n i t 8：広告・サービス・告知の文章 24. U n i t 9：手紙・その他の文章 25. 読解問題 (1) 26. 読解問題 (2) 27. 読解問題 (3) 28. 実践テスト 29. 実践テストの解説 30. 今までの総復習								
カリキュラム上の位置付け									
(1) 内容 TOEICの試験は受けてみたいが、英語はちょっと不得意、どの様に勉強したらよいか全く見当もつかない、と思っている学生向けの授業です。授業では、実用面を重視しながら、英語の基礎固めをしていきます。英語の実力は、必ず勉強した時間に比例して伸びていきます。ですから受講中は、できるだけ英語のシャワーを浴びていただいて、英語学習を日常生活のルーティンに取り入れていただけるよう指導していくと同時に、TOEICで少しでも得点が取れるように攻略法も学習していきます。									
(2) 学びの意義と目標 1. TOEICの出題形式と内容を知ること。 2. TOEICの攻略法。 3. 毎日の英語学習を習慣づける。 4. TOEIC400～500を目指す。	準備学習(予習) 次の授業のテキスト問題を、前もって1回は解いておくこと。リーディング部門に関しては、必ず解答時間を意識すること。								
	準備学習(復習) 授業で学んで、できなかった単語や熟語、文法事項は必ず、毎回ノートにまとめて、時間を置いて何回も復習すること。聞きとれなかった部分は、理解できるようになるまで何度も繰り返し聴く。その時ディクテーションや音読を取り入れると効果的。								
	評価方法 <table> <tr> <td>(1) 授業への参加度</td><td>15 %</td></tr> <tr> <td>(2) 小テスト</td><td>30 %</td></tr> <tr> <td>(3) 期末試験</td><td>50%</td></tr> <tr> <td>(4) TOEIC-IP</td><td>5 %</td></tr> </table> <p>TOEIC-IPテストも評価対象ですから必ず学期内に受験してください。</p>	(1) 授業への参加度	15 %	(2) 小テスト	30 %	(3) 期末試験	50%	(4) TOEIC-IP	5 %
(1) 授業への参加度	15 %								
(2) 小テスト	30 %								
(3) 期末試験	50%								
(4) TOEIC-IP	5 %								
受講者に対する要望 1. 授業を休まないこと。 2. 一日に英語勉強時間ゼロの日を作らないこと。 3. 授業中は必ず英和辞典を持参すること。 4. T O E I C - I Pを受験すること。									
学びのキーワード ・ 語彙力 ・ 繰り返し学習 ・ スキャニング ・ 5文型と品詞	教科書 TOEIC Bridge 公式ワークブック 国際ビジネスコミュニケーション協会 参考書 総合英語フォレスト「Forest」 桐原書店								

担当教員： 澁井 とし子

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 2 コード： 1A807042

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

TOEICテストの各パートの形式に慣れると同時に、語彙力、文法力を増やせるよう演習を行います。TOEICで必要とされるリスニングとリーディングの力をつけていきます。

(2) 学びの意義と目標

会話やパッセージの「概略を理解する」事に焦点を当て、「通常会話であれば、要点を理解し、応答にも支障はない」というレベルを目指します。使用語彙や文法項目は、出題される頻度の高いものから学んでいきます。

受講者に対する要望

毎回扱う語彙をコツコツと覚えてください。＜br/>6月に実施されるTOEIC-IPは、必ず受験してください。

学びのキーワード

- ・リスニング
- ・リーディング
- ・ディクテーション
- ・シャドーイング

授業計画

01. Mini TOEIC Test と Unit 1 Restaurant 人称代名詞
02. Unit 1 Restaurant
03. Unit 2 Entertainment 不定代名詞と再帰代名詞
04. Unit 2 Entertainment
05. Unit 3 Business 現在・過去の時制
06. Unit 3 Business
07. Unit 4 Office 現在完了
08. Unit 4 Office
09. Unit 5 Telephone 時・期間を表す前置詞
10. Unit 5 Telephone
11. Unit 6 Letter & E-mail 位置・場所を表す前置詞
12. Unit 6 Letter & E-mail
13. Unit 7 Health 数量形容詞
14. Unit 7 Health と 今までの復習
15. Unit 8 Bank & Post Office 自動詞と他動詞
16. Unit 8 Bank & Post Office
17. Unit 9 New Product 形容詞を作る接尾辞
18. Unit 9 New Product
19. Unit 10 Travel ① 副詞を作る接尾辞
20. Unit 10 Travel ①
21. Unit 11 Travel ② 分詞構文
22. Unit 11 Travel ②
23. Unit 12 Job Offer 比較
24. Unit 12 Job Offer
25. Unit 13 Shopping 受動態
26. Unit 13 Shopping
27. Unit 14 Education 関係代名詞
28. Unit 14 Education
29. 総復習
30. 定期試験

準備学習(予習)

復習してもわからない箇所は次の授業で聞けるよう、準備しておいてください。

準備学習(復習)

毎回新しいことの積み重ね学習になりますので、復習は必ず行い、単語は毎回覚えましょう。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 25% |
| (2) 単語テスト | 30% |
| (3) 定期試験 | 40% |
| (4) TOEIC IPテスト | 5% |

教科書

吉塚弘、Michael Schauerte 『Best Practice for the TOEIC Test <TOEICテストへの総合アプローチ>』(成美堂)

参考書

TOEIC(中級) B			
担当教員：森 容子			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 2 コード： 1A807543
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション 02. インターネとの視聴覚教材を使用しての英語学習 03. リスニング攻略法 04. リスニング問題 (1) 05. リスニング問題 (2) 06. リスニング問題 (3) 07. 語彙の覚え方 08. 文法問題攻略法 09. 文法・語彙問題 (1) 10. 文法・語彙問題 (2) 11. 文法・語彙問題 (3) 12. リーディング問題攻略法 13. リーディング問題 (1) 14. リーディング問題 (2) 15. リーディング問題 (3) 16. テキスト 第1回 模擬試験 17. 模擬試験の解説 (1) 18. 模擬試験の解説 (2) 19. 把握度チェックテスト 20. コンピュータを使つての英語学習 21. テキスト 第2回 模擬試験 22. 模擬試験の解説 (1) 23. 模擬試験の解説 (2) 24. 把握度チェックテスト 25. テキスト 第3回 模擬試験 26. 模擬試験の解説 (1) 27. 模擬試験の解説 (2) 28. 把握度チェックテスト 29. 今学期のまとめと確認 30. 今までの総復習	
(1) 内容			
この授業は、TOEICテスト500点以上を目指している学生に適しています。TOEIC形式のテスト問題に多くあたることにより、英語力アップするだけでなく、テストの傾向や英語のナチュラルスピードにも慣れるよう訓練します。こうした学習の積み重ねと、得点のコツを学習することで、TOEICテストにおいての高得点が期待できます。英文読解に関しては、限られた時間内で、長文の中から答えを選べるように、必要な情報を文章の中から探し出すスキニング能力も養っていきます。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
TOEICテストの攻略法をつかみ、TOEICテスト500点数以上を目指します。ビジネスでよく使われる英単語や熟語、英語表現を習得できます。TOEICの勉強は、テスト準備にとどまらず、将来、実践の場においても使えるリスニング力・リーディング力の向上の手助けになります。		次の授業のテキスト問題を、前もって1回は解いておくこと。リーディング部門に関しては、必ず解答時間を意識すること。	
		準備学習(復習)	
		授業で学んで、できなかった単語や熟語、文法事項は必ず、毎回ノートにまとめて、時間を置いて何回も復習すること。聞きとれなかった部分は、理解できるようになるまで何度も繰り返し聴く。その時ディクテーションや音読を取り入れると効果的。	
受講者に対する要望		評価方法	
1. 授業を休まないこと。 2. 一日に英語勉強時間ゼロの日を作らないこと。 3. 授業中は必ず英和辞典を持参すること。 4. TOEIC-IPを受験すること。		(1) 授業への参加度 15 % (2) 単語テスト 30% (3) 定期試験 50 % (4) TOEIC-IP受験 5 %	
学びのキーワード		教科書	
・語彙力 ・繰り返し学習 ・スキニング ・5文型と品詞		TOEICテスト新公式問題集Vol.4国際ビジネスコミュニケーション協会	
		参考書	
		総合英語フォレスト「Forest 」 桐原書店	

ヨーロッパ思想の源流			
担当教員： 関根 清三			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
		単位：	2
		コード：	1A902610
学部教育の関連目		授業計画	
		01. 序論 02. ソクラテス前の哲学者たち（１） 03. ソクラテス前の哲学者たち（２） 04. ソクラテス（１） 05. ソクラテス（２） 06. プラトン（１） 07. プラトン（２） 08. プラトン（３） 09. アリストテレス（１） 10. アリストテレス（２） 11. アリストテレス（３） 12. アリストテレス（４） 13. アリストテレス（５） 14. ギリシア哲学における愛と正義 15. ギリシアとヘブライにおける驚き	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
《古代ギリシアの思想》 ヨーロッパ思想の源流には、ギリシア思想とヘブライ思想と二つの潮流がある。両思想とも爾後の欧米の精神史の根底に脈々と流れているが、ヘブライズムが信仰を根幹とするのに対し、ヘレニズムは理知を基本とする。今年度はこのうちギリシア・ヘレニズム思想に焦点を絞って、その流れをたどりたい。この思想はどのように始まり展開し、そしてどのような本質をもって、欧米の精神史に影響を与えてきたのか、その展開と本質について考察する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
欧米の精神史の根底を流れる源流にさかのぼって学ぶことは、欧米の思想、歴史、文学、芸術、政治、経済、社会、心理等々を研究対象とする全ての人にとって、正確に、また深く対象を理解するために不可欠の知見を得るという意義がある。また特にギリシアの理知的な哲学を学ぶことによって、物を考えるということはどういうことか、知見を磨くことを目指したい。		特に必要はない。	
		準備学習(復習)	
		教科書と読み比べて、講義の主要な論点が何だったかを纏めること。	
受講者に対する要望		評価方法	
古代ギリシア人の思考と経験を、自分の問題と照らし合わせて、学び考えてほしい。		(1) 期末試験 80% (2) レポート 20%	
		講義が一段落したところで何回か、理解度をチェックする短いレポートを時間内に課す。しかし80%は期末試験の成績で評価する。	
学びのキーワード		教科書	
・ 知への愛 ・ 驚き ・ 無知の知 ・ イデア ・ 正義と博愛的公正		『ギリシア・ヘブライの倫理思想』（関根清三著、東大出版会）	
		参考書	

欧米文化学特論 ※大学院相乗り

担当教員：清水 正之

学期：集中講 科目：

必修・選択：

単位：2 コード：1AA01301

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

アメリカ、ヨーロッパ、日本それぞれの文化の基礎をなす思想を、広い歴史的視野のなかで大局的に理解するための研究入門となる講義を目指している。文化研の担当教員が1回ないし2回ずつ、それぞれの分野の基本的なテーマについて、研究の視点、研究の意義、研究の方法等に触れながら講義する。（コーディネーター：清水正之）

(2) 学びの意義と目標

大学院研究科での学びの目標に、専門的な自らの課題を深めると共に、人文的教養と視野をひろげることも重要な要素としてあります。欧米文化のみならず、アメリカ・ヨーロッパから学んだ研究方法のもとで培われた日本文化研究の視点や研究をも入れ、一つの主題を追う形で、研究の最前線を学びます。

受講者に対する要望

小レポート、期末レポートとも、大学院での研究論文の基礎となるものであり、聖学院大学大学院の規矩にかなった形式を心がける様に要望します。

学びのキーワード

- ・人文学・研究方法
- ・アメリカ文化
- ・ヨーロッパ文化
- ・日本文化
- ・比較思想・比較文化

授業計画

01. 清水正之：このオムニバス形式の講義の全体的な目的意味や構成について、オリエンテーションを兼ねた回となります。また、担当者の研究分野から、日本の思想研究が、どのような経緯で、近代の学問研究として自立した研究分野となったのか
02. 清水 均：近代日本における「文化」概念の成立
03. 和田光司：近世フランスの寛容思想
04. 氏家理恵：英米文学とキリスト教
05. 関根清三：旧新約聖書の根本問題（1）
06. 関根清三：旧新約聖書の根本問題（2）
07. 高橋義文：アメリカの宗教—建国期
08. 高橋義文：アメリカの宗教—現代
09. 村松 晋：近代日本のキリスト教（1）
10. 村松 晋：近代日本のキリスト教（2）
11. 森田美千代：19世紀アメリカのキリスト教と文化
12. 稲田敦子：イギリス文化の両義性—自由のあり方をめぐって
13. 片柳榮一：近代を切り開いたルターの良心概念
14. 片柳榮一：近代民主主義
15. 清水正之：この講義全体の意義を、あらかじめ振り返ります。講義全体の目的、構成、内容について、質疑応答の形で進めます。また講義を通じて最終レポートの依頼の指示や、締切、枚数についての指示をします。

準備学習(予習)

予告及び指定されたテキストを前もって読んでおくこと

準備学習(復習)

各回に提示された論点を整理しまとめる小レポートを作成する。

評価方法

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 授業への積極的な参加、問題意識。 | 授業へ |
| (2) 各回に指示された小レポート評価 | 小レポ |
| (3) 期末レポートの完成度、問題提起力 | 期末レ |

教科書

特にありません。

参考書

各回の授業の中で指示されます。

専門演習(キリスト教文化)Ⅰ

EACL-A-201

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1AX00200

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を実践。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める。

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

1. 内容： この講義は、生徒のキリスト教信仰の教義の理解をより深めると共に、また、聖書の教えがどのようにそれぞれの人生にかかわるものであるかを思考してゆくものです。「人生の意義とは」、「この世での自己の存在の意味とは」、あるいは、「幸福とは」といった現実的疑問をキリスト教的観点より話し合います（討論します）。聖書参照、また、全四肢なく生まれながらも充実し意義深い人生を歩んでいるオーストラリア人のニック・ブイチチ著より彼の人生とその証しを参照します。

(2) 学びの意義と目標

キリスト教の理解を深めると同時に、クラスのディスカッションにおいて自己表現の経験を通して、学生自身の自己内面探求を大きな目標とします。

受講者に対する要望

この講義は日本語と英語によって行われます。必然的に学生の英語力は向上されますが、講義の第一焦点は講義内容にあります。

学びのキーワード

- ・キリスト教
- ・人生
- ・夢

授業計画

01. イントロダクション
02. 一般的世界観とは何か？
03. キリスト教的世界観 I
04. キリスト教的世界観 II
05. 聖書と貴方／あなた（現実的生活）I
06. 聖書と貴方／あなた（現実的生活）II
07. 聖書と貴方／あなた（現実的生活）III
08. ディスカッション ブイチチ著書 I
09. ディスカッション ブイチチ著書 II
10. ディスカッション ブイチチ著書 III
11. ディスカッション ブイチチ著書 IV
12. ディスカッション ブイチチ著書 V
13. ディスカッション ブイチチ著書 VI
14. ブイチチの人生の原理 /道義、信念、基礎
15. 期末レポート

準備学習(予習)

既定の読書宿題を終え、講義の内のクラスディスカッションにおいて積極的参加を期待します。

準備学習(復習)

学生はクラスディスカッションのその日の内容を復習し、個人の生活・人生にどのように関係付けられるかを熟考し、まとめておくこと、尚、次回のクラスにおいて明確に述べられることを期待されます。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 受講参加態度 | 30% |
| (3) 読書レポート | 15% |
| (4) 期末レポート | 25% |

教科書

ニック ブイチチ 『『それでも僕の人生は「希望」でいっぱい』』（三笠書房）

参考書

専門演習(キリスト教文化)Ⅱ		EACL-A-301
担当教員： E. D. オズバーン		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1AX00310
学部教育の関連目		授業計画
<div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める</div>		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
1. 内容：この講義は専門演習（キリスト教文化）Ⅰの履修後に基づき続く講義です。イエス・キリストそしてキリスト教が世界にもたらした道徳、倫理、自由と民主主義、女性の地位向上、慈善事業、また大衆文化（美術、音楽、文学、テレビ・映画等）に深い影響を探究していきます。特定の焦点としてイエスの教えに強く影響を受けた、レンブラント、トルストイ、ドストエフスキー、新渡戸稲造、ガンジー、マザー・テレサ、またマーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師等の歴史的人物をあげ検討します。		01. イントロダクション 02. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 I 03. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 II 04. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 III 05. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 IV 06. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 V 07. 焦点：レンブラント 08. 焦点：トルストイ 09. 焦点：ドストエフスキー 10. 口頭発表 11. 焦点：新渡戸稲造 12. 焦点：ガンジー 13. 焦点：マーティン・ルーサー・キングJr. 牧師 14. 焦点：マザーテレサ 15. 期末論文
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
学びの意義と目標：世界におけるキリスト教の影響力の深層理解を提供することが第一目標です。また、この講義に関連するトピックにおいてのプレゼンテーションと研究論文の準備行程を学ぶ場でもあります。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
この講義は日本語と英語によって行われます。必然的に学生の英語力は向上されますが、講義の第一焦点は講義内容にあります。		
学びのキーワード		評価方法
・ Christianity （キリスト教） ・ historical influence （歴史的影響） ・ role models （模範的な人）		(1) 平常点 20% (2) 受講参加態度 15% (3) r読書レポート 20% (4) PPT発表 20% (5) 期末論文 25%
教科書		参考書
フィリップ・ヤンシー 『『だれも書かなかったイエス』』（いのちのことば社）		

専門演習(ヨーロッパ史)Ⅰ

EACL-A-201

担当教員： 和田 光司

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1AX00540

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、「砂糖の世界史」をテキストにし、各学生がその中のから関心がある部分を選択して発表する。このテキストは現在史学界で注目されている世界システム論の入門書としては最適であり、それにより現代の歴史学の発想方法に触れることができるであろう。

(2) 学びの意義と目標

レジュメの作成、およびプレゼンテーションに慣れる。この段階は入門と位置づける。

受講者に対する要望

自発性を持って受講すること

学びのキーワード

- ・ ヨーロッパ
- ・ 歴史
- ・ プレゼンテーション

授業計画

01. オリエンテーション 1
02. オリエンテーション 2
03. オリエンテーション 3
04. 教科書の内容を各自発表 1
05. 教科書の内容を各自発表 2
06. 教科書の内容を各自発表 3
07. 教科書の内容を各自発表 4
08. 教科書の内容を各自発表 5
09. 教科書の内容を各自発表 6
10. 教科書の内容を各自発表 7
11. 教科書の内容を各自発表 8
12. 教科書の内容を各自発表 9
13. 教科書の内容を各自発表 10
14. 教科書の内容を各自発表 11
15. 教科書の内容を各自発表 12

準備学習(予習)

発表者は自分の担当分の発表を準備する。レジュメを作成しリハーサルを行っておく。担当に当たっていない学生は次回該当箇所を読んでおく。

準備学習(復習)

他学生や教員からのコメントを参考にして、再度レジュメを作り直す。また反省点に注意し、もう一度自分でプレゼンテーションを行ってみること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 授業内発表 | 60% |

教科書

川北 稔 『砂糖の世界史 (岩波ジュニア新書)』 (岩波書店)

参考書

専門演習(ヨーロッパ史)II

EACL-A-301

担当教員： 和田 光司

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1AX00650

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、専門演習Ⅰの延長線上にプレゼンテーション能力の一層の向上を図る。第二次世界大戦についてすでに通達した小テーマから各学生関心がある部分を選択して発表する。同じテーマを様々な角度より眺めることにより、歴史的視点の多様性、重層性を学んでいく。また、専門演習Ⅰからさらに進んで、細かい評価表により学生相互に批評を行うことにより、プレゼンテーション能力をより発展させる。

(2) 学びの意義と目標

プレゼンテーション技術の向上。相互評価による他者からの批判に柔軟に対応しうる人格性の養育、複史的歴史理解力の養成

受講者に対する要望

主体性をもってプレゼンテーションに取り組んでほしい

学びのキーワード

- ・ ヨーロッパ
- ・ 歴史
- ・ プレゼンテーション
- ・ 第二次世界大戦

授業計画

01. オリエンテーション 1
02. オリエンテーション 2
03. オリエンテーション 3
04. 各自自分のテーマを発表 1
05. 各自自分のテーマを発表 2
06. 各自自分のテーマを発表 3
07. 各自自分のテーマを発表 4
08. 各自自分のテーマを発表 5
09. 各自自分のテーマを発表 6
10. 各自自分のテーマを発表 7
11. 各自自分のテーマを発表 8
12. 各自自分のテーマを発表 9
13. 各自自分のテーマを発表 10
14. 各自自分のテーマを発表 11
15. 各自自分のテーマを発表 12

準備学習(予習)

自分の発表の準備を行う。構想を立て、資料を集め、読み、分析し、レジュメを作成する。発表の前にリハーサルを行う。また第二次世界大戦の通史やTV番組、映画などでこの分野に親しむ。

準備学習(復習)

他学生からの評価をもとに、反省点に注意してレジュメを作成し直す。また同様に自分でもう一度プレゼンテーションを試みる。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 授業内発表 | 60% |

教科書

参考書

単位：1 コード：1AX02060

参考書

専門演習(英米文学)Ⅱ		EACL-A-301												
担当教員：氏家 理恵														
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1AX02170												
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション：レポートの書き方と読み方 02. 専門演習Ⅰレポート合評会 1 03. 専門演習Ⅰレポート合評会 2 04. 専門演習Ⅰレポート合評会 3 05. 専門演習Ⅰレポート合評会 4 06. 専門演習Ⅰレポート合評会 5 07. レポート総評と作成の諸注意 08. 発表 1 09. 発表 2 10. 発表 3 11. 発表 4 12. 発表 5 13. 発表のまとめ・総評 14. 発表総評と分析・考察の諸注意 15. 卒業研究に向けて</div>												
<div>カリキュラム上の位置付け</div>														
<div>(1) 内容</div> <div>前半は「専門演習Ⅰ」で作成したレポートの合評会とレポート作成に関する文献購読、後半は「専門演習Ⅰ」に引き続き発表を行う。 後半は事前に決めた担当者による発表と、発表を受けてのディスカッションですすめる。担当者は内容のまとめ・調べてきたこと・分析・コメントをレジュメを作成した上で発表する。</div>														
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「専門演習Ⅰ」では、発表の仕方や発表の仕方を学んだが、Ⅱではさらに調べ物の仕方、引用の仕方、論理的な文章の書き方を学ぶ。専門演習Ⅰで作成したレポートの合評を通して、レポートを書くコツ・読むコツをつかみ、アウトラインを組み立てたり説得力のある文章・表現を身に着けることを目標とするが、同時にディスカッションに慣れることも目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>合評用のレポート、講読文献、発表資料は事前に読み、授業時には自分の評価やコメントを発言できるように、常に準備しておくこと。発表にあたってはテーマを設定し、問題意識をもって必要な情報を調べ、分析・考察を加えたうえで発表すること。発表レジュメをワープロで作成すること。</div>												
		<div>準備学習(復習)</div> <div>合評会や発表を通して確認したレポートの書き方やプレゼンの仕方などのポイントは、今後のレポート作成や発表に生かせるように、必要事項をまとめておくこと。また、合評後は加筆修正したレポートを再提出すること。</div>												
<div>受講者に対する要望</div> <div>ゼミに積極的に参加してほしい。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td><td></td></tr><tr><td>(2) 課題</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 発表</td><td>30%</td><td>レジュメ作成含む</td></tr><tr><td>(4) 期末レポート</td><td>20%</td><td></td></tr></table>	(1) 平常点	30%		(2) 課題	20%		(3) 発表	30%	レジュメ作成含む	(4) 期末レポート	20%	
(1) 平常点	30%													
(2) 課題	20%													
(3) 発表	30%	レジュメ作成含む												
(4) 期末レポート	20%													
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 英米文学・ 英米文化・ 映像文化・ 物語分析・ 比較文化・比較文学</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>												

専門演習 (Pop Culture) II

EACL-A-301

担当教員：K. O. アンダスン

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1AX02490

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

このゼミは2015年度秋学期、専門演習 (Pop Culture) I の継続授業である。In this course we will continue watching short films and writing the zemi report.

(2) 学びの意義と目標

The purpose of this course is to continue watching and commenting on short films and writing zemi reports.

受講者に対する要望

Students are expected to bring their textbooks to every class and to have their homework ready for each class.

学びのキーワード

- sources, in-text citations
- summary, paraphrasing
- quotations, plagiarism
- conclusion
- works cited

授業計画

01. work on zemi report pages 3, 4. etc.
02. Les Mistons film showing
03. textbook chapter 2 and 3, journal
04. Les Mistons review; textbook
05. Les Mistons quiz; textbook, journal
06. Anna of Milan film showing
07. zemi report oral plans
08. Anna of Milan quiz; oral report plans due
09. oral reports
10. oral reports; textbook chapter 3 and 4, journal
11. Communication Problems film showing
12. textbook chapter 4, journal
13. Communication Problems quiz
14. zemi report writing
15. zemi report pages due

準備学習(予習)

Students should read over and understand all questions connected to films before class. They should also continue writing their zemi reports and do textbook homework.

準備学習(復習)

Students should conduct research for their zemi report papers and write in journals for English writing practice.

評価方法

(1) participation	10%
(2) homework	15%
(3) oral report	15%
(4) quizzes	30%
(5) zemi report	30%

教科書

参考書

教科書は専門演習 I で使用したものをを使う。

専門演習(児童英語教育)Ⅰ		EACL-A-201
担当教員： 東 仁美		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1AX04490
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 早期英語教育の目的 03. 外国語学習者としての子どもたち 04. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング 05. 4技能を伸ばす指導 06. 語彙指導 07. 文法指導 08. 目標とする発音モデル 09. 子どもたちへの発音指導 10. 市販教材の活用 11. 内容中心の指導 12. ゲーム、物語と学国語学習 13. リズム、ライム、メロディーを活用した指導 14. 子どものための評価 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>小学校での外国語活動が必修化され、早期英語教育に対する関心が高まっている。専門演習Ⅰでは、入門書を読み合わせしながら、児童英語教育の理論と実践を学んでいく。英語教育への興味を高めるために、小学校英語に限らず、幼稚園、民間の英語教室、中高の英語の授業の見学などのフィールドワークの課題を課す。また、小グループで英語学習のテーマを決め、自らを学習者のサンプルとしてプロジェクトを遂行することを通して、効果的な英語学習法を考察していく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>児童英語教育の基礎的な資料を読み、自分の興味分野への知的好奇心を高めていく。また、プレゼンテーションやグループディスカッションの力もつけていく。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>テキストの該当箇所を事前に読んでくる。発表担当者はレジュメを作成し、発表の事前指導を受けること。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業レポートをまとめて、提出する。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>ペアやグループでのプロジェクトを通して協同学習の在り方を学んでほしい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 出席、授業への貢献</div><div>20%</div></div><div><div>(2) レポート</div><div>20%</div></div><div><div>(3) ブックレビュー</div><div>30%</div></div><div><div>(4) プレゼンテーション</div><div>30%</div></div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 小学校英語教育</div><div>・ 外国語活動必修化</div><div>・ 学習指導要領</div><div>・ 早期英語教育</div><div>・ 小学校英語の教科化</div></div>		<div>教科書</div> <div>シーラ・リクソン、小林 美代子、八田 玄二、宮本 弦、山下 千恵『チュートリアルで学ぶ新しい「小学校英語」の教え方』（玉川大学出版部）</div> <div>参考書</div>

専門演習(児童英語教育)Ⅱ		EACL-A-301
担当教員： 東 仁美		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1AX04500
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. グローバル社会の英語教育 03. 第二言語習得理論 04. 第二言語習得のプロセス 05. 日本人の英語学習の問題 06. 言語習得の第一歩：インプット 07. 効果的なインプット 08. 言語知識の自動化：アウトプット 09. 効果的なアウトプット 10. 言語学習をサポートする原動力：動機づけ 11. 動機づけを高める指導法 12. 学習方略： 長期記憶の量を増やす 13. 学習方略： メタ認知をトレーニングする 14. 学習スタイル 15. まとめ、ブックレビュー発表</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>文献の読み合わせをしながら、子どもが英語を学ぶことを理論と実践の両面から考えていく。授業は担当者による発表と活動の紹介の形で進める。発表者はレジメを準備し、事前に決められた分担部分についてのまとめ、解説を行なう。 小学校、幼稚園、民間の英語教室及び中高の英語科の授業を見学するフィールドワークを課題として行い、授業の中で授業見学の報告を行う。 学期中に各自興味のある文献を一冊読み、ブックレビューをまとめる。ブックレビュー集を作成することにより、英語教育の様々な分野の情報交換をし、卒業研究のテーマ決定の題材としていく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業研究での研究テーマを決めていくプロセスとして、専門演習Ⅱでは小学校英語教育についての知識を深め、自分の興味分野を絞り込んでいく。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>発表の担当者は事前にレジメを提出し、発表内容について指導を受けること。
テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加すること。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業見学のレポートには、ハンドアウトなども添付し、クラスで発表できるよう詳細にまとめておくこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>割り当てられた発表は責任を持って取り組むこと。ディスカッションには積極的に参加してほしい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 出席、参加40%</div><div>(2) プレゼンテーション30%</div><div>(3) レポート30%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 小学校英語教育</div><div>・ ブックレビュー</div><div>・ 英語活動</div><div>・ 外国語活動</div></div>		<div>教科書</div> <div>廣森友人『英語学習のメカニズム 第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』（大修館書店）</div> <div>参考書</div>

<div>専門演習(言語と社会)Ⅰ</div> <div>EACL-A-201</div>											
担当教員： D. バーガー											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 コード： 1AX04720											
<div>学部教育の関連目</div> <div> <p>【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める</p> </div>	<div>授業計画</div> <div> <p>01. 授業紹介、言語に関する神話（誤った通念）か、事実か：アンケート</p> <p>02. アンケートに関するディスカッション；言語偏見と言語変種の本質的平等：「言語に優劣はあるの？」を読み、話し合う</p> <p>03. 「言語に優劣はあるの？」に関するディスカッション；レポート・発表の仕方</p> <p>04. 「言語に優劣はあるの？」の要約＋言語偏見や言語変種の本質的平等についての独自の研究発表</p> <p>05. 女性の言語使用に対する性差別的な誤った通念：「女は男よりおしゃべりってホント？」を読み、話し合う</p> <p>06. 女性の言語使用に対する性差別的な誤った通念：「女は男よりおしゃべりってホント？」に関するディスカッション</p> <p>07. 「女は男よりおしゃべりってホント？」の要約＋女性の言語使用に対する性差別的な誤った通念についての独自の研究発表</p> <p>08. なまり、標準変種、方言：「自分以外はみんななまっている！」を読み、話し合う</p> <p>09. なまり、標準変種、方言：「自分以外はみんななまっている！」に関するディスカッション</p> <p>10. 「自分以外はみんななまっている！」の要約＋なまりや標準変種や方言についての独自の研究発表</p> <p>11. 最終研究レポートの書き方・発表の仕方・パワーポイントの作り方</p> <p>12. 若者の日本語（英語、中国語など）が乱れている：「最近の子どもは読み書きができない!？」を読み、話し合う</p> <p>13. 若者の日本語（英語、中国語など）が乱れている：「最近の子どもは読み書きができない!？」に関するディスカッション</p> <p>14. 「最近の子どもは読み書きができない!？」の要約＋感想</p> <p>15. 専門演習Ⅰ最終研究レポートの口頭発表</p> </div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div> <p>【A】 日本語教員養成課程：選択必修科目</p> </div>											
<div>(1) 内容</div> <div> <p>この演習では言語と社会に関するいくつかの研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語とグローバル社会」／「Language in Society」と並行するが、専門演習Ⅰ、卒業研究Ⅰ、Ⅱではこの調べを続けるので、各課題をより深く追求することができる。専門演習Ⅰでは、『言語学的にいえば??ことばにまつわる「常識」をくつがえす』（原作『Language Myths』）から選択された章を読み、話し合い、言語に関する神話（誤った通念）や思い違いに焦点が当てられる。「言語」と「社会」を人間の普遍的な現象として受け止め、また、特定の「言語」や「社会」を取り上げ、比較する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。</p> </div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <p>この演習の目的は広く信じられている言語に関する誤解をより理解することである。この誤解は他者に関する誤解に導くこともあり、他者との交流に悪影響を及ぼす可能性がある。この授業を通して、学生は言語と社会の相互関係をより理解できるようになる。</p> </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> <p>ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。</p> </div>										
	<div>準備学習(復習)</div> <div> <p>各章について独自の研究を行い、書面と口頭で発表すること。</p> </div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div> <p>英語圏の社会と日本の社会の言語使用について関心がある者の受講を望む。</p> </div>	<div>評価方法</div> <div> <table> <tr> <td>(1) 授業への参加度</td><td>30%</td></tr> <tr> <td>(2) 各章についての要約、独自の研究レポート</td><td>20%</td></tr> <tr> <td>(3) その口頭発表</td><td>10%</td></tr> <tr> <td>(4) 専門演習Ⅰ最終研究レポート</td><td>25%</td></tr> <tr> <td>(5) その口頭発表</td><td>15%</td></tr> </table> </div>	(1) 授業への参加度	30%	(2) 各章についての要約、独自の研究レポート	20%	(3) その口頭発表	10%	(4) 専門演習Ⅰ最終研究レポート	25%	(5) その口頭発表	15%
(1) 授業への参加度	30%										
(2) 各章についての要約、独自の研究レポート	20%										
(3) その口頭発表	10%										
(4) 専門演習Ⅰ最終研究レポート	25%										
(5) その口頭発表	15%										
<div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 言語に関する神話 言語偏見 なまり 標準語 方言 </div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>										

専門演習(言語と社会)II

EACL-A-301

担当教員：D. バーガー

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1AX04830

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この演習では言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語とグローバル社会」／「Language in Society」と並行するが、専門演習Iと同様に、より深く追求することができる。専門演習IIでは、方言と標準語という言語変種、またはなまりについて研究する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生はそれぞれの課題を研究し、研究発表をすることが求められている。

(2) 学びの意義と目標

この演習の目的は専門演習Iと同様に、広く信じられている言語に関する誤解をより理解することである。専門演習IIにおいて、英語と日本語の標準変種と標準外の変種（イギリス英語とアメリカ英語や共通語を含む）を比較する。同時に、標準外の言語変種に関する偏見による負の役割を考慮する。

受講者に対する要望

英語圏の社会と日本の社会の言語使用について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・方言
- ・標準語
- ・イギリス英語
- ・アメリカ英語
- ・言語偏見

授業計画

01. 授業紹介、専門演習IIの課題の紹介：方言と標準語の基本知識
02. 言語と方言の違い；図書館等への検索方法の復習
03. 標準語とは何か
04. 地域方言；リアクションペーパーとは何か
05. 『社会言語学入門』『言語、方言、変種』についてのリアクションペーパー：英語の変種：イギリス英語、アメリカ英語
06. イギリス英語とアメリカ英語 の比較
07. 日本語の変種：標準語と共通語；レポート・発表の仕方の復習
08. 日本語の変種：地域方言
09. 英語の変種についての独自の研究発表
10. 言語偏見：「言語的不平等と社会的不平等」に関するディスカッション
11. 言語不安
12. 言語偏見：「They Speak Really Bad English . . .」に関するディスカッション
13. 「They Speak Really Bad English . . .」：アメリカにおける言語偏見
14. 「They Speak Really Bad English . . .」：英語と日本語における言語偏見の比較
15. 専門演習II最終研究レポートの口頭発表

準備学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。

準備学習(復習)

各資料についてのリアクションペーパーや独自の研究を行い、書面と口頭で発表すること。

評価方法

- | | |
|---------------------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 25% |
| (2) リアクションペーパー | 10% |
| (3) 中家発表のレポートとその口頭発表 | 25% |
| (4) 専門演習II最終研究レポートとその口頭発表 | 40% |

教科書

参考書

イ ヨンスク『「国語」という思想—近代日本の言語認識』岩波書店、2012

専門演習(国際理解)Ⅰ

EACL-A-201

担当教員：M. サベット

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1AX04960

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

1. 自らの文化、歴史、社会の基本的要素の知識を深める。
2. コミュニケーションとは何か、そして自らの文化や歴史が、どのように人との接し方に影響を与えるかについて理解を深める。
3. コミュニケーションと国際理解のバリアについて考える。
4. コミュニケーション能力と国際理解の知識、スキル、考え方を身に付けることを目標とする。
5. 他の国の人々や文化に理解と尊敬と責任を表す。

(2) 学びの意義と目標

Students will have a deeper understanding of their own culture while at the same time show respect and understanding for other cultures.

受講者に対する要望

Class participation and research on assigned topics are required.

学びのキーワード

- ・ Culture
- ・ Communication
- ・ Understanding
- ・ Identity
- ・ Global

授業計画

01. Introduction to the course
02. Presentation fundamentals
03. Meaning of culture
04. Culture and societies
05. Cultural gaffes
06. Influence of culture on identity
07. Meaning of communication
08. Meaning internationalization
09. Diversity
10. Barriers to communication; Prejudice and discrimination
11. Barriers to communication; Stereotyping
12. Stereotyping and mass media
13. Stereotyping and mass media
14. Presentation
15. Presentation

準備学習(予習)

Students must gather information and data in order to be prepared for discussions in the classroom.

準備学習(復習)

Students will be asked to do further reading and research on topics discussed in the class.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 30% |
| (2) Presentations | 40% |
| (3) Final Report | 30% |

教科書

参考書

専門演習(国際理解)Ⅱ

EACL-A-301

担当教員： M. サベット

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1AX05070

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

差別的な行動を認識し、それを拒否することが、グローバル志向の人になるための鍵である。多様性と一体性の利点を分析することが、社会の平等と公平性を促進することの基本である。この演習は、独自の背景や文化的価値観により人々に偏見を持っていることを気づかせます。世界中の過去と現在の差別的政策を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

この演習の目的は、人々は意図的にまたは意図せずに、どのように、なぜ差別をしてしまうのかを理解し、偏見をもたずに、文化や行動(行為)を分析するためのスキルを身に付けることである。

受講者に対する要望

研究をし、積極的にクラスの議論に参加する者を望む。

学びのキーワード

- ・ステレオタイプ
- ・差別
- ・体性
- ・多様性
- ・価値観

授業計画

01. Introduction to the course
02. PowerPoint presentation fundamentals
03. Prejudice, discrimination, and stereotyping at home
04. Prejudice, discrimination, and stereotyping at home
05. Interracial families
06. Interracial families
07. Slavery, Movie: 12 Years a Slave
08. Slavery, Movie: 12 Years a Slave
09. Present day slavery
10. Present day slavery
11. Child labor
12. Child labor
13. Preparation for the final presentation
14. Final presentation
15. Final presentation

準備学習(予習)

プレゼンテーション、授業の予習、トピックに関する研究が必要である。

準備学習(復習)

プレゼンテーション及び議論においては、継続的な研究が必要である。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 30% |
| (2) Presentations | 40% |
| (3) Final Report | 30% |

教科書

参考書

卒業研究(キリスト教文化)II

EACL-A-302

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1AX05310

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

1. この講義は、卒業研究Iに続く講義であり、学生はそれぞれの興味に従って、トピックを選択し、その課題において深層・綿密な研究を進め、クラスにおいてその途中経過報告、また、成果をクラスディスカッションで発表します。最終的論文結果は、各学生の学期末の学術研究論文として提出されます。

(2) 学びの意義と目標

講義の主要目的は、キリスト教とその文化の学術研究を進め、また、各論文の適切な構成を持った論文結果を口頭表現することによって、学生が課題においてのより深い知識を進展させていくことにあります。

受講者に対する要望

学生は、密接な関連講義である「専門演習」を好結果をもっての終了を必要とし、大学レベルの研究のチャレンジを期待されるものとします。

学びのキーワード

・学術研究

授業計画

01. イントロダクション
02. 研究課題選択の概観
03. 学術研究指導 I
04. 学術研究指導 II
05. 学術研究指導 III
06. 論文様式の指針 I
07. 論文様式の指針 II
08. 中間レポート&ディスカッション I
09. 中間レポート&ディスカッション II
10. 中間レポート&ディスカッション III
11. 中間レポート&ディスカッション IV
12. 中間レポート&ディスカッション V
13. 学術研究論文
14. PPT準備発表
15. (論文)発表

準備学習(予習)

学生は指定された教材の読書を都度終えること、個々のトピックのリサーチを図書館等で進めること。これに続き、グループ・ディスカッションにおいてそれぞれ週ごとのリサーチ発表を求められます。

準備学習(復習)

計画的に授業外で個人的に学術研究を進めていく義務と、その中間レポートの提出義務があります。

評価方法

- | | |
|-----------------------------|-----|
| (1) 授業参加／態度 | 30% |
| (2) 中間レポート | 10% |
| (3) 最終学術論文 | 40% |
| (4) クラスでのパワーポイント(PPT)研究論文発表 | 20% |

教科書

参考書

印刷物・プリント：“欧米文化科論文ガイドライン・指針”

卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅰ		EACL-A-302
担当教員： 和田 光司		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1AX05540
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、パワーポイント実習 1 02. オリエンテーション、パワーポイント実習 2 03. オリエンテーション、パワーポイント実習 3 04. 各自自由発表、レポート指導、 1 05. 各自自由発表、レポート指導、 2 06. 各自自由発表、レポート指導、 3 07. 各自自由発表、レポート指導、 4 08. 各自自由発表、レポート指導、 5 09. 各自自由発表、レポート指導、 6 10. 各自自由発表、レポート指導、 7 11. 各自自由発表、レポート指導、 8 12. 各自自由発表、レポート指導、 9 13. 各自自由発表、レポート指導、 10 14. 各自自由発表、レポート指導、 11 15. 各自自由発表、レポート指導、 12</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>(内容) 本講義では、専門演習で養成したプレゼンテーション能力を基礎として、これの実践的発展を志す。従来と同様細かい評価表により学生相互に批評を行う。また実社会での基礎スキルと見なされているパワーポイントの習得に努める。テーマとしては、各学生が欧米文化の中から自らの関心に合うものを自由に選択し、各自の知的関心を高める。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>パワーポイント技術の習得、歴史研究方法の理解、自由研究による自発的問題発見、解決能力の向上</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>自分の発表の準備を行う。構想を立て、資料を集め、読解し、分析し、発表原稿を作りパワーポイントを作成する。また発表前にリハーサルを行う。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>他学生からのコメントをもとに、発表原稿、パワーポイントを作成し直す。もう一度プレゼンテーションを試みる。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>書籍、テレビ、インターネットなどを通して自分独自の関心を掘り下げることができるよう、努力してほしい。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 40% (2) 授業内発表 60%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ プレゼンテーション ・ 自由研究 ・ 欧米文化</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

卒業研究(ヨーロッパ史)II

EACL-A-401

担当教員： 和田 光司

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1AX05650

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

(内容) 本講義では、卒業研究Iに続いてプレゼンテーション能力の一層の実践的發展を志す。特に卒業レポート作成により文章力の向上を目指す。また他ゼミとの交流発表会により、より開かれた形でのプレゼンテーションの機会を持つ。

(2) 学びの意義と目標

自由研究による知的関心の育成、問題解決能力の向上、文書作成技術の涵養、オープンな場での発表による対社会的なコミュニケーション力の向上

受講者に対する要望

就業力とも直結するような段階になるので、チャレンジ精神をもって取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 自由研究
- ・ プレゼンテーション
- ・ レポート執筆
- ・ 調査

授業計画

01. 自由発表、レポート指導、1
02. 自由発表、レポート指導、表2
03. 自由発表、レポート指導、3
04. 自由発表、レポート指導、4
05. 自由発表、レポート指導、5
06. 自由発表、レポート指導、6
07. 自由発表、レポート指導、7
08. 自由発表、レポート指導、8
09. 自由発表、レポート指導、9
10. 自由発表、レポート指導、10
11. 自由発表、レポート指導、11
12. 自由発表、レポート指導、12
13. 自由発表、レポート指導、13
14. 自由発表、レポート指導、14
15. 自由発表、レポート指導、15

準備学習(予習)

卒業レポート作成のための準備、調査、草稿執筆、研究発表のためのレジュメ、パワーポイント作成

準備学習(復習)

教員からの指示に基づき、レポートの訂正。発表後、反省点に従いレジュメ、パワーポイントの修正、自分でプレゼンテーションを再度試みる。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 卒業レポート | 40% |
| (3) 研究発表 | 20% |

教科書

参考書

卒業研究(英米文学)Ⅰ

担当教員：氏家 理恵

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 1AX07080

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「専門演習」に引き続き、前半はレポート合評会、後半は発表とディスカッションを行う。レポート合評では専門演習Ⅱで作成したレポートを相互評価し、内容・形式ともによりよくするための作成ポイントを確認する。また、それぞれの卒業研究計画について発表し、ディスカッションを繰り返しながら、それぞれの研究テーマ決定への足掛かりとする。

(2) 学びの意義と目標

「専門演習」では、発表を通して文献の読み方やレジュメの作り方に慣れ、レポート合評を通してレポートの書き方を学んだ。「卒業研究Ⅰ」では、引き続き、レジュメやレポートの作成力、プレゼンテーション力を高め、社会に出てからも通用する応用力をつける。また、卒業研究テーマを決定し、研究計画を練る期間とする。

受講者に対する要望

ゼミには積極的に参加してほしい。また、学期終了時までには、自分の興味・関心に合った卒業研究テーマを見つけ、研究計画を練り上げてほしい。

学びのキーワード

- ・ 英米文学
- ・ 英米文化
- ・ 映像文化・視覚文化
- ・ 物語分析
- ・ 比較文学・比較文化

授業計画

01. イントロダクション：授業の進め方の確認と役割・作業分担
02. レポート合評会 1
03. レポート合評会 2
04. レポート合評会 3
05. レポート合評会 4
06. レポート合評会 5
07. レポート合評会 6
08. レポート合評会 7
09. 研究テーマ発表 1
10. 研究テーマ発表 2
11. 図書館ガイダンス
12. 研究の進め方について：理論と方法
13. 卒業研究計画発表 1
14. 卒業研究計画発表 2
15. 卒業研究Ⅱ・卒業論文に向けて

準備学習(予習)

レポート評価表や研究計、レジュメの作成など、事前に準備すべきことは必ずしておくこと。合評会用のレポート、資料は事前に読み、授業時には自分のコメントや評価を発言できるように準備しておくこと。

準備学習(復習)

合評会や発表を通して確認したレポートの書き方やプレゼンの仕方などのポイントは、今後のレポート作成や発表に生かせるように、必要事項をまとめておくこと。また、合評後は加筆修正したレポートを再提出すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 課題 | 20% |
| (3) 発表 | 30% |
| (4) 期末レポート | 20% |

教科書

なし

参考書

卒業研究(英米文学)Ⅰ

担当教員：氏家 理恵

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 1AX07085

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「専門演習」に引き続き、前半はレポート合評会、後半は発表とディスカッションを行う。レポート合評では専門演習Ⅱで作成したレポートを相互評価し、内容・形式ともによりよくするための作成ポイントを確認する。また、それぞれの卒業研究計画について発表し、ディスカッションを繰り返しながら、それぞれの研究テーマ決定への足掛かりとする。

(2) 学びの意義と目標

「専門演習」では、発表を通して文献の読み方やレジュメの作り方に慣れ、レポート合評を通してレポートの書き方を学んだ。「卒業研究Ⅰ」では、引き続き、レジュメやレポートの作成力、プレゼンテーション力を高め、社会に出てからも通用する応用力をつける。また、卒業研究テーマを決定し、研究計画を練る期間とする。

受講者に対する要望

ゼミには積極的に参加してほしい。また、学期終了時までには、自分の興味・関心に合った卒業研究テーマを見つけ、研究計画を練り上げてほしい。

学びのキーワード

- ・ 英米文学
- ・ 英米文化
- ・ 映像文化・視覚文化
- ・ 物語分析
- ・ 比較文学・比較文化

授業計画

01. イントロダクション：授業の進め方の確認と役割・作業分担
02. レポート合評会 1
03. レポート合評会 2
04. レポート合評会 3
05. レポート合評会 4
06. レポート合評会 5
07. レポート合評会 6
08. レポート総評と作成の諸注意
09. 研究テーマ発表 1
10. 研究テーマ発表 2
11. 図書館ガイダンス
12. 研究の進め方について：理論と方法
13. 卒業研究計画発表 1
14. 卒業研究計画発表 2
15. 卒業研究Ⅱ・卒業論文に向けて

準備学習(予習)

レポート評価表や研究計、レジュメの作成など、事前に準備すべきことは必ずしておくこと。合評会用のレポート、資料は事前に読み、授業時には自分のコメントや評価を発言できるように準備しておくこと。

準備学習(復習)

合評会や発表を通して確認したレポートの書き方やプレゼンの仕方などのポイントは、今後のレポート作成や発表に生かせるように、必要事項をまとめておくこと。また、合評後は加筆修正したレポートを再提出すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 課題 | 20% |
| (3) 発表 | 30% |
| (4) 期末レポート | 20% |

教科書

なし

参考書

授業時に適宜指示する。

卒業研究(英米文学)Ⅱ

EACL-A-401

担当教員： 氏家 理恵

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1AX07180

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な能力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める。

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

くゼミ>での学びの集大成として、卒業研究レポートとその論集を作成する。まず、「卒業研究I」で作成した各自の卒業研究テーマに関するレポートを題材にして、アウトライン作成・引用の仕方・注の書き方・画像の使い方など、全員に共通する注意事項をお互いに添削しながら確認する。また、数本ずつ合評をしていき、それぞれの課題を明らかにする。最後に、書式や表現なども含め、説得力のある論理的なレポート作成をするためのポイントの最終確認をしながら、卒業研究レポートを完成させる。

(2) 学びの意義と目標

これまで学んできたさまざまな知識とテクニックを駆使し、各自の研究テーマを深化させ、卒業研究レポートの完成を目指す。

受講者に対する要望

ディスカッション中心となるので意欲的な参加を希望する。また、2年間のゼミの集大成としての卒業研究レポートの完成に向けて努めてほしい。

学びのキーワード

- ・ 英米文学
- ・ 英米文化
- ・ 映像文化
- ・ 物語分析
- ・ 比較文学
- ・ 比較文化

授業計画

01. イントロダクションー卒業研究経過報告
02. アウトライン再確認
03. レポート完成までの諸注意
04. 卒業研究Iレポート合評会 1
05. 卒業研究Iレポート合評会 2
06. レポート的な文章表現について
07. 卒業研究Iレポート合評会 3
08. 卒業研究Iレポート合評会 4
09. 卒業研究Iレポート合評会 5
10. レポート・論文の書式について（確認）
11. レポート再提出と総評
12. 個別面談 1／相互コメント作成
13. 個別面談 2／相互コメント作成
14. 最終レポート提出と相互チェック
15. 論集作成

準備學習(予習)

卒業研究レポートの合評会に向けて、お互いのレポートのチェックを随時行うこと。自分の卒業研究レポートの完成に向けて、自分の分析・考察を入れ、オリジナリティをできるだけ出せるように常に考えていること。

準備學習(復習)

合評会で確認したレポートのポイントに基づきながら卒業研究レポートを作成すること。最終レポートは原稿用紙換算20枚以上を目指す。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 30% | ディスカッションへの参加度 |
| (2) 課題 | 30% | 他のメンバーのレポート校正・評価 |
| (3) 期末レポート | 40% | |

教科書

参考書

卒業研究 (Pop Culture) I

EACL-A-302

担当教員：K. O. アンダスン

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1AX07390

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習 I と II に引き続き、短編映画のレポートの書き方を改善しながら「卒業研究レポート」を書く準備をする。また、この卒業研究 I は同学期に開講される卒業研究 II と併せて進める。
This course is a continuation of Semmon Enshu I and II (Pop Culture I and II).

(2) 学びの意義と目標

調査・研究方法と小論文の書き方を学ぶ。Students should practice paraphrasing, summarizing and quotation in continuing the writing of their zemi reports and should learn how to use examples from the films they write about to support their arguments.

受講者に対する要望

Students should come to class on time, turn in all homework on time, and be willing and able to participate in both class discussions and in consultations with the teacher about their zemi reports.

学びのキーワード

- summary
- paraphrase
- quotation
- sources
- conclusion

授業計画

01. zemi report writing
02. Crac! film showing
03. textbook chapter 5; journals
04. Crac! quiz; sources and citations
05. zemi report quotations and summaries
06. zemi report summaries and paraphrasing, continued
07. The Man Who Planted Trees film showing
08. textbook chapter 5, continued
09. The Man Who Planted Trees homework and quiz
10. Cinderella from Revolting Rhymes film showing
11. zemi report writing; textbook chapters 6, 7
12. Cinderella quiz; textbook chapter 7
13. zemi report writing
14. zemi report writing, continued
15. zemi report pages due

準備学習(予習)

Students should write and revise pages of their zemi reports at home and turn them in on time. They should also continue writing in their journals, do homework, and prepare oral reports.

準備学習(復習)

Students should write multiple drafts of their work and be able to exchange ideas of their work and the films watched in class with other students.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) participation | 15% |
| (2) homework | 20% |
| (3) quizzes | 30% |
| (4) zemi report | 35% |

教科書

参考書

教科書は専門演習 I & II で使用したものをを使う。

卒業研究 (Pop Culture) II

EACL-A-401

担当教員：K. O. アンダスン

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1AX07400

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この卒業研究 II は2015年度秋学期卒業研究 I の継続である。

(2) 学びの意義と目標

It is hoped that the process, over four seminars, will have sharpened students' critical thinking, deepened their knowledge and awareness of world film, and help them reflect on their own culture and that of others.

受講者に対する要望

Students are expected to prepare for The Third Man and Roman Holiday homework before class, familiarizing themselves with the material, and be able to answer questions about the scenes in class. They will also be expected to satisfactorily finish writing their zemi reports and turn them in.

学びのキーワード

- World War II; postwar Vienna and Italy
- Vienna and Rome; expatriates; royalty
- black markets and crime; the lives of princesses
- ethics and morality; freedom of choice

授業計画

01. zemi report writing
02. synthesis of sources; paraphrasing
03. summary and quotation
04. The Third Man, Roman Holiday introduction and background research
05. The Third Man, Roman Holiday homework
06. The Third Man, Roman Holiday quiz 1
07. zemi report oral report plans
08. The Third Man, Roman Holiday homework
09. The Third Man, Roman Holiday homework
10. The Third Man, Roman Holiday homework
11. oral reports
12. The Third Man Roman Holiday homework
13. The Third Man, Roman Holiday homework
14. zemi report writing, conclusion
15. completed zemi reports due

準備学習(予習)

Students should write and revise pages of their zemi reports at home and turn them in on time. They should also continue to do homework and prepare reports.

準備学習(復習)

Students should write multiple drafts of their work and be able to exchange ideas about their zemi reports with other students.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) participation | 15% |
| (2) homework | 20% |
| (3) quizzes | 30% |
| (4) zemi report | 35% |

教科書

参考書

卒業研究 (Pop Culture) II (114生)

担当教員：K. O. アンダスン

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1AX07410

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化社会に係る力を身につける。表現力とリテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める。

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この卒業研究 II は同学期開講の卒業研究 I と併せて進める。

(2) 学びの意義と目標

The purpose of this course is to continue watching and commenting on short films and writing zemi reports.

受講者に対する要望

Students are expected to bring their textbooks to every class and to have their homework ready for each class.

学びのキーワード

- sources, in-text citations
- summaries, paraphrasing
- quotations, plagiarism
- conclusion
- works cited

授業計画

01. work on zemi reports pages 3, 4, etc.
02. Les Mistons film showing
03. textbook chapter 7, journal
04. Les Mistons review; textbook
05. Les Mistons quiz; textbook, journal
06. Anna of Milan film showing
07. chapter 8, textbook
08. Anna of Milan quiz; chapters 8 and 9, journal
09. textbook chapters 8 and 9
10. textbook chapter 9, journal
11. Communication Problems film showing
12. textbook chapter 9, journal
13. Communication Problems quiz; zemi report writing
14. zemi report writing
15. zemi report pages due

準備学習(予習)

Students should read over and understand all questions connected to films before class. They should also continue writing their zemi reports and do textbook homework.

準備学習(復習)

Students should conduct research for their zemi report papers and write in journals for English writing practice.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) participation | 15% |
| (2) homework | 20% |
| (3) quizzes | 30% |
| (4) zemi report | 35% |

教科書

参考書

卒業研究 (児童英語教育)Ⅰ		EACL-A-302
担当教員： 東 仁美		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1AX09401
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 早期英語教育 03. 英語教育の小中連携 04. アジア諸国の早期英語教育 05. バイリンガル教育 06. 効果的な英語学習法 07. 図書館オリエンテーション 08. ブックレビュー発表 1 09. ブックレビュー発表 2 10. 絵本の読み聞かせの効用 11. 音読の効果の検証 12. 英語学習の動機付け 13. 文法指導 14. 卒業研究レポート 概要発表 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>専門演習で学んできた英語教育の分野から、自分の関心のある分野を探し出し、文献購読を始める。学期末課題としてそれらをレポートにまとめる。研究課題を決めて、文献研究を進めていく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>演習を通して、各自の研究テーマを決定し、卒業研究レポートの骨子を明確にしていく。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>文献を読むことに慣れてほしい。授業で扱う文献は前週の授業で配布するので、必ず目を通しておくこと。また、文献発表後のディスカッションに積極的に参加すること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>卒業研究Ⅱでの卒業研究レポート作成につながるよう、積極的に演習に参加してほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業後にリフレクションシートを記入し、提出する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業への出席、参加</div><div>30%</div></div><div><div>(2) ブックレビュー</div><div>20%</div></div><div><div>(3) プレゼンテーション</div><div>20%</div></div><div><div>(4) レポート</div><div>30%</div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 英語教育</div><div>・ バイリンガル教育</div><div>・ 指導法</div><div>・ 第二言語習得理論</div><div>・ 小中連携</div></div>	<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div> <div>参考書</div>	

卒業研究(児童英語教育)Ⅱ		EACL-A-401
担当教員： 東 仁美		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1AX09510
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める</div>	<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. テーマ設定 03. 論文の書き方 04. 資料検索 05. テーマ発表、討論（１） 06. テーマ発表、討論（２） 07. テーマ発表、討論（３） 08. 論文作成指導（１） 09. 論文作成指導（２） 10. 中間報告、討論（１） 11. 中間報告、討論（２） 12. 中間報告、討論（３） 13. プレゼンテーション（１） 14. プレゼンテーション（２） 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>文献購読をしながら、卒業研究レポートのテーマ選び、論文作成にとりかかる。英語教育学の分野の中から、自分が興味を持てるテーマを選び、資料検索、データ集めを個別指導を交えながら行っていく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>専門演習、卒業研究のまとめとして、自分のテーマを深めるとともに卒業研究レポート執筆に向けての準備をする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>参考文献を積極的に検索し、資料を読み込む。自分のテーマを掘り下げて研究していくこと。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>レポートの添削指導の後は修正レポートを作成し、再度提出する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>2年間のゼミのまとめとして、最も興味がある分野を選び、納得のいくレポートをまとめてほしい。</div>	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業への参加、貢献</div><div>30%</div></div><div><div>(2) プレゼンテーション</div><div>30%</div></div><div><div>(3) レポート</div><div>40%</div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 英語教育</div><div>・ 言語習得理論</div><div>・ 文献研究</div><div>・ 小学校外国語活動</div><div>・ 中学校英語教育</div></div>	<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div> <div>参考書</div> <div>白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則 『英語教育用語辞典』（大修館書店）</div>	

専門演習(英語学)Ⅰ

EACL-A-201

担当教員： 加曽利 実

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1AX10140

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

【A】日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 内容

「人間と言語の関係」を中核として、言語と文化の本質に係わる諸問題について考えて行きます。まず、「言語習得理論」の英文テキストを輪読し、全員でディスカッションします。また、受講者の希望があれば、英語音声、英文法、英語句読法、その他の「英語基礎事項」について総合的に学習します。授業の詳細については、最初の授業の時に、プリントで説明します。

(2) 学びの意義と目標

本ゼミでは、言語習得理論、インド・ヨーロッパ語族などについての、やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、言語と文化の様々な問題について議論を深化させていきたいと思っています。更に、プリント教材などを用いて、比較文化論についても扱う予定です。

受講者に対する要望

言語習得理論、印欧祖語などについて学習しますので、英語の基礎学力のある学生を望みます。また、予習・復習を励行して下さい。

学びのキーワード

- 言語習得理論
- 言語学習理論
- 言語類型論
- 生成変形文法と構造主義言語学
- 日米比較文化論

授業計画

01. イントロダクションと英語基礎力確認調査

02. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 1 ― 人間と言語

03. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 2 ― 言語習得過程

04. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 3 ― 言語習得年齢

05. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 4 ― 言語を習得しなかった人間(野生児)

06. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 5 ― 単語から文への発達段階

07. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 6 ― 言語の独自性

08. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 7 ― COMPETENCE & PERFORMANCE

09. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 8 ― Langage, Langue, Parole

10. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 9 ― 文法本質論

11. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 10 ― Chomskyによる標準理論モデル

12. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 11 ― LADとLANGUAGE

13. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 12 ― 表層構造と深層構

14. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 13 ― ChomskyとSaussureの言語理論的相違点

15. 総合的なまとめ

準備学習(予習)

毎回、全員に当たるので、授業前に配布プリント及びテキストを熟読し、よく予習しておくこと。予習・復習ノートを提出してもらい、評価の一部とすることもありますので、しっかりとまとめておいて下さい。

準備学習(復習)

復習も、必ず励行して下さい。毎回、授業終了後、その日に学習した事柄をノートなどにまとめておいて、復習をしましょう。復習を何度か繰り返すと、鮮明に記憶に残り、より効果的です。

評価方法

(1) 平常点	20%	授業への参加度
(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出
(3) 課題レポート	30%	レポート提出
(4) 期末試験	40%	期末試験の成績

予習と復習を励行するかどうか、成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。

教科書

Sheila Chevallier 『First Steps to Linguistics』(三修社)

参考書

授業中に提示します。

専門演習(英語学)Ⅱ		EACL-A-301															
担当教員： 加曽利 実																	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1AX10250															
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション 02. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 1 ― 印欧語族概 03. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 2 ― 印欧語族の祖語 04. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 3 ― 印欧語族の構成言語 05. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 4 ― 英語とその他の印欧語族 06. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 5 ― ギリシャ語、ラテン 07. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 6 ― 梵語(サンスクリット語) 08. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 7 ― 同系・同語源語 09. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 8 ― 語形変化 10. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 9 ― グリムの法 11. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 10 ― ノルマン人の征服 12. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 11 ― フランス語からの借入語 13. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 12 ― 英語の中にあるケルト語 14. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 13 ― 練習問題 15. 総合的なまとめ</div>															
<div>(1) 内容</div> <div>専門演習(英語学)Ⅰを踏まえて、人間と言語と文化の関係・本質に係わる諸問題について考えて行きます。テキストを輪読しながら、英語の読解力を養成します。専門演習(英語学)Ⅱでは、インド・ヨーロッパ語族と言語の系統・類型学について学びます。授業の詳細については、最初の授業の時に、プリントで説明します。</div>																	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、言語習得理論を中心として、英語学や言語学について議論を深化させていきたいと思っています。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、全員が当たるので、テキストの翻訳が出来るように予習し、準備をしておいて下さい。適宜、予習・復習ノートを提出してもらい、これを評価の一部とすることもありますので、学習事項をしっかりとまとめておいて下さい。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>毎回、授業後、学習事項を復習して下さい。繰り返し復習すると、確実に記憶に定着します。</div>															
<div>受講者に対する要望</div> <div>主として英語学に関心のある学生を望みます。専門演習(英語学)Ⅱでは、「インド・ヨーロッパ語族」をテーマとします。</div>		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 平常点</td><td>20%</td><td>授業への参加度</td></tr><tr><td>(2) 予習・復習ノート</td><td>10%</td><td>ノート提出</td></tr><tr><td>(3) 課題レポート</td><td>30%</td><td>締切日までのレポート提出</td></tr><tr><td>(4) 期末試験</td><td>30%</td><td>定期試験の成績</td></tr><tr><td>(5) 準備学習の励行</td><td>10%</td><td>授業中の質疑応答</td></tr></table><div>予習と復習を励行するかどうか、定期試験の成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。</div></div>	(1) 平常点	20%	授業への参加度	(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出	(3) 課題レポート	30%	締切日までのレポート提出	(4) 期末試験	30%	定期試験の成績	(5) 準備学習の励行	10%	授業中の質疑応答
(1) 平常点	20%	授業への参加度															
(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出															
(3) 課題レポート	30%	締切日までのレポート提出															
(4) 期末試験	30%	定期試験の成績															
(5) 準備学習の励行	10%	授業中の質疑応答															
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">インド・ヨーロッパ語族歴史言語学比較言語学比較文化論グリムの法則</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>Sheila Chevallier 『First Steps to Linguistics』(三修社) 授業中に提示します。</div>															

卒業研究(英語学)Ⅰ		EACL-A-302												
担当教員： 加曽利 実														
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1AX10460												
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. テキストの輪読：日米比較文化論 1 ― Culture Shock (Dinner) 03. テキストの輪読：日米比較文化論 2 ― Culture Shock (Garden) 04. テキストの輪読：日米比較文化論 3 ― Culture Shock (High School Education) 05. テキストの輪読：日米比較文化論 4 ― Non-Verbal Communication (Space) 06. テキストの輪読：日米比較文化論 5 ― Non-Verbal Communication (Gestures) 07. テキストの輪読：日米比較文化論 6 ― Non-Verbal Communication (Body Language) 08. テキストの輪読：日米比較文化論 7 ― Stereotypes (Food) 09. テキストの輪読：日米比較文化論 8 ― Stereotypes (Its Origin) 10. テキストの輪読：日米比較文化論 9 ― Stereotypes (Ideal Man) 11. テキストの輪読：日米比較文化論 10 ― Ethnocentrism (Speech Making) 12. テキストの輪読：日米比較文化論 11 ― Ethnocentrism (German Style) 13. テキストの輪読：日米比較文化論 12 ― Ethnocentrism (Universal Humanity) 14. テキストの輪読：日米比較文化論 13 ― 逆カルチャーショック 15. 総合的なまとめ</div>												
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>ゼミ</div>														
<div>(1) 内容</div> <div>卒業研究(英語学)Ⅰでは、やさしい英文で書かれた日米比較文化論についての入門書を輪読しながら、議論を深化させていきたいと思っています。授業の詳細については、最初の授業の時に、プリントで説明します。</div>														
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本と英語の日米比較文化論ですから、特に、英語と日本語の言語的・思想的構造の異同について解説・議論します。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、全員に当たるので、各自、予習・復習ノートを作成し、テキストを翻訳しておいて下さい。このノートは、提出してもらい、評価の一部とすることもありますので、毎回、学習事項をしっかりとまとめておいて下さい。</div>												
		<div>準備学習(復習)</div> <div>復習も、励行して下さい。授業後、なるべく早期に、かつ繰り返し復習すると、より効果的に記憶に定着します。</div>												
<div>受講者に対する要望</div> <div>原則として、テキストの輪読形式で授業を進めていきます。卒業研究は、いわば「学業の仕上げ」と言えます。
</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>20%</td><td>授業への参加度</td></tr><tr><td>(2) 予習・復習ノート</td><td>10%</td><td>ノート提出</td></tr><tr><td>(3) 課題レポート</td><td>30%</td><td>レポート提出</td></tr><tr><td>(4) 期末試験</td><td>40%</td><td>期末試験の成績</td></tr></table> <div>予習と復習を励行するかどうか、成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。</div>	(1) 平常点	20%	授業への参加度	(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出	(3) 課題レポート	30%	レポート提出	(4) 期末試験	40%	期末試験の成績
(1) 平常点	20%	授業への参加度												
(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出												
(3) 課題レポート	30%	レポート提出												
(4) 期末試験	40%	期末試験の成績												
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 日米比較文化論・ 経験主義と理性主義・ 言語と思考</div>		<div>教科書</div> <div>Kenneth Y. Sagawa, “Cultural Differences” (桐原書店) 坂本ナンシー、直塚玲子 『Polite Fictions』 (金星堂)</div> <div>参考書</div> <div>授業中に提示します。</div>												

単位： 1 コード： 1AX10560

02. テキストの輪読: 日米比較文化論 1 -- You and I are Equal
03. テキストの輪読: 日米比較文化論 2 -- You and I are Close Friends
04. テキストの輪読: 日米比較文化論 3 -- You and I are Relaxed
05. テキストの輪読: 日米比較文化論 4 -- You and I are Independent
06. テキストの輪読: 日米比較文化論 5 -- People as Individuals
07. テキストの輪読: 日米比較文化論 6 -- Being Original
08. テキストの輪読: 日米比較文化論 7 -- Questions, Questions!
09. テキストの輪読: 日米比較文化論 8 -- Answer to the Point
10. テキストの輪読: 日米比較文化論 9 -- Conversational Ballgames
11. テキストの輪読: 日米比較文化論 10 -- Don't Apologize!
12. テキストの輪読: 日米比較文化論 11 -- Nobody Told Me!
13. テキストの輪読: 日米比較文化論 12 -- 自己推薦書の日米比
14. テキストの輪読: 日米比較文化論 13 -- 比較論から見た日本とアメリカの文化の本質
15. 総合的なまとめ

卒業研究(英語学)Ⅱでは、卒業研究(英語学)Ⅰ同様、日米比較文化論についての英文テキストを輪読しながら、議論を深化させていきたいと思っています。授業の詳細については、最初の授業の時に、プリントで説明します。

日米比較文化論ですから、特に、日本語と英語の言語的・思想的構造の異同について解説・議論します。

毎回、全員に当たるので、各自、予習・復習ノートを作成し、テキストを翻訳しておいて下さい。このノートは、提出してもらい、評価の一部とすることもありますので、毎回、学習事項をしっかりとまとめておいて下さい。

復習も、励行して下さい。授業後、なるべく早期に、かつ繰り返し復習すると、より効果的に記憶に定着します。

(1) 平常点	20%	授業への参加度
(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出
(3) 課題レポート	30%	レポート提出
(4) 期末試験	40%	期末試験の成績

予習と復習を励行するかどうか、定期試験の成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。

原則として、テキストの輪読形式で授業を進めていきます。卒業研究は、いわば「学業の仕上げ」と言えます。

- ・ 日米比較文化論
- ・ 経験主義と理性主義
- ・ 言語と思考
- ・ 発想法

坂本ナンシー、直塚玲子 『Polite Fictions』 (金星堂)

Kenneth Y. Sagawa, "Cultural Differences" (桐原書店)
授業中に提示します。

卒業研究(言語と社会)Ⅰ			EACL-A-302
担当教員： D. バーガー			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
		単位： 1	コード： 1AX10730
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業紹介、卒業研究Ⅰの課題の紹介： 少数言語、 危機言語、言語衰退、言語復興</div> <div>02. 危機言語、言語復興</div> <div>03. 危機言語としてのアイヌ語</div> <div>04. アイヌ語復興、北海道旧土人保護法、アイヌ文化振興法</div> <div>05. アイヌ語についての資料のリアクションペーパー</div> <div>06. 危機言語としての琉球語</div> <div>07. 琉球語復興</div> <div>08. 琉球語についての資料のリアクションペーパー</div> <div>09. 危機言語としてのハワイ語</div> <div>10. ハワイ語復興</div> <div>11. ハワイ語についての資料のリアクションペーパー</div> <div>12. 危機言語としてのアメリカ先住民の諸言語</div> <div>13. アメリカ先住民の諸言語復興</div> <div>14. まとめ</div> <div>15. 卒業研究Ⅰ最終研究レポートの口頭発表</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>このゼミでは言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語とグローバル社会」／「Language in Society」と並行するが、専門演習Ⅰ、Ⅱと同様に、より深く追求することができる。卒業研究Ⅰの主要課題は危機言語と言語復興である。主に、アイヌ語、琉球諸言語、ハワイ語、アメリカ先住民の諸言語を始め、それぞれの社会において英語と日本語がその言語の危機状態の一因となる役割を果たすことを研究する。受講生は各課題について資料を読み、リアクションペーパーを書く。学期末にその課題の中から1つ選び、または専門演習Ⅰ、Ⅱに調べたテーマを続き、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められている。卒業論文を書く学生はテーマを選び、研究を今学期中に始めることを勧める。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この演習の目的は、まず、日本は多言語社会であることを紹介することである。そして、日本とアメリカの危機言語についての理解を深めることである。国の結束に対する標準語の良い影響、または言語的や民族的多様性に対する標準語の悪影響を調べる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>ディスカッションに積極的に参加するために、各課題について事前に調べ、与えられた資料を事前に読むこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>各資料についてリアクションペーパーを書き、授業でその資料についてのディスカッションを行なう。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>英語圏の社会と日本の社会の言語使用について関心がある者の受講を望む。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加度 30%</div> <div>(2) リアクションペーパー 25%</div> <div>(3) 卒業研究Ⅰ最終研究レポート 30%</div> <div>(4) その口頭発表 15%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 危機言語</div> <div>・ 言語復興</div> <div>・ アイヌ語</div> <div>・ 琉球語</div> <div>・ ハワイ語</div>		<div>教科書</div>	
		<div>参考書</div> <div>沖縄大学地域研究所 編『琉球諸語の復興』芙蓉書房出版 2013</div> <div>菅野 庄『アイヌの魂』朝日文庫 1990</div> <div>ダニエル・ネトル スザンヌ・ロメイ 訳 島村宣男『消えゆく言語たち 失われることば、失われる世界』 新曜社2001</div> <div>パトリック・ハインリッヒ 『東アジアにおける言語復興 中国・台湾・沖縄を焦点に』?三元社 2010</div> <div>R. W. D. ディクソン 訳 六角章『言語の興亡』岩波書店 2008</div>	

EACL-A-401

卒業研究(言語と社会)Ⅱ

担当教員： D. バーガー

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1AX10840

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒業研究Ⅱの主要課題は差別語と包括語である。日本とアメリカ社会における人種・民族・性・障がい等に関する差別語と言語的差別をなくすための「包括語」という表裏一体の問題について研究する。この課題について資料を読み、リアクションペーパーを書くことに加え、ゼミの4学期の集大成となる卒業研究最終レポートを学期末に提出すること。

(2) 学びの意義と目標

この授業の目的は社会における差別と私たちの言語使用が差別的な考え方を反映することを考慮することである。日本とアメリカの社会で差別されている人々を調べる。また、私たちの言語使用はその人々の存在を認めたり否定したりして、平等、または不平等な扱いの一因になる可能性があることを考慮する。

受講者に対する要望

英語圏の社会と日本の社会の言語使用について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

・ 差別語

・ 非差別語

・ 人種差別語

・ 性差別語

・ 包括語

授業計画

01. 授業紹介、卒業研究Ⅱの課題の紹介:差別語とは何か？

02. 日本固有の差別問題：部落差別と差別語

03. 資料についてのリアクションペーパー、先住民に対する差別語

04. 先住民に対する差別語、障がいを持つ人に対する差別語

05. 資料についてのリアクションペーパー、障がいを持つ人に対する差別語

06. その他の差別語

07. 資料についてのリアクションペーパー、その他の差別語

08. アフリカ系の人々に対する英語の差別語・非差別語変革 (1)

09. アフリカ系の人々に対する英語の差別語・非差別語変革 (2)

10. 性差別語と男女包括語変革：日本語の例 (1)

11. 資料についてのリアクションペーパー、性差別語と男女包括語変革：日本語の例 (2)

12. 性差別語と男女包括語変革:英語の例 (1)

13. 性差別語と男女包括語変革:英語の例 (2)

14. 性差別語と男女包括語変革：英語の例 (3)

15. 卒業研究最終レポートの口頭発表

準備学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加するために、資料を事前に読むこと。

準備学習(復習)

各資料についてリアクションペーパーを書き、授業でその資料についてのディスカッションを行なう。

評価方法

(1) 授業への参加度

30%

(2) リアクションペーパー

25%

(3) 卒業研究Ⅱ最終研究レポート

30%

(4) その口頭発表

15%

教科書

参考書

上野 千鶴子 (編集)、メディアの中の性差別を考える会 (編集)『きつと変えられる性差別語—私たちのガイドライン』三省堂、1996

堀田 貴得著の『実例・差別表現 あらゆる情報発信者のためのケーススタディ』ソフトバンククリエイティブ 2008

卒業研究(国際理解)Ⅰ

EACL-A-302

担当教員：M. サベット

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1AX11580

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この演習では、世界が直面している、貧困、森林破壊、教育の欠如などの根本的な問題を紹介し、その根原因について学ぶ。そして、これらに関連する問題は、住んでいる場所に関わらず、人々にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

この演習の目的は、複雑な経済的・社会的な問題を理解することである。世界は狭くなっており、任意の行動または不作為が全世界に影響を及ぼすことを理解する。

受講者に対する要望

研究をし、積極的にクラスの議論に参加する者を望む。

学びのキーワード

- ・教育
- ・貧困
- ・環境
- ・気候変動
- ・人権

授業計画

01. Introduction to the course
02. Human development
03. Human development
04. Human rights
05. Human rights
06. Gender equality
07. Gender equality
08. Human trafficking
09. Human trafficking
10. child soldiers
11. Child soldiers
12. Animal rights
13. Animal rights; documentary
14. Final presentation
15. Final presentation

準備学習(予習)

議論をするにあたり、事前にデータ収集をし、研究しておく必要がある。

準備学習(復習)

議論のトピックは関連性があるため、継続的な研究が必要である。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 30% |
| (2) Presentations | 40% |
| (3) Final report | 30% |

教科書

参考書

担当教員：M. サベット

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1AX11690

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける。人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う。人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける。表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける。表現力・リテラシー：文章や文化現象を理解する力を身につける。グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める。グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共感的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

In this class, we will study about the environment, global warming, and how changes in the nature are affecting our lifestyle. We will also study and discuss causes of war and conflict that are happening around us. And finally, we will discuss how to bring peace and harmony to today's societies.

(2) 学びの意義と目標

Studying and discussing certain issues will not bring positive results. Students need to realize how steps taken by individuals, no matter how small, can make a difference. Students will learn how they can become better citizens by taking action and making contribution.

受講者に対する要望

Since this is the last semester for this seminar, students must focus on how their action can make a difference.

学びのキーワード

- ・ Environment
- ・ Global warming
- ・ Conflict
- ・ Peace
- ・ Global citizen

授業計画

01. Introduction to the course
02. Environment; Global warming
03. Environment; Rain forest
04. Environment; Deforestation
05. Deforestation; Documentary
06. Food waste
07. Food waste
08. Fast food
09. Conflicts around the world
10. Conflicts around the world
11. World peace
12. World peace
13. Becoming a global citizen
14. Final presentation
15. Final presentation

準備学習(予習)

Students will be asked to give short presentations on certain topics. Prior preparation and consultation with the teacher is essential.

準備学習(復習)

Since most of the topics are inter-related, students should refer to previous lessons frequently.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 30% |
| (2) Presentations | 40% |
| (3) Final report | 30% |

教科書

参考書

専門演習(多文化共生論) I

担当教員： 島田 由紀

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 1AX11710

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

1950年代・60年代アメリカの黒人公民権運動を指揮したマーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師の演説・説教・書簡などから特に重要なテキストを取り上げ、丁寧に読みこみ、差別的な社会の構造の变革を訴えた彼の思想の根幹にある「共生」の思想を読み解いていく。背景にあるキリスト教信仰・黒人教会の伝統・非暴力主義・市民的不服従・社会と共同体の理念などについても、適宜説明を加える。

(2) 学びの意義と目標

人類の遺産とも言えるキングの思想から、対立と憎しみを超えて人がどのように共生を目指し得るのかを考察し、21世紀を生きる私たちへの教訓を学んでいきたい。
ほとんどの学生にとっては初めてのゼミ形式の授業であるため、自分の考察をまとめ発表することに徐々に慣れていけるように配慮する。

受講者に対する要望

ゼミ形式の授業では、講義科目以上に主体的な学びの姿勢が重要である。分からないことについては、自分から質問したり、自分で調べてみたりして、積極的に取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 多文化共生
- ・ 倫理思想
- ・ 平和思想

授業計画

01. 導入 1
02. 導入 2
03. 学生による発表 1
04. 学生による発表 2
05. 学生による発表 3
06. 学生による発表 4
07. 学生による発表 5
08. 前半のまとめ
09. 学生による発表 1
10. 学生による発表 2
11. 学生による発表 3
12. 学生による発表 4
13. 学生による発表 5
14. 後半のまとめ
15. 全体のまとめ

準備学習(予習)

テキストをよく読んでから授業に参加すること

準備学習(復習)

授業のノートを整理しテキストの内容について理解を深めること

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) ディスカッションなどへの参加 | 50% |
| (2) 発表 | 25% |
| (3) 期末レポート | 25% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

専門演習(映像文化)Ⅰ									
担当教員： 畠山 宗明									
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 1 コード： 1AX12010						
学部教育の関連目		授業計画							
		01. イントロダクション 02. 映像とメディアについて 基本概念の理解 03. 発表、調査、購読のやり方について 04. 文献購読① 05. 文献購読② 06. 文献購読③ 07. 文献購読④ 08. 文献購読⑤ 09. 文献購読まとめ 10. ディスカッションについて 11. 作品鑑賞とディスカッション 12. 発表① 13. 発表② 14. 発表③ 15. 全体のまとめ							
カリキュラム上の位置付け									
(1) 内容									
<p>このゼミでは、映像文化やさまざまな大衆文化を「読む」やり方を身につけていきます。映画やテレビ、マンガなど、映像メディアを介した表現は言語とは異なった独自の「文法」を持っています。またそれらは、内容やストーリーとは違ったやり方で「読む」こともできます。このゼミでは、そうした映像文法のあり方や読み方、さらには映像体験を言語に置き換える方法を学んでいきます。また今日、視覚映像にとどまらず、文化のあり方は多様化し、日常的なコミュニケーションも、さまざまなメディアを介して行われています。このゼミではさらに、さまざまなジャンルやメディアを通じて行われる表現や、そこから派生的に生まれた文化の「読み方」も学んでいきたいと思っています。</p>									
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)							
<p>① メディア・リテラシーを高める 様々なメディアの読み方を「メディア・リテラシー」と言います。言葉だけでなく様々なメディアに関わる「リテラシー」を身につけることがこのゼミの意義かつ目標となります。</p> <p>② メディア体験を言語化する そしてこのゼミでもう一つの目標としているのは、言語以外の表現について、言葉で表現できるようになることです。映像をはじめとするメディア表現の言語化は、言葉から言葉への翻案とは全く異なった技術を必要とします。ここでは、発表やディスカッション、レポートを通じて、そうした技術を身に付けていきます。</p> <p>③ 自分のテーマを見つける。 このゼミの最後の目的は、「自分のテーマを見つける」ということです。大学では最終学年に卒業研究レポートを作成します。そのためのテーマを、ゼミでの学びを通じて、時間をかけて育てていくことになります。このように、一つのことについて、時間をかけて考え続け、形を持った表現にまで高めていくことが、大学での学びの核心にあります。このゼミでの発表や調査を通じて、自分の関心がどこに向かっているのかを発見して欲しいと思っています。</p>		<p>この講義では、書籍だけでなく映像作品も取り上げていくので、予告された映像作品に関しては、あらかじめ鑑賞しておくか、ネットや書籍で関連情報を調べておくことが望ましい。 また基本的な映画史などについて初歩から学ぶということは別の講義で行うので、それらの講義を受講するか、図書館、インターネットを通じてそうした議論に親しんでおくことが望ましい。</p>							
受講者に対する要望		準備学習(復習)							
<p>このゼミが目的とするのは、映像作品だけでなく、それが批評や論文を通じてどのように言語化されているのかまで含めて考え、自分でもある程度それができるようになることである。もちろんさまざまな映像作品に触れるのは大きな目的ではあるが、その先を常に意識して欲しい。</p>		<p>授業で一部取り上げた作品については、残りの部分も自分で鑑賞するようにして欲しい。また関連情報などにも目を配るようにすること。</p>							
学びのキーワード		評価方法							
<p>・ 映像文化 ・ メディア・リテラシー ・ 視覚文化 ・ 大衆文化</p>		<table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 期末レポート</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) 発表</td><td>30%</td></tr></table> <p>レポートだけでなく、購読、発表、ディスカッションへのバランスの良い熱意ある参加が求められる。「出席」だけでは評価点とまらないことに注意すること。</p>		(1) 平常点	30%	(2) 期末レポート	40%	(3) 発表	30%
(1) 平常点	30%								
(2) 期末レポート	40%								
(3) 発表	30%								
		教科書							
		教室で指定							
		参考書							
		教室で指定							

マスコミュニケーション論

担当教員：鄭 鎬碩

学期： 週間授 科目：

必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1P601000

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義ではマス・コミュニケーションと社会変容について学習する。コミュニケーションという視点から歴史を捉えるための基礎知識を学び、文献、新聞記事、映像など多様な資料をとおして、現代文化のあり方としてのマス・コミュニケーションの諸側面について考えていく。

(2) 学びの意義と目標

- (1) マス・コミュニケーションと社会変容を考えるための基礎知識を身につける。
- (2) 文献や映像資料を批判的に読みとく力を鍛える。

受講者に対する要望

授業では講義のほか、小グループで討論を行い、短く発表してもらう。自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ マス・コミュニケーション
- ・ マス・メディア
- ・ 社会変容
- ・ 社会運動
- ・ グローバリゼーション

授業計画

01. イントロダクション：コミュニケーションと社会（１）
02. イントロダクション：マス・メディアと社会変容（２）
03. 「マス」の時代、近代（１）資本主義
04. 「マス」の時代、近代（２）国民国家
05. 「マス」の時代、近代（３）自由主義
06. 「マス」の時代、近代（４）大衆メディアの浮上
07. 練習・討論①
08. 練習・討論②
09. 印刷革命と想像の共同体（１）
10. 印刷革命と想像の共同体（２）
11. マス・メディアと民主主義（１）
12. マス・メディアと民主主義（１）
13. マス・メディアと戦争（１）
14. マス・メディアと戦争（２）
15. 練習・討論③
16. 練習・討論④
17. 声の文化と文字の文化（１）
18. 声の文化と文字の文化（２）
19. 視覚イメージと現代社会（１）
20. 視覚イメージと現代社会（２）
21. 練習・討論⑤
22. 練習・討論⑥
23. マス・メディアとジャーナリズム（１）
24. マス・メディアとジャーナリズム（２）
25. グローバル情報ネットワークと社会運動（１）
26. グローバル情報ネットワークと社会運動（２）
27. 練習・討論⑦
28. 練習・討論⑧
29. まとめ（１）
30. まとめ（２）

準備学習(予習)

受講生は、毎回の文献を予め読んで授業に参加する。

準備学習(復習)

授業で?学んだ内容を文章で?まとめ、自分のコメントを加えておく。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

講義内で紹介する。

教師論（中高教職）		TEAT-0-101	
担当教員：井上 兼生			
学期： 週間授 科目： 教職課程/ 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 5T100101	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】 教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける		01. オリエンテーション 02. 教師に求められる資質・能力とは（１）－現状と課題 03. 教師に求められる資質・能力とは（２）－生徒の求める教師像 04. 教師に求められる資質・能力とは（３）－教師としての自覚 05. 教師の仕事（１）教師の専門性－教育に関する知識と教科に関する知識 06. 教師の仕事（２）教師の力量向上－研修の義務と機会 07. 教師の地位（１）教師をめぐる法令－教育基本法・地方公務員法など 08. 教師の地位（２）現代社会と教師 09. 教師の環境（１）組織の一員としての教師－教師の多様な職務の理解 10. 教師の環境（２）教育改革と教師－近年の教育関連法の改正と教員 11. 教師の環境（３）最近の環境変化の動向－地域社会や保護者との協力など 12. 教師養成（１）その歴史－戦前期および戦後改革 13. 教師養成（２）－教員養成を巡る近年の動向と教職選択の自覚 14. 教育計画とは何か 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【D】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目			
(1) 内容			
<p>教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。</p> <p>教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。</p> <p>その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。</p>			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) 教師に求められる資質・能力について、学生たち自身の経験から考えさせ、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気付かせ、教職について深い考察を促す（教職の意義・教員の役割）。		毎回、次の授業のテーマを示します。テーマについてあらかじめ調べてきてもらいます。	
2) 地方公務員法、教育公務員特例法など、教員の地位に関する法令についての正確な知識を身に付け、教師の権利・義務について理解を深める（教員の職務内容と身分）。			
3) 戦前期の教員身分および免許制度などについて概観し、現在の教員免許法の有り様と現在、課題とされる点についての理解を深め、教員として必要な資格について考えさせる（進路選択）。		準備学習(復習)	
4) 近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例を取り上げながら理解を深め、これからの教員に求められる姿勢や能力について深い考えを育てる（教員の環境）。		授業で取り上げたテーマに関連して作成してもらうレポートの準備を考えてください。	
受講者に対する要望		評価方法	
「教えられる」側から「教える」側へ立場が変わったときに、見えてくるものはいろいろあるはずである。教師についての今までの考え方を見直して、自分なりの教師観をしっかりとつくってほしい。		(1) 期末テスト 30%	
		(2) 授業への参加 40% 授業中の討論への参加など	
		(3) レポート 30% 教師に関するレポートを一本提出してもらいます。	
学びのキーワード		教科書	
・ 職場としての学校 ・ 教員の特殊性 ・ 教員の社会的役割		参考書	

道徳教育の研究（PLAJW教職）		TEAT-0-206							
担当教員： 秋池 功									
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T300311							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、「道徳」と「道徳授業」について話し合う。 02. 道徳教育の変遷について、事例資料等をとおして学ぶ。 03. 学習指導要領と道徳授業のあり方について（1） 04. 学習指導要領と道徳授業のあり方について（2） 05. 事例研究（1）主な諸外国の道徳教育について、調べ発表する。（事前にも調べておく。） 06. 事例研究（2）主な諸外国の道徳教育やわが国の道徳教育や道徳授業についてのアンケート内容を調べ、発表する。 07. 望ましい資料の追求（1） 08. 望ましい資料の追求（2）と学級づくり・学習作法 09. 学習指導案の作成（1） 10. 学習指導案の作成（2） 11. 実践授業の視聴と模擬授業の準備 12. 模擬授業（1） 13. 模擬授業（2） 14. 実践授業の視聴と道徳の授業、道徳教育の評価について 15. 中学校における道徳教育のまとめ</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>中学校における「道徳の時間」についてのアンケート内容などを参考とし、「道徳の時間」の意義と課題を学ぶとともに、いくつかの資料を基に望ましい資料の見方、考え方を把握する。また、道徳授業の指導過程の基本を理解し、学習指導案の作成、模擬授業等をとおして授業の進め方を学ぶ。</div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>中学校における道徳教育や「道徳の時間」の目標及び内容を理解するとともに、「道徳の時間」の望ましい資料の収集と指導過程や指導方法を学び、学習指導を構想する力を身に付けることができる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>予習的課題が出された時は、しっかり行ってきて欲しい。</div>							
		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回の授業のポイントをノートや資料をとおしながら整理する。</div>							
<div>受講者に対する要望</div> <div>道徳性を高めるには、どうすればよいか。講義をとおしながら学び続けて欲しい。</div>		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 授業への参加態度</td><td>20%</td></tr><tr><td>(2) 指導案作成・提出資料の作成</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 理解度の確認 （試験）</td><td>55%</td></tr></table><div>毎回出席が大前提である。遅刻が多く、授業への参加意欲の低いことが目立つ場合は、減点の対象となる。</div></div>		(1) 授業への参加態度	20%	(2) 指導案作成・提出資料の作成	25%	(3) 理解度の確認 （試験）	55%
(1) 授業への参加態度	20%								
(2) 指導案作成・提出資料の作成	25%								
(3) 理解度の確認 （試験）	55%								
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">道徳教育の変遷と学習指導要領望ましい資料の見方、考え方授業を深める学級づくりと学習作法学習指導案模擬授業</div>		<div>教科書</div> <div>文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版）</div> <div>参考書</div>							

英語科教育法Ⅰ（中高教職）		SUBP-A-201	
担当教員：阿字 宏康			
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T305178	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、英語教育の目的と意義（第1章） 02. 国際語としての英語（第2章） 03. 学習指導要領（第3章） 04. 学習者要因（第4章） 05. 英語教員に求められるもの（第5章） 06. 小学校における外国語活動（第6章） 07. 英語教授法・四技能（第7章） 08. 学習理論・第二言語習得理論・四技能（第8章） 09. 指導案の作成、教室英語 10. 模擬授業（1） 11. 模擬授業（2） 12. 授業運営（第20章）、オーラルイントロダクション 13. 模擬授業（2） 14. 模擬授業（2） 15. まとめ、試験とその解説</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：英語必修科目 【全】中学校教諭一種免許：英語必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、英語教育の意義と目的を考察することを通して英語科教員になる目的意識を確立する。第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領、指導技術等への理解を深め、理論から実践へとつなげるために、実際の授業の在り方についても考察する。英語科教員として必要とされる英語力を身につけ、指導案作成や模擬授業を行う中で、指導に必要な力を培う。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>コミュニケーション能力育成の重視、小学校外国語活動の必修化等、我が国の英語教育が大きな転換期にある中、英語科教員に求められる資質・能力もより重要視されている。本講義を通して、英語教育の理論と実践を学ぶことを通して、英語教育に対する理解を深め、指導者として成長する熱意を高めることを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を確認し、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>講義、模擬授業に対するリフレクションシートを記入して、提出すること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>英語科教員になるという確かな意志と目指す教員像を明確にしながら授業に臨む。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への貢献30%</div><div>(2) レポート30%</div><div>(3) 模擬授業・マイクロティーチング20%</div><div>(4) 学期末テスト20%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・小中高英語教育</div><div>・学習理論・第二言語習得理論</div><div>・外国語教授法</div><div>・学習指導要領</div><div>・指導技術</div></div>		<div>教科書</div> <div>望月 昭彦、嵯峨 弘典、印城 祐司、久保田 章『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』（開隆館出版販売） 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1J』（三省堂）2016年度版 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2J』（三省堂）2016年度版 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3J』（三省堂）2016年度版 ダグラス・ジャレル『じゅれまがー100 Stories of 2015』（浜島書店）</div> <div>参考書</div>	

英語科教育法Ⅱ（中高教職）		SUBP-A-202							
担当教員： 阿字 宏康									
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T305286							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. コミュニケーション能力の育成（第9章） 03. リスニング・スピーキングの指導（第10・11章） 04. リーディング・ライティングの指導（第12・13章） 05. ティームティーチング（第14章） 06. 模擬授業（1） 07. 模擬授業（1） 08. 文法指導（第18章） 09. 語彙指導（第19章） 10. 模擬授業（2） 11. 模擬授業（2） 12. 評価（第15章） 13. 教科書と教材研究（第17章） 14. 模擬授業（3） 15. 模擬授業（3） まとめ</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：英語必修科目 【全】中学校教諭一種免許：英語必修科目</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>「英語科教育法Ⅰ」に引き続き、英語教育の意義と目的を考察することを通して、英語科教員になるという目的意識を確立することを目指す。さらに中高英語教育で求められる実践的コミュニケーション能力の育成のために聞く・話す・読む・書くの四技能を有機的に関連づけながら指導することを目指す。</div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>コミュニケーション能力育成の重視、小学校外国語活動の必修化等、我が国の英語教育が大きな転換期を迎えている中、英語科教員に求められる資質・能力より重要視されている。本講義を通して、英語教育の理論と実践を学ぶことで、英語教育に対する理解を深め、指導者として成長する熱意を高めることを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を確認し、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。</div>							
<div>受講者に対する要望</div> <div>英語教員としての在り方、学び方を学び、資質・能力の向上に資するべく授業に臨む。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>模擬授業後に自身の授業を必ず見直す。その上でリフレクションシートを記入して、提出すること。</div>							
		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 授業への貢献</td><td>20%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 模擬授業</td><td>30%</td></tr><tr><td>(4) 学期末課題</td><td>30%</td></tr></table></div>		(1) 授業への貢献	20%	(2) レポート	20%	(3) 模擬授業	30%
(1) 授業への貢献	20%								
(2) レポート	20%								
(3) 模擬授業	30%								
(4) 学期末課題	30%								
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">小中高英語教育コミュニケーション能力の育成語彙・文法指導4技能評価</div>		<div>教科書</div> <div>望月 昭彦、嵯峨 弘典、印城 祐司、久保田 章『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』（開隆館出版販売） 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1J』（三省堂）2016年度版 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2J』（三省堂）2016年度版 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3J』（三省堂）2016年度版 ダグラス・ジャレール『じゅれマガ-100 Stories of 2015』（浜島書店）</div> <div>参考書</div>							

英語科教育法III（中高教職）		SUBP-A-301	
担当教員：小川 隆夫			
学期：週間授		科目：教職課程	必修・選択：教職科目
単位：2		コード：5T305394	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける		01. 入門期の指導・基本の授業パターン - 1時間の授業構成 02. 文法中心の授業・リーディング中心の授業 03. 活動中心の授業(グループ・ゲーム、英語の歌を使った授業、クイズやスキットの発表会) 04. 指導技術（ペアワーク・グループワーク・TT、発音と文字） 05. 文法指導と語彙指導の技術 06. リスニング指導・リーディング指導の技術 07. スピーキング指導・ライティング指導の技術 08. 文法指導のアプローチ、評価（観点別評価・ペーパーテスト・評価計画・パフォーマンス評価・Can-Do評価） 09. 教材・教具 クラスルームマネジメント、ICTの活用 10. 自律的学習者に育てるための工夫 - 家庭学習 11. ICTを活用した英語科授業 12. 小学校英語教育との連携 13. 模擬授業と振り返り 14. 模擬授業と振り返り 15. 確認とまとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【全】高等学校教諭一種免許：英語選択科目 【全】中学校教諭一種免許：英語必修科目			
(1) 内容			
中学校の英語授業のための必須要素を網羅し、授業の展開方法から、4技能を伸ばす指導技術、家庭学習までを学ぶ。 また、授業を効果的に行うため、生徒との人間関係づくり、生徒がお互いに協力し合って学習に取り組むクラス、授業のムード作りなど、クラスルーム・マネージメントの方法も取り上げる。			
(2) 学びの意義と目標			
中学校の英語学習は、これから長期間にわたる英語学習に備えるため、生徒たちを自律した学習者に育てる必要がある。この講義を通して、さまざまな指導技術とともに、英語教師としての心構え、生き方を学ぶことを目標とする。		準備学習(予習)	
		事前に配布するプリントを読んで参加する。模擬授業は1週間以上前に指導案を提出し添削を受ける。	
		準備学習(復習)	
		1～10までの授業のポイントをまとめる。11～14は模擬授業のフィードバックをまとめる。	
		評価方法	
		(1) 授業への参加度 20% (2) 模擬授業 30% (3) 指導案作成 30% (4) レポート 20%	
受講者に対する要望		教科書	
英語教師になるという自覚を持って参加すること。教育実習を1年後に控え教授法の理論、実技をしっかりと習得するため、継続的に出席すること。		参考書	
学びのキーワード		金谷 憲、太田 洋、馬場 哲生、青野 保、柳瀬 陽介『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』（大修館書店） 各自の実習校が使用している教科書1年生から3年生分を事前に用意する。	
・ICTの活用 ・授業パターン ・指導技術 ・クラスルーム・マネージメント ・自律的学習者			

英語科教育法Ⅳ（中高教職）		SUBP-A-302	
担当教員：小川 隆夫			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T305400	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 高等学校新学習指導要領について</div> <div>02. 中学校との連携と入学時の指導</div> <div>03. 「英語で授業」の考え方</div> <div>04. 基本の授業パターン</div> <div>05. 「コミュニケーション英語」の指導と授業構成</div> <div>06. 聞いて理解する活動と読んで理解する活動</div> <div>07. 「英語表現」の指導と展開</div> <div>08. 「英語会話」の指導計画と展開</div> <div>09. ネイティブスピーカーの活用と指導技術（発音指導・語彙指導）</div> <div>10. リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング指導他</div> <div>11. 文法指導の考え方、評価計画</div> <div>12. ICTを活用した模擬授業及び振り返り</div> <div>13. 模擬授業及び振り返り</div> <div>14. 模擬授業及び振り返り</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：英語選択科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：英語必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では高等学校新学習要領による「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と「英語表現Ⅰ・Ⅱ」「英語会話」の7科目構成をどう教えるかを実践DVDを見ながら考え、模擬授業を組み立てて実践する。また、中学校の英語と比較しながら、高等学校では「英語授業は英語で行うことを基本とする」という方針に合わせ、授業実践の方法を探る。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>事前配布するハンドアウトの指定ページを読んで授業に参加すること。
模擬授業は実施 1 週間以上前に指導案を提出して添削を受けること。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>高等学校の英語の大きな変化に対応するための方策などを中心に、中学校からの連携を考えるとともに、指導技術から文法まで着実に教えられるようにすることを目指す。どの学年でも、どの分野でも教えることができるように、知識とテクニック、理論を身に付ける。</div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>英語教師になるという自覚のもとに授業に臨むこと。4年生春学期に教育実習を行うことを念頭に毎回の授業を大切に受講すること。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>ハンドアウトの内容及び授業のリフレクションなどをまとめて指定日までに提出すること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 高等学校新学習指導要領</div> <div>・ 中高連携</div> <div>・ コミュニケーション英語</div> <div>・ 英語表現</div> <div>・ 英語会話</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加度 20%</div> <div>(2) 模擬授業 30%</div> <div>(3) 指導案 30%</div> <div>(4) レポート 20%</div>	
		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>金谷 憲、久保野 雅史、高山 芳樹、阿野 幸一『大修館英語授業ハンドブック 高校編』（大修館書店） 配布したプリント等はすべてポートフォリオをして保存すること。</div>	

介護等体験及び事前事後指導（教職）		TEAT-0-404
担当教員：吉田 昌義、高山 法子		
学期：前期（ 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T700103
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 社会福祉施設における「介護等体験の意義」 特別支援学校における「介護等体験の意義」（高山） 02. コミュニケーション（高山） 03. 事例を通して考える（受容と共感）（高山） 04. 事例を通して考える（個別性）（高山） 05. 社会福祉施設の目的及び原則（高山） 06. 福祉施設利用者の理解（高山） 07. 高齢者疑似体験（高山） 08. 基本介護技術（移動・食事・着脱）（高山） 09. 介護等体験の始まり 教員に求められるもの（吉田） 10. 障害とは 障害の種類と教育の場・指導内容（吉田） 11. 知的障害の理解と指導（吉田） 12. 自閉症の理解と指導（吉田） 13. 通常の学級における障害児への配慮（吉田） 14. 人権について 介護等体験に行くに当たって（吉田） 15. 介護等体験の振り返り、事後指導（9月）</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書を読み、内容の理解に努めること
また、介護等体験に行く前から、教員（社会人）として、望ましい姿を考え、適切な言動に努めること。
</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>介護等体験で出会った高齢者・障害者・指導員などの関係者等との関わりを振り返り、介護等体験の意義や、本授業の概要にあるように「個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点・コメント・受講態度 50% (2) 実習態度・実習記録 50%</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行えば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。 事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。 ※2201教室は、土足厳禁であるので、上履きを用意しておくこと。また、介護技術の演習を数回行なう予定である。その際、動きやすい服装で参加すること。</div>	<div>学書のキーワード</div> <div>教科書 全国特別支援学校長会『フィリア インクルーシブシステム版』（ジアース教育新社） 全国社会福祉協議会『よくわかる社会福祉施設』（全国社会福祉協議会出版部）</div> <div>参考書</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div><学びの意義> 1 教員を目指す者が、介護等体験を行うことにより、視野を拡げ、個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深める。 2 高齢者や障害者とのかかわりの基本を学び、介護等体験を通して具体的に経験する。 <目標> ①介護等体験を行うに当たって必要とされる、最小限の基本的な知識や技能等を学ぶ。 ②教員を目指す者が、個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深め、教員としての資質を考え、今後の大学生活で身につけておくべきことを追究する。</div>	<div>受講者に対する要望</div>	

日本文化学科

キリスト教文化論 A

CHRI-A-201

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目

単位： 2 コード： 15200100

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

内容： この講義は、キリスト教文化論Bと連結した講座で、キリスト教が、世界の様々な領域において貢献してきた歴史上の事実 zu 焦点を当て考えていきます。第一の重点は、キリスト教の世界観が政治体制と市民の自由・権利解放にどのように影響を及ぼしたかに着目し、次に一般的文化、又、大衆文化の分野に目を移し、そして、後半は特にアメリカ合衆国における影響を概観していきます。

(2) 学びの意義と目標

第一の目的は、キリスト教があらゆる分野で成してきた著しい貢献が、今日受講者個人個人の気づかなかった領域に至っても大いに関係していることを認識することができるように導くものです。

受講者に対する要望

講義は日本語と英語の両言語を用いて進められます。付随的、又、必然的に受講者は英語力上達の学びの場となりますが、主眼は講義内容です。

学びのキーワード

- ・ worldview (世界観)
- ・ Christianity (キリスト教)
- ・ culture (文化)
- ・ happiness (幸福)
- ・ civil rights (民権)

授業計画

01. キリスト教的世界観の梗概
02. キリスト教と政府 I: 自由と民主主義
03. キリスト教と 政府 II: 奴隷制度廃止
04. キリスト教と 政府 III: アメリカ合衆国における市民権運動
05. 芸術におけるキリスト教のインパクト (強い影響)
06. 建築におけるキリスト教のインパクト
07. 音楽におけるキリスト教のインパクト
08. 文学におけるキリスト教のインパクト
09. 映画におけるキリスト教のインパクト I
10. 映画におけるキリスト教のインパクト II
11. キリスト教の祭日、言葉、記号
12. キリスト教と大衆文化 (ポップカルチャー) I
13. キリスト教と大衆文化 II
14. キリスト教と大衆文化 III
15. 期末テスト

準備学習(予習)

既定の読書を都度終え、講義の予習としてその中の主要着想点と専門用語に精通することを求められます。

準備学習(復習)

学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。

評価方法

- | | |
|------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 全学礼拝レポート及び教会出席レポート | 35% |
| (3) 中間テスト | 15% |
| (4) 期末テスト | 15% |

教科書

『聖書』 (日本聖書協会)

参考書

印刷物；プリント

キリスト教文化論 A

CHRI-J-301

担当教員：柳田 洋夫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15200110

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

世界の歴史や現状を知るために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠であることは言うまでもない。また、日本人は「無宗教」であるというが、ほんとうにそうであろうか。この授業においては、宗教学的アプローチを援用しつつ、宗教とは何かについて考えていきたい。

(2) 学びの意義と目標

宗教一般についての基本的理解を得るとともに、特にキリスト教と文化との関連について学び考察する。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・キリスト教と文化
- ・キリスト教と諸宗教
- ・民俗と宗教

授業計画

01. 宗教の「始まり」について
02. 宗教・呪術・科学
03. さまざまな宗教のかたち
04. 何を信じるのか－宗教的实在観について
05. 宗教から見た人間－宗教的人間観について
06. 宗教から見た世界－宗教的世界観について（1）
07. 宗教から見た世界－宗教的世界観について（2）
08. 宗教儀礼・修行について（1）
09. 宗教儀礼・修行について（2）
10. 宗教集団について
11. 宗教体験と人格（1）
12. 宗教体験と人格（2）
13. 民俗と宗教の深層（1）折口信夫
14. 民俗と宗教の深層（2）柳田國男
15. まとめ

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 礼拝レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

授業への参加度・礼拝レポートの三つを満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

教科書

参考書

脇本平也『宗教学入門』 岸本英夫『宗教学』
A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』

キリスト教文化論B		CHRI-A-202								
担当教員： E. D. オズバーン										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 15200200								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イエス・キリストが降誕していなかったら？ 世の中はどう違っていたであろうか？</div> <div>02. 世界観と宗教 I:概観</div> <div>03. 世界観と宗教 II:二例――無神論 対 キリスト教唯一神論</div> <div>04. ダーウィンの進化論 対 キリスト教の天地創造論:両者の論理的結果</div> <div>05. 人間の生命の尊厳</div> <div>06. キリスト教の女性に対する尊厳の向上</div> <div>07. キリスト教道徳と倫理 I</div> <div>08. キリスト教道徳と倫理 II</div> <div>09. 中間テスト</div> <div>10. 教育におけるキリスト教の強い影響:普遍的教育と大学</div> <div>11. キリスト教の慈愛と利他主義 I: 病院と医療施設、チャリティーとボランティア・グループ</div> <div>12. 現代科学とキリスト教の関係</div> <div>13. 労働階級と経済におけるキリスト教の影響</div> <div>14. キリスト教と人権</div> <div>15. 期末テスト</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>1. 内容：この講義は、キリスト教概論A及びBに続く講座として設けられた科目で、キリスト教が世界にもたらした深遠なる影響の概観を学び探ります。“もし、イエス・キリストが降誕していなかったら？”という仮説質問から始まり、講義は、イエス・キリストの存在しなかった仮説を設け進み、そして、イエス・キリストとキリスト教徒が歴史を通して人類に建設的に影響を及ぼした多くの領域の輪郭を描いていきます。特に人間の尊厳と人権の領域についても学びます。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>第一の（基本的）目的は、キリスト教の遍在する影響を包括的、又、個人的、両観点から探索し学びます。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義は、日本語と英語の両言語を用いて進められます。付随的、又、必然的に受講者は英語力上達の学びの場となりますが、主眼は、講義内容です。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>既定の読書を都度終え、講義の予習としてその中の主要着想点と専門用語に精通することを求められます。</div>								
		<div>準備学習(復習)</div> <div>学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。</div>								
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>35%</td></tr><tr><td>(2) 全学礼拝レポート、及び教会出席レポート</td><td>35%</td></tr><tr><td>(3) 中間テスト</td><td>15%</td></tr><tr><td>(4) 期末テスト</td><td>15%</td></tr></table>	(1) 平常点	35%	(2) 全学礼拝レポート、及び教会出席レポート	35%	(3) 中間テスト	15%	(4) 期末テスト	15%
(1) 平常点	35%									
(2) 全学礼拝レポート、及び教会出席レポート	35%									
(3) 中間テスト	15%									
(4) 期末テスト	15%									
<div>学びのキーワード</div> <div>・worldview (世界観)</div> <div>・creationism (創造論)</div> <div>・morality (道徳)</div> <div>・ethics (倫理)</div> <div>・(human) rights (人権／権利)</div>		<div>教科書</div> <div>『聖書』（日本聖書協会）</div> <div>参考書</div> <div>印刷物；プリント</div>								

キリスト教文化論B		CHRI-J-302									
担当教員： 柳田 洋夫											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 15200210									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 「神学」とそのよりどころ 02. 神はどのようにして知られるか—啓示と自然— 03. 神学と諸思想（1）神学と哲学との微妙な関係 04. 神学と諸思想（2）ロマン主義・マルクス主義 05. 神学と諸思想（3）フェミニズム・ポストモダニズム 06. 神学と諸思想（4）解放の神学・黒人神学 07. 神についての探求（1） 08. 神についての探求（2） 09. 神と創造 10. 救いとは何か（1） 11. 救いとは何か（2） 12. 聖霊と「霊性」 13. キリスト教と文化（1） 14. キリスト教と文化（2） 15. まとめ</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>「神学こそは、およそ人が学びたいと願いうるものの中で最も魅力的なものだ」とイギリスの神学者A・E・マクグラスは言う。キリスト教神学は、欧米文化のみならず日本文化の深層からの理解にも資するものである。この授業においては、キリスト教神学について、また、人格・人権思想へのキリスト教の貢献について学ぶ。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>キリスト教神学思想についての基礎的理解を得ることによって、神学や哲学についての文献や議論にある程度対応できるようになるとともに、抽象的な問題にも自ら積極的に挑む姿勢を身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業においてその都度指示する。</div>									
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業においてその都度指示する。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>50%</td><td>規定に満たない場合は評価の対象としない</td></tr><tr><td>(2) 試験</td><td>30%</td><td>規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない</td></tr><tr><td>(3) 礼拝レポート</td><td>20%</td><td>必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない</td></tr></table> <div>授業へ参加度・試験・礼拝レポートをすべて満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。</div>	(1) 授業への参加度	50%	規定に満たない場合は評価の対象としない	(2) 試験	30%	規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない	(3) 礼拝レポート	20%	必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない
(1) 授業への参加度	50%	規定に満たない場合は評価の対象としない									
(2) 試験	30%	規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない									
(3) 礼拝レポート	20%	必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない									
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・キリスト教と文化</div><div>・キリスト教神学</div><div>・キリスト教と諸思想</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』</div>									

埼玉学		AREA-A-200/AREA-J-2	
担当教員： 清水 均、氏家 理恵			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目/選択科目
単位： 2		コード： 1A100830	
学部教育の関連目		授業計画	
【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける 【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う		01. はじめに：埼玉のイメージ／オリエンテーション 清水正之／氏家理恵 02. 川西実三と埼玉―新渡戸・内村門下の“理想主義”官僚 村松晋 03. 荻野吟子―日本初の女医、キリスト者 柳田洋夫 04. 埼玉での多文化共生推進 D. バーガー 05. 埼玉から世界へ―英語を駆使して活躍する 小川隆夫 06. 埼玉から世界へ―映画を通じた地域活性・情報発信 氏家理恵 07. 「街の映画館」活動―交流の場としての映画館 特別外部講師 08. 新しい郊外の風景 畠山宗明 09. 埼玉在住外国人の方々から見た日本 川口さち子／特別外部講師 10. 塙保己一の古典学：群書類従の出版と和学講談所 木下綾子 11. 特別外部講師招聘予定 12. 県内南米系在留者の背景としてのキリスト教 島田由紀 13. ツール・ド・フランスの歴史的位相―フランスからさいたまへ 和田光司 14. 埼玉が生んだプラグマチスト・田中王堂 松井慎一郎 15. まとめ／期末レポートについて 清水均／氏家理恵	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
人は地域の中で生まれ、育ち、生活をしていま す。同時に、生活のなかで、場所的限定をこえ て、人間の生き方を考えもします。現代では、生 活の場自体が、通有の世界的な問題や状況（人 権、経済的困窮など）のなかにあります。地域に 生きることと、他方でのグローバル化、そうした なかに生きる私たちを、埼玉・北関東という場を てがかりに考えていく授業です。			
(2) 学びの意義と目標			
地域という場にまずは、視点を設定して、現代の グローバル化した時代に生きるとはどういうこと かを、埼玉の歴史、文学、思想、言語、芸術等の 多様な視点から考え、大学で学ぶことの意味を、 具体的な事象をふまえつつ、大きく広く考えてい くことをめざします。		準備学習(予習)	
		さまざまな埼玉学という書籍が出版されています。それらを読 むことも参考になります。またグローバル化についての書籍も 多くでています。目を通しておくとういでしょう。	
		準備学習(復習)	
		授業で得た知識や視点を、日常の生き方、あり方とむすびつけ ながら、書籍、メディア等でえたものと連関させて考える、あ るいは調べる、足を運ぶ、という自発的な復習をしてくださ い。授業で興味を持った主題を復習しておくことで、期末レ ポートの準備にもなります。	
受講者に対する要望		評価方法	
オムニバス形式の授業です。必ずや関心を引く主 題があるかと思います。地域の問題をふまえな がら、私たちが学ぶ意味を考える機会です。積極 的な参加を希望します。		(1) 平常点 75% 各回ごとに小テストあるいは小レポートを課します (2) 期末レポート 25%	
学びのキーワード		教科書	
・ 埼玉 ・ 北関東 ・ 地域 ・ グローバル化 ・ 共生		各回の授業でプリントを配布する。	
		参考書	
		最初のガイダンスおよび各回授業の配布プリントで指示する。	

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 4 コード： 1A224501

授業計画

01. 授業紹介、「言語に関する誤った通念か、事実か?」という調査により授業の内容を考える (グループワーク)
02. 「言語に関する誤った通念か、事実か?」の解答についての解説
03. 言語変種: 国語、公用語、標準語、共通語 (グループワークとディスカッション)
04. 言語変種: 方言、なまり、言語使用域 (グループワークとディスカッション)
05. 言語変種: 標準語と方言 (グループワークとディスカッション)
06. 二言語使用、ダイグロシア (二言語変種使い分け) (グループワークとディスカッション)
07. 言語偏見と言語不平等 (グループワークとディスカッション)
08. 危機言語と言語復興: アイヌ語の例 (グループワークとディスカッション)
09. 危機言語と言語復興: アイヌ語と琉球諸言語の例
10. 危機言語と言語復興: 琉球諸言語の例
11. 危機言語と言語復興: ハワイ語の例
12. 危機言語と言語復興: アメリカ先住民の諸言語の例
13. 「礼儀正しい」についての異なった考え方 (グループワークとディスカッション)
14. 発話行為 (グループワークとディスカッション)
15. ポライトネス理論 (丁寧さ): レイコフとリーチ (グループワークとディスカッション)
16. ポライトネス理論: ブラウンとレヴィンソン、「フェイス」 (グループワークとディスカッション)
17. ポライトネス理論: 「ポジティブ・ポライトネス」、「ネガティブ・ポライトネス」 (グループワークとディスカッション)
18. 世界の敬語: 日本語と他言語の比較 (グループワークとディスカッション)
19. 謝罪の発話行為 (グループワークとディスカッション)
20. 謝罪: 日本語と英語の比較 (グループワークとディスカッション)
21. 言語変化
22. 差別語という課題の紹介
23. 日本とアメリカ社会で差別されているグループに対する用語の発展
24. 日本における差別語: ガイドライン
25. 英語圏における差別語: ガイドライン
26. 言語とジェンダー: 性差別語と非性差別語変革 (グループワークとディスカッション)
27. 非性差別語変革
28. 英語圏における差別語: 包括語
29. 英語の聖書訳における包括語
30. 春学期の内容をまとめる: 「言語に関する神話…」の再検討 (グループワークとディスカッション)

与えられた資料、講義内容のプリントを事前に読むこと。

各資料についてリアクションペーパーを書き、小テストのために各課題のプリントを復習すること。

(1) 授業への参加度	20%
(2) リアクションペーパー	25%
(3) 小テスト	25%
(4) 期末試験	30%

(1) 内容

この授業は社会言語学の分野に位置づけられ、グローバルな観点から捉えた言語と社会の研究に関する入門的な授業である。比較言語・比較社会というグローバルな視点で日本語やアメリカ英語を始めとし、又、他言語も、どのように社会の中で使われているかを学ぶ。言語と社会の関係の理論的、実践的に解明するための主な課題は以下の3つである。(1) どのように言語が個人的、社会的なアイデンティティを表しているか(なまり、方言、多言語使用、言語偏見等)。(2) どのように人間関係が言語的に表われているか(丁寧表現、敬意表現等)。(3) 非性差別語変革や包括語が言語変化と社会変化との関係をどのように示すか。

(2) 学びの意義と目標

言語と社会の研究の主な課題を概観することを通して、受講生は社会的関係において自分の母語や言語全般の役割をグローバル理解することが目標である。

受講者に対する要望

言語の社会的役割に関心がある者や積極的に他学生と講義内容についてディスカッションをしたい者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・言語變種
- ・危機言語
- ・丁寧語・敬語
- ・差別語
- ・言語とジェンダー

教科書

参考書

パウワウ、ローリー/トラッドギル、ピーター【編】/町田 健【監訳】/水嶋 いづみ【訳】『言語学的にいえば「常識」をつくらざる』研究社 2007
イヌクック『『蘭語』という思想—近代日本の言語認識』岩波書店 2012
重野 栄『アイヌの唄』朝日新聞 1990
ダニエル・ネルト スザン・メーレン 訳 島村喜実男 訳/矢吹くさ 音田たけ ふれくるというた、失われる世界』新曜社2001
バリエット・ハンリントン『東アジアにおける言語異質性：中国・台湾・沖縄を焦点に?』？元社 2010

グローバル映像文化		TART-A-200/TART-J-3
担当教員： 畠山 宗明		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A317280
学部教育の関連目		授業計画
【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける 【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		01. イントロダクション 02. 映像文化の現在① デジタル技術とグローバリズム 03. 映像文化の現在② アメリカとハリウッド 04. 映像文化の現在③ アメリカとハリウッド② 05. グローバル時代の映画① 「ワールド・シネマ」から考える 06. グローバル時代の映画② 東アジアの映画① 07. グローバル時代の映画③ 東アジアの映画② 08. グローバル時代の映画④ 東アジアの映画③ 09. グローバル時代の映画⑤ 東南アジア、中東の映画① 10. グローバル時代の映画⑥ 東南アジア、中東の映画② 11. グローバル時代の映画⑦ 東南アジア、中東の映画③ 12. グローバル時代の映画⑧ 西ヨーロッパの映画① 13. グローバル時代の映画⑨ 西ヨーロッパの映画② 14. グローバル時代の映画⑩ ロシア・東欧の映画① 15. グローバル時代の映画⑪ ロシア・東欧の映画② 16. グローバル時代の映画⑫ 中南米、アフリカの映画 17. グローバル時代の映画⑬ 英語圏の映画① 18. グローバル時代の映画⑭ 英語圏の映画② 19. もう一つのグローバリズム(歴史編)① 映画の誕生とアメリカの転換期 20. もう一つのグローバリズム② チャップリン、グリフィスと新しいアメリカ 21. もう一つのグローバリズム③ 世界に広がる映画 22. もう一つのグローバリズム④ トーキーの誕生と現代アメリカへの道 23. もう一つのグローバリズム⑤ ハリウッドの成熟とアメリカの黄金期 24. もう一つのグローバリズム⑥ 映像文化の成熟と新しいグローバル社会 25. 世界の中の日本映画① 日本映画の誕生 26. 世界の中の日本映画② 日本映画第一の黄金期 27. 世界の中の日本映画③ 日本映画第二の黄金期 28. 世界の中の日本映画④ 1960年代の日本映画 29. 世界の中の日本映画③ 1970年代～現代の日本映画 30. 全体まとめ
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
本講義では、映画を中心に、映像文化のグローバルな広がりを跡付ける。映画は今日グローバル・メディアとして世界中で流通している。しかし同時に、映画は文脈依存度の高いメディアであり、ローカルな文化のあり方に強く依存している。本講義では映画の歴史をグローバル化の進展の中に位置づけながら、グローバル時代における映像文化はどのようなものなのか、どのようにそれが成立したのかを考えていきたい。		
(2) 学びの意義と目標		
本講義では、映像文化の意義を、世界史的な視点から考えていきたい。その作業を通じて、①映像言語の基本的特徴を学ぶだけでなく、②内容面における、個々の表現が持っている社会的・歴史的な意味を理解することを大きな目標としている。		
準備学習(予習)		授業での予告に従って、該当する地域や歴史的出来事、扱う作家について予習するのが望ましい。
準備学習(復習)		プリントを参考に、用語などを調べてさらに理解を深めてほしい。
評価方法		(1) 平常点 20% (2) 期末レポート 50% (3) ミニレポート 30% ミニレポートについて 一つの大きな話題(2～5回)が終わるごとにミニレポートを適宜実施する。
受講者に対する要望		
本講義では映画の上映を積極的に行っていくが、単なる娯楽として楽しむのではなく、その形式的特徴や表現が持っている意味を理解するつもりで見てもらいたい。		
学びのキーワード		教科書
・映画 ・映像 ・グローバル社会 ・日本映画		参考書
		参考文献：『日本映画史100年』四方田犬彦著、集英社、2000年。『ハリウッド100年史講義—夢の工場から夢の王国へ』北野圭介著、平凡社、2001年。『日本映画はアメリカでどう観られてきたか』北野圭介著、平凡社、2005年。『ハリウッド映画史講義—銀りの歴史のために』蓮實重彦著、筑摩書房、1993年など。『フランス映画史の誘惑』中条省平著、集英社、2003年。

担当教員：氏家 理恵

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1A611810

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目

【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目

(1) 内容

本講義では、映画作品を社会的・文化的な視点から分析していく。「映像の世紀」と呼ばれた20世紀が過ぎ去った現在、映画もその技術的・理論的発展によって、単なる娯楽として片づけられない地位を占めるに至った。そこで、総合芸術である映画の歴史をたどりながら、映画が培ってきた映像文化の特徴とその社会的・政治的・経済的功罪を振り返り、さらに映画の限界と可能性を考察していく。また、映画の「文法」を確認し、映画作品の「読み方」、つまり分析方法を紹介する。

(2) 学びの意義と目標

映像の持つ「力」を知り、ちまたにあふれている映像を客観的に分析する力を養う。また、映画が理論を併せ持った研究分野として確立していることを踏まえ、受講後も映画鑑賞の際に役立つような、映画を「読む」ための知識を獲得する。

受講者に対する要望

映画に興味のある意欲的な学生の受講を希望する。映画・映像そのものだけでなく、欧米の歴史や社会・芸術文化の知識を持って映像作品を分析することが望まれる。また、学期中に10作品以上は自主的に映画作品を観てほしい。

学びのキーワード

- ・映像文化
- ・映画批評
- ・映画分析
- ・映像理論

授業計画

01. イントロダクション
02. 映画の構成要素＝批評要素
03. 映画が誕生するまで
04. 初期映画の特徴
05. 物語装置としての映画
06. 映像を読む1—レンズの使い分け
07. 映像を読む2—カメラの使い分け
08. 映像を読む3—カメラアイとショットⅠ
09. 映像を読む4—カメラアイとショットⅡ
10. 映像を読む5—特殊なショット
11. 映像を読む6—ショットの切り替え
12. 映像を読む7—モンタージュ（編集）
13. 映画の時間・物語の時間
14. 映像を読む8—光のコントロール（照明）
15. 映像を読む9—映画の色Ⅰ
16. 映像を読む10—映画の色Ⅱ
17. 映像を読む11—映画の音
18. 映像を読む12—映画音楽
19. SFXとVFX—虚構の映像化
20. アニメーション
21. ジャパニメーション
22. 映画の政治性
23. 戦争とプロパガンダ映画
24. 映画の社会性
25. 西部劇・戦争映画—社会性の視点から
26. 映画のなかの女性—社会性の視点から
27. 映画の経済学—映画産業
28. リメイク作品とその功罪
29. 映画賞・映画祭とその功罪
30. まとめ

準備学習(予習)

授業内容に沿ったテーマで作品批評レポートを2回課すので、その準備として、気になる映像作品をチェックしておくこと。

準備学習(復習)

期末レポートは授業の総復習として課すので、講義内容を常に復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 映画作品分析レポート(2回) | 30% |
| (3) 期末レポート | 30% |

その他、自主課題として任意の映画鑑賞評価表を受け付ける（加算対象）

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

翻訳文化論											
担当教員：氏家 理恵											
学期： 週間授		科目：	必修・選択：								
学部教育の関連目											
カリキュラム上の位置付け											
(1) 内容		授業計画									
<p>本講義では、英語と日本語との間の翻訳事情について、その歴史と文化を概観し考察する。授業は講義形式で行う。毎回少しずつテーマを変え、ものの名前や概念、作品タイトルやキャッチコピー、小説や詩などの文学作品、映画字幕、歌詞、漫画作品など、なるべく多くの題材を扱いながら、翻訳傾向の特徴や時代による変容を見ていく。それと同時に、翻訳の限界や、翻訳を通して生じる危険性、翻訳作品の伝達上の問題点なども指摘したい。</p>		<p>01. イントロダクション 02. 日本語と英語 1—言語的差異概観 03. 日本語と英語 2—言語的差異の翻訳への影響 04. 西洋文化の翻訳事情 1—外国語の翻訳の歴史 05. 西洋文化の翻訳事情 2—明治期の翻訳とその必要性 06. 西洋文化の翻訳事情 3—翻訳語の傾向とパターン 07. 外来語翻訳とカタカナ表記 08. 学問用語：文芸用語の翻訳 09. 文学作品の翻訳事情 10. 翻訳作品の傾向と翻訳パターン—シェイクスピアを例に 11. シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』 12. シェイクスピア『ロミオとジュリエット』 13. 日本文学作品の翻訳事情 14. 夏目漱石『吾輩は猫である』『坊ちゃん』 15. 川端康成と芥川龍之介 16. 『源氏物語』と『平家物語』 17. 韻文の翻訳—英詩と短歌・俳句の違い 18. 韻文翻訳の問題—リズムと韻 19. 『百人一首』と『奥の細道』 20. 『マザーグース』—詩と歌詞 21. 『マザーグース』の翻訳事情 22. 児童文学作品と翻訳 23. 『不思議の国のアリス』—言葉遊び 24. 映画作品タイトルの翻訳 25. 映画字幕 26. 聖書と讃美歌翻訳事情 27. 「きよしこの夜」「諸人こぞりて」 28. コミックと漫画—翻訳の特徴 29. 漫画（Manga）翻訳事情 30. まとめ—翻訳をめぐる諸問題</p>									
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)									
<p>翻訳という行為が、単なる言語変換という行為だけにとどまるものではなく、既存の文化や思想に影響を与え、さらには新たな文化や概念を形成する行為であることを学ぶ。また、身の回りにあふれている翻訳語に気づき、その翻訳事情や翻訳傾向について考察できるようにする。</p>		<p>大きなテーマごとに予習課題を課す。また、事前に配布したプリントは必ず読んでおくこと。</p>									
		準備学習(復習)									
		<p>中間・期末レポートのテーマは授業の総復習とするので、レポート準備として常に授業内容の復習をするとともに、身の回りにある翻訳例の収集を随時しておくこと。</p>									
受講者に対する要望		評価方法									
<p>意欲のある学生の受講を希望する。授業には積極的に参加してほしい。常に言語に対する感覚を鋭敏にし、身の回りの翻訳語に気づき、収集するようにしてほしい。</p>		<table><tr><td>(1) 平常点</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 課題</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 中間レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 期末レポート</td><td>20%</td></tr></table>		(1) 平常点	40%	(2) 課題	20%	(3) 中間レポート	20%	(4) 期末レポート	20%
(1) 平常点	40%										
(2) 課題	20%										
(3) 中間レポート	20%										
(4) 期末レポート	20%										
学びのキーワード		教科書									
<ul style="list-style-type: none">・ 翻訳文化・ 翻訳学・ 近代日本における翻訳事情・ 英語と日本語の言語的差異と翻訳・ 翻訳語の傾向		<p>随時講義テーマに沿ったプリントを配布する。</p>									
		参考書									

言語学概論		LING-A-202
担当教員： D. バーガー		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A710470
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける 【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業紹介、言語の本質 02. 言語について何が分かっているか（講義とディスカッション） 03. 言語知識：音体系・意味の知識、言語知識の創造性（講義とディスカッション） 04. 言語知識：文法の知識、記述文法、規範文法（講義とディスカッション） 05. 言語普遍性：文法の発達、手話：言語生得の証拠（講義とディスカッション） 06. 動物の「言語」（講義とディスカッション） 07. 人間の脳：脳の2つの側面、一側化の証拠、失語症の研究（講義とディスカッション） 08. 人間の脳、言語の文法的側面 I：形態論 — 単語の構造（講義とディスカッション） 09. 形態論—内容語と機能語（講義とディスカッション） 10. 形態論—形態素：意味の最小単位（講義とディスカッション） 11. 形態論—拘束形態素と自由形態素；グループワーク：形態論に関する問題を解決する 12. 言語の文法的側面 II：統語論 — 文構造（講義とディスカッション） 13. 統語論— 統語範疇、句構造樹等（講義とディスカッション） 14. 統語論— 句構造規則、グループワーク：統語論に関する問題を解決する 15. 言語の文法的側面 III：意味論 — 語の意味（講義とディスカッション） 16. 意味論— 意味特性、意味役割（講義とディスカッション） 17. 意味論—文の真実性、含意、隠喩、直示；グループワーク：意味論に関する問題を解決する 18. 言語の文法的側面 IV：音声学 — 言語の音（講義とディスカッション） 19. 音声学— 音標文字、調音音声学：子音（講義とディスカッション） 20. 音声学— 調音の位置、調音の方法（講義とディスカッション） 21. 音声学—調音音声学：母音、グループワーク：音声学に関する問題を解決する 22. 言語の文法的側面 V：音韻論 — 言語の音型（講義とディスカッション） 23. 音韻論— 音素：言語の音韻単位（講義とディスカッション） 24. 音韻論—形態素の発音；グループワーク：音韻論に関する問題を解決する 25. 言語変化：音変化の規則性、音韻変化（講義とディスカッション） 26. 言語変化：形態変化、統語変化（講義とディスカッション） 27. 言語変化：語彙変化、借用語、グループワーク：言語変化に関する問題を解決する 28. 言語習得：幼児言語習得の段階（講義とディスカッション） 29. 言語習得：言語習得の生物学的基盤、「生得説」（講義とディスカッション） 30. 言語習得：「臨界期仮説」、第2言語習得理論、グループワーク：言語習得に関する問題を解決する</div>
<div>(1) 内容</div> <div>この授業は言語学の入門講座である。言語の色々な様式（話しことば、手話、書き言葉）、人間の言語は動物のコミュニケーション手段とどのように異なるか等、われわれの言語知識の構成要素などを含む言語の本質を考察することから始まる。次に、人間の脳の言語機能についての簡単な紹介に続き、形態論、統語論、意味論、音声学、音韻論という言語研究の主な分野をそれぞれ順に概説する。最後に、言語がどのように変化するか、人間がどのように言語を習得するかについて紹介する。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ポントック語、チカソー語、トルコ語、アカン語等々）の事例を考察する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この授業を通して言語学の理解を深めると同時に、普段、無意識的に用いる言語の性質を認識することを望んでいる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>当日のワークシートを参照すること。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>講義を聞きながら記入したワークシートを復習すること。小テストのためにワークシートを復習すること。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>言語の本質について関心がある者の受講を望む。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業への参加度</div><div>25%</div></div><div><div>(2) ワークシート</div><div>25%</div></div><div><div>(3) 小テスト</div><div>25%</div></div><div><div>(4) 期末試験</div><div>25%</div></div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・形態論</div><div>・統語論</div><div>・意味論</div><div>・音声学・音韻論</div><div>・言語習得</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>ビクトリア フロムキン、ニーナ ヒアムズ（著）、ロバート ロッドマン（著）、緒方 孝文（監修）『フロムキンの言語学』第7版、ピー・エヌ・エヌ新社 2006</div>

心理言語学		LING-A-200	
担当教員：川手 恩			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 1A711093	
学部教育の関連目		授業計画	
【A】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		01. コース内容の説明とニーズ分析 02. 心理言語学とは 03. 言語力の発達 04. 心理言語学諸相 05. 幼児の言葉の獲得 06. 幼児の言葉の獲得 07. 幼児の言葉の獲得 08. 動物の言葉と人間の言葉 09. 動物の言葉と人間の言葉 10. 動物の言葉と人間の言葉 11. 産出のメカニズム：音 12. 産出のメカニズム：語彙 13. 産出のメカニズム：句 14. 文と文章の理解：チョムスキー生成文法 15. 理解のメカニズム：品詞の組み合わせと統語解析モデル 16. 理解のメカニズム：統語解析モデル 17. 統語解析モデルの復習と理解の確認 18. 復習と中間テスト 19. 障碍とことば1 20. 障碍とことば2 21. 脳と言語：言語の臨界期 22. 脳と言語：ビデオ前半とディスカッション 23. 脳と言語：ビデオ後半とディスカッション 24. 学期末レポートについて内容とお題 25. 学期末レポートについてフォーマットと「はじめに」 26. レポートの書き方の指導 27. 参考文献リストの書き方と練習 28. 心理言語学諸相の復習 29. プレゼンテーションと質疑応答 30. プレゼンテーションと質疑応答	
カリキュラム上の位置付け			
【A】 日本語教員養成課程：選択必修科目 【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目			
(1) 内容			
本講義では、言語使用や言語行為、コミュニケーションを言語学と心理学両方面から分析し、言葉の仕組み、言葉の獲得や言葉の運用に焦点をあて授業を進めていく。			
(2) 学びの意義と目標			
本講義では、日常生活でどこにでも見受けられるようなやり取りをコミュニケーションと位置づけ、心理言語学視点より分析し、実社会での様々な状況や場面におけるコミュニケーションの成り立ちを理解することを目的とする。また、様々な研究分野にも精通し学習することの楽しさ、大切さ、すばらしさを見出すことも目的である。		準備学習(予習)	
		与えられたプリントを読んでおきましょう	
		準備学習(復習)	
		それぞれのトピックの問題をこなし内容を把握していきましょう。 	
受講者に対する要望		評価方法	
クラス活動に積極的に参加しましょう。		(1) クラス参加と1宿題 40% 宿題は必要に応じて授業中に配布されます。 (2) 期末レポート 30% (3) プレゼンテーション 10% (4) 中間テスト 20% 一部持ち込み可	
学びのキーワード		教科書	
・ 言語使用と心理 ・ 言語行為と心理 ・ 産出のメカニズム ・ 理解のメカニズム ・ コミュニケーション		杉浦恵子 『ことばとところ—入門心理言語学』 (みみずく舎)	
		参考書	

日本文化概論

JPCL-J-100

担当教員：村松 晋

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1J110420

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「日本文化」を学ぶことについての導入講座である。日本文化学科では「語学・文学系統」「歴史・思想系統」「文化論・比較文化系統」の三つの柱を立て、「日本文化研究」へのアプローチ方法の目安を示唆しているが、本講座においては、この三つの柱を枠組みとし、それぞれの系統の専任の教員によるオムニバス形式の授業を展開する中で、「日本文化」に関する基礎的な学びをしてもらうこととなる。

(2) 学びの意義と目標

4年間にわたる本学日本文化学科での学びの基礎であり、その後各自の具体的な研究目標を見定めるきっかけを掴んでほしい。その後の方向性に「変」「修正」がなされることに何ら問題はないが、「日本文化」を捉える上で、どの広い視野を確保する姿勢を身につけてほしい。

受講者に対する要望

オムニバス形式の授業の利点を生かし、各系統における研究の違いと、根底に流れる共通性をしっかりと捉えてほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 語学・文学
- ・ 歴史・思想
- ・ 文化論・比較文化

授業計画

01. ガイダンス・導入
02. 語学・文学(1) 小林
03. 語学・文学(2) 川口
04. 語学・文学(3) 黒崎
05. 語学・文学(4) 木下
06. 歴史・思想(1) 松井
07. 歴史・思想(2) 清水 (正)
08. 歴史・思想(3) 村松
09. 歴史・思想(4) 柳田
10. 小テスト①
11. 文化論・比較文化(1) 濱田
12. 文化論・比較文化(2) 熊谷
13. 文化論・比較文化(3) 横山
14. 文化論・比較文化(4) 清水 (均)
15. 小テスト②

準備學習(予習)

2回実施される「小テスト」に向けて予習をしておくこと。

準備學習(復習)

毎回の授業内容をノートにまとめ、提出できるようにしておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 小テスト | 50% |

教科書

参考書

ライフデザイン・良く生きるA		CREE-J-100
担当教員： 清水 均		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1J110530
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う		01. ガイダンス並びに教務指導 02. 大学生としての学びと生活 1—図書館ツアー① 03. 大学生としての学びと生活 2—図書館ツアー② 04. 大学生としての学びと生活 3—マナーの本質と重要性 05. 大学生としての学びと生活 4—コミュニケーションの重要性：他者を感じる 06. 大学生としての学びと生活 5—プレゼンテーションの方法 07. 「プレゼンテーション」に向けて① 08. 「プレゼンテーション」に向けて② 09. 「プレゼンテーション」の実践—「埼玉の魅力」報告会 10. キャンパスデザインとは—上級生の話を聴き、自分のキャンパスデザインを描く 11. ビブリオバトルに向けて①—ガイダンス— 12. ビブリオバトルに向けて②—推薦図書を決める— 13. ビブリオバトル—準決勝— 14. ビブリオバトル—決勝— 15. まとめ（テスト形式）
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
本講座は学生個々の「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」の充実を願うと同時に、生涯にわたる「ライフデザイン」をイメージしてもらい、それぞれの人生が「良く生きる」といえるような充実したものとなっほしいという願いをこめた講座である。 学科カリキュラムにおける「専門基礎科目」に位置する必修科目である。即ち、日本文化学科の学生として卒業するためには履修が絶対に欠かせない科目ということである。尚、「授業計画」については外部講師による担当回があるので、講師の都合上変更される場合がある。		
(2) 学びの意義と目標		
大学で過ごす数年間が人生にとって非常に大切な時間であることは言うまでもない。特に他者とのコミュニケーション力を養成することは生涯にわたって自己を生かす上で必須の要件となるので、是非とも身につけておいてほしい。一方、「読書記録」においては、記述作業を通じて、「読み」の力を養成するとともに、自己を内省する手がかりを掴んでほしい。		
受講者に対する要望		
上記の目標を達成するために、授業形態は基本的に「参加型」の形式をとる。 		
学びのキーワード		教科書
・キャンパスデザイン ・キャリアデザイン ・コミュニケーション ・読書 ・ビブリオバトル		指定のテキストを授業時に配布する。
		参考書
		必要に応じて授業時に配布する。

ライフデザイン・良く生きるB		CREE-J-100								
担当教員： 清水 均										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1J110640								
<div>学部教育の関連目</div> <p>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</p>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div>										
<div>(1) 内容</div> <p>「ライフデザイン」は、学生個々の「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」の充実とともに、生涯にわたる「ライフデザイン」をイメージし、それぞれの人生が「良く生きる」といえるような充実したものとなってほしいという願いをこめて実施される講座である。</p> <p>「ライフデザイン B」では、「キャリア」を意識してそれぞれのキャンパスライフをどのように組み立てるかをデザインする。また、日本文化学科の学生としてどのような専門研究をするかという方向づけのヒントとなるプログラムを実施する。</p>	<div>授業計画</div> <p>01. ガイダンス 02. 専門研究への導入① 03. 専門研究への導入② 04. 専門研究への導入③ 05. 専門研究への導入④ 06. 専門研究への導入⑤及びキャリアガイダンス 07. キャリアデザインプログラム① 08. キャリアデザインプログラム② 09. キャリアデザインプログラム③ 10. キャリアデザインプログラム④ 11. キャリアデザインプログラム⑤ 12. キャリアデザインプログラム⑥ 13. キャリアデザインプログラム⑦ 14. キャリアデザインプログラム⑧ 15. まとめ</p>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」を具体的に描き、これから先の学生生活の目標をつかむ。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>・「読書記録」は適宜記述、提出し、最終的に4枚（課題図書2枚+自由選択図書2枚）を提出すること。
・「キャリアデザインプログラム」において適宜課される課題にしっかりと取り組むこと。</p>									
	<div>準備学習(復習)</div> <p>・「キャリアデザインプログラム」において、毎回の授業内容をテキストを使って振り返る。（授業中書き込めなかった部分は必ず各自で記入しておく）</p>									
<div>受講者に対する要望</div> <p>授業には自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。</p>	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>25%</td></tr><tr><td>(2) 「私の読書記録」</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 授業内容に関する提出物</td><td>25%</td></tr><tr><td>(4) 最終課題</td><td>25%</td></tr></table>		(1) 平常点	25%	(2) 「私の読書記録」	25%	(3) 授業内容に関する提出物	25%	(4) 最終課題	25%
(1) 平常点	25%									
(2) 「私の読書記録」	25%									
(3) 授業内容に関する提出物	25%									
(4) 最終課題	25%									
<div>学びのキーワード</div> <p>・ ライフデザイン ・ キャンパスデザイン ・ 専門研究 ・ キャリアデザイン</p>	<div>教科書</div> <p>春学期「ライフデザイン・良く生きるA」の授業時に配布したテキストを継続して使用する。</p> <div>参考書</div> <p>必要に応じて授業時に指示する。</p>									

文章表現法（J-1）		JPLI-J-100
担当教員：太田 ミユキ		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：1J110760
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】表現力・コミュニケーション力：的確な自己表現力を育てる</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入</div> <div>02. 文章構成練習</div> <div>03. 実作練習① 説明の語彙</div> <div>04. 実作練習② テーマ</div> <div>05. 実作練習③ 取材</div> <div>06. 実作練習④ 構想</div> <div>07. 実作練習⑤ 帰納法</div> <div>08. 実作練習⑥ 演繹法</div> <div>09. 実作練習⑦ 構成</div> <div>10. 実作練習⑧ 尾括式</div> <div>11. 実作練習⑨ 頭括式</div> <div>12. 実作練習⑩ 双括式</div> <div>13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング</div> <div>14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語</div> <div>15. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目</div> <div>【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>辞書を持参してくることが望ましい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・文章読解力</div> <div>・論理的思考</div> <div>・表現力</div>	<div>教科書</div>	
	<div>参考書</div>	
		<div>（1）提出物 70%</div> <div>（2）授業への参加度 30%</div>
		<div>毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。</div>

文章表現法（J-2）※教職履修者優先		JPLI-J-100
担当教員： 副田 恵		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1J110765
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】表現力・コミュニケーション力：的確な自己表現力を育てる</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入</div> <div>02. 文章構成練習</div> <div>03. 実作練習① 説明の語彙</div> <div>04. 実作練習② テーマの提示</div> <div>05. 実作練習③ 材料の取材</div> <div>06. 実作練習④ 構想の重要さ</div> <div>07. 実作練習⑤ 帰納法</div> <div>08. 実作練習⑥ 演繹法</div> <div>09. 実作練習⑦ 構成</div> <div>10. 実作練習⑧ 尾括式</div> <div>11. 実作練習⑨ 頭括式</div> <div>12. 実作練習⑩ 双括式</div> <div>13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング</div> <div>14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語</div> <div>15. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目</div> <div>【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を知得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけるとともに、その学習体験を通して指導方法について理解していくことを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>辞書を持参してくることが望ましい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 提出物 70%</div> <div>(2) 授業への参加度 30%</div>	
	<small>毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。</small>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・文章読解力</div> <div>・論理的思考</div> <div>・表現力</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

文章表現法（J-3）		JPLI-J-100
担当教員：坂巻 理恵子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：1J110770
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】表現力・コミュニケーション力：的確な自己表現力を育てる</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入</div> <div>02. 文章構成練習</div> <div>03. 実作練習① 説明の語彙</div> <div>04. 実作練習② テーマの提示</div> <div>05. 実作練習③ 材料の取材</div> <div>06. 実作練習④ 構想</div> <div>07. 実作練習⑤ 帰納法</div> <div>08. 実作練習⑥ 演繹法</div> <div>09. 実作練習⑦ 構成</div> <div>10. 実作練習⑧ 尾括式</div> <div>11. 実作練習⑨ 頭括式</div> <div>12. 実作練習⑩ 双括式</div> <div>13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング</div> <div>14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語</div> <div>15. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目</div> <div>【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>辞書を持参してくることが望ましい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・文章読解力</div> <div>・論理的思考</div> <div>・表現力</div>	<div>教科書</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 提出物 70%</div> <div>(2) 授業への参加度 30%</div> <div>毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。</div>
	<div>参考書</div>	

文章表現法（再履修用）		JPLI-J-100
担当教員： 副田 恵		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1J110775
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】表現力・コミュニケーション力：的確な自己表現力を育てる</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入 02. 文章構成練習 03. 実作練習① 04. 実作練習② 05. 実作練習③ 06. 実作練習④ 07. 実作練習⑤ 08. 実作練習⑥ 09. 実作練習⑦ 10. 実作練習⑧ 11. 実作練習⑨ 12. 実作練習⑩ 13. 実作練習⑪ 14. 実作練習⑫ 15. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>辞書を持参してくることが望ましい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 提出物</div><div>70%</div></div><div><div>(2) 授業への参加度</div><div>30%</div></div></div> <div>毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集成して評点をつける。したがって、未提出の回があると評点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・文章読解力</div><div>・論理的思考</div><div>・表現力</div></div>		

日本語学概説		JPLI-J-100									
担当教員： 小林 茂之											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1J120100									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 生成文法入門(1)， チョムスキーの学問と思想 02. 生成文法入門(2)， チョムスキーの生い立ち， 思想界への影響 03. 第1章 ことばの研究(1)， 言語観の移り変わり， 国語学， 規範主義， 言語科学 04. 第1章 ことばの研究(2)， 恣意性， 分節性， 抽象性， 構造 05. 第1章 ことばの研究(3)， 言語能力， 言語運用， 言語獲得 06. 第1章 ことばの研究(4)， ことばの普遍性と個別性， ことばの伝達機能， 談話（文章表現） 07. 第2章 ことばの獲得(1)， 言語獲得の普遍性， 言語獲得の迅速さと完璧さ， 臨界期 08. 第2章 ことばの獲得(2)， 言語獲得の前提条件， 発達心理言語学 09. 第2章 ことばの獲得(3)， 生成文法と言語獲得， PP理論と言語獲得過程 10. 第2章 ことばの獲得(4)， 空主語パラメータ， 可能なパラメータの制限， 語彙項目に結び付けられたパラメータ 11. 第3章 音としてのことば(1)， 音声学， 文字と音声， 発音のメカニズム， 音の分類 12. 第3章 音としてのことば(2)， 日本語の音， 韻律現象（アクセント） 13. 第3章 音としてのことば(3)， 音韻論， 最小対立の対， 音素， 辞書と音韻表示 14. 第3章 音としてのことば(4)， 音韻素性と音韻規則， 日本語の音韻現象， 動詞の活用， ビッチアクセント 15. 第4章 語彙と辞書(1)， 文法構造と辞書 16. 第4章 語彙と辞書(2)， 形態素， 接辞， 異形態 17. 第4章 語彙と辞書(3)， 語彙範疇， 述語の項構造， 慣用句， 辞書における記載 18. 第4章 語彙と辞書(4)， 派生， 複合， その他の語形成 19. 第5章 文の仕組み(1)， 文法性の判断， 句構造 20. 第5章 文の仕組み(2)， 移動現象， 受動文， 日本語に特有な被害の受動文 21. 第5章 文の仕組み(3)， 名詞句の解釈， 束縛理論 22. 第5章 文の仕組み(4)， 不可視的要素 23. 第6章 語の意味と文の意味(1)， 単語の意味， 多義性， 意味素性， 意味関係， 意味公準 24. 第6章 語の意味と文の意味(2)， 文の意味構造， 統語論と論理形式 25. 第6章 語の意味と文の意味(3)， 論理形式における名詞句の解釈 26. 第6章 語の意味と文の意味(4)， 修飾， 含意と前提， 情報の構造 27. 補足(1)： 歴史言語学入門（ラテン語） 28. 補足(2)： 歴史言語学入門（ギリシア語） 29. 補足(3)： 日本語と英語の史的対照 30. まとめ</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>現代言語学は、科学の一分野として認識されるようになった。これは、チョムスキーによる生成文法と呼ばれる言語研究が言語学の主流の一つを占めるようになったためである。本講義では、現在アメリカの代表的知識人の一人であるチョムスキーについて紹介し、彼が確立した生成文法が何を問題とし、解明してきたかを展望する。そして、生成文法が研究対象とする母語話者の言語知識とは何であるかを、受講者のほとんどの母語である日本語と、言語の普遍性の観点から日本人にとってもっとも知られている外国語である英語のデータに基づいて、音声学・音韻論，統語論（文法），意味論などの主要分野について概説する。なお、受講者の理解度に応じて、高等学校における国語学の用語からの橋渡しするとともに、近年の言語研究の成果に対する理解を図る。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>多くの受講者にとって母語の日本語と最も身近な外国語である英語との比較を通して、現代言語学のスタンダードな考え方を学ぶ。また、現代知性の代表の一人としてのチョムスキーと現代言語学の典型である生成言語学を具体例を通して学ぶことによって科学的思考法を養い、大学学部レベルの現代言語学・言語哲学・認知科学に関する人文学的教養を身に付けるとともに、チョムスキーの哲学的意義や、彼の活動を通して大学知識人の民主主義社会に対する責任や倫理について学ぶ。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回の講義の最後に、次回の教科書の予習ページが示されるので、それにしたがって教科書を予習する。</div>									
		<div>準備学習(復習)</div> <div>期末のレポートの準備を含めて、発展的読書をする。また、講義で取り上げない部分を復習時に補う。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回、導入・要点をパワーポイントで解説する。また、出席票を兼ねたリアクションペーパーに授業内容に即した簡単な問いに取り組んでほしい。発展的読書の案内があるので、受講者は発展的読書に取り組んでほしい。また、教科書は授業時、予習、復習で必要があるので、教科書を手しないうで授業に出席しても平常点は認められない。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) レポート</td><td>40%</td><td>教科書に基づく課題レポートであるので、教科書を必ず入手する。</td></tr><tr><td>(2) 平常点</td><td>40%</td><td>教科書の携行を随時チェックする。</td></tr><tr><td>(3) 授業参加度</td><td>20%</td><td>出席票を兼ねたリアクションシートの課題を提出することを含む。</td></tr></table> <div>平常点の評価は、教科書の携行して、授業に出席することが前提である。授業参加度には、出席票を兼ねたリアクションペーパーの授業の内容理解のための課題への取り組みを含む。</div>	(1) レポート	40%	教科書に基づく課題レポートであるので、教科書を必ず入手する。	(2) 平常点	40%	教科書の携行を随時チェックする。	(3) 授業参加度	20%	出席票を兼ねたリアクションシートの課題を提出することを含む。
(1) レポート	40%	教科書に基づく課題レポートであるので、教科書を必ず入手する。									
(2) 平常点	40%	教科書の携行を随時チェックする。									
(3) 授業参加度	20%	出席票を兼ねたリアクションシートの課題を提出することを含む。									
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">言語音声・音韻文法語彙意味</div>		<div>教科書</div> <div>井上和子・他『生成言語学入門』（大修館書店）</div> <div>参考書</div> <div>授業時に指示する。</div>									

日本文学概説		JLIT-J-100
担当教員： 木下 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1J120210
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【J】 高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】 中学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目		
(1) 内容		01. はじめに 02. 漢字の伝来と仮名の誕生（１）―東アジア漢字文化圏 03. 漢字の伝来と仮名の誕生（２）―訓点、カナ、万葉仮名、かな 04. 本のかたちと広まり―写本と版本、装訂 05. 辞書と索引 06. 郷・境界（１）―世界観：高天原と黄泉、常世（とこよ） 07. 異郷・境界（２）―生者の国と黄泉の国 08. 王権（１）―王と王権論 09. 王権（２）―色好み、みやび、歌の力 10. 貴種流離譚（きしゅりゅうりたん）（１）―『伊勢物語』の東下り 11. 貴種流離譚（きしゅりゅうりたん）（２）―『源氏物語』の須磨流離 12. 旧国名と暦法（１）―都に向う、『土佐日記』 13. 旧国名と暦法（２）―都に向かう、『更級日記』 14. 平安京・内裏・大内裏（１）―『枕草子』 15. 平安京・内裏・大内裏（２）―『徒然草』 16. 和歌（１）―枕詞 17. 和歌（２）―掛詞、縁語、見立て 18. 和歌（３）―本歌取り 19. あはれ・をかし（１）―『枕草子』と「をかし」 20. あはれ・をかし（２）―『源氏物語』と「あはれ」、本居宣長 21. 本文と注釈（１）―批評と考証 22. 本文と注釈（２）―典拠、准拠 23. 無常・遁世・漂泊（１）―『平家物語』『方丈記』 24. 無常・遁世・漂泊（２）―『徒然草』 25. 無常・遁世・漂泊（２）―旅と遁世、漂泊 26. わび・さび・不易流行（１）―芭蕉の美的理念 27. わび・さび・不易流行（２）―『おくのほそ道』、門人たちの解釈 28. 勧善懲悪（１）―『南総里見八犬伝』 29. 勧善懲悪（２）―さまざまな受容 30. まとめ
(2) 学びの意義と目標		
日本文学および日本文学研究の特色や方法を理解します。これから、さまざまな作品を鑑賞し、研究するための土台を作ります。		
準備学習(予習)		
配布したプリントは必ず読み、分からない漢字や語句については辞書で調べておくこと。図書館を活用すること。		
準備学習(復習)		
その日のうちにプリントとノートを読み返し、整理すること。追加で質問があれば受け付けます。		
評価方法		
(1) 期末試験	60%	
(2) 平常点	40% フィードバックペーパーや小テスト等の授業内提出物	
受講者に対する要望		
ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。		
学びのキーワード		
・ 日本文学 ・ 古典文学		
教科書		
参考書		
三村 晃功、寺川 真知夫、廣田 哲通、 本間 洋一(編) 『日本古典文学を読む』(和泉書院)		

日本史概説 A		TEAT-P-200/TEAT-L-200/HIST-J-10 0
担当教員： 松井 慎一郎		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目/選択科目 単位： 2 コード： 1J120381		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける 【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 02. 邪馬台国はどこにあったのか？ 03. 稲荷山古墳出土鉄剣銘の衝撃 04. 聖徳太子は本当に偉人なのか。 05. 「天皇」と「日本」の誕生 06. 聖武天皇の憂鬱と天皇制の危機 07. 桓武天皇のコンプレックス 08. 極楽浄土に憧れた道長・頼通父子 09. 畠山重忠の怪力伝説 10. 「官軍」はなぜ負けたのか？－承久の乱をめぐる－ 11. 「冬は必ず春となる」－蒙古襲来と鎌倉新仏教－ 12. 尊治と尊氏 13. くじ引きで決めた征夷大將軍 14. 北条氏に支配された武蔵国 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】日本語教員養成課程：選択必修科目 【L】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】日本語教員養成課程：選択必修科目 【L】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】日本語教員養成課程：選択必修科目 【P】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>概説Aでは、古代・中世の日本史を対象とする。ここ北武蔵の地は、古代においては、埼玉古墳群に象徴されるように、東国豪族が活躍する舞台であり、中世期には、畠山重忠や熊谷直実らの武蔵武士を輩出し、彼らの活躍が鎌倉幕府成立に大きく貢献した。できるだけ北武蔵の状況について触れながら、古代・中世における政治の変遷について解説していく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>高校までの歴史の学びは、人物名、事件名、年号などをひたすら頭にいれるという暗記物であったかもしれないが、大学での歴史の授業は、史料を解説しながら、過去の時代を考察するという作業が中心となる。史料読解力や論理的思考力を養っていきたい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各回で取り扱う事項に関する予備知識を得たうえで講義に臨むこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>日本の歴史について関心がある者の受講を望む。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業終了後は、プリントを読み返すなどして、しっかり理解すること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 期末試験 80% (2) 平常点 20%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 日本 ・ 古代 ・ 中世 ・ 武蔵国 ・ 政治史</div>	<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div>	<div>参考書</div>

日本史概説B		TEAT-P-200/TEAT-L-200/HIST-J-10 0
担当教員： 上安 祥子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目/選択科目 単位： 2 コード： 1J120482		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける 【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンスー江戸の“四民” 02. 新しい時代の治者像ー山鹿素行の士道論と「太平記読み」の世界 03. ある名主の苦悩ー救済する人、される人 04. 御所千度参りの波紋 05. 七分積金と江戸の町会所 06. 「ぶらかし」と幕府の「私」 07. 東京の誕生 08. 築地梁山泊と改正掛 09. 自由民権運動 10. 1889年2月11日の万歳 11. かみあわない「自主」ー日清戦争、そして日露戦争へ 12. 普選運動 13. 帝都復興 14. “ひきずられる” 国論ー満蒙へのまなざし 15. 開戦しない論理、開戦する論理ー日中戦争、そして太平洋戦争へ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目 【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】 日本語教員養成課程：選択必修科目 【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】 日本語教員養成課程：選択必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>概説Bでは、江戸時代から昭和までの歴史をあつかう。政治や社会の動向といった側面を重点的にとりあげる。 個々のトピックスそのものを理解するだけでなく、史料を通じてその時代の様相や志向を「考える」、そして時代の流れを把握する、という、学びのプロセスを重視して授業をすすめていきたい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>歴史を学ぶということは、記録された個々の事実や、叙述されたストーリーを「覚える」ことではない。さまざまな史料や学説を検討、検証し、より確かにアプローチする方法を模索しながら、その事実を読み解いていく、きわめて論理的な思考力を駆使する作業が必要だ。本講義でも、そうした論理的思考力を養うことを目標としている。 なお、当科目は、日本文化学科の選択必修科目であると同時に、政治経済学部 of 社会科教職科目でもある。将来、教え導く立場に立つ諸君だからこそ、歴史を考えて学ぶ醍醐味を、充分に体験してもらいたい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> 次回の授業内容に関して、確認しておくべき語句など、基本的には空欄補充形式の予習課題あり。この予習課題は提出はせず、成績にも反映しないが、予備知識や関心をもつことは、授業の理解度を高める。是非、積極的に取り組んで、授業に出席してもらいたい。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div> * 授業で配布するプリントに空欄を設け、その空欄に重要語句などを記入する作業を行いながら授業をすすめるが、その空欄に書き込んだ語句などを中心に、プリントをよく見直すこと。 * 授業でとりあげるトピックスは日本史を学ぶ“手引き”ととらえ、とくに関心を惹かれた内容に関するものから参考文献を読み進めてみてほしい。そうすることが復習になるとともに、理解を深めることにもつながる。とりわけ、教員免許取得を目</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 学期末試験 55% 試験の形式などは、時期をみて、授業のなかで説明する。 (2) 小レポート 45% 小レポートは80～100字程度を毎回提出。その日の授業内容に関して、10分程度で記述。 * 出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。 * 公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div> 予習の内容、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、諸君に発言を求めることがある。「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり調べておくこと。その場で考えるものについては、間違うことをおそれたりためらったりせず、はっきり意見を述べること。</div>	<div>教科書</div> <div>なし。毎授業、プリントを配布する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 災害 ・ 戦争 ・ 近世 ・ 近代</div>	<div>参考書</div> <div>毎授業、複数冊、紹介する。</div>	

日本語教育概論		JPLI-J-100
担当教員：北村 淳子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1J120520
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 日本語を学ぶ人、教える人</div> <div>02. 同上</div> <div>03. 多文化共生と日本語教育</div> <div>04. 同上</div> <div>05. 年少者日本語教育</div> <div>06. 同上</div> <div>07. 日本語教育の歴史</div> <div>08. 同上</div> <div>09. 同上</div> <div>10. 日本語教育の特色</div> <div>11. 同上</div> <div>12. 言語としての日本語</div> <div>13. 同上</div> <div>14. 日本語の音声</div> <div>15. 同上</div> <div>16. 日本語の文法</div> <div>17. 同上</div> <div>18. 同上</div> <div>19. 同上</div> <div>20. 同上</div> <div>21. 文字・表記</div> <div>22. 同上</div> <div>23. 語彙</div> <div>24. 同上</div> <div>25. 社会言語学—ことばと社会の関わり—</div> <div>26. 同上</div> <div>27. 心理学—学ぶということのメカニズム—</div> <div>28. 同上</div> <div>29. 日本語教師の心構え</div> <div>30. 同上</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 日本語教員養成課程：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、日本語教育の現状及び歴史を理解した上で、英語・国語教育との比較における日本語教育の特色、日本語の音声、文法、文字・表記、語彙、日本語教育と関わりのある社会言語学、心理学を概観する。また、教師としての心構えについても考える。 いくつかのテーマについては、講師が課題を出し、何人かの学生を指名し、レポートを書かせる。指名された学生の一人は、レポートの内容についてクラスに報告する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語教育に必要な基礎的知識を得ること。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業の前に、当日学習する教科書の該当箇所を読んでおくこと。用語なども調べておく。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>一年次及び二年次の受講が望ましい。日本語教員養成課程の科目であるが、教職課程をとる学生にもすすめたい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>学習した内容と自らが発見したことをまとめる。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) レポートの内容</div><div>10%</div></div><div><div>(2) 教室内発表の内容</div><div>10%</div></div><div><div>(3) 授業態度</div><div>10%</div></div><div><div>(4) 試験</div><div>70%</div></div></div> <div>出席時間数が全体の3分の2に満たない者は評価しない。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 外国語としての日本語</div><div>・ 他文化への理解</div><div>・ 自文化の発見</div></div>		<div>教科書</div> <div>高見澤孟 監修 『新・はじめての日本語教育 1』 (アスク)</div> <div>参考書</div>

古典読解 A		JLIT-J-100	
担当教員： 網本 尚子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 2		コード： 1J120630	
学部教育の関連目		授業計画	
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		01. ガイダンス・日本語の言葉遊び 02. 百人一首に見られる恋の歌 その1 03. 百人一首に見られる恋の歌 その2 04. 百人一首に見られる恋の歌 その3 05. 枕草子1 清少納言の経歴。清少納言と紫式部 06. 枕草子2 すばらしい女性とは？ 07. 枕草子3 宮中の楽しい思い出 08. 枕草子4 清少納言の知識 09. 源氏物語1 紫式部の経歴と処世術 10. 源氏物語2 桐壺更衣の生き方 11. 平家物語1 敦盛最期 12. 平家物語2 平家物語と能。能初心者のための鑑賞講座 13. 今昔物語集1 今昔物語が描く世界 14. 今昔物語集2 今昔物語の登場人物 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
この授業では、中古から中世の代表的な文学作品のいくつかを読み味わう。 単に現代語訳するだけではなく、読解に際して必要な古語や文法の知識を深めるとともに、昔の風俗や考え方についての講義を通して、古典を学ぶ上で最低限覚えておくべき常識を身につける。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
私たちと同じ日本人が、昔はどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知ることによって、現代と古典の世界がかけ離れたものではなく、現代は昔の日本の延長上に成立していることを理解する。また、現代との相違点や共通点について考察し、双方の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。		授業で取り上げる作品について、辞典・事典・高校の教科書・参考書などで、あらかじめ下調べしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		試験では、ノート・プリントの持ち込みを許可するので、ノート整理は毎回きちんとしておくこと。	
		評価方法	
受講者に対する要望		(1) 平常点 30% 授業日数の三分の二以上出席 (2) 試験 70% 授業後に提出する感想文・質問の内容などで評価	
現代語訳や古語の意味などをただ暗記するだけでなく、作品について積極的に自分でも調べ、主体的に自分の考えを持つようにしてもらいたい。		欠席・遅刻・早退・学生証忘れなどは、出席点減点の対象とする。 />受講態度が悪い（私語・居眠り・ノートを取らない・課題にまじめに取り組まないなど）場合は、平常点を減点する。	
学びのキーワード		教科書	
・ 古典文学 ・ 平安文学 ・ 中世文学 ・ 古典芸能		参考書	

日本思想入門		PHIL-J-100
担当教員：村松 晋		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1J120960
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 何を学ぶかーオリエンテーションー</div> <div>02. 「無文字社会」の人々とその思想</div> <div>03. 「遺物」に託された祈りの世界</div> <div>04. 「カミ」をめぐる文化誌</div> <div>05. 仏教を受け容れた人々ー「罪の意識」の芽生えー</div> <div>06. 「百姓」＝「農民」とされた訳ー差別問題を考えるー</div> <div>07. 「見棄てられた人々」と共にー親鸞の深さと新しさー</div> <div>08. 歴史と思想の関係 その1ー「転換の時代」の意味を問うー</div> <div>09. 歴史と思想の関係 その2ー「弱き者」の目線からー</div> <div>10. 歴史と思想の関係 その3ー創られた「江戸時代」イメージー</div> <div>11. 「大日本帝国」を創った思想 その1ー「祝祭日」の企図ー</div> <div>12. 「大日本帝国」を創った思想 その2ー国家と教育ー</div> <div>13. 君たちはどう生きるか その1ー「いのち」への祈りー</div> <div>14. 君たちはどう生きるか その2ー〈現代〉への眼ー</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>先人の営んできた思想・思考の歴史には、皆さんが自己と自己をとりまく社会とを批判的に問い質し、借り物でない独自の視点を構築していくために学ぶべきことがらが、数多く散りばめられている。本講義では通史的に、その主要なものを提示することで、皆さんの「常識」に創造的なゆさぶりをかけてみたいと思っている。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、「ライフデザイン」における私の推薦図書に眼を通しておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>これまでに教え込まれた「知識」を主体的に検証し、自分なりのものの見方を構築していくきっかけを手に入れること。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>「『歴史』は嫌い、『思想』は難しい」と考えている人にこそ受講してもらいたい。文字通り「入門科目」であるため1、2年次の受講が望ましい。なお受講者の質問やコメントを授業に取り入れるため、授業計画には変更が生じることがある。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義後はその日のうちにレジュメを読み直し理解を深め、次回までに前講義の最後で投げかけられた問いを考えてくること。
</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 期末試験 100%</div> <div>期末試験によって評価する。全授業回数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いは初回の授業で説明する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 日本思想史</div> <div>・ 宗教</div> <div>・ 仏教</div> <div>・ 神道</div> <div>・ 近代</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

日本文化入門		JPCL-J-100
担当教員： 寺田 詩麻		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1J121070
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス 02. 日本の文学史と芸能史 03. 日本の伝統芸能 雅楽 04. 日本の伝統芸能 能 05. 日本の伝統芸能 能周辺の民俗芸能 06. 日本の伝統芸能 狂言（１） 07. 日本の伝統芸能 狂言（２） 08. 日本の伝統芸能 文楽（１） 09. 日本の伝統芸能 文楽（２） 10. 日本の伝統芸能 文楽（３） 11. 日本の伝統芸能 歌舞伎（１） 12. 日本の伝統芸能 歌舞伎（２） 13. 日本の伝統芸能 歌舞伎（３） 14. 日本の伝統芸能 落語・講談など 15. 全体のまとめ
【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目		
(1) 内容		準備学習(予習)
世界の芸能のなかでもユニークな位置を占める日本の古典芸能、とくに能・狂言・文楽（人形浄瑠璃）・歌舞伎を中心にとりあげます。 ・演じられているありさま（芸態）を見てそれぞれの芸能の（とくに形態上の）特徴を把握する ・その上で、よく上演されるいくつかの作品の内容を、映像資料を見ながら理解する 以上2つを目標とします。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)
・日本文化学科の選択必修科目の1つ。1・2年での習得を原則としますが、それ以上の学年でも受講することができます。 ・グローバル化する社会の中で必要なのは英語力だけではなく、英語を話すその人の教養だろうと思われます。外国で仕事をしている日本人が、伝統芸能について問われて答えられないことが多いと聞きます。また将来的に大学で日本文化を専攻したと自己紹介する場合、日本文化としての伝統芸能について問われることがあるでしょう。そうした時のために、この科目があなたの手助けになればよいと思います。		
受講者に対する要望		評価方法
機会があれば、授業で紹介する「伝統芸能」に属する芸能を、実際の舞台で1度は見てほしいと思います。 埼玉では川口や草加などの公共ホールで、年に何度か歌舞伎や文楽の公演が行われることがあります。		
学びのキーワード		教科書
・ 伝統芸能 ・ 能 ・ 狂言 ・ 文楽 ・ 歌舞伎		
		参考書
		作品内容をまとめ、重要な語句を穴埋めする形式のプリントを毎回配ります。

相關文化

JPCL-J-100

担当教員：村松 晋

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位：2 コード：1J121390

学部教育の関連目

【J】国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「日本文化」とは何だろうか。「“日本”にしかない文化」というものは存在するのだろうか。否、そもそも「『日本文化』とは何か」を問い、それを探り当てようとする試みに、積極的な意義はあるのだろうか。本講義では、私たちの身の回りに息づく諸文化を、世界史的な文脈をも考慮しつつ、多角的かつ重層的な観点から問い質すことにより、上記の問いかけに対する一つの場を提示することを目的としている。

(2) 学びの意義と目標

「日本」「日本文化」「日本人」等々を問い質すための、具体的な場を獲得すること。「小さきもの」「名も無きもの」が奏でる〈文化〉に眼を向け、「ヒーロー」でなく「敗者」の哀歎にこそ耳を傾けられるようになってほしい。

受講者に対する要望

入門科目として、1・2年次（なるべく1年次）の受講が望ましい。なお受講者の質問・コメントや時事問題を取り入れるため、授業計画には変更が生じることがある。

学びのキーワード

- 日本文化
- 日本史
- 宗教
- 民俗
- 比較文化

授業計画

01. 何を学ぶかーオリエンテーションー
02. 「日本」を問い直すー「日本史」をめぐる様々なイメージー
03. アジアのなかの日本その1ー竹をめぐる諸文化ー
04. アジアのなかの日本その2ー『竹取物語』をめぐる文化誌ー
05. アジアのなかの日本その3ー「竹取の翁」とはどういう人かー
06. 「日本文化史」の陰に その1ー差別問題を考えるー
07. 「日本文化史」の陰に その2ー芸能と差別ー
08. 「日本文化」を問う その1ー「江戸の歌舞伎」と「明治の歌舞伎」ー
09. 「日本文化」を問う その2ー創り出された「日本文化」ー
10. 「日本文化」を問う その3ー「日本語」と軍隊ー
11. 文化とは何か その1ー生活者の目線からー
12. 文化とは何か その2ー欧米人の日本滞在記が問いかける世界ー
13. 文化とは何か その3ー明日を問うための資料論
14. 残された課題「文化的多元主義」についてー
15. まとめ

準備學習(予習)

授業計画を参照し、「ライフデザイン」における私の推薦図書に眼を通しておくこと。

準備學習(復習)

講義後はその日のうちにレジュメを読み直し理解を深め、次回までに前講義の最後で投げかけられた問いを考えてくること

評価方法

- | | |
|--------|------|
| (1) 試験 | 100% |
|--------|------|

期末試験によって評価する。全授業回数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いは初回の授業で説明する。

教科書

参考書

日本の芸能・工芸B		JPCL-J-100
担当教員： 茂山 千三郎		
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1J130210
<div>学部教育の関連目</div> <p>実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める</p>	<div>授業計画</div> <div>01. 伝統芸能論 狂言</div> <div>02. 伝統芸能論 狂言</div> <div>03. 伝統芸能論 狂言</div> <div>04. 学外実習</div> <div>05. 学外実習</div> <div>06. 能狂言比較</div> <div>07. 能狂言比較</div> <div>08. 狂言演技論</div> <div>09. 台本分析</div> <div>10. 台本分析</div> <div>11. 発声</div> <div>12. 台本読み</div> <div>13. 台本読み</div> <div>14. 台本読み</div> <div>15. 謡実習</div> <div>16. 謡実習</div> <div>17. 謡実習</div> <div>18. 型の稽古</div> <div>19. 型の稽古</div> <div>20. 型の稽古</div> <div>21. 狂言の動きの稽古</div> <div>22. 狂言の動きの稽古</div> <div>23. 狂言の動きの稽古</div> <div>24. 狂言の動きの稽古</div> <div>25. 狂言の動きの稽古</div> <div>26. 狂言の動きの稽古</div> <div>27. 狂言の動きの稽古</div> <div>28. 着付け実習</div> <div>29. 総合稽古</div> <div>30. 総合稽古</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <p>日本の伝統芸能の中で、最もシンプルかつ基礎となる芸能「狂言」を通し古典芸能の伝承を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史、演技論、発声法、台本の分析、解釈、衣装分析、能舞台の機能と理論の解説。 ・基礎の演技「構え・歩み」から一曲の狂言の演技実習で衣装の着付けも含め、上演完成を目標とする。 	<div>準備学習(予習)</div> <p>実習科目なので、各時間で発見した課題・問題点を自分なりに克服しておくこと。台本を覚えること。</p>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>日本の「伝統芸能」の姿を知ること、私たちがどのような文化を育んできたか、そして、現在の私たちににとってどのような意味を持つのかを理解する。更には、実演を通して、「文化を体験すること」「文化を創造すること」という、アクティブラーニングを実践する。</p>		
<div>受講者に対する要望</div> <p>白足袋（靴下）の着用。実習の授業では、動ける服装で参加のこと。授業の一環として、実際の狂言舞台を鑑賞してもらう。</p>	<div>準備学習(復習)</div> <p>演技実習では、その日行った台本の読み、演技のおさらいをしておくことが求められる。</p>	
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 伝統芸能 ・ 2) 文化理解 ・ 3) 文化体験 		<div>評価方法</div> <div>(1) 狂言実習の評価 60%</div> <div>(2) 狂言鑑賞レポート 20%</div> <div>(3) 最終レポート 20%</div>
		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

日本の芸能・工芸C		JPCL-J-100
担当教員：山田 理映		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：2 コード：1J130315
学部教育の関連目 【J】実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める		授業計画 01. いけ花の誕生から成立 02. 基本花型 1 実技に付いての基礎知識 03. 基本花型 2 いけ花のしつらい 04. 基本花型 3 年中行事の花 その1 05. 基本花型 4 年中行事の花 その2 06. 基本花型 5 季節ごとの花の扱い 07. 基本花型 6 いけ花の構成 その1 08. 花材に合った花型でいける 1 いけ花の構成 その2 09. 花材に合った花型でいける 2 花手前 10. 花材に合った花型でいける 3 いけばなの鑑賞方法 11. まとめ 1 作品展 お互いの作品を鑑賞する 12. 花材に合った花器にいける 1 花器の色々 13. 花材に合った花器にいける 2 投げ入れについて 14. 花材に合った花器にいける 3 いけ花の心 15. まとめ 2 作品展 自分達の作品を先生方や友達に鑑賞してもらう。
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 華道（いけばな）はなぜ日本の伝統文化になったのか、華道の歴史と生活様式の変化に伴い、花型がどの様に変化していったかを学ぶ。 実技を通して花の扱い方、盛花の基本花型を身につける。 2コマから15コマは講義と実技になる。 希望者は実技12回以上で4級の免状を取ることができる。 実技の花材費用として1回1,000円程度の費用がかかる予定である。		
(2) 学びの意義と目標 華道は海外に日本の代表的な伝統文化として紹介されている。 基本的な知識を学び身近な伝統文化を体験する。 道と名の付く日本の奥深い文化や、型を大切にする心に触れ、作品の中に自らの個性を生かしていく。		準備学習(予習) 自分以外の人の作品を鑑賞して、次回の作品の参考にする。
		準備学習(復習) 実技に使った花材に付いてしらべてみる。 実際にいけた花を持ち帰り、いけ直す。
受講者に対する要望 回数を重ねて理解し身につけていく事なので、積極的に受講して欲しい。 自分の作品は大切にして、実技の準備や後片付け等は責任を持って行う。		評価方法 (1) 授業への取り組み方 50% 授業への参加度 (2) 実技 20% 花をいける時の準備、片付け。 (3) レポート 30% 作品に付いて実習ノートを提出する。 欠席・遅刻は減点の対象になる。 レポートは実技のある時は実習ノートとして、作品展の時にはまとめとして提出する。
学びのキーワード ・ 伝統文化 ・ いけばなの歴史 ・ 様式的美(古典から現代) ・ 四季の花 ・ 花の扱い方		教科書 参考書 毎時間プリントを配布する。

日本の芸能・工芸D			
担当教員：金原亭馬治			
学期：週間授 科目： 必修・選択：			単位：2 コード：1J130410
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 落語の歴史（1） 話芸 02. 落語の歴史（2） 古典落語と新作落語 03. 落語の歴史（3） 寄席 04. 基礎技能（1） まくら 05. 基礎技能（2） 扇子と手ぬぐい 06. 基礎技能（3） 上手（かみて）と下手（しもて） 07. 学外授業（寄席の鑑賞） 08. 鑑賞した寄席についての共同研究 09. 台本の作成（1） 落語の台本とは 10. 台本の作成（2） 継承とオリジナル 11. 実技練習（1） 発声法 12. 実技練習（2） 身体の使い方 13. 実演発表（1） 朗読と暗誦 14. 実演発表（2） 笑い 15. まとめ	
(1) 内容			
日本の伝統的な言語文化である「落語」について、その基礎知識を学び、実演することにより、伝承されてきた古典芸能の意味とその価値について体験を通して理解する。 ・落語の歴史、演技論、発声法、台本の分析と解釈、小道具の解説、高座の機能の解説。 ・基礎の演技から一席の落語の演技を学び、実演することを目標とする。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
話芸という伝統芸能を、その基本的な知識から学び、実演することを通して、身近な伝統的な言語文化を体験する。その体験を通して、日本人がどのような文化を育んできたか、そして、現在の私たちににとってどのような意味を持つのかを理解する。更には、実演を通して、大勢の前で演じることの意味を理解すると共に、その基本的な技能を身に着ける。		実習科目なので、各時間で発見した課題・問題点を自分なりに練習し克服しておくこと。台本を自ら作成し、覚える。	
		準備学習(復習)	
		演技実習では、演技のおさらいをしておくことが求められる。	
受講者に対する要望		評価方法	
回数を重ねて理解し身についていく内容なので、積極的に出席し参加して欲しい。実演の授業では、高座の座布団に座れる服装で参加のこと。授業の一環として、実際の寄席を鑑賞してもらう。		(1) 授業への参加状況 50 % (2) 落語の実演 30 % (3) レポート 20 %	
学びのキーワード		教科書	
・伝統的な言語文化 ・落語の歴史 ・話芸 ・実演 ・体験を通して学ぶ		授業中に指示する。	
		参考書	
		毎回の授業に積極的に参加することが前提となる、欠席・遅刻は減点の対象になる。 レポートは寄席の鑑賞後にその分析結果を提出する。	

担当教員：川野 一字

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 4 コード： 1J130640

学部教育の関連目

【J】表現力・コミュニケーション力：的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

現代の放送を理解するため、とりわけテレビ放送を理解するために映像の歴史をふりかえる。映像の始まりから発展、そして記録映画、芸術的映画、現代のテレビ放送へとつながる流れをたどる。その中で映像が果たした役割、社会に与えた影響、またそうした映像製作で培われた力が初期のテレビ放送を支えてきた背景を理解する。

そして現在 放送はどのような役割をにない、時代をどのように伝えているか。また日本文化を特集した番組を視聴し「和の文化」への理解を深めることにも役立っていることを実感してもらおう。

さらに通信（IT）との融合はどう進み、これからどう発展してゆくのか。随時映像を視聴しながら、そのつど小論文にまとめてゆく。「見る」「理解する」「文章を作成する」ことを三本の柱として学習し、とりわけ文章作成能力の向上を目指して学習してゆきたい。

(2) 学びの意義と目標

全科に共通する、社会情報、コミュニケーション論の基礎の一つである本講では、批判的な目で情報を受けとめ、自ら情報を発信することも視野に入れて学ぶ。そのため毎時間の小論文作成を重視している。聴取した音声情報、視聴した映像情報をどう受けとめたか。その情報のポイントはなにか。ポイントを表現するための題材の選び方は適切だろうか。等々、放送素材を吟味しながら、映像を、放送を見る目を養ってゆく。

小論文の作成はそうした力をつけるための格好の方法でもある。文章力向上のための講座を強く意識している。

受講者に対する要望

1 時限目と 2 時限目がセットになった講座であり、毎回必ず 2 時限続けて出席することを要請する。回によって多少の違いはあるが、原則として 1 時限目は視聴、2 時限目に小論文作成を予定している。

学びのキーワード

- ・映像の始まり
- ・映像の発展と人々の期待
- ・テレビ放送の開始
- ・テレビと通信
- ・デジタルメディア

授業計画

01. 映像の歴史 1 映像の始まり
02. 映像の歴史 1 映像の始まり
03. 映像の歴史 2 映像の発展
04. 映像の歴史 2 映像の発展
05. 映像の歴史 3 映像の発展
06. 映像の歴史 3 映像の発展 (ラジオ放送の開始)|
07. 戦後日本の復興とテレビ
08. 戦後日本の復興とテレビ
09. テレビ放送の初期
10. テレビ放送の初期
11. テレビ放送の発展
12. テレビ放送の発展
13. メディアの課題 テレビと通信の融合
14. メディアの課題 テレビと通信の融合
15. テレビが映し出す現代社会 1
16. テレビが映し出す現代社会 1
17. テレビが映し出す現代社会 2
18. テレビが映し出す現代社会 2
19. テレビが映し出す現代社会 3
20. テレビが映し出す現代社会 3
21. テレビと日本文化
22. テレビと日本文化
23. テレビと日本文化
24. テレビと日本文化
25. テレビと日本文化
26. テレビと日本文化
27. デジタルテレビの発展
28. デジタルテレビの発展
29. 課題論文作成
30. 課題論文作成

準備学習(予習)

講座の初めのころ、推薦図書を提示する。

準備学習(復習)

この講座では復習が重要である。必要な場合は文章の添削もしながら、小論文の質を高めてゆきたい。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 日常の小論文 | 30% |
| (2) 授業への姿勢 | 10% |
| (3) 課題論文の作成 | 60% |

教科書

参考書

担当教員：川野 一字

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1J130750

学部教育の関連目

【J】表現力・コミュニケーション力：的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

文章をいかに正確に分かりやすく、伝えるかの訓練のための実践講座である。音声表現に欠かせない発音・発声、アクセント、イントネーションの基礎をしっかりと学び、随筆、小説、お知らせ文などで練習を重ねながら、音声表現の基礎の確立を目指す。

(2) 学びの意義と目標

広い意味でのコミュニケーション論の一環であり、文章の内容をわかりやすく伝える音声表現の基礎である。

その文章表現の練習として、随筆、小説、詩、ナレーション原稿、お知らせ文など様々な題材にふれ、それぞれの特徴をつかみながら表現の基礎を学ぶ。口の正しい開き方にもとずいたはっきりとした発音、姿勢を正した腹式呼吸法による声量のある発声、そして何よりも間、ポーズの大事なことを理解し、意味の区切りにもとずく間の取り方を習得することを目指す。

受講者に対する要望

予習の項で触れたように、必ずプリントの下読みをしてくる。声に出して練習する事が肝心である。原則として次週の文章は講師の私が実際に声を出して例示するので、それにもとずいて自分でも下読みをすると良い。授業に出ていきなり読もうとしても、うまくはゆかない。事前の準備はどうしても必要である。

学びのキーワード

- ・発音・発声、腹式呼吸
- ・イントネーション
- ・ポーズ、間（ま）が大事
- ・下読みが大切だ
- ・聞き手を意識しよう

授業計画

01. オリエンテーション
02. 発音・発声・イントネーション
03. まず読んでみよう
04. お知らせ・アナウンス文 1
05. お知らせ・アナウンス文 2
06. 随筆 1
07. 随筆 2
08. 随筆 3
09. 随筆 4
10. 小説を読む 1
11. 小説を読む 2
12. 小説を読む 3
13. ナレーション原稿 1
14. ナレーション原稿 2
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に指示するプリントの下読みを徹底すること。

準備学習(復習)

他の学生の読みを聞いて参考にし、良い点は取り入れること

聞くことも重要だと認識すること

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 日常の読み | 30% |
| (2) 授業への姿勢 | 10% |
| (3) 課題表現 | 60% |

教科書

事前に配布するプリントを使用するので、特定の教科書は使用しない。

参考書

身体と表現			
担当教員： 清水 均			
学期： 週間授 科目： 必修・選択：			単位： 2 コード： 1J130810
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンスと導入：「香り」を実感する。 02. 自分と「香り」の関係を考える。 03. 「嗅覚」「香り」についての表現の実例① 04. 「嗅覚」「香り」についての表現の実例② 05. 「嗅覚」「香り」についての表現の実例③ 06. 「香り」とは何か。 07. 「香り」を実感する—ワークショップ① 08. 「香り」を実感する—ワークショップ② 09. 「香り」と文学（「源氏物語」を中心として）① 10. 「香り」と文学（「源氏物語」を中心として）② 11. 「香り」と文学（「源氏物語」を中心として）③ 12. 「香り」と文学（「源氏物語」を中心として）④ 13. 「香り」と文学（「源氏物語」を中心として）⑤ 14. 「香り」と文学（「源氏物語」を中心として）⑥ 15. まとめ	
(1) 内容			
人は何らかの意味において「表現」行為をするものであり、「表現」はあらゆる意味において「身体」活動を伴うものである。言い換えれば、人は生きている限り「身体」による「表現」をし続ける存在であるといえる。 本講座では、こうした「人間の生の営み」を「文化」という観点において捉えようとするものである。今年度は特に「嗅覚」に焦点をあて、「香り」に対する鋭敏な感性を持ちつつ、「香り」と「嗅覚」がどのような「表現」を生成しているかについて学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
この講座は「選択必修科目B群」に配置される科目である。「B群」科目は「体験と実践」を重視するものであるが、この講座は、「身体と表現＝人の営み」という「文化」の根底的な部分に触れるものであるから、受講後には「生きるということ」そのものに対する意識が変革されることになるであろう。		適宜課す「小課題」については「宿題」として授業時外において作成しなければならないものを含む。内容は勿論のこと、形式にも留意してきちんとしたレポートを提出してもらいたい。	
		準備学習(復習)	
		「小課題」のうち、ほぼ毎回課す「授業の振り返り」については授業時外において記述してもらうことがあるので、当該授業内容をきちんと復習することが求められる。	
		評価方法	
		(1) 小課題 50% (2) 最終レポート 50%	
受講者に対する要望			
講座の中の何回かはゲスト講師として嶋本静子先生をお招きする。「香り」の専門家である先生の授業を受けられるということは滅多にない絶交の機会であるので、是非ともこの機会を有効に生かしてほしい。			
学びのキーワード		教科書	
・ 身体 ・ 表現 ・ 嗅覚 ・ 香り		使用しない。	
		参考書	
		必要に応じて授業時に指示する。	

担当教員： 藤田 のぼる

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 4 コード： 1J130960

学部教育の関連目

【J】実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

●この授業は文学作品創作の実習を行います。授業者の専門が児童文学なので、参考にするのは児童文学が多くなりますが、それぞれの創作作品は児童文学に限らず、自由な素材、テーマで書いてもらいます。「創作」が果たして学べるものかどうかという疑問があるかと思いますが、創作のタネはそれぞれの心の中に意外に潜んでいるもので、それにどのような手順でどのように形を与えてやるかを学ぶということになるでしょう。

●具体的には、「読む」と「書く」ことの両方を通して、学んでいきます。最終的にそれぞれ自分のオリジナル作品を上げることが目標とします。授業の進め方については、受講者の数や希望、提出された作品の傾向などによってかなり変更するケースもありますが、一応の予定として掲げておきます。なお、授業の性格上、受講人数には限定がありますので、事前の掲示など注意してください。また、第1回目の授業は、最大限休まないようにしてください。

(2) 学びの意義と目標

- ・文学作品を、創作という立場から分析、観賞する。
- ・実際に創作活動を通して、文学の表現について考える。

受講者に対する要望

なんといっても、この授業は最終的にそれぞれのオリジナル作品を完成させるのがゴールなので、そこをめざしてがんばってもらいます。

学びのキーワード

- ・ 創作
- ・ 文学
- ・ 表現

授業計画

01. 始めに～授業の進め方について、前年度作品を読む
02. レッスン1～作文を書こう
03. 作文を読む～「設定」ということ
04. レッスン2～〇〇のつもりになって
05. 作品を読む1～一人称と三人称
06. レッスン3～「視点」ということ
07. レッスン4～会話文
08. 作品を読む2～会話文を生かす
09. 作品を読む3～他大学作品
10. レッスン5～絵本に文をつける
11. 作品を読む4～展開を考える
12. 自作の構想について
13. レッスン6～原稿の書き方
14. 作品を読む5
15. レッスン7～映像を文章に
16. 作品の一次提出
17. 提出作品の個別指導A
18. 提出作品の個別指導B
19. 作品を読む6
20. 作品を読む7
21. 短編の書き方
22. 提出作品の問題点1
23. 提出作品の問題点2
24. 提出作品の問題点3
25. 作品最終提出
26. 提出作品を読む1
27. 提出作品を読む2
28. 提出作品の回覧と感想1
29. 提出作品の回覧と感想2
30. まとめ

準備学習(予習)

作品を読むことは授業内で消化しますが、書くことは宿題になりますので、対応の時間を要します。

準備学習(復習)

授業で紹介された作品は、なるべく読むようにしてください。

評価方法

- (1) 提出作品

教科書

参考書

単位：2 コード：1J131070

【J】実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

01. 講義①：俳句で楽しむ
02. 講義②：俳句の基本
03. 講義③：俳句の作り方とミニ吟行会（大学構内散策）
04. 講義④：句会の方法とミニ句会（ミニ吟行会の句）
05. 句会①：5月の句
06. 吟行会①：5月の大宮花の丘農林公苑散策
07. 句会②：5月の吟行句
08. 句会③：6月の句—その1
09. 句会④：6月の句—その2
10. 句会⑤：6月の句—その3
11. 句会⑥：6月の句—その4
12. 吟行会②：7月の大宮花の丘農林公苑散策
13. 句会⑦：7月の吟行句 * 合同句集原稿提出
14. 句会⑧：最後の句会
15. 合同句集鑑賞会

・この授業では俳句創作の実習を行います。授業者は俳句の実作者ですので、実作はもちろん、句会や吟行会などを通して、俳句の楽しさや奥深さなどを体験的に学んでいきます。五七五、十七音という短い言葉の中に潜む広大無辺な世界に、受講者も実作者として飛び込むことになります。

・具体的には、句会が中心となります。句会とは、各自が作った俳句を持ち寄り、その中から好きな作品を選び、互いに鑑賞や批評をし合う場です。ですから、まずは俳句を作り、休まずに出席することが基本になります。最後には、句会に提出した俳句を中心にした合同句集を作ります。

・大学構内を含め吟行会を3回行います。吟行会とは、実際に皆でその場に行って俳句を作ることです。同じ場所で同じものを見て、お互いにとのどのような作品ができるのか楽しみでもあり、勉強にもなります。

・以上のような授業の性格上、受講人数には制限がありますので、事前の掲示などに注意してください。

・講義は前半に集中して行いますので、極力第1回から出席することが望まれます。

- ・俳句作品を、実作者の立場から分析・鑑賞します。
- ・実作・句会・吟行会などの体験を通して、俳句表現、ひいては文学表現について考えます。

・原則として、毎回の句会提出用の作品（3から5句）が宿題となります。

・句会に出された俳句をあらためて鑑賞し直したり、自分の俳句を、参加者の批評などを参考に推敲することが大切です。

・経験や能力・資格は不要です。俳句は誰にでもできます。ただし、この授業は、「俳句を作ること」「出席すること」が大原則ですので、意欲を持って積極的に参加することを望みます。

(1) 提出物A (俳句作品)	40%
(2) 提出物B (その他)	20%
(3) 活動状況	40%

- 創作
- 文學
- 表現
- 連眾

参考書

日本語表現法(ディベート)		COMM-J-100
担当教員： 近藤 聡		
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1J131280
学部教育の関連目		授業計画
【J】表現力・コミュニケーション力：的確なコミュニケーション能力を育てる		
カリキュラム上の位置付け		
【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目		01. ディベートの四条件を知る 02. 反駁を学ぶ（１）：演習「反駁を書く①」 03. 反駁を学ぶ（２）：演習「反駁を書く②」 04. 反駁を学ぶ（３）：反駁エンドレスゲーム「反駁を切り返す」 05. 反駁を学ぶ（４）：演習「反駁を振り返る」 06. ストラテジーを学ぶ：演習「反駁を想定して立論を作る」 07. 演習「三・三（さん・さん）ディベート」 08. 演習「ディベートの『判定』方法を学ぶ」 09. 演習「ディベート学習の『評価』方法を学ぶ」 10. ディベートの技術を用いたメディアリテラシー学習を知る（１） 11. ディベートの技術を用いたメディアリテラシー学習を知る（２） 12. 国語科教育におけるリベラルアーツの位置づけを考察する 13. 流布している各種のディベート教材を知り、批評する 14. 演習「ディベート学習の『授業プラン』を提案する」 15. ディベートおよびディベート学習の「総括」
(1) 内容		
アカデミック・ディベートは、論点整理と再構造化を繰り返し訓練するトレーニングです。現在の国語科教育は、アカデミック・ディベートを「アーギュメント教育」「論理的思考力の向上」を目的にして、以前より導入するようになりました。しかし、十分に普及しているとはいえません。本授業は、受講者がディベートとディベート学習の両方を知ることを目標としています。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
授業の目標は次の２点です。 １．受講者全員がディベートをできるようにする。 ２．国語科教育におけるディベート学習を知る。 ディベートはトレーニングですから、明確な方法および指導事項があります。方法と指導事項を明示しながら、各自がディベートをおこなえるように指導します。ディベートには様々な形式があります。今回は、トレーニング効果の高い２通りの形式でおこないます。 また、ディベートの授業実践において、「反駁」学習は意義がありながら、指導が最も困難であるとされてきました。この点を克服した国語科教育の最新の授業プランを、実際に体験して学びます。 将来、受講者が、国語科教育の現場に立つ際に、理論と実践の両面で役立つ授業を目指しています。		授業時に指示します。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
授業は、基本的にワークショップ型です。個人およびグループでの演習とディベートゲームで授業は進行します。各自が能動的に学習に取り組む必要があります。課題を締め切りまでにきちんとこなし、遅刻や欠席がないようにしてください。		授業時に指示します。
学びのキーワード		評価方法
・ディベート ・アーギュメント教育 ・国語科教育		(1) 筆記試験 70% (2) 課題・演習等 30%
		教科書
		参考書

国際交流と多文化共生

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：2 コード：1J131510

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、「多文化とは何か」「多文化共生とは何か」を少人数グループで互いに意見を交換し合いながら、物事を見る視点には多様性があることを学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

答えのない問題について、意見を交わしながら、最善案を導くというプロセスを学ぶことを目標とする。この学びによって思考力と表現力が伸長されるはずである。

受講者に対する要望

前に立って発表したり、学内の留学生にインタビューを行ったりするため、座って講義を聴くという態度では授業に参加したことにならない。積極的に意見を「ことば」にしてみたい。

学びのキーワード

- ・多文化
- ・言語教育
- ・国際化
- ・グローバル化
- ・異文化

授業計画

01. オリエンテーション
02. 他者の視点を考える
03. 差別と区別？
04. 差別を考える 「青い目・茶色い目」
05. 留学生になったつもりでスピーチコンテスト（1）
06. 「ことば」の問題を考える 海外の事情
07. 「ことば」の問題を考える 「I」と「俺」
08. 異文化の疑似体験
09. 夜間学校の役割
10. 留学生になったつもりでスピーチコンテスト（2）
11. 留学生になったつもりでスピーチコンテスト（3）
12. 外国人技能実習制度
13. 外国人技能技術制度
14. やさしい日本語
15. まとめ

準備学習(予習)

課題を与える

準備学習(復習)

授業内容がレポートと関係する。各自、学んだことをきちんと整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業参加度 | 20% |
| (2) 発表 | 20% |
| (3) 課題 | 20% |
| (4) 中間レポート | 20% |
| (5) 期末レポート | 20% |

教科書

参考書

海外文化交流研修(アジア) A

INTD-J-100

担当教員：村松 晋

学期：集中講 科目：專門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1J131660

学部教育の関連目

【J】国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

夏期休暇中に実施される韓国湖西大学校の「短期韓国文化体験プログラム」に参加し、総合的に日本と韓国との文化交流の歴史と現在を学ぶものである。

1～4年生対象の「体験と実践」を重視する「学科基礎科目」のうちの「選択必修科目B群」の一つに位置付けられる。

尚、「授業計画」については湖西大学校のスケジュールが決定次第連絡することとする。

(2) 学びの意義と目標

本学との提携校である湖西大学校で実施される研究
 修プログラムに他大学の学生とともに参加する。
 この中で韓国のヒト・モノ・コトに実際に触れ、
 関わることで、実践的な「異文化体験」をすること
 になる。その体験は、学生個々の体験として、
 あるいは共に参加する学生たちのお互いの共有体
 験として、将来にわたって貴重なものとなるだろ
 う。

受講者に対する要望

事前講習、現地研修、事後報告会のすべての出席し、与えられた課題（レポート）の全てを提出すること。また、韓国訪問時には、自己の責任において本学学生としてふさわしい行動をとってほしい。

学びのキーワード

- 文化交流
- 異文化体験
- 日韓関係
- 韓国
- 韓国語

授業計画

01. 事前講習
02. 韓国湖西大学校研修プログラム
03. 韓国湖西大学校研修プログラム
04. 韓国湖西大学校研修プログラム
05. 韓国湖西大学校研修プログラム
06. 韓国湖西大学校研修プログラム
07. 韓国湖西大学校研修プログラム
08. 韓国湖西大学校研修プログラム
09. 韓国湖西大学校研修プログラム
10. 韓国湖西大学校研修プログラム
11. 韓国湖西大学校研修プログラム
12. 韓国湖西大学校研修プログラム
13. 韓国湖西大学校研修プログラム
14. 韓国湖西大学校研修プログラム
15. 事後報告会

準備學習(予習)

1、韓国語の講座を履修済みであることが望ましい。
2、「事前講習」に必ず出席し、現地で研修に臨む良き準備をしておいてほしい。

準備學習(復習)

1、事後報告会に出席し、口頭で報告をする。
2、現地研修についての報告レポートを提出する。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 現地研修 | 50% |
| (2) 事前講習 | 10% |
| (3) 事後報告会 | 40% |

教科書

参考書

地域と芸術文化		JPCL-J-100	
担当教員： 清水 均			
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1J131810	
学部教育の関連目		授業計画	
【J】国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする		01. ガイダンス 02. I、導入：浮世絵と盆栽ほか 03. II、盆栽村とは何か①—盆栽の種類と樹形 04. II、盆栽とは何か②—盆栽の飾り 05. III、世界の中の盆栽①—世界盆栽大会に向けての取り組み 06. III、世界の中の盆栽②—盆栽を世界に広める 07. III、世界の中の盆栽③—盆栽実習 08. IV、現代に生きる盆栽①—新しい盆栽文化を目指して 09. IV、現代に生きる盆栽②—盆栽に触れる・盆栽を育てる 10. V、盆栽の歴史と文化①—盆栽の歴史 11. V、盆栽の歴史と文化②—浮世絵と盆栽 12. VI、盆栽村を訪れる①—大宮盆栽美術館を訪れる 13. VI、盆栽村を訪れる②—盆栽村フィールドワーク 14. VII、振り返りとまとめ①—振り返り 15. VII、振り返りとまとめ②—まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
いまや世界的な人気を得ている「盆栽」について、これを文化として学び、実践と体験をする講座である。「大宮盆栽美術館」のご協力を得て、様々な専門家による様々な視点から盆栽文化を学ぶことになるが、特にフィールドワークや実際に盆栽に触れるという体験的な内容においては、これまでにない「文化体験」を得ることになるであろう。 授業は夏期集中形式で行い、計5～6日の日数で実施する。場所は大学だけでなく、大宮盆栽町で実施する。尚、第一回目のガイダンスは夏休みに入る前に実施する予定なので、日程・会場についての掲示に注意してもらいたい。また、「授業計画」全般については外部講師の都合上変更する可能性があるが、確定次第掲示するのでこれについても注意してもらいたい。			
(2) 学びの意義と目標			
現代における大学の存在意義において、「地域における大学の役割」という視点を欠かすことはできない。日本文化学科では「埼玉学」と並び、この講座を設置することでそのような課題に取り組んでいるが、「大宮盆栽美術館」をはじめとする関係の方々による授業を受けることは、受講生が「体験」として「地域」を学ぶことに繋がるものである。望むらくは、その「体験」をいかした形で、「伝統的でもあり国際的でもある盆栽文化」の発信地である大宮盆栽町に深く関与する働き手となる学生となってほしい。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
夏休み期間を利用した集中講義形式で行う。ほとんどが大宮盆栽町における授業となり、また、実習も行われるので、交通費、実習費が多少必要となる。受講者には全ての授業に出席することを求めるが、その上で、他では体験できない内容が展開されるので、この機会を十分に利用してもらいたい。尚、人数制限20名であるので、履修希望者数が多い場合には上級生が優先となる。		「授業日誌」において「翌日の授業目的」を記述する。	
		準備学習(復習)	
		毎日の授業後に、その日の授業内容についての振り返りを「授業日誌」に記述する。	
		評価方法	
		(1) 授業日誌の作成 50% (2) 最終レポート 50%	
学びのキーワード		教科書	
・盆栽文化 ・ローカル（地域） ・グローバル ・体験 ・実践		使用しない。	
		参考書	
		必要に応じて授業時に指示する。	

日本の演劇		TART-J-200								
担当教員： 寺田 詩麻										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J310100								
学部教育の関連目		授業計画								
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける										
カリキュラム上の位置付け										
(1) 内容										
日本の中世・近世に誕生し発展した芸能、能・狂言・文楽（人形浄瑠璃）・歌舞伎のなりたちと特性について、後半は歌舞伎中心となりますが、プリント教材と映像資料を使用し、時代順に話してゆきます。										
(2) 学びの意義と目標		01. ガイダンス 02. 中世から近世の日本と演劇―能・狂言・文楽・歌舞伎― 03. 能（１）―能舞台・装置・装束・身体動作― 04. 能（２）―能の主要作品の内容・舞台― 05. 狂言（１）―人物の描写など― 06. 狂言（２）―その舞台― 07. 中世の能・狂言以外の芸能 08. 文楽（１）―人形浄瑠璃の起こり― 09. 文楽（２）―近松門左衛門と竹本義太夫― 10. 文楽（３）―近松以降の人形浄瑠璃― 11. 文楽（４）―他の芸能とのかかわり― 12. 歌舞伎（１）―はじまりから元禄以前― 13. 歌舞伎（２）―元禄歌舞伎・和事と荒事― 14. 歌舞伎（３）―大坂の歌舞伎― 15. 歌舞伎（４）―江戸の歌舞伎・文化文政以前― 16. 歌舞伎（５）義太夫狂言のドラマ（１） 17. 歌舞伎（６）義太夫狂言のドラマ（２） 18. 歌舞伎（７）江戸の歌舞伎―四代目鶴屋南北（１）― 19. 歌舞伎（８）江戸の歌舞伎―四代目鶴屋南北（２）― 20. 歌舞伎（９）歌舞伎十八番と歌舞伎の古典化 21. 歌舞伎（10）江戸から明治へ―河竹黙阿弥（１）― 22. 歌舞伎（11）江戸から明治へ―河竹黙阿弥（２）― 23. 歌舞伎（12）江戸から明治へ―黙阿弥の周辺（１）― 24. 歌舞伎（13）江戸から明治へ―黙阿弥の周辺（２）― 25. 歌舞伎（14）明治の歌舞伎―団菊の時代― 26. 歌舞伎（15）大正から昭和の歌舞伎―団菊以後― 27. 歌舞伎（16）明治から昭和初期の歌舞伎―新歌舞伎（１）― 28. 歌舞伎（17）明治から昭和初期の歌舞伎―新歌舞伎（２）― 29. 歌舞伎（18）昭和戦後の歌舞伎 30. 現代の歌舞伎・文楽／まとめ								
・ 日本文化学科の専門・選択科目。 ・ 演劇はどのような文化においても、その文化の中で生きている人間の思考を表現・理解する方法として重要です。能・狂言・文楽・歌舞伎は何百年もの間、昔の人たちの生活や思考のありさまをよく伝える演劇として、現在もさかんに上演されています。 近年、これらの芸能は文化的な重要性を広く認められるようになり、意欲的な俳優たちが観客を広く集めようとさまざまな形態の公演を行っています。この授業が興味を持つきっかけになればと考えています。										
準備学習(予習)										
授業中で扱う伝統芸能の内容と歴史について、インターネットなどを用いて事前知識を得ておくとうい。また、なるべくまめに参考書を指示するので、不明点はそのつど目を通しておくとうい。										
準備学習(復習)										
配布プリントや参考書を用いて学習内容を整理し、レポートに何を書くか考えておくこと。授業と並行してじょじょに執筆が始まればなお良い。										
評価方法										
<table><tr><td>(1) 小レポート</td><td>30%</td><td>出席カードに毎回感想・疑問点などを記す</td></tr><tr><td>(2) 小テスト</td><td>20%</td><td>重要キーワードの確認。半期のうち4～5回必ず行う</td></tr><tr><td>(3) レポート</td><td>50%</td><td>9つの題目の内、任意の3つを選択して書く。詳細は教場で指示</td></tr></table>		(1) 小レポート	30%	出席カードに毎回感想・疑問点などを記す	(2) 小テスト	20%	重要キーワードの確認。半期のうち4～5回必ず行う	(3) レポート	50%	9つの題目の内、任意の3つを選択して書く。詳細は教場で指示
(1) 小レポート	30%	出席カードに毎回感想・疑問点などを記す								
(2) 小テスト	20%	重要キーワードの確認。半期のうち4～5回必ず行う								
(3) レポート	50%	9つの題目の内、任意の3つを選択して書く。詳細は教場で指示								
この授業は春学期火曜2・3限連続授業を予定しています。間で休み時間は充分取りますが、よく考えた上で選択してください。										
教科書										
プリント配布										
参考書										
古井戸秀夫 編 『新潮日本文学アルバム 歌舞伎』（新潮社）ほか教場で指示										

日本の美術		TART-J-200
担当教員： 佐伯 英里子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J310210
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. 授業概要と参考文献紹介 02. 縄文と弥生 03. 奈良時代の美術 1 法隆寺を中心に 04. 奈良時代の美術 2 薬師寺を中心に 05. 奈良時代の美術 3 東大寺を中心に 06. 平安時代の美術 1 密教美術 07. 平安時代の美術 2 絵巻物 08. 平安時代の美術 3 浄土教美術 09. 鎌倉時代の美術 1 運慶と快慶 10. 鎌倉時代の美術 2 肖像画 11. 鎌倉時代の美術 3 縁起絵巻 12. 室町時代の美術 1 禅宗美術 13. 室町時代の美術 2 禅宗美術 14. 室町時代の美術 3 お伽草紙 15. 総括 16. 安土桃山時代の美術 1 障壁画 17. 安土桃山時代の美術 2 城郭建築 18. 江戸時代の美術 1 琳派 19. 江戸時代の美術 2 写生派 20. 江戸時代の美術 3 浮世絵 21. 江戸時代の美術 4 狩野派 22. 近代の美術 1 洋画と日本画 23. 近代の美術 2 大正期 24. 近代の美術 3 昭和初期 25. 現代の美術 1 戦後日本画 26. 現代の美術 2 戦後洋画 27. 現代の美術 3 漫画とアニメ 28. 日本美術の可能性 29. 総括 30. 試験とその解説
授業のねらいと概要 日本美術の大きな流れは、他の文化領域と同様、常に外来の刺激を受け(近代以前は主に中国、以降は西欧諸国)その摂取消化を繰り返してきた。しかしそこには常に独自の日本的受容の姿勢、日本的な嗜好の選択が働いていたといえよう。本講義では、そうした外来と和との融合相克のなかで、一貫して変わらず続いてきた日本美術の実態を明らかにすることを目標に、絵画史を中心に概観する。		
(2) 学びの意義と目標		
日本美術に関する基礎的知識を習得するとともに、美術作品を単に感覚的に受け止めることから一歩進んで、表現の背後にある意味を読み解き、より深く鑑賞することにより、現在の問題意識ともリンクさせて考える力を養うことができるようになる。		準備学習(予習)
		授業計画を参照し、該当する箇所の教科書部分に目を通しておく。
		準備学習(復習)
		授業内のスライドやビデオ及び配付資料を参考としながら、授業内容のポイントを整理し、まとめる。
受講者に対する要望		評価方法
美術館や博物館見学等、できる限り実作品に触れて、自ら感じ考える機会を持ってほしい。また、日本美術の理解に役立つ、日本の歴史に関する概説的知識を身につけることが望ましい。		
学びのキーワード		教科書
・ 伝統と創造 ・ 日本人の美意識 ・ 和と漢 ・ 和と洋		辻 惟雄, 泉 武夫 『日本美術史ハンドブック』 (新書館)
		参考書

女性学		SOCI-J-200	
担当教員： 藤田 和美			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 1J310980	
学部教育の関連目		授業計画	
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		01. ジェンダーとは何か（1） 02. ジェンダーとは何か（2） 03. 異文化における女性・男性（1） 04. 異文化における女性・男性（2） 05. 性の多様性（1） 06. 性の多様性（2） 07. 近代化とジェンダー（1） 08. 近代化とジェンダー（2） 09. 慣習とジェンダー（1） 10. 慣習とジェンダー（2） 11. 労働とジェンダー（1） 12. 労働とジェンダー（2） 13. 労働とジェンダー（3） 14. 労働とジェンダー（4） 15. 文化・芸術におけるジェンダー（1） 16. 文化・芸術におけるジェンダー（2） 17. メディアの中の女性像・男性像（1） 18. メディアの中の女性像・男性像（2） 19. スポーツとジェンダー（1） 20. スポーツとジェンダー（2） 21. 家族関係をめぐる諸問題（1） 22. 家族関係をめぐる諸問題（2） 23. 家族関係をめぐる諸問題（3） 24. 家族関係をめぐる諸問題（4） 25. 教育とジェンダー（1） 26. 教育とジェンダー（2） 27. 男女共同参画社会に向けて 28. グループ・ディスカッション 29. 発表 30. 発表、講評	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
女性学とは、既存の知や文化を、ジェンダー（性別）の視点から読み直し、読みかえるものである。近代以降の女性解放運動から現代の女性学研究、更には男性学研究までの学問の成立の歴史的過程をたどりながら、その成果を学び、性・結婚・労働・文化・芸術・メディア・教育・健康・スポーツなど、現代の私達を取り巻く諸問題について考える。 授業は講義を中心に進めるが、グループ学習もおこなう。ビデオなどの視聴覚教材も利用する。毎回授業時に感想を提出してもらう。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
女性学は研究のための研究ではなく、性差別からの解放を訴えた社会運動と、多分野の学問研究の知見が連動して形成された実践的、かつ学際的な学問研究である。各研究分野における理論的枠組みや方法論などを参考にして、女性であれ、男性であれ、性別にかかわらず私達一人一人が〈自分らしさ〉を大切にして主体的に考え、行動することができるような性と生のあり方を探る。 現代日本におけるジェンダー問題に対する認識を深め、男女共同参画社会の実現に向けて、私たちは具体的にどうすれば良いのか、社会において何が必要かを様々な角度から検討する。		授業計画を参照し、扱われるトピックについて新聞等で情報を集めておくこと。 	
		準備学習(復習)	
		配布プリントを再読し、関連する文献を読むこと。 	
受講者に対する要望		評価方法	
授業中の飲食、私語、携帯閲覧を禁じる。 学びに対する主体的な取り組みや、授業中の積極的な発言を期待する。		(1) 授業時の感想 30% (2) 宿題 20% (3) レポート 40% (4) 発表 10%	
学びのキーワード		教科書	
・ ジェンダー ・ 性差別 ・ 性別役割分業 ・ 男女共同参画 ・ 多様性		参考書	

こどもと文化			
担当教員：寺崎 恵子			
学期：週間授		科目：	必修・選択：
		単位：2	コード：1J311010
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. こどもとおとな：育つことと育てること 02. こどもの原風景（1） 子ども期について 03. こどもの原風景（2） わらわらとしていること 04. 母なるもの と 父なるもの 05. 食べること と 食べられること 06. 冒険すること：怖さに出会うとき 07. 祭りのなかのこども：子供組の役割 08. こどもと言葉：話す と 語る 09. こどもと経験：見える と 見る 10. こどもと伝承：児童文化財について 11. 遊びのなかのこども（1） 遊びは人生の鏡である 12. 遊びのなかのこども（2） 経験としての遊び 13. 遊びのなかのこども（3） 遊ぶ権利 14. こどもと家庭：理想と現実 15. こどもとおとな：こどもがこどもとして生きること・ウェル ビーイングについて	
(1) 内容			
こどもは育つ者である。その育つ過程に、おとなはどのように関わってきたのだろうか。また、関わろうとしているのだろうか。育ち・育ての文化の多様性を理解したい。こどもは、おとなの目にどのように映る人たちだろうか。日々の暮らしにおける相互的で相補的な〈目交・まなかい〉に、育ち・育ての文化を把握したい。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
受講生はみな、こども経験者である。こどもを理解することは、わたしたちが自分自身の生き方を確認することでもある。その確認を通じて、自分自身についての意外な発見が起こることもある。その驚きと面白さを大切にすることを学びの意義としたい。 こどもに関する言説を冷静に読みとり、学びのなかで自身に起こることを誠実に感受して記述表現することを、学びの目標としたい。		今回の内容に関することを調査する。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
日常生活のちょっとした変化に気づき、それを面白さとして感受するセンスをみがくよう心がけてほしい。こどもが触れるものごとをていねいに理解することを心がけてほしい。		配布資料や授業時に紹介した文献などを参照して、ノート の整理をする。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 育ち・育ての文化 ・ ライフサイクルと子ども期 ・ こどもの生活世界 ・ 子どもの自由と権利：ウェル ビーイング ・ こどもとおとなの関係構造		(1) 小レポート 70% 各回5点×14回 (2) 期末課題 30% 内容の詳細を初回時に説明する。	
		小レポートと期末課題の書式は、授業担当者が定めたものにする。取り組み方を初回時に説明する。	
		教科書	
		使用しない。プリントを適宜配布する。	
		参考書	
		授業のテーマに合わせて、参考文献を紹介する。絵本やおもちゃを多用する。	

文化人類学

ANTH-J-200

担当教員：中空 萌

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1J311620

学部教育の関連目

【J】国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

文化人類学と聞くと、世界中の民族の風変わりな慣習（そしてそれらは一見現代日本に欠かぬ文化の宝庫である）を寄せ集めるのだけのこと、自分たちは異なる文化を対象として人類学者が取り組んできたのかもしれない、自分たちは異なる文化を考えた方や行動様式のものを持ちも重要な課題だったりするのかという、自分とは異なる共同体に属する「他者」をフェアーに理解する訓練を、自分自身に何気ない振り舞いや思考を距離を置いて眺める意識を施す、自分自身に知ることの必要があり、自分の文化にとつての常識ではないという文化を知ることの必要があり、自分の文化にとつての当たり前を相対化するとなしには、他の人々にとつての当たり前も前提を受け入れることなどできないからです。この講義では、文化人類学における基本的な文化理解の理論と方法の解説、さまざまな「異文化」の映像の視聴、そして性、食、家族、交換といった日常的な（それでいて人間にとって普遍的な）トピックについての「異文化」と「自文化」の比較を通して、文化人類学を貫くこうした知的態度について学んでいきます。さらに講義の後半には、開発、人権といった文化間の接触が問題となる現代的な課題についても扱い、どのようにしたら多文化間の理解と対話の可能性が拓けるのか、文化人類学の立場から考えてみたいと思ひます。

(2) 学びの意義と目標

日常的な場面においても「異文化との接触」が増加している現代日本社会において、他者との共生、共存が大事だとよく言われます。宗教や文化を異にする人々が互いの違いを認め合いながら共に生きる、ということでは素晴らしいことではあるけれども同時にとても難しいことでもあります。自分とは異なる思考や行動様式を持ち主に接したときに、「文化が違うから到底理解することなどできない」と理解を放棄するのではなく、また「違いは表面的なものに過ぎず、同じ人間だから根底ではつながっているはずだ」と理想主義に走るのでもなく、まず相手がどのように世界を見ているのかを冷静に観察・理解した上で、自分と何が違っているのかを同じなかを見極め、対話のための手がかりを得る現実的な態度こそが重要になります。自社会とは遠く離れた場所に暮らす人々の文化に魅了され、彼らのことをよく知ろうと試行錯誤を繰り返してきた文化人類学者が醸成した理論や方法には、こうした態度を得るためのヒントが多く隠されています。その一部について知ることで、グローバル化した社会でどう生きるのかを考える契機を得てほしいと思います。

受講者に対する要望

表面的な学説や概念の知識の習得だけではなく、人類学的な問題の切り取り方、文化を考えるセンスを身につけてほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 相対化
- ・ 他者理解
- ・ 比較
- ・ フィールドワーク
- ・ 普遍主義と相対主義

授業計画

01. ガイダンス
02. 文化人類学的なものの見方とは
03. 文化人類学の歴史（１）
04. 文化人類学の歴史（２）
05. フィールドワークと他者理解（１）
06. フィールドワークと他者理解（２）
07. 性差：男らしさと女らしさ（１）
08. 性差：男らしさと女らしさ（２）
09. 親族関係：「家族」とは何か（１）
10. 親族関係：「家族」とは何か（２）
11. 生と死：なぜ死が怖いのか（１）
12. 生と死：なぜ死が怖いのか（２）
13. 医療：「病」とは何か（１）
14. 医療：「病」とは何か（２）
15. 儀礼と宗教（１）
16. 儀礼と宗教（２）
17. 自然と文化（１）
18. 自然と文化（２）
19. 「人間」というカテゴリー：「個人」のなりたち（１）
20. 「人間」というカテゴリー：「個人」のなりたち（２）
21. 文化人類学からみた経済：市場交換と贈与交換（１）
22. 文化人類学からみた経済：市場交換と贈与交換（２）
23. 開発と文化（１）
24. 開発と文化（２）
25. 民族科学と西洋科学（１）
26. 民族科学と西洋科学（２）
27. 文化相対主義と人権（１）
28. 文化相対主義と人権（２）
29. これまでのまとめ
30. レポートの書き方

準備學習(予習)

事前に次回のプリントを配布した場合には、それに目を通し、自分の身近な事例を使って考えを深めてくること。

準備學習(復習)

各回の授業で配布するプリントを再読し、また学期末のレポートのための文献を読み進めておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 授業後のリアクションペーパー | 30% |
| (3) 学期末のレポート | 40% |

教科書

参考書

韓国文化演習		CCOM-J-300
担当教員：村松 晋		
学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1J311840
学部教育の関連目	授業計画	
	01. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 02. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 03. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 04. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 05. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 06. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 07. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 08. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 09. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 10. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 11. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 12. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 13. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 14. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 15. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 16. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 17. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 18. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 19. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 20. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 21. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 22. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 23. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 24. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 25. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 26. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 27. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 28. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 29. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う 30. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う	
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
	1、本学と提携関係にある韓国啓明大学校の夏季セミナー（KLCC・3週間）に参加して、認定される科目である。午前中は韓国語を学び、午後は伝統的な韓国文化を体験する。韓国語のクラスは初級からの学びが可能である。また午後の韓国文化の体験学習は、韓国茶道、伝統演劇・音楽・舞踏・技術・武道、現地訪問など多彩なプログラムが用意されており、通例の留学では経験しがたいほどに豊富な内容になっている。 2、3週間の寮生活を通して、韓国文化の理解を深め、韓国の学生たちと交流を深めることが出来るのも魅力のひとつであろう。	
(2) 学びの意義と目標		
	「海外文化交流研修（アジア）」を経験してから、翌年この科目を履修するも良いし、その逆もありうる。いずれにせよ、近くて遠い国といわれた韓国との関係改善は、次代を担う若者たちの相互理解から始まるといえる。	
受講者に対する要望		
研修中は本学の学生であることを忘れずに行動してほしい。啓明大学校での詳細が決定次第、募集に入るので、掲示に気をつけてほしい。例年、個人負担は26万円ほどであるが、多少の増減はあり得る。		
学びのキーワード	教科書	
	参考書	
・韓国文化 ・韓国語 ・国際交流 ・海外体験		
評価方法		
(1) 本学における事前準備講座 (2) 現地研修への参加度 (3) 事後レポート		10% 60% 30%

社会調査入門		SOCI-J-100	
担当教員： 横山 寿世理			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J312790	
学部教育の関連目		授業計画	
【J】実践力：社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身につける		01. 社会調査とは何か (社会調査が、社会科学のどこに位置して、どのような方法なのかの概略を知る) 02. 社会調査の実例から学ぶ：実態調査 (社会階層や家族などに関する実態調査を確認して、社会調査の目的を学ぶ) 03. 社会調査の実例から学ぶ：世論調査と公的統計 (世論調査・官庁統計の具体例から、社会調査の意義、社会調査の方法を学ぶ) 04. 社会調査の実例から学ぶ：市場調査 (市場調査の具体例を確認しながら、社会調査の意義、社会調査の方法を学ぶ) 05. 社会調査の実例から学ぶ：その他の学術的調査 (調査票調査以外の文化人類学的な調査から、社会調査の意義、その方法を学ぶ) 06. 社会調査の歴史 (代表的な社会調査の例を見ながら、社会調査の発展について理解する) 07. 調査倫理について学ぶ (社会調査に関連する人権問題について理解する) 08. 調査倫理について学ぶ (各種倫理綱領から倫理的な問題を知り、実際の対応について理解する) 09. 量的調査とは何か (実際の量的調査票から量的調査の手順を知る) 10. 量的調査とは何か (社会調査の実例から、調査データの分析の基本を学ぶ) 11. 質的調査とは何か (インタビューや参与観察を取り上げて、量的調査との違いを知る) 12. 質的調査とは何か (ドキュメント分析、会話分析などの基本と、写真観察法を知る) 13. 社会調査を体験してみる (非参与観察法を体験する) 14. 社会調査を体験してみる (非参与観察法を体験する) 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【J】社会調査士資格：必修科目			
(1) 内容			
社会調査とは、社会の特徴を発見したり、確認したりすることを目指した手段である。本講義では、いろいろな社会調査の例から社会調査とはどんなものかを入門的に学ぶ。本講義は、日本文化学科専門科目の文化論・比較文化系に位置する科目であるとともに、社会調査士認定A科目に該当するため、同資格取得を希望する学生はいちばん初めに 受講することを勧める。社会調査士は、社会調査協会が認定する資格で、社会調査の基礎的な能力をもつことを示す。また、資格希望者でなくとも本講義を受講することはでき る。			
(2) 学びの意義と目標			
本講義は、社会調査の実例を取り上げながら、社会調査に関する基本的事項を知ること、社会調査に関する知識にどのような意味があるかを理解することを目的とする。より 具体的には、過去に行われた調査から、社会調査とはどのようなものか、社会調査には何ができるのか、社会調査を実施する上での倫理的な問題は何かを学ぶことを目指す。そ の過程で、社会調査の方法の基本も学ぶことができるので、「社会調査の方法」への導入として受講することが望ましい。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
講義内課題は、UNIPAに回答を書き込む形を取るの で、スマートフォンを持っていると講義内で終え られる。また、念のためUSBメモリも用意して持参 して欲しい。		前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくこと。	
		準備学習(復習)	
		UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。	
		評価方法	
		(1) 講義内課題 60% ほぼ毎回課される講義内課題によって評価する（課題が課されない回には評点もないことになる）。 (2) 期末試験 40% 持ち込み不可	
学びのキーワード		教科書	
・社会調査 ・アンケート ・インタビュー ・調査倫理 ・社会調査士		大谷 信介、後藤 範章、小松 洋、木下 栄二 『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』（ミネルヴァ書房）	
		参考書	

SOCI-J-100

社会調査の方法

／社会調査論

担当教員：横山 寿世理

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1J312800

学部教育の関連目

【J】実践力：社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 内容

本講義の目的は、社会調査によってデータや資料を収集して、それらを整理して、基礎的な分析の具体的な手法を学ぶことにある。単に社会調査の方法を知るだけではなく、講義内で受講生を対象に模擬的に調査を実施する。これに加えて、データ収集・整理の方法、および初歩的な統計データやグラフの読み方などを実際の作業を通じて体験 することで理解を深める。講義の中で、作業の体験を重視するのは、「社会調査実習」(社会調査士G科目)で、社会調査を実施するための準備を本講義で行うためである。

本講義は、日本文化学科専門科目の文化論・比較文化系に位置する科目であるとともに、社会調査士認定B科目およびC科目に該当するので、A科目「社会調査入門」に引き 続き受講することを強く勧める。なお、資格取得を希望しない学生も受講することができる。

(2) 学びの意義と目標

この講義では、公的統計や簡単な調査報告・調査論文が読めるようになることを目標とする。受講生には、主にアンケート調査の実施方法やアンケート票の作成方法を学ぶ 講義だと考えて欲しい。さらに、グループ・ワークも取り入れる予定なので、コミュニケーション能力の育成にも役立つだろう。

受講者に対する要望

講義内での課題はUNIPAへ提出することが求められるので、パソコンを受講者自身が操作することになる。データを一時的に保存する必要性もあるので、USBメモリを用意してほしい。

学びのキーワード

・社会調査

・アンケート

・インタビュー

・社会調査士

授業計画

01.

社会調査の目的と方法|（「社会調査入門」の復習、調査の実施方法とその特徴を学ぶ）

02.

社会調査の企画と設計|（調査票調査を理解した上で、調査票調査の企画と設計方法について学ぶ）

03.

仮説と変数|（仮説および作業仮説、変数とは何か、独立変数および従属変数について学ぶ）

04.

仮説と質問文の関係|（仮説と質問文の関係を理解して、仮説の作り方を学ぶ）

05.

仮説と質問文の関係|（仮説と質問文の関係を理解して、質問文と質問方法による問題を学ぶ）

06.

質問文と選択肢の作り方|（意識と事実の問い方、ワーディング・回答の選択肢に関する問題、尺度の種類）

07.

仮説を作る【グループ作業】|（講義内で実施する模擬調査のため、仮説を立てる）

08.

仮説を作る【グループ作業】|（講義内で実施する模擬調査のため、仮説を立てる）

09.

質問と選択肢を作る【グループ作業】|（講義内で実施する模擬調査のため、質問と選択肢を作る）

10.

調査票の構成【グループ作業】

11.

プリテスト

12.

質問と選択肢を作る【グループ作業】|（講義内で実施する模擬調査のため、質問と選択肢を作る）

13.

データ入力とデータ・クリーニング|（実際にPCもしくは集計表を使ったデータ入力、データ・クリーニングを行う）

14.

サンプリングの考え方と理論|（全数調査と標本調査、無作為抽出、正規分布、標本誤差、標本数の決め方）

15.

サンプリングの考え方と理論|（全数調査と標本調査、無作為抽出、正規分布、標本誤差、標本数の決め方）

16.

サンプリングの実際|（サンプリングの種類と方法について学び、実際のサンプリング作業を知る）

17.

17.単純集計と度数分布|（尺度の種類、講義内模擬調査から度数分布表を作成する）

18.

平均・分散・標準偏差|（講義内模擬調査から得た変数を使って、平均・分散・標準偏差を理解する）

19.

クロス集計表の読み方|（さまざまなクロス集計結果から仮説を検証することを学ぶ）

20.

クロス集計表を読む|（さまざまなクロス集計結果から仮説を検証することを学ぶ）

21.

クロス集計表を作る|（模擬調査結果からクロス集計表の作成、仮説の検証、簡単な報告書の執筆）

22.

調査結果のまとめかた|（模擬調査による仮説の検証、簡単な報告書執筆

23.

カイニ乗検定|（模擬調査結果分析を精緻化するために、カイニ乗検定の考え方を学ぶ）

24.

カイニ乗検定|（模擬調査結果分析からカイニ乗検定の考え方を学び、実践してみる）

25.

クロス集計表のエロポレイション|（模擬調査結果分析をより精緻化するために、第3変数と疑似連関について学ぶ）

26.

相関関係と因果関係|（共分散および相関関係、相関係数について学ぶ）

27.

相関関係と因果関係|（相関係数の注意点と、関連および相関関係と因果関係との違いについて学ぶ）

28.

質的データの読み方|（インタビュー記録や文書などの質的データの分析方法について概観する）

29.

質的データを読む|（実際に、用意された記録や文書を簡単に分析してみる）

30.

まとめ

準備学習(予習)

前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくこと。

準備学習(復習)

UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。

評価方法

(1) 講義内課題

40%

出席点は設けない。ほぼ毎回課される講義によって評価される。

(2) 報告書

20%

(3) 期末試験

40%

持ち込み不可

前の講義内容への積み重ねで理解できる講義であるため、欠席しないことが重要になる。

教科書

大谷 信介、後藤 範章、小松 洋、木下 栄二 『新・社会調査へのアプローチ―理論と方法』（ミネルヴァ書房）

参考書

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： 1J313010

01. ガイダンス なぜ社会統計学を学ぶのか
02. 集計：量的データの整理 単純集計、クロス集計による分析を理解する。
03. 度数分布・位置の指標 度数分布表を作成する、最頻値・中央値・平均を理解する。
04. ばらつきの指標 範囲・平均偏差・標準偏差を理解する。
05. 確率論の基礎 確率分布の性質を理解する。
06. 正規分布・推計統計の考え方 正規分布と標準偏差との関係を理解する。正規分布表を解釈し、Z得点とT得点を算出する。
07. 標本抽出と推定 無作為抽出の概念を理解する、信頼区間や標本誤差について学ぶ。
08. 2種類の過誤 帰無仮説と対立仮説の関係を理解し、仮説検定の基本的手続きを学ぶ。
09. カテゴリー間の差を検定する クロス集計表に対するカイ2乗検定を学ぶ
10. 2つの平均の差を検定する t検定を理解する。
11. 複数の平均の差を検定する 分散分析を理解する。
12. 相関図と相関関係 相関係数の意味を理解し、2つの連続変数間関係を推定する。
13. 回帰分析の基礎 回帰直線や最小2乗法の意味を理解する。
14. 仮説検定の練習問題
15. まとめ

P. G. ホーエル著、浅井昇・村上正康訳『初等統計学 第4版』（培風社）1981年【ISBN: 978-4-563-00839-0】

日本の音楽		TART-J-200
担当教員： 鈴木 英一		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J313120
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
メディアに津軽三味線や雅楽の若き邦楽ミュージシャンの演奏が取り上げられ、既に若い人も伝統音楽を違和感なく享受している。これは日本音楽が「見直された」結果であろうか、あるいは若者たちが耳慣れない音楽を新たに「発見」した状況なのだろうか。それとも伝統音楽の変質か。現代における日本音楽の存在価値を見極めてみたい。		01. ○音楽とは何か 02. ○古代の音楽 03. ○日本音楽の淵源「雅楽」 04. ○雅楽がつくった日本人の国民性 05. ○仏教音楽の渡来 良い声とは何？ 06. ○「能」の音楽を知ろう 07. ○「能」の名作を鑑賞しよう 08. ○「歌」と「語り」 09. ○語り物「浄瑠璃」の成立 10. ○浄瑠璃と人形劇の合体「文楽」 11. ○カブキの発想と歌舞伎音楽 12. ○三味線の渡来 13. ○新しい音階の成立 14. ○三味線音楽の流派 15. ○三味線実演鑑賞 16. ○音曲の司「義太夫節」 17. ○盲人と音楽の関係 18. ○歌舞伎下座音楽 19. ○歌舞伎音楽名作鑑賞 20. ○その他の江戸時代の音楽 21. ○音楽の開国 洋楽受容史 22. ○近代音楽教育 23. ○邦楽と洋楽の融合時代 24. ○現代に生きる伝統音楽「津軽三味線」 25. ○現代に生きる伝統音楽「創作和太鼓」 26. ○現代に生きる伝統音楽「雅楽」 27. ○現代に生きる伝統音楽「子守歌」 28. ○こんな音楽聞いた事ない「雑藝」 29. ○伝統音楽体験 30. ○再び「音楽とは何か？」
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
重層的な日本の伝統音楽を紹介する。雅楽・能楽・近世三味線音楽・洋楽流入…現代音楽まで、各時代の代表的な音楽が、いまなおライブで聞くことができるのが日本文化の特異性である。これらを実際に鑑賞し、それぞれのジャンルの特殊性と、音楽としての普遍性を検証することを主な目標とする。さらに講師は邦楽の演奏家でもあるので、授業の中で実際に和楽器や歌唱を体験させることも考えており、今まで培ってきた音楽観を問い直してもらいたいと思う。		とにかく数多くの伝統音楽を試聴しておいてください。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
出来るだけ現代と繋がり深い伝統音楽を学ぶので、ぜひ一度は演奏会に出かけて欲しい。講義ではパフォーマンスとしての音楽を念頭に置いているので、受講生も出席カードやレポートでパフォーマンスして欲しい。		学習した音楽を理論化してみてください。
学びのキーワード		評価方法
・歌舞伎音楽 ・津軽三味線 ・和太鼓 ・西洋音楽との融合 ・不易流行		(1) レポート 70% (2) 平常点 30%
		教科書
		参考書

社会調査実践Ⅰ			
担当教員： 横山 寿世理			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 2 コード： 1J313210
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 「社会調査の方法」の復習とガイダンス 02. 先行研究の収集と整理 （共通テーマに即して、過去に行われた調査票調査に基づく研究を探して、まとめる【21～64頁】） 03. 先行研究の収集と整理 （共通テーマに即して、過去に行われた調査票調査に基づく研究を探して、まとめる【21～64頁】） 04. 先行研究の収集と整理 （共通テーマに即して、過去に行われた調査票調査に基づく研究を探して、まとめる【21～64頁】） 05. 調査企画とテーマの設定 （共通テーマに従って、より詳細なテーマを考え、調査を企画する（A4版1枚）【88～98頁】） 06. 調査企画報告とグループ分け （受講者が自分が考えた調査テーマを報告して、テーマごとグループ分けを行う【88～98頁】） 07. 先行研究の補足と調査設計【グループ作業】 （グループ分けによって生じた調査企画のズレを調整して、グループごとのテーマを統一する） 08. 先行研究の補足と調査設計【グループ作業】 （グループ分けによって生じた調査企画のズレを調整して、グループごとのテーマを統一する） 09. 仮説構成と質問項目【グループ作業】 （グループ・テーマに基づいた仮説と質問を構成する） 10. 仮説構成と質問項目【グループ作業】 （グループ・テーマに基づいた仮説と質問を構成する） 11. グループごとの調査設計報告【グループ作業】 （グループで作成した仮説と質問を報告して、質疑応答を行う） 12. 仮説と質問の修正【グループ作業】 （報告を受けて明らかになった課題に応じて、仮説・質問を修正する） 13. 仮説と質問の修正【グループ作業】 （報告を受けて明らかになった課題に応じて、仮説・質問を修正する） 14. 各グループの調査項目から調査票の構成を考える 15. プリテスト用調査票の印刷と完成 （夏休み中に3名以上の大学生にプリテストを実施してくる）	
(1) 内容			
「社会調査の方法」で学んだ調査企画から報告書作成までの一連の社会調査の過程を、実際に受講生自身が体験・実践する科目である。与えられた共通テーマ「大学生の日常生活に関する社会調査」に従い、各受講生がグループごとにより具体的なテーマ・仮説を設定して、量的な調査を実習形式で進める（春学期はプリテスト用調査票の作成までを行う）。 本講義は、日本文化学科の文化論・比較文化系に位置する専門科目であるとともに、社会調査士認定G科目に該当している。社会調査士取得希望者でなくても受講はできるが、「社会調査の方法」を修得していないと履修できない。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
この講義では社会調査を実体験することで、社会調査の役割や方法を具体的に理解することができる。つまり、本講義は、「社会調査入門」「社会調査の方法」で学んだ社会調査の手法を、受講者自身が実践する実習となる。 また、グループ活動が中心になるため、自分が集団において果たすべき役割やコミュニケーション能力を身につけることもできるだろう。		前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくこと。	
		準備学習(復習)	
		UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。	
受講者に対する要望		評価方法	
USBメモリを持参すること。 課題を一つずつ達成することが求められ、受講生それぞれが自分の果たすべき役割を考えて実習に臨んで欲しい。また、欠席することで、他の受講生の作業が中断してしまうということを覚えておいて欲しい。		(1) 調査企画書 20% (2) 個別調査企画報告 10% (3) グループ調査企画 30% (4) グループ調査企画報告 20% (5) グループ調査企画修正 20%	
学びのキーワード		教科書	
・ 社会調査 ・ アンケート ・ 量的調査 ・ 社会調査実習 ・ 社会調査士		大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房、2013年。	
		参考書	

社会調査実践Ⅱ			
担当教員： 横山 寿世理			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 2		コード： 1J313310	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. <small>プリテスト結果の検討と研究倫理審査申請【グループ活動】 （プリテストから明らかになった課題を踏まえた質問・選択肢の修正を行う）</small>	
(1) 内容		02. <small>調査対象クラスの決定 （層化抽出法を参考にして、標本数と調査対象クラスを決定する【教科書136-175頁】）</small>	
<p>「社会調査の方法」で学んだ調査企画から報告書作成までの一連の社会調査の過程を、実際に受講生自身が体験・実践する科目である。与えられた共通テーマ「大学生の日常生活に関する社会調査」に従い、各受講生がグループごとにより具体的なテーマ・仮説を設定して、量的な調査を実習形式で進める（秋学期は実査から報告書作成までを行う）。</p> <p>本講義は、日本文化学科の文化論・比較文化系に位置する専門科目であるとともに、社会調査士認定G科目に該当している。社会調査士取得希望者でなくても受講はできるが、「社会調査実践II」を修得していないと履修できない。</p>		03. <small>調査票完成と調査依頼準備【グループ活動】 （クラス全体の調査票を完成して、調査依頼状作成方法を学ぶ【教科書176-193頁】）</small>	
		04. <small>実査担当決めと調査依頼【グループ活動】 （クラス全体の調査票を完成して、調査依頼状作成方法を学ぶ【教科書176-193頁】）</small>	
		05. <small>実査用調査票の印刷 （調査票を印刷するとともに、調査依頼状を完成して、依頼に伺う）</small>	
		06. <small>エディティングとコーディング【グループ活動】 （実査において回収した調査票にエディティングを行う【教科書193～207頁】）</small>	
		07. データ入力【グループ活動】 （教科書193-207頁）	
		08. データクリーニング【グループ活動】 （教科書193-207頁）	
		09. <small>単純集計・クロス集計 （仮説に基づき単純集計とクロス集計を行う【教科書208～242頁】）</small>	
		10. <small>単純集計・クロス集計 （仮説に基づき単純集計とクロス集計を行う【教科書208～242頁】）</small>	
		11. <small>分析と仮説検証 （検定を行い、仮説を検証する【教科書208～242頁】）</small>	
		12. 報告書の作成 （教科書242-246頁）	
		13. 報告書の作成 （教科書242-246頁）	
		14. 調査報告書の印刷と実習報告の準備	
		15. 調査実習報告会	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
この講義では社会調査を実体験することで、社会調査の役割や方法を具体的に理解することができる。つまり、本講義は、「社会調査入門」「社会調査の方法」で学んだ社会調査の手法を、受講者自身が実践する実習となる。		前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくこと。	
		準備学習(復習)	
受講者に対する要望		UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。	
		評価方法	
USBメモリを持参すること。 課題を一つずつ達成することが求められ、受講生それぞれが自分の果たすべき役割を考えて実習に臨んで欲しい。また、欠席することで、他の受講生の作業が中断してしまうということを覚えておいて欲しい。		(1) 調査依頼と調査票の完成	20%
		(2) 実査	10%
		(3) データ入力と集計	25%
		(4) 報告書（分析）	30%
		(5) 報告書作成と実習報告	15%
学びのキーワード		教科書	
・ 社会調査 ・ アンケート ・ 量的調査 ・ 社会調査実習 ・ 社会調査士		大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房、2013年。	
		参考書	

量的データ解析の方法			
担当教員： 柳瀬 公 学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： 1J313410			
学部教育の関連目		授業計画 01. . ガイダンス なぜ多変量解析を学ぶのか 02. 多変量データのしくみ 尺度水準について学ぶ、多変量解析の全体像から手法選択を理解する。 03. データの特徴を数字で表す 数値や変数を表す記号をおさらいし、数学的理解を深める。 04. 共変動と相関係数 共変動の意味を知る、散布図を作成し相関関係を解釈する。 05. 回帰分析とは何か？ 回帰分析による予測方程式を理解する、回帰係数を算出する。 06. 重回帰分析の特徴 標準偏回帰係数、重決定係数を理解する。 07. 重回帰分析の実際 実際に統計ソフトSPSSを用いて重回帰分析を実施し、その結果を解釈・記述する。 08. 重回帰分析の使用例 重回帰分析を用いた研究事例を学ぶ。 09. 因子分析の特徴 因子分析によるデータ要約を理解する。 10. 因子分析の実際 因子分析の手順を理解する、実際にSPSSを用いて分析し、抽出された因子を解釈する。 11. 主成分分析 因子分析との違いを理解し、それらの使用例を学ぶ。 12. クラスタ分析 クラスタ分析による対象のグループ分けを理解する。 13. 数量化理論 数量化の種類を学び、その中で数量化III類を用いて質的データの構造を把握する。 14. 多変量解析の練習問題 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容 本講義の目的は、多変量解析の基本的な考え方と主要な計量モデルを理解することである。多変量解析とは、一度に多くの変数を全体的にまたは同時に分析し、これらの関係性を明らかにする統計的手法の総称である。多変量解析には、ある現象に影響を与える原因を見つけ出し、今後の予測を行ったり（要因分析）、情報を圧縮・分類する（構造分析）といったようにさまざまな手法が存在する。本講義では、代表的な手法である重回帰分析、因子分析、主成分分析、クラスタ分析、数量化理論を取り上げ、分析目的に応じてどの手法を採用すればよいのか判断する力を身につけ、解析結果を正確に読み取れるようになることを目指す。 なお、本講義は、基本的な統計的知識を理解していることを前提として進めるので、「社会統計学の基礎」の単位を取得している方が望ましい。また、2016年度卒業予定で社会調査士取得を希望する学生は、今年度必ず本科目を受講しなければならない。			
(2) 学びの意義と目標 この講義では、多変量解析を使った学術論文を正しく読めるようになるとともに、受講生が各自の研究目的に沿った手法を選択し、実際に統計ソフトを用いて分析できるようになることを目標とする。		準備学習(予習) 授業計画に沿って該当する部分の章をよく読んで、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。	
		準備学習(復習) 授業で取り上げた箇所を教科書でふり返し、各自ノートにまとめておくこと。	
受講者に対する要望 初回のガイダンスでは、授業の進め方や成績評価について説明するので、必ず出席すること。		評価方法 (1) 授業内演習課題 40% (2) 期末テスト 60%	
学びのキーワード ・ 社会調査 ・ 多変量解析		教科書 小杉考司著『社会調査士のための多変量解析法』（北大路書房）2007年【ISBN：978-4-7628-2556-9】 参考書	

児童文学		CHCL-J-200
担当教員： 藤田 のぼる		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J401290
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. 始めに～児童文学の講義を始めるにあたって 02. 児童文学に描かれた子ども 1～学校の中の子ども 03. 児童文学に描かれた子ども 2～家族の中の子ども 04. 児童文学に描かれた子ども 3～社会の中の子ども 05. 児童文学に描かれた子ども 4～成長する子ども 06. 児童文学に描かれた子ども 5～発見する子ども 07. 児童文学に描かれた子ども 6～冒険する子ども 08. 児童文学に描かれた子ども 7～闘う子ども 09. 児童文学に描かれた子ども 8～さまざまな子ども像 10. 不思議の形～いろいろなファンタジー 11. 不思議の形～ファンタジーの方法 1 12. 不思議の形～ファンタジーの方法 2 13. 不思議の形～ファンタジーの方法 3 14. 不思議の形～ファンタジーの方法 4 15. テーマを深める 1～「生」と「死」をめぐって 16. テーマを深める 2～「愛」について 17. テーマを深める 3～「特別」の人たち 18. テーマを深める 4～「戦争」に迫る 19. 子どもと読書の問題をめぐって 20. 子どもの「読書離れ」を考える 1～内因と外因 21. 子どもの「読書離れ」を考える 2～「建前の児童文学」 22. 子どもの「読書離れ」を考える 3～児童文学の流れ 23. 「読書」の意味を考える 1～〈物語〉と〈小説〉 24. 「読書」の意味を考える 2～〈物語〉をめぐって 25. 「読書」の意味を考える 3～〈小説〉をめぐって 26. 「読書」の意味を考える 4～読書という行為の固有性 27. 今、求められる児童文学とは 1～〈情報性〉ということ 28. 今、求められる児童文学とは 2～〈仕掛け〉と〈入口〉 29. 今、求められる児童文学とは 3～子どもたちの「現実感覚」 30. まとめ
●一口に「児童文学」といっても、童話、小説、詩、絵本、ノンフィクションといったジャンルがあり、これを数ヶ月間の講義でこなすのは難題です。が、あえて欲張ってそれをやってみようと思っています。ですからこの講義はかなり駆け足の進行になります。 ●全体は大きく三部に分かれ、第一部（児童文学に描かれた子ども）では、さまざまな角度から作品の中の子ども像を中心に、児童文学作品を紹介していきます。第二部（不思議の形、テーマを深める）では、テーマ、方法、思想などの角度から作品を紹介します。これらを通して、児童文学がなにを、どのように描いているのかをみてもらいます。 ●第三部のテーマは、「（児童）文学を読むということは、読者にとってどのような行為なのか」ということについて考えるということです。特に児童文学の場合、それを読むことが子どもにとって無条件に「良いこと」とされ、場合によっては強制されたりもするわけですが、本とは、物語とはどのようなものなのかを、皆さんの子ども時代の体験なども合わせながら考えていきたいと思います。		
(2) 学びの意義と目標		
児童文学は、第一義には子どもの読者に向けて書かれたものですが、今子ども時代と訣別しようとしている時期に、児童文学に触れることには格別の意義があると思います。また、大人として、さまざまな場で子どもと相対する機会に、児童文学というアイテムが大きな役割を果たすと思います。		準備学習(予習)
		テキストに沿った形の講義は後半からになりますが、事前に少しずつ読んでおいてください。
		準備学習(復習)
		講義の中で紹介された作品について、努めて実際に読むこと。最低1冊は読んで、講義の18回が終わった時点で、感想をレポートとして提出してもらいます。
		評価方法
		(1) レポート
		基本的に課題のレポートにより評価しますが、それ以外の通常の提出物や授業への参加なども加味します。
受講者に対する要望		教科書
講義で紹介された作品を、この機会に自主的になるべく多く読んでほしいと思います。		
学びのキーワード		参考書
・ 児童文学 ・ 文学 ・ 子ども ・ ファンタジー ・ 読書		
		藤田のぼる 『児童文学への3つの質問』（てらいんく）

日本文学史(上代・中古)		JLIT-J-200
担当教員： 木下 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J410100
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. はじめに一漢字・漢文の伝来と日本文学のはじまり</div> <div>02. 上代（神話・伝承・歴史）―神話から国史へ（１）：『古事記』、口承文芸と伝説</div> <div>03. 上代（神話・伝承・歴史）―神話から国史へ（２）：『日本書紀』、国際社会に向けて</div> <div>04. 上代（和歌）―国家とうた（１）：『万葉集』、禁断の恋</div> <div>05. 上代（和歌）―国家とうた（２）：『万葉集』、「大君は」</div> <div>06. 上代（漢詩）―国家とうた（３）：『懷風藻』、壬申の乱を越えて、辞世の詩</div> <div>07. 上代（説話）―国家と仏教：『日本霊異記』、よみがえりの話</div> <div>08. 中古（漢詩・漢文）―漢詩文の隆盛：『凌雲集』『経国集』、詩の理論</div> <div>09. 中古（漢詩・漢文）―漢詩文の隆盛：『文華秀麗集』、詩宴の楽しみ</div> <div>10. 中古（漢詩・漢文）―空海の仏教と文学：『三教指帰』『性霊集』</div> <div>11. 中古（漢詩・漢文）―詩人菅原道真と『白氏文集』の受容（１）：『菅家文草』、詩の家に生まれて</div> <div>12. 中古（漢詩・漢文）―詩人菅原道真と『白氏文集』の受容（２）：『菅家後集』、詩臣として</div> <div>13. 中古（和歌）―和歌と美意識の確立（１）：『古今和歌集』、和歌の理論</div> <div>14. 中古（和歌）―和歌と美意識の確立（２）：『古今和歌集』の季節感、恋</div> <div>15. 中古（物語）―伝奇物語の発生（１）：『竹取物語』と伝承世界、神話世界のなごり</div> <div>16. 中古（物語）―伝奇物語の発生（２）：『竹取物語』、かぐや姫と天皇、月世界</div> <div>17. 中古（物語）―歌物語の発生（１）：『伊勢物語』、「みやび」と反逆</div> <div>18. 中古（物語）―歌物語の発生（２）：『伊勢物語』、「みやび」と敗残</div> <div>19. 中古（日記）―自己を見つめて（１）：『土佐日記』、亡き子の思い出と旅</div> <div>20. 中古（日記）―自己を見つめて（２）：『蜻蛉日記』、夫との攻防と和歌</div> <div>21. 中古（随筆）―『源氏物語』の時代（１）：『枕草子』、美しい中宮の思い出</div> <div>22. 中古（日記）―『源氏物語』の時代（２）：『紫式部日記』、自己と他者を見つめて</div> <div>23. 中古（物語）―『源氏物語』の時代（３）：『源氏物語』、桐壺帝と桐壺更衣の愛</div> <div>24. 中古（物語）―『源氏物語』の時代（４）：『源氏物語』、光源氏と藤壺、恋と罪</div> <div>25. 中古（日記）―『源氏物語』以後（１）：『更級日記』、物語への憧れと仏教の夢</div> <div>26. 中古（物語）―『源氏物語』以後（２）：『堤中納言物語』「虫愛づる姫君」</div> <div>27. 中古（歴史物語）―栄華の回顧と検証：『栄花物語』『大鏡』</div> <div>28. 中古（歌謡・漢文・説話）―類聚（コレクション）：『和漢朗詠集』『本朝文粋』『今昔物語集』</div> <div>29. 中古（和歌・歌論）―新風を求めて：『後拾遺和歌集』、藤原俊成『千載和歌集』『古来風体抄』</div> <div>30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>上代・中古（飛鳥時代～平安時代）の代表的な文学作品について、原文に触れながら基礎的な知識を学び、表現や主題、方法論の変遷を捉えます。概要は以下のとおりです。</div> <div>日本は律令国家を形成するにあたり、中国の政治体制や学問、思想とともに漢字漢文を導入しました。神話や伝承、歌謡などの口承文芸は記載されるようになり、国史へと編成されていきます。漢詩漢文がさかんに創作される一方、漢字から仮名が生み出され、和歌が次第に公の場で詠まれるようになるほか、物語や日記が登場します。これらは、貴族文化の発展や後宮ではたらく女性たちの活躍にともなって、花開きます。のち、爛熟、退廃期を経て前代の検証が行われ、新風が拓かれます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>上代・中古の文学作品における特色や他作品との関連、文学史的な意味について考え、理解を深めます。日本文学・文化を知る上で必要不可欠な古典文学に親しみ、その面白さと意義を学びます。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 文学史</div> <div>・ 上代文学</div> <div>・ 中古文学</div>		
<div>教科書</div>		
<div>参考書</div> <div>三村 晃功、寺川 真知夫、廣田 哲通、 本間 洋一（編）『日本古典文学を読む』（和泉書院）</div>		

日本文学史(中世・近世)		JLIT-J-200
担当教員： 家永 香織		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J410210
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目		01. 文学史とは 02. 中世の韻文（和歌）－中世和歌の特色 03. 中世の韻文（和歌）－藤原定家と後鳥羽院（1）－初学期の定家 04. 中世の韻文（和歌）－藤原定家と後鳥羽院（2）－後鳥羽院歌壇の成立 05. 中世の韻文（和歌）－『新古今和歌集』前後 06. 中世の散文（評論）－『無名草子』 07. 中世の散文（軍記）－『平家物語』 08. 中世の散文（日記）－『建礼門院右京大夫集』（1）－右京大夫と二人の恋人 09. 中世の散文（日記）－『建礼門院右京大夫集』（2）－『源氏物語』の影響 10. 中世の散文（日記）－『とはずがたり』（1）－二条の生涯と彼女を取り巻く男性たち 11. 中世の散文（日記）－『とはずがたり』（2）－『とはずがたり』の物語的性格 12. 中世の散文（随筆）－『方丈記』 13. 中世の散文（随筆）－『徒然草』（1）－兼好の伝記・『徒然草』概説 14. 中世の散文（随筆）－『徒然草』（2）－『徒然草』の代表的章段を読む 15. 中世の散文（説話）－『発心集』 16. 中世の散文（説話）－『宇治拾遺物語』（1）－類話の比較・配列の特徴 17. 中世の散文（説話）－『宇治拾遺物語』（2）－笑える話・普話に関わる話を読む 18. 中世の散文（説話）－『今物語』 19. 連歌から俳諧へ 20. 近世の韻文（俳諧）－松尾芭蕉 21. 近世の韻文（俳諧）－与謝蕪村・小林一茶 22. 近世の散文（小説）－近世の小説概論 23. 近世の散文（小説）－井原西鶴（1）－好色物を読む 24. 近世の散文（小説）－井原西鶴（2）－武家物・町人物を読む 25. 近世の散文（小説）－井原西鶴（3）－説話物を読む 26. 近世の散文（人形浄瑠璃・歌舞伎）－近松門左衛門（1）－近世の劇文学概説・近松門左衛門の生涯 27. 近世の散文（人形浄瑠璃・歌舞伎）－近松門左衛門（2）－近松の代表作を観る 28. 近世の散文（小説）－読本 29. 近世の散文（小説・落語）－パロディと笑話 30. 理解度確認
【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目		
(1) 内容		
中世・近世（時代でいうなら鎌倉時代から江戸時代まで）の文学作品を取り上げる。それまで貴族階級がほぼ独占していた文化形成の場に、まず武士階級が、そして町人階級が参入していく時期であり、俗っぽさ・人間臭さ・猥雑さ・生活感など王朝文化には見られない特徴が現れると同時に、王朝文化に対する遥かなるあこがれも見出せる時代である。雅やかな王朝文化とは違ったおもしろさを味わってほしい。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
中世・近世の文学作品から著名な作品、重要な作品を中心に選んで取り上げる。同時に、さほど著名ではなくとも、おもしろく読める作品にも触れる。各々の作品の独自性を明らかにすると同時に、他の作品との関連や、文学史の中でその作品がどのような位置を占めるかといった視点も大切にして読解を進める。多くの作品に触れる中で、日本古典文学がいかに多様で奥深いかを知って欲しい。		
受講者に対する要望		
ノートをしっかりとることを心がけて欲しい。テストはノートのみ持ち込み可とする。漫然と板書を写すのではなく、講義をきちんと聞き、重要だと思ったことは、たとえ板書されなくてもノートに書くようにしよう。また、疑問が生じたら積極的に質問して欲しい。授業内容に直接関することだけでなく、できる限り答え、授業をきっかけにして自分なりに関心の対象を広げていくことを手助けしたい。		
学びのキーワード		教科書
・ 文学史 ・ 中世文学 ・ 近世文学		
教科書		
テキストは使用せずプリントを配布する。		参考書
参考書		

日本文学史(近現代)		JLIT-J-200
担当教員：前田 潤		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1J410320
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 近代小説の起源 03. 「浮雲」の実験 04. 「たけくらべ」の文体 05. 「舞姫」の論じ方 06. 「阿部一族」は剽窃文学か 07. 「自然主義」とは何か 08. 韻文史概説 09. 革新者・正岡子規 10. 「坊っちゃん」語りの構造 11. 「三四郎」と「青年」 12. 「心」をめぐる論争 13. 山頭火と放哉 14. 「家族」の文学・志賀直哉と疫病 15. 労働争議と大正文学 16. 職業作家としての芥川龍之介 17. 関東大震災と近代日本文学 18. 谷崎潤一郎の「転向」 19. 「新感覚」の実態 20. 「蟹工船」再考 21. 「人間失格」の「奥行き」 22. 「戦後」文学の可能性 23. 巨人・松本清張 24. 探偵小説の歴史と江戸川乱歩 25. 1965・ベトナム・開高健 26. 1995・村上春樹の「転回」 27. 村上春樹と長編小説 28. 都市・ファッション・ノベル 29. 「詩人」としての津島佑子 30. 長野まゆみと桜庭一樹</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>明治初期から平成に至るまでの日本文学の歩みを概観する。画期的な意味を持つ文学作品や文学者の動向に触れ、その歴史的位置を確認すると共に、同時代の文化社会の中でそれらがどのような役割を果たしていたのかに言及する。特に政治や労働運動、活字出版メディアの史的展開と文学言説との関わりについては詳しく見取り図を引いてゆきたい。授業では項目を挙げるだけの解説は避け、記憶に残るような鮮烈な文学者の言動を紹介したいと考えている。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「近代文学」という制度発生の歴史過程を注視し、「近代文学」が他領域とどのような影響関係のもとで変貌してきたのかについて学ぶことを通じて、「歴史」を相対化し、「現代」を対象化するまなざしを育みたい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業中紹介してゆく作品の幾つかを、自ら手に取り読んでみて欲しい。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>自分が何に興味を持つ存在であるのかという「問い」を持って講義に臨んで欲しい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>各回完結型の講義ではあるが、近代文学史の流れを体系的に把握するためには、講義内容の連続性に配慮し、前回の内容を復習しながらついてきて欲しい。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点50% (2) 最終試験50%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・近代文学 ・現代文学 ・文学史 ・文化史 ・小説</div>	<div>教科書</div>	
	<div>参考書</div>	

日本文学研究と批評(古典 1)		JLIT-J-200
担当教員： 渡辺 正人		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J410430
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目 【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目		
(1) 内容		01. 作品概説 伊勢物語誕生の背景 02. " 色好み在原業平 03. 冒頭章段 1 段 04. " 2 段 05. 業平と二条の後関係章段 3 段 06. " 4 段 07. " 5 段 08. " 6 段 09. " まとめ 10. 東下り関係章段 7 段 11. " 8 段 12. " 9 段 13. " 9 段 14. " まとめ 15. 東国物語 1 0 段 16. 1 5 回までの復習：和歌の技巧について 17. 伊勢齊宮関係章段 6 9 段 18. " 7 0 段 19. " 7 1 段 20. " 7 2 段 まとめ 21. 筒井筒の章段 2 3 段 22. " 23. 筒井筒と他作品の比較 古今集 24. " 大和物語 25. " まとめ 26. 歌物語について 27. 惟喬親王関係章段 8 2 段 28. " 29. " 30. まとめ 1 2 5 段
歌物語の代表作として広く知られる『伊勢物語』を講読していきます。授業では、作品の大きな魅力である主人公、色好みの貴公子・在原業平の人間像をつかんでいきます。また、業平の生きた時代背景や風俗習慣も確認していきます。 二条の後や伊勢の齋宮との許されない恋や、惟喬親王等との交流の中で詠まれた心打つ和歌の数々。『伊勢物語』は、それら業平の歌にまつわる話に、業平以外の人々の歌にまつわる物語も取り込みつつ、全体として業平の「みやびの世界」が形成されていることを学んでいきます。 作品中の和歌の重要性に注目して、口語訳・解釈は詳細に考察していきます。		
(2) 学びの意義と目標		
同時代成立の和歌集『古今集』との関連等を考察しながら、「歌物語」としての独自の性格を明らかにしていきます。また、教職を目指す学生の古典対応力の増強も目標としています。 『伊勢物語』は、『源氏物語』をはじめとして、能楽・歌舞伎にも影響を及ぼし、屏風など絵画の題材にもなっています。後世の日本文化との関係、発展を考える上で重要な作品です。古来の文人墨客が愛した国民的物語—『伊勢物語』を知ることは、現代人の教養という面でも意義深いことです。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
一般教養として古典知識を身につけたい学生、教職科目受講者で古典対応力増強をめざす学生の受講を望みます。		辞書を引いて自分の口語訳をしてみる。物語のクライマックスを形成する和歌の訳は、ぜひ参考書を見ないでチャレンジしてほしい。
		準備学習(復習)
		授業ノートをつくり、内容をまとめていくこと。授業で提示した資料等を調べ、ノートのまとめに加えるとよい。
		評価方法
		(1) 授業時提出物 40% (2) 授業時発表 10% (3) 期末試験 50%
学びのキーワード		教科書
・ 平安文学 ・ 歌物語 ・ 和歌 ・ 在原業平 ・ みやび		石田 穰二 『伊勢物語—付現代語訳 (角川ソフィア文庫 (SP5))』 (角川学芸出版)
		参考書

日本文学研究と批評(古典 2)		JLIT-J-200
担当教員： 木下 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J410540
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. はじめに</div> <div>02. 白居易の生涯、『白氏文集』の成立と伝来</div> <div>03. 「長恨歌」(1)―背景</div> <div>04. 「長恨歌」(2)―寵愛</div> <div>05. 「長恨歌」(3)―安史の乱、楊貴妃の死</div> <div>06. 「長恨歌」(4)―玄宗皇帝の悲嘆(1)―帰路</div> <div>07. 「長恨歌」(5)―玄宗皇帝の悲嘆(2)―都に戻って、長い夜</div> <div>08. おもかげ(1)―桐壺帝と桐壺更衣</div> <div>09. 「長恨歌」(6)―仙界での再会</div> <div>10. 「長恨歌」(7)―生まれ変わっても</div> <div>11. 「長恨歌」(8)―まとめ</div> <div>12. おもかげ(2)―桐壺更衣、藤壺</div> <div>13. おもかげ(3)―葵上、紫上</div> <div>14. おもかげ(4)―大君、浮舟</div> <div>15. 前半のまとめ</div> <div>16. 光源氏が須磨に退去するまで</div> <div>17. 流謫の地にて(1)―光源氏と男たち</div> <div>18. 流謫の地にて(2)―菅原道真と光源氏(1)―悲秋文学</div> <div>19. 流謫の地にて(3)―菅原道真と光源氏(2)―道真と光源氏の「恩賜の御衣」</div> <div>20. 流謫の地にて(4)―王昭君伝説と光源氏(1)―王昭君伝説</div> <div>21. 流謫の地にて(5)―王昭君伝説と光源氏(2)―光源氏の落魄意識</div> <div>22. 流謫の地にて(6)―「琵琶行」と明石入道、明石君(1)―「琵琶行」</div> <div>23. 流謫の地にて(7)―「琵琶行」と明石入道、明石君(2)―楽器と系譜</div> <div>24. 紫式部と清少納言(1)―ふたりの生涯と一条天皇の後宮</div> <div>25. 紫式部と清少納言(2)―紫式部：「新楽府」(1)―「新楽府」</div> <div>26. 紫式部と清少納言(3)―紫式部：「新楽府」(2)―中宮彰子と紫式部</div> <div>27. 紫式部と清少納言(4)―清少納言：「香炉峰の雪」(1)―「香炉峰下」</div> <div>28. 紫式部と清少納言(5)―清少納言：「香炉峰の雪」(2)―中宮定子と清少納言</div> <div>29. 紫式部と清少納言(6)―まとめ</div> <div>30. レポート提出とまとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>平安時代に唐から伝来し、大流行した白居易の『白氏文集』と、その影響を受けた紫式部の『源氏物語』や清少納言の『枕草子』、菅原道真の『菅家文草』『菅家後集』を読み比べます。</div> <div>前半は、『白氏文集』「長恨歌」と『源氏物語』を中心に、愛する女性を失った男性の長きにわたる痛み、悲しみに注目します。後半は、さすらいの悲しみや当地における男女・男同志の交流、琴のモチーフを読み解きます。また、紫式部と清少納言における『白氏文集』受容や、漢字漢文をめぐる振舞いの違いを考えます。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>配布したプリントは必ず読み、分からない漢字や語句については辞書で調べておくこと。参考文献は各自で読んでおくこと。図書館を活用すること。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>注釈と口語訳つきのテキストを用い、基礎的な知識を身に付けながら、魅力ある表現やテーマを味わい、分析します。平安文学がいかに中国文学を受容したかを考え、総合的に読解し理解することを目指します。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>その日のうちにプリントとノートを読み返し、整理すること。分からない漢字や語句については辞書で調べること。追加で質問があれば受け付けます。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) レポート 60%</div> <div>(2) 平常点 40% フィードバックペーパーや小テスト等の授業内提出物</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・平安文学における中国文学の受容</div> <div>・源氏物語</div> <div>・枕草子</div> <div>・菅家文草・菅家後集</div> <div>・白氏文集</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

日本文学研究と批評(近現代 1)

JLIT-J-200

担当教員： 佐藤 ゆかり

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1J410760

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目
【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目

(1) 内容

西洋と〈出会った〉明治以降の近現代文学を通して、それまでの日本文学の伝統との連続性と非連続性を意識しつつ、これからの日本文学史を視野に入れ、近現代の著名な作家による名作短篇・中篇小説を読み、言葉を通して内容を的確に理解し、それを論理的に思考し表現する能力を高め、発表をすることで互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することを目的に、学生の発表を中心に、ディスカッション、映像との比較等を交えて進める。なお、履修者人数によっては、採り上げる作品、順番も含めて変更する場合もある。

(2) 学びの意義と目標

日本の近現代文学作品の解釈と鑑賞を通して、作家、作品、時代背景、同時代評、表現技法、文学史的背景、先行論文等も含めた基本的、総合的な研究方法を学ぶ。目標は、（１）近現代文学の精読と、基本的、総合的な研究方法の習得、（２）自分の意見を、根拠をもって論述すること、（３）卒業論文の執筆に役立つ基礎的な近現代文学の知識の習得、である。この授業の学びの意義は、（１）精読し、調査し、レジメにまとめ、発表するという流れが、情報収集、読み解き、探索、発信という、日常生活に役立つ、（２）自分自身の意見を基に、他の学生との意見交換を行ない、特に異なった意見を持つ学生との議論を行なうことで、より日本文学に対する理解を深められる、（３）本離れと言われる現代において、読書の重要性、楽しさを体験し、次世代への知識の提供、自分自身の生涯学習の基礎を作る、である。

受講者に対する要望

文学作品に興味を持つ学生、授業中採り上げる作品は必ず読んで、熱心に取り組める学生の受講を希望する。演習発表中心の授業であるから、担当箇所の作品精読、調査、レジメの作成、それについて発表があるので、その点を留意すること。プリントはなくさないこと。

学びのキーワード

・ 近現代日本文学の研究方法
・ 近現代小説精読
・ 演習発表の方法
・ 映像と小説の比較
・ 他者の意見を聴く

授業計画

01. 導入—近現代文学を読むとは？（講義）
02. 作品分析の方法（講義）
03. 横光利一『春は馬車に乗って』①資料収集の方法
04. 横光利一『春は馬車に乗って』②先行研究の精読
05. 横光利一『春は馬車に乗って』③自分の意見をまとめる、他人の意見を聞く
06. 芥川龍之介『魔術』①児童文学の側面
07. 芥川龍之介『魔術』②映像とディスカッション
08. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』①第一章
09. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』②第二章、第三章
10. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』③第四章
11. 〈学生発表〉有島武郎『小さき者へ』①父と母
12. 〈学生発表〉有島武郎『小さき者へ』②父と子
13. 有島武郎『小さき者へ』③まとめとディスカッション
14. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』①伊豆
15. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』②踊子
16. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』③孤児根性
17. 川端康成『伊豆の踊子』④映像と文学の比較
18. 川端康成『伊豆の踊子』⑤まとめとディスカッション
19. 〈学生発表〉宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』①ゴーシュと動物
20. 〈学生発表〉宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』②作品の中の音楽
21. 宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』③まとめとディスカッション
22. 宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』④映像と文学の比較
23. 〈学生発表〉中島敦『山月記』①友との再会
24. 〈学生発表〉中島敦『山月記』②夢の実現
25. 中島敦『山月記』③まとめとディスカッション
26. 〈学生発表〉吉本ばなな『キッチン』①台所
27. 〈学生発表〉吉本ばなな『キッチン』②厨房とキッチン
28. 吉本ばなな『キッチン』③まとめとディスカッション
29. 吉本ばなな『キッチン』④映像と文学の比較
30. まとめ

準備学習(予習)

授業中採り上げる作品は必ず読んで、自分の意見をまとめてくること。

準備学習(復習)

授業内で採り上げた小説について、読んでくること。レジメを見直し、自分の意見をまとめること。

評価方法

(1) レポート	50%
(2) 発表	30%
(3) 平常点	20%

出席が3分の2以下の者は単位を認定しない。

教科書

参考書

対照言語学		LING-J-200
担当教員： 文 智暎		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J411200
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 対照言語学とは 03. 対照言語学の方法 04. 韓国語のしくみ 05. 音声 06. 文字 07. 語彙 08. 助詞 09. 語順 1 10. 語順 2 11. 文法 1 12. 文法 2 13. 文法 3 14. 文法 4 15. 日本語教育への応用 1 16. 前半のまとめ 17. あいさつ 18. コミュニケーション・スタイル 19. 謝罪 1 20. 謝罪 2 21. 敬語 1 22. 敬語 2 23. 授受表現 1 24. 授受表現 2 25. ほめ行動 1 26. ほめ行動 2 27. 人称と呼称 28. 日本語教育への応用 2 29. 日本語教育への応用 3 30. 総まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>日本語と外国語、主に韓国語を中心に対照する。音声・文字・語彙・文法・言語行動等について、日本語との類似点、相違点を考えていく。また、その応用として日本語教育にどのように生かしていくかを考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div><div>・対照言語学の方法を学ぶ。 ・外国語と日本語を比べることによって、日本語の特徴を理解する。 ・日本語教育に生かすため、日本語と外国語との違いや文化の違いを学ぶ。</div></div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、扱われるトピックについて考えてくること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>韓国語の学習経験は必要としない。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・対照研究 ・日本語学 ・日本語教育 ・韓国語学</div></div>	<div>教科書</div> <div>プリントを配布する。</div> <div>参考書</div>	

LING-J-200

言語文化論

担当教員： 小林 茂之

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1J411310

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目
【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目
【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 内容

英語は、多くの日本人にとってもっとも身近な外国語である。「目からウロコ」など、英語訳聖書を通じて日本語に取り入れられた表現が気づかれずに使われていることも少なくない。今や英語の影響を取り去った現代日本語などは考えられない。しかし、英語はもともとブリテン島にやってきたゲルマン系部族の弱小な方言に過ぎず、世界語に発展するまでの過程には、歴史的変遷に伴う多くの変化が起きた。16Cに現代英語(PDE)に近い初期近代英語(EModE)が成立し、現代でも一般的に用いられる英語訳聖書中で最も古い欽定訳聖書(KJV)は、初期近代英語による傑出した作品である。欽定語訳聖書(1611)に至るまでの歴史やその後の現代英語訳聖書までの英訳聖書の変遷を学ぶとともに、現代日本語による新共同訳聖書とも対照し、現代日本人の教養としても重要な聖書の言語文化史的意義を取り上げる。

(2) 学びの意義と目標

聖書の英語訳の歴史を通して、聖書の言語文化史的に果たした役割について考える。キリスト教が日本に再びもたらされた幕末から明治初期、イギリスからアメリカに渡り、ブラウンなどの主にアメリカ人宣教師が日本にもたらした英訳聖書のルーツを学ぶことを通して、言語研究の動機が聖書理解、生きる意味の思索に結びつけば理想的である。また、演習的な課題を通して、歴史言語学的視点を身に付けるとともに、聖書翻訳の英日における言語文化史的意義について考える。

受講者に対する要望

毎回、電子辞書などを必ず授業に持ってくる。授業時に、電子辞書などで調べるよう指示することがある。教科書は授業、予習・復習で必要なもので、必ず入手する。

学びのキーワード

・ 言語文化史

・ 聖書の翻訳

・ 古英語

・ 中英語

・ 初期近代英語

授業計画

01. 導入 1：英語の歴史（チョーサーまで）
02. 導入 2：英語の歴史（欽定訳聖書・シェイクスピアまで）
03. テキスト：序章，聖書と言語文化
04. テキスト：第 1 章，英訳聖書の歴史
05. テキスト：古英語・中英語文法入門
06. テキスト：第 2 章，現代英語と初期近代英語による「主の祈り」
07. テキスト：第 3 章(1)，『ウィクリフ派聖書』による「主の祈り」
08. テキスト：第 3 章(2)，発音と綴り：英語の黙字，二人称代名詞
09. テキスト：第 4 章(1)，『ウェストサクソン福音書』による「主の祈り」
10. テキスト：第 4 章(2)，古英語の綴りと発音
11. テキスト：第 5 章(1)，大母音推移：英語の母音の変化，人称代名詞の変
12. テキスト：第 5 章(2)，語形変化，語順の変化，語彙の変化
13. テキスト：第 6 章(1)，現代英語・初期近代英語による「創世記」 2. 18-2
14. テキスト：第 6 章(2)，中英語・古英語による「創世記」 2. 18-2
15. テキスト：第 7 章(1)，現代英語・初期近代英語による「創世記」 3. 1-13
16. テキスト：第 7 章(2)，中英語・古英語による「創世記」 3. 1-13
17. テキスト：第 8 章(1)，現代英語・初期近代英語による「創世記」 11. 1-9
18. テキスト：第 8 章(2)，中英語・古英語による「創世記」 11. 1-9
19. テキスト：第 9 章(1)，現代英語・初期近代英語による「ルカ伝」 1. 26-3
20. テキスト：第 9 章(2)，中英語・古英語による『ルカ伝』 1. 26-3
21. テキスト：第 10 章(1)，現代英語・初期近代英語による「マタイ伝」 25. 14-30
22. テキスト：第 10 章(2)，中英語・古英語による「マタイ伝」 25. 14-30
23. テキスト：第 11 章(1)，現代英語・初期近代英語による「マルコ伝」 14. 12-25
24. テキスト：第 11 章(2)，中英語・古英語による「マルコ伝」 14. 12-25
25. テキスト：第 12 章，1000語聖書
26. テキスト：第 13 章，アメリカ英語やピジン英語の影響
27. テキスト：第 14 章，障がい者差別を排除する英語
28. テキスト：第 15 章，性差別を排除する英語
29. まとめ(1)（第 1-14 回）
30. まとめ(2)（第 15-28 回）

準備学習(予習)

テキストを事前に読んでおく。

準備学習(復習)

積極的に発展的読書をする。また、発展的読書を通して、レポートの準備をする。

評価方法

(1) レポート

40%

(2) 平常点

30%

教科書を入手しないで授業に出席しても、平常点は認められない。なお、随時教科書の発行をチェックする。

(3) 授業態度

30%

課題や討論への積極性が含まれる。

報告・討議は、授業参加度として評価する。

教科書

寺澤盾『聖書でたどる英語の歴史』（大修館書店）

参考書

授業時に指示する。

中国文学		WLIT-J-100
担当教員： 濱田 寛		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J411740
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ・ガイダンス</div> <div>02. ・志怪小説概論（1）</div> <div>03. ・志怪小説概論（2）</div> <div>04. ・志怪小説概論（3）</div> <div>05. ・志怪小説概論（4）</div> <div>06. ・志怪小説概論（5）</div> <div>07. ・志怪小説各論（1）／「三王墓」（1）</div> <div>08. ・志怪小説各論（2）／「三王墓」（2）</div> <div>09. ・志怪小説各論（3）／「范巨卿張元伯」（1）</div> <div>10. ・志怪小説各論（4）／「范巨卿張元伯」（2）</div> <div>11. ・志怪小説各論（5）／「童謡」（1）</div> <div>12. ・志怪小説各論（6）／「童謡」（2）</div> <div>13. ・志怪小説各論（7）／「鬼」（1）</div> <div>14. ・志怪小説各論（8）／「鬼」（2）</div> <div>15. ・志怪小説各論（9）／「管輅」（1）</div> <div>16. ・志怪小説各論（10）／「管輅」（2）</div> <div>17. ・志怪小説各論（11）／「隗?」（1）</div> <div>18. ・志怪小説各論（12）／「隗?」（2）</div> <div>19. ・志怪小説各論（13）／「天竺胡人」（1）</div> <div>20. ・志怪小説各論（14）／「天竺胡人」（2）</div> <div>21. ・志怪小説各論（15）／「胡母班」（1）</div> <div>22. ・志怪小説各論（16）／「胡母班」（2）</div> <div>23. ・志怪小説各論（17）／「妖怪・牛能言」（1）</div> <div>24. ・志怪小説各論（18）／「妖怪・牛能言」（2）</div> <div>25. ・志怪小説各論（19）／「到伯夷・安陽亭書生」（1）</div> <div>26. ・志怪小説各論（20）／「到伯夷・安陽亭書生」（2）</div> <div>27. ・志怪小説各論（21）／「阿紫」（1）</div> <div>28. ・志怪小説各論（22）／「阿紫」（2）</div> <div>29. ・志怪小説各論（23）／「阿紫」（3）</div> <div>30. 総括</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目</div> <div>【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>中国六朝期の志怪小説の講読を中心とし、漢文読解力の涵養、基礎的な工具書の扱い方等にも配慮する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>中国文学史上の「志怪小説」の位置づけを理解するとともに、具体的な作品の読解を通して、その作品世界に触れたい。また、上記のカリキュラム上の位置づけを踏まえて、基礎となる「訓読」についてより深い理解を目指す。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>漢和辞典必携 詳しくは初回の講義にて解説の予定。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 志怪小説</div> <div>・ 漢文訓読</div> <div>・ 説話</div>		<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div> <div>参考書</div> <div>教場で適宜紹介する</div>

日本語学(文法) A		JPLI-J-200	
担当教員： 黒崎 佐仁子			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J411850	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 文法を考えるとということ 02. 単語とは 03. 品詞とは 04. 品詞を考える（活用） 05. 格の問題 06. 自動詞と他動詞 07. ボイス（1）受け身 08. ボイス（2）使役 09. やりもらい 10. アスペクト「～ている」 11. テンス「～る」「～た」 12. 空間に関する表現 13. 意志に関する表現 14. 解釈の多義性 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目 【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目 【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文法は「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法A」では特に「命題」に重きを置く。また、「文法A」では主に単文を扱う。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>用語などに関する予習課題を提示する。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で取り上げた文法項目は、返却されたワークシートを用いて、必ず復習しておくこと。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業参加度</div><div>30%</div></div><div><div>(2) 課題</div><div>30%</div></div><div><div>(3) テスト</div><div>30%</div></div><div><div>(4) 中間レポート</div><div>10%</div></div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>言語に興味がある者の受講を歓迎する。また、授業内での積極的な意見交換ができればなおよい。</div>			
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 日本語</div><div>・ 言語</div><div>・ 日本語学</div><div>・ 文法</div><div>・ 日本語教員養成課程</div></div>		<div>教科書</div> <div>森山卓郎（2003）『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房</div> <div>参考書</div>	

日本語学(文法) B		JPLI-J-200								
担当教員：黒崎 佐仁子										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J411901								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 文法とは？</div> <div>02. モダリティ 断定と不確実 医者「インフルエンザらしいですね」→「インフルエンザのようですね」</div> <div>03. モダリティ 断定と不確実 天気予報「明日は雨でしょう」</div> <div>04. モダリティ 疑問文 「彼はどこにいるかどうかわからない」→「彼はどこにいるかわからない」</div> <div>05. モダリティ 意志 「じゃあ、ぼくがやるつもりだ」→「じゃあ、ぼくがやる」</div> <div>06. 主語と「は」と「が」</div> <div>07. 「象は鼻が長い」「僕はうなぎだ」</div> <div>08. とりたて 「女の子だけ来た」「女の子しか来なかった」</div> <div>09. 単文と複文</div> <div>10. 複文 「て」節</div> <div>11. 複文 条件文 「雨が降るとこの傘を差しなさい」→「雨が降ったらこの傘を差しなさい」</div> <div>12. 複文 逆接 「急いでいるのは分かるのに、車は使うな」→「急いでいるのは分かるが、車は使うな」</div> <div>13. 名詞修飾 「内の関係」「外の関係」</div> <div>14. 談話とテキスト</div> <div>15. まとめ</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文は、「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法B」では特に「モダリティ」に重きを置く。また、複文についても詳しく取り上げる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題を与える。各自、課題に取り組むこと。</div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>教員と受講生の双方向の授業を目指します。受講生の積極的な参加を歓迎します。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>毎時間始めにワークシートの返却を行うため、ワークシートを元に自主的にきちんと丁寧な復習を行ってほしい。</div>									
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業参加度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 課題</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) テスト</td><td>30%</td></tr><tr><td>(4) 中間レポート</td><td>10%</td></tr></table>		(1) 授業参加度	30%	(2) 課題	30%	(3) テスト	30%	(4) 中間レポート	10%
(1) 授業参加度	30%									
(2) 課題	30%									
(3) テスト	30%									
(4) 中間レポート	10%									
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・日本語</div><div>・文法</div><div>・複文</div><div>・モダリティ</div><div>・助詞</div></div>	<div>教科書</div> <div>森山卓郎（2003）『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房</div> <div>参考書</div>									

日本語学(音声・音韻) A		JPLI-J-200						
担当教員： 棚橋 明美								
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J412070						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 言語音を作る仕組み 音声について</div> <div>02. 音素と異音 有声音と無声音</div> <div>03. 母音</div> <div>04. 子音ー1（調音点と調音法）</div> <div>05. 子音ー2（カ行）</div> <div>06. 子音ー3（キャ行）</div> <div>07. 子音ー4（ガ・ギャ行）</div> <div>08. 復習とまとめ</div> <div>09. 子音ー5（サ行）</div> <div>10. 子音ー6（シャ行）</div> <div>11. 子音ー7（ザ・ジャ行）</div> <div>12. 子音ー8（タ・チャ行）</div> <div>13. 子音ー9（ダ行、ナ行）</div> <div>14. 子音ー10（ニャ行、マ・ミャ行）</div> <div>15. 復習 聴解練習</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の基礎を学ぶ。「あいうえお」など単音の発音について、規範的な発音法を学び、自分自身の発音との差異を考える。そのために、実際に発音したり音声を聞いたりして、積極的に音声の微妙な違いや自分の調音部位の状態を発見するような活動を行う。また、日本語の発音記号の書き方を身につける。</div> <div>試験は、日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、筆記と聴解の両方を課す。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の中の単音（分節音）についての知識と応用を学ぶ。日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業内で指示する。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>出席率100%をめざしてほしい（休むと分からなくなり、興味を失うことになるので注意）。
 後期の「日本語学（音声・音韻）B」も引き続き受講することが望ましい。実際に声を出して自分やクラスメートの発音を確かめることが重要なので、恥ずかしがらずに声を出してしてほしい。必ず手鏡を用意すること。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>復習シートは必ずやって次回提出すること。自宅で、習った範囲の教科書を精読すること。また、手鏡などをみながら発音して、自分の口の動きを観察してほしい。</div>						
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 期末テスト</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 出席と参加、授業貢献度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 課題提出</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 復習小テスト</td><td>10%</td></tr></table> <div>出席率70%を割ったものは、期末テストを受けられない。</div>	(1) 期末テスト	40%	(2) 出席と参加、授業貢献度	30%	(3) 課題提出	20%
(1) 期末テスト	40%							
(2) 出席と参加、授業貢献度	30%							
(3) 課題提出	20%							
(4) 復習小テスト	10%							
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 規範的発音</div> <div>・ 日本語教育</div> <div>・ 声を出す</div> <div>・ 発見</div> <div>・ 発音と発音記号</div>		<div>教科書</div> <div>棚橋 明美 『日本語教育能力検定試験に合格するための聴解問題10』（アルク）</div> <div>参考書</div>						

日本語学(音声・音韻) B		JPLI-J-200						
担当教員： 棚橋 明美								
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J412180						
<div>学部教育の関連目</div> <p>【J】 実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける</p>		<div>授業計画</div> <p>01. イントロダクション 韻律（プロソディー）とは？ 02. 拍と音節 03. フット 04. アクセントー１（機能） 05. アクセントー２（規則） 06. アクセントー３（名詞） 07. アクセントー４（表記法） 08. アクセントー５（名詞の聞き取り練習） 09. アクセントー６（動詞・形容詞） 10. イントネーションー１（機能） 11. イントネーションー２（終助詞との関係） 12. プロミネンス 13. フィラー、あいづち、プロソディー 14. 特殊拍 15. まとめと聴解練習</p>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <p>【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目</p>								
<div>(1) 内容</div> <p>日本語のアクセント・イントネーション・リズムなどの韻律（プロソディー）について学習する。実際の音声を聞いたり発音してみたりすることで、アクセントやイントネーションなどの韻律特徴をとらえ、体系化して考えることを学ぶ。規範とされる韻律体系と自分の発音や他の人の発音との差異について、実際に発音してみて確かめる。日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、試験問題なども扱う。</p>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>日本語教育の視点から、日本語音声学・音韻論の中の韻律（プロソディー）についての知識と応用を学ぶ。 日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。</p>		<div>準備学習(予習)</div> <p>先入観を持たずに音声を聞き、発見の喜びを感じてほしいので、予習については、授業時に指示する。</p>						
<div>受講者に対する要望</div> <p>前期の「日本語学（音声・音韻）A」の受講がのぞましい。「音声・音韻」Bから取った場合、ぜひ春学期のAも受講してほしい。出席率100%をめざしてほしい（休むと分からなくなり、興味を失うことになるので注意）。</p>		<div>準備学習(復習)</div> <p>教科書をよく読んで復習してもらいたい。復習シートは必ずやって、次の授業で提出すること。また、実際に発音して、自分の話し方を観察してほしい。</p>						
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 期末テスト</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 出席、参加、授業貢献度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 課題提出</td><td>10%</td></tr><tr><td>(4) 復習小テスト</td><td>20%</td></tr></table> <p>出席率70%を割った者は、期末テストを受けられない。</p>	(1) 期末テスト	40%	(2) 出席、参加、授業貢献度	30%	(3) 課題提出	10%
(1) 期末テスト	40%							
(2) 出席、参加、授業貢献度	30%							
(3) 課題提出	10%							
(4) 復習小テスト	20%							
<div>学びのキーワード</div> <p>・アクセント ・イントネーション ・プロミネンス ・プロソディー ・発見</p>		<div>教科書</div> <p>棚橋 明美 『日本語教育能力検定試験に合格するための聴解問題10』（アルク）</p> <div>参考書</div>						

韓国語コミュニケーション

CCOM-J-100

担当教員：溝口 カプスン

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1J412300

学部教育の関連目

【J】国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

正確な発音に基づく反復指導をする。特に、語彙を増やすこと発話力に重点を置く。
文法事項の復習も併行して行う。
また、韓国の現代社会・文化を理解するための映像教材を積極的に活用していく。

(2) 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。
1 韓国語で簡単な日常会話をする事
2 そのために必要な言語知識を身に付けること
3 韓国の現代社会・文化に対する理解を深めること

受講者に対する要望

韓国語I履修者を対象にする。
意思疎通が自由に行えるレベルにコミュニケーション能力を高める。

学びのキーワード

- ・韓国語会話
- ・韓国語の作文
- ・韓国の文化

授業計画

01. STEP 1 1 基本の文字を覚えましょう、基本会話I
02. 2 文字はこれで全部です、基本会話II
03. 3 パッチムと発音の変化、基本会話III
04. STEP 2 1 ホテルで名前を聞かれました
05. 2 フロントで時間をたずねました
06. 3 街で場所をたずねました
07. 4 友達の誘いをことわりました
08. 5 地下鉄に乗りました
09. 6 タクシーで観光をすすめられました
10. 7 メニュー選びに迷いました
11. 8 料理の感想を聞かれました
12. 9 伝統茶は種類が豊富です
13. 10 お茶を飲みながら話をしました
14. 11 市場で買い物をしました
15. 12 待ってくださいと言われました
16. 13 ショッピングに行きました
17. 14 警備員に注意されました
18. 15 商品をすすめられました
19. 16 値段の交渉をしました
20. 17 エステに行きました
21. 18 明日の予定を話しました
22. 19 劇場に行きました
23. 20 ロビーで話をしました
24. STEP 3 HOTEL／ホテル・TOWN／街中
25. TRANSPORTATION／交通・RESTAURANT／レストラン
26. TEAROOM／茶房・MARKET／市場
27. SHOPPING 1・2／買い物
28. AESTHETIC／エステ・THEATER／劇場
29. 韓国の現代社会に触れるI
30. 韓国の現代社会に触れるII

準備学習(予習)

韓国語の日記
発表準備

準備学習(復習)

毎回、学習内容から課題を指示する。
プリントを配布する場合もある。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 発表・レポート | 60% |
| (2) 小テスト・提出物 | 20% |
| (3) 授業態度 | 20% |

教科書

溝口甲順 『入門ドリル 書いて簡単！韓国語』（一藝社）

参考書

中国語コミュニケーション		SOCI-J-100						
担当教員： 閻 子謙								
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J412410						
<div>学部教育の関連目</div> <p>【J】国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする</p>	<div>授業計画</div> <p>01. ガイダンス 02. 発音復習 03. 第 1 ～ 1 3 課復習、応用練習 04. 同上 05. 同上 06. 同上 07. 同上 08. 同上 09. 同上 10. 同上 11. 第 1 4 課学習 12. 第 1 4 課復習、応用練習 13. 第 1 5 課学習 14. 第 1 5 課復習、応用練習 15. 第 1 ～ 1 5 課総合応用練習 16. 同上 17. 同上 18. 同上 19. 同上 20. 同上 21. 中国語検定試験合格特訓 22. 同上 23. 同上 24. 同上 25. 同上 26. 同上 27. 同上 28. 同上 29. 中国語作文演習 30. 同上</p>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div>								
<div>(1) 内容</div> <p>1、目的 初級の段階を終え、更に一段と上のレベルの中国語を学ぶ学生を対象とする。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 発音の正確さ、ピンインのマスターを確認しつつ、積極的に話し、楽しい中国語を味わう中級、中国語検定試験四級に相当する科目である。</p>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>改革開放政策に転じて以来、中国は大きな変貌を遂げた。市場経済を導入したことによって、社会の構造が激しく変化し、中国人でさえも、暫く中国から離れていて帰国すると、まるで異国へ来たかのような印象を持つと言う。地理的に近く、交流の歴史も長いお隣の国である中国と、そこで暮らす人々の生活習慣、価値観に触れ、最新知識を増やし、更に中国語の力を伸ばすことを目標とする。</p> <p>問答形式を基本スタンスとして、教師と学生の会話や学生同士の練習が主です。耳と口などを駆使する一連の作業を通して基本文型習熟させることが狙いです。形を変えて何回でも繰り返して話すことがポイントです。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>事前に教科書を読んでおくこと</p>							
	<div>準備学習(復習)</div> <p>前回の授業内容をおさらいすること。</p>							
<div>受講者に対する要望</div> <p>間違いを恐れず恥ずかしがらず積極的に授業に参加することが大事です。</p>	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 出席状況</td><td>20%</td></tr><tr><td>(2) 受講態度</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) 定期試験</td><td>40%</td></tr></table>		(1) 出席状況	20%	(2) 受講態度	40%	(3) 定期試験	40%
(1) 出席状況	20%							
(2) 受講態度	40%							
(3) 定期試験	40%							
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none">・ 四声を意識して発音すること。・ 発音表に基づいて自己チェックすること。・ テンポを上げて滑らかに音読すること。	<div>教科書</div> <p>開講時に指示します。</p> <div>参考書</div>							

日本語教授法講義		JPLI-J-100
担当教員：川口 さち子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J412520
学部教育の関連目		授業計画
【J】実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【J】日本語教員養成課程：必修科目		01. 外国語教授法の歴史 02. オーディオリンガル・メソッドとは 1 03. オーディオリンガル・メソッドとは 2 04. トータルフィジカルレスポンスとは 1 体験授業 05. トータルフィジカルレスポンスとは 2 体験授業 06. サイレントウェイとは 1 体験授業 07. サイレントウェイとは 2 体験授業 08. ヴェルボトナル法とは 09. コミュニカティブアプローチとは1 10. コミュニカティブアプローチとは2 11. 教師中心の教育から学習者主体の教育へ 12. ニーズ、シラバス、カリキュラム：コースデザイン 1 13. ニーズ、シラバス、カリキュラム：コースデザイン 2 14. 初級の文型と文法用語 15. 「話す」ための教室活動 1 16. 「話す」ための教室活動 2 17. 「書く」ための教室活動 1 18. 「書く」ための教室活動 2 19. 「聞く」ための教室活動 1 20. 「聞く」ための教室活動 2 21. 「読む」ための教室活動 1 22. 「読む」ための教室活動 2 23. 初級指導法 1文型の導入と教材・教具 24. 初級指導法 2 文型の導入と教材・教具 25. 初級指導法 3文型の導入と教材・教具 26. 初級指導法 4文型の導入と教材・教具 27. 視聴覚教材 ビデオ・DVD教材の実際 1 28. 視聴覚教材 ビデオ・DVD教材の実際 2 29. 中・上級指導法と教材 1 30. 中・上級指導法と教材 2
(1) 内容		
まず、いろいろな外国語教授法を学んだ上で、初級・中上級の指導法、4技能（聞く・話す・読む・書く）の指導法、教材の使い方などを中心に学んでいく。 （1）各種教授法を学ぶ際は、ビデオを視聴したり、受講生に模擬学生になってもらい、外国語のモデル授業を行い、それについて討論を行う。また、数名の学生を指名してレポートを書いてもらう。担当者は、授業内で発表し、その後質疑応答を行う。 （2）＜期末レポート＞指定したいくつかの課題の中から選び、「期末レポート」を書き、期末最後の講義時間に提出する。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
・日本語教員養成のための科目である。日本語教育概論をとった上で履修すること。この講義で、教授法の全体的なことを学び、日本語教授法演習へと進む。 ・第2言語としての日本語を外国人に教えるとはどういうことかということを知り、実際の現場で応用できるようにする。		
受講者に対する要望		
外国語のモデル授業を体験したり、ビデオ視聴を行ったりして、観察レポートを書いてもらうので欠席しないこと。欠席を3分の1を超えた場合は評価しない。		準備学習(復習)
学びのキーワード		
・日本語教育 ・教授法 ・第2言語習得 ・文型の導入 ・教室活動		
教科書		参考書
小林 ミナ 『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法 37』（アルク）		

日本語教授法演習		JPLI-J-200				
担当教員： 作田 奈苗						
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J412630				
<div>学部教育の関連目</div> <p>【J】 実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける</p>		<div>授業計画</div> <p>01. 日本語教授法についての概説 02. 教科書分析（1） 03. 教科書分析（2） 04. 教科書分析（3） 05. 教科書分析（4） 06. 教科書分析（5） 07. 文型分析（1） 08. 文型分析（2） 09. 文型分析（3） 10. 文型分析（4） 11. 文型分析（5） 12. 文型分析（6） 13. 文型分析（7） 14. 文型分析（8） 15. 文型分析（9） 16. 文型分析（10） 17. 文型分析（11） 18. 文型分析（12） 19. 文型分析（13） 20. 文型分析（14） 21. 文型分析（15） 22. 文型分析（16） 23. 文型分析（17） 24. 文型分析（18） 25. 文型分析（19） 26. 文型分析（20） 27. 文型分析（21） 28. 文型分析（22） 29. 文型分析（23） 30. まとめ</p>				
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <p>【J】 日本語教員養成課程：必修科目</p>						
<div>(1) 内容</div> <p>「外国人に対する日本語」の教え方の基礎を学ぶ。いろいろな日本語教科書の特徴を調べる。教科書として『みんなの日本語』を用い、日本語文法を「文型」という観点から捉える。 アセンブリーアワーに行われる実習報告会（例年10月または11月に実施）、留学生弁論大会（開催される場合は11月頃）への参加とレポート作成は、この授業の一環として必須事項とするのでスケジュールを空けておくこと。また、入試日などの大学休校日を利用して、日本語学校の授業見学を行う予定である。</p>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>「外国人に対する日本語の教師」になるための心構えをつくり、必要な基礎知識を身につける。受講資格は、「日本語教授法講義」を履修済みであること。また、この演習の単位を取得しなければ、「日本語教育実習」の履修の資格は得られない。</p>		<div>準備学習(予習)</div> <p>教科書『みんなの日本語』で文型分析をするが、発表担当でない課についても、事前に目を通して、何を教えるのかを考えておくこと。</p>				
<div>受講者に対する要望</div> <p>日本語教師志望でない学生も受け入れるが扱いは志望者と区別しない。授業は演習形式で進められ、課題も多く課せられるので覚悟して臨むこと。主体的・積極的に取り組んでほしい。</p>		<div>準備学習(復習)</div> <p>文型分析した課の語彙や文型について、復習する。導入の仕方を復習したり、授業内で扱えなかった文型についても各自で、導入方法を考えてみる。分からないことは、次の授業で質問し、疑問を無くす努力をすること。</p>				
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 期末試験</td><td>60%</td></tr><tr><td>(2) 課題と授業への参加度</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 授業参加の積極性</td><td>20%</td></tr></table> <p>期末試験50%以上の得点、出席率70%以上、かつ課題提出率100%を単位取得の条件とする。</p>	(1) 期末試験	60%	(2) 課題と授業への参加度	20%
(1) 期末試験	60%					
(2) 課題と授業への参加度	20%					
(3) 授業参加の積極性	20%					
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none">日本語の教え方教科書分析文法・文型分析教科書『みんなの日本語』日本語教師		<div>教科書</div> <p>スリーエーネットワーク、スリーエーネットワーク『みんなの日本語 初級1 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク） スリーエーネットワーク 編著『みんなの日本語 初級1! 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク）</p> <div>参考書</div>				

日本語教育実習

JPLI-J-300

担当教員：黒崎 佐仁子

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 1J412740

学部教育の関連目

【J】 実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】 日本語教員養成課程：必修科目

(1) 内容

・外国人学生に日本語を教えるための実践的な力を養う。

1 教室内作業

1）教科書の各課の指導項目を把握・分析し、各項目の導入方法およびドリルや会話等の練習方法を学び、教案が立てられるようにする。

2）指導項目にあった、教材が作成できるようにする。

3）模擬授業を行い、実際の教壇に立てるようにする。

2 現場実習…夏休みの2週間を使い、実際に日本語教育機関で見学および教壇実習を行う。見学ノート・教壇実習の教案およびそのレポート・日本語教育機関での実習を終えてのレポートを作成、提出する。

※このほかに、本学の日本語授業にボランティアとして入ってもらうことがある。また、現場実習へ行く前に自主トレーニングを行ってもらう予定である。

(2) 学びの意義と目標

・日本語教授法演習を終了し、いよいよ実践への応用となる段階である。

・この科目を履修することにより、現場で実際に教えられる力を身につけてほしい。

受講者に対する要望

教案を何度も書き、練り上げて、模擬授業を行う。また無断欠席した者は評価の対象としない。

課題が十分にできない場合は、現場実習に参加できないことがある。

学びのキーワード

・日本語教育

・実習

・教案作成

・教材作成

・模擬授業

授業計画

01. 講義概要・実習とは・教案作成の方法・予備テスト

02. 『みんなの日本語I・II』の構成および各課の指導項目の把握・分析

03. 『みんなの日本語I・II』の構成および各課の指導項目の把握・分析・教案作成準備

04. ラフ教案作成・発表

05. 文型教案詳細発表

06. 模擬授業（文型）

07. 模擬授業（文型）

08. 模擬授業（文型）

09. 模擬授業（文型）

10. 漢字教案作成

11. 模擬授業（漢字）

12. 模擬授業（漢字）

13. 模擬授業（漢字）・聴解教案作成

14. 模擬授業（聴解）

15. 模擬授業仕上げ

準備学習(予習)

履修者にはほぼ毎回発表してもらう。取り組みが不十分な者は、現場実習に参加できないことがあるので、発表者はレジュメ・教案を十分に準備すること。

準備学習(復習)

本学の日本語授業に参与観察してもらうことがある。その場合は、見学レポートを提出する。実習校での現場実習に参加する前に、教科書に再度目を通し、各課の文型・新出語彙は整理しておくこと。

評価方法

(1) 教案と発表

40%

(2) 討論への参加度

10%

(3) 出席状況

10%

(4) 実習校での評価

20%

(5) 実習レポート・見学レポート

20%

教科書

スリーエーネットワーク編『みんなの日本語初級I 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク）

スリーエーネットワーク編『みんなの日本語初級II 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク）

学校法人KCP学園KCP地球市民日本語学校編『新装版1日15分の漢字練習 初級～初中級 上』（アルク）

学校法人KCP学園KCP地球市民日本語学校編『新装版1日15分の漢字練習 初級～初中級 下』（アルク）

参考書

日本語教材・教具論		JPLI-J-200
担当教員： 作田 奈苗		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J412850
学部教育の関連目		授業計画
【J】実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. 教材とはーレベル・ニーズに合わせた教材選び・教材作り 02. ネット上の日本語学習教材（１） 03. ネット上の日本語学習教材（２）ー教材分析の発表 04. 語彙・文型の導入とドリル（１）ー絵カードの作成ーネットで素材を集める 05. 語彙・文型の導入とドリル（２）ー文型導入ーPowerPointの利用 06. 語彙・文型の導入とドリル（３）ー導入およびドリル教材の発表 07. 文型練習（１）ーオーディオリンガル法のドリルーWord、Excelの利用 08. 文型練習（２）ーオーディオリンガル法のドリル発表・会話練習作成 09. 文型練習（３）ー会話練習の作成 10. コントロールされた日本語ー初級読解教材を作る 11. 初級作文教材（１）ー作文教材の作成 12. 初級作文教材（２）ー作文教材例の発表 13. ICTと日本語教育（１） 14. ICTと日本語教育（２）ーICTを利用した授業案発表 15. 生教材利用の留意点
【J】日本語教員養成課程：選択科目		
(1) 内容		
この授業では、日本語を教えるときの効果的な教材の選び方、使い方、及び、作り方について考える。 日本語教師は、学習者のレベルや学習目的に合わせた確かな教材を用意できなければならない。そのため、教材選択の留意点を学び、また、どんなものが教材の素材になり得るかを学ぶ。さらに、その素材をもとに実際の教材を作成し、利用する実践力を身につける。 授業では講義だけではなく実際の教材作成に取り組み、それを発表し互いに検討する。		
(2) 学びの意義と目標		
・学習者のレベルや学習目的に合わせた教材を選んだり作ったりできるようになること。 ・インターネットなどのメディアの中から教材として使える素材を入手し、それを利用した教材を作れるようになること。 ・教育のICT利用に積極的に取り組めるようになること。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
日本語教員養成課程関係科目である。日本語教育概論、教授法講義で学んだ知識を生かし、教授法演習、教育実習へと進むための準備を行う。したがって、日本語教育概論及び日本語教授法講義を履修していることが望ましい。日本語教育に関する前提知識がなければ、課題作成にも取り組めず、単位取得は難しい。		課題の教材を完成させ、発表する準備をしておくこと。原則的に発表の割り当てられた日に発表できなければ、評価されない。
		準備学習(復習)
		発表時の質問、講評をもとによりよい教材に仕上げる。
		評価方法
		(1) レポート・教材作成（発表も含む） 70% (2) 授業参加 30%
		合計60点以上を単位取得の条件とする。
学びのキーワード		教科書
・日本語教育 ・教材 ・作成		スリーエーネットワーク 『『みんなの日本語 初級I 第2版 本冊』』（スリーエーネットワーク）
		参考書

日本文学特殊講義 1		JLIT-J-300									
担当教員： 家永 香織											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1J413000									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 古典和歌の基礎知識－和歌とは何か</div> <div>02. 和歌の修辞・現代の歌詞やキャッチコピーに見られる和歌的レトリック</div> <div>03. 様々な和歌</div> <div>04. ことば遊びの歌</div> <div>05. 歌集（１）－勅撰集</div> <div>06. 歌集（２）－私家集（個人歌集）</div> <div>07. 本歌取り</div> <div>08. 題詠（１）－題詠とは何か</div> <div>09. 題詠（２）－男歌と女歌（藤原定家と式子内親王は恋仲だったのか）</div> <div>10. 題詠（３）－物語の作中人物になりかわる歌（平安時代の二次創作）</div> <div>11. 物語と和歌（１）－和歌から物語へ（「うた恋い。」の藤原義孝）</div> <div>12. 物語と和歌（２）－物語の中の和歌（『虫愛づる姫君』①）</div> <div>13. 物語と和歌（３）－物語の中の和歌（『虫愛づる姫君』②）</div> <div>14. 物語と和歌（４）－物語の中の和歌（『虫愛づる姫君』③）</div> <div>15. ここまでのまとめと理解度確認</div> <div>16. 女流日記と和歌－『更級日記』</div> <div>17. 説話と和歌（１）－歌徳説話・死者の歌</div> <div>18. 説話と和歌（２）－勅撰集入集や秀歌詠出への執念</div> <div>19. 軍記と和歌（１）－『平家物語』①（和歌をどう利用しているか）</div> <div>20. 軍記と和歌（２）－『平家物語』②（歌人をどう描いているか－平忠度・源頼政）</div> <div>21. 和歌を訳す・つくる・翻案する</div> <div>22. 歌物語を読む（１）－『伊勢物語』①（業平と斎宮）</div> <div>23. 歌物語を読む（２）－『伊勢物語』②（女を盗む話）</div> <div>24. 歌物語を読む（３）－『大和物語』①（二人の男が一人の女を争う）</div> <div>25. 歌物語を読む（４）－『大和物語』②（玉の奥に乗った女と零落した男）</div> <div>26. 私家集を読む（１）－『隆房集』と『隆房の恋づくし』①</div> <div>27. 私家集を読む（２）－『隆房集』と『隆房の恋づくし』②</div> <div>28. 私家集を読む（３）－『隆房集』と『隆房の恋づくし』③</div> <div>29. 私家集を読む（４）－『隆房集』と『隆房の恋づくし』④</div> <div>30. まとめと理解度確認</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>和歌は難しいと考えている人が多い一方で、「うた恋い。」や「ちはやふる」などの漫画の影響で、和歌に興味を持つ学生も増えている。本講義では、主に平安から鎌倉時代の和歌を取り上げ、和歌とは何かというところからはじめ、古典和歌に関する様々な知識や、散文（物語・女流日記・軍記・随筆など）と和歌との関連、また当時の人々にとって和歌がどのようなものであったかについて解説する。和歌は必ずしも格調高いものばかりではなく、言葉遊びの類も少なくない。アニメ「うた恋い。」のDVD、現代のJ-POPの歌詞やキャッチコピーなども教材として利用し、わかりやすい説明をこころがけたい。また、多くの作品を取り上げるので、多様な作品を読む楽しみも感じてもらえると思う。様々な作品を読みながら、和歌のおもしろさを味わって欲しい。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>和歌は、時にはコミュニケーションツールとなり、時には人々をピンチから救ったり幸福に導いたりする力があつた。また、一首の和歌から物語や説話が生まれることもある。たった一首の和歌があることによって、物語の主人公の性格が明らかになったり、場面が劇的に盛り上がり上がったりすることもある。和歌を抜きにして、日本文学を語ることはできない。和歌にはどのような力があるのか、人々が和歌をどのようにとらえていたのか、歌人が何を考えて和歌を詠んでいたのか、物語や女流日記の筆者は和歌をどのように利用したのか。そうしたことを知ることを、本講義の目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>作品の概要を文学辞典などで確認しておく。図書館1階にある『日本古典文学大辞典』（岩波書店）や『日本古典文学大事典』（明治書院）などを活用して欲しい。</div>									
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートの見直しと整理をする。ノートを見直す過程で疑問点が見つかったら、次の授業の際に質問して欲しい。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>ノートをしっかりとることを心がけて欲しい。テストはノートのみ持ち込み可とする。板書を漫然と写すのではなく、講義をきちんと聞き、重要だと思ったことは、板書されなくてもノートに書くようにして欲しい。また、疑問が生じたら積極的に質問して欲しい。授業に直接関係しないことでも可能な限り答え、受講者が授業をきっかけに関心を広げていくことを手助けしたい。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 中間テスト</td><td>50%</td><td>ノート持ち込み可。</td></tr><tr><td>(2) 平常点</td><td>20%</td><td>毎回提出してもらうリアクションペーパーの内容も加味する。</td></tr><tr><td>(3) 期末レポート</td><td>30%</td><td>授業時間中に書いてもらう。</td></tr></table>	(1) 中間テスト	50%	ノート持ち込み可。	(2) 平常点	20%	毎回提出してもらうリアクションペーパーの内容も加味する。	(3) 期末レポート	30%	授業時間中に書いてもらう。
(1) 中間テスト	50%	ノート持ち込み可。									
(2) 平常点	20%	毎回提出してもらうリアクションペーパーの内容も加味する。									
(3) 期末レポート	30%	授業時間中に書いてもらう。									
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">古典文学和歌歌物語</div>		<div>教科書</div> <div>テキストは使用せずプリントを配布する。</div> <div>参考書</div>									

日本文学特殊講義 2		JLIT-J-300
担当教員： 前田 潤		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1J413110
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 「東日本大震災」への視点(1) 「被災」の周辺から 03. 「東日本大震災」への視点(2) 初期報道の問題点 04. 「東日本大震災」への視点(3) 文化領域への蚕食 05. 「東日本大震災」への視点(4) 被災と「モラル」をめぐって 06. 天災と「共同体」をめぐる思考(1) 07. 天災と「共同体」をめぐる思考(2) 08. 予告された「震災」の記憶 高嶋哲夫「TUNAMI」 09. 震災発生と情報停滞(阪神淡路大震災) 10. 報道と「震災」の輪郭(阪神淡路大震災) 11. 復興と作家のボランティア実践(1)(田中康夫) 12. 復興と作家のボランティア実践(2)(田中康夫) 13. 震災とコミック 14. 「暴力」としての「震災」(1)(村上春樹) 15. 「暴力」としての「震災」(2)(村上春樹) 16. 震災直後の社会心理と救済(1)(宮本輝) 17. 震災直後の社会心理と救済(2)(宮本輝) 18. 災害ユートピア(1)(9・11) 19. 災害ユートピア(2)(ハリケーンカトリーナ) 20. 「例外状態」と絶滅収容所の記録(1) 21. 「例外状態」と絶滅収容所の記録(2) 22. 震災と戦争(1)(小田実) 23. 震災と戦争(2)(小田実) 24. 物語的機縁としての「震災」(1)(東野圭吾) 25. 物語的機縁としての「震災」(2)(東野圭吾) 26. 震災直下の大正期メディア(1)(関東大震災) 27. 震災直下の大正期メディア(2)(関東大震災) 28. 震災の視覚像(竹久夢二) 29. 大正期婦人雑誌の変貌(菊池寛) 30. 震災モラトリウムと小説言説(村上浪六)</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>◆天災の発生が、同時代の社会・文学にどのような影響を与えてきたのかについて、多角的に考察する。「東日本大震災」の余波から議論を始め、「関東大震災」および「阪神淡路大震災」の発生が、小説を「書く」ことや「読む」こと、また、新聞雑誌に連載中の小説や各種刊行物にどのような影響を与えたのかをつぶさに検討する。同時に、多くの文学作品の中絶・変貌・誕生と深く関わる、震災直下のメディア状況や、罹災社会の混乱を考察する。「例外状況」と「文学」ソフトという観点から、戦争と文学との関わりについても言及する。なお、授業では映像資料を活用する。 ◆専門領域への知を深化させてゆく契機となる講座である。 ◆小説の言葉が、現実とどのように関わりながら編成されてゆくのかを知ると共に、震災被害の実態や社会・文化への影響、復興の問題点などについても学んでゆく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>地震と文学との距離をめぐって思考することを通じて、「出来事」の重みに触れると共に、「出来事」が「構成」されるものでもあることをも知って欲しい・</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で扱う全ての文学テキストを読む必要は無いが、村上春樹の「震災」小説など、時間をかけて取り上げる2～3篇の作品については読了してもらいたい。また、班分けをして班ごとに報告してもらう場合もある。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回の講義内容の整理と、紹介したテキストに触れることが重要。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>「地震」そのものについて学ぶ授業ではなく「地震」が「われわれ」に何をもたらすか、という点について考える授業であることを知っておいて貰いたい。被災者と非被災者を共に「当事者」とする地点から講義する。初回の授業には必ず参加すること。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点50%</div><div>(2) 最終試験50%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・地震</div><div>・復興</div><div>・震災</div><div>・例外状況</div><div>・戦争</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

言語使用と社会		LING-J-200						
担当教員： 内藤 みち								
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J413790						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業概要、「ファティック」 02. 「察し」 03. 「集団語／属性」（１） 04. 「集団語／属性」（２） 05. 非言語コミュニケーション（１） 06. 非言語コミュニケーション（２） 07. 言語と文化（１） 08. 中間試験 09. 言語と文化（２） 10. 言語変化（１）／語彙 11. 言語変化（２）／文法 12. 言語変化（３）／音声 13. 「対称詞」 14. 「自称詞」 15. 総まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】日本語教員養成課程：選択必修科目</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>日本語の特徴的表現に対する外国人の理解や受けとめ方を通しその特質を学んだり、日常使用している日本語を様々な角度から分析し話者の属性や対話対象との人間関係等の規則性を捉えていく社会言語学的内容となる。特定の日本語表現に対する諸外国の人々の理解や異なるコミュニティに属する日本人の受けとめ方については主に読み物を通し触れていくが、受講生自身の言語活動もその特質を導き出す分析対象となる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>日本語表現等を拾い出し考察する事前課題がある。</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語母語話者の言語意識や言語活動から日本語の特質やその規則性を見い出していくことにより、日本語が話される社会の規則性に触れていく。日本語の表現を通し、属しているコミュニティや話し手と聴き手の人間関係を導き出したリ、社会背景の変化をみる。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>日本語以外の言語を学んだ経験や、外国語に通じているとより理解に易しい。日本語やその規則性に興味を持ち、積極的に身のまわりで使用されている表現に目を向けてほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内容に関する復習練習問題がなされ、その解答をディスカッション形式で行う。授業内容で扱った言語表現や言語活動の身のまわりでの使用を取り上げ考察する復習がある。</div>						
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・日本語のコード</div><div>・集団語</div><div>・非言語コミュニケーション</div><div>・言語と文化</div><div>・言語変化</div></div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 中間試験</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 期末試験</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) 平常点等</td><td>20%</td></tr></table> <div>多少%が変更されることもある。授業の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とならない。</div>	(1) 中間試験	40%	(2) 期末試験	40%	(3) 平常点等	20%
(1) 中間試験	40%							
(2) 期末試験	40%							
(3) 平常点等	20%							
		<div>教科書</div> <div>教師作成教材</div>						
		<div>参考書</div>						

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 4 コード： 1J413810

授業計画

01. 【導入】ガイダンス。「漢字・漢文に関するアンケート」実施
02. 【基礎編】漢字・漢文についての基礎知識 「漢字」とは何か。「漢文」とは何か。「六書」について
03. 「訓読」とは何か。「訓読学」の発達とその特性
04. 訓読法の基礎（１）基本文法の説明。「復文」についての説明と「復文」を学ぶ意義の理解
05. 訓読法の基礎（２）文法の要点「音読みと訓読み」について 「復文練習①」
06. 訓読法の基礎（３）文法の要点「虚詞（置き字・助字など）」について
07. 訓読法の基礎（４）文法の要点「再読文字」について 「復文練習②」
08. 訓読法の基礎（５）文法の要点「返読文字」について
09. 訓読法の基礎（６）文法の要点「語気詞」について 「復文練習③」
10. 【応用編】訓読の要領（１）「書き下し文」について
11. 訓読の要領（２）「送り仮名」について 「復文練習④」
12. 訓読の要領（３）訓読の「ゆれ」について
13. 訓読の要領（４）短文の訓読「熟語の構造と訓読」 「復文練習⑤」
14. 訓読の要領（５）短文の訓読「故事成語の訓読」
15. 訓読の要領（６）長文の訓読「大意の把握」 「復文練習⑥」
16. 訓読の要領（７）長文の訓読「管到と解釈」
17. 訓読の要領（８）長文の訓読「特殊な構文—条件文など」 「復文練習⑦」
18. 訓読の要領（９）長文の訓読「特殊な構文—対語・対句・比喩など」
19. 【中間確認】 訓読法の発達の歴史とその特徴のまとめ 「復文練習⑧」
20. 【実践編】訓読が日本語・日本文化に与えた影響（１）「現代社会の漢字使用の現状と課題」
21. 訓読が日本語・日本文化に与えた影響（２）「日本語における漢語」 「復文練習⑨」
22. 和漢比較文学という視点—「人虎伝」と「山月記」
23. 内容の解釈とその訓読法の研究（１）古代中国の思想『論語』 「復文練習⑩」
24. 内容の解釈とその訓読法の研究（２）古代中国の思想『老子』
25. 内容の解釈とその訓読法の研究（３）中国の正史『史記』・項羽本紀 「復文練習⑪」
26. 内容と解釈とその訓読法の研究（４）中国の正史『史記』・高祖本紀
27. 内容と解釈とその訓読法の研究（５）近体詩と古体詩—李白・杜甫の作品を中心に 「復文練習⑫」
28. 内容と解釈とその訓読法の研究（６）「長恨歌」と日本文学
29. 内容の解釈とその訓読法の研究（７）「漢文におけるアクティブ・ラーニング考察」 「復文練習⑬」
30. 【総まとめ】 「訓読」が日本語・日本文化に与えた影響のまとめと、現代において漢文を学ぶ意義の確認

各授業のはじめに、「復文練習」を行うので事前に問題を解いてきてください。

レポートに備えて、毎時間の授業内容を200字程度でまとめておいてください。

(1) 筆記試験	70%
(2) レポート	30%

筆記試験では資料・ノート等の持ち込みを禁止します。

『漢文訓読入門』 古田島洋介・湯城喜信著 明治書院 2011年

『社会人のための 漢詩漢文小百科』 田部井文雄・菅野禮行・江連隆・土屋泰男編著 大修館書店 1990年
『白文攻略 漢文法とりとて学び』 加藤徹著 白水社 2013年

中国の文語文（古代漢語の文）を、日本式に読むという「訓読」を通して発達してきた学問が「訓読学」です。この授業では、「訓読」の基礎を確認しながら、白文を読み解いていきます。

まず、導入として、漢文訓読法や漢字の六書といった「訓読」に際して必要な基本事項を確認します。その後、応用・実践として、漢字や漢文が日本に与えた影響を学びながら、日本人にも馴染みのある作品（『論語』『白氏文集』『史記』及び李白・杜甫の漢詩など）を中心に、訓読法の研究とその解釈をしていきます。

なお、漢文の構造を理解し、白文を解釈する力を付けるために、毎週1回、復文による文法練習を実施します。

「訓読」の特性や、その歴史的背景を理解することにより、現代の日本社会に生きる私たちが漢文を学ぶ意義を考察します。

平成30年度改訂の学習指導要領では、「アクティブ・ラーニング」の視点が重視されるようになります。このことを踏まえ、授業では従来の漢文学に留まることなく、漢文分野における「アクティブ・ラーニング」を具体化する方法を研究し、同時に、日本語・日本文化に対する専門性を高めることを目標とします。

また、訓読法を身に付け、白文と直接向き合うことで、中国の古典作品に対する理解を深めることも目指します。

- ・ 漢文訓読
- ・ 漢文法と復文
- ・ 白文読解
- ・ 訓読と日本語・日本文化
- ・ 漢語と現代社会

日本史の研究(古代史特論)		HIST-J-200
担当教員： 稲田 奈津子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J510100
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（１）—『古事談』について— 02. ガイダンス（２）—花山帝の出家の真相— 03. 内裏焼亡と神鏡（１） 04. 内裏焼亡と神鏡（２） 05. 三舟の才—有能な官人たち—（１） 06. 三舟の才—有能な官人たち—（２） 07. 除目—人事の悲喜劇—（１） 08. 除目—人事の悲喜劇—（２） 09. 天皇の死と皇位継承（１） 10. 天皇の死と皇位継承（２） 11. 説話からみる出土文字資料（１） 12. 説話からみる出土文字資料（２） 13. 貴族と信仰の世界（１） 14. 貴族と信仰の世界（２） 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>鎌倉時代初期に成立した説話集『古事談』には、平安時代後期を中心に、多彩な話題が掲載されている。歴史的事実に即した内容もあれば、史実とは異なる虚構や怪異譚なども含まれている。しかしそこには、平安時代の具体像を彷彿とさせる様々な要素が散りばめられている。本講義では、『古事談』所載の説話を糸口に、平安時代の文化・社会・精神などが窺われるトピックスを取りあげ、関連史料と読み比べるなど歴史学的に検討を加えることを通して、時代の雰囲気をつ捉えていきたい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ある出来事が、伝えるメディアによってそれぞれ異なる切り口で語られるのは、今も昔も同じである。本授業では、『古事談』の説話を基本にしつつ、関連する歴史史料と読み比べていくことで、平安社会の具体像に迫るとともに、それぞれの史料（メディア）の性格も考えていきたい。こうした作業を通して、史料読解や史料批判など、歴史史料の基本的なとりあつかい方を学ぶとともに、ひとつのメディアを鵜呑みにしない批判的精神を養い、問題を発見し解決するための論理的な思考過程を身につけることを目指す。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>次回講義に関連するプリントを配布するので、事前に目を通しておくこと。授業中に指名して史料を音読してもらう。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>画像を多く見てもらうので、教室の前方に着席してほしい。また意見・質問など、授業中や授業後、提出カード等を利用して、積極的に出してほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業は配布プリントを中心に進めるので、プリントを読み直して復習し、次の小テストに備えること。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 平安時代</div><div>・ 古事談</div><div>・ 貴族社会</div><div>・ 史料読解</div><div>・ 精神文化</div></div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 筆記試験</div><div>40%</div><div>(2) 小テスト</div><div>30% 毎時間実施</div><div>(3) 提出カード</div><div>30% 毎時間提出</div></div>
		<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div>
		<div>参考書</div>

日本史の研究(中世史特論)		HIST-J-200
担当教員：伊川 健二		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J510210
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 平安・鎌倉時代(1)—海商 03. 鎌倉時代—禅僧(1) 04. 南北朝時代—前期倭寇 05. 室町時代(1)—禅僧(2) 06. 室町時代(2)—商人 07. 室町時代(3)—諸権門 08. 室町時代(4)—幕府 09. 室町時代(5)—対馬・琉球 10. 戦国時代(1)—倭人 11. 戦国時代(2)—ヨーロッパ商人 12. 戦国時代(3)—後期倭寇 13. 戦国時代(4)—宣教師 14. 織豊時代—大名、豊臣政権 15. 学期末のまとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>電子メールも通信衛星もない時代、交易、情報交流、文化の伝達は、人の移動なしにはありえなかった。倭寇、戦争において人の移動が必須であることはいうまでもない。本講義では、日本中世の国際（地域間）交渉を担った国内外における人々の集団に着目し、彼らを取りまく環境と、降りかかる事件について学ぶ。 日本中世史とは、おおよそ平安末から戦国時代を意味する。その時期の日本が外部地域とどのような接点をもっていたのかについて、基礎的な事柄を平易に解説しつつ、歴史学の方法論を概観する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>対外関係は、日本のみならず、韓半島、中国、南ヨーロッパなど関係する多くの国々に残されている史料を読み解く必要のある領域である。人物集団という具体的な素材をもとに、そのことの楽しさと困難を学ぶ。また、受講者の雰囲気は許せば、単に講義を聞くばかりではなく、提出カードを通じた質問はもとより、絵画による当時のイメージの復元を試みたいと思っている。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>各項目の概要を歴史辞書等で事前に確認しておくとう理解の助けになるでしょう。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>本講義でとりあげる人物集団の多くは、高校までの日本史のなかでは必ずしも焦点があてられることがない人々です。ですから、高校までの日本史履修の有無や得意・不得意に関わらず、気楽に聴講してください。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリントは、整理して毎回持参してください。折に触れて以前のプリントを参照することがあります。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 学期末のまとめ80% 具体的には試験（持ち込み可）を想定している。</div><div>(2) 授業内での提出カード20% 提出カードの優秀者には、別途加点を行なう。</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 中世史</div><div>・ 交流史</div><div>・ 日本</div><div>・ 対外関係史</div><div>・ アジア</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>本講義全体に関する参考書はありませんが、個別テーマについての文献情報は、理解をより深めたい方のために適宜共有します。</div>

日本史の研究(近世史特論)			HIST-J-200
担当教員： 上安 祥子			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J510320	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 近世人の〈世界〉認識 03. オランダ商館に集う人びと 04. 長崎屋に集う人びと 05. 「素人」、地図を売る 06. 伊勢参り、そのついでにどこへ行く？－江戸時代の旅と観光(1) 07. 江戸へ出頭、そのついでにどこへ行く？－江戸時代の旅と観光(2) 08. 『政談』の写本 09. 「馬鹿」も「あほう」もランク付け 10. 偕楽園主人とは誰か 11. 魚めづる殿様、虫めづる殿様、鳥めづる殿様 12. 花を育てる人びと 13. 旅する団十郎－天保改革の一側面(1) 14. 奮闘する江戸町奉行－天保改革の一側面(2) 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>江戸時代に生きた、さまざまな人びとの生活感覚を垣間見ることができる多様な史料にふれ、江戸という時代と社会の意識や志向、社会情勢、人と人とのつながりを読み解く。 まずは、史料を目にする、そして史料に接することに慣れる、ということからはじめて、調べる、読む、考える、といった手順をふんで、歴史を研究する基礎的な作業を体験し、学ぶ。 取り扱う史料は、文献だけではなく、地図や植物画・動物画などもあり、適宜、画像を映写する。また、史料を実際に手にとる機会も、設ける予定である。 なお、文献史料については、原文と読み下し文を配布プリントに併記し、読み方や意味などは、授業時間内に確認・理解できるよう、授業をすすめる。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>史料は、なんらかの〈情報〉を発信している。その〈情報〉には、人や書物などに媒介され、運ばれるだけではなく、人と人とが、〈情報〉に媒介され、社会的な関係をつくりあげていく、という側面がある。 そのような関係の諸相を読み解く作業を通じて、〈覚える〉ものとしてではなく、〈思考する〉ものとして、歴史に向き合う姿勢を身に付けることを目指している。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>* 次回の授業内容に関して課題を出すので、簡略に答えられるように(指名する)準備をして、授業に出席すること。 * 準備した答えが、修正を必要とする内容であっても、成績評価には関係ない。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>* 史料の内容について、キー・ワードや大意を復習すること。 * 参考文献を読み進めること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>* 予習課題、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、発言を求めた際、「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり準備しておくこと。その場で考えるものについては、間違うことをおそれたりためらったりせずに、はっきり意見を述べること。 * 辞書や文献などに書かれていることを探し出してわかった気になるのではなく、ほんとうにそうか？ なぜそうなのか？ といった問題意識をもってもらいたい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業内試験</div><div>55%</div><div>* 最終回の第15回に、論述形式の授業内試験を行う。 * 論述の字数などは、時期をみて、授業のなかで説明する。</div></div><div><div>(2) 小レポート</div><div>45%</div><div>小レポートは80～100字程度を毎回提出。その日の授業内容に関して、10分程度で記述。</div></div></div> <div>* 出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。 * 公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 歴史を〈思考する〉 ・ 江戸時代 ・ つながり</div>		<div>教科書</div> <div>なし。毎授業、プリントを配布する。</div> <div>参考書</div> <div>毎授業、複数冊、紹介する。</div>	

日本史の研究(近代史特論)	
担当教員： 松井 慎一郎	
学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： 1J510410	
学部教育の関連目	授業計画
カリキュラム上の位置付け	01. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 02. 幕末の外患 03. 明治維新と富国強兵（1） 04. 明治維新と富国強兵（2） 05. 朝鮮問題（1） 06. 朝鮮問題（2） 07. 日清戦争（1） 08. 日清戦争（2） 09. 日露戦争（1） 10. 日露戦争（2） 11. 韓国併合（1） 12. 韓国併合（2） 13. 第一次世界大戦（1） 14. 第一次世界大戦（2） 15. まとめ
(1) 内容 近代日本は、台湾出兵、甲申事変、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦というように、10年おきに対外戦争を繰り返す、まさに「戦争の時代」であった。本講義では、何故そのような「戦争の時代」を招来してしまったのかという疑問を解明すべく、明治、大正期に経験した戦争の経過を、当時の政治・経済・思想的背景を踏まえながら辿っていく。	
(2) 学びの意義と目標 ・戦争を軸に、日本近代史（明治から大正期）を総合的に考察する。 ・基礎的な史料読解力を養う。	準備学習(予習) 各回で取り上げる事項に関する予備知識を持った上で臨むこと。
	準備学習(復習) 授業中の疑問点や不明点は、教員への質問や参考文献（プリントの末尾に記載）の読解によって解決すること。
受講者に対する要望 秋学期の「日本史の研究（現代史特論）」と密接な繋がりがあるので、併せて受講してもらいたい。	評価方法 (1) 期末試験 80% (2) 平常点 20%
学びのキーワード ・日本近代史 ・戦争 ・政治 ・経済 ・思想	教科書 プリントを配布する 参考書 授業のなかで指示する

日本史の研究(現代史特論)					
担当教員： 松井 慎一郎					
学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： 1J510510					
学部教育の関連目	授業計画				
カリキュラム上の位置付け	01. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 02. 満洲事変と「満洲国」樹立（1） 03. 満洲事変と「満洲国」樹立（2） 04. 日中全面戦争（1） 05. 日中全面戦争（2） 06. アジア・太平洋戦争の勃発（1） 07. アジア・太平洋戦争の勃発（2） 08. 「大東亜共栄圏」の実態（1） 09. 「大東亜共栄圏」の実態（2） 10. 学徒出陣 11. 「特攻」と「玉砕」（1） 12. 「特攻」と「玉砕」（2） 13. 「大日本帝国」の崩壊（1） 14. 「大日本帝国」の崩壊（2） 15. まとめ				
(1) 内容 戦後70年以上が経過し、日本の社会において戦争の記憶が急速に失われつつある。300万人以上もの犠牲者を出してしまったアジア・太平洋戦争（「大東亜戦争」）とはいかなる戦争であったのか。広大な中国を相手にしながら、産業力において圧倒されていたアメリカとの戦争に踏み切ったのはなぜか。また、そもそもなぜ中国と戦うことになったのか、等々。悲劇の道を歩むこととなった軍国主義時代の日本を検証していく。					
(2) 学びの意義と目標 <ul style="list-style-type: none"> ・戦争を軸に、昭和史を総合的に考察する。 ・基礎的な史料読解力を養う。 	準備学習(予習) 各回で取り上げる事項に関する予備知識を持った上で臨むこと。				
	準備学習(復習) 授業中の疑問点や不明点は、教員への質問や参考文献（プリントの末尾に記載）の読解によって解決すること。				
受講者に対する要望 春学期の「日本史の研究（近代史特論）」と密接な関係があるので、併せて受講することが望ましい。	評価方法 <table> <tr> <td>(1) 期末試験</td><td>80%</td></tr> <tr> <td>(2) 平常点</td><td>20%</td></tr> </table>	(1) 期末試験	80%	(2) 平常点	20%
(1) 期末試験	80%				
(2) 平常点	20%				
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ・昭和史 ・戦争 ・アジア ・思想 ・政治・経済 	教科書 プリントを配布する 参考書 授業のなかで指示する				

日本の思想(儒教)		RELI-J-200
担当教員： 上安 祥子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J511420
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. ガイダンスー意図を読む 02. 「乱」とは何か 03. 「共に善に落ちたところ」 04. 「私情」から「至情」へ 05. 徂徠学のかがやき？ー丸山眞男氏の学説をめぐって(1) 06. 「めんめんこう」に悩む 07. なぜ「道」はつくられるのか 08. なぜ「道」は開かれるのか 09. 「一己」と「天下」 10. 「公理」なるもの 11. 朱子学≠“朱子学” ー丸山眞男氏の学説をめぐって(2) 12. 「偕楽」と「共楽」 13. 「国家を謀る」 14. 試される『新論』 15. まとめ
日本の近世という時代、〈公共性への志向〉という思潮が立ち現れてくる。経済や政治を論じる言説として、積極的に現実の社会とかかわりをもっていた儒教は、その思潮を構成する、主なものの一つに数えられる。 日本の思想家たちが、いかなることを問題として見出し、それを解決するために、いかなることを、儒教の概念や理論を用いていかに表現したのか、という分析視角を設定して、その思潮をたどっていく。		
(2) 学びの意義と目標		
現代社会がどう変わり、またどう変えていくことが出来るのか、それを過去に学ぶことができるテーマとして、〈公共性〉を取り上げている。 したがって、近世という過去の時代における〈公共性〉観念の形成を理解するだけではなく、未来に向けた〈公共性〉構築という、現代的な課題としてとらえ直し、ひとりひとりが、その課題に向き合うきっかけを得ることを目指している。 また、直面する問題の解決方法が模索され、選択される思想形成の経緯をたどることを通じて、論理的思考力を鍛えていくことも、重要な目標である。		準備学習(予習)
		* 授業の冒頭で、前回の授業で提出した小レポートの内容を紹介し、論点を整理するので、配布したプリントやノートを見直したうえで、授業に出席すること。 * 配布プリントに、“予習”というコーナーを設け、たとえば調べておくべき用語などを指示するので、それらの課題に取り組み、答えを出しておくこと。
		準備学習(復習)
		配布プリントにある、“今回のPOINT&復習”のコーナーの、空欄補充をしておくこと。
		評価方法
		(1) 授業内試験 55% * 最終回の第15回に、論述形式の授業内試験をおこなう。 * 論述の字数などは、時期をみて、授業のなかで説明する。
		(2) 小レポート 45% 小レポートは60～100字程度を毎回提出。その日の授業内容に関して、10分程度で記述。
		* 出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。 * 公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。
学びのキーワード		教科書
・ 公共性		なし。毎授業、プリントを配布する。
		参考書
		毎授業、複数冊、紹介する。

日本の思想(仏教)		RELI-J-200					
担当教員： 高山 秀嗣							
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J511530					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 日本仏教史概観 02. 仏教伝来 03. 聖徳太子 04. 奈良仏教 05. 平安仏教・ 1 06. 平安仏教・ 2 07. 鎌倉仏教・ 1 08. 鎌倉仏教・ 2 09. 鎌倉仏教・ 3 10. 室町仏教 11. 近世仏教 12. 近代仏教 13. 現代仏教 14. 現代の宗教状況 15. 講義のまとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、日本の歴史上における仏教の推移過程についてさまざまな角度から検討を行っていく。日本仏教史の流れを概観することで、仏教を取り巻く周辺状況である日本の思想や文化などについても視野を広げて学びを深めていくことを目的とする。基本は講義形式を取る。授業への積極的な参加も求めたい。</div>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本仏教史を通史的に概観することにより、日本仏教が社会のさまざまな分野と関わりながら展開してきたことを具体的に学んでいく。また授業に積極的に取り組むことにより、調べ学習や発表の練習などにもなる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各回のテーマおよび内容はあらかじめ提示するので、予習を行った上で授業に臨むこと。また、講義や討論などにも積極的に取り組んでいきたい。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>出席と授業への取り組みは特に重視する。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内配布プリントの内容は、レポートと深くかわる。精読の必要がある。</div>						
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) レポート</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 平常点</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 授業への取り組み</td><td>20%</td></tr></table>		(1) レポート	50%	(2) 平常点	30%	(3) 授業への取り組み
(1) レポート	50%						
(2) 平常点	30%						
(3) 授業への取り組み	20%						
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 宗教</div><div>・ 仏教</div><div>・ 思想</div><div>・ 文化</div><div>・ 日本</div></div>	<div>教科書</div> <div>プリントを配付する。</div> <div>参考書</div> <div>授業内で適宜提示する。</div>						

日本の思想(キリスト教)		RELI-J-200
担当教員：村松 晋		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J511640
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 何を学ぶかーオリエンテーションー</div> <div>02. 「キリスト教史」を問い直す</div> <div>03. ザビエル以前のこと</div> <div>04. ザビエルは、なぜ日本に来たか</div> <div>05. ザビエルは、日本で何をしたか</div> <div>06. ザビエルたちの言動は、なぜ人びとのところをつかんだか</div> <div>07. ザビエルの日本伝道は、世界に何をもたらしたか</div> <div>08. ザビエルの意外な「遺産」</div> <div>09. 近代日本のキリスト教を問い直す</div> <div>10. 明治のキリスト者 その1ーその出自と内面世界ー</div> <div>11. 明治のキリスト者 その2ー「世代交代」を促したもののー</div> <div>12. 明治のキリスト者 その3ー100年前の日本のすがたー</div> <div>13. 近代日本のキリスト教の課題</div> <div>14. 現代日本とキリスト教ーキリスト教からの問いー</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>キリスト教をめぐって繰り広げられた、思想・宗教史上の数あるドラマについて多角的な視点から考察を加えることにより、「キリスト教」ならびに「日本史」へのイメージを刷新し、その実像に迫る手立てを獲得してもらう。さらに「3.11」以後の歴史を生きる皆さんが、〈生きることの意味〉を主体的に考えていけるような授業を心がけていく。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、「ライフデザイン」の私の推薦図書に眼を通しておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本の歴史・思想・宗教、特に近代日本の思想史・文学史を視ていくための新しい視点を獲得し、上記領域への関心を深めていくこと。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>「相関文化」「日本思想入門」を併せて受講することが望ましい。なお学生の皆さんからの質問等に応じ、授業計画に変更が生じる場合がある。
</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義後はその日のうちにレジュメを読み直し理解を深め、次回までに前講義の最後で投げかけられた問いを考えてくること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 日本史・ キリスト教・ 宗教・ 思想・ 近代日本文学</div>		
	<div>教科書</div>	
	<div>参考書</div>	

期末試験によって評価する。全授業数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いについては初回に説明する。

比較宗教学

REL I-J-200

担当教員： 芦名 裕子

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1J511970

学部教育の関連目

【J】国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

内容

宗教学の基礎を学ぶ。宗教への興味を喚起する。宗教学は1870年頃、マックス・ミュラーによって提唱された新しい学問である。しかし、神学など、経典研究を中心とする学問の歴史はすでに確立していた。そこで、まず、宗教学の基礎を講義し、世界の宗教を比較宗教学の視点から学んでいく。さらに、アジアの宗教にも焦点を置き、比較考察する。また、私たち日本人の宗教観を世界の諸宗教と比較しながら、再考察し、身近な信仰についても考えてみよう。

イスラム教・ヒンズー教・道教など世界の宗教を調査から裏づけられた概説をする。
バチカンの内部に迫るDVDによる授業（１回）
アンコール・ワット〈DVD使用〉
ラテン語の聖歌

(2) 学びの意義と目標

宗教学の基礎を学び、諸宗教の経典や内容を修得し、グローバルな視野を獲得する。
日本人の宗教を考え、身近な信仰についてもそのルーツ等を探る。

受講者に対する要望

欠席しないようにお願いします。欠席した場合、教科書で必ず復習してください。私語厳禁。

学びのキーワード

- ・ アジアの宗教
- ・ 中国宗教
- ・ ユダヤ教
- ・ キリスト教
- ・ イスラム教

授業計画

01. プログラミング(可能な限り出席のこと)
02. 比較宗教学とは何か
03. 宗教学の基礎
04. 宗教学の方法
05. キリスト教概説
06. キリスト教(カトリック)
07. ユダヤ教と日本
08. ユダヤ教概説
09. イスラム教
10. 仏教概説
11. チベット仏教
12. ヒンズー教
13. 中国宗教(道教1)
14. 道教2 儒教
15. 中国仏教
16. アメリカの宗教
17. アメリカ新宗教(1)
18. アメリカ新宗教(2)
19. 日本仏教
20. アジアの宗教
21. 日本人の信仰(七福神など)
22. キーワード学習
23. プロテスタント神学
24. レポートの書き方等の説明
25. ヨーロッパの宗教(DVD使用)
26. 奈良・京都の宗教を考える
27. アンコール・ワット(DVD使用)
28. 日本の新宗教
29. 基礎知識テスト
30. レポートテスト

準備學習(予習)

講義で指示された文献を読む。

準備學習(復習)

講義で暗記するように指示された項目をきちんと暗記する。
講義で紹介した著作を図書館で確認する。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 基礎テスト | 50% |
| (2) レポート | 50% |

出席回数は参考にします。最低出席回数10回(20回中)。

教科書

参考書

芦名裕子著『楽しい宗教学』

中国思想		PHIL-J-200
担当教員： 大坊 真伸		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J512080
学部教育の関連目		授業計画
【J】国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする		
カリキュラム上の位置付け		01. 【諸子百家】ガイダンス（時代と各思想のあらまし） 02. 【諸子百家】孔子（生い立ちと功績） 03. 【諸子百家】『論語』（日本語に根付く『論語』出典の故事成語） 04. 【諸子百家】孟子の思想1（易姓革命と王道） 05. 【諸子百家】孟子の思想2（五十歩百歩・性善説） 06. 【諸子百家】荀子の思想（性悪説・勸学・天人の分） 07. 【諸子百家】韓非子（法家思想概論） 08. 【諸子百家】『墨子』『兼愛・非攻』 09. 【諸子百家】『老子』『無為自然』・『莊子』1（無用の用・万物斉同） 10. 【諸子百家】『莊子』2（尾を塗中に曳く・夢に胡蝶と為る） 11. 【諸子百家】『列子』1（寓話から見る列子「朝三暮四」等） 12. 【諸子百家】『列子』2（日本文学との関わりを中心に「名人伝」中島敦 13. 【諸子百家】『孫子』兵法1（二人の孫子）（孫子&兵法七書） 14. 【諸子百家】『孫子』兵法2（『史記』孫子呉子列伝を読む）・『呉子』『少数精鋭主義』 15. 【諸子百家】四書・五経入門 16. 〈漢文〉ガイダンス（漢文の五文型） 17. 〈漢文〉返り点・送り仮名・書き下し文 18. 〈漢文〉助字・返読文字 19. 〈漢文〉再読文字 20. 〈漢文〉否定文（1）～（3）否定の基本形 21. 〈漢文〉否定文（4）～（5）不可能・禁止 22. 〈漢文〉否定文（6）～（7）二重否定・部分否定・全部否定 23. 〈漢文〉疑問形 24. 〈漢文〉反語形 25. 〈漢文〉使役形・受身形 26. 〈漢文〉仮定形・比較形・選択形 27. 〈漢文〉抑揚系・限定形・累加形・詠嘆形 28. 〈漢文〉入試問題にチャレンジ！！ 29. 日本儒学概説～内村鑑三『代表的日本人』～ 30. 総括
(1) 内容		
本講義は2コマ連続の講義である。 1コマ目に「中国思想」、2コマ目に漢文訓読を教授する。 ① 本年度の講義は中国思想の代表「諸子百家」を扱う。授業時数が限られている為、当該思想の特徴的なものを紹介する。 ② 日本文化学科の学生が多いことを鑑み、日本文化に関連が深い事柄を紹介していく。日本文化にも中国思想が影響を与えていることを理解する。深奥難解な内容も多いため、やり出すとキリがない。よって概論的なものにとどめる。 ③ 漢文訓読の基礎を学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標		
中国の思想に触れてもらうため日本語訳（もしくは書き下し文）を読み、その日本語訳（書き下し文）から漢文（原文）を読解するような授業を行う。 中国思想の特徴及び正確な漢文訓読を講義の目的とするが、漢文読解についてはあまり枝葉末節に拘らないようにしたい。 一見古臭いような中国思想であるが、古代から現代まで連綿と続く思想の影響を理解してもらいたい。加えて、学生の皆さんが将来教員になった時、教え子に是非とも紹介したくなるような漢文ネタを提供したいと考えている。		
受講者に対する要望		
毎時間の小テストが評価の重要なウェイトを占める。授業を欠席すると、その時間の小テストが0点になるばかりでなく、次回の小テスト範囲も未習熟になってしまうので注意すること。		
学びのキーワード		
・ 中国思想 ・ 諸子百家 ・ 儒教 ・ 比較文化		
教科書		
菊地 隆雄、村山 敬三、六谷 明美 編著 『基礎から解釈へ 漢文必携 四訂版』（桐原書店）		
参考書		

単位：4 コード：1J512110

授業のなかで指示する

日本思想特殊講義		PHIL-J-100
担当教員：村松 晋		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1J512210
<div>学部教育の関連目</div> <div>人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. はじめに―先取りされた〈現代〉への眼 02. 大正時代の幕開け―東京駅開業の光と影 03. 人類史の中の第一次世界大戦 1―「西欧」の「破壊」 04. 人類史の中の第一次世界大戦 2―日本へのインパクト 05. 1918・1919年の画期―内に暴動・外に反日デモ 06. 起ち上がる思想家たち―〈平等〉と〈自由〉 07. 大正期の〈宗教〉 1―宮沢賢治の軌跡Ⅰ 08. 大正期の〈宗教〉 2―宮沢賢治の軌跡Ⅱ 09. 時代の叫び―朝日平吾 10. まとめ―現代日本の呻き 11. 1920年代の外交―中国とアメリカをめぐる 12. 大正大震災の衝撃 1―北一輝・大杉栄・宮沢賢治 13. 大正大震災の衝撃 2―和辻哲郎・芥川龍之介・谷崎潤一郎 14. 大正大震災の衝撃 3―「東京人の墮落時代」 15. 大正大震災の衝撃 4―変容する時代人心 16. 震災後の総選挙 17. ポスト震災と「大正」の終わり 1―3つの新聞記事から 18. ポスト震災と「大正」の終わり―中国問題ふたたび 19. 農本主義の磁場―反文明・反都市の情念 20. 震災後10年の世相―坂田山心中と東京音頭 21. 1937・1938年の転回 1―震災後15年の日本Ⅰ 22. 1937・1938年の転回 2―震災後15年の日本Ⅱ 23. まとめ―「大東亜戦争」という呼称 24. 現代日本への問い 1―〈戦前〉と〈戦後〉への視座Ⅰ 25. 現代日本への問い 2―〈近代〉の本質を問う 26. 現代日本への問い 3―福沢諭吉の〈賭け〉 27. 私たちのジレンマ―「近代日本」という〈問題〉 28. 私たちはどう生きるか 1―ミヒャエル・エンデをめぐる 29. 私たちはどう生きるか 2―内村鑑三をめぐる 30. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「3. 11」以降の歴史を生きる私たちにとって、自己と自己を取り巻く社会とを批判的に問い質し得る視座を構築することは喫緊の課題である。そのための具体的な手立てを探るべく、明治末を起点とする日本の思想史を（宗教を含む）、時事問題等をも絡めながら、問題提起的に講義する。思想・宗教のみならず、「戦争と革命の世紀」といわれる「20世紀の歴史」に関心を有するものの受講を歓迎する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回の講義終了時に、次回講義への導入として示された問いかけと関連資料をふまえ、問題意識を育んだ上で受講すること。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現代日本の諸課題は、近代日本の直面した問題の圏内から原理的に抜け出てはいないことについて理解を深めること。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>3. 4年生向けの特殊講義である。受講者の要望や時事問題を意識して講義を進めていくだけに、授業計画に変更が生じる場合がある。〈現代〉への強い関心を抱く学生の受講を望む。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>レジュメを元に当日中に復習し、疑問点は積極的に教員に質問すること。また授業中に言及した文献にはできる限り直接あたること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">大衆社会疎外宗教思想日本近代史</div>		
		<div>評価方法</div> <div>(1) 期末試験100%</div> <div>期末試験によって評価する。全授業回数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いについては初回に説明する。</div>
		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

教えるための現代文B		TEAT-J-100	
担当教員： 熊谷 芳郎			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1J700210	
学部教育の関連目		授業計画	
【J】実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける		01. ガイダンス（「現代文」の輪郭と臨界） 02. 現代文問題入門編（１） 評論：指示語に注目する 03. 現代文問題入門編（２） 評論：接続語に注目する 04. 現代文問題入門編（３） 小説：人物関係に注目する 05. 現代文問題入門編（４） 小説：呼称に注目する 06. 現代文問題中級編（１） 評論：全体構成を意識する 07. 現代文問題中級編（２） 評論：キーワード・キーセンテンスに注目する 08. 現代文問題中級編（３） 評論：問題提起と結論の示し方に注目する 09. 現代文問題中級編（１） 小説：心情の変化を追う 10. 現代文問題中級編（２） 小説：カタルシスを読み取る 11. 過去問（１） 埼玉県中学校問題 12. 過去問（２） さいたま市中学校問題 13. 過去問（３） 埼玉県高等学校問題 14. 過去問（４） 東京都私学連盟の問題 15. 総括	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
公立の中学校・高等学校の採用試験を受験する3年生を対象とした科目である。毎回、授業の中で教員採用試験を意識した問題の分析を行う。領域横断的な文章素材を扱うとともに、入門から中級へと問題の難易度を上げていき、最終的に過去に出題された問題を分析する。			
(2) 学びの意義と目標			
◆教員採用試験の「現代文」読解問題に解答する学力を養成することを目指す。 ◆教員採用試験の要求する「現代文」文章読解能力の水準を把握するとともに、「国語」教員として最低限必要な文章表現力の獲得を目標とする。 ◆多領域に向けて開かれた現代日本語の文章を読解できる能力を養うことも講義の目的とする。		準備学習(予習)	
		回目の内容に関する予習を指示するので、必ず取り組むこと。	
		準備学習(復習)	
		各回完結の授業となるため、前回の内容に関する毎回の復習を奨励する。	
		評価方法	
		(1) 授業への参加状況 50%	
		(2) 確認問題 50%	
受講者に対する要望			
採用試験に向けて自己の能力を磨く意欲を持って授業に臨んで欲しい。			
学びのキーワード		教科書	
・ 現代文 ・ 採用試験問題 ・ 読解 ・ 分析 ・ 解釈		参考書	

教えるための古典I		TEAT-J-100
担当教員：木下 綾子、濱田 寛		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1J700320
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 古典文法入門 02. 動詞（１）（四段活用動詞） 03. 動詞（２）（上一段・上二段活用動詞、下一段・下二段活用動詞） 04. 動詞（３）（変格活用動詞） 05. 形容詞・形容動詞 06. 演習『竹取物語』（１） 07. 演習『竹取物語』（２） 08. 古典分野まとめ 09. 漢文訓読概説（１） 10. 漢文訓読概説（２） 11. 漢文訓読概説（３） 12. 儒家の思想／『論語』 13. 儒家の思想／『孟子』 14. 儒家の思想／『荀子』 15. 道家の思想／『老子』</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この科目で学ぶ「古典」とは日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、それぞれ8時間目にまとめと「試験」を実施する。 前半の「古文」では、用言を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『竹取物語』を読む。 後半の「漢文」では、基本的な漢文の語法を学習し、その演習として「散文」作品の読解を行う。文学史に関連して、より専門的な事項についても丁寧な解説を行う予定である。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>将来、生徒たちに教えるためには、古典の豊かな世界を楽しむことができるようになってこそ魅力的な授業が可能になろう。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること。具体的には教場にて指示。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>自主課題プリント配付予定。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 中間試験50% 第8週に実施 (2) 学期末試験50% 定期試験に実施</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・文語文法・用言の活用・漢文訓読・諸子百家・竹取物語</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

教えるための古典Ⅱ		TEAT-J-200	
担当教員：木下 綾子、濱田 寛			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1J700430	
学部教育の関連目		授業計画	
【J】実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける		01. 中国古典詩概説 02. 古体詩概説（１） 03. 古体詩概説（２） 04. 近体詩概説（１） 05. 近体詩概説（２） 06. 近体詩概説（３） 07. 近体詩概説（４） 08. 漢文分野まとめ 09. 助動詞概説、過去の助動詞 10. 完了の助動詞、推量の助動詞（１） 11. 推量の助動詞（２）、伝聞・推定の助動詞 12. 打消・打消推量の助動詞 13. 断定の助動詞、尊敬の助動詞 14. 演習『徒然草』（１） 15. 演習『徒然草』（２）	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
前半の「漢文」では、「韻文」を中心に扱う。具体的には『詩経』から唐詩までの中国の韻文の史的展開と具体的な作品に即した鑑賞を行う。その他、詩の朗読も積極的に取り入れていく。 後半の「古文」では、助動詞を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『徒然草』を読む。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
人に教えるためには、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、はじめて魅力的な授業も可能になろう。文法もまた同じことが言えよう。		シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること。具体的には教場にて指示。	
		準備学習(復習)	
		その日に学んだことを確実に身に付けていくよう復習を行うこと。あやふやな事柄は必ず辞書を引いて確認する習慣を身に着けよう。	
受講者に対する要望		評価方法	
講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。また、毎回必ず辞書を持参すること。		(1) 中間試験 50% 第8週に実施 (2) 学期末試験 50% 定期試験期間に実施	
学びのキーワード		教科書	
・ 近体詩・平仄式 ・ 詩の朗読 ・ 助動詞の用法 ・ 徒然草		参考書	

教えるための古典III		TEAT-J-300	
担当教員： 濱田 寛、木下 綾子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1J700540	
学部教育の関連目		授業計画	
【J】実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける		01. 中国史書概説 02. 『春秋』読解演習（1） 03. 『春秋』読解演習（2） 04. 『春秋』読解演習（3） 05. 『史記』読解演習（1） 06. 『史記』読解演習（2） 07. 『史記』読解演習（3） 08. 漢文分野まとめ 09. 助詞概説、格助詞 10. 接続助詞 11. 副助詞 12. 係助詞 13. 終助詞・間投助詞 14. 演習『伊勢物語』（1） 15. 演習『伊勢物語』（2）	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
前半の「漢文」は、「史書」を中心に扱う。具体的には『春秋』三伝の比較対照を行いつつ「春秋の義」について学び、また高等学校の教材として定番ともいえる『史記』について、知見を深めたい。 後半の「古文」は、助詞を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『伊勢物語』を読む。			
(2) 学びの意義と目標			
人に教えるためには、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、はじめて魅力的な授業も可能になろう。		準備学習(予習)	
		シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること。具体的には教場にて指示。	
		準備学習(復習)	
		その日に学んだことを確実に身に付けていくよう復習を行うこと。あやふやな事柄は必ず辞書を引いて確認する習慣を身に着けよう。	
		評価方法	
		(1) 中間試験 50% 第8週に実施 (2) 学期末試験 50% 定期試験期間に実施	
受講者に対する要望			
講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。			
学びのキーワード		教科書	
・ 紀伝体・編年体 ・ 史記 ・ 助詞の用法 ・ 伊勢物語		参考書	

卒業レポートA（言語1）

JPCL-J-400

担当教員：小林 茂之

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1J801000

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習Ⅰ・Ⅱ，卒業研究Ⅰ・Ⅱを受けて，言語史・言語文化史的観点時から中英語テキストを講読する。取り上げるテキストについて，言語史的問題を探究し，言語学的観点から解析する。

(2) 学びの意義と目標

古英語・中英語の言語・作品の理解を深めて，言語と文化との史的相関関係を考察する。人文学的学びを通して，地域的・歴史的な観点から，生き方や価値観について考える。

受講者に対する要望

毎回のテキスト講読の進行に合わせて，予習してくる。毎回，電子辞書などを持参する。卒業レポート，卒業論文の研究テーマを参考書などでリサーチし，ゼミで研究発表した上で，レポートにまとめる。

学びのキーワード

- ・言語史
- ・言語文化史
- ・中英語
- ・『ピータバラ年代記』
- ・『カンタベリー物語』

授業計画

01. テキスト講読
02. テキスト講読
03. テキスト講読
04. テキスト講読
05. テキスト講読
06. テキスト講読
07. テキスト講読
08. テキスト講読
09. テキスト講読
10. テキスト講読
11. テキスト講読
12. テキスト講読
13. 研究発表
14. 研究発表
15. 予備日

準備学習(予習)

テキスト講読の進行に合わせて，予習する。

準備学習(復習)

取り上げたテキストについて，言語史的・言語文化史的な研究を行なう。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 30% | 教科書は必ず入手する。教科書を入手しないで授業に出席しても、平常点は認められない。 |
| (2) 発表 | 30% | |
| (3) 授業への参加度 | 20% | |
| (4) 単位レポート | 20% | |

教科書

水鳥喜喬・米倉 綽（1997）『中英語の初歩』．英潮社．

参考書

高田博行・他（2011）『歴史語用論入門―過去のコミュニケーションを復元する（シリーズ・言語学フロンティア）』．大修館書店
高田博行・他（2015）『歴史社会言語学入門―社会から読み解くことばの移り変わり（シリーズ・言語学フロンティア）』．大修館書店．

卒業レポートA（言語2）

JPCL-J-400

担当教員：川口 さち子、小林 茂之

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 2 コード： 1J801120

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「卒業研究Ⅱ」に引き続き、現代日本語に関係ある内容を扱う。

(2) 学びの意義と目標

「卒業研究Ⅱ」で扱ったテーマを各自深め、卒業論文へのステップとする。

受講者に対する要望

休まないこと。発表の際は、文献に十分にあたり、レジュメを準備する。発表が当たっているものは無断欠席をしないこと。

学びのキーワード

- ・ 論文とは
- ・ 言語分析
- ・ 調査
- ・ データ収集と分析
- ・ 研究

授業計画

01. 前学期の各自の研究内容を発表 1
02. 前学期の各自の研究内容を発表 2
03. 今学期の各自の研究計画発表 1
04. 今学期の各自の研究計画発表 2
05. 先行研究調査 1
06. 先行研究調査 2
07. 研究テーマに関係ある論文を購読 1
08. 研究テーマに関係ある論文を購読 2
09. 研究テーマに関係ある論文を購読 3
10. 中間発表 1
11. 中間発表 2
12. 中間発表 3
13. 最終発表 1
14. 最終発表 2
15. 最終発表 3・レポート提出

準備学習(予習)

ほかの人の発表から学び、自分の研究・分析に反映させる。

準備学習(復習)

発表を終えた後、他者のコメントをよく聞き、最終レポートに生かすようにする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 発表 | 20% |
| (2) レポート | 40% |
| (3) 討論への参加度 | 20% |
| (4) 出席状況 | 20% |

教科書

参考書

卒業レポートA (比較文化アジア2)

JPCL-J-400

担当教員：濱田 寛

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1J801480

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

各自の設定した課題について、仮説を立て、調査を行い、資料にまとめ、プレゼンを行い、文章にまとめる、という一連のプロセスを実践的に学ぶ。演習発表と平衡してレポートの添削指導を行う。

(2) 学びの意義と目標

本学科の学びの集大成としての「卒業レポート」の完成を目標とする。3年次までの人文学の学びを総括し、「自分の意見」をどのように導き、表明するべきかを実践的に学ぶ。

受講者に対する要望

徹底した事前準備を求める。

学びのキーワード

- ・ 調査
- ・ 資料作成
- ・ プレゼンテーション

授業計画

01. ガイダンス
02. 概要発表①
03. 概要発表②
04. 概要発表③
05. 概要発表④
06. 個別発表①
07. 個別発表②
08. 個別発表③
09. 個別発表④
10. 個別発表⑤
11. 個別発表⑥
12. 個別発表⑦
13. 個別発表⑧
14. 個別発表⑨
15. 個別発表⑩／総括

準備学習(予習)

資料作成のための準備

準備学習(復習)

発表内容の文章化→必ず添削指導を受けること

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 演習発表 | 50% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |
| (3) 卒業レポート | 30% |

演習発表は「概要発表」1回、「個別発表」2回を必須とする。

教科書

参考書

卒業レポートA（歴史1） ※開講週は別掲参照

JPCL-J-400

担当教員： 東島 誠

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 2 コード： 1J802040

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

各自の関心に基づく自由発表の指導を通じて、卒業論文を完成させるために必要な調査力・分析力の鍛錬を行なう。議論に参加すること、議論を組み立てていくことの、難しさと楽しさを味わってほしい。

4年生はいよいよ卒業論文を書き上げる年次であるが、春学期の段階では、まだテーマを絞り過ぎないほうがよい。幅広い研究文献や史料に触れる豊かな時間としてほしい。

(2) 学びの意義と目標

自分の研究を論文にまとめるという作業は、自分の中だけで完結する営みでは決してない。研究論文は、それを読む人があってはじめて研究論文たりうるといってよい。つまり論文とは、パブリックなものなのである。卒業研究Ⅱの演習の場は、自分の主張が、自分とは異なる価値観を持つ他の参加者に届くかどうかを試す、絶好のチャンスである。同じ趣味や関心を持つものにしか通じない、〈隠語〉の世界に閉じこもってはいけない。そのような意味で、この訓練は卒業後、社会に出ても役立ててほしい。

受講者に対する要望

発表準備は、遅くも2週間前には始めること。

学びのキーワード

- 古文書
- 古記録
- 学外図書館の利用
- NDLサーチ
- cinii

授業計画

01. ガイダンス
02. 先輩の論文を読む
03. レジюме作成法～先輩のレジюмеに学ぶ
04. 学生による発表
05. 学生による発表
06. 学生による発表
07. 学生による発表
08. 学生による発表
09. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

準備学習(予習)

発表の前の週に、発表に使用する基本研究文献をメンバーに配布する。これは、参加者が事前に文献に目を通した上で発表を聞くことで、理解を深め、討論に参加しやすくするためである。

準備学習(復習)

当ゼミでは、毎回の発表者が作成した配布資料を半年間蓄積すると、極めて分厚いファイルになる。常にファイルを見かえしながら、蓄積型の学びを進めて行ってほしい。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 発表、議論への参加 | 50% |
| (2) 学期末レポート | 50% |

教科書

参考書

卒業レポートA (思想 1)		JPCL-J-400					
担当教員： 清水 正之							
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1J802280					
<div>学部教育の関連目</div> <p>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</p>	<div>授業計画</div> <div>01. はじめに</div> <div>02. 卒業研究の課題のたてかた 1</div> <div>03. 卒業研究の課題のたてかた 2</div> <div>04. 思想関係資料の調べ方 1</div> <div>05. 思想関係資料の調べ方 2</div> <div>06. 思想関係資料の調べ方 3</div> <div>07. 課題発表の実際 1</div> <div>08. 課題発表の実際 2</div> <div>09. 課題発表の実際 3</div> <div>10. 課題発表の実際 4</div> <div>11. 課題の発展 1</div> <div>12. 課題の発展 2</div> <div>13. 課題の発展 3</div> <div>14. 課題の発展 4</div> <div>15. まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <p>各自が、卒業研究にむけて、日本の思想、文化に関わる諸問題から、各自がテーマを設定できるよう、発表と討論を中心にすすめます。またテーマに沿った参考資料の探し方、その扱い方を、学んでいきます。</p>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>卒業論文、卒業レポートの完成をめざして、各自の調べ考察する対象の理解と、研究法を学び身につける。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>意欲的に参加・出席し、発表の技法や態度を学んでください。各回の発表者の予告につき前もって考え、各回とも次回までに800字ほどの意見、感想をまとめておく。</p>						
<div>受講者に対する要望</div> <p>大学生活の成果となるような卒業研究の形を学び、準備するものです。意欲的な参加を望みます。</p>	<div>準備学習(復習)</div> <p>発表者は、討論を経て修正したレジメを再提出する。参加者は、発表についての見解を800字程度にまとめて翌週提出すること。</p>						
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への参加度、積極性、問題提起力</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 発表レポートの形式的完成度、内容的完成度</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) 期末レポートの形式的完成度と内容の完成度</td><td>30%</td></tr></table>		(1) 授業への参加度、積極性、問題提起力	30%	(2) 発表レポートの形式的完成度、内容的完成度	40%	(3) 期末レポートの形式的完成度と内容の完成度
(1) 授業への参加度、積極性、問題提起力	30%						
(2) 発表レポートの形式的完成度、内容的完成度	40%						
(3) 期末レポートの形式的完成度と内容の完成度	30%						
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none">日本の思想卒業論文卒業レポート研究方法	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>					

卒業レポートA(思想2)

JPCL-J-400

担当教員：村松 晋

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1J802300

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

最終学年の最後のゼミとして、名実ともに大学生
生活を総括する学びの場である。一人でも多くの
に、卒業論文を書いてほしいと希っている。

(2) 学びの意義と目標

上記に尽きている。本学で学んでよかったと思えるような学びの集大成を、ゼミ生どうしで共有したい。

受講者に対する要望

できる限り卒業論文に挑戦してほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本史
- ・ 宗教思想
- ・ 民俗芸術

授業計画

01. はじめに—大学生活を総括するために—
02. 卒業レポートとは何か その1
03. 卒業レポートとは何か その2
04. 研究発表
05. 研究発表
06. 研究発表
07. 研究発表
08. 研究発表
09. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめ

準備學習(予習)

発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。

準備學習(復習)

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 発表内容 | 50% |
| (2) 授業参加 | 50% |

上記を勘案して評価する。全授業数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したとみなす。

教科書

参考書

卒業レポートA (思想3)		JPCL-J-400	
担当教員： 柳田 洋夫			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 2		コード： 1J802420	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス</div> <div>02. 卒業レポート発表・準備</div> <div>03. 卒業レポート発表・準備</div> <div>04. 卒業レポート発表・準備</div> <div>05. 卒業レポート発表・準備</div> <div>06. 卒業レポート発表・準備</div> <div>07. 卒業レポート発表・準備</div> <div>08. 卒業レポート発表・準備</div> <div>09. 卒業レポート発表・準備</div> <div>10. 卒業レポート発表・準備</div> <div>11. 卒業レポート発表・準備</div> <div>12. 卒業レポート発表・準備</div> <div>13. 卒業レポート発表・準備</div> <div>14. 卒業レポート発表・準備</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>日本の思想に関わる諸問題からテーマを設定できるよう、発表と討論を中心にすすめる。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業論文、卒業レポートの完成をめざして、各自の調べ考察する対象の理解と、研究法を学び身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>発表者は、事前に十分な準備をすること。他の参加者も、発表者の予告した課題に即して、発言の準備をする。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>発表者は、討論を経て修正したレジュメを提出する。他の参加者は、発表・討議でなされた内容を、自らの課題に活かすべく、よく振り返ること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>テキストと対話しつつ、自らの考えをまとめ、かたちにすることは、大学での学びの総決算であるとともに、社会に出てから必ず役立に立つ。意欲的な取り組みを望む。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への参加度</div><div>40%</div><div>(2) 発表</div><div>30%</div><div>(3) レポート</div><div>30%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 日本思想</div><div>・ 卒業論文</div><div>・ 卒業レポート</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

卒業レポート A (近現代文化 1)		JPCL-J-400
担当教員： 清水 均		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1J802540
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス</div> <div>02. 卒業レポート作成準備</div> <div>03. 卒業レポート作成準備</div> <div>04. 卒業レポート作成準備</div> <div>05. 卒業レポート作成準備</div> <div>06. 卒業レポート作成準備</div> <div>07. 卒業レポート作成準備</div> <div>08. 卒業レポート作成準備</div> <div>09. 卒業レポート作成準備</div> <div>10. 卒業レポート作成準備</div> <div>11. 卒業レポート作成準備</div> <div>12. 卒業レポート作成準備</div> <div>13. 卒業レポート作成準備</div> <div>14. 卒業レポート作成準備</div> <div>15. 卒業レポート作成準備</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1) 研究対象：近現代の「文化」と「文学」</div> <div>2) 内容（キーワード：「物語」「想像力」「時代」「価値」） 簡潔に言えば「モノ・コト・ヒトと物語ー文化と文学を研究するー」ということになる。 主な研究の視点としては次の2点を想定している。 ①「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」＝「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「小説」や「昔話」「童話」といった「文学ジャンル」に留まらず、「映像表現」「演劇」などを含む広い範囲の表現を含む。 ②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちにとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、いわゆる「伝統文化」と呼ばれるものも対象となる。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「文化を考えると世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がいるが、文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>この段階では「卒業研究Ⅱ」で深めた各自の研究のまとめとして「卒業レポート」を執筆し、その過程で卒業論文への可能性をも見定めてほしい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>自らの発表の準備は当然「間に合わせ」では充実した発表には繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>随時「研究ノート」を執筆し、最終レポートにつなげていく。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点60%</div> <div>(2) 最終レポート30%</div> <div>(3) 研究ノート10%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 近現代文化</div> <div>・ 近現代文学</div> <div>・ 物語</div> <div>・ 想像力</div> <div>・ ポップ・カルチャー/サブ・カルチャー</div>		<div>教科書</div> <div>使用しない。</div> <div>参考書</div> <div>必要に応じて授業時に指示する。</div>

卒業レポートA（近現代文化2）

JPCL-J-400

担当教員：熊谷 芳郎

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1J802660

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒業研究Ⅱまでに各自が見つけた研究テーマについて、先行研究論文を実際に読み解きながらその内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べる。その上で、参加者全体でディスカッションを行う。最終的に学びの総括として研究発表会での発表、および卒業論文あるいは卒業レポートの作成につなげる。

(2) 学びの意義と目標

目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養っていくことを目指す。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。

受講者に対する要望

研究課題を少しずつ深めていく意識を持ち続けてほしい。

学びのキーワード

- ・ 各自の研究課題
- ・ 発表
- ・ 研究討議
- ・ 研究の深化
- ・ 研究発表会

授業計画

01. 研究を体系化することについて講義
02. 各自の研究テーマに関する発表・討議
03. 各自の研究テーマに関する発表・討議
04. 各自の研究テーマに関する発表・討議
05. 各自の研究テーマに関する発表・討議
06. 各自の研究テーマに関する発表・討議
07. 各自の研究テーマに関する発表・討議
08. 各自の研究テーマに関する発表・討議
09. 各自の研究テーマに関する発表・討議
10. 各自の研究テーマに関する発表・討議
11. 各自の研究テーマに関する発表・討議
12. 各自の研究テーマに関する発表・討議
13. 各自の研究テーマに関する発表・討議
14. 研究発表会での研究発表
15. 「学び」の総括、および卒業レポート・卒業論文に向けての留意事項の確認。

準備学習(予習)

1ヶ月に1回のペースで研究発表を行えるよう、自分の課題に関する先行研究論文を読んでいく。

準備学習(復習)

研究討議の内容を踏まえてまとめなおすとともに、これまでの発表内容と結合させていく。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業での発表 | 30% |
| (2) 研究討議への参加状況 | 20% |
| (3) 研究発表会での発表 | 20% |
| (4) 最終レポート | 30% |

教科書

参考書

卒業レポートB（言語 1）

JPCL-J-400

担当教員：小林 茂之

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1J805000

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

初期近代英語について学び、古英語・中英語における言語史と言語文化史のその後の発展について学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

現代英語の出発点である初期近代英語について学び、専門演習I・IIおよび卒業研究I・IIおよび卒業レポートAの学びの総復習を行うとともに、受講者自身の卒業研究について発表してもらい、卒業研究の深化を図る。

受講者に対する要望

4年間の大学での学びを実りあるものにするよう、頑張ってもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 初期近代英語
- ・ 古英語
- ・ 中英語

授業計画

01. 初期近代英語導入と概説
02. テキスト講読
03. テキスト講読
04. テキスト講読
05. テキスト講読
06. テキスト講読
07. テキスト講読
08. テキスト講読
09. テキスト講読
10. テキスト講読
11. テキスト講読
12. テキスト講読
13. 研究発表
14. 研究発表
15. 研究発表

準備学習(予習)

テキスト講読の進度に合わせて、予習する。

準備学習(復習)

研究発表に向けて、発展的な研究を行う。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 授業への積極性 | 20% |
| (4) 単位レポート | 20% |

教科書

小野捷・伊藤弘之 『近代英語の発達』（英潮社フェニックス）

参考書

卒業レポートB（言語2）		JPCL-J-400
担当教員：川口 さち子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：2 コード：1J805120
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 卒業研究レポートAの振り返り</div> <div>02. 卒論に向けて構成を考える1</div> <div>03. 卒論に向けて目次を考える2</div> <div>04. 先行研究整理1</div> <div>05. 先行研究整理2</div> <div>06. 卒論に向けて構成を考える3</div> <div>07. 卒論に向けて構成を考える4</div> <div>08. 調査の実施</div> <div>09. 調査の実施</div> <div>10. 調査の実施</div> <div>11. データを具体的に分析・整理する</div> <div>12. データを具体的に分析・整理する</div> <div>13. まとめ</div> <div>14. 考察</div> <div>15. レポート提出</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>卒業レポートAに引き続き、現代言語を扱う。卒業論文に移行できるようにする。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>専門演習・卒業研究・卒業レポートの集大成である。卒業レポートAで扱ったテーマをさらに深め卒業論文を書くことを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>卒業レポートは一度に書けるものではないので、先行研究をよく読み、そのうえで方針を決めること。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>最終レポートとして完成させるために、構成はどうか、誤字脱字はないか振りかえり、練り上げていくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 取組40%</div> <div>(2) 最終レポート60%</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>卒業論文が書けるように地道に取り組んでほしい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・言語分析</div> <div>・調査</div> <div>・データ収集と分析</div> <div>・考察</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

卒業レポートB（比較文化アジア2）

JPCL-J-400

担当教員：濱田 寛

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1J805480

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

各自の設定した課題について、仮説を立て、調査を行い、資料にまとめ、プレゼンを行い、文章にまとめる、という一連のプロセスを実践的に学ぶ。演習発表と平衡してレポートの添削指導を行う。「卒業論文」の執筆を行う場合は「卒業レポートA」からの継続指導となる。

(2) 学びの意義と目標

本学科の学びの集大成としての「卒業レポート」の完成を目標とする。3年次までの人文学の学びを総括し、「自分の意見」をどのように導き、表明すべきかを実践的に学ぶ。「卒業論文」の執筆を行う場合は「卒業レポートA」からの継続指導となり、大きな構想のもとに執筆する技術を学ぶ。

受講者に対する要望

徹底した事前準備を求める。

学びのキーワード

- ・ 調査
- ・ 資料作成
- ・ プレゼンテーション

授業計画

01. ガイダンス
02. 概要発表①
03. 概要発表②
04. 概要発表③
05. 概要発表④
06. 個別発表①
07. 個別発表②
08. 個別発表③
09. 個別発表④
10. 個別発表⑤
11. 個別発表⑥
12. 個別発表⑦
13. 個別発表⑧
14. 個別発表⑨
15. 個別発表⑩／総括

準備学習(予習)

資料作成のための準備

準備学習(復習)

発表内容の文章化→必ず添削指導を受けること

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 演習発表 | 50% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |
| (3) 卒業レポート | 30% |

「卒業レポートA」を参照。尚、「卒業論文」の執筆の場合は「演習発表」を20%とし、「卒業論文」を80%として評価を行う。「卒業論文」の評価には「中間発表」「卒論面談」の評価を含む。

教科書

参考書

卒業レポートB（歴史1） ※開講週は別掲参照

JPCL-J-400

担当教員：東島 誠

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1J806040

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

各自の関心に基づく自由発表の指導を通じて、卒業論文を完成させるために必要な調査力・分析力の鍛錬を行なう。議論に参加すること、議論を組み立てていくことの、難しさと楽しさを味わってほしい。

卒業レポートAの成果を踏まえ、秋学期には、いよいよ卒論に取り組む。幅広い研究文献や史料を読み込む豊かな時間としてほしい。

(2) 学びの意義と目標

自分の研究を論文にまとめるという作業は、自分の中だけで完結する営みでは決してない。研究論文は、それを読む人があってはじめて研究論文たりうるといってよい。つまり論文とは、パブリックなものなのである。卒業研究Ⅱの演習の場は、自分の主張が、自分とは異なる価値観を持つ他の参加者に届くかどうかを試す、絶好のチャンスである。同じ趣味や関心を持つものにしか通じない、〈隠語〉の世界に閉じこもってはいけない。そのような意味で、この訓練は卒業後、社会に出ても役立ててほしい。

受講者に対する要望

発表準備は、遅くも2週間前には始めること。

学びのキーワード

- 古文書
- 古記録
- 学外図書館の利用
- NDLサーチ
- cinii

授業計画

01. ガイダンス
02. 先輩の論文を読む
03. 学生による発表
04. 学生による発表
05. 学生による発表
06. 学生による発表
07. 学生による発表
08. 学生による発表
09. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

準備学習(予習)

発表の前の週に、発表に使用する基本研究文献をメンバーに配布する。これは、参加者が事前に文献に目を通した上で発表を聞くことで、理解を深め、討論に参加しやすくするためである。

準備学習(復習)

当ゼミでは、毎回の発表者が作成した配布資料を半年間蓄積すると、極めて分厚いファイルになる。常にファイルを見かえしながら、蓄積型の学びを進めて行ってほしい。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 発表、議論への参加 | 50% |
| (2) 学期末レポート | 50% |

教科書

参考書

卒業レポートB(思想1)

JPCL-J-400

担当教員：清水 正之

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1J806280

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本の思想・文化のなかから、各自の問題意識に沿ったテーマをえらび、卒業レポートしてまとめるための、史料調査、レポート作成、参考文献のまとめ方などを指導する。

(2) 学びの意義と目標

関心を持った事柄を、対象化して研究しながら、自らの問題意識に沿って文章表現を作っていくことは、他の学びやこれからの人生にとって意味があることです。

受講者に対する要望

意欲的、積極的な参加をもとめます。

学びのキーワード

- ・日本の思想
- ・日本文化
- ・文章化
- ・レポート作成

授業計画

01. 授業の進め方のオリエンテーション
02. 史料（資料）調査の方法 1
03. 史料（資料）調査の方法 2
04. 参考文献の探索 1
05. 参考文献の探索 2
06. レポートの書き方 1
07. レポートの書き方 2
08. プレゼンテーションの実習 1
09. プレゼンテーションの実習 2
10. プレゼンテーションの実習 3
11. プレゼンテーションの実習 4
12. プレゼンテーションの実習 5
13. レポート作成と総合 1
14. レポート作成と総合 2
15. 授業まとめ

準備学習(予習)

事前に配布された資料を読み込んでおく

準備学習(復習)

各回で問題になった事柄を、自ら整理し、発表できるようにする

評価方法

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) 授業参加の参加度、積極性、問題提起力、 | 50% |
| (2) 発表レポートの完成度、積極性。 | 30% |
| (3) 期末レポートの形式的完成度、内容的な完成度と | 20% |

教科書

参考書

卒業レポートB（思想2）		JPCL-J-400			
担当教員：村松 晋					
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1J806300			
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. はじめに—大学生活を総括するために—</div> <div>02. 卒業論文とは何か その1</div> <div>03. 卒業論文とは何か その2</div> <div>04. 研究発表</div> <div>05. 研究発表</div> <div>06. 研究発表</div> <div>07. 研究発表</div> <div>08. 研究発表</div> <div>09. 研究発表</div> <div>10. 研究発表</div> <div>11. 研究発表</div> <div>12. 研究発表</div> <div>13. 研究発表</div> <div>14. 研究発表</div> <div>15. まとめ</div>				
<div>カリキュラム上の位置付け</div>					
<div>(1) 内容</div> <div>原則として卒業論文執筆希望者のためのゼミである。それぞれの主題に従って指導する。</div>					
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業論文執筆は、一連のプロセスそれ自体、最も大学生らしい学びと言ってよい。その経験は、進路が何であれ将来に生きてくる。新しい人生の門出に臨み、〈原点〉となる作品を創り上げてほしい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。</div>				
<div>受講者に対する要望</div> <div>「勇み足」を恐れず、みずからの〈肉声〉を、ぶつけること。そのためには、〈資料〉を時代の中で、内在的に読解することが不可欠となる。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。</div>				
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 発表内容</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 授業参加</td><td>50%</td></tr></table> <div>上記を勘案して評価する。全授業数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したとみなす。</div>		(1) 発表内容	50%	(2) 授業参加
(1) 発表内容	50%				
(2) 授業参加	50%				
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 日本史</div><div>・ 宗教</div><div>・ 思想</div><div>・ 民俗</div><div>・ 芸術</div></div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>				

卒業レポートB (思想3)		JPCL-J-400	
担当教員： 柳田 洋夫			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 2		コード： 1J806420	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス</div> <div>02. 卒業レポート発表・準備</div> <div>03. 卒業レポート発表・準備</div> <div>04. 卒業レポート発表・準備</div> <div>05. 卒業レポート発表・準備</div> <div>06. 卒業レポート発表・準備</div> <div>07. 卒業レポート発表・準備</div> <div>08. 卒業レポート発表・準備</div> <div>09. 卒業レポート発表・準備</div> <div>10. 卒業レポート発表・準備</div> <div>11. 卒業レポート発表・準備</div> <div>12. 卒業レポート発表・準備</div> <div>13. 卒業レポート発表・準備</div> <div>14. 卒業レポート発表・準備</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>日本の思想に関わる諸問題からテーマを設定できるよう、発表と討論を中心にすすめる。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業論文、卒業レポートの完成をめざして、各自の調べ考察する対象の理解と、研究法を学び身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>発表者は、事前に十分な準備をすること。他の参加者も、発表者の予告した課題に即して、発言の準備をする。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>発表者は、討論を経て修正したレジュメを提出する。他の参加者は、発表・討議でなされた内容を、自らの課題に活かすべく、よく振り返ること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>テキストと対話しつつ、自らの考えをまとめ、かたちにすることは、大学での学びの総決算であるとともに、社会に出てから必ず役立に立つ。意欲的な取り組みを望む。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への参加度</div><div>40%</div><div>(2) 発表</div><div>30%</div><div>(3) レポート</div><div>30%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 日本思想</div><div>・ 卒業論文</div><div>・ 卒業レポート</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

卒業レポートB（近現代文化 1）

担当教員：清水 均

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：2 コード：1J806510

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

1) 研究対象：近現代の「文化」と「文学」
2) 内容（キーワード：「物語」「想像力」「時代」「価値」）
簡潔に言えば「モノ・コト・ヒトと物語-文化と文学を研究する-」ということになる。
主な研究の視点としては次の2点を想定している。
①「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」＝「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「詳説」や「昔話」「童話」といった「文学ジャンル」に留まらず、「映像表現」「演劇」などをも含む広い範囲の表現を含む。
②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちにとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、いわゆる「伝統文化」と呼ばれるものも対象となる。

(2) 学びの意義と目標

「文化を考えると世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がいるが、文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。

受講者に対する要望

卒業論文の執筆を目指している学生は、常に「到達点」から逆算して自らの「研究の現状」を把握することを求める。

学びのキーワード

- ・近現代文化
- ・近現代文学
- ・物語
- ・想像力
- ・ポップ・カルチャー/サブ・カルチャー

授業計画

01. ガイダンス
02. 卒業レポート作成準備
03. 卒業レポート作成準備
04. 卒業レポート作成準備
05. 卒業レポート作成準備
06. 卒業レポート作成準備
07. 卒業レポート作成準備
08. 卒業レポート作成準備
09. 卒業レポート作成準備
10. 卒業レポート作成準備
11. 卒業レポート作成準備
12. 卒業レポート作成準備
13. 卒業レポート作成準備
14. 卒業レポート作成準備
15. 卒業レポート作成準備

準備学習(予習)

自らの発表の準備は当然「間に合わせ」では充実した発表には繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

準備学習(復習)

随時「研究ノート」を執筆し、最終レポートに繋げていく。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 最終レポート | 30% |
| (3) 研究ノート | 10% |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

専門演習Ⅰ（言語 Ⅰ）		JPCL-J-200									
担当教員： 小林 茂之											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1JX10100									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 導入</div> <div>02. Ch. 3 How Words Are Made: Morphology (1)</div> <div>03. Ch. 3 How Words Are Made: Morphology (2)</div> <div>04. Ch. 4 How Words Mean: Semantics I (1)</div> <div>05. Ch. 4 How Words Mean: Semantics I (2)</div> <div>06. Ch. 5 How English Phrases Are Formed: Syntax I (1)</div> <div>07. Ch. 5 How English Phrases Are Formed: Syntax I (2)</div> <div>08. Ch. 6 How English Phrases Are Formed: Syntax II (1)</div> <div>09. Ch. 6 How English Phrases Are Formed: Syntax II (2)</div> <div>10. Ch. 7 How Sentences Mean: Semantics II (1)</div> <div>11. Ch. 7 How Sentences Mean: Semantics II (2)</div> <div>12. Ch. 8 How to Communicate with Other People: Pragmatics (1)</div> <div>13. Ch. 8 How to Communicate with Other People: Pragmatics (2)</div> <div>14. Ch. 9 The Sounds of English: Phonetics and Phonology (1)</div> <div>15. Ch. 9 The Sounds of English: Phonetics and Phonology (2)</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>現代統語論の基礎的な概念や分析法を教科書を通して学ぶ。また、必要に応じて、プレゼンテーションの仕方など、大学生として必要な基礎的なスキルを学ぶ。担当者による演習方式での報告の後、参加者全員で検討する。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現代統語論における思考法を学び、論理力を高める。また、基礎力を充実させることによって、発展的な研究に取り組む準備をする。専門演習ⅠⅠでは文献学的知識も学ぶので、図書館司書講座の受講者にも役立つ。さらに、卒業研究に向けて、基礎的な研究技能を身に付ける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書を読み準備した上で授業に参加する。</div>									
		<div>準備学習(復習)</div> <div>関連書を読み、さまざまな言語現象に知識を広げる。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>日本語学概説を履修済みであることが望ましいが、未履修者は秋学期に受講する。春学期には言語文化論を履修して、専門演習ⅠⅠの履修の準備をする。教科書の他に電子辞書などを持参する。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>40%</td><td>教科書を手せずに出席しても、平常点は認められない。</td></tr><tr><td>(2) 授業参加度</td><td>20%</td><td>担当箇所を決める場合を含む。</td></tr><tr><td>(3) 期末レポート</td><td>40%</td><td></td></tr></table> <div>報告・討議は、授業参加度として評価する。</div>	(1) 平常点	40%	教科書を手せずに出席しても、平常点は認められない。	(2) 授業参加度	20%	担当箇所を決める場合を含む。	(3) 期末レポート	40%	
(1) 平常点	40%	教科書を手せずに出席しても、平常点は認められない。									
(2) 授業参加度	20%	担当箇所を決める場合を含む。									
(3) 期末レポート	40%										
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・音声学</div><div>・統語論</div><div>・意味論</div><div>・言語史</div><div>・語用論</div></div>		<div>教科書</div> <div>影山太郎・他『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』（くろしお出版）</div> <div>参考書</div> <div>授業時に指示する。</div>									

専門演習Ⅰ（文学 1）			JPCL-J-200
担当教員： 木下 綾子			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1JX10560	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. はじめに一この演習の方法と概要、報告者の決定 02. 担当教員による模擬発表（1） 03. 担当教員による模擬発表（2） 04. 受講生による発表（1） 05. 受講生による発表（2） 06. 受講生による発表（3） 07. 資料見学 08. 受講生による発表（4） 09. 受講生による発表（5） 10. 受講生による発表（6） 11. 百人一首大会 12. 受講生による発表（7） 13. 受講生による発表（8） 14. 受講生による発表（9） 15. レポート提出とまとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>『古今和歌集』『恋歌一』について一首ずつ、解釈と鑑賞を行っていきます。 『古今和歌集』は延喜5年（905）に成立した最初の勅撰和歌集です。王朝的な美意識の規範として、のちの文学、文化全般に大きな影響を与えました。 この『古今和歌集』を読解することで和歌解釈の方法を習得し、表現の特色や方法、および文学史、文化史的な意義について考えます。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>平安文学の学習および研究を進めていく上で必要な知識や技術を、演習形式で習得します。 具体的には、前後の時代における漢詩漢文、和歌、日記、物語、説話の各ジャンルにわたるテキスト、注釈書、辞書、索引、研究書を利用しながら、当該作品を東アジアの文学史、文化史、政治史のなかで読み解く訓練をします。また、いかに問いを立て、意見・主張を導き出し、証し立てるのか。そして、それらをいかに伝達し、議論するのかを身に付けます。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>報告者は担当箇所について調査して、レジュメを作成すること。その他の受講生は本文を読み、報告者に質問したいことを考えておくこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>その日のうちにレジュメを読み返し、整理すること。報告者は質疑で指摘されたレジュメの訂正箇所を直し、追加調査を書き加えたものを、レポートとして提出してください。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>本演習の基礎科目としては、「日本文学概説」「日本文学史（上代・中古）」「日本文学 研究と批評（古典②）」があります。並行して履修することを勧めます。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 報告・レポート 70% (2) 質疑応答における発言 30%</div> <div>報告者はよく調査して、自分なりの論点を提示すること。その他の受講生も報告者に失礼がないよう予習し、発表を注意深く聴いて積極的に発言すること。参加者全員で議論して、新たな読みを拓きましょう。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・平安文学 ・古今和歌集 ・調査・研究・報告 ・質疑応答</div>		<div>教科書</div> <div>高田 祐彦 『新版 古今和歌集 現代語訳付き（角川ソフィア文庫）』（角川学芸出版）</div> <div>参考書</div> <div>小沢 正夫、松田 成穂（校注・訳）『古今和歌集（新編日本古典文学全集）』（小学館）</div>	

専門演習Ⅰ（歴史・思想２）

JPCL-J-200

担当教員：松井 慎一郎

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX11110

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本近現代史すなわち幕末から現代にいたるまでの時期の歴史を対象とするゼミである。我々が生きている現代社会は、経格格差や少子高齢化など数々の問題・不安を抱えている。過去の人物や事象について学ぶことは単なる懐古趣味であってはいけない。「温故知新」というように、現代社会あるいは自己が抱えている問題や不安を解決する糸口を引き出すことこそ歴史を学ぶ最大の意義であると考えている。自己の「問題意識」を強く持ち、「史料」を深く読み解くことで、過去の人物や事象に迫っていききたい。

(2) 学びの意義と目標

まず、「史料」の解説を通じて、「読解力」、「考察力」、「批判力」等の基礎学力を身につけていきたい。そして、自己の研究課題を追究していくことで「分析力」「忍耐力」を、研究発表を通じて「構想力」「表現力」などを確かなものにしていきたい。

受講者に対する要望

日頃から、歴史への関心はもちろんのこと、自己を取り巻く現代社会、そして、何よりも自分自身の将来に深い関心を持っていただきたい。発表や討議の場では、自分の考えや感性を大切に臨んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・ 日本近現代史
- ・ 思想
- ・ 文化
- ・ 政治
- ・ 経済

授業計画

01. はじめにーガイダンスー
02. 研究入門 1 ー 日本近現代史研究とはー
03. 研究入門 2 ー 文献の調べ方ー
04. 研究入門 3 ー 発表の仕方ー
05. 参加者による発表
06. 参加者による発表
07. 参加者による発表
08. 参加者による発表
09. 参加者による発表
10. 参加者による発表
11. 参加者による発表
12. 参加者による発表
13. 参加者による発表
14. 参加者による発表
15. まとめ

準備学習(予習)

報告者は事前に教員の指導を受けること。参加者は報告者の担当部分の史料を読んで臨むこと。

準備学習(復習)

その日の討論や疑問点などをよく整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

授業のなかで指示する

参考書

担当教員：横山 寿世理

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX11240

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

ケータイやSNS、デザイン、スポーツ、ファッション、美容、観光やお笑い、食生活や住まい、都市と地域、ジェンダー、家族、友だち付き合い、恋愛、若者などの「文化」から、社会の枠組みを浮き彫りすることを目指す。

ゼミの運営方法は、文化の社会学に関連する書籍を読み、これをグループごとに報告して、質疑応答により理解を深めるというものである。より具体的には、2人1組程度で、指定する書籍（教科書）の各章をわかりやすくまとめ直して、他の学生の前で報告して、質問を受け、回答するというゼミ形式で進める。

(2) 学びの意義と目標

文化現象を通じて社会の枠組みを明らかにすること、すなわち社会の存在証明は、「社会学」の視点にもなっている。したがって、この社会学的な視点（ものの見方）を身につけられるになるだろう。

また、このゼミでは各ゼミ生の関心について深く調べるのではなく、文化の社会学におけるゼミ生の関心自体を見つけるために指定教科書を丁寧に理解することを目指す。

受講者に対する要望

ゼミでの目標を達成するためにも、専門科目「文化の社会学」や社会調査士科目をゼミと併せて受講することを勧める。また、報告レジュメなどの提出は、UNIPAを通じて行う。

学びのキーワード

- 社会学
- 文化
- 他者
- 集合意識
- コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーションと課題呈示、グループ分け
02. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（1）
03. 【2年生】課題テキスト報告と討論（1）
04. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（2）
05. 【2年生】課題テキスト報告と討論（2）
06. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（3）
07. 【2年生】課題テキスト報告と討論（3）
08. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（4）
09. 【2年生】課題テキスト報告と討論（4）
10. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（5）
11. 【2年生】課題テキスト報告と討論（5）
12. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（6）
13. 【2年生】課題テキスト報告と討論（6）
14. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（7）
15. 【2年生】課題テキスト報告と討論（7）

準備学習(予習)

指定された書籍を購入して、課題となった箇所は必ず事前に読んで、質問を用意して参加することを勧める。

準備学習(復習)

その日のゼミで行われた討論や、その結論がどのようなものであったかを、自分で整理しておいて欲しい。

評価方法

- | | |
|--------------|-------------------|
| (1) 報告への取り組み | 40% 報告用レジュメによって評価 |
| (2) 報告 | 15% 当日の報告自体によって評価 |
| (3) 質疑応答 | 45% 毎回の発言によって評価 |

教科書

小川 伸彦、山 泰幸 『現代文化の社会学入門—テーマと出会う、問いを深める』 ミネルヴァ書房、2007年。

参考書

担当教員：清水 均

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：１ コード：1JX11460

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

主な研究の視点としては次の２点を想定している。

①文学などの「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」＝「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「小説」や「昔話」「童話」といたジャンルに留まらず、「映像表現」「演劇」などを含む。

②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちにとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、研究対象は映画、ドラマ、マンガ、アニメ、メディア・風俗・流行・スポーツ・お笑い・ファッション・食文化、あるいはいわゆる「伝統文化」と呼ばれるもの等を含めた近現代文化全般ということになる。

(2) 学びの意義と目標

現代の「想像力」を分析することを通じて、私たちがどのような世界に存在しているのかを考える。また、そのことを通じて、世界（社会）に対する批評的な視座を獲得することを目指す。文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身と社会、世界への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。

受講者に対する要望

まずは研究の方法とゼミ形式での授業を体得することを通じて自らの研究テーマを発見してもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 近現代文化
- ・ 近現代文学
- ・ 物語
- ・ 想像力
- ・ ポップカルチャー

授業計画

01. ガイダンス：ゼミ形式の授業の方法について
02. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
03. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
04. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
05. 研究発表（１）
06. 研究発表（１）
07. 研究発表（１）
08. 研究発表（１）
09. 研究発表（１）
10. 研究発表（２）
11. 研究発表（２）
12. 研究発表（２）
13. 研究発表（２）
14. 研究発表（２）
15. まとめ

準備学習（予習）

自らの発表の準備は当然「間にあわせ」では充実した発表に繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

準備学習（復習）

各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 最終レポート | 30% |
| (3) 研究ノート | 10% |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

担当教員：熊谷 芳郎

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：１ コード：1JX11670

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本の子どもが置かれた状況、創りだした文化、歩んだ歴史を振り返り、複数で課題を担当して資料収集や発表を行い、その発表内容を基にした研究討議を行う。

また、上級生の研究発表をその準備から関わり、研究会の運営の仕方を学ぶとともに、大学での「学び」について具体的なイメージを持つ。

そのような活動の中から、各自が自分なりの課題を見出していく。見出した課題について、ここで学んだ方法を用いて資料を捜し、ブックレポートを作成する。

(2) 学びの意義と目標

大学におけるゼミナール形式の授業を初めて体験するという状況を踏まえ、研究の基礎技能について理解していくことを一番の目標とする。

世界は完成し閉じたものではなく、今も動き回っているものである。子どもと教育、どちらも身近な存在ではあるが、あまり考えたことの無い人も多いだろう。そのような自分の足元を見直すことで、日本を含めたアジアの文化について、それぞれが自分なりの課題意識を持ってこの後の大学での「学び」に関する視点を見つけていくことと目指したい。

さらに、このゼミでの活動を通して、資料の探し方やまとめ方、発表の仕方を理解していくことを目指す。

受講者に対する要望

担当した課題について、自分が皆に知らせるんだという意識をもって資料収集や発表に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・基礎技能の習得
- ・資料収集の仕方
- ・資料の読み方・まとめ方
- ・発表の仕方
- ・研究討議の仕方

授業計画

01. 授業に関するガイダンス、および子どもをめぐる状況について討議。
02. 図書館ガイダンス
03. 発表の基礎を学ぶ（１）
04. 発表の基礎を学ぶ（２）
05. 発表の基礎を学ぶ（３）
06. 発表の基礎を学ぶ（４）
07. 発表の基礎を学ぶ（５）
08. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 １。
09. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 ２。
10. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 ３。
11. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 ４。
12. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 ５。
13. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 ６。
14. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 ７。
15. 授業の総括と、演習Ⅱに向けての留意事項の確認。

準備学習(予習)

担当した課題論文を読んでまとめ、発表用の資料を作成する。

準備学習(復習)

研究討議を通じて学んだ内容を整理しておく。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題レポートと発表 | 40% |
| (2) 討議への参加状況 | 20% |
| (3) 最終レポート | 40% |

教科書

参考書

専門演習Ⅰ（歴史・思想４）

JPCL-J-200

担当教員：村松 晋

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：１ コード：1JX11720

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

美術・文学から「宗教」に至るまで、広い意味での〈作品〉を、時代の中で読み解くことを目指す。「相関文化」「日本思想入門」に共感してくれた人の参加を歓迎する。

(2) 学びの意義と目標

「歴史・思想」分野における「ものの考え方」「調べ方」、宗教や民俗へのアプローチの仕方など、研究の初歩を会得してもらいたい。まずは共通のテキストを講読する形式ですすめる予定であるが、参加者の顔ぶれにより、臨機応変に対応したい。

受講者に対する要望

時代の「陰」に眼を向けられるようになること。「小さき者」「名もなき者」が育んだ〈文化〉への眼差しを育てること。〈アジア〉を場として「日本」を問い質すこと。

学びのキーワード

- ・ 日本史
- ・ 宗教
- ・ 哲学
- ・ 芸術
- ・ 民俗

授業計画

01. はじめにーオリエンテーションー
02. 研究の手立て その１ーゼミとは何かー
03. 研究の手立て その２ーテーマはどうやって決めるのかー
04. 研究の手立て その３ー何を使って調べるか／図書館の使い方ー
05. 研究の手立て その４ーレジュメの作り方ー
06. テキスト講読のオリエンテーション その１
07. テキスト講読のオリエンテーション その２
08. 参加者によるレポート
09. 参加者によるレポート
10. 参加者によるレポート
11. 参加者によるレポート
12. 参加者によるレポート
13. 参加者によるレポート
14. 参加者によるレポート
15. まとめ

準備学習(予習)

レポーターは発表前に教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。

準備学習(復習)

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。なお本ゼミでの「発表」は、このレポート提出をもって初めて完結する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 発表内容 | 50% |
| (2) 授業参加 | 50% |

上記を勘案して評価する。「ゼミは決して休まない」気概で参加してほしい。

教科書

参考書

専門演習Ⅰ（比較文化３）

JPCL-J-200

担当教員：濱田 寛

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1JX12050

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

古典学の基本をテキストの「輪読」形式の演習を通して学ぶ。対象とするテキストは『世俗諺文』（影印）である。

(2) 学びの意義と目標

比較文化の研究を目標とする本ゼミにおける、基礎的・技術的な事項を学ぶ。本演習で修得する知識・技術は卒業研究での自律的な研究のための基礎力に相当する。

受講者に対する要望

継続的な努力と忍耐。そしてそれを支える情熱。

学びのキーワード

- ・ 千字文
- ・ 比較文学
- ・ 比較文化

授業計画

01. ・ ガイダンス
02. ・ 演習方法の解説
03. ・ 模擬演習（１）／担当教員による模擬演習
04. ・ 模擬演習（２）／担当教員による模擬演習
05. ・ 演習発表（１）
06. ・ 演習発表（２）
07. ・ 演習発表（３）
08. ・ 演習発表（４）
09. ・ 演習発表（５）
10. ・ 演習発表（６）
11. ・ 演習発表（７）
12. ・ 演習発表（８）
13. ・ 演習発表（９）
14. ・ 演習発表（１０）
15. 総括

準備学習（予習）

演習発表の準備には相当の時間を要する

準備学習（復習）

演習発表において指摘を受けた箇所についての追加調査を「事後報告」として提出する

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 演習発表 | 80% |
| (2) 積極性 | 20% |

積極性とは演習における傾聴・発言に対する評価をいう。演習形式の授業では、演習に「参加」する姿勢が問われる。出席をもって単位が保証される訳では無い。

教科書

プリントを配布する

参考書

教場にて適宜紹介する。

專門演習I (歷史・思想5)

JPCL-J-200

担当教員：柳田 洋夫

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX12130

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそものは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることとならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。とりあえずは共通のテキストを決めて、それを一緒に読み進めながら、各自が探求すべきテーマを考えていきたい。

(2) 学びの意義と目標

テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神について、キリスト教と通しグローバルな視点も援用しつつ、より深く理解することを目指す。

受講者に対する要望

自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討議に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。

学びのキーワード

- ・日本の思想
- ・日本人の生き方・あり方
- ・キリスト教と日本人

授業計画

01. ガイダンス
02. 発表と討議
03. 発表と討議
04. 発表と討議
05. 発表と討議
06. 発表と討議
07. 発表と討議
08. 発表と討議
09. 発表と討議
10. 発表と討議
11. 発表と討議
12. 発表と討議
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. まとめ

準備學習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備學習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|---------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 発表と討議への参加度と内容 | 30% | |
| (3) レポート | 20% | |

教科書

参考書

専門演習Ⅰ（言語３）

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：１ コード：1JX12210

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

普段何気なく耳にし、口にしている日本語の多様性に目を向ける。ことばを通して、性・世代・集団・地域・心理・書きことば・話しことばなどのバラエティを学ぶ。その一歩として、先行研究を通し、日本語に関する研究にはどのようなものがあるのかを知る。

(2) 学びの意義と目標

ことばから社会を見る目を養い、多角的にものを見、思考できるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

発表、質疑応答、ディスカッションの形式で進める。積極的に参加し、発言してほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 先行研究
- ・ 要約
- ・ 日本語教育
- ・ ディスカッション

授業計画

01. ガイダンス
02. 雑誌「日本語学」を見てみよう
03. 先行研究を読む（１）
04. 先行研究を読む（２）
05. 先行研究を読む（３）
06. 先行研究を要約・発表する（１）
07. 先行研究を要約・発表する（２）
08. 先行研究を要約・発表する（３）
09. 先行研究を要約・発表する（４）
10. 先行研究を要約・発表する（５）
11. 先行研究を要約・発表する（６）
12. 関連論文を探す（１）
13. 関連論文を探す（２）
14. まとめ（１）
15. まとめ（２）

準備学習(予習)

各自、発表に向けて準備すること。

準備学習(復習)

授業で学んだことをきちんと整理し、レポートにまとめられるように準備すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 参加度 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

専門演習II（言語 1）		JPCL-J-300
担当教員：小林 茂之		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1JX12500
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入：古英語・中英語概説</div> <div>02. 原書講読：『ピータバラ年代記』（1）</div> <div>03. 原書講読：『ピータバラ年代記』（2）</div> <div>04. 原書講読：『ピータバラ年代記』（3）</div> <div>05. 原書講読：『修道女の手引』（1）</div> <div>06. 原書講読：『修道女の手引』（2）</div> <div>07. 原書講読：『梟とナイチンゲール』（1）</div> <div>08. 原書講読：『梟とナイチンゲール』（2）</div> <div>09. 原書講読：『梟とナイチンゲール』（3）</div> <div>10. 原書講読：『ガウエイン卿と緑の騎士』（1）</div> <div>11. 原書講読：『ガウエイン卿と緑の騎士』（2）</div> <div>12. 原書講読：『ガウエイン卿と緑の騎士』（3）</div> <div>13. 原書講読：『カンタベリー物語』（1）</div> <div>14. 原書講読：『カンタベリー物語』（2）</div> <div>15. 原書講読：『カンタベリー物語』（3）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>中英語は、古英語から近代英語への変遷期に当たり、言語変化上で重要な時期である。『ピータバラ年代記』、『カンタベリー物語』などの日本でも翻訳を通じて知られている作品から選んで、教科書の記述や翻訳で内容を補いながら、原典を写本の複製で読んでみる。また、担当者による報告、討議を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>言語史研究を行う上で、いくつかの初期英語のテキスト講読の導入し、テキスト・言語の基本的な特徴を知り文献学的知識を学ぶ。文献学的知識は図書館司書の受講者に役立つ。卒業レポートに向けて、研究テーマを見つける。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業の進行に合わせて、教科書を読んでくる。なお、教科書は販売が遅れるなど、入手が困難な場合、コピーを配布する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>日本語学概論・言語文化論の未履修者は、春学期と秋学期にそれらを履修する。教科書は必ず入手してください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>関連書を読み、内容を確認したり、知識を広げる。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>(2) 授業参加</div><div>(3) 期末レポート</div></div><div><div>40%</div><div>20%</div><div>40%</div></div><div><div>教科書は必ず入手して、授業に携行する。教科書を手せず、授業に参加しても、平常点は認められない。</div><div>テキスト講読における演習の担当を含む。</div></div></div>	
	<div>演習内容については、受講者の希望を考慮して決める。報告・討議は、授業参加度として評価する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">『ピータバラ年代記』『修道女の手引』『梟とナイチンゲール』『ガウエイン卿と緑の騎士』『カンタベリー物語』</div>	<div>教科書</div> <div>水鳥喜喬・米倉 綽 『中英語の初歩』（英潮社）</div> <div>参考書</div> <div>授業時に指示する。</div>	

専門演習II（言語3）

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：1 コード：1JX12710

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「ことば」のあり方への関心を高め、自らの疑問点を明確にし、関連する先行研究を調べることで、興味関心を深める。また、資料や文献の探し方、集め方を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

何に興味があるのかを見つめ、どのような資料がどこにあるのかを知り、また、どのような調査からどのような結果が既に導かれているのかを学ぶ。

受講者に対する要望

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. キーワードから資料を探す（1）
03. キーワードから資料を探す（2）
04. キーワードから資料を探す（3）
05. 論文レビュー（1）
06. 論文レビュー（2）
07. 論文レビュー（3）
08. 論文レビュー（4）
09. 論文レビュー（5）
10. 論文レビュー（6）
11. 文献の検索を学ぶ
12. 研究を比較する（1）
13. 研究を比較する（2）
14. まとめ（1）
15. まとめ（2）

準備学習(予習)

発表前には十分な準備を行うこと。

準備学習(復習)

授業で学んだことをきちんと整理し、レポートにまとめられるように準備すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 参加度 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

専門演習Ⅱ（歴史2）

担当教員： 松井 慎一郎

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 1JX14010

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

明治から昭和初期までの時期の史料を読んでいく。現代の感覚からではなく、当時の時代状況をしっかり踏まえたうえで、できるだけ書き手の心境に近づきながら、読み解いていきたい。

(2) 学びの意義と目標

卒業研究に必要な史料読解力や論理的考察力などの基本的な学力を身に付けていきたい。

受講者に対する要望

日頃から、歴史への関心はもちろんのこと、自己を取り巻く現代社会、そして、何よりも自分自身の将来に深い関心を持っていただきたい。発表や討議の場では、自分の考えや感性を大切にしながら臨んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・ 日本近現代史
- ・ 思想
- ・ 文化
- ・ 政治
- ・ 経済

授業計画

01. はじめにーガイダンスー
02. 参加者による発表
03. 参加者による発表
04. 参加者による発表
05. 参加者による発表
06. 参加者による発表
07. 参加者による発表
08. 参加者による発表
09. 参加者による発表
10. 参加者による発表
11. 参加者による発表
12. 参加者による発表
13. 参加者による発表
14. 参加者による発表
15. まとめ

準備学習(予習)

報告者は事前に教員の指導を受けること。参加者は報告者の担当部分の史料を読んで臨むこと。

準備学習(復習)

その日の討論や問題点などをよく整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

授業のなかで指示する

参考書

授業のなかで指示する

専門演習Ⅱ（歴史・思想④）

JPCL-J-200

担当教員：村松 晋

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX14220

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「歴史・思想（宗教を含む）」の分野から関心のあるテーマを自由に選び（要相談）、広い意味での〈作品〉の読み方・読み抜き方を学ぶ。特定の思想家・宗教家あるいは作家における狭義の〈作品〉を「歴史・思想」の視点から立体的に読み直したいという学生も、もちろん支援する。

(2) 学びの意義と目標

「専門演習Ⅱ」での学びをふまえ、テーマ設定の仕方、文献の探し方、さらにその〈読み解き方〉を身につけていくことを目標にする。

受講者に対する要望

〈学び〉を深めるためには〈共に〉学ぶことが不可欠である。豊かで実りある時間を積極的に創り上げようとする姿勢を求めたい。

学びのキーワード

- ・ 日本史
- ・ 宗教
- ・ 思想
- ・ 民俗
- ・ 芸術

授業計画

01. はじめにーオリエンテーションー
02. 研究の手立て その1ーいかにテーマを絞るかー
03. 研究の手立て その2ー何を読んで深めるかー
04. 研究の手立て その3ーどうやって伝えるかー
05. 研究発表
06. 研究発表
07. 研究発表
08. 研究発表
09. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめ

準備学習（予習）

発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること

準備学習（復習）

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。なお本ゼミでの「発表」は、このレポート提出をもって初めて完結する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 発表内容 | 50% |
| (2) 授業参加 | 50% |

上記2つを勘案して評価する。なお全授業回数の三分の一以上を欠席した者は授業参加を放棄したと見なす。

教科書

参考書

専門演習Ⅱ(歴史・思想5)

JPCL-J-200

担当教員：柳田 洋夫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX14430

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。専門演習Ⅰの学びをふまえつつ、共通のテキストと一緒に読み進めながら、各自が探求すべきテーマを考えていきたい。

(2) 学びの意義と目標

専門演習Ⅰの学びをふまえつつ、さらなるテキストの読解力また考察力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神について、キリスト教というグローバルな視点も援用しつつ、より深く理解することを目指す。

受講者に対する要望

自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討議に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。

学びのキーワード

- ・日本の思想
- ・日本人の生き方・あり方
- ・キリスト教と日本人

授業計画

01. ガイダンス
02. 発表と討議
03. 発表と討議
04. 発表と討議
05. 発表と討議
06. 発表と討議
07. 発表と討議
08. 発表と討議
09. 発表と討議
10. 発表と討議
11. 発表と討議
12. 発表と討議
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. まとめ

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|---------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 発表と討議への参加度と内容 | 30% | |
| (3) レポート | 20% | |

教科書

参考書

担当教員：清水 均

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX14760

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

主な研究の視点としては次の2点を想定している。
 ①文学などの「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」＝「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「小説」や「昔話」「童話」といたジャンルに留まらず、「映像表現」「演劇」などを含む。
 ②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちにとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、研究対象は映画、ドラマ、マンガ、アニメ、メディア・風俗・流行・スポーツ・お笑い・ファッション・食文化、あるいはいわゆる「伝統文化」と呼ばれるもの等を含めた近現代文化全般ということになる。

(2) 学びの意義と目標

現代の「想像力」を分析することを通じて、私たちがどのような世界に存在しているのかを考える。また、そのことを通じて、世界（社会）に対する批評的な視座を獲得することを目指す。文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身と社会、世界への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。

受講者に対する要望

まずは研究の方法とゼミ形式での授業を体得することを通じて自らの研究テーマを発見してもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 物語
- ・ 想像力
- ・ 文学
- ・ サブカルチャー
- ・ ポップカルチャー

授業計画

01. ガイダンス：ゼミ形式の授業の方法について
02. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
03. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
04. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
05. 研究発表（1）
06. 研究発表（1）
07. 研究発表（1）
08. 研究発表（1）
09. 研究発表（1）
10. 研究発表（2）
11. 研究発表（2）
12. 研究発表（2）
13. 研究発表（2）
14. 研究発表（2）
15. まとめ

準備学習（予習）

自らの発表の準備は当然「間にあわせ」では充実した発表に繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

準備学習（復習）

各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 最終レポート | 40% |
| (3) 研究ノート | 10% |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

専門演習Ⅱ（文化4）		JPCL-J-200	
担当教員： 熊谷 芳郎			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 1		コード： 1JX14870	
学部教育の関連目		授業計画	
【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う		01. 授業に関するガイダンス、および子どもをめぐる状況について討議。 02. 図書館ガイダンス 03. 発表の基礎を学ぶ（1） 04. 発表の基礎を学ぶ（2） 05. 発表の基礎を学ぶ（3） 06. 発表の基礎を学ぶ（4） 07. 発表の基礎を学ぶ（5） 08. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 1。 09. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 2。 10. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 3。 11. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 4。 12. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 5。 13. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 6。 14. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 7。 15. 授業の総括と、演習Ⅱに向けての留意事項の確認。	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
日本の子どもが置かれた状況、創りだした文化、歩んだ歴史を振り返り、複数で課題を担当して資料収集や発表を行い、その発表内容を基にした研究討議を行う。 また、上級生の研究発表をその準備から関わり、研究会の運営の仕方を学ぶとともに、大学での「学び」について具体的なイメージを持つ。 そのような活動の中から、各自が自分なりの課題を見出していく。見出した課題について、ここで学んだ方法を用いて資料を捜し、ブックレポートを作成する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
大学におけるゼミナール形式の授業を初めて体験するという状況を踏まえ、研究の基礎技能について理解していくことを一番の目標とする。 世界は完成し閉じたものではなく、今も動きゆれているものである。子どもと教育、どちらも身近な存在ではあるが、あまり考えたことの無い人も多いだろう。そのような自分の足元を見直すことで、日本を含めたアジアの文化について、それぞれが自分なりの課題意識を持ってこの後の大学での「学び」に関する視点を見つけていくことと目指したい。 さらに、このゼミでの活動を通して、資料の探し方やまとめ方、発表の仕方を理解していくことを目指す。		担当した課題論文を読んでまとめ、発表用の資料を作成する。	
		準備学習(復習)	
		研究討議を通じて学んだ内容を整理しておく。	
受講者に対する要望		評価方法	
担当した課題について、自分が皆に知らせるんだという意識をもって資料収集や発表に臨んでほしい。		(1) 課題レポートと発表 40% (2) 討議への参加状況 20% (3) 最終レポート 40%	
学びのキーワード		教科書	
・基礎技能の習得 ・資料収集の仕方 ・資料の読み方・まとめ方 ・発表の仕方 ・研究討議の仕方		参考書	

専門演習Ⅱ（比較文化3）

JPCL-J-200

担当教員：濱田 寛

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX15150

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

古典学の基本をテキストの「輪読」形式の演習を通して学ぶ。対象とするテキストは「専門演習Ⅰ」から継続して『世俗諺文』（影印）を使用する。

(2) 学びの意義と目標

比較文化の研究を目標とする本ゼミにおける、基礎的・技術的な事項を学ぶ。本演習では「課題発見」を重要な目標とし、与えられた箇所から自ら「課題」を見出し、探求する姿勢を学ぶ。

受講者に対する要望

継続的な努力と忍耐。そしてそれを支える情熱。

学びのキーワード

- 千字文
- 課題発見
- 比較文学
- 比較文化

授業計画

01. ・ガイダンス
02. ・演習発表（1）
03. ・演習発表（2）
04. ・演習発表（3）
05. ・演習発表（4）
06. ・演習発表（5）
07. ・演習発表（6）
08. ・演習発表（7）
09. ・演習発表（8）
10. ・演習発表（9）
11. ・演習発表（10）
12. ・演習発表（11）
13. ・演習発表（12）
14. ・演習発表（13）
15. 総括

準備学習（予習）

演習発表の準備には相当の時間を要する

準備学習（復習）

演習発表において指摘を受けた箇所についての追加調査を行い、「学期末レポート」作成のための基礎データを蓄積すること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 演習発表 | 50% |
| (2) 積極性 | 20% |
| (3) 学期末レポート | 30% |

積極性とは演習における傾聴・発言に対する評価をいう。演習形式の授業では、演習に「参加」する姿勢が問われる。出席をもって単位が保証される訳では無い。

教科書

参考書

卒業研究(比較文化 アジア 2)Ⅰ

JPCL-J-300

担当教員：濱田 寛

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX15580

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

古典学の基本をテキストの「輪読」形式の演習を通して学ぶ。対象とするテキストは『世俗諺文』（影印）を使用する。

(2) 学びの意義と目標

「専門演習」を通して学んだ「基礎」を「応用」へと展開する。

受講者に対する要望

継続的な努力と忍耐。そしてそれを支える情熱。

学びのキーワード

- 千字文
- 比較文学
- 比較文化

授業計画

01. ・ガイダンス
02. ・演習方法の解説
03. ・模擬演習(1)／担当教員による模擬演習
04. ・模擬演習(2)／担当教員による模擬演習
05. ・演習発表(1)
06. ・演習発表(2)
07. ・演習発表(3)
08. ・演習発表(4)
09. ・演習発表(5)
10. ・演習発表(6)
11. ・演習発表(7)
12. ・演習発表(8)
13. ・演習発表(9)
14. ・演習発表(10)
15. 総括

準備学習(予習)

演習発表の準備には相当の時間を要する

準備学習(復習)

「卒業レポート」を意識したテーマ探求を1年間の共通課題として設定する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 演習発表 | 80% |
| (2) 積極性 | 20% |

積極性とは演習における傾聴・発言に対する評価をいう。演習形式の授業では、演習に「参加」する姿勢が問われる。出席をもって単位が保証される訳では無い。

教科書

プリントを配布する。

参考書

教場にて適宜紹介する。

卒業研究(言語 1)Ⅰ		JPCL-J-200
担当教員： 小林 茂之		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1JX15600
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入 02. Ch.3 How Words Are Made: Morphology (1) 03. Ch.3 How Words Are Made: Morphology (2) 04. Ch.4 How Words Mean: Semantics I (1) 05. Ch.4 How Words Mean: Semantics I (2) 06. Ch.5 How English Phrases Are Formed: Syntax I (1) 07. Ch.5 How English Phrases Are Formed: Syntax I (2) 08. Ch.6 How English Phrases Are Formed: Syntax II (1) 09. Ch.6 How English Phrases Are Formed: Syntax II (2) 10. Ch.7 How Sentences Mean: Semantics II (1) 11. Ch.7 How Sentences Mean: Semantics II (2) 12. Ch.8 How to Communicate with Other People: Pragmatics (1) 13. Ch.8 How to Communicate with Other People: Pragmatics (2) 14. Ch.9 The Sounds of English: Phonetics and Phonology (1) 15. Ch.9 The Sounds of English: Phonetics and Phonology (2)</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>現代統語論の基礎的な概念や分析法を教科書を通して学ぶ。また、必要に応じて、プレゼンテーションの仕方など、大学生として必要な基礎的なスキルを学ぶ。担当者による演習方式での報告の後、参加者全員で検討する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現代統語論における思考法を学び、論理力を高める。また、基礎力を充実させることによって、発展的な研究に取り組む準備をする。専門演習ⅠⅠでは文献学的知識も学ぶので、図書館司書講座の受講者にも役立つ。さらに、卒業研究に向けて、基礎的な研究技能を身に付ける。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書を読み準備した上で授業に参加する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>日本語学概説を履修済みであることが望ましいが、未履修者は秋学期に受講する。春学期には言語文化論を履修して、専門演習ⅠⅠの履修の準備をする。教科書の他に電子辞書などを持参する。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>関連書を読み、さまざまな言語現象に知識を広げる。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>(2) 授業参加度</div><div>(3) 期末レポート</div></div><div><div>40%</div><div>20%</div><div>40%</div></div><div>教科書を手せずに出席しても、平常点は認められない。 担当箇所を決める場合を含む。</div></div> <div>報告・討議は、授業参加度として評価する。</div>	
	<div>教科書</div> <div>影山太郎・他『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』（くろしお出版）</div> <div>参考書</div> <div>授業時に指示する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">音声学統語論意味論言語史語用論</div>		

卒業研究(言語 1) II		JPCL-J-300
担当教員： 小林 茂之		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1JX15710
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. 導入：古英語・中英語概説 02. 原文講読：『ピータバラ年代記』(1) 03. 原文講読：『ピータバラ年代記』(2) 04. 原文講読：『ピータバラ年代記』(3) 05. 原文講読：『修道女の手引』(1) 06. 原文講読：『修道女の手引』(2) 07. 原文講読：『梟とナイチンゲール』(1) 08. 原文講読：『梟とナイチンゲール』(2) 09. 原文講読：『梟とナイチンゲール』(3) 10. 原文講読：『ガウエイン卿と緑の騎士』(1) 11. 原文講読：『ガウエイン卿と緑の騎士』(2) 12. 原文講読：『ガウエイン卿と緑の騎士』(3) 13. 原文講読：『カンタベリー物語』(1) 14. 原文講読：『カンタベリー物語』(2) 15. 原文講読：『カンタベリー物語』(3)
中英語は、古英語から近代英語への変遷期に当たり、言語変化上で重要な時期である。『ピータバラ年代記』、『カンタベリー物語』などの日本でも翻訳を通じて知られている作品から選んで、教科書の記述や翻訳で内容を補いながら、原典を写本の複製で読んでみる。また、担当者による報告、討議を行う。		
(2) 学びの意義と目標		
言語史研究を行う上で、いくつかの初期英語のテキスト講読の導入し、テキスト・言語の基本的な特徴を知り文献学的知識を学ぶ。文献学的知識は図書館司書の受講者に役立つ。卒業レポートに向けて、研究テーマを見つける。		準備学習(予習)
		授業の進行に合わせて、教科書を読んでくる。なお、教科書は販売が遅れるなど、入手が困難な場合、コピーを配布する。
		準備学習(復習)
		関連書を読み、内容を確認したり、知識を広げる。
受講者に対する要望		評価方法
日本語学概論・言語文化論の未履修者は、春学期と秋学期にそれらを履修する。教科書は必ず入手してください。		
学びのキーワード		
・『ピータバラ年代記』 ・『修道女の手引』 ・『梟とナイチンゲール』 ・『ガウエイン卿と緑の騎士』 ・『カンタベリー物語』		教科書
		水鳥喜喬・米倉 綽 『中英語の初歩』 (英潮社)
		参考書
		授業時に指示する。

卒業研究(比較文化 アジア2)II

JPCL-J-300

担当教員：濱田 寛

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX16090

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本演習は「専門演習Ⅱ」のテキストである『纂図附音増広古注千字文』(影印)の「輪読」を平衡して行いつつ、各自の「卒業レポート／卒業論文」のテーマ発表を中心とする。

(2) 学びの意義と目標

演習における「意見表明」の技術を学ぶ。

受講者に対する要望

継続的な努力と忍耐。そしてそれを支える情熱。

学びのキーワード

- ・千字文
- ・課題発見
- ・比較文学
- ・比較文化

授業計画

01. ・ガイダンス
02. ・演習発表(1)
03. ・演習発表(2)
04. ・演習発表(3)
05. ・演習発表(4)
06. ・演習発表(5)
07. ・演習発表(6)
08. ・演習発表(7)
09. ・演習発表(8)
10. ・演習発表(9)
11. ・演習発表(10)
12. ・演習発表(11)
13. ・演習発表(12)
14. ・演習発表(13)
15. 総括

準備学習(予習)

演習発表の準備には相当の時間を要する

準備学習(復習)

演習発表において指摘を受けた箇所についての追加調査を行い、「学期末レポート」作成のための基礎データを蓄積すること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 演習発表 | 50% |
| (2) 積極性 | 20% |
| (3) 学期末レポート | 30% |

積極性とは演習における傾聴・発言に対する評価をいう。演習形式の授業では、演習に「参加」する姿勢が問われる。出席をもって単位が保証される訳では無い。

教科書

参考書

卒業研究(言語3)I

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：1 コード：1JX16510

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

疑問を見つけ、それを明確にし、先行研究を通して、どのような卒業研究が可能であるかを考える。

(2) 学びの意義と目標

論文レビューやディスカッションを通して、卒業論文に結びつくテーマを見つけ、今度、どのような資料から、何を明らかにしたいかを各自で考えていく。

受講者に対する要望

学びのキーワード

- ・卒業論文
- ・論文レビュー
- ・テーマ探し
- ・ディスカッション
- ・先行研究

授業計画

01. ガイダンス
02. 雑誌「日本語学」を見てみよう
03. キーワードからテーマを模索する(1)
04. キーワードからテーマを模索する(2)
05. キーワードからテーマを模索する(3)
06. 先行研究からテーマを模索する(1)
07. 先行研究からテーマを模索する(2)
08. 先行研究からテーマを模索する(3)
09. 先行研究からテーマを模索する(4)
10. 先行研究からテーマを模索する(5)
11. 先行研究からテーマを模索する(6)
12. 調査方法を考える(1)
13. 調査方法を考える(2)
14. まとめ(1)
15. まとめ(2)

準備学習(予習)

発表前には十分な準備をすること。

準備学習(復習)

授業で学んだことをきちんと整理し、レポートにまとめられるように準備すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 参加度 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

卒業研究(言語3)II

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：週間授 科目： 必修・選択： 単位：1 コード：1JX16610

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒業論文を執筆することを目標に、自らの興味を明確にし、研究の目的、資料、データ、論拠の求め方を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

論拠とオリジナリティという二つを満たす研究を行うことを目標とする。

受講者に対する要望

学びのキーワード

- ・卒業論文
- ・ディスカッション
- ・発表
- ・資料
- ・調査

授業計画

01. ガイダンス
02. テーマを明確にする (1)
03. テーマを明確にする (2)
04. テーマを明確にする (3)
05. 調査資料を模索する (1)
06. 調査資料を模索する (2)
07. 調査資料を模索する (3)
08. 調査資料を模索する (4)
09. 調査資料を模索する (5)
10. 調査資料を模索する (6)
11. 文献の検索を学ぶ
12. 予備調査 (1)
13. 予備調査 (2)
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)

準備学習(予習)

発表の為に、十分な準備をしてくること。

準備学習(復習)

授業で学んだことをきちんと整理し、レポートにまとめられるように準備すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 参加度 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

卒業研究(古典文学 1)Ⅰ			
担当教員： 木下 綾子			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 1 コード： 1JX16910
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. はじめに一この演習の方法と概要、報告者の決定 02. 担当教員による模擬発表（1） 03. 担当教員による模擬発表（2） 04. 受講生による発表（1） 05. 受講生による発表（2） 06. 受講生による発表（3） 07. 資料見学 08. 受講生による発表（4） 09. 受講生による発表（5） 10. 受講生による発表（6） 11. 百人一首大会 12. 受講生による発表（7） 13. 受講生による発表（8） 14. 受講生による発表（9） 15. レポート提出とまとめ	
(1) 内容			
『古今和歌集』「恋歌一」について一首ずつ、解釈と鑑賞を行っていきます。 『古今和歌集』は延喜5年（905）に成立した最初の勅撰和歌集です。王朝的な美意識の規範として、のちの文学、文化全般に大きな影響を与えました。 この『古今和歌集』を読解することで和歌解釈の方法を習得し、表現の特色や方法、および文学史、文化史的な意義について考えます。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
卒業レポートや卒業論文を執筆するために必要な知識や技術を、演習形式で習得します。 具体的には、前後の時代における漢詩漢文、和歌、日記、物語、説話の各ジャンルにわたるテキスト、注釈書、辞書、索引、研究書を利用しながら、その世界を見渡して、自分なりの「地図」や「系図」を作る必要があります。その上で、いかに独自の問いを立て、何を論拠としていかに答えを導くか。それをほかのメンバーにいかに伝達し、討論を通じて互いにいかに深め合うかを学びます。		報告者は担当箇所について調査して、レジュメを作成すること。その他の受講生は本文を読み、報告者に質問したいことを考えておくこと。	
		準備学習(復習)	
		その日のうちにレジュメを読み返し、整理すること。報告者は質疑で指摘されたレジュメの訂正箇所を直し、追加調査を書き加えたものを、レポートとして提出してください。	
受講者に対する要望		評価方法	
本演習の基礎科目としては、「日本文学概説」「日本文学史（上代・中古）」「日本文学 研究と批評（古典②）」があります。並行して履修することを勧めます。		(1) 報告・レポート 70% (2) 質疑応答における発言 30%	
学びのキーワード		教科書	
・平安文学 ・古今和歌集 ・調査・研究・報告 ・質疑応答		高田 祐彦 『新版 古今和歌集 現代語訳付き（角川ソフィア文庫）』（角川学芸出版）	
		参考書	
		小沢 正夫、松田 成穂（校注・訳）『古今和歌集（新編日本古典文学全集）』（小学館）	

単位：1 コード：1JX17010

01. 卒業研究の経過報告（１）
02. 卒業研究の経過報告（２）
03. 担当教員による模擬発表
04. 受講生による発表（１）
05. 受講生による発表（２）
06. 受講生による発表（３）
07. 受講生による発表（４）
08. 受講生による発表（５）
09. 百人一首大会
10. 受講生による発表（６）
11. 受講生による発表（７）
12. 受講生による発表（８）
13. 受講生による発表（９）
14. 受講生による発表（１０）
15. レポート提出とまとめ

(1) 内容

『源氏物語』「若紫」について一節ずつ、解釈と鑑賞、考察を行っていきます。

『源氏物語』は寛弘5年(1008)頃に一部分が成立した、日本文学史上最大の古典です。

「若紫」は、主人公・光源氏が療養先の北山で出会った、理想の女性・藤壺の宮に生き写しの少女・紫の上の養育者となるまでを、心の通じない正妻・葵の上へのやりきれない思いや、藤壺の宮との密会、懐妊し罪におののく宮からの拒絶、夢占による思いがけない将来とその途上の困難の予言とともに描きます。

この「若紫」の読解作業を通じて物語解釈の方法を習得し、表現の特色や方法、および文学史、文化史的な意義について考えます。

なお、学期の初めには、卒業研究の経過報告をしてもらいます。

卒業レポートや卒業論文を執筆するために必要な知識や技術を、演習形式で習得します。

具体的には、前後の時代における漢詩漢文、和歌、日記、物語、説話の各ジャンルにわたるテキスト、注釈書、辞書、索引、研究書を利用しながら、その世界を見渡して、自分なりの「地図」や「系図」を作る必要があります。その上で、いかに独自の問いを立て、何を論拠としていかに答えを導くか。それをほかのメンバーがいかに伝達し、討論を通じて互いにいかに深め合うかを学びます。

報告者は担当箇所について調査して、レジュメを作成すること。その他の受講生は本文を読み、報告者に質問したいことを考えておくこと。

その日のうちにレジュメを読み返し、整理すること。報告者は質疑で指摘されたレジュメの訂正箇所を直し、追加調査を書き加えたものを、レポートとして提出してください。

(1) 報告・レポート	70%
(2) 質疑応答における発言	30%

報告者はよく調査して、自分なりの論点を提示すること。その他の受講生も報告者に失礼がないよう予習し、発表を注意深く聴いて積極的に発言すること。参加者全員で議論して、新たな論点を拓きましよう。

本演習の基礎科目としては、「日本文学概説」「日本文学史（上代・中古）」「日本文学 研究と批評（古典②）」があります。並行して履修することを勧めます。

・平安文学
・源氏物語
・調査・研究・報告
・質疑応答

紫式部、玉上 琢弥 『源氏物語—付現代語訳（第1巻）』（角川ソフィア文庫）（角川書店）

阿部 秋生、秋山 虔、今井 源衛、鈴木 日出男 『源氏物語（第1巻）（新編日本古典文学全集）』（小学館）

卒業研究(歴史1)Ⅰ ※開講週は別掲参照

JPCL-J-300

担当教員：東島 誠

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX17740

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

各自が関心のあるテーマの先行研究論文を、複数読み比べることが、一つの基本文献に取り組んできた「専門演習」と、最も異なる点である。複数の論者の〈差異〉を追究することで、必ずや第三の新しい論が立ち現れてくるであろう。それが卒業論文への第一歩である。まだ自分のなかで問題が明確になってない場合でも、学外図書館等の利用を通じて、ぜひとも自分の取り組むべきテーマを発見してほしい。

(2) 学びの意義と目標

専門演習で、実際に「史料」をもとに歴史を考える端緒についたわけだが、つづく卒業研究Ⅰ・Ⅱでは、これまでの歴史家がどのように「史料」から歴史を考えてきたか、数多くの論文に触れてほしい。

取り組むべきテーマを発見したとき、先人たちはその問題をどのように考えようとしたのか、に学んでほしい。そして、その作業を追体験することを通じて、よりよい問題解決の方法を自ら模索してほしい。

受講者に対する要望

発表準備は、遅くも2週間前には始めること。

学びのキーワード

- ・古文書
- ・古記録
- ・学外図書館の利用
- ・NDLサーチ
- ・cinii

授業計画

01. ガイダンス
02. 先輩の論文を読む
03. レジューメ作成法～先輩のレジューメに学ぶ
04. 学生による発表
05. 学生による発表
06. 学生による発表
07. 学生による発表
08. 学生による発表
09. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

準備学習(予習)

発表の前の週に、発表に使用する基本研究文献をメンバーに配布する。これは、参加者が事前に文献に目を通した上で発表を聞くことで、理解を深め、討論に参加しやすくするためである。

準備学習(復習)

当ゼミでは、毎回の発表者が作成した配布資料を半年間蓄積すると、極めて分厚いファイルになる。常にファイルを見かえしながら、蓄積型の学びを進めて行ってほしい。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 発表、議論への参加 | 50% |
| (2) 学期末レポート | 50% |

教科書

参考書

JPCL-J-300

単位：1 コード：1JX17850

01. ガイダンス
02. 学生による発表
03. 学生による発表
04. 学生による発表
05. 学生による発表
06. 学生による発表
07. 学生による発表
08. 学生による発表
09. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

参考書

卒業研究(歴史2)Ⅰ			
担当教員： 松井 慎一郎			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス 02. 学生による発表 03. 学生による発表 04. 学生による発表 05. 学生による発表 06. 学生による発表 07. 学生による発表 08. 学生による発表 09. 学生による発表 10. 学生による発表 11. 学生による発表 12. 学生による発表 13. 学生による発表 14. 学生による発表 15. 学生による発表	
(1) 内容			
卒業論文のテーマを探り出す準備段階として、先行研究論文を参考にしながら、史料の読み方、構成方法、論述の仕方などを学んでいきたい。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
先行研究論文を読んで、それに関する報告を行うことで、「読解力」、「考察力」、「批判力」「分析力」「忍耐力」「構想力」「表現力」などの卒論執筆に必要な諸能力を身に付けていきたい。		毎回、報告者が取り上げる先行研究論文をしつかり読んで議論ができるようにしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		その日の討論や疑問点などをよく整理しておくこと。	
		評価方法	
		(1) 平常点 50% (2) 発表 30% (3) レポート 20%	
受講者に対する要望			
日頃から、歴史への関心はもちろんのこと、自己を取り巻く現代社会、そして、何よりも自分自身の将来に深い関心を持っていただきたい。発表や討議の場では、自分の考えや感性を大切にしてください。			
学びのキーワード		教科書	
・ 日本近現代史 ・ 思想 ・ 文化 ・ 政治 ・ 経済		授業のなかで指示する	
		参考書	
		授業のなかで指示する	

卒業研究(歴史2)II					
担当教員：松井 慎一郎					
学期： 週間授 科目：		必修・選択： 単位： 1 コード： 1JX18010			
学部教育の関連目		授業計画			
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス			
		02. 学生による発表			
(1) 内容		03. 学生による発表			
		04. 学生による発表			
		05. 学生による発表			
		06. 学生による発表			
		07. 学生による発表			
		08. 学生による発表			
		09. 学生による発表			
		10. 学生による発表			
		11. 学生による発表			
		12. 学生による発表			
		13. 学生による発表			
		14. 学生による発表			
		15. 学生による発表			

卒業研究(思想2)Ⅰ		JPCL-J-300			
担当教員：村松 晋					
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1JX18300			
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. はじめにーオリエンテーションー</div> <div>02. 研究の手立て その1ー専門演習から卒業研究へー</div> <div>03. 研究の手立て その2ー自分を見つめるということー</div> <div>04. 研究の手立て その3ー真の自分のテーマを発見するー</div> <div>05. 研究発表</div> <div>06. 研究発表</div> <div>07. 研究発表</div> <div>08. 研究発表</div> <div>09. 研究発表</div> <div>10. 研究発表</div> <div>11. 研究発表</div> <div>12. 研究発表</div> <div>13. 研究発表</div> <div>14. 研究発表</div> <div>15. まとめ</div>				
<div>カリキュラム上の位置付け</div>					
<div>(1) 内容</div> <div>参加者各自が、専門演習Ⅱ（思想(2)）で取り組んだテーマを発展させることを目的とする。対象領域も専門演習Ⅱのそれに準ずる。</div>					
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業研究Ⅱ、さらには卒業論文につなげ得る成果を手にすること。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。</div>				
<div>受講者に対する要望</div> <div>〈進路〉を含め、「いかに生きるか」を自問しながら研究計画を立案してほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。なお本ゼミでの「発表」は、このレポート提出をもって初めて完結する。</div>				
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 発表内容</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 授業参加</td><td>50%</td></tr></table> <div>上記を勘案して評価する。なお全授業回数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したと見なす。</div>		(1) 発表内容	50%	(2) 授業参加
(1) 発表内容	50%				
(2) 授業参加	50%				
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 日本史</div><div>・ 宗教</div><div>・ 思想</div><div>・ 民俗</div><div>・ 芸術</div></div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>				

卒業研究(思想2)II		JPCL-J-300				
担当教員：村松 晋						
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1JX18410				
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. はじめに—大学生活を総括するために—</div> <div>02. 卒業論文とは何か その1</div> <div>03. 卒業論文とは何か その2</div> <div>04. 研究発表</div> <div>05. 研究発表</div> <div>06. 研究発表</div> <div>07. 研究発表</div> <div>08. 研究発表</div> <div>09. 研究発表</div> <div>10. 研究発表</div> <div>11. 研究発表</div> <div>12. 研究発表</div> <div>13. 研究発表</div> <div>14. 研究発表</div> <div>15. まとめ</div>					
<div>カリキュラム上の位置付け</div>						
<div>(1) 内容</div> <div>最終学年の最後のゼミとして、名実ともに大学生生活を総括する学びの場である。一人でも多くの人に、卒業論文を書いてほしいと希っている。</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>上記に尽きている。本学で学んでよかったと思えるような学びの集大成を、ゼミ生どうしで共有したい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。</div>					
<div>受講者に対する要望</div> <div>できる限り卒業論文に挑戦してほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。</div>					
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 発表内容</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 授業参加</td><td>50%</td></tr></table> <div>上記を勘案して評価する。全授業数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したとみなす。</div>		(1) 発表内容	50%	(2) 授業参加	50%
	(1) 発表内容	50%				
(2) 授業参加	50%					
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 日本史</div><div>・ 宗教</div><div>・ 思想</div><div>・ 民俗</div><div>・ 芸術</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>				

卒業研究(近現代文化 1)Ⅰ		JPCL-J-300
担当教員： 清水 均		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1JX19340
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. プレゼンテーション 03. プレゼンテーション 04. プレゼンテーション 05. 研究発表 06. 研究発表 07. 研究発表 08. 研究発表 09. 研究発表 10. 研究発表 11. 研究発表 12. 研究発表 13. 再考察 14. 再考察 15. 再考察</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1) 研究対象：近現代の「文化」と「文学」 2) 内容（キーワード：「物語」「想像力」「時代」「価値」） 簡潔に言えば「モノ・コト・ヒトと物語ー文化と文学を研究するー」ということになる。 主な研究の視点としては次の2点を想定している。 ①「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」＝「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「小説」や「昔話」「童話」といたジャンルに留まらず、「映像表現」「演劇」などを含む。 ②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちにとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、いわゆる「伝統文化」と呼ばれるものも対象となる。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「文化を考えると世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がいるが、文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>この段階では研究テーマを明確にし、卒業論文への可能性を見定めてほしい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>自らの発表の準備は当然「間に合わせ」では充実した発表には繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>(2) 最終レポート</div><div>(3) 研究ノート</div></div><div><div>60%</div><div>30%</div><div>10%</div></div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 近現代文化</div><div>・ 近現代文学</div><div>・ 物語</div><div>・ 想像力</div><div>・ ポップカルチャー</div></div>		<div>教科書</div> <div>使用しない。</div> <div>参考書</div> <div>必要に応じて授業時に指示する。</div>

卒業研究(近現代文化1)II			JPCL-J-300
担当教員：清水 均			
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1	コード：1JX19450
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. プレゼンテーション 03. プレゼンテーション 04. プレゼンテーション 05. 卒業レポート準備 06. 卒業レポート準備 07. 卒業レポート準備 08. 卒業レポート準備 09. 卒業レポート準備 10. 卒業レポート準備 11. 卒業レポート準備 12. 卒業レポート準備 13. 卒業レポート準備 14. 卒業レポート準備 15. 卒業レポート準備</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>1) 研究対象：近現代の「文化」と「文学」 2) 内容（キーワード：「物語」「想像力」「時代」「価値」） 簡潔に言えば「モノ・コト・ヒトと物語ー文化と文学を研究するー」ということになる。 主な研究の視点としては次の2点を想定している。 ①「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」＝「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「小説」や「昔話」「童話」といたジャンルに留まらず、「映像表現」「演劇」などを含む。 ②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちにとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、いわゆる「伝統文化」と呼ばれるものも対象となる。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「文化を考えると世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がいるが、文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>自らの発表の準備は当然「間に合わせ」では充実した発表には繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>この段階では研究テーマを明確にし、卒業論文への可能性を見定めてほしい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点60%</div><div>(2) 最終レポート30%</div><div>(3) 研究ノート10%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・近現代文化</div><div>・近現代文学</div><div>・物語</div><div>・想像力</div><div>・ポップカルチャー</div></div>		<div>教科書</div> <div>使用しない。</div> <div>参考書</div> <div>必要に応じて授業時に指示する。</div>	

卒業研究(近現代文化2)Ⅰ

JPCL-J-300

担当教員：熊谷 芳郎

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX19560

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

各自が関心のあるテーマの先行研究論文を実際に読み解き、その内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べることによって、参加者全体でディスカッションを行う。中には、まだ自分の問題が明確になっていない場合もあるであろうが、ともに実践記録や論文を読み進めることによって、自分の取り組むべき課題を発見していくことを目指す。

(2) 学びの意義と目標

目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養ってほしい。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。

受講者に対する要望

演習Ⅱで見つけた研究課題を少しずつ深めるつもりで臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 各自の研究課題
- ・ 先行研究
- ・ 発表
- ・ 研究討議
- ・ 研究の深化

授業計画

01. 文化を研究することの意味について講義と、討議。
02. 図書館ガイダンス
03. 各自の研究テーマに関する発表・討議 1。
04. 各自の研究テーマに関する発表・討議 2。
05. 各自の研究テーマに関する発表・討議 3。
06. 各自の研究テーマに関する発表・討議 4。
07. 各自の研究テーマに関する発表・討議 5。
08. 各自の研究テーマに関する発表・討議 6。
09. 各自の研究テーマに関する発表・討議 7。
10. 各自の研究テーマに関する発表・討議 8。
11. 各自の研究テーマに関する発表・討議 9。
12. 各自の研究テーマに関する発表・討議 10。
13. 各自の研究テーマに関する発表・討議 11。
14. ゼミ研究発表会準備・運営
15. 各自の研究テーマに関する発表・討議 12。

準備学習(予習)

自分の選んだテーマについてほぼ1ヶ月に1回程度の資料報告をしてほしい。そのため、発表に合わせたベースで論文を読み解いてもらう。

準備学習(復習)

研究討議を踏まえて、次の発表までに発表内容を整理しなおす。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 課題に関する発表 | 50% |
| (2) 研究討議への参加状況 | 30% |
| (3) 最終レポート | 20% |

教科書

参考書

担当教員：熊谷 芳郎

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX19670

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

各自が関心のあるテーマの先行研究論文を実際に読み解き、その内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べることによって、参加者全体でディスカッションを行う。中には、まだ自分の問題が明確になっていない場合もあるであろうが、ともに実践記録や論文を読み進めることによって、自分の取り組むべき課題を発見していくことを目指す。最終的に学びの総括として研究発表会での発表、および最終レポートの完成につなげる。

また、研究資料を收拾する手段の習得を目指し、国立国会図書館の見学を行う。

(2) 学びの意義と目標

目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養ってほしい。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。

受講者に対する要望

研究課題を少しずつ深めていく意識を持ち続けてほしい。

学びのキーワード

- ・ 各自の研究課題
- ・ 発表
- ・ 研究討議
- ・ 研究の深化
- ・ 研究発表会

授業計画

01. 研究を体系化することについて講義
02. 各自の研究テーマに関する発表・討議
03. 各自の研究テーマに関する発表・討議
04. 各自の研究テーマに関する発表・討議
05. 各自の研究テーマに関する発表・討議
06. 各自の研究テーマに関する発表・討議
07. 各自の研究テーマに関する発表・討議
08. 各自の研究テーマに関する発表・討議
09. 各自の研究テーマに関する発表・討議
10. 各自の研究テーマに関する発表・討議
11. 各自の研究テーマに関する発表・討議
12. 各自の研究テーマに関する発表・討議
13. 各自の研究テーマに関する発表・討議
14. 研究発表会での研究発表
15. 「学び」の総括、および卒業論文に向けての留意事項の確認。

準備学習(予習)

1ヶ月に1回のペースで研究発表を行えるよう、自分の課題に関する先行研究論文を読んでいく。

準備学習(復習)

研究討議の内容を踏まえてまとめなおすとともに、これまでの発表内容と結合させていく。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業での発表 | 30% |
| (2) 研究討議への参加状況 | 20% |
| (3) 最終レポート | 50% |

教科書

参考書

卒業研究(思想3)Ⅰ			JPCL-J-300
担当教員：柳田 洋夫			
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1JX19720	
学部教育の関連目 【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う		授業計画 01. ガイダンス 02. 発表と討議 03. 発表と討議 04. 発表と討議 05. 発表と討議 06. 発表と討議 07. 発表と討議 08. 発表と討議 09. 発表と討議 10. 発表と討議 11. 発表と討議 12. 発表と討議 13. 発表と討議 14. 発表と討議 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容 担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、一緒に勉強していきたい。			
(2) 学びの意義と目標 専門演習での学びをふまえつつ、それぞれのテーマのまとめに取りかかるための準備をする。テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神をより深く理解する。さらに、これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。		準備学習(予習) 授業においてその都度指示する。	
		準備学習(復習) 授業においてその都度指示する。	
		評価方法 (1) 授業への参加度 50% 規定に満たない場合は評価の対象としない (2) 発表と討議への参加度と内容 30% (3) レポート 20%	
受講者に対する要望 自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討議に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。			
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none">日本の思想日本人の生き方・あり方キリスト教と日本人		教科書 参考書	

卒業研究(思想3)II

JPCL-J-300

担当教員：柳田 洋夫

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX19830

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそも日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、一緒に勉強していきたい。

(2) 学びの意義と目標

卒業研究Iでの学びをふまえつつ、それぞれのテーマの最終的まとめに向けて準備する。これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。

受講者に対する要望

自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討議に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。

学びのキーワード

- ・日本の思想
- ・日本人の生き方・あり方
- ・キリスト教と日本人

授業計画

01. 導入
02. 発表と討議
03. 発表と討議
04. 発表と討議
05. 発表と討議
06. 発表と討議
07. 発表と討議
08. 発表と討議
09. 発表と討議
10. 発表と討議
11. 発表と討議
12. 発表と討議
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. まとめ

準備學習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備學習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|---------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 発表と討議への参加度と内容 | 30% | |
| (3) レポート | 20% | |

教科書

参考書

卒業研究(近現代文化3)I

JPCL-J-200

担当教員：横山 寿世理

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX22110

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本の文化を社会的に捉えることを目指して、各ゼミ生が自らのテーマを見つけて、発展させられるようなゼミとした。専門演習から始まったであろう「自分の関心探し」を、卒業研究では「自分の関心」として先鋭化させてほしい。

そこで、各ゼミ生は、2年生が報告する文化の社会学に関する論考を参考にしながら、社会的視点をつかみ取るとともに、その視点に立って、自らの関心となった現代日本の文化現象（インターネット／ケータイ／SNS／消費／都市／地域／若者／友人関係／付き合い／家族／ジェンダーなど）を説明することを目指すことになる。

具体的には、春学期には専門演習Ⅱに続いて、参照したい先行研究・論文を探して報告することを課す。その上で、秋学期には、これまでの報告から卒業レポートの概要を明らかにすることが求められる。

さらに、各報告に対して、他のゼミ生から必ず質疑を求めるので、さまざまな関心に興味を拡げてほしい。報告者には、寄せられた質疑に丁寧に答えることが求められる。なお、ゼミ生の人が多い場合は、グループワークが基本となるにも注意してほしい。

(2) 学びの意義と目標

文化現象を通じて社会の仕組みを明らかにすること、すなわち社会の存在証明は、「社会学」の視点にもなっている。したがって、この社会的な視点（ものの見方）を身につけられるになるだろう。

そのために、この春学期のゼミでは、各ゼミ生の関心を定めるとともに、論文や書籍をまとめて自分の考えを展開する力をつけることを目指す。また、下級生の教科書に基づく報告を聞き、質疑を行うことで、社会的な視点を理解することも目標となる。

受講者に対する要望

ゼミでの目標を達成するためにも、専門科目「文化の社会学」や社会調査士科目をゼミと併せて受講することを勧める。また、報告レジュメなどの提出は、UNIPAを通じて行う。

学びのキーワード

- ・社会学
- ・文化
- ・他者
- ・集合意識
- ・コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーションと課題呈示（グループ分け）
02. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（1）
03. 【2年生】課題テキスト報告と討論（1）
04. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（2）
05. 【2年生】課題テキスト報告と討論（2）
06. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（3）
07. 【2年生】課題テキスト報告と討論（3）
08. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（4）
09. 【2年生】課題テキスト報告と討論（4）
10. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（5）
11. 【2年生】課題テキスト報告と討論（5）
12. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（6）
13. 【2年生】課題テキスト報告と討論（6）
14. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（7）
15. 【2年生】課題テキスト報告と討論（7）

準備学習(予習)

指定された書籍を購入して、課題となった箇所は必ず事前に読んで、質問を用意して参加することを勧める。

準備学習(復習)

その日のゼミで行われた討論や、その結論がどのようなものであったかを、自分で整理しておいて欲しい。

評価方法

- | | |
|--------------|--------------------------|
| (1) 報告への取り組み | 40% 先行研究論文の報告用レジュメによって評価 |
| (2) 報告 | 15% 先行研究論文の報告自体によって評価 |
| (3) 質疑応答 | 45% |

教科書

小川 伸彦、山 泰幸 『現代文化の社会学入門—テーマと出会う、問いを深める』 ミネルヴァ書房、2007年。

参考書

担当教員：横山 寿世理

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1JX22210

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本の文化を社会的に捉えることを目指して、各ゼミ生が自らのテーマを見つけて、発展させられるようなゼミとした。専門演習から始まったであろう「自分の関心探し」を、卒業研究では「自分の関心」として先鋭化させてほしい。

そこで、各ゼミ生は、2年生が報告する文化の社会学に関する論考を参考にしながら、社会的視点をつかみ取るとともに、その視点に立って、自らの関心となった現代日本の文化現象（インターネット／ケータイ／SNS／消費／都市／地域／若者／友人関係／付き合い／家族／ジェンダーなど）を説明することを目指すことになる。

秋学期には、①卒業レポートで論じたい文化現象を紹介することと、②どのような視点からその文化現象を論述するかを整理して報告することを課す。さらに、③報告後には卒業レポート執筆準備として、報告済みのレジュメを修正することが求められる。

なお、各報告に対して、他のゼミ生から必ず質疑を求めるので、さまざまな関心に興味を払ってほしい。報告者には、寄せられた質疑に丁寧に答えることが求められる。ゼミ生の人数が多い場合は、グループワークが基本となるにも注意してほしい。

(2) 学びの意義と目標

文化現象を通じて社会の仕組みを明らかにすること、すなわち社会の存在証明は、「社会学」の視点にもなっている。したがって、この社会的な視点（ものの見方）を身につけられるになるだろう。

特に、秋学期のゼミでは、自分の文化現象についての関心を社会的な視点に基づいて調査して、先行研究とは異なる点を指摘する力をつけることになる。この目標を達成するためにも、他のゼミ生の報告や、下級生の先行研究報告も参考になるはずである。

受講者に対する要望

ゼミでの目標を達成するためにも、専門科目「文化の社会学」や社会調査士科目をゼミと併せて受講することを勧める。

学びのキーワード

- ・社会学
- ・文化
- ・他者
- ・集合意識
- ・コミュニケーション

授業計画

01. ガイダンス、後半課題の準備
02. 後半課題の準備
03. 【2年生】課題テキスト報告と討論（8）
04. 【2年生】課題テキスト報告と討論（9）
05. 【3年生】卒業レポート計画の報告
06. 【2年生】各ゼミ生による先行研究論文の報告
07. 【3年生】卒業レポート計画の報告
08. 【2年生】各ゼミ生による先行研究論文の報告
09. 【2年生】各ゼミ生による先行研究論文の報告
10. 【3年生】卒業レポート計画の報告
11. 【2年生】各ゼミ生による先行研究論文の報告
12. 【2年生】各ゼミ生による先行研究論文の報告
13. 【3年生】卒業レポート計画の報告
14. 【2年生】各ゼミ生による先行研究論文の報告
15. 【2年生】各ゼミ生による先行研究論文の報告

準備学習(予習)

指定された書籍を購入して、課題となった箇所は必ず事前に読んで、質問を用意して参加することを勧める。

準備学習(復習)

その日のゼミで行われた討論や、その結論がどのようなものであったかを、自分で整理しておいて欲しい。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|--------------------|
| (1) 報告への取組み | 30% | 報告用レジュメによって評価 |
| (2) 質疑応答 | 30% | 毎回のゼミにおける発言によって評価 |
| (3) 報告 | 10% | 報告自体によって評価 |
| (4) 報告済みのレジュメ修正 | 30% | 報告済みのレジュメの修正によって評価 |

教科書

小川 伸彦、山 泰幸 『現代文化の社会学入門—テーマと出会う、問いを深める』 ミネルヴァ書房、2007年。

参考書

異文化間コミュニケーション（J専門）

担当教員：鄭 鎬碩

学期：週間授 科目：

必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P630610

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

わたしたちの日常には異質なもの（＝他者）との出会いであふれている。本講義では、多様な映像資料やテキストをもとに、異質性とどのような関係を築いていくかという視点から現代文化のダイナミズムについて学習する。

(2) 学びの意義と目標

- (1) 現代世界において文化とコミュニケーションが問われる文脈について理解する。
- (2) 異文化間コミュニケーションの基礎概念が分かる。
- (3) 映像資料や文献を批判的に読みとく力を鍛える。

受講者に対する要望

授業では講義のほか、小グループで討論を行い、短く発表してもらう。自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・異文化
- ・コミュニケーション
- ・他者
- ・メディア
- ・グローバリゼーション

授業計画

01. なぜ異文化間コミュニケーションが問題なのか
02. 文化とは何か
03. 野蛮と文明（1）
04. 野蛮と文明（2）
05. オリエンタリズム（1）
06. オリエンタリズム（2）
07. 練習・討論：異文化へのまなざし（1）
08. 練習・討論：異文化へのまなざし（2）
09. アイデンティティとは何か（1）
10. アイデンティティとは何か（2）
11. 自我と他者（1）
12. 自我と他者（2）
13. 言語とカテゴリー（1）
14. 言語とカテゴリー（2）
15. マイノリティとマジョリティ（1）
16. マイノリティとマジョリティ（2）
17. 多文化主義の挑戦（1）
18. 多文化主義の挑戦（2）
19. 練習・討論：アイデンティティと文化（1）
20. 練習・討論：アイデンティティと文化（2）
21. 公共性とは何か（1）
22. 公共性とは何か（2）
23. 公共性からの排除（1）
24. 公共性からの排除（2）
25. グローバリゼーションと民主主義（1）
26. グローバリゼーションと民主主義（2）
27. 練習・討論：異文化と公共性（1）
28. 練習・討論：異文化と公共性（2）
29. まとめ（1）
30. まとめ（2）

準備学習(予習)

受講生は、毎回の文献を予め読んで授業に参加する。

準備学習(復習)

授業で?学んだ内容を文章で?まとめ、自分のコメントを加えておく。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

講義内で紹介する。

教えるための古典Ⅳ		TEAT-J-300
担当教員：濱田 寛、木下 綾子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：2J700650
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 和歌の修辞法（1） 02. 和歌の修辞法（2） 03. 演習『古今和歌集』・『新古今和歌集』 04. 敬語法（1） 05. 敬語法（2） 06. 演習『枕草子』（1） 07. 演習『枕草子』（2） 08. 古典分野まとめ 09. 中国文学史（1） 10. 中国文学史（2） 11. 中国文学史（3） 12. 中国文学史（4） 13. 日本漢文学史（1） 14. 日本漢文学史（2） 15. 日本漢文学史（3）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この科目で学ぶ「古典」とは、日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、読解力を養う。 前半の「古文」では、和歌の修辞法や敬語法について学習し、演習として『古今和歌集』・『新古今和歌集』・『枕草子』を読む。 後半の「漢文」では、中国文学史を軸に、史書や文言小説など、様々な作品を鑑賞する。また、日本における漢文学の歴史についても、頼山陽『日本外史』などの鑑賞を通じて理解を深めていく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>人に教えるためには、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、はじめて魅力的な授業も可能になろう。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること。具体的には教場にて指示。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>その日に学んだことを確実に身に付けていくよう復習を行うこと。あやふやな事柄は必ず辞書を引いて確認する習慣を身に付けよう。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 中間試験 50% 第8週に実施 (2) 学期末試験 50% 定期試験期間に実施</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">和歌敬語法中国文学史日本文学史</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

専門演習II（文化 1）		JPCL-J-200												
担当教員：横山 寿世理														
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：2JX14540												
学部教育の関連目 【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う		授業計画 01. ガイダンス、後半課題の準備 02. 後半課題の準備Ⅰ（先行研究論文を探す） 03. 【2年生】 課題テキスト報告と討論（8） 04. 【2年生】 課題テキスト報告と討論（9） 05. 【3年生】 卒業レポート計画の報告 06. 【2年生】 各ゼミ生による先行研究論文の報告 07. 【3年生】 卒業レポート計画の報告 08. 【2年生】 各ゼミ生による先行研究論文の報告 09. 【2年生】 各ゼミ生による先行研究論文の報告 10. 【3年生】 卒業レポート計画の報告 11. 【2年生】 各ゼミ生による先行研究論文の報告 12. 【2年生】 各ゼミ生による先行研究論文の報告 13. 【3年生】 卒業レポート計画の報告 14. 【2年生】 各ゼミ生による先行研究論文の報告 15. 【2年生】 各ゼミ生による先行研究論文の報告												
カリキュラム上の位置付け														
(1) 内容 ケータイやSNS、デザイン、スポーツ、ファッション、美容、観光やお笑い、食生活や住まい、都市と地域、ジェンダー、家族、友だち付き合い、恋愛、若者などの「文化」から、社会の枠組みを浮き彫りすることを目指す。 前半のゼミの運営方法は、専門演習Ⅰで終わらなかった『現代文化の社会学入門』の報告と討論を続ける。専門演習Ⅰと同じく、2人1組程度で、指定する書籍（教科書）の章をわかりやすくまとめ直して、他の学生の前で報告して、質問を受け、回答するというゼミ形式で進める。 また、この『現代文化の社会学入門』のレジュメは、報告後、討論の結果を受けて修正を行い再提出する。この再提出によって、どんなレジュメがわかりやすいのかを考える。 後半のゼミでは、各ゼミ生が「卒業レポート」として深めることができそうなこと、または興味のあるテーマについての先行研究論文を探して、レジュメにまとめて発表、質疑応答を行う。後半は、どれだけ先行研究論文をわかりやすく報告するかが大切になる。														
(2) 学びの意義と目標 文化現象を通じて社会の枠組みを明らかにすること、すなわち社会の存在証明は、「社会学」の視点にもなっている。したがって、この社会学的な視点（ものの見方）を身につけられるになるだろう。 また、この専門演習Ⅱゼミでは少しずつ各ゼミ生の関心を絞ることを目標とする。ただし、専門演習Ⅰと同じく、文化の社会学におけるゼミ生の関心自体を見つけるために指定教科書を丁寧に理解することも目標とする。		準備学習(予習) 指定された書籍を購入して、課題となった箇所は必ず事前に読んで、質問を用意して参加することを勧める。												
受講者に対する要望 ゼミでの目標を達成するためにも、専門科目「文化の社会学」や社会調査士科目をゼミと併せて受講することを勧める。 		準備学習(復習) その日のゼミで行われた討論や、その結論がどのようなものであったかを、自分で整理しておいて欲しい。												
		評価方法 <table> <tr> <td>(1) 報告への取組み</td><td>40%</td><td>先行研究論文の報告用レジュメによって評価</td></tr> <tr> <td>(2) 質疑応答</td><td>45%</td><td>毎回のゼミにおける発言によって評価</td></tr> <tr> <td>(3) 報告</td><td>10%</td><td>先行研究論文の報告自体によって評価</td></tr> <tr> <td>(4) レジュメの修正</td><td>5%</td><td>教科書についての報告レジュメの修正と再提出によって評価</td></tr> </table>	(1) 報告への取組み	40%	先行研究論文の報告用レジュメによって評価	(2) 質疑応答	45%	毎回のゼミにおける発言によって評価	(3) 報告	10%	先行研究論文の報告自体によって評価	(4) レジュメの修正	5%	教科書についての報告レジュメの修正と再提出によって評価
(1) 報告への取組み	40%	先行研究論文の報告用レジュメによって評価												
(2) 質疑応答	45%	毎回のゼミにおける発言によって評価												
(3) 報告	10%	先行研究論文の報告自体によって評価												
(4) レジュメの修正	5%	教科書についての報告レジュメの修正と再提出によって評価												
学びのキーワード ・社会学 ・文化 ・他者 ・集合意識 ・コミュニケーション		教科書 小川 伸彦、山 泰幸 『現代文化の社会学入門—テーマと出会う、問いを深める』（ミネルヴァ書房） 参考書												

教師論（中高教職）		TEAT-0-101	
担当教員：井上 兼生			
学期： 週間授 科目： 教職課程/ 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 5T100101	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】 教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける		01. オリエンテーション 02. 教師に求められる資質・能力とは（１）－現状と課題 03. 教師に求められる資質・能力とは（２）－生徒の求める教師像 04. 教師に求められる資質・能力とは（３）－教師としての自覚 05. 教師の仕事（１）教師の専門性－教育に関する知識と教科に関する知識 06. 教師の仕事（２）教師の力量向上－研修の義務と機会 07. 教師の地位（１）教師をめぐる法令－教育基本法・地方公務員法など 08. 教師の地位（２）現代社会と教師 09. 教師の環境（１）組織の一員としての教師－教師の多様な職務の理解 10. 教師の環境（２）教育改革と教師－近年の教育関連法の改正と教員 11. 教師の環境（３）最近の環境変化の動向－地域社会や保護者との協力など 12. 教師養成（１）その歴史－戦前期および戦後改革 13. 教師養成（２）－教員養成を巡る近年の動向と教職選択の自覚 14. 教育計画とは何か 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【D】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目			
(1) 内容			
<p>教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。</p> <p>教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。</p> <p>その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。</p>			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
１）教師に求められる資質・能力について、学生たち自身の経験から考えさせ、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気付かせ、教職について深い考察を促す（教職の意義・教員の役割）。 ２）地方公務員法、教育公務員特例法など、教員の地位に関する法令についての正確な知識を身に付け、教師の権利・義務について理解を深める（教員の職務内容と身分）。 ３）戦前期の教員身分および免許制度などについて概観し、現在の教員免許法の有り様と現在、課題とされる点についての理解を深め、教員として必要な資格について考えさせる（進路選択）。 ４）近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例を取り上げながら理解を深め、これからの教員に求められる姿勢や能力について深い考えを育てる（教員の環境）。		毎回、次の授業のテーマを示します。テーマについてあらかじめ調べてきてもらいます。	
		準備学習(復習)	
		授業で取り上げたテーマに関連して作成してもらうレポートの準備を考えてください。	
		評価方法	
		(1) 期末テスト 30% (2) 授業への参加 40% 授業中の討論への参加など (3) レポート 30% 教師に関するレポートを一本提出してもらいます。	
受講者に対する要望			
「教えられる」側から「教える」側へ立場が変わったときに、見えてくるものはいろいろあるはずである。教師についての今までの考え方を見直して、自分なりの教師観をしっかりとつくってほしい。			
学びのキーワード		教科書	
・ 職場としての学校 ・ 教員の特殊性 ・ 教員の社会的役割			
		参考書	

道徳教育の研究（PLAJW教職）

TEAT-0-206

担当教員：秋池 功

学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目

単位： 2 コード： 5T300311

学部教育の関連目

【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

(1) 内容

中学校における「道徳の時間」についてのアンケート内容などを参考とし、「道徳の時間」の意義と課題を学ぶとともに、いくつかの資料を基に望ましい資料の見方、考え方を把握する。また、道徳授業の指導過程の基本を理解し、学習指導案の作成、模擬授業等をとおして授業の進め方を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

中学校における道徳教育や「道徳の時間」の目標及び内容を理解するとともに、「道徳の時間」の望ましい資料の収集と指導過程や指導方法を学び、学習指導を構想する力を身に付けることができる。

受講者に対する要望

道徳性を高めるには、どうすればよいか。講義をとおしながら学び続けて欲しい。

学びのキーワード

・道徳教育の変遷と学習指導要領

・望ましい資料の見方、考え方

・授業を深める学級つくりと学習作法

・学習指導案

・模擬授業

授業計画

01. オリエンテーション、「道徳」と「道徳授業」について話し合う。

02. 道徳教育の変遷について、事例資料等をとおして学ぶ。

03. 学習指導要領と道徳授業のあり方について（1）

04. 学習指導要領と道徳授業のあり方について（2）

05. 事例研究（1）主な諸外国の道徳教育について、調べ発表する。（事前にも調べておく。）

06. 事例研究（2）主な諸外国の道徳教育やわが国の道徳教育や道徳授業についてのアンケート内容を調べ、発表する。

07. 望ましい資料の追求（1）

08. 望ましい資料の追求（2）と学級つくり・学習作法

09. 学習指導案の作成（1）

10. 学習指導案の作成（2）

11. 実践授業の視聴と模擬授業の準備

12. 模擬授業（1）

13. 模擬授業（2）

14. 実践授業の視聴と道徳の授業、道徳教育の評価について

15. 中学校における道徳教育のまとめ

準備学習(予習)

予習的課題が出された時は、しっかり行ってきて欲しい。

準備学習(復習)

毎回の授業のポイントをノートや資料をとおしながら整理する。

評価方法

(1) 授業への参加態度

20%

(2) 指導案作成・提出資料の作成

25%

(3) 理解度の確認|（試験）

55%

毎回出席が大前提である。遅刻が多く、授業への参加意欲の低いことが目立つ場合は、減点の対象となる。

教科書

文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版）

参考書

国語科教育法Ⅰ（中高教職）		SUBP-J-201	
担当教員：熊谷 芳郎			
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T306102	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業に関するガイダンス、および国語科教育の現状と課題に関する討議。 02. 解釈のための基礎技法1（反復・翻訳語・順序性）。 03. 解釈のための基礎技法2（視点）。 04. 解釈のための基礎技法3（色彩・イメージ）。 05. 解釈のための基礎技法4（中心人物・主人公）。 06. 解釈のための基礎技法5（ストーリー・プロット・クライマックス）。 07. 基礎技法による解釈実践と研究討議1。 教材「白い帽子」研究 08. 基礎技法による解釈実践と研究討議2。 教材「故郷」研究 09. 古典教材の解釈と鑑賞1。 「浅野長政の事をするす」概略 10. 古典教材の解釈と鑑賞2。 「浅野長政の事をするす」研究 11. 古典教材の解釈と鑑賞3。 「おあむ物語」概略 12. 古典教材の解釈と鑑賞4。 「おあむ物語」研究 13. 古典教材の解釈と鑑賞5。 「勝五郎の再生」概略 14. 古典教材の解釈と鑑賞6。 「勝五郎の再生」研究 15. 授業の総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【全】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>国語科教育を学んでいく入門として、主に文学教材を解釈するための基礎技能を学び、その技能を用いた作品解釈を現代文・古文双方の教材文で練習をする。 また、古典教材に関しては、女房文学と隠者文学とが教材に多く採用されている課題についても、他の分野の古典教材を鑑賞することを通して認識を深めていく。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>国語の教師として、教材を研究するに当たって身に着けるべき基礎的な解釈技法の理解と習熟を目指す。この基礎の上に、確実な教材理解に基づいた授業を構想することが可能となるだろう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、課題に関する準備は早め早めに行うこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリントを参考にしながら、教科書の該当部分の内容を次回までに確認しておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>国語科の指導者になる、というはっきりとした目的意識をもって授業に参加すること。したがって、授業に関する課題は必ずすべて提出すること。
 なお単位取得の最低条件として、全授業の4／5以上の出席を必要とする。大学公認の理由以外は、サークル活動・試合等も含めてすべて「欠席」扱いとなるので注意されたい。また、遅刻も謹んでいただきたい。授業に欠席した場合には、必ず自分で補充しておくことを求めたい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 課題レポート</div><div>30%</div></div><div><div>(2) 授業への参加状況</div><div>20%</div></div><div><div>(3) 確認試験</div><div>50%</div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・国語科教育</div><div>・解釈</div><div>・基礎技法</div><div>・古典教材</div><div>・鑑賞</div></div>		<div>教科書</div> <div>授業でプリントを配布する。</div> <div>参考書</div> <div>廣野由美子『批評理論入門』（中央公論新社）[ISBN4-12-101780-0]</div>	

国語科教育法Ⅱ（中高教職）		SUBP-J-202
担当教員：佐野 正俊		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T306210
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 国語科教育の目標① 国語科教育の目標観の変遷を概観する</div> <div>02. 国語科教育の目標② 学習指導要領（国語科）の構造を学ぶ</div> <div>03. 授業を構造化する① 板書の計画と方法を学ぶ</div> <div>04. 授業を構造化する② 指導言（「指示」・「発問」・「解説」）の機能とその効果的な配列の方法を学ぶ</div> <div>05. 学習指導案の書き方を学ぶ</div> <div>06. 散文（評論文）の教材研究を行う</div> <div>07. 散文（評論文）の模擬授業と相互批評を行う①</div> <div>08. 散文（評論文）の模擬授業と相互批評を行う②</div> <div>09. 韻文（現代詩）の教材研究を行う</div> <div>10. 韻文（現代詩）の模擬授業と相互批評を行う①</div> <div>11. 韻文（現代詩）の模擬授業と相互批評を行う②</div> <div>12. 古典（漢詩）の教材研究を行う</div> <div>13. 古典（漢詩）の模擬授業と相互批評を行う①</div> <div>14. 古典（漢詩）の模擬授業と相互批評を行う②</div> <div>15. 授業のまとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：国語必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「国語科教育法Ⅰ」で学んだ基礎技能を応用して、国語科の授業を構想していくための指導実践上の基礎力を養う。半期の授業の序盤で、国語科教育の目標、理論、歴史などを学び、国語科の教員として必要とされる知識を身につける。中盤から終盤にかけては、教材研究と模擬授業を行い、国語科の教員に必要とされる技能を習得する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>中学校・高等学校の国語科教育の理論と実践の学びを通して、国語科の教員として必要とされる知識と技能の習得を目指す。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定した教科書のすべてに目を通しておくこと。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布資料や教科書を参考にして、授業内容を次回までに理解しておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>国語科の指導者になる、というはっきりとした自覚をもって授業に参加すること。教材研究・模擬授業・相互批評のすべてに積極的に取り組むこと。なお単位取得の最低条件として、全授業の4／5以上の出席を必要とする。大学公認の理由以外は、サークル活動・試合等も含めてすべて「欠席」扱いとなるので注意されたい。また、10分以上の遅刻は認めない。授業に欠席した場合には、必ず自分で補充しておくことを求めたい。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 模擬授業への取り組み 40%</div> <div>(2) 相互批評への取り組み 40%</div> <div>(3) 試験 20%</div> <div>模擬授業への取り組み（40%）、相互批評への取り組み（40%）、試験（20%）で評価する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・基礎的技能の応用</div> <div>・教材研究</div> <div>・国語科教育</div> <div>・教科指導</div> <div>・学習指導要領</div>	<div>教科書</div> <div>文部科学省、文科省=『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版）</div> <div>文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年8月）』（東洋館出版社）</div> <div>町田守弘、岩崎 淳、吉田 茂、李 軍、大塚大蔵、古井純士、澤本和子、幸田国広、大貫真弘、熊谷芳郎、高野光男、佐野正俊、平野孝子、『実践国語科教育法―「楽しむ、力のつく」授業の創造』（学文社）</div>	
	<div>参考書</div>	

国語科教育法III（中高教職）		SUBP-J-301	
担当教員： 熊谷 芳郎			
学期： 週間授		科目： 教職課程	必修・選択： 教職科目
単位： 2		コード： 5T306328	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける		01. 授業に関するガイダンス、および教材研究の重要性に関する討議。 02. 「読むこと」の指導 03. 目標に準拠した評価 04. 学習指導案の書き方 05. 小説教材による授業実践分析 1 登場人物関連図の作成と指導法 06. 小説教材による授業実践分析2 脚本化する意味 07. 小説教材による授業実践分析3 グループ学習の目的と課題 08. 評論教材による授業実践の分析1 学習意欲の喚起 09. 評論教材による授業実践の分析2 意味段落と全体構成 10. 教育機器の利用 1 デジタル教科書の概略 11. 教育機器の利用 2 デジタル教科書の実践事例 12. 教育機器の利用 3 デジタル教科書を用いた学習指導案 13. 教育機器の利用 4 デジタル教科書の可能性 14. 教育機器の利用 5 デジタル教科書による実践の課題 15. 総括	
カリキュラム上の位置付け			
【全】高等学校教諭一種免許：国語選択科目 【全】中学校教諭一種免許：国語必修科目			
(1) 内容			
小説教材・評論教材をそれぞれ用いた「読むこと」の指導実践、「話すこと・聞くこと」の指導実践、「書くこと」の指導実践、それぞれについて、分析を進める過程を通して、学習者の関心・意欲・態度をどのように高めつつ身に付けるべき能力を伸ばしているのかを理解する。その理解を通して、教材研究が教室での指導にどのように生かされているのかを体験的に理解する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
教育法Ⅰで学んだ文学的表現の分析方法、教育法Ⅱで学んだ国語科教育に対する全般的な理解を基礎として、実際の教材に対してその事前の研究がどのように重要であるのか、どのように実際の指導につながっていくのかを学ぶ。この学びによって、教育法Ⅳで行う模擬授業に向けた準備とする。		授業実践で用いたテキストについては、事前に配布するので、十分に読みこなし上で授業に臨むこと。	
		準備学習(復習)	
		配布資料やテキストにより、授業内容を次回までに理解しておくこと。	
受講者に対する要望		評価方法	
教育実習に向けて実践的な力を身に付けるという自覚のもと、研究討議に積極的に参加するとともに、討議内容を踏まえた研究と工夫を求めたい。		(1) 課題レポート 40% (2) 授業への参加度 30% (3) 最終レポート 30%	
学びのキーワード		教科書	
・教材研究 ・関心・意欲・態度 ・身に付けるべき能力 ・知識・理解 ・体験的		授業中にプリントを配布する	
		参考書	
		大村はま『新編 教室をいきいきと 1』（筑摩書房）4-480-08146-1 大村はま『新編 教室をいきいきと 2』（筑摩書房）4-480-081467-X	

国語科教育法Ⅳ（中高教職）		SUBP-J-302
担当教員：佐野 正俊		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T306430
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業研究① 「読むこと」の学習指導過程のモデルについて</div> <div>02. 授業研究② 「三読法」に基づく「読むこと」の指導について</div> <div>03. 授業研究③ 「読者論」に基づく「読むこと」の指導について</div> <div>04. 授業研究④ 「分析批評」を応用した「読むこと」の指導について</div> <div>05. 授業研究⑤ 読書感想文の読み方について</div> <div>06. 国語単元学習を作る① 国語単元学習の概要について</div> <div>07. 国語単元学習を作る② 国語単元学習の実践例について</div> <div>08. 国語単元学習を作る③ 国語単元学習を作る</div> <div>09. 国語単元学習の実際① 模擬授業と相互批評</div> <div>10. 国語単元学習の実際② 模擬授業と相互批評</div> <div>11. 国語単元学習の実際③ 模擬授業と相互批評</div> <div>12. 国語単元学習の実際④ 模擬授業と相互批評</div> <div>13. 国語単元学習の実際⑤ 模擬授業と相互批評</div> <div>14. 国語単元学習の実際⑥ 模擬授業と相互批評</div> <div>15. 授業のまとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>中学校・高等学校の国語科教育の実践と理論の学びを深めることを通して、国語科の教員として必要とされる技能と知識の習得を目指す。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>半期の授業の序盤は、国語科の授業研究を行う。中盤から終盤にかけては、国語単元学習（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）の概要を学び、実際に単元学習を作り模擬授業を行う。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教材は前もって渡すので、その教材研究は早め早めに行うこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>相互批評でのやり取りを踏まえた工夫と研究を常に欠かさぬ態度とを望む。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>相互批評で指摘された点についての改善策を次回の模擬授業までに整理すること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 模擬授業への取り組み</div><div>40%</div><div>(2) 相互批評への取り組み</div><div>40%</div><div>(3) 試験</div><div>20%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div>文部科学省、文科省=『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版）</div> <div>文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年9月）』（東洋館出版社）</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・「読むこと」の授業</div><div>・学習目標</div><div>・単元学習</div><div>・教材研究</div><div>・指導技術</div></div>	<div>参考書</div>	

介護等体験及び事前事後指導（教職）		TEAT-0-404
担当教員：吉田 昌義、高山 法子		
学期：前期（ 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T700103
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 社会福祉施設における「介護等体験の意義」 特別支援学校における「介護等体験の意義」（高山） 02. コミュニケーション（高山） 03. 事例を通して考える（受容と共感）（高山） 04. 事例を通して考える（個別性）（高山） 05. 社会福祉施設の目的及び原則（高山） 06. 福祉施設利用者の理解（高山） 07. 高齢者疑似体験（高山） 08. 基本介護技術（移動・食事・着脱）（高山） 09. 介護等体験の始まり 教員に求められるもの（吉田） 10. 障害とは 障害の種類と教育の場・指導内容（吉田） 11. 知的障害の理解と指導（吉田） 12. 自閉症の理解と指導（吉田） 13. 通常の学級における障害児への配慮（吉田） 14. 人権について 介護等体験に行くに当たって（吉田） 15. 介護等体験の振り返り、事後指導（9月）</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書を読み、内容の理解に努めること
また、介護等体験に行く前から、教員（社会人）として、望ましい姿を考え、適切な言動に努めること。
</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>介護等体験で出会った高齢者・障害者・指導員などの関係者等との関わりを振り返り、介護等体験の意義や、本授業の概要にあるように「個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点・コメント・受講態度 50% (2) 実習態度・実習記録 50%</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行えば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。 事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。 ※2201教室は、土足厳禁であるので、上履きを用意しておくこと。また、介護技術の演習を数回行なう予定である。その際、動きやすい服装で参加すること。</div>	<div>教科書</div> <div>全国特別支援学校長会 『フィリア インクルーシブシステム版』（ジアース教育新社） 全国社会福祉協議会 『よくわかる社会福祉施設』（全国社会福祉協議会出版部）</div> <div>参考書</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>＜学びの意義＞ 1 教員を目指す者が、介護等体験を行うことにより、視野を拡げ、個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深める。 2 高齢者や障害者とのかかわりの基本を学び、介護等体験を通して具体的に経験する。 ＜目標＞ ①介護等体験を行うに当たって必要とされる、最小限の基本的な知識や技能等を学ぶ。 ②教員を目指す者が、個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深め、教員としての資質を考え、今後の大学生活で身につけておくべきことを追究する。</div>	<div>学びのキーワード</div>	
<div>受講者に対する要望</div>		

生涯学習概論		LIS-0-201	
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 図書館情	必修・選択： 資格課程/必修科目
単位： 2		コード： 6L001010	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと		01. オリエンテーション 02. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育) 03. 社会教育の定義（教育基本法、社会教育法） 04. 生涯教育の理念(1) 05. 生涯教育の理念(2) 06. 社会教育から生涯教育そして生涯学習へ（何がちがうのか？） 07. 生涯教育の理念と社会背景(1)（各国の生涯教育の事情） 08. 生涯教育の理念と社会背景(2)（わが国の教育改革と生涯学習体系への移行） 09. 生涯教育の理念と社会背景(3)（急激な社会変化への適応） 10. 生涯教育の理念と社会背景(5)（平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題） 11. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？） 12. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、戦後の青少年の非行など） 13. 生涯教育の理念への批判 14. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【全】司書資格：必修科目			
(1) 内容			
2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。 また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。			
(2) 学びの意義と目標			
生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。		準備学習(予習)	
		毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。	
		準備学習(復習)	
		授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。	
		評価方法	
		(1) 出席点 30% (2) 試験 70%	
受講者に対する要望			
前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。			
学びのキーワード		教科書	
・ 社会教育の理念 ・ 生涯教育・生涯学習 ・ 生涯発達論 ・ 発達課題 ・ 学歴社会の是正		鈴木眞理 『生涯学習概論』（樹村房）	
		参考書	

図書館情報学概論		LIS-0-202
担当教員： 若松 昭子		
学期： 週間授 科目： 社会教育 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L022020
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 図書館の定義 02. 図書館の種類 03. 図書館の理念 04. 情報社会と図書館 05. 図書館の自由に関する宣言 06. 図書館員の倫理綱領 07. 図書館に関する法規 08. 公立図書館の制度と機能 1 09. 公立図書館の制度と機能 2 10. 学校図書館の制度と機能 11. 大学図書館の制度と機能 12. 専門図書館の制度と機能 13. 国立図書館の制度と機能 14. 図書館間の相互協力 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目 【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。
</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 図書館 ・ 情報社会</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験またはレポート40%</div><div>(2) 各授業時の課題35%</div><div>(3) 授業態度や授業への参加度25%</div></div> <div>毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。</div>
		<div>教科書</div> <div>塩見 昇 『図書館概論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1）』（日本図書館協会）</div> <div>参考書</div>

図書館情報学概論		LIS-0-202
担当教員： 若松 昭子		
学期： 週間授 科目： 社会教育 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L022021
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと、地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 図書館の定義 02. 図書館の種類 03. 図書館の理念 04. 情報社会と図書館 05. 図書館の自由に関する宣言 06. 図書館員の倫理綱領 07. 図書館に関する法規 08. 公立図書館の制度と機能 1 09. 公立図書館の制度と機能 2 10. 学校図書館の制度と機能 11. 大学図書館の制度と機能 12. 専門図書館の制度と機能 13. 国立図書館の制度と機能 14. 図書館間の相互協力 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目 【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。
</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 試験またはレポート</div><div>40%</div></div><div><div>(2) 各授業時の課題</div><div>35%</div></div><div><div>(3) 授業態度や授業への参加度</div><div>25%</div></div></div> <div>毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 図書館</div><div>・ 情報社会</div></div>		<div>教科書</div> <div>塩見 昇 『図書館概論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1）』（日本図書館協会）</div> <div>参考書</div>

図書館サービス概論		LIS-0-205
担当教員： 岡谷 大		
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L025050
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 図書館サービスの考え方と構造 02. 図書館サービスとマネジメント 03. 来館者へのサービス 04. 利用空間の整備 05. 貸出、予約サービスの構造 06. レファレンスなどの資料提供 07. 利用案内、セミナーなどの展開 08. 図書館ネットワークによる情報提供 09. 障害者へのサービス 10. 高齢者、多文化サービス 11. 課題解決支援サービス 12. 多様な利用者サービス 13. 利用者との接遇、コミュニケーション、広報活動 14. 図書館サービスと著作権 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>サービスの具体面では、資料提供による来館者へのサービス、近年定着してきたフロア・サービス、貸出、リクエストなどのサービスの展開、情報・コンピュータによるサービス、課題解決サービス、児童・障害者・高齢者・多文化サービスなど利用者の類型に応じたサービス、さらには最近活発になっている、図書館における集会・行事などのサービスや利用者のモラルなどの利用者との交流を考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>図書館サービスの意義を強調し、マネジメントとの関係、特にサービスにおけるコンピュータの役割とその限界などを説明する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業時に指示する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>図書館における実際のサービスについて理解を深めること。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 図書館サービス</div><div>・ 図書館とマネジメント</div><div>・ 利用空間</div><div>・ 図書館ネットワーク</div><div>・ 利用者サービスの多様性</div></div>		
		<div>教科書</div> <div>小田 光宏 『図書館サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ2）』（日本図書館協会）</div>
		<div>参考書</div>

情報メディア史		INFO-P-200							
担当教員： 若松 昭子									
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 6L038030							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 情報メディア史の意義 02. 文字・記録のはじまり 03. 粘土板と古代の図書館 04. パピルスからパーチメントへ 05. 中世の書物文化と修道院図書館 06. 大学の誕生と書物 07. 印刷術の発明と普及 08. 読書様式の変化 09. 国家形成と国立図書館 10. コーヒーハウスと貸本屋 11. 公共図書館の誕生 12. コンピュータと図書館 13. 日本の図書館と書物文化 (1) 14. 日本の図書館と書物文化 (2) 15. まとめとディスカッション</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報必修科目【全】 司書資格：選択必修科目 【全】 司書資格：選択必修科目</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>情報メディアの変遷と歴史を概観し、それらの変化が人々の知的活動や社会の状況にどのような影響を与えてきたかを考える。また、知識の体系化を担う図書館が、「知識は一部の人々の所有物」という考え方から、「知識は万人の公共財産」という理念に向かって、どのような展開をとげてきたのかを各時代の社会的状況や文化的役割との関わりで考察する。</div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>情報メディアの歴史と変遷は人間の思考パターンやコミュニケーションのあり様をどのように変化させたのか、また様々なメディアを収集・保存し、利用に供する市民のための図書館はどのような発展を経たのかなどに注目し、メディアと人間のかかわりについて理解を深める。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書に目を通し、課題をきちんとこなすこと。</div>							
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業への積極的な参加を望む。授業に関連する施設見学や、展示会等の観覧を課すことがある。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内容の理解に努め、与えられた課題をきちんとこなすこと。</div>							
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 試験</td><td>50%</td><td>試験に代わるレポートあり</td></tr><tr><td>(2) 小課題</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 授業参加状況</td><td>30%</td><td>授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など</td></tr></table> <div>毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる</div>	(1) 試験	50%	試験に代わるレポートあり	(2) 小課題	20%		(3) 授業参加状況
(1) 試験	50%	試験に代わるレポートあり							
(2) 小課題	20%								
(3) 授業参加状況	30%	授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など							
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">情報メディア図書図書館書物</div>		<div>教科書</div> <div>ブリュノ ブラセル、荒俣 宏、Bruno Blasselle、木村 恵一 『本の歴史 (「知の再発見」双書)』 (創元社)</div> <div>参考書</div>							

児童学科

キリスト教人間学A		CHRI-C-331
担当教員：阿部 洋治		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：15300100
学部教育の関連目	授業計画	
【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う	01. 1. はじめに 02. 2. 哲学的問いと聖書的問い (1) ソクラテス 03. (2) イエス 04. 3. 哲学的問いからの発展 (1) プラトン 『国家』をめぐって—その1— 05. (2) プラトン 『国家』をめぐって—その2— 06. 5. 聖書的問いとその展開 (1) イエスの「神の国」をめぐって—その1— 07. (2) イエスの「神の国」をめぐって—その2— 08. (3) アウグスティヌスの『神の国』—その1— 09. (4) アウグスティヌスの『神の国』—その2— 10. 6. 「神の国」の働き手たち (1) アシジのフランシスコ—その1— 11. (2) アシジのフランシスコ—その2— 12. (3) トマス・ア・ケンピス 13. (4) マルティン・ルター —その1— 14. (4) マルティン・ルター—その2— 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容	<p>「人間とは何か。」誰であれ、人は、意識するとせざるにかかわらず、この問いを内に秘めながら生きている。そして、この問いにどう向き合い、どう答えるかがその人の生き方を形作っている。そこで、春学期は、この問いと哲学的に向き合ったソクラテスと聖書的に向き合ったイエスとを比較し、それぞれの発展の形に注目したい。そして、イエスを信じ彼に従った人々がどのように生き、何をしたかに注目したい。「人間とは何か」を聖書的に問うことの意義を深く学びたい。ここから、教育とは何か、保育とは何かを深く見つめるきっかけを掴みたい。</p>	
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
教育、保育にとって、専門的な知識はもちろんのこと、手法、技術等々をめぐる修練が不可欠であるとは言うまでもない。しかし、魂のない技巧的な修練だけでは生きた絵画を描くことはできないように、教育、保育も魂が不可欠である。その魂は、深い人間理解から生まれるのではなかろうか。そして、深い人間理解は、自分自身と誠実に、真剣に向き合うことなしにはあり得ない。この授業が、ただ単に知識の修得ではなく、自分自身と向き合う機会となることを願っている。	準備学習(復習)	
	心に残った授業内容について振り返り、思索を深め、問題意識を広げて、自分なりの学びを広げてほしい。	
受講者に対する要望	評価方法	
授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取ってほしい。書くことをとおして理解や思索が深まる。	(1) 試験 100%	
	(4) ノートおよびプリント提出	
学びのキーワード	教科書	
・呼びかける神 ・神の国 ・存在理由 ・自己 ・否定を超えて	参考書	
	授業の中で示唆する。	

担当教員：久保島 理恵

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15300101

学部教育の関連目

【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

旧約聖書の十戒を通して、人格的存在である人間への理解を深める。また、わたしたちの生き方に関連する現代的課題についても考えていく。

(2) 学びの意義と目標

神との関係、他者との関係の中で生きる人間について考察を深めることを目指す。それが、単なるキリスト教の知識の学びにとどまらず、自分自身についての思索につながるようになることを期待している。

受講者に対する要望

講義、課題に対する真摯な取り組みを望む。

学びのキーワード

- ・ 十戒
- ・ 聖書
- ・ 人格的關係

授業計画

01. オリエンテーション
02. 人間とは（１）
03. 人間とは（２）
04. 十戒とは
05. 第一戒 神と人との人格的關係（１）
06. 第二戒 神と人との人格的關係（２）
07. 第三戒 神と人との人格的關係（３）
08. 第四戒 本当の安息
09. 第五戒 親子関係
10. 第六戒 命
11. 第七戒 結婚
12. 第八戒 他者の尊重
13. 第九戒 真実を語る
14. 第十戒 欲望からの自由
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された聖書箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業内容を踏まえ、授業レポートに取り組む

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業レポート | 45% |
| (2) 礼拝レポート | 25% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

キリスト教人間学A

CHRI-W-332

担当教員：阿部 洋治

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15300108

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

特にキリスト教信仰に生き、日本において大切な働きをした人々について学ぶ

(2) 学びの意義と目標

春学期は遠く西洋思想に目を向けながら、「人間とは何か」をめぐる哲学的問いと聖書的問いとを比較しつつ、聖書的な問いに生きた人々について学んだ。秋学期は、日本に目を向け、日本における聖書的問いの始まりとその展開を見たい。

受講者に対する要望

授業で取り上げる人々の考え方や生き方から各自の生きる指針をつかんでほしい。

学びのキーワード

- ・福祉の心
- ・絶望から希望へ
- ・パイオニア(開拓者)
- ・献身
- ・ヴィジョン

授業計画

- | | |
|----------------------|-----------|
| 01. 1. 宣教師たちの思い | (1) ペリー総督 |
| 02. (2) ハリス | |
| 03. (3) ヘボン | |
| 04. 2. 信仰の社会的貢献 ―伝道― | (1) 植村正久 |
| 05. (2) 内村鑑三 | |
| 06. 3. 信仰の社会的貢献 ―教育― | (1) 井深梶之助 |
| 07. (2) 新島 襄 | |
| 08. (3) 新渡戸稲造 | |
| 09. 4. 信仰の社会的貢献 ―福祉― | (1) 石井十次 |
| 10. (2) 山室軍平 | |
| 11. (3) 留岡孝助 | |
| 12. (4) 賀川豊彦 | |
| 13. 5. 見えざる貢献 | (1) 水野源三 |
| 14. (2) 星野富弘 | |
| 15. まとめ | |

準備学習(予習)

授業時に指示する

準備学習(復習)

授業で取り上げる人々の考え方や生き方について、自分で関係した書物を読んで理解を深める努力を期待したい。

評価方法

(1) 試験 100%

教科書

参考書

授業の中で示唆する

キリスト教人間学B		CHRI-D-332
担当教員：久保島 理恵		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：15300201
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 祈りとは 03. われらの父 04. 御名を聖とする 05. 神の国 06. 御心を求める 07. 日ごとの糧 08. 罪の赦し（1） 09. 罪の赦し（2） 10. 弱さの中で 11. すべては神のもの 12. 祈りつつ歩んだ人々（1） 13. 祈りつつ歩んだ人々（2） 14. 祈りつつ歩んだ人々（3） 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>キリスト自身が教えた「主の祈り」を通して、人間のあり方について考えていく。また、神を信じ祈りつつ生きた人々の姿勢から、生きることの本质を学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>神との関係、他者との関係の中で生きる人間について考察を深めることを目指す。それが、単なるキリスト教の知識の学びにとどまらず、自分自身についての思索につながるようになることを期待している。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定された聖書箇所を読んでおくこと</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業の内容を踏まえ、授業レポートに取り組む</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業レポート45%</div><div>(2) 礼拝レポート25%</div><div>(3) 期末レポート30%</div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義、課題に対する真摯な取り組みを望む</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・主の祈り</div><div>・聖書</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

キリスト教人間学B		CHRI-C-332
担当教員：阿部 洋治		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：15300205
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 1. はじめに</div> <div>02. 2. ジャン・ジャック・ルソー『エミール』から (1) 子ども理</div> <div>03. (2) 幸福論</div> <div>04. (3) 消極的教育論</div> <div>05. (4) 教育の実例</div> <div>06. 3. ジョン・ロック『教育に関する考察』から (1) 子ども理解</div> <div>07. (2) 親の役割</div> <div>08. (3) 教育の実例</div> <div>09. 4. ベスタロッチー『隠者の夕暮れ』から (1) 人間の本</div> <div>10. (2) 自然の道による教育</div> <div>11. (3) 神信仰の必要性</div> <div>12. 6. フレーベル『人間の教育』から (1) 人間の根源</div> <div>13. (2) 受動的・追隨的教育</div> <div>14. (2) 共同感情論</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>秋学期は、「人間とは何か」を近代の教育思想に触れながら「子どもとは何か」を問う角度から取り上げ、子どもたちに対する大人の役割や有り様を考察したい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回の講義で、聖書の文章を英文と邦文で読みます。あらかじめ該当箇所を通読しておいてください。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリントとノートをまとめてください。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 試験 20%</div> <div>(2) プリント問題への回答 20%</div> <div>(3) 全学礼拝と教会レポート 20%</div> <div>(4) ノートおよびプリント提出 20%</div> <div>(5) プレゼンテーション 20%</div> <div>各講義の中で、聖書の言語であるヘブル語やコイネーギリシャ語に触れてもらいます。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に受講してください。
パワーポイントによるプレゼンテーションを要望します。</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 理性的存在・ 子どもの人格・ 自由人・ 習慣による教育・ 大人の役割</div>		

キリスト教人間学B

CHRI-W-332

担当教員：阿部 洋治

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15300216

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「人間とは何か。」誰であれ、人は、意識するとせざるにかかわらず、この問いを内に秘めながら生きている。そして、この問いにどう向き合い、どう答えるかがその人の生き方を形作っている。そこで、春学期は、この問いと哲学的に向き合ったソクラテスと聖書的に向き合ったイエスを比較し、それぞれの発展の形に注目したい。そして、イエスを信じ彼に従った人々がどのように生き、何をしたかに注目したい。そして、「人間とは何か」を聖書的に問うことの意義を深く学びながら、「福祉」の原点に目を向けたい。

(2) 学びの意義と目標

この学びをとおして、ひとりの人が生きる意味は、その人の自己評価、その人の能力や才能、また置かれた環境を超えて、ひとりひとりを個性ある存在して創造された神に用いられ活かされることの中にあるということを確認したい。

受講者に対する要望

授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取ってほしい。書くことをとおして理解や思索が深まる。

学びのキーワード

- ・ 呼びかける神
- ・ 神の国
- ・ 存在理由
- ・ 歴史形成
- ・ 否定を超えて

授業計画

01. 1. はじめに
02. 2. 哲学的問いと聖書の問い | (1) ソクラテス
03. (2) イエス
04. 4. 哲学的問いからの発展 | (1) プラトン 『国家』をめぐって—その1—
05. (2) プラトン 『国家』をめぐって—その2—
06. 5. 聖書の問いとその展開 | (1) イエスの「神の国」をめぐって—その1—
07. (2) イエスの「神の国」をめぐって—その2—
08. (3) アウグスティヌスの『神の国』—その1—
09. (5) アウグスティヌスの『神の国』—その2—
10. 9. 「神の国」の働き手たち | (1) アシジのフランシスコ—その1—
11. (2) アシジのフランシスコ—その2—
12. (3) トマス・ア・ケンピス
13. (4) マルティン・ルター —その1—
14. (5) マルティン・ルター—その2—
15. まとめ

準備學習(予習)

準備學習(復習)

心に残った授業内容について振り返り、思索を深め、問題意識を広げて、自分なりの学びを広げてほしい。

評価方法

- | | |
|--------|------|
| (1) 試験 | 100% |
|--------|------|

教科書

参考書

授業の中で示唆する。

英米児童文学		EALI-A-203								
担当教員： 松本 祐子										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A510743								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業説明 02. 伝承文芸:シャルル・ペローの昔話 03. 伝承文芸:グリム兄弟の昔話 04. 伝承文芸:イギリスの妖精「フェアリー・ゴッドマザーとチェンジリング」 05. 伝承文芸:イギリスの妖精「伝説の妖精とコッティング・フェアリー」 06. 伝承文芸:マザーグースに見る英語表現 07. 伝承文芸:物語の中のマザーグース 08. イギリス児童文学の始まりと児童文学の分類 09. 近代ファンタジー:ルイス・キャロル 10. 近代ファンタジー:ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』の構造 11. 家庭小説:オルコット 12. 家庭小説:バーネット『小公子』と『小公女』 13. 家庭小説:バーネット『秘密の花園』 14. 動物ファンタジー:ベアトリクス・ポター 15. 動物ファンタジー:マイケル・ボンド、A. A. ミルン 16. エヴリディ・マジックの世界:ネズビット 17. エヴリディ・マジックの世界:トラヴァース 18. エヴリディ・マジックの世界:メアリ・ノートン 19. エヴリディ・マジックの世界:メアリ・ノートン『床下の小人たち』 20. ハイ・ファンタジー:C. S. ルイス 21. ハイ・ファンタジー:トールキン 22. ハイ・ファンタジー:ル・グウィン 23. ハイ・ファンタジー:フィリップ・プルマン 24. 現代のリアリズム児童文学:カニグズバーグ 25. 〈人形〉の物語:ゴッデン 26. 〈人形〉の物語:シルヴィア・ウォー 27. 現代の魔法:ローリング 28. 現代の魔法:ダイアナ・ウィン・ジョーンズ 29. 魔法と現実の間:ルイス・サッカー 30. まとめ</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【A】高等学校教諭一種免許：英語選択科目 【A】中学校教諭一種免許：英語選択科目</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、必ずしも読者を子どもと想定していたわけではない昔話からイギリス児童文学の始まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の児童文学の抱える諸問題について触れながら、英米児童文学の歴史と概要を学んでいく。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>長い歴史を持つ英米児童文学は数々のベストセラーを産み出し、また、近年も多くの映像作品の原作となるなど、豊かな物語の宝庫である。一般には名前だけしか知られていないような名作の本当の姿を知ること、人間性についてのより深い知識と教養を身につけることが目標である。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>最初の授業で配布する読書リストにしたがって、授業で扱う作品を読んでおくこと。授業時に指示されたレポートはきちんと提出すること。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>できるだけ多くの作品を読んでほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時のノートを整理しておくこと。</div>								
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 期末試験</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 学期末レポート</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 課題レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 出席</td><td>10%</td></tr></table>	(1) 期末試験	40%	(2) 学期末レポート	30%	(3) 課題レポート	20%	(4) 出席	10%
(1) 期末試験	40%									
(2) 学期末レポート	30%									
(3) 課題レポート	20%									
(4) 出席	10%									
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 昔話・ ファンタジー・ エヴリディ・マジック・ リアリズム</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>								

ファンタジー論

EAL I-A-204

担当教員： 松本 祐子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1A510850

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、まず、神話・伝説・昔話の中にファンタジーの源流を探り、次に、魔法の生き物、ファンタジーの空間、ファンタジーの時間、異形のものたち（ヴァンパイア、人造人間、不老不死）、魔法使いと魔女など、様々な項目ごとにファンタジー作品の分析を試みる。また、おとぎ話、児童文学を下敷きにしたディズニー映画をその原作と比較しつつ、ディズニー映画の人気の理由とその功罪について考える。

(2) 学びの意義と目標

「夢とおとぎの国への逃避」といったような一般的なファンタジーのイメージに疑問を投げかけ、むしろ、人間の本质を見つめ、現実を生きる力を、身につけるためのファンタジーの在り方について考えたい。

受講者に対する要望

毎回のミニレポートの他、3本のレポートを書いてもらうが、提出期限に遅れないように、よく準備をしてレポートを作成してほしい。

学びのキーワード

- ・ 神話・伝説
- ・ ファンタジーの空間
- ・ ファンタジーの時間
- ・ 不老不死・生命創造
- ・ 魔法

授業計画

01. ファンタジーとは何か
02. 神話・伝説:ファンタジーの原型
03. 神話・伝説:予言の意味
04. 神話・伝説:ギリシャ神話「神々と英雄たち」
05. 神話・伝説:ギリシャ神話「トロイ戦争の顛末」
06. 神話・伝説:北欧神話の世界観
07. 神話・伝説:北欧神話の神々
08. 神話・伝説:アーサー王伝説
09. ファンタジーの生き物:伝説の中のドラゴン
10. ファンタジーの生き物:ファンタジー作品の中のドラゴン
11. ファンタジーの生き物:ユニコーン、その他
12. ファンタジーの空間:現実から異世界への移動法
13. ファンタジーの空間:異世界の物語
14. ファンタジーの空間:ディズニーランド
15. ファンタジーの空間:おとぎ話とディズニー・アニメ
16. ファンタジーの空間:ディズニー・アニメのプリンセス像
17. ファンタジーの空間:日常の中の魔法
18. ファンタジーの空間:「私」の中の「他人」
19. ファンタジーの空間:夢
20. ファンタジーの空間:バーチャル・リアリティー
21. ファンタジーの時間:過去と未来
22. ファンタジーの時間:時間旅行の方法
23. 異形のものたち:ヴァンパイアの原型
24. 異形のものたち:物語の中のヴァンパイア
25. 異形のものたち:マッドサイエンティストと人造人間
26. 異形のものたち:生命創造というタブー
27. 異形のものたち:不老不死
28. 魔法使いと魔女
29. 魔法の食べ物
30. まとめ

準備學習(予習)

授業内で毎回配布するレジュメをよく読み、扱われる作品を読んでおくこと。ほぼ1ヶ月に1本の提出となるレポート執筆のために、各自の具体的なテーマ探し、資料集めが必要である。

準備學習(復習)

毎回の授業の最後に出す課題をきちんと提出すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 毎回の課題 | 20% |
| (2) 第一レポート | 25% |
| (3) 第二レポート | 25% |
| (4) 第三レポート | 30% |

教科書

参考書

児童学概論		CHLD-C-191
担当教員： 田澤 薫		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1C100310
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 子どものイメージと理解 02. 制度にたちあらわれた子ども 03. 子ども学のはじまり 04. 子ども観と社会制度 05. 子どもの目、大人の目 06. 子どもの理解、大人の理解 07. 保育という視点 08. 学校と子ども 09. 赤ちゃん絵本にみる子どもの認知 10. 不適切な養育と子ども 11. 絵本の力 12. 子どもの自尊 13. 児童学における記録の意味 14. 省察すること 15. 総括</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>子どもに学問的なまなざしを向け、子どもを研究の対象として捉えるとはどういうことか。その具体的な視点と方法について、多様な角度から学ぶ。子どもをめぐる様々な場面での子どもと大人の関わりを考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子どもを対象として見つめる視座を理解する。併せて、子どもについて学ぶにはいろいろな方法論があることを知り、今後の様々な領域での児童学の学びにつながる関心と意欲が得られることをねらいとする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業回のテキストに目を通してから授業に臨みましょう。
レスポンスシートにコメントを書いて返却します。毎回の授業前に読み活かしましょう。
</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回の授業でレスポンスシートに課題を記入することで、
出席確認、受講者・講義者双方の振り返りに活用しています。レスポンスシートに積極的に取り組んでください。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業ノートを整理しましょう。
テキストに含まれる資料は、授業で扱った箇所以外の部分も必ず読み込みましょう。
参考文献を数多く紹介します。積極的に読みましょう。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 積極的な参加50% レスポンスシートの記入内容で確認します (2) 試験50%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・子ども ・児童学 ・幼児理解 ・保育 ・学校教育</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>初回授業に全回分のテキストプリントを配布します。予備はありません。記名の上、毎回の授業で活用して下さい。</div>

フィールドワーク		TEAT-C-281
担当教員：相川 徳孝、市村 和子、松本 祐子		
学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C100480
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. フィールドワークとは何か？ 02. 実践の理論化とはどういう営みか？（1） 03. 実践の理論化とはどういう営みか？（2） 04. 実践の場における情報交換（1） 05. 実践の場における情報交換（2） 06. 実践の場における情報交換（3） 07. 記録の整理（1） 08. 記録の整理（2） 09. 記録の整理（3） 10. 記録の整理（4） 11. 体験と記録に基づくグループ討議（1） 12. 体験と記録に基づくグループ討議（2） 13. 体験と記録に基づくグループ討議（3） 14. 発表 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】保育士資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>学生の自主的なボランティア活動等の体験を実践レポートとしてまとめ、対象理解や子どもとかわる大人として求められる役割、現場環境について理解をしていく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この授業は子どもの生活の場に自主的に参加し、生活を共にすることを通して体験したことをレポートや討議等の方法を通して整理、理論化し、子どもに対する理解や現場環境の理解を深めていくことを目的とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>フィールドにおける実践体験をしておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>この授業を受講しようとする学生は以下の条件を満たしていなければならない。
・集中講義出席以前にフィールドにおける実践体験をもつこと。
・集中講義に出席し、定められたプログラムを経験すること。

</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>討論等で指摘されたことをレポートとしてまとめること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・フィールド ・対象理解 ・専門職に対する使命感・責任感 ・文章表現力</div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 体験記録50%</div><div>(2) レポート発表50%</div></div> <div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>授業の中で参考となる図書や資料を提示していく。</div>	

担当教員：佐藤 千瀬

学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1C100585

学部教育の関連目

【C】グローバルな視点を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 内容

国際化の進展に伴い、子どもの問題も海外諸事情を勘案し、それらとの連環における学習が不可避とされている。この場合の学習は、海外情報の収集および実地体験に分けて考えることが出来る。前者は、関連する学科目の講義・演習において行われるが、本学科目は受講者に実地体験の機会を提供するものである。

本年度の児童学海外研修は、オーストラリア、アデレードのフリンダース大学で行われ、児童学科の教員が同行する予定である。なお本研修は、国際交流・英語教育課の協力を得て、同課との連携のもとに行われる。

(2) 学びの意義と目標

オーストラリアの保育・教育等について、英語による講義と実践を通して学ぶこと。

(1) 教育用玩具を運動能力と知的発達の観点からとらえ、子どもたちがおもちゃで遊ぶことによって何を学ぶかを見る。

(2) 子ども達に人気が高い集団ゲームや活動を、社会性のためのレッスンの例として見る。

(3) 幼い子どもを持つ家庭にホームステイをし、子どもと家族の関わり方を学ぶ。

(4) 保育所・幼稚園から小学校までのオーストラリアの保育・教育を学ぶ。

受講者に対する要望

引率者の指示に従い団体行動に協力すること。
英語、特に英会話の練習をしておくこと。

学びのキーワード

- ・ オーストラリア
- ・ 児童学海外研修
- ・ フリンダース大学

授業計画

01. オリエンテーション
02. 事前指導
03. 事前指導
04. 事前指導
05. 事前指導
06. 事前指導
07. 事前指導
08. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
09. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
10. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
11. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
12. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
13. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
14. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
15. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
16. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
17. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
18. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
19. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
20. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
21. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
22. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
23. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
24. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
25. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
26. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
27. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
28. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
29. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
30. 事後指導

準備学習(予習)

- ・ 英語の学習
・ 発表、部分実習の準備

準備学習(復習)

- ・ 課題に取り組むこと

評価方法

事前・事後指導とフリンダース大学からの評価をもとに総合的に評価する。

教科書

参考書

海外実習(S A I N T S)

CHLD-C-471

担当教員：佐藤 千瀬

学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1C100675

学部教育の関連目

【C】グローバルな視点を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

アメリカ合衆国ジョージア州アトランタにある、聖学院アトランタ国際学校（SAINTS）で、約2週間の研修を行う。

多文化の混在するアメリカ社会の中にある「SAINTS」には、普段家庭では英語、日本語、その他2種以上の言語を使用している、多言語多文化の中で日常を過ごす子どもたちが多く通っている。このような生活環境にある子どもたちに対して、「SAINTS」では日本の教育・保育を活かしながら、バイリンガル教育、異文化間教育・保育が行われている。特に英語と日本語という2つの言語、異なった文化を、それぞれ尊重しながら受容していく過程で、子どもたちもお互い同士のかかわり合いの中から、お互いを認め合って育ち合っている。

(2) 学びの意義と目標

SAINTSでの教育・保育実践のなかでの実習を通して、日本国内での実習とはまた違った多くのことに気づき、学ぶことが目的である。

受講者に対する要望

この科目を履修するためには、4年次秋学期の履修登録の時点で、下記の要件を満たしていなければならない。

- (1) 春学期までの必修科目と「幼稚園教育実習」、「保育・教職実践演習（初等）」を除く幼稚園教諭一種免許状取得に必要な科目（資格必修科目）の単位を全て取得していること。
 - (2) 「幼稚園教育実習」の単位を取得しているか、取得見込みであること。
 - (3) 卒業要件をすでに満たしていること。
- なお、希望者が多数の場合は面接を行い選抜をすることとなる。

学びのキーワード

- ・海外実習
- ・SAINTS
- ・バイリンガル教育
- ・異文化間教育
- ・保育・教育

授業計画

01. オリエンテーション
02. バイリンガル
03. 子どもの母語の発達
04. バイリンガル教育の理論
05. 家庭で育てるバイリンガル
06. Two-Way Immersion
07. アトランタの歴史1
08. アトランタの歴史2
09. 事前指導 海外実習の手続き
10. 事前指導 保育英語教材
11. 事前指導 保育英語教材
12. 事前指導 教材研究
13. 事前指導 英会話
14. SAINTSでの実習
15. SAINTSでの実習
16. SAINTSでの実習
17. SAINTSでの実習
18. SAINTSでの実習
19. SAINTSでの実習
20. SAINTSでの実習
21. SAINTSでの実習
22. SAINTSでの実習
23. SAINTSでの実習
24. SAINTSでの実習
25. SAINTSでの実習
26. SAINTSでの実習
27. SAINTSでの実習
28. SAINTSでの実習
29. 事後指導
30. 事後指導

準備学習(予習)

プリントを事前に読み、まとめること。
計画的に実習準備（手続き、教材準備等）に取り組むこと。

準備学習(復習)

英語、特に保育英語、英会話を復習すること。
バイリンガル教育について復習し、質問をまとめること。
教材研究をすること。

評価方法

事前・事後指導、実習日誌をもとに総合的に評価する。

教科書

参考書

教職基礎（C-1）

TEAT-C-141

担当教員：松本 祐子、小池 茂子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C100715

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

保・幼・小の資格必修である「基礎実習」の前提科目となる授業である。実習調書や日誌をきちんと書けるだけの基本的な文章力、幅広い知識を獲得するために必要な調査能力と情報リテラシー、自分自身の持ち味を効果的に表現するためのコミュニケーション能力を身につけることを目指して、様々な実践練習を行う。

(2) 学びの意義と目標

保育者、教員を目指す学生として、「子どもの良き理解者」となり、また「良き社会人」となるために必要な教養、表現力、基礎学力を身につける。

受講者に対する要望

毎回、授業にきちんと出席し、必ず課題を提出すること。

学びのキーワード

- ・正確な文章表現力
- ・効果的な自己表現の方法
- ・情報リテラシー
- ・グループワーク
- ・プレゼンテーションの作法

授業計画

01. オリエンテーション・グループワーク（テーマディスカッション）
02. 調査を用いて、自分のクラスを紹介する（調査について・グループで調べる）
03. 調査を用いて、自分のクラスを紹介する（プレゼンテーション）
04. 図書館ツアー（情報リテラシー・新聞記事の検索と活用法）
05. 情報リテラシーを踏まえて、課題メールを作成する
06. 自分の生まれた日の新聞記事を用いて、自分の誕生日の紹介記事をつくる
07. 自分をしなやかに表現する（表現の科学/ことば遣い・動作）
08. 話し言葉と書き言葉の違いを知る
09. 正確で美しい文字を書く
10. 自己紹介文を作成する（実習調書作成準備）
11. 礼状・挨拶状を書く
12. 文章力を高めるテクニック：主語と述語の整った文を書く
13. 文章力を高めるテクニック：視点の統一した文を書く
14. 文章力を高めるテクニック：読点、接続詞の使い方
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回の課題をきちんとこなすこと。

準備学習(復習)

返却された課題を見直し、各自、復習すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業中の発表 | 20% |
| (2) 毎回の課題 | 40% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

参考書

教職基礎（C-2）

TEAT-C-141

担当教員：松本 祐子、小池 茂子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C100720

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

保・幼・小の資格必修である「基礎実習」の前提科目となる授業である。実習調書や日誌をきちんと書けるだけの基本的な文章力、幅広い知識を獲得するために必要な調査能力と情報リテラシー、自分自身の持ち味を効果的に表現するためのコミュニケーション能力を身につけることを目指して、様々な実践練習を行う。

(2) 学びの意義と目標

保育者、教員を目指す学生として、「子どもの良き理解者」となり、また「良き社会人」となるために必要な教養、表現力、基礎学力を身につける。

受講者に対する要望

毎回、授業にきちんと出席し、必ず課題を提出すること。

学びのキーワード

- ・ 正確な文章表現力
- ・ 効果的な自己表現の方法
- ・ 情報リテラシー
- ・ グループワーク
- ・ プレゼンテーションの作法

授業計画

01. オリエンテーション・グループワーク（テーマディスカッション）
02. 調査を用いて、自分のクラスを紹介する（調査について・グループで調べる）
03. 調査を用いて、自分のクラスを紹介する（プレゼンテーション）
04. 図書館ツアー（情報リテラシー・新聞記事の検索と活用法）
05. 情報リテラシーを踏まえて、課題メールを作成する
06. 自分の生まれた日の新聞記事を用いて、自分の誕生日の紹介記事をつくる
07. 自分をしなやかに表現する（表現の科学/ことば遣い・動作）
08. 話し言葉と書き言葉の違いを知る
09. 正確で美しい文字を書く
10. 自己紹介文を作成する（実習調書作成準備）
11. 礼状・挨拶状を書く
12. 文章力を高めるテクニック：主語と述語の整った文を書く
13. 文章力を高めるテクニック：視点の統一した文を書く
14. 文章力を高めるテクニック：読点、接続詞の使い方
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回の課題をきちんとこなすこと。

準備学習(復習)

返却された課題を見直し、各自、復習すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業中の発表 | 20% |
| (2) 毎回の課題 | 40% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

参考書

TEAT-C-251

単位：1 コード：1C100835

01. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（1）
02. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（2）
03. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（3）
04. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（4）
05. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（5）
06. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（6）
07. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（7）
08. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（1）
09. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（2）
10. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（3）
11. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（4）
12. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（5）
13. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（6）
14. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（7）
15. まとめ

参考書

教職演習B		TEAT-C-252	
担当教員： 齋藤 範雄			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 1		コード： 1C100940	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. オリエンテーション、診断テストと解説 02. 教員採用試験に向けての基礎演習（整数の性質） 03. 教員採用試験に向けての基礎演習（数と計算） 04. 教員採用試験に向けての基礎演習（式の展開と因数分解） 05. 教員採用試験に向けての基礎演習（一次方程式の計算、不等式） 06. 教員採用試験に向けての基礎演習（一次方程式の応用） 07. 教員採用試験に向けての基礎演習（二次方程式とその応用） 08. 教員採用試験に向けての基礎演習（一次関数とその応用） 09. 教員採用試験に向けての基礎演習（二次関数とその応用） 10. 教員採用試験に向けての基礎演習（図形の性質） 11. 教員採用試験に向けての基礎演習（合同・相似な図形） 12. 教員採用試験に向けての基礎演習（三平方の定理 円の性質 他） 13. 教員採用試験に向けての基礎演習（場合の数） 14. 教員採用試験に向けての基礎演習（確率） 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
小学校教員として必要な算数、数学の基礎知識を確認するとともに、教員採用試験に向けて実力向上を目指す。			
(2) 学びの意義と目標			
教員採用試験の傾向にあわせ、基礎から難度の高い問題までの演習を行う。		準備学習(予習)	
		事前に配布されるテキストに目を通し、演習問題を自力で解いて授業に臨むこと。	
		準備学習(復習)	
		教科書だけではなく、配布されたプリント等を確実に身につけるようにする。	
		評価方法	
		(1) 授業への参加態度 50% 事前に配布される問題プリントを自力で解いて、授業に参加すること。 (2) 確認テスト 50%	
受講者に対する要望		毎時間受講生一人一人がテキストの問題を解き、解説する。このことを通して問題解決力の向上を目指す。それ故、毎時間の授業準備（予習）、授業参加態度を重要な評価ポイントとする。	
小学校の教員採用試験を目指す受講生を望む。 テキストや演習問題を事前に配布するので、必ず自力で問題に挑戦して講義に臨むなど、自らの学力向上を目指し積極的な授業態度を期待する。 			
学びのキーワード		教科書	
・ 教員採用試験 ・ 問題演習（問題解決力の向上）		参考書	
		東京アカデミー 『2017年度教員採用試験参考書（6）小学校全科』（ティーエーネットワーク）	

教職演習 C		TEAT-C-351
担当教員：市村 和子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C101045
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、国語科の学びについて 02. 漢字 1（同音異義語、対義語） 03. 漢字 2（四字熟語） 04. 慣用句、ことわざ、故事成語 05. 短歌、俳句 06. 古典文学作品 07. 近現代の作者と作品 08. 学習指導案について 09. 学習指導案作成 1（単元） 10. 学習指導案作成 2（本時） 11. 授業をつくる 1（発問） 12. 授業をつくる 2（板書） 13. 授業をつくる 3（ノート指導） 14. 授業をつくる 4（音読・朗読） 15. まとめ</div>	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容	<div>準備学習(予習)</div> <div>小テスト（その都度指示）に向けての学習</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>本時の学習内容の整理</div> <div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点50% 積極的な発言、授業づくりへの意欲</div><div>(2) 理解度の確認50% 課題、小テスト</div></div> <div>毎回出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。</div>	
小学校教員を目指し、教員採用試験を受験する予定の3年生を対象とした教職演習である。国語科の学力向上と、「授業づくり」について取り組む。		
(2) 学びの意義と目標		
一般教養「国語」の傾向と現状を把握し、小学校教員を目指すうえで必要な基本的知識を学ぶ。また、「授業づくり」について研究し、授業力向上を目指す。さらに、これらの学びを通して、一人一人が教員として必要な資質や適性を高めることを目標とする。	<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>随時プリントを配付。本演習専用のファイルにプリントをきちんと綴じ込み、毎時間持参すること。</div>	
受講者に対する要望		
教員採用試験を受験し、必ず教員になるという強い意志と、そのための努力を惜しまない学生の受講を願う。		
学びのキーワード		
<div>・教員採用試験</div> <div>・一般教養「国語」</div> <div>・授業をつくる</div> <div>・教育への情熱</div>		

教職演習 E		TEAT-C-353
担当教員： 齋藤 範雄		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C101255
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け	01. オリエンテーション、教員採用試験に向けての実践演習（算数教育と法規） 02. 教員採用試験に向けての実践演習（数と計算、発展問題） 03. 教員採用試験に向けての実践演習（式と計算、発展問題） 04. 教員採用試験に向けての実践演習（一次方程式とその発展問題） 05. 教員採用試験に向けての実践演習（二次方程式とその発展問題） 06. 教員採用試験に向けての実践演習（一次関数とその発展問題） 07. 教員採用試験に向けての実践演習（二次関数とその発展問題） 08. 教員採用試験に向けての実践演習（平行線と角、三角形と線分の比他 発展問題） 09. 教員採用試験に向けての実践演習（合同・相似の証明） 10. 教員採用試験に向けての実践演習（三平方の定理、円の性質 発展問題） 11. 教員採用試験に向けての実践演習（場合の数とその発展問題） 12. 教員採用試験に向けての実践演習（確率とその発展問題） 13. 教育実習及び模擬授業（算数科）の実践と研究（授業展開と発問） 14. 教育実習及び模擬授業（算数科）の実践と研究（教材開発と教具の作成・準備） 15. まとめ	
(1) 内容		
小学校教員として必要な算数・数学の基礎知識を確認するとともに、教員採用試験の傾向と対策の研究をする。 教育実習に向けて、指導案の作成や授業展開の方法を学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
算数・数学の基礎知識を身につけるとともに、教員採用試験の傾向（模擬授業を含む）を研究し、合格を目指す。 教育実習に向け、教材解釈や教具の工夫、授業展開の仕方等について理解を深める。		
受講者に対する要望	準備学習(復習)	
	配布されたプリントを確実に理解できるようにし、参考書などで問題解決力の向上を確認するようにする。	
事前に配布されるテキストや問題を自力で解くことにより、自分の課題を知るとともに実力の向上を図り、教員採用試験合格を目指す。 教育実習に向けた準備を進める。 	評価方法	
	(1) 授業への参加態度や意欲 30% 事前に配布される問題プリントを自力で解いて、授業に参加すること。 (2) 模擬授業 20% 指導案、教具等の工夫 (3) 確認テスト 50%	
学びのキーワード	日々の授業態度が実力を培うことになるので、毎回予習をして出席することを前提とし、積極的な授業態度を期待したい。	
	教科書	
・ 教員採用試験 ・ 実践演習 ・ 教育実習及び模擬授業の実践	参考書	
	東京アカデミー 『2017年度教員採用試験参考書（6）小学校全科』（ティーエーネットワーク）	

教職演習 F		TEAT-C-354
担当教員：丸山 綱男		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C101360
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け	01. オリエンテーション 小学校理科の現代的課題（講義） 02. 学習指導要領「理科」に示された内容に関する面接演習 03. 理科の問題解決に関連する面接演習 04. 学習指導案、板書計画等の作成・演習 05. 授業展開に関する講義と演習 06. 模擬授業演習 07. 観察・実験対策演習 1 08. 観察・実験対策演習 2 09. 観察・実験対策演習 3 10. 観察・実験対策演習 4 11. 理科試験問題の傾向と対策 1 12. 理科試験問題の傾向と対策 2 13. 理科試験問題の傾向と対策 3 14. 理科試験問題の傾向と対策 4 15. まとめ	
(1) 内容		
本演習は、採用試験を受験する学生が、教師に必要なとされる理科の専門知識・技能並びに資質・能力をいかに学び、修得してきたかを点検・確認する。将来、教員になる上で、理科指導における基礎・基本を確実に身に付け、理科の現代的な課題に向き合える実践的な指導力の向上を図り、採用試験に資する演習とする。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
演習形態を中心として、講義、観察・実験対策演習、事例研究、模擬授業等を組み合わせて、実際の教育現場を想定した教育課題を履修者同士の実践的な学びによって解決できるようにする。次年度に実施される都道府県の採用試験を突破できることを目標とする。	自己の課題を常に意識し、予告された次回のテーマについて事前に学習をしてくこと。	
	準備学習(復習)	
	講義等で配布された資料を活用し、自己の課題解決に向けて必ず見直しをすること。	
	評価方法	
	(1) 平常点 50% (2) 課題レポート 30% (3) 試験 20%	
受講者に対する要望	毎授業の演習に積極的に参加し、課題意識をもって意欲的に取り組むことを重視する。	
学びのキーワード	教科書	
・専門的な知識・技能（理科） ・実践的な指導力 ・教職の実現	参考書	

教職演習 G		TEAT-C-451
担当教員：市村 和子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C101465
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容	01. 教員採用試験に向けて（心構え、スケジュール） 02. 教員採用試験に向けて（各都県市の試験傾向と対策） 03. 面接試験、論文試験、模擬授業について 04. 面接試験の研究 1（自己PRについて） 05. 面接試験の研究 2（学習指導について） 06. 面接試験の研究 3（生徒指導について） 07. 面接試験の研究 4（教育課題について） 08. 面接試験の研究 5（法規について） 09. 面接試験の研究 6（場面指導について） 10. 論文試験の研究 1（論文の書き方について） 11. 論文試験の研究 2（論文を書く） 12. 模擬面接 1（個人面接） 13. 模擬面接 2（集団面接） 14. 模擬授業 15. 教員採用試験対策のまとめ	
公立小学校教員採用試験を受験する 4 年生を対象とした教職演習である。 特に面接、論文・課題作文、模擬授業を中心に取 り組む。		
(2) 学びの意義と目標		
教員採用試験の傾向と現状を把握し、面接試験や 論文試験に必要な知識を学ぶ。また、社会人とし て必要な所作やマナーも同時に身に付ける。	準備学習(予習)	
	前時に与えられた課題に対する自分なりの解答・意見、 試験情報の収集等	
	準備学習(復習)	
	指摘された内容事項についての修正	
	評価方法	
	(1) 平常点 50% 参加意欲・態度、発表 (2) 課題レポート、ノート等 50%	
受講者に対する要望	毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。	
教員採用試験合格のための努力を惜しまず、指導 を素直に受け入れることのできる学生の受講を望 む。 第 1 回目から、面接用、論文用のノートを用意す ること。	教科書	
学びのキーワード	参考書	
・公立小学校教員採用試験 ・教育への情熱 ・論文・面接・模擬授業	随時プリントを配付。本演習専用のファイルにプリントをきちんと綴じ込み、毎時間持参すること。	

人間福祉の探求		HUWL-C-261
担当教員：古谷野 亘		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C101570
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】今日的課題についての知識・教養を身につける 【W】論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション / 研究することということ 02. 福祉理論のなかの地域福祉的要素 03. 高齢社会とユニバーサルデザイン 04. 高齢社会の元気高齢者 05. 健康と環境 06. ストレス対策とうつ予防 07. 知的障害者に対する支援 — 罪を犯した知的障害の支援を中心に — 08. 精神保健福祉における新たな支援関係 — プロシューマーの萌芽とうねり — 09. 海外福祉研究の楽しみ 10. 心理テストと心理療法 11. 子どもを研究する視座 12. 子ども虐待とネグレクト 13. 遊びに文化が生まれる — 「子どもの仕事は遊ぶこと」をめぐる — 14. 対人援助職のメンタルヘルス 15. 金子みすゞのスピリチュアリティ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>大学院人間福祉学研究科の教員が輪番で教壇に立ち、最先端の研究の成果を紹介する。講義は、人間福祉学研究科が扱う「福祉学分野」「児童学分野」「心理学・臨床死生学分野」の中から1回ごとに異なるテーマで行われる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>今回の担当教員の著作に目を通しておくとよい。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>人間福祉学の最先端の研究の成果を知るとともに、研究することの意味と楽しさを理解する。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回講義に出席して、各教員の研究への取り組みを知り、研究することの楽しさにふれてほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回の講義を振り返り、自分の意見をまとめる復習が必要。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 60% (2) レポート 40%</div>	
<div>学びのキーワード</div>	<div>教科書</div> <div>使用しない</div>	<div>参考書</div> <div>授業の中で指示する</div>

児童文化論 A (C-2)

CHCL-C-101

担当教員：田澤 薫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1C200100

学部教育の関連目

【C】 児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】 保育士資格：選択科目

(1) 内容

子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。

(2) 学びの意義と目標

子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。

授業で紹介する絵本・紙芝居・折り紙等の児童文化財に親しみ、それらを子どもたちに提供する技能についても関心をもって学びたい。

受講者に対する要望

授業では毎回、絵本や紙芝居の児童文化財を紹介します。また、出席確認に折り紙を活用します。これらの作品に触れるだけでなく、子どもの傍らにいる大人になるための実践技能を身につけることにも意識を向けてほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 児童文化
- ・ 児童文化財
- ・ 遊び
- ・ 生育儀礼
- ・ 子どもの主体性

授業計画

01. 子どもの世界をのぞく視点
02. 子どもと遊び (1) 遊びの意味
03. 子どもと遊び (2) 子どもの遊び
04. 子どもとモノ (1) おもちゃ
05. 子どもとモノ (2) 人形
06. 子どもとモノ (3) たからもの
07. 子どもとモノと遊び (1) おもちゃを遊びにいかす
08. 子どもとモノと遊び (2) 人形を遊びにいかす
09. 伝承文化と子ども (1) 生育儀礼
10. 伝承文化と子ども (2) 年中行事
11. 子どもとことば (1) わらべうた
12. 子どもとことば (2) 紙芝居
13. 子どもとことば (3) 絵本
14. 子どもとことば (4) おはなし
15. 総括

準備学習(予習)

子ども時代を振り返ること、今関心をもっていることを意識化すること、授業を手がかりとして取り組んでください。シラバスを参考に、教科書の該当箇所を読んでから授業に臨むことを勧めます。

準備学習(復習)

教科書の該当箇所を必ず一読すること。授業ノートをまとめること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

皆川 美恵子, 武田 京子 『新版 児童文化』 (ななみ書房)

参考書

児童文化論 A (C-1)

CHCL-C-101

担当教員：田澤 薫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1C200105

学部教育の関連目

【C】 児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】 保育士資格：選択科目

(1) 内容

子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。

(2) 学びの意義と目標

子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。

授業で紹介する絵本・紙芝居・折り紙等の児童文化財に親しみ、それらを子どもたちに提供する技能についても関心をもって学びたい。

受講者に対する要望

授業では毎回、絵本や紙芝居の児童文化財を紹介します。また、出席確認に折り紙を活用します。これらの作品に触れるだけでなく、子どもの傍らにいる大人になるための実践技能を身につけることにも意識を向けてほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 児童文化
- ・ 児童文化財
- ・ 遊び
- ・ 生育儀礼
- ・ 子どもの主体性

授業計画

01. 子どもの世界をのぞく視点
02. 子どもと遊び (1) 遊びの意味
03. 子どもと遊び (2) 子どもの遊び
04. 子どもとモノ (1) おもちゃ
05. 子どもとモノ (2) 人形
06. 子どもとモノ (3) たからもの
07. 子どもとモノと遊び (1) おもちゃを遊びにいかす
08. 子どもとモノと遊び (2) 人形を遊びにいかす
09. 伝承文化と子ども (1) 生育儀礼
10. 伝承文化と子ども (2) 年中行事
11. 子どもとことば (1) わらべうた
12. 子どもとことば (2) 紙芝居
13. 子どもとことば (3) 絵本
14. 子どもとことば (4) おはなし
15. 総括

準備学習(予習)

子ども時代を振り返ること、今関心をもっていることを意識化すること、授業を手がかりとして取り組んでください。シラバスを参考に、教科書の該当箇所を読んでから授業に臨むことを勧めます。

準備学習(復習)

教科書の該当箇所を必ず一読すること。授業ノートをまとめること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

皆川 美恵子、武田 京子『新版 児童文化』（ななみ書房）
※授業初回までに購入すること
※新版の為、再履修者も購入すること

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1C200210

学部教育の関連目

【C】児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：選択科目

(1) 内容

私たちは、しあわせな生き方を子どもとともに生きて育てていきたいと望んでいる。では、私たちが子どもの生活・文化に関わることの真意はなんだろうか。そこで、遊びに注目して、児童文化のあり方を考えたい。

フレーベルが「遊びは人生の鏡である」と述べたことをふまえて考えてみよう。遊びにおいて、私たちは、既知と未知とを結んで記憶を継ぎ、文化を編み出して伝え合う。遊びは、参加者が互いのあいだを感じてコミュニケーションが起こる親交・共同の場である。こうした遊びの性質について、協同で考察を深めたい。

(2) 学びの意義と目標

「（大人が）子どもの目線に立つ」と言われる。このとき、子ども期を過ごした人にく子どもはどのようにあらわれてくるだろうか。このく子どもを確認して、今を生きる子どもを理解するときの観点をより多く、複合的にもつようにすることを、学びの意義とする。

協同的な学びを通じて自分自身の視野が広がるよろこびを感じ、その学びの過程をていねいに記録して考察する力を身につけることを、学びの目標とする。

受講者に対する要望

参加してみて、意外な自分を発見することがある。また、友だちの意外なところに気づくこともある。その意外性を大切にしてほしい。はじめはちょっとした勇気があるかもしれないが、思い切って参加することを望む。

学びのキーワード

- ・参加と役割
- ・コミュニケーション
- ・あいだをもつ
- ・伝え合う
- ・記録する

授業計画

01. 子どもと大人…伝承をめぐって
02. 伝承遊びの特質
03. 遊びと子どもの権利
04. 遊び研究（1） ジャンケン
05. 遊び研究（2） 呼びかける・つながる
06. 遊び研究（3） とばす
07. 遊び研究（4） まわる
08. 遊び研究（5） はじく
09. 遊び研究（6） ころがす
10. 遊び研究（7） 囲む
11. 遊び研究（8） 追いかける
12. 遊び研究（9） 触れる
13. 遊び研究（10） 渡す
14. 研究成果の発表
15. まとめ…遊びの伝承性について

準備学習（予習）

今回の内容に関して教科書を中心に調査する。

準備学習（復習）

返却されたレポートを見直して、必要な加筆や修正を行う。

評価方法

- | | |
|------------|------------------|
| (1) レポート | 80% 6点×11回 7点×2回 |
| (2) 研究成果発表 | 10% |
| (3) 期末レポート | 10% |

各回提出のレポートの書式と評価のポイントについて、初回に説明する。

教科書

小川清実 『子どもに伝えたい伝承あそび』（萌文書林）

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1C200215

学部教育の関連目

【C】児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：選択科目

(1) 内容

私たちは、しあわせな生き方を子どもとともに生きて育てていきたいと望んでいる。では、私たちが子どもの生活・文化に関わることの真意はなんだろうか。そこで、遊びに注目して、児童文化のあり方を考えたい。フレーベルが「遊びは人生の鏡である」と述べたことをふまえて考えてみよう。遊びにおいて、私たちは、既知と未知とを結んで記憶を継ぎ、文化を編み出して伝え合う。遊びは、参加者が互いのあいだを感じてコミュニケーションが起こる親交・共同の場である。こうした遊びの性質について、協同で考察を深めたい。

(2) 学びの意義と目標

「（大人が）子どもの目線に立つ」と言われる。このとき、子ども期を過ごした人にく子どもはどのようにあらわれてくるだろうか。このく子どもを確認して、今を生きる子どもを理解するときの観点をより多く、複合的にもつようにすることを、学びの意義とする。協同的な学びを通じて自分自身の視野が広がるよろこびを感じ、その学びの過程をていねいに記録して考察する力を身につけることを、学びの目標とする。

受講者に対する要望

参加してみて、意外な自分を発見することがある。また、友だちの意外なところに気づくこともある。その意外性を大切にしてほしい。はじめはちょっとした勇気があるかもしれないが、思い切って参加することを望む。

学びのキーワード

- ・参加と役割
- ・コミュニケーション
- ・あいだをもつ
- ・伝え合う
- ・記録する

授業計画

01. 子どもと大人…伝承をめぐって
02. 伝承遊びの特質
03. 遊びと子どもの権利
04. 遊び研究（1） ジャンケン
05. 遊び研究（2） 呼びかける・つながる
06. 遊び研究（3） とばす
07. 遊び研究（4） まわる
08. 遊び研究（5） はじく
09. 遊び研究（6） ころがす
10. 遊び研究（7） 囲む
11. 遊び研究（8） 追いかける
12. 遊び研究（9） 触れる
13. 遊び研究（10） 渡す
14. 研究成果の発表
15. まとめ…遊びの伝承性について

準備学習（予習）

今回の内容に関して教科書を中心に調査する。

準備学習（復習）

返却されたレポートを見直して、必要な加筆や修正を行う。

評価方法

- | | |
|------------|------------------|
| (1) レポート | 80% 6点×11回 7点×2回 |
| (2) 研究成果発表 | 10% |
| (3) 期末レポート | 10% |

各回提出のレポートの書式と評価のポイントについて、初回に説明する。

教科書

小川清実 『子どもに伝えたい伝承あそび』（萌文書林）

参考書

絵本文化論		CHCL-C-103
担当教員： 上原 里佳		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C200320
学部教育の関連目		授業計画
【C】 児童文化についての知識を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】 幼稚園教諭一種免許：選択科目 【C】 保育士資格：選択科目		
(1) 内容		01. イントロダクション ～絵本とは何か/絵本の画面展開 ～ 初回アンケート 02. 絵本の誕生 03. 絵本の歴史 ～近代絵本の発展・イギリスを中心に～ 04. 子どもの発達と絵本 05. 赤ちゃん絵本 06. 幼児と絵本 07. 視覚表現と色彩表現 08. 絵本の画材と技法 09. 日本の絵本の歩み 10. 言葉の絵本 11. 文字なし絵本 12. 写真絵本 13. 数・時間・比較の絵本 14. ナンセンス絵本・パロディ絵本 15. 理解度の振り返りと確認
子どもが出会う物語世界の入口にある絵本との出会いは、大人との共同作業によって用意されることから、大人をもう一度、人間の原点である＜子ども＞世界へと誘う働きもしている。子どもの絵本体験とは何かを探りつつ、優れた絵本から、子どもの世界の文法、さらに大人にとっての意味もとらえていきたい。 カリキュラム上の位置づけ： 絵本文化を通して子どもの感じ方の特性や大人と子どもの関係の原基を探る、子どもの世界を知るための入門的講義である。		
(2) 学びの意義と目標		
児童学科専門科目群「児童文化系統」の選択科目。幼稚園教諭免許状資格科目（選択）、保育士資格科目（選択）としても指定されており、絵本文化を通して子どもの感じ方の特性や大人と子どもの関係の原基を探る、子どもの世界を知るための入門的講義である。 絵本についての基礎知識を習得することで、まずは、自分自身の絵本への向き合い方の幅をひろげてほしい。そして、子どもが「描かれた世界」をどう受けとめどのよう		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
久しぶりに触れる絵本の世界から、子ども時代には気づかなかった新たな魅力を新鮮な気持ちで感じとり、その奥深さを考えていきましょう。多くの作品を読む必要があるため、絵本・読書に興味のある人の受講を希望します。 なお、授業開始後の退室は、体調不良など緊急時以外は認めません。同様に、私語など、他の受講生に迷惑がかかる行為があった場合も、欠席扱いとなることがあるので、注意すること。 		子ども時代に読んだ絵本を読み返しておくこと。日ごろから、図書館・書店等を利用し積極的に絵本に触れる機会をつくること。特に図書館はリクエストをかければ古い絵本も見ることができますので、上手に活用しましょう。
学びのキーワード		準備学習(復習)
・ 絵本 ・ 幼児教育		授業で解説した絵本は、図書館・書店などで、必ず実際に手にしてみること。テーマに関連する絵本、気になった作家の作品については、できるだけ多くの作品を読むこと。実際に子どもに接する機会がある人は、読み聞かせをして彼らの反応を観察すること。
		評価方法
		(1) 授業への参加度 20% 授業開始後の、途中退出厳禁。体調不良など緊急時以外に無断退室した場合、欠席扱いとなるので注意すること。
		(2) コメントペーパーへの回答 30% 出席確認だけでなく、講義理解度、積極性を判断するので、必ず回答すること。
		(3) 期末テスト 50% 期末テストでは、授業でとりあげた作品を既読であることを前提に出題します。
		復習、期末テストが必要となるので、講義中必ずノートをとること。最低必須出席日数が大学の規定に満たない場合は期末テストを受けることが出来ません。
		教科書
		適宜、プリント配布
		参考書
		配布プリントはあくまでも授業理解の補助的なものです。授業中の板書・プロジェクターでの説明などを、各自ノートにとるようにして下さい。

異文化間教育			
担当教員： 佐藤 千瀬			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 2		コード： 1C201710	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション 異文化間教育 02. 異文化適応 03. コミュニケーション・ギャップ 04. バイリンガル教育 05. 異文化間コミュニケーション 06. 異文化間トレーニング 07. 多文化共生保育 08. 多文化共生保育（事例検討） 09. 世界の保育・教育と子どもたち 発表準備 10. 世界の保育・教育と子どもたち（発表・補足講義） 11. 世界の保育・教育と子どもたち（発表・補足講義） 12. 世界の保育・教育と子どもたち（発表・補足講義） 13. ひょうたん島問題 14. 海外の手遊び・遊び・歌 15. 日本における外国人の子どもの保育・教育の実践 まとめ	
(1) 内容			
現在、日本の保育所・幼稚園・小学校等において、外国人の子どもたちや国際結婚家庭の子どもたち、海外で生まれ育った日本人の子どもたち等が増加している。このような現状を踏まえ、本講義では、異文化間教育・異文化適応・異文化間コミュニケーション・多文化共生保育等の理論と実践について概説する。さらに、外国人の子どもたち・家族とコミュニケーションをとる上で必要となる、世界の保育・教育に関する情報を収集し、発表する。 英語や多言語による授業、映像を用いた授業、海外の遊びや歌、ロールプレイ等参加型の授業を行う。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
・世界の子どもたちと家族の現状を知り、保育・教育に関する自身の枠組みを広げる。 ・適切な情報を収集し、クラスメイトと協力して創意工夫をした発表を行う。		人数が多い場合は、グループワークとグループ発表を行う。 人数が少ない場合は、個人で調べた上で、発表を行う。 そのため、発表準備が必要となる。	
		準備学習(復習)	
		授業で視聴した映像についての考察や、事例分析等をまとめ、提出する。 発表後のフィードバックをもとに、最終レポートをまとめる。	
受講者に対する要望		評価方法	
4年次に「海外実習（SAINTS）」の履修を希望する者は、本講義を履修することが望ましい。 参加型の授業が多いため、積極的に授業に参加することが求められる。 発表準備やレポート準備等、計画的に取り組むことが求められる。		(1) 平常点 50% 出席点ではない。 (2) 発表 25% (3) レポート 25%	
学びのキーワード		教科書	
・異文化間教育 ・文化 ・世界 ・海外実習（SAINTS） ・多文化		参考書	

おもちゃ論		CHCL-C-201
担当教員： 中村 輝美		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C201825
学部教育の関連目	授業計画	
【C】 児童文化についての知識を身につける	01. オリエンテーション 02. おもちゃの役割・分類について（その1） 03. おもちゃの役割・分類について（その2） 04. 玩具文化史（その1） 05. 玩具文化史（その2） 06. 玩具文化史（その3） 07. 玩具文化史（その4） 08. ままごと玩具にかかわる探究 09. 魔法少女シリーズにかかわる探究 10. ヒーロー・ロボットにかかわる探究 11. おもちゃとキャラクターについて 12. 日本の郷土玩具について 13. 手づくりおもちゃについて 14. おもちゃの安全性について 15. 本授業のまとめ	
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容	<p>子どもにとっておもちゃとはどんな存在なのだろうか。古くから子どもの遊びと深いかわりを持つおもちゃについて、この授業では次の3点について、おもちゃの歴史や学生自身の成長過程を振り返りながら探っていきたい。</p> <p>まず、「子どもの遊びにおけるおもちゃの特性・役割について」みていく。ここでは、子どもの年齢発達について押さえながら、具体的に現在子どもたちに遊ばれているおもちゃを取り上げ、さらに学生自身の過去のおもちゃ遊びの経験を振り返ることで確認していきたい。次に、「子どもたちのおもちゃ遊びの種類や変遷について」である。昔から変わらずあるもの、時代の変化に伴って増えたもの、時代や場所によっておもちゃそのもの又は遊びの方法が変化したものなど様々だが、日本のおもちゃの歩み（江戸時代から平成にかけて）だけでなく、保育や教育に影響を及ぼした海外のおもちゃについても触れていきたい。最後に、「現代社会におけるおもちゃの特徴や課題について」である。子どもを取り巻く環境の変化や現代社会の特徴について取り上げ、おもちゃは時代に反映されることを確認し、今のおもちゃやこれからのおもちゃのあり方について学生たちと意見交換しながら考えを深めていきたい。</p>	
(2) 学びの意義と目標	<p>この講義を通して、上記の講義内容で記した「子どもの遊びにおけるおもちゃの特性・役割について」「子どもたちのおもちゃ遊びの種類や変遷について」「現代社会におけるおもちゃの特徴や課題について」といったことを基に、子どもとおもちゃのかかわりについて考えることは勿論のことであるが、将来保育者・教育者として又は一人の大人として子どもとかかわるときに、どのようなおもちゃを選択し提供できるかといった知見を身につけていくことを目標とする。</p> <p>また、特に20世紀から21世紀にわたるおもちゃの歴史や日本のおもちゃと世界のおもちゃにおける共通点を確認し、様々なおもちゃを使った遊びのスタイルや各国の豊かなおもちゃ文化といったものも理解し、おもちゃ遊びの多様さ・面白さと役割について積極的に自分なりの考えを持ち、受講生同士でお互いに発表したり語り合ったりなど表現する姿勢も身につけてほしい。</p>	
受講者に対する要望	準備学習(予習)	
子どもの発達など、子どもに関する基本的な考え方を事前に押さえておいてもらいたい。	おもちゃ売り場や身近にある施設、おもちゃ美術館などを利用して市販や手作りに関わらず様々なおもちゃに触れておくこと。	
	準備学習(復習)	
	授業で紹介したおもちゃについても上記の施設を利用し、実物を見つけて触れておくこと。紹介した文献や入手したカタログを確認してみる。 	
学びのキーワード	評価方法	
	(1) 授業態度 20% グループでの話し合い時や質問に対して、積極的な発言をしてもらいたい。	
	(2) 授業内提出物 40% 毎回提示する課題に対して書いてもらうリアクションペーパーを含む。	
おもちゃの歴史 子どもの発達とおもちゃ 子どもの遊び おもちゃの役割 児童文化財	(3) 課題レポート 40% 自分の意見や考えを入れた記述を望む。	
	教科書	
	特になし。毎回配布する自作プリントを使用する。	
	参考書	
	授業内で随時紹介する。	

児童英語教材研究 A		SUBP-C-251	
担当教員： 東 仁美			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1C201935	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】 教師に必要な知識・技能を身につける		01. 小学校英語教育の現状と課題 02. 英語コミュニケーション 1 Listening 03. 英語コミュニケーション 2 Speaking 04. 英語コミュニケーション 3 Reading 05. 英語コミュニケーション 4 Writing 06. 英語コミュニケーション 5 4技能統合型の活動 07. 英語の基本的な音声の仕組み 08. 語彙の基本的な知識 09. 文法の基本的な知識 10. 発音と綴りの関係 11. 第二言語習得理論の基礎 12. マザーグースと絵本 13. さまざまな国・地域の生活・習慣 14. 異文化交流 15. プレゼンテーション	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
小学校外国語活動での実践に必要な英語力を身に付けるため、英語コミュニケーションと英語運用に必要な知識の習得を目指す科目である。小学校教員として、児童と英語でのやり取りができる英語力を4技能バランスよく身に付ける。また、指導者として知っておいてほしい知識を得ることで専門性の高い指導につなげることをねらいとする。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
外国語活動の授業内容の背景となる専門的な知識・技術などを習得し、英語運用能力を身に付ける。		オリジナルテキストを初回の授業で配布する。毎回の授業で扱うユニットのテキストを事前に読んで、授業に参加すること。	
		準備学習(復習)	
		授業で使われた英語表現を復習し、実際の授業で使えるようにする。	
		評価方法	
		(1) 授業への参加度 25% (2) リフレクションの記入 25% (3) 小テスト 25% (4) プレゼンテーション 25%	
受講者に対する要望			
小学校外国語の教科化は3年後に先行実施となる見通しである。大学卒業後、小学校外国語科の指導ができる教員になれるようにこの授業を通して英語の運用能力を高めてほしい。			
学びのキーワード		教科書	
・ 小学校英語教育 ・ 外国語活動 ・ 英語運用力 ・ 異文化の知識 ・ 第二言語習得		文部科学省 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』 (東洋館出版社) 文部科学省 『Hi, friends! 1』 (東京書籍)	
		参考書	
		樋口忠彦 (編著) 『小学校英語教育法入門』 (研究社)	

児童英語教材研究B		SUBP-C-252	
担当教員：小川 隆夫			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1C202040	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. オリエンテーション及び小学校外国語活動の目標及び教員としての資質 02. 国際理解教育と外国語活動 03. 英語のリズムとマザーグース 04. 児童の心をつかむ教材と実践的指導法 05. 言語習得理論と実践 06. 児童英語教材の分析と応用 07. 小学校英語活動の評価と教材の選択 08. 単元計画と指導案作成 09. フィードバックとその手法 10. アクティビティー・プレゼンテーション 教材の活用方法 11. アクティビティー・プレゼンテーション ICTの活用について 12. 模擬授業と振り返り 13. 模擬授業と振り返り 14. 模擬授業と振り返り 15. 授業の確認とまとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
小学校英語の教科化を目前にして、児童英語の概要や理論と実践を学び、コミュニケーション能力の素地、国際理解教育と英語活動の関係などを明らかにしていく。また、数多くの実践例を参考にしながら、次世代を担う児童のための英語教育のあり方を考える。歌、チャンツ、絵本の指導法から、教室英語、アクティビティーの作り方、評価方法までを体得し、模擬授業を英語だけで行うことを目指す。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
英語活動の意義、目標を十分に理解し、知識、情報、指導技術を生かし、現場で率先して実践できるようにする。担任として単独での授業の方法と共に、英語指導助手と共に行うIT授業の方法も学び、コミュニケーションを取ることの大切さ、楽しさ、難しさなどを体得する。		小学校英語活動は教科化を目前に常に新聞やマスコミに取り上げられている。新たな情報を得るために日頃から情報を集めること。事前に配布するプリントを読んでから、授業に参加すること。	
		準備学習(復習)	
		マザーグースやチャンツなどは常に復習して身につけること。指導案作成やアクティビティー作成など授業の課題を着実にこなして提出すること。	
受講者に対する要望		評価方法	
毎回行うアクティビティーに積極的に取り組み、自分のものにして欲しい。教室英語を覚えて模擬授業には入念なりハーサルをして臨むこと。小学校教諭志望者だけでなくJ-Shine資格取得を目指す学生、民間で英語を教えたり語学学校などへの就職を望む学生はぜひ受講して欲しい。		(1) 授業への参加度 10% (2) レポート 20% (3) 模擬授業 30% (4) プレゼンテーション 20% (5) 指導案作成 20%	
学びのキーワード		教科書	
・児童英語教材 ・リズム ・マザーグース ・言語習得理論 ・アクティビティー		文部科学省 『Hi, friends! 2』 (東京書籍)	
		参考書	
		小川 隆夫、松香 洋子 『高学年のための小学校英語 「先生、英語やろうよ! 2」 CD付』 (mpi松香フォニックス)	

発達心理学（C-幼小）		PSYC-C-101													
担当教員： 徳井 千里															
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1C300425													
学部教育の関連目		授業計画													
【C】 子どもの発達・心理についての知識を身につける		01. 発達を学ぶということ ～子どもを理解するために 02. 新生児期・乳児期の子ども ～赤ちゃんって、どんなことをしているの？ 03. 幼児期の子ども ～保育園・幼稚園時代の子どもたち 04. 身体・運動機能の成熟と発達 ～体の発育と成長、動く能力 05. 遊びの発達 ～遊びのなかでの育ち 06. 認知機能の発達 ～感じる、知る、考える、わかる 07. 言語機能とコミュニケーションの発達 ～ことばの獲得と相手と通じ合うということ 08. 児童期の子ども ～小学生が経験すること 09. 学習機能の発達 ～読み書きや計算ができるようになるしくみ 10. 感情・社会性の発達 ～人との関わりのなかで育つ心 11. 思春期から成年期、老年期 ～大人になり、年をとっていく生涯 12. 家族関係の発達 ～親になること、家族の子育てを支援する 13. 発達の多様性 ～個性を大切にしながら、必要な支援を 14. 現代社会における発達 ～子どもと家族をとりまく現実 15. まとめ・理解度の確認													
カリキュラム上の位置付け															
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】 保育士資格：必修科目															
(1) 内容															
<p>乳幼児期・児童期を中心に、青年期・成人期・老人期にわたる人間の生涯発達の過程とその原則についての基礎知識を習得する。運動、認知、言語、情緒、社会性等の各領域の発達機序を縦断的に理解するとともに、各年代の様相を横断的にイメージできるようになることが期待される。</p> <p>そして、子どもの豊かで健やかな発達に関わる経験と環境、人との関係性等の要因のありかたを理解し、子どもの成長発達を促し、初期の社会生活を支える役割に必要とされる考え方や視点、人間観を身につける。そこには、様々な心理的な課題や心的特性、多様な発達に関わる臨床心理や発達臨床の知見も包括されるものである。さらに、貧困や養育困難、虐待など、子どもをめぐる現代社会の情勢を知り、多様性を増す家族への支援や、関係する機関との連携の手だてについての知識を得る。</p> <p>そのうえで、レポートやトピック発表等の課題を通じて、子どもの発達に関わる問題を、適正な情報に基づいて主体的に調査・検討し、自身の考察を論述・表現する力を身に付けることをめざす。</p>															
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)													
<p>幼児期・児童期の子どもの成長を導き支える役割の職種を志すにあたり、発達の原理とプロセスを理解することは不可欠であり、またそれをふまえたうえで、ひとりひとりの子どもの個性を尊重する視点を身につけることが重要である。</p> <p>標準的な発達の枠組みとそれを越えて多様に広がる可能性を知ることにより、ひとり子どもに面したときに、その子どもの心情やパーソナリティ、人との関係性や情緒的な安定性、発達の様相などを多次元にきめ細かく読み取り、幅広く想定する力が養われる。そこには、それぞれの子どもが生活している家庭や社会、時代や文化などの背景を、自身の経験や価値観を越えて理解する力も求められる。</p> <p>そのうえで、人生の中でもっとも劇的な変化をとげる時期の子どもたちが、健やかに豊かな成長を遂げるために、保育士や教師がどのような環境や経験を準備し、いかにして子どもたちに関わり、発達を支援するかということについて主体的に考え、知識や経験、人間理解の視点を自分自身で獲得していく力を身につけていきたい。</p> <p>本講ではレポートやミニテストを課すが、そうした課題に取り組む経験を通じて、知る、経験する、学ぶ、考える、というような発達に関わる重要なプロセスを自身で体験し、子どもの学びについての理解を深めてもらいたい。</p>		毎回の講義内容に関する教科書の該当箇所を事前に指示するので、基礎的な知識や用語、理論について予習しておくこと。講義の冒頭でミニテストを実施する。													
受講者に対する要望		準備学習(復習)													
<p>教科書だけでなく、ニュースや新聞などで報道される現代の子どもたちを取り巻く問題について、敏感な関心をもって欲しい。</p>		配布したレジュメ、参考記事、返却したミニテストを再読しておくこと。重要ポイントなので、一部は期末テストでも出題される。カレントな時事問題に関するレポート課題も課すので、日頃から子どもをめぐる報道記事を切り抜き、コピーしておくとうい。													
学びのキーワード		評価方法													
<p>・ 子どもの発達 ・ 子育て支援 ・ 発達臨床</p>		<table><tr><td>(1) 平常点</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(2) ミニテスト</td><td>20%</td><td>予習の確認として毎回の講義のなかで実施します</td></tr><tr><td>(3) レポート</td><td>20%</td><td>期間中、複数回課題を出します</td></tr><tr><td>(4) 中間・期末テスト</td><td>40%</td><td></td></tr></table> <p>課題・レポートの未提出は大幅に減点します。</p>		(1) 平常点	20%		(2) ミニテスト	20%	予習の確認として毎回の講義のなかで実施します	(3) レポート	20%	期間中、複数回課題を出します	(4) 中間・期末テスト	40%	
(1) 平常点	20%														
(2) ミニテスト	20%	予習の確認として毎回の講義のなかで実施します													
(3) レポート	20%	期間中、複数回課題を出します													
(4) 中間・期末テスト	40%														
		教科書													
		本郷一夫（編著） 第2版 『保育の心理学I・II』（建帛社）													
		参考書													

発達心理学（【保】希望者）

PSYC-C-101

担当教員： 徳井 千里

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目

単位： 2 コード： 1C300430

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

乳幼児期・児童期を中心に、青年期・成人期・老人期にわたる人間の生涯発達の過程とその原則についての基礎知識を習得する。運動、認知、言語、情緒、社会性等の各領域の発達機序を縦断的に理解するとともに、各年代の様相を横断的にイメージできるようになることが期待される。
そして、子どもの豊かで健やかな発達に関わる経験と環境、人との関係性等の要因のありかたを理解し、子どもの成長発達を促し、初期の社会生活を支える役割に必要なと考え方や視点、人間観を身につける。そこには、様々な心理的な課題や心的特性、多様な発達に関わる臨床心理や発達臨床の知見も包括されるものである。さらに、貧困や養育困難、虐待など、子どもをめぐる現代社会の情勢を知り、多様性を増す家族への支援や、関係する機関との連携の手だてについての知識を得る。
そのうえで、レポートやトピック発表等の課題を通じて、子どもの発達に関わる問題を、適正な情報に基づいて主体的に調査・検討し、自身の考察を論述・表現する力を身に付けることをめざす。

(2) 学びの意義と目標

幼児期・児童期の子どもの成長を導き支える役割の職種を志すにあたり、発達の原理とプロセスを理解することは不可欠であり、またそれをふまえたうえで、ひとりひとりの子どもの個性を尊重する視点を身につけることが重要である。
標準的な発達の枠組みとそれを越えて多様に広がる可能性を知ることにより、ひとり子どもに面したときに、その子どもの心情やパーソナリティ、人との関係性や情緒的な安定性、発達の様相などを多次元にきめ細かく読み取り、幅広く想定する力が養われる。そこには、それぞれの子どもが生活している家庭や社会、時代や文化などの背景を、自身の経験や価値観を越えて理解する力も求められる。
そのうえで、人生の中でもっとも劇的な変化をとげる時期の子どもたちが、健やかに豊かな成長を遂げるために、保育士や教師がどのような環境や経験を準備し、いかにして子どもたちに関わり、発達を支援するかということについて主体的に考え、知識や経験、人間理解の視点を自分自身で獲得していく力を身につけていきたい。
本講ではレポートやミニテストを課すが、そうした課題に取り組む経験を通じて、知る、経験する、学ぶ、考える、というような発達に関わる重要なプロセスを自身で体験し、子どもの学びについての理解を深めてもらいたい。

受講者に対する要望

教科書だけでなく、ニュースや新聞などで報道される現代の子どもたちを取り巻く問題について、敏感な関心をもって欲しい。

学びのキーワード

・子どもの発達
・子育て支援
・発達臨床

授業計画

01. 発達を学ぶということ ～子どもを理解するために
02. 新生児期・乳児期の子ども ～赤ちゃんって、どんなことをしているの？
03. 幼児期の子ども ～保育園・幼稚園時代の子どもたち
04. 身体・運動機能の成熟と発達 ～体の発育と成長、動く能力
05. 遊びの発達 ～遊びのなかでの育ち
06. 認知機能の発達 ～感じる、知る、考える、わかる
07. 言語機能とコミュニケーションの発達 ～ことばの獲得と相手と通じ合うということ
08. 児童期の子ども ～小学生が経験すること
09. 学習機能の発達 ～読み書きや計算ができるようになるしくみ
10. 感情・社会性の発達 ～人との関わりのなかで育つ心
11. 思春期から成年期、老年期 ～大人になり、年をとっていく生涯
12. 家族関係の発達 ～親になること、家族の子育てを支援する
13. 発達の多様性 ～個性を大切にしながら、必要な支援を
14. 現代社会における発達 ～子どもと家族をとりまく現実
15. まとめ・理解度の確認

準備学習(予習)

毎回の講義内容に関する教科書の該当箇所を事前に指示するので、基礎的な知識や用語、理論について予習しておくこと。講義の冒頭でミニテストを実施する。

準備学習(復習)

配布したレジュメ、参考記事、返却したミニテストを再読しておくこと。重要ポイントなので、一部は期末テストでも出題される。カレントな時事問題に関するレポート課題も課すので、日頃から子どもをめぐる報道記事を切り抜き、コピーしておくとうよい。

評価方法

(1) 平常点

20%

(2) ミニテスト

20%

予習の確認として毎回の講義のなかで実施します

(3) レポート

20%

期間中、複数回課題を出します

(4) 中間・期末テスト

40%

レポート・課題の未提出は大幅に減点します。

教科書

本郷一夫（編著） 第2版 『保育の心理学I・II』（建帛社）【ISBN：978-4767950358】

参考書

教育相談(カウンセリングを含む。)(C-①～⑥)

TEAT-C-253

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C301135

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

教育相談及びカウンセリング（心理療法）や精神保健について基礎的な知識について学習するとともに、適応上の諸問題について概観する。授業中に簡単な実習や調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、自己理解を通して相談にあたる基本的態度を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、簡単な実習、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育相談
- ・心理療法
- ・自己理解

授業計画

01. 教育相談の役割
02. パーソナリティの理解 類型論
03. パーソナリティの理解 特性論
04. パーソナリティ検査の理解
05. パーソナリティ検査の実際
06. 教育相談と自己理解
07. カウンセンリングの基礎
08. 来談者中心療法の考え方
09. 認知療法の考え方
10. 行動療法の考え方
11. こどもの精神障害
12. 児童の不応・問題行動
13. 対人関係の支援
14. 学校カウンセリング
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

参考書

教育相談(カウンセリングを含む。)(C-⑦～⑫)

TEAT-C-253

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C301140

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

教育相談及びカウンセリング（心理療法）や精神保健について基礎的な知識について学習するとともに、適応上の諸問題について概観する。授業中に簡単な実習や調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、自己理解を通して相談にあたる基本的態度を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、簡単な実習、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育相談
- ・心理療法
- ・自己理解

授業計画

01. 教育相談の役割
02. パーソナリティの理解 類型論
03. パーソナリティの理解 特性論
04. パーソナリティ検査の理解
05. パーソナリティ検査の実際
06. 教育相談と自己理解
07. カウンセンリングの基礎
08. 来談者中心療法の考え方
09. 認知療法の考え方
10. 行動療法の考え方
11. こどもの精神障害
12. 児童の不適応・問題行動
13. 対人関係の支援
14. 学校カウンセリング
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

参考書

教育心理学（保①～⑥）

TEAT-0-201

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C301205

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目
【C】保育士資格：必修科目
【C】社会教育主事資格：必修科目

(1) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものの見方を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 学習の基礎としての条件づけ1 古典的条件づけ
06. 学習の基礎としての条件づけ2 オペラント条件づけ
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 認知発達と学習
11. 自己の発達と学習
12. 発達障害
13. 教育評価
14. 社会としての学級
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学第3版』 (有斐閣)

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C301210

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目
【C】保育士資格：必修科目
【C】社会教育主事資格：必修科目

(1) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものの見方を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 学習の基礎としての条件づけ1 古典的条件づけ
06. 学習の基礎としての条件づけ2 オペラント条件づけ
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 認知発達と学習
11. 自己の発達と学習
12. 発達障害
13. 教育評価
14. 社会としての学級
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学第3版』 (有斐閣)

参考書

教育心理学（保⑦～⑫）

TEAT-0-201

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C301215

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種免許：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目
- 【C】保育士資格：必修科目
- 【C】社会教育主事資格：必修科目

(1) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものの見方を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 学習の基礎としての条件づけ1 古典的条件づけ
06. 学習の基礎としての条件づけ2 オペラント条件づけ
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 認知発達と学習
11. 自己の発達と学習
12. 発達障害
13. 教育評価
14. 社会としての学級
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学第3版』（有斐閣）

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C301320

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

教員採用試験問題を題材とし、具体的な問題の解説を通して、教職教養としての教育心理学の知識を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

学びの意義と目標

教員採用試験を念頭に、教職教養としての教育心理学の知識を整理し、教育心理学的知見の体系的に理解することを目指す。

受講者に対する要望

あらかじめ問題を課すので、積極的に調べて、授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習
- ・発達

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の理論
03. 記憶
04. 学習法
05. 動機づけ
06. 教授学習
07. 発達の原理
08. 発達段階
09. 初期学習
10. 人格
11. 適応
12. 精神衛生
13. 知能
14. 教育評価
15. 総括

準備学習(予習)

予め配布する資料について調べておく。

準備学習(復習)

授業の内容を整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と発表 | 30% |

教科書

参考書

教育原理（C-1）		TEAT-0-102										
担当教員：寺崎 恵子												
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1C401400										
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】教師に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 教育の原義（1）〈教〉の生活世界 02. 教育の原義（2）〈育〉の生活世界 03. ライフサイクル論と発達観 04. イニシエーションと異校種間連携 05. 「教え」の関係構造（1）積極性 06. 「教え」の関係構造（2）消極性 07. 教育主体と学習主体 08. 観察というまなざし 09. 「子どもの理性」について 10. 直観教授について 11. 教材の意義 12. 学校の時間の特性 13. 学習集団と競争意識 14. 個人的な学びと協同的な学び 15. 教育の可能性</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】社会福祉主事任用資格：選択科目 【C】小学校教諭一種免許：必修科目 【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】保育士資格：必修科目</div>												
<div>(1) 内容</div> <div>人間として生きるには、教育は不可欠である。「教育とはなにか」という問いへの即答は難しいが、古来、人々は、教育に人間としての生き方を問うてきた。子どもの学力や学習意欲に関する課題、子どもの生活に関する教育的なケアの必要性、あるいは、異校種間連携の課題など、多方面から活発になされている教育論議は、私たちの生き方への問いであるといえる。 この講義では、こうした事情をふまえて、人々が子どもの教育に望んできたことの内容を理解したうえで、これからの教育のあり方を考察したい。</div>												
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>教育に関する議論は、現代に特有な課題を取りあげているように見えるが、実は、教育という人間としての生き方の歴史に深く根差している。その根をたどって課題の内実を理解することを、学びの意義とする。 複雑に見える教育論議を、思い込みにとらわれずに冷静に把握する力を培う。小手先の方法論にとらわれることなく自らの教育観を勇気をもって自由に育てていくことを、学びの目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教育に関連することを新聞記事などから探して、その内容をノートに記録する。やり方の詳細を、初回に説明する。</div>										
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートの整理をして、学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典（教科書）などで調べて補完する。やり方の詳細を、初回に説明する。</div>										
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 小レポート</td><td>75%</td><td>各回5点×15回</td></tr><tr><td>(2) 期末課題</td><td>15%</td><td>初回に出題する。</td></tr><tr><td>(3) ノート</td><td>10%</td><td></td></tr></table> <div>小レポートの記述状況によっては、書き直しを求めることがある。また、期末課題に計画的に取り組むことを望む。</div>		(1) 小レポート	75%	各回5点×15回	(2) 期末課題	15%	初回に出題する。	(3) ノート	10%	
(1) 小レポート	75%	各回5点×15回										
(2) 期末課題	15%	初回に出題する。										
(3) ノート	10%											
<div>受講者に対する要望</div> <div>全ての回を通じて、受講生が各自で、学びの意義と目標を確認することになるだろう。その確認を、各回の小レポート作成によって行う。思い込みにとらわれず、他者の意見をききながら、自分自身の教育観を自身の生き方としてとらえることを望む。</div>												
<div>学びのキーワード</div> <div>・教育の関係論 ・ライフサイクルと発達観 ・教育における感性和理性 ・学びと教えにおける媒介 ・協同的な学びの可能性</div>		<div>教科書</div> <div>広岡義之『教職をめざす人のための教育用語・法規』（ミネルヴァ書房）</div> <div>参考書</div>										

教育原理（C-2）		TEAT-0-102										
担当教員： 寺崎 恵子												
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1C401405										
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 教育の原義（1）〈教〉の生活世界 02. 教育の原義（2）〈育〉の生活世界 03. ライフサイクル論と発達観 04. イニシエーションと異校種間連携 05. 「教え」の関係構造（1） 積極性 06. 「教え」の関係構造（2） 消極性 07. 教育主体と学習主体 08. 観察というまなざし 09. 「子どもの理性」について 10. 直観教授について 11. 教材の意義 12. 学校の時間の特性 13. 学習集団と競争意識 14. 個人的な学びと協同的な学び 15. 教育の可能性</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 社会福祉主事任用資格：選択科目 【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】 保育士資格：必修科目</div>												
<div>(1) 内容</div> <div>人間として生きるには、教育は不可欠である。「教育とはなにか」という問いへの即答は難しいが、古来、人々は、教育に人間としての生き方を問うてきた。子どもの学力や学習意欲に関する課題、子どもの生活に関する教育的なケアの必要性、あるいは、異校種間連携の課題など、多方面から活発になされている教育論議は、私たちの生き方への問いであるといえる。 この講義では、こうした事情をふまえて、人々が子どもの教育に望んできたことの内容を理解したうえで、これからの教育のあり方を考察したい。</div>												
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>教育に関する議論は、現代に特有な課題を取りあげているようにみえるが、実は、教育という人間としての生き方の歴史に深く根差している。その根をたどって課題の内実を理解することを、学びの意義とする。 複雑にみえる教育論議を、思い込みにとらわれずに冷静に把握する力を培う。小手先の方法論にとらわれることなく自らの教育観を勇気をもって自由に育てていくことを、学びの目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教育に関連することを新聞記事などから探して、その内容をノートに記録する。やり方の詳細を、初回に説明する。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>全ての回を通じて、受講生が各自で、学びの意義と目標を確認することになるだろう。その確認を、各回の小レポート作成によって行う。思い込みにとらわれず、他者の意見をききながら、自分自身の教育観を自身の生き方としてとらえることを望む。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートの整理をして学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典（教科書）などで調べて補完する。やり方の詳細を、初回に説明する。</div>										
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 教育の関係論 ・ ライフサイクルと発達観 ・ 教育における感性和理性 ・ 学びと教えにおける媒介 ・ 協同的な学びの可能性</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 小レポート</td><td>75%</td><td>各回5点×15回</td></tr><tr><td>(2) 期末課題</td><td>15%</td><td>初回に出題する。</td></tr><tr><td>(3) ノート</td><td>10%</td><td></td></tr></table> <div>小レポートの記述状況によっては、書き直しを求めることがある。また、期末課題に計画的に取り組むことを望む。</div>		(1) 小レポート	75%	各回5点×15回	(2) 期末課題	15%	初回に出題する。	(3) ノート	10%	
(1) 小レポート	75%	各回5点×15回										
(2) 期末課題	15%	初回に出題する。										
(3) ノート	10%											
		<div>教科書</div> <div>広岡義之 『教職をめざす人のための教育用語・法規』（ミネルヴァ書房）</div>										
		<div>参考書</div>										

教育社会学（C-①～⑥および⑦～⑫の3免取得希望者		TEAT-0-203								
担当教員： 御手洗 明佳										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C401530								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（教員としての素養としての教育社会学） 02. 教育の見方（1）－経済学と社会学 03. 教育の見方（2）－社会学の理論 04. 学歴と階層移動（1）努力の報われる社会か 05. 学歴と階層移動（2）エリート教育 06. 逸脱行為（1）逸脱の理論 07. 逸脱行為（2）統計の見方（少年非行を中心に） 08. 教育家族（1）家族とはなにか 09. 教育家族（2）戦前から戦後へ 10. 教育と家族（3）教育とジェンダー 11. 貧困と子どもの生活 12. 貧困と子どもの教育 13. 学校選択とは 14. 学校選択と教育機会 15. まとめ</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div><small>【C】小学校教諭一種免許：必修科目 【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目</small></div>										
<div>(1) 内容</div> <div>教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになって、学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのように社会学的に理解できるのか、研究事例などの紹介をとおして、考えてもらうことを中心とする。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 教育の社会的・経済的な意味について説明された理論を確実に理解する（教育の社会的意味）。 2) 学歴など業績が社会的地位を決定する近代社会の特徴を歴史的に考える態度を育てる（業績主義について）。 3) 近代的家族の歴史的形成過程と現代社会における家族の置かれた環境について考察を深める（家庭の問題）。 4) 逸脱行為の理論を通じて統計データの扱い方に親しみ、客観的なものの見方を育てる（統計データ）。 5) 貧困と子どもの教育機会について、具体的な事例を多く取り上げ、その実態についての知識を確実なものとする（子どもの教育機会）。 6) 学校選択制が子どもの教育環境や地域社会のあり方にどのような影響を与えているか、具体的な事例を取り上げ、学校選択制の実状と課題についての理解を深める（学校選択制）。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各テーマで2，3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。</div>									
	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 通常の学習活動</td><td>40%</td><td>出席、授業中の作業など</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>30%</td><td>授業中に説明する1本のレポート</td></tr><tr><td>(3) 期末テスト</td><td>30%</td><td></td></tr></table></div>		(1) 通常の学習活動	40%	出席、授業中の作業など	(2) レポート	30%	授業中に説明する1本のレポート	(3) 期末テスト	30%
(1) 通常の学習活動	40%	出席、授業中の作業など								
(2) レポート	30%	授業中に説明する1本のレポート								
(3) 期末テスト	30%									
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 家族・家庭・ 学歴・ 少年非行・ 貧困</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>									

教育社会学 (C-⑦~⑫)

TEAT-0-203

担当教員：御手洗 明佳

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C401535

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

[C] 小学校教諭一種免許：必修科目
 [C] 幼稚園教諭一種免許：必修科目 [全] 高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
 [全] 高等学校教諭一種免許：保健必修科目
 [全] 中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
 [全] 中学校教諭一種免許：保健必修科目
 [全] 高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
 [全] 高等学校教諭一種免許：保健必修科目
 [全] 中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
 [全] 中学校教諭一種免許：保健必修科目

(1) 内容

教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになると、学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのよう社会学的に理解できるのか、研究事例などの紹介をおして、考えてもらうことを中心とする。

(2) 学びの意義と目標

- 1) 教育の社会的・経済的な意味について説明された理論を確実に理解する(教育の社会的意味)。
- 2) 学歴など業績が社会的地位を決定する近代社会の特徴を歴史的に考える態度を育てる(業績主義について)。
- 3) 近代の家族の歴史的形成過程と現代社会における家族の置かれた環境について考察を深める(家庭の問題)。
- 4) 逸脱行為の理論を通じて統計データの扱い方に親しみ、客観的なものの見方を育てる(統計データ)。
- 5) 貧困と子どもの教育機会について、具体的な事例を多く取り上げ、その実態についての知識を確実にものとする(子どもの教育機会)。
- 6) 学校選択制が子どもの教育環境や地域社会のあり方にとどのような影響を与えているか、具体的な事例を取り上げ、学校選択制の実状と課題についての理解を深める(学校選択制)。

受講者に対する要望

高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。

学びのキーワード

- 家族 · 家庭
- 學歷
- 少年非行
- 貧困

授業計画

01. ガイダンス（教員としての素養としての教育社会学）
02. 教育の見方（１）－経済学と社会学
03. 教育の見方（２）－社会学の理論
04. 学歴と階層移動（１）努力の報われる社会か
05. 学歴と階層移動（２）エリート教育
06. 逸脱行為（１）逸脱の理論
07. 逸脱行為（２）統計の見方（少年非行を中心に）
08. 教育家族（１）家族とはなにか
09. 教育家族（２）戦前から戦後へ
10. 教育と家族（３）教育とジェンダー
11. 貧困と子どもの生活
12. 貧困と子どもの教育
13. 学校選択とは
14. 学校選択と教育機会
15. まとめ

準備學習(予習)

各テーマで2, 3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。

準備學習(復習)

ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------|
| (1) 通常の学習活動 | 40% | 出席、授業中の作業など |
| (2) レポート | 30% | 授業中に説明する1本のレポート |
| (3) 期末テスト | 30% | |

教科書

参考書

学校と教育の歴史（児童）		TEAT-0-301	
担当教員：石津 靖大			
学期：週間授		科目：専門科目	必修・選択：選択科目
単位：2		コード：1C401640	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. 古典時代と教育（ギリシャ・ローマの哲学と教育） 02. 中世ヨーロッパの思想と教育（大学教育の始まりとルネッサンスの思想） 03. 啓蒙思想と教育（ルソーとペスタロッチを中心に） 04. 近代の学校教育（義務教育制度の成立を中心に） 05. 新しい教育思想と学校教育（デューイを中心に） 06. 日本近世社会と教育（藩校と寺子屋教育） 07. 近世後期の教育（幕末の蘭学・国学を中心に） 08. 明治期の西欧教育制度と思想の需要 09. 明治公教育の完成と教育勅語体制 10. 新しい教育運動（大正期の学校教育） 11. 戦時下の学校教育（国家主義の台頭から学校教育の崩壊まで） 12. 戦後の教育改革（アメリカ教育使節団報告と学校教育改革） 13. 高度経済成長と学校教育（四六答申などを中心に） 14. 現代学校教育の課題（新しい学力観を中心に） 15. これからの学校と教育（学習指導要領などを中心に）	
カリキュラム上の位置付け			
【C】小学校教諭一種免許：選択科目 【C】幼稚園教諭一種免許：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目			
(1) 内容			
学校と教育の歴史について、ヨーロッパの古典思想から近代の教育思想までを概観し、近代の学校、とくに義務教育の成り立ちについての理解を深める。ついで、日本における教育思想と学校制度について概観する。教育のありようは、それぞれの地域の政治・経済・文化など社会的環境に深く根ざしている。講義では、教育の思想や制度、学校教育について、それぞれの社会的背景を視野に入れ、教育について多様な観点からその有りようを考えていく能力を養う。			
(2) 学びの意義と目標			
1) ギリシア・ローマの思想と教育及びキリスト教成立の意義とその後の影響を理解できる。 2) 西洋近代の学校教育の歴史及びルソーなどの近代教育思想について理解する。 3) 日本の教育史の流れを理解し、近代日本の学校教育の成り立ちを理解する。 4) 我が国の教育の諸課題について、思想的及び制度的な観点から考えを深められる。 5) 現代の教育思想と教育制度について理解できる。 学校と教育の歴史における基本的事項の理解が得られることを目指す。そして、それらの事項の整理をすることによって、世界と日本の教育の流れと現代の課題を知ることを目指す。		準備学習(予習)	
		授業計画を参照し扱われる内容の章節について、教職教養の教育図書や教育新聞等によって知識を得ておく。	
		準備学習(復習)	
		授業での教材を再読し基本的で重要な用語・人名について、教職教養用の教育用語集等によって確認しノート整理する。	
受講者に対する要望		評価方法	
教職科目なので、教育の資質向上に関心を持って、授業に臨んでほしい。		(1) 授業への参加状況 30% (2) 提出課題 30% (3) 定期試験 40%	
学びのキーワード		教科書	
・教育思想 ・学校教育 ・学習指導要領		参考書	

担当教員：田中 かおる

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C401925

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 内容

本講義では、キリスト教保育の基盤となることを確認し、考察することを目的とする。
手順としては、以下のように進める。まず、キリスト教が日本の幼児教育にもたらした影響を確認する。次に、キリスト教保育の基盤である聖書における人間観、及びイエス・キリストの生涯とその意味を確認し、キリスト教への理解を深める。その過程において、保育の現場と聖書のメッセージとが、どのようにかかわるのかを、実際の保育事例と照らし合わせながら考察し、キリスト教保育とは何かを考える。

(2) 学びの意義と目標

保育内容と聖書のメッセージとの関連を確認しながら、キリスト教保育の視点を学ぶ。

受講者に対する要望

毎回、聖書を持参すること。

学びのキーワード

- ・日本の幼児教育界への影響
- ・聖書の人間観（旧新約）と保育の実践
- ・イエス・キリストの子ども理解
- ・キリスト教の行事（三大祭り）

授業計画

01. オリエンテーション
02. 日本のキリスト教幼児教育・保育の歴史
03. キリスト教の行事（三大祭り他）
04. 聖書の人間観（1）天地創造物語（絵本）
05. 聖書の人間観（2）アダムとエバ
06. 聖書人間観（3）カインとアベル
07. 聖書の人間観（4）箱舟物語（絵本）
08. 聖書の人間観（5）十戒
09. イエス・キリスト（1）生涯とその意味
10. イエス・キリスト（2）教え（ビデオ）
11. イエス・キリスト（3）業（絵本）
12. イエス・キリスト（4）子ども理解
13. キリスト教保育の現場から（実践報告）
14. 『キリスト教幼児教育指針』から学ぶ
15. まとめ

準備学習（予習）

該当する聖書箇所をあらかじめ読んでくること。

準備学習（復習）

講義内容の確認
①小レポートによる振り返り
②ノートによる振り返り

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 毎回の小レポート | 20% |
| (2) 礼拝 | 30% |
| (3) 課題レポート | 50% |

教科書

参考書

キリスト教保育連盟『新・キリスト教保育』

社会福祉（C保）

SWEL-C-111

担当教員：本多 勇

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C510105

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】社会福祉主事任用資格：選択科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

社会福祉は、現代社会において私たちの生活を支える社会制度の一つです。この講義では、その社会福祉に関する基礎的知識および技術について学びます。

(2) 学びの意義と目標

学びの意義は、子どもの育ちと暮らしを支える保育士として、現代社会における社会福祉の知識と技術についての基礎的理解を深める、ということです。
学びの目標は、(1)現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、(2)社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、(3)社会福祉の制度や実施体系等、(4)社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかる仕組み、(5)社会福祉の動向と課題について、の5つの“柱”について理解します。その上で、保育士／児童福祉専門職として、社会福祉のクライアント（養護児童、障害者、要介護高齢者、貧困者、保育所などを利用する児童や保護者等）を「社会的弱者」として捉えるのではなく、そこにある生活課題を社会における問題として認識できるようにします。

受講者に対する要望

・新聞・テレビ・インターネット等の社会福祉に関連する報道や、自分の住んでいる地域での社会福祉に関連する制度や問題に、関心を持ちましょう。
・『社会福祉小六法』や『社会福祉用語辞典』を参考書として用意しておくことさらに理解が深まります。（ミネルヴァ書房、中央法規出版など）
・質問・意見を積極的に発言すること（思ったこと、考えたことを言葉で表現しましょう）。
・授業中の私語はしないこと。音を出さないこと。ゲームやスマホ・ケータイなどで内職しないこと。
・かばんは机の上に置かないこと。
・フラットファイル等で、配布したプリント等は綴じてまとめておくこと。

学びのキーワード

・社会のなかの生活
・社会関係
・制度、法律
・支援（援助）の方法
・ソーシャルワーク

授業計画

01.（社会福祉の意義と歴史的変遷1）イントロダクション 社会福祉とは？
02.（社会福祉の意義と歴史的変遷2）社会福祉の理念と概念
03.（社会福祉の意義と歴史的変遷3）社会福祉の歴史的変遷
04.（社会福祉と児童家庭福祉1）社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
05.（社会福祉と児童家庭福祉2）児童の人権擁護と社会福祉
06.（社会福祉と児童家庭福祉3）家庭支援と社会福祉
07.（社会福祉制度と実施体系1）社会福祉の制度と法体系
08.（社会福祉制度と実施体系2）社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等
09.（社会福祉制度と実施体系3）社会福祉の専門職・実施者、社会保障及び関連制度
10.（相談援助・利用者保護1）相談援助の意義と原則
11.（相談援助・利用者保護2）相談援助の方法と技術
12.（相談援助・利用者保護3）情報提供と第三者評価、利用者の権利擁護と苦情解決
13.（社会福祉の動向1）少子高齢化社会への対応、在宅福祉・地域福祉の推進
14.（社会福祉の動向2）チームアプローチとネットワーク、諸外国の動向
15.（半期のふりかえり、まとめ）あらためて、社会福祉とは？

準備学習(予習)

テキストの該当箇所を事前に読んで理解をすすめておくことが望ましい。

準備学習(復習)

毎回プリント（レジュメ、資料）を配布するので整理し、理解をすすめる。あわせてテキストに目を通し、理解を深める。

評価方法

(1) リアクションペーパー

40%

与えられた課題についてしっかり書いてください。

(2) 期末テスト

60%

試験の概要は授業中に伝えます。

出席時のリアクションペーパー提出40%及び期末テスト60%で評価する。保育士養成必修科目のため15回全出席が原則。毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

教科書

新保育士養成講座編集委員会『新保育士養成講座 第4巻 社会福祉』（全国社会福祉協議会）

参考書

相談援助（保①～⑥）			TEAT-C-212
担当教員：笹瀬 悟			
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C510210	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】保育者に必要な知識・技能を身につける		01. 相談援助の意義と機能（オリエンテーション・DV・QOL・社会資源） 02. 相談援助理論（児童の権利宣言・保育所保育指針・不登校・ノーマリゼーション） 03. 相談援助とソーシャルワーク（COS・リッチモンド・セツルメント・自立とは） 04. 相談援助の方法と理解（相談援助の過程・アウトリーチ・傾聴・スーパービジョン・コンサルテーション） 05. 相談援助の環境と技術（相談援助の対象・援助技術・傾聴ボラ・OJT／offJT） 06. 相談援助の具体的展開（ケースワークの諸原則・吃音相談とその具体的対応例） 07. ケースワークの具体的展開（バイステックの7原則・自己覚知・ホームスタート・ベてるの家） 08. グループワークを活用した相談援助（その1）Gノボカ・成瀬信策の動作法・カウンセリング） 09. グループワークを活用した相談援助（その2）アルコール依存症・グループワークの構成要素・ADA） 10. グループワークの具体的展開（グループワークの諸原則・合計特殊出生率・GWの展開過程・ 11. 相談援助における記録と評価（記録のとり方・書き方・評価と所見・説明責任） 12. 多様な専門職との連携（児童施設の専門職・職員間の連携・行政機関の専門職） 13. 社会資源の活用・調整・開発（保育領域を超える問題・ひとり親家庭・MSW・保護司） 14. 相談援助の課題と展望（事例分析）（子育て不安・わが町の社会資源活用例・ロールプレイ・フィールドワーク・ホームヘルパー） 15. まとめ（授業内試験）	
カリキュラム上の位置付け			
【C】保育士資格：必修科目			
(1) 内容			
相談援助とは、様々な悩みや問題を抱え、それを解決するために援助を求めて来談した人と、一定の訓練と経験を経た職業的専門家である援助者との間の心理的コミュニケーションを通じて行われる援助の事である。先ず、相談援助の概要や意義から入り、その理論について考察し、相談援助の方法や技術についての理解を深め、具体的な展開についても学びつつ、様々な相談援助の場面での事例分析を行っていく。 カリキュラム上の位置づけ： 相談援助によって、来談者に起きることが期待される変化は、来談者の悩みや問題の解決だけでなく、自己実現や個人としての生き方をも含んでいるので、児童学科の基礎科目を終了した段階が望ましい。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
希薄化した家族関係や地域社会とのつながりから、狭い限られた人間関係に悩まされ、傷ついている子どもや大人も少なくない時代。相談援助を学ぶことで、これを学んだ者にしかできないことは何か？を考えつつ、相談援助者の存在理由を一緒に求めていきたい。 子どものこと、障碍児者のこと、高齢者のことをよく知らないし、現場体験も乏しい受講生が少なくないと思うので、演習科目である本講義では、相談援助の基礎的な理論や方法だけでなく、将来、福祉の現場でも応用できる援助技術の習得を目指したい。そのために、①様々な対人援助の理論と具体的な援助技術を身につけること ②社会資源の活用に慣れ、地域の福祉力を高める力をつけること ③現場から学べる人であって欲しい 以上の3点を目標に授業を進めていくので、全力でぶつかってきて欲しい。		授業計画を必ず読んで、必要な語句やトピックについて情報を集めておく。初めて接する専門用語がたくさん出てくるので、ぜひ予習はやって欲しいですね。 	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
子ども達の健やかな育ちを支え、親や地域の育児力を高めるためにも、相談援助の技術を習得して欲しい。		講義で使ったプリント・資料を再読して、専用のファイルに収納すること。出題された「課題演習」をやって、次週までに提出発表出来るようにしておくこと。	
学びのキーワード		評価方法	
・事例分析 ・専門職との連携 ・社会資源の活用と創出 ・ケースワークとグループワーク		(1) 授業内試験 80% 第15講時に実施 (2) 出席点 10% 15～14回 10% 13～12回 8% 11～10回 6% (3) 授業への参加度 10% 意見、感想、疑問等記入＆レポート課題提出	
		教科書	
		参考書	
		配布するプリント・資料を収納する専用ファイルを2冊用意しておくこと。	

相談援助（保⑦～⑫）			TEAT-C-212
担当教員：笹瀬 悟			
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C510215	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】保育者に必要な知識・技能を身につける		01. 相談援助の意義と機能（オリエンテーション・DV・QOL・社会資源） 02. 相談援助理論（児童の権利宣言・保育所保育指針・不登校・ノーマリゼーション） 03. 相談援助とソーシャルワーク（COS・リッチモンド・セツルメント・自立とは） 04. 相談援助の方法と理解（相談援助の過程・アウトリーチ・傾聴・スーパービジョン・コンサルテーション） 05. 相談援助の環境と技術（相談援助の対象・援助技術・傾聴ボラ・OJT／ofJT） 06. 相談援助の具体的展開（ケースワークの諸原則・吃音相談とその具体的対応例） 07. ケースワークの具体的展開（バイステックの7原則・自己覚知・ホームスタート・べてるの家） 08. グループワークを活用した相談援助（その1）Gノボカ・成瀬信策の動作法・カウンセリング） 09. グループワークを活用した相談援助（その2）アルコール依存症・グループワークの構成要素・ADA） 10. グループワークの具体的展開（グループワークの諸原則・合計特殊出生率・GWの展開過程・ 11. 相談援助における記録と評価（記録のとり方・書き方・評価と所見・説明責任） 12. 多様な専門職との連携（児童施設の専門職・職員間の連携・行政機関の専門職） 13. 社会資源の活用・調整・開発（保育領域を超える問題・ひとり親家庭・MSW・保護司） 14. 相談援助の課題と展望（事例分析）（子育て不安・わが町の社会資源活用例・ロールプレイ・フィールドワーク・ホームヘルパー） 15. まとめ（授業内試験）	
カリキュラム上の位置付け			
【C】保育士資格：必修科目			
(1) 内容			
相談援助とは、様々な悩みや問題を抱え、それを解決するために援助を求めて来談した人と、一定の訓練と経験を経た職業的専門家である援助者との間の心理的コミュニケーションを通じて行われる援助の事である。先ず、相談援助の概要や意義から入り、その理論について考察し、相談援助の方法や技術についての理解を深め、具体的な展開についても学びつつ、様々な相談援助の場面での事例分析を行っていく。 カリキュラム上の位置づけ： 相談援助によって、来談者に起きることが期待される変化は、来談者の悩みや問題の解決だけでなく、自己実現や個人としての生き方をも含んでいるので、児童学科の基礎科目を終了した段階が望ましい。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
希薄化した家族関係や地域社会とのつながりから、狭い限られた人間関係に悩まされ、傷ついている子どもや大人も少なくない時代。相談援助を学ぶことで、これを学んだ者にしかできないことは何か？を考えつつ、相談援助者の存在理由を一緒に求めていきたい。 子どものこと、障碍児者のこと、高齢者のことをよく知らないし、現場体験も乏しい受講生が少なくないと思うので、演習科目である本講義では、相談援助の基礎的な理論や方法だけでなく、将来、福祉の現場でも応用できる援助技術の習得を目指したい。そのために、①様々な対人援助の理論と具体的な援助技術を身につけること ②社会資源の活用に慣れ、地域の福祉力を高める力をつけること ③現場から学べる人であって欲しい 以上の3点を目標に授業を進めていくので、全力でぶつかってきて欲しい。		授業計画を必ず読んで、必要な語句やトピックについて情報を集めておく。初めて接する専門用語がたくさん出てくるので、ぜひ予習はやって欲しいですね。 	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
子ども達の健やかな育ちを支え、親や地域の育児力を高めるためにも、相談援助の技術を習得して欲しい。		講義で使ったプリント・資料を再読して、専用のファイルに収納すること。出題された「課題演習」をやって、次週までに提出発表出来るようにしておくこと。	
学びのキーワード		評価方法	
・事例分析 ・専門職との連携 ・社会資源の活用と創出 ・ケースワークとグループワーク		(1) 授業内試験 80% 第15講時に実施 (2) 出席点 10% 15～14回 10% 13～12回 8% 11～10回 6% (3) 授業への参加度 10% 意見、感想、疑問等記入＆レポート課題提出	
		教科書	
		参考書	
		配布するプリント・資料を収納する専用ファイルを2冊用意しておくこと。	

児童家庭福祉（C-①～⑥）		SWEL-C-211
担当教員：田澤 薫		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C510320
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. 児童家庭福祉の理念と概念 02. 児童家庭福祉と子どもの人権の歴史的変遷 03. 現代社会と児童家庭福祉 04. 児童家庭福祉の一分野としての保育 05. 児童家庭福祉の制度と法体系 06. 児童家庭福祉行財政と実施機関 07. 児童福祉施設と児童福祉の事業（1）児童の居住型施設 08. 児童福祉施設と児童福祉の事業（2）通所型施設と事業 09. 少子化と多様な保育ニーズ・子育て支援 10. 児童虐待防止 11. 母子保健と児童の健全育成 12. 社会的養護・非行への対応と支援 13. 障害のある児童への支援 14. 児童家庭福祉の専門職 15. 総括</div>	
【C】保育者に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】社会福祉主事任用資格：選択科目 【C】保育士資格：必修科目		
(1) 内容	<div>準備学習(予習)</div> <div>次の授業回の該当章の教科書を一読しておく。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>授業でこまめに取ったノートをもとめる。
ノートに照らしながら該当部分の教科書を使って復習を行う。（特に、遅刻・欠席・居眠り等、集中して聴けない時間があった場合には、補う必要があります）</div> <div>評価方法</div> <div><div>(1) 積極的な参加30%</div><div>(2) 試験70%</div><div>レスポンスシートへの記入内容で判断する</div></div>	
現代社会の子どもの育ちや子育てをめぐる状況と、それに対する日本の児童家庭福祉の制度や実施体系等について学ぶ。児童家庭福祉を形づくっている法制度を知り、児童家庭福祉の機関や施設の現場での運用を理解する。		
(2) 学びの意義と目標		
児童家庭福祉の骨組みを学んでいく中で、児童を取りまく諸問題について社会の動きに関心を持ち、保育者として求められる児童家庭福祉の考え方を身につけることをねらいとする。	<div>教科書</div> <div>松本 園子 『児童福祉を学ぶ—子どもと家庭に対する支援』（ななみ書房）</div> <div>参考書</div>	
受講者に対する要望		
保育士になる意識をもって、授業に臨んでください。 本授業の内容を理解したうえで「保育実習」に臨んでほしいと願っています。 レスポンスシートを出席参加の確認・授業の振り返りに活用してください。		
学びのキーワード		
・ 児童福祉 ・ 児童福祉法 ・ 保育士		

児童家庭福祉（C-⑦～⑫）

SWEL-C-211

担当教員：田澤 薫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C510325

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】社会福祉主事任用資格：選択科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

現代社会の子どもの育ちや子育てをめぐる状況と、それに対する日本の児童家庭福祉の制度や実施体系等について学ぶ。児童家庭福祉を形づくっている法制度を知り、児童家庭福祉の機関や施設の現場での運用を理解する。

(2) 学びの意義と目標

児童家庭福祉の骨組みを学んでいく中で、児童を取りまく諸問題について社会の動きに関心を持ち、保育者として求められる児童家庭福祉の考え方を身につけることをねらいとする。

受講者に対する要望

保育士になる意識をもって、授業に臨んでください。
本授業の内容を理解したうえで「保育実習」に臨んでほしいと願っています。
レスポンスシートを出席参加の確認・授業の振り返りに活用してください。

学びのキーワード

- ・児童福祉
- ・児童福祉法
- ・保育士

授業計画

01. 児童家庭福祉の理念と概念
02. 児童家庭福祉と子どもの人権の歴史的変遷
03. 現代社会と児童家庭福祉
04. 児童家庭福祉の一分野としての保育
05. 児童家庭福祉の制度と法体系
06. 児童家庭福祉行財政と実施機関
07. 児童福祉施設と児童福祉の事業（１）児童の居住型施設
08. 児童福祉施設と児童福祉の事業（２）通所型施設と事業
09. 少子化と多様な保育ニーズ・子育て支援
10. 児童虐待防止
11. 母子保健と児童の健全育成
12. 社会的養護・非行への対応と支援
13. 障害のある児童への支援
14. 児童家庭福祉の専門職
15. 総括

準備学習(予習)

次の授業回の該当章の教科書を一読しておく。

準備学習(復習)

授業でこまめに取ったノートをもとめる。ノートに照らしながら該当部分の教科書を使って復習を行う。（特に、遅刻・欠席・居眠り等、集中して聴けない時間があった場合には、補う必要があります）

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---------------------|
| (1) 積極的な参加 | 30% | レスポンスシートへの記入内容で判断する |
| (2) 試験 | 70% | |

教科書

松本 園子 『児童福祉を学ぶ—子どもと家庭に対する支援』（ななみ書房）

参考書

保育原理 (C-1)

TEAT-C-111

担当教員：寺崎 恵子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C510430

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】社会福祉主事任用資格：選択科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

保育は、育つ者と育てる者とのあいだの、細やかで大らかな関わりあいにより生起する、日々のいとなみである。倉橋惣三は『育ての心』のなかで「世の中にこんな楽しい心があるか。それは明るい世界である。温かい世界である」と保育の心を述べた。この心を、保育の基礎として理解したい。

私たちは、保育の基礎を、子どもと大人との〈目交（まなかい）〉に注目して理解したい。日々の生活のなかで両者が互いに見つめあい、表情を交わしあうところに、保育の楽しさ、明るさ、そして温かさを感じるのではないだろうか。そうした保育の基本を大切にしたい。

(2) 学びの意義と目標

保育の世界に身をもってかかわるには、ゆたかな感受性としなやかな思考力をもって、学び得たことを保育実践に活かしていこうとする意欲が求められる。その意欲を受講生自身が確認することを、学びの意義とする。

保育の世界は、「育ち・育てる」の基本形を保持して発展してきた。したがって、時代の変化があっても、基本形を壊すことなく、時代の状況に応じた保育をおこなう知恵とわざをもっている。こうした保育の基本・基礎を大切に受け継いで理解することを、学びの目標とする。

受講者に対する要望

日常生活のなかで、季節の移ろいを感じたり、ちょっとした物事の変化に気づいたり、小さな不思議をおもしろいと思ったりすることを、大切にしたい。

学びのキーワード

- ・子育ての習俗
- ・発達の過程
- ・子どもの育ちと生活環境
- ・子ども観と保育観
- ・保育の課題

授業計画

01. 保育の原義
02. 「育つ・育てる」の関係
03. 産育の習俗 (1) 誕生のときを迎える
04. 産育の習俗 (2) 七歳を迎える
05. 発達の過程 (1) ものに触れて世界を知る
06. 発達の過程 (2) ことばの発展と社会性
07. 保育の場：子どもが育つ環境を考える
08. 保育の時間：子どもの生活を考える
09. 保育の内容と方法 (1) 個と集団、そして共同性を考える
10. 保育の内容と方法 (2) 過程と成果のあり方を考える
11. 保育の課程：計画・実践・記録・評価、そして省察
12. 保育の思想と歴史 (1) 自由について
13. 保育の思想と歴史 (2) 権利について
14. 保育における課題
15. 保育の可能性

準備学習(予習)

配布プリントや保育に関する新聞記事などを読んで、その内容をノートに記録する。

準備学習(復習)

ノートの整理をしながら、学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典(教科書)などを活用して、学んだことを補完する。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------|
| (1) 小レポート | 70% | 各回5点×14回 |
| (2) 期末課題 | 20% | |
| (3) ノート | 10% | |

小レポートの記述状況によっては、書き直しを求める。

教科書

森上 史朗、柏女 霊峰 『保育用語辞典』(ミネルヴァ書房)

参考書

保育原理（C-2）

TEAT-C-111

担当教員：寺崎 恵子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C510435

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】社会福祉主事任用資格：選択科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

保育は、育つ者と育てる者とのあいだの、細やかで大らかな関わりあいによって生起する、日々のいとなみである。倉橋惣三は『育ての心』のなかで「世の中にこんな楽しい心があるか。それは明るい世界である。温かい世界である」と保育の心を述べた。この心を、保育の基礎として理解したい。

私たちは、保育の基礎を、子どもと大人との〈目交（まなかい）〉に注目して理解したい。日々の生活のなかで両者が互いに見つめあい、表情を交わしあうところに、保育の楽しさ、明るさ、そして温かさを感じるのではないだろうか。そうした保育の基本を大切にしたい。

(2) 学びの意義と目標

保育の世界に身をもってかかわるには、ゆたかな感受性としなやかな思考力をもって、学び得たことを保育実践に活かしていこうとする意欲が求められる。その意欲を受講生自身が確認することを、学びの意義とする。

保育の世界は、「育ち・育てる」の基本形を保持して発展してきた。したがって、時代の変化があっても、基本形を壊すことなく、時代の状況に応じた保育をおこなう知恵とわざをもっている。こうした保育の基本・基礎を大切に受け継いで理解することを、学びの目標とする。

受講者に対する要望

日常生活のなかで、季節の移ろいを感じたり、ちょっとした物事の変化に気づいたり、小さな不思議をおもしろいと思ったりすることを、大切にしたい。

学びのキーワード

- ・子育ての習俗
- ・発達の過程
- ・子どもの育ちと生活環境
- ・子ども観と保育観
- ・保育の課題

授業計画

01. 保育の原義
02. 「育つ・育てる」の関係
03. 産育の習俗（1）誕生のときを迎える
04. 産育の習俗（2）七歳を迎える
05. 発達の過程（1）ものに触れて世界を知る
06. 発達の過程（2）ことばの発展と社会性
07. 保育の場：子どもが育つ環境を考える
08. 保育の時間：子どもの生活を考える
09. 保育の内容と方法（1）個と集団、そして共同性を考える
10. 保育の内容と方法（2）過程と成果のあり方を考える
11. 保育の課程：計画・実践・記録・評価、そして省察
12. 保育の思想と歴史（1）自由について
13. 保育の思想と歴史（2）権利について
14. 保育における課題
15. 保育の可能性

準備学習（予習）

配布プリントや保育に関する新聞記事などを読んで、その内容をノートに記録する。

準備学習（復習）

ノートの整理をしながら、学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典（教科書）などを活用して、学んだことを補完する。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------|
| (1) 小レポート | 70% | 各回5点×14回 |
| (2) 期末課題 | 20% | |
| (3) ノート | 10% | |

小レポートの記述状況によっては、書き直しを求める。

教科書

森上 史朗、柏女 霊峰 『保育用語辞典』（ミネルヴァ書房）

参考書

社会的養護（保①～⑥）

SWEL-C-212

担当教員：坂本 佳代子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C510540

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

本来、子どもは家庭において養育されるものと捉えられています。しかし、古来より少なくない人数の子どもが、家庭以外で育てられてきている歴史があります。今、我々の時代にそれら家庭以外の養育形態を「社会的養護」という言葉で表現し、意味づけています。この講義では、

1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。
3. 社会的養護の制度や実施体系について理解する。
4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。
5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

以上を主たる目標として、学ぶものとする。
授業の中では、社会問題への理解と関心が必要となる。
授業の中で、新聞記事等に触れ、そこから読解する

(2) 学びの意義と目標

児童の問題は社会状況との関係で生じてくることを学んでほしい。すなわち、現在の大きな課題である虐待についても、被虐待児童と虐待をしてしまう親の双方が支援対象であることを認識してほしい。

受講者に対する要望

保育士という対人援助を目指す学生は、日々の自身の態度が重視される。このことを実践するためにも、授業中はきちんとした心構えと態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・里親
- ・児童相談所
- ・措置
- ・虐待
- ・自立支援

授業計画

01. 社会的養護の理念と概念
02. 現代の子育て環境
03. 子育て支援制度 訪問・相談
04. 子育て支援制度 預かり支援
05. 子育て支援制度 集いの広場
06. 現代の要保護児童
07. 保護者支援
08. 虐待
09. 虐待への対策
10. 施設養護の実際 I
11. 施設養護の実際 II
12. 施設養護の実際 III
13. 里親制度 I
14. 里親制度 II
15. 社会的養護概観

準備学習(予習)

常に、自治問題に関心を持ち続け「社会的養護」関係の話題がピックアップできるようにしてください。

準備学習(復習)

毎回授業時に質疑応答（ディスカッション）し、理解度について確認する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 授業参加態度 | 30% |

教科書

参考書

社会的養護（保⑦～⑫）

SWEL-C-212

担当教員：坂本 佳代子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C510545

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

本来、子どもは家庭において養育されるものと捉えられています。しかし、古来より少なくない人数の子どもが、家庭以外で育てられてきている歴史があります。今、我々の時代にそれら家庭以外の養育形態を「社会的養護」という言葉で表現し、意味づけています。この講義では、

1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。
 3. 社会的養護の制度や実施体系について理解する。
 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。
 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。
- 以上を主たる目標として、学ぶものとする。
授業の中では、社会問題への理解と関心が必要となる。
授業の中で、新聞記事等に触れ、そこから読解する

(2) 学びの意義と目標

児童の問題は社会状況との関係で生じてくることを学んでほしい。すなわち、現在の大きな課題である虐待についても、被虐待児童と虐待をしてしまう親の双方が支援対象であることを認識してほしい。

受講者に対する要望

保育士という対人援助を目指す学生は、日々の自身の態度が重視される。このことを実践するためにも、授業中はきちんとした心構えと態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・里親
- ・児童相談所
- ・措置
- ・虐待
- ・自立支援

授業計画

01. 社会的養護の理念と概念
02. 現代の子育て環境
03. 子育て支援制度 訪問・相談
04. 子育て支援制度 預かり支援
05. 子育て支援制度 集いの広場
06. 現代の要保護児童
07. 保護者支援
08. 虐待
09. 虐待への対策
10. 施設養護の実際 I
11. 施設養護の実際 II
12. 施設養護の実際 III
13. 里親制度 I
14. 里親制度 II
15. 社会的養護概観

準備学習(予習)

常に、自治問題に関心を持ち続け「社会的養護」関係の話題がピックアップできるようにしてください。

準備学習(復習)

毎回授業時に質疑応答（ディスカッション）し、理解度について確認する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 授業参加態度 | 30% |

教科書

参考書

乳児保育 A（保①～⑥）		TEAT-C-213	
担当教員：岸澤 藤子			
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C510650	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】保育者に必要な知識・技能を身につける		01. 乳児保育とは 02. 赤ちゃんの誕生 03. 乳児保育が求められる社会的背景 04. 乳児保育の現状 05. 乳児保育の歴史的変遷 06. 乳児院における乳児保育 07. 家庭的保育等における乳児保育 08. 保育所における乳児保育 09. 保育所における乳児保育の実際 10. 乳児や家庭をとりまく環境と子育て支援の場 11. 認定こども園とは 12. 児童福祉法、児童福祉施設最低基準 13. 労働基準法、育児・介護休業法 14. 保育所保育指針 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【C】保育士資格：必修科目			
(1) 内容			
乳児保育とは、3歳未満児を対象とした保育を指す。人としての土台を作るこの大切な時期に、私達はどのように子どもと関わったらよいのだろうか。乳児保育の需要が高まりを見せる中、本講義では、養護と教育が一体となった保育の具体的な内容を学び、これまでに蓄積された知識、理論、技能を習得していく。なお、具体的に乳児の姿を理解するために、視聴覚教材を利用する。			
(2) 学びの意義と目標			
乳児保育が必要とされる社会的背景を説明できるようになる。また、乳児保育の現状と課題を理解し考えを深める。さらに、乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割について学ぶ。 加えて、それぞれの発表を通して乳児と信頼関係を築くために必要な保育技術を身につける。		準備学習(予習)	
		自らすすんで、実際に乳児と触れ合う機会を持つこと。また、授業の中で、手作り玩具と手遊びの発表を行うので準備をしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		乳児の月齢に応じた手遊びを、自信を持って楽しくできるように復習しておくこと	
		評価方法	
		(1) 平常点 20% (2) 提出物 20% (3) 発表 20% (4) 筆記試験 40%	
受講者に対する要望			
日頃から、乳幼児に関する新聞記事及びニュース、特集に関心を持ち、現代的な課題にアンテナを張っておくこと			
学びのキーワード		教科書	
・ 乳児保育の理念と歴史的変遷 ・ 乳児保育の役割と機能 ・ 乳児保育の現状と課題 ・ 3歳未満児の生活と遊び ・ 保育技術の向上		志村聡子 編 『はじめて学ぶ乳児保育』（同文書院）	
		参考書	

乳児保育 A（保⑦～⑫）

TEAT-C-213

担当教員：岸澤 藤子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C510655

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

乳児保育とは、3歳未満児を対象とした保育を指す。人としての土台を作るこの大切な時期に、私達はどのように子どもと関わったらよいのだろうか。乳児保育の需要が高まりを見せる中、本講義では、養護と教育が一体となった保育の具体的な内容を学び、これまでに蓄積された知識、理論、技能を習得していく。なお、具体的に乳児の姿を理解するために、視聴覚教材を利用する。

(2) 学びの意義と目標

乳児保育が必要とされる社会的背景を説明できるようになる。また、乳児保育の現状と課題を理解し考えを深める。さらに、乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割について学ぶ。
加えて、それぞれの発表を通して乳児と信頼関係を築くために必要な保育技術を身につける。

受講者に対する要望

日頃から、乳幼児に関する新聞記事及びニュース、特集に関心を持ち、現代的な課題にアンテナを張っておくこと

学びのキーワード

- ・乳児保育の理念と歴史的変遷
- ・乳児保育の役割と機能
- ・乳児保育の現状と課題
- ・3歳未満児の生活と遊び
- ・保育技術の向上

授業計画

01. 乳児保育とは
02. 赤ちゃんの誕生
03. 乳児保育が求められる社会的背景
04. 乳児保育の現状
05. 乳児保育の歴史的変遷
06. 乳児院における乳児保育
07. 家庭的保育等における乳児保育
08. 保育所における乳児保育
09. 保育所における乳児保育の実際
10. 乳児や家庭をとりまく環境と子育て支援の場
11. 認定こども園とは
12. 児童福祉法、児童福祉施設最低基準
13. 労働基準法、育児・介護休業法
14. 保育所保育指針
15. まとめ

準備学習(予習)

自らすすんで、実際に乳児と触れ合う機会を持つこと。また、授業の中で、手作り玩具と手遊びの発表を行うので準備をしておくこと。

準備学習(復習)

乳児の月齢に応じた手遊びを、自信を持って楽しくできるように復習しておくこと

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 提出物 | 20% |
| (3) 発表 | 20% |
| (4) 筆記試験 | 40% |

教科書

志村聡子 編 『はじめて学ぶ乳児保育』（同文書院）

参考書

乳児保育B（保①～⑥）

TEAT-C-214

担当教員：田村 すゝか

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C510760

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

3歳未満の子どもを対象として保育にあたるために必要な理論と知識を学ぶ。特に「乳児保育B」では(1)乳児期の子どもの発育と発達及びその援助(2)乳児保育の実践にあたるためのポイント(計画と記録)(3)保護者・保育者・地域との連携の3点を柱として講義を行う。

カリキュラムの位置づけ：

「乳児保育A」とは学習領域を分けて講義を行う。

(2) 学びの意義と目標

人生の土台を作る大切な時期にある0～2歳児の心と体の発達を理解し、月齢に応じてその育ちを支える保育者としての基礎を作る。
また、様々な発達状況・家庭環境にある乳児に対する関わりなど、実践場面で想定される保育についても具体的に学ぶ。

受講者に対する要望

実際に乳幼児と関わる機会を作り、学んだことを体感できるよう努めてほしい。また、平素からニュースなどの報道に接することによって、乳幼児や保護者が置かれている現状を把握できるよう期待している。

学びのキーワード

- ・ 人生の基礎の形成期
- ・ 乳幼児の発育と発達
- ・ 保護者の理解と支援
- ・ 保育者の連携・他職種との連携

授業計画

01. オリエンテーション
02. 赤ちゃんの誕生（妊娠から胎児期、誕生まで）
03. 子どもの心と体の発達（1）（人間の赤ちゃんの誕生）
04. 子どもの心と体の発達（2）（出生～3カ月まで）
05. 子どもの心と体の発達（3）（生後4カ月～8カ月まで①）
06. 子どもの心と体の発達（4）（生後4カ月～8カ月まで②）
07. 子どもの心と体の発達（5）（生後9カ月～15カ月まで）
08. 子どもの心と体の発達（6）（生後15カ月～2歳まで）
09. 子どもの心と体の発達（7）（2歳児）
10. 子どもの心と体の発達（まとめ）
11. 保護者との連携・保護者への支援
12. 発達の遅れと援助
13. 地域との連携 子どもの健康と安全
14. 乳児保育の計画と評価
15. 総括と試験

準備学習(予習)

授業計画を参照して該当する項目に関して教科書に事前に目を通す。

準備学習(復習)

毎回授業のはじめに前回の復習を兼ねたプリントを行うことで知識の定着を図る。そのため、前回のノートに頼らずにプリントに記入できるよう、各回のポイントについて復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|----------------|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) レポート | 50% 最初の授業で指示する |

教科書

吉長 真子, 志村 聡子 『はじめて学ぶ乳児保育』（同文書院）

参考書

乳児保育B（保⑦～⑫）

TEAT-C-214

担当教員：田村 すゝか

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C510765

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

3歳未満の子どもを対象として保育にあたるために必要な理論と知識を学ぶ。特に「乳児保育B」では(1)乳児期の子どもの発育と発達及びその援助(2)乳児保育の実践にあたるためのポイント(計画と記録)(3)保護者・保育者・地域との連携の3点を柱として講義を行う。
カリキュラムの位置づけ：
「乳児保育A」とは学習領域を分けて講義を行う。

(2) 学びの意義と目標

人生の土台を作る大切な時期にある0～2歳児の心と体の発達を理解し、月齢に応じてその育ちを支える保育者としての基礎を作る。
また、様々な発達状況・家庭環境にある乳児に対する関わりなど、実践場面で想定される保育についても具体的に学ぶ。

受講者に対する要望

実際に乳幼児と関わる機会を作り、学んだことを体感できるよう努めてほしい。また、平素からニュースなどの報道に接することによって、乳幼児や保護者が置かれている現状を把握できるよう期待している。

学びのキーワード

- ・ 人生の基礎の形成期
- ・ 乳幼児の発育と発達
- ・ 保護者の理解と支援
- ・ 保育者の連携・他職種との連携

授業計画

01. オリエンテーション
02. 赤ちゃんの誕生（妊娠から胎児期、誕生まで）
03. 子どもの心と体の発達（1）（人間の赤ちゃんの誕生）
04. 子どもの心と体の発達（2）（出生～3カ月まで）
05. 子どもの心と体の発達（3）（生後4カ月～8カ月まで①）
06. 子どもの心と体の発達（4）（生後4カ月～8カ月まで②）
07. 子どもの心と体の発達（5）（生後9カ月～15カ月まで）
08. 子どもの心と体の発達（6）（生後15カ月～2歳まで）
09. 子どもの心と体の発達（7）（2歳児）
10. 子どもの心と体の発達（まとめ）
11. 保護者との連携・保護者への支援
12. 発達の遅れと援助
13. 地域との連携 子どもの健康と安全
14. 乳児保育の計画と評価
15. 総括と試験

準備学習(予習)

授業計画を参照して該当する項目に関して教科書に事前に目を通す。

準備学習(復習)

毎回授業のはじめに前回の復習を兼ねたプリントを行うことで知識の定着を図る。そのため、前回のノートに頼らずにプリントに記入できるよう、各回のポイントについて復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|----------------|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) レポート | 50% 最初の授業で指示する |

教科書

吉長 真子, 志村 聡子 『はじめて学ぶ乳児保育』（同文書院）

参考書

社会的養護内容（保①～⑥）

SWEL-C-213

担当教員： 笹瀨 悟

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 1C510870

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

本講義では、先ず社会的養護における児童の権利養護やその仕組み、児童の生存発達の保障、保育士の倫理と責務、児童養護の体系と児童福祉施設の概要、各種児童施設の暮らし、保育士の専門性に関わる知識と援助技術、それにソーシャルワーク技術の活用等について、さらに社会的養護内容の課題と展望についても学ぶ。（詳細は、開講時に説明する）
カリキュラム上の位置づけ：
社会的養護内容は、保育士養成のカリキュラムの中で、専門課程の基礎となる科目である。

(2) 学びの意義と目標

この講義では、「利用児や現場から学ぶ」という一貫した姿勢をもって進めていくので、受講生は、社会的養護内容の専門的な知識だけでなく、具体的な援助技術や多様な考え方を身につけることができると思う。子どもを育むことは、第一義的には両親の責務であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっている。児童施設に入所している子どもやその家族に表面化していることが、普通の家族の中にも潜んでいる事が見てとれるのである。それは、児童施設で暮らす子どもに限らず、すべての子どもに対する社会的養護が必要な時代にあることを物語っている。従って、社会的養護内容を学ぶことは、子どもの権利や家庭や社会の在り方について理解を深めることにつながる事がわかる。
本講義を通して、社会的養護内容を学んだ学生諸君が、保育所だけでなく、各種児童施設において、また、地域住民の一人として児童福祉を支え、子どもの最善の利益を守る主体となり、その実現に向けて働きかけてくれることを、心から願っている。

受講者に対する要望

” 私は児童学科だから、乳幼児や児童のことしかわかりません” という姿勢では、通用しないことを知っておいてください。また、専門家を目指す学びをしていきましょう。

学びのキーワード

- ・ (1)子どもの最善の利益
- ・ 保育士の専門性とは？
- ・ ソーシャルワーク
- ・ 養護の連続性
- ・ 愛着形成

授業計画

01.

社会的養護における児童の権利養護（大学での単位の意味・子どもの最善の利益・意見表明権・エンパワーメント）

02.

生存と発達の保障（児童自立支援計画書・I C F E コマッブ・障の構造的理

03.

子どもの権利を守る仕組みについて（子どもの権利ノート・苦情解決の仕組み・第三者評価制度・運営適正化委員会）

04.

保育士の倫理及び責務（支援者の子ども観・生命倫理・オンズバソン・守秘義務・ノーマリゼーション）

05.

児童養護の体系と児童福祉施設の概要（児童養護施設・要保護児童・措置制度から利用契約制度へ・ユニットケア）

06.

（その2）乳児院と母子生活支援施設での暮らし（担当保育制・措置変更・養護の連続性・愛着形成）

07.

（その3）重症心身障害児施設での暮らし（大島の分類、レスパイトサービス、P T と O T、バイタルサイン）

08.

（その4）肢体不自由児施設と児童自立支援施設での暮らし（リハビリとは？・C P・勤務体制・少年審判・保護処分）

09.

（その5）発達障障児と情緒障害児短期治療施設での暮らし（発達障障・不登校・S S T・愛着障障）

10.

（その6）知的障障児施設と自閉症児施設での暮らし（知的障障とは？・I Qの理解の仕方・自閉症とは？・自閉症の文化）

11.

里親制度について（里親の種類と里親養護の特徴・真実告知・特別養子縁組制度）

12.

保育士の専門性に関わる知識と援助技術（トラウマ・断続勤務・家族再統合・試し行動・マリトリートメント）

13.

児童福祉施設のこれから（課題演習3事例と講義）（施設内虐待・入浴介助のリスク・コミュニケーション能力）

14.

社会的養護の課題と展望（課題演習4事例）（家族団壊とは？・出生前診断・アドミッションケア・リービングケア）

15.

まとめ、定期試験

準備学習(予習)

必ず授業計画を事前に見て、各テーマに関連した語句（キーワード）やトピックについて、出来るだけ情報を集めること。講義終了直前に、次回の講義テーマについて触れるので、確認しておくこと。プリント・資料を保存するファイル2冊用意の事。

準備学習(復習)

配布したプリントを再読して、理解を深めておくこと。毎講義後に「課題演習」が出されるので、自宅で作って、翌週までに提出発表できるように準備しておくこと。

評価方法

(1) 授業内定期試験

80%

第15講時に実施（得点×0.8）

(2) 出席点 A

10%

15~14回出席 1 0 % 13~12回出席 8 % 11~10回出席 6 %

(3) 出席点 B

10%

講義後、自分の意見、感想、疑問等記入した人、課題レポート提出

教科書

参考書

社会的養護内容（保⑦～⑫）

SWEL-C-213

担当教員： 笹瀬 悟

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 1C510875

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

本講義では、先ず社会的養護における児童の権利養護やその仕組み、児童の生存発達の保障、保育士の倫理と責務、児童養護の体系と児童福祉施設の概要、各種児童施設の暮らし、保育士の専門性に関わる知識と援助技術、それにソーシャルワーク技術の活用等について、さらに社会的養護内容の課題と展望についても学ぶ。（詳細は、開講時に説明する）
カリキュラム上の位置づけ：
社会的養護内容は、保育士養成のカリキュラムの中で、専門課程の基礎となる科目である。

(2) 学びの意義と目標

この講義では、「利用児や現場から学ぶ」という一貫した姿勢をもって進めていくので、受講生は、社会的養護内容の専門的な知識だけでなく、具体的な援助技術や多様な考え方を身につけることができると思う。子どもを育むことは、第一義的には両親の責務であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっている。児童施設に入所している子どもやその家族に表面化していることが、普通の家族の中にも潜んでいる事が見てとれるのである。それは、児童施設で暮らす子どもに限らず、すべての子どもに対する社会的養護が必要な時代にあることを物語っている。従って、社会的養護内容を学ぶことは、子どもの権利や家庭や社会の在り方について理解を深めることにつながる事がわかる。
本講義を通して、社会的養護内容を学んだ学生諸君が、保育所だけでなく、各種児童施設において、また、地域住民の一人として児童福祉を支え、子どもの最善の利益を守る主体となり、その実現に向けて働きかけてくれることを、心から願っている。

受講者に対する要望

” 私は児童学科だから、乳幼児や児童のことしかわかりません” という姿勢では、通用しないことを知っておいてください。また、専門家を目指す学びをしていきましょう。

学びのキーワード

・ (1)子どもの最善の利益

・ 保育士の専門性とは？

・ ソーシャルワーク

・ 養護の連続性

・ 愛着形成

授業計画

01.

社会的養護における児童の権利養護（大学での単位の意味・子どもの最善の利益・意見表明権・エンパワーメント）

02.

生存と発達の保障（児童自立支援計画書・I C F E コマンド・障壁の構造的理解）

03.

子どもの権利を守る仕組みについて（子どもの権利ノート・苦情解決の仕組み・第三者評価制度・運営適正化委員会）

04.

保育士の倫理及び責務（支援者の子ども観・生命倫理・オンブズパーソン・守秘義務・ノーマリゼーション）

05.

児童養護の体系と児童福祉施設の概要（児童養護施設・要保護児童・措置制度から利用契約制度へ・ユニットケア）

06.

（その2）乳児院と母子生活支援施設での暮らし（担当保育制・措置変更・養護の連続性・愛着形成）

07.

（その3）重症心身障害児施設での暮らし（大島の分類、レスパイトサービス、P T と O T、バイタルサイン）

08.

（その4）肢体不自由児施設と児童自立支援施設での暮らし（リハビリとは？・C P・勤務体制・少年審判・保護処分）

09.

（その5）発達障害児と情緒障害児短期治療施設での暮らし（発達障害・不登校・S S T・愛着障害）

10.

（その6）知的障害児施設と自閉症児施設での暮らし（知的障害とは？・I Q の理解の仕方・自閉症とは？・自閉症の文化）

11.

里親制度について（里親の種類と里親養護の特徴・真実告知・特別養子縁組制度）

12.

保育士の専門性に関わる知識と援助技術（トラウマ・断続勤務・家族再統合・試し行動・マリトリートメント）

13.

児童福祉施設のこれから（課題演習3事例と講義）（施設内虐待・入浴介助のリスク・コミュニケーション能力）

14.

社会的養護の課題と展望（課題演習4事例）（家族団壊とは？・出生前診断・アドミッションケア・リービングケア）

15.

まとめ、定期試験

準備学習(予習)

必ず授業計画を事前に見て、各テーマに関連した語句（キーワード）やトピックについて、出来るだけ情報を集めること。講義終了直前に、次回の講義テーマについて触れるので、確認しておくこと。プリント・資料を保存するファイル2冊用意の事。

準備学習(復習)

配布したプリントを再読して、理解を深めておくこと。毎講義後に「課題演習」が出されるので、自宅で作って、翌週までに提出発表できるように準備しておくこと。

評価方法

(1) 授業内定期試験

80%

第15講時に実施（得点×0.8）

(2) 出席点 A

10%

15~14回出席 1 0 % 13~12回出席 8 % 11~10回出席 6 %

(3) 出席点 B

10%

講義後、自分の意見、感想、疑問等記入した人、課題レポート提出

教科書

参考書

保育相談支援（保⑦～⑫）		TEAT-C-215
担当教員：上野 直子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C510980
学部教育の関連目	授業計画	
【C】保育者に必要な知識・技能を身につける	01. 保育者に対する保育相談支援の意義 02. 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援 03. 子どもの最善の利益と福祉の重視 04. 子どもの成長の喜びの共有 05. 保護者の養育力の向上に資する支援 06. 信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重 07. 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力 08. 保育に関する保護者に対する指導 09. 保育者支援の内容 10. 保育者支援の方法と技術 11. 保育者支援の計画、記録、評価、カンファレンス 12. 保育所における保育相談支援の実際 13. 保育所における特別な対応を要する家庭への支援 14. 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援 15. 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援	
カリキュラム上の位置付け		
【C】保育士資格：必修科目		
(1) 内容		
保育相談支援とは、子どもの保育の専門性を有する保育士が、保育に関する専門的知識や技術を背景として、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の思いを受けとめながら、安定した親子関係や養育力の向上を目指して行う子どもの養育（保育）に関する相談、助言、行動見本の提示、その他の援助業務を指します。 そこで、保育相談支援の基本と実践力をつけるため、以下の4つの目標達成に向けて、学生相互でのグループ活動等を通して学んでいきます。 (1) 保育相談支援の意義と原則について理解する。 (2) 保護者支援の基本を理解する。 (3) 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 (4) 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。		
(2) 学びの意義と目標		
保護者の支援には、保護者の思いに気付く経験が重要です。ロールプレイやグループディスカッションを通じて、保護者の気持ちになってみることで、よりよい支援の手掛かりを考えていきましょう。		
受講者に対する要望		
ディスカッションには積極的な参加を求めています。実際の支援場面においては、幅広い支援の在り方が求められますので、この授業を通じて、様々な思いを巡らせる経験をしていただければと思っています。		
学びのキーワード	教科書	
・保護者支援 ・コミュニケーション ・相談・助言 ・ロールプレイ	柏女霊峰／橋本真紀 編著 『保育相談支援』（ミネルヴァ書房）	
	参考書	

保育相談支援（保①～⑥）		TEAT-C-215										
担当教員：上野 直子												
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C510985										
学部教育の関連目		授業計画										
【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける		01. 保育者に対する保育相談支援の意義 02. 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援 03. 子どもの最善の利益と福祉の重視 04. 子どもの成長の喜びの共有 05. 保護者の養育力の向上に資する支援 06. 信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重 07. 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力 08. 保育に関する保護者に対する指導 09. 保育者支援の内容 10. 保育者支援の方法と技術 11. 保育者支援の計画、記録、評価、カンファレンス 12. 保育所における保育相談支援の実際 13. 保育所における特別な対応を要する家庭への支援 14. 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援 15. 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援										
カリキュラム上の位置付け												
【C】 保育士資格：必修科目												
(1) 内容												
<p>保育相談支援とは、子どもの保育の専門性を有する保育士が、保育に関する専門的知識や技術を背景として、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の思いを受けとめながら、安定した親子関係や養育力の向上を目指して行う子どもの養育（保育）に関する相談、助言、行動見本の提示、その他の援助業務を指します。</p> <p>そこで、保育相談支援の基本と実践力をつけるため、以下の4つの目標達成に向けて、学生相互でのグループ活動等を通して学んでいきます。</p> <p>（1）保育相談支援の意義と原則について理解する。</p> <p>（2）保護者支援の基本を理解する。</p> <p>（3）保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。</p> <p>（4）保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。</p>												
(2) 学びの意義と目標												
<p>保護者の支援には、保護者の思いに気付く経験が重要です。ロールプレイやグループディスカッションを通じて、保護者の気持ちになってみることで、よりよい支援の手掛かりを考えていきましょう。</p>		準備学習(予習)										
		<p>授業では毎回ディスカッションの時間を設定。事前にテーマを提示しますので、準備学習して下さい（A4用紙1枚程度）。授業終了後、感想をまとめ、提出を求めています。</p>										
		準備学習(復習)										
		<p>授業ノートを整理すること、提出課題に記載されたコメント、授業時に指定した教科書の該当箇所などを読み返し、学習の振り返りを行ってください。</p>										
		評価方法										
		<table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>20%</td><td>ディスカッションへの参加など授業態度も含む</td></tr><tr><td>(2) 提出課題の実施状況</td><td>40%</td><td>事前準備（予習）が出来ているか、授業を聴き取った感想・意見提案が出来ているかを提出課題を通じて確認します。</td></tr><tr><td>(3) 学期末評価</td><td>40%</td><td></td></tr></table>		(1) 授業への参加度	20%	ディスカッションへの参加など授業態度も含む	(2) 提出課題の実施状況	40%	事前準備（予習）が出来ているか、授業を聴き取った感想・意見提案が出来ているかを提出課題を通じて確認します。	(3) 学期末評価	40%	
(1) 授業への参加度	20%	ディスカッションへの参加など授業態度も含む										
(2) 提出課題の実施状況	40%	事前準備（予習）が出来ているか、授業を聴き取った感想・意見提案が出来ているかを提出課題を通じて確認します。										
(3) 学期末評価	40%											
		学期末にはテストを実施の予定です。										
学びのキーワード		教科書										
<ul style="list-style-type: none">・ 保護者支援・ コミュニケーション・ 相談・助言・ ロールプレイ		柏女霊峰／橋本真紀 編著 『保育相談支援』（ミネルヴァ書房）										
		参考書										

障害児保育 A (保⑦～⑫)

TEAT-C-216

担当教員：坂本 佳代子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C511100

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

この講義では、障害のある子どもの保育についての歴史の変遷や障害理解等について学んでいくものです。

現在、インクルーシブな保育が当然のものとされ、障害のある子どもも無い子どもも共に育つ取り組みが試行され実践されるようになってきました。その中では一人一人に望ましい保育実践を行うための取り組みが工夫されなくてはなりません。このような統合保育とは別に、障害別に病院や施設等の専門機関で保育を受けている子ども達も少なからずいる現状です。このように、様々な機関で実践されている障害児保育について広く体系的に学んでいきます。

また、養育者はどのような過程で子どもの障害に気づいていくのか、その時の子どもと養育者の支援はどのように整備されているのかについても学んでいくこととします。

上記の学習過程によって、日本の障害児保育の現状と課題について体系的に把握できるようにします。

(2) 学びの意義と目標

- ・障害を負って生きることの苦しさを洞察できるようになること。
- ・多様な障害があることを理解すること。
- ・支援は子どものみならず、家族支援も重要であることを理解すること。
- ・支援は個別の状況によって異なることを理解する。

受講者に対する要望

障害については身近でない場合には、かなり理解が難しい。それだけに授業内容をしっかりと理解してほしい。

学びのキーワード

- ・障害って何
- ・普通って何
- ・障害受容
- ・早期発見早期療育
- ・障害手帳

授業計画

01. 障害の概念と内容
02. 身体障害概論 I
03. 身体障害概論 II
04. 知的障害概論 I
05. 知的障害概論 II
06. 精神障害概論 I
07. 精神障害概論 II
08. 発達障害概論 I
09. 発達障害概論 II
10. 障害成因論
11. 障害児と家族
12. 障害児保育
13. アセスメントと個別支援計画
14. 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成
15. 個別支援計画作成

準備学習(予習)

身近な地域において、どのような障害児保育実践がおこなわれているかについて、関心を持ち、情報入手等をするように心がけてください。

準備学習(復習)

毎回授業の初めに、前回の内容について質問します。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 授業参加態度 | 30% |

教科書

参考書

障害児保育 A（保①～⑥）

TEAT-C-216

担当教員：坂本 佳代子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C511195

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

この講義では、障害のある子どもの保育についての歴史の変遷や障害理解等について学んでいくものです。

現在、インクルーシブな保育が当然のものとされ、障害のある子どもも無い子どもも共に育つ取り組みが試行され実践されるようになってきました。その中では一人一人に望ましい保育実践を行うための取り組みが工夫されなくてはなりません。このような統合保育とは別に、障害別に病院や施設等の専門機関で保育を受けている子ども達も少なからずいる現状です。このように、様々な機関で実践されている障害児保育について広く体系的に学んでいきます。

また、養育者はどのような過程で子どもの障害に気づいていくのか、その時の子どもと養育者の支援はどのように整備されているのかについても学んでいくこととします。

上記の学習過程によって、日本の障害児保育の現状と課題について体系的に把握できるようにします。

(2) 学びの意義と目標

- ・障害を負って生きることの苦しさを洞察できるようになること。
- ・多様な障害があることを理解すること。
- ・支援は子どものみならず、家族支援も重要であることを理解すること。
- ・支援は個別の状況によって異なることを理解する。

受講者に対する要望

障害については身近でない場合には、かなり理解が難しい。それだけに授業内容をしっかりと理解してほしい。

学びのキーワード

- ・障害って何
- ・普通って何
- ・障害受容
- ・早期発見早期療育
- ・障害手帳

授業計画

01. 障害の概念と内容
02. 身体障害概論 I
03. 身体障害概論 II
04. 知的障害概論 I
05. 知的障害概論 II
06. 精神障害概論 I
07. 精神障害概論 II
08. 発達障害概論 I
09. 発達障害概論 II
10. 障害成因論
11. 障害児と家族
12. 障害児保育
13. アセスメントと個別支援計画
14. 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成
15. 個別支援計画作成

準備学習(予習)

身近な地域において、どのような障害児保育実践がおこなわれているかについて、関心を持ち、情報入手等をするように心がけてください。

準備学習(復習)

毎回授業の初めに、前回の内容について質問します。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 授業参加態度 | 30% |

教科書

参考書

障害児保育B（保①～⑥）

TEAT-C-217

担当教員：田村 すゝか

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C511205

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

特別な支援を必要とする障害のある子どもについて理解し、保育現場での支援の在り方について様々な面から考える。
障害の発見から療育のシステム、統合保育や就学に至る流れなど、現状と課題について学ぶ。
カリキュラム上の位置づけ：
障害児保育のための基礎知識、援助方法を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

- ①様々な障害についての基本的な知識を得て、保育上の留意点について理解する
- ②障害がある子どもの保育にかかわる医療や福祉、教育などの現状と課題について知る
- ③障害がある子どもたちが集団保育の場で他児と育ちあう保育実践について考える
- ④障害がある子どもの保護者・家族支援について考える

受講者に対する要望

保育士資格のための必修授業であるが、特別支援教育が進む現代において障害がある子どもと接する現場は増えているため、幼稚園・小学校の教員免許取得予定の学生の受講も歓迎する。

学びのキーワード

- ・障害児の保育
- ・特別支援
- ・統合保育
- ・療育

授業計画

01. オリエンテーション 障害がある子どもの保育について考える
02. 子どもが発達する道すじ / 障害の発見
03. 障害がある子どもの理解と保育の実際①
04. 障害がある子どもの理解と保育の実際②
05. 障害がある子どもの理解と保育の実際③
06. 障害がある子どもの理解と保育の実際④
07. 障害がある子どもの理解と保育の実際⑤
08. 障害がある子どもの理解と保育の実際⑥
09. 発達のアセスメント（検査法など）
10. 統合保育①
11. 統合保育②
12. 保護者・きょうだいへの理解と支援
13. 障害がある子どもの保育計画
14. 障害がある子どもの就学
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、該当の項目について事前に教科書に目を通しておくこと。

準備学習(復習)

毎回授業の始めにプリントで前回の振り返りを行う。そのために事前に自分で復習をしておくことを推奨する。

評価方法

- | | |
|----------|------------------|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) レポート | 50% 詳細は授業初回に指示する |

教科書

星山麻木 『障害児保育ワークブック』（萌文書林）

参考書

障害児保育B（保⑦～⑫）

TEAT-C-217

担当教員：田村 すゝか

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C511210

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

特別な支援を必要とする障害のある子どもについて理解し、保育現場での支援の在り方について様々な面から考える。
障害の発見から療育のシステム、統合保育や就学に至る流れなど、現状と課題について学ぶ。
カリキュラム上の位置づけ：
障害児保育のための基礎知識、援助方法を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

- ①様々な障害についての基本的な知識を得て、保育上の留意点について理解する
- ②障害がある子どもの保育にかかわる医療や福祉、教育などの現状と課題について知る
- ③障害がある子どもたちが集団保育の場で他児と育ちあう保育実践について考える
- ④障害がある子どもの保護者・家族支援について考える

受講者に対する要望

保育士資格のための必修授業であるが、特別支援教育が進む現代において障害がある子どもと接する現場は増えているため、幼稚園・小学校の教員免許取得予定の学生の受講も歓迎する。

学びのキーワード

- ・障害児の保育
- ・特別支援
- ・統合保育
- ・療育

授業計画

01. オリエンテーション 障害がある子どもの保育について考える
02. 子どもが発達する道すじ / 障害の発見
03. 障害がある子どもの理解と保育の実際①
04. 障害がある子どもの理解と保育の実際②
05. 障害がある子どもの理解と保育の実際③
06. 障害がある子どもの理解と保育の実際④
07. 障害がある子どもの理解と保育の実際⑤
08. 障害がある子どもの理解と保育の実際⑥
09. 発達のアセスメント（検査法など）
10. 統合保育①
11. 統合保育②
12. 保護者・きょうだいへの理解と支援
13. 障害がある子どもの保育計画
14. 障害がある子どもの就学
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、該当の項目について事前に教科書に目を通しておくこと。

準備学習(復習)

毎回授業の始めにプリントで前回の振り返りを行う。そのために事前に自分で復習をしておくことを推奨する。

評価方法

- | | |
|----------|------------------|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) レポート | 50% 詳細は授業初回に指示する |

教科書

星山麻木 『障害児保育ワークブック』（萌文書林）

参考書

子どもの保健 A

HESC-C-212

担当教員： 小林 京子

学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1C511420

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 内容

1. 内容：
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を知り、子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達と生活の中での発育・発達支援、子どもの病気や事故の特徴とその予防方法等の基礎を理解する。

2. カリキュラム上の位置づけ：
保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの保健に関する基礎的な科目である。

(2) 学びの意義と目標

保育における子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。子どもの心身の健康問題の原因が、養育環境や養育方法にあることを認識し、それらの問題に適切に対処し、保健活動を通して子どもやその家族を支援できるようになる基礎を習得する。また、子どもの病気や事故の特徴についての基礎を理解する。

受講者に対する要望

これまでの学びを活用しながら積極的に講義、グループワークに臨んで下さい。

学びのキーワード

- ・ 小児保健
- ・ 母子保健
- ・ 子どもの生活
- ・ 保健活動

授業計画

01. 小児保健の意義
02. 小児保健とは
03. 子どもの生活と健康
04. 子どもの生活と健康
05. 子どもの栄養
06. 子どもの栄養
07. 子どもの事故と安全
08. 子どもの事故と安全
09. 母子保健
10. 母子保健
11. 保健活動
12. 保健活動
13. グループワーク
14. グループワーク
15. 試験と総括

準備学習(予習)

これまでの学習を想起しながら授業に臨んでください。

準備学習(復習)

これまでの学びを振り返っておきましょう。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 筆記試験 | 70% |
| (2) グループワーク参加度 | 20% |
| (3) 講義参加度 | 10% |

教科書

参考書

<div> <div>子どもの保健B（保⑦～⑫）</div> <div>HESC-C-213</div> </div>	
<div> <div>担当教員：平田 美佳、平田 倫生</div> <div> <div>学期：週間授</div> <div>科目：専門科目</div> <div>必修・選択：選択科目</div> </div> <div>単位：2 コード：1C511525</div> </div>	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】保育者に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. 子どもの発育・発達とその支援 1 02. 子どもの発達・発育とその支援 2 03. 子どもの発達・発育とその支援 3 04. 子どもの病気の特徴 1 05. 子どもの病気の特徴 2 06. 子どもの病気の特徴 3 07. 子どもの病気とその予防 1 08. 子どもの病気とその予防 2 09. 子どもの病気とその予防 3 10. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援 1 11. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援 2 12. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援 3 13. 医療現場における保育の役割と重要性 1 14. 医療現場における保育の役割と重要性 2 15. 医療現場で働くさまざまな職種と多職種連携・まとめ </div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】保育士資格：必修科目</div>	
<div>(1) 内容</div> <div> <p>健康な子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達、生活のなかでの発育・発達支援について理解する。また、子どもの病気の特徴やその予防、病気や障がいを持った子どもの理解とその支援、医療現場での保育の重要性や医療と保育の連携について学ぶ。</p> </div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <p>保育における子どもの健康の維持・増進の意味を理解するとともに、保育士の役割の重要性について認識する。子どもがかかりやすい病気、子どもに多い症状、子ども特有の心身の変調の表現を理解することで、保育現場で子どもの病気予防、早期発見、早期対処ができるような基礎知識を習得する。また、子どもの発育・発達や健康問題は家庭環境や家庭での養育方法と密接にかかわっていることを理解し、子どものみならず家族を支援できるようになる基礎知識を習得する。さらに、医療現場における病気や障がいを持った子どもについての理解を深め、病院や施設における子どもの権利を守った生活の保障と支援、医療と保育の連携の重要性に理解する。</p> </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> <p>子ども時代の自分の経験・それまでの学習内容と重ね合わせ、興味や疑問・関心を持って授業に臨んでください。</p> </div>
	<div>準備学習(復習)</div> <div> <p>授業の復習は確実にに行い、そのときに疑問に感じた部分については、次の授業で確実に質問して、自ら疑問を解決するようにしてください。</p> </div>
<div>受講者に対する要望</div> <div> <p>近年、保育士は社会的需要が高まり、保育の質の向上はわが国の大きな課題の一つです。この科目は将来子どもを対象とする専門職に就くものが、子どもの心身の安全・安寧を守り実践していくために、大変重要な内容です。授業に参加するだけでなく、授業を通して自分が将来目指す職種の役割の重要性を再認識したり、授業内容に関連した社会の動きや日常的に見かける子どもたちの様子にも関心を持つように心がけて履修してください。</p> </div>	<div>評価方法</div> <div> <div>(1) 試験</div> <div>100%</div> <div>(2) 平常点</div> </div>
<div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 子ども 成長・発達 病気・障がい 予防・支援 専門職の責務 </div>	<div>教科書</div> <div> <p>母子保健事業団『母子健康手帳』（母子保健事業団） 竹内 麗博、大矢 紀昭『よくわかる子どもの保健[第2版]』（やわらかアカデミズム・「わかる」シリーズ）』（ミネルヴァ書房）</p> </div> <div>参考書</div>

子どもの保健B（保①～⑥）		HESC-C-213
担当教員：平田 美佳、平田 倫生		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C511530
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. 子どもの発育・発達とその支援 1 02. 子どもの発達・発育とその支援 2 03. 子どもの発達・発育とその支援 3 04. 子どもの病気の特徴 1 05. 子どもの病気の特徴 2 06. 子どもの病気の特徴 3 07. 子どもの病気とその予防 1 08. 子どもの病気とその予防 2 09. 子どもの病気とその予防 3 10. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援 1 11. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援 2 12. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援 3 13. 医療現場における保育の役割と重要性 1 14. 医療現場における保育の役割と重要性 2 15. 医療現場で働くさまざまな職種と多職種連携・まとめ</div>	
【C】保育者に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】保育士資格：必修科目		
(1) 内容	<div>準備学習(予習)</div> <div>子ども時代の自分の経験・それまでの学習内容と重ね合わせ、興味や疑問・関心を持って授業に臨んでください。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>授業の復習は確実にに行い、そのときに疑問に感じた部分については、次の授業で確実に質問して、自ら疑問を解決するようにしてください。</div> <div>評価方法</div> <div>(1) 試験 100% (2) 平常点</div>	
健康な子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達、生活のなかでの発育・発達支援について理解する。また、子どもの病気の特徴やその予防、病気や障がいを持った子どもの理解とその支援、医療現場での保育の重要性や医療と保育の連携について学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標		
保育における子どもの健康の維持・増進の意味を理解するとともに、保育士の役割の重要性について認識する。子どもがかかりやすい病気、子どもに多い症状、子ども特有の心身の変調の表現を理解することで、保育現場で子どもの病気予防、早期発見、早期対処ができるような基礎知識を習得する。また、子どもの発育・発達や健康問題は家庭環境や家庭での養育方法と密接にかかわっていることを理解し、子どものみならず家族を支援できるようになる基礎知識を習得する。さらに、医療現場における病気や障がいを持った子どもについての理解を深め、病院や施設における子どもの権利を守った生活の保障と支援、医療と保育の連携の重要性に理解する。		
受講者に対する要望	<div>教科書</div> <div>母子保健事業団『母子健康手帳』（母子保健事業団） 竹内 麗博、大矢 紀昭『よくわかる子どもの保健[第2版]』（やわらかアカデミズム・「わかる」シリーズ）』（ミネルヴァ書房）</div> <div>参考書</div>	
近年、保育士は社会的需要が高まり、保育の質の向上はわが国の大きな課題の一つです。この科目は将来子どもを対象とする専門職に就くものが、子どもの心身の安全・安寧を守り実践していくために、大変重要な内容です。授業に参加するだけでなく、授業を通して自分が将来目指す職種の役割の重要性を再認識したり、授業内容に関連した社会の動きや日常的に見かける子どもたちの様子にも関心を持つように心がけて履修してください。		
学びのキーワード		
・子ども ・成長・発達 ・病気・障がい ・予防・支援 ・専門職の責務		

子どもの保健演習		HESC-C-214
担当教員： 藤城 富美子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C511635
学部教育の関連目		授業計画
【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】 保育士資格：必修科目		01. 子ども健康と保健活動の意義（保健計画・多職種との連携） 02. 子どもの発育（身体機能の発育と評価）計測の演習 03. 子どもの発育（運動機能発達と評価）遠城寺式の演習 04. 子どもの発育（生理機能の発育と評価）生理機能演習 05. 小テスト（子どもの発育発達のまとめ）演習の確認 06. 子どもの養護の仕方（哺乳・離乳・冷凍母乳）の演習 07. 子どもの養護の仕方（沐浴・着脱・おむつ交換） 08. 子どもの養護の方法（抱き方・おんぶの仕方） 09. 子どもに多くみられる病気（症状の見方とケアの仕方） 10. 子どもに多くみられる病気と対応（・感染症対策と予防接種） 11. 保育室の環境整備と衛生管理 12. 子どもの事故と安全対策（子どもの事故の特徴と留意点、安全対策の仕方） 13. 応急処置（けが時の対応と手当の仕方、救急救命法（異物除去とCPR）演 14. 慢性疾患や障害をもつ子どもへの対応と家族の支援（医療や療育との関り 15. 子どもの保健演習の総理解
(1) 内容		
乳幼児期の子どもの成長発達は著しい。しかし、乳幼児期は抵抗力も免疫力も未熟で未発達な時期であり、感染症など病気・怪我等健康を阻害しやすい時期でもある。保育者として、子どもの健康と生命の保持・安全を保障するための基本的な知識を技術を講義と演習を通じて学ぶ。また、子ども自身が基本的生活習慣を身につけ、自らの健康を意識するための健康教育をグループワーク演習で考え発表する（健康教育の実演）		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
＜目標＞保育者として、子どもの自身の健康の保持・増進を勧めるための援助法を学び、実践可能な実技を身に着ける。 ＜意義＞著しい成長発達を遂げる乳幼児期の基本的理解や対応を学ぶ意義は大きい。加えて、子どもの成長発達する過程において、病気やけがなど様々な傷害を想定し対応できるようにする。		
受講者に対する要望		
・子どもの健康や生命の保持は、大人の責任である。保育者としての責任を強く感じて学ぶ姿勢をもって望んでほしい。 ・グループワーク学習を通し、共有・協働の関係が円滑に行えるように刺激し合う積極的な姿勢を望む。 ・人形に対しても尊重の姿勢を忘れない。		準備学習(復習)
学びのキーワード		
・ 保育の中の保健 ・ 発育発達 ・ 養護 ・ 子どもの病気 ・ 健康		
教科書		参考書
大西文子 『子どもの保健演習』（中山書店） 日本保育園保健協議会 『子どもの病気 ホームケア』（日本保育園保健協議会）		

子どもの保健演習		HESC-C-214
担当教員： 藤城 富美子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C511640
学部教育の関連目		授業計画
【C】保育者に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】保育士資格：必修科目		
(1) 内容		01. 子ども健康と保健活動の意義（保健計画・多職種との連携） 02. 子どもの発育（身体機能の発育と評価）計測の演習 03. 子どもの発育（運動機能発達と評価）遠城寺式の演習 04. 子どもの発育（生理機能の発育と評価）生理機能演習 05. 小テスト（子どもの発育発達のまとめ）演習の確認 06. 子どもの養護の仕方（哺乳・離乳・冷凍母乳） 07. 子どもの養護の仕方（沐浴・着脱・おむつ交換） 08. 子どもの養護の方法（抱き方・おんぶの仕方） 09. 子どもに多くみられる病気（症状の見方とケアの仕方） 10. 子どもに多くみられる病気と対応（感染症対策と予防接種） 11. 保育室の環境整備と衛生管理 12. 子どもの事故と安全対策（子どもの事故の特徴と留意点、安全対策の仕方） 13. 応急処置（けが時の対応と手当の仕方、救急救命法（異物除去とCPR）演 14. 障害や障がいをもつ子どもへの対応と家族の支援（医療や療育との関り） 15. 子どもの保健演習の総理解
乳幼児期の子どもの成長発達は著しい。しかし、乳幼児期は抵抗力も免疫力も未熟で未発達な時期であり、感染症など病気・怪我等健康を阻害しやすい時期でもある。保育者として、子どもの健康と生命の保持・安全を保障するための基本的な知識を技術を講義と演習を通じて学ぶ。また、子ども自身が基本的生活習慣を身につけ、自らの健康を意識するための健康教育をグループワーク演習で考え発表する（健康教育の実演）		
(2) 学びの意義と目標		
<目標>保育者として、子どもの自身の健康の保持・増進を勧めるための援助法を学び、実践可能な実技を身に着ける。 <意義>著しい成長発達を遂げる乳幼児期の基本的理解や対応を学ぶ意義は大きい。加えて、子どもの成長発達する過程において、病気やけがなど様々な傷害を想定し対応できるようにする。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
・子どもの健康や生命の保持は、大人の責任である。保育者としての責任を強く感じて学ぶ姿勢をもって望んでほしい。 ・グループワーク学習を通し、共有・協働の関係が円滑に行えるように刺激し合う積極的な姿勢を望む。 ・人形に対しても尊重の姿勢を忘れない。		毎回の講義の最後には、次回の講義内容・キーワードを伝えるので、学習してくること。
学びのキーワード		準備学習(復習)
・ 保育の中の保健 ・ 発育発達 ・ 養護 ・ 子どもの病気 ・ 健康		・ 翌週には、必ず個人及びグループ質問を行い、学びの程度を確認する。 ・ 各演習後は、目標達成を評価するための個人及びグループの振り返りをシートを作成する。
		評価方法
		(1) 試験 30% 基本的理解 (2) 小テスト 20% 復習 (3) 平常点 20% 演習での積極性と協調性 (4) 授業への参加度 30% 積極的な発言
		・ 毎回の出席が基本であるが、グループ演習を中心に進めるため、互いに協働する積極的姿勢をもっているかをみる。
		教科書
		大西文子『子どもの保健演習』（中山書店） 日本保育園保健協議会『子どもの病気 ホームケア』（日本保育園保健協議会）
		参考書

家庭支援論（C-1・2）		TEAT-C-317									
担当教員：佐藤 千瀬											
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C511745									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】保育者に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 家庭の意義と機能</div> <div>02. 家庭支援の必要性 保育士等が行う家庭支援の原理</div> <div>03. 家庭生活を取り巻く社会的状況1 現代の家庭における人間関係</div> <div>04. 家庭生活を取り巻く社会的状況2 男女共同参画社会とワークライフバランス</div> <div>05. 家庭生活を取り巻く社会的状況3 地域社会の変容と家庭支援</div> <div>06. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進</div> <div>07. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源</div> <div>08. 保育所入所児童の家庭への支援</div> <div>09. 子育て支援の実践例1 子育てサークル</div> <div>10. 子育て支援の実践例2 子育てひろば</div> <div>11. 子育て支援サービスの概要</div> <div>12. 要保護児童及びその家庭に対する支援 関係機関との連携</div> <div>13. 地域の子育て家庭への支援1 保育の場における相談</div> <div>14. 地域の子育て家庭への支援2 地域子育て支援センターの子育て支援</div> <div>15. 子育て支援サービスの課題</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】保育士資格：必修科目</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について概説する。また、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について学ぶ。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>(1) 家庭の意義とその機能について理解する。</div> <div>(2) 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。</div> <div>(3) 子育て家庭の支援体制について理解する。</div> <div>(4) 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>・課題に取り組むこと</div>									
		<div>準備学習(復習)</div> <div>・授業で視聴した事例の分析をすること
・グループワーク等のまとめをすること
・小テストの準備をすること
・子育てマップを作成すること</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業内で課題・小テスト・グループワークに取り組むことが多くあるため、丁寧に取り組むこと。
ロールプレイ、グループワーク、グループディスカッション等に積極的に参加すること。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 課題</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 小テスト</td><td>25%</td></tr><tr><td>(4) レポート</td><td>25%</td></tr></table> <div>毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。</div>		(1) 平常点	30%	(2) 課題	20%	(3) 小テスト	25%	(4) レポート	25%
(1) 平常点	30%										
(2) 課題	20%										
(3) 小テスト	25%										
(4) レポート	25%										
<div>学びのキーワード</div> <div>・家庭</div> <div>・子育て支援</div> <div>・連携</div> <div>・保育所</div> <div>・保育士</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>厚生労働省『保育所保育指針—平成20年告示』</div> <div>文部科学省『幼稚園教育要領—平成20年告示』</div>									

家庭支援論（C-3・4）		TEAT-C-317
担当教員：佐藤 千瀬		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C511750
学部教育の関連目		授業計画
【C】保育者に必要な知識・技能を身につける		01. オリエンテーション 家庭の意義と機能 02. 家庭支援の必要性 保育士等が行う家庭支援の原理 03. 家庭生活を取り巻く社会的状況1 現代の家庭における人間関係 04. 家庭生活を取り巻く社会的状況2 男女共同参画社会とワークライフバランス 05. 家庭生活を取り巻く社会的状況3 地域社会の変容と家庭支援 06. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 07. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 08. 保育所入所児童の家庭への支援 09. 子育て支援の実践例1 子育てサークル 10. 子育て支援の実践例2 子育てひろば 11. 子育て支援サービスの概要 12. 要保護児童及びその家庭に対する支援 関係機関との連携 13. 地域の子育て家庭への支援1 保育の場における相談 14. 地域の子育て家庭への支援2 地域子育て支援センターの子育て支援 15. 子育て支援サービスの課題
カリキュラム上の位置付け		
【C】保育士資格：必修科目		
(1) 内容		
本講義は、家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について概説する。また、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標		
(1) 家庭の意義とその機能について理解する。 (2) 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 (3) 子育て家庭の支援体制について理解する。 (4) 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。		
準備学習(予習)		・課題に取り組むこと
準備学習(復習)		・授業で視聴した事例の分析をすること ・グループワーク等のまとめをすること ・小テストの準備をすること ・子育てマップを作成すること
評価方法		(1) 平常点 30% 出席点ではない。 (2) 課題 20% (3) 小テスト 25% (4) レポート 25% 毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。
受講者に対する要望		
授業内で課題・小テスト・グループワークに取り組むことが多くあるため、丁寧に取り組むこと。 ロールプレイ、グループワーク、グループディスカッション等に積極的に参加すること。		
学びのキーワード		教科書
・家庭 ・子育て支援 ・連携 ・保育所 ・保育士		参考書 厚生労働省 『保育所保育指針—平成20年告示』 文部科学省 『幼稚園教育要領—平成20年告示』

<div> <div>子どもの食と栄養 A（保①～⑥）</div> <div>HLTH-C-211</div> </div>									
<div> <div>担当教員： 広瀬 歩美</div> <div> <div>学期： 週間授</div> <div>科目： 専門科目</div> <div>必修・選択： 選択科目</div> </div> <div>単位： 1 コード： 1C511855</div> </div>									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. 栄養に関する基礎知識（1） 02. 栄養に関する基礎知識（2） 03. 栄養に関する基礎知識（3） 04. 栄養調査 05. 子どもの健康と食生活の意義 06. 子どもの発育・発達と食生活 07. ふりかえりと解説 08. 調理実習 1（基本の食卓） 09. 妊娠期・授乳期の食生活 10. 調理実習 2（お弁当づくり） 11. 乳児期の食生活（1） 12. 乳児期の食生活（2） 13. 調乳実習 3（離乳食づくり） 14. 乳児期の食生活（3） 15. 総括 </div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 保育士資格：必修科目</div>									
<div>(1) 内容</div> <div> <p>小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、栄養学の基礎的な知識を身につけ、その上で小児の特徴について理解することを目的とする。また、食育とは何かを学び、得た知識を小児やその保護者にどのように伝えていくかを考察する。</p> </div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <p>基礎栄養を学び、子どもの食だけでなく、保護者や自身の食生活についても考えられるようにする。</p> </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書に沿った授業を行うので、シラバスに沿った項目を事前に読んでおくこと。</div>								
	<div>準備学習(復習)</div> <div> <p>将来保育士になる者として、授業で取り上げた内容について、子どもたちや保護者に対し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。</p> </div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div> <p>授業中は積極的な発言を行うことを期待する。 私語は慎むように。</p> </div>	<div>評価方法</div> <div> <table> <tr> <td>(1) 平常点</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>(2) 授業内発表</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>(3) レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>(4) 期末試験</td> <td>40%</td> </tr> </table> </div>	(1) 平常点	15%	(2) 授業内発表	15%	(3) レポート	30%	(4) 期末試験	40%
(1) 平常点	15%								
(2) 授業内発表	15%								
(3) レポート	30%								
(4) 期末試験	40%								
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 食生活と栄養</div>	<div>教科書</div> <div>堀 ちはる、土井 正子 『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』（萌文書林）</div> <div>参考書</div>								

子どもの食と栄養 A (保⑦～⑫)

HLTH-C-211

担当教員： 広瀬 歩美

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 1C511860

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 内容

小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、栄養学の基礎的な知識を身につけ、その上で小児の特徴について理解することを目的とする。また、食育とは何かを学び、得た知識を小児やその保護者にどのように伝えていくかを考察する。

(2) 学びの意義と目標

基礎栄養を学び、子どもの食だけでなく、保護者や自身の食生活についても考えられるようにする。

受講者に対する要望

授業中は積極的な発言を行うことを期待する。
私語は慎むように。

学びのキーワード

・ 食生活と栄養

授業計画

01. 栄養に関する基礎知識 (1)
02. 栄養に関する基礎知識 (2)
03. 栄養に関する基礎知識 (3)
04. 栄養調査
05. 子どもの健康と食生活の意義
06. 子どもの発育・発達と食生活
07. ふりかえりと解説
08. 調理実習 1 (基本の食卓)
09. 妊娠期・授乳期の食生活
10. 調理実習 2 (お弁当づくり)
11. 乳児期の食生活 (1)
12. 乳児期の食生活 (2)
13. 調乳実習 3 (離乳食づくり)
14. 乳児期の食生活 (3)
15. 総括

準備学習(予習)

教科書に沿った授業を行うので、シラバスに沿った項目を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

将来保育士になる者として、授業で取り上げた内容について、子どもたちや保護者に対し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 15% |
| (2) 授業内発表 | 15% |
| (3) レポート | 30% |
| (4) 期末試験 | 40% |

教科書

堤 ちはる、土井 正子 『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』 (萌文書林)

参考書

子どもの食と栄養B（保①～⑥）		HLTH-C-212								
担当教員： 広瀬 歩美										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C511965								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 乳児期の食生活（4） 02. 調理実習 1 03. 幼児期の食生活（1） 04. 幼児期の食生活（2） 05. 幼児期の食生活（3） 06. 調理実習 2 07. ふりかえりと解説 08. 食育の基本と内容（1） 09. 食育の基本と内容（2） 10. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 11. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1） 12. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2） 13. 思春期以降の食生活 14. 調理実習 3 15. 総括</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 保育士資格：必修科目</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、まず保育者である自身の食生活について振り返る。その上で、各ライフステージに応じた栄養や食生活についての理解を深める。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ライフステージに応じた栄養と食生活を学ぶことで、子どもの生涯にわたる健康づくりをサポートできる力を身につける。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>討論やロールプレイには積極的に参加すること。
私語は慎むこと。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書に沿った授業を行うので、事前に教科書を読むこと。箇所は授業で指定する。教科書に沿った授業を行うので、シラバスに沿った項目を事前に読んでくること。食事をしっかり食べて授業に臨むこと。</div>									
	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ内容を、保護者に相談された際に正しく説明できるよう、自分の言葉で話せるようにしておくこと。</div>									
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>15%</td></tr><tr><td>(2) 授業内発表</td><td>15%</td></tr><tr><td>(3) 中間試験</td><td>30%</td></tr><tr><td>(4) 期末試験</td><td>40%</td></tr></table>		(1) 平常点	15%	(2) 授業内発表	15%	(3) 中間試験	30%	(4) 期末試験	40%
(1) 平常点	15%									
(2) 授業内発表	15%									
(3) 中間試験	30%									
(4) 期末試験	40%									
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ ライフステージごとの食生活</div><div>・ 疾病管理</div></div>	<div>教科書</div> <div>堤 ちはる、土井 正子 『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』（萌文書林）</div> <div>参考書</div>									

<div> <div>子どもの食と栄養B（保⑦～⑫）</div> <div>HLTH-C-212</div> </div>								
<div> <div>担当教員： 広瀬 歩美</div> <div> <div>学期： 週間授</div> <div>科目： 専門科目</div> <div>必修・選択： 選択科目</div> </div> <div>単位： 1 コード： 1C511970</div> </div>								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. 乳児期の食生活（4） 02. 調理実習 1 03. 幼児期の食生活（1） 04. 幼児期の食生活（2） 05. 幼児期の食生活（3） 06. 調理実習 2 07. ふりかえりと解説 08. 食育の基本と内容（1） 09. 食育の基本と内容（2） 10. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 11. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1） 12. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2） 13. 思春期以降の食生活 14. 調理実習 3 15. 総括 </div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 保育士資格：必修科目</div>								
<div>(1) 内容</div> <div> <p>小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、まず保育者である自身の食生活について振り返る。その上で、各ライフステージに応じた栄養や食生活についての理解を深める。</p> </div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <p>ライフステージに応じた栄養と食生活を学ぶことで、子どもの生涯にわたる健康づくりをサポートできる力を身につける。</p> </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> <p>教科書に沿った授業を行うので、事前に教科書を読むこと。箇所は授業で指定する。教科書に沿った授業を行うので、シラバスに沿った項目を事前に読んでくること。 食事をしっかり食べて授業に臨むこと。</p> </div>							
<div>受講者に対する要望</div> <div> <p>討論やロールプレイには積極的に参加すること。 私語は慎むこと。</p> </div>	<div>準備学習(復習)</div> <div> <p>授業で学んだ内容を、保護者に相談された際に正しく説明できるよう、自分の言葉で話せるようにしておくこと。</p> </div>							
	<div>評価方法</div> <div> <table> <tr> <td>(1) 平常点</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>(2) 授業内発表</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>(3) 中間試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>(4) 期末試験</td> <td>40%</td> </tr> </table> </div>	(1) 平常点	15%	(2) 授業内発表	15%	(3) 中間試験	30%	(4) 期末試験
(1) 平常点	15%							
(2) 授業内発表	15%							
(3) 中間試験	30%							
(4) 期末試験	40%							
<div>学びのキーワード</div> <div> ・ ライフステージごとの食生活 ・ 疾病管理 </div>	<div>教科書</div> <div>堤 ちはる、土井 正子 『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』（萌文書林）</div> <div>参考書</div>							

地域福祉論（4/12-6/7）		SWEL-C-361	
担当教員： 牛津 信忠			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C512075	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】 今日的課題についての知識・教養を身につける		01. 地域福祉の基本的考え方；人権尊重 02. 地域福祉の基本的考え方；権利擁護 03. 地域福祉の基本的考え方；自立支援 04. 地域福祉の基本的考え方；地域生活支援 05. 地域福祉の基本的考え方；地域移行 06. 地域福祉の基本的考え方；社会的包摂等 07. 地域福祉の主体と対象（1） 08. 地域福祉の主体と対象（2） 09. 地域福祉の主体と対象（3） 10. 地域福祉に係る組織・団体の役割と実際（1） 11. 地域福祉に係る組織・団体の役割と実際（2） 12. 地域福祉に係る専門職の役割と実際（1） 13. 地域福祉に係る専門職の役割と実際（2） 14. 地域福祉の技術（1） 15. 地域福祉の技術（2）	
カリキュラム上の位置付け			
【C】 社会福祉主事任用資格：選択科目 【C】 保育士資格：選択科目			
(1) 内容			
・ 地域福祉の基本的考え方を次の内容に沿って講義していく。 1 人権尊重、2 権利擁護、3 自立支援、4 地域生活支援、5 地域移行、6 社会的包摂等を含む（順番は理解度に即して変更されることがある） ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。 ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。			
(2) 学びの意義と目標			
地域福祉は現今社会福祉〔広義〕の主要分野となっている。我々の地域生活の課題に住民として主体的に取組み、解決のために行動することが今求められる故である。現時点においてこうした意味を持つ地域福祉を、その具体的課題に応じて深く理解し、我々が地域住民ないし市民として果たすべき事柄を身に着けていくことを、さらに地域生活を通して実践できるようになることを目標にする。		準備学習(予習)	
		各項目ごとの関連文献やマスコミ記事等に触れ、地域に対する認識を深めておくことが望ましい、さらに授業時に配布するレジュメを用いて、次回の授業内容について予習をしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		予習で感じた問題意識を基礎にして授業を受けること。さらに毎回授業を振り返り、知識の確実化、関連事項の考察をすること。、	
		評価方法	
		(1) 平常点 20% (2) 授業態度・積極性 10% 座席票で確認し、本人の授業態度を評価。 (3) 復習小テスト 10% 適宜、復習コメント〔短文〕を書いてもらい、提出を求める。 (4) 予習小テスト 10% 適宜、今後の授業についてのヒントを与え、予習を目的としたコメント〔短文〕を書いてもらい提出を求める。 (5) 学期末筆記試験 50% 授業全体を対象に。学期末・論文形式の試験を行う。 <small>授業において配布されたプリントを読み前もって授業の予習をしておくこと。授業終了後、ノート、プリントを参照し、復習を行うことを求める。こうした予習復習が、最後に行われる学期末筆記試験、その他小テストの高い評価につながる。、</small>	
受講者に対する要望			
積極的に予習・復習をするなかで、上記目標に掲げた地域意識を養い、市民性を主体性へ向かって解放していくことを求める。			
学びのキーワード		教科書	
・ 地域福祉 ・ インクルージョン、エクスクルージョン ・ バリヤフリー、ユニバーサルデザイン ・ ノーマライゼーション ・ 住民主体		参考書	
		主としてスライドショウ（パワーポイントによる）授業。	

児童文学		CHCL-C-200
担当教員：松本 祐子、小室 陽子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C630100
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業説明。大人とは？ 子どもとは？</div> <div>02. 子どものままでいたい？：『ピーター・パン』『くまのプーさん』『星の王子さま』</div> <div>03. ブックトークの意義と方法</div> <div>04. 大人の時間、子どもの時間：『モモ』</div> <div>05. 悪い子たち：『長くつしたのピッピ』『窓ぎわのトットちゃん』</div> <div>06. 死ぬってどういうこと？：『夏の庭』『ずっとずっとだいすきだよ』</div> <div>07. チョコレートの魅力：『チャーリーとチョコレート工場』『チョコレート・アンダーグラウンド』</div> <div>08. 日本の神話：日本誕生の物語</div> <div>09. 日本の神話：神話から読み解く日本文化の源流</div> <div>10. 日本の昔話</div> <div>11. ブックトーク：子どもの年齢と読書</div> <div>12. ブックトーク：プレゼンテーションの工夫</div> <div>13. ブックトーク：テーマを意識した読書</div> <div>14. 書写：基本的な美しい文字の形</div> <div>15. 書写：毛筆で文字を書く</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 小学校教諭一種免許：必修科目</div> <div>【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目</div> <div>【C】 保育士資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、小学校学習指導要領に基づき、国語の学習内容の三つの領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に焦点を合わせて、教師として国語を教えるための基礎力を身につける。テーマを意識して物語を読む、的確な表現で形式の整ったエッセーを書く、日本の神話や昔話を聞いて簡潔に要約する、グループごとに工夫を凝らした魅力的なブックトークを行うなど、様々な角度から国語力を磨いていく。また、「生きる力」とは何かについて、国語的観点から考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>児童文学、神話、昔話など、様々な物語を材料として、読解力を養い、正しい言葉遣いで文章を書く力を身につける。さらに、保育者・教員として、子どもたちに読ませたい物語を自分で選び、魅力的なプレゼンテーションで紹介する能力を身につけることを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業時に指示する作文課題は必ず提出すること。ブックトーク発表のための作品選び、構想作り、シナリオ作り、グループ練習など、じゅうぶん準備をしておくこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>この授業は小免の必修、保育士・幼免の選択科目である。小免希望の学生は、国語科教育法を履修する前に必ずこの科目を取っておくこと。
</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で扱った作品を読んでおくこと。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 小学校学習指導要領「国語」</div> <div>・ 生きる力</div> <div>・ 日本の神話</div> <div>・ 日本の昔話</div> <div>・ ブックトーク</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 期末試験</div><div>50%</div></div> <div><div>(2) ブックトーク発表</div><div>20%</div></div> <div><div>(3) ブックトークのレポート</div><div>10%</div></div> <div><div>(4) 宿題提出と授業内の小レポート</div><div>20%</div></div>
		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div>

児童文学		CHCL-C-200
担当教員：松本 祐子、小室 陽子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C630105
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業説明。大人とは？ 子どもとは？ 02. 子どものままでいたい？：『ピーター・パン』『くまのプーさん』『星の王子さま』 03. ブックトークとは何か？ 04. 大人の時間、子どもの時間：『モモ』 05. 悪い子たち：『長くつしたのピッピ』『窓ぎわのトットちゃん』 06. 死ぬってどういうこと？：『夏の庭』『ずっとずっとだいすきだよ』 07. チョコレートの魅力：『チャーリーとチョコレート工場』『チョコレート・アンダーグラウンド』 08. 日本の神話：日本誕生の物語 09. 日本の神話：神話から読み解く日本文化の源流 10. 日本の昔話 11. ブックトーク：子どもの年齢と読書 12. ブックトーク：プレゼンテーションの工夫 13. ブックトーク発表：テーマを意識した読書 14. 書写：基本的な美しい文字の形 15. 書写：毛筆で文字を書く</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業時に指示する作文課題は必ず提出すること。ブックトーク発表のための作品選び、構想作り、シナリオ作り、グループ練習など、じゅうぶん準備をしておくこと。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目 【C】 保育士資格：選択科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で扱った作品を読んでおくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 期末試験 50% (2) ブックトーク発表 20% (3) ブックトークのレポート 10% (4) 宿題提出と授業内のレポート 20%</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、小学校学習指導要領に基づき、国語の学習内容の三つの領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に焦点を合わせて、教師として国語を教えるための基礎力を身につける。テーマを意識して物語を読む、的確な表現で形式の整ったエッセーを書く、日本の神話や昔話を聞いて簡潔に要約する、グループごとに工夫を凝らした魅力的なブックトークを行うなど、様々な角度から国語力を磨いていく。また、「生きる力」とは何かについて、国語的観点から考える。</div>	<div>学びのキーワード</div> <div>・ 小学校学習指導要領「国語」 ・ 生きる力 ・ 日本の神話 ・ 日本の昔話 ・ ブックトーク</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>児童文学、神話、昔話など、様々な物語を材料として、読解力を養い、正しい言葉遣いで文章を書く力を身につける。さらに、保育者・教員として、子どもたちに読ませたい物語を自分で選び、魅力的なプレゼンテーションで紹介する能力を身につけることを目標とする。</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>この授業は小免の必修、保育士・幼免の選択科目である。小免希望の学生は、国語科教育法を履修する前に必ずこの科目を取っておくこと。
</div>		

SOCI-C-141

担当教員：川瀬 敏行

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1C630210

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

小学校社会科の目標や各学年の学習内容・指導事例研究を中心に上げる。そのほか、学習指導要領と社会科、社会科教育の歩み、小・中学校社会科の関連、社会科指導の基礎と課題等についても研究する。

(2) 学びの意義と目標

小学校社会科の目標や学習内容を中心に学び、小学校教員免許取得で求められる基本的なことについての理解を目標とする。

受講者に対する要望

教師を目指す自覚をもって積極的に学び、資質・能力の基礎を向上させていく努力を望む。

学びのキーワード

・ 小学校社会科

・ 社会科教育の歩み

・ 社会科の目標

・ 社会科の学習内容と研究

・ 社会科指導の基礎と課題

授業計画

01. 授業計画及び「社会科」について

02. 社会科教育の歩み（１）：小学校社会科の歴史

03. 社会科教育の歩み（２）：社会科学学習指導要領・学力観の変遷

04. 学習指導要領と社会科

05. 社会科の目標について：教科目標・各学年目標と研究

06. 社会科の学習内容＜３・４年（１）身近な地域や市（２）地域の人々の生産や販売＞と指導事例研究

07. 社会科の学習内容＜３・４年（３）飲料水の確保や廃棄物の処理（４）災害や事故の防止＞と指導事例研究

08. 社会科の学習内容＜３・４年（５）地域の人々の生活、先人の働き（６）県の様子＞と指導事例研究

09. 社会科の学習内容＜５年（１）国土の自然（２）我が国の農業＞と指導事例研究

10. 社会科の学習内容＜５年（３）我が国の工業生産（４）情報産業＞と指導事例研究

11. 社会科の学習内容＜６年（１）我が国の歴史＞と指導事例研究

12. 社会科の学習内容＜６年（２）我が国の政治の働き（３）世界の中の日本の役割＞と指導事例研究

13. 社会科指導の基礎と課題研究（１）：各種資料・地図・地球儀の活用

14. 社会科指導の基礎と課題研究（２）：小・中学校の社会科の関連

15. まとめ

準備学習(予習)

教育全般、社会科教育に関しての情報を集め、「新聞を読んで」のレポート提出及び発表の準備をしておくこと。

準備学習(復習)

「新聞を読んで」の発表から、教育全般及び社会科授業に参考になる事柄について、「社会」授業内容との関連を確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

35%

(2) レポート

15%

(3) 理解度の確認

50%

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度。欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合、減点対象となる。上記を基準に総合的に判断します。

教科書

文部科学省、文科省=『小学校学習指導要領解説 社会編』（東洋館出版社）ISBN978-4491-02372-4

参考書

算数		MATH-C-141
担当教員： 齋藤 範雄		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C630315
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、教育課程の変遷</div> <div>02. 学習指導要領と算数科</div> <div>03. 数概念の形成とその指導（数）</div> <div>04. 数概念の形成とその指導（加法・減法）</div> <div>05. 数概念の形成とその指導（乗法・除法）</div> <div>06. 量概念の形成とその指導（長さ）</div> <div>07. 量概念の形成とその指導（面積 他）</div> <div>08. 図形概念の形成とその指導（図形の観察と構成）</div> <div>09. 図形概念の形成とその指導（平面図形と論理）</div> <div>10. 図形概念の形成とその指導（立体図形の見取り図・展開図）</div> <div>11. 関数概念の形成とその指導（関数の考えとその表現）</div> <div>12. 関数概念の形成とその指導（比例）</div> <div>13. 関数概念の形成とその指導（反比例 他）</div> <div>14. 確率・統計概念の形成とその指導（資料の整理 場合の数）</div> <div>15. まとめ</div>	
【C】 教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目 【C】 保育士資格：選択科目		
(1) 内容	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業前に、教科書を読み、内容を理解しておくこと。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>授業後、学習内容について確認しておくこと。</div> <div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への参加態度や意欲30%</div><div>(2) 小テスト、レポート等の提出物30%</div><div>(3) 確認テスト40%</div></div> <div>毎時間最後に行う「理解度確認のまとめ」のレポートを重視する。</div>	
小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。 教材研究を通して、よりよい授業のあり方を研究する。		
(2) 学びの意義と目標		
算数指導のねらいを理解するとともに、基礎的・基本的な知識と技能を習得し実際の指導に活かせるようにする。		
受講者に対する要望	<div>教科書</div> <div>文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）</div> <div>参考書</div>	
児童の「理解の様相や発達段階」を踏まえて、算数科の「指導、実践にあたる」という意味を理解すること。		
学びのキーワード		
・ 学習指導要領 ・ 教材の理解と研究		

算数		MATH-C-141
担当教員： 齋藤 範雄		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C630320
学部教育の関連目	授業計画	
【C】 教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目 【C】 保育士資格：選択科目		
(1) 内容	01. オリエンテーション、教育課程の変遷 02. 学習指導要領と算数科 03. 数概念の形成とその指導（数） 04. 数概念の形成とその指導（加法・減法） 05. 数概念の形成とその指導（乗法・除法） 06. 量概念の形成とその指導（長さ） 07. 量概念の形成とその指導（面積 他） 08. 図形概念の形成とその指導（平面図形） 09. 図形概念の形成とその指導（立体図形） 10. 図形概念の形成とその指導（立体図形の観察と構成） 11. 関数概念の形成とその指導（関数の考えとその表現） 12. 関数概念の形成とその指導（比例） 13. 関数概念の形成とその指導（反比例 他） 14. 確率・統計概念の形成とその指導（資料の整理） 15. まとめ	
小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。 教材研究を通して、よりよい授業のあり方を研究する。		
(2) 学びの意義と目標		
算数指導のねらいを理解するとともに、算数指導の基礎的・基本的な知識と技能を習得し、その実践化を図れるようにする。	準備学習(予習)	
	授業前に、教科書を読み、内容を理解しておくこと。	
	準備学習(復習)	
	授業後、学習内容について確認しておくこと。	
受講者に対する要望	評価方法	
児童の「理解の様相や発達段階」を踏まえて、算数科の「指導、実践にあたる」という意味を理解すること。	(1) 授業への参加態度や意欲 30% (2) 小テスト、レポート等の提出物 30% (3) 確認テスト 40% 30%	
	毎時間最後に行う「理解度確認のまとめ」のレポートを重視する。	
学びのキーワード	教科書	
・ 学習指導要領 ・ 教材の理解と研究	文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）	
	参考書	

理科		SCED-C-141
担当教員：丸山 綱男		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C630425
学部教育の関連目		授業計画
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】小学校教諭一種免許：必修科目		
(1) 内容		01. オリエンテーション 小学校理科の概要 02. 小学校理科の目標について 03. 小学校理科の学習内容（「A物質・エネルギー」「B生命・地球」） 04. 小学校理科観察・実験の安全指導・事故防止について 05. 小学校第3学年理科の観察・実験1（電気の通り道） 06. 小学校第3学年理科の観察・実験2（ゴムのはたらき） 07. 小学校第4学年理科の観察・実験1（月と星） 08. 小学校第4学年理科の観察・実験2（水と温度） 09. 理科授業展開における観察・実験 10. 小学校第5学年理科の観察・実験1（植物の発芽、成長） 11. 小学校第5学年理科の観察・実験2（電流の働き） 12. 小学校第6学年理科の観察・実験1（燃焼の仕組み） 13. 小学校第6学年理科の観察・実験2（人の体のつくりと働き） 14. 小学校第6学年理科の観察・実験3（水溶液の性質） 15. まとめ
本授業では、学習指導要領を参照しながら、小学校理科教育の目標、内容についての基本的な理解を図る。自然の対象の特性や児童の構築する見方や考え方に基づく「A物質・エネルギー」「B生命・地球」の違いを認識した上で、児童の興味・関心や新たな知的探求心をどのように高めるべきか、理科が配当されている学年の観察・実験を体験する。また、実験器具の基本操作を正しく習得し、安心・安全な理科指導を身につけ事故防止を図る。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
理科において基礎的・基本的な知識・技能は、実生活における活用や論理的な思考力の基盤として重要な意味を持つ。本授業では、受講生自身が知的好奇心や探究心をもって、自然に親しみ、目的意識をもった観察・実験を行って学習内容を実生活と関連付けて科学的な見方や考え方を養うことを重視する。理科のA・B区分の特徴を把握し、理科教材や理科授業についての見識を深め、何より受講生自身が理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるようにする。 また、理科として現代社会における環境問題にもふれ、理科を通して人間活動と身の回りの環境に対する科学的な認識を形成させること、人間活動を含めた自然事象に対する豊かな感受性を養わせること等、理科指導の充実を図る。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
・小学校の理科指導に必要な基本的な技能と心構えを学ぶこと。 ・子どもを理科好きにするための自然事象へのかかわり方を学ぶこと。 		
学びのキーワード		教科書
・小学校理科の目標 ・学習内容A・B区分 ・観察・実験の体験 ・事故防止		
		参考書

担当教員：市村 和子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C630530

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：選択科目

(1) 内容

生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をとおして学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

平成元年(1989)に小学校低学年に新設された生活科の経緯とその背景、趣旨について正しく理解するところに学ぶ意義がある。
生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気づく感性を養いたい。

受講者に対する要望

学習ルールを守り、マナー向上に留意すること。
小グループでの活動を行うため、対人関係力の育成に努めること。

学びのキーワード

- ・具体的な活動や体験
- ・子どもの思いや願い
- ・気付き
- ・幼保小の連携

授業計画

01. オリエンテーション、生活科新設の経緯と趣旨
02. 生活科の目標について
03. 生活科の内容について
04. 生活科の指導計画について
05. 生活科の学習指導について
06. 事例研究（「探検」の授業）
07. 探検活動1（学校探検）
08. 探検活動2（学校マップ作り）
09. 探検活動のまとめ、情報交換
10. 事例研究（「ものの製作」の授業）
11. 製作活動1（おもちゃ作り）
12. 製作活動2（おもちゃの紹介）
13. 生活科の教材開発、環境構成について
14. 幼稚園・保育所等と小学校の連携について
15. 生活科教育のまとめ

準備学習(予習)

次時の予告内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の授業内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート、作品等 | 30% |
| (3) テスト | 40% |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教科書

文部科学省 『小学校学習指導要領解説生活編』（日本文教出版）

参考書

生活		SOCI-C-142	
担当教員：市村 和子			
学期：週間授		科目：専門科目	必修・選択：選択科目
単位：2		コード：1C630535	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. オリエンテーション、生活科新設の経緯と趣旨 02. 生活科の目標について 03. 生活科の内容について 04. 生活科の指導計画について 05. 生活科の学習指導について 06. 事例研究（「ものの製作」の授業） 07. 製作活動1（おもちゃ作り） 08. 製作活動2（おもちゃの紹介） 09. 事例研究（「探検」の授業） 10. 探検活動1（学校探検） 11. 探検活動2（学校マップ作り） 12. 探検活動のまとめ、情報交換 13. 生活科の教材開発、環境構成について 14. 幼稚園・保育所等と小学校の連携について 15. 生活科教育のまとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【C】小学校教諭一種免許：必修科目 【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目 【C】保育士資格：選択科目			
(1) 内容			
生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をとおして学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標			
平成元年(1989)に小学校低学年に新設された生活科の経緯とその背景、趣旨について正しく理解するところに学ぶ意義がある。 生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気づく感性を養いたい。		準備学習(予習)	
		次時の予告内容について調べておくこと	
		準備学習(復習)	
		本時の授業内容の整理（プリント、ノート等）	
		評価方法	
		(1) 平常点 30% (2) レポート、作品等 30% (3) テスト 40%	
		毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。	
受講者に対する要望		教科書	
学習ルールを守り、マナー向上に留意すること。 小グループでの活動を行うため、対人関係力の育成に努めること。		文部科学省 『小学校学習指導要領解説生活編』（日本文教出版）	
学びのキーワード		参考書	
・具体的な活動や体験 ・子どもの思いや願い ・気付き ・幼保小の連携			

家庭		SOCI-C-143											
担当教員：馬場 由子、広瀬 歩美													
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C630640											
学部教育の関連目		授業計画											
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. 授業ガイダンス、家庭科教育の基本理念 02. 学校教育における家庭科の位置と意義 03. 学習指導要領の内容と学習活動 04. なぜ衣服を着るのだろう 05. 裁縫実習（針刺し制作） 06. 展覧会（仲間からの学び） 07. なぜ食べるのだろう 08. サスティナブルクッキング 09. 調理実習（ご飯焚き） 10. 表示を読んでみよう 11. サスティナブルライフ 12. 教科書に出てくる学習活動と学び方の工夫 13. 生きる力を育てる題材開発 14. オリジナル題材発表会 15. まとめ											
カリキュラム上の位置付け													
【C】小学校教諭一種免許：必修科目													
(1) 内容													
自分の生活と持続可能な地球環境の関わりを考える学習を通し、生活者としての自覚と判断力、実践力を育てる。持続可能な地球環境の視点を取り入れた「サスティナブルクッキング」等の授業実践も紹介する。主体的に判断し、行動できる生活者を育てる授業実践を基に、実習や模擬授業も行う。													
(2) 学びの意義と目標													
日常生活を見つめ直し、家庭科の学びを通して未来を担う自立した生活者を育てることを目指す。調理や裁縫を生活者に必要な技や知恵として評価し直し、かしこい消費者として「選ぶ目」と「作る手」を育てるため、炊飯実習と針刺し制作を行う。		準備学習(予習)											
		・指導要領と家庭科の教科書を精読し、特徴をつかんでおく。 ・家庭科で育てたい力を日々の生活の中で探しておく。 ・裁縫用具、調理実習用エプロンと三角巾を準備しておく。											
		準備学習(復習)											
		・リアクションペーパーをファイルしてポートフォリオ作成すること。 ・講義で出された課題は次週に提出すること。											
		評価方法											
		<table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>15%</td></tr><tr><td>(2) リアクションペーパー</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 提出物</td><td>15%</td></tr><tr><td>(4) 模擬授業</td><td>20%</td></tr><tr><td>(5) 試験</td><td>20%</td></tr></table> <small>毎回提出するリアクションペーパーで出席確認。学んだことを記録し、自分の考えを書いて提出することが基本。生活レポート（B4用紙1枚）を書き、1人1回発表予定。</small>		(1) 授業への参加度	15%	(2) リアクションペーパー	30%	(3) 提出物	15%	(4) 模擬授業	20%	(5) 試験	20%
(1) 授業への参加度	15%												
(2) リアクションペーパー	30%												
(3) 提出物	15%												
(4) 模擬授業	20%												
(5) 試験	20%												
受講者に対する要望													
指導要領と教科書の精読。授業は学びの種を蒔くこと。生きることを楽しむ中で、毎日の生活が教材研究。アンテナをたてて情報収集し、引き出しを増やす。家庭科を通して子ども達に伝えたいことを考える。													
学びのキーワード		教科書											
・自分の理念をもつ ・家庭科で育てたい力を考える ・子どもと共に学びをつくる ・学びの意味を考える ・持続可能な地球環境の視点をもつ		桜井 純子 『小学校わたしたちの家庭科（5・6）』（開隆堂出版） 文部科学省、文科省= 『小学校学習指導要領解説 家庭編』（東洋館出版社） 馬場 由子 『新版「身近な消費生活と環境」教師用』（地域教材社）											
		参考書											

音楽・器楽A		MUSI-C-143
担当教員：池上 真理子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C630800
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】保育士資格：選択科目	01. レベル・チェック、目標設定、課題決定 02. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（1） 03. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（2） 04. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（3） 05. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（1） 06. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（2） 07. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（3） 08. 前半のまとめ 09. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（1） 10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（2） 11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（3） 12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（1） 13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（2） 14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（3） 15. まとめ（発表）	
(1) 内容		
小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つことのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。そのために必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。	与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してくること。わからない箇所はレッスンで質問すること。	
受講者に対する要望	準備学習(復習)	
実技が中心の科目なので、レッスンで注意されたことを基に、毎回課題をしっかりと練習し、準備してくること。どのようなレベルの人でも、小さな積み重ねで着実に力が付いていくので、目標をしっかりと持って、日々の練習を大切にしてほしい。	レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかりと練習すること。	
学びのキーワード	評価方法	
・ピアノ ・音楽教育 ・教職 ・弾き歌い	(1) 発表 50% 最後の授業内で、仕上げた課題を発表する (2) 平常点 50% 毎回のレッスンに向けて、十分に準備、練習しているか、積極的に取り組んでいるかを評価する。	
	教科書	
	各学生のレベル、目的に即した課題を指示する。	
	参考書	

音楽・器楽A		MUSI-C-143
担当教員：池上 真理子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630801
学部教育の関連目		授業計画
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】保育士資格：選択科目		01. レベル・チェック、目標設定、課題決定 02. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（1） 03. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（2） 04. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（3） 05. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（1） 06. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（2） 07. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（3） 08. 前半のまとめ 09. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（1） 10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（2） 11. 読譜、技術の基にして、より豊かな表現力をめざす（3） 12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（1） 13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（2） 14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（3） 15. まとめ（発表）
(1) 内容		準備学習(予習)
小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。		
(2) 学びの意義と目標		
幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つことのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。そのために必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。		与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してくること。わからない箇所はレッスンで質問すること。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
		レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかりと練習すること。
		評価方法
学びのキーワード		(1) 発表 50% 最後の授業内で、仕上げた課題を発表する
		(2) 平常点 50% 毎回のレッスンに向けて、十分に準備、練習しているか、積極的に取り組んでいるかを評価する。
		教科書
		各学生のレベル、目的に即した課題を指示する。
		参考書

音楽・器楽A		MUSI-C-143
担当教員：池上 真理子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C630802
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】保育士資格：選択科目		
(1) 内容	01. レベル・チェック、目標設定、課題決定 02. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（1） 03. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（2） 04. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（3） 05. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（1） 06. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（2） 07. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（3） 08. 前半のまとめ 09. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（1） 10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（2） 11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（3） 12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（1） 13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（2） 14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（3） 15. まとめ（発表）	
小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。		
(2) 学びの意義と目標		
幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つことのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。そのために必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。	準備学習(予習)	
	与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してくること。わからない箇所はレッスンで質問すること。	
	準備学習(復習)	
	レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかり練習すること。	
	評価方法	
	(1) 発表	50% 最後の授業内で、仕上げた課題を発表する
	(2) 平常点	50% 毎回のレッスンに向けて、十分に準備、練習しているか、積極的に取り組めているかを評価する。
受講者に対する要望	教科書	
実技が中心の科目なので、レッスンで注意されたことを基に、毎回課題をしっかりと練習し、準備してくること。どのようなレベルの人でも、小さな積み重ねで着実に力が付いていくので、目標をしっかりと持って、日々の練習を大切にしてほしい。		
学びのキーワード		
・ピアノ ・音楽教育 ・教職 ・弾き歌い	各学生のレベル、目的に即した課題を指示する。	
	参考書	

音楽・器楽A		MUSI-C-143
担当教員： 阪 まどか		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630810
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等） 02. ピアノ演奏の実践①（個々の進度に合わせたレッスンを行う） 03. ピアノ演奏の実践②（以下同じ） 04. ピアノ演奏の実践③ 05. ピアノ演奏の実践④ 06. ピアノ演奏の実践⑤ 07. ピアノ演奏の実践⑥ 08. ピアノ演奏の実践⑦ 09. ピアノ演奏の実践⑧ 10. ピアノ演奏の実践⑨ 11. ピアノ演奏の実践⑩（発表に向けての課題曲選定） 12. ピアノ演奏の実践⑪（発表に向けての課題曲の練習） 13. ピアノ演奏の実践⑫（発表に向けての課題曲の練習） 14. ピアノ演奏の実践⑬（発表に向けての課題曲の練習） 15. まとめ（発表）</div>	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】保育士資格：選択科目		
(1) 内容	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回課題を与えるので次回のレッスンまでにしっかりと取り組んでくること。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>授業で指摘されたことを必ず復習し、理解しておくこと。
一度仕上げた曲はレパートリーとするため、忘れないよう練習しておくこと。</div> <div>評価方法</div> <div><div>(1) 学習態度50%</div><div>(2) 発表50%</div></div> <div>毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。 ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。</div>	
ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。 基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。		
(2) 学びの意義と目標		
保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。 その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。 この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
受講者に対する要望		
実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。		
学びのキーワード		
<div><div>・ピアノ</div><div>・音楽</div><div>・弾き歌い</div><div>・コード</div></div>		

音楽・器楽A		MUSI-C-143			
担当教員： 阪 まどか					
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630811			
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等） 02. ピアノ演奏の実践①（個々の進度に合わせたレッスンを行う） 03. ピアノ演奏の実践②（以下同じ） 04. ピアノ演奏の実践③ 05. ピアノ演奏の実践④ 06. ピアノ演奏の実践⑤ 07. ピアノ演奏の実践⑥ 08. ピアノ演奏の実践⑦ 09. ピアノ演奏の実践⑧ 10. ピアノ演奏の実践⑨ 11. ピアノ演奏の実践⑩（発表に向けての課題曲選定） 12. ピアノ演奏の実践⑪（発表に向けての課題曲の練習） 13. ピアノ演奏の実践⑫（発表に向けての課題曲の練習） 14. ピアノ演奏の実践⑬（発表に向けての課題曲の練習） 15. まとめ（発表）</div>				
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 保育士資格：選択科目</div>					
<div>(1) 内容</div> <div>ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。 基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。</div>					
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。 その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。 この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回課題を与えるので次回のレッスンまでにしっかりと取り組んでくること。</div>				
<div>受講者に対する要望</div> <div>実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で指摘されたことを必ず復習し、理解しておくこと。
一度仕上げた曲はレパートリーとするため、忘れないよう練習しておくこと。</div>				
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 学習態度</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 発表</td><td>50%</td></tr></table> <div>毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。 ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。</div>		(1) 学習態度	50%	(2) 発表
(1) 学習態度	50%				
(2) 発表	50%				
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ ピアノ・ 音楽・ 弾き歌い・ コード</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>			

音楽・器楽A		MUSI-C-143
担当教員： 阪 まどか		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630812
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等） 02. ピアノ演奏の実践①（個々の進度に合わせたレッスンを行う） 03. ピアノ演奏の実践②（以下同じ） 04. ピアノ演奏の実践③ 05. ピアノ演奏の実践④ 06. ピアノ演奏の実践⑤ 07. ピアノ演奏の実践⑥ 08. ピアノ演奏の実践⑦ 09. ピアノ演奏の実践⑧ 10. ピアノ演奏の実践⑨ 11. ピアノ演奏の実践⑩（発表に向けての課題曲選定） 12. ピアノ演奏の実践⑪（発表に向けての課題曲の練習） 13. ピアノ演奏の実践⑫（発表に向けての課題曲の練習） 14. ピアノ演奏の実践⑬（発表に向けての課題曲の練習） 15. まとめ（発表）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 保育士資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。 基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。 その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。 この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回課題を与えるので次回のレッスンまでにしっかりと取り組んでくること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で指摘されたことを必ず復習し、理解しておくこと。
一度仕上げた曲はレパートリーとするため、忘れないよう練習しておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 学習態度 50% (2) 発表 50%</div> <div>毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。 ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ ピアノ ・ 音楽 ・ 弾き歌い ・ コード</div>		

担当教員：笠井 かほる

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C630850

学部教育の関連目

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

音楽を通し、感性豊かな表現活動が、こどもたちと楽しくできるような保育者・教員を目指し、そのために必要な音楽的基礎技能を習得する。＜br /＞主にピアノ演奏の習得を通し、音楽に関する基礎知識、歌唱伴奏法を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

実習や保育、教育現場で応用できる実践的なコード伴奏の習得は、ピアノ初心者、経験者の差なく学習でき、ポップスなどの弾き歌いに発展できる。＜br /＞演習を通して音楽の楽しさを学生自身が感じながら、音楽的技能の向上をはかることを目標とする。

受講者に対する要望

演習科目で、グループレッスンであり、個人的な指導も時間に制限が有るため、効率のよい授業、お互いの向上のために事前の練習は必須である。

学びのキーワード

- ・豊かな感性と表現力
- ・コード伴奏の習得
- ・歌唱曲の伴奏
- ・保育、教育現場での実践的活用法

授業計画

01. オリエンテーション、保育や教育現場での音楽の位置づけ
02. 基礎的な楽典、読譜、リズム
03. ピアノの構造、奏法、タッチ、音色について、
04. 保育、教育現場での歌唱法、発声、コードについて
05. 歌唱教材の演習・コードの基礎
06. 歌唱教材の演習・コードの基礎
07. 歌唱教材の演習・コードの基礎
08. コード伴奏による教材の演習、歌詞理解と作曲者について
09. コード伴奏による教材の演習、歌詞理解と作曲者について
10. 中間テスト
11. 保育・教育現場での教材の弾き歌い
12. 保育・教育現場での教材の弾き歌い
13. 保育・教育現場での教材の弾き歌い
14. コード伴奏によるポップスの弾き歌いへの応用 1
15. コード伴奏によるポップスの弾き歌いへの応用 2 期末テスト

準備学習(予習)

事前の練習なしでの授業参加は認めない。＜br /＞コード伴奏の習得には一定の練習が必要であり、楽曲演奏能力を高めるためにも、学生自身が自覚を持った練習をして授業に臨むこと。

準備学習(復習)

実習、就職試験、保育・教職現場でのレパートリーになるよう復讐を心がけてほしい。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 出席 | 25% |
| (2) 平常点 | 25% |
| (3) 中間・期末テスト | 50% |

教科書

参考書

音楽・器楽A			
担当教員： 渋谷 みどり			
学期： 週間授 科目：		必修・選択： 選択科目	単位： 1 コード： 1C630860
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める。 02. ピアノ演奏の基礎（1） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方① 03. ピアノ演奏の基礎（2） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方② 04. ピアノ演奏の基礎（3） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方③ 05. ピアノ演奏の基礎（4） ペダルの使い方 06. ピアノ演奏の実践（1） 曲の構成や音楽用語について① 07. ピアノ演奏の実践（2） 曲の構成や音楽用語について② 08. ピアノ演奏の実践（3） 自分がイメージする演奏表現を考える。 09. ピアノ演奏の実践（4） 自分がイメージする演奏表現を考える② 10. ピアノ演奏のまとめ（1） まとめでの発表の曲を決める 11. ピアノ演奏のまとめ（2） 譜読みの確認 12. ピアノ演奏のまとめ（3） 演奏の表現① 曲の構成や音楽用語 13. ピアノ演奏のまとめ（4） 演奏の表現② どのように弾きたいか考える。 14. ピアノ演奏のまとめ（5） 曲の仕上げ 15. まとめ クラスメイトの前で演奏する	
(1) 内容			
音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎をさらに深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。 この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重要視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や同様の伴奏等で授業を進める。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面で音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。		渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合には、なにがわからないのかを明確にしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにすること。	
受講者に対する要望		評価方法	
予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しずつでも積極的に練習してくることを希望する。		(1) 平常点 50% 課題に対する取り組み度と達成度 (2) まとめと発表 50%	
		毎回、課題を練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に加算されない。欠席は減点の対象となる。	
学びのキーワード		教科書	
・ピアノ ・音楽		授業の中で指示する。	
		参考書	

音楽・器楽A			
担当教員： 渋谷 みどり			
学期： 週間授 科目：		必修・選択： 選択科目	単位： 1 コード： 1C630861
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める。 02. ピアノ演奏の基礎（1） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方① 03. ピアノ演奏の基礎（2） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方② 04. ピアノ演奏の基礎（3） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方③ 05. ピアノ演奏の基礎（4） ペダルの使い方 06. ピアノ演奏の実践（1） 曲の構成や音楽用語について① 07. ピアノ演奏の実践（2） 曲の構成や音楽用語について② 08. ピアノ演奏の実践（3） 自分がイメージする演奏表現を考える。 09. ピアノ演奏の実践（4） 自分がイメージする演奏表現を考える② 10. ピアノ演奏のまとめ（1） まとめでの発表の曲を決める 11. ピアノ演奏のまとめ（2） 譜読みの確認 12. ピアノ演奏のまとめ（3） 演奏の表現① 曲の構成や音楽用語 13. ピアノ演奏のまとめ（4） 演奏の表現② どのように弾きたいか考える。 14. ピアノ演奏のまとめ（5） 曲の仕上げ 15. まとめ クラスメイトの前で演奏する	
(1) 内容			
音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎をさらに深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。 この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重要視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や同様の伴奏等で授業を進める。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面で音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。		渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合には、なにがわからないのかを明確にしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにすること。	
受講者に対する要望		評価方法	
予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しずつでも積極的に練習してくることを希望する。		(1) 平常点 50% 課題に対する取り組み度と達成度 (2) まとめと発表 50%	
		毎回、課題を練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に加算されない。欠席は減点の対象となる。	
学びのキーワード		教科書	
・ピアノ ・音楽		授業の中で指示する。	
		参考書	

音楽・器楽A			
担当教員： 渋谷 みどり			
学期： 週間授 科目：		必修・選択： 選択科目	単位： 1 コード： 1C630862
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. ピアノの進捗をチェックして、課題や目標を決める。 02. ピアノ演奏の基礎（1） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方① 03. ピアノ演奏の基礎（2） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方② 04. ピアノ演奏の基礎（3） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方③ 05. ピアノ演奏の基礎（4） ペダルの使い方 06. ピアノ演奏の実践（1） 曲の構成や音楽用語について① 07. ピアノ演奏の実践（2） 曲の構成や音楽用語について② 08. ピアノ演奏の実践（3） 自分がイメージする演奏表現を考える。 09. ピアノ演奏の実践（4） 自分がイメージする演奏表現を考える② 10. ピアノ演奏のまとめ（1） まとめでの発表の曲を決める 11. ピアノ演奏のまとめ（2） 譜読みの確認 12. ピアノ演奏のまとめ（3） 演奏の表現① 曲の構成や音楽用語 13. ピアノ演奏のまとめ（4） 演奏の表現② どのように弾きたいか考える。 14. ピアノ演奏のまとめ（5） 曲の仕上げ 15. まとめ クラスメイトの前で演奏する	
(1) 内容			
音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎をさらに深め、それぞれの進捗に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。 この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重要視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や同様の伴奏等で授業を進める。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面で音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。		渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合には、なにがわからないのかを明確にしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにすること。	
受講者に対する要望		評価方法	
予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しずつでも積極的に練習してくることを希望する。		(1) 平常点 50% 課題に対する取り組み度と達成度 (2) まとめと発表 50%	
		毎回、課題を練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に加算されない。欠席は減点の対象となる。	
学びのキーワード		教科書	
・ピアノ ・音楽		授業の中で指示する。	
		参考書	

音楽・器楽A														
担当教員：塚原 晴美														
学期： 週間授	科目：	必修・選択： 単位： 1 コード： 1C630870												
学部教育の関連目		授業計画 01. 各学生のレベル調査・テキストの指示 02. 基礎理論：音程と音階 03. 基礎理論：コードネームの概要 04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い 05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い 06. 短調、マイナーコード 07. セブンスコード：日常生活の歌 08. セブンスコード：季節の歌 09. 主要三和音、スリーコードの付け方 10. スリーコードの応用 11. その他のコードⅠ 12. その他のコードⅡ 13. ピアノソロ曲演習Ⅰ 14. ピアノソロ曲演習Ⅱ 15. 発表、まとめ												
カリキュラム上の位置付け														
(1) 内容 小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。														
(2) 学びの意義と目標 小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。		準備学習(予習) 課題曲の予備練習												
		準備学習(復習) 指摘された点の修正練習												
受講者に対する要望 児童教育、幼児教育における音楽教育の必要性に対して強い意識を持って、授業に臨んで下さい。		評価方法 <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td><td>課題曲の完成度</td></tr><tr><td>(2) 努力点</td><td>30%</td><td>予復習の評価</td></tr><tr><td>(3) 習熟度</td><td>20%</td><td>練習曲数</td></tr><tr><td>(4) 発表</td><td>20%</td><td>最終段階での演奏評価</td></tr></table> 全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。	(1) 平常点	30%	課題曲の完成度	(2) 努力点	30%	予復習の評価	(3) 習熟度	20%	練習曲数	(4) 発表	20%	最終段階での演奏評価
(1) 平常点	30%	課題曲の完成度												
(2) 努力点	30%	予復習の評価												
(3) 習熟度	20%	練習曲数												
(4) 発表	20%	最終段階での演奏評価												
学びのキーワード ・ 音楽 ・ ピアノ ・ コード ・ 児童教育 ・ 幼児教育		教科書 個々の学生の能力に応じてプリントを配布 参考書												

音楽・器楽A												
担当教員： 塚原 晴美												
学期： 週間授 科目：		必修・選択： 単位： 1 コード： 1C630871										
学部教育の関連目		授業計画 01. 各学生のレベル調査・テキストの指示 02. 基礎理論：音程と音階 03. 基礎理論：コードネームの概要 04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い 05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い 06. 短調、マイナーコード 07. セブンスコード：日常生活の歌 08. セブンスコード：季節の歌 09. 主要三和音、スリーコードの付け方 10. スリーコードの応用 11. その他のコードⅠ 12. その他のコードⅡ 13. ピアノソロ曲演習Ⅰ 14. ピアノソロ曲演習Ⅱ 15. 発表、まとめ										
カリキュラム上の位置付け												
(1) 内容 小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。												
(2) 学びの意義と目標 小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。		準備学習(予習) 課題曲の予備練習										
受講者に対する要望 児童教育、幼児教育における音楽教育の必要性に対して強い意識を持って、授業に臨んで下さい。		準備学習(復習) 指摘された点の修正練習										
		評価方法 <table><tr><td>(1) 平常点Ⅰ</td><td>30%</td><td>課題曲の完成度</td></tr><tr><td>(2) 努力点</td><td>30%</td><td>予復習の評価</td></tr><tr><td>(3) 習熟度</td><td>20%</td><td>練習曲数</td></tr><tr><td>(4) 発表</td><td>20%</td><td>最終段階での演奏評価</td></tr></table> 全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。	(1) 平常点Ⅰ	30%	課題曲の完成度	(2) 努力点	30%	予復習の評価	(3) 習熟度	20%	練習曲数	(4) 発表
(1) 平常点Ⅰ	30%	課題曲の完成度										
(2) 努力点	30%	予復習の評価										
(3) 習熟度	20%	練習曲数										
(4) 発表	20%	最終段階での演奏評価										
学びのキーワード ・ 音楽 ・ ピアノ ・ コード ・ 児童教育 ・ 幼児教育		教科書 個々の学生の能力に応じてプリントを配布 参考書										

音楽・器楽A														
担当教員： 塚原 晴美														
学期： 週間授	科目：	必修・選択： 単位： 1 コード： 1C630872												
学部教育の関連目		授業計画 01. 各学生のレベル調査・テキストの指示 02. 基礎理論：音程と音階 03. 基礎理論：コードネームの概要 04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い 05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い 06. 短調、マイナーコード 07. セブンスコード：日常生活の歌 08. セブンスコード：季節の歌 09. 主要三和音、スリーコードの付け方 10. スリーコードの応用 11. その他のコードⅠ 12. その他のコードⅡ 13. ピアノソロ曲演習Ⅰ 14. ピアノソロ曲演習Ⅱ 15. 発表、まとめ												
カリキュラム上の位置付け														
(1) 内容 小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。														
(2) 学びの意義と目標 小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。		準備学習(予習) 課題曲の予備練習												
		準備学習(復習) 指摘された点の修正練習												
受講者に対する要望 児童教育、幼児教育における音楽教育の必要性に対して強い意識を持って、授業に臨んで下さい。		評価方法 <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td><td>課題曲の完成度</td></tr><tr><td>(2) 努力点</td><td>30%</td><td>予復習の評価</td></tr><tr><td>(3) 習熟度</td><td>20%</td><td>練習曲数</td></tr><tr><td>(4) 発表</td><td>20%</td><td>最終段階での演奏評価</td></tr></table> 全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。	(1) 平常点	30%	課題曲の完成度	(2) 努力点	30%	予復習の評価	(3) 習熟度	20%	練習曲数	(4) 発表	20%	最終段階での演奏評価
(1) 平常点	30%	課題曲の完成度												
(2) 努力点	30%	予復習の評価												
(3) 習熟度	20%	練習曲数												
(4) 発表	20%	最終段階での演奏評価												
学びのキーワード ・ 音楽 ・ ピアノ ・ コード ・ 児童教育 ・ 幼児教育		教科書 個々の学生の能力に応じてプリントを配布 参考書												

音楽・器楽A		MUSI-C-143
担当教員： 島崎 美知子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630880
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。</div> <div>02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。</div> <div>03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)</div> <div>04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)</div> <div>05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)</div> <div>06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)</div> <div>07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(1)</div> <div>08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(2)</div> <div>09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(3)</div> <div>10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(1)</div> <div>11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(2)</div> <div>12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)</div> <div>13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)</div> <div>14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)</div> <div>15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。</div>	
	<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 保育士資格：選択科目</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進捗についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。</div> <div>02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。</div> <div>03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)</div> <div>04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)</div> <div>05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)</div> <div>06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)</div> <div>07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(1)</div> <div>08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(2)</div> <div>09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(3)</div> <div>10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(1)</div> <div>11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(2)</div> <div>12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)</div> <div>13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)</div> <div>14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)</div> <div>15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。</div>	
	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">読符力リズム感曲を仕上げる力伴奏に必要なコードなど理論的知識伴奏に必要なアンサンブル力</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 60% 注意に対する改善</div> <div>(2) 最後の発表 30% 人前で出せる実力</div> <div>(3) 音楽的知識 10% 興味を持って吸収したか</div> <div>欠席は減点の対象になる</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

音楽・器楽A		MUSI-C-143
担当教員： 島崎 美知子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630881
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。</div> <div>02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。</div> <div>03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)</div> <div>04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)</div> <div>05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)</div> <div>06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)</div> <div>07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(1)</div> <div>08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(2)</div> <div>09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(3)</div> <div>10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(1)</div> <div>11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(2)</div> <div>12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)</div> <div>13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)</div> <div>14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)</div> <div>15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる(就職試験など)。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 60% 注意に対する改善</div> <div>(2) 最後の発表 30% 人前で出せる実力</div> <div>(3) 音楽的知識 10% 興味を持って吸収したか</div> <div>欠席は減点の対象になる</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。</div>	<div>教科書</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。</div>	<div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 読符力</div> <div>・ リズム感</div> <div>・ 曲を仕上げる力</div> <div>・ 伴奏に必要なコードなど理論的知識</div> <div>・ 伴奏に必要なアンサンブル力</div>		

音楽・器楽A		MUSI-C-143
担当教員： 島崎 美知子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630882
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。</div> <div>02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。</div> <div>03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)</div> <div>04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)</div> <div>05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)</div> <div>06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)</div> <div>07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(1)</div> <div>08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(2)</div> <div>09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(3)</div> <div>10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(1)</div> <div>11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(2)</div> <div>12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)</div> <div>13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)</div> <div>14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)</div> <div>15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる(就職試験など)。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 60% 注意に対する改善</div> <div>(2) 最後の発表 30% 人前で出せる実力</div> <div>(3) 音楽的知識 10% 興味を持って吸収したか</div> <div>欠席は減点の対象になる</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。</div>	<div>教科書</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。</div>	<div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 読符力</div> <div>・ リズム感</div> <div>・ 曲を仕上げる力</div> <div>・ 伴奏に必要なコードなど理論的知識</div> <div>・ 伴奏に必要なアンサンブル力</div>		

音楽・器楽A		MUSI-C-143
担当教員： 島崎 美知子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630883
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。</div> <div>02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。</div> <div>03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)</div> <div>04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)</div> <div>05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)</div> <div>06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)</div> <div>07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(1)</div> <div>08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(2)</div> <div>09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(3)</div> <div>10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(1)</div> <div>11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(2)</div> <div>12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)</div> <div>13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)</div> <div>14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)</div> <div>15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。</div>	
	<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 保育士資格：選択科目</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。</div> <div>02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。</div> <div>03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)</div> <div>04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)</div> <div>05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)</div> <div>06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)</div> <div>07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(1)</div> <div>08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(2)</div> <div>09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(3)</div> <div>10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(1)</div> <div>11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(2)</div> <div>12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)</div> <div>13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)</div> <div>14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)</div> <div>15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。</div>	
	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 読符力 ・ リズム感 ・ 曲を仕上げる力 ・ 伴奏に必要なコードなど理論的知識 ・ 伴奏に必要なアンサンブル力</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 60% 注意に対する改善</div> <div>(2) 最後の発表 30% 人前で出せる実力</div> <div>(3) 音楽的知識 10% 興味を持って吸収したか</div> <div>欠席は減点の対象になる</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

音楽・器楽B		MUSI-C-143									
担当教員： 笠井 かほる											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630930									
<div>学部教育の関連目</div> <div>教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、保育や教育現場での音楽の位置づけ 02. 幼児の音楽的な表現活動について、幼児の発達と音楽 03. ピアノの構造、奏法、タッチ、音色、コードについて、 04. 実習に役立つ「動き」を伴う音楽活動、手遊び、わらべ歌 05. 実習に役立つ「動き」を伴う音楽活動、手遊び、わらべ歌 06. コードネームの学習と楽曲演習 07. コード伴奏と保育歌唱教材の演習、歌詞理解と作曲者について 08. コード伴奏と保育歌唱教材の演習、歌詞理解と作曲者について1 09. 中間小テスト 10. I IV V V 7 とコードネームの関連と演習 11. 保育歌唱曲の伴奏 12. 保育歌唱曲の伴奏 13. アニメソング、ポップスの弾き歌いへの応用 14. アニメソング、ポップスの弾き歌いへの応用 15. 総まとめ、授業内テスト</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>音楽活動を通じ感性豊かな表現活動をこどもたちと楽しく行える保育者、教員、を目指し、そのために必要な音楽的基礎技能を習得する。
ピアノ演奏の技能習得とともに、音楽に関する基礎知識、保育現場で役に立つコードによる歌唱伴奏法を学ぶ。

</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>実習や保育、教育現場で応用できる実践的なコード伴奏の習得は、ピアノ初心者、経験者に差がなく学習でき、即興、身体表現の伴奏、ポップスなどの弾き歌いに発展できる。
 演習を通して音楽の楽しさを学生自身が感じながら、音楽的技能の向上をはかることを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>練習した曲に対するレッスンなので練習なしの授業参加は認められない。必ず授業準備をしてくること</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>コード伴奏は個人の既習歴、能力に見合った即興、応用ができるが、一定の練習が必要なため、学生自身が自覚を持った練習をして授業に臨むこと</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>実習、就職試験、保育・教職現場に役立つよう、復讐の積み重ねでレパートリーを増やすこと
</div>										
	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 出席状況</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 平常点</td><td>10%</td></tr><tr><td>(3) 中間テスト</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 期末テスト</td><td>25%</td></tr><tr><td>(5) 学習量</td><td>15%</td></tr></table></div>		(1) 出席状況	30%	(2) 平常点	10%	(3) 中間テスト	20%	(4) 期末テスト	25%	(5) 学習量
(1) 出席状況	30%										
(2) 平常点	10%										
(3) 中間テスト	20%										
(4) 期末テスト	25%										
(5) 学習量	15%										
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 音楽的表現</div><div>・ コード伴奏の習得</div><div>・ 歌唱曲のピアノ伴奏法</div><div>・ 保育、教育現場での応用</div></div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>										

音楽・器楽B		MUSI-C-143
担当教員： 笠井 かほる		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630935
<div>学部教育の関連目</div> <div>教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、保育や教育現場での音楽の位置づけ 02. 幼児の音楽的な表現活動について、幼児の発達と音楽 03. ピアノの構造、奏法、タッチ、音色、コードについて、 04. 実習に役立つ「動き」を伴う音楽活動、手遊び、わらべ歌 05. 実習に役立つ「動き」を伴う音楽活動、手遊び、わらべ歌 06. コードネームの学習と楽曲演習 07. コード伴奏と保育歌唱教材の演習、歌詞理解と作曲者について 08. コード伴奏と保育歌唱教材の演習、歌詞理解と作曲者について1 09. 中間小テスト 10. I IV V V 7 とコードネームの関連と演習 11. 保育歌唱曲の伴奏 12. 保育歌唱曲の伴奏 13. アニメソング、ポップスの弾き歌いへの応用 14. アニメソング、ポップスの弾き歌いへの応用 15. 総まとめ、授業内テスト</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>音楽活動を通じ感性豊かな表現活動をこどもたちと楽しく行える保育者、教員、を目指し、そのために必要な音楽的基礎技能を習得する。
ピアノ演奏の技能習得とともに、音楽に関する基礎知識、保育現場で役に立つコードによる歌唱伴奏法を学ぶ。

</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>練習した曲に対するレッスンなので練習なしの授業参加は認められない。必ず授業準備をしてくること</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>実習や保育、教育現場で応用できる実践的なコード伴奏の習得は、ピアノ初心者、経験者に差がなく学習でき、即興、身体表現の伴奏、ポップスなどの弾き歌いに発展できる。
 演習を通して音楽の楽しさを学生自身が感じながら、音楽的技能の向上をはかることを目標とする。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>コード伴奏は個人の既習歴、能力に見合った即興、応用ができるが、一定の練習が必要なため、学生自身が自覚を持った練習をして授業に臨むこと</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>実習、就職試験、保育・教職現場に役立つよう、復讐の積み重ねでレパートリーを増やすこと
</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 音楽的表現</div><div>・ コード伴奏の習得</div><div>・ 歌唱曲のピアノ伴奏法</div><div>・ 保育、教育現場での応用</div></div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 出席状況</div><div>30%</div><div>(2) 平常点</div><div>10%</div><div>(3) 中間テスト</div><div>20%</div><div>(4) 期末テスト</div><div>25%</div><div>(5) 学習量</div><div>15%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

単位：1 コード：1C630940

01. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める
02. ピアノ演奏の基礎(1)曲の中でのいろいろな音符の弾き方①
03. ピアノ演奏の基礎(2)曲の中でのいろいろな音符の弾き方②
04. ピアノ演奏の基礎(3)曲の中でのいろいろな音符の弾き方③
05. ピアノ演奏の基礎(4)ペダルの使い方
06. ピアノ演奏の実践(1)曲の構成や音楽用語について①
07. ピアノ演奏の実践(2)曲の構成や音楽用語について②
08. ピアノ演奏の実践(3)自分がイメージする演奏表現を考える①
09. ピアノ演奏の実践(4)自分がイメージする演奏表現を考える②
10. ピアノ演奏のまとめ(1)まとめでの発表の曲を決める
11. ピアノ演奏のまとめ(2)譜読みの確認
12. ピアノ演奏のまとめ(3)演奏の表現①曲の構成や音楽用語
13. ピアノ演奏のまとめ(4)演奏の表現②どのように弾きたいか考え
14. ピアノ演奏のまとめ(5)曲の仕上げ
15. まとめ クラスメイトの前で演奏する

音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎を更に深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や童謡の伴奏等で授業を進める。

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合は何がわからないかを明確にしておくこと。

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにしておくこと。

出席点について：毎回練習してきたうえでの出席が太前提であり、単なる出席だけでは成績に加算されない。欠席は減点の対象となる。

予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しでも積極的に練習してくることを希望する。

- ・ピアノ
- ・音楽

授業の中で指示する

参考書

単位：1 コード：1C630941

01. ピアノの進捗をチェックして、課題や目標を決める
02. ピアノ演奏の基礎(1) 曲の中でのいろいろな音符の弾き方①
03. ピアノ演奏の基礎(2) 曲の中でのいろいろな音符の弾き方②
04. ピアノ演奏の基礎(3) 曲の中でのいろいろな音符の弾き方③
05. ピアノ演奏の基礎(4) ペダルの使い方
06. ピアノ演奏の実践(1) 曲の構成や音楽用語について①
07. ピアノ演奏の実践(2) 曲の構成や音楽用語について②
08. ピアノ演奏の実践(3) 自分がイメージする演奏表現を考える①
09. ピアノ演奏の実践(4) 自分がイメージする演奏表現を考える②
10. ピアノ演奏のまとめ(1) まとめでの発表の曲を決める
11. ピアノ演奏のまとめ(2) 譜読みの確認
12. ピアノ演奏のまとめ(3) 演奏の表現①曲の構成や音楽用語
13. ピアノ演奏のまとめ(4) 演奏の表現②どのように弾きたいか考え
14. ピアノ演奏のまとめ(5) 曲の仕上げ
15. まとめ クラスメイトの前で演奏する

(1) 内容

音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎を更に深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重要視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や童謡の伴奏等で授業を進める。

(2) 学びの意義と目標

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。

準備學習(予習)

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合は何がわからないかを明確にしておくこと。

準備學習(復習)

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにしておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 50% | 課題に対する取り組み度と達成度 |
| (2) まとめと発表 | 50% | |

出席点について: 毎回練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に加算されない。欠席は減点の対象となる。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽

教科書

授業の中で指示する

参考書

単位：1 コード：1C630942

01. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める
02. ピアノ演奏の基礎(1)曲の中でのいろいろな音符の弾き方①
03. ピアノ演奏の基礎(2)曲の中でのいろいろな音符の弾き方②
04. ピアノ演奏の基礎(3)曲の中でのいろいろな音符の弾き方③
05. ピアノ演奏の基礎(4)ペダルの使い方
06. ピアノ演奏の実践(1)曲の構成や音楽用語について①
07. ピアノ演奏の実践(2)曲の構成や音楽用語について②
08. ピアノ演奏の実践(3)自分がイメージする演奏表現を考える①
09. ピアノ演奏の実践(4)自分がイメージする演奏表現を考える②
10. ピアノ演奏のまとめ(1)まとめでの発表の曲を決める
11. ピアノ演奏のまとめ(2)譜読みの確認
12. ピアノ演奏のまとめ(3)演奏の表現①曲の構成や音楽用語
13. ピアノ演奏のまとめ(4)演奏の表現②どのように弾きたいか考え
14. ピアノ演奏のまとめ(5)曲の仕上げ
15. まとめ クラスメイトの前で演奏する

音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎を更に深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重要視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や童謡の伴奏等で授業を進める。

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとし、いろいろな場面でピアノによる表現が必要とされる。この授業では、この授業で音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合は何がわからないかを明確にしておくこと。

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにしておくこと。

(1) 平常点	50%	課題に対する取り組み度と達成度
(2) まとめと発表	50%	

予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しでも積極的に練習してくることを希望する。

- ・ピアノ
- ・音楽

授業の中で指示する

参考書

音楽・器楽B												
担当教員： 塚原 晴美												
学期： 週間授 科目：		必修・選択： 単位： 1 コード： 1C630950										
学部教育の関連目		授業計画 01. 各学生のレベル調査・テキストの指示 02. 基礎理論：音程と音階 03. 基礎理論：コードネームの概要 04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い 05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い 06. 短調、マイナーコード 07. セブンスコード：日常生活の歌 08. セブンスコード：季節の歌 09. 主要三和音、スリーコードの付け方 10. スリーコードの応用 11. その他のコードⅠ 12. その他のコードⅡ 13. ピアノソロ曲演習Ⅰ 14. ピアノソロ曲演習Ⅱ 15. 発表、まとめ										
カリキュラム上の位置付け												
(1) 内容 小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。												
(2) 学びの意義と目標 小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。		準備学習(予習) 課題曲の予備練習										
受講者に対する要望 児童教育、幼児教育における音楽教育の必要性に対して強い意識を持って、授業に臨んで下さい。		準備学習(復習) 指摘された点の修正練習										
		評価方法 <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td><td>課題曲の完成度</td></tr><tr><td>(2) 努力点</td><td>30%</td><td>予復習の評価</td></tr><tr><td>(3) 習熟度</td><td>20%</td><td>練習曲数</td></tr><tr><td>(4) 発表</td><td>20%</td><td>最終段階での演奏評価</td></tr></table> <p>全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。</p>	(1) 平常点	30%	課題曲の完成度	(2) 努力点	30%	予復習の評価	(3) 習熟度	20%	練習曲数	(4) 発表
(1) 平常点	30%	課題曲の完成度										
(2) 努力点	30%	予復習の評価										
(3) 習熟度	20%	練習曲数										
(4) 発表	20%	最終段階での演奏評価										
学びのキーワード ・ 音楽 ・ ピアノ ・ コード ・ 児童教育 ・ 幼児教育		教科書 個々の学生の能力に応じてプリントを配布 参考書										

音楽・器楽B			
担当教員： 塚原 晴美			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 1		コード： 1C630951	
学部教育の関連目		授業計画	
		01. 各学生のレベル調査・テキストの指示 02. 基礎理論：音程と音階 03. 基礎理論：コードネームの概要 04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い 05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い 06. 短調、マイナーコード 07. セブンスコード：日常生活の歌 08. セブンスコード：季節の歌 09. 主要三和音、スリーコードの付け方 10. スリーコードの応用 11. その他のコードⅠ 12. その他のコードⅡ 13. ピアノソロ曲演習Ⅰ 14. ピアノソロ曲演習Ⅱ 15. 発表、まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。		課題曲の予備練習	
		準備学習(復習)	
		指摘された点の修正練習	
		評価方法	
		(1) 平常点 30% 課題曲の完成度 (2) 努力点 30% 予復習の評価 (3) 習熟度 20% 練習曲数 (4) 発表 20% 最終段階での演奏評価	
		全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。	
学びのキーワード		教科書	
・音楽 ・ピアノ ・コード ・児童教育 ・幼児教育		個々の学生の能力に応じてプリントを配布	
		参考書	

音楽・器楽B														
担当教員： 塚原 晴美														
学期： 週間授	科目：	必修・選択： 単位： 1 コード： 1C630952												
学部教育の関連目		<div>授業計画</div> <div>01. 各学生のレベル調査・テキストの指示</div> <div>02. 基礎理論：音程と音階</div> <div>03. 基礎理論：コードネームの概要</div> <div>04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い</div> <div>05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い</div> <div>06. 短調、マイナーコード</div> <div>07. セブンスコード：日常生活の歌</div> <div>08. セブンスコード：季節の歌</div> <div>09. 主要三和音、スリーコードの付け方</div> <div>10. スリーコードの応用</div> <div>11. その他のコードⅠ</div> <div>12. その他のコードⅡ</div> <div>13. ピアノソロ曲演習Ⅰ</div> <div>14. ピアノソロ曲演習Ⅱ</div> <div>15. 発表、まとめ</div>												
カリキュラム上の位置付け														
<div>(1) 内容</div> <div>小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。</div>														
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>課題曲の予備練習</div>												
		<div>準備学習(復習)</div> <div>指摘された点の修正練習</div>												
受講者に対する要望		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td><td>課題曲の完成度</td></tr><tr><td>(2) 努力点</td><td>30%</td><td>予復習の評価</td></tr><tr><td>(3) 習熟度</td><td>20%</td><td>練習曲数</td></tr><tr><td>(4) 発表</td><td>20%</td><td>最終段階での演奏評価</td></tr></table> <div>全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。</div>	(1) 平常点	30%	課題曲の完成度	(2) 努力点	30%	予復習の評価	(3) 習熟度	20%	練習曲数	(4) 発表	20%	最終段階での演奏評価
(1) 平常点	30%	課題曲の完成度												
(2) 努力点	30%	予復習の評価												
(3) 習熟度	20%	練習曲数												
(4) 発表	20%	最終段階での演奏評価												
学びのキーワード		<div>教科書</div> <div>個々の学生の能力に応じてプリントを配布</div> <div>参考書</div>												
・音楽 ・ピアノ ・コード ・児童教育 ・幼児教育														

音楽・器楽B		MUSI-C-143
担当教員： 島崎 美知子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630960
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。</div> <div>02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。</div> <div>03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)</div> <div>04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)</div> <div>05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)</div> <div>06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)</div> <div>07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(1)</div> <div>08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(2)</div> <div>09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(3)</div> <div>10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(1)</div> <div>11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(2)</div> <div>12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)</div> <div>13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)</div> <div>14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)</div> <div>15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。</div>	
	<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 保育士資格：選択科目</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。</div> <div>02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。</div> <div>03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)</div> <div>04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)</div> <div>05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)</div> <div>06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)</div> <div>07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(1)</div> <div>08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(2)</div> <div>09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(3)</div> <div>10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(1)</div> <div>11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(2)</div> <div>12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)</div> <div>13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)</div> <div>14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)</div> <div>15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。</div>	
	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 読符力 ・ リズム感 ・ 曲を仕上げる力 ・ 伴奏に必要なコードなど理論的知識 ・ 伴奏に必要なアンサンブル力</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 60% 注意に対する改善</div> <div>(2) 最後の発表 30% 人前で出せる実力</div> <div>(3) 音楽的知識 10% 興味を持って吸収したか</div> <div>欠席は減点の対象になる</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

音楽・器楽B		MUSI-C-143
担当教員： 島崎 美知子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630961
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。</div> <div>02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。</div> <div>03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)</div> <div>04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)</div> <div>05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)</div> <div>06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)</div> <div>07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(1)</div> <div>08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(2)</div> <div>09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(3)</div> <div>10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(1)</div> <div>11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(2)</div> <div>12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)</div> <div>13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)</div> <div>14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)</div> <div>15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 保育士資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にする事が望ましい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 読符力</div> <div>・ リズム感</div> <div>・ 曲を仕上げる力</div> <div>・ 伴奏に必要なコードなど理論的知識</div> <div>・ 伴奏に必要なアンサンブル力</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

音楽・器楽B		MUSI-C-143
担当教員： 島崎 美知子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630962
学部教育の関連目		授業計画
【C】 教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】 保育士資格：選択科目		01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。
		02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。
		03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)
		04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)
		05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)
		06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)
		07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(1)
		08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(2)
		09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(3)
(1) 内容		10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(1)
保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。		11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(2)
		12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)
		13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)
		14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)
		15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。		与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。
		準備学習(復習)
		レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。
受講者に対する要望		評価方法
毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にする事が望ましい。		(1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 60% 注意に対する改善
		(2) 最後の発表 30% 人前で出せる実力
		(3) 音楽的知識 10% 興味を持って吸収したか
		欠席は減点の対象になる
学びのキーワード		教科書
・ 読符力 ・ リズム感 ・ 曲を仕上げる力 ・ 伴奏に必要なコードなど理論的知識 ・ 伴奏に必要なアンサンブル力		
		参考書

音楽・器楽B		MUSI-C-143
担当教員： 島崎 美知子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630963
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。</div> <div>02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。</div> <div>03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。（1）</div> <div>04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。（2）</div> <div>05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。（1）</div> <div>06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。（2）</div> <div>07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。（1）</div> <div>08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。（2）</div> <div>09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。（3）</div> <div>10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。（1）</div> <div>11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。（2）</div> <div>12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。（1）</div> <div>13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。（2）</div> <div>14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。（3）</div> <div>15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 保育士資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進捗についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にする事が望ましい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備</div><div>60%</div><div>注意に対する改善</div></div><div><div>(2) 最後の発表</div><div>30%</div><div>人前で出せる実力</div></div><div><div>(3) 音楽的知識</div><div>10%</div><div>興味を持って吸収したか</div></div></div> <div>欠席は減点の対象になる</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 読符力</div><div>・ リズム感</div><div>・ 曲を仕上げる力</div><div>・ 伴奏に必要なコードなど理論的知識</div><div>・ 伴奏に必要なアンサンブル力</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

音楽・器楽B		MUSI-C-143
担当教員：池上 真理子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C630980
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】保育士資格：選択科目		
(1) 内容	01. レベル・チェック、目標設定、課題決定 02. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（1） 03. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（2） 04. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（3） 05. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（1） 06. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（2） 07. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（3） 08. 前半のまとめ 09. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（1） 10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（2） 11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（3） 12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（1） 13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（2） 14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（3） 15. まとめ（発表）	
小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。		
(2) 学びの意義と目標		
幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つことのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。そのために必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。	準備学習(予習)	
	与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してくること。わからない箇所はレッスンで質問すること。	
	準備学習(復習)	
	レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかり練習すること。	
	評価方法	
	(1) 発表	50% 最後の授業内で、仕上げた課題を発表する
	(2) 平常点	50% 毎回のレッスンに向けて、十分に準備、練習しているか、積極的に取り組んでいるかを評価する。
受講者に対する要望	教科書	
実技が中心の科目なので、レッスンで注意されたことを基に、毎回課題をしっかりと練習し、準備してくること。どのようなレベルの人でも、小さな積み重ねで着実に力が付いていくので、目標をしっかりと持って、日々の練習を大切にしてほしい。		
学びのキーワード		
・ピアノ ・音楽教育 ・教職 ・弾き歌い	各学生のレベル、目的に即した課題を指示する。	
	参考書	

音楽・器楽B		MUSI-C-143
担当教員： 阪 まどか		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630990
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】保育士資格：選択科目		
(1) 内容	授業計画	
ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。 基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。 その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。 この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。		
受講者に対する要望	準備学習(復習)	
実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。		
学びのキーワード	評価方法	
・ピアノ ・音楽 ・弾き歌い ・コード		
	教科書	
	参考書	

01. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等）
02. ピアノ演奏の実践①（個々の進度に合わせたレッスンを行う）
03. ピアノ演奏の実践②（以下同じ）
04. ピアノ演奏の実践③
05. ピアノ演奏の実践④
06. ピアノ演奏の実践⑤
07. ピアノ演奏の実践⑥
08. ピアノ演奏の実践⑦
09. ピアノ演奏の実践⑧
10. ピアノ演奏の実践⑨
11. ピアノ演奏の実践⑩（発表に向けての課題曲選定）
12. ピアノ演奏の実践⑪（発表に向けての課題曲の練習）
13. ピアノ演奏の実践⑫（発表に向けての課題曲の練習）
14. ピアノ演奏の実践⑬（発表に向けての課題曲の練習）
15. まとめ（発表）

毎回課題を与えるので次回のレッスンまでにしっかりと取り組んでくること。

授業で指摘されたことを必ず復習し、理解しておくこと。
一度仕上げた曲はレパートリーとするため、忘れないよう練習しておくこと。

- | | |
|----------|-----|
| (1) 学習態度 | 50% |
| (2) 発表 | 50% |

毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。
ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。

音楽・器楽B		MUSI-C-143
担当教員： 阪 まどか		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630991
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】教師に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等） 02. ピアノ演奏の実践①（個々の進度に合わせたレッスンを行う） 03. ピアノ演奏の実践②（以下同じ） 04. ピアノ演奏の実践③ 05. ピアノ演奏の実践④ 06. ピアノ演奏の実践⑤ 07. ピアノ演奏の実践⑥ 08. ピアノ演奏の実践⑦ 09. ピアノ演奏の実践⑧ 10. ピアノ演奏の実践⑨ 11. ピアノ演奏の実践⑩（発表に向けての課題曲選定） 12. ピアノ演奏の実践⑪（発表に向けての課題曲の練習） 13. ピアノ演奏の実践⑫（発表に向けての課題曲の練習） 14. ピアノ演奏の実践⑬（発表に向けての課題曲の練習） 15. まとめ（発表）</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】保育士資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。 基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。 その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。 この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回課題を与えるので次回のレッスンまでにしっかりと取り組んでくること。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で指摘されたことを必ず復習し、理解しておくこと。
一度仕上げた曲はレパートリーとするため、忘れないよう練習しておくこと。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 学習態度</div><div>50%</div></div><div><div>(2) 発表</div><div>50%</div></div></div> <div>毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。 ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ピアノ</div><div>・音楽</div><div>・弾き歌い</div><div>・コード</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

音楽・器楽B		MUSI-C-143
担当教員： 阪 まどか		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C630992
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】保育士資格：選択科目		
(1) 内容	10. ピアノ演奏の実践⑨ 11. ピアノ演奏の実践⑩（発表に向けての課題曲選定） 12. ピアノ演奏の実践⑪（発表に向けての課題曲の練習） 13. ピアノ演奏の実践⑫（発表に向けての課題曲の練習） 14. ピアノ演奏の実践⑬（発表に向けての課題曲の練習） 15. まとめ（発表）	
ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。 基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。 その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。 この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。	毎回課題を与えるので次回のレッスンまでにしっかりと取り組んでくること。	
	準備学習(復習)	
	授業で指摘されたことを必ず復習し、理解しておくこと。 一度仕上げた曲はレパートリーとするため、忘れないよう練習しておくこと。	
受講者に対する要望	評価方法	
実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。	(1) 学習態度 50%	
	(2) 発表 50%	
	毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。 ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。	
学びのキーワード	教科書	
・ピアノ ・音楽 ・弾き歌い ・コード	参考書	

担当教員：山田 裕治

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C632110

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

吹奏楽・金管バンドで使用させるトランペットやトロンボーンなどの金管楽器の基本奏法を身につけると同時に児童に対する指導法も学ぶ。また楽器が組合わさった時の響きを体験する。

(2) 学びの意義と目標

小学校などの教育現場からの楽器演奏指導の要望に応えるためには自ら正しい演奏法を学びながら指導法を習得する必要がある。自分の体（唇）を発音体に行っている金管楽器は最初に発音原理を知り正しい奏法を身につけないとその後の上達が望めない。この授業では音の出るしくみを理解した上で正しい奏法と練習法を習得し、指導者になった時に実践できるようにする。

受講者に対する要望

授業に積極的に参加する
疑問を残さない

学びのキーワード

- ・基礎奏法の理解
- ・指導法
- ・アンサンブルの楽しさ
- ・曲を完成させる過程
- ・楽器のしくみ

授業計画

01. 担当する楽器選び
02. 楽器の扱い方を覚え発音原理を理解する
03. 基礎的な演奏法を学ぶ
04. 基礎的な演奏法を学び音域を拡大する
05. 初歩の練習曲の演奏 1
06. 初歩の練習曲の演奏 2
07. 基礎練習方法の習得と練習曲による演奏能力の向上 1
08. 基礎練習方法の習得と練習曲による演奏能力の向上 2
09. 基礎練習方法の習得と練習曲による演奏能力の向上 3
10. 基礎練習方法の習得と練習曲による演奏能力の向上 4
11. 試験曲の個人練習 1
12. 試験曲の個人練習 2
13. 試験曲の合奏 1
14. 試験曲の合奏 2
15. 試験

準備学習(予習)

担当楽器の演奏について調べ演奏を聞いてみる
楽譜を読む

準備学習(復習)

楽譜の読み返し
苦手な部分をピアノで弾いてみる

評価方法

- | | |
|----------|---------------|
| (1) 平常点 | 80% 練習に取り組む姿勢 |
| (2) 期末試験 | 20% 演奏の達成度 |

教科書

参考書

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 1 コード： 1C632640

授業計画

カリキュラム上の位置付け

ハンドベルの演奏技術の基礎・基本をふまえ、より深く学ぶ。

本講義では、実践を通じて、お互いを認め合う事の大切さを学び、ハンドベルの基礎的な技術指導を自ら体験し、会得する事を目標とする。

月間讚美歌プリントと手袋、資料プリント、楽譜を忘れないで持参すること。

授業で行った内容を整理しておく、学期末テストの準備にもなるので、各自行う事。

実技科目なので欠席しない事。準備、片付けも含め、積極的に授業に参加する事。学期に一度、全学礼拝にて讃美奏鐘を行う予定。

ひとりひとりに違う担当や役割が与えられる授業である。遅刻、欠席せず、積極的に参加する事。

- ・ ハンドベルに慣れる
- ・ ハンドベルを楽しむ
- ・ ハンドベル音楽をみんなで創る

授業中に説明する。

授業中に随時プリントなどで補う。

音楽A (C-1)

MUSI-C-141

担当教員：山田 裕治、渋谷 みどり、塚原 晴美、池上 真理子、阪 まどか

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C633725

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

小学校、幼稚園、保育所などでの音楽表現活動に必要なとなる基本的な知識とピアノの演奏技術を学ぶ。1クラスを半分に分け、理論の講義とピアノの演奏指導を平行して行い、ピアノはさらに少人数のグループに分け個人指導を行う。教材は小学校で扱う教材を含め、受講者のレベルに適したものを取り上げる。音楽理論では音符の読み方や長さなどの基本的な内容から始め、楽譜を読んでピアノ演奏をするのに必要な知識を項目別に習得する。

(2) 学びの意義と目標

保育の現場での音楽表現活動にはピアノ（鍵盤楽器）の演奏が不可欠であり、そのためには取り上げる楽曲を弾きこなすだけの演奏技術が必要である。また楽曲を演奏するためには、楽譜を読み楽譜からさまざまな情報を読み取らなければならない。この授業ではピアノ演奏において必要な基本的な演奏技術と理論を身につけることを目標にする。さらに小学校一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格を取得するためにも必要な基礎的な知識と演奏技術を習得する。

受講者に対する要望

授業時間に対し内容が多いので、特に復習をしっかりとし疑問点を残さないようにして欲しい

学びのキーワード

- ・スキルを身につける自覚を持つ
- ・疑問点をわからないままにしない
- ・ピアノは繰り返し練習

授業計画

01. ガイダンス・ピアノレッスンのクラス分け
02. ピアノ演奏の基礎(1)・音部記号と譜表
03. ピアノ演奏の基礎(2)・音名と変化記号
04. ピアノ演奏の基礎(3)・音符と休符
05. ピアノ演奏の基礎(4)・拍子
06. ピアノ演奏の実践(1)・さまざまなリズム
07. ピアノ演奏の実践(2)・反復記号と発想記号
08. ピアノ演奏の実践(3)・これまでの復習
09. ピアノ演奏の実践(4)・音程
10. ピアノ演奏の実践(5)・長音階
11. ピアノ演奏の実践(6)・短音階
12. ピアノ演奏のまとめ(1)・関係調
13. ピアノ演奏のまとめ(2)・三和音
14. ピアノ演奏のまとめ(3)・コードネームとカデンツ
15. 総括

準備学習(予習)

1. 授業時に配布するプリントを指示に従って予習する
2. 次回のレッスン曲の練習

準備学習(復習)

1. 配布プリントによる講義内容の復習
2. レッスン曲の練習

評価方法

- | | |
|-----------|----------|
| (1) ピアノ実技 | 50% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 20% 課題提出 |

教科書

参考書

音楽A (C-2)

MUSI-C-141

担当教員：山田 裕治、渋谷 みどり、塚原 晴美、池上 真理子、阪 まどか

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C633730

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

小学校、幼稚園、保育所などでの音楽表現活動に必要なとなる基本的な知識とピアノの演奏技術を学ぶ。1クラスを半分に分け、理論の講義とピアノの演奏指導を平行して行い、ピアノはさらに少人数のグループに分け個人指導を行う。教材は小学校で扱う教材を含め、受講者のレベルに適したものを取り上げる。音楽理論では音符の読み方や長さなどの基本的な内容から始め、楽譜を読んでピアノ演奏をするのに必要な知識を項目別に習得する。

(2) 学びの意義と目標

保育の現場での音楽表現活動にはピアノ（鍵盤楽器）の演奏が不可欠であり、そのためには取り上げる楽曲を弾きこなすだけの演奏技術が必要である。また楽曲を演奏するためには、楽譜を読み楽譜からさまざまな情報を読み取らなければならない。この授業ではピアノ演奏において必要な基本的な演奏技術と理論を身につけることを目標にする。さらに小学校一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格を取得するためにも必要な基礎的な知識と演奏技術を習得する。

受講者に対する要望

授業時間に対し内容が多いので、特に復習をしっかりとし疑問点を残さないようにして欲しい

学びのキーワード

- ・スキルを身につける自覚を持つ
- ・疑問点をわからないままにしない
- ・ピアノは繰り返し練習

授業計画

01. ガイダンス・ピアノレッスンのクラス分け
02. ピアノ演奏の基礎(1)・音部記号と譜表
03. ピアノ演奏の基礎(2)・音名と変化記号
04. ピアノ演奏の基礎(3)・音符と休符
05. ピアノ演奏の基礎(4)・拍子
06. ピアノ演奏の実践(1)・さまざまなリズム
07. ピアノ演奏の実践(2)・反復記号と発想記号
08. ピアノ演奏の実践(3)・これまでの復習
09. ピアノ演奏の実践(4)・音程
10. ピアノ演奏の実践(5)・長音階
11. ピアノ演奏の実践(6)・短音階
12. ピアノ演奏のまとめ(1)・関係調
13. ピアノ演奏のまとめ(2)・三和音
14. ピアノ演奏のまとめ(3)・コードネームとカデンツ
15. 総括

準備学習(予習)

1. 授業時に配布するプリントを指示に従って予習する
2. 次回のレッスン曲の練習

準備学習(復習)

1. 配布プリントによる講義内容の復習
2. レッスン曲の練習

評価方法

- | | |
|-----------|----------|
| (1) ピアノ実技 | 50% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 20% 課題提出 |

教科書

参考書

担当教員：井口 太

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C633845

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

幼児保育並びに小学校の音楽指導に必要な基礎技能と知識を育成します。音階や音程、コードネームの基礎を実際の音による表現と共に理解していきます。また、わらべうたの音階理論や創造的音楽表現の体験を用意しています。中でも、カール・オルフの指導理念と独特な楽器の使用を体験し、仲間との音楽作りの実際を試みたいと考えます。

(2) 学びの意義と目標

幼児や児童の音楽指導では表現に対する楽しさを味わい、創造性を豊かに育むことが重要であると考えます。そのため、受講者が音・音楽を感じ取って、創り出すことに大きな意味があると考えています。幼稚園教育要領、保育所保育指針や学習指導要領の基本的な理解と結びつけながら、指導に必要なポイントにも触れていきたいと予定しています。

受講者に対する要望

授業で紹介する情報を各自が実行して身につけていくことを期待します。特に楽器の操作などはこれなしには自分のものとして行けないと思います。努力を求めます。

学びのキーワード

- ・ 幼児・児童の理解
- ・ 図形楽譜による表現
- ・ 創造的な音楽表現と指導
- ・ コードネームの理解と伴奏の工夫
- ・ 幼児期の発達と表現

授業計画

01. リズム読みの基本と即興的表現の指導
02. ハンドサインと階名唱／歌唱教材の紹介
03. 身体楽器の活用とリズム表現
04. コードネームの概要／I-Vの伴奏と鍵盤遊び
05. 図形楽譜の紹介と音作りのグループ表現
06. 絵本への効果音作りを工夫
07. わらべうたの分類と音階理論
08. ギターの導入
09. 歌唱教材の研究①：年少幼児の教材を中心に
10. ギターの基礎と幼児の合奏教材の紹介
11. 日本の昔話と音楽作り
12. 幼児の合奏指導教材の検討
13. 歌唱教材の研究②：幼小連携教材を中心に
14. 小学校での創造的音楽表現の事例
15. 講義内容の振り返りとまとめ

準備学習(予習)

次回の予定と関連する教科書のページに目を通すようにしてほしい。

準備学習(復習)

紹介した内容を基に、自分の表現技能などを磨いてほしい。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) ノートの評価 | 20% |
| (2) 活動への取り組み | 80% |

* 毎回の出席が重要です。熱心な取り組みを期待します。

教科書

井口太 『新・幼児の音楽教育』（朝日出版社）

参考書

担当教員：井口 太

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C633850

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

幼児保育並びに小学校の音楽指導に必要な基礎技能と知識を育成します。音階や音程、コードネームの基礎を実際の音による表現と共に理解していきます。また、わらべうたの音階理論や創造的音楽表現の体験を用意しています。中でも、カール・オルフの指導理念と独特な楽器の使用を体験し、仲間との音楽作りの実際を試みたいと考えます。

(2) 学びの意義と目標

幼児や児童の音楽指導では表現に対する楽しさを味わい、創造性を豊かに育むことが重要であると考えます。そのため、受講者が音・音楽を感じ取って、創り出すことに大きな意味があると考えています。幼稚園教育要領、保育所保育指針や学習指導要領の基本的な理解と結びつけながら、指導に必要なポイントにも触れていきたいと予定しています。

受講者に対する要望

授業で紹介する情報を各自が実行して身につけていくことを期待します。特に楽器の操作などはこれなしには自分のものとして行けないと思います。努力を求めます。

学びのキーワード

- ・ 幼児・児童の理解
- ・ 図形楽譜による表現
- ・ 創造的な音楽表現と指導
- ・ コードネームの理解と伴奏の工夫
- ・ 幼児期の発達と表現

授業計画

01. リズム読みの基本と即興的表現の指導
02. ハンドサインと階名唱／歌唱教材の紹介
03. 身体楽器の活用とリズム表現
04. コードネームの概要／I-Vの伴奏と鍵盤遊び
05. 図形楽譜の紹介と音作りのグループ表現
06. 絵本への効果音作りを工夫
07. わらべうたの分類と音階理論
08. ギターの導入
09. 歌唱教材の研究①：年少幼児の教材を中心に
10. ギターの基礎と幼児の合奏教材の紹介
11. 日本の昔話と音楽作り
12. 幼児の合奏指導教材の検討
13. 歌唱教材の研究②：幼小連携教材を中心に
14. 小学校での創造的音楽表現の事例
15. 講義内容の振り返りとまとめ

準備学習(予習)

次回の予定と関連する教科書のページに目を通すようにしてほしい。

準備学習(復習)

紹介した内容を基に、自分の表現技能などを磨いてほしい。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) ノートの評価 | 20% |
| (2) 活動への取り組み | 80% |

* 毎回の出席が重要です。熱心な取り組みを期待します。

教科書

井口太 『新・幼児の音楽教育』（朝日出版社）

参考書

教師論（小）		TEAT-0-101								
担当教員：小川 隆夫										
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C633965								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 教師の日常世界</div> <div>02. 授業をつくる（授業の構成・デザイン）</div> <div>03. 授業から学ぶ（評価する主体としての教師・ともに学び続ける教師）</div> <div>04. カリキュラムをデザインする（カリキュラムの概念・学びのビジョンとその実践・学びのデザイン・開発と評価）</div> <div>05. 子どもを育む（子どもの心に寄り添う・子どもの言葉を受け取る・教師-子ども関係が陥りやすい落とし穴）</div> <div>06. 生涯を教師として生きる（教育実習から新任の教師へ・教師としてのアイデンティティの模索）</div> <div>07. 同僚とともに学校を創る（学校での授業の探求・学校における同僚性・教師文化の形成するもの）</div> <div>08. 教職の専門性（教師に対する国際的認識・教師の養成・成長）</div> <div>09. 時代の中の教師（日本における教育の風景の展開・戦後の教師像）</div> <div>10. 教師の仕事とジェンダー（歴史の中の女性教師）</div> <div>11. 教育改革と教師の未来（転換期の学校・教師の使命・未来への希望）</div> <div>12. 教師研究へのアプローチ（教師研究との広がり・教師をめざして）</div> <div>13. プレゼンテーション 「教える職業」から「学びの専門職」への転換について</div> <div>14. プレゼンテーション 「子どもの学びを促進する教育実践」について</div> <div>15. 授業の確認とまとめ</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】小学校教諭一種免許：必修科目</div> <div>【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目</div> <div>【C】保育士資格：必修科目</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>「教育は人にある」といわれる。施設・設備が整備され、すぐれた教材・教具が開発された今日においても、教師の重要性に変わりはない。最近、特に学校での事故や生徒の自殺問題で、世間の教師に対する関心は強いものになっている。本講義では、教師の仕事、役割、教師観や職場としての学校などについて学び、望ましい資質能力とは何かと人権を尊重した教師の姿を考える。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子どもの好む教師、親の求める教師、教師の考える望ましい教師、校長・行政者の求める望ましい教師を考えながら、教師とは何かを追及することに学びの価値がある。本講義を通して教育活動に従事する魅力に触れ、教師の道を目指そうとする気持ちが確かなものになることを期待する。</div>		<div>準備学習（予習）</div> <div>テキストの指定ページを読んで授業に臨むこと。新聞から教育関連の記事を1つ選んで、メモをとり意見が言えるようにして授業に臨むこと。</div>								
		<div>準備学習（復習）</div> <div>配布プリント及びテキストの学習箇所の復習をする。常日頃から新聞やニュースに目を通し、社会情勢や教育関連の記事に関心を持つ。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>教職志望者が、資質向上を図り、真摯に取り組むことを望む。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>20%</td></tr><tr><td>(2) プレゼン</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) レポート1回</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 期末テスト</td><td>30%</td></tr></table>	(1) 平常点	20%	(2) プレゼン	30%	(3) レポート1回	20%	(4) 期末テスト	30%
(1) 平常点	20%									
(2) プレゼン	30%									
(3) レポート1回	20%									
(4) 期末テスト	30%									
<div>学びのキーワード</div> <div>・教師の仕事</div> <div>・資質能力</div> <div>・望ましい教師</div> <div>・人権尊重</div> <div>・目指す教師像</div>		<div>教科書</div> <div>秋田 喜代美, 佐藤 学 改訂版 『新しい時代の教職入門（有斐閣アルマ）』（有斐閣）</div> <div>参考書</div>								

教師論（幼保）		TEAT-0-101	
担当教員： 佐藤 千瀬			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1C633970	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】 子どもに向き合う者としての倫理観を養う		01. オリエンテーション 保育者の役割1ー保育士（3歳以上児） 02. 保育者の役割2ー保育士（3歳未満児） 03. 保育者の役割3ー幼稚園教諭 04. 保育者の役割4ー月間・年間の役割 05. 保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ 06. 保育者の倫理 07. 保育士・幼稚園教諭の専門性1ー養護と教育 資質・能力 08. 保育士・幼稚園教諭の専門性2ー知識・技術及び判断 09. 保育士・幼稚園教諭の専門性3ー保育の省察と自己評価 10. 保育者の協働1ー保育と保護者支援にかかわる協働 11. 保育者の協働2ー保護者及び地域社会との協働 12. 保育者の協働3ー専門職間、専門機関及び家庭的保育者等との連 13. 保育・教育の実践例 14. 保育者の専門職的成長 15. 理解度の確認と振り返り	
カリキュラム上の位置付け			
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】 保育士資格：必修科目			
(1) 内容			
本講義では、保育者の役割と倫理、保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけ、保育士・幼稚園教諭の専門性、保育者の協働、保育者の専門職的成長について概説する。			
(2) 学びの意義と目標			
(1) 保育者の役割と倫理について理解する。 (2) 保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけを理解する。 (3) 保育士・幼稚園教諭の専門性について考察し、理解する。 (4) 保育者の協働について理解する。 (5) 保育者の専門職的成長について理解する。		準備学習(予習)	
		・ 課題に取り組むこと	
		準備学習(復習)	
		・ 授業で視聴した事例の分析をすること ・ 小テストの準備をすること	
受講者に対する要望		評価方法	
毎回の授業で課題・小テストに取り組むことが多くあるため、計画的に丁寧に取り組むこと。 出席票を丁寧に記入すること。 グループワークに積極的に取り組むこと。		(1) 平常点 30% 出席点ではない。 (2) 課題 20% (3) 小テスト 20% (4) 事例レポート 10% (5) 最終課題 20% 毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。	
学びのキーワード		教科書	
・ 保育士 ・ 幼稚園教諭 ・ 役割 ・ 専門性 ・ 協働		参考書	
		厚生労働省 『保育所保育指針ー平成20年告示』 文部科学省 『幼稚園教育要領ー平成20年告示』	

保育・教職実践演習(初等) (幼)

TEAT-C-452

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634100

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

大学4年間での幼稚園教職課程の学びを総括し、これまで蓄積してきた「履修カルテ」や実習日誌を基に幼稚園教諭として必要な知識技能を修得したことを確認し、不足している知識技能については補完をしていく。

(2) 学びの意義と目標

大学4年間の学びと実習・実践を通して学んだことを総合的に学習することを目的とし、幼稚園教諭を目指す上での自己課題を明確にしていく。不足している知識・技能については補完をし、卒業後に幼稚園教諭として従事する上で必要な資質や能力を高めていく。

受講者に対する要望

履修カルテや実習記録を見直し、各自の不足している点は何か、そのためにどのような学びをしたらよいのかを各自が見出してほしい。

学びのキーワード

- ・子ども理解
- ・実践力
- ・保育技能
- ・教師としての使命感と責任感

授業計画

01. オリエンテーション（授業の説明、履修カルテから自己分析）
02. 幼稚園教諭としての職務
03. 保護者との対応について
04. 遊びを通した学びについて
05. 安全管理について
06. 子ども理解について
07. 指導案作成について
08. 模擬保育とグループ討議① 事例
09. 模擬保育とグループ討議② 環境
10. 模擬保育とグループ討議③ 遊び
11. 模擬保育とグループ討議④ 子どもの食
12. 模擬保育とグループ討議⑤ 障害児保育
13. 教師のメンタルヘルス
14. 幼稚園教諭として求められる力
15. まとめ

準備学習(予習)

履修カルテや実習記録からの自己課題を明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業や模擬保育等で指摘されたことをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 自己課題レポート | 10% |
| (2) 授業内試験 | 20% |
| (3) 模擬保育 | 50% |
| (4) 課題レポート | 20% |

毎回の出席が大前提である。

教科書

参考書

必要に応じプリントを配布する。

保育・教職実践演習(初等) (小)		TEAT-C-452	
担当教員：川瀬 敏行			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C634195	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】 教師に必要な知識・技能を身につける		01. 履修カルテから自己分析 02. 教科等の指導力1：授業づくりと実際（教材開発・授業技術） 03. 教科等の指導力2：子どもの絵に見る学校教育・図画工作 04. 教科等の指導力3：学校における食育・学校給食 05. 教科等の指導力4：学校安全と危機管理（安全教育・安全管理・組織活動） 06. 児童生徒理解と学級経営1：学級づくりの方法と実際 07. 児童生徒理解と学級経営2：生徒指導の進め方と実際 08. 児童生徒理解と学級経営3：子どもの心理の理解・学校教育相談 09. 児童生徒理解と学級経営4：特別支援教育 10. 児童生徒理解と学級経営5：子どもの発育・健康管理 11. 社会性や対人関係能力1：教師の一日（役割・実務・教職員の協力） 12. 社会性や対人関係能力2：教師のメンタルヘルス 13. 社会性や対人関係能力3：児童虐待の防止と小学校 14. 社会性や対人関係能力4：保護者・地域・関係機関・異校種間の連携 15. まとめ：教職生活への一歩・よりよい教師へ	
カリキュラム上の位置付け			
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
教職課程における全学年の学びを総括して自己分析し、資質・能力の向上をさらに図り、確かなものにしていくものである。これまで蓄積してきた「履修カルテ」等の記録、学内外学習、活動の経験等を基に培ってきた能力の確認(自己分析)及び不足部分(知識・技能・態度など)を補完し、確実に身に付けていく。そして、教師としての専門性と確かな力量（学習指導力、生徒指導力、学級経営力等）、豊かな人間性や社会性、対人間関係能力等の総合的な人間力などの教員としての資質・能力を確認し、教職に対する強い情熱をもって自己の目指す教師像を明確にしていけるようにする。 ※グループ学習・討論、ロールプレイング、実技指導、事例研究、フィールドワーク、教材研究、指導案作成、模擬授業等を取り入れていく。			
(2) 学びの意義と目標			
教職課程の集大成として4年生の秋学期に位置付ける。学生が教員になる上で自己の課題を自覚し、不足する知識や技能等の定着を図る演習等を通して資質能力を向上させ、教職生活をより円滑にスタートできるようにする。		準備学習(予習)	
		前時の課題に対する自分なりの解答・意見・準備等。	
		準備学習(復習)	
		指摘された内容事項についての修正	
		評価方法	
		(1) 平常点 30% (2) 演習・協議等への参加度・内容 30% (3) 課題レポート 40%	
		平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度。欠席・遅刻は減点の対象となる。	
受講者に対する要望			
履修カルテ等の記録から自分の力を総括し、不足している点を補って、望ましい教師を目指して具体的に力をつける努力を望む。			
学びのキーワード		教科書	
・教員の資質・能力 ・教育への情熱と使命感・責任感 ・教師としての専門性・ 確かな力量 ・実践的指導力 ・総合的な人間力		参考書	

保育内容総論（C-1）

TEAT-C-112

担当教員：相川 徳孝

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634315

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育の基本を学び、それぞれの領域の保育内容を総合的に理解していく。

(2) 学びの意義と目標

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通して幼稚園と保育所、認定こども園の役割と実際の保育内容についての理解を深めるとともに子どもの発達や教育課程、保育課程、その他の指導計画について学ぶ。

受講者に対する要望

子どもの保育の土台となるものであるから、主体的に学ぶ姿勢を持って参加すること。

学びのキーワード

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- ・子どもの発達
- ・領域と保育内容
- ・指導計画

授業計画

01. 幼稚園・保育所・認定こども園における保育の基本
02. 幼稚園教育要領と保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領について
03. 保育内容と領域の意義について
04. 0歳から2歳児の発達と保育内容
05. 3歳から5歳児の発達と保育内容
06. 保育内容の変遷
07. 保育における遊びの意義
08. 教育課程と保育課程
09. 指導計画の意義
10. 家庭・地域・小学校との連携について
11. 保育の多様な展開（1）
12. 保育の多様な展開（2）
13. 保育者の専門性と資質向上
14. 今後の保育ニーズについて
15. まとめ

準備学習(予習)

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をよく読むこと。

準備学習(復習)

それぞれの授業での学びのポイントを正しく理解し、忘れないよう積み重ねておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

レポート課題等の提出は期限を守ること。

教科書

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領・保育所保育指針』（チャイルド本社）

参考書

保育内容総論（C-2）

TEAT-C-112

担当教員：相川 徳孝

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634320

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育の基本を学び、それぞれの領域の保育内容を総合的に理解していく。

(2) 学びの意義と目標

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通して幼稚園と保育所、認定こども園の役割と実際の保育内容についての理解を深めるとともに子どもの発達や教育課程、保育課程、その他の指導計画について学ぶ。

受講者に対する要望

子どもの保育の土台となるものであるから、主体的に学ぶ姿勢を持って参加すること。

学びのキーワード

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- ・子どもの発達
- ・領域と保育内容
- ・指導計画

授業計画

01. 幼稚園・保育所・認定こども園における保育の基本
02. 幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について
03. 保育内容と領域の意義について
04. 0歳から2歳児の発達と保育内容
05. 3歳から5歳児の発達と保育内容
06. 保育内容の変遷
07. 保育における遊びの意義
08. 教育課程と保育課程
09. 指導計画の意義
10. 家庭・地域・小学校との連携について
11. 保育の多様な展開（1）
12. 保育の多様な展開（2）
13. 保育者の専門性と資質向上
14. 今後の保育ニーズについて
15. まとめ

準備学習（予習）

幼稚園教育要領と保育所保育指針をよく読むこと。

準備学習（復習）

それぞれの授業での学びのポイントを正しく理解し、忘れないよう積み重ねておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

レポート課題等の提出は期限を守ること。

教科書

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 原本』（チャイルド本社）

参考書

保育内容の研究・健康（a）		TEAT-C-311	
担当教員： 鈴木 明			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1C634430	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける		01. 『幼児の健康』（健康観の変遷、乳幼児の健康と環境） 02. 『幼児のからだの発達』（発育と発達） 03. 『心の発達と健康（１）』（知覚と認知） 04. 『心の発達と健康（２）』（生活習慣の発達） 05. 『幼児と運動』（運動遊びの意義・運動技能の獲得） 06. 『幼児の保健（１）』（幼児の栄養・休養・睡眠） 07. 『幼児の保健（２）』（幼児の病気や事故） 08. 『幼児の健康と家庭教育』（幼児の生活習慣と家庭） 09. 『領域「健康」の内容』（幼児教育と健康・指導の基本） 10. 『領域「健康」の指導の仕方（１）』（教育の位置づけ・運動と指導の仕方） 11. 『領域「健康」の指導の仕方（２）』（生活習慣と指導の仕方） 12. 『指導計画と指導の実例』（年間・月案・週案・日案の実例） 13. 『幼児の健康管理』（健康管理・日常の観察・環境の整備） 14. 保育所保育指針での保育内容の構成 15. 保育の計画と評価	
カリキュラム上の位置付け			
【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】 保育士資格：必修科目			
(1) 内容			
本講義では、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。 カリキュラム上の位置づけ： 心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。			
(2) 学びの意義と目標			
幼児期における健康な健康習慣の確立は、その後続く児童期、青年期へと発育発達していくための基礎がつくられる重要な時期である。その点を意識しながら保育士として、発達過程に即した子どもの理解、総合的な指導・援助が行える実践的な力の習得し、健康な幼児を育てるための指導とは何かについてとらえていきたい。		準備学習(予習)	
		常に新聞記事等をよく読んで、事前に知らせた授業内容と関連するもので、最近どのようなことが問題になっているかを調べておくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業で学んだことに対して課題を出し、その結果について質疑応答します。 	
		評価方法	
		(1) 試験 50% 授業で学んだことの点検 (2) ショートテスト 40% 毎事業時に確認のテストを行う (3) 授業意欲 10% 授業時の質疑応答	
受講者に対する要望			
健康問題について、常日頃から関心を持ってください。			
学びのキーワード		教科書	
・ 乳幼児の健康管理 ・ 心身の発育と発達 ・ 生活習慣 ・ 指導計画 ・ 保育指針		参考書	
		初回の授業時に参考図書も含めて指示します。	

保育内容の研究・健康（b）		TEAT-C-311	
担当教員： 鈴木 明			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C634435	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける		01. 『幼児の健康』（健康観の変遷、乳幼児の健康と環境） 02. 『幼児のからだの発達』（発育と発達） 03. 『心の発達と健康（１）』（知覚と認知） 04. 『心の発達と健康（２）』（生活習慣の発達） 05. 『幼児と運動』（運動遊びの意義・運動技能の獲得） 06. 『幼児の保健（１）』（幼児の栄養・休養・睡眠） 07. 『幼児の保健（２）』（幼児の病気や事故） 08. 『幼児の健康と家庭教育』（幼児の生活習慣と家庭） 09. 『領域「健康」の内容』（幼児教育と健康・指導の基本） 10. 『領域「健康」の指導の仕方（１）』（教育の位置づけ・運動と指導の仕方） 11. 『領域「健康」の指導の仕方（２）』（生活習慣と指導の仕方） 12. 『指導計画と指導の実例』（年間・月案・週案・日案の実例） 13. 『幼児の健康管理』（健康管理・日常の観察・環境の整備） 14. 保育所保育指針での保育内容の構成 15. 保育の計画と評価	
カリキュラム上の位置付け			
【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】 保育士資格：必修科目			
(1) 内容			
本講義では、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。 カリキュラム上の位置づけ： 心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。			
(2) 学びの意義と目標			
幼児期における健康な健康習慣の確立は、その後続く児童期、青年期へと発育発達 していくための基礎がつくられる重要な時期である。その点を意識しながら保育士として、発達過程に即した子どもの理解、総合的な指導・援助が行える実践的な力の習得し、健康な幼児を育てるための指導とは何かについてとらえていきたい。		準備学習(予習)	
		常に新聞記事等をよく読んで、事前に知らせた授業内容と関連するもので、最近どのようなことが問題になっているかを調べておくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業で学んだことに対して課題を出し、その結果について質疑応答します。 	
		評価方法	
		(1) 試験 50% 授業で学んだことの点検 (2) ショートテスト 40% 毎事業時に確認のテストを行う (3) 授業意欲 10% 授業時の質疑応答	
受講者に対する要望			
健康問題について、常日頃から関心を持ってください。			
学びのキーワード		教科書	
・ 乳幼児の健康管理 ・ 心身の発育と発達 ・ 生活習慣 ・ 指導計画 ・ 保育指針		参考書	
		初回の授業時に参考図書も含めて指示します。	

保育内容の研究・健康（c）		TEAT-C-311	
担当教員： 鈴木 明			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C634440	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 『幼児の健康』（健康観の変遷、乳幼児の健康と環境） 02. 『幼児のからだの発達』（発育と発達） 03. 『心の発達と健康（１）』（知覚と認知） 04. 『心の発達と健康（２）』（生活習慣の発達） 05. 『幼児と運動』（運動遊びの意義・運動技能の獲得） 06. 『幼児の保健（１）』（幼児の栄養・休養・睡眠） 07. 『幼児の保健（２）』（幼児の病気や事故） 08. 『幼児の健康と家庭教育』（幼児の生活習慣と家庭） 09. 『領域「健康」の内容』（幼児教育と健康・指導の基本） 10. 『領域「健康」の指導の仕方（１）』（教育の位置づけ・運動と指導の仕方） 11. 『領域「健康」の指導の仕方（２）』（生活習慣と指導の仕方） 12. 『指導計画と指導の実例』（年間・月案・週案・日案の実例） 13. 『幼児の健康管理』（健康管理・日常の観察・環境の整備） 14. 保育所保育指針での保育内容の構成 15. 保育の計画と評価</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】 保育士資格：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。 カリキュラム上の位置づけ： 心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>幼児期における健康な健康習慣の確立は、その後続く児童期、青年期へと発育発達していくための基礎がつくられる重要な時期である。その点を意識しながら保育士として、発達過程に即した子どもの理解、総合的な指導・援助が行える実践的な力の習得し、健康な幼児を育てるための指導とは何かについてとらえていきたい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>常に新聞記事等をよく読んで、事前に知らせた授業内容と関連するもので、最近どのようなことが問題になっているかを調べておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>健康問題について、常日頃から関心を持ってください。</div>			
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだことに対して課題を出し、その結果について質疑応答します。

</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 乳幼児の健康管理</div><div>・ 心身の発育と発達</div><div>・ 生活習慣</div><div>・ 指導計画</div><div>・ 保育指針</div></div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 試験</div><div>(2) ショートテスト</div><div>(3) 授業意欲</div></div><div><div>50% 授業で学んだことの点検</div><div>40% 毎事業時に確認のテストを行う</div><div>10% 授業時の質疑応答</div></div></div>	
		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>初回の授業時に参考図書も含めて指示します。</div>	

保育内容の研究・人間関係（a）		TEAT-C-312							
担当教員：横井 紘子									
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C634545							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】保育者に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 保育の基本と領域「人間関係」 02. 乳幼児期の人間関係の発達と特性①家族の中に生まれる子ども 03. 乳幼児期の人間関係の発達と特性②自我の芽生え／イヤイヤ期 04. 乳幼児期の人間関係の発達と特性③他者とのかかわり 05. 領域「人間関係」の歴史的変遷 06. 入園期の心の安定と人間関係 07. 3歳児の人間関係（1）保育者との関係 08. 3歳児の人間関係（2）友だちへの思い 09. 4歳児の人間関係（1）さまざまな葛藤 10. 4歳児の人間関係（2）葛藤を超えて 11. 5歳児の人間関係（1）仲間関係の深まり 12. 5歳児の人間関係（2）協同的な遊び 13. 地域社会におけるさまざまな人のかかわり 14. 「気になる子」をめぐる人間関係 15. まとめ―人間関係を捉える視点</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】保育士資格：必修科目</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている保育内容の領域のうち、人とかかわりに関する領域「人間関係」について学ぶ。この領域では、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養うことがめざされる。本講義では、乳幼児期の人間関係の発達や特性について理解すると同時に、人とかかわる力の育ちを支える保育者の役割について実践的に考えていく。</div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>人とかかわりが希薄化していると言われる昨今、人間関係について多角的に考えることの意義は大きい。人とかかわる力の重要性・必要性を認識し、自己省察を通し、自分がめざす保育者のありようを考えることを目標とする。</div>		<div>準備学習（予習）</div> <div>幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説書の人間関係に関わる領域の文章を読んでおくことが望ましい</div>							
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業の中での気づきや疑問、驚きを大切にし、自分で考える時間や身近な他者と話し合う時間をもって欲しい。
</div>		<div>準備学習（復習）</div> <div>授業での学びを自らの実習体験や日常生活と結びつけて考えていくことを期待する</div>							
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 課題</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 期末レポート</td><td>50%</td></tr></table> <div>欠席回数が三回を超える場合は評価に反映する</div>		(1) 平常点	30%	(2) 課題	20%	(3) 期末レポート	50%
		(1) 平常点	30%						
(2) 課題	20%								
(3) 期末レポート	50%								
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 保育内容</div><div>・ 人間関係</div><div>・ 自我の発達</div><div>・ 自己と他者</div><div>・ 遊び</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレール館） 厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレール館） 内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレール館）</div>							

保育内容の研究・人間関係（b）		TEAT-C-312						
担当教員：横井 紘子								
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C634550						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 保育の基本と領域「人間関係」 02. 乳幼児期の人間関係の発達と特性①家族の中に生まれる子ども 03. 乳幼児期の人間関係の発達と特性②自我の芽生え／イヤイヤ期 04. 乳幼児期の人間関係の発達と特性③他者とのかかわり 05. 領域「人間関係」の歴史的変遷 06. 入園期の心の安定と人間関係 07. 3歳児の人間関係（1）保育者との関係 08. 3歳児の人間関係（2）友だちへの思い 09. 4歳児の人間関係（1）さまざまな葛藤 10. 4歳児の人間関係（2）葛藤を超えて 11. 5歳児の人間関係（1）仲間関係の深まり 12. 5歳児の人間関係（2）協同的な遊び 13. 地域社会におけるさまざまな人とのかかわり 14. 「気になる子」をめぐるての人間関係 15. まとめ―人間関係を捉える視点</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】 保育士資格：必修科目</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている保育内容の領域のうち、人とのかかわりに関する領域「人間関係」について学ぶ。この領域では、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養うことがめざされる。本講義では、乳幼児期の人間関係の発達や特性について理解すると同時に、人とかかわる力の育ちを支える保育者の役割について実践的に考えていく。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>人とのかかわりが希薄化していると言われる昨今、人間関係について多角的に考えることの意義は大きい。人とかかわる力の重要性・必要性を認識し、自己省察を通し、自分がめざす保育者のありようを考えることを目標とする。</div>		<div>準備学習（予習）</div> <div>幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説書の人間関係に関わる領域の文章を読んでおくことが望ましい</div>						
		<div>準備学習（復習）</div> <div>授業での学びを自らの実習体験や日常生活と結びつけて考えていくことを期待する</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業の中での気づきや疑問、驚きを大切にし、自分で考える時間や身近な他者と話し合う時間をもって欲しい。
</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 課題</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 期末レポート</td><td>50%</td></tr></table> <div>欠席回数が三回を超える場合は評価に反映する</div>	(1) 平常点	30%	(2) 課題	20%	(3) 期末レポート	50%
(1) 平常点	30%							
(2) 課題	20%							
(3) 期末レポート	50%							
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 保育内容</div><div>・ 人間関係</div><div>・ 自我の発達</div><div>・ 自己と他者</div><div>・ 遊び</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレール館） 厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレール館） 内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレール館）</div>						

保育内容の研究・人間関係（c）		TEAT-C-312
担当教員：横井 紘子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C634555
学部教育の関連目		授業計画
【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】 保育士資格：必修科目		
(1) 内容		01. 保育の基本と領域「人間関係」 02. 乳幼児期の人間関係の発達と特性①家族の中に生まれる子ども 03. 乳幼児期の人間関係の発達と特性②自我の芽生え／イヤイヤ期 04. 乳幼児期の人間関係の発達と特性③他者とのかかわり 05. 領域「人間関係」の歴史的変遷 06. 入園期の心の安定と人間関係 07. 3歳児の人間関係（1）保育者との関係 08. 3歳児の人間関係（2）友だちへの思い 09. 4歳児の人間関係（1）さまざまな葛藤 10. 4歳児の人間関係（2）葛藤を超えて 11. 5歳児の人間関係（1）仲間関係の深まり 12. 5歳児の人間関係（2）協同的な遊び 13. 地域社会におけるさまざまな人とのかかわり 14. 「気になる子」をめぐる人間関係 15. まとめ―人間関係を捉える視点
幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている保育内容の領域のうち、人とのかかわりに関する領域「人間関係」について学ぶ。この領域では、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養うことがめざされる。本講義では、乳幼児期の人間関係の発達や特性について理解すると同時に、人とかかわる力の育ちを支える保育者の役割について実践的に考えていく。		
(2) 学びの意義と目標		
人とのかかわりが希薄化していると言われる昨今、人間関係について多角的に考えることの意義は大きい。人とかかわる力の重要性・必要性を認識し、自己省察を通し、自分がめざす保育者のありようを考えることを目標とする。		
受講者に対する要望		準備学習（予習）
授業の中での気づきや疑問、驚きを大切にし、自分で考える時間や身近な他者と話し合う時間をもって欲しい。 		幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説書の人間関係に関わる領域の文章を読んでおくことが望ましい
学びのキーワード		準備学習（復習）
・ 保育内容 ・ 人間関係 ・ 自我の発達 ・ 自己と他者 ・ 遊び		授業での学びを自らの実習体験や日常生活と結びつけて考えていくことを期待する
		評価方法
		(1) 平常点 30% (2) 課題 20% (3) 期末レポート 50%
		欠席回数が三回を超える場合は評価に反映する
		教科書
		参考書
		文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレール館） 厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレール館） 内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレール館）

保育内容の研究・環境（a）

TEAT-C-313

担当教員：丸山 綱男

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634660

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

幼稚園教育要領、保育所保育指針には、保育は「環境を通して行う」ものであることが明示されている。

本授業では、「環境を通して行う」中で、領域「環境」が身近な自然環境や社会環境とかかわる力や心情・意欲・態度の高まりをめざそうとするものであり、保育者としての環境構成を通して学ぶ。その実体験は、幼児のはたらきかけによって多様な変化をみせる可塑性に富んだもの、応答性の要素を持つものは何かを探る。

(2) 学びの意義と目標

領域「環境」は、自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にとかかわる力を育て、生活に取り入れていこうとする態度を養う観点から環境構成をしなければならない。本授業では、子どもの感動や心のゆれを共感できる保育者として、幼児一人ひとりが発達の方角性に向かって幼児が経験してほしいことなどの願いを、いかに「環境」に埋め込むべきか、環境構成のあり方等について実体験を通して習得する。

受講者に対する要望

免許・資格取得のための必須科目ではあるが、幼児の豊かな育ちを支える専門性を磨くよう受講してほしい。

学びのキーワード

- ・領域「環境」の構成
- ・人的環境
- ・自然環境
- ・物的環境
- ・社会的環境

授業計画

01. オイエンテーション：保育での「環境」とは
02. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の「環境」のとりえ方
03. 領域「環境」における変遷と環境構成のあり方
04. 人的環境としての保育者・友(DVD視聴)
05. 自然環境1 身近な植物にふれる活動
06. 自然環境2 生命の営みにふれる活動
07. 自然環境3 植物を使った活動
08. 物的環境1 園庭の自然や遊具とかかわる活動
09. 物的環境2 身の回りの物に愛着をもち遊ぶ活動
10. 物的環境3 数量・図形・文字・標識へ触れる活動
11. 社会的環境 地域・行事にかかわる活動
12. 安全対策と環境
13. 課題の整理と討議（グループ毎）
14. 課題の発表と総括
15. まとめ

準備学習(予習)

領域「環境」の理解を深めるために、講義前毎に、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を熟読して、理論と講義を通じた実践の一体化を図る。

準備学習(復習)

レポート作成等を通して、授業中に学んだことや実体験したことを整理し、新たな文献等にも当たって講義内容の充実を図る。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 提出物 | 20% |
| (3) 課題の整理 | 30% |
| (4) 試験 | 20% |

教科書

秋田喜代美・増田時枝・安見克夫編 『新時代の保育双書 保育内容「環境」』（株）みらい

参考書

保育内容の研究・環境（c）

TEAT-C-313

担当教員：丸山 綱男

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634665

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

幼稚園教育要領、保育所保育指針には、保育は「環境を通して行う」ものであることが明示されている。

本授業では、「環境を通して行う」中で、領域「環境」が身近な自然環境や社会環境とかかわる力や心情・意欲・態度の高まりをめざそうとするものであり、保育者としての環境構成を通して学ぶ。その実体験は、幼児のはたらきかけによって多様な変化をみせる可塑性に富んだもの、応答性の要素を持つものは何かを探る。

(2) 学びの意義と目標

領域「環境」は、自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にとかかわる力を育て、生活に取り入れていこうとする態度を養う観点から環境構成をしなければならない。本授業では、子どもの感動や心のゆれを共感できる保育者として、幼児一人ひとりが発達の方角性に向かって幼児が経験してほしいことなどの願いを、いかに「環境」に埋め込むべきか、環境構成のあり方等について実体験を通して習得する。

受講者に対する要望

免許・資格取得のための必須科目ではあるが、幼児の豊かな育ちを支える専門性を磨くよう受講してほしい。

学びのキーワード

- ・領域「環境」の構成
- ・人的環境
- ・自然環境
- ・物的環境
- ・社会的環境

授業計画

01. オイエンテーション：保育での「環境」とは
02. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の「環境」のとりえ方
03. 領域「環境」における変遷と環境構成のあり方
04. 人的環境としての保育者・友（DVD視聴）
05. 自然環境1 身近な植物にふれる活動
06. 自然環境2 生命の営みにふれる活動
07. 自然環境3 植物を使った活動
08. 物的環境1 園庭の自然や遊具とかかわる活動
09. 物的環境2 身の回りの物に愛着をもち遊ぶ活動
10. 物的環境3 数量・図形・文字・標識へ触れる活動
11. 社会的環境 地域・行事にかかわる活動
12. 安全対策と環境
13. 課題の整理と討議（グループ毎）
14. 課題の発表と総括
15. まとめ

準備学習（予習）

領域「環境」の理解を深めるために、講義前毎に、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を熟読して、理論と講義を通じた実践の一体化を図る。

準備学習（復習）

レポート作成等を通して、授業中に学んだことや実体験したことを整理し、新たな文献等にも当たって講義内容の充実を図る。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 提出物 | 20% |
| (3) 課題の整理 | 30% |
| (4) 試験 | 20% |

教科書

秋田喜代美・増田時枝・安見克夫編 『「新時代の保育双書 保育内容「環境」』』（株）みらい

参考書

保育内容の研究・環境（b）

TEAT-C-313

担当教員：丸山 綱男

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634670

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

幼稚園教育要領、保育所保育指針には、保育は「環境を通して行う」ものであることが明示されている。

本授業では、「環境を通して行う」中で、領域「環境」が身近な自然環境や社会環境とかかわる力や心情・意欲・態度の高まりをめざそうとするものであり、保育者としての環境構成を通して学ぶ。その実体験は、幼児のはたらきかけによって多様な変化をみせる可塑性に富んだもの、応答性の要素を持つものは何かを探る。

(2) 学びの意義と目標

領域「環境」は、自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にとかかわる力を育て、生活に取り入れていこうとする態度を養う観点から環境構成をしなければならない。本授業では、子どもの感動や心のゆれを共感できる保育者として、幼児一人ひとりが発達の方角性に向かって幼児が経験してほしいことなどの願いを、いかに「環境」に埋め込むべきか、環境構成のあり方等について実体験を通して習得する。

受講者に対する要望

免許・資格取得のための必須科目ではあるが、幼児の豊かな育ちを支える専門性を磨くよう受講してほしい。

学びのキーワード

- ・領域「環境」の構成
- ・人的環境
- ・自然環境
- ・物的環境
- ・社会的環境

授業計画

01. オイエンテーション：保育での「環境」とは
02. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の「環境」のとりえ方
03. 領域「環境」における変遷と環境構成のあり方
04. 人的環境としての保育者・友のあり方（DVD視聴）
05. 自然環境1 身近な植物にふれる活動
06. 自然環境2 生命の営みにふれる活動
07. 自然環境3 植物を使った活動
08. 物的環境1 園庭の自然や遊具とかかわる活動
09. 物的環境2 身の回りの物に愛着をもち遊ぶ活動
10. 物的環境3 数量・図形・文字・標識へ触れる活動
11. 社会的環境 地域・行事にかかわる活動
12. 安全対策と環境
13. 課題の整理と討議（グループ毎）
14. 課題の発表と総括
15. まとめ

準備学習（予習）

領域「環境」の理解を深めるために、講義前毎に、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を熟読して、理論と講義を通じた実践の一体化を図る。

準備学習（復習）

レポート作成等を通して、授業中に学んだことや実体験したことを整理し、新たな文献等にも当たって講義内容の充実を図る。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 提出物 | 20% |
| (3) 課題の整理 | 30% |
| (4) 試験 | 20% |

教科書

秋田喜代美・増田時枝・安見克夫編 『「新時代の保育双書 保育内容「環境」』』（株）みらい

参考書

保育内容の研究・言葉 (a)

TEAT-C-314

担当教員： 上野 直子

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634775

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

保 育 者 と し て の 基 盤 と な る 幼 稚 園 教 育 要 領 ・ 保 育 所 保
育 指 針 の 「 言 葉 」 の 領 域 で は 『 経 験 し た こ と を 言 葉 で 表
す の 意 義 』 の 意 義 と し て 言 葉 の 領 域 で 表 現 し 言 葉 に 対 す る 感 覚
を 自 然 的 に 養 育 し 言 葉 の 領 域 で 表 現 し 言 葉 に 対 す る 感 覚

そこで、この授業ではこれらの幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」についての知識を深めるとともに、乳幼児期からの言葉の発達過程を学び、人間にとっての言葉とその機能に関しての理解を深めます。

並行して、言葉の発達と関わる保育教材についての知識と技術についての学びを深めたいと思います（絵本、手遊び歌、言葉遊び、コミュニケーションを促進する玩具など）。保育者として、子どものこぼれの発達に寄与するような保育実践をめざし、教材・保育指導案を作成してみよう。

(2) 学びの意義と目標

この授業では、乳幼児期の言葉の発達を学ぶことが中心になります。この時期の言葉の獲得はその後の人間の成長・発達にとって大変に意味深いものである。ことばの持つ意味を改めて考え直し、人間にとっての言葉を獲得することの意義、人が思考すること、人と人とのコミュニケーションについて考える機会を持っていただきたいと思います。

受講者に対する要望

受講者の皆さんが聞け、板書だけの授業にならないように、ノートの作成を積極的に行っていただきたいように思います。教材作成なども、子どもとの間でことばを授け、深く観察し、子どもが人との間でことばを獲得する過程を学んでいきたいと思います。

学びのキーワード

- ・言語発達
- ・コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション
02. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」について
03. ことばの発達過程について（ことばの前のことば）
04. ことばの発達過程について（一次的ことば）
05. ことばの発達過程について（二次的ことば）
06. 遊びと言葉 1（子どものことばを理解するために）
07. 遊びと言葉 2（子どもの発話を観察する）
08. 文字との出会い
09. ことばの問題と援助
10. 子どもが「ことば」を楽しむ活動とは（絵本研究）
11. 絵本研究グループ発表
12. ことばを促す保育教材作り（その 1：子どもと深める言葉遊び・指導案の作成）
13. 模擬保育グループ発表
14. ことばを促す保育教材作り（その 2：乳幼児とのコミュニケーションを深める手作り玩具とは）
15. 子どものための玩具紹介と発表（まとめ）

準備學習(予習)

「ことば」に関連する個別教材ノート作成を行います。講義の内容を整理し、授業計画に沿って個人の学習計画を立てて、教材作成を行います。

準備學習(復習)

授業ノートと個別教材ノートの整理を行ってください。授業ノートの積み重ねが、実習や実際の保育活動において、子どものことばの発達をとらえる際の手掛かりとなり、個別教材ノートが教材作成のヒントとなるとと思います。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 30% | 授業態度・毎回記入するレスポンスカードの記載内容の評価も含みます。 |
| (2) 演習など | 70% | 小テスト、個別教材ノート、課題、発表など |

上記のことを踏まえて、総合的に評価したいと思います。

教科書

参考書

秋田 喜代美, 野口 隆子 『保育内容 言葉 (新保育シリーズ)』 (光生館)

保育内容の研究・言葉（b）

TEAT-C-314

担当教員：上野 直子

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1C634780

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 内容

保育者としての基盤となる幼稚園教育要領・保育所保育指針の「言葉」の領域では、『経験したこと考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現すること』がねらいになっています。

そこで、この授業ではこれらの幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」についての知識を深めるとともに、乳幼児期からの言葉の発達過程を学び、人間にとっての言葉とその機能に関しての理解を深めます。

並行して、言葉の発達と関わる保育教材についての知識と技術についての学びを深めたいと思います（絵本、手遊び歌、言葉遊び、コミュニケーションを促進する玩具など）。保育者として、子どものことばの発達に寄与するような保育実践をめざし、教材・保育指導案を作成してみましょう。

(2) 学びの意義と目標

この授業では、乳幼児期の言葉の発達を学ぶことが中心になります。この時期の言葉の獲得はその後の人間の成長・発達にとって大変に意味深いものである。ことばの持つ意味を改めて考え直し、人間にとっての言葉を獲得することの意義、人が思考すること、人と人とのコミュニケーションについて考える機会を持ていただきたいと思っています。

受講者に対する要望

受講者の皆さんが聞くだけ、板書だけの授業にならないように、ノートの作成を積極的に行っていただきたいと思っています。教材作成などを通じて、子どものことばの発達を注意深く観察し、子どもが人との間でことばを獲得する過程を学んでいきましょう。

学びのキーワード

・ 言語発達

・ コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション

02. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」について

03. ことばの発達過程について（ことばの前のことば）

04. ことばの発達過程について（一次のことば）

05. ことばの発達過程について（二次のことば）

06. 遊びと言葉 1（子どものことばを理解するために）

07. 遊びと言葉 2（子どもの発話を観察する）

08. 文字との出会い

09. ことばの問題と援助

10. 子どもが「ことば」を楽しむ活動とは（絵本研究）

11. 絵本研究グループ発表

12. ことばを促す保育教材作り（その1：子どもと深める言葉遊び・指導案の作成）

13. 模擬保育グループ発表

14. ことばを促す保育教材作り（その2：乳幼児とのコミュニケーションを深める手作り玩具とは）

15. 子どものための玩具紹介と発表（まとめ）

準備学習(予習)

「ことば」に関連する個別教材ノート作成を行います。講義の内容を整理し、授業計画に沿って個人の学習計画を立てて、教材作成を行います。

準備学習(復習)

授業ノートと個別教材ノートの整理を行ってください。授業ノートの積み重ねが、実習や実際の保育活動において、子どものことばの発達をとらえる際の手掛かりとなり、個別教材ノートが教材作成のヒントとなると思います。

評価方法

(1) 授業への参加度

30%

授業態度・毎回記入するレスポンスカードの記載内容の評価も含みます。

(2) 演習など

70%

小テスト、個別教材ノート、課題、発表など

上記のことを踏まえて、総合的に評価したいと思います。

教科書

参考書

秋田 喜代美、野口 隆子 『保育内容 言葉（新保育シリーズ）』（光生館）

保育内容の研究・言葉（c）		TEAT-C-314							
担当教員：上野 直子									
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C634785							
学部教育の関連目		授業計画							
【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける		01. オリエンテーション 02. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」について 03. ことばの発達過程について（ことばの前のことば） 04. ことばの発達過程について（一次のことば） 05. ことばの発達過程について（二次のことば） 06. 遊びと言葉 1（子どものことばを理解するために） 07. 遊びと言葉 2（子どもの発話を観察する） 08. 文字との出会い 09. ことばの問題と援助 10. 子どもが「ことば」を楽しむ活動とは（絵本研究） 11. 絵本研究グループ発表 12. ことばを促す保育教材作り（その 1：子どもと深める言葉遊び・指導案の作成） 13. 模擬保育グループ発表 14. ことばを促す保育教材作り（その 2：乳幼児とのコミュニケーションを深める手作り玩具とは） 15. 子どものための玩具紹介と発表（まとめ）							
カリキュラム上の位置付け									
【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】 保育士資格：必修科目									
(1) 内容									
<p>保育者としての基盤となる幼稚園教育要領・保育所保育指針の「言葉」の領域では、『経験したこと考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現すること』がねらいになっています。</p> <p>そこで、この授業ではこれらの幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」についての知識を深めるとともに、乳幼児期からの言葉の発達過程を学び、人間にとっての言葉とその機能に関しての理解を深めます。</p> <p>並行して、言葉の発達と関わる保育教材についての知識と技術についての学びを深めたいと思います（絵本、手遊び歌、言葉遊び、コミュニケーションを促進する玩具など）。保育者として、子どものことばの発達に寄与するような保育実践をめざし、教材・保育指導案を作成してみましょう。</p>									
(2) 学びの意義と目標									
<p>この授業では、乳幼児期の言葉の発達を学ぶことが中心になります。この時期の言葉の獲得はその後の人間の成長・発達にとって大変に意味深いものである。ことばの持つ意味を改めて考え直し、人間にとっての言葉を獲得することの意義、人が思考すること、人と人とのコミュニケーションについて考える機会を持てていただきたいと思います。</p>		準備学習(予習)							
		<p>「ことば」に関連する個別教材ノート作成を行います。講義の内容を整理し、授業計画に沿って個人の学習計画を立てて、教材作成を行います。</p>							
		準備学習(復習)							
		<p>授業ノートと個別教材ノートの整理を行ってください。授業ノートの積み重ねが、実習や実際の保育活動において、子どものことばの発達をとらえる際の手掛かりとなり、個別教材ノートが教材作成のヒントとなると思います。</p>							
		評価方法							
		<table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>30%</td><td>授業態度・毎回記入するレスポンスカードの記載内容の評価も含まれます。</td></tr><tr><td>(2) 演習など</td><td>70%</td><td>小テスト、個別教材ノート、課題、発表など</td></tr></table>		(1) 授業への参加度	30%	授業態度・毎回記入するレスポンスカードの記載内容の評価も含まれます。	(2) 演習など	70%	小テスト、個別教材ノート、課題、発表など
(1) 授業への参加度	30%	授業態度・毎回記入するレスポンスカードの記載内容の評価も含まれます。							
(2) 演習など	70%	小テスト、個別教材ノート、課題、発表など							
		上記のことを踏まえて、総合的に評価したいと思います。							
受講者に対する要望									
<p>受講者の皆さんが聞くだけ、板書だけの授業にならないように、ノートの作成を積極的に行っていただきたいと思います。教材作成などを通じて、子どものことばの発達を注意深く観察し、子どもが人との間でことばを獲得する過程を学んでいきましょう。
</p>									
学びのキーワード		教科書							
・ 言語発達 ・ コミュニケーション									
		参考書							
		秋田 喜代美、野口 隆子 『保育内容 言葉（新保育シリーズ）』（光生館）							

保育内容の研究・表現 A (c)

TEAT-C-315

担当教員：相川 徳孝

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634800

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園」における表現の内容を理解すると同時に共に生活する子どもと保育者が「表現者として育つ」ことに視点をあて、理論と実践の両面から授業を展開していく。

(2) 学びの意義と目標

子どもの表現方法について学び、「表現とは何か」「子どもなりの表現を受容することとは」「表現する力を育てるとはどういうことなのか」を考えていく。また、保育者自身も表現者であることを目指し、ピアノや手遊び等の保育技術も重視していく。

受講者に対する要望

各自の保育技術を高めていくこと

学びのキーワード

- ・子どもの表現
- ・保育者の表現
- ・表現に必要な保育技術

授業計画

01. オリエンテーション
02. 保育の基本と領域「表現」について
03. 幼稚園教育要領における「表現」
04. 保育所保育指針における「表現」
05. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」
06. 保育者のための楽典の基礎
07. 子どもの表現(1)歌唱
08. 子どもの表現(2)わらべ歌遊び
09. 子どもの表現(3)動きのリズム
10. 子どもの表現(4)身体表現
11. 指導計画について
12. 総合的な表現活動としての劇活動(1)絵本から劇活動への導入
13. 総合的な表現活動としての劇活動(2)子どもの表現を助けるための小道具
14. 総合的な表現活動としての劇活動(3)劇活動を支えるための保育者の役割
15. まとめ

準備学習(予習)

初回の授業時に配布されたピアノの課題に取り組むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布した楽譜や手遊び等の実技内容については正しく覚え、指名されてもできるようにしておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 試験とレポート | 80% |
| (2) 各自の表現 | 20% |

教科書

参考書

保育内容の研究・表現 A（a）		TEAT-C-315	
担当教員：相川 徳孝			
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C634890	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】保育者に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 保育の基本と領域「表現」について</div> <div>03. 幼稚園教育要領における「表現」</div> <div>04. 保育所保育指針における「表現」</div> <div>05. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」</div> <div>06. 保育者のための楽典の基礎</div> <div>07. 子どもの表現(1)歌唱</div> <div>08. 子どもの表現(2)わらべ歌遊び</div> <div>09. 子どもの表現(3)動きのリズム</div> <div>10. 子どもの表現(4)身体表現</div> <div>11. 指導計画について</div> <div>12. 総合的な表現活動としての劇活動(1) 絵本から劇活動への導入</div> <div>13. 総合的な表現活動としての劇活動(2) 子どもの表現を助けるための小道具</div> <div>14. 総合的な表現活動としての劇活動(3) 劇活動を支えるための保育者の役割</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目</div> <div>【C】保育士資格：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における表現の内容を理解すると同時に共に生活する子どもと保育者が「表現者として育つ」ことに視点をあて、理論と実践の両面から授業を展開していく。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子どもの表現方法について学び、「表現とは何か」「子どもなりの表現を受容することとは」「表現する力を育てるとはどういうことなのか」を考えていく。また、保育者自身も表現者であることを目指し、ピアノや手遊び等の保育技術も重視していく。</div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>各自の保育技術を高めていくこと</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>初回の授業時に配布されたピアノの課題に取り組むこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時に配布した楽譜や手遊び等の実技内容については正しく覚え、指名されてもできるようにしておくこと。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験とレポート80%</div><div>(2) 各自の表現20%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・子どもの表現</div><div>・保育者の表現</div><div>・表現に必要な保育技術</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div>	

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

- 【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における表現の内容を理解すると同時に共に生活する子どもと保育者が「表現者として育つ」ことに視点をあて、理論と実践の両面から授業を展開していく。

(2) 学びの意義と目標

子どもの表現方法について学び、「表現とは何か」「子どもなりの表現を受容することとは」「表現する力を育てるとはどういうことなのか」を考えていく。また、保育者自身も表現者であることを目指し、ピアノや手遊び等の保育技術も重視していく。

受講者に対する要望

各自の保育技術を高めていくこと

学びのキーワード

- ・子どもの表現
- ・保育者の表現
- ・表現に必要な保育技術

授業計画

01. オリエンテーション
02. 保育の基本と領域「表現」について
03. 幼稚園教育要領における「表現」
04. 保育所保育指針における「表現」
05. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」
06. 保育者のための楽典の基礎
07. 子どもの表現(1)歌唱
08. 子どもの表現(2)わらべ歌遊び
09. 子どもの表現(3)動きのリズム
10. 子どもの表現(4)身体表現
11. 指導計画について
12. 総合的な表現活動としての劇活動(1) 絵本から劇活動への導入
13. 総合的な表現活動としての劇活動(2) 子どもの表現を助けるための小道具
14. 総合的な表現活動としての劇活動(3) 劇活動を支えるための保育者の役割
15. まとめ

準備学習(予習)

初回の授業時に配布されたピアノの課題に取り組むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布した楽譜や手遊び等の実技内容については正しく覚え、指名されてもできるようにしておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 試験とレポート | 80% |
| (2) 各自の表現 | 20% |

教科書

参考書

保育内容の研究・表現 A (b)

TEAT-C-315

担当教員：相川 徳孝

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634895

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における表現の内容を理解すると同時に共に生活する子どもと保育者が「表現者として育つ」ことに視点をあて、理論と実践の両面から授業を展開していく。

(2) 学びの意義と目標

子どもの表現方法について学び、「表現とは何か」「子どもなりの表現を受容することとは」「表現する力を育てるとはどういうことなのか」を考えていく。また、保育者自身も表現者であることを目指し、ピアノや手遊び等の保育技術も重視していく。

受講者に対する要望

各自の保育技術を高めていくこと

学びのキーワード

- ・子どもの表現
- ・保育者の表現
- ・表現に必要な保育技術

授業計画

01. オリエンテーション
02. 保育の基本と領域「表現」について
03. 幼稚園教育要領における「表現」
04. 保育所保育指針における「表現」
05. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」
06. 保育者のための楽典の基礎
07. 子どもの表現(1)歌唱
08. 子どもの表現(2)わらべ歌遊び
09. 子どもの表現(3)動きのリズム
10. 子どもの表現(4)身体表現
11. 指導計画について
12. 総合的な表現活動としての劇活動(1)絵本から劇活動への導入
13. 総合的な表現活動としての劇活動(2)子どもの表現を助けるための小道具
14. 総合的な表現活動としての劇活動(3)劇活動を支えるための保育者の役割
15. まとめ

準備学習(予習)

初回の授業時に配布されたピアノの課題に取り組むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布した楽譜や手遊び等の実技内容については正しく覚え、指名されてもできるようにしておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 試験とレポート | 80% |
| (2) 各自の表現 | 20% |

教科書

参考書

保育内容の研究・表現B（保⑦～⑫）		TEAT-C-219	
担当教員：柴田 和豊			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C634905	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーションー造形表現の大切さと多様性</div> <div>02. 保育所保育指針と造形表現</div> <div>03. 幼稚園教育要領と造形表現</div> <div>04. 触覚的な表現 1ー粘土を中心に</div> <div>05. 触覚的な表現 2ー紙?布?自然物を中心に</div> <div>06. 触覚的な表現 3ー人工物を中心に</div> <div>07. 視覚的な表現 1ー児童画の登場（その歩みと意義）</div> <div>08. 視覚的な表現 2ー子どもの描画の特徴</div> <div>09. 視覚的な表現 3ーなぐり描きの体験</div> <div>10. 子どもたちの生活と造形表現ー装飾</div> <div>11. 子どもたちの生活と造形表現ーコミュニケーション</div> <div>12. 表現の総合性</div> <div>13. 模擬授業 1 描画表現的領域</div> <div>14. 模擬授業 2 立体表現的領域</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目</div> <div>【C】 保育士資格：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」に記されている「いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」などの諸点を実現するために、子どもたちの造形的発達の特性と造形活動についての多面的な学習を通して、幼児の造形表現についての理論的視点と実践的能力の育成を図る。また、子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさと大切さが実感できるよう、理論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進める。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子どもたちの存在の大切さを実感させてくれる子どもたちの様々な表現を受けとめることができるようになること、またその前提として、保育者、授業者自身もまた表現者であることに気づき、自分自身の課題としても表現活動に取り組めるようになることを目標とする。</div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>遊びのようなかたちから造形表現の多様性と可能性を考えていくので、かつて図画工作や美術が苦手であった人も心配せずに受講してほしい。</div>			
<div>学びのキーワード</div> <div>・ こども</div> <div>・ あそび</div> <div>・ コミュニケーション</div> <div>・ 自己表現</div> <div>・ 表現方法</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

保育内容の研究・表現B（保①～⑥）		TEAT-C-219	
担当教員：柴田 和豊			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C634910	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーションー造形表現の大切さと多様性</div> <div>02. 保育所保育指針と造形表現</div> <div>03. 幼稚園教育要領と造形表現</div> <div>04. 触覚的な表現 1ー粘土を中心に</div> <div>05. 触覚的な表現 2ー紙?布?自然物を中心に</div> <div>06. 触覚的な表現 3ー人工物を中心に</div> <div>07. 視覚的な表現 1ー児童画の登場（その歩みと意義）</div> <div>08. 視覚的な表現 2ー子どもの描画の特徴</div> <div>09. 視覚的な表現 3ーなぐり描きの体験</div> <div>10. 子どもたちの生活と造形表現ー装飾</div> <div>11. 子どもたちの生活と造形表現ーコミュニケーション</div> <div>12. 表現の総合性</div> <div>13. 模擬授業 1 描画表現的領域</div> <div>14. 模擬授業 2 立体表現的領域</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目</div> <div>【C】 保育士資格：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」に記されている「いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」などの諸点を実現するために、子どもたちの造形的発達の特性と造形活動についての多面的な学習を通して、幼児の造形表現についての理論的視点と実践的能力の育成を図る。また、子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさと大切さが実感できるよう、理論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進める。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子どもたちの存在の大切さを実感させてくれる子どもたちの様々な表現を受けとめることができるようになること、またその前提として、保育者、授業者自身もまた表現者であることに気づき、自分自身の課題としても表現活動に取り組めるようになることを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>最初に幼稚園教育要領と保育所保育指針における表現についての記述を読んでおくこと。その後は授業で指示するプリント資料に目を通すとともに、用具・材料などを適正に準備すること。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>学習した内容について、単元ごとに、学んだこと・よかったこと・改善すべきことなどを自分の視点で整理すること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>遊びのようなかたちから造形表現の多様性と可能性を考えていくので、かつて図画工作や美術が苦手であった人も心配せずに受講してほしい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 提出物</div><div>50%</div></div><div><div>(2) 模擬授業</div><div>20%</div></div><div><div>(3) 試験</div><div>30%</div></div></div> <div>欠席が4回を越えると評価外</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・こども</div><div>・あそび</div><div>・コミュニケーション</div><div>・自己表現</div><div>・表現方法</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

保育内容の研究・表現B（保以外）

TEAT-C-219

担当教員：柴田 和豊

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634915

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」に記されている「いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」などの諸点を実現するために、子どもたちの造形的発達の特性と造形活動についての多面的な学習を通して、幼児の造形表現についての理論的視点と実践的能力の育成を図る。また、子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさと大切さが実感できるよう、理論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進める。

(2) 学びの意義と目標

子どもたちの存在の大切さを実感させてくれる子どもたちの様々な表現を受けとめることができるようになること、またその前提として、保育者、授業者自身もまた表現者であることに気づき、自分自身の課題としても表現活動に取り組めるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

遊びのようなかたちから造形表現の多様性と可能性を考えていくので、かつて図画工作や美術が苦手であった人も心配せずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・こども
- ・あそび
- ・コミュニケーション
- ・自己表現
- ・表現方法

授業計画

01. オリエンテーションー造形表現の大切さと多様性
02. 保育所保育指針と造形表現
03. 幼稚園教育要領と造形表現
04. 触覚的な表現1ー粘土を中心に
05. 触覚的な表現2ー紙?布?自然物を中心に
06. 触覚的な表現3ー人工物を中心に
07. 視覚的な表現1ー児童画の登場（その歩みと意義）
08. 視覚的な表現2ー子どもの描画の特徴
09. 視覚的な表現3ーなぐり描きの体験
10. 子どもたちの生活と造形表現ー装飾
11. 子どもたちの生活と造形表現ーコミュニケーション
12. 表現の総合性
13. 模擬授業1 描画表現的領域
14. 模擬授業2 立体表現的領域
15. まとめ

準備学習(予習)

最初に幼稚園教育要領と保育所保育指針における表現についての記述を読んでおくこと。その後は授業で指示するプリント資料に目を通すとともに、用具・材料などを適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、単元ごとに、学んだこと・よかったこと・改善すべきことなどを自分の視点で整理すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 提出物 | 50% |
| (2) 模擬授業 | 20% |
| (3) 試験 | 30% |

欠席が4回を越えると評価外

教科書

参考書

幼児指導法の研究（C-1・2）

TEAT-C-316

担当教員：田澤 薫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C635020

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：選択科目

(1) 内容

「児童学概論」と「児童文化論A」（とくに、遊び、子どもと食の単元）等で学んだ児童理解を基盤としながら、乳幼児の各年齢・月齢ごとの一般的な発達の特徴を整理したうえで、特性をふまえた一人一人の幼児の姿を理解し、人と人として幼児と向き合える理解基盤を身につける。

幼児理解を踏まえて、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を手がかりとしながら保育の場での保育実践や幼児指導の手法を理解し、具体的に自分でどのように関わるのか、言葉かけや振る舞いができるようになる。

幼児に対する保育者の関わりを記録化し、省察し、保育内容を振り返り、その作業を通して保育内容を高めていく方法を身につけて学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

- ・年齢・月齢ごとの一般的な幼児の発達を理解する。
- ・一般的な発達理解をふまえた個々の幼児理解の手法を身につける。
- ・個々の幼児理解を基盤とした保育実践を具体的に考えられる力を養う。
- ・幼児の姿を記録化し、省察することで保育を高めていく方法を理解する。

受講者に対する要望

日常生活でも乳幼児に関心をもって、子どもの姿に目を向けて過ごしましょう。子どもが喜ぶ活動をいつでも考えて、実践の練習を重ねてください。

学びのキーワード

- ・幼児理解
- ・幼稚園教育要領
- ・保育所保育指針
- ・乳幼児の発達
- ・保育指導計画

授業計画

01. 幼児理解の姿勢と方法
02. 0. 1 歳児の発達特性と子どもの姿
03. 2歳児の発達特性と子どもの姿
04. 3歳児の発達特性と子どもの姿
05. 4歳児の発達特性と子どもの姿
06. 5歳児の発達特性と子どもの姿
07. 発達の特徴をふまえた関わり
08. 幼児理解と保育指導計画の立案
09. 保育実践事例の記録化と分析
10. 保育実践記録の分析による幼児理解
11. 幼児との関わりからの気づきと省察
12. 幼児理解をふまえた保育指導計画の立案方法
13. 2・3 歳児の事例分析と実践の検討
14. 3・4 歳児の事例分析と実践の検討
15. 総括

準備学習(予習)

- ・「児童学概論」のテキスト（とくに事例・絵本）とノートを読み、熟読してから臨むこと。
- ・毎回の授業で指定する準備学習に取り組むこと。

準備学習(復習)

- ・授業ノートをしっかりまとめること。
- ・毎回の授業で指定する課題に取り組むこと。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---------------------|
| (1) 積極的な参加 | 30% | レスポンスシートへの記載内容で判断する |
| (2) 試験 | 30% | |
| (3) 課題（保育指導計画案） | 30% | |
| (4) 課題（実践） | 10% | |

教科書

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針（原本）』

参考書

幼児指導法の研究（C-3・4）

TEAT-C-316

担当教員：田澤 薫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C635025

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：選択科目

(1) 内容

「児童学概論」と「児童文化論A」（とくに、遊び、子どもと食の単元）等で学んだ児童理解を基盤としながら、乳幼児の各年齢・月齢ごとの一般的な発達の特徴を理解したうえで、特性をふまえた一人一人の幼児の姿を理解し、人と人として幼児と向き合える理解基盤を身につける。

幼児理解を踏まえて、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を手がかりとしながら保育の場での保育実践や幼児指導の手法を理解し、具体的に自分でどのように関わるのか、言葉かけや振る舞いができるようになる。

幼児に対する保育者の関わりを記録化し、省察し、保育内容を振り返り、その作業を通して保育内容を高めていく方法を身につけて学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

- ・年齢・月齢ごとの一般的な幼児の発達を理解する。
- ・一般的な発達理解をふまえた個々の幼児理解の手法を身につける。
- ・個々の幼児理解を基盤とした保育実践を具体的に考えられる力を養う。
- ・幼児の姿を記録化し、省察することで保育を高めていく方法を理解する。

受講者に対する要望

日常生活でも乳幼児に関心をもって、子どもの姿に目を向けて過ごしましょう。子どもが喜ぶ活動をいつでも考えて、実践の練習を重ねてください。

学びのキーワード

- ・幼児理解
- ・幼稚園教育要領
- ・保育所保育指針
- ・乳幼児の発達
- ・保育指導計画

授業計画

01. 幼児理解の姿勢と方法
02. 0. 1 歳児の発達特性と子どもの姿
03. 2歳児の発達特性と子どもの姿
04. 3歳児の発達特性と子どもの姿
05. 4歳児の発達特性と子どもの姿
06. 5歳児の発達特性と子どもの姿
07. 発達の特性をふまえた関わり
08. 幼児理解と保育指導計画の立案
09. 保育実践事例の記録化と分析
10. 保育実践記録の分析による幼児理解
11. 幼児との関わりからの気づきと省察
12. 幼児理解をふまえた保育指導計画の立案方法
13. 2・3 歳児の事例分析と実践の検討
14. 3・4 歳児の事例分析と実践の検討
15. 総括

準備学習(予習)

- ・「児童学概論」のテキスト（とくに事例・絵本）とノートを熟読してから臨むこと。
- ・毎回の授業で指定する準備学習に取り組むこと。

準備学習(復習)

- ・授業ノートをしっかりまとめること。
- ・毎回の授業で指定する課題に取り組むこと。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---------------------|
| (1) 積極的な参加 | 30% | レスポンスシートへの記載内容で判断する |
| (2) 試験 | 30% | |
| (3) 課題（保育指導計画案） | 30% | |
| (4) 課題（実践） | 10% | |

教科書

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針（原本）』

参考書

教育方法論（C-①～⑥）

TEAT-0-205

担当教員：市村 和子、齋藤 範雄

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C636390

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

本講義は、カリキュラム構成や教育の方法に関する基礎的・基本的な理論を学ぶことで、授業づくりを行うために必要な知識を習得することができるようにする。また、教育メディアについて学び、演習を通して実践的な技能を身に付けることができるようにする。

(2) 学びの意義と目標

幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得のための科目であり、「児童学概論」「教育原理」「発達心理学」「児童教育学」「基礎実習」等の授業、幼稚園や小学校での実習と深く関連している。授業を通して、発問・指示・板書・説明等の教授スキルやメディアの活用方法を身に付け、実践に生かすことができるようにする。

受講者に対する要望

「先生」と呼ばれる職業を目指す者として、どのような態度で授業に臨めばよいかわかりやすく常に参加すること。

学びのキーワード

- ・授業
- ・カリキュラム
- ・教授スキル
- ・教育メディア
- ・子ども理解

授業計画

01. オリエンテーション、学校・教室・授業とは何か
02. 教育の変遷について
03. カリキュラム、学習指導要領について
04. 子ども理解について
05. 教授スキル1（発問・指示・説明）
06. 教授スキル2（教授組織、学習形態）
07. 教授スキル3（評価）
08. 評価、メディアの活用について
09. 教育メディア演習1（ソフトの操作方法と班及び役割分担決め）
10. 教育メディア演習2（自己紹介ファイル及び研究調査内容、作成）
11. 教育メディア演習3（作品完成、発表原稿作成）
12. 教育メディア演習4（発表会及び評価について）
13. 今日の課題1（発達障害について）
14. 今日の課題2（主な発達障害の支援方法について）
15. まとめ

準備学習（予習）

前時に予告された内容について調べておくこと

準備学習（復習）

本時の学習内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | |
|------------|----------------------|
| (1) 平常点 | 30% 積極的な発言をすること |
| (2) 理解度の確認 | 70% テスト、課題レポート、作品、発表 |

毎回の出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

随時プリントを配付する

教育方法論（C-⑦～⑫）

TEAT-0-205

担当教員：市村 和子、齋藤 範雄

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C636395

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

本講義は、カリキュラム構成や教育の方法に関する基礎的・基本的な理論を学ぶことで、授業づくりを行うために必要な知識を習得することができるようにする。また、教育メディアについて学び、演習を通して実践的な技能を身に付けることができるようにする。

(2) 学びの意義と目標

幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得のための科目であり、「児童学概論」「教育原理」「発達心理学」「児童教育学」「基礎実習」等の授業、幼稚園や小学校での実習と深く関連している。授業を通して、発問・指示・板書・説明等の教授スキルやメディアの活用方法を身に付け、実践に生かすことができるようにする。

受講者に対する要望

「先生」と呼ばれる職業を目指す者として、どのような態度で授業に臨めばよいかわかりやすく常に考えて参加すること。

学びのキーワード

- ・授業
- ・カリキュラム
- ・教授スキル
- ・教育メディア
- ・子ども理解

授業計画

01. オリエンテーション、学校・教室・授業とは何か
02. 教育の変遷について
03. カリキュラム、学習指導要領について
04. 子ども理解について
05. 教授スキル1（発問、指示、説明）
06. 教授スキル2（教授組織、学習形態）
07. 教授スキル3（評価）
08. 評価、メディアの活用について
09. 教育メディア演習1（ソフトの操作方法と班及び役割分担決め）
10. 教育メディア演習2（自己紹介ファイル及び研究調査内容、作成）
11. 教育メディア演習3（作品完成、発表原稿作成）
12. 教育メディア演習4（発表会及び評価について）
13. 今日の課題1（発達障害について）
14. 今日の課題2（主な発達障害の支援方法について）
15. まとめ

準備学習(予習)

前時に予告された内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の学習内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | |
|------------|----------------------|
| (1) 平常点 | 30% 積極的な発言をすること |
| (2) 理解度の確認 | 70% テスト、課題レポート、作品、発表 |

毎回の出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

随時プリントを配付する

基礎実習（C-①～⑥）		TEAT-C-282							
担当教員：相川 徳孝、齋藤 範雄									
学期：前期（ 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C636505							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業の進め方についてのオリエンテーション 実習することの意味について 02. 幼稚園について 03. 保育所と児童福祉施設について 04. 小学校について 05. 見学すること・観察することの意味 06. 子どもの活動記録と考察について 07. 見学のポイントと記録について 08. 見学者・実習生としてのマナー 09. 見学についての事前指導 10. 見学実習(1回目) 11. 見学実習（2回目） 12. 事後指導(1):子どもの活動のまとめ 13. 事後指導(2):グループ討論 14. 見学実習の振り返りと今後の自己課題 について 15. まとめ</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>この授業は幼稚園や小学校、児童福祉施設の概要や役割について学ぶと同時に、実際の保育・教育現場で子どもがどのように生活し、学んでいるのかを観察し、子ども理解を深めることを中心に進める。 また、観察した子どもの活動を記録し、読み手が子どもの活動のイメージができるような文章表現の習得も目指す。</div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>幼稚園、小学校、児童福祉施設の機能と役割について知ること。また実際の観察を通し、ありのままの子どもの姿を理解し、子どもの活動の意味を考えること。観察した子どもの活動を文章としてまとめる力をつけることを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>見学をする施設がどのような目的を持った施設なのか、また対象となる子どもの発達をきちんと理解しておくこと。</div>							
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時に指摘されたことは次回の授業までに訂正しておくこと。</div>							
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもから学ぶという姿勢を持つことと、子どもの生活の場に入るという自覚をもって参加すること。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 実習評価</td><td>70%</td></tr><tr><td>(2) 事後指導</td><td>15%</td></tr><tr><td>(3) レポート</td><td>15%</td></tr></table> <div>見学実習については事前指導、の事後指導をすべて受けていることが前提である。またレポートや日誌を期日までに提出することが評価の前提となる。</div>		(1) 実習評価	70%	(2) 事後指導	15%	(3) レポート	15%
(1) 実習評価	70%								
(2) 事後指導	15%								
(3) レポート	15%								
<div>学びのキーワード</div> <div>・乳児、幼児、児童の発達について知る ・子どもが生活している施設の理解を深める(幼稚園・小学校・児童福祉施設) ・記録の取り方とまとめ方 </div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>幼稚園教育要領 保育所保育指針</div>							

基礎実習（C-⑦～⑫）		TEAT-C-282	
担当教員：相川 徳孝、齋藤 範雄			
学期：前期（ 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C636510	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける		01. 授業の進め方についてのオリエンテーション 実習することの意味について 02. 幼稚園について 03. 児童福祉施設について 04. 小学校について 05. 見学すること・観察することの意味 06. 子どもの活動記録と考察について 07. 見学のポイントと記録について 08. 見学者・実習生としてのマナー 09. 見学実習についてのオリエンテーション 10. 見学実習（1回目） 11. 見学実習（2回目） 12. 事後指導(1):子どもの活動のまとめ 13. 事後指導(2):グループ討論 14. 見学実習の振り返りと自己課題 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
この授業は幼稚園や小学校、児童福祉施設の概要や役割について学ぶと同時に、実際の保育・教育現場で子どもがどのように生活し、学んでいるのかを観察し、子ども理解を深めていくことを中心に進める。 また、観察した子どもの活動を記録し、読み手が子どもの活動をイメージできるような文章表現の習得も目指す。			
(2) 学びの意義と目標			
幼稚園、小学校、児童福祉施設の機能と役割について知ること。また実際の観察を通し、ありのままの子どもの姿を理解し、子どもの活動の意味を考えること。観察した子どもの活動を文章としてまとめる力をつかることを目標とする。		準備学習(予習)	
		見学をする施設がどのような目的を持った施設なのか、また対象となる子どもの発達をきちんと理解しておくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業時に指摘されたことは次回の授業までに訂正しておくこと。	
		評価方法	
		(1) 実習評価 70% (2) 事後指導 15% (3) レポート 15%	
		見学実習については事前指導、実習後の事後指導をすべて受けていることが前提である。またレポートや日誌を期日までに提出することが評価の前提となる。	
受講者に対する要望			
子どもから学ぶという姿勢を持つことと、子どもの生活の場に入るという自覚をもって参加すること。			
学びのキーワード		教科書	
・乳児、幼児、児童の発達について知る ・子どもが生活している施設の理解を深める（幼稚園・小学校・児童福祉施設） ・記録の取り方とまとめ方			
		参考書	
		幼稚園教育要領 保育所保育指針	

幼稚園教育実習（N O）		TEAT-C-481
担当教員：相川 徳孝、佐藤 千瀬		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1C636615
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 幼稚園教育要領の理解 03. 実習における自己課題と個々の実習目標 04. 年齢別の指導について（1） 05. 年齢別の指導について（2） 06. 年齢別の指導について（3） 07. 各自の実習内容と指導案作成について 08. 実習日誌の記入について（1） 09. 実習日誌の記入について（2） 10. 指導案に基いた模擬保育実践（1） 11. 指導案に基いた模擬保育実践（2） 12. キリスト教保育について～保育の多様性～ 13. 事後指導（1） 14. 事後指導（2） 15. 総括～幼稚園教育実習で培われた力と見いだされた自己課題～</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>事前学習を経て、幼稚園で4週間の実習を行い、事後学習を通して自己課題に目を向け自己覚知を行う。幼稚園では、大学を離れた幼児教育の現場において実習担当者から実践的な指導を受けながら実習を行い、クラス運営や行事に参加することで幼稚園における教師の職務や活動を実践的に学び、さらには自ら立案した保育指導計画に基く責任実習を実施する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>基礎実習終了後の個別指導において確認した各自の自己課題に取り組むこと。また、実習で生かせる保育実技（手遊び、ピアノ等）を準備しておくこと。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>授業時に提示された課題について、同じ間違いをしないように自分のものとしておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>これまでに培った保育の理論・技能の全てを発揮し、幼稚園教諭となるために必要な実践力を修得することを目標とする。実習を通して幼児に対する理解を深め、また保育者としての使命感を高める。建学の精神に則り、多様な保育の一類型としてキリスト教保育への造詣も深める。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>幼稚園教諭となるための実習である。いままでの授業で学んだ内容、特に保育内容総論や幼児指導法での授業内容を再確認し、教育の現場に望むこと。また実習先の教師や子どもから学ぶという姿勢を持って取り組んでほしい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">幼稚園と保育者の役割教材研究援助方法記録</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div> <div>幼稚園教育実習ハンドブック</div>

幼稚園教育実習（P Q）		TEAT-C-481	
担当教員：相川 徳孝、佐藤 千瀬			
学期：週間授		科目：専門科目	必修・選択：選択科目
単位：4		コード：1C636620	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける		01. オリエンテーション 02. 幼稚園教育要領の理解 03. 実習における自己課題と個々の実習目標 04. 年齢別の指導について（1） 05. 年齢別の指導について（2） 06. 年齢別の指導について（3） 07. 各自の実習内容と指導案作成について 08. 実習日誌の記入について（1） 09. 実習日誌の記入について（2） 10. 指導案に基いた模擬保育実践（1） 11. 指導案に基いた模擬保育実践（2） 12. キリスト教保育について～保育の多様性～ 13. 事後指導（1） 14. 事後指導（2） 15. 総括～幼稚園教育実習で培われた力と見いだされた自己課題～	
カリキュラム上の位置付け			
【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
事前学習を経て、幼稚園で4週間の実習を行い、事後学習を通して自己課題に目を向け自己覚知を行う。幼稚園では、大学を離れた幼児教育の現場において実習担当者から実践的な指導を受けながら実習を行い、クラス運営や行事に参加することで幼稚園における教師の職務や活動を実践的に学び、さらには自ら立案した保育指導計画に基く責任実習を実施する。			
(2) 学びの意義と目標			
これまでに培った保育の理論・技能の全てを発揮し、幼稚園教諭となるために必要な実践力を修得することを目標とする。実習を通して幼児に対する理解を深め、また保育者としての使命感を高める。建学の精神に則り、多様な保育の一類型としてキリスト教保育への造詣も深める。		準備学習(予習)	
		基礎実習終了後の個別指導において確認した各自の自己課題に取り組むこと。また、実習で生かせる保育実技（手遊び、ピアノ等）を準備しておくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業時に提示された課題について、同じ間違いをしないように自分のものとしておくこと。	
受講者に対する要望		評価方法	
幼稚園教諭となるための実習である。いままでの授業で学んだ内容、特に保育内容総論や幼児指導法での授業内容を再確認し、教育の現場に望むこと。また実習先の教師や子どもから学ぶという姿勢を持って取り組んでほしい。		(1) 実習評価 80% (2) 事前準備 10% (3) 事後指導 10%	
学びのキーワード		教科書	
・ 幼稚園と保育者の役割 ・ 教材研究 ・ 援助方法 ・ 記録		参考書	
		幼稚園教育実習ハンドブック	

保育実習（C-1・2）

TEAT-C-381

担当教員：坂本 佳代子、広瀬 歩美

学期：前期（ 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1C636725

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

保育士資格取得に必要な必修の実習を行う。
カリキュラム上の位置づけ：
「保育実習」を履修するための前提となる科目の単位が取得できていることが、履修の資格である。必ず「保育実習指導」と併せて履修すること。また保育士資格取得に必要な選択必修科目である「保育実習A」または「保育実習B」を履修する前提となる科目である。

(2) 学びの意義と目標

これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育所・居住型施設の現状や児童の日常、保育士のはたらき等を体験的に学ぶ。保育士を目指すうえでの自己の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。

受講者に対する要望

健康管理を充分に行い、欠席・遅刻・早退のない実習が実施できるようにしましょう。

学びのキーワード

- ・保育所
- ・居住型施設
- ・保育士

授業計画

01. 保育所における実習
02. 保育所における実習
03. 保育所における実習
04. 保育所における実習
05. 保育所における実習
06. 保育所における実習
07. 保育所における実習
08. 保育所における実習・居住型施設における実習
09. 居住型施設における実習
10. 居住型施設における実習
11. 居住型施設における実習
12. 居住型施設における実習
13. 居住型施設における実習
14. 居住型施設における実習
15. 居住型施設における実習

準備学習(予習)

実習で学びたいことを整理し、日々の実習目標を立てる。

準備学習(復習)

一日の実習を振り返り、実習日誌を記入する。その日の自己課題に向き合い、翌日の実習目標を立てる。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 保育所実習評価 | 30% |
| (2) 保育所実習日誌 | 20% |
| (3) 施設実習評価 | 30% |
| (4) 施設実習日誌 | 20% |

教科書

参考書

児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」
保育所保育指針

保育実習（C-3・4）		TEAT-C-381
担当教員：坂本 佳代子、広瀬 歩美		
学期：前期（ 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1C636730
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 保育所における実習 02. 保育所における実習 03. 保育所における実習 04. 保育所における実習 05. 保育所における実習 06. 保育所における実習 07. 保育所における実習 08. 保育所における実習・居住型施設における実習 09. 居住型施設における実習 10. 居住型施設における実習 11. 居住型施設における実習 12. 居住型施設における実習 13. 居住型施設における実習 14. 居住型施設における実習 15. 居住型施設における実習</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】保育士資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>保育士資格取得に必要な必修の実習を行う。 カリキュラム上の位置づけ： 「保育実習」を履修するための前提となる科目の単位が取得できていることが、履修の資格である。必ず「保育実習指導」と併せて履修すること。また保育士資格取得に必要な選択必修科目である「保育実習A」または「保育実習B」を履修する前提となる科目である。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>実習で学びたいことを整理し、日々の実習目標を立てる。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>一日の実習を振り返り、実習日誌を記入する。その日の自己課題に向き合い、翌日の実習目標を立てる。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育所・居住型施設の現状や児童の日常、保育士のはたらき等を体験的に学ぶ。保育士を目指すうえでの自己の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>健康管理を充分に行い、欠席・遅刻・早退のない実習が実施できるようにしましょう。</div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 保育所実習評価30%</div><div>(2) 保育所実習日誌20%</div><div>(3) 施設実習評価30%</div><div>(4) 施設実習日誌20%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・保育所</div><div>・居住型施設</div><div>・保育士</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div> <div>児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」 保育所保育指針</div>

保育実習指導（C-1・2）

TEAT-C-382

担当教員： 広瀬 歩美、坂本 佳代子

学期： 前期（ 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1C636835

学部教育の関連目

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

保育士資格取得に必要な必修の実習を行うための事前学習、保育所での実習、居住型施設での実習、事後学習を行う。必ず「保育実習」と併せて履修すること。

- ・学生要覧に記されている前提科目の単位が取得できていることが、履修の条件である。
- ・保育士資格取得に必要な選択必修科目である「保育実習A」または「保育実習B」を履修する前提となる科目である。

(2) 学びの意義と目標

これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育所・居住型施設の現状や児童の日常、保育士のはたらき等を体験的に学ぶ。保育士を目指すうえでの自己の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。

受講者に対する要望

初めての学外実習である「保育実習」に臨むための授業です。実習につながる緊張感のもとでの受講を望みます。
チャイムが鳴り終わった際に着席していない人は遅刻です。

学びのキーワード

- ・ 保育実習
- ・ 保育所
- ・ 居住型施設
- ・ 保育士倫理綱領
- ・ 保育所保育指針

授業計画

01. 保育実習について
02. 実習生個人調書（1）
03. 実習先オリエンテーションについて
04. 実習日誌について
05. 保育所実習の実際（1）
06. 保育所実習の実際（2）/保育所における食事
07. 部分実習と保育指導案
08. 責任実習と保育指導案
09. 保育所実習の振り返り・お礼状について/事後指導面談
10. 居住型施設への準備/事後指導面談
11. 個別の実習課題と実習生個人調書
12. 居住型施設と保育所との相違について/事後指導面談
13. 居住型施設の種類と特徴（1）/事後指導面談
14. 居住型施設の種類と特徴（2）/事後指導面談
15. 居住型施設実習の実際（健康・食事面）/事後指導面談
16. 居住型施設実習の実際（コミュニケーション）/事後指導面談
17. 居住型施設実習の実際（多職種連携）/事後指導面談
18. 実習先オリエンテーションについて/事後指導面談
19. 実習日誌について（1）/事後指導面談
20. 実習日誌について（2）/事後指導面談
21. 居住型施設実習の振り返り・お礼状等/事後指導面談
22. 実習教材の発表（1）/事後指導面談
23. 実習教材の発表（2）/事後指導面談
24. 実習教材の発表（3）/事後指導面談
25. 実習教材の発表（4）/事後指導面談
26. 実習教材の発表（5）/事後指導面談
27. 保育士の資質と適性
28. 個別実習課題の振り返り（1）/事後指導（個人面談）
29. 個別実習課題の振り返り（2）/事後指導（個人面談）
30. 実習報告会

準備学習(予習)

初回の授業までに保育所保育指針を読み込んでおく。施設に関連する保育・福祉用語を調べて実習に臨むこと。
特に自分が実習する施設種については調べておくこと。

準備学習(復習)

授業ノートをまとめる。
授業で指示した課題に誠実に取り組み提出日時を厳守する。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 事前学習課題（保育所） | 30% |
| (2) 事後学習課題（保育所） | 20% |
| (3) 事前学習課題（居住型施設） | 30% |
| (4) 事後学習課題（居住型施設） | 20% |

課題はペン書きとする。提出日時に遅れた場合は減点する。
事前学習課題を全て提出していないと実習は実施できません。

教科書

参考書

児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」を初回授業で配布する。

保育実習指導（C-3・4）

TEAT-C-382

担当教員： 広瀬 歩美、坂本 佳代子

学期： 前期（ 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1C636840

学部教育の関連目

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

保育士資格取得に必要な必修の実習を行うための事前学習、保育所での実習、居住型施設での実習、事後学習を行う。必ず「保育実習」と併せて履修すること。

- ・学生要覧に記されている前提科目の単位が取得できていることが、履修の条件である。
- ・保育士資格取得に必要な選択必修科目である「保育実習A」または「保育実習B」を履修する前提となる科目である。

(2) 学びの意義と目標

これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育所・居住型施設の現状や児童の日常、保育士のはたらき等を体験的に学ぶ。保育士を目指すうえでの自己の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。

受講者に対する要望

初めての学外実習である「保育実習」に臨むための授業です。実習につながる緊張感のもとでの受講を望みます。
チャイムが鳴り終わった際に着席していない人は遅刻です。

学びのキーワード

- ・ 保育実習
- ・ 保育所
- ・ 居住型施設
- ・ 保育士倫理綱領
- ・ 保育所保育指針

授業計画

01. 保育実習について
02. 実習生個人調書（１）
03. 実習先オリエンテーションについて
04. 実習日誌について
05. 保育所実習の実際（１）
06. 保育所実習の実際（２）/保育所における食事
07. 部分実習と保育指導案
08. 責任実習と保育指導案
09. 保育所実習の振り返り・お礼状について／事後指導面談
10. 居住型施設への準備／事後指導面談
11. 個別の実習課題と実習生個人調書
12. 居住型施設と保育所との相違について／事後指導面談
13. 居住型施設の種類と特徴（１）／事後指導面談
14. 居住型施設の種類と特徴（２）／事後指導面談
15. 居住型施設実習の実際（健康・食事面）／事後指導面談
16. 居住型施設実習の実際（コミュニケーション）／事後指導面談
17. 居住型施設実習の実際（多職種連携）／事後指導面談
18. 実習先オリエンテーションについて／事後指導面談
19. 実習日誌について（１）／事後指導面談
20. 実習日誌について（２）／事後指導面談
21. 居住型施設実習の振り返り・お礼状等／事後指導面談
22. 実習教材の発表（１）／事後指導面談
23. 実習教材の発表（２）／事後指導面談
24. 実習教材の発表（３）／事後指導面談
25. 実習教材の発表（４）／事後指導面談
26. 実習教材の発表（５）／事後指導面談
27. 保育士の資質と適性
28. 個別実習課題の振り返り（１）／事後指導（個人面談）
29. 個別実習課題の振り返り（２）／事後指導（個人面談）
30. 実習報告会

準備学習(予習)

初回の授業までに保育所保育指針を読み込んでおく。施設に関連する保育・福祉用語を調べて実習に臨むこと。
特に自分が実習する施設種については調べておくこと。

準備学習(復習)

授業ノートをまとめる。
授業で指示した課題に誠実に取り組み提出日時を厳守する。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 事前学習課題（保育所） | 30% |
| (2) 事後学習課題（保育所） | 20% |
| (3) 事前学習課題（居住型施設） | 30% |
| (4) 事後学習課題（居住型施設） | 20% |

課題はペン書きとする。提出日時に遅れた場合は減点する。
事前学習課題を全て提出していないと実習は実施できません。

教科書

参考書

児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」を初回授業で配布する。

保育実習 A		TEAT-C-482	
担当教員： 佐藤 千瀬			
学期： 集中講		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1C636945	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 実習についてのオリエンテーション</div> <div>02. 保育所における実習</div> <div>03. 保育所における実習</div> <div>04. 保育所における実習</div> <div>05. 保育所における実習</div> <div>06. 保育所における実習</div> <div>07. 保育所における実習</div> <div>08. 保育所における実習</div> <div>09. 保育所における実習</div> <div>10. 保育所における実習</div> <div>11. 保育所における実習</div> <div>12. 保育所における実習</div> <div>13. 保育所における実習</div> <div>14. 保育所における実習</div> <div>15. 保育所における実習</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 保育士資格：選択必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>保育実習を履修した学生が、各自の実習体験を振り返り、新たな自己課題を持って保育実習Aに参加する。</div> <div>各自が準備した教材をもとに指導計画を立て、それをもとに保育を展開していくことを通して発達に合った指導方法や実践力を高めていく。</div> <div>・必ず「保育実習指導A」と併せて履修する。</div> <div>・「保育実習A」を履修するための前提となる科目の単位が取得できていることが、履修の資格である。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>(1) 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。</div> <div>(2) 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。</div> <div>(3) 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。</div> <div>(4) 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。</div> <div>(5) 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</div> <div>(6) 保育士としての自己の課題を明確化する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>乳幼児の発達について学んでおくこと。
</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>外部の保育所に実習生として参加するという真摯な態度で臨むこと。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>実習日誌から翌日の実習目標と自己課題を見出すこと。</div>	
		<div>評価方法</div> <div>(1) 実習評価70%</div> <div>(2) 実習日誌30%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 保育所実習</div> <div>・ 保育所保育指針</div> <div>・ 指導計画</div> <div>・ 保育士</div> <div>・ 家庭支援</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」</div> <div>保育所保育指針</div>	

保育実習B		TEAT-C-483
担当教員：坂本 佳代子		
学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C637050
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 通所施設における実習 02. 通所施設における実習 03. 通所施設における実習 04. 通所施設における実習 05. 通所施設における実習 06. 通所施設における実習 07. 通所施設における実習 08. 通所施設における実習 09. 通所施設における実習 10. 通所施設における実習 11. 通所施設における実習 12. 通所施設における実習 13. 通所施設における実習 14. 通所施設における実習 15. 通所施設における実習</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】保育士資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>保育士資格取得に必要な必修の実習を行う。 カリキュラム上の位置づけ： 「保育実習B」を履修するための前提となる科目の単位が取得できていることが、履修の資格である。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育実習で学んだ保育所・居住型施設の現状を踏まえる。保育士を目指すうえでの自己の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>実習で学びたいことを整理し、日々の実習目標を立てる。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>一日の実習を振り返り、実習日誌を記入する。その日の自己課題に向き合い、翌日の実習目標を立てる。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 施設実習評価 60% (2) 施設実習日誌 40%</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>健康管理を充分に行い、欠席・遅刻・早退のない実習が実施できるようにしましょう。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・通所施設 ・児童館 ・児童発達支援センター ・保育士 ・児童福祉法</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>児童学科実習委員会編「保育実習Bの手引き」 保育士倫理綱領</div>	

保育実習指導 A

TEAT-C-484

担当教員：佐藤 千瀬

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637160

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択必修科目

(1) 内容

保育実習を履修した学生を対象に、今までの実習体験を踏まえ、さらに保育所について理解を深めるための実習の事前指導、事後指導を行う。

- ・必ず「保育実習A」と併せて履修する。
- ・学生要覧に記されている前提科目の単位が取得できていることが、履修の条件である。

(2) 学びの意義と目標

- (1) 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
- (2) 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
- (3) 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
- (4) 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- (5) 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

受講者に対する要望

今までの実習の総括をするという真摯な気持ちをもって参加すること。
決められたルールに従って受講すること。

学びのキーワード

- ・ 保育所実習
- ・ 保育士
- ・ 保育所保育指針
- ・ 指導計画
- ・ 実践

授業計画

01. ガイダンス
02. 実習生調書記入について
03. 指導計画について
04. 指導計画の個別指導
05. 保育所保育指針について 保育所保育の実際
06. 家庭・地域との連携
07. 模擬保育（指導計画の実践）
08. 模擬保育（指導計画の実践）
09. 模擬保育（指導計画の実践）
10. 模擬保育（指導計画の実践）
11. 実習日誌について
12. 保育所実習の実際 保育士の専門性と職業倫理
13. 全体事後指導（グループ討議）
14. 個別事後指導（個人面談） 自己課題の明確化
15. 実習報告会

準備學習(予習)

指導案作成、模擬保育準備及び実習準備を計画的に取り組むこと。

準備學習(復習)

模擬保育後に指導案の加筆修正をすること。また、記録を作成すること。＜br /＞実習後には、事後指導用のレポートを作成し、自己課題を明確にすること。 ＜br /＞

評価方法

- | | |
|------------|--------------|
| (1) 事前学習課題 | 50% |
| (2) 事後学習課題 | 20% |
| (3) 平常点 | 30% 出席点ではない。 |

教科書

参考書

児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」
保育所保育指針

保育実習指導B

TEAT-C-485

担当教員：坂本 佳代子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637265

学部教育の関連目

【C】 保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：選択必修科目

(1) 内容

通所施設実習について理解を深め、実践力を養う

(2) 学びの意義と目標

この授業を保育実習Bと共に履修しなければならない。
保育士養成の最終仕上げの実習指導である。これまで学んだ知識や実践の総まとめとしての意味を持つ。

受講者に対する要望

主体的に実習施設について調べ、自分の求めている情報を体系的に入手すること。

学びのキーワード

- ・通所施設
- ・保育士

授業計画

01. 保育実習ガイダンス
02. 実習先の確認 備考欄を理解する
03. 実習先について理解を深める
04. 保育実習Bに当たっての留意事項 1
05. 保育実習に当たっての留意事項 2
06. 保育実習に当たっての留意事項 3
07. 保育実習に当たっての留意事項 4
08. 実習生調書記載の留意事項
09. 実習生調書記載
10. 保育実習に当たっての留意事項 5
11. 保育実習に当たっての留意事項 6
12. 保育士会倫理綱領の理解
13. 通所型施設実習の振り返り＜個人面談＞
14. 通所型施設実習の振り返り＜個人面談＞
15. 通所型施設実習の振り返り＜個人面談＞

準備学習(予習)

保育実習Bの手引きを事前に読み込んでおくこと

準備学習(復習)

提出物は期限を守って提出のこと

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業参加態度 | 50% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 提出物 | 30% |

教科書

参考書

TEAT-C-383

単位：5 コード：10637355

01. 教育実習の意義と心構え
02. 教育実習生の一日について
03. 授業づくりの基礎基本と授業実践演習に向けて
04. 小学校の組織と小学生の一般的特色について
05. 学習指導案の作成について
06. 教育実習日誌の書き方とあいさつの仕方について
07. 実習直前指導 *教育実習(実習校で4週間)
08. 実習報告1・実習校で学んだこと(グループ前半) /事後指導個人面談
09. 実習報告2・実習校で学んだこと(グループ後半) /事後指導個人面談
10. 教師としての力量向上1(場面指導の基本とポイント)/事後指導個人面談
11. 教師としての力量向上2(場面指導事例研究)
12. 教師としての力量向上3(学習指導)
13. 教師としての力量向上4(生徒指導)
14. 教師としての力量向上5(学級経営)
15. 小学校教育実習のまとめ

小学校教育実習は、実際の小学校の学校現場で授業をし、児童理解につとめ、様々な人間関係を学ぶ場である。そのため、事前指導をし、実習終了後に事後指導を行う。

* 教育実習(実習校で4週間)

小学校の教育実習は、小学校の教員を志望する
 学生が、大学の教職課程で習得した知識・技能を
 基礎として、小学校において教師に求められる職
 務の一端を実地に学ぶところに意義がある。実際
 に小学校において、児童の発達段階に応じたコ
 ミュニケーションの取り方などの生徒指導、教科
 等の授業観察や授業実践、教室掲示や学級事務な
 どの学級経営等の力をつけることを目標にしてい
 る。

あいさつ・服装などへの配慮等をはじめ実習への心構え、授業実践等、実習に向けた準備に真剣に取り組むこと。

事前指導の内容を反復しての理解、実習の反省等をよく行い、毎日の実習日誌の整理、終了後の報告書の作成、今後の学習の課題の整理などができるようにすること。

(1) 平常点	30%	
(2) 実習校からの報告	50%	実習校の評価、巡回訪問での情報
(3) 実習日誌・報告書	20%	実習日誌、報告書、成果と改善策

実習校では実習生としての立場を自覚し、指導や助言を素直に受け、実りある経験となるよう意欲的に誠意をもって取り組むことを望む。

参考書

図画工作A (C-1)

FART-C-141

担当教員：喜田 敬

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637545

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

造形教育の歴史は、各時代の思潮とともに変化を遂げてきた。本講義では、現場で必要とされる造形技法を学ぶとともに、造形教育の望ましい在り方について考える。

(2) 学びの意義と目標

喜びを持って子どもたちと、造形活動を通し接する事のできる指導者の養成を目標とする。

受講者に対する要望

子どもたちにとって、造形表現は楽しいということを念頭に受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・見る
- ・触れる
- ・感じる
- ・作る
- ・考える

授業計画

01. オリエンテーション
02. 造形教育の歴史
03. 世界の造形教育とその理念
04. 幼児の発達と幼児画の特徴
05. 材料体験について
06. フロッタージュ制作 葉を使ってフロッタージュ
07. フロッタージュ制作 大学内のデコボコを使ってフロッタージュ
08. スパッタリング制作 落葉のスパッタリング
09. スパッタリング制作 ステンシルを使ってスパッタリング
10. コラージュ制作 ステンシルからコラージュへ
11. フォトコラージュ制作 雑誌の写真でコラージュ
12. 園だより 園だよりの目的、意義、内容、形式
13. 園だより制作 完成
14. 絵画鑑賞
15. まとめ

準備学習(予習)

予習のため配布するプリントを読むこと。

準備学習(復習)

授業で感じた質問、疑問、意見など書き出し、次回発言できるようにする。

評価方法

- | | |
|----------------|----|
| (1) 活動性・平常点・制作 | 90 |
| (2) テスト | 10 |

教科書

参考書

図画工作 A (C-2)		FART-C-141
担当教員：喜田 敬		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C637550
学部教育の関連目 【C】教師に必要な知識・技能を身につける	授業計画 01. オリエンテーション 02. 造形教育の歴史 03. 世界の造形教育とその理念 04. 幼児の発達と幼児画の特徴 05. 材料体験について 06. フロッタージュ制作 葉を使ってフロッタージュ 07. フロッタージュ制作 大学内のデコボコを使ってフロッタージュ 08. スパッタリング制作 落葉のスパッタリング 09. スパッタリング制作 ステンシルを使ってスパッタリング 10. コラージュ制作 ステンシルからコラージュへ 11. フォトコラージュ制作 雑誌の写真でコラージュへ 12. 園だより 園だよりの目的、意義、内容、形式 13. 園だより制作 完成 14. 絵画鑑賞 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け 【C】小学校教諭一種免許：必修科目 【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目 【C】保育士資格：必修科目		
(1) 内容 造形教育の歴史は、各時代の思潮とともに変化を遂げてきた。本講義では、現場で必要とされる造形技法を学ぶとともに、造形教育の望ましい在り方について考える。		
(2) 学びの意義と目標 喜びを持って子どもたちと、造形活動を通し接する事のできる指導者の養成を目標とする。	準備学習(予習) 予習のため配布するプリントを読むこと。	
	準備学習(復習) 授業で感じた質問、疑問、意見など書き出し、次回発言できるようにする。	
	評価方法 (1) 活動性・平常点・制作 90 (2) テスト 10	
受講者に対する要望 子どもたちにとって、造形表現は楽しいということを念頭に受講してもらいたい。		
学びのキーワード ・見る ・触れる ・感じる ・作る ・考える	教科書 参考書 プリントを配布	

図画工作B（C-1）		FART-C-141
担当教員：喜田 敬		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C637665
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業概要説明／アンケート 02. 子どもの発達と描く力 03. 課題1：色を遊ぶ-（透明水彩絵具の特徴） 04. 課題1：色を遊ぶ-（発見とレイアウト／台紙枠の作成） 05. 課題1：色を遊ぶ-（透明水彩作品の仕上げと講評） 06. 課題2：木をつくろう-（構造の発見と展開：針金工作） 07. 課題2：木をつくろう-（コラージュ） 08. 課題2：木をつくろう-（仕上げ） 09. 課題3：色とイメージ-（色彩の基礎知識／説明） 10. 課題3：色とイメージ-（トレースと転写作業） 11. 課題3：色とイメージ-（アクリル絵具彩色&仕上げ） 12. 課題3：色とイメージ-（イメージの採取／互評会） 13. 課題4：石の制作-（紙粘土による造形） 14. 課題4：石の制作-（透明水彩による着色／仕上げ／撮影） 15. まとめ：制作レポート作成／授業全体総括&作品返却</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】小学校教諭一種免許：必修科目 【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目 【C】保育士資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>色彩と造形を、必要な基本的知識と制作の具体的説明に沿って行う4つの課題制作を軸とした、自らの造形活動への関心と意欲を高めることによって、幼児／児童に対する積極的な教育活動への起点となる実技科目である</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>色彩と造形を、学生自らの経験として実践的に学び、基本的な造形教育に関わる知識を獲得すると同時に自身の感性と想像力を再認識することで、幼児、児童への共感しながら学習指導のできる力を養成する</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題への構想を練る等の事前準備を求める場合があります。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>課題はそれぞれが何らかの関連性を持って配置されています。経験を積み重ねる意識を持って参加して下さい。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 活動性・課題</div><div>90%</div></div><div><div>(2) テスト</div><div>10%</div></div></div> <div>課題は全て完成し、提出することが評価の際の基本要件です。欠席等での作業の遅れは教員がサポートしますが、基本的には各自で工夫し取り戻して参加していくことが必要となります。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>意欲的に楽しみましょう。体調を整えて参加して下さい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・あそび</div><div>・観察</div><div>・思考</div><div>・創造</div><div>・表現</div></div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>講義内容と課題に沿ってプリントを配布します。また出来上がった受講者全員の制作物を撮影もしくはスキャンニングの上、プリントを制作し配布します。A4サイズのクリアファイル（20ポケット）を各自用意し持参して下さい。</div>	

図画工作B (C-2)

FART-C-141

担当教員： 喜田 敬

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637670

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
 【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
 【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

色彩と造形を、必要な基本的知識と制作の具体的な説明に沿って行う4つの課題制作を軸とした、自らの造形活動への関心と意欲を高めることによって、幼児・児童に対する積極的な教育活動への起点となる実技科目である。

(2) 学びの意義と目標

色彩と造形的なものを、学生自らに経る経験として実践的に学ぶ、
び、時に幼児に自らの力を再認識するのを指導の場で、
同様に幼児を養成する。

受講者に対する要望

意欲的に楽しみましょう。体調を整えて参加して下さい。

学びのキーワード

- ・ あそび
- ・ 観察
- ・ 思考
- ・ 創造
- ・ 表現

授業計画

01. 授業概要説明／アンケート
02. 子どもの発達と描く力
03. 課題1：色を遊ぶー（透明水彩絵具の特徴）
04. 課題1：色を遊ぶー（発見とレイアウト／台紙枠の作成）
05. 課題1：色を遊ぶー（透明水彩作品の仕上げと講評）
06. 課題2：木をつくろうー（構造の発見と展開：針金工作）
07. 課題2：木をつくろうー（コラージュ）
08. 課題2：木をつくろうー（仕上げ）
09. 課題3：色とイメージ（色彩の基礎知識／説明）
10. 課題3：色とイメージ（トレースと転写作業）
11. 課題3：色とイメージ（アクリル絵具彩色&仕上げ）
12. 課題3：色とイメージ（イメージの採取／互評会）
13. 課題4：石の制作ー（紙粘土による造形）
14. 課題4：石の制作ー（透明水彩による着色／仕上げ／撮影）
15. まとめ：制作レポート作成／授業全体総括&作品返却

準備學習(予習)

課題への構想を練る等の事前準備を求める場合があります。

準備學習(復習)

課題はそれぞれが何らかの関連性を持って配置されています。
経験を積み重ねる意識を持って参加して下さい。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 活動性・課題 | 90% |
| (2) テスト | 10% |

課題は全て完成し、提出することが評価の際の基本要件です。欠席等での作業の遅れは教員がサポートしますが、基本的には各自で工夫し取り戻して参加していくことが必要となります。

教科書

参考書

講義内容と課題に沿ってプリントを配布します。また出来上がった受講者全員の制作物を撮影もしくはスキャンングの上、プリントを制作し配布します。A4サイズのクリアファイル(20ポケット)を各自用意し持参して下さい。

保育実践演習 A (保⑦～⑫)

TEAT-C-218

担当教員：松本 祐子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637775

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

本演習は保育士をめざす学生を対象とし、子どもとその保護者を取り巻く社会の現状について知り、社会の一員として課題意識を持ち、積極的に社会生活に参加していくための視点を獲得するための授業である。学生自身が身近な問題を調査し、正しい情報を収集し、保育者にふさわしい説得力のある言葉で発表、討論する形で進めていく。また、演習の後半では、素話の実践を通して、魅力的な話術によって子どもたちを楽しませる表現力を身につける。

(2) 学びの意義と目標

保育士・社会人として必要な語彙と知識を身につけ、現代を生きる我々を取り巻くさまざまな課題について、自分なりの意見を持つことを目標とする。自分で調べ、考え、発表することで、情報収集能力と集めた情報を分析する洞察力を身につけ、それらを他者に発信できる表現力、問題解決能力を獲得することを目指す。

受講者に対する要望

この授業では、他者の意見に耳を傾けながら、自らの意見を発表し、積極的に討論に参加することが求められる。授業時のみならず、日常的にも社会の動きに目を向け、幅広い視野と知識を身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ 保育の言葉
- ・ 問題解決能力
- ・ プレゼンテーション
- ・ グループ討議
- ・ 素話

授業計画

01. ガイダンス
02. 保育の言葉
03. 保育のマナー
04. 実習日誌の表現
05. 現代の課題：子どもと家族
06. 現代の課題：保育をめぐる問題
07. 現代の課題：若者のトレンド
08. 現代の課題：私たちのこれから
09. 課題の発表
10. グループ討議
11. 素話とは何か？
12. 素話の素材
13. 素話の効果的な方法
14. 素話の発表
15. まとめ

準備学習(予習)

課題発表、素話の発表の前には、じゅうぶんな準備をすること。日常的に社会の動きに目を向け、情報収集を心がけること。

準備学習(復習)

授業時に配布された資料を活用して、さらに語彙を増やし、情報収集を深めること。グループ討議で指摘されたこと等は、必ず見直して解決策を模索すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 毎回の宿題 | 30% |
| (2) 討議・発表 | 30% |
| (3) 課題レポート | 40% |

教科書

参考書

適宜プリント類を配布

保育実践演習 A (保①～⑥)

TEAT-C-218

担当教員：松本 祐子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637780

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

本演習は保育士をめざす学生を対象とし、子どもとその保護者を取り巻く社会の現状について知り、社会の一員として課題意識を持ち、積極的に社会生活に参加していくための視点を獲得するための授業である。学生自身が身近な問題を調査し、正しい情報を収集し、保育者にふさわしい説得力のある言葉で発表、討論する形で進めていく。また、演習の後半では、素話の実践を通して、魅力的な話術によって子どもたちを楽しませる表現力を身につける。

(2) 学びの意義と目標

保育士・社会人として必要な語彙と知識を身につけ、現代を生きる我々を取り巻くさまざまな課題について、自分なりの意見を持つことを目標とする。自分で調べ、考え、発表することで、情報収集能力と集めた情報を分析する洞察力を身につけ、それらを他者に発信できる表現力、問題解決能力を獲得することを目指す。

受講者に対する要望

この授業では、他者の意見に耳を傾けながら、自らの意見を発表し、積極的に討論に参加することが求められる。授業時のみならず、日常的にも社会の動きに目を向け、幅広い視野と知識を身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ 保育の言葉
- ・ 問題解決能力
- ・ プレゼンテーション
- ・ グループ討議
- ・ 素話

授業計画

01. ガイダンス
02. 保育の言葉
03. 保育のマナー
04. 実習日誌の表現
05. 現代の課題：子どもと家族
06. 現代の課題：保育をめぐる問題
07. 現代の垂k代：若者のトレンド
08. 現代の課題：私たちのこれから
09. 課題の発表
10. グループ討議
11. 素話とは何か？
12. 素話の素材
13. 素話の効果的な方法
14. 素話の発表
15. まとめ

準備学習(予習)

課題発表、素話の発表の前には、じゅうぶんな準備をすること。日常的に社会の動きに目を向け、情報収集を心がけること。

準備学習(復習)

授業時に配布された資料を活用して、さらに語彙を増やし、情報収集を深めること。グループ討議で指摘されたこと等は、必ず見直して解決策を模索すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 毎回の宿題 | 30% |
| (2) 討議・発表 | 30% |
| (3) 課題レポート | 40% |

教科書

参考書

適宜プリント類を配布

保育実践演習B（保①～⑥）

TEAT-C-218

担当教員：丸山 綱男

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637885

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

本演習は、保育士をめざす学生に対して現代的課題の中で社会問題化している児童虐待を切り口として、保育に関する課題の現状分析、考察、検討を行うと共に、保育士の責務である「保育・保護者・地域の子育て家庭への支援等」への対応、判断等について学びを深める。演習では、テーマ毎のグループを作り、保育士としての支援のあり方を話し合って成果を発表する。また、演習を通して、仲間とのディスカッション、よりよい解決策の模索等、能動的に問題解決をする力を高める。

(2) 学びの意義と目標

現代社会において、子どもの最善の利益を保障するために保育の果たす役割を問い直し、保育をめぐる諸問題を児童虐待という視点を見据えて論議する。演習形式では学生が主役であり、調べる・論理立てる・説明することを通して自己表現力とコミュニケーション力を身につけることを習得する。また、演習から新しい知識を得て、自分の取り組む問題に対しよりいっそう関心を深めることもねらいとする。将来保育士として様々な困難にぶつかったとき、問題解決を図る視点や力を身につけ保育にとって心の支援が重要であることを学びの目標とする。

受講者に対する要望

演習では、自身の研究意欲を高める場として積極的に発言をすることが求められる。意見交換で自己表現力とコミュニケーション力をつるようになる。

学びのキーワード

- ・児童虐待
- ・子育て支援
- ・保育政策の動向
- ・グループ討議
- ・発表

授業計画

01. オリエンテーション 保育をめぐる現代的な課題（講義）
02. 児童虐待について（講義）
03. 子育て支援と保育についてⅠ（講義）
04. 子育て支援と保育についてⅡ（講義）
05. 現代の保育政策の動向（講義）
06. テーマ設定とグループピング
07. テーマの公表とグループ間の意見交換
08. グループ討議と発表資料の作成 1
09. グループ討議と発表資料の作成 2
10. ゼミ内で発表会と全体での検討 1
11. ゼミ内で発表会と全体での検討 2
12. ゼミ内で発表会と全体での検討 3
13. ゼミ内で発表会と全体での検討 4
14. 演習の総括
15. まとめ

準備学習(予習)

グループ討議に入る前には、事前に様々な情報収集を行って、理論と現実の両面から保育の現状を把握すること。また、各自で課題に対する考察を重ね表現する力を養っておくこと。

準備学習(復習)

講義等で配布された資料を活用して、情報収集を深めること。グループ討議で指摘されたこと等は、必ず見直して解決策を模索すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 討議・発表 | 20% |
| (3) 課題レポート | 30% |
| (4) 試験 | 20% |

教科書

参考書

保育実践演習B（保⑦～⑫）

TEAT-C-218

担当教員：丸山 綱男

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637890

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

本演習は、保育士をめざす学生に対して現代的課題の中で社会問題化している児童虐待を切り口として、保育に関する課題の現状分析、考察、検討を行うと共に、保育士の責務である「保育・保護者・地域の子育て家庭への支援等」への対応、判断等について学びを深める。演習では、テーマ毎のグループを作り、保育士としての支援のあり方を話し合って成果を発表する。また、演習を通して、仲間とのディスカッション、よりよい解決策の模索等、能動的に問題解決をする力を高める。

(2) 学びの意義と目標

現代社会において、子どもの最善の利益を保障するために保育の果たす役割を問い直し、保育をめぐる諸問題を児童虐待という視点を見据えて論議する。演習形式では学生が主役であり、調べる・論理立てる・説明することを通して自己表現力とコミュニケーション力を身につけることを習得する。また、演習から新しい知識を得て、自分の取り組む問題に対しよりいっそう関心を深めることもねらいとする。将来保育士として様々な困難にぶつかったとき、問題解決を図る視点や力を身につけ保育にとって心の支援が重要であることを学びの目標とする。

受講者に対する要望

演習では、自身の研究意欲を高める場として積極的に発言をすることが求められる。意見交換で自己表現力とコミュニケーション力をつるようになる。

学びのキーワード

- ・児童虐待
- ・子育て支援
- ・保育政策の動向
- ・グループ討議
- ・発表

授業計画

01. オリエンテーション 保育をめぐる現代的な課題（講義）
02. 児童虐待について（講義）
03. 子育て支援と保育についてⅠ（講義）
04. 子育て支援と保育についてⅡ（講義）
05. 現代の保育政策の動向（講義）
06. テーマ設定とグループピング
07. テーマの公表とグループ間の意見交換
08. グループ討議発表資料の作成 1
09. グループ討議と発表資料の作成 2
10. ゼミ内で発表会と全体での検討 1
11. ゼミ内で発表会と全体での検討 2
12. ゼミ内で発表会と全体での検討 3
13. ゼミ内で発表会と全体での検討 4
14. 演習の総括
15. まとめ

準備学習(予習)

グループ討議に入る前には、事前に様々な情報収集を行って、理論と現実の両面から保育の現状を把握すること。また、各自で課題に対する考察を重ね表現する力を養っておくこと。

準備学習(復習)

講義等で配布された資料を活用して、情報収集を深めること。グループ討議で指摘されたこと等は、必ず見直して解決策を模索すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 討議・発表 | 20% |
| (3) 課題レポート | 30% |
| (4) 試験 | 20% |

教科書

参考書

体育A (C-1)

PHED-C-141

担当教員：高橋 進

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637985

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種免許：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
- 【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳・投の基本的な運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。

更に、既述した運動や遊びに必要な遊具や用具についての造詣を深めるとともに、その活用の仕方についても指導実践の中で理解を進める。

カリキュラム上の位置づけ：

幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

(2) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. オリエンテーション・運動遊び、身体運動の位置づけ
02. 体ほぐしの特性と実践
03. 体ほぐしの実践と指導のあり方
04. ごっこ遊び、劇遊びの実践と指導のあり方
05. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
06. 歩・走・跳の運動の実践（鬼遊びなど）
07. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
08. 歩・走・跳の運動の実践（縄遊びを中心に）
09. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
10. ゲーム遊びの特性と指導のあり方。ボールゲームの特性
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ネット型）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム・ゴール型）
14. ボールゲームの実践（野球型）
15. 春学期のまとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。また、平成22年7月22日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正の要旨を理解すること。

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 課題レポート | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説体育編」 平成20年6月
[http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf]
文部科学省 「幼稚園教育要領」 平成20年3月
[http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you.pdf]

体育 A (C-2)

PHED-C-141

担当教員：高橋 進

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637990

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳・投の基本的な運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。

更に、既述した運動や遊びに必要な遊具や用具についての造詣を深めるとともに、その活用の仕方についても指導実践の中で理解を進める。

カリキュラム上の位置づけ：

幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

(2) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. オリエンテーション・運動遊び、身体運動の位置づけ
02. 体ほぐしの特性と実践
03. 体ほぐしの実践と指導のあり方
04. ごっこ遊び、劇遊びの実践と指導のあり方
05. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
06. 歩・走・跳の運動の実践（鬼遊びなど）
07. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
08. 歩・走・跳の運動の実践（縄遊びを中心に）
09. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
10. ゲーム遊びの特性と指導のあり方。ボールゲームの特性
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ネット型）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム・ゴール型）
14. ボールゲームの実践（野球型）
15. 春学期のまとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。また、平成22年7月22日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正の要旨を理解すること。

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 課題レポート | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説体育編」 平成20年6月
[http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf]
文部科学省 「幼稚園教育要領」 平成20年3月
[http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you.pdf]

体育B (C-1)

PHED-C-141

担当教員： 高橋 進

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位：1 コード：1C638005

学部教育の関連目

【C】 教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 小学校教諭一種免許：必修科目
【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】 保育士資格：必修科目

(1) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、かくらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。更に、秋学期については、指導実践・模擬授業の実施についても力を入れて授業を展開していくこととなる。

指導実践や模擬授業後については、指導・授業の振り返りを行い、授業評価やモニタリングの重要性の理解を深める。

カリキュラム上の位置づけ：

幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

(2) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、秋学期については、計画的、効果的に子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけが、指導実践や模擬授業をとおしてできるようになること、あるいは指導や授業を正しくモニタリングできる資質の育成を目的とする。

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. ゲーム遊び・こっこ遊び・劇遊びの指導実践・模擬授業（鬼遊びも含む）
02. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（用具を使った鬼遊び）
03. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（縄遊び）
04. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（教育機器の取り扱いを含む）
05. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（固定施設を使った運動遊び）
06. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（マット、鉄棒、跳び箱を使った運動遊び）
07. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（ボール、フラフープなどを操作する運動遊び）
08. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（竹馬・二輪車などを操作する運動遊び）
09. 力試しの運動の特性
10. 力試しの運動の指導実践・模擬授業
11. 表現リズム遊びの特性
12. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（リズム遊び）
13. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（表現遊び）
14. 授業成果発表【プレゼンテーション】
15. 総まとめ

準備學習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。

準備學習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題レポート | 30% |
| (2) 指導計画・指導案 | 20% |
| (3) 模擬授業・指導実践 | 30% |
| (4) 授業成果発表 | 20% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説体育編」 平成20年6月
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiledflie/2011/01/19/1234931_010.pdf

文部科学省 「幼稚園教育要領」 平成20年3月
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/you.pdf

体育 B (C-2)

PHED-C-141

担当教員： 高橋 進

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C638010

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 小学校教諭一種免許：必修科目
【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】 保育士資格：必修科目

(1) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。更に、秋学期については、指導実践・模擬授業の実施についても力を入れて授業を展開していくこととなる。

指導実践や模擬授業後については、指導・授業の振り返りを行い、授業評価やモニタリングの重要性の理解を深める。

カリキュラム上の位置づけ：

幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

(2) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、秋学期については、計画的、効果的に子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけが、指導実践や模擬授業をとおしてできるようになること、あるいは指導や授業を正しくモニタリングできる資質の育成を目的とする。

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・ 身体表現に関する知識・技術
- ・ 健康と運動
- ・ 子どもの体力と健康
- ・ 生涯体育
- ・ 楽しい体育

授業計画

01. ゲーム遊び・こっこ遊び・劇遊びの指導実践・模擬授業（鬼遊びも含む）
02. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（用具を使った鬼遊び）
03. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（縄遊び）
04. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（教育機器の取り扱いを含む）
05. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（固定施設を使った運動遊び）
06. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（マット・鉄棒・跳び箱を使った運動遊び）
07. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（ボール・フラフープなどを操作する運動遊び）
08. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（竹馬・二輪車などを操作する運動遊び）
09. 力試しの運動の特性
10. 力試しの運動の指導実践・模擬授業
11. 表現リズム遊びの特性
12. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（リズム遊び）
13. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（表現遊び）
14. 授業成果発表【プレゼンテーション】
15. 総まとめ

準備學習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。

準備學習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題レポート | 30% |
| (2) 指導計画・指導案 | 20% |
| (3) 模擬授業・指導実践 | 30% |
| (4) 授業成果発表 | 20% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説体育編」 平成20年6月
[http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf]

文部科学省 「幼稚園教育要領」 平成20年3月
[http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/vourvou/vou/vou.pdf]

学校経営と学校図書館（C）		TEAT-0-210										
担当教員：小川 三和子												
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C650100										
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 学校図書館の意義と理念、役割 02. 学校図書館の歴史 03. 学校図書館の国際的な動向 04. 教育行政と学校図書館 05. 図書館ネットワーク 06. 学校図書館経営 07. 学校図書館経営 08. 学校図書館の施設・設備 09. 司書教諭の任務と職務 10. 学校図書館メディアの構成 11. 学校図書館メディアの選択・収集 12. 学校図書館メディアの管理・提供 13. 学校図書館活動 14. 評価試験 15. さまざまな図書館・まとめ</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 学校図書館司書教諭資格：必修科目</div>												
<div>(1) 内容</div> <div>司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館の理念、教育行政と学校図書館、学校図書館経営、司書教諭の任務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館活動等について理解し、司書教諭として学校図書館経営をする上での課題を考察する。</div>												
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>学校図書館の意義と役割を理解し、司書教諭として学校図書館経営の方針をもち、学校図書館に関する諸計画を策定し、勤務校の学校図書館活用や読書指導の推進役になるための資質を養う。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>学習指導要領を読んだり学校図書館や教育に関する書籍や新聞記事を読んだりして、今日の教育課題に関心をもち学校図書館経営の素地を養う。</div>										
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートを整理し、知識として理解したことと、今後とも考察していくべきこととを明確にする。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義が中心となるが、作業や討論も取り入れるので、進んで学習に取り組んで欲しい。欠席した場合は、出席者に授業内容を聞いておくこと。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 提出物</td><td>50%</td><td></td></tr><tr><td>(2) 評価テスト</td><td>30%</td><td>14回目に行い、最終回に解説をする。</td></tr><tr><td>(3) 関心・意欲</td><td>20%</td><td>私語・居眠りのないように。</td></tr></table> <div>出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物と評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。</div>		(1) 提出物	50%		(2) 評価テスト	30%	14回目に行い、最終回に解説をする。	(3) 関心・意欲	20%	私語・居眠りのないように。
(1) 提出物	50%											
(2) 評価テスト	30%	14回目に行い、最終回に解説をする。										
(3) 関心・意欲	20%	私語・居眠りのないように。										
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 学習センター・情報センター・読書センター</div><div>・ 学校図書館経営</div><div>・ 学校図書館メディア</div><div>・ 学校教育</div><div>・ 知識基盤社会</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>小川三和子「読書の指導と学校図書館」 青弓社2015. 10 1800円＋税</div>										

学校図書館メディアの構成（C用）		TEAT-0-211	
担当教員： 若松 昭子			
学期： 週間授		科目： 図書館情	必修・選択： 資格課程
単位： 2		コード： 1C650205	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】司書教諭として、学校図書館の図書その他のメディアの効果的な活用を図ることができるよう、情報を管理する力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。</div>		<div>01. 学校図書館メディアの種類</div> <div>02. メディアの選択と収集</div> <div>03. 開架式と配列</div> <div>04. 分類（１）NDCの構成と特徴</div> <div>05. 分類（２）補助表とその働き-1</div> <div>06. 分類（３）補助表とその働き-2</div> <div>07. 分類（４）分類規程</div> <div>08. 図書記号と別置記号</div> <div>09. 件名標目表</div> <div>10. 目録（１）目録の歴史と種類</div> <div>11. 目録（２）アクセスポイント</div> <div>12. 目録（３）NCRと記述の実際</div> <div>13. 機械化と標準化</div> <div>14. 書誌ユーティリティとネットワーク</div> <div>15. まとめと総合演習</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【C】学校図書館司書教諭資格：必修科目【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目</div> <div>【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目</div>			
(1) 内容			
学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標			
学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効率的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
授業は演習的な要素も含まれているため課題は必ずやってくることが重要です。		教科書によく目を通し、与えられた課題はきちんとこなすこと。	
		準備学習(復習)	
		与えられた課題をきちんとやってくること。	
学びのキーワード		評価方法	
<div>・学校図書館</div> <div>・学校図書館メディア</div> <div>・メディア構成</div> <div>・資料組織</div>		<div>(1) 試験</div> <div>40%</div> <div>試験に代わるレポートになる場合もあり</div> <div>(2) 小課題</div> <div>30%</div> <div></div> <div>(3) 授業参加状況</div> <div>30%</div> <div>授業態度、授業への取り組み姿勢や積極性など</div>	
		毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席な大幅な原点となるので注意すること。	
		教科書	
		「シリーズ学校図書館学」編集委員会『学校図書館メディアの構成（シリーズ学校図書館学 第2巻）』（全国学校図書館協議会）	
		参考書	

学習指導と学校図書館（C）		TEAT-0-212
担当教員：米谷 茂則		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C650310
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け	01. 児童生徒の学校図書館機能活用と読書についての現状理解 02. 教育課程の展開と学校図書館 03. 教育方法としての調べ学習、課題学習、課題研究 04. 情報活用能力の育成、その計画と方法 05. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習過程 06. 小学校、中学校、高等学校における調べ学習の体験の発表 07. 引用指導および調べ学習における自分の考えの形成に関する指導内容 08. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習指導案の作成 09. 情報活用能力の育成に対応した学校図書館メディアの選択 10. 情報サービス／現行教科書における調べ学習の例示 11. 学校図書館へのいざないから教科や総合学習にて使うようになるまで 12. マンガ読書からマンガ読書学習へ 13. 司書教諭の仕事 14. 学習指導案の検討／ふりかえり記録を書く 15. 学校図書館年間計画の例示／司書教諭の専門性 【学習指導案の提出】	
(1) 内容		
学習指導と学校図書館とのかかわりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。 司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集、選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表までできる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。		
受講者に対する要望	準備学習(復習)	
	毎回の授業内容をふりかえり、自分で考えたことをメモしておくこと。振り返り記録の提出あり。	
学びのキーワード	評価方法	
	(1) 発表等 20% 授業への積極的対応 (2) 振り返り記録 10% (3) 学習指導案 60% (4) 平常点 10%	
・教育課程の展開 ・情報活用能力の育成 ・調べ学習の学習過程 ・学校図書館機能の活用 ・司書教諭の専門性	教科書	
	参考書	
	必要に応じてプリントを配布するので整理しておき、次回以後の授業に持参すること。プリントの解説については、メモなどを記しておくこと。	

読書と豊かな人間性（C）		TEAT-0-213								
担当教員：小川 三和子										
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C650415								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 読書の意義と目的・多様な読書資料 02. 発達段階に応じた読書の指導 03. 読書環境の整備と読書材の提供 04. 読書環境の整備と読書材の提供・ポップ作り 05. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ブックトーク等 06. 児童・生徒と本を結ぶための方法・読み聞かせ 07. 児童・生徒と本を結ぶための方法・アニメーション・読書会 08. 全校で取り組む読書活動 09. 各教科等での読書の指導 10. 探究的な学習と読書の指導 11. 学校経営と学校図書館、読書活動の推進 12. 読書活動推進のための連携 13. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ビブリオバトル 14. 評価試験 15. 個に応じた読書の指導</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】学校図書館司書教諭資格：必修科目</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的、発達段階に応じた読書指導、子どもと本を結ぶための方法、各教科等における読書指導などについて考察したり、様々な読書活動を体験したりする。講義だけでなく、作業や体験、実習、討論などを取り入れた学習を展開する予定である。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、勤務校の読書指導計画を策定し、読書活動推進の要となる司書教諭としての資質を身に付ける。また、さまざまな読書活動を率先垂範できる実践力を養う。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>多くの児童書に親しんで欲しい。児童書を選択して持参することを課す授業が何回かあるので、その都度必要な児童書を準備すること。ビブリオバトルを行うので、大学生としても豊かな読書生活を送ること。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>作業や体験、実習、討論などを多く取り入れるので、進んで学習に取り組み、欠席した場合は、出席者に必ず授業内容や次の授業の準備等を確認しておくこと。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートを整理し、知識として学んだことと今後とも考察していくべきことを明確にする。</div>									
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 演習・関心・意欲</td><td>30%</td><td>学習準備、演習への取り組み、授業態度等。</td></tr><tr><td>(2) 提出物</td><td>30%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 評価試験</td><td>40%</td><td>第14回に行い、最終回に解説を行う。</td></tr></table> <div>出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物、演習、評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。
</div>		(1) 演習・関心・意欲	30%	学習準備、演習への取り組み、授業態度等。	(2) 提出物	30%		(3) 評価試験	40%
(1) 演習・関心・意欲	30%	学習準備、演習への取り組み、授業態度等。								
(2) 提出物	30%									
(3) 評価試験	40%	第14回に行い、最終回に解説を行う。								
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">学校図書館読書センター・学習センター・情報センター読書の指導・読書活動学校教育司書教諭の役割</div>	<div>教科書</div> <div>小川三和子「読書の指導と学校図書館」青弓社2015. 10 1800円＋税</div> <div>参考書</div>									

情報メディアの活用（C用）

TEAT-0-214

担当教員：長谷川 幸代

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C650520

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 内容

社会全般、学校図書館における、さまざまなメディアと資料活用の意義と方法について学ぶ。効果的なメディア利用について考え、受講者それぞれのアイデアを共有していく。現代社会における情報の取り扱いの諸問題についても学ぶ。毎回授業では、前半に解説を行い、後半では各自がテーマについて自分なりの考えをまとめる。また、実際にデータベースを利用し、メディア利用に関する情報の検索を行ったり、効果的な資料・情報のアピールについて実践する。

(2) 学びの意義と目標

現在、多様な情報メディアがあふれ、何を選択しどのように扱うかという教育は非常に重要なものである。情報メディアについての歴史や特性を理解し、教育に必要な資料の活用方法を身につけ、効果的な情報提供ができることを目標とする。また、効果的なメディアの利用について発案する力を養う。

受講者に対する要望

身の回りの情報メディアに興味をもってほしい。信頼できる情報を選択するスキルを身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・学校図書館
- ・情報メディア
- ・司書教諭

授業計画

01. 情報メディアの概要と歴史
02. 教育における情報メディアの活用
03. 情報メディアの種類と特性
04. 情報メディアの選択と管理
05. コンピュータの教育利用（1）
06. コンピュータの教育利用（2）
07. インターネットの概要と利用
08. データベースの利用
09. メディアを利用した教育の促進（1）基本
10. メディアを利用した教育の促進（2）応用
11. メディアとコミュニケーションの理論
12. 情報メディアの活用と知的財産権
13. 情報モラルと個人情報保護
14. 情報メディアにかかわるトラブルと対策
15. さまざまなメディアと諸問題

準備学習（予習）

教科書に目を通す。

準備学習（復習）

授業のキーワードや紹介されたメディアに目を通す。課題が出た場合は、課題をこなす。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) レポート、課題 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

3分の2以上の出席が必須です。

教科書

シリーズ学校図書館学編集委員会・編 『情報メディアの活用（シリーズ学校図書館学5）』（全国学校図書館協議会）

参考書

専門演習(児童学I)		CHLD-C-291
担当教員： 田澤 薫		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX10100
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 子どもへのまなざし・絵本へのまなざし</div> <div>02. 子どもの育ちと絵本（1）赤ちゃんの発達と絵本</div> <div>03. 子どもの育ちと絵本（2）2・3歳児の発達</div> <div>04. 子どもの育ちと絵本（3）2歳児の絵本</div> <div>05. 子どもの育ちと絵本（4）3歳児の絵本</div> <div>06. 子どもの育ちと絵本（5）4・5歳児の発達</div> <div>07. 子どもの育ちと絵本（6）4歳児の絵本</div> <div>08. 子どもの育ちと絵本（7）日本昔話絵本</div> <div>09. 子どもの育ちと絵本（8）外国の昔話絵本</div> <div>10. 子どもの育ちと絵本（9）絵本と再話</div> <div>11. 子どもの育ちと絵本（10）科学の絵本</div> <div>12. 子どもの育ちと絵本（11）5歳児の絵本①物語の絵本</div> <div>13. 子どもの育ちと絵本（12）5歳児の絵本②知識の絵本</div> <div>14. 絵本の楽しみを彩るもの</div> <div>15. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>子どもをめぐる様々な場面に目を向けながら、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。</div> <div>特に絵本・幼年童話を題材とし、子どもの発達や子どもの遊びの場面を考慮した選書の方法や、読み語りの方法を実践的に学ぶことを通した児童研究を行う。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>子どもに関する自分の関心に向き合いましょう。課題報告のための自主的な調査・研究と発表準備が必要です。事前に配布した資料はしっかり読みましょう。絵本発表は、よく下読みをして臨んでください。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究の入り口に立って、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。</div> <div>子どもの視点を考慮した絵本の選書・読み語りが出来ようになる。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>「子ども」「子どもに関わること」に関心をもって調べたり考えたりする面白さを味わってください。
絵本・幼年童話に関心をもって、自分でも味わい、その楽しさを他者に伝えることに取り組んでみましょう。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布資料や参考文献を積極的に読みましょう。発表した絵本について紹介資料を作成してください。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・子ども</div> <div>・児童学</div> <div>・絵本</div> <div>・幼年童話</div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 積極的な参加</div><div>40%</div></div> <div><div>(2) 課題発表</div><div>30%</div></div> <div><div>(3) レポート</div><div>30%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

専門演習(児童学II)		CHLD-C-391
担当教員： 田澤 薫		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX10210
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 子どもと絵本について考える視点</div> <div>02. 絵本を楽しむ味わう方法（１）科学的絵本の楽しみ方①手法や実践への理解</div> <div>03. 絵本を楽しむ味わう方法（１）科学的絵本の楽しみ方②好きな絵本を読みあう</div> <div>04. 絵本を楽しむ味わう方法（２）絵本の発展的な楽しみ方①絵本をもとにした手作り教材</div> <div>05. 絵本を楽しむ味わう方法（２）絵本の発展的な楽しみ方②手遊びや歌の活用</div> <div>06. 絵本を楽しむ味わう方法（２）絵本の発展的な楽しみ方③絵本の二次使用の注意</div> <div>07. 絵本を楽しむ味わう方法（３）選書と楽しみ方の模索</div> <div>08. 絵本を楽しむ味わう方法（３）絵本の教材研究</div> <div>09. 絵本を楽しむ味わう方法（３）絵本の楽しみ方の準備</div> <div>10. 絵本を楽しむ味わう方法（３）絵本から発展する実践の計画</div> <div>11. 絵本を楽しむ味わう方法（３）絵本から発展する実践の準備</div> <div>12. 絵本を楽しむ味わう方法（３）絵本から発展する実践の練習</div> <div>13. 絵本を楽しむ味わう方法（４）絵本から発展する実践発表</div> <div>14. 絵本を楽しむ味わう方法（４）絵本の教材研究発表</div> <div>15. 総括</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>専門演習（児童学I）の学修内容を踏まえ、さらに受講者各々の問題意識・興味関心に沿って、子どもが絵本を味わい絵本の世界を楽しむ方法について、具体的な方法を知り、実践的に理解する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>自分の興味関心に自覚的に向き合いましょう。多くの絵本にふれ、自分の好きな絵本を見つけておきましょう。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>専門演習の時間内に終了しなかった教材研究や教材作成は、次の時間までに終了させておいてください。授業中に生まれた疑問や課題は、積極的に調べて、次の時間に発表してください。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>実習や他の授業とも関連付けながら、自分の関心を探っていきましょう。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 積極的な参加30% 積極的な発言を求めます</div><div>(2) 研究発表40% 自分の発表当番の回に向けて、よく準備して報告してください</div><div>(3) レポート30%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・子ども</div><div>・発達</div><div>・絵本</div><div>・教材研究</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

専門演習(キリスト教幼児教育II)

CHLD-C-391

担当教員：山口 博

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1CX10860

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義は、キリスト教幼児教育を研究するにあたり、「人間実存の神秘への導入」(inducting)を重視しつつ聖書を学び、複雑な現代の諸問題を、キリスト教倫理学の領域で考察したい。

(2) 学びの意義と目標

それは、キリスト教の立場から諸問題に即答や解答を与える倫理的な宣言(ethical pronouncement)としてではなく、人間のおかれている倫理的状況を、キリスト教の啓示の下に分析・洞察(analysis reflection)を加えるものである。

受講者に対する要望

積極的に受講してください。

学びのキーワード

- ・人
- ・神
- ・主
- ・生
- ・死

授業計画

01. 序
02. 各自の研究課題を探ります
03. 各自の研究課題に取り組み始めます
04. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。
05. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。
06. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。
07. 図書館の電子黒板等を使用し、プレゼンテーションをします。
08. 図書館の電子黒板等を使用し、プレゼンテーションをします。
09. プレゼンテーションとディスカッションをします。
10. プレゼンテーションとディスカッションをします。
11. プレゼンテーションとディスカッションをします。
12. プレゼンテーションとディスカッションをします。
13. プレゼンテーションとディスカッションをします。
14. プレゼンテーションとディスカッションをします。
15. まとめ

準備学習(予習)

講義で、聖書の文章をげ読みます。あらかじめ該当箇所を通読しておいてください。
プレゼンテーションの準備が必要です。

準備学習(復習)

ノートをまとめてください。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 講義への積極性 | 20% |
| (2) ディスカッション | 20% |
| (3) 論文作成 | 20% |
| (4) ノートおよびプリント提出 | 20% |
| (5) プレゼンテーション | 20% |

教科書

参考書

講義の中で指示

専門演習(造形教育論I)

CHLD-C-291

担当教員：喜田 敬

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX11350

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

就学前好きであった造形活動が、小学校入学後嫌いになる例が、多く報告されている。その原因として、作品に対する教師の評価や、生徒の認知発達による、他者との比較などがあげられる。では、保育現場での造形活動には、全く問題はないのか。幼児期の造形体験・造形教育の望ましい在り方とは如何なるものか。本授業では、造形教育の歴史と現状を中心にこの点を考える。

(2) 学びの意義と目標

作者である子どもの心を知る知性と感性を身につける。

受講者に対する要望

保育、教育現場における造形に関心のある学生の受講を望む。

学びのキーワード

- ・時代
- ・文化
- ・子ども
- ・芸術
- ・遊び

授業計画

01. オリエンテーション
02. 江戸市民文化と欧州絵画
03. 印象派の画家たち
04. 近代美術教育の成立
05. チゼックと児童絵画
06. 日本の造形教育
07. 臨画
08. 自由画
09. 幼児の発達と描画
10. 幼児画の特徴
11. 幼児の描画活動と保育者
12. アメリカ
13. イギリス
14. フランス
15. まとめ

準備学習(予習)

予習用に配布するプリントは必ず読むこと。

準備学習(復習)

授業ノートを再読し、配布されたプリントとファイルすること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点・レポート | 80% |
| (2) ディスカッション | 20% |

教科書

参考書

プリントを配布する。

専門演習(造形教育論II)		CHLD-C-391
担当教員：喜田 敬		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1CX11460
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション。 02. 子どもの絵、大人の絵 03. 透視画法 04. 色相、明度、彩度 05. 光 06. DBAE 07. DBAEの実技体験 08. ディスカッション「DBAEの可能性と問題点」 09. 造形教育と性差 10. マンガと保育者 11. 日本アニメの歴史。アニメーション黎明期 12. アニメーション現代 13. サブカルチャーとファインアートと子どもたち 14. ディスカッション「造形教育の望ましい在り方」 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>保育者は、園児の描画活動を指導すべきではない、と考える幼稚園は日本では少なくない。「これまでの教育論が、知的な領域と情的な領域に人間の心を分化し、知的教育が推進されるために情的な育成が阻害されるという二元論に立つことが多かった」ことも、その理由の一つであろう。だが、「造形的な活動は単に行為とか表出とか、経験、記録のみにとどまってしまって、芸術的な感動とか思いの表現に入らないで」よいのか。 専門演習IIでは、内外の造形教育の研究と実践から、保育造形の望ましい在り方を探る。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>予習のために配布するプリントを読んでおくこと。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>ノートをまとめ、配布資料をファイルする。</div> <div>評価方法</div> <div><div>(1) 制作40%</div><div>(2) レポート40%</div><div>(3) 発表20%</div></div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>造形教育とは何か。知識の蓄積とともに、考える習慣を身につける。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>ディスカッションには積極的に参加するように。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・保育者</div><div>・園</div><div>・子ども</div><div>・造形</div><div>・文化</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div> <div>プリントを配布する。</div>

専門演習(保育実践論Ⅰ)		CHLD-C-291					
担当教員：相川 徳孝							
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX11770					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. いろいろな保育教材について 03. 子どもの発達と保育教材 04. 保育教材製作のための計画書作成 05. 保育教材製作(1) 06. 保育教材製作(2) 07. 保育教材製作(3) 08. 保育教材製作(4) 09. 保育教材製作(5) 10. 指導案作成 11. 模擬保育(1) 12. 模擬保育(2) 13. 模擬保育(3) 14. 模擬保育からの今後の自己課題について 15. まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>この演習では保育現場で必要とされる基礎的な文章表現や子ども理解を深めていくと同時に、さまざまな幼稚園・保育所で行われている保育について、多角的に見つめ、保育者として求められている役割や乳幼児に相応しい教材とはどのようなものかについて考えていく。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>幼稚園や保育所でよく使われる教材や発達に即した絵本等について調べておくこと。</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子ども理解の上に、実際に子どもたちが興味や関心をもつ教材にはどのようなものがあるのかを考え、作製していく。</div>							
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもに対する興味や関心があり、保育を多角的な視点で見ることを考えたい学生であってほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>他の授業ですでに学んだ幼稚園、保育所の役割や子どもの発達のプロセスについて正しく理解しておくこと。</div>						
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 教材作製</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 模擬保育</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 討論の参加度</td><td>25%</td></tr></table> <div>ただ楽しいも教材を作るということではなく、それを通して何を育てたいか、明確にし、取り組むこと。</div>		(1) 教材作製	50%	(2) 模擬保育	25%	(3) 討論の参加度
(1) 教材作製	50%						
(2) 模擬保育	25%						
(3) 討論の参加度	25%						
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">子どもの発達理解保育所と幼稚園の違い教材研究提示方法</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>					

専門演習(保育実践論II)		CHLD-C-391
担当教員： 相川 徳孝		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX11880
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 保育研究の方法について 03. 事例研究の意義 04. 事例研究の方法(1) 05. 事例研究の方法(2) 06. 事例研究の方法(3) 07. 事例研究発表(1) 08. グループ討論(1) 09. 事例研究発表(2) 10. グループ討論(2) 11. 事例研究発表(3) 12. グループ討論(3) 13. 事例研究発表(4) 14. グループ討論(4) 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本演習は、「専門演習(保育実践論I)」の延長線上にあり、前演習で取り組んだ教材研究を具体的な保育の内容にどのように取り入れていけばよいのか、そのためにはどのような保育者の働きが必要となるのか等について実践していく。事例をまとめる、発表するそれぞれのプロセスにおいて、保育者として必要な専門用語の理解と読み手に思いが伝わる文章表現とはどのようなものかについても学んでいく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>ここでは遊びの意味や理解、子どもの行動の意味を考えると、さらには保育者の援助方法について保育事例を多く取り上げながら討論を重ね、各自の保育観を構築していくことを目標としている。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各自の実践から保育についての実践記録をまとめ。討論ができるように準備すること。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時に取り上げた事例研究において、問題点と子ども同士、子どもと保育者のかかわりをまとめておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>保育を多角的な視点でみることを学んでほしい。</div>	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 事例レポート</div><div>50%</div></div><div><div>(2) 子ども理解</div><div>25%</div></div><div><div>(3) 文章表現</div><div>25%</div></div></div> <div>各自のレポートにおいて他者につたわる内容であるか、考察ができているかがポイントとなる。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 子どもの生活</div><div>・ 遊びを通した学び</div><div>・ 保育者の援助</div><div>・ 指導計画</div></div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

専門演習(児童福祉実践論II)

CHLD-C-391

担当教員：坂本 佳代子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX12000

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本演習では、ボランティア等の実践を通して、実践的に児童福祉の現状を学んでいきます。

一つの実践から、普遍的な要素と個別的要素を見極めていく力量を培います。

テーマは各自設定し、調べた結果や実践の体験報告を行い、受講生相互の討論のなかで、学習を深めていきます。

(2) 学びの意義と目標

- ・児童福祉の体系を理解すること
- ・児童福祉施設のそれぞれの役割を理解する
- ・児童福祉の実践者としての力量を高める
- ・現状と今後の課題を見出していく

受講者に対する要望

学生同士での質疑応答が進められるように、心がけてください。

学びのキーワード

- ・児童福祉法
- ・ICF
- ・要保護児童
- ・措置と契約
- ・自己覚知

授業計画

01. 児童福祉施設の体系
02. 児童福祉施設での実践留意事項
03. 実践体験
04. 事例研究の進め方
05. レポート討議
06. レポート討議
07. 事例研究の進め方
08. レポート討議
09. レポート討議
10. 事例研究の進め方
11. レポート討議
12. レポート討議
13. 事例研究の進め方
14. レポート討議
15. 児童福祉実践のまとめ

準備学習(予習)

身近な地域での児童福祉実践、ボランティア活動を積極的に実践してください。

準備学習(復習)

授業の最後に、振り返りを行う。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 課題実践 | 50% |
| (2) 提出物 | 30% |
| (3) 授業態度 | 20% |

教科書

参考書

専門演習(異文化間教育I)		CHLD-C-291
担当教員：佐藤 千瀬		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1CX12310
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 資料の収集方法とテーマの決定 文献の講読方法とまとめ方 03. 異文化間教育とは 異文化間教育の実践例 04. 発表とディスカッション 05. 発表とディスカッション 06. 発表とディスカッション 07. 発表とディスカッション 08. 発表とディスカッション 09. 発表とディスカッション 10. 異文化間教育の実践例 11. 発表とディスカッション 12. レポート作成方法 13. 発表とディスカッション 14. 発表とディスカッション 15. 海外の遊び/絵本 まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「異文化間教育」とは、「2つ以上の文化の狭間で生活する人を対象にして、その人間形成や発達について、他者との関係性を通して把握すること」であり、その教育を考えるものである。具体例として、日本に住む外国人の子ども、海外に住む日本人の子ども、国際結婚の子どもを対象とした研究が挙げられる。本演習では、異文化間教育に関する各自の関心のある基礎文献を講読し、発表とディスカッションを行う。また、世界の保育・教育や現状にも目を向け、多様な保育・教育方法や教材、各国の課題を、体験や映像を含めて学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div><div>・基礎文献の講読方法及び文献の収集方法、発表方法、レポート作成方法を学ぶ。</div><div>・日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みに気づき、多角的に考える。</div></div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>発表3回分の準備を計画的にすること。
</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>ディスカッションに積極的に参加すること。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>発表でのディスカッションをもとに、調べ直し最終レポートをまとめること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点40%</div><div>(2) 発表45%</div><div>(3) レポート15%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・異文化間教育</div><div>・文化</div><div>・外国人の子ども</div><div>・世界の保育・教育</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

専門演習(異文化間教育II)

CHLD-C-391

担当教員：佐藤 千瀬

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX12420

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本演習では、異文化間教育に関する各自の関心のあるテーマを見つけ、文献を講読し、発表とディスカッションを行う。

(2) 学びの意義と目標

「専門演習(異文化間教育I)」での学びを受けて、さらにそれを深め発展させることが最大のねらいである。

- ・文献リストの作成方法、文献の講読方法及びまとめ方、発表方法、レポート作成方法を学ぶ。
- ・各自の関心のあるテーマとともに、日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みを広げ、多角的に考える。

受講者に対する要望

パワーポイントを使用した発表準備が求められる。

学びのキーワード

- ・異文化間教育
- ・文化
- ・外国人の子ども
- ・世界の保育・教育

授業計画

01. オリエンテーション テーマの決定 発表方法
02. 発表とディスカッション
03. 発表とディスカッション
04. 発表とディスカッション
05. 発表とディスカッション
06. 発表とディスカッション
07. 発表とディスカッション
08. 世界の文化
09. 世界の遊び
10. 世界の保育・教育
11. 文献収集と文献リストの作成 レポート作成方法
12. 発表とディスカッション
13. 発表とディスカッション
14. 発表とディスカッション
15. まとめ

準備学習(予習)

発表3回分の準備を計画的にすること。

準備学習(復習)

発表でのディスカッションをもとに調べ直し、最終レポートをまとめること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 発表 | 45% |
| (3) レポート | 15% |

教科書

参考書

専門演習(教育文化論I) (115C)

担当教員：寺崎 恵子

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：1 コード：1CX12510

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

子どもが子どもとしてしあわせに生きること。子どもとともに生きる私たちは、それをどう支えようか。人は誕生と同時に学び始めるとルソーは言った。その学びは、子どものしあわせにどのようにつながるのだろうか。子どもと大人とがかかわりあう生活世界に教育文化の可能性を考えて、教育観を再考してみたい。このような問題関心から、この演習では、とくに、日々の暮らしにおける子どもの表情に注目する。文献の輪読とディスカッションを通じて、互いに理解を深めたい。

(2) 学びの意義と目標

子どもの生活に実際にかかわるとき、思い込みだけではなかなかうまくいかない。この演習への参加を通じて、自分自身の思い込みに気づき、その思い込みを解いてみる機会になることを学びの意義とする。思い込みを解くことは、簡単そうだが実際にはけっこう難しい。けれども、単独で行うよりも仲間と協力して行くと、意外な発見を互いに認め合い、頑固な思い込みがずり解けることがある。こうした学びになるように仲間と協同することを、学びの目標とする。

受講者に対する要望

育つことへの関心を深めて、育てることのセンスをみがいてほしい。相手を否定することなく、意見を交わしあうなかで互いの理解を深める努力をしてほしい。

学びのキーワード

- ・子どものしあわせと学び
- ・育つことと育てること
- ・日々の暮らしにおける子どもの表情
- ・子どもと大人の生活世界
- ・完成可能性

授業計画

01. 教育観再考のために：育ての心
02. 育つことと育てること：驚く心
03. 子どもと大人の生活世界：参加の心
04. 笑う子ども
05. 泣く子ども
06. 怒る子ども
07. 喜ぶ子ども
08. おどける子ども
09. ケンカする子ども
10. ウソをつく子ども
11. うたう子ども
12. 黙っている子ども
13. おしゃべりする子ども
14. おどる子ども
15. 教育観再考のために：完成可能性

準備学習(予習)

次回に読むところを読んでおく

準備学習(復習)

ディスカッションをふりかえり、その内容を記録する。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 輪読への参加 | 40% |
| (2) ディスカッションへの参加 | 40% |
| (3) 期末課題 | 20% |

教科書

倉橋惣三『育ての心〈上〉』（フレーベル館）

参考書

内容に合わせて、適宜紹介する。

専門演習(教育文化論I) (114C)

担当教員：寺崎 恵子

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：1 コード：1CX12520

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

子どもが子どもとしてしあわせに生きること。子どもとともに生きる私たちは、それをどう支えようか。人は誕生と同時に学び始めるとルソーは言った。その学びは、子どものしあわせにどのようにつながるのだろうか。こうした問題関心をもって、子どもと大人とがかかわり合う生活世界に教育文化の可能性を考え、教育観を再考してみたい。この演習では、とくに、日々の暮らしにおける子どもの表情に注目する。文献の輪読とディスカッションを通じて、互いに理解を深めたい。

(2) 学びの意義と目標

子どもの生活に実際にかかわるとき、思い込みだけではなかなかうまくいかない。この演習への参加を通じて、自分自身の思い込みに気づき、その思い込みを解いてみる機会になることを学びの意義とする。思い込みを解くことは、簡単そうだが実際にはけっこう難しい。けれども、単独で行うよりも仲間と協力して行くと、意外な発見を互いに認め合い、頑固な思い込みがずりりと解けることがある。こうした学びになるように仲間と協同することを、学びの目標とする。

受講者に対する要望

育つことへの関心を深めて、育てることのセンスをみがいてほしい。相手を否定することなく、意見を交わしあうなかで互いの理解を深める努力をしてほしい。

学びのキーワード

- ・子どものしあわせと学び
- ・育つことと育てること
- ・日々の暮らしにおける子どもの表情
- ・子どもと大人の生活世界
- ・完成可能性

授業計画

01. 教育観再考のために：育ての心
02. 子どもと大人の生活世界：驚く心
03. 育つことと育てること：参加の心
04. 笑う子ども
05. 泣く子ども
06. 怒る子ども
07. 喜ぶ子ども
08. おどける子ども
09. ケンカする子ども
10. ウソをつく子ども
11. うたう子ども
12. 黙っている子ども
13. おしゃべりする子ども
14. おどる子ども
15. 教育観再考のために：完成可能性

準備学習(予習)

次回に読むところを読んでおく

準備学習(復習)

ディスカッションをふりかえり、その内容を記録する

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 輪読への参加 | 40% |
| (2) ディスカッションへの参加 | 40% |
| (3) 期末課題 | 20% |

教科書

倉橋惣三 『育ての心〈上〉』（フレーベル館）

参考書

授業のなかで 適宜 紹介する。

専門演習(教育文化論II) (114C)		CHLD-C-391
担当教員：寺崎 恵子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1CX12610
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 遊びとコミュニケーション 02. 五感のあり方（1）ふれる 03. 五感のあり方（2）味わう 04. 五感のあり方（3）嗅いでみる 05. 五感のあり方（4）きこえる 06. 五感のあり方（5）みえる 07. 五感のあり方（6）子どもの理性 08. 模倣すること（1）うつる 09. 模倣すること（2）まわす 10. 模倣すること（3）つたわる 11. 遊びの発展過程（1）ひらく 12. 遊びの発展過程（2）ふくらむ 13. 遊びの発展過程（3）はじける 14. 遊びの発展過程（4）まとまる 15. 遊びと学び</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>子どもの学びは全身感覚的であると言われる。子どもに添い立つ大人には、子どもとの交わり・コミュニケーションのなかで子どもの躍動的な学びのありようを感受して、より充実した発展的な活動を子どもとともに創っていくことが求められるだろう。そこで、この演習では、遊びに着目して、子どもの学びのありようを考えていきたい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>回目の学びに必要なことを調査をする。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>専門演習Ⅰの発展的演習である。前の演習において皆で学んだことを、実際の遊びにおいて確認し、理解を深めることを、学びの意義とする。 基本的な研究の手法を学んで、日々の学びや卒業研究に活用する力を養うことを、学びの目標とする。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>楽しさやおもしろさがどのように学びに起こってくるのか、実感とともに学んでほしい。また、遊びに生まれるこころのありようを記録する力を養ってほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>各回に学んだことの内容を整理して、考察をまとめる。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 報告40%</div><div>(2) ディスカッション40%</div><div>(3) 期末課題20%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・遊びのミメーシス</div><div>・興味・関心</div><div>・プレイフルな創造性</div><div>・広義のコミュニケーション</div><div>・感覚的な学び</div></div>	<div>教科書</div> <div>使用しない。</div>	<div>参考書</div> <div>予習に必要な文献資料を適宜紹介する。</div>

専門演習(生涯学習Ⅰ)		CHLD-C-291
担当教員： 小池 茂子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX12750
学部教育の関連目		授業計画
【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. 図書館ツアー（資料の場所と、探し方の習得） 02. 社会が持つ教育力とは何か（講義） 03. 子どもと社会教育（1）：子どもが生きられる場～社会のもつ教育力とは 04. 子どもと社会教育（2）：子どもが生きられる場～遊びの創造～ 05. 子どもと社会教育（3）：子どもが生きられる場～遊びの創造とアジール 06. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（1） 07. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（2） 08. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（3） 09. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（4） 10. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（5） 11. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（6） 12. 各自の関心事について発表と質疑応答（1） 13. 各自の関心事について発表と質疑応答（2） 14. 台東区立生涯学習センター、国際子ども図書館（上野）の見学ツアー 15. まとめ
1. 内容 人間を育てる場は、家庭教育や学校教育だけではない。近代公教育制度が整備される前にも、人間は学校に行かなくても一人前の人間としての、人格を形成や知識・技能あるいは社会性を身につけてきた。それは、社会が人間を人間として育て、成長させる担い手として大きな教育的機能を果たしてきたからである。 本演習では、「社会の中にある教育力」に注目し、子どもにとって、大人に管理されない遊び空間としての社会や、成長後も人間に感化を与え続ける社会、そのような社会の持つ教育的機能について、先ずは考えていく。 また、今日の日本社会における教育をめぐる問題を『『学ぶこと・学ばないこと』のテキスト講読と討論を通じて考えていく。 さらに、春休みに入った2月には、生涯学習センターや国際子ども図書館などを見学し、学校教育の外で子どもや親が参与できる学びの機会について学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標		
本演習では、「社会の中にある教育力」に注目し、子どもにとって、大人に管理されない遊び空間としての社会やそこでの営みが子どもの成長・発達にいかなる意味を有するのかについて理解する。また、改正教育基本法第10条において、子育てをしている親への支援策を国や地方公共団体が行うことが求められているが、学校や家庭の外で、子どもたちと親たちのためにどのような学びや遊びの機会（また、そのための施設）が用意されているのかについて理解する。		準備学習(予習)
		毎回指定された、テキスト、資料を熟読し、わからない概念や用語については事前に調べ学習を持って、演習に参加すること。
		準備学習(復習)
		毎回の演習で取り上げた課題について、もう一度再考を行い、自分の中で咀嚼し、理解が不明確な点あるいは疑問を抱いた事柄については、次の演習時に、改めて質問できるようにすること。
受講者に対する要望		評価方法
自ら、学びを深めていくための地道な努力を怠らないよう心がけてほしい。 ゼミに所属するメンバー同士が、相互に助け合いながら、また、切磋琢磨しながら学びを深めていけるよう心掛けてほしい。 自分で好きなテーマを選んで掘り下げていく姿勢を大切にしたい。人の意見を聞き、自分の意見をそれに交え話し合うことを期待する。（教員採用試験を受ける人も歓迎。）		(1) 課題に関する評価 50% (2) 平常点 50%
学びのキーワード		教科書
・ 社会の教育力 ・ 遊びと子ども ・ 学歴社会の是非 ・ 子ども図書館 ・ 生涯学習センター		鈴木眞理 『学ぶこと・学ばないこと』（学文社）
		参考書

専門演習(生涯学習II)

CHLD-C-391

担当教員：小池 茂子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX12860

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

1) 各受講生が、テキストを批判的に読むという
学問研究の基礎的技法について学ぶ。
2) レポートの書き方について学ぶ。
カリキュラム上の位置づけ：
卒業研究へのプロセスとして考えている。

(2) 学びの意義と目標

1. 人の書いた論説文の趣旨を把握し、書かれた
内容を批判的に考察する力を身につける

2. レポート作成の基本的作法を身につける

受講者に対する要望

発表資料の準備をつうじて仲間と共に確認し合
い、意見の交換等を持って授業に参加することを
希望する。

学びのキーワード

- ・テキスト批評
- ・レポートの書き方
- ・文献・資料の探し方
- ・研究発表の基本

授業計画

01. ガイダンス
02. テキスト批評について学ぶ
03. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (1)
04. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (2)
05. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (3)
06. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (4)
07. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (5)
08. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (6)
09. 研究発表の基礎 (1)
10. 研究発表の基礎 (2)
11. 研究発表の基礎 (3)
12. 研究発表 (1)
13. 研究発表 (2)
14. 研究発表 (3)
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された資料、テキストの箇所について、わからない事項に
ついては可能な限り事前に調べて演習に臨むこと。

準備学習(復習)

授業の中で指定された課題を毎回必ず仕上げて、次回の
授業に臨むこと。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 出席点 | 40% |
| (2) 平常点 | 60% |

教科書

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』 (慶應義塾大学出版会)

参考書

専門演習(児童文学I)		CHLD-C-291						
担当教員：松本 祐子								
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX12970						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業説明、及び、各自の今学期の課題作品発表 02. レポートの文体 03. レジュメの書き方について 04. 論文の構造について 05. 読書会① 06. 読書会② 07. 読書会③ 08. 読書会④ 09. 読書会⑤ 10. 読書会⑥ 11. 読書会⑦ 12. 読書会⑧ 13. 読書会⑨ 14. 読書会⑩ 15. レポート発表</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>初回の授業で、各自「小中学生に勧めたい物語ベスト10」のリストを用意してくる。その中から特に1冊を選び、毎回、一人ずつ、自分の選んだ作品について分析、発表する。ディスカッションを可能にするため、受講者全員がその作品を読んでくること。発表とディスカッションを中心に、毎回、読書会のスタイルで授業を進める。卒業研究、卒業論文へと続く最初のゼミであり、最終的にきちんと研究論文を書くことができるようになるための基礎力を養う。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>このゼミは、保育者、小学校教員を目指す学生たちの国語力向上を目的とする。様々な児童文学作品を通して、母国語である日本語についての理解を深めてゆきたい。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回の読書会に積極的に参加できるよう、課題図書は必ず読んでおくこと。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>初回授業で、各自、読書リストを提出。読書会の課題図書を毎回、必ず読んでくること。自分の発表時にはレジュメを作成し、当日の午前中に提出すること。</div>							
	<div>準備学習(復習)</div> <div>読書会発表後は、レポートを作成して提出すること。</div>							
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 読書会発表</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 学期末レポート</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 討論への参加度</td><td>30%</td></tr></table>		(1) 読書会発表	40%	(2) 学期末レポート	30%	(3) 討論への参加度	30%
(1) 読書会発表	40%							
(2) 学期末レポート	30%							
(3) 討論への参加度	30%							
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ レポートの書き方</div><div>・ レジュメの書き方</div><div>・ 日本語文章表現</div><div>・ 読書リスト</div><div>・ 読書会</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>						

専門演習(児童文学II)

CHLD-C-391

担当教員：松本 祐子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX13080

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

小学校教科書、文学作品、新聞、インターネットなど、様々なメディアから国語的課題を見つけ出し、分析・考察しながら、母国語である日本語の理解を深めてゆく。授業の後半は、教育実習準備のため、実際に模擬授業、ブックトークなど、実践的な発表力を身につける練習をする。

(2) 学びの意義と目標

社会人としての教養と日本語力を身につけると、また、幼稚園・小学校教諭を目指す学生たちの国語力を向上させることを目標とする。

受講者に対する要望

毎回、指示された課題にじゅうぶん準備をして授業に臨むこと。

学びのキーワード

- ・句会
- ・ブックトーク
- ・国語模擬授業
- ・キャラクター作り

授業計画

01. 授業説明
02. ブックトークについて
03. 俳句を作る
04. 難しい言葉クイズ
05. 作文課題を考える
06. 相棒キャラクターを作る
07. 〈おまえ〉は悪い言葉か？
08. 金子みすずの「わたしと小鳥とすずと」
09. 詩を鑑賞する
10. 国語模擬授業
11. 国語模擬授業
12. 国語模擬授業
13. ブックトーク発表
14. ブックトーク発表
15. まとめ

準備学習(予習)

ゼミの前半は、毎回、様々な課題を出すので、初回授業で配布する予定表に従って予習していただくこと。後半は、国語の模擬授業とブックトークを行ってもらうので、発表者はじゅうぶん用意していただくこと。

準備学習(復習)

国語力向上のために各自で必要な読書・新聞購読などを行うこと。

評価方法

- (1) 模擬授業・ブックトークの発表 30%
- (2) 毎回の課題&討論への参加度 70%

教科書

参考書

専門演習(社会科I)		CHLD-C-291
担当教員：川瀬 敏行		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1CX13190
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス、授業計画等について</div> <div>02. 社会科教育、社会科指導における基礎基本</div> <div>03. 選択課題に基づく演習・協議 1</div> <div>04. 選択課題に基づく演習・協議 2</div> <div>05. 選択課題に基づく演習・協議 3</div> <div>06. 選択課題に基づく演習・協議 4</div> <div>07. 選択課題に基づく演習・協議 5</div> <div>08. 現地見学・学習計画</div> <div>09. 現地見学・学習</div> <div>10. 現地見学・学習のまとめ</div> <div>11. 選択課題に基づく演習・協議 6</div> <div>12. 選択課題に基づく演習・協議 7</div> <div>13. 選択課題に基づく演習・協議 8</div> <div>14. 選択課題に基づく演習・協議 9</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>社会科指導に必要と思われる内容について、「社会科とは何か」「社会科はどうあるべきか」といった問題意識の観点に立ち、 1 社会科の本質 2 社会科の内容 3 社会科学習指導論 4 社会科の授業実践 などから適宜課題を取り上げ、演習と研究をする。 なお、現地見学・学習を行う予定である。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業の中で指示された点については、次回までに予習し、準備をしておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>社会科教育、社会科指導における基礎的基本的な内容について学び、教師を目指す資質を向上させる。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>社会科に関心をもち、小学校教員を目指して、しっかり努力していく者の受講を望む。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業後、学習した内容については確認し、確実に習得していけるようにしていくこと。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・小学校社会科教育 ・社会科指導における基礎基本 ・社会科授業事例研究・演習 ・社会科指導案作成・協議 ・現地見学・現地学習</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 30%</div> <div>(2) レポート 20%</div> <div>(3) 演習・課題研究 50%</div> <div>上記を基準に総合的に判断します。</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

専門演習(社会科II)		CHLD-C-391
担当教員：川瀬 敏行		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1CX13200
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス、授業計画について</div> <div>02. 選択課題に基づく演習・協議・研究 1</div> <div>03. 選択課題に基づく演習・協議・研究 2</div> <div>04. 選択課題に基づく演習・協議・研究 3</div> <div>05. 選択課題に基づく演習・協議・研究 4</div> <div>06. 選択課題に基づく演習・協議・研究 5</div> <div>07. 現地見学・学習計画</div> <div>08. 現地見学・学習</div> <div>09. 現地見学・学習のまとめ</div> <div>10. 選択課題に基づく演習・協議・研究 6</div> <div>11. 選択課題に基づく演習・協議・研究 7</div> <div>12. 選択課題に基づく演習・協議・研究 8</div> <div>13. 選択課題に基づく演習・協議・研究 9</div> <div>14. 選択課題に基づく演習・協議・研究 10</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>専門演習（社会科 I）の継続で行う。社会科授業の基盤となる学習内容の研究、学習指導案の作成、授業研究等から選択課題に基づく演習・協議をし、研究を深める。現地見学・現地学習も取り入れ、研究協議する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題を選定、研究し発表の準備をする。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>社会科教育・社会科指導において、教師に求められる資質・能力の基礎を養成する。教師の専門性の向上に結び付けていくことを目指す。</div>		
<div>準備学習(復習)</div> <div>発表について全体で協議し、指摘・指導された点については、再度確認、修正する。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>専門演習（社会科 I）を受講済みで、小学校教員を目指し、資質・能力の向上に積極的に学ぶ学生の受講を望む。</div>	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>30%</div></div><div><div>(2) レポート</div><div>20%</div></div><div><div>(3) 演習・課題研究</div><div>50%</div></div></div> <div>上記を基準に総合的に判断します。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 小学校社会科教育</div><div>・ 小学校社会科学習内容研究</div><div>・ 社会科の授業づくりと事例研究</div><div>・ 社会科指導案作成・研究</div><div>・ 現地見学・現地学習</div></div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

専門演習(教育心理学I)

CHLD-C-291

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX13730

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

子どもの発達や学習についての心理学的研究の基礎的な資料をグループで講読、討論する。
これをもとに、調べたいテーマを決定し、実際に調査を行い、結果をまとめる。

(2) 学びの意義と目標

子どもの発達や学習に関する問題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための教育心理学的な研究方法の基礎をみにつけることを目的とする。

受講者に対する要望

議論に積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・調査
- ・実験

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教育心理学的研究例の概要
03. 教育心理学的研究例の発表と討議（1）
04. 教育心理学的研究例の発表と討議（2）
05. 教育心理学的研究例の発表と討議（3）
06. 調査計画の発表と討議（1）
07. 調査計画の発表と討議（2）
08. グループによるテーマの決定
09. 調査の方法について（1）
10. 調査の方法について（2）
11. 調査の実際（1）
12. 調査の実際（2）
13. 結果のまとめ（1）
14. 結果のまとめ（2）
15. 報告

準備学習(予習)

配布資料について、内容をまとめる。

準備学習(復習)

討論をもとに、自らの考えを整理する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) レポート | 60% |
| (2) 平常点と発表 | 40% |

教科書

参考書

專門演習(教育心理学II)

CHLD-C-391

担当教員： 鎌原 雅彦

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位：1 コード：1CX13840

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習Ⅱに引き続き、教育心理学的研究の方法論について学習し、グループでの調査研究を行い、結果をまとめる。

(2) 学びの意義と目標

教育心理学的な研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。

受講者に対する要望

議論に積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 教育心理学
- ・ 調査
- ・ 実験

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教育心理学的研究方法の概要
03. 実験的研究例の発表と討議
04. 調査的研究例の発表と討議
05. 観察的研究例の発表と討議
06. 面接的研究例の発表と討議
07. 個別計画の発表と討議
08. グループによるテーマの決定
09. 研究の方法について（１）
10. 研究の方法について（２）
11. 研究の実際（１）
12. 研究の実際（２）
13. 結果のまとめ（１）
14. 結果のまとめ（２）
15. 報告

準備學習(予習)

配布資料について、内容をまとめる。

準備學習(復習)

討論をもとに、自らの考えを整理する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) レポート | 60% |
| (2) 平常点と発表 | 40% |

教科書

参考書

専門演習(栄養教育Ⅰ)

担当教員： 広瀬 歩美

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 1CX13910

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

1) 子どもや保護者、保育者を取り巻く食環境や食生活上の課題を調査し、改善方法を検討する。
2) 各種統計資料や文献を読むことで、氾濫する健康情報の中から、正しい情報を得る方法について学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

2005年の食育基本法施行に伴い、「食育」という言葉はいまや一般的となっている。
食べることは生命の営みに不可欠な行動であるにも関わらず、法律を制定してまで「食」を「教育」する必要があるのは、その背景に、不健全な食生活を営むことで起こる心身の課題を抱える者が急増していることにある。その課題は世代によって様々であるが、保育・教育者になる上で、「子どもにおける食の課題」「子どもの食事を用意する保護者の課題」そして「自分自身の食の課題」を知り、改善へ向かう方策を多面的に考える力を養うことを目標とする。
また、健康に関する情報は、インターネット上で氾濫しており、真偽が不明なものも多い。
各種統計資料や文献の読み込みを通して、自分に必要な正しい情報の得方についても学ぶ。

受講者に対する要望

積極的な討論姿勢を求める

学びのキーワード

- ・ 栄養教育
- ・ 食育

授業計画

01. オリエンテーション
02. 食育白書（1）
03. 食育白書（2）
04. 食育白書（3）
05. 自分自身の食の課題
06. 子どもの食の課題と対策
07. 保護者の食の課題
08. 健康情報に関する調査（1）
09. 健康情報に関する調査（2）
10. 健康情報に関する調査（3）
11. 発表・討論（1）
12. 発表・討論（2）
13. 発表・討論（3）
14. 発表・討論（4）
15. まとめ

準備学習(予習)

配布資料を読み込み、自分なりの意見を持ってくること

準備学習(復習)

討論した点について、さらに考えを深めること

評価方法

- | | |
|---------|----|
| (1) 参加点 | 50 |
| (2) 課題 | 50 |

教科書

必要に応じて資料を配布する

参考書

卒業研究(児童学I)		CHLD-C-392									
担当教員： 田澤 薫											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX20100									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 研究方法の学習（1）絵本評論とは何か 02. 研究方法の学習（2）絵本評論を手掛かりに絵本を味わう 03. 絵本評論の学習①五味太郎氏の「うさこちゃんとうみ」論に学ぶ 04. 絵本評論の学習②五味太郎氏の「うさこちゃんとうみ」論を協議する 05. 絵本評論の学習③「行きて帰りし」論に学ぶ 06. 絵本評論の学習④瀬田貞二理論と「アンガスとあひる」 07. 絵本評論の学習⑤瀬田貞二理論と「てぶくろ」 08. 絵本評論の学習⑥瀬田貞二理論と「おだんごぱん」 09. 絵本評論の学習⑦瀬田貞二理論と「たろうのともだち」 10. 絵本評論の学習⑧瀬田貞二理論と「ありこのおつかい」 11. 「行きて帰りし」理論からの絵本分析①選書 12. 「行きて帰りし」理論からの絵本分析②分析視点の検討 13. 「行きて帰りし」理論からの絵本分析③研究発表 14. 「行きて帰りし」理論からの絵本分析④意見交換と協議 15. 総括</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>専門演習（児童学II）の学修内容を踏まえ、絵本理解の方法として絵本評論に学ぶ手法を身につける。そのうえで、受講者各々の問題意識・興味関心に沿って絵本を選書し分析研究を行い、研究の成果を発表する。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。自分の問題関心を深める方法論を選んで子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>自分の研究テーマを確定させて、教員と相談した方法で取り組み、報告するための準備をすることが必要です。</div>									
		<div>準備学習(復習)</div> <div>研究発表ごとに、研究してきたことを振り返り、研究を進めるために次に行うことを考えましょう。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>自分らしい取り組み内容を見つけていきましょう。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 積極的な参加</td><td>30%</td><td>積極的な発言を求めます。</td></tr><tr><td>(2) 研究発表</td><td>40%</td><td>発表の当番回に向けて、よく準備をして報告してください。</td></tr><tr><td>(3) レポート</td><td>30%</td><td></td></tr></table>	(1) 積極的な参加	30%	積極的な発言を求めます。	(2) 研究発表	40%	発表の当番回に向けて、よく準備をして報告してください。	(3) レポート	30%	
(1) 積極的な参加	30%	積極的な発言を求めます。									
(2) 研究発表	40%	発表の当番回に向けて、よく準備をして報告してください。									
(3) レポート	30%										
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・子ども</div><div>・発達</div><div>・絵本</div><div>・絵本評論</div></div>		<div>教科書</div> <div>授業中にプリントを配布します。</div> <div>参考書</div>									

卒業研究(児童学II)

CHLD-C-491

担当教員：田澤 薫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX20210

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習(児童学Ⅰ・Ⅱ)、卒業研究(児童学Ⅰ)での学修を踏まえ、受講生各々の問題関心に沿った卒業研究を発展させ、子どもと絵本等の児童文化財を研究の対象と捉えた活動の成果を「卒業研究レポート」としてまとめ、発表する。

(2) 学びの意義と目標

子どもを軸とした自らの関心に沿って、調べたり実践したりすることを通して考えることの具体的な方法を実践的に習得する。子ども研究の面白さ、奥深さ、難しさを体験的に学ぶ。自ら取り組んだ成果を大切に扱い、まとめ、人に伝える手法を実践しながら身につける。受講生同士の成果に関心をもって尊重しあい、学びあう経験をする。

受講者に対する要望

自分の関心に沿って、沢山の絵本等児童文化財と触れてきたと思います。その提供方法・技能についても、意識的に習得したいと思います。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・発達
- ・絵本
- ・児童文化財

授業計画

01. 卒業研究の方向性
02. 研究報告と討議(1)
03. 研究報告と討議(2)
04. 研究報告と討議(3)
05. 研究報告と討議(4)
06. 研究報告と討議(5)
07. 研究報告と討議(6)
08. 研究報告と討議(7)
09. 研究を発表する方法(1)
10. 研究を発表する方法(2)
11. 研究発表を聞いて自分の研究を豊かにする方法
12. 卒業研究の発表と討議(1)
13. 卒業研究の発表と討議(2)
14. 卒業研究の発表と討議(3)
15. 総括

準備学習(予習)

自分の研究テーマを確定させて、教員と相談した方法で取り組み、報告するための準備をすることが必要です。

準備学習(復習)

卒業研究レポートにまとめるために、協議した内容を文章にまとめておくことが必要です。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 25% |
| (2) 研究発表 | 25% |
| (3) 卒業研究レポート | 50% |

教科書

参考書

卒業研究(キリスト教幼児教育I)		CHLD-C-392
担当教員： 山口 博		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX20790
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 序 02. 各自の研究課題を探ります 03. 各自の研究課題に取り組み始めます 04. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。 05. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。 06. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。 07. 図書館の電子黒板等を使用し、プレゼンテーションをします。 08. 図書館の電子黒板等を使用し、プレゼンテーションをします。 09. プレゼンテーションとディスカッションをします。 10. プレゼンテーションとディスカッションをします。 11. プレゼンテーションとディスカッションをします。 12. プレゼンテーションとディスカッションをします。 13. プレゼンテーションとディスカッションをします。 14. プレゼンテーションとディスカッションをします。 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、キリスト教幼児教育を研究するにあたり、「人間実存の神秘への導入」(inducting)を重視しつつ聖書を学び、複雑な現代の諸問題を、キリスト教倫理学の領域で考察したい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各自のUSBに卒論内容を書き込み作成します。
プレゼンテーションの準備が必要になります。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>それは、キリスト教の立場から諸問題に即答や解答を与える倫理的な宣言(ethical pronouncement)としてではなく、人間のおかれている倫理的状況を、キリスト教の啓示の下に分析・洞察(analysis reflection)を加えるものである。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に受講してください。
</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートをまとめてください。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 人 ・ 神 ・ 主 ・ 生 ・ 死</div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 講義への積極性20%</div><div>(2) ディスカッション20%</div><div>(3) 論文作成20%</div><div>(4) ノートおよびプリント提出20%</div><div>(5) プレゼンテーション20%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div> </div> <div>参考書</div> <div>講義中に指示</div>	

卒業研究(キリスト教幼児教育II)			
担当教員： 山口 博			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
		単位：	1
		コード：	1CX20890
<div>学部教育の関連目</div> <div>□</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 序</div> <div>02. 各自の研究課題を探ります</div> <div>03. 各自の研究課題に取り組みます</div> <div>04. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。</div> <div>05. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。</div> <div>06. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。</div> <div>07. 図書館の電子黒板等を使用し、プレゼンテーションをします。</div> <div>08. 図書館の電子黒板等を使用し、プレゼンテーションをします。</div> <div>09. 共通の卒業研究の実践に取り組みます。 プレゼンテーションとディスカッションをします。</div> <div>10. 共通の卒業研究の実践に取り組みます。 プレゼンテーションとディスカッションをします。</div> <div>11. プレゼンテーションとディスカッションをします。 共通の卒業研究の実践に取り組みます。</div> <div>12. プレゼンテーションとディスカッションをします。 共通の卒業研究の実践に取り組みます。</div> <div>13. プレゼンテーションとディスカッションをします。 共通の卒業研究の実践に取り組みます。</div> <div>14. プレゼンテーションとディスカッションをします。 共通の卒業研究の発表をします。。</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、キリスト教幼児教育を研究するにあたり、「人間実存の神秘への導入」(inducting)を重視しつつ聖書を学び、複雑な現代の諸問題を、キリスト教倫理学の領域で考察したい。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>キリスト教の立場から諸問題に即答や解答を与える倫理的な宣言(ethical pronouncement)としてではなく、人間のおかれている倫理的状況を、キリスト教の啓示の下に分析・洞察(analysis reflection)を加えるものである。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>各自のUSBに卒論内容を書き込み作成します。プレゼンテーションの準備が必要になります。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートをまとめてください。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に受講してください。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 講義への積極性 20%</div> <div>(2) ディスカッション 20%</div> <div>(3) 論文作成 20%</div> <div>(4) ノートおよびプリント提出 20%</div> <div>(5) プレゼンテーション 20%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・人 </div> <div>・神</div> <div>・主</div> <div>・生 </div> <div>・死</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>講義の中で指示</div>	

卒業研究(造形教育論I)

CHLD-C-392

担当教員：喜田 敬

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX21370

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本授業では、卒業論文、卒業研究、卒業制作のうち一つを選び研究する。定期的に研究、制作の経過報告を行う。

(2) 学びの意義と目標

卒業論文、卒業研究、卒業制作に向けた資料収集、調査、試作を進め、「卒業研究II」の準備を行う。

受講者に対する要望

研究意欲を損なわせるので、欠席はしないこと。

学びのキーワード

- ・観察
- ・鑑賞
- ・発見
- ・言語化
- ・共有

授業計画

01. 卒業論文・卒業研究・卒業制作の進め方について
02. レジメの書き方、発表の仕方
03. 参考文献について
04. テーマ設定（1）
05. テーマ設定（2）
06. 資料収集
07. 資料収集
08. 研究計画、制作計画レポート作成
09. 研究計画、制作計画レポート作成
10. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
11. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
12. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
13. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
14. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、授業に備える。

準備学習(復習)

配布資料の再読と、与えられた課題を必ず行うこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 活動性・発表 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

教科書

参考書

卒業研究(造形教育論II)		CHLD-C-491
担当教員： 喜田 敬		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX21480
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 「卒業研究II」の進め方について 02. 卒業制作説明 03. 卒業研究レポート作成説明 04. 卒業制作・卒業研究レポート 05. 卒業制作・卒業研究レポート 06. 卒業制作・卒業研究レポート 07. 経過報告 08. 経過報告 09. 卒業制作・卒業研究レポート 10. 卒業制作・卒業研究レポート 11. 卒業制作・卒業研究レポート 12. 研究発表 13. 制作発表 14. 研究発表 15. 制作発表</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>卒業論文、卒業研究レポート、卒業制作の指導を行う。卒業制作を選択した受講者は、制作意図、教育効果等に関する説明文書を作品に添付する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業論文、卒業研究ないし卒業制作を通し、独自の視点から児童教育に造形教育が果たす役割について考えることを目標としている。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、授業に備える。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>担当者との面会の時間を多く作ってもらいたい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>指導された内容の整理をする。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 研究・制作発表80%</div><div>(2) 活動性20%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・熟視</div><div>・熟読</div><div>・冷静</div><div>・発見</div><div>・報告</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

卒業研究(保育実践論I)		CHLD-C-392				
担当教員： 相川 徳孝						
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX21700				
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. いろいろな保育方法 03. 幼稚園教育要領について 04. 保育所保育指針について 05. 事例研究（1） 06. 事例研究（2） 07. 事例研究（3） 08. 事例研究（4） 09. 事例研究（5） 10. 事例研究（6） 11. 事例研究（7） 12. 保育者の援助について 13. 遊びを通した学びの意義 14. 子どもの生活と環境構成 15. まとめ</div>					
<div>カリキュラム上の位置付け</div>						
<div>(1) 内容</div> <div>「卒業研究」は「専門演習（保育実践論I. II）」の延長線上にあり、いままで学んできたことを基に各自が研究テーマを決め、集大成することを目指すものである。</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>各自の子どもや保育に対する興味から自己課題、研究方法について見出すことを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>基礎実習と保育所実習、施設実習の日誌をまとめること。</div>					
<div>受講者に対する要望</div> <div>保育を多角的に考察することと実際に子どもとかわるフィールドをもっていることが望まれる。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>討論を通して明確となった課題をまとめること。</div>					
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 事例レポート</td><td>80%</td></tr><tr><td>(2) 討論の参加度</td><td>20%</td></tr></table> <div>各自の実践をまとめ、それを第三者に説明し、柔軟な視点で自分の保育をみつめられるかがポイント。</div>		(1) 事例レポート	80%	(2) 討論の参加度	20%
	(1) 事例レポート	80%				
(2) 討論の参加度	20%					
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">実践研究子ども理解遊びを通した学び</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>				

卒業研究(保育実践論II)		CHLD-C-491
担当教員： 相川 徳孝		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX21810
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 各自のテーマ設定について 03. テーマ設定発表 04. レポート作成（1） 05. レポート作成（2） 06. レポート作成（3） 07. レポート発表中間発表 08. レポート作成（1） 09. レポート作成（2） 10. レポート作成（3） 11. レポート発表と討論（1） 12. レポート発表と討論（2） 13. レポート発表と討論（3） 14. 保育の今日的課題 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>習を通して提出されたレポートをそれぞれが個別に検討するとともに、全員での討論材料として提供し、互いに討論し合いながら授業を進めていく</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>演いままで行ってきたことを基に各自が研究テーマを決め、卒業研究として集大成することを目指すものであり、多角的な角度から子どもを見つめ、保育者として必要な実践力を養うことを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各自の興味や関心にしたがってレポートをまとめ、それを土台に討論できるように準備すること。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>討論を通して見えてきた他者の保育者の視点、保育の課題についてまとめること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 実践レポート80% (2) 保育実践20%</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもに関するフィールドを持っていることが望まれる。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・子ども理解 ・実践研究 ・私の保育</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

卒業研究(児童福祉実践論Ⅰ)

CHLD-C-392

担当教員：坂本 佳代子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX21940

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習(児童福祉実践論Ⅱ)で学んだことを発展させる。研究テーマの設定方法、研究方法、そして研究成果発表の方法を身につけたい。

(2) 学びの意義と目標

児童福祉実践Ⅰ、Ⅱで培ってきた現場との触れ合いから、自身が課題意識を持っていることは何かを明確化させる。その課題に取り組む方法を学び、自主的な研究を進めるための基本を身につけることを目的とする。

受講者に対する要望

自身の考察を皆の前で発表する体験で、更に考察が進展するようにお互いに高めあう姿勢を養成してほしい。

学びのキーワード

- ・観察
- ・事実
- ・考察

授業計画

01. 卒業研究のテーマ設定 (1)
02. 卒業研究のテーマ設定 (2)
03. 卒業研究の方法 (1)
04. 卒業研究の方法 (2)
05. 卒業研究の方法 (3)
06. 卒業研究レジメの作成 (1)
07. 卒業研究レジメの作成 (2)
08. レポートにそって討議 (1)
09. レポートにそって討論 (2)
10. レポートにそって討論 (3)
11. レポートにそって討論 (4)
12. レポート発表 (1)
13. レポート発表 (2)
14. レポート発表 (3)
15. レポート発表 (4)

準備学習(予習)

次回までの課題について資料収集・調査をする。

準備学習(復習)

進展状況報告へのコメントをふまえて、考察を深める。

評価方法

- | | |
|--------------|--------------|
| (1) 卒業研究レポート | 50% |
| (2) 討論 | 25% 高めあう討論実践 |
| (3) 発表 | 25% 工夫と態度 |

教科書

参考書

卒業研究(児童福祉実践論II)		CHLD-C-491
担当教員：坂本 佳代子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1CX22045
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 卒業研究テーマの発表と進め方について</div> <div>02. 研究中間報告・協議（1）</div> <div>03. 研究中間報告・協議（2）</div> <div>04. 研究中間報告・協議（3）</div> <div>05. 研究中間報告・協議（4）</div> <div>06. 研究中間報告のまとめと研究報告仕上げに向けて</div> <div>07. 研究報告・協議（5）</div> <div>08. 研究報告・協議（6）</div> <div>09. 研究報告・協議（7）</div> <div>10. 研究報告・協議（8）</div> <div>11. 研究報告のまとめと発表に向けて</div> <div>12. 卒業研究の発表・協議（1）</div> <div>13. 卒業研究の発表・協議（2）</div> <div>14. 卒業研究の発表・協議（3）</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>卒業研究（児童福祉実践理論Ⅰ）で各自取り組んだ研究を継続し、協議を通して深化させる。その成果を卒業研究としてまとめ、発表する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>各自の研究テーマについて、十分な実践及び研究と全員での協議により、対人援助者としての資質を高めることを目指す</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>報告者は、実践研究した内容をわかりやすくまとめ、発表できるよう準備しておく。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>卒業研究をしっかりとめて、大学で学んだことの成果の一つとして今後に生かせるようにする。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>研究協議の中で指摘された点、指導を受けた点については、再度修正をして卒業研究としてまとめる。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点</div><div>30%</div><div>(2) 研究協議参加状況</div><div>20%</div><div>(3) 研究報告・発表</div><div>50%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・児童福祉法</div><div>・障害者総合支援法</div><div>・研究報告・発表</div></div>		

卒業研究(異文化間教育I)		CHLD-C-392
担当教員：佐藤 千瀬		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1CX22360
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 世界の遊び</div> <div>03. 研究発表とディスカッション</div> <div>04. 研究発表とディスカッション</div> <div>05. 研究発表とディスカッション</div> <div>06. 多文化保育・教育</div> <div>07. 研究方法1:研究のタイプとデータ収集法 観察</div> <div>08. 研究方法2:観察と記録</div> <div>09. 研究方法3:インタビュー 研究者倫理</div> <div>10. 異文化間教育の実践例</div> <div>11. 研究発表とディスカッション</div> <div>12. レポート作成方法</div> <div>13. 研究発表とディスカッション</div> <div>14. 研究発表とディスカッション</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>卒業研究は、「専門演習（異文化間教育I・II）」の延長線上にあり、これまでの学習成果をさらに発展させ、ディスカッションを重ねながら、各自の関心のあるテーマを深めていくことを目標とする。研究計画を立て、先行研究をまとめ、実際に様々な研究方法を使って、自分のテーマに沿った情報収集をし、得られた結果をまとめ、発表する方法を学ぶ。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>発表3回分の準備を計画的にすること。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div><div>・研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学ぶ。</div><div>・卒業論文（レポート）の書き方を学ぶ。</div></div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div><div>・事前に配布した資料を読み、まとめること。</div><div>
</div><div>・研究テーマの焦点を絞り、決定すること。</div></div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>発表でのディスカッションをもとに調べ直し、最終レポートをまとめること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点40%</div><div>(2) 発表45%</div><div>(3) レポート15%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・異文化間教育</div><div>・文化</div><div>・外国人の子ども</div><div>・世界の保育・教育</div><div>・研究方法</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

卒業研究(異文化間教育II)		CHLD-C-491
担当教員： 佐藤 千瀬		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX22470
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 先行研究の発表 03. 先行研究の発表 04. 先行研究の発表 05. 経過報告とディスカッション 06. 世界の教材 07. 異文化間教育の実践例 08. 世界の文化 09. 経過報告とディスカッション 10. 経過報告とディスカッション 11. 研究成果の発表 12. 研究成果の発表 13. 研究成果の発表 14. レポート作成について 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文（レポート）にまとめることを目標とする。研究計画を立て、先行研究をまとめ、実際に様々な研究方法を使って、自分のテーマに沿った情報収集をし、得られた結果をまとめ、発表する。授業は、それぞれの経過報告とディスカッションで進められる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>発表（経過報告）3回分の準備及び卒業論文（レポート）の執筆を計画的に進めること。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div><div>・研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学ぶ。</div><div>・卒業論文（レポート）の書き方を学ぶ。</div></div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>計画的に取り組むこと。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>発表でのディスカッションをもとに修正し、卒業論文（レポート）にまとめること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・異文化間教育</div><div>・卒業論文（レポート）</div><div>・文化</div><div>・外国人の子ども</div><div>・世界の保育・教育</div></div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点40%</div><div>(2) 発表45%</div><div>(3) レポート15%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div> </div> <div>参考書</div>	

卒業研究(教育文化論I)

CHLD-C-491

担当教員：寺崎 恵子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX22510

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習で学び得たことに基づいて、各自が関心のある内容を研究にまとめる。また、その研究を仲間と共有できるようにする。そのために必要な基本的な方法を学ぶ。また、工夫の仕方を仲間との意見交換の中で学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

これまでの学びの総まとめとしての卒業研究である。自身のあり方をふりかえりながら、学んだことを社会でも活かしていくわざをともに見出しあうことを、学びの意義とする。

最終学年であることをふまえて、これまでのこととこれからのこととをじっくりと考えながら結びつけることを学びの目標とする。

受講者に対する要望

研究をまとめるなかで、生活のなかのちょっとしたことのおもしろさに気づくようなセンスをみがいてほしい。

学びのキーワード

- ・ 学びにおける興味・関心
- ・ 真面目さと遊び心
- ・ 楽しさ・面白さの真意
- ・ 体験と経験
- ・ 子どもとの生活

授業計画

01. 教育文化論の領野
02. 研究の方法 (1) 入口に立ってみる
03. 研究の方法 (2) 戸口を開けてみる
04. 研究の方法 (3) 一步踏み出してみる
05. 研究の方法 (4) 道を探してみる
06. 研究の方法 (5) 手がかりを得る
07. 研究の方法 (6) 印をつけておく
08. 研究の方法 (7) もし道に迷ったら…
09. 研究の方法 (8) 入口まで戻ってみる
10. 研究のまとめ方 (1) 歩みをふりかえる
11. 研究のまとめ方 (2) 概略図をつくる
12. 研究のまとめ方 (3) 見聞録をつくる
13. 研究内容の理解 (1) 全体と部分
14. 研究内容の理解 (2) 分解と再構成
15. 教育文化論の領野を見渡す

準備学習(予習)

回目の学習に必要なことを調査する。

準備学習(復習)

各回の内容をふりかえて、研究をまとめる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 報告 | 40% |
| (2) ディスカッション | 40% |
| (3) 期末課題 | 20% |

教科書

参考書

卒業研究(教育文化論II)

CHLD-C-491

担当教員：寺崎 恵子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX22620

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

受講生それぞれが関心のある内容を研究にまとめる。また、その研究を仲間と共有できるようにする。

(2) 学びの意義と目標

これまでの学びの総まとめとしての卒業研究である。自身のあり方をふりかえりながら、学んだことを社会でも活かしていくわざをとらに見出しあうことを、学びの意義とする。

最終学年であることをふまえて、これまでのこととこれからのこととをじっくりと考えながら結びつけていくことを学びの目標とする。

受講者に対する要望

生活のなかのちょっとしたおもしろさに気づくようなセンスを研いてほしい。

学びのキーワード

- ・ 学びにおける興味・関心
- ・ 真面目さと遊び心
- ・ 楽しさ・面白さの真意
- ・ 体験と経験
- ・ 子どもとの生活

授業計画

01. 教育文化を研究する
02. 研究の方法 (1) 選ぶ
03. 研究の方法 (2) しぼる
04. 研究の方法 (3) ひろげる
05. 研究の発展 (1) 集める
06. 研究の発展 (2) 分類する
07. 研究の発展 (3) 並べかえる
08. 研究の発展 (4) 組みあわせる
09. 研究の発表方法 (1) 見せる
10. 研究の発表方法 (2) 隠す
11. 研究の発表方法 (3) きいてみる
12. 研究の発表方法 (4) 応答する
13. 研究成果の理解 (1) 交換する
14. 研究成果の理解 (2) 再考する
15. 教育文化論の可能性をひらく

準備学習(予習)

回目の学習に必要なことを調査する。

準備学習(復習)

各回の内容をふりかえって、研究をまとめる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 報告 | 40% |
| (2) ディスカッション | 40% |
| (3) 期末課題 | 20% |

教科書

参考書

卒業研究(生涯学習I)		CHLD-C-392
担当教員： 小池 茂子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX22700
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 論文作成の基礎 (1) 03. 論文作成の基礎 (2) 04. 論文作成の基礎 (3) 05. 各人の関心に基づく発表テーマの設定 (1) 06. 各人の関心に基づく発表テーマの設定 (2) 07. 発表の準備 (1) 08. 発表の準備 (2) 09. 発表の準備 (3) 10. 発表の準備 (4) 11. 各自の関心に基づく発表と検討 (1) 12. 各自の関心に基づく発表と検討 (2) 13. 各自の関心に基づく発表と検討 (3) 14. 各自の関心に基づく発表と検討 (4) 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>各受講生が、研究テーマを設定して研究を深める。テーマ設定の方法、研究方法、研究成果のまとめ方を身につけることをねらいとしている。また、研究仲間とのかかわりあい研究を進めるには不可欠であることを確認する。 カリキュラム上の位置づけ： 卒業r論文作成へ向けたプロセスとして考えている。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 各自、研究テーマを追究する力を身につける。研究は決して独りよがり成り立つものではないことを互いに皆で確認し、科学的かつ普遍性をもつ研究の在り方とは何かについて学ぶことを目指したい。 2. 卒業論文作成を念頭に置き、論文執筆の基礎と、各自が研究テーマの掘り起こしを目指す。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>発表資料の準備をつうじて仲間と共に確認し合い、意見の交換等を持って授業に参加することを希望する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>指定された資料、テキストの箇所について、わからない事項については可能な限り事前に調べて演習に臨むこと。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業の中で指定された課題を毎回必ず仕上げて、次の授業に臨むこと。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 出席点40%</div><div>(2) 平常点60%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・レポート作成の基礎</div><div>・論文の書き方</div><div>・文献・資料の探し方</div></div>		<div>教科書</div> <div>河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）</div> <div>参考書</div>

卒業研究(生涯学習II)

CHLD-C-491

担当教員：小池 茂子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX22810

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめることを目標とする。秋学期開講科目であるので、最初、テーマ設定と研究の進め方（方法論）について共通の指導を行うが、後半は個人指導を中心に進める。

(2) 学びの意義と目標

研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学び、かつ、卒論を執筆する学生のために、個人指導も併せて行う。

受講者に対する要望

特別研究休暇の関係で、本科目は秋学期に開講される。
そこで秋学期の開講までに、本学における4年間の学びの総まとめとして、何を研究テーマとしたいのか、各自がテーマに基づいて自主的な学びを進めておくように希望する。

学びのキーワード

- ・ 卒論テーマ設定の仕方
- ・ 研究方法
- ・ 資料の収集の仕方
- ・ 論文構成の立て方

授業計画

01. 卒業研究テーマの設定の仕方
02. 卒業研究テーマの発表と内容の検討（1）
03. 卒業研究テーマの発表と内容の検討（2）
04. 研究方法についての指導（1）
05. 研究方法についての指導（2）
06. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
07. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
08. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
09. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
10. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
11. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
12. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
13. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
14. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
15. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導

準備学習(予習)

発表（経過報告）の準備及び卒業論文（レポート）の執筆を授業時間以外にも計画的に進めること。

準備学習(復習)

各回に指導された事項を踏まえて、新たな学びを自主的に積み上げて、発表の内容を進化させること。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 出席点 | 40% |
| (2) 平常点 | 60% |

教科書

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）

参考書

卒業研究(児童文学I)

CHLD-C-392

担当教員：松本 祐子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX22920

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

このゼミは、毎回のテーマに合った作品を各自が持ち寄り、ディスカッションを行う形で授業を進める。

(2) 学びの意義と目標

様々な児童文学を通して、日本語の豊かな語彙・運用力を身につけ、教員を目指す社会人として、自分の考えを自分の言葉で発表できるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

テーマを意識した読書を心がけ、設定されたテーマに関わる作品を探せるようにしてほしい。

学びのキーワード

- ・テーマ別読書会
- ・効果的なプレゼンテーション

授業計画

01. 授業説明
02. 論文のレジュメ作成方法について
03. ディスカッション(1)家族
04. ディスカッション(2)友情
05. ディスカッション(3)動物
06. ディスカッション(4)恋
07. ディスカッション(5)冒険
08. ディスカッション(6)魔法
09. ディスカッション(7)不老不死
10. ディスカッション(8)クリスマス
11. 百人一首
12. 句会
13. レポート発表
14. 卒業研究レジュメ発表
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回のディスカッションテーマに合わせて、各自が作品を選び、レジュメを用意してくる。学期末に卒業研究レポートのレジュメを提出してもらうので、各自、準備を進めておくこと。

準備学習(復習)

毎回のディスカッションで扱った作品についてレポートを作成してもらう。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 毎回の課題&討論への参加度 | 60% |
| (2) 学期末レポート | 30% |
| (3) 卒業研究レジュメ | 10% |

教科書

参考書

卒業研究(児童文学II)		CHLD-C-491
担当教員： 松本 祐子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX23030
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 受講者各自の論文テーマ発表 02. 経過報告とディスカッション 03. 経過報告とディスカッション 04. 経過報告とディスカッション 05. 経過報告とディスカッション 06. 経過報告とディスカッション 07. 経過報告とディスカッション 08. 経過報告とディスカッション 09. 経過報告とディスカッション 10. 経過報告とディスカッション 11. 経過報告とディスカッション 12. 経過報告とディスカッション 13. 卒業研究レポート発表 14. 卒業研究レポート発表 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめる。授業は、それぞれの論文作成の経過報告とディスカッションで進められる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>卒業研究レポート作成を進めるのと並行して、ゼミメンバーの研究テーマについて、全員がディスカッションに参加できるように、扱われる作品等を読んでくること。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>ディスカッションを通して学んだことを踏まえて、卒業研究レポートを修正しながら完成させること。</div> <div>評価方法</div> <div>(1) 毎回のディスカッションへの参加度 40% (2) 卒業研究レポート 60%</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>保育者・教員を目指す社会人として、自分自身の考えを的確な表現力で文章化する力を身につけることを目標とする。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>最終的な卒業研究レポート作成のため、各自で研究を進めていくこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

卒業研究(社会科I)

CHLD-C-392

担当教員：川瀬 敏行

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位：1 コード：1CX23140

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

地理的分野、歴史的分野、公民的分野など、広く社会科学教育に関係する内容の中から、各自が研究題材項目を選択する。選択した項目について調査研究を進め、その報告を全体で協議し、研究を深める。

(2) 学びの意義と目標

社会科教育について、これまで学んできたことを基盤に、各自が研究テーマをもち、十分な調査と研究から、大学での集大成としての卒業研究に結び付けていくことを目指す。

受講者に対する要望

研究テーマに基づく十分な調査研究を行い、成果に結び付けていくことを望む。

学びのキーワード

- ・ 社会科
- ・ 卒業研究の進め方
- ・ 研究計画・現地調査
- ・ 資料収集・作成の仕方
- ・ 研究の中間報告

授業計画

01. 卒業研究の進め方について
02. 取り上げたい調査研究について
03. 調査研究計画の発表・協議（１）
04. 調査研究計画の発表・協議（２）
05. 調査研究計画の発表・協議（３）
06. 調査研究テーマについて報告・協議（１）
07. 現地調査（１）
08. 調査研究テーマについて報告・協議（２）
09. 現地調査（２）
10. 調査研究中間発表・協議（１）
11. 調査研究中間発表・協議（２）
12. 調査研究中間発表・協議（３）
13. 調査研究中間発表・協議（４）
14. 調査研究中間発表・協議（５）
15. まとめ

準備學習(予習)

報告者は、前回、指摘・指導を受けた箇所の修正をした新たなレジメ等を準備すること。報告しない者も進行状況について簡単に伝える。

準備學習(復習)

ゼミで検討し、指摘された点については、再度、調査研究しておく。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 資料収集・調査活動 | 20% |
| (3) 研究報告・中間発表 | 50% |

上記を基準に総合的に判断します。

教科書

参考書

卒業研究(社会科II)		CHLD-C-491
担当教員：川瀬 敏行		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX23245
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 卒業研究テーマの発表と進め方について</div> <div>02. 研究中間報告・協議（1）</div> <div>03. 研究中間報告・協議（2）</div> <div>04. 研究中間報告・協議（3）</div> <div>05. 研究中間報告・協議（4）</div> <div>06. 現地調査</div> <div>07. 研究報告・協議（5）</div> <div>08. 研究報告・協議（6）</div> <div>09. 研究報告・協議（7）</div> <div>10. 研究報告・協議（8）</div> <div>11. 研究報告のまとめと発表に向けて</div> <div>12. 卒業研究の発表・協議（1）</div> <div>13. 卒業研究の発表・協議（2）</div> <div>14. 卒業研究の発表・協議（3）</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>卒業研究（社会科I）で各自取り組んだ研究を継続し、協議を通して深化させる。その成果を卒業研究としてまとめ、発表する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>各自の研究テーマについて、十分な調査研究と全員での協議により、社会科教育に結び付けることができるようにするとともに教育者・社会人としての資質の向上に資する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>報告者は、調査・研究した内容をわかりやすくまとめ、発表できるよう準備しておく。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>卒業研究をしっかりとめて、大学で学んだことの成果の一つとして今後に生かせるようにする。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>研究協議の中で指摘された点、指導を受けた点については、再度調査・修正をして卒業研究としてまとめる。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点</div><div>30%</div><div>(2) 調査活動・資料作成</div><div>20%</div><div>(3) 研究報告・発表</div><div>50%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・社会科</div><div>・地域調査・地域研究</div><div>・研究報告・発表</div><div>・卒業研究成果</div></div>		

卒業研究(教育心理学I)

CHLD-C-392

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1CX23770

学部教育の関連目

【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教育心理学的研究について自らテーマを設定し、研究計画を立案し、個別に調査研究を行う。

(2) 学びの意義と目標

自ら教育心理学的な研究を計画、実施することを通して、教育心理学の方法論及び人に対する教育心理学的な見方を習得する。

受講者に対する要望

議論に積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・調査
- ・実験

授業計画

01. オリエンテーション
02. 個別研究計画の発表と討議 (1)
03. 個別研究計画の発表と討議 (2)
04. 個別研究計画の発表と討議 (3)
05. 個別研究計画の発表と討議 (4)
06. 個別研究計画の発表と討議 (5)
07. 個別研究計画の実施と討議 (1)
08. 個別研究計画の実施と討議 (2)
09. 個別研究計画の実施と討議 (3)
10. 個別研究計画の実施と討議 (4)
11. 個別研究計画の実施と討議 (5)
12. データ解析法概説 (1)
13. データ解析法概説 (2)
14. データ解析法実習 (1)
15. データ解析法実習 (2)

準備学習(予習)

各自のテーマに基づいて事前準備を行う。

準備学習(復習)

討論をもとに、自らの考えを整理する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) レポート | 60% |
| (2) 平常点と発表 | 40% |

教科書

参考書

卒業研究(教育心理学II)		CHLD-C-491
担当教員： 鎌原 雅彦		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1CX23780
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 個別研究発表の準備（1）</div> <div>03. 個別研究発表の準備（2）</div> <div>04. 個別研究発表の準備（3）</div> <div>05. 個別研究発表の準備（4）</div> <div>06. 個別研究発表の準備（5）</div> <div>07. 個別研究発表（1）</div> <div>08. 個別研究発表（2）</div> <div>09. 個別研究発表（3）</div> <div>10. 個別研究発表（4）</div> <div>11. 個別研究発表（5）</div> <div>12. 個別研究発表（6）</div> <div>13. 個別研究発表（7）</div> <div>14. 個別研究発表（8）</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>教育心理学的研究について自らテーマを設定し、研究計画を立案し、個別に調査研究を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>自ら選んだ教育心理学的テーマに基づいた個別調査研究の発表・討議を通して教育心理学的な見方を習得する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各自のテーマに基づいて事前準備を行う</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>議論に積極的に参加してください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>討論をもとに、自らの考えを整理する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) レポート60%</div> <div>(2) 平常点と発表40%</div>	
	<div>学びのキーワード</div> <div>・教育心理学</div> <div>・調査</div> <div>・実験</div>	<div>教科書</div>

現代社会と社会教育 A		ADED-P-200/ADED-L-3	
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 社会教育 必修・選択： 選択科目/資格課程	単位： 2 コード： 1PF00741
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>01. 日本社会の高齢化の状況と将来推計</div> <div>02. 戦前の高齢者の社会的地位（家長制度、尊属優位の民法規定）</div> <div>03. 1960年代以降のわが国の高齢者を対象とする政策の変遷</div> <div>04. 高齢期の幸せな生活をめぐる主張（活動理論と離脱理論等）</div> <div>05. 生涯発達理論について</div> <div>06. 加齢と知的能力(1)</div> <div>07. 加齢と知的能力(2)</div> <div>08. 成人後期の発達と危機（高齢期の発達課題）</div> <div>09. 成人後期の発達と危機（高齢期の生活課題）</div> <div>10. 高齢者の特性を活かした教育学(gerogogy)の理論</div> <div>11. 高齢者の特性を活かした、有効な学習方法</div> <div>12. 高齢者の学習関心・学習要求（1）</div> <div>13. 高齢者の学習関心・学習要求（2） </div> <div>14. 具体的な教育実践</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】コミュニティコース：応用科目【P】コミュニティコース：応用科目</div> <div>【P】コミュニティコース：応用科目【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>			
(1) 内容			
<div>1. 内容</div> <div>本講義では、高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なかんずく高齢者の教育学（gerogogy）理論について論じることとする。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。</div>			
<div>2. カリキュラム上の位置づけ</div> <div>資格取得を目指さない学生の受講ももちろん歓迎する。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>成人の生涯発達の支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として（或いは一個人として）、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。</div>		準備学習(予習)	
		<div>講義の中で紹介する、文献、資料等に事前に目を通して講義に臨むこと。
</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>毎回、授業の講義ノートの整理をすること。</div>	
受講者に対する要望		評価方法	
<div>遅刻、無断欠席は厳禁とする。</div>		<div><div>(1) 出席点</div><div>25%</div></div> <div><div>(2) 平常点</div><div>25%</div></div> <div><div>(3) 試験</div><div>50%</div></div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・ 少子高齢化</div> <div>・ 老年学</div> <div>・ 成人の学習理論</div> <div>・ ジェロゴジー</div> <div>・ 加齢と知能</div>		<div>堀薫夫・三輪建二 『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会）</div>	
		参考書	

現代社会と社会教育B		ADED-P-200/ADED-L-3	
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 社会教育	必修・選択： 選択科目/資格課程
単位： 2		コード： 1PF00842	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>01. オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向</div> <div>02. 青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化</div> <div>03. 青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題</div> <div>04. 非行原因論の系譜（１）</div> <div>05. 非行原因論の系譜（２）</div> <div>06. 教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論</div> <div>07. 学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論</div> <div>08. 学校教育における奉仕活動の必修化をどう考えるか（協議）</div> <div>09. 青少年教育における奉仕活動をめぐる議論のまとめ</div> <div>10. わが国における「死の準備教育」提唱の背景とその内容</div> <div>11. 「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」をめぐる議論について</div> <div>12. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果</div> <div>13. 学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム</div> <div>14. 初等・中等教育学校段階における「死の準備教育―実践事例の紹介―」</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【L】コミュニティコース：応用科目【P】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【P】コミュニティコース：応用科目</div> <div>【P】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【P】コミュニティコース：応用科目【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【全】コミュニティコース：応用科目</div>			
(1) 内容			
<div>1. 内容</div> <div>第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。</div>			
<div>2. カリキュラム上の位置づけ</div> <div>資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<div>本講義では現代社会の中に存在する青年期の教育を取り巻く課題について取り上げる。そして、そこには正答というものがない。したがって受講生が、あるいは受講生同士が意見の交換を通じて一つ一つの課題について、自分の問題として考えることを期待したい。</div>		<div>講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>講義の中で小リポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題リポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。</div>	
学びのキーワード		評価方法	
<div>・ 青少年期の発達特性</div> <div>・ ポストモダン</div> <div>・ 奉仕活動の義務化</div> <div>・ シティズンシップ教育</div> <div>・ 生と死の準備教育</div>		<div>(1) 出席点25%</div> <div>(2) 平常点25%</div> <div>(3) レポート点50%</div>	
		教科書	
		参考書	
		<div>講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。</div>	

こども心理学科

キリスト教人間学A		CHRI-C-331
担当教員：阿部 洋治		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：15300100
学部教育の関連目	授業計画	
【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う	01. 1. はじめに 02. 2. 哲学的問いと聖書的問い (1) ソクラテス 03. (2) イエス 04. 3. 哲学的問いからの発展 (1) プラトン 『国家』をめぐって—その1— 05. (2) プラトン 『国家』をめぐって—その2— 06. 5. 聖書的問いとその展開 (1) イエスの「神の国」をめぐって—その1— 07. (2) イエスの「神の国」をめぐって—その2— 08. (3) アウグスティヌスの『神の国』—その1— 09. (4) アウグスティヌスの『神の国』—その2— 10. 6. 「神の国」の働き手たち (1) アシジのフランシスコ—その1— 11. (2) アシジのフランシスコ—その2— 12. (3) トマス・ア・ケンピス 13. (4) マルティン・ルター —その1— 14. (4) マルティン・ルター—その2— 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容	<p>「人間とは何か。」誰であれ、人は、意識するとせざるにかかわらず、この問いを内に秘めながら生きている。そして、この問いにどう向き合い、どう答えるかがその人の生き方を形作っている。そこで、春学期は、この問いと哲学的に向き合ったソクラテスと聖書的に向き合ったイエスとを比較し、それぞれの発展の形に注目したい。そして、イエスを信じ彼に従った人々がどのように生き、何をしたかに注目したい。「人間とは何か」を聖書的に問うことの意義を深く学びたい。ここから、教育とは何か、保育とは何かを深く見つめるきっかけを掴みたい。</p>	
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
教育、保育にとって、専門的な知識はもちろんのこと、手法、技術等々をめぐる修練が不可欠であるとは言うまでもない。しかし、魂のない技巧的な修練だけでは生きた絵画を描くことはできないように、教育、保育も魂が不可欠である。その魂は、深い人間理解から生まれるのではなかろうか。そして、深い人間理解は、自分自身と誠実に、真剣に向き合うことなしにはあり得ない。この授業が、ただ単に知識の修得ではなく、自分自身と向き合う機会となることを願っている。	準備学習(復習)	
受講者に対する要望	心に残った授業内容について振り返り、思索を深め、問題意識を広げて、自分なりの学びを広げてほしい。	
授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取ってほしい。書くことをとおして理解や思索が深まる。	評価方法	
	(1) 試験 100%	
	(4) ノートおよびプリント提出	
学びのキーワード	教科書	
・呼びかける神 ・神の国 ・存在理由 ・自己 ・否定を超えて	参考書	
	授業の中で示唆する。	

担当教員：久保島 理恵

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15300101

学部教育の関連目

【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

旧約聖書の十戒を通して、人格的存在である人間への理解を深める。また、わたしたちの生き方に関連する現代的課題についても考えていく。

(2) 学びの意義と目標

神との関係、他者との関係の中で生きる人間について考察を深めることを目指す。それが、単なるキリスト教の知識の学びにとどまらず、自分自身についての思索につながるようになることを期待している。

受講者に対する要望

講義、課題に対する真摯な取り組みを望む。

学びのキーワード

- ・ 十戒
- ・ 聖書
- ・ 人格的关系

授業計画

01. オリエンテーション
02. 人間とは（1）
03. 人間とは（2）
04. 十戒とは
05. 第一戒 神と人との人格的关系（1）
06. 第二戒 神と人との人格的关系（2）
07. 第三戒 神と人との人格的关系（3）
08. 第四戒 本当の安息
09. 第五戒 親子関係
10. 第六戒 命
11. 第七戒 結婚
12. 第八戒 他者の尊重
13. 第九戒 真実を語る
14. 第十戒 欲望からの自由
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された聖書箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業内容を踏まえ、授業レポートに取り組む

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業レポート | 45% |
| (2) 礼拝レポート | 25% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

キリスト教人間学A

CHRI-W-332

担当教員：阿部 洋治

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15300108

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

特にキリスト教信仰に生き、日本において大切な働きをした人々について学ぶ

(2) 学びの意義と目標

春学期は遠く西洋思想に目を向けながら、「人間とは何か」をめぐる哲学的問いと聖書的問いとを比較しつつ、聖書的な問いに生きた人々について学んだ。秋学期は、日本に目を向け、日本における聖書的問いの始まりとその展開を見たい。

受講者に対する要望

授業で取り上げる人々の考え方や生き方から各自の生きる指針をつかんでほしい。

学びのキーワード

- ・福祉の心
- ・絶望から希望へ
- ・パイオニア(開拓者)
- ・献身
- ・ヴィジョン

授業計画

- | | |
|----------------------|-----------|
| 01. 1. 宣教師たちの思い | (1) ペリー総督 |
| 02. (2) ハリス | |
| 03. (3) ヘボン | |
| 04. 2. 信仰の社会的貢献 —伝道— | (1) 植村正久 |
| 05. (2) 内村鑑三 | |
| 06. 3. 信仰の社会的貢献 —教育— | (1) 井深樫之助 |
| 07. (2) 新島 襄 | |
| 08. (3) 新渡戸稲造 | |
| 09. 4. 信仰の社会的貢献 —福祉— | (1) 石井十次 |
| 10. (2) 山室軍平 | |
| 11. (3) 留岡孝助 | |
| 12. (4) 賀川豊彦 | |
| 13. 5. 見えざる貢献 | (1) 水野源三 |
| 14. (2) 星野富弘 | |
| 15. まとめ | |

準備学習(予習)

授業時に指示する

準備学習(復習)

授業で取り上げる人々の考え方や生き方について、自分で関係した書物を読んで理解を深める努力を期待したい。

評価方法

(1) 試験 100%

教科書

参考書

授業の中で示唆する

キリスト教人間学B		CHRI-D-332
担当教員：久保島 理恵		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：15300201
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 祈りとは 03. われらの父 04. 御名を聖とする 05. 神の国 06. 御心を求める 07. 日ごとの糧 08. 罪の赦し（1） 09. 罪の赦し（2） 10. 弱さの中で 11. すべては神のもの 12. 祈りつつ歩んだ人々（1） 13. 祈りつつ歩んだ人々（2） 14. 祈りつつ歩んだ人々（3） 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>キリスト自身が教えた「主の祈り」を通して、人間のあり方について考えていく。また、神を信じ祈りつつ生きた人々の姿勢から、生きることの本質を学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>神との関係、他者との関係の中で生きる人間について考察を深めることを目指す。それが、単なるキリスト教の知識の学びにとどまらず、自分自身についての思索につながるようになることを期待している。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定された聖書箇所を読んでおくこと</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業の内容を踏まえ、授業レポートに取り組む</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義、課題に対する真摯な取り組みを望む</div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業レポート45%</div><div>(2) 礼拝レポート25%</div><div>(3) 期末レポート30%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・主の祈り</div><div>・聖書</div></div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

キリスト教人間学B		CHRI-C-332
担当教員：阿部 洋治		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：15300205
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. 1. はじめに 02. 2. ジャン・ジャック・ルソー『エミール』から (1) 子ども理 03. (2) 幸福論 04. (3) 消極的教育論 05. (4) 教育の実例 06. 3. ジョン・ロック『教育に関する考察』から (1) 子ども理解 07. (2) 親の役割 08. (3) 教育の実例 09. 4. ベスタロッチャー『隠者の夕暮れ』から (1) 人間の本 10. (2) 自然の道による教育 11. (3) 神信仰の必要性 12. 6. フレーベル『人間の教育』から (1) 人間の根源 13. (2) 受動的・追隨的教育 14. (2) 共同感情論 15. まとめ </div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> 秋学期は、「人間とは何か」を近代の教育思想に触れながら「子どもとは何か」を問う角度から取り上げ、子どもたちに対する大人の役割や有り様を考察したい。 </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> 毎回の講義で、聖書の文章を英文と邦文で読みます。あらかじめ該当箇所を通読しておいてください。 </div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div> 積極的に受講してください。
パワーポイントによるプレゼンテーションを要望します。 </div>	<div>準備学習(復習)</div> <div> 配布プリントとノートをまとめてください。 </div>	
	<div>評価方法</div> <div> (1) 試験 20% (2) プリント問題への回答 20% (3) 全学礼拝と教会レポート 20% (4) ノートおよびプリント提出 20% (5) プレゼンテーション 20% 各講義の中で、聖書の言語であるヘブル語やコイネーギリシャ語に触れてもらいます。 </div>	
<div>学びのキーワード</div> <div> ・ 理性的存在 ・ 子どもの人格 ・ 自由人 ・ 習慣による教育 ・ 大人の役割 </div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

キリスト教人間学B

CHRI-W-332

担当教員：阿部 洋治

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15300216

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「人間とは何か。」誰であれ、人は、意識するとせざるにかかわらず、この問いを内に秘めながら生きている。そして、この問いにどう向き合い、どう答えるかがその人の生き方を形作っている。そこで、春学期は、この問いと哲学的に向き合ったソクラテスと聖書的に向き合ったイエスとを比較し、それぞれの発展の形に注目したい。そして、イエスを信じ彼に従った人々がどのように生き、何をしたいかに注目したい。そして、「人間とは何か」を聖書的に問うことの意義を深く学びながら、「福祉」の原点に目を向けたい。

(2) 学びの意義と目標

この学びをとおして、ひとりの人が生きる意味は、その人の自己評価、その人の能力や才能、また置かれた環境を超えて、ひとりひとりを個性ある存在して創造された神に用いられ活かされることの中にあるということを確認したい。

受講者に対する要望

授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取ってほしい。書くことをとおして理解や思索が深まる。

学びのキーワード

- ・呼びかける神
- ・神の国
- ・存在理由
- ・歴史形成
- ・否定を超えて

授業計画

01. 1. はじめに
02. 2. 哲学的問いと聖書の問い | (1) ソクラテス
03. (2) イエス
04. 4. 哲学的問いからの発展 | (1) プラトン 『国家』をめぐって—その1—
05. (2) プラトン 『国家』をめぐって—その2—
06. 5. 聖書の問いとその展開 | (1) イエスの「神の国」をめぐって—その1—
07. (2) イエスの「神の国」をめぐって—その2—
08. (3) アウグスティヌスの『神の国』—その1—
09. (5) アウグスティヌスの『神の国』—その2—
10. 9. 「神の国」の働き手たち | (1) アシジのフランシスコ—その1—
11. (2) アシジのフランシスコ—その2—
12. (3) トマス・ア・ケンピス
13. (4) マルティン・ルター —その1—
14. (5) マルティン・ルター—その2—
15. まとめ

準備學習(予習)

準備學習(復習)

心に残った授業内容について振り返り、思索を深め、問題意識を広げて、自分なりの学びを広げてほしい。

評価方法

- (1) 試験 100%

教科書

参考書

授業の中で示唆する。

学校経営と学校図書館（C）		TEAT-0-210										
担当教員：小川 三和子												
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C650100										
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 学校図書館の意義と理念、役割 02. 学校図書館の歴史 03. 学校図書館の国際的な動向 04. 教育行政と学校図書館 05. 図書館ネットワーク 06. 学校図書館経営 07. 学校図書館経営 08. 学校図書館の施設・設備 09. 司書教諭の任務と職務 10. 学校図書館メディアの構成 11. 学校図書館メディアの選択・収集 12. 学校図書館メディアの管理・提供 13. 学校図書館活動 14. 評価試験 15. さまざまな図書館・まとめ</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 学校図書館司書教諭資格：必修科目</div>												
<div>(1) 内容</div> <div>司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館の理念、教育行政と学校図書館、学校図書館経営、司書教諭の任務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館活動等について理解し、司書教諭として学校図書館経営をする上での課題を考察する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>学習指導要領を読んだり学校図書館や教育に関する書籍や新聞記事を読んだりして、今日の教育課題に関心を持ち学校図書館経営の素地を養う。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>学校図書館の意義と役割を理解し、司書教諭として学校図書館経営の方針をもち、学校図書館に関する諸計画を策定し、勤務校の学校図書館活用や読書指導の推進役になるための資質を養う。</div>												
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義が中心となるが、作業や討論も取り入れるので、進んで学習に取り組んで欲しい。欠席した場合は、出席者に授業内容を聞いておくこと。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートを整理し、知識として理解したことと、今後とも考察していくべきこととを明確にする。</div>										
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 学習センター・情報センター・読書センター ・ 学校図書館経営 ・ 学校図書館メディア ・ 学校教育 ・ 知識基盤社会</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 提出物</td><td>50%</td><td></td></tr><tr><td>(2) 評価テスト</td><td>30%</td><td>14回目に行い、最終回に解説をする。</td></tr><tr><td>(3) 関心・意欲</td><td>20%</td><td>私語・居眠りのないように。</td></tr></table> <div>出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物と評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。</div>		(1) 提出物	50%		(2) 評価テスト	30%	14回目に行い、最終回に解説をする。	(3) 関心・意欲	20%	私語・居眠りのないように。
		(1) 提出物	50%									
(2) 評価テスト	30%	14回目に行い、最終回に解説をする。										
(3) 関心・意欲	20%	私語・居眠りのないように。										
		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>小川三和子「読書の指導と学校図書館」 青弓社2015. 10 1800円＋税</div>										

学校図書館メディアの構成（C用）		TEAT-0-211	
担当教員： 若松 昭子			
学期： 週間授		科目： 図書館情	必修・選択： 資格課程
		単位： 2	コード： 1C650205
学部教育の関連目		授業計画	
【全】司書教諭として、学校図書館の図書その他のメディアの効果的な活用を図ることができるよう、情報を管理する力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。		01. 学校図書館メディアの種類 02. メディアの選択と収集 03. 開架式と配列 04. 分類（１）NDCの構成と特徴 05. 分類（２）補助表とその働き-1 06. 分類（３）補助表とその働き-2 07. 分類（４）分類規程 08. 図書記号と別置記号 09. 件名標目表 10. 目録（１）目録の歴史と種類 11. 目録（２）アクセスポイント 12. 目録（３）NCRと記述の実際 13. 機械化と標準化 14. 書誌ユーティリティとネットワーク 15. まとめと総合演習	
カリキュラム上の位置付け			
【C】学校図書館司書教諭資格：必修科目【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目 【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目			
(1) 内容			
学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標			
学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効率的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。		準備学習(予習)	
		教科書によく目を通し、与えられた課題はきちんとこなすこと。	
		準備学習(復習)	
		与えられた課題をきちんとやってくること。	
受講者に対する要望		評価方法	
授業は演習的な要素も含まれているため課題は必ずやってくることが重要です。		(1) 試験 40% 試験に代わるレポートになる場合もあり (2) 小課題 30% (3) 授業参加状況 30% 授業態度、授業への取り組み姿勢や積極性など	
		毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席な大幅な原点となるので注意すること。	
学びのキーワード		教科書	
・ 学校図書館 ・ 学校図書館メディア ・ メディア構成 ・ 資料組織		「シリーズ学校図書館学」編集委員会『学校図書館メディアの構成（シリーズ学校図書館学 第2巻）』（全国学校図書館協議会）	
		参考書	

学習指導と学校図書館（C）

TEAT-0-212

担当教員：米谷 茂則

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1C650310

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 内容

学習指導と学校図書館とのかかわりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。
司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。

(2) 学びの意義と目標

児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集、選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表までできる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。

受講者に対する要望

小学校免許取得の場合は国語科又は社会科の指導法科目を、中学・高校免許取得の場合は免許教科指導法科目を先に履修しているか、この科目と並行して履修していることが望ましい。

学びのキーワード

・教育課程の展開

・情報活用能力の育成

・調べ学習の学習過程

・学校図書館機能の活用

・司書教諭の専門性

授業計画

01. 児童生徒の学校図書館機能活用と読書についての現状理解
02. 教育課程の展開と学校図書館
03. 教育方法としての調べ学習、課題学習、課題研究
04. 情報活用能力の育成、その計画と方法
05. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習過程
06. 小学校、中学校、高等学校における調べ学習の体験の発表
07. 引用指導および調べ学習における自分の考えの形成に関する指導内容
08. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習指導案の作成
09. 情報活用能力の育成に対応した学校図書館メディアの選択
10. 情報サービス／現行教科書における調べ学習の例示
11. 学校図書館へのいざないから教科や総合学習にて使うようになるまで
12. マンガ読書からマンガ読書学習へ
13. 司書教諭の仕事
14. 学習指導案の検討／ふりかえり記録を書く
15. 学校図書館年間計画の例示／司書教諭の専門性 【学習指導案の提出】

準備学習(予習)

調べ学習の体験について、プリントにもとづいて、想起し発表できるようにすること。指導案の構想メモにもとづいて学習指導案を作成し、検討会にて発表できるようにしておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業内容をふりかえり、自分で考えたことをメモしておくこと。振り返り記録の提出あり。

評価方法

(1) 発表等

20%

授業への積極的対応

(2) 振り返り記録

10%

(3) 学習指導案

60%

(4) 平常点

10%

第1回は必ず出席のこと。第1回を含め12回以上の出席が最終レポート・学習指導案提出の条件である。遅刻をしないこと。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。出席条件を満たし、最終課題を提出したことで単位が認定されるということではない。

教科書

参考書

必要に応じてプリントを配布するので整理しておき、次回以後の授業に持参すること。プリントの解説については、メモなどを記しておくこと。

読書と豊かな人間性（C）		TEAT-0-213	
担当教員：小川 三和子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1C650415	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. 読書の意義と目的・多様な読書資料 02. 発達段階に応じた読書の指導 03. 読書環境の整備と読書材の提供 04. 読書環境の整備と読書材の提供・ポップ作り 05. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ブックトーク等 06. 児童・生徒と本を結ぶための方法・読み聞かせ 07. 児童・生徒と本を結ぶための方法・アニメーション・読書会 08. 全校で取り組む読書活動 09. 各教科等での読書の指導 10. 探究的な学習と読書の指導 11. 学校経営と学校図書館、読書活動の推進 12. 読書活動推進のための連携 13. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ビブリオバトル 14. 評価試験 15. 個に応じた読書の指導	
カリキュラム上の位置付け			
【C】学校図書館司書教諭資格：必修科目			
(1) 内容			
司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的、発達段階に応じた読書指導、子どもと本を結ぶための方法、各教科等における読書指導などについて考察したり、様々な読書活動を体験したりする。講義だけでなく、作業や体験、実習、討論などを取り入れた学習を展開する予定である。			
(2) 学びの意義と目標			
読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、勤務校の読書指導計画を策定し、読書活動推進の要となる司書教諭としての資質を身に付ける。また、さまざまな読書活動を率先垂範できる実践力を養う。		準備学習(予習)	
		多くの児童書に親しんで欲しい。児童書を選択して持参することを課す授業が何回かあるので、その都度必要な児童書を準備すること。ビブリオバトルを行うので、大学生としても豊かな読書生活を送ること。	
		準備学習(復習)	
		ノートを整理し、知識として学んだことと今後も考察していくべきことを明確にする。	
		評価方法	
		(1) 演習・関心・意欲 30% 学習準備、演習への取り組み、授業態度等。 (2) 提出物 30% (3) 評価試験 40% 第14回に行い、最終回に解説を行う。	
受講者に対する要望		出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。 提出物、演習、評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。 	
学びのキーワード		教科書	
・学校図書館 ・読書センター・学習センター・情報センター ・読書の指導・読書活動 ・学校教育 ・司書教諭の役割		小川三和子「読書の指導と学校図書館」青弓社2015. 10 1800円＋税	
		参考書	

情報メディアの活用（C用）

TEAT-0-214

担当教員：長谷川 幸代

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C650520

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 内容

社会全般、学校図書館における、さまざまなメディアと資料活用の意義と方法について学ぶ。効果的なメディア利用について考え、受講者それぞれのアイデアを共有していく。現代社会における情報の取り扱いの諸問題についても学ぶ。毎回授業では、前半に解説を行い、後半では各自がテーマについて自分なりの考えをまとめる。また、実際にデータベースを利用し、メディア利用に関する情報の検索を行ったり、効果的な資料・情報のアピールについて実践する。

(2) 学びの意義と目標

現在、多様な情報メディアがあふれ、何を選択しどのように扱うかという教育は非常に重要なものである。情報メディアについての歴史や特性を理解し、教育に必要な資料の活用方法を身につけ、効果的な情報提供ができることを目標とする。また、効果的なメディアの利用について発案する力を養う。

受講者に対する要望

身の回りの情報メディアに興味をもってほしい。信頼できる情報を選択するスキルを身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・学校図書館
- ・情報メディア
- ・司書教諭

授業計画

01. 情報メディアの概要と歴史
02. 教育における情報メディアの活用
03. 情報メディアの種類と特性
04. 情報メディアの選択と管理
05. コンピュータの教育利用（1）
06. コンピュータの教育利用（2）
07. インターネットの概要と利用
08. データベースの利用
09. メディアを利用した教育の促進（1）基本
10. メディアを利用した教育の促進（2）応用
11. メディアとコミュニケーションの理論
12. 情報メディアの活用と知的財産権
13. 情報モラルと個人情報保護
14. 情報メディアにかかわるトラブルと対策
15. さまざまなメディアと諸問題

準備学習（予習）

教科書に目を通す。

準備学習（復習）

授業のキーワードや紹介されたメディアに目を通す。課題が出た場合は、課題をこなす。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) レポート、課題 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

3分の2以上の出席が必須です。

教科書

シリーズ学校図書館学編集委員会・編 『情報メディアの活用（シリーズ学校図書館学5）』（全国学校図書館協議会）

参考書

こども心理総論 A / こども心理総論 A

CREE-D-100

担当教員： 渡辺 正人

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：1 コード：1D100302

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この科目は、自分自身の生き方をみつめ、将来をどのように設計していくのかを考える科目である。

(2) 学びの意義と目標

本能力は、1. 人間関係形成能力、2. 情報活用能力、3. 意思決定能力の育成を目標としてい
 る。本能力は、初年次の学習で、あることを考慮
 し、まずは、様々な人々とコミュニケーション
 を図るプログラムにそって学習し、生き方に関す
 る考え方をお互いに理解し合う機会をもつと
 に自己理解を深め、学習への意欲を喚起して
 ことを目指している。

受講者に対する要望

心理に関する書物を複数読んでみる
グループワークでは、積極的にクラスメイトとコミュニケーションをとること

学びのキーワード

- ・人と自分を大切にすること
- ・大学での学び
- ・仕事と自分
- ・人生設計
- ・感動

授業計画

01. 学科の教育理念、教育課程の概要
02. 大学での学び～図書館オリエンテーション～
03. ノートの取り方、情報検索の仕方
04. 人を大切にすること
05. 学びの振り返り～小グループディスカッション～
06. 人の心に寄り添うとは
07. 困難を抱える人に向き合う
08. こどもの心と教育
09. 学びの振り返り～小グループディスカッション～
10. 気になる資格について
11. 体と心
12. 心が動くとき
13. 人はなぜ悩むのか
14. こどもに心動かされて
15. まとめ：こども心理学科で学ぶこと、考えること

準備學習(予習)

心理・健康・教育に関する書物を読んでおくこと

準備學習(復習)

プログレスノートを取り、授業の振り返りをする事
 キーワードを調べておく事

評価方法

(1) プログレスノート	100%
--------------	------

教科書

参考書

こども心理総論B / こども心理総論B		CREE-D-100
担当教員： 渡辺 正人、原 一子、石津 靖大、中村 磐男、竹渕 香織、大橋 良枝、吉田 昌義 学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目 単位： 1 コード： 1D100403		
学部教育の関連目 【D】 資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う	授業計画 01. オリエンテーション 02. 卒業後の仕事 臨床心理士・カウンセラー 03. 卒業後の仕事 療育・保育 04. 卒業後の仕事 特別支援教育 05. 振り返りとまとめ（全体） 06. 卒業後の仕事 保健科教員 07. 卒業後の仕事 公務員 08. 卒業後の仕事 一般企業 09. 振り返りとまとめ（全体） 10. 中グループセッション① 11. 中グループセッション② 12. 中グループセッション③ 13. 中グループセッション④ 14. 中グループセッション⑤ 15. まとめ（ノート提出）	
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 紹介される職業の概要を聞き、興味がわいたものについて積極的に情報を集め、分析する力を育てる。卒業後の就職・進路をイメージする。聞いた話をもとに、各自が興味を持った内容やテーマについて、中グループに分かれ、さらに細かく学ぶ。	準備学習(予習) 興味を持った仕事について、情報収集をする。	
(2) 学びの意義と目標 こども心理総論Aに引き続き、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力を育てる。		
受講者に対する要望 好奇心をもとう 推論し検討しよう	準備学習(復習) 興味をもった内容、調べた内容をプログレスノートにまとめる。	
	評価方法 (1) 平常点 50% 出席・参加度 (2) ノート作成 50%	
学びのキーワード ・ キャリアデザイン ・ 自己発見 ・ コミュニケーション	教科書	参考書 <small>ノートを準備すること。毎回の講義、グループでの学びについて記録し、資料を整理する。ルーズリーフは不可。</small>

心理学概論

PSYC-0-102

担当教員：村上 純子

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1D100606

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学ぶ、心理学の専門的な方法を学ぶ。

カリキュラム上の位置付け

【D】社会福祉主事任用資格：選択科目

【D】認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目

(1) 内容

本講義では、初めて心理学を学ぶ人が、実証科学としての心理学を深く理解することを目的に、心理学の歴史、知覚とはなにか、学習と記憶のメカニズム、思考と推理の心理学的過程、人の行動と動機づけ・情動との関連、個人の多様性ないし個人差などの代表的な研究を紹介し、心理学の基礎的な考え方を講義していく。

※「認定心理士」資格では、「基礎科目a」（心理学概論）に区分される科目である。

(2) 学びの意義と目標

心理学という学問の考え方や実証科学としての研究の方法などを学び、心理学の学びの基礎の形成を目指す。

受講者に対する要望

各回の学びを確実にしてください

学びのキーワード

授業計画

01. 講義の進め方
02. 心理学とは何か
03. 心理学の学問的背景と科学としての心理学の目標
04. 私たちの心に入ってくるものとは？—私たちが見えている世界—
05. 知覚の限界
06. 私たちの心にとどまるものとは？—学習と学習—
07. 心の中にあるものの使い方①—思考と推論—
08. 心の中にあるものの使い方②—言語の使用—
09. なぜ私たちはそうするのか—動機と情動—
10. 発達
11. 個人差
12. 物事がうまくいかないと感じるとき
13. 人と人のかかわり
14. 心理学の目的
15. まとめと理解度の確認

準備學習(予習)

授業終了時に指示する課題に沿って行なうこととする。

準備學習(復習)

授業開始時に前回の授業内容の確認を行うので準備しておくこと。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-------------------------|
| (1) 授業参加度 | 40% | 授業内で出される質問への応答や課題に対する評価 |
| (2) 学期末試験 | 60% | |

教科書

参考書

こども学		PSYC-D-100	
担当教員： 金谷 京子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 2		コード： 1D100708	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. こどもの起源とこどもを取り巻く社会の変化 02. 現代のこどもの問題と背景 03. 現代のこどもの問題と背景 04. 現代のこどもの問題への対応 05. こどもと保育 06. こどもと教育 07. こどもと福祉 08. こどもと福祉 09. こどもと福祉 10. こどもの心理特性 11. こどもの知覚 12. こどもと遊び 13. こどもの成長と遊び 14. こどもと臨床心理 15. まとめと評価</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、こどもに関する歴史から現代のこどもの問題について言及し、こどもが社会のなかで心身ともに健やかに育ち、学び、遊び、参加していくにはどのようにしていったらよいか、こどもの視点を大切にしながら考えていく。こどもサイドからの問題とこどもをとりまく環境の問題を具体的に考えていく。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>こどもについて様々な知識を得ることに留まるのではなく、「こどもとはなにか」「こどもが健全に育っていくためにいかにするべきか」について考えていけるようにする。こどもの内面（心理）に着目しながらこどもにアプローチする視点をもつ。現代のこどもの問題について意見を述べられるようにする</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>課題を事前に調べてまとめノートを作成する。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>各授業でテーマとなった課題について、調べておく。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>日ごろからこどもと接する機会を多くもっておい てください。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 発表10% グループワークでの発表</div><div>(2) レポート90%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ こどもの心理</div><div>・ こどもと遊び</div><div>・ 現代社会とこども</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>特に教科書は使わず、単元に応じてプリントを配布する。 【参考書】子ども資料年鑑。日本子ども家庭総合研究所。KTC中央出版</div>	

児童心理学		PSYC-D-200
担当教員： 金谷 京子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D100809
<div>学部教育の関連目</div> <div><small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small></div>		<div>授業計画</div> <div>01. こどもの特性について 02. 発達理論 03. 発達課題 04. こどもの視点と心理 05. こどもの知覚 06. こどもの認知・学習 07. こどもの対人関係 08. こどもの対人関係 09. 児童のコミュニケーション 10. 児童のコミュニケーション 11. こどもの運動機能 12. 乳幼児の支援 13. 学校における児童の支援 14. 社会における児童の支援 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>こどもは、家庭・学校・職場などの集団の中で生きていく存在である。多様な社会文化的環境において、こども、特に児童は経験を積み重ね、独自の生き方を模索する。心身の成熟とともに個人差をもたらす、認知的・情動的・社会的な要因について学ぶ。 ※「認定心理士」資格では、「選択科目f」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目である。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>児童期の発達段階においてどのような課題が存在するか、また、その課題の達成のために、児童がどのような能力や資源を有しているか学ぶ。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回出される予習課題を行って、講義の臨むこと</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>各回の学びを確実にしてください</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>各回の授業の初めに、前回の確認を行うので、準備をしておくこと</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) レポート20%</div><div>(2) 試験80%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・発達理論</div><div>・発達課題</div><div>・認知</div><div>・社会性</div><div>・コミュニケーション</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

発達心理学概論		PSYC-D-200
担当教員：金谷 京子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：1D100910
学部教育の関連目 <small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small>		授業計画 01. 発達理論から学ぶ発達心理学の視点 02. 発達の諸相を学ぶ—生命の誕生 03. 発達の諸相を学ぶ—胎児期の発達 04. 発達の諸相を学ぶ—乳児期の発達 05. 発達の諸相を学ぶ—幼児期の発達 06. 発達と遊び 07. 発達の諸相を学ぶ—児童期の発達 08. 発達の諸相を学ぶ—青年期の発達 09. 発達の諸相を学ぶ—成人・老年期の発達 10. 発達のメカニズムを学ぶ—運動・操作の発達 11. 発達のメカニズムを学ぶ—認知・言語の発達 12. 発達のメカニズムを学ぶ—情動・社会性の発達 13. 発達支援の原理 14. 発達支援の方法 15. 発達心理学と保育・教育・福祉
カリキュラム上の位置付け 【D】認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目 【D】認定心理士認定資格(D学科)：副次科目		
(1) 内容 人間の行動や心的な諸機能の発達は、どのような過程をたどるものか、また、どのようなメカニズムによってもたらされるのか、生涯発達の視点から人間の発達について学習する。また、発達の諸相と原理を理解した上で、心理職としてできる発達支援についても考えていく。		
(2) 学びの意義と目標 生涯発達の観点から、人間の誕生から死に至るまで変化の諸相を理解し、発達支援の実践にむすびつけるにはいかにしたらよいか考察していけるようにする。発達のメカニズムを考えながら、発達の課題について理解していく。		準備学習(予習) 単元ごとに教科書、参考書を読んでくること。子どもの観察を心がけ、子どもの成長・発達に関心をもつこと。 【参考書】「図解雑学 発達心理学」(山下富美代編著／ナツメ社)、「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」(岡本依子ほか／新曜社)
		準備学習(復習) 講義ノートを整理し、復習しておくこと。
		評価方法 (1) レポート 20% (2) 試験 80%
受講者に対する要望 自分の過去を振り返り、年齢によってどのような変化が生じたか思い起こしておいてください。		
学びのキーワード ・生涯発達 ・発達支援		教科書 本郷一夫 『保育心理学Ⅰ・Ⅱ』(建帛社) 参考書

担当教員：原 一子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1D101012

学部教育の関連目

【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】 社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

ソクラテスは、「大切なことは、ただ生きることではなく、より善く生きることだ」（『クリトン』）と語ったが、「倫理学A」では、その「より善く生きる」ことについて、日常、私たちがいかに考え行動しているか、という身近な問題から出発して、それを倫理思想との関わりにおいて理解する。その上で、善悪、義務、価値、幸福など、倫理学の根本問題や倫理的行為の主体である人間とは何かという問題についても考察する。

(2) 学びの意義と目標

「より善く生きる」ことについて人々がいかに考えてきたかを学ぶことは、学問的のみならず、われわれ一人ひとりの生き方を考える上でも極めて重要なことである。ましてや、こどもの倫理性を育成するためには、こどもに関わり、寄り添う者自身の倫理観、価値観の確立は不可欠である。

受講者に対する要望

倫理学の問題を、単なる思想としてではなく、我が事として、自分の生き方に引きつけて考えて欲しい。関連する書籍をたくさん読んで、大学生に相応しい思索と自己発見をして欲しい。可能なら「倫理学B」も併せて受講することが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 善く生きる
- ・ 倫理
- ・ 法
- ・ 慣習
- ・ 善悪

授業計画

01. はじめに 「善く生きる」とは何かー日常の倫理的葛藤
02. 9個の菓子を7人で分けるー「正しい」分け方は？
03. 誰が救命ボートに乗るべきか？ 映画「タイタニック」から
04. 人間の基本的条件ー人権と平等について考える
05. 倫理的行為の主体ー人間とは何か
06. 人間の本性を巡ってーDVD 「ヒューマン」
07. 倫理とは何か 1ー倫理・道徳・法・掟・慣習・契約
08. 倫理とは何か 2ー倫理・道徳・法・掟・慣習・契約
09. 私たちはなぜ盗みや殺人をしないのかー功利主義の考え方
10. 正しい殺人はあるのかーDVD「サンデル教授の白熱授業」
11. 私たちが善いことをするのはなぜかーカントの道徳法則
12. 快・不快と善・悪
13. 善とは何か 悪とは何か
14. 幸福と正義
15. まとめ

準備学習(予習)

1. 配布資料を前もって読んだ上授業に臨む。
2. 毎回必ず、次回までの学習課題を出すので、各回ごとの指示に従って課題をこなすこと。

準備学習(復習)

前回の授業の要旨を纏め、自分の意見や調べたことなどを加え整理して、提出する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験またはレポート | 50% |
| (2) 課題達成度 | 30% |
| (3) 学習態度 | 20% |

期末考査を試験にするかレポートにするかは、履修者数によって、初回の授業時に決定する。

教科書

参考書

倫理学B		PHIL-D-100						
担当教員： 原 一子								
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D101113						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. はじめにー倫理とは何か、倫理学とは何か 02. エトスとエートスーアリストテレス・孟子・和辻哲郎 03. 「べき」と「である」 04. 倫理思想史 1ー倫理学の誕生 1 ソクラテス以前 05. 倫理思想史 2ー倫理学の誕生2 ソクラテス 06. 倫理思想史 3ーポリスの正義 プラトン 07. 倫理思想史 4ーポリスの正義 アリストテレス 08. 倫理思想史 5ー倫理的判断は先天的か イギリス経験論 09. 倫理思想史 6ー倫理的判断は先天的か カント 10. 倫理思想史 7ー倫理的判断は先天的か 功利主義 11. 私たちはなぜ悪いことをしないのか 12. 倫理思想史 8ー価値の序列 シェーラー 13. 倫理思想史 9ー主体性の倫理学とその問題点 14. 幸福とは何か 15. まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 社会福祉主事任用資格：選択科目</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>「倫理学A」では日常の倫理的場面、倫理的行為の主体である人間の理解、倫理的行為成立の条件などについて考察したが、「倫理学B」では、快・不快、善・悪、価値などの倫理的問題がいかに考えられてきたかを、古今東西の倫理思想史に触れつつ考察する。プラトン、アリストテレス、カント、ベンサム、諸子百家、和辻哲郎などの文献も講読しつつ倫理学への理解を深める。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「より善く生きる」ことについて古来いかに考えられ、それが現代社会にいかに実現されているかを学ぶことは、学問的のみならず、われわれ一人ひとりの価値観の確立のためにも極めて重要である。ましてや、こどもに寄り添い、倫理性を育成するためには、こどもに関わる者自身の倫理観、価値観の確立は不可欠である。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>1. 配布資料を前もって読んだ上授業に臨む。
2. 毎回必ず、次回までの学習課題を出すので、各回ごとの指示に従って課題をこなすこと。</div>						
		<div>準備学習(復習)</div> <div>先回の授業の要旨を纏め、問題点や、自分で考えたり調べたりしたことを加えて整理し、提出する。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>倫理学の問題を、単なる思想としてではなく、我が事として、自分の生き方に引きつけて考えて欲しい。関連する書籍をたくさん読んで大学生に相応しい思索をして欲しい。
可能なら「倫理学A」も併せて受講することが望ましい。</div>		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 試験またはレポート</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 課題達成度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 受講態度</td><td>20%</td></tr></table><div>期末考査を試験にするかレポートにするかは、履修者数によって、初回の授業時に決定する。</div></div>	(1) 試験またはレポート	50%	(2) 課題達成度	30%	(3) 受講態度	20%
(1) 試験またはレポート	50%							
(2) 課題達成度	30%							
(3) 受講態度	20%							
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 倫理学</div><div>・ ソクラテス</div><div>・ プラトン</div><div>・ アリストテレス</div><div>・ 幸福</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>						

ボランティア論

PANT-D-100

担当教員：渡辺 正人、助川 征雄

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1D101214

学部教育の関連目

【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

ボランティアを論じることは「走る」「生活する」「愛する」ことを論じるくらいに多様であり曖昧であり、そして自由でもある。実際にボランティア活動をする（「これはボランティア活動に違いない」と自分が思っているものでも可）の中で出会った「ヒト」「キモチ」「ジッター（見えないものも含む）」など様々なことがボランティアを考える上で大きなエッセンスにもなりうる。そのような前提のうえで、「ボランティア」について柔軟に多角的に考え、また時には逆説的に、少し懐疑的にも考えてゆく。

(2) 学びの意義と目標

今、ボランティアの意義は増し、また多様化している。ボランティアとは何かということと、ボランティアをするための多角的な視点を理解することが目標である。

受講者に対する要望

ボランティア活動経験の有無にかかわらず、関心を持って学び、できれば実際の活動につなげられる様な意欲がほしい。

学びのキーワード

- ・ ボランティア
- ・ スピリチュアリティとボランティア
- ・ 福祉とボランティア
- ・ ボランティアと文化
- ・ エンパワーメント

授業計画

01. ガイダンス
02. ボランティアの歴史 1
03. ボランティアの歴史 2
04. ボランティアの歴史 3
05. ボランティア活動のための理論と要点 1
06. ボランティア活動のための理論と要点 2
07. ボランティア活動のための理論と要点 3
08. ボランティア活動のための理論と要点 4
09. ボランティア活動のための理論と要点 5
10. ボランティア活動のための理論と要点 6
11. ボランティア活動の方法 1
12. ボランティア活動の方法 2
13. ボランティアの実際 1
14. ボランティアの実際 2
15. ボランティアの実際 3

準備学習(予習)

授業内容に即して、各人の体験や考えをまとめさせるので、指示に従って事前に用意しておくこと。また、基礎的な用語については事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で取り上げた内容に関して、類似の事例を確認しておくこと。ボランティアは、個々の事例に対応してゆく柔軟さが求められるので、その多様な在り方を学んでゆくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 最終レポート | 70% |
| (2) 授業内小レポート | 30% |

教科書

参考書

ボランティア実践論

PANT-D-200

担当教員： 渡辺 正人、助川 征雄

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 2 コード： 1D101315

学部教育の関連目

【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本学は2014年1月に岩手県釜石市と復興支援に関する協定を結びました。これまでも釜石市を含めて、埼玉県内外で活動が続けてきましたが、今年はより飛躍が望まれる年となりました。そこで、ボランティア実践論では、「釜石を知る」と題して、釜石市の地域理解、震災から復興まで、これから、と場面を分けて、ワークショップの形で理解を深め、自分たちでできることを考えます。そのプロセスで、どのような場面ではどのような活動が必要かを理解することになるでしょう。まだ、実践経験のない人も、ここで活動の内容に触れることで一歩を踏み出すきっかけがつかめるかもしれませんし、すでに実践経験のある人は自分の活動を見直すきっかけにしたいと思います。

(2) 学びの意義と目標

被災地支援のボランティアに限らず、自分たちの日常レベルでのさまざまなボランティアの実情と意義に触れていきます。あなた自身、将来ボランティアに関わるか、もしかしたらボランティアの支援を必要とする立場になるかもしれません。聞いておく価値はあります。

受講者に対する要望

基礎的なボランティアの知識を身につけるものなので、ボランティアの経験の有無はといません。グループワーク中心なので、グループ内での役割を理解し、積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ ボランティア
- ・ 市民活動
- ・ 地域

授業計画

01. オリエンテーション・ボランティアの定義と活動分野
02. 本学のボランティア活動支援センターとボランティアコーディネーション
03. ワークショップ1「釜石を知る（過去編）」
04. ワークショップ2「釜石を知る（過去編）」
05. ワークショップ3「釜石を知る（過去編）」
06. 「釜石を知る（過去編）」発表
07. ワークショップ4「釜石を知る（現在編）」
08. ワークショップ5「釜石を知る（現在編）」
09. ワークショップ6「釜石を知る（現在編）」
10. 「釜石を知る（現在編）」発表
11. ワークショップ7「釜石を知る（未来編）」
12. ワークショップ8「釜石を知る（未来編）」
13. ワークショップ9「釜石を知る（未来編）」
14. 「釜石を知る（未来編）」発表
15. ボランティア実践論のまとめ

準備学習(予習)

授業内容に即して、各人の体験や考えをまとめさせるので、指示に従って事前に用意しておくこと。また、基礎的な用語については事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で取り上げた内容に関して、類似の事例を確認しておくこと。ボランティアは、個々の事例に対応してゆく柔軟さが求められるので、その多様な在り方を学んでゆくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 最終レポート | 60% |
| (2) 授業内小レポート | 40% |

教科書

授業内で指示する

参考書

<div> <div> 家族療法入門 / 家族心理学 </div> <div> PSYC-D-200 </div> </div>	
<div> <div>担当教員：村上 純子</div> <div> <div> 学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 </div> <div> 単位：2 コード：1D101416 </div> </div> </div>	
<div> <div>学部教育の関連目</div> <div> <div> 【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ </div> </div> </div>	<div> <div>授業計画</div> <div> <div> 01. 家族とは何か 02. 家族療法の理論と基礎（1） 03. 家族療法の理論と基礎（2） 04. 家族療法の理論と基礎（3） 05. 家族のライフサイクルと危機（1） 06. 家族のライフサイクルと危機（2） 07. 家族のライフサイクルと危機（3） 08. 家族のライフサイクルと危機（4） 09. 家族療法の実際 10. 家族の諸問題と家族療法 11. ジェノグラムの基礎 12. ジェノグラムの作成と活用（1） 13. ジェノグラムの作成と活用（2） 14. ジェノグラムの活用 15. まとめ </div> <div> 結婚、夫婦 幼児期、児童期の家族 思春期、青年期の家族 成人期、老年期の家族 </div> </div> </div>
<div> <div>カリキュラム上の位置付け</div> </div>	
<div> <div>(1) 内容</div> <div> <p>家族心理学、家族療法の基礎を学び、人間関係や家族関係の問題の理解に役立てる。個人の心理、家族システムとしての機能、さらには家族を取り巻く社会システムなど、多角的に見ていく。</p> <p>また実際のケースを提示し、グループディスカッションを行うことで、家族療法をより深く理解できるようにする。</p> </div> </div>	
<div> <div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <p>「家族」は人間理解をする上で無視することのできない要素である。家族心理学の学びを通して、より深い人間理解を養い、現実生活に役立つ、知識を身につけることを目標とする。</p> </div> </div>	<div> <div>準備学習(予習)</div> <div> <div> 各回、文献の指定された箇所を読んでくこと
 </div> </div> </div>
	<div> <div>準備学習(復習)</div> <div> <div> 配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること </div> </div> </div>
<div> <div>受講者に対する要望</div> <div> <p>授業から何を学び取っていくかは自分次第です。その意識を持って授業に臨んでください。特にグループディスカッションには積極的に参加してください。</p> </div> </div>	<div> <div>評価方法</div> <div> <div> (1) 平常点・授業態度 (2) 課題 (3) 学期末試験 </div> <div> 20% 40% 40% </div> </div> </div>
<div> <div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 家族療法 家族心理学 ライフサイクル ジェノグラム </div> </div>	<div> <div>教科書</div> <div></div> <div> <div>参考書</div> </div> </div>

グリーンケア入門		PANT-D-200									
担当教員： 関 正勝											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D101611									
学部教育の関連目	授業計画										
	01. 講義への導入（1） グリーンワークとは。 02. 講義への導入（2） 経験の分かち合い。受講者の確認。 03. 「科学の知」とは何であったか。 何を得て、何を失ったか。 04. 「臨床の知」を巡って。 『臨床の知とは何か』を読む。（1） 05. 「臨床の知とは何か」（2） 06. 宮澤賢治の作品から『狼森と叢森、盗森』、『セロ弾きのゴーシュ』など 07. 優生思想の歴史 08. 優生保護法から母体保護法を巡って 09. 検査社会の到来 10. 健康が義務となる社会（1） 11. 健康が義務となる社会（2） 12. 出生前診断とその現実 13. 死の変容脳死と臓器移植 14. ホスピス運動 尊厳死を巡って 15. 振り返りとまとめ										
カリキュラム上の位置付け											
(1) 内容	<p>現代文明は科学技術に支えられた文明であると言えます。科学技術は小さな手段・努力で最大の結果を私達の生活世界にもたらしてくれています。そのため私達は科学技術への全幅とまではいかなくとも大きな信頼を置いて生きています。そのようにして科学技術は私達の欲望を肥大化させています。そのことで科学技術のメリット・デメリットが顕在化しています。それは結果第一主義による過程（プロセス）や手段・方法の軽視です。そして「旬」の感覚の喪失があります。ハウス栽培によって季節に関係なく食べたい野菜や果物が生産され、私達の欲望を充たしてくれています。聖書は「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」（コヘレトの言葉）、と語って、美しさは 「時に適って」美しいと言います。科学技術文明は私達の生活世界からネガティブなものを排除して、快適で便利な生活を築き上げようとして、苦しみや悲しみそして死をさへあたかも無いかの如く、隠蔽しています。その結果私達は共感したり、共苦する力を失ってしまっているように思います。グリーンケアは喪失経験に向かい合い寄り添うこととは、どのようなことであり、それが私達の成熟をもたらすといわれる意味を尋ねる仕事また研究であると思います。</p>										
(2) 学びの意義と目標	<p>科学技術はパスカルやデカルトの「人間は考える葦」・「我思うが故に我在り」の精神に支えられて近現代文明を築きあげてきたように思います。現代における科学技術の陥穽（その典型は科学技術の安全神話に支えられた原子力発電と福島第一原発の事故）に直面して、「科学の知」に対して「臨床の知」が新しく求められております。哲学者の中村雄二郎は『臨床の知とは何か』で、「科学の知」が得意とする論理性・客観性・普遍性によって見失っている「関係の相互性」「いのちのリアリティ」は「臨床の知」によって新たに把握されることになるであろう、と主張しています。私は「科学の知」は説明の言葉であり、「臨床の知」は理解の言葉であり、with によって紡ぎだされる言葉であろうと考えております。グリーンワークは、まさに「関係の相互性」また「生きられた現実のリアリティ」をどのように私達一人ひとりが回復し、取り戻すかという作業に他ならないであります。本講義の内容としては『臨床の知とは何か』やM. プバーの思想殊に『我と汝』 などに学びながら、現代医療の中での生と死・悲嘆の問題を取りあげる。</p>										
受講者に対する要望	<p>教員の一方的な講義ではないので、受講生の皆さんの積極的な授業への参加と貢献を期待しています。毎回リアクションペーパーを提出してもらおう。</p>										
学びのキーワード	<ul style="list-style-type: none">・ 科学技術文明の中での生と死・ 科学の知と臨床の知 「説明の言葉」と「理解の言葉」・ 悲嘆に向かう「我思う故に我在り」～「わたしは痛む苦しむ故に我在り・ 健康観 態度か状態か										
教科書											
参考書		講義の中で随時紹介する。									
準備学習(予習)		経験の言葉化に各自が努めること。それぞれが一週間の自分と社会、また世界に起こった出来事を心に留めて授業に出席することを希望します。									
準備学習(復習)		今日の授業で話し合われたことを各自の生活世界に照らし合わせて振り返ること。この講義はただ知識を自分のうちに蓄積することを目的とはしないで、各自が「考える」ことを目指したいので、振り返りとその内容の記憶と他者とのコミュニケーションをこそ「復習」のポイントにしたい、と思います。									
評価方法		<table><tr><td>(1) 授業への出席・貢献度</td><td>30%</td><td>教員の一方的な講義ではなく履修者の経験の共有化を築くため</td></tr><tr><td>(2) 講義ごとのリアクションペーパー</td><td>30%</td><td>履修者からの短いコメント</td></tr><tr><td>(3) 期末のテスト</td><td>40%</td><td>テストあるいはレポート（考慮中）</td></tr></table> <p>講義は一人ひとりの経験の共有化を目指すので、成績評価も相互評価を目指したい。</p>	(1) 授業への出席・貢献度	30%	教員の一方的な講義ではなく履修者の経験の共有化を築くため	(2) 講義ごとのリアクションペーパー	30%	履修者からの短いコメント	(3) 期末のテスト	40%	テストあるいはレポート（考慮中）
(1) 授業への出席・貢献度	30%	教員の一方的な講義ではなく履修者の経験の共有化を築くため									
(2) 講義ごとのリアクションペーパー	30%	履修者からの短いコメント									
(3) 期末のテスト	40%	テストあるいはレポート（考慮中）									

スピリチュアルケア論B		PANT-D-300										
担当教員：伊能 忠嗣												
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1D101819										
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. スピリチュアルケアとホスピス運動/治療中心医療/全人的ケア</div> <div>02. スピリチュアリティの本質と機能/存在の垂直関係/生命維持機能</div> <div>03. スピリチュアリティの諸相/生きる目的/生きる土台/自己同一性</div> <div>04. スピリチュアリティの生成/風土/人間関係/経験/人生観/宗教</div> <div>05. スピリチュアリティの覚醒/生命の危機/自己分裂/自己の内面化/垂直関係</div> <div>06. スピリチュアルケアの本質/キューアとケア/もてなし・気配り/寄り添う</div> <div>07. スピリチュアルケアと宗教と心理学/相違点/癒しと救済/罪責感/死後の命</div> <div>08. スピリチュアリティと「人間の尊重」 尊厳/自由/愛/「ありのまま」とは何か、それが尊重されるとはどんなことか</div> <div>09. スピリチュアリティと「平和、平安」 個人/人間関係/社会/国際関係/メディア、エンターテインメントの役割</div> <div>10. スピリチュアルケアの場①「住居」 孤独/インターネット/テレビ/関係(会話、電話、関わり)/生活(衣食住)</div> <div>11. スピリチュアルケアの場②「町と田舎」(街中、公共施設、交通機関、自然) 出来事/会話/噂/不安/喜び/絆/爽快感/解放</div> <div>12. スピリチュアルケアの場③「学校」 楽しい学問としてのスピリチュアルケア学/出会い/広義の「学校」</div> <div>13. スピリチュアルケアの場④「病院、福祉施設」 利用者/患者/家族/職員/リーダー</div> <div>14. スピリチュアルケアと「私」 自意識/無意識/他意識/幸せになるために</div> <div>15. まとめ：スピリチュアルケアの概観を理解し、自分のこととしてスピリチュアルケアを考える</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div>												
<div>(1) 内容</div> <div>スピリチュアルケアの必要が起きた背景を概観しながら、今日の医療、看護、介護、教育での重要性を明確にする。スピリチュアルケアが人間存在の根幹に関わることを意識して、寄り添うケアの大切さを強調する。本学の建学基盤であるキリスト教の愛、平和、赦しなどの価値観にたつスピリチュアルケアの意義を学ぶ。</div>												
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本授業の目標は学生自身の人間としての成長である。特に、人生の目的、生き甲斐、死、死後のいのちを神や超越的存在との関わりで思考することを学ぶ。神や超越的存在との垂直的關係で思考することから人生の危機をも、人間的成長につながることを学ぶ。そのことから他者へのケアや愛の本質、人との関わり、集団の意味を学ぶ。</div>												
<div>受講者に対する要望</div> <div>受講生は必ず授業に出席することが求められている。自分の意見、感想、思いを発言するように努めて欲しい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』三輪書店、2000を予習しておくことが望ましい。特に、スピリチュアリティ（霊性）、スピリチュアルケア（霊的配慮）などについて考えておくこと。</div>										
		<div>準備学習(復習)</div> <div>スピリチュアルケアにいての毎回の講義ノートを復習すること。</div>										
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td><td>毎回、小テストあるいは小文が課せられる</td></tr><tr><td>(2) 授業への貢献度</td><td>20%</td><td>自分の考えの表現能力</td></tr><tr><td>(3) 提出物</td><td>50%</td><td>授業中に行う小テスト・小文を採点</td></tr></table> <div>学期末のテストはない。毎回の小テスト、小文で評価。</div>		(1) 平常点	30%	毎回、小テストあるいは小文が課せられる	(2) 授業への貢献度	20%	自分の考えの表現能力	(3) 提出物	50%	授業中に行う小テスト・小文を採点
(1) 平常点	30%	毎回、小テストあるいは小文が課せられる										
(2) 授業への貢献度	20%	自分の考えの表現能力										
(3) 提出物	50%	授業中に行う小テスト・小文を採点										
<div>学びのキーワード</div> <div>・スピリチュアリティ（霊性）、人生の意味・目的</div> <div>・尊厳、自由、愛</div> <div>・集団、交わり、人間関係、社会</div> <div>・病人、患者、利用者</div>		<div>教科書</div> <div>授業中に指示する</div> <div>参考書</div> <div>窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』（三輪書店）</div> <div>窪寺俊之『スピリチュアルケア学序説』（三輪書店）</div> <div>鎌田東二(企画・編)『講座スピリチュアル学』第1巻「スピリチュアルケア」（ビーイング・ネットプレス）</div>										

ヘルス・プロモーション		HLTH-D-100	
担当教員： 齊藤 理砂子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 2		コード： 1D101901	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける		01. オリエンテーション 02. 現代社会と健康（健康の概念） 03. 健康社会と健康（健康課題） 04. ヘルスプロモーションの概念 05. ヘルスプロモーションの方法 06. 日本におけるヘルスプロモーション 07. 地域におけるヘルスプロモーション 08. 地域におけるヘルスプロモーション（住んでいる地域の健康増進活動を調べよう） 09. 地域におけるヘルスプロモーション（住んでいる地域の健康増進活動を紹介しよう） 10. 学校教育におけるヘルスプロモーション 11. ヘルスプロモーティングスクール 12. 世界におけるヘルスプロモーション 13. 子どもの健康を考える（グループ活動） 14. 子どもの健康を考える（発表） 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
ヘルスプロモーションは現代社会において、自他ともに健康を保持増進していく上で重要な役割を担う。健康の保持増進を図る上での政策、組織的取り組みや地域での活動、個々の適切な生活行動を選択できるための健康教育など、ヘルスプロモーションの基本的な理念と方法を学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
ヘルスプロモーションの基本的な概念や理論について説明できる。また、わが国の健康課題を理解し、地域や学校におけるヘルスプロモーションの具体的な活動について知り、実践につなげることができる。		事前に指示される内容について調べておくこと。	
		準備学習(復習)	
		指示された内容について学習すること。 	
受講者に対する要望		評価方法	
自分自身の健康とも結びつけて積極的に授業に参加し、現場に活かせるよう知識を習得してください。 		(1) 授業への貢献度 50% ディスカッション参加状況、自分の考えの表現能力度 (2) 課題レポート 50%	
学びのキーワード		教科書	
・ヘルスプロモーション ・健康課題 ・健康の概念 ・健康増進活動 ・ヘルスプロモーティングスクール		和田雅史、齊藤理砂子『健康科学 ヘルスプロモーション』 聖学院大学出版会 【ISBN978-4-907113-17-9】	
		参考書	

チャイルドライフ・ケア		HLTH-D-300
担当教員： 齊藤 理砂子、中村 磐男、金谷 京子、和田 雅史		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D102020
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、子どもの心理社会的課題（齊藤） 02. 子どもの心理社会課題：小1プロブレム（齊藤） 03. 子どもの生活課題（金谷） 04. 子どもの生活課題：生命の尊厳を考える（金谷） 05. 子どもの生活課題：心の健康と生命（金谷） 06. 子どもの身体的な健康課題：アレルギー（和田） 07. 子どもの身体的な健康課題：感染症（和田） 08. 子どもの身体的な健康課題：嗜好品（和田） 09. 子どもへの臨床心理学的援助：幼児期、児童期（大橋） 10. 子どもへの臨床心理学的援助：学童期（大橋） 11. 子どもへの臨床心理学的援助：思春期、青年期（大橋） 12. 2子どもの事故とその防止：誤飲・誤食（中村） 13. 子どもの事故とその防止：溺水・交通事故（中村） 14. 子どもの事故とその防止：熱中症（中村） 15. 子どもの心理社会的課題：中1ギャップ（齊藤）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>子どもの生活に関する事例を用い、子どもの心身の健康とその促進のための問題解決に向けたディスカッション等を行う。心理・保健・特別支援教育などいろいろな視点から、現代を生きる子どもたちの課題とその解決方法について学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 子どもの生活における今日的課題について多面的に考察できる。 2. 子どもの可能性を発見し、適切な教育や援助につながる問題解決思考が身につく。 3. 子どもをめぐる様々な問題を表層的に捉えるのではなく、多面的に深く捉えることの重要性に気づくことができる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に指示される内容について調べておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>グループディスカッションに積極的に参加してください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>指示された内容について学習すること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への貢献度70%</div><div>(2) 課題レポート30%</div><div>ディスカッション参加状況、自分の考えの表現能力度</div></div>	
	<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>子どもの健康課題</div><div>子どもの発達課題</div><div>子どもの生活課題</div><div>子どもの心理社会的課題</div><div>子どもの事故とその防止</div></div>		

きょうだい支援		PSYC-D-300	
担当教員： 村上 純子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 2		コード： 1D102121	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. きょうだいとは</div> <div>02. 病気の子どもを取り囲む環境</div> <div>03. 家族のライフサイクルと病気</div> <div>04. きょうだいの心理</div> <div>05. 病気、障害の告知</div> <div>06. 親支援の方法と実践</div> <div>07. きょうだい支援の方法と実践 (1)</div> <div>08. きょうだい支援の方法と実践 (2)</div> <div>09. きょうだい支援の方法と実践 (3)</div> <div>10. きょうだい支援の方法と実践 (4)</div> <div>11. きょうだい支援の方法と実践 (5)</div> <div>12. きょうだい支援の社会的資源 (1)</div> <div>13. きょうだい支援の社会的資源 (2)</div> <div>14. きょうだい支援の社会的資源 (3)</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>障害や病気のある児童への特別な配慮は、親や教師が気遣って行なっているが、当事者のきょうだいにも支援が必要なことが多々ある。本講義では、きょうだいを持ちうる悩みと人間的成長の可能性（得がたい経験）について理解し、きょうだい支援の在り方や方法について、「きょうだい支援の会」の活動などを参考に考えていく。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「きょうだい」そして家族の存在は、障害や病気のある児童を支援する上で重要である。きょうだい支援の学びを通して、より深い人間理解を養い、実生活に役立つ、知識を身につけることを目標とする。</div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業の中で、自ら学びとろうとする意識が重要です。特にグループディスカッションには積極的に参加してください。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>各回、文献の指定された箇所を読むとすること</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点・授業態度</div><div>20%</div><div>(2) 課題レポート</div><div>40%</div><div>(3) 学期末課題</div><div>40%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ きょうだい</div><div>・ 障害児</div><div>・ 支援</div><div>・ 家族</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

人間行動学実験実習		PSYC-D-100
担当教員：水谷 勉、屋沢 萌		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1D102210
<div>学部教育の関連目</div> <div>心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 心理学とその方法① 03. 心理学とその方法② 04. 実験実習の心構え 05. 実験実習の心構え 06. 研究レポートのまとめ方 07. 研究レポートのまとめ方 08. 行動観察法（時間見本法）①講義と実習 09. 行動観察法（時間見本法）①講義と実習 10. 行動観察法（時間見本法）②実習のまとめとレポートの書き方 11. 行動観察法（時間見本法）②実習のまとめとレポートの書き方 12. 行動観察法（時間見本法）③データの収集とグラフ化 13. 行動観察法（時間見本法）④一事例の実験デザイン 14. 発話分析法①講義と実習 15. 発話分析法①講義と実習 16. 発話分析法②実習のまとめとレポートの書き方 17. 発話分析法②実習のまとめとレポートの書き方 18. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）①講義と実習 19. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）①講義と実習 20. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）②解釈とレポートの書き方 21. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）②解釈とレポートの書き方 22. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）①講義と実習 23. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）①講義と実習 24. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）②解釈とレポートの書き方 25. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）②解釈とレポートの書き方 26. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）①講義と実習 27. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）①講義と実習 28. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）②解釈とレポートの書き 29. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）②解釈とレポートの書き 30. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>認定心理士認定資格(D学科)：基礎科</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>子どものころや行動に関する心理学的な研究の方法について学ぶことを目標とする。本実習では、特に行動観察法、発話分析法、知能検査法、発達検査法を扱う。各回の始めにそれぞれの基本的な方法について講義を通して学び、その後実習を通してそれらの技法を習得する。 ※「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験・実習）に区分される科目である。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>心理学研究の技法を学ぶことに加えて、教育や保育の現場で実際に子どもとかわり合い、行動を観察し、その意味を考え理解するのに役立つ視点を養うことができる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各実習の事前に内容や用語等について調べておくことが望ましい。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>各実習の事後にレポートをまとめて提出すること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加の程度 60% 出席、実習、発表等 (2) 毎回の課題レポート 40%</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どものことばや行動の背後にある意味（意思）を理解しようとする姿勢を持って臨むこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 行動観察・ 発話分析・ 知能検査・ 発達検査</div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div> <div>参考書</div> <div>授業の中で指示する</div>	

応用行動分析入門		PSYC-D-300	
担当教員： 金谷 京子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 2		コード： 1D102324	
<div>学部教育の関連目</div> <div><small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small></div>		<div>授業計画</div> <div>01. 行動分析学とは 02. 応用行動分析の基本的考え方 03. 新しい行動の獲得 04. 問題行動の消去 05. 行動目標の立て方 06. データの収集とグラフ化 07. 単一事例の実験デザイン 08. 随伴操作、結果操作 09. 強化について 10. シェイピングによる行動形成 11. 機能分析 12. 行動変容の般化 13. 発達障がい児, 疾病支援への応用 14. 自己の行動管理への応用 15. 自己行動管理課題のまとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>応用行動分析は、人間を中心とした生物全般の諸活動を環境と個体の相互作用の側面から探求し、行動に関する因果関係を解明しようとする行動分析学を応用して、広く人間の行動をその人の利益や社会の利益になるように変容させること目的としている。 まず行動分析の理論を理解した上で、応用行動分析の手法を学んでいき、望ましい行動の獲得や問題行動の軽減など、日常生活のなかでの行動変容の応用を考えていく。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>応用行動分析の原理を理解し、日常生活のなかで起きている現象を分析してみる。日常生活で変容させたい行動を構造化して新たな行動が獲得できるように工夫してみる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>応用行動分析に関する文献を購読しておくこと。専門用語を調べておくこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートを整理し、不明な点を調べておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>行動分析関係の用語を事前に事典等で調べておく。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験20%</div><div>(2) レポート提出80%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ ABA</div><div>・ 強化</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>P. A. アルパート・A. C. トルートマン著『はじめての応用行動分析』（二瓶社）</div>	

スピリチュアルケア入門		PANT-D-100	
担当教員：伊能 忠嗣			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目/必修科目
単位： 2		コード： 1D102405	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ 【W】 対人支援力：人格を尊重して人とかがかわることのできる力を身につける		01. スピリチュアルケアの必要性、現場からの必要性 02. スピリチュアルケアの内容、本質（臨床現場の視点） 03. スピリチュアルケアの制度（医療制度、病院内での役割） 04. スピリチュアルケアワーカーの資質 05. スピリチュアルケアワーカーの役割 06. スピリチュアルケアワーカーと患者の関係性 07. スピリチュアルケアワーカーの養成 08. スピリチュアルケアと「愛されていること」 09. スピリチュアルケアと「芸術」 10. スピリチュアルケアと「目に見えるもの」 11. スピリチュアルケアと「自分をゆるし、自分を愛すること」 12. スピリチュアルケアと「祈ること」 13. スピリチュアルケアと「楽しいこと」 14. スピリチュアルケアと「愛」 15. 最終回まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
今、スピリチュアルケアに対する看護、介護、医療、教育などの分野で関心が高まっています。高齢者、病人、学生へのケアの質が問われ、従来の身体的病気や障害の治療だけでは十分人々のいのちを守り、高めることができないからです。人間のたましいに触れるケアを通じていのちを守り、支え、励ますことが求められています。スピリチュアルケアは従来の身体的、心理的、社会的ケアに加えて、いのちの深みにふれるケアです。人が人としていきるために全存在を支えることで、人のいのちの質は高まって行きます。この授業はスピリチュアルケアとは何か、どのような歴史的背景をもっているか、実際にどのような形でなされるのかなどについて、入門段階から臨床現場でのケアを紹介します。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
スピリチュアルケア入門は受講生にスピリチュアルケアとは何かを最初に理解してもらいます。スピリチュアルケアの入門的知識と理解をもって貰います。また、スピリチュアリティ、ケア、ケアギバーなどの専門用語を丁寧に説明し、受講生にスピリチュアルケアの本質、特徴、必要性、実践方法などを講義します。従来行なわれてきた心理カウンセリング、ソーシャルワークなどとの違いを明確にして、スピリチュアルケアの本質を明らかにします。また、ケアギバーが備えるべき資質、教育などについても触れます。この授業の学びは、受講生にスピリチュアルケアの意味をしっかりと理解してもらい、自分もケアに参加したいと願ってもらい、将来、スピリチュアルケアに参加する人を育てたいのが目標です。		予習の内容は毎回の授業で指示する。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
1. スピリチュアルケアについての基本的知識を身につける 2. 自分のスピリチュアリティに気付き、人のスピリチュアルペインやニーズへの感性をもつ 3. 人への愛、謙遜、信仰を養う		自分の考えをまとめること、出来るだけ自分自身の考え方を尊重するように務める。	
		評価方法	
		(1) 平常点 50% (2) 提出物 30% (3) 授業中の発言 20%	
		成績評価全体に対するコメント 授業参加が重要です。授業の現場で学ぶことが多いので、欠席しないように注意しましょう。	
学びのキーワード		教科書	
・ スピリチュアルケア ・ 超越性 ・ 究極性 ・ 愛、謙遜、信仰		授業の中で指示する	
		参考書	
		窪寺 俊之 『スピリチュアルケア入門』（三輪書店）	

心理学研究法		PSYC-D-300
担当教員：大橋 良枝		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D200100
<div>学部教育の関連目</div> <div><small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small></div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 因果関係の検討：実験室実験法 03. モデル検討：モデル論的アプローチ 04. 質問紙調査法 05. 心理尺度構成法 06. 観察法一般 07. フィールドワーク：ethnomethodologyとgrounded theory 08. 教育的介入法 09. アクションリサーチ 10. 事例介入研究 11. 心理検査法 12. 生理心理学的研究法 13. 比較心理学的方法 14. 心理学研究法のまとめ 15. 心理学研究法と心理学研究の今後の展開</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>①人の心と行動を実証的に研究する論理はどうなっているのか、②1世紀余にわたる心理学の研究の歴史のなかでその論理はどのような変遷をへて現在のようになってきたのか、そして、③今、心理学は、研究方法論の百花繚乱期をむかえているが、実験法から質的研究法まで、どのような方法論と技法が何を明らかにするためにどのように使われているかを紹介する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>自然科学と違って、心という科学的に非常に扱いにくい対象が、どうすれば科学になりうるのかを知ることが、受講生自らが、心についての妥当な認識を深めることにもつながるようになるために、心理学の多彩な研究法の背後にある研究の方法論（論理）を理解する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>テキストの指定された部分をまとめ、授業時に提出。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>事前に、心理学概論と心理学実験演習、測定と評価を受講していることが望ましい。心理学研究法を使うつもりが無くても、物事の考え方の訓練としてこの授業の内容を身につけて欲しい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業を内容を踏まえ理解を確かにする。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 提出物60%</div><div>(2) 期末レポート40%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・研究デザイン</div><div>・実験法</div><div>・質問紙法</div><div>・観察法</div><div>・妥当性・信頼性</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div><small>Robert L. Solso, Homer H. Johnson, 浅井 邦二, 河合 美子, 安藤 孝敏, 落合 勲『心理学実験計画入門』（学芸社）</small></div>

心理学実験実習 A

PSYC-D-100

担当教員：大橋 良枝、小橋 眞理子

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1D200201

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目

(1) 内容

心理学の基礎的な実験としてよく知られているものを取り上げる。知覚・認知・社会などの領域を中心に、実験・調査方法について、実験者（調査者）及び被験者（回答者）として参加体験する。実験器具の関係で、20名程度のグループに分かれて実習する。
※「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。

(2) 学びの意義と目標

心理学における実験的研究の基礎を習得する。そのために、心理学的データの体系的な知識を確実に身につける。また、心理学的データを体系的に分析し、その結果を実証的に検証する能力を養う。

受講者に対する要望

真摯な実験態度を望みます

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス①
02. ガイダンス②
03. レポートのまとめ方①
04. レポートのまとめ方②
05. ミューラーリヤー①
06. ミューラーリヤー②
07. 結果処理方法指導および図表の記述方法指導①
08. 結果処理方法指導および図表の記述方法指導②
09. 触二点域①
10. 触二点域②
11. 重量弁別①
12. 重量弁別②
13. 両側性転移①
14. 両側性転移②
15. 系列位置効果①
16. 系列位置効果②
17. ストループ効果①
18. ストループ効果②
19. 古典的条件付け①
20. 古典的条件付け②
21. ワーキングメモリ①
22. ワーキングメモリ②
23. 要求水準①
24. 要求水準②
25. 好悪の条件付け①
26. 好悪の条件付け②
27. 集団式知能検査（京大NX）①
28. 集団式知能検査（京大NX）②
29. まとめ①
30. まとめ②

準備學習(予習)

毎回配布する次週の実験資料をもとに準備学習を行ってください

準備學習(復習)

実験後の課題を行ってください

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 実験への参加度 | 20% |
| (2) レポート | 80% |

教科書

参考書

【参考書】授業の中で指示する。

心理学実験実習B

PSYC-D-200

担当教員：大橋 良枝、水谷 勉

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1D200304

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目

(1) 内容

心理学の基礎的な実験のうち、やや応用的なものを取り上げる。知覚・認知・社会などの領域を中心に、実験・観察・調査等の方法について、実験・実習の実験者および研究対象者として参加体験する。実験器具の関係で、20名程度のグループに分かれて実習する。
※「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。

(2) 学びの意義と目標

心理学における実験的研究の基礎を習得する。そのため、心理学の基礎実験・実習を経験するとともに、得られたデータを分析・考察してレポートに毎回まとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。

受講者に対する要望

真摯な実験態度を望みます

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス①
02. ガイダンス②
03. 心的回転①
04. 心的回転②
05. 仮現運動①
06. 仮現運動②
07. 概念学習①
08. 概念学習②
09. ゲーム理論①
10. ゲーム理論②
11. パーソナルスペース①
12. パーソナルスペース②
13. 生理指標①
14. 生理指標②
15. 脳計測①
16. 脳計測②
17. 半構造化面接法（K-J法による質問構成）①
18. 半構造化面接法（K-J法による質問構成）①
19. 半構造化面接法（面接実施）②
20. 半構造化面接法（面接実施）②
21. ビデオによる児童観察（観察基準の構成）①
22. ビデオによる児童観察（観察基準の構成）①
23. ビデオによる児童観察（観察実施）②
24. ビデオによる児童観察（観察実施）②
25. グループによる自由実験計画①
26. グループによる自由実験計画②
27. グループによる自由実験実施①
28. グループによる自由実験実施②
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

毎回配布する次週の実験資料をもとに準備学習を行ってください

準備学習(復習)

実験後の課題を行ってください

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 20% |
| (2) レポート | 80% |

教科書

参考書

【参考書】授業の中で指示する。

青年心理学		PSYC-0-101	
担当教員： 藤掛 明			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 2		コード： 1D200410	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</div>		01. 青年期と青年心理学 02. 自分自身を考える（行動スタイル） 03. 自分自身を考える（いろいろな自分；SCT） 04. 自分自身を考える（深層の自分；描画テスト） 05. 自分自身を考える（自我同一性） 06. 自分自身を考える（自己実現） 07. 前半のまとめ 08. 家族を考える（きょうだい関係） 09. 家族を考える（家族の機能） 10. 友だち関係を考える 11. 学校を考える 12. 仕事を考える 13. 恋愛を考える 14. 昔の自分を考える（早期回想） 15. 全体のまとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目			
(1) 内容			
<div>（１）青年期に起こりがちな心理的問題や、関連した社会病理現象をとりあげ、その理解や援助・解決の道筋を考える。</div> <div>（２）同時に青年期にある自分自身を洞察し、実際のアセスメント技法を体験しながら、体感的に学ぶことを心がける。</div> <div>※「認定心理士」資格では、「選択科目f」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目である。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>時代とともに変化し、多様化してきている青年期の心理的課題について概要を知ることができる。</div> <div>また、青年期にある自分自身について深く知ることができる。</div>		準備学習(予習)	
		授業計画や、授業内で行う次回予告を参考に、インターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		配付資料を再読するとともに、授業で配布する復習用資料（授業新聞）を使って、授業の中心点を考え、他の学生の意見を読むなどすること。 	
受講者に対する要望		評価方法	
<div>一般的な知識で満足することなく、たえず自分自身に重ね、自己分析していく姿勢が必要となる。</div>		<div><div>(1) ミニテスト25% 適宜授業内で行なう</div><div>(2) 授業態度25%</div><div>(3) 授業内テスト50% 最終授業内で行なう</div></div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・ 自我同一性</div> <div>・ 自己実現</div> <div>・ 発達課題</div> <div>・ 心理テスト</div>		参考書	
		毎回関連資料等を配布する。 【参考書】授業の中で指示する。	

教育心理学		TEAT-0-201
担当教員： 金谷 京子		
学期： 週間授 科目： 社会教育 必修・選択： 選択必修科目/選択科目 単位： 2 コード： 1D200511		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する</div> <div>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理的支援の方法を学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 教育心理学の目指すもの・どのように教えるか</div> <div>02. どのように学ぶか、学習とは</div> <div>03. 知識獲得</div> <div>04. 記憶</div> <div>05. 問題解決</div> <div>06. 学習と動機づけ</div> <div>07. 効力感と無気力感</div> <div>08. 原因帰属</div> <div>09. 学級集団と人間関係</div> <div>10. 教師と生徒</div> <div>11. 教育測定と評価</div> <div>12. 測定・評価の方法</div> <div>13. 人格と適応</div> <div>14. 成長と発達</div> <div>15. まとめと評価</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目【全】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【全】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div> <div>【全】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【全】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>教育心理学は、教育過程における諸現象を心理学的観点から解明し、教育を効果的に行うための方法を見出すことを目的とした学問である。</div> <div>本講義では、教育心理学の研究の流れを学んだ上で、様々な研究知見の解説を通して学習、授業過程、測定と評価、教師と児童の関係、人格、適応、発達の分野について学ぶ。</div> <div>学び方のコツに関するDVDを視聴しながら、「学習」の方法について理解を深める。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 子どもの発達と学習の過程に関する心理学的な基礎知識を習得する。</div> <div>2) それらの知識を実際の子どもの理解を深めるために利用することができる。</div> <div>3) 子どもの発達と学習の状態に応じた、適切な指導・支援の方法について自らで考え、現代の教育現場における課題の解決を考える。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書を読み、単元の予習をしておく。関連する研究知見を調べてみる。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートをまとめて復習し、理解を深める。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>専門用語についてこまめに調べるようにしてください</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 小レポート等20%</div> <div>(2) 試験80%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 学習</div> <div>・ 教育と心理</div> <div>・ 動機づけ</div> <div>・ 教育評価</div>		<div>教科書</div> <div>北尾倫彦ほか『コンパクト教育心理学』（北大路書房）</div> <div>鎌原雅彦・竹網誠一郎『やさしい教育心理学』（有斐閣アルマ）</div> <div>参考書</div>

臨床心理学概論		PSYC-D-100	
担当教員： 竹渕 香織			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 2		コード： 1D200607	
<div>学部教育の関連目</div> <div><small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small></div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス</div> <div>02. 臨床心理学とは①（臨床心理学のめざすもの）</div> <div>03. 臨床心理学とは②（歴史と成り立ち）</div> <div>04. 臨床心理学とは③（パーソナリティから）</div> <div>05. 臨床心理学とは④（正常と異常の概念から）</div> <div>06. 援助の対象①（神経症・うつ・パーソナリティ障害・統合失調症など）</div> <div>07. 援助の対象②（発達障害・知的障害、不適応など）</div> <div>08. 心理査定①（観察法、面接法、質問紙法）</div> <div>09. 心理査定②（投影法）</div> <div>10. 心理療法①（精神分析）</div> <div>11. 心理療法②（行動療法）</div> <div>12. 心理療法③（クライエント中心療法）</div> <div>13. 心理療法④（家族療法・表現療法）</div> <div>14. 臨床心理学的援助とは、臨床心理士による支援の実際</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：副次科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>臨床心理学の歴史、基礎理論、研究や支援のための方法論、実践領域などの基礎知識を学ぶ。臨床心理学は実践の学問であることから、典型事例の概説と討議、グループディスカッション、ロールプレイングなどを用いて体験的に学ぶ。 ※「認定心理士」資格では、「選択科目a」（心理学概論）に区分される科目である。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>臨床心理学的な人間理解の視点を学ぶ。発達理論や人格理論、心理査定や心理療法、心理職の実践領域などの基礎的な知識を得る。それらのことから、今後の専門科目の学びの土台を作る。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参考に、関連資料を読んだり、インターネットなどで情報を集めたりしておく。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>基本的な専門用語や概念を覚えること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>学びやワークから基礎知識を得るとともに、トピックスや事例を自分自身に重ね合わせ、体験的に学んでいく姿勢が望まれる。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 期末テスト</div><div>50%</div></div> <div><div>(2) 授業への参加度（ワーク、提出物）</div><div>30%</div></div> <div><div>(3) 平常点</div><div>20%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・臨床心理学</div><div>・心理査定</div><div>・心理療法</div><div>・臨床心理学的支援</div></div>		<div>教科書</div> <div>なし。資料を配布する。</div> <div>参考書</div> <div>授業内で指示する。</div>	

適応の心理

PSYC-D-200

担当教員： 竹渕 香織

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：2 コード：1D200712

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

(1) 内容

メンタルヘルスのひとつの大きな指標として「適応」「不適応」を学ぶ。「適応」の状態を理解するとともに、諸領域における「不適応」の状態を臨床心理学的に明らかにする。各臨床分野での事例を取り上げ紹介する。また、学びを深めるためのワークやグループでのディスカッションを行う。

※「認定心理士」資格では、「選択科目g」（臨床心理学・人格心理学）に区分される科目である。

(2) 学びの意義と目標

「適応」「不適応」の状態について理解するとともに、不適応状態の改善や適応のための視点、支援方法について学ぶ。

受講者に対する要望

各テーマに沿ったワークやディスカッションを行うので、積極的に参加すること。

学びのキーワード

- 適応
- 不適応
- 適応支援

授業計画

01. ガイダンス
02. 「適応」「不適応」とは
03. 適応障害とは
04. 学校不適応①
05. 学校不適応②
06. 学習不適応①
07. 学習不適応②
08. 職場不適応①
09. 職場不適応②
10. 結婚不適応
11. 中年期の不適応
12. 老年期の不適応
13. 非行の心理臨床、アルコールと薬物依存・乱用
14. 自殺問題
15. まとめ

準備學習(予習)

授業計画を参照し、扱われるトピックスについて書籍・新聞等で情報を収集しておく。

準備學習(復習)

学んだトピックスに関してキーワード、概要をまとめる。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 出席、ディスカッションやワーク等への参加度 |
| (2) 学期末試験 | 60% | |

教科書

参考書

産業心理学		PSYC-D-300										
担当教員： 大橋 良枝												
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目									
単位： 2		コード： 1D200813										
<div>学部教育の関連目</div> <div><small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small></div>		<div>授業計画</div> <div>01. 産業心理学概論 02. 個人と集団①(集団力動と個人力動) 03. 個人と組織②(集団病理と個人病理) 04. 個人と組織③(協働と競争) 05. 個人と組織④(リーダーシップとワークグループ) 06. 個人にとっての職業①(自我同一性発達と職業選択) 07. 個人にとっての職業②(忠誠心発達) 08. 個人にとっての職業③(中年期危機) 09. 個人にとっての職業④(女性のキャリア) 10. 産業心理臨床①(ストレスコーピング・ソーシャルサポート) 11. 産業心理臨床②(鬱と自殺) 12. 産業心理臨床③(リーダーシップとエディプス葛藤) 13. 現代の問題① 14. 現代の問題② 15. まとめ</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>												
<div>(1) 内容</div> <div>講義形式。講師が用意した事例資料と講義資料を用いる。小レポートの提出を求め、習熟度が評価される。</div>												
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>職業、産業心理臨床について、集団心理学的、個人心理学的観点から接近し、これらを理解することを目指す。また現代の社会的問題についてもとりあげ、その発生要因・介入方法について心理学的に理解する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>事前のリーディングに目を通し、自分なりの疑問と関心をはっきりさせて授業に臨むこと。</div>										
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ディスカッションや講義の体験を振り返り、理解を再確認すること。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>2回目の授業でのワークショップ体験を元に小レポートを課す。体験から学ぶことを大事にすること。ディスカッションには積極的に参加すること。</div>		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>20%</td><td>ディスカッションの参加度を含む</td></tr><tr><td>(2) 小レポート</td><td>40%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 期末試験</td><td>40%</td><td></td></tr></table></div>		(1) 授業への参加度	20%	ディスカッションの参加度を含む	(2) 小レポート	40%		(3) 期末試験	40%	
(1) 授業への参加度	20%	ディスカッションの参加度を含む										
(2) 小レポート	40%											
(3) 期末試験	40%											
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 集団力動と個人力動・ 集団所属・ 危機・ 災害</div>		<div>教科書</div> <div><small>フレデリック J. スタッガード Jr.、クレイグ L. カッツ、ジョセフ P. メリーノ、精神医学振興協会、小谷 英文 監訳、東日本大震災支援合同チーム『不測の衝撃—危機介入に備えて知っておくべきこと』(金剛出版)</small></div> <div>参考書</div>										

担当教員：村上 純子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1D200908

学部教育の関連目

[D] 心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

(1) 内容

健康には「肉体的、精神的、社会的、霊的」の4つの側面がある（WHOの定義による）。本授業では、健康生活に関わる心理（主に精神的・社会的側面）の基本的理解を深め、さらに健康生活（健康維持行動）を構築、支援するための心理学的理論を学習する。また、健康教育に関する教材を作成することにより、実践に関しての理解を深めていく。

(2) 学びの意義と目標

人間にとっての健康とはいかなるものか、健康心理学が目指すもの（健康の回復・維持・増進・疾病の予防を考え、生活習慣や行動などの改善をはかり、生活を豊かにしていくこと）を理解し、実践する手がかりを学ぶ。

受講者に対する要望

授業の中で紹介する参考資料などを用いて、知識と理解を深めるよう努力して欲しい。また、グループで健康教育に関わる教材を作成するので、そこに積極的に参加することを望む。

学びのキーワード

- ・健康心理学
- ・ストレス
- ・健康行動
- ・生涯発達

授業計画

01. 健康と病気、その理解
02. 健康心理学の基礎理論
03. 健康行動とリスク
04. 生涯発達と健康
05. ストレスと健康
06. ストレスと対処方法
07. 健康とパーソナリティ
08. 生活習慣と健康①
09. 生活習慣と健康②
10. ネット社会と健康
11. 健康心理学的アセスメント
12. 健康教育① 教材作成計画
13. 健康教育② 教材作成
14. 健康教育③ 教材完成
15. 期末まとめと課題

準備学習(予習)

各回、文献の指定された箇所を読み、キーワードについて調べてくる

準備学習(復習)

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点・授業態度 | 20% |
| (2) 健康教材作成 | 40% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

日本健康心理学会 『健康心理学概論』（実務教育出版）

参考書

認知心理学		PSYC-D-300	
担当教員：石岡 良子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 2		コード： 1D201014	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス</div> <div>02. 視覚① 色の認知</div> <div>03. 視覚② 形の認知</div> <div>04. 視覚③ 動きの認知</div> <div>05. 聴覚① 音の知覚</div> <div>06. 聴覚② 音楽認知</div> <div>07. 聴覚③ 音楽聴取や演奏行動における認知</div> <div>08. 視聴覚① 視覚と聴覚の相互作用</div> <div>09. 視聴覚② 共感覚</div> <div>10. 情動、動機づけ</div> <div>11. 学習</div> <div>12. 記憶</div> <div>13. 注意、思考</div> <div>14. 認知機能の発達</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>私たちは、日々の中で、多くの情報を、当たり前のように「見た」り「聞いた」りして生活している。しかし、私たちがごく自然と「見ている」、「聞いている」世界は、実は、目や耳で単純に外界を捉えるだけでなく、心で認識することによって成立している。そこで本講義では、その心のはたらきについて解説し、心を通して認識しているものと、物の物理的な在り様がどのように異なるのかについて、考える機会を提供する。また、「思う」、「考える」、「感じる」といった人の心のはたらきが、どのようなメカニズムを持つのかについても学習する。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>私たちが、周りの世界をどのように認識しているのか、またそれがどのような心のはたらきによるものなのかを知ることができ、新たな視点を獲得することができる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>講義に先だち、各回のテーマと用語について事前に調べておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>基本的な概念や用語の予習・復習を行い、覚える努力をすることが必要となる。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>基本的な概念や用語の復習を行い、覚える努力をすること。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点30%</div><div>(2) 試験70%</div></div>	
		<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 認知</div><div>・ 知覚</div></div>			

非行の心理		PSYC-D-300	
担当教員： 藤掛 明			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 2		コード： 1D201115	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</div>		<div>01. 非行の臨床心理学（薬物乱用事例と不登校事例を検討する）</div> <div>02. 非行の臨床心理学（映画「トイ・ストーリー」から行動化型の心理を学ぶ）</div> <div>03. 非行の臨床心理学（旧約聖書・モーセの生涯から、非行や犯罪の意味を学ぶ）</div> <div>04. 非行心理の理解（へたり込み型と強行突破型）</div> <div>05. 「いきがり」と「おちゃらけ」の心理機制</div> <div>06. 「いじっぱり」と「顔色うかがい」の心理機制</div> <div>07. 非行関連システム（警察、司法、矯正、保護）</div> <div>08. 非行カウンセリングの方法</div> <div>09. 非行の心理アセスメントの方法</div> <div>10. 非行事例の検討（任意・外来）</div> <div>11. 非行事例の検討（施設内）</div> <div>12. 非行と家族の機能</div> <div>13. 非行と依存症</div> <div>14. 非行と人格障害</div> <div>15. 全体のまとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目			
(1) 内容			
非行や犯罪の事例やそれを取り上げた文学作品などを適宜紹介し、受講者が主体的に参加し、考えることが出来るようにする。			
(2) 学びの意義と目標			
非行の心理について、臨床心理学の観点から、理解する。心理アセスメントや心理カウンセリングの実際についても、一般の心理臨床との違いを明確にする。また、非行に限らず、行動化を伴う心理臨床（依存症など）についてもあわせて取り上げる。			
準備学習(予習)		授業計画に沿って該当する教科書記事を読んでおくこと。また、関連事項をインターネットなどで調べておくこと。	
準備学習(復習)		参考書や配付資料を再読するとともに、授業で指定するトピックスを次回までに説明できるようにしておくこと。	
評価方法		<div>(1) 適宜授業内で行なうミニテスト 25%</div> <div>(2) 授業態度 25%</div> <div>(3) 最終授業内で、授業内テスト 50%</div>	
受講者に対する要望			
臨床心理学全般の基礎知識があることが望ましい。			
学びのキーワード		教科書	
<div>・ 非行カウンセリング</div> <div>・ 心理アセスメント</div> <div>・ 矯正施設（少年院、少年鑑別所）</div> <div>・ 依存症</div> <div>・ 人格障害</div>		毎回関連資料を配布する。	
		参考書	
		「非行カウンセリング入門」藤掛明著、金剛出版	

神経心理学		PSYC-D-300	
担当教員： 佐久間 隆介			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 2		コード： 1D201216	
<div>学部教育の関連目</div> <div><small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small></div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス</div> <div>02. 神経心理学とは—その目的と方法—</div> <div>03. 神経心理学の歴史 - 脳の解剖学的基礎を中心に -</div> <div>04. 知覚・認知① 視覚失認</div> <div>05. 知覚・認知② 聴覚失認</div> <div>06. 空間 半側空間無視</div> <div>07. 行為 失行</div> <div>08. 記憶① ワーキングメモリーとは—にか—短期記憶障害・ワーキングメモリ障害—</div> <div>09. 記憶② エピソード記憶障害・意味記憶障害・手続き記憶障害</div> <div>10. 言語① 失語</div> <div>11. 言語② 失読・失書・計算障害</div> <div>12. 注意障害・実行機能障害・学習の障害</div> <div>13. 感情、意欲、動機づけの障害</div> <div>14. 高次脳機能障害における神経心理学に基づくリハビリテーションについて</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>認知・行動・情動といった人間の心の働き、および脳の損傷によって生じるその障害についての基礎心理学的な知識や考え方を学ぶ。また、その障害に対して、リハビリテーション（機能回復）などの介入方法の考え方や具体的な方法についても合わせて学ぶこととする。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>心理学の生物学的な基盤について、特に人間の心の働きの不調を理解する上で役立つ知識を身につけることができるとともに、個人の認知に関してその程度や症状を深く理解するきっかけがえられる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>講義に先だち、各回のテーマと用語について事前に調べておくことがのぞましい。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>基本的な概念や用語の復習を行い、覚える努力をすること。脳機能と心の関係についての理解を深める。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>基本的な概念や用語の予習・復習を行い、覚える努力をすることが必要となる。心とその機能を理解することに対して知的好奇心旺盛な姿勢を期待する。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 発表、小レポート30%</div><div>(2) 試験70%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 知覚・認知</div><div>・ 感情・意欲・動機づけ</div><div>・ 障害</div><div>・ リハビリテーション</div><div>・ 神経心理学的検査</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

社会心理学		SOCI-D-300										
担当教員：西村 洋一												
学期： 集中講		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目									
単位： 2		コード： 1D201317										
学部教育の関連目		授業計画										
<div>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</div>		01. 社会心理学とは？ 02. 自己① 自分自身を把握する：自己意識 03. 自己② 自己を認識し、示す：自己概念、自己呈示、自己開示 04. 自己③ 自尊感情について理論と実体験から理解する 05. 対人認知とは？ 06. ステレオタイプ：その維持と変容 07. 人を好きになったり嫌いになったりするメカニズム：対人魅力 08. 恋愛関係を社会心理学の観点から理解する 09. コミュニケーションとは？ 10. 非言語的コミュニケーション 11. 説得的コミュニケーションと態度変容 12. 自分自身のコミュニケーションを振り返る 13. 集団と個人 14. 集団意思決定 15. メディアと社会										
カリキュラム上の位置付け												
【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目												
(1) 内容												
社会心理学分野は自己、他者、そして集団やコミュニティにおいて生起する諸問題について、実証科学的な視点から分析していくことを目指している。講義では、社会的状況における個人内過程からコミュニケーション、集団における社会的影響、メディアと社会の関係まで社会心理学的視点から解説していく。												
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)										
社会心理学の幅広い知識・技術を学ぶだけでなく、それらに基づいて、自ら研究を計画し、データを収集・解析し、論文を作成する実証研究を実際に推進できる力を身につける。日常の出来事を自ら積極的に捉え直し、実際の諸問題の問題解決に取り組む力を伸ばしていく。		参考書等を用いて講義内容に関連するテーマについてあらかじめ調べておくこと。										
		準備学習(復習)										
		講義内容をまとめた上で関心を持ったことや疑問点について調べ、自ら深めること。										
受講者に対する要望		評価方法										
授業に関連する新聞記事に目を通して情報収集しておく。 関連用語を事典で調べておく。		<table><tr><td>(1) レポート</td><td>40%</td><td>講義日ごとに実施</td></tr><tr><td>(2) 期末試験</td><td>50%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 抗議への参加度</td><td>10%</td><td></td></tr></table> <div>レポートは講義の内容の理解度や講義内の活動への参加度を測るものとして実施するため、講義および活動への積極的な参加を求める。</div>		(1) レポート	40%	講義日ごとに実施	(2) 期末試験	50%		(3) 抗議への参加度	10%	
(1) レポート	40%	講義日ごとに実施										
(2) 期末試験	50%											
(3) 抗議への参加度	10%											
学びのキーワード		教科書										
<ul style="list-style-type: none">自己対人認知対人魅力社会的影響インターネット利用		参考書										

心理療法		PSYC-D-400	
担当教員： 藤掛 明			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 2		コード： 1D201620	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス</div> <div>02. 心理療法と臨床の知（相互作用性）</div> <div>03. 心理療法と臨床の知（多義性）</div> <div>04. 心理療法と臨床の知（個別性）</div> <div>05. 臨床心理学の中の心理療法</div> <div>06. 心理療法と心理テスト</div> <div>07. 来談者中心療法</div> <div>08. 精神分析</div> <div>09. 認知行動療法</div> <div>10. ナラティブ・セラピー</div> <div>11. 家族療法</div> <div>12. 芸術療法①コラージュ療法の実施方法</div> <div>13. 芸術療法②コラージュ療法における統合</div> <div>14. 芸術療法③コラージュ療法と色彩</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>心理療法の前提となる「臨床の知」を理解し、そのうえで、各種心理療法の方法と効果・限界について学ぶ。またコラージュ療法については実演式に体験し、心理療法を進める上での実際的問題についても学ぶ。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>心理療法の目的、対象、およびそれぞれの心理療法の効果と限界について理解することを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、指示された予習課題を確実に行ってください</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回、提示される復習課題に沿って、学習したことをまとめてください</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>準備学習により、各回テーマを理解した上で、授業に臨んでください。授業中は、積極的に発言するとともに、他者の発言を傾聴する姿勢を持ってください。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 参加度25%</div><div>(2) ミニテスト25% 適宜授業内で行う</div><div>(3) 授業内テスト50% 最終授業内で行う</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・臨床の知</div><div>・心理療法の種類</div><div>・コラージュ療法</div></div>		<div>教科書</div> <div>毎回資料を配付する</div> <div>参考書</div> <div>「描画テスト・描画療法入門」（藤掛明著、金剛出版）</div>	

児童臨床心理学		PSYC-D-400
担当教員：村上 純子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：2 コード：1D201822
<div>学部教育の関連目</div> <div><small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small></div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 発達理論①（乳児期から幼児期） 03. 発達理論②（学童期） 04. 発達理論③（思春期） 05. 児童に対する心理アセスメント①（理論と実施における注意） 06. 児童に対する心理アセスメント②（方法） 07. 遊戯療法概説①（理論） 08. 遊戯療法概説②（事例） 09. 実践領域①（教育） 10. 実践事例①（教育） 11. 実践領域②（司法・矯正） 12. 実践事例②（司法・矯正） 13. 実践領域③（医療・福祉） 14. 実践事例③（医療・福祉） 15. まとめ</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回指示する</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回指示する</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 参加度 20% (2) レポート 80%</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>児童発達心理理論を踏まえた上で、それに基づいた、臨床手法としての心理アセスメント、遊戯療法を学び、現行の実践活動について学習を深める。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>児童臨床心理学において基本的な事項となる、発達理論を踏まえたうえで、臨床現場における児童臨床心理学的援助の実際と、関連の仕事の外観し、児童臨床心理学分野の実践活動への理解を深めることを目指す。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回、予習し、各回のテーマを理解して授業に臨んでください。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・発達理論 ・個人差 ・適応</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

障害児（者）心理学		PSYC-D-200
担当教員： 小島 道生		
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D201909
<div>学部教育の関連目</div> <div><small>【D】 心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small></div>		<div>授業計画</div> <div>01. 障害とは 02. 視覚障害の心理と支援 03. 聴覚障害の心理と支援 04. 運動障害の心理と支援 05. 病弱児（者）の心理と支援 06. 知的障害の心理と支援(1) 07. 知的障害の心理と支援(2) 08. 自閉スペクトラム症の心理と支援(1) 09. 自閉スペクトラム症の心理と支援(2) 10. 自閉スペクトラム症の心理と支援(3) 11. 自閉スペクトラム症の心理と支援(4) 12. LDの心理と支援(1) 13. LDの心理と支援(2) 14. ADHDの心理と支援 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>障害の概念など、障害に関する基礎的な事柄について解説します。その後、視覚障害、聴覚障害、発達障害、知的障害など、それぞれの障害の診断基準や原因などの基礎的な事柄を解説するとともに、心理・行動特性と支援方法について講義します。支援方法には、心理検査などのアセスメント、さらにはSSTなどの具体的な支援方法についても体験的な演習を通して学んでいきます。それぞれの障害について全般的な理解を深めるとともに、障害児（者）に対して、根拠に基づく科学的な支援方法の在り方について講義と演習を通して、学んでいきます。なお、講義では視聴覚機器も活用しながら、障害特性などについて理解を深めます。 ※「認定心理士」資格では、「選択科目g」（臨床心理学・人格心理学）に区分される科目である。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>共生社会の実現が求められる今日、障害のある人の心理などを学び、それぞれの障害について適切な理解を深めることは大切です。本講義では、それぞれの障害に関する診断基準や原因などの基礎的な事柄について説明できるようになること、さらには心理・行動特性と具体的な支援方法の概論について説明できるようになることを目標とします。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>障害のある人の心理と支援について、積極的に調べてほしいと思います。また、演習活動では、心理学の知見をいかした支援方法について学びます。したがって、心理学などについても、興味・関心を広げて欲しいと思います。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>講義で指示した用語等について、調べてきてほしい。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>心理特性、行動特性というキーワードをもとに、各講義内容を振り返ってほしい。
</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 講義内容の知識確認テスト60%</div><div>(2) 授業内での発言と参加態度20%</div><div>(3) ミニレポート課題20%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 障害</div><div>・ 発達</div><div>・ 心理特性</div><div>・ 行動特性</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>【参考書】「障害児心理入門」（井澤信三・小島道生著／ミネルヴァ書房）</div>

教育測定・評価法		PSYC-D-300	
担当教員：大橋 良枝			
学期：週間授		科目：専門科目	必修・選択：選択必修科目
単位：2		コード：1D202023	
<div>学部教育の関連目</div> <div><small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small></div>		<div>授業計画</div> <div>01. 測定学概論—身の回りにある測定 02. 測定と評価の嘘と本当—測定法と評価法の活用と限界 03. 母集団と標本の関係—推定 04. 推定のために—平均・偏差・分布 05. 教育評価—フィードバック 06. 教育場面における測定と評価① 07. 教育場面における測定と評価② 08. 心理臨床場面における測定と評価① 09. 心理臨床場面における測定と評価② 10. より高度な統計—t検定 分散分析 回帰分析 11. より高度な統計の実際—演習① 12. より高度な統計の実際—演習② 13. 調査実習① 14. 調査実習② 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目 【D】認定心理士認定資格(D学科)：副次科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>前半の講義の中で、身近な現象を題材として、測定学の基礎を押さえた上で、現場における心理測定と評価の位置づけを学ぶ。その後、実際にそれぞれの関心に基づいて、測定と評価の実習を行い、その習熟度から授業評価がなされる。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>心理統計学の基礎となる測定学の理解に加え、測定法を身に付け実行できるようになることを目指す。また、教育における評価の活用方法と禁忌について理解することを目指す。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の予習箇所を熟読しておくこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>練習問題を解きながら理解を確認すること。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 小テスト60%</div><div>(2) 最終レポート40%</div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>心理学実験実習を履修していること。
四則計算が出来る電卓を持参すること。
心理統計に関する教科書として、
山田剛史・村井潤一郎(2004). よく分かる心理統計. ミネルヴァ書房. を基本とするが、各自で自分にあった使いやすいテキストを探すこと。</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>ダレル・ハフ、高木 秀玄 『統計でウソをつく法—数式を使わない統計学入門 (ブルーバックス)』 (講談社)</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・測定 ・評価 ・尺度 ・記述統計と推測統計</div>			

心理学実験を対象としたコンピュータ実習		PSYC-D-100
担当教員： 渡辺 正人 学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 コード： 1D202124		
学部教育の関連目 <small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small>	授業計画 01. ガイダンス 02. エクセルの使用基本 03. 理論① 統制の問題と χ^2 二乗検定 04. 実習① 統制の問題と χ^2 二乗検定 05. ディスカッション① 統制の問題 06. 理論② 標本数の少ない計画と累積度数図相関 07. 実習② 標本数の少ない計画と累積度数図相関 08. ディスカッション② 標本数の問題 09. 実習③ 仮想データを用いた、t検定 10. 実習④ 仮想データを用いたANOVA 11. 実習⑤ 仮想データを用いたピアソンの積算相関 12. 実習⑥ 仮想データを用いた因子分析 13. 実習⑦ 仮想データを用いた単回帰分析 14. 実習⑧ 仮想データを用いた重回帰分析 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け 【D】認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目 【D】認定心理士認定資格(D学科)：副次科目		
(1) 内容 実習を中心として、データの整理・分析を行う。 ※「認定心理士」資格では、「基礎科目b」(心理学研究法)に区分される科目である。		
(2) 学びの意義と目標 心理学で行う実験で得られた各種のデータを、表計算ソフトを用いて集計し整理する方法を習得し、整理した実験の結果を表やグラフで表し、実験結果の考察に利用できる形で出力することができ、コンピュータを用いて心理学実験実習のレポートが作成する技術を身につけることが目的である。また、特に統計処理の際に、実際に直面しやすい困難として、統制の問題、標本数の問題などについても扱う。	準備学習(予習) 各授業で使用するデータの準備、作業の確認。	
	準備学習(復習) 授業内で理解できなかったところは必ず確認しておくこと	
	評価方法 (1) 各実習での作業に関する習熟度 100%	
受講者に対する要望 実習が多いので、集中して参加すること。		
学びのキーワード ・統計 ・表計算ソフト ・レポート作成	教科書 深谷 澄男、伊藤 尚枝、喜田 安哲 『心理学データのエクセル統計』(北樹出版)	
	参考書	

心理検査実習		PSYC-D-300
担当教員：水谷 勉		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1D202225
<div>学部教育の関連目</div> <div><small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small></div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 心理検査の歴史的背景 03. 心理検査の目的、方法、倫理的配慮 04. 言語発達検査（PVT-R絵画語い発達検査）①講義と実習 05. 言語発達検査（PVT-R絵画語い発達検査）②解釈とレポートの書き方 06. 知能検査（田中ビネー知能検査V）①講義と実習 07. 知能検査（田中ビネー知能検査V）②解釈とレポートの書き方 08. 知能検査（WISC-IV知能検査）①講義と実習 09. 知能検査（WISC-IV知能検査）②解釈とレポートの書き方 10. 知能検査（WISC-IV知能検査）②解釈とレポートの書き方 11. 認知機能検査（K-ABC心理教育アセスメントバッテリー）②解釈とレポートの書き方 12. 認知機能検査（DN-CAS認知評価システム）①講義と実習 13. 認知機能検査（DN-CAS認知評価システム）②解釈とレポートの書き方 14. 事例による学習 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>子どものこころの発達や障害を理解する上で、心理検査は欠かすことのできない重要な道具である。本実習では、子どもの発達の評価に関連する基本的な心理検査について、講義と実習を通して学ぶ。また実際の事例の検討から検査結果の解釈の方法や、それを子どもの支援につなげる方法について学習する。子どもの発達とその障害に関する科目を履修し、基礎知識を習得していることが望ましい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>心理検査の目的と意義を理解し、正しく実施・採点を行うことができる。また、検査結果をもとに子どもの特性を分析・把握し、支援方法を考えることができる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各実習の事前に内容や用語等について調べておくことが望ましい。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>各実習の事後にレポートをまとめて提出すること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 出席、実習、発表等の授業への参加の程度</div><div>60%</div><div>(2) 毎回の課題レポート</div><div>40%</div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>検査の実習を多く取り入れるため、それらに積極的に参加すること。実習の前に、それぞれの検査の基本的な内容について調べておくことが望ましい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・心理検査</div><div>・言語発達検査</div><div>・知能検査</div><div>・認知機能検査</div></div>	<div>教科書</div> <div>前川 久男、梅永 雄二、中山 健 『発達障害の理解と支援のためのアセスメント』（日本文化科学社）</div> <div>参考書</div>	

<div>情報処理演習 A</div> <div>PSYC-D-200</div>	
担当教員： 渡辺 正人 学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 コード： 1D202327	
<div>学部教育の関連目</div> <div> <small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small> </div>	<div>授業計画</div> <div> 01. ガイダンス 02. 情報処理概論① 測定の妥当性と信頼性・尺度の種類 03. 情報処理概論② 記述統計学① 04. 情報処理概論③ 記述統計学② 05. 情報処理理論④ 推定統計学① 06. 情報処理理論⑤ 推定統計学② 07. データの情報化① グラフとデータの関係 08. データの情報化② グラフの作成 09. 心理学論文の書き方① 10. 心理学論文の書き方② 11. 情報処理実習①（実際にグループで計画を立て、データを収集処理し、レポート化したうえで、プレゼンテーション） 12. 情報処理実習② 13. 情報処理実習③ 14. 情報処理実習④ 15. 発表会とまとめ </div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div> 【D】認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目 【D】認定心理士認定資格(D学科)：副次科目 </div>	
<div>(1) 内容</div> <div> 前半は初歩の統計学の理論とデータの提示の仕方について、また論文の書き方について学ぶ。また後半では、グループ演習の形式で、関心のある事項についてデータ収集・処理し、レポート化することとパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行うことを課す。 ※「認定心理士」資格では、「基礎科目b」（心理学研究法）に区分される科目である。 </div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> 心を数量化、情報化するという手続きを身につけるのに必要な知識、技術の基礎を身につける。また、心理学の論文において、数量化・情報化されたデータをどのように提示することが求められているかについても学習する。 </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> 基本的操作は事前に確認しておくこと。 </div>
	<div>準備学習(復習)</div> <div> 授業で習うことだけではなく、何度も授業外で改訂を繰り返して、よりよい図化が可能なように習熟すること。 </div>
	<div>評価方法</div> <div> (1) 毎回、その時間の課題提出をし、その到達度など 100% </div>
<div>受講者に対する要望</div> <div> 実習作業が多いので集中して受講すること。 </div>	
<div>学びのキーワード</div> <div> ・ 情報処理 </div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div> 【参考書】授業内で指示する。 </div>

情報処理演習B		PSYC-D-200
担当教員： 渡辺 正人		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1D202428
学部教育の関連目 <small>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ</small>		授業計画 01. ガイダンス 02. 情報処理演習Aの復習テスト—記述統計データグラフ化の実施 03. テスト解説—記述統計データのグラフ化の復習 04. 推定統計学概説① 05. 推定統計学概説② 06. 理論① t検定の理論と表現方法 07. 実習① エクセルを用いたt検定の実際 08. 理論② ANOVAの理論と表現方法 09. 実習② エクセルを用いたANOVAの実際 10. 理論③ χ 二乗検定の理論と表現方法 11. 実習③ エクセルを用いた χ 二乗検定の実際 12. 理論④ ピアソンの積算相関係数の理論と表現方法 13. 実習④ エクセルを用いたピアソンの積算相関係数の実際 14. そのほか高度な統計手法とSPSS 15. まとめ
カリキュラム上の位置付け 【D】認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目 【D】認定心理士認定資格(D学科)：副次科目		
(1) 内容 理論の座学と並行して、教員が用意した仮想データや実際のデータをエクセルで処理することを重ねる。また、その結果については毎回レポートにまとめ、処理したデータを表現する能力を磨いていく。 ※「認定心理士」資格では、「基礎科目b」（心理学研究法）に区分される科目である。		
(2) 学びの意義と目標 心理学に必要な基礎的な統計処理をコンピューターで行うことができるようになること。具体的には、記述統計データのグラフ化、基礎的な推定統計（t検定、ANOVA、 χ 二乗検定、ピアソンの積算相関係数）の理解、使用、表現を身につけることである。		準備学習(予習) 基本的な操作は事前に確認しておくこと
		準備学習(復習) 授業で習うことだけでなく、何度も授業外で改訂を繰り返して、よりよい図化が可能なように習熟すること。
受講者に対する要望 実習作業が多いので集中して受講すること。		評価方法 (1) 毎回、その時間の課題提出をし、その到達度など 100%
学びのキーワード ・ 統計処理		教科書 参考書 【参考書】授業内で指示する。

知的障害児の心理		PSYC-D-200
担当教員： 今中 博章、小島 道生		
学期： 前期（ 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1D202529
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 知的障害に関する基礎知識（1）障害の概念および定義①日本の定義の変遷、②AMMR（アメリカ精神遅滞学会）の定義</div> <div>02. 知的障害に関する基礎知識（2）知的障害の分類</div> <div>03. 知的障害児の認知的特徴（1）視覚、聴覚</div> <div>04. 知的障害児の認知的特徴（2）言語、学習</div> <div>05. 知的障害児の行動的特徴</div> <div>06. 知的障害児の社会性および情動の特徴</div> <div>07. 知的障害と二次障害（心身症および行為障害等を含む）</div> <div>08. 知的障害に対する心理アセスメント（1）知能に関するアセスメント（ビネー式知能検査、WISC、K-ABC、DN-CAS）</div> <div>09. 知的障害に対する心理アセスメント（2）発達に関するアセスメント（津守粗毛式、KIDS、遠城寺式、PVT検査）</div> <div>10. 知的障害に対する心理アセスメント（3）社会適応に関するアセスメント（S-M式社会能力検査、ヴァインランド社会成熟尺度等）</div> <div>11. 知的障害児の認知発達に関する支援（1）ことばの発達支援、絵本を利用した発達支援</div> <div>12. 知的障害児の認知発達に関する支援（2）コンピュータを利用した視覚認知支援、読み書きに関する発達支援</div> <div>13. 知的障害児の社会性および情動発達に関する支援</div> <div>14. 知的障害および知的障害の二次障害への対応</div> <div>15. 全体の振り返り</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本授業は、第一に知的障害の概念に関する基礎的知識を学び、第二に知的障害児の認知、行動、社会性および情動に関する特性を学ぶ。第三に支援に必要なとなる心理アセスメントの概略を学んだ上で、第四に、支援の実際を学ぶことができる構成とした。このことにより、知的障害の心理特性を理解した上でのより実践的な発達支援ができる教師を養成したい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1）知的障害に関する基礎知識を身につけることができる。</div> <div>2）知的障害児の認知的特徴、行動的特徴、社会性および情動の特徴について理解できる。</div> <div>3）知的障害児の二次障害について理解できる。</div> <div>4）知的障害児に対する心理アセスメントについて理解できる。</div> <div>5）知的障害児の認知発達、社会性および情動発達への支援に関する知識を得ることができる。</div> <div>これらを通して、特別支援教育に携わる教師に必要な知的障害児の心理特性とその支援を学ぶことができる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各回の授業内容に関する基本的概念や用語について事前に調べておくこと。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配られた資料等の整理を通して、理解の確認をしておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>基本的概念や用語など、覚える努力が必要となる。ノート、資料のファイリングなど、各自で自分にあった整理方法、学習方法を考えてください。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業における発表、小レポート等 60%</div> <div>(2) 試験 40%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 知的障害</div> <div>・ 心理特性</div> <div>・ 心理アセスメント</div> <div>・ 支援方法</div>	<div>教科書</div> <div>梅谷 忠勇、堅田 明義 『知的障害児の心理学』（田研出版）</div> <div>小池 敏英、北島 善夫 『知的障害の心理学―発達支援からの理解』（北大路書房）</div> <div>参考書</div>	

肢体不自由児の心理・生理・病理		PSYC-D-200
担当教員：川間 健之介		
学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位：2 コード：1D202610
<div>学部教育の関連目</div> <div>環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける 「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 肢体不自由とは 02. 運動機能の障害 中枢神経系・末梢神経系の構造と働き 03. 運動機能の障害 肢体不自由の発生機序について 04. 肢体不自由を起こす疾患 脳性疾患、脊椎・脊髄疾患、骨疾患、関節疾患、形態異常等 05. 肢体不自由を起こす疾患 脳性まひについて 06. 運動障害が子どもの発達に及ぼす影響 運動と認知 07. 運動障害が子どもの発達に及ぼす影響 社会性 08. 脳性まひ児の認知特性 09. 言語・パーソナリティー・学力 10. 中途障害者の心理過程 11. リハビリテーションプロセスとその課題 12. 運動障害のアセスメントについて 医学的側面からの把握 13. 運動障害のアセスメントについて 心理的・教育的側面からの把握 14. 運動障害児の支援について（１）視知覚の特性に配慮した教科指導 15. 運動障害児の支援について（２）身体を通したコミュニケーション指導</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義内容は、まず初めに運動障害（肢体不自由）が生じる発生機序を生理・病理学的に理解し、また、運動障害を引き起こす疾患についての理解ができるように構成されている。その上で、障害が発達に及ぼす心理的影響と、中途障害の場合の自己概念の変容がもたらす心理的影響が理解できる。運動障害（肢体不自由）児へのアセスメントの基礎を学び支援を考えることが出来る構成としている。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 運動機能に関して生理学的に理解し、運動機能障害（肢体不自由）をもたらず病理を理解できる。 2) 運動機能障害（肢体不自由）をもたらず疾患について理解できる。特に脳性まひについての理解ができる。 3) 運動機能障害（肢体不自由）が及ぼす子どもの心理的発達への影響を理解できる。 4) 運動機能障害（肢体不自由）が及ぼす人格への影響を理解できる。 5) 運動機能障害（肢体不自由）のアセスメントと支援の方法について理解できる。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる肢体不自由児の心理特性に関する知識を得、教育の場で知識を実際に活用できる教員の育成を図る。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で指示された用語等は、事前に調べる事</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>特別支援教諭を目指す者として、学ぶ姿勢に責任をもって望んでほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義内容を振り返り、疑問に思った内容をについては、再度、復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 講義内容に関するテスト 60% (2) 課題レポート 40%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 肢体不自由とは ・ 中枢神経系・末梢神経系の理解 ・ 脳性麻痺 ・ 心理特性の理解 ・ 支援の実際</div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div>	<div>参考書</div>

病弱児の心理・生理・病理 / 病弱児の心理		PSYC-D-200
担当教員：岡澤 慎一、竹田 一則		
学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：2 コード：1D202731
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 病弱・虚弱児とは 定義、疾患と病気の違い 02. 脳の構造と機能（1）中枢神経系の構造 03. 脳の構造と機能（2）中枢神経系の機能 04. 脳の構造と機能（3）高次脳機能障害 05. てんかん（1）概要 06. てんかん（2）教育的対応の実際 07. 体温・呼吸・摂食の生理と病理 08. 摂食の仕組みとその障害 教育的対応の実際 09. 主要な疾患の理解 アレルギー疾患、糖尿病・肥満、腎疾患 10. 主要な疾患の理解 心疾患、悪性新生物、心身症等 11. 発達段階からみた病弱児の心理：幼児期、学童期、青年期 12. 入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響（1） 13. 入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響（2）事例でのミニグループ・ワーク 14. ターミナル期の子どもの心理 15. 健康行動理論（心理モデルについて）健康信念モデル、社会的認知理論（変化のステージモデル）、自己効力感</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>授業は、到達目標を1から7まで設定し、病弱に関わる生理、病理機能とその教育的配慮、病弱に関わる主な疾患の理解、入院・治療が及ぼす心理的影響、子どもの発達期から見た心理的影響、健康行動理論の理解まで達成できるように構成している。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 病弱・虚弱の定義が理解できる。 2) 脳の構造と機能が理解できる。 3) 体温・呼吸・摂食などの機能およびその教育的支援について理解できる。 4) 疾患と病気の意味の違いを理解する。病弱・虚弱の原因となる主要な疾患について理解できる。 5) 入院・治療など生活環境の変化が病弱児の心理に大きく影響することが理解できる。 6) 子どもの発達（認知）水準が疾患の理解や治療活動への参加に影響すること、またどのような心理的反応が生じやすいかを理解できる。ターミナル期の子どもの心理が理解できる。 7) 健康行動理論を学ぶことで、健康と心理の関係を理解できる。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる病弱児の心理特性に関する知識を得、教育の場で知識を実際に活用できる教員の育成を図る。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>病児に対する意識を高めるために図書館で、病児に関する図書を検索しあらかじめ読み、各自、イメージを持って授業に望むこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>専門的知識を学ぶため、学習に取り組む意識をきちんと維持して講義に臨んでいただきたい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ内容で、理解が不十分と思われる部分の振り返りを確実にすること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) テスト 60% (2) レポート 40%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">病弱・虚弱の定義の理解脳の構造と機能の理解高次脳機能障害原因疾患の理解心理特性</div>	<div>教科書</div> <div>Karen Glanz, Frances Marcus Lewis, Barbara K. Rimer, 曾根 智史, 渡部 基, 湯浅 資之, 堀野 洋子 『健康行動と健康教育—理論、研究、実践』(医学書館) 竹田一則 『該体不自由児、病弱・身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学』(ジヤース教育新社)</div> <div>参考書</div>	

情緒障害児の心理		PSYC-D-300	
担当教員： 吉井 勘人			
学期： 集中講		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 2		コード： 1D202832	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける		01. 情緒障害とは 02. 情緒障害と発達障害 03. 広汎性発達障害の心理的特徴 04. 広汎性発達障害の行動特徴 05. 発達障害の二次障害としての情緒障害 06. 発達障害の二次障害の心理的・行動的特徴（１）：適応障害（不登校） 07. 発達障害の二次障害の心理的・行動的特徴（２）：抑うつ、非行 08. 教育臨床と教育相談 09. 情緒障害児（発達障害児を含む）に対する行動問題の指導 10. 情緒障害児（発達障害児を含む）に対する社会的スキルの指導 11. 情緒障害児（発達障害児を含む）に対するコミュニケーション指導 12. 教師および保護者へのコンサルテーション 13. 介入の事例（１）：自閉症スペクトラム障害の事例 14. 介入の事例（２）：不登校の事例 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【D】特別支援学校教諭一種免許：選択科目			
(1) 内容			
本授業では、まず情緒障害（発達障害を含む）の基本的定義と、発達障害との関連について講義する。続いて、特別支援教育における情緒障害に関する今日の課題として、広汎性発達障害と、その二次障害（適応障害、選択性緘黙等）の心理的特徴および行動的特徴を概観する。さらに情緒障害児（発達障害児を含む）に対する指導の方法を学び、実際の介入の事例を通して、心理的・行動的特徴についての理解を深める。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) 情緒障害（発達障害を含む）の基本的定義を理解できる。 2) 広汎性発達障害の心理的特徴と行動特徴を理解できる。 3) 発達障害の二次障害（適応障害、選択性緘黙等）の心理的特徴と行動特徴を理解できる。 4) 情緒障害児（発達障害児を含む）に対する支援の基礎理論と方法を理解でき、またそれらの知識をもとに個々の事例の問題と対処方法を考えることができる。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる情緒障害児の心理特性に関する知識を得、教育の場で知識を実際に活用できる教員の育成を図る。		教科書『自閉症児のための社会性発達支援プログラム―意図と情動の共有による共同行為―』を事前に読んでおく。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
ASD児のコミュニケーションと社会的スキルの発達メカニズムと支援方法に関して、よく考え、その認識を深めてほしい。		自分の考えをまとめること、出来るだけ自分自身の考え方を尊重するように務める。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 自閉スペクトラム症（ASD） ・ 自閉スペクトラム症（ASD） ・ ASD児における社会的スキルの発達と特徴 ・ ASD児におけるコミュニケーション発達支援 ・ ASD児における社会的		(1) 受講態度 40% (2) 発表 20% (3) 小テスト 40%	
		教科書	
		吉井勘人『自閉症児のための社会性発達支援プログラム―意図と情動の共有による共同行為―』（日本文化科学社）	
		参考書	

体のしくみ・働き		HLTH-D-100	
担当教員： 小島 龍平			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 2		コード： 1D300100	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける		01. 保健科教諭にとっての解剖学・生理学とは 02. 骨格および骨の働き 03. 心臓および脈管系の構造と働き 04. 気管支および肺の構造と働き 05. 消化管の構造と働き 06. 肝臓・胆のう・膵臓の構造と働き 07. 腎臓の構造と働き 08. 尿管・膀胱の構造と働き 09. 代謝と体温 10. 内分泌系の構造と機能 11. 神経の興奮と伝達のしくみ 12. 脳の構造と機能 13. 末梢神経系の構造と機能 14. 感覚器官の構造と機能 15. 筋の構造・筋収縮と運動制御のしくみ	
カリキュラム上の位置付け			
【D】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：保健必修科目			
(1) 内容			
本講義は、保健科教諭として健康教育を行っていく上で、重要な細胞の構造、生命を維持するための機能（植物性機能）と外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を人体の生理機能から学ぶ構成としている。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1. 骨格の構造と働きが理解できる。 2. 細胞の構造、生命を維持するための機能（植物性機能）である、心・脈管系、呼吸器系、消化器系や腎・泌尿器系の解剖学的構造を把握し、それらと関連した機能を理解できる。 3. 外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を構成する、感覚機能、運動機能およびそれらを統御する中枢神経機能や内分泌機能を、疾患とも関連付けて理解できる。 4. 動物性機能に関わる神経・筋・感覚器の構造について理解できる。 以上のことから、健康教育を行う教員の基本的な知識である体のしくみと働きを理解し、健康の維持増進のための複雑な事象を科学的にとらえる態度を育てる。 人体を統合的に知識を構築する。		授業計画を参照し、教科書の該当箇所を、予め読んで疑問点などメモしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業中に示されたキーワードや大切だと強調した箇所は復習して、理解を確実にすること。なお、疑問点はメモして、教科書や参考書で調べ、それでも不明な点は次回に質問すること。 小テストを実施する。	
		評価方法	
		(1) 授業への参加状況・課題作成 60% (2) 定期試験・レポート 20% (3) 小テスト 20%	
受講者に対する要望		教科書	
ノートを丁寧にとること。特に、板書の図や、授業中に大切な箇所と強調したことはメモする。疑問点は質問をするなど、授業に積極的に参加すること。		吉岡利忠、菊川忠裕他 『生物・解剖生理学』（理工図書）	
学びのキーワード		参考書	
・食と健康 ・食育			

栄養学(食品学を含む。)		HLTH-D-100
担当教員： 大江 敏江		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D300202
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 栄養と健康（目標1） 02. 栄養素の消化・吸収・代謝（目標1） 03. 糖質とは何か（目標1） 04. 糖質の機能と効率的な摂取法（目標2） 05. タンパク質とは何か（目標1） 06. タンパク質の機能と効率的な摂取法（目標2） 07. 脂質とは何か（目標1） 08. 脂質の機能と効率的な摂取法（目標2） 09. ビタミンの必要性（目標1） 10. ミネラルの必要性（目標1） 11. 水分・食物繊維の必要性（目標1） 12. 栄養素の摂取量と消費量のバランス（目標2、3） 13. 日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド（目標2、3） 14. 幼児期・学童期・思春期の栄養学（目標1、2、3） 15. まとめ（目標1、2、3）</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：保健必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、①三大栄養素（糖質、タンパク質、脂質） ②微量栄養素（ビタミン、ミネラル） ③その他の栄養成分（水分や食物繊維など）について、その構造と消化・吸収・代謝システム、体内での機能、さらに、どのような食品に多く含まれどのように摂取することが好ましいかについて、理解できるように構成されている。また、栄養素の摂取量と消費量のバランス、体内での過剰状態や不足状態についても概説する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 食品と身体の双方に存在する栄養素の性質や機能に関する基礎知識を得ることができる。 2. 健康な身体づくりのための、効率的な栄養素の摂取法を理解できる。 3. 栄養素の摂取と消費のバランスが成長期の心身の健康・栄養状態に与える影響について、健康教育を実施し得る基盤をつくる。 以上により、栄養学の基礎的知識を整理すると共に、健康の維持・増進と疾病予防における食の重要性を理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>次週の教科書の該当箇所を読む。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>(1)授業ノート、教科書、配布プリントの順に読み返し理解する。(2)重要と指摘された箇所はよく復習する。(3)小テストは返却後復習し、よく理解する。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>予習、復習をしっかりと行いながら授業に参加することを望む。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 受講態度</div><div>20%</div></div><div><div>(2) 授業内小テスト</div><div>20%</div></div><div><div>(3) 中間テスト</div><div>30%</div></div><div><div>(4) 期末テスト</div><div>30%</div></div></div> <div>60%以上を合格とする。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 栄養素</div><div>・ 消化</div><div>・ 吸収</div><div>・ 食事</div><div>・ 健康</div></div>		<div>教科書</div> <div>吉田 勉 『わかりやすい栄養学』（三共出版）</div> <div>参考書</div>

免疫学・微生物学		HLTH-D-200
担当教員： 一幡 良利		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D300509
学部教育の関連目 【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける		授業計画 01. 微生物学とは何か（微生物の分類学的位置、原核生物と真核生物、細菌とウイルスの一般性） 02. 細菌学総論（細菌の形態、細菌の構造、細菌の増殖）（目標1） 03. 細菌学総論（遺伝情報の発現、遺伝子の変異）（目標1） 04. ウイルス学総論（ウイルスの構造、ウイルスの増殖）（目標1） 05. 感染と発病、感染対策（感染の経過、宿主と微生物の相互関係、感染防御機構）（目標2） 06. 予防接種と免疫療法（ワクチン、免疫血清、ヒト免疫グロブリン製剤）（目標3） 07. 免疫学とは何か 有用な免疫作用と望ましくない免疫作用について（目標3） 08. 抗原（免疫応答を引き起こす抗原の条件とは何か）、抗体（抗体の構造と機能、抗体の免疫反応における働き）（目標3） 09. 細胞1（マクロファージ、好中球、好酸球、好塩基球の免疫系における働き）（目標3） 10. 細胞2（T細胞・B細胞その他の免疫系における働きとその活性化について）（目標3） 11. 免疫成立の機序と腸管粘膜免疫（細胞の生成の場および免疫反応の場における免疫成立の機序、腸管粘膜局所免疫について）（目標3） 12. アレルギー（アレルギーとは アレルギーの仕組みについて）（目標4） 13. 栄養と免疫（栄養状態と免疫、種々の栄養成分の免疫への影響について）（目標4） 14. 自己免疫（自己免疫の成立機序、自己免疫病と自己免疫病の発病機構）（目標4） 15. まとめ（これまでの講義についての総括）
カリキュラム上の位置付け 【D】高等学校教諭一種免許：保健必修科目		
(1) 内容 本講義では、まず人の健康に外的に影響する微生物について概説する。次に外的な環境によって人の身体がどのように反応するのかについて免疫学を通して学ぶように構成されている。また、感染症の成立機序と感染予防などについて、栄養や自己免疫等の機能を通して理解できるように構成されている。		
(2) 学びの意義と目標 1. 微生物について理解できる。 2. 微生物と宿主の関係性、感染の機序と対策が理解できる。 3. 免疫学から抗原と抗体の関係を理解し、免疫機能をつかさどる細胞に関しての理解と免疫機序成立の過程について理解できる。 4. アレルギー、栄養と免疫の関連、自己免疫について理解できる。 これらを通して、外的環境と内的環境（身体）との相互作用によって人の健康が維持されていることを学び、よりよく生きようとする人の健康に働きかける保健科教諭の基本的知識を身につける。		準備学習(予習) 授業計画に沿って、教科書の次回該当箇所を予習のこと。
		準備学習(復習) 当日の講義箇所と関連の教科書部分を参照・復習し、疑問や不明の箇所をノートに記し、次回に質問してほしい。
受講者に対する要望 ノートを用意し、必ずノートをとる。不明な点は質問してほしい。 日常起きている感染症の話題に関心をもってほしい。		評価方法 (1) 授業内レポート 30% (2) レポート・定期試験 70%
学びのキーワード ・細菌・ウイルスの構造と増殖 ・遺伝子の変異と耐性菌の出現 ・免疫作用・免疫細胞・抗原と抗体 ・アレルギーとそのタイプ ・自己免疫と自己免疫疾患		教科書 高橋昌巳、一幡良利 『コメディカルのための微生物と感染予防』（桜雲会） 参考書

小児保健学		HESC-D-100
担当教員： 齊藤 理砂子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D300604
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 子どもの身体の解剖生理①（筋骨格・目・耳・歯）（目標１）</div> <div>02. 子どもの身体の解剖生理②（内臓の生理機能）（目標１）</div> <div>03. 子どもの健康状態の把握（目標１）</div> <div>04. 学校感染症①（第１種－エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱等）（目標２）</div> <div>05. 学校感染症②（第２種－インフルエンザ〈鳥インフルエンザを除く〉、百日咳等）</div> <div>06. 学校感染症③（第３種－コレラ、細菌性赤痢等）（目標２）</div> <div>07. 子どものアレルギー疾患①（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）（目標３）</div> <div>08. 子どものアレルギー疾患②（食物アレルギー、アナフィラキシーショック）（目標３）</div> <div>09. 子どもの腎疾患①（糸球体腎炎・尿路感染症）（目標４）</div> <div>10. 子どもの腎疾患②（ネフローゼ症候群・尿検査）（目標４）</div> <div>11. 子どもの心疾患①（先天性心疾患）（目標４）</div> <div>12. 子どもの心疾患②（川崎病・不整脈と心電図）（目標４）</div> <div>13. 子どもの糖尿病と肥満（目標４）</div> <div>14. 子どもの眼疾患・耳鼻咽喉疾患（目標５）</div> <div>15. 小児保健学のまとめ（目標１～５）</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目</div> <div>【D】 中学校教諭一種免許：保健必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、支援について概説する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患、障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 子どもの身体的機能を理解する。</div> <div>2. 学校感染症の特徴と支援について説明できる。</div> <div>3. 子どもの主なアレルギー疾患の特徴と支援について説明できる。</div> <div>4. 子どもの主な慢性疾患の病態と支援について説明できる。</div> <div>5. 子どもの眼疾患、耳鼻咽喉頭疾患の病態と支援について説明できる。</div> <div>以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかけるための実践的な知識・技能を身につける。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加し、現場に活かせるよう知識を習得してください。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 小児保健</div> <div>・ 子どもの健康課題</div>		
<div>教科書</div>		
<div>参考書</div> <div>衛藤 隆 『新世紀の小児保健』（日本小児医事出版社）</div>		

病と健康の科学		HLTH-D-100
担当教員： 中村 磐男		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D300710
学部教育の関連目		授業計画
【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. 健康を脅かす様々な要因（目標1） 02. 感染症とその予防1. 「感染」とはなにか（目標2） 03. 感染症とその予防2. 免疫と予防接種（目標2） 04. 感染症とその予防3. 結核とインフルエンザ（目標2） 05. 感染症とその予防4. コレラ、0157、ノロウィルス（目標2） 06. 感染症とその予防5. AIDS、MRSA （目標2） 07. 電離放射線、紫外線（目標1） 08. 熱中症と体温調節（目標1） 09. 成人病と生活習慣病、一次予防（目標3） 10. 悪性新生物とその予防（目標3） 11. 心疾患とその予防（目標3） 12. 脳血管疾患とその予防（目標3） 13. 糖尿病と合併症、およびその予防（目標3） 14. 健康の定義とプライマリーヘルスケア（目標4） 15. まとめ（目標1～4）
【D】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：保健必修科目		
(1) 内容		準備学習(予習)
本講義は、人類の健康に脅威となった疾病の原因とその予防について概説する。主な分野は、感染症、生活習慣病、環境要因に起因する疾病などである。健康とはなにか、人類はこの数百年に限っても、どのような病の脅威と戦ってきたかについても理解できるように構成されている。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)
1. 健康を脅かす様々な要因について理解する。 2. 感染症とその予防について理解する。 3. 生活習慣病の要因と予防について理解する。 4. 健康の定義とプライマリーヘルスケアについて説明できる。 以上を通して、健康の維持・増進と疾病予防について理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。		
受講者に対する要望		評価方法
ノートを必ず取ること。遅刻や欠席をしない、教室の前列に着席する、机の上に雑誌、スマートフォン、飲食物は置かないこと。 教科書「イラスト公衆衛生学」は、予習・復習のためにも、是非、入手してほしい。		
学びのキーワード		教科書
・感染と免疫 ・新興感染症、再興感染症、日和見感染、平素無害菌 ・生活習慣病、メタボリックシンドローム ・特定健診、健康寿命と平均寿命 ・健康の定義、プライマリーケア		
		参考書
		石川哲也ほか 『イラスト公衆衛生学』（教学社）

学校保健概論(安全を含む。)		HLTH-D-200
担当教員： 齊藤 理砂子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D300913
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（目標 1） 02. 学校保健概説Ⅰ（歴史的変遷・意義・関連法規）（目標 1. 2） 03. 学校保健概説Ⅱ（領域構造）（目標 4） 04. 児童生徒の発育発達と健康課題（目標 3） 05. 学校保健計画 法的根拠と意義・内容（目標 2） 06. 健康観察 意義（目標 3） 07. 健康診断 意義、法的根拠、方法指導（目標 2. 3） 08. 疾病管理 疾病の基礎知識（目標 1. 3） 09. 感染症予防 感染症の基礎知識、種類、処置（目標 1. 3） 10. 学校救急処置活動 学校における救急処置活動の意義、実際（目標 1. 3） 11. 学校環境衛生 法的根拠、学校環境衛生検査の実際（目標 1. 2. 3） 12. 学校健康相談活動 学校医・学校歯科医・養護教諭の行う健康相談（目標 1. 3） 13. 学校安全計画・危機管理 児童生徒の災害の実態、安全教育（目標 1. 3. 4） 14. 学校保健組織活動 意義・組織（教職員・児童生徒・地域）（目標 4） 15. まとめ（学校保健の今日的課題）（目標 1. 2. 3. 4）</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に指示される内容について調べておくこと。
</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：保健必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>指示された内容について学習すること。
</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、学校保健の目的・意義、関係法規等を概説した上で、学校保健計画、学校環境衛生、救急処置活動等の学校保健全般に関わることを理解できるように構成されている。さらに、子ども期における発育発達と健康課題、それらを踏まえた保健管理、健康教育について学習し、実態に応じた学校保健活動が展開できるために必要な知識や技術を学べるように構成されている。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 課題発表 30% (2) 授業振り返りレポート 20% (3) まとめのレポート 50%</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 学校保健の意義、制度、領域について説明できる。 2. 学校保健の関係法規について理解できる。 3. 学校保健にかかわる組織、関係機関、関係職員の役割を理解し、説明できる。 4. 学校保健の構造と関わる組織について考えることができる。 5. 学校保健推進の方法を理解し、必要なプレゼンテーション能力を身につける。 以上により、子ども期の身体的な健康に携わる者として学校保健について理解し、さらに今日的課題について考察し、保健管理、健康教育につなげた実践が展開できるようになるための基礎力を身に付ける。</div>	<div>教科書</div> <div>和田雅史・鈴木明 『現代学校保健学』（共栄出版）</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加すること</div>	<div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 学校保健 ・ 保健管理 ・ 児童生徒の健康課題 ・ 児童生徒の発育発達 ・ 学校保健組織活動</div>		

救急処置並びに実習		HLTH-D-200
担当教員： 齊藤 理砂子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D301305
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（授業の進め方の説明）①</div> <div>02. オリエンテーション（授業の進め方の説明）②</div> <div>03. 学校救急処置過程 保健室来室時の対応（目標1）①</div> <div>04. 学校救急処置過程 保健室来室時の対応（目標1）②</div> <div>05. 学校救急体制（校内役割と組織図等作成）（目標1. 2）①</div> <div>06. 学校救急体制（校内役割と組織図等作成）（目標1. 2）②</div> <div>07. 学校救急処置の基本（目標1. 2）①</div> <div>08. 学校救急処置の基本（目標1. 2）②</div> <div>09. けが・病気の対応（1）小学校（目標1. 3. 5）①</div> <div>10. けが・病気の対応（1）小学校（目標1. 3. 5）②</div> <div>11. けが・病気の対応（2）中学校（目標1. 3. 5）①</div> <div>12. けが・病気の対応（2）中学校（目標1. 3. 5）②</div> <div>13. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（1）こどもの場合（目標4）①</div> <div>14. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（1）こどもの場合（目標4）②</div> <div>15. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（2）大人の場合（目標4）①</div> <div>16. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（2）大人の場合（目標4）②</div> <div>17. けが・傷の処置（1）中学校・高校に多いけが（目標5）①</div> <div>18. けが・傷の処置（1）中学校・高校に多いけが（目標5）②</div> <div>19. けが・傷の処置（2）止血・包帯演習（目標5. 6）①</div> <div>20. けが・傷の処置（2）止血・包帯演習（目標5. 6）②</div> <div>21. けが・傷の処置（3）骨折等固定演習（目標5. 6）①</div> <div>22. けが・傷の処置（3）骨折等固定演習（目標5. 6）②</div> <div>23. 内科的訴えの対応（目標6）①</div> <div>24. 内科的訴えの対応（目標6）②</div> <div>25. 専門医による講義（目標1～6）①</div> <div>26. 専門医による講義（目標1～6）②</div> <div>27. 総合シミュレーション（目標1～6）①</div> <div>28. 総合シミュレーション（目標1～6）②</div> <div>29. まとめ（目標1～6）①</div> <div>30. まとめ（目標1～6）②</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】高等学校教諭一種免許：保健必修科目</div> <div>【D】中学校教諭一種免許：保健必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義と実習では、学校においての児童生徒の傷病知識、救急処置や対応技術を教授する。心肺蘇生法、AEDを用いた除細動の技術も習得できるように構成されている。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 保健科教諭として、医療的及び教育的側面から救急処置の過程を理解し、的確な判断と処置ができる</div> <div>2. 学校救急処置活動の基本的な知識を習得する。</div> <div>3. 学校救急処置の技術を体得する。</div> <div>4. 心肺蘇生法、AED除細動器の取り扱いを体得する。</div> <div>5. 校種別の傷病の特徴を知り、対応できる。</div> <div>6. 学校救急処置過程に準じて児童生徒の対応ができる。</div> <div>以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に指示される内容について調べておくこと。
</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>予鈴がなるまでに、身支度を整え、所定の位置に着いていること。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>指示された内容について学習すること。
</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・救急処置</div> <div>・学校救急処置</div> <div>・けがの対応</div> <div>・病気の対応</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 筆記試験50%</div> <div>(2) 実技試験50%</div>
		<div>教科書</div>
		<div>参考書</div> <div>プリントを配布する。</div>

環境衛生学		HLTH-D-100									
担当教員： 中村 磐男											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D301406									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 環境と健康 02. 水と健康、上水道普及と感染症 03. 上水処理法と水道水の水質基準 04. 下水道の目的と下水処理法 05. し尿処理と廃棄物処理 06. 食中毒(1)微生物を原因とする食中毒 07. 食中毒(2)自然毒および化学物質 08. 住居の環境衛生(1)温熱条件・熱中症 09. 住居の環境衛生(2)二酸化炭素・一酸化炭素・換気 10. 電離放射線、紫外線、マイクロ波、レーザー光 11. 環境の化学的条件 12. 公害と環境汚染(1)（環境基本法・大気汚染） 13. 公害と環境汚染(2)（水質汚濁と公害病） 14. 地球環境問題（温暖化、オゾン層破壊ほか） 15. まとめ</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：保健必修科目</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、水、空気、食品、日光、住居など、我々の周囲の環境と健康との関係について概説した上で、放射能の問題、公害の問題から環境汚染と健康の問題、および地球環境問題と健康の問題まで理解できるように構成している。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 水と健康の問題を理解できる。 2. 食品と健康の問題を理解できる。 3. 住居と健康の問題を理解できる。 4. 放射能と健康の問題を理解できる 5. 公害と健康の問題を理解できる。 6. 地球環境問題への理解が深まる。 以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の該当範囲については、予め、目を通しておくこと。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>講義中に強調した箇所、キーワード、終了時の小テスト、および、返却された前回の小テストで出来なかった箇所は、よく復習しておく。</div> <div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への参加度および課題へ取り組み</td><td>20%</td><td>積極性、着席位置</td></tr><tr><td>(2) 毎回の小テスト</td><td>30%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 授業内試験</td><td>50%</td><td></td></tr></table> <div>講義の終わりに、毎回、小テストを実施する。原則、次回に返却する。</div>	(1) 授業への参加度および課題へ取り組み	20%	積極性、着席位置	(2) 毎回の小テスト	30%		(3) 授業内試験	50%	
(1) 授業への参加度および課題へ取り組み	20%	積極性、着席位置									
(2) 毎回の小テスト	30%										
(3) 授業内試験	50%										
<div>受講者に対する要望</div> <div>教科書を必ず準備してほしい（「公衆衛生学」と共通）。ノートを必ず取ること。遅刻・欠席をしない、教室の前列に着席すること。机上に、雑誌、スマートフォン、飲食物など、講義に関係ない物は置かないこと。</div>		<div>教科書</div> <div>鈴木庄亮・久道茂 『シンプル衛生公衆衛生学』（南江堂）</div> <div>参考書</div>									
<div>学びのキーワード</div> <div>・水系感染症、緩速濾過と急速濾過、下水処理、活性汚泥法、浄化槽 ・微生物起因の食中毒、感染型と毒素型、自然毒、化学毒 ・温熱条件、感覚温度、熱中症、換気、二酸化炭素、一酸化炭素 ・環境基本法、四大公害、環境基準 ・地球環境問題、温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨</div>											

担当教員：中村 肇男

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1D301511

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

- 【D】高等学校教諭一種免許：保健必修科目
- 【D】中学校教諭一種免許：保健必修科目
- 【D】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

健康の維持増進に働きかけるための基礎となる公衆衛生に関する知識を身につけるため、本講義は、はじめに健康の概念から、保健衛生統計の意義とその理解の仕方まで概説する。次に、公衆衛生学では重要なテーマである感染症とその予防方法について解説し、疫学とは何であるのかについて理解できるように構成している。最後に、現代大きな問題となっている生活習慣病について触れ、成人保健の今日的課題が理解できるように構成している。

(2) 学びの意義と目標

1. 健康の定義、健康指標、および予防医学の概念について理解できる。
 2. 保健衛生統計について理解できる。
 3. 感染症とその予防について理解できる。
 4. 疫学の概念について理解できる。
 5. 成人保健について、生活習慣病とその予防、衛生行政の観点から理解できる。
- 以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。

受講者に対する要望

ノートを必ず取る習慣を身につける。教室のなるべく前の方に着席する。机の上に、雑誌、スマートフォン、飲食物等、講義に関係ない物は置かないこと。

学びのキーワード

- ・健康指標、人口動態、人口動態
- ・一次予防、二次予防
- ・疫学、記述疫学、分析疫学、患者・対照研究、コホート研究
- ・生活習慣病、メタボリックシンドローム、特定健診
- ・保健衛生行政、

授業計画

01. 健康の定義、健康指標、予防医学の概念
02. 人口動態統計・人口動態統計
03. 出生と死亡の動向
04. 生命表と平均余命・平均寿命
05. 医の倫理
06. 感染症とその予防
07. 免疫と予防接種、消毒
08. AIDSと性感染症
09. 疫学1. 疫学とは何か
10. 疫学2. 記述疫学と分析疫学
11. 生活習慣病とその予防
12. 健康増進、成人保健、老人保健
13. 地域保健、保健衛生行政
14. 医療保障、保健医療サービス
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書「シンプル衛生公衆衛生学」(春学期の「環境衛生学」と共通)を必ず購入し、次回の該当箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

講義中のキーワード、前回復習問題の誤答箇所、当日の復習問題の疑問点などは、教科書も参考に復習のこと

評価方法

- | | |
|-------------|-----------------|
| (1) 受講態度 | 20% 積極性、座席位置を含む |
| (2) 各回復習問題 | 30% |
| (3) 期末授業内試験 | 50% |

講義の終わりに、毎回、小テストを実施する。原則、次回に返却する。

教科書

鈴木 庄亮 『シンプル衛生公衆衛生学』(南江堂)

参考書

精神保健学

HLTH-D-200

担当教員： 助川 征雄

學期： 週間授 科目： 專門科目 必修・選択： 必修科目

単位：2 コード：1D301707

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

[D] 高等学校教諭一種免許：保健必修科目
[D] 中学校教諭一種免許：保健必修科目
[D] 社会福祉主事任用資格：選択科目
[D] 認定心理士認定資格(D学科)：副次科目
[D] 認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

(1) 内容

本講義は、子ども期における各精神疾患の特徴やアセスメントの方法について概説した上で、精神科治療の基本的な考え方や治療体系、心理療法、認知行動療法等を含めた治療支援活動についても触れる。また、学校における精神保健活動や教職員のメンタルヘルスについて理解できるように構成している。

(2) 学びの意義と目標

1. 精神保健の定義と健康に対する意義を理解できる。
 2. 子ども期に発症しやすい精神疾患とその治療の現状について理解できる。
 3. 幼児期・学童期・青年期に初めて診断される子ども期の精神疾患の特徴と療育のあり方について理解できる。
 4. 精神科治療の基本知識について理解できる。
 5. 学校における精神保健について理解できる。
 6. 職場のメンタルヘルスについて理解できる。
- 以上を通して、精神的な健康を保持するための環境や文化について知った上で、学校保健について深く考察できるようにになる。幅広く人間という存在を理解できるように保健科教員を目指す。

受講者に対する要望

精神保健(メンタルヘルス)が、障がい者だけではなく誰にとっても大切なことをしっかり受け止めること。

学びのキーワード

- ・精神保健福祉の歴史
- ・ライフサイクルと精神保健
- ・医学モデルからリカバリーモデルへ

授業計画

01. 精神保健の定義と意義（目標１）
02. 子ども期の精神疾患（気分障害の特徴と治療について）（目標２）
03. 子ども期の精神疾患（統合失調症の特徴と治療について）（目標２）
04. 子ども期の精神疾患（不安障害の特徴と治療について、子どものPDSと環境との関連に
05. 子ども期の精神疾患（心身症の特徴と治療について）（目標２）
06. 子ども期の精神疾患（パーソナリティ障害の特徴と治療について）（目標２）
07. 子ども期の精神疾患（物質関連障害の特徴と治療について）（目標２）
08. 幼児期・学童期・青年期に初めて診断される子ども期の精神疾患の特徴と療育（目標３）
09. 精神科治療の基礎知識 精神科治療の基本的な考え方、精神科の治療体系、薬物療法（向精神薬）と治療支援活動（目標４）
10. 精神科治療の基礎知識 心理療法、認知行動療法、リハビリテーション等（目標４）
11. 学校における精神保健（学校保健統計からみた精神保健の問題）（目標５）
12. 学校における精神保健（精神保健相談）（目標５）
13. 学校における精神保健（精神保健指導への取り組み）（目標５）
14. 学校における精神保健（保護者への対応、地域との連携、危機対応）（目標５）
15. 職場のメンタルヘルス（教職員等のメンタルヘルスについて）（目標６）

準備學習(予習)

2回目から、毎回、資料を配布するので、あらかじめ通読するなど予習をし、質問も適宜準備して授業に臨むこと。

準備學習(復習)

毎回、資料等を読み直し、わからない専門用語などは、その日のうちに調べておくこと。適宜、関連した宿題も課す。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業内レポート | 60% |
| (2) 平常点 | 40% |

教科書

参考書

健康科学		HLTH-D-100
担当教員： 和田 雅史		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D302408
学部教育の関連目		授業計画
【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーションー青少年期の健康課題 02. ライフスタイルの変化と身体への影響 03. 生活リズムの変化と身体異常 04. 自然環境の変化と健康 05. 遊びや運動の変化と発育発達 06. 運動不足が及ぼす身体への影響 07. 運動の効果と運動障害 08. 食生活の変化と健康課題 09. 肥満とその予防 10. ダイエット形態誤認 11. アレルギーの増加とその背景 12. 感染症と予防対策 13. 現代生活と精神の健康 14. 青少年期のストレス 15. まとめとテスト、およびその解説
学科一年次の必修科目		
(1) 内容		
現代社会に出現する青少年期の健康課題を取り上げる。社会構造や生活様式の変化とともに、子どもの発育発達や疾病構造に変化が起きていることに着目し、その成立要因の解明や予防の具体的方法について論じていく。特に学びの場である学校における教育保健学的観点から検討を加える。時代とともに、生活構造の変化によって私達の生活様式も変容していく。しかしながらその結果として身体の異常や歪みの出現、そして新たな疾病構造の変容をもたらした。そこでは、日々の身体活動や遊びのありかた、食生活の内容と食べ方、そして心のあり方やストレスの状況など精神の健康という様々な要因によって影響を受けているという視点から、子どもの身体の現状を考えていく。 従来、教育生理学の分野で研究されてきた「学齢期シンドローム」と呼ばれる子ども達の現状に目を向け、その研究成果を視野に入れて、子どもの健康問題を考えていく。 必ずしも簡易な医学的知識だけを享受することだけではなく、また予防教育という観点からだけではなく、子どもに即して健康の科学的認識を高めることにより、自己の健康をいかにして向上させることができるのか、また社会的にどのように子どもの健康や生命を守ることができるのかを検討していく。 講義では、子どもの生活現状に着目しつつ、なるべく身近にある子どもの健康課題を取り上げていく。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できうる科学的認識の育成を図る。学校を中心として、地域、家庭が子ども達の健康の維持増進を図るヘルスプロモーションスクールを構想することにより、将来受講者自身が活動していく場を想定し、その位置づけの一助になると考えられる。同時に受講者自身の健康維持を図ることにより、健康で長命な生涯を継続できる方法を考えていく。 歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方と、健康や生命は社会的に守られなくてはならないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
子どもの発育発達、青少年期の身体や健康問題に関心があり、健康の維持・増進をプロモートしようとする明確な意思があることを期待する。講義では、ディスカッションなどを多用することになるので、自らが考えること、積極的に発言することが重要である。		
学びのキーワード		評価方法
・健康課題 ・ヘルスプロモーション ・予防 ・教育保健 ・科学的認識		
教科書		参考書
「健康科学ーヘルスプロモーション」、和田雅史、齊藤理砂子著、聖学院大学出版		

知的障害児の生理・病理		HLTH-D-100
担当教員：勝二 博亮、舟橋 敬一		
学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1D302716
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（担当：舟橋） 02. 知的障害の定義（担当：舟橋） 03. 知的障害の類型（担当：舟橋） 04. ライフサイクルと障害（担当：舟橋） 05. 知的障害の病態生理（1）出生前の障害（担当：舟橋） 06. 知的障害の病態生理（2）胎生期の障害（担当：舟橋） 07. 知的障害の病態生理（3）周生期の障害（担当：舟橋） 08. 知的障害の病態生理（4）出生後の障害（担当：舟橋） 09. 脳機能の発達（1）胎生期から幼児期（担当：勝二） 10. 脳機能の発達（2）児童期から青年期（担当：勝二） 11. てんかんの病態生理（担当：勝二） 12. 発達障害の病態生理（1）自閉症スペクトラム障害（担当：勝二） 13. 発達障害の病態生理（2）学習障害・注意欠陥多動性障害（担当：勝二） 14. 知的障害・発達障害への教育的支援（担当：勝二） 15. まとめ（担当：勝二）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本授業では、まず知的障害の定義および類型と、定義に関連する病態生理学的所見について、ライフサイクル別に講述する。また脳機能の発達に関する講義を通して知的障害の病態生理特性について理解を深める。さらに知的障害に関連する発達障害、てんかんに代表される合併疾患についても触れる。その後、それぞれの特徴から教育的支援を進める際に配慮すべき点や支援の対象とすべき点などについて講義する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各回のキーワードについて参考書などで調べておくことが望ましい。
</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 知的障害について、病態生理学的側面をライフサイクルの観点から理解できる。 2) 知的障害に関連する発達障害、合併疾患等について病態生理学的側面から理解できる。 3) 医学的側面の理解にとどまらず、実際の教育的支援に生かすための病態生理学的特性を理解することができる。 これらを通して、本学が期待する特別支援教育に携わる教育者に必要な個体発生から青年期に至る子ども期の障害の生理・病理的な知識を得ることで、実際のケアや教育的支援ができる教員の育成を図る。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>教育実践とのつながりを意識しながら、主体的に学び取る姿勢で授業に臨むこと。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>基礎的な概念や専門用語が多く出てくるため、事典をあたるなどしてそれらを覚えるように努力すること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">知的障害の定義知的障害の病態生理脳機能の発達発達障害の病態生理教育支援</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 講義内容に関するテスト 60% (2) レポート 40%</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

世界のこども			
担当教員：寺崎 恵子			
学期：週間授		科目：	必修・選択：
		単位：2	コード：1D400101
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. こどもとおとな：問題提起 02. こどもの生活世界と権利：こどもがこどもとしてしあわせに生きること 03. 家族のなかのこども（1）生まれること 04. 家族のなかのこども（2）大きくなること 05. 家族のなかのこども（3）一人前になること 06. 家族のなかのこども（4）家庭と家族 07. 学びのなかのこども（1）知と技を得ること 08. 学びのなかのこども（2）話しことばと書きことば 09. 学びのなかのこども（3）学校に行くことと行かないこと 10. 学びのなかのこども（4）余暇と勉強 11. 遊びのなかのこども（1）自由と練習 12. 遊びのなかのこども（2）意味と無意味 13. 遊びのなかのこども（3）怖いものに出会う 14. 遊びのなかのこども（4）伝えあう 15. こどもとおとな：こどもらしさをめぐって	
(1) 内容			
こどもは、やがておとなになる。その過程には文化がかかわっている。こどもの生活世界は、時代や暮らしの環境のちがいによって様々である。それは、歴史や経済、そして社会に影響されているからである。と同時に、それらに影響を及ぼしているとも言えるだろう。こどもが生きる世界は、こどもとおとなとの相互性に成り立つのである。世界のこどもの生き方を、こどもとおとなの関わり合いに注目して理解したい。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
学びの意義は、こどもの生活世界を理解することにある。文化や環境の多様性に目を向けて広い視野をもつとともに、世界のこどもに共通する生き方を把握して、こどもがこどもとしてしあわせに生きること（ウェル ビーイング）についてじっくりと考えたい。		今回の内容について、調査しておく	
学びの目標は、こどもがしあわせに育つ過程にふれる人として、自身のことを誠実にとらえて表現し、互いに伝えあうことができるようになることにある。		準備学習(復習)	
		小レポートの内容も合わせて、ノート整理をする	
受講者に対する要望		評価方法	
こどもの生活世界に触れるには、細やかで大らかなセンスが求められる。毎日の生活のなかで、それぞれがセンスをみがく努力をすることを望む。		(1) 小レポート 70% 各回5点×14回 (2) 期末課題 20% 初回時に内容を説明する (3) ノート 10% 詳細を初回時に説明する	
学びのキーワード		教科書	
・ こども期とこども観 ・ こどもの生活世界と文化 ・ 遊びと学び ・ こどもの自由と権利・ウェル ビーイング ・ こどもとおとなの相互関係		使用しない。プリントを適宜 配布する。	
		参考書	
		授業の内容にあわせて、参考文献を紹介する。絵本を多用する。	

単位：2 コード：1D400202

教科書

単位：2 コード：1D400303

参考書

担当教員：喜田 敬

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1D400404

学部教育の関連目

【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

(1) 〈内容〉 「見るアート」は、視覚によって認識できるような芸術作品のことであり、絵画・彫刻・版画・写真などが含まれる。こどもは生まれたときから様々な視覚的刺激に囲まれて育つ。こどもが育つ過程で与えられる視覚刺激は、実に多様である。本講義では、様々な時代の人々が残した多様な芸術作品や、芸術作品として耐えうる絵本などを紹介、多角的に解説し、受講生が視覚芸術を味わい楽しめるようになることを目指している。

(2) 学びの意義と目標

芸術を生み出した人間理解にはじまり、民族、宗教、年齢の違いと芸術に目を向け、人間と芸術の関係を考える。

受講者に対する要望

絵画が好きな学生の受講を希望する。

学びのキーワード

- ・鑑賞
- ・発見
- ・比較
- ・言語化
- ・共有

授業計画

01. 宗教とアート「フランコ・カンタブリア」
02. ルネサンス(1) ローマ教会とギリシア哲学
03. ルネサンス(2) プロテスタントと北方ルネサンス
04. 透視画法
05. 浮世絵と印象派(1)
06. 浮世絵と印象派(2)
07. Walkabout 鑑賞(1)
08. Walkabout 鑑賞(2) ディスカッション
09. ミフィー「モンドリアンとマチス」
10. 子どもの絵と大人の目(1)
11. 子どもの絵と大人の目(2)
12. DBAE(1)
13. DBAE(2)
14. 絵本
15. まとめ

準備学習(予習)

配布したプリントを読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布したプリントを再読し、ノートとともにファイルする。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点・レポート | 80% |
| (2) 活動性 | 20% |

教科書

参考書

触れるアート		FART-D-100
担当教員： 喜田 敬 学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 コード： 1D400505		
学部教育の関連目 【D】 環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける	授業計画 01. 五感について 02. 触覚 03. フロッタージュ (1) 04. フロッタージュ (2) 05. 張子作り (1) 06. 張子作り (2) 07. 張子作り (3) 08. 新聞紙動物 (1) 09. 新聞紙動物 (2) 10. 新聞紙動物 (3) 11. 新聞紙動物 (4) 12. 積木の研究 13. 秋岡芳夫の世界 14. 触れる絵本 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容 (1) 〈内容〉 人の感覚器官の中で触覚は視覚や聴覚に比べ日ごろ取り上げられることが少ない。しかし、こどもが生まれてすぐに利用する感覚器官は、口の周りの触覚である。そしてその後も、気温や湿度など多くの情報を触れることを通して取り入れている。近年この触れることを媒介とした芸術や身体で感じることをアートと捉える動きがある。本講義では、紹介し解説する芸術作品についての知識を得るだけでなく、様々な素材に実際に触れることを通して、より深く理解することができるようにしていく。また、感触を味わい楽しむ芸術や絵本などに触れる機会を提供していきたい。	準備学習(予習) 配布したプリントを読んでおくこと。	
(2) 学びの意義と目標 ものに触れる感覚を通し、新しいじぶんを発見し、また新しい世界を発見する。		
受講者に対する要望 作ることに興味のある学生の受講を希望する。		
学びのキーワード ・ 見る ・ 触れる ・ 感じる ・ 作る ・ 考える	評価方法 (1) 活動性・作品 80% (2) レポート 20%	
	教科書 参考書	

食の文化		HLTH-D-300	
担当教員： 島崎 とみ子			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D400707	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 世界の食文化形成と環境【教科書P12～】、気候・風土と食（１）―麦・雑穀・乾燥地帯―【教科書P14、48～49】</div> <div>02. 気候・風土と食（２）―極北の食文化―【教科書P14～15】</div> <div>03. 日本の食文化形成と展開【教科書P23】、原始日本人の食（１）―三内丸山遺跡を例に―【教科書P42～43】</div> <div>04. 原始日本人の食（２）―海辺・水辺の暮らし―【教科書P42～43】</div> <div>05. 原始日本人の食（３）―吉野ヶ里遺跡を例に―【教科書P44～45】</div> <div>06. 古代日本の食―文書本簡からみた古代の食―【教科書P52～】、中世社会の食―草戸千軒遺跡を例に―【教科書P104～】</div> <div>07. 日本の気候・風土と食（１）―魚醤とナレズシ―【教科書P149】</div> <div>08. 日本の気候・風土と食（２）―味噌・納豆・テンペ―【教科書P64～】</div> <div>09. 日本の気候・風土と食（３）―豆腐・豆腐の加工品―【教科書P54～】</div> <div>10. 近世の食文化（１）―日本料理の形成と発展①―【教科書P83～85】</div> <div>11. 近世の食文化（２）―日本料理の形成と発展②―【教科書P86～87】、【教科書P88～89】</div> <div>12. 近世の食文化（３）―江戸時代の料理書―【教科書P45】、【教科書P53】</div> <div>13. 近世の食文化（４）―京都呉服商人の食と暮らし―【教科書P104～】</div> <div>14. 日本のやきもの―うつわと料理―【教科書P96～】</div> <div>15. 異文化の食―北京の家庭料理―【教科書P18】、筆記試験</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 選択必修科目</div> <div>【D】 高等学校教諭一種免許：保健選択科目</div> <div>【D】 中学校教諭一種免許：保健選択科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>世界の自然環境によって食文化は形成され、さらに社会環境によって影響される。また変化していく。食文化は長い歴史の中で、異文化の影響を受け、自然の恵みと、知恵と努力の積み重ねによって築かれ、展開されてきた。食文化的視点から、人々の食と暮らしをみていく。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>食の文化をいろいろな側面から焦点をあて、先人の知恵を学ぶことによって、今日の、そして今後の食のあり方を考えられるようになると思われる。食の文化に興味を持ち、関連する本などに多数触れ、自ら視野を広げてほしい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の関連ヶ所に目を通しておく。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>教科書の関連ヶ所に目を通しておく。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>食の文化の成り立ちに興味を持ちたい者の受講を望みます。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 筆記試験</div><div>(2) ミニテスト</div><div>(3) 毎回のまとめ</div></div><div><div>50%</div><div>30%</div><div>20%</div></div><div><div>期末に行う試験</div><div>前回の授業で学んだことの確認</div><div>授業まとめ、感想など</div></div></div> <div>期末試験結果のみに限らず、平常の授業の中で理解できているかを重視したい。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 食文化形成と環境</div><div>・ 原始日本人の食</div><div>・ 古代・中世の食</div><div>・ 近世の食とうつわ</div><div>・ 異文化の食</div></div>		<div>教科書</div> <div>江原 純子、石川 尚子 『日本の食文化―その伝承と食の教育』（アイケイコーポレーション）</div> <div>参考書</div>	

こどもの危機対応		SOCI-D-100
担当教員： 金谷 京子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D400808
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】 環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 災害とは 02. 天災と人災 03. 災害時のこどものケア 04. 事故とこども 05. 事故防止 06. 疾病とこども 07. 虐待とこども 08. 虐待予防 09. 学校といじめ 10. いじめの分析 11. こどもの貧困 12. リスクマネジメント 13. リスクマネジメント・危機予知 14. こどものこころのケア 15. まとめと評価</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>こどもにとっての危機をもたらす要因には、災害、事故、疾病、虐待、貧困、いじめ、事件、家庭崩壊、環境破壊などさまざまある。これらの危機にこどもが出遭ったときにこどもの心にもたらされる衝撃は大きい。こうした危機に出遭ったときに大人はどうケアしたらよいのか、また、このような危機を回避する、あるいは被害を最小にとどめるにはどうしたらよいか検討していく。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>グループワーク課題を調べてくる</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>他のグループの発表課題についてもまとめてみる</div> <div>評価方法</div> <div><div>(1) 課題発表20%</div><div>(2) レポート80%</div></div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 天災や人災に対する危機意識をもつ 2. こどもの危機予知ができるようにしていく 3. リスクマネジメントを学ぶ 4. 危機に出遭ったこどもの心理とケアについて理解する</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>グループワークに際し、積極的にグループ内の役割を果たすようにしてください</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 災害とこども</div><div>・ 現代社会とこどもの危機</div><div>・ リスクマネジメント</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

こども国際協力		INTL-D-200									
担当教員： 田島 伸二											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D400909									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】 環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. こども国際協力の楽しさ・すばらしさー私の国際協力活動から</div> <div>02. アジアや欧米で行ってきたユネスコ活動の紹介＋議論</div> <div>03. 絵やデザインを使ってグループによる絵地図ワークショップ NO. 1 「自分自身の絵本を作る」</div> <div>04. 社会で効果的に活用できる絵地図ワークショップの学習 NO. 2 「グループでテーマを決めて、具体的にその解決を図る」</div> <div>05. 世界の国々で、戦争や貧しい子どもたちが直面している問題点？</div> <div>06. 子どもに向けて国境を越えて楽しく役に立つ文化活動のつくり方 遊びのつくりかた</div> <div>07. だれにもできる簡単にできる創作活動と楽しい教材開発</div> <div>08. すぐに役立つ国際コミュニケーションとその技術研修（歌、物語、遊び） ユニークな個性に基づいて</div> <div>09. 識字教育（リテラシー）とはなにか、その課題と実践について なぜ人には、文字の読み書きが必要か？</div> <div>10. 平和・環境活動の理解と子どもたちの深刻な課題 戦争の起きる原因と子どもに向けての平和教育</div> <div>11. 子ども国際理解に役立つ簡単に楽しい教材制作ー1 理論と実践篇 （ワークショップ）</div> <div>12. 子ども国際協力に役立つ魅力的でおもしろい教材制作ー2 理論と実践篇 （ワークショップ）</div> <div>13. 自分の今後の生き方とキャリア・デザイン絵地図ワークショップー1</div> <div>14. 自分の今後の生き方とキャリア・デザイン絵地図ワークショップー2</div> <div>15. 未来へ伝えたいものまとめ&各々のプレゼンテーション</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>子ども国際協力の講義は、世界中の多様な環境に生きているさまざまな子どもたちの生活文化・教育活動、そして同時に社会面や経済面など難しい課題や問題に直面していることなど実感的に学んでいくことを目的としている。光と影の両面を文化や教育の具体的な実例多数を通じて、映像やアートなどを通じて実感的に理解できるようにしたい。そして、将来、卒業生が、社会のこどもの国際教育関係で働くときには、最も役立つような実践的な理論やスキルをワークショップスタイルで講義していきたい。ワークショップは、楽しく役にたつ実践的な課題を、相互に議論したり、文章や絵を描いたり写真を分析するなど講義は、双方向のおもしろく実践的な授業を行いたい。 視聴覚機材を使って1000枚以上の多くの写真やDVD情報をもとに、自分で考え、自分の力で実行できるような多様な知識・技術・情報が獲得できるようにしたい。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>(1) 国際協力活動を実践的に楽しく学ぶことは、自分が生きていく世界への視野を大きく広げ、多様な価値観や豊かな創造性などを獲得するのに非常に役立つ。とくに子どもたちへの国際教育や文化活動を理解すると、将来の職業人としても、家庭人としても、地球人としても非常に役立つ重要な講義となろう。</div> <div>(2) 目標は子ども国際協力の世界を、頭で理解するだけでなく、実社会で実践できる力を多彩に形成することを目標にしている。とくに言葉＋絵＋デザインなどを使った絵地図ワークショップを開催できる能力を身につけると、どのような環境でも自由に活用できるようになるので、問題解決に対処できるたくましい力を養成したい。人間力も身につけたい。</div> <div>(3) 「心の絵地図分析」という、ユネスコも採用した田島開彦の心理メソッド理論と実践を身につけられるように個人とグループで多数の楽しいワークショップを開催したいと考えている。これは人間の奥底にある喜怒哀楽の考えを取り出して、文章や絵を使って視覚化し</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>1. 毎回、次の学習の課題を発表するので、学生はそれに向けてあらゆる情報源から事前に学習して用意すること
</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>世界中の多様な文化や価値観を学ぶことが、人生や社会を豊かにするので、受講者は文化の発信やコミュニケーションの力に大いなる好奇心や興味を持ってほしい。また授業で学んだことを是非、社会で実際にすぐに役立てるような積極的な学生を大歓迎する。語学の能力は問わない。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>また復習としては毎回、どのような授業内容がなぜ最も役立ったかをA4サイズの紙に書いて提出する</div>									
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 子どもの現実の心理や創造性を学ぶ</div> <div>・ 社会を生き抜く知恵やスキルの研鑽</div> <div>・ 国際協力活動への積極的参加</div> <div>・ 豊かなコミュニケーションや人間関係の作り方</div> <div>・ 身近な国際理解体験の実践活動</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) レポートやワークショップで全員へ課題提出</td><td>40%</td><td>授業の中で取り上げた課題のレポートやワークショップでの製作物などの評価</td></tr><tr><td>(2) 授業への参加度・熱心度</td><td>40%</td><td>学生の授業に取り組む熱心さ・授業態度</td></tr><tr><td>(3) 学生の想像性や創造性</td><td>20%</td><td>授業の中で質疑応答などで顕著な成果を示した学生</td></tr></table> <div>期末考査は、新たな課題の提出によってレポート形式（論文執筆）で行う</div>	(1) レポートやワークショップで全員へ課題提出	40%	授業の中で取り上げた課題のレポートやワークショップでの製作物などの評価	(2) 授業への参加度・熱心度	40%	学生の授業に取り組む熱心さ・授業態度	(3) 学生の想像性や創造性	20%	授業の中で質疑応答などで顕著な成果を示した学生
(1) レポートやワークショップで全員へ課題提出	40%	授業の中で取り上げた課題のレポートやワークショップでの製作物などの評価									
(2) 授業への参加度・熱心度	40%	学生の授業に取り組む熱心さ・授業態度									
(3) 学生の想像性や創造性	20%	授業の中で質疑応答などで顕著な成果を示した学生									
<div>教科書</div>		<div>参考書</div> <div>参考資料として、環境絵本「大亀ガウディの海」の日本語版、英語版（希望者によって）をワークショップの中で使う。授業の中で具体的に購入について指示する。</div>									

福祉学概論		SWEL-D-100	
担当教員： 牛津 信忠			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1D401910	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ		01. 福祉制度の現在（1） 02. 福祉の歴史（1） 03. 福祉の歴史（2） 04. 福祉の歴史（3） 05. 福祉政策への道 06. 福祉政策への展開（1） 07. 福祉政策への道（2） 08. 福祉思想（1） 09. 福祉思想（2） 10. 福祉の原理 11. 福祉のニーズ論（1） 12. 福祉のニーズ論（2） 13. 福祉資源（1） 14. 福祉資源（2） 15. 福祉政策の課題	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、さらに歴史を理解する。 ・ 現代社会における福祉状況について理解する。 ・ 福祉原理の理論と思想について理解する。 ・ 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 ・ 福祉政策の課題について理解する。 （講義の進め方・順番は理解度の状況に応じて変更されることがある）			
(2) 学びの意義と目標			
現代社会における福祉とは、単に狭義の弱者救済ではなく、人間生活を総合的に問題状況から解放する施策と技術の中核とした支援的充足・調整策である。その制度状況へ道を歴史的、思想的に理解し、福祉学への導入をしていきたい。加えて技術論についての基本視点をも概説したい。		準備学習(予習)	
		授業の初めに指示する参考文献、福祉小六法の関連箇所を、事前に読み、授業に臨むこと。 授業時に配布するレジュメの内、語られず残された個所について次回までに理解を深め、問題意識を持って授業に臨むこと。	
		準備学習(復習)	
		授業のレジュメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。3回に一度、授業終了10分前に実施する小テストをその間の授業の復習に役立てること。	
受講者に対する要望		評価方法	
初めて福祉学に触れる方々は、思想的接近に戸惑うかもしれない。しかし、じっくりと授業に参加し、考えながら授業を受け止めていってほしい。出席を重んじ、また授業内の小テストを通じてその日の授業の復習をしてよくことを望む		(1) 平常点 20% (2) 小テスト 20% 数回の小テストにより復讐の機会を作る。 (3) 学期末テスト 40% 授業全体を対象とし、知識のみならず、思考の力をも重視する。 (4) 授業態度 10% 授業における真面目な参加態度を求める。 (5) 授業内質問 10% 授業内での確な質問ができるかどうかを10%の範囲で加点方式の評価点をつけていく。 細かい上記の評価をなすが、総括的には、福祉意識の高揚とその基盤たる知識を持つことを求めている。したがって小テストや学期末テストの採点に際しては、その達成度を記述された内容から読み取っていくことになる。	
学びのキーワード		教科書	
・ ノーマライゼーション ・ バリアフリー ・ 基本的生活ニーズ ・ 生活構造 ・ 絆と寄り添い		参考書	
		毎回授業概要のプリントを配る。これに講義において重要とされた内容を書き込んだり、またマーカーチェックをしたりして拡大・深化した福祉理解へ進んでほしい。	

障害児教育総論		TEAT-D-100	
担当教員：吉田 昌義、岡澤 慎一、金澤 貴之、川間 健之介、永井 伸幸、米田 宏樹			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 2		コード： 1D402000	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】 環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける		01. 特別支援教育の歴史と理念（担当：米田） 02. 特別支援教育制度の成果と限界（担当：米田） 03. 特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育の提起（担当：米田） 04. 日本的インクルーシブ教育としての特別支援教育（担当：吉田） 05. 特別支援教育コーディネーター、個別的教育支援計画、校内支援体制（保護者支援を含む）（担当：吉田） 06. 学校教育法、同施行規則、同施行令（学校教育制度、就学指導、学習指導要領等）（担当：吉田） 07. 障害児の教育の概要（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常学級：個別教育支援計画、個別指導計画（担当：吉田） 08. 障害種別ごとの教育の概要（視覚障害）（担当：永井） 09. 障害種別ごとの教育の概要（聴覚障害）（担当：金澤） 10. 障害種別ごとの教育の概要（知的障害）（担当：吉田） 11. 障害種別ごとの教育の概要（肢体不自由）（担当：川間） 12. 障害種別ごとの教育の概要（病弱・身体虚弱）（担当：岡澤） 13. 障害種別ごとの教育の概要（重複障害）（担当：岡澤） 14. 障害種別ごとの教育の概要（発達障害）（担当：吉田） 15. 理解推進（担当：吉田）	
カリキュラム上の位置付け			
【D】 特別支援学校教諭一種免許： 必修科目			
(1) 内容			
特別支援教育・障害児教育の歴史的展開を概観するとともに、特別支援教育が目指すべき教育制度・実践について講義する。さらに、特別支援教育の現状について障害種別ごとに定義や診断、就学、教育の概要を理解し、全体像を把握する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) 特別支援教育の目指すべき目標・理念について理解することができる。 2) 特別支援教育体制における学校経営、学級経営、指導の実際を知ることができる。 3) 特別支援教育に関する法律・制度等を理解することができる。 4) 特別支援教育の現状について、障害種別ごとに概要を理解し、述べるることができる。 これらを通して、障害の概要及び特別支援教育全体を理解し、教育者にとって基盤となる知識ならびに価値観と、人格の育成を図る。		配布資料の指定された箇所を事前に読んでおくこと。	
		準備学習(復習)	
		配布される資料を見直し、授業内容についての理解と考察を深めておくこと。	
		評価方法	
		(1) 課題レポート 20% (2) 講義内容の確認テスト 80%	
受講者に対する要望			
障害のある子どもの教育の現状と問題点を知識として得るだけでなく、自らの問題意識へと発展させていくことを期待する。 			
学びのキーワード		教科書 資料を配布	
		参考書	

聴覚障害児の教育総論		TEAT-D-200
担当教員： 金澤 貴之		
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D402313
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】 環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 聴覚障害とその概念 03. 聴覚障害教育の歴史 04. 聴覚障害に関わる教育制度：カリキュラム編成 05. 聴覚特別支援学校（聾学校）の組織と教育の概要 06. 聴覚障害児の指導法（1）口話法による言語指導 07. 聴覚障害児の指導法（2）キュード・スピーチ、指文字、手話 08. 聴覚障害児の指導法（3）手話言語環境における言語指導 09. 聴覚障害の生理・病理（1）聞こえの仕組み 10. 聴覚障害の生理・生理（2）発見・診断・分類 11. 聴覚障害と聴覚補償 12. 聴覚障害の心理（1）認知機能の発達 13. 聴覚障害の心理（2）言語発達 14. 聴覚障害とコミュニケーション 15. 聴覚障害と社会生活</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本授業では、まず聴覚障害教育の歴史および教育制度、ならびに実際の指導方法について講義する。また、聴覚障害児童生徒の認知、言語、コミュニケーションの発達といった個体的側面について概観する。加えて聴覚障害とその概念、聞こえの仕組み、聴覚障害の発見と診断、その後の聴覚補償に至るまでの聴覚障害に関する基礎的内容を概観する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>学習指導要領については事前に目を通しておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 聴覚障害児教育の歴史やその具体的な指導法について言語発達を軸に理解できる。 2) 聴覚障害に関する基本的概念と聴覚障害児の発達に関する基礎的知識を理解できる。 3) 聴覚障害児教育が直面する今日的課題について論考し、理解を深める。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる聴覚障害児への教育的な技能を身につけ、また心理・生理・病理に関する知識を得ることで、教育の場で実際に技能を活用できる教員の育成を図る。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>特別支援教諭を目指すために必要な講義である。教師として自らの学ぶ姿勢を問い直しながら講義を受けてほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義内容の振り返りは、毎回の講義後、各自怠ることのないように心掛けること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">聴覚障害教育の歴史聴覚特別支援学校教育制度指導法</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業における発表、小レポート等 60% (2) 試験 40%</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

視覚障害児の教育総論		TEAT-D-200
担当教員：永井 伸幸 学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 コード：1D402414		
学部教育の関連目 【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける	授業計画 01. オリエンテーション 02. 視覚障害の生理・病理（1）視覚系の構造 03. 視覚障害の生理・病理（2）視機能（視力、視野等） 04. 視覚障害の生理・病理（3）視覚障害と眼疾患 05. 視覚障害児の心理（1）心理的適応 06. 視覚障害児の心理（2）聴覚と空間概念 07. 視覚障害児の心理（3）触覚と体性感覚 08. 視覚障害児の就学の基準と学びの場 09. 視覚障害特別支援学校（盲学校）における教育の特徴（カリキュラム編成を含む） 10. 視覚障害児の指導法（1）視覚障害と点字 11. 視覚障害児の指導法（2）視覚障害と歩行 12. 視覚障害児の指導法（3）弱視児に対する指導の配慮 13. 視覚障害児の指導法（4）弱視児に対する拡大の方策 14. 重複障害児の指導 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け 【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目		
（1）内容 視覚障害は視力、視野、色覚等の視機能の永続的低下である。視覚障害を生理的、知覚心理学的に理解するには、視機能や視知覚特性の基本的な理解が必要である。また、聴覚や触覚の特性の理解も必要である。そうした知覚、生理の基礎を踏まえた上で視覚障害と関連の深い代表的な眼疾患について学び、加えて彼らに対する教育課程並びに指導法の在り方を探り、理解を深める。	準備学習（予習） 視覚系の構造と機能については、事前学習として調べておくこと。	
（2）学びの意義と目標 1）視覚系の構造、機能、病態生理を理解できる。 2）視覚障害の概念、定義、分類を理解できる。 3）視覚障害の心理特性を理解できる。 4）視覚障害教育の課程、内容、指導方法について具体的に理解できる。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる視覚障害児への心理・生理・病理に関する知識を得、また、教育的な技能を身につけることで、教育の場で実際に技能を活用できる教員の育成を図る。		
受講者に対する要望 視覚障害の児童生徒への教育に必要な内容である。講義にしっかりと集中してほしい。	準備学習（復習） 講義内容についてはその都度、各自、振り返り、理解が不足している部分については復習してほしい。	
学びのキーワード ・心理特性 ・視覚系の生理・病理 ・教育制度・カリキュラム編成 ・指導方法	評価方法 (1) 授業態度（発表、小レポート） 30% (2) テスト 70%	
	教科書 青柳まゆみ 鳥山由子 『視覚障害教育入門 ―改訂版―』（ジアース教育新社） 参考書	

知的障害児指導法		TEAT-D-200	
担当教員： 吉田 昌義、吉井 勘人			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D402515	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける		01. オリエンテーションおよび知的障害教育の指導法の特徴（担当：吉田） 02. 知的障害特別支援学校や特別支援学級教育課程編成と学習指導要領（領域・教科、教科別、領域別） 03. 指導計画の作成と指導案① 領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導） 04. 指導計画の作成と指導案② 領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導）の続き 05. 指導計画の作成と指導案③ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）（担当：吉井） 06. 指導計画の作成と指導案④ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）の続き 07. 指導計画の作成と指導案⑤ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）の続き 08. 指導計画の作成と指導案⑥ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）（担当：吉田） 09. 指導計画の作成と指導案⑦ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）の続き（担当：吉田） 10. 指導計画の作成と指導案⑧ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）の続き（担当：吉田） 11. 指導計画の作成と指導案⑨ 教科別の指導 国語（担当：吉井） 12. 指導計画の作成と指導案⑩ 教科別の指導 算数（担当：吉井） 13. 指導計画の作成と指導案⑪ 教科別の指導 国語・算数・音楽の教科書（担当：吉田） 14. 領域別の指導：道徳、特別活動、自立活動（担当：吉井） 15. 個別の指導計画と学習指導案（担当：吉田）	
カリキュラム上の位置付け			
【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
本授業では、特別支援学校や特別支援学級の教育課程の編成を知るとともに、各教科等の指導計画を学ぶことができるように構成している。次に、具体的な指導案の作成や指導方法についての知識や技能を深める構成とし、最後に、事例を通して個別の指導計画に理解を深められるように構成している。これらを通して、特別支援学校教諭として実践的に教育に携われる能力の育成を目指す。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) 知的障害教育の教育課程の編成について、学部ごとの特色を理解できる。 2) 教育課程と指導計画について理解できる。 3) 知的障害児の指導方法について理解できる。 4) 計画に関する理解を深め、指導案の作成や指導技術を学び、授業の評価の基本を理解する。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる知的障害児への教育に関する技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。		学習指導要領と解説を読んで、基礎的な理解をしておくこと。 障害児に関するニュースや新聞記事等をつかんでおくこと	
		準備学習(復習)	
		学習内容をまとめ、要点を押さえておくこと	
受講者に対する要望		評価方法	
知的障害や自閉症に関する図書を読んで理解を深めておくこと また特別支援学校等のボランティアに参加すること		(1) 発表、小レポート等 30% (2) 試験 70%	
学びのキーワード		教科書	
・ 領域・教科を合わせた指導 ・ 生活単元学習 ・ 作業学習 ・ 教科別の指導 ・ 自立活動		文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)』(教育出版)【ISBN：9784316300160】 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部・高等部)』(海文堂出版)【ISBN：9784303124328】 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領・特別支援学校高等部学習指導要領』(海文堂出版)【ISBN：9784303124229】	
		参考書	

障害児療育論 / 障害幼児指導法		TEAT-D-200
担当教員： 鈴木 晴子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D402610
<div>学部教育の関連目</div> <div>環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、「こども期」の生活 02. 乳幼児期の子どもの生活（１）生活リズムと睡眠 03. 乳幼児期の子どもの生活（２）生活習慣 04. 乳幼児期の子どもの生活（３）遊び 05. <small>10Fにおける障害の捉え方、「共生社会の形成」へ向けてのインクルーシブ教育システムの構築の意義（主に幼児教育において）</small> 06. 保育・教育機関の指針等に描かれる保育および障害保育 07. 教育課程編成の基本的な捉え方および障害児への保育の考え方 08. 保育形態と障害児保育 09. 保育の中での障害児への援助（地域連携、多職種連携など） 10. 保育の中での支援：教育的ニーズとその個別支援計画 11. 障害幼児の発達を支える教材：絵本等の活用と支援計画について 12. <small>障害についての生理・病理的知識の理解（１）中枢・末梢神経系についての理解、知的障害・発達障害等</small> 13. 障害についての生理・病理的知識の理解（２）てんかん等 14. 障害児のケアおよび指導法（１）生活習慣 15. 障害児のケアおよび指導法（２）遊び</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、主に障害のある幼児に対する療育と指導の方法について学ぶことを目的とする。講義は、以下のように構成されている。まず第一に、障害幼児の療育と指導方法を学ぶ基盤として、健常乳幼児の生活について生活習慣および遊びの観点から学ぶ。第二に、幼児期の子どもの発達特徴と集団生活という環境の特性を理解したうえで、保育所保育指針・幼稚園教育要領から、発達を促す環境構成とその指導の要領を学ぶことで、インクルーシブ教育の中での障害幼児の生活とその支援について考察を深める。そして第三に、教育的ニーズのある幼児に対する個別支援計画の立案と、具体的な指導に結びつく教材等について学ぶ。最後に、障害を理解するうえでの基本知識及び療育に必要なケアの方法、具体的指導方法を学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>１）乳幼児期の子どもの生活習慣に関する知識を学びまた遊びの意義について理解できる。 ２）乳幼児期の子どもの生活環境について保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から学ぶことができる。 ３）教育課程編成の基本的なとらえ方と障害児への保育の考え方を理解できる。 ４）障害児のケアのための基礎知識と実際の指導法について具体的に学ぶ。 以上の学習により特別支援教諭に求められる、乳幼児期に必要なケアと指導の具体的方法について学ぶことができる。同時に、これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる乳幼児期の子どもの生活に関する知識、生活にかかわる活動への援助、そしてケアに関する具体的な技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>学習しなければならない内容が多い講義であるため、指示された事前学習は、確実にして講義に出席してください</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義後、理解が不十分と思われた内容については、復習をすること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 講義内容に関する知識の確認 60% (2) 子どもの遊びに関する課題レポート 40%</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>障害幼児に焦点を当てた授業は、本講義だけである。幼児期の支援は、特別支援教育では、基本をなすものである。しっかりと学んでほしい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・子どもとは ・乳幼児期の子どもの生活理解 ・I C F ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領とは ・障害幼児の理解と支援</div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div> <div>参考書</div>	

病弱児指導法		TEAT-D-300	
担当教員： 八島 猛			
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D402717	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】 環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 病弱児教育の発展と特徴</div> <div>02. 病気の子どもと特別な教育的ニーズ</div> <div>03. 病弱教育における教育相談</div> <div>04. 病弱・虚弱児に対応した教育課程編成の基本的な考え方について</div> <div>05. 病弱・虚弱児に対応した教育課程編成 特別支援学校</div> <div>06. 病弱・虚弱児に対応した教育課程編成 特別支援学級（病院内の病弱・身体虚弱特別支援</div> <div>07. 各教科の指導の工夫（幼稚部、小学部）</div> <div>08. 各教科の指導の工夫（中学部、高等部）</div> <div>09. 自立活動 病弱児にとっての自立の意味、ねらいと内容</div> <div>10. 自立活動 ICF関連モデルの活用と個別指導計画</div> <div>11. 自立活動 個別指導計画の立案（事例を通して）</div> <div>12. 教材研究及び情報機器を利用した指導</div> <div>13. 指導計画に基づいた模擬講義</div> <div>14. 指導計画に基づいた模擬講義とまとめ</div> <div>15. 医療領域との連携による医療的ケア、病弱・虚弱児の不登校・発達障害に対する指導法</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>病弱・虚弱の教育は、児童生徒の身体的な問題のみならず、学習面や心理面に関する複雑な問題と関連している。本講義内容は病弱児教育の歴史を概観しながら、病弱児の特別な教育的ニーズについて理解できる構成としている。また、教育課程編成に関する基本的考え方を述べた上で、各教科等の指導、自立活動での支援など具体的な指導法が身につく構成としている。最後に、個別のニーズに配慮しながら、指導計画を立案し、また多職種との連携を視野にいれた教育実践ができるための基本的な内容を伝える講義構成としている。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 病弱児教育の歴史の概観を通して病弱児の特別な教育ニーズの必要性を理解できる。</div> <div>2) 特別支援教育（病弱）の教育課程を理解できる。</div> <div>3) 具体的な指導方法を学び、指導計画および個別の支援計画の立案ができる。</div> <div>4) 他職種との連携を視野にいれた病弱児の教育の必要性を理解できる。</div> <div>これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる病弱児への教育に関する技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>生理、病理など病虚弱児を理解するために必要な知識については、こども心理健康系科目で学んだものを再度、目を通して授業に望んでほしい。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもの健康や病気に関する知識については、小児保健、栄小学等で学んだ知識を予め予習して授業に望んでほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>専門用語などの定義については、その都度、復習をしておくこと。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への参加度</div><div>30%</div></div> <div><div>(2) 試験による評価</div><div>70%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 病弱・虚弱の定義</div><div>・ 教育課程編成</div><div>・ 自立活動</div><div>・ 指導計画</div></div>		<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div> <div>参考書</div>	

肢体不自由児指導法		TEAT-D-200
担当教員： 春木 豊		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D402810
<div>学部教育の関連目</div> <div>環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける 「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 肢体不自由教育の発展と特徴 02. 肢体不自由の子どもと特別な教育的ニーズ 03. 肢体不自由児と教育相談 04. 肢体不自由児に対応した教育課程編成の基本的な考え方について 05. 肢体不自由児に対応した教育課程編成 特別支援学校 06. 肢体不自由児に対応した教育課程編成 特別支援学級、通級による指導 07. 各教科等の指導の工夫（幼稚部、教材研究を含む） 08. 各教科等の指導の工夫（小学部・中学部、教材研究を含む） 09. 各教科等の指導の工夫（高等部、教材研究を含む） 10. 進路指導と職業教育について 11. 自立活動 肢体不自由児にとっての自立の意味、ねらいと内容 12. 自立活動 ICF関連モデルの活用と個別指導計画 13. 自立活動 個別指導計画の立案（事例を通して） 14. 個別指導計画に基づいた模擬講義 15. 医療領域との連携による医療的ケアまとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>肢体不自由教育では、児童生徒の障害が重度・重複化してきている。本講義内容は、歴史的概観を通しながら、肢体不自由児の現在の重度・重複化した児童生徒の教育的ニーズが把握できるように構成している。また、教育課程編成に関する基本的考え方を述べた上で、各教科の指導、自立活動での支援など具体的な指導法が身につく構成としている。最後に、個別のニーズに配慮しながら指導計画を立案し、また多職種との連携を視野にいれた教育実践ができるための基本的な内容を伝える講義構成としている。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 肢体不自由教育の歴史の概観を通して肢体不自由児の特別な教育ニーズを理解できる。 2) 特別支援教育（肢体不自由）の教育課程を理解できる。 3) 具体的な指導方法を学び、指導計画および個別の指導計画の立案ができる。 4) 他職種との連携を視野にいれた肢体不自由児の教育の必要性を理解できる。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる肢体不自由児への教育に関する技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、扱われるトピックについて新聞等で情報を集めておく。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリント等を参照し、授業内容をA4 1枚程度に要約し、理解を深めるようにすること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>肢体不自由児者にかかわる機会を積極的に持つようにしてほしい。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 講義内容に関するテスト 60% (2) レポート 40%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 肢体不自由 ・ 特別支援教育 ・ 自立活動 ・ 多職種との連携</div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div> <div>参考書</div>	

発達障害児の教育総論		TEAT-D-300	
担当教員：石川 由美子、今中 博章			
学期：前期（ 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1D403020	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（担当：石川） 02. 特別支援教育のシステム（連携協力について）（担当：石川） 03. 発達障害の心理特性：「ことばの遅れ」の背景（担当：石川） 04. 軽度知的障害の理解（担当：石川） 05. 学習障害の理解（担当：今中） 06. 注意欠陥多動性障害（ADHD）の理解（担当：今中） 07. 自閉症スペクトラム障害の理解（担当：石川） 08. 発達障害の生理・病理的特性と二次障害について（担当：今中） 09. 心理・教育的アセスメントの活用（1）目的、方法、倫理的配慮（担当：今中） 10. 心理・教育的アセスメントの活用（2）活用の仕方（担当：今中） 11. 個別の指導計画（担当：今中） 12. 認知特性をふまえた支援計画立案演習（1）漢字の苦手なAくん（担当：今中） 13. 認知特性をふまえた支援計画立案演習（2）集中が続かないBちゃん（担当：今中） 14. 認知特性をふまえた支援計画立案演習（3）人との関わりの苦手なCさん（担当：今中） 15. まとめ（担当：石川、今中）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本授業では、まず特別支援教育における学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害等に代表される発達障害児の支援体制について講義する。次に、それらの発達障害の心理特性と医学的特性、ならびにそれらに応じた支援の在り方について講義する。続いて個々の子どもの特性をふまえた個別の指導計画を、子どもの生活状況全般にあわせてどのように立案実施するかについて、事例検討をもとに議論することとする。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1）学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害等の発達障害について、それらの心理特性と医学的特性を理解できる。 2）発達障害児の心理特性と医学的特性に応じた支援方法について考えることができる。 3）子どもの心理特性を理解する手段としてのアセスメントの方法や、その結果を実際の支援に活用する方法を考えることができる。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる発達障害児への心理・生理・病理に関する知識を得、また教育的な技能を身につけることで、教育の場で実際にそれらを活用できる教員の育成を図る。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>オリエンテーション時に事前学習ポイントを指示する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>教職を目指す学生の講義である。特別な配慮を要する児童生徒の教育について真摯な態度で学んでほしい。</div>			
<div>学びのキーワード</div> <div>・知的障害 ・注意欠陥多動性障害 ・学習障害 ・心理・教育アセスメント</div>			
		<div>教科書</div>	
		<div>参考書</div>	

教育学		TEAT-D-100	
担当教員： 石津 靖大			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1D403211	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する</div>		01. 授業の目的・内容・方法について 02. 現代の教育の実態 03. 現代の教育の実態 04. 学校の役割・機能Ⅰ 05. 学校の役割・機能Ⅱ 06. 教科書とその歴史Ⅰ 07. 教科書とその歴史Ⅱ 08. 子育ての習俗の教育観Ⅰ 09. 子育ての習俗の教育観Ⅱ 10. 教育とは何か-人の特徴とのかかわり- 11. 教育とは何か-教育の目的とは- 12. ルソーの教育思想 13. ペスタロッチの教育思想 14. 教育と学校の任務 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【D】社会福祉主事任用資格：選択科目			
(1) 内容			
現代の日本の教育と学校の実態を整理することから始める。次に近代学校の成立を見て、学校の役割・機能について考えてみる。さらに、教科書の歴史を通して、教育と学校の役割・機能について考える。学校教育から一転して、日本の子育ての習俗についてあれこれ見て、教育観を幅広く考えてみる。これを導入として、人の特徴や発達とのかかわりで教育を考えてみる。そして、教育市場大きな影響を与えたルソーとペスタロッチの教育思想を学習する			
(2) 学びの意義と目標			
1)日本の教育と学校の現状を整理して理解できる。 2)教育と学校の役割・機能と課題について考えを深める。 3)教育学校教育だけでなく、幅広く子育ての視点から考える。 4)教育とは何かを、人の発達や特徴との官界から考える。 5)教育と学校についての基本的事項を知ること为目标とする。		準備学習(予習)	
		授業計画を参照し扱われる章節について、教養的な教育図書や教育新聞等によって知識や情報を得ておく。	
		準備学習(復習)	
		授業での教材を再読し重要な用語・事項について、教職用の教育用語集などによって確認しノート整理する。	
		評価方法	
		(1) 授業への参加状況 30% (2) 提出課題 30% (3) 定期試験 40%	
受講者に対する要望			
学校に関する内容が多いので、教職課程の履修希望者の受講を望む。			
学びのキーワード		教科書	
・教育問題 ・学校教育 ・人の発達 ・子育ての習俗		参考書	

教育学		TEAT-D-100	
担当教員： 石津 靖大			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1D403212	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する</div>		01. 授業の目的・内容・方法について 02. 現代の教育の実態 03. 現代の教育の実態 04. 学校の役割・機能Ⅰ 05. 学校の役割・機能Ⅱ 06. 教科書とその歴史Ⅰ 07. 教科書とその歴史Ⅱ 08. 子育ての習俗の教育観Ⅰ 09. 子育ての習俗の教育観Ⅱ 10. 教育とは何か-人の特徴とのかかわり- 11. 教育とは何か-教育の目的とは- 12. ルソーの教育思想 13. ペスタロッチの教育思想 14. 教育と学校の任務 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【D】社会福祉主事任用資格：選択科目			
(1) 内容			
現代の日本の教育と学校の実態を整理することから始める。次に近代学校の成立を見て、学校の役割・機能について考えてみる。さらに、教科書の歴史を通して、教育と学校の役割・機能について考える。学校教育から一転して、日本の子育ての習俗についてあれこれ見て、教育観を幅広く考えてみる。これを導入として、人の特徴や発達とのかかわりで教育を考えてみる。そして、教育市場大きな影響を与えたルソーとペスタロッチの教育思想を学習する			
(2) 学びの意義と目標			
1) 日本の教育と学校の現状を整理して理解できる。 2) 教育と学校の役割・機能と課題について考えを深める。 3) 教育学校教育だけでなく、幅広く子育ての視点から考える。 4) 教育とは何かを、人の発達や特徴との官界から考える。 5) 教育と学校についての基本的事項を知ること为目标とする。			
準備学習(予習)		授業計画を参照し扱われる章節について、教養的な教育図書や教育新聞等によって知識や情報を得ておく。	
準備学習(復習)		授業での教材を再読し重要な用語・事項について、教職用の教育用語集などによって確認しノート整理する。	
評価方法		(1) 授業への参加状況 30% (2) 提出課題 30% (3) 定期試験 40%	
受講者に対する要望			
学校に関する内容が多いので、教職課程の履修希望者の受講を望む。			
学びのキーワード		教科書	
・教育問題 ・学校教育 ・人の発達 ・子育ての習俗		参考書	

担当教員：金谷 京子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX00100

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

こどもの発達の基礎知識について文献で学ぶと共に実際の観察やこどもとのふれあいを通してこどものための発達支援について考えていく。
学内や学外での子どもへのアプローチ実践を通して子どもの行動特徴を理解する

(2) 学びの意義と目標

時間軸でこどもの変化を見る目をもつとともに、こどもにとっての環境の変化について考えられるようにしていく。
発達に応じたこどもの接し方を学ぶ。

受講者に対する要望

自己課題を設定できるように、こどもに関する関心は何か整理してみてください。
こどもに接する活動に積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・発達
- ・発達と遊び
- ・発達支援

授業計画

01. ガイダンス
02. 発達心理学関連文献購読
03. 文献購読
04. 文献購読
05. 文献購読
06. 小テスト
07. 文献購読
08. 文献購読
09. 自己課題の設定・調査法について
10. 学外実践
11. 文献調査結果の発表
12. 文献調査結果の発表
13. 文献調査結果の発表
14. 自己課題の振り返り
15. まとめ

準備学習(予習)

自己課題が設定できるように、多数の文献を検索しておく。

準備学習(復習)

他のゼミ生の発表を聞いて、自己課題を整理しなおす。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 60% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 活動参加 | 10% |

教科書

参考書

保育の心理学ⅠⅡ 本郷一夫編 建帛社

専門演習II（発達心理学）

CHCL-D-300

担当教員：金谷 京子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX00213

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習Iで学んだことを基に、自己課題をさらに深めて遂行していく。
こどもの発達のメカニズムの探求と同時に、こどもの物的、人的環境の問題や不適応や障害の問題にも目を向けていく。
また、こどもから大人へと成長とともに起こる発達の問題についても学び、発達支援の方法を考える。

(2) 学びの意義と目標

1) 実践を通して得られた知見と文献を通して得られた知見を統合整理する
2) 自分なりに発達に応じた支援法を考えてみる
3) 他のゼミ生の発表を聞き、情報交換、意見交換ができるようにする

受講者に対する要望

積極的にさまざまな年齢のこどもや成人と支援の観点から関わってみる体験をしてください。

学びのキーワード

- ・生涯発達
- ・発達支援
- ・環境問題

授業計画

01. オリエンテーション
02. 調査法について、自己課題の設定
03. 課題研究発表
04. 課題研究発表
05. 課題研究発表
06. 学外実践活動
07. 課題研究発表
08. 課題研究発表
09. 課題研究発表
10. 学外実践活動
11. 課題研究発表
12. 課題研究発表
13. 課題研究発表
14. 課題研究発表
15. まとめ

準備学習(予習)

自己課題に関する文献検索あるいは実地調査をしておく

準備学習(復習)

課題発表後の整理をする

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 70% |
| (2) 発表 | 20% |
| (3) 活動参加 | 10% |

教科書

参考書

専門演習Ⅰ（相談心理学）

CHCL-D-200

担当教員：竹渕 香織

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX00502

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

相談、すなわちカウンセリングや広義の援助活動について習得した知見をもとに、各自が自分の興味があるテーマを決定し、関連した文献を収集し、その内容をレポートする。
お互いの発表に意見を述べ、議論する。

(2) 学びの意義と目標

各自の興味ある研究分野を取り上げ、文献を収集し研究計画を立てることができるようにする。講師の個々への助言指導をもとに、研究の進め方を学ぶ。

受講者に対する要望

自ら調べ、討論に参加する積極性を持つこと

学びのキーワード

- ・相談
- ・カウンセリング
- ・支援

授業計画

01. ガイダンス
02. 研究分野の検討①
03. 研究分野の検討②
04. 文献収集と検討①
05. 文献収集と検討②
06. 文献収集と検討③
07. 各自の研究発表①
08. 各自の研究発表②
09. 各自の研究発表③
10. 研究テーマの検討①
11. 研究テーマの検討②
12. 各自の研究発表の再検討①
13. 各位の研究発表の再検討②
14. 各自の研究発表の再検討③
15. まとめ

準備学習(予習)

関連情報、先行研究、文献を収集する。

準備学習(復習)

議論で得られた点をもとに、研究デザインを修正する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

専門演習II（相談心理学）

CHCL-D-300

担当教員：竹渕 香織

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX00615

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

相談、すなわちカウンセリングや広義の援助活動について、専門演習I（相談心理学）の学習内容を踏まえ、習得した知見をもとに、さらに各々の問題意識に沿って主題に取り組む。関連した文献や資料を収集し、その内容をレポートする。お互いの発表に意見を述べ、議論する。

(2) 学びの意義と目標

カウンセリングや相談についてそれぞれ興味ある事柄を調査・分析し考える際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。調べて分かったことを伝え合い、意見の交換をする楽しみを味わう。

受講者に対する要望

専門演習I（相談心理学）を受講していること。
自らの発表に際して、予め内容をまとめ、配布資料を作成しておく。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 調査・研究方法について①
03. 調査・研究方法について②
04. 研究報告①
05. 研究報告②
06. 研究報告③
07. 研究報告④
08. 研究報告⑤
09. 中間まとめ・振り返り
10. 研究報告⑥
11. 研究報告⑦
12. 研究報告⑧
13. 研究報告⑨
14. 研究報告⑩
15. まとめ

準備学習(予習)

関連情報、先行研究、文献を収集する。

準備学習(復習)

議論で得られた点をもとに、研究デザインを修正する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) レポート・発表 | 70% |
| (2) 討議への参加 | 30% |

教科書

参考書

専門演習Ⅰ（家族心理学）

CHCL-D-200

担当教員：村上 純子

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1DX00703

学部教育の関連目

【D】 資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

心理学、人間理解、家族に関する研究テーマの中で、自らの問題意識を高め、それに関するトピックスを調査、レポート作成、発表する。

(2) 学びの意義と目標

心理学および、人間理解、家族に関する基礎を学び、自らの関心事をあきらかにすること、研究方法の基礎を身につけることが目的である。卒業研究にむけての土台となる演習である。

受講者に対する要望

授業内での発表とディスカッションを重視します。積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 心理学的研究
- ・ 家族心理学

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究とは
03. 文献の調べ方
04. 研究レポートの書き方
05. 文献講読とディスカッション (1)
06. 文献講読とディスカッション (2)
07. 文献講読とディスカッション (3)
08. 文献講読とディスカッション (4)
09. 研究レポート作成 (1)
10. 研究レポート作成 (2)
11. レポート発表と討議 (1)
12. レポート発表と討議 (2)
13. レポート発表と討議 (3)
14. レポート発表と討議 (4)
15. まとめ

準備学習(予習)

担当者は文献を読み、レジメを準備し発表に備えること。担当に関わらず全員文献を読むこと。

準備学習(復習)

授業内容を振り返り、自らの研究レポート作成に生かすこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点・授業態度 | 50% |
| (2) 研究レポート | 50% |

教科書

参考書

専門演習II（家族心理学）

CHCL-D-300

担当教員：村上 純子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX00816

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習 I に引き続き、心理学、人間理解、家族に関する研究テーマの中で、自らの問題意識を高め、それに関するトピックスを調査、レポート作成、発表する。

(2) 学びの意義と目標

心理学および、人間理解、家族に関する基礎を学び、自らの関心事をあきらかにすること、研究方法の基礎を身につけることが目的である。卒業研究にむけての土台となる演習である。

受講者に対する要望

授業内での発表とディスカッションを重視します。積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・心理学的研究
- ・家族心理学

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究論文とは
03. 研究テーマの選定
04. 文献講読とディスカッション (1)
05. 文献講読とディスカッション (2)
06. 文献講読とディスカッション (3)
07. 文献講読とディスカッション (4)
08. 文献講読とディスカッション (5)
09. 研究小論文作成 (1)
10. 研究小論文作成 (2)
11. 小論文発表と討議 (1)
12. 小論文発表と討議 (2)
13. 小論文発表と討議 (3)
14. 小論文発表と討議 (4)
15. まとめ

準備学習(予習)

担当者は文献を読み、レジメを準備し発表に備えること。担当に関わらず全員文献を読むこと。

準備学習(復習)

授業内容を振り返り、自らの研究レポート作成に生かすこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 研究レポート | 50% |

教科書

参考書

専門演習Ⅰ（倫理学）

CHCL-D-200

担当教員：原 一子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX02310

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

倫理学の古典的名著に触れつつ、自己の生き方を深く考える。まずは心理学でお馴染みのエディプス・コンプレックスという語の元になったソフォクレスのギリシャ悲劇『オイディプス王』を紐解き、運命と真摯に向き合う生き方の悲劇性に触れる。2冊目以下の名著は、学生と相談しながら決める。2014年度はフランクルの『夜と霧』を選んだ。心理学者であったフランクが、ナチス強制収容所からいかにして生還できたのか、人間が生きるとは如何なることなのか、限界状況と人間の実存について共に考え、掘り下げた。2015年度はオイディプス王の娘の悲劇『アンティゴネー』を、また2016年度はニーチェの『ツァラトゥストラ』をテキストに選んだ。

文献を精読することによって内容を正しく理解するとともに、資料検索、レジュメ作成の仕方、発表の仕方、質疑応答の仕方などを学ぶ。毎週、担当者に分担箇所についての発表をして貰い、履修者全員が討論をして、内容の一層深い解釈を試みる。

(2) 学びの意義と目標

「倫理学」を学ぶ者にとっては、その基本文献を精読し思想を正しく理解することはぜひとも必要なことである。先哲から生き方や考え方を学び価値観を確立することができれば、それは一生の財産となることであろう。深く考え、それを表現する力を培うことは、人生をより善く生きる上にも、就職にも益すること大の筈である

受講者に対する要望

演習科目であることから当然のことながら、欠席・遅刻は許されない。担当者が欠席するとゼミが成り立たなくなるので、毎回出席して担当部分の課題をこなすこと。
「倫理学A」「倫理学B」を履修済であるか、併せて履修することが望ましい。

学びのキーワード

- ・倫理学
- ・ギリシャ思想
- ・ギリシャ悲劇

授業計画

01. はじめに一演習の進め方
02. ギリシャ文明の歴史と文化について調べよう
03. ギリシャ悲劇はどのように上演されたか、調べよう
04. 三大悲劇詩人の生涯や作品について調べよう
05. 『オイディプス王』講読 1
06. 『オイディプス王』講読 2
07. 『オイディプス王』講読 3
08. 『オイディプス王』講読 4
09. 『オイディプス王』講読 5
10. 『オイディプス王』講読 6
11. 『オイディプス王』講読 7 『オイディプス王』総括
12. 2冊目の文献に関する、著者、時代などを調べる
13. 2冊目の文献講読 1
14. 2冊目の文献講読 2
15. 2冊目の文献講読 3、「専門演習Ⅱ」に続く

準備学習(予習)

毎週、自宅でテキストを読み、必要な資料の検索をしたり、関連の書籍を読んだりして思索を深め、それをレジュメにまとめて授業に臨む。

準備学習(復習)

毎回の授業で進んだテキストの箇所について要約・コメントをして提出する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題達成度 | 50% |
| (2) 討論などへの積極性 | 30% |
| (3) 受講態度 | 20% |

教科書

ソポクレス『オイディプス王』（岩波文庫）

参考書

専門演習II（倫理学）

CHCL-D-300

担当教員：原 一子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX02425

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「専門演習Ⅰ」に続き、受講者に興味のあるテキストを相談して決め講読する。2014年度は2冊目以下の文献として、ヴィクトール・E・フランクルの『夜と霧』を講読した。心理学者であったフランクルが、ナチス強制収容所からいかにして生還できたのか、人間が生きるとは如何なることなのか、限界状況と人間の実存について共に考え、掘り下げた。また2015年度は『オイディプス王』に続き、『アンティゴネー』『縛られたプロメテウス』など、ギリシャ悲劇を読み続けた。2016年度はニーチェの『ツァラトゥストラ』を読む。

テキストの精読によって内容を正しく把握するとともに、資料検索、レジュメ作成の仕方、発表の仕方、質疑応答の仕方などを学ぶ。毎週、担当者に分担箇所についての発表をして貰い、履修者全員が討論をして、内容の一層深い解釈を試みる。

(2) 学びの意義と目標

「倫理学」を学ぶ者にとっては、その基本文献や、人間の生き方を深く考えさせる名著を精読することはぜひとも必要なことである。人生の先達から生き方や考え方を学び価値観を確立することができれば、それは一生の財産となることであろう。深く考え、それを表現する力を培うことは、人生をより善く生きる上にも、就職にも益すること大の筈である。

受講者に対する要望

演習科目であることから当然のことながら、欠席・遅刻は許されない。担当者が欠席するとゼミが成り立たなくなるので、毎回出席して担当部分の課題をこなすこと。
「倫理学A」「倫理学B」を履修済であるか、併せて履修することが望ましい。

学びのキーワード

・倫理学

授業計画

01. はじめに—演習の進め方・分担
02. 2冊目の文献講読 つづき
03. 2冊目の文献講読 つづき
04. 2冊目の文献講読 つづき
05. 2冊目の文献講読 つづき
06. 2冊目の文献講読 つづき
07. 2冊目の文献講読 つづき
08. 3冊目の文献講読 1
09. 3冊目の文献講読 2
10. 3冊目の文献講読 3
11. 3冊目の文献講読 4
12. 3冊目の文献講読 5
13. 3冊目の文献講読 6
14. 3冊目の文献講読 7
15. 総括

準備学習(予習)

毎週、自宅でテキストを読み、必要な資料の検索をしたり、関連の書籍を読んだりして思索を深め、それをレジュメにまとめて授業に臨む。

準備学習(復習)

毎回の授業で進んだテキストの箇所について要約・コメントをして提出する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題達成度 | 50% |
| (2) 討論などへの参加度 | 30% |
| (3) 受講態度 | 20% |

教科書

参考書

専門演習Ⅰ（日本文化学）

CHCL-D-200

担当教員：渡辺 正人

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX02511

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

文化から読み解く心意や心理を取り扱う。この専門演習では柳田國男の『遠野物語』を読み解きながら、テキストにあらわれた心意と人間の関係についてを考える。特にテキストにあらわされたものは、身体性が無いので、それらの身体的な「場」を復元しながら読んでみたい。

(2) 学びの意義と目標

専門演習なので、まずは発表とは何かを学び、資料の作成法や発表について身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

想像力をもって取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 心意
- ・ 民俗
- ・ 身体性

授業計画

01. オリエンテーション
02. 遠野物語とはなにか
03. テキストから心意・心理を読み解く練習 1
04. テキストから心意・心理を読み解く練習 2
05. 発表
06. 発表
07. 発表
08. 発表
09. 発表
10. 発表
11. 発表
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストを事前に熟読しておくこと。

準備学習(復習)

発表をもとに、さらにテキストを読み込んでおく。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 発表 | 50% |
| (2) 資料 | 50% |

教科書

柳田 国男 『遠野物語（集英社文庫）』（集英社）

参考書

専門演習II（日本文化学）

CHCL-D-300

担当教員：渡辺 正人

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX02626

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

文化から読み解く心意や心理を取り扱う。この専門演習では各自のテーマに従って、調査・考察・発表を行う。基本的には発表を中心に行う。

(2) 学びの意義と目標

専門演習なので、まずは発表とは何かを学び、資料の作成法や発表について身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

想像力をもって取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 心意
- ・ 民俗
- ・ 身体性

授業計画

01. オリエンテーション
02. 文化と心意との関係を考える
03. 発表
04. 発表
05. 発表
06. 発表
07. 発表
08. 発表
09. 発表
10. 発表
11. 発表
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

資料を事前に熟読しておくこと。

準備学習(復習)

発表をもとに、さらに資料を読み込んでおく。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 発表 | 50% |
| (2) 資料 | 50% |

教科書

参考書

専門演習Ⅰ（心理療法）

担当教員：大橋 良枝

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：1 コード：1DX02710

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

心理療法とは何かを学ぶ。
具体的には、心理療法とカウンセリングの違い、
心理療法の歴史、心理療法の効果と禁忌などを、
講義、事例の検討、ビデオなどを通じて学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

専門研究ⅠⅡを通して、心理療法とは何かについて理解し、事例研究法を学ぶための基礎を身に付ける。

受講者に対する要望

事例を扱いますので、臨床的態度とともに学ぶものと理解し、真摯な態度での出席を望みます。

学びのキーワード

- ・心理療法
- ・発達
- ・人格構造
- ・事例研究法

授業計画

01. 概説
02. 心理療法とは何か 1
03. 心理療法とは何か 2
04. ビデオ グロリアと3人のセラピスト
05. 討論 グロリアと3人のセラピストについて 1
06. 討論 グロリアと3人のセラピストについて 2
07. 心理療法の歴史
08. こどもの心理療法 1
09. こどもの心理療法 2
10. こどもの心理療法 3
11. こどもの心理療法 まとめ
12. 力動論 1
13. 力動論 2
14. 討論
15. まとめ

準備学習(予習)

指定する参考文献、事例等を事前に必ず読んでくること。

準備学習(復習)

授業内容について理解が十分であるか確認し、疑問点があれば次の授業冒頭に質問すること。

評価方法

- | | |
|------------|----|
| (1) 出席態度 | 60 |
| (2) 最終レポート | 40 |

教科書

参考書

現代心理療法入門 小谷英文著

専門演習II（心理療法）

担当教員：大橋 良枝

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：1 コード：1DX02720

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習 I に引き続き、心理療法とは何かについて学ぶ。
具体的には、専門演習 I に続き、青年期、成人臨床事例を用いて、その検討を行う。

(2) 学びの意義と目標

専門研究 I II を通して、心理療法とは何かについて理解し、事例研究法を学ぶための基礎を身に付ける。

受講者に対する要望

事例を扱いますので、臨床的態度とともに学ぶものと理解し、真摯な態度での出席を望みます。

学びのキーワード

授業計画

01. 概説
02. 人格論 1
03. 人格論 2
04. 病理論 1
05. 病理論 2
06. 青年期の心理療法 1
07. 青年期の心理療法 2
08. 青年期の心理療法 3
09. 討論 1
10. 討論 2
11. 成人の心理療法 1
12. 成人の心理療法 2
13. 成人の心理療法 3
14. 討論 1
15. 討論 2 まとめ

準備学習(予習)

授業内で提示された資料に事前に目を通し、理解しておくこと。

準備学習(復習)

授業内容について理解が十分であるか確認し、疑問点があれば次の授業冒頭に質問すること。

評価方法

- | | |
|------------|----|
| (1) 出席態度 | 60 |
| (2) 最終レポート | 40 |

教科書

参考書

現代心理療法入門 小谷英文著

担当教員： 齊藤 理砂子

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1DX02910

学部教育の関連目

【D】 資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

現在は、少子化時代であり、子ども一人ひとりの存在がますます大切になってきている。しかし、子どもを取り巻く周囲では、様々な問題が起きている。本講義では、子どもが健やかに成長していくためには、どのような生活環境が望ましいのか、そしてどのようなことを大切にしていくべきなのかについて学習する。現代を生きる子どもたちの健康問題や課題、そして、それらの対処法、支援方法について、学生たちが主体となって、考察し、ディスカッションを行う。

(2) 学びの意義と目標

1. 現代を生きる子どもたちにとって、心身ともに健やかに成長していくためには、どのような生活環境が望ましいのかについて考え、理解を深める。
2. 「子どもの健康」という広いテーマから、興味がある課題を自ら見つけ出し、今後の学習、研究活動につなげていく。

受講者に対する要望

子どもの健康問題とその対処法、支援方法に興味がある学生が望ましいです。

学びのキーワード

- ・ 子どもの身体的な課題
- ・ 子どもの社会的な課題
- ・ 子どもの心理的な課題

授業計画

01. オリエンテーション
02. 文献講読と討議 (子どもの生活実態)
03. 文献講読と討議 (子どもの生活習慣)
04. 文献講読と討議 (子どもの体力・運動能力の現状)
05. 文献講読と討議 (子どもの身体的な課題)
06. 文献講読と討議 (子どもの社会的な課題)
07. 文献講読と討議 (子どもの心理的な課題)
08. 文献講読と討議 (子どもと遊び)
09. 文献講読と討議 (子どもとメディア)
10. 文献講読と討議 (子どもの食生活、食育)
11. レポート作成 (子どもを取り巻く諸問題)
12. レポート作成 (子どもを取り巻く諸問題)
13. レポート作成 (子どもを取り巻く諸問題)
14. 発表会
15. まとめ

準備学習(予習)

日常的に、子どもの諸問題に対する興味・関心を持つように努める。事前に指示した内容について学習する。

準備学習(復習)

指示された内容について学習する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への貢献度 | 50% |
| (2) 発表 | 50% |

教科書

参考書

専門演習II（子どもの健康）

CHCL-D-300

担当教員： 齊藤 理砂子

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1DX03024

学部教育の関連目

【D】 資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習 I で学んだ子どもの健康課題を基礎に、本講義では、現代を生きる子どもたちの健康課題を解決していくための方法について考え、研究活動につなげていく。そのためには、まず文献検索、文献調査方法、文献の読み方、討議方法、資料作成方法について学習する。

(2) 学びの意義と目標

文献検索、文献調査方法、文献の読み方、討議方法、資料作成方法等を身に付ける。
様々な文献による情報収集、討論を通して、自分なりの研究課題を探索する。

受講者に対する要望

研究活動のスタートとして、文献検索、ディスカッション等、積極的に行ってください。

学びのキーワード

- ・ 小児保健学
- ・ 学校保健
- ・ ヘルスプロモーション
- ・ 文献検索方法
- ・ 研究課題探索

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究とは 1
03. 研究とは 2
04. 文献検索、文献調査方法 1
05. 文献検索、文献調査方法 2
06. 文献の読み方 1
07. 文献の読み方 2
08. ディスカッションの仕方 1
09. ディスカッションの仕方 2
10. 資料のつくり方 1
11. 資料のつくり方 2
12. 研究テーマを考える 1
13. 研究テーマを考える 2
14. 研究テーマを考える 3
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画に沿った内容について、予め学習しておく

準備学習(復習)

授業で学んだこと、気づいたことをまとめる

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への貢献度 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 課題レポート | 20% |

教科書

参考書

卒業研究Ⅰ（発達心理学）

CHCL-D-300

担当教員：金谷 京子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX05000

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士認定資格(D学科)：その他

(1) 内容

①発達心理学に関する研究書を読み解きながら、こどもから高齢者に至る発達に関連する研究分野を調べ、関心のある研究テーマを見つけていく。
②各自の研究分野に関連したデータ収集の方法を学ぶ。③研究計画の立て方を、事例を見ながら学習する。

(2) 学びの意義と目標

①発達心理学の基礎を踏まえた上で、発達および発達支援についてさらに関心を深め、研究の視点を定めていく。②自らが研究したい分野についてのデータ収集の方法を身に付ける。③研究計画の立て方を理解する。④研究計画・データ収集の結果を発表できるようにする。

受講者に対する要望

発達心理関係の文献を読んでおくこと。発表用のレジュメを作成し、配布できるように準備しておく。

学びのキーワード

- ・生涯発達
- ・発達研究
- ・質的研究
- ・事例研究

授業計画

01. ガイダンス
02. 参考文献の読み解き、問題意識から研究テーマの設定へ
03. 事例研究、質的研究について
04. 研究計画の立て方
05. 資料の探し方
06. 情報の整理の仕方
07. 専門的な文章の書き方
08. 課題研究中間報告会①
09. 課題研究中間報告会②
10. 課題研究中間報告会③
11. プレゼンテーションの方法①
12. プレゼンテーションの方法②
13. 課題研究発表会①
14. 課題研究発表会②
15. 課題研究発表会③

準備学習(予習)

発達研究に関わる文献購読をしておくこと

準備学習(復習)

自己の課題研究の振り返りをする

評価方法

(1) 出席と討論を中心とした授業への関与度、数回の 100% 統合評価

教科書

参考書

卒業研究II（発達心理学）

CHCL-D-400

担当教員：金谷 京子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX05115

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。さらに家族心理学の分野において、各受講者が自分の関心あるテーマを選択し、研究レポートおよび研究活動を行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

(2) 学びの意義と目標

卒業研究 I で学びを深めた各自のテーマに取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスを通し、独自の発想や想像を養い、調査研究を実践していく力を身につけ、自らの考えをまとめ、他者にそれを伝える力を身につけることを目指す。

受講者に対する要望

決められた役割を遂行すること

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 研究経過報告とディスカッション①
03. 研究経過報告とディスカッション②
04. 研究経過報告とディスカッション③
05. 個別指導のフィードバック
06. 研究経過報告とディスカッション④
07. 研究経過報告とディスカッション⑤
08. 研究経過報告とディスカッション⑥
09. 研究経過報告とディスカッション⑦
10. 個別研究論文完成指導①
11. 個別研究論文完成指導②
12. 個別研究論文完成指導③
13. 卒業研究発表①
14. 卒業研究発表②
15. 卒業研究発表③とまとめ

準備学習(予習)

自己が設定した課題について調査をしておく

準備学習(復習)

ゼミで討論した結果をもとに課題を修正する

評価方法

(1) 課題発表

100%

教科書

参考書

卒業研究Ⅰ（相談心理学）		CHCL-D-300
担当教員：竹渕 香織		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1DX05402
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う</div> <div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：その他</div> <div>(1) 内容</div> <div>各自が自分の興味があるテーマを決定し、関連した文献を収集し、その内容をレポートする。研究テーマについてを発表し、他のメンバーとディスカッションする。</div> <div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>相談、すなわちカウンセリングや広義の援助活動について習得した知見を基に、各自の興味ある研究分野を取り上げ、文献を収集し研究計画を立てることができるようにする。講師の個々への助言指導をもとに、研究の進め方を学ぶ。</div> <div>受講者に対する要望</div> <div>自らの発表に際して、予め内容をまとめ、配布資料を作成しておく。</div> <div>学びのキーワード</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 研究分野の検討① 03. 研究分野の検討② 04. 文献収集と検討① 05. 文献収集と検討② 06. 文献収集と検討③ 07. 各自の研究方法発表① 08. 各自の研究方法発表② 09. 各自の研究方法発表③ 10. 研究テーマの検討① 11. 研究テーマの検討② 12. 研究方法の検討① 13. 研究方法の検討② 14. 研究方法の検討③ 15. まとめ</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>関連情報、先行研究、文献を収集する。

</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>議論で得られた点をもとに、研究デザインを修正する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div> <div>(1) 個人発表とレポート80% 総合評価</div> <div>(2) 討議への参加度20%</div> </div>	
<div>教科書</div> <div>参考書</div>		

卒業研究II（相談心理学）

CHCL-D-400

担当教員：竹渕 香織

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX05517

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

各自の研究をまとめる。まとめた研究について発表する。

(2) 学びの意義と目標

卒業研究 I（相談心理学）で決めたテーマについて研究計画を実施する。最終的には各自研究をまとめ、発表する。

受講者に対する要望

卒業研究 I の単位を取得していること。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 各自の研究計画の発表とディスカッション①
03. 各自の研究計画の発表とディスカッション②
04. 各自の研究計画の発表とディスカッション③
05. 各自の研究計画の発表とディスカッション④
06. 各自の研究計画の発表とディスカッション⑤
07. 各自の研究計画の発表とディスカッション⑥
08. 各自の研究計画の発表とディスカッション⑦
09. 各自の研究計画の発表とディスカッション⑧
10. 各自の研究計画の発表とディスカッション⑨
11. 報告書のまとめ①
12. 報告書のまとめ②
13. 報告書のまとめ③
14. 完成した研究の発表①
15. 完成した研究の発表②

準備学習(予習)

研究のテーマについて調査、レポート執筆を進める。ディスカッションに備えて内容を整理する。

準備学習(復習)

ディスカッションで得られた指摘や意見を参考に、研究を振り返り展開させていくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----------------|
| (1) 研究レポート | 80% |
| (2) 発表 | 20% 発表・ディスカッション |

教科書

参考書

担当教員：村上 純子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX05603

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士認定資格(D学科)：その他

(1) 内容

研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。さらに家族心理学の分野において、各受講者が自分の関心あるテーマを選択し、研究レポートおよび研究活動を行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

(2) 学びの意義と目標

自分自身の関心のあるテーマに取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスを通し、独自の発想や想像を養い、調査研究を実践していく力を身につけ、知識の獲得と自らの視点の確立を目指す。

受講者に対する要望

各自のテーマや目的に応じての学習であるため、授業外での学習が重要となる。自らのテーマに関する資料を積極的に集め、知識の幅を広げられるよう積極的に参加すること。さらに授業時に積極的にディスカッションし、その議論を自らの研究に活かすことを期待する。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 研究論文とは？ 研究論文の書き方、まとめ方について
03. 研究経過報告とディスカッション①
04. 研究経過報告とディスカッション②
05. 研究経過報告とディスカッション③
06. 研究経過報告とディスカッション④
07. 研究経過報告とディスカッション⑤
08. 中間発表（講義およびディスカッション）
09. 研究経過報告とディスカッション⑥
10. 研究経過報告とディスカッション⑦
11. 研究経過報告とディスカッション⑧
12. 研究経過報告とディスカッション⑨
13. 研究経過報告とディスカッション⑩
14. 研究経過報告とディスカッション⑪
15. まとめ

準備学習(予習)

各自の研究テーマに沿って、研究論文作成のための下準備を行うこと。

準備学習(復習)

各回において、指摘のあった研究論文作成上の改善点を再度振り返り次回以降に生かすこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート・発表 | 50% |

教科書

参考書

卒業研究II（家族心理学）

CHCL-D-400

担当教員：村上 純子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX05718

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。さらに家族心理学の分野において、各受講者が自分の関心あるテーマを選択し、研究レポートおよび研究活動を行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

(2) 学びの意義と目標

卒業研究 I で学びを深めた各自のテーマに取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスを通し、独自の発想や想像を養い、調査研究を実践していく力を身につけ、自らの考えをまとめ、他者にそれを伝える力を身につけることを目指す。

受講者に対する要望

各自のテーマや目的に応じての学習であるため、授業外での学習が重要となる。自らのテーマに関する資料を積極的に集め、知識の幅を広げられるよう積極的に参加すること。さらに授業時に積極的にディスカッションし、その議論を自らの研究に活かすことを期待する。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 研究経過報告とディスカッション①
03. 研究経過報告とディスカッション②
04. 研究経過報告とディスカッション③
05. 個別指導のフィードバック
06. 研究経過報告とディスカッション④
07. 研究経過報告とディスカッション⑤
08. 研究経過報告とディスカッション⑥
09. 研究経過報告とディスカッション⑦
10. 個別研究論文完成指導①
11. 個別研究論文完成指導②
12. 個別研究論文完成指導③
13. 卒業研究発表会①
14. 卒業研究発表会②
15. 卒業研究発表会③とまとめ

準備学習(予習)

各自の研究テーマに沿って、研究論文作成のための下準備を行うこと。

準備学習(復習)

各回において、指摘のあった研究論文作成上の改善点を再度振り返り次回以降に生かすこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート・発表 | 50% |

教科書

参考書

卒業研究II（特別支援教育）		CHCL-D-400
担当教員：吉田 昌義		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1DX05911
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 今後の研究計画の策定 02. 児童生徒の実態把握の内容と方法（生育歴・教育歴・医療歴） 03. 児童生徒の実態把握の内容と方法（言語発達） 04. 児童生徒の実態把握の内容と方法（運動発達） 05. 児童生徒の実態把握の内容と方法（基本的生活習慣と家庭生活） 06. 児童生徒の実態把握の内容と方法（友人関係） 07. 児童生徒の実態把握の内容と方法（社会性） 08. 児童生徒の実態把握の実際（観察法） 09. 児童生徒の実態把握の実際（観察法と記録の取り方） 10. 児童生徒の指導課題の立て方 11. 児童生徒の指導課題に沿った指導内容の選定 12. 児童生徒の指導内容に即した指導方法と教材の選択 13. 児童生徒の指導内容に沿った指導計画の作成 14. 指導の実際 15. 評価の観点と方法 まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>学科の必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>特別支援教育（知的障害教育や自閉症教育）を進めていくうえで、児童生徒の実態に即した指導内容の選択・組織及び指導方法、教材教具の選定等が重要である。そこで、児童生徒の実態把握の観点や方法、内容を学ぶとともに、指導内容に即した教材を選択することや、必要に応じて新たに教材を製作することが重要である。さらには実際の指導において用いる際には、興味関心を引き起こすこと、実際に操作して活動すること、活動を通して成就感を得るようにすること等が大切である。 本授業においては、児童生徒の実態把握の詳細と、授業における題材の選定、実際の教材の製作と使用を通して、個に応じた指導の指導技術の基本を学ぶ。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>実態把握に関する事前配布の資料を読み込んでおくこと</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 児童生徒の的確な実態把握の内容や方法を学ぶ。 2. 児童生徒の実態の即した、個別の指導計画を作成すること 3. 実態に応じた適切な指導内容を選択すること 4. 様々な指導技術を学び、対象児に即した指導を行うこと 5. 指導に当たって適切な教材教具の選択及び教材製作を行うこと 6. 指導を通して、適切な評価を行うこと</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>1. 児童生徒の実態把握のための資料を読み込んでおくこと 2. 指導課題に即した指導内容を頭に置きながら、実態把握を行うこと。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>学習したことをまとめて整理しておくこと</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・特別支援教育 ・個に応じた指導（教育支援計画） ・個別の指導計画 ・指導技術 ・教材教具の選択・製作</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 学習への取り組み 70 (2) 指導レポート 30</div>	
	<div>教科書</div> <div>授業内で指示する</div> <div>参考書</div>	

卒業研究II（公衆衛生学・環境教育）

CHCL-D-400

担当教員：中村 磐男

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX07125

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習・卒業研究のしめくくりとして、卒業論文ないしは卒業レポートの作成と、成果のプレゼンテーションの準備および指導をおこなう。

(2) 学びの意義と目標

論文ないしはレポートの作成と、プレゼンテーションを通して、資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養い、研究成果をまとめる方法と発表する技術を習得する。

受講者に対する要望

できるだけ、卒業論文提出に向けて、自発的、積極的にチャレンジしてほしい。

学びのキーワード

- ・論文の枠組みと書き方
- ・引用文献の選択とリストの方法
- ・考察の書き方
- ・プレゼンテーションの方法
- ・パソコン（ワード、パワーポイント）使用法の習得

授業計画

01. 卒業研究Ⅰの進行状態確認と卒業研究Ⅱの予定・計画
02. 論文・レポート・プレゼンテーションの作成と加筆修正1
03. 論文・レポート・プレゼンテーションの作成と加筆修正2
04. 論文・レポート・プレゼンテーションの作成と加筆修正3
05. 論文・レポート・プレゼンテーションの作成と加筆修正4
06. 論文・レポート・プレゼンテーションの作成と加筆修正5
07. 中間発表（プレゼンテーション）
08. 論文・レポート・プレゼンテーションの作成と加筆修正6
09. 論文・レポート・プレゼンテーションの作成と加筆修正7
10. 論文・レポート・プレゼンテーションの作成と加筆修正8
11. 論文・レポート・プレゼンテーションの作成と加筆修正9
12. 最終プレゼンテーション
13. 論文・レポートの最終修正 1
14. 論文・レポートの最終修正 2
15. 論文・レポートの提出とコメント

準備学習(予習)

当日までの成果を文章にまとめ、あるいは、プレゼンテーションの資料としてまとめる。

準備学習(復習)

ディスカッションの成果を、論文、レポート、プレゼンテーションの資料に反映させる、

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 論文・レポート | 40% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) 積極性、自主性 | 30% |

教科書

参考書

卒業研究Ⅰ（倫理学）

CHCL-D-300

担当教員：原 一子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX07212

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「専門演習」での学びを生かして、各自が自分のテーマを見つけ、それを一層掘り下げ、論文に纏められるように訓練する。まずは、1時間に2人ずつの学生が発表を担当し、教員やゼミ仲間から受けた質問やコメントをもとに、次の発表に向けて、資料検索、論旨・構成・章立てなどの練り直しをして、より完成度の高い原稿を準備する。これを繰り返しながら卒業論文を完成させる力を養う。併せて、文献検索の仕方、引用・脚注のつけ方・プレゼンテーションの仕方なども学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

自分で見つけたテーマについて、思索し、読書し、討論して、卒業論文に纏め上げることは、学力の向上のためには勿論、自己の精神を鍛える上でも極めて実り多い作業である。この精神的充実は一生涯の宝となるはずである。「卒業研究」では卒業論文を完成させるために必要な、総合的学力・徹底して考え抜く力・明快な論旨を構築する力を涵養する。

受講者に対する要望

演習科目であることから当然のことながら、欠席・遅刻は許されない。担当者が欠席するとゼミが成り立たなくなるので、毎回必ず出席して担当部分の課題をこなすこと。

学びのキーワード

- ・研究テーマの設定
- ・文献検索
- ・論旨

授業計画

01. 演習の進め方、発表分担の決定
02. テーマの見つけ方、文献検索、レジュメ作成の方法
03. 第1回発表 1
04. 第1回発表 2
05. 第2回発表 1
06. 第2回発表 2
07. 第3回発表 1
08. 第3回発表 2
09. 第4回発表 1
10. 第4回発表 2
11. 第5回発表 1
12. 第5回発表 2
13. 第6回発表 1
14. 第6回発表 2
15. 総括

準備学習(予習)

毎週、自己のテーマについて、自宅での資料検索、読書、レジュメ作成は必須である。

準備学習(復習)

教員やゼミ仲間に指摘された問題点を整理し、次のゼミに備える。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題の達成度 | 50% |
| (2) 討論などへの積極性 | 30% |
| (3) 受講態度 | 20% |

教科書

参考書

卒業研究II（倫理学）		CHCL-D-400
担当教員：原 一子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1DX07327
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 演習の進め方、発表分担の決定 02. 進捗状況の報告 03. 第1回発表1 04. 第1回発表2 05. 第2回発表1 06. 第2回発表2 07. 第3回発表1 08. 第3回発表2 09. 第4回発表1 10. 第4回発表2 11. 第5回発表1 12. 第5回発表2 13. 第6回発表1 14. 第6回発表2 15. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「卒業研究Ⅰ」に引き続き、自分のテーマを一層掘り下げ、論文に纏められるように訓練する。まずは、1時間に2人ずつの学生が発表を担当し、教員やゼミ仲間から受けた質問やコメントをもとに、次回の発表に向けて、資料検索、論旨・構成・章立てなどの練り直しをして、より完成度の高い原稿を準備する。これを繰り返しながら卒業論文を完成させる力を養う。併せて、文献検索の仕方、引用・脚注のつけ方・プレゼンテーションの仕方なども学ぶ。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎週、自己のテーマについて、自宅での資料検索、読書、レジュメ作成は必須である。

</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>教員やゼミ仲間に指摘された問題点を整理し、次回のゼミに備える。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>自分で見つけたテーマについて、思索し、読書し、討論して、卒業論文に纏め上げることは、学力の向上のためには勿論、自己の精神を鍛える上でも極めて実り多い作業である。この精神的充実は一生涯の宝となるはずである。「卒業研究Ⅱ」では特に、卒業論文を完成させるために必要な、総合的学力・徹底して考え抜く力・明快な論旨を構築する力を涵養する。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>演習科目であることから当然のことながら、欠席・遅刻は許されない。担当者が欠席するとゼミが成り立たなくなるので、毎回必ず出席して担当部分の課題をこなすこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・研究テーマの設定 ・文献検索 ・論旨</div>	<div>教科書</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 課題達成度 50% (2) 討論などへの積極性 30% (3) 受講態度 20%</div>
	<div>参考書</div>	

卒業研究I（日本文化学）

CHCL-D-300

担当教員：渡辺 正人

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX07413

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

文化から読み解く心意や心理を取り扱う。この専門演習では各自のテーマに従って、調査・考察・発表を行う。基本的には発表を中心に行う。

(2) 学びの意義と目標

卒業研究なので、特に論文を読む力を身につけたい。

受講者に対する要望

想像力をもって取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 心意
- ・ 民俗
- ・ 身体性

授業計画

01. オリエンテーション
02. 文化と心意との関係を考える
03. 発表
04. 発表
05. 発表
06. 発表
07. 発表
08. 発表
09. 発表
10. 発表
11. 発表
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

資料を事前に熟読しておくこと。特に指示された論文は読んでおくこと。

準備学習(復習)

発表をもとに、さらに資料を読み込んでおく。また、関連の論文を探す努力も欲しい。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 発表 | 50% |
| (2) 資料 | 50% |

教科書

参考書

卒業研究II（日本文化学）

CHCL-D-400

担当教員：渡辺 正人

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX07528

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

文化から読み解く心意や心理を取り扱う。この演習では各自のテーマに従って、調査・考察・発表を行う。基本的には発表を中心に行う。卒業論文を書く場合は、その基礎まで固めておきたい。

(2) 学びの意義と目標

卒業研究なので、特に論文を批判的に読む力を身につけたい。

受講者に対する要望

想像力をもって取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 心意
- ・ 民俗
- ・ 身体性

授業計画

01. オリエンテーション
02. 文化と心意との関係を考える
03. 発表
04. 発表
05. 発表
06. 発表
07. 発表
08. 発表
09. 発表
10. 発表
11. 発表
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

資料を事前に熟読しておくこと。特に指示された論文は読んでおくこと。

準備学習(復習)

発表をもとに、さらに資料を読み込んでおく。また、関連の論文を探す努力も欲しい。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 発表 | 50% |
| (2) 資料 | 50% |

教科書

参考書

卒業研究I（心理療法）

担当教員：大橋 良枝

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：1 コード：1DX07610

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒業論文を進めていく。
進捗状況を発表し、卒業論文の準備を進める。

(2) 学びの意義と目標

自分の関心を明確にするために、積極的に文献等に当たる力を身につけること。
自分の関心と問題意識を明確にするために、発表の場を利用する力をつけること。

受講者に対する要望

些細な疑問もゼミの中で挙げて、その場で解決し、次につなげていく姿勢

学びのキーワード

授業計画

01. 概説
02. 担当者による発表 1
03. 担当者による発表 2
04. 担当者による発表 3
05. 担当者による発表 4
06. 担当者による発表 5
07. 担当者による発表 6
08. 担当者による発表 7
09. 担当者による発表 8
10. 担当者による発表 9
11. 担当者による発表 10
12. 担当者による発表 11
13. 担当者による発表 12
14. 総評
15. まとめ

準備学習(予習)

発表の準備のための、調査等。

準備学習(復習)

発表を経てレポート、論文を修正。

評価方法

- | | |
|------------|----|
| (1) 出席態度 | 50 |
| (2) 研究進捗状況 | 50 |

教科書

参考書

卒業研究II（心理療法）

CHCL-D-400

担当教員：大橋 良枝

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1DX07723

学部教育の関連目

【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒業研究Iに引き続き、卒業論文を進めていく。毎回、進捗状況を発表し、卒業論文の準備を進める。

(2) 学びの意義と目標

卒業論文執筆の第二段階である。自分の関心と問題意識を明確にするために、発表の場を利用する力をつけること。

受講者に対する要望

些細な疑問もゼミの中で挙げて、その場で解決し、次につなげていく姿勢

学びのキーワード

- ・心理療法
- ・心理学研究法
- ・発達段階

授業計画

01. 学期末レポートの返却と解説
02. 担当者による発表1
03. 担当者による発表2
04. 担当者による発表3
05. 担当者による発表4
06. 担当者による発表5
07. 中間発表
08. 担当者による発表6
09. 担当者による発表7
10. 担当者による発表8
11. 担当者による発表9
12. 担当者による発表10
13. 担当者による発表11
14. 最終発表
15. まとめ

準備学習(予習)

発表の準備のための、調査等。

準備学習(復習)

発表を経てレポート、論文を修正。

評価方法

- | | |
|------------|----|
| (1) 出席態度 | 50 |
| (2) 研究進捗状況 | 50 |

教科書

参考書

卒業研究Ⅰ（子どもの健康）/卒業研究Ⅰ（小児保健学）

CHCL-D-300

担当教員： 齊藤 理砂子

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1DX07811

学部教育の関連目

【D】 資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習Ⅱで学んだことを発展させるため、研究テーマの設定方法、調査・分析方法、研究成果の発表方法を学ぶ

(2) 学びの意義と目標

研究テーマの設定方法、調査・分析方法、研究成果の発表方法について、知識を修得する

受講者に対する要望

積極的に研究活動に取り組むこと

学びのキーワード

- ・ 小児保健学
- ・ 調査方法
- ・ 研究方法
- ・ 学校保健学
- ・ ヘルスプロモーション

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究テーマの設定 1
03. 研究テーマの設定 2
04. 研究テーマの設定 3
05. 研究経過報告と討議 1
06. 研究経過報告と討議 2
07. 研究経過報告と討議 3
08. 中間発表会
09. 研究経過報告と討議 4
10. 研究経過報告と討議 5
11. 研究経過報告と討議 6
12. 研究経過報告と討議 7
13. 研究経過報告と討議 8
14. 発表会
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画に沿って、予め学習しておくこと

準備学習(復習)

授業で気がついたこと、学んだことをまとめる

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への貢献度 | 50% |
| (2) 発表内容 | 50% |

教科書

参考書

卒業研究II（子どもの健康）/卒業研究Ⅱ（小児保健学）

CHCL-D-400

担当教員： 齊藤 理砂子

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1DX07926

学部教育の関連目

【D】 資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒業研究Ⅰで設定したテーマに基づいて、研究を進めていく。その際にディスカッション等を行うことにより、思考を深め、考察につなげていく。

(2) 学びの意義と目標

設定したテーマに基づき、研究を行い、最終的にレポートにまとめて完成させることを目標とする

受講者に対する要望

積極的に研究活動に取り組むこと

学びのキーワード

- ・ 小児保健学
- ・ 調査方法
- ・ 研究方法
- ・ 学校保健学
- ・ ヘルスプロモーション

授業計画

01. 研究テーマの設定
02. 経過報告、ディスカッション
03. 経過報告、ディスカッション
04. 経過報告、ディスカッション
05. 経過報告、ディスカッション
06. 中間発表会
07. 経過報告、ディスカッション
08. 経過報告、ディスカッション
09. 経過報告、ディスカッション
10. 卒業研究レポート作成
11. 卒業研究レポート作成
12. 卒業研究レポート作成
13. 卒業研究レポート作成
14. 卒業研究レポート作成
15. 発表会

準備学習(予習)

授業計画に沿って、予め学習しておくこと

準備学習(復習)

授業で気がついたこと、学んだことをまとめる

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) レポート | 80% |
| (2) 授業参加状況 | 20% |

教科書

参考書

専門演習Ⅰ（学校保健学・健康教育学）		CHCL-D-200					
担当教員： 和田 雅史							
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1DX08010					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 子どもの身体の現状 02. 子どもの身体のおかしさ 03. 教育保健の現状と課題 04. 社会的課題としての子どもの身体 05. 各自の研究テーマを設定 06. 各自が関心を持った研究テーマを発表する 07. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる①文献を使って 08. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる②ニューストピックを使って 09. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる③インターネットを使って 10. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる④実験実習から 11. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる⑤質問紙を使って 12. 各自のまとめを発表ー①討論の方法ブレインストーミング 13. 各自のまとめを発表ー②討論の方法ディスカッションとディベート 14. 各自のまとめを発表ー③討論ロールプレイング 15. まとめと今後の課題についての討論</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>学科の必修科目</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>子どもの発育発達という視点から、子ども達の健康や安全について考えていく。健康学の基礎的知識を学ぶと同時に、一般社会に出現している現代的健康課題を取り上げ、皆で論じていきたい。英語の文献購読も毎回行う。 後半の授業では、学生自身が興味を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。</div>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>学校保健学あるいは学校健康教育学領域の文献を読み合いながら、その領域の現代的課題に関する知識を身につける。また、今日的健康課題について、自分自身の興味関心に基づいてテーマ設定し、自身の調べ学習、まとめ、発表を通して、自身の研究をまとめていく。ここでは、調べ学習、調査の方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法など、学生として必要な表現スキルの方法もあわせて学んでいくことができる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>テーマに沿って、事前に調べ学習をしておくことが望ましい。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>子ども、教育、学校、あるいは現代社会に出現している心や身体の課題に関心がある者は、積極的に志望して欲しい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>各授業で扱った内容をまとめておくことが望まれる。</div>						
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>50%</td><td>自から考え、それを発表する能力。他者の意見を聞き、それを理解する態度を評価する。</td></tr><tr><td>(2) 到達度評価のまとめ</td><td>50%</td><td>各授業におけるまとめと最終時にまとめるレポートを評価する。</td></tr></table> <div>授業への参加の状況を把握し評価の観点としたい。具体的には、出席状況、発言の状況、発表の状況などがその対象となる。</div>		(1) 授業への参加度	50%	自から考え、それを発表する能力。他者の意見を聞き、それを理解する態度を評価する。	(2) 到達度評価のまとめ	50%
(1) 授業への参加度	50%	自から考え、それを発表する能力。他者の意見を聞き、それを理解する態度を評価する。					
(2) 到達度評価のまとめ	50%	各授業におけるまとめと最終時にまとめるレポートを評価する。					
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 学校保健</div><div>・ 健康教育</div><div>・ 表現スキル</div></div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で説明</div>	<div>参考書</div>					

専門演習II（学校保健学・健康教育学）		CHCL-D-300
担当教員： 和田 雅史		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1DX08110
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 学校における健康・安全とは 02. 学校保健や健康教育に関する課題 03. 学校保健や健康教育に関する文献を紹介 04. 教育保健の立場から子ども身体を考える 05. 各自の研究テーマを設定 06. 各自が関心を持った研究テーマを発表する 07. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる－研究とは 08. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる－仮説の立て方 09. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる－目的の立て方 10. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる－方法の決定 11. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる－結果のまとめ方 12. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる－考察の仕方 13. 各自のまとめを発表－討論の方法 14. 各自のまとめを発表－討論の実際 15. まとめと今後の課題についての討論</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>学科の必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>学校ににおける児童生徒の発育発達という視点から、子ども達の健康や安全について考えていきたい。学校保健あるいは健康教育の基礎的知識を学び、現代的課題について皆で論じていきたい。学生自身が興味を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。これらの過程を大切にし、実際の体験を通して、学校保健学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>テーマに沿って、事前に調べ学習をしておくことが望ましい。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>学校保健学あるいは学校健康教育学領域の文献を読み合いながら、その領域の現代的課題に関する知識を身につける。また、今日的健康課題について、自分自身の興味関心に基づいてテーマ設定し、自身の調べ学習、まとめ、発表を通して、自身の研究をまとめていく。ここでは、調べ学習、調査の方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法など、学生として必要な表現スキルの方法もあわせて学んでいくことができる。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>将来、教員を目指している学生、教職を履修している学生はこの講座を必ず志望して欲しいと考えていますが、他の学生においても現代社会に出現している健康課題に関心がある者は自分自身の関心を一つの目標とし、積極的に志望して欲しい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>各授業で扱った内容をまとめておくことが望まれる。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への参加度50% 自らが考え、その考えを発表する力。また他者の考えを聞き理解する態度を評価する。</div><div>(2) 到達度評価のまとめ50% 毎時間に書くまとめと最終時にまとめるレポートによる評価。</div></div>	
	<div>授業への参加の状況を把握し評価の観点としたい。具体的には、出席の状況、発言の状況、発表の状況などがその対象となる。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">学校保健健康教育表現スキル</div>	<div>教科書</div>	
	<div>参考書</div>	

卒業研究Ⅱ（学校保健学・健康教育学）		CHCL-D-300
担当教員： 和田 雅史		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1DX08210
学部教育の関連目		授業計画
【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う		
カリキュラム上の位置付け		
学科の必修科目		01. 研究論文とは何か 02. 研究論文のまとめ方 03. 研究論文の発表の方法（プレゼンテーションの方法） 04. 各自の研究テーマを設定①ディスカッション 05. 各自の研究テーマを設定②発表 06. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる①自主研究一報告 07. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる②自主研究一報告 08. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる③自主研究一報告 09. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる④自主研究一報告 10. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる⑤自主研究一報告 11. 各自の研究成果のまとめを発表一討論① 12. 各自の研究成果のまとめを発表一討論② 13. 各自の研究成果の修正一討論① 14. 各自の研究成果の修正一討論② 15. まとめと今後の課題について
(1) 内容		
卒業研究Ⅰの継続教育として、学校ににおける児童生徒の発育発達という視点から、子ども達の健康や安全について考えていく。と同時に将来卒業論文やゼミ論を書くことを前提に、調べ学習、調査の方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法などを改めて学習し、学生として必要と思われる表現スキルの方法もあわせて学んでいく。そして学生自身が興味を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する力を養うために、その過程では学生相互で討論を通じてお互いの研究内容を高めていく。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
卒業研究Ⅰで学んだ内容を継続しながら、子ども、学校、教育に関連する領域の文献を読み合いながら、その領域の現代的課題に関する知識を身につける。また、今日的健康課題について、自分自身の興味関心に基づいてテーマ設定し、自身の調べ学習、まとめ、発表を通して、自身の研究の意識を深めていくと同時に、最終的に論文としてそれをまとめていく過程を学ぶことによって考察力を高めていくことになる。		
準備学習(復習)		
各授業で扱った内容をまとめておくことが望まれる。		評価方法
受講者に対する要望		
卒業論文をまとめようとしているものだけでなく、ゼミ論として論文をまとめようと考えているものは積極的に参加して欲しい。		
学びのキーワード		教科書
・学校保健 ・健康教育 ・表現スキル		授業の中で提示
		参考書

卒業研究Ⅰ（学校保健学・健康教育学）		CHCL-D-300
担当教員： 和田 雅史		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1DX08214
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 研究論文とは何か 02. 研究論文のまとめ方 03. 研究論文の発表（プレゼンテーション） 04. 各自の研究テーマを設定①課題設定 05. 各自の研究テーマを設定②仮説の立て方 06. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる①文献研究 07. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる2②調査法による研究 08. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる③実験的手法による研究 09. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる④研究目的と方法の立て方 10. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる⑤研究結果のまとめ方 11. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる⑥考察の仕方 12. 自の研究テーマに沿って調べ・まとめる⑥参考文献、引用文献の方法 13. 各自のまとめを発表ー討論① 14. 各自のまとめを発表ー討論② 15. まとめと今後の課題についての討論</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>学科の必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>学校ににおける児童生徒の発育発達という視点から、子ども達の健康や安全について考えていく。と同時に将来卒業論文やゼミ論を書くことを前提に、調べ学習、調査の方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法などを改めて学習し、学生として必要と思われる表現スキルの方法もあわせて学んでいく。そして学生自身が興味を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する力を養うために、その過程では学生相互で討論を通じてお互いの研究内容を高めていく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子ども、学校、教育に関連する領域の文献を読み合いながら、その領域の現代的課題に関する知識を身につける。また、今日の健康課題について、自分自身の興味関心に基づいてテーマ設定し、自身の調べ学習、まとめ、発表を通して、自身の研究の意識を深めていくと同時に、最終的に論文としてそれをまとめていく過程を学ぶことによって考察力を高めていくことになる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>テーマに沿って、事前に調べ学習をしておくことが望ましい。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>卒業論文をまとめようとしているものだけでなく、ゼミ論として論文をまとめようと考えているものは積極的に参加して欲しい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>各授業で扱った内容をまとめておくことが望まれる。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加度 50% 自ら考え発言すること、他者の意見を聞き、理解する態度を評価。 (2) 到達度評価のまとめ 50% 各時間後に書くまとめ、および最終時に書くまとめによる評価</div>	
	<div>授業への参加の状況を把握し評価の観点としたい。具体的には、出席の状況、発言の状況、発表の状況などがその対象となる。 no</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">学校保健健康教育表現スキル</div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で説明</div>	<div>参考書</div>

人間福祉学科

社会学（W用）		SOCI-0-101	
担当教員： 齋藤 圭介			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 12A00356	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける。論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>		<div>01. 社会学の成立と展開</div> <div>02. 社会学の研究視点</div> <div>03. 現代社会の理解（1）社会システム① 社会システムの概念、文化・規範、社会意識</div> <div>04. 現代社会の理解（2）社会システム② 産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標</div> <div>05. 現代社会の理解（3）法と社会システム</div> <div>06. 現代社会の理解（4）経済と社会システム</div> <div>07. 現代社会の理解（5）社会変動① 社会変動の概念</div> <div>08. 現代社会の理解（6）社会変動② 近代化、産業化、情報化</div> <div>09. 現代社会の理解（7）人口① 人口の概念、人口構造</div> <div>10. 現代社会の理解（8）人口② 人口問題、少子高齢化</div> <div>11. 現代社会の理解（9）地域① 地域の概念、コミュニティの概念</div> <div>12. 現代社会の理解（10）地域② 都市化と地域社会、過疎化と地域社会</div> <div>13. 現代社会の理解（11）地域③ 地域社会の集団・組織</div> <div>14. 現代社会の理解（12）社会集団① 社会集団の概念、第一次集団、第二次集団</div> <div>15. 現代社会の理解（13）社会集団② ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション</div> <div>16. 現代社会の理解（14）社会集団③ 組織の概念、官僚制</div> <div>17. 生活の理解（1）家族① 家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態</div> <div>18. 生活の理解（2）家族② 家族の変容、家族の機能</div> <div>19. 生活の理解（3）生活の捉え方</div> <div>20. 人と社会との関係（1）社会関係と社会的孤立</div> <div>21. 人と社会との関係（2）社会的行為</div> <div>22. 人と社会との関係（3）社会的役割</div> <div>23. 人と社会との関係（4）社会的ジレンマ</div> <div>24. 社会問題の理解（1）社会問題の捉え方</div> <div>25. 社会問題の理解（2）具体的な社会問題① 貧困、失業</div> <div>26. 社会問題の理解（3）具体的な社会問題② 差別、社会的排除、自殺</div> <div>27. 社会問題の理解（4）具体的な社会問題③ 犯罪、非行</div> <div>28. 社会問題の理解（5）具体的な社会問題④ DV、ハラスメント</div> <div>29. 社会問題の理解（6）具体的な社会問題⑤ 児童虐待、いじめ</div> <div>30. 社会問題の理解（7）具体的な社会問題⑥ 公害、環境破壊</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【W】社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div> <div>【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div>			
(1) 内容			
<div>・社会学の成立と展開</div> <div>・社会学の研究視点</div> <div>・現代社会の理解</div> <div>・生活の理解</div> <div>・人と社会との関係</div> <div>・社会問題の理解</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>・社会理論による現代社会の捉え方を理解する。</div> <div>・生活について理解する。</div> <div>・人と社会の関係について理解する。</div> <div>・社会問題について理解する。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
「社会」「他人」に対する何らかの興味関心を持っていること。		<div>毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>講義終了後、配布プリントを再読し、①興味関心を抱いた事柄と、②その理由について考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。</div>	
		評価方法	
		<div>(1) 授業への参加度40%</div> <div>(2) 期末試験40%</div> <div>(3) レポートなど20%</div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・コミュニケーション</div> <div>・社会学的想像力</div> <div>・他者理解</div> <div>・アイデンティティ</div> <div>・ジェンダー</div>		<div>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（3）社会理論と社会システム—社会学【第3版】』（中央法規出版）</div>	
		参考書	

SOCI-0-101/SOCI-P-1

社会学

担当教員： 加藤 敦也

学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 12A003K1

学部教育の関連目

【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【L】社会福祉主事任用資格：選択科目

【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【P】社会福祉主事任用資格：選択科目

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

本講義は社会問題を解釈するための方法論ないし理論枠組みとしての社会学の内容を概観していく。授業では、教科書の内容を、雑誌記事や、テレビドラマ、映画、ニュース番組などの映像を補助資料として用い、日常生活における身近な現象がいかに社会学のテーマとして取り上げられ、どのように社会学の対象領域として説明されるかについて解説していく。また、授業期間内にテーマに応じて小レポート作成やディスカッションを課すことで、社会学の取り扱う問題を自ら考えることを促す。

(2) 学びの意義と目標

受講者自身が社会問題を解釈する認知枠組みとして社会学的な視点を身につけてもらうことを目標とする。受講者各自はそれぞれ成長してきた過程で問題を解釈する認知の枠組みを身につけてきたはずである。本講義は、その認知のあり方を一つの価値観と見なしながら、その価値観に従うだけでなく、ものごとを社会通念にとらわれず、社会学的に理解するための基礎的な知識を身につけてもらいたいと思っている。

受講者に対する要望

他の受講者に迷惑のかかる行為は謹んでほしい。
例えば私語厳禁。

学びのキーワード

・社会学

・都市とグローバリゼーション

・階級・階層

・ジェンダー

・エスニシティ

授業計画

01. 社会学とは何か（１）——社会学の誕生と歴史について

02. 社会学とは何か（２）——社会学の理論について

03. 社会調査の方法―量的調査と質的調査

04. 家族をめぐる社会学（１）——家族の類型と結婚の現在

05. 家族をめぐる社会学（２）——性別役割分業の実態と家族関係の問題

06. 家族をめぐる社会学（３）——近代家族論

07. 地域をめぐる社会学（１）——都市の特徴

08. 地域をめぐる社会学（２）——グローバリゼーションと都市、または郊外について

09. メディアと情報化をめぐる社会学（１）——メディアの歴史

10. メディアと情報化をめぐる社会学（２）——メディア・リテラシー

11. 階級・階層をめぐる社会学（１）——階級・階層概念による社会の読み解き方について

12. 階級・階層をめぐる社会学（２）——日本社会の階層意識と不平等問題

13. インナートリップとしての社会学（１）——アイデンティティを役割取得などの理論から考える

14. インナートリップとしての社会学（２）——人間関係を相互行為論から考える

15. ジェンダーの社会学（１）——ジェンダー概念の説明とジェンダー不平等について

16. ジェンダーの社会学（２）——女性就労の問題、性暴力の問題など

17. セクシュアリティの社会学——セクシュアル・マイノリティと社会

18. エスニシティの社会学

19. 社会運動の社会学（１）——社会運動の類型と脱産業社会について

20. 社会運動の社会学（２）——新しい社会運動とアイデンティティ・ポリティクスについて

21. 教育社会学（１）——教育の社会的機能

22. 教育社会学（２）——教育と階級・階層の関係性、または教育空間における人権問題について

23. 相互行為論、社会構築主義

24. 社会学の歴史：ヴェーバーとデュルケム

25. 社会学の歴史：アメリカの社会学史

26. ヨーロッパの現代：ルーマン、ギデنز、ブルデュー

27. 日本の社会学史：意味社会学と統合理論

28. 近代と脱近代（１）——後期近代という社会認識（ギデنزとハーバーマスを中心に）

29. 近代と脱近代（２）——ポストモダンという社会認識

30. 社会学のまとめ

準備学習(予習)

授業前の予習としては教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

準備学習(復習)

授業後の復習としては講義をまとめた自筆ノートを教科書とあわせて見直すことをすすめる。

評価方法

(1) 平常点

30%

(2) 小レポート

30% 授業期間内に課す

(3) 定期試験

40%

平常点(30点)、授業期間内に課される小レポート(30点)、定期試験(40点)により評価する。なお、教科書を用いて授業を行う。

教科書

宇都宮京子 『よくわかる社会学（第2版）』（ミネルヴァ書房）

参考書

社会学の理解を促すうえで重要な文献は授業中に適宜指示する。

社会学		SOCI-0-101/SOCI-P-1
担当教員： 新津 尚子		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A003K2
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会学とは何か（1） 基礎編：相互行為の重要性 02. 社会学とは何か（2） 応用編：信頼と社会 03. 家族社会学（1） 基礎編：家族とは何か 04. 家族社会学（2） 応用編：日本の産業構造の変化と家族の変化 05. 都市社会学（1）基礎編：都市とは何か 06. 都市社会学（2）応用編：都市における貧困問題 07. メディアと情報の社会学（1）基礎編：メディアの社会にもたらした影響 08. メディアと情報の社会学（2）応用編：情報化社会 09. 階級・階層と社会（1）基礎編：日本の階層と不平等 10. 階級・階層と社会（2）応用編：世界と日本の不平等の比較 11. アイデンティティと社会（1）基礎編：自分と社会との関係 12. アイデンティティと社会（2）応用編：感情労働 13. ジェンダーと社会（1）基礎編：ジェンダーとは何か 14. ジェンダーと社会（2）応用編：「ジェンダー」を歴史的に考える 15. 国際社会とエスニシティ（1）基礎編：エスニシティとは何か 16. 国際社会とエスニシティ（2）応用編：日本の中のエスニシティ 17. 社会運動（1）基礎編：現代社会と社会運動 18. 社会運動（2）応用編：インターネットと社会運動 19. 社会学の歴史とさまざまな研究:社会学の始まり（1）コントから20世紀初頭までのヨーロッパの社会学 20. 社会学の歴史とさまざまな研究:社会学の始まり（2） 米国での社会学の始まり 21. 社会学の歴史とさまざまな研究:デュルケム（1）デュルケムの生きた時 22. 社会学の歴史とさまざまな研究:デュルケム（2）『自殺論』 23. 社会学の歴史とさまざまな研究:ヴェーバー（1）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 24. 社会学の歴史とさまざまな研究:ヴェーバー（2）合理化 25. 社会学の歴史とさまざまな研究:マートン 26. 社会学の歴史とさまざまな研究:パーソンズ 27. 社会学の歴史とさまざまな研究:シュッツ 28. 社会学の歴史とさまざまな研究:ブルデュー 29. 社会学的想像力 30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉主事任用資格：選択科目 【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この講義では「家族」「地域」「ジェンダー」など、社会学を総合的に学ぶことを目的とする。また後半（19回目以降）は社会学の歴史についても学ぶ。授業では教科書を用いて講義を行うほか、関連する資料を読んだのディスカッションや小レポート作成など、履修者が自分自身で考える機会を設け、「理解する」→「考える」→「身につける」というプロセスで確実に内容を身につけることを目指す。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この講義の目標は、毎回の授業を通じて「社会学的な思考を身につける」ことにある。この思考を身につけることによって、「個人的」と思われる問題の中にある社会的な要素や、「社会的」と思われる問題の中にある個人的な要素を理解できるようになる。これにより将来、履修生がさまざまな問題に直面した際、その問題を多角的に考えられるようになるだろう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>予習として教科書の当該箇所を読み、概要を理解しておくこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>私たちを取り囲む身近な「社会」に関心がある者の受講を望む。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>復習として教科書と講義ノートを見直すこと。不明な点があれば自分で調べたり、質問するなどして解決すること。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・家族 ・産業 ・メディア ・ジェンダー ・階層</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点30%</div><div>(2) 提出物30%</div><div>(3) 学期末試験40%</div></div> <div>教科書</div> <div>宇都宮京子編『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）</div> <div>参考書</div>

社会学		SOCI-0-101/SOCI-P-1
担当教員： 加藤 裕康		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A003K4
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会学とは 02. 社会学の理論はどのようなものかー理論の必要性 03. 社会学の理論はどのようなものかーモデルとは何か 04. 社会学の理論はどのようなものかー方法論的全体主義 05. 社会学の理論はどのようなものかー社会学の対象 06. 社会学はいかに成立したのかー近代社会科学の誕生 07. 社会学はいかに成立したのかー進化論と比較文明史 08. 社会学はいかに成立したのかーモダニズムの精神 09. 社会学はいかに成立したのかー学問におけるモダニズム 10. 社会学はいかに成立したのかーデュルケムによる近代の反省 11. 社会学はいかに成立したのかーウェーバーとマルクス主義 12. 多元化する時代と社会学ー危機についての学問 13. 多元化する時代と社会学ー理論社会学 14. 多元化する時代と社会学ー社会学の可能性 15. アイデンティティと社会学 16. コミュニケーションと社会学 17. 家族の社会学 18. 政治の社会学 19. 都市の社会学 20. 身体 of 社会学 21. メディアの社会学 22. 情報化社会と消費社会 23. 階級・階層の社会学 24. ジェンダーとセクシュアリティ 25. 共同体と市民社会 26. 国民国家と多文化社会 27. グローバル化 28. 社会学史（1）西洋編 29. 社会学史（2）日本編 30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉主事任用資格：選択科目 【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「当事者でなければわからない」という言葉を耳にします。果たしてそれは本当でしょうか。他人に指摘されてハッとすることがあるように、自分の中には自分では気付かない「他者性」があります。同じように当事者だからこそ見えないこともあります。社会学は、その他者に迫る学問と言えるでしょう。 本講義では、社会学の歴史と理論を学んでいきます。さらに抽象的な議論と具体的な事例を織り交ぜ、社会学の視点を解説します。また授業では、リアクションペーパーやソーシャル・メディアを活用する中で、講義内容を主体的に捉える契機とします。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>社会学とはどのような学問なのか、その歴史と理論を学ぶことで、社会学的な視点を身につけることを目標とします。混沌とした社会を分析するためのツールを駆使して、自分なりの考えをもって行動できる人間になる、その第一歩としたいと 생각합니다。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書をあらかじめ読んでおいてください。参考文献は適宜、紹介します。
【参考文献】
『社会学のすすめ』（筑摩書房）大澤真幸編 『社会学入門』（岩波書店）見田宗介
『新版 社会学のエッセンス』（有斐閣）友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵
『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）宇都宮京子編</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>授業後にノートをまとめ直しましょう。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>私語、遅刻は厳禁です。出席は評価の対象ではありませんが、5回休んだ者は大学の規定通り、単位を取得できません。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) レポート20%</div><div>(2) 期末試験80%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・アイデンティティ ・コミュニケーション ・メディア ・政治と権力 ・都市と消費社会</div>		<div>教科書</div> <div>稲葉振一郎 『社会学入門』（日本放送出版協会）【978-4140911365】</div> <div>参考書</div>

担当教員：松村 芳明

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：12A00564

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

- ・社会生活と法
- ・憲法・民法・行政法
- ・利用者の人権と個人情報保護

(2) 学びの意義と目標

- ・社会生活における法の作用や役割について理解する。
- ・憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。
- ・基本的人権、権利擁護、成年後見制度等、社会福祉士に必要な内容について理解する。

受講者に対する要望

①社会保障・社会福祉に関連する法規を中心に学ぶ授業ではなく、それらを含め、法学の基礎について全般的に学ぶ授業である点、注意すること。②授業に積極的に参加すること。③分からないことがあれば遠慮なく授業中や授業後などに質問すること。

学びのキーワード

- ・基本的人権
- ・日本国憲法
- ・成年後見制度
- ・近代私法の基本原則

授業計画

01. 社会生活と法 (1) 社会規範としての法
02. 社会生活と法 (2) 社会福祉士と法のかかわり
03. 憲法 (1) 憲法の基本概念
04. 憲法 (2) 日本国憲法の基本原理 ①国民主権・平和主義
05. 憲法 (3) 日本国憲法の基本原理 ②基本的人権の性質と分類
06. 憲法 (4) 日本国憲法の基本原理 ③基本的人権 i. 自由権
07. 憲法 (5) 日本国憲法の基本原理 ④基本的人権 ii. 社会権
08. 憲法 (6) 日本国憲法の基本原理 ⑤基本的人権 iii. 新しい人権
09. 憲法 (7) 日本国憲法の基本原理 ⑥統治機構・財政
10. 憲法 (8) 日本国憲法の基本原理 ⑦地方自治
11. 民法 (1) 権利能力・意志能力・代理
12. 民法 (2) 契約の成立と有効要件・売買契約
13. 民法 (3) 契約の目的物・債権の担保
14. 民法 (4) 不法行為
15. 民法 (5) 親族 ①婚姻・離婚
16. 民法 (6) 親族 ②親子・扶養
17. 民法 (7) 法定相続・遺言
18. 民法 (8) 成年後見制度 ①成年後見制度の創設・法定後見制度の仕組み
19. 民法 (9) 成年後見制度 ②任意後見制度の仕組み
20. 民法 (10) 成年後見制度 ③成年後見制度の現状と課題
21. 行政法 (1) 行政法の基本・行政行為
22. 行政法 (2) 行政手続き
23. 行政法 (3) 行政不服審査
24. 行政法 (4) 行政訴訟
25. 行政法 (5) 国家賠償
26. 行政法 (6) 情報公開
27. 行政法 (7) 地方行政組織
28. 行政法 (8) 行政契約・社会福祉サービスの利用関係
29. 利用者の人権と個人情報保護 (1) 個人情報保護法の概要
30. 利用者の人権と個人情報保護 (2) 社会福祉サービスと個人情報の保護

準備学習(予習)

次回の内容について、指示されたプリント等の該当箇所を読み、六法等を参照しておくこと。

準備学習(復習)

プリント・講義ノートを読み返すことにより講義で得た知識を整理すること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 課題 | 40% |
| (2) 試験 | 50% |
| (3) 授業への参加状況 | 10% |

教科書

山下友信・山口厚編 『ポケット六法』（有斐閣）

参考書

法学		LAW-O-101/LAW-P-100
担当教員： 木村 裕二		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A005K1
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 子ども・少年と法①（民事法・社会法） 03. 子ども・少年と法②（刑事法） 04. 人・労働者・消費者①（民法・民事訴訟法） 05. 人・労働者・消費者②（労働法・消費者法） 06. 男女・夫婦①（民事法） 07. 男女・夫婦②（刑事法・社会法） 08. 企業の法①（会社法） 09. 企業の法②（経済法） 10. 主権者の法①（憲法） 11. 主権者の法②（行政法） 12. 被疑者・被告人・被害者①（刑法） 13. 被疑者・被告人・被害者②（刑事訴訟法） 14. 高齢者・相続①（社会保障法） 15. 高齢者・相続②（民法） 16. 憲法①（統治） 17. 憲法②（統治） 18. 民法①（人・法律行為・財産） 19. 民法②（契約・不法行為） 20. 刑法①（総論） 21. 刑法②（各論） 22. 商法①（株式） 23. 商法②（機関） 24. 民事訴訟法①（請求、弁論） 25. 民事訴訟法②（証拠、判決） 26. 刑事訴訟法①（捜査） 27. 刑事訴訟法②（公判） 28. 法とは何か 29. 法とは何か（続） 30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【全】社会福祉主事任用資格：選択科目 【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>人は一生の間に、家庭や職場でいろいろな役割を担います。それぞれの場面で、様々な法律が特徴のある仕方、かかわってきます。前半は、こうして次々と遭遇する法律を素材として、法のいろいろな働きを見ていきます。後半は、基本六法のそれぞれのまとまりの中に位置づけて、前半で取り扱ったテーマを振り返ります。最後のまとめは「答え」ではなく、法とは何かという「問い」をもってしめくくります。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業後の生活の中で、いろいろな問題で迷うことがあるでしょう。そのとき使える自分用の「地図」を作っていくために、法律問題の基本を理解することが、本講義の目的です。また教職を目指す人には、教える側の自分が何を分かっているのか、その核心をつかむことを目標としてもらいたいと思います。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>それは知らない、これは何だと思ったときには、まずは「調べる」ひと手間かけて、自分なりに理解するために「考える」こと。知らないことがたくさんあるのは当たり前で、そのまま放っておくのか、何とかしようとするのか。その習慣の違いが、社会に出てからの自分自身の可能性を大きく左右します。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 公法と私法 ・ 一般法と特別法 ・ 実体法と手続法 ・ 民事と刑事 ・ 法と道徳</div>		<div>教科書</div> <div>特に指定せず、レジュメを配布します。</div> <div>参考書</div> <div>授業の中で適宜、紹介します。</div>

法学		LAW-P-100/LAW-L-101
担当教員： 齋藤 美沙		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 4 コード： 12A005K2
学部教育の関連目		授業計画
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能		
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス 02. 法学の学ぶことについて／法を学ぶ意義、「法学」・「解釈」とは何か、リーガルマインド 03. 法とは何か／法の体系、法の分類 04. 法とは何か／法の歴史、法と道徳 05. 裁判の仕組と役割／民事訴訟、刑事訴訟、家庭裁判所 06. 裁判の仕組と役割／裁判員裁判、裁判外紛争解決手続 07. 民法／日常生活と契約 08. 民法／権利能力、未成年者と契約 09. 民法／意思表示、錯誤、詐欺、強迫 10. 民法／損害賠償請求、債務不履行、不法行為 11. 生活の中の法／消費者問題、マルチ商法、クーリング・オフ 12. 生活の中の法／保証契約、連帯保証 13. 家族と法／親族法（婚姻、離婚、生殖医療と親子関係） 14. 家族と法／相続法（相続、遺言） 15. 民法と刑法／民事責任と刑事責任 16. 民法と刑法／交通事故を起こしたら？ 17. 労働と法／労働条件、労働組合、パワハラ・セクハラ 18. 労働と法／アルバイト・就職活動と法的トラブル 19. 刑法／罪と罰、罪刑法定主義 20. 刑法／犯罪の成立要件 21. 憲法／人権の理念、近代立憲主義 22. 憲法／国民主権、象徴天皇制 23. 憲法／平和主義、安保法制、集団的自衛権 24. 憲法／法の下での平等、幸福追求権 25. 憲法／表現の自由、知る権利 26. 憲法／生存権、労働基本権、教育を受ける権利 27. 憲法／権力分立、国会 28. 憲法／内閣、裁判所 29. まとめ① 30. まとめ②
【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉主事任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目		
(1) 内容		準備学習(予習)
本講義では、様々な法規範の中から、おもに憲法、民法及び刑法を扱います。 身近な問題を手がかりに、法・法律の基本的理論や知識を確認していきます。		
(2) 学びの意義と目標		前週に指示します。
社会では、法的視点が必要とされる場面が多くあります。 本講義では、基本的な法的思考・知識を身につけることを目標とします。		
準備学習(復習)		配布プリントを再読して下さい。必要に応じて参考文献を紹介します。
受講者に対する要望		評価方法
新聞やニュースなどで、法に関する事柄に注意を払うようにして下さい。		
試験の成績をもとに、出席やコメントシート等を考慮し、総合的に評価します。		(1) 試験 80% (2) 平常点 20%
学びのキーワード		教科書
・ 法学 ・ 憲法 ・ 基本的人権 ・ 民法 ・ 刑法		参考書
		池田真朗編『プレステップ法学＜第2版＞』弘文堂、2013年

法学		LAW-P-100/LAW-L-101
担当教員： 渡辺 英人		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 4 コード： 12A005K4
学部教育の関連目		授業計画
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能		01. 法を守る精神： 社会における信頼関係 02. 法を守る精神： 社会（コミュニティ）の形成 03. 法と道徳 04. 法の概念 05. 法の存在形式（法源） 06. 法の種類 07. 法の効力 その範囲と限界 08. 「自然法論」と「法実証主義」 09. 法と道徳（2） 10. 自己決定権 11. 法がめざすもの（法の目的） 12. 罪刑法定主義とデュー・プロセス 13. 法の目的（2） 14. 適法性と違法性 15. 「犯罪」とは何か？ 16. 「犯罪」とは何か？（2） 17. モラルの低下した社会に生きる 18. 法の目的（3） 19. 「公」と「私」 20. 「責任」とは何か？ 21. 「権利」とは何か？ 22. 「正義」とは何か？ 23. 「市民社会」に生きる 24. 「法」を守る精神 25. 諸外国の法 26. 諸外国の法（2） 27. 市民社会の法 28. 消費者と法 29. 知的財産権と法（1） 30. 知的財産権と法（2）
カリキュラム上の位置付け		
【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉士任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目		
(1) 内容		
「法を守る精神・法令遵守と責任」 「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人との社会の中でいかに上手く生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人、良き市民として、社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。講義内容の中心は「法の概念」「市民社会の法」「消費者と法」「知的財産権」などです。		
(2) 学びの意義と目標		
法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。		準備学習(予習)
		受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。
		準備学習(復習)
		受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。
受講者に対する要望		評価方法
受講者の在籍学部を問わず、具体例をあげながら、全員にわかりやすく解説します。遅刻、欠席の無いように積極的に授業に参加してください。		(1) 授業中の態度、積極的発言など 40% (2) 課題作成 30% (3) 試験 30%
学びのキーワード		教科書
・ 法を守る精神 ・ 「公」と「私」 ・ 権利と義務 ・ 責任 ・ 市民社会に生きる		井上 正仁 『ポケット六法 平成28年版』（有斐閣）
		参考書

キリスト教人間学A		CHRI-C-331
担当教員： 阿部 洋治		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 15300100
学部教育の関連目	授業計画	
【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う		
カリキュラム上の位置付け	01. 1. はじめに 02. 2. 哲学的問いと聖書的問い (1) ソクラテス 03. (2) イエス 04. 3. 哲学的問いからの発展 (1) プラトン 『国家』をめぐって—その1— 05. (2) プラトン 『国家』をめぐって—その2— 06. 5. 聖書的問いとその展開 (1) イエスの「神の国」をめぐって—その1— 07. (2) イエスの「神の国」をめぐって—その2— 08. (3) アウグスティヌスの『神の国』—その1— 09. (4) アウグスティヌスの『神の国』—その2— 10. 6. 「神の国」の働き手たち (1) アシジのフランシスコ—その1— 11. (2) アシジのフランシスコ—その2— 12. (3) トマス・ア・ケンピス 13. (4) マルティン・ルター —その1— 14. (4) マルティン・ルター—その2— 15. まとめ	
(1) 内容		
「人間とは何か。」誰であれ、人は、意識するとせざるにかかわらず、この問いを内に秘めながら生きている。そして、この問いにどう向き合い、どう答えるかがその人の生き方を形作っている。そこで、春学期は、この問いと哲学的に向き合ったソクラテスと聖書的に向き合ったイエスとを比較し、それぞれの発展の形に注目したい。そして、イエスを信じ彼に従った人々がどのように生き、何をしたかに注目したい。「人間とは何か」を聖書的に問うことの意義を深く学びたい。ここから、教育とは何か、保育とは何かを深く見つめるきっかけを掴みたい。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
教育、保育にとって、専門的な知識はもちろんのこと、手法、技術等々をめぐる修練が不可欠であるとは言うまでもない。しかし、魂のない技巧的な修練だけでは生きた絵画を描くことはできないように、教育、保育も魂が不可欠である。その魂は、深い人間理解から生まれるのではなかろうか。そして、深い人間理解は、自分自身と誠実に、真剣に向き合うことなしにはあり得ない。この授業が、ただ単に知識の修得ではなく、自分自身と向き合う機会となることを願っている。	準備学習(復習)	
受講者に対する要望	心に残った授業内容について振り返り、思索を深め、問題意識を広げて、自分なりの学びを広げてほしい。	
授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取ってほしい。書くことをとおして理解や思索が深まる。	評価方法	
	(1) 試験 100%	
	(4) ノートおよびプリント提出	
学びのキーワード	教科書	
・呼びかける神 ・神の国 ・存在理由 ・自己 ・否定を超えて	参考書	
	授業の中で示唆する。	

担当教員：久保島 理恵

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15300101

学部教育の関連目

【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

旧約聖書の十戒を通して、人格的存在である人間への理解を深める。また、わたしたちの生き方に関連する現代的課題についても考えていく。

(2) 学びの意義と目標

神との関係、他者との関係の中で生きる人間について考察を深めることを目指す。それが、単なる基督教の知識の学びにとどまらず、自分自身についての思索につながるようになることを期待している。

受講者に対する要望

講義、課題に対する真摯な取り組みを望む。

学びのキーワード

- ・ 十戒
- ・ 聖書
- ・ 人格的关系

授業計画

01. オリエンテーション
02. 人間とは（1）
03. 人間とは（2）
04. 十戒とは
05. 第一戒 神と人との人格的关系（1）
06. 第二戒 神と人との人格的关系（2）
07. 第三戒 神と人との人格的关系（3）
08. 第四戒 本当の安息
09. 第五戒 親子関係
10. 第六戒 命
11. 第七戒 結婚
12. 第八戒 他者の尊重
13. 第九戒 真実を語る
14. 第十戒 欲望からの自由
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された聖書箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業内容を踏まえ、授業レポートに取り組む

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業レポート | 45% |
| (2) 礼拝レポート | 25% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

キリスト教人間学A

CHRI-W-332

担当教員：阿部 洋治

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15300108

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

特にキリスト教信仰に生き、日本において大切な働きをした人々について学ぶ

(2) 学びの意義と目標

春学期は遠く西洋思想に目を向けながら、「人間とは何か」をめぐる哲学的問いと聖書的問いとを比較しつつ、聖書的な問いに生きた人々について学んだ。秋学期は、日本に目を向け、日本における聖書的問いの始まりとその展開を見たい。

受講者に対する要望

授業で取り上げる人々の考え方や生き方から各自の生きる指針をつかんでほしい。

学びのキーワード

- ・福祉の心
- ・絶望から希望へ
- ・パイオニア(開拓者)
- ・献身
- ・ヴィジョン

授業計画

- | | |
|----------------------|-----------|
| 01. 1. 宣教師たちの思い | (1) ペリー総督 |
| 02. (2) ハリス | |
| 03. (3) ヘボン | |
| 04. 2. 信仰の社会的貢献 ―伝道― | (1) 植村正久 |
| 05. (2) 内村鑑三 | |
| 06. 3. 信仰の社会的貢献 ―教育― | (1) 井深樫之助 |
| 07. (2) 新島 襄 | |
| 08. (3) 新渡戸稲造 | |
| 09. 4. 信仰の社会的貢献 ―福祉― | (1) 石井十次 |
| 10. (2) 山室軍平 | |
| 11. (3) 留岡孝助 | |
| 12. (4) 賀川豊彦 | |
| 13. 5. 見えざる貢献 | (1) 水野源三 |
| 14. (2) 星野富弘 | |
| 15. まとめ | |

準備学習(予習)

授業時に指示する

準備学習(復習)

授業で取り上げる人々の考え方や生き方について、自分で関係した書物を読んで理解を深める努力を期待したい。

評価方法

(1) 試験 100%

教科書

参考書

授業の中で示唆する

キリスト教人間学B		CHRI-D-332
担当教員：久保島 理恵		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：15300201
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 祈りとは 03. われらの父 04. 御名を聖とする 05. 神の国 06. 御心を求める 07. 日ごとの糧 08. 罪の赦し（1） 09. 罪の赦し（2） 10. 弱さの中で 11. すべては神のもの 12. 祈りつつ歩んだ人々（1） 13. 祈りつつ歩んだ人々（2） 14. 祈りつつ歩んだ人々（3） 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>キリスト自身が教えた「主の祈り」を通して、人間のあり方について考えていく。また、神を信じ祈りつつ生きた人々の姿勢から、生きることの本質を学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>神との関係、他者との関係の中で生きる人間について考察を深めることを目指す。それが、単なるキリスト教の知識の学びにとどまらず、自分自身についての思索につながるようになることを期待している。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定された聖書箇所を読んでおくこと</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義、課題に対する真摯な取り組みを望む</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業の内容を踏まえ、授業レポートに取り組む</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業レポート</div><div>45%</div></div><div><div>(2) 礼拝レポート</div><div>25%</div></div><div><div>(3) 期末レポート</div><div>30%</div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・主の祈り</div><div>・聖書</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

キリスト教人間学B		CHRI-C-332
担当教員：阿部 洋治		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：15300205
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 1. はじめに</div> <div>02. 2. ジャン・ジャック・ルソー『エミール』から (1) 子ども理</div> <div>03. (2) 幸福論</div> <div>04. (3) 消極的教育論</div> <div>05. (4) 教育の実例</div> <div>06. 3. ジョン・ロック『教育に関する考察』から (1) 子ども理解</div> <div>07. (2) 親の役割</div> <div>08. (3) 教育の実例</div> <div>09. 4. ベスタロッチャー『隠者の夕暮れ』から (1) 人間の本</div> <div>10. (2) 自然の道による教育</div> <div>11. (3) 神信仰の必要性</div> <div>12. 6. フレーベル『人間の教育』から (1) 人間の根源</div> <div>13. (2) 受動的・追隨的教育</div> <div>14. (2) 共同感情論</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>秋学期は、「人間とは何か」を近代の教育思想に触れながら「子どもとは何か」を問う角度から取り上げ、子どもたちに対する大人の役割や有り様を考察したい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回の講義で、聖書の文章を英文と邦文で読みます。あらかじめ該当箇所を通読しておいてください。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリントとノートをまとめてください。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 試験 20%</div> <div>(2) プリント問題への回答 20%</div> <div>(3) 全学礼拝と教会レポート 20%</div> <div>(4) ノートおよびプリント提出 20%</div> <div>(5) プレゼンテーション 20%</div> <div>各講義の中で、聖書の言語であるヘブル語やコイネーギリシャ語に触れてもらいます。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に受講してください。
パワーポイントによるプレゼンテーションを要望します。</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 理性的存在・ 子どもの人格・ 自由人・ 習慣による教育・ 大人の役割</div>		

キリスト教人間学B

CHRI-W-332

担当教員：阿部 洋治

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15300216

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「人間とは何か。」誰であれ、人は、意識するとせざるにかかわらず、この問いを内に秘めながら生きている。そして、この問いにどう向き合い、どう答えるかがその人の生き方を形作っている。そこで、春学期は、この問いと哲学的に向き合ったソクラテスと聖書的に向き合ったイエスとを比較し、それぞれの発展の形に注目したい。そして、イエスを信じ彼に従った人々がどのように生き、何をしたかに注目したい。そして、「人間とは何か」を聖書的に問うことの意義を深く学びながら、「福祉」の原点に目を向けたい。

(2) 学びの意義と目標

この学びをとおして、ひとりの人が生きる意味は、その人の自己評価、その人の能力や才能、また置かれた環境を超えて、ひとりひとりを個性ある存在して創造された神に用いられ活かされることの中にあるということを確認したい。

受講者に対する要望

授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取ってほしい。書くことをとおして理解や思索が深まる。

学びのキーワード

- ・ 呼びかける神
- ・ 神の国
- ・ 存在理由
- ・ 歴史形成
- ・ 否定を超えて

授業計画

01. 1. はじめに
02. 2. 哲学的問いと聖書的問い | (1) ソクラテス
03. (2) イエス
04. 4. 哲学的問いからの発展 | (1) プラトン 『国家』をめぐって—その1—
05. (2) プラトン 『国家』をめぐって—その2—
06. 5. 聖書的問いとその展開 | (1) イエスの「神の国」をめぐって—その1—
07. (2) イエスの「神の国」をめぐって—その2—
08. (3) アウグスティヌスの『神の国』—その1—
09. (5) アウグスティヌスの『神の国』—その2—
10. 9. 「神の国」の働き手たち | (1) アシジのフランシスコ—その1—
11. (2) アシジのフランシスコ—その2—
12. (3) トマス・ア・ケンピス
13. (4) マルティン・ルター —その1—
14. (5) マルティン・ルター—その2—
15. まとめ

準備學習(予習)

準備學習(復習)

心に残った授業内容について振り返り、思索を深め、問題意識を広げて、自分なりの学びを広げてほしい。

評価方法

- | | |
|--------|------|
| (1) 試験 | 100% |
|--------|------|

教科書

参考書

授業の中で示唆する。

人間福祉の探求		HUWL-C-261
担当教員： 古谷野 亘		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C101570
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 今日的課題についての知識・教養を身につける 【W】 論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション / 研究することということ 02. 福祉理論のなかの地域福祉的要素 03. 高齢社会とユニバーサルデザイン 04. 高齢社会の元気高齢者 05. 健康と環境 06. ストレス対策とうつ予防 07. 知的障害者に対する支援 — 罪を犯した知的障害の支援を中心に — 08. 精神保健福祉における新たな支援関係 — プロシューマーの萌芽とうねり — 09. 海外福祉研究の楽しみ 10. 心理テストと心理療法 11. 子どもを研究する視座 12. 子ども虐待とネグレクト 13. 遊びに文化が生まれる — 「子どもの仕事は遊ぶこと」をめぐる — 14. 対人援助職のメンタルヘルス 15. 金子みすゞのスピリチュアリティ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>大学院人間福祉学研究科の教員が輪番で教壇に立ち、最先端の研究の成果を紹介する。講義は、人間福祉学研究科が扱う「福祉学分野」「児童学分野」「心理学・臨床死生学分野」の中から1回ごとに異なるテーマで行われる。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>人間福祉学の最先端の研究の成果を知るとともに、研究することの意味と楽しさを理解する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>今回の担当教員の著作に目を通しておくとよい。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回の講義を振り返り、自分の意見をまとめる復習が必要。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回講義に出席して、各教員の研究への取り組みを知り、研究することの楽しさにふれてほしい。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 60% (2) レポート 40%</div>	
<div>学びのキーワード</div>	<div>教科書</div> <div>使用しない</div> <div>参考書</div> <div>授業の中で指示する</div>	

スピリチュアルケア入門		PANT-D-100
担当教員：伊能 忠嗣		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 2 コード： 1D102405
学部教育の関連目		授業計画
【D】 こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ 【W】 対人支援力：人格を尊重して人とかわかることのできる力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
今、スピリチュアルケアに対する看護、介護、医療、教育などの分野で関心が高まっています。高齢者、病人、学生へのケアの質が問われ、従来の身体的病気や障害の治療だけでは十分人々のいのちを守り、高めることができないからです。人間のたましいに触れるケアを通じていのちを守り、支え、励ますことが求められています。スピリチュアルケアは従来の身体的、心理的、社会的ケアに加えて、いのちの深みにふれるケアです。人が人としていきるために全存在を支えることで、人のいのちの質は高まって行きます。この授業はスピリチュアルケアとは何か、どのような歴史的背景をもっているか、実際にどのような形でなされるのかなどについて、入門段階から臨床現場でのケアを紹介します。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
スピリチュアルケア入門は受講生にスピリチュアルケアとは何かを最初に理解してもらいます。スピリチュアルケアの入門的知識と理解をもって貰います。また、スピリチュアリティ、ケア、ケアギバーなどの専門用語を丁寧に説明し、受講生にスピリチュアルケアの本質、特徴、必要性、実践方法などを講義します。従来行なわれてきた心理カウンセリング、ソーシャルワークなどとの違いを明確にして、スピリチュアルケアの本質を明らかにします。また、ケアギバーが備えるべき資質、教育などについても触れます。この授業の学びは、受講生にスピリチュアルケアの意味をしっかりと理解してもらい、自分もケアに参加したいと願ってもらい、将来、スピリチュアルケアに参加する人を育てたいのが目標です。		
準備学習(復習)		
自分の考えをまとめること、出来るだけ自分自身の考え方を尊重するように務める。		
評価方法		準備学習(復習)
(1) 平常点 50%		
(2) 提出物 30%		
(3) 授業中の発言 20%		
成績評価全体に対するコメント 授業参加が重要です。授業の現場で学ぶことが多いので、欠席しないように注意しましょう。		
受講者に対する要望		教科書
1. スピリチュアルケアについての基本的知識を身につける 2. 自分のスピリチュアリティに気付き、人のスピリチュアルペインやニーズへの感性をもつ 3. 人への愛、謙遜、信仰を養う		
準備学習(復習)		
自分の考えをまとめること、出来るだけ自分自身の考え方を尊重するように務める。		
学びのキーワード		参考書
・ スピリチュアルケア		
・ 超越性		
・ 究極性		
・ 愛、謙遜、信仰		窪寺 俊之 『スピリチュアルケア入門』（三輪書店）

SOCI-L-200

人間関係論

担当教員： 中嶋 励子

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1L411884

学部教育の関連目

【L】 市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【L】 コミュニティコース：基幹科目

【L】 情報コース：基幹科目【W】 認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

【W】 認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

(1) 内容

・私たち人間は、普段の生活の中で、さまざまな人たちと関係を持ちながら生きています。
家族や友人をはじめとして、地域や社会の人々との関係や社会の動きに関わる行動について、心理学分野の研究例を説明していきます。それらの基礎的な理解を踏まえたうえで、自分たちの身近な事例にあてはめて考える応用理解を身につけ、よりよい人間関係を築くために役立つ力を養うことを目指します。
・「人間関係」という言葉は、身近な言葉として、普段の会話でも用いられます。この講義では、社会心理学の分野で研究されてきた「人間関係」を学んでいきます。

・大学卒業後、社会生活を送るうえでは、身近な家族、友人だけでなく、周囲の他者や組織と関わっていくことが求められます。心理学分野の過去の研究例に基づく「人間関係」を学び、客観的な視野を身につけ、よりよい人間関係を築くためにどうしたらよいかを考えていきます。

・なお、授業内容では、実社会の動向と関連する問題も取り上げていく予定ですので、内容が多少変更される可能性があります。
・また、授業内で、人間や社会との関わりに関する映像を、1-2回程度提示する予定です。
・受講に関する詳細説明は、第1回授業時に行うので、必ず出

(2) 学びの意義と目標

・対人関係、コミュニケーション、ストレスとストレス対処、リスク認知、災害心理学などについて、心理学の基礎知識を習得する。
・先行研究で用いられている主な研究方法と分析について、基本的な部分を理解する。
・基礎知識の理解をもとに、身近な事例にあてはめる応用理解を身につける。

受講者に対する要望

・心理学に関連する科目を履修していることが望ましい。
・授業には、単に出席するのではなく、ディスカッションや質疑応答に積極的な参加、及び、授業内で求めるリアクション・ペーパーの回答内容を重視する。
・授業の遅刻・早退、及び授業中の私語には厳禁。
・課題は、指示する内容・締切を厳守すること。
・第1回目の授業で、受講に関する説明を行うので必ず出席することを求める。

学びのキーワード

・コミュニケーション

・対人認知

・社会心理学

・リスク認知と災害

・ストレスとストレス・マネジメント

授業計画

01. 人間関係とは何か

02. 人は他者に会ったときどのように推論するか

03. 人は他者をどのようにタイプ分けするか

04. ステレオタイプとステレオタイプの問題点

05. 対人的影響：他者の存在による影響

06. 他者の存在が作業や仕事に及ぼす影響

07. 対人関係能力：コンピテンス

08. 対人行動の調整過程

09. コミュニケーションとは何か

10. 言語によるコミュニケーション

11. 非言語によるコミュニケーション

12. コミュニケーションの社会での位置づけ

13. 社会の影響を受けるコミュニケーション

14. 態度形成と態度変容

15. 説得とコミュニケーション

16. 講義前半のまとめ

17. 集団の行動と意思決定

18. 集団行動と組織：グループダイナミックスとリーダーシップ

19. 組織の中の人間行動

20. ワークモチベーションと職務満足

21. リスク認知：人はどのように危険を認知し、行動するのか

22. リスク・コミュニケーション

23. 災害心理学：災害前/後の心理と行動

24. 大災害と人々の社会心理

25. ストレスとは何か：ストレッサーとストレス認知

26. ストレス対処行動

27. 職場ストレスとストレス・マネジメント

28. 人間関係に関する実験法・観察法の研究例

29. 人間関係に関する質問紙法の研究例

30. 授業後半のまとめ

準備学習(予習)

授業の前週に提示する「翌週の授業のキーワード」を中心に講義を進めるので、日頃から自分でキーワードについて調べるなど準備をしておくこと。
キーワードに関連する新聞記事やニュースにも関心を持ち、調べておくこと。

準備学習(復習)

その週の授業内容の主要な点は、授業内で提出を求めるリアクション・ペーパーに書く内容となるので、そのポイントを復習しておくこと。
特に、自分自身の経験や周囲、社会で起きていることを、授業内容と関連づけて考える習慣をつけておくこと。
課題レポートには、授業内容の基礎的な理解度及び、応用理解力をみるので、授業内容を復習しながら取り組むこと。

評価方法

(1) 平常点

40%

毎回の授業でのディスカッションや授業への参加姿勢、及び授業理解を
みせるリアクション・ペーパーの記入内容により評価

(2) 課題レポート

60%

課題レポートの内容と提出方法、提出期限は授業内で提示することを厳守すること。

教科書

参考書

参考図書：
「社会心理学」(池田謙一他、有斐閣)
「社会人のための産業組織心理学」(高橋修他、産業能率大学出版部)
「やさしく学べる心理学―医療・福祉を学ぶ人のために」(小島一夫他著、北樹出版)

環境保全論			
担当教員： 村上 公久			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
学部教育の関連目		単位： 4 コード： 1P201620	
カリキュラム上の位置付け		授業計画	
(1) 内容		01. 体系的認識の重要性（「何故 大学で学ぶのか」） 02. 自然と環境 03. エコロジーの重要ないくつかの概念（1） — エントロピー entropy の法則 04. エコロジーの重要ないくつかの概念（2） — 生態系の五つの法則 05. 自然観の変遷（1） — 中世までの自然観 06. 自然観の変遷（2） — 近代からの自然観 07. 「3つの文化型」 man-in-nature の文化（1） — 人為artとしての文明と自然 08. 「3つの文化型」 man-in-nature の文化（2） — 文明を帯びたヒトの管理責任 09. 〔人間－環境〕系（1） — 主体と環境 10. 〔人間－環境〕系（2） — 動的な呼応関係 11. 21世紀の環境問題 生命圏の全滅の危機 「突然」はあるか 12. 環境史（1） — 古代からconservationismまで 13. 環境史（2） — 現代環境意識の出現 14. 環境問題の歴史 15. 自然保護運動の歴史 16. 無思慮な悲観論とセンチメンタリズムの危険 17. 個体群生態学と環境容量 18. 「地球温暖化問題」（1） — 地質時代 第4紀以降の経緯 19. 「地球温暖化問題」（2） — 産業革命以降の温暖化 20. 「地球温暖化問題」（3） — 4つのシナリオと未来予測 21. 自然保護と環境保全 「自然破壊」と「自然保護」の対立、第三の立場「環境保全」 22. 保続的（持続的）社会 Sustainable Societyを考える 23. 資源の分類（1） — 再生産可能な資源 24. 資源の分類（2） — 枯渇性資源 25. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（1） — 再生可能資源 26. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（2） — 再生可能エネルギー 27. 保続する 〔人間－環境〕系 をめざして 28. 全球化globalization の中の環境問題 29. 「我々の家」としての地球 30. 総括と新しい問題提起	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
教養・総合科目「環境学」の内容を基礎として展開する内容を扱う専門科目。 この科目は 総合科目「環境学」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているので、準備として 「環境学」を予め履修しておくことが望ましい。		講義の各回については、事前に配布する講義資料をよく学び覚えておくこと。 この科目は 総合科目「環境学」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているので、準備として 「環境学」を予め履修しておくことが望ましい。「環境学」を履修済みの者はよく復習しておくこと。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
この科目は 総合科目「環境学」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているので、準備として 「環境学」を予め履修しておくことが望ましい。		各自、各回の講義内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めて講義記録のノートに記録する。また、各回の講義後リアクション・ペーパーを作成し次回の講義の始めに提出する。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 自然保護と環境保全 ・ 自然観の変遷 ・ 個体群生態学と環境容量 ・ 再生産可能な資源 と 枯渇性資源 ・ 保続的（持続的）発展		(1) クラスへの 参加と貢献 40% (2) 2回以上の 試験と 期末試験 60%	
		複数回の試験の成績、複数回のレポートとリアクション・ペーパー、受講態度、質問等による知的好奇心の強さと熱意、などを総合的に評価する。	
		教科書	
		なし、講義資料を配布する。	
		参考書	
		文献・資料のリスト と 講義資料を配布する。	

社会保障論		ECON-L-200
担当教員：宮寺 良光		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1P401001
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】市民力：地域社会を支えるために必要な知識 【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 現代社会における社会保障制度の課題 (1) 人口動態の変化、少子・高齢・人口減少社会 02. 現代社会における社会保障制度の課題 (2) 労働・雇用環境の変化 03. 現代社会における社会保障制度の課題 (3) 少子高齢・人口減少社会・政治・経済的な問題と社会保障の課題 04. 社会保障の概念や対象およびその理念 05. 社会保障の歴史 (1) 欧米における歴史的展開 06. 社会保障の歴史 (2) 日本における歴史的展開 07. 社会保障の財源と費用 (1) 社会保障の財源及び給付費 08. 社会保障の財源と費用 (2) 国民負担率と財源・費用に関する国家的課 09. 社会保険と社会扶助の関係 (1) 社会保険の概念と範囲 10. 社会保険と社会扶助の関係 (2) 社会扶助の概念と範囲 11. 社会保障制度の体系 12. 年金保険制度 (1) 年金保険制度の沿革と概要 13. 年金保険制度 (2) 国民年金 14. 年金保険制度 (3) 厚生年金・共済年金 15. 年金保険制度 (4) 年金制度をめぐる最近の動向 16. 医療保険制度 (1) 医療保険制度の沿革と最近の動向 17. 医療保険制度 (2) 国民健康保険 18. 医療保険制度 (3) 健康保険と共済組合制度 19. 医療保険制度 (4) 後期高齢者医療制度 20. 介護保険制度 (1) 創設の経緯 21. 介護保険制度 (2) 介護保険制度の概要 22. 介護保険制度 (3) 介護保険制度をめぐる最近の動向 23. 労働保険制度 (4) 労働保険制度の沿革と最近の動向 24. 労働保険制度 (1) 労災保険 25. 労働保険制度 (2) 雇用保険 26. 社会手当制度 27. 公的保険制度と民間保険制度の関係 (1) 民間保険に期待される役割 28. 公的保険制度と民間保険制度の関係 (2) 民間保険の概要 29. 諸外国における社会保障制度の概要 (1) 社会保障の国際比較 30. 諸外国における社会保障制度の概要 (2) 先進諸国における社会保障制度の概要</div>	
	<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】社会福祉士任用資格：選択科目 【L】行政コース：応用科目 【L】コミュニティコース：基幹科目 【L】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 【L】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目【W】社会福祉士任用資格：選択科目 【W】行政コース：応用科目 【W】コミュニティコース：基幹科目 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>・現代社会における社会保障制度の課題 ・社会保障の概念や対象およびその理念 ・社会保障の歴史 ・社会保障の財源と費用 ・社会保険と社会扶助の関係 ・社会保障制度の体系 ・社会保障制度の概要（年金保険・医療保険・介護保険・労働保険・その他社会手当） ・公的保険制度と民間保険制度の関係 ・諸外国における社会保障制度の概要</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>・現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。 ・社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。 ・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 ・社会保障制度の体系と概要について理解する。 ・年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。 ・諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>・出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。
・集中講義であるため、長時間受講するのは苦痛を伴うと思うので、お互いにメリハリを付けて取り組みましょう。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・人口の少子・高齢化 ・皆保険・皆年金 ・介護保険 ・労働保険 ・国際比較</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>唐鍾直義（2012）『読者の社会保障』旬報社、中山貴・加美孝史（2014）『社会福祉士養成シリーズ 社会保障』東山書房、榎野美智子・田中耕太郎（2001）『はじめての社会保障（第1～12版）』有斐閣</div>

社会保障論

担当教員： 高橋 聡

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 4 コード： 1P401051

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

ブラック企業・解雇・長時間労働・貧困がもはや珍しくない。今、自分の身を守る最後の切り札となるのが社会保障制度である。これを知っているかいないかが、大げさではなく人生を大きく左右する。その意味で、社会保障は社会に出る前の学生が学ぶべき必修科目といえる。ぜひ、この機会に学んでほしい。社会保障では、日常生活では使わない用語が多く用いられる。また少々深刻な社会問題も話す。そこで、講義は、受講者がリラックスして気楽に取り組めるような雰囲気で行いたいと考えている。

全体は大きく二つに分かれる。ニコマ分の前半(奇数回)の授業では、わが国の社会保障制度のしくみを学ぶ。後半(偶数回)の授業では、社会保障と労働に関わる具体的な問題を取り上げ、現在の日本社会が抱える問題を考える時間とする。基本は講義形式であるが、映画やドキュメンタリー番組なども活用して、さまざまな形で社会保障・福祉・労働のあり方を考えていく予定である。

(2) 学びの意義と目標

意義

社会保障の仕組みと利用法を知ることで、一人一人の今後の労働と生活の中で必ず起こる困難な問題に対処する術を知ることができる。

目標

- (1) 社会保障制度のしくみとその活用法を知る。
- (2) 今日の社会におきている労働・福祉・社会保障にかかわる諸問題を考える。

受講者に対する要望

制度がいく分複雑であったり、日常生活では用いない言葉がひんぱんに用いられる。わからないことがあったらそのまま放置せず、授業中でもかまわないからすぐに質問してほしい。

学びのキーワード

- ・ 医療保険
- ・ 福祉
- ・ 年金
- ・ 雇用
- ・ 税と社会保障

授業計画

01. 社会保障とは何か 保険と税のちがい
02. カントと人権概念
03. 医療保険 (1) 健康保険制度の概要
04. ハンセン病問題
05. 医療保険制度 (2) 高額療養費制度など
06. ハンセン病訴訟
07. 医療保険 (3) 医療費の増加
08. 路上生活者(ホームレス)の現状
09. 公的扶助 (1) 生活保護
10. 「ホームレス自立支援法」とその問題点
11. 公的扶助 (2) 社会福祉制度
12. 障害とセンの潜在能力論
13. 公的扶助 (3) 社会手当
14. 「障害者自立支援法」とその問題点
15. 年金 (1) 年金制度の概要
16. 就学援助制度とロールズの正義論
17. 年金 (2) 猶予・免除制度とその方法
18. 子供の貧困
19. 年金 (3) 年金財政と年金破たん論
20. J. S. ミルと女性労働
21. 雇用保険
22. 女性の貧困とワークライフバランス
23. 労働者災害補償保険
24. ウエップ夫妻とナショナル・ミニマム
25. 社会保障の財政
26. ベヴァリッジと福祉国家体制
27. 税と社会保障の関係
28. ミュルダール夫妻と少子化対策
29. 控除制度と手当制度の問題点
30. 全体のまとめ

準備学習(予習)

労働条件、解雇、医療、少子化・高齢化、年金などに関するニュースに敏感になり、収集を心がけること。

準備学習(復習)

配布プリントをきちんと読み返し内容を把握すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

なし。配布プリントをもとにすすめる。

参考書

授業において随時指示する。

[illegible]

単位： 4 コード： 1P600320

授業の中で指示する

社会心理学		SOCI-P-300/SOCI-L-2
担当教員： 中原 純		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P600660
<div>学部教育の関連目</div> <div><div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div><div>【L】問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識</div><div>【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける。論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける</div></div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会心理学とは</div> <div>02. 自己概念(1)</div> <div>03. 自己概念(2)</div> <div>04. 文化的自己</div> <div>05. 対人認知(1)</div> <div>06. 対人認知(2)</div> <div>07. 社会的感情—怒り、不安、羞恥心—(1)</div> <div>08. 社会的感情—怒り、不安、羞恥心—(2)</div> <div>09. 態度と態度変容(1)</div> <div>10. 態度と態度変容(2)</div> <div>11. 人間関係の進展(1)</div> <div>12. 人間関係の進展(2)</div> <div>13. 人間関係の進展(3)</div> <div>14. 幸福感</div> <div>15. まとめ(1)</div> <div>16. 社会からの影響(1)</div> <div>17. 社会からの影響(2)</div> <div>18. 社会からの影響(3)</div> <div>19. 集団と集団間関係(1)</div> <div>20. 集団と集団間関係(2)</div> <div>21. 集団と集団間関係(3)</div> <div>22. 集団と集団間関係(4)</div> <div>23. 現代的問題と社会心理学—インターネット—</div> <div>24. 現代的問題と社会心理学—性—</div> <div>25. 現代的問題と社会心理学—キャリア—</div> <div>26. 現代的問題と社会心理学—超高齢社会—</div> <div>27. 応用課題(1)</div> <div>28. 応用課題(2)</div> <div>29. 応用課題(3)</div> <div>30. まとめ(2)</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div><div>【L】情報コース：応用科目【P】認定心理士認定資格(W学科)：選択科目</div><div>【P】認定心理士認定資格(W学科)：選択科目【W】認定心理士認定資格(W学科)：選択科目</div></div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「第1印象はどのように決まるのか」、「なぜ人はだまされてしまうのか」、「恋愛をするのはどういう時か」、「“イイネ”をたくさんもらうと安心するのはなぜか」、「どうすれば少数派の意見を通すことができるか」といった身近な疑問を社会心理学的に解説します。授業の最終盤では、受講生のみなさん自身が、社会心理学の知識を用いて、身近な疑問を解決していく練習を企画しています。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この授業には、日常生活の中で私たちがどのように考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれています。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってください。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>特に必要ありません。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>試験に備えて、授業で触れた重要なキーワードは説明できるようにしておいてください。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業中でも内容に関する積極的な発言、質問は歓迎します。また、随時コメントシートを配布しますので、わからないことがあればシートに質問を記入してください。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 授業内容に関する小レポート 35%</div> <div>(2) 応用課題 15%</div> <div>(3) 試験 50% 持ち込み不可の試験を行います。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・自己</div><div>・他者</div><div>・集団</div><div>・社会</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

家族社会学

SOCI-P-300/HMSC-W-2

担当教員： 齋藤 圭介

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1P600990

学部教育の関連目

- 【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る
【W】 人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

現代社会における、家族をめぐる問題について総合的に学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

今日、家族はとても多義的な存在となっており、さまざまな社会問題を理解する上で不可欠のものとなっている。授業を通して家族をめぐる問題についての基礎を学ぶとともに、今後、一人世帯を含め多様な家族形態を形成するにあたって役に立つような知識や考え方を身につけてもらいたい。

受講者に対する要望

・「家族」について問題関心を持っていること。

・社会学についてある程度知識があることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 近代家族
- ・ 親密性・親密圏
- ・ 多様な家族
- ・ ジェンダー
- ・ 家父長制

授業計画

01. 家族とは（１）
02. 家族とは（２）
03. 家族の類型（１）
04. 家族の類型（２）
05. 性と愛（１）
06. 性と愛（２）
07. 結婚の意味と機能（１）
08. 結婚の意味と機能（２）
09. 離婚・再婚（１）
10. 離婚・再婚（２）
11. 家族の危機（１）
12. 家族の危機（２）
13. 家族と役割（１）
14. 家族と役割（２）
15. 家族と子育て（１）
16. 家族と子育て（２）
17. 家族と介護（１）
18. 家族と介護（２）
19. 多様な家族（１）
20. 多様な家族（２）
21. 母子世帯・父子世帯（１）
22. 母子世帯・父子世帯（２）
23. フェミニズム思想と家族（１）
24. フェミニズム思想と家族（２）
25. 生殖補助技術と家族観（１）
26. 生殖補助技術と家族観（２）
27. 晩婚化・非婚化（１）
28. 晩婚化・非婚化（２）
29. 近代家族論（１）
30. 近代家族論（２）

準備学習(予習)

毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

準備学習(復習)

講義終了後、配布プリントを再読し、①自分が興味関心を抱いた事柄、②その理由について考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

参考書

NPO・NGO論(国際協力)			
担当教員：榎本 珠良			
学期：週間授 科目：		必修・選択：	単位：4 コード：1P601410
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 授業のガイダンス 02. NGO・NPOの日常業務紹介 03. NGO・NPO・市民社会をめぐる概念整理 (1) 04. NGO・NPO・市民社会をめぐる概念整理 (2) 05. 国内社会におけるNGO・NPO 06. 「グローバル市民社会」とは？ 07. 国際社会におけるNGO・NPO 08. 日本のNPO・NGO 09. 海外のNPO・NGO (1) 10. 海外のNPO・NGO (2) 11. 開発・安全保障とNGO (1) 12. 開発・安全保障とNGO (2) 13. 開発・安全保障とNGO (3) 14. 開発・安全保障とNGO (4) 15. 前半のまとめ 16. NGO・NPOの援助プロジェクト 17. NGO・NPOのアドボカシー・キャンペーン 18. NGO・NPOの広報・メディアワーク 19. NGO・NPOの運営・労務・財務・ファンドレイジング 20. 事例：人道支援 21. 事例：KONY2012 22. 事例：ミレニアム開発目標（MDGs）とその後の展開 23. 事例：対人地雷禁止条約 24. 事例：クラスター弾条約 25. 事例：小型武器・軽兵器規制 26. 事例：武器貿易条約（ATT） 27. 事例：日本の安全保障関連法制 28. 事例：日本の武器輸出問題 29. 国内政治・国際政治におけるNGO・NPO 30. まとめ	
(1) 内容 近年、NPO（非営利組織）やNGO（非政府組織）は、国内政治や国際政治における重要な存在として注目されるようになった。しかし、NPOやNGOと称される主体は多様であり、NPO、NGO、市民社会といった概念も多様に用いられている。本講義は、NPOやNGOをめぐる諸概念を整理し、これらアクターの活動をとらえようとする研究を紹介・検討する。同時に、本講義は、講師がこれまで13年間NPO・NGOに関与してきた経験をもとに、国際的な政策論議や実践におけるNPO・NGOの活動についても紹介し、検討を加える。			
(2) 学びの意義と目標 NPO・NGOをめぐる概念や先行研究を理解するとともに、実際のNPO・NGOの活動に関する見識を深めることにより、現代におけるNPO・NGOの存在意義や課題について概念・理論と実践の双方から考察できるようになる。		準備学習(予習)	
		授業中に次回以降の授業予告を伝える。関連するテーマや団体について、自身で調べておくこと	
		準備学習(復習)	
		授業で配布するレジュメと授業中にとるノートを再読すること	
		評価方法	
		(1) 授業への参加度 30% (2) 中間試験 30% (3) 期末試験 40%	
受講者に対する要望 国際協力分野に関心を持っていることが望ましい。			
学びのキーワード ・市民社会 ・国内政治 ・国際政治 ・開発 ・平和構築		教科書 特になし	
		参考書 -国森貴「『市民社会』論：グローバルな適用の可能性と問題」、『国際問題』2000年（7月号） -目加田悦子『国境を超える市民ネットワーク：トランスナショナル・シビルソサエティ』東洋経済新報社、2003年	

NPO・NGO論(非営利組織)	
担当教員： 大高 研道	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目	
単位： 4 コード： 1P601510	
学部教育の関連目	授業計画
カリキュラム上の位置付け	01. NPO論の射程 02. グループ討論—NPOと企業— 03. グループ討論—NPOとボランティア— 04. グループ報告—NPOとは何か— 05. NPO—行政・企業・NGO・ボランティアとの比較— 06. NPOと公益法人制度 07. NPOの定義 08. NPO・行政・自治会 09. NPO実践の歴史—NPO法以前 10. NPO実践の歴史—NPO法以後 11. NPO法とNPO法人（１） 12. NPO法とNPO法人（２） 13. NPO法人の活動領域（１） 14. NPO法人の活動領域（２）グループワーク 15. 埼玉県NPOの現状 16. NPOの実践（１） 17. NPOの実践（２） 18. NPOの実践（３） 19. NPOの実践（４） 20. NPOから社会的企業へ(1) 国家と企業社会を超えて 21. NPOから社会的企業へ(2) 新しい公共性論 22. 社会的排除問題とたたかう社会的企業 23. 社会的事業体としての協同組合の実践（１） 24. 社会的事業体としての協同組合の実践（２） 25. 社会的事業体としての協同組合の実践（３） 26. 社会的事業体としての協同組合の実践（４） 27. NPOの現在と未来(1) 公共領域再編とNPO 28. NPOの現在と未来(2) NPOの事業化と社会的企業 29. NPOの現在と未来(3) 社会の変革者としての市民社会組織 30. まとめ
(1) 内容 福祉社会の到来にともない、地域で活動を展開する市民組織の役割が国際的に注目されている。わが国でも1995年の阪神・淡路大震災以降、NPOの役割が広く一般に認知され、1998年には、その支援を目的とした特定非営利活動促進法（NPO法）が制定された。本講義では、1) 非営利活動をめぐる国際的動向やわが国のNPOの実態、2) NPOが注目されるようになった現代的背景や構造的要因、3) 近年の一つの特徴であるNPOの事業活動の展開過程において注目されるようになった「社会的企業」の検討を通して、市民活動・市民事業の現在と未来についてともに考えたい。	
(2) 学びの意義と目標 現代社会におけるNPOの全体像を把握することが主要な目的となる。福祉・教育・文化・環境・まちづくり等、社会的・経済的領域を網羅したNPO活動は20世紀末から21世紀にかけてもっとも成長した分野の一つと言われており、その動向を理解しておくことは、とりわけ地域社会を基盤とした労働や生活の未来を構想する上でも有益であろう。	準備学習(予習) 毎回の講義の最後に、次回講義のテーマおよびキーワードについて触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。
	準備学習(復習) 毎回の講義終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと」さらに「学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、次回講義の冒頭に、前回講義の復習・解説という形で質疑応答・意見交換の時間を設ける。
受講者に対する要望 ・ 時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。 ・ 講義中の携帯電話（スマートフォン等）の使用は禁ずる。漢字・用語などを調べたい場合は、電子辞書等を使用すること。	評価方法 (1) 試験 70% ノート持ち込み不可 (2) 平常点 30% 3回の遅刻は欠席1回分とする。 ・ 毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。 ・ 講義の内容理解を深めるためにグループ討論・報告を実施する。討論の参加状況も成績評価に含める。
学びのキーワード ・ NPO ・ 社会的企業 ・ 協同組合 ・ ボランティア ・ 協同労働	教科書 授業の中で指示する 参考書 授業の中で指示する

地域社会と生協		SOCI-P-300/SOCI-L-3									
担当教員： 大高 研道											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1P601880									
学部教育の関連目 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識 【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける		授業計画 01. ガイダンス 02. 世界と日本の協同組合 03. コープみらいの事業と活動 04. 地域福祉と高齢者疑似体験 05. 福祉ボランティア体験 06. 宅配事業の現場での実践事例報告 07. 店舗事業の現場での実践事例報告 08. 食と食料生産の取り組み 09. ユニセフの活動とは何か—ユニセフの取り組みと生協の課題 10. 食の安全の最前線（品質管理の現場） 11. コープ商品開発の最前線 12. 商品を通じた社会貢献 13. 農業の現状と生協の今日的課題 14. コープみらいの組合員活動と地域の課題 15. まとめ—地域社会と生協—									
カリキュラム上の位置付け											
(1) 内容 今日、世界的な金融・財政危機、環境問題、少子高齢化、不安定雇用、地域紛争など、私たちの経済・社会生活はその根幹をゆるがすさまざまな課題に直面している。また、日本を襲った未曾有の大災害、東日本大震災からの復興プロセスは、日本の経済・社会のあり方そのものの見直しをわれわれに迫っているが、震災から5年が経過した今もなお、福島放射能問題をはじめ、復興にむけたシナリオは不透明なままである。いまこそ、地域における協同と連帯によってこれらの問題を解決することが求められている。 1844年、英国において誕生した非営利の協同組織・事業体である消費生活協同組合（以下、生協）の取り組みは、その後、日本を含む世界中の国々に広がっていった。日本は、とりわけ生協運動が発展した国であり、今日では、組合員数が2,600万人を超え、世帯加入率は約5割にまで達している。本講義では、今日の社会で協同組合、そして生協がどのような位置にあり、私たちの暮らしと社会生活の向上にどのような役割を果たしているのか、その現実と可能性について、地域社会に基盤をおいた協同組織・事業といった観点から学ぶ。 本講義は、「生活協同組合コープみらい」による寄附講義である。講義は、ゲストスピーカーによる講義および実践紹介を中心に構成され、現場実習、グループワーク等も実施する予定である。											
(2) 学びの意義と目標 本講義における学びの意義は、地域生活者としての視点から、自らの暮らしを見つめなおす機会を提供する点にある。商業的世界が日常の生活の隅々を支配している今日、私たちは「消費者」として他者と接する場面が多い。身近な地域の暮らしの現実の中で生成するさまざまな問題（現代的課題）に対応している協同組合（生協）は、商品を媒介としながらも、単なる「消費者」を超えた「生活者」としての視点に立った事業・運動に取り組んでいる。おもに日常的な購買事業・福祉事業の現場経験にもとづく講義は、自ら考え行動するなかで生まれた実践知を学ぶ貴重な機会になるとともに、グループワークおよび現場実習を通して、その実践知を共有・体験することもできる。 本講義では、地域社会における生協の位置と役割について理解することを第一義的な目的とするが、その学びの先には、「閉じられた関係性」のなかに生きる私たち現代人の歩むべき方向性について、一定程度のビジョンを提示できるようにすることをめざしている。											
受講者に対する要望 現場実習（介護体験）を土曜日（終日）に1回実施する。実習参加とレポートが成績評価の重要な要素になるので、必ず参加すること。											
学びのキーワード <ul style="list-style-type: none"> ・ 生協 ・ 地域社会 ・ 食の安全性 ・ 地域福祉 ・ 協同・連帯 		評価方法 <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>45%</td><td>3回の遅刻は欠席1回分とみなす。</td></tr> <tr> <td>(2) 実習レポート</td><td>30%</td><td></td></tr> <tr> <td>(3) 期末レポート</td><td>25%</td><td></td></tr> </table> <p>・出席カードには①今回の講義で学んだこと、②疑問点/さらに学びたいことを記入してもらい、その内容は出席評価に加味する。</p>	(1) 平常点	45%	3回の遅刻は欠席1回分とみなす。	(2) 実習レポート	30%		(3) 期末レポート	25%	
(1) 平常点	45%	3回の遅刻は欠席1回分とみなす。									
(2) 実習レポート	30%										
(3) 期末レポート	25%										
教科書 授業の中で指示する											
参考書 授業の中で指示する											

担当教員：中谷 茂一

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：4 コード：1W100100

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

人間福祉学科1年生を対象に、大学生としての生活と人間福祉学科での学びを始めるに当たって必要な情報を提供する。

(2) 学びの意義と目標

聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科での生活と学習を有意義なものとする基礎的な知識・情報を修得すること。

受講者に対する要望

毎回講義に出席し、提出物を忘れずに提出して、人間福祉学科での学びに備えてほしい。

学びのキーワード

授業計画

01. 科目ガイダンス
02. 特別講義 「聖学院大学で学ぶということ」
03. 授業の受け方とノート・テイキング
04. レポートの書き方
05. 図書館を使う
06. ネットとの付き合い方
07. 学生生活と危機管理 ― 最新の事例から
08. こころとからだの健康、病気の予防
09. 自分探し
10. ボランティア活動
11. 外国を見てみる・外国で学ぶ
12. “進路”の考え方
13. 特別講義 「現代の貧困と社会的排除」
14. 専門 1 囚間福祉とバリアフリー
15. “ ” 2 囚間福祉と心理学
16. “ ” 3 “幸せ”と心理学
17. “ ” 4 高齢者の生活と社会
18. “ ” 5 多世代で創造する地域包括ケアシステム
19. “ ” 6 現代社会と子ども虐待
20. “ ” 7 現代社会と子ども・学校の問題
21. “ ” 8 障害者の生活と社会
22. “ ” 9 精神障害者の生活と社会
23. “ ” 10 ピアサポートの時代
24. 特別講義 「海外福祉研究の楽しみ～イギリスを中心に」
25. 専門 11 福祉の心はどこから？
26. “ ” 12 福祉文化 ― 地域福祉の視点から ―
27. 大学生活と資格取得・資格の説明
28. 大学生活と資格取得・資格の説明
29. 卒業後の進路と就活
30. 人間福祉学科で学ぶということ

準備学習(予習)

今回の担当教員の著作に目を通しておくこと。

準備学習(復習)

授業内容は多岐に分かれているので、必ず、終了後は、資料の読み返しや要点確認を行うこと。また、適宜、指定図書、居住地の福祉情報の把握、ボランティア活動、社会福祉施設見学などを踏まえた自己課題を選択させ、小レポートを課すので、これらに積極的に取り組むこと。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 提出物 | 50% |

教科書

使用しない

参考書

授業の中で指示する

担当教員： 加藤 裕康

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目

単位： 2 コード： 1W101120

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、情報社会における倫理とは何かを学びます。具体的には、インターネットの基本的な仕組みや、そこで起きるさまざまな事件を例に取り上げ、なぜその問題が起きたのか、それを回避するためにはどうしたらいいのかを考えていきます。授業は講義形式で進めますが、新聞記事や映像、ワークシート、ソーシャル・メディアを活用しながら、ディスカッション等を行う予定です。

(2) 学びの意義と目標

今や分別のある大人だけでなく、小・中学生もインターネットを介して多様な人々とコミュニケーションを取れるようになりました。そこには良い面もありますが、悪い面にも目を向けていかなければならない状況が数多く生まれています。インターネットが普及した結果、私たちはさまざまなトラブルに巻き込まれたり、知らないうちに犯罪に加担してしまうことさえあるのです。この講義では、そのような時代の潮流に飲み込まれてしまわぬように、インターネットの仕組みを理解し、情報倫理を身につけることで、危険を予防し他者と共生していく方法を身につけていきます。

受講者に対する要望

出席は成績評価の対象になりませんが、5回以上休んだ者は学内規定通り、単位を取得できません。積極的な参加を期待しています。

学びのキーワード

- ・ 情報と倫理
- ・ メディア・リテラシー
- ・ 情報社会

授業計画

01. 情報化社会と倫理
02. 情報倫理とは
03. 情報社会とインターネット
04. ブログ、SNS、スモールワールド
05. コンテンツビジネスの仕組み
06. 法律と権利
07. インターネットのセキュリティリスク
08. マルウェア、ファイル共有ソフト
09. インターネット・トラブル
10. コミュニケーション・トラブル
11. ネットいじめ
12. ネット依存症
13. 出会い系サイト
14. 炎上の過程と構造
15. まとめ

準備学習(予習)

予習は、参考書を読んでおいてください。

準備学習(復習)

復習は、講義後にノートを自分なりにまとめ直しましょう。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への取り組み | 10% |
| (2) 期末試験 | 50% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

テキストは使用しません。

参考書

『学生時代に学びたい情報倫理』新大輔、2011年、共立出版
 『情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー』高橋恭子・原田隆史・佐藤翔・岡部晋典、2015年、技術評論社
 『インターネットの光と影 Ver. 5』情報教育学会・情報倫理教育研究グループ編、2014年、北大路書房
 『情報化社会の歩き方』佐藤佳弘、2010年、ミネルヴァ書房
 『脱！ スマホのトラブル』佐藤佳弘、2014年、武蔵野大学出版会

ボランティア論		HMSC-W-100												
担当教員：川田 虎男														
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W201150												
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. ボランティアの定義と活動分野 03. ボランティア活動者に聞く「バリアフリーマップとボランティア」 04. 市民活動・NPO法人とボランティア 05. 大学生とボランティアⅠ 06. 大学生とボランティアⅡ 07. ワークショップⅠ「ボランティアの種を探す」 08. ボランティアセンターとボランティアコーディネーション 09. 実際のボランティア活動を知るⅠ「災害ボランティア」 10. 実際のボランティア活動を知るⅡ「コミュニティ活動ボランティア」 11. 実際のボランティア活動を知るⅢ「環境ボランティア」 12. 実際のボランティア活動を知るⅣ「国際ボランティア」 13. まとめと振り返りⅠ 14. まとめと振り返りⅡ 15. まとめと振り返りⅢ</div>												
<div>カリキュラム上の位置付け</div>														
<div>(1) 内容</div> <div>講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。ボランティアについての基礎的な知識、また実際の活動内容について学びます。受講人数によっては、参加者同士のグループワークも複数回実施する予定です。</div> <div>また、課題レポートでは実際の活動に参加した上での感想と考察が求められますので、講義外でのボランティア活動にも参加していただくことになります。</div> <div>基礎的なボランティアの知識を身につけるもので、ボランティアの経験の有無は問いません。</div>														
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>東日本大震災においても多くのボランティア活動が注目されていますが、自分たちの日常レベルに落として現代社会におけるボランティアの実情と意義を学びます。</div> <div>「ボランティア=いいこと」という理解ではなく、その問題点も理解した上で、受講生一人一人が自分なりの「ボランティア観」を持てることを目標としています。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>実際のボランティア活動への参加があるとより学びが深まります。授業でも活動の紹介を行っていきますので、積極的な参加をお願いします。</div>												
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業を受けた後は、各自振り返りを行い授業内での「気づき」や自分なりの考えを深める時間を取ってください。振り返った内容をレポートにまとめる等も効果的です。また、実際に活動を行っている方は、その学びをどう活かせるかを考え、実践していただきたいと思います。その活動から見えてきたものも大切な学びになります。</div>												
<div>受講者に対する要望</div> <div>ボランティアの重要な要素に「自発性」があります。本講義を受講する学生には、積極的な参加を求めます。特にグループワークやワークショップでは、個々の自発的参加が求められます。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>25%</td><td></td></tr><tr><td>(2) 授業への参加度</td><td>25%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 中間レポート</td><td>20%</td><td rowspan="2">授業期間中にボランティア体験を実施し、そのレポートを提出していただきます。</td></tr><tr><td>(4) 試験</td><td>30%</td></tr></table>		(1) 平常点	25%		(2) 授業への参加度	25%		(3) 中間レポート	20%	授業期間中にボランティア体験を実施し、そのレポートを提出していただきます。	(4) 試験	30%
(1) 平常点	25%													
(2) 授業への参加度	25%													
(3) 中間レポート	20%	授業期間中にボランティア体験を実施し、そのレポートを提出していただきます。												
(4) 試験	30%													
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ボランティア</div><div>・市民活動</div><div>・NPO</div><div>・NPO法人</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>												

現代社会と福祉		CCSW-W-100	
担当教員： 牛津 信忠			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
学部教育の関連目		単位： 4 コード： 1W210224	
【W】 人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける。福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 現代社会における福祉制度と福祉政策 （１）わが国における福祉制度の概念と理念	
【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目		02. 現代社会における福祉制度と福祉政策 （２）福祉政策の概念と理念	
【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目		03. 現代社会における福祉制度と福祉政策 （３）福祉制度と福祉政策の関係	
【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目		04. 現代社会における福祉制度と福祉政策 （４）福祉政策と政治の関係	
【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目		05. 現代社会における福祉制度と福祉政策 （５）福祉政策の主体と対象	
(1) 内容		06. 福祉の思想と哲学 （１）福祉の原理をめぐる哲学と倫理	
・ 現代社会における福祉制度と福祉政策		07. 福祉の思想と哲学 （２）福祉の原理をめぐる理論	
・ 福祉の思想と哲学		08. 福祉制度の発達過程 （１）前近代社会と福祉	
・ 福祉制度の発達過程		09. 福祉制度の発達過程 （２）近代社会と福祉	
・ 福祉政策におけるニーズと資源		10. 福祉制度の発達過程 （３）現代社会と福祉	
・ 福祉政策の課題		11. 福祉政策におけるニーズと資源 （１）需要とニーズの概念	
・ 福祉政策の構成要素		12. 福祉政策におけるニーズと資源 （２）資源の概念	
・ 福祉政策の関連領域		13. 福祉政策の課題 （１）福祉政策と社会問題 ①貧困、孤独、失業	
・ 福祉政策の国際比較		14. 福祉政策の課題 （２）福祉政策と社会問題 ②社会的排除、ヴァルネラビリティ	
・ 相談援助活動と福祉政策の関係		15. 福祉政策の課題 （３）福祉政策の現代的課題（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット）	
(2) 学びの意義と目標		16. 福祉政策の構成要素 （１）福祉政策の論点 ①福祉政策の課題と国際比較	
・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。		17. 福祉政策の構成要素 （２）福祉政策の論点 ②効率性と公平性、必要と資源	
・ 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。		18. 福祉政策の構成要素 （３）福祉政策の論点 ③普遍主義と選別主義	
・ 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。		19. 福祉政策の構成要素 （４）福祉政策の論点 ④自立と依存・自己選択とパターナリズム	
・ 福祉政策の課題について理解する。		20. 福祉政策の構成要素 （５）福祉政策の論点 ⑤参加とエンパワーメント	
・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。		21. 福祉政策の構成要素 （６）福祉政策における政府・市場・国民の役割	
・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。		22. 福祉政策の構成要素 （７）福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価	
・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。		23. 福祉政策の構成要素 （８）福祉サービス供給部門	
準備学習(予習)		24. 福祉政策の構成要素 （９）福祉サービスの供給と利用の過程	
前回授業未終了箇所のレジュメ、授業時に指示する参考文献の該当箇所、福祉小六法の関連箇所を、事前に読み、授業に臨むこと。 		25. 福祉政策の関連領域 （１）所得と福祉政策	
準備学習(復習)		26. 福祉政策の関連領域 （２）保健医療と福祉政策	
授業のレジュメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。最低3回に一度は行う終了箇所を範囲とした小テストに備えること。		27. 福祉政策の関連領域 （３）福祉政策と教育・住宅・労働政策	
評価方法		28. 福祉政策の国際比較 （１）欧米諸国の福祉政策	
(1) 平常点		20%	
(2) 小テストに見る思考力		20%	授業の区切りにあたるときに20分程で行う復習テスト。
(3) 授業中の態度		10%	座席表による出席把握により、個人の態度を把握できる。
(4) 授業中の質問		10%	授業中に手を挙げて質問することも歓迎する。
(5) 期末論文形式のテスト		40%	授業全体を対象とし、知識のみならず、思考の力をも重視する。
上記された細かい項目を横断的にとらえるときに、そこには人間福祉というより広義の福祉観があることに注意してほしい。現代は特殊化された福祉から「人間のより良い人生づくり」をすべての人に許容できる状態への移行期である。			
学びのキーワード		教科書	
・ 福祉における理念、政策、技術		参考書	
・ 社会福祉における狭義・広義		主としてスライドショー（パワーポイントによる）授業。加えて関連プリントを毎回配布する。	
・ 普遍主義的福祉			
・ ノーマライゼーション			
・ ワーク・ライフ・バランス			

死生学		HMSC-W-100	
担当教員： 横澤 義夫			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1W210340	
学部教育の関連目		授業計画	
【W】 対人支援力： 人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける		01. I. 死生問題の現代的状況。なにが課題か 02. II. 生について 03. 1. 日本人の生命観とその現代的混迷 04. 2. ヨーロッパ人の生命観とその検討の必要 05. A. アリストテレス主義の伝統的生命観 06. 同 07. B. キリスト教精神の福祉の概念 08. III. 死について 09. 1. 近代自然科学とデカルト的二元論 10. 2. 現代の医療倫理・遺伝子工学問題 etc. 11. 3. 伝統的生命観とどこが対立するのか 12. IV. 総合としての死生観 13. 1. 発生学といのちの問題 14. 2. 老について・病について（ターミナル・ケア論） 15. 同	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
死生学はまだ歴史の浅い領域ですが、ターミナル・ケアの問題などから必然的に生まれた現代的課題そのものです。現代日本人は社会機構や日常生活のパターンに至るまでヨーロッパ化された環境の中で生きていますし、医療技術の発展とともに旧来の生命観や死の観念では対処できない状況に立たされています。そこでこの講義では、ヨーロッパの伝統的な生命観から生と死の問題に入ってゆきます。そこから現代日本人の死生観の混迷に少しでも明かりをあててみます。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
死と生という問いは医療と生命科学にも当然関係してきますから、生命倫理とも共通する課題です。共通基本科目のひとつとして、信仰を含めた人間福祉の対象である生命の意味の理解を目標にします。現代では戦国の侘茶はもう成り立たないともいわれま す。明日は知れぬ一期一会の中で生死を決しなければならなかった人たちの、その生死の問題そのものが侘茶でした。しかし現代でもわたしたちは突然に脳死状態の家族をもったり、自身が死への告知を受けたりします。これに対処すべく、わたしたち自身の生と死の意味を打ち建て、生死を自身で自身のために決定できる死生観を探ってみたいのです。		新聞や定時テレビニュースなどの人間やいのちに関係する報道に関心を払って、場合によっては書きとどめる努力をしてください。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
1回のレポート以外には課題は出しませんので、じっくりと聴き、ともに考える努力をしてみてください。 		前週の講義で箇条書きしたノートの大切と思える箇所は自分で文章にしてみる努力をしてください。 	
		評価方法	
		(1) 出席率 30% 欠席理由のある場合には必ず申告のこと (2) レポート 70% テーマについては講義中に説明します	
学びのキーワード		教科書	
・いのちとはなにか ・人格とはなにか ・生老病死 ・人間的時間とは ・死を記憶せよ		参考書	
		教科書は使用しません。	

生命倫理学

HMSC-W-100

担当教員：川上 祐美

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W210448

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

健康・医療・福祉を生命倫理＜バイオエシックス＞の立場からとらえ、現代の諸問題に対処し得る思考と感性の研鑽によって、豊かな人間観といのちについての深い洞察力が養われることをめざします。

(2) 学びの意義と目標

その成果が、日常生活や医療福祉の現場においても実践され、常に社会の中で提言していくことのできる資質を身につけることを期待します。

受講者に対する要望

映像教材を使用した事例研究を行います。
事例に基づいたテーマでグループディスカッションを行う場合があります。

学びのキーワード

- ・生老病死
- ・生命倫理
- ・死生観
- ・人間・技術・環境
- ・先端科学の倫理

授業計画

01. いのちを考える ～現代の生老病死と医療～
02. 高齢期医療と人間の尊厳 ～老いと生きがい～
03. ターミナルケアの実際 1 ～現代の死を考える～
04. ターミナルケアの実際 2 ～死をめぐる自己決定と事前指示～
05. 尊厳死・安楽死 ～オランダの事例から～
06. 臓器移植と脳死 1 ～法制化と国際的格差～
07. 臓器移植と脳死 2 ～生命の資源化とその配分～
08. 生殖技術と優生思想 1 ～選別されるいのち～
09. 生殖技術と優生思想 2 ～障害とはなにか～
10. 家族の変遷と子ども ～DNAに規定されゆく個と、人間の可能性
11. 医療過誤・薬害 ～社会医療の功罪～
12. エンハンスメント ～人体増強の行方～
13. 生命観の多様性と幸福 ～宗教文化における死生観の伝統と変容～
14. 医科学技術と人間の尊厳 ～戦争と臨床研究の倫理～
15. まとめ ～生老病死・再考～

準備学習(予習)

日々のニュースに関心をもってください。

準備学習(復習)

講義中に配布した新聞資料などをよく読んできてください。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|---------------------------------------|
| (1) 授業への参加度・ミニレポート | 60% | 毎回の授業内で、その日のテーマに沿ったミニレポートを提出していただきます。 |
| (2) 期末レポート | 40% | 課題図書『夜と霧』のブックレポートを予定しています。 |

教科書

なし。参考書や関連資料は講義内で随時紹介します。

参考書

課題図書：『夜と霧』ヴィクトル・フランクル（池田香代子訳）

人体の構造と機能及び疾病		CCSW-W-100
担当教員： 藤野 秀美		
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W210772
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける。対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 人の成長・発達</div> <div>02. 健康の捉え方・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方</div> <div>03. 障害の概要・リハビリテーションの概要</div> <div>04. ところとからだのしくみ（心理面及び身体面）の基本的理解 ところとからだのしくみの基礎的理解</div> <div>05. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (1) 身じたくや移動に関するところとからだのしくみ</div> <div>06. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (2) 食事に関するところとからだのしくみ</div> <div>07. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (3) 入浴・清潔保持や排泄に関するところとからだのしくみ</div> <div>08. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (4) 睡眠に関するところとからだのしくみ</div> <div>09. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (5) 終末期に関するところとからだのしくみ</div> <div>10. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (6) 緊急時に関するところとからだのしくみ</div> <div>11. 疾病の概要 (1) 悪性腫瘍</div> <div>12. 疾病の概要 (2) 生活習慣病</div> <div>13. 疾病の概要 (3) 感染症</div> <div>14. 疾病の概要 (4) 神経・精神疾患</div> <div>15. 疾病の概要 (5) 先天性・精神疾患、難病</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目</div> <div>【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div> <div>【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>・ 人の成長・発達</div> <div>・ 健康の捉え方</div> <div>・ 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方</div> <div>・ 障害の概要</div> <div>・ リハビリテーションの概要</div> <div>・ ところとからだのしくみの基本的理解</div> <div>・ 生活支援に必要なところとからだのしくみ</div> <div>・ 疾病の概要</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>・ 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。</div> <div>・ 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。</div> <div>・ リハビリテーションの概要について理解する。</div> <div>・ 社会福祉実践の根拠となる人体の構造や機能及び福祉サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>テキストを通し予習</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>社会福祉に携わる者として、支える対象である人間への関心をもち、講義に臨んでほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>テキスト、プリントを参考に復習</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 健康</div> <div>・ 人体の構造・機能</div> <div>・ 疾病・障害</div> <div>・ リハビリテーション</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加度 30%</div> <div>(2) レポートまたは小テスト 40%</div> <div>(3) テスト 30%</div>
		<div>教科書</div> <div>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座〈1〉人体の構造と機能及び疾病—医学一般 第2版』（中央法規出版）</div>
		<div>参考書</div>

社会調査の基礎

SOCI-W-200

担当教員：鷹野 吉章

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W210988

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・ 社会調査の意義と目的
- ・ 社会調査の概要
- ・ 社会調査における倫理と個人情報保護
- ・ 量的調査の方法
- ・ 質的調査の方法
- ・ 社会調査の実施にあたってのITの活用方法

(2) 学びの意義と目標

- ・社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。
- ・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。
- ・量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。

受講者に対する要望

ソーシャルワーク実践にとって不可欠な科目ですので、社会福祉士を目指す者は是非受講してください。

学びのキーワード

- ・ 社会調査
- ・ 量的調査の方法
- ・ 質的調査の方法
- ・ データ分析
- ・ 個人情報保護

授業計画

01. オリエンテーション
02. 社会調査の意義と目的
03. 社会調査の概要
04. 社会調査における倫理と個人情報保護
05. 量的調査の方法 (1) 量的調査の方法と特徴
06. 量的調査の方法 (2) 調査設計
07. 量的調査の方法 (3) 調査票の作成方法
08. 量的調査の方法 (4) サンプルングと実査
09. 量的調査の方法 (5) 集計・データ解析・発表と報告
10. 質的調査の方法 (1) 質的調査の特徴と種類
11. 質的調査の方法 (2) 調査設計・対象者の選定と調査手続・調査方法
12. 質的調査の方法 (3) 調査の実施
13. 質的調査の方法 (4) データの分析
14. 質的調査の方法 (5) 発表・報告
15. 社会調査の実施にあたってのITの活用方法

準備學習(予習)

授業計画に示されている次回のタイトルについて、授業で指示する参考書の当該箇所を事前に読み用語などを調べておくこと。

準備學習(復習)

授業での講義内容と配布プリントを踏まえて、自分なりに重要と思われる要点を整理すること。また練習問題についてはできなかった問題は解説を読み理解するようにすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) レポート | 30% |

出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

教科書

教科書は使用せず毎回配布資料により講義する。

参考書

担当教員：古谷野 亘

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W211296

学部教育の関連目

【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

人生の後半で経験する変化を取り上げ、人が“高齢者”となっていく過程を検討する。そして、個人の高齢化の理解を前提として、高齢者の割合が高い社会（高齢社会）への移行に際して問題となる事象、また特に高齢社会への移行が急速であった場合に深刻になる事象を明らかにする。

(2) 学びの意義と目標

人口高齢化のメカニズムを理解し、近未来の日本の高齢者がどのような人々であり、彼（女）らのために求められる施策について考えられるようになる。

受講者に対する要望

関心を持ち、休まずに出席すること。

学びのキーワード

授業計画

01. 社会老年学とは
02. 高齢者観
03. 人口高齢化の推移
04. 高齢化の原因
05. 人口転換と人口構造の変化
06. 老化と健康・病気
07. 生活機能
08. 高齢期の健康づくり
09. 定年退職と引退
10. 高齢期の収入と年金
11. 高齢期の人間関係
12. 高齢期の家族
13. 近隣と友人
14. サクセスフル・エイジング
15. 高齢社会における高齢者のライフスタイル

準備学習(予習)

授業はおおむね教科書の通りに進むので、次回の部分を読んでおくとうい。

準備学習(復習)

授業はかなりのスピードで進むので復習が必要。また、その一環として、レポートの作成・提出が義務づけられる。

評価方法

(1) 平常点	30%
(2) レポート	30%
(3) 筆記試験	40%

教科書

古谷野 亘、安藤 孝敏『改訂・新社会老年学—シニアライフのゆくえ』（ワールドプランニング）

参考書

授業の中で指示する

保健医療サービス		CCSW-W-200
担当教員： 中村 磐男		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W211720
学部教育の関連目		授業計画
【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目		
(1) 内容		01. 医学と社会 （1） 疾病と生活問題 02. 医学と社会 （2） 医療技術の発展と生命倫理 03. 公衆衛生の動向と対策 人口静態・人口動態 04. 医療保険制度 （1） 医療保障 05. 医療保険制度 （2） 医療費に関する政策動向 06. 診療報酬 （1） 診療報酬制度の概要・診療報酬と医療機関の関係 07. 診療報酬 （2） 診療報酬制度改正の動向と課題 08. 保健医療サービスの概要 （1） 保健の動向と対策 09. 保健医療サービスの概要 （2） 医療施設の概要 10. 保健医療サービスにおける専門職の役割 （1） 医療従事者とその役割 11. 保健医療サービスにおける専門職の役割 （2） インフォームド・コンセントの意義と実際 12. 保健医療サービスにおける専門職の役割 （3） 医療ソーシャルワークの歴史的展開・医療ソーシャルワーカーの業務指針 13. 保健医療サービスにおける専門職の役割 （4） 医療ソーシャルワークの実際 14. 保健医療サービス関係者との連携と実際 （1） 医師、看護師、保健師等との連携と実際 15. 保健医療サービス関係者との連携と実際 （2） 地域の社会資源との連携
・ 医学と社会 ・ 公衆衛生の動向と対策 ・ 医療保険制度（診療報酬を含む）の概要 ・ 保健医療サービスの概要 ・ 保健医療サービスにおける専門職の役割 ・ 保健医療サービス関係者との連携と実際		
(2) 学びの意義と目標		
・ 相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。 ・ 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
カリキュラム上、社会福祉士・精神保健福祉士受験資格の必修科目。資格試験を受験しなくても、福祉を学ぶ者には必要な知識であろう。内容は専門的であり、多岐・膨大に渡る。受講者は、国試受験予定のない履修者、他学科履修者を含め、教科書を必ず購入のこと。受講者は、他学科履修者を含め、教科書を全員が持っていることを前提に、授業を進めることを理解して、履修選択、受講してほしい。		予習：他学科履修者も含め、教科書を必ず購入のこと。教科書の該当箇所を予め読み、わからない箇所をメモしておく。履修者全員が教科書を持っていることを前提に講義をすすめる。
学びのキーワード		準備学習(復習)
・ 人口静態、人口動態、平均寿命と平均余命、健康寿命 ・ 日本の医療制度、公的医療保険、高齢者医療制度、公費負担医療 ・ 医療費の推移と内訳、診療報酬制度、医療構造改革 ・ 医療分業、保健医療施設、専門職の役割、医療ソーシャルワーク ・ 衛生行政のしくみ、関係者・関係機関との連携、クリニカルパス		復習：その日の講義で説明されたキーワード、返却された前回小テストの誤答箇所、理解が不十分な箇所は復習・確認する。
		評価方法
		(1) 受講態度 20% 出席状況、着席位置を含む (2) 小テスト 35% 授業の終わりに、毎回実施する (3) 期末授業内テスト 45%
		講義の終わりに、毎回、小テストを実施する。原則、次回に返却する
		教科書
		全国社会福祉協議会 『医学一般 改訂版—人体の構造と機能及び疾病、保健医療サービス（社会福祉学習双書 14巻）』（全国社会福祉協議会）
		参考書

権利擁護と成年後見制度		CCSW-W-300										
担当教員：長尾 愛女												
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W211828										
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 相談援助活動と法とのかかわり （１）相談援助活動において想定される法律問題</div> <div>02. 相談援助活動と法とのかかわり （２）日本国憲法の理解</div> <div>03. 相談援助活動と法とのかかわり （３）民法の理解</div> <div>04. 相談援助活動と法とのかかわり （４）行政法の理解</div> <div>05. 成年後見制度 （１）成年後見制度の概要 ①成年後見・保佐・補助の概要</div> <div>06. 成年後見制度 （２）成年後見制度の概要 ②任意後見の概要・民法における親権や扶養の概要</div> <div>07. 成年後見制度 （３）成年後見制度の概要 ③成年後見制度の最近の動向・成年後見制度利用支援事業の概要</div> <div>08. 日常生活自立支援事業</div> <div>09. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 （１）家庭裁判所・法務局・市町村の役割</div> <div>10. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 （２）弁護士・司法書士の役割</div> <div>11. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 （３）社会福祉士の役割と活動の実際</div> <div>12. 権利擁護活動の実際 （１）認知症高齢者・消費者被害者への支援</div> <div>13. 権利擁護活動の実際 （２）被虐待児者・アルコール等依存者への支援</div> <div>14. 権利擁護活動の実際 （３）非行少年とホームレスへの支援・障害児者への支援</div> <div>15. 権利擁護活動の実際 （４）多問題重複ケースをかかえる者への支援</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div> <div>【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>												
<div>(1) 内容</div> <div>・ 相談援助活動と法とのかかわり</div> <div>・ 成年後見制度</div> <div>・ 日常生活自立支援事業</div> <div>・ 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際</div> <div>・ 権利擁護活動の実際</div>												
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。</div> <div>・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。</div> <div>・ 成年後見制度の実際について理解する。</div> <div>・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div> 次回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。</div>										
		<div>準備学習(復習)</div> <div> 社会・精神保健福祉士の国家試験受験予定者は、講義内容の復習（教科書の重要箇所の理解、ノートの見直しなど）と併せて、受験ワークブックや過去問題集などに目を通し知識を確実に習得すること。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div> 事前に履修しておくことが望ましい科目：「法学」
権利擁護が問題となるケースを発見し、関心を深めておくこと。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 期末試験</td><td>60%</td><td>テキスト、レジュメの持ち込み可。穴埋め式、〇×式等で行なうことを予定している。</td></tr><tr><td>(2) 毎回の授業のリアクションペーパー</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 中間レポート</td><td>20%</td><td></td></tr></table>		(1) 期末試験	60%	テキスト、レジュメの持ち込み可。穴埋め式、〇×式等で行なうことを予定している。	(2) 毎回の授業のリアクションペーパー	20%		(3) 中間レポート	20%	
(1) 期末試験	60%	テキスト、レジュメの持ち込み可。穴埋め式、〇×式等で行なうことを予定している。										
(2) 毎回の授業のリアクションペーパー	20%											
(3) 中間レポート	20%											
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 権利擁護</div> <div>・ 相談援助</div> <div>・ 成年後見制度</div> <div>・ 憲法・民法・行政法・社会福祉関連法</div>		<div>教科書</div> <div>社会福祉士養成講座編集委員会編集『権利擁護と成年後見制度【第4版】（新・社会福祉士養成講座19）』（中央法規）</div> <div>参考書</div>										

就労支援サービス

CGSW-W-300

担当教員：野口 勝則

学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1W211936

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 内容

- ・自立支援と就労
- ・雇用・就労の動向と労働施策の概要
- ・障害者と就労支援
- ・低所得者と就労支援
- ・就労支援分野との連携と実際

(2) 学びの意義と目標

- ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。
- ・就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。
- ・就労支援分野との連携について理解する。

受講者に対する要望

就労問題はこれから社会人となる皆さんにとっても重要です。受講者ご自身の職業生活と関連づけた学習が大切です。

学びのキーワード

授業計画

01. 自立支援と就労
02. 雇用・就労の動向と労働施策の概要
03. 障害者と就労支援 (1) 就労支援制度(1) 障害者福祉制度における就労支援制度
04. 障害者と就労支援 (2) 就労支援制度(2) 障害者雇用施策の概要
05. 障害者と就労支援 (3) 職業リハビリテーション機関の役割と実際
06. 障害者と就労支援 (4) 就労支援に係る専門職の役割と実際
07. 低所得者と就労支援
08. 就労支援分野との連携と実際

準備学習(予習)

教科書に目を通しておくとともに、普段から雇用情勢（失業率、高校・大学卒業予定者の内定状況等）、障害者・低所得者等の就労問題について、ニュース等を通じて理解しておくことが望まれます。

準備学習(復習)

講義では補足資料も配付し、使用します。受講後は、教科書、配付資料、小試験に目をとおり、苦手なところをカバーすることが望まれます。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 筆記試験 | 50% |
| (2) 出席 | 50% |

2日間の講義です、各日ごとに小試験を行います。その結果と出席率により評価を行います。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座第18巻就労支援サービス最新版』（中央法規出版）

参考書

リハビリテーション論		HMSC-W-300
担当教員：長谷川 辰男		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1W212984
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける。対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. リハビリテーションとは 02. 病気と障害 03. 人間活動と発達 04. 障害と心理 05. リハビリテーションの諸段階 06. リハビリテーションの過程（1） 07. リハビリテーションの過程（2） 08. リハビリテーションの過程（3） 09. 機能障害をもたらす主な疾病と外傷、先天性異常および精神障害（1） 10. 機能障害をもたらす主な疾病と外傷、先天性異常および精神障害（2） 11. リハビリテーションを支える社会保障体制（1） 12. リハビリテーションを支える社会保障体制（2） 13. 福祉用具について 14. 事例紹介 15. まとめ</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に配布する資料を読んでおくこと。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布された資料やノートを確認すること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 定期試験</div><div>50%</div></div><div><div>(2) レポート</div><div>30%</div></div><div><div>(3) 授業態度</div><div>20%</div></div></div>	
<div>(1) 内容</div> <div>講義、配布資料などもとに授業を進めます。また、ディスカッションなども取り入れ、リハビリテーションの理解を深めていきます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>リハビリテーションの本来の意味、歴史そして社会制度を理解し、様々な場面におけるリハビリテーションについて考え、関心を高めることを目指します。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業の復習を十分に行ない、積極的な授業への参加を望みます。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・リハビリテーション</div><div>・病気と障害</div><div>・社会保障制度</div></div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

精神保健学			HLTH-W-200
担当教員： 高畑 隆			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1W213092	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション/精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要 1) 地域保健施策の概要</div> <div>02. 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要 2) 関係法規における精神保健</div> <div>03. 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要 3) ストレスと地域精神保健施策の概要</div> <div>04. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ 1) ライフサイクルにおけるメンタルヘルス①胎児期・乳幼児期・学童期</div> <div>05. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ 1) ライフサイクルにおけるメンタルヘルス②思春期・青年期・成人期・高齢期</div> <div>06. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ 2) ファミリーソーシャルワークと精神保健福祉士</div> <div>07. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 1) 現状と課題</div> <div>08. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 2) 専門機関や関係職種の役割</div> <div>09. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 3) スクールソーシャルワークと精神保健福祉士①</div> <div>10. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 3) スクールソーシャルワークと精神保健福祉士②</div> <div>11. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 1) 現状と課題</div> <div>12. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 2) 専門機関や関係職種の役割</div> <div>13. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 3) 産業ソーシャルワークと精神保健福祉士</div> <div>14. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 1) 現状と課題</div> <div>15. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 2) 専門機関や関係職種の役割</div> <div>16. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 3) 精神保健福祉士の役割</div> <div>17. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 1) 現状と課題</div> <div>18. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 2) 専門機関や関係職種の役割と連携</div> <div>19. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 3) 精神保健福祉士の役割</div> <div>20. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 1) 現状と課題</div> <div>21. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 2) 専門機関や関係職種の役割と連携</div> <div>22. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 3) 地域の社会資源の活用と連携</div> <div>23. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 4) 精神保健福祉士の役割</div> <div>24. 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携 1) 現状と課題</div> <div>25. 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携 2) 専門機関や関係職種の役割</div> <div>26. 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携 3) 専門機関や関係職種との連携</div> <div>27. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策 1) 国際連合の精神保健活動</div> <div>28. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策 2) 欧米諸国の精神保健活動</div> <div>29. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策 3) アジア諸国の精神保健活動</div> <div>30. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目</div> <div>【W】 認定心理士認定資格(W学科)：副次科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>① 精神の健康と精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要(予防と健康づくり)</div> <div>② 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ</div> <div>③ 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ</div> <div>④ 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ</div> <div>⑤ 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ</div> <div>⑥ 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割</div> <div>⑦ 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題</div> <div>⑧ 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携</div> <div>⑨ 諸外国の精神保健活動の現状及び対策</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>① 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。</div> <div>② 現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。</div> <div>③ 精神保健、心の健康の維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。</div> <div>④ 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>自らの健康・セルフケアに留意し、予防と心の健康を基盤に地域精神保健福祉活動の具体的事例（集団・グループが活動基盤）から、その取り組みの目的を明確にし、プロセスを意識し、多面的視点と支援姿勢を学ぶ授業を進めます。授業内容に関する疑問や意見は気軽に出示してください。授業出席率も重視します。参考書籍高校教科書「こころとからだの理解」（実教出版）</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>前回の授業について復習することが次の授業の予習につながる。</div>	
		<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加態度・リアクションペーパー 30%</div> <div>(2) 筆記試験 70%</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義形式の授業。学習効果を高めるためDVD/ビデオ、スライド等の視聴覚教材を適宜利用する。また、必要に応じて、学習したテーマに関するレポート課題を課し、より深く学習できるように指導する。</div>		<div>教科書</div> <div>精神保健福祉士養成校協会 『新・精神保健福祉士養成講座2精神保健の課題と支援』（中央法規出版）</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 人と発達</div> <div>・ 保健予防</div> <div>・ ストレス</div> <div>・ 心の健康</div> <div>・ ライフサイクル</div>		<div>参考書</div>	

心理学		PSYC-W-100	
担当教員：堀 恭子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 1W220100	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【W】 人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける。論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>		<div>01. 心理学の特徴ー心理学の見方・考え方</div> <div>02. 心理学の歴史</div> <div>03. ヒトは世界をどうとらえるかⅠー感覚・知覚・認知</div> <div>04. ヒトは世界をどうとらえるかⅡー情動・感情</div> <div>05. ヒトは世界をどうとらえるかⅢーまとめ・心と脳</div> <div>06. こころの働きを知るⅠー言語と思考</div> <div>07. こころの働きを知るⅠー2 学習・知能・創造性</div> <div>08. こころの働きを知るⅠー3 記憶</div> <div>09. こころの働きを知るⅡー欲求と動機づけ・適応</div> <div>10. こころの働きを知るーまとめ</div> <div>11. 対人関係の心理学Ⅰー「私らしさ」はどう決まるのか／人格</div> <div>12. 対人関係の心理学Ⅰー対人コミュニケーション</div> <div>13. 対人関係の心理学Ⅰー他者の理解</div> <div>14. 対人関係の心理学Ⅱー集団の中の個人／人と環境</div> <div>15. 対人関係の心理学Ⅱー集団の理解</div> <div>16. 対人関係の心理学ーまとめ</div> <div>17. 発達Ⅰー発達の定義・遺伝と環境・発達理論</div> <div>18. 発達Ⅱー発達段階と発達課題（1）胎児期から幼児期</div> <div>19. 発達Ⅲー発達段階と発達課題（2）児童期から青年期</div> <div>20. 発達Ⅳー発達段階と発達課題（3）成人期から高齢期</div> <div>21. 発達Ⅴー発達と危機：アタッチメント・アイデンティティ・喪失・障害</div> <div>22. 発達Ⅵーまとめ</div> <div>23. 日常生活と心の健康Ⅰーストレス：ストレスとコーピング</div> <div>24. 日常生活と心の健康Ⅱーストレス症状とストレスマネジメント</div> <div>25. 日常生活と心の健康Ⅲー心身の不調とアセスメント</div> <div>26. 日常生活と心の健康Ⅳーまとめ</div> <div>27. 心理的支援の方法と実際Ⅰーこころの専門家と臨床心理学</div> <div>28. 心理的支援の方法と実際Ⅱー心理療法</div> <div>29. 心理的支援の方法と実際Ⅲーカウンセリングとソーシャルワーク との関係・ピアサポート</div> <div>30. 全体のまとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div> <div>【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div> <div>【W】 認定心理士認定資格(W学科)：基礎科目</div>			
(1) 内容			
<div>・心理学の特徴と歴史</div> <div>・人の心理学的理解</div> <div>・人の成長・発達と心理</div> <div>・日常生活と心の健康</div> <div>・心理的支援の方法と実際</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>・心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する</div> <div>・人の成長・発達と心理との関係について理解する</div> <div>・日常生活と心の健康との関係について理解する</div> <div>・心理的支援の方法と実際について理解する</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<div>講義に加え、心理学という学問の概要を知ってもらいながら、心理学がどのように利用されているか実感してもらいたいと考えています。まじめに心理学を学ぶ気のある方のみ受講してください。講義に参加して提供された話題について考える習慣を身に付けてほしいと思っていますので、授業への参加態度を重視します。</div>		<div>今回の講義で取り扱う項目について予告しますので、各自事前学習として調べ、毎回出席確認をかねて行うショートレポートとして提出してもらいます</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>講義で扱った内容と事前学習について授業内に複数回のまとめを行い、小テストや中間レポート提出により講義内容の復習を行い、定着を確認します</div>	
学びのキーワード		評価方法	
<div>・心理学の概要と特徴</div> <div>・心理学の各基礎理論</div> <div>・心理学の応用</div> <div>・日常生活と心理学</div> <div>・心理的援助</div>		<div>(1) 講義内課題 30%</div> <div>(2) 小テスト・中間レポートなどの振り返り 60% 小テストは知識を問うというより、理解度を測るための記述式とします</div> <div>(3) 期末レポート 10%</div>	
		教科書	
		参考書	
		<div>毎回プリントを配布し、適宜参考文献を紹介します</div>	

発達心理学 A		PSYC-W-200	
担当教員： 金重 利典			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W220208	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 初回ガイダンス</div> <div>02. 発達心理学とは：遺伝と環境</div> <div>03. 身体の発達・感覚の発達</div> <div>04. 認知発達：ピアジェの理論1</div> <div>05. 認知発達：ピアジェの理論2</div> <div>06. 言語発達：ことばの獲得</div> <div>07. 言語発達：文法の獲得</div> <div>08. 社会性の発達：アタッチメント</div> <div>09. 社会性の発達：情動発達、情動理解の発達</div> <div>10. 社会性の発達：仲間関係の発達</div> <div>11. 社会性の発達：共感と向社会的行動</div> <div>12. 社会性の発達：道徳性の発達</div> <div>13. 社会性の発達：「心の理論」</div> <div>14. 発達障害</div> <div>15. 授業の振り返り</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 認定心理士認定資格(W学科)：選択科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、変化のめまぐるしい乳幼児期を中心に、思春期までの人間の発達について講義を行う。認知発達・言語発達・情動発達・社会性の発達・発達障害といった幅広い領域について理解を深め、子どもがどのようにして大人へと成長していくのか、その発達の軌跡について学びを深める。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子どもについて学ぶことは、将来子どもに関わる職に就いたり、子育てをする際に役立つだけでなく、大人である自身についての理解を深めることでもある。講義を受ける中で子どもについて知識を得るだけでなく、自身がどのようにして成長してきたのか、大人である自分自身についての理解を深めてほしい。また、他者を理解する際に、発達の視点を持つことで他者との関わりをより豊かなものにすることができる。講義を通して、人との関わりかたを振り返る機会としてほしい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>初回のガイダンスで大まかな授業内容について触れる。その際、自分が興味のあるものを少なくとも一つ選び、関連する書籍などで知識を深めておく。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義形式であるが、積極的な参加を期待する。出席は前提であるが、それ以上に自身が授業を通して何を学んだか、自分自身で評価できるようにしてほしい。またその内容について、リアクションペーパーに記述してもらうため、自身の考えをまとめられるよう講義を受けてほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業の内容に関する自身の経験を思い出したり、家族に聞いてみたりすることで、講義の内容を身近な知識として定着させる。また授業で扱った内容がのちの授業に出てくることがあるため、基本的な用語については講義内容を復習し、いつでも思い出せるようにしておくこと。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 期末試験70%</div><div>(2) 平常点30%</div></div> <div>平常点は出席+リアクションペーパーへの回答によって評価する。出席が前提であるが、出席するだけでは平常点として評価せず、リアクションペーパーの内容を重視する。リアクションペーパーは、毎回の授業の内容に関する自身の考えや授業内容への質問を述べてもらう。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・発達心理学</div><div>・認知発達</div><div>・言語発達</div><div>・情動発達</div><div>・社会性の発達</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

担当教員：堀 恭子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W220316

学部教育の関連目

【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

(1) 内容

発達心理学ではヒトが誕生してから死を迎えるまでの心身構造や機能の変化について心理学的側面から検討します。発達のメカニズムについて研究方法の解説も交えながら学び、身近にある問題についても一緒に考えていきます。発達心理学Bでは青年期から死に至るまでの発達について、生涯発達の考え方に注目しながら学びます。

(2) 学びの意義と目標

個人としての発達理解だけでなく、家族・社会の中での発達を理解することにより、人が常に変化し発達をとげることを実感してほしいと考えています。講義を通して得た基礎知識とその活用によって、人に対する理解において、「関係性の中で生涯続く変化」へが視点を持てるようになることを目標とします

受講者に対する要望

講義に参加して提供された話題について考える習慣を身に付けてほしいと思っていますので、出席や出席態度を重視します。

学びのキーワード

- ・生涯発達
- ・心身構造と機能変化のメカニズム
- ・関係性の理解
- ・専門知識と課題解決

授業計画

01. オリエンテーション：発達とは何か・生涯発達の考え方
02. 生涯発達心理学の基礎：成人期以降の発達の歴史
03. 生涯発達心理学の基礎：発達理論と発達課題
04. 青年期の発達（1）自立と巣立ちを理解する
05. 青年期の発達（2）ライフサイクルと心身の発達
06. 青年期の課題・まとめ
07. 成人期の発達（1）心身の変化とところ
08. 成人期の発達（2）関係性の変化とところ
09. 成人期の課題・まとめ
10. 老年期の発達（1）老いとは何か①身体の変化
11. 老年期の発達（2）老いとは何か②認知機能の変化
12. 老年期の発達（3）老いとは何か③知的機能の変化
13. 老年期の問題を考える（1）：適応・高齢期の悩み
14. 老年期の問題を考える（2）：DVD視聴
15. まとめ

準備学習(予習)

授業終了時に、次回までの簡単な課題を提示し、課題内容を踏まえてショートレポートを作成してもらいます。

準備学習(復習)

講義内容について、ショートレポートを活用して復習と定着をはかり、中間・期末のまとめによって知識の整理を行います。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 講義内課題 | 30% |
| (2) 中間レポート | 40% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

毎回資料を配布し、適宜参考文献を紹介します。

TEAT-0-201

単位： 4 コード： 1W220424

参考書

家族心理学		PSYC-W-300	
担当教員： 水本 深喜			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1W220740	
学部教育の関連目		授業計画	
【W】 人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける。対人支援力：対人支援の実践力を身につける		01. オリエンテーション 02. ジェノグラム（演習） 03. 家族システム理論 04. 家族を理解するための鍵概念① 05. 家族を理解するための鍵概念② 06. 家族をシステムから捉え、家族の問題を考える（演習） 07. 独身の若い成人期：恋愛関係 08. 結婚による家族の成立期：新婚期・子どもを持つこと 09. 乳幼児を育てる段階 10. 父親の子育て、子育て不安 11. アタッチメント 12. 小学生の子ども、若者世代とその家族 13. アイデンティティ（演習） 14. 親からの精神的自立（演習） 15. 老年期の家族 16. 今日的な家族の問題① 17. 今日的な家族の問題② 18. 夫婦関係の危機と援助：DV・離婚 19. 児童虐待・子育て支援 20. 家族への臨床的アプローチ 21. 傾聴（演習） 22. リフレーミング（演習）：意味の捉えなおし 23. 家族の中のコミュニケーション 24. アサーション（演習）：適切な自己主張の仕方 25. 家族アセスメント 26. 事例検討（演習）：不登校の事例① 27. 事例検討（演習）：不登校の事例② 28. 事例検討（演習）：不登校の事例③ 29. まとめ 30. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【W】 認定心理士認定資格(W学科)：選択科目			
(1) 内容			
家族メンバーの「ところ」は、その家族の歴史、現在の家族関係と切り離して考えることはできない。本講義では、個人を家族との関係から捉え、家族が形成されてから発達して行く過程、その過程で生じうる家族メンバーの相互作用や心理臨床的問題、その問題への支援法を学ぶ。 授業は、基本的には講義形式で進むが、随時、個人ベースでの演習、グループディスカッション、グループ毎のプレゼンテーション等を取り入れる。講義内容の理解を促すために適宜映像を観ていただく。また、毎回の講義終了時には、各受講生がコメントペーパーに講義内容に関する考察、質問等を書くことで、学習の定着を図る。学生のコメントについては、次回授業開始時に取り上げ、フィードバックする。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
本講義の目標は、個人を家族との関係から理解し、支援するための基礎的な知識を得ることである。 こうした学びには、福祉の場における支援対象者の理解・支援の手がかりを得ることができるといいう意義がある。さらに、身近な存在であるがゆえに客観視することが難しい家族との関係について、心理学の理論に基づいて考えていくことは、他者理解のみでなく自己理解を深めることにも繋がると期待される。		教科書の該当箇所に目を通しておくことが望ましい。	
		準備学習(復習)	
		講義で扱った内容について、自分なりの考えをまとめることが重要である。	
受講者に対する要望		評価方法	
新聞、雑誌、書籍、テレビ番組などで取り上げられている現代特有の家族の問題への意識を高めることを期待する。		(1) 授業参加態度 20% 発表、グループワーク等における授業への参加度、授業態度等を、および毎回の講義後に提出されるコメントペーパーの内容により評価する。 (2) 中間レポート 30% 「各世代の家族の問題」に関する問題、毎回の講義を基に作成したレポートを提出およびその内容に基づいてフィードバックを行う。評価する。 (3) 期末試験 50% 講義内容に基づく選択式・記述式テストを行う。	
学びのキーワード		教科書	
・ 家族心理学 ・ 発達心理学 ・ 臨床心理学 ・ 親子関係 ・ 夫婦関係		中峯洋子・野末武蔵・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』（有斐閣ブックス）	
		参考書	

犯罪心理学			
担当教員： 澤田 豊			
学期： 週間授		科目： 必修・選択：	単位： 4 コード： 1W221000
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 講義内容の説明 参考文献の紹介 非行少年や犯罪者はどういう人たちか 我々と何が違うのか 同じなのか 02. 人間社会と犯罪 人間にとって犯罪とは何か 歴史上犯罪がなくならないのは何故か 03. 適応と犯罪 犯罪を社会適応の視点から考える。人間が困難に直面した時に取る適応行動の一つとして犯罪を説明する。 04. 攻撃性と悪 攻撃性は犯罪と結び付けられることが多く悪と考えられやすいが、本当だろうか 05. 犯罪者類型 非行少年や犯罪者の様々なタイプを紹介する。 06. 犯罪理論 1 様々な犯罪理論を紹介し、これまで犯罪者についてどう考えてきたかを学ぶ。 07. 犯罪理論 2 非行少年に焦点を当てた理論を説明する。 08. 非行現象 犯罪統計をもとに非行現象の現状について説明する。 09. 多様な非行少年 事例を通して様々な非行に関係する要因を説明する。 10. 発達と非行 思春期に非行が多くなるのは何故か 11. 非行少年の処遇 非行少年は警察・裁判所・矯正・保護という司法の流れの中でどういう対応がなされているかを説明する。 12. 非行再考 1 何故非行をするのか 13. 非行再考 2 どうしたら非行をしなくなるのか 14. 非行再考 3 事例を通して理論の適用と限界を学ぶ。 15. 前半のまとめ 16. 犯罪現象 犯罪白書からみた犯罪の現状 17. 犯罪者の処遇 施設処遇を中心に説明する。 18. 拘禁 拘禁状況における人間の行動 19. 拘禁に関する社会実験と「夜と霧」から犯罪者の処遇を考える。 20. 犯罪者の多様性 1 罪名からみた犯罪者の特徴 21. 犯罪者の多様性 2 早発型と遅発型 22. 犯罪者の多様性 3 累犯者 23. 犯罪の個人的要因 性格などは関係するのか 24. 犯罪の社会環境要因 家庭・職場・人間関係など何が関係するのか 25. 犯罪要因の複雑さ 個人的要因と環境要因の相互作用 同じような要因がありながら犯罪をする人とならない人があるのは何故か 26. 犯罪をめぐる諸問題 1 ストーカー犯罪 悲嘆の心理からの分 27. 犯罪をめぐる諸問題 2 ホワイトカラー犯罪 28. 犯罪をめぐる諸問題 3 犯罪のない社会はあり得るか 29. 犯罪再考 事例（ゲーリー・ギルモア）を通して人間にとって犯罪とは何かを考える。 30. まとめ	
(1) 内容		準備学習(予習)	
犯罪は個人と社会の相互作用によるもので、人間の社会行動の一つである。犯罪には個人的要因・社会環境要因・その相互関係が関与し、歴史や発達という時間要因の影響もあって、犯罪を単純な直線的因果関係で解明することは難しい。 犯罪は何故起きるのか、非行少年や犯罪者とはどういう人たちかについて人間の特性から説明する。犯罪統計や事例を通して、犯罪理論や犯罪者類型について講義をする。また、犯罪者の処遇について説明し、犯罪の防止策を考える。 心理学的研究のほかに、精神医学・動物生態学・社会学の関連する研究も紹介する。		特に必要はないが、非行犯罪に関する自分自身の考えや疑問をまとめておくとよい。	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)	
犯罪を通して人間理解を深める機会としたい。犯罪が起きるたびに社会は何故、どうしてと原因を探し、対策を検討するが、人間の歴史において犯罪がなくなったことはない。犯罪者や犯罪現象についての理解を深め、どう対処すべきかを考える枠組みを提供する。		講義の内容について疑問を大切にしてください。	
受講者に対する要望		評価方法	
新聞などの非行犯罪に関する記事で疑問があれば、質問してほしい。講義への質問も歓迎します。		(1) 試験 70% 中間試験 (35%)、最終試験 (35%) (2) レポート 30% 講義の中で課題を与える。	
学びのキーワード		教科書	
・ 非行 ・ 犯罪 ・ 適応 ・ 無力感 ・ 疎外感		授業の中で指示する	
		参考書	

担当教員：堀 恭子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W221158

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

(1) 内容

対人援助については、専門職としてどのようにあるべきかについて教育がなされるが、「なすべきことができなかったときにどうするか」について学ぶ機会は少ない。福祉心理学では福祉を対人援助と読み解いて、講義の前半では主に援助者に起こっていることについて学び、後半では具体的な対人援助場面において、援助者・被援助者・援助場面に起きることについて紹介し、受講者と共に対人援助について考えていきたい。

(2) 学びの意義と目標

対人援助について、援助者・被援助者・援助場面の各々について考えていくことは、対人援助の質向上と対人援助者のメンタルヘルスに寄与する。受講者が、対人援助について考える時、一方的な視点ではなく、双方向的な視点を持って対人援助場面を捉えることができることを目標とする。

受講者に対する要望

話題提供されたことに対して、自分の考えをまとめて記述することが求められます。したがって出席や授業内課題の内容を重視します。

学びのキーワード

- ・心理学的視点
- ・支援を受けることの理解
- ・支援することの理解
- ・相互作用の視点を持った自己理解
- ・相互作用の視点を持った関係理解

授業計画

01. オリエンテーション
02. 参考文献解説 (1)
03. 参考文献解説 (2)
04. 参考文献解説 (3)
05. 参考文献解説 (4)
06. 参考文献解説 (5)
07. 参考文献解説 (6)
08. 参考文献解説 (7)
09. まとめ
10. 福祉における心理学
11. 心理学的視点からみた高齢者福祉 (1)
12. 心理学的視点からみた高齢者福祉 (2)
13. 心理学的視点からみた児童・生徒支援
14. 心理学的視点からみた障害支援 (含医療)
15. まとめ／人はなぜ・どのように援助するか

準備学習(予習)

授業終了時に、次回までの簡単な課題を提示し、課題内容を踏まえて指示されたショートレポートを作成する。

準備学習(復習)

講義内容について、自分の考えをまとめ、小グループで意見を出し合い他者の考えを知り、自分の考えを伝える。ショートレポートを活用して復習と定着をはかり、中間・期末のまとめによって知識と思考の整理を行う。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業内課題 | 30% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末レポート | 40% |

教科書

参考書

参考文献を適宜紹介します

性格心理学

PSYC-W-100

担当教員：山本 渉

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W221564

学部教育の関連目

【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

(1) 内容

人間の行動や意識的経験は同じ状況においてさえ、人によって少なからず異なります。一方、状況が変化しても、その人に特有の、ある程度一貫した行動や意識的経験が認められます。性格とは、このような個人差と個人内の一貫性に関わる概念であり、その人のその人らしさを形作っているものです。本講義では、性格研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論を紹介します。また、自己や他者の性格についての理解を深めるため、実習等の具体的な課題も盛り込みながら授業を進めます。

(2) 学びの意義と目標

性格研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論について学び、心理学において個人差の問題を取り扱うための基礎知識を習得します。その上で、多面的なアプローチをもとに考えたり体験したりすることで、自己や他者の内面をより深く理解できるようになることを目標としています。

受講者に対する要望

実習や課題等の提出物は、講義を聞かないと作成できません。全出席を目指すこと、積極的に参加することを求めます。

学びのキーワード

- ・ 類型論と特性論
- ・ 性格検査法（質問紙法、投映法、作業検査法）
- ・ 学派ごとの性格の捉え方
- ・ 性格の形成
- ・ パーソナリティ障害

授業計画

01. オリエンテーション
02. 性格研究の歴史と理論（類型論と特性論）
03. 性格検査法(1)：質問紙法
04. 性格検査法(2)：投映法、作業検査法
05. 【実習1】投映法を体験してみよう
06. 学派による捉え方の違い(1)：精神分析から
07. 学派による捉え方の違い(2)：クライアント中心療法と認知行動療法から
08. 【実習2】自分の認知・感情・行動について考えてみよう
09. 性格はどのように形成されるのか
10. 社会心理学的知見から
11. 人間関係・家族関係の中で性格を捉える
12. 面接法の技法
13. 【実習3】パーソナリティ障害に対する理解を深めよう
14. 適応と支援（パーソナリティ障害を中心に）
15. まとめ

準備学習(予習)

実習は、その前までの回の授業内容と連動しているので、実習前には内容を再確認すること。

準備学習(復習)

毎回配布するプリントの内容を振り返り、理解を定着させること。実習課題を丁寧に取り組み、提出すること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への取り組み | 40% |
| (2) 実習課題の提出 | 20% |
| (3) 学期末テスト | 40% |

教科書

参考書

臨床心理学

PSYC-W-200

担当教員：長谷川 恵美子

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1W221672

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける。対人支援力：対人支援の実践力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

【W】 認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

(1) 内容

臨床心理学は心理学の一研究分野であるとともに、心理臨床を实践する際の基礎となる心理学でもある。授業では、その歴史、発達理論や人格理論などの基礎理論、心理査定や心理療法などの方法論について、学校、産業、医療、福祉などの視点から、それぞれの領域での事例などを概説し、また時にはディスカッションを通して理解を深める。

(2) 学びの意義と目標

臨床心理学の基礎知識を身につけるとともに、上記で紹介した各領域での応用の仕方を学び、実際の臨床ボランティアの現場にて、統合的な支援とを臨むことができるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

各回の課題に積極的に取り組み、その時点での自らの意見や考え方を持って授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・臨床心理学
- ・統合的支援
- ・心理療法
- ・心理アセスメント

授業計画

01. この授業に関するガイダンス
02. 臨床心理学とは
03. 臨床心理学の歴史 1
04. 臨床心理学の歴史 2
05. 臨床心理学の基礎理論 (精神分析を中心に)
06. 臨床心理学の基礎理論 (イメージの心理学)
07. 臨床心理学の基礎理論 (行動論的立場から)
08. 臨床心理学の基礎理論 (認知的立場から)
09. 臨床心理学の基礎理論 (発達論的立場から)
10. 臨床心理学の基礎理論 (統合的心理療法)
11. 心理アセスメントとは
12. 心理アセスメントの実際 (診断基準)
13. 心理アセスメントの実際 (知的側面の把握)
14. 心理アセスメントの実際 (認知的側面の把握)
15. 心理アセスメントの実際 (人格的側面の把握)
16. 心理アセスメントの解釈 (基礎)
17. 心理アセスメントの解釈 (実践編)
18. 臨床心理学的援助とは
19. 臨床心理士による支援とは
20. 心理臨床の実際 (幼少期の問題)
21. 心理臨床の実際 (思春期を考える)
22. 心理商法の実際 (青年期を考える)
23. 心理臨床の実際 (中高年を考える)
24. 心理臨床の実際 (産業領域のシステム)
25. 心理療法の実際 (家族への支援)
26. 心理臨床の実際 (医療分野と臨床心理学)
27. 心理臨床の実際 (疾患を抱えた人への支援)
28. 心理臨床の実際 (高齢者への支援)
29. 心理臨床の実際 (最近の心理療法)
30. まとめ

準備學習(予習)

配布した資料は熟読し参加することを期待する。

準備學習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) レポート | 40% |

教科書

参考書

<div> <div>カウンセリング論</div> <div>PSYC-W-300</div> </div>	
<div> <div>担当教員：川西 智也</div> <div> <div>学期： 週間授</div> <div>科目： 専門科目</div> <div>必修・選択： 選択科目</div> </div> <div>単位： 4 コード： 1W221780</div> </div>	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける。対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. オリエンテーション 02. カウンセリングとは 03. カウンセリングの基礎技法① 傾聴 04. カウンセリングの基礎技法② 傾聴 （ワーク） 05. カウンセリングの基礎技法③ 応答 06. カウンセリングの基礎技法④ 応答 （ワーク） 07. アセスメント① アセスメントとは 08. アセスメント② 面接・観察 09. アセスメント③ 心理検査 10. アセスメント④ アセスメントの実際 （ワーク） 11. カウンセリングの過程① 初期(1) 12. カウンセリングの過程② 初期(2) 13. カウンセリングの過程③ 中期 14. カウンセリングの過程④ 終結期 15. カウンセリングの基礎理論① 来談者中心療法 16. カウンセリングの基礎理論② 来談者中心療法 （ワーク） 17. カウンセリングの基礎理論③ 認知行動療法 18. カウンセリングの基礎理論④ 認知行動療法 （ワーク） 19. カウンセリングの基礎理論⑤ 家族療法 20. カウンセリングの基礎理論⑥ 家族療法 （ワーク） 21. カウンセリングの実際① 医療 22. カウンセリングの実際② 医療 （ワーク） 23. カウンセリングの実際③ 教育 24. カウンセリングの実際④ 教育 （ワーク） 25. カウンセリングの実際⑤ 福祉 26. カウンセリングの実際⑥ 福祉 （ワーク） 27. カウンセリングの実際⑦ 産業 28. カウンセリングの実際⑧ 産業 （ワーク） 29. 講義のまとめ① 30. 講義のまとめ② </div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 認定心理士認定資格(W学科)：選択科目</div>	
<div>(1) 内容</div> <div> <p>対話による対人援助のひとつであるカウンセリングは、医療、教育、福祉、産業など、それぞれの分野・現場に適した形で活用され、独自の発展を遂げている。授業では多様なカウンセリングに共通する理論や技法、態度を中心に理解することを目的とする。聴講を通じた知的な理解だけではなく、ロール・プレイや事例検討などのワークへの取り組みを通じた体験的理解を促したい。</p> </div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <p>カウンセリングの知識や技法を将来受講者が関わる対人援助の現場で活かせるようになることを目標とする。また、カウンセリングの実践には、自身の心の動きや対人関係のパターンなど、自分についての気づきや発見を積み上げていくことも不可欠である。こうした自己理解を深めることも目標としたい。</p> </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> <p>授業の冒頭では、前回の授業で記入したふりかえりシートについて教員がコメントをするので、前回の授業内容について再度確認しておくこと。</p> </div>
	<div>準備学習(復習)</div> <div> <p>授業で配布された資料に再度目を通して学習内容を整理し、気づきや疑問点を簡単にまとめておくこと</p> </div>
<div>受講者に対する要望</div> <div> <p>本授業では、ロール・プレイや事例検討などのグループワークに取り組み、学生間でディスカッションを行う機会が多い。受講者には授業への積極的な参加を期待する。</p> </div>	<div>評価方法</div> <div> <div> (1) 平常点 (2) 期末レポート </div> <div> 60% 40% </div> <div> 授業内の課題やグループワークへの取り組み、ふりかえりシートを平常点として評価 </div> </div>
<div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・ カウンセリングの基本的姿勢と基礎技法 ・ アセスメント ・ カウンセリングの過程 ・ 体験的理解 ・ 自己理解 </div>	<div>教科書</div> <div> <p>プリントを配布する</p> </div> <div>参考書</div> <div> <p>授業のなかで適宜紹介する</p> </div>

心理学研究法		PSYC-W-300
担当教員： 中原 純		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1W221888
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける。論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション（心理学研究法、心理統計法とは？） 02. “こころ”の捉え方（独立変数と従属変数） 03. 探索型研究と検証型研究 04. データの収集①（観察法） 05. データの収集②（面接法、フィールドワーク） 06. 質的研究における分析方法 07. データの収集③（実験法） 08. 量的研究における分析方法①（実験から得られたデータの分析） 09. データの収集④（調査法） 10. 量的研究における分析方法②（調査から得られたデータの分析） 11. 心理学の学術論文の読み方① 12. 心理学の学術論文の読み方② 13. リサーチクエスションの立て方 14. 研究計画の作成方法 15. 心理学研究法のまとめ 16. 変数の種類と尺度の水準 17. 代表値と散布度 18. 標準化と偏差値 19. 共分散と相関係数 20. 回帰式 21. 推測統計のイントロダクション 22. 母集団と標本 23. 正規分布と標本分布 24. 1つの平均値の検定 25. t検定による平均値の比較①（独立したデータの検定） 26. t検定による平均値の比較②（対応のあるデータの検定） 27. 3つ以上の平均の比較と交互作用 28. 相関係数の検定 29. 単回帰分析と重回帰分析 30. 心理統計法のまとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】認定心理士認定資格(W学科)：基礎科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この講義は大きく2つのパートに分かれています。前半部（1～15回）は心理学研究法について学び、後半部（16～30回）は心理統計法について学びます。ただし、心理学研究法（前半部）と心理統計法（後半部）は独立したものではありません。心理学的に現象（具体的な物事）を捉えることができ、その上で、データとして扱うことによって、より深く心理学の研究を理解・遂行することができるようになります。また、いずれのパートも講義と実習（実験・調査計画を立てる、学術論文を読む、統計ソフトを操作する等）を織り交ぜた授業内容を予定しています。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>心理学は心の科学です。そのため、人間の心理をデータにしてわかりやすく分析することが求められます。この授業では、心理学の研究論文（質的研究・量的研究）を正しく読むことができ、自分自身で研究計画を作成し、データを取得し、パソコンを使って分析できるようになることを目標とします。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業では、エクセルを使って分析を行ったり、UNIPAを利用して課題の受け渡しをします。そのため、図の作成方法等、エクセルの基本的な知識と技術は事前に学習できている方が望ましいです。また、UNIPAの使い方にも慣れておいてください。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>わからないことは教員に気軽に積極的に質問し、可能な限りすぐに解決するようにしてください。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 試験50% (2) 実習課題50% 講義内容に関する課題を設定し、提出を求めることが多くあります。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>この授業の内容を理解するには、ある程度“慣れ”が必要です。最初は理解できなくても、実習課題を進めたり、論文を読んだり、研究計画を考えたりする中で徐々に理解できていきます。そのため、わからないことが多くても、諦めずに最後まで出席するようにしてください。卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している人間福祉学科の学生は、この授業を必ず履修してください。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・心理学研究法 ・質的研究 ・量的研究 ・記述統計 ・推測統計</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

心理学実験実習 A		PSYC-W-100	
担当教員： 長谷川 恵美子、中原 純			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W221996	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 心理学実験に関するオリエンテーション 02. 心理学実験と倫理 03. 心理学実験と統計 04. 視覚の特徴と錯視（ミューラー・リヤー錯視）(1) 05. 視覚の特徴と錯視(ミューラー・リヤー錯視)(2) 06. 触2点閾の測定(1) 07. 触2点閾の測定(2) 08. 重量弁別閾(1) 09. 重量弁別閾(2) 10. 重さの感覚尺度(1) 11. 重さの感覚尺度(2) 12. 大きさの恒常性（1） 13. 大きさの恒常性(2) 14. ワーキングメモリー(1) 15. ワーキングメモリー(2) 16. 系列位置効果(1) 17. 系列位置効果(2) 18. ストループ効果－認知的葛藤－(1) 19. ストループ効果－認知的葛藤－(2) 20. 鏡映描写－学習の転移－(1) 21. 鏡映描写－学習の転移－(2) 22. イメージの測定（SD 法）(1) 23. イメージの測定（SD 法）(2) 24. 社会的態度尺度の構成（リッカート法）(1) 25. 社会的態度尺度の構成（リッカート法）(2) 26. 思考バイアス(1) 27. 思考バイアス（2） 28. ゲーム理論（1） 29. ゲーム理論(2) 30. 認知機能と検査法</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 認定心理士認定資格(W学科)：基礎科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>1. 内容 少人数のグループに分かれ心理学各領域（知覚、学習、記憶、欲求、態度など）の研究実践の基礎を、実習をとおして学ぶことを目的としている。実験実施とともに各実験が終わるごとにレポートの提出が求められる。他のグループメンバーに負担がかからないよう欠席・遅刻・レポート期限などは厳しくチェックされる授業である。 「認定心理士」資格では,「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>基礎的な心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、統計的处理などを学び、得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>この授業は実習形式の授業である。授業時に配布された資料を熟読するとともに、各テーマに対し自分なりの考えもしながら積極的に取り組み、各課題についてレポート形式にまとめ提出すること。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>レポートを書く際に、心理統計の知識が必要となるため、心理学研究法を並行履修することが望ましい。
卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、秋学期の「心理学実験実習B」とあわせて本授業を履修すること。可能なら実験実習A,Bの順に履修することが望ましい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常レポート70%</div><div>(2) 平常点（授業への積極的参加状況）30%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 実験</div><div>・ 調査方法</div><div>・ 心理学研究法</div><div>・ 心理統計</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

心理学実験実習B

PSYC-W-200

担当教員：長谷川 恵美子、堀 恭子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W222004

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士認定資格(W学科)：基礎科目

(1) 内容

心理学研究の基礎を修得する。臨床系の心理調査などの内容も含まれるため、留意しなければならない倫理の問題をはじめ、仮説設定、実験デザインの決定などの作業を取り上げながら、心理学各領域（認知心理、社会心理、臨床心理、生理心理など）の研究実践の基礎を実習をとおして学ぶことを目的としている。
「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。

(2) 学びの意義と目標

少人数のグループに分かれ、心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。またこの授業では、得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。

受講者に対する要望

この科目は、人間福祉学科、心理系、「応用科目」であり、できる限り、心理学実験実習Aを履修後に受講することが望ましい。特に心理系で卒業研究を行う学生は受講することが望ましい。卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、春学期の「心理学実験実習A」とあわせて本授業を履修すること。

学びのキーワード

- ・心理学実験
- ・心理アセスメント
- ・心理療法
- ・心理学研究法
- ・生理心理学

授業計画

01. 心理学実験Bに関するオリエンテーション
02. 心理学研究と研究手続き
03. 実験計画法と報告方法
04. 研究倫理
05. 血圧・体温の変動(1)
06. 血圧・体温の変動(2)
07. ポリグラフ(1)
08. ポリグラフ(2)
09. ストレス尺度と唾液アミラーゼ(1)
10. ストレス尺度と唾液アミラーゼ(2)
11. 反射・反応時間(1)
12. 反射・反応時間(2)
13. 性格検査質問紙法 YG 性格検査(1)
14. 性格検査質問紙法 YG 性格検査(2)
15. 知能検査(WAISⅢ)(1)
16. 知能検査(WAISⅢ)(2)
17. 性格検査作業検査法(内田クレペリン)(1)
18. 性格検査作業検査法(内田クレペリン)(2)
19. 性格検査(SCT)
20. HTP/樹木画(1)
21. HTP/樹木画(2)
22. 箱庭実習(1)
23. 箱庭実習(2)
24. 認知機能検査(HDS-R, MMSE)(1)
25. 認知機能検査(HDS-R, MMSE)(2)
26. こどもの行動観察(1)
27. こどもの行動観察(2)
28. パーソナルスペースの観察(1)
29. パーソナルスペースの観察(2)
30. まとめ

準備学習(予習)

授業時に配布された資料を熟読するとともに、各テーマに対し自分なりの考えもながら積極的に取り組み、各課題についてレポート形式にまとめ提出すること。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常レポート | 70% |
| (2) 平常点（授業への積極的参加） | 30% |

教科書

参考書

介護概論		CGSW-W-100
担当教員：高山 法子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1W230100
学部教育の関連目	授業計画	
【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける		
カリキュラム上の位置付け	01. 介護の概念や対象（1）介護の概念と範囲 02. 介護の概念や対象（2）介護の理念 03. 介護の概念や対象（3）介護の対象 04. 介護過程 05. 介護の技法（1）家事における自立支援 06. 介護の技法（2）身支度・移動・睡眠の介護 07. 介護の技法（3）食事・口腔衛生の介護 08. 介護の技法（4）入浴・清潔・排泄の介護 09. 介護と住環境 10. 認知症ケア（1）認知症ケアの基本的考え方 11. 認知症ケア（2）認知症ケアの実際 12. 介護予防（1）介護予防の必要性 13. 介護予防（2）介護予防プランの実際 14. 終末期ケア（1）終末期ケアの基本的考え方 15. 終末期ケア（2）終末期ケアの実際	
(1) 内容		
・介護の概念や対象 ・介護過程 ・介護の技法（住環境の整備を含む。） ・認知症ケア ・介護予防 ・終末期ケア	準備学習（予習） 次回の授業について口述しますから、いわれた箇所を必ず読んでおくこと。 また、配布したプリントの空白を教科書をみて埋めること。	
(2) 学びの意義と目標		
・介護の概念や対象及びその理念等について理解する。 ・介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。 ・終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。	準備学習（復習） A4のノートを準備し、1回受講ごとに、学んだ内容と感想をまとめ、授業終了5分前に その箇所を広げておく。	
受講者に対する要望		
授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。 絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。	評価方法 (1) 試験 70% (2) 介護過程記録 15% (3) 宿題 10% (4) 出席 5%	
学びのキーワード		
・自立支援 ・介護の専門性 ・介護の理念 ・エンパワメント ・個人の尊厳	教科書 <small>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（13）高齢者に対する支援と介護保険制度』（中央法規出版）</small>	
	参考書	

担当教員：高山 法子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W230215

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

(1) 内容

寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

1. 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。
2. 利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。
3. 利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考えを深める。

受講者に対する要望

授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・ジュハリの窓
- ・ボディメカニクス
- ・生活不活発病
- ・自立性・安全性・安楽性
- ・自分らしさ

授業計画

01. オリエンテーション
02. コミュニケーションの基本
03. 身支度の介護
04. 身支度の介護演習
05. 移動の介護
06. 移動の介護演習
07. 睡眠の介護
08. 食事の介護
09. 食事の介護演習
10. 入浴・身体の清潔
11. 足浴の演習
12. 排泄の介護
13. 排泄の介護演習
14. 予想される事故とその対応
15. 住環境の整備

準備学習(予習)

次回行う講義内容や演習内容のプリントを読んでおく。
演習に関してはシュミュレーションしておく。

準備学習(復習)

演習を行ってみて、介護者として大切な視点と、利用者の立場から考えたことをA41枚に記録し、翌週提出。

評価方法

- | | |
|----------|----------|
| (1) 試験 | 60% |
| (2) レポート | 20% 宿題含む |
| (3) 出席 | 20% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（13）高齢者に対する支援と介護保険制度』（中央法規出版）

参考書

介護技術（115生以前用）		CCSW-W-100
担当教員： 高山 法子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W230224
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. コミュニケーションの基本 03. 身支度の介護 04. 身支度の介護演習 05. 移動の介護 06. 移動の介護演習 07. 睡眠の介護 08. 食事の介護 09. 食事の介護演習 10. 入浴・身体の清潔 11. 足浴の演習 12. 排泄の介護 13. 排泄の介護演習 14. 予想される事故とその対応 15. 住環境の整備</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>次回行う講義内容や演習内容のプリントを読んでおく。
演習に関してはシュミュレーションしておく。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。 2. 利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。 3. 利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考えを深める。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。
絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>演習を行ってみて、介護者として大切な視点と、利用者の立場から考えたことをA41枚に記録し、翌週提出。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ ジュハリの窓 ・ ボディメカニクス ・ 生活不活発病 ・ 自立性・安全性・安楽性 ・ 自分らしさ</div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験60%</div><div>(2) レポート20% 宿題含む</div><div>(3) 出席20%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（13）高齢者に対する支援と介護保険制度』（中央法規出版）</div> <div>参考書</div>	

相談援助の基盤と専門職

CCSW-W-100

担当教員： 助川 征雄

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1W230332

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目
【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解
- ・相談援助の概念と範囲
- ・相談援助の理念
- ・相談援助に係る専門職の概念と範囲
- ・専門職倫理と倫理的ジレンマ
- ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容
- ・総合的かつ包括的な援助を支える理論

(2) 学びの意義と目標

- ・ 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。
- ・ 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。
- ・ 相談援助の概念と範囲について理解する。
- ・ 相談援助の理念について理解する。
- ・ 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
- ・ 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。
- ・ 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

受講者に対する要望

最初の授業の時に、テキストをもとに全体の授業日程を提示しそれに沿って授業を進めていく。テキストは最初の授業時に購入しておくこと。

学びのキーワード

- ・ ソーシャルワーク
- ・ 生活支援
- ・ 権利擁護
- ・ 自立支援
- ・ 社会的包摂

授業計画

01. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (1) 社会福祉士及び介護福祉士法
02. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (2) 社会福祉士の専門性
03. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (3) 精神保健福祉士法
04. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (4) 精神保健福祉士の専門性
05. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (5) 「総合的かつ包括的な相談援助」が求められる背景と制度的動向
06. 相談援助の概念と範囲 (1) ソーシャルワークに係る国際定義
07. 相談援助の概念と範囲 (2) ソーシャルワークの形成過程① 源流・基礎確立期
08. 相談援助の概念と範囲 (3) ソーシャルワークの形成過程② 発展期・批判期
09. 相談援助の概念と範囲 (4) ソーシャルワークの形成過程③ 再編期
10. 相談援助の概念と範囲 (5) ソーシャルワークの形成過程④ 統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク
11. 相談援助の理念 (1) ソーシャルワーク実践と価値
12. 相談援助の理念 (2) 自立支援
13. 相談援助の理念 (3) 利用者の尊厳と自己決定
14. 相談援助の理念 (4) ノーマライゼーション
15. 相談援助の理念 (5) 社会的包摂
16. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (1) 相談援助専門職の概念と範囲
17. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (2) 福祉行政等における専門職
18. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (3) 民間の施設・組織における専門職
19. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (4) 諸外国の動向
20. 相談援助における権利擁護の意義
21. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (1) 専門職倫理の概念
22. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (2) 倫理綱領
23. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (3) 倫理的ジレンマ
24. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (4) 倫理的ジレンマに関する事例検討
25. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 (1) ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な援助の意義と内容
26. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 (2) ジェネラリストの視点に基づく多職種連携(チームアプローチ)の意義と内容
27. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (1) ニーズ把握
28. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (2) エンパワメントと社会資源の主体的活用
29. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (3) 媒介と「影響作用」
30. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (4) エコシステムとコミュニティ

準備學習(予習)

最初の授業時に授業日程表を配布する。それに沿って各時限の授業を進行するので、それにあわせて指定したテキストの該当するところを熟読して授業に臨むこと。

準備學習(復習)

その日に疑問に思ったことは参考書を調べるなどしてクリアしておくこと。このような復習をを習慣にすることが望ましい。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 期末試験の成績 | 70% |
| (2) 学習意欲に関する評価 | 30% |

期末試験の成績（70％）と授業態度（学習意欲に関する評価）（30％）をあわせて100点満点として全体を評価する。

教科書

福祉臨床シリーズ編集委員会、柳澤 孝主、坂野 素司『相談援助の基礎と専門職（社会福祉士シリーズ6）』（弘文堂）

参考書

社会福祉援助技術論 A		CGSW-W-200								
担当教員： 田村 綾子										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1W230440								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 相談援助活動の意義</div> <div>02. 相談援助の理論と発展 (1) 人と環境の相互作用</div> <div>03. 相談援助の理論と発展 (2) 相談援助技術体系の発展</div> <div>04. 相談援助の理論と発展 (3) システム思考に基づくジェネリックな援助理論</div> <div>05. 相談援助の対象 (1) 社会福祉の対象の概念</div> <div>06. 相談援助の対象 (2) 相談援助の対象の概念と範囲</div> <div>07. 相談援助の対象 (3) 個人・家族、グループ、地域との相談援助の視点</div> <div>08. 相談援助の構造と機能 (1) 相談援助の構造</div> <div>09. 相談援助の構造と機能 (2) 相談援助の機能</div> <div>10. 相談援助の過程 (1) 相談援助過程の概観</div> <div>11. 相談援助の過程 (2) インテーク</div> <div>12. 相談援助の過程 (3) アセスメント①相談援助におけるアセスメントの特徴</div> <div>13. 相談援助の過程 (4) アセスメント②情報収集の方法</div> <div>14. 相談援助の過程 (5) アセスメント③情報の分析・生活課題の確定</div> <div>15. 相談援助の過程 (6) 支援の計画</div> <div>16. 相談援助の過程 (7) 支援の実施</div> <div>17. 相談援助の過程 (8) モニタリングと評価</div> <div>18. 相談援助の過程 (9) 支援の終結とアフターケア</div> <div>19. ケースマネジメントとケアマネジメント (1) ケースマネジメントとケアマネジメントの概念</div> <div>20. ケースマネジメントとケアマネジメント (2) ケアマネジメントの目的と意義</div> <div>21. ケースマネジメントとケアマネジメント (3) ケアマネジメントの方法と留意点</div> <div>22. 相談援助のためのアウトリーチ (1) アウトリーチの意義と目的</div> <div>23. 相談援助のためのアウトリーチ (2) アウトリーチの方法と留意点</div> <div>24. 相談援助におけるネットワークング (1) ネットワークングの意義と目的</div> <div>25. 相談援助におけるネットワークング (2) ネットワークングの方法と留意点</div> <div>26. 相談援助におけるネットワークング (3) ネットワークングのためのシステムづくり</div> <div>27. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (1) 社会資源の活用・調整・開発の意義と目的</div> <div>28. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (2) 社会資源の活用・調整開発の方法と留意点</div> <div>29. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (3) ソーシャルアクションによるシステムづくり</div> <div>30. 相談援助における情報通信技術(IT)の活用 IT活用の意義と留意点及び支援の概要</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>・ 相談援助活動の意義</div> <div>・ 相談援助の理論と発展</div> <div>・ 相談援助の対象</div> <div>・ 相談援助の構造と機能</div> <div>・ 相談援助の過程</div> <div>・ ケースマネジメントとケアマネジメント</div> <div>・ 相談援助のためのアウトリーチ</div> <div>・ 相談援助におけるネットワークング</div> <div>・ 相談援助における社会資源の活用・調整・開発</div> <div>・ 相談援助における情報通信技術(IT)の活用</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>・ 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。</div> <div>・ 相談援助の対象について理解する。</div> <div>・ 相談援助の過程とそれに係るジェネリック・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>教科書・ノートを持参すること。授業中は静かに受講し、教員からの問いかけに対して真面目に考察すること。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div> 次回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。</div>								
		<div>準備学習(復習)</div> <div> 講義で配布されたプリントを読み返しておくとともに、講義内容を150字程度で要約しておくこと。</div>								
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 期末試験</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 毎回の授業のリアクションペーパー</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 提出物</td><td>10%</td></tr><tr><td>(4) 受講態度</td><td>10%</td></tr></table>	(1) 期末試験	50%	(2) 毎回の授業のリアクションペーパー	30%	(3) 提出物	10%	(4) 受講態度	10%
(1) 期末試験	50%									
(2) 毎回の授業のリアクションペーパー	30%									
(3) 提出物	10%									
(4) 受講態度	10%									
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 相談</div> <div>・ 援助関係</div> <div>・ 生活</div> <div>・ 社会</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>								

社会福祉援助技術論 B

CGSW-W-300

担当教員：鷹野 吉章

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1W230548

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉選択科目
【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・相談援助における援助関係
- ・相談援助のための基本技法
- ・相談援助の実践モデルとアプローチ
- ・集団を活用した相談援助
- ・スーパービジョンとコンサルテーション
- ・相談援助における記録
- ・事例分析

(2) 学びの意義と目標

- ・ 相談援助に係るクリニカル・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。
- ・ 相談援助にかかわる様々な実践モデルについて理解する。
- ・ 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。
- ・ 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する。

受講者に対する要望

ソーシャルワーク実践にとって不可欠な科目ですので社会福祉士を目指す者は是非受講してください。

学びのキーワード

- ・ クリニカル・ソーシャルワーク
- ・ ソーシャルワーク理論モデル
- ・ グループワーク
- ・ スーパービジョン
- ・ 事例分析

授業計画

01. 相談援助における援助関係 (1) 援助関係の意義と概念
02. 相談援助における援助関係 (2) 援助関係の形成方法
03. 相談援助のための基本技法 (1) コミュニケーション技法
04. 相談援助のための基本技法 (2) 面接技法① 相談援助における面接の目的
05. 相談援助のための基本技法 (3) 面接技法② 相談援助における面接の展開
06. 相談援助のための基本技法 (4) 面接技法③ 相談援助における面接の形態
07. 相談援助のための基本技法 (5) 契約の意義と目的
08. 相談援助のための基本技法 (6) 契約の方法と留意点
09. 相談援助のための基本技法 (7) 観察技法
10. 相談援助の実践モデルとアプローチ (1) 相談援助の焦点化と視点
11. 相談援助の実践モデルとアプローチ (2) ソーシャルワーク実践のモデル①
12. 相談援助の実践モデルとアプローチ (3) ソーシャルワーク実践のモデル②
13. 相談援助の実践モデルとアプローチ (4) ソーシャルワーク実践のモデル③
14. 相談援助の実践モデルとアプローチ (5) ソーシャルワーク実践のモデル④
15. 相談援助の実践モデルとアプローチ (6) ソーシャルワーク実践のモデル⑤
16. 集団を活用した相談援助 (1) 集団を活用した相談援助の意義と特徴
17. 集団を活用した相談援助 (2) グループワークの原則
18. 集団を活用した相談援助 (3) グループワークの実践
19. スーパービジョンとコンサルテーション (1) スーパービジョンの意義と目的
20. スーパービジョンとコンサルテーション (2) スーパービジョンの内容・形態・機能
21. スーパービジョンとコンサルテーション (3) コンサルテーションの意義と目的
22. 相談援助における記録 (1) 記録の意義と目的
23. 相談援助における記録 (2) 記録の種類と方法
24. 相談援助における記録 (3) 個人情報保護の意義と留意点
25. 事例分析 (1) 事例分析の意義と方法
26. 事例分析 (2) 相談援助活動の実際 ①社会的排除
27. 事例分析 (3) 相談援助活動の実際 ②児童虐待
28. 事例分析 (4) 相談援助活動の実際 ③高齢者虐待
29. 事例分析 (5) 相談援助活動の実際 ④ホームレス
30. 事例分析 (6) 相談援助活動の実際 ⑤家庭内暴力 (D.V)

準備學習(予習)

授業計画に示されている次回のタイトルについて、授業で指示する参考書の当該箇所を事前に読み用語などを調べておくこと。

準備學習(復習)

授業での講義内容と配布プリントを踏まえて、自分なりに重要と思われる要点を整理すること。また練習問題についてはできなかった問題は解説を読み理解するようにすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

教科書

教科書は使用せず毎回配布する資料により講義する。

参考書

<div>児童福祉論 A</div> <div>CGSW-W-200</div>					
担当教員： 中谷 茂一 学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 コード： 1W230656					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. 児童・家庭を取り巻く社会環境 （１）現代社会と子どもの成長・発達 02. 児童・家庭を取り巻く社会環境 （２）児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢 03. 児童・家庭を取り巻く社会環境 （３）児童・家庭の福祉ニーズの実際 04. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （１）児童家庭福祉の理念および概念 05. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （２）児童育成責任 06. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （３）児童の権利保障 07. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （４）児童家庭福祉制度の発展過程 08. 児童・家庭にかかわる法制度 （１）児童・家庭福祉の法体系 09. 児童・家庭にかかわる法制度 （２）児童福祉法の概要 10. 児童・家庭にかかわる法制度 （３）児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）の概要 11. 児童・家庭にかかわる法制度 （４）ＤＶ防止法及び売春防止法の概要 12. 児童・家庭にかかわる法制度 （５）母子及び寡婦福祉法、母子保健法の概要 13. 児童・家庭にかかわる法制度 （６）次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要 14. 児童・家庭にかかわる法制度 （７）児童手当法の概要 15. 児童・家庭にかかわる法制度 （８）児童扶養手当法、特別児童扶養手当制度の概要 </div>				
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div> 【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目 【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目 【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 </div>					
<div>(1) 内容</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 児童・家庭を取り巻く社会環境 児童・家庭福祉の理念とあゆみ 児童・家庭にかかわる法制度 </div>					
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む。）について理解する。 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。 児童の権利について理解する。 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉にかかわる他の法制度について理解する。 </div>					
<div>受講者に対する要望</div> <div> 【注意事項】
「児童福祉論B」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。
 </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> 次回該当箇所のテキストに目を通す </div>				
	<div>準備学習(復習)</div> <div> 当日配付資料の復習 </div>				
	<div>評価方法</div> <div> <table> <tr> <td>(1) 小レポート</td><td>30%</td></tr> <tr> <td>(2) テスト</td><td>70%</td></tr> </table> </div>	(1) 小レポート	30%	(2) テスト	70%
(1) 小レポート	30%				
(2) テスト	70%				
<div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 子ども 家族 虐待 福祉 子育て支援 </div>	<div>教科書</div> <div> 山縣文治 編 『よくわかる子ども家庭福祉』（ミネルヴァ書房） </div> <div>参考書</div>				

児童福祉論 B

CGSW-W-200

担当教員： 中谷 茂一

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W230764

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目
 【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目
 【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス
・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際
・児童・家庭への相談活動の実際

(2) 学びの意義と目標

- ・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービスの現状と課題について理解する。
- ・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際について理解する。
- ・児童・家族への相談援助活動の実際について理解する。

受講者に対する要望

【注意事項】「児童福祉論 A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・家族
- ・虐待
- ・福祉
- ・子育て支援

授業計画

01. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (1) 母子保健
02. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (2) 障害・難病のある児童と家族への支援
03. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (3) 児童の社会的養護サービス
04. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (4) 児童虐待対策
05. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (5) 保育
06. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (6) ひとり親家庭の福祉
07. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (7) 子育て支援
08. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (8) 児童健全育成
09. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (9) 非行・情緒障害児への支援
10. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (10) 女性福祉
11. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (1) 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
12. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (2) 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際
13. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (3) 児童・家庭福祉制度における公私の役割関係
14. 児童・家庭への相談活動の実際 (1) 児童相談所による支援
15. 児童・家庭への相談活動の実際 (2) 多職種連携・ネットワークイング

準備學習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備學習(復習)

当日配付資料の復習

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 小レポート | 30% |
| (2) テスト | 70% |

教科書

山縣文治 編 『よくわかる子ども家庭福祉』 (ミネルヴァ書房)

参考書

高齢者福祉論 A

CGSW-W-200

担当教員：長谷部 雅美

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W230880

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目
 【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目
 【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・ 発達と老化の理解
- ・ 高齢者の生活実態
- ・ 認知症の理解
- ・ 高齢者の福祉ニーズ
- ・ 少子高齢社会と高齢者

(2) 学びの意義と目標

- ・発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。
- ・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。
- ・認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。
- ・高齢者の福祉ニーズについて理解する。
- ・高齢者の将来推計、高齢化の速度、人口構成、平均寿命や健康寿命などを把握したうえで、少子高齢社会の課題について理解する。

受講者に対する要望

本講義では、高齢者への理解を深めることが主要な目的となります。高齢者にまつわる具体的な事例や統計データ等を用いて、より実践的な学びにつながるようにしたいと思います。
国家試験受験資格に必要な科目ですので、知識の習得はもちろん重要なのですが、その知識を自分の身近な状況に引き付けて考えることでより深い学びになると思います。是非、社会や地域との接点を意識しながら、講義に参加してください。

学びのキーワード

- ・発達と老化
- ・生活実態
- ・認知症
- ・ニース
- ・少子高齢社会

授業計画

01. 発達と老化の理解 (1) 人間の成長と発達の基礎的理解
02. 発達と老化の理解 (2) 老年期の発達と成熟
03. 発達と老化の理解 (3) 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活
04. 発達と老化の理解 (4) 高齢者と健康
05. 高齢者の生活実態 (1) 高齢者を取り巻く社会環境
06. 高齢者の生活実態 (2) 高齢者の世帯状況・経済状況
07. 高齢者の生活実態 (3) 高齢者の総合的理解
08. 認知症の理解 (1) 認知症を取り巻く状況
09. 認知症の理解 (2) 認知症の基礎的理解
10. 認知症の理解 (3) 認知症に伴う心身の変化と日常生活
11. 高齢者の福祉ニーズ (1) 要介護高齢者の介護・福祉ニーズ
12. 高齢者の福祉ニーズ (2) 認知症高齢者の介護・福祉ニーズ
13. 高齢者の福祉ニーズ (3) 高齢者虐待の実態及び福祉ニーズ
14. 高齢者の福祉ニーズ (4) 高齢者の社会参加にかかわる福祉ニーズ
15. 少子高齢社会と高齢者

準備學習(予習)

次回の講義内容について、教科書の該当箇所を読んだり、関連する新聞記事等に目を通してください。

準備學習(復習)

講義で配布した資料を読み返したり，関連する書籍を読んだりして，理解を深めてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 課題 | 20% |

高齢者をとりまく様々な実態について、正しい理解が進んでいるかを期末試験で評価します。また、講義への出席状況や参加状況も考慮して総合的に評価します。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座〈13〉 高齢者に対する支援と介護保険制度 第4版』 (中央法規出版)

参考書

高齢者福祉論B		CGSW-W-200
担当教員： 長谷部 雅美、古谷野 亘		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W230988
学部教育の関連目		授業計画
【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目 【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目 【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目		01. 高齢者保健福祉の発展と制度体系（1）高齢者保健福祉の発展（担当：古谷野） 02. 高齢者保健福祉の発展と制度体系（2）高齢者保健福祉の制度体系（担当：古谷野） 03. 介護保険法の概要（1）介護保険制度の目的・保険財政（担当：古谷野） 04. 介護保険法の概要（2）保険者と被保険者、保険料・要介護認定の仕組みとプロセス（担当：古谷野） 05. 介護保険法の概要（3）介護保険サービスの体系（担当：古谷野） 06. 介護保険法の概要（4）介護概要（担当：古谷野） 07. 介護保険法の概要（5）介護保険制度の最近の動向（担当：古谷野） 08. 高齢者支援の関係法規（1）老人福祉法（担当：長谷部） 09. 高齢者支援の関係法規（2）高齢者の医療の確保に関する法律（担当：長谷部） 10. 高齢者支援の関係法規（3）高齢者虐待防止法（担当：長谷部） 11. 高齢者支援の関係法規（4）その他関係法規（担当：長谷部） 12. 高齢者を支援する組織と役割（担当：長谷部） 13. 専門職の役割と実際（担当：長谷部） 14. 高齢者支援の方法と実際（担当：長谷部） 15. 高齢者への生活支援の今後の問題（担当：長谷部）
(1) 内容		
・ 高齢者保健福祉の発展と制度体系 ・ 介護保険法の概要 ・ 高齢者支援の関係法規 ・ 高齢者を支援する組織と役割 ・ 専門職の役割と実際 ・ 高齢者支援の方法と実際		
(2) 学びの意義と目標		
・ 高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。 ・ 相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実際について理解する。		
準備学習(予習)		次回の講義内容について、教科書の該当箇所を読んだり、関連する新聞記事等に目を通してください。
準備学習(復習)		講義で配布したレジュメを読み返したり、関連する書籍を読んだりして、理解を深めてください。
評価方法		(1) 期末試験 80% (2) 課題 20%
受講者に対する要望		高齢者を支援する法制度や仕組みについて、正しい理解が進んでいるかを期末試験で評価します。また、講義への出席状況や参加状況も考慮して総合的に評価します。
学びのキーワード		教科書 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（13） 高齢者に対する支援と介護保険制度 第4版』（中央法規出版）
・ 制度体系 ・ 介護保険法 ・ 関係法規 ・ 関係組織 ・ 専門職の役割		参考書

障害者福祉論 A

CCSW-W-300

担当教員： 木下 大生

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1W231004

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目
【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目
【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目
【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・ 障害の基礎的理解
- ・ 障害者福祉の基本理念
- ・ 生活機能障害の理解
- ・ 障害者の生活理解
- ・ 障害者の実態

(2) 学びの意義と目標

- ・ 障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。
- ・ 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。
- ・ 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。

受講者に対する要望

- ・ 私語を禁止します。

学びのキーワード

- ・ 障害
- ・ 人権
- ・ ノーマライゼーション
- ・ 脱施設化

授業計画

01. 障害の基礎的理解 (1) 国際的な障害の概念 ①ICIDHからICFへ
02. 障害の基礎的理解 (2) 国際的な障害の概念 ②ICFによる障害の捉え方
03. 障害者福祉の基本理念 (1) 国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想
04. 障害者福祉の基本理念 (2) ノーマライゼーションとリハビリテーション
05. 障害者福祉の基本理念 (3) 自立と自立生活
06. 生活機能障害の理解 (1) 身体障害の種類と原因、特性
07. 生活機能障害の理解 (2) 知的障害の原因と特性
08. 生活機能障害の理解 (3) 精神障害の種類と原因、特性
09. 生活機能障害の理解 (4) 発達障害の種類と原因、特性
10. 生活機能障害の理解 (5) 障害疑似体験
11. 生活機能障害の理解 (6) 障害が及ぼす心理的影響と障害の受容
12. 障害者の生活理解 (1) 障害者を取り巻く社会情勢
13. 障害者の生活理解 (2) 事例からみる障害者の生活実態
14. 障害者の生活理解 (3) 事例からみる地域生活の実態と福祉ニーズ
15. 障害者の実態

準備学習(予習)

- 1) シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
- 2) 授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

準備学習(復習)

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』 (中央法規出版)

参考書

障害者福祉論B

CSCW-W-300

担当教員：木下 大生

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W231112

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】高等学校教諭一種免許：福祉必修科目
【W】社会福祉主事任用資格：選択科目
【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目
【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・障害者福祉制度の発展過程
- ・障害者にかかわる法体系
- ・障害者自立支援法
- ・組織及び団体の役割と実際
- ・障害者に関連する法律

(2) 学びの意義と目標

- ・障害者福祉制度の発展過程について理解する。
 - ・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度及び障害者の支援の実際についてについて理解する。
- 【注意事項】
「障害者福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

受講者に対する要望

私語を禁止します。

学びのキーワード

- ・障害
- ・人権
- ・ノーマライゼーション
- ・脱施設化

授業計画

01. 障害者福祉制度の発展過程
02. 障害者にかかわる法体系（1）障害者基本法の概要
03. 障害者にかかわる法体系（2）身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法の概要
04. 障害者総合支援法（1）障害者総合支援法の目的
05. 障害者総合支援法（2）支給決定の仕組みとプロセス
06. 障害者総合支援法（3）自立支援給付・地域生活支援事業等の体
07. 障害者総合支援法（4）障害福祉計画、苦情解決・審査請求
08. 障害者総合支援法（5）障害者自立支援制度の動向
09. 組織及び団体の役割と実際
10. 支援サービス提供の実際（1）サービス提供の実際と専門職の役
11. 支援サービス提供の実際（2）障害者福祉分野の多職種連携、ネットワーキングの実際
12. 支援サービス提供の実際（3）相談支援事業所の役割と活動の実
13. 障害者に関連する法律（1）発達障害者支援法他
14. 障害者に関連する法律（2）高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）等
15. 共生社会をめざして

準備学習（予習）

1) シラバスを見て、今回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
2) 授業内でとったノート整理を必ず次の授業までに行ってください。

準備学習（復習）

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』（中央法規出版）

参考書

地域福祉論

SWEL-W-361

担当教員： 牛津 信忠

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1W231328

学部教育の関連目

【W】 人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉選択科目
【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目
【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目
【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

・ 現代社会における地域福祉の実際

・ 地域福祉の基本的考え方

・ 地域福祉の主体と対象

・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民

・ 地域福祉の推進方法

・ 地域福祉計画と地域福祉活動計画

(2) 学びの意義と目標

・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。

・ 地域福祉の主体と対象について理解する。

・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

・ 地域福祉の推進方法（福祉ニーズの把握方法、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について理解する。

・ 地域福祉計画と地域福祉活動計画について理解する。（講義の順番は理解度に応じて変更されることがある）

受講者に対する要望

生活の場としての地域社会を自らの体験を通じて具体的に見つめ、そこで課題とされ、或いはされてきた問題状況を念頭に学んでいってほしい。単なる知識の増大を図るのみではなく実践課題をつかみ、その解決への一市民としての自覚敵取り組みを忘却することなく、学びを進めること。

学びのキーワード

・ ノーマライゼーション

・ 主体的共同

・ ネットワーキング

・ 地域福祉ニーズ

・ トータルケアシステム

授業計画

01. 現代社会における地域福祉の実際 （1）社会の変化と地域福祉の課題

02. 現代社会における地域福祉の実際 （2）地域における多様な福祉課題への対応

03. 地域福祉の基本的考え方 （1）地域福祉理論の発展と広がり

04. 地域福祉の基本的考え方 （2）地域福祉の理念と概念

05. 地域福祉の主体と対象 （1）地域福祉の主体

06. 地域福祉の主体と対象 （2）地域福祉の対象

07. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 （1）行政組織と民間組織の役割

08. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 （2）専門職や地域住民の役割

09. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 （3）ボランティア活動の考え方と推進方策

10. 地域福祉の推進方法 （1）地域福祉の方法論

11. 地域福祉の推進方法 （2）地域における福祉ニーズの把握方法① 地域福祉におけるアウトリーチの意義

12. 地域福祉の推進方法 （3）地域における福祉ニーズの把握方法② 質的な福祉ニーズの把握方法と実際

13. 地域福祉の推進方法 （4）地域における福祉ニーズの把握方法③ 量的な福祉ニーズの把握方法と実際

14. 地域福祉の推進方法 （5）ネットワーキング①ネットワーキングの意義と方法

15. 地域福祉の推進方法 （6）ネットワーキング②ネットワーキングの実際

16. 地域福祉の推進方法 （7）社会資源の活用・調整・開発① 社会資源の概要

17. 地域福祉の推進方法 （8）社会資源の活用・調整・開発② 社会資源の活用とコーディネート

18. 地域福祉の推進方法 （9）社会資源の活用・調整・開発③ 福祉サービスの開発

19. 地域福祉の推進方法 （10）社会資源の活用・調整・開発④ まちづくりとソーシャルアクション

20. 地域福祉の推進方法 （11）地域トータルケアシステムの構築方法と実際①地域トータルケアシステムの必要性と考え方

21. 地域福祉の推進方法 （12）地域トータルケアシステムの構築方法と実際②地域トータルケアシステムの展開方法

22. 地域福祉の推進方法 （13）地域トータルケアシステムの構築方法と実際③地域トータルケアシステムの事例

23. 地域福祉の推進方法 （14）地域における福祉サービスの評価方法と実際①福祉サービスの評価の意義とそのシステム

24. 地域福祉の推進方法 （15）地域における福祉サービスの評価方法と実際②福祉サービスの評価の方法と実際

25. 地域福祉の推進方法 （16）地域における福祉サービスの評価方法と実際③福祉サービスのプログラム評価の展開

26. 地域福祉の推進方法 （17）地域福祉の財源

27. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 （1）地域福祉計画の法制化と策定の意義

28. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 （2）市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の策定

29. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 （3）地域福祉活動計画と地区福祉計画の意義と内容

30. これからの地域福祉のあり方

準備学習(予習)

各項目ごとの関連文献やマスコミ記事等に触れ、認識を深めておくこと。毎回配布するレジュメの未終了箇所を熟読し問題意識を持って次の授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業時に配布のレジュメを用いて、毎回授業を振り返り、知識の確実化、関連事項を課題視して思考を深めていくこと。3回に一度行う終了箇所に関する小テストの準備として復習をしっかり行っていくこと。

評価方法

(1) 平常点	20%	
(2) 授業内小テスト	20%	授業の区切りにあたるときに20分程で行う復習テスト。
(3) 授業受講態度	10%	座席表による出席把握により、個人の態度を把握できる。
(4) 授業中の質問	10%	授業中に手を挙げて質問することも歓迎する。
(5) 期末テスト成績	40%	授業全体を対象とし、知識のみならず、思考の力を重視する。

授業において配布されたプリントを読み前もって授業の予習をしておくこと。授業終了後、ノート、プリントを参照し、復習を行うことを求める。こうした予習復習が、最後に行われる学期末筆記試験、その他小テストの高い評価につながる。、

教科書

参考書

スライドショー（パワーポイントによる）を主とするが、関連のプリントをも配布する。

担当教員： 山本 博之

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1W231429

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

慢性疾患の時代に入り、「医療と福祉の連携」という言葉がたびたび使われるようになった。しかしながら、人々の傷病や健康にかかわる問題は社会福祉と密接な関係があったといえる。授業では、医療福祉の歴史、医療福祉専門職が習得すべき知識、価値、技術について学ぶとともに、事例を通じて医療福祉実践の現状を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

医療ソーシャルワークを行うために必要な基本的内容を学ぶことを目的とする。

受講者に対する要望

毎回の授業へは高い緊張感をもって出席すること。授業と関係のない作業をしている学生に対しては厳格に対処する。

学びのキーワード

- ・医療ソーシャルワーク
- ・保健医療

授業計画

01. ソーシャルワーク概論
02. 医療福祉を取り巻く背景
03. 医療ソーシャルワークの歴史
04. 日本の医療制度
05. 日本の医療福祉にかかわる制度Ⅰ：医療保険制度の概要
06. 日本の医療福祉にかかわる制度Ⅱ：診療報酬の仕組み
07. 医療ソーシャルワーカーの役割機能Ⅰ：業務指針
08. 急性期医療における医療ソーシャルワーカーの機能
09. 事例を通じた急性期医療における医療ソーシャルワーカーの機能
10. ターミナル期における医療ソーシャルワーカーの機能
11. 事例を通じたターミナル期における医療ソーシャルワーカーの機能
12. グループプレゼンテーション
13. 医療福祉の将来的展望
14. 授業の振り返り
15. 試験

準備学習(予習)

授業計画にて講義内容を確認し、該当部分の下調べをしてから授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業後は十分な復習を行い、知識の定着をはかること。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業への積極的参加態度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

参考書

精神保健福祉に関する制度とサービス

CPSW-W-300

担当教員： 相川 章子

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1W231530

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ① 精神保健福祉法の意義と内容
- ② 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス
- ③ 精神障害者に関連する社会保障制度の概要
- ④ 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働
- ⑤ 更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係
- ⑥ 更生保護制度における関係機関や団体との連携
- ⑦ 医療観察法の概要
- ⑧ 医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割
- ⑨ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用

(2) 学びの意義と目標

- ① 精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。
- ② 精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。
- ③ 精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。
- ④ 更生保護制度と医療観察法について理解する。
- ⑤ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。

受講者に対する要望

精神保健福祉士国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。法制度等に関する知識の修得のみならず、その背景や成立プロセス等から精神保健福祉士としての価値観を身につけることを目指している。主体的に「考える」機会として積極的に授業に参加することを望みます。

学びのキーワード

- ・法制度成立の背景の理解
- ・精神障害者の福祉サービス
- ・精神保健福祉士としての価値

授業計画

01. オリエンテーション
02. 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス 1) 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法
03. 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス 2) 制度とサービスの相互作用の理解
04. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 1) 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯
05. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 2) 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯
06. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 3) 精神保健福祉法成立の意義とその後の変化
07. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 4) 障害者自立支援法成立による変化
08. 精神保健福祉法の概要 1) 精神保健福祉法の構成①
09. 精神保健福祉法の概要 1) 精神保健福祉法の構成②
10. 精神保健福祉法の概要 2) 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割
11. 精神保健福祉法の概要 3) 最近の動向
12. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 1) 障害者基本法と精神障害者施策とのつながり
13. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 2) 障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際①
14. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 2) 障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際②
15. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 3) 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業
16. 精神障害者に関連する社会保障制度の概要 1) 精神障害者と社会保障制
17. 精神障害者に関連する社会保障制度の概要 2) 医療保険制度/3) 介護保険制度/4) 経済的支援に関する制度
18. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 1) 相談援助にかかわる行政組織と民間組織
19. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 2) 福祉サービス提供施設・機関の役割
20. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 3) インフォーマルな社会資源の役割
21. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 4) 専門職や地域住民の役割と実際
22. 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 1) 刑事司法と更生保護
23. 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 2) 保護観察所と更生保護の担い手
24. 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 3) 司法・医療・福祉の連携の必要性と実際
25. 医療観察法の概要と実際 1) 医療観察法の意義と内容/2) 医療観察法の審判と精神保健参事員との役割
26. 医療観察法の概要と実際 3) 指定入院医療機関における処遇
27. 医療観察法の概要と実際 4) 地域処遇/5) 社会復帰調整官の役割と実際
28. 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 1) 意義と目的/2) 対象/3) 倫理
29. 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 4) 量的調査法と質的調査法/5) ICTの活用方法/6) 事例
30. まとめ

準備學習(予習)

次回の授業でとりあげる箇所テキストの一読

準備學習(復習)

授業内で気になったところ、疑問に感じたところなどをノートに書き留め、テキストやプリント等で復習する。

評価方法

(1) 平常点	30%
(2) レポート等	30%
(3) 期末試験	40%

教科書

日本精神保健福祉士養成校協会 『新・精神保健福祉士養成講座〈6〉精神保健福祉に関する制度とサービス』（中央法規出版）

参考書

精神保健医療福祉白書2016（中央法規出版）
社会福祉六法（最新版であれば出版社は問いません）

CPSW-W-300

単位：2 コード：1W231632

01. オリエンテーション/精神障害者の概念 1) 障害の概念/2) 障害者基本法における精神障害者
02. 精神障害者の概念 3) 精神保健福祉法における精神障害/4) 精神障害者の特性
03. 精神障害者の生活の実態 1) 精神障害者の現状/2) 精神障害者と家族の現状
04. 精神障害者の生活の実態 3) 精神障害者と地域社会/4) 海外における地域生活支援モデルの動向
05. 精神障害者の生活と人権 1) 精神障害者の生活支援の理念と概要/2) 地域生活における精神障害者の人権
06. 精神障害者の地域生活支援システム 1) 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援システム/2) 相談援助
07. 精神障害者の地域生活支援システム 3) 雇用・就業以外の就労/4) 余暇活動
08. 精神障害者の地域生活支援システム 5) ソーシャル・サポート・ネットワーク/6) 地域生活支援システムの実態
09. 精神障害者の居住支援 1) 居住支援制度の歴史的展開/2) 居住の場の確保と精神保健福祉士の役割
10. 精神障害者の居住支援 3) 居住支援の実態と精神保健福祉士の役割/4) 居住支援にかかわる専門職と役割/5) 今後の居住支援
11. 精神障害者の就労支援 1) 雇用・就業支援制度の概要/2) 雇用・就業支援制度の歴史的展開
12. 精神障害者の就労支援 3) 雇用・就業に関わる専門職/4) 雇用・就業支援の実態
13. 精神障害者の就労支援 5) 福祉的就労における支援の実態/6) 雇用・就業支援における近年の動向
14. 行政における相談援助 1) 市町村における相談援助システム/2) その他の行政機関における相談援助
15. まとめ

- ①精神障害者の概念
- ②精神障害者の生活の実際
- ③精神障害者の生活と人権
- ④精神障害者の居住支援
- ⑤精神障害者の就労支援
- ⑥精神障害者の生活支援システム
- ⑦市町村における相談援助
- ⑧その他の行政機関における相談援助

- ① 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。
- ② 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。
- ③ 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む。）について理解する。
- ④ 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。

最初の授業の時に、テキストをもとに全体の授業日程を提示しそれに沿って授業を進めていきます。テキストは最初の授業時に購入しておくこと。

- ・精神障害者の生活支援の意義と特徴
- ・生活者としての精神障害者
- ・居住支援
- ・就労支援
- ・行政機関における相談援助活動

日本精神保健福祉士養成校協会編 「新・精神保健福祉士養成講座 7巻 精神障害者の生活支援システム」中央法規出版

参考書

精神保健福祉援助技術総論		CPSW-W-200
担当教員： 助川 征雄		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W231740
学部教育の関連目		授業計画
【W】 論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目		01. オリエンテーション 02. 精神保健福祉分野における相談援助の概念 1) 基本的な考え方 03. 精神保健福祉分野における相談援助の概念 2) 権利擁護の意義と範囲 04. 精神保健福祉分野における相談援助の体系 1) 精神保健福祉分野における相談援助活動の対象 05. 精神保健福祉分野における相談援助の体系 2) 精神保健福祉分野における相談援助活動の目的と意義 06. 精神保健福祉分野における相談援助の体系 3) 精神保健福祉分野における援助活動の現状と今後の展開 07. 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲 1) 精神保健福祉士の概念 08. 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲 2) 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務 09. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 1) 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割 10. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 2) 専門職倫理と倫理的ジレンマ 11. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 1) 総合的・包括的な援助を支える理論 12. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 2) 総合的・包括的な援助の機能と概要 13. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 3) 多職種連携（チームアプローチ）の意義と概要 14. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 4) 多職種連携における精神保健福祉士の役割 15. まとめ
(1) 内容		
① 精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方 ② 相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲 ③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 ④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む。）の意義と内容		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
① 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。 ② 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 ④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。		
準備学習(復習)		
受講者に対する要望		評価方法
精神保健福祉士の資格取得希望者は必須科目であることを認識し、より専門的な知識を習得するために積極性を持って出席することを求める。		
各評価項目から総合的に評価する。		
学びのキーワード		教科書
・ 精神保健福祉の歴史 ・ 関わり ・ 権利擁護 ・ 社会的包括（ソーシャルインクルージョン） ・ ストレングスモデル		
参考書		
		新・精神保健福祉士養成講座 第3巻 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）（中央法規出版）

精神保健福祉援助技術各論

CPSW-W-300

担当教員： 児玉 照彰

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1W231844

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

① 相談援助の過程及び対象者との援助関係
② 相談援助活動のための面接 技術
③ 相談援助活動の展開（医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む。）
④ 家族調整・支援の実際と事例分析
⑤ スーパービジョンとコンサルテーション
⑥ 地域移行の対象及び支援体制
⑦ 地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む。）
⑧ 地域を基盤にした支援とネットワーク
⑨ 地域生活を支援する包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開

(2) 学びの意義と目標

① 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について理解する。
② 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。
③ 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。
④ 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する。

受講者に対する要望

精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目の一つです。
ロールプレイやグループディスカッションなどを交えながらすすめていきますので、主体的積極的な参加を望みます。

学びのキーワード

・ 精神保健福祉士の専門性
・ 精神保健福祉士の価値・倫理
・ 精神保健福祉士の技術

授業計画

01. オリエンテーション/精神保健福祉援助技術論導入
02. 相談援助の過程および対象との援助関係 1) 地域を基盤とした相談援助
03. 相談援助の過程および対象との援助関係 2) ケース発見/3) 受理面接と契約
04. 相談援助の過程および対象との援助関係 4) 課題分析/5) 支援計画
05. 相談援助の過程および対象との援助関係 6) 支援の実施と経過の観察/7) 効果測定と支援の評価/8) 終結とアフターケア
06. 相談援助活動のための面接技術 1) 面接を効果的に行う方法
07. 相談援助活動のための面接技術 2) 面接技法
08. 相談援助活動の展開 1) 個別支援の実際と事例分析
09. 相談援助活動の展開 2) 集団を活用した支援の実際と事例分析
10. 相談援助活動の展開 3) 事例による相談援助活動の検討
11. 家族調整・支援の実際と事例分析 1) 精神保健福祉における精神障害者と家族の関係
12. 家族調整・支援の実際と事例分析 2) 家族支援の方法
13. 家族調整・支援の実際と事例分析 3) 事例による家族調整・支援の検討
14. 地域移行の対象および支援体制 1) 地域移行支援の対象/2) 地域移行の体制
15. 地域移行の対象および支援体制 3) 精神保健福祉士の役割と多職種との連携
16. 地域移行の対象および支援体制 4) 地域移行にかかる組織や機関/5) 地域移行を推進する事業の展開
17. 地域移行の対象および支援体制 6) 事例による地域移行支援の検討
18. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象 1) 精神障害者を取り巻く社会的状況
19. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象 2) 地域相談援助の主体/3) 地域相談援助対象/4) 地域相談援助の体制
20. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象 5) 事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
21. 地域を基盤にした支援とネットワーク 1) 地域を基盤にした支援の概念と基本的性格
22. 地域を基盤にした支援とネットワーク 2) 地域アセスメントとBSC およびSWOT分析
23. 地域を基盤にした支援とネットワーク 3) 地域を基盤にした支援の具体的展開
24. 地域を基盤にした支援とネットワーク 4) 事例による地域を基盤にした支援の検討
25. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開 1) 包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と実際
26. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開 2) 事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討
27. スーパービジョンとコンサルテーション 1) スーパービジョン 意義・方法
28. スーパービジョンとコンサルテーション 2) コンサルテーション 意義・方法
29. スーパービジョンとコンサルテーション 3) 事例によるスーパービジョンおよびコンサルテーション
30. まとめ

準備学習(予習)

次回授業で取り扱う箇所のテキストを一読する。

準備学習(復習)

授業で気になったところ、疑問に思ったところなどを書き留め、テキストやプリント等で復習する。

評価方法

(1) 授業態度	30%
(2) レポート等	30%
(3) 期末試験	40%

出席日数・発言・リアクションペーパー含む

教科書

日本精神保健福祉士養成校協会編集 『新・精神保健福祉士養成講座 第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』 第2版(中央法規出版)

参考書

精神科リハビリテーション学A		CPSW-W-200
担当教員： 助川 征雄		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W231946
学部教育の関連目		授業計画
【W】 論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目		
(1) 内容		01. オリエンテーション 02. 精神保健医療福祉の歴史と動向 1) わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向 03. 精神保健医療福祉の歴史と動向 2) 諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷 04. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 1) 精神保健福祉士における活動の歴史 05. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 2) 精神障害者支援の理念 06. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 3) 精神保健医療福祉領域における支援対象 07. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 4) 精神障害者の人権 08. 精神科リハビリテーションの概念と構成 1) 精神科リハビリテーションの概念 09. 精神科リハビリテーションの概念と構成 2) 精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則 10. 精神科リハビリテーションの概念と構成 3) 精神科リハビリテーションの構成と展開 11. 精神科リハビリテーションのプロセス 1) リハビリテーションのプロセス 12. 精神科リハビリテーションのプロセス 2) アプローチの方法① 13. 精神科リハビリテーションのプロセス 2) アプローチの方法② 14. 精神科リハビリテーションのプロセス 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション 15. まとめ
(2) 学びの意義と目標		
① 精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。 ② 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。		
準備学習(予習)		
受講者に対する要望		シラバスを参照し、指定テキストの該当項目を事前に読んでおくこと。
準備学習(復習)		授業終了時に、リアクションペーパーを用いて授業内容のうち理解できたこと、考察、疑問点を毎回言語化を促す。その内容について各自で再考し、疑問点は自主的に調べておくこと。
評価方法		(1) 試験 60% (2) リアクションペーパー 15% (3) 平常点 25%
各評価項目から総合的に評価する。		
学びのキーワード		教科書
・ 精神保健福祉の歴史 ・ 医学モデルからリカバリーモデルへ ・ 基礎的リハビリ技法		参考書
		新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会、柏木昭『新版・精神保健福祉士養成セミナー 第5巻—精神保健福祉の理論と相談援助の展開—2 精神保健福祉におけるリハビリテーション』（へるす出版）

精神科リハビリテーション学B		CPSW-W-300
担当教員： 田村 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W232048
学部教育の関連目		授業計画
【W】 論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目		
(1) 内容		01. オリエンテーション 02. 精神障害者支援の実践モデル 1)精神障害者支援の実践モデルの意味と内容 03. 精神障害者支援の実践モデル 2)代表的な精神障害者支援の実践モデル 04. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 1)精神専門療法 2)家族教育プログラム 05. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 3)精神科デイケア 06. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 4)医療機関のアウトリーチ 07. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 5)チーム医療の概要/6)医療機関における多職種との協働・連携 08. 精神障害者支援の実践モデル 1)精神障害者支援の実践モデルの意味と内容 09. 精神障害者支援の実践モデル 2)代表的な精神障害者支援の実践モデル 10. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方 1)地域ネットワーク 11. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方 2)アウトリーチ/3)地域生活支援事業と訪問援助 12. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方4)家族会及びセルフヘルプグループ/5)PSWボランティアの育成と活用 13. 精神障害者のケアマネジメント 1)原則/2)意義と方法 14. 精神障害者のケアマネジメント 3)展開過程/4)チームケアとチームワーク/5)事例による検討 15. まとめ
① 医療機関における精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割		
② 精神障害者の支援モデル		
③ 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方		
④ 精神障害者のケアマネジメント		
(2) 学びの意義と目標		
① 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用する方法について理解する。		
② 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む。）の実際について理解する。		
受講者に対する要望		
精神保健福祉士の資格取得希望者は必須科目であることを認識し、より専門的な知識を習得するために積極性を持って出席することを求める。		
学びのキーワード		教科書 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会、柏木昭『精神保健福祉士養成セミナー 第5巻 精神保健福祉におけるリハビリテーション』（へるす出版） 参考書
・医学モデルからリカバリーモデルへ		
・あらたなりハビリテーションの技法		
・精神保健福祉士の役割		

社会福祉運営管理論		CGSW-W-300	
担当教員： 三田寺 裕治			
学期： 集中講		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1W232160	
学部教育の関連目		授業計画	
【W】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける		01. 福祉サービスの特質と理念 02. 福祉サービスに係る組織や団体 （１）社会福祉法人制度 03. 福祉サービスに係る組織や団体 （２）特定非営利活動法人制度 04. 福祉サービスに係る組織や団体 （３）その他の組織や団体 05. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 （１）組織・経営に関する基礎理論 06. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 （２）運営管理に関する基礎理論 07. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 （３）集団の力学・リーダーシップに関する基礎理論 08. 福祉サービス提供組織の経営と実際 （１）福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス 09. 福祉サービス提供組織の経営と実際 （２）福祉サービス提供組織における人材の養成と確保 10. 福祉サービス提供組織の経営と実際 （３）理事会の役割・財源 11. 福祉サービス提供組織の経営と実際 （４）福祉サービス提供組織の経営の実際 12. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 （１）適切なサービス提供体制の確保 ①スーパーバージョン体制ほか 13. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 （２）適切なサービス提供体制の確保 ②苦情対応・リスクマネジメントの方法 14. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 （３）働きやすい労働環境の整備 15. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 （４）福祉サービスの管理運営の実際	
カリキュラム上の位置付け			
【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目			
(1) 内容			
・ 福祉サービスの特質と理念 ・ 福祉サービスに係る組織や団体 ・ 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 ・ 福祉サービス提供組織の経営と実際 ・ 福祉サービスの運営管理の方法と実際			
(2) 学びの意義と目標			
・ 福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。 ・ 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論について理解する。 ・ 福祉サービスの運営と管理運営について理解する。		準備学習(予習)	
		毎回授業終了後に次回の講義内容について触れるので、テキストを熟読し、内容を理解しておくこと。	
		準備学習(復習)	
		テキスト、プリントを中心に復習し、要点をノートにまとめておくこと。また、授業中に提示された課題については、レポートにまとめ、次回授業時に提出すること。	
		評価方法	
		(1) 事前・事後レポート 20%	
		(2) 試験 80%	
受講者に対する要望			
福祉サービスの管理運営に関して踏み込んだ検討をするため、双方向の授業を展開します。問題意識を持ち、積極的な参加を期待します。			
学びのキーワード		教科書	
・ 社会福祉法人 ・ サーマネジメント ・ 経営に関する基礎理論 ・ 財務会計		社会福祉士養成講座編集委員会編 『福祉サービスの組織と経営 （新・社会福祉士養成講座11）』 （中央法規）	
		参考書	

福祉行財政と福祉計画		CCSW-W-200	
担当教員：馬場 康德			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1W232268	
学部教育の関連目		授業計画	
【W】 人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける		01. オリエンテーション、福祉と法制度 02. 行政の骨格、社会福祉関係法の構造 03. 福祉行政における国と地方公共団体の役割 04. 福祉行政における国と地方公共団体の関係 05. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法 06. 福祉の財源（1）費用と財源の動向 07. 福祉の財源（2）財源と各財源の特徴 08. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割 09. 福祉計画の目的と意義 10. 福祉計画の主体と方法 11. 福祉計画の策定方法と留意点・福祉計画の評価方法 12. 福祉計画の実際（1）老人福祉計画・介護保険事業計画 13. 福祉計画の実際（2）障害者計画・障害福祉計画 14. 福祉計画の実際（3）地域福祉計画 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目 【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目			
(1) 内容			
・ 福祉行政の実施体制 ・ 福祉財政の動向 ・ 福祉計画の意義と目的 ・ 福祉計画の主体と方法 ・ 福祉計画の実際			
(2) 学びの意義と目標			
・ 福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解する。 ・ 福祉行財政の実際について理解する。 ・ 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
福祉に関する時事問題についての新聞記事を読み、配布資料等を読み直すこと。 		授業計画を参照し、教科書等を読んでおくこと。	
		準備学習(復習)	
		教科書及び配布資料を読み込むこと。	
		評価方法	
		(1) 中間レポート 20% (2) 授業内小テスト 30% 授業内に2回の小テストを行う。 (3) 期末試験 40% (4) 出席率 10%	
学びのキーワード		教科書	
・ 福祉の体系 ・ 福祉行政の実施体制 ・ 国と地方自治体の関係、役割 ・ 福祉の財源 ・ 福祉計画の種類、役割		社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画』（中央法規出版株式会社）	
		参考書	

更生保護制度		CGSW-W-300
担当教員：三澤 孝夫		
学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1W232376
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 更生保護の制度（1）意義・歴史・更生保護法制 02. 更生保護の制度（2）保護観察・生活環境の調整 03. 更生保護の制度（3）仮釈放・更生緊急保護 等 04. 更生保護制度の担い手 05. 医療観察制度（1） 06. 医療観察制度（2） 07. 司法福祉、更生保護制度における関係機関・団体との連携 / 近年の動向と課題 08. 更生保護制度【総括】</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div>		
<div>（1）内容</div> <div>「更生保護制度」は、社会福祉士の指定科目の1つでもあるため、国家試験を念頭にポイントを押さえ、講義していく。また、近年、福祉寮陰気の現場において、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、就労支援などと「更生保護制度」の連携が急速に進みつつあるが、これらの現状をふくめ「司法福祉」全般について解説していく。 また、このような現状を受け、国家資格試験においても、前述のこれらの関連科目にも、「更生保護制度」、「司法福祉」の制度や要素が出てくることが多くなっている。そのため、このような点も考慮し、他の関連分野と「更生保護制度」、「司法福祉」等の関係や連携等も講義で取り上げていく。 また、精神保健福祉士に必要な医療観察制度についても、保護観察制度と対比させながら、詳しく説明していく。その他、最新の更生保護制度の動向を、併せて伝えていく。 講義は、パワーポイントと教科書を連携させて行っていく。「更生保護制度」という複雑な制度を、集中講義8回の講義枠で理解してもらうため、また、講義中に国家資格試験について、教科書記載部分と照らして、ポイント等を話す予定であるため、教科書を必携とする。 ・更生保護の制度 ・更生保護制度の担い手、関係機関・団体との連携</div>		
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>【学びの意義】 ・更生保護制度と福祉制度の連携は、高齢化社会や障害者の社会復帰において注目されており、近年では新たな仕組みが整えられるなど、大きく進展している。福祉関係の相談機関や施設での業務において、その現状の理解は重要性を増しており、これらの知識は必須であるとともに、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の重要な出題領域でもある。また、専門家のみならず、我が国の司法制度や関係機関の役割、保護観察制度などの概要と現状についての知識や理解は、社会人として生活する上でも有用であると言える。 【目標】 1. 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。 2. 更生保護を中心に、司法制度の基本部分、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。 3. 刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。 4. 相談援助活動において必要となる医療観察制度の概要と対象者援助の状況を理解する。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義については、静かに聞くことを受講の最低条件としますが、授業内容に関する疑問、意見については、気軽に積極的に出してください。
 また、「更生保護制度」という複雑な制度を、集中講義8回の講義枠で理解してもらうため、また、講義中に国家資格試験について、教科書記載部分と照らして、ポイント等を話す予定であるため、教科書を必携とする。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・司法福祉 ・司法制度 ・更生保護制度 ・保護観察法 ・医療観察制度</div>		<div>教科書</div> <div>森長秀 『「更生保護制度」社会福祉士シリーズ20巻(第2版)』（弘文堂）</div> <div>参考書</div>

スクールソーシャルワーク論

CCSW-W-400

担当教員：天野 敬子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W232490

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

スクールソーシャルワークは教育現場で展開するソーシャルワークである。学校で子どもが表出する諸問題とその背景要因を学び、子どもへの支援の在り方を理解する。

(2) 学びの意義と目標

スクールソーシャルワーカーの役割と意義を学び、スクールソーシャルワークの展開過程を具体的にイメージできるようになる。

受講者に対する要望

一方的な講義形式ではなく、双方向にやりとりしながらすすめたいので、積極的に感想や意見を述べてもらいたい。

学びのキーワード

- ・連携
- ・ネットワーク
- ・子どもの権利

授業計画

01. 開講にあたっての注意事項およびシラバスを解説する。
02. DVD「スクールソーシャルワーカーの仕事」を視聴して全体像をつかむ。
03. 子どもの現状1 「いじめ」について（1）
04. 子どもの現状2 「いじめ」について（2）
05. 子どもの現状3 「不登校」について（1）
06. 子どもの現状4 「不登校」について（2）
07. 子どもの現状5 「児童虐待」について（1）
08. 子どもの現状6 「児童虐待」について（2）
09. 子どもの現状7 「非行」について（1）
10. 子どもの現状8 「非行」について（2）
11. 子どもの現状9 「子どもの貧困」（1）
12. 子どもの現状10 「子どもの貧困」（2）
13. SSWの仕事の流れ
14. 他機関との連携
15. 総括

準備学習(予習)

レポート発表をする学生は、事前に調べて発表資料を作成する。
発表以外の学生への予習は授業時に指示する。

準備学習(復習)

学んだことを確認し、ニュースや新聞の関連記事を読んで、見識を深める。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) レポート発表 | 10% |
| (3) 授業態度 | 10% |
| (4) テスト | 40% |

教科書

山野剛子・野田正人・半羽利美佳 『よくわかるスクールソーシャルワーク』（ミネルヴァ書房）

参考書

担当教員：野口 祐子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W302304

学部教育の関連目

【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、障がい者、高齢者などが直面する生活上の様々な困難を環境の視点で捉え、障がい者、高齢者を含む全ての人々が豊かに暮らすための環境整備のあり方について学びます。理解を深めるため、講義にあわせ、実習等具体的な課題を盛り込みながら授業を進めていきます。

(2) 学びの意義と目標

障がい者や高齢者、さらにはすべての人が豊かに暮らすための環境整備について、その基礎にある考え方や基本的な解決方法の理解を目標とします。すべての授業を受講してはじめて、それらを理解することができますので、全出席を目指してください。

受講者に対する要望

実習は講義を聞かなければできません。また、授業を聞きながらプリントを完成させると、それがノートになります。講義と実習で、知識をしっかり定着させるようにしましょう。

学びのキーワード

- ・障がい者
- ・高齢者
- ・バリアフリー
- ・ユニバーサルデザイン
- ・福祉のまちづくり

授業計画

01. 福祉環境論とは
02. 環境と障がい、ノーマライゼーションと環境整備
03. 街の中のバリアフリー その1
04. 街の中のバリアフリー その2
05. 福祉のまちづくりの歴史と制度
06. 環境と障がいの事例
07. 実習事前学習
08. 実習1：車いす体験、視覚障害体験
09. 実習2：バリアフリー調査
10. バリアフリー調査発表
11. ノーマライゼーションと福祉のまちづくりについてのまとめ
12. ユニバーサルデザインの成り立ちと理念
13. 実習3：ユニバーサルデザイン実習
14. 空間と心理、福祉施設の空間構成
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

実習等は配布されたプリントやノートで予習し、十分理解してからのぞみましょう。

準備学習(復習)

毎回、授業中に完成させたプリントを整理し、さらに調べたことを書き込むなどして自分のノートを完成させてください。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 実習レポート、課題 | 30% |
| (3) 期末試験 | 30% |
| (4) 発表 | 10% |

教科書

参考書

社会福祉援助技術演習 A

CGSW-W-200

担当教員：長谷部 雅美

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1W310100

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

本演習では、自己覚知・他者理解、基本的なコミュニケーション技術の習得、基本的な面接技術の習得に関する実技指導を行う。

(2) 学びの意義と目標

- ①自己や他者を客観的に理解し、社会福祉援助技術現場実習で活用することができる。
- ②基本的コミュニケーション技術を習得し、人間関係を円滑に形成することができる。
- ③基本的な面接技術を習得し、社会福祉援助技術現場実習で援助関係を円滑に形成することができる。

受講者に対する要望

社会福祉士を目指す学生が最初に受講する演習科目である。自己覚知や他者理解とともに、コミュニケーション技術を学びながら、自ら相談援助職に対する適性を見極めるきっかけにいただきたい。

学びのキーワード

- ・自己理解
- ・他者理解
- ・コミュニケーション
- ・面接技術
- ・バリア

授業計画

01. オリエンテーション 社会福祉援助技術演習の意義
02. 自己覚知のための演習① ふだんの自分を知る
03. 自己覚知のための演習② 援助者としての自分を知る
04. 自己覚知のための演習③ ライフストーリー(1) 自分のライフストーリーから学ぶ
05. 他者理解のための演習① ライフストーリー(2) 当事者のライフストーリーから学ぶ
06. 他者理解のための演習② 相手の立場に立って考える
07. 基本的なコミュニケーション技術の習得① コミュニケーションパターンを知る(1)
08. 基本的なコミュニケーション技術の習得② コミュニケーションパターンを知る(2)
09. 基本的なコミュニケーション技術の習得③ 開かれた態度で相手に接する
10. 基本的なコミュニケーション技術の習得④ 意識的に身体のコミュニケーションを用いる
11. 基本的な面接技術の習得① 開いた質問と閉じた質問を使い分ける
12. 基本的な面接技術の習得② 要約と具体的な状況説明を使い分ける
13. 基本的な面接技術の習得③ 感情や状況、行動を反射して伝える
14. 基本的な面接技術の習得④ 相談機関での面接(ロールプレイング)
15. 総括 演習Aの振り返り

準備学習(予習)

今回の内容について、指示された文献の該当箇所をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布された文献の該当箇所を読み直し、演習で学んだことをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 学習状況(態度・発言など) | 50% |
| (2) レポート課題 | 50% |

原則として、欠席は認められない。
演習での学習状況、レポート課題で総合的に評価する。

教科書

参考書

社会福祉援助技術演習 A		CGSW-W-200
担当教員： 野口 祐子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1W310108
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 社会福祉援助技術演習の意義</div> <div>02. 自己覚知のための演習① ふだんの自分を知る</div> <div>03. 自己覚知のための演習② 援助者としての自分を知る</div> <div>04. 自己覚知のための演習③ ライフストーリー(1) 自分のライフストーリーから学ぶ</div> <div>05. 他者理解のための演習① ライフストーリー(2) 当事者のライフストーリーから学ぶ</div> <div>06. 他者理解のための演習② 相手の立場に立って考える</div> <div>07. 基本的なコミュニケーション技術の習得① コミュニケーションパターンを知る(1)</div> <div>08. 基本的なコミュニケーション技術の習得② コミュニケーションパターンを知る(2)</div> <div>09. 基本的なコミュニケーション技術の習得③ 開かれた態度で相手に接する</div> <div>10. 基本的なコミュニケーション技術の習得④ 意識的に身体のコミュニケーションを用いる</div> <div>11. 基本的な面接技術の習得① 開いた質問と閉じた質問を使い分ける</div> <div>12. 基本的な面接技術の習得② 要約と具体的な状況説明を使い分ける</div> <div>13. 基本的な面接技術の習得③ 感情や状況、行動を反射して伝える</div> <div>14. 基本的な面接技術の習得④ 相談機関での面接（ロールプレーイング）</div> <div>15. 総括 演習 A の振り返り</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本演習では、自己覚知・他者理解、基本的なコミュニケーション技術の習得、基本的な面接技術の習得に関する実技指導を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>①自己や他者を客観的に理解し、社会福祉援助技術現場実習で活用することができる。</div> <div>②基本的コミュニケーション技術を習得し、人間関係を円滑に形成することができる。</div> <div>③基本的な面接技術を習得し、社会福祉援助技術現場実習で援助関係を円滑に形成することができる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>今回の内容について、指示された文献の該当箇所をよく読んでおくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>社会福祉士を目指す学生が最初に受講する演習科目である。自己覚知や他者理解とともに、コミュニケーション技術を学びながら、自ら相談援助職に対する適性を見極めるきっかけにしていきたい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布された文献の該当箇所を読み直し、演習で学んだことをまとめておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 学習状況（態度・発言など） 50%</div> <div>(2) レポート課題 50%</div> <div>原則として、欠席は認められない。 演習での学習状況、レポート課題で総合的に評価する。</div>	
	<div>学びのキーワード</div> <div>・ 自己理解</div> <div>・ 他者理解</div> <div>・ コミュニケーション</div> <div>・ 面接技術</div> <div>・ バリア</div>	
<div>教科書</div>		<div>参考書</div>

社会福祉援助技術演習B		CGSW-W-200
担当教員：野口 祐子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1W310220
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション ソーシャルワークにおける事例検討の意義</div> <div>02. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(1)在宅における高齢者虐待に対する介入</div> <div>03. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(2)児童虐待通告事例への児童相談所の対応</div> <div>04. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(3)日常生活自立支援事業における知的障害者への支援</div> <div>05. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(4)家庭内暴力(DV)への支援</div> <div>06. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(5)低所得者への支援</div> <div>07. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(6)社会的排除の解決に向けた支援</div> <div>08. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(7)ホームレスへの支援</div> <div>09. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(8)危機介入を活用した支援</div> <div>10. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(1)地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握技法の習得</div> <div>11. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(2)地域福祉の計画立案技法の習得</div> <div>12. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(3)ネットワーキングの活用技法の習得</div> <div>13. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(4)社会資源の活用・調整・開発に関する技法の習得</div> <div>14. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(5)サービスの評価技法の習得</div> <div>15. 総括 演習Bの振り返り</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>社会福祉援助技術演習Bでは、第一に、具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し、総合的・包括的な援助について実践的に習得するための演習を行う。第二に、地域福祉の基盤整備と開発に関わる事例を活用した実技指導を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>①個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、エコシステムの視座に基づき、ミクロ、メゾ、マクロの関係から捉えることができる。</div> <div>②個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、適切な支援方法を選択し、実施することができる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>今回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布された文献の該当箇所を読み直し、演習で学んだことをまとめておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 学習状況（態度・発言など） 40%</div> <div>(2) 発表 30%</div> <div>(3) レポート課題 30%</div> <div>原則として、欠席は認められない。 演習での学習状況、発表、レポート課題で総合的に評価する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・エコシステム</div> <div>・ジェネラリスト・ソーシャルワーク</div> <div>・無縁化</div> <div>・事例検討</div> <div>・地域を基盤とする実践</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

社会福祉援助技術演習B		CGSW-W-200
担当教員：長谷部 雅美		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1W310228
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション ソーシャルワークにおける事例検討の意義</div> <div>02. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(1)在宅における高齢者虐待に対する介入</div> <div>03. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(2)児童虐待通告事例への児童相談所の対応</div> <div>04. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(3)日常生活自立支援事業における知的障害者への支援</div> <div>05. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(4)家庭内暴力(DV)への支援</div> <div>06. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(5)低所得者への支援</div> <div>07. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(6)社会的排除の解決に向けた支援</div> <div>08. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(7)ホームレスへの支援</div> <div>09. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(8)危機介入を活用した支援</div> <div>10. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(1)地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握技法の習得</div> <div>11. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(2)地域福祉の計画立案技法の習得</div> <div>12. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(3)ネットワーキングの活用技法の習得</div> <div>13. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(4)社会資源の活用・調整・開発に関する技法の習得</div> <div>14. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(5)サービスの評価技法の習得</div> <div>15. 総括 演習Bの振り返り</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>社会福祉援助技術演習Bでは、第一に、具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し、総合的・包括的な援助について実践的に習得するための演習を行う。第二に、地域福祉の基盤整備と開発に関わる事例を活用した実技指導を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>①個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、エコシステムの視座に基づき、ミクロ、メゾ、マクロの関係から捉えることができる。</div> <div>②個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、適切な支援方法を選択し、実施することができる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>今回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布された文献の該当箇所を読み直し、演習で学んだことをまとめておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 学習状況（態度・発言など） 40%</div> <div>(2) 発表 30%</div> <div>(3) レポート課題 30%</div> <div>原則として、欠席は認められない。 演習での学習状況、発表、レポート課題で総合的に評価する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・エコシステム</div> <div>・ジェネラリスト・ソーシャルワーク</div> <div>・無縁化</div> <div>・事例検討</div> <div>・地域を基盤とする実践</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

社会福祉援助技術演習 C

CGSW-W-200

担当教員：長谷部 雅美

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1W310340

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

社会福祉援助技術演習 C では、相談援助事例を題材として、相談援助の過程や相談援助場面を想定した実技指導を行う。

(2) 学びの意義と目標

相談援助の過程に基づいた援助方法を理解し、社会福祉援助技術現場実習において効果的に実践することができる。

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を十分理解したうえで、本科目を受講してください。

学びのキーワード

- ・相談援助の過程
- ・インテーク
- ・アセスメント
- ・実施とモニタリング
- ・評価

授業計画

01. オリエンテーション 相談援助の過程に基づいた演習の意義
02. 相談援助の過程に基づく実技指導①インテーク (1)アウトリーチ技法の習得
03. 相談援助の過程に基づく実技指導②インテーク (2)インテーク面接技法の習得
04. 相談援助の過程に基づく実技指導③アセスメント (1)情報収集技法の習得
05. 相談援助の過程に基づく実技指導④アセスメント (2)観察技法の習得
06. 相談援助の過程に基づく実技指導⑤アセスメント (3)情報分析・生活課題把握技法の習得
07. 相談援助の過程に基づく実技指導⑥プランニング (1)支援目標設定技法の習得
08. 相談援助の過程に基づく実技指導⑦プランニング (2)支援プログラム作成技法の習得
09. 相談援助の過程に基づく実技指導⑧支援の実施 (1)利用者への働きかけ技法の習得
10. 相談援助の過程に基づく実技指導⑨支援の実施 (2)社会資源の活用・調整・開発に関する技法の習得
11. 相談援助の過程に基づく実技指導⑩モニタリング 実施状況のモニタリング技法の習得
12. 相談援助の過程に基づく実技指導⑪効果測定 評価技法の習得
13. 相談援助の過程に基づく実技指導⑫再アセスメントと支援の強化
14. 相談援助の過程に基づく実技指導⑬終結とアフターケア
15. 定期試験と総括 事例問題形式による試験及び演習 C の振り返り

準備学習(予習)

今回の内容に関して、提示された文献の該当箇所を読んでおいてください。

準備学習(復習)

文献の該当箇所を読み直したり、演習で学んだことをまとめておいてください。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート課題 | 50% |

上記の評価項目を総合的に評価します。

教科書

参考書

社会福祉援助技術演習 D		CGSW-W-200
担当教員：長谷部 雅美		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1W310460
学部教育の関連目	授業計画	
【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目		
(1) 内容	01. オリエンテーション 個別的な実習体験を一般化することの意義(1) 02. 事例検討による実習体験の一般化(1) プロセス・レコードの作成 03. 事例検討による実習体験の一般化(2) プロセス・レコードを活用した個別スーパービジョン・ピアスーパービジョン 04. 事例検討による実習体験の一般化(3) プロセス・レコードを活用したロールプレーイング(1) 05. 事例検討による実習体験の一般化(4) プロセス・レコードを活用したロールプレーイング(2) 06. 事例検討による実習体験の一般化(5) インシデント方式による事例検討の意義・事例検討の準備 07. 事例検討による実習体験の一般化(6) インシデント方式による実習事例検討(1) 08. 事例検討による実習体験の一般化(7) インシデント方式による実習事例検討(2) 09. 事例検討による実習体験の一般化(8) インシデント方式による実習事例検討(3) 10. 事例検討による実習体験の一般化(9) ハーバード方式による事例検討の意義 11. 事例検討による実習体験の一般化(10) ハーバード方式による事例発表の準備 12. 事例検討による実習体験の一般化(11) ハーバード方式による実習事例検討(1) 13. 事例検討による実習体験の一般化(12) ハーバード方式による実習事例検討(2) 14. 事例検討による実習体験の一般化(13) ハーバード方式による実習事例検討(3) 15. 定期試験と総括 事例問題形式による試験及び演習Dの振り返り	
(2) 学びの意義と目標		
個別具体的な相談事例について、事例検討を通して、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。		
準備学習(予習)	次の内容について、提示された文献の該当事例を読んでおくようにしてください。また、実習体験を通して、必要と考える専門知識・技術について整理しておいてください。	
準備学習(復習)	事例検討を通して学んだ専門知識・技術、クライアント支援に関連する制度等について改めて整理しておいてください。	
受講者に対する要望	評価方法	
「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を十分理解したうえで、本科目を受講してください。	(1) 平常点 40% 参加状況やグループワークの状況等 (2) レポート課題 40% (3) 発表 20%	
学びのキーワード	上記の評価項目を総合的に評価します。	
・体験の一般化 ・プロセス・レコード ・インシデント方式 ・ハーバード方式 ・事例検討による専門知識の習得	教科書	
	参考書	

社会福祉援助技術演習 D		CGSW-W-200									
担当教員： 田村 綾子											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1W310468									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 個別的な実習体験を一般化することの意義(1)</div> <div>02. 事例検討による実習体験の一般化(1) プロセス・レコードの作成</div> <div>03. 事例検討による実習体験の一般化(2) プロセス・レコードを活用した個別スーパービジョン・ピアスーパービジョン</div> <div>04. 事例検討による実習体験の一般化(3) プロセス・レコードを活用したロールプレーイング(1)</div> <div>05. 事例検討による実習体験の一般化(4) プロセス・レコードを活用したロールプレーイング(2)</div> <div>06. 事例検討による実習体験の一般化(5) インシデント方式による事例検討の意義・事例検討の準備</div> <div>07. 事例検討による実習体験の一般化(6) インシデント方式による実習事例検討(1)</div> <div>08. 事例検討による実習体験の一般化(7) インシデント方式による実習事例検討(2)</div> <div>09. 事例検討による実習体験の一般化(8) インシデント方式による実習事例検討(3)</div> <div>10. 事例検討による実習体験の一般化(9) ハーバード方式による事例検討の意義</div> <div>11. 事例検討による実習体験の一般化(10) ハーバード方式による事例発表の準備</div> <div>12. 事例検討による実習体験の一般化(11) ハーバード方式による実習事例検討(1)</div> <div>13. 事例検討による実習体験の一般化(12) ハーバード方式による実習事例検討(2)</div> <div>14. 事例検討による実習体験の一般化(13) ハーバード方式による実習事例検討(3)</div> <div>15. 定期試験と総括 事例問題形式による試験及び演習Dの振り返り</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>											
<div>(1) 内容</div> <div>本演習では、社会福祉援助技術現場実習で得た事例を検討することにより、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得するため、集団指導・個別指導による実技指導を行う。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>個別具体的な相談事例について、事例検討を通して、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div> 次回の内容について、提示された文献の該当事例を読んでおくようにしてください。また、実習体験を通して、必要と考える専門知識・技術について整理しておいてください。</div>									
		<div>準備学習(復習)</div> <div> 事例検討を通して学んだ専門知識・技術、クライアント支援に関連する制度等について改めて整理しておいてください。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を十分理解したうえで、本科目を受講してください。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>40%</td><td>参加状況やグループワークの状況等</td></tr><tr><td>(2) レポート課題</td><td>40%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 発表</td><td>20%</td><td></td></tr></table> <div>上記の評価項目を総合的に評価します。</div>	(1) 平常点	40%	参加状況やグループワークの状況等	(2) レポート課題	40%		(3) 発表	20%	
(1) 平常点	40%	参加状況やグループワークの状況等									
(2) レポート課題	40%										
(3) 発表	20%										
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 体験の一般化</div><div>・ プロセス・レコード</div><div>・ インシデント方式</div><div>・ ハーバード方式</div><div>・ 事例検討による専門知識の習得</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>									

社会福祉援助技術演習 E		CGSW-W-200
担当教員：長谷部 雅美		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1W310580
学部教育の関連目	授業計画	
【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目		
(1) 内容	01. オリエンテーション 02. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(1) インテーク局面の振り返り 03. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(2) アセスメント局面の振り返り(1) 04. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(3) アセスメント局面の振り返り(2) 05. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(4) アセスメント局面の振り返り(3) 06. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(5) プランニング局面の振り返り(1) 07. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(6) プランニング局面の振り返り(2) 08. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(7) インターベンション局面の振り返り(1) 09. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(8) インターベンション局面の振り返り(2) 10. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(9) モニタリング局面の振り返り 11. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化(1) 関係づくりの再検討 12. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化(2) 面接技法の再検討 13. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化(3) 記録技法の再検討 14. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化(4) 評価技法の再検討 15. 定期試験と総括・事例問題形式による試験及び演習 E の振り返り	
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
相談援助の過程にもとづく振り返りや相談援助の基本的技法の再検討を通して、個別具体的な相談事例を、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。	今回の内容について、提示された文献の該当事例を読んでおくようにしてください。また、実習体験を通して、必要と考える専門知識・技術について整理しておいてください。	
	準備学習(復習)	
	相談援助の振り返りを通して学んだ専門知識・技術について改めて整理しておいてください。	
受講者に対する要望	評価方法	
「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を十分理解したうえで、本科目を受講してください。	(1) 平常点 40% 参加状況やグループワークの状況等 (2) レポート課題 30% (3) 発表 30%	
	上記の評価項目を総合的に評価します。	
学びのキーワード	教科書	
・実習体験の一般化 ・相談援助の過程 ・相談援助の基本的技法 ・支援計画 ・経過記録	参考書	

社会福祉援助技術現場実習指導I		CGSW-W-300
担当教員：長谷部 雅美		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1W310600
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div><div>01.</div><div>社会福祉援助技術現場実習と実習指導の意義 社会福祉援助技術現場実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の留意点</div></div> <div><div>02.</div><div>実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（1）個人のプライバシーの保護の必要性（個人情報保護法の理解を含む）</div></div> <div><div>03.</div><div>実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（2）社会福祉士と守秘義務</div></div> <div><div>04.</div><div>現場体験学習及び見学実習 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）の報告</div></div> <div><div>05.</div><div>実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解（1）実習で求められる専門知識、専門援助技術、及び関連知識</div></div> <div><div>06.</div><div>実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解（2）基本的コミュニケーションや人間関係形成方法の理解</div></div> <div><div>07.</div><div>実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解（3）援助関係形成方法や問題解決能力促進方法の理解</div></div> <div><div>08.</div><div>実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解（4）コミュニティへの働きかけの理解</div></div> <div><div>09.</div><div>実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解（1）ケアワークの理解（1）（視聴覚学習）</div></div> <div><div>10.</div><div>実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解（2）ケアワークの理解（2）（演習）</div></div> <div><div>11.</div><div>実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解（3）感染症の理解とその対策</div></div> <div><div>12.</div><div>実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解（1）記録の意義と目的</div></div> <div><div>13.</div><div>実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解（2）実習記録ノートの意義と目的</div></div> <div><div>14.</div><div>実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解（3）記録技法の修得</div></div> <div><div>15.</div><div>実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解（4）実践評価記録の方法</div></div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目</div> <div>【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>		
<div>（1）内容</div> <div>社会福祉援助技術現場実習指導Iでは、現場実習の目的や意義を理解することによって実習への動機づけを行うとともに、プライバシー保護と守秘義務、専門援助技術に関する知識と技術の再確認、関連業務に関する基本的理解、実習記録ノートの作成方法に関する事前学習を行う。</div>		
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>（1）現場実習の目的や意義、プライバシー保護と守秘義務、介護や保育などの関連業務、実習記録ノートの作成方法について理解し、現場実習において活用することができる。</div> <div>（2）これまで学んだ専門援助技術を再確認し、現場実習において活用することができる。</div>	<div>準備学習（予習）</div> <div>自身が配属された実習機関・施設の内容を十分に学習しておくこと。</div>	
		<div>準備学習（復習）</div> <div>授業内で行ったことは必ず振り返り、身に付けること。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。</div>	<div>評価方法</div> <div><div>（1）平常点</div><div>50%</div></div> <div><div>（2）レポート課題</div><div>50%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 価値・ 知識・ 技術・ 守秘義務・ 実習記録</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

社会福祉援助技術現場実習指導I		CGSW-W-300
担当教員： 木下 大生		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1W310608
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 社会福祉援助技術現場実習と実習指導の意義 社会福祉援助技術現場実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の 02. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(1)個人のプライバシーの保護の必要性(個人情報保護法の理解を含む)</div> <div>03. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(2)社会福祉士と守秘義務</div> <div>04. 現場体験学習及び見学実習 現場体験学習及び見学実習(実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む)の報告</div> <div>05. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(1)実習で求められる専門知識、専門援助技術、及び関連知識</div> <div>06. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(2)基本的コミュニケーションや人間関係形成方法の理解</div> <div>07. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(3)援助関係形成方法や問題解決能力促進方法の理解</div> <div>08. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(4)コミュニティへの働きかけの理解</div> <div>09. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(1)ケアワークの理解(1)(視聴覚学習)</div> <div>10. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(2)ケアワークの理解(2)(演習)</div> <div>11. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(3)感染症の理解とその対策</div> <div>12. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(1)記録の意義と目的</div> <div>13. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(2)実習記録ノートの意義と目的</div> <div>14. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(3)記録技法の修得</div> <div>15. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(4)実践評価記録の方法</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>自身が配属された実習機関・施設の内容を十分に学習しておくこと。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内で行ったことは必ず振り返り、身に着けること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 50%</div> <div>(2) 受講態度 50%</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>社会福祉援助技術現場実習指導Iでは、現場実習の目的や意義を理解することによって実習への動機づけを行うとともに、プライバシー保護と守秘義務、専門援助技術に関する知識と技術の再確認、関連業務に関する基本的理解、実習記録ノートの作成方法に関する事前学習を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>(1)現場実習の目的や意義、プライバシー保護と守秘義務、介護や保育などの関連業務、実習記録ノートの作成方法について理解し、現場実習において活用することができる。</div> <div>(2)これまで学んだ専門援助技術を再確認し、現場実習において活用することができる。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 価値・ 知識・ 技術・ 守秘義務・ 実習記録</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		CGSW-W-300
担当教員： 長谷部 雅美		
学期： 前期（ 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W310720
学部教育の関連目		授業計画
【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. 事前学習の目的と意義 02. 配属実習分野と施設等に関する理解①配属実習先の施設・事業者・機関・団体の法的根拠 03. 配属実習分野と施設等に関する理解②配属実習施設を規定する法制度の歴史の変遷と現状 04. 配属実習分野と施設等に関する理解③配属実習施設の歴史の変遷と現行制度における位置づけ 05. 配属実習分野と施設等に関する理解④配属実習施設における職種と期待される資格要件 06. 配属実習分野と施設等に関する理解⑤配属実習施設における他機関・他職種との連携方法 07. 配属実習施設を取り巻く地域社会に関する理解 配属実習施設の地域特性の分析と地域社会の福祉ニーズ 08. 配属実習施設の利用者の理解①利用者の全体的特徴 09. 配属実習施設の利用者の理解②利用者の全体的動向 10. 配属実習施設の利用者の理解③利用者の生活ニーズの把握方法 11. 実習計画の作成①実習計画の目的と意義 12. 実習計画の作成②実習計画作成指導(1) 13. 実習計画の作成③実習計画作成指導(2) 14. 実習計画の作成④実習計画作成指導(3) 15. 実習オリエンテーションの目的と意義 実習オリエンテーションの方法 16. 実習中の諸注意①実習生に求められる態度 17. 実習中の諸注意②実習にあたっての留意事項 18. 学内指導（現場実習期間中）①学内における指導及び自己学習(1) 19. 学内指導（現場実習期間中）②学内における指導及び自己学習(2) 20. 学内指導（現場実習期間中）③学内における指導及び自己学習(3) 21. 学内指導（現場実習期間中）④学内における指導及び自己学習(4) 22. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理①課題の達成状況の評価(1) 23. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理②課題の達成状況の評価(2) 24. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理③個別、及びピア・グループ・スーパービジョンによる課題の整理 25. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理④グループ・スーパービジョンによる課題の整理 26. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成①実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(1) 27. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成②実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(2) 28. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成③実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(3) 29. 実習報告会による全体的評価の総括①実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備 30. 実習報告会による全体的評価の総括②実習報告会（実習の評価全体総括会）の開催
(1) 内容		
春学期は、配属実習先の施設・機関等の理解、利用者理解、実習計画の作成に関する事前学習を行う。秋学期は、現場実習前に、実習中の諸注意を徹底するとともに、現場実習中に、学内における指導及び自己学習を行う。また、現場実習後に、各自の実習体験を振り返り、実習課題の整理、実習報告書の作成に関する事後学習を進めるとともに、現場実習の総括としての実習報告会を開催する。		
(2) 学びの意義と目標		
【春学期】 (1)配属実習先の施設・機関や利用者の全体的特徴・動向等について理解し、現場実習において活用することができる。 (2)現場実習を計画的に行い、事後評価を適切なものにするため、各自の配属実習先に応じた実習計画を作成することができる。 【秋学期】個別具体的な実践体験を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。 		
		準備学習(復習)
		評価方法
		(1) 平常点 40% 参加状況やグループワークの状況等 (2) レポート課題 30% (3) 実習報告 30% 実習報告書、実習報告会
		実習報告会での報告と実習報告書の提出をうけて、それまでのレポート、コメント、および受講態度から総合的に評価する。なお、社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。
学びのキーワード		教科書
・実習先施設・機関の理解 ・利用者理解 ・実習課題 ・スーパービジョン ・実習評価		参考書

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		CGSW-W-300
担当教員： 木下 大生		
学期： 前期（ 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W310728
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 事前学習の目的と意義</div> <div>02. 配属実習分野と施設等に関する理解①配属実習先の施設・事業者・機関・団体の法的根拠</div> <div>03. 配属実習分野と施設等に関する理解②配属実習施設を規定する法制度の歴史の変遷と現状</div> <div>04. 配属実習分野と施設等に関する理解③配属実習施設の歴史の変遷と現行制度における位置づけ</div> <div>05. 配属実習分野と施設等に関する理解④配属実習施設における職種と期待される資格要件</div> <div>06. 配属実習分野と施設等に関する理解⑤配属実習施設における他機関・他職種との連携方法</div> <div>07. 配属実習施設を取り巻く地域社会に関する理解 配属実習施設の地域特性の分析と地域社会の福祉ニーズ</div> <div>08. 配属実習施設の利用者の理解①利用者の全体的特徴</div> <div>09. 配属実習施設の利用者の理解②利用者の全体的動向</div> <div>10. 配属実習施設の利用者の理解③利用者の生活ニーズの把握方法</div> <div>11. 実習計画の作成①実習計画の目的と意義</div> <div>12. 実習計画の作成②実習計画作成指導(1)</div> <div>13. 実習計画の作成③実習計画作成指導(2)</div> <div>14. 実習計画の作成④実習計画作成指導(3)</div> <div>15. 実習オリエンテーションの目的と意義 実習オリエンテーションの方法</div> <div>16. 実習中の諸注意①実習生に求められる態度</div> <div>17. 実習中の諸注意②実習にあたっての留意事項</div> <div>18. 学内指導（現場実習期間中）①学内における指導及び自己学習(1)</div> <div>19. 学内指導（現場実習期間中）②学内における指導及び自己学習(2)</div> <div>20. 学内指導（現場実習期間中）③学内における指導及び自己学習(3)</div> <div>21. 学内指導（現場実習期間中）④学内における指導及び自己学習(4)</div> <div>22. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理①課題の達成状況の評価(1)</div> <div>23. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理②課題の達成状況の評価(2)</div> <div>24. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理③個別、及びピア・グループ・スーパービジョンによる課題の整理</div> <div>25. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理④グループ・スーパービジョンによる課題の整理</div> <div>26. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成①実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(1)</div> <div>27. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成②実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(2)</div> <div>28. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成③実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(3)</div> <div>29. 実習報告会による全体的評価の総括①実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備</div> <div>30. 実習報告会による全体的評価の総括②実習報告会（実習の評価全体総括会）の開催</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>春学期は、配属実習先の施設・機関等の理解、利用者理解、実習計画の作成に関する事前学習を行う。秋学期は、現場実習前に、実習中の諸注意を徹底するとともに、現場実習中に、学内における指導及び自己学習を行う。また、現場実習後に、各自の実習体験を振り返り、実習課題の整理、実習報告書の作成に関する事後学習を進めるとともに、現場実習の総括としての実習報告会を開催する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>【春学期】</div> <div>(1) 配属実習先の施設・機関や利用者の全体的特徴・動向等について理解し、現場実習において活用することができる。</div> <div>(2) 現場実習を計画的に行い、事後評価を適切なものにするため、各自の配属実習先に応じた実習計画を作成することができる。</div> <div>【秋学期】個別具体的な実践体験を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>今回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>配布されたプリントの該当箇所を読むとともに、指導内容を150字程度に要約しておくこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。
</div>	<div>評価方法</div> <div>実習報告会での報告と実習報告書の提出をうけて、それまでのレポート、コメント、および受講態度から総合的に評価する。なお、社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。</div>	
<div>学びのキーワード</div>	<div>教科書</div> <div>八木亜紀子 『相談援助職の記録の書き方―短時間で適切な内容を表現するテクニック』（中央法規）</div> <div>ミネルヴァ書房編集部編 『社会福祉小六法2015【平成27年版】』（ミネルヴァ書房）</div> <div>厚生統計協会 『国民の福祉と介護の動向 2015/2016』（厚生統計協会）</div> <div>参考書</div>	

社会福祉援助技術現場実習

CGSW-W-300

担当教員：木下 大生

学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位：6 コード：1W310800

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

実習指導者の指導のもと、次に掲げる事項について、合計180時間以上に及ぶ実習教育を行う。
1つの施設において、集中実習（合計180時間以上）の形態で行う。

(2) 学びの意義と目標

①社会福祉実践現場の体験を通して、社会福祉士としての使命と倫理を自覚できる。
②社会福祉士として必要な価値・知識・技術を獲得することによって、今後の現場実践で効果的に活用できる。

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

 本実習における事前事後学習、及び実習中の巡回指導を、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱとして行う。

学びのキーワード

- ・円滑な援助関係の形成
- ・ニーズ把握と支援計画
- ・アドボカシーとエンパワメント
- ・チームアプローチ
- ・専門職倫理

授業計画

01. 利用者やその関係者、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
02. 利用者理解とそのニーズの把握
03. 利用者やその関係者との援助関係の形成
04. 利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価
05. チームアプローチの実践
06. 社会福祉士としての職業倫理、職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
07. 経営やサービスの管理運営の実践
08. 配属実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解
09. 具体的な社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
10. 社会福祉士と他職種との連携の実践
11. 利用者の支援計画の作成
12. 地域課題の発見と理解
13. 制度の実践の課題の理解
14. ソーシャルアクションの実践
15. まとめ

準備學習(予習)

毎日、その日の実習課題を設定し、その課題を念頭に置いて実習を行うこと。

準備學習(復習)

その日の実習が終了したら、実習ノートを記入し、実習課題に対する考察を行うこと。

評価方法

(1) 實習內容	100%
----------	------

教科書

参考書

社会福祉援助技術現場実習

CGSW-W-300

担当教員：長谷部 雅美

学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：6 コード：1W310808

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

実習指導者の指導のもと、次に掲げる事項について、合計180時間以上に及ぶ実習教育を行う。
1つの施設において、集中実習（合計180時間以上）の形態で行う。

(2) 学びの意義と目標

①社会福祉実践現場の体験を通して、社会福祉士としての使命と倫理を自覚できる。
②社会福祉士として必要な価値・知識・技術を獲得することによって、今後の現場実践で効果的に活用できる。

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

学びのキーワード

- ・円滑な援助関係の形成
- ・ニーズ把握と支援計画
- ・アドボカシーとエンパワメント
- ・チームアプローチ
- ・専門職倫理

授業計画

01. 利用者やその関係者、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
02. 利用者理解とそのニーズの把握
03. 利用者やその関係者との援助関係の形成
04. 利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価
05. チームアプローチの実際
06. 社会福祉士としての職業倫理、職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
07. 経営やサービスの管理運営の実際
08. 配属実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解
09. 具体的な社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
10. 社会福祉士と他職種との連携の実際
11. 利用者の支援計画の作成
12. 地域課題の発見と理解
13. 制度の実際の課題の理解
14. ソーシャルアクションの実際
15. まとめ

準備学習(予習)

毎日、その日の実習課題を設定し、その課題を念頭に置いて実習を行うこと。

準備学習(復習)

その日の実習が終了したら、実習ノートを記入し、実習課題に対する考察を行うこと。

評価方法

(1) 実習内容 100%

教科書

参考書

精神保健福祉援助演習（基礎）		CPSW-W-100
担当教員： 助川 征雄		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1W320100
学部教育の関連目		授業計画
【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目		01. オリエンテーション 精神保健福祉援助演習の意義 02. 自己覚知のための演習①ふだんの自分を知る 援助者としての自分を知る 03. 自己覚知のための演習②ライフストーリー(1) 自分のライフストーリーから学ぶ 04. 基本的なコミュニケーション技術の習得①コミュニケーションの体系的理解 05. 基本的なコミュニケーション技術の習得②コミュニケーションパターンを知る 06. 基本的な面接技術の習得①面接技法の基礎的理解と演習 07. 基本的な面接技術の習得②相談機関での面接（ロールプレイング） 08. グループダイナミクスの活用 09. 情報の収集・整理・伝達の技術の習得 10. 課題の発見・分析・解決の技術 11. 記録の技術の習得 12. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握/地域アセスメント 13. 地域福祉の計画/ネットワーキング 14. 社会資源の活用・調整・開発/サービス評価 15. 定期試験と総括
(1) 内容		
ア 自己覚知 イ 基本的なコミュニケーション技術の習得 ウ 基本的な面接技術の習得 エ グループダイナミクス活用技術の習得 オ 情報の収集・整理・伝達の技術の習得 カ 課題の発見・分析・解決の技術の習得 キ 記録の技術の習得 ク 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行うこと。 <ul style="list-style-type: none">・ 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握・ 地域アセスメント・ 地域福祉の計画・ ネットワーキング・ 社会資源の活用・調整・開発・ サービス評価		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 ① 相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いること。 ② 個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的にとりあげること。		
受講者に対する要望		
精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目の一つです。自分自身を見つめる作業を繰り返しつつ、現場実習に向け真摯に取り組む姿勢が求められます。自分の健康管理も含め学習目標を立て、日常生活を律する自己管理型の学習態度を必要とします。 		準備学習(復習)
学びのキーワード		
・ 自己覚知 ・ コミュニケーション技術 ・ グループ・ダイナミクス		
		教科書
		新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『新版 精神保健福祉士養成セミナー7巻 精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』（へるす出版）
		参考書
		(1) 授業態度 30% 出席日数含む (2) レポート等 30% (3) 期末試験 40%

精神保健福祉援助演習（専門）A		CPSW-W-200
担当教員： 相川 章子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1W320208
学部教育の関連目		授業計画
【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目		01. オリエンテーション／精神保健福祉援助における事例検討の意義 02. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討①社会的排除 03. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討②退院支援、地域移行、地域生活継続 04. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討③ピアサポート 05. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討④地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等） 06. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑤教育、就労（雇用） 07. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑥貧困、低所得、ホームレス 08. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑦ホームレスへの支援 09. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑧精神科リハビリテーション/その他危機状態にある精神保健福祉 10. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導①相談援助の過程〔インテーク（受理面接）・契約・アセスメント（課題分析） 11. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導②アウトリーチ事例を通して相談援助の過程の実技指導 12. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導③ケアマネジメント事例を通して相談援助の過程の実技指導 13. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導④チームアプローチ/ネットワーク事例を通して相談援助の過程の実技指導 14. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑤社会資源の活用・調整・開発事例を通して相談援助の過程の実技指導 15. 定期試験と総括／事例問題形式による試験及び本授業の振り返り
(1) 内容		
① 次に掲げる具体的な課題別の精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む。）を活用し、実現に向けた精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。（社会的排除、退院支援、地域移行、地域生活継続、ピアサポート、地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等）、教育、就労（雇用）、貧困、低所得、ホームレス、精神科リハビリテーション、その他の危機状態にある精神保健福祉） ② アに掲げる事例を題材として、次に掲げる具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行うこと。（インテーク（受理面接）、契約、アセスメント（課題分析）、プランニング（支援の計画）、支援の実施、モニタリング（経過観察）、効果測定と支援の評価、終結とアフターケア） ③ イの実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含めること。（アウトリーチ、ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワーク活用、社会資源の活用・調整・開発）		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 ① 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 ② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。		
受講者に対する要望		
実習ガイダンスにおいて説明した受講上の留意点をふまえた上で、4年次の配属実習の事前学習の一環でもあることを自覚すること。		準備学習(復習)
学びのキーワード		
・ 精神保健福祉士の専門性 ・ 精神保健福祉士の価値 ・ 精神保健福祉士としての技術 ・ 主体的に取り組む		
教科書		評価方法
新設精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『新版 精神保健福祉士養成セミナー 7巻 精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』（へるす出版）		
参考書		

精神保健福祉援助演習(専門) B		CPSW-W-200
担当教員： 田村 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1W320316
学部教育の関連目	授業計画	
【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける		
カリキュラム上の位置付け	01. オリエンテーション／個別的な実習体験を一般化することの意義 02. 事例検討による実習体験の一般化①プロセス・レコードの作成 03. 事例検討による実習体験の一般化②プロセス・レコードを活用したロールプレイング(1) 04. 事例検討による実習体験の一般化③プロセス・レコードを活用したロールプレイング(2) 05. 事例検討による実習体験の一般化④プロセス・レコードを活用したロールプレイング(3) 06. 事例検討による実習体験の一般化⑤インシデント方式による事例検討の意義・事例検討の準備 07. 事例検討による実習体験の一般化⑥インシデント方式による実習事例検討(1) 08. 事例検討による実習体験の一般化⑦インシデント方式による実習事例検討(2) 09. 事例検討による実習体験の一般化⑧インシデント方式による実習事例検討(3) 10. 事例検討による実習体験の一般化⑨ハーバード方式による事例検討の意義 11. 事例検討による実習体験の一般化⑩ハーバード方式による事例発表の準備 12. 事例検討による実習体験の一般化⑪ハーバード方式による実習事例検討(1) 13. 事例検討による実習体験の一般化⑫ハーバード方式による実習事例検討(2) 14. 事例検討による実習体験の一般化⑬ハーバード方式による実習事例検討(3) 15. 定期試験と総括／事例問題形式による試験及び演習Cの振り返り	
(1) 内容		
精神保健福祉援助実習後に行うことから、精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、実習における学生の個別的な体験も踏まえ、以下の内容について集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 ① 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例の検討。 ② 具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	毎回提示する課題に取り組んだうえで授業に出席すること。	
受講者に対する要望	準備学習(復習)	
	演習を通して知識や考察の不足部分を自身の専門職としての学習課題として認識し、各種テキスト等を活用して復習すること。	
学びのキーワード	評価方法	
	(1) 参加姿勢 50% 演習への取り組み姿勢とリアクションペーパーにより判断する (2) 試験 50%	
・ 精神保健福祉援助技術 ・ 精神保健福祉士の価値 ・ 自己覚知 ・ コミュニケーション	教科書	
	参考書	

精神保健福祉援助実習指導 A		CPSW-W-300
担当教員： 田村 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1W320424
学部教育の関連目	【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける	授業計画
カリキュラム上の位置付け	【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目	
(1) 内容	次に掲げる事項について個別指導及び集団指導 ① 精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ② 精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解 ③ 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ④ 現場体験学習及び見学実習 ⑤ 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解 ⑥ 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 ⑦ 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む。） ⑧ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 ⑨ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成	
(2) 学びの意義と目標	① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。	
受講者に対する要望	自分自身を見つめる作業を繰り返しつつ、現場実習に向け真摯に取り組む姿勢が求められます。自分の健康管理も含め学習目標を立て、日常生活を律する自己管理型の学習態度を必要とします。原則として欠席は認めません。	準備学習(予習)
学びのキーワード	・ ソーシャルワークの専門性 ・ 自己覚知 ・ 他者理解 ・ 社会性	準備学習(復習)
		評価方法
		教科書
		参考書

精神保健福祉援助実習指導B		CPSW-W-300
担当教員： 相川 章子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1W320532
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 事前学習の目的と意義／事前学習の意義と方法 02. 実習課題及び実習計画の作成／実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 03. 実習中の諸注意①実習生に求められる態度 04. 実習中の諸注意②実習にあたっての留意事項 05. 学内指導（現場実習期間中）①学内における指導及び自己学習(1) 06. 学内指導（現場実習期間中）②学内における指導及び自己学習(2) 07. 学内指導（現場実習期間中）③学内における指導及び自己学習(3) 08. 学内指導（現場実習期間中）④学内における指導及び自己学習(4) 09. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理①課題の達成状況の評価(1) 10. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理②課題の達成状況の評価(2) 11. 学内指導（現場実習期間中）①学内における指導及び自己学習(1) 12. 学内指導（現場実習期間中）②学内における指導及び自己学習(2) 13. 学内指導（現場実習期間中）③学内における指導及び自己学習(3) 14. 学内指導（現場実習期間中）④学内における指導及び自己学習(4) 15. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理③個別、及びピア・グループ・スーパービジョンによる課題の整理</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>提示する課題にきちんと取り組んで出席すること。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内で理解不足と感じた事柄につき、各自の学習課題として復習すること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 課題への取り組み 50% (2) 参加姿勢 50% 毎回リアクションペーパーを記載する中で授業の理解度を確認する。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>次に掲げる事項について個別指導及び集団指導 コ 巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）により、現場実習へ向けて準備を行う。 ①実習施設・機関の概要理解、②実習施設・機関の所在する地域の概要理解、③精神保健福祉士としての自己の学習課題の明確化、④実習計画の立案</div>	<div>教科書</div> <div>精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『新版 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』（へるす出版）</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</div>	<div>参考書</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>現場での実習に向けて具体的な課題設定を行い、事前準備を整えるため、毎回提示する課題に取り組んだうえで出席すること。遅刻・欠席は特段の理由がない場合、また事前申し出がない場合は認めないので、自覚して履修すること。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 精神保健福祉士 ・ 自己覚知 ・ 専門職の知識・技術 ・ 精神保健福祉の関係機関・施設</div>		

精神保健福祉援助実習指導 C		CPSW-W-300
担当教員： 田村 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1W320640
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 事後学習の目的と意義／事後学習の意義と方法、スーパービジョンの意義</div> <div>02. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理①課題の達成状況の評価(1)</div> <div>03. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理②課題の達成状況の評価(2)</div> <div>04. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理③個別、及びピア・グループ・スーパービジョンによる課題の整理</div> <div>05. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理④グループ・スーパービジョンによる課題の整理</div> <div>06. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成①実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(1)</div> <div>07. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成②実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(2)</div> <div>08. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成③実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(3)</div> <div>09. 実習報告会による全体的評価の総括①実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備</div> <div>10. 実習報告会による全体的評価の総括②実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備</div> <div>11. 実習報告会による全体的評価の総括③実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備</div> <div>12. 実習報告会による全体的評価の総括④実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備</div> <div>13. 実習報告会による全体的評価の総括⑤実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備</div> <div>14. 実習報告会による全体的評価の総括⑥実習報告会（実習の評価全体総括会）の開催</div> <div>15. 実習報告会による全体的評価の総括⑦実習報告会（実習の評価全体総括会）の開催</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>精神保健福祉援助実習の学びを踏まえ、以下の内容を個別指導とグループ討議により行う。 ①実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ②実習の評価全体総括会</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>精神保健福祉士として必要な専門的援助能力の養成をめざす。具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>実習終了後のレポート作成や報告会に向けた準備などを主体的に行うこと</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>レポートをもとに行うプレゼンテーションの結果として得た学習課題に対して、各自で復習し知識・理解を深めること</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>国家資格としての専門職養成の最終段階であることを自覚し、これまでの学習を総括するつもりで積極的に自己の成長課題を発見し、成長に向けて意欲的に取り組むことを期待する。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への取り組み姿勢 50% 授業内での発言内容、リアクションペーパーの記載内容で判断する</div> <div>(2) 提出物 25% 実習終了後のレポートおよび報告書を評価する</div> <div>(3) 報告会 25% 年度末に実施予定の報告会への参加姿勢をもとに評価する</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 精神保健福祉士 ・ 専門性 ・ 学習課題の発見</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>実習指導Bのテキストも用いる</div>	

精神保健福祉援助実習			CPSW-W-400
担当教員： 田村 綾子、相川 章子、助川 征雄			
学期： 前期（ 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 6 コード： 1W320756	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 現場実習 02. 現場実習 03. 現場実習 04. 現場実習 05. 現場実習 06. 現場実習 07. 現場実習 08. 現場実習 09. 現場実習 10. 現場実習 11. 現場実習 12. 現場実習 13. 現場実習 14. 現場実習 15. 現場実習</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>① 精神科医療機関における実習は、患者への個別支援を経験するとともに、急性期の相談や地域移行支援、地域生活支援、家族支援、関係職種との連携について体験をもとに考察し実習指導者による指導を受ける。 ② 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科医療機関の実習を通して以下を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成、イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成、ウ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成、エ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価、オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践、カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解、キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解、ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践、ケ 当該実習が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>① 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 ② 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ③ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>日々の実習課題を設定し、計画的に実習に臨むこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>実習体験をもとに精神保健福祉士としての考察を行い、理解度を認識して学習課題を見出し、翌日の実習に備えること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>精神障害当事者および専門職である精神保健福祉士その他の職種の方々の協力と指導の下に実践的に学習するための機会であることを自覚し、事前準備をしっかりと行ったうえで臨むこと。遅刻・早退・欠席は認めない。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 出席</div><div>(2) 実習記録</div><div>(3) 提出物</div></div><div>国家試験 規定日数の現場実習をおこなうこと 25% 毎日遅滞なく提出し、指導者と教員のスーパービジョンを受けること 25% 個人調査、実習計画書等を定められた期日に完成させて提出すること</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 精神保健福祉士</div><div>・ 精神障害者</div><div>・ 精神科医療機関</div><div>・ 精神保健福祉関係機関・施設</div><div>・ 自己覚知</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

専門演習(子ども家庭論)Ⅰ

SMPW-W-200

担当教員：中谷 茂一

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1WX10316

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

履修者の興味関心に基づき、児童福祉に関連するテーマをいくつか自分で設定し、学生による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員による補足をする。テーマ設定は自由だが、家族社会学関連領域、子ども虐待・ネグレクトに関連する内容が望ましい。

個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。

(2) 学びの意義と目標

演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかることを目標とする。

受講者に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的に発言・参加することが必須。自分の意見をもつと同時にその考えから一歩離れ相対化することを意識してほしい。

学びのキーワード

- ・ 家族
- ・ 子ども

授業計画

01. オリエンテーション及びテーマ設定・選択
02. 「児童福祉」の領域と研究方法について
03. 発表・ディスカッション及びコメント
04. 発表・ディスカッション及びコメント
05. 発表・ディスカッション及びコメント
06. 発表・ディスカッション及びコメント
07. 発表・ディスカッション及びコメント
08. 発表・ディスカッション及びコメント
09. 発表・ディスカッション及びコメント
10. 発表・ディスカッション及びコメント
11. 発表・ディスカッション及びコメント
12. 発表・ディスカッション及びコメント
13. 発表・ディスカッション及びコメント
14. 発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

準備学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) ディスカッション参加状況 | 40% |
| (2) 発表内容 | 60% |

教科書

岩上真珠 『ライフコースとジェンダーで読む家族 第3版』(有斐閣)

参考書

専門演習(子ども家庭論)II

SMPW-W-300

担当教員：中谷 茂一

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1WX10424

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

自己の興味関心に基づいて設定したテーマについて学生個人による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。

個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティアなどから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。

(2) 学びの意義と目標

専門演習Iにおける発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に発表レジュメの質を高めることも目標とする。

受講者に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的な発言・参加が必須。関連文献も積極的に探索し読込むことが必要。個性的な発想と科学的な実証による発表を望む。

学びのキーワード

- ・ 家族
- ・ 子ども

授業計画

01. 専門演習IIの達成課題と発表抄録作成について
02. 発表・ディスカッション及びコメント
03. 発表・ディスカッション及びコメント
04. 発表・ディスカッション及びコメント
05. 発表・ディスカッション及びコメント
06. 発表・ディスカッション及びコメント
07. 発表・ディスカッション及びコメント
08. 発表・ディスカッション及びコメント
09. 発表・ディスカッション及びコメント
10. 発表・ディスカッション及びコメント
11. 発表・ディスカッション及びコメント
12. 発表・ディスカッション及びコメント
13. 発表・ディスカッション及びコメント
14. 発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

準備学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) ディスカッション参加状況 | 40% |
| (2) 発表内容 | 60% |

教科書

参考書

専門演習(高齢社会論)Ⅰ

SMPW-W-200

担当教員：古谷野 亘

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1WX10532

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

文献・資料の講読と解釈、討議などを行う。
ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。

(2) 学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。

受講者に対する要望

関心をもち主体的に参加すること。

学びのキーワード

授業計画

01. 文献・資料の講読と解釈、討議 (1)
02. 文献・資料の講読と解釈、討議 (2)
03. 文献・資料の講読と解釈、討議 (3)
04. 文献・資料の講読と解釈、討議 (4)
05. 文献・資料の講読と解釈、討議 (5)
06. 文献・資料の講読と解釈、討議 (6)
07. 文献・資料の講読と解釈、討議 (7)
08. 文献・資料の講読と解釈、討議 (8)
09. 文献・資料の講読と解釈、討議 (9)
10. 文献・資料の講読と解釈、討議 (10)
11. 文献・資料の講読と解釈、討議 (11)
12. 文献・資料の講読と解釈、討議 (12)
13. 文献・資料の講読と解釈、討議 (13)
14. 文献・資料の講読と解釈、討議 (14)
15. 文献・資料の講読と解釈、討議 (15)

準備学習(予習)

レポーターになったときはもちろん他の時にも、指定されたテキストの箇所を精読し、授業時間の討議に備える予習が必要。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返る復習が必要。

評価方法

(1) 平常点

100%

教科書

古谷野亘・安藤孝敏 『改訂 新社会老年学:シニアライフのゆくえ』 (ワールドプランニング)

参考書

授業の中で指示する

専門演習(高齢社会論)Ⅱ

SMPW-W-300

担当教員：古谷野 亘

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1WX10640

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

文献・資料の講読と解釈、討議などを行う。
ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。

(2) 学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。

受講者に対する要望

関心をもち主体的に参加すること。

学びのキーワード

授業計画

01. 文献・資料の講読と解釈、討議 (1)
02. 文献・資料の講読と解釈、討議 (2)
03. 文献・資料の講読と解釈、討議 (3)
04. 文献・資料の講読と解釈、討議 (4)
05. 文献・資料の講読と解釈、討議 (5)
06. 文献・資料の講読と解釈、討議 (6)
07. 文献・資料の講読と解釈、討議 (7)
08. 文献・資料の講読と解釈、討議 (8)
09. 文献・資料の講読と解釈、討議 (9)
10. 文献・資料の講読と解釈、討議 (10)
11. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (1)
12. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (2)
13. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (3)
14. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (4)
15. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (5)

準備学習(予習)

レポーターになったときはもちろん他の時にも、指定されたテキストの箇所を精読し、授業時間の討議に備える予習が必要。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返る復習が必要。

評価方法

(1) 平常点 100%

教科書

古谷野亘・安藤孝敏 『改訂 新社会老年学：シニアライフのゆくえ』 (ワールドプランニング)

参考書

授業の中で指示する

専門演習(カウンセリング論)II

SMPW-W-300

担当教員：長谷川 恵美子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1WX11204

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

心理学など、「ひと」に関する研究テーマの卒業研究をひかえ、自ら問題意識を持って、この分野に関連するトピックを調べ、まとめて、発表するという研究方法を身につけることを目的としている。

(2) 学びの意義と目標

心理学系の研究方法の基礎を身につけることを目的としている。なお、受講者と相談しながら、また受講者の人数に応じ、文献講読、基本的な心理療法の実習などを適宜行う予定である。

受講者に対する要望

受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

学びのキーワード

- ・ひと
- ・心理
- ・研究法

授業計画

01. 第1回 オリエンテーション
02. 第2回～ 第一回に受講者と今後の方針について検討しながら、文献講読、実習、研究報告などを行う。
03. 個人発表とディスカッション(1)
04. 個人発表とディスカッション(2)
05. 個人発表とディスカッション(3)
06. 個人発表とディスカッション(4)
07. 個人発表とディスカッション(5)
08. 個人発表とディスカッション(6)
09. 個人発表とディスカッション(7)
10. 個人発表とディスカッション(8)
11. 個人発表とディスカッション(9)
12. 個人発表とディスカッション(10)
13. 個人発表とディスカッション(11)
14. 個人発表とディスカッション(12)
15. まとめ

準備学習(予習)

それぞれのテーマについて配布される資料以外に、自ら資料を集めテーマについての知識を広げつつ積極的に参加することを期待する。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) ディスカッション | 20% |

教科書

参考書

専門演習(生活支援論)Ⅰ		SMPW-W-200						
担当教員： 田村 綾子								
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1WX12128						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーションと自己紹介 02. グループ演習 1 03. グループ演習 2 04. グループ演習 3 05. 学生からのプレゼンテーションと協議 06. 学生からのプレゼンテーションと協議 07. 学生からのプレゼンテーションと協議 08. 学生からのプレゼンテーションと協議 09. 学生からのプレゼンテーションと協議 10. 学生からのプレゼンテーションと協議 11. 学生からのプレゼンテーションと協議 12. 学生からのプレゼンテーションと協議 13. 学生からのプレゼンテーションと協議 14. ゼミ総括 15. ゼミ総括</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>・ 人が生まれてから死ぬまでの各段階（ライフサイクル）における発達課題を軸に、「生きる」ことについて各自のこれまでの体験や各種文献を元に考察する。 ・ 学生間での意見交換を通じ、生きることにに対する多様な価値観を知り、ソーシャルワーカーとして「人の暮らし」に寄り添う上で大切な理念や姿勢について、自己覚知を深めながら考えることを目指す。 ・ 精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>主体的に自己の学習課題を見出し、人間福祉学科の学生に相応しい学びの基礎を習得することを目指す。 ソーシャルワーカーとして必要な「人に対する関心」「社会に対する関心」を醸成し、コミュニケーション能力を高めることを目指す。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業は、教員からの講義や文献紹介を元に意見交換する他、各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（施設見学，ボランティア等）を活用した意見交換等により進める。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>学生からのプレゼンテーションに際しては、事前に指定する文献等の熟読を課す。また、プレゼンテーションの担当者はレジュメ作成を事前におこなう。</div>							
	<div>準備学習(復習)</div> <div>リアクションペーパーを用いて、各自の感想、考察を言語化する時間を設ける。各回の内容について、理解できなかったところを各自で調べて理解しておくこと。</div>							
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 参加姿勢</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) プレゼンテーション</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) リアクションペーパー</td><td>20%</td></tr></table> <div>ゼミでは主体性、積極性を重視するため、出席と参加態度での評価割合が高くなる。</div>		(1) 参加姿勢	50%	(2) プレゼンテーション	30%	(3) リアクションペーパー	20%
(1) 参加姿勢	50%							
(2) プレゼンテーション	30%							
(3) リアクションペーパー	20%							
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 生活者 ・ 相談援助関係 ・ コミュニケーション ・ 人と社会 ・ 倫理観</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>							

専門演習(生活支援論)Ⅱ		SMPW-W-300					
担当教員： 田村 綾子							
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1WX12236					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 前学期振り返りと研究計画 02. グループ演習 1 03. グループ演習 2 04. 学生からのプレゼンテーション 05. 学生からのプレゼンテーション 06. 学生からのプレゼンテーション 07. 学生からのプレゼンテーション 08. 学生からのプレゼンテーション 09. 学生からのプレゼンテーション 10. 学生からのプレゼンテーション 11. 学生からのプレゼンテーション 12. 学生からのプレゼンテーション 13. 学生からのプレゼンテーション 14. 卒業研究テーマについて 15. 総括</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>・ 前学期の内容を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する考察を深化させる。 ・ 精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。 ・ 専門職としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。</div>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>授業は、各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（施設見学，ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進め、随時教員からの講義や文献紹介を行う。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>学生からのプレゼンテーションを中心に進めるため、事前に指定されるテーマについて文献等を熟読しておくこと。また、プレゼンテーションの担当者はレジュメ作成を事前におこなうこと。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>出席することを重視し、毎回話し合われるテーマについて関心をもって積極的に参加、発言すること。自分の頭と心で考え、感じる癖をつけること。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>リアクションペーパーを用いて、各自の感想、考察を言語化する時間を設ける。各回の内容について、理解できなかったところを各自で調べて理解しておくこと。</div>						
	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 参加姿勢</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) プレゼンテーション</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) リアクションペーパー</td><td>20%</td></tr></table></div> <div>遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を発言等を通じて表現すること。プレゼンテーションの担当者は、他者にわかりやすく、意見を出しやすいようにレジュメを作成すること、これらを総合的に評価する。</div>		(1) 参加姿勢	50%	(2) プレゼンテーション	30%	(3) リアクションペーパー
(1) 参加姿勢	50%						
(2) プレゼンテーション	30%						
(3) リアクションペーパー	20%						
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 生活支援 ・ ライフサイクル ・ 福祉課題 ・ 人と社会 ・ 倫理観</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>						

専門演習(障害者福祉論)Ⅰ		SMPW-W-200							
担当教員： 木下 大生									
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1WX12548							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. 障害者福祉の課題(1) 03. 障害者福祉の課題(2) 04. 障害者福祉の課題(3) 05. 障害者福祉の課題において自分の関心を見つける―テーマの見つけ方― 06. テーマの深め方(1)―情報の収集の方法― 07. テーマの深め方(2)―情報の整理の方法― 08. テーマの深め方(3)―情報をまとめる方法― 09. プレゼンテーションの方法 10. 各自のテーマ報告 11. 中間報告（個別指導） 12. 中間報告（個別指導） 13. 発表・ディスカッション・コメント 14. 発表・ディスカッション・コメント 15. まとめ</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>障害者に関連する社会的課題を確認し、それと照らして自身の関心を明確にしたのち、テーマについて、文献研究、フィールドワーク、ボランティア、自身の経験等から情報を収集、精査、まとめ、発表する、というプロセスを踏む。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>自身のテーマが決定するまでは、自分の関心が何にあるのかの明確化することに努めること。テーマが決定してからは、テーマに関連する情報収集のためのアンテナを高く立て、より多くの関連情報を集めることに努めること。</div>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>目標は、障害者福祉に関して、以下の4点を達成することである。意義は、これらを達成することにより、自身が関心を持つ社会的課題を明確にし、まとめ、プレゼンテーションをする力を身に着けることが出来る。 ①自身が関心を持つテーマを見つける ②テーマに関する情報を収集する ③収集した情報を整理しまとめる ④テーマについて調査・まとめた内容をプレゼンテーションする</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>準備学習等の分量と内容
自身のテーマが決定するまでは、自分の関心が何にあるのかの明確化することに努めること。テーマが決定してからは、テーマに関連する情報収集のためのアンテナを高く立て、より多くの関連情報を集めることに努めること。
</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>各自がテーマを決め、調べ、まとめ、発表する、ということを意識し、毎回の授業の内容、他の学生のテーマの決め方、報告の仕方等の振り返りをしておくこと。</div>							
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 授業参加態度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 発表内容</td><td>40%</td></tr></table> <div>評価方法
1. 発表内容
2. ディスカッションへの参加姿勢・態度
上記2点から評価をする。
</div>		(1) 平常点	30%	(2) 授業参加態度	30%	(3) 発表内容	40%
		(1) 平常点	30%						
(2) 授業参加態度	30%								
(3) 発表内容	40%								
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 障害者福祉・ 調べる・ まとめる・ 発表する</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>							

専門演習(障害者福祉論)Ⅱ

SMPW-W-300

担当教員：木下 大生

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1WX12656

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習Ⅰで学んだことを振り返りながら、各自、障害者の生活や福祉に関連するテーマで、特に興味や関心があるテーマをみつけ、その内容について深めていく。

(2) 学びの意義と目標

自身が関心を持てるテーマを見つけることが第一の目標となる。テーマが見つかったからは、その内容について、文献、フィールドワーク等から知見を深め、テーマを出来るだけ具体的にしていく。それにより、テーマに対する独自の視点を醸成する。

受講者に対する要望

自身のテーマに限らず、他の学生のテーマにも関心を持ち、積極的に発言（疑問や意見）をし、また他の学生の発言にも耳を傾け、学生同志での活発なディスカッションをしてください。

学びのキーワード

- ・関心のあるテーマの探求
- ・プレゼンテーション
- ・ディスカッション
- ・好奇心
- ・自己覚知

授業計画

01. ゼミの進め方についての確認
02. 専門演習Ⅰの振り返り
03. グループディスカッション（障害者福祉全般について）
04. 研究テーマの発表
05. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（1）
06. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（2）
07. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（3）
08. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（4）
09. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（5）
10. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（6）
11. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（7）
12. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（8）
13. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（9）
14. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（10）
15. まとめ

準備学習(予習)

自身が発表する際は、きちんと事前準備をしてくること。

準備学習(復習)

自身のテーマや内容について、他の学生や教員から寄せられた疑問や質問については、必ず調べる。また、授業内で生じた疑問は自ら調べ解決すること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 参加態度 | 30% |
| (3) レポート | 20% |
| (4) プレゼンテーション | 30% |

教科書

参考書

専門演習(社会心理学) I

SMPW-W-200

担当教員： 中原 純

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1WX13306

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

印象形成、説得、自己呈示、ソーシャルサポート、援助行動、社会的アイデンティティといった社会心理学が伝統的に扱ってきた様々なトピックに関する文献を購読する。各回、担当者が関心のあるトピックについてテキストを読み、授業時に報告する。担当者以外の受講生は、事前にテキストを読み、授業時に質問やコメントができるようにしてくる。

(2) 学びの意義と目標

身近な社会の中で日々起きている具体的な現象を、社会心理学の専門用語を用いて抽象的に表現する能力を身に着ける。発表したり、議論をする力を養う。

受講者に対する要望

学生同士で議論することを期待します。どんな小さなことでもかまいませんので、積極的に発言してください。

学びのキーワード

- ・印象形成
- ・説得
- ・自己呈示
- ・ソーシャルサポート
- ・集団的アイデンティティ

授業計画

01. オリエンテーション
02. 文献購読と討議
03. 文献購読と討議
04. 文献購読と討議
05. 文献購読と討議
06. 文献購読と討議
07. 文献購読と討議
08. 文献購読と討議
09. 文献購読と討議
10. 文献購読と討議
11. 文献購読と討議
12. 文献購読と討議
13. 文献購読と討議
14. 文献購読と討議
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に文献を購読し、質問やコメントを考えておく。

準備学習(復習)

授業中に解決できなかったトピックがあれば、次週までに調べておく。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 発表 | 60% |

教科書

参考書

専門演習(社会心理学)Ⅱ

担当教員： 中原 純

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 1WX13410

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

人が社会の中で生活することで生じる様々な現象を、“こころ”との結びつきを通して扱う社会心理学に関する学術論文を購読する。購読する中で、社会心理学のトピックについて知識を深めることはもちろんであるが、加えて、リサーチクエスションのたて方、実験方法、調査方法、統計解析の方法、結果のまとめ方などを学ぶ。また、受講生の意欲次第ではあるが、過去に行われた実験や調査などの追試を実際に行うこともあり得る。

(2) 学びの意義と目標

卒業研究を実施するために、社会心理学の知識を深め、基本的な方法論を学ぶ。また、「理論的に考えた仮説を、具体的な現象を通して実証する」という基本的な思考プロセスを学習し、抽象と具体を結び付けて考える思考力を養う。

受講者に対する要望

学生同士で議論することを期待します。どんな小さなことでもかまいませんので、積極的に発言してください。

学びのキーワード

- ・ 印象形成
- ・ 説得
- ・ 自己呈示
- ・ ソーシャルサポート
- ・ 集団的アイデンティティ

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学術論文の検索方法
03. 学術論文に関する発表と討議
04. 学術論文に関する発表と討議
05. 学術論文に関する発表と討議
06. 学術論文に関する発表と討議
07. 学術論文に関する発表と討議
08. 学術論文に関する発表と討議
09. 学術論文に関する発表と討議
10. 学術論文に関する発表と討議
11. 学術論文に関する発表と討議
12. 学術論文に関する発表と討議
13. 学術論文に関する発表と討議
14. 学術論文に関する発表と討議
15. まとめ

準備学習(予習)

パワーポイントを使用した発表を行ってまいります。授業内でも操作方法の解説を行いますが、不安のある人は、受講前に練習をしておいてください。各回の発表担当者は論文を購読し、内容をパワーポイントで発表する準備をしてください。担当者以外の受講生も、事前に論文を読み、質問やコメントを考えておくようにしてください。

準備学習(復習)

学術論文の購読は、初学者には困難です。授業後も多くの疑問が残ると思いますので、内容を復習し、出来る限り解決するようにしましょう。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 発表 | 60% |

教科書

参考書

卒業研究(子ども家庭論)Ⅰ		SMPW-W-300
担当教員： 中谷 茂一		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1WX20316
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 卒業研究の達成課題と研究テーマ設定について</div> <div>02. 卒業研究の方法について</div> <div>03. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>04. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>05. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>06. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>07. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>08. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>09. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>10. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>11. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>12. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>13. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>14. 発表・ディスカッション及びコメント</div> <div>15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。 卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「専門演習Ⅰ・Ⅱ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>自己のレジュメの作成準備</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>単なる「出席」ではなく、積極的な発言・参加が必須。関連文献も積極的に探索し読込むことが必要。個性的な発想と科学的な実証による研究を望む。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) ディスカッション参加状況 40%</div> <div>(2) 発表内容 60%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 家族</div> <div>・ 子ども</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>

卒業研究(子ども家庭論)Ⅱ

SMPW-W-400

担当教員： 中谷 茂一

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1WX20424

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。

テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。

(2) 学びの意義と目標

「卒業研究Ⅰ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポートを目標とする。

受講者に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的な発言・参加が必須。関連文献も積極的に探索し読込むことが必要。個性的な発想と科学的な実証による研究を望む。

学びのキーワード

- ・ 家族
- ・ 子ども

授業計画

01. 卒業研究の達成課題と研究テーマ設定について
02. 卒業研究の方法について
03. 〈テーマA〉発表・ディスカッション及びコメント
04. 〈テーマB〉発表・ディスカッション及びコメント
05. 〈テーマC〉発表・ディスカッション及びコメント
06. 〈テーマD〉発表・ディスカッション及びコメント
07. 〈テーマE〉発表・ディスカッション及びコメント
08. 〈テーマF〉発表・ディスカッション及びコメント
09. 〈テーマG〉発表・ディスカッション及びコメント
10. 〈テーマH〉発表・ディスカッション及びコメント
11. 〈テーマI〉発表・ディスカッション及びコメント
12. 〈テーマJ〉発表・ディスカッション及びコメント
13. 〈テーマK〉発表・ディスカッション及びコメント
14. 〈テーマL〉発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

準備学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) ディスカッション参加状況 | 40% |
| (2) 発表内容 | 60% |

教科書

参考書

卒業研究(高齢社会論)Ⅰ		SMPW-W-300
担当教員：古谷野 亘		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目		単位：1 コード：1WX20532
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 研究の中間発表と討議 (1)</div> <div>02. 研究の中間発表と討議 (2)</div> <div>03. 研究の中間発表と討議 (3)</div> <div>04. 研究の中間発表と討議 (4)</div> <div>05. 研究の中間発表と討議 (5)</div> <div>06. 研究の中間発表と討議 (6)</div> <div>07. 研究の中間発表と討議 (7)</div> <div>08. 研究の中間発表と討議 (8)</div> <div>09. 研究の中間発表と討議 (9)</div> <div>10. 研究の中間発表と討議 (10)</div> <div>11. 研究の中間発表と討議 (11)</div> <div>12. 研究の中間発表と討議 (12)</div> <div>13. 研究の中間発表と討議 (13)</div> <div>14. 研究の中間発表と討議 (14)</div> <div>15. 研究の中間発表と討議 (15)</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>輪番で研究の途中経過を報告し、その報告をもとに皆で議論する。その他のことは、ゼミ参加者と相談して決める。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について卒業研究を進める。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各自自分の研究を進め、輪番で進捗状況を報告する。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返り、自分の研究に反映させる。
</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 100%</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>自主的に研究を進めるとともに、授業では積極的に発言する。

</div>		
<div>学びのキーワード</div>	<div>教科書</div> <div>使用しない</div> <div>参考書</div> <div>授業の中で指示する</div>	

卒業研究(高齢社会論)Ⅱ

SMPW-W-400

担当教員：古谷野 亘

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1WX20640

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

輪番で研究の途中経過を報告し、その報告討論をもとにレポートを作成する。その他のことは、ゼミ参加者と相談して決める。

(2) 学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について卒業研究を進め、研究結果をレポートにまとめる。

受講者に対する要望

自主的に研究を進めるとともに、授業では積極的に発言する。

学びのキーワード

授業計画

01. 研究の中間発表と討議 (1)
02. 研究の中間発表と討議 (2)
03. 研究の中間発表と討議 (3)
04. 研究の中間発表と討議 (4)
05. 研究の中間発表と討議 (5)
06. 研究の中間発表と討議 (6)
07. 研究の中間発表と討議 (7)
08. 研究の中間発表と討議 (8)
09. 研究の中間発表と討議 (9)
10. 研究の中間発表と討議 (10)
11. 研究の中間発表と討議 (11)
12. 研究の中間発表と討議 (12)
13. 研究の中間発表と討議 (13)
14. 研究の中間発表と討議 (14)
15. 研究の中間発表と討議 (15)

準備学習(予習)

各自自分の研究を進め、輪番で進捗状況を報告する。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返り、自分の研究に反映させる。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

使用しない

参考書

授業の中で指示する

卒業研究(カウンセリング論)Ⅰ

SMPW-W-300

担当教員：長谷川 恵美子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1WX21196

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士認定資格(W学科)：その他

(1) 内容

どのように人間の心や行動を理解し、どのように検証し、どのように記述するのか。まずは、研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

(2) 学びの意義と目標

心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法を身につけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。

受講者に対する要望

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

学びのキーワード

- ・ひと
- ・心理
- ・研究法

授業計画

01. 授業開始時に受講者の目的と希望にあわせて計画をたてる
02. 個人発表とディスカッション(1)
03. 個人発表とディスカッション(2)
04. 個人発表とディスカッション(3)
05. 個人発表とディスカッション(4)
06. 個人発表とディスカッション(5)
07. 個人発表とディスカッション(6)
08. 個人発表とディスカッション(7)
09. 個人発表とディスカッション(8)
10. 個人発表とディスカッション(9)
11. 個人発表とディスカッション(10)
12. 個人発表とディスカッション(11)
13. 個人発表とディスカッション(12)
14. 個人発表とディスカッション(13)
15. まとめ

準備学習(予習)

それぞれのテーマや目的に応じた学習であるため、授業外での学習が重要となる。さらに授業時に積極的にディスカッションするとともに、その議論を活かし学習を深めることを期待する。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) ディスカッション | 20% |

教科書

参考書

卒業研究(カウンセリング論)Ⅱ

SMPW-W-400

担当教員：長谷川 恵美子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1WX21204

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士認定資格(W学科)：その他

(1) 内容

心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

特に、自らの研究テーマを、どのようにまとめ、ひとに伝えるのかなど、よりよい報告の仕方や発表方法に関してディスカッションすることにより、発表技術の向上をめざす。

(2) 学びの意義と目標

心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。

受講者に対する要望

受講者の興味関心にあわせ、自ら文献などで知識を深めることを期待する。

学びのキーワード

- ・ひと
- ・心理
- ・研究法

授業計画

01. 授業開始時に受講者の目的と希望にあわせて計画をたてる
02. 個人発表とディスカッション (1)
03. 個人発表とディスカッション (2)
04. 個人発表とディスカッション (3)
05. 個人発表とディスカッション (4)
06. 個人発表とディスカッション (5)
07. 個人発表とディスカッション (6)
08. 研究発表 1
09. 研究発表 2
10. 研究発表 3
11. 研究発表 4
12. 研究発表 5
13. 研究発表 6
14. まとめ 1
15. まとめ 2

準備学習(予習)

各担当者によって配布される資料を熟読しディスカッションに備えるとともに、各自のテーマについて自らのデータと文献を照らし合わせながら発表資料を作成することを期待する。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) ディスカッション | 20% |

教科書

参考書

卒業研究(生活支援論)Ⅰ		SMPW-W-300	
担当教員： 田村 綾子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択必修科目
単位： 1		コード： 1WX22128	
学部教育の関連目		授業計画	
【W】 論理的思考・表現力： 論理的に物事を考え、表現する力を身につける		01. 研究テーマについて 02. 文献検索方法 03. グループ演習 1 04. グループ演習 2 05. グループ演習 3 06. 卒業研究レポート発表と意見交換 07. 卒業研究レポート発表と意見交換 08. 卒業研究レポート発表と意見交換 09. 卒業研究レポート発表と意見交換 10. 卒業研究レポート発表と意見交換 11. 卒業研究レポート発表と意見交換 12. 卒業研究レポート発表と意見交換 13. 卒業研究レポート発表と意見交換 14. 卒業研究レポート発表と意見交換 15. 総括	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
・ 専門演習 1・2 を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する考察をより深化させる。 ・ 精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。 ・ 人間福祉学を学んだ者としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。			
(2) 学びの意義と目標			
各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（SW実習，施設見学，ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進めることで、主体的に考え、また自己を省察し言語化出来る力を醸成することをめざす。		準備学習(予習)	
		自己の卒業研究テーマを定め、継続的に文献検索と講読、レポートの記載をおこなうこと。	
		準備学習(復習)	
		プレゼンテーションと意見交換を中心に授業を進めることから、協議された内容を反映させて各自の研究テーマについての考察を深化させること。	
受講者に対する要望		評価方法	
卒業までに論文を作成することを前提とし、各自の関心に基づく生活支援のテーマを明確化して問題意識を持って主体的に課題探究に取り組むことを求める。		(1) 参加姿勢 50% (2) プレゼンテーション 30% (3) 提出物 20%	
学びのキーワード		教科書	
・ ソーシャルワーク ・ 援助関係 ・ 自己洞察 ・ 現代社会と福祉問題		参考書	

卒業研究(生活支援論)Ⅱ		SMPW-W-400
担当教員： 田村 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 1 コード： 1WX22236
学部教育の関連目		授業計画
【W】 論理的思考・表現力： 論理的に物事を考え、表現する力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション 02. 学生からのプレゼンテーションと意見交換① 03. 学生からのプレゼンテーションと意見交換② 04. 学生からのプレゼンテーションと意見交換③ 05. 学生からのプレゼンテーションと意見交換④ 06. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑤ 07. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑥ 08. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑦ 09. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑧ 10. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑨ 11. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑩ 12. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑪ 13. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑫ 14. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑬ 15. まとめ
(1) 内容		
・卒業に向け、本学人間福祉学科で学んだことの集大成を論文として記述することを目的とし、文献検索、調査研究、プレゼンテーションと意見交換に基づく考察の深化を行う。 ・専門演習 1・2 を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する自己の価値観を確立させる。 ・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。 ・人間福祉学を学んだ者としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（SW実習，施設見学，ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進めることで、主体的に考え、また自己を省察し言語化出来る力を醸成することをめざす。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
卒業までに論文を作成することを前提とし、各自の関心に基づく生活支援のテーマを明確化して問題意識を持って主体的に課題探究に取り組むことを求める。		
学びのキーワード		評価方法
・ソーシャルワーク ・社会福祉		
		教科書
		参考書

（1）参加姿勢	50%
（2）研究内容	30%
（3）提出物	20%

遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を、発言を通じて表現すること。プレゼンテーションの担当者は、他者にわかりやすく、意見を出しやすいようにレジメを作成すること、これらを元に総合的に評価する。

卒業研究(地域援助心理学)Ⅰ

SMPW-W-300

担当教員：堀 恭子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：1WX22560

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士認定資格(W学科)：その他

(1) 内容

自分がテーマとしたいことをどうやって研究の形にするのかを学んでいく。具体的には各自自分のテーマに関連する先行文献を探し、これまで行われてきた研究を把握したうえで、自身の研究テーマとその研究方法について検討していく

(2) 学びの意義と目標

心理学的視点を持った研究に取り掛かる。自身の研究を進めるために、集めた資料から確実に言えること・言えないことを整理したうえで、具体的な研究内容を決定していく。発表においては、他者にも論理的に説明できるようになることを目的とする。

受講者に対する要望

自分の興味・関心を具体的な研究にしていく第1歩を踏み出す重要な時期です。授業外でも必要な時には連絡を取り合って共に進めてゆきたいと考えています。また互いに意見を述べ合うことから新しい学びをつかんでほしいと考えています。

学びのキーワード

- ・問いの探求
- ・先行研究の検討
- ・研究方法の検討

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究内容について発表とディスカッション (1)
03. 研究内容について発表とディスカッション (2)
04. 研究内容について発表とディスカッション (3)
05. 研究内容について発表とディスカッション (4)
06. 研究内容について発表とディスカッション (5)
07. 研究内容について発表とディスカッション (6)
08. 研究内容について発表とディスカッション (7)
09. 研究内容について発表とディスカッション (8)
10. 研究内容について発表とディスカッション (9)
11. 研究経過報告とディスカッション (1)
12. 研究経過報告とディスカッション (2)
13. 研究経過報告とディスカッション (3)
14. 研究経過報告とディスカッション (4)
15. まとめ

準備学習(予習)

研究を進めるために、各自のテーマに沿った学習が必要とされ、学んだことをまとめて発表する準備を行うなど授業外の学習機会が重要となる

準備学習(復習)

授業内で議論されたことでわからないこと・気になったことをそのままにせず、すぐに調べるなどして、自身の学習を深めるヒントにすることを期待する

評価方法

- | | |
|---------|------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 報告 | 70% 報告には事前準備、ディスカッション参加も含みます |

教科書

参考書

参考文献を適宜指示します。

卒業研究(地域援助心理学)Ⅱ

SMPW-W-400

担当教員：堀 恭子

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 1 コード： 1WX22668

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士認定資格(W学科)：その他

(1) 内容

卒業研究の目標を設定し、確実に実行、まとめて発表するまでを内容とする。

(2) 学びの意義と目標

卒業研究Ⅰまでで学んだことを活かし、自身のテーマに沿った研究をすすめ、まとめ、発表する作業を通じて、研究手法だけでなく、テーマに沿った報告を作成し、発表して、その内容を報告を受ける人に理解してもらう力を身に着けることを目標とする

受講者に対する要望

卒業研究は、自身の興味・関心を絞り込んでテーマを決め、調査等を実行し、その結果をまとめて発表するといった、これまでの学びの集大成です。真摯に取り組んで、自分の力を実感してほしいと思います。

学びのキーワード

- ・文献検討：関連する文献を探す
- ・テーマに沿った研究方法模索
- ・研究の実行
- ・研究のまとめ
- ・研究の発表

授業計画

01. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (1)
02. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (2)
03. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (3)
04. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (4)
05. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (5)
06. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (6)
07. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (7)
08. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (8)
09. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (9)
10. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (10)
11. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (11)
12. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (12)
13. 卒業研究発表の準備
14. 各自の卒業研究発表
15. まとめ

準備学習(予習)

演習で行う発表やディスカッションから得たものを自身の研究にも活かせるよう、事前準備をしっかりと行ってほしい。

準備学習(復習)

ゼミや教員の個別指導で検討された事項から、内容を見直しながら卒業研究としてまとめる努力をしてほしい。

評価方法

- | | |
|----------|--------------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 卒業研究 | 70% 卒業研究の内容だけでなく、準備から発表までの内容すべてを含みます |

教科書

参考書

各自の研究テーマに沿った文献を探し、活用する。

卒業研究(人間教育論)Ⅱ

担当教員：阿部 洋治

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：1 コード：1WX22810

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

福祉的社会的形成は福祉的人間の育成が土台にならなければならない。そういう視点から教育思想に着目する。

(2) 学びの意義と目標

教育思想に着目しつつ、人間とは何か、社会はいかにあるべきかについての思索し、次の時代を形成する問題意識を深めたい。

受講者に対する要望

どのような社会を目指し、また自分がどういう貢献をするかというパースペクティブの下に、小さなことにも関心をもち、それを掘りさげ、小さなところから将来の改革に繋がる発想や思索ができるように取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・課題発見
- ・分析と考察
- ・問題の掘り下げ
- ・歴史的視点
- ・創造的発想

授業計画

01. ゼミ生自身の関心に基づく研究のレポートとディスカッション
02. ゼミ生自身の関心に基づく研究のレポートとディスカッション
03. ゼミ生自身の関心に基づく研究のレポートとディスカッション
04. ゼミ生自身の関心に基づく研究のレポートとディスカッション
05. ゼミ生自身の関心に基づく研究のレポートとディスカッション
06. ゼミ生自身の関心に基づく研究のレポートとディスカッション
07. 卒業論文テーマの絞り込み
08. 卒業論文テーマの絞り込み
09. 卒業論文テーマの絞り込み
10. 卒業論文テーマに関わる文献調査と研究発表
11. 卒業論文テーマに関わる文献調査と研究発表
12. 卒業論文テーマに関わる文献調査と研究発表
13. 卒業論文テーマに関わる文献調査と研究発表
14. 卒業論文テーマに関わる文献調査と研究発表
15. 卒業論文テーマに関わる文献調査と研究発表

準備学習(予習)

準備学習(復習)

評価方法

- (1) 研究への態度と発表内容

教科書

参考書

卒業研究(社会心理学)Ⅰ

担当教員： 中原 純

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 1 コード： 1WX22910

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒業研究を実施する。特に、卒業研究Ⅰでは、各自が興味あるテーマに関して、先行研究を調べ、研究計画を作成することを求める。研究計画が完成した受講生から、順次、実験や調査を実施する。

(2) 学びの意義と目標

社会心理学の研究を通して、理論的かつ論理的に考える力を養う。また、データ分析のためのソフトを扱うスキル、プレゼンテーションのスキル、ディスカッションのスキルなどを身に着ける。

受講者に対する要望

心理学研究法、心理学実験実習A、心理学実験実習Bを受講済み、もしくは同時受講していることが望ましい。自分でテーマを決め、自主的に勉強し、研究を進めていく力が試されます。教員は授業時間外でも相談にのりますので、積極的に研究にチャレンジしましょう。

学びのキーワード

- ・ 研究計画
- ・ 実験
- ・ 調査

授業計画

01. 進捗状況の報告と討議
02. 進捗状況の報告と討議
03. 進捗状況の報告と討議
04. 進捗状況の報告と討議
05. 進捗状況の報告と討議
06. 進捗状況の報告と討議
07. 進捗状況の報告と討議
08. 進捗状況の報告と討議
09. 進捗状況の報告と討議
10. 進捗状況の報告と討議
11. 進捗状況の報告と討議
12. 進捗状況の報告と討議
13. 進捗状況の報告と討議
14. 進捗状況の報告と討議
15. まとめ

準備学習(予習)

各自が興味・関心のある先行研究をレビューし、研究計画を考える。

準備学習(復習)

授業での議論をふまえ、さらに先行研究を調べたり、研究計画の修正を行う。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 研究計画 | 50% |

教科書

参考書

専門演習(高齢者福祉論)Ⅰ

SMPW-W-200

担当教員：長谷部 雅美

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：2WX10590

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習(高齢者福祉論)Ⅰでは、高齢者に関わる社会問題や課題について、文献や書籍等を通じて調べ、まとめ、発表します。発表後は、参加者全員で意見交換を行い、発表内容の理解を深めます。

(2) 学びの意義と目標

高齢者福祉領域において解決が求められる社会問題を知るだけでなく、他者に伝え、共に考えることで、論理的思考力や表現力を養います。また、一連の学習を通して、自分の関心あるテーマにしっかりと向き合うことを目指します。

受講者に対する要望

専門演習ですので、自らの関心に基づいて主体的に学んでほしいと思います。調べる、考える、伝える力は、大学だけでなく社会に出ても必要になります。一緒に苦しみ、楽しみましょう。

学びのキーワード

- ・高齢者
- ・社会問題
- ・文献探索
- ・プレゼンテーション
- ・論理的思考力

授業計画

01. オリエンテーション：専門演習の目的と進め方に関する説明
02. 関心あるテーマに関する文献・書籍の発表
03. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
04. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
05. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
06. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
07. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
08. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
09. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
10. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
11. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
12. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
13. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
14. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
15. 専門演習のまとめ

準備学習(予習)

次回発表される文献を精読してから参加するようにしてください。

準備学習(復習)

配布された資料を読み返したり、グループワークで意見交換した内容を文章にまとめるようにしてください。

評価方法

- | | |
|---------|--------------------------|
| (1) 発表 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% 課題への取り組みやグループワークの状況等 |

教科書

参考書

専門演習(高齢者福祉論)Ⅱ

担当教員：長谷部 雅美

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：1 コード：2WX10610

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

専門演習(高齢者福祉論)Ⅱでは、専門演習Ⅰで調べた社会問題や課題に対して、実際の現場へ足を運び体験を通して学びます。そして、現場で理解したことをまとめ、発表し、意見交換を行うことで、理解を深めます。

(2) 学びの意義と目標

高齢者福祉領域において解決が求められている社会問題や課題に対して、机上での理解に留まらず、体験的に理解することを目指します。知識と体験を連動させることで、より深い理解につながります。また、実際に体験したことを、他者に伝え、共に考えることで、プレゼンテーション力や論理的思考力も養います。

受講者に対する要望

専門演習ですので、自らの関心に基づいて主体的に学んでほしいと思います。また、人や社会と積極的に関わることを期待します。

学びのキーワード

- ・ 高齢者
- ・ 社会問題
- ・ 体験的理解
- ・ プレゼンテーション
- ・ 論理的思考力

授業計画

01. オリエンテーション：専門演習Ⅱの目的と進め方に関する説明
02. 関心あるテーマの確認と体験学習先の検討
03. 体験学習先の探し方と体験学習の目的の明確化
04. 体験学習に向けた進捗状況の報告
05. 体験学習に向けた進捗状況の報告
06. 体験学習と状況報告
07. 体験学習と状況報告
08. 体験学習と状況報告
09. 体験学習と状況報告
10. 体験学習と状況報告
11. 体験学習のまとめ（発表・意見交換）
12. 体験学習のまとめ（発表・意見交換）
13. 体験学習のまとめ（発表・意見交換）
14. 体験学習のまとめ（発表・意見交換）
15. 専門演習Ⅱの総括

準備学習(予習)

専門演習Ⅰで学んだことを整理し、課題や関心事を明確化しておいてください。また、次回の授業に関わる文献を読んでおいてください。

準備学習(復習)

配布資料を読み直したり、発表や意見交換した内容を振り返ったりして、専門演習で理解したことを文章でまとめておくようにしてください。

評価方法

- | | |
|---------|-----------------------------|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 課題への取り組みやグループワークの状況等
50% |

教科書

参考書

専門演習(福祉環境論)Ⅰ

SMPW-W-200

担当教員：野口 祐子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：2WX10764

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

障がい者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。

専門演習Ⅰでは小グループでの研究を中心に行います。まずは問題意識を持って、研究テーマを定め、文献研究や調査などを行いながら理解を深め、レポート作成と発表を行います。

同時にそれらの研究に必要な情報収集、レポート作成、プレゼンテーション等の基礎的技術の学習も行います。

(2) 学びの意義と目標

卒業研究は個人で研究を行ないますが、その前段階としてグループで研究を行います。ここでは研究の基礎的な方法を学びます。

グループで研究を行うことにより、ゼミの仲間との共同作業やディスカッションに慣れ、研究の進め方全般を理解し、研究の面白さを体験することを目標にします。

受講者に対する要望

専門科目「福祉環境論A」を必ず受講し、そこで学んだことを研究に活かしてください。そして、研究、発表、ディスカッション等ゼミの全般にわたって主体的にかかわることを求めます。

学びのキーワード

- ・障がい者・高齢者
- ・環境整備
- ・バリアフリー
- ・ユニバーサルデザイン
- ・グループ学習

授業計画

01. ゼミの進め方について
02. グループによる研究計画の検討
03. 研究の進め方、レポートの書き方（その1）
04. 文献調査方法（図書館の利用方法含む）
05. 研究テーマ決定、グループディスカッション
06. 研究経過報告とグループディスカッション
07. 研究経過報告とグループディスカッション
08. 中間発表
09. プレゼンテーション技法
10. 研究経過報告とグループディスカッション
11. 研究経過報告とグループディスカッション
12. 研究経過報告とグループディスカッション
13. 発表の仕方、レポートの書き方（その2）
14. 研究経過報告、発表準備
15. 研究発表

準備学習(予習)

専門科目「福祉環境論A」を受講し、そこで学んだ各テーマについて、基本的な考え方や知識を理解して専門演習Ⅰに臨んでください。

準備学習(復習)

関心があるテーマについて、関連する文献を調べるようにしましょう。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 30% |
| (3) 発表 | 30% |
| (4) 参加姿勢 | 10% |

出席2／3以上を前提とします。

教科書

参考書

専門演習(地域援助心理学)Ⅰ

SMPW-W-200

担当教員：堀 恭子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：2WX12360

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

身近な問題を心理学的側面から捉えていくための第1歩として心理学のものの見方・考え方を心理学入門書の輪読から学ぶ。
また発表や意見交換を通じて、人の話を聴き、考え、発言する力をつけることを目標とする。研究に向けて論文の読み方や資料の探し方についても学ぶ予定である。

(2) 学びの意義と目標

心理学的側面から研究を行うための基礎力を身につけることを目標とする。自分の興味関心から出発し、資料を探し読む経験から、自分の研究を進める足掛かりにしていくことができるようにする。

受講者に対する要望

知識を得るだけでなく、自分の興味関心に沿って調べまとめて発表し、互いに考えを述べ合う演習であるため、参加することが最も重要です。

学びのキーワード

- ・心理学にふれる
- ・心理学的視点を持つ
- ・聴く
- ・まとめる
- ・伝える

授業計画

01. オリエンテーション（ゼミの目的や進め方）
02. 個人発表のための準備について（演習）
03. 個人発表（1）及び意見交換
04. 個人発表（2）及び意見交換
05. 個人発表（3）及び意見交換
06. 個人発表（4）及び意見交換
07. 個人発表（5）及び意見交換
08. 個人発表（6）及び意見交換
09. 個人発表（7）及び意見交換
10. 個人発表（8）及び意見交換
11. 個人発表（9）及び意見交換
12. 論文の読み方演習
13. 資料の探し方演習
14. 研究課題発表
15. まとめ（レポート）

準備学習(予習)

事前に指示された資料等を熟読して、質問をしたり、意見を述べたりと授業に積極的に参加できるよう、準備すること

準備学習(復習)

わからなかったことをその都度調べておくこと

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 70% |
| (2) 報告 | 30% |

教科書

参考書

参考文献を指示します。

専門演習(地域援助心理学)Ⅱ

SMPW-W-300

担当教員：堀 恭子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目

単位：1 コード：2WX12468

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

自分の中の興味・関心を心理学的側面から捉え、問いとして突き詰めていく作業をする。先行研究や文献にあたり、自分の中の問いが研究となっていけるのかを検討する。互いに自分の考えを発表し合うことで相互に新しい発見をする。

(2) 学びの意義と目標

文献を読み込み、理解した内容をまとめる作業の練習をする。後半は身近な問題をどのように問いの形にしていくのか、検討する。その過程は自分の思考の整理でもあり、自分の考えを他者に伝える、コミュニケーションの練習でもある。授業を通して思考力、コミュニケーション力双方を訓練してほしい。

受講者に対する要望

準備ができていることが望ましいが、準備がなくても出席し、他者の考えを聞いてディスカッションに参加するだけでも大きな意味があります。できるだけ出席して体験を重ねてほしいと考えています。

学びのキーワード

- ・ 自身の興味・関心
- ・ 問いの探求
- ・ 文献検を探す
- ・ 先行研究の検討
- ・ ディスカッション

授業計画

01. オリエンテーション
02. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (1)
03. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (2)
04. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (3)
05. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (4)
06. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (5)
07. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (6)
08. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (7)
09. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (8)
10. 自身の興味関心に即した文献検討と研究課題模索 (1)
11. 自身の興味関心に即した文献検討と研究課題模索 (2)
12. 自身の興味関心に即した文献検討と研究課題模索 (3)
13. 自身の興味関心に即した文献検討と研究課題模索 (4)
14. 自身の興味関心に即した文献検討と研究課題模索 (5)
15. 発表

準備学習(予習)

参考文献を事前に読み込み、グループでのまとめに役立てる。自分の興味関心について整理する。

準備学習(復習)

毎回のまとめで疑問に感じたことを調べてみることで、ディスカッションを通じてさらに必要と思われた検討を先延ばしにせず行うこと

評価方法

- | | |
|---------|---------------------------|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 報告 | 70% 報告にはディスカッションへの参加も含まれる |

教科書

参考書

参考文献を適宜指示します。

卒業研究(高齢者福祉論)Ⅰ

担当教員：長谷部 雅美

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：1 コード：2WX20510

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

卒業研究（高齢者福祉論）Ⅰでは、高齢者に関わる社会問題や課題の中から、卒業研究のテーマを設定します。設定したテーマについて、適切な調査手法を選択して調査を実施します。

(2) 学びの意義と目標

高齢者福祉領域で解決が求められている社会問題について、専門演習で深めた理解を前提に、自らが課題と考え、明らかにしたいテーマを設定できる力を養います。また、設定したテーマに対して、適切な調査手法を選択し、実践することを目指します。

受講者に対する要望

卒業研究ですので、自らの関心に基づいて主体的に学び、実践してほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 高齢者
- ・ 社会問題
- ・ 質的調査
- ・ 量的調査
- ・ プレゼンテーション

授業計画

01. オリエンテーション：卒業研究Ⅰの目的と進め方に関する説明
02. 卒業研究のテーマ設定（発表・質疑）
03. 卒業研究のテーマ設定（発表・質疑）
04. 卒業研究のテーマ設定（発表・質疑）
05. 調査手法の理解
06. 調査手法の理解
07. 調査手法の選定
08. 調査手法の選定
09. 調査実施に向けた準備
10. 調査実施に向けた準備
11. 調査実施に向けた準備
12. 調査実施
13. 調査実施
14. 調査実施
15. 卒業研究Ⅰのまとめ

準備学習(予習)

専門演習で学んだ社会問題の内容や課題を整理しておいてください。また、次回の授業に関わる文献を読んでおいてください。

準備学習(復習)

配布資料を読み直したり、授業の中で提示された各自の課題を整理しておいてください。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 課題への取り組みやグループワークの状況等 |
| (2) 調査実施 | 50% | |

教科書

参考書

教職課程

教師論（中高教職）		TEAT-0-101
担当教員：井上 兼生		
学期： 週間授 科目： 教職課程/ 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 5T100101
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】 教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 教師に求められる資質・能力とは（１）－現状と課題</div> <div>03. 教師に求められる資質・能力とは（２）－生徒の求める教師像</div> <div>04. 教師に求められる資質・能力とは（３）－教師としての自覚</div> <div>05. 教師の仕事（１）教師の専門性－教育に関する知識と教科に関する知識</div> <div>06. 教師の仕事（２）教師の力量向上－研修の義務と機会</div> <div>07. 教師の地位（１）教師をめぐる法令－教育基本法・地方公務員法など</div> <div>08. 教師の地位（２）現代社会と教師</div> <div>09. 教師の環境（１）組織の一員としての教師－教師の多様な職務の理解</div> <div>10. 教師の環境（２）教育改革と教師－近年の教育関連法の改正と教員</div> <div>11. 教師の環境（３）最近の環境変化の動向－地域社会や保護者との協力など</div> <div>12. 教師養成（１）その歴史－戦前期および戦後改革</div> <div>13. 教師養成（２）－教員養成を巡る近年の動向と教職選択の自覚</div> <div>14. 教育計画とは何か</div> <div>15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【D】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。</div> <div>教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。</div> <div>その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>１）教師に求められる資質・能力について、学生たち自身の経験から考えさせ、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気付かせ、教職について深い考察を促す（教職の意義・教員の役割）。</div> <div>２）地方公務員法、教育公務員特例法など、教員の地位に関する法令についての正確な知識を身に付け、教師の権利・義務について理解を深める（教員の職務内容と身分）。</div> <div>３）戦前期の教員身分および免許制度などについて概観し、現在の教員免許法の有り様と現在、課題とされる点についての理解を深め、教員として必要な資格について考えさせる（進路選択）。</div> <div>４）近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例を取り上げながら理解を深め、これからの教員に求められる姿勢や能力について深い考えを育てる（教員の環境）。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、次の授業のテーマを示します。テーマについてあらかじめ調べてきてもらいます。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>「教えられる」側から「教える」側へ立場が変わったときに、見えてくるものはいろいろあるはずである。教師についての今までの考え方を見直して、自分なりの教師観をしっかりとつくってほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で取り上げたテーマに関連して作成してもらうレポートの準備を考えてください。</div>
<div>評価方法</div> <div>(1) 期末テスト 30%</div> <div>(2) 授業への参加 40% 授業中の討論への参加など</div> <div>(3) レポート 30% 教師に関するレポートを一本提出してもらいます。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 職場としての学校</div> <div>・ 教員の特殊性</div> <div>・ 教員の社会的役割</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

福祉科教育法Ⅰ（中高教職）

SUBP-W-301

担当教員： 中谷 茂一

學期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目

単位：2 コード：5T307140

学部教育の関連目

【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

(1) 内容

高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。

学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。

(2) 学びの意義と目標

模倣授業案を作成し実際に受講生の前で教えることも
 らうので人前の話をするのが苦手で先生のある授業では
 しいない積極的な発言が求められる。分福主の参法
 謙虚に自分なりの点検の哲学を業模索する。教育の技

受講者に対する要望

教員免許は、試験を受けることができる。試験をパスする意図がある学生のみ受講して欲しい。
自治体や私立の学校では、採用試験に合格しただけで、単位修得はできない。

学びのキーワード

・福祉科教育

授業計画

01. 1 「福祉」教科創設の背景と経緯・基本方針
02. 2 福祉教育の意義と福祉に関する学科設置の基本的な考え方
03. 3 社会福祉学と「福祉」教科
04. 4 「福祉」教科の科目関連と構造
05. 5 教育観と福祉科教育
06. 6 「福祉」の内容と解説 目標・社会福祉基礎・社会福祉制度・社会福祉援助技術
07. 7 基礎介護・社会福祉実習
08. 8 社会福祉演習・福祉情報処理
09. 9 指導計画の作成と内容の取扱い
10. 10 模擬授業(1)
11. 11 模擬授業(2)
12. 12 模擬授業(3)
13. 13 模擬授業(4)
14. 14 模擬授業(5)
15. 15 模擬授業(6)

準備學習(予習)

自己の模擬講義の作成準備

準備學習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 模擬講義内容 | 50% |
| (3) ディスカッション参加状況 | 30% |

教科書

保住 芳美 『高等学校新学習指導要領の展開 福祉科編』(明治図書出版)
教育実習を考える会 編 『教育実習用学習指導案作成教本(社会 地・歴 公民科)』(蒼丘書林)
桐原宏行 編著 『福祉科教育法』(三和書籍)

参考書

福祉科教育法II（中高教職）

SUBP-W-302

担当教員： 中谷 茂一

學期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目

単位：2 コード：5T307241

学部教育の関連目

【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

(1) 内容

福祉科教育法Iで学習したことを展開させ、さらにレベルアップした指導案と模擬授業を行ってもらい、教育実習へとつなげていくことを目標とする。

高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。

学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。

(2) 学びの意義と目標

模倣授業案を作成し実際に受講生の前で教えるのも、
 らうので人前で話すことが苦手である受講生は難
 しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加
 しない者は単位修得できない。自分の教育方法を
 謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技
 術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。

受講者に対する要望

教員免許状は実際に自治体や私学の教員採用試験を通らなければ活用することはできない。試験をパスする意志がある学生のみ受講して欲しい。

学びのキーワード

・福祉科教育

授業計画

01. 1 社会福祉基礎
02. 2 社会福祉制度
03. 3 社会福祉援助技術
04. 4 基礎介護
05. 5 社会福祉実習
06. 6 社会福祉演習
07. 7 福祉情報処理
08. 8 指導計画の作成と内容の取扱い
09. 模擬授業 (1)
10. 模擬授業 (2)
11. 模擬授業 (3)
12. 模擬授業 (4)
13. 模擬授業 (5)
14. 模擬授業 (6)
15. 模擬授業 (7)

準備學習(予習)

自己の模擬講義の作成準備

準備學習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べることに

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 模擬講義内容 | 50% |
| (3) ディスカッション参加状況 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：堀川 裕介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101700

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。実習は模擬的な資料作成のプロセスをたどるように組み立てられており、授業中に行った作業は毎回授業内課題として提出してもらう。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

(2) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・資料作成
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス、ワード① 基本操作
02. ワード② 文書の編集
03. ワード③ 表とオブジェクトの活用
04. 講義① コンピュータとネットワークの仕組み
05. エクセル① 基本操作
06. エクセル② 関数の利用
07. エクセル③ グラフの作成
08. エクセル④ オブジェクトの活用
09. 講義② 情報セキュリティとモラル
10. パワーポイント① 基本操作
11. パワーポイント② オブジェクトの活用
12. パワーポイント③ スライドの編集と高度な機能の活用
13. 講義③ 社会の中のIT
14. 総合課題① ワードとエクセルを使った資料作成
15. 総合課題② パワーポイントを使った資料作成

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|---|
| (1) 授業内課題 | 70% | ・各授業の最終に、その日の授業内容を振り返ってもらう。
・授業中発表、質疑応答が授業内容の理解に役立つ。 |
| (2) 総合課題 | 30% | 授業中に指示する。 |

- ・開始後15分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101705

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。実習は模擬的な資料作成のプロセスをたどるように組み立てられており、授業中に行った作業は毎回授業内課題として提出してもらう。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

(2) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・資料作成
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス、ワード① 基本操作
02. ワード② 文書の編集
03. ワード③ 表とオブジェクトの活用
04. 講義① コンピュータとネットワークの仕組み
05. エクセル① 基本操作
06. エクセル② 関数の利用
07. エクセル③ グラフの作成
08. エクセル④ オブジェクトの活用
09. 講義② 情報セキュリティとモラル
10. パワーポイント① 基本操作
11. パワーポイント② オブジェクトの活用
12. パワーポイント③ スライドの編集と高度な機能の活用
13. 講義③ 社会の中のIT
14. 総合課題① ワードとエクセルを使った資料作成
15. 総合課題② パワーポイントを使った資料作成

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内課題 | 70% | ・各授業の最終に、その日の授業内容を振り返ってもらう。
・授業中発表、質疑応答、グループワークなどを通じて行う。授業時間内に完了する。 |
| (2) 総合課題 | 30% | ・授業中に指示する。 |

- ・開始後15分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101710

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。実習は模擬的な資料作成のプロセスをたどるように組み立てられており、授業中に行った作業は毎回授業内課題として提出してもらう。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

(2) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・資料作成
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス、ワード① 基本操作
02. ワード② 文書の編集
03. ワード③ 表とオブジェクトの活用
04. 講義① コンピュータとネットワークの仕組み
05. エクセル① 基本操作
06. エクセル② 関数の利用
07. エクセル③ グラフの作成
08. エクセル④ オブジェクトの活用
09. 講義② 情報セキュリティとモラル
10. パワーポイント① 基本操作
11. パワーポイント② オブジェクトの活用
12. パワーポイント③ スライドの編集と高度な機能の活用
13. 講義③ 社会の中のIT
14. 総合課題① ワードとエクセルを使った資料作成
15. 総合課題② パワーポイントを使った資料作成

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内課題 | 70% |
| (2) 総合課題 | 30% |
- ・授業中の最終に、その日の授業内容を確認してもらう。
・授業中の最終に、その日の授業内容を確認してもらう。
・授業中の最終に、その日の授業内容を確認してもらう。
- ・授業中に指示する。

- ・開始後15分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101715

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。実習は模擬的な資料作成のプロセスをたどるように組み立てられており、授業中に行った作業は毎回授業内課題として提出してもらう。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

(2) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・資料作成
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス、ワード① 基本操作
02. ワード② 文書の編集
03. ワード③ 表とオブジェクトの活用
04. 講義① コンピュータとネットワークの仕組み
05. エクセル① 基本操作
06. エクセル② 関数の利用
07. エクセル③ グラフの作成
08. エクセル④ オブジェクトの活用
09. 講義② 情報セキュリティとモラル
10. パワーポイント① 基本操作
11. パワーポイント② オブジェクトの活用
12. パワーポイント③ スライドの編集と高度な機能の活用
13. 講義③ 社会の中のIT
14. 総合課題① ワードとエクセルを使った資料作成
15. 総合課題② パワーポイントを使った資料作成

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内課題 | 70% |
| (2) 総合課題 | 30% |
- ・授業中の最終に、その日の授業内容を振り返ってもらう。
・授業中の最終に、その日の授業内容を振り返ってもらう。
・授業中の最終に、その日の授業内容を振り返ってもらう。
- ・授業中に指示する。

- ・開始後15分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：加藤 裕康

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101720

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、オフィスのワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎を習得します。特にワード（ワープロ）とエクセル（表計算）の習得に力を注ぎます。

また、大学生活を有意義に過ごすために、情報社会における倫理を学びます。

(2) 学びの意義と目標

大学で研究を進める上で、ワープロや表計算ソフトは欠かせません。また、就職の際には、ワープロ、表計算が使えるかどうかによって給料や任される仕事内容が変わります。

これらを踏まえ、この授業では、ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を習得し、レポート作成や卒論などで活用できるようにする。

受講者に対する要望

教科書は、必ず購入しておくこと。
出席は評価の対象ではありません。しかし、5回以上休むと単位を取得できません。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的な理解
- ・情報社会に参画する態度

授業計画

01. ワードとエクセル、パワーポイントの基本操作
02. ワード|文字入力と編集の基本操作
03. ワード|文書の編集、印刷
04. ワード|文書の作成|【パワーポイントの基礎1】
05. ワード|表を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎2】
06. ワード|図形や画像を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎3】
07. ワード|総合学習問題|【パワーポイントの基礎4】
08. エクセル|データの編集|【情報社会】
09. エクセル|表の編集|【情報倫理】
10. エクセル|ブックの印刷|【ネチケット】
11. エクセル|グラフと図形の作成
12. エクセル|ブックの利用と管理
13. エクセル|関数
14. エクセル|データベース機能
15. エクセル|総合学習問題

準備学習(予習)

テキストに目を通し、わからない単語を調べましょう。

準備学習(復習)

オフィスソフトは、繰り返し作業することで身につきます。授業の復習をすると同時に、授業中に達成できなかった課題は、次週までの宿題です。

評価方法

(1) 課題(テスト)

100%

教科書

『Word2010クイックマスター』（ウイネット）【978-4-87284-664-5】
『Excel2010クイックマスター』（ウイネット）【978-4-87284-665-2】

参考書

担当教員：加藤 裕康

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101725

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

この授業では、オフィスのワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎を習得します。特にワード（ワープロ）とエクセル（表計算）の習得に力を注ぎます。また、大学生活を有意義に過ごすために、情報社会における倫理を学びます。

(2) 学びの意義と目標

大学で研究を進める上で、ワープロや表計算ソフトは欠かせません。また、就職の際には、ワープロ、表計算が使えるかどうかによって給料や任される仕事内容が変わります。これらを踏まえ、この授業では、ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を習得し、レポート作成や卒論などで活用できるようにする。

受講者に対する要望

教科書は、必ず購入しておくこと。出席は評価の対象ではありません。しかし、5回以上休むと単位を取得できません。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的な理解
- ・情報社会に参画する態度

授業計画

01. ワードとエクセル、パワーポイントの基本操作
02. ワード|文字入力と編集の基本操作
03. ワード|文書の編集、印刷
04. ワード|文書の作成|【パワーポイントの基礎1】
05. ワード|表を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎2】
06. ワード|図形や画像を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎3】
07. ワード|総合学習問題|【パワーポイントの基礎4】
08. エクセル|データの編集|【情報社会】
09. エクセル|表の編集|【情報倫理】
10. エクセル|ブックの印刷|【ネチケット】
11. エクセル|グラフと図形の作成
12. エクセル|ブックの利用と管理
13. エクセル|関数
14. エクセル|データベース機能
15. エクセル|総合学習問題

準備学習(予習)

テキストに目を通し、わからない単語を調べましょう。

準備学習(復習)

オフィスソフトは、繰り返し作業することで身につきます。授業の復習をすると同時に、授業中に達成できなかった課題は、次週までの宿題です。

評価方法

(1) 課題 (テスト) 100%

教科書

『Word2010クイックマスター』（ウイネット）【978-4-87284-664-5】
『Excel2010クイックマスター』（ウイネット）【978-4-87284-665-2】

参考書

担当教員：原島 大輔

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101730

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

パソコンの基本操作、オフィス系ソフト（ワープロ・表計算・プレゼンテーション）の基本操作、インターネットを利用した情報検索と情報発信について、実習します。また、情報倫理や、情報という概念そのものについての学術的な理解の基礎について、講義します。

(2) 学びの意義と目標

大学での学習や研究に必要となる、情報技術の基礎的な利用法の習得を目指します。それから、学生として、さらには社会人として、情報社会で生きていくうえで身につけておくべき情報倫理の習得を目指します。

受講者に対する要望

積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・インターネット
- ・情報倫理
- ・基礎情報学

授業計画

01. オリエンテーション、パソコンの基本操作
02. 文字入力、ファイル管理
03. インターネットとメールの利用
04. 情報検索
05. ワードプロソフトの活用
06. ワードプロソフトの活用
07. 表計算ソフトの活用
08. 表計算ソフトの活用
09. 表計算ソフトの活用
10. プレゼンテーションソフトの活用
11. プレゼンテーションソフトの活用
12. インターネットを利用した情報発信
13. 情報倫理と情報セキュリティ
14. 基礎情報学
15. まとめ

準備学習(予習)

用語の意味を調べる課題を出します。

準備学習(復習)

授業で実習したことを復習するための課題を出します。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 課題 | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

単位取得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とします。

教科書

参考書

担当教員：原島 大輔

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101735

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

パソコンの基本操作、オフィス系ソフト（ワープロ・表計算・プレゼンテーション）の基本操作、インターネットを利用した情報検索と情報発信について、実習します。また、情報倫理や、情報という概念そのものについての学術的な理解の基礎について、講義します。

(2) 学びの意義と目標

大学での学習や研究に必要となる、情報技術の基礎的な利用法の習得を目指します。それから、学生として、さらには社会人として、情報社会で生きていくうえで身につけておくべき情報倫理の習得を目指します。

受講者に対する要望

積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・インターネット
- ・情報倫理
- ・基礎情報学

授業計画

01. オリエンテーション、パソコンの基本操作
02. 文字入力、ファイル管理
03. インターネットとメールの利用
04. 情報検索
05. ワードプロソフトの活用
06. ワードプロソフトの活用
07. 表計算ソフトの活用
08. 表計算ソフトの活用
09. 表計算ソフトの活用
10. プレゼンテーションソフトの活用
11. プレゼンテーションソフトの活用
12. インターネットを利用した情報発信
13. 情報倫理と情報セキュリティ
14. 基礎情報学
15. まとめ

準備学習(予習)

用語の意味を調べる課題を出します。

準備学習(復習)

授業で実習したことを復習するための課題を出します。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 課題 | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

単位取得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とします。

教科書

参考書

情報基礎（再履修用）		COMM-0-101
担当教員： 鈴木 省吾		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 11101740
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション、ワードの概略 02. ワード文書作成の基本 03. ワードにおける作表 04. ワードオブジェクトの利用 05. ワード高度な編集 06. ワード総合問題 07. エクセルの概略、エクセル入力の基本 08. エクセルでの作表・表計算 09. エクセル関数の利用 10. エクセルデータベース機能の利用 11. ワードとエクセルの連携 12. エクセル総合問題 13. パワーポイントの概略、パワーポイントスライド作成 14. パワーポイントオブジェクト、アニメーション昨日の利用 15. パワーポイント総合問題</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で出された課題の反復練習。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。 この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱いができるようにする。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>継続的に実習に参加し、PCになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。
 授業では、わからないことを分からないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回の講義の学習した内容について、次の講義までに自宅で実際にパソコンを使用して、よく復習しておくこと。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・実習課題の完成・ビジネスソフト操作の精通・教えあい・積極的な参加</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 課題 100% 毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。</div> <div>出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

情報基礎（C-1）		COMM-0-101
担当教員： 鈴木 省吾		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 11101745
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		01. イントロダクション、ワードの概略 02. ワード文書作成の基本 03. ワードにおける作表 04. ワードオブジェクトの利用 05. ワード高度な編集 06. ワード総合問題 07. エクセルの概略、エクセル入力の基本 08. エクセルでの作表・表計算 09. エクセル関数の利用 10. エクセルデータベース機能の利用 11. ワードとエクセルの連携 12. エクセル総合問題 13. パワーポイントの概略、パワーポイントスライド作成 14. パワーポイントオブジェクト、アニメーション昨日の利用 15. パワーポイント総合問題
現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。		
(2) 学びの意義と目標		
コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。 この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱いができるようにする。		準備学習(予習)
		授業で出された課題の反復練習。
		準備学習(復習)
		毎回の講義の学習した内容について、次の講義までに自宅で実際にパソコンを使用して、よく復習しておくこと。
		評価方法
		(1) 課題 100% 毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。
		出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。
受講者に対する要望		教科書
継続的に実習に参加し、PCになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。 授業では、わからないことを分からないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。		
学びのキーワード		参考書
・実習課題の完成 ・ビジネスソフト操作の精通 ・教えあい ・積極的な参加		

担当教員：二神 常爾

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：11101750

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、その日学んだことを反復し理解を深めるために、課題を出題するので、各人にコンピュータを使って授業中にやってもらう。

(2) 学びの意義と目標

コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。授業では、基本的なことを中心に学ぶが、ワード、エクセルを日常的に頻繁に使い、細かい操作などについても自分で学び、自分のできることの幅を広げて欲しい。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

学びのキーワード

- ・ノートパソコン
- ・エクセル
- ・グラフ
- ・表
- ・ワード

授業計画

01. ガイダンス
02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存
03. エクセルのセルへの文字、数値の入力
04. エクセルでの表の作成
05. エクセルでの折れ線グラフの作成
06. エクセルでの棒グラフの作成
07. エクセルのシート見出しの編集
08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え
09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する
10. エクセルで数式を利用する
11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける
12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける
13. ワード文書のレイアウトを整える
14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 授業中の課題 | 40% |
| (3) 総合課題 | 30% |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

参考書

情報基礎（D－1）		COMM-0-101
担当教員： 二神 常爾		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 11101755
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存 03. エクセルのセルへの文字、数値の入力 04. エクセルでの表の作成 05. エクセルでの折れ線グラフの作成 06. エクセルでの棒グラフの作成 07. エクセルのシート見出しの編集 08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え 09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する 10. エクセルで数式を利用する 11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける 12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける 13. ワード文書のレイアウトを整える 14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、その日学んだことを反復し理解を深めるために、課題を出題するので、各人にコンピュータを使って授業中にやってもらう。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。授業では、基本的なことを中心に学ぶが、ワード、エクセルを日常的に頻繁に使い、細かい操作などについても自分で学び、自分のできることの幅を広げて欲しい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>遅刻・欠席をしないこと</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>30%</div></div><div><div>(2) 授業中の課題</div><div>40%</div></div><div><div>(3) 総合課題</div><div>30%</div></div></div> <div>2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ノートパソコン</div><div>・エクセル</div><div>・グラフ</div><div>・表</div><div>・ワード</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div>

情報基礎（D-2）		COMM-0-101
担当教員： 二神 常爾		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 11101760
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存 03. エクセルのセルへの文字、数値の入力 04. エクセルでの表の作成 05. エクセルでの折れ線グラフの作成 06. エクセルでの棒グラフの作成 07. エクセルのシート見出しの編集 08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え 09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する 10. エクセルで数式を利用する 11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける 12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける 13. ワード文書のレイアウトを整える 14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、その日学んだことを反復し理解を深めるために、課題を出題するので、各人にコンピュータを使って授業中にやってもらう。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。授業では、基本的なことを中心に学ぶが、ワード、エクセルを日常的に頻繁に使い、細かい操作などについても自分で学び、自分のできることの幅を広げて欲しい。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>遅刻・欠席をしないこと</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ノートパソコン ・エクセル ・グラフ ・表 ・ワード</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

ECA (Speaking) I (ALL)		ECA-0-101
担当教員：L. アーノルド		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 2 コード： 11200110
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業について、挨拶 02. 挨拶、人々の描写 03. 人々の描写 04. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 05. 日課、健康、スポーツ 06. 日課、健康、スポーツ 07. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 08. できること 09. できること 10. 比較対照 11. 比較対照 12. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 13. 中間復習 14. 中間テスト（スピーキング） 15. 時間、日付、イベント 16. 時間、日付、イベント、好み 17. イベント、好みの選択とお誘い 18. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 19. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 20. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 21. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 22. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 23. 話と行うこと 24. 話と行うこと 25. 話と行うこと、紙芝居・話をするの紹介 26. 紙芝居・話をしている 27. 将来のこと 28. 将来のこと、予定 29. 期末復習 30. まとめ（スピーキング）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題を準備、行う、ブログのチェック、予習する。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回参加しよう！</div>	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>25%</div><div>70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。</div></div><div><div>(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学</div><div>25%</div><div></div></div><div><div>(3) 課題</div><div>25%</div><div></div></div><div><div>(4) 中間テスト（スピーキング）・まとめ（スピーキ</div><div>25%</div><div></div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 会話</div><div>・ コミュニケーション</div><div>・ 発音、イントネーション、言うことのリズム</div><div>・ 文法</div><div>・ ヴォキャブラーリ</div></div>	<div>教科書</div> <div>M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウイルトシーア「English Firsthand Success」(4E)、ピアソン・エデュケーション</div> <div>参考書</div> <div>M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウイルトシーア「English Firsthand Success Workbook」、ピアソン・エデュケーション</div>	

ECA (Speaking) I (ALL)		ECA-0-101												
担当教員：L. アーノルド														
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 2 コード： 11200120												
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】 大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業について、挨拶 02. 挨拶、人々の描写 03. 人々の描写 04. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 05. 日課、健康、スポーツ 06. 日課、健康、スポーツ 07. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 08. できること 09. できること 10. 比較対照 11. 比較対照 12. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 13. 中間復習 14. 中間テスト（スピーキング） 15. 時間、日付、イベント 16. 時間、日付、イベント、好み 17. イベント、好みの選択とお誘い 18. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 19. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 20. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 21. 物・方向とか他の話題（グローバル・グロカル） 22. スピーキング練習、レビューとかショートプレゼンテーション 23. 話と行うこと 24. 話と行うこと 25. 話と行うこと、紙芝居・話をするの紹介 26. 紙芝居・話をしている 27. 将来のこと 28. 将来のこと、予定 29. 期末復習 30. まとめ（スピーキング）</div>												
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目</div>														
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</div>														
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>様々な場面において、実際に使える英語力を身につけていく。</div>														
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回参加しよう！</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>課題を準備、行う、ブログのチェック、予習する。</div>												
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。</div>												
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>25%</td><td>70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。</td></tr><tr><td>(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学</td><td>25%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 課題</td><td>25%</td><td></td></tr><tr><td>(4) 中間テスト（スピーキング）・まとめ（スピーキ</td><td>25%</td><td></td></tr></table>	(1) 平常点	25%	70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。	(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学	25%		(3) 課題	25%		(4) 中間テスト（スピーキング）・まとめ（スピーキ	25%	
(1) 平常点	25%	70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。												
(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学	25%													
(3) 課題	25%													
(4) 中間テスト（スピーキング）・まとめ（スピーキ	25%													
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 会話 ・ コミュニケーション ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム ・ 文法 ・ ヴォキャブラーリ</div>		<div>教科書</div> <div>M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア「English Firsthand Success」(4E)、ピアソン・エデュケーション</div> <div>参考書</div> <div>M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア「English Firsthand Success Workbook」、ピアソン・エデュケーション</div>												

担当教員：L. アーノルド

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 2 コード： 112001AA

学部教育の関連目

【全】 大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目

【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

【全】 小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

毎回参加しよう！

学びのキーワード

- ・ 会話
- ・ リスニング
- ・ コミュニケーション、プレゼンテーション
- ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム
- ・ 文法

授業計画

01. プリーテスト
02. 授業内容説明、生徒達のクラスIDカード作り、挨拶
03. 挨拶の練習
04. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
05. 過去
06. 経験、過去
07. 過去、経験
08. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
09. 好み
10. 好み
11. 物、ことの好み
12. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
13. 中間復習
14. 中間テスト（スピーキング）
15. 場所、位置
16. 場所、位置の描写
17. 面白い場所、位置ことの描写
18. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
19. global-glocalテーマの紹介、活動
20. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの紹介
21. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの練習
22. global-glocalのショートプレゼンテーション
23. 娯楽、お誘い
24. 娯楽、お誘い
25. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
26. 将来の会話、予定
27. 将来予定、スピーキング練習
28. 期末復習
29. まとめ（スピーキング）
30. テキストレビュー、まとめ

準備学習(予習)

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

準備学習(復習)

テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習、プレゼンテーションの準備、スピーキングテストの前に練習する。

評価方法

- | | | |
|----------------------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 25% | 70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。 |
| (2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備 | 25% | |
| (3) 課題 | 25% | |
| (4) スピーキングテスト(2回)・テキストレビュー | 25% | |

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 (4E)』(ピアソン・エデュケーション)

参考書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア、A. グレイ 『English Firsthand 1 Workbook』(ピアソン・エデュケーション)

ECA (Speaking) I (A) Level b		ECA-0-101
担当教員： チェンバレン 暁子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001AB
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. Orientation & プリテスト <small>Unit 1 It's nice to meet you. Introducing yourself and friends. Greetings and leave-taking.</small></div> <div>02.</div> <div>03. Unit 1 Video Activity & Unit Practice</div> <div>04. Unit review <small>Unit 2 What's this? Naming objects, asking for and giving the locations of objects.</small></div> <div>05.</div> <div>06. Unit 2 Video Activity & Unit Practice</div> <div>07. Unit Review and Progress Check</div> <div>08. <small>Unit 3 Where are you from? Cities and countries, adjectives of personality and appearance.</small></div> <div>09. Unit 3 Video Activity & Unit Practice</div> <div>10. Unit Review</div> <div>11. <small>Unit 4 Whose jeans are these? Clothing, weather, and seasons.</small></div> <div>12. Unit 4 Video Activity & Unit Practice</div> <div>13. Unit Review and Progress Check</div> <div>14.スピーキングテスト</div> <div>15. <small>Unit 5 What are you doing? Clock time & everyday activities.</small></div> <div>16. Unit 5 Video Activity & Unit Practice</div> <div>17. Progress Check</div> <div>18. <small>Unit 6 My sister works downtown. Transportation and family relationships.</small></div> <div>19. Unit 6 Video Activities & Unit Practice</div> <div>20. Unit Review and Progress Check</div> <div>21. <small>Unit 7 Does it have a view? Houses & apartments, furniture</small></div> <div>22. Unit 7 Video Activities & Unit Practice</div> <div>23. Unit Review</div> <div>24. <small>Unit 8 What do you do? Jobs and workplaces.</small></div> <div>25. Unit 8 Video Activities & Unit Practice</div> <div>26. Unit review and Progress check</div> <div>27. Speaking Test</div> <div>28. Cultural Understanding</div> <div>29. 総復習</div> <div>30. まとめ </div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業内参加態度 20% 授業内での様々な Activitiesの参加度が授業内での態度が評価される。</div> <div>(2) 小テスト 20% 2Unit 毎に行われるProgress checkテスト点。</div> <div>(3) 宿題 20% 授業内で課される課題に対する評価。</div> <div>(4) Speaking Test & Final Exam 40% Speaking test と期末試験の評価点。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>リスニング力の養成や英語の発音、文法、語彙、様々な言い回しなどを学びながら、英語コミュニケーション能力を高めてゆく。異文化理解。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 異文化理解 ・ Listening ・ 正しい発音 ・ Speaking ・ 英文法</div>	<div>教科書</div> <div>Jack Richards / interchange Intro Full Contact A Fourth Edition (Cambridge University Press)</div> <div>参考書</div>	

ECA (Speaking) I (C) Level a		ECA-0-101											
担当教員：L. アーノルド													
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001CA											
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】 大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. プリーテスト 02. 授業内容説明、生徒達のクラスIDカード作り、挨拶 03. 挨拶の練習 04. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 05. 過去 06. 経験、過去 07. 過去、経験 08. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 09. 好み 10. 好み 11. 物、ことの好み 12. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 13. 中間復習 14. 中間テスト（スピーキング） 15. 場所、位置 16. 場所、位置の描写 17. 面白い場所、位置ことの描写 18. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 19. global-glocalテーマの紹介、活動 20. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの紹介 21. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの練習 22. global-glocalのショートプレゼンテーション 23. 娯楽、お誘い 24. 娯楽、お誘い 25. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 26. 将来の会話、予定 27. 将来予定、スピーキング練習 28. 期末復習 29. まとめ（スピーキング） 30. テキストレビュー、まとめ</div>												
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目</div>													
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。</div>													
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。</div>												
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回参加しよう！</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習、プレゼンテーションの準備、スピーキングテストの前に練習する。</div>												
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>25%</td><td>70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。</td></tr><tr><td>(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学</td><td>25%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 課題</td><td>25%</td><td></td></tr><tr><td>(4) スピーキングテスト（2回）・テキストレビュー</td><td>25%</td><td></td></tr></table>		(1) 平常点	25%	70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。	(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学	25%		(3) 課題	25%		(4) スピーキングテスト（2回）・テキストレビュー	25%
(1) 平常点	25%	70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。											
(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学	25%												
(3) 課題	25%												
(4) スピーキングテスト（2回）・テキストレビュー	25%												
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 会話 ・ リスニング ・ コミュニケーション、プレゼンテーション ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム ・ 文法</div>	<div>教科書</div> <div>M. ヘルゲセン, S. ブラウン, J. ウィルトシーア 『English Firsthand I (4E)』（ピアソン・エデュケーション）</div> <div>参考書</div> <div>M. ヘルゲセン, S. ブラウン, J. ウィルトシーア, A. グレイ 『English Firsthand I Workbook』（ピアソン・エデュケーション）</div>												

ECA (Speaking) I (C) Level b

ECA-0-101

担当教員： チェンバレン 暁子

學期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001CB

学部教育の関連目

【全】大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目
【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

リスニング力の養成や英語の発音、文法、語彙、
様々な言い回しなどを学びながら、英語コミュニ
ケーション能力を高めてゆく。異文化理解。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・異文化理解 |
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. Orientation & プリテスト
02. Unit 1 It's nice to meet you. Introducing yourself and friends. Greetings and leave-taking.
03. Unit 1 Video Activity & Unit Practice
04. Unit review
05. Unit 2 What's this? Naming objects, asking for and giving the locations of objects.
06. Unit 2 Video Activity & Unit Practice
07. Unit Review and Progress Check
08. Unit 3 Where are you from? Cities and countries, adjectives of personality and appearance.
09. Unit 3 Video Activity & Unit Practice
10. Unit Review
11. Unit 4 Whose jeans are these? Clothing, weather, and seasons.
12. Unit 4 Video Activity & Unit Practice
13. Unit Review and Progress Check
14. スピーキングテスト
15. Unit 5 What are you doing? Clock time & everyday activities.
16. Unit 5 Video Activity & Unit Practice
17. Progress Check
18. Unit 6 My sister works downtown. Transportation and family relationships.
19. Unit 6 Video Activities & Unit Practice
20. Unit Review and Progress Check
21. Unit 7 Does it have a view? Houses & apartments, furniture
22. Unit 7 Video Activities & Unit Practice
23. Unit Review
24. Unit 8 What do you do? Jobs and workplaces.
25. Unit 8 Video Activities & Unit Practice
26. Unit review and Progress check
27. Speaking Test
28. Cultural Understanding
29. 総復習
30. まとめ|

準備學習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備學習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------------------|-----|---|
| (1) 授業参加態度 | 20% | 授業内での様々な Activities の参加度が授業内での態度が評価される。 |
| (2) 小テスト | 20% | 2Unit 毎に行われるProgress checkテスト点。 |
| (3) 宿題 | 20% | 授業内で課される課題に対する評価。 |
| (4) Speaking Test & Final Exam | 40% | Speaking test と期末試験の評価点。 |

教科書

Jack Richards / interchange Intro Full Contact A Fourth Edition (Cambridge University Press)

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001CC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------------|
| (1) 平常点 | 60% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 定期試験 | 40% (スピーキングテスト、Post-testの成績を含む) |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001CD

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. 授業について、 プリテスト
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. 復習
15. スピーキングテスト #1
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. 復習
29. スピーキングテスト#2
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | |
|--------------------|----------------------|
| (1) 平常点 | 60% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 期末試験・スピーキングテスト | 40% |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

参考書

ECA (Speaking) I (D) Level a		ECA-0-101											
担当教員：L. アーノルド													
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001DA											
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. プリーテスト 02. 授業内容説明、生徒達のクラスIDカード作り、挨拶 03. 挨拶の練習 04. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 05. 過去 06. 経験、過去 07. 過去、経験 08. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 09. 好み 10. 好み 11. 物、ことの好み 12. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 13. 中間復習 14. 中間テスト（スピーキング） 15. 場所、位置 16. 場所、位置の描写 17. 面白い場所、位置ことの描写 18. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 19. global-glocalテーマの紹介、活動 20. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの紹介 21. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの練習 22. global-glocalのショートプレゼンテーション 23. 娯楽、お誘い 24. 娯楽、お誘い 25. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション 26. 将来の会話、予定 27. 将来予定、スピーキング練習 28. 期末復習 29. まとめ（スピーキング） 30. テキストレビュー、まとめ </div>												
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div> 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目 </div>													
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。</div>													
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。</div>												
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回参加しよう！</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習、プレゼンテーションの準備、スピーキングテストの前に練習する。</div>												
	<div>評価方法</div> <div> <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>25%</td><td>70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。</td></tr> <tr> <td>(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学</td><td>25%</td><td></td></tr> <tr> <td>(3) 課題</td><td>25%</td><td></td></tr> <tr> <td>(4) スピーキングテスト(2回)・テキストレビュー</td><td>25%</td><td></td></tr> </table> </div>		(1) 平常点	25%	70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。	(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学	25%		(3) 課題	25%		(4) スピーキングテスト(2回)・テキストレビュー	25%
(1) 平常点	25%	70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。											
(2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学	25%												
(3) 課題	25%												
(4) スピーキングテスト(2回)・テキストレビュー	25%												
<div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会話 ・ リスニング ・ コミュニケーション、プレゼンテーション ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム ・ 文法 </div>	<div>教科書</div> <div>M. ヘルゲセン, S. ブラウン, J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 (4E)』 (ピアソン・エデュケーション)</div> <div>参考書</div> <div>M. ヘルゲセン, S. ブラウン, J. ウィルトシーア, A. グレイ 『English Firsthand 1 Workbook』 (ピアソン・エデュケーション)</div>												

ECA (Speaking) I (D) Level b

ECA-0-101

担当教員： チェンバレン 暁子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001DB

学部教育の関連目

【全】大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目
【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

リスニング力の養成や英語の発音、文法、語彙、様々な言い回しなどを学びながら、英語コミュニケーション能力を高めてゆく。異文化理解。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・異文化理解
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. Orientation & プリテスト
02. Unit 1 It's nice to meet you. Introducing yourself and friends. Greetings and leave-taking.
03. Unit 1 Video Activity & Unit Practice
04. Unit review
05. Unit 2 What's this? Naming objects, asking for and giving the locations of objects.
06. Unit 2 Video Activity & Unit Practice
07. Unit Review and Progress Check
08. Unit 3 Where are you from? Cities and countries, adjectives of personality and appearance.
09. Unit 3 Video Activity & Unit Practice
10. Unit Review
11. Unit 4 Whose jeans are these? Clothing, weather, and seasons.
12. Unit 4 Video Activity & Unit Practice
13. Unit Review and Progress Check
14. スピーキングテスト
15. Unit 5 What are you doing? Clock time & everyday activities.
16. Unit 5 Video Activity & Unit Practice
17. Progress Check
18. Unit 6 My sister works downtown. Transportation and family relationships.
19. Unit 6 Video Activities & Unit Practice
20. Unit Review and Progress Check
21. Unit 7 Does it have a view? Houses & apartments, furniture
22. Unit 7 Video Activities & Unit Practice
23. Unit Review
24. Unit 8 What do you do? Jobs and workplaces.
25. Unit 8 Video Activities & Unit Practice
26. Unit review and Progress check
27. Speaking Test
28. Cultural Understanding
29. 総復習
30. まとめ

準備學習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備學習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------------------|-----|---|
| (1) 授業内態度・参加度 | 20% | 授業内での様々な Activities の参加度や授業内での態度が評価される。 |
| (2) 小テスト | 20% | 2Unit 毎に行われるProgress checkテスト点。 |
| (3) 宿題 | 20% | 授業内で課される課題に対する評価。 |
| (4) Speaking Test & Final Exam | 40% | Speaking test と 期末試験の評価点。 |

教科書

Jack Richards / interchange Intro Full Contact A Fourth Edition (Cambridge University Press)

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001DC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------------|
| (1) 平常点 | 60% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 定期試験 | 40% (スピーキングテスト、Post-testの成績を含む) |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

参考書

担当教員：L. アーノルド

学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目

単位： 2 コード： 112001JA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目

【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

毎回参加しよう！

学びのキーワード

- ・ 会話
- ・ リスニング
- ・ コミュニケーション、プレゼンテーション
- ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム
- ・ 文法

授業計画

01. プリーテスト
02. 授業内容説明、生徒達のクラスIDカード作り、挨拶
03. 挨拶の練習
04. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
05. 過去
06. 経験、過去
07. 過去、経験
08. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
09. 好み
10. 好み
11. 物、ことの好み
12. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
13. 中間復習
14. 中間テスト（スピーキング）
15. 場所、位置
16. 場所、位置の描写
17. 面白い場所、位置ことの描写
18. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
19. global-glocalテーマの紹介、活動
20. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの紹介
21. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの練習
22. global-glocalのショートプレゼンテーション
23. 娯楽、お誘い
24. 娯楽、お誘い
25. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
26. 将来の会話、予定
27. 将来予定、スピーキング練習
28. 期末復習
29. まとめ（スピーキング）
30. テキストレビュー、まとめ

準備学習(予習)

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

準備学習(復習)

テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習、プレゼンテーションの準備、スピーキングテストの前に練習する。

評価方法

- | | | |
|----------------------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 25% | 70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。 |
| (2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備 | 25% | |
| (3) 課題 | 25% | |
| (4) スピーキングテスト(2回)・テキストレビュー | 25% | |

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 (4E)』(ピアソン・エデュケーション)

参考書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア、A. グレイ 『English Firsthand 1 Workbook』(ピアソン・エデュケーション)

ECA (Speaking) I (J) Level b		ECA-0-101
担当教員： チェンバレン 暁子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001JB
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. Orientation & プリテスト <small>Unit 1 It's nice to meet you. Introducing yourself and friends. Greetings and leave-taking.</small></div> <div>02.</div> <div>03. Unit 1 Video Activity & Unit Practice</div> <div>04. Unit review <small>Unit 2 What's this? Naming objects, asking for and giving the locations of objects.</small></div> <div>05.</div> <div>06. Unit 2 Video Activity & Unit Practice</div> <div>07. Unit Review and Progress Check</div> <div>08. <small>Unit 3 Where are you from? Cities and countries, adjectives of personality and appearance.</small></div> <div>09. Unit 3 Video Activity & Unit Practice</div> <div>10. Unit Review</div> <div>11. <small>Unit 4 Whose jeans are these? Clothing, weather, and seasons.</small></div> <div>12. Unit 4 Video Activity & Unit Practice</div> <div>13. Unit Review and Progress Check</div> <div>14.スピーキングテスト</div> <div>15. <small>Unit 5 What are you doing? Clock time & everyday activities.</small></div> <div>16. Unit 5 Video Activity & Unit Practice</div> <div>17. Progress Check</div> <div>18. <small>Unit 6 My sister works downtown. Transportation and family relationships.</small></div> <div>19. Unit 6 Video Activities & Unit Practice</div> <div>20. Unit Review and Progress Check</div> <div>21. <small>Unit 7 Does it have a view? Houses & apartments, furniture</small></div> <div>22. Unit 7 Video Activities & Unit Practice</div> <div>23. Unit Review</div> <div>24. <small>Unit 8 What do you do? Jobs and workplaces.</small></div> <div>25. Unit 8 Video Activities & Unit Practice</div> <div>26. Unit review and Progress check</div> <div>27. Speaking Test</div> <div>28. Cultural Understanding</div> <div>29. 総復習</div> <div>30. まとめ </div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業内態度・参加度 20% 授業内での様々な Activitiesの参加度が授業内での態度が評価される。</div> <div>(2) 小テスト 20% 2Unit 毎に行われるProgress checkテスト点。</div> <div>(3) 宿題 20% 授業内で課される課題に対する評価。</div> <div>(4) Speaking Test & Final Exam 40% Speaking test と期末試験の評価点。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>リスニング力の養成や英語の発音、文法、語彙、様々な言い回しなどを学びながら、英語コミュニケーション能力を高めてゆく。異文化理解。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 異文化理解 ・ Listening ・ 正しい発音 ・ Speaking ・ 英文法</div>	<div>教科書</div> <div>Jack Richards / interchange Intro Full Contact A Fourth Edition (Cambridge University Press)</div> <div>参考書</div>	

担当教員：中川 英幸

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001JC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------------|
| (1) 平常点 | 60% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 定期試験 | 40% (スピーキングテスト、Post-testの成績を含む) |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

参考書

ECA (Speaking) I (Super A)

ECA-0-101

担当教員：M. サベット

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001SA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目
【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目
【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

この授業では受講生が自分の考えや意見を効果的に英語で表現できるよう指導していく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において実践できるだけの必要な英語運用能力を身につけ、自信をもって英語でコミュニケーションができるようになることを目指す。

受講者に対する要望

語学の授業においては出席が重要である。授業では、学生の積極的な参加が強く求められる。

学びのキーワード

- ・ Communication
- ・ Strategies
- ・ Culture
- ・ Fluency
- ・ Interaction

授業計画

01. Class policy and course introduction
02. Module 1: Personal information
03. Exchanging personal information about self and family
04. Exchanging personal information about school and work
05. Exchanging personal information about friends
06. Summary and review
07. Module Two: Personality traits
08. Talking about personality traits
09. Discussing how we relate to others
10. Discussing how we relate to others
11. Summary and review
12. Module Three: Routines
13. Talking about daily routines
14. Talking about what we do for fun
15. Talking about what we do for fun
16. Summary and review
17. Preparation for mid-term presentation
18. Mid-term presentation
19. Module Four: Expressing opinions and preferences
20. Making comparisons and stating opinions
21. Making comparisons and stating opinions
22. Making comparisons and stating opinions
23. Summary and review
24. Module Five: Asking for and giving advice: making requests
25. Asking for and giving advice when facing difficulty
26. Making requests
27. Making requests
28. Summary and review
29. Preparation for final presentation
30. Final presentation

準備学習(予習)

Some speaking and discussion activities require prior preparation. Therefore, students are expected to prepare for these activities beforehand.

準備学習(復習)

Additional writing and listening tasks will be assigned in order to reinforce materials covered in the class.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 40% |
| (2) Homework | 30% |
| (3) Presentations | 30% |

教科書

David Paul 『Communication Strategies 1』 (Heinle & Heinle)
『』 〇

参考書

担当教員：L. アーノルド

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001WA

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目
 【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目
 【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

毎回参加しよう！

学びのキーワード

- ・ 会話
- ・ リスニング
- ・ コミュニケーション、プレゼンテーション
- ・ 発音、イントネーション、言うことのリズム
- ・ 文法

授業計画

01. プリーテスト
02. 授業内容説明、生徒達のクラスIDカード作り、挨拶
03. 挨拶の練習
04. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
05. 過去
06. 経験、過去
07. 過去、経験
08. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
09. 好み
10. 好み
11. 物、ことの好み
12. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
13. 中間復習
14. 中間テスト（スピーキング）
15. 場所、位置
16. 場所、位置の描写
17. 面白い場所、位置ことの描写
18. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
19. global-glocalテーマの紹介、活動
20. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの紹介
21. global-glocalテーマ、プレゼンテーションスキルの練習
22. global-glocalのショートプレゼンテーション
23. 娯楽、お誘い
24. 娯楽、お誘い
25. スピーキング練習とか簡単なショートプレゼンテーション
26. 将来の会話、予定
27. 将来予定、スピーキング練習
28. 期末復習
29. まとめ（スピーキング）
30. テキストレビュー、まとめ

準備学習(予習)

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

準備学習(復習)

テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習、プレゼンテーションの準備、スピーキングテストの前に練習する。

評価方法

- | | | |
|----------------------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 25% | 70%以上出席：欠席数8回、遅刻2回以下のこと・遅刻3回欠席で1回とみなす。 |
| (2) スピーキング練習、プレゼンテーションの準備学 | 25% | |
| (3) 課題 | 25% | |
| (4) スピーキングテスト(2回)・テキストレビュー | 25% | |

教科書

Ⅲ. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 (4E)』(ピアソン・エデュケーション)

参考書

Ⅲ. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア、A. グレイ 『English Firsthand 1 Workbook』(ピアソン・エデュケーション)

ECA (Speaking) I (W) Level b		ECA-0-101
担当教員： チェンバレン 暁子		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 112001WB
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. Orientation & プリテスト <small>Unit 1 It's nice to meet you. Introducing yourself and friends. Greetings and leave-taking.</small></div> <div>02.</div> <div>03. Unit 1 Video Activity & Unit Practice</div> <div>04. Unit review <small>Unit 2 What's this? Naming objects, asking for and giving the locations of objects.</small></div> <div>05.</div> <div>06. Unit 2 Video Activity & Unit Practice</div> <div>07. Unit Review and Progress Check</div> <div>08. <small>Unit 3 Where are you from? Cities and countries, adjectives of personality and appearance.</small></div> <div>09. Unit 3 Video Activity & Unit Practice</div> <div>10. Unit Review</div> <div>11. <small>Unit 4 Whose jeans are these? Clothing, weather, and seasons.</small></div> <div>12. Unit 4 Video Activity & Unit Practice</div> <div>13. Unit Review and Progress Check</div> <div>14.スピーキングテスト</div> <div>15. <small>Unit 5 What are you doing? Clock time & everyday activities.</small></div> <div>16. Unit 5 Video Activity & Unit Practice</div> <div>17. Progress Check</div> <div>18. <small>Unit 6 My sister works downtown. Transportation and family relationships.</small></div> <div>19. Unit 6 Video Activities & Unit Practice</div> <div>20. Unit Review and Progress Check</div> <div>21. <small>Unit 7 Does it have a view? Houses & apartments, furniture</small></div> <div>22. Unit 7 Video Activities & Unit Practice</div> <div>23. Unit Review</div> <div>24. <small>Unit 8 What do you do? Jobs and workplaces.</small></div> <div>25. Unit 8 Video Activities & Unit Practice</div> <div>26. Unit review and Progress check</div> <div>27. Speaking Test</div> <div>28. Cultural Understanding</div> <div>29. 総復習</div> <div>30. まとめ </div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業内参加態度 20% 授業内での様々な Activitiesの参加度が授業内での態度が評価される。</div> <div>(2) 小テスト 20% 2Unit 毎に行われるProgress checkテスト点。</div> <div>(3) 宿題 20% 授業内で課される課題に対する評価。</div> <div>(4) Speaking Test & Final Exam 40% Speaking test と期末試験の評価点。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>リスニング力の養成や英語の発音、文法、語彙、様々な言い回しなどを学びながら、英語コミュニケーション能力を高めてゆく。異文化理解。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・異文化理解 ・Listening ・正しい発音 ・Speaking ・英文法</div>	<div>教科書</div> <div>Jack Richards / interchange Intro Full Contact A Fourth Edition (Cambridge University Press)</div> <div>参考書</div>	

担当教員：島田 洋子

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：112001WC

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

【全】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. 授業について、プリテスト
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. review
15. ふりかえり # 1
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. review
29. ふりかえり # 2
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 期末試験・スピーキングテスト | 60% |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

参考書

健康・体力づくり実習A（ボールスポーツ）		PHED-0-101
担当教員：小澤 治夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500110
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 1. オリエンテーション、グループング、簡易ゲーム（タグラグビー） ゴール型、ネット型、ベースボール型の解説 </div> <div>02. タグラグビー</div> <div>03. フラッグフットボール</div> <div>04. ザースボール（1）</div> <div>05. ザースボール（2）</div> <div>06. ミニサッカー（1）</div> <div>07. ミニサッカー（2）</div> <div>08. フットサルと大会運営</div> <div>09. テニス（1）</div> <div>10. テニス（2）</div> <div>11. ソフトボール（1）</div> <div>12. ソフトボール（2）</div> <div>13. クライマックスイベント（1）サッカー大会とその運営</div> <div>14. クライマックスイベント（1）ザースボール大会とその運営</div> <div>15. クライマックスイベント（1）テニス大会とその運営</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>スポーツ、ニュースポーツと呼ばれるゲーム型の運動は約1000種類ありますが、教育においてすべて取り扱うことは不可能であるため、日本における初等・中等教育の学校教育では8つの領域から教育が展開されています。その中の一つが球技であり、さらにそこで扱われる球技は1）ゴール型、2）ネット型、3）ベースボール型であり、本授業ではこの三つの型のスポーツを学習内容として授業を進めます。また授業では、練習の方法や大会運営の方法も学習します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>スポーツは音楽や文学と同様に人類が創出してきた文化であり、こうした文化を有した動物をホモルーデンスと言います。つまり「人間」を人間たらしめているのは文化を享受しながら生きていくことでもあります。本授業では、そうした文化としてのボールスポーツを学び、これからの人生に活かしていくことのできるような力をつけることを大きな目標とし、扱われるボールスポーツの技術・戦術・ルールなどを習得し、また練習の方法と大会運営の方法を理解し実際に活用できる能力を養う。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>これまでの球技経験を振り返り、まとめておく、ルールを事前に調べておく。ザースボールについては小澤治夫研究室のホームページを閲覧して調べること。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>集団での活動が中心になるので、積極的に参加すること。
 必ず運動着に着替え、運動用シューズを着用すること。暑熱対策として水分補給ができるように準備しておくこと。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>グループで話し合った内容を、自分自身の経験と照らし合わせ、翌週の話し合い活動で自分なりの見解を発表できるように準備を行う。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業態度60% 授業への参加度</div><div>(2) 授業レポート40% レポートの内容の充実度</div></div> <div>学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。
 グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードおよびレポートにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。</div>
		<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>中学校や高校で用いた実技の副読本があれば準備しておいていただきたい。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・球技</div><div>・ゴール型</div><div>・ネット型</div><div>・ベースボール型</div><div>・クライマックスイベント</div></div>		

健康・体力づくり実習A（複合スポーツ）

PHED-0-101

担当教員：松永 直人

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500120

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

生涯スポーツとして親しまれているテニス及びゴルフを中心に授業を行う。
それぞれの種目の特徴を捉え、健康づくりとしてのスポーツ参加の動機付けの機会と位置付ける。

(2) 学びの意義と目標

生涯スポーツであるテニス・ゴルフのルールを理解し、ゲームとして行える技術を習得する。
また、動いているボールと止まったボールを打つことの違いを理解する。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. テニス①（基本ストローク①）
03. テニス②（基本ストローク②）
04. テニス③（ルールの習得）
05. テニス④（シングルのゲーム）
06. テニス⑤（ダブルスのゲーム①）
07. テニス⑥（ダブルスのゲーム②）
08. テニス⑦（ダブルスのゲーム③）
09. ゴルフ①（グリップ・スタンス）
10. ゴルフ②（スイング①）
11. ゴルフ③（スイング②）
12. ゴルフ④（スイング③）
13. ゴルフ⑤（コース練習①）
14. ゴルフ⑥（コース練習②）
15. ゴルフ⑦（コース練習③）

準備学習（予習）

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習（復習）

ルールや用語、ストロークやスイングを確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 積極的態度、行動を評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

健康・体力づくり実習A（テニス）		PHED-0-101
担当教員：小澤 治夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500130
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、グルーピング、簡易ゲーム 用具と設備の使い方 </div> <div>02. ボールジャグリングと簡易ゲーム、ラダートレーニング</div> <div>03. ラダートレーニング、ウォームアップ、ショートラリー</div> <div>04. ショートラリー、フォアハンドストローク</div> <div>05. ストロークの技術（フォアハンド、バックハンド）、簡易ゲーム</div> <div>06. サービスの技術、簡易ゲーム</div> <div>07. サービスの技術、簡易ゲーム</div> <div>08. ロングラリー（目指せ連続30回！）</div> <div>09. ボレーの技術(目指せ連続20回！)</div> <div>10. 4人組のロングラリー（目指せ30回！）</div> <div>11. 簡易ゲームを楽しむ・ルール理解、ダブルスのテストマッチ</div> <div>12. 大会：開会式、チーム対抗戦第1節</div> <div>13. チーム対抗戦第2節</div> <div>14. チーム対抗戦第3節</div> <div>15. 大会：閉会式、チーム対抗戦、まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>【テニス】 本講義では、体力を高め健康な体をつくるためのトレーニング及びテニスを主教材として学習を進めます。体力づくりでは、ラダーやボールを用いたトレーニングあるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたトレーニングを学習します。またテニスにおいては主に初心者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていきます。授業後半では大会を通して運営の方法も学習します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>健康でアクティブな体を維持するために体力づくりのための運動やスポーツを若い時期に学習し、その方法を習得することは長い人生において有意義なことといえます。そしてスポーツは、音楽や文学と同様に人類が創出してきた文化であり、本授業では、そうした文化としてのスポーツのうちの一つであるテニスを学び、これからの人生に活かしていくことのできるような力をつけることを大きな目標とし、テニスの技術・ルールなどを習得し、また練習の方法と大会運営の方法を理解し実際に活用できる能力を養います。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に参加すること</div> <div>テニスシューズを必ず用意すること</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>テニスの試合のテレビ観戦, テニスの実技本を事前に閲覧することを心掛けていただきたい</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業態度60% 授業への参加度</div><div>(2) 授業レポート40% レポートの内容の充実度</div></div> <div>学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。
 グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードおよびレポートにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。</div>
		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>中学校や高校で用いた実技の副読本があれば準備しておいていただきたい</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ テニス</div><div>・ 生涯スポーツ</div><div>・ コミュニケーション</div><div>・ マナー</div></div>		

健康・体力づくり実習A（ニュースポーツ）		PHED-0-102
担当教員： 神田 良太郎		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500140
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ストレッチ運動 02. 1人で行う体力づくり運動 03. 体力づくり運動(マシンを使用したトレーニング) 04. ターゲットバードゴルフ(基本練習、ルールの理解) 05. ターゲットバードゴルフ(ゲーム) 06. ストレッチ運動 07. 2人組で行う体力づくり運動 08. ボールを使った運動 09. ソフトバレーボール(基本練習) 10. ソフトバレーボール(ゲーム) 11. ストレッチ運動 12. 筋力トレーニング 13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習) 14. 簡易ホッケー(ゲーム) 15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目 【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。 スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>・授業に対してまじめに取り組む
・積極性と協調性が大切
・シューズを用意すること</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・授業に対して欠席をしないで取り組める ・他との協調性又協力</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 60% 欠席－6点、遅刻・早退－2点 (2) 評価点 40% 授業態度、技能面、シューズ等の忘れ</div>
		とにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む
		<div>教科書</div>
		<div>参考書</div>

担当教員：鈴木 由美

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500150

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

「健康」について、実技と理論の両面から学習します。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング）・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチングなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。

エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。

また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるよう複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。

(2) 学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。

生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

受講者に対する要望

服装は、運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。

学びのキーワード

- ・フィットネス
- ・健康への自己教育力の向上
- ・実践方法

授業計画

01. ガイダンスと基本動作 ■以降、ストレッチングは毎回実施
02. エアロビクス運動とは ■エアロビクス（フットワークI）
03. 健康を支える要素・運動の必要性と効果 ■エアロビクス（フットワークII）
04. 自分の身体を知る（体組成測定） ■エアロビクス
05. 自分の身体を知る（姿勢・ゆがみチェック） ■エアロビクス
06. 自分に適した運動を知る（運動強度） ■ステップエアロビクス
07. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度） ■ステップエアロビクス
08. 筋コンディショニングの必要性と効果 ■バランスボール
09. トレーニングの原則 ■バランスボール
10. ライフスタイルと健康（食生活Ⅰ） ■パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康（食生活Ⅱ） ■パワーヨガ
12. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介
13. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介
14. リクエストウィーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ）
15. まとめ

準備学習（予習）

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

準備学習（復習）

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度 | 15% |
| (3) 授業記録 | 10% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

健康・体力づくり実習A（サッカー）		PHED-0-101				
担当教員： 檜山 康						
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500160				
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション・導入</div> <div>02. ボール無しの動き（1）集団で動くことの難しさ</div> <div>03. ボール無しの動き（2）サポートの方法（タイミング、角度）</div> <div>04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係</div> <div>05. プレーの先取り スペースを創って使う</div> <div>06. 判断のスピード 3人目の動きのタイミング</div> <div>07. 1対1の対応 局面と全体の関係</div> <div>08. チームワークとは何か</div> <div>09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動</div> <div>10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る</div> <div>11. 攻撃の連動（1） 幅を使う 動き出す</div> <div>12. 攻撃の連動（2） 切り替え コンパクト</div> <div>13. 数的優位を作る 生かす</div> <div>14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ</div> <div>15. まとめ</div>				
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>						
<div>(1) 内容</div> <div>技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サッカーの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。</div>						
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本授業ではサッカーにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目指にする。サッカーの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。</div>				
<div>受講者に対する要望</div> <div>サッカーに強い関心がある学生に受講してもらいたい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしておくこと。</div>				
		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) レポート</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 実技試験</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 参加態度</td><td>20%</td></tr></table></div> <div>実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時間の2/3以上の出席で評価の対象となる。</div>	(1) レポート	50%	(2) 実技試験	30%
(1) レポート	50%					
(2) 実技試験	30%					
(3) 参加態度	20%					
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・スポーツ指導</div><div>・チーム戦術</div><div>・グループ戦術</div><div>・個人戦術</div><div>・戦術的なゲーム</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>				

健康・体力づくり実習A（ソフトボール）		PHED-0-101
担当教員： 神田 良太郎		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500170
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. 学習内容を理解・安全性と用具の使用法・ストレッチ、ランニング、補助運動、キャッチボール 02. ストレッチ、ランニング、補助運動(ウォーミングアップ)、キャッチボール、ゴロ・フライの打球処理、ノックでの捕球の仕方等 03. ウォーミングアップ バント、トスバッティング、ボールの打ち方等 04. ウォーミングアップ 攻守走投の応用 05. 同上 関係プレイの確認等 06. ウォーミングアップ ゲームに対する基本練習。ハーフバッティング 07. ウォーミングアップ 8-10人制のゲーム 対戦表を作り勝敗を記入、目標を立てる 08. 同上 09. 同上 10. 同上 11. シートバッティング シートノック ピッチングと守備など 12. ウォーミングアップ ゲーム(攻守走投のゲーム内容評価) 13. 同上 14. 同上 15. 同上
(1) 内容		
・歴史 ソフトボールは1887年にアメリカで室内ベースボールとして考案された。わが国には、1921(大正10)年に大谷武一より紹介された。1949年(昭和24)年に軟式野球連盟から独立して②日本ソフトボール協会が発足された。		
・特性 ①大きいボールを細いバットで打つので打ちやすく狭い場所で老若男女が安全に気軽に楽しめる。 ②投手と捕手の距離が短く、投手は下手投げで投球するのでだれでも簡単にできる。		
(2) 学びの意義と目標		
・ソフトボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。 ・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。 ・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと歯科大を持って臨むようにする。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)		日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること
		準備学習(復習)
		柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること
		評価方法
		(1) 平常点 40% (2) 行動・協調・積極性 20% (3) テスト 40% ノック・バッティングなど
		とにかく欠席をしないこと
学びのキーワード		教科書
・協調性 ・協力性 ・積極的に行動する姿勢 ・努力		参考書

健康・体力づくり実習B（バドミントン）

PHED-0-102

担当教員：松永 直人

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500210

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

バドミントン競技は、トップ選手では初速が時速400kmを越えるハードなスポーツである一方、地域レベルでは競技人口も増え老若男女楽しめる生涯スポーツとなっている。バドミントン競技を通じて健康と運動の関わり合いを理解し、生涯スポーツへの動機づけの機会と位置付ける。

(2) 学びの意義と目標

ラケットの握り方から基本ストローク及びルールを習得し、ゲーム形式の実践を繰り返し、各種目の競技形態や競技特性を理解する。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全て運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. シャトル・ラケットに慣れる
03. 基本ストロークの習得①
04. 基本ストロークの習得②
05. 簡易ラリー
06. 競技規則、審判の方法の習得
07. シングルのゲーム①
08. シングルのゲーム②
09. ダブルスのゲーム①
10. ダブルスのゲーム②
11. トリプルのゲーム
12. 団体戦①
13. 団体戦②
14. 団体戦③
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

各ショットの名前と軌道、ルール、戦術論等を確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 積極的態度、行動を評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

健康・体力づくり実習B（ソフトボール）		PHED-0-101
担当教員： 神田 良太郎		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500220
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. 学習内容を理解・安全性と用具の使用法・ストレッチ、ランニング、補助運動、キャッチボール 02. ストレッチ、ランニング、補助運動(ウォーミングアップ)、キャッチボール、ゴロ・フライの打球処理、ノックでの捕球の仕方等 03. ウォーミングアップ バント、トスバッティング、ボールの打ち方等 04. ウォーミングアップ 攻守走投の応用 05. 同上 関係プレイの確認等 06. ウォーミングアップ ゲームに対する基本練習。ハーフバッティング 07. ウォーミングアップ 8-10人制のゲーム 対戦表を作り勝敗を記入、目標を立てる 08. 同上 09. 同上 10. 同上 11. シートバッティング シートノック ピッチングと守備など 12. ウォーミングアップ ゲーム(攻守走投のゲーム内容評価) 13. 同上 14. 同上 15. 同上
(1) 内容		
・歴史 ソフトボールは1887年にアメリカで室内ベースボールとして考案された。わが国には、1921(大正10)年に大谷武一より紹介された。1949年(昭和24)年に軟式野球連盟から独立して②日本ソフトボール協会が発足された。		
・特性 ①大きいボールを細いバットで打つので打ちやすく狭い場所で老若男女が安全に気軽に楽しめる。 ②投手と捕手の距離が短く、投手は下手投げで投球するのでだれでも簡単にできる。		
(2) 学びの意義と目標		
・ソフトボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。 ・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。 ・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと歯科大を持って臨むようにする。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)		日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること
		準備学習(復習)
		柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること
		評価方法
		(1) 平常点 40% (2) 行動・協調・積極性 20% (3) テスト 40% ノック・バッティングなど
		とにかく欠席をしないこと
学びのキーワード		教科書
・協調性 ・協力性 ・積極的に行動する姿勢 ・努力		参考書

健康・体力づくり実習B（テニス）		PHED-0-102
担当教員：小澤 治夫		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：11500230
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、グルーピング、簡易ゲーム 用具と設備の使い方 </div> <div>02. ボールジャグリングと簡易ゲーム、ラダートレーニング、ウェイトトレーニング</div> <div>03. ラダートレーニング、ウェイトトレーニング、チューブトレーニング、ウォームアップのプログラミング、ショートラリー</div> <div>04. ショートラリー、フォアハンドストローク、バックハンドストローク</div> <div>05. サービスの技術、簡易ゲーム、シングルス</div> <div>06. ロングラリー（目指せ30回！）、ボレーの技術（目指せ20回！）</div> <div>07. 4人組のロングラリー（目指せ30回！）、ダブルのテストマッチ</div> <div>08. シングルのテストマッチ</div> <div>09. チームの練習会とゲームプラン</div> <div>10. ダブルス予選会</div> <div>11. シングルス予選会</div> <div>12. 大会：開会式、チーム対抗戦第1節</div> <div>13. 大会：チーム対抗戦第2節</div> <div>14. 大会：チーム対抗戦第3節</div> <div>15. 大会：閉会式、チーム対抗戦第4節、まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>【テニス】 本講義では、テニスを主教材としつつ、生涯をアクティブに生きていくことを可能にする強い体をつくりためのトレーニングも実施しながら学習を進めます。トレーニングでは、ラダーやボールを用いたり、あるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたりしたトレーニングを学習します。またテニスにおいては主に中級・上級レベル程度の経験者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていきます。授業後半では大会を通して運営の方法も学習します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>生涯を健康でアクティブな体を維持するためにスポーツを若い時期に学習し、その方法を習得することは長い人生において有意義なことといえます。そしてスポーツは、音楽や文学と同様に人類が創出してきた文化であり、本授業では、そうした文化としてのスポーツのうちの一つであるテニスを学び、これからの人生に活かしていくことのできるような力をつけることを大きな目標とし、テニスの技術・ルールなどを習得し、また練習の方法と大会運営の方法を理解し実際に活用できる能力を養います。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に参加すること</div> <div>テニスシューズを必ず用意すること</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>テニスの試合観戦（テレビ中継）、テニスに関する参考図書を見覧しておいていただきたい</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業態度 60% 授業への参加度</div> <div>(2) 実習点 40% レポート内容の充実度</div>	
	<small>学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない、 グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードおよびレポートにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける</small>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・テニス</div> <div>・生涯</div> <div>・コミュニケーション</div> <div>・マナー</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div> <div>中学校及び高校で用いた体育の副読本があれば用意しておいていただきたい</div>

健康・体力づくり実習B (ニュースポーツ)

PHED-0-102

担当教員： 神田 良太郎

學期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500240

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。
スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。

(2) 学びの意義と目標

健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がないでも出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。

受講者に対する要望

・授業に対してまじめに取り組む
・積極性と協調性が大切
・シューズを用意すること

学びのキーワード

- ・授業に対して欠席をしないで取り組める
- ・他との協調性又協力

授業計画

01. ストレッチ運動
02. 1人で行う体力づくり運動
03. 体力づくり運動(マシンを使用したトレーニング)
04. ターゲットバードゴルフ(基本練習、ルールの理解)
05. ターゲットバードゴルフ(ゲーム)
06. ストレッチ運動
07. 2人組で行う体力づくり運動
08. ボールを使った運動
09. ソフトバレーボール(基本練習)
10. ソフトバレーボール(ゲーム)
11. ストレッチ運動
12. 筋力トレーニング
13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習)
14. 簡易ホッケー(ゲーム)
15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど

準備學習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備學習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | | |
|---------|-----|-------------------|
| (1) 平常点 | 60% | 欠席－6点、遅刻・早退－2点 |
| (2) 評価点 | 40% | 授業態度、技能面、シューズ等の忘れ |

とにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む

教科書

参考書

健康・体力づくり実習B（バレーボール）

PHED-0-104

担当教員：鈴木 由美

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500250

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。

(2) 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。
履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで（1）個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで（2）集団技能の向上、さらに（3）身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

受講者に対する要望

経験不問。できないできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

学びのキーワード

- ・バレーボール
- ・技術・戦術・マナー・ルール
- ・コミュニケーションスキルの向上

授業計画

01. ○ガイダンス
02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本
03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
04. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
05. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
06. ○個人的技能練習（パス・スパイク）
07. ○集団的技能練習 ●チャンスボールをセッターへ
08. ○集団的技能練習 ●チャンスボールから攻撃へ
09. ○集団的技能練習（攻撃へのつなぎ） ●攻撃にチャレンジ
10. ○集団的技能練習（3段攻撃のバリエーション） ●速攻を含んだゲーム
11. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
12. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ●ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ●ゲーム（リーグ戦）学年別
15. ●ゲーム

準備学習（予習）

必ず運動着・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

準備学習（復習）

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度 | 15% |
| (3) 授業記録 | 10% |

教科書

参考書

健康・体力づくり実習B（サロンフットボール）		PHED-0-102
担当教員： 檜山 康		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500260
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション・導入</div> <div>02. ボール無しの動き（１）集団で動くことの難しさ</div> <div>03. ボール無しの動き（２）サポートの方法（タイミング、角度）</div> <div>04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係</div> <div>05. プレーの先取り スペースを創って使う</div> <div>06. 判断のスピード ３人目の動きのタイミング</div> <div>07. １対１の対応 局面と全体の関係</div> <div>08. チームワークとは何か</div> <div>09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動</div> <div>10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る</div> <div>11. 攻撃の連動（１） 幅を使う 動き出す</div> <div>12. 攻撃の連動（２） 切り替え コンパクト</div> <div>13. 数的優位を作る 生かす</div> <div>14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ</div> <div>15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>（１）内容</div> <div>技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サロンフットボールの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を２種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。</div>		
<div>（２）学びの意義と目標</div> <div>本授業ではサロンフットボールにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サロンフットボールの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>サロンフットボールに強い関心がある学生に受講してもらいたい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしておくこと。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・スポーツ指導</div> <div>・チーム戦術</div> <div>・グループ戦術</div> <div>・個人戦術</div> <div>・戦術的なゲーム</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) レポート50%</div><div>(2) 実技試験30%</div><div>(3) 参加態度20%</div></div> <div>実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。</div>
		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

健康・体力づくり実習B（ボールスポーツ）

PHED-0-102

担当教員：鈴木 直樹

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500270

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

バスケットボールを中心にしてゴール型のゲームについて内容とする。

(2) 学びの意義と目標

生涯にわたって運動に親しむ資質と能力を「運動とのかかわり（運動への参加）」とし、技能レベルや性別に関係なく、ゲームの特性に触れてプレイすることのできる力を育むことを目標とする。

受講者に対する要望

積極的に学習に参加することと、安全に運動を行うための自己管理をお願いしたい。

学びのキーワード

- ・バスケットボール
- ・ゴール型
- ・生涯スポーツ
- ・いつでも、どこでも、だれとでも
- ・ボールゲーム

授業計画

01. オリエンテーション（教室にて）
02. バルシューレ（1）
03. バルシューレ（2）
04. ゴール型ゲーム__タッチダウン・ポートボール
05. ゴール型ゲーム__ハンドボール
06. ゴール型ゲーム__ポートボール
07. ゴール型ゲーム__セストボール
08. ゴール型ゲーム__ネットボール
09. 戦術学習によるバスケットボール教材の学習（1）
10. 戦術学習によるバスケットボール教材の学習（2）
11. 戦術学習によるバスケットボール教材の学習（3）
12. スポーツ教育モデルによるバスケットボール教材の学習（1）
13. スポーツ教育モデルによるバスケットボール教材の学習（2）
14. スポーツ教育モデルによるバスケットボール教材の学習（3）
15. まとめ

準備学習（予習）

前時の学習内容を想起しておくこと。

準備学習（復習）

学習したことを整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-------------------------|
| (1) 態度 | 20% 学習への取り組み |
| (2) 思考判断 | 30% 戦術的理解参加の為の工夫 |
| (3) 技能 | 30% パフォーマンスの「変化」（個人・集団） |
| (4) 社会的スキル | 20% 仲間とのかかわり |

教科書

参考書

生涯スポーツ実習 A (ゴルフ)

PHED-0-103

担当教員： 和田 雅史

学期： 集中講 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目

単位： 1 コード： 11500310

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

生涯スポーツとしてのゴルフを、身体活動という視点から学ぶ授業である。通常の授業形態とは異なり、集中授業として3泊4日の日程で構成されている。ゴルフの基礎技術（グリップ、スタンス、スイング）を習得した後、練習場で実際にボールを打ち、その後ゴルフコースをラウンドする。そこでは、実際のプレーを技術という観点からだけではなく、ルールを尊び、ゴルフ特有の厳格なマナーなどの学習も含まれる。

(2) 学びの意義と目標

これからの社会で必要とされる生涯スポーツとして人気の高いゴルフは、得てして高齢者のスポーツ、お金のかかるスポーツというイメージが付きまとうが、この授業では純粋にゴルフスポーツが身体活動として優れた運動種目であるということと、精神性を養うことにおいても優れた運動種目である事を理解したい。そこに大学生の時期に身体活動としてのゴルフを学ぶことによる優位性がある。

また、別の観点からも自然の中で展開されるスポーツ活動は、他の種目にはない醍醐味があると同時に、この授業は、3泊4日に亘る集中授業でもあり、その間は宿泊を伴う授業となる。集団生活の中で、学生同士の親睦を深め、楽しい活動としたい。

受講者に対する要望

学生集団での宿泊を伴う授業形態であるところから、規律ある生活、行動のできないものは参加できない。＜br /＞また、宿泊、交通、施設利用料は、個人負担となるため受講にあたっては別途定める経費を徴収する。

学びのキーワード

- ・ ゴルフ
- ・ 生涯スポーツ

授業計画

01. 事前オリエンテーション
02. 実技（グリップ、スタンス）
03. 実技（スイング①）
04. 講習（講義）
05. 実技（スイング②）
06. 実技（スイング③）
07. 実技（コース練習）
08. 実技（コース練習）
09. 講習（技術解説）
10. 実技（スイング④）
11. 実技（スイング⑤）
12. 実技（コース練習）
13. 実技（コース練習）
14. 実技（コース練習）
15. 実技（コース練習）

準備学習(予習)

オリエンテーションの出席は必須。そこで説明される内容をよく聞き、実際の授業への心構えを理解する。

準備学習(復習)

学んだ知識技術が、それからの生活の中で生かされるよう心がける。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業参加の状況 | 50% |
| (2) 授業態度 | 30% |
| (3) 実践の状況 | 20% |

教科書

参考書

生涯スポーツ実習 A (複合スポーツ)

PHED-0-103

担当教員： 松永 直人

學期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500330

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

生涯スポーツとして親しまれているテニス及びゴルフを中心に授業を行う。
それぞれの種目の特徴を捉え、健康づくりとしてのスポーツ参加の動機付けの機会と位置付ける。

(2) 学びの意義と目標

生涯スポーツであるテニス・ゴルフのルールを理解し、ゲームとして行える技術を習得する。
また、動いているボールと止まったボールを打つことの違いを理解する。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. テニス①（基本ストローク①）
03. テニス②（基本ストローク②）
04. テニス③（ルールの習得）
05. テニス④（シングルのゲーム）
06. テニス⑤（ダブルスのゲーム①）
07. テニス⑥（ダブルスのゲーム②）
08. テニス⑦（ダブルスのゲーム③）
09. ゴルフ①（グリップ・スタンス）
10. ゴルフ②（スイング①）
11. ゴルフ③（スイング②）
12. ゴルフ④（スイング③）
13. ゴルフ⑤（コース練習①）
14. ゴルフ⑥（コース練習②）
15. ゴルフ⑦（コース練習③）

準備學習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備學習(復習)

ルールや用語、ストロークやスイングを確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 積極的態度、行動を評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

生涯スポーツ実習 A （テニス）		PHED-0-103
担当教員： 小澤 治夫		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500340
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、グルーピング、簡易ゲーム 用具と設備の使い方 </div> <div>02. ボールジャグリングと簡易ゲーム、ラダートレーニング、ウェイトトレーニング</div> <div>03. ラダートレーニング、ウェイトトレーニング、チューブトレーニング、ウォームアップのプログラミング、ショートラリー</div> <div>04. ショートラリー、フォアハンドストローク</div> <div>05. ショートラリー、フォアハンドストローク、簡易ゲーム</div> <div>06. サービスの技術、簡易ゲーム</div> <div>07. ロングラリー（目指せ30回！）、ボレーの技術（目指せ20回！）</div> <div>08. 4人組のロングラリー（目指せ30回！）、ダブルのテストマッチ</div> <div>09. ダブルスのテストマッチ</div> <div>10. ダブルス予選会1回戦</div> <div>11. ダブルス予選会2回戦</div> <div>12. 大会：開会式、チーム対抗戦第1節</div> <div>13. 大会：チーム対抗戦第2節</div> <div>14. 大会：チーム対抗戦第3節</div> <div>15. 大会：閉会式、チーム対抗戦第4節、まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】 中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】 小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>【テニス】 本講義では、テニスを主教材としつつ体力を高め健康な体をつくるためのトレーニングも実施しながら学習を進めます。体力づくりでは、ラダーやボールを用いたトレーニングあるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたトレーニングを学習します。またテニスにおいては主に初心者及び中級レベル程度の経験者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていきます。授業後半では大会を通して運営の方法も学習します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本講義では、テニスを主教材としつつ体力を高め健康な体をつくるためのトレーニングも実施しながら学習を進めます。体力づくりでは、ラダーやボールを用いたトレーニングあるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたトレーニングを学習します。またテニスにおいては主に初心者及び中級レベル程度の経験者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていきます。授業後半では大会を通して運営の方法も学習します。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に参加すること。 テニスシューズを必ず用意すること</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>テニスの試合観戦（テレビ中継）</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業態度 60% 授業への参加度</div> <div>(2) 授業レポート 40% レポートの内容の充実度</div>	
	<small>学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。
 グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードおよびレポートにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。</small>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ テニス</div> <div>・ 生涯</div> <div>・ コミュニケーション</div> <div>・ マナー</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div> <div>中学校、高校で用いた体育の副読本があれば用意しておいていただきたい</div>

生涯スポーツ実習 A （ボールスポーツ）		PHED-0-103
担当教員： 鈴木 直樹		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500350
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（講義）</div> <div>02. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 1</div> <div>03. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 2</div> <div>04. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 3</div> <div>05. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 4</div> <div>06. ゴール型ゲームA（サッカー， バス케， ハンドボールのようなゲーム） 1</div> <div>07. ゴール型ゲームA（サッカー， バス케， ハンドボールのようなゲーム） 2</div> <div>08. ゴール型ゲームA（サッカー， バスケ， ハンドボールのようなゲーム） 3</div> <div>09. ゴール型ゲームB（ラグビー， アメフトのようなゲーム） 1</div> <div>10. ゴール型ゲームB（ラグビー， アメフトのようなゲーム） 2</div> <div>11. ゴール型ゲームB（ラグビー， アメフトのようなゲーム） 3</div> <div>12. ベースボール型ゲーム（野球， ソフト， クリケットのようなゲーム） 1</div> <div>13. ベースボール型ゲーム（野球， ソフト， クリケットのようなゲーム） 2</div> <div>14. ベースボール型ゲーム（野球， ソフト， クリケットのようなゲーム） 3</div> <div>15. まとめ（レポートの作成）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】 中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】 小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>ゲーム中心の指導アプローチにより，「ゲームを通してゲームでゲームがうまくなる」ようにしていく。また，技能の違い，ゲームの状況判断能力の違いを超え，様々な集団でゲームを楽しむことができるように工夫していく。さらに，授業内で学んだことがいろいろなスポーツ種目に使える力になっていくことができるように配慮していく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>生涯にわたって運動に親しむための「運動とかかわる力」を育成していくことを目指す。授業を通して，性別，年齢，体力の違いを超えて運動実践を楽しく行うことができるようになっていくことができることが目標である。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題を確認し， 課題を明確にしておく。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>運動着， 体育館シューズを持参すること。また，積極的な参加を期待する。
</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業を振り返り， 課題をもつ。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ボールゲーム</div> <div>・生涯スポーツ</div> <div>・ゲーム中心の指導</div> <div>・「いつでも」「どこでも」「誰とでも」</div> <div>・体育</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) パフォーマンス評価 50% 「運動とかかわる力」に関して授業内で発揮したことを評価の対象とする。</div> <div>(2) 授業への取り組み 30% 授業中の態度など</div> <div>(3) まとめのレポート 20% 授業の最終時間に作成をする</div> <div>授業中における運動や仲間とのかかわり，授業への取り組みが評価対象となる。また，授業の最終時間に学びを振り返り，学習目標の到達状況を確認する。</div>	
	<div>教科書</div>	
	<div>参考書</div>	

生涯スポーツ実習A（フィットネスエクササイズ）		PHED-0-103
担当教員： 鈴木 由美		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500360
<div>学部教育の関連目</div> <p>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</p>		<div>授業計画</div> <p>01. ガイダンスと基本動作■以降、ストレッチングは毎回実施 02. エアロビクス運動とは■エアロビクス（フットワークI） 03. 健康を支える要素・運動の必要性と効果■エアロビクス（フットワークII） 04. 自分の身体を知る（体組成測定）■エアロビクス 05. 自分の身体を知る（姿勢・ゆがみチェック）■エアロビクス 06. 自分に適した運動を知る（運動強度）■ステップエアロビクス 07. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度）■ステップエアロビクス 08. 筋コンディショニングの必要性と効果■バランスボール 09. トレーニングの原則■バランスボール 10. ライフスタイルと健康（食生活Ⅰ）■パワーヨガ 11. ライフスタイルと健康（食生活Ⅱ）■パワーヨガ 12. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介 13. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介 14. リクエストウィーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ） 15. まとめ</p>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <p>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</p>		
<div>(1) 内容</div> <p>「健康」について、実技と理論の両面から学習します。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング）・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチングなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるよう複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。</p>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。 生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。</p>		
<div>受講者に対する要望</div> <p>服装は、運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。</p>		
<div>学びのキーワード</div> <p>・フィットネス ・健康への自己教育力の向上 ・実践方法</p>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

生涯スポーツ実習 A （サッカー）		PHED-0-103
担当教員： 檜山 康		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500370
学部教育の関連目		授業計画
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション・導入 02. ボール無しの動き（１）集団で動くことの難しさ 03. ボール無しの動き（２）サポートの方法（タイミング、角度） 04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係 05. プレーの先取り スペースを創って使う 06. 判断のスピード ３人目の動きのタイミング 07. １対１の対応 局面と全体の関係 08. チームワークとは何か 09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動 10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る 11. 攻撃の連動（１） 幅を使う 動き出す 12. 攻撃の連動（２） 切り替え コンパクト 13. 数的優位を作る 生かす 14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ 15. まとめ
【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目		
(1) 内容		準備学習(予習)
技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サッカーの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を２種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)
本授業ではサッカーにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サッカーの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。		
受講者に対する要望		評価方法
サッカーに強い関心がある学生に受講してもらいたい。		
学びのキーワード		教科書
・スポーツ指導 ・チーム戦術 ・グループ戦術 ・個人戦術 ・戦術的なゲーム		参考書

生涯スポーツ実習B (バスケットボール)

PHED-0-104

担当教員：松永 直人

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500410

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目
【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

バスケットボールは走る、跳ぶ、投げるという運動を含み、瞬発力、持久力を必要とするスポーツである。スポーツの基本的な動作を多く含んだバスケットボールを通じて、様々な身体活動を行い、生涯スポーツに取り組む動機付けと位置付ける。

(2) 学びの意義と目標

個人的な技術の向上だけでなく、チームスポーツを通して協調性の向上や戦術を理解することで相手の行動を先読みする精神的な充実を目標とする。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。

学びのキーワード

- ・チームスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス (運動は行わない)
02. コーディネーショントレーニング
03. 実技① (基本的な技術の習得①)
04. 実技② (基本的な技術の習得②)
05. 実技③ (基本的な技術の習得③)
06. 実技④ (ルールの理解)
07. 実技⑤ (ゲーム①)
08. 実技⑥ (ゲーム②)
09. 実技⑦ (戦術論①)
10. 実技⑧ (戦術論②)
11. 実技⑨ (ゲーム③)
12. 実技⑩ (ゲーム④)
13. 実技⑪ (ゲーム⑤)
14. 実技⑫ (ゲーム⑥)
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツの経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

ルールや技術・戦術を確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 積極的態度、行動を評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

生涯スポーツ実習B（バレーボール）		PHED-0-102						
担当教員： 鈴木 由美								
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500420						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ○ガイダンス（以降、肩慣らし・基本練習は毎週行う）</div> <div>02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム</div> <div>03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム</div> <div>04. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）</div> <div>05. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）</div> <div>06. ○個人的技能練習（パス・スパイク） ●チャンスボールをセッターへ</div> <div>07. ○集団的技能練習（チャンスボールからの攻撃） ●チャンスボールをセッターへ</div> <div>08. ○集団的技能練習（シートレシーブ） ●チャンスボールから攻撃へ</div> <div>09. ○集団的技能練習（攻撃へのつなぎ） ●攻撃にチャレンジ</div> <div>10. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合</div> <div>11. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合</div> <div>12. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合</div> <div>13. ●ゲーム（リーグ戦）男女別</div> <div>14. ●ゲーム（リーグ戦）学年別</div> <div>15. ●ゲーム</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。</div> <div>履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じ、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>必ず着替え・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。</div>							
	<div>準備学習(復習)</div> <div>その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。</div>							
	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 平常点</td><td>75%</td></tr><tr><td>(2) 課題への積極的参加度・習熟度</td><td>15%</td></tr><tr><td>(3) 授業記録ノート</td><td>10%</td></tr></table></div>		(1) 平常点	75%	(2) 課題への積極的参加度・習熟度	15%	(3) 授業記録ノート	10%
(1) 平常点	75%							
(2) 課題への積極的参加度・習熟度	15%							
(3) 授業記録ノート	10%							
<div>受講者に対する要望</div> <div>経験不問。できるできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。</div>								
<div>学びのキーワード</div> <div>・バレーボール</div> <div>・技術・戦術・マナー・ルール</div> <div>・コミュニケーションスキルの向上</div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div> <div>参考書</div>							

生涯スポーツ実習B (バドミントン)

PHED-0-104

担当教員：松永 直人

学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500430

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目

【全】中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目

【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

バドミントン競技は、トップ選手では初速が時速400kmを越えるハードなスポーツである一方、地域レベルでは競技人口も増え老若男女楽しめる生涯スポーツとなっている。バドミントン競技を通じて健康と運動の関わり合いを理解し、生涯スポーツへの動機づけの機会と位置付ける。

(2) 学びの意義と目標

ラケットの握り方から基本ストローク及びルールを習得し、ゲーム形式の実践を繰り返し、各種目の競技形態や競技特性を理解する。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全て運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス (運動は行わない)
02. シャトル・ラケットに慣れる
03. 基本ストローク①
04. 基本ストローク②
05. 簡易ラリー
06. 競技規則、審判の方法の習得
07. シングルのゲーム①
08. シングルのゲーム②
09. ダブルスのゲーム①
10. ダブルスのゲーム②
11. トリプルのゲーム
12. 団体戦①
13. 団体戦②
14. 団体戦③
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

各ショットの名前と軌道、ルール、戦術論等を確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 積極的態度、行動を評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

生涯スポーツ実習B（テニス）		PHED-0-104
担当教員：小澤 治夫		
学期：週間授 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：11500440
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、グルーピング、簡易ゲーム 02. ボールジャグリングと簡易ゲーム、ラダートレーニング、ウェイトトレーニング、チューブトレーニング 03. ショートラリー、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、ロングラリー 04. サービスの技術、ロングラリー（目指せ30回！）、ボレーの技術（目指せ20回！） 05. 4人組のロングラリー（目指せ30回！）、ダブルのテストマッチ 06. シングルのテストマッチ、チームによる練習会 07. ダブルス予選会 08. シングルス予選会 09. 大会：開会式、チーム対抗戦第1節 10. 大会：チーム対抗戦第2節 11. 大会：チーム対抗戦第3節 12. チームによる練習会、上級者に学ぶクリニック 13. 大会：チーム対抗戦第4節 14. 大会：チーム対抗戦第5節 15. 閉会式、チーム対抗戦第6節、まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>【テニス】 本講義では、テニスを主教材としつつ、生涯をアクティブに生きていくことを可能にする強い体をつくりためのトレーニングも実施しながら学習を進めます。トレーニングでは、ラダーやボールを用いたり、あるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたりしたトレーニングを学習します。またテニスにおいては主に中級・上級レベル程度の経験者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていきます。授業後半では大会を通して運営の方法も学習します。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>生涯を健康でアクティブな体を維持するためにスポーツを若い時期に学習し、その方法を習得することは長い人生において有意義なことといえます。そしてスポーツは、音楽や文学と同様に人類が創出してきた文化であり、本授業では、そうした文化としてのスポーツのうちの一つであるテニスを学び、これからの人生に活かしていくことのできるような力をつけることを大きな目標とし、テニスの技術・ルールなどを習得し、また練習の方法と大会運営の方法を理解し実際に活用できる能力を養います。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>試合観戦（テレビ中継）</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に参加すること テニスシューズを必ず用意すること</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業態度 60% 授業への参加度 (2) 授業レポート 40% レポートの内容の充実度</div> <div>学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードおよびレポートにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・テニス ・生涯スポーツ ・コミュニケーション ・マナー</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>Ⅰ 中学校「および高校で用いた体育の副読本があれば用意していただきたい</div>	

生涯スポーツ実習B（ボールスポーツ）		PHED-0-104
担当教員：鈴木 直樹		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500450
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（講義） 02. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 1 03. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 2 04. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 3 05. ネット型ゲーム（バレー， テニス， 卓球， キンボールのようなゲーム） 4 06. ゴール型ゲームA（サッカー， バス케， ハンドボールのようなゲーム） 1 07. ゴール型ゲームA（サッカー， バス케， ハンドボールのようなゲーム） 2 08. ゴール型ゲームA（サッカー， バスケ， ハンドボールのようなゲーム） 3 09. ゴール型ゲームB（ラグビー， アメフトのようなゲーム） 1 10. ゴール型ゲームB（ラグビー， アメフトのようなゲーム） 2 11. ゴール型ゲームB（ラグビー， アメフトのようなゲーム） 3 12. ベースボール型ゲーム（野球， ソフト， クリケットのようなゲーム） 1 13. ベースボール型ゲーム（野球， ソフト， クリケットのようなゲーム） 2 14. ベースボール型ゲーム（野球， ソフト， クリケットのようなゲーム） 3 15. まとめ（レポートの作成）</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題を確認し， 課題を明確にしておく。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】 小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業を振り返り， 課題をもつ。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) パフォーマンス評価 50% 「運動とかかわる力」に関して授業内で発揮したことを評価の対象とする。 (2) 授業への取り組み 30% 授業中の態度など (3) まとめのレポート 20% 授業の最終時間に作成をする</div> <div>授業中における運動や仲間とのかかわり、授業への取り組みが評価対象となる。また、授業の最終時間に学びを振り返り、学習目標の到達状況を確認する。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>ゲーム中心の指導アプローチにより，「ゲームを通してゲームでゲームがうまくなる」ようにしていく。また，技能の違い，ゲームの状況判断能力の違いを超え，様々な集団でゲームを楽しむことができるように工夫していく。さらに，授業内で学んだことがいろいろなスポーツ種目に使える力になっていくことができるように配慮していく。</div>	<div>学びのキーワード</div> <div>・ ボールゲーム ・ 生涯スポーツ ・ ゲーム中心の指導 ・ 「いつでも」「どこでも」「誰とでも」 ・ 体育</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>生涯にわたって運動に親しむための「運動とかかわる力」を育成していくことを目指す。授業を通して，性別，年齢，体力の違いを超えて運動実践を楽しく行うことができるようになっていくことができることが目標である。</div>	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>運動着， 体育館シューズを持参すること。また，積極的な参加を期待する。
</div>		

生涯スポーツ実習B（フィットネスエクササイズ）		PHED-0-104
担当教員： 鈴木 由美		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500460
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンスと基本動作■以降、ストレッチングは毎回実施</div> <div>02. エアロビクス運動とは■エアロビクス（フットワークI）■体組成測定</div> <div>03. 健康を支える要素・運動の必要性と効果■エアロビクス（フットワークII）</div> <div>04. 自分の身体を知る（体組成測定）■エアロビクス</div> <div>05. 自分の身体を知る（姿勢・ゆがみチェック）■エアロビクス</div> <div>06. 自分に適した運動を知る（運動強度）■ステップエアロビクス</div> <div>07. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度）■ステップエアロビクス</div> <div>08. 筋コンディショニングの必要性と効果■バランスボール</div> <div>09. トレーニングの原則■バランスボール</div> <div>10. ライフスタイルと健康（食行動Ⅰ）■パワーヨガ</div> <div>11. ライフスタイルと健康（食行動Ⅱ）■パワーヨガ</div> <div>12. ヨガ&流行のエクササイズ紹介</div> <div>13. ヨガ&流行のエクササイズ紹介</div> <div>14. リクエストウィーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ）</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「健康」について実践と理論の両方から同時進行で学習します。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング）・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチングなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるよう複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。 生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>様々なエクササイズに備え、体調を整えておくこと。運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・フィットネス</div> <div>・健康への自己教育力の向上</div> <div>・実践方法</div>	<div>教科書</div>	
	<div>参考書</div>	

生涯スポーツ実習B（サロンフットボール）		PHED-0-104
担当教員： 檜山 康		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 11500470
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション・導入 02. ボール無しの動き（１）集団で動くことの難しさ 03. ボール無しの動き（２）サポートの方法（タイミング、角度） 04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係 05. プレーの先取り スペースを創って使う 06. 判断のスピード ３人目の動きのタイミング 07. １対１の対応 局面と全体の関係 08. チームワークとは何か 09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動 10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る 11. 攻撃の連動（１） 幅を使う 動き出す 12. 攻撃の連動（２） 切り替え コンパクト 13. 数的優位を作る 生かす 14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目</div>		
<div>（１）内容</div> <div>技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サロンフットボールの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を２種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。</div>		
<div>（２）学びの意義と目標</div> <div>本授業ではサロンフットボールにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目指にする。サロンフットボールの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。</div>		<div>準備学習（予習）</div> <div>前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>サロンフットボールに強い関心がある学生に受講してもらいたい。</div>		<div>準備学習（復習）</div> <div>最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしておくこと。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・スポーツ指導 ・チーム戦術 ・グループ戦術 ・個人戦術 ・戦術的なゲーム</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>（１）レポート</div><div>（２）実技試験</div><div>（３）参加態度</div></div><div><div>50%</div><div>30%</div><div>20%</div></div></div> <div>実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。</div> <div>教科書</div> <div>参考書</div>

体育(講義)

PHED-0-105

担当教員：鈴木 直樹

学期：集中講 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：11500500

学部教育の関連目

【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】小学校教諭一種免許：選択必修科目

(1) 内容

高等学校までの保健体育の学習を基礎として、生涯を健康に生きるために必要な人間の身体特性について、様々な角度から学習する。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための必修科目

(2) 学びの意義と目標

健康の柱である運動・休養・栄養や身体の特性について科学的理論に基づいた幅広い教養を身につけることで、自身の健康だけではなく、まわり（社会）の健康についても、積極的に働きかけるように人になることを期待する。

受講者に対する要望

日ごろから健康や運動・スポーツに関心を持ってほしい。

学びのキーワード

- ・健康とスポーツ
- ・生涯スポーツ
- ・身体的特性
- ・発達
- ・身体活動

授業計画

01. 体力低下の問題 新体力テストの結果から
02. 人間の健康と身体活動
03. 心身の発達・発達と運動・スポーツ
04. プレイ論から考える生涯スポーツ
05. ライフステージ別に見た運動・スポーツ（児童・青年期）
06. ライフステージ別に見た運動・スポーツ（中高年・女性）
07. 身体特性を踏まえた学齢期における運動・スポーツ指導
08. 栄養・睡眠・環境と運動・スポーツ

準備学習(予習)

前週に課題を出すので調べてくる。

準備学習(復習)

課題を適宜指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 定期試験 | 60% |
| (2) ミニレポートorミニテスト | 20% |
| (3) 授業への取り組み | 20% |

(1)講義のまとめとして学習の達成度をペーパーテストにより評価する
(2)毎回授業の最後に確認のテストかレポート作成を行う
(3)授業への積極性

教科書

参考書

日本国憲法		INTD-0-103	
担当教員：石川 裕一郎			
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11700110	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		01. はじめに 02. 憲法とは何か：誤認逮捕事件を題材に 03. 国民・国家・憲法の関係 04. 日本国憲法の構造：人権保障 05. 日本国憲法の構造：統治機構 06. 公務員と憲法尊重擁護義務（1）：政治家の人権を題材に 07. 公務員と憲法尊重擁護義務（2）：公立学校教員の人権を題材に 08. 個人の尊重・幸福追求権・公共の福祉 09. 平等原則 10. 教育権・学問の自由 11. 日本国憲法の制定過程 12. 平和主義（1）：前史 13. 平和主義（2）：日本国憲法制定から冷戦終結まで 14. 平和主義（3）：冷戦終結以降から現在まで 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
教養科目・教職科目としての役割に鑑み、日本国憲法全体を総花的に取り上げるのではなく、「人権総論」と「平和主義」（条文でいえば前文および9～14条）に重点を置いて講義を行います。また、条文の細かい解釈にこだわるのではなく、現代日本（と世界）を考える手がりかりとしての憲法にこだわりたいと思います。			
ところで、憲法の条文は、他の法律の条文と比べるとはるかに読みやすいのですが、それだけに一読しただけでは具体的に何が言いたいのかわかりにくいものです。本講義では、こういった憲法のわかりにくさに配慮して、できるだけ最近の具体的な事例を挙げつつ、その内容について平易に解説したいと考えています。			
なお、できるだけアクチュアルな問題を取り上げたいので、内容は多少変更される可能性があります。また、（憲）法に関わるゲストスピーカーの講演または映像作品の鑑賞も1～2回ほど実施する予定です。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
日本国憲法の窮極の目的である「個人の尊重」と「幸福追求権の保障」（13条）、そして、そのために公務員に課される「憲法尊重擁護義務」（99条）の意義に徹底的にこだわりながら、人権保障と統治機構についてバランスよく触れ、（憲）法という視点から政治・経済・社会、そして人間を考察する能力を身に付けることをめざします。		原則として事前にレジュメを配布するので、必ず目を通しておくことを求められます。毎回かなりの分量なので、ある程度の時間と集中力を必要とします。	
具体的には、まず日本国憲法のオーソドックスな通説・判例の理解をめざしますが、資格試験の予備校ではない、大学の講義ですから、それに留まらず、ポストモダン、フェミニズム、マルキシズム、マルチカルチュラルリズム等から挑戦を受ける「近代」の象徴としての立憲主義の意義を（再）検討する、語本来の意味におけるcritiqueな講義にしたいと考えています。		準備学習(復習)	
		毎回の講義の後で、習得した知識の確認と講義への主体的な取り組み姿勢を評価することを目的としたリアクションペーパーの作成および提出を課し、次の回までに講義内容の理解を定着させることを求められます。	
受講者に対する要望		評価方法	
本講義の受講者は1年生、とりわけ一般的には法学に親しみを覚えないであろう人文・人間福祉両学部生が多いので、最初から高いことは要求しません。まずはきちんと講義に出席し、聴講することを徹底してほしいと思います。 さらに、取り上げる内容も、高校の「政治・経済」や「現代社会」とは質的にまるで違います。求められる姿勢は、知識獲得よりも批判的思考です。「法律はどう定めているか」ではなく、「なぜ法律はそう定めているのか」、さらには「法律が定めていることはおかしくないか」といった視点を常に意識してください。		(1) 平常点 80% リアクションペーパーの記述内容によって評価します。 (2) 期末試験 20% 場合によっては期末レポートに変更する可能性があります。	
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。また、私語等の授業妨害行為は大幅な減点対象とします。			
学びのキーワード		教科書	
・ 法学 ・ 公法学 ・ 憲法学 ・ 人権 ・ 統治機構		参考書	

日本国憲法		INTD-0-103	
担当教員： 加藤 恵司			
学期： 週間授		科目： 基礎科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 11700111	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 憲法とはなにか。 02. 憲法、国家、国民とは。 03. 憲法の機能と類別 04. 憲法の構造と明治憲法 05. 日本国憲法の成立とその内容 06. 日本国憲法の基本原理① 自由主義 07. 日本国憲法の基本原理② 平等主義 08. 日本国憲法の基本原理③ 福祉主義 09. 日本国憲法の基本原理④ 平和主義 10. 日本国憲法の基本原理⑤ 個人の尊厳 11. 日本国憲法の前文を読む 12. 天皇制の謎 13. 三権分立の意義 14. 憲法の改正について 15. 終わりに</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>三部構成とします。第一は、憲法とはどんな法律なのかを考察します。第二は日本国憲法の基本原理について5つの項目を設けました。第三は、憲法と親しくなるためのトピックスについて、できるだけ具体的に語ってみたいと思います。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>教養科目として、教職科目として、大学教育の基礎的なことを学びます。憲法の通説、判例を材料としながら幅広く学習いたしましょう。大学での講義をただ聞くだけでなく、自分でノートを取り、まとめましょう。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>必ず、次のテーマを告げます。シラバスに従って講義しますので、あらかじめ下調べをしておきましょう。講義の時、指示します。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートで訂正された箇所、指摘されたことをきちんと整理し、再検討してください。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回、ノートを提出していただきます。次の時間には返却します。欠席すると自動的に点数が付きません。しっかりノートを取り出席してください。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点90%</div><div>(2) 講義態度10%</div><div>ノート用紙の提出を点数化します。 居眠り、おしゃべり禁止です。</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 国家の基本法 ・ 基本的人権 ・ 社会権 ・ 平和主義 ・ 個人の尊厳</div>		<div>教科書</div> <div>教科書ではないが、六法を持参する。</div> <div>参考書</div> <div>必要な資料はプリントすることを考えている。</div>	

日本国憲法		INTD-0-103
担当教員： 齋藤 美沙		
学期： 週間授 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 11700112
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 憲法を学ぶ意義</div> <div>02. 憲法の基礎、日本国憲法史</div> <div>03. 象徴天皇制、国民主権、平和主義</div> <div>04. 人権総論、基本的人権の限界、人権の享有主体性</div> <div>05. 幸福追求権、プライバシーの権利、自己決定権</div> <div>06. 法の下の平等</div> <div>07. 思想・良心の自由、信教の自由と政教分離、学問の自由</div> <div>08. 表現の自由</div> <div>09. 経済的自由</div> <div>10. 人身の自由</div> <div>11. 生存権、労働基本権、教育を受ける権利</div> <div>12. 国会、参政権</div> <div>13. 内閣、裁判所</div> <div>14. 財政、地方自治</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div> <div>【全】小学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、基本的人権の保障を中心に、憲法について学びます。身近な憲法問題や具体的事件を手がかりに、学習していきます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>条文の解釈に加え、身近な問題や具体的事件を手がかりに、憲法の基本的知識や考え方を習得することを目的とします。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業の最後に翌週の授業範囲を明示します。 授業中に照会した参考書の該当箇所を読むに加え、関係する時事にも関心を払うようにして下さい。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリントを再読して下さい。必要に応じて参考文献を紹介します。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 出席・平常点 20%</div> <div>(2) 試験 80%</div> <div>試験の成績をもとに、コメントシート等への記載を考慮し、総合的に評価します。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>憲法や法律に関する報道に注意を払うようにして下さい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 自由・ 権利・ 平等・ 権力分立・ 立憲主義</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

日本国憲法		INTD-0-103	
担当教員：平松 直登			
学期： 週間授		科目： 基礎科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 11700115	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		01. ガイダンス／憲法の基礎知識 02. 日本国憲法の歴史と構成／憲法改正 03. 国民主権と象徴天皇制 04. 平和主義 05. 国会／財政 06. 内閣／地方自治 07. 裁判所 08. 基本的人権（総論） 09. 法の下での平等 10. 精神的自由Ⅰ（思想・良心・信教の自由） 11. 精神的自由Ⅱ（表現の自由） 12. 経済的自由／人身の自由 13. 社会権／参政権・国務請求権 14. 教育をめぐる憲法問題 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
受講者が，「〔近代〕立憲主義〔constitutionalism〕」という思想およびそれを基礎とする日本国憲法の歴史・特徴を学んだ上で（第1～4回），国政を行うための機構が憲法上どのように設計されているかを把握し（第5～7回），憲法の保障する人権について深い理解を得る（第8～15回）ことが可能となるような講義を行います。			
(2) 学びの意義と目標			
講義を通じて，憲法学の基本的思考方法を身につけることを目標とします。 最終的には，日本国憲法がすべての国民を「個人として尊重」している意義を踏まえて，現実の憲法に関する諸問題を自ら分析・検討できるようになることが本講義の目標です。		準備学習(予習)	
		シラバス（授業計画）を参考とし，各回の講義内容に該当する教科書のページに目を通しておいください。	
		準備学習(復習)	
		講義中に紹介する参考文献を精読し，講義内容のより深い理解を目指して復習に取り組んでください。	
受講者に対する要望		評価方法	
法学の予備知識は特に必要としませんが，きちんと予習した上で講義に臨んでください。		(1) 試験 70% (2) 平常点 30% 講義中に配布するリアクション・ペーパー等で評価します。	
		試験の結果をもとに，平常点を考慮し，総合的に評価します。	
学びのキーワード		教科書	
・ 憲法学 ・ 立憲主義 ・ 個人の尊重 ・ 自由 ・ 平等		毛利透『グラフィック 憲法入門〔補訂版〕』（新世社）【9784883842360】	
		参考書	
		開講時に指示します。	

政治学		POSC-P-100	
担当教員： 高橋 愛子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 4		コード： 12A00101	
学部教育の関連目		授業計画	
【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る		01. 導入:政治学とは何か（１）—歴史的考察— 02. 導入:政治学とは何か（２）—権力とは何か— 03. 現代における政治:全面的政治化の時代（１）—現代とはいかなる社会か 04. 現代における政治:全面的政治化の時代（２）—全体国家の時代 05. 政治にとっての文脈としての歴史（１）—20世紀の世界大戦— 06. 政治にとっての文脈としての歴史（２）—東京裁判— 07. 政治にとっての文脈としての歴史（３）—サンフランシスコ条約 08. 政治にとっての文脈としての歴史（４）—憲法と自衛隊— 09. 政治にとっての文脈としての歴史（５）—アジアと日本— 10. 政治の場としての国会（１）—言論の府— 11. 政治の場としての国会（２）—立法過程— 12. 政治の場としての自治体（１）—分権改革— 13. 政治の場としての自治体（２）—「条例」、「自治体憲章」— 14. 政治における主体（１）—政治家、官僚、諸団体— 15. 政治における主体（２）—メディア、NGO、NPO— 16. 政治における主体（３）—主権者としてのわたしたち— 17. 合法性と正当性（１）—民主的正当性— 18. 合法性と正当性（２）—合法性と正当性との背反— 19. 公益とは何か（１）—公共利益団体の活動— 20. 公益とは何か（２）—公益と私益、官益、国益— 21. 公益とは何か（３）—公益の決定と実現— 22. メディアリテラシー（１）—さまざまなメディア— 23. メディアリテラシー（２）—メディアと権力— 24. メディアリテラシー（３）—メディアリテラシーと市民— 25. 民主主義と選挙（１）—日本の選挙制度— 26. 民主主義と選挙（２）—選挙制度と民主的正当性— 27. 民主主義と教育（１）—シティズンシップ教育— 28. 民主主義と教育（２）—海外の事例から— 29. 一学期間のまとめ—復習 30. 一学期間のまとめ—さらなる政治学の学びに向けて	
カリキュラム上の位置付け			
【P】 高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
現実の政治的な課題、諸現象について、歴史的に捉える視座（座標軸）、自分で考える基本的な思考力を身につけることを目的とする講義である。今日の歴史的な位置としては、1945年の「敗戦」から始まった「戦後政治」が国際社会における「冷戦終結」、国内における「政界再編」という転換点を経て新たな国際秩序、国内秩序を模索する過渡期であると同時に、21世紀という新たな時代の諸課題と否応なく直面することを余儀なくされている。こうした「現在（についての）認識」に立ち、現代の「文脈」（コンテクスト）の中でさまざまな政治課題・現象を「政治学的に」思考するとはどのようなことを学ぶことを目的とする。つまり、「政治学」の個々の概念、理論を学ぶだけではなく、「政治現象」を「週刊誌的に」「ワイドショー的に」取り上げるのとは異なる「政治学的な考察、思考」とは何か、という点を、できる限りリアルタイムな時事問題を素材としつつ考えてゆく。 <カリキュラム上の位置づけ>政治学を学ぶための入門的な講座であり、かつそのための基礎的な概念、理論を学ぶ講座である。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) 政治学とはどのような学問であるかを理解する。 2) 基本的な概念、「権力」「合法性」「正当性」「公益」などの概念を理解する。 3) 現実の政治現象について、「政治学的に」思考する資質を学ぶ。		各回の授業の際に配布されるペーパーを予めよく読んでくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業で取り上げた課題についてのレスポンス・シートに記入して次回授業で提出することにより、各回の授業の基本概念をよく理解する。	
		評価方法	
		(1) 授業へのコミットメント 0.4 (2) 新聞コメントの提出 0.3 (3) ブックレポート 0.3	
受講者に対する要望			
リアルタイムな政治現象に関心を持ち、新聞の政治経済欄に毎日目を通すこと。			
学びのキーワード		教科書	
・政治の文脈 ・権力 ・合法性と正当性 ・公益決定 ・メディアリテラシー		授業の中で指示、もしくは、配布する。	
		参考書	

担当教員：森分 大輔

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：4 コード：12A0010K

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念史的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。

政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。

(2) 学びの意義と目標

転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。

受講者に対する要望

社会や政治について関心を持つことが望ましい。新聞やテレビなどから入手可能な時事的なニュースについても折を見て触れるので、それらに関する知識を持っていることが求められる。

学びのキーワード

- ・政治
- ・社会
- ・国家
- ・権力

授業計画

01. 政治学とは何か1 政治的認識について
02. 政治学とは何か2 学問と政治
03. 人間の権利と民主主義について1 人権論の基礎
04. 人間の権利と民主主義について2 民主主義の理論
05. 国家の機能1 国家概念の基礎
06. 国家の機能2 国家機能の変遷
07. 国家の機能3 福祉国家の役割
08. 政党1 政党の分類
09. 政党2 党派と政党
10. 政党3 政党の機能
11. 圧力団体1 圧力団体の定義
12. 圧力団体2 圧力団体の機能
13. 圧力団体3 圧力団体の評価
14. 官僚制1 官僚制の定義
15. 官僚制2 官僚制の機能
16. 官僚制3 官僚制の役割
17. 政治的リーダーシップ1 リーダーシップの種類
18. 政治的リーダーシップ2 リーダーシップの史的類型
19. 政治的リーダーシップ3 組織とリーダー
20. 地方自治と政治構造1 自治と行政
21. 地方自治と政治構造2 住民参加の可能性
22. 地方自治と政治構造3 地方分権の意味
23. 住民参加と参加型民主主義1 デモクラシーと参加
24. 住民参加と参加型民主主義2 グラスルーツの持つ意義
25. 住民参加と参加型民主主義3 参加と組織
26. 政治の担い手に関する考察1 世論
27. 政治の担い手に関する考察2 ジャーナリズム
28. グローバル化と政治1 グローバル化のもたらす影響
29. グローバル化と政治2 グローバル化と現代社会
30. まとめ

準備学習(予習)

政治学に対する専門的な知識を必要とはしないが、それらに関する積極的な関心を抱いていることが望ましい。1日15分～1時間程度のニュースの視聴が必要である。

準備学習(復習)

講義後1時間程度の復習をすることを求める。加えて、授業内で示された関連テーマに関する書籍を購読することが望ましい。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業参加 | 40% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末テスト | 30% |

教科書

授業内にて指定

参考書

政治学

POSC-P-100

担当教員： 宮本 悟

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目

単位： 4 コード： 12A00120

学部教育の関連目

【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】 高等学校教諭一種免許：公民必修科目口
【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

政治学の入門として政治学の基礎を学びます。授業では、政治学の中心となっている制度論によって、各政治分野について実際にどのようなことが行われているのかを解説していきます。教科書と参考書にそって、授業を進めていきますが、本授業では国際政治学の分野における極めて基礎的な部分も含めて解説します。

(2) 学びの意義と目標

授業では、まず政治を理解するための政治学の基本的な視角や理論を学ぶことを目標としています。授業の内容はあくまで基礎的な内容ばかりですが、国際政治学、比較政治学などより専門的な授業を理解するために必要な概念を学ぶ入門になります。

受講者に対する要望

受講生は、（1）各授業に対応する教科書と参考書の該当部分を予習してきて、（2）授業を聴き、理解し、質問に答えてもらいます。原則、教科書と参考書に沿って授業を進めていきます。ほぼ毎回、授業内レポート（BRC）を作成してもらいます。

学びのキーワード

・ 本人・代理人モデル

・ 共通の目的

・ フリーライダー

・ 制度論

・ 多元的民主主義

授業計画

01.

イントロダクション：「本人と代理人」で考える政治（参考書序章「『七人の侍』の政治学」 プリント配布）

02.

古代の民主政から近代の自由民主主義体制の成立（参考書第18章「デモクラシー」 プリント配布）

03.

現代民主主義論（参考書第18章「デモクラシー」 プリント配布）

04.

社会中心主義と国家論（参考書第17章「制度と政策」 プリント配布）

05.

歴史的制度論と合理的選択制度論（参考書第17章「制度と政策」 プリント配布）

06.

鉄の三角同盟（教科書第1章「組織された集団」1）

07.

少数者たちが支配する？～多元的民主主義～（教科書第1章「組織された集団」2）

08.

規制緩和と何が変わったか？（教科書第2章「官と民の関係」1）

09.

市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章「官と民の関係」2）

10.

大企業が政治を支配している？（教科書第3章「大企業と政治」1）

11.

大企業の構造的な影響力と政治的紛争（教科書第3章「大企業と政治」2）

12.

政策で選挙は戦えるか（教科書第4章「選挙と政治」1）

13.

政策に代わる手がかりは？（教科書第4章「選挙と政治」2）

14.

自治体には2つの役割がある（教科書第5章「地方分権」1）

15.

国と地方の相互依存（教科書第5章「地方分権」2）

16.

マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章「マスメディアと政治」1）

17.

マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章「マスメディアと政治」2）

18.

ねじれ国会（教科書第7章「国会」1）

19.

国会の影響力（教科書第7章「国会」2）

20.

総理大臣と大統領（教科書第8章「内閣と総理大臣」1）

21.

総理大臣の影響力（教科書第8章「内閣と総理大臣」2）

22.

大臣と官僚のバトル（教科書第9章「官僚」1）

23.

キャリア官僚のキャリア（教科書第9章「官僚」2）

24.

戦後の国際環境（教科書第10章「冷戦の終わりからテロとの戦いへ」1）

25.

日本の対外政策（教科書第10章「冷戦の終わりからテロとの戦いへ」2）

26.

貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章「経済交渉」1）

27.

経済交渉の行われ方（教科書第11章「経済交渉」2）

28.

ビリヤードゲームのような国際政治（教科書第12章「国境を超える政治」1）

29.

裸になる国家（教科書第12章「国境を超える政治」2）

30.

政治学と政治問題についてのまとめ

準備学習(予習)

参考書(プリント配布)と教科書の各該当部分を読んで予習する。授業内レポート(BRC：授業内で書き上げる簡単な論述400字程度。これについては、イントロダクションで説明する)の作成を通して予習する。加えて、教科書及び参考書で予習する。イントロダクションで、授業内レポート(BRC)についての別紙シラバスを配布する。

準備学習(復習)

授業内レポート(BRC)を再読する。授業内予習時間に書き残した未完成の授業内レポート(BRC)を授業後に完成させる。それにより、授業後の理解を深める。加えて、教科書と参考書で復習する。

評価方法

(1) 平常点

10%

予習の課題学習や、授業中に提出した課題を評価することがある。また、授業出席の状況なども出席簿がなければ評価対象とされていない。

(2) 授業内レポート（BRC）

50%

各回授業の授業内レポート（BRC）を完成させ、全てをまとめてUNIPAで提出

(3) 期末試験

40%

論述試験

教科書

北山俊哉、久米郁男、真淵勝著『はじめて出会う政治学 - 構造改革の向こうに- 第3版 』（有斐閣、2009年04月）

参考書

久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝著『政治学 補訂版』（有斐閣、2011年12月）

政治学		POSC-P-100/POSC-L-1	
担当教員： 榎本 珠良			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目
単位： 4		コード： 12A001K1	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>01. 本講義のガイダンス</div> <div>02. 政治とは何か（1）</div> <div>03. 政治とは何か（2）</div> <div>04. 民主主義とは何か（1）</div> <div>05. 民主主義とは何か（2）</div> <div>06. 政治制度（1）</div> <div>07. 政治制度（2）</div> <div>08. 政党制</div> <div>09. 選挙制度</div> <div>10. 政治参加・投票行動・世論</div> <div>11. 議会制度・執政部</div> <div>12. 官僚制</div> <div>13. 司法</div> <div>14. 利益集団</div> <div>15. 前半のまとめ</div> <div>16. 中央と地方</div> <div>17. 国家と福祉</div> <div>18. メディア</div> <div>19. 市民社会</div> <div>20. NGO・NPO</div> <div>21. 国内社会と世界（1）</div> <div>22. 国内社会と世界（2）</div> <div>23. 安全保障（1）</div> <div>24. 安全保障（2）</div> <div>25. 国家と国際法</div> <div>26. 国家と難民</div> <div>27. 国家と開発</div> <div>28. 現代の課題（1）</div> <div>29. 現代の課題（2）</div> <div>30. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>			
(1) 内容			
<p>政治とは何か。民主主義とは何か。市民とは誰のことか。グローバル化の時代の国内政治をどう捉えるか。</p> <p>本講義は、政治学を学ぶための必要な基礎知識を習得し、それに基づいて今日の日本および世界における政治に関わる諸問題を考察し分析する力を高めるものである。</p>			
(2) 学びの意義と目標			
<p>政治学の基礎を理解することで、最終的には、政治をめぐる自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。</p>		準備学習(予習)	
		<p>授業で扱う予定のテーマについて、事前に新聞や著作などでよく調べておくこと。</p>	
		準備学習(復習)	
		<p>授業で配布するレジュメと授業中のノートをよく再読すること。</p>	
		評価方法	
		<div><div>(1) 授業への参加度</div><div>30%</div></div> <div><div>(2) 中間試験</div><div>30%</div></div> <div><div>(3) 期末試験</div><div>40%</div></div>	
受講者に対する要望			
<p>現在の政治や時事問題に関心があることが望ましい。</p>			
学びのキーワード		教科書	
<div><div>・民主主義</div><div>・政党制</div><div>・官僚制</div><div>・政治参加</div><div>・国内政治と国際政治</div></div>		参考書	
		<p>北山 俊哉・久米 郁男・真淵 勝『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』第3版、2009年。</p>	

政治学

POSC-P-100/POSC-L-1

担当教員： 森 達也

學期：週間授 科目：教養科目 必修・選択：必修科目

単位：4 コード：12A001K2

学部教育の関連目

【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ
 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る
 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能

カリキュラム上の位置付け

[L] 高等学校教諭一種免許：公民必修科目
[M] 中学校教諭一種免許：社会必修科目 [P] 高等学校教諭一種免許：公民必修科目
[P] 中学校教諭一種免許：社会必修科目
[P] 高等学校教諭一種免許：公民必修科目
[P] 中学校教諭一種免許：社会必修科目 [全] 高等学校教諭一種免許：公民必修科目
[全] 中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

＜テーマ＞ 政治の基礎知識／政治学の基礎

政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。

本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。

(2) 学びの意義と目標

- ・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。
- ・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。
- ・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

受講者に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。
と。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

学びのキーワード

- 政治
- 經濟
- 公共政策
- 社會保障
- 國際關係

授業計画

01. 講義の概要と趣旨の説明
02. 政治とは何か（教科書序章）
03. 民主主義の基本原理（プリント）
04. 政治学とは何か（教科書第1章）
05. 各国の政治体制（プリント）
06. 政治体制論（教科書第2章）
07. 日本国憲法の成立（プリント）
08. 現代政治学の歴史（教科書第11章）
09. 国会と内閣（プリント）
10. 政治過程（教科書第4章）
11. 政党と選挙（プリント）
12. マスメディアと政治（教科書4・6章）
13. 平和主義と安全保障（プリント）
14. 政策の決定（教科書第5章）
15. 映像で見る政治（1）
16. これまでの講義内容のまとめと復習
17. 到達度確認課題の解説
18. 資本主義／社会主義経済（プリント）
19. 映像で見る政治（2）
20. 政策の実施と行政（教科書第5章）
21. 日本の財政（プリント）
22. 貨幣と金融政策（プリント）
23. 日本の社会保障制度（プリント）
24. 労働市場と労働問題（プリント）
25. 福祉国家の国際比較（教科書第3章）
26. 福祉国家の危機と再編（教科書第3章）
27. 国際社会と国際法（プリント、教科書第9章）
28. 国際機関（プリント）
29. ナショナリズムと民族問題（プリント、映像）
30. 総括

準備學習(予習)

配布プリントを各自で可能な限り完成させ、次回の講義に備えること。

準備學習(復習)

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して小テストに備えること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------|
| (1) 中間課題 | 35% | 論述問題を含む |
| (2) 最終試験 | 35% | 論述問題を含む |
| (3) 授業内課題 | 30% | 小テスト・コメントシート |

教科書

加茂利男ほか著 『現代政治学 第4版』 (有斐閣)

参考書

高等学校「政治・経済」資料集
(たとえば『最新図説政経』(浜島書店、2015年)など)
手持ちのものがあれば代用してよい。

政治学		POSC-P-100/POSC-L-1	
担当教員： 森 達也			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目
単位： 4		コード： 12A001K3	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>01. 講義の概要と趣旨の説明</div> <div>02. 政治とは何か（教科書序章）</div> <div>03. 民主主義の基本原理（プリント）</div> <div>04. 政治学とは何か（教科書第1章）</div> <div>05. 各国の政治体制（プリント）</div> <div>06. 政治体制論（教科書第2章）</div> <div>07. 日本国憲法の成立（プリント）</div> <div>08. 現代政治学の歴史（教科書第11章）</div> <div>09. 国会と内閣（プリント）</div> <div>10. 政治過程（教科書第4章）</div> <div>11. 政党と選挙（プリント）</div> <div>12. マスメディアと政治（教科書4・6章）</div> <div>13. 平和主義と安全保障（プリント）</div> <div>14. 政策の決定（教科書第5章）</div> <div>15. 映像で見る政治（1）</div> <div>16. これまでの講義内容のまとめと復習</div> <div>17. 到達度確認課題の解説</div> <div>18. 資本主義／社会主義経済（プリント）</div> <div>19. 映像で見る政治（2）</div> <div>20. 政策の実施と行政（教科書第5章）</div> <div>21. 日本の財政（プリント）</div> <div>22. 貨幣と金融政策（プリント）</div> <div>23. 日本の社会保障制度（プリント）</div> <div>24. 労働市場と労働問題（プリント）</div> <div>25. 福祉国家の国際比較（教科書第3章）</div> <div>26. 福祉国家の危機と再編（教科書第3章）</div> <div>27. 国際社会と国際法（プリント、教科書第9章）</div> <div>28. 国際機関（プリント）</div> <div>29. ナショナリズムと民族問題（プリント、映像）</div> <div>30. 総括</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>			
(1) 内容			
<div>＜テーマ＞ 政治の基礎知識／政治学の基礎</div> <div>政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ工具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。</div> <div>本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。</div> <div>・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。</div> <div>・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<div>高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。</div> <div>普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。</div>		<div>配布プリントを各自で可能な限り完成させ、次回の講義に備えること。</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して小テストに備えること。</div>	
		評価方法	
		<div>(1) 中間課題35% 論述問題を含む</div> <div>(2) 最終試験35% 論述問題を含む</div> <div>(3) 授業内課題30% 小テスト・コメントシート</div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・政治</div> <div>・経済</div> <div>・公共政策</div> <div>・社会保障</div> <div>・国際関係</div>		<div>加茂利男ほか著『現代政治学 第4版』（有斐閣）</div>	
		参考書	
		<div>高等学校「政治・経済」資料集</div> <div>（たとえば『最新図説政経』（浜島書店、2015年）など）</div> <div>手持ちのものがあれば代用してよい。</div>	

担当教員：鈴木 真実哉

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：4 コード：12A00202

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

- 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目
- 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目
- 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

経済学の特徴の考え方、理論の構成のし方に力点をおく。なぜ経済学が必要なのか、現実を経済学的にどのように理解できるか、経済社会はどのようにあるべきか、経済的意思決定主体はどのような行動すべきか、などについて解説する。

(2) 学びの意義と目標

政治経済学科1年生の必修専門科目であり、他学部の学生にとっては教養科目である。「経済」に無縁ではられない現代人にとって「生活必須」科目でもあろう。

経済学的思考によって、学習以前とは異なる次元から現実をみることができるようになる。また、合理性の経済学的意味が理解できるようになる。

☆参考文献 福岡正夫 『経済学入門』（日本経済新聞社）

受講者に対する要望

毎回新しい知識に触れることになるので、必ず十分な復習の時間をとること。板書は全体の構成(毎回の講義における)を理解するのに必要なもので、必ずノートにとること。

学びのキーワード

- ・経済学の本質と意義
- ・人間の幸福と経済
- ・稀少性の解決
- ・効率性と公正

授業計画

01. 経済学とは何か
02. 資源の稀少性と解決 (1)
03. 資源の稀少性と解決 (2)
04. 生産可能性フロンティア
05. 機会費用 (1)
06. 機会費用 (2)
07. 消費者の行動 (1) 効用と無差別曲線
08. 消費者の行動 (2) 予算制約と消費可能領域
09. 消費者の行動 (3) 効用最大化
10. 消費者の行動 (4) 需要曲線
11. 生産者の行動 (1) 生産関数と収入
12. 生産者の行動 (2) 費用と費用関数
13. 生産者の行動 (3) 利潤最大化
14. 供給曲線
15. 需要と供給——市場 (1)
16. 需要と供給——市場 (2)
17. マクロ経済学1 (生産物市場) 45°線モデル
18. マクロ経済学2 (乗数理論)
19. マクロ経済学3 (貨幣市場)
20. マクロ経済学4 (労働市場)
21. IS曲線
22. LM曲線
23. 総需要曲線
24. 総供給曲線
25. オープンマクロ (1)
26. オープンマクロ (2)
27. オープンマクロ (3)
28. オープンマクロ (4)
29. 経済変動と景気循環
30. まとめ

準備学習(予習)

シラバスの講義予定テーマについてメモを作成しておくこと。

準備学習(復習)

板書を中心にノートを整理し、関連書籍によって補充しながら毎回清書ノートをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 定期試験 | 90% |
| (2) 出席状況 | 10% |

定期試験の一部を補充する目的のレポートを課する場合もある。

教科書

参考書

経済学		ECON-P-100					
担当教員：大森 達也							
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 4 コード： 12A00203					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 経済学とは 02. ミクロ経済学とマクロ経済学 03. 分業と取引の発生 04. 価格の決定と価格弾力性 05. 消費者と需要の決定 06. 所得と価格の変化を需要 07. 代替財と補完財 08. 労働供給と余暇 09. 生産関数 10. 生産費用と規模の経済 11. 市場均衡とパレート効率性 12. 寡占市場 13. まとめ 14. 不確実性と不完全情報 15. まとめ 16. 質疑応答 17. マネタリストとケインジアン 18. 産業関連表 19. 国民総生産（GNP） 20. 財政と金融政策 21. 貯蓄と投資の均衡 22. 消費関数 23. 投資の決定 24. 乗数効果（IS曲線） 25. 貨幣市場（LM曲線） 26. ハイパワードマネーと公定歩合 27. 総需要 28. 労働市場と総供給曲線 29. インフレーションと景気循環 30. まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】 高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 社会福祉主事任用資格：選択科目</div>							
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、「まんがDE入門 経済学」というのを教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。</div>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。</div>							
<div>受講者に対する要望</div> <div>漫画を使っていることで、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。</div>						
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 経済用語</div><div>・ 経済理論</div><div>・ ミクロ経済</div><div>・ マクロ経済</div></div>							
	<div>準備学習(復習)</div> <div>試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。</div>						
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 中間試験</td><td>35%</td></tr><tr><td>(2) 期末試験</td><td>35%</td></tr><tr><td>(3) ブックレポート</td><td>30% 1200文字程度 3回×10%</td></tr></table>		(1) 中間試験	35%	(2) 期末試験	35%	(3) ブックレポート
(1) 中間試験	35%						
(2) 期末試験	35%						
(3) ブックレポート	30% 1200文字程度 3回×10%						
<div>教科書</div> <div>西村和雄 『まんがDE入門 経済学』（日本評論社）</div>		<div>参考書</div>					

<div>経済学</div> <div>ECON-P-100</div>							
担当教員：大森 達也 学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 コード：12A00210							
<div>学部教育の関連目</div> <p>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 01. 経済学とは 02. ミクロ経済学とマクロ経済学 03. 分業と取引の発生 04. 価格の決定と価格弾力性 05. 消費者と需要の決定 06. 所得と価格の変化を需要 07. 代替財と補完財 08. 労働供給と余暇 09. 生産関数 10. 生産費用と規模の経済 11. 市場均衡とパレート効率性 12. 寡占市場 13. まとめ 14. 不確実性と不完全情報 15. まとめ 16. 質疑応答 17. マネタリストとケインジアン 18. 産業関連表 19. 国民総生産（GNP） 20. 財政と金融政策 21. 貯蓄と投資の均衡 22. 消費関数 23. 投資の決定 24. 乗数効果（IS曲線） 25. 貨幣市場（LM曲線） 26. ハイパワードマネーと公定歩合 27. 総需要 28. 労働市場と総供給曲線 29. インフレーションと景気循環 30. まとめ 						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <p>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目</p>							
<div>(1) 内容</div> <p>本講義では、「まんがDE入門 経済学」というのを教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。</p>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。</p>							
<div>受講者に対する要望</div> <p>漫画を使っていることで、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。</p>						
	<div>準備学習(復習)</div> <p>試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。</p>						
	<div>評価方法</div> <table> <tr> <td>(1) 中間試験</td><td>35%</td></tr> <tr> <td>(2) 期末試験</td><td>35%</td></tr> <tr> <td>(3) ブックレポート</td><td>30% 1200文字程度 3回×10%</td></tr> </table>	(1) 中間試験	35%	(2) 期末試験	35%	(3) ブックレポート	30% 1200文字程度 3回×10%
(1) 中間試験	35%						
(2) 期末試験	35%						
(3) ブックレポート	30% 1200文字程度 3回×10%						
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none"> ・経済用語 ・経済理論 ・ミクロ経済 ・マクロ経済 	<div>教科書</div> <p>西村和雄 『まんがDE入門 経済学』（日本評論社）</p> <div>参考書</div>						

経済学		ECON-P-100/ECON-L-1						
担当教員： 高橋 聡								
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 必修科目		単位： 4 コード： 12A002K1						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 国内総生産 03. 国内総支出 04. 戦後日本経済の歩み（1）復興期から高度経済成長 05. 国内総所得と三面等価の原則 06. 戦後日本経済の歩み（2）戦後日本の経済成長と寄与度 07. 「総」概念と「純」概念 08. 働く人から見た日本経済（1）労働力に関する定義 09. 物価 10. 働く人から見た日本経済（2）日本的雇用慣行とその変化 11. 投資理論 12. 企業から見た日本経済（1）企業と競争の役割 13. 貨幣供給 14. 企業から見た日本経済（2）株式会社 15. 貨幣需要 16. 貿易・国際金融から見た日本経済（1）戦後日本の貿易構造の推 17. IS-LM分析（1）IS曲線の導出 18. 貿易・国際金融から見た日本経済（2）国際収支と外国為替相場 19. IS-LM分析（2）LM曲線の導出 20. 財政の役割と仕組み（1）財政の役割 21. 財政政策 22. 財政の役割と仕組み（2）租税 23. 金融政策 24. 社会保障の役割と仕組み（1）社会保障制度の確立 25. 経済成長論 26. 社会保障の役割と仕組み（2）医療保険制度とその他の保険制度 27. 国際マクロ経済学 28. 税の仕組み（1）主要三税（所得税・法人税・消費税） 29. 貿易理論 30. 税の仕組み（2）控除制度</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉主事任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>経済現象の診断に必要な基礎理論を習得し、日本経済の現状分析を行う。2コマの内容を2部構成とし、第1部は理論の習得、第2部は日本経済の現状の解説とレポートとする。なお、第1部は、岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』（新世社）に準拠したプリントを用いるので、必要に応じてこの書を手入してほしい。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>意義 直感や好き嫌いではなく、理論にもとづく分析によって社会の仕組みを理解し、問題を解明する。これが学生が大学で身につけるべき思考法である。経済学によってそのトレーニングを効果的に行うことができる。</div> <div>目標 文法を理解していなければ外国語を理解することはできない。それと同じように、複雑な経済現象を読み解くためには経済理論という「文法」をマスターする必要がある。その最低限の知識を習得することが講義の第1の目標である。これにより、文法を無視した経済ニュースがいかに多く世間に流通しているかもわかるだろう。そこで、経済ニュースの読み方を身に着けることが第2の目標となる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の指定ページを読み、疑問点を自ら調べるなり、質問できる用意をすること。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>受講にあたっては、レポート、講義中の発言など積極的な姿勢が問われる。また遅刻や私語には厳正に対処する。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>①練習問題をくりかえすこと。②授業で取り上げた問題に関する経済ニュースを収集すること。</div>						
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">GDP物価財政・金融経済成長貿易</div>		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 試験</td><td>70%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 平常点</td><td>10%</td></tr></table></div> <div>教科書</div> <div>八田幸二・佐藤拓也・武田勝『攻略！！日本経済』（学文社）</div> <div>参考書</div> <div>岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』（新世社）</div>	(1) 試験	70%	(2) レポート	20%	(3) 平常点	10%
(1) 試験	70%							
(2) レポート	20%							
(3) 平常点	10%							

経済学		ECON-P-100/ECON-L-1	
担当教員： 由川 稔			
学期： 週間授		科目： 教養科目	必修・選択： 必修科目
単位： 4		コード： 12A002K2	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能</div>		<div>01. 需要と供給（１）～需要曲線と供給曲線</div> <div>02. 需要と供給（２）～「古典派」の考え方</div> <div>03. インフレーションとデフレーション（１）～インフレーションの種類と効果・影響</div> <div>04. インフレーションとデフレーション（２）～デフレーションの効果・影響</div> <div>05. 社会経済の近代化と思想・・・古典派とケインズ派（１）～近代化と古典派</div> <div>06. 社会経済の近代化と思想・・・古典派とケインズ派（２）～ケインズ派の形成とその後の展開</div> <div>07. GDPをめぐって（１）～フローとストック、三面等価</div> <div>08. GDPをめぐって（２）～国民所得とは</div> <div>09. GDPをめぐって（３）～45度線分析</div> <div>10. GDPをめぐって（４）～国民所得の決定</div> <div>11. GDPをめぐって（５）～デフレギャップとインフレギャップ</div> <div>12. GDPをめぐって（６）～乗数効果</div> <div>13. マネーと金融（１）～「貨幣」（おかね）とは</div> <div>14. マネーと金融（２）～中央銀行の役割</div> <div>15. マネーと金融（３）～貨幣供給の仕組み</div> <div>16. マネーと金融（４）～金融政策</div> <div>17. 無差別曲線と予算制約（１）～無差別曲線</div> <div>18. 無差別曲線と予算制約（２）～予算制約線と最適消費点</div> <div>19. 財の種類、代替効果と所得効果（１）～財の種類</div> <div>20. 財の種類、代替効果と所得効果（２）～代替効果と所得効果</div> <div>21. 市場と企業行動（１）～市場の種類</div> <div>22. 市場と企業行動（２）～生産量の決定</div> <div>23. 市場と企業行動（３）～損益分岐点</div> <div>24. 市場と企業行動（４）～操業停止点</div> <div>25. 効率と公平（１）～パレート最適</div> <div>26. 効率と公平（２）～ローレンツ曲線とジニ係数</div> <div>27. 国際経済（１）～比較生産費説</div> <div>28. 国際経済（２）～国際収支</div> <div>29. 国際経済（３）～外国為替レートの変動</div> <div>30. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【L】社会福祉士任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】社会福祉士任用資格：選択科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】社会福祉士任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>			
(1) 内容			
<p>経済学は抽象化や理論化という「科学的な方法」に基づいています。なぜでしょうか。それは、日常生活の中で、しばしば「感情」や「常識」に埋没してわからなくなりがちな経済現象の「本質」を見抜き、そこから、「新しい経済」や「人間のあり方」などを構想するためです。しかし、理論を理解することだけで頭が一杯になってしまうと、かえって現実を見る目を曇らせてしまう危険もあります。授業では、このバランスを重視したいと思います。</p>			
(2) 学びの意義と目標			
<p>本来、「経済が人間のためにあるのであって、人間が経済のためにあるのではない」はずです。しかし現実の経済は、人間を奴隷化してしまうほどの恐ろしい面も持っています。究極的には、私たちが英知と勇気を持って、少なくとも経済の面で明るい未来を築いていくことが、経済学を学ぶ意義であり、目標であると言えるでしょう。</p>			
受講者に対する要望			
<p>「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにします。教科書は、後々、資格や公務員等の各種試験対策にも利用できるものにしてありますが、授業は初学者向けに丁寧に進めます。試験対策向けのスピーディーな展開を希望する学生は、他を当たってください。なお、授業では時事問題を中心とした資料も配布します。きちんと整理しておくようにしてください。</p>			
学びのキーワード		教科書	
<div>・ 経済</div> <div>・ 友愛</div> <div>・ 自由</div> <div>・ 公正</div> <div>・ 競争・ 効率</div>		<div>『1項目3分でわかる 石川秀樹の経済学入門ゼミ』（石川秀樹著、日本実業出版社（2010年）1,600円＋税）</div>	
		参考書	

社会学（W用）		SOCI-0-101	
担当教員： 齋藤 圭介			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 12A00356	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける。論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>		<div>01. 社会学の成立と展開</div> <div>02. 社会学の研究視点</div> <div>03. 現代社会の理解（1）社会システム① 社会システムの概念、文化・規範、社会意識</div> <div>04. 現代社会の理解（2）社会システム② 産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標</div> <div>05. 現代社会の理解（3）法と社会システム</div> <div>06. 現代社会の理解（4）経済と社会システム</div> <div>07. 現代社会の理解（5）社会変動① 社会変動の概念</div> <div>08. 現代社会の理解（6）社会変動② 近代化、産業化、情報化</div> <div>09. 現代社会の理解（7）人口① 人口の概念、人口構造</div> <div>10. 現代社会の理解（8）人口② 人口問題、少子高齢化</div> <div>11. 現代社会の理解（9）地域① 地域の概念、コミュニティの概念</div> <div>12. 現代社会の理解（10）地域② 都市化と地域社会、過疎化と地域社会</div> <div>13. 現代社会の理解（11）地域③ 地域社会の集団・組織</div> <div>14. 現代社会の理解（12）社会集団① 社会集団の概念、第一次集団、第二次集団</div> <div>15. 現代社会の理解（13）社会集団② ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション</div> <div>16. 現代社会の理解（14）社会集団③ 組織の概念、官僚制</div> <div>17. 生活の理解（1）家族① 家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態</div> <div>18. 生活の理解（2）家族② 家族の変容、家族の機能</div> <div>19. 生活の理解（3）生活の捉え方</div> <div>20. 人と社会との関係（1）社会関係と社会的孤立</div> <div>21. 人と社会との関係（2）社会的行為</div> <div>22. 人と社会との関係（3）社会的役割</div> <div>23. 人と社会との関係（4）社会的ジレンマ</div> <div>24. 社会問題の理解（1）社会問題の捉え方</div> <div>25. 社会問題の理解（2）具体的な社会問題① 貧困、失業</div> <div>26. 社会問題の理解（3）具体的な社会問題② 差別、社会的排除、自殺</div> <div>27. 社会問題の理解（4）具体的な社会問題③ 犯罪、非行</div> <div>28. 社会問題の理解（5）具体的な社会問題④ DV、ハラスメント</div> <div>29. 社会問題の理解（6）具体的な社会問題⑤ 児童虐待、いじめ</div> <div>30. 社会問題の理解（7）具体的な社会問題⑥ 公害、環境破壊</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【W】社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div> <div>【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div>			
(1) 内容			
<div>・社会学の成立と展開</div> <div>・社会学の研究視点</div> <div>・現代社会の理解</div> <div>・生活の理解</div> <div>・人と社会との関係</div> <div>・社会問題の理解</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>・社会理論による現代社会の捉え方を理解する。</div> <div>・生活について理解する。</div> <div>・人と社会の関係について理解する。</div> <div>・社会問題について理解する。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
「社会」「他人」に対する何らかの興味関心を持っていること。		<div>毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>講義終了後、配布プリントを再読し、①興味関心を抱いた事柄と、②その理由について考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。</div>	
		評価方法	
		<div><div>(1) 授業への参加度</div><div>40%</div></div> <div><div>(2) 期末試験</div><div>40%</div></div> <div><div>(3) レポートなど</div><div>20%</div></div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・コミュニケーション</div> <div>・社会学的想像力</div> <div>・他者理解</div> <div>・アイデンティティ</div> <div>・ジェンダー</div>		<div>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（3）社会理論と社会システム—社会学【第3版】』（中央法規出版）</div>	
		参考書	

SOCI-0-101/SOCI-P-1

社会学

担当教員： 加藤 敦也

学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 12A003K1

学部教育の関連目

【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【L】社会福祉主事任用資格：選択科目

【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【P】社会福祉主事任用資格：選択科目

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

本講義は社会問題を解釈するための方法論ないし理論枠組みとしての社会学の内容を概観していく。授業では、教科書の内容を、雑誌記事や、テレビドラマ、映画、ニュース番組などの映像を補助資料として用い、日常生活における身近な現象がいかに社会学のテーマとして取り上げられ、どのように社会学の対象領域として説明されるかについて解説していく。また、授業期間内にテーマに応じて小レポート作成やディスカッションを課すことで、社会学の取り扱う問題を自ら考えることを促す。

(2) 学びの意義と目標

受講者自身が社会問題を解釈する認知枠組みとして社会学的な視点を身につけてもらうことを目標とする。受講者各自はそれぞれ成長してきた過程で問題を解釈する認知の枠組みを身につけてきたはずである。本講義は、その認知のあり方を一つの価値観と見なしながら、その価値観に従うだけでなく、ものごとを社会通念にとらわれず、社会学的に理解するための基礎的な知識を身につけてもらいたいと思っている。

受講者に対する要望

他の受講者に迷惑のかかる行為は謹んでほしい。
例えば私語厳禁。

学びのキーワード

・社会学

・都市とグローバリゼーション

・階級・階層

・ジェンダー

・エスニシティ

授業計画

01. 社会学とは何か（１）——社会学の誕生と歴史について

02. 社会学とは何か（２）——社会学の理論について

03. 社会調査の方法―量的調査と質的調査

04. 家族をめぐる社会学（１）——家族の類型と結婚の現在

05. 家族をめぐる社会学（２）——性別役割分業の実態と家族関係の問題

06. 家族をめぐる社会学（３）——近代家族論

07. 地域をめぐる社会学（１）——都市の特徴

08. 地域をめぐる社会学（２）——グローバリゼーションと都市、または郊外について

09. メディアと情報化をめぐる社会学（１）——メディアの歴史

10. メディアと情報化をめぐる社会学（２）——メディア・リテラシー

11. 階級・階層をめぐる社会学（１）——階級・階層概念による社会の読み解き方について

12. 階級・階層をめぐる社会学（２）——日本社会の階層意識と不平等問題

13. インナートリップとしての社会学（１）——アイデンティティを役割取得などの理論から考える

14. インナートリップとしての社会学（２）——人間関係を相互行為論から考える

15. ジェンダーの社会学（１）——ジェンダー概念の説明とジェンダー不平等について

16. ジェンダーの社会学（２）——女性就労の問題、性暴力の問題など

17. セクシュアリティの社会学——セクシュアル・マイノリティと社会

18. エスニシティの社会学

19. 社会運動の社会学（１）——社会運動の類型と脱産業社会について

20. 社会運動の社会学（２）——新しい社会運動とアイデンティティ・ポリティクスについて

21. 教育社会学（１）——教育の社会的機能

22. 教育社会学（２）——教育と階級・階層の関係性、または教育空間における人権問題について

23. 相互行為論、社会構築主義

24. 社会学の歴史：ヴェーバーとデュルケム

25. 社会学の歴史：アメリカの社会学史

26. ヨーロッパの現代：ルーマン、ギデンズ、ブルデュー

27. 日本の社会学史：意味社会学と統合理論

28. 近代と脱近代（１）——後期近代という社会認識（ギデンズとハーバーマスを中心に）

29. 近代と脱近代（２）——ポストモダンという社会認識

30. 社会学のまとめ

準備学習(予習)

授業前の予習としては教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

準備学習(復習)

授業後の復習としては講義をまとめた自筆ノートを教科書とあわせて見直すことをすすめる。

評価方法

(1) 平常点

30%

(2) 小レポート

30% 授業期間内に課す

(3) 定期試験

40%

平常点(30点)、授業期間内に課される小レポート(30点)、定期試験(40点)により評価する。なお、教科書を用いて授業を行う。

教科書

宇都宮京子 『よくわかる社会学（第2版）』（ミネルヴァ書房）

参考書

社会学の理解を促すうえで重要な文献は授業中に適宜指示する。

社会学		SOCI-O-101/SOCI-P-1	
担当教員： 新津 尚子			
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A003K2	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div> <div>【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識</div>		<div>01. 社会学とは何か（1） 基礎編：相互行為の重要性</div> <div>02. 社会学とは何か（2） 応用編：信頼と社会</div> <div>03. 家族社会学（1） 基礎編：家族とは何か</div> <div>04. 家族社会学（2） 応用編：日本の産業構造の変化と家族の変化</div> <div>05. 都市社会学（1） 基礎編：都市とは何か</div> <div>06. 都市社会学（2） 応用編：都市における貧困問題</div> <div>07. メディアと情報の社会学（1） 基礎編：メディアの社会にもたらした影響</div> <div>08. メディアと情報の社会学（2） 応用編：情報化社会</div> <div>09. 階級・階層と社会（1） 基礎編：日本の階層と不平等</div> <div>10. 階級・階層と社会（2） 応用編：世界と日本の不平等の比較</div> <div>11. アイデンティティと社会（1） 基礎編：自分と社会との関係</div> <div>12. アイデンティティと社会（2） 応用編：感情労働</div> <div>13. ジェンダーと社会（1） 基礎編：ジェンダーとは何か</div> <div>14. ジェンダーと社会（2） 応用編：「ジェンダー」を歴史的に考える</div> <div>15. 国際社会とエスニシティ（1） 基礎編：エスニシティとは何か</div> <div>16. 国際社会とエスニシティ（2） 応用編：日本の中のエスニシティ</div> <div>17. 社会運動（1） 基礎編：現代社会と社会運動</div> <div>18. 社会運動（2） 応用編：インターネットと社会運動</div> <div>19. 社会学の歴史とさまざまな研究：社会学の始まり（1）コントから20世紀初頭までのヨーロッパの社会学</div> <div>20. 社会学の歴史とさまざまな研究：社会学の始まり（2） 米国での社会学の始まり</div> <div>21. 社会学の歴史とさまざまな研究：デュルケム（1）デュルケムの生きた時</div> <div>22. 社会学の歴史とさまざまな研究：デュルケム（2）『自殺論』</div> <div>23. 社会学の歴史とさまざまな研究：ヴェーバー（1）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』</div> <div>24. 社会学の歴史とさまざまな研究：ヴェーバー（2）合理化</div> <div>25. 社会学の歴史とさまざまな研究：マートン</div> <div>26. 社会学の歴史とさまざまな研究：パーソンズ</div> <div>27. 社会学の歴史とさまざまな研究：シュッツ</div> <div>28. 社会学の歴史とさまざまな研究：ブルデュー</div> <div>29. 社会学的想像力</div> <div>30. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【L】社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div> <div>【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>			
(1) 内容			
<p>この講義では「家族」「地域」「ジェンダー」など、社会学を総合的に学ぶことを目的とする。また後半（19回目以降）は社会学の歴史についても学ぶ。授業では教科書を用いて講義を行うほか、関連する資料を読んだのディスカッションや小レポート作成など、履修者が自分自身で考える機会を設け、「理解する」→「考える」→「身につける」というプロセスで確実に内容を身につけることを目指す。</p>			
(2) 学びの意義と目標			
<p>この講義の目標は、毎回の授業を通じて「社会学的な思考を身につける」ことにある。この思考を身につけることによって、「個人的」と思われる問題の中にある社会的な要素や、「社会的」と思われる問題の中にある個人的な要素を理解できるようになる。これにより将来、履修生がさまざまな問題に直面した際、その問題を多角的に考えられるようになるだろう。</p>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<p>私たちを取り囲む身近な「社会」に関心がある者の受講を望む。</p>		<p>予習として教科書の当該箇所を読み、概要を理解しておくこと。</p>	
		準備学習(復習)	
		<p>復習として教科書と講義ノートを見直すこと。不明な点があれば自分で調べたり、質問するなどして解決すること。</p>	
学びのキーワード		評価方法	
<div>・家族</div> <div>・産業</div> <div>・メディア</div> <div>・ジェンダー</div> <div>・階層</div>		<div>(1) 平常点 30%</div> <div>(2) 提出物 30%</div> <div>(3) 学期末試験 40%</div>	
		教科書	
		宇都宮京子編 『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）	
		参考書	

社会学		SOCI-0-101/SOCI-P-1
担当教員： 加藤 裕康		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A003K4
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会学とは 02. 社会学の理論はどのようなものかー理論の必要性 03. 社会学の理論はどのようなものかーモデルとは何か 04. 社会学の理論はどのようなものかー方法論的全体主義 05. 社会学の理論はどのようなものかー社会学の対象 06. 社会学はいかに成立したのかー近代社会科学の誕生 07. 社会学はいかに成立したのかー進化論と比較文明史 08. 社会学はいかに成立したのかーモダニズムの精神 09. 社会学はいかに成立したのかー学問におけるモダニズム 10. 社会学はいかに成立したのかーデュルケムによる近代の反省 11. 社会学はいかに成立したのかーウェーバーとマルクス主義 12. 多元化する時代と社会学ー危機についての学問 13. 多元化する時代と社会学ー理論社会学 14. 多元化する時代と社会学ー社会学の可能性 15. アイデンティティと社会学 16. コミュニケーションと社会学 17. 家族の社会学 18. 政治の社会学 19. 都市の社会学 20. 身体 of 社会学 21. メディアの社会学 22. 情報化社会と消費社会 23. 階級・階層の社会学 24. ジェンダーとセクシュアリティ 25. 共同体と市民社会 26. 国民国家と多文化社会 27. グローバル化 28. 社会学史（1）西洋編 29. 社会学史（2）日本編 30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉主事任用資格：選択科目 【L】コミュニティコース：基幹科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「当事者でなければわからない」という言葉を耳にします。果たしてそれは本当でしょうか。他人に指摘されてハッとすることがあるように、自分の中には自分では気付かない「他者性」があります。同じように当事者だからこそ見えないこともあります。社会学は、その他者に迫る学問と言えるでしょう。 本講義では、社会学の歴史と理論を学んでいきます。さらに抽象的な議論と具体的な事例を織り交ぜ、社会学の視点を解説します。また授業では、リアクションペーパーやソーシャル・メディアを活用する中で、講義内容を主体的に捉える契機とします。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>社会学とはどのような学問なのか、その歴史と理論を学ぶことで、社会学的な視点を身につけることを目標とします。混沌とした社会を分析するためのツールを駆使して、自分なりの考えをもって行動できる人間になる、その第一歩としたいと思います。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書をあらかじめ読んでおいてください。参考文献は適宜、紹介します。
【参考文献】
『社会学のすすめ』（筑摩書房）大澤真幸編 『社会学入門』（岩波書店）見田宗介
『新版 社会学のエッセンス』（有斐閣）友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵
『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）宇都宮京子編</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>授業後にノートをまとめ直しましょう。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>私語、遅刻は厳禁です。出席は評価の対象ではありませんが、5回休んだ者は大学の規定通り、単位を取得できません。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) レポート20%</div><div>(2) 期末試験80%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・アイデンティティ</div><div>・コミュニケーション</div><div>・メディア</div><div>・政治と権力</div><div>・都市と消費社会</div></div>		<div>教科書</div> <div>稲葉振一郎 『社会学入門』（日本放送出版協会）【978-4140911365】</div> <div>参考書</div>

法学（W用）		LAW-0-101						
担当教員：松村 芳明								
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A00564						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 社会生活と法 （1）社会規範としての法</div> <div>02. 社会生活と法 （2）社会福祉士と法のかかわり</div> <div>03. 憲法 （1）憲法の基本概念</div> <div>04. 憲法 （2）日本国憲法の基本原理 ①国民主権・平和主義</div> <div>05. 憲法 （3）日本国憲法の基本原理 ②基本的人権の性質と分類</div> <div>06. 憲法 （4）日本国憲法の基本原理 ③基本的人権 i. 自由権</div> <div>07. 憲法 （5）日本国憲法の基本原理 ④基本的人権 ii. 社会権</div> <div>08. 憲法 （6）日本国憲法の基本原理 ⑤基本的人権 iii. 新しい人権</div> <div>09. 憲法 （7）日本国憲法の基本原理 ⑥統治機構・財政</div> <div>10. 憲法 （8）日本国憲法の基本原理 ⑦地方自治</div> <div>11. 民法 （1）権利能力・意志能力・代理</div> <div>12. 民法 （2）契約の成立と有効要件・売買契約</div> <div>13. 民法 （3）契約の目的物・債権の担保</div> <div>14. 民法 （4）不法行為</div> <div>15. 民法 （5）親族 ①婚姻・離婚</div> <div>16. 民法 （6）親族 ②親子・扶養</div> <div>17. 民法 （7）法定相続・遺言</div> <div>18. 民法 （8）成年後見制度 ①成年後見制度の創設・法定後見制度の仕組</div> <div>19. 民法 （9）成年後見制度 ②任意後見制度の仕組み</div> <div>20. 民法 （10）成年後見制度 ③成年後見制度の現状と課題</div> <div>21. 行政法 （1）行政法の基本・行政行為</div> <div>22. 行政法 （2）行政手続き</div> <div>23. 行政法 （3）行政不服審査</div> <div>24. 行政法 （4）行政訴訟</div> <div>25. 行政法 （5）国家賠償</div> <div>26. 行政法 （6）情報公開</div> <div>27. 行政法 （7）地方行政組織</div> <div>28. 行政法 （8）行政契約・社会福祉サービスの利用関係</div> <div>29. 利用者の人権と個人情報保護 （1）個人情報保護法の概要</div> <div>30. 利用者の人権と個人情報保護 （2）社会福祉サービスと個人情報の保護</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>・ 社会生活と法</div> <div>・ 憲法・民法・行政法</div> <div>・ 利用者の人権と個人情報保護</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>・ 社会生活における法の作用や役割について理解する。</div> <div>・ 憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。</div> <div>・ 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等、社会福祉士に必要な内容について理解する。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>①社会保障・社会福祉に関連する法規を中心に学ぶ授業ではなく、それらを含め、法学の基礎について全般的に学ぶ授業である点、注意すること。②授業に積極的に参加すること。③分からないことがあれば遠慮なく授業中や授業後などに質問すること。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> 次回の内容について、指示されたプリント等の該当箇所を読み、六法等を参照しておくこと。</div>							
	<div>準備学習(復習)</div> <div> プリント・講義ノートを読み返すことにより講義で得た知識を整理すること。</div>							
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 課題</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 試験</td><td>50%</td></tr><tr><td>(3) 授業への参加状況</td><td>10%</td></tr></table>		(1) 課題	40%	(2) 試験	50%	(3) 授業への参加状況	10%
(1) 課題	40%							
(2) 試験	50%							
(3) 授業への参加状況	10%							
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 基本的人権</div> <div>・ 日本国憲法</div> <div>・ 成年後見制度</div> <div>・ 近代私法の基本原則</div>	<div>教科書</div> <div> 山下友信・山口厚編 『ポケット六法』（有斐閣）</div> <div>参考書</div>							

法学		LAW-O-101/LAW-P-100
担当教員： 木村 裕二		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 12A005K1
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 子ども・少年と法①（民事法・社会法） 03. 子ども・少年と法②（刑事法） 04. 人・労働者・消費者①（民法・民事訴訟法） 05. 人・労働者・消費者②（労働法・消費者法） 06. 男女・夫婦①（民事法） 07. 男女・夫婦②（刑事法・社会法） 08. 企業の法①（会社法） 09. 企業の法②（経済法） 10. 主権者の法①（憲法） 11. 主権者の法②（行政法） 12. 被疑者・被告人・被害者①（刑法） 13. 被疑者・被告人・被害者②（刑事訴訟法） 14. 高齢者・相続①（社会保障法） 15. 高齢者・相続②（民法） 16. 憲法①（統治） 17. 憲法②（統治） 18. 民法①（人・法律行為・財産） 19. 民法②（契約・不法行為） 20. 刑法①（総論） 21. 刑法②（各論） 22. 商法①（株式） 23. 商法②（機関） 24. 民事訴訟法①（請求、弁論） 25. 民事訴訟法②（証拠、判決） 26. 刑事訴訟法①（捜査） 27. 刑事訴訟法②（公判） 28. 法とは何か 29. 法とは何か（続） 30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉主事任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【全】社会福祉主事任用資格：選択科目 【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【全】社会福祉主事任用資格：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>人は一生の間に、家庭や職場でいろいろな役割を担います。それぞれの場面で、様々な法律が特徴のある仕方、かかわってきます。前半は、こうして次々と遭遇する法律を素材として、法のいろいろな働きを見ていきます。後半は、基本六法のそれぞれのまとまりの中に位置づけて、前半で取り扱ったテーマを振り返ります。最後のまとめは「答え」ではなく、法とは何かという「問い」をもってしめくくります。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業後の生活の中で、いろいろな問題で迷うことがあるでしょう。そのとき使える自分用の「地図」を作っていくために、法律問題の基本を理解することが、本講義の目的です。また教職を目指す人には、教える側の自分が何を分かっているのか、その核心をつかむことを目標としてもらいたいと思います。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>それは知らない、これは何だと思ったときには、まずは「調べる」ひと手間かけて、自分なりに理解するために「考える」こと。知らないことがたくさんあるのは当たり前で、そのまま放っておくのか、何とかしようとするのか。その習慣の違いが、社会に出てからの自分自身の可能性を大きく左右します。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 公法と私法 ・ 一般法と特別法 ・ 実体法と手続法 ・ 民事と刑事 ・ 法と道徳</div>		<div>教科書</div> <div>特に指定せず、レジュメを配布します。</div> <div>参考書</div> <div>授業の中で適宜、紹介します。</div>

法学		LAW-P-100/LAW-L-101
担当教員： 齋藤 美沙		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 4 コード： 12A005K2
学部教育の関連目		授業計画
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能		
カリキュラム上の位置付け		01. ガイダンス 02. 法学の学ぶことについて／法を学ぶ意義、「法学」・「解釈」とは何か、リーガルマインド 03. 法とは何か／法の体系、法の分類 04. 法とは何か／法の歴史、法と道徳 05. 裁判の仕組と役割／民事訴訟、刑事訴訟、家庭裁判所 06. 裁判の仕組と役割／裁判員裁判、裁判外紛争解決手続 07. 民法／日常生活と契約 08. 民法／権利能力、未成年者と契約 09. 民法／意思表示、錯誤、詐欺、強迫 10. 民法／損害賠償請求、債務不履行、不法行為 11. 生活の中の法／消費者問題、マルチ商法、クーリング・オフ 12. 生活の中の法／保証契約、連帯保証 13. 家族と法／親族法（婚姻、離婚、生殖医療と親子関係） 14. 家族と法／相続法（相続、遺言） 15. 民法と刑法／民事責任と刑事責任 16. 民法と刑法／交通事故を起こしたら？ 17. 労働と法／労働条件、労働組合、パワハラ・セクハラ 18. 労働と法／アルバイト・就職活動と法的トラブル 19. 刑法／罪と罰、罪刑法定主義 20. 刑法／犯罪の成立要件 21. 憲法／人権の理念、近代立憲主義 22. 憲法／国民主権、象徴天皇制 23. 憲法／平和主義、安保法制、集団的自衛権 24. 憲法／法の下での平等、幸福追求権 25. 憲法／表現の自由、知る権利 26. 憲法／生存権、労働基本権、教育を受ける権利 27. 憲法／権力分立、国会 28. 憲法／内閣、裁判所 29. まとめ① 30. まとめ②
【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉士主任任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士主任任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士主任任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目		
(1) 内容		準備学習(予習)
本講義では、様々な法規範の中から、おもに憲法、民法及び刑法を扱います。 身近な問題を手がかりに、法・法律の基本的理論や知識を確認していきます。		
(2) 学びの意義と目標		前週に指示します。
社会では、法的視点が必要とされる場面が多くあります。 本講義では、基本的な法的思考・知識を身につけることを目標とします。		
準備学習(復習)		配布プリントを再読して下さい。必要に応じて参考文献を紹介します。
受講者に対する要望		評価方法
新聞やニュースなどで、法に関する事柄に注意を払うようにして下さい。		
		(1) 試験 80% (2) 平常点 20%
試験の成績をもとに、出席やコメントシート等を考慮し、総合的に評価します。		教科書
学びのキーワード		参考書
・ 法学 ・ 憲法 ・ 基本的人権 ・ 民法 ・ 刑法		
		池田真朗編『プレステップ法学＜第2版＞』弘文堂、2013年

法学		LAW-P-100/LAW-L-101
担当教員： 渡辺 英人		
学期： 週間授 科目： 教養科目 必修・選択： 選択科目/必修科目		単位： 4 コード： 12A005K4
学部教育の関連目		授業計画
【全】専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る 【L】知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能		01. 法を守る精神： 社会における信頼関係 02. 法を守る精神： 社会（コミュニティ）の形成 03. 法と道徳 04. 法の概念 05. 法の存在形式（法源） 06. 法の種類 07. 法の効力 その範囲と限界 08. 「自然法論」と「法実証主義」 09. 法と道徳（2） 10. 自己決定権 11. 法がめざすもの（法の目的） 12. 罪刑法定主義とデュー・プロセス 13. 法の目的（2） 14. 適法性と違法性 15. 「犯罪」とは何か？ 16. 「犯罪」とは何か？（2） 17. モラルの低下した社会に生きる 18. 法の目的（3） 19. 「公」と「私」 20. 「責任」とは何か？ 21. 「権利」とは何か？ 22. 「正義」とは何か？ 23. 「市民社会」に生きる 24. 「法」を守る精神 25. 諸外国の法 26. 諸外国の法（2） 27. 市民社会の法 28. 消費者と法 29. 知的財産権と法（1） 30. 知的財産権と法（2）
カリキュラム上の位置付け		
【L】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】社会福祉士任用資格：選択科目【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士任用資格：選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】社会福祉士任用資格：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目		
(1) 内容		
「法を守る精神・法令遵守と責任」 「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人との社会の中でいかに上手く生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人、良き市民として、社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。講義内容の中心は「法の概念」「市民社会の法」「消費者と法」「知的財産権」などです。		
(2) 学びの意義と目標		
法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。		準備学習(予習)
		受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。
		準備学習(復習)
		受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。
受講者に対する要望		評価方法
受講者の在籍学部を問わず、具体例をあげながら、全員にわかりやすく解説します。遅刻、欠席の無いように積極的に授業に参加してください。		(1) 授業中の態度、積極的発言など 40% (2) 課題作成 30% (3) 試験 30%
学びのキーワード		教科書
・ 法を守る精神 ・ 「公」と「私」 ・ 権利と義務 ・ 責任 ・ 市民社会に生きる		井上 正仁 『ポケット六法 平成28年版』（有斐閣）
		参考書

キリスト教社会倫理 A

LAW-P-200

担当教員：松本 周

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目

単位： 2 コード： 15100101

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目
【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

本学の基盤であるキリスト教の視点から、「よく生きる」「よき社会を形成する」という社会倫理的課題を探究します。
本講義では現代社会が直面している、倫理的諸問題の具体例を取り上げながら、キリスト教と倫理の関係について考察します。

(2) 学びの意義と目標

現代社会における諸文化価値とキリスト教使信との関係を、具体的事例を通して学びます。それによって現代社会における倫理的諸問題への判断力を養っていただきたいと思います。

受講者に対する要望

キリスト教や『聖書』の知識が、専門分野の学びとどのように関わるかを意識しつつ受講してほしいと願います。

学びのキーワード

- ・ 平和
- ・ 人間の尊厳
- ・ 「いのち」と「生命」
- ・ 神の国

授業計画

01. キリスト教社会倫理の目標「神の国の平和」
02. 「神の国」と「いのち」 現代社会の諸問題
03. いのちの尊厳をめぐって
04. 基本的人権の保障—強制収容所問題
05. 社会の危機といのちの危機
06. 現代におけるテロリズムの問題
07. 「宗教的寛容」「教会と国家の分離」について
08. 死をめぐる問題（1）安楽死
09. 死をめぐる問題（2）「終活」
10. 死をめぐる問題（3）終末期患者と家族
11. 出生をめぐる問題（1）出生前診断、中絶
12. 出生をめぐる問題（2）新生児医療について
13. グローバル社会と「いのちの格差」問題
14. ふりかえり 現代社会の倫理的諸問題と私たち
15. まとめ 「よりよく生き、よりよい社会を形成する」

準備学習(予習)

授業時に配布するプリントにより、指示されたテキストを確認し、自分の意見等をまとめておくこと。

準備学習(復習)

配布プリントを読み返したり、紹介した資料を読むことにより、内容理解を深めてほしい。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|-------------|
| (1) リアクションペーパー | 40% | 授業参加度を含みます。 |
| (2) 期末試験 | 40% | |
| (3) 全学礼拝・教会レポート | 20% | |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

教科書

『聖書 新共同訳』（日本聖書協会）ただし「キリスト教概論」受講者は同じ教科書なので改めて購入する必要はない。

参考書

キリスト教社会倫理 A		LAW-L-200
担当教員： 菊地 順		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 15100102
学部教育の関連目		授業計画
【L】 知の基礎力：政治や社会のしくみの理解		01. 「良き隣人となるために」序(1)—20世紀の時代精神 02. 「良き隣人となるために」序(2)—20世紀と大衆社会 03. 「良き隣人となるために」序(3)—20世紀と平和論 04. 「良き隣人となる」(1)—コルベ神父 05. 「良き隣人となる」(2)—ボンヘッファー 06. 「良き隣人となる」(3)—新渡戸稲造(1)（その生涯） 07. 「良き隣人となる」(4)—新渡戸稲造(2)（その思想） 08. 「良き隣人となる」(5)—賀川豊彦 09. 「良き隣人となる」(6)—マハトマ・ガンディ(1)（その生涯） 10. 「良き隣人となる」(7)—マハトマ・ガンディ(2)（その思想） 11. 「良き隣人となる」(8)—マザー・テレサ(1)（その生涯） 12. 「良き隣人となる」(9)—マザー・テレサ(2)（映画を通して） 13. 「良き隣人となる」(10)—ダイアナ元皇太子妃 14. 「良き隣人となる」(11)—エレノア・ルーズベルトと世界人権宣言 15. まとめ—「良き隣人になる」とは？
カリキュラム上の位置付け		
【L】 高等学校教諭一種免許：公民必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目		
(1) 内容		
倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、春学期は「良き隣人となる」というテーマの下で、さまざまな分野で「平和」の実現のために貢献した人たちを取り上げて行います。「平和」というのは、単に戦争のない状態のことではなく、もっと豊かな積極的内容を持つ言葉で、さまざまな分野で活動した人たちの具体的な事例を見ながら、「良き隣人となる」ということはどういうことか考えたいと思います。 具体的には、まずキリスト教の考える「平和」について考察します。そこには、いわゆる戦争のない平和ともっと広い意味での平和が認められますが、そのそれぞれを吟味したあと、特に20世紀にいくつかの事例を求め、その具体的な内容を検討し、人間の生き方について学びます。		
(2) 学びの意義と目標		
この授業では、平和に関する具体的な事例を学ぶことをとおして、特に人間の尊厳および人格・人権という価値の尊さの理解を深め、現代世界に通用する倫理観を身に付けることが目指されています。		準備学習(予習)
		予習としては、シラバスを読んで授業内容を確認すると共に、毎回授業の最後に次回の予告をするので、予め下調べをしておくこと。
		準備学習(復習)
		復習として、毎回授業で配布される講義内容のプリントを読み直すこと。また必要や関心に応じて、自分で調べ、知識を深めること。特に、この授業では復習に重点を置いてください。
		評価方法
		(1) 試験 70% (2) 平常点 20% (3) 課題 10%
		以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。
受講者に対する要望		教科書
倫理というたと堅苦しい印象を受けるかもしれませんが、人間のよりよい生き方を学ぶもので、たえず社会に関心を持ち、問題を共有しながら、開かれた心で臨んでほしいと思います。		
学びのキーワード		参考書
・ 平和 ・ 戦争 ・ 社会 ・ 人格 ・ 人権		毎回授業の初めにプリントを配布します。

キリスト教社会倫理B

LAW-P-200

担当教員：松本 周

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15100203

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

本学の基盤であるキリスト教の視点から、「よく生きる」「よき社会を形成する」という社会倫理的課題を探究します。

本講義では『聖書』に記されている「十戒」を基軸として、キリスト教社会倫理の現代的意義を考えていきます。

(2) 学びの意義と目標

現代社会における諸文化価値とキリスト教使信との関係を、具体的事例を通して学びます。それによって現代社会における倫理的諸問題への判断力を養っていただきたいと思います。

受講者に対する要望

「キリスト教概論」「キリスト教関連科目」を含めて学んだキリスト教や『聖書』の知識が、専門分野の学びとどのように関わるかを意識しつつ受講してほしいと願います。

学びのキーワード

- ・現代社会
- ・十戒
- ・文化価値

授業計画

01. 「キリスト教」「社会倫理」について
02. キリスト教社会倫理の要諦「十戒」
03. キリスト教社会倫理の土台「礼拝」
04. 「十戒」の背景と第一戒
05. 第二戒 神の像、神のイメージ
06. 第三戒 神の名を利用する問題
07. 第四戒 安息日—時間の秩序
08. 第五戒 親の責任と子の倫理
09. 第六戒 いのちとはなにか
10. 第七戒 聖書の示す自由とは
11. 第八戒 基本的人権の宗教的根拠
12. 第九戒 宣誓ということ
13. 第十戒 経済活動の倫理
14. ふりかえり 「十戒」は何を語りかけているか
15. まとめ 現代社会の倫理的指針

準備学習(予習)

授業時に配布するプリントにより、指示されたテキストを確認し、自分の意見等をまとめておくこと。

準備学習(復習)

配布プリントを読み返したり、紹介した資料を読むことにより、内容理解を深めてほしい。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (1) リアクションペーパー | 40% 授業参加度を含みます。 |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) 全学礼拝・教会レポート | 20% |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

教科書

『聖書 新共同訳』（日本聖書協会）ただし「キリスト教概論」受講者は同じ教科書なので改めて購入する必要はない。

参考書

キリスト教社会倫理B

LAW-L-200

担当教員：菊地 順

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：15100204

学部教育の関連目

【L】 知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

【L】 高等学校教諭一種免許：公民必修科目

【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目

(1) 内容

倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、秋学期は人種問題に注目して行います。具体的には、アメリカ合衆国における黒人問題を中心にヨーロッパ世界におけるユダヤ人問題にも触れ、その歴史とその問題に取り組んだ人々の活動について学びます。そのことを通し、人間の生き方について、特に人間の尊厳とか人格・人権といった価値の尊さについて学びます。

(2) 学びの意義と目標

この授業では、人種問題の学びをとおして、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などの価値についての理解を深め、現代世界に通用する倫理を身に付けることが目指されています。

受講者に対する要望

人種問題は、世界中にある問題です。この学びのために、特に人間の尊厳とか人権ということにより敏感となり、社会や世界に広く関心を持ち、開かれた心で授業に臨んでほしいと思います。

学びのキーワード

- ・アフリカ系アメリカ人（黒人）
- ・奴隷制度、人種隔離制度
- ・公民権（市民権）
- ・ユダヤ人
- ・人格・人権

授業計画

01. アメリカの宗教的多元化と右派化
02. アメリカ教会史
03. アメリカ黒人の歴史
04. フレデリック・ダグラスの生涯と奴隷制度
05. 南北戦争と奴隷解放宣言
06. 動画で見るアメリカの奴隷制度
07. 人種隔離制度と黒人たちの闘い
08. 公民権運動への序章
09. M. L. キングと公民権運動（１）（その歩み）
10. M. L. キングと公民権運動（２）（その思想）
11. マルコムXの闘い
12. ドイツとユダヤ人—その差別と迫害の歴史（１）（近代まで）
13. スペインとユダヤ人—その差別と迫害の歴史
14. ドイツとユダヤ人—その差別と迫害の歴史（２）（現代）
15. まとめ—人間の尊厳と人権

準備学習(予習)

予習としては、シラバスで授業内容を確認すると共に、毎回授業の最後に次回の予告をするので、下調べをしておくこと。

準備学習(復習)

復習としては、授業で毎回配布される講義内容のプリントを読み返すこと。また必要と関心に応じて、自分でさらに調べ、知識を深めること。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 課題 | 10% |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は、試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

教科書

参考書

毎回授業の初めにプリントを配布します。

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 4 コード： 1A224501

授業計画

01. 授業紹介、「言語に関する誤った通念か、事実か?」という調査により授業の内容を考える (グループワーク)
02. 「言語に関する誤った通念か、事実か?」の解答についての解説
03. 言語変種: 国語、公用語、標準語、共通語 (グループワークとディスカッション)
04. 言語変種: 方言、なまり、言語使用域 (グループワークとディスカッション)
05. 言語変種: 標準語と方言 (グループワークとディスカッション)
06. 二言語使用、ダイグロシア (二言語変種使い分け) (グループワークとディスカッション)
07. 言語偏見と言語不平等 (グループワークとディスカッション)
08. 危機言語と言語復興: アイヌ語の例 (グループワークとディスカッション)
09. 危機言語と言語復興: アイヌ語と琉球諸言語の例
10. 危機言語と言語復興: 琉球諸言語の例
11. 危機言語と言語復興: ハワイ語の例
12. 危機言語と言語復興: アメリカ先住民の諸言語の例
13. 「礼儀正しい」についての異なった考え方 (グループワークとディスカッション)
14. 発話行為 (グループワークとディスカッション)
15. ボライトネス理論 (ト章草): レイコフとリーチ (グループワークとディスカッション)
16. ボライトネス理論: ブラウンとレヴィンソン、「フェイス」 (グループワークとディスカッション)
17. ボライトネス理論: 「ポシティブ・ボライトネス」、「ネガティブ・ボライトネス」 (グループワークとディスカッション)
18. 世界の敬語: 日本語と他言語の比較 (グループワークとディスカッション)
19. 謝罪の発話行為 (グループワークとディスカッション)
20. 謝罪: 日本語と英語の比較 (グループワークとディスカッション)
21. 言語変化
22. 差別語という課題の紹介
23. 日本とアメリカ社会で差別されているグループに対する用語の発展
24. 日本における差別語: ガイドライン
25. 英語圏における差別語: ガイドライン
26. 言語とジェンダー: 性差別語と非性差別語変革 (グループワークとディスカッション)
27. 非性差別語変革
28. 英語圏における差別語: 包括語
29. 英語の聖書訳における包括語
30. 春学期の内容をまとめる: 「言語に関する神話…」の再検討 (グループワークとディスカッション)

与えられた資料、講義内容のプリントを事前に読むこと。

各資料についてリアクションペーパーを書き、小テストのために各課題のプリントを復習すること。

(1) 授業への参加度	20%
(2) リアクションペーパー	25%
(3) 小テスト	25%
(4) 期末試験	30%

(1) 内容

この授業は社会言語学の分野に位置づけられ、グローバルな観点から捉えた言語と社会の研究に関する入門的な授業である。比較言語・比較社会というグローバルな視点で日本語やアメリカ英語を始めとし、又、他言語も、どのように社会の中で使われているかを学ぶ。言語と社会の関係の理論的、実践的に解明するための主な課題は以下の3つである。(1) どのように言語が個人的、社会的なアイデンティティを表しているか(なまり、方言、多言語使用、言語偏見等)。(2) どのように人間関係が言語的に表われているか(丁寧表現、敬意表現等)。(3) 非性差別語変革や包括語が言語変化と社会変化との関係をどのように示すか。

言語と社会の研究の主な課題を概観することを通して、受講生は社会的関係において自分の母語や言語全般の役割をグローバル理解することが目標である。

言語の社会的役割に関心がある者や積極的に他学生と講義内容についてディスカッションをしたい者の受講を望む。

- ・ 言語変種
- ・ 危機言語
- ・ 丁寧語・敬語
- ・ 差別語
- ・ 言語とジェンダー

参考書

パウワウ、ローリー/トラッドギル、ピーター【編】/河田 健【監訳】/水嶋 いづみ【訳】『言語学的にいえば「常識」をつくらせよ』研究社 2007
イ・ヨシユク『『蘭語』という思想—近代日本の言語認識』岩波書店 2012
重野 栄『アイヌの呪い』朝日文庫 1994
ダニエル・ネルト スザンヌ・メーレン 萩村 悠男【訳】/清水 久子【監訳】 失われたことば、失われた世界/バリエリッ・ハンリッヒ『東アジアにおける言語復興 中国・台湾・沖縄を焦点に』？ 2010
新堀 新一 2001

南北アメリカと多文化社会

AMER-A-303

担当教員： 増田 直子

學期： 週間授 科目： 專門科目 必修・選択： 選択科目

単位：4 コード：1A316091

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための力：異文化に対する理解と共生の姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

【A】 高等学校教諭一種免許：英語選択科目

【A】中学校教諭一種免許：英語選択科目

(1) 内容

難民や頭脳流出などの人の移動が現在世界規模で起こっている。移住の理由、移住先でのコミュニティの成立、ホスト社会との関係、多様な人から成り立つ多文化社会の問題と可能性について、アメリカ・カナダの事例を中心に学ぶ。また、南米日系人の日本への逆流といった日本の事例も取り上げる。

(2) 学びの意義と目標

多人種・多民族の存在が社会のあり方にどのような影響を及ぼしているかを理解し、その意義を説明できるようにする。

受講者に対する要望

移民や外国人問題など関連のニュースや新聞記事に日頃から関心を持つこと。

学びのキーワード

- 移民 · 移住
- 多文化主義
- 多文化社会

授業計画

01. 導入—人口構成、国勢調査
02. アメリカの国土
03. アメリカへの移民の流れ（１）「旧移民」
04. アメリカへの移民の流れ（２）「新移民」
05. アメリカへの移民の流れ（３）移民制限
06. 日系アメリカ人（１）排斥
07. 日系アメリカ人（２）強制立ち退きから補償運動へ
08. 『ミリキタニの猫』→レポート
09. 戦後アメリカ社会と人種・民族的マイノリティ（１）
10. 戦後アメリカ社会と人種・民族的マイノリティ（２）
11. 黒人公民権運動
12. 『ローザ・パークス物語』→レポート
13. 先住アメリカ人
14. アジア系アメリカ人
15. ヒスパニック/ラティーノ・ラティーナ
16. 同時多発テロとアメリカのムスリム
17. 性の解放と性をめぐる論争
18. ステレオタイプ（１）映画に見られる黒人像
19. ステレオタイプ（２）映画に見られる日本人像
20. 博物館・記念碑をめぐるマイノリティの記憶
21. 同化の概念と多文化主義
22. 多民族国家カナダ
23. 日系カナダ人
24. カナダの先住民
25. カナダの多文化主義
26. ケベック（１）フランス系カナダ人
27. ケベック（２）現代のケベックをめぐる問題
28. 南米日系人（１）南米での経験
29. 南米日系人（２）日本への逆流
30. まとめ

準備學習(予習)

事前に指示された用語を調べておくこと。

準備學習(復習)

配布プリントを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにする。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) レポート | 40% |
| (3) その他 | 10% |

教科書

参考書

英米文学概論		EALI-A-201
担当教員：氏家 理恵		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A510242
学部教育の関連目		授業計画
【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目 【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目		
(1) 内容		準備学習(予習)
本講義は、英米文学の歴史をたどりながら、そのジャンルの展開と作品の多様性について概観する。各ジャンルからなるべく多くの作品例を読み、英米文学の特徴をまとめ、英米文学とは何なのかを考える。また、ヨーロッパの文化的土壌であるヘレニズムとヘブライズム、英米の風土・歴史・社会・生活からも文学作品を読み解いていく。 「文学」と聞くと堅苦しいイメージを抱いてしまう人、作品や物語を「読む」とはどういうことかよく分からないと感じている人に、英米文学の面白さや作品を読む楽しさを知ってもらいたい。		
(2) 学びの意義と目標		
英米文学のヨーロッパ文学における位置づけを知り、その歴史的・文化的発展と作品の多様性を学ぶ。英米文学におけるさまざまな思潮やジャンル、批評用語などの基礎的な知識を得、英米文学を理解するために必要な知識を確認する。また、さまざまな作品や物語を楽しむためのコツ、読み解くための言葉と力を養う。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
文学に興味がある意欲的な学生の受講を希望する。また、この講義は2年生以上対象の専門科目であり、教職課程履修者にとっては必修科目であるため、ある程度の欧米芸術文化の基礎知識を持っている学生の履修を推奨する。なお、授業で取り上げる作品はなるべく読んでほしい。		
学びのキーワード		
・ 英米文学 ・ 英米文学史 ・ ロマン主義 ・ 大衆文学とミステリ ・ SFとファンタジー		
教科書		参考書
適宜プリントを配布する。		

英米児童文学

EAL I-A-203

担当教員： 松本 祐子

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1A510743

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 高等学校教諭一種免許：英語選択科目

【A】 中学校教諭一種免許：英語選択科目

(1) 内容

この授業では、必ずしも読者を子どもと想定して
いたわけではない昔話からイギリス児童文学の始
まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定
的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジ
ーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の
児童文学の抱える諸問題について触れながら、英
米児童文学の歴史と概要を学んでいく。

(2) 学びの意義と目標

長い歴史を、ついでに英米児童文学の数々のベストセールの一般の
ラ一作は名姿と知識をみだけるのをしるし。かといふところからなれ人間こどものも宝庫といふ目標の映像であるものが多い。

受講者に対する要望

できるだけ多くの作品を読んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 昔話
- ・ ファンタジー
- ・ エヴリディ・マジック
- ・ リアリズム

授業計画

01. 授業説明
02. 伝承文芸: シャルル・ペローの昔話
03. 伝承文芸: グリム兄弟の昔話
04. 伝承文芸: イギリスの妖精「フェアリー・ゴッドマザーとチェンジリング
05. 伝承文芸: イギリスの妖精「伝説の妖精とコッティング・フェアリー」
06. 伝承文芸: マザーグースに見る英語表現
07. 伝承文芸: 物語の中のマザーグース
08. イギリス児童文学の始まりと児童文学の分類
09. 近代ファンタジー: ルイス・キャロル
10. 近代ファンタジー: ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』の構造
11. 家庭小説: オルコット
12. 家庭小説: バーネット『小公子』と『小公女』
13. 家庭小説: バーネット『秘密の花園』
14. 動物ファンタジー: ベアトリクス・ポター
15. 動物ファンタジー: マイケル・ポンド、A. A. ミルン
16. エヴリディ・マジックの世界: ネズビット
17. エヴリディ・マジックの世界: トラヴァース
18. エヴリディ・マジックの世界: メアリ・ノートン
19. エヴリディ・マジックの世界: メアリ・ノートン『床下の小人たち』
20. ハイ・ファンタジー: C. S. ルイス
21. ハイ・ファンタジー: トールキン
22. ハイ・ファンタジー: ル・グウィン
23. ハイ・ファンタジー: フィリップ・プルマン
24. 現代のリアリズム児童文学: カニグズバーク
25. 〈人形〉の物語: ゴッデン
26. 〈人形〉の物語: シルヴィア・ウォー
27. 現代の魔法: ローリング
28. 現代の魔法: ダイアナ・ウィン・ジョーンズ
29. 魔法と現実の間: ルイス・サッカー
30. まとめ

準備學習(予習)

最初の授業で配布する読書リストにしたがって、授業で扱う作品を読んでおくこと。授業時に指示されたレポートはきちんと提出すること。

準備學習(復習)

授業時のノートを整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 期末試験 | 40% |
| (2) 学期末レポート | 30% |
| (3) 課題レポート | 20% |
| (4) 出席 | 10% |

教科書

参考書

異文化理解		CMPC-A-201
担当教員： 島田 由紀		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A610620
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】グローバル世界で活躍するための力：世界情勢への理解や異文化への共生的姿勢を深める</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入</div> <div>02. 「あたりまえ」を問い直す①—初詣の起源</div> <div>03. 「あたりまえ」を問い直す②—近代日本における「宗教」理解</div> <div>04. 「あたりまえ」を問い直す③—西洋における死の理解の諸事例</div> <div>05. 「あたりまえ」を問い直す④—日本における死の理解の諸事例</div> <div>06. アイデンティティを育むものとしての文化①—音楽</div> <div>07. アイデンティティを育むものとしての文化②—文学</div> <div>08. アイデンティティを育むものとしての文化③—宗教</div> <div>09. アイデンティティを育むものとしての文化④—共同体の役割</div> <div>10. 異文化に対する偏見の諸事例①—ユダヤ人</div> <div>11. 異文化に対する偏見の諸事例②—植民地時代北米の黒人</div> <div>12. 異文化に対する偏見の諸事例③—20世紀・21世紀のアメリカの黒人</div> <div>13. 異文化に対する偏見の諸事例④—異文化とアイデンティティ</div> <div>14. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ①—宗教的マイノリティ</div> <div>15. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ②—民族的マイノリティ</div> <div>16. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ③—女性の視点から見た労働文化</div> <div>17. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ④—女性の視点から見た性文化</div> <div>18. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ⑤—黒人から見たアメリカ社会</div> <div>19. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ⑥—黒人女性から見たアメリカ社会</div> <div>20. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ⑦—アメリカにおける貧困</div> <div>21. マイノリティの視点から見た異文化としてのマジョリティ⑧—アメリカにおける貧困と人種</div> <div>22. 多文化共生に向けて①—自文化・異文化の自覚的理解</div> <div>23. 多文化共生に向けて②—私的空間・公共空間での多文化共生</div> <div>24. 多文化共生に向けて③—共通の倫理を模索すること</div> <div>25. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）①—近代以降の北米と日本</div> <div>26. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）②—現代日本の多文化</div> <div>27. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）③—北米</div> <div>28. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）④—世界の諸地域</div> <div>29. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）⑤—まとめ</div> <div>30. まとめ</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>配布するプリント類を自宅で読み返すこと。クラス内での発表の準備をすること。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目</div> <div>【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目</div> <div>【A】日本語教員養成課程：選択必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義ノートと配布物の復習を行なうこと</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点60% 授業内でのディスカッションへの参加や提出物</div> <div>(2) 事例研究発表20%</div> <div>(3) 期末テスト20%</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>私たちにとっては違和感なく自然に思われる考え方や生活様式が、他の文化や時代の人々にとってはまったく異なるふうに捉えられることがある。異なった文化を背景として生きてきた者同士が同じ社会で生きようとするとき、そこには交流だけでなく衝突が起きることもある。この授業では、特に北米英語圏における、様々な異文化交流・衝突の事例において文化がアイデンティティに及ぼす影響を考察しながら、多文化共生の道筋を考察する。</div> <div>学期の終わりには、履修者全員が異文化交流・多文化共生の事例を一つ選び、事例研究報告をクラスの中で行なう。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>異なる文化（特に北米英語圏）に根差した価値観を知ることで、自分自身の生きる文化を相対化する視点を持つとともに、文化的差異を越えて共に生きる意識を身につけることを目指す。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>様々な映像資料やテキストをもとに、自分自身の意見を持ち、それを積極的にクラスのなかでシェアすることを目指してほしい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・北米</div> <div>・差別</div> <div>・文化</div> <div>・アイデンティティ</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

現代英文法

EGLI-A-201

担当教員：小川 隆夫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1A710160

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目
【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目

(1) 内容

本講義は、四半世紀にわたり世界中の英語学習者にコミュニケーションに「使える」文法書として利用されてきたテキストを用い、専門用語に依存した文法解説を最小限にとどめ、直観による理解を推進するイラストや平易な例文を用いて英文法を基礎から学ぶ。今まで英文法が苦手としてきた受講生にもわかりやすい内容である。本科目を修了することで日常生活や資格試験の英文法をほぼ網羅できる。

(2) 学びの意義と目標

コミュニケーションのための活きた英文法を学び、文法知識を整理することで、自信を持って英語で話す力と書く力を身につけることができる。各種試験、教職、就職にも役立つ。特に英語の教職を目指すものにとっては文法の教授法の練習にもなる。

受講者に対する要望

英文法を基礎から総復習したいという熱意ある者の受講を望む。基礎から日常生活や資格試験に使える文法までを要領よく学べる絶好のチャンスであり、正しい文法知識は将来の仕事にも役に立つ。欧米文化学科の学生はぜひとも受講して欲しい。

学びのキーワード

・ コミュニケーションのための英文法
・ 使える英文法
・ 直観による理解の推進
・ 活きた英語
・ 話す力と書く力

授業計画

01. コミュニケーション英文法の学習法と現在形（be動詞の肯定文、否定文、疑問文）
02. 現在形（現在進行形と疑問文、単純現在形と否定文）
03. 現在形（単純現在形の疑問文、現在進行形と単純現在形、I have とI' ve got）
04. 過去形（be動詞の過去形、単純過去形と否定文と疑問文）
05. 過去形と現在完了形（過去進行形、I used to ＋動詞の原形、現在までの経験）
06. 現在完了形（現在までの動作や状態の継続、for・since・ago、I have doneと過去単純形I did、just alreadyとyet）
07. 現在完了形と受動態（I' ve lost my key.とI lost my key last week.）（is doneと was done）
08. 受動態と動詞の形（is being doneとhas been done）(be/ have / do現在形と過去形における助動詞、規則変化動詞と不規則変化動詞)
09. 未来表現（What are you doing tomorrow? 未来を表すbe+ ing、I' m going to+動詞の原形、will）
10. 法助動詞と命令文（might, canとcould, must）
11. 法助動詞と命令文（I have to・動詞の原形、Would you like …?, I' d like…、I' d rather・動詞の原形、Do this! Don' t do it!, Let' s do this!命令文）
12. there と it（there is there are, there was/were, there has/ have been, there will be、それ」と物をささないit）
13. 助動詞（I am、I don' t など肯定文、否定文における後に続く語句の省略、聞き返し疑問と付加疑問、too/ either、so am I/neither do Iなど、I' m 't、haven' t、don' t など）
14. 疑問文（Is it…?, Have you …?, Do they …?など、Who saw you? Who did you see? Who is she talking to? What is it like? What…? Which…? How…?）
15. 疑問文と間接話法（How long does it take to+動詞の原形?, Do you know where…? I don' t know what…?などの間接疑問文、She said that… He told me that …間接話法）
16. -ingと「to＋動詞の原形」（動詞の原形とing、動詞の後ろにくるto+動詞の原形とing、want/ tell+人+to+動詞の原形、I went to the store to＋動詞の原形（目的語を表す不定詞））
17. go, get, do, make, have（基本的な動詞を用いた表現）
18. 代名詞と所有格（代名詞の主格と目的格、所有格、独立所有格）
19. 代名詞と所有格（代名詞の格、再帰代名詞、一’ s）
20. a と the（不定冠詞、単数形と複数形、可算名詞と不可算名詞）
21. a と the（不定冠詞と定冠詞、theのつく形とつかない形、the+場所の名前）
22. 限定詞と代名詞（this/that/these/those、one/ ones、someとany）
23. 限定詞と代名詞（not+any+名詞、no+名詞・none、everyとall、all most some any no/none/both/either/ neither、a lot/ much/ many、a/ littleとa/ few）
24. 形容詞と副詞（old/ nice/ interesting、quickly /badly/suddenlyなど、old/older 比較級）
25. 形容詞と副詞（not as …as原級を用いた比較、最上級、enough、too）
26. 接続（動詞・目的語、場所・時、文中で動詞とともに生じる副詞、still、yetとalready、「動詞+物+to人」と「動詞+人+物」）
27. 接続詞と節（and but or so because 2つの文をつなぐ接続詞、when時を表す節、起きるかもしれない出来事を仮定するif節、事実に反することを仮定するif節、関係副詞：主語であることを示す関係代名詞、目的語であることを示す関係代名詞と
28. 前置詞（時、期間、前・後・間を表す前置詞/接続詞、場所を前置詞）
29. 前置詞と句動詞（位置関係、方向を表す前置詞、「形容詞+前置詞」、「前置詞+ing」、「動詞+前置詞」、go in、fall off、run away 句動詞と動作の方向、put on your shoes、put your shoes on 句動詞と目的語）
30. 理解度の確認

準備学習(予習)

毎回、指定ページの予習をすること。テキストにそのまま記入してよい。

準備学習(復習)

授業の復習をし、次回の確認テストに備える。毎回、いくつもの文法事項について学習するため、復習を必須とする。

評価方法

(1) 授業への参加度	10%
(2) 確認テスト	30%
(3) 中間テスト	30%
(4) 期末テスト	30%

予習復習を重視し、毎回の確認テストで努力を評価する。

教科書

Raymond Murphy, William R. Smalzer, 渡辺 雅仁、田島 祐規子『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)』（Cambridge University Press）

参考書

英語音声学		EGLI-A-301															
担当教員： 加曽利 実																	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A710290															
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション ― 「音声無くして言語無し」を認識する</div> <div>02. 英語音声学入門―言語学習上における音声学習の重要性</div> <div>03. 英語音声学の基礎理論 (1) ― 言語音の分析方法</div> <div>04. 英語音声学の基礎理論 (2) ― 調音音声学・音響音声学・聴覚音声学</div> <div>05. 英語音声学の基礎理論 (3) ― 声門上部発音器官</div> <div>06. 英語音声学の基礎理論 (4) ― 音素と異音、音声記号とIPA、母音の分類と定義、子音と分類と定義</div> <div>07. 英語音声学の基礎理論 (5) ― イギリスの標準発音(RP)とアメリカの標準発音(GA)</div> <div>08. 子音の発音・理論と練習 (1) ― 破裂音</div> <div>09. 子音の発音・理論と練習 (2) ― 摩擦音</div> <div>10. 子音の発音・理論と練習 (3) ― 破擦音</div> <div>11. 子音の発音・理論と練習 (4) ― 歯茎側音、反転音</div> <div>12. 子音の発音・理論と練習 (5) ― 鼻音、半母音</div> <div>13. 母音の発音・理論と練習 (1) ― 単母音(高前舌母音、中前舌母音、低前舌母音)</div> <div>14. 母音の発音・理論と練習 (2) ― 単母音(低中舌母音、中中舌母音)</div> <div>15. 母音の発音・理論と練習 (3) ― 単母音(高後舌母音、低後舌母音)</div> <div>16. 母音の発音・理論と練習 (4) ― 二重母音(上昇二重母音、集中二重母音)</div> <div>17. 母音の発音・理論と練習 (5) ― 反転二重母音</div> <div>18. 音の結合 (1) ― 子音連結、音素配列論</div> <div>19. 音の結合 (2) ― 同化作用、有声音化、無声音化、鼻音化、口蓋音化、擦音化</div> <div>20. 音の結合 (3) ― 異化作用、音の脱落、語中音添加、音位転換、重音脱落</div> <div>21. リダクション ― 英文法と英語音声学との関係(品詞と強勢)</div> <div>22. 英語の三段階強勢</div> <div>23. 強形発音と弱形発音 (1) ― 人称代名詞、関係代名詞、不定代名詞</div> <div>24. 強形発音と弱形発音 (2) ― 助動詞、be動詞、have動詞</div> <div>25. 強形発音と弱形発音 (3) ― 前置詞、接続詞、その他</div> <div>26. 名詞句と合成名詞</div> <div>27. 日本語のリズムと英語のリズム</div> <div>28. 文強勢の移動</div> <div>29. イントネーション ― 内部開放連接、内部閉鎖連接、末尾下降連接、末尾上昇連接</div> <div>30. 総合練習・まとめ</div>															
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【A】高等学校教諭一種免許：英語選択科目</div> <div>【A】中学校教諭一種免許：英語選択科目</div>																	
<div>(1) 内容</div> <div>英語を学習する際、最も大切な事は、その発音を学ぶことです。いくら一生懸命、英語を学習しても、発音が英米等のネイティブ・スピーカーに通じなかったり、誤解されてしまったり、その学習は、結局、徒労となってしまいます。そうならないようにするためには、まず第一に、英語の発音を学習することです。発音を良くすると、聴き取る力もアップして来て、英会話が出来るようになるのです。応用を学ぶ前に基礎事項をしっかりとおきましょう。</div> <div>授業では、プリント教材を用いて、英語音声学の基礎理論(発音器官・母音・子音・音の結合・強勢・イントネーション等)を学習すると同時に、DVD教材を用いて英語らしい発音・リズムを身につける練習を行います。主としてアメリカ英語を対象とし、必要に応じてイギリス英語や他の様々な種類の英語についても触れます。CALL(L L)教室を使用します。最初の授業の時に、プリントで授業の詳細について説明します。</div>																	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>言語は、相手に通じて初めて意味を持ちます。日本語とは、全く異なる音声構造を持つ英語の音声構造と音声学の基礎理論を学び、実際にネイティブ・スピーカーに通じる発音の習得を目指します。つまり、ネイティブ・スピーカーの言う事を正しく理解できるようになり、また自らの意思を相手のネイティブ・スピーカーに正しく伝えられるようになります。アメリカ英語を中心に授業を進めて行きます。イギリス英語についても、主だった差異について触れます。現在日本社会において、英語能力は、今や常識となりつつあります。学生時代の間に確実に英語を身に付けたい人、そして中学校や高等学校などの英語教師を目指す人に受講を強く勧めます。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、必ず10頁程度、テキストを予習して、ノートに重要点と思われる箇所をまとめておいて下さい。予習・復習ノートの提出のため、ノートまとめを励行しておいて下さい。</div>															
<div>受講者に対する要望</div> <div>音声学は、英語学習の中核を成す基礎科目なので、1-2年次生の間に履修することを勧めます。言語学習は、相手に通じることを前提とします。また、学生の間に、予習・受講・復習というHop-Step-Jumpの「三段跳び学習法」を必ず身に付けるようにして下さい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>復習を励行して下さい。毎回、授業後、なるべく早いうちに、学習した項目をノートに纏めて復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。</div>															
<div>学びのキーワード</div> <div>・英語学習の中核を成す基礎科目</div> <div>・ネイティブに通じる発音の習得</div> <div>・英語らしい発音とリズム</div> <div>・実学としての英語学習</div> <div>・CALL(L L)教室、フォーマット形式(mp3、wav、mp4、DVDなど)</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>20%</td><td>授業への参加度</td></tr><tr><td>(2) 予習・復習ノート</td><td>10%</td><td>ノート提出</td></tr><tr><td>(3) 発音チェックテスト</td><td>10%</td><td>発音学習事項の練習度</td></tr><tr><td>(4) 中間試験</td><td>30%</td><td>中間試験の成績</td></tr><tr><td>(5) 期末試験</td><td>30%</td><td>期末試験の成績</td></tr></table> <div>予習と復習を励行するかどうか、定期試験などの成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。</div>	(1) 平常点	20%	授業への参加度	(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出	(3) 発音チェックテスト	10%	発音学習事項の練習度	(4) 中間試験	30%	中間試験の成績	(5) 期末試験	30%	期末試験の成績
(1) 平常点	20%	授業への参加度															
(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出															
(3) 発音チェックテスト	10%	発音学習事項の練習度															
(4) 中間試験	30%	中間試験の成績															
(5) 期末試験	30%	期末試験の成績															
<div>教科書</div> <div>プリント教材</div> <div>参考書</div> <div>学習指導要領。その他は、授業中に提示します。</div>																	

英語学概論		EGLI-A-202												
担当教員： 加曽利 実														
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A710380												
学部教育の関連目 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける		授業計画 01. イントロダクション 02. 英語学の諸分野 03. 国際語としての英語 04. 英語の音構造 1 ― 音声器官 05. 英語の音構造 2 ― 母音の分類、子音の分類 06. 英語の音構造 3 ― 音韻論 07. 英語の語構造 1 ― 形態論 08. 英語の語構造 2 ― 語の分類 09. 英語の語構造 3 ― 語形成 10. 英語の文構造:伝統文法 1 ― 科学的伝統文法の成立 11. 英語の文構造:伝統文法 2 ― スウィートとイエスペルセン 12. 英語の文構造:アメリカ構造主義 1 ― 構造主義の言語観 13. 英語の文構造:アメリカ構造主義 2 ― IC分析 14. 英語の文構造:生成変形文法 1 ― 生成変形文法的アプローチ 15. 英語の文構造:生成変形文法 2 ― 句構造規則 16. 英語の文構造:生成変形文法 3 ― 変形規則 17. 英語の意味構造 1 ― 意味論と比較文化論 18. 英語の意味構造 2 ― ChomskyとSaussureの理論的比較 19. インド・ヨーロッパ語族 20. 英語の歴史:古英語 1 ― 古英語の成立 21. 英語の歴史:古英語 2 ― 発音と文字 22. 英語の歴史:古英語 3 ― 文法 23. 英語の歴史:中英語 1 ― 発音と綴り字 24. 英語の歴史:中英語 2 ― 語彙と文法 25. 英語の歴史:近代英語 1 ― 近代英語の成立(シェイクスピアと欽定英訳聖書) 26. 英語の歴史:近代英語 2 ― 大母音推移と規範文法の成立 27. アメリカ英語 1 ― アメリカ英語の発音 28. アメリカ英語 2 ― アメリカ英語の語法・文法 29. 英語の未来像 30. 総合的まとめ												
カリキュラム上の位置付け 【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目 【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目														
(1) 内容 英語学に関する様々な分野、即ち音韻論・形態論・統語論・英語史等について概観します。統語論においては、伝統文法・アメリカ構造主義文法・生成変形文法を中心に講義します。本講義の一大特徴は、日本では、なかなか入手困難な、イギリスの著名な学者の朗読による「古英語や中英語などの当時の貴重な再現音声」を聞くことが出来る点です。授業の詳細については、最初の授業の時に、プリントで説明します。														
(2) 学びの意義と目標 グローバリゼーションという現代社会にあって、英会話にとどまらず、英語全般に関する様々な知識が、必須事項となって来ています。英語を学習、研究、教育する者ならば、知っておかなければならない知識を網羅します。		準備学習(予習) 毎回、10頁程度予習しましょう。テキストを予習して、ノートに重要点を纏めておいて下さい。予習・復習ノートは、提出してもらい、評価の一部とすることもありますので、日頃、予習・復習を励行して下さい。												
		準備学習(復習) 毎回、受講後すぐに、学習した項目を復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。												
受講者に対する要望 ある程度、英語基礎力の付いた2-4年次生に履修することをお勧めします。Word Formation(語形成)や古(いにしえ)の英語音の発音などに関心のある学生や教職課程履修者にお勧めします。		評価方法 <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>20%</td><td>授業への参加度</td></tr> <tr> <td>(2) 予習・復習ノート</td><td>10%</td><td>ノート提出</td></tr> <tr> <td>(3) 中間試験</td><td>35%</td><td>中間試験の成績</td></tr> <tr> <td>(4) 期末試験</td><td>35%</td><td>期末試験の成績</td></tr> </table> <p>予習と復習を励行するかどうか、定期試験の成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。</p>	(1) 平常点	20%	授業への参加度	(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出	(3) 中間試験	35%	中間試験の成績	(4) 期末試験	35%	期末試験の成績
(1) 平常点	20%	授業への参加度												
(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出												
(3) 中間試験	35%	中間試験の成績												
(4) 期末試験	35%	期末試験の成績												
学びのキーワード ・ 英語学の必須知識 ・ 音韻論・形態論・統語論・英語史 ・ 伝統文法 ・ アメリカ構造主義文法 ・ 生成変形文法		教科書 石黒 昭博 『現代の英語学』(金星堂) 参考書 学習指導要領。その他は、授業中に提示します。												

言語学概論		LING-A-202
担当教員： D. バーガー		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1A710470
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける 【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業紹介、言語の本質 02. 言語について何が分かっているか（講義とディスカッション） 03. 言語知識：音体系・意味の知識、言語知識の創造性（講義とディスカッション） 04. 言語知識：文法の知識、記述文法、規範文法（講義とディスカッション） 05. 言語普遍性：文法の発達、手話：言語生得の証拠（講義とディスカッション） 06. 動物の「言語」（講義とディスカッション） 07. 人間の脳：脳の2つの側面、一側化の証拠、失語症の研究（講義とディスカッション） 08. 人間の脳、言語の文法的側面 I：形態論 — 単語の構造（講義とディスカッション） 09. 形態論—内容語と機能語（講義とディスカッション） 10. 形態論—形態素：意味の最小単位（講義とディスカッション） 11. 形態論—拘束形態素と自由形態素；グループワーク：形態論に関する問題を解決する 12. 言語の文法的側面 II：統語論 — 文構造（講義とディスカッション） 13. 統語論— 統語範疇、句構造樹等（講義とディスカッション） 14. 統語論— 句構造規則、グループワーク：統語論に関する問題を解決する 15. 言語の文法的側面 III：意味論 — 語の意味（講義とディスカッション） 16. 意味論— 意味特性、意味役割（講義とディスカッション） 17. 意味論—文の真実性、含意、隠喩、直示；グループワーク：意味論に関する問題を解決する 18. 言語の文法的側面 IV：音声学 — 言語の音（講義とディスカッション） 19. 音声学— 音標文字、調音音声学：子音（講義とディスカッション） 20. 音声学— 調音の位置、調音の方法（講義とディスカッション） 21. 音声学—調音音声学：母音、グループワーク：音声学に関する問題を解決する 22. 言語の文法的側面 V：音韻論 — 言語の音型（講義とディスカッション） 23. 音韻論— 音素：言語の音韻単位（講義とディスカッション） 24. 音韻論—形態素の発音；グループワーク：音韻論に関する問題を解決する 25. 言語変化：音変化の規則性、音韻変化（講義とディスカッション） 26. 言語変化：形態変化、統語変化（講義とディスカッション） 27. 言語変化：語彙変化、借用語、グループワーク：言語変化に関する問題を解決する 28. 言語習得：幼児言語習得の段階（講義とディスカッション） 29. 言語習得：言語習得の生物学的基盤、「生得説」（講義とディスカッション） 30. 言語習得：「臨界期仮説」、第2言語習得理論、グループワーク：言語習得に関する問題を解決する</div>
<div>(1) 内容</div> <div>この授業は言語学の入門講座である。言語の色々な様式（話しことば、手話、書き言葉）、人間の言語は動物のコミュニケーション手段とどのように異なるか等、われわれの言語知識の構成要素などを含む言語の本質を考察することから始まる。次に、人間の脳の言語機能についての簡単な紹介に続き、形態論、統語論、意味論、音声学、音韻論という言語研究の主な分野をそれぞれ順に概説する。最後に、言語がどのように変化するか、人間がどのように言語を習得するかについて紹介する。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ポントック語、チカソー語、トルコ語、アカン語等々）の事例を考察する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この授業を通して言語学の理解を深めると同時に、普段、無意識的に用いる言語の性質を認識することを望んでいる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>当日のワークシートを参照すること。</div>
<div>準備学習(復習)</div> <div>講義を聞きながら記入したワークシートを復習すること。小テストのためにワークシートを復習すること。</div>		
<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業への参加度</div><div>25%</div></div><div><div>(2) ワークシート</div><div>25%</div></div><div><div>(3) 小テスト</div><div>25%</div></div><div><div>(4) 期末試験</div><div>25%</div></div></div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・形態論</div><div>・統語論</div><div>・意味論</div><div>・音声学・音韻論</div><div>・言語習得</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>ビクトリア フロムキン、ニーナ ヒアムズ（著）、ロバート ロッドマン（著）、緒方 孝文（監修）『フロムキンの言語学』第7版、ピー・エヌ・エヌ新社 2006</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>言語の本質について関心がある者の受講を望む。</div>		

担当教員：M. サベット

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1A710710

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目

【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目

(1) 内容

This course focuses on writing and giving speech. Skills such as how to start and end a speech are taught. Students will be given many opportunities to give speeches in front of their classmates.

(2) 学びの意義と目標

(1) (全般) 聴衆の前でのスピーキング・スキルを上達させる。
(2) (言語) 英語で自分の考えを表現できる能力を上達させる。
(3) (文化) 英語と日本語におけるスピーキングの違いの理解を深める。

受講者に対する要望

Students should be able to give speeches in front of others, keeping in mind skills taught during the course.

学びのキーワード

- ・ public speaking
- ・ body language
- ・ intonation
- ・ content
- ・ ending

授業計画

01. Class Introduction and Course Information
02. Part I: The Physical Message
03. Informative Speech; Gestures
04. Informative Speech; Body Language
05. Speech #1
06. Layout Speech; Voice Inflection
07. Layout Speech; VoiceTone
08. Demonstration Speech Preparation
09. Demonstration Speech
10. Part II: The Story Message; Introduction
11. Part II: The Story Message; Main Body
12. Speech #2
13. Persuasive Speech (Script Format)
14. Persuasive Speech (Introduction)
15. The Body; Transitions
16. The Body; Sequencers
17. Persuasive Speech (Paragraphs)
18. Persuasive Speech (Main Body)
19. The Conclusion; Persuasive Speech Script
20. The Conclusion; Small Group Presentation
21. Speech #3
22. Part III: The Visual Message Using Graphs
23. Part III: The Visual Message Using Charts and Data
24. Making Visual Aids; Graphs
25. Making Visual Aids; PowerPoint
26. Part IV: Preparation for Full Presentation; Outline
27. Part IV: Preparation for Full Presentation; Script
28. Part IV: Preparation for Full Presentation; Small Group Practice
29. Part IV: Preparation for Full Presentation; Practice with Teacher
30. Final Speech

準備学習(予習)

Giving a speech requires preparation and students must write the main body of their speech before coming to class.

準備学習(復習)

Students are required to prepare for their speeches and come to class prepared.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 20% |
| (2) mini speeches | 60% |
| (3) final speech | 20% |

教科書

参考書

Speech & Debate B

ENGL-A-302

担当教員：M. サベット

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1A710820

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に係わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】高等学校教諭一種免許：英語必修科目

【A】中学校教諭一種免許：英語必修科目

(1) 内容

Speech & Debate B focuses on debating skills in English. Students start with simple debates and then slowly move to more difficult topics.

(2) 学びの意義と目標

The goals of the course are:
Speech and Debate Bは、英語のディベート・スキルに重きを置く。このコースの目標：

1. (general) to improve general debating skills; that is, effectively arguing for or against a proposition;
 2. (language) to improve your ability to express your opinions in English;
 3. (culture) to gain a better understanding of the importance of the exchange of ideas and opinions in a free society.
1. (全般) 効果的な議論および主張への反論をするためのディベート・スキルを上達させる。
 2. (言語) 英語で自分の意見を主張できる能力を上達させる。
 3. (文化) 自由社会において自分の考えおよび見解を意見交換することが、いかに重要であるかという理解を深める。

受講者に対する要望

Students should be able to express their opinions clearly.

学びのキーワード

- ・ Debate
- ・ Data
- ・ Research
- ・ Discussion
- ・ Opinion

授業計画

01. Class Introduction and Course Information
02. Opinions
03. Agreeing
04. Disagreeing
05. Explaining Your Personal Opinion
06. Explaining Your Opinion with Facts
07. Preparation for Debate #1
08. Debate #1
09. Supporting Your Opinion with Expert Opinion
10. Supporting Your Opinion with Data
11. Organizing Your Opinion with Supporting Paragraphs
12. Organizing Your Opinion; Forming the Main Body
13. The “1AC”
14. Preparation for Debate #2
15. Debate #2
16. Refuting Explanations Using Polite Language
17. Refuting Explanations Using Firm Language
18. Tennis Debate: Affirmative
19. Tennis Debate: Negative
20. Challenging Supports
21. Preparation for Debate #3
22. Debate #3
23. Organizing Your Refutation: the “1NC” : Gathering Data
24. Organizing Your Refutation: the “1NC” : Forming the Body
25. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches: Controlled Debate
26. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches: Small Group Work
27. Preparation for Formal Debate During Test Week: Outline
28. Preparation for Formal Debate During Test Week: Script
29. Preparation for Formal Debate During Test Week: Group Practice
30. Final Debate

準備学習(予習)

Students are required to do research and collect data before each debate. Must work as a team and contribute to their group.

準備学習(復習)

Students must search for data and information in order to be ready for next debate.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 40% |
| (2) Mini Debate | 40% |
| (3) Final Debate | 20% |

教科書

参考書

児童学概論		CHLD-C-191
担当教員： 田澤 薫		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1C100310
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 子どものイメージと理解 02. 制度にたちあられた子ども 03. 子ども学のはじまり 04. 子ども観と社会制度 05. 子どもの目、大人の目 06. 子どもの理解、大人の理解 07. 保育という視点 08. 学校と子ども 09. 赤ちゃん絵本にみる子どもの認知 10. 不適切な養育と子ども 11. 絵本の力 12. 子どもの自尊 13. 児童学における記録の意味 14. 省察すること 15. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>子どもに学問的なまなざしを向け、子どもを研究の対象として捉えるとはどういうことか。その具体的な視点と方法について、多様な角度から学ぶ。子どもをめぐる様々な場面での子どもと大人の関わりを考える。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業回のテキストに目を通してから授業に臨みましょう。
レスポンスシートにコメントを書いて返却します。毎回の授業前に読み活かしましょう。
</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>授業ノートを整理しましょう。
テキストに含まれる資料は、授業で扱った箇所以外の部分も必ず読み込みましょう。
参考文献を数多く紹介します。積極的に読みましょう。</div> <div>評価方法</div> <div>(1) 積極的な参加50% レスポンスシートの記入内容で確認します (2) 試験50%</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回の授業でレスポンスシートに課題を記入することで、
出席確認、受講者・講義者双方の振り返りに活用しています。レスポンスシートに積極的に取り組んでください。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">子ども児童学幼児理解保育学校教育</div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>初回授業に全回分のテキストプリントを配布します。予備はありません。記名の上、毎回の授業で活用して下さい。</div>	

児童文化論 A (C-2)

CHCL-C-101

担当教員：田澤 薫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1C200100

学部教育の関連目

【C】 児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】 保育士資格：選択科目

(1) 内容

子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。

(2) 学びの意義と目標

子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。

授業で紹介する絵本・紙芝居・折り紙等の児童文化財に親しみ、それらを子どもたちに提供する技能についても関心をもって学びたい。

受講者に対する要望

授業では毎回、絵本や紙芝居の児童文化財を紹介します。また、出席確認に折り紙を活用します。これらの作品に触れるだけでなく、子どもの傍らにいる大人になるための実践技能を身につけることにも意識を向けてほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 児童文化
- ・ 児童文化財
- ・ 遊び
- ・ 生育儀礼
- ・ 子どもの主体性

授業計画

01. 子どもの世界をのぞく視点
02. 子どもと遊び (1) 遊びの意味
03. 子どもと遊び (2) 子どもの遊び
04. 子どもとモノ (1) おもちゃ
05. 子どもとモノ (2) 人形
06. 子どもとモノ (3) たからもの
07. 子どもとモノと遊び (1) おもちゃを遊びにいかす
08. 子どもとモノと遊び (2) 人形を遊びにいかす
09. 伝承文化と子ども (1) 生育儀礼
10. 伝承文化と子ども (2) 年中行事
11. 子どもとことば (1) わらべうた
12. 子どもとことば (2) 紙芝居
13. 子どもとことば (3) 絵本
14. 子どもとことば (4) おはなし
15. 総括

準備学習(予習)

子ども時代を振り返ること、今関心をもっていることを意識化すること、授業を手がかりとして取り組んでください。シラバスを参考に、教科書の該当箇所を読んでから授業に臨むことを勧めます。

準備学習(復習)

教科書の該当箇所を必ず一読すること。授業ノートをまとめること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

皆川 美恵子, 武田 京子 『新版 児童文化』 (ななみ書房)

参考書

児童文化論 A (C-1)

CHCL-C-101

担当教員：田澤 薫

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1C200105

学部教育の関連目

【C】 児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】 保育士資格：選択科目

(1) 内容

子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。

(2) 学びの意義と目標

子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。

授業で紹介する絵本・紙芝居・折り紙等の児童文化財に親しみ、それらを子どもたちに提供する技能についても関心をもって学びたい。

受講者に対する要望

授業では毎回、絵本や紙芝居の児童文化財を紹介します。また、出席確認に折り紙を活用します。これらの作品に触れるだけでなく、子どもの傍らにいる大人になるための実践技能を身につけることにも意識を向けてほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 児童文化
- ・ 児童文化財
- ・ 遊び
- ・ 生育儀礼
- ・ 子どもの主体性

授業計画

01. 子どもの世界をのぞく視点
02. 子どもと遊び (1) 遊びの意味
03. 子どもと遊び (2) 子どもの遊び
04. 子どもとモノ (1) おもちゃ
05. 子どもとモノ (2) 人形
06. 子どもとモノ (3) たからもの
07. 子どもとモノと遊び (1) おもちゃを遊びにいかす
08. 子どもとモノと遊び (2) 人形を遊びにいかす
09. 伝承文化と子ども (1) 生育儀礼
10. 伝承文化と子ども (2) 年中行事
11. 子どもとことば (1) わらべうた
12. 子どもとことば (2) 紙芝居
13. 子どもとことば (3) 絵本
14. 子どもとことば (4) おはなし
15. 総括

準備学習(予習)

子ども時代を振り返ること、今関心をもっていることを意識化すること、授業を手がかりとして取り組んでください。シラバスを参考に、教科書の該当箇所を読んでから授業に臨むことを勧めます。

準備学習(復習)

教科書の該当箇所を必ず一読すること。授業ノートをまとめること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

皆川 美恵子、武田 京子『新版 児童文化』（ななみ書房）
※授業初回までに購入すること
※新版の為、再履修者も購入すること

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1C200210

学部教育の関連目

【C】児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：選択科目

(1) 内容

私たちは、しあわせな生き方を子どもとともに生きて育てていきたいと望んでいる。では、私たちが子どもの生活・文化に関わることの真意はなんだろうか。そこで、遊びに注目して、児童文化のあり方を考えたい。

フレーベルが「遊びは人生の鏡である」と述べたことをふまえて考えてみよう。遊びにおいて、私たちは、既知と未知とを結んで記憶を継ぎ、文化を編み出して伝え合う。遊びは、参加者が互いのあいだを感じてコミュニケーションが起こる親交・共同の場である。こうした遊びの性質について、協同で考察を深めたい。

(2) 学びの意義と目標

「（大人が）子どもの目線に立つ」と言われる。このとき、子ども期を過ごした人にく子どもはどのようにあらわれてくるだろうか。このく子どもを確認して、今を生きる子どもを理解するときの観点をより多く、複合的にもつようにすることを、学びの意義とする。

協同的な学びを通じて自分自身の視野が広がるよろこびを感じ、その学びの過程をていねいに記録して考察する力を身につけることを、学びの目標とする。

受講者に対する要望

参加してみて、意外な自分を発見することがある。また、友だちの意外なところに気づくこともある。その意外性を大切にしてほしい。はじめはちょっとした勇気があるかもしれないが、思い切って参加することを望む。

学びのキーワード

- ・参加と役割
- ・コミュニケーション
- ・あいだをもつ
- ・伝え合う
- ・記録する

授業計画

01. 子どもと大人…伝承をめぐって
02. 伝承遊びの特質
03. 遊びと子どもの権利
04. 遊び研究（1） ジャンケン
05. 遊び研究（2） 呼びかける・つながる
06. 遊び研究（3） とばす
07. 遊び研究（4） まわる
08. 遊び研究（5） はじく
09. 遊び研究（6） ころがす
10. 遊び研究（7） 囲む
11. 遊び研究（8） 追いかける
12. 遊び研究（9） 触れる
13. 遊び研究（10） 渡す
14. 研究成果の発表
15. まとめ…遊びの伝承性について

準備学習（予習）

今回の内容に関して教科書を中心に調査する。

準備学習（復習）

返却されたレポートを見直して、必要な加筆や修正を行う。

評価方法

- | | |
|------------|------------------|
| (1) レポート | 80% 6点×11回 7点×2回 |
| (2) 研究成果発表 | 10% |
| (3) 期末レポート | 10% |

各回提出のレポートの書式と評価のポイントについて、初回に説明する。

教科書

小川清実 『子どもに伝えたい伝承あそび』（萌文書林）

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1C200215

学部教育の関連目

【C】児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：選択科目

(1) 内容

私たちは、しあわせな生き方を子どもとともに生きて育てていきたいと望んでいる。では、私たちが子どもの生活・文化に関わることの真意はなんだろうか。そこで、遊びに注目して、児童文化のあり方を考えたい。フレーベルが「遊びは人生の鏡である」と述べたことをふまえて考えてみよう。遊びにおいて、私たちは、既知と未知とを結んで記憶を継ぎ、文化を編み出して伝え合う。遊びは、参加者が互いのあいだを感じてコミュニケーションが起こる親交・共同の場である。こうした遊びの性質について、協同で考察を深めたい。

(2) 学びの意義と目標

「（大人が）子どもの目線に立つ」と言われる。このとき、子ども期を過ごした人にく子どもはどのようにあらわれてくるだろうか。このく子どもを確認して、今を生きる子どもを理解するときの観点をより多く、複合的にもつようにすることを、学びの意義とする。協同的な学びを通じて自分自身の視野が広がるよろこびを感じ、その学びの過程をていねいに記録して考察する力を身につけることを、学びの目標とする。

受講者に対する要望

参加してみて、意外な自分を発見することがある。また、友だちの意外なところに気づくこともある。その意外性を大切にしてほしい。はじめはちょっとした勇気がいるかもしれないが、思い切って参加することを望む。

学びのキーワード

- ・参加と役割
- ・コミュニケーション
- ・あいだをもつ
- ・伝え合う
- ・記録する

授業計画

01. 子どもと大人…伝承をめぐって
02. 伝承遊びの特質
03. 遊びと子どもの権利
04. 遊び研究（1） ジャンケン
05. 遊び研究（2） 呼びかける・つながる
06. 遊び研究（3） とばす
07. 遊び研究（4） まわる
08. 遊び研究（5） はじく
09. 遊び研究（6） ころがす
10. 遊び研究（7） 囲む
11. 遊び研究（8） 追いかける
12. 遊び研究（9） 触れる
13. 遊び研究（10） 渡す
14. 研究成果の発表
15. まとめ…遊びの伝承性について

準備学習（予習）

今回の内容に関して教科書を中心に調査する。

準備学習（復習）

返却されたレポートを見直して、必要な加筆や修正を行う。

評価方法

- | | |
|------------|------------------|
| (1) レポート | 80% 6点×11回 7点×2回 |
| (2) 研究成果発表 | 10% |
| (3) 期末レポート | 10% |

各回提出のレポートの書式と評価のポイントについて、初回に説明する。

教科書

小川清実 『子どもに伝えたい伝承あそび』（萌文書林）

参考書

発達心理学（C-幼小）		PSYC-C-101													
担当教員： 徳井 千里															
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1C300425													
学部教育の関連目		授業計画													
【C】 子どもの発達・心理についての知識を身につける		01. 発達を学ぶということ ～子どもを理解するために 02. 新生児期・乳児期の子ども ～赤ちゃんって、どんなことをしているの？ 03. 幼児期の子ども ～保育園・幼稚園時代の子どもたち 04. 身体・運動機能の成熟と発達 ～体の発育と成長、動く能力 05. 遊びの発達 ～遊びのなかでの育ち 06. 認知機能の発達 ～感じる、知る、考える、わかる 07. 言語機能とコミュニケーションの発達 ～ことばの獲得と相手と通じ合うということ 08. 児童期の子ども ～小学生が経験すること 09. 学習機能の発達 ～読み書きや計算ができるようになるしくみ 10. 感情・社会性の発達 ～人との関わりのなかで育つ心 11. 思春期から成年期、老年期 ～大人になり、年をとっていく生涯 12. 家族関係の発達 ～親になること、家族の子育てを支援する 13. 発達の多様性 ～個性を大切にしながら、必要な支援を 14. 現代社会における発達 ～子どもと家族をとりまく現実 15. まとめ・理解度の確認													
カリキュラム上の位置付け															
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】 保育士資格：必修科目															
(1) 内容															
<p>乳幼児期・児童期を中心に、青年期・成人期・老人期にわたる人間の生涯発達の過程とその原則についての基礎知識を習得する。運動、認知、言語、情緒、社会性等の各領域の発達機序を縦断的に理解するとともに、各年代の様相を横断的にイメージできるようになることが期待される。</p> <p>そして、子どもの豊かで健やかな発達に関わる経験と環境、人との関係性等の要因のありかたを理解し、子どもの成長発達を促し、初期の社会生活を支える役割に必要なと考え方や視点、人間観を身につける。そこには、様々な心理的な課題や心的特性、多様な発達に関わる臨床心理や発達臨床の知見も包括されるものである。さらに、貧困や養育困難、虐待など、子どもをめぐる現代社会の情勢を知り、多様性を増す家族への支援や、関係する機関との連携の手だてについての知識を得る。</p> <p>そのうえで、レポートやトピック発表等の課題を通じて、子どもの発達に関わる問題を、適正な情報に基づいて主体的に調査・検討し、自身の考察を論述・表現する力を身に付けることをめざす。</p>															
(2) 学びの意義と目標															
<p>幼児期・児童期の子どもの成長を導き支える役割の職種を志すにあたり、発達の原理とプロセスを理解することは不可欠であり、またそれをふまえたうえで、ひとりひとりの子どもの個性を尊重する視点を身につけることが重要である。</p> <p>標準的な発達の枠組みとそれを越えて多様に広がる可能性を知ることにより、ひとり子どもに面したときに、その子どもの心情やパーソナリティ、人との関係性や情緒的な安定性、発達の様相などを多次元にきめ細かく読み取り、幅広く想定する力が養われる。そこには、それぞれの子どもが生活している家庭や社会、時代や文化などの背景を、自身の経験や価値観を越えて理解する力も求められる。</p> <p>そのうえで、人生の中でもっとも劇的な変化をとげる時期の子どもたちが、健やかに豊かな成長を遂げるために、保育士や教師がどのような環境や経験を準備し、いかにして子どもたちに関わり、発達を支援するかということについて主体的に考え、知識や経験、人間理解の視点を自分自身で獲得していく力を身につけていきたい。</p> <p>本講ではレポートやミニテストを課すが、そうした課題に取り組む経験を通じて、知る、経験する、学ぶ、考える、というような発達に関わる重要なプロセスを自身で体験し、子どもの学びについての理解を深めてもらいたい。</p>		準備学習(予習)													
		毎回の講義内容に関する教科書の該当箇所を事前に指示するので、基礎的な知識や用語、理論について予習しておくこと。講義の冒頭でミニテストを実施する。													
		準備学習(復習)													
		配布したレジュメ、参考記事、返却したミニテストを再読しておくこと。重要ポイントなので、一部は期末テストでも出題される。カレントな時事問題に関するレポート課題も課すので、日頃から子どもをめぐる報道記事を切り抜き、コピーしておくとうい。													
受講者に対する要望		評価方法													
教科書だけでなく、ニュースや新聞などで報道される現代の子どもたちを取り巻く問題について、敏感な関心をもって欲しい。		<table><tr><td>(1) 平常点</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(2) ミニテスト</td><td>20%</td><td>予習の確認として毎回の講義のなかで実施します</td></tr><tr><td>(3) レポート</td><td>20%</td><td>期間中、複数回課題を出します</td></tr><tr><td>(4) 中間・期末テスト</td><td>40%</td><td></td></tr></table> <p>課題・レポートの未提出は大幅に減点します。</p>		(1) 平常点	20%		(2) ミニテスト	20%	予習の確認として毎回の講義のなかで実施します	(3) レポート	20%	期間中、複数回課題を出します	(4) 中間・期末テスト	40%	
(1) 平常点	20%														
(2) ミニテスト	20%	予習の確認として毎回の講義のなかで実施します													
(3) レポート	20%	期間中、複数回課題を出します													
(4) 中間・期末テスト	40%														
学びのキーワード		教科書													
・ 子どもの発達 ・ 子育て支援 ・ 発達臨床		本郷一夫（編著） 第2版 『保育の心理学I・II』（建帛社）													
		参考書													

発達心理学（【保】希望者）

PSYC-C-101

担当教員： 徳井 千里

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目

単位： 2 コード： 1C300430

学部教育の関連目

【C】 子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 小学校教諭一種免許：必修科目
【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目
【C】 保育士資格：必修科目

(1) 内容

乳幼児期・児童期を中心に、青年期・成人期・老人期にわたる人間の生涯発達の過程とその原則についての基礎知識を習得する。運動、認知、言語、情緒、社会性等の各領域の発達機序を縦断的に理解するとともに、各年代の様相を横断的にイメージできるようになることが期待される。
そして、子どもの豊かで健やかな発達に関わる経験と環境、人との関係性等の要因のありかたを理解し、子どもの成長発達を促し、初期の社会生活を支える役割に必要なと考え方や視点、人間観を身につける。そこには、様々な心理的な課題や心的特性、多様な発達に関わる臨床心理や発達臨床の知見も包括されるものである。さらに、貧困や養育困難、虐待など、子どもをめぐる現代社会の情勢を知り、多様性を増す家族への支援や、関係する機関との連携の手だてについての知識を得る。
そのうえで、レポートやトピック発表等の課題を通じて、子どもの発達に関わる問題を、適正な情報に基づいて主体的に調査・検討し、自身の考察を論述・表現する力を身に付けることをめざす。

(2) 学びの意義と目標

幼児期・児童期の子どもの成長を導き支える役割の職種を志すにあたり、発達の原理とプロセスを理解することは不可欠であり、またそれをふまえたうえで、ひとりひとりの子どもの個性を尊重する視点を身につけることが重要である。
標準的な発達の枠組みとそれを越えて多様に広がる可能性を知ることにより、ひとり子どもに面したときに、その子どもの心情やパーソナリティ、人との関係性や情緒的な安定性、発達の様相などを多次元にきめ細かく読み取り、幅広く想定する力が養われる。そこには、それぞれの子どもが生活している家庭や社会、時代や文化などの背景を、自身の経験や価値観を越えて理解する力も求められる。
そのうえで、人生の中でもっとも劇的な変化をとげる時期の子どもたちが、健やかに豊かな成長を遂げるために、保育士や教師がどのような環境や経験を準備し、いかにして子どもたちと関わり、発達を支援するかということについて主体的に考え、知識や経験、人間理解の視点を自分自身で獲得していく力を身につけていきたい。
本講ではレポートやミニテストを課すが、そうした課題に取り組む経験を通じて、知る、経験する、学ぶ、考える、というような発達に関わる重要なプロセスを自身で体験し、子どもの学びについての理解を深めてもらいたい。

受講者に対する要望

教科書だけでなく、ニュースや新聞などで報道される現代の子どもたちを取り巻く問題について、敏感な関心をもって欲しい。

学びのキーワード

・ 子どもの発達
・ 子育て支援
・ 発達臨床

授業計画

01. 発達を学ぶということ ～子どもを理解するために
02. 新生児期・乳児期の子ども ～赤ちゃんって、どんなことをしているの？
03. 幼児期の子ども ～保育園・幼稚園時代の子どもたち
04. 身体・運動機能の成熟と発達 ～体の発育と成長、動く能力
05. 遊びの発達 ～遊びのなかでの育ち
06. 認知機能の発達 ～感じる、知る、考える、わかる
07. 言語機能とコミュニケーションの発達 ～ことばの獲得と相手と通じ合うということ
08. 児童期の子ども ～小学生が経験すること
09. 学習機能の発達 ～読み書きや計算ができるようになるしくみ
10. 感情・社会性の発達 ～人との関わりのなかで育つ心
11. 思春期から成年期、老年期 ～大人になり、年をとっていく生涯
12. 家族関係の発達 ～親になること、家族の子育てを支援する
13. 発達の多様性 ～個性を大切にしながら、必要な支援を
14. 現代社会における発達 ～子どもと家族をとりまく現実
15. まとめ・理解度の確認

準備学習(予習)

毎回の講義内容に関する教科書の該当箇所を事前に指示するので、基礎的な知識や用語、理論について予習しておくこと。講義の冒頭でミニテストを実施する。

準備学習(復習)

配布したレジュメ、参考記事、返却したミニテストを再読しておくこと。重要ポイントなので、一部は期末テストでも出題される。カレントな時事問題に関するレポート課題も課すので、日頃から子どもをめぐる報道記事を切り抜き、コピーしておくとうよい。

評価方法

(1) 平常点

20%

(2) ミニテスト

20%

予習の確認として毎回の講義のなかで実施します

(3) レポート

20%

期間中、複数回課題を出します

(4) 中間・期末テスト

40%

レポート・課題の未提出は大幅に減点します。

教科書

本郷一夫（編著） 第2版 『保育の心理学I・II』（建帛社）【ISBN：978-4767950358】

参考書

教育相談(カウンセリングを含む。)(C-①～⑥)

TEAT-C-253

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C301135

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

教育相談及びカウンセリング（心理療法）や精神保健について基礎的な知識について学習するとともに、適応上の諸問題について概観する。授業中に簡単な実習や調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、自己理解を通して相談にあたる基本的態度を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、簡単な実習、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育相談
- ・心理療法
- ・自己理解

授業計画

01. 教育相談の役割
02. パーソナリティの理解 類型論
03. パーソナリティの理解 特性論
04. パーソナリティ検査の理解
05. パーソナリティ検査の実際
06. 教育相談と自己理解
07. カウンセンリングの基礎
08. 来談者中心療法の考え方
09. 認知療法の考え方
10. 行動療法の考え方
11. こどもの精神障害
12. 児童の不応・問題行動
13. 対人関係の支援
14. 学校カウンセリング
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

参考書

教育相談(カウンセリングを含む。)(C-⑦～⑫)

TEAT-C-253

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C301140

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

教育相談及びカウンセリング（心理療法）や精神保健について基礎的な知識について学習するとともに、適応上の諸問題について概観する。授業中に簡単な実習や調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、自己理解を通して相談にあたる基本的態度を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、簡単な実習、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育相談
- ・心理療法
- ・自己理解

授業計画

01. 教育相談の役割
02. パーソナリティの理解 類型論
03. パーソナリティの理解 特性論
04. パーソナリティ検査の理解
05. パーソナリティ検査の実際
06. 教育相談と自己理解
07. カウンセンリングの基礎
08. 来談者中心療法の考え方
09. 認知療法の考え方
10. 行動療法の考え方
11. こどもの精神障害
12. 児童の不応・問題行動
13. 対人関係の支援
14. 学校カウンセリング
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

参考書

教育心理学（保①～⑥）

TEAT-0-201

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C301205

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目
【C】保育士資格：必修科目
【C】社会教育主事資格：必修科目

(1) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものの見方を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 学習の基礎としての条件づけ1 古典的条件づけ
06. 学習の基礎としての条件づけ2 オペラント条件づけ
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 認知発達と学習
11. 自己の発達と学習
12. 発達障害
13. 教育評価
14. 社会としての学級
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学第3版』（有斐閣）

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C301210

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目
【C】保育士資格：必修科目
【C】社会教育主事資格：必修科目

(1) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものの見方を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 学習の基礎としての条件づけ1 古典的条件づけ
06. 学習の基礎としての条件づけ2 オペラント条件づけ
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 認知発達と学習
11. 自己の発達と学習
12. 発達障害
13. 教育評価
14. 社会としての学級
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学第3版』 (有斐閣)

参考書

教育心理学（保⑦～⑫）

TEAT-0-201

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C301215

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目
【C】保育士資格：必修科目
【C】社会教育主事資格：必修科目

(1) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものの見方を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 学習の基礎としての条件づけ1 古典的条件づけ
06. 学習の基礎としての条件づけ2 オペラント条件づけ
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 認知発達と学習
11. 自己の発達と学習
12. 発達障害
13. 教育評価
14. 社会としての学級
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学第3版』（有斐閣）

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C301320

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

教員採用試験問題を題材とし、具体的な問題の解説を通して、教職教養としての教育心理学の知識を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

学びの意義と目標

教員採用試験を念頭に、教職教養としての教育心理学の知識を整理し、教育心理学的知見の体系的に理解することを目指す。

受講者に対する要望

あらかじめ問題を課すので、積極的に調べて、授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習
- ・発達

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の理論
03. 記憶
04. 学習法
05. 動機づけ
06. 教授学習
07. 発達の原理
08. 発達段階
09. 初期学習
10. 人格
11. 適応
12. 精神衛生
13. 知能
14. 教育評価
15. 総括

準備学習(予習)

予め配布する資料について調べておく。

準備学習(復習)

授業の内容を整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と発表 | 30% |

教科書

参考書

教育原理（C-1）		TEAT-0-102										
担当教員： 寺崎 恵子												
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1C401400										
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 教育の原義（1）〈教〉の生活世界</div> <div>02. 教育の原義（2）〈育〉の生活世界</div> <div>03. ライフサイクル論と発達観</div> <div>04. イニシエーションと異校種間連携</div> <div>05. 「教え」の関係構造（1）積極性</div> <div>06. 「教え」の関係構造（2）消極性</div> <div>07. 教育主体と学習主体</div> <div>08. 観察というまなざし</div> <div>09. 「子どもの理性」について</div> <div>10. 直観教授について</div> <div>11. 教材の意義</div> <div>12. 学校の時間の特性</div> <div>13. 学習集団と競争意識</div> <div>14. 個人的な学びと協同的な学び</div> <div>15. 教育の可能性</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【C】 小学校教諭一種免許：必修科目</div> <div>【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目</div> <div>【C】 保育士資格：必修科目</div>												
<div>(1) 内容</div> <div>人間として生きるには、教育は不可欠である。「教育とはなにか」という問いへの即答は難しいが、古来、人々は、教育に人間としての生き方を問うてきた。子どもの学力や学習意欲に関する課題、子どもの生活に関する教育的なケアの必要性、あるいは、異校種間連携の課題など、多方面から活発になされている教育論議は、私たちの生き方への問いであるといえる。</div> <div>この講義では、こうした事情をふまえて、人々が子どもの教育に望んできたことの内容を理解したうえで、これからの教育のあり方を考察したい。</div>												
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>教育に関する議論は、現代に特有な課題を取りあげているようにみえるが、実は、教育という人間としての生き方の歴史に深く根差している。その根をたどって課題の内実を理解することを、学びの意義とする。</div> <div>複雑にみえる教育論議を、思い込みにとらわれずに冷静に把握する力を培う。小手先の方法論にとらわれることなく自らの教育観を勇気をもって自由に育てていくことを、学びの目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教育に関連することを新聞記事などから探して、その内容をノートに記録する。やり方の詳細を、初回に説明する。</div>										
<div>受講者に対する要望</div> <div>全ての回を通じて、受講生が各自で、学びの意義と目標を確認することになるだろう。その確認を、各回の小レポート作成によって行う。思い込みにとらわれず、他者の意見をききながら、自分自身の教育観を自身の生き方としてとらえることを望む。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートの整理をして、学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典（教科書）などで調べて補完する。やり方の詳細を、初回に説明する。</div>										
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 小レポート</td><td>75%</td><td>各回5点×15回</td></tr><tr><td>(2) 期末課題</td><td>15%</td><td>初回に出題する。</td></tr><tr><td>(3) ノート</td><td>10%</td><td></td></tr></table> <div>小レポートの記述状況によっては、書き直しを求めることがある。また、期末課題に計画的に取り組むことを望む。</div>		(1) 小レポート	75%	各回5点×15回	(2) 期末課題	15%	初回に出題する。	(3) ノート	10%	
		(1) 小レポート	75%	各回5点×15回								
(2) 期末課題	15%	初回に出題する。										
(3) ノート	10%											
<div>学びのキーワード</div> <div>・教育の関係論</div> <div>・ライフサイクルと発達観</div> <div>・教育における感性和理性</div> <div>・学びと教えにおける媒介</div> <div>・協同的な学びの可能性</div>		<div>教科書</div> <div>広岡義之 『教職をめざす人のための教育用語・法規』（ミネルヴァ書房）</div> <div>参考書</div>										

教育原理（C-2）		TEAT-0-102								
担当教員：寺崎 恵子										
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：1C401405								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】教師に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 教育の原義（1）〈教〉の生活世界 02. 教育の原義（2）〈育〉の生活世界 03. ライフサイクル論と発達観 04. イニシエーションと異校種間連携 05. 「教え」の関係構造（1）積極性 06. 「教え」の関係構造（2）消極性 07. 教育主体と学習主体 08. 観察というまなざし 09. 「子どもの理性」について 10. 直観教授について 11. 教材の意義 12. 学校の時間の特性 13. 学習集団と競争意識 14. 個人的な学びと協同的な学び 15. 教育の可能性</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】社会福祉主事任用資格：選択科目 【C】小学校教諭一種免許：必修科目 【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】保育士資格：必修科目</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>人間として生きるには、教育は不可欠である。「教育とはなにか」という問いへの即答は難しいが、古来、人々は、教育に人間としての生き方を問うてきた。子どもの学力や学習意欲に関する課題、子どもの生活に関する教育的なケアの必要性、あるいは、異校種間連携の課題など、多方面から活発になされている教育論議は、私たちの生き方への問いであるといえる。 この講義では、こうした事情をふまえて、人々が子どもの教育に望んできたことの内容を理解したうえで、これからの教育のあり方を考察したい。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>教育に関する議論は、現代に特有な課題を取りあげているようにみえるが、実は、教育という人間としての生き方の歴史に深く根差している。その根をたどって課題の内実を理解することを、学びの意義とする。 複雑にみえる教育論議を、思い込みにとらわれずに冷静に把握する力を培う。小手先の方法論にとらわれることなく自らの教育観を勇気をもって自由に育てていくことを、学びの目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教育に関連することを新聞記事などから探して、その内容をノートに記録する。やり方の詳細を、初回に説明する。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>全ての回を通じて、受講生が各自で、学びの意義と目標を確認することになるだろう。その確認を、各回の小レポート作成によって行う。思い込みにとらわれず、他者の意見をききながら、自分自身の教育観を自身の生き方としてとらえることを望む。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートの整理をして学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典（教科書）などで調べて補完する。やり方の詳細を、初回に説明する。</div>								
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 小レポート</td><td>75%</td><td>各回5点×15回</td></tr><tr><td>(2) 期末課題</td><td>15%</td><td>初回に出題する。</td></tr><tr><td>(3) ノート</td><td>10%</td><td></td></tr></table> <div>小レポートの記述状況によっては、書き直しを求めることがある。また、期末課題に計画的に取り組むことを望む。</div>		(1) 小レポート	75%	各回5点×15回	(2) 期末課題	15%	初回に出題する。	(3) ノート
(1) 小レポート	75%	各回5点×15回								
(2) 期末課題	15%	初回に出題する。								
(3) ノート	10%									
<div>学びのキーワード</div> <div>・教育の関係論 ・ライフサイクルと発達観 ・教育における感性和理性 ・学びと教えにおける媒介 ・協同的な学びの可能性</div>		<div>教科書</div> <div>広岡義之『教職をめざす人のための教育用語・法規』（ミネルヴァ書房）</div> <div>参考書</div>								

TEAT-0-203

単位：2 コード：1C401530

参考書

教育社会学 (C-⑦~⑫)

TEAT-0-203

担当教員：御手洗 明佳

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C401535

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 小学校教諭一種免許：必修科目
 【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目 【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
 【全】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目
 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
 【全】 中学校教諭一種免許：保健必修科目
 【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
 【全】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目
 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
 【全】 中学校教諭一種免許：保健必修科目

(1) 内容

教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになると、学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのよう社会学的に理解できるのか、研究事例などの紹介をとおして、考えてもらうことを中心とする。

(2) 学びの意義と目標

- 1) 教育の社会的・経済的な意味について説明された理論を確実に理解する(教育の社会的意味)。
- 2) 学歴など業績が社会的地位を決定する近代社会の特徴を歴史的に考える態度を育てる(業績主義について)。
- 3) 近代の家族の歴史的形成過程と現代社会における家族の置かれた環境について考察を深める(家庭の問題)。
- 4) 逸脱行為の理論を通じて統計データの扱い方に親しみ、客観的なものの見方を育てる(統計データ)。
- 5) 貧困と子どもの教育機会について、具体的な事例を多く取り上げ、その実態についての知識を確かなものとする(子どもの教育機会)。
- 6) 学校選択制が子どもの教育環境や地域社会のあり方などにどのような影響を与えているか、具体的な事例を取り上げ、学校選択制の実状と課題についての理解を深める(学校選択制)。

受講者に対する要望

高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。

学びのキーワード

- 家族 · 家庭
- 學歷
- 少年非行
- 貧困

授業計画

01. ガイダンス（教員としての素養としての教育社会学）
02. 教育の見方（１）－経済学と社会学
03. 教育の見方（２）－社会学の理論
04. 学歴と階層移動（１）努力の報われる社会か
05. 学歴と階層移動（２）エリート教育
06. 逸脱行為（１）逸脱の理論
07. 逸脱行為（２）統計の見方（少年非行を中心に）
08. 教育家族（１）家族とはなにか
09. 教育家族（２）戦前から戦後へ
10. 教育と家族（３）教育とジェンダー
11. 貧困と子どもの生活
12. 貧困と子どもの教育
13. 学校選択とは
14. 学校選択と教育機会
15. まとめ

準備學習(予習)

各テーマで2、3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。

準備學習(復習)

ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------|
| (1) 通常の学習活動 | 40% | 出席、授業中の作業など |
| (2) レポート | 30% | 授業中に説明する1本のレポート |
| (3) 期末テスト | 30% | |

教科書

参考書

児童文学		CHCL-C-200
担当教員：松本 祐子、小室 陽子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C630100
学部教育の関連目		授業計画
【C】 教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目 【C】 保育士資格：選択科目		01. 授業説明。大人とは？ 子どもとは？ 02. 子どものままでいたい？：『ピーター・パン』『くまのプーさん』『星の王子さま』 03. ブックトークの意義と方法 04. 大人の時間、子どもの時間：『モモ』 05. 悪い子たち：『長くつしたのピッピ』『窓ぎわのトットちゃん』 06. 死ぬってどういうこと？：『夏の庭』『ずっとずっとだいすきだよ』 07. チョコレートの魅力：『チャーリーとチョコレート工場』『チョコレート・アンダーグラウンド』 08. 日本の神話：日本誕生の物語 09. 日本の神話：神話から読み解く日本文化の源流 10. 日本の昔話 11. ブックトーク：子どもの年齢と読書 12. ブックトーク：プレゼンテーションの工夫 13. ブックトーク：テーマを意識した読書 14. 書写：基本的な美しい文字の形 15. 書写：毛筆で文字を書く
(1) 内容		
この授業では、小学校学習指導要領に基づき、国語の学習内容の三つの領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に焦点を合わせて、教師として国語を教えるための基礎力を身につける。テーマを意識して物語を読む、的確な表現で形式の整ったエッセーを書く、日本の神話や昔話を聞いて簡潔に要約する、グループごとに工夫を凝らした魅力的なブックトークを行うなど、様々な角度から国語力を磨いていく。また、「生きる力」とは何かについて、国語的観点から考える。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
児童文学、神話、昔話など、様々な物語を材料として、読解力を養い、正しい言葉遣いで文章を書く力を身につける。さらに、保育者・教員として、子どもたちに読ませたい物語を自分で選び、魅力的なプレゼンテーションで紹介する能力を身につけることを目標とする。		
受講者に対する要望		
この授業は小免の必修、保育士・幼免の選択科目である。小免希望の学生は、国語科教育法を履修する前に必ずこの科目を取っておくこと。 		準備学習(復習)
学びのキーワード		
教科書		
・ 小学校学習指導要領「国語」 ・ 生きる力 ・ 日本の神話 ・ 日本の昔話 ・ ブックトーク		参考書

児童文学		CHCL-C-200	
担当教員：松本 祐子、小室 陽子			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C630105	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】 教師に必要な知識・技能を身につける			
カリキュラム上の位置付け			
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目		01. 授業説明。大人とは？ 子どもとは？ 02. 子どものままでいたい？：『ピーター・パン』『くまのプーさん』『星の王子さま』 03. ブックトークとは何か？ 04. 大人の時間、子どもの時間：『モモ』 05. 悪い子たち：『長くつしたのピッピ』『窓ぎわのトットちゃん』 06. 死ぬってどういうこと？：『夏の庭』『ずっとずっとだいすきだよ』 07. チョコレートの魅力：『チャーリーとチョコレート工場』『チョコレート・アンダーグラウンド』 08. 日本の神話：日本誕生の物語 09. 日本の神話：神話から読み解く日本文化の源流 10. 日本の昔話 11. ブックトーク：子どもの年齢と読書 12. ブックトーク：プレゼンテーションの工夫 13. ブックトーク発表：テーマを意識した読書 14. 書写：基本的な美しい文字の形 15. 書写：毛筆で文字を書く	
【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目			
【C】 保育士資格：選択科目			
(1) 内容			
この授業では、小学校学習指導要領に基づき、国語の学習内容の三つの領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に焦点を合わせて、教師として国語を教えるための基礎力を身につける。テーマを意識して物語を読む、的確な表現で形式の整ったエッセーを書く、日本の神話や昔話を聞いて簡潔に要約する、グループごとに工夫を凝らした魅力的なブックトークを行うなど、様々な角度から国語力を磨いていく。また、「生きる力」とは何かについて、国語的観点から考える。			
(2) 学びの意義と目標			
児童文学、神話、昔話など、様々な物語を材料として、読解力を養い、正しい言葉遣いで文章を書く力を身につける。さらに、保育者・教員として、子どもたちに読ませたい物語を自分で選び、魅力的なプレゼンテーションで紹介する能力を身につけることを目標とする。			
受講者に対する要望			
この授業は小免の必修、保育士・幼免の選択科目である。小免希望の学生は、国語科教育法を履修する前に必ずこの科目を取っておくこと。 			
学びのキーワード			教科書
・小学校学習指導要領「国語」			参考書
・生きる力			
・日本の神話			
・日本の昔話			
・ブックトーク			

社会		SOCI-C-141
担当教員：川瀬 敏行		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C630210
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】小学校教諭一種免許：必修科目		
(1) 内容	01. 授業計画及び「社会科」について 02. 社会科教育の歩み（１）：小学校社会科の歴史 03. 社会科教育の歩み（２）：社会科学学習指導要領・学力観の変遷 04. 学習指導要領と社会科 05. 社会科の目標について：教科目標・各学年目標と研究 06. 社会科の学習内容＜３・４年（１）身近な地域や市（２）地域の人々の生産や販売＞と指導事例研究 07. 社会科の学習内容＜３・４年（３）飲料水の確保や廃棄物の処理（４）災害や事故の防止＞と指導事例研究 08. 社会科の学習内容＜３・４年（５）地域の人々の生活、先人の働き（６）県の様子＞と指導事例研究 09. 社会科の学習内容＜５年（１）国土の自然（２）我が国の農業＞と指導事例研究 10. 社会科の学習内容＜５年（３）我が国の工業生産（４）情報産業＞と指導事例研究 11. 社会科の学習内容＜６年（１）我が国の歴史＞と指導事例研究 12. 社会科の学習内容＜６年（２）我が国の政治の働き（３）世界の中の日本の役割＞と指導事例研究 13. 社会科指導の基礎と課題研究（１）：各種資料・地図・地球儀の活用 14. 社会科指導の基礎と課題研究（２）：小・中学校の社会科の関連 15. まとめ	
小学校社会科の目標や各学年の学習内容・指導事例研究を中心に上げる。そのほか、学習指導要領と社会科、社会科教育の歩み、小・中学校社会科の関連、社会科指導の基礎と課題等についても研究する。		
(2) 学びの意義と目標		
小学校社会科の目標や学習内容を中心に学び、小学校教員免許取得で求められる基本的なことについての理解を目標とする。	準備学習(予習)	
受講者に対する要望	教育全般、社会科教育に関しての情報を集め、「新聞を読んで」のレポート提出及び発表の準備をしておくこと。	
	準備学習(復習)	
	「新聞を読んで」の発表から、教育全般及び社会科授業に参考になる事柄について、「社会」授業内容との関連を確認しておくこと。	
学びのキーワード	評価方法	
	(1) 平常点 35%	
	(2) レポート 15%	
学びのキーワード	(3) 理解度の確認 50%	
	平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度。欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合、減点対象となる。上記を基準に総合的に判断します。	
	教科書	
学びのキーワード	文部科学省、文科省=『小学校学習指導要領解説 社会編』（東洋館出版社）ISBN978-4491-02372-4	
	参考書	

算数		MATH-C-141
担当教員： 齋藤 範雄		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C630315
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、教育課程の変遷 02. 学習指導要領と算数科 03. 数概念の形成とその指導（数） 04. 数概念の形成とその指導（加法・減法） 05. 数概念の形成とその指導（乗法・除法） 06. 量概念の形成とその指導（長さ） 07. 量概念の形成とその指導（面積 他） 08. 図形概念の形成とその指導（図形の観察と構成） 09. 図形概念の形成とその指導（平面図形と論理） 10. 図形概念の形成とその指導（立体図形の見取り図・展開図） 11. 関数概念の形成とその指導（関数の考えとその表現） 12. 関数概念の形成とその指導（比例） 13. 関数概念の形成とその指導（反比例 他） 14. 確率・統計概念の形成とその指導（資料の整理 場合の数） 15. まとめ</div>	
【C】 教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目 【C】 保育士資格：選択科目		
(1) 内容	<div>授業前</div> <div>授業後</div> <div>準備学習(予習)</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加態度や意欲 30% (2) 小テスト、レポート等の提出物 30% (3) 確認テスト 40%</div> <div>毎時間最後に行う「理解度確認のまとめ」のレポートを重視する。</div>	
小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。 教材研究を通して、よりよい授業のあり方を研究する。		
(2) 学びの意義と目標		
算数指導のねらいを理解するとともに、基礎的・基本的な知識と技能を習得し実際の指導に活かせるようにする。		
受講者に対する要望	<div>教科書</div> <div>文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）</div> <div>参考書</div>	
児童の「理解の様相や発達段階」を踏まえて、算数科の「指導、実践にあたる」という意味を理解すること。		
学びのキーワード		
・ 学習指導要領 ・ 教材の理解と研究		

算数		MATH-C-141
担当教員： 齋藤 範雄		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C630320
学部教育の関連目	授業計画	
【C】 教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目 【C】 保育士資格：選択科目		
(1) 内容	01. オリエンテーション、教育課程の変遷 02. 学習指導要領と算数科 03. 数概念の形成とその指導（数） 04. 数概念の形成とその指導（加法・減法） 05. 数概念の形成とその指導（乗法・除法） 06. 量概念の形成とその指導（長さ） 07. 量概念の形成とその指導（面積 他） 08. 図形概念の形成とその指導（平面図形） 09. 図形概念の形成とその指導（立体図形） 10. 図形概念の形成とその指導（立体図形の観察と構成） 11. 関数概念の形成とその指導（関数の考えとその表現） 12. 関数概念の形成とその指導（比例） 13. 関数概念の形成とその指導（反比例 他） 14. 確率・統計概念の形成とその指導（資料の整理） 15. まとめ	
小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。 教材研究を通して、よりよい授業のあり方を研究する。		
(2) 学びの意義と目標		
算数指導のねらいを理解するとともに、算数指導の基礎的・基本的な知識と技能を習得し、その実践化を図れるようにする。	準備学習(予習)	
	授業前に、教科書を読み、内容を理解しておくこと。	
	準備学習(復習)	
	授業後、学習内容について確認しておくこと。	
受講者に対する要望	評価方法	
児童の「理解の様相や発達段階」を踏まえて、算数科の「指導、実践にあたる」という意味を理解すること。	(1) 授業への参加態度や意欲 30% (2) 小テスト、レポート等の提出物 30% (3) 確認テスト 40% 30%	
	毎時間最後に行う「理解度確認のまとめ」のレポートを重視する。	
学びのキーワード	教科書	
・ 学習指導要領 ・ 教材の理解と研究	文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）	
	参考書	

理科		SCED-C-141
担当教員：丸山 綱男		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C630425
学部教育の関連目		授業計画
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】小学校教諭一種免許：必修科目		
(1) 内容		01. オリエンテーション 小学校理科の概要 02. 小学校理科の目標について 03. 小学校理科の学習内容（「A物質・エネルギー」「B生命・地球」） 04. 小学校理科観察・実験の安全指導・事故防止について 05. 小学校第3学年理科の観察・実験1（電気の通り道） 06. 小学校第3学年理科の観察・実験2（ゴムのはたらき） 07. 小学校第4学年理科の観察・実験1（月と星） 08. 小学校第4学年理科の観察・実験2（水と温度） 09. 理科授業展開における観察・実験 10. 小学校第5学年理科の観察・実験1（植物の発芽、成長） 11. 小学校第5学年理科の観察・実験2（電流の働き） 12. 小学校第6学年理科の観察・実験1（燃焼の仕組み） 13. 小学校第6学年理科の観察・実験2（人の体のつくりと働き） 14. 小学校第6学年理科の観察・実験3（水溶液の性質） 15. まとめ
本授業では、学習指導要領を参照しながら、小学校理科教育の目標、内容についての基本的な理解を図る。自然の対象の特性や児童の構築する見方や考え方に基づく「A物質・エネルギー」「B生命・地球」の違いを認識した上で、児童の興味・関心や新たな知的探求心をどのように高めるべきか、理科が配当されている学年の観察・実験を体験する。また、実験器具の基本操作を正しく習得し、安心・安全な理科指導を身につけ事故防止を図る。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
理科において基礎的・基本的な知識・技能は、実生活における活用や論理的な思考力の基盤として重要な意味を持つ。本授業では、受講生自身が知的好奇心や探究心をもって、自然に親しみ、目的意識をもった観察、実験を行って学習内容を実生活と関連付けて科学的な見方や考え方を養うことを重視する。理科のA・B区分の特徴を把握し、理科教材や理科授業についての見識を深め、何より受講生自身が理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるようにする。 また、理科として現代社会における環境問題にもふれ、理科を通して人間活動と身の回りの環境に対する科学的な認識を形成させること、人間活動を含めた自然事象に対する豊かな感受性を養わせること等、理科指導の充実を図る。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)
・小学校の理科指導に必要な基本的な技能と心構えを学ぶこと。 ・子どもを理科好きにするための自然事象へのかかわり方を学ぶこと。 		
学びのキーワード		教科書
・小学校理科の目標 ・学習内容A・B区分 ・観察・実験の体験 ・事故防止		
		参考書

担当教員：市村 和子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C630530

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：選択科目

(1) 内容

生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をとおして学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

平成元年(1989)に小学校低学年に新設された生活科の経緯とその背景、趣旨について正しく理解するところに学ぶ意義がある。
生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気づく感性を養いたい。

受講者に対する要望

学習ルールを守り、マナー向上に留意すること。
小グループでの活動を行うため、対人関係力の育成に努めること。

学びのキーワード

- ・具体的な活動や体験
- ・子どもの思いや願い
- ・気付き
- ・幼保小の連携

授業計画

01. オリエンテーション、生活科新設の経緯と趣旨
02. 生活科の目標について
03. 生活科の内容について
04. 生活科の指導計画について
05. 生活科の学習指導について
06. 事例研究（「探検」の授業）
07. 探検活動1（学校探検）
08. 探検活動2（学校マップ作り）
09. 探検活動のまとめ、情報交換
10. 事例研究（「ものの製作」の授業）
11. 製作活動1（おもちゃ作り）
12. 製作活動2（おもちゃの紹介）
13. 生活科の教材開発、環境構成について
14. 幼稚園・保育所等と小学校の連携について
15. 生活科教育のまとめ

準備学習(予習)

次時の予告内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の授業内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート、作品等 | 30% |
| (3) テスト | 40% |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教科書

文部科学省 『小学校学習指導要領解説生活編』（日本文教出版）

参考書

生活		SOCI-C-142	
担当教員：市村 和子			
学期：週間授		科目：専門科目	必修・選択：選択科目
単位：2		コード：1C630535	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. オリエンテーション、生活科新設の経緯と趣旨 02. 生活科の目標について 03. 生活科の内容について 04. 生活科の指導計画について 05. 生活科の学習指導について 06. 事例研究（「ものの製作」の授業） 07. 製作活動1（おもちゃ作り） 08. 製作活動2（おもちゃの紹介） 09. 事例研究（「探検」の授業） 10. 探検活動1（学校探検） 11. 探検活動2（学校マップ作り） 12. 探検活動のまとめ、情報交換 13. 生活科の教材開発、環境構成について 14. 幼稚園・保育所等と小学校の連携について 15. 生活科教育のまとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【C】小学校教諭一種免許：必修科目 【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目 【C】保育士資格：選択科目			
(1) 内容			
生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をとおして学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標			
平成元年(1989)に小学校低学年に新設された生活科の経緯とその背景、趣旨について正しく理解するところに学ぶ意義がある。 生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気づく感性を養いたい。		準備学習(予習)	
		次時の予告内容について調べておくこと	
		準備学習(復習)	
		本時の授業内容の整理（プリント、ノート等）	
		評価方法	
		(1) 平常点 30% (2) レポート、作品等 30% (3) テスト 40%	
		毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。	
受講者に対する要望		教科書	
学習ルールを守り、マナー向上に留意すること。 小グループでの活動を行うため、対人関係力の育成に努めること。		文部科学省 『小学校学習指導要領解説生活編』（日本文教出版）	
学びのキーワード		参考書	
・具体的な活動や体験 ・子どもの思いや願い ・気付き ・幼保小の連携			

家庭		SOCI-C-143											
担当教員：馬場 由子、広瀬 歩美													
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C630640											
学部教育の関連目		授業計画											
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. 授業ガイダンス、家庭科教育の基本理念 02. 学校教育における家庭科の位置と意義 03. 学習指導要領の内容と学習活動 04. なぜ衣服を着るのだろう 05. 裁縫実習（針刺し制作） 06. 展覧会（仲間からの学び） 07. なぜ食べるのだろう 08. サステイナブルクッキング 09. 調理実習（ご飯焚き） 10. 表示を読んでみよう 11. サステイナブルライフ 12. 教科書に出てくる学習活動と学び方の工夫 13. 生きる力を育てる題材開発 14. オリジナル題材発表会 15. まとめ											
カリキュラム上の位置付け													
【C】小学校教諭一種免許：必修科目													
(1) 内容													
自分の生活と持続可能な地球環境の関わりを考える学習を通し、生活者としての自覚と判断力、実践力を育てる。持続可能な地球環境の視点を取り入れた「サステイナブルクッキング」等の授業実践も紹介する。主体的に判断し、行動できる生活者を育てる授業実践を基に、実習や模擬授業も行う。													
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)											
日常生活を見つめ直し、家庭科の学びを通して未来を担う自立した生活者を育てることを目指す。調理や裁縫を生活者に必要な技や知恵として評価し直し、かしこい消費者として「選ぶ目」と「作る手」を育てるため、炊飯実習と針刺し制作を行う。		・指導要領と家庭科の教科書を精読し、特徴をつかんでおく。 ・家庭科で育てたい力を日々の生活の中で探しておく。 ・裁縫用具、調理実習用エプロンと三角巾を準備しておく。											
		準備学習(復習)											
		・リアクションペーパーをファイルしてポートフォリオ作成すること。 ・講義で出された課題は次週に提出すること。											
		評価方法											
		<table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>15%</td></tr><tr><td>(2) リアクションペーパー</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 提出物</td><td>15%</td></tr><tr><td>(4) 模擬授業</td><td>20%</td></tr><tr><td>(5) 試験</td><td>20%</td></tr></table> <small>毎回提出するリアクションペーパーで出席確認。学んだことを記録し、自分の考えを書いて提出することが基本。生活レポート（B4用紙1枚）を書き、1人1回発表予定。</small>		(1) 授業への参加度	15%	(2) リアクションペーパー	30%	(3) 提出物	15%	(4) 模擬授業	20%	(5) 試験	20%
(1) 授業への参加度	15%												
(2) リアクションペーパー	30%												
(3) 提出物	15%												
(4) 模擬授業	20%												
(5) 試験	20%												
受講者に対する要望													
指導要領と教科書の精読。授業は学びの種を蒔くこと。生きることを楽しむ中で、毎日の生活が教材研究。アンテナをたてて情報収集し、引き出しを増やす。家庭科を通して子ども達に伝えたいことを考える。													
学びのキーワード		教科書											
・自分の理念をもつ ・家庭科で育てたい力を考える ・子どもと共に学びをつくる ・学びの意味を考える ・持続可能な地球環境の視点をもつ		桜井 純子 『小学校わたしたちの家庭科（5・6）』（開隆堂出版） 文部科学省、文科省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』（東洋館出版社） 馬場 由子 『新版「身近な消費生活と環境」教師用』（地域教材社）											
		参考書											

音楽A (C-1)

MUSI-C-141

担当教員：山田 裕治、渋谷 みどり、塚原 晴美、池上 真理子、阪 まどか

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C633725

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種免許：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
- 【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

小学校、幼稚園、保育所などでの音楽表現活動に必要なとなる基本的な知識とピアノの演奏技術を学ぶ。1クラスを半分に分け、理論の講義とピアノの演奏指導を平行して行い、ピアノはさらに少人数のグループに分け個人指導を行う。教材は小学校で扱う教材を含め、受講者のレベルに適したものを取り上げる。音楽理論では音符の読み方や長さなどの基本的な内容から始め、楽譜を読んでピアノ演奏をするのに必要な知識を項目別に習得する。

(2) 学びの意義と目標

保育の現場での音楽表現活動にはピアノ（鍵盤楽器）の演奏が不可欠であり、そのためには取り上げる楽曲を弾きこなすだけの演奏技術が必要である。また楽曲を演奏するためには、楽譜を読み楽譜からさまざまな情報を読み取らなければならない。この授業ではピアノ演奏において必要な基本的な演奏技術と理論を身につけることを目標にする。さらに小学校一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格を取得するためにも必要な基礎的な知識と演奏技術を習得する。

受講者に対する要望

授業時間に対し内容が多いので、特に復習をしっかりとし疑問点を残さないようにして欲しい

学びのキーワード

- ・スキルを身につける自覚を持つ
- ・疑問点をわからないままにしない
- ・ピアノは繰り返し練習

授業計画

01. ガイダンス・ピアノレッスンのクラス分け
02. ピアノ演奏の基礎(1)・音部記号と譜表
03. ピアノ演奏の基礎(2)・音名と変化記号
04. ピアノ演奏の基礎(3)・音符と休符
05. ピアノ演奏の基礎(4)・拍子
06. ピアノ演奏の実践(1)・さまざまなリズム
07. ピアノ演奏の実践(2)・反復記号と発想記号
08. ピアノ演奏の実践(3)・これまでの復習
09. ピアノ演奏の実践(4)・音程
10. ピアノ演奏の実践(5)・長音階
11. ピアノ演奏の実践(6)・短音階
12. ピアノ演奏のまとめ(1)・関係調
13. ピアノ演奏のまとめ(2)・三和音
14. ピアノ演奏のまとめ(3)・コードネームとカデンツ
15. 総括

準備学習(予習)

1. 授業時に配布するプリントを指示に従って予習する
2. 次回のレッスン曲の練習

準備学習(復習)

1. 配布プリントによる講義内容の復習
2. レッスン曲の練習

評価方法

- | | |
|-----------|----------|
| (1) ピアノ実技 | 50% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 20% 課題提出 |

教科書

参考書

音楽A (C-2)

MUSI-C-141

担当教員：山田 裕治、渋谷 みどり、塚原 晴美、池上 真理子、阪 まどか

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C633730

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

小学校、幼稚園、保育所などでの音楽表現活動に必要なとなる基本的な知識とピアノの演奏技術を学ぶ。1クラスを半分に分け、理論の講義とピアノの演奏指導を平行して行い、ピアノはさらに少人数のグループに分け個人指導を行う。教材は小学校で扱う教材を含め、受講者のレベルに適したものを取り上げる。音楽理論では音符の読み方や長さなどの基本的な内容から始め、楽譜を読んでピアノ演奏をするのに必要な知識を項目別に習得する。

(2) 学びの意義と目標

保育の現場での音楽表現活動にはピアノ（鍵盤楽器）の演奏が不可欠であり、そのためには取り上げる楽曲を弾きこなすだけの演奏技術が必要である。また楽曲を演奏するためには、楽譜を読み楽譜からさまざまな情報を読み取らなければならない。この授業ではピアノ演奏において必要な基本的な演奏技術と理論を身につけることを目標にする。さらに小学校一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格を取得するためにも必要な基礎的な知識と演奏技術を習得する。

受講者に対する要望

授業時間に対し内容が多いので、特に復習をしっかりとし疑問点を残さないようにして欲しい

学びのキーワード

- ・スキルを身につける自覚を持つ
- ・疑問点をわからないままにしない
- ・ピアノは繰り返し練習

授業計画

01. ガイダンス・ピアノレッスンのクラス分け
02. ピアノ演奏の基礎(1)・音部記号と譜表
03. ピアノ演奏の基礎(2)・音名と変化記号
04. ピアノ演奏の基礎(3)・音符と休符
05. ピアノ演奏の基礎(4)・拍子
06. ピアノ演奏の実践(1)・さまざまなリズム
07. ピアノ演奏の実践(2)・反復記号と発想記号
08. ピアノ演奏の実践(3)・これまでの復習
09. ピアノ演奏の実践(4)・音程
10. ピアノ演奏の実践(5)・長音階
11. ピアノ演奏の実践(6)・短音階
12. ピアノ演奏のまとめ(1)・関係調
13. ピアノ演奏のまとめ(2)・三和音
14. ピアノ演奏のまとめ(3)・コードネームとカデンツ
15. 総括

準備学習(予習)

1. 授業時に配布するプリントを指示に従って予習する
2. 回目のレッスン曲の練習

準備学習(復習)

1. 配布プリントによる講義内容の復習
2. レッスン曲の練習

評価方法

- | | |
|-----------|----------|
| (1) ピアノ実技 | 50% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 20% 課題提出 |

教科書

参考書

担当教員：井口 太

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C633845

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

幼児保育並びに小学校の音楽指導に必要な基礎技能と知識を育成します。音階や音程、コードネームの基礎を実際の音による表現と共に理解していきます。また、わらべうたの音階理論や創造的な音楽表現の体験を用意しています。中でも、カール・オルフの指導理念と独特な楽器の使用を体験し、仲間との音楽作りの実際を試みたいと考えます。

(2) 学びの意義と目標

幼児や児童の音楽指導では表現に対する楽しさを味わい、創造性を豊かに育むことが重要であると考えます。そのため、受講者が音・音楽を感じ取って、創り出すことに大きな意味があると考えています。幼稚園教育要領、保育所保育指針や学習指導要領の基本的な理解と結びつけながら、指導に必要なポイントにも触れていきたいと予定しています。

受講者に対する要望

授業で紹介する情報を各自が実行して身につけていくことを期待します。特に楽器の操作などはこれなしには自分のものとして行けないと思います。努力を求めます。

学びのキーワード

- ・ 幼児・児童の理解
- ・ 図形楽譜による表現
- ・ 創造的な音楽表現と指導
- ・ コードネームの理解と伴奏の工夫
- ・ 幼児期の発達と表現

授業計画

01. リズム読みの基本と即興的表現の指導
02. ハンドサインと階名唱／歌唱教材の紹介
03. 身体楽器の活用とリズム表現
04. コードネームの概要／I-Vの伴奏と鍵盤遊び
05. 図形楽譜の紹介と音作りのグループ表現
06. 絵本への効果音作りを工夫
07. わらべうたの分類と音階理論
08. ギターの導入
09. 歌唱教材の研究①：年少幼児の教材を中心に
10. ギターの基礎と幼児の合奏教材の紹介
11. 日本の昔話と音楽作り
12. 幼児の合奏指導教材の検討
13. 歌唱教材の研究②：幼小連携教材を中心に
14. 小学校での創造的な音楽表現の事例
15. 講義内容の振り返りとまとめ

準備学習(予習)

次回の予定と関連する教科書のページに目を通すようにしてほしい。

準備学習(復習)

紹介した内容を基に、自分の表現技能などを磨いてほしい。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) ノートの評価 | 20% |
| (2) 活動への取り組み | 80% |

* 毎回の出席が重要です。熱心な取り組みを期待します。

教科書

井口太 『新・幼児の音楽教育』（朝日出版社）

参考書

担当教員：井口 太

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C633850

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

幼児保育並びに小学校の音楽指導に必要な基礎技能と知識を育成します。音階や音程、コードネームの基礎を実際の音による表現と共に理解していきます。また、わらべうたの音階理論や創造的音楽表現の体験を用意しています。中でも、カール・オルフの指導理念と独特な楽器の使用を体験し、仲間との音楽作りの実際を試みたいと考えます。

(2) 学びの意義と目標

幼児や児童の音楽指導では表現に対する楽しさを味わい、創造性を豊かに育むことが重要であると考えます。そのため、受講者が音・音楽を感じ取って、創り出すことに大きな意味があると考えています。幼稚園教育要領、保育所保育指針や学習指導要領の基本的な理解と結びつけながら、指導に必要なポイントにも触れていきたいと予定しています。

受講者に対する要望

授業で紹介する情報を各自が実行して身につけていくことを期待します。特に楽器の操作などはこれなしには自分のものとして行けないと思います。努力を求めます。

学びのキーワード

- ・ 幼児・児童の理解
- ・ 図形楽譜による表現
- ・ 創造的な音楽表現と指導
- ・ コードネームの理解と伴奏の工夫
- ・ 幼児期の発達と表現

授業計画

01. リズム読みの基本と即興的表現の指導
02. ハンドサインと階名唱／歌唱教材の紹介
03. 身体楽器の活用とリズム表現
04. コードネームの概要／I-Vの伴奏と鍵盤遊び
05. 図形楽譜の紹介と音作りのグループ表現
06. 絵本への効果音作りを工夫
07. わらべうたの分類と音階理論
08. ギターの導入
09. 歌唱教材の研究①：年少幼児の教材を中心に
10. ギターの基礎と幼児の合奏教材の紹介
11. 日本の昔話と音楽作り
12. 幼児の合奏指導教材の検討
13. 歌唱教材の研究②：幼小連携教材を中心に
14. 小学校での創造的音楽表現の事例
15. 講義内容の振り返りとまとめ

準備学習(予習)

次回の予定と関連する教科書のページに目を通すようにしてほしい。

準備学習(復習)

紹介した内容を基に、自分の表現技能などを磨いてほしい。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) ノートの評価 | 20% |
| (2) 活動への取り組み | 80% |

* 毎回の出席が重要です。熱心な取り組みを期待します。

教科書

井口太 『新・幼児の音楽教育』（朝日出版社）

参考書

教師論（小）		TEAT-0-101	
担当教員：小川 隆夫			
学期：週間授		科目：専門科目	必修・選択：選択科目
単位：2		コード：1C633965	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う		01. オリエンテーション 教師の日常世界 02. 授業をつくる（授業の構成・デザイン） 03. 授業から学ぶ（評価する主体としての教師・ともに学び続ける教師） 04. カリキュラムをデザインする（カリキュラムの概念・学びのビジョンとその実践・学びのデザイン・開発と評価） 05. 子どもを育む（子どもの心に寄り添う・子どもの言葉を受け取る・教師-子ども関係が陥りやすい落とし穴） 06. 生涯を教師として生きる（教育実習から新任の教師へ・教師としてのアイデンティティの模索） 07. 同僚とともに学校を創る（学校での授業の探求・学校における同僚性・教師文化の形成するもの） 08. 教職の専門性（教師に対する国際的認識・教師の養成・成長） 09. 時代の中の教師（日本における教育の風景の展開・戦後の教師像） 10. 教師の仕事とジェンダー（歴史の中の女性教師） 11. 教育改革と教師の未来（転換期の学校・教師の使命・未来への希望） 12. 教師研究へのアプローチ（教師研究との広がり・教師をめざして） 13. プレゼンテーション 「教える職業」から「学びの専門職」への転換について 14. プレゼンテーション 「子どもの学びを促進する教育実践」について 15. 授業の確認とまとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【C】小学校教諭一種免許：必修科目 【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】保育士資格：必修科目			
(1) 内容			
「教育は人にある」といわれる。施設・設備が整備され、すぐれた教材・教具が開発された今日においても、教師の重要性に変わりはない。最近、特に学校での事故や生徒の自殺問題で、世間の教師に対する関心は強いものになっている。本講義では、教師の仕事、役割、教師観や職場としての学校などについて学び、望ましい資質能力とは何かと人権を尊重した教師の姿を考える。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習（予習）	
子どもの好む教師、親の求める教師、教師の考える望ましい教師、校長・行政者の求める望ましい教師を考えながら、教師とは何かを追及することに学びの価値がある。本講義を通して教育活動に従事する魅力に触れ、教師の道を目指そうとする気持ちが確かなものになることを期待する。		テキストの指定ページを読んで授業に臨むこと。新聞から教育関連の記事を1つ選んで、メモをとり意見が言えるようにして授業に臨むこと。	
		準備学習（復習）	
		配布プリント及びテキストの学習箇所の復習をする。常日頃から新聞やニュースに目を通し、社会情勢や教育関連の記事に関心を持つ。	
受講者に対する要望		評価方法	
教職志望者が、資質向上を図り、真摯に取り組むことを望む。		(1) 平常点 20% 毎回、リフレクションカードの提出を求める。 (2) プレゼン 30% (3) レポート1回 20% (4) 期末テスト 30%	
学びのキーワード		教科書	
・教師の仕事 ・資質能力 ・望ましい教師 ・人権尊重 ・目指す教師像		秋田 喜代美、佐藤 学 改訂版 『新しい時代の教職入門（有斐閣アルマ）』（有斐閣）	
		参考書	

教師論（幼保）		TEAT-0-101																
担当教員： 佐藤 千瀬																		
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目															
単位： 2		コード： 1C633970																
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 子どもに向き合う者としての倫理観を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 保育者の役割1ー保育士（3歳以上児）</div> <div>02. 保育者の役割2ー保育士（3歳未満児）</div> <div>03. 保育者の役割3ー幼稚園教諭</div> <div>04. 保育者の役割4ー月間・年間の役割</div> <div>05. 保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ</div> <div>06. 保育者の倫理</div> <div>07. 保育士・幼稚園教諭の専門性1ー養護と教育 資質・能力</div> <div>08. 保育士・幼稚園教諭の専門性2ー知識・技術及び判断</div> <div>09. 保育士・幼稚園教諭の専門性3ー保育の省察と自己評価</div> <div>10. 保育者の協働1ー保育と保護者支援にかかわる協働</div> <div>11. 保育者の協働2ー保護者及び地域社会との協働</div> <div>12. 保育者の協働3ー専門職間、専門機関及び家庭的保育者等との連</div> <div>13. 保育・教育の実践例</div> <div>14. 保育者の専門職的成長</div> <div>15. 理解度の確認と振り返り</div>																
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 小学校教諭一種免許：必修科目</div> <div>【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目</div> <div>【C】 保育士資格：必修科目</div>																		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、保育者の役割と倫理、保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけ、保育士・幼稚園教諭の専門性、保育者の協働、保育者の専門職的成長について概説する。</div>																		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>(1) 保育者の役割と倫理について理解する。</div> <div>(2) 保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけを理解する。</div> <div>(3) 保育士・幼稚園教諭の専門性について考察し、理解する。</div> <div>(4) 保育者の協働について理解する。</div> <div>(5) 保育者の専門職的成長について理解する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>・ 課題に取り組むこと</div>																
		<div>準備学習(復習)</div> <div>・ 授業で視聴した事例の分析をすること
・ 小テストの準備をすること
</div>																
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回の授業で課題・小テストに取り組むことが多くあるため、計画的に丁寧に取り組むこと。
出席票を丁寧に記入すること。
グループワークに積極的に取り組むこと。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td><td>出席点ではない。</td></tr><tr><td>(2) 課題</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 小テスト</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(4) 事例レポート</td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>(5) 最終課題</td><td>20%</td><td></td></tr></table> <div>毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。</div>		(1) 平常点	30%	出席点ではない。	(2) 課題	20%		(3) 小テスト	20%		(4) 事例レポート	10%		(5) 最終課題	20%	
(1) 平常点	30%	出席点ではない。																
(2) 課題	20%																	
(3) 小テスト	20%																	
(4) 事例レポート	10%																	
(5) 最終課題	20%																	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 保育士</div> <div>・ 幼稚園教諭</div> <div>・ 役割</div> <div>・ 専門性</div> <div>・ 協働</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>厚生労働省 『保育所保育指針ー平成20年告示』</div> <div>文部科学省 『幼稚園教育要領ー平成20年告示』</div>																

保育・教職実践演習(初等) (幼)

TEAT-C-452

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634100

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

大学4年間での幼稚園教職課程の学びを総括し、これまで蓄積してきた「履修カルテ」や実習日誌を基に幼稚園教諭として必要な知識技能を修得したことを確認し、不足している知識技能については補完をしていく。

(2) 学びの意義と目標

大学4年間の学びと実習・実践を通して学んだことを総合的に学習することを目的とし、幼稚園教諭を目指す上での自己課題を明確にしていく。不足している知識・技能については補完をし、卒業後に幼稚園教諭として従事する上で必要な資質や能力を高めていく。

受講者に対する要望

履修カルテや実習記録を見直し、各自の不足している点は何か、そのためにどのような学びをしたらよいのかを各自が見出してほしい。

学びのキーワード

- ・子ども理解
- ・実践力
- ・保育技能
- ・教師としての使命感と責任感

授業計画

01. オリエンテーション（授業の説明、履修カルテから自己分析）
02. 幼稚園教諭としての職務
03. 保護者との対応について
04. 遊びを通した学びについて
05. 安全管理について
06. 子ども理解について
07. 指導案作成について
08. 模擬保育とグループ討議① 事例
09. 模擬保育とグループ討議② 環境
10. 模擬保育とグループ討議③ 遊び
11. 模擬保育とグループ討議④ 子どもの食
12. 模擬保育とグループ討議⑤ 障害児保育
13. 教師のメンタルヘルス
14. 幼稚園教諭として求められる力
15. まとめ

準備学習(予習)

履修カルテや実習記録からの自己課題を明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業や模擬保育等で指摘されたことをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 自己課題レポート | 10% |
| (2) 授業内試験 | 20% |
| (3) 模擬保育 | 50% |
| (4) 課題レポート | 20% |

毎回の出席が大前提である。

教科書

参考書

必要に応じプリントを配布する。

保育・教職実践演習(初等) (小)		TEAT-C-452
担当教員：川瀬 敏行		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C634195
学部教育の関連目		授業計画
【C】 教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目 【C】 幼稚園教諭一種免許：必修科目		
(1) 内容		01. 履修カルテから自己分析 02. 教科等の指導力1：授業づくりと実際（教材開発・授業技術） 03. 教科等の指導力2：子どもの絵に見る学校教育・図画工作 04. 教科等の指導力3：学校における食育・学校給食 05. 教科等の指導力4：学校安全と危機管理（安全教育・安全管理・組織活動） 06. 児童生徒理解と学級経営1：学級づくりの方法と実際 07. 児童生徒理解と学級経営2：生徒指導の進め方と実際 08. 児童生徒理解と学級経営3：子どもの心理の理解・学校教育相談 09. 児童生徒理解と学級経営4：特別支援教育 10. 児童生徒理解と学級経営5：子どもの発育・健康管理 11. 社会性や対人関係能力1：教師の一日（役割・実務・教職員の協力） 12. 社会性や対人関係能力2：教師のメンタルヘルス 13. 社会性や対人関係能力3：児童虐待の防止と小学校 14. 社会性や対人関係能力4：保護者・地域・関係機関・異校種間の連携 15. まとめ：教職生活への一歩・よりよい教師へ
教職課程における全学年の学びを総括して自己分析し、資質・能力の向上をさらに図り、確かなものにしていくものである。これまで蓄積してきた「履修カルテ」等の記録、学内外学習、活動の経験等を基に培ってきた能力の確認(自己分析)及び不足部分(知識・技能・態度など)を補完し、確実に身に付けていく。そして、教師としての専門性と確かな力量（学習指導力、生徒指導力、学級経営力等）、豊かな人間性や社会性、対人関係能力等の総合的な人間力などの教員としての資質・能力を確認し、教職に対する強い情熱をもって自己の目指す教師像を明確にしていけるようにする。 ※グループ学習・討論、ロールプレイング、実技指導、事例研究、フィールドワーク、教材研究、指導案作成、模擬授業等を取り入れていく。		
(2) 学びの意義と目標		
教職課程の集大成として4年生の秋学期に位置付ける。学生が教員になる上で自己の課題を自覚し、不足する知識や技能等の定着を図る演習等を通して資質能力を向上させ、教職生活をより円滑にスタートできるようにする。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
履修カルテ等の記録から自分の力を総括し、不足している点を補って、望ましい教師を目指して具体的に力をつける努力を望む。		前時の課題に対する自分なりの解答・意見・準備等。
		準備学習(復習)
		指摘された内容事項についての修正
		評価方法
		(1) 平常点 30%
		(2) 演習・協議等への参加度・内容 30%
		(3) 課題レポート 40%
		平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度。欠席・遅刻は減点の対象となる。
学びのキーワード		教科書
・教員の資質・能力 ・教育への情熱と使命感・責任感 ・教師としての専門性・確かな力量 ・実践的指導力 ・総合的な人間力		参考書

保育内容総論（C-1）

TEAT-C-112

担当教員：相川 徳孝

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C634315

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育の基本を学び、それぞれの領域の保育内容を総合的に理解していく。

(2) 学びの意義と目標

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通して幼稚園と保育所、認定こども園の役割と実際の保育内容についての理解を深めるとともに子どもの発達や教育課程、保育課程、その他の指導計画について学ぶ。

受講者に対する要望

子どもの保育の土台となるものであるから、主体的に学ぶ姿勢を持って参加すること。

学びのキーワード

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- ・子どもの発達
- ・領域と保育内容
- ・指導計画

授業計画

01. 幼稚園・保育所・認定こども園における保育の基本
02. 幼稚園教育要領と保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領について
03. 保育内容と領域の意義について
04. 0歳から2歳児の発達と保育内容
05. 3歳から5歳児の発達と保育内容
06. 保育内容の変遷
07. 保育における遊びの意義
08. 教育課程と保育課程
09. 指導計画の意義
10. 家庭・地域・小学校との連携について
11. 保育の多様な展開（1）
12. 保育の多様な展開（2）
13. 保育者の専門性と資質向上
14. 今後の保育ニーズについて
15. まとめ

準備学習(予習)

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をよく読むこと。

準備学習(復習)

それぞれの授業での学びのポイントを正しく理解し、忘れないよう積み重ねておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

レポート課題等の提出は期限を守ること。

教科書

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領・保育所保育指針』（チャイルド本社）

参考書

保育内容総論（C-2）		TEAT-C-112
担当教員：相川 徳孝		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C634320
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】保育者に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 幼稚園・保育所・認定こども園における保育の基本 02. 幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について 03. 保育内容と領域の意義について 04. 0歳から2歳児の発達と保育内容 05. 3歳から5歳児の発達と保育内容 06. 保育内容の変遷 07. 保育における遊びの意義 08. 教育課程と保育課程 09. 指導計画の意義 10. 家庭・地域・小学校との連携について 11. 保育の多様な展開（1） 12. 保育の多様な展開（2） 13. 保育者の専門性と資質向上 14. 今後の保育ニーズについて 15. まとめ</div>	
	<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目 【C】保育士資格：必修科目</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育の基本を学び、それぞれの領域の保育内容を総合的に理解していく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通して幼稚園と保育所、認定こども園の役割と実際の保育内容についての理解を深めるとともに子どもの発達や教育課程、保育課程、その他の指導計画について学ぶ。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>幼稚園教育要領と保育所保育指針をよく読むこと。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>それぞれの授業での学びのポイントを正しく理解し、忘れないよう積み重ねておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもの保育の土台となるものであるから、主体的に学ぶ姿勢を持って参加すること。</div>	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 試験</div><div>80%</div></div><div><div>(2) レポート</div><div>20%</div></div></div> <div>レポート課題等の提出は期限を守ること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領</div><div>・子どもの発達</div><div>・領域と保育内容</div><div>・指導計画</div></div>	<div>教科書</div> <div>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 原本』（チャイルド本社）</div>	
	<div>参考書</div>	

教育課程論		PEDA-C-251
担当教員：川瀬 敏行		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C635130
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】小学校教諭一種免許：必修科目	01. 教育課程の基本について：基準・意義 02. 学習指導要領の改訂について 03. 学習指導要領改訂の経過と特色について 04. 教育課程に関する法令について 05. 教育課程の編成及び実施について（１）：一般方針、内容等の取扱いに関する共通的事項 06. 教育課程の編成及び実施について（２）：授業時数等、指導計画の作成 07. 授業時数等の決定と年間計画表・日課表の作成について 08. 教育課程実施上の配慮事項について 09. 教育課程編成の手順と評価について 10. 各教科等の指導計画の作成と内容の取扱いについて 11. 教育課程の実施と教員に求められる資質・能力（１）：教養審・中教審答申 12. 教育課程の実施と教員に求められる資質・能力（２）：目指す教師像 13. よりよい授業の創造と各教科等に共通する学習指導案の作成 14. 教師の役割、学級経営、地域・保護者との連携について 15. まとめ	
(1) 内容		
学習指導要領の改訂、教育課程の基本及び編成と実施、各教科等に共通する指導計画・指導案の作成と内容、教師の資質と役割、学級経営の基本、課題等について学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
学校教育では、教職員が協力して適切に教育課程の編成・実施をしていくことによって学校の教育目標の実現が図られている。「教育課程論」は、教員の資格取得及び教職を目指す人にとって基本となるものであり、重要である。教育課程の基本とその中心的な役割を担っていく教員の資質についての理解と向上を目標とする。	前時の学習内容を基に、グループ協議、報告を実施することがある。	
受講者に対する要望	準備学習(復習)	
積極的な姿勢で学び、教師としての資質・向上に努力していくことを望む。	授業後、教科書・プリント等で学習内容について確認をしておく。	
学びのキーワード	評価方法	
・教職 ・教育課程の基本 ・小学校学習指導要領・生きる力 ・教育課程の編成・実施 ・教員に求められる資質・能力	(1) 平常点 40% (2) レポート 10% (3) 理解度の確認 50%	
	教科書	
	文部科学省、文科省=『小学校学習指導要領解説 総則編』（東洋館出版社）ISBN978-4-491-02370-0	
	参考書	

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度。欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合は、減点対象となる。上記を基準に総合的に判断します。

初等国語科教育法		SUBP-C-253	
担当教員：市村 和子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1C635235	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. オリエンテーション、小学校国語科について 02. 国語科の目標 03. 国語科の内容 04. 教材研究、教材分析の仕方 05. 事例研究 1 （文学教材の指導） 06. 事例研究 2 （説明文教材の指導） 07. 事例研究 3 （作文指導） 08. 指導計画の作成について 09. 学習指導案の内容、作成の手順 10. 学習指導案の作成 11. 模擬授業 1 （低学年教材） 12. 模擬授業 2 （中学年教材） 13. 模擬授業 3 （高学年教材） 14. 評価について 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【C】小学校教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
小学校国語科の授業について事例研究を行う。いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等をおして授業の進め方を学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標			
小学校国語科の目標及び内容を理解するとともに、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を学び、「国語科の授業づくり」ができる力を身に付ける。また、自らの言語感覚を養い、国語に対する関心を深めることができるようにする。			
		準備学習(予習)	
		次時に扱う教材は必ず読んでおくこと。予告の上適宜テストを実施するので必ず学習して臨むこと。	
		準備学習(復習)	
		学習指導要領を繰り返し読むこと。 文字（平仮名、片仮名、漢字）が正しい書き順、字体で書けるように練習すること。	
		評価方法	
		(1) 平常点 30% (2) 指導案作成・模擬授業 40% (3) 理解度の確認 30% レポート、テスト	
		毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。	
受講者に対する要望		教科書	
小学校で習う漢字（1006文字）の読み書きと、書き順については確実に身に付けること。自らの言語感覚を磨くこと。		文部科学省 『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版）	
学びのキーワード		参考書	
・ 学習指導要領「国語」 ・ 教材研究 ・ 指導案作成 ・ 模擬授業			

初等社会科教育法		SUBP-C-254	
担当教員：川瀬 敏行			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C635340	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】 教師に必要な知識・技能を身につける		01. 学習指導要領と小学校社会科 02. 小学校社会科授業の実際と授業研究（１）：第３学年・第４学年 03. 小学校社会科授業の実際と授業研究（２）：第５学年・第６学年 04. 社会科学習指導案作成の基本と事例研究 05. 社会科学習指導案作成のポイントと手順 06. 社会科学習指導案作成の実際と指導法の研究 07. 社会科学習指導案作成の実際と模擬授業計画 08. 社会科模擬授業実践と研究（１）：第３・４学年内容（１）（２）から＜わたしたちの市の様子＞ 09. 社会科模擬授業実践と研究（２）：第３・４学年内容（３）（４）から＜住みよいくらし＞ 10. 社会科模擬授業実践と研究（３）：第３・４学年内容（５）（６）から＜地域の先人の働き＞ 11. 社会科模擬授業実践と研究（４）：第５学年内容（１）（２）から＜わたしたちの国土＞ 12. 社会科模擬授業実践と研究（５）：第５学年内容（３）（４）から＜工業生産とわたしたちのくらし＞ 13. 社会科模擬授業実践と研究（６）：第６学年内容（１）から＜日本の歴史＞ 14. 社会科模擬授業実践と研究（７）：第６学年内容（２）（３）から＜わたしたちの生活と政治＞ 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【C】 小学校教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
専門科目「社会」で学んだことを基に、小学校社会科授業の事例・指導法を研究するとともに、各自が学習指導案の作成、模擬授業の実践をし、小学校の社会科指導について学ぶ。			

算数科教育法		SUBP-C-255
担当教員： 齋藤 範雄		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C635445
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け	01. オリエンテーション、算数科教育と法規 02. 算数科教育のねらい 03. 算数科授業の展開と教材研究（論理的な考えについて） 04. 算数科授業の展開と教材研究（数と計算－記数法） 05. 算数科授業の展開と教材研究（数と計算－三角数と四角数） 06. 算数科授業の展開と教材研究（量と測定－面積の求め方） 07. 算数科授業の展開と教材研究（量と測定－円の面積） 08. 算数科授業の展開と教材研究（図形－多角形の内角） 09. 算数科授業の展開と教材研究（図形－正多面体） 10. 算数科授業の展開と教材研究（数量関係－関数的な考え方と問題解決） 11. 算数科授業の展開と教材研究（数量関係－問題解決と課題の発展） 12. 算数科授業の展開と教材研究（和算） 13. 算数科授業の実施に向けて（指導案の作成、教具） 14. 算数科授業の実施に向けて（模擬授業と評価） 15. まとめ	
(1) 内容		
算数科のねらいを明確に捉えるとともに数学を創る立場から算数科の教材を研究し、学ぶ意欲を高める授業のあり方を身につける。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
算数指導の基礎・基本を理解するとともに、算数・数学を学習する楽しさやよさを感じ、授業実践に結びつけた力を身につける。	授業前に教科書を読み、内容を理解しておくこと。	
受講者に対する要望	準備学習(復習)	
	授業後、学習内容について確認しておくこと。	
学びのキーワード	評価方法	
	(1) 授業への参加態度や意欲 30% (2) レポート、模擬授業等 30% (3) 確認テスト 40% 期末試験の他に、随時レポートを課す予定。 毎時間最後に行う「理解度確認のまとめ」のレポートを重視する。	
・ 学習指導要領 ・ 教材研究 ・ 算数的活動・数学的活動と数学的見方・考え方 ・ 模擬授業	教科書	
	文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）	
	参考書	

理科教育法		SUBP-C-256	
担当教員：丸山 綱男			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1C635550	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. オリエンテーション 学習指導要領解説「理科編」のねらい 02. 理科授業における問題解決学習Ⅰ （事象提示） 03. 理科授業の事例演習・実験 1 （6年） 04. 理科授業の事例演習・実験 2 （3年） 05. 理科授業における問題解決学習Ⅱ （観察・実験） 06. 理科授業の事例演習・実験 3 （4年） 07. 理科の授業構想と授業評価の視点 08. 理科学習指導案作成上の留意点 09. 理科学習指導案の作成 1 10. 理科学習指導案の作成 2 11. 学習指導案に基づく模擬授業の準備 12. 模擬授業の実践と省察 1 13. 模擬授業の実践と省察 2 14. 理科の安全を柱とした教科経営 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【C】小学校教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
学校現場では、多忙感もあってか理科教材セットを一括購入して理科学習を進めるなど、理科指導を苦手とする教員が増える傾向が見られる。そのような課題が指摘される中、児童が自然の事物・現象に感動し、好奇心や興味を持って理科の面白さが実感できる授業はどうあるべきか、事例を通して実体験する。本授業は小学校教員として魅力ある理科授業を展開する指導力を身につけることをめざして実施するものである。そのため講義だけでなく、理科学習指導案の作成とその模擬授業を取り入れて実践力を高める。なお、授業を支える安全面に配慮した理科の教科経営についても学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
理科の教材研究を深めて適切な授業設計を立案し、児童の科学的な見方や考え方をいかに伸張できるかが問われる。授業を実施する前には授業過程や学習指導の仕方を設計するための豊富な経験・構想力が必要である。本授業では、児童に理科学習の成立を確実に保障するために、事例演習・実験を通して学習指導案（模擬授業）を作成する。模擬授業を実施し、その効果の検証を通して理科指導力を磨く。理科が好きになりその面白さをいきいきと児童に伝えられる豊かな専門的力量をもち、実践的な指導力を備えた質の高い教員の養成を目標とする。		学習指導要領解説理科編の目標と内容、系統性、A・B区分の特徴の理解を深め、その趣旨が教科書にどのように表記されているのか分析をする。配布された学習指導案（実践されたもの）を参考として読み込んでおく。	
		準備学習(復習)	
		学習指導案の「案」が示す通り、模擬授業を実践した後に検討を加えて問題点を修正加筆し、案が一義的に定義できるようにする。	
		評価方法	
		(1) 平常点 20% (2) 指導案作成の参加 30% (3) 課題レポート 30% (4) 試験 20%	
受講者に対する要望		教科書	
・児童に理科を学ぶことの意義や有用性を実感させる指導を確立する。 ・実験器具の適切な扱いに熟知して、安全な観察・実験に心がける。 		文部科学省編著 『「小学校学習指導要領解説 理科編」』（大日本図書）	
学びのキーワード		参考書	
・問題解決学習 ・身の回りの物 ・学習指導案 ・評価 ・教科経営			

生活科教育法		SUBP-C-257
担当教員：市村 和子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C635655
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】小学校教諭一種免許：必修科目	01. オリエンテーション、生活科の意義と特質 02. 生活科の目標及び内容 03. 生活科の年間指導計画、単元計画 04. 生活科の学習指導 05. 生活科の評価方法 06. 学校マップの作成 07. 地域マップの作成 08. 学習指導案の内容 09. 学習指導案作成の主な手順、児童の意識の流れ 10. 事例研究1（家庭と生活） 11. 事例研究2（動植物の飼育・栽培） 12. 模擬授業1（「遊び」の授業） 13. 模擬授業2（「ものの製作」の授業） 14. 模擬授業3（「自分自身」の授業） 15. 生活科から総合的な学習の時間へ	
(1) 内容		
授業「生活」で学んだ生活科の目標や内容理解を基に、具体的な授業づくりに取り組む。一人一人が学習指導案作成や教材作成、模擬授業をとおして授業の進め方を実践的に学ぶ。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
生活科の学習の特質を理解するとともに、子どもの思いや願いを生かした「生活科の授業づくり」ができる力を身に付ける。また、生活科における子どもの学び、教師の役割等について自分なりの考察ができるようにする。	学習指導要領をよく読むこと。 模擬授業のための準備をしっかりやること。	
	準備学習(復習)	
	毎回の授業のポイントを整理すること（ノート、プリント等）	
	評価方法	
	(1) 平常点 30% (2) 指導案作成、模擬授業等 30% (3) テスト 40%	
受講者に対する要望	毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。	
子どもの学びは、生活に根ざしたものであることを理解し、自らも自分を取り巻く環境に興味・関心を持ち、積極的に関わるよう心がけてほしい。	教科書	
学びのキーワード	文部科学省 『小学校学習指導要領解説生活編』（日本文教出版）	
・子どもの思いや願い ・指導案作成 ・模擬授業 ・評価	参考書	

音楽科教育法		SUBP-C-351
担当教員：笠井 かほる		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C635760
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け	01. オリエンテーション・小学校音楽の授業のふりかえり 02. 小学校学習指導要領音楽科の目標及び内容の理解 03. 音楽理論・発声法 04. 1年の教科書内容・共通教材の指導法 05. 2年の教科書内容・共通教材の指導法 06. 3年の教科書内容・共通教材の指導法 07. 指導案の作成 08. 中間テスト 09. 鑑賞の各学年の目標と内容 10. 鑑賞教材の指導法 11. 鑑賞教材の指導法 12. 模擬授業4年の共通教材 13. 模擬授業5年の共通教材 14. 模擬授業6年の共通教材 15. 期末試験、共通教材の演奏・まとめ	
(1) 内容		
基本的な音楽理論、歌唱、器楽、鑑賞の指導法を学び、小学校学習指導要領に沿って、小学校各学年の教科書に内容を演習する。 指導案の書き方、模擬授業を行い、評価し合う。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
小学校学習指導要領の音楽科の目標及び内容を理解し、指導できる能力を身に着ける。 音楽を通して「表現する」楽しさを子どもたちと共有できる授業が行えることを目標とする。	教科書を熟読、共通教材を練習しておく	
受講者に対する要望	準備学習(復習)	
	授業に対応した教科書の部分を熟読 共通教材の弾き歌い 	
学びのキーワード	評価方法	
	(1) 出席「 15% (2) 平常点 10% (3) 中間期末テスト 55% (4) 指導案作成 10% (5) 模擬授業 10% 、	
・ 小学校学習指導要領 ・ 歌唱指導法 ・ 器楽 ・ 鑑賞 ・ 指導案作成	教科書	
	『初等科音楽教育』（音楽之友社）	
	参考書	

図画工作科教育法		SUBP-C-261							
担当教員： 柴田 和豊									
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C635865							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】教師に必要な知識・技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 図画工作科の現代の方向性について</div> <div>02. 図画工作科・美術教育の歩み</div> <div>03. 学習指導要領について 1 A 表現</div> <div>04. 学習指導要領について 2 B 鑑賞</div> <div>05. 学習指導要領について 3 共通事項、言語活動</div> <div>06. 造形活動の多様性 ー視覚的タイプと触覚的タイプー</div> <div>07. 触覚性を重視した造形の実例 ー紙粘土作りと作品製作ー</div> <div>08. 自然と触れ合う造形 ー自然素材を用いた造形遊びー</div> <div>09. 子どもたちの内面と造形活動の関わり ー視覚性を中心にー</div> <div>10. 描画による感情表現の実例 ーなぐり描きー</div> <div>11. 鑑賞について</div> <div>12. 評価について</div> <div>13. 模擬授業 1 絵画表現</div> <div>14. 模擬授業 2 工作表現</div> <div>15. まとめ・教育の意味の再確認</div>							
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】小学校教諭一種免許：必修科目</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>子どもたちにとってなぜ造形的な表現活動が大切かを考えるとともに、図画工作科の授業例を具体的に考える。そのために、図画工作科の歴史、目標、内容、指導法および評価について考察した上で、学習指導要領が定める内容領域に対応した造形活動と授業づくりに実際に取り組む。</div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>小学校教育の中で図画工作科が有する意義と、実際の授業の構想と進め方について理解を深めること、また、授業者自身が造形表現に親しむことの大切さに気づいていくことを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>最初に図画工作科の学習指導要領に目を通しておくこと。その後は授業で指示するプリント資料に目を通すとともに、用具・材料などを適正に準備すること。</div>							
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさを実感できるよう、概論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進めるので、図画工作や美術が苦手であった人も不安をもたずに受講してほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>学習した内容について、単元ごとに、学んだこと・よかったこと・改善すべきことなどを自分の視点で整理すること。</div>							
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 提出物</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 模擬授業</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 試験</td><td>30%</td></tr></table> <div>欠席が4回以上は評価の対象外</div>		(1) 提出物	50%	(2) 模擬授業	20%	(3) 試験	30%
		(1) 提出物	50%						
(2) 模擬授業	20%								
(3) 試験	30%								
<div>学びのキーワード</div> <div>・子ども</div> <div>・造形表現</div> <div>・コミュニケーション</div> <div>・授業づくり</div> <div>・学習指導</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>							

家庭科教育法		SUBP-C-262															
担当教員：馬場 由子																	
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C635970															
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. 学習指導要領と教科書の検討 02. 生きる力を育てる年間指導計画作成 03. 作る手を育てる①（りんごの皮むきトライアル） 04. 選ぶ目を育てる①（エシカルファッション） 05. 作る手を育てる②（ミシン実習） 06. 選ぶ目を育てる②（我が家のだし新聞） 07. 作る手を育てる③（みそ汁作り） 08. 作る手を育てる④（プリン実習） 09. 選ぶ目を育てる③（情報を読む） 10. 生きる力を育てるオリジナル題材開発 11. 模擬授業①テーマ設定と教材研究 12. 模擬授業②指導案作成 13. 模擬授業③授業実践 14. 家庭科教育と今日的課題 15. まとめ</div>																
【C】教師に必要な知識・技能を身につける																	
カリキュラム上の位置付け																	
【C】小学校教諭一種免許：必修科目																	
(1) 内容	<div>A家庭生活と家族、B日常の食事と調理の基礎、C快適な衣服と住まい、D身近な消費生活と環境の指導内容を関連させて学びをつくり、持続可能な地球環境に配慮しながら生活を楽しく豊かにする知恵と技を育てる。自分の考えや判断を生かして主体的に生きるための作る手を育てるとともに、実践力育成のための題材開発や模擬授業も行う。</div>																
(2) 学びの意義と目標	<div>指導要領に理念の共有が謳われた生きる力を家庭科は実践的に育むことができる。生きる力には思考力と判断力、それを実行する知恵と技が不可欠。消費者基本法で選択する権利を保障されても、自分で作ることが出来なければ買うしかない。未来の担う自立した生活者として生きる力という車の両輪である選ぶ目と作る手を育てる。</div>																
受講者に対する要望	<div>授業は学びの種を蒔くこと。生きることを楽しむ中で、毎日の生活が教材研究。アンテナをたてて情報収集して引き出しを増やす。日常生活の中で知恵と技を磨き、選ぶ目と作る手を育てる。</div>																
学びのキーワード	<div>・(1)選ぶ目と作る手 ・学びの適時性 ・協働 ・条件思考力 ・毎日の生活が教材研究</div>																
教科書	<div>桜井 純子『小学校わたしたちの家庭科（5・6）』（開隆堂） 文部科学省『小学校学習指導要領家庭編』（東洋館出版） 馬場 由子『新版「身近な消費生活と環境」教師用』（地域教材社）</div>																
参考書																	
準備学習(予習)	<div>・指導要領と教科書を精読し、特徴をつかむこと
・運針、ボタン付け、ミシンの扱い等裁縫関連の練習をすること
・野菜や果物の皮むき等包丁使いの練習をすること</div>																
準備学習(復習)	<div>・リアクションペーパーをファイルしてポートフォリオを作成すること
・講義で出された課題は次週に提出すること</div>																
評価方法	<div><table><tr><td>(1) 授業への参加度</td><td>15%</td><td>授業に参加し学ぶことが基本</td></tr><tr><td>(2) リアクションペーパー</td><td>30%</td><td>授業内に学んだことを記録</td></tr><tr><td>(3) 提出物</td><td>15%</td><td>課題は期限内に提出</td></tr><tr><td>(4) 模擬授業</td><td>20%</td><td>指導案作成と模擬授業の完成度</td></tr><tr><td>(5) 試験</td><td>20%</td><td>学びの総括</td></tr></table><div>毎回提出するリアクションペーパーで出席確認。学んだことを記録し、自分の考えを書いて提出することが基本。</div></div>		(1) 授業への参加度	15%	授業に参加し学ぶことが基本	(2) リアクションペーパー	30%	授業内に学んだことを記録	(3) 提出物	15%	課題は期限内に提出	(4) 模擬授業	20%	指導案作成と模擬授業の完成度	(5) 試験	20%	学びの総括
(1) 授業への参加度	15%	授業に参加し学ぶことが基本															
(2) リアクションペーパー	30%	授業内に学んだことを記録															
(3) 提出物	15%	課題は期限内に提出															
(4) 模擬授業	20%	指導案作成と模擬授業の完成度															
(5) 試験	20%	学びの総括															

体育科教育法		SUBP-C-258															
担当教員： 鈴木 直樹																	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1C636075															
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 小学校体育の方向性について体育の歴史の変遷を踏まえながら理解する。</div> <div>02. 小学校の運動領域編成と学びの系統性について理解する。</div> <div>03. 運動のおもしろさや魅力について実技を通して理解する。</div> <div>04. 学習指導案の書き方について理解し、作成する。（1）</div> <div>05. 体育における様々な学習形態について方法的側面と組織側面から知り、その長所と短所を理解する。</div> <div>06. 体育における子どもの視点に立った学習過程について理解する。</div> <div>07. 体育の授業づくりの手順を理解し、教材研究の進め方を理解する。</div> <div>08. 学習指導案の書き方について理解し、作成する。（2） & 現在、求められる体育の学習評価の在り方について理解する。</div> <div>09. 「体づくり運動」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。</div> <div>10. 「器械運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。</div> <div>11. 「陸上運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。</div> <div>12. 模擬授業の振り返りを行い、指導の改善点について明確にする。</div> <div>13. 「ボール運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。</div> <div>14. 「表現運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。</div> <div>15. 「保健」の模擬授業及び、授業のまとめのワークショップを行う。</div>																
	<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書を読んでおくこと。</div>																
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】小学校教諭一種免許：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>教科書とノートを活用して振り返りを行う。</div>																
<div>(1) 内容</div> <div>講義を通して授業づくりをする上での基盤を構築したうえで、実技を通してながら、各運動領域の特性を理解し、実践上の視点を明らかにしていく。その上で、実際に指導案を作成し、討議を行い、体育の指導についての理解を深めていく。また、近年、反省的実践家としての教師が強く求められているように、常に授業改善しながら、よりよい授業づくりに向けて努力ができる資質を養う必要がある。これが、いわゆる「授業の省察力」ということになる。この力を身につける為に、模擬授業を通し、授業分析を演習する。</div>	<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) ミニレポート</td><td>25%</td><td>授業時に作成</td></tr><tr><td>(2) 授業観察・分析</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(3) 学習指導案</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>(4) 授業実践</td><td>15%</td><td></td></tr><tr><td>(5) 期末レポート</td><td>20%</td><td></td></tr></table><div>出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。
</div></div>		(1) ミニレポート	25%	授業時に作成	(2) 授業観察・分析	20%		(3) 学習指導案	20%		(4) 授業実践	15%		(5) 期末レポート	20%	
(1) ミニレポート	25%	授業時に作成															
(2) 授業観察・分析	20%																
(3) 学習指導案	20%																
(4) 授業実践	15%																
(5) 期末レポート	20%																
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本講義のテーマは、体育授業づくりの視点とその活用である。また、本講義では、体育授業実践に触れながら自らの身体を問い、体育における、教師の児童と関わる素地を育成することが目的である。その為、次の各項目を学習の目標とする。 1) 体育の学習観を捉えなおし、授業づくりの基盤を確立することができる。 2) 体育授業実践上の教師としての構えを身につけ、教材研究を通し、カリキュラム論的な視点をもった授業づくりができる。 3) 体育授業づくりの視点を明確にし、単元計画を立案し、指導案の作成ができる。</div>	<div>教科書</div> <div>鈴木直樹・梅澤秋久・鈴木聡・松本大輔 『学び手の視点から創る小学校の体育授業』(大学教育出版) 文部科学省、文科省= 『小学校学習指導要領解説 体育編(平成20年8月)』(東洋館出版社)</div> <div>参考書</div>																
<div>受講者に対する要望</div> <div>講義と実技を行うので、運動のできる服装を準備して下さい。その際、小学校の教員が体育の授業に臨むうえでふさわしい服装として下さい。また、授業中に学習指導案を作成しますので、ノートパソコンをもっている人は持参して下さい。</div>	<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 体育の授業づくり・ 模擬授業・ 学習指導案・ 授業観察</div>																

道徳教育の研究		TEAT-0-206	
担当教員：市村 和子			
学期：週間授		科目：専門科目	必修・選択：選択科目
単位：2		コード：1C636180	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. オリエンテーション、「特別の教科 道徳」改訂の経緯と基本方針 02. 道徳教育と道徳科、道徳科の目標 03. 道徳科の内容の基本的性格 04. 道徳科の内容項目 1（自分自身、人との関わり） 05. 道徳科の内容項目 2（集団や社会との関わり、生命や自然、崇高なものとの関わり） 06. 道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画 07. 道徳科の指導 08. 学習指導案（内容、作成の主な手順） 09. 資料分析について 10. 教材の開発と活用 11. 道徳科の評価 12. 模擬授業 1（低学年教材） 13. 模擬授業 2（中学年教材） 14. 模擬授業 3（高学年教材） 15. 小学校における道徳教育のまとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【C】小学校教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
小学校における「特別の教科 道徳」改訂の経緯や基本方針、道徳科の目標及び内容等についての概要を学ぶ。また、資料分析の仕方や学習指導の展開の仕方を知り、学習指導案の作成、模擬授業等をおして授業の進め方を学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標			
小学校における道徳教育の目標、「特別の教科 道徳」の目標及び内容構成の考え方を理解するとともに、道徳科の指導過程や指導方法を学び、学習指導を構想する力を身に付けることができる。		準備学習(予習)	
		道徳科の教材を積極的に読み、多様な教材の開発に努めること。	
		準備学習(復習)	
		毎回の授業のポイントを整理すること。	
		評価方法	
		(1) 平常点 30% (2) 指導案作成・模擬授業 40% (3) 理解度の確認 30% レポート、テスト	
		毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。	
受講者に対する要望		教科書	
自らの道徳的実践力の向上に努めてほしい。		授業の中で指示をする	
		参考書	
学びのキーワード			
・ 特別の教科 道徳科 ・ 資料分析 ・ 学習指導案 ・ 模擬授業 ・ 道徳的実践力			

特別活動の理論と方法		TEAT-0-302	
担当教員：丸山 綱男、小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1C636285	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. オリエンテーション 02. 特別活動の意義と役割 03. 学習指導要領「特別活動」のねらい 04. 児童会・クラブ活動の指導 05. 学級活動Ⅰ（学級活動の目標と内容） 06. 学級活動Ⅱ（学級や学校の生活づくり） 07. 学級活動Ⅲ（日常の生活や学習への適応及び健康安全） 08. 学校行事Ⅰ（学校行事の目標と内容） 09. 学校行事Ⅱ（学校行事の実践事例） 10. 実践事例にみる特別活動の展開 11. 模擬授業の構想と指導案の作成Ⅰ 12. 模擬授業の構想と指導案の作成Ⅱ 13. 模擬授業の演習と省察Ⅰ 14. 模擬授業の演習と省察Ⅱ 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【C】小学校教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
特別活動は「なすことによって学ぶ」と言われるが、「なすことによって何を身につけたか」を重視したい。他者とかかわりながら、人と人とかかわり方を学ぶとともに、自主的・実践的に取り組む態度を形成する大変重要な活動である。教師は教科書という枠がないので知識技能を伝達するのではなく、教師と児童、そして児童同士の信頼関係を共に創っていくということが求められる。講義では、子どもの自主性を育むために教師が特別活動の教育的意義を理解し体験活動を充実させていく必要性を明らかにする。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
授業では、学習指導要領における小学校特別活動の位置づけについて学ぶところから始める。その上で、特別活動の発生や変遷をたどり、特別活動の意義や内容を理解するとともに、特別活動の実際の進め方について何が必要かの研究を深める。特別活動は、教科書がないということで担任の指導観や力量に左右されることが多くバラツキが懸念される。実践事例を参考にして模擬授業を構想し、授業の展開を試みることを通して、学校・学級づくりにおける教師の指導力の在り方を体験する。		授業終了時には、シラバスの次回の授業内容を提示しますので、必ずテキストや資料等に目を通して授業に参加する。	
		準備学習(復習)	
		授業中に示したポイントや重要事項などの箇所について各自でメモをもとに確認しておく。	
受講者に対する要望		評価方法	
・小学校教員となる強い意志をもって特別活動の授業に臨む。 ・小学校学習指導要領解説「特別活動編」を毎回必ず持参する。 		(1) 平常点Ⅰ 30% (2) 指導案作成 20% (3) 模擬授業への参加 20% (4) 試験 30%	
学びのキーワード		教科書	
・特別活動の意義 ・人と人とかかわり ・自主的・実践的 ・模擬授業		文部科学省編著『小学校学習指導要領解説 特別活動編』（東洋館出版社）	
		参考書	

教育方法論（C-①～⑥）

TEAT-0-205

担当教員：市村 和子、齋藤 範雄

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C636390

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

本講義は、カリキュラム構成や教育の方法に関する基礎的・基本的な理論を学ぶことで、授業づくりを行うために必要な知識を習得することができるようにする。また、教育メディアについて学び、演習を通して実践的な技能を身に付けることができるようにする。

(2) 学びの意義と目標

幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得のための科目であり、「児童学概論」「教育原理」「発達心理学」「児童教育学」「基礎実習」等の授業、幼稚園や小学校での実習と深く関連している。授業を通して、発問・指示・板書・説明等の教授スキルやメディアの活用方法を身に付け、実践に生かすことができるようにする。

受講者に対する要望

「先生」と呼ばれる職業を目指す者として、どのような態度で授業に臨めばよいかわかりやすく常に考えて参加すること。

学びのキーワード

- ・授業
- ・カリキュラム
- ・教授スキル
- ・教育メディア
- ・子ども理解

授業計画

01. オリエンテーション、学校・教室・授業とは何か
02. 教育の変遷について
03. カリキュラム、学習指導要領について
04. 子ども理解について
05. 教授スキル1（発問・指示・説明）
06. 教授スキル2（教授組織、学習形態）
07. 教授スキル3（評価）
08. 評価、メディアの活用について
09. 教育メディア演習1（ソフトの操作方法と班及び役割分担決め）
10. 教育メディア演習2（自己紹介ファイル及び研究調査内容、作成）
11. 教育メディア演習3（作品完成、発表原稿作成）
12. 教育メディア演習4（発表会及び評価について）
13. 今日の課題1（発達障害について）
14. 今日の課題2（主な発達障害の支援方法について）
15. まとめ

準備学習（予習）

前時に予告された内容について調べておくこと

準備学習（復習）

本時の学習内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | |
|------------|----------------------|
| (1) 平常点 | 30% 積極的な発言をすること |
| (2) 理解度の確認 | 70% テスト、課題レポート、作品、発表 |

毎回の出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

随時プリントを配付する

教育方法論（C-⑦～⑫）

TEAT-0-205

担当教員：市村 和子、齋藤 範雄

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C636395

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

本講義は、カリキュラム構成や教育の方法に関する基礎的・基本的な理論を学ぶことで、授業づくりを行うために必要な知識を習得することができるようにする。また、教育メディアについて学び、演習を通して実践的な技能を身に付けることができるようにする。

(2) 学びの意義と目標

幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得のための科目であり、「児童学概論」「教育原理」「発達心理学」「児童教育学」「基礎実習」等の授業、幼稚園や小学校での実習と深く関連している。授業を通して、発問・指示・板書・説明等の教授スキルやメディアの活用方法を身に付け、実践に生かすことができるようにする。

受講者に対する要望

「先生」と呼ばれる職業を目指す者として、どのような態度で授業に臨めばよいかわかりやすく常に考えて参加すること。

学びのキーワード

- ・授業
- ・カリキュラム
- ・教授スキル
- ・教育メディア
- ・子ども理解

授業計画

01. オリエンテーション、学校・教室・授業とは何か
02. 教育の変遷について
03. カリキュラム、学習指導要領について
04. 子ども理解について
05. 教授スキル1（発問、指示、説明）
06. 教授スキル2（教授組織、学習形態）
07. 教授スキル3（評価）
08. 評価、メディアの活用について
09. 教育メディア演習1（ソフトの操作方法と班及び役割分担決め）
10. 教育メディア演習2（自己紹介ファイル及び研究調査内容、作成）
11. 教育メディア演習3（作品完成、発表原稿作成）
12. 教育メディア演習4（発表会及び評価について）
13. 今日の課題1（発達障害について）
14. 今日の課題2（主な発達障害の支援方法について）
15. まとめ

準備学習(予習)

前時に予告された内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の学習内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | |
|------------|----------------------|
| (1) 平常点 | 30% 積極的な発言をすること |
| (2) 理解度の確認 | 70% テスト、課題レポート、作品、発表 |

毎回の出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

随時プリントを配付する

生徒指導論（進路指導を含む。）		TEAT-0-208
担当教員：小川 隆夫		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1C636400
学部教育の関連目	授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【C】小学校教諭一種免許：必修科目		
(1) 内容	01. 生徒指導の意義と役割、自己指導力の育成、保護者との連携 02. 適応と発達、欲求と欲求不満、適応と適応機制、発達の理論 03. 生徒理解の方法と留意点 04. 学校の生徒指導、教科指導と道徳指導、特別指導と生徒指導、生徒指導体制 05. 懲戒と体罰、体罰と虐待 06. 問題行動の分類、近年の問題行動の特徴、問題行動への対応方法と新たな視点 07. いじめ・不登校 08. 校内暴力と家庭内暴力 09. 家庭の生徒指導、子どもにとっての家庭、父親と母親の役割、ひとり親家庭における父親・母親の役割 10. 教育相談と進路指導・カウンセリング 11. 生徒指導と特別支援教育 12. 教職科目としての生徒指導論 13. プレゼンテーション 「教育相談とカウンセリングの望ましいあり方」について 14. プレゼンテーション 「自己指導力を育成する手法」について 15. 授業の確認とまとめ	
生徒指導は、児童が自分自身を見つめ、よりよく成長していくことを援助する指導のことである。また、生徒指導は授業、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事、給食、掃除、休み時間などのすべての活動を通して行われることから、実際の学校生活の様々な場面を想定し、援助や指導方法、教師の立場や適切な行動などについて話し合う。		
(2) 学びの意義と目標	準備学習(予習)	
児童は集団生活の中で人と関わりながら歩んでいる。その中では適度な人間関係を保ちながら、困った時も切り抜けていく力を要求される。生徒指導を学ぶ意義は、日常生活の中で児童を援助、指導するうえでの具体的な指針が得られることである。 生徒指導の基本的な考え方を身につけることにより、一人ひとりの良さを伸ばし、様々な場面での説得力ある対応ができ、解決していく力がつくことを目標とする。	テキストの指定ページを読んで授業に臨む。新聞から、教育関係の記事を選び。自分の意見を加えたプレゼンができるようにしておく。	
受講者に対する要望	準備学習(復習)	
いじめや自殺など社会での生徒指導への関心が高い。受講生は新聞を読み、世の中で起こっている事件や事故、教育関連のニュースなどに目を向けて欲しい。	テキストの指定ページの復習をする。日常的に新聞に目を通すこと。	
学びのキーワード	評価方法	
・児童理解 ・いじめ ・問題行動 ・家庭の生徒指導 ・教育相談と進路指導	(1) 授業への参加度 20% (2) レポート 20% (3) プレゼンテーション 30% (4) 期末テスト 30%	
	教科書	
	橋本 昌久、篠田 輝子、佐々木 史之、久我 隆一、高島 翠、藤田 主一、齋藤 雅英『新 生徒指導論12講』（福村出版）978-4-571-10150-2	
	参考書	

基礎実習（C-①～⑥）		TEAT-C-282	
担当教員：相川 徳孝、齋藤 範雄			
学期：前期（ 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C636505	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 授業の進め方についてのオリエンテーション 実習することの意味について</div> <div>02. 幼稚園について</div> <div>03. 保育所と児童福祉施設について</div> <div>04. 小学校について</div> <div>05. 見学すること・観察することの意味</div> <div>06. 子どもの活動記録と考察について</div> <div>07. 見学のポイントと記録について </div> <div>08. 見学者・実習生としてのマナー </div> <div>09. 見学についての事前指導 </div> <div>10. 見学実習(1回目) </div> <div>11. 見学実習（2回目） </div> <div>12. 事後指導(1):子どもの活動のまとめ</div> <div>13. 事後指導(2):グループ討論 </div> <div>14. 見学実習の振り返りと今後の自己課題 について</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>この授業は幼稚園や小学校、児童福祉施設の概要や役割について学ぶと同時に、実際の保育・教育現場で子どもがどのように生活し、学んでいるのかを観察し、子ども理解を深めることを中心に進める。 また、観察した子どもの活動を記録し、読み手が子どもの活動のイメージができるような文章表現の習得も目指す。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>見学をする施設がどのような目的を持った施設なのか、また対象となる子どもの発達をきちんと理解しておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>幼稚園、小学校、児童福祉施設の機能と役割について知ること。また実際の観察を通し、ありのままの子どもの姿を理解し、子どもの活動の意味を考えること。観察した子どもの活動を文章としてまとめる力をつけることを目標とする。</div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもから学ぶという姿勢を持つことと、子どもの生活の場に入るという自覚をもって参加すること。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時に指摘されたことは次回の授業までに訂正しておくこと。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・乳児、幼児、児童の発達について知る ・子どもが生活している施設の理解を深める(幼稚園・小学校・児童福祉施設) ・記録の取り方とまとめ方 </div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 実習評価</div><div>70%</div></div><div><div>(2) 事後指導</div><div>15%</div></div><div><div>(3) レポート</div><div>15%</div></div></div> <div>見学実習については事前指導、の事後指導をすべて受けていることが前提である。またレポートや日誌を期日までに提出することが評価の前提となる。</div>	
		<div>教科書</div>	
		<div>参考書</div> <div>幼稚園教育要領 保育所保育指針</div>	

基礎実習（C-⑦～⑫）		TEAT-C-282
担当教員：相川 徳孝、齋藤 範雄		
学期：前期（ 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：1 コード：1C636510
学部教育の関連目	【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける	
カリキュラム上の位置付け	【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目	
(1) 内容	この授業は幼稚園や小学校、児童福祉施設の概要や役割について学ぶと同時に、実際の保育・教育現場で子どもがどのように生活し、学んでいるのかを観察し、子ども理解を深めていくことを中心に進める。 また、観察した子どもの活動を記録し、読み手が子どもの活動をイメージできるような文章表現の習得も目指す。	
(2) 学びの意義と目標	幼稚園、小学校、児童福祉施設の機能と役割について知ること。また実際の観察を通し、ありのままの子どもの姿を理解し、子どもの活動の意味を考えること。観察した子どもの活動を文章としてまとめる力をつかることを目標とする。	
受講者に対する要望	子どもから学ぶという姿勢を持つことと、子どもの生活の場に入るという自覚をもって参加すること。	
学びのキーワード	・乳児、幼児、児童の発達について知る ・子どもが生活している施設の理解を深める（幼稚園・小学校・児童福祉施設） ・記録の取り方とまとめ方	
授業計画	01. 授業の進め方についてのオリエンテーション 実習することの意味について 02. 幼稚園について 03. 児童福祉施設について 04. 小学校について 05. 見学すること・観察することの意味 06. 子どもの活動記録と考察について 07. 見学のポイントと記録について 08. 見学者・実習生としてのマナー 09. 見学実習についてのオリエンテーション 10. 見学実習（1回目） 11. 見学実習（2回目） 12. 事後指導(1):子どもの活動のまとめ 13. 事後指導(2):グループ討論 14. 見学実習の振り返りと自己課題 15. まとめ	
準備学習(予習)	見学をする施設がどのような目的を持った施設なのか、また対象となる子どもの発達をきちんと理解しておくこと。	
準備学習(復習)	授業時に指摘されたことは次回の授業までに訂正しておくこと。	
評価方法	(1) 実習評価 70% (2) 事後指導 15% (3) レポート 15%	
	見学実習については事前指導、実習後の事後指導をすべて受けていることが前提である。またレポートや日誌を期日までに提出することが評価の前提となる。	
教科書		
参考書	幼稚園教育要領 保育所保育指針	

小学校教育実習

TEAT-C-383

担当教員：川瀬 敏行、市村 和子、齋藤 範雄

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：5 コード：10637355

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

小学校教育実習は、実際の小学校の学校現場で授業をし、児童理解につとめ、様々な人間関係を学ぶ場である。そのため、事前指導をし、実習終了後に事後指導を行う。

* 教育実習(実習校で4週間)

(2) 学びの意義と目標

小学校の教育実習は、小学校の教員を志望する
 学生が、大学の教職課程で習得した知識・技能を
 基礎として、小学校において教師に求められる職
 務の一端を実地に学ぶところに意義がある。実際
 に小学校において、児童の発達段階に応じたコ
 ミュニケーションの取り方などの生徒指導、教科
 等の授業観察や授業実践、教室掲示や学級事務な
 どの学級経営等の力をつけることを目標にしてい
 る。

受講者に対する要望

実習校では実習生としての立場を自覚し、指導や助言を素直に受け、実りある経験となるよう意欲的に誠意をもって取り組むことを望む。

学びのキーワード

- ・実習の意義と心構え
- ・児童の発達特性
- ・指導案と指導技術
- ・実習日誌・実習報告
- ・教師としての力量向上

授業計画

01. 教育実習の意義と心構え
02. 教育実習生の日について
03. 授業づくりの基礎基本と授業実践演習に向けて
04. 小学校の組織と小学生の一般的特色について
05. 学習指導案の作成について
06. 教育実習日誌の書き方とあいさつの仕方について
07. 実習直前指導 *教育実習(実習校で4週間)
08. 実習報告1・実習校で学んだこと(グループ前半) /事後指導個人面談
09. 実習報告2・実習校で学んだこと(グループ後半) /事後指導個人面談
10. 教師としての力量向上1(場面指導の基本とポイント)/事後指導個人面談
11. 教師としての力量向上2(場面指導事例研究)
12. 教師としての力量向上3(学習指導)
13. 教師としての力量向上4(生徒指導)
14. 教師としての力量向上5(学級経営)
15. 小学校教育実習のまとめ

準備學習(予習)

あいさつ・服装などへの配慮等をはじめ実習への心構え、授業実践等、実習に向けた準備に真剣に取り組むこと。

準備學習(復習)

事前指導の内容を反復しての理解、実習の反省等をよく行い、毎日の実習日誌の整理、終了後の報告書の作成、今後の学習の課題の整理などができるようにすること。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 30% | |
| (2) 実習校からの報告 | 50% | 実習校の評価、巡回訪問での情報 |
| (3) 実習日誌・報告書 | 20% | 実習日誌、報告書、成果と改善策 |

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度、欠席及び参加の態度が悪い場合は減点の対象となる。上記及び実習校の指導、巡回報告、実習日誌、実習報告書等、総合的に判断します。

教科書

参考書

担当教員：喜田 敬

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637545

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種免許：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
- 【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

造形教育の歴史は、各時代の思潮とともに変化を遂げてきた。本講義では、現場で必要とされる造形技法を学ぶとともに、造形教育の望ましい在り方について考える。

(2) 学びの意義と目標

喜びを持って子どもたちと、造形活動を通し接する事のできる指導者の養成を目標とする。

受講者に対する要望

子どもたちにとって、造形表現は楽しいということ念頭に受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・見る
- ・触れる
- ・感じる
- ・作る
- ・考える

授業計画

01. オリエンテーション
02. 造形教育の歴史
03. 世界の造形教育とその理念
04. 幼児の発達と幼児画の特徴
05. 材料体験について
06. フロッタージュ制作 葉を使ってフロッタージュ
07. フロッタージュ制作 大学内のデコボコを使ってフロッタージュ
08. スパッタリング制作 落葉のスパッタリング
09. スパッタリング制作 ステンシルを使ってスパッタリング
10. コラージュ制作 ステンシルからコラージュへ
11. フォトコラージュ制作 雑誌の写真でコラージュ
12. 園だより 園だよりの目的、意義、内容、形式
13. 園だより制作 完成
14. 絵画鑑賞
15. まとめ

準備学習(予習)

予習のため配布するプリントを読むこと。

準備学習(復習)

授業で感じた質問、疑問、意見など書き出し、次回発言できるようにする。

評価方法

- | | |
|----------------|----|
| (1) 活動性・平常点・制作 | 90 |
| (2) テスト | 10 |

教科書

参考書

担当教員：喜田 敬

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637550

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

造形教育の歴史は、各時代の思潮とともに変化を遂げてきた。本講義では、現場で必要とされる造形技法を学ぶとともに、造形教育の望ましい在り方について考える。

(2) 学びの意義と目標

喜びを持って子どもたちと、造形活動を通し接する事のできる指導者の養成を目標とする。

受講者に対する要望

子どもたちにとって、造形表現は楽しいということ念頭に受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・見る
- ・触れる
- ・感じる
- ・作る
- ・考える

授業計画

01. オリエンテーション
02. 造形教育の歴史
03. 世界の造形教育とその理念
04. 幼児の発達と幼児画の特徴
05. 材料体験について
06. フロッタージュ制作 葉を使ってフロッタージュ
07. フロッタージュ制作 大学内のデコボコを使ってフロッタージュ
08. スパッタリング制作 落葉のスパッタリング
09. スパッタリング制作 ステンシルを使ってスパッタリング
10. コラージュ制作 ステンシルからコラージュへ
11. フォトコラージュ制作 雑誌の写真でコラージュへ
12. 園だより 園だよりの目的、意義、内容、形式
13. 園だより制作 完成
14. 絵画鑑賞
15. まとめ

準備学習(予習)

予習のため配布するプリントを読むこと。

準備学習(復習)

授業で感じた質問、疑問、意見など書き出し、次回発言できるようにする。

評価方法

- | | |
|----------------|----|
| (1) 活動性・平常点・制作 | 90 |
| (2) テスト | 10 |

教科書

参考書

プリントを配布

図画工作B（C-1）		FART-C-141
担当教員： 喜田 敬		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1C637665
<div>学部教育の関連目</div> <div>【C】 教師に必要な知識・技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業概要説明／アンケート</div> <div>02. 子どもの発達と描く力</div> <div>03. 課題1：色を遊ぶ-（透明水彩絵具の特徴）</div> <div>04. 課題1：色を遊ぶ-（発見とレイアウト／台紙枠の作成）</div> <div>05. 課題1：色を遊ぶ-（透明水彩作品の仕上げと講評）</div> <div>06. 課題2：木をつくろう-（構造の発見と展開：針金工作）</div> <div>07. 課題2：木をつくろう-（コラージュ）</div> <div>08. 課題2：木をつくろう-（仕上げ）</div> <div>09. 課題3：色とイメージ-（色彩の基礎知識／説明）</div> <div>10. 課題3：色とイメージ-（トレースと転写作業）</div> <div>11. 課題3：色とイメージ-（アクリル絵具彩色&仕上げ）</div> <div>12. 課題3：色とイメージ-（イメージの採取／互評会）</div> <div>13. 課題4：石の制作-（紙粘土による造形）</div> <div>14. 課題4：石の制作-（透明水彩による着色／仕上げ／撮影）</div> <div>15. まとめ：制作レポート作成／授業全体総括&作品返却</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【C】 小学校教諭一種免許：必修科目</div> <div>【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目</div> <div>【C】 保育士資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>色彩と造形を、必要な基本的知識と制作の具体的説明に沿って行う4つの課題制作を軸とした、自らの造形活動への関心と意欲を高めることによって、幼児／児童に対する積極的な教育活動への起点となる実技科目である</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>色彩と造形を、学生自らの経験として実践的に学び、基本的な造形教育に関わる知識を獲得すると同時に自身の感性と想像力を再認識することで、幼児、児童への共感しながら学習指導のできる力を養成する</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>課題への構想を練る等の事前準備を求める場合があります。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>課題はそれぞれが何らかの関連性を持って配置されています。経験を積み重ねる意識を持って参加して下さい。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>意欲的に楽しみましょう。体調を整えて参加して下さい。</div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 活動性・課題90%</div><div>(2) テスト10%</div></div> <div>課題は全て完成し、提出することが評価の際の基本要件です。欠席等での作業の遅れは教員がサポートしますが、基本的には各自で工夫し取り戻して参加していくことが必要となります。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・あそび</div><div>・観察</div><div>・思考</div><div>・創造</div><div>・表現</div></div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div> <div>講義内容と課題に沿ってプリントを配布します。また出来上がった受講者全員の制作物を撮影もしくはスキャンニングの上、プリントを制作し配布します。A4サイズのクリアファイル（20ポケット）を各自用意し持参して下さい。</div>	

図画工作B (C-2)

FART-C-141

担当教員： 喜田 敬

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637670

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

色彩と造形を、必要な基本的知識と制作の具体的な説明に沿って行う4つの課題制作を軸とした、自らの造形活動への関心と意欲を高めることによって、幼児／児童に対する積極的な教育活動への起点となる実技科目である。

(2) 学びの意義と目標

色彩と造形を、学生自らに経験として実践的に学
び、基本的な造形教育に関わる知識を獲得すると
同時に自身の感性と想像力を再認識すること
で、幼児、児童への共感しながら学習指導の
力を養成する

受講者に対する要望

意欲的に楽しみましょう。体調を整えて参加して下さい。

学びのキーワード

- ・ あそび
- ・ 観察
- ・ 思考
- ・ 創造
- ・ 表現

授業計画

01. 授業概要説明／アンケート
02. 子どもの発達と描く力
03. 課題1：色を遊ぶー（透明水彩絵具の特徴）
04. 課題1：色を遊ぶー（発見とレイアウト／台紙枠の作成）
05. 課題1：色を遊ぶー（透明水彩作品の仕上げと講評）
06. 課題2：木をつくろうー（構造の発見と展開：針金工作）
07. 課題2：木をつくろうー（コラージュ）
08. 課題2：木をつくろうー（仕上げ）
09. 課題3：色とイメージー（色彩の基礎知識／説明）
10. 課題3：色とイメージー（トレースと転写作業）
11. 課題3：色とイメージー（アクリル絵具彩色&仕上げ）
12. 課題3：色とイメージー（イメージの採取／互評会）
13. 課題4：石の制作ー（紙粘土による造形）
14. 課題4：石の制作ー（透明水彩による着色／仕上げ／撮影）
15. まとめ：制作レポート作成／授業全体総括&作品返却

準備學習(予習)

課題への構想を練る等の事前準備を求める場合があります。

準備學習(復習)

課題はそれぞれが何らかの関連性を持って配置されています。
経験を積み重ねる意識を持って参加して下さい。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 活動性・課題 | 90% |
| (2) テスト | 10% |

課題は全て完成し、提出することが評価の際の基本要件です。欠席等での作業の遅れは教員がサポートしますが、基本的には各自で工夫し取り戻して参加していくことが必要となります。

教科書

参考書

講義内容と課題に沿ってプリントを配布します。また出来上がった受講者全員の制作物を撮影もしくはスキャンニングの上、プリントを制作し配布します。A4サイズのクリアファイル（20ポケット）を各自用意し持参して下さい。

体育A (C-1)

PHED-C-141

担当教員：高橋 進

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637985

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種免許：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
- 【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳・投の基本的な運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。

更に、既述した運動や遊びに必要な遊具や用具についての造詣を深めるとともに、その活用の仕方についても指導実践の中で理解を進める。

カリキュラム上の位置づけ：

幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

(2) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. オリエンテーション・運動遊び、身体運動の位置づけ
02. 体ほぐしの特性と実践
03. 体ほぐしの実践と指導のあり方
04. ごっこ遊び、劇遊びの実践と指導のあり方
05. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
06. 歩・走・跳の運動の実践（鬼遊びなど）
07. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
08. 歩・走・跳の運動の実践（縄遊びを中心に）
09. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
10. ゲーム遊びの特性と指導のあり方。ボールゲームの特性
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ネット型）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム・ゴール型）
14. ボールゲームの実践（野球型）
15. 春学期のまとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。また、平成22年7月22日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正の要旨を理解すること。

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 課題レポート | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説体育編」 平成20年6月
[http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf]
文部科学省 「幼稚園教育要領」 平成20年3月
[http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you.pdf]

体育 A (C-2)

PHED-C-141

担当教員：高橋 進

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C637990

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳・投の基本的な運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。

更に、既述した運動や遊びに必要な遊具や用具についての造詣を深めるとともに、その活用の仕方についても指導実践の中で理解を進める。

カリキュラム上の位置づけ：

幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

(2) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. オリエンテーション・運動遊び、身体運動の位置づけ
02. 体ほぐしの特性と実践
03. 体ほぐしの実践と指導のあり方
04. ごっこ遊び、劇遊びの実践と指導のあり方
05. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
06. 歩・走・跳の運動の実践（鬼遊びなど）
07. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
08. 歩・走・跳の運動の実践（縄遊びを中心に）
09. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
10. ゲーム遊びの特性と指導のあり方。ボールゲームの特性
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ネット型）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム・ゴール型）
14. ボールゲームの実践（野球型）
15. 春学期のまとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。また、平成22年7月22日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正の要旨を理解すること。

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 課題レポート | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説体育編」 平成20年6月
[http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf]
文部科学省 「幼稚園教育要領」 平成20年3月
[http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you.pdf]

体育B（C-1）

PHED-C-141

担当教員：高橋 進

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C638005

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】保育士資格：必修科目

(1) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。更に、秋学期については、指導実践・模擬授業の実施についても力を入れて授業を展開していくこととなる。

指導実践や模擬授業後については、指導・授業の振り返りを行い、授業評価やモニタリングの重要性の理解を深める。

カリキュラム上の位置づけ：

幼児・児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

(2) 学びの意義と目標

幼児・児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、秋学期については、計画的、効果的に子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけが、指導実践や、模擬授業をとおしてできるようになること、あるいは指導や授業を正しくモニタリングでき得る資質の育成を目的とする。

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. ゲーム遊び・ごっこ遊び・劇遊びの指導実践・模擬授業（鬼遊びも含む）
02. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（用具を使った鬼遊び）
03. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（縄遊び）
04. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（教育機器の取り扱いを含む）
05. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（固定施設を使った運動遊び）
06. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（マット・鉄棒・跳び箱を使った運動遊び）
07. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（ボール・フラフープなどを操作する運動遊び）
08. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（竹馬・二輪車などを操作する運動遊び）
09. 力試しの運動の特性
10. 力試しの運動の指導実践・模擬授業
11. 表現リズム遊びの特性
12. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（リズム遊び）
13. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（表現遊び）
14. 授業成果発表【プレゼンテーション】
15. 総まとめ

準備学習（予習）

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。

準備学習（復習）

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題レポート | 30% |
| (2) 指導計画・指導案 | 20% |
| (3) 模擬授業・指導実践 | 30% |
| (4) 授業成果発表 | 20% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説体育編」 平成20年6月
[http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_/_iosFiles/afiedfile/2011/01/19/1234931_010.pdf]
文部科学省 「幼稚園教育要領」 平成20年3月
[http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you.pdf]

体育 B (C-2)

PHED-C-141

担当教員： 高橋 進

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C638010

学部教育の関連目

【C】 教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 小学校教諭一種免許：必修科目
【C】 幼稚園教諭一種免許：選択必修科目
【C】 保育士資格：必修科目

(1) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。更に、秋学期については、指導実践・模擬授業の実施についても力を入れて授業を展開していくこととなる。

指導実践や模擬授業後については、指導・授業の振り返りを行い、授業評価やモニタリングの重要性の理解を深める。

カリキュラム上の位置づけ：

幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

(2) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いつつ、秋学期については、計画的、効果的に子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけが、指導実践や模擬授業をとおしてできるようになることが、あるいは指導や授業を正しくモタリングできる資質の育成を目的とする。

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・ 身体表現に関する知識・技術
- ・ 健康と運動
- ・ 子どもの体力と健康
- ・ 生涯体育
- ・ 楽しい体育

授業計画

01. ゲーム遊び・こっこ遊び・劇遊びの指導実践・模擬授業（鬼遊びも含む）
02. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（用具を使った鬼遊び）
03. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（縄遊び）
04. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（教育機器の取り扱いを含む）
05. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（固定施設を使った運動遊び）
06. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（マット・鉄棒・跳び箱を使った運動遊び）
07. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（ボール・フラフープなどを操作する運動遊び）
08. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（竹馬・二輪車などを操作する運動遊び）
09. 力試しの運動の特性
10. 力試しの運動の指導実践・模擬授業
11. 表現リズム遊びの特性
12. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（リズム遊び）
13. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（表現遊び）
14. 授業成果発表【プレゼンテーション】
15. 総まとめ

準備學習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。

準備學習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題レポート | 30% |
| (2) 指導計画・指導案 | 20% |
| (3) 模擬授業・指導実践 | 30% |
| (4) 授業成果発表 | 20% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説体育編」 平成20年6月
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf

文部科学省 「幼稚園教育要領」 平成20年3月
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/you.pdf

教育心理学		TEAT-0-201
担当教員：金谷 京子		
学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択必修科目/選択科目 単位：2 コード：1D200511		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する</div> <div>【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理的支援の方法を学ぶ</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 教育心理学の目指すもの・どのように教えるか</div> <div>02. どのように学ぶか、学習とは</div> <div>03. 知識獲得</div> <div>04. 記憶</div> <div>05. 問題解決</div> <div>06. 学習と動機づけ</div> <div>07. 効力感と無気力感</div> <div>08. 原因帰属</div> <div>09. 学級集団と人間関係</div> <div>10. 教師と生徒</div> <div>11. 教育測定と評価</div> <div>12. 測定・評価の方法</div> <div>13. 人格と適応</div> <div>14. 成長と発達</div> <div>15. まとめと評価</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【D】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目【全】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【全】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div> <div>【全】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【全】認定心理士認定資格(D学科)：選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>教育心理学は、教育過程における諸現象を心理学的観点から解明し、教育を効果的に行うための方法を見出すことを目的とした学問である。</div> <div>本講義では、教育心理学の研究の流れを学んだ上で、様々な研究知見の解説を通して学習、授業過程、測定と評価、教師と児童の関係、人格、適応、発達の分野について学ぶ。</div> <div>学び方のコツに関するDVDを視聴しながら、「学習」の方法について理解を深める。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 子どもの発達と学習の過程に関する心理学的な基礎知識を習得する。</div> <div>2) それらの知識を実際の子どもの理解を深めるために利用することができる。</div> <div>3) 子どもの発達と学習の状態に応じた、適切な指導・支援の方法について自らで考え、現代の教育現場における課題の解決を考える。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書を読み、単元の予習をしておく。関連する研究知見を調べてみる。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ノートをまとめて復習し、理解を深める。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>専門用語についてこまめに調べるようにしてください</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 小レポート等20%</div> <div>(2) 試験80%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・学習</div> <div>・教育と心理</div> <div>・動機づけ</div> <div>・教育評価</div>		<div>教科書</div> <div>北尾倫彦ほか『コンパクト教育心理学』（北大路書房）</div> <div>鎌原雅彦・竹網誠一郎『やさしい教育心理学』（有斐閣アルマ）</div> <div>参考書</div>

知的障害児の心理		PSYC-D-200
担当教員： 今中 博章、小島 道生		
学期： 前期（ 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1D202529
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】 環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 知的障害に関する基礎知識（1）障害の概念および定義①日本の定義の変遷、②AMR（アメリカ精神遅滞学会）の定義</div> <div>02. 知的障害に関する基礎知識（2）知的障害の分類</div> <div>03. 知的障害児の認知的特徴（1）視覚、聴覚</div> <div>04. 知的障害児の認知的特徴（2）言語、学習</div> <div>05. 知的障害児の行動的特徴</div> <div>06. 知的障害児の社会性および情動の特徴</div> <div>07. 知的障害と二次障害（心身症および行為障害等を含む）</div> <div>08. 知的障害に対する心理アセスメント（1）知能に関するアセスメント（ビネー式知能検査、WISC、K-ABC、DN-CAS）</div> <div>09. 知的障害に対する心理アセスメント（2）発達に関するアセスメント（津守粗毛式、KIDS、遠城寺式、PVT検査）</div> <div>10. 知的障害に対する心理アセスメント（3）社会適応に関するアセスメント（S-M式社会能力検査、ヴァインランド社会成熟尺度等）</div> <div>11. 知的障害児の認知発達に関する支援（1）ことばの発達支援、絵本を利用した発達支援</div> <div>12. 知的障害児の認知発達に関する支援（2）コンピュータを利用した視覚認知支援、読み書きに関する発達支援</div> <div>13. 知的障害児の社会性および情動発達に関する支援</div> <div>14. 知的障害および知的障害の二次障害への対応</div> <div>15. 全体の振り返り</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本授業は、第一に知的障害の概念に関する基礎的知識を学び、第二に知的障害児の認知、行動、社会性および情動に関する特性を学ぶ。第三に支援に必要なとなる心理アセスメントの概略を学んだ上で、第四に、支援の実際を学ぶことができる構成とした。このことにより、知的障害の心理特性を理解した上でのより実践的な発達支援ができる教師を養成したい。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 知的障害に関する基礎知識を身につけることができる。</div> <div>2) 知的障害児の認知的特徴、行動的特徴、社会性および情動の特徴について理解できる。</div> <div>3) 知的障害児の二次障害について理解できる。</div> <div>4) 知的障害児に対する心理アセスメントについて理解できる。</div> <div>5) 知的障害児の認知発達、社会性および情動発達への支援に関する知識を得ることができる。</div> <div>これらを通して、特別支援教育に携わる教師に必要な知的障害児の心理特性とその支援を学ぶことができる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各回の授業内容に関する基本的概念や用語について事前に調べておくこと。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配られた資料等の整理を通して、理解の確認をしておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>基本的概念や用語など、覚える努力が必要となる。ノート、資料のファイリングなど、各自で自分にあった整理方法、学習方法を考えてください。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業における発表、小レポート等 60%</div> <div>(2) 試験 40%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 知的障害</div> <div>・ 心理特性</div> <div>・ 心理アセスメント</div> <div>・ 支援方法</div>	<div>教科書</div> <div>梅谷 忠勇、堅田 明義 『知的障害児の心理学』（田研出版）</div> <div>小池 敏英、北島 善夫 『知的障害の心理学―発達支援からの理解』（北大路書房）</div> <div>参考書</div>	

肢体不自由児の心理・生理・病理		PSYC-D-200
担当教員：川間 健之介		
学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位：2 コード：1D202610
<div>学部教育の関連目</div> <div>環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける 「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 肢体不自由とは 02. 運動機能の障害 中枢神経系・末梢神経系の構造と働き 03. 運動機能の障害 肢体不自由の発生機序について 04. 肢体不自由を起こす疾患 脳性疾患、脊椎・脊髄疾患、骨疾患、関節疾患、形態異常等 05. 肢体不自由を起こす疾患 脳性まひについて 06. 運動障害が子どもの発達に及ぼす影響 運動と認知 07. 運動障害が子どもの発達に及ぼす影響 社会性 08. 脳性まひ児の認知特性 09. 言語・パーソナリティー・学力 10. 中途障害者の心理過程 11. リハビリテーションプロセスとその課題 12. 運動障害のアセスメントについて 医学的側面からの把握 13. 運動障害のアセスメントについて 心理的・教育的側面からの把握 14. 運動障害児の支援について（１）視知覚の特性に配慮した教科指導 15. 運動障害児の支援について（２）身体を通したコミュニケーション指導</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義内容は、まず初めに運動障害（肢体不自由）が生じる発生機序を生理・病理学的に理解し、また、運動障害を引き起こす疾患についての理解ができるように構成されている。その上で、障害が発達に及ぼす心理的影響と、中途障害の場合の自己概念の変容がもたらす心理的影響が理解できる。運動障害（肢体不自由）児へのアセスメントの基礎を学び支援を考えることが出来る構成としている。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 運動機能に関して生理学的に理解し、運動機能障害（肢体不自由）をもたらず病理を理解できる。 2) 運動機能障害（肢体不自由）をもたらず疾患について理解できる。特に脳性まひについての理解ができる。 3) 運動機能障害（肢体不自由）が及ぼす子どもの心理的発達への影響を理解できる。 4) 運動機能障害（肢体不自由）が及ぼす人格への影響を理解できる。 5) 運動機能障害（肢体不自由）のアセスメントと支援の方法について理解できる。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる肢体不自由児の心理特性に関する知識を得、教育の場で知識を実際に活用できる教員の育成を図る。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で指示された用語等は、事前に調べる事</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>特別支援教諭を目指す者として、学ぶ姿勢に責任をもって望んでほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義内容を振り返り、疑問に思った内容をについては、再度、復習する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 講義内容に関するテスト 60% (2) 課題レポート 40%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 肢体不自由とは ・ 中枢神経系・末梢神経系の理解 ・ 脳性麻痺 ・ 心理特性の理解 ・ 支援の実際</div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div> <div>参考書</div>	

PSYC-D-200

単位：2 コード：1D202731

参考書

情緒障害児の心理		PSYC-D-300	
担当教員： 吉井 勘人			
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1D202832	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 情緒障害とは</div> <div>02. 情緒障害と発達障害</div> <div>03. 広汎性発達障害の心理的特徴</div> <div>04. 広汎性発達障害の行動特徴</div> <div>05. 発達障害の二次障害としての情緒障害</div> <div>06. 発達障害の二次障害の心理的・行動的特徴（１）：適応障害（不登校）</div> <div>07. 発達障害の二次障害の心理的・行動的特徴（２）：抑うつ、非行</div> <div>08. 教育臨床と教育相談</div> <div>09. 情緒障害児（発達障害児を含む）に対する行動問題の指導</div> <div>10. 情緒障害児（発達障害児を含む）に対する社会的スキルの指導</div> <div>11. 情緒障害児（発達障害児を含む）に対するコミュニケーション指導</div> <div>12. 教師および保護者へのコンサルテーション</div> <div>13. 介入の事例（１）：自閉症スペクトラム障害の事例</div> <div>14. 介入の事例（２）：不登校の事例</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】特別支援学校教諭一種免許：選択科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本授業では、まず情緒障害（発達障害を含む）の基本的定義と、発達障害との関連について講義する。続いて、特別支援教育における情緒障害に関する今日の課題として、広汎性発達障害と、その二次障害（適応障害、選択性緘黙等）の心理的特徴および行動的特徴を概観する。さらに情緒障害児（発達障害児を含む）に対する指導の方法を学び、実際の介入の事例を通して、心理的・行動的特徴についての理解を深める。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1）情緒障害（発達障害を含む）の基本的定義を理解できる。</div> <div>2）広汎性発達障害の心理的特徴と行動特徴を理解できる。</div> <div>3）発達障害の二次障害（適応障害、選択性緘黙等）の心理的特徴と行動特徴を理解できる。</div> <div>4）情緒障害児（発達障害児を含む）に対する支援の基礎理論と方法を理解でき、またそれらの知識をもとに個々の事例の問題と対処方法を考えることができる。</div> <div>これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる情緒障害児の心理特性に関する知識を得、教育の場で知識を実際に活用できる教員の育成を図る。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書『自閉症児のための社会性発達支援プログラム―意図と情動の共有による共同行為―』を事前に読んでおく。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>ASD児のコミュニケーションと社会的スキルの発達メカニズムと支援方法に関して、よく考え、その認識を深めてほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>自分の考えをまとめること、出来るだけ自分自身の考え方を尊重するように務める。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 自閉スペクトラム症（ASD）</div> <div>・ 自閉スペクトラム症（ASD）</div> <div>・ ASD児における社会的スキルの発達と特徴</div> <div>・ ASD児におけるコミュニケーション発達支援</div> <div>・ ASD児における社会的</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 受講態度40%</div> <div>(2) 発表20%</div> <div>(3) 小テスト40%</div>	
		<div>教科書</div> <div>吉井勘人『自閉症児のための社会性発達支援プログラム―意図と情動の共有による共同行為―』（日本文化科学社）</div> <div>参考書</div>	

体のしくみ・働き		HLTH-D-100
担当教員：小島 龍平		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D300100
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 保健科教諭にとっての解剖学・生理学とは 02. 骨格および骨の働き 03. 心臓および脈管系の構造と働き 04. 気管支および肺の構造と働き 05. 消化管の構造と働き 06. 肝臓・胆のう・膵臓の構造と働き 07. 腎臓の構造と働き 08. 尿管・膀胱の構造と働き 09. 代謝と体温 10. 内分泌系の構造と機能 11. 神経の興奮と伝達のしくみ 12. 脳の構造と機能 13. 末梢神経系の構造と機能 14. 感覚器官の構造と機能 15. 筋の構造・筋収縮と運動制御のしくみ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【D】中学校教諭一種免許：保健必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、保健科教諭として健康教育を行っていく上で、重要な細胞の構造、生命を維持するための機能（植物性機能）と外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を人体の生理機能から学ぶ構成としている。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 骨格の構造と働きが理解できる。 2. 細胞の構造、生命を維持するための機能（植物性機能）である、心・脈管系、呼吸器系、消化器系や腎・泌尿器系の解剖学的構造を把握し、それらと関連した機能を理解できる。 3. 外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を構成する、感覚機能、運動機能およびそれらを統御する中枢神経機能や内分泌機能を、疾患とも関連付けて理解できる。 4. 動物性機能に関わる神経・筋・感覚器の構造について理解できる。 以上のことから、健康教育を行う教員の基本的な知識である体のしくみと働きを理解し、健康の維持増進のための複雑な事象を科学的にとらえる態度を育てる。 人体を統合的に知識を構築する。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>ノートを丁寧にとること。特に、板書の図や、授業中に大切な箇所と強調したことはメモする。疑問点は質問をするなど、授業に積極的に参加すること。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、教科書の該当箇所を、予め読んで疑問点などメモしておくこと。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業中に示されたキーワードや大切だと強調した箇所は復習して、理解を確実にすること。なお、疑問点はメモして、教科書や参考書で調べ、それでも不明な点は次回に質問すること。
小テストを実施する。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加状況・課題作成 60% (2) 定期試験・レポート 20% (3) 小テスト 20%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・食と健康 ・食育</div>		<div>教科書</div> <div>吉岡利忠、菊川忠裕他 『生物・解剖生理学』（理工図書）</div> <div>参考書</div>

栄養学(食品学を含む。)		HLTH-D-100	
担当教員： 大江 敏江			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D300202	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 栄養と健康（目標1） 02. 栄養素の消化・吸収・代謝（目標1） 03. 糖質とは何か（目標1） 04. 糖質の機能と効率的な摂取法（目標2） 05. タンパク質とは何か（目標1） 06. タンパク質の機能と効率的な摂取法（目標2） 07. 脂質とは何か（目標1） 08. 脂質の機能と効率的な摂取法（目標2） 09. ビタミンの必要性（目標1） 10. ミネラルの必要性（目標1） 11. 水分・食物繊維の必要性（目標1） 12. 栄養素の摂取量と消費量のバランス（目標2、3） 13. 日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド（目標2、3） 14. 幼児期・学童期・思春期の栄養学（目標1、2、3） 15. まとめ（目標1、2、3）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：保健必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、①三大栄養素（糖質、タンパク質、脂質） ②微量栄養素（ビタミン、ミネラル） ③その他の栄養成分（水分や食物繊維など）について、その構造と消化・吸収・代謝システム、体内での機能、さらに、どのような食品に多く含まれどのように摂取することが好ましいかについて、理解できるように構成されている。また、栄養素の摂取量と消費量のバランス、体内での過剰状態や不足状態についても概説する。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 食品と身体の双方に存在する栄養素の性質や機能に関する基礎知識を得ることができる。 2. 健康な身体づくりのための、効率的な栄養素の摂取法を理解できる。 3. 栄養素の摂取と消費のバランスが成長期の心身の健康・栄養状態に与える影響について、健康教育を実施し得る基盤をつくる。 以上により、栄養学の基礎的知識を整理すると共に、健康の維持・増進と疾病予防における食の重要性を理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>次週の教科書の該当箇所を読む。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>(1)授業ノート、教科書、配布プリントの順に読み返し理解する。(2)重要と指摘された箇所はよく復習する。(3)小テストは返却後復習し、よく理解する。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 受講態度</div><div>20%</div></div><div><div>(2) 授業内小テスト</div><div>20%</div></div><div><div>(3) 中間テスト</div><div>30%</div></div><div><div>(4) 期末テスト</div><div>30%</div></div></div> <div>60%以上を合格とする。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>予習、復習をしっかりと行いながら授業に参加することを望む。</div>			
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 栄養素</div><div>・ 消化</div><div>・ 吸収</div><div>・ 食事</div><div>・ 健康</div></div>		<div>教科書</div> <div>吉田 勉 『わかりやすい栄養学』（三共出版）</div> <div>参考書</div>	

免疫学・微生物学		HLTH-D-200
担当教員： 一幡 良利		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D300509
学部教育の関連目 【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける		授業計画 01. 微生物学とは何か（微生物の分類学的位置、原核生物と真核生物、細菌とウイルスの一般性） 02. 細菌学総論（細菌の形態、細菌の構造、細菌の増殖）（目標1） 03. 細菌学総論（遺伝情報の発現、遺伝子の変異）（目標1） 04. ウイルス学総論（ウイルスの構造、ウイルスの増殖）（目標1） 05. 感染と発病、感染対策（感染の経過、宿主と微生物の相互関係、感染防御機構）（目標2） 06. 予防接種と免疫療法（ワクチン、免疫血清、ヒト免疫グロブリン製剤）（目標3） 07. 免疫学とは何か 有用な免疫作用と望ましくない免疫作用について（目標3） 08. 抗原（免疫応答を引き起こす抗原の条件とは何か）、抗体（抗体の構造と機能、抗体の免疫反応における働き）（目標3） 09. 細胞1（マクロファージ、好中球、好酸球、好塩基球の免疫系における働き）（目標3） 10. 細胞2（T細胞・B細胞その他の免疫系における働きとその活性化について）（目標3） 11. 免疫成立の機序と腸管粘膜免疫（細胞の生成の場および免疫反応の場における免疫成立の機序、腸管粘膜局所免疫について） <small>目標3</small> 12. アレルギー（アレルギーとは アレルギーの仕組みについて）（目標4） 13. 栄養と免疫（栄養状態と免疫、種々の栄養成分の免疫への影響について）（目標4） 14. 自己免疫（自己免疫の成立機序、 自己免疫病と自己免疫病の発病機構）（目標4） 15. まとめ（これまでの講義についての総括）
カリキュラム上の位置付け 【D】高等学校教諭一種免許：保健必修科目		
(1) 内容 本講義では、まず人の健康に外的に影響する微生物について概説する。次に外的な環境によって人の身体がどのように反応するのかについて免疫学を通して学ぶように構成されている。また、感染症の成立機序と感染予防などについて、栄養や自己免疫等の機能を通して理解できるように構成されている。		
(2) 学びの意義と目標 1. 微生物について理解できる。 2. 微生物と宿主の関係性、感染の機序と対策が理解できる。 3. 免疫学から抗原と抗体の関係を理解し、免疫機能をつかさどる細胞に関しての理解と免疫機序成立の過程について理解できる。 4. アレルギー、栄養と免疫の関連、自己免疫について理解できる。 これらを通して、外的環境と内的環境（身体）との相互作用によって人の健康が維持されていることを学び、よりよく生きようとする人の健康に働きかける保健科教諭の基本的知識を身につける。		準備学習(予習) 授業計画に沿って、教科書の次回該当箇所を予習のこと。
		準備学習(復習) 当日の講義箇所と関連の教科書部分を参照・復習し、疑問や不明の箇所をノートに記し、次回に質問してほしい。
受講者に対する要望 ノートを用意し、必ずノートをとる。不明な点は質問してほしい。 日常起きている感染症の話題に関心をもってほしい。		評価方法 (1) 授業内レポート 30% (2) レポート・定期試験 70%
学びのキーワード ・細菌・ウイルスの構造と増殖 ・遺伝子の変異と耐性菌の出現 ・免疫作用・免疫細胞・抗原と抗体 ・アレルギーとそのタイプ ・自己免疫と自己免疫疾患		教科書 高橋昌巳、一幡良利 『コメディカルのための微生物と感染予防』（桜雲会） 参考書

小児保健学		HESC-D-100
担当教員： 齊藤 理砂子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D300604
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 子どもの身体の解剖生理①（筋骨格・目・耳・歯）（目標１）</div> <div>02. 子どもの身体の解剖生理②（内臓の生理機能）（目標１）</div> <div>03. 子どもの健康状態の把握（目標１）</div> <div>04. 学校感染症①（第１種－エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱等）（目標２）</div> <div>05. 学校感染症②（第２種－インフルエンザ〈鳥インフルエンザを除く〉、百日咳等）</div> <div>06. 学校感染症③（第３種－コレラ、細菌性赤痢等）（目標２）</div> <div>07. 子どものアレルギー疾患①（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）（目標３）</div> <div>08. 子どものアレルギー疾患②（食物アレルギー、アナフィラキシーショック）（目標３）</div> <div>09. 子どもの腎疾患①（糸球体腎炎・尿路感染症）（目標４）</div> <div>10. 子どもの腎疾患②（ネフローゼ症候群・尿検査）（目標４）</div> <div>11. 子どもの心疾患①（先天性心疾患）（目標４）</div> <div>12. 子どもの心疾患②（川崎病・不整脈と心電図）（目標４）</div> <div>13. 子どもの糖尿病と肥満（目標４）</div> <div>14. 子どもの眼疾患・耳鼻咽喉疾患（目標５）</div> <div>15. 小児保健学のまとめ（目標１～５）</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目</div> <div>【D】 中学校教諭一種免許：保健必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、支援について概説する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患、障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 子どもの身体的機能を理解する。</div> <div>2. 学校感染症の特徴と支援について説明できる。</div> <div>3. 子どもの主なアレルギー疾患の特徴と支援について説明できる。</div> <div>4. 子どもの主な慢性疾患の病態と支援について説明できる。</div> <div>5. 子どもの眼疾患、耳鼻咽喉頭疾患の病態と支援について説明できる。</div> <div>以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかけるための実践的な知識・技能を身につける。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に指示される内容について調べておくこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加し、現場に活かせるよう知識を習得してください。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>指示された内容について学習すること。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・小児保健</div> <div>・子どもの健康課題</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加及び筆記試験 60%</div> <div>(2) 定期試験 40%</div>
		<div>教科書</div>
		<div>参考書</div> <div>衛藤 隆 『新世紀の小児保健』（日本小児医事出版社）</div>

病と健康の科学		HLTH-D-100
担当教員： 中村 磐男		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1D300710
学部教育の関連目		授業計画
【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. 健康を脅かす様々な要因（目標1） 02. 感染症とその予防1. 「感染」とはなにか（目標2） 03. 感染症とその予防2. 免疫と予防接種（目標2） 04. 感染症とその予防3. 結核とインフルエンザ（目標2） 05. 感染症とその予防4. コレラ、0157、ノロウィルス（目標2） 06. 感染症とその予防5. AIDS、MRSA （目標2） 07. 電離放射線、紫外線（目標1） 08. 熱中症と体温調節（目標1） 09. 成人病と生活習慣病、一次予防（目標3） 10. 悪性新生物とその予防（目標3） 11. 心疾患とその予防（目標3） 12. 脳血管疾患とその予防（目標3） 13. 糖尿病と合併症、およびその予防（目標3） 14. 健康の定義とプライマリーヘルスケア（目標4） 15. まとめ（目標1～4）
【D】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：保健必修科目		
(1) 内容		準備学習(予習)
本講義は、人類の健康に脅威となった疾病の原因とその予防について概説する。主な分野は、感染症、生活習慣病、環境要因に起因する疾病などである。健康とはなにか、人類はこの数百年に限っても、どのような病の脅威と戦ってきたかについても理解できるように構成されている。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)
1. 健康を脅かす様々な要因について理解する。 2. 感染症とその予防について理解する。 3. 生活習慣病の要因と予防について理解する。 4. 健康の定義とプライマリーヘルスケアについて説明できる。 以上を通して、健康の維持・増進と疾病予防について理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。		
受講者に対する要望		評価方法
ノートを必ず取ること。遅刻や欠席をしない、教室の前列に着席する、机の上に雑誌、スマートフォン、飲食物は置かないこと。 教科書「イラスト公衆衛生学」は、予習・復習のためにも、是非、入手してほしい。		
学びのキーワード		教科書
・ 感染と免疫 ・ 新興感染症、再興感染症、日和見感染、平素無害菌 ・ 生活習慣病、メタボリックシンドローム ・ 特定健診、健康寿命と平均寿命 ・ 健康の定義、プライマリーケア		
		参考書
		石川哲也ほか 『イラスト公衆衛生学』（教学社）

学校保健概論(安全を含む。)		HLTH-D-200
担当教員： 齊藤 理砂子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D300913
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（目標 1） 02. 学校保健概説Ⅰ（歴史的変遷・意義・関連法規）（目標 1. 2） 03. 学校保健概説Ⅱ（領域構造）（目標 4） 04. 児童生徒の発育発達と健康課題（目標 3） 05. 学校保健計画 法的根拠と意義・内容（目標 2） 06. 健康観察 意義（目標 3） 07. 健康診断 意義、法的根拠、方法指導（目標 2. 3） 08. 疾病管理 疾病の基礎知識（目標 1. 3） 09. 感染症予防 感染症の基礎知識、種類、処置（目標 1. 3） 10. 学校救急処置活動 学校における救急処置活動の意義、実際（目標 1. 3） 11. 学校環境衛生 法的根拠、学校環境衛生検査の実際（目標 1. 2. 3） 12. 学校健康相談活動 学校医・学校歯科医・養護教諭の行う健康相談（目標 1. 3） 13. 学校安全計画・危機管理 児童生徒の災害の実態・安全教育（目標 1. 3. 4） 14. 学校保健組織活動 意義・組織（教職員・児童生徒・地域）（目標 4） 15. まとめ（学校保健の今日的課題）（目標 1. 2. 3. 4）</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【D】中学校教諭一種免許：保健必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、学校保健の目的・意義、関係法規等を概説した上で、学校保健計画、学校環境衛生、救急処置活動等の学校保健全般に関わることを理解できるように構成されている。さらに、子ども期における発育発達と健康課題、それらを踏まえた保健管理、健康教育について学習し、実態に応じた学校保健活動が展開できるために必要な知識や技術を学べるように構成されている。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 学校保健の意義、制度、領域について説明できる。 2. 学校保健の関係法規について理解できる。 3. 学校保健にかかわる組織、関係機関、関係職員の役割を理解し、説明できる。 4. 学校保健の構造と関わる組織について考えることができる。 5. 学校保健推進の方法を理解し、必要なプレゼンテーション能力を身につける。 以上により、子ども期の身体的な健康に携わる者として学校保健について理解し、さらに今日的課題について考察し、保健管理、健康教育につなげた実践が展開できるようになるための基礎力を身に付ける。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的に授業に参加すること</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・学校保健 ・保健管理 ・児童生徒の健康課題 ・児童生徒の発育発達 ・学校保健組織活動</div>		
<div>教科書</div> <div>和田雅史・鈴木明 『現代学校保健学』（共栄出版）</div>		
<div>参考書</div>		

救急処置並びに実習		HLTH-D-200	
担当教員： 齊藤 理砂子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 2		コード： 1D301305	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける		01. オリエンテーション（授業の進め方の説明）① 02. オリエンテーション（授業の進め方の説明）② 03. 学校救急処置過程 保健室来室時の対応（目標1）① 04. 学校救急処置過程 保健室来室時の対応（目標1）② 05. 学校救急体制（校内役割と組織図等作成）（目標1. 2）① 06. 学校救急体制（校内役割と組織図等作成）（目標1. 2）② 07. 学校救急処置の基本（目標1. 2）① 08. 学校救急処置の基本（目標1. 2）② 09. けが・病気の対応（1）小学校（目標1. 3. 5）① 10. けが・病気の対応（1）小学校（目標1. 3. 5）② 11. けが・病気の対応（2）中学校（目標1. 3. 5）① 12. けが・病気の対応（2）中学校（目標1. 3. 5）② 13. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（1）こどもの場合（目標4）① 14. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（1）こどもの場合（目標4）② 15. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（2）大人の場合（目標4）① 16. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（2）大人の場合（目標4）② 17. けが・傷の処置（1）中学校・高校に多いけが（目標5）① 18. けが・傷の処置（1）中学校・高校に多いけが（目標5）② 19. けが・傷の処置（2）止血・包帯演習（目標5. 6）① 20. けが・傷の処置（2）止血・包帯演習（目標5. 6）② 21. けが・傷の処置（3）骨折等固定演習（目標5. 6）① 22. けが・傷の処置（3）骨折等固定演習（目標5. 6）② 23. 内科的訴えの対応（目標6）① 24. 内科的訴えの対応（目標6）② 25. 専門医による講義（目標1～6）① 26. 専門医による講義（目標1～6）② 27. 総合シミュレーション（目標1～6）① 28. 総合シミュレーション（目標1～6）② 29. まとめ（目標1～6）① 30. まとめ（目標1～6）②	
カリキュラム上の位置付け			
【D】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：保健必修科目			
(1) 内容			
本講義と実習では、学校においての児童生徒の傷病知識、救急処置や対応技術を教授する。心肺蘇生法、AEDを用いた除細動の技術も習得できるように構成されている。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1. 保健科教諭として、医療的及び教育的側面から救急処置の過程を理解し、的確な判断と処置ができる 2. 学校救急処置活動の基本的な知識を習得する。 3. 学校救急処置の技術を体得する。 4. 心肺蘇生法、AED除細動器の取り扱いを体得する。 5. 校種別の傷病の特徴を知り、対応できる。 6. 学校救急処置過程に準じて児童生徒の対応ができる。 以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。		事前に指示される内容について調べておくこと。 	
		準備学習(復習)	
		指示された内容について学習すること。 	
		評価方法	
		(1) 筆記試験 50% (2) 実技試験 50%	
受講者に対する要望			
予鈴がなるまでに、身支度を整え、所定の位置に着いていること。			
学びのキーワード		教科書	
・救急処置 ・学校救急処置 ・けがの対応 ・病気の対応		参考書	
		プリントを配布する。	

環境衛生学		HLTH-D-100	
担当教員： 中村 磐男			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 2		コード： 1D301406	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける		01. 環境と健康 02. 水と健康、上水道普及と感染症 03. 上水処理法と水道水の水質基準 04. 下水道の目的と下水処理法 05. し尿処理と廃棄物処理 06. 食中毒(1)微生物を原因とする食中毒 07. 食中毒(2)自然毒および化学物質 08. 住居の環境衛生(1)温熱条件・熱中症 09. 住居の環境衛生(2)二酸化炭素・一酸化炭素・換気 10. 電離放射線、紫外線、マイクロ波、レーザー光 11. 環境の化学的条件 12. 公害と環境汚染(1)（環境基本法・大気汚染） 13. 公害と環境汚染(2)（水質汚濁と公害病） 14. 地球環境問題（温暖化、オゾン層破壊ほか） 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【D】 高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：保健必修科目			
(1) 内容			
本講義は、水、空気、食品、日光、住居など、我々の周囲の環境と健康との関係について概説した上で、放射能の問題、公害の問題から環境汚染と健康の問題、および地球環境問題と健康の問題まで理解できるように構成している。			
(2) 学びの意義と目標			
1. 水と健康の問題を理解できる。 2. 食品と健康の問題を理解できる。 3. 住居と健康の問題を理解できる。 4. 放射能と健康の問題を理解できる 5. 公害と健康の問題を理解できる。 6. 地球環境問題への理解が深まる。 以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。		準備学習(予習)	
		教科書の該当範囲については、予め、目を通しておくこと。	
		準備学習(復習)	
		講義中に強調した箇所、キーワード、終了時の小テスト、および、返却された前回の小テストで出来なかった箇所は、よく復習しておく。	
		評価方法	
		(1) 授業への参加度および課題へ取り組み 20% 積極性、着席位置 (2) 毎回の小テスト 30% (3) 授業内試験 50%	
		講義の終わりに、毎回、小テストを実施する。原則、次回に返却する。	
受講者に対する要望		教科書	
教科書を必ず準備してほしい（「公衆衛生学」と共通）。ノートを必ず取ること。遅刻・欠席をしない、教室の前列に着席すること。机の上に、雑誌、スマートフォン、飲食物など、講義に関係ない物は置かないこと。		鈴木庄亮・久道茂 『シンプル衛生公衆衛生学』（南江堂）	
学びのキーワード		参考書	
・水系感染症、緩速濾過と急速濾過、下水処理、活性汚泥法、浄化槽 ・微生物起因の食中毒、感染型と毒素型、自然毒、化学毒 ・温熱条件、感覚温度、熱中症、換気、二酸化炭素、一酸化炭素 ・環境基本法、四大公害、環境基準 ・地球環境問題、温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨			

担当教員：中村 肇男

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1D301511

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

- 【D】高等学校教諭一種免許：保健必修科目
【D】中学校教諭一種免許：保健必修科目
【D】社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

健康の維持増進に働きかけるための基礎となる公衆衛生に関する知識を身につけるため、本講義は、はじめに健康の概念から、保健衛生統計の意義とその理解の仕方まで概説する。次に、公衆衛生学では重要なテーマである感染症とその予防方法について解説し、疫学とは何であるのかについて理解できるように構成している。最後に、現代大きな問題となっている生活習慣病について触れ、成人保健の今日的課題が理解できるように構成している。

(2) 学びの意義と目標

1. 健康の定義、健康指標、および予防医学の概念について理解できる。
 2. 保健衛生統計について理解できる。
 3. 感染症とその予防について理解できる。
 4. 疫学の概念について理解できる。
 5. 成人保健について、生活習慣病とその予防、衛生行政の観点から理解できる。
- 以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。

受講者に対する要望

ノートを必ず取る習慣を身につける。教室のなるべく前の方に着席する。机の上に、雑誌、スマートフォン、飲食物等、講義に関係ない物は置かないこと。

学びのキーワード

- ・健康指標、人口動態、人口動態
- ・一次予防、二次予防
- ・疫学、記述疫学、分析疫学、患者・対照研究、コホート研究
- ・生活習慣病、メタボリックシンドローム、特定健診
- ・保健衛生行政、

授業計画

01. 健康の定義、健康指標、予防医学の概念
02. 人口動態統計・人口動態統計
03. 出生と死亡の動向
04. 生命表と平均余命・平均寿命
05. 医の倫理
06. 感染症とその予防
07. 免疫と予防接種、消毒
08. AIDSと性感染症
09. 疫学1. 疫学とは何か
10. 疫学2. 記述疫学と分析疫学
11. 生活習慣病とその予防
12. 健康増進、成人保健、老人保健
13. 地域保健、保健衛生行政
14. 医療保障、保健医療サービス
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書「シンプル衛生公衆衛生学」(春学期の「環境衛生学」と共通)を必ず購入し、次回の該当箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

講義中のキーワード、前回復習問題の誤答箇所、当日の復習問題の疑問点などは、教科書も参考に復習のこと

評価方法

- | | |
|-------------|-----------------|
| (1) 受講態度 | 20% 積極性、座席位置を含む |
| (2) 各回復習問題 | 30% |
| (3) 期末授業内試験 | 50% |

講義の終わりに、毎回、小テストを実施する。原則、次回に返却する。

教科書

鈴木 庄亮 『シンプル衛生公衆衛生学』 (南江堂)

参考書

精神保健学

HLTH-D-200

担当教員： 助川 征雄

學期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：必修科目

単位：2 コード：1D301707

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

[D] 高等学校教諭一種免許：保健必修科目
[D] 中学校教諭一種免許：保健必修科目
[D] 社会福祉主事任用資格：選択科目
[D] 認定心理士認定資格(D学科)：副次科目
[D] 認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

(1) 内容

本講義は、子ども期における各精神疾患の特徴やアセスメントの方法について概説した上で、精神科治療の基本的な考え方や治療体系、心理療法、認知行動療法等を含めた治療支援活動についても触れる。また、学校における精神保健活動や教職員のメンタルヘルスについて理解できるように構成している。

(2) 学びの意義と目標

1. 精神保健の定義と健康に対する意義を理解できる。
 2. 子ども期に発症しやすい精神疾患とその治療の現状について理解できる。
 3. 幼児期・学童期・青年期に初めて診断される子ども期の精神疾患の特徴と療育のあり方について理解できる。
 4. 精神科治療の基本知識について理解できる。
 5. 学校における精神保健について理解できる。
 6. 職場のメンタルヘルスについて理解できる。
- 以上を通して、精神的な健康を保持するための環境や文化について知った上で、学校保健について深く考察できるようにする。幅広く人間という存在を理解できるように保健科教員を目指す。

受講者に対する要望

精神保健(メンタルヘルス)が、障がい者だけではなく誰にとっても大切なことをしっかり受け止めること。

学びのキーワード

- ・精神保健福祉の歴史
- ・ライフサイクルと精神保健
- ・医学モデルからリカバリーモデルへ

授業計画

01. 精神保健の定義と意義（目標１）
02. 子ども期の精神疾患（気分障害の特徴と治療について）（目標２）
03. 子ども期の精神疾患（統合失調症の特徴と治療について）（目標２）
04. 子ども期の精神疾患（不安障害の特徴と治療について、子どものPDSと環境との関連に
05. 子ども期の精神疾患（心身症の特徴と治療について）（目標２）
06. 子ども期の精神疾患（パーソナリティ障害の特徴と治療について）（目標２）
07. 子ども期の精神疾患（物質関連障害の特徴と治療について）（目標２）
08. 幼児期・学童期・青年期に初めて診断される子ども期の精神疾患の特徴と療育（目標３）
09. 精神科治療の基礎知識 精神科治療の基本的な考え方、精神科の治療体系、薬物療法（向精神薬）と治療支援活動（目標４）
10. 精神科治療の基礎知識 心理療法、認知行動療法、リハビリテーション等（目標４）
11. 学校における精神保健（学校保健統計からみた精神保健の問題）（目標５）
12. 学校における精神保健（精神保健相談）（目標５）
13. 学校における精神保健（精神保健指導への取り組み）（目標５）
14. 学校における精神保健（保護者への対応、地域との連携、危機対応）（目標５）
15. 職場のメンタルヘルス（教職員のメンタルヘルスについて）（目標６）

準備學習(予習)

2回目から、毎回、資料を配布するので、あらかじめ通読するなど予習をし、質問も適宜準備して授業に臨むこと。

準備學習(復習)

毎回、資料等を読み直し、わからない専門用語などは、その日のうちに調べておくこと。適宜、関連した宿題も課す。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業内レポート | 60% |
| (2) 平常点 | 40% |

教科書

参考書

知的障害児の生理・病理		HLTH-D-100
担当教員：勝二 博亮、舟橋 敬一		
学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1D302716
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（担当：舟橋） 02. 知的障害の定義（担当：舟橋） 03. 知的障害の類型（担当：舟橋） 04. ライフサイクルと障害（担当：舟橋） 05. 知的障害の病態生理（1）出生前の障害（担当：舟橋） 06. 知的障害の病態生理（2）胎生期の障害（担当：舟橋） 07. 知的障害の病態生理（3）周生期の障害（担当：舟橋） 08. 知的障害の病態生理（4）出生後の障害（担当：舟橋） 09. 脳機能の発達（1）胎生期から幼児期（担当：勝二） 10. 脳機能の発達（2）児童期から青年期（担当：勝二） 11. てんかんの病態生理（担当：勝二） 12. 発達障害の病態生理（1）自閉症スペクトラム障害（担当：勝二） 13. 発達障害の病態生理（2）学習障害・注意欠陥多動性障害（担当：勝二） 14. 知的障害・発達障害への教育的支援（担当：勝二） 15. まとめ（担当：勝二）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本授業では、まず知的障害の定義および類型と、定義に関連する病態生理学的所見について、ライフサイクル別に講述する。また脳機能の発達に関する講義を通して知的障害の病態生理特性について理解を深める。さらに知的障害に関連する発達障害、てんかんに代表される合併疾患についても触れる。その後、それぞれの特徴から教育的支援を進める際に配慮すべき点や支援の対象とすべき点などについて講義する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各回のキーワードについて参考書などで調べておくことが望ましい。
</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 知的障害について、病態生理学的側面をライフサイクルの観点から理解できる。 2) 知的障害に関連する発達障害、合併疾患等について病態生理学的側面から理解できる。 3) 医学的側面の理解にとどまらず、実際の教育的支援に生かすための病態生理学的特性を理解することができる。 これらを通して、本学が期待する特別支援教育に携わる教育者に必要な個体発生から青年期に至る子ども期の障害の生理・病理的な知識を得ることで、実際のケアや教育的支援ができる教員の育成を図る。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>教育実践とのつながりを意識しながら、主体的に学び取る姿勢で授業に臨むこと。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>基礎的な概念や専門用語が多く出てくるため、事典をあたるなどしてそれらを覚えるように努力すること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">知的障害の定義知的障害の病態生理脳機能の発達発達障害の病態生理教育支援</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 講義内容に関するテスト 60% (2) レポート 40%</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

食の文化		HLTH-D-300	
担当教員： 島崎 とみ子			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1D400707	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける		01. 世界の食文化形成と環境【教科書P12～】、気候・風土と食（１）－麦・雑穀・乾燥地帯－【教科書P14、48～49】	
		02. 気候・風土と食（２）－極北の食文化－【教科書P14～15】	
		03. 日本の食文化形成と展開【教科書P23】、原始日本人の食（１）－三内丸山遺跡を例に－【教科書P42～43】	
		04. 原始日本人の食（２）－海辺・水辺のくらし－【教科書P42～43】	
		05. 原始日本人の食（３）－吉野ヶ里遺跡を例に－【教科書P44～45】	
		06. 古代日本の食－文書本簡からみた古代の食－【教科書P52～】、中世社会の食－草戸千軒遺跡を例に－【教科書P104～】	
		07. 日本の気候・風土と食（１）－魚醤とナレズシ－【教科書P149】	
		08. 日本の気候・風土と食（２）－味噌・納豆・テンペー【教科書P64～】	
		09. 日本の気候・風土と食（３）－豆腐・豆腐の加工品－【教科書P54～】	
		10. 近世の食文化（１）－日本料理の形成と発展①－【教科書P83～85】	
		11. 近世の食文化（２）－日本料理の形成と発展②－【教科書P86～87】、【教科書P88～89】	
		12. 近世の食文化（３）－江戸時代の料理書－【教科書P45】、【教科書P53】	
		13. 近世の食文化（４）－京都呉服商人の食とくらし－【教科書P104～】	
		14. 日本のやきもの－うつわと料理－【教科書P96～】	
		15. 異文化の食－北京の家庭料理－【教科書P18】、筆記試験	
カリキュラム上の位置付け			
【D】 選択必修科目			
【D】 高等学校教諭一種免許：保健選択科目			
【D】 中学校教諭一種免許：保健選択科目			
(1) 内容			
世界の自然環境によって食文化は形成され、さらに社会環境によって影響される。また変化していく。食文化は長い歴史の中で、異文化の影響を受け、自然の恵みと、知恵と努力の積み重ねによって築かれ、展開されてきた。食文化的視点から、人々の食と暮らしをみていく。			
(2) 学びの意義と目標			
食の文化をいろいろな側面から焦点をあて、先人の知恵を学ぶことによって、今日の、そして今後の食のあり方を考えられるようになると思われる。食の文化に興味を持ち、関連する本などに多数触れ、自ら視野を広げてほしい。			
受講者に対する要望			
食の文化の成り立ちに興味を持ちたい者の受講を望みます。			
学びのキーワード		教科書	
・食文化形成と環境		江原 純子、石川 尚子 『日本の食文化―その伝承と食の教育』（アイケイコーポレーション）	
・原始日本人の食			
・古代・中世の食			
・近世の食とうつわ			
・異文化の食		参考書	

障害児教育総論		TEAT-D-100	
担当教員：吉田 昌義、岡澤 慎一、金澤 貴之、川間 健之介、永井 伸幸、米田 宏樹			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 必修科目
単位： 2		コード： 1D402000	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】 環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける		01. 特別支援教育の歴史と理念（担当：米田） 02. 特別支援教育制度の成果と限界（担当：米田） 03. 特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育の提起（担当：米田） 04. 日本的インクルーシブ教育としての特別支援教育（担当：吉田） 05. 特別支援教育コーディネーター、個別の教育支援計画、校内支援体制（保護者支援を含む）（担当：吉田） 06. 学校教育法、同施行規則、同施行令（学校教育制度、就学指導、学習指導要領等）（担当：吉田） 07. 障害児の教育の概要（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常学級：個別教育支援計画、個別指導計画（担当：吉田） 08. 障害種別ごとの教育の概要（視覚障害）（担当：永井） 09. 障害種別ごとの教育の概要（聴覚障害）（担当：金澤） 10. 障害種別ごとの教育の概要（知的障害）（担当：吉田） 11. 障害種別ごとの教育の概要（肢体不自由）（担当：川間） 12. 障害種別ごとの教育の概要（病弱・身体虚弱）（担当：岡澤） 13. 障害種別ごとの教育の概要（重複障害）（担当：岡澤） 14. 障害種別ごとの教育の概要（発達障害）（担当：吉田） 15. 理解推進（担当：吉田）	
カリキュラム上の位置付け			
【D】 特別支援学校教諭一種免許： 必修科目			
(1) 内容			
特別支援教育・障害児教育の歴史的展開を概観するとともに、特別支援教育が目指すべき教育制度・実践について講義する。さらに、特別支援教育の現状について障害種別ごとに定義や診断、就学、教育の概要を理解し、全体像を把握する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) 特別支援教育の目指すべき目標・理念について理解することができる。 2) 特別支援教育体制における学校経営、学級経営、指導の実際を知ることができる。 3) 特別支援教育に関する法律・制度等を理解することができる。 4) 特別支援教育の現状について、障害種別ごとに概要を理解し、述べることができる。 これらを通して、障害の概要及び特別支援教育全体を理解し、教育者にとって基盤となる知識ならびに価値観と、人格の育成を図る。		配布資料の指定された箇所を事前に読んでおくこと。	
		準備学習(復習)	
		配布される資料を見直し、授業内容についての理解と考察を深めておくこと。	
		評価方法	
		(1) 課題レポート 20% (2) 講義内容の確認テスト 80%	
受講者に対する要望			
障害のある子どもの教育の現状と問題点を知識として得るだけでなく、自らの問題意識へと発展させていくことを期待する。 			
学びのキーワード		教科書 資料を配布	
		参考書	

聴覚障害児の教育総論

TEAT-D-200

担当教員：金澤 貴之

学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1D402313

学部教育の関連目

【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

本授業では、まず聴覚障害教育の歴史および教育制度、ならびに実際の指導方法について講義する。また、聴覚障害児童生徒の認知、言語、コミュニケーションの発達といった個体的側面について概観する。加えて聴覚障害とその概念、聞こえの仕組み、聴覚障害の発見と診断、その後の聴覚補償に至るまでの聴覚障害に関する基礎的内容を概観する。

(2) 学びの意義と目標

- 1) 聴覚障害児教育の歴史やその具体的な指導法について言語発達を軸に理解できる。
- 2) 聴覚障害に関する基本的概念と聴覚障害児の発達に関する基礎的知識を理解できる。
- 3) 聴覚障害児教育が直面する今日的課題について論考し、理解を深める。

これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる聴覚障害児への教育的な技能を身につけ、また心理・生理・病理に関する知識を得ることで、教育の場で実際に技能を活用できる教員の育成を図る。

受講者に対する要望

特別支援教諭を目指すために必要な講義である。
教師として自らの学ぶ姿勢を問い直しながら講義
を受けてほしい。

学びのキーワード

- ・聴覚障害教育の歴史
- ・聴覚特別支援学校
- ・教育制度
- ・指導法

授業計画

01. オリエンテーション
02. 聴覚障害とその概念
03. 聴覚障害教育の歴史
04. 聴覚障害に関わる教育制度：カリキュラム編成
05. 聴覚特別支援学校（聾学校）の組織と教育の概要
06. 聴覚障害児の指導法（１）口話法による言語指導
07. 聴覚障害児の指導法（２）キュード・スピーチ、指文字、手話
08. 聴覚障害児の指導法（３）手話言語環境における言語指導
09. 聴覚障害の生理・病理（１）聞こえの仕組み
10. 聴覚障害の生理・生理（２）発見・診断・分類
11. 聴覚障害と聴覚補償
12. 聴覚障害の心理（１）認知機能の発達
13. 聴覚障害の心理（２）言語発達
14. 聴覚障害とコミュニケーション
15. 聴覚障害と社会生活

準備學習(予習)

学習指導要領については事前に目を通しておくこと。

準備學習(復習)

講義内容の振り返りは、毎回の講義後、各自怠ることのないように心掛けること。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 授業における発表、小レポート等 | 60% |
| (2) 試験 | 40% |

教科書

参考書

視覚障害児の教育総論		TEAT-D-200
担当教員：永井 伸幸 学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 コード：1D402414		
学部教育の関連目 【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける	授業計画 01. オリエンテーション 02. 視覚障害の生理・病理（1）視覚系の構造 03. 視覚障害の生理・病理（2）視機能（視力、視野等） 04. 視覚障害の生理・病理（3）視覚障害と眼疾患 05. 視覚障害児の心理（1）心理的適応 06. 視覚障害児の心理（2）聴覚と空間概念 07. 視覚障害児の心理（3）触覚と体性感覚 08. 視覚障害児の就学の基準と学びの場 09. 視覚障害特別支援学校（盲学校）における教育の特徴（カリキュラム編成を含む） 10. 視覚障害児の指導法（1）視覚障害と点字 11. 視覚障害児の指導法（2）視覚障害と歩行 12. 視覚障害児の指導法（3）弱視児に対する指導の配慮 13. 視覚障害児の指導法（4）弱視児に対する拡大の方策 14. 重複障害児の指導 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け 【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目		
（1）内容 視覚障害は視力、視野、色覚等の視機能の永続的低下である。視覚障害を生理的、知覚心理学的に理解するには、視機能や視知覚特性の基本的な理解が必要である。また、聴覚や触覚の特性の理解も必要である。そうした知覚、生理の基礎を踏まえた上で視覚障害と関連の深い代表的な眼疾患について学び、加えて彼らに対する教育課程並びに指導法の在り方を探り、理解を深める。	準備学習（予習） 視覚系の構造と機能については、事前学習として調べておくこと。	
（2）学びの意義と目標 1）視覚系の構造、機能、病態生理を理解できる。 2）視覚障害の概念、定義、分類を理解できる。 3）視覚障害の心理特性を理解できる。 4）視覚障害教育の課程、内容、指導方法について具体的に理解できる。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる視覚障害児への心理・生理・病理に関する知識を得、また、教育的な技能を身につけることで、教育の場で実際に技能を活用できる教員の育成を図る。		
受講者に対する要望 視覚障害の児童生徒への教育に必要な内容である。講義にしっかりと集中してほしい。	準備学習（復習） 講義内容についてはその都度、各自、振り返り、理解が不足している部分については復習してほしい。	
学びのキーワード ・心理特性 ・視覚系の生理・病理 ・教育制度・カリキュラム編成 ・指導方法	評価方法 (1) 授業態度（発表、小レポート） 30% (2) テスト 70%	
	教科書 青柳まゆみ 鳥山由子 『視覚障害教育入門 ―改訂版―』（ジアース教育新社） 参考書	

知的障害児指導法		TEAT-D-200	
担当教員： 吉田 昌義、吉井 勘人			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D402515	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける		01. オリエンテーションおよび知的障害教育の指導法の特徴（担当：吉田） 02. 知的障害特別支援学校や特別支援学級教育課程編成と学習指導要領（領域・教科、教科別、領域別） 03. 指導計画の作成と指導案① 領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導） 04. 指導計画の作成と指導案② 領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導）の続き 05. 指導計画の作成と指導案③ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）（担当：吉井） 06. 指導計画の作成と指導案④ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）の続き 07. 指導計画の作成と指導案⑤ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）の続き 08. 指導計画の作成と指導案⑥ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）（担当：吉田） 09. 指導計画の作成と指導案⑦ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）の続き（担当：吉田） 10. 指導計画の作成と指導案⑧ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）の続き（担当：吉田） 11. 指導計画の作成と指導案⑨ 教科別の指導 国語（担当：吉井） 12. 指導計画の作成と指導案⑩ 教科別の指導 算数（担当：吉井） 13. 指導計画の作成と指導案⑪ 教科別の指導 国語・算数・音楽の教科書（担当：吉田） 14. 領域別の指導：道徳、特別活動、自立活動（担当：吉井） 15. 個別の指導計画と学習指導案（担当：吉田）	
カリキュラム上の位置付け			
【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目			
(1) 内容			
本授業では、特別支援学校や特別支援学級の教育課程の編成を知るとともに、各教科等の指導計画を学ぶことができるように構成している。次に、具体的な指導案の作成や指導方法についての知識や技能を深める構成とし、最後に、事例を通して個別の指導計画に理解を深められるように構成している。これらを通して、特別支援学校教諭として実践的に教育に携われる能力の育成を目指す。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) 知的障害教育の教育課程の編成について、学部ごとの特色を理解できる。 2) 教育課程と指導計画について理解できる。 3) 知的障害児の指導方法について理解できる。 4) 計画に関する理解を深め、指導案の作成や指導技術を学び、授業の評価の基本を理解する。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる知的障害児への教育に関する技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。		学習指導要領と解説を読んで、基礎的な理解をしておくこと。 障害児に関するニュースや新聞記事等をつかんでおくこと	
		準備学習(復習)	
		学習内容をまとめ、要点を押さえておくこと	
受講者に対する要望		評価方法	
知的障害や自閉症に関する図書を読んで理解を深めておくこと また特別支援学校等のボランティアに参加すること		(1) 発表、小レポート等 30% (2) 試験 70%	
学びのキーワード		教科書	
・ 領域・教科を合わせた指導 ・ 生活単元学習 ・ 作業学習 ・ 教科別の指導 ・ 自立活動		文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)』(教育出版)【ISBN：9784316300160】 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部・高等部)』(海文堂出版)【ISBN：9784303124328】 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領・特別支援学校高等部学習指導要領』(海文堂出版)【ISBN：9784303124229】	
		参考書	

障害児療育論 / 障害幼児指導法		TEAT-D-200
担当教員： 鈴木 晴子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D402610
<div>学部教育の関連目</div> <div>環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション、「こども期」の生活 02. 乳幼児期の子どもの生活（１）生活リズムと睡眠 03. 乳幼児期の子どもの生活（２）生活習慣 04. 乳幼児期の子どもの生活（３）遊び 05. <small>10Fにおける障害の捉え方、「共生社会の形成」へ向けてのインクルーシブ教育システムの構築の意義（主に幼児教育において）</small> 06. 保育・教育機関の指針等に描かれる保育および障害保育 07. 教育課程編成の基本的な捉え方および障害児への保育の考え方 08. 保育形態と障害児保育 09. 保育の中での障害児への援助（地域連携、多職種連携など） 10. 保育の中での支援：教育的ニーズとその個別支援計画 11. 障害幼児の発達を支える教材：絵本等の活用と支援計画について 12. <small>障害についての生理・病理的知識の理解（１）中枢・末梢神経系についての理解、知的障害・発達障害等</small> 13. 障害についての生理・病理的知識の理解（２）てんかん等 14. 障害児のケアおよび指導法（１）生活習慣 15. 障害児のケアおよび指導法（２）遊び</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、主に障害のある幼児に対する療育と指導の方法について学ぶことを目的とする。講義は、以下のように構成されている。まず第一に、障害幼児の療育と指導方法を学ぶ基盤として、健常乳幼児の生活について生活習慣および遊びの観点から学ぶ。第二に、幼児期の子どもの発達特徴と集団生活という環境の特性を理解したうえで、保育所保育指針・幼稚園教育要領から、発達を促す環境構成とその指導の要領を学ぶことで、インクルーシブ教育の中での障害幼児の生活とその支援について考察を深める。そして第三に、教育的ニーズのある幼児に対する個別支援計画の立案と、具体的な指導に結びつく教材等について学ぶ。最後に、障害を理解するうえでの基本知識及び療育に必要なケアの方法、具体的指導方法を学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>１）乳幼児期の子どもの生活習慣に関する知識を学びまた遊びの意義について理解できる。 ２）乳幼児期の子どもの生活環境について保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から学ぶことができる。 ３）教育課程編成の基本的なとらえ方と障害児への保育の考え方を理解できる。 ４）障害児のケアのための基礎知識と実際の指導法について具体的に学ぶ。 以上の学習により特別支援教諭に求められる、乳幼児期に必要なケアと指導の具体的方法について学ぶことができる。同時に、これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる乳幼児期の子どもの生活に関する知識、生活にかかわる活動への援助、そしてケアに関する具体的な技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>学習しなければならない内容が多い講義であるため、指示された事前学習は、確実にして講義に出席してください</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>講義後、理解が不十分と思われた内容については、復習をすること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 講義内容に関する知識の確認 60% (2) 子どもの遊びに関する課題レポート 40%</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>障害幼児に焦点を当てた授業は、本講義だけである。幼児期の支援は、特別支援教育では、基本をなすものである。しっかりと学んでほしい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・子どもとは ・乳幼児期の子どもの生活理解 ・I C F ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領とは ・障害幼児の理解と支援</div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div> <div>参考書</div>	

病弱児指導法		TEAT-D-300	
担当教員： 八島 猛			
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D402717	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 病弱児教育の発展と特徴</div> <div>02. 病気の子どもと特別な教育的ニーズ</div> <div>03. 病弱教育における教育相談</div> <div>04. 病弱・虚弱児に対応した教育課程編成の基本的な考え方について</div> <div>05. 病弱・虚弱児に対応した教育課程編成 特別支援学校</div> <div>06. 病弱・虚弱児に対応した教育課程編成 特別支援学級（病院内の病弱・身体虚弱特別支援</div> <div>07. 各教科の指導の工夫（幼稚部、小学部）</div> <div>08. 各教科の指導の工夫（中学部、高等部）</div> <div>09. 自立活動 病弱児にとっての自立の意味、ねらいと内容</div> <div>10. 自立活動 ICF関連モデルの活用と個別指導計画</div> <div>11. 自立活動 個別指導計画の立案（事例を通して）</div> <div>12. 教材研究及び情報機器を利用した指導</div> <div>13. 指導計画に基づいた模擬講義</div> <div>14. 指導計画に基づいた模擬講義とまとめ</div> <div>15. 医療領域との連携による医療的ケア、病弱・虚弱児の不登校・発達障害に対する指導法</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>病弱・虚弱の教育は、児童生徒の身体的な問題のみならず、学習面や心理面に関する複雑な問題と関連している。本講義内容は病弱児教育の歴史を概観しながら、病弱児の特別な教育的ニーズについて理解できる構成としている。また、教育課程編成に関する基本的考え方を述べた上で、各教科等の指導、自立活動での支援など具体的な指導法が身につく構成としている。最後に、個別のニーズに配慮しながら、指導計画を立案し、また多職種との連携を視野にいれた教育実践ができるための基本的な内容を伝える講義構成としている。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 病弱児教育の歴史の概観を通して病弱児の特別な教育ニーズの必要性を理解できる。</div> <div>2) 特別支援教育（病弱）の教育課程を理解できる。</div> <div>3) 具体的な指導方法を学び、指導計画および個別の支援計画の立案ができる。</div> <div>4) 他職種との連携を視野にいれた病弱児の教育の必要性を理解できる。</div> <div>これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる病弱児への教育に関する技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。</div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもの健康や病気に関する知識については、小児保健、栄小学等で学んだ知識を予め予習して授業に望んでほしい。</div>			
<div>学びのキーワード</div> <div>・病弱・虚弱の定義</div> <div>・教育課程編成</div> <div>・自立活動</div> <div>・指導計画</div>		<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div> <div>参考書</div>	

肢体不自由児指導法		TEAT-D-200
担当教員： 春木 豊		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1D402810
<div>学部教育の関連目</div> <div>環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける 「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 肢体不自由教育の発展と特徴 02. 肢体不自由の子どもと特別な教育的ニーズ 03. 肢体不自由児と教育相談 04. 肢体不自由児に対応した教育課程編成の基本的な考え方について 05. 肢体不自由児に対応した教育課程編成 特別支援学校 06. 肢体不自由児に対応した教育課程編成 特別支援学級、通級による指導 07. 各教科等の指導の工夫（幼稚部、教材研究を含む） 08. 各教科等の指導の工夫（小学部・中学部、教材研究を含む） 09. 各教科等の指導の工夫（高等部、教材研究を含む） 10. 進路指導と職業教育について 11. 自立活動 肢体不自由児にとっての自立の意味、ねらいと内容 12. 自立活動 ICF関連モデルの活用と個別指導計画 13. 自立活動 個別指導計画の立案（事例を通して） 14. 個別指導計画に基づいた模擬講義 15. 医療領域との連携による医療的ケアまとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>特別支援学校教諭一種免許： 必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>肢体不自由教育では、児童生徒の障害が重度・重複化してきている。本講義内容は、歴史的概観を通しながら、肢体不自由児の現在の重度・重複化した児童生徒の教育的ニーズが把握できるように構成している。また、教育課程編成に関する基本的考え方を述べた上で、各教科の指導、自立活動での支援など具体的な指導法が身につく構成としている。最後に、個別のニーズに配慮しながら指導計画を立案し、また多職種との連携を視野にいれた教育実践ができるための基本的な内容を伝える講義構成としている。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 肢体不自由教育の歴史の概観を通して肢体不自由児の特別な教育ニーズを理解できる。 2) 特別支援教育（肢体不自由）の教育課程を理解できる。 3) 具体的な指導方法を学び、指導計画および個別の指導計画の立案ができる。 4) 他職種との連携を視野にいれた肢体不自由児の教育の必要性を理解できる。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる肢体不自由児への教育に関する技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、扱われるトピックについて新聞等で情報を集めておく。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>肢体不自由児者にかかわる機会を積極的に持つようにしてほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリント等を参照し、授業内容をA 4 1 枚程度に要約し、理解を深めるようにすること。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 肢体不自由 ・ 特別支援教育 ・ 自立活動 ・ 多職種との連携</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 講義内容に関するテスト 60% (2) レポート 40%</div>
		<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div>
		<div>参考書</div>

発達障害児の教育総論		TEAT-D-300	
担当教員：石川 由美子、今中 博章			
学期：前期（ 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1D403020	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（担当：石川） 02. 特別支援教育のシステム（連携協力について）（担当：石川） 03. 発達障害の心理特性：「ことばの遅れ」の背景（担当：石川） 04. 軽度知的障害の理解（担当：石川） 05. 学習障害の理解（担当：今中） 06. 注意欠陥多動性障害（ADHD）の理解（担当：今中） 07. 自閉症スペクトラム障害の理解（担当：石川） 08. 発達障害の生理・病理的特性と二次障害について（担当：今中） 09. 心理・教育的アセスメントの活用（1）目的、方法、倫理的配慮（担当：今中） 10. 心理・教育的アセスメントの活用（2）活用の仕方（担当：今中） 11. 個別の指導計画（担当：今中） 12. 認知特性をふまえた支援計画立案演習（1）漢字の苦手なAくん（担当：今中） 13. 認知特性をふまえた支援計画立案演習（2）集中が続かないBちゃん（担当：今中） 14. 認知特性をふまえた支援計画立案演習（3）人との関わりの苦手なCさん（担当：今中） 15. まとめ（担当：石川、今中）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【D】特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本授業では、まず特別支援教育における学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害等に代表される発達障害児の支援体制について講義する。次に、それらの発達障害の心理特性と医学的特性、ならびにそれらに応じた支援の在り方について講義する。続いて個々の子どもの特性をふまえた個別の指導計画を、子どもの生活状況全般にあわせてどのように立案実施するかについて、事例検討をもとに議論することとする。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1）学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害等の発達障害について、それらの心理特性と医学的特性を理解できる。 2）発達障害児の心理特性と医学的特性に応じた支援方法について考えることができる。 3）子どもの心理特性を理解する手段としてのアセスメントの方法や、その結果を実際の支援に活用する方法を考えることができる。 これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる発達障害児への心理・生理・病理に関する知識を得、また教育的な技能を身につけることで、教育の場で実際にそれらを活用できる教員の育成を図る。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>オリエンテーション時に事前学習ポイントを指示する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>教職を目指す学生の講義である。特別な配慮を要する児童生徒の教育について真摯な態度で学んでほしい。</div>			
<div>学びのキーワード</div> <div>・知的障害 ・注意欠陥多動性障害 ・学習障害 ・心理・教育アセスメント</div>			
		<div>教科書</div>	
		<div>参考書</div>	

文章表現法（J-1）		JPLI-J-100
担当教員： 太田 ミユキ		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1J110760
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】表現力・コミュニケーション力：的確な自己表現力を育てる</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入 02. 文章構成練習 03. 実作練習① 説明の語彙 04. 実作練習② テーマ 05. 実作練習③ 取材 06. 実作練習④ 構想 07. 実作練習⑤ 帰納法 08. 実作練習⑥ 演繹法 09. 実作練習⑦ 構成 10. 実作練習⑧ 尾括式 11. 実作練習⑨ 頭括式 12. 実作練習⑩ 双括式 13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング 14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語 15. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>辞書を持参してくることが望ましい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・文章読解力 ・論理的思考 ・表現力</div>	<div>教科書</div>	
	<div>参考書</div>	

文章表現法（J-2）※教職履修者優先		JPLI-J-100
担当教員： 副田 恵		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1J110765
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】表現力・コミュニケーション力：的確な自己表現力を育てる</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入 02. 文章構成練習 03. 実作練習① 説明の語彙 04. 実作練習② テーマの提示 05. 実作練習③ 材料の取材 06. 実作練習④ 構想の重要さ 07. 実作練習⑤ 帰納法 08. 実作練習⑥ 演繹法 09. 実作練習⑦ 構成 10. 実作練習⑧ 尾括式 11. 実作練習⑨ 頭括式 12. 実作練習⑩ 双括式 13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング 14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語 15. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を知得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけるとともに、その学習体験を通して指導方法について理解していくことを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>辞書を持参してくることが望ましい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 提出物70%</div><div>(2) 授業への参加度30%</div></div> <div>毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・文章読解力</div><div>・論理的思考</div><div>・表現力</div></div>		

文章表現法（J-3）		JPLI-J-100
担当教員：坂巻 理恵子		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：必修科目		単位：2 コード：1J110770
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】表現力・コミュニケーション力：的確な自己表現力を育てる</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入</div> <div>02. 文章構成練習</div> <div>03. 実作練習① 説明の語彙</div> <div>04. 実作練習② テーマの提示</div> <div>05. 実作練習③ 材料の取材</div> <div>06. 実作練習④ 構想</div> <div>07. 実作練習⑤ 帰納法</div> <div>08. 実作練習⑥ 演繹法</div> <div>09. 実作練習⑦ 構成</div> <div>10. 実作練習⑧ 尾括式</div> <div>11. 実作練習⑨ 頭括式</div> <div>12. 実作練習⑩ 双括式</div> <div>13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング</div> <div>14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語</div> <div>15. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目</div> <div>【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>辞書を持参してくることが望ましい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 提出物 70%</div> <div>(2) 授業への参加度 30%</div> <div>毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・文章読解力</div> <div>・論理的思考</div> <div>・表現力</div>		

文章表現法（再履修用）		JPLI-J-100
担当教員： 副田 恵		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目		単位： 2 コード： 1J110775
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】表現力・コミュニケーション力：的確な自己表現力を育てる</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 導入 02. 文章構成練習 03. 実作練習① 04. 実作練習② 05. 実作練習③ 06. 実作練習④ 07. 実作練習⑤ 08. 実作練習⑥ 09. 実作練習⑦ 10. 実作練習⑧ 11. 実作練習⑨ 12. 実作練習⑩ 13. 実作練習⑪ 14. 実作練習⑫ 15. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>辞書を持参してくることが望ましい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 提出物70%</div><div>(2) 授業への参加度30%</div></div> <div>毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて評点をつける。したがって、未提出の回があると評点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・文章読解力</div><div>・論理的思考</div><div>・表現力</div></div>		

日本語学概説		JPLI-J-100									
担当教員： 小林 茂之											
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1J120100									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 生成文法入門(1)， チョムスキーの学問と思想 02. 生成文法入門(2)， チョムスキーの生い立ち， 思想界への影響 03. 第1章 ことばの研究(1)， 言語観の移り変わり， 国語学， 規範主義， 言語科学 04. 第1章 ことばの研究(2)， 恣意性， 分節性， 抽象性， 構造 05. 第1章 ことばの研究(3)， 言語能力， 言語運用， 言語獲得 06. 第1章 ことばの研究(4)， ことばの普遍性と個別性， ことばの伝達機能， 談話（文章表現） 07. 第2章 ことばの獲得(1)， 言語獲得の普遍性， 言語獲得の迅速さと完璧さ， 臨界期 08. 第2章 ことばの獲得(2)， 言語獲得の前提条件， 発達心理言語学 09. 第2章 ことばの獲得(3)， 生成文法と言語獲得， PP理論と言語獲得過程 10. 第2章 ことばの獲得(4)， 空主語パラメータ， 可能なパラメータの制限， 語彙項目に結び付けられたパラメータ 11. 第3章 音としてのことば(1)， 音声学， 文字と音声， 発音のメカニズム， 音の分類 12. 第3章 音としてのことば(2)， 日本語の音， 韻律現象（アクセント） 13. 第3章 音としてのことば(3)， 音韻論， 最小対立の対， 音素， 辞書と音韻表示 14. 第3章 音としてのことば(4)， 音韻素性と音韻規則， 日本語の音韻現象， 動詞の活用， ビッチアクセント 15. 第4章 語彙と辞書(1)， 文法構造と辞書 16. 第4章 語彙と辞書(2)， 形態素， 接辞， 異形態 17. 第4章 語彙と辞書(3)， 語彙範疇， 述語の項構造， 慣用句， 辞書における記載 18. 第4章 語彙と辞書(4)， 派生， 複合， その他の語形成 19. 第5章 文の仕組み(1)， 文法性の判断， 句構造 20. 第5章 文の仕組み(2)， 移動現象， 受動文， 日本語に特有な被害の受動文 21. 第5章 文の仕組み(3)， 名詞句の解釈， 束縛理論 22. 第5章 文の仕組み(4)， 不可視的要素 23. 第6章 語の意味と文の意味(1)， 単語の意味， 多義性， 意味素性， 意味関係， 意味公準 24. 第6章 語の意味と文の意味(2)， 文の意味構造， 統語論と論理形式 25. 第6章 語の意味と文の意味(3)， 論理形式における名詞句の解釈 26. 第6章 語の意味と文の意味(4)， 修飾， 含意と前提， 情報の構造 27. 補足(1)： 歴史言語学入門（ラテン語） 28. 補足(2)： 歴史言語学入門（ギリシア語） 29. 補足(3)： 日本語と英語の史的対照 30. まとめ</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>現代言語学は、科学の一分野として認識されるようになった。これは、チョムスキーによる生成文法と呼ばれる言語研究が言語学の主流の一つを占めるようになったためである。本講義では、現在アメリカの代表的知識人の一人であるチョムスキーについて紹介し、彼が確立した生成文法が何を問題とし、解明してきたかを展望する。そして、生成文法が研究対象とする母語話者の言語知識とは何であるかを、受講者のほとんどの母語である日本語と、言語の普遍性の観点から日本人にとってもっとも知られている外国語である英語のデータに基づいて、音声学・音韻論，統語論（文法），意味論などの主要分野について概説する。なお、受講者の理解度に応じて、高等学校における国語学の用語からの橋渡しするとともに、近年の言語研究の成果に対する理解を図る。</div>											
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>多くの受講者にとって母語の日本語と最も身近な外国語である英語との比較を通して、現代言語学のスタンダードな考え方を学ぶ。また、現代知性の代表の一人としてのチョムスキーと現代言語学の典型である生成言語学を具体例を通して学ぶことによって科学的思考法を養い、大学学部レベルの現代言語学・言語哲学・認知科学に関する人文的教養を身に付けるとともに、チョムスキーの哲学的意義や、彼の活動を通して大学知識人の民主主義社会に対する責任や倫理について学ぶ。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回の講義の最後に、次回の教科書の予習ページが示されるので、それにしたがって教科書を予習する。</div>									
		<div>準備学習(復習)</div> <div>期末のレポートの準備を含めて、発展的読書をする。また、講義で取り上げない部分を復習時に補う。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎回、導入・要点をパワーポイントで解説する。また、出席票を兼ねたリアクションペーパーに授業内容に即した簡単な問いに取り組んでほしい。発展的読書の案内があるので、受講者は発展的読書に取り組んでほしい。また、教科書は授業時、予習、復習で必要があるので、教科書を手しないうで授業に出席しても平常点は認められない。</div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) レポート</td><td>40%</td><td>教科書に基づく課題レポートであるので、教科書を必ず入手する。</td></tr><tr><td>(2) 平常点</td><td>40%</td><td>教科書の携行を随時チェックする。</td></tr><tr><td>(3) 授業参加度</td><td>20%</td><td>出席票を兼ねたリアクションシートの課題を提出することを含む。</td></tr></table> <div>平常点の評価は、教科書の携行して、授業に出席することが前提である。授業参加度には、出席票を兼ねたリアクションペーパーの授業の内容理解のための課題への取り組みを含む。</div>	(1) レポート	40%	教科書に基づく課題レポートであるので、教科書を必ず入手する。	(2) 平常点	40%	教科書の携行を随時チェックする。	(3) 授業参加度	20%	出席票を兼ねたリアクションシートの課題を提出することを含む。
(1) レポート	40%	教科書に基づく課題レポートであるので、教科書を必ず入手する。									
(2) 平常点	40%	教科書の携行を随時チェックする。									
(3) 授業参加度	20%	出席票を兼ねたリアクションシートの課題を提出することを含む。									
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">言語音声・音韻文法語彙意味</div>		<div>教科書</div> <div>井上和子・他『生成言語学入門』（大修館書店）</div> <div>参考書</div> <div>授業時に指示する。</div>									

日本文学概説		JLIT-J-100
担当教員： 木下 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 4 コード： 1J120210
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【J】 高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】 中学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目		
(1) 内容		01. はじめに 02. 漢字の伝来と仮名の誕生（１）―東アジア漢字文化圏 03. 漢字の伝来と仮名の誕生（２）―訓点、カナ、万葉仮名、かな 04. 本のかたちと広まり―写本と版本、装訂 05. 辞書と索引 06. 郷・境界（１）―世界観：高天原と黄泉、常世（とこよ） 07. 異郷・境界（２）―生者の国と黄泉の国 08. 王権（１）―王と王権論 09. 王権（２）―色好み、みやび、歌の力 10. 貴種流離譚（きしゅりゅうりたん）（１）―『伊勢物語』の東下り 11. 貴種流離譚（きしゅりゅうりたん）（２）―『源氏物語』の須磨流離 12. 旧国名と暦法（１）―都に向う、『土佐日記』 13. 旧国名と暦法（２）―都に向かう、『更級日記』 14. 平安京・内裏・大内裏（１）―『枕草子』 15. 平安京・内裏・大内裏（２）―『徒然草』 16. 和歌（１）―枕詞 17. 和歌（２）―掛詞、縁語、見立て 18. 和歌（３）―本歌取り 19. あはれ・をかし（１）―『枕草子』と「をかし」 20. あはれ・をかし（２）―『源氏物語』と「あはれ」、本居宣長 21. 本文と注釈（１）―批評と考証 22. 本文と注釈（２）―典拠、准拠 23. 無常・遁世・漂泊（１）―『平家物語』『方丈記』 24. 無常・遁世・漂泊（２）―『徒然草』 25. 無常・遁世・漂泊（２）―旅と遁世、漂泊 26. わび・さび・不易流行（１）―芭蕉の美的理念 27. わび・さび・不易流行（２）―『おくのほそ道』、門人たちの解釈 28. 勧善懲悪（１）―『南総里見八犬伝』 29. 勧善懲悪（２）―さまざまな受容 30. まとめ
(2) 学びの意義と目標		
日本文学および日本文学研究の特色や方法を理解します。これから、さまざまな作品を鑑賞し、研究するための土台を作ります。		
準備学習(予習)		
配布したプリントは必ず読み、分からない漢字や語句については辞書で調べておくこと。図書館を活用すること。		
準備学習(復習)		
その日のうちにプリントとノートを読み返し、整理すること。追加で質問があれば受け付けます。		
評価方法		
(1) 期末試験	60%	
(2) 平常点	40% フィードバックペーパーや小テスト等の授業内提出物	
受講者に対する要望		
ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。		
学びのキーワード		
・ 日本文学 ・ 古典文学		
教科書		
参考書		
三村 晃功、寺川 真知夫、廣田 哲通、 本間 洋一(編) 『日本古典文学を読む』(和泉書院)		

日本史概説 A		TEAT-P-200/TEAT-L-200/HIST-J-10 0
担当教員： 松井 慎一郎		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目/選択科目 単位： 2 コード： 1J120381		
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける 【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 02. 邪馬台国はどこにあったのか？ 03. 稲荷山古墳出土鉄剣銘の衝撃 04. 聖徳太子は本当に偉人なのか。 05. 「天皇」と「日本」の誕生 06. 聖武天皇の憂鬱と天皇制の危機 07. 桓武天皇のコンプレックス 08. 極楽浄土に憧れた道長・頼通父子 09. 畠山重忠の怪力伝説 10. 「官軍」はなぜ負けたのか？－承久の乱をめぐる－ 11. 「冬は必ず春となる」－蒙古襲来と鎌倉新仏教－ 12. 尊治と尊氏 13. くじ引きで決めた征夷大將軍 14. 北条氏に支配された武蔵国 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】日本語教員養成課程：選択必修科目 【L】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】日本語教員養成課程：選択必修科目 【L】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会必修科目 【L】日本語教員養成課程：選択必修科目 【P】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>概説Aでは、古代・中世の日本史を対象とする。ここ北武蔵の地は、古代においては、埼玉古墳群に象徴されるように、東国豪族が活躍する舞台であり、中世期には、畠山重忠や熊谷直実らの武蔵武士を輩出し、彼らの活躍が鎌倉幕府成立に大きく貢献した。できるだけ北武蔵の状況について触れながら、古代・中世における政治の変遷について解説していく。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各回で取り扱う事項に関する予備知識を得たうえで講義に臨むこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>高校までの歴史の学びは、人物名、事件名、年号などをひたすら頭にいれるという暗記物であったかもしれないが、大学での歴史の授業は、史料を解説しながら、過去の時代を考察するという作業が中心となる。史料読解力や論理的思考力を養っていきたい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業終了後は、プリントを読み返すなどして、しっかり理解すること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>日本の歴史について関心がある者の受講を望む。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 期末試験 80% (2) 平常点 20%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 日本 ・ 古代 ・ 中世 ・ 武蔵国 ・ 政治史</div>	<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div>	
	<div>参考書</div>	

TEAT-P-200/TEAT-L-200/HIST-J-10
0

毎授業、複数冊、紹介する。

日本語表現法(ディベート)		COMM-J-100
担当教員： 近藤 聡		
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1J131280
学部教育の関連目		授業計画
【J】表現力・コミュニケーション力：的確なコミュニケーション能力を育てる		
カリキュラム上の位置付け		01. ディベートの四条件を知る 02. 反駁を学ぶ（１）：演習「反駁を書く①」 03. 反駁を学ぶ（２）：演習「反駁を書く②」 04. 反駁を学ぶ（３）：反駁エンドレスゲーム「反駁を切り返す」 05. 反駁を学ぶ（４）：演習「反駁を振り返る」 06. ストラテジーを学ぶ：演習「反駁を想定して立論を作る」 07. 演習「三・三（さん・さん）ディベート」 08. 演習「ディベートの『判定』方法を学ぶ」 09. 演習「ディベート学習の『評価』方法を学ぶ」 10. ディベートの技術を用いたメディアリテラシー学習を知る（１） 11. ディベートの技術を用いたメディアリテラシー学習を知る（２） 12. 国語科教育におけるリベラルアーツの位置づけを考察する 13. 流布している各種のディベート教材を知り、批評する 14. 演習「ディベート学習の『授業プラン』を提案する」 15. ディベートおよびディベート学習の「総括」
【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目		
(1) 内容		準備学習(予習)
アカデミック・ディベートは、論点整理と再構造化を繰り返し訓練するトレーニングです。現在の国語科教育は、アカデミック・ディベートを「アーギュメント教育」「論理的思考力の向上」を目的にして、以前より導入するようになりました。しかし、十分に普及しているとはいえません。本授業は、受講者がディベートとディベート学習の両方を知ること为目标としています。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)
授業の目標は次の２点です。 １．受講者全員がディベートをできるようにする。 ２．国語科教育におけるディベート学習を知る。 ディベートはトレーニングですから、明確な方法および指導事項があります。方法と指導事項を明示しながら、各自がディベートをおこなえるように指導します。ディベートには様々な形式があります。今回は、トレーニング効果の高い２通りの形式でおこないます。 また、ディベートの授業実践において、「反駁」学習は意義がありながら、指導が最も困難であるとされてきました。この点を克服した国語科教育の最新の授業プランを、実際に体験して学びます。 将来、受講者が、国語科教育の現場に立つ際に、理論と実践の両面で役立つ授業を目指しています。		
受講者に対する要望		評価方法
授業は、基本的にワークショップ型です。個人およびグループでの演習とディベートゲームで授業は進行します。各自が能動的に学習に取り組む必要があります。課題を締め切りまでにきちんとこなし、遅刻や欠席がないようにしてください。		
学びのキーワード		教科書
・ディベート ・アーギュメント教育 ・国語科教育		参考書

書道

TART-J-100

担当教員： 小室 陽子

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目

単位： 2 コード： 1J131390

学部教育の関連目

【J】 実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

【J】 中学校教諭一種免許：国語必修科目

(1) 内容

書は文字を素材にした創造芸術です。先人の残してくれた素晴らしい文化遺産である中国や日本の古典を教材として、正しく美しい文字を学び、書くための場としたい。講義では、筆順、書技、理論等を学び、実技においては、漢字、仮名を毛筆を主とし硬筆を含めた課題作成を通して、文字そのものについても考えていきたい。又、漢詩（七言絶句）を作成することを通して、新しい観点から文字に触れることにより、より一層書への関心を高めたい。更に、各書体の特徴をより正確に理解するためにその書体での作品を制作します。

(2) 学びの意義と目標

書写・書道の指導が必要な中・高等学校の教職を志す学生自身が、文字に関する実技に裏付けられた知識を高めることによって毛筆で書くことへの抵抗感を持つことなく、教壇に立った時に、生徒が楽しく筆で紙とむきあえるようにし、よりよい生徒指導ができるようにすることを目標としたい。

受講者に対する要望

文字を素材にしての実技を主体にした講座です。文字に対して一点の意義、一画（一線）の位置づけ等を意識的に見直すことを通して文字を書くことの意義を考えていきたい。展覧会などに積極的に出向き、書に対する感性を高めてほしい。又、漢詩（七言絶句）を作成するので、文字へのより一層の興味を持ってほしい。

学びのキーワード

・ 実技講座
・ 漢字
・ かな
・ 作品制作
・ 漢詩（七言絶句）作詩

授業計画

01. 講師と学生の自己紹介 ・ 講義の進め方 ・ 評価方法
02. 文房四房、永字八法、氏名揮毫
03. 執筆法、用筆法
04. 書体の変遷
05. 篆書の成立、特徴、石鼓文の鑑賞 ・ 臨書
06. 篆書 ・ 泰山刻石の鑑賞 ・ 臨書
07. 隷書の成立、特徴、曹全碑の鑑賞 ・ 臨書
08. 隷書 ・ 乙英碑の鑑賞 ・ 臨書
09. 草書の成立、特徴、十七帖の鑑賞 ・ 臨書
10. 草書 ・ 十七帖の臨書
11. 行書の成立、特徴、趙孟頫行書千字文の鑑賞 ・ 臨書
12. 行書 ・ 蘭亭序の鑑賞と臨書
13. 行書 ・ 蘭亭序の全臨 1：全体の流れを把握する
14. 行書 ・ 蘭亭序の全臨 2：全体の流れに留意し長文を最後まで書きあげ
15. 楷書の成立、特徴 ・ 九成宮醴泉銘の鑑賞 ・ 臨書
16. 楷書 ・ 九成宮醴泉銘の臨書
17. 楷書 ・ 孔子廟堂碑の鑑賞 ・ 臨書、硬筆
18. 楷書 ・ 孔子廟堂碑の臨書、雁塔聖教序の鑑賞 ・ 臨書
19. 楷書 ・ 雁塔聖教序の臨書 ・ 楷書作品制作
20. 楷書作品制作 ・ 鑑賞
21. 漢詩作詩 1：七言絶句の作成方法研究・作詩の調査・準備
22. 漢詩作詩 2：七言絶句を一首作詩
23. 仮名の成立、いろは歌
24. 仮名、毛筆 ・ 硬筆
25. 仮名、仮名の基本用筆
26. 平安時代の古筆に学ぶ
27. 高野切第三種、鑑賞 ・ 臨書
28. 高野切第三種、臨書
29. 仮名作品制作
30. 仮名作品制作 ・ 鑑賞

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われる書体等について、大まかな情報を収集しておくことを望む。実技が主なので、書道用具を必ず持参、書くことに専念してほしい。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントを改めて読み直し、書体の特徴を理解しておくこと。

評価方法

(1) 実技課題	50%	時間毎の実技課題の評価
(2) 課題提出状況	10%	時間毎の実技課題提出状況
(3) 授業態度	20%	取り組み方
(4) 授業準備	10%	用具の準備なども加味
(5) 出席状況	10%	

毎時間ごの実技課題を提出してもらい、その評価と授業態度（私語、居眠り等）及び用具の準備を加味し評価する。但し、出席状況が3分の2に満たない場合、課題の提出がなく評価点数が不足した場合は不合格とします。

教科書

参考書

書道		TART-J-100															
担当教員： 小室 陽子																	
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： 1J131395															
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 講師と学生の自己紹介 ・ 講義の進め方 ・ 評価方法 02. 文房四房、永字八法、氏名揮毫 03. 執筆法、用筆法 04. 書体の変遷 05. 篆書の成立、特徴、石鼓文の鑑賞 ・ 臨書 06. 篆書 ・ 泰山刻石の鑑賞 ・ 臨書 07. 隸書の成立、特徴、曹全碑の鑑賞 ・ 臨書 08. 隸書 ・ 乙英碑の鑑賞 ・ 臨書 09. 草書の成立、特徴、十七帖の鑑賞 ・ 臨書 10. 草書 ・ 十七帖の臨書 11. 行書の成立、特徴、趙孟頫行書千字文の鑑賞 ・ 臨書 12. 行書 ・ 蘭亭序の鑑賞と臨書 13. 行書 ・ 蘭亭序の全臨(1) 14. 行書 ・ 蘭亭序の全臨(2) 15. 楷書の成立、特徴 ・ 九成宮醴泉銘の鑑賞 ・ 臨書 16. 楷書 ・ 九成宮醴泉銘の臨書 17. 楷書 ・ 孔子廟堂碑の鑑賞 ・ 臨書、硬筆 18. 楷書 ・ 孔子廟堂碑の臨書、雁塔聖教序の鑑賞 ・ 臨書 19. 楷書 ・ 雁塔聖教序の臨書 ・ 楷書作品制作 20. 楷書作品制作 ・ 鑑賞 21. 漢詩作詩(1) 22. 漢詩作詩(2) 23. 仮名の成立、いろは歌 24. 仮名、毛筆 ・ 硬筆 25. 仮名、仮名の基本用筆 26. 平安時代の古筆に学ぶ 27. 高野切第三種、鑑賞 ・ 臨書 28. 高野切第三種、臨書 29. 仮名作品制作 30. 仮名作品制作 ・ 鑑賞</div>															
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>																	
<div>(1) 内容</div> <div>書は文字を素材にした創造芸術です。先人の残してくれた素晴らしい文化遺産である中国や日本の古典を教材として、正しく美しい文字を学び、書くための場としたい。講義では、筆順、書技、理論等を学び、実技においては、漢字、仮名を毛筆を主とし硬筆を含めた課題作成を通して、文字そのものについても考えていきたい。又、漢詩（七言絶句）を作成することを通して、新しい観点から文字に触れることにより、より一層書への関心を高めたい。 更に、各書体の特徴をより正確に理解するためにその書体での作品を制作します。</div>																	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>書写・書道の指導が必要な中・高等学校の教職を志す学生自身が、文字に関する実技に裏付けられた知識を高めることによって毛筆で書くことへの抵抗感を持つことなく、教壇に立った時に、生徒が楽しく筆で紙とむきあえるようにし、よりよい生徒指導ができるようにすることを目標としたい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、扱われる書体等について、大まかな情報を収集しておくことを望む。
実技が主なので、書道用具を必ず持参、書くことに専念してほしい。
</div>															
<div>受講者に対する要望</div> <div>文字を素材にしての実技を主体にした講座です。文字に対して一点の意義、一画（一線）の位置づけ等を意識的に見直すことを通して文字を書くことの意義を考えていきたい。
展覧会などに積極的に出向き、書に対する感性を高めてほしい。
又、漢詩（七言絶句）を作成するので、文字へのより一層の興味を持ってほしい。
</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で配布されたプリントを改めて読み直し、書体の特徴を理解しておくこと。</div>															
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 実技講座</div><div>・ 漢字</div><div>・ かな</div><div>・ 作品制作</div><div>・ 漢詩（七言絶句）作詩</div></div>		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 実技課題</td><td>50%</td><td>時間毎の実技課題の評価</td></tr><tr><td>(2) 課題提出状況</td><td>10%</td><td>時間毎の実技課題提出状況</td></tr><tr><td>(3) 授業態度</td><td>20%</td><td>取り組み方</td></tr><tr><td>(4) 授業準備</td><td>10%</td><td>用具の準備なども加味</td></tr><tr><td>(5) 出席状況</td><td>10%</td><td></td></tr></table> <div>毎時間ごの実技課題を提出してもらい、その評価と授業態度（私語、居眠り等）及び用具の準備を加味し評価する。但し、出席状況が3分の2に満たない場合、課題の提出がなく評価点数が不足した場合は不合格とします。</div>	(1) 実技課題	50%	時間毎の実技課題の評価	(2) 課題提出状況	10%	時間毎の実技課題提出状況	(3) 授業態度	20%	取り組み方	(4) 授業準備	10%	用具の準備なども加味	(5) 出席状況	10%	
(1) 実技課題	50%	時間毎の実技課題の評価															
(2) 課題提出状況	10%	時間毎の実技課題提出状況															
(3) 授業態度	20%	取り組み方															
(4) 授業準備	10%	用具の準備なども加味															
(5) 出席状況	10%																
<div>教科書</div>		<div>参考書</div>															

日本文学史(上代・中古)		JLIT-J-200
担当教員： 木下 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J410100
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. はじめに一漢字・漢文の伝来と日本文学のはじまり</div> <div>02. 上代（神話・伝承・歴史）―神話から国史へ（１）：『古事記』、口承文芸と伝説</div> <div>03. 上代（神話・伝承・歴史）―神話から国史へ（２）：『日本書紀』、国際社会に向けて</div> <div>04. 上代（和歌）―国家とうた（１）：『万葉集』、禁断の恋</div> <div>05. 上代（和歌）―国家とうた（２）：『万葉集』、「大君は」</div> <div>06. 上代（漢詩）―国家とうた（３）：『懷風藻』、壬申の乱を越えて、辞世の詩</div> <div>07. 上代（説話）―国家と仏教：『日本霊異記』、よみがえりの話</div> <div>08. 中古（漢詩・漢文）―漢詩文の隆盛：『凌雲集』『経国集』、詩の理論</div> <div>09. 中古（漢詩・漢文）―漢詩文の隆盛：『文華秀麗集』、詩宴の楽しみ</div> <div>10. 中古（漢詩・漢文）―空海の仏教と文学：『三教指帰』『性霊集』</div> <div>11. 中古（漢詩・漢文）―詩人菅原道真と『白氏文集』の受容（１）：『菅家文草』、詩の家に生まれて</div> <div>12. 中古（漢詩・漢文）―詩人菅原道真と『白氏文集』の受容（２）：『菅家後集』、詩臣として</div> <div>13. 中古（和歌）―和歌と美意識の確立（１）：『古今和歌集』、和歌の理論</div> <div>14. 中古（和歌）―和歌と美意識の確立（２）：『古今和歌集』の季節感、恋</div> <div>15. 中古（物語）―伝奇物語の発生（１）：『竹取物語』と伝承世界、神話世界のなごり</div> <div>16. 中古（物語）―伝奇物語の発生（２）：『竹取物語』、かぐや姫と天皇、月世界</div> <div>17. 中古（物語）―歌物語の発生（１）：『伊勢物語』、「みやび」と反逆</div> <div>18. 中古（物語）―歌物語の発生（２）：『伊勢物語』、「みやび」と敗残</div> <div>19. 中古（日記）―自己を見つめて（１）：『土佐日記』、亡き子の思い出と旅</div> <div>20. 中古（日記）―自己を見つめて（２）：『蜻蛉日記』、夫との攻防と和歌</div> <div>21. 中古（随筆）―『源氏物語』の時代（１）：『枕草子』、美しい中宮の思い出</div> <div>22. 中古（日記）―『源氏物語』の時代（２）：『紫式部日記』、自己と他者を見つめて</div> <div>23. 中古（物語）―『源氏物語』の時代（３）：『源氏物語』、桐壺帝と桐壺更衣の愛</div> <div>24. 中古（物語）―『源氏物語』の時代（４）：『源氏物語』、光源氏と藤壺、恋と罪</div> <div>25. 中古（日記）―『源氏物語』以後（１）：『更級日記』、物語への憧れと仏教の夢</div> <div>26. 中古（物語）―『源氏物語』以後（２）：『堤中納言物語』「虫愛づる姫君」</div> <div>27. 中古（歴史物語）―栄華の回顧と検証：『栄花物語』『大鏡』</div> <div>28. 中古（歌謡・漢文・説話）―類聚（コレクション）：『和漢朗詠集』『本朝文粋』『今昔物語集』</div> <div>29. 中古（和歌・歌論）―新風を求めて：『後拾遺和歌集』、藤原俊成『千載和歌集』『古来風体抄』</div> <div>30. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>上代・中古（飛鳥時代～平安時代）の代表的な文学作品について、原文に触れながら基礎的な知識を学び、表現や主題、方法論の変遷を捉えます。概要は以下のとおりです。</div> <div>日本は律令国家を形成するにあたり、中国の政治体制や学問、思想とともに漢字漢文を導入しました。神話や伝承、歌謡などの口承文芸は記載されるようになり、国史へと編成されていきます。漢詩漢文がさかんに創作される一方、漢字から仮名が生み出され、和歌が次第に公の場で詠まれるようになるほか、物語や日記が登場します。これらは、貴族文化の発展や後宮ではたらく女性たちの活躍にともなって、花開きます。のち、爛熟、退廃期を経て前代の検証が行われ、新風が拓かれます。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>上代・中古の文学作品における特色や他作品との関連、文学史的な意味について考え、理解を深めます。日本文学・文化を知る上で必要不可欠な古典文学に親しみ、その面白さと意義を学びます。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 文学史</div> <div>・ 上代文学</div> <div>・ 中古文学</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>作品の概要について『日本古典文学大辞典』（岩波書店）や、新編日本古典文学全集（小学館）、角川ビギナーズ・クラシックス（角川書店）などで確認しておいてください。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>その日のうちにプリントとノートを読み返し、整理すること。分からない漢字や語句については辞書で調べること。追加で質問があれば受け付けます。関心をもった作品は、現代語訳でもいいので読んでみましょう。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 期末試験60%</div> <div>(2) 平常点40%</div> <div>フィードバックペーパーや小テスト等の授業内提出物</div>
<div>教科書</div>		
<div>参考書</div> <div>三村 晃功、寺川 真知夫、廣田 哲通、 本間 洋一（編）『日本古典文学を読む』（和泉書院）</div>		

日本文学史(中世・近世)		JLIT-J-200
担当教員： 家永 香織		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J410210
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目		01. 文学史とは 02. 中世の韻文（和歌）－中世和歌の特色 03. 中世の韻文（和歌）－藤原定家と後鳥羽院（1）－初学期の定家 04. 中世の韻文（和歌）－藤原定家と後鳥羽院（2）－後鳥羽院歌壇の成立 05. 中世の韻文（和歌）－『新古今和歌集』前後 06. 中世の散文（評論）－『無名草子』 07. 中世の散文（軍記）－『平家物語』 08. 中世の散文（日記）－『建礼門院右京大夫集』（1）－右京大夫と二人の恋人 09. 中世の散文（日記）－『建礼門院右京大夫集』（2）－『源氏物語』の影響 10. 中世の散文（日記）－『とはずがたり』（1）－二条の生涯と彼女を取り巻く男性たち 11. 中世の散文（日記）－『とはずがたり』（2）－『とはずがたり』の物語的性格 12. 中世の散文（随筆）－『方丈記』 13. 中世の散文（随筆）－『徒然草』（1）－兼好の伝記・『徒然草』概説 14. 中世の散文（随筆）－『徒然草』（2）－『徒然草』の代表的章段を読む 15. 中世の散文（説話）－『発心集』 16. 中世の散文（説話）－『宇治拾遺物語』（1）－類話の比較・配列の特徴 17. 中世の散文（説話）－『宇治拾遺物語』（2）－笑える話・普話に関わる話を読む 18. 中世の散文（説話）－『今物語』 19. 連歌から俳諧へ 20. 近世の韻文（俳諧）－松尾芭蕉 21. 近世の韻文（俳諧）－与謝蕪村・小林一茶 22. 近世の散文（小説）－近世の小説概論 23. 近世の散文（小説）－井原西鶴（1）－好色物を読む 24. 近世の散文（小説）－井原西鶴（2）－武家物・町人物を読む 25. 近世の散文（小説）－井原西鶴（3）－説話物を読む 26. 近世の散文（人形浄瑠璃・歌舞伎）－近松門左衛門（1）－近世の劇文学概説・近松門左衛門の生涯 27. 近世の散文（人形浄瑠璃・歌舞伎）－近松門左衛門（2）－近松の代表作を観る 28. 近世の散文（小説）－読本 29. 近世の散文（小説・落語）－パロディと笑話 30. 理解度確認
【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目		
(1) 内容		
中世・近世（時代でいうなら鎌倉時代から江戸時代まで）の文学作品を取り上げる。それまで貴族階級がほぼ独占していた文化形成の場に、まず武士階級が、そして町人階級が参入していく時期であり、俗っぽさ・人間臭さ・猥雑さ・生活感など王朝文化には見られない特徴が現れると同時に、王朝文化に対する遥かなるあこがれも見出せる時代である。雅やかな王朝文化とは違ったおもしろさを味わってほしい。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
中世・近世の文学作品から著名な作品、重要な作品を中心に選んで取り上げる。同時に、さほど著名ではなくとも、おもしろく読める作品にも触れる。各々の作品の独自性を明らかにすると同時に、他の作品との関連や、文学史の中でその作品がどのような位置を占めるかといった視点も大切にして読解を進める。多くの作品に触れる中で、日本古典文学がいかに多様で奥深いかを知って欲しい。		
受講者に対する要望		
ノートをしっかりとることを心がけて欲しい。テストはノートのみ持ち込み可とする。漫然と板書を写すのではなく、講義をきちんと聞き、重要だと思ったことは、たとえ板書されなくてもノートに書くようにしよう。 また、疑問が生じたら積極的に質問して欲しい。授業内容に直接関することだけでなく、できる限り答え、授業をきっかけにして自分なりに関心の対象を広げていくことを手助けしたい。		
学びのキーワード		教科書
・ 文学史 ・ 中世文学 ・ 近世文学		
教科書		
テキストは使用せずプリントを配布する。		参考書
参考書		

日本文学史(近現代)		JLIT-J-200
担当教員：前田 潤		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1J410320
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 近代小説の起源 03. 「浮雲」の実験 04. 「たけくらべ」の文体 05. 「舞姫」の論じ方 06. 「阿部一族」は剽窃文学か 07. 「自然主義」とは何か 08. 韻文史概説 09. 革新者・正岡子規 10. 「坊っちゃん」語りの構造 11. 「三四郎」と「青年」 12. 「心」をめぐる論争 13. 山頭火と放哉 14. 「家族」の文学・志賀直哉と疫病 15. 労働争議と大正文学 16. 職業作家としての芥川龍之介 17. 関東大震災と近代日本文学 18. 谷崎潤一郎の「転向」 19. 「新感覚」の実態 20. 「蟹工船」再考 21. 「人間失格」の「奥行き」 22. 「戦後」文学の可能性 23. 巨人・松本清張 24. 探偵小説の歴史と江戸川乱歩 25. 1965・ベトナム・開高健 26. 1995・村上春樹の「転回」 27. 村上春樹と長編小説 28. 都市・ファッション・ノベル 29. 「詩人」としての津島佑子 30. 長野まゆみと桜庭一樹</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【J】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>明治初期から平成に至るまでの日本文学の歩みを概観する。画期的な意味を持つ文学作品や文学者の動向に触れ、その歴史的位置を確認すると共に、同時代の文化社会の中でそれらがどのような役割を果たしていたのかに言及する。特に政治や労働運動、活字出版メディアの史的展開と文学言説との関わりについては詳しく見取り図を引いてゆきたい。授業では項目を挙げるだけの解説は避け、記憶に残るような鮮烈な文学者の言動を紹介したいと考えている。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「近代文学」という制度発生の歴史過程を注視し、「近代文学」が他領域とどのような影響関係のもとで変貌してきたのかについて学ぶことを通じて、「歴史」を相対化し、「現代」を対象化するまなざしを育みたい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業中紹介してゆく作品の幾つかを、自ら手に取り読んでみて欲しい。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>自分が何に興味を持つ存在であるのかという「問い」を持って講義に臨んで欲しい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>各回完結型の講義ではあるが、近代文学史の流れを体系的に把握するためには、講義内容の連続性に配慮し、前回の内容を復習しながらついてきて欲しい。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 50% (2) 最終試験 50%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・近代文学 ・現代文学 ・文学史 ・文化史 ・小説</div>	<div>教科書</div>	
	<div>参考書</div>	

日本文学研究と批評(古典 1)		JLIT-J-200
担当教員： 渡辺 正人		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J410430
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目		01. 作品概説 伊勢物語誕生の背景 02. " 色好み在原業平 03. 冒頭章段 1 段 04. " 2 段 05. 業平と二条の後関係章段 3 段 06. " 4 段 07. " 5 段 08. " 6 段 09. " まとめ 10. 東下り関係章段 7 段 11. " 8 段 12. " 9 段 13. " 9 段 14. " まとめ 15. 東国物語 1 0 段 16. 1 5 回までの復習：和歌の技巧について 17. 伊勢斎宮関係章段 6 9 段 18. " 7 0 段 19. " 7 1 段 20. " 7 2 段 まとめ 21. 筒井筒の章段 2 3 段 22. " 23. 筒井筒と他作品の比較 古今集 24. " 大和物語 25. " まとめ 26. 歌物語について 27. 惟喬親王関係章段 8 2 段 28. " 29. " 30. まとめ 1 2 5 段
【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目		
(1) 内容		
歌物語の代表作として広く知られる『伊勢物語』を講読していきます。授業では、作品の大きな魅力である主人公、色好みの貴公子・在原業平の人間像をつかんでいきます。また、業平の生きた時代背景や風俗習慣も確認していきます。 二条の後や伊勢の齋宮との許されない恋や、惟喬親王等との交流の中で詠まれた心打つ和歌の数々。『伊勢物語』は、それら業平の歌にまつわる話に、業平以外の人々の歌にまつわる物語も取り込みつつ、全体として業平の「みやびの世界」が形成されていることを学んでいきます。 作品中の和歌の重要性に注目して、口語訳・解釈は詳細に考察していきます。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
同時代成立の和歌集『古今集』との関連等を考察しながら、「歌物語」としての独自の性格を明らかにしていきます。また、教職を目指す学生の古典対応力の増強も目標としています。 『伊勢物語』は、『源氏物語』をはじめとして、能楽・歌舞伎にも影響を及ぼし、屏風など絵画の題材にもなっています。後世の日本文化との関係、発展を考える上で重要な作品です。古来の文人墨客が愛した国民的物語—『伊勢物語』を知ることは、現代人の教養という面でも意義深いことです。		
受講者に対する要望		
一般教養として古典知識を身につけたい学生、教職科目受講者で古典対応力増強をめざす学生の受講を望みます。		準備学習(復習)
学びのキーワード		
・ 平安文学 ・ 歌物語 ・ 和歌 ・ 在原業平 ・ みやび		
教科書		参考書
石田 穰二 『伊勢物語—付現代語訳 (角川ソフィア文庫 (SP5))』 (角川学芸出版)		

日本文学研究と批評(古典 2)		JLIT-J-200
担当教員： 木下 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J410540
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		(1) 内容
【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目 【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目		
(1) 内容		準備学習(予習)
平安時代に唐から伝来し、大流行した白居易の『白氏文集』と、その影響を受けた紫式部の『源氏物語』や清少納言の『枕草子』、菅原道真の『菅家文草』『菅家後集』を読み比べます。 前半は、『白氏文集』「長恨歌」と『源氏物語』を中心に、愛する女性を失った男性の長きにわたる痛み、悲しみに注目します。後半は、さすらいの悲しみや当地における男女・男同志の交流、琴のモチーフを読み解きます。また、紫式部と清少納言における『白氏文集』受容や、漢字漢文をめぐる振舞いの違いを考えます。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)
注釈と口語訳つきのテキストを用い、基礎的な知識を身に付けながら、魅力ある表現やテーマを味わい、分析します。平安文学がいかに中国文学を受容したかを考え、総合的に読解し理解することを目指します。		
受講者に対する要望		評価方法
ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。		
学びのキーワード		教科書
・平安文学における中国文学の受容 ・源氏物語 ・枕草子 ・菅家文草・菅家後集 ・白氏文集		
		参考書

日本文学研究と批評(近現代 1)

JLIT-J-200

担当教員： 佐藤 ゆかり

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1J410760

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目
【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目

(1) 内容

西洋と〈出会った〉明治以降の近現代文学を通して、それまでの日本文学の伝統との連続性と非連続性を意識しつつ、これからの日本文学史を視野に入れ、近現代の著名な作家による名作短篇・中篇小説を読み、言葉を通して内容を的確に理解し、それを論理的に思考し表現する能力を高め、発表をすることで互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することを目的に、学生の発表を中心に、ディスカッション、映像との比較等を交えて進める。なお、履修者人数によっては、採り上げる作品、順番も含めて変更する場合もある。

(2) 学びの意義と目標

日本の近現代文学作品の解釈と鑑賞を通して、作家、作品、時代背景、同時代評、表現技法、文学史的背景、先行論文等も含めた基本的、総合的な研究方法を学ぶ。目標は、（１）近現代文学の精読と、基本的、総合的な研究方法の習得、（２）自分の意見を、根拠をもって論述すること、（３）卒業論文の執筆に役立つ基礎的な近現代文学の知識の習得、である。この授業の学びの意義は、（１）精読し、調査し、レジメにまとめ、発表するという流れが、情報収集、読み解き、探索、発信という、日常生活に役立つ、（２）自分自身の意見を基に、他の学生との意見交換を行ない、特に異なった意見を持つ学生との議論を行なうことで、より日本文学に対する理解を深められる、（３）本離れと言われる現代において、読書の重要性、楽しさを体験し、次世代への知識の提供、自分自身の生涯学習の基礎を作る、である。

受講者に対する要望

文学作品に興味を持つ学生、授業中採り上げる作品は必ず読んで、熱心に取り組める学生の受講を希望する。演習発表中心の授業であるから、担当箇所の作品精読、調査、レジメの作成、それについて発表があるので、その点を留意すること。プリントはなくさないこと。

学びのキーワード

・ 近現代日本文学の研究方法
・ 近現代小説精読
・ 演習発表の方法
・ 映像と小説の比較
・ 他者の意見を聴く

授業計画

01. 導入—近現代文学を読むとは？（講義）
02. 作品分析の方法（講義）
03. 横光利一『春は馬車に乗って』①資料収集の方法
04. 横光利一『春は馬車に乗って』②先行研究の精読
05. 横光利一『春は馬車に乗って』③自分の意見をまとめる、他人の意見を聞く
06. 芥川龍之介『魔術』①児童文学の側面
07. 芥川龍之介『魔術』②映像とディスカッション
08. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』①第一章
09. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』②第二章、第三章
10. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』③第四章
11. 〈学生発表〉有島武郎『小さき者へ』①父と母
12. 〈学生発表〉有島武郎『小さき者へ』②父と子
13. 有島武郎『小さき者へ』③まとめとディスカッション
14. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』①伊豆
15. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』②踊子
16. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』③孤児根性
17. 川端康成『伊豆の踊子』④映像と文学の比較
18. 川端康成『伊豆の踊子』⑤まとめとディスカッション
19. 〈学生発表〉宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』①ゴーシュと動物
20. 〈学生発表〉宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』②作品の中の音楽
21. 宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』③まとめとディスカッション
22. 宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』④映像と文学の比較
23. 〈学生発表〉中島敦『山月記』①友との再会
24. 〈学生発表〉中島敦『山月記』②夢の実現
25. 中島敦『山月記』③まとめとディスカッション
26. 〈学生発表〉吉本ばなな『キッチン』①台所
27. 〈学生発表〉吉本ばなな『キッチン』②厨房とキッチン
28. 吉本ばなな『キッチン』③まとめとディスカッション
29. 吉本ばなな『キッチン』④映像と文学の比較
30. まとめ

準備学習(予習)

授業中採り上げる作品は必ず読んで、自分の意見をまとめてくること。

準備学習(復習)

授業内で採り上げた小説について、読んでくること。レジメを見直し、自分の意見をまとめること。

評価方法

(1) レポート	50%
(2) 発表	30%
(3) 平常点	20%

出席が3分の2以下の者は単位を認定しない。

教科書

参考書

LING-J-200

担当教員： 小林 茂之

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1J411310

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目
【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目
【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 内容

英語は、多くの日本人にとってもっとも身近な外国語である。「目からウロコ」など、英語訳聖書を通じて日本語に取り入れられた表現が気づかれずに使われていることも少なくない。今や英語の影響を取り去った現代日本語などは考えられない。しかし、英語はもともとブリテン島にやってきたゲルマン系部族の弱小な方言に過ぎず、世界語に発展するまでの過程には、歴史的変遷に伴う多くの変化が起きた。16Cに現代英語(PDE)に近い初期近代英語(EModE)が成立し、現代でも一般的に用いられる英語訳聖書中で最も古い欽定訳聖書(KJV)は、初期近代英語による傑出した作品である。欽定語訳聖書(1611)に至るまでの歴史やその後の現代英語訳聖書までの英訳聖書の変遷を学ぶとともに、現代日本語による新共同訳聖書とも対照し、現代日本人の教養としても重要な聖書の言語文化史的意義を取り上げる。

(2) 学びの意義と目標

聖書の英語訳の歴史を通して、聖書の言語文化史的に果たした役割について考える。キリスト教が日本に再びもたらされた幕末から明治初期、イギリスからアメリカに渡り、ブラウンなどの主にアメリカ人宣教師が日本にもたらした英訳聖書のルーツを学ぶことを通して、言語研究の動機が聖書理解、生きる意味の思索に結びつけば理想的である。また、演習的な課題を通して、歴史言語学的視点を身に付けるとともに、聖書翻訳の英日における言語文化史的意義について考える。

受講者に対する要望

毎回、電子辞書などを必ず授業に持ってくる。授業時に、電子辞書などで調べるよう指示することがある。教科書は授業、予習・復習に必要なもので、必ず入手する。

学びのキーワード

- ・ 言語文化史
- ・ 聖書の翻訳
- ・ 古英語
- ・ 中英語
- ・ 初期近代英語

授業計画

01. 導入 1：英語の歴史（チョーサーまで）
02. 導入 2：英語の歴史（欽定訳聖書・シェイクスピアまで）
03. テキスト：序章，聖書と言語文化
04. テキスト：第 1 章，英訳聖書の歴史
05. テキスト：古英語・中英語文法入門
06. テキスト：第 2 章，現代英語と初期近代英語による「主の祈り」
07. テキスト：第 3 章(1)，『ウィクリフ派聖書』による「主の祈り」
08. テキスト：第 3 章(2)，発音と綴り：英語の黙字，二人称代名詞
09. テキスト：第 4 章(1)，『ウェストサクソン福音書』による「主の祈り」
10. テキスト：第 4 章(2)，古英語の綴りと発音
11. テキスト：第 5 章(1)，大母音推移：英語の母音の変化，人称代名詞の変
12. テキスト：第 5 章(2)，語形変化，語順の変化，語彙の変化
13. テキスト：第 6 章(1)，現代英語・初期近代英語による「創世記」 2. 18-2
14. テキスト：第 6 章(2)，中英語・古英語による「創世記」 2. 18-2
15. テキスト：第 7 章(1)，現代英語・初期近代英語による「創世記」 3. 1-13
16. テキスト：第 7 章(2)，中英語・古英語による「創世記」 3. 1-13
17. テキスト：第 8 章(1)，現代英語・初期近代英語による「創世記」 11. 1-9
18. テキスト：第 8 章(2)，中英語・古英語による「創世記」 11. 1-9
19. テキスト：第 9 章(1)，現代英語・初期近代英語による「ルカ伝」 1. 26-3
20. テキスト：第 9 章(2)，中英語・古英語による『ルカ伝』 1. 26-3
21. テキスト：第10章(1)，現代英語・初期近代英語による「マタイ伝」 25. 14-30
22. テキスト：第10章(2)，中英語・古英語による「マタイ伝」 25. 14-30
23. テキスト：第11章(1)，現代英語・初期近代英語による「マルコ伝」 14. 12-25
24. テキスト：第11章(2)，中英語・古英語による「マルコ伝」 14. 12-25
25. テキスト：第12章，1000語聖書
26. テキスト：第13章，アメリカ英語やピジン英語の影響
27. テキスト：第14章，障がい者差別を排除する英語
28. テキスト：第15章，性差別を排除する英語
29. まとめ(1)（第1-14回）
30. まとめ(2)（第15-28回）

準備学習(予習)

テキストを事前に読んでおく。

準備学習(復習)

積極的に発展的読書をする。また、発展的読書を通して、レポートの準備をする。

評価方法

(1) レポート	40%	
(2) 平常点	30%	教科書を入手しないで授業に出席しても、平常点は認められない。なお、随時教科書の発行をチェックする。
(3) 授業態度	30%	課題や討論への積極性が含まれる。

報告・討議は、授業参加度として評価する。

教科書

寺澤盾 『聖書でたどる英語の歴史』（大修館書店）

参考書

授業時に指示する。

古典日本語Ⅰ		WLAG-O-128
担当教員： 上宇都ゆりほ		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J411520
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目 【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目 【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目		
(1) 内容		01. 授業概説と歴史的仮名遣い 02. 歴史的仮名遣いと品詞―用言と体言 03. 品詞（１）―名詞と動詞 04. 品詞（２）―動詞・形容詞・形容動詞 05. 品詞（３）連体詞・副詞・感動詞・接続詞 06. 品詞（４）―助詞・助動詞 07. 四段活用動詞（１）―活用の種類と活用形を覚える 08. 四段活用動詞（２）―活用の種類と活用形の用例 09. 上一段・下一段活用動詞（１）―活用の種類と活用形を覚える 10. 上一段・下一段活用動詞（２）―活用の種類と活用形の用例 11. 上二段活用動詞（１）―活用の種類と活用形を覚える 12. 上二段活用動詞（２）―活用の種類と活用形の用例 13. 下二段活用動詞（１）―活用の種類と活用形を覚える 14. 下二段活用動詞（２）―活用の種類と活用形の用例 15. 動詞の活用の総復習 16. 動詞の活用のまとめ 17. サ行変格活用動詞・カ行変格活用動詞の活用の種類と活用形を覚える 18. ラ行変格活用動詞・ナ行変格活用動詞の活用の種類と活用形を覚える 19. 変格活用動詞の活用の用例 20. 動詞の活用の音便 21. 動詞の活用の総復習 22. 形容詞の活用の種類と活用形を覚える 23. 形容動詞の活用の種類と活用形の用例 24. 形容動詞の活用（２） 25. 形容動詞の活用の種類と活用形を覚える 26. 形容動詞の活用の種類と活用形の用例 27. 用言の活用の総復習（１） 28. 用言の活用の総復習（２） 29. 用言の活用の総復習（３） 30. 学期末試験
私たちが使う日本語は、長い歴史の中で変化し続けてきたものであり、私たちにとって古典日本語は、現代日本語とは全く異なる言語のように感じるかもしれない。日本文学を専門的に学ぶためには、古典文学を専攻する者だけでなく、近・現代文学を正しく考察するためにも、日本文学史の中で古典文学を把握し、理解することが必要である。そのために、古典文法は必ず身に付けなくてはならないものである。 この授業では、古典日本語の基本的な読み方、品詞の分類や動詞・形容詞・形容動詞といった用言の活用の種類や活用形を習得し、古典日本語を学ぶ上で基礎となる文法の習得を目標とする。 その際、単に単語だけを取り出すのではなく、いきいきとした形で触れるために、『蜻蛉日記』を副教材として読むことによって、実際にどのように用いられているかを学び、併せて平安時代の代表的日記作品である『蜻蛉日記』の世界を味わう。		
(2) 学びの意義と目標		
歴史的仮名遣いや古文の読み方という初歩から始め、動詞・形容詞・形容動詞という用言の活用を習得する。まずは古文の読み方に慣れ、用言の活用を習得することによって、日本語の構造を理解し、古典文学作品を原文で読むための基礎を固める。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
毎回小テストを行って平常点とするので、しっかり予習・復習をすること。教科書は必ず購入し、毎回到授業はもとより、予習・復習に役立てること。		
準備学習(復習)		『詳説古典文法』の教科書で、次の講義に指定した範囲を読んでくこと。
講義で学んだ範囲について、毎回次の講義の10分間で小テストを実施するので、必ず学んだことについての復習を行うこと。		
評価方法		準備学習(復習)
(1) 中間試験 30% (2) 学期末試験 30% (3) 小テスト 40% 毎回の授業の最後に、前回学んだ内容の小テストを実施する。		
教科書		教科書
・ 古典文法 ・ 用言の活用 ・ 小テスト		
参考書		教科書 角川書店編『ビギナーズ・クラシックス蜻蛉日記』（角川書店） 仲光雄『必携 古典文法ハンドブック』（Z会出版）【ISBN:978-4860667832】

古典日本語Ⅰ		WLAG-O-129
担当教員： 渡辺 正人		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J411635
学部教育の関連目		授業計画
【J】 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目		
【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目		
(1) 内容		
古典文法の習熟を図っていきます。『紫式部日記』という古典作品の中でもかなり手応えのある文章を読んでいくことで、古典の文法・読解力をつけていきます。授業内容は、中宮の出産の場面や道長の屋敷の様子など、当時の風俗風習などが描かれているので、随時解説を加えながら、無理なく深化させていきます。『紫式部日記』を読解することにより、紫式部が仕えた彰子（一条天皇中宮）や、権力者藤原道長（彰子の父）などの姿をとらえていきます。また、そのきらびやかな生活を見つめる紫式部の眼差しから「作家紫式部」への理解も深めていきます。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
古典作品を、自力で辞書を引きながら適切に読解できる文法力を養うことが目標です。『紫式部日記』を読むことによって平安文学の頂点を極めた紫式部の体験した世界を知ること。当時の上流貴族の生活一行事や、冊子作りなど日常生活の描写は、歴史的にも価値のあるものです。また、紫式部の精神を理解することは『源氏物語』を始めとし、その後の日本文学に流れる精神への理解につながります。幅広い古典作品へアプローチする力を高めるための講座になります。		
受講者に対する要望		
古典研究を目指す学生、教職希望の学生の古典日本語の習熟を図る講座で、「古典日本語」を履修済みの学生を対象としています。日文の学生の第2外国語の選択必修科目になります。		
学びのキーワード		
・ 古典日本語 ・ 古典文法 ・ 紫式部日記 ・ 平安貴族の生活		
		教科書
		参考書

01. 授業概説	
02. 秋のけは入り立つままに	歴史的仮名遣い 文・文節
03. 渡殿の戸口の局に見出だせば	単語・品詞の種類
04. 九日、菊の綿を	動詞（1）
05. 御帳の東おもては	動詞（2）
06. 御いだだきの御髪おろしたてまつり	動詞（3）
07. 午の時に、空晴れて	動詞（4）
08.	動詞のまとめ
09. 五日の夜は	形容詞・形容動詞（1）
10. 十月十余日までと	形容詞・形容動詞（2）
11. 行幸ちかくなりぬとて	副詞・連体詞
12. おそろしかるべき夜の御酔ひなめりと見て	接続詞・感動詞
13. 中間試験	
14. 宮の御前聞こしめすや	助動詞（1）
15. 入らせたまふべきことも近うなりぬれど	助動詞（2）
16. 御前の池に、水鳥どもの	助動詞（3）
17. こころみに、物語をとりて見れど	助動詞（4）
18. 師走の二十九日に参る	助動詞（5）
19. 宮の内侍ぞ	助動詞（6）
20. 和泉式部といふ人こそ	助動詞（7）
21. 丹波の守の北の方をば	助動詞（8）
22.	助動詞まとめ
23. 清少納言こそ、したり顔に	助詞（1）
24. よろずのこと、人によりてことごととなり	助詞（2）
25. それ、心よりほかのわが面影をば	助詞（3）
26.	助詞のまとめ
27. さまよう、すべて人はおいらかに	敬語（1）
28. 左衛門の内侍といふ人はべり	敬語（2）
29. いかに、いまは言忌みしはべらじ	まとめ
30.	まとめ

準備学習(復習)	
まとめの講義を利用しながら復習を行うとよい。	

評価方法	
(1) 授業時提出物	20% 授業時発表含む
(2) 中間試験	40%
(3) 期末試験	40%

教科書	
授業時に指示する	
参考書	

中国文学		WLIT-J-100
担当教員： 濱田 寛		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1J411740
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ・ガイダンス</div> <div>02. ・志怪小説概論（1）</div> <div>03. ・志怪小説概論（2）</div> <div>04. ・志怪小説概論（3）</div> <div>05. ・志怪小説概論（4）</div> <div>06. ・志怪小説概論（5）</div> <div>07. ・志怪小説各論（1）／「三王墓」（1）</div> <div>08. ・志怪小説各論（2）／「三王墓」（2）</div> <div>09. ・志怪小説各論（3）／「范巨卿張元伯」（1）</div> <div>10. ・志怪小説各論（4）／「范巨卿張元伯」（2）</div> <div>11. ・志怪小説各論（5）／「童謡」（1）</div> <div>12. ・志怪小説各論（6）／「童謡」（2）</div> <div>13. ・志怪小説各論（7）／「鬼」（1）</div> <div>14. ・志怪小説各論（8）／「鬼」（2）</div> <div>15. ・志怪小説各論（9）／「管輅」（1）</div> <div>16. ・志怪小説各論（10）／「管輅」（2）</div> <div>17. ・志怪小説各論（11）／「隗?」（1）</div> <div>18. ・志怪小説各論（12）／「隗?」（2）</div> <div>19. ・志怪小説各論（13）／「天竺胡人」（1）</div> <div>20. ・志怪小説各論（14）／「天竺胡人」（2）</div> <div>21. ・志怪小説各論（15）／「胡母班」（1）</div> <div>22. ・志怪小説各論（16）／「胡母班」（2）</div> <div>23. ・志怪小説各論（17）／「妖怪・牛能言」（1）</div> <div>24. ・志怪小説各論（18）／「妖怪・牛能言」（2）</div> <div>25. ・志怪小説各論（19）／「到伯夷・安陽亭書生」（1）</div> <div>26. ・志怪小説各論（20）／「到伯夷・安陽亭書生」（2）</div> <div>27. ・志怪小説各論（21）／「阿紫」（1）</div> <div>28. ・志怪小説各論（22）／「阿紫」（2）</div> <div>29. ・志怪小説各論（23）／「阿紫」（3）</div> <div>30. 総括</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 高等学校教諭一種免許：国語必修科目</div> <div>【J】 中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>中国六朝期の志怪小説の講読を中心とし、漢文読解力の涵養、基礎的な工具書の扱い方等にも配慮する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>中国文学史上の「志怪小説」の位置づけを理解するとともに、具体的な作品の読解を通して、その作品世界に触れたい。また、上記のカリキュラム上の位置づけを踏まえて、基礎となる「訓読」についてより深い理解を目指す。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>漢和辞典必携 詳しくは初回の講義にて解説の予定。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 志怪小説</div> <div>・ 漢文訓読</div> <div>・ 説話</div>		
		<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div> <div>参考書</div> <div>教場で適宜紹介する</div>

日本語学(文法) A		JPLI-J-200	
担当教員： 黒崎 佐仁子			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J411850	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 文法を考えるとということ 02. 単語とは 03. 品詞とは 04. 品詞を考える（活用） 05. 格の問題 06. 自動詞と他動詞 07. ボイス（1）受け身 08. ボイス（2）使役 09. やりもらい 10. アスペクト「～ている」 11. テンス「～る」「～た」 12. 空間に関する表現 13. 意志に関する表現 14. 解釈の多義性 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目 【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目 【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文法は「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法A」では特に「命題」に重きを置く。また、「文法A」では主に単文を扱う。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>用語などに関する予習課題を提示する。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で取り上げた文法項目は、返却されたワークシートを用いて、必ず復習しておくこと。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業参加度</div><div>30%</div></div><div><div>(2) 課題</div><div>30%</div></div><div><div>(3) テスト</div><div>30%</div></div><div><div>(4) 中間レポート</div><div>10%</div></div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>言語に興味がある者の受講を歓迎する。また、授業内での積極的な意見交換ができればなおよい。</div>			
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 日本語</div><div>・ 言語</div><div>・ 日本語学</div><div>・ 文法</div><div>・ 日本語教員養成課程</div></div>		<div>教科書</div> <div>森山卓郎（2003）『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房</div> <div>参考書</div>	

日本語学(文法) B		JPLI-J-200
担当教員： 黒崎 佐仁子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J411901
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 文法とは？</div> <div>02. モダリティ 断定と不確実 医者「インフルエンザらしいですね」→「インフルエンザのようですね」</div> <div>03. モダリティ 断定と不確実 天気予報「明日は雨でしょう」</div> <div>04. モダリティ 疑問文 「彼はどこにいるかどうかわからない」→「彼はどこにいるかわからない」</div> <div>05. モダリティ 意志 「じゃあ、ぼくがやるつもりだ」→「じゃあ、ぼくがやる」</div> <div>06. 主語と「は」と「が」</div> <div>07. 「象は鼻が長い」「僕はうなぎだ」</div> <div>08. とりたて 「女の子だけ来た」「女の子しか来なかった」</div> <div>09. 単文と複文</div> <div>10. 複文 「て」節</div> <div>11. 複文 条件文 「雨が降るとこの傘を差しなさい」→「雨が降ったらこの傘を差しなさい」</div> <div>12. 複文 逆接 「急いでいるのは分かるのに、車は使うな」→「急いでいるのは分かるが、車は使うな」</div> <div>13. 名詞修飾 「内の関係」「外の関係」</div> <div>14. 談話とテキスト</div> <div>15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文は、「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法B」では特に「モダリティ」に重きを置く。また、複文についても詳しく取り上げる。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>課題を与える。各自、課題に取り組むこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>教員と受講生の双方向の授業を目指します。受講生の積極的な参加を歓迎します。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎時間始めにワークシートの返却を行うため、ワークシートを元に自主的にきちんと丁寧な復習を行ってほしい。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業参加度</div><div>30%</div></div><div><div>(2) 課題</div><div>30%</div></div><div><div>(3) テスト</div><div>30%</div></div><div><div>(4) 中間レポート</div><div>10%</div></div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・日本語</div><div>・文法</div><div>・複文</div><div>・モダリティ</div><div>・助詞</div></div>		<div>教科書</div> <div>森山卓郎（2003）『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房</div> <div>参考書</div>

日本語学(音声・音韻) A		JPLI-J-200								
担当教員： 棚橋 明美										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1J412070								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】 実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 言語音を作る仕組み 音声について</div> <div>02. 音素と異音 有声音と無声音</div> <div>03. 母音</div> <div>04. 子音ー1（調音点と調音法）</div> <div>05. 子音ー2（カ行）</div> <div>06. 子音ー3（キャ行）</div> <div>07. 子音ー4（ガ・ギャ行）</div> <div>08. 復習とまとめ</div> <div>09. 子音ー5（サ行）</div> <div>10. 子音ー6（シャ行）</div> <div>11. 子音ー7（ザ・ジャ行）</div> <div>12. 子音ー8（タ・チャ行）</div> <div>13. 子音ー9（ダ行、ナ行）</div> <div>14. 子音ー10（ニャ行、マ・ミャ行）</div> <div>15. 復習 聴解練習</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】 高等学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 中学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】 日本語教員養成課程：選択必修科目</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の基礎を学ぶ。「あいうえお」など単音の発音について、規範的な発音法を学び、自分自身の発音との差異を考える。そのために、実際に発音したり音声を聞いたりして、積極的に音声の微妙な違いや自分の調音部位の状態を発見するような活動を行う。また、日本語の発音記号の書き方を身につける。</div> <div>試験は、日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、筆記と聴解の両方を課す。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>日本語教育の視点から、日本語音声学・音韻論の中の単音（分節音）についての知識と応用を学ぶ。日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業内で指示する。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>出席率100%をめざしてほしい（休むと分からなくなり、興味を失うことになるので注意）。
 後期の「日本語学（音声・音韻）B」も引き続き受講することが望ましい。実際に声を出して自分やクラスメートの発音を確かめることが重要なので、恥ずかしがらずに声を出してしてほしい。必ず手鏡を用意すること。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>復習シートは必ずやって次回提出すること。自宅で、習った範囲の教科書を精読すること。また、手鏡などをみながら発音して、自分の口の動きを観察してほしい。</div>								
		<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 期末テスト</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 出席と参加、授業貢献度</td><td>30%</td></tr><tr><td>(3) 課題提出</td><td>20%</td></tr><tr><td>(4) 復習小テスト</td><td>10%</td></tr></table> <div>出席率70%を割ったものは、期末テストを受けられない。</div>	(1) 期末テスト	40%	(2) 出席と参加、授業貢献度	30%	(3) 課題提出	20%	(4) 復習小テスト	10%
		(1) 期末テスト	40%							
(2) 出席と参加、授業貢献度	30%									
(3) 課題提出	20%									
(4) 復習小テスト	10%									
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 規範的発音</div> <div>・ 日本語教育</div> <div>・ 声を出す</div> <div>・ 発見</div> <div>・ 発音と発音記号</div>	<div>教科書</div> <div>棚橋 明美 『日本語教育能力検定試験に合格するための聴解問題10』（アルク）</div> <div>参考書</div>									

中国思想		PHIL-J-200
担当教員：大坊 真伸		
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1J512080
<div>学部教育の関連目</div> <div>【J】国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 【諸子百家】ガイダンス（時代と各思想のあらまし）</div> <div>02. 【諸子百家】孔子（生い立ちと功績）</div> <div>03. 【諸子百家】『論語』（日本語に根付く『論語』出典の故事成語）</div> <div>04. 【諸子百家】孟子の思想1（易姓革命と王道）</div> <div>05. 【諸子百家】孟子の思想2（五十歩百歩・性善説）</div> <div>06. 【諸子百家】荀子の思想（性悪説・勸学・天人の分）</div> <div>07. 【諸子百家】韓非子（法家思想概論）</div> <div>08. 【諸子百家】『墨子』『兼愛・非攻』</div> <div>09. 【諸子百家】『老子』『無為自然』・『莊子』1（無用の用・万物斉同）</div> <div>10. 【諸子百家】『莊子』2（尾を塗中に曳く・夢に胡蝶と為る）</div> <div>11. 【諸子百家】『列子』1（寓話から見る列子「朝三暮四」等）</div> <div>12. 【諸子百家】『列子』2（日本文学との関わりを中心に「名人伝」中島敦</div> <div>13. 【諸子百家】『孫子』兵法1（二人の孫子）（孫子&兵法七書）</div> <div>14. 【諸子百家】『孫子』兵法2（『史記』孫子呉子列伝を読む）・『呉子』『少数精鋭主義』</div> <div>15. 【諸子百家】四書・五経入門</div> <div>16. 〈漢文〉ガイダンス（漢文の五文型）</div> <div>17. 〈漢文〉返り点・送り仮名・書き下し文</div> <div>18. 〈漢文〉助字・返読文字</div> <div>19. 〈漢文〉再読文字</div> <div>20. 〈漢文〉否定文（1）～（3）否定の基本形</div> <div>21. 〈漢文〉否定文（4）～（5）不可能・禁止</div> <div>22. 〈漢文〉否定文（6）～（7）二重否定・部分否定・全部否定</div> <div>23. 〈漢文〉疑問形</div> <div>24. 〈漢文〉反語形</div> <div>25. 〈漢文〉使役形・受身形</div> <div>26. 〈漢文〉仮定形・比較形・選択形</div> <div>27. 〈漢文〉抑揚系・限定形・累加形・詠嘆形</div> <div>28. 〈漢文〉入試問題にチャレンジ！！</div> <div>29. 日本儒学概説～内村鑑三『代表的日本人』～</div> <div>30. 総括</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【J】高等学校教諭一種免許：国語選択科目</div> <div>【J】中学校教諭一種免許：国語選択科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は2コマ連続の講義である。</div> <div>1コマ目に「中国思想」、2コマ目に漢文訓読を教授する。</div> <div>① 本年度の講義は中国思想の代表「諸子百家」を扱う。授業時数が限られている為、当該思想の特徴的なものを紹介する。</div> <div>② 日本文化学科の学生が多いことを鑑み、日本文化に関連が深い事柄を紹介していく。日本文化にも中国思想が影響を与えていることを理解する。深奥難解な内容も多いため、やり出すとキリがない。よって概論的なものにとどめる。</div> <div>③ 漢文訓読の基礎を学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>中国の思想に触れてもらうため日本語訳（もしくは書き下し文）を読み、その日本語訳（書き下し文）から漢文（原文）を読解するような授業を行う。</div> <div>中国思想の特徴及び正確な漢文訓読を講義の目的とするが、漢文読解についてはあまり枝葉末節に拘らないようにしたい。</div> <div>一見古臭いような中国思想であるが、古代から現代まで連綿と続く思想の影響を理解してもらいたい。加えて、学生の皆さんが将来教員になった時、教え子に是非とも紹介したくなるような漢文ネタを提供したいと考えている。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>次回授業予定の中国思想について予習しておくことが望ましい。漢文句形については、高等学校ではあまり詳しく学んではいけないことと推察する。授業内に於いてしっかり学習内容を身につけて欲しい。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>毎時間の小テストが評価の重要なウェイトを占める。授業を欠席すると、その時間の小テストが0点になるばかりでなく、次回の小テスト範囲も未習熟になってしまうので注意すること。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>今年度は“（入試によく出る）漢文重要単語”を家庭学習として課す。詳細は初回授業時に説明する。また、漢文句形の確認テストを行う。プリント沢山なので、専用フォルダ必須！</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・中国思想</div> <div>・諸子百家</div> <div>・儒教</div> <div>・比較文化</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 単語小テスト 20% 漢文重要単語</div> <div>(2) 句形小テスト 70% 漢文重要句形</div> <div>(3) 期末試験 10% 毎時間の小テストの延長として行う予定である。</div>	
	<div>教科書</div> <div>菊地 隆雄、村山 敬三、六谷 明美 編著 『基礎から解釈へ 漢文必携 四訂版』（桐原書店）</div>	
	<div>参考書</div>	

倫理学概論		
担当教員： 井上 兼生		
学期： 週間授 科目：		必修・選択：
学部教育の関連目		授業計画
		01. イントロダクション：科学技術文明の彼方から「倫理」を考えるー「風の谷のナウシカ」を手掛かりとして 02. 「ナウシカ」から考える文明と自然と倫理 03. 「よく生きる」とは？ーソクラテスの問い 04. クマのプーさんの目的は？ーアリストテレスの目的論的倫理 05. 利己主義は道徳に反するか？ーカントとベンサム 06. 多数のために誰かを犠牲にしてよいか？ー功利主義と人格の尊厳 07. 困っている人を助けるのは義務か？ーよきサマリア人の喩えとボランティア精神、カントの不完全義務 08. 生命倫理①「生命の選別」は許されるか？ 09. 生命倫理②脳死は人の死か？ 10. 生命倫理③エンハンスメント(能力増強)は許容可能か？ 11. 環境倫理①自然にも権利はあるか？ 12. 環境倫理②未来世代に責任を負わなければならないか？ 13. 高度情報社会と倫理ー情報公開と個人のプライバシー保護をどう両立するか？ 14. アトムかターミネーターか？ー知能ロボットの進化と倫理 15. まとめー現代と倫理
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
倫理学は、「〈よく生きる〉とはどういうことか」、あるいは、その「よさ」つまり「善」とは何かを理論的に探究する学問である。しかし、科学技術の進歩が著しい現代社会においては、従来とは異なる新たな倫理も必要とされるようになっていく。たとえば、さまざまな先端医療技術の実用化により、人間の生と死のあり方に関しても人為的な選択の幅が拡大されて、これまでになかった多くの倫理問題が発生し、それらに組み込むために生命倫理という分野が成立している。また、現在の最速コンピュータの性能は、30年前のものの1000万倍以上といわれる。その間、インターネットも世界中をくまなく覆うようになった。私たちは、もうスマホやネットのない生活は考えられなくなっている。しかし、ネットトラブルやサイバー犯罪が広がり、情報倫理という分野が必要となった。また、人工知能が進歩し、今後、雇用の半分を奪うのではないかと予測されている。こうした、ただ生きるだけでも大変な現代社会で、〈よく生きる〉ためには、どう生きていけばよいのだろうか。さまざまな倫理的問題を具体的に考えながら、ともに考えてみよう。		
(2) 学びの意義と目標		
対話の参加者とともに主題となっている問いについて深く考える「哲学対話」と、テキストの読解、論述などを通して、深く考える力を育成することに力点をおいた授業をめざします。この科目は、社会科の教職科目でもあります。		
準備学習(予習)		各回の授業は1時間ずつ異なったテーマを取り上げていきます。事前にテーマについての基礎知識を収集するなど、関心を高めておくこと。
準備学習(復習)		レポートも課します。授業で取り上げたテーマについて各自、深く考える努力を求めます。
評価方法		(1) 授業への参加 30% (2) 授業内レポート 40% (3) 学期末レポート 30%
受講者に対する要望		
積極的に自分で考えたり、議論したり、調べようとする態度で臨んでほしい。		
学びのキーワード		教科書 プリントを配布する 参考書
・よく生きる ・哲学対話 ・深く考える力の育成		

国際政治論		POSC-P-200									
担当教員：宮本 悟											
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：4 コード：1P200770									
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 分析枠組みとしての国際政治学（教科書序章、プリント配布） 02. 国際政治の悲劇性とリアリズム（教科書第1章「国際政治学の見取り図」1） 03. リアリズムへの挑戦（教科書第1章「国際政治学の見取り図」2） 04. 三つの分析レベル（教科書第1章「国際政治学の見取り図」3） 05. 国際政治から世界政治へ？国際政治の悲劇性とリアリズム（教科書第1章「国際政治学の見取り図」4） 06. 主権国家体制以前の「世界秩序」（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」1） 07. 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」2） 08. 世界大戦と主権国家体制のグローバル化（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」2） 09. 冷戦期の国際政治（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」4） 10. 冷戦終結後の国際政治（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」5） 11. 外交 ●同意確保の政治過程（教科書第3章「対外政策の選択」1） 12. 国内政治と対外政策（教科書第3章「対外政策の選択」2） 13. 国家間の戦略的相互依存（教科書第3章「対外政策の選択」3） 14. 認識と行動（教科書第3章「対外政策の選択」4） 15. 威嚇と約束（教科書第3章「対外政策の選択」5） 16. 領域主権国家体制 ●国内類推論の系譜（教科書第4章「国際秩序」1） 17. 秩序の設計と生成 ●市場類推論の系譜（教科書第4章「国際秩序」2） 18. 国際秩序の変動と国内秩序の変動 ●共振論の挑戦（教科書第4章「国際秩序」3） 19. 戦争から安全保障へ（教科書第5章「安全保障」1） 20. 軍事的安全保障（教科書第5章「安全保障」2） 21. 安全保障の諸問題（教科書第5章「安全保障」3） 22. 国際の平和と国内の平和（教科書第5章「安全保障」4） 23. 歴史と思想（教科書第6章「国際政治経済」1） 24. 国際経済の制度（教科書第6章「国際政治経済」2） 25. 国際政治経済の過程（教科書第6章「国際政治経済」3） 26. グローバリゼーションとパワーシフト（教科書第6章「国際政治経済」4） 27. 平和と正義の相克（教科書第7章「越境的世界」1） 28. 越境問題の実相（教科書第7章「越境的世界」2） 29. 文明論と国際政治 ●「へだて」と「つながり」（教科書第7章「越境的世界」1） 30. 国際政治学と現代の国際問題についてのまとめ</div>										
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】高等学校教諭一種免許：公民選択科目 【P】中学校教諭一種免許：社会選択科目</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書の各該当部分を読んで予習する。授業内レポート(BRC：授業内で書き上げる簡単な論述400字程度。これについては、オリエンテーションで説明する)の作成を通して予習する。加えて、教科書で予習する。イントロダクションで、授業内レポート(BRC)についての別紙シラバスを配布する。</div>										
<div>(1) 内容</div> <div>授業は教科書にそって、国際政治学の総論から始まって各分野を学んでいきます。国際政治学の基本概念と国際政治の歴史、対外政策論や国際秩序、安全保障論、国際政治経済論、さらにグローバルイズムの問題として越境的世界について学びます。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内レポート(BRC)を再読する。授業内予習時間に書き残した未完成の授業内レポート(BRC)を授業後に完成させる。それにより、授業後の理解を深める。加えて、教科書で復習する。</div>										
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>国際政治には数多くの側面があり、これを理解するには多くの分析枠組みを学ぶ必要があります。ある一面でしか国際政治を理解できないことは、大きな誤りをおかすことになりかねません。この授業では国際政治学の基礎的な分析枠組みや視角を一通り学ぶことになります。本授業は、第一に、国際政治学の基礎的な分析枠組みや視角を習得すること、第二に、それらの基礎知識に基づいて、国際政治の諸問題をより深く理解し、自ら解決方法を考える能力を養うことを目標とします。</div>	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>10%</td><td>予習の準備学習や、授業中に提出する課題を評価することがある。また、授業出席の状況なども出席評価がつけば成績評価に反映しない。</td></tr><tr><td>(2) 授業内レポート（BRC）</td><td>50%</td><td>各回授業の授業内レポート（BRC）を完成させ、全てをまとめてUNIPAで提出</td></tr><tr><td>(3) 期末試験</td><td>40%</td><td>論述試験</td></tr></table>		(1) 平常点	10%	予習の準備学習や、授業中に提出する課題を評価することがある。また、授業出席の状況なども出席評価がつけば成績評価に反映しない。	(2) 授業内レポート（BRC）	50%	各回授業の授業内レポート（BRC）を完成させ、全てをまとめてUNIPAで提出	(3) 期末試験	40%	論述試験
(1) 平常点	10%	予習の準備学習や、授業中に提出する課題を評価することがある。また、授業出席の状況なども出席評価がつけば成績評価に反映しない。									
(2) 授業内レポート（BRC）	50%	各回授業の授業内レポート（BRC）を完成させ、全てをまとめてUNIPAで提出									
(3) 期末試験	40%	論述試験									
<div>受講者に対する要望</div> <div>受講生は、（1）各授業に対応する教科書の該当部分を予習してきて、（2）講義を聴き、理解し、質問に答えてもらいます。原則、教科書に沿って講義を進めていきます。ほぼ毎回、授業内レポート（BRC）を作成してもらいます。</div>	<div>教科書</div> <div>中西寛、石田淳、田所昌幸著『国際政治学』（有斐閣、2013年4月）</div>										
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">リアリズムグローバリズム対外政策論国際政治経済論安全保障論</div>	<div>参考書</div>										

地域圏研究(アジア)		POSC-P-200/POSC-L-2	
担当教員：宮本 悟			
学期：週間授		科目：専門科目	必修・選択：選択科目
単位：4		コード：1P201110	
学部教育の関連目		授業計画	
【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. イントロダクション：授業説明とアジアの情勢 02. 韓国の現代政治史 03. 韓国の大統領と国会 04. 韓国の選挙：大統領選挙・国会選挙・統一地方選挙 05. 韓国政府と韓国国軍及び在韓米軍 06. 日韓関係・米韓関係・中韓関係 07. 北朝鮮の現代政治史 08. 北朝鮮の政治システム：党と国家 09. 北朝鮮の党と軍隊 10. 北朝鮮の統治イデオロギー：主体思想と先軍思想 11. 北朝鮮の外交関係 12. 中国の現代政治史 13. 中国の政治システム：党と国家 14. 中国の党と軍隊 15. 中国における社会主義と市場経済 16. 米中関係と日中関係 17. 台湾(中華民国)の現代政治史 18. 台湾(中華民国)の総統と立法院 19. 台湾(中華民国)の選挙：総統選挙・立法委員選挙・地方選挙 20. 台湾(中華民国)政府と軍隊 21. 台湾(中華民国)の国際関係 22. 東南アジアの現代史 23. 東南アジア諸国の紛争 24. 東南アジアの経済発展 25. ASEANの役割 26. モンゴルや中央アジア諸国の政治経済、日本との関係 27. 南アジア：インドとパキスタンの関係 28. 中東情勢：アラブの春 29. 「イスラム国(IS)」をめぐる国際情勢 30. アジアにおける国際交流と紛争のまとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目 【L】中学校教諭一種免許：社会選択科目【P】高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目 【P】中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目 【P】中学校教諭一種免許：社会選択科目			
(1) 内容			
本講義では、おおよそ第2次世界大戦終戦後からのアジア諸国全般の情勢について考察する。東アジアの韓国、北朝鮮、中国、台湾に多くの時間を割いて、その現代政治史や政治システム、外交関係などを考察する。さらに東南アジアや中央アジア、南アジア、中東にも触れていきたい。 日本では、中台や朝鮮半島に対して関心は高くとも、その政治システムや現代史については、憶測も含めて様々な情報が行き来しており、実態としてはあまり理解されていないと思われる。その中でも、社会主義国家である中国や北朝鮮は、日本とは著しく異なる政治システムに基づいており、日本ではなかなか理解し難いものがある。しかし、東アジアは地理的に日本にも近く、一定の知識を持つておく必要がある地域である。 グローバル化に伴って、東アジア以外の地域も日本にとって身近な存在となっており、とりわけ東南アジアや、南アジア、中東の情勢については日本でもよく知られるようになった。それらの地域に足を踏み入れ、教育活動や経済協力、ビジネスをするにしても、基礎的な知識を備える必要がある。			
(2) 学びの意義と目標			
第1に、講義への参加をきっかけにアジアへの関心高め、一定の知識を獲得し、アジアに対する理解を深めることを目標とする。 第2に、アジアに対する理解を深めた上で、自らがアジアに対する中立的な観点からの分析や評価を行えるような論理的思考を育成することを目標とする。		準備学習(予習)	
		授業計画を参照し、トピックに関連する情報を集めること。事前に参考資料が指定された場合は読んでおくことが望ましい。	
		準備学習(復習)	
		配布プリントを再読し、各項目を説明できるようにしておくこと。	
受講者に対する要望		評価方法	
東アジアだけではなく、中東や東南アジアなどの現代政治史や政治システム、国際政治全般に関心がある者の受講を望む。		(1) 平常点 10% 予習の課題学習や、授業中に提出する小論文などによる。また、授業内容の理解を深めるための授業計画に基づいた課題学習を期待している。 (2) レポート 40% 1月中旬にUNIPAで提出。課題や詳しい締切は12月中旬までに指示する。 (3) 試験 50% 論述試験	
学びのキーワード		教科書	
・アジア ・朝鮮半島 ・中国 ・台湾 ・東南アジア		参考書	
		参考文献については、以下以外にも授業の中で指示する。 大西裕『先進国・韓国の変遷 少子高齢化、経済格差、グローバル化』(中公新書、2014年) 木村裕『韓国現代史 大統領たちの栄光と挫折』(中央公論新社、2008年) 宮本悟『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか?』(南雲英光人社、2013年) 関分良生『現代中国の政治と官僚制』(慶應義塾大学出版会、2004年)	

日本政治史		POSC-P-200/POSC-L-3
担当教員： 吉田 博司		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1P201880
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】 知の基礎力：政治や社会のしくみの理解</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 概観 02. 明治維新と公議輿論（幕藩体制） 03. 明治維新と公議輿論（幕閣専制とペリー来航） 04. 明治維新と公議輿論（雄藩-長州と薩摩） 05. 明治維新と公議輿論（朝廷と倒幕運動） 06. 復習授業 07. 明治憲法のできるまで（岩倉使節） 08. 明治憲法のできるまで（公議思想と自由民権） 09. 明治憲法のできるまで（政府と立憲思想） 10. 明治憲法の特徴（伊藤の憲法取調） 11. 明治憲法の特徴（主権、内閣、議会） 12. 復習授業 13. 初期議会（山県と自由党） 14. 初期議会（松方の解散総選挙） 15. 官僚と政党（自由党と山県派） 16. 官僚と政党（進歩党と松方） 17. 政友会（伊藤と憲政党） 18. 復習授業 19. 桂園時代（桂と西園寺政友会） 20. 桂園時代（情意投合とその破綻） 21. 大正政変 22. 政党政治化状況（山本内閣と大隈内閣） 23. 政党政治化状況（寺内内閣以後） 24. 復習授業 25. 憲政常道時代（第2次護憲運動） 26. 憲政常道時代（加藤内閣から田中内閣へ） 27. 憲政常道時代（浜口内閣から犬養内閣へ） 28. 昭和維新（政党政治への不信） 29. 昭和維新（血盟団事件から2.26事件へ） 30. 復習授業</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会選択科目【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目</div>	<div>(1) 内容</div> <div>明治、大正、昭和前期の政治史を日本の政党政治発展と挫折というテーマを根底に据えて振り返ります。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現代政治と日本国家の位置は、明治維新以降の歴史に連なります。内政外政上多難な現在を乗り切る知恵を歴史から学びましょう。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>次回のテーマについて指示を出しますので、一定要領で報告してください。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業は、聞くだけでなく、書くことでよりよい成果が得られます。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>穴埋めテスト返却後、間違いを確認し、復習テストに備えること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 平常点</div><div>60%</div></div><div><div>(2) 復習テスト</div><div>40%</div></div></div> <div>平常点は授業後の穴埋めテスト2.5回でつきます。復習テストは5回分の授業の小テストです。</div>	
	<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 明治維新</div><div>・ 明治憲法</div><div>・ 藩閥官僚</div><div>・ 政党内閣</div><div>・ 憲政常道</div></div>	
<div>教科書</div>		<div>参考書</div>

国際法			
担当教員：小松崎 利明			
学期：週間授 科目：		必修・選択：	単位：4 コード：1P300810
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. イントロダクション（講義概要の説明） 02. 国際法の基本的特徴 03. 国際法の主体（1）国家、国家承認、政府承認 04. 国際法の主体（2）国家以外の主体 05. 国家管轄権 06. 法源（1）条約 07. 法源（2）慣習法、国際機構の決議 08. 国際責任 09. 紛争の平和的解決（1）非裁判手続 10. 紛争の平和的解決（2）国際司法裁判所 11. 紛争の平和的解決（3）各種国際裁判所 12. 陸の国際法 13. 海の国際法（1）領海 14. 海の国際法（2）公海、深海底 15. 空の国際法 16. 宇宙の国際法 17. 前半のまとめ 18. 環境と国際法（1）越境汚染、有害廃棄物 19. 環境と国際法（2）地球温暖化、生物多様性 20. 経済と国際法 21. 人と国際法（1）国際人権規約 22. 人と国際法（2）難民 23. 人と国際法（3）人種差別、女性、児童 24. 人と国際法（4）国際犯罪 25. 平和と国際法（1）武力行使の規制 26. 平和と国際法（2）戦争犯罪 27. 平和と国際法（3）国際人道法 28. 国際連合と国際法 29. 日本、アジアと国際法 30. まとめ	
(1) 内容			
伝統的に国際法は、主権国家の関係を規律する法であると理解されてきた。しかし、20世紀後半以降、主権国家の地位や機能の相対的低下と相まって、国際機構やNGO、個人といった国家以外の主体が国際法の生成および実現過程に深く関与するようになってきた。したがって現代の国際法は、国家間の関係のみならず、人々の日常生活のさまざまな領域と深く関わることになる。。			
この授業では、こうした状況をふまえて、われわれの身の回りの出来事にも目を配りつつ、対話を中心としたアクティブ・ラーニングの手法を用いて、世界的諸問題を法的に捉えることを目的とする。			
なお、受講者は法学を履修済みであることが望ましい。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
国際法を学ぶことの意義は、国際社会の現象の体系的な理解を可能にし、さらに国際的な裁判所の判例学習を通じてリーガルマインドを身につけることができるようになることにある。		教科書の該当箇所を読んでおく。	
受講生が目指すべき目標は、対話を中心としたアクティブ・ラーニングを通じて、国際社会に生起する諸現象を法的な観点から観察し、記述し、評価を行うことができるようになることである。		準備学習(復習)	
受講者に対する要望		授業ノート、配布資料の要点をまとめておく。	
授業中の私語、スマホいじりはご遠慮ください。		評価方法	
		(1) 平常点 10% ・教科書の指定箇所を事前に読んでいるか。 ・授業で積極的に発言し、授業内容の充実に貢献したか。 (2) リアクション・ペーパー 30% ・その日の授業内容を理解しているか。 (3) 定期試験 60% ・与えられた問題に対して、法的観点から議論を行い、評価を下すことができるか。 ・論述式、持ち込み可	
学びのキーワード		教科書	
・ 国家 ・ 国際機構 ・ 領域 ・ 環境 ・ 平和		大森正仁編著『よくわかる国際法〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2014年 { http://www.minervashobo.co.jp/book/b165902.html }	
		参考書	
		中谷和弘／植木俊哉／河野真理子／森田章夫／山本良『国際法〔第3版〕』有斐閣、2016年 { http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641220638 } 酒井啓亘／寺谷広司／西村弓／濱本正太郎『国際法』有斐閣、2011年 { http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641046559 }	

異文化間コミュニケーション（J専門）

担当教員：鄭 鎬碩

学期：週間授 科目：

必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1P630610

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

わたしたちの日常には異質なもの（＝他者）との出会いであふれている。本講義では、多様な映像資料やテキストをもとに、異質性とどのような関係を築いていくかという視点から現代文化のダイナミズムについて学習する。

(2) 学びの意義と目標

- (1) 現代世界において文化とコミュニケーションが問われる文脈について理解する。
- (2) 異文化間コミュニケーションの基礎概念が分かる。
- (3) 映像資料や文献を批判的に読みとく力を鍛える。

受講者に対する要望

授業では講義のほか、小グループで討論を行い、短く発表してもらう。自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・異文化
- ・コミュニケーション
- ・他者
- ・メディア
- ・グローバリゼーション

授業計画

01. なぜ異文化間コミュニケーションが問題なのか
02. 文化とは何か
03. 野蛮と文明（1）
04. 野蛮と文明（2）
05. オリエンタリズム（1）
06. オリエンタリズム（2）
07. 練習・討論：異文化へのまなざし（1）
08. 練習・討論：異文化へのまなざし（2）
09. アイデンティティとは何か（1）
10. アイデンティティとは何か（2）
11. 自我と他者（1）
12. 自我と他者（2）
13. 言語とカテゴリー（1）
14. 言語とカテゴリー（2）
15. マイノリティとマジョリティ（1）
16. マイノリティとマジョリティ（2）
17. 多文化主義の挑戦（1）
18. 多文化主義の挑戦（2）
19. 練習・討論：アイデンティティと文化（1）
20. 練習・討論：アイデンティティと文化（2）
21. 公共性とは何か（1）
22. 公共性とは何か（2）
23. 公共性からの排除（1）
24. 公共性からの排除（2）
25. グローバリゼーションと民主主義（1）
26. グローバリゼーションと民主主義（2）
27. 練習・討論：異文化と公共性（1）
28. 練習・討論：異文化と公共性（2）
29. まとめ（1）
30. まとめ（2）

準備学習(予習)

受講生は、毎回の文献を予め読んで授業に参加する。

準備学習(復習)

授業で?学んだ内容を文章で?まとめ、自分のコメントを加えておく。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

講義内で紹介する。

西洋史概説A		TEAT-P-200/TEAT-L-1	
担当教員： 南 祐三			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD00431	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. ガイダンス 02. 先史ヨーロッパと古代オリエント 03. 地中海世界(1)：ギリシア 04. 地中海世界(2)：ローマ 05. キリスト教世界について 06. 西欧中世世界の成立 07. キリスト教の浸透と中世の文化 08. 中世ヨーロッパ諸国の変遷 09. ルネサンスについて 10. 宗教改革について 11. ヨーロッパ主権国家体制(1)：三十年戦争 12. ヨーロッパ主権国家体制(2)：イギリス複合国家体制 13. ヨーロッパ主権国家体制(3)：フランス絶対王政 14. 近世ヨーロッパの国際秩序 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
「我われが生きているこの世界はどのようにして成立しているのか」という問題意識のもと、西洋世界の歴史について学ぶ。各時代や地域を特徴づける出来事を紹介し、歴史が動くメカニズムを意識しながら時代順に解説していく。西洋史概説Aでは、古代世界からフランス革命勃発以前の歴史を取り上げる。 なお本講義では、毎回の授業終了時に、講義内容についての確認や疑問点を記したレビューシートを提出してもらい、双方向のやり取りを心掛けたい。また、この提出をもって、出席状況をチェックする。			
(2) 学びの意義と目標			
西洋は、日本にとって近代化のモデルであっただけでなく、長きにわたり、多方面で大きな影響や刺激を与えてくれている存在である。つまり、西洋は我われにとって「他者」であると同時に、自分自身を映し出す鏡でもある。本講義では、このような歴史感覚を養いながら、現代世界の成り立ちを理解することをめざす。		準備学習(予習)	
		受講にあたって世界史や西洋史の基礎知識は必須ではないが、興味のあるテーマについて、自ら進んで文献を読んでみてほしい。	
		準備学習(復習)	
		各回の講義内容の要点を確認するだけでなく、より理解を深めるために、さらに自分で調べてみるのが望ましい。	
受講者に対する要望		評価方法	
講義中に解説できることは、西洋史のエッセンスの一部分でしかない。疑問に思ったことや関心を持ったことについては、積極的に自ら調べてみてほしい。		(1) 平常点 40% 出席状況と受講態度 (2) テスト 60%	
学びのキーワード		教科書	
・ 西洋史 ・ 国際関係 ・ グローバリゼーション		成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美緒、桑島 良平 『山川世界史総合図録』 (山川出版社)	
		参考書	

西洋史概説B		TEAT-P-200/TEAT-L-1	
担当教員： 南 祐三			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD00532	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. ガイダンス 02. アメリカ合衆国の独立と発展 03. フランス革命(1)：革命はなぜ起きたのか 04. フランス革命(2)：革命は何を変えたのか 05. 19世紀ヨーロッパ社会・政治・経済の変容 06. 19世紀ヨーロッパの国際秩序 07. 第一次世界大戦(1)：勃発と経過 08. 第一次世界大戦(2)：国家・社会の変化 09. 両大戦間期(1)：ヴェルサイユ体制と平和の模索 10. 両大戦間期(2)：世界恐慌とファシズム 11. 第二次世界大戦(1)：勃発と経過 12. 第二次世界大戦(2)：協力と抵抗 13. 戦後のヨーロッパ(1)：冷戦 14. 戦後のヨーロッパ(2)：ヨーロッパ統合へ 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目			
(1) 内容			
「我われが生きているこの世界はどのようにして成立しているのか」という問題意識のもと、西洋世界の歴史について学ぶ。各時代や地域を特徴づける出来事を紹介し、歴史が動くメカニズムを意識しながら時代順に解説していく。西洋史概説Bでは、アメリカ独立革命およびフランス革命からヨーロッパ統合までの歴史を取り上げる。 なお本講義では、毎回の授業終了時に、講義内容についての確認や疑問点を記したレビューシートを提出してもらい、双方向のやり取りを心掛けたい。また、この提出をもって、出席状況をチェックする。			
(2) 学びの意義と目標			
西洋は、日本にとって近代化のモデルであっただけでなく、長きにわたり、多方面で大きな影響や刺激を与えてくれている存在である。つまり、西洋は我われにとって「他者」であると同時に、自分自身を映し出す鏡でもある。本講義では、このような歴史感覚を養いながら、現代世界の成り立ちを理解することをめざす。		準備学習(予習)	
		受講にあたって世界史や西洋史の基礎知識は必須ではないが、興味のあるテーマについて、文献を読むなどして調べておくことが望ましい。	
		準備学習(復習)	
		各回の講義内容の要点を確認するだけでなく、より理解を深めるために、さらに自分で調べてみることを望ましい。	
受講者に対する要望		評価方法	
講義中に解説できることは、西洋史のエッセンスの一部分でしかない。疑問に思ったことや関心を持ったことについては、積極的に自ら調べてみてほしい。		(1) 平常点 40% 出席状況と受講態度 (2) テスト 60%	
学びのキーワード		教科書	
・ 西洋史 ・ 国際関係 ・ グローバリゼーション		成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美緒、桑島 良平 『山川世界史総合図録』(山川出版社)	
		参考書	

東洋史概説A		TEAT-P-200/TEAT-L-2	
担当教員： 赤坂 恒明			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD00771	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 序 02. アジアとヨーロッパ 03. 「東洋」という概念 04. 歴史編纂をめぐる諸問題 05. 中華思想 06. 冊封体制論 07. 志賀島出土の金印と、邪馬台国女王 卑弥呼をめぐる諸問題 08. 倭の五王 09. 遣隋使(1) 「日、出ずるところの天子」の国書に対する隋の煬帝の対処 10. 遣隋使(2) 小野妹子が隋の煬帝から授かった返書を紛失した事件 11. 古朝鮮 12. 高句麗 13. 渤海 14. 吐蕃（古代チベット） 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
前近代のアジア各地域の歴史を取り上げる。特に東アジアについては、国際秩序としての「冊封体制」について具体的に詳論する。また、東洋史をも含む歴史全般に興味を持つ受講者に、自主的にさらに関心を深めていくことができるように、歴史研究の基礎ならびに方法論についても簡単に紹介する。 この授業のカリキュラム上の位置づけは、東洋史に関する入門的な位置づけであり、基礎的な講義である。日本史を学ぼうとする学生にも適している。			
(2) 学びの意義と目標			
アジアの多様性を理解すると同時に、歴史事象を正確に把握できるようになる。そして、主観的・独断的な判断をすることなく、それらの歴史的意味を解釈する歴史的思考法を持つことができるようになること。		準備学習(予習)	
		講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。	
		準備学習(復習)	
		復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認する。各自の自主的な復習を期待する。	
		評価方法	
		(1) 平常点 10% (2) 試験（小テスト含む） 90%	
		期末試験は、論述形式（問題は選択）で行い、教材の持ち込みを不可とする。	
学びのキーワード		教科書	
・歴史 ・東アジア ・東洋 ・中国 ・日中関係		資料を配布するので、教科書は使用しない。	
		参考書	
		世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。参考文献等は講義中に紹介する。	

東洋史概説B		TEAT-P-200/TEAT-L-2	
担当教員： 赤坂 恒明			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD00872	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 序 02. 「オホーツク文化」と東北アジア 03. 「もうひとつの蒙古襲来」：元（モンゴル）軍の樺太（サハリン）侵攻 04. 山丹交易：「鎖国」の江戸時代と清朝を、毛皮と絹が結んだ、北まわりの交易 05. アムール川中・下流域と樺太の先住諸民族と近代 06. 貿易立国、琉球王国の繁栄 07. 「琉球処分」をめぐる日清関係：清朝領となるはずであった先島諸島（八重山・宮古列島） 08. 韓国併合への道 09. 日本による朝鮮半島の植民地支配（1）第一期 10. 日本による朝鮮半島の植民地支配（2）第二期と第三期 11. 「戦争抛棄二関スル条約」（パリ不戦条約）と満洲事変 12. 内蒙古におけるモンゴル人のまなざしから見た日本の「侵略」 13. 熱河作戦 14. 「支那事変」：盧溝橋事件から「南京大虐殺」へ 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目			
(1) 内容			
東アジアの一地域としての日本が他の諸地域といかなる関係にあったか、という問題を中心に、主に近現代の歴史のなかから関連するいくつかの事例をとりあげ、個別に論じる。「日本史」の立場からはしばしば看過される問題を積極的に取り上げ、近代的な国民歴史学によって体系化された「一国史」の枠組についても批判的に分析する。 この授業のカリキュラム上の位置づけは、入門的な位置づけの基礎的な講義であり、日本史を学ぼうとする学生にも適している。			
(2) 学びの意義と目標			
「日本史」の枠にとらわれることなく、日本列島の歴史を、より広い視野から見るができるようになること。近現代の東アジアにおいて日本が関わった具体的な歴史事象を正確に把握するのみならず、体系化された歴史の枠組がいかに我々の同時代的な状況と密接な関係にあるかについても、理解できるようになること。		準備学習(予習)	
		講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。	
		準備学習(復習)	
		復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認する。各自の自主的な復習を期待する。	
		評価方法	
		(1) 平常点 10% (2) 試験（小テスト含む） 90%	
		期末試験は、論述形式（問題は選択）で行い、教材の持ち込みを不可とする。	
受講者に対する要望		教科書	
授業への積極的な参加が望まれる。 なお、漢字を読めない留学生には、履修が困難である。		資料を配布するので、教科書は使用しない。	
学びのキーワード		参考書	
・ 歴史 ・ 東アジア ・ 沖縄 ・ 朝鮮 ・ 中国		世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。 参考文献等は講義中に紹介する。	

自然地理学概説		TEAT-P-200/TEAT-L-1	
担当教員： 秋山 秀一			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD01010	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 導入 02. 地形図を読む 03. 地形を読む 04. 自然地理学と暮らし 05. 地震と暮らし 06. 日本の温泉 07. 世界の温泉①（ドイツ、イタリア、アメリカ） 08. 世界の温泉②（アイスランド、ロシア、アジア諸国） 09. 海岸の地形 10. 砂漠 11. アジアの自然 12. ヨーロッパの自然 13. 世界の自然遺産①（ 中国、ベトナム、韓国） 14. 世界の自然遺産②（カナダ、スイス、クロアチア） 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
世界の各地ではいろいろな人々が生活基盤となるその土地の自然環境を理解し、土地に根ざして工夫しながら暮らしています。この授業では、日本、アメリカ、そしてスイスを中心としたヨーロッパ諸国における自然を自然地理学の視点から具体的に取り上げ、学びます。			
(2) 学びの意義と目標			
自然地理学の知識を身につけることは、とても大切なことであり、国際理解度を高めることにも大きく寄与します。そのことは卒業後どのような仕事に就こうと、意義があり重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た自然地理の映像、資料、それに書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。			
準備学習(予習)		授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。	
準備学習(復習)		配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。	
評価方法		(1) 日頃の授業への貢献度 30% (2) 平常点 30% (3) 小レポート、それにまとめとしてのレポート 40%	
教科書		秋山 秀一 『世界、この魅力ある街・人・自然』（八千代出版）	
参考書			
学びのキーワード		・ 国立公園 ・ 水と暮らし ・ 地震 ・ 温泉 ・ ハザードマップ	

地誌学概説 A		TEAT-P-200/TEAT-L-2	
担当教員： 秋山 秀一			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 2		コード： 1PD01451	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 導入 02. 現代社会と交通 03. 地図を読む 04. アジアの中の日本 05. 韓国 06. ベトナム 07. ミャンマー 08. マレーシア 09. 香港・マカオ 10. 中国・台湾 11. タイ 12. ラオス、カンボジア 13. フィジーと太平洋の島々 14. オーストラリア、ニュージーランド 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目 【P】 高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】 中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにアジア諸国と太平洋の島々における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的にに取り上げながら、地域の今を学んでいきます。			
(2) 学びの意義と目標			
卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。		準備学習(予習)	
		授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。	
		準備学習(復習)	
		配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。	
受講者に対する要望		評価方法	
地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。		(1) 日頃の授業への貢献度 30% (2) 平常点 30% (3) 小レポート、それにまとめとしてのレポート 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 地域研究 ・ 地図 ・ アジア ・ フィールドワーク ・ 観光写真		秋山 秀一 『フィールドワークのススメーアジア観光・文化の旅』（学文社）	
		参考書	

地誌学概説B		TEAT-P-200/TEAT-L-2	
担当教員：秋山 秀一			
学期：週間授		科目：専門科目	必修・選択：選択科目
単位：2		コード：1PD01552	
学部教育の関連目		授業計画	
【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける		01. 導入 02. メンタルマップ 03. 東京はアフリカだ 04. 国際化の中の日本 05. 日本①（東京） 06. 日本②（関東地方） 07. 日本③（日本全国） 08. アメリカ①（東海岸） 09. アメリカ②（西海岸） 10. ヨーロッパ 11. イギリス 12. ロンドン 13. フランス 14. イタリア 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【L】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【L】中学校教諭一種免許：社会選択科目【P】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会選択科目 【P】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【P】中学校教諭一種免許：社会選択科目			
(1) 内容			
世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにヨーロッパ諸国並びにアメリカ、そして、日本の各地、における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げながら、地域の今を学び、街歩きの楽しさも修得していきます。			
(2) 学びの意義と目標			
卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。		準備学習(予習)	
		授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。	
		準備学習(復習)	
		配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。	
受講者に対する要望		評価方法	
地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。		(1) 日頃の授業への貢献度 30% (2) 平常点 30% (3) 小レポート、それにまとめとしてのレポート 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ヨーロッパ ・アメリカ ・日本 ・街歩き ・フィールドワーク		秋山秀一 『大人のまち歩き』（新典社）	
		参考書	

哲学概論		TEAT-P-200/TEAT-L-2	
担当教員：大賀 祐樹			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1PD01660	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【L】 資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 「哲学」とはどのようなものか</div> <div>02. 「愛」について（プラトン）</div> <div>03. 「真理」について（プラトン）</div> <div>04. 「正義」について（アリストテレス）</div> <div>05. 「私」とは誰か（デカルト）</div> <div>06. 人間の「自由」と「道徳」（カント）</div> <div>07. 「言葉」についてⅠ（ラッセル）</div> <div>08. 「言葉」についてⅡ（ウィットゲンシュタイン）</div> <div>09. 「心」とは何か</div> <div>10. 「可能世界」について</div> <div>11. 科学の正しさと「真理」（クーン）</div> <div>12. ニヒリズムとポストモダン（ニーチェ、フーコー）</div> <div>13. プラグマティズム</div> <div>14. 「信じる」ことについて</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】 高等学校教諭一種免許：公民選択必修科目</div> <div>【L】 中学校教諭一種免許：社会選択必修科目【P】 高等学校教諭一種免許：公民選択必修科目</div> <div>【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目</div> <div>【P】 高等学校教諭一種免許：公民選択必修科目</div> <div>【P】 中学校教諭一種免許：社会選択科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>人間はどのように生きるべきなのか？人間にとって幸せとは何か？</div> <div>一般的に「哲学」といえばそういった問題について考えるものだと思われるかもしれませんが。</div> <div>しかし、哲学とは何よりも「真理」とは何かについて考えるものです。</div> <div>「真理」を知ることでは人は正しく生きることができ幸せになれると、長い間考えられてきました。</div> <div>でも「真理」＝「絶対に正しくてこれ以上変えようがない唯一の答え」など、本当にあるのでしょうか？</div> <div>現代の私たちの感覚からすると疑問に感じるかもしれません。</div> <div>とはいえ、「正しい」ことが何もないのかというと、それもまた疑問に感じることでしょ</div> <div>う。</div> <div>この授業では、古代から現代までの間、哲学が「正しさ」をどのように探し求めてきたのかについてのストーリーをお話します。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>哲学で大切なことは、答えを知ることよりも、当たり前と感じていたことの中に潜む疑問を見つけて問いを立てることである。様々な哲学者がどのような問いを立て、答えを見つけるために試行錯誤したのか。その道筋を追うことによって、日常の生活においても浮上する様々な問題に対して、自分なりの問いを立て、本質を見抜き、答えを出す力を養うことを目標とする。</div> <div>「哲学」について全く知識がない初学者を対象とする。</div> <div>できるだけ理解しやすいように、日常的な出来事や、SF、アニメ作品等の事例を例えに置き換えて説明する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>前の回で紹介した考え方を受けて次の回で批判・展開することが多いので、復習をきっちりとしておくことが同時に予習にもなる。また、次回に扱う思想家の大まかな情報や時代背景などを自主的に調べておくと、より理解をしやすい。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>予習・復習に関しては準備学習の項目を参照。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回PowerPointのスライドを使用し、プリントを配布する予定なので、興味を持った話題があればその点を掘り下げて、自分なりの問題意識やそれに対する答えを考えておく。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験60% 期末に実施</div><div>(2) レポート30% 中間に実施</div><div>(3) 出席10% 最低限以上の出席回数が必要</div><div>(4) 授業態度0%</div></div> <div><small>※本学に2年度連続で出席率が低いと認められる場合は、授業中の出席率が低い場合、出席評価の劣化による劣化が考えられます。</small></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・西洋哲学史</div> <div>・真理</div> <div>・現代思想</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>参考書</div> <div>毎回の授業内で参考文献を随時紹介する。</div>	

現代社会と福祉

CCSW-W-100

担当教員： 牛津 信忠

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1W210224

学部教育の関連目

【W】 人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける。福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目

【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

・ 現代社会における福祉制度と福祉政策

・ 福祉の思想と哲学

・ 福祉制度の発達過程

・ 福祉政策におけるニーズと資源

・ 福祉政策の課題

・ 福祉政策の構成要素

・ 福祉政策の関連領域

・ 福祉政策の国際比較

・ 相談援助活動と福祉政策の関係

(2) 学びの意義と目標

・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。

・ 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。

・ 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。

・ 福祉政策の課題について理解する。

・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。

・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。

・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

受講者に対する要望

毎回授業に出席することはいうまでもなく、授業計画に沿って、予習復習をすることを義務付ける。予習については毎回提供するプリントを用いて、二回目より前回プリントの説明を終えていない箇所を読み、その意味をしっかりと調べて授業に臨むこと。復習は、ノート、プリントを読み返し、復習小テストのために準備をして毎回授業に臨むこと[最低3回に一度は小テストを行う]。

学びのキーワード

・ 福祉における理念、政策、技術

・ 社会福祉における狭義・広義

・ 普遍主義的福祉

・ ノーマライゼーション

・ ワーク・ライフ・バランス

授業計画

01. 現代社会における福祉制度と福祉政策 （1）わが国における福祉制度の概念と理念

02. 現代社会における福祉制度と福祉政策 （2）福祉政策の概念と理念

03. 現代社会における福祉制度と福祉政策 （3）福祉制度と福祉政策の関係

04. 現代社会における福祉制度と福祉政策 （4）福祉政策と政治の関係

05. 現代社会における福祉制度と福祉政策 （5）福祉政策の主体と対象

06. 福祉の思想と哲学 （1）福祉の原理をめぐる哲学と倫理

07. 福祉の思想と哲学 （2）福祉の原理をめぐる理論

08. 福祉制度の発達過程 （1）前近代社会と福祉

09. 福祉制度の発達過程 （2）近代社会と福祉

10. 福祉制度の発達過程 （3）現代社会と福祉

11. 福祉政策におけるニーズと資源 （1）需要とニーズの概念

12. 福祉政策におけるニーズと資源 （2）資源の概念

13. 福祉政策の課題 （1）福祉政策と社会問題 ①貧困、孤独、失業

14. 福祉政策の課題 （2）福祉政策と社会問題 ②社会的排除、ヴァルネラビリティ

15. 福祉政策の課題 （3）福祉政策の現代的課題（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット）

16. 福祉政策の構成要素 （1）福祉政策の論点 ①福祉政策の課題と国際比較

17. 福祉政策の構成要素 （2）福祉政策の論点 ②効率性と公平性、必要と資源

18. 福祉政策の構成要素 （3）福祉政策の論点 ③普遍主義と選別主義

19. 福祉政策の構成要素 （4）福祉政策の論点 ④自立と依存・自己選択とパターナリズム

20. 福祉政策の構成要素 （5）福祉政策の論点 ⑤参加とエンパワーメント

21. 福祉政策の構成要素 （6）福祉政策における政府・市場・国民の役割

22. 福祉政策の構成要素 （7）福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価

23. 福祉政策の構成要素 （8）福祉サービス供給部門

24. 福祉政策の構成要素 （9）福祉サービスの供給と利用の過程

25. 福祉政策の関連領域 （1）所得と福祉政策

26. 福祉政策の関連領域 （2）保健医療と福祉政策

27. 福祉政策の関連領域 （3）福祉政策と教育・住宅・労働政策

28. 福祉政策の国際比較 （1）欧米諸国の福祉政策

29. 福祉政策の国際比較 （2）東アジア諸国の福祉政策

30. 相談援助活動と福祉政策の関係

準備学習(予習)

前回授業未終了箇所のレジュメ、授業時に指示する参考文献の該当箇所、福祉小六法の関連箇所を、事前に読み、授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業のレジュメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。最低3回に一度は行う終了箇所を範囲とした小テストに備えること。

評価方法

(1) 平常点

20%

(2) 小テストに見る思考力

20%

授業の区切りにあたるときに20分程で行う復習テスト。

(3) 授業中の態度

10%

座席表による出席把握により、個人の態度を把握できる。

(4) 授業中の質問

10%

授業中に手を挙げて質問することも歓迎する。

(5) 期末論文形式のテスト

40%

授業全体を対象とし、知識のみならず、思考の力をも重視する。

上記された細かい項目を横断的にとらえるときに、そこには人間福祉というより広義の福祉観があることに注意してほしい。現代は特殊化された福祉から「人間のより良い人生づくり」をすべての人に許容できる状態への移行期である。

教科書

参考書

主としてスライドショー（パワーポイントによる）授業。加えて関連プリントを毎回配布する。

人体の構造と機能及び疾病		CCSW-W-100
担当教員： 藤野 秀美		
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W210772
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける。対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 人の成長・発達</div> <div>02. 健康の捉え方・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方</div> <div>03. 障害の概要・リハビリテーションの概要</div> <div>04. ところとからだのしくみ（心理面及び身体面）の基本的理解 ところとからだのしくみの基礎的理解</div> <div>05. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (1) 身じたくや移動に関するところとからだのしくみ</div> <div>06. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (2) 食事に関するところとからだのしくみ</div> <div>07. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (3) 入浴・清潔保持や排泄に関するところとからだのしくみ</div> <div>08. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (4) 睡眠に関するところとからだのしくみ</div> <div>09. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (5) 終末期に関するところとからだのしくみ</div> <div>10. 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解 (6) 緊急時に関するところとからだのしくみ</div> <div>11. 疾病の概要 (1) 悪性腫瘍</div> <div>12. 疾病の概要 (2) 生活習慣病</div> <div>13. 疾病の概要 (3) 感染症</div> <div>14. 疾病の概要 (4) 神経・精神疾患</div> <div>15. 疾病の概要 (5) 先天性・精神疾患、難病</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目</div> <div>【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div> <div>【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>・ 人の成長・発達</div> <div>・ 健康の捉え方</div> <div>・ 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方</div> <div>・ 障害の概要</div> <div>・ リハビリテーションの概要</div> <div>・ ところとからだのしくみの基本的理解</div> <div>・ 生活支援に必要なところとからだのしくみ</div> <div>・ 疾病の概要</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>・ 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。</div> <div>・ 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。</div> <div>・ リハビリテーションの概要について理解する。</div> <div>・ 社会福祉実践の根拠となる人体の構造や機能及び福祉サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>テキストを通し予習</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>社会福祉に携わる者として、支える対象である人間への関心をもち、講義に臨んでほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>テキスト、プリントを参考に復習</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 健康</div> <div>・ 人体の構造・機能</div> <div>・ 疾病・障害</div> <div>・ リハビリテーション</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への参加度 30%</div> <div>(2) レポートまたは小テスト 40%</div> <div>(3) テスト 30%</div>
		<div>教科書</div> <div>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座〈1〉人体の構造と機能及び疾病—医学一般 第2版』（中央法規出版）</div>
		<div>参考書</div>

教育心理学		TEAT-0-201	
担当教員： 橋本 和幸			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 1W220424	
学部教育の関連目		授業計画	
【W】 人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける		01. イントロダクション：授業の進め方、教育心理学とは何かなど 02. 発達の理論 03. 各時期の発達の様相① 04. 各時期の発達の様相② 05. 学習の理論① 06. 学習の理論② 07. 教授と学習① 08. 教授と学習② 09. 動機づけの理論① 10. 動機づけの理論② 11. 知能と学力① 12. 知能と学力② 13. 教育の評価① 14. 教育の評価② 15. 授業の実践と研究① 16. 授業の実践と研究② 17. 学級集団① 18. 学級集団② 19. パーソナリティの問題と生徒理解① 20. パーソナリティの問題と生徒理解② 21. 問題行動と教育相談① 22. 問題行動と教育相談② 23. 問題行動と教育相談③ 24. 発達の問題① 25. 発達の問題② 26. 発達の問題③ 27. 教育実践の記述 28. 教育実践と教育心理学 29. まとめ① 30. まとめ②	
カリキュラム上の位置付け			
【W】 社会教育主事資格：必修科目 【W】 認定心理士認定資格(W学科)：選択科目 【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 社会教育主事資格：必修科目 【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 社会教育主事資格：必修科目			
(1) 内容			
この授業は、子どもの発達や学習などの仕組みについて、教員になった時に役立てられるような心理学の知識や考え方を提供することを目的とする。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
・現代の子どもの特徴について理解し、子どもが成長するために必要とされる事柄を説明出来る。 ・各回の内容から、青年期に至るまでの発達の経過や発達障害等の問題についても理解を深める。 ・授業で提示された様々な用語を理解し、他者に説明することが出来る。 ・自身が教員になった時のことを想定しながら、講義を聴くことが出来る。		指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業で配布されたプリントと、教科書を読み比べて理解を深めること。	
		評価方法	
		(1) 試験 70% (2) 授業内課題 30%	
受講者に対する要望			
教科書を指定するので、事前に該当箇所を読んでおくことを求めます。また、積極的な質問や感想をお待ちしています。			
学びのキーワード		教科書	
・教育心理学 ・発達心理学 ・パーソナリティ心理学 ・臨床心理学		田中智志・橋本美保監修 『新・教職課程シリーズ 教育心理学』 (一藝社)【ISBN 978-4-86359-060-1】	
		参考書	

介護概論		CGSW-W-100							
担当教員： 高山 法子									
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W230100							
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 介護の概念や対象（1）介護の概念と範囲</div> <div>02. 介護の概念や対象（2）介護の理念</div> <div>03. 介護の概念や対象（3）介護の対象</div> <div>04. 介護過程</div> <div>05. 介護の技法（1）家事における自立支援</div> <div>06. 介護の技法（2）身支度・移動・睡眠の介護</div> <div>07. 介護の技法（3）食事・口腔衛生の介護</div> <div>08. 介護の技法（4）入浴・清潔・排泄の介護</div> <div>09. 介護と住環境</div> <div>10. 認知症ケア（1）認知症ケアの基本的考え方</div> <div>11. 認知症ケア（2）認知症ケアの実際</div> <div>12. 介護予防（1）介護予防の必要性</div> <div>13. 介護予防（2）介護予防プランの実際</div> <div>14. 終末期ケア（1）終末期ケアの基本的考え方</div> <div>15. 終末期ケア（2）終末期ケアの実際</div>								
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目</div> <div>【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>									
<div>(1) 内容</div> <div>・ 介護の概念や対象</div> <div>・ 介護過程</div> <div>・ 介護の技法（住環境の整備を含む。）</div> <div>・ 認知症ケア</div> <div>・ 介護予防</div> <div>・ 終末期ケア</div>									
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>・ 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。</div> <div>・ 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。</div> <div>・ 終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>次回の授業について口述しますから、いわれた箇所を必ず読んでくること。
また、配布したプリントの空白を教科書をみて埋めること。</div>								
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。
絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>A4のノートを準備し、1回受講ごとに、学んだ内容と感想をまとめ、授業終了5分前に
その箇所を広げておく。</div>								
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>(1) 試験</td><td>70%</td></tr><tr><td>(2) 介護過程記録</td><td>15%</td></tr><tr><td>(3) 宿題</td><td>10%</td></tr><tr><td>(4) 出席</td><td>5%</td></tr></table>		(1) 試験	70%	(2) 介護過程記録	15%	(3) 宿題	10%	(4) 出席
(1) 試験	70%								
(2) 介護過程記録	15%								
(3) 宿題	10%								
(4) 出席	5%								
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 自立支援</div> <div>・ 介護の専門性</div> <div>・ 介護の理念</div> <div>・ エンパワメント</div> <div>・ 個人の尊厳</div>	<div>教科書</div> <div>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（13）高齢者に対する支援と介護保険制度』（中央法規出版）</div> <div>参考書</div>								

担当教員：高山 法子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W230215

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

(1) 内容

寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

1. 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。
2. 利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。
3. 利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考えを深める。

受講者に対する要望

授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・ジュハリの窓
- ・ボディメカニクス
- ・生活不活発病
- ・自立性・安全性・安楽性
- ・自分らしさ

授業計画

01. オリエンテーション
02. コミュニケーションの基本
03. 身支度の介護
04. 身支度の介護演習
05. 移動の介護
06. 移動の介護演習
07. 睡眠の介護
08. 食事の介護
09. 食事の介護演習
10. 入浴・身体の清潔
11. 足浴の演習
12. 排泄の介護
13. 排泄の介護演習
14. 予想される事故とその対応
15. 住環境の整備

準備学習(予習)

次回行う講義内容や演習内容のプリントを読んでおく。
演習に関してはシュミュレーションしておく。

準備学習(復習)

演習を行ってみて、介護者として大切な視点と、利用者の立場から考えたことをA41枚に記録し、翌週提出。

評価方法

- | | |
|----------|----------|
| (1) 試験 | 60% |
| (2) レポート | 20% 宿題含む |
| (3) 出席 | 20% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（13）高齢者に対する支援と介護保険制度』（中央法規出版）

参考書

介護技術（115生以前用）		CCSW-W-100
担当教員： 高山 法子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W230224
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. コミュニケーションの基本 03. 身支度の介護 04. 身支度の介護演習 05. 移動の介護 06. 移動の介護演習 07. 睡眠の介護 08. 食事の介護 09. 食事の介護演習 10. 入浴・身体の清潔 11. 足浴の演習 12. 排泄の介護 13. 排泄の介護演習 14. 予想される事故とその対応 15. 住環境の整備</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。 2. 利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。 3. 利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考えを深める。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>次回行う講義内容や演習内容のプリントを読んでおく。
演習に関してはシュミュレーションしておく。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>演習を行ってみて、介護者として大切な視点と、利用者の立場から考えたことをA41枚に記録し、翌週提出。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験60%</div><div>(2) レポート20% 宿題含む</div><div>(3) 出席20%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ ジュハリの窓</div><div>・ ボディメカニクス</div><div>・ 生活不活発病</div><div>・ 自立性・安全性・安楽性</div><div>・ 自分らしさ</div></div>	<div>教科書</div> <div>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（13）高齢者に対する支援と介護保険制度』（中央法規出版）</div> <div>参考書</div>	

社会福祉援助技術論 A		CGSW-W-200
担当教員： 田村 綾子		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 4 コード： 1W230440
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. 相談援助活動の意義</div> <div>02. 相談援助の理論と発展 (1) 人と環境の相互作用</div> <div>03. 相談援助の理論と発展 (2) 相談援助技術体系の発展</div> <div>04. 相談援助の理論と発展 (3) システム思考に基づくジェネリックな援助理論</div> <div>05. 相談援助の対象 (1) 社会福祉の対象の概念</div> <div>06. 相談援助の対象 (2) 相談援助の対象の概念と範囲</div> <div>07. 相談援助の対象 (3) 個人・家族、グループ、地域との相談援助の視点</div> <div>08. 相談援助の構造と機能 (1) 相談援助の構造</div> <div>09. 相談援助の構造と機能 (2) 相談援助の機能</div> <div>10. 相談援助の過程 (1) 相談援助過程の概観</div> <div>11. 相談援助の過程 (2) インテーク</div> <div>12. 相談援助の過程 (3) アセスメント①相談援助におけるアセスメントの特徴</div> <div>13. 相談援助の過程 (4) アセスメント②情報収集の方法</div> <div>14. 相談援助の過程 (5) アセスメント③情報の分析・生活課題の確定</div> <div>15. 相談援助の過程 (6) 支援の計画</div> <div>16. 相談援助の過程 (7) 支援の実施</div> <div>17. 相談援助の過程 (8) モニタリングと評価</div> <div>18. 相談援助の過程 (9) 支援の終結とアフターケア</div> <div>19. ケースマネジメントとケアマネジメント (1) ケースマネジメントとケアマネジメントの概念</div> <div>20. ケースマネジメントとケアマネジメント (2) ケアマネジメントの目的と意義</div> <div>21. ケースマネジメントとケアマネジメント (3) ケアマネジメントの方法と留意点</div> <div>22. 相談援助のためのアウトリーチ (1) アウトリーチの意義と目的</div> <div>23. 相談援助のためのアウトリーチ (2) アウトリーチの方法と留意点</div> <div>24. 相談援助におけるネットワークング (1) ネットワークングの意義と目的</div> <div>25. 相談援助におけるネットワークング (2) ネットワークングの方法と留意点</div> <div>26. 相談援助におけるネットワークング (3) ネットワークングのためのシステムづくり</div> <div>27. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (1) 社会資源の活用・調整・開発の意義と目的</div> <div>28. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (2) 社会資源の活用・調整開発の方法と留意点</div> <div>29. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (3) ソーシャルアクションによるシステムづくり</div> <div>30. 相談援助における情報通信技術(IT)の活用 IT活用の意義と留意点及び支援の概要</div>	
カリキュラム上の位置付け		
(1) 内容		
(2) 学びの意義と目標		
受講者に対する要望	<div>準備学習(予習)</div> <div> 次回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。</div>	
学びのキーワード	<div>準備学習(復習)</div> <div> 講義で配布されたプリントを読み返しておくとともに、講義内容を150字程度で要約しておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 期末試験</div><div>50%</div><div>(2) 毎回の授業のリアクションペーパー</div><div>30%</div><div>(3) 提出物</div><div>10%</div><div>(4) 受講態度</div><div>10%</div></div>	
学びのキーワード	<div>教科書</div> <div> </div> <div>参考書</div> <div> </div>	

社会福祉援助技術論 B

CGSW-W-300

担当教員：鷹野 吉章

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4 コード：1W230548

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉選択科目
【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・相談援助における援助関係
- ・相談援助のための基本技法
- ・相談援助の実践モデルとアプローチ
- ・集団を活用した相談援助
- ・スーパービジョンとコンサルテーション
- ・相談援助における記録
- ・事例分析

(2) 学びの意義と目標

- ・ 相談援助に係るクリニカル・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。
- ・ 相談援助にかかわる様々な実践モデルについて理解する。
- ・ 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。
- ・ 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する。

受講者に対する要望

ソーシャルワーク実践にとって不可欠な科目ですので社会福祉士を目指す者は是非受講してください。

学びのキーワード

- ・ クリニカル・ソーシャルワーク
- ・ ソーシャルワーク理論モデル
- ・ グループワーク
- ・ スーパービジョン
- ・ 事例分析

授業計画

01. 相談援助における援助関係 (1) 援助関係の意義と概念
02. 相談援助における援助関係 (2) 援助関係の形成方法
03. 相談援助のための基本技法 (1) コミュニケーション技法
04. 相談援助のための基本技法 (2) 面接技法① 相談援助における面接の目的
05. 相談援助のための基本技法 (3) 面接技法② 相談援助における面接の展開
06. 相談援助のための基本技法 (4) 面接技法③ 相談援助における面接の形態
07. 相談援助のための基本技法 (5) 契約の意義と目的
08. 相談援助のための基本技法 (6) 契約の方法と留意点
09. 相談援助のための基本技法 (7) 観察技法
10. 相談援助の実践モデルとアプローチ (1) 相談援助の焦点化と視点
11. 相談援助の実践モデルとアプローチ (2) ソーシャルワーク実践のモデル①
12. 相談援助の実践モデルとアプローチ (3) ソーシャルワーク実践のモデル②
13. 相談援助の実践モデルとアプローチ (4) ソーシャルワーク実践のモデル③
14. 相談援助の実践モデルとアプローチ (5) ソーシャルワーク実践のモデル④
15. 相談援助の実践モデルとアプローチ (6) ソーシャルワーク実践のモデル⑤
16. 集団を活用した相談援助 (1) 集団を活用した相談援助の意義と特徴
17. 集団を活用した相談援助 (2) グループワークの原則
18. 集団を活用した相談援助 (3) グループワークの実践
19. スーパービジョンとコンサルテーション (1) スーパービジョンの意義と目的
20. スーパービジョンとコンサルテーション (2) スーパービジョンの内容・形態・機能
21. スーパービジョンとコンサルテーション (3) コンサルテーションの意義と目的
22. 相談援助における記録 (1) 記録の意義と目的
23. 相談援助における記録 (2) 記録の種類と方法
24. 相談援助における記録 (3) 個人情報保護の意義と留意点
25. 事例分析 (1) 事例分析の意義と方法
26. 事例分析 (2) 相談援助活動の実際 ①社会的排除
27. 事例分析 (3) 相談援助活動の実際 ②児童虐待
28. 事例分析 (4) 相談援助活動の実際 ③高齢者虐待
29. 事例分析 (5) 相談援助活動の実際 ④ホームレス
30. 事例分析 (6) 相談援助活動の実際 ⑤家庭内暴力 (D.V)

準備學習(予習)

授業計画に示されている次のタイトルのついて、授業で指示する参考書の当該箇所を事前に読み用語などを調べておくこと。

準備學習(復習)

授業での講義内容と配布プリントを踏まえて、自分なりに重要と思われる要点を整理すること。また練習問題についてはできなかった問題は解説を読み理解するようにすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点に加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

教科書

教科書は使用せず毎回配布する資料により講義する。

参考書

<div>児童福祉論 A</div> <div>CGSW-W-200</div>					
担当教員： 中谷 茂一 学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 コード： 1W230656					
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. 児童・家庭を取り巻く社会環境 （１）現代社会と子どもの成長・発達 02. 児童・家庭を取り巻く社会環境 （２）児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢 03. 児童・家庭を取り巻く社会環境 （３）児童・家庭の福祉ニーズの実際 04. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （１）児童家庭福祉の理念および概念 05. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （２）児童育成責任 06. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （３）児童の権利保障 07. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （４）児童家庭福祉制度の発展過程 08. 児童・家庭にかかわる法制度 （１）児童・家庭福祉の法体系 09. 児童・家庭にかかわる法制度 （２）児童福祉法の概要 10. 児童・家庭にかかわる法制度 （３）児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）の概要 11. 児童・家庭にかかわる法制度 （４）ＤＶ防止法及び売春防止法の概要 12. 児童・家庭にかかわる法制度 （５）母子及び寡婦福祉法、母子保健法の概要 13. 児童・家庭にかかわる法制度 （６）次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要 14. 児童・家庭にかかわる法制度 （７）児童手当法の概要 15. 児童・家庭にかかわる法制度 （８）児童扶養手当法、特別児童扶養手当制度の概要 </div>				
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div> 【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目 【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目 【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 </div>					
<div>(1) 内容</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 児童・家庭を取り巻く社会環境 児童・家庭福祉の理念とあゆみ 児童・家庭にかかわる法制度 </div>					
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む。）について理解する。 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。 児童の権利について理解する。 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉にかかわる他の法制度について理解する。 </div>					
<div>受講者に対する要望</div> <div> 【注意事項】
「児童福祉論B」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。
 </div>	<div>準備学習(予習)</div> <div> 次回該当箇所のテキストに目を通す </div>				
	<div>準備学習(復習)</div> <div> 当日配付資料の復習 </div>				
	<div>評価方法</div> <div> <table> <tr> <td>(1) 小レポート</td><td>30%</td></tr> <tr> <td>(2) テスト</td><td>70%</td></tr> </table> </div>	(1) 小レポート	30%	(2) テスト	70%
(1) 小レポート	30%				
(2) テスト	70%				
<div>学びのキーワード</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 子ども 家族 虐待 福祉 子育て支援 </div>	<div>教科書</div> <div> 山縣文治 編 『よくわかる子ども家庭福祉』（ミネルヴァ書房） </div> <div>参考書</div>				

児童福祉論 B

CGSW-W-200

担当教員：中谷 茂一

学期：週間授 科目：專門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W230764

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

【W】社会福祉主事任用資格：選択科目

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス
・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際
・児童・家庭への相談活動の実際

(2) 学びの意義と目標

- ・ 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービスの現状と課題について理解する。
- ・ 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際について理解する。
- ・ 児童・家族への相談援助活動の実際について理解する。

受講者に対する要望

【注意事項】「児童福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・家族
- ・虐待
- ・福祉
- ・子育て支援

授業計画

01. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (1) 母子保健
02. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (2) 障害・難病のある児童と家族への支援
03. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (3) 児童の社会的養護サービス
04. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (4) 児童虐待対策
05. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (5) 保育
06. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (6) ひとり親家庭の福祉
07. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (7) 子育て支援
08. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (8) 児童健全育成
09. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (9) 非行・情緒障害児への支援
10. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (10) 女性福祉
11. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (1) 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
12. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (2) 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際
13. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (3) 児童・家庭福祉制度における公私の役割関係
14. 児童・家庭への相談活動の実際 (1) 児童相談所による支援
15. 児童・家庭への相談活動の実際 (2) 多職種連携・ネットワークイング

準備學習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備學習(復習)

当日配付資料の復習

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 小レポート | 30% |
| (2) テスト | 70% |

教科書

山縣文治 編 『よくわかる子ども家庭福祉』 (ミネルヴァ書房)

参考書

高齢者福祉論 A

CGSW-W-200

担当教員：長谷部 雅美

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1W230880

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目
 【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目
 【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・ 発達と老化の理解
- ・ 高齢者の生活実態
- ・ 認知症の理解
- ・ 高齢者の福祉ニーズ
- ・ 少子高齢社会と高齢者

(2) 学びの意義と目標

- ・発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。
- ・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。
- ・認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。
- ・高齢者の福祉ニーズについて理解する。
- ・高齢者の将来推計、高齢化の速度、人口構成、平均寿命や健康寿命などを把握したうえで、少子高齢社会の課題について理解する。

受講者に対する要望

本講義では、高齢者への理解を深めることが主要な目的となります。高齢者にまつわる具体的な事例や統計データ等を用いて、より実践的な学びにつながるようにしたいと思います。
国家試験受験資格に必要な科目ですので、知識の習得はもちろん重要なのですが、その知識を自分の身近な状況に引き付けて考えることでより深い学びになると思います。是非、社会や地域との接点を意識しながら、講義に参加してください。

学びのキーワード

- ・発達と老化
- ・生活実態
- ・認知症
- ・ニース
- ・少子高齢社会

授業計画

01. 発達と老化の理解 (1) 人間の成長と発達の基礎的理解
02. 発達と老化の理解 (2) 老年期の発達と成熟
03. 発達と老化の理解 (3) 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活
04. 発達と老化の理解 (4) 高齢者と健康
05. 高齢者の生活実態 (1) 高齢者を取り巻く社会環境
06. 高齢者の生活実態 (2) 高齢者の世帯状況・経済状況
07. 高齢者の生活実態 (3) 高齢者の総合的理解
08. 認知症の理解 (1) 認知症を取り巻く状況
09. 認知症の理解 (2) 認知症の基礎的理解
10. 認知症の理解 (3) 認知症に伴う心身の変化と日常生活
11. 高齢者の福祉ニーズ (1) 要介護高齢者の介護・福祉ニーズ
12. 高齢者の福祉ニーズ (2) 認知症高齢者の介護・福祉ニーズ
13. 高齢者の福祉ニーズ (3) 高齢者虐待の実態及び福祉ニーズ
14. 高齢者の福祉ニーズ (4) 高齢者の社会参加にかかわる福祉ニーズ
15. 少子高齢社会と高齢者

準備學習(予習)

次回の講義内容について、教科書の該当箇所を読んだり、関連する新聞記事等に目を通してください。

準備學習(復習)

講義で配布した資料を読み返したり，関連する書籍を読んだりして，理解を深めてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 課題 | 20% |

高齢者をとりまく様々な実態について、正しい理解が進んでいるかを期末試験で評価します。また、講義への出席状況や参加状況も考慮して総合的に評価します。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座〈13〉 高齢者に対する支援と介護保険制度 第4版』 (中央法規出版)

参考書

高齢者福祉論B		CGSW-W-200
担当教員： 長谷部 雅美、古谷野 亘		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W230988
学部教育の関連目		授業計画
【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目 【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目 【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目		01. 高齢者保健福祉の発展と制度体系（1）高齢者保健福祉の発展（担当：古谷野） 02. 高齢者保健福祉の発展と制度体系（2）高齢者保健福祉の制度体系（担当：古谷野） 03. 介護保険法の概要（1）介護保険制度の目的・保険財政（担当：古谷野） 04. 介護保険法の概要（2）保険者と被保険者、保険料・要介護認定の仕組みとプロセス（担当：古谷野） 05. 介護保険法の概要（3）介護保険サービスの体系（担当：古谷野） 06. 介護保険法の概要（4）介護概要（担当：古谷野） 07. 介護保険法の概要（5）介護保険制度の最近の動向（担当：古谷野） 08. 高齢者支援の関係法規（1）老人福祉法（担当：長谷部） 09. 高齢者支援の関係法規（2）高齢者の医療の確保に関する法律（担当：長谷部） 10. 高齢者支援の関係法規（3）高齢者虐待防止法（担当：長谷部） 11. 高齢者支援の関係法規（4）その他関係法規（担当：長谷部） 12. 高齢者を支援する組織と役割（担当：長谷部） 13. 専門職の役割と実際（担当：長谷部） 14. 高齢者支援の方法と実際（担当：長谷部） 15. 高齢者への生活支援の今後の問題（担当：長谷部）
(1) 内容		
・ 高齢者保健福祉の発展と制度体系 ・ 介護保険法の概要 ・ 高齢者支援の関係法規 ・ 高齢者を支援する組織と役割 ・ 専門職の役割と実際 ・ 高齢者支援の方法と実際		
(2) 学びの意義と目標		
・ 高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。 ・ 相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実際について理解する。		
準備学習(予習)		次回の講義内容について、教科書の該当箇所を読んだり、関連する新聞記事等に目を通してください。
準備学習(復習)		講義で配布したレジュメを読み返したり、関連する書籍を読んだりして、理解を深めてください。
評価方法		(1) 期末試験 80% (2) 課題 20%
受講者に対する要望		高齢者を支援する法制度や仕組みについて、正しい理解が進んでいるかを期末試験で評価します。また、講義への出席状況や参加状況も考慮して総合的に評価します。
学びのキーワード		教科書 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（13） 高齢者に対する支援と介護保険制度 第4版』（中央法規出版） 参考書
・ 制度体系 ・ 介護保険法 ・ 関係法規 ・ 関係組織 ・ 専門職の役割		

障害者福祉論 A

CCSW-W-300

担当教員： 木下 大生

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1W231004

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目
【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目
【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目
【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・ 障害の基礎的理解
- ・ 障害者福祉の基本理念
- ・ 生活機能障害の理解
- ・ 障害者の生活理解
- ・ 障害者の実態

(2) 学びの意義と目標

・ 障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。
・ 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。
・ 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。

受講者に対する要望

- ・ 私語を禁止します。

学びのキーワード

- ・ 障害
- ・ 人権
- ・ ノーマライゼーション
- ・ 脱施設化

授業計画

01. 障害の基礎的理解 (1) 国際的な障害の概念 ①ICIDHからICFへ
02. 障害の基礎的理解 (2) 国際的な障害の概念 ②ICFによる障害のとらえ方
03. 障害者福祉の基本理念 (1) 国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想
04. 障害者福祉の基本理念 (2) ノーマライゼーションとリハビリテーション
05. 障害者福祉の基本理念 (3) 自立と自立生活
06. 生活機能障害の理解 (1) 身体障害の種類と原因、特性
07. 生活機能障害の理解 (2) 知的障害の原因と特性
08. 生活機能障害の理解 (3) 精神障害の種類と原因、特性
09. 生活機能障害の理解 (4) 発達障害の種類と原因、特性
10. 生活機能障害の理解 (5) 障害疑似体験
11. 生活機能障害の理解 (6) 障害が及ぼす心理的影響と障害の受容
12. 障害者の生活理解 (1) 障害者を取り巻く社会情勢
13. 障害者の生活理解 (2) 事例からみる障害者の生活実態
14. 障害者の生活理解 (3) 事例からみる地域生活の実態と福祉ニーズ
15. 障害者の実態

準備学習(予習)

1) シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
2) 授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

準備学習(復習)

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』 (中央法規出版)

参考書

障害者福祉論B

CSCW-W-300

担当教員： 木下 大生

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 2 コード： 1W231112

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉必修科目
【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目
【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目
【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

- ・ 障害者福祉制度の発展過程
- ・ 障害者にかかわる法体系
- ・ 障害者自立支援法
- ・ 組織及び団体の役割と実際
- ・ 障害者に関連する法律

(2) 学びの意義と目標

- ・ 障害者福祉制度の発展過程について理解する。
 - ・ 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度及び障害者の支援の実際についてについて理解する。
- 【注意事項】
「障害者福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

受講者に対する要望

私語を禁止します。

学びのキーワード

- ・ 障害
- ・ 人権
- ・ ノーマライゼーション
- ・ 脱施設化

授業計画

01. 障害者福祉制度の発展過程
02. 障害者にかかわる法体系（1）障害者基本法の概要
03. 障害者にかかわる法体系（2）身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法の概要
04. 障害者総合支援法（1）障害者総合支援法の目的
05. 障害者総合支援法（2）支給決定の仕組みとプロセス
06. 障害者総合支援法（3）自立支援給付・地域生活支援事業等の体
07. 障害者総合支援法（4）障害福祉計画、苦情解決・審査請求
08. 障害者総合支援法（5）障害者自立支援制度の動向
09. 組織及び団体の役割と実際
10. 支援サービス提供の実際（1）サービス提供の実際と専門職の役
11. 支援サービス提供の実際（2）障害者福祉分野の多職種連携、ネットワーキングの実際
12. 支援サービス提供の実際（3）相談支援事業所の役割と活動の実
13. 障害者に関連する法律（1）発達障害者支援法他
14. 障害者に関連する法律（2）高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）等
15. 共生社会をめざして

準備学習（予習）

1) シラバスを見て、今回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
2) 授業内でとったノート整理を必ず次の授業までに行ってください。

準備学習（復習）

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』（中央法規出版）

参考書

地域福祉論

SWEL-W-361

担当教員： 牛津 信忠

学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4 コード： 1W231328

学部教育の関連目

【W】 人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 高等学校教諭一種免許：福祉選択科目
【W】 社会福祉主事任用資格：選択科目
【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目
【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

・現代社会における地域福祉の実際

・地域福祉の基本的考え方

・地域福祉の主体と対象

・地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民

・地域福祉の推進方法

・地域福祉計画と地域福祉活動計画

(2) 学びの意義と目標

・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。

・地域福祉の主体と対象について理解する。

・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

・地域福祉の推進方法（福祉ニーズの把握方法、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について理解する。

・地域福祉計画と地域福祉活動計画について理解する。（講義の順番は理解度に応じて変更されることがある）

受講者に対する要望

生活の場としての地域社会を自らの体験を通じて具体的に見つめ、そこで課題とされ、或いはされてきた問題状況を念頭に学んでいってほしい。単なる知識の増大を図るのみではなく実践課題をつかみ、その解決への一市民としての自覚敵取り組みを忘却することなく、学びを進めること。

学びのキーワード

・ノーマライゼーション

・主体的共同

・ネットワーキング

・地域福祉ニーズ

・トータルケアシステム

授業計画

01. 現代社会における地域福祉の実際

（1）社会の変化と地域福祉の課題

02. 現代社会における地域福祉の実際

（2）地域における多様な福祉課題への対応

03. 地域福祉の基本的考え方

（1）地域福祉理論の発展と広がり

04. 地域福祉の基本的考え方

（2）地域福祉の理念と概念

05. 地域福祉の主体と対象

（1）地域福祉の主体

06. 地域福祉の主体と対象

（2）地域福祉の対象

07. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民

（1）行政組織と民間組織の役割

08. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民

（2）専門職や地域住民の役割

09. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民

（3）ボランティア活動の考え方と推進方策

10. 地域福祉の推進方法

（1）地域福祉の方法論

11. 地域福祉の推進方法

（2）地域における福祉ニーズの把握方法① 地域福祉におけるアウトリーチの意義

12. 地域福祉の推進方法

（3）地域における福祉ニーズの把握方法② 質的な福祉ニーズの把握方法と実際

13. 地域福祉の推進方法

（4）地域における福祉ニーズの把握方法③ 量的な福祉ニーズの把握方法と実際

14. 地域福祉の推進方法

（5）ネットワーキング①ネットワーキングの意義と方法

15. 地域福祉の推進方法

（6）ネットワーキング②ネットワーキングの実際

16. 地域福祉の推進方法

（7）社会資源の活用・調整・開発① 社会資源の概要

17. 地域福祉の推進方法

（8）社会資源の活用・調整・開発② 社会資源の活用とコーディネート

18. 地域福祉の推進方法

（9）社会資源の活用・調整・開発③ 福祉サービスの開発

19. 地域福祉の推進方法

（10）社会資源の活用・調整・開発④ まちづくりとソーシャルアクション

20. 地域福祉の推進方法

（11）地域トータルケアシステムの構築方法と実際①地域トータルケアシステムの必要性と考え方

21. 地域福祉の推進方法

（12）地域トータルケアシステムの構築方法と実際②地域トータルケアシステムの展開方法

22. 地域福祉の推進方法

（13）地域トータルケアシステムの構築方法と実際③地域トータルケアシステムの事例

23. 地域福祉の推進方法

（14）地域における福祉サービスの評価方法と実際①福祉サービスの評価の意義とそのシステム

24. 地域福祉の推進方法

（15）地域における福祉サービスの評価方法と実際②福祉サービスの評価の方法と実際

25. 地域福祉の推進方法

（16）地域における福祉サービスの評価方法と実際③福祉サービスのプログラム評価の展開

26. 地域福祉の推進方法

（17）地域福祉の財源

27. 地域福祉計画と地域福祉活動計画

（1）地域福祉計画の法制化と策定の意義

28. 地域福祉計画と地域福祉活動計画

（2）市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の策定

29. 地域福祉計画と地域福祉活動計画

（3）地域福祉活動計画と地区福祉計画の意義と内容

30. これからの地域福祉のあり方

準備学習(予習)

各項目ごとの関連文献やマスコミ記事等に触れ、認識を深めておくこと。毎回配布するレジュメの未終了箇所を熟読し問題意識を持って次の授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業時に配布のレジュメを用いて、毎回授業を振り返り、知識の確実化、関連事項を課題視して思考を深めていくこと。3回に一度行う終了箇所に関する小テストの準備として復習をしっかり行っていくこと。

評価方法

(1) 平常点	20%	
(2) 授業内小テスト	20%	授業の区切りにあたるときに20分程で行う復習テスト。
(3) 授業受講態度	10%	座席表による出席把握により、個人の態度を把握できる。
(4) 授業中の質問	10%	授業中に手を挙げて質問することも歓迎する。
(5) 期末テスト成績	40%	授業全体を対象とし、知識のみならず、思考の力を重視する。

授業において配布されたプリントを読み前もって授業の予習をしておくこと。授業終了後、ノート、プリントを参照し、復習を行うことを求める。こうした予習復習が、最後に行われる学期末筆記試験、その他小テストの高い評価につながる。、

教科書

参考書

スライドショウ（パワーポイントによる）を主とするが、関連のプリントをも配布する。

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ		CGSW-W-300
担当教員： 長谷部 雅美		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1W310600
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 社会福祉援助技術現場実習と実習指導の意義 社会福祉援助技術現場実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の意義</div> <div>02. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（1）個人のプライバシーの保護の必要性（個人情報保護法の理解を含む）</div> <div>03. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（2）社会福祉士と守秘義務</div> <div>04. 現場体験学習及び見学実習 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）の報告</div> <div>05. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解（1）実習で求められる専門知識、専門援助技術、及び関連知識</div> <div>06. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解（2）基本的コミュニケーションや人間関係形成方法の理解</div> <div>07. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解（3）援助関係形成方法や問題解決能力促進方法の理解</div> <div>08. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解（4）コミュニティへの働きかけの理解</div> <div>09. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解（1）ケアワークの理解（1）（視聴覚学習）</div> <div>10. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解（2）ケアワークの理解（2）（演習）</div> <div>11. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解（3）感染症の理解とその対策</div> <div>12. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解（1）記録の意義と目的</div> <div>13. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解（2）実習記録ノートの意義と目的</div> <div>14. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解（3）記録技法の修得</div> <div>15. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解（4）実践評価記録の方法</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>		
<div>（1）内容</div> <div>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰでは、現場実習の目的や意義を理解することによって実習への動機づけを行うとともに、プライバシー保護と守秘義務、専門援助技術に関する知識と技術の再確認、関連業務に関する基本的理解、実習記録ノートの作成方法に関する事前学習を行う。</div>		
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>（1）現場実習の目的や意義、プライバシー保護と守秘義務、介護や保育などの関連業務、実習記録ノートの作成方法について理解し、現場実習において活用することができる。</div> <div>（2）これまで学んだ専門援助技術を再確認し、現場実習において活用することができる。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 価値</div> <div>・ 知識</div> <div>・ 技術</div> <div>・ 守秘義務</div> <div>・ 実習記録</div>		
<div>教科書</div>		
<div>参考書</div>		

社会福祉援助技術現場実習指導I		CGSW-W-300
担当教員： 木下 大生		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 1 コード： 1W310608
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 社会福祉援助技術現場実習と実習指導の意義 社会福祉援助技術現場実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の 02. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(1)個人のプライバシーの保護の必要性(個人情報保護法の理解を含む) 03. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(2)社会福祉士と守秘義務 04. 現場体験学習及び見学実習 現場体験学習及び見学実習(実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む)の報告 05. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(1)実習で求められる専門知識、専門援助技術、及び関連知識 06. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(2)基本的コミュニケーションや人間関係形成方法の理解 07. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(3)援助関係形成方法や問題解決能力促進方法の理解 08. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(4)コミュニティへの働きかけの理解 09. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(1)ケアワークの理解(1)(視聴覚学習) 10. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(2)ケアワークの理解(2)(演習) 11. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(3)感染症の理解とその対策 12. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(1)記録の意義と目的 13. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(2)実習記録ノートの意義と目的 14. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(3)記録技法の修得 15. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(4)実践評価記録の方法</div>	
	<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目 【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>社会福祉援助技術現場実習指導Iでは、現場実習の目的や意義を理解することによって実習への動機づけを行うとともに、プライバシー保護と守秘義務、専門援助技術に関する知識と技術の再確認、関連業務に関する基本的理解、実習記録ノートの作成方法に関する事前学習を行う。</div>	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>(1)現場実習の目的や意義、プライバシー保護と守秘義務、介護や保育などの関連業務、実習記録ノートの作成方法について理解し、現場実習において活用することができる。</div> <div>(2)これまで学んだ専門援助技術を再確認し、現場実習において活用することができる。</div>	
	<div>受講者に対する要望</div> <div>「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・ 価値・ 知識・ 技術・ 守秘義務・ 実習記録</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 50%</div> <div>(2) 受講態度 50%</div>	
	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

社会福祉援助技術現場実習指導II		CGSW-W-300
担当教員：長谷部 雅美		
学期：前期（ 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：1W310720
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 事前学習の目的と意義</div> <div>02. 配属実習分野と施設等に関する理解①配属実習先の施設・事業者・機関・団体の法的根拠</div> <div>03. 配属実習分野と施設等に関する理解②配属実習施設の歴史的変遷と現行制度の法的変遷と現状</div> <div>04. 配属実習分野と施設等に関する理解③配属実習施設の歴史的変遷と現行制度における位置づけ</div> <div>05. 配属実習分野と施設等に関する理解④配属実習施設における職種と期待される資格要件</div> <div>06. 配属実習分野と施設等に関する理解⑤配属実習施設における他機関・他職種との連携方法</div> <div>07. 配属実習施設を取り巻く地域社会に関する理解 配属実習施設の地域特性の分析と地域社会の福祉ニーズ</div> <div>08. 配属実習施設の利用者の理解①利用者の全体的特徴</div> <div>09. 配属実習施設の利用者の理解②利用者の全体的動向</div> <div>10. 配属実習施設の利用者の理解③利用者の生活ニーズの把握方法</div> <div>11. 実習計画の作成①実習計画の目的と意義</div> <div>12. 実習計画の作成②実習計画作成指導(1)</div> <div>13. 実習計画の作成③実習計画作成指導(2)</div> <div>14. 実習計画の作成④実習計画作成指導(3)</div> <div>15. 実習オリエンテーションの目的と意義 実習オリエンテーションの方法</div> <div>16. 実習中の諸注意①実習生に求められる態度</div> <div>17. 実習中の諸注意②実習にあたっての留意事項</div> <div>18. 学内指導（現場実習期間中）①学内における指導及び自己学習(1)</div> <div>19. 学内指導（現場実習期間中）②学内における指導及び自己学習(2)</div> <div>20. 学内指導（現場実習期間中）③学内における指導及び自己学習(3)</div> <div>21. 学内指導（現場実習期間中）④学内における指導及び自己学習(4)</div> <div>22. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理①課題の達成状況の評価(1)</div> <div>23. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理②課題の達成状況の評価(2)</div> <div>24. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理③個別、及びピア・グループ・スーパービジョンによる課題の整理</div> <div>25. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理④グループ・スーパービジョンによる課題の整理</div> <div>26. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成①実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(1)</div> <div>27. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成②実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(2)</div> <div>28. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成③実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(3)</div> <div>29. 実習報告会による全体的評価の総括①実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備</div> <div>30. 実習報告会による全体的評価の総括②実習報告会（実習の評価全体総括会）の開催</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>今回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目</div> <div>【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布された文献の該当箇所を読み直し、実習指導で学んだことをまとめておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点40% 参加状況やグループワークの状況等</div> <div>(2) レポート課題30%</div> <div>(3) 実習報告30% 実習報告書、実習報告会</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>春学期は、配属実習先の施設・機関等の理解、利用者理解、実習計画の作成に関する事前学習を行う。秋学期は、現場実習前に、実習中の諸注意を徹底するとともに、現場実習中に、学内における指導及び自己学習を行う。また、現場実習後に、各自の実習体験を振り返り、実習課題の整理、実習報告書の作成に関する事後学習を進めるとともに、現場実習の総括としての実習報告会を開催する。</div>	<small>実習報告会での報告と実習報告書の提出をうけて、それまでのレポート、コメント、および受講態度から総合的に評価する。なお、社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。</small>	
	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>【春学期】 (1)配属実習先の施設・機関や利用者の全体的特徴・動向等について理解し、現場実習において活用することができる。 (2)現場実習を計画的に行い、事後評価を適切なものにするため、各自の配属実習先に応じた実習計画を作成することができる。 【秋学期】個別具体的な実践体験を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。</div>	<div>学びのキーワード</div> <div>・実習先施設・機関の理解</div> <div>・利用者理解</div> <div>・実習課題</div> <div>・スーパービジョン</div> <div>・実習評価</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。
</div>		

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		CGSW-W-300
担当教員： 木下 大生		
学期： 前期（ 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 1W310728
学部教育の関連目		授業計画
【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける		
カリキュラム上の位置付け		01. 事前学習の目的と意義 02. 配属実習分野と施設等に関する理解①配属実習先の施設・事業者・機関・団体の法的根拠 03. 配属実習分野と施設等に関する理解②配属実習施設を規定する法制度の歴史の変遷と現状 04. 配属実習分野と施設等に関する理解③配属実習施設の歴史の変遷と現行制度における位置づけ 05. 配属実習分野と施設等に関する理解④配属実習施設における職種と期待される資格要件 06. 配属実習分野と施設等に関する理解⑤配属実習施設における他機関・他職種との連携方法 07. 配属実習施設を取り巻く地域社会に関する理解 配属実習施設の地域特性の分析と地域社会の福祉ニーズ 08. 配属実習施設の利用者の理解①利用者の全体的特徴 09. 配属実習施設の利用者の理解②利用者の全体的動向 10. 配属実習施設の利用者の理解③利用者の生活ニーズの把握方法 11. 実習計画の作成①実習計画の目的と意義 12. 実習計画の作成②実習計画作成指導(1) 13. 実習計画の作成③実習計画作成指導(2) 14. 実習計画の作成④実習計画作成指導(3) 15. 実習オリエンテーションの目的と意義 実習オリエンテーションの方法 16. 実習中の諸注意①実習生に求められる態度 17. 実習中の諸注意②実習にあたっての留意事項 18. 学内指導（現場実習期間中）①学内における指導及び自己学習(1) 19. 学内指導（現場実習期間中）②学内における指導及び自己学習(2) 20. 学内指導（現場実習期間中）③学内における指導及び自己学習(3) 21. 学内指導（現場実習期間中）④学内における指導及び自己学習(4) 22. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理①課題の達成状況の評価(1) 23. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理②課題の達成状況の評価(2) 24. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理③個別、及びピア・グループ・スーパービジョンによる課題の整理 25. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理④グループ・スーパービジョンによる課題の整理 26. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成①実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(1) 27. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成②実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(2) 28. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成③実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(3) 29. 実習報告会による全体的評価の総括①実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備 30. 実習報告会による全体的評価の総括②実習報告会（実習の評価全体総括会）の開催
(1) 内容		
春学期は、配属実習先の施設・機関等の理解、利用者理解、実習計画の作成に関する事前学習を行う。秋学期は、現場実習前に、実習中の諸注意を徹底するとともに、現場実習中に、学内における指導及び自己学習を行う。また、現場実習後に、各自の実習体験を振り返り、実習課題の整理、実習報告書の作成に関する事後学習を進めるとともに、現場実習の総括としての実習報告会を開催する。		
(2) 学びの意義と目標		
【春学期】 (1)配属実習先の施設・機関や利用者の全体的特徴・動向等について理解し、現場実習において活用することができる。 (2)現場実習を計画的に行い、事後評価を適切なものにするため、各自の配属実習先に応じた実習計画を作成することができる。 【秋学期】個別具体的な実践体験を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。		
受講者に対する要望		
「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。 		
学びのキーワード		
教科書		
ハム亜紀子『相談援助職の記録の書き方—短時間で適切な内容を表現するテクニック』（中央法規） ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2015〔平成27年版〕』（ミネルヴァ書房） 厚生統計協会『国民の福祉と介護の動向 2015/2016』（厚生統計協会）		
参考書		

社会福祉援助技術現場実習		CGSW-W-300
担当教員： 木下 大生		
学期： 集中講 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 6 コード： 1W310800
<div>学部教育の関連目</div> <div>【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. <small>利用者やその関係者、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</small></div> <div>02. 利用者理解とそのニーズの把握</div> <div>03. 利用者やその関係者との援助関係の形成</div> <div>04. 利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価</div> <div>05. チームアプローチの実際</div> <div>06. <small>社会福祉士としての職業倫理、職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</small></div> <div>07. 経営やサービスの管理運営の実際</div> <div>08. 配属実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解</div> <div>09. <small>具体的な社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</small></div> <div>10. 社会福祉士と他職種との連携の実際</div> <div>11. 利用者の支援計画の作成</div> <div>12. 地域課題の発見と理解</div> <div>13. 制度の実際の課題の理解</div> <div>14. ソーシャルアクションの実際</div> <div>15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】 高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目</div> <div>【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>実習指導者の指導のもと、次に掲げる事項について、合計180時間以上に及ぶ実習教育を行う。 1つの施設において、集中実習（合計180時間以上）の形態で行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>①社会福祉実践現場の体験を通して、社会福祉士としての使命と倫理を自覚できる。</div> <div>②社会福祉士として必要な価値・知識・技術を獲得することによって、今後の現場実践で効果的に活用できる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎日、その日の実習課題を設定し、その課題を念頭に置いて実習を行うこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。
 本実習における事前事後学習、及び実習中の巡回指導を、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱとして行う。
</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>その日の実習が終了したら、実習ノートを記入し、実習課題に対する考察を行うこと。</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 実習内容 100%</div>
<div>学びのキーワード</div> <div>・円滑な援助関係の形成</div> <div>・ニーズ把握と支援計画</div> <div>・アドボカシーとエンパワメント</div> <div>・チームアプローチ</div> <div>・専門職倫理</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

社会福祉援助技術現場実習

CGSW-W-300

担当教員：長谷部 雅美

学期：集中講 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：6 コード：1W310808

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 内容

実習指導者の指導のもと、次に掲げる事項について、合計180時間以上に及ぶ実習教育を行う。
1つの施設において、集中実習（合計180時間以上）の形態で行う。

(2) 学びの意義と目標

①社会福祉実践現場の体験を通して、社会福祉士としての使命と倫理を自覚できる。
②社会福祉士として必要な価値・知識・技術を獲得することによって、今後の現場実践で効果的に活用できる。

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

学びのキーワード

- ・円滑な援助関係の形成
- ・ニーズ把握と支援計画
- ・アドボカシーとエンパワメント
- ・チームアプローチ
- ・専門職倫理

授業計画

01. 利用者やその関係者、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
02. 利用者理解とそのニーズの把握
03. 利用者やその関係者との援助関係の形成
04. 利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価
05. チームアプローチの実際
06. 社会福祉士としての職業倫理、職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
07. 経営やサービスの管理運営の実際
08. 配属実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解
09. 具体的な社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
10. 社会福祉士と他職種との連携の実際
11. 利用者の支援計画の作成
12. 地域課題の発見と理解
13. 制度の実際の課題の理解
14. ソーシャルアクションの実際
15. まとめ

準備学習(予習)

毎日、その日の実習課題を設定し、その課題を念頭に置いて実習を行うこと。

準備学習(復習)

その日の実習が終了したら、実習ノートを記入し、実習課題に対する考察を行うこと。

評価方法

(1) 実習内容 100%

教科書

参考書

担当教員：森島 健

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1W400100

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目

(1) 内容

この授業では、主に地域リハビリテーションにおける援助の方法論を学ぶ。まず地域リハビリテーションの理念を理解し、その活動の枠組みを学習する。またその活動の中で、リハビリテーション専門職が行う実践活動について視覚教材などを通して理解する。また、介護保険の役割や地域包括ケアシステムについても概説する。後半は実習を通して、高齢者や障がい者の身体面・心理面について学習する。特に障がい体験を実施する事が、介護される側の心理面を共感するための一助となり、身体状況と環境面との関係を考えていくための、手助けになると考えている。教授方法は講義形式だけでなく、実習やワークショップを用いる。

(2) 学びの意義と目標

本講義では、地域リハビリテーションの概要を学ぶことにより、高齢者や障がい者の気持ちを理解し、彼らへの共感的理解への第一歩になると考えている。今後、卒業し社会に出ることにより、様々な人々と接する機会が増えると思うが、そこに対応できる人間形成にもなると考えている。

教育目標は、「地域リハビリテーションの理念を理解し、その活動の枠組みを学習する」ことである。

行動目標は、以下の5点である。

- ①地域リハビリテーションの理念について説明できる。
- ②地域リハビリテーションにおける介護保険の役割を概説できる。
- ③地域リハビリテーションにおいて対象者の心理面の重要性を説明できる。
- ④障害体験を実施し、環境面との重要性を説明できる。
- ⑤高齢者や障害者の心情を共感的に理解することができる。

受講者に対する要望

実習という授業形態からグループワークや実習の時間が多くなります。自ら学ぶという強い気持ちと学生諸君の積極的な取り組みに期待します。

学びのキーワード

- ・地域
- ・リハビリテーション
- ・施設
- ・在宅
- ・障がい者

授業計画

01. リハビリテーションとは何かを考える
02. 障害とは何かを考える
03. 地域・コミュニティとは何かを考える
04. 地域リハビリテーションの理念・目的・役割について学ぶ
05. 地域リハビリテーションの歴史的背景について学ぶ
06. 教授方法について、ワークショップなどの考え方について学ぶ
07. 地域の特性について（在宅と施設の違いを考える）
08. 高齢者や障がい者の生活を理解する
09. 社会福祉資源について考える
10. ケアマネジメントの必要性について学ぶ
11. 介護保険とリハビリテーションについて学ぶ
12. 地域包括ケアシステムについて学ぶ
13. 福祉用具・住宅改修について学ぶ
14. 北欧における地域リハビリテーションについて
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われる内容について今まで学習した資料を集めておくこと。

準備学習(復習)

授業で配布した資料を読み直し、内容を理解し説明できるようにすること。

評価方法

(1) 試験

100%

教科書

参考書

教科書は使用しません。必要な資料は授業時に配布します。

介護実習

CGSW-W-400

担当教員：高山 法子

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1W400208

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

(1) 内容

寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

1. 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。
2. 利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。
3. 利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考えを深める。

受講者に対する要望

講義終了後、夏休みに施設実習が入っていますから、15回の講義・演習は絶対休まないでほしい。

学びのキーワード

- ・自己開示
- ・共感と受容
- ・自立支援
- ・個別性（一人ひとりの違いを尊重する）と公平性
- ・専門職

授業計画

01. オリエンテーション
02. コミュニケーション（共感と受容・自己開示）
03. 価値交流学习
04. 事例を通して考える
05. "
06. "
07. "
08. "
09. 利用者理解
10. "
11. スーパービジョン
12. "
13. "
14. 実習準備（1）
15. 実習準備（2）

準備学習（予習）

グループで話し合う資料に目を通し、次回の授業までに自分の考えをまとめておく。

準備学習（復習）

受講した内容と感想をA4のノートにまとめておく。
参考文献を何回か提示しますから、文献を熟読し感想をノートにまとめる。

評価方法

- | | |
|---------------|----------|
| (1) レポート・実習記録 | 80% |
| (2) 出席・授業態度 | 20% 宿題含む |

教科書

参考書

教師論（中高教職）		TEAT-0-101	
担当教員：井上 兼生			
学期： 週間授 科目： 教職課程/ 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 5T100101	
学部教育の関連目		授業計画	
【D】 教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける		01. オリエンテーション 02. 教師に求められる資質・能力とは（１）－現状と課題 03. 教師に求められる資質・能力とは（２）－生徒の求める教師像 04. 教師に求められる資質・能力とは（３）－教師としての自覚 05. 教師の仕事（１）教師の専門性－教育に関する知識と教科に関する知識 06. 教師の仕事（２）教師の力量向上－研修の義務と機会 07. 教師の地位（１）教師をめぐる法令－教育基本法・地方公務員法など 08. 教師の地位（２）現代社会と教師 09. 教師の環境（１）組織の一員としての教師－教師の多様な職務の理解 10. 教師の環境（２）教育改革と教師－近年の教育関連法の改正と教員 11. 教師の環境（３）最近の環境変化の動向－地域社会や保護者との協力など 12. 教師養成（１）その歴史－戦前期および戦後改革 13. 教師養成（２）－教員養成を巡る近年の動向と教職選択の自覚 14. 教育計画とは何か 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【D】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【D】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目			
(1) 内容			
教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。 教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。 その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
１）教師に求められる資質・能力について、学生たち自身の経験から考えさせ、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気付かせ、教職について深い考察を促す（教職の意義・教員の役割）。 ２）地方公務員法、教育公務員特例法など、教員の地位に関する法令についての正確な知識を身に付け、教師の権利・義務について理解を深める（教員の職務内容と身分）。 ３）戦前期の教員身分および免許制度などについて概観し、現在の教員免許法の有り様と現在、課題とされる点についての理解を深め、教員として必要な資格について考えさせる（進路選択）。 ４）近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例を取り上げながら理解を深め、これからの教員に求められる姿勢や能力について深い考えを育てる（教員の環境）。		毎回、次の授業のテーマを示します。テーマについてあらかじめ調べてきてもらいます。	
		準備学習(復習)	
		授業で取り上げたテーマに関連して作成してもらうレポートの準備を考えてください。	
受講者に対する要望		評価方法	
「教えられる」側から「教える」側へ立場が変わったときに、見えてくるものはいろいろあるはずである。教師についての今までの考え方を見直して、自分なりの教師観をしっかりとつくってほしい。		(1) 期末テスト 30% (2) 授業への参加 40% 授業中の討論への参加など (3) レポート 30% 教師に関するレポートを一本提出してもらいます。	
学びのキーワード		教科書	
・ 職場としての学校 ・ 教員の特殊性 ・ 教員の社会的役割		参考書	

教育原理（中高教職）

TEAT-0-102

担当教員：井上 兼生

学期： 週間授 科目： 教職課程/ 必修・選択： 教職科目/資格課程 単位： 2 コード： 5T200109

学部教育の関連目

【D】 教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目
【D】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目
【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目
【全】 社会福祉主事任用資格：選択科目
【全】 高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目
【全】 中学校教諭一種免許：（共通）必修科目
【全】 社会福祉主事任用資格：選択科目

(1) 内容

本科目は教職の入門科目であり、教育についての基礎的知識をひと通り取り扱う。指定の教科書と各回配布のプリント資料などを利用しながら、教育心理、文化人類学、教育制度、教育法規、教育社会学、比較教育、教育史など、広範にわたるテーマを取上げていく。自分が興味をもったテーマについて関連図書などを参考にしてレポートも作成する。
教育を「受ける」立場であった学生が、教育を「ほどこす」立場に立つためには、教育に対する考え方を根本から洗いなおすことが必要となる。これらの学習を通じて、社会にとって不可欠な営みとしての教育を捉え、教育に対して、より豊かな視野を獲得を目指す。

(2) 学びの意義と目標

1）教育が生物としてのヒトを、人格をもった人に育てる営みであることを理解する（教育の本質および思想）。
2）学校の歴史についての理解を深め、現代の学校の特徴や課題について考察する（学校の歴史と見方）。
3）理性をもった存在としての人間の子どもの心身の成長の在り方についての理解を深める（人間の成長）。
4）教育課程と教科・科目の構造および学習評価の基本知識を体得し、学校教育の性格を理解する（教育課程）。

受講者に対する要望

教職課程の入り口に位置する科目です。ごく基本的な教育法規も掲載されている教科書を使います。受ける立場から教える立場への意識転換を図る必要があります。

学びのキーワード

- ・教育
- ・成長
- ・学校
- ・学力

授業計画

01. ガイダンス
02. 教育とは何か（1）ヒト固有の営みとして
03. 教育とは何か（2）教育と教育もどき
04. 学校とは何か（1）学校の歴史（古代から中世）
05. 学校とは何か（2）学校の歴史（近代）
06. 学校とは何か（3）日本における学校
07. こころとからだを育てる①こころ
08. こころとからだを育てる②からだ
09. よりよく教え、学ばせる（1）教えること
10. よりよく教え、学ばせる（2）学ばせること
11. 教育評価とはなにか
12. 授業の可能性
13. 学校の可能性
14. よりよい教育を求めて
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書を指定します。各回、次の授業で扱う範囲を指定しますので、十分に予習して授業に臨んでください。

準備学習(復習)

各回、前回の授業内容の理解を確認するために授業の初めに小テストを行います。各回の授業で扱った教科書の内容、配布された資料などをもとに確実に復習しておくこと。

評価方法

(1) 小テスト	教科書 30%
(2) レポート2本	授業で 30%
(3) 期末テスト	40%

ほぼ毎回の授業で行う小テストでしっかりと知識を定着し、2回のレポートで教育の原理について思考を巡らせる学習をすれば、期末テストも十分な評価が得られるはずです。

教科書

田嶋 一、中野 新之祐、福田 須美子、狩野 浩二『やさしい教育原理 新版補訂版（有斐閣アルマ）』（有斐閣）

参考書

教育心理学（PAJ(W) 教職）		TEAT-0-201	
担当教員： 橋本 和幸			
学期： 週間授		科目： 教職課程/ 必修・選択： 教職科目/資格課程	単位： 4 コード： 5T200216
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション：授業の進め方、教育心理学とは何かなど</div> <div>02. 発達の理論</div> <div>03. 各時期の発達の様相①</div> <div>04. 各時期の発達の様相②</div> <div>05. 学習の理論①</div> <div>06. 学習の理論②</div> <div>07. 教授と学習①</div> <div>08. 教授と学習②</div> <div>09. 動機づけの理論①</div> <div>10. 動機づけの理論②</div> <div>11. 知能と学力①</div> <div>12. 知能と学力②</div> <div>13. 教育の評価①</div> <div>14. 教育の評価②</div> <div>15. 授業の実践と研究①</div> <div>16. 授業の実践と研究②</div> <div>17. 学級集団①</div> <div>18. 学級集団②</div> <div>19. パーソナリティの問題と生徒理解①</div> <div>20. パーソナリティの問題と生徒理解②</div> <div>21. 問題行動と教育相談①</div> <div>22. 問題行動と教育相談②</div> <div>23. 問題行動と教育相談③</div> <div>24. 発達の問題①</div> <div>25. 発達の問題②</div> <div>26. 発達の問題③</div> <div>27. 教育実践の記述</div> <div>28. 教育実践と教育心理学</div> <div>29. まとめ①</div> <div>30. まとめ②</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】社会教育主事資格：必修科目 【W】認定心理士認定資格(W学科)：選択科目 【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】社会教育主事資格：必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】社会教育主事資格：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>この授業は、子どもの発達や学習などの仕組みについて、教員になった時に役立てられるような心理学の知識や考え方を提供することを目的とする。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div><div>・現代の子どもの特徴について理解し、子どもが成長するために必要とされる事柄を説明出来る。</div><div>・各回の内容から、青年期に至るまでの発達の経過や発達障害等の問題についても理解を深める。</div><div>・授業で提示された様々な用語を理解し、他者に説明することが出来る。</div><div>・自身が教員になった時のことを想定しながら、講義を聴くことが出来る。</div></div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>教科書を指定するので、事前に該当箇所を読んでおくことを求めます。
また、積極的な質問や感想をお待ちしています。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で配布されたプリントと、教科書を読み比べて理解を深めること。</div>	
<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験</div><div>70%</div><div>(2) 授業内課題</div><div>30%</div></div>			
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・教育心理学</div><div>・発達心理学</div><div>・パーソナリティ心理学</div><div>・臨床心理学</div></div>		<div>教科書</div> <div>田中智志・橋本美保監修 『新・教職課程シリーズ 教育心理学』（一藝社）【ISBN 978-4-86359-060-1】</div> <div>参考書</div>	

担当教員：梅澤 希恵

学期：週間授 科目：教職課程/ 必修・選択：教職科目/資格課程

単位：2 コード：5T200322

学部教育の関連目

【全】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

【全】社会教育主事資格：選択必修科目

(1) 内容

本講義では、学校の日々の教育活動から年間の計画策定・実施、教育行政に関わる組織の諸活動といった内容について、制度的・政策的な背景を踏まえ考察していきます。学校やその他教育行政に関わる諸組織の活動がどのような制度に基づき、どのような計画に従って行われているのか、今日の社会の在り方や政策の動向も踏まえて包括的に考えていくことが本講義の内容です。

(2) 学びの意義と目標

「教育」と「経営」という言葉は、一見するとあまり関連がないようなイメージを持たれるかもしれませんが。しかし、日々の学校の活動が何の計画もない行き当たりばったりのものであったり、国や自治体の教育政策が目先のできごとへの対応ばかりであったりすると、教育という営みはそもそも成り立たなくなってしまいます。児童生徒として学校に通う中では、あるいは日常の社会生活の中ではあまり触れることのない中長期的な政策のビジョンや制度に触れることを通じて、学校や教育行政の活動を俯瞰的に捉えられるようになることが本講義の目標です。

また、教育に対する俯瞰的な視点を養うことは、誰もが経験するがゆえに逆に「自分の経験のみに即して」語りがちになってしまう教育という営みに対して、自らの経験を相対化して捉え直すことにもつながります。自らの経験のみに縛られない多角的な視野を養うことが本講義における学びの意義です。

受講者に対する要望

講義の中では毎回時事的な話題を取り上げる予定です。受講生の皆さんも新聞やニュース等を通じ、積極的な情報収集に努めてください。

学びのキーワード

- ・学校のマネジメント
- ・教育制度・教育政策
- ・教育行財政
- ・学校教職員
- ・学校と地域との関係

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教育法規の体系と教育基本法
03. 学習指導要領とカリキュラムマネジメント
04. 学級経営と学級の適正規模
05. 学校の管理・経営と学校評価
06. 教員の養成・研修と教員免許更新制
07. 「開かれた学校づくり」、学校と地域との関係
08. 自治体教育行政と教育委員会制度改革
09. 社会教育・生涯学習政策
10. 国の教育行政のしくみと教育振興基本計画
11. 公教育・学校教育と「子どもの貧困」
12. いじめ問題と学校の「病理」
13. 学校と社会との接続をめぐる諸問題
14. 「チーム学校」と教育経営の「裏方」
15. 講義のまとめ

準備学習(予習)

日々のニュースや新聞等を通じ、授業に関連する時事的な話題の情報収集を行ってください。

準備学習(復習)

講義時の配布資料のほか、Moodleにも補助教材をUPします。適宜参照しつつ、各回の内容を振り返るようにしてください。

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|---------------------------------------|
| (1) 学期末試験 | 60% | 試験を予定していますが、受講者数によってはレポートで代える場合もあります。 |
| (2) 各回のリアクションペーパー | 40% | 毎回、授業の最後にリアクションペーパーの記入をお願いします。 |

教科書

特定の教科書は用いません。各回、レジュメを配布します。

参考書

各回のレジュメに、講義内容に即した参考文献リストを添付します。

教育社会学（中高教職）		TEAT-0-203	
担当教員： 御手洗 明佳			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T201330	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける		01. ガイダンス（教員としての素養としての教育社会学） 02. 教育の見方（1）－経済学と社会学 03. 教育の見方（2）－社会学の理論 04. 学歴と階層移動（1）努力の報われる社会か 05. 学歴と階層移動（2）エリート教育 06. 逸脱行為（1）逸脱の理論 07. 逸脱行為（2）統計の見方（少年非行を中心に） 08. 教育家族（1）家族とはなにか 09. 教育家族（2）戦前から戦後へ 10. 教育と家族（3）教育とジェンダー 11. 貧困と子どもの生活 12. 貧困と子どもの教育 13. 学校選択とは 14. 学校選択と教育機会 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【G】小学校教諭一種免許：必修科目 【G】幼稚園教諭一種免許：必修科目【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目 【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目			
(1) 内容			
教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになると、学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのように社会学的に理解できるのか、研究事例などの紹介をとおして、考えてもらうことを中心とする。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) 教育の社会的・経済的な意味について説明された理論を確実に理解する（教育の社会的意味）。 2) 学歴など業績が社会的地位を決定する近代社会の特徴を歴史的に考える態度を育てる（業績主義について）。 3) 近代的家族の歴史的形成過程と現代社会における家族の置かれた環境について考察を深める（家庭の問題）。 4) 逸脱行為の理論を通じて統計データの扱い方に親しみ、客観的なものの見方を育てる（統計データ）。 5) 貧困と子どもの教育機会について、具体的な事例を多く取り上げ、その実態についての知識を確実なものとする（子どもの教育機会）。 6) 学校選択制が子どもの教育環境や地域社会のあり方にどのような影響を与えているか、具体的な事例を取り上げ、学校選択制の実状と課題についての理解を深める（学校選択制）。		各テーマで2， 3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。	
		準備学習(復習)	
		ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。	
受講者に対する要望		評価方法	
高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。		(1) 通常の学習活動 40% 出席、授業中の作業など (2) レポート 30% 授業中に説明する1本のレポート (3) 期末テスト 30%	
学びのキーワード		教科書	
・ 家族・家庭 ・ 学歴 ・ 少年非行 ・ 貧困		参考書	

教育社会学（中高教職）		TEAT-0-203	
担当教員： 御手洗 明佳			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T201348	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（教員としての素養としての教育社会学） 02. 教育の見方（1）－経済学と社会学 03. 教育の見方（2）－社会学の理論 04. 学歴と階層移動（1）努力の報われる社会か 05. 学歴と階層移動（2）エリート教育 06. 逸脱行為（1）逸脱の理論 07. 逸脱行為（2）統計の見方（少年非行を中心に） 08. 教育家族（1）家族とはなにか 09. 教育家族（2）戦前から戦後へ 10. 教育と家族（3）教育とジェンダー 11. 貧困と子どもの生活 12. 貧困と子どもの教育 13. 学校選択とは 14. 学校選択と教育機会 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div><div>【G】小学校教諭一種免許：必修科目</div><div>【G】幼稚園教諭一種免許：必修科目【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div><div>【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目</div><div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div><div>【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目</div><div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div><div>【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目</div><div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目</div><div>【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目</div></div>			
<div>(1) 内容</div> <div>教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになると、学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのように社会学的に理解できるのか、研究事例などの紹介をとおして、考えてもらうことを中心とする。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1）教育の社会的・経済的な意味について説明された理論を確実に理解する（教育の社会的意味）。 2）学歴など業績が社会的地位を決定する近代社会の特徴を歴史的に考える態度を育てる（業績主義について）。 3）近代的家族の歴史的形成過程と現代社会における家族の置かれた環境について考察を深める（家庭の問題）。 4）逸脱行為の理論を通じて統計データの扱い方に親しみ、客観的なものの見方を育てる（統計データ）。 5）貧困と子どもの教育機会について、具体的な事例を多く取り上げ、その実態についての知識を確実なものとする（子どもの教育機会）。 6）学校選択制が子どもの教育環境や地域社会のあり方にどのような影響を与えているか、具体的な事例を取り上げ、学校選択制の実状と課題についての理解を深める（学校選択制）。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>各テーマで2， 3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 通常の学習活動</div><div>40%</div><div>出席、授業中の作業など</div></div><div><div>(2) レポート</div><div>30%</div><div>授業中に説明する1本のレポート</div></div><div><div>(3) 期末テスト</div><div>30%</div><div></div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 家族・家庭</div><div>・ 学歴</div><div>・ 少年非行</div><div>・ 貧困</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

学校と教育の歴史（中高教職）		TEAT-0-301	
担当教員：石津 靖大			
学期：週間授		科目：教職課程 必修・選択：教職科目	単位：2 コード：5T201471
学部教育の関連目		授業計画	
【全】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける		01. 古典時代と教育（ギリシャ・ローマの哲学と教育） 02. 中世ヨーロッパの思想と教育（大学教育の始まりとルネッサンスの思想） 03. 啓蒙思想と教育（ルソーとペスタロッチを中心に） 04. 近代の学校教育（義務教育制度の成立を中心に） 05. 新しい教育思想と学校教育（デューイを中心に） 06. 日本近世社会と教育（藩校と寺子屋教育） 07. 近世後期の教育（幕末の蘭学・国学を中心に） 08. 明治期の西欧教育制度と思想の需要 09. 明治公教育の完成と教育勅語体制 10. 新しい教育運動（大正期の学校教育） 11. 戦時下の学校教育（国家主義の台頭から学校教育の崩壊まで） 12. 戦後の教育改革（アメリカ教育使節団報告と学校教育改革） 13. 高度経済成長と学校教育（四六答申などを中心に） 14. 現代学校教育の課題（新しい学力観を中心に） 15. これからの学校と教育（学習指導要領などを中心に）	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【O】小学校教諭一種免許：選択科目</div> <div>【O】幼稚園教諭一種免許：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目</div>			
(1) 内容			
学校と教育の歴史について、ヨーロッパの古典思想から近代の教育思想までを概観し、近代の学校、とくに義務教育の成り立ちについての理解を深める。ついで、日本における教育思想と学校制度について概観する。教育のありようは、それぞれの地域の政治・経済・文化など社会的環境に深く根ざしている。講義では、教育の思想や制度、学校教育について、それぞれの社会的背景を視野に入れ、教育について多様な観点からその有りようを考えていく能力を養う。			
(2) 学びの意義と目標			
1) ギリシア・ローマの思想と教育及びキリスト教成立の意義とその後の影響を理解できる。 2) 西洋近代の学校教育の歴史及びルソーなどの近代教育思想について理解する。 3) 日本の教育史の流れを理解し、近代日本の学校教育の成り立ちを理解する。 4) 我が国の教育の諸課題について、思想的及び制度的な観点から考えを深められる。 5) 現代の教育思想と教育制度について理解できる。 学校と教育の歴史における基本的事項の理解が得られることを目指す。そして、それらの事項の整理をすることによって、世界と日本の教育の流れと現代の課題を知ることを目指す。		準備学習(予習)	
		授業計画を参照し扱われる内容の章節について、教職教養の教育図書や教育新聞等によって知識を得ておく。	
		準備学習(復習)	
		授業での教材を再読し基本的で重要な用語・人名について、教職教養用の教育用語集等によって確認しノート整理する。	
受講者に対する要望			
教職科目なので、教育の資質向上に関心を持って、授業に臨んでほしい。			
学びのキーワード		教科書	
・教育思想 ・学校教育 ・学習指導要領		参考書	

学校と教育の歴史（中高教職）		TEAT-0-301	
担当教員：石津 靖大			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T201489	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける		01. 古典時代と教育（ギリシャ・ローマの哲学と教育） 02. 中世ヨーロッパの思想と教育（大学教育の始まりとルネッサンスの思想） 03. 啓蒙思想と教育（ルソーとペスタロッチを中心に） 04. 近代の学校教育（義務教育制度の成立を中心に） 05. 新しい教育思想と学校教育（デューイを中心に） 06. 日本近世社会と教育（藩校と寺子屋教育） 07. 近世後期の教育（幕末の蘭学・国学を中心に） 08. 明治期の西欧教育制度と思想の需要 09. 明治公教育の完成と教育勅語体制 10. 新しい教育運動（大正期の学校教育） 11. 戦時下の学校教育（国家主義の台頭から学校教育の崩壊まで） 12. 戦後の教育改革（アメリカ教育使節団報告と学校教育改革） 13. 高度経済成長と学校教育（四六答申などを中心に） 14. 現代学校教育の課題（新しい学力観を中心に） 15. これからの学校と教育（学習指導要領などを中心に）	
カリキュラム上の位置付け			
【O】小学校教諭一種免許：選択科目 【O】幼稚園教諭一種免許：選択科目【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目			
(1) 内容			
学校と教育の歴史について、ヨーロッパの古典思想から近代の教育思想までを概観し、近代の学校、とくに義務教育の成り立ちについての理解を深める。ついで、日本における教育思想と学校制度について概観する。教育のありようは、それぞれの地域の政治・経済・文化など社会的環境に深く根ざしている。講義では、教育の思想や制度、学校教育について、それぞれの社会的背景を視野に入れ、教育について多様な観点からその有りようを考えていく能力を養う。			
(2) 学びの意義と目標			
1) ギリシア・ローマの思想と教育及びキリスト教成立の意義とその後の影響を理解できる。 2) 西洋近代の学校教育の歴史及びルソーなどの近代教育思想について理解する。 3) 日本の教育史の流れを理解し、近代日本の学校教育の成り立ちを理解する。 4) 我が国の教育の諸課題について、思想的及び制度的な観点から考えを深められる。 5) 現代の教育思想と教育制度について理解できる。 学校と教育の歴史における基本的事項の理解が得られることを目指す。そして、それらの事項の整理をすることによって、世界と日本の教育の流れと現代の課題を知ることを目指す。		準備学習(予習)	
		授業計画を参照し扱われる内容の章節について、教職教養の教育図書や教育新聞等によって知識を得ておく。	
		準備学習(復習)	
		授業での教材を再読し基本的で重要な用語・人名について、教職教養用の教育用語集等によって確認しノート整理する。	
受講者に対する要望			
教職科目なので、教育の資質向上に関心を持って、授業に臨んでほしい。			
学びのキーワード		教科書	
・教育思想 ・学校教育 ・学習指導要領		参考書	

教育課程論（中高教職）		PEDA-C-251	
担当教員：小川 洋			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T300001	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける		01. 履修上の注意などのガイダンス及び教育課程に関する基本知識 02. 明治以降の教育課程のの構造 03. 学習指導要領の成立－昭和20年代の試案の性格 04. 学習指導要領の変遷①－昭和33年版から平成元年版に至る学習指導要領の変化 05. 学習指導要領の変遷②－平成10年版と学力論争 06. 学習指導要領の変遷③－平成20年版とその背景（教育基本法改正など） 07. 学習指導要領と「ゆとり教育」をめぐる流れと学力観の変化 08. 「総合的な学習の時間」の意義と実践例 09. 教科外活動の目標と扱い方 10. 教育課程の編成原理（教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則など） 11. 学習指導要領と教育評価の考え方の変化と現代の課題 12. 初等教育と前期中等教育との接続の現代的な課題 13. PISAの学力観と学習指導の在り方 14. 先進諸国の教育課程の事例と日本の教育課程のこれからの課題 15. 講義の総括と今後の教職課程への取組み	
カリキュラム上の位置付け			
【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目			
(1) 内容			
学習指導要領などの教育課程に関する資料を参考として、授業実践の基盤となる教育課程についての理解を深め、具体的・実践的な学習指導能力の養成に努める。学習指導要領の総則を中心として、教育課程についての考え方がどのように変化してきたか理解を深め、現代の教育課程についての基本的な性格について考えを深める。さらに教育課程を授業実践に具体化するうえで、授業法にどのような工夫が求められているのかなど、多様な授業実践の事例にも触れる機会を提供し、実践的な能力の養成に努める。またいわゆるPISA型学力などに示される学力の考え方に関する国際的な流れについての理解をとおして、教育課程の今後の課題について考察する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) 教育課程の基本的な性格やその構造についての理解を深める。 2) 「学習指導要領」の成立と変遷についての基本的な知識を得る。 3) 学力観と学習指導要領の関係についての理解を深める。 4) 学習の個別化・個性化の流れを、学習指導法の変化について考えを深める。 5) 授業の展開と学習環境の在り方について実践的な能力を養成する。 6) 日本の教育課程と諸外国の教育課程との比較を通して、今後の課題について考察する。		現行の学習指導要領を基本テキストとし、以前の指導要領を必要に応じて部分的に印刷・配布します。事前に授業範囲の資料をよく読んでくること。	
		準備学習(復習)	
		学習指導要領の変更や国際学力調査の結果などによって、学習内容や指導法について、さまざまな議論が行われてきた経緯を確実に理解するため、ひとつの単元が終了することに論点をしっかり整理すること。	
		評価方法	
		(1) 小テスト 30% (2) レポート1本 授業で 30% (3) 期末テスト 40%	
受講者に対する要望			
学習指導要領はほぼ10年毎に書き換えられます。その度に、テーマが変わるように、教育の目標やあるべき授業法なども時代によって変わっていきます。自分の学習経験にこだわることなく、柔軟な考え方ができるようにしてください。			
学びのキーワード		教科書	
・ 中学校教育課程 ・ 学習指導要領 ・ 総合的な学習の時間		文部科学省 『中学校学習指導要領』（ぎょうせい）	
		参考書	

教育方法論（中高教職）		TEAT-0-205
担当教員： 井上 兼生		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T300103
学部教育の関連目		授業計画
【全】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける		
カリキュラム上の位置付け		
【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目		
(1) 内容		01. オリエンテーション 02. 学習をめぐる現状と問題点 03. 学力をめぐる現状と問題点 04. 学校という場（１）オープンスペースの考え方と利用法 05. 学校という場（２）教科教室制の環境と授業法 06. 学校という場（３）新しい学習環境を考える 07. 魅力的な教材を作る（１）さまざまな形式の教材 08. 魅力的な教材を作る（２）新しい情報(NIE など)を利用した教材 09. 新しい技術ーデジタル機器の利用を前提とした教材 10. 新しい技術の利用ーデジタル機器の利用法 11. 生徒を評価する（１）テストとは何か 12. 生徒を評価する（２）倫理的配慮 13. 教育計画とは（１）年間計画を考える 14. 教育計画とは（２）単元ごとの計画を考える 15. まとめ
この授業では、まず学習と学力をめぐる現状と問題点、また学校という場の特徴について、講義形式の授業を通して学ぶ。その後は、学習指導において必要となる「伝える」スキルや「理解させる」スキルを学習する。受講生には、情報機器を利用した資料の集め方やプレゼンテーション機器の利用方法などについても積極的に取り組んでもらう。その後、生徒を評価および教育計画について講義を行う。これらを通して得た知識および技能を、教育活動の向上に役立たせられることを目指していく。		
(2) 学びの意義と目標		
１）学習と学力をめぐる今日の問題について理解できる。 ２）オープンスペースなど、新しい学習空間の考え方についての知識を身に付け、自由な発想で授業を組み立てる力を養う。 ３）学習指導に効果的な独自の教材づくりを身近なところから見つけ出し、実際に授業で利用できる形の教材を開発する経験をする。 ４）限られたスペース・時間で、生徒にどの程度の情報を伝えられるか、学生同士のグループ学習で経験し、教授法に必要な身体感覚を育てる。 ５）生徒の学習評価に関する基本的な考え方を確認した上で、目的に適したテスト問題の在り方などについて考えさせ、実際に問題の作成を経験する。		
受講者に対する要望		準備学習(予習)
授業方法の実践的な学習を中心に組みんでもらいます。提出課題も多くなります。授業出席はもちろんのこと授業参加が前提です。		
準備学習(復習)		
授業中に出された課題は復習のなかで完成することが必要です。		
評価方法		教科書
(1) 授業への参加状況と課題作成 40%		
(2) 課題レポートの内容 60%		
教科書		
学びのキーワード		文部科学省 『中学校学習指導要領』（文部科学省）
・ 授業実践 ・ 授業内容 ・ 深い理解		参考書

特別活動の理論と方法（中高教職）		TEAT-D-300
担当教員： 中沢 辰夫		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 5T300229
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス</div> <div>02. これからの日本の教育の課題と特別活動の果たす役割</div> <div>03. 特別活動の歴史</div> <div>04. 学校の教育課程における特別活動の位置付け</div> <div>05. 特別活動の目標</div> <div>06. 特別活動の4つまたは3つの内容とそれぞれの特質</div> <div>07. 特別活動の授業時数とその扱い</div> <div>08. 特別活動の評価の考え方と進め方</div> <div>09. 特別活動における教材研究</div> <div>10. ホームルームの指導の展開</div> <div>11. 生徒会活動、クラブ活動の指導の進め方の指導の進め方</div> <div>12. 学校行事の指導の進め方</div> <div>13. 特別活動の課題</div> <div>14. テーマに基づいた指導案作成</div> <div>15. テーマに基づいた模擬授業</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：保健必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：保健必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>学校の教育課程の三つの領域の一つである「特別活動」について、まず、受講者の体験を振り返り、この科目の持つ児童への指導の意味を捉える。また、学校の教育課程における特別活動の位置付けを確認し、総合的な学習との違いを明確にしながら、「ホームルーム」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の理論と実際の授業の進め方を、授業での実際の体験も交えて理解する。また実際に指導計画を立て、学校現場で効果的に実践できる資質や能力、態度を育てる。さらに都道府県教員採用試験の過去問を用いて模擬テストを行い、「特別活動」の教育的概念を理解することに役立てる。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 現代の日本の教育の課題と特別活動の歴史を理解できる。</div> <div>2) 教育課程における特別活動の位置づけとその目標及び内容を理解できる。</div> <div>3) 特別活動の指導計画を立て授業展開ができる。</div> <div>4) 生徒会活動やクラブ活動等の指導の進め方を理解できる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>日本の現代史の知識が必要です。
毎時の予習については授業の中で指示します。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>自己の教育経験と関連付けて授業に臨むと理解しやすいと思います。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>毎時の復習については授業の中で指示します。
受講終了後は他の教職科目で学んだことと関連付けて総復習しましょう。
</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業・レポート</div><div>30%</div></div> <div><div>(2) 試験（都道府県採用試験模擬テスト含む）</div><div>30%</div></div> <div><div>(3) 指導計画案</div><div>40%</div></div>
		<div>教科書</div> <div>文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（ぎょうせい）</div> <div>参考書</div> <div>適宜資料を提示する</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・学級・ホームルーム活動</div><div>・生徒会活動</div><div>・学校行事</div><div>・人間形成</div><div>・担任の在り方</div></div>		

道徳教育の研究（PLAJW教職）

TEAT-0-206

担当教員：秋池 功

学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目

単位： 2 コード： 5T300311

学部教育の関連目

【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

(1) 内容

中学校における「道徳の時間」についてのアンケート内容などを参考とし、「道徳の時間」の意義と課題を学ぶとともに、いくつかの資料を基に望ましい資料の見方、考え方を把握する。また、道徳授業の指導過程の基本を理解し、学習指導案の作成、模擬授業等をとおして授業の進め方を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

中学校における道徳教育や「道徳の時間」の目標及び内容を理解するとともに、「道徳の時間」の望ましい資料の収集と指導過程や指導方法を学び、学習指導を構想する力を身に付けることができる。

受講者に対する要望

道徳性を高めるには、どうすればよいか。講義をとおしながら学び続けて欲しい。

学びのキーワード

・ 道徳教育の変遷と学習指導要領

・ 望ましい資料の見方、考え方

・ 授業を深める学級つくりと学習作法

・ 学習指導案

・ 模擬授業

授業計画

01. オリエンテーション、「道徳」と「道徳授業」について話し合う。

02. 道徳教育の変遷について、事例資料等をとおして学ぶ。

03. 学習指導要領と道徳授業のあり方について（1）

04. 学習指導要領と道徳授業のあり方について（2）

05. 事例研究（1）主な諸外国の道徳教育について、調べ発表する。（事前にも調べておく。）

06. 事例研究（2）主な諸外国の道徳教育やわが国の道徳教育や道徳授業についてのアンケート内容を調べ、発表する。

07. 望ましい資料の追求（1）

08. 望ましい資料の追求（2）と学級つくり・学習作法

09. 学習指導案の作成（1）

10. 学習指導案の作成（2）

11. 実践授業の視聴と模擬授業の準備

12. 模擬授業（1）

13. 模擬授業（2）

14. 実践授業の視聴と道徳の授業、道徳教育の評価について

15. 中学校における道徳教育のまとめ

準備学習(予習)

予習的課題が出された時は、しっかり行ってきて欲しい。

準備学習(復習)

毎回の授業のポイントをノートや資料をとおしながら整理する。

評価方法

(1) 授業への参加態度

20%

(2) 指導案作成・提出資料の作成

25%

(3) 理解度の確認|（試験）

55%

毎回出席が大前提である。遅刻が多く、授業への参加意欲の低いことが目立つ場合は、減点の対象となる。

教科書

文部科学省、文科省= 『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版）

参考書

道徳教育指導法（D教職）		TEAT-D-300
担当教員： 秋池 功		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 5T300415
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. シラバスと本講義の意図の説明 02. 道徳の本質とその基礎理論 03. コールバーグの道徳判断の発達段階 04. トーマス・ゴードンの教師学 05. 道徳教育の歴史的変遷 06. 学習意欲と学習スキルを向上させる道徳教育実践の試み（１）ほめ方と叱り方 07. 学習意欲と学習スキルを向上させる道徳教育実践の試み（２）教師学の応用 08. 道徳教育の目標と内容 09. 道徳教育推進教師の役割および年間指導計画について 10. <small>①職場・自然体験学習、ボランティア活動を生かした指導、②伝記、自然、伝統と文化、スポーツ題材を生かした指導（グループ学習）</small> 11. 『道徳の時間』の指導（１）指導資料の開発（情報機器を生かした指導内容を含む）（グループ学習） 12. 『道徳の時間』の指導（２）学習指導案の作成とその手順（グループ学習） 13. 『道徳の時間』の指導（３）学習指導案の立案（グループ学習） 14. 『道徳の時間』の模擬授業（グループごとの発表） 15. 道徳教育の評価の方法</div>	
カリキュラム上の位置付け		
<div>(1) 内容</div> <div>本講義では、まず道徳の本質とその基礎的理論について講義を行う。その後、学校教育の中で道徳教育がどのように位置づけられているか、その歴史的変遷について理解するとともに、道徳教育の意義・目的・内容・方法等について実践事例をもとに考察する。また指導資料を開発しそれをもとに学習指導案を作成する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教育課程及び教育史関係の科目を受講済みの方は内容を復習しておいてください。またインターネットや文献等を通じて「道徳の時間」の学習指導案を参照しておいてください。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>１）道徳の本質とその基礎的理論について理解できる。 ２）道徳教育の変遷について理解できる。 ３）指導資料をもとに学習指導案を作成することができる。</div>		
受講者に対する要望	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で紹介する参考文献を読むことが望ましい。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期 70% (2) 授業態度を重視する 30%</div>	
学びのキーワード	<div>教科書</div> <div>文部科学省、文科省= 『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版）</div> <div>参考書</div>	

社会科公民的分野教育法（中高教職）		SUBP-P-203
担当教員：増田 正博		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T302141
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。</div> <div>02. 「生きる力」と戦前の公民教育—戦前の公民教育、戦後の公民科、社会科へ至る経緯について理解する。</div> <div>03. 戦後の社会科教育の推移と社会科の目標—現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の内容とその推移を理解する。</div> <div>04. 公民的分野の目標と学習内容（１）—公民・公民的資質の概念、現在までの公民的分野の内容・目標の推移を理解する。</div> <div>05. 公民的分野の目標と学習内容（２）—公民的分野の内容とその推移について理解する。</div> <div>06. 公民的内容の指導計画と指導事例—指導計画の作成方法を理解するとともに、中項目を選択し、指導計画を作成する。</div> <div>07. 「政治」的単元の扱い—政治的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。</div> <div>08. 「政治」的単元の学習指導案の作成—〈演習〉教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、発問計画もたてる。</div> <div>09. 「経済」的単元の扱い—経済的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。</div> <div>10. 「経済」的単元の学習指導案の作成—〈演習〉教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、板書計画もたてる。</div> <div>11. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の扱い—「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の内容を理解する。</div> <div>12. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の学習指導案の作成—〈演習〉学習指導案を作成、発問・板書計画をてる。</div> <div>13. 公民的分野の授業評価と方法—評価基準について具体的に理解するとともに、評価方法について知る。</div> <div>14. テスト問題の作成と実践例の紹介—テスト問題の作成の方法を理解するとともに、先進的な実践事例について知る。</div> <div>15. 講義のまとめ—公民的な見方・考え方についてまとめる。</div>	
	<div>準備学習（予習）</div> <div>最初の講義の際、学生にファイルを配布する。そのファイルに必ずレジュメを綴じる。それぞれの講義の終わり５分前に次の講義のレジュメと予習課題を説明する。講義の際、生徒の予習課題を取り入れた講義を行う。最後に予習課題の提出をする。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>授業内で指示する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 35%</div> <div>(2) 新聞発表、レポート、テスト 65%</div> <div>必ず指示された提出物は提出すること。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の２教科となった。本講義は高校の公民科も視野に入れながら、中学校における「公民的分野」の内容について考察する。本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。 ○戦前の「公民教育」と戦後の社会科教育の関係について理解する。 ○「公民的資質」の概念、公民的分野の内容について理解する。 ○「政治」的単元、「経済」的単元、「国際政治・経済学習、現代社会」的単元について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>授業内で指示する。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。 ＜学びの目標＞ ○「公民」「公民的資質」における「公民」の概念を理解できる。 ○公民的分野の内容と学習方法を理解できる。 ○公民的分野の学習指導案を作成することができるとともに、実践例の紹介—テスト問題の作成の方法を理解するとともに、先進的な実践事例について知る。</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>授業内で指示する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>○休まずに出席するように努めて欲しい。 ○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。 ○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。 ○レポートは必ず提出するようにして欲しい。</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>授業内で指示する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。 ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。 ・政治・経済・社会の動きに興味・関心を持とう。</div>	<div>教科書</div> <div>文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版） 教科書（中学）『新しい社会 公民（平成２８年度）』（東京書籍）</div> <div>参考書</div>	

社会科地理・歴史的分野教育法（中高教職）		SUBP-P-204	
担当教員： 増田 正博			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T302245	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける		01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。 02. 地理・歴史教育の沿革（戦前期）—戦前の地理・歴史教育の内容とそのねらいについて理解する。 03. 戦後の社会科教育の変遷と社会科の目標—現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の推移とその内容を理解する。 04. 歴史的分野教育法（歴史的分野の目標）—歴史的分野の目標の推移とその内容について理解する。 05. 歴史的分野教育法（歴史的分野の内容）—歴史分野の内容とその推移について理解する。 06. 歴史的分野教育法（指導計画と指導事例）—＜演習＞指導計画の方法を知るとともに中項目を選択し、指導計画を作成する。 07. 歴史的分野教育法（学習指導案の作成）—学習指導案（細案）を作成する方法について理解する。 08. 歴史的分野教育法（学習指導案の作成）—＜演習＞教材を選択し、学習指導案を作成する。 09. 地理的分野教育法（地理的分野の目標）—地理的分野の目標の推移とその内容について理解する。 10. 地理的分野教育法（地理的分野の内容）—地理的分野の内容とその推移について理解する。 11. 地理的分野教育法（指導計画と指導事例）—地理的分野の指導計画を知り、学習指導案（略案）の書き方を理解する。 12. 地理的分野教育法（学習指導案の作成）—＜演習＞教材を選択し、学習指導案（略案）を作成する。 13. 地理的分野教育法（略図の作成）—＜演習＞日本、世界の略図を作成する。 14. 地理的分野教育法（略図を用いた板書・テスト問題の作成）—テスト問題の作成の方法、略図を用いた板書を理解する。 15. 講義のまとめ—地理的・歴史的分野の見方・考え方についてまとめる。	
カリキュラム上の位置付け			
【全】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目 【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目			
(1) 内容			
<p>戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の2教科となった。本講義は高校の地歴科も視野に入れながら、中学校における「地理的分野」、「歴史的分野」の内容について考察する。</p> <p>本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。</p> <p>○戦前の「地理教育」「歴史教育」のねらいを知るとともに、戦後の社会教育の変遷を理解する。</p> <p>○社会科の教科構造、地歴分野の学習内容について理解する。</p> <p>○「歴史的分野」、「地理的分野」について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。</p>			
(2) 学びの意義と目標			
<p>この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。</p> <p>＜学びの目標＞</p> <p>○「公民的資質」の概念を理解できる。</p> <p>○地理的分野・歴史的分野の内容と学習方法を理解できる。</p> <p>○日本・世界の略図を描きことができ、地理的分野・歴史的分野の学習指導案を作成することができる。</p>			
受講者に対する要望			
<p>○休まずに出席するように努めて欲しい。</p> <p>○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。</p> <p>○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。</p> <p>○レポートは必ず提出して欲しい。</p>			
学びのキーワード		教科書	
<p>・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。</p> <p>・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。</p> <p>・略図を描くスキルを獲得しよう。</p>		<p>文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版）</p> <p>教科書（中学校）『新しい社会 地理（平成28年度）』（東京書籍）</p> <p>教科書（中学校）『新しい社会 歴史（平成28年度）』（東京書籍）</p>	
		参考書	

社会科授業研究Ⅰ（中高教職）			SUBP-P-301
担当教員： 増田 正博			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T302361	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。 02. 社会科教育の沿革と教科構造—戦前の「地理・歴史」学習、戦後の社会科教育の推移、社会科の構造を理解する。 03. 現代における社会科教育の役割—「同和教育」を通じて社会科教育の果たす役割を理解する。 04. 中学校社会科の目標と内容—社会科の目標と内容を理解するとともに、「総合的学習の時間」との関連について知る。 05. 小学校社会科・高等学校「地歴科」「公民科」との関連—小・中・高の関連について理解する。 06. 地理的分野「身近な地域の学習」—二万五千分の一の地形図について理解する。 07. 地理的分野「身近な地域の学習」—〈演習〉地形図をもとにフィールドワークを行う。 08. 歴史的分野「郷土」の扱い—「郷土」の扱いの変遷と「郷土」を扱う意義について理解する。 09. 歴史的分野「生活文化」の学習と博物館—「生活文化」の概念を理解するとともに、博学連携について知る。 10. 歴史的分野「人物」の扱い—歴史における人物の果たす役割について理解する。 11. 公民的分野「消費者教育」—消費者教育の変遷と消費者教育の意義について理解する。 12. 公民的分野「法教育」—法教育の内容と意義を理解するとともに、裁判員制度について知る。 13. 「学習指導案」の作成—〈演習〉地域にこだわった学習指導案を作成する。 14. 「考古学の利用」・補遺—考古学を利用する意義について理解するとともに、実践例を紹介する。 15. 講義のまとめ—社会科教育では「地域」が重要であることを理解する。</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>中学校社会科3分野の教育法の発展として、本講義を位置づける。本講義表の内容は小・中の社会科・高の「地歴科」「公民科」の関連に注目するとともに、地理・歴史・公民的各分野で「地域」にこだわり、「身近な地域」のフィールドワークを実施する。 ○戦前に実践された「社会科」学習の内容を理解する。 ○歴史的分野における「郷土」・「人物」・「生活文化」、地理的分野における「身近な地域」、公民的分野における「消費者文化」・「法教育」、等の実践について理解する。 ○地理的分野における二万五千分の一の地形図の読図を行う。 ○教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。 ＜学びの目標＞ ○中学校社会科は講義ではなく、学習であること理解する。そのために生徒の住んでいる「地域」に注目することが生徒の興味・関心を喚起できることに気づく。 ○フィールドワークの重要性を理解できる。 ○地域にこだわった学習指導案を作成することができる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>第一回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルに講義のレジュメを綴じるようにする。講義の終了5分前目に予習課題を説明する。講義ではその予習課題を生かしながら実践にする。講義の後、予習課題を提出する。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内で指示する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>○休まずに出席するように努めて欲しい。 ○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。 ○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。 ○レポートは必ず提出して欲しい。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 35% (2) 新聞発表、レポート、テスト 65%</div> <div>必ず指示された提出物は提出すること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。 ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。 ・社会科は道具教科であることを認識しよう。</div>		<div>教科書</div> <div>文部科学省 文科省『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版） 教科書（中学校）『新しい社会 地理（平成28年度）』（東京書籍） 教科書（中学校）『新しい社会 歴史（平成28年度）』（東京書籍） 教科書（中学校）『新しい社会 公民（平成28年度）』（東京書籍）</div> <div>参考書</div>	

社会科授業研究Ⅱ（中高教職）		SUBP-P-302
担当教員： 増田 正博		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T302462
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。</div> <div>02. 指導計画の作成と教材研究—アメリカ社会科の変遷を理解する。あわせて単元学習のありようについて知る。</div> <div>03. 学習指導過程の工夫—「オープンマインド」・「オープンプロセス」・「オープンエンド」の3つのオープンを理解する。</div> <div>04. 学習指導の評価と方法—「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の3つの評価を理解する。</div> <div>05. 学習方法の工夫—「問題解決学習」、「発見学習」をはじめ多様な学習方法を理解する。</div> <div>06. 授業過程の工夫—「受容的課題」、「選択的課題」、「発見的課題」について理解する。</div> <div>07. 学習資料の開発—実物資料、加工資料の実際に触れ、資料の重要性を理解する。</div> <div>08. 地図帳と地理的分野の授業—地理的分野の学習において、空間的認識の育成と地図帳の関連を理解する。</div> <div>09. 年表と歴史的分野の授業—歴史的歴分野の学習において、時間的認識を育成するには年表が大きな役割を果たすことについて理解する。</div> <div>10. 新聞と公民的分野の授業—公民的分野は現実の政治・経済・社会を扱うために新聞が大きな役割を果たしていることについて理解する。</div> <div>11. 統計の活用—3分野の教科書には多くの統計が所載されている。この統計の見方について理解する。</div> <div>12. 学習指導案の作成—＜演習＞卒業としての社会科学学習指導案作成を2時間にわたって行う。</div> <div>13. 「学習指導案」の作成—同上</div> <div>14. 授業研究と教師のありかた—社会科実践家の事例を紹介し、教材研究の重要性を理解する。</div> <div>15. 講義のまとめ—教育実習への意欲を喚起する。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：社会必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>中学校社会科3分野の教育法の発展として、さらに「社会科授業研究Ⅰ」をふまえて本講義を位置づける。本講義の内容は社会科の資料論、指導論を中心に構成した。 ○学習方法について、「問題解決学習」、「検証学習」をはじめ多様な方法論を理解する。 ○学習過程の多様な方法論と評価論について理解する。 ○実物資料による体験、古文書資料の読解などを行う。 ○地理的分野における地図帳、歴史的分野における年表、公民的分野における新聞、等の扱いについて理解する。 ○教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。 ＜学びの目標＞ ○中学校社会科は講義ではなく、学習であること 理解する。そのために一斉画一指導を克服して多様な学習方法があることに気づく。 ○「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の内容・方法について理解する。 ○学習指導案を作成することができる。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>○休まずに出席するように努めて欲しい。 ○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。 ○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んで欲して欲しい。 ○レポートを必ず提出して欲しい。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>第一回の講義の際、ファイルを学生に配布する。レジュメを必ずそのファイルに綴じる。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義はその予習課題を生かしながら実践する。授業後予習課題を提出する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。 ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。 ・社会科は道具教科であることを認識しよう。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業内で指示する。</div>	
		<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点 35%</div> <div>(2) 新聞発表、レポート、テスト 65%</div> <div>必ず指示された提出物は提出すること</div>
		<div>教科書</div> <div>文部科学省 文科省『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文芸出版） 教科書（中学校）『新しい社会 地理（平成28年度）』（東京書籍） 教科書（中学校）『新しい社会 歴史（平成28年度）』（東京書籍） 教科書（中学校）『新しい社会 公民（平成28年度）』（東京書籍） 地図帳（中学校）『中学校社会科地図（Teikoku's Atlas）』（帝國書院）</div> <div>参考書</div>

公民科教育法（中高教職）		SUBP-P-201
担当教員：井上 兼生		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T303151
学部教育の関連目	授業計画	
	01. 「学習指導要領」の「公民科」の変遷と構成 02. 授業作りのポイントと学習指導案の作り方 03. 授業のスキル：教材研究、話し方、発問、板書 教材作成 授業管理 04. 「現代社会」の学習指導法(1) 青年期の課題 05. 「現代社会」の学習指導法(2) 現代社会の諸課題(1) 地球環境とエネルギー問題 06. 「現代社会」の学習指導法(3) 現代社会の諸課題(2) ITの普及・AIの進歩と雇用問題 07. 「政治・経済」の学習指導法(1) 経済分野(1) 市場取り引きと「市場の失敗」 08. 「政治・経済」の学習指導法(2) 経済分野(2) 経済格差の問題 09. 「政治・経済」の学習指導法(3) 政治分野(1) 日本国憲法の成立 10. 「政治・経済」の学習指導法(4) 政治分野(2) 「機会の平等」と「結果の平等」 11. 「倫理」の学習指導法(1) 在り方生き方 12. 「倫理」の学習指導法(2) 現代の倫理的課題 13. 学習指導案発表と模擬授業(1) 調べ学習 14. 学習指導案発表と模擬授業(2) レポート 15. 研究協議／まとめ	
カリキュラム上の位置付け	【全】高等学校教諭一種免許：公民必修科目	
(1) 内容	1. 内容:まず「公民」教科の構成について、学習指導要領の変遷および現在の指導要領の内容について学習する。基本的知識として求められる。そのうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業のスキル・教材提示の仕方とともに、教材作成の手がかりとなる教科内容にあった教材や方法を紹介する。具体的には、公民科の授業構成方法、学習指導案の作成方法、教材研究の考え方、板書や発問の仕方、教材作成方法などの従来からの授業展開スキルに加え、グループ・ディスカッション、ディベート、ジグソー法などのアクティブ・ラーニング型授業展開のスキルの修得も目指す。後半の授業では、学習指導案の発表と模擬授業を実施する。 2. カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「公民」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、基本的に3年次に履修し、教育実習の準備の性格も持つ。	
(2) 学びの意義と目標	高校の公民の範囲は広い。科目としては「現代社会」「政治・経済」「倫理」がありますが、それぞれの教科書を利用しながら、授業方法について目標設定からコマの授業計画まで、実践的な力をつけることを目指します。そして、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度の育成を目標とします。	
受講者に対する要望	準備学習(予習)	
	学習指導案などの作成や模擬授業までこなしてもらうので、不足する知識などは事前に幅広く吸収すること。	
	準備学習(復習)	
	学習指導案やレポートなどを授業中に完成させることは時間的にも不可能です。課題の作業内容について指摘された問題点など、丁寧に振り返って、よりよいものとする。こと。	
	評価方法	
	(1) 授業中の学習活動 100% 学習指導案やレポートなどの作成・提出、模擬授業など。	
学びのキーワード	教科書	
実践的 教材研究 教育計画	文部科学省『高等学校学習指導要領（平成21年3月）』＜東山書房＞ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編（平成22年6月）』＜教育出版＞	
	参考書	

地理歴史科教育法（中高教職）		SUBP-P-202
担当教員：小川 洋		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T304155
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 「学習指導要領」の「地理歴史科」の変遷と構成</div> <div>02. 地歴科の教育目標など</div> <div>03. 「日本史」科目の教育目標など</div> <div>04. 「日本史」の学習指導法(1) 前近代史</div> <div>05. 「日本史」の学習指導法(2) 近現代史</div> <div>06. 「世界史」の教育目標など</div> <div>07. 「世界史」の学習指導法(1) 前近代史</div> <div>08. 「世界史」の学習指導法(2) 近現代史</div> <div>09. 「地理」の教育目標など</div> <div>10. 「地理」の学習指導法(1) 系統地理分野</div> <div>11. 「地理」の学習指導法(2) 地誌分野</div> <div>12. 教材づくり</div> <div>13. 教材の活用法</div> <div>14. 授業の技術</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1. 内容:まず「地理」・「日本史」・「世界史」の3科目からなる「地理歴史」教科の構成について、「学習指導要領」の変遷および現在の指導要領の構成・内容について学習する。これは基本的な知識として求められる。これらの基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを決めて、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成も行う。後半の授業では模擬授業を行う。</div> <div>2. カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「地理歴史」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、教育実習準備の性格も持つ。したがって、より実践的な学習に取り組むことを通じて、教科指導に必要な知識と技術などを習得することを目指す。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>地歴科の科目を一通り、授業ができるように指導します。高校で履修していない学生もいますが、その部分については自助努力に期待することになります。十分な知識が教授法の前提となります。自分にどのような知識が足りないかを常に意識して取り組み、ある程度の自信をもってもらうことが目標です。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>各科目ごとに作業を進めるので、あらかじめ自分に知識が不足している科目・単元については自発的に学習準備をすること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>教授法に必要な知識は授業では補えません。知識の部分は個人差も大きいので、自ら積極的に取り組むこと。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で指摘された不十分な箇所や内容については次の授業までに確実に修正しておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業中の学習活動 100% 単元計画から一コマの授業計画あるいは模擬授業を課します。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・教材研究</div> <div>・授業計画</div>	<div>教科書</div> <div>文部科学省『高等学校学習指導要領』</div>	<div>参考書</div>

英語科教育法Ⅰ（中高教職）		SUBP-A-201	
担当教員：阿字 宏康			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T305178	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける		01. オリエンテーション、英語教育の目的と意義（第1章） 02. 国際語としての英語（第2章） 03. 学習指導要領（第3章） 04. 学習者要因（第4章） 05. 英語教員に求められるもの（第5章） 06. 小学校における外国語活動（第6章） 07. 英語教授法・四技能（第7章） 08. 学習理論・第二言語習得理論・四技能（第8章） 09. 指導案の作成、教室英語 10. 模擬授業（1） 11. 模擬授業（2） 12. 授業運営（第20章）、オーラルイントロダクション 13. 模擬授業（2） 14. 模擬授業（2） 15. まとめ、試験とその解説	
カリキュラム上の位置付け			
【全】高等学校教諭一種免許：英語必修科目 【全】中学校教諭一種免許：英語必修科目			
(1) 内容			
本講義では、英語教育の意義と目的を考察することを通して英語科教員になる目的意識を確立する。第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領、指導技術等への理解を深め、理論から実践へとつなげるために、実際の授業の在り方についても考察する。英語科教員として必要とされる英語力を身につけ、指導案作成や模擬授業を行う中で、指導に必要な力を培う。			
(2) 学びの意義と目標			
コミュニケーション能力育成の重視、小学校外国語活動の必修化等、我が国の英語教育が大きな転換期にある中、英語科教員に求められる資質・能力もより重要視されている。本講義を通して、英語教育の理論と実践を学ぶことを通して、英語教育に対する理解を深め、指導者として成長する熱意を高めることを目標とする。		準備学習(予習)	
		授業計画を確認し、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	
		準備学習(復習)	
		講義、模擬授業に対するリフレクションシートを記入して、提出すること。	
受講者に対する要望		評価方法	
英語科教員になるという確かな意志と目指す教員像を明確にしながら授業に臨む。		(1) 授業への貢献 30% (2) レポート 30% (3) 模擬授業・マイクロティーチング 20% (4) 学期末テスト 20%	
学びのキーワード		教科書	
・小中高英語教育 ・学習理論・第二言語習得理論 ・外国語教授法 ・学習指導要領 ・指導技術		望月 昭彦、嵯峨 弘典、印城 祐司、久保田 章『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』（開隆館出版販売） 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1J』（三省堂）2016年度版 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2J』（三省堂）2016年度版 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3J』（三省堂）2016年度版 ダグラス・ジャレール『じゅれまがー100 Stories of 2015』（浜島書店）	
		参考書	

英語科教育法Ⅱ（中高教職）		SUBP-A-202	
担当教員：阿字 宏康			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T305286	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション 02. コミュニケーション能力の育成（第9章） 03. リスニング・スピーキングの指導（第10・11章） 04. リーディング・ライティングの指導（第12・13章） 05. ティームティーチング（第14章） 06. 模擬授業（1） 07. 模擬授業（1） 08. 文法指導（第18章） 09. 語彙指導（第19章） 10. 模擬授業（2） 11. 模擬授業（2） 12. 評価（第15章） 13. 教科書と教材研究（第17章） 14. 模擬授業（3） 15. 模擬授業（3） まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：英語必修科目 【全】中学校教諭一種免許：英語必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>「英語科教育法Ⅰ」に引き続き、英語教育の意義と目的を考察することを通して、英語科教員になるという目的意識を確立することを目標とする。さらに中高英語教育で求められる実践的コミュニケーション能力の育成のために聞く・話す・読む・書くの四技能を有機的に関連づけながら指導することを目指す。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>コミュニケーション能力育成の重視、小学校外国語活動の必修化等、我が国の英語教育が大きな転換期を迎えている中、英語科教員に求められる資質・能力より重要視されている。本講義を通して、英語教育の理論と実践を学ぶことで、英語教育に対する理解を深め、指導者として成長する熱意を高めることを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を確認し、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>英語教員としての在り方、学び方を学び、資質・能力の向上に資するべく授業に臨む。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>模擬授業後に自身の授業を必ず見直す。その上でリフレクションシートを記入して、提出すること。</div>	
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業への貢献</div><div>(2) レポート</div><div>(3) 模擬授業</div><div>(4) 学期末課題</div></div><div><div>20%</div><div>20%</div><div>30%</div><div>30%</div></div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・小中高英語教育</div><div>・コミュニケーション能力の育成</div><div>・語彙・文法指導</div><div>・4技能</div><div>・評価</div></div>		<div>教科書</div> <div>望月 昭彦、嵯峨 弘典、印城 祐司、久保田 章『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』（開隆館出版販売） 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1J』（三省堂）2016年度版 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2J』（三省堂）2016年度版 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3J』（三省堂）2016年度版 ダグラス・ジャレール『じゅれマガ-100 Stories of 2015』（浜島書店）</div> <div>参考書</div>	

英語科教育法III（中高教職）		SUBP-A-301
担当教員：小川 隆夫		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T305394
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 入門期の指導・基本の授業パターン - 1時間の授業構成</div> <div>02. 文法中心の授業・リーディング中心の授業</div> <div>03. 活動中心の授業(グループ・ゲーム、英語の歌を使った授業、クイズやスキットの発表会)</div> <div>04. 指導技術(ペアワーク・グループワーク・TT、発音と文字)</div> <div>05. 文法指導と語彙指導の技術</div> <div>06. リスニング指導・リーディング指導の技術</div> <div>07. スピーキング指導・ライティング指導の技術</div> <div>08. 文法指導のアプローチ、評価(観点別評価・ペーパーテスト・評価計画・パフォーマンス評価・Can-Do評価)</div> <div>09. 教材・教具 クラスルームマネジメント、ICTの活用</div> <div>10. 自律的学習者に育てるための工夫 - 家庭学習</div> <div>11. ICTを活用した英語科授業</div> <div>12. 小学校英語教育との連携</div> <div>13. 模擬授業と振り返り</div> <div>14. 模擬授業と振り返り</div> <div>15. 確認とまとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：英語選択科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：英語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>中学校の英語授業のための必須要素を網羅し、授業の展開方法から、4技能を伸ばす指導技術、家庭学習までを学ぶ。</div> <div>また、授業を効果的に行うため、生徒との人間関係づくり、生徒がお互いに協力し合って学習に取り組むクラス、授業のムード作りなど、クラスルーム・マネージメントの方法も取り上げる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に配布するプリントを読んで参加する。模擬授業は1週間以上前に指導案を提出し添削を受ける。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>中学校の英語学習は、これから長期間にわたる英語学習に備えるため、生徒たちを自律した学習者に育てる必要がある。この講義を通して、さまざまな指導技術とともに、英語教師としての心構え、生き方を学ぶことを目標とする。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>英語教師になるという自覚を持って参加すること。教育実習を1年後に控え教授法の理論、実技をしっかりと習得するため、継続的に出席すること。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>1～10までの授業のポイントをまとめる。11～14は模擬授業のフィードバックをまとめる。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ICTの活用</div> <div>・授業パターン</div> <div>・指導技術</div> <div>・クラスルーム・マネージメント</div> <div>・自律的学習者</div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への参加度</div><div>20%</div></div> <div><div>(2) 模擬授業</div><div>30%</div></div> <div><div>(3) 指導案作成</div><div>30%</div></div> <div><div>(4) レポート</div><div>20%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>金谷 憲、太田 洋、馬場 哲生、青野 保、柳瀬 陽介『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』（大修館書店） 各自の実習校が使用している教科書1年生から3年生分を事前に用意する。</div>	

英語科教育法Ⅳ（中高教職）		SUBP-A-302	
担当教員：小川 隆夫			
学期： 週間授		科目： 教職課程	必修・選択： 教職科目
単位： 2		コード： 5T305400	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける		01. 高等学校新学習指導要領について 02. 中学校との連携と入学時の指導 03. 「英語で授業」の考え方 04. 基本の授業パターン 05. 「コミュニケーション英語」の指導と授業構成 06. 聞いて理解する活動と読んで理解する活動 07. 「英語表現」の指導と展開 08. 「英語会話」の指導計画と展開 09. ネイティブスピーカーの活用と指導技術（発音指導・語彙指導） 10. リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング指導他 11. 文法指導の考え方、評価計画 12. ICTを活用した模擬授業及び振り返り 13. 模擬授業及び振り返り 14. 模擬授業及び振り返り 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【全】高等学校教諭一種免許：英語選択科目 【全】中学校教諭一種免許：英語必修科目			
(1) 内容			
本講義では高等学校新学習要領による「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と「英語表現Ⅰ・Ⅱ」「英語会話」の7科目構成をどう教えるかを実践DVDを見ながら考え、模擬授業を組み立てて実践する。また、中学校の英語と比較しながら、高等学校では「英語授業は英語で行うことを基本とする」という方針に合わせ、授業実践の方法を探る。			
(2) 学びの意義と目標			
高等学校の英語の大きな変化に対応するための方策などを中心に、中学校からの連携を考えるとともに、指導技術から文法まで着実に教えられるようにすることを目標とする。どの学年でも、どの分野でも教えることができるように、知識とテクニック、理論を身に付ける。			
準備学習(予習)		事前配布するハンドアウトの指定ページを読んで授業に参加すること。 模擬授業は実施 1 週間以上前に指導案を提出して添削を受けること。	
準備学習(復習)		ハンドアウトの内容及び授業のリフレクションなどをまとめて指定日までに提出すること。	
評価方法		(1) 授業への参加度 20% (2) 模擬授業 30% (3) 指導案 30% (4) レポート 20%	
受講者に対する要望			
英語教師になるという自覚のもとに授業に臨むこと。4年生春学期に教育実習を行うことを念頭に毎回の授業を大切に受講すること。			
学びのキーワード		教科書	
・高等学校新学習指導要領 ・中高連携 ・コミュニケーション英語 ・英語表現 ・英語会話		参考書	
		金谷 憲、久保野 雅史、高山 芳樹、阿野 幸一『大修館英語授業ハンドブック 高校編』（大修館書店） 配布したプリント等はすべてポートフォリオとして保存すること。	

国語科教育法Ⅰ（中高教職）		SUBP-J-201
担当教員：熊谷 芳郎		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T306102
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業に関するガイダンス、および国語科教育の現状と課題に関する討議。 02. 解釈のための基礎技法1（反復・翻訳語・順序性）。 03. 解釈のための基礎技法2（視点）。 04. 解釈のための基礎技法3（色彩・イメージ）。 05. 解釈のための基礎技法4（中心人物・主人公）。 06. 解釈のための基礎技法5（ストーリー・プロット・クライマックス）。 07. 基礎技法による解釈実践と研究討議1。 教材「白い帽子」研究 08. 基礎技法による解釈実践と研究討議2。 教材「故郷」研究 09. 古典教材の解釈と鑑賞1。「浅野長政の事をするす」概略 10. 古典教材の解釈と鑑賞2。「浅野長政の事をするす」研究 11. 古典教材の解釈と鑑賞3。「おあむ物語」概略 12. 古典教材の解釈と鑑賞4。「おあむ物語」研究 13. 古典教材の解釈と鑑賞5。「勝五郎の再生」概略 14. 古典教材の解釈と鑑賞6。「勝五郎の再生」研究 15. 授業の総括</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、課題に関する準備は早め早めに行うこと。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：国語必修科目 【全】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布プリントを参考にしながら、教科書の該当部分の内容を次回までに確認しておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 課題レポート 30% (2) 授業への参加状況 20% (3) 確認試験 50%</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>国語科教育を学んでいく入門として、主に文学教材を解釈するための基礎技能を学び、その技能を用いた作品解釈を現代文・古文双方の教材文で練習をする。 また、古典教材に関しては、女房文学と隠者文学とが教材に多く採用されている課題についても、他の分野の古典教材を鑑賞することを通して認識を深めていく。</div>	<div>教科書</div> <div>授業でプリントを配布する。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>国語の教師として、教材を研究するに当たって身に着けるべき基礎的な解釈技法の理解と習熟を目指す。この基礎の上に、確実な教材理解に基づいた授業を構想することが可能となるだろう。</div>	<div>参考書</div> <div>廣野由美子『批評理論入門』（中央公論新社）[ISBN4-12-101780-0]</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>国語科の指導者になる、というはっきりとした目的意識をもって授業に参加すること。したがって、授業に関する課題は必ずすべて提出すること。
 なお単位取得の最低条件として、全授業の4／5以上の出席を必要とする。大学公認の理由以外は、サークル活動・試合等も含めてすべて「欠席」扱いとなるので注意されたい。また、遅刻も謹んでいただきたい。授業に欠席した場合には、必ず自分で補充しておくことを求めたい。</div>	<div>学びのキーワード</div> <div>・国語科教育 ・解釈 ・基礎技法 ・古典教材 ・鑑賞</div>	

国語科教育法Ⅱ（中高教職）		SUBP-J-202
担当教員：佐野 正俊		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T306210
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 国語科教育の目標① 国語科教育の目標観の変遷を概観する</div> <div>02. 国語科教育の目標② 学習指導要領（国語科）の構造を学ぶ</div> <div>03. 授業を構造化する① 板書の計画と方法を学ぶ</div> <div>04. 授業を構造化する② 指導言（「指示」・「発問」・「解説」）の機能とその効果的な配列の方法を学ぶ</div> <div>05. 学習指導案の書き方を学ぶ</div> <div>06. 散文（評論文）の教材研究を行う</div> <div>07. 散文（評論文）の模擬授業と相互批評を行う①</div> <div>08. 散文（評論文）の模擬授業と相互批評を行う②</div> <div>09. 韻文（現代詩）の教材研究を行う</div> <div>10. 韻文（現代詩）の模擬授業と相互批評を行う①</div> <div>11. 韻文（現代詩）の模擬授業と相互批評を行う②</div> <div>12. 古典（漢詩）の教材研究を行う</div> <div>13. 古典（漢詩）の模擬授業と相互批評を行う①</div> <div>14. 古典（漢詩）の模擬授業と相互批評を行う②</div> <div>15. 授業のまとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：国語必修科目</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「国語科教育法Ⅰ」で学んだ基礎技能を応用して、国語科の授業を構想していくための指導実践上の基礎力を養う。半期の授業の序盤で、国語科教育の目標、理論、歴史などを学び、国語科の教員として必要とされる知識を身につける。中盤から終盤にかけては、教材研究と模擬授業を行い、国語科の教員に必要とされる技能を習得する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>中学校・高等学校の国語科教育の理論と実践の学びを通して、国語科の教員として必要とされる知識と技能の習得を目指す。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定した教科書のすべてに目を通しておくこと。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布資料や教科書を参考にして、授業内容を次回までに理解しておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>国語科の指導者になる、というはっきりとした自覚をもって授業に参加すること。教材研究・模擬授業・相互批評のすべてに積極的に取り組むこと。なお単位取得の最低条件として、全授業の4／5以上の出席を必要とする。大学公認の理由以外は、サークル活動・試合等も含めてすべて「欠席」扱いとなるので注意されたい。また、10分以上の遅刻は認めない。授業に欠席した場合には、必ず自分で補充しておくことを求めたい。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 模擬授業への取り組み 40%</div> <div>(2) 相互批評への取り組み 40%</div> <div>(3) 試験 20%</div> <div>模擬授業への取り組み（40%）、相互批評への取り組み（40%）、試験（20%）で評価する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・基礎的技能の応用</div> <div>・教材研究</div> <div>・国語科教育</div> <div>・教科指導</div> <div>・学習指導要領</div>	<div>教科書</div> <div>文部科学省、文科省=『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版）</div> <div>文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年8月）』（東洋館出版社）</div> <div>町田守弘、岩崎 淳、吉田 茂、李 軍、大塚大蔵、古井純士、澤本和子、幸田国広、大貫真弘、熊谷芳郎、高野光男、佐野正俊、平野孝子、『実践国語科教育法―「楽しむ、力のつく」授業の創造』（学文社）</div>	
	<div>参考書</div>	

国語科教育法III（中高教職）		SUBP-J-301	
担当教員：熊谷 芳郎			
学期：週間授		科目：教職課程	必修・選択：教職科目
単位：2		コード：5T306328	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける		01. 授業に関するガイダンス、および教材研究の重要性に関する討議。 02. 「読むこと」の指導 03. 目標に準拠した評価 04. 学習指導案の書き方 05. 小説教材による授業実践分析 1 登場人物関連図の作成と指導法 06. 小説教材による授業実践分析2 脚本化する意味 07. 小説教材による授業実践分析3 グループ学習の目的と課題 08. 評論教材による授業実践の分析1 学習意欲の喚起 09. 評論教材による授業実践の分析2 意味段落と全体構成 10. 教育機器の利用 1 デジタル教科書の概略 11. 教育機器の利用 2 デジタル教科書の実践事例 12. 教育機器の利用 3 デジタル教科書を用いた学習指導案 13. 教育機器の利用 4 デジタル教科書の可能性 14. 教育機器の利用 5 デジタル教科書による実践の課題 15. 総括	
カリキュラム上の位置付け			
【全】高等学校教諭一種免許：国語選択科目 【全】中学校教諭一種免許：国語必修科目			
(1) 内容			
小説教材・評論教材をそれぞれ用いた「読むこと」の指導実践、「話すこと・聞くこと」の指導実践、「書くこと」の指導実践、それぞれについて、分析を進める過程を通して、学習者の関心・意欲・態度をどのように高めつつ身に付けるべき能力を伸ばしているのかを理解する。その理解を通して、教材研究が教室での指導にどのように生かされているのかを体験的に理解する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
教育法Ⅰで学んだ文学的表現の分析方法、教育法Ⅱで学んだ国語科教育に対する全般的な理解を基礎として、実際の教材に対してその事前の研究がどのように重要であるのか、どのように実際の指導につながっていくのかを学ぶ。この学びによって、教育法Ⅳで行う模擬授業に向けた準備とする。		授業実践で用いたテキストについては、事前に配布するので、十分に読みこなし上で授業に臨むこと。	
		準備学習(復習)	
		配布資料やテキストにより、授業内容を次回までに理解しておくこと。	
受講者に対する要望		評価方法	
教育実習に向けて実践的な力を身に付けるという自覚のもと、研究討議に積極的に参加するとともに、討議内容を踏まえた研究と工夫を求めたい。		(1) 課題レポート 40% (2) 授業への参加度 30% (3) 最終レポート 30%	
学びのキーワード		教科書	
・教材研究 ・関心・意欲・態度 ・身に付けるべき能力 ・知識・理解 ・体験的		授業中にプリントを配布する	
		参考書	
		大村はま『新編 教室をいきいきと 1』（筑摩書房）4-480-08146-1 大村はま『新編 教室をいきいきと 2』（筑摩書房）4-480-081467-X	

国語科教育法Ⅳ（中高教職）		SUBP-J-302
担当教員：佐野 正俊		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T306430
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 授業研究① 「読むこと」の学習指導過程のモデルについて 02. 授業研究② 「三読法」に基づく「読むこと」の指導について 03. 授業研究③ 「読者論」に基づく「読むこと」の指導について 04. 授業研究④ 「分析批評」を応用した「読むこと」の指導について 05. 授業研究⑤ 読書感想文の読み方について 06. 国語単元学習を作る① 国語単元学習の概要について 07. 国語単元学習を作る② 国語単元学習の実践例について 08. 国語単元学習を作る③ 国語単元学習を作る 09. 国語単元学習の実際① 模擬授業と相互批評 10. 国語単元学習の実際② 模擬授業と相互批評 11. 国語単元学習の実際③ 模擬授業と相互批評 12. 国語単元学習の実際④ 模擬授業と相互批評 13. 国語単元学習の実際⑤ 模擬授業と相互批評 14. 国語単元学習の実際⑥ 模擬授業と相互批評 15. 授業のまとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：国語選択科目 【全】中学校教諭一種免許：国語必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>中学校・高等学校の国語科教育の実践と理論の学びを深めることを通して、国語科の教員として必要とされる技能と知識の習得を目指す。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>教材は前もって渡すので、その教材研究は早め早めに行うこと。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>相互批評で指摘された点についての改善策を次回の模擬授業までに整理すること。</div> <div>評価方法</div> <div><div>(1) 模擬授業への取り組み40%</div><div>(2) 相互批評への取り組み40%</div><div>(3) 試験20%</div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>相互批評でのやり取りを踏まえた工夫と研究を常に欠かさぬ態度とを望む。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">・「読むこと」の授業・学習目標・単元学習・教材研究・指導技術</div>	<div>教科書</div> <div>文部科学省、文科省=『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版） 文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年9月）』（東洋館出版社）</div> <div>参考書</div>	

福祉科教育法Ⅰ（中高教職）

SUBP-W-301

担当教員： 中谷 茂一

學期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目

単位：2 コード：5T307140

学部教育の関連目

【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

(1) 内容

高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。

学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。

(2) 学びの意義と目標

模倣授業案を作成し実際に受講生の前で教えても、
 らうので人前で話すことが苦手である。主として受講は難
 しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加
 しない者は単位修得できない。自分の教育方法を
 謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技
 術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。

受講者に対する要望

教員免許状は実際に自治体や私学の教員採用試験を通らなければ活用することはできない。試験をパスする意志がある学生のみ受講して欲しい。

自分の頭で考え積極的に発言しなければ単位修得はできない。

学びのキーワード

・福祉科教育

授業計画

01. 1 「福祉」教科創設の背景と経緯・基本方針
02. 2 福祉教育の意義と福祉に関する学科設置の基本的な考え方
03. 3 社会福祉学と「福祉」教科
04. 4 「福祉」教科の科目関連と構造
05. 5 教育観と福祉科教育
06. 6 「福祉」の内容と解説 目標・社会福祉基礎・社会福祉制度・社会福祉援助技術
07. 7 基礎介護・社会福祉実習
08. 8 社会福祉演習・福祉情報処理
09. 9 指導計画の作成と内容の取扱い
10. 10 模擬授業(1)
11. 11 模擬授業(2)
12. 12 模擬授業(3)
13. 13 模擬授業(4)
14. 14 模擬授業(5)
15. 15 模擬授業(6)

準備學習(予習)

自己の模擬講義の作成準備

準備學習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べることに

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 模擬講義内容 | 50% |
| (3) ディスカッション参加状況 | 30% |

教科書

保住 芳美 『高等学校新学習指導要領の展開 福祉科編』(明治図書出版)
教育実習を考える会 編 『教育実習用学習指導案作成教本(社会 地・歴 公民科)』(蒼丘書林)
桐原宏行 編著 『福祉科教育法』(三和書館)

参考書

福祉科教育法II（中高教職）		SUBP-W-302	
担当教員： 中谷 茂一			
学期： 週間授		科目： 教職課程	必修・選択： 教職科目
単位： 2		コード： 5T307241	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 1 社会福祉基礎</div> <div>02. 2 社会福祉制度</div> <div>03. 3 社会福祉援助技術</div> <div>04. 4 基礎介護</div> <div>05. 5 社会福祉実習</div> <div>06. 6 社会福祉演習</div> <div>07. 7 福祉情報処理</div> <div>08. 8 指導計画の作成と内容の取扱い</div> <div>09. 模擬授業（1）</div> <div>10. 模擬授業（2）</div> <div>11. 模擬授業（3）</div> <div>12. 模擬授業（4）</div> <div>13. 模擬授業（5）</div> <div>14. 模擬授業（6）</div> <div>15. 模擬授業（7）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：福祉必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>福祉科教育法Iで学習したことを展開させ、さらにレベルアップした指導案と模擬授業を行ってもらい、教育実習へとつなげていくことを目標とする。</div> <div>高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。</div> <div>学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>模擬授業案を作成し実際に受講生の前で教えてもらうので人前で話すことが苦手であると受講は難しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加しない者は単位修得できない。自分の教育方法を謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>自己の模擬講義の作成準備</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>教員免許状は実際に自治体や私学の教員採用試験を通らなければ活用することはできない。試験をパスする意志がある学生のみ受講して欲しい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点20%</div><div>(2) 模擬講義内容50%</div><div>(3) ディスカッション参加状況30%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・福祉科教育</div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

保健科教育法Ⅰ（中高教職）		TEAT-D-300
担当教員： 藤田 和也		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 5T309150
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（講義内容と授業の進め方、教員免許について）</div> <div>02. 教科保健の目的と性格(1)（現行制度下の保健科教育）（目標 1）</div> <div>03. 教科保健の目的と性格(2)（保健科教育の意義と目的）（目標 1）</div> <div>04. 中学校における保健科教育の内容（1）心身の機能と発達、心の健康（目標 2）</div> <div>05. 中学校における保健科教育の内容（2）健康と環境（目標 2）</div> <div>06. 中学校における保健科教育の内容（3）傷害の防止（目標 2）</div> <div>07. 中学校における保健科教育の内容（4）健康な生活と疾病の予防（目標 2）</div> <div>08. 保健科教育に利用される教材（教材研究とCAIの活用）（目標 3）</div> <div>09. 保健科における学習指導の特質（1）中学校における保健学習のねらい（目標 3）</div> <div>10. 保健科における学習指導の特質（2）中学校における保健科学習指導案（目標 3）</div> <div>11. 保健科における学習指導の特質（3）中学校における保健学習指導案の作成と留意点（目標 3）</div> <div>12. テーマに基づいた指導案の作成（グループワーク）（目標 4）</div> <div>13. 学習指導案に基づいた模擬授業（目標 4）</div> <div>14. 学習指導案に基づいた模擬授業の振り返り（目標 4）</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け		
<div>(1) 内容</div> <div>保健科教育の意義と必要性、目標および内容を把握し指導案を作成することにより、保健科教育の実際を考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1）現行制度下における保健科教育の性格と位置づけについて学び、保健科教育の意義と目的を理解する。</div> <div>2）中学校における保健科教育の内容を理解する。</div> <div>3）保健科における学習指導の特質を理解する。</div> <div>4）保健科における指導計画を作成し授業を展開することができる。</div> <div>以上により、保健科教諭としての実践的な技能を身に付け、こども期の健康を維持・増進に働きかける教育者としての価値観と人格の形成を図る。</div>		
受講者に対する要望	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定のテキストの該当箇所（その都度指定する）を事前に読む。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>提示した宿題に取り組み、翌週にその成果を提出する。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業に対する取り組みを参加度（関心・意欲・態） 30%</div> <div>(2) 時々の宿題レポートで知識の理解度を評価する。 20%</div> <div>(3) 最終の課題レポートで理解と技法の習得度を評価 50%</div>	
学びのキーワード	<div>教科書</div> <div>森昭三・和唐正勝編『新版 保健の授業づくり入門』（大修館書店）</div> <div>文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）</div> <div>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育篇』（東山書房）</div> <div>参考書</div>	

- ・ 現代社会における保健的教養
- ・ 保健科教育の独自性
- ・ 保健科で育てる保健の学力
- ・ 保健の授業（保健学習）の特質

保健科教育法Ⅱ（中高教職）		TEAT-D-300	
担当教員： 藤田 和也			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 5T309251	
学部教育の関連目		授業計画	
		01. 保健科学習指導の進め方：授業形態、保健授業の型（目標１） 02. 保健科学習指導の進め方：授業展開と教授法（目標１） 03. 保健科の授業設計：教材研究から授業構想へ、学習指導案の作成（目標１） 04. 高等学校における保健科の目標と内容体系（目標１） 05. 高等学校における保健科教育の内容（１）現代社会と健康（目標２） 06. 高等学校における保健科教育の内容（２）生涯を通じる健康（目標２） 07. 高等学校における保健科教育の内容（３）社会生活と健康（目標２） 08. 実験を取り入れた保健科学習の方法（教材研究を含む）（目標３） 09. 情報機器を利用した保健科学習の方法（教材研究を含む）（目標３） 10. 授業研究の実際（１）「生涯の各段階における健康」をテーマにした模擬授業（ロールプレイング）（目標４） 11. 授業研究の実際（２）「新しい生命の誕生」をテーマにした模擬授業（ロールプレイング）（目標４） 12. 授業研究の実際（３）「幸せで健康な家庭づくり」をテーマにした模擬授業（ロールプレイング）（目標４） 13. それぞれのテーマの模擬授業（ロールプレイング）についての討議（１）授業設計の視点から（目標４） 14. それぞれのテーマの模擬授業（ロールプレイング）についての討議（２）役割分担の視点から（目標４） 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
保健科教育法Ⅰで学んだ保健科教育の意義と必要性をさらに深め、Ⅱでは、授業設計、教材研究などの教育における意義を知る。さらに高等学校保健学習指導案をテーマにロールプレイングを行い授業の具体化と実践に関するイメージをもつことができるように授業の構成を行なっている。			
(2) 学びの意義と目標			
１）授業方法・授業設計についての理解を深める ２）高等学校における保健科教育の内容を理解する ３）教材研究から教材の教育についての意味を理解できる ４）ロールプレイングによる授業実践演習から実際の授業イメージをもつことができる		準備学習(予習)	
		指定のテキストの該当箇所を事前に読む。	
		準備学習(復習)	
		時折出される宿題に取り組み、成果のレポートを提出する。	
		評価方法	
		(1) 模擬授業に関する準備（指導案作成、教材準備） 50% (2) 課題レポート 50%	
受講者に対する要望			
保健科教育法Ⅰで習得した内容をもとに、さらに高度な保健授業論を学び、高校の保健科の目標・内容について関心と理解を深めてほしい。			
学びのキーワード		教科書	
・保健授業の型 ・教授行為と学習活動 ・高校保健科のねらいと内容 ・教材研究と授業構想		保健科教育法Ⅰで使用した教科書をそのまま利用する。	
		参考書	

保健科教育法III（中高教職）		TEAT-D-300
担当教員： 藤田 和也		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 5T309352
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. オリエンテーション（講義内容と授業の進め方、教員免許について）</div> <div>02. 教科保健の目的と性格(1)（現行制度下の保健科教育）（目標 1</div> <div>03. 教科保健の目的と性格(2)（保健科教育の意義と目的）（目標 1</div> <div>04. 中学校における保健科教育の内容（1）心身の機能と発達、心の健康（目標 2）</div> <div>05. 中学校における保健科教育の内容（2）健康と環境（目標 2）</div> <div>06. 中学校における保健科教育の内容（3）傷害の防止（目標 2）</div> <div>07. 中学校における保健科教育の内容（4）健康な生活と疾病の予防（目標 2）</div> <div>08. 保健科教育に利用される教材（教材研究とCAIの活用）（目標 3</div> <div>09. 保健科における学習指導の特質（1）中学校における保健学習のねらい（目標 3）</div> <div>10. 保健科における学習指導の特質（2）中学校における保健科学習指導案（目標 3）</div> <div>11. 保健科における学習指導の特質（3）中学校における保健学習指導案の作成と留意点（目標 3）</div> <div>12. テーマに基づいた指導案の作成（グループワーク）（目標 4）</div> <div>13. 学習指導案に基づいた模擬授業（目標 4）</div> <div>14. 学習指導案に基づいた模擬授業の振り返り（目標 4）</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け		
<div>(1) 内容</div> <div>保健科教育の意義と必要性、目標および内容を把握し指導案を作成することにより、保健科教育の実際を考える。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定のテキストの該当箇所（その都度指定する）を事前に読む。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1）現行制度下における保健科教育の性格と位置づけについて学び、保健科教育の意義と目的を理解する。</div> <div>2）中学校における保健科教育の内容を理解する。</div> <div>3）保健科における学習指導の特質を理解する。</div> <div>4）保健科における指導計画を作成し授業を展開することができる。</div> <div>以上により、保健科教諭としての実践的な技能を身に付け、こども期の健康を維持・増進に働きかける教育者としての価値観と人格の形成を図る。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>小・中・高時代に受けてきた保健科教育についての記憶を呼び戻し、その経験と照らし合わせながら講義の内容を理解し、保健科教育のあり方を自分なりに考えながら授業に参加してほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>提示した宿題に取り組み、翌週にその成果を提出する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 現代社会における保健的教養</div> <div>・ 保健科教育の独自性</div> <div>・ 保健科で育てる保健の学力</div> <div>・ 保健の授業（保健学習）の特質</div>		
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業に対する取り組みを参加度（関心・意欲・態 30%</div> <div>(2) 時々の宿題レポートで知識の理解度を評価する。 20%</div> <div>(3) 最終の課題レポートで理解と技法の習得度を評価 50%</div>	
	<div>教科書</div> <div>森昭三・和唐正勝編『新版 保健の授業づくり入門』（大修館書店）</div> <div>文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）</div> <div>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育篇』（東山書房）</div>	
	<div>参考書</div>	

保健科教育法Ⅳ（中高教職）		TEAT-D-300
担当教員： 藤田 和也		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 5T309453
学部教育の関連目	<div>授業計画</div> <div>01. 保健教育法Ⅲでの模擬授業の振り返り 02. <small>模擬授業0-67 レイアウト（保健科教育法Ⅲのテーマで各自が振り返りから決めた挑戦したいテーマで行う、4名×20分）</small> 03. <small>模擬授業0-67 レイアウト（保健科教育法Ⅲのテーマで各自が振り返りから決めた挑戦したいテーマで行う、3名×20分）</small> 04. <small>模擬授業0-67 レイアウト（保健科教育法Ⅲのテーマで各自が振り返りから決めた挑戦したいテーマで行う、3名×20分）</small> 05. <small>模擬授業の振り返り：模擬授業への取り組み（指導案、教材等の準備と）と模擬授業（授業記録と授業に関する自己考察）、まとめ</small> 06. 保健科教諭と養護教諭の連携の意味 07. 養護教諭が行う心の健康と予防教育について 08. 子どものストレスと現状 09. ストレスマネジメントの理論と方法：ストレスとは 10. ストレスマネジメントの理論と方法：ストレスの仕組みとストレス対処法 11. 身体・感情的なストレスマネジメント：筋弛緩、自律訓練 12. 認知的マネジメント：認知体制化 13. 行動的マネジメント：ソーシャルスキルトレーニング 14. 子どものストレスマネジメント 15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け		
<div>(1) 内容</div> <div>授業の前半は、保健科教育法Ⅲで行なった模擬授業を再度振り返り、各自の強みを利用した問題点の克服について模擬授業を再度体験することで試みる（10名グループごとによる模擬授業ロールプレイング）。後半は、保健科教員と養護教諭の連携が児童生徒の健康に大きく影響することを理解した上で、学校という生活の場で生じる子どものストレスへの具体的な対処方法を学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 保健科教育法Ⅲでの模擬授業の振り返りをする ことで学生個人が授業設計の強みと問題点を意識づけでき、授業に対する動機と意欲をもつことができる。 2) 保健科教諭と養護教諭の連携が児童生徒の健康の保持増進に与える影響を理解できる。 3) 学校で生じる子どものストレスとストレスマネジメントについて理解できる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定のテキストの該当箇所（その都度指定する）を事前に読む。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>提示した宿題に取り組み、翌週にその成果を提出する。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>小・中・高時代に受けてきた保健科教育についての記憶を呼び戻し、その経験と照らし合わせながら講義の内容を理解し、保健科教育のあり方を自分なりに考えながら授業に参加してほしい。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 各自の目標に即した模擬授業への取り組み（学習） 40% (2) ストレスマネジメントに関する知識確認テスト 60%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 現代社会における保健的教養 ・ 保健科教育の独自性 ・ 保健科で育てる保健の学力 ・ 保健の授業（保健学習）の特質</div>	<div>教科書</div> <div>吉田 肇一郎 『保健科教育法』（教育出版） 森 昭三、和唐 正勝 『新版 保健の授業づくり入門』（大修館書店） 文部科学省 『中学校学習指導要領解説保健体育編 平成20年9月』（東山書房）</div> <div>参考書</div>	

生徒指導論（進路指導を含む。）（中高教職）		TEAT-0-208
担当教員：井上 兼生		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T400105
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 生徒指導の意義と概念 02. 生徒指導におけるパーソナリティーの発達の理解 03. 生徒指導の原理と方法 04. 生徒理解と生徒指導 05. 生徒指導における教育相談 06. 生徒の問題行動とその対応 07. 性・健康教育と生徒指導 08. 心身の不適応を有する生徒への対応 09. キャリア教育と職業教育（進路指導 1） 10. キャリア選択と学校教育・各種資格（進路指導 2） 11. 職業教育と職業選択（進路指導 3） 12. 雇用環境の変化とこれからの働き方・生き方（進路指導 4） 13. 障害理解と生徒指導 14. 地域や他機関との連携による生徒指導 15. 教師になるための生徒指導論</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>子どもたちを取り巻く社会環境は、時代とともに大きく変化している。生徒指導は学校教育現場において教科指導とともに大切な教育活動であり、子どもの素質・能力・興味を引き出し、成長を援助する指導である。この授業では、生徒指導一般と進路指導とを扱う。生徒指導では、生徒の精神的な発達に関する知識やそれぞれの発達に応じた、教育相談や問題行動などに際しての適切な指導法について学ぶ。進路指導においては、職業選択にとどまらず、より高次のキャリア選択の観点からの生徒を指導する必要性を理解させるとともに、近年の雇用環境の変化についても正確な知識を吸収することによって、より確実な指導能力を養成する。</div>	<div>準備学習（予習）</div> <div>各回の授業は1時間ずつ異なったテーマを取り上げていきます。事前にテーマについての基礎知識を収集しておくこと。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1) 生徒指導に必要な青年期の心理について、多くの具体的な事例を上げて、実際の場面を考えながら深い理解を促す。 2) 学校生活上、問題となる生徒の行動について、不登校や薬物利用などを始めとして、いくつかに類型化し、その実態についての理解を深めさせる。 3) 生徒指導が教科学習指導を始めとする学校生活全体で考えるべきもとと位置づけられている意味について理解を確実なものとする。 4) 進路選択が生徒にとって将来の自己実現につながるものであることに認識し、適切な指導方法について、どのようなものがあるのか理解を深める。 5) 現代社会の職業や雇用の環境の変化についての理解を深めさせ、これからの子どもたちの進路選択には、どのような情報や判断力が求められているか、考察する。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>知らないことを教えたり指導したりすることはできません。生徒指導上で知らなければならないことを確実に理解してもらいます。</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>レポートも課します。授業で取り上げた問題を各自、深い理解をする努力を求めます。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 生徒理解 ・ 雇用環境 ・ 青年期</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業への積極性及び貢献度 30% (2) レポート提出 2 回 30% (3) 期末試験 40%</div>	
	<div>教科書</div> <div>文部科学省『生徒指導提要』（教育図書）</div> <div>参考書</div>	

教育相談(カウンセリングを含む。)(PAJDW教職)

担当教員：橋本 和幸

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：2 コード：5T400213

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

教育相談とは、狭義には学校や教育機関で行われるカウンセリングを指し、広義には学校に関する相談活動全般を指すものである。対象は、小学生・中学生・高校生とその保護者、及び教職員である。

(2) 学びの意義と目標

この授業では、教育相談の実際を講義することによって、学校での相談活動によって得られる援助を、対象者と及び全体から理解することを目的とする。
そして、個別学習目標として、次の3点を挙げる。
・教育相談が、『どこで』『誰が』『何を』『どのよう』に』行うものかを理解し、他者に説明できるようになる。
・対象者の立場から見た教育相談を理解し、他者に説明できるようになる。
・受講者自身が教員として教育相談を行うことを想定出来るようになる。

受講者に対する要望

教科書を指定するので、事前に該当箇所を読んでおくことを求めます。
また、積極的な質問や感想をお待ちしています。

学びのキーワード

- ・臨床心理学
- ・教育心理学
- ・学校心理学

授業計画

01. イントロダクション：授業の進め方や教育相談についての説明
02. 学校で行う教育相談
03. 外部機関で行う教育相談
04. カウンセリングの理論と実際①：一般的な枠組み
05. カウンセリングの理論と実際②：洞察型アプローチ
06. カウンセリングの理論と実際③：体験型アプローチ
07. カウンセリングの理論と実際④：指示型アプローチ
08. 心理検査①：知能検査
09. 心理検査②：人格検査
10. スクールカウンセラーの仕事①：生徒との相談
11. スクールカウンセラーの仕事②：保護者との相談
12. スクールカウンセラーの仕事③：教職員とのコンサルテーション
13. 教育相談機関での相談①：生徒との相談
14. 教育相談機関での相談②：保護者との相談
15. まとめ

準備学習(予習)

第1回で行うガイダンスに沿って、指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントと、教科書を読み比べて理解を深めること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 定期試験 | 70% |
| (2) 授業内の課題 | 30% |

教科書

「専門職のための臨床心理学基礎」 橋本和幸 ムイスリ出版 (ISBN 978-4-89641-241-3)

参考書

「わかってもらえた！と思われる面接技法」 橋本和幸 ムイスリ出版 (ISBN 978-4-89641-248-2)

教職実践演習(中等) (中高教職)		TEAT-0-401
担当教員：井上 兼生		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T550110
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 教師の仕事(1) 職員室での仕事 03. 教師の仕事(2) 教室での仕事 04. 教師の仕事(3) 現職の先生の経験から 05. 教師の仕事(4) 地域・保護者との関係づくり 06. 授業に取り組む(1) 授業スキルの工夫 07. 授業に取り組む(2) 模擬授業 08. 授業に取り組む(3) 現職の先生の経験から 09. 授業に取り組む(4) グループ討論 10. 特別活動を計画する(1) 特別活動案の作成 11. 特別活動を計画する(2) 現職の先生の経験から 12. 特別活動を計画する(3) グループ討論 13. 教師の身体的・精神的健康を維持するために 14. 教師としてのキャリアを考える 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>教職課程の最後の科目です。教育実習から実際の教師としての仕事の間に位置付けられます。教職課程で学んできたこと、教育実習で経験し学んできたことを踏まえて、実践的な能力を養います。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業後、ただちに教壇に立つことを想定して、より実践的な能力を養うことを目標とします。教職員の一員として他の教職員からの信頼、生徒・保護者からの信頼を得ることが最初の一步となります。そのためには、あらゆる場面を想定した学びが求められます。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、テーマを設定して、さまざまな仕事、さまざまな場面を想定した実践的な学習をしていきます。指定された内容にそった事前準備が求められます。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>卒業後に教壇に立つことを考えながら、真剣に取り組んでください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業中に取り組んだ課題には、必ず不十分な点に気付くはずで す。必要に応じて追加的な課題への取り組みを求めます。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業中の学習活動70%</div><div>(2) 学校での実習活動30%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・教員の役割</div><div>・対人関係能力</div><div>・指導力</div></div>		

教職実践演習(中等) (中高教職)		TEAT-0-401
担当教員： 東 仁美		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T550111
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 教師の仕事(1) 職員室での仕事 03. 教師の仕事(2) 教室での仕事 04. 教師の仕事(3) 現職の先生の経験から 05. 教師の仕事(4) 地域・保護者との関係づくり 06. 授業に取り組む(1) 授業スキルの工夫 07. 授業に取り組む(2) 模擬授業 08. 授業に取り組む(3) 現職の先生の経験から 09. 授業に取り組む(4) グループ討論 10. 特別活動を計画する(1) 特別活動案の作成 11. 特別活動を計画する(2) 現職の先生の経験から 12. 特別活動を計画する(3) グループ討論 13. 教師の身体的・精神的健康を維持するために 14. 教師としてのキャリアを考える 15. まとめ</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、テーマを設定して、さまざまな仕事、さまざまな場面を想定した実践的な学習をしていきます。指定された内容にそった事前準備が求められます。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業中に取り組んだ課題には、必ず不十分な点に気付くはずで す。必要に応じて追加的な課題への取り組みを求めます。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業中の学習活動 70% (2) 学校での実習活動 30%</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>教職課程の最後の科目です。教育実習から実際の教師としての仕事の間に位置付けられます。教職課程で学んできたこと、教育実習で経験し学んできたことを踏まえて、実践的な能力を養います。</div>	<div>学びのキーワード</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業後、ただちに教壇に立つことを想定して、より実践的な能力を養うことを目標とします。教職員の一員として他の教職員からの信頼、生徒・保護者からの信頼を得ることが最初の一步となります。そのためには、あらゆる場面を想定した学びが求められます。</div>	<div>教科書</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>卒業後に教壇に立つことを考えながら、真剣に取り組んでください。</div>	<div>参考書</div>	

教職実践演習(中等) (中高教職)		TEAT-0-401
担当教員：熊谷 芳郎		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T550112
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 教師の仕事(1) 職員室での仕事 03. 教師の仕事(2) 教室での仕事 04. 教師の仕事(3) 現職の先生の経験から 05. 教師の仕事(4) 地域・保護者との関係づくり 06. 授業に取り組む(1) 授業スキルの工夫 07. 授業に取り組む(2) 模擬授業 08. 授業に取り組む(3) 現職の先生の経験から 09. 授業に取り組む(4) グループ討論 10. 特別活動を計画する(1) 特別活動案の作成 11. 特別活動を計画する(2) 現職の先生の経験から 12. 特別活動を計画する(3) グループ討論 13. 教師の身体的・精神的健康を維持するために 14. 教師としてのキャリアを考える 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>教職課程の最後の科目です。教育実習から実際の教師としての仕事の間に位置付けられます。教職課程で学んできたこと、教育実習で経験し学んできたことを踏まえて、実践的な能力を養います。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業後、ただちに教壇に立つことを想定して、より実践的な能力を養うことを目標とします。教職員の一員として他の教職員からの信頼、生徒・保護者からの信頼を得ることが最初の一步となります。そのためには、あらゆる場面を想定した学びが求められます。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、テーマを設定して、さまざまな仕事、さまざまな場面を想定した実践的な学習をしていきます。指定された内容にそった事前準備が求められます。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>卒業後に教壇に立つことを考えながら、真剣に取り組んでください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業中に取り組んだ課題には、必ず不十分な点に気付くはずで す。必要に応じて追加的な課題への取り組みを求めます。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業中の学習活動 70% (2) 学校での実習活動 30%</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div>		

教職実践演習(中等) (中高教職)		TEAT-0-401
担当教員： 中谷 茂一		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 2 コード： 5T550113
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 教師の仕事(1) 職員室での仕事 03. 教師の仕事(2) 教室での仕事 04. 教師の仕事(3) 現職の先生の経験から 05. 教師の仕事(4) 地域・保護者との関係づくり 06. 授業に取り組む(1) 授業スキルの工夫 07. 授業に取り組む(2) 模擬授業 08. 授業に取り組む(3) 現職の先生の経験から 09. 授業に取り組む(4) グループ討論 10. 特別活動を計画する(1) 特別活動案の作成 11. 特別活動を計画する(2) 現職の先生の経験から 12. 特別活動を計画する(3) グループ討論 13. 教師の身体的・精神的健康を維持するために 14. 教師としてのキャリアを考える 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】 高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>教職課程の最後の科目です。教育実習から実際の教師としての仕事の間に位置付けられます。教職課程で学んできたこと、教育実習で経験し学んできたことを踏まえて、実践的な能力を養います。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>卒業後、ただちに教壇に立つことを想定して、より実践的な能力を養うことを目標とします。教職員の一員として他の教職員からの信頼、生徒・保護者からの信頼を得ることが最初の一步となります。そのためには、あらゆる場面を想定した学びが求められます。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、テーマを設定して、さまざまな仕事、さまざまな場面を想定した実践的な学習をしていきます。指定された内容にそった事前準備が求められます。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>卒業後に教壇に立つことを考えながら、真剣に取り組んでください。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業中に取り組んだ課題には、必ず不十分な点に気付くはずで す。必要に応じて追加的な課題への取り組みを求めます。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業中の学習活動 70% (2) 学校での実習活動 30%</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div>		

教職実践演習(中等) (中高教職)	
担当教員： 和田 雅史	
学期： 週間授 科目： 教職に関 必修・選択： 教職必修	
単位： 2 コード： 5T550114	
<div>学部教育の関連目</div> <div>教職に関する科目と教員に関する科目の教員によって構成される教職委員会にて定期報告を行い、連携を密にする。また地元教育委員会との結びつきを強め、教育委員会より講師を迎え、学校現場の現実と課題を共有する。</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 教職実践演習の目的、意義 02. 「教師の在り方」について－KJ法による進め方の説明 03. 「教師の在り方」について－KJ法の結果と考察 04. 「教師あなの在り方」について－グループ発表 05. 「学級形成」－学級経営の意義と学級づくり 06. 「学級形成」－集団の把握と生活指導 07. 「学級形成」－集団の把握と生徒指導 08. 「学級形成」－生徒理解と教育相談 09. 「学級形成」－保護者・地域・校内組織との連帯 10. 「学級形成」－まとめ 11. 「実践的な指導力」－教材研究・教材解釈 12. 「実践的な指導力」－授業づくり 13. 「実践的な指導力」－指導方法・指導技術と評価の観点 14. 「実践的な指導力」－中学校保健科授業の実際 15. 「実践的な指導力」－まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>4 年次後期科目。中高保健科および特別支援学校教員免許必修科目</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>教師に必要なコミュニケーション能力や教師として必要な教養等を含めた教師の在り方、実践的な指導力、学級形成（学級経営、集団の把握と生活指導、生徒理解と教育相談、保護者・地域との連帯）をバランスよく形成しているかどうかを最終的に確認し、実践的指導力を確実に身につける。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「教職実践演習チェックシート（中高）」を用いた自己評価の結果を振り返ることで学生個人の教育に対する価値観や教育実践力の形成状況の意識づけを行う。それに基づき、いくつかのワークショップ（KJ法、ブレインストーミング、グループワーク、ロールプレイング、模擬授業など）を行うことで、学生各自の強みを利用した問題点の改善とさらなる教育実践力の向上を目指す。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>次回のテーマに沿って、事前に調べまわめておくことによって、授業の際に十分な発言ができるように準備学習が必要とされる</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>授業で取り上げられたテーマは、授業現場で必要とされる内容であることから、毎回の授業のまとめを必ず実践することが求められる</div> <div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への取り組みと態度50%</div><div>(2) 到達度評価のまとめ50%</div></div> <div>授業はワークショップなどを中心に行えあれるところから、ワークショップへの取り組みへの態度、発表が重要な観点となる。また、テーマを設定してのレポートを課題とすることによって、文章をまとめるという作業が必要となる。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業は、ワークショップを中心としている。「考え」、「発言」すること。「他の人の意見を聞く」ことが重要である。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 教育実践</div><div>・ 教師</div><div>・ 学級形成</div><div>・ 教育実践</div></div>	<div>教科書</div> <div>授業中にプリントを配布する</div> <div>参考書</div>

中学校教育実習（PL教職）		TEAT-0-402
担当教員：井上 兼生		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：5 コード：5T600105
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 教育実習の意義と目的 02. 教育実習の展開－事前研究、教育実習の心得 03. 教育実習の形態－観察、参加、授業、事後研究 04. （４）教育実習の内容(1)－学校経営 05. 教育実習の内容(2)－教育課程、学習指導 06. 教育実習の内容(3)－生活指導、学級経営、特別活動 07. 教育実習に備えて(1)－さまざまな授業 08. 教育実習に備えて(2)－さまざまな教科外活動 09. 直前指導 10. 教育実習の実際(1)－教材研究、学習指導 11. 教育実習の実際(2)－授業参観、記録、授業分析 12. 実習記録の観点と内容 13. 教育実習の反省と評価 14. 実習記録の整理 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1. 内容:実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と3週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。 2. カリキュラム上の位置づけ:「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>教職課程の総仕上げです。3週間の実習は体力、精神力とも非常に厳しいものがあります。これを達成して初めて教員免許の取得がほぼ確実なものになります。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>実習が近づくにつれて、実習内容がじょじょに具体化してくる。どう対応するのか、各自が不足する知識や技術について補うこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>大学の授業に並行して、実習校との連絡を密に取りながら、より万全の実習態勢が取れるように努力すること。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>実習で必要となる教材準備などは、授業時間外の活動になる。時間を十分に確保すること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 授業中の学習活動 30% (2) 実習校の評価 70%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・主体性 ・計画的取り組み ・コミュニケーション能力</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

中学校教育実習（A教職）		TEAT-0-402	
担当教員： 東 仁美			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 5 コード： 5T600111	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 教育実習の目的 02. 教育実習の心得、注意事項 03. 教育実習の内容(1) 教科指導 04. 教育実習の内容(2) 道德教育 05. 教育実習の内容(3) 生徒指導、学級経営、特別活動 06. 直前指導 教材研究と模擬授業(1) 07. 直前指導 教材研究と模擬授業(2) 08. 直前指導 教材研究と模擬授業(3) 09. 直前指導 教材研究と模擬授業(3) 10. 教育実習の振り返り(1) 授業分析 11. 教育実習の振り返り(2) 生徒指導 12. 教育実習の振り返り(3) 学級経営 13. 教育実習の振り返り(4) 授業観察 14. 実習記録の整理 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は（1）教育実習において適切な指導ができるように準備を行う（2）実習を体験する（3）実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけ準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む後輩のために報告を行うことを求める。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>実習で使用する教科書の教材研究を行う。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。</div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>教師になるという強い意識を持って、教育実習に臨んでほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>実習前:授業でのフィードバックを受けて指導案の修正を行う。 実習後:実習記録を整理する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・教科指導 ・教材研究 ・模擬授業</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業への参加、貢献</div><div>20%</div></div><div><div>(2) 指導案、模擬授業</div><div>30%</div></div><div><div>(3) レポート</div><div>20%</div></div><div><div>(4) 教育実習日誌</div><div>30%</div></div></div>	
		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>青木昭六、田中誠 『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』（現代教育社）</div>	

中学校教育実習（J教職）		TEAT-0-402	
担当教員：熊谷 芳郎			
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：5 コード：5T600121	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 教育実習の意義と目的 02. 教育実習の内容 1 学校経営、学校の組織、施設環境 03. 教育実習の内容 2 教育課程、学習指導 04. 教育実習の内容 3 生徒指導、学級経営、特別活動 05. 教育実習の実際 授業参観の視点、記録、授業分析 06. 模擬授業と研究討議 1 文学的文章 07. 模擬授業と研究討議 2 説明的文章 08. 模擬授業と研究討議 3 話すこと・聞くことの指導 09. 模擬授業と研究討議 4 書くことの指導 10. 中間まとめ 11. 実習体験報告 記録の作成 1 事前打ち合わせ 12. 実習体験報告 記録の作成 2 実習初日 13. 実習体験報告 記録の作成 3 研究授業 14. 実習体験報告 記録の作成 4 生徒との出会い 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しどう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえのない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいのかをつかみとってほしい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書は既に配布済みなので、全体を読み、実習の意義を意識しつづけること。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業後には教科書で内容を確認し、次回までに学習内容を整理しておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>教職につくという「志」と、子どもを育て育むという「理想」とをもって授業に参加してほしい</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 実習前の準備活動20%</div><div>(2) 実習校からの評価60%</div><div>(3) 実習後のレポート20%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・生徒</div><div>・向き合う</div><div>・学習支援</div><div>・指導</div><div>・学び</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>教育法Ⅲで配布済み</div>	

中学校教育実習（D教職）		TEAT-0-402	
担当教員： 和田 雅史			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 5 コード： 5T600131	
<div>学部教育の関連目</div> <div>教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける。</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 中学校教育実習の意義と目的 02. 教育実習の展開－事前研究、教育実習の心得 03. 教育実習の形態－観察、参加、実習の研究 04. 教育実習の内容(1)－学校経営 05. 教育実習の内容(2)－教育課程、学習指導 06. 教育実習の内容(3)－生活指導、学級経営、特別活動 07. 教育実習に備えて(1)－さまざまな授業 08. 教育実習に備えて(2)－さまざまな教科外活動 09. 直前指導 10. 教育実習の実際(1)－教材研究、学習指導 11. 教育実習の実際(2)－授業参観、記録、授業分析 12. 実習記録の観点と内容 13. 教育実習の反省と評価 14. 実習記録の整理 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>中学校教諭保健および特別支援学校教諭免許： 必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>1. 観察、参加、実習を通して、中学校保健科教諭、特別支援教諭の仕事に関する体験的理解を深める。 2. 実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と3週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。 3. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>教職課程の学習の総仕上げとしての体験的学習である。3週間の実習は体力、精神力とも非常に厳しいものがあります。これを達成することにより保健科教員、特別支援教員免許の取得がほぼ確実なものになります。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業のテーマに沿って事前のc調べ学習をして授業に参加すること。実習の際には、実習内容を明確にし、参加レポート提出を求める。各自が教育実習に臨むにあたって不足する知識や技術について補うこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>各授業後には授業の内容をまとめ、実習で必要となる教材準備とすること。教育実習後は実習活動報告並びに指導教員による講評を行う予定である。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>大学の授業に並行して、実習校との連絡を密に取りながら、より万全の実習態勢が取れるように努力すること。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業中の学習活動50%</div><div>(2) 実習校の評価50%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 体験的理解</div><div>・ 観察</div><div>・ 参加</div><div>・ 実習</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

高等学校教育実習（PL教職）		TEAT-0-403
担当教員：井上 兼生		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：3 コード：5T600204
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 教育実習の意義と目的 02. 教育実習の展開－事前研究、教育実習の心得 03. 教育実習の形態－観察、参加、授業、事後研究 04. （4）教育実習の内容(1)－学校経営 05. 教育実習の内容(2)－教育課程、学習指導 06. 教育実習の内容(3)－生活指導、学級経営、特別活動 07. 教育実習に備えて(1)－さまざまな授業 08. 教育実習に備えて(2)－さまざまな教科外活動 09. 直前指導 10. 教育実習の実際(1)－教材研究、学習指導 11. 教育実習の実際(2)－授業参観、記録、授業分析 12. 実習記録の観点と内容 13. 教育実習の反省と評価 14. 実習記録の整理 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1. 内容:実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と2週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。 2. カリキュラム上の位置づけ:「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>実習が近づくにつれて、実習内容がじょじょに具体化してくる。どう対応するのか、各自が不足する知識や技術について補うこと。</div> <div>準備学習(復習)</div> <div>実習で必要となる教材準備などは、授業時間外の活動になる。時間を十分に確保すること。</div> <div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業中の学習活動30%</div><div>(2) 実習校の評価70%</div></div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>大学の授業に並行して、実習校との連絡を密に取りながら、より万全の実習態勢が取れるように努力すること。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・主体性</div><div>・計画的取り組み</div><div>・コミュニケーション能力</div></div>	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	

高等学校教育実習（A教職）		TEAT-0-403	
担当教員： 東 仁美			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 3 コード： 5T600210	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 教育実習の目的 02. 教育実習の心得、注意事項 03. 教育実習の内容(1) 教科指導 04. 教育実習の内容(2) 道德教育 05. 教育実習の内容(3) 生徒指導、学級経営、特別活動 06. 直前指導 教材研究と模擬授業(1) 07. 直前指導 教材研究と模擬授業(2) 08. 直前指導 教材研究と模擬授業(3) 09. 直前指導 教材研究と模擬授業(3) 10. 教育実習の振り返り(1) 授業分析 11. 教育実習の振り返り(2) 生徒指導 12. 教育実習の振り返り(3) 学級経営 13. 教育実習の振り返り(4) 授業観察 14. 実習記録の整理 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は（1）教育実習において適切な指導ができるように準備を行う（2）実習を体験する（3）実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけ準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む後輩のために報告を行うことを求める。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>実習で使用する教科書の教材研究を行う。</div>	
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。</div>			
<div>受講者に対する要望</div> <div>教師になるという強い意識を持って、教育実習に臨んでほしい。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>実習前:授業でのフィードバックを受けて指導案の修正を行う。 実習後:実習記録を整理する。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・教科指導</div><div>・教材研究</div><div>・模擬授業</div></div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 授業への参加、貢献</div><div>20%</div></div><div><div>(2) 指導案、模擬授業</div><div>30%</div></div><div><div>(3) レポート</div><div>20%</div></div><div><div>(4) 教育実習日誌</div><div>30%</div></div></div>	
		<div>教科書</div> <div></div>	
		<div>参考書</div> <div>青木昭六、田中誠 『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』（現代教育社）</div>	

高等学校教育実習（J教職）		TEAT-0-403
担当教員：熊谷 芳郎		
学期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：3 コード：5T600220
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 教育実習の意義と目的 02. 教育実習の内容 1 学校経営、学校の組織、施設環境 03. 教育実習の内容 2 教育課程、学習指導 04. 教育実習の内容 3 生徒指導、学級経営、特別活動 05. 教育実習の実際 授業参観の視点、記録、授業分析 06. 模擬授業と研究討議 1 文学的文章 07. 模擬授業と研究討議 2 論理的文章 08. 模擬授業と研究討議 3 話すこと・聞くことの指導 09. 模擬授業と研究討議 4 書くことの指導 10. 中間まとめ 11. 実習体験報告 記録の作成 1 事前打ち合わせ 12. 実習体験報告 記録の作成 2 実習初日 13. 実習体験報告 記録の作成 3 研究授業 14. 実習体験報告 記録の作成 4 生徒との出会い 15. まとめ</div>	
	<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書は既に配布済みなので、全体を読み、実習の意義を意識しつづけること。</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業後には教科書で内容を確認し、次回までに学習内容を整理しておくこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 実習前の準備活動 20% (2) 実習校からの評価 60% (3) 実習後のレポート 20%</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しどう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえのない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいのかをつかみとってほしい。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>教職につくという「志」と、子どもを育て育むという「理想」とをもって授業に参加してほしい</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div>・生徒 ・向き合う ・学習支援 ・指導 ・学び</div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div> <div>授業の中で指示する 教育法Ⅲで配布済み</div>

高等学校教育実習 (W教職)

TEAT-0-403

担当教員： 中谷 茂一

學期：週間授 科目：教職課程 必修・選択：教職科目

単位：3 コード：5T600230

学部教育の関連目

【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目

(1) 内容

教育実習の意義と心構え、事前準備、教育実習中の諸注意、実習日誌の留意点について学ぶ。並行して、実際に教壇に立つ授業を行う指導案作成な授業内容の練習上げを実施する。

(2) 学びの意義と目標

福祉科教育法Ⅰ・Ⅱで学習した内容を応用し、高等学校における実際の2週間の教育実習とその事前・事後指導を行い、教育法の涵養を目標とする。

受講者に対する要望

実習生といえども生徒から見れば一個の教師である。教育者としての倫理と責任をよく認識して教育実習の準備と実施に臨んでほしい。

学びのキーワード

・教育実習

授業計画

01. 教育実習の意義と心構え
02. 事前準備
03. 教育実習中の諸注意
04. 実習日誌の留意点
05. 学習指導案の作成
06. 学習指導案の作成
07. 学習指導案の作成
08. 学習指導案の作成
09. 学習指導案の作成
10. 教材研究と模擬授業～その1
11. 教材研究と模擬授業～その2
12. 教材研究と模擬授業～その3
13. ふりかえりと評価～その1
14. ふりかえりと評価～その2
15. ふりかえりと評価～その3

準備學習(予習)

自己の模擬講義の作成準備

準備學習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べることに

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 模擬講義内容 | 50% |
| (3) ディスカッション参加状況 | 30% |

教科書

教育実習研究会 編 『中学・高等学校教育実習ノート』（協同出版）

参考書

高等学校教育実習（D教職）		TEAT-0-402	
担当教員： 和田 雅史			
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 3 コード： 5T600240	
<div>学部教育の関連目</div> <div>教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける。</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 高等学校教育実習の意義と目的 02. 教育実習の展開－事前研究、教育実習の心得 03. 教育実習の形態－観察、参加、実習の研究 04. 教育実習の内容(1)－学校経営 05. 教育実習の内容(2)－教育課程、学習指導 06. 教育実習の内容(3)－生活指導、学級経営、特別活動 07. 教育実習に備えて(1)－さまざまな授業 08. 教育実習に備えて(2)－さまざまな教科外活動 09. 直前指導 10. 教育実習の実際(1)－教材研究、学習指導 11. 教育実習の実際(2)－授業参観、記録、授業分析 12. 実習記録の観点と内容 13. 教育実習の反省と評価 14. 実習記録の整理 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>高等学校教諭保健および特別支援学校教諭免許：必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>1. 観察、参加、実習を通して、高等学校保健科教諭、特別支援教諭の仕事に関する体験的理解を深める。 2. 実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と3週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。 3. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>教職課程の学習の総仕上げとしての体験的学習である。3週間の実習は体力、精神力とも非常に厳しいものがあります。これを達成することにより保健科教員、特別支援教員免許の取得がほぼ確実なものになります。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業のテーマに沿って事前のc調べ学習をして授業に参加すること。実習の際には、実習内容を明確にし、参加レポート提出を求める。各自が教育実習に臨むにあたって不足する知識や技術について補うこと。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>各授業後には授業の内容をまとめ、実習で必要となる教材準備とすること。教育実習後は実習活動報告並びに指導教員による講評を行う予定である。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>大学の授業に並行して、実習校との連絡を密に取りながら、より万全の実習態勢が取れるように努力すること。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業中の学習活動50%</div><div>(2) 実習校の評価50%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 体験的理解</div><div>・ 観察</div><div>・ 参加</div><div>・ 実習</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div></div>	

特別支援教育実習		TEAT-D-300
担当教員： 吉田 昌義		
学期： 週間授 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目		単位： 3 コード： 5T600301
<div>学部教育の関連目</div> <div>教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 特別支援教育実習オリエンテーション 02. 特別支援教育実習の意義と目的 03. 特別支援教育実習の展開 事前研究、教育実習の心得 04. 特別支援教育実習の形態 観察、参加、実習、事後研究 05. 特別支援教育実習校訪問、実習担当教諭との懇談 06. 特別支援教育実習の内容（１）学級経営、学校の組織、施設環境 07. 特別支援教育実習の内容（２）教育課程、学習指導 08. 特別支援教育実習の内容（３）生活指導、学級経営、特別活動、自立活動 09. 特別支援教育実習の内容（４）教師としての勤務 10. 特別支援教育実習の実際（１）教材研究、学習指導（集団、形態） 11. 特別支援教育実習の実際（２）授業参観の視点、記録、授業分析 12. 特別支援教育実習記録に基づく実習報告と討論 13. レポート作成による自己評価と反省 14. 現職教員との懇談 15. 教師としての心構えと就職に関する指導</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>特別支援学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>特別支援教育実習は、本実習ならびに事前事後指導からなる。まず事前指導では、特別支援教育の意義やその内容について、講義形式の授業や実習校の実習担当教諭との懇談を通して学ぶ。本実習では、主に授業参観、指導案作成、授業担当（研究授業を含む）、放課後の教材研究指導、学級経営への参加、学校行事や部活動への参加を行う。本実習終了後の事後指導は主に実習生が作成した実習記録をもとに自己評価と反省を行うとともに、教員としての前提となる心構えを学ぶ。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>１）特別支援教育の意義と目的を理解するとともに、その内容を知識として身につけることができる。 ２）実習を通して、特別支援教育における指導の方法を身につけることができる。 ３）児童生徒や教員との関わりを通して、特別支援教諭としての社会コミュニケーション力を身につける。 ４）実習の振り返りを通して、自らの取り組みを反省する力を養う。 これらの過程を通して、特別支援教諭に求められる知識、技能ならびに態度の育成を目指すこととする。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>配布資料、宿題やレポートなどに目を遠し、必要な事項を調べておくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>これまでに学んだ科目のテキストやノートから学習内容を見直し、不明な部分は調べておくこと。 また、障害児の教育に関する図書を読み、知見を広げておいてほしい。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業の配布資料、宿題やレポート課題などから、図書や資料を探し、授業の準備をすること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 実習校からの評価 60% (2) 指導計画・指導案作成およびレポート 40%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 障害児の指導法 ・ 単元や教材 ・ 指導計画・授業案の作成 ・ 授業記録 ・ 求められる教師像</div>	<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div>	<div>参考書</div>

介護等体験及び事前事後指導（教職）		TEAT-0-404
担当教員：吉田 昌義、高山 法子		
学期：前期（ 科目：教職課程 必修・選択：教職科目		単位：2 コード：5T700103
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 社会福祉施設における「介護等体験の意義」 特別支援学校における「介護等体験の意義」（高山） 02. コミュニケーション（高山） 03. 事例を通して考える（受容と共感）（高山） 04. 事例を通して考える（個別性）（高山） 05. 社会福祉施設の目的及び原則（高山） 06. 福祉施設利用者の理解（高山） 07. 高齢者疑似体験（高山） 08. 基本介護技術（移動・食事・着脱）（高山） 09. 介護等体験の始まり 教員に求められるもの（吉田） 10. 障害とは 障害の種類と教育の場・指導内容（吉田） 11. 知的障害の理解と指導（吉田） 12. 自閉症の理解と指導（吉田） 13. 通常の学級における障害児への配慮（吉田） 14. 人権について 介護等体験に行くに当たって（吉田） 15. 介護等体験の振り返り、事後指導（9月）</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】小学校教諭一種免許：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行えば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。 事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。 ※2201教室は、土足厳禁であるので、上履きを用意しておくこと。また、介護技術の演習を数回行なう予定である。その際、動きやすい服装で参加すること。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>＜学びの意義＞ 1 教員を目指す者が、介護等体験を行うことにより、視野を拡げ、個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深める。 2 高齢者や障害者とのかかわりの基本を学び、介護等体験を通して具体的に経験する。 ＜目標＞ ①介護等体験を行うに当たって必要とされる、最小限の基本的な知識や技能等を学ぶ。 ②教員を目指す者が、個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深め、教員としての資質を考え、今後の大学生活で身につけておくべきことを追究する。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>事前に教科書を読み、内容の理解に努めること
また、介護等体験に行く前から、教員（社会人）として、望ましい姿を考え、適切な言動に努めること。
</div>	
<div>受講者に対する要望</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>介護等体験で出会った高齢者・障害者・指導員などの関係者等との関わりを振り返り、介護等体験の意義や、本授業の概要にあるように「個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めること。</div>	
<div>学びのキーワード</div>	<div>評価方法</div> <div>(1) 平常点・コメント・受講態度 50% (2) 実習態度・実習記録 50%</div>	
		<div>教科書</div> <div>全国特別支援学校長会 『フィリア インクルーシブシステム版』（ジアース教育新社） 全国社会福祉協議会 『よくわかる社会福祉施設』（全国社会福祉協議会出版部）</div>
		<div>参考書</div>

図書館情報学課程

生涯学習概論		LIS-0-201	
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 図書館情	必修・選択： 資格課程/必修科目
単位： 2		コード： 6L001010	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)</div> <div>03. 社会教育の定義（教育基本法、社会教育法）</div> <div>04. 生涯教育の理念(1)</div> <div>05. 生涯教育の理念(2)</div> <div>06. 社会教育から生涯教育そして生涯学習へ（何がちがうのか？）</div> <div>07. 生涯教育の理念と社会背景(1)（各国の生涯教育の事情）</div> <div>08. 生涯教育の理念と社会背景(2)（わが国の教育改革と生涯学習体系への移行）</div> <div>09. 生涯教育の理念と社会背景(3)（急激な社会変化への適応）</div> <div>10. 生涯教育の理念と社会背景(5)（平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題）</div> <div>11. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？）</div> <div>12. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、戦後の青少年の非行など）</div> <div>13. 生涯教育の理念への批判</div> <div>14. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【全】司書資格：必修科目</div>			
(1) 内容			
<div>2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。 また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。</div>			
受講者に対する要望			
<div>前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。
資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。</div>			
学びのキーワード		教科書	
<div>・社会教育の理念</div> <div>・生涯教育・生涯学習</div> <div>・生涯発達論</div> <div>・発達課題</div> <div>・学歴社会の是正</div>		<div>鈴木眞理 『生涯学習概論』（樹村房）</div>	
		参考書	

児童サービス論		LIS-0-207
担当教員： 黒沢 克朗		
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L014070
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 児童サービスとは 児童サービスの意義と目的 いま、公立図書館は</div> <div>02. 児童図書館の歩み 子どもの読書活動の推進</div> <div>03. 朝の読書 ブックスター</div> <div>04. 児童サービスの業務 集会・行事活動 展示・PR</div> <div>05. 児童サービスの業務 調べ学習・レファレンス</div> <div>06. 子どもと本を結びつける1 絵本の読み聞かせとは</div> <div>07. 子どもと本を結びつける2 おはなし会とは</div> <div>08. 子どもと本を結びつける3絵本の読み聞かせをしてみよう 1</div> <div>09. 子どもと本を結びつける4絵本の読み聞かせをしてみよう 2</div> <div>10. 子どもと本を結びつける5ストーリーテリングとは</div> <div>11. 子どもと本を結びつける6ブックトークとは ブックトークのプログラムを作る</div> <div>12. 子どもと本を結びつける7ブックトークをしてみよう 読書のアニメシオ</div> <div>13. 各種機関との連携</div> <div>14. ヤングアダルト、障がいをもった子ども、多文化サービス</div> <div>15. 児童サービス担当者の役割 まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>1. 内容 児童サービス論は、子どものための図書館サービスについて学ぶ科目である。図書館における児童サービスの意義や課題、図書館における児童サービスの具体的な方法などについて学んでいく。</div> <div>2. カリキュラム上の位置づけ 児童サービスについての基礎的な科目である。</div> <div>3. 学びの意義と目標 児童サービスの意義と課題について理解することができるようになること。また、児童サービスの方法にはどのようなものがあるかについての認識をもち、図書館員の専門性について理解を深める。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>子どもを取り巻く環境を少しでも良くしようと、多方面から試行を重ねている現状。読書の面においても、国を挙げて力を入れている。2000年「子ども読書年」を境にし、児童サービスが大きく変わってきている。子ども読書推進活動、朝の読書、絵本の読み聞かせ、ブックスター、読書のアニメシオン、調べ学習、といろいろなことが行われている。本講義では、これらのことに触れることは勿論のこと、公共図書館における児童サービスの意義や目的など、基本的なことを講義したい。</div>		
<div>準備学習(予習)</div> <div>課題については、事前に調査をし、締切日を厳守</div>		
<div>準備学習(復習)</div> <div>講義の中で紹介した本は、目を通すこと</div>		
<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点50%</div><div>(2) 課題20%</div><div>(3) 科目修得試験30%</div></div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもにとって読書がどんなに大切なものかを学習していくなかで、読書の重要性を把握してほしい</div>		<div>教科書</div> <div>堀川 照代 『児童サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-11）』（日本図書館協会）</div> <div>参考書</div>
<div>学びのキーワード</div>		

図書館実習		LIS-0-302						
担当教員： 若松 昭子								
学期： 前期（ 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L019050						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと、地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 実習の目的と意義 02. 実習館の概要 03. 図書館の意義と目的 04. 図書館学文献検索 1 新聞 05. 図書館学文献検索 2 論文 06. 研究課題 1 実習時のテーマを探す 07. 研究課題 2 実習時のテーマを設定する 08. 研究課題 3 夫々のテーマを検討する 09. 実習前指導 1 ブックトーク 10. 実習前指導 2 ブックトーク 11. 実習前指導 3 読み聞かせ 12. 実習前指導 4 読み聞かせ 13. 実習前指導 5 レファレンス 14. 実習期間 15. 実習期間 16. 実習期間 17. 実習報告（実習が終わって） 18. 実習報告会用資料作成 19. 実習報告会用資料作成 20. 実習報告会 1 各人の実習報告発表 21. 実習報告会 2 各人の実習報告発表 22. 実習報告会 3 各人の実習報告発表 23. 実習報告会 4 各人の実習報告発表 24. 報告書の作成・検討 1 25. 報告書の作成・検討 2 26. 報告書の作成・検討 3 27. 実習報告書をもとに 1 28. 実習報告書をもとに 2 29. 実習報告書をもとに 3 30. 総括</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：選択必修科目</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>図書館情報学の理論を図書館業務にいかす為に主として身近な公共図書館において2週間の実習を行う。実習期間のみならず、自ら実習館を選び、実習依頼から実習許可を得る等の一連の経験を通して基本的なコミュニケーション態度を学ぶ。実習に入る前に、現代の図書館における課題から、各自テーマを選び掘り下げる。実習終了後にはそれぞれの研究課題を整理分析して、その成果をまとめ発表する。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>図書館実習は、利用者の立場と司書の立場の両方の経験を得て司書としての使命を確認することにある。実際の図書館現場を体験することで知識を生きたものとし、図書館をより身近に感じることで、生涯学習社会における賢い情報利用者としての、また情報のよきアドバイザーとしての実践力を身につけることを目指す。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>実習を希望する図書館の調査と情報収集</div>						
		<div>準備学習(復習)</div> <div>実習体験の報告書作成</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>図書館に興味を持つすべての学生が対象となりますが、実際の図書館で2週間の実習を遂行できる責任感と体力を持っていることが必要。無断欠席厳禁。また、司書課程における他の科目の習得状況如何によっては履修できない場合もある。</div>		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 実習</td><td>50%</td></tr><tr><td>(2) 事前学習</td><td>25%</td></tr><tr><td>(3) 事後報告</td><td>25%</td></tr></table></div>	(1) 実習	50%	(2) 事前学習	25%	(3) 事後報告	25%
(1) 実習	50%							
(2) 事前学習	25%							
(3) 事後報告	25%							
<div>学びのキーワード</div> <div>・ 公共図書館</div>		<div>教科書</div> <div> </div> <div>参考書</div>						

図書館情報学概論		LIS-0-202						
担当教員： 若松 昭子								
学期： 週間授 科目： 社会教育 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L022020						
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 図書館の定義 02. 図書館の種類 03. 図書館の理念 04. 情報社会と図書館 05. 図書館の自由に関する宣言 06. 図書館員の倫理綱領 07. 図書館に関する法規 08. 公立図書館の制度と機能 1 09. 公立図書館の制度と機能 2 10. 学校図書館の制度と機能 11. 大学図書館の制度と機能 12. 専門図書館の制度と機能 13. 国立図書館の制度と機能 14. 図書館間の相互協力 15. まとめ</div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目 【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>								
<div>(1) 内容</div> <div>図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。</div>								
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。</div>						
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。</div>						
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。
</div>		<div>評価方法</div> <div><table><tr><td>(1) 試験またはレポート</td><td>40%</td></tr><tr><td>(2) 各授業時の課題</td><td>35%</td></tr><tr><td>(3) 授業態度や授業への参加度</td><td>25%</td></tr></table></div> <div>毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。</div>	(1) 試験またはレポート	40%	(2) 各授業時の課題	35%	(3) 授業態度や授業への参加度	25%
(1) 試験またはレポート	40%							
(2) 各授業時の課題	35%							
(3) 授業態度や授業への参加度	25%							
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">図書館情報社会</div>		<div>教科書</div> <div>塩見 昇 『図書館概論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1）』（日本図書館協会）</div> <div>参考書</div>						

図書館情報学概論		LIS-0-202
担当教員： 若松 昭子		
学期： 週間授 科目： 社会教育 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L022021
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと、地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 図書館の定義 02. 図書館の種類 03. 図書館の理念 04. 情報社会と図書館 05. 図書館の自由に関する宣言 06. 図書館員の倫理綱領 07. 図書館に関する法規 08. 公立図書館の制度と機能 1 09. 公立図書館の制度と機能 2 10. 学校図書館の制度と機能 11. 大学図書館の制度と機能 12. 専門図書館の制度と機能 13. 国立図書館の制度と機能 14. 図書館間の相互協力 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目 【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。
</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 試験またはレポート</div><div>40%</div></div><div><div>(2) 各授業時の課題</div><div>35%</div></div><div><div>(3) 授業態度や授業への参加度</div><div>25%</div></div></div> <div>毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 図書館</div><div>・ 情報社会</div></div>		<div>教科書</div> <div>塩見 昇 『図書館概論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1）』（日本図書館協会）</div> <div>参考書</div>

図書館制度・経営論		LIS-0-203
担当教員： 三日市 紀子		
学期： 週間授 科目： 社会教育 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L023030
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 図書館制度・図書館経営とは・基本用語の確認 02. 図書館に関わる法体系 03. 図書館法逐条解説（１）総則 04. 図書館法逐条解説（２）公立図書館および私立図書館 05. 他館種の図書館に関する法律など 06. 図書館サービス関連法規 07. 図書館政策（国、地方公共団体） 08. 公共機関・施設の経営方法 09. 図書館の組織・職員 10. 図書館の施設・設備 11. 図書館のサービス計画と予算の確保 12. 図書館業務・サービスの調査と評価 13. 図書館の管理形態の多様化 14. 図書館制度・経営に関わる諸問題 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目 【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>図書館に関する法律や関連領域の法律、図書館政策について概観し、図書館経営の考え方、職員や施設などの資源、サービス計画、予算、サービスの評価、管理形態の多様化について解説する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本科目の履修を通じて、図書館で働くにあたって必要な図書館制度や図書館経営の知識を習得する。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>グループ討論を行うときは積極的に行うこと。携帯電話を授業中に使用しないこと。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で触れた内容を振り返り、思考を整理することを求める。（適宜、内容を振り返る課題を課することもある）</div>
		<div>評価方法</div> <div>(1) 試験 50% 6割以上の正解率が必須である。 (2) 課題提出・授業内ミニテスト 50% 授業内および授業外で課する課題（プリント）提出</div> <div>ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数数の3分の2以上であることを条件とする。
</div>
<div>学びのキーワード</div>		<div>教科書</div> <div>プリントを配布する。</div> <div>参考書</div> <div>授業時に提示する。</div>

図書館情報技術論		LIS-0-204	
担当教員： 三日市 紀子			
学期： 週間授		科目： 図書館情	必修・選択： 資格課程
単位： 2		コード： 6L024040	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと		01. 図書館情報技術論とは・基本用語の確認 02. コンピュータの基礎 03. ネットワークの基礎 04. インターネットサービスの仕組み 05. 検索エンジンの仕組み 06. インターネット上の情報発信（1）(X)HTML／CSS 07. インターネット上の情報発信（2）ウェブユーザビリティ、ウェブアクセシビリティ 08. データベースの基礎（1）データベースの仕組み 09. データベースの基礎（2）データベースの運用 10. 電子資料と図書館（1）電子書籍の基礎知識 11. 電子資料と図書館（2）電子資料の保存および管理 12. コンピュータシステムの管理 13. 図書館における情報技術・デジタルアーカイブ 14. 情報技術と社会、最新の情報技術と図書館 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
【P】司書資格：必修科目【全】司書資格：必修科目 【全】司書資格：必修科目			
(1) 内容			
コンピュータ技術やインターネット技術の基礎、図書館の業務システム、サーチエンジンやデータベースの仕組み、電子資料（電子ジャーナル、電子書籍）などについて解説し、必要に応じて演習を行う。			
(2) 学びの意義と目標			
今日の図書館ではコンピュータやネットワークを活用した多様な業務やサービスが展開されている。そのような環境の中で、図書館員は単にそれを扱う技術だけではなく、仕組みや現在の動向など幅広い知識を身につけておくことが必要となる。この授業では一般的なコンピュータやネットワークの仕組みのほかに、図書館業務やサービスに関わる情報技術について理解する。		準備学習（予習）	
		毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。	
		準備学習（復習）	
		授業で触れた内容を振り返り、思考を整理することを求める。（内容を振り返る課題を課することもある）	
受講者に対する要望		評価方法	
授業では、コンピュータ技術や図書館情報学の用語が多数紹介される。参考図書で用語を調べるなどして、みずからの理解を補うことが必要である。またグループ討論を行うときは積極的に参加すること。携帯電話を授業中に使用しないこと。		(1) 試験 50% 60%以上の正解率であること。 (2) 課題提出・授業内ミニテスト 50% 授業内および授業外で課する課題（プリント）提出	
学びのキーワード		教科書	
		プリントを配布する。	
		参考書	

図書館サービス概論		LIS-0-205
担当教員： 岡谷 大		
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L025050
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 図書館サービスの考え方と構造 02. 図書館サービスとマネジメント 03. 来館者へのサービス 04. 利用空間の整備 05. 貸出、予約サービスの構造 06. レファレンスなどの資料提供 07. 利用案内、セミナーなどの展開 08. 図書館ネットワークによる情報提供 09. 障害者へのサービス 10. 高齢者、多文化サービス 11. 課題解決支援サービス 12. 多様な利用者サービス 13. 利用者との接遇、コミュニケーション、広報活動 14. 図書館サービスと著作権 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>サービスの具体面では、資料提供による来館者へのサービス、近年定着してきたフロア・サービス、貸出、リクエストなどのサービスの展開、情報・コンピュータによるサービス、課題解決サービス、児童・障害者・高齢者・多文化サービスなど利用者の類型に応じたサービス、さらには最近活発になっている、図書館における集会・行事などのサービスや利用者のモラルなどの利用者との交流を考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>図書館サービスの意義を強調し、マネジメントとの関係、特にサービスにおけるコンピュータの役割とその限界などを説明する。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>図書館における実際のサービスについて理解を深めること。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業時に指示する。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布資料を再読しまとめること。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 図書館サービス</div><div>・ 図書館とマネジメント</div><div>・ 利用空間</div><div>・ 図書館ネットワーク</div><div>・ 利用者サービスの多様性</div></div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験50%</div><div>(2) 平常点50%</div></div>	
	<div>教科書</div> <div>小田 光宏 『図書館サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ2）』（日本図書館協会）</div>	
	<div>参考書</div>	

担当教員： 吉田 隆

学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程

単位： 2 コード： 6L026060

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】司書資格：必修科目

(1) 内容

図書館における情報サービスの意義・理論・方法を考える。

(2) 学びの意義と目標

「演習」にむけての技能を習得する。

受講者に対する要望

授業＜経営＞に積極的に挑んでください。

学びのキーワード

- ・ 情報サービス
- ・ 情報源
- ・ 利用者
- ・ 図書館司書
- ・ 著作権法

授業計画

01. ガイダンス・情報社会と図書館の情報サービス
02. 図書館における情報サービスの理論的展開
03. 図書館における情報サービスの理論的展開
04. レファレンスサービスの理論と実践
05. レファレンスサービスの実際
06. 情報サービスの理論と方法
07. 各種情報源の特質と利用法（1）：情報メディア・文献を探す
08. 各種情報源の特質と利用法（2）：論文・記事を探す
09. 各種情報源の特質と利用法（3）：事項・事実の検索
10. 各種情報源の評価と解説
11. 各種情報源の組織化
12. 発信型情報サービスの意義と方法
13. 情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識
14. 図書館利用教育と情報リテラシーの育成
15. 展望：IT社会と図書館・図書館司書

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで授業に出席してください。

準備学習(復習)

板書・配布資料の要点を自筆のノートに整理してください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 試験 | 60% |

教科書

竹之内禎編著 『情報サービス論』（学文社）

参考書

情報サービス演習 A

LIS-0-208

担当教員： 吉田 隆

学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程

単位： 1 コード： 6L028080

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】司書資格：必修科目

(1) 内容

図書館利用者サービスを情報検索サービス、レファレンスサービスの基本的なプロセスから考える。

(2) 学びの意義と目標

図書館所蔵の情報資源とWeb情報源を駆使して回答するための演習です、図書館・類縁機関の職域だけでなく企業の職域でも活かすことができる情報検索の技能を習得することを目指します。果敢に本演習に挑んでください。

受講者に対する要望

紙媒体資料と電子媒体資料について熟知することが大切です。図書館の蔵書構成について理解を深めてください。

学びのキーワード

- ・レファレンス質問
- ・レファレンスブック
- ・印刷資料
- ・電子資料

授業計画

01. ガイダンス・情報サービスのプロセス
02. 図書情報についての設問
03. 雑誌についての設問
04. 雑誌記事についての設問
05. 新聞記事についての設問
06. 言葉・事柄についての設問
07. 統計についての設問
08. 歴史・日時についての設問
09. 法律についての設問
10. 判例についての設問
11. 特許についての設問
12. 人物・団体についての設問
13. ウィキペディアを検証する
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービスについて

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで出席してください。

準備学習(復習)

課題については、印刷物のレファレンスブックとWeb情報源の両方を併用して回答してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 課題 | 40% |
| (3) 試験 | 40% |

教科書

原田智子編著 『情報サービス演習』（樹村房）

参考書

情報サービス演習 A

LIS-0-208

担当教員：吉田 隆

学期：週間授 科目：図書館情 必修・選択：資格課程

単位：1 コード：6L028081

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】司書資格：必修科目

(1) 内容

図書館利用者サービスを情報検索サービス、レファレンスサービスの基本的なプロセスから考える。

(2) 学びの意義と目標

図書館所蔵の情報資源とWeb情報源を駆使して回答するための演習です、図書館・類縁機関の職域だけでなく企業の職域でも活かすことができる情報検索の技能を習得することを目指します。果敢に本演習に挑んでください。

受講者に対する要望

紙媒体資料と電子媒体資料について熟知することが大切です。図書館の蔵書構成について理解を深めてください。

学びのキーワード

- ・レファレンス質問
- ・レファレンスブック
- ・印刷資料
- ・電子資料

授業計画

01. ガイダンス・情報サービスのプロセス
02. 図書情報についての設問
03. 雑誌についての設問
04. 雑誌記事についての設問
05. 新聞記事についての設問
06. 言葉・事柄についての設問
07. 統計についての設問
08. 歴史・日時についての設問
09. 法律についての設問
10. 判例についての設問
11. 特許についての設問
12. 人物・団体についての設問
13. ウィキペディアを検証する
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービスについて

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで出席してください。

準備学習(復習)

課題については、印刷物のレファレンスブックとWeb情報源の両方を併用して回答してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 課題 | 40% |
| (3) 試験 | 40% |

教科書

原田智子編著 『情報サービス演習』（樹村房）

参考書

担当教員： 坂内 悟

学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程

単位： 1 コード： 6L029090

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】司書資格：必修科目

(1) 内容

二次情報をはじめとする各種情報資源を対象とする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

(2) 学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通じ実践的な情報検索能力を身につける。

受講者に対する要望

WindowsおよびInternet Explorerが操作できることを前提とした講義を行う。漢字、英字や記号の半角入力等を含めWindowsおよびInternet Explorerの基本的操作をできるようにしておくこと。教科書を毎回持参すること。

学びのキーワード

- ・ 二次情報
- ・ 索引
- ・ 論理演算
- ・ OPAC
- ・ 雑誌記事

授業計画

01. 情報検索とは何か
02. データベースの構造と索引作成
03. 検索の基本方針、検索語とフィールド
04. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
05. 図書検索システム演習
06. 図書検索システム演習
07. 図書検索システム演習
08. 図書検索システム演習
09. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

準備学習(予習)

次回講義に予定している内容に該当する教科書のUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

演習については、同様の課題についての的確に資料を探すことができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

安形 輝、大谷 康晴 『情報検索演習（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-6）』（日本図書館協会）

参考書

担当教員： 坂内 悟

学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程

単位： 1 コード： 6L029091

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】司書資格：必修科目

(1) 内容

二次情報をはじめとする各種情報資源を対象とする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

(2) 学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通じ実践的な情報検索能力を身につける。

受講者に対する要望

WindowsおよびInternet Explorerが操作できることを前提とした講義を行う。漢字、英字や記号の半角入力等を含めWindowsおよびInternet Explorerの基本的操作をできるようにしておくこと。教科書を毎回持参すること。

学びのキーワード

- ・ 二次情報
- ・ 索引
- ・ 論理演算
- ・ OPAC
- ・ 雑誌記事

授業計画

01. 情報検索とは何か
02. データベースの構造と索引作成
03. 検索の基本方針、検索語とフィールド
04. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
05. 図書検索システム演習
06. 図書検索システム演習
07. 図書検索システム演習
08. 図書検索システム演習
09. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

準備学習(予習)

次回講義に予定している内容に該当する教科書のUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

演習については、同様の課題についての的確に資料を探すことができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

安形 輝、大谷 康晴 『情報検索演習（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-6）』（日本図書館協会）

参考書

図書館情報資源概論		LIS-0-210
担当教員： 岡谷 大		
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L030000
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 図書館情報資源</div> <div>02. 印刷資料（1）</div> <div>03. 印刷資料（2）</div> <div>04. 非印刷資料</div> <div>05. 電子資料</div> <div>06. 資料特論（1）</div> <div>07. 資料特論（2）</div> <div>08. 出版流通システム</div> <div>09. 図書館の「知的自由」</div> <div>10. 蔵書論</div> <div>11. 収集と選択</div> <div>12. 蔵書管理</div> <div>13. 資料の組織化</div> <div>14. 書庫管理</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>図書館資料に関してその意義や類型（印刷資料、非印刷資料、特殊資料など）を概説し、とくに図書館の自由との関係や、蔵書構成、資料選択など図書館・情報学の中核となる理論について紹介、考察する。さらに出版と販売、資料の受け入れ、書庫管理などの具体面も説明する。カリキュラム上の位置づけとしては「専門資料論」の基礎分野となるほか、図書館の内と外（出版、販売など）の関係にふれている。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>意義と目標としては図書館資料に関してその類型や構造が理解でき、さらに出版と販売、資料の受入など具体的な側面も理解できること、蔵書構成と資料選択といった理論面の理解がなされることを望んでいる。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業時に指示する。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>配布資料の再読と整理。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>図書館資料の類型、構造、成り立ちに関心をもってほしい。</div>	<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験50%</div><div>(2) 平常点50%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 図書館資料</div><div>・ インターネット系資料</div><div>・ 選書</div><div>・ 蔵書構成</div><div>・ 資料の管理</div></div>	<div>教科書</div> <div>馬場俊明『図書館情報資源概論（JLA図書館情報学テキストシリーズ）』（日本図書館協会）</div> <div>参考書</div>	

担当教員：榎本 裕希子

学期：週間授 科目：図書館情 必修・選択：資格課程

単位：2 コード：6L031010

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】司書資格：必修科目

(1) 内容

本講では、図書館情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源などからなる）の組織化の理論を解説する。書誌記述法、書誌コントロール等について解説し、図書館における情報資源組織化の意義や機能について学習する。

(2) 学びの意義と目標

図書館における情報資源組織法の意義や機能について理解し、「情報資源組織演習」に必要となる目録作業等に必要な基礎知識を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

図書館の目録について関心がある者が受講することが望ましい。少なくとも、聖学院大学附属図書館のOPACを利用し、その機能を把握したうえで受講してほしい。

学びのキーワード

- ・目録規則
- ・記述目録法
- ・日本目録規則
- ・書誌情報
- ・書誌コントロール

授業計画

01. ガイダンス・図書館業務と情報資源組織法
02. 情報資源組織化の意義と理論
03. 書誌記述法（主要な書誌記述規則）
04. 目録規則の歴史と動向 西洋編
05. 目録規則の歴史と動向 日本編
06. 目録法と目録規則（1）記入の構成要素ほか
07. 目録法と目録規則（2）記述とその標準化（ISBDを中心に）
08. 目録法と目録規則（3）標目とその標準化（バリ原則を中心に）
09. 日本目録規則（1）基本記入方式・等価標目方式ほか
10. 日本目録規則（2）各書誌的事項について
11. 書誌コントロールと標準化
12. 書誌情報の作成と流通（1）（MARC，集中目録作業）
13. 書誌情報の作成と流通（2）（書誌ユーティリティ，共同目録作業）
14. 書誌情報の提供（OPACの管理と運用）
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくこと。必要に応じて、図書館に行き現状を確認することが望ましい。

準備学習(復習)

板書と配布資料、授業中に指定したテキストの解説箇所を再読し、理解を深めておく。特に新しく取り上げられた用語について整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

田窪直規編集 『情報資源組織論』（樹村房）

参考書

担当教員：榎本 裕希子

学期：週間授 科目：図書館情 必修・選択：資格課程

単位：2 コード：6L031011

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】司書資格：必修科目

(1) 内容

本講では、図書館情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源などからなる）の組織化の理論を解説する。書誌記述法、書誌コントロール等について解説し、図書館における情報資源組織化の意義や機能について学習する。

(2) 学びの意義と目標

図書館における情報資源組織法の意義や機能について理解し、「情報資源組織演習」に必要となる目録作業等に必要な基礎知識を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

図書館の目録について関心がある者が受講することが望ましい。少なくとも、聖学院大学附属図書館のOPACを利用し、その機能を把握したうえで受講してほしい。

学びのキーワード

- ・目録規則
- ・記述目録法
- ・日本目録規則
- ・書誌情報
- ・書誌コントロール

授業計画

01. ガイダンス・図書館業務と情報資源組織法
02. 情報資源組織化の意義と理論
03. 書誌記述法（主要な書誌記述規則）
04. 目録規則の歴史と動向 西洋編
05. 目録規則の歴史と動向 日本編
06. 目録法と目録規則（1）記入の構成要素ほか
07. 目録法と目録規則（2）記述とその標準化（ISBDを中心に）
08. 目録法と目録規則（3）標目とその標準化（バリ原則を中心に）
09. 日本目録規則（1）基本記入方式・等価標目方式ほか
10. 日本目録規則（2）各書誌的事項について
11. 書誌コントロールと標準化
12. 書誌情報の作成と流通（1）（MARC，集中目録作業）
13. 書誌情報の作成と流通（2）（書誌ユーティリティ，共同目録作業）
14. 書誌情報の提供（OPACの管理と運用）
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくこと。必要に応じて、図書館に行き現状を確認することが望ましい。

準備学習(復習)

板書と配布資料、授業中に指定したテキストの解説箇所を再読し、理解を深めておく。特に新しく取り上げられた用語について整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

田窪直規編集 『情報資源組織論』（樹村房）

参考書

担当教員：長谷川 幸代

学期：週間授 科目：図書館情 必修・選択：資格課程

単位：2 コード：6L032020

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】司書資格：必修科目

(1) 内容

図書館における分類作業とは、印刷資料や電子資料などの様々な資料をその内容に基づいて区分し分けることである。分類作業の意義、方法、歴史、基礎的な事柄について講義する。分類や主題組織に関連して、ファセット分析やシソーラス、索引法についても解説を行う。

(2) 学びの意義と目標

必要な情報を探し出すために資料が秩序立てて分類されているという点は図書館の強みであり、利用者にとっての大きなメリットである。情報を組織することの意義を理解し、利用者が的確な情報を探し出せるような分類作業について理解することを目標とする。

受講者に対する要望

図書館が利用者のためにサービスを行うという意識を大事にしてください。また、教科書に複数回目を通し、用語などに慣れるようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 分類
- ・ 情報資源組織
- ・ 主題組織

授業計画

01. 情報資源組織の意義
02. 主題組織法の意義
03. ファセット分析
04. 索引法
05. 分類法の原理と意義、分類法の種類と歴史
06. 日本十進分類法（NDC）概要
07. 日本十進分類法（NDC）構成要素
08. 分類規定、分類作業と所在記号
09. 分類作業の基礎
10. 自然語と統制語
11. シソーラス
12. 基本件名標目表（BSH）の概要
13. 基本件名標目表（BSH）の付与
14. ネットワーク情報資源の組織化
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書に目を通す。

準備学習(復習)

教科書、レジュメを読みなおす。指定された課題をこなす。参考文献に目をとおす。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 受講状況、レポート | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

3分の2以上の出席が必須です。

教科書

田窪直規 編 『情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ9）』 2011（樹村房）

参考書

担当教員：長谷川 幸代

学期：週間授 科目：図書館情 必修・選択：資格課程

単位：2 コード：6L032021

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】司書資格：必修科目

(1) 内容

図書館における分類作業とは、印刷資料や電子資料などの様々な資料をその内容に基づいて区分し分けることである。分類作業の意義、方法、歴史、基礎的な事柄について講義する。分類や主題組織に関連して、ファセット分析やシソーラス、索引法についても解説を行う。

(2) 学びの意義と目標

必要な情報を探し出すために資料が秩序立てて分類されているという点は図書館の強みであり、利用者にとっての大きなメリットである。情報を組織することの意義を理解し、利用者が的確な情報を探し出せるような分類作業について理解することを目標とする。

受講者に対する要望

図書館が利用者のためにサービスを行うという意識を大事にしてください。また、教科書に複数回目を通し、用語などに慣れるようにしてください。

学びのキーワード

- ・分類
- ・情報資源組織
- ・主題組織

授業計画

01. 情報資源組織の意義
02. 主題組織法の意義
03. ファセット分析
04. 索引法
05. 分類法の原理と意義、分類法の種類と歴史
06. 日本十進分類法（NDC）概要
07. 日本十進分類法（NDC）構成要素
08. 分類規定、分類作業と所在記号
09. 分類作業の基礎
10. 自然語と統制語
11. シソーラス
12. 基本件名標目表（BSH）の概要
13. 基本件名標目表（BSH）の付与
14. ネットワーク情報資源の組織化
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書に目を通す。

準備学習(復習)

教科書、レジュメを読みなおす。指定された課題をこなす。参考文献に目をとおす。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 受講状況、レポート | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

3分の2以上の出席が必須です。

教科書

田窪直規 編 『情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ9）』 2011（樹村房）

参考書

情報資源組織演習（目録）		LIS-0-213
担当教員：榎本 裕希子		
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 1 コード： 6L033030
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（講義概要） 02. 記述に関する総則（1） 03. 記述に関する総則（2） 04. 図書の記述（1）タイトルと責任表示に関する事項① 05. 図書の記述（2）タイトルと責任表示に関する事項② 06. 図書の記述（3）タイトルと責任表示に関する事項③ 07. 図書の記述（4）版に関する事項，出版・頒布等に関する事項 08. 図書の記述（5）形態に関する事項，シリーズに関する事項 09. 図書の記述（6）注記に関する事項 10. 図書の記述（7）標準番号・入手条件に関する事項 11. 演習問題 12. 標目および標目指示（1）標目総則，タイトル標目 13. 標目および標目指示（2）著者標目，件名標目，分類標目 14. 演習問題 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>「情報資源組織論（目録）」で得た知識をもとに、『日本目録規則（NCR）1987年版改訂3版』を用いた図書館資料の目録作成を行う。対象資料は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成への理解を深める。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>『日本目録規則（NCR）』の仕組みや使用法を理解し、正確な書誌データ（記述や標目指示など）の作成ができるようになること。目録作業を学ぶことで図書館における情報資源組織化の役割を理解すること。</div>		<div>準備学習（予習）</div> <div>授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくことが望ましい。</div>
<div>準備学習（復習）</div> <div>板書とテキストを再読し、目録規則の内容を確認しておくこと。その際、実際の資料をもとに復習するのがより効果的である。</div>		
<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験90%</div><div>(2) 平常点10%</div></div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>事前に情報資源組織論（目録）を受講済みであることが望ましい。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・日本目録規則</div><div>・記述</div><div>・標目</div><div>・標目指示</div></div>		<div>教科書</div> <div>和中幹雄（ほか）共著『情報資源組織演習』（日本図書館協会）</div> <div>参考書</div>

情報資源組織演習（目録）		LIS-0-213
担当教員： 榎本 裕希子		
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 1 コード： 6L033031
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>	<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス（講義概要） 02. 記述に関する総則（1） 03. 記述に関する総則（2） 04. 図書の記述（1）タイトルと責任表示に関する事項① 05. 図書の記述（2）タイトルと責任表示に関する事項② 06. 図書の記述（3）タイトルと責任表示に関する事項③ 07. 図書の記述（4）版に関する事項，出版・頒布等に関する事項 08. 図書の記述（5）形態に関する事項，シリーズに関する事項 09. 図書の記述（6）注記に関する事項 10. 図書の記述（7）標準番号・入手条件に関する事項 11. 演習問題 12. 標目および標目指示（1）標目総則，タイトル標目 13. 標目および標目指示（2）著者標目，件名標目，分類標目 14. 演習問題 15. まとめ</div>	
	<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目</div>	
<div>(1) 内容</div> <div>「情報資源組織論（目録）」で得た知識をもとに、『日本目録規則（NCR）1987年版改訂3版』を用いた図書館資料の目録作成を行う。対象資料は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成への理解を深める。</div>	<div>準備学習（予習）</div> <div>授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくことが望ましい。</div>	
	<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>『日本目録規則（NCR）』の仕組みや使用法を理解し、正確な書誌データ（記述や標目指示など）の作成ができるようになること。目録作業を学ぶことで図書館における情報資源組織化の役割を理解すること。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>事前に情報資源組織論（目録）を受講済みであることが望ましい。</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>板書とテキストを再読し、目録規則の内容を確認しておくこと。その際、実際の資料をもとに復習するのがより効果的である。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 試験90% (2) 平常点10%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">日本目録規則記述標目標目指示</div>	<div>教科書</div> <div>和中幹雄（ほか）共著『情報資源組織演習』（日本図書館協会）</div>	
	<div>参考書</div>	

情報資源組織演習(分類)		LIS-0-214
担当教員： 三日市 紀子		
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 1 コード： 6L034040
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 基礎知識の確認・件名標目とは 02. 件名標目の付与（1）基本件名標目表（BSH）の概要と構成 03. 件名標目の付与（2）細目の種類と使用法 04. 件名標目の付与（3）一般件名規程 05. 件名標目の付与（4）特殊件名規程 06. 件名標目の付与（5）これまでのまとめ 07. 分類記号の付与（1）日本十進分類（NDC）の構成 08. 分類記号の付与（2）主題の特定と関連索引 09. 分類記号の付与（3）形式区分 10. 分類記号の付与（4）地理区分・海洋区分 11. 分類記号の付与（5）言語区分・言語共通区分・文学共通区分 12. 分類記号の付与（6）総合問題演習1：各類 13. 分類記号の付与（7）分類規程1：複数主題、主題と主題との関係 14. 分類記号の付与（8）分類規程2：主題と材料、原著作とその関連著作 15. まとめとフォローアップ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>情報資源組織論(分類)」で学んだ知識をもとに、具体的な分類作業の演習を行う。『日本十進分類法(NDC)』、『基本件名標目表(BSH)』を使用した作業を中心として、分類の歴史や主要な分類法について、さらに詳細な解説を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>資料の分類とは、一定の秩序にもとづき、利用者がより利用しやすいように排列するためのものである。図書館における分類法のメリットを理解し、利用者のニーズにあった分類を行うことを目標とする。また、情報資源組織論で得た知識や理論をさらに深めていく。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で指定された課題をこなすこと。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>レジュメや資料を読み返し、参考文献などに目をとおすこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>「情報資源組織概説(分類)」を履修済みであること。毎回の授業において前回の内容を振り返るミニテストを行う予定なので、必ず復習しておくこと。</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 課題提出・授業内ミニテスト</div><div>50%</div><div>授業内および授業外で課する課題（プリント）提出</div></div><div><div>(2) 試験</div><div>50%</div><div>60%以上の正解率であること</div></div></div> <div>ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 分類</div><div>・ 情報資源組織</div><div>・ 件名</div><div>・ 主題組織</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

情報資源組織演習(分類)		LIS-0-214
担当教員： 三日市 紀子		
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 1 コード： 6L034041
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 基礎知識の確認・件名標目とは 02. 件名標目の付与（1）基本件名標目表（BSH）の概要と構成 03. 件名標目の付与（2）細目の種類と使用法 04. 件名標目の付与（3）一般件名規程 05. 件名標目の付与（4）特殊件名規程 06. 件名標目の付与（5）これまでのまとめ 07. 分類記号の付与（1）日本十進分類（NDC）の構成 08. 分類記号の付与（2）主題の特定と関連索引 09. 分類記号の付与（3）形式区分 10. 分類記号の付与（4）地理区分・海洋区分 11. 分類記号の付与（5）言語区分・言語共通区分・文学共通区分 12. 分類記号の付与（6）総合問題演習1：各類 13. 分類記号の付与（7）分類規程1：複数主題、主題と主題との関係 14. 分類記号の付与（8）分類規程2：主題と材料、原著作とその関連著作 15. まとめとフォローアップ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>情報資源組織論(分類)」で学んだ知識をもとに、具体的な分類作業の演習を行う。『日本十進分類法(NDC)』、『基本件名標目表(BSH)』を使用した作業を中心として、分類の歴史や主要な分類法について、さらに詳細な解説を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>資料の分類とは、一定の秩序にもとづき、利用者がより利用しやすいように排列するためのものである。図書館における分類法のメリットを理解し、利用者のニーズにあった分類を行うことを目標とする。また、情報資源組織論で得た知識や理論をさらに深めていく。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>授業で指定された課題をこなすこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>「情報資源組織概説(分類)」を履修済みであること。演習を行うので、できる限り授業に出席し、積極的に作業に取り組むこと。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>レジュメや資料を読み返し、参考文献などに目をとおすこと。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 課題提出・授業内ミニテスト 50% 授業内および授業外で課する課題（プリント）提出 (2) 試験 50% 60%以上の正解率であること</div> <div>ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。</div>	
	<div>教科書</div> <div>参考書</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">分類情報資源組織件名主題組織</div>		

図書館基礎特論		LIS-0-215	
担当教員：黒沢 克朗			
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L035000	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 児童資料とは 「図書館の自由に関する宣言」について児童資料では 02. 児童図書の出版状況 最近の児童書の特徴 03. 児童書の種類と特性 絵本 04. 児童書の種類と特性 児童文学 幼年 05. 児童書の種類と特性 ことば遊び・詩の本 06. 児童書の種類と特性 ノンフィクション 07. 児童書の種類と特性 視聴覚資料 その他 08. 児童の収集方針 蔵書構成 09. 絵本を選ぶ 10. 絵本を評価してみよう 1 11. 絵本を評価してみよう 2 12. レビュースリップを書いてみよう 13. 図書館の日常業務と資料 14. 資料提供サービス 15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：選択必修科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>子どもの本の現状、選書の重要性を柱として実践体験を基にして講義を展開させたい。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>授業では、読書の意義や読書観の変遷を振り返るとともに、時代を超えて長い間読み継がれてきた児童書の種類や特性、また児童書の新しい試みや出版動向などを分析し、実際に絵本を手にとり選定を行うなどの体験を通して、現在に生きる子どもの要望を組み入れた蔵書構成の考え方について学ぶ。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>課題については、事前に調査し、締切日を厳守すること。
詳細は授業内で指示をする。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>講義のなかで紹介した本は、目を通すこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもの本の現状、選書の重要性、について受講生の子ども時代と照らし合わせながら、理解してほしい。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点50%</div><div>(2) 課題20%</div><div>(3) 科目修得試験30%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div>		<div>教科書</div> <div>堀川 照代 『児童サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-11）』（日本図書館協会）</div> <div>参考書</div>	

図書館サービス特論		LIS-0-216
担当教員： 吉田 隆		
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L036010
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス：図書館のめざすもの 02. 図書館は民主主義を維持します 03. 図書館は社会の壁を打ち破ります 04. 図書館は社会的不公平を改めるための地ならしをします 05. 図書館は一人ひとりを大切にします 06. 図書館は創造性を育てます 07. 図書館は若い心を開きます 08. 図書館は大きな見返りを提供します 09. 図書館はコミュニティをつくれます 10. 図書館は家庭を支えます 11. 図書館は、情報機器を使う能力と考え方を育てます 12. 図書館は心の安らぎの場を提供します 13. 図書館は過去を保存します 14. 図書館の評価 15. 図書館サービス特論の課題と展望</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>①図書館情報資源を分野別に理解する。②図書館利用者サービスを複眼的に把握する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>図書館・図書館員の仕事は利用者サービスが大前提ある。利用者にとって心地よいサービスを提供をする上での知識と技法を学ぶ。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>事前の予習。具体的な方法は授業時に指示する。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>事後の復讐。配布資料をノートに要約すること。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>教科書の予習と復習が必要不可欠。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 平常点20%</div><div>(2) 課題20%</div><div>(3) 試験60%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 図書館サービス</div><div>・ 図書館情報資源</div><div>・ 図書館間相互協力</div><div>・ 著作権法</div><div>・ 蔵書構築</div></div>		<div>教科書</div> <div>9784820414100竹内さとる『図書館のめざすもの 新版』日本図書館協会2014年800円</div> <div>参考書</div>

図書館情報資源特論		LIS-0-217
担当教員： 岡谷 大		
学期： 週間授 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L037020
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 専門資料の定義、構造 02. 専門資料の種類と構成 03. 学術コミュニケーションの社会的構造、学術コミュニケーションシステム 04. 学術コミュニケーションへのアクセスと利用、書誌コントロール 05. オンラインデータベース、電子出版、電子ジャーナル 06. インターネットと学術情報 07. 人文科学の諸分野、情報生産・流通 08. 人文社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用 09. 社会科学の諸分野、情報生産・流通 10. 社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用 11. 自然科学の諸分野、情報生産・流通 12. 自然科学の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用 13. 生活の諸分野、情報生産・流通 14. 生活分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>専門資料の意義や学術コミュニケーションの構造、電子情報・検索などのインフラを説明し、具体的に人文、社会、自然科学のそれぞれの情報や資料について説明する。カリキュラム的には「図書館資料論」の具体版である。情報検索との関連や学術論、科学社会学、計量書誌学等との関連もあり、抽象的で難解なところもあるかもしれない。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>目標としては人文、社会、自然科学の学問的・科学社会学的な構造の理解のもとに、具体的に各分野の主要な情報・資料が理解できること、電子情報・資料・データベースが理解できることを望んでいる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業時に指示する。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>情報資源概論の受講を望む。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>配布資料の再読と整理。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 専門資料</div><div>・ 学術コミュニケーション</div><div>・ オンラインデータベース</div><div>・ インターネット</div><div>・ 書誌コントロール</div></div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 試験50%</div><div>(2) 平常点50%</div></div>
<div>教科書</div> <div>三浦 逸雄、野末 俊比古『専門資料論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-8）』（日本図書館協会）</div>		<div>参考書</div>

情報メディア史		INFO-P-200								
担当教員： 若松 昭子										
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： 6L038030								
<div>学部教育の関連目</div> <div>【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る</div>	<div>授業計画</div> <div>01. 情報メディア史の意義 02. 文字・記録のはじまり 03. 粘土板と古代の図書館 04. パピルスからパーチメントへ 05. 中世の書物文化と修道院図書館 06. 大学の誕生と書物 07. 印刷術の発明と普及 08. 読書様式の変化 09. 国家形成と国立図書館 10. コーヒーハウスと貸本屋 11. 公共図書館の誕生 12. コンピュータと図書館 13. 日本の図書館と書物文化（1） 14. 日本の図書館と書物文化（2） 15. まとめとディスカッション</div>									
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【P】 情報コース：基幹科目 【P】 高等学校教諭一種免許：情報必修科目【全】 司書資格：選択必修科目 【全】 司書資格：選択必修科目</div>										
<div>（1）内容</div> <div>情報メディアの変遷と歴史を概観し、それらの変化が人々の知的活動や社会の状況にどのような影響を与えてきたかを考える。また、知識の体系化を担う図書館が、「知識は一部の人々の所有物」という考え方から、「知識は万人の公共財産」という理念に向かって、どのような展開をとげてきたのかを各時代の社会的状況や文化的役割との関わりで考察する。</div>										
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>情報メディアの歴史と変遷は人間の思考パターンやコミュニケーションのあり様をどのように変化させたのか、また様々なメディアを収集・保存し、利用に供する市民のための図書館はどのような発展を経たのかなどに注目し、メディアと人間のかかわりについて理解を深める。</div>	<div>準備学習（予習）</div> <div>教科書に目を通し、課題をきちんとこなすこと。</div>									
<div>受講者に対する要望</div> <div>授業への積極的な参加を望む。授業に関連する施設見学や、展示会等の観覧を課すことがある。</div>	<div>準備学習（復習）</div> <div>授業内容の理解に努め、与えられた課題をきちんとこなすこと。</div>									
	<div>評価方法</div> <table><tr><td>（1）試験</td><td>50%</td><td>試験に代わるレポートあり</td></tr><tr><td>（2）小課題</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td>（3）授業参加状況</td><td>30%</td><td>授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など</td></tr></table> <div>毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる</div>		（1）試験	50%	試験に代わるレポートあり	（2）小課題	20%		（3）授業参加状況	30%
（1）試験	50%	試験に代わるレポートあり								
（2）小課題	20%									
（3）授業参加状況	30%	授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など								
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 情報メディア</div><div>・ 図書</div><div>・ 図書館</div><div>・ 書物</div></div>	<div>教科書</div> <div>ブリュノ ブラセル、荒俣 宏、Bruno Blasselle、木村 恵一 『本の歴史（「知の再発見」双書）』（創元社）</div> <div>参考書</div>									

図書館情報学演習		LIS-0-301
担当教員： 若松 昭子		
学期： 前期（ 科目： 図書館情 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L040040
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 課題設定にむけて 02. 討議：課題についての話し合い1 03. 資料検索ガイダンス 04. 予備調査 05. 討議：課題についての話し合い2 06. 資料輪読 07. 資料輪読 08. 討議：課題についての話し合い3 09. 課題研究 10. 課題研究 11. 課題研究 12. 課題研究 13. 課題研究 14. 中間発表会 15. 中間まとめ 16. 課題研究 17. 課題研究 18. 課題研究 19. 課題研究 20. 課題研究 21. 課題研究 22. 課題研究 23. 課題研究 24. 課題研究 25. 課題研究 26. 課題研究 27. 課題研究 28. 最終発表会1 29. 最終発表会2 30. 総括</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>多種多様なメディアが存在する今日では、従来の資料枠組みを越えた広範な知識や、多角度からの情報特性の把握が必要である。授業では、毎年、受講生自らがアイディアを持ち寄って一年間のテーマを決め、情報社会や図書館に関する調査研究を行うとともに、見学会や講演会等を組み合わせ総合的な演習を行う。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>司書課程で学んだ知識・技能を基に、自由なアプローチで図書館や情報について考察を行うことで、創造性と独創性を養いながら図書館情報学への総合的な理解を深める。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>図書館や情報メディアに興味を持つ学生であればだれでも歓迎。ただし一年間を通して自主的に勉学に取り組む意欲的な学生であることが条件。無断欠席は他の人に迷惑をかけるので厳禁。</div>		
<div>学びのキーワード</div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

学校経営と学校図書館（教職）		TEAT-0-210	
担当教員： 小川 三和子			
学期： 週間授		科目： 図書館情	必修・選択： 資格課程
単位： 2		コード： 6L050010	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>01. 学校図書館の意義と理念、役割</div> <div>02. 学校図書館の歴史</div> <div>03. 学校図書館の国際的な動向</div> <div>04. 教育行政と学校図書館</div> <div>05. 図書館ネットワーク</div> <div>06. 学校図書館経営</div> <div>07. 学校図書館経営</div> <div>08. 学校図書館の施設・設備</div> <div>09. 司書教諭の任務と職務</div> <div>10. 学校図書館メディアの構成</div> <div>11. 学校図書館メディアの選択・収集</div> <div>12. 学校図書館メディアの管理・提供</div> <div>13. 学校図書館活動</div> <div>14. 評価試験</div> <div>15. さまざまな図書館・まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目			
(1) 内容			
司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館の理念、教育行政と学校図書館、学校図書館経営、司書教諭の任務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館活動等について理解し、司書教諭として学校図書館経営をする上での課題を考察する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
学校図書館の意義と役割を理解し、司書教諭として学校図書館経営の方針をもち、学校図書館に関する諸計画を策定し、勤務校の学校図書館活用や読書指導の推進役になるための資質を養う。		学習指導要領を読んだり学校図書館や教育に関する書籍や新聞記事を読んだりして、今日の教育課題に関心をもち学校図書館経営の素地を養う。	
		準備学習(復習)	
		ノートを整理し、知識として理解したことと、今後とも考察していくべきこととを明確にする。	
		評価方法	
		<div>(1) 提出物50%</div> <div>(2) 評価テスト30% 14回目に行い、最終回に解説をする。</div> <div>(3) 関心・意欲20% 私語・居眠りのないように。</div>	
		出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。 提出物と評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。	
受講者に対する要望			
講義が中心となるが、作業や討論も取り入れるので、進んで学習に取り組んで欲しい。欠席した場合は、出席者に授業内容を聞いておくこと。			
学びのキーワード		教科書	
・学習センター・情報センター・読書センター			
・学校図書館経営			
・学校図書館メディア			
・学校教育		参考書	
・知識基盤社会		小川三和子「読書の指導と学校図書館」青弓社2015. 10 1800円＋税	

学校図書館メディアの構成（教職）		TEAT-0-211	
担当教員： 若松 昭子			
学期： 週間授		科目： 図書館情	必修・選択： 資格課程
単位： 2		コード： 6L051020	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】司書教諭として、学校図書館の図書その他のメディアの効果的な活用を図ることができるよう、情報を管理する力を養うこと、地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。</div>		<div>01. 学校図書館メディアの種類</div> <div>02. メディアの選択と収集</div> <div>03. 開架式と配列</div> <div>04. 分類（１）N D Cの構成と特徴</div> <div>05. 分類（２）補助表とその働き-1</div> <div>06. 分類（３）補助表とその働き-2</div> <div>07. 分類（４）分類規程</div> <div>08. 図書記号と別置記号</div> <div>09. 件名標目表</div> <div>10. 目録（１）目録の歴史と種類</div> <div>11. 目録（２）アクセスポイント</div> <div>12. 目録（３）NCRと記述の実際</div> <div>13. 機械化と標準化</div> <div>14. 書誌ユーティリティとネットワーク</div> <div>15. まとめと総合演習</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【C】学校図書館司書教諭資格：必修科目【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目</div> <div>【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目</div>			
(1) 内容			
学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。			
(2) 学びの意義と目標			
学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効率的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
授業は演習的な要素も含まれているため課題は必ずやってくることが重要です。		教科書によく目を通し、与えられた課題はきちんとこなすこと。	
		準備学習(復習)	
		与えられた課題をきちんとやってくること。	
		評価方法	
		<div>(1) 試験40% 試験に代わるレポートになる場合もあり</div> <div>(2) 小課題30%</div> <div>(3) 授業参加状況30% 授業態度、授業への取り組み姿勢や積極性など</div>	
		毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席な大幅な原点となるので注意すること。	
学びのキーワード		教科書	
<div>・学校図書館</div> <div>・学校図書館メディア</div> <div>・メディア構成</div> <div>・資料組織</div>		「シリーズ学校図書館学」編集委員会『学校図書館メディアの構成（シリーズ学校図書館学 第2巻）』（全国学校図書館協議会）	
		参考書	

学習指導と学校図書館（教職）		TEAT-0-212	
担当教員：米谷 茂則			
学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目		単位：2 コード：6L052030	
学部教育の関連目		授業計画	
【C】教師に必要な知識・技能を身につける		01. 児童生徒の学校図書館機能活用と読書についての現状理解 02. 教育課程の展開と学校図書館 03. 教育方法としての調べ学習、課題学習、課題研究 04. 情報活用能力の育成、その計画と方法 05. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習過程 06. 小学校、中学校、高等学校における調べ学習の体験の発表 07. 引用指導および調べ学習における自分の考えの形成に関する指導内容 08. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習指導案の作成 09. 情報活用能力の育成に対応した学校図書館メディアの選択 10. 情報サービス／現行教科書における調べ学習の例示 11. 学校図書館へのいざないから教科や総合学習にて使うようになるまで 12. マンガ読書からマンガ読書学習へ 13. 司書教諭の仕事 14. 学習指導案の検討／ふりかえり記録を書く 15. 学校図書館年間計画の例示／司書教諭の専門性 【学習指導案の提出】	
カリキュラム上の位置付け			
【C】学校図書館司書教諭資格：必修科目			
(1) 内容			
学習指導と学校図書館とのかかわりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。 司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。			
(2) 学びの意義と目標			
児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集、選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表までできる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。		準備学習(予習)	
		調べ学習の体験について、プリントにもとづいて、想起し発表できるようにすること。指導案の構想メモにもとづいて学習指導案を作成し、検討会にて発表できるようにしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		毎回の授業内容をふりかえり、自分で考えたことをメモしておくこと。振り返り記録の提出あり。	
		評価方法	
		(1) 発表等 20% 授業への積極的対応 (2) 振り返り記録 10% (3) 学習指導案 60% (4) 平常点 10%	
		第1回は必ず出席のこと。第1回を含め12回以上の出席が最終レポート・学習指導案提出の条件である。遅刻をしないこと。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。出席条件を満たし、最終課題を提出したことで単位が認定されるということではない。	
受講者に対する要望			
小学校免許取得の場合は国語科又は社会科の指導法科目を、中学・高校免許取得の場合は免許教科指導法科目を先に履修しているか、この科目と並行して履修していることが望ましい。			
学びのキーワード		教科書	
・教育課程の展開 ・情報活用能力の育成 ・調べ学習の学習過程 ・学校図書館機能の活用 ・司書教諭の専門性		参考書	
		必要に応じてプリントを配布するので整理しておき、次回以後の授業に持参すること。プリントの解説については、メモなどを記しておくこと。	

読書と豊かな人間性（教職）		TEAT-0-213	
担当教員： 小川 三和子			
学期： 週間授		科目： 図書館情	必修・選択： 資格課程
単位： 2		コード： 6L053040	
学部教育の関連目		授業計画	
【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと		01. 読書の意義と目的・多様な読書資料 02. 発達段階に応じた読書指導 03. 読書環境の整備と読書材の提供 04. 読書環境の整備と読書材の提供・ポップ作り 05. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ブックトーク等 06. 児童・生徒と本を結ぶための方法・読み聞かせ 07. 児童・生徒と本を結ぶための方法・アニメーション・読書会 08. 全校で取り組む読書活動 09. 各教科等での読書の指導 10. 探究的な学習と読書の指導 11. 学校経営と学校図書館、読書活動の推進 12. 読書活動推進のための連携 13. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ビブリオバトル 14. 評価試験 15. 個に応じた読書の指導	
カリキュラム上の位置付け			
【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目			
(1) 内容			
司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的、発達段階に応じた読書指導、子どもと本を結ぶための方法、各教科等における読書指導などについて考察したり、様々な読書活動を体験したりする。講義だけでなく、作業や体験、実習、討論などを取り入れた学習を展開する予定である。			
(2) 学びの意義と目標			
読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、勤務校の読書指導計画を策定し、読書活動推進の要となる司書教諭としての資質を身に付ける。また、さまざまな読書活動を率先垂範できる実践力を養う。		準備学習(予習)	
		多くの児童書に親しんで欲しい。児童書を選択して持参することを課す授業が何回かあるので、その都度必要な児童書を準備すること。ビブリオバトルを行うので、大学生としても豊かな読書生活を送ること。	
		準備学習(復習)	
		ノートを整理し、知識として学んだことと今後も考察していくべきことを明確にする。	
		評価方法	
		(1) 演習・関心・意欲 30% 演習への取り組み、授業態度等。 (2) 提出物 30% (3) 評価試験 40% 第14回に行い、最終に解説を行う。	
		出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。 提出物、演習、評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。 	
学びのキーワード		教科書	
・学校図書館 ・読書センター・学習センター・情報センター ・読書の指導・読書活動 ・学校教育 ・司書教諭の役割		小川三和子「読書の指導と学校図書館」青弓社2015. 10 1800円＋税	
		参考書	

情報メディアの活用（教職）

TEAT-0-214

担当教員：長谷川 幸代

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：6L054050

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 内容

社会全般、学校図書館における、さまざまなメディアと資料活用の意義と方法について学ぶ。効果的なメディア利用について考え、受講者それぞれのアイデアを共有していく。現代社会における情報の取り扱いの諸問題についても学ぶ。毎回授業では、前半に解説を行い、後半では各自がテーマについて自分なりの考えをまとめる。また、実際にデータベースを利用し、メディア利用に関する情報の検索を行ったり、効果的な資料・情報のアピールについて実践する。

(2) 学びの意義と目標

現在、多様な情報メディアがあふれ、何を選択しどのように扱うかという教育は非常に重要なものである。情報メディアについての歴史や特性を理解し、教育に必要な資料の活用方法を身につけ、効果的な情報提供ができることを目標とする。また、効果的なメディアの利用について発案する力を養う。さらに、情報化社会で信頼できる情報を収集したり、効果的な活用ができることを目標とする。

受講者に対する要望

身の回りの情報メディアに興味をもってほしい。信頼できる情報を選択するスキルを身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・学校図書館
- ・情報メディア
- ・司書教諭

授業計画

01. 情報メディアの概要と歴史
02. 教育における情報メディアの活用
03. 情報メディアの種類と特性
04. 情報メディアの選択と管理
05. コンピュータの教育利用（1）
06. コンピュータの教育利用（2）
07. インターネットの概要と利用
08. データベースの利用
09. メディアを利用した教育の促進（1）基本
10. メディアを利用した教育の促進（2）応用
11. メディアとコミュニケーションの理論
12. 情報メディアの活用と知的財産権
13. 情報モラルと個人情報保護
14. 情報メディアにかかわるトラブルと対策
15. さまざまなメディアと諸問題

準備学習（予習）

教科書に目を通す。

準備学習（復習）

授業のキーワードや紹介されたメディアに目を通す。課題が出た場合は、課題をこなす。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) レポート、課題 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

3分の2以上の出席が必須です。

教科書

シリーズ学校図書館学編集委員会・編 『情報メディアの活用（シリーズ学校図書館学5）』（全国学校図書館協議会）

参考書

社会教育主事課程

教育心理学（保①～⑥）

TEAT-0-201

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C301205

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目
【C】保育士資格：必修科目
【C】社会教育主事資格：必修科目

(1) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものの見方を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 学習の基礎としての条件づけ1 古典的条件づけ
06. 学習の基礎としての条件づけ2 オペラント条件づけ
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 認知発達と学習
11. 自己の発達と学習
12. 発達障害
13. 教育評価
14. 社会としての学級
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学第3版』（有斐閣）

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C301210

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目
【C】保育士資格：必修科目
【C】社会教育主事資格：必修科目

(1) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものの見方を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 学習の基礎としての条件づけ1 古典的条件づけ
06. 学習の基礎としての条件づけ2 オペラント条件づけ
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 認知発達と学習
11. 自己の発達と学習
12. 発達障害
13. 教育評価
14. 社会としての学級
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学第3版』 (有斐閣)

参考書

教育心理学（保⑦～⑫）

TEAT-0-201

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択科目

単位：1 コード：1C301215

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目
【C】幼稚園教諭一種免許：必修科目
【C】保育士資格：必修科目
【C】社会教育主事資格：必修科目

(1) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

(2) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものの見方を習得することを目標とする。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 学習の基礎としての条件づけ1 古典的条件づけ
06. 学習の基礎としての条件づけ2 オペラント条件づけ
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 認知発達と学習
11. 自己の発達と学習
12. 発達障害
13. 教育評価
14. 社会としての学級
15. 総括

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学第3版』（有斐閣）

参考書

教育心理学特論

PSYC-C-301

担当教員：鎌原 雅彦

学期：週間授 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2 コード：1C301320

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種免許：必修科目

(1) 内容

教員採用試験問題を題材とし、具体的な問題の解説を通して、教職教養としての教育心理学の知識を学ぶ。

(2) 学びの意義と目標

学びの意義と目標

教員採用試験を念頭に、教職教養としての教育心理学の知識を整理し、教育心理学的知見の体系的に理解することを目指す。

受講者に対する要望

あらかじめ問題を課すので、積極的に調べて、授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習
- ・発達

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の理論
03. 記憶
04. 学習法
05. 動機づけ
06. 教授学習
07. 発達の原理
08. 発達段階
09. 初期学習
10. 人格
11. 適応
12. 精神衛生
13. 知能
14. 教育評価
15. 総括

準備学習(予習)

予め配布する資料について調べておく。

準備学習(復習)

授業の内容を整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と発表 | 30% |

教科書

参考書

ジェンダー論(女性学)			
担当教員： 加藤 敦也			
学期： 週間授 科目： 必修・選択：			単位： 2 コード： 1P602110
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. イントロダクション：ジェンダーとは何か 02. 女性学の歴史①第1波フェミニズムから第2波フェミニズムまで 03. 女性学の歴史②第2波フェミニズムから第3波フェミニズム、現代の論点まで 04. 教育とジェンダー：女性と教育 05. 性別役割分業の問題点①家事・育児など再生産労働の問題 06. 性別役割分業の問題点?女性と就労(ジェンダー格差について) 07. ポルノグラフィと性差別 08. セクシュアル・ハラスメント 09. DV、デートDVの問題 10. 若年女性の恋愛意識と結婚(晩婚化・未婚化) 11. セクシュアル・マイノリティと社会①(LGBTQAについて) 12. セクシュアル・マイノリティと社会②(同性婚をめぐる動向) 13. 女性向けファッションとジェンダー 14. ケアとジェンダー(少子高齢化社会のジェンダー問題) 15. ジェンダー論(女性学)のまとめ	
(1) 内容			
女／男という性別の区分は、性差を定める社会的背景に応じて意味が変わると考えるのがジェンダー論である。いいかえれば、ジェンダー論は性のありように関する認知の枠組みによって編成されている社会を念頭に置き、性差を決め、それを有効にしている権力のあり方を固定的・絶対的なものと見ないとする視点を持つ学問領域である。本講義では、主に現代社会における女性の問題に焦点を当て、それをジェンダー研究の知見から説明していく。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
ジェンダー論の視座を理解することにより、女性に対する性差別の問題と現代社会におけるジェンダーに基づく不平等問題、または女性が志向するライフコースの在り方を理解してもらうことを目標とする。		各授業時に紹介する女性とジェンダーの問題について、シラバスのキーワードに沿い、関連する書籍などで調べることが望ましい。	
		準備学習(復習)	
		講義内容をまとめたノートを見直し、講義の要点を抑えておくこと。また、配布資料に沿い、講義で紹介したキーワードを関連する書籍などで調べることが望ましい。	
受講者に対する要望		評価方法	
私語は控えること。また、講義でわからないことがあった場合には、遠慮なく質問してほしい。		(1) 定期試験 70% (2) 平常点 30%	
		成績は平常点と定期試験の点数を総合的に加味して評価する。なお、毎回の授業終了時に授業に関するコメントペーパーを提出してもらう。戻れたコメントペーパーを書いたものには、加算して評価する(ただし、加算された場合も成績評価は100点を上限とする)。	
学びのキーワード		教科書	
・ジェンダー ・フェミニズム ・セクシュアリティ ・人権 ・ジェンダー・フリー		特になし。	
		参考書	
		ジェンダー論(女性学)を理解する上で重要な文献は授業中適宜指示する。	

情報と職業		INFO-P-300/INFO-L-3
担当教員： 渡辺 英人		
学期： 週間授 科目： 社会教育 必修・選択： 選択科目/資格課程		単位： 4 コード： 1P701220
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る 【L】問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 現代社会と情報（1） 02. 現代社会と情報（2） 03. 情報と職業（国内）（1） 04. 情報と職業（国内）（2） 05. 行政と情報（1） 06. 行政と情報（2） 07. 企業活動と情報（1） 08. 企業活動と情報（2） 09. 情報の収集、蓄積、再利用（1） 10. 情報の収集、蓄積、再利用（2） 11. インターネット・ビジネス（1） 12. インターネット・ビジネス（2） 13. 情報化社会と労働環境、労働感（1） 14. 情報化社会と労働環境、労働感（2） 15. 課題作成（1） 16. 課題作成（2） 17. 情報と職業（海外）（1） 18. 情報と職業（海外）（2） 19. 情報化社会の諸問題 2（1） 20. 情報化社会の諸問題 2（2） 21. 情報化社会の諸問題（1） 22. 情報化社会の諸問題（2） 23. 情報化社会の将来予測（1） 24. 情報化社会の将来予測（2） 25. 課題作成（1） 26. 課題作成（2） 27. 情報化社会とマスメディア（1） 28. 情報化社会とマスメディア（2） 29. 課題作成（1） 30. 課題作成（2）</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【L】社会教育主事資格：選択必修科目 【L】情報コース：基幹科目 【L】高等学校教諭一種免許：情報必修科目【P】社会教育主事資格：選択必修科目 【P】情報コース：基幹科目 【P】高等学校教諭一種免許：情報必修科目 【P】社会教育主事資格：選択必修科目 【P】情報コース：基幹科目 【P】高等学校教諭一種免許：情報必修科目【全】社会教育主事資格：選択必修科目 【全】情報コース：基幹科目</div>		
<div>（1）内容</div> <div>現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。</div>		
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>社会と情報との関係を具体的な例を使いながら、詳しく説明する。社会の中で生きるために必要不可欠な知識となるように学ぼう。</div>		<div>準備学習（予習）</div> <div>前週までにテーマと資料を提供するので、復習および予習をすること。</div>
		<div>準備学習（復習）</div> <div>授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作ること。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>各種資格試験、就職試験でも必ず役に立つ内容である。積極的に学ぶこと。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>（1）授業への積極的参加、発言など40%</div><div>（2）課題作成30%</div><div>（3）試験30%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 社会における情報</div><div>・ 情報化社会に生きる</div><div>・ 法、政治、経済、生活と情報</div></div>		<div>教科書</div> <div>参考書</div>

生涯学習概論 A		ADED-P-200/ADED-L-2	
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 社会教育 必修・選択： 選択科目/資格課程	単位： 2 コード： 1PF00111
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)</div> <div>03. 社会教育の定義（教育基本法、社会教育法）</div> <div>04. 生涯教育の理念(1)</div> <div>05. 生涯教育の理念(2)</div> <div>06. 社会教育から生涯教育そして生涯学習へ（何がちがうのか？）</div> <div>07. 生涯教育の理念と社会背景(1)（各国の生涯教育の事情）</div> <div>08. 生涯教育の理念と社会背景(2)（わが国の教育改革と生涯学習体系への移行）</div> <div>09. 生涯教育の理念と社会背景(3)（急激な社会変化への適応）</div> <div>10. 生涯教育の理念と社会背景(5)（平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題）</div> <div>11. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？）</div> <div>12. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、戦後の青少年の非行など）</div> <div>13. 生涯教育の理念への批判</div> <div>14. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【L】PUPR-SUBJ【P】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【P】PUPR-SUBJ</div> <div>【P】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【P】PUPR-SUBJ【全】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【全】PUPR-SUBJ</div>			
(1) 内容			
<p>2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。</p> <p>また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。</p>			
(2) 学びの意義と目標			
<p>生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につなげる事項の理解を目指す。</p>		準備学習(予習)	
		<p>毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。</p>	
		準備学習(復習)	
		<p>授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。</p>	
		評価方法	
		<div>(1) 出席点30%</div> <div>(2) 試験70%</div>	
受講者に対する要望			
<p>前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。</p>			
学びのキーワード		教科書	
<div>・社会教育の理念</div> <div>・生涯教育・生涯学習</div> <div>・生涯発達論</div> <div>・発達課題</div> <div>・学歴社会の是正</div>		鈴木眞理『生涯学習概論』（樹村房）	
		参考書	

生涯学習概論B		ADED-P-200/ADED-L-2							
担当教員： 小池 茂子									
学期： 週間授		科目： 社会教育 必修・選択： 選択科目/資格課程	単位： 2 コード： 1PF00212						
学部教育の関連目		授業計画							
<div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>01. 教育の民主化と社会教育</div> <div>02. 教育基本法・社会教育法と社会教育</div> <div>03. 社会教育から生涯学習の理念へ（1）何が新たな展開として出現したか</div> <div>04. 社会教育から生涯学習の理念へ（2）生涯学習と社会教育の違いとは？</div> <div>05. 生涯学習振興と公民館（1）公民館の成り立ちから今日へ</div> <div>06. 生涯学習振興と公民館（2）公民館とコミュニティ</div> <div>07. 生涯学習振興と公民館（3）学習機会の設定に関する理論（学習要求と必要課題の視点から）</div> <div>08. まちづくりと公民館活動（特色ある公民館活動の紹介）</div> <div>09. 自分の住んでいるまちの公民館を調べてみよう</div> <div>10. 私の暮らしているまちの地域課題（調べた結果の紹介）</div> <div>11. 生涯学習振興と博物館（1）博物館の成り立ち</div> <div>12. 生涯学習振興と博物館（2）博物館・学校・地域との連携事業</div> <div>13. まちづくりと博物館（特色ある博物館活動の紹介）</div> <div>14. 指定管理者制度と社会教育施設をめぐる議論</div> <div>15. まとめ</div>							
カリキュラム上の位置付け									
<div>【L】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【L】PUPR-SUBJ【P】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【P】PUPR-SUBJ</div> <div>【P】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【P】PUPR-SUBJ【全】社会教育主事資格：必修科目</div> <div>【全】PUPR-SUBJ</div>									
(1) 内容									
<p>本講義では第1に、我が国戦後の社会教育の理念について学ぶ。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年代半ば以降の教育答申等の内容を通して捉える。第3に、社会教育施設として設置された、公民館、公共図書館、博物館活動について成り立ちと機能について取り上げ、生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズや、まちづくりとの関連において21世紀に求められる諸機能と課題について展望する。</p>									
<p>社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられている。（勿論、資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。）</p>									
(2) 学びの意義と目標									
<p>社会教育から生涯学習の時代へと、今日いわれるところの生涯学習振興政策がどのような経緯から生まれて来たのか、また生涯学習社会の実現に向けて、今日の社会教育施設に求められる教育的機能について理解する。</p>									
受講者に対する要望		準備学習(予習)							
<p>今日の社会の中にある、生涯学習の現場に関心を注ぎながら講義に臨んでほしい。</p>		<p>配布資料を事前に読みこんで、毎回の授業に臨むこと。</p>							
		準備学習(復習)							
		<p>授業時に配布した資料を、講義終了後ノートと照合し、学びの内容を定着させること。</p>							
		評価方法							
		<table><tr><td>(1) 出席点</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) 平常点</td><td>20%</td></tr><tr><td>(3) 試験</td><td>50%</td></tr></table>		(1) 出席点	30%	(2) 平常点	20%	(3) 試験	50%
(1) 出席点	30%								
(2) 平常点	20%								
(3) 試験	50%								
学びのキーワード		教科書							
<ul style="list-style-type: none">・ 社会教育・ 生涯学習・ 公民館とまちづくり・ 博物館・ 社会教育施設の今日的課題		<p>鈴木眞理 『生涯学習概論』（樹村房）</p>							
		参考書							

社会教育計画 A

ADED-P-200/ADED-L-2

担当教員： 安齋 聡子

学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程

単位：2 コード：1PF00321

学部教育の関連目

【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得
【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【L】社会教育主事資格：必修科目 【P】社会教育主事資格：必修科目
【P】社会教育主事資格：必修科目 【全】社会教育主事資格：必修科目

(1) 内容

この授業では、秋学期の「社会教育計画B」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を解説する。社会教育の基本的な理解、社会教育の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていくこととする。

(2) 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とする。

すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐむ諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

学びのキーワード

- 生涯學習
- 社會教育

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会教育の概念
03. 社会教育計画の概念（１）
04. 社会教育計画の概念（２）
05. 社会教育における地域
06. 社会教育における施設
07. 社会教育における集団（１）
08. 社会教育における集団（２）
09. 社会教育におけるボランティア（１）
10. 社会教育におけるボランティア（２）
11. 社会教育における参加（１）
12. 社会教育における参加（２）
13. 社会教育における学習プログラム（１）
14. 社会教育における学習プログラム（２）
15. まとめ

準備學習(予習)

受講前の予備知識は特に問わない。事前配布等資料の指定があった場合は、その資料に目を通してくること。

準備學習(復習)

各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めること。

評価方法

- | | |
|-----------|--------------------|
| (1) 授業内応答 | 40% |
| (2) 期末試験 | 60% 15回目の授業内で実施する。 |

教科書

参考書

社会教育計画B

AEED-P-200/AEED-L-2

担当教員： 安齋 聡子

學期：週間授 科目：社會教育 必修・選択：選択科目/資格課程

単位：2 コード：1PF00422

学部教育の関連目

【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得
【1】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける。

カリキュラム上の位置付け

【L】社会教育主事資格：必修科目 【P】社会教育主事資格：必修科目
【P】社会教育主事資格：必修科目 【全】社会教育主事資格：必修科目

(1) 内容

この授業では、春学期の「社会教育計画A」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を解説する。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていくこととする。

(2) 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とする。

この受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

学びのキーワード

- 生涯學習
- 社會教育

授業計画

01. 社会教育における学習者（１）
02. 社会教育における学習者（２）
03. 社会教育における学習支援（１）
04. 社会教育における学習支援（２）
05. 社会教育における学習情報
06. 社会教育における大学
07. 社会教育における連携（１）
08. 社会教育における連携（２）
09. 社会教育における評価（１）
10. 社会教育における評価（２）
11. 社会教育行政の変遷
12. 社会教育計画をめぐる課題（１）
13. 社会教育計画をめぐる課題（２）
14. 社会教育計画をめぐる課題（３）
15. まとめ

準備學習(予習)

受講前の予備知識は特に問わない。事前配布等資料の指定があった場合は、その資料に目を通してくること。

準備學習(復習)

各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めること。

評価方法

- | | |
|-----------|--------------------|
| (1) 授業内応答 | 40% |
| (2) 期末試験 | 60% 15回目の授業内で実施する。 |

教科書

参考書

社会教育課題研究 A

ADED-P-200/ADED-L-2

担当教員： 安齋 聡子

学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程

単位：2 コード：1PF00531

学部教育の関連目

【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得
【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

[L] 社会教育主事資格：選択必修科目 **[P]** 社会教育主事資格：選択必修科目
[P] 社会教育主事資格：選択必修科目 **[全]** 社会教育主事資格：選択必修科目

(1) 内容

この授業では、生涯学習支援のための社会教育施設を概観した上で、各施設における活動や運営における課題について把握する。

(2) 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる事項を身につけることを目標とする。

すべての受講生においては、社会教育をめぐる現状を把握し、それらの諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講者に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

学びのキーワード

- 生涯學習
- 社會教育

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会教育における施設の体系
03. 社会教育における施設の作られ方
04. 社会教育における施設（１）
05. 社会教育における施設（２）
06. 社会教育における施設（３）
07. 社会教育における施設（４）
08. 社会教育における施設（５）
09. 社会教育における施設（６）
10. 社会教育における施設（７）
11. 社会教育における施設（８）
12. 社会教育施設をめぐる環境（１）
13. 社会教育施設をめぐる環境（２）
14. 社会教育施設をめぐる環境（３）
15. まとめ

準備學習(予習)

受講前の予備知識は特に問わないが、授業ごとに必要となる予習内容について指示をする。

準備學習(復習)

各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内応答 | 40% |
| (2) 期末試験 | 60% |

教科書

参考書

社会教育課題研究B		ADED-P-200/ADED-L-2							
担当教員： 安斎 聡子									
学期： 週間授		科目： 社会教育 必修・選択： 選択科目/資格課程	単位： 2 コード： 1PF00632						
学部教育の関連目		授業計画							
<div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		01. 前期のまとめと後期のガイダンス 02. 社会教育施設における学習機会（1） 03. 社会教育施設における学習機会（2） 04. 社会教育施設における学習機会（3） 05. 社会教育施設における学習機会（4） 06. 社会教育施設における学習機会（5） 07. 授業内報告（1） 08. 授業内報告（2） 09. 授業内報告（3） 10. 授業内報告（4） 11. 授業内報告（5） 12. 授業内報告（6） 13. 授業内報告（7） 14. 授業内報告（8） 15. まとめ							
カリキュラム上の位置付け									
<div>【L】社会教育主事資格：選択必修科目【P】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【P】社会教育主事資格：選択必修科目【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>									
(1) 内容									
<p>春学期の「社会教育課題研究A」をふまえ、社会教育施設における学習機会とそれぞれの特徴、課題を整理する。</p> <p>また、それらの具体的な活動について、受講者自身で資料収集、現地見学等を行い報告をしてもらう。</p>									
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)							
<p>社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる事項を身につけることを目標とする。</p> <p>すべての受講生においては、社会教育をめぐる現状を把握し、それらの諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。</p>		<p>受講前の予備知識は特に問わない。授業内報告にあたり、事前に資料収集や現地見学を行い発表内容をまとめること（具体的な方法については授業内で説明する）。</p>							
		準備学習(復習)							
		<p>各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めること。</p>							
受講者に対する要望		評価方法							
<p>受講者自身がそれぞれの視点で社会教育施設における学習機会を確認するとともに、自らの学習・教育活動の経験とあわせて、各施設で展開されている活動の意義を考えられるようになることを希望する。</p>		<table><tr><td>(1) 授業内応答</td><td>10%</td></tr><tr><td>(2) 授業内報告</td><td>40% 原則1人1回の報告とする。</td></tr><tr><td>(3) 期末試験</td><td>50% 15回目の授業内で実施する。</td></tr></table> <p>出席を前提とする。</p>		(1) 授業内応答	10%	(2) 授業内報告	40% 原則1人1回の報告とする。	(3) 期末試験	50% 15回目の授業内で実施する。
(1) 授業内応答	10%								
(2) 授業内報告	40% 原則1人1回の報告とする。								
(3) 期末試験	50% 15回目の授業内で実施する。								
学びのキーワード		教科書							
<ul style="list-style-type: none">生涯学習社会教育		参考書							

現代社会と社会教育 A		ADED-P-200/ADED-L-3	
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 社会教育 必修・選択： 選択科目/資格課程	単位： 2 コード： 1PF00741
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>01. 日本社会の高齢化の状況と将来推計</div> <div>02. 戦前の高齢者の社会的地位（家長制度、尊属優位の民法規定）</div> <div>03. 1960年代以降のわが国の高齢者を対象とする政策の変遷</div> <div>04. 高齢期の幸せな生活をめぐる主張（活動理論と離脱理論等）</div> <div>05. 生涯発達理論について</div> <div>06. 加齢と知的能力(1)</div> <div>07. 加齢と知的能力(2)</div> <div>08. 成人後期の発達と危機（高齢期の発達課題）</div> <div>09. 成人後期の発達と危機（高齢期の生活課題）</div> <div>10. 高齢者の特性を活かした教育学(gerogogy)の理論</div> <div>11. 高齢者の特性を活かした、有効な学習方法</div> <div>12. 高齢者の学習関心・学習要求（1）</div> <div>13. 高齢者の学習関心・学習要求（2） </div> <div>14. 具体的な教育実践</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】コミュニティコース：応用科目【P】コミュニティコース：応用科目</div> <div>【P】コミュニティコース：応用科目【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>			
(1) 内容			
<div>1. 内容</div> <div>本講義では、高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なかんずく高齢者の教育学（gerogogy）理論について論じることとする。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。</div>			
<div>2. カリキュラム上の位置づけ</div> <div>資格取得を目指さない学生の受講ももちろん歓迎する。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>成人の生涯発達の支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として（或いは一個人として）、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<div>遅刻、無断欠席は厳禁とする。</div>		<div>講義の中で紹介する、文献、資料等に事前に目を通して講義に臨むこと。
</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>毎回、授業の講義ノートの整理をすること。</div>	
		評価方法	
		<div>(1) 出席点25%</div> <div>(2) 平常点25%</div> <div>(3) 試験50%</div>	
学びのキーワード		教科書	
<div>・ 少子高齢化</div> <div>・ 老年学</div> <div>・ 成人の学習理論</div> <div>・ ジェロゴジー</div> <div>・ 加齢と知能</div>		<div>堀薫夫・三輪建二 『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会）</div>	
		参考書	

現代社会と社会教育B		ADED-P-200/ADED-L-3	
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 社会教育	必修・選択： 選択科目/資格課程
単位： 2		コード： 1PF00842	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div> <div>【L】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</div>		<div>01. オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向</div> <div>02. 青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化</div> <div>03. 青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題</div> <div>04. 非行原因論の系譜（１）</div> <div>05. 非行原因論の系譜（２）</div> <div>06. 教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論</div> <div>07. 学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論</div> <div>08. 学校教育における奉仕活動の必修化をどう考えるか（協議）</div> <div>09. 青少年教育における奉仕活動をめぐる議論のまとめ</div> <div>10. わが国における「死の準備教育」提唱の背景とその内容</div> <div>11. 「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」をめぐる議論について</div> <div>12. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果</div> <div>13. 学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム</div> <div>14. 初等・中等教育学校段階における「死の準備教育―実践事例の紹介―」</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【L】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【L】コミュニティコース：応用科目【P】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【P】コミュニティコース：応用科目</div> <div>【P】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【P】コミュニティコース：応用科目【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div> <div>【全】コミュニティコース：応用科目</div>			
(1) 内容			
<div>1. 内容</div> <div>第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。</div>			
<div>2. カリキュラム上の位置づけ</div> <div>資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。</div>			
受講者に対する要望		準備学習(予習)	
<div>本講義では現代社会の中に存在する青年期の教育を取り巻く課題について取り上げる。そして、そこには正答というものがない。したがって受講生が、あるいは受講生同士が意見の交換を通じて一つ一つの課題について、自分の問題として考えることを期待したい。</div>		<div>講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。</div>	
		準備学習(復習)	
		<div>講義の中で小リポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題リポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。</div>	
学びのキーワード		評価方法	
<div>・ 青少年期の発達特性</div> <div>・ ポストモダン</div> <div>・ 奉仕活動の義務化</div> <div>・ シティズンシップ教育</div> <div>・ 生と死の準備教育</div>		<div>(1) 出席点25%</div> <div>(2) 平常点25%</div> <div>(3) レポート点50%</div>	
		教科書	
		参考書	
		<div>講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。</div>	

教育心理学		TEAT-0-201	
担当教員： 橋本 和幸			
学期： 週間授		科目： 専門科目	必修・選択： 選択科目
単位： 4		コード： 1W220424	
学部教育の関連目		授業計画	
【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける		01. イントロダクション：授業の進め方、教育心理学とは何かなど 02. 発達の理論 03. 各時期の発達の様相① 04. 各時期の発達の様相② 05. 学習の理論① 06. 学習の理論② 07. 教授と学習① 08. 教授と学習② 09. 動機づけの理論① 10. 動機づけの理論② 11. 知能と学力① 12. 知能と学力② 13. 教育の評価① 14. 教育の評価② 15. 授業の実践と研究① 16. 授業の実践と研究② 17. 学級集団① 18. 学級集団② 19. パーソナリティの問題と生徒理解① 20. パーソナリティの問題と生徒理解② 21. 問題行動と教育相談① 22. 問題行動と教育相談② 23. 問題行動と教育相談③ 24. 発達の問題① 25. 発達の問題② 26. 発達の問題③ 27. 教育実践の記述 28. 教育実践と教育心理学 29. まとめ① 30. まとめ②	
カリキュラム上の位置付け			
【W】社会教育主事資格：必修科目 【W】認定心理士認定資格(W学科)：選択科目 【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】社会教育主事資格：必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】中学校教諭一種免許：(共通)必修科目 【全】社会教育主事資格：必修科目			
(1) 内容			
この授業は、子どもの発達や学習などの仕組みについて、教員になった時に役立てられるような心理学の知識や考え方を提供することを目的とする。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
・現代の子どもの特徴について理解し、子どもが成長するために必要とされる事柄を説明出来る。 ・各回の内容から、青年期に至るまでの発達の経過や発達障害等の問題についても理解を深める。 ・授業で提示された様々な用語を理解し、他者に説明することが出来る。 ・自身が教員になった時のことを想定しながら、講義を聴くことが出来る。		指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業で配布されたプリントと、教科書を読み比べて理解を深めること。	
		評価方法	
		(1) 試験 70% (2) 授業内課題 30%	
受講者に対する要望			
教科書を指定するので、事前に該当箇所を読んでおくことを求めます。また、積極的な質問や感想をお待ちしています。			
学びのキーワード		教科書	
・教育心理学 ・発達心理学 ・パーソナリティ心理学 ・臨床心理学		田中智志・橋本美保監修 『新・教職課程シリーズ 教育心理学』（一藝社）【ISBN 978-4-86359-060-1】	
		参考書	

教育心理学（PAJ(W) 教職）		TEAT-0-201
担当教員：橋本 和幸		
学期： 週間授 科目： 教職課程/ 必修・選択： 教職科目/資格課程		単位： 4 コード： 5T200216
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. イントロダクション：授業の進め方、教育心理学とは何かなど</div> <div>02. 発達の理論</div> <div>03. 各時期の発達の様相①</div> <div>04. 各時期の発達の様相②</div> <div>05. 学習の理論①</div> <div>06. 学習の理論②</div> <div>07. 教授と学習①</div> <div>08. 教授と学習②</div> <div>09. 動機づけの理論①</div> <div>10. 動機づけの理論②</div> <div>11. 知能と学力①</div> <div>12. 知能と学力②</div> <div>13. 教育の評価①</div> <div>14. 教育の評価②</div> <div>15. 授業の実践と研究①</div> <div>16. 授業の実践と研究②</div> <div>17. 学級集団①</div> <div>18. 学級集団②</div> <div>19. パーソナリティの問題と生徒理解①</div> <div>20. パーソナリティの問題と生徒理解②</div> <div>21. 問題行動と教育相談①</div> <div>22. 問題行動と教育相談②</div> <div>23. 問題行動と教育相談③</div> <div>24. 発達の問題①</div> <div>25. 発達の問題②</div> <div>26. 発達の問題③</div> <div>27. 教育実践の記述</div> <div>28. 教育実践と教育心理学</div> <div>29. まとめ①</div> <div>30. まとめ②</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【W】社会教育主事資格：必修科目 【W】認定心理士認定資格（W学科）：選択科目 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】社会教育主事資格：必修科目 【全】高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】中学校教諭一種免許：（共通）必修科目 【全】社会教育主事資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>この授業は、子どもの発達や学習などの仕組みについて、教員になった時に役立てられるような心理学の知識や考え方を提供することを目的とする。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>・現代の子どもの特徴について理解し、子どもが成長するために必要とされる事柄を説明出来る。 ・各回の内容から、青年期に至るまでの発達の経過や発達障害等の問題についても理解を深める。 ・授業で提示された様々な用語を理解し、他者に説明することが出来る。 ・自身が教員になった時のことを想定しながら、講義を聴くことが出来る。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>教科書を指定するので、事前に該当箇所を読んでおくことを求めます。
また、積極的な質問や感想をお待ちしています。</div>	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で配布されたプリントと、教科書を読み比べて理解を深めること。</div>	
	<div>評価方法</div> <div>(1) 試験70%</div> <div>(2) 授業内課題30%</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div>・教育心理学 ・発達心理学 ・パーソナリティ心理学 ・臨床心理学</div>	<div>教科書</div> <div>田中智志・橋本美保監修 『新・教職課程シリーズ 教育心理学』（一藝社）【ISBN 978-4-86359-060-1】</div> <div>参考書</div>	

担当教員：梅澤 希恵

学期：週間授 科目：教職課程/ 必修・選択：教職科目/資格課程

単位：2 コード：5T200322

学部教育の関連目

【全】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目
【全】社会教育主事資格：選択必修科目

(1) 内容

本講義では、学校の日々の教育活動から年間の計画策定・実施、教育行政に関わる組織の諸活動といった内容について、制度的・政策的な背景を踏まえ考察していきます。学校やその他教育行政に関わる諸組織の活動がどのような制度に基づき、どのような計画に従って行われているのか、今日の社会の在り方や政策の動向も踏まえて包括的に考えていくことが本講義の内容です。

(2) 学びの意義と目標

「教育」と「経営」という言葉は、一見するとあまり関連がないようなイメージを持たれるかもしれませんが。しかし、日々の学校の活動が何の計画もない行き当たりばったりのものであったり、国や自治体の教育政策が目先のできごとへの対応ばかりであったりすると、教育という営みはそもそも成り立たなくなってしまいます。児童生徒として学校に通う中では、あるいは日常の社会生活の中ではあまり触れることのない中長期的な政策のビジョンや制度に触れることを通じて、学校や教育行政の活動を俯瞰的に捉えられるようになることが本講義の目標です。

また、教育に対する俯瞰的な視点を養うことは、誰もが経験するがゆえに逆に「自分の経験のみに即して」語りがちになってしまう教育という営みに対して、自らの経験を相対化して捉え直すことにもつながります。自らの経験のみに縛られない多角的な視野を養うことが本講義における学びの意義です。

受講者に対する要望

講義の中では毎回時事的な話題を取り上げる予定です。受講生の皆さんも新聞やニュース等を通じ、積極的な情報収集に努めてください。

学びのキーワード

- ・学校のマネジメント
- ・教育制度・教育政策
- ・教育行財政
- ・学校教職員
- ・学校と地域との関係

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教育法規の体系と教育基本法
03. 学習指導要領とカリキュラムマネジメント
04. 学級経営と学級の適正規模
05. 学校の管理・経営と学校評価
06. 教員の養成・研修と教員免許更新制
07. 「開かれた学校づくり」、学校と地域との関係
08. 自治体教育行政と教育委員会制度改革
09. 社会教育・生涯学習政策
10. 国の教育行政のしくみと教育振興基本計画
11. 公教育・学校教育と「子どもの貧困」
12. いじめ問題と学校の「病理」
13. 学校と社会との接続をめぐる諸問題
14. 「チーム学校」と教育経営の「裏方」
15. 講義のまとめ

準備学習(予習)

日々のニュースや新聞等を通じ、授業に関連する時事的な話題の情報収集を行ってください。

準備学習(復習)

講義時の配布資料のほか、Moodleにも補助教材をUPします。適宜参照しつつ、各回の内容を振り返るようにしてください。

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|---------------------------------------|
| (1) 学期末試験 | 60% | 試験を予定していますが、受講者数によってはレポートで代える場合もあります。 |
| (2) 各回のリアクションペーパー | 40% | 毎回、授業の最後にリアクションペーパーの記入をお願いします。 |

教科書

特定の教科書は用いません。各回、レジュメを配布します。

参考書

各回のレジュメに、講義内容に即した参考文献リストを添付します。

生涯学習概論		LIS-0-201	
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目： 図書館情	必修・選択： 資格課程/必修科目
単位： 2		コード： 6L001010	
学部教育の関連目		授業計画	
<div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>01. オリエンテーション</div> <div>02. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)</div> <div>03. 社会教育の定義（教育基本法、社会教育法）</div> <div>04. 生涯教育の理念(1)</div> <div>05. 生涯教育の理念(2)</div> <div>06. 社会教育から生涯教育そして生涯学習へ（何がちがうのか？）</div> <div>07. 生涯教育の理念と社会背景(1)（各国の生涯教育の事情）</div> <div>08. 生涯教育の理念と社会背景(2)（わが国の教育改革と生涯学習体系への移行）</div> <div>09. 生涯教育の理念と社会背景(3)（急激な社会変化への適応）</div> <div>10. 生涯教育の理念と社会背景(5)（平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題）</div> <div>11. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？）</div> <div>12. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、戦後の青少年の非行など）</div> <div>13. 生涯教育の理念への批判</div> <div>14. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策</div> <div>15. まとめ</div>	
カリキュラム上の位置付け			
<div>【全】司書資格：必修科目</div>			
(1) 内容			
<div>2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。 また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。</div>			
(2) 学びの意義と目標			
<div>生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。</div>			
受講者に対する要望			
<div>前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。
資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。</div>			
学びのキーワード		評価方法	
<div>・ 社会教育の理念</div> <div>・ 生涯教育・生涯学習</div> <div>・ 生涯発達論</div> <div>・ 発達課題</div> <div>・ 学歴社会の是正</div>		<div>(1) 出席点</div> <div>30%</div> <div>(2) 試験</div> <div>70%</div>	
		教科書	
		鈴木眞理 『生涯学習概論』（樹村房）	
		参考書	

図書館情報学概論		LIS-0-202
担当教員： 若松 昭子		
学期： 週間授 科目： 社会教育 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L022020
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 図書館の定義 02. 図書館の種類 03. 図書館の理念 04. 情報社会と図書館 05. 図書館の自由に関する宣言 06. 図書館員の倫理綱領 07. 図書館に関する法規 08. 公立図書館の制度と機能 1 09. 公立図書館の制度と機能 2 10. 学校図書館の制度と機能 11. 大学図書館の制度と機能 12. 専門図書館の制度と機能 13. 国立図書館の制度と機能 14. 図書館間の相互協力 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目 【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。
</div>		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 試験またはレポート</div><div>40%</div></div><div><div>(2) 各授業時の課題</div><div>35%</div></div><div><div>(3) 授業態度や授業への参加度</div><div>25%</div></div></div> <div>毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 図書館</div><div>・ 情報社会</div></div>		<div>教科書</div> <div>塩見 昇 『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1)』 (日本図書館協会)</div> <div>参考書</div>

図書館情報学概論		LIS-0-202
担当教員： 若松 昭子		
学期： 週間授 科目： 社会教育 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6L022021
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 図書館の定義 02. 図書館の種類 03. 図書館の理念 04. 情報社会と図書館 05. 図書館の自由に関する宣言 06. 図書館員の倫理綱領 07. 図書館に関する法規 08. 公立図書館の制度と機能 1 09. 公立図書館の制度と機能 2 10. 学校図書館の制度と機能 11. 大学図書館の制度と機能 12. 専門図書館の制度と機能 13. 国立図書館の制度と機能 14. 図書館間の相互協力 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目 【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>積極的な授業参加を望む。
</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業時に課す小課題をきちんとなすこと。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div><div>(1) 試験またはレポート</div><div>40%</div></div><div><div>(2) 各授業時の課題</div><div>35%</div></div><div><div>(3) 授業態度や授業への参加度</div><div>25%</div></div></div> <div>毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 図書館</div><div>・ 情報社会</div></div>		<div>教科書</div> <div>塩見 昇 『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1)』 (日本図書館協会)</div> <div>参考書</div>

図書館制度・経営論		LIS-0-203
担当教員：三日市 紀子		
学期：週間授 科目：社会教育 必修・選択：資格課程		単位：2 コード：6L023030
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 図書館制度・図書館経営とは・基本用語の確認 02. 図書館に関わる法体系 03. 図書館法逐条解説（１）総則 04. 図書館法逐条解説（２）公立図書館および私立図書館 05. 他館種の図書館に関する法律など 06. 図書館サービス関連法規 07. 図書館政策（国、地方公共団体） 08. 公共機関・施設の経営方法 09. 図書館の組織・職員 10. 図書館の施設・設備 11. 図書館のサービス計画と予算の確保 12. 図書館業務・サービスの調査と評価 13. 図書館の管理形態の多様化 14. 図書館制度・経営に関わる諸問題 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】司書資格：必修科目 【全】社会教育主事資格：選択必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>図書館に関する法律や関連領域の法律、図書館政策について概観し、図書館経営の考え方、職員や施設などの資源、サービス計画、予算、サービスの評価、管理形態の多様化について解説する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本科目の履修を通じて、図書館で働くにあたって必要な図書館制度や図書館経営の知識を習得する。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で触れた内容を振り返り、思考を整理することを求める。 （適宜、内容を振り返る課題を課することもある）</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>グループ討論を行うときは積極的に行うこと。携帯電話を授業中に使用しないこと。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1) 試験 50% 6割以上の正解率が必須である。 (2) 課題提出・授業内ミニテスト 50% 授業内および授業外で課する課題（プリント）提出</div> <div>ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数数の3分の2以上であることを条件とする。
</div>
<div>学びのキーワード</div>		<div>教科書</div> <div>プリントを配布する。</div> <div>参考書</div> <div>授業時に提示する。</div>

社会教育実習		CREE-0-101
担当教員： 小池 茂子		
学期： 前期（ 科目： 社会教育 必修・選択： 資格課程		単位： 2 コード： 6S002020
<div>学部教育の関連目</div> <div>【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得</div>		<div>授業計画</div> <div>01. ガイダンス 02. 事前指導 03. 事前指導 04. 事前指導 05. 事前指導 06. 現場実習1～2週間 07. 事後指導（各1回ずつ） 08. 実習報告会 09. 実習報告書の作成 10. 実習報告書の作成 11. 実習報告書の作成 12. 実習報告書の作成 13. 実習報告書の発表と検討（1） 14. 実習報告書の発表と検討（2） 15. まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>【全】社会教育主事資格：必修科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>社会教育行政機関や社会教育施設など生涯学習と関連のある機関・施設において、それら機関・施設の専門職員の直接的な指導もとで、機関・施設の管理、運営、事業の実施などについて参加体験を行い、それらの経験を通して社会教育主事に求められる資質と能力の基礎を培うことを目的とする。 本実習の単位は、社会教育関係施設・機関において、原則として1～2週間の実習を行い、かつ、大学での授業（講義、施設見学）を受講し、所定の要件を満たした者に与えられる。 授業の内容は1. ガイダンス（1回） 2. 事前指導（4回－社会教育施設運営・職員論を中心とした講義） 3. 現場実習（1～2週間） 4. 事後指導（1回） 5. 報告会から構成する。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>1. 社会教育行政機関や社会教育施設など生涯学習と関連のある機関・施設において、それら機関・施設の専門職員の直接的な指導もとで、機関・施設の管理、運営、事業の実施などについて参加体験を行い、生涯学習推進の具体的施策について学ぶ。 2. 実習を通して社会教育主事に求められる専門能力の基礎を培うことを目標とする。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>つぎの授業で取り扱うテーマに関する宿題を課すので、それをして授業に臨むこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>実習では生涯学習・社会教育の現場で行政職員の直接的な指導を受けて実習に取り組ませていただくことになるので、学生気分を捨て社会人としての責任、言葉づかい、態度などを自らに課して、実習に取り組むこと。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>生涯学習推進について、実際どのような施策が展開されているか、自らの日常生活の中で注意を払いつつ生活し、現場での実習に向けた準備を行うようにする。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 出席点</div><div>30%</div><div>(2) 平常点</div><div>30%</div><div>(3) 実習の評価</div><div>40%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ 生涯学習推進</div><div>・ 社会教育施設</div><div>・ まちづくりと生涯学習</div><div>・ 社会教育主事の専門性</div><div>・ 教育委員会</div></div>		<div>教科書</div> <div>鈴木眞理 『生涯学習概論』（樹村房）</div> <div>参考書</div>

政治政策学研究科

政治・政策学研究	
担当教員：平 修久、柴田 武男、菊地 順、阿久戸 光晴、谷口 隆一郎、石川 裕一郎、大高 研道、小松崎 利明、森分 大輔、金子 毅、八木 規子、木村 裕二、吉川 保弘 学期：週間授 科目： 必修・選択： 単位：2 コード：P2100102	
学部教育の関連目	授業計画
カリキュラム上の位置付け	01. 政治・政策学の基本精神【阿久戸】 02. キリスト教とデモクラシー【菊地】 03. 組織成員の多様性と経営【八木】 04. 政治学における思想史研究の課題【森分】 05. 国際法規範と安全保障政策【小松崎】 06. 日本国憲法の共和主義的可能性——比較法的観点から【石川】 07. 企業取引と租税回避行為の否認【吉川】 08. 企業会計と税務会計（申告）【野田】 09. 所得区分をめぐる問題 - 事業所得と給与所得を中心として【佐藤】 10. 裁判と政策形成【木村】 11. 企業不祥事の本質と課題～公認不正検査士の活動を通して～【柴田】 12. 近代主義の出来と陥穽【谷口】 13. リスクを回避する日本の経営【金子】 14. 社会的排除問題とたたかう社会的企業【大高】 15. 市民自治を考える【平】
(1) 内容 政治政策学研究科の科目は、国際平和、税法、経済・経営、地域共生（まちづくり）、情報コミュニケーションから構成されている。本科目は、政治政策学研究科の専任教員全員がオムニバス形式で実施し、本研究科の学び全体を俯瞰するものである。そのため、講義内容は、国際平和の元となる政治、企業活動、法律、税、コミュニティ、公共政策というように、将来を見通しにくい現代社会で活躍するために必要な基本的考え方や知識を幅広くカバーしている。	
(2) 学びの意義と目標 このオムニバス講義は、本大学院の理念にふさわしく、受講者が社会知を刺激的に刷新するようなフレッシュな視点と、認識・思考方法を修得することを目的としている。	準備学習(予習) 各回の講義に関連すると思われるキーワードの意味を確認するとともに、関連する質問事項を予め考えておくこと。
	準備学習(復習) 各教員ごとに独立した内容であるので、これを受講者各自で総合し、レポートの作成の背景知識にすること。
受講者に対する要望 講義内容が多岐に亘るが、大学院全体での学びや、修士論文の作成の基礎となることを理解し、積極的に授業に参加することを期待する。	評価方法 (1) 授業への参加度合い 20% (2) レポート 80% <small> ・レポート問題は各担当教員が担当する。 ・レポートでは、授業中に講義した内容を基に、授業で学んだ知識を応用し、分析・考察を要する。 ・問題は簡単、簡単よりそれ以上困難な3つのレベルで出題する。授業に出席する学生。 </small>
学びのキーワード ・政治 ・政策 ・経済・経営 ・法・税法 ・地域共生	教科書 参考書 授業の中で指示する。

学期： 週間授 科目： 必修・選択：

単位：2 コード：P2100304

授業計画

01. 人種・民族問題から見たデモクラシーと人権 【菊地】
02. ユダヤ人の歴史①—ドイツを中心として (18世紀前半まで) 【菊地】
03. ユダヤ人の歴史②—スペインを中心として 【菊地】
04. ユダヤ人の歴史③—ドイツを中心として (18世紀後半以降) 【菊地】
05. 悪の問題と人権 【菊地】
06. 近代の出来とデモクラシー 【谷口】
07. 近代主義と社会契約思想①—T. ホーブス、J. ロックを中心に 【谷口】
08. 近代主義と社会契約思想②—J.J. ルソー、D. ヒュームを中心に 【谷口】
09. 近代主義の陥穽と保守思想 【谷口】
10. リベラリズムの出来と陥穽 【谷口】
11. 現代のデモクラシー制度上の諸問題 【阿久戸】
12. 現代のデモクラシー制度の史的起源 【阿久戸】
13. 現代の人権をめぐる諸問題 【阿久戸】
14. 現代の人権概念の史的起源 【阿久戸】
15. デモクラシー・人権政策の今後の行方 【阿久戸】

(1) 内容

にその価値を、また過去・現在に通じるものとして、世界のまなざし、政策の重きを人権という点と歴史との関係から見る。

一人間的背景としての具体的歴史、展望としての未来考察、未だ思っていないところ、クラシカルデモクラシー

(2) 学びの意義と目標

現代における世界共通価値として重要な位置を占めるデモクラシーと人権について学ぶことにより、世界の動向を理解し、人類によりふさわしい未来形成への指針を得ていくことが目指されている。

準備學習(予習)

デモクラシーとか人権については、人により異なる切り口と理解があることを前提として、シラバスに沿って予め教科書等を一読し、自らの問題の発見に努めてほしい。

準備學習(復習)

教科書や授業で配布されたプリントを必ず読み直し、授業中に紹介された参考文献等にも目を通し、授業の内容の理解を深めると共に、さらに自らの問題の発見に努めてほしい。

評価方法

(1) 平常点	30
(2) レポート	70

最終的には各担当者の与えた評点の平均値による。

受講者に対する要望

授業では、質疑応答や議論をとおり、理解を深めるよう努めてほしい。

学びのキーワード

- ・デモクラシー
- ・人権
- ・差別、偏見、悪
- ・社会契約
- ・人権政策

教科書

高橋 和之編『新版 世界憲法集（岩波文庫）』（岩波書店）
高木八尺、末延三次、宮沢俊義編『人權宣言集』（岩波文庫）

参考書

授業の中で、随時紹介する。

政治学原論研究			
担当教員：森分 大輔			
学期：週間授 科目：		必修・選択：選択必修科目	単位：2 コード：P2100410
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 導入：講義計画の説明、担当についての分担 02. 政治理論と現代政治に関する導入 03. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（社会科学的手法の形成） 04. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（政治学と科学的認識） 05. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（小括 政治学の方法） 06. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（現実政治と政治認識） 07. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（伝統・慣習） 08. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（小括 現実と論理） 09. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（政治と倫理） 10. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（社会道徳と宗教） 11. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（小括 倫理と政治） 12. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（政治権力） 13. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（法と制度） 14. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論（小括 制度と実践） 15. まとめ	
(1) 内容			
政治学の専門研究の出発点として、洋の東西にまたがる近・現代の政治理論の原論的作品を読み込むことを主として行い、同時に関連するテーマに関して専門的な議論を行う。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
政治政策学研究科の学びに必要とされる基本的思考法、学問的前提、発想法などに触れる。同時に、それに準じた実践によって、自身の研究活動に役立たせることを可能にする。		指定されたテキストの読解とともに、関連分野のテキストにも随時目を通すこと。	
		準備学習(復習)	
		発表、討論内容について自身の考えを整理することが必要とされる。	
受講者に対する要望		評価方法	
アカデミックな専門的知識のみならず、それらを自身の研究課題へと適用する思考力の獲得を目的とすることから、受講者にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極的に取り組む姿勢が求められる。		(1) 授業貢献 40% (2) プレゼンテーション 30% (3) 学期末レポート 30%	
学びのキーワード		教科書	
・政治学 ・思想 ・討論		外国語文献を含む関連テキストについて、授業内にて指定。	
		参考書	

憲法研究				
担当教員： 石川 裕一郎				
学期： 週間授		科目：	必修・選択：	単位： 2 コード： P2201206
学部教育の関連目				
カリキュラム上の位置付け				
(1) 内容		授業計画		
<p>法学の基礎的な素養があることを前提に、樋口陽一『五訂 憲法入門』（勁草書房、2013年）をメインテキストとして取り上げ、丁寧に読み進めてゆく。</p> <p>本テキストは、現代日本を代表する憲法学の泰斗であると同時に最高の知性の一人でもある碩学による、憲法学の入門書である。しかし、その表題および平明な語り口とは裏腹に、その内容はアポリアに満ちかつ知的緊張感溢れるものであり、その読解は一筋縄ではゆかないであろう。</p> <p>また、読解に際しては、本テキストの理解に不可欠となる学説、判例その他の基礎知識の修得を確実なものとするため、サブテキストとして石埼学他（編著）『リアル憲法学〔第2版〕』（法律文化社、2013年）を適宜参照する。あわせて、『六法』（出版社、種類は問わない）を常に携帯するのが望ましい。</p> <p>なお、本講義は、カリキュラム上の分類こそ「講義」科目だが、大学院のそれである以上、当然のことながら「演習」形式で行われる。</p>		<p>01. 導入：授業の進め方、分担の決定</p> <p>02. 憲法の基礎知識に関する講義（総論・人権）</p> <p>03. 憲法の基礎知識に関する講義（統治・比較法）</p> <p>04. テキスト輪読・報告、議論：国民主権</p> <p>05. テキスト輪読・報告、議論：平和的生存権</p> <p>06. テキスト輪読・報告、議論：個人の尊厳</p> <p>07. テキスト輪読・報告、議論：人権の私人間効力</p> <p>08. テキスト輪読・報告、議論：信教の自由・政教分離・教育権</p> <p>09. テキスト輪読・報告、議論：表現の自由</p> <p>10. テキスト輪読・報告、議論：経済的自由と社会権</p> <p>11. テキスト輪読・報告、議論：選挙権と代表制</p> <p>12. テキスト輪読・報告、議論：司法権</p> <p>13. テキスト輪読・報告、議論：違憲審査制</p> <p>14. テキスト輪読・報告、議論：憲法改正と憲法尊重擁護義務</p> <p>15. まとめ</p>		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)		
<p>しばしば憲法は、民法、刑法その他の法律と比較するとメディアの政治報道等において頻繁に言及されるがゆえ、「なんらかの価値観あるいはイデオロギーに依拠した、文脈依存的ないし政治的なもの」とみなされることがある。その一方で、憲法は、民法や刑法と同じく実定法規範であるがゆえ、「現実の政治および経済からは距離を置いた、超歴史的かつ法的なもの」と位置づけられることもある。だが、本講義の受講者は、そのいずれも極端かつ一方的であることを認識するであろう。</p> <p>そして、その規範性と妥当性をめぐって織りなされる憲法学の世界の根底に存する「法の賢慮（jurisprudentia）」のなんたるかを受講者が体得するならば、本講義の目的はほぼ達成されたこととなる。それは、とりわけ法実務に携わる者にとって、その職業生活における精神的支柱の形成に資するという意義を有するであろう。</p>		<p>予め割り当てられた自身の報告をこなすことはもちろん、テキストの指定された箇所を毎回読み込み、自らの問題意識を明確にしたうえで講義に臨み、積極的に議論に参加することが求められる。</p>		
受講者に対する要望		準備学習(復習)		
<p>大学院の講義なので、受講者が主体的にその運営に参画することが、とりわけ強く求められる。加えて、反知性主義が瀰漫する現代日本においては甚だ評判が悪いが、受講者には、かかる時代精神に抗いつつ、意識的に知的虚栄心を持つような心がけてほしい。</p> <p>換言すれば、広く知られるヴェーバーの言をもじった表現である「精神のある専門人」たらんとする気構え、あるいは、語本来のアカデミックな姿勢に加えディレッタントなそれも求められるということである。</p>		<p>毎回の講義における議論を踏まえ、自身の報告を再検討することが求められる。</p>		
評価方法				
(1) 平常点		80	割り当てられた報告の内容と議論への参加状況から評価する。	
(2) 期末課題		20		
平常点について、言うまでもなく、単なる「出席（物理的に教室内に存在すること）」だけでは何ら評価の対象とならない。				
学びのキーワード		教科書		
<ul style="list-style-type: none">法学公法学憲法学国法学比較憲法学		<p>樋口 陽一 『五訂 憲法入門』（勁草書房）</p> <p>石埼 学、押久保 倫夫、笹沼 弘志（編） 『リアル憲法学〔第2版〕』（法律文化社）</p>		
		参考書		

平和研究			
担当教員：小松崎 利明			
学期：週間授		科目：	必修・選択：
単位：2		コード：P2201310	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. イントロダクション 02. 平和研究の基本概念 03. 紛争解決理論史 04. 現代的紛争の理論枠組み 05. 紛争予防 06. 平和維持 07. 平和創造 08. 平和構築 09. 和解 10. コスモポリタン紛争解決論 11. 環境問題、ジェンダーと紛争解決 12. 介入の倫理と紛争解決 13. 文化、宗教、芸術と紛争解決 14. メディア、社会言説と紛争解決 15. 紛争解決論と平和研究の今後	
(1) 内容		準備学習(予習)	
平和研究は、第二次世界大戦後に国際関係研究のなかから生み出された学問分野である。当初は戦争の防止をその主たる目的としていたが、次第に、戦争がなくとも平和とはいえない（peacelessness）状況（たとえば、政治的抑圧や貧困）を生み出す諸要因の解決を目指すようになってきた。現在、平和研究は、個人間の利害対立の原因から国家間紛争を誘発する構造のあり方まで、幅広い問題をその射程に置く学際的研究分野になっており、それにともなって、総合的・立体的なアプローチが求められている。		毎回の課題箇所を読んでおく	
こうした状況をふまえて、この授業では、平和（特に紛争解決論）に関する文献を精読し、それをもとに受講者間で議論することを目的とする。		準備学習(復習)	
なお、上記のテーマに関する大学院レベルの適当な日本語文献がないので、この授業では英語文献を使用する。この点、受講者は留意されたい。		レポート作成に向けて、授業での議論等をまとめたノートを作成しておく	
(2) 学びの意義と目標		評価方法	
「平和」は、時代や環境、またそれを主張し獲得しようとする人によってまったく異なる姿として現れるものである。平和について考えるということは、そうした明確な姿形や唯一の正解なるものを拒否する平和の性質を理解することでもある。平和に関するさまざまな文献を読むことによって、その一端に触れることがこの授業における学びの意義であり、目標である。		(1) 平常点 (2) レポート	
受講者に対する要望		50% ・発表 50% ・授業への積極的参加および貢献 50% 使用教材文献の書評レポート	
上記「内容」にも記したように、今回の授業テーマに関する大学院レベルの適当な日本語文献がないので、この授業では英語文献を使用する。この点、受講者は留意されたい。。		教科書	
学びのキーワード		参考書	
・ 平和 ・ 戦争 ・ 紛争予防 ・ 紛争解決 ・ 平和構築		授業内で紹介する。	

租税法研究 A			
担当教員： 吉川 保弘			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 2 コード： P2301010
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 法人税課税の対象と基礎的概念・・・1法人税課税の対象（法人とは、法人税課税の機関、法人税における所得概念）、2. 法人税法・会社法・企業会計原則との関係、3. 法人税法通則の規定、4. 事業年度の意義、5. 納税地	
(1) 内容		02. 納税義務者及び所得帰属に関する通則・・・6. 納税義務者（内国法人、外国法人）、7. 同族会社等の行為計算否認規定、8. 信託財産に属する資産及び負債等の帰属、9. 実質所得者課税の原則、10. 課税所得の範囲（内国法人、外国法人）	
法人税法は、私法で決定した取引を基礎において、その取引を財務会計として表現する公正妥当な会計処理の基準に従って、計算することとしております。その上で、法人税法の目的、考え方に沿わないものは法人税法固有の処理をすることとし、その部分を法律として規定しております。つまり、法人税法は、私法での扱い、企業会計における公正妥当な会計処理を理解している前提で規定されています。こうした意味で法人税法は、私法、企業会計と密接な関係にあります。それぞれが実現しようとする目的は異なり、三位一体ではありません。したがって、法人税法を学ぶということは、私法、会計制度との異同を学ぶということです。		03. 所得の金額の計算等に関する通則・・・11. ①各事業年度の所得の金額の意義（法人税法22条の解説）、②無償取引が法人税法上、益金に算入される根拠（各学説等）、③2段階説における寄付金の意義、④売上原価、販売費等、減価償却費、損失の損	
(2) 学びの意義と目標		04. 収益の益金計算に関する通則・・・13. 棚卸資産の販売による収益計上の時期①引渡基準（製品等の販売による収益計上時期）、②事業年度末時点での販売代金の未確定の扱い、③返品、値引き、削戻しの扱い、④特殊販売形態の収益計上基準（表	
租税法Aにおいては、企業税制の中心的税制でかつビジネスローとしての機能を持つ法人税法について、私法、会計制度との異同にを踏まえた基礎となる取り扱いと考え方の解説をします。到達目標としては、法人税法の持つ固有の取扱考え方の理解におきます。		05. 益金に算入しない収益・・・19. 受取配当等の益金不算入、20. みなし配当の取扱、21. その他益金に算入しない収益①資産の評価益、②仮装経理に基づく評価益、③法人税等の還付金、④圧縮記憶制度による補助金の扱い、⑤広告宣伝費用資産の受贈	
法人税法は、税理士を営む上で欠くことのできない税法だという認識をもって授業に取り組んでください。		06. 損金の額の計算Ⅰ（棚卸資産）・・・24. 棚卸資産の概念①棚卸資産の範囲、②棚卸資産の評価と売上原価の算定、③評価方法、④取得価額に算入すべき費用の範囲、⑤自己の製造等により取得した棚卸資産の取得価額、⑥適正原価計算の判定基準	
受講者に対する要望		07. 損金の額の計算Ⅱ（固定資産）・・・25. 固定資産の概念、①固定資産の性格、②固定資産の範囲、③非減価償却資産、④減価償却資産の性格、⑤減価償却資産の種類と細目、⑥償却限度額の計算の基礎となる取得価額、⑦取得価額に関する諸問題、⑧	
学びのキーワード		08. 損金の額の計算Ⅲ（繰延資産、引当金、資産の評価損）・・・26. 繰延資産、27. 引当金、28. 資産の評価損	
・レジュメには、必ず理解すべき事項について、☆マークを付し、重要度に応じてマーク数を増やしているので、参考にしてください。		09. 損金算入規制Ⅰ・・・29. 役員給与①平成18年法の趣旨、②役員の種類、③法34条に規定する役員給与の扱い（定時定額、事前確定給与の届け出、利益運動型給与）、④過大役員給与の損金不算入、⑤仮装隠蔽または仮装経理に基づく支給の場合の損金	
		10. 損金算入規制Ⅱ・・・29-2役員給与2①新株予約権を対価とする費用等、②過大使用人給与の取扱、③出向及び転籍の場合の扱い、30保険料等、31. 寄付金	
		11. 損金算入規制Ⅲ・・・32. 交際費等、33. 租税公課、34. 不正行為等に係る費用、35. 貸倒損失、36. その他の損金	
		12. 申告調整、税額計算等・・・37. 企業会計と税務会計、38. 欠損金の繰越及び控除、39. 税額の計算	
		13. グループ法人税制と連結納税制度・・・40. グループ法人に対する税制の概要、41. グループ法人税制の具体的な内容、42. 連結納税制度の概要	
		14. 事業体課税の概要・・・43. 事業体課税の概要、44. 法人税の基本的な納税者、45. 法人税の対象とならない事業体（組合・信託）、46. 納税義務者となる新しい事業体	
		15. 繰越再帰納税制・・・①会社法における繰越再帰行為等、②企業結合における会計基準、③繰越再帰に係る法人税法の扱い、④適格合併、適格分割等の要件、⑤移転資産の譲渡損益の扱い、⑥非適格合併等により移転を受ける資産等に係る調整、⑦株式	
		準備学習(予習)	
		法人税法は、講義内容が多岐にわたり分量も多いことから、レジュメ、法令を読んでおくことが望ましい。	
		準備学習(復習)	
		各回の講義予定の最後に、復習問題を掲載してあるので、講義後確認の意味で回答に取り組んでください。	
		評価方法	
		(1) 平常点 50%	
		(2) レポート提出 50%	
		成績評価については、平常点を勘案して、レポートの採点により評価しますが平常点を勘案するという意味は、受講時における質疑応答等も考慮に入れて、平常点に対する配点50点を決定するということです。	
		教科書	
		租税法研究A用の本をプリントして配布します。これにそって講義方式で適宜質疑応答をするなど理解度を確認しながら授業を進めます。	
		参考書	
		岡村忠生著「法人税法講義第3版」成文堂、成松洋一著「法人税セミナー第4版」税務経理協会、増井良啓著「租税法入門」有斐閣	

租税法研究Ⅱ							
担当教員： 野田 扇三郎							
学期： 週間授		科目：	必修・選択：	単位： 2 コード： P2301111			
学部教育の関連目			授業計画				
カリキュラム上の位置付け			01. 消費税法概論				
			02. 課税要件				
(1) 内容			03. 非課税取引と免税取引				
			04. 納税義務者				
この授業では、2017年4月の消費税の税率アップの議論等に目を向け、その問題点を探り、消費税への理解を深めるよう努める。その際、それに関連する会計処理等を確実にマスターすることとする。またこれからの制度設計について、次期の修士論文作成に向け自分自身の意見を持つよう心掛ける。			05. 納税義務の成立				
			06. 小規模事業者の納税義務の免除				
			07. 課税標準・税率				
			08. 税額控除				
			09. 簡易課税制度				
			10. 対価の返還と貸倒の処理				
			11. 課税期間				
			12. 申告、納税について				
			13. 国等に対する課税				
			14. 届出、記帳義務について				
			15. 勘定科目等からの課非判定				
			(2) 学びの意義と目標			準備学習(予習)	
						受講生は漫然と授業に出るのではなく、問題意識をもって臨むよう、予習は欠かさないこと。	
			受講者に対する要望			準備学習(復習)	
						配布資料の確認、および問題点の整理により、理解を深めること。	
消費税関する諸問題は国民にとって重要でまた現状もっとも関心の深いものであるので、新聞、その他媒介等を通じて社会の動きに注意を払うこと。			評価方法				
			(1) 平常点				

租税法研究 C							
担当教員： 佐藤 謙一							
学期： 週間授		科目：	必修・選択：				
学部教育の関連目		単位： 2 コード： P2301212					
カリキュラム上の位置付け		授業計画					
(1) 内容		01. 所得税法－総説、納税義務者 02. 所得税法－所得の種類①－所得の種類、所得税の計算の仕組み、各種所得間の問題① 03. 所得税法－所得の種類②－各種所得間の問題② 04. 所得税法－収入金額と必要経費① 05. 所得税法－収入金額と必要経費② 06. 所得税法－所得控除、税額計算 07. 所得税法－源泉徴収制度、申告、納付等 08. 所得税法－青色申告、雑則その他 09. 相続税法－総説、納税義務者 10. 相続税法－課税価格の計算と税額① 11. 相続税法－課税価格の計算と税額② 12. 相続税法－相続時精算課税制度、納付と延納・物納、納税猶予その他 13. 相続税法－財産の評価 14. 租税手続法－調査手続、更正・決定等 15. 租税手続法－不服申立制度その他					
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)					
職業会計人として活躍できるように必要な所得税法、相続税法及び租税手続法等の基礎的かつ基本的な理解を進め、今後皆さんが行うこととなる研究のために必要な視点を養うことを目的とします。		教科書に沿って講義方式により進める予定ですが、学すべき領域が広いにもかかわらず、限られた講義時間なので、事前に、教科書を読んで授業に臨む必要があります。 なお、授業では、適宜、受講生に読んでもらったり、質問することを考えています。					
受講者に対する要望		準備学習(復習)					
今後皆さんが行う研究につながる問題を見つけて欲しいと思います。		授業開始のはじめの時間に前回の授業の復習を行うことを考えているので、特に必要はありません。 なお、必要なときはその旨を伝えます。					
学びのキーワード		評価方法					
・ 所得税の意義と特色 ・ 相続税及び贈与税の意義と機能 ・ 所得税法と相続税法の沿革		<table><tr><td>(1) レポート等</td><td>70 </td></tr><tr><td>(2) 平常点</td><td>30</td></tr></table> レポート等の「等」は授業における発言等も評価の対象とする意味です。		(1) レポート等	70	(2) 平常点	30
(1) レポート等	70						
(2) 平常点	30						
		教科書					
		税務大学校『所得税法（基礎編）』及び『相続税法（基礎編）』 国税庁のHPにアクセスし、プリントアウトしてください。					
		参考書					
		金子宏『租税法』（最新版）（弘文堂） 水野忠恒ほか編『租税判例百選〔第5版〕』（有斐閣）					

民法法と実務 A

担当教員： 木村 裕二

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 2 コード： P2301313

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

民法法は、財産取引や団体をどのように規律しているか。民法総則・物権総論・債権各論の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

(2) 学びの意義と目標

税法科目群の一環として、私法による財産取引の規律について概観を得る。
条文の文言、定義・概念、立法趣旨を用いた法解釈の技術を学ぶことを通して、法律的文書の読み・書きの方法論を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

レジュメには判例の抜粋や要旨しか引用できないが、自分で判例を検索し、判例全文に目を通して確認する作業をおこなって、判例を読む訓練をしてほしい。

学びのキーワード

- ・ 私的自治の原則
- ・ 表意者の保護
- ・ 取引の安全
- ・ 公示
- ・ 対抗要件

授業計画

01. 法の機能と条文の読み方
02. 法の解釈と判例の読み方
03. 契約と意思表示
04. 人・法人
05. 代理
06. 契約の効力
07. 契約のプロセス
08. 物と所有権
09. 物権変動
10. 占有、時効
11. 売買、贈与
12. 賃貸借、消費貸借
13. 役務型契約
14. 不法行為
15. 会社

準備学習(予習)

レジュメ（事前配布）で引用した条文を読んでおくこと。

準備学習(復習)

レジュメで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

評価方法

- | | |
|----------|----|
| (1) 平常点 | 50 |
| (2) レポート | 50 |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布する。

参考書

授業の中で適宜、紹介する。

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： P2301414

授業計画

01. 債権と金融取引
02. 弁済・相殺
03. 強制履行・損害賠償
04. 債権譲渡・保証
05. 抵当権
06. 訴訟・執行・破産
07. 夫婦
08. 親子
09. 要保護者
10. 相続人
11. 相続財産
12. 相続分
13. 遺産分割
14. 遺言
15. まとめと課題

(1) 内容

民事法は、金融取引や相続をどう規律しているか。民法の債権総論、担保物権、親族・相続の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

(2) 学びの意義と目標

税法科目群の一環として、金融取引や相続の私法
 構造の概観を得る。
 民事訴訟法・家事事件手続法など手続法の基本構
 造にも触れつつ、権利実現・権利保護のプロセス
 について学ぶ。
 制度趣旨、条文の要件・効果を構造的に理解す
 る。

準備學習(予習)

レジュメ（事前配布）で引用した条文を読んでおくこと。

準備學習(復習)

レジュメで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

評価方法

(1) 平常点	50
(2) レポート	50

受講者に対する要望

条文の要件・効果に即して議論を位置づける習慣を身につけること。

学びのキーワード

- ・ 平等
- ・ 優先
- ・ 論議
- ・ 過去
- ・ 継続

教科書

参考書

公共政策研究			
担当教員： 児玉 博昭			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 2		コード： P2400101	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 授業のねらいと進め方 02. 公共政策学とは何か 03. 公共政策とは何か 04. アジェンダ設定 05. 政策問題の構造化 06. 公共政策の手段 07. 規範的判断 08. 政策決定と合理性 09. 政策決定と利益 10. 政策決定と制度 11. 政策決定とアイディア 12. 公共政策の実施 13. 公共政策の評価 14. 公共政策管理のシステム 15. 授業のまとめ	
(1) 内容			
公共政策学は、公共政策、すなわち公共的な問題を解決する基本的な方向性と具体的な手段を考察する学問である。公共政策学は、大別すると、政策決定や実施・評価という政策過程に関する知識（ofの知識）と、政策分析に必要な知識や個別政策領域に関する知識（inの知識）によって構成される。この講義では、前者の政策過程論（ofの知識）に重点を置き、公共政策へのアプローチ、公共政策のデザイン、プロセス、ガバナンスに関する基礎知識を整理する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
公共政策はどのようにデザインされ、決定され、実施・評価されるのかを理解できるようになることを目標とする。		教科書の該当範囲を通読し疑問点を明らかにしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		関連する研究書を各自に指定するので、内容の要旨と感想・考察をレジュメにまとめ、授業内で発表すること。	
受講者に対する要望		評価方法	
大学院生は、概説書の通読を通じて基礎知識を確認するだけでなく、研究書の精読を通じて研究設計の改善や専門知識の蓄積に役立ててほしい。		(1) 授業内発表 50% (2) レポート 50%	
		授業に毎回出席することを前提とし、欠席した場合は減点の対象とする。	
学びのキーワード		教科書	
・ 公共政策学 ・ 政策過程 ・ 政策デザイン ・ 政策決定 ・ ガバナンス		秋古貴雄, 伊藤修一郎, 北山俊哉 『公共政策学の基礎（新版）』有斐閣	
		参考書	

埼玉地域政策研究		
担当教員： 大塚 健司		
学期： 週間授 科目：		必修・選択：
学部教育の関連目		単位： 2 コード： P2400404
カリキュラム上の位置付け		授業計画
(1) 内容		01. 人口減少、少子・高齢社会, 福祉の体系 02. 人口減少、少子・高齢社会, 福祉の体系 03. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化 04. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化 05. 埼玉県政の方向 06. 埼玉県政の方向 07. 環境問題の取り組み 08. 環境問題の取り組み 09. “住む、を見直す 10. “住む、を見直す 11. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み 12. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み 13. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～ 14. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～ 15. 埼玉地域政策研究のまとめ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
人口減少、少子・高齢化が地域社会にどんな影響を与えているのか、社会構造、地域社会の変化に行政はどう対応しようとしているのかを市民目線で考察する。 特に国と県、市町村（地方自治体）の関係について、その役割について考える。		日本の人口構成、国と地方自治体の関係、福祉の体系、環境問題について調べておくこと。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
身近な地方自治、コミュニティ政策に関心のある者の受講を望む。		配布した資料等を参考にさらに論考すること。
学びのキーワード		評価方法
・人口減少、少子・高齢社会 ・国と地方自治体の関係、財政構造 ・土地政策、コミュニティ、 ・福祉の体系、年金、医療、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、地域福祉 ・環境問題、環境福祉		(1) レポート 100%
		次回の授業までに毎回レポート提出講義の要点をまとめ、討論を踏まえて感想をまとめること。
		教科書
		参考書
		厚生労働白書、統計からみた埼玉県のすがた（編集・発行埼玉県総務部統計課）

まちづくり論研究	
担当教員： 平 修久	
学期： 週間授	科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： P2400606
学部教育の関連目	授業計画
カリキュラム上の位置付け	01. まちづくりの概要① 02. まちづくりの概要② 03. まちづくりのプロセス・合意形成 04. 住民参加と協働 05. 都市計画制度 06. 人口減少と住宅地の維持 07. 空き家問題と対策 08. コンパクトシティ 09. 高齢化とまち（福祉のまちづくり） 10. 中心市街地の衰退と活性化方策 11. 中心市街地活性化の事例① 12. 中心市街地活性化の事例② 13. 中心市街地活性化の事例③ 14. 地域コミュニティの創造 15. まちの居場所づくり
(1) 内容	
まず、まちづくりの概要、まちづくりにとって重要な合意形成、まちづくりの基本的進め方である住民参加・協働についてを学ぶ。その後、高齢化・人口減少、中心市街地、コミュニティのキーワードに関連するまちづくりの問題と対応策を幅広く学ぶ。	
(2) 学びの意義と目標	
「都市計画」という行政主導で行うことが多い都市整備に対して、「まちづくり」ということばとその動きが住民の間に広がっている。地方分権、住民と行政との協働といった潮流がまちづくりを後押ししている。量から質の重視、余暇時間の増加、元気な高齢者の増加、スローライフなど、居住地を見直し、居住環境を改善しようとする意識を持った住民が増加し、まちづくりの担い手となっている。本科目では、具体的な事例などを学ぶことにより、まちづくりの意義、効果、あり方、課題などについての理解を深める。	
受講者に対する要望	準備学習(予習)
居住地など、自分と関係のある地域コミュニティをいかにより良くしていくかを念頭におきながら、クラスディスカッション等に望むことを期待する。	事前に提示した関連資料を予習しておくこと。中心市街地の事例については、担当の受講生がレジュメ2-4枚を用意して発表を行う。
	準備学習(復習)
	毎回の講義内容を整理し、まとめること。中心市街地の事例に関しては、各自の発表のレジュメを復習すること。
	評価方法
	(1) 授業への参加度合 30% (2) 発表 20% (3) レポート課題 50%
学びのキーワード	教科書
・まちづくり ・人口減少 ・高齢化 ・中心市街地 ・コミュニティ	参考書
	授業の中で指示する

社会的企業論

担当教員： 大高 研道

学期： 集中講 科目：

必修・選択：

単位： 2 コード： P2400707

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

社会的企業は、必ずしもコンセンサスが形成された概念ではない。とりわけ、「社会的目的に焦点を当てる企業家精神」の目新しさが強調される一方で、当事者参加やエンパワメント、さらには社会的関係性の形成（再構築）といった視点は希薄で、「社会性」の内実が目的レベルでのみ語られる傾向にある。本講義では、「社会問題に取り組む事業体」としての社会的企業が対象とすべき課題を「社会的排除」との関連で捉えた上で、おもに労働者協同組合やワーカーズコレクティブ等の協同実践の蓄積に学びつつ、既存の社会的企業理論の批判的考察および日本型社会的企業モデル構築の可能性について論じる。

(2) 学びの意義と目標

ポスト福祉国家体制下において、準市場領域での主要アクターとして位置付けられている「社会的企業」の批判的・創造的考察を通して、コミュニティ組織・市民社会組織の今日的 position と今後の展開方向を確認・理解することを目的とする。

受講者に対する要望

- ・一方通行の講義ではなく、対話的な議論を中心に進めるので、積極的に発言・参加してほしい。
- ・時事問題等を取りあげて議論することもあるので、新聞等には日常的に目を通しておくこと。

学びのキーワード

- ・ 社会的企業・NPO
- ・ コミュニティ
- ・ 社会的排除・貧困
- ・ 当事者性
- ・ エンパワメント

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会的企業とは
03. 社会的企業論の系譜（アメリカ）
04. 社会的企業論の系譜（ヨーロッパ）
05. 社会的企業論の系譜（日本）
06. 企業サイドアプローチ
07. 社会的企業の組織特性
08. 労働統合的社会的企業
09. 社会的企業とサードセクター
10. 日本における労働統合的社会的企業
11. 社会的企業の実践（１）
12. 社会的企業の実践（２）
13. 社会的企業の実践（３）
14. 社会的企業と法制度
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの該当箇所は必ず読み、分からない用語等は事前に調べてくること。

準備学習(復習)

講義後、「学んだこと」/「疑問に思ったこと」を整理すること。次回講義冒頭で共通討論の場を設ける。

評価方法

- | | |
|---------------------|----|
| (1) 授業への参加状況および課題発表 | 50 |
| (2) レポート | 50 |

発表日などは、各自の都合や要望に応じて、話し合いながら調整・決定する。

教科書

藤井敦史・原田晃樹・大高研道編著『闘う社会的企業』（勁草書房、2013）

参考書

授業の中で指示する

組織行動論研究				
担当教員： 八木 規子				
学期： 週間授		科目：	必修・選択：	単位： 2 コード： P2500810
学部教育の関連目				
カリキュラム上の位置付け				
(1) 内容		授業計画		
金井壽宏・高橋潔著『組織行動の考え方』（東洋経済新報社、2004年）とロビンス，S.P（高木晴夫訳）『新版組織行動のマネジメント：入門から実践へ』（ダイヤモンド社、2009年）をメイン・テキストとする。価値観、モチベーション、チームワーク、コミュニケーション、リーダーシップ、組織文化、といった組織行動論の主要テーマに関する理論やフレームワークを、テキストの輪読、講義を通じて学ぶ。また、それらの原理原則が、実際の組織（企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決に、どのように適用できるかを、クラス・ディスカッションにより議論する		01. オリエンテーション：授業の進め方、科学的研究のあり方について、分担決定 02. 組織行動論とは何か：なぜ組織行動論を学ばなければいけないのか 03. 個人の行動の基礎：価値観、認知、態度、学習 04. モチベーション論（１）基本的コンセプト、諸理論 05. モチベーション論（２）目標設定理論とその妥当性 06. 人事評価をめぐる根本問題：評価方法、評価尺度 07. 360度方角からのフィードバック 08. 集団行動の基礎 09. チームを理解する 10. コミュニケーション 11. 変革の時代におけるリーダーシップの求心力 12. 組織構造の基礎 13. 組織文化 14. 現実を変えることから生まれる知識創造のパワー 15. まとめ		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)		
われわれが社会生活を営む上では、いずれかの組織に所属することなしに生きていくことはできない。組織は、個人だけでは達成できない目標を達成しうる仕組みとして、人類の発明した仕組みの中でも最も価値のあるもののひとつといえる。しかしながら、組織が所期の目標を達成するためには、所属する成員が協力しあうことが重要となる。組織成員の協力を引き出し、目的に向かって成員を動かすために、個人が、個人として、また、小集団・組織の成員として行動し、認知し、また感情を抱く際にみせるさまざまな法則性に関する理論やフレームワークを理解すること、そして、それらの法則性の活用を、実際の組織（企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決に、どのように適用できるかを考える力の養成を目標とする。また、大学院レベルの教育として、これらの文献が明示的にあるいは非明示的に保持する、研究課題、仮説、その検証方法を見抜く力を磨き、ひいては、自らがそうした科学的研究のフレームワークに沿って、研究論文を書き上げる能力を高めるための訓練の場としたい。		テキストの分担箇所のみならず、当日の指定箇所は毎回読んで授業に臨むこと。該当箇所における、研究課題、仮説、仮説の検証方法などが何なのかを見極めることを心がけながら読むこと。		
受講者に対する要望		準備学習(復習)		
大学院では、自分のふだんの考え方とは異なる思考方法・思考パターンを学ぶことになる。受講者には、この体験を新しい思考の道具箱を手に入れるための訓練と捉え、辛抱強く取り組むことを望む。		該当箇所についての講義と議論を踏まえて、予習で予測した課題、仮説、検証方法が妥当であったかどうか、振り返る。学んだ理論が適用できる現実社会・組織の例を考えてみる。		
学びのキーワード		評価方法		
・ 組織 ・ 小集団 ・ 行動 ・ 個人 ・ 成果		(1) 授業への貢献		

経営文化論			
担当教員：金子 毅			
学期：週間授		科目：	必修・選択：
		単位：2	コード：P2500910
<div>学部教育の関連目</div> <div>論理的な思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 経営文化論の焦点となるテーマは何か 02. 経営と文化の定義 03. 経営としての文化 04. 文化としての経営 05. ドラッカーの思想を手掛かりに1 マネジメントについて 06. ドラッカーの思想を手掛かりに2 マーケティングについて 07. ドラッカーの思想を手掛かりに3 イノベーションについて 08. 宗教実践より見た経営 09. 中間整理 10. 担当者の文献から1 祭礼に投影される地域経営 埼玉県吉川八坂祭りを事例に 11. 担当者の文献から2 祭礼に投影される地域経営 北九州市戸畑区女提灯山笠を事例に 12. 担当者の文献から3 開発が崩壊させた地域コミュニティ 消えた城山小学校 13. 近代産業遺産化の陥穽 北九州市路面電車がつむぐ地域の記憶 14. 質疑応答 15. 経営文化論のゆくえ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>生活者の立場に寄り添い、行政・企業による観光などの経営戦略と地域との間で織りなされる「葛藤」の局面を重視し、そこから地域に潜在する思想を読み取りつつこれに則った新たな地域資源の開発を試みていく。すなわち、経営を動かす原理を地域の「文化」より探ることで“実践する”行政・企業、“実践される”地域にとり真に望ましい経営のあるべき方向性を討議を通じて模索する、それが経営文化論の狙いである。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>受講者各々の現場での調査活動へと反映させるだけの思考力を鍛え、これを理論的な枠組みと関連付け、独自の論文へと昇華させる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>発表者は各々のテーマに即したレジュメ（ネット情報からの切り張りでないもの）を作成しておく。</div>	
		<div>準備学習(復習)</div> <div>発表でなされた討議結果を各自の調査研究とすり合わせ、修士論文作成に向けた発想へとつなげていく。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>複雑難解な知の迷宮に分け入るには地図を柔軟に解釈する思考力（発想力）と現在地を知るコンパス（理論）が不可欠です。でも、恐れずに自分なりのフットワークをもって挑めばよいのです。</div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 発表70%</div><div>(2) 参加による貢献度30%</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・文化</div><div>・葛藤関係</div><div>・地域倫理</div><div>・地域資源</div></div>		<div>教科書</div> <div></div> <div>参考書</div> <div>安富歩、2014『ドラッカーと論語』東洋経済新報社</div>	

多文化コミュニケーション論

担当教員：鄭 鎬碩

学期：週間授 科目：

必修・選択：選択科目

単位：2 コード：P2600101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、多文化する現代社会の理解に欠かせない「公共性」について学習する。文献の講読と討論をつうじて、公共性とコミュニケーションが語られる理論的文脈についての理解を深めていく。

(2) 学びの意義と目標

- (1) 公共性とコミュニケーションに関する基本概念を理解する。
- (2) 文献を批判的に読む力を鍛える。

受講者に対する要望

毎回、文献の担当者を決め、レジュメを作成・発表してもらう。レジュメには、概要および論点についての意見を記載する。授業参加者と教員を含め質疑を行い、文献についての理解を確認しつつ議論する。

学びのキーワード

- ・公共性
- ・コミュニケーション
- ・他者
- ・メディア

授業計画

01. イントロダクション：コミュニケーションと公共性
02. 「公共性」とは何か（1）現状から考える
03. 「公共性」とは何か（2）概念と歴史
04. 公共性と排除（1）
05. 公共性と排除（2）
06. 市民社会と合意形成（1）
07. 市民社会と合意形成（2）
08. 複数性と公共性（1）
09. 複数性と公共性（2）
10. 公共性とメディア（1）
11. 公共性とメディア（2）
12. 公共性の再定義（1）
13. 公共性の再定義（2）
14. まとめ（1）
15. まとめ（2）

準備学習(予習)

受講生は、毎回の文献を予習し、授業中の議論に参加する。

準備学習(復習)

授業での議論を踏まえ、自分の研究テーマとの関連について考えたことを文章でまとめる。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業中の発表 | 50% |
| (2) 期末レポート | 50% |

教科書

齋藤 純一『公共性（思考のフロンティア）』（岩波書店、2000）

参考書

講義内で紹介する。

地球環境論研究			
担当教員： 村上 公久			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 2 コード： P2900111
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. Scienceサイエンス について 02. genetic／functional approach 発生論的接近 と 機能論的接近 03. 「相の転換」phase transition 04. 地球環境問題とは何か 一環境問題概論 05. 生態学におけるいくつかの重要な概念について 06. 地球環境問題をめぐる理念の変遷一環境史概観 07. 処方箋Agenda 21とその背景の検討 08. 環境関連 国際機関・機構 09. 法・制度 10. 「保続的(持続的)発展」Sustainable Development 11. 環境はいくらか 一環境の経済的評価 12. OECD モデルの検討 13. 事例研究 14. 合意形成の方途、第4セクターの重要性 15. 「全球」時代の地球環境問題と国際的資源管理	
(1) 内容			
まず環境史を概観し産業革命以後の環境問題を省みた上で、特にUnited Nations Conference on the Human Environment（ストックホルム「国連人間環境会議」）1972年から、United Nations Conference on Environment and Development, “UNCED”（リオ・デジャネイロ「国連 地球サミット」）1992年、さらに一連のCOP（国連気候変動枠組条約締約国会議）など近年の地球環境問題を巡る国際会議、およびUnited Nations Conference on Sustainable Development (Rio+20)（「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」）2012年 COP21パリ協定2015年などのアジェンダの変遷とその背景を考察する。			
次に、国際化・地球化における地球環境問題への取り組みのあり方を検討する。急速な国際化の進展に伴い、国民国家の枠組みが解消してゆき、世界の担い手がコミュニティ・自治体と超国家機構・国際的組織とに分極してゆく中で、「水と空気に 国境はない」環境問題の解決の方途を、保続的開発(持続的発展) Sustainable Developmentを実現させるための環境政策の視野で考える。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
国際化・地球化における地球環境問題への取り組みのあり方を検討する。急速な国際化の進展に伴い、国民国家の枠組みが解消してゆき、世界の担い手がコミュニティ・自治体と超国家機構・国際的組織とに分極してゆく中で、「水と空気に 国境はない」環境問題の解決の方途を、汚染・公害防止策を超える保続的開発(持続的発展) Sustainable Developmentを実現させるための環境政策の視野で考える。		各省・国際機関の白書・報告書 類の「環境」関連項目を、読んでおくこと。 農水、経産、外務、環境、各省資料。特に「エネルギー白書」「日本の国際協力」、IBRD, OECD, ADB(Asian Development Bank), UNDP, UNEP 関連資料。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
大学院科目を 学部の「新総合科目」として開講するので、学部生で履修を希望する者は履修に先立って予め「環境保全論」「環境学」の一つ以上の科目でSまたはAの成績評価を得ておくこと。		各回の講義内容について、各自関連する資料を学び、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めディスカッションを通じて理解を深める。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 地球環境問題 ・ Sustainable Development保続的開発（持続的発展） ・ 国際化・地球化（全球化） ・ 「水と空気に 国境はない」 ・ 環境政策		(1) ディスカッション への参画 と寄与・貢献 60% (2) 複数回の レポート 40%	
		ディスカッションへの参画と寄与・貢献を主に評価する。	
		教科書	
		ナシ、講義資料を配布する。	
		参考書	
		参考文献・資料のリスト、講義資料を配布する。	

租税法A演習I			
担当教員： 吉川 保弘			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 4		コード： P3301010	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 国際取引と課税Ⅰ（非居住者及び外国法人に対する我が国の課税制度） 02. 国際取引と課税Ⅱ（内国法人に対する国際課税の概要について講義する。） 03. 外国子会社配当益金不算入制度 04. 外国税額控除制度 05. タックスヘイブン対策税制の概要（制度の趣旨、考え方、具体的な租税回避の事例など） 06. タックスヘイブン対策税制（我が国の制度について具体的な規定に沿った内容解説） 07. 移転価格税制の概要（制度の趣旨、考え方、具体的な租税回避の事例など） 08. 移転価格税制（我が国の制度について、規定に沿って解説する。） 09. 過少資本税制（制度の趣旨、考え方、具体的な租税回避の事例、我が国制度の解説） 10. 過大利子税制（制度の趣旨、考え方、具体的な租税回避の事例、我が国制度の解説） 11. 租税条約（我が国の租税条約の特色、憲法との関係、具体的な扱い） 12. 相互協議、資料情報交換制度、相続税法の扱い 13. 国際課税にかかる判例研究①（オデコ大陸棚事） 14. 国際課税にかかる判例研究②（武富士事件） 15. 国際課税にかかる判例研究③（外税額控除、三井住友銀行事件） 16. 国際課税にかかる判例研究④（国内源泉所得の範囲・シルバー精工事件） 17. 国際課税にかかる判例研究④（双輝汽船事件） 18. 国際課税にかかる判例研究⑥（来料加工事件） 19. 国際課税にかかる判例研究⑦（グラクソ事件） 20. 国際課税にかかる判例研究⑨（今治造船事件） 21. 国際課税にかかる判例研究⑩（アドビ事件） 22. 国際課税にかかる判例研究⑪（タイパーツ事件） 23. 国際課税にかかる判例研究⑫（日本圧着電子事件） 24. 国際課税にかかる判例研究⑬（映画フィールム事件） 25. 国際課税にかかる判例研究⑭（ガイダント事件） 26. 国際課税にかかる判例研究⑮（米国LCC事件） 27. 国際課税にかかる判例研究⑯（レボ事件） 28. 国際課税にかかる裁決研究⑰（グローバルトレーディングH20. 7. 2裁決） 29. 国際課税に係る裁決研究⑱（TDK事件H22. 1. 27裁決） 30. 国際課税に係る裁決研究⑲（モーター輸入販売事件H1 8. 9. 4裁決）	
(1) 内容			
本講座は、我が国の国際課税制度、国際課税裁判例、裁決例を教材として、我が国国際租税法の研究を行います。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
企業のグローバルな展開が企業の規模を問わず、煩雑に展開されております。また、政府は外国企業の我が国の誘致に国家戦略の一環として積極的に取り組んでおります。このような企業国境を越えた経済活動には当然のごとく国際課税が伴います。企業においては税はコストで税負担の軽減化という側面があり、他方課税庁側における課税権の確保という面があります。こうしたことから国際課税を巡る争訟は近年増加しています。本講座では、我が国の制度の仕組み、判決等を学び討議を通じて、各制度の基本的な考え方、趣旨の理解を目標とします。		判例裁決事例の討議に当たっては、その事例の基礎となる国際課税制度の仕組みを理解して授業に臨むこと。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
我が国の国際課税制度、国際課税にかかる判例研究及び裁決事例について、輪番で報告をし、質疑応答を予定、議論に積極的に参加することを希望する。		討議を通じて出された質疑応答についての理解と、残された課題について整理すること。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 国際課税 ・ 国際的租税回避 ・ 二重課税と二重非課税		(1) 平常点 40% (2) 研究の発表、質疑応答 30% (3) レポート提出 30%	
		平常点、研究発表・質疑応答、レポートを総合勘案して評価する。	
		教科書	
		参考書	
		詳解国際税務 吉川保弘他共著、国際課税法第3版増井良啓・宮崎裕子共著、図解国際税務望月文夫著	

租税法B演習I				
担当教員： 野田 扇三郎				
学期： 週間授		科目：	必修・選択：	単位： 4 コード： P3301111
学部教育の関連目		授業計画 01. ガイダンス 02. 法人税法の総則と申告に関する規定（納税義務者） 03. 法人税法の総則と申告に関する規定（確定申告） 04. 法人税の課税標準の計算のあらまし 05. 法人税の益金の額の計算（資産の販売等） 06. 法人税の益金の額の計算（受取配当等） 07. 法人税の損金の額の計算（棚卸資産の原価計算） 08. 法人税の損金の額の計算（役員給与等） 09. 法人税の損金の額の計算（引当金） 10. 法人税の有価証券に係る譲渡損益及び時価評価損益 11. 法人税の税額の計算 12. 法人税の資本金等の額及び利益積立金額 13. 法人税の連結納税制度 14. 法人税の調査による処分と質問検査権 15. 法人税の国内課税に係る判例研究①宗教法人の収益判定 16. 法人税の国内課税に係る判例研究②納税申告書の到達時期 17. 法人税の国内課税に係る判例研究③収益の帰属 18. 法人税の国内課税に係る判例研究④収益の計上時期（土地売買） 19. 法人税の国内課税に係る判例研究⑤収益の計上時期（工事収益） 20. 法人税の国内課税に係る判例研究⑥益金の額の計算方法（経済的利益） 21. 法人税の国内課税に係る判例研究⑦益金の額の計算方法（株式譲渡益） 22. 法人税の国内課税に係る判例研究⑧損金の額の計算（損金の帰属） 23. 法人税の国内課税に係る判例研究⑨損金の額の計算（損金性の有無　いわゆる上様扱い） 24. 法人税の国内課税に係る判例研究⑩損金の額の計算（損金性の有無　取り壊し費用） 25. 法人税の国内課税に係る判例研究⑪損金の額の計算（損金性の有無　水増し費用） 26. 法人税の国内課税に係る判例研究⑫損金の計上時期 27. 法人税の国内課税に係る判例研究⑬減価償却資産の償却 28. 法人税の国内課税に係る判例研究⑭繰延資産の償却 29. 法人税の国内課税に係る判例研究⑮寄附金 30. 法人税の国内課税に係る判例研究⑯交際費		
カリキュラム上の位置付け				
(1) 内容 修士論文の作成に向けテーマの選定に役立つよう判例等を題材として研究する。		準備学習(予習) 各種文献の読破はもちろん、新聞の税務関連記事を見逃さないこと		
(2) 学びの意義と目標 各自による日本や諸外国の租税制度の検討や租税判例研究・各種報告を通じて議論研究を行う。				
受講者に対する要望 将来の職業専門家としての支柱を、この1年で築くべく意欲と熱意をもって研究すること		準備学習(復習) 論文は落とし所を考え、まだ先があるとは考えず、今期中に「目次」だけでも作成し終わるスタンスで！		
学びのキーワード ・ 敏感な時代感覚にあったテーマ ・ 独自性 ・ ひたむきな探究心				
		教科書		
		参考書 金子宏「租税法」最新版（弘文堂） 水野忠恒ほか編「租税判例百選（第5版）」（有斐閣）		

租税法C演習I			
担当教員： 佐藤 謙一 学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 4 コード： P3301212			
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 所得税法－総説、納税義務者に係る論点とその解明 02. 所得税法－総説、納税義務者に係る論点とその解明 03. 所得税法－所得の種類①に係る論点とその解明 04. 所得税法－所得の種類①に係る論点とその解明 05. 所得税法－所得の種類②に係る論点とその解明 06. 所得税法－所得の種類②に係る論点とその解明 07. 所得税法－収入金額と必要経費①に係る論点とその解明 08. 所得税法－収入金額と必要経費①に係る論点とその解明 09. 所得税法－収入金額と必要経費②に係る論点とその解明 10. 所得税法－収入金額と必要経費②に係る論点とその解明 11. 所得税法－所得控除、税額計算に係る論点とその解明 12. 所得税法－所得控除、税額計算に係る論点とその解明 13. 所得税法－源泉徴収制度、申告、納付等に係る論点とその解明 14. 所得税法－源泉徴収制度、申告、納付等に係る論点とその解明 15. 所得税法－青色申告、雑則その他に係る論点とその解明 16. 所得税法－青色申告、雑則その他に係る論点とその解明 17. 相続税法－総説、納税義務者に係る論点とその解明 18. 相続税法－総説、納税義務者に係る論点とその解明 19. 相続税法－課税価格の計算と税額①に係る論点とその解明 20. 相続税法－課税価格の計算と税額①に係る論点とその解明 21. 相続税法－課税価格の計算と税額②に係る論点とその解明 22. 相続税法－課税価格の計算と税額②に係る論点とその解明 23. 相続税法－相続時精算課税制度、納付と延納・物納、納税猶予その他に係る論点とその解明 24. 相続税法－相続時精算課税制度、納付と延納・物納、納税猶予その他に係る論点とその解明 25. 相続税法－財産評価に係る論点とその解明 26. 相続税法－財産評価に係る論点とその解明 27. 租税手続法－調査手続、更正・決定等に係る論点とその解明 28. 租税手続法－調査手続、更正・決定等に係る論点とその解明 29. 租税手続法－不服申立制度その他に係る論点とその解明 30. 租税手続法－不服申立制度その他に係る論点とその解明	
(1) 内容 所得税法、相続税法及び租税手続法の各論点とその解明			
(2) 学びの意義と目標 租税法研究Cにおける講義に対応した裁判例等に係る資料収集や検討等を通じて研究する力を身につけることを目的とします。		準備学習(予習)	
		事前に検討すべき裁判例等を配布等し、発表する者を毎回決めて授業を進める予定です。したがって、担当者は、当該事件に係る資料の収集や検討等を行い、その結果をレジュメにまとめ発表する準備をしてもらう必要があります。また、それ以外の者は、当該事件の争点や裁判所等の判断などを理解して授業に臨む必要があります。	
		準備学習(復習)	
		各自の自主性に任せます。	
		評価方法	
		(1) レポート等 70 レポート等には授業のために事前に作成するレジュメも含みます。 (2) 平常点 30	
受講者に対する要望 本演習が、職業会計人になるために有益なもので、今後、研究成果をまとめる力を養う上でも重要なものと考えています。したがって、積極的に参加していただきたい。		授業でのレジュメ発表や発言等の評価を加味します。	
学びのキーワード ・ 多くの裁判例をみる。 ・ 資料収集力 ・ まとめる力		教科書	
		参考書	
		金子宏『租税法』（最新版）（弘文堂） 金子宏ほか『ケースブック租税法』（最新版）（弘文堂） 水野忠恒ほか『租税判例百選〔第5版〕』（有斐閣）	

まちづくり論演習I

担当教員：平 修久

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：4 コード：P3400606

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

前半は、まちづくりの方法を学び、後半は国内外の具体的なまちづくり事例を参考にしながら、今後のまちや都市の整備と使い方のあるべき姿について検討する。具体的なテーマや事例は、個々の受講生の興味によって設定する。それを踏まえて関連文献・資料を選定し、それに基づいて議論を深める。

(2) 学びの意義と目標

まちづくりを多面的、総合的に捉え、まちという居住環境の改善に重要な要素を抽出すること、合わせて、文献を読み込む力を養成することを目指す。

受講者に対する要望

修士論文執筆の準備と位置づけ、関連文献にしっかりと取り組むことを期待する。

学びのキーワード

・まちづくり

授業計画

01. ガイダンス①
02. ガイダンス②
03. まちづくりとは何か①
04. まちづくりとは何か②
05. まちづくりの生成と歴史①
06. まちづくりの生成と歴史②
07. まちづくりの体制①
08. まちづくりの体制②
09. 合意形成のための支援技術①
10. 合意形成のための支援技術②
11. まちづくりのプロセス①
12. まちづくりのプロセス②
13. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習①
14. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習②
15. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習③
16. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習④
17. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑤
18. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑥
19. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑦
20. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑧
21. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑨
22. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑩
23. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑪
24. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑫
25. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑬
26. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑭
27. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑮
28. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑯
29. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑰
30. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑱

準備学習(予習)

毎回の授業の内容をレジュメにまとめ、説明できるように準備しておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業でのコメントを整理し、まとめておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加度合 | 40% |
| (2) 期末レポート | 60% |

教科書

日本建築学会『まちづくりの方法（まちづくり教科書 第1巻）』丸善出版

参考書

授業の中で指示する。

社会的企業論演習Ⅰ

担当教員： 大高 研道

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 4 コード： P3400707

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、(1)社会的企業の理論研究、(2)実践検討、(3)事例調査、(4)論文執筆にむけた基礎的技法の習得を内容とする。まず、前半では社会的企業の理論的・実践的基盤と今日的到達点を確認する。それらの検討をもとに醸成された知見を踏まえて、各自の関心研究領域を明確にする。後半は、各々の研究テーマおよび調査対象に即した報告・検討を通して、修士論文作成に向けた指導を行う。

(2) 学びの意義と目標

現代社会における社会的企業の位置と役割、さらには、その理論的・実践的検討を通して、現代および未来の社会的協同実践の可能性と克服すべき課題について、一定程度のビジョンを示すことができるようになることを目指す。論文執筆にむけた最低限の作法を身に着けることも、重要な目的である。

受講者に対する要望

・急激に変化する社会に対応する市民組織・市民事業の現代的位置と役割についての検討のためには、社会情勢や社会政策の動向把握は不可欠となる。新聞等、時事ニュースには日常的に身を通しておくこと。

学びのキーワード

- ・社会的企業
- ・協同組合
- ・社会的排除
- ・現代的協同性

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会的企業の理論的検討 (1)
03. 社会的企業の理論的検討 (2)
04. 社会的企業の理論的検討 (3)
05. 社会的企業の理論的検討 (4)
06. ケーススタディ:わが国における社会的企業実践 (1)
07. ケーススタディ:わが国における社会的企業実践 (2)
08. ケーススタディ:わが国における社会的企業実践 (3)
09. ケーススタディ:わが国における社会的企業実践 (4)
10. 研究テーマの設定にむけて (1)
11. 研究テーマの設定にむけて (2)
12. 調査方法論 (1)
13. 調査方法論 (2)
14. 調査方法論 (3)
15. 問題意識の検討・設定 (1)
16. 問題意識の検討・設定 (2)
17. 問題意識の検討・設定 (3)
18. 研究報告・検討
19. 研究報告・検討
20. 研究報告・検討
21. 研究報告・検討
22. 研究報告・検討
23. 研究報告・検討
24. 研究報告・検討
25. 研究報告・検討
26. 研究報告・検討
27. 研究報告・検討
28. 研究報告・検討
29. 研究報告・検討
30. まとめ

準備学習(予習)

テキストの該当箇所は必ず読み、分からない用語等は事前に調べてくること。

準備学習(復習)

講義後、「学んだこと」/「疑問に思ったこと」を整理すること。次回講義冒頭で共通討論の場を設ける。

評価方法

- | | |
|----------|----|
| (1) 課題発表 | 50 |
| (2) レポート | 50 |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

経済学演習Ⅰ			
担当教員： 柴田 武男			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 4 コード： P3500202
学部教育の関連目		授業計画	
		01. 論文テーマ選定する上での留意事項 02. 論文テーマ選定する上での留意事項 03. 論文テーマ選定する上での留意事項…情報収集の方法 04. 論文テーマ選定する上での留意事項…情報収集の方法 05. 国会図書館の利用方法…情報収集の方法 06. 国会図書館の利用方法…情報収集の方法 07. デジタルアーカイブの利用方法…情報収集の方法 08. デジタルアーカイブの利用方法…情報収集の方法 09. 国立公文書館を利用する…情報収集の方法 10. 国立公文書館を利用する…情報収集の方法 11. インターネットを利用する…情報収集の方法 12. インターネットを利用する…情報収集の方法 13. 新聞・雑誌を利用する…情報収集の方法 14. 新聞・雑誌を利用する…情報収集の方法 15. 新聞・雑誌を利用する…情報・資料の蓄積と保存方法 16. 新聞・雑誌を利用する…情報・資料の蓄積と保存方法 17. 資料の蓄積と保存方法 18. 資料の蓄積と保存方法 19. 関連論文の読解…関連論文の読解 20. 関連論文の読解…関連論文の読解 21. 関連論文の読解その1 22. 関連論文の読解その1 23. 関連論文の読解その2 24. 関連論文の読解その2 25. 関連論文の読解その3 26. 関連論文の読解その3 27. 論文の章立てをする 28. 論文の章立てをする 29. 脚注の付け方 30. 脚注の付け方	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
経済学演習Ⅰは、担当教員の専門とする金融市場論を中心にしたテーマで修士論文を執筆しようという院生の指導を目標とする。最初に、論文テーマ選定の方法を指導する。初学者においては広範なテーマを選定して、結局は散漫な叙述に陥ってしまうという失敗を散見する。専門論文では、まず研究するテーマを厳密に設定して、なおかつその論点に新たな視点を付け加える創造的知見が求められる厳しいものである。専門論文執筆の厳密性をまずなにより講義していきたい。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
金融市場論に関する専門知識を磨き、論文作成能力に寄与する。		研究テーマに沿ってデータ及び関連論文はPDFで配布するので、必ずパソコンメールで受信環境を整備すること。また、送られたデータは必ず読んでおくこと。	
		準備学習(復習)	
		研究テーマに沿ってデータ及び関連論文はPDFで配布するので、必ずパソコンメールで受信環境を整備すること。また、送られたデータは必ず読んでおくこと。	
受講者に対する要望		評価方法	
金融および企業経営に関して修論作成を目指す院生を受け入れる。		(1) 平常点 50 (2) レポート提出 50	
学びのキーワード		教科書	
・ 金融市場 ・ 企業経営 ・ 修論作成 ・ デジタルアーカイブ ・ 国会図書館		参考書	

租税法A演習II

担当教員： 吉川 保弘

学期： 前期（ 科目：

必修・選択：

単位： 4 コード： P4301010

学部教育の関連目

授業計画

論文作成指導

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

修士論文は学術論文として体裁と内容を備えることが要求される。院生は、税務会計の実務家としての税務論文を書くのではなくて、研究者としての研究を行いその成果を世に問うのである。本講座では、院生の論文作成について助言指導を行う。

(2) 学びの意義と目標

修士候補生は、修士論文において自己の研究と先行研究との関連を明記し、社会・経済の事実と租税法・会計学について現行制度を客観的に記述した上で、たとえば、何を問題としてとりあげるのかについて独自の主張を行い、法解釈の限界を超える現行制度の改善を提言することを期待される。

準備学習(予習)

論文進捗カードの提出を求める。その内容を踏まえて指導していきたい。

準備学習(復習)

議論を通じて、論文の完成度を上げてほしい。

評価方法

(1) 論文

100

受講者に対する要望

自己の研究したいことを研究するのであるが、学術論文は単なる作文ではなく一文一文が根拠を踏まえて信頼できる資料に基づいて自己の権論を導き出してほしい。

学びのキーワード

- ・ 問題所在
- ・ 発生原因
- ・ 調査研究
- ・ 論点・重要事項の抽出

教科書

参考書

租税法B演習II

担当教員： 野田 扇三郎

学期： 前期（ 科目： 必修・選択：

単位： 4 コード： P4301111

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

修士論文作成に向け、個別指導を行う。

(2) 学びの意義と目標

準備として、関連する論文、資料等を広く集めることが必要であるが、それらにとらわれることなく、独自の意見を構築し、それを論理一貫した、簡潔・適切な文章で表現するよう努める。

受講者に対する要望

修士論文の眼目は、筆者の判断、考えであるので、問題の羅列や判例、他者の論文の引用で終わることのないよう留意する。鋭い感覚・広い視野・あくなき探究心で仕上げる。

学びのキーワード

- ・独自の視点
- ・論理の一貫性
- ・平明な文章

授業計画

ガイダンス
論文作成の個別指導

準備学習(予習)

多くの資料を検討し、また仲間との情報交換を通じ完成を目指すこと。

準備学習(復習)

常に、上記の「学びの意義と目標」、「受講者に対する要望」及び「学びのキーワード」を念頭に、論文を見直すこと。

評価方法

(1) 論文の内容

100

教科書

参考書

特に使用しない

経済学演習II

担当教員： 柴田 武男

学期： 前期（ 科目：

必修・選択：

単位： 4 コード： P4500202

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本演習は、金融市場および企業経営を中心的なテーマとした修士論文の作成を指導する目的で行う。講義前半では、論文テーマの確認を行う。テーマが拡散し、論文にまとめるのが困難にならないように、講義冒頭でテーマを出来るだけ厳密に確定する。次に、そのテーマ沿って、先行研究を学び、論文テーマを洗練させていく。また、引用の正確さなど論文作成に求められるテクニカルな面での指導も心掛ける。一連の演習講義を通して論理一貫した修士論文の作成指導を行う。

(2) 学びの意義と目標

修士論文作成のテクニカルな側面をバックアップし、体裁の整った修士論文作成を目標とする。

受講者に対する要望

金融市場および企業経営を中心とした経済問題を修士論文のテーマとする院生を期待する。

学びのキーワード

- ・ 修士論文
- ・ 金融市場
- ・ 企業経営
- ・ 先行研究
- ・ 論文指導

授業計画

修士論文のテーマの確認
修士論文作成のための個別指導

準備学習(予習)

個別指導で提出する課題を事前学習する。

準備学習(復習)

個別指導で提出する課題を復習する。

評価方法

- | | |
|------------|----|
| (1) 平常点 | 20 |
| (2) 論文の完成度 | 80 |

教科書

参考書

アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科

アメリカ・ヨーロッパ文化学総論			
担当教員：清水 正之			
学期：週間授		科目：	必修・選択：
単位：2		コード：C1100201	
学部教育の関連目		授業計画 <small>清水正之：このオムニバス形式の講義の全体的な目的意味や構成について、オリエンテーションを兼ねた回となります。また、担当者の研究分野から、日本の思想研究が、どのような経緯で、近代の学問研究として自立した研究分野となったのか</small> 01. 清水 均：近代日本における「文化」概念の成立 02. 和田光司：近世フランスの寛容思想 03. 氏家理恵：英米文学とキリスト教 04. 関根清三：旧新約聖書の根本問題（1） 05. 関根清三：旧新約聖書の根本問題（2） 06. 高橋義文：アメリカの宗教—建国期 07. 高橋義文：アメリカの宗教—現代 08. 村松 晋：近代日本のキリスト教（1） 09. 村松 晋：近代日本のキリスト教（2） 10. 森田美千代：19世紀アメリカのキリスト教と文化 11. 稲田敦子：イギリス文化の両義性—自由のあり方をめぐって 12. 片柳榮一：近代を切り開いたルターの良心概念 13. 片柳榮一：近代民主主義 14. <small>清水正之：この講義全体の意味を、あわせて振り返ります。講義全体の目的、構成、内容について、質疑応答の形で進めます。また講義を通じて最終レポートの依頼の指示や、締切、枚数についての指示をします。</small> 15.	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容 アメリカ、ヨーロッパ、日本それぞれの文化の基礎をなす思想を、広い歴史的視野のなかで大局的に理解するための研究入門となる講義を目指している。文化研の担当教員が1回ないし2回ずつ、それぞれの分野の基本的なテーマについて、研究の視点、研究の意義、研究の方法等に触れながら講義する。（コーディネーター：清水正之）			
(2) 学びの意義と目標 大学院研究科での学びの目標に、専門的な自らの課題を深めると共に、人文的教養と視野をひろげることも重要な要素としてあります。欧米文化のみならず、アメリカ・ヨーロッパから学んだ研究方法のもとで培われた日本文化研究の視点や研究をも入れ、一つの主題を追う形で、研究の最前線を学びます。		準備学習(予習) 予告及び指定されたテキストを前もって読んでおくこと	
		準備学習(復習) 各回に提示された論点を整理しまとめる小レポートを作成する。	
受講者に対する要望 小レポート、期末レポートとも、大学院での研究論文の基礎となるものであり、聖学院大学大学院の規矩にかなった形式を心がける様に要望します。		評価方法 (1) 授業への積極的な参加、問題意識。 授業へ (2) 各回に指示された小レポート評価 小レポ (3) 期末レポートの完成度、問題提起力 期末レ	
学びのキーワード ・人文学・研究方法 ・アメリカ文化 ・ヨーロッパ文化 ・日本文化 ・比較思想・比較文化		教科書 特にありません。	
		参考書 各回の授業の中で指示されます。	

アメリカ文化学研究A	
担当教員： 高橋 義文	
学期： 週間授 科目： アメリカ 必修・選択： 選択	
単位： 4 コード： C2100101	
学部教育の関連目	授業計画
カリキュラム上の位置付け	01. 今なぜニーバーか。ニーバーを取り巻く歴史的思想的状況（1） 02. ニーバーを取り巻く歴史的思想的状況（2） 03. ニーバーの社会的教会的背景（1） 04. ニーバーの社会的教会的背景（2） 05. イーデン、イエール時代（1） 06. イーデン、イエール時代（2） 07. デトロイト時代（1） 08. デトロイト時代（2） 09. デトロイト時代（3） 10. デトロイト時代（4） 11. ユニオン時代—初期（1） 12. ユニオン時代—初期（2） 13. マルクス主義の受容と批判（1） 14. マルクス主義の受容と批判（2） 15. ギフォード講演（1） 16. ギフォード講演（2） 17. 信仰と歴史（1） 18. 信仰と歴史（2） 19. 第二次世界大戦（1） 20. 第二次世界大戦（2） 21. エキュメニカル運動（1） 22. エキュメニカル運動（2） 23. 冷戦（1） 24. 冷戦（2） 25. 人種問題 26. ベトナム戦争 27. アメリカ史のアイロニー（1） 28. アメリカ史のアイロニー（2） 29. キリスト教現実主義 30. ニーバーと現代
(1) 内容 20世紀アメリカの代表的な神学者・政治思想家・評論家ラインホルド・ニーバー（Reinhold Niebuhr, 1892-1971）の生涯と思想の全体を概観する。その際、ニーバーの背景としてのアメリカ史、とりわけ20世紀アメリカの歴史を確認しながら進める。	
(2) 学びの意義と目標 ニーバーは、とくに、人間と歴史の問題を探求した神学者であった。それも、理論的だけでなく、実践的にも、その問題を考究しようとした。その概要を、ニーバーの生涯の歩みを含めてたどることによって、ニーバーの理解した人間と歴史を理解する。その上で、現代に生きるわれわれの文脈で、それをどのように受け止めべきかを考える。 合わせて、ニーバーの生きた20世紀アメリカがどのような課題を持っていたか、また、それに対してニーバーはどのように立ち向かったかを理解する。21世紀の現在、その力が弱体化しつつあるとは言われるもののなお重要な位置をしめているこの国をどう理解するかは、きわめて現代的かつ緊急の課題である。ニーバーの生涯と思想から、この課題とも取り組んでみたい。	準備学習(予習) あらかじめ指定する教科書の箇所およびその他の文献に眼を通しておく。
	準備学習(復習) 前回の授業内容を、自分の課題として考えてみる。
受講者に対する要望 可能な限り欠席をしないこと。	評価方法 (1) 平常点 40% (2) レポート 60% 評価割合を踏まえ、総合的に評価する。
学びのキーワード ・ ラインホルド・ニーバー ・ 人間 ・ 歴史 ・ 20世紀 ・ アメリカ	教科書 C・C・ブラウン『ニーバーとその時代』聖学院大学出版会、2004 参考書 必要に応じて授業で指示する。

アメリカ文化学研究C			
担当教員：森田 美千代			
学期：週間授 科目：		必修・選択：	単位：4 コード：C2100303
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. はじめに① 02. はじめに② 03. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。① 04. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。② 05. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。③ 06. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。④ 07. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑤ 08. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑥ 09. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑦ 10. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑧ 11. 『自由への大いなる歩み』を読む。① 12. 『自由への大いなる歩み』を読む。② 13. 『自由への大いなる歩み』を読む。③ 14. 『自由への大いなる歩み』を読む。④ 15. 『自由への大いなる歩み』を読む。⑤ 16. 『自由への大いなる歩み』を読む。⑥ 17. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。① 18. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。② 19. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。③ 20. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。④ 21. 『黒人の進む道』を読む。① 22. 『黒人の進む道』を読む。② 23. 『黒人の進む道』を読む。③ 24. 『黒人の進む道』を読む。④ 25. 『良心のトランペット』を読む。① 26. 『良心のトランペット』を読む。② 27. 『良心のトランペット』を読む。③ 28. 『良心のトランペット』を読む。④ 29. おわりに① 30. おわりに②	
(1) 内容			
<p>キリストの愛がキングたちの運動を規制する原理であったこと、またガンディーの非暴力的抵抗が彼らの運動の方法であったこと、さらに原理と方法が彼らの運動においては分かちがたく結びついていたことについて学ぶ。この学びは、課題多き21世紀に、高い理想とそれを社会において貫いて生きようと願っている者にとって、確実な導きを与えてくれる。</p>			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
<p>今学期は、20世紀アメリカにおける最大のキリスト教思想家・牧師・活動家の一人であったマーティン・ルーサー・キング（Martin Luther King, Jr., 1929-1968）について学ぶ。</p>		授業に該当するテキストを事前に読んで、出席する。	
		準備学習(復習)	
		授業で扱われた内容について、授業終了後にまとめておく。	
受講者に対する要望		評価方法	
<p>事前にテキストをよく読んで出席し、授業では積極的に参加・発言をしてほしい。</p>		(1) 平常点 50 (2) レポート 50	
		平常点50%とレポート50%によって総合的に評価する。	
学びのキーワード		教科書	
<ul style="list-style-type: none"> アメリカ公民権運動 人種差別 キリスト教 マーティン・ルーサー・キング マハトマ・ガンディー 		<small>クレイボーン カーソン, Clayborne Carson, 梶原 寿 『マーティン・ルーサー・キング自伝』 (日本基督教団出版局)</small>	
		参考書	

ヨーロッパ文化学研究 A			
担当教員： 片柳 榮一			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 4 コード： C2200101
学部教育の関連目		授業計画	
		01. 序論① 02. 序論② 03. アウグスティヌスの言語論 「教師論」における言語理解（1） 04. 「教師論」における言語理解（2） 05. 「三一神論」における言語理解（1） 06. 「三一神論」における言語理解（2） 07. 「三一神論」における言語理解（3） 08. アウグスティヌスのcogito理解の現代性（1） 09. アウグスティヌスのcogito理解の現代性（2） 10. デカルトのcogito理解 11. デカルトのcogito理解（2） 12. カントのデカルト批判（1） 13. カントのデカルト批判（2） 14. フッサールの「デカルト的省察」とアウグスティヌス（1） 15. フッサールの「デカルト的省察」とアウグスティヌス（2） 16. フッサールとハイデガー（1） 17. フッサールとハイデガー（2） 18. ハイデガーとアウグスティヌス（1） 19. ハイデガーとアウグスティヌス（2） 20. ハイデガーの「存在と時間」における言葉の問題（1） 21. ハイデガーの「存在と時間」における言葉の問題（2） 22. ハイデガーの「存在と時間」における言葉の問題（3） 23. ハイデガーの「哲学への寄与」における言葉の問題（1） 24. ハイデガーの「哲学への寄与」における言葉の問題（3） 25. ヴィトゲンシュタインとアウグスティヌス 26. 「弁証法神学」における言葉の問題（1） 27. 弁証法神学における言葉の問題（2） 28. 弁証法神学における言葉の問題（3） 29. まとめ① 30. まとめ②	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
宗教哲学の現代的課題 本年は宗教哲学にとっての「言葉」の問題を取り上げる。ヨハネ福音書の冒頭にある「はじめに言があった。言は神と共にあった。言は神であった」と言われるように、宗教にとって「言葉」は神に関わる根源的な意味をもっている。言葉は伝達手段であると理解されているが、宗教哲学にとって言葉はそれ以上のものである。言葉は人間存在の根底を開き示すものであり、神に関わる人間の場を明らかにするものである。我々はまず、アウグスティヌスの「神の似像」としての人間理解を取り上げ、そこにおいてcogitoが人間の根源的な「言葉」であり、沈黙の「内的な言葉」であることを確認する。こうした言語理解の流れを現代にいたるまで通覧し、さらに弁証法神学や、ハイデガーやヴィトゲンシュタインの言語理解を通して、宗教哲学の現代的課題としての「言葉」の問題を考えたい。			
(2) 学びの意義と目標			
20世紀の後半、現代哲学は言語論的転換を果たしたといわれ、言語の問題が哲学の主要な課題として浮上した。そこでも根本の問題は「人間とは何か」ということであった。言語哲学の問題を「人間とは何か」という存在論的問として考えたい。言語とは何か、という問を通して「人間とは何か」を問うことが目標である。		準備学習(予習) 前もって渡されたテキストを予習として読んできて欲しい。	
		準備学習(復習) 学んだ歴史事象を現代における可能性として考察しなおしてほしい	
		評価方法 (1) 平常点とレポート	

ヨーロッパ文化学研究Ⅱ

担当教員： 稲田 敦子、和田 光司

学期： 週間授 科目： 必修・選択：

単位： 4 コード： C2200202

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

前半；イギリス像を見る眼をあらたに問い直し、永い伝統を継承しながら同時に新しい時代に対応すべき変革を表している文化状況を中心に、思想的な背景をも検討していきたい。

後半；少数派プロテスタントの歴史を中心に、近世から現代にかけてのフランス宗教史を概観し、フランスにおける宗教共存について考える。

(2) 学びの意義と目標

前半、自由論の古典J. S. ミル、T. H. グリーンなど自由主義の歴史的展開過程をたどり、現代におけるイギリスの両義的側面、文化状況の変化への視点を養っていくことを主眼とする。

後半、ヨーロッパ文明における宗派共存や宗教的寛容の歴史的経過に触れ、現代の宗教対立問題に対する歴史的感性を涵養する。

受講者に対する要望

主体的な学びを要望します。

学びのキーワード

- ・イギリス経験論
- ・イギリス自由主義
- ・宗教戦争
- ・ユグノー、宗教的寛容
- ・フランス近世

授業計画

01. イギリス文化の古層：後進性からの出発①
02. イギリス文化の古層：後進性からの出発②
03. イギリス文化の両義性①
04. イギリス文化の両義性②
05. 「大憲章」の時代状況と意義①
06. 「大憲章」の時代状況と意義②
07. イギリス経験論の源流（１）①
08. イギリス経験論の源流（１）②
09. イギリス経験論の源流（２）①
10. イギリス経験論の源流（２）②
11. イギリス経験論の展開過程①
12. イギリス経験論の展開過程②
13. J. S. ミル『自由論』における自由のあり方①
14. J. S. ミル『自由論』における自由のあり方②
15. T. H. グリーンとその時代
16. 中間総括
17. フランス宗教改革①
18. フランス宗教改革②
19. フランス宗教戦争、ナント王令①
20. フランス宗教戦争、ナント王令②
21. 17世紀のプロテスタント①
22. 17世紀のプロテスタント②
23. ナント王令廃止、カミザールの乱①
24. ナント王令廃止、カミザールの乱②
25. 荒野の教会、ヴォルテール、寛容王令①
26. 荒野の教会、ヴォルテール、寛容王令②
27. フランス革命、公認宗教制、19cのプロテスタント①
28. フランス革命、公認宗教制、19cのプロテスタント②
29. 政教分離法、ライシテ②
30. 政教分離法、ライシテ②

準備学習（予習）

それぞれの思想家の資料を事前に読み込んで、基本的な事例を調べておくこと。

準備学習（復習）

講義でとりあげたテキストの内容をまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) ブックレポート | 30% |
| (2) 期末レポート | 50% |
| (3) 平常点 | 20% |

教科書

プリントを配布する

参考書

キリスト教文化学研究 A				
担当教員： 関根 清三				
学期： 週間授 科目：		必修・選択：		単位： 4 コード： C2300101
学部教育の関連目		授業計画		
		01. 序論①：旧約聖書入門 02. 序論②：解釈と方法 03. 「律法」から①：創造神話（１） 04. 「律法」から②：創造神話（２） 05. 「律法」から③：創造神話（３） 06. 「律法」から④：創造神話（４） 07. 「律法」から⑤：アブラハムのイサク献供物語（１） 08. 「律法」から⑥：アブラハムのイサク献供物語（２） 09. 「律法」から⑦：アブラハムのイサク献供物語（３） 10. 「律法」から⑧：アブラハムのイサク献供物語（４） 11. 「律法」から⑨：モーセの十戒（１） 12. 「律法」から⑩：モーセの十戒（２） 13. 「律法」から⑪：モーセの十戒（３） 14. 「律法」から⑫：モーセの十戒（４） 15. 「預言者」から①：第一イザヤ書の頑迷預言（１） 16. 「預言者」から②：第一イザヤ書の頑迷預言（２） 17. 「預言者」から③：第二イザヤ書の贖罪思想（１） 18. 「預言者」から④：第二イザヤ書の贖罪思想（２） 19. 「預言者」から⑤：第二イザヤ書の贖罪思想（３） 20. 「預言者」から⑥：第二イザヤ書の贖罪思想（４） 21. 「諸書」から①：コーヘレス書のニヒリズム（１） 22. 「諸書」から②：コーヘレス書のニヒリズム（２） 23. 「諸書」から③：コーヘレス書のニヒリズム（３） 24. 「諸書」から④：コーヘレス書のニヒリズム（４） 25. 「諸書」から⑤：歴史叙述と対比したダビデの罪の告白の詩篇（１） 26. 「諸書」から⑥：歴史叙述と対比したダビデの罪の告白の詩篇（２） 27. 「諸書」から⑦：歴史叙述と対比したダビデの罪の告白の詩篇（３） 28. 「諸書」から⑧：歴史叙述と対比したダビデの罪の告白の詩篇（４） 29. まとめ①：旧約聖書の根本問題 30. まとめ②：旧約聖書が現代に語りかけるもの		
カリキュラム上の位置付け				
(1) 内容				
く旧約聖書を読む> 新約聖書とともにキリスト教の根幹をなし、またヨーロッパ精神史に多大な影響を与えてきた、「旧約聖書」に親しむことを目標とする講義。毎回、短めのテキストを選んで、その言語的・歴史的・思想的背景と解釈史の要点を参照しつつ、解釈者はそのテキストのどこに感銘をうけるか、その勘所を探りたい。そうした解釈学的な読み解きを積み重ねた先に、全体として旧約聖書が現代に何を語りかけるか、何がしかの知見を深めることを、ついの課題とする。				
(2) 学びの意義と目標				
欧米の文化を理解するためには、キリスト教についての知見が不可欠である。その基礎となる旧約聖書の素晴らしさを味わうことが、本講義の主たる目標となる。それは同時に本学の建学の精神に迫る意義をも持つに違いない。さらには一般にテキストを解釈するとはどういうことか、またそれにはどういう方法があるかについても展望を開きたい。		準備学習(予習)		
		適宜次回のテキストを配布して事前に読んでくることを薦めるが、他には特に必要はない。敢えて言えば講義に集中できるよう、よく体調を整えてくること。		
		準備学習(復習)		
		当該テキストと読み比べて、講義の主要な論点は何だったかを纏めること。		
		評価方法		
		(1) 期末試験 80% (2) 適宜レポート 20%		
		講義が一段落したところで何回か、理解度をチェックする短いレポートを時間内に課す。しかし80％は期末試験の成績で評価する。		
学びのキーワード		教科書		
・創造信仰と所与性の哲学 ・倫理とその根拠 ・贖罪と神義論 ・ニヒリズムとその超克 ・罪と赦し		参考書		
		『聖書』（特に版は定めない）		

キリスト教文化学研究C			
担当教員：菊地 順、阿久戸 光晴			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 4 コード： C2300303
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. イギリス・ピューリタン革命の発生（原因と影響）① 02. イギリス・ピューリタン革命の発生（原因と影響）② 03. メイフラワー号の航海と新大陸到着後の聖約① 04. メイフラワー号の航海と新大陸到着後の聖約② 05. ニューイングランド植民地におけるピューリタン「正統派」の神政政治① 06. ニューイングランド植民地におけるピューリタン「正統派」の神政政治② 07. ロジャー・ウィリアムズらピューリタン「分派」の信仰告白闘争① 08. ロジャー・ウィリアムズらピューリタン「分派」の信仰告白闘争② 09. アメリカ合衆国各州における人権宣言と連邦憲法修正第一条① 10. アメリカ合衆国各州における人権宣言と連邦憲法修正第一条② 11. リンカーン大統領の奴隷解放宣言とその後の展開① 12. リンカーン大統領の奴隷解放宣言とその後の展開② 13. マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師の公民権運動と今日の課題① 14. マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師の公民権運動と今日の課題② 15. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その背景①（奴隷制度） 16. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その背景②（人種隔離制度） 17. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その原点（モンゴメリーでの闘い） 18. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その展開①（初期の闘い） 19. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その展開②（バーミングハム闘争） 20. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その展開③（ワシントン大行進） 21. マーティン・ルーサー・キングと非暴力の精神—その背景①（ガンジーとの出会い） 22. マーティン・ルーサー・キングと非暴力の精神—その背景②（闘争を通しての深化） 23. マーティン・ルーダー・キングと非暴力の精神—その思想①（愛と非暴力） 24. マーティン・ルーサー・キングと非暴力の精神—その思想②（非暴力の思想） 25. マハトマ・ガンディーと非暴力の戦い—南アフリカ 26. マハトマ・ガンディーと非暴力の戦い—インド 27. マハトマ・ガンディーと非暴力の精神①（非暴力の思想） 28. マハトマ・ガンディーと非暴力の精神②（キングとの相違） 29. まとめ—現代文明と非暴力の精神①（他の事例） 30. まとめ—現代文明と非暴力の精神②（その価値）	
(1) 内容			
この授業では、キリスト教倫理学について学びます。特に今年度は「現代文明と非暴力の精神」について学びます。「戦争の世紀」と呼ばれた20世紀から21世紀へと移行しましたが、戦争は一向になくならないだけではなく、ますます複雑になっています。この授業では、20世紀に非暴力の精神に基づいて展開された運動に注目し、その精神を学び、現代人の生き方について考えたいと思います。直接的に取り上げるのは、アメリカでの公民権運動の指導者マーティン・ルーサー・キングです。しかし、それに先立ち、キングたちの運動を支えることになったアメリカのデモクラシーの精神を学び、それとの関連においてキングの非暴力の精神を見ていきたいと思っています。また必要に応じて、キングに影響を与えたマハトマ・ガンジーにも触れます。前半は阿久戸が担当し、後半は菊地が担当します。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
キングとガンジーは、20世紀において、非暴力の思想とその実践において世界に大きな影響を与えましたが、この二人の人物をとおして非暴力の精神を学ぶと共に、デモクラシーの精神との関連を考察し、21世紀において持つその意義を考えます。		シラバスに沿って、配布されたプリント等を必ず下読みし、予め問題意識を持って参加して下さい。	
		準備学習(復習)	
		配布されたプリント等を必ず読み直し、また授業中に紹介された参考文献等にも目を通し、理解を深めると共に、自らの問題発見に努めて下さい。	
受講者に対する要望		評価方法	
質疑応答や議論をしながら授業を進めますので、積極的に参加して下さい。		(1) 平常点 50 (2) レポート 50	
		授業への参加度を重視します。また学期の終わりには、レポートを書いてもらいます。その両方で評価します。割合は、それぞれ50%です。	
学びのキーワード		教科書	
・ マーティン・ルーサー・キング ・ マハトマ・ガンジー ・ デモクラシー ・ 非暴力 ・ 人権		原則、プリント等を使用します。	
		参考書	
		授業の中で、随時紹介します。	

日本文化学研究 A			
担当教員： 清水 正之			
学期： 週間授 科目：		必修・選択： 選択	単位： 4 コード： C2500604
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 始めに 講義の目標と、それぞれの問題意識との連関を考えていきます。 02. 森有正とキリスト教 03. 森有正「経験と思想」をよむ 1 04. 森有正「経験と思想」をよむ 2 05. 森有正「経験と思想」をよむ 3 06. 森有正「経験と思想」をよむ 4 07. 森有正「経験と思想」をよむ 5 08. 森有正「経験と思想」における日本人論の考察 1 09. 森有正「経験と思想」における日本人論の考察 2 10. 森有正「経験と思想」における日本人論の考察 3 11. 森有正と比較思想的比較文化的考察 1 12. 森有正と比較思想的比較文化的考察 2 13. 森有正と比較思想的比較文化的考察 3 14. 森有正と比較思想的比較文化的考察 4 15. 森有正と比較思想的比較文化的考察 5 16. 森有正の思想 その中間考察 17. 森有正と近代の理解。「近代精神とキリスト教」を読む 1. 18. 森有正と近代の理解。「近代精神とキリスト教」を読む 2 19. 森有正と近代の理解。「近代精神とキリスト教」を読む 3 20. 森有正と近代の理解。「近代精神とキリスト教」を読む 4 21. 森有正と近代の理解。「近代精神とキリスト教」を読む 5 22. 近代日本思想史における森有正の位置 和辻哲郎との関係 1 23. 近代日本思想史における森有正の位置 和辻哲郎との関係 2 24. 森有正の思想的原点 パルカルとデカルト 1 25. 森有正の思想的原点 パルカルとデカルト 2 26. 森有正の思想的原点 パルカルとデカルト 3 27. 森有正の思想的原点 パルカルとデカルト 4 28. 森有正の思想的原点 パルカルとデカルト 5 29. 森有正の思想とその全体像 1 30. 折有正の思想とその全体像 2	
(1) 内容		準備学習(予習)	
キリスト教と日本人の精神性との関連を、主としてキリスト教思想家の著作を通して学ぶ授業です。 倫理思想史の観点から、近代のキリスト教思想史の基本的な知識を得るとともに、時代的な思想家の思想的連関にも着目しながら、講義を進めていきます。、		該当テキスト、関連研究論文等を前もって周到に読んでおくこと。	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)	
近代の思想史的連関のなかで、対象を考察する中で、自らの宗教性についての理解を一層明らかにし、 それぞれの問題意識が、さらに深まることをひとつの目標としています。		各回、小レポートをまとめ、提出することを課す。	
受講者に対する要望		評価方法	
授業内での積極的な発言や問題提起を望みます。		(1) 授業への参加度 積極性 授業へ 講義内での理解度、発言力、討論能力を評価する (2) 年度末の小論文をその完成度によって評価する。 完成度 小論文は、形式、内容の両面から評価する。	
学びのキーワード		教科書	
・ 森有正 ・ 日本とキリスト教 ・ 日本人の宗教性 ・ 近代日本の倫理思想		参考書	
		「思索と経験をめぐって」講談社学術文庫 5 2、等。	

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： C2500705

授業計画

01. 授業担当者の研究紹介
02. 研究文献の講読
03. 同上
04. 同上
05. 同上
06. 同上
07. 同上
08. 同上
09. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上

(1) 内容

近現代日本の思想・キリスト教を対象とした最新の研究論文や著作を講読する。ゼミ形式で行う。選定は受講者の関心を重視し相談の上で行う。

(2) 学びの意義と目標

その分野における先行研究を時代ごとにとつ
け、その根底な問題意識と対峙すること。その
作業を通じて己の関心を問い直し、研究の独自性
を練り上げること。

準備學習(予習)

文献に注記されている先行研究には、原則として、すべてに目を通してくること。発表の際には対論を必ず出すこと。

準備學習(復習)

自己の研究テーマや方法との交錯および分岐を意識し、みずからの独自性をめぐって思索を深めること。

評価方法

(1) 研究発表と討論

100

受講者に対する要望

最新の研究成果に謙虚に学ぶ姿勢を堅持しつつも、自己の世界、自己の課題を見失うことのないよう、緊張感を持って対峙してほしい。

研究発表と討論が全てである。

学びのキーワード

- ・近代日本史
- ・現代日本史
- ・思想史
- ・キリスト教史
- ・文学史

教科書

参考書

研究方法特論I

担当教員：森田 美千代

学期：週間授 科目： 必修・選択：

単位：2 コード：C2900434

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「大学院生としての書く力」の目標を達成するために、担当者は、受講生が論文作成の基礎としての課題や問題を見だし、自分で調べ、学び、考え、整理し、そして、それらをもとにして実際に論文にまとめる方法を身につけることができるように、毎回個人指導をする。また、担当者は、受講生によって提出された小論文・その他に対して、毎回きめ細かな添削指導をする。

(2) 学びの意義と目標

大学卒業後にながく学問の場から離れていた学生（シニア学生）や、その他必要を感じている学生に対して、研究の基本である「大学院生としての書く力」を養成することを目標とする。「研究方法特論I」は基礎科目である。

受講者に対する要望

受講者によって毎回提出される小論文のテーマは、春学期中できるだけ一貫性のあるものを望む。

学びのキーワード

- ・研究方法の基礎
- ・論文作成の基礎
- ・大学院生としての書く力
- ・添削指導
- ・個人指導

授業計画

01. はじめに
02. テーマの設定①
03. テーマの設定②
04. 資料の収集①
05. 資料の収集②
06. 本文の作成①
07. 本文の作成②
08. 本文の作成③
09. 本文の作成④
10. 本文の作成⑤
11. 注のつけ方①
12. 注のつけ方②
13. 文献表の作り方①
14. 文献表の作り方②
15. おわりに

準備学習(予習)

受講生は、事前に小論文・その他を提出する。

準備学習(復習)

受講生は、事前に小論文・その他を提出する。担当者によって添削された小論文・その他を授業終了後に訂正する。

評価方法

- | | |
|---------|----|
| (1) 平常点 | 30 |
| (2) 提出物 | 70 |

平常点30%と提出物70%によって総合的に評価する。

教科書

河野 哲也 『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）

参考書

[illegible]

単位： 2 コード： C2905151

01. イントロダクション—授業の進め方、英語力テスト
02. テキスト選択と決定、分担決定、講読担当にあたっての注意
03. 講読 1
04. 講読 2
05. 講読 3
06. 講読 4
07. 英文の種類と論理展開
08. 講読 5
09. 講読 6
10. 講読 7
11. 講読 8
12. 英語論文のレトリック
13. 講読 9
14. 講読 10
15. 講読 11

英語の論説文・随筆文・物語文などさまざまな文
体・様式の英文を読む。単なる訳読にとどまら
ず、要約や構造のチャート化などを通して、英文
の論理展開やレトリックを知り、より深い内容理
解を目指す。

テキストは、受講生の興味関心に合わせて、ま
た、開講時に行う英語力テストの結果に応じて選
択・決定する予定である。受講生の英語力によっ
ては、読解・翻訳・要約などの小テストを行う。

大学院語学選択科目として、研究のために論文を読み解く読み方を身につける。多読によってさまざまな文体に慣れ、より高度な英語文献の読解力をつけることを目標とする。

テキストは担当部分以外でも必ず前もって読んでおき、知らない単語を調べ、内容を確認しておくこと。担当者は訳だけでなく内容の要約や説明ができるようにし、担当部分のポイントや情報をまとめた発表レジュメを作成すること。

授業で講読した箇所は必ず復習をしておくこと。また、講読箇所の要約、講義内容の要点のまとめを随時しておくこと。

(1) 発表準備	30%	レジュメ作成を含む
(2) 発表	20%	
(3) 平常点	30%	
(4) 課題・小テスト	20%	

小テストの実施については、受講者数と受講者の英語力によって判断する。小テストの評価は課題に含める。

積極的な読書姿勢、意欲的な授業参加を望みます。また、テキスト内容についての活発なディスカッションを求めます。

- ・英語読解
- ・文献講読
- ・論説文・随筆文・物語文
- ・英語のレトリック
- ・英語論文の構成とフォーマット

受講生の興味関心に合わせて、また、開講時に行う英語力テストの結果に応じて選択・決定する。

原書講読B（英語）			
担当教員：氏家 理恵			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
学部教育の関連目		単位： 2 コード： C2905252	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容		授業計画	
英語の論説文・随筆文・物語文などさまざまな文体・様式の英文を読む。単なる訳読にとどまらず、要約や構造のチャート化などを通して、英文の論理展開やレトリックを知り、より深い内容理解を目指す。 テキストは、受講生の興味関心に合わせて、また、開講時に行う英語力テストの結果に応じて選択・決定する予定である。受講生の英語力によっては、読解・翻訳・要約などの小テストを行う。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
大学院語学選択科目として、研究のために論文を読み解く読み方を身につける。多読によってさまざまな文体に慣れ、より高度な英語文献の読解力をつけることを目標とする。			
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
積極的な読書姿勢、意欲的な授業参加を望みます。また、テキスト内容についての活発なディスカッションを求めます。			
学びのキーワード		評価方法	
・ 英語読解 ・ 文献講読 ・ 論説文・随筆文・物語文 ・ 英語のレトリック		(1) 発表準備	

原書講読 A (独語)			
担当教員： 原 一子			
学期： 週間授 科目： 必修・選択：			単位： 2 コード： C2905353
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 授業の進め方の説明、教材の選択、担当者の決定 02. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習① 03. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習② 04. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習③ 05. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習④ 06. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習⑤ 07. 1冊目のテキスト講読① 08. 1冊目のテキスト講読② 09. 1冊目のテキスト講読③ 10. 1冊目のテキスト講読④ 11. 1冊目のテキスト講読⑤ 12. 1、ないし2冊目のテキスト講読① 13. 1、ないし2冊目のテキスト講読② 14. 1、ないし2冊目のテキスト講読③ 15. 1、ないし2冊目のテキスト講読④	
(1) 内容			
少人数の講義なので、例年、受講者のドイツ語学習歴、研究テーマ、興味関心などに応じて、学生と相談のうえ、時間配分や教材を決めている。文法の復習を希望する受講生が多いことから、初めの5～6回は『ABCドイツ語文法読本』によって文法をざっとさらった後、ドイツ語の平易な文献を1、2冊講読している。 2冊目の教材としては、過去には、易しいドイツ語の民話集、ヤスパース『歴史の起源と目標』の中から受講生に興味のあるテーマ、ニーチェ『ツァラトストラ』などを選んだ。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
大学・大学院共通科目である。多読によって語学力を磨き、ドイツ語のより高度な文献を読む力をつけることが本講義の目標である。		宿題の翻訳や練習問題をこなしながら、文法項目を確認する。辞書を引いて授業に臨むことはもちろん、文法事項についても前もって教科書を読んでおくこと。	
		準備学習(復習)	
		翻訳や練習問題が十分に出来ていなかった部分について、文法事項を重点的に確認し復習することは必須である。	
		評価方法	
		(1) 課題達成度 70 (2) 学習態度 30	
受講者に対する要望		期末試験を行うか否かは受講者数によって判断する。	
努力なしには語学力を身につけることはできない。読本の日本語訳、文法問題など、自宅学習は必須である。自宅での学習が疎かになると授業が成り立たないことを理解し、自宅で少しでも多く学習して授業に臨むことを期待する。		教科書	
学びのキーワード		大岩信太郎 『ABCドイツ語文法読本』 (三修社)	
・ドイツ語 ・ドイツ語文法 ・文献講読		参考書	

原書講読B (独語)

担当教員： 関根 清三

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 2 コード： C2905454

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

C. Wetsermann: Das Alte Testament und Jesus Christus (旧約聖書とイエス・キリスト) を読む。ヴェスターマンは20世紀を代表する旧約学者の一人。この碩学が、預言、歴史、嘆きと賛美、知恵といった諸テーマをめぐって、旧新約聖書の関連を問うた書物を丹念に読み、縦横に引用される聖書のテクストを参照併読して、聖書についての知見を深める演習。

(2) 学びの意義と目標

平易なドイツ語を、基本的な文法を押さえて正確に読むことを目標とする。その先に旧新約聖書を自分で紐解いて、それに親しむことは、欧米文化に興味ある多くの人に意義があるはずである。

受講者に対する要望

予習と復習をすること。

学びのキーワード

- ・ドイツ語の読解
- ・Bibelkunde
- ・旧約の預言と新約聖書
- ・旧約の歴史とイエス・キリスト
- ・嘆きと賛美における神の民の応答

授業計画

01. 序論
02. 旧新約聖書の関係についての見方の変遷
03. 預言者の嘆き
04. 神の審判の告知者としての預言者
05. 救済の告知者としての預言者
06. 歴史の始めの救い
07. 召命と随順
08. 祝福
09. 王国
10. 律法
11. 原初史と族長時代
12. キリストと民の嘆き
13. 神賛美
14. 知恵
15. まとめ

準備学習(予習)

次の回のテキストのドイツ語の意味を辞書を用いながら、調べておくこと。またそこで言及される旧新約聖書の箇所を参照し、釈義をすること。

準備学習(復習)

前回読んだ箇所の内容を要約すること。

評価方法

(1) 授業への参加度 100%

毎回出席者に訳してもらい、内容について議論し、それを基準に評価する。

教科書

プリントを配布する。

参考書

原書講読 A (仏語)		WLAG-A-501
担当教員： 鹿瀬 颯枝		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： C2905555
<div>学部教育の関連目</div> <div>【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける</div>	<div>授業計画</div> <div>01. フランス語の実力テスト</div> <div>02. フランス語の講読に必要な基本的文法事項</div> <div>03. フランス語の講読に必要な基本的文法事項</div> <div>04. Alfred de Musset, Lorenzaccio 講読（1）</div> <div>05. 講読（2）</div> <div>06. 講読（3）</div> <div>07. 講読（4）</div> <div>08. 講読（5）</div> <div>09. 講読（6）</div> <div>10. 講読（7）</div> <div>11. まとめ</div> <div>12. Le Cl?zio, Le Chercheur d’Or 講読（1）</div> <div>13. 講読（2）</div> <div>14. 講読（3）</div> <div>15. まとめ</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>（1）内容</div> <div>先行きが不安な今日、政治的ペシミズムと心理的ペシミズムが入り混じるなか、若者たちの孤独や絶望感は、19世紀初頭に若者たちが罹っていた《世紀病Mal du si?cle》を思い起こさせます。1834年、23歳のAlfred de MussetがLorenzaccioを通して描いた永遠の青年像とともに読み解いていきましょう。《生きにくさdifficult? d’?tre》の源をともに考えてみたいと思います。</div> <div>さらには、時間の許す限り、2008年度ノーベル文学賞受賞作家J. M. G. Le Cl?zioの長編大作からLe Chercheur d’Orを抜粋で、あるいは短編集から一編平易なテキストを取り上げたいと思いますが、開講時に受講生と相談して決めます。</div>		
<div>（2）学びの意義と目標</div> <div>「フランス語講読」は、《生きにくさ》を生き抜かねばならない現代社会の青年像をテーマにテキスト選びをしていますので、名作を通してフランス語の学びと同時に、共に生きるということについても考えていきます。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>大学院の「原書講読（フランス語）」と同じレベルでスタートするクラスなので、学部4年生に総仕上げのフランス語授業として参加してほしいと願っています。</div>	<div>準備学習(予習)</div> <div>予習として、少なくとも次回の講読部分を辞書を用いて和訳をしておきましょう。少々難解でも試みてみましょう。</div>	
	<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で講読した箇所を原文のみで読解できるか復習をしておきましょう。</div>	
	<div>評価方法</div> <div><div><div>（1）授業出席</div><div>（2）発表</div><div>（3）テスト</div></div><div><div>60%</div><div>20%</div><div>20%</div></div><div>積極的授業参加が最小限の条件です</div></div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・ フランス語</div><div>・ ミュッセ</div><div>・ 『ロレンザッチョ』</div><div>・ ル・クレジオ</div><div>・ 『黄金探索者』</div></div>	<div>教科書</div>	<div>参考書</div>

原書講読 A (ラテン語)			
担当教員：片柳 榮一			
学期：週間授 科目：必修・選択：			単位：2 コード：C2905959
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. ラテン語の面白さ 02. 主格および対格 03. 奪格 04. 名詞の性および形容詞 05. 奪格支配および対格支配 06. 名詞の数 07. 属格 08. 繫辞 09. 与格 10. 不定法 11. 動詞の人称変化 12. 命令法および呼格 13. 指示代名詞および不定代名詞 14. 関係代名詞 15. まとめ	
(1) 内容			
名詞は格（主格、属格、与格、対格、奪格）変化に応じて、五つの種類に分かれることを理解し、その代表的なものを覚える。また動詞は人称変化に応じて、四つの類型に分かれることを理解し、代表的なものの現在人称変化を覚える。その他、不定法、命令法、関係代名詞などに関して、その用法を理解する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
ヨーロッパの古典語一般がそうであるが、ラテン語も名詞、動詞などほとんどの単語がそれぞれ語尾変化し、自らが一つの文章中でどのような役割をしているかを、いちいち語尾変化で示す（近代語は語尾変化を減らして、それを文の中の位置で示そうとする）。その変化を覚えるのは、初心者にとっては、いささか苦痛である。その苦痛を少し忍んで、語尾変化を覚えてゆくと、或る日単語がひとりでに動いて文章の形（主語と動詞）をなしてゆくように思える時がくる。ラテン語がいわば微笑みかけてくる時だ。そうなるとラテン語の学びは楽しみとなる。そのような時に至ることを目標にしたい。		知らない単語は前もって調べておくこと。	
ラテン語の特徴は、短い文章のうちに多くの内容を包みうるその簡潔性にあると思う。ヨーロッパ語にはめずらしく冠詞がないところにその簡潔性はよく現われている。冗長な文章を書きがちな我々現代人は、簡潔さの中に多くの内容を盛り込んだラテン語の凝集力から多くのことを学びうらと思う。		準備学習(復習)	
受講者に対する要望		文法事項の暗唱	
正確に文法を把握すること		評価方法	
		(1) 平常点 50 (2) 期末試験 50	
学びのキーワード		教科書	
・名詞の格変化 ・動詞の人称変化 ・命令法 ・不定法 ・関係代名詞		M・アモロス 『ラテン語の学び方』（南窓社）	
		参考書	

原書講読B（ラテン語）			
担当教員： 片柳 榮一			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	
学部教育の関連目		単位： 2 コード： C2906060	
カリキュラム上の位置付け		授業計画	
(1) 内容		01. 奪格別句 02. 形容詞の比較・最上級 03. 変位動詞 04. 非人称動詞 05. 動詞的形容詞 06. 過去形 07. 半過去形 08. 未来形 09. 大過去形 10. 接続法 11. 間接話法 12. 接続詞cumの用法 13. 条件文 14. 結果文 15. まとめ	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
ヨーロッパの古典語一般がそうであるが、ラテン語も名詞、動詞などほとんどの単語がそれぞれ語尾変化し、自らが一つの文章中でどのような役割をしているかを、いちいち語尾変化で示す（近代語は語尾変化を減らして、それを文の中の位置で示そうとする）。その変化を覚えるのは、初心者にとっては、いささか苦痛である。その苦痛を少し忍んで、語尾変化を覚えてゆくと、或る日単語がひとりでに動いて文章の形（主語と動詞）をなしてゆくように思える時がくる。ラテン語がいわば微笑みかけてくる時だ。そうなるとラテン語の学びは楽しみとなる。そのような時に至ることを目標にしたい。 ラテン語の特徴は、短い文章のうちに多くの内容を包みうるその簡潔性にあると思う。ヨーロッパ語にはめずらしく冠詞がないところにその簡潔性はよく現われている。冗長な文章を書きがちな我々現代人は、簡潔さの中に多くの内容を盛り込んだラテン語の凝集力から多くのことを学びうらと思う。		知らない単語は前もって調べておくこと。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
		文法事項の暗唱	
文法事項(殊に動詞の人称変化、名詞の格変化)は正確に憶えること		評価方法	
		(1) 平常点 50 (2) 期末試験 50	
学びのキーワード		教科書	
・ 動詞の過去形 ・ 動詞の半過去形 ・ 動詞の未来形 ・ 奪格別句 ・ 動詞の接続法		M・アモロス 『ラテン語の学び方』（南窓社）	
		参考書	

原書講読A (ヘブライ語)			
担当教員： 左近 豊			
学期： 週間授 科目： 必修・選択： 選択			単位： 2 コード： C2906110
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 序論、Lesson1 ヘブライ語のアルファベット 発音記号・ダーゲッシュ 子音の読みなど 02. Lesson2 音節 母音（長母音・短母音・Matres-母音代用文字） アクセント 03. Lesson3 名詞 語尾変化 04. Lesson4 語根 Weak Radicals 05. Lesson5 重複音名詞（Geminate Nouns）Segolate 名詞 不規則複数 06. Lesson6 定冠詞 前置詞 接続Waw 07. Lesson7 形容詞の語尾変化 形容詞の用法 08. Lesson8 動詞の活用 動詞の語尾変化 Qal形能動態の分詞 分詞の用法 Qal形受動態の分詞 09. Lesson9 人称代名詞 人称接尾辞 目的語について 10. Lesson10 指示代名詞、関係節、疑問節、感嘆表現など 11. Lesson11 属格支配 最上級 12. Lesson12 人称接尾辞を伴う名詞 13. Lesson13 動詞完了時制 14. Lesson14 ヘブライ詩文 喉音動詞のQal完了時制 15. Lesson15 Piel形完了時制 Piel形の意味、まとめ	
(1) 内容			
旧約聖書ヘブライ語文法および原典講読を中心として旧約聖書文献学を研究する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
教科書にそって旧約聖書ヘブライ語を、その歴史的成り立ちを含めて体系的に学びつつ、できるだけ多様なヘブライ語表現にふれることで、実践的なヘブライ語読解力を身につけることを目的とする。さらにヘブライ語聖書研究に必携であるBDBを多用し、その的確かつ効率的な使用法を習得する。		毎回冒頭で単語クイズを行ないますので、当該範囲を暗記すること。また毎回、章末の問題の解答を用意して授業に臨んでください。	
		準備学習(復習)	
		教科書が、復習を前提とした構成になっているので、新しい単元に進むたびに学びを振り返ることが求められます。	
受講者に対する要望		評価方法	
予習が重要ですので、授業の前に準備をもって臨んでください。		(1) 授業への参加状況 50 予習・復習を踏まえた授業参加 (2) 単語テスト 25 毎回授業の冒頭で新出語彙について的小クイズをいたします。 (3) 試験 25 適宜、習熟度を確かめるための試験を行います。	
学びのキーワード		教科書	
・ 聖書ヘブライ語 ・ セム語（北西セム語） ・ 旧約聖書の歴史的・文化的背景		A Grammar for Biblical Hebrew (Revised Edition), C.L. Seow, Abingdon Press	
		参考書	
		F. Brown, S.R. Driver, and C.A. Briggs. A Hebrew and English Lexicon of the Old Testament. Oxford: Clarendon, 1907. 通称 "BDB"	

原書講読B (ヘブライ語)			
担当教員： 左近 豊			
学期： 週間授 科目：			必修・選択： 選択
			単位： 2 コード： C2906210
学部教育の関連目		授業計画	
		01. Lesson15までの復習（名詞、形容詞に関する事柄など） 02. Lesson15までの復習（人称接尾辞、動詞に関する事柄など） 03. Lesson16 Hiphil形完了時制 Hiphil形の意味 04. Lesson17 目的接尾辞を伴う動詞完了 05. Lesson18 未完了時制 Qal未完了 未完了時制の用法 06. Lesson19 喉音動詞のQal未完了時制 07. Lesson20 過去時制（Preterite） 08. Lesson21 Qal Jussive、Qal Cohotative、Qal命令法 命令法について 09. Lesson22 目的接尾辞を伴う未完了時制と命令法 10. Lesson23 Qal不定詞構文 11. Lesson24 Piel形変化 12. Lesson25 Hiphil形変化 13. Lesson26 Niphal形変化 14. Lesson27 Hithpael、Pual、Hophal、Polel、Polal、Hithpolel 15. 総括	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
旧約聖書ヘブライ語文法および原典講読を中心として旧約聖書文献学を研究する。春学期に引き続きSeow, A Grammar for Biblical Hebrewに沿って授業を進める。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
教科書にそって旧約聖書ヘブライ語を、その歴史的成り立ちを含めて体系的に学びつつ、できるだけ多様なヘブライ語表現にふれることで、実践的なヘブライ語読解力を身につけることを目的とする。さらにヘブライ語聖書研究に必携であるBDBを多用し、その的確かつ効率的な使用法を習得する。		毎回冒頭で単語クイズを行ないますので、当該範囲を暗記すること。また毎回、章末の問題の解答を用意して授業に臨んでください。	
		準備学習(復習)	
		教科書が復習を前提として編まれていますので、新しい単元に進むごとに学びを振り返ることが求められます。	
受講者に対する要望		評価方法	
語学の習得を通して、その語の成立の過程や思想的特徴に触れる醍醐味を味わってください。		(1) 授業への参加状況 50 (2) 単語テスト 25 (3) 試験 25	
学びのキーワード		教科書	
・ 聖書ヘブライ語 ・ 北西セム語 ・ 旧約聖書の歴史的・文化的背景		A Grammar for Biblical Hebrew (Revised Edition), C.L. Seow, Abingdon Press	
		参考書	
		F. Brown, S. R. Driver, and C. A. Briggs. A Hebrew and English Lexicon of the Old Testament. Oxford: Clarendon, 1907. 通称 "BDB"	

単位：2 コード：C2910101

15. 討議 2

必要に応じて授業内に指示する。

文献講読 B			
担当教員：濱田 寛			
学期：週間授		科目：	必修・選択：
単位：2		コード：C2910202	
学部教育の関連目		授業計画 01. ガイダンス 02. 『蒙求』概説 03. 故宮本『蒙求』講読①／王戎簡要 04. 故宮本『蒙求』講読②／裴楷?清通 05. 故宮本『蒙求』講読③／孔明臥龍 06. 故宮本『蒙求』講読④／呂望非熊① 07. 故宮本『蒙求』講読⑤／呂望非熊② 08. 故宮本『蒙求』講読⑥／楊震関西 09. 故宮本『蒙求』講読⑦／丁寛易東 10. 故宮本『蒙求』講読⑧／謝安高潔 11. 故宮本『蒙求』講読⑨／王導公忠 12. 故宮本『蒙求』講読⑩／匡衡鑿壁 13. 故宮本『蒙求』講読⑪／孫敬閉戸① 14. 故宮本『蒙求』講読⑫／孫敬閉戸② 15. 総括	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容 台湾故宮博物院蔵『蒙求』古注の講読			
(2) 学びの意義と目標 唐・李瀚撰『蒙求』は四言五九六句で構成される一首の作品である。各句は概ね「人名」とその人物に関する「故事」によって構成され、初学者のために編まれた作品である。故宮博物院蔵『蒙求』古鈔本は、現行の宋・徐子光注以前の古態の注を伝える、所謂「古注蒙求」である。この写本にはヲコト点・声点・返点・仮名が施されており、これらの読解を通して漢文資料読解の基本的な技術の修得を目標とする。		準備学習(予習) テキストの指定箇所の準備を必須とする。	
		準備学習(復習) 教場にて適宜指示する。	
		評価方法 (1) 積極性 50% 事前準備・講読における積極性 (2) 習熟度 50% 写本の「読解」のためのスキルの習熟度を勘案する 本講義は「講読」であるかた、受講生の事前の準備が極めて重要である。	
受講者に対する要望 テキストは「画像データ」でも配布する予定である。写本の細部を検討する上でタブレット・PCによる拡大表示は極めて有効である。モバイル端末の使用を推奨する。また、漢和辞典は必携とする(電子辞書も可)。		教科書 教場にて配布する	
学びのキーワード ・『蒙求』／李瀚／古注 ・ヲコト点／声点／返点／古訓 ・原典考証		参考書 ・汲古書院『蒙求古註集成』全四冊 ・明治書院・新釈漢文大系『蒙求』(上・下)	

文献講読 C			
担当教員： 和田 光司			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
		単位：	2
		コード：	C2910303
学部教育の関連目		授業計画	
		01. イントロダクション 02. 講読第1回 03. 講読第2回 04. 講読第3回 05. 講読第4回 06. 講読第5回 07. 講読第6回 08. 講読第7回 09. 講読第8回 10. 講読第9回 11. 講読第10回 12. 講読第11回 13. 講読第12回 14. 講読第13回 15. 総括	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
ヨーロッパ史についての英語あるいはフランス語の文献を講読する。テキストは受講者と相談し、関心や外国語読解力によって決定する。英語については、R. W. Scribner and C. Scott Dixon, The German Reformation, N. Y., 2003; T. C. W. Blanning, The French Revolution, Class War or Culture Clash?, N. Y., 1998; Peter Burke, The Renaissance, N. Y., 1997. フランス語については、M. Peronnet, Le XVI ^e siècle, Paris, 1992, Fernand Braudel, La Mediterranee, l' espace et l' histoire, Paris, 1985. Jean Delumeau, Naissance et affirmation de la Reforme, Paris, 1965. などを候補として考えているが、それ以外も可能である。			
(2) 学びの意義と目標			
外国語の文献読解力をブラッシュアップする。またヨーロッパ近世・近代の歴史理解を通じて、ヨーロッパ文明に対する理解を深める。		準備学習(予習)	
		受講者は毎回、次回の講読箇所を理解しておくこと。	
		準備学習(復習)	
		前回の授業での講読箇所に出てきた語彙、文法的事項を再度確認し、知識として定着させること。また、歴史事項など、理解の不十分であった事項を調べるとともに、前回の講読内容をそれ以前のテキストとの関連から把握し、テキスト全体としての流れを理解すること。	
		評価方法	
		(1) 平常点 30%	
		(2) 講読 70%	
受講者に対する要望			
語彙力、文法力、作文力など他の語学力の諸要素も、並行して自主的な学習によって伸ばし、この授業に限定せず語学力を総合的に涵養してほしい。			
学びのキーワード		教科書	
・ ヨーロッパ ・ 歴史 ・ 宗教改革 ・ 英語 ・ フランス語		参考書	

単位： 2 コード： C2910404

01. 序論
02. 内村鑑三 (1)
03. 内村鑑三 (2)
04. 遠藤周作 (1)
05. 遠藤周作 (2)
06. 椎名燐三 (1)
07. 椎名燐三 (2)
08. 夏目漱石 (1)
09. 夏目漱石 (2)
10. 森鴉外 (1)
11. 森鴉外 (2)
12. 鈴木大拙 (1)
13. 鈴木大拙 (2)
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)

《日本人とキリスト教》

見聞の知に自入るはずで、論理をテクニ的に、形式によつて、演習することによる。このこと、日本人の持っている重なるキリスト教の伝統を、その中から、自分と目指し、積み重ね、底の部分を、また対話の力を、文化の根を、磨き、覚的に読み解く、的を語らる。

毎回取り上げるテキストを、何度も読んで、自分の意見を述べられるように考えてきてほしい。

演習の対話を通して、テキストについてどういう新しい知見が開けたか、顧みて箇条書きにまとめてみることを薦める。

(1) 平常点とレポート 100%

授業は、共にテキストを読みながら対話しつつ考える演習形式で行い、担当テキストのレポートと毎回の対話への参加度で評価する。

毎回テキストをよく読んできて積極的に発言してほしい。また担当テキストのレポーターは、背景を調べて、論旨を正確に取り、どこに感銘を受けたか、自分に問い詰めて発表してほしい。それらの積み重ねによって、欧米文化の根底にあるキリスト教についての知見を磨き、自分の中の日本人としての伝統に思いをいたし、また思想について論理的に語る力を身につけてほしい。

- ・多神教、拝一神教、唯一神教
- ・汎神論と万有在神論
- ・義と愛
- ・貞節と誠実
- ・日本的靈性

プリントを配布する。

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 4 コード： C3100101

授業計画

01. 『光の子と闇の子』の背景 (1)
02. 『光の子と闇の子』の背景 (2)
03. 第1章光の子と闇の子 (1)
04. 第1章光の子と闇の子 (2)
05. 第2章個人と社会 (1)
06. 第2章個人と社会 (2)
07. 第3章社会と富 (1)
08. 第3章社会と富 (2)
09. 第4章デモクラシーの寛容と社会的諸集団 (1)
10. 第4章デモクラシーの寛容と社会的諸集団 (2)
11. 第5章世界共同体 (1)
12. 第5章世界共同体 (2)
13. 『世界の危機とアメリカの責任』の背景 (1)
14. 『世界の危機とアメリカの責任』の背景 (2)
15. 第1章世界的危機の挑戦 (1)
16. 第1章世界的危機の挑戦 (2)
17. 第2章アメリカの道徳的、精神的資源 (1)
18. 第2章アメリカの道徳的、精神的資源 (2)
19. 第3章共産主義はなぜ悪か (1)
20. 第3章共産主義はなぜ悪か (2)
21. 第4章アメリカ国家主義の解剖 (1)
22. 第4章アメリカ国家主義の解剖 (2)
23. 第5章国連と自由世界 (1)
24. 第5章国連と自由世界 (2)
25. 第6章世界政府の夢 (1)
26. 第6章世界政府の夢 (2)
27. 第7章文化的協力の限界
28. 第8章武力の限界
29. ニーバーの国際政治 (1)
30. ニーバーの国際政治 (2) まとめ

毎回、扱う箇所をあらかじめ熟読しておく。報告担当になった場合は、要約を作成する。

前回の内容をよく確認する。

(1) 平常点、報告	50%	授業で、指定箇所の要約報告を求める。
(2) レポート	50%	

平常点、報告、レポートを、その割合を踏まえ、総合的に評価する。

(1) 内容

ラインホルド・ニーバーの著作『光の子と闇の子』（1944）および『世界の危機とアメリカの責任』（1958）を講読しつつ、ニーバーのデモクラシー論と国際政治の一端を確認し、その現代的意義を考察する。

(2) 学びの意義と目標

ニバーのデモクラシー論および国際政治思想を確認し、その現代的意義を検討する。

受講者に対する要望

可能な限り欠席をしないこと。

学びのキーワード

- ・ ラインホールド・ニーバー
- ・ 光の子と闇の子
- ・ 共同体
- ・ 共産主義
- ・ アメリカ

教科書

ラインホルド・ニーバー『光の子と闇の子』武田清子訳（聖学院大学出版会、1994）、ラインホルド・ニーバー『世界の危機とアメリカの責任』（飯野紀元訳『共産主義との対決』時事通信社、1961年）。

参考書

必要に応じて、指示する。

単位： 4 コード： C3100303

01. はじめに①
02. はじめに②
03. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(1)①
04. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(1)②
05. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(2)①
06. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(2)②
07. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(3)①
08. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(3)②
09. モンゴメリー運動に関する森田論文(1)①
10. モンゴメリー運動に関する森田論文(1)②
11. モンゴメリー運動に関する森田論文(2)①
12. モンゴメリー運動に関する森田論文(2)②
13. バirmingham運動に関する森田論文(1)①
14. Birmingham運動に関する森田論文(1)②
15. Birmingham運動に関する森田論文(2)①
16. Birmingham運動に関する森田論文(2)②
17. ワシントン大行進に関する森田論文(1)①
18. ワシントン大行進に関する森田論文(1)②
19. ワシントン大行進に関する森田論文(2)①
20. ワシントン大行進に関する森田論文(2)②
21. 受講生のプレゼンテーション(1)①
22. 受講生のプレゼンテーション(1)②
23. 受講生のプレゼンテーション(2)①
24. 受講生のプレゼンテーション(2)②
25. 受講生のプレゼンテーション(3)①
26. 受講生のプレゼンテーション(3)②
27. 受講生のプレゼンテーション(4)①
28. 受講生のプレゼンテーション(4)②
29. おわりに①
30. おわりに②

該当論文を事前によく読んで出席する。

授業後は授業中に出てきた疑問や課題に取り組む。さらに、自らのテーマを設定してそれに取り組み、それを修士論文に繋げていくことができるようにする。

(1) 平常点	30
(2) プレゼンテーション	30
(3) レポート	40

参考書

このコースではまず、担当者が専門としているマーティン・ルーサー・キング・ジュニアの内容(思想と行動)を理解することを、目標とする。それと同時に、論文をどのように完成していくかについて学ぶことも、目標とする。これらの学びの目標は、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアのもつ現代的意義を深く理解できるようにすることに繋がる。

意欲的にキング研究に取り組んでほしい。

- ・ マーティン・ルーサー・キング、ジュニア
- ・ キリスト教
- ・ モンゴメリー運動
- ・ バーミングハム運動
- ・ ワシントン大行進

ヨーロッパ文化学A演習I			
担当教員： 片柳 榮一			
学期： 週間授	科目：	必修・選択：	単位： 4 コード： C3200101
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. Challenge and Collpseを読む（1） 02. Challenge and Collapseを読む（2） 03. Challenge and Collapseを読む（3） 04. Challenge and Collapseを読む（4） 05. Challenge and collapseを読む（5） 06. challenge and Collapseを読む（6） 07. Reversal of the Overheated Mediumを読む（1） 08. Reversal of the Overheated Mdiomを読む（2） 09. Reversal of the Overheated Mediumを読む（3） 10. Hybrid Energyを読む（1） 11. Hybrid Energyを読む（2） 12. hybrid Energyを読む（3） 13. Media as Translatorsを読む（1） 14. Media as Translatorを読む（2） 15. Media as Translatorsを読む（3） 16. The Spoken Wordを読む（1） 17. The Spoken Wordを読む（2） 18. the Spoken Wordを読む（3） 19. Numberを読む（1） 20. Numberを読む（2） 21. Numberを読む（3） 22. Numberを読む（4） 23. Moneyを読む（1） 24. Moneyを読む（2） 25. Moneyを読む（3） 26. Moneyを読む（4） 27. Pressを読む（1） 28. Pressを読む（2） 29. Pressを読む（3） 30. まとめ	
(1) 内容			
マクルーハンのUnderstanding Mediaを読む メディア論の先鋭的論客として知られるマクルーハンは元来著名な英文学者で、その主著『グーテンベルクの銀河系』は、印刷技術がヨーロッパにもたらした文化革新は、書物を中心とした分析的知性の彫琢に寄与したが、そのために失われたものも大きいとする文化批判の書であった。そこから推察されるように彼のメディア論の根底には、あらたな総合的知性の構築という課題が存する。こうした観点から彼の主要エッセイ集であるUnderstanding Mediaを読んでみたい。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
マクルーハンが求めるあらたな総合的知性がいかなるものであるか、彼のメディア論ことにホットなメディアとクールなメディアの区別やテレビジョン論などを通してさぐり、現代ネット社会の新たな可能性を模索しえよう。		前もって本文を読んで、問題点を整理しておくこと。	
		準備学習(復習)	
		授業で学んだことを自らのものにするための省察	
		評価方法	
		(1) 討議、平常点	100
		毎回の討議における受け答えをもとに、平常点評価。	
受講者に対する要望			
マクルーハンが目指す新たな総合的文化の構築の意義を、現代のネット文化の中で考察してほしい			
学びのキーワード		教科書	
・ホットなメディア ・クールなメディア ・分析的ー総合的 ・グーテンベルク ・視覚ー聴覚		講義中プリント配布	
		参考書	

ヨーロッパ文化学B演習I			
担当教員： 稲田 敦子			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 4 コード： C3200202
学部教育の関連目		授業計画 01. イギリス経験論(1) 02. イギリス経験論(2) 03. Mill, On Liberty(1) 04. Mill, On Liberty(2) 05. Mill, On Liberty(3) 06. スコットランド啓蒙主義(1) 07. スコットランド啓蒙主義(2) 08. スコットランド啓蒙主義(3) 09. グリーンの自由主義(1) 10. グリーンの自由主義(2) 11. グリーンの自由主義(3) 12. イギリス社会の問題点(1) 13. イギリス社会の問題点(2) 14. イギリス社会の問題点(3) 15. 中間まとめ 16. 事例研究・地域(1) 17. 事例研究・地域(2) 18. アクトンの自由論(1) 19. アクトンの自由論(2) 20. バーリンの自由論(1) 21. バーリンの自由論(2) 22. 事例研究(1) 23. 事例研究(2) 24. 事例研究(3) 25. イギリス文化の両義性(1) 26. イギリス文化の両義性(2) 27. イギリス文化の両義性(3) 28. ゼミ論草稿 29. ゼミ論 30. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容 イギリス文化はその両義性に特質があるといえる。その歴史・伝統・民族文化の継承と斬新な革新性には、イングランドを覇権へ導いた主潮たる文化とともに、その対極にある庶民のあり方への視点が示されている。 この演習では、自由論の古典とされるミルの On Liberty を中心に、現代におけるイギリス社会の問題点を事例研究をあわせて検討する。			
(2) 学びの意義と目標 イギリスにおける自由論の歴史的背景と事例研究を行うことにより、現代における問題点を考える。		準備学習(予習) テキストを十分に予習することと。	
		準備学習(復習) 検討した課題の復習をしておくこと。	
受講者に対する要望 主体的な学びを要望します。		評価方法 (1) ブック・レポート 20% (2) 平常点 30% (3) 期末レポート 50%	
学びのキーワード ・ J. S. ミル ・ イギリス自由主義 ・ イギリス経験論		教科書 プリントを配布する 参考書	

キリスト教文化学A演習I			
担当教員： 関根 清三			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
		単位： 4	コード： C3300101
学部教育の関連目		授業計画	
		01. 序論① 02. 序論② 03. ヘブライズムの思想①：旧約聖書の律法から 04. ヘブライズムの思想②：進化論との比較検討（1） 05. ヘブライズムの思想③：進化論との比較検討（2） 06. ヘブライズムの思想④：旧約聖書の預言書から 07. ヘブライズムの思想⑤：旧約聖書の諸書から 08. ヘレニズムの思想①：ソクラテスの神理解 09. ヘレニズムの思想②：プラトンの神理解 10. ヘレニズムの思想③：アリストテレスの神理解 11. ヘレニズムの思想④：ヒポクラテスの神理解 12. キリスト教の思想①：イエスの場合（1） 13. キリスト教の思想②：イエスの場合（2） 14. キリスト教の思想③：原始キリスト教団の場合 15. キリスト教の思想④：アウグスティヌスの場合 16. キリスト教の思想⑤：ダンテの場合 17. キリスト教の思想⑥：デカルトの場合 18. キリスト教の思想⑦：パスカルの場合 19. キリスト教の思想⑧：ロックの場合 20. 愛をめぐる思索①：日本の場合 21. 愛をめぐる思索②：東洋の場合 22. 愛をめぐる思索③：西洋の場合 23. 超越をめぐる思索①：日本の場合 24. 超越をめぐる思索②：東洋の場合 25. 超越をめぐる思索③：西洋の場合（1） 26. 超越をめぐる思索④：西洋の場合（2） 27. キリスト教と暴力 28. キリスト教と諸思想における愛と超越をめぐる思索① 29. キリスト教と諸思想における愛と超越をめぐる思索② 30. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
《キリスト教と諸思想》 主として旧約聖書を論じた春学期の講義「キリスト教文化学研究A」に接続して、そこで論じ切れなかった旧約テクスト、さらには新約聖書の諸処を、落穂拾い的に取り上げ、さらには、爾後のキリスト教の古典的テクストの目ぼしいものを、関連する他の諸思想の重要テクストと比較しつつ読み進む。 註解書を併読して解釈を深めること、解釈学的方法論を習得すること、また参加者自身のオリジナルな読解を出し合い、自由に論じ合うことを、目的とした演習。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
1) キリスト教思想の根幹を旧新約聖書にさかのぼって学び、その知見を深めること、また2) 愛と超越といったその根本テーマをめぐって、他の諸思想と比較しつつ、キリスト教に通底するものの、また異同するものを見極めることを、主たる目標とする。それは、3) それらについてなるべく広くたくさん読み欧米文化の基礎の知識を深め、また4) 自由に討論することで、対話する力を養うなどの意義も持つにちがいない。		毎回取り上げるテクストを、何度も読んで、自分の意見を述べられるように考えてきてほしい。	
		準備学習(復習)	
		演習の対話を通して、テクストについてどういう新しい知見が開けたか、顧みて箇条書きにまとめてみることを薦める。	
受講者に対する要望		評価方法	
毎回テクストをよく読んできて積極的に発言してほしい。また担当テクストのレポーターは、背景を調べて、論旨を正確に取り、どこに感銘を受けたか、自分に問い詰めて発表してほしい。それらの積み重ねによって、欧米文化の根底にあるキリスト教についての知見を磨き、思想について論理的に語る力を身につけてほしい。		(1) 平常点とレポート 100%	
学びのキーワード		教科書	
・キリスト教思想と他の諸思想の比較 ・愛についての多様な考え方 ・超越と人間の関係 ・宗教と戦争 ・宗教と科学		プリントを配布する	
		参考書	
		授業は、共にテクストを読みながら対話しつつ考える演習形式で行い、担当テクストのレポートと毎回の対話への参加度で評価する。	

日本文化学A演習I			
担当教員： 清水 正之			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 4 コード： C3500201
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. はじめに 02. 日本人の宗教性を考える視点（1） 03. 日本人の宗教性を考える視点（2） 04. 日本の宗教性と歴史的展開（1） 古代 05. 日本人の宗教性と歴史的展開（2） 古代 2 06. 日本人の宗教性と歴史的展開(3) 中世 1 07. 日本人の宗教性と歴史的展開(4) 中世 2 08. 近世宗教思想とキリシタン（1） 09. 近世宗教思想とキリシタン（2） 10. 近世の宗教思想統制とキリシタン 1 11. 近世の宗教思想統制とキリシタン 2 12. 近世宗教思想の展開 1 13. 近世宗教思想の展開 2 14. 幕末期の宗教思想 15. 中間考察 16. 文明開化と宗教思想 1 17. 文明開化と宗教思想 2 18. 文明開化とキリスト教 1 19. 文明開化とキリスト教 2 20. 近代の宗教政策 1 21. 近代の宗教政策 22. 近代日本思想のなかでのキリスト教 1 23. 近代日本思想のなかでのキリスト教 2 24. 近代日本思想のなかでのキリスト教 3 25. 近代日本思想のなかでのキリスト教 4 26. 近代日本文学とキリスト教 1 27. 近代日本文学とキリスト教 2 28. 現代日本とキリスト教 1 29. 現代日本とキリスト教 2 30. まとめ	
(1) 内容		準備学習(予習)	
これまで様々なキリシタン文献にあたり、また同時代の反キリシタン文献を読んできた。今学期は日本人の宗教的心性のありかたを、これまでの検討との連関をたもちながら、反キリシタンの思想にかぎらく、近世の反宗教的言説、さらには、近代の宗教政策やキリスト教に対する対抗的議論、あるいは邪教論を検討しながら、二補遺思想におけるキリスト教の意味と意義を再考する手がかりをさぐる。参加者の文献読解を主にするが、そのうえで、対象文献をひろげ、日本人の宗教性とキリスト教との関わりを、多角的に考察していく。テーマとして、神観、イエス観、修業論、霊魂の問題、三位一体の理解、祖先崇拜など、キリシタンと日本の宗教性が、交差する論点を、文献読解を中心にしながら、主題的にまとめている。			
(2) 学びの意義と目標			
日本人の宗教性とキリスト教という、なお現代的な意味のある問題を考えていきたいと思います。		読み進める文献について、まえもって読解しておいてほしい。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
		各回提出の小レポートによって、理解を深め、問題意識を整理する。	
		評価方法	
それぞれの問題意識から、意欲的に関わっていただきたいと願います。		(1) 演習への意欲的な参加、問題意識、問題提起の力 50%	
		(2) 期末レポートの完成度 50%	
		出席状況、演習での発表、期末レポートのそれぞれを上記の割合で、総合的に評価する。	
学びのキーワード		教科書	
・日本の宗教性 ・日本のキリスト教 ・伝統的宗教観		海老沢 有造、H. チースリク、土井 忠生、大塚 光信 『日本思想大系（25）キリシタン書・捺印書（1970年）』（岩波書店）ほか。その外は演習内で適宜指示する。	
		参考書	
		演習内で適宜指示する。	

日本文化学B演習I			
担当教員：村松 晋			
学期：週間授 科目：		必修・選択：	単位：4 コード：C3500302
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 担当教員の研究紹介 02. 選定した思想家についての講義 1 03. 選定した思想家についての講義 2 04. 選定した思想家についての講義 3 05. 選定した思想家についての講義 4 06. 研究発表 07. 研究発表 08. 研究発表 09. 研究発表 10. 研究発表 11. 研究発表 12. 研究発表 13. 研究発表 14. 研究発表 15. 研究発表 16. 研究発表 17. 研究発表 18. 研究発表 19. 研究発表 20. 研究発表 21. 研究発表 22. 研究発表 23. 研究発表 24. 研究発表 25. 研究発表 26. 研究発表 27. 研究発表 28. 研究発表 29. 研究発表 30. まとめ	
(1) 内容		準備学習(予習)	
戦後日本キリスト教思想を彩った思想家の著作を講読する。ゼミ形式で進める。対象は受講者の関心をふまえ、相談して決める。現時点で想定しているのは、北森嘉蔵、滝沢克己、井上良雄、有賀鉄太郎、関根正雄などである。狭義の「キリスト者」に限定せず、余力があれば、赤岩栄、田川建三、さらには吉本隆明、平田清明のような存在も考えている。		発表者は参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)	
日本キリスト教史研究は、「クリシタン」時代を除くと、依然、明治～昭和戦前期に集中している。「戦後」も70年を経た現在、このような研究状況は克服される必要がある。本演習での学びを通じ、新たな視点を獲得してほしい。		事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。	
受講者に対する要望		評価方法	
「神学」「聖書学」のような学問も、あくまで〈時代〉の中で営まれている点を忘却しないこと。社会問題や内外の政治情勢、思想潮流等とかわらせて、しかも内在的に読解すること。		(1) 発表内容 50 (2) 授業参加 50	
学びのキーワード		教科書	
・神学 ・聖書学 ・戦後思想 ・日本現代史 ・日本キリスト教史		参考書	
		上記を勘案して評価する。全授業数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したとみなす。	

日本文化学A演習II

担当教員：清水 正之

学期：前期（ 科目：

必修・選択：

単位：4 コード：C4500210

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

日本近代のキリスト教文学および文学的（思想的）表現を題材に、日本人とキリスト教という古くて新しい問題を考えます。

(2) 学びの意義と目標

伝統的な宗教性とキリスト教の出会いは、単に歴史的出来事ではなく、今もおきている出来事でもあります。時代状況を振り返りつつ、それらの作品の内在的意味を考えていきます。

受講者に対する要望

積極的な参加を望みます

学びのキーワード

- ・キリスト教
- ・日本人の宗教性
- ・キリスト教文学

授業計画

はじめに
森有正 経験と思想
近代文学にあらわれたキリスト教
中間考察
遠藤周作再考
戦後文学とキリスト教
近代知識人とキリスト教
近代知識人と反キリスト教論
まとめ

準備学習(予習)

対象となる作品を読み込んでおく。

準備学習(復習)

各回で問題となったことを自分なりに小レポートにまとめ提出する。

評価方法

- | | |
|------------|----|
| (1) 出席 | 50 |
| (2) 期末レポート | 50 |

教科書

講義内で指示しまたは配布します。

参考書

講義内で指示しまたは配布します。

政治・政策学研究	
担当教員：平 修久、柴田 武男、菊地 順、阿久戸 光晴、谷口 隆一郎、石川 裕一郎、大高 研道、小松崎 利明、森分 大輔、金子 毅、八木 規子、木村 裕二、吉川 保弘	
学期：週間授 科目：必修・選択： 単位：2 コード：P2100102	
学部教育の関連目	授業計画
カリキュラム上の位置付け	01. 政治・政策学の基本精神【阿久戸】 02. キリスト教とデモクラシー【菊地】 03. 組織成員の多様性と経営【八木】 04. 政治学における思想史研究の課題【森分】 05. 国際法規範と安全保障政策【小松崎】 06. 日本国憲法の共和主義的可能性——比較法的観点から【石川】 07. 企業取引と租税回避行為の否認【吉川】 08. 企業会計と税務会計（申告）【野田】 09. 所得区分をめぐる問題 - 事業所得と給与所得を中心として【佐藤】 10. 裁判と政策形成【木村】 11. 企業不祥事の本質と課題～公認不正検査士の活動を通して～【柴田】 12. 近代主義の出来と陥穽【谷口】 13. リスクを回避する日本の経営【金子】 14. 社会的排除問題とたたかう社会的企業【大高】 15. 市民自治を考える【平】
(1) 内容	準備学習(予習)
政治政策学研究科の科目は、国際平和、税法、経済・経営、地域共生（まちづくり）、情報コミュニケーションから構成されている。本科目は、政治政策学研究科の専任教員全員がオムニバス形式で実施し、本研究科の学び全体を俯瞰するものである。そのため、講義内容は、国際平和の元となる政治、企業活動、法律、税、コミュニティ、公共政策というように、将来を見通しにくい現代社会で活躍するために必要な基本的考え方や知識を幅広くカバーしている。	
(2) 学びの意義と目標	
このオムニバス講義は、本大学院の理念にふさわしく、受講者が社会知を刺激的に刷新するようなフレッシュな視点と、認識・思考方法を修得することを目的としている。	準備学習(復習)
受講者に対する要望	
講義内容が多岐に亘るが、大学院全体での学びや、修士論文の作成の基礎となることを理解し、積極的に授業に参加することを期待する。	評価方法
学びのキーワード	
・政治 ・政策 ・経済・経営 ・法・税法 ・地域共生	教科書
	参考書
	授業の中で指示する。

学期： 週間授 科目： 必修・選択：

単位：2 コード：P2100304

授業計画

01. 人種・民族問題から見たデモクラシーと人権 【菊地】
02. ユダヤ人の歴史①—ドイツを中心として (18世紀前半まで) 【菊地】
03. ユダヤ人の歴史②—スペインを中心として 【菊地】
04. ユダヤ人の歴史③—ドイツを中心として (18世紀後半以降) 【菊地】
05. 悪の問題と人権 【菊地】
06. 近代の出来とデモクラシー 【谷口】
07. 近代主義と社会契約思想①—T. ホーブス、J. ロックを中心に 【谷口】
08. 近代主義と社会契約思想②—J.J. ルソー、D. ヒュームを中心に 【谷口】
09. 近代主義の陥穽と保守思想 【谷口】
10. リベラリズムの出来と陥穽 【谷口】
11. 現代のデモクラシー制度上の諸問題 【阿久戸】
12. 現代のデモクラシー制度の史的起源 【阿久戸】
13. 現代の人権をめぐる諸問題 【阿久戸】
14. 現代の人権概念の史的起源 【阿久戸】
15. デモクラシー・人権政策の今後の行方 【阿久戸】

(1) 内容

[illegible]

(2) 学びの意義と目標

現代における世界共通価値として重要な位置を占めるデモクラシーと人権について学ぶことにより、世界の動向を理解し、人類によりふさわしい未来形成への指針を得ていくことが目指されている。

準備學習(予習)

デモクラシーとか人権については、人により異なる切り口と理解があることを前提として、シラバスに沿って予め教科書等を一読し、自らの問題の発見に努めてほしい。

準備學習(復習)

教科書や授業で配布されたプリントを必ず読み直し、授業中に紹介された参考文献等にも目を通し、授業の内容の理解を深めると共に、さらに自らの問題の発見に努めてほしい。

評価方法

(1) 平常点	30
(2) レポート	70

最終的には各担当者の与えた評点の平均値による。

受講者に対する要望

授業では、質疑応答や議論をとおり、理解を深めるよう努めてほしい。

学びのキーワード

- ・デモクラシー
- ・人権
- ・差別、偏見、悪
- ・社会契約
- ・人権政策

教科書

高橋 和之編『新版 世界憲法集（岩波文庫）』（岩波書店）
高木八尺、末延三次、宮沢俊義編『人權宣言集』（岩波文庫）

参考書

授業の中で、随時紹介する。

憲法研究			
担当教員：石川 裕一郎			
学期：週間授 科目：		必修・選択：	単位：2 コード：P2201206
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 導入：授業の進め方、分担の決定 02. 憲法の基礎知識に関する講義（総論・人権） 03. 憲法の基礎知識に関する講義（統治・比較法） 04. テキスト輪読・報告、議論：国民主権 05. テキスト輪読・報告、議論：平和的生存権 06. テキスト輪読・報告、議論：個人の尊厳 07. テキスト輪読・報告、議論：人権の私人間効力 08. テキスト輪読・報告、議論：信教の自由・政教分離・教育権 09. テキスト輪読・報告、議論：表現の自由 10. テキスト輪読・報告、議論：経済的自由と社会権 11. テキスト輪読・報告、議論：選挙権と代表制 12. テキスト輪読・報告、議論：司法権 13. テキスト輪読・報告、議論：違憲審査制 14. テキスト輪読・報告、議論：憲法改正と憲法尊重擁護義務 15. まとめ	
(1) 内容			
法学の基礎的な素養があることを前提に、樋口陽一『五訂 憲法入門』（勁草書房、2013年）をメインテキストとして取り上げ、丁寧に読み進めてゆく。			
本テキストは、現代日本を代表する憲法学の泰斗であると同時に最高の知性の一人でもある碩学による、憲法学の入門書である。しかし、その表題および平明な語り口とは裏腹に、その内容はアポリアに満ちかつ知的緊張感溢れるものであり、その読解は一筋縄ではゆかないであろう。			
また、読解に際しては、本テキストの理解に不可欠となる学説、判例その他の基礎知識の修得を確実なものとするため、サブテキストとして石埼学他（編著）『リアル憲法学〔第2版〕』（法律文化社、2013年）を適宜参照する。あわせて、『六法』（出版社、種類は問わない）を常に携帯するのが望ましい。			
なお、本講義は、カリキュラム上の分類こそ「講義」科目だが、大学院のそれである以上、当然のことながら「演習」形式で行われる。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
しばしば憲法は、民法、刑法その他の法律と比較するとメディアの政治報道等において頻繁に言及されるがゆえ、「なんらかの価値観あるいはイデオロギーに依拠した、文脈依存的ないし政治的なもの」とみなされることがある。その一方で、憲法は、民法や刑法と同じく実定法規範であるがゆえ、「現実の政治および経済からは距離を置いた、超歴史的かつ法的なもの」と位置づけられることもある。だが、本講義の受講者は、そのいずれも極端かつ一方的であることを認識するであろう。		予め割り当てられた自身の報告をこなすことはもちろん、テキストの指定された箇所を毎回読み込み、自らの問題意識を明確にしたうえで講義に臨み、積極的に議論に参加することが求められる。	
		準備学習(復習)	
そして、その規範性と妥当性をめぐって織りなされる憲法学の世界の根底に存する「法の賢慮（jurisprudentia）」のなんたるかを受講者が体得するならば、本講義の目的はほぼ達成されたこととなる。それは、とりわけ法実務に携わる者にとって、その職業生活における精神的支柱の形成に資するという意義を有するであろう。		毎回の講義における議論を踏まえ、自身の報告を再検討することが求められる。	
受講者に対する要望		評価方法	
大学院の講義なので、受講者が主体的にその運営に参画することが、とりわけ強く求められる。加えて、反知性主義が瀰漫する現代日本においては甚だ評判が悪いが、受講者には、かかる時代精神に抗いつつ、意識的に知的虚栄心を持つような心がけてほしい。		(1) 平常点 80 割り当てられた報告の内容と議論への参加状況から評価する。 (2) 期末課題 20	
換言すれば、広く知られるヴェーバーの言をもじった表現である「精神のある専門人」た然とする気構え、あるいは、語本来のアカデミックな姿勢に加えディレッタントなそれも求められるということである。		平常点について、言うまでもなく、単なる「出席（物理的に教室内に存在すること）」だけでは何ら評価の対象とならない。	
学びのキーワード		教科書	
・ 法学 ・ 公法学 ・ 憲法学 ・ 国法学 ・ 比較憲法学		樋口 陽一 『五訂 憲法入門』（勁草書房） 石埼 学、押久保 倫夫、笹沼 弘志（編）『リアル憲法学〔第2版〕』（法律文化社）	
		参考書	

平和研究			
担当教員：小松崎 利明			
学期：週間授		科目：	必修・選択：
単位：2		コード：P2201310	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. イントロダクション 02. 平和研究の基本概念 03. 紛争解決理論史 04. 現代的紛争の理論枠組み 05. 紛争予防 06. 平和維持 07. 平和創造 08. 平和構築 09. 和解 10. コスモポリタン紛争解決論 11. 環境問題、ジェンダーと紛争解決 12. 介入の倫理と紛争解決 13. 文化、宗教、芸術と紛争解決 14. メディア、社会言説と紛争解決 15. 紛争解決論と平和研究の今後	
(1) 内容		準備学習(予習)	
平和研究は、第二次世界大戦後に国際関係研究のなかから生み出された学問分野である。当初は戦争の防止をその主たる目的としていたが、次第に、戦争がなくとも平和とはいえない（peacelessness）状況（たとえば、政治的抑圧や貧困）を生み出す諸要因の解決を目指すようになってきた。現在、平和研究は、個人間の利害対立の原因から国家間紛争を誘発する構造のあり方まで、幅広い問題をその射程に置く学際的研究分野になっており、それにともなって、総合的・立体的なアプローチが求められている。		毎回の課題箇所を読んでおく	
こうした状況をふまえて、この授業では、平和（特に紛争解決論）に関する文献を精読し、それをもとに受講者間で議論することを目的とする。		準備学習(復習)	
なお、上記のテーマに関する大学院レベルの適当な日本語文献がないので、この授業では英語文献を使用する。この点、受講者は留意されたい。		レポート作成に向けて、授業での議論等をまとめたノートを作成しておく	
(2) 学びの意義と目標		評価方法	
「平和」は、時代や環境、またそれを主張し獲得しようとする人によってまったく異なる姿として現れるものである。平和について考えるということは、そうした明確な姿形や唯一の正解なるものを拒否する平和の性質を理解することでもある。平和に関するさまざまな文献を読むことによって、その一端に触れることがこの授業における学びの意義であり、目標である。		(1) 平常点 (2) レポート	
受講者に対する要望		50% ・発表 50% ・授業への積極的参加および貢献 50% 使用教材文献の書評レポート	
上記「内容」にも記したように、今回の授業テーマに関する大学院レベルの適当な日本語文献がないので、この授業では英語文献を使用する。この点、受講者は留意されたい。。		教科書	
学びのキーワード		Oliver Rambootham, Tom Woodhouse, and Hugh Miall, "Contemporary Conflict Resolution: Prevention, Management and Transformation of Deadly Conflicts", Fourth edition, Cambridge and Malden, MA: Polity, 2016. (http://www.polity.co.uk/book.asp?ref=9780745687216)	
・平和 ・戦争 ・紛争予防 ・紛争解決 ・平和構築		参考書	
		授業内で紹介する。	

租税法研究 A			
担当教員： 吉川 保弘			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 2 コード： P2301010
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 法人税課税の対象と基礎的概念・・・1法人税課税の対象（法人とは、法人税課税の機関、法人税における所得概念）、2. 法人税法・会社法・企業会計原則との関係、3. 法人税法通則の規定、4. 事業年度の意義、5. 納税地	
(1) 内容		02. 納税義務者及び所得帰属に関する通則・・・6. 納税義務者（内国法人、外国法人）、7. 同族会社等の行為計算否認規定、8. 信託財産に属する資産及び負債等の帰属、9. 実質所得者課税の原則、10. 課税所得の範囲（内国法人、外国法人）	
		03. 所得の金額の計算等に関する通則・・・11. ①各事業年度の所得の金額の意義（法人税法22条の解説）、②無償取引が法人税法上、益金に算入される根拠（各学説等）、③2段階説における寄付金の意義、④売上原価、販売費等、減価償却費、損失の損	
		04. 収益の益金計算に関する通則・・・13. 棚卸資産の販売による収益計上の時期①引渡基準（製品等の販売による収益計上時期）、②事業年度末時点での販売代金の未確定の扱い、③返品、値引き、削戻しの扱い、④特殊販売形態の収益計上基準（表	
		05. 益金に算入しない収益・・・19. 受取配当等の益金不算入、20. みなし配当の取扱、21. その他益金に算入しない収益①資産の評価益、②仮装経理に基づく評価益、③法人税等の還付金、④圧縮記憶制度による補助金の扱い、⑤広告宣伝用資産の受贈	
		06. 損金の額の計算Ⅰ（棚卸資産）・・・24. 棚卸資産の概念①棚卸資産の範囲、②棚卸資産の評価と売上原価の算定、③評価方法、④取得価額に算入すべき費用の範囲、⑤自己の製造等により取得した棚卸資産の取得価額、⑥適正原価計算の判定基準	
		07. 損金の額の計算Ⅱ（固定資産）・・・25. 固定資産の概念、①固定資産の性格、②固定資産の範囲、③非減価償却資産、④減価償却資産の性格、⑤減価償却資産の種類と細目、⑥償却限度額の計算の基礎となる取得価額、⑦取得価額に関する諸問題、⑧	
		08. 損金の額の計算Ⅲ（繰延資産、引当金、資産の評価損）・・・26. 繰延資産、27. 引当金、28. 資産の評価損	
		09. 損金算入規制Ⅰ・・・29. 役員給与①平成18年法の趣旨、②役員の範囲、③法34条に規定する役員給与の扱い（定時定額、事前確定給与の届け出、利益運動型給与）、④過大役員給与の損金不算入、⑤仮装隠蔽または仮装経理に基づく支給の場合の損金	
		10. 損金算入規制Ⅱ・・・29-2役員給与2①新株予約権を対価とする費用等、②過大使用人給与の取扱、③出向及び転籍の場合の扱い、30保険料等、31. 寄付金	
		11. 損金算入規制Ⅲ・・・32. 交際費等、33. 租税公課、34. 不正行為等に係る費用、35. 貸倒損失、36. その他の損金	
		12. 申告調整、税額計算等・・・37. 企業会計と税務会計、38. 欠損金の繰越及び控除、39. 税額の計算	
		13. グループ法人税制と連結納税制度・・・40. グループ法人に対する税制の概要、41. グループ法人税制の具体的な内容、42. 連結納税制度の概要	
		14. 事業体課税の概要・・・43. 事業体課税の概要、44. 法人税の基本的な納税者、45. 法人税の対象とならない事業体（組合・信託）、46. 納税義務者となる新しい事業体	
		15. 簡易課税制度・・・①会社法における繰越再編行為等、②企業結合における会計基準、③繰越再編に係る法人税法の扱い、④適格合併、適格分割等の要件、⑤移転資産の譲渡損益の扱い、⑥非適格合併等により移転を受ける資産等に係る調整、⑦株式	
(2) 学びの意義と目標		準備学習（予習）	
租税法Aにおいては、企業税制の中心的税制でかつビジネスローとしての機能を持つ法人税法について、私法、会計制度との異同にを踏まえた基礎となる取り扱いと考え方の解説をします。到達目標としては、法人税法の持つ固有の取扱考え方の理解におきます。		法人税法は、講義内容が多岐にわたり分量も多いことから、レジュメ、法令を読んでおくことが望ましい。	
		準備学習（復習）	
		各回の講義予定の最後に、復習問題を掲載してあるので、講義後確認の意味で回答に取り組んでください。	
受講者に対する要望		評価方法	
		(1) 平常点 50% (2) レポート提出 50%	
法人税法は、税理士を営む上で欠くことのできない税法だという認識をもって授業に取り組んでください。		成績評価については、平常点を勘案して、レポートの採点により評価しますが平常点を勘案するという意味は、受講時における質疑応答等も考慮に入れて、平常点に対する配点50点を決定するということです。	
学びのキーワード		教科書	
・レジュメには、必ず理解すべき事項について、☆マークを付し、重要度に応じてマーク数を増やしているので、参考にしてください。		租税法研究A用の本をプリントして配布します。これにそって講義方式で適宜質疑応答をするなど理解度を確認しながら授業を進めます。	
		参考書	
		岡村忠生著「法人税法講義第3版」成文堂、成松洋一著「法人税セミナー第4版」税務経理協会、増井良啓著「租税法入門」有斐閣	

租税法研究Ⅱ							
担当教員： 野田 扇三郎							
学期： 週間授		科目：	必修・選択：	単位： 2 コード： P2301111			
学部教育の関連目			授業計画				
カリキュラム上の位置付け			01. 消費税法概論				
			02. 課税要件				
(1) 内容			03. 非課税取引と免税取引				
			04. 納税義務者				
この授業では、2017年4月の消費税の税率アップの議論等に目を向け、その問題点を探り、消費税への理解を深めるよう努める。その際、それに関連する会計処理等を確実にマスターすることとする。またこれからの制度設計について、次期の修士論文作成に向け自分自身の意見を持つよう心掛ける。			05. 納税義務の成立				
			06. 小規模事業者の納税義務の免除				
			07. 課税標準・税率				
			08. 税額控除				
			09. 簡易課税制度				
			10. 対価の返還と貸倒の処理				
			11. 課税期間				
			12. 申告、納税について				
			13. 国等に対する課税				
			14. 届出、記帳義務について				
			15. 勘定科目等からの課非判定				
			(2) 学びの意義と目標			準備学習(予習)	
						受講生は漫然と授業に出るのではなく、問題意識をもって臨むよう、予習は欠かさないこと。	
						準備学習(復習)	
						配布資料の確認、および問題点の整理により、理解を深めること。	
受講者に対する要望			評価方法				
消費税関する諸問題は国民にとって重要でまた現状もっとも関心の深いものであるので、新聞、その他媒介等を通じて社会の動きに注意を払うこと。			(1) 平常点				
			(2) 問題意識・意見・発言				
学びのキーワード			教科書				
・ 現状の確実な理解 ・ 諸外国の制度との比較 ・ 独自の視点			税務大学校「消費税法（基礎編）」を国税庁のHPにアクセスし、プリントアウトすること。				
			参考書				

租税法研究 C		
担当教員： 佐藤 謙一		
学期： 週間授 科目：		必修・選択：
学部教育の関連目		単位： 2 コード： P2301212
カリキュラム上の位置付け		授業計画
(1) 内容		01. 所得税法－総説、納税義務者 02. 所得税法－所得の種類①－所得の種類、所得税の計算の仕組み、各種所得間の問題① 03. 所得税法－所得の種類②－各種所得間の問題② 04. 所得税法－収入金額と必要経費① 05. 所得税法－収入金額と必要経費② 06. 所得税法－所得控除、税額計算 07. 所得税法－源泉徴収制度、申告、納付等 08. 所得税法－青色申告、雑則その他 09. 相続税法－総説、納税義務者 10. 相続税法－課税価格の計算と税額① 11. 相続税法－課税価格の計算と税額② 12. 相続税法－相続時精算課税制度、納付と延納・物納、納税猶予その他 13. 相続税法－財産の評価 14. 租税手続法－調査手続、更正・決定等 15. 租税手続法－不服申立制度その他
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
職業会計人として活躍できるように必要な所得税法、相続税法及び租税手続法等の基礎的かつ基本的な理解を進め、今後皆さんが行うこととなる研究のために必要な視点を養うことを目的とします。		教科書に沿って講義方式により進める予定ですが、学ぶべき領域が広いにもかかわらず、限られた講義時間なので、事前に、教科書を読んで授業に臨む必要があります。 なお、授業では、適宜、受講生に読んでもらったり、質問することを考えています。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
今後皆さんが行う研究につながる問題を見つけて欲しいと思います。		授業開始のはじめの時間に前回の授業の復習を行うことを考えているので、特に必要はありません。 なお、必要なときはその旨を伝えます。
学びのキーワード		評価方法
・ 所得税の意義と特色 ・ 相続税及び贈与税の意義と機能 ・ 所得税法と相続税法の沿革		(1) レポート等

民法法と実務 A

担当教員： 木村 裕二

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 2 コード： P2301313

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

民法法は、財産取引や団体をどのように規律しているか。民法総則・物権総論・債権各論の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

(2) 学びの意義と目標

税法科目群の一環として、私法による財産取引の規律について概観を得る。
条文の文言、定義・概念、立法趣旨を用いた法解釈の技術を学ぶことを通して、法律的文書の読み・書きの方法論を身につけることを目標とする。

受講者に対する要望

レジュメには判例の抜粋や要旨しか引用できないが、自分で判例を検索し、判例全文に目を通して確認する作業をおこなって、判例を読む訓練をしてほしい。

学びのキーワード

- ・ 私的自治の原則
- ・ 表意者の保護
- ・ 取引の安全
- ・ 公示
- ・ 対抗要件

授業計画

01. 法の機能と条文の読み方
02. 法の解釈と判例の読み方
03. 契約と意思表示
04. 人・法人
05. 代理
06. 契約の効力
07. 契約のプロセス
08. 物と所有権
09. 物権変動
10. 占有、時効
11. 売買、贈与
12. 賃貸借、消費貸借
13. 役務型契約
14. 不法行為
15. 会社

準備学習(予習)

レジュメ（事前配布）で引用した条文を読んでおくこと。

準備学習(復習)

レジュメで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

評価方法

- | | |
|----------|----|
| (1) 平常点 | 50 |
| (2) レポート | 50 |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布する。

参考書

授業の中で適宜、紹介する。

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： P2301414

授業計画

01. 債権と金融取引
02. 弁済・相殺
03. 強制履行・損害賠償
04. 債権譲渡・保証
05. 抵当権
06. 訴訟・執行・破産
07. 夫婦
08. 親子
09. 要保護者
10. 相続人
11. 相続財産
12. 相続分
13. 遺産分割
14. 遺言
15. まとめと課題

(1) 内容

民事法は、金融取引や相続をどう規律しているか。民法の債権総論、担保物権、親族・相続の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

(2) 学びの意義と目標

税法科目群の一環として、金融取引や相続の私法
 構造の概観を得る。
 民事訴訟法・家事事件手続法など手続法の基本構
 造にも触れつつ、権利実現・権利保護のプロセス
 について学ぶ。
 制度趣旨、条文の要件・効果を構造的に理解す
 る。

準備學習(予習)

レジュメ（事前配布）で引用した条文を読んでおくこと。

準備學習(復習)

レジュメで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

評価方法

(1) 平常点	50
(2) レポート	50

受講者に対する要望

条文の要件・効果に即して議論を位置づける習慣を身につけること。

学びのキーワード

- ・債権者平等
- ・優先弁済
- ・弁論主義
- ・過去の事実
- ・継続的関係

教科書

参考書

公共政策研究			
担当教員： 児玉 博昭			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 2		コード： P2400101	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 授業のねらいと進め方 02. 公共政策学とは何か 03. 公共政策とは何か 04. アジェンダ設定 05. 政策問題の構造化 06. 公共政策の手段 07. 規範的判断 08. 政策決定と合理性 09. 政策決定と利益 10. 政策決定と制度 11. 政策決定とアイディア 12. 公共政策の実施 13. 公共政策の評価 14. 公共政策管理のシステム 15. 授業のまとめ	
(1) 内容			
公共政策学は、公共政策、すなわち公共的な問題を解決する基本的な方向性と具体的な手段を考察する学問である。公共政策学は、大別すると、政策決定や実施・評価という政策過程に関する知識（ofの知識）と、政策分析に必要な知識や個別政策領域に関する知識（inの知識）によって構成される。この講義では、前者の政策過程論（ofの知識）に重点を置き、公共政策へのアプローチ、公共政策のデザイン、プロセス、ガバナンスに関する基礎知識を整理する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
公共政策はどのようにデザインされ、決定され、実施・評価されるのかを理解できるようになることを目標とする。		教科書の該当範囲を通読し疑問点を明らかにしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		関連する研究書を各自に指定するので、内容の要旨と感想・考察をレジュメにまとめ、授業内で発表すること。	
受講者に対する要望		評価方法	
大学院生は、概説書の通読を通じて基礎知識を確認するだけでなく、研究書の精読を通じて研究設計の改善や専門知識の蓄積に役立ててほしい。		(1) 授業内発表 50% (2) レポート 50%	
		授業に毎回出席することを前提とし、欠席した場合は減点の対象とする。	
学びのキーワード		教科書	
・ 公共政策学 ・ 政策過程 ・ 政策デザイン ・ 政策決定 ・ ガバナンス		秋古貴雄, 伊藤修一郎, 北山俊哉 『公共政策学の基礎（新版）』有斐閣	
		参考書	

埼玉地域政策研究		
担当教員： 大塚 健司		
学期： 週間授 科目：		必修・選択：
学部教育の関連目		単位： 2 コード： P2400404
カリキュラム上の位置付け		授業計画
(1) 内容		01. 人口減少、少子・高齢社会, 福祉の体系 02. 人口減少、少子・高齢社会, 福祉の体系 03. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化 04. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化 05. 埼玉県政の方向 06. 埼玉県政の方向 07. 環境問題の取り組み 08. 環境問題の取り組み 09. “住む、を見直す 10. “住む、を見直す 11. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み 12. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み 13. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～ 14. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～ 15. 埼玉地域政策研究のまとめ
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
人口減少、少子・高齢化が地域社会にどんな影響を与えているのか、社会構造、地域社会の変化に行政はどう対応しようとしているのかを市民目線で考察する。 特に国と県、市町村（地方自治体）の関係について、その役割について考える。		日本の人口構成、国と地方自治体の関係、福祉の体系、環境問題について調べておくこと。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
身近な地方自治、コミュニティ政策に関心のある者の受講を望む。		配布した資料等を参考にさらに論考すること。
学びのキーワード		評価方法
・人口減少、少子・高齢社会 ・国と地方自治体の関係、財政構造 ・土地政策、コミュニティ、 ・福祉の体系、年金、医療、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、地域福祉 ・環境問題、環境福祉		(1) レポート 100%
		次回の授業までに毎回レポート提出講義の要点をまとめ、討論を踏まえて感想をまとめること。
		教科書
		参考書
		厚生労働白書、統計からみた埼玉県のすがた（編集・発行埼玉県総務部統計課）

まちづくり論研究	
担当教員： 平 修久	
学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： P2400606	
学部教育の関連目	授業計画
カリキュラム上の位置付け	01. まちづくりの概要① 02. まちづくりの概要② 03. まちづくりのプロセス・合意形成 04. 住民参加と協働 05. 都市計画制度 06. 人口減少と住宅地の維持 07. 空き家問題と対策 08. コンパクトシティ 09. 高齢化とまち（福祉のまちづくり） 10. 中心市街地の衰退と活性化方策 11. 中心市街地活性化の事例① 12. 中心市街地活性化の事例② 13. 中心市街地活性化の事例③ 14. 地域コミュニティの創造 15. まちの居場所づくり
(1) 内容	
まず、まちづくりの概要、まちづくりにとって重要な合意形成、まちづくりの基本的進め方である住民参加・協働についてを学ぶ。その後、高齢化・人口減少、中心市街地、コミュニティのキーワードに関連するまちづくりの問題と対応策を幅広く学ぶ。	
(2) 学びの意義と目標	
「都市計画」という行政主導で行うことが多い都市整備に対して、「まちづくり」ということばとその動きが住民の間に広がっている。地方分権、住民と行政との協働といった潮流がまちづくりを後押ししている。量から質の重視、余暇時間の増加、元気な高齢者の増加、スローライフなど、居住地を見直し、居住環境を改善しようとする意識を持った住民が増加し、まちづくりの担い手となっている。本科目では、具体的な事例などを学ぶことにより、まちづくりの意義、効果、あり方、課題などについての理解を深める。	
受講者に対する要望	準備学習(予習)
居住地など、自分と関係のある地域コミュニティをいかにより良くしていくかを念頭におきながら、クラスディスカッション等に望むことを期待する。	事前に提示した関連資料を予習しておくこと。中心市街地の事例については、担当の受講生がレジュメ2-4枚を用意して発表を行う。
学びのキーワード	準備学習(復習)
・まちづくり ・人口減少 ・高齢化 ・中心市街地 ・コミュニティ	毎回の講義内容を整理し、まとめること。中心市街地の事例に関しては、各自の発表のレジュメを復習すること。
	評価方法
	(1) 授業への参加度合 30% (2) 発表 20% (3) レポート課題 50%
	教科書
	参考書
	授業の中で指示する

社会的企業論

担当教員： 大高 研道

学期： 集中講 科目：

必修・選択：

単位： 2 コード： P2400707

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

社会的企業は、必ずしもコンセンサスが形成された概念ではない。とりわけ、「社会的目的に焦点を当てる企業家精神」の目新しさが強調される一方で、当事者参加やエンパワメント、さらには社会的関係性の形成（再構築）といった視点は希薄で、「社会性」の内実が目的レベルでのみ語られる傾向にある。本講義では、「社会問題に取り組む事業体」としての社会的企業が対象とすべき課題を「社会的排除」との関連で捉えた上で、おもに労働者協同組合やワーカーズコレクティブ等の協同実践の蓄積に学びつつ、既存の社会的企業理論の批判的考察および日本型社会的企業モデル構築の可能性について論じる。

(2) 学びの意義と目標

ポスト福祉国家体制下において、準市場領域での主要アクターとして位置付けられている「社会的企業」の批判的・創造的考察を通して、コミュニティ組織・市民社会組織の今日的 position と今後の展開方向を確認・理解することを目的とする。

受講者に対する要望

- ・一方通行の講義ではなく、対話的な議論を中心に進めるので、積極的に発言・参加してほしい。
- ・時事問題等を取りあげて議論することもあるので、新聞等には日常的に目を通しておくこと。

学びのキーワード

- ・ 社会的企業・NPO
- ・ コミュニティ
- ・ 社会的排除・貧困
- ・ 当事者性
- ・ エンパワメント

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会的企業とは
03. 社会的企業論の系譜（アメリカ）
04. 社会的企業論の系譜（ヨーロッパ）
05. 社会的企業論の系譜（日本）
06. 企業サイドアプローチ
07. 社会的企業の組織特性
08. 労働統合的社会的企業
09. 社会的企業とサードセクター
10. 日本における労働統合的社会的企業
11. 社会的企業の実践（1）
12. 社会的企業の実践（2）
13. 社会的企業の実践（3）
14. 社会的企業と法制度
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの該当箇所は必ず読み、分からない用語等は事前に調べてくること。

準備学習(復習)

講義後、「学んだこと」/「疑問に思ったこと」を整理すること。次回講義冒頭で共通討論の場を設ける。

評価方法

- | | |
|---------------------|----|
| (1) 授業への参加状況および課題発表 | 50 |
| (2) レポート | 50 |

発表日などは、各自の都合や要望に応じて、話し合いながら調整・決定する。

教科書

藤井敦史・原田晃樹・大高研道編著『闘う社会的企業』（勁草書房、2013）

参考書

授業の中で指示する

単位：2 コード：P2500810

01. オリエンテーション：授業の進め方、科学的研究のあり方について、分担決定
02. 組織行動論とは何か：なぜ組織行動論を学ばなければならないのか
03. 個人の行動の基礎：価値観、認知、態度、学習
04. モチベーション論（１）基本的コンセプト、諸理論
05. モチベーション論（２）目標設定理論とその妥当性
06. 人事評価をめぐる根本問題：評価方法、評価尺度
07. 360度方角からのフィードバック
08. 集団行動の基礎
09. チームを理解する
10. コミュニケーション
11. 変革の時代におけるリーダーシップの求心力
12. 組織構造の基礎
13. 組織文化
14. 現実を変えることから生まれる知識創造のパワー
15. まとめ

金井壽宏・高橋潔著『組織行動の考え方』（東洋経済新報社、2004年）とロビンズ、S. P（高木晴夫訳）『新版組織行動のマネジメント：入門から実践へ』（ダイヤモンド社、2009年）をメイン・テキストとする。価値観、モチベーション、チームワーク、コミュニケーション、リーダーシップ、組織文化、といった組織行動論の主要テーマに関する理論やフレームワークを、テキストの輪読、講義を通じて学ぶ。また、それらの原理原則が、実際の組織（企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決に、どのように適用できるかを、クラス・ディスカッションにより議論する。

われわれが社会生活を営む上では、いずれかの組織に所属することなしに生きていくことはできない。組織は、個人だけでは達成できない目標を達成する仕組みとして、人類の発明した仕組みの中でも最も価値のあるもののひとつといえる。しかしながら、組織が所期の目標を達成するためには、所属する成員が協力しあうことが重要となる。組織成員の協力を引き出し、目的に向かって成員を動かすために、個人が、個人として、また、小集団・組織の成員として行動し、認知し、また感情を抱く際にみせるさまざまな法則性に関する理論やフレームワークを理解すること、そして、それらの法則性の活用を、実際の組織（企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決に、どのように適用できるかを考える力の養成を目標とする。また、どの学院レベルの教育として、これらの文献が明示的にあるいは非明示的に保持する、研究課題、仮説、その検証方法を見抜く力を磨き、ひいては、自らがそうした科学研究のフレームワークに沿って、研究論文を書き上げる能力を高めるための訓練の場としたい。

テキストの分担箇所のみならず、当日の指定箇所は毎回読んで授業に臨むこと。該当箇所における、研究課題、仮説、仮説の検証方法などが何なのかを見極めることを心がけながら読むこと。

該当箇所についての講義と議論を踏まえて、予習で予測した課題、仮説、検証方法が妥当であったかどうか、振り返る。学んだ理論が適用できる現実社会・組織の例を考えてみる。

(1) 授業への貢献	40	ディスカッションへの参加、担当箇所の発表を含む。
(2) 期末レポート	60	

大学院では、自分のふだんの考え方とは異なる思考方法・思考パターンを学ぶこととなる。受講者には、この体験を新しい思考の道具箱を手に入れるための訓練と捉え、辛抱強く取り組む。

- 組織
- 小集團
- 行動
- 個人
- 成果

金井壽宏、ほか 『組織行動の考え方：ひとをを活かし組織力を高める9つのキーコンセプト』 東洋経済新報社
ロビンズ（高木晴未訳）『『新版』組織行動のマネジメント入門から実践へ』ダイヤモンド社

随時、クラスで指示。UNIPA上にアップロードした資料を学生が各自ダウンロードするか、クラス内で配布する。

経営文化論			
担当教員：金子 毅			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
学部教育の関連目		授業計画	
論理的な思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う		01. 経営文化論の焦点となるテーマは何か 02. 経営と文化の定義 03. 経営としての文化 04. 文化としての経営 05. ドラッカーの思想を手掛かりに1 マネジメントについて 06. ドラッカーの思想を手掛かりに2 マーケティングについて 07. ドラッカーの思想を手掛かりに3 イノベーションについて 08. 宗教実践より見た経営 09. 中間整理 10. 担当者の文献から1 祭礼に投影される地域経営 埼玉県吉川八坂祭りを事例に 11. 担当者の文献から2 祭礼に投影される地域経営 北九州市戸畑区女提灯山笠を事例に 12. 担当者の文献から3 開発が崩壊させた地域コミュニティ 消えた城山小学校 13. 近代産業遺産化の陥穽 北九州市路面電車がつむぐ地域の記憶 14. 質疑応答 15. 経営文化論のゆくえ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容			
生活者の立場に寄り添い、行政・企業による観光などの経営戦略と地域との間で織りなされる「葛藤」の局面を重視し、そこから地域に潜在する思想を読み取りつつこれに則った新たな地域資源の開発を試みていく。すなわち、経営を動かす原理を地域の「文化」より探ることで“実践する”行政・企業、“実践される”地域にとり真に望ましい経営のあるべき方向性を討議を通じて模索する、それが経営文化論の狙いである。			
(2) 学びの意義と目標			
受講者各々の現場での調査活動へと反映させるだけの思考力を鍛え、これを理論的な枠組みと関連付け、独自の論文へと昇華させる。		準備学習(予習)	
		発表者は各々のテーマに即したレジュメ（ネット情報からの切り張りでないもの）を作成しておく。	
		準備学習(復習)	
		発表でなされた討議結果を各自の調査研究とすり合わせ、修士論文作成に向けた発想へとつなげていく。	
受講者に対する要望		評価方法	
複雑難解な知の迷宮に分け入るには地図を柔軟に解釈する思考力（発想力）と現在地を知るコンパス（理論）が不可欠です。でも、恐れずに自分なりのフットワークをもって挑めばよいのです。		(1) 発表 70% (2) 参加による貢献度 30%	
学びのキーワード		教科書	
・文化 ・葛藤関係 ・地域倫理 ・地域資源		参考書	
		安富歩、2014『ドラッカーと論語』東洋経済新報社	

地球環境論研究			
担当教員： 村上 公久			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 2 コード： P2900111
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. Scienceサイエンス について 02. genetic／functional approach 発生論的接近 と 機能論的接近 03. 「相の転換」phase transition 04. 地球環境問題とは何か 一環境問題概論 05. 生態学におけるいくつかの重要な概念について 06. 地球環境問題をめぐる理念の変遷一環境史概観 07. 処方箋Agenda 21とその背景の検討 08. 環境関連 国際機関・機構 09. 法・制度 10. 「保続的(持続的)発展」Sustainable Development 11. 環境はいくらか 一環境の経済的評価 12. OECD モデルの検討 13. 事例研究 14. 合意形成の方途、第4セクターの重要性 15. 「全球」時代の地球環境問題と国際的資源管理	
(1) 内容			
まず環境史を概観し産業革命以後の環境問題を省みた上で、特にUnited Nations Conference on the Human Environment（ストックホルム「国連人間環境会議」）1972年から、United Nations Conference on Environment and Development, “UNCED”（リオ・デジャネイロ「国連 地球サミット」）1992年、さらに一連のCOP（国連気候変動枠組条約締約国会議）など近年の地球環境問題を巡る国際会議、およびUnited Nations Conference on Sustainable Development (Rio+20)（「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」）2012年 COP21パリ協定2015年などのアジェンダの変遷とその背景を考察する。			
次に、国際化・地球化における地球環境問題への取り組みのあり方を検討する。急速な国際化の進展に伴い、国民国家の枠組みが解消してゆき、世界の担い手がコミュニティ・自治体と超国家機構・国際的組織とに分極してゆく中で、「水と空気に 国境はない」環境問題の解決の方途を、保続的開発(持続的発展) Sustainable Developmentを実現させるための環境政策の視野で考える。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
国際化・地球化における地球環境問題への取り組みのあり方を検討する。急速な国際化の進展に伴い、国民国家の枠組みが解消してゆき、世界の担い手がコミュニティ・自治体と超国家機構・国際的組織とに分極してゆく中で、「水と空気に 国境はない」環境問題の解決の方途を、汚染・公害防止策を超える保続的開発(持続的発展) Sustainable Developmentを実現させるための環境政策の視野で考える。		各省・国際機関の白書・報告書 類の「環境」関連項目を、読んでおくこと。 農水、経産、外務、環境、各省資料。特に「エネルギー白書」「日本の国際協力」、IBRD, OECD, ADB(Asian Development Bank), UNDP, UNEP 関連資料。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
大学院科目を 学部の「新総合科目」として開講するので、学部生で履修を希望する者は履修に先立って予め「環境保全論」「環境学」の一つ以上の科目でSまたはAの成績評価を得ておくこと。		各回の講義内容について、各自関連する資料を学び、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めディスカッションを通じて理解を深める。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 地球環境問題 ・ Sustainable Development保続的開発（持続的発展） ・ 国際化・地球化（全球化） ・ 「水と空気に 国境はない」 ・ 環境政策		(1) ディスカッション への参画 と寄与・貢献 60% (2) 複数回の レポート 40%	
		ディスカッションへの参画と寄与・貢献を主に評価する。	
		教科書	
		ナシ、講義資料を配布する。	
		参考書	
		参考文献・資料のリスト、講義資料を配布する。	

研究法入門

担当教員：古谷野 亘

学期：集中講 科目：

必修・選択：

単位：2 コード：W1100101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では研究を行うために必要とされる技術、特に実証的な研究の技術である調査の方法について講義する。情報を集め分析するための枠組み作りから、文献の検索と収集、量的調査の計画と実施、論文の書き方までを解説して、オリジナルなデータによって修士論文を作成しようとする学生に必要な基礎知識を提供する。

(2) 学びの意義と目標

大学院では、専門領域の知識を獲得するだけでなく、みずから研究課題を定め、研究して、回答を得ていく技術の修得が求められる。本講義で取り扱うのはそのような研究の技術、特に実証的な研究の技術であって、技術の修得に向けて必要な予備知識を得ることが本講義の目的である。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・ 実証研究
- ・ 研究するための義実

授業計画

01. イントロダクション — 大学院で学ぶ
02. 研究のための技術
03. 社会・行動科学における法則的知識の限界 (1)
04. 社会・行動科学における法則的知識の限界 (2)
05. 文献の探し方と入手方法 (1)
06. 文献の探し方と入手方法 (2)
07. 研究のプロセスとモデル (1)
08. 研究のプロセスとモデル (2)
09. 調査の設計と現実的考慮 (1)
10. 調査の設計と現実的考慮 (2)
11. 論文の書き方、発表の仕方 (1)
12. 論文の書き方、発表の仕方 (2)
13. 修論作成までのプロセス (1)
14. 修論作成までのプロセス (2)
15. まとめと課題・総合討論

準備学習(予習)

授業は概ね教科書通りに進むので、次回に相当する箇所を読んでおくといよい。

準備学習(復習)

研究の遂行に必要な技術の修得のため復習が必須である。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

教科書

古谷野 亘、長田 久雄 『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』 (ワールドプランニング)

参考書

授業の中で指示する

単位：2 コード：W1110202

01.	はじめに		
02.	第一部	第一章 われわれの時代、われわれの国	
03.		第二章 弁証学のための「言葉」の獲得 (1)	
04.		第三章 弁証学のための「言葉」の獲得 (2) の1	
05.		第三章 弁証学のための「言葉」の獲得 (2) の2	
06.	第二部	第一章明治以降と日本の近代化の問題	明治維新は「神道のクーデター」—キ
07.		第二章 明治神道と日本近代化の問題	2 GHQの神道指令—天皇の「人間宣言」
08.		第二章「神々の死」と「天皇の人間宣言」のもたらした「たましい」の問題	1 釈迦遺（折口信夫）における「神やふれたまふ」の歌
09.		第二章「神々の死」と「天皇の人間宣言」のもたらした「たましい」の問題	2 三島由紀夫における神の死の神学
10.		第五章現代状況への立ち寄り—第一次世界大戦後から第二次世界対戦へ	2 現代神学における弁証学的人間学
11.		第五章現代状況への立ち寄り—第一次世界大戦後から第二次世界対戦へ	3 アメリカ神学における弁証学的人間学—神学者ニーバー兄弟
12.		第六章日本における人間学の問題—和辻哲朗の「人間学」	
13.		第七章 戦後日本における人格の共同体形成への問い	
14.		第八章 弁証学としての人間学 総括	
15.	まとめ		

大木英夫著『人格と人権』を読む

授業はゼミ形式で受講者の発表とディスカッションを中心に行う。春学期だけなので上巻のみを取り上げることになる。

[illegible]

- ・敗戦からの問い
- ・基本的人権
- ・神と的人格関係
- ・民主主義
- ・新しい人間

大木英夫『人格と人権』（教文館）

調査研究法Ⅰ（量的研究）

担当教員：古谷野 亘

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：4 コード：W1110303

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

前半では、社会調査を行うにあたって必要な技術の説明と同時に、社会科学研究法としての調査の意義と限界について論じる。後半では、心理学的尺度構成法の手順を実例をあげつつ解説し、可能であれば履修者の関心に応じて調査票作成、データ分析、もしくは尺度開発の演習を行う。

(2) 学びの意義と目標

人間の意識や行動、社会現象に内在する法則性を発見するために用いられる社会・行動科学の研究手法である量的研究の技法、特に変数の測定方法について基礎的な知識を得ることを目標とする。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・社会・行動科学研究法
- ・社会調査
- ・計量分析
- ・モデル
- ・測定

授業計画

01. 社会調査の理論と方法 | サンプルング (1)
02. サンプルング (2)
03. データ収集の方法 (1)
04. データ収集の方法 (2)
05. 調査票の作成と質問文 (1)
06. 調査票の作成と質問文 (2)
07. 調査票の作成と質問文 (3)
08. 調査票の作成と質問文 (4)
09. 調査データの分析 | 統計の目的 (1)
10. 統計の目的 (2)
11. 1変数の分析 (1)
12. 1変数の分析 (2)
13. クロス表と関連度の係数 (1)
14. クロス表と関連度の係数 (2)
15. 相関と回帰 (1)
16. 相関と回帰 (2)
17. 推定と検定 (1)
18. 推定と検定 (2)
19. 多変量解析 (1)
20. 多変量解析 (2)
21. 多変量解析 (3)
22. 多変量解析 (4)
23. 測定法 | 測定の妥当性と信頼性 (1)
24. 測定の妥当性と信頼性 (2)
25. 構造方程式モデリング (1)
26. 構造方程式モデリング (2)
27. 構造方程式モデリング (3)
28. 構造方程式モデリング (4)
29. まとめと課題・総合討論 (1)
30. まとめと課題・総合討論 (2)

準備学習(予習)

授業は概ね教科書の通りに進むので、次回の箇所を予め読んでおくとうよい。

準備学習(復習)

量的研究は“数学っぽい”ことから敬遠されがちであるが、質的研究法より簡単で、基礎的である。ただし、知識・技術の修得には積み重ねが必要であるから、復習は必須である。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

教科書

古谷野 亘、長田 久雄 『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』 (ワールドプランニング)

参考書

授業の中で指示する

調査研究法II（質的研究）			
担当教員：小倉 啓子			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 4 コード： W1110404
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. . イントロダクション 授業の説明 質的研究の意義と特性 02. 質的研究の概要・種類 03. 質的研究の概要・種類 04. 質的研究の概要・種類 05. M-GTAの概要. . . :概要・歴史・特性・適した研究・分析、理論の考え方・I 研究する人間 06. M-GTAの概要. . . :研究テーマ、分析テーマ、分析焦点者 07. M-GTAの概要. . . :データ収集 08. 質的論文購読 09. M-GTAの概要. . . :研究テーマ、分析テーマ、分析焦点者 受講生の問題意識 実践課題 10. 質的論文購読 11. M-GTAの概要. . . :データ収集 受講生のフィールド、データ収集について 12. . M-GTAの概要. . . :概念生成ー解釈、定義、概念名。継続比較分析。 13. 論文のサンプルデータを用いた概念生成の練習 14. 論文購読 論文と受講生の問題意識 15. 論文のサンプルデータを用いた概念生成の練習 16. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める 17. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める。 18. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める。 19. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める 20. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める 21. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める 22. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める 23. M-GTAの概要. . . :分析のまとめ方。カテゴリー化。 24. 分析のまとめ方。カテゴリー化。 ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。 25. 分析のまとめ方。カテゴリー化。 ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。 26. 分析のまとめ方。カテゴリー化。 ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。 27. 論文の評価。補足。 28. 質的研究と分析法について総合的な説明 29. 質的研究と分析法について総合的な説明 30. 質的研究と分析法について総合的な説明	
(1) 内容			
この授業の目標は、さまざまな領域で関心が高まっている質的研究についての基本的な事柄を理解し、質的研究法の一つである修正版グランデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）の分析方法を習得することである。 質的研究は、さまざまな領域で関心が高まっているが、質的研究方法は多様であるため、どの研究法を選択するかの判断が求められる。また、質的研究では言語による報告が主であるので、分析対象とした現象を言語化する力が必要である。 本講義では、まず、質的研究の意義、代表的な質的分析法の特徴の紹介、受講生が関心をもった現象を言語してとらえる練習、質的論文の購読など基本的な事柄を自分の問題意識と関連付けながら学ぶ。次に、広く対人援助領域で用いられている M-GTAの理論t的背景や方法論などを学び、それらをふまえたうえで、サンプルデータを使って実際の分析を行っていく。具体的には問題意識の明確化からテーマの絞り込み、データ収集、分析、まとめまでの過程を体験する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
質的研究法はさまざまあり、それぞれが理論的背景と方法論をもっており、それに基づいた分析方法がある。そこで、どの方法を選択する場合も、自覚的な選択が必要となる。 本講義では、質的研究の基本的で共通する理論的t立場や分析法を学んだうえで、具体的にM^GTAについて理論的背景とそれに基づく具体的な分析方法を学ぶ。マニュアルとしてはなく、自分の問題意識の明確化から始まり、常にデータと自分の思考との対話を続け、データ解釈のプロセスをたどっていくことを体験的に学ぶ。自分自身を振り返りながら現象の理解を深めていく方法は、論文作成や実践現場での関わりを考えていくうえで有用と考えられる。		教科書を読んで、疑問点を明らかにすること。 日常生活の中で、関心のある事柄を端的にとらえて、言語化したことを授業で報告する。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
何を何のために明らかにしたいのか、自分自身の問題意識を明確化すること、自分の考えや感性を大事にすること、物事を新たな目で深くとらえようとする、自分の思考過程を明確にして他者に説明すること、自分の判断に責任をもつこと、研究対象者への敬意の念をもつこと。		教科書としたM-GTA関連本の再読、疑問点の理解を確かめる。 実際の分析練習に入った後は、授業の振り返りをする。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 質的研究 ・ 修正版グランデッド・セオリー・アプローチ ・ 対人援助領域 ・ 社会的相互作用 ・ 研究する人間		(1) レポート 50% (2) 実習参加レベル 50%	
		質的研究、M-GTAについて初めて学ぶ受講生が多いので、理解の速度や言語化の経緯の差は問題にしない。受講生なりに自分の問題意識や研究テーマと関連付けて授業に参加し、現象を深く解釈しようとする姿勢を養うことが求められる。	
		教科書	
		木下康仁（2007） ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法 修正版グランデッド・セオリー・アプローチのすべて。 弘文堂	
		参考書	
		授業で知らせる。	

担当教員：入江 礼子

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：4 コード：W1110512

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「保育」がどのような原理で行われているかを理解した上で保育・教育実践研究の論文の分析及び「保育記録」を中心とした実践研究の手法等を学んでいく。さらに保育・教育実践現場での参加観察をもとにした実践報告を検討することでその手法を身につける。

(2) 学びの意義と目標

子どもと日々の生活を共にする保育者が、保育の当事者として、その日常から研究を立ち上げたものが保育・教育実践研究であるといえる。そこで本講義では、(1) 保育者が当事者として立ち上げた実践研究を課題として取り上げ、その内容および意味を考察すること(2) 保育・教育実践現場に参加観察をさせて頂き、保育の今日的課題及び保育者の当事者性について理解を深めるという二点に焦点を当て、保育の当事者が立ち上げる研究の可能性について考究していく。

受講者に対する要望

保育・教育の実践及び実践研究に興味を持ち、自ら課題を見出す努力ができること。

学びのキーワード

- ・ 保育実践研究
- ・ 保育の当事者性
- ・ 保育記録
- ・ 保育の原理
- ・ 保育の今日的課題

授業計画

01. はじめに「保育・教育実践研究」とは①
02. はじめに「保育・教育実践研究」とは②
03. 保育の原理 (1) ①
04. 保育の原理 (1) ②
05. 保育の原理 (2) ①
06. 保育の原理 (2) ②
07. 保育の原理 (3) ①
08. 保育の原理 (3) ②
09. 保育の原理 (4) ①
10. 保育の原理 (4) ②
11. 保育・教育実践研究の分析と検討 (1) ①
12. 保育・教育実践研究の分析と検討 (1) ②
13. 保育・教育実践研究の分析と検討 (2) ①
14. 保育・教育実践研究の分析と検討 (2) ②
15. 保育・教育実践研究の分析と検討 (3) ①
16. 保育・教育実践研究の分析と検討 (3) ②
17. 保育・教育実践研究の分析と検討 (4) ①
18. 保育・教育実践研究の分析と検討 (4) ②
19. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (1) ①
20. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (1) ②
21. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (2) ①
22. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (2) ②
23. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (3) ①
24. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (3) ②
25. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (4) ①
26. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (4) ②
27. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (5) ①
28. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (5) ②
29. 総括①
30. 総括②

準備学習(予習)

配布した論文・資料を指定した授業回までに必ず読みこんで出席すること。授業での報告等はレジュメ等を作成し、積極的に取り組むこと。

準備学習(復習)

授業後に自ら見出した課題への理解を深めること。

評価方法

- | | |
|----------|----|
| (1) 平常点 | 30 |
| (2) 課題 | 40 |
| (3) レポート | 30 |

本講義へ積極的参加30%、課題報告40%、レポート30%により総合的に評価する。

教科書

参考書

社会福祉学研究 /社会福祉学特論			
担当教員： 牛津 信忠			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
学部教育の関連目		単位： 4 コード： W1120105	
カリキュラム上の位置付け		授業計画	
(1) 内容		01. 狭義・広義の社会福祉領域 (1)① 02. 狭義・広義の社会福祉領域 (1)② 03. 社会福祉の理論的枠組み―人間福祉への道① 04. 社会福祉の理論的枠組み―人間福祉への道② 05. 人間福祉の過去・現在・将来① 06. 人間福祉の過去・現在・将来② 07. 相互的人格主義の福祉における位置① 08. 相互的人格主義の福祉における位置② 09. 社会福祉の歴史的現実と諸政策① 10. 社会福祉の歴史的現実と諸政策② 11. 福祉目的と多元的規定力 (1)① 12. 福祉目的と多元的規定力 (1)② 13. 福祉目的と多元的規定力 (2)① 14. 福祉目的と多元的規定力 (2)② 15. 福祉形成過程における相互主義 (1) ① 16. 福祉形成過程における相互主義 (1) ② 17. 福祉形成過程における相互主義 (2) ① 18. 福祉形成過程における相互主義 (2) ② 19. ボランタリィな人間存在の意味① 20. ボランタリィな人間存在の意味② 21. 人格主体の形成と権利認定・援助責務① 22. 人格主体の形成と権利認定・援助責務② 23. 人格主体と自我主体の連結に関する考察① 24. 人格主体と自我主体の連結に関する考察② 25. 「潜在能力アプローチ」に基づく福祉システム① 26. 「潜在能力アプローチ」に基づく福祉システム② 27. ダイナミックな福祉パラダイムと危機からの離脱① 28. ダイナミックな福祉パラダイムと危機からの離脱② 29. 相互人格主義的人間福祉論① 30. 相互人格主義的人間福祉論②	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
この講義は、福祉原論という意味を持つ。したがって人間が生きる状況内の全ての問題に集約的に応える内容が提示される。もちろんあくまで集約的な応答であるので、問題解決の視座が示されるのみである。しかし、受講者は、それを起点に思索を展開する道を切り開くことができるであろう。特に、福祉原論にとって欠かせない論理的骨格とその展開方途を概略知ることができ、ここに示される相互的人格主義や、共感共同論、さらには場の理論等によって、福祉学の基底論理を展望を持って学ぶことができる。本講義は、このような人間福祉学の学的基盤を学ぶことを目的とする。		教科書を用いるので、事前にその日の授業の該当箇所を読んでおくことを推奨する。その上で、疑問箇所の提示や皆で討論し深めたいと思う箇所等の提案ができるようにしておくこと	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
教科書を用いるので、事前にその日の授業の該当箇所を読んでおくことを推奨する。その上で、疑問箇所の提示や皆で討論することを希望する箇所等の提案ができるようにしておくこと。		授業終了後、当日学んだ教科書の箇所を再読し理解を深める。教科書の註書きの部分にも理解を広げる。さらに紹介された参考文献をできれば手にとって読むように心掛ける。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 相互的人格主義 ・ 場の理論 ・ 潜在能力 ・ 多元的規定力 ・ 中間セクター		(1) 平常点 20% (2) 貢献度 10% (3) 参加意欲 20% (4) 単位レポートの成績 40% (5) 知識の幅の拡大 10%	
		教科書	
		参考書	

ソーシャルワーク研究 / ソーシャルワーク特論			
担当教員： 助川 征雄			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
		単位：	4
		コード：	W1120307
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーションーいまれわれはどこにいるか① 02. オリエンテーションーいまれわれはどこにいるか② 03. これまでの内外の実践理論と新たな実践理論の動向① 04. これまでの内外の実践理論と新たな実践理論の動向② 05. ストレングスモデル（１）① 06. ストレングスモデル（１）② 07. ストレングスモデル（２）① 08. ストレングスモデル（２）② 09. ストレングスモデル（３）① 10. ストレングスモデル（３）② 11. ストレングスモデル（４）① 12. ストレングスモデル（４）② 13. ストレングスモデル（５）① 14. ストレングスモデル（５）② 15. ストレングスモデル（６）① 16. ストレングスモデル（６）② 17. リカバリー・イノベーション（１）イギリスの経年的動向を中心に① 18. リカバリー・イノベーション（１）イギリスの経年的動向を中心に② 19. リカバリー・イノベーション（２）I m R O C Kー行政構造改革① 20. リカバリー・イノベーション（２）I m R O C Kー行政構造改革② 21. リカバリー・イノベーション（３）I P Sー新たな就労支援① 22. リカバリー・イノベーション（３）I P Sー新たな就労支援② 23. リカバリー・イノベーション（４）Recovery College ① 24. リカバリー・イノベーション（４）Recovery College ② 25. リカバリー・イノベーション（５）Peer Support Worker① 26. リカバリー・イノベーション（５）Peer Support Worker② 27. リカバリー・イノベーション（６）わが国における応用の可能性① 28. リカバリー・イノベーション（６）わが国における応用の可能性② 29. まとめと課題① 30. まとめと課題②	
(1) 内容 本講では、「C/Rapp著:ストレングスモデル」や本職の「英国リカバリー・イノベーション研究」などの要点の紹介と多様な現場情報の擦り合わせを行ってゆく。			
(2) 学びの意義と目標 社会情勢の変化の中で、わが国はこれまで幾度も社会福祉の在り方を見直してきたが、今後に向け、現場を担う専門職や当事者から実効性のある長期展望を提案することが不可欠である。本講ではこれらの課題を見据え、内外の将来性のある実践理論と現場経験との摺合せを以てその解決に挑戦するとともに、真のリーダー養成をめざす。		準備学習(予習) 授業前には、教科書や配布資料の授業予定部分を予習し、その部分に関連する身近な実践事例やエピソード報告メモなど（提出不要）を準備しておくこと。	
		準備学習(復習) 教科書要点の再確認	
受講者に対する要望 教科書の精読		評価方法 (1) 平常点 30% (2) レポート 20% (3) 平常点（課題） 50% 平常点30%、レポート20%、平常点（課題）50%により総合評価する。	
学びのキーワード ・ ソーシャルワーク ・ 精神障害者支援 ・ ストレングスモデル		教科書 <small>チャールズ・A. ラップ、リチャード・J. ゴスチャ、田中 英樹『ストレングスモデル—精神障害者のためのケースマネジメント』（金剛出版）</small> 参考書	

単位：4 コード：W1130108

参考書

高齢者保健福祉特論 / 高齢者福祉特論

担当教員：古谷野 亘

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：4 コード：W2100404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、高齢者保健福祉の歴史的変遷を、そのときどきの社会的諸条件と関連づけて取り上げ、現状と変化の方向を明らかにする。そしてその上で、最近の学会誌の論文の講読とあわせて、現在の問題とその解決に向けての方策を考究する。

(2) 学びの意義と目標

高齢者の保健福祉は現在急速に変化しつつある。介護保険の施行は本質的な変化であったが、制度の改変は今後もさらに続くものと予想される。このような中では、現在の制度について知るだけでは不十分であって、その成立の背景や条件を正確に理解して、将来の方向を見通す力が求められる。そのような理解を得ることが本講義の目的である。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・高齢化
- ・正常老化
- ・介護保険制度
- ・地域包括ケア

授業計画

01. 高齢者保健福祉の歴史から学ぶ| 歴史をみる視点 (1)
02. 歴史をみる視点 (2)
03. 老人ホームの歴史 (1)
04. 老人ホームの歴史 (2)
05. 老人医療費の推移 (1)
06. 老人医療費の推移 (2)
07. ホームヘルプ事業の変遷 (1)
08. ホームヘルプ事業の変遷 (2)
09. 介護保険導入の意味 (1)
10. 介護保険導入の意味 (2)
11. 介護保険導入によってわかった“福祉”の意 (1)
12. 介護保険導入によってわかった“福祉”の意 (2)
13. 文献講読と討議| 家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死” (1)
14. 家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死” (2)
15. 地域包括ケアの課題 (1)
16. 地域包括ケアの課題 (2)
17. 介護予防の可能性 (1)
18. 介護予防の可能性 (2)
19. 保健福祉サービスの利用を規定する要因 (1)
20. 保健福祉サービスの利用を規定する要因 (2)
21. 要介護認定の問題 (1)
22. 要介護認定の問題 (2)
23. 介護保険下における老人ホームの経営 (1)
24. 介護保険下における老人ホームの経営 (2)
25. 在宅サービス事業者の課題 (1)
26. 在宅サービス事業者の課題 (2)
27. 高齢者サービスを支える人の問題 (1)
28. 高齢者サービスを支える人の問題 (2)
29. まとめと課題、総合討論 (1)
30. まとめと課題、総合討論 (2)

準備学習(予習)

全体を通して、特に文献講読の際には当該文献と関連資料を精読するなどの予習が必要になる。

準備学習(復習)

全体を通して、積極的な討議への参加と振り返り（復習）が必要である。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

障害者福祉特論			
担当教員： 木下 大生			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 4		コード： W2100505	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 障害者の置かれている状況① 02. 障害者の置かれている状況② 03. ノーマライゼーション原理の成立と発展① 04. ノーマライゼーション原理の成立と発展② 05. 国際連合の人権思想の展開① 06. 国際連合の人権思想の展開② 07. 日本の障害者福祉施策の歴史的展開―概要―① 08. 日本の障害者福祉施策の歴史的展開―概要―② 09. 大規模保護収容施設実現に至る道のり① 10. 大規模保護収容施設実現に至る道のり② 11. 日本の施設の整備促進と在宅福祉政策の萌芽① 12. 日本の施設の整備促進と在宅福祉政策の萌芽② 13. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（１）① 14. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（１）② 15. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（２）① 16. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（２）② 17. 現代の障害者福祉の課題（１）① 18. 現代の障害者福祉の課題（１）② 19. 現代の障害者福祉の課題（２）① 20. 現代の障害者福祉の課題（２）② 21. 障害者福祉の研究動向（１）① 22. 障害者福祉の研究動向（１）② 23. 障害者福祉の研究動向（２）① 24. 障害者福祉の研究動向（２）② 25. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（１）① 26. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（１）② 27. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（２）① 28. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（２）② 29. まとめと課題① 30. まとめと課題②	
(1) 内容		この講義では、障害のある人たちの「人権」を念頭に置きつつ、主として知的障害者施設入所者の地域移行促進の観点からこれまでの障害者政策を顧み、これらの障害者政策を考える。 今や障害者政策の大きな課題とされる施設入所者の地域移行促進の観点から、これまでの国連の取り組みや、日本の障害者政策を顧みる。関係法令の変遷、政策転換の契機となった審議会答申等の資料を手がかりとしつつ、収容主義から地域移行へ方向転換、近年の障害者施策による計画的・制度的な地域移行推進という流れを確認し、地域移行の必然性を検証する。さらに、今後の地域移行の進展に伴う障害者施設機能の変容を予測する。また、24回の講義を通じて履修者が特に興味を持ったトピックについて、各々文献等を利用し、まとめ、その内容を報告する。それにより研究の方法、研究成果の報告の方法、並びに障害者福祉についての理解を深める。	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
現在の障害者福祉制度の成立過程と内容を理解し、障害者福祉に対する自身の価値を構築する。		双方向的な授業とするため、院生から積極的な発言を期待する。そのため、授業前にはシラバスを毎回必ず確認し、テーマについて自分なりに理解を深める作業をしておくこと。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
積極的な学習姿勢と発言を期待する。		配布した資料、授業内容の振り返りを各自行っていただきたい。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 人権 ・ 地域移行 ・ 障害者の権利条約		(1) 講義への参加姿勢、課題への取り組み姿勢と報告 100	
		教科書	
		プリントを配布する	
		参考書	
		講義への参加姿勢、課題への取り組み姿勢と報告内容から総合的に評価する。	

<div>精神保健福祉特論</div> <div></div>							
担当教員： 相川 章子 学期： 週間授 科目： 講義科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 コード： W2100707							
<div>学部教育の関連目</div>	<div>授業計画</div> <div> 01. 1. 精神保健福祉論総論 1) 精神障害者福祉の歴史的背景① 02. 1. 精神保健福祉論総論 1) 精神障害者福祉の歴史的背景② 03. 2) 精神障害者福祉における医療・施設・地域生活支援① 04. 2) 精神障害者福祉における医療・施設・地域生活支援② 05. 3) 精神障害者福祉におけるソーシャルワーク① 06. 3) 精神障害者福祉におけるソーシャルワーク② 07. 4) 欧米諸国における精神保健福祉① 08. 4) 欧米諸国における精神保健福祉② 09. 5) 精神障害者福祉から精神保健への拡大① 10. 5) 精神障害者福祉から精神保健への拡大② 11. ①. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (1) セルフヘルプ・ピアサポート 12. ②. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (1) セルフヘルプ・ピアサポート 13. ①. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (2) ストレngthとエンパワメント① 14. ②. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (2) ストレngthとエンパワメント② 15. ①. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (3) リカバリー① 16. ①. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (3) リカバリー② 17. 2) ソーシャルワークにおける当事者主体① 18. 2) ソーシャルワークにおける当事者主体② 19. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性 (1) アメリカのプロシューマーの動向と課題① 20. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性 (1) アメリカのプロシューマーの動向と課題② 21. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性 (2) 日本のプロシューマーの動向と課題① 22. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性 (2) 日本のプロシューマーの動向と課題② 23. 4) 専門職と当事者の協働の思想 (1) 支援するもの-されるもの (二元論的支援関係) からの脱却① 24. 4) 専門職と当事者の協働の思想 (1) 支援するもの-されるもの (二元論的支援関係) からの脱却② 25. 4) 専門職と当事者の協働の思想 (2) 循環的支援関係構築に向けて① 26. 4) 専門職と当事者の協働の思想 (2) 循環的支援関係構築に向けて② 27. 5) 欧米諸国における精神保健福祉ソーシャルワークの動向① 28. 5) 欧米諸国における精神保健福祉ソーシャルワークの動向② 29. III. 文献講読および研究法 1) ソーシャルワークにおける研究・実践・理論の循環① 30. III. 文献講読および研究法 1) ソーシャルワークにおける研究・実践・理論の循環② </div>						
<div>カリキュラム上の位置付け</div>							
<div>(1) 内容</div> <p>精神保健および精神障害者を取りまく状況について歴史的・全体的にとらえ、日本および欧米諸国における動向をふまえつつ、その延長線上にある現在の精神保健福祉におけるソーシャルワークの実践およびその課題について学び、検討する。2. カリキュラム上の位置づけ 精神保健福祉に関する基礎的総論的内容とともに、精神障害者のみならずソーシャルワーク全体への般化および応用について考察し、深めることのできる各論の内容を盛り込み、より実践的なソーシャルワークについて検討するものとして位置づける。</p>							
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <p>精神保健福祉領域における総合的視野を身につけるとともに、ソーシャルワーク全般領域において応用できる実践力と現状について考究する力をつける。</p>							
<div>受講者に対する要望</div> <p>受講者一人ひとりのこれまでの学びや経験を通して、本特論での取り上げていることについてディスカッションを展開したいと思います。自らのこれまでの経験を価値あるものとして差し出してください。</p>	<div>準備学習(予習)</div> <p>授業内で指定する文献や課題についての準備を行い、ディスカッションが深められることを願います。</p>						
	<div>準備学習(復習)</div> <p>ディスカッションの内容等について振り返り、自らの意見や見解についてさらなる吟味を重ねることを願います。</p>						
	<div>評価方法</div> <table> <tr> <td>(1) 平常点</td><td>30%</td></tr> <tr> <td>(2) 参加状況及びディスカッション</td><td>30%</td></tr> <tr> <td>(3) レポート</td><td>40%</td></tr> </table> <p>1～3を総合的に判断する</p>	(1) 平常点	30%	(2) 参加状況及びディスカッション	30%	(3) レポート	40%
(1) 平常点	30%						
(2) 参加状況及びディスカッション	30%						
(3) レポート	40%						
<div>学びのキーワード</div> <ul style="list-style-type: none"> ピアサポート プロシューマー/ピアスタッフ/ピアサポーター ソーシャルワーク 精神保健福祉 協働 	<div>教科書</div> <div>参考書</div> <p>相川章子 『精神障がいピアサポーター』 (中央法規出版)</p>						

福祉工学特論			
担当教員： 野口 祐子			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
学部教育の関連目		単位： 4 コード： W2101010	
カリキュラム上の位置付け		授業計画	
(1) 内容		01. 少子高齢社会と住環境の歴史的展開① 02. 少子高齢社会と住環境の歴史的展開② 03. 少子高齢社会と住環境の現状① 04. 少子高齢社会と住環境の現状② 05. 福祉住環境整備の重要性① 06. 福祉住環境整備の重要性② 07. 高齢者・障がい者の障がい特性① 08. 高齢者・障がい者の障がい特性② 09. 高齢者・障がい者の自立と環境整備① 10. 高齢者・障がい者の自立と環境整備② 11. バリアフリーとユニバーサルデザイン① 12. バリアフリーとユニバーサルデザイン② 13. 福祉用具① 14. 福祉用具② 15. 環境整備に関する法制度① 16. 環境整備に関する法制度② 17. 環境整備の方法① 18. 環境整備の方法② 19. 環境整備の実際① 20. 環境整備の実際② 21. ライフスタイルの多様化と住まい① 22. ライフスタイルの多様化と住まい② 23. 福祉のまちづくりの歴史と現状① 24. 福祉のまちづくりの歴史と現状② 25. 福祉のまちづくりに関する法制度① 26. 福祉のまちづくりに関する法制度② 27. 福祉のまちづくりの実際① 28. 福祉のまちづくりの実際② 29. まとめ① 30. まとめ②	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
本講義では、建築や機器など物理的な環境を扱うが、その根本の理念は「人間福祉」にあり、医療、福祉サービス等と共に人の暮らしを支援し、豊かな生活を実現するための重要な手法である。福祉工学の実践に当たっては、人の生活を理解し、総合的にニーズを捉えることが求められる。本講義では、これらの理念を理解し、具体的な手法としての工学的な環境整備に関して学ぶ。		授業の中で参考文献、資料等を紹介する。各回の授業のテーマに沿って関連した文献を読み、関心を持って授業に臨んでいただきたい。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
学生の理解度や関心に応じて、授業を展開していきたいと考えているので、積極的に参加してほしい。		自ら参考文献を探したり、事例の見学や体験をして、理解を深めていき、関心を持ってレポートのテーマを見つけてほしい。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 高齢者・障がい者 ・ バリアフリー□ ・ ユニバーサルデザイン ・ 環境整備 ・ 福祉のまちづくり		(1) 平常点	

臨床心理学特論	
担当教員：長谷川 恵美子	
学期：週間授	科目：必修・選択：単位：4コード：W2101111
学部教育の関連目	授業計画 01. 臨床心理学とは① 02. 臨床心理学とは② 03. 臨床心理学の歴史① 04. 臨床心理学の歴史② 05. 精神分析学とは① 06. 精神分析学とは② 07. 交流分析とは① 08. 交流分析とは② 09. イメージの心理学とは① 10. イメージの心理学とは② 11. さまざまな芸術療法① 12. さまざまな芸術療法② 13. 行動療法とは① 14. 行動療法とは② 15. 認知にかかわる心理療法① 16. 認知にかかわる心理療法② 17. 心理アセスメントとは① 18. 心理アセスメントとは② 19. 心理アセスメント実習① 20. 心理アセスメント実習② 21. 学校現場における心理臨床① 22. 学校現場における心理臨床② 23. 産業領域における心理臨床① 24. 産業領域における心理臨床② 25. 医療現場における心理臨床① 26. 医療現場における心理臨床② 27. 事例検討とは① 28. 事例検討とは② 29. まとめ① 30. まとめ②
カリキュラム上の位置付け	
(1) 内容 臨床心理学の定義や理念、歴史などについて概説するとともに、実際の心理アセスメント、心理療法をロールプレイなどの体験を通して幅広く学ぶことを目的としている。また本授業では、各種心理療法の理念とその背景にある理論を紹介するとともに、学校、医療産業など、実社会における臨床心理学の特徴や課題について具体的に概説し、その理論と実践との結びつきを学習し、臨床心理学の特徴や課題について参加者と議論する。	
(2) 学びの意義と目標 心理アセスメントと心理療法の基礎を体験しながら学ぶことを目標としている。	準備学習(予習) 参考資料や文献を自主的に読むこと。授業時に割り当てられたテーマについてプレゼンテーション方法を含め準備すること。
	準備学習(復習) 授業での経験を振り返り、教科書や資料で復習すること。
受講者に対する要望 積極的に参加することが望ましい	評価方法 (1) 平常点（課題への取り組み、発表内容、ディスカ 70% (2) 課題レポート 30% 授業でとりあげた内容をふまえ、客観的根拠に基づいてのべられているか。
学びのキーワード ・臨床心理学 ・心理療法 ・心理アセスメント ・うつ病予防	教科書 授業時に紹介する 参考書 授業時に紹介する

健康教育学特論 A		HLTH-D-100
担当教員： 和田 雅史		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： W2101310
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 健康教育学とは何か 02. 学校保健や健康教育に関する課題 03. 学校における健康教育 04. 地域社会における健康教育 05. 職場における健康教育 06. 健康教育行政 07. 諸外国における健康教育 08. 健康教育のねらいと目標 09. 健康教育の方法 10. 健康教育の評価 11. 健康教育の実践 12. 健康教育の課題 13. 健康教育学研究－歴史研究 14. 健康教育学研究－現状と課題 15. 健康教育学研究－まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>人間福祉学研究科の科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>子どもの発育発達という視点から、子どもの健康や安全について考えていく。学校保健学あるいは健康教育学の基礎的知識を学び、現代的課題について論じていきたい。学生一人一人の興味・関心を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。これらの過程を大切に、実際の体験を通して、学校保健学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できる科学的認識の育成を図るとともに、健康の自治能力の育成を目指す。。歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方と、健康や生命は社会的に守られなくてはならないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、講義で扱われる内容について、事前に情報を集めて、授業に臨むこと。</div>
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもの発育発達、青少年期の身体や健康問題に関心があり、健康の維持・増進をプロモートしようとする明確な意思があることを期待する。講義では、ディスカッションなどを多用することになるので、自らが考えること、積極的に発言することが重要である。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>講義で扱った内容を検討し、次回の講義までに自身の考えをまとめておく。</div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・健康課題</div><div>・ヘルスプロモーション</div><div>・予防</div><div>・教育保健</div><div>・科学的認識</div></div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への姿勢50%</div><div>(2) 到達度評価のまとめ50%</div></div>
		<div>教科書</div> <div>授業の中で説明</div>
		<div>参考書</div>

健康教育学特論B		CHCL-D-300
担当教員： 和田 雅史		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： W2101410
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】 資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 学校における健康・安全の課題 02. 地域社会における健康の課題 03. 職場における健康の課題 04. 健康教育学と教育保健学を考える 05. 各自の研究テーマの設定－設定の手順について 06. 各自が関心を持った研究テーマを発表する 07. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究の手引き 08. 各自の研究テーマに沿って調べる－仮説の設定 09. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究目的の立て方 10. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究方法について 11. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究結果のまとめ方 12. 自の研究テーマに沿って調べる－考察について 13. 各自のまとめを発表－討論の方法 14. 各自のまとめを発表－討論の実践 15. まとめと討論</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>人間福祉学研究科の科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>健康教育学特論Aに継続し、子どもの発育発達という視点から、子どもの健康や安全について考えていく。学校保健学あるいは健康教育学の基礎的知識を学び、現代的課題について論じていきたい。学生一人一人の興味・関心を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。これらの過程を大切にし、実際の体験を通して、学校保健学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>健康教育学特論Bに継続し、現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できうる科学的認識の育成を図る。学校を中心として、地域、家庭が子ども達の健康の維持増進を図るヘルスプロモーティングスクールを構想することにより、将来受講者自身が活動していく場を想定し、その位置づけの一助になると考えられる。同時に受講者自身の健康維持を図ることにより、健康で長命な生涯を継続できる方法を考えていく。歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方と、健康や生命は社会的に守られなくてはならないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>現在教員として教育に関わっている人、将来、教員を目指す学生、教職を履修している学生はこの講座を必ず志望して欲しいと考えていますが、他の学生においても現代社会に出現している健康課題に関心がある者は自分自身の関心を一つの目標とし、積極的に志望して欲しい。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>テーマに沿って、事前に調べ学習をしておくことが望ましい。</div>
		<div>準備学習(復習)</div> <div>各授業で扱った内容をまとめておくことが望まれる。</div>
		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への参加度50%</div><div>(2) 到達度評価のまとめ50%</div></div>
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・学校保健</div><div>・健康教育</div><div>・表現スキル</div></div>		<div>教科書</div> <div>授業の中で説明</div> <div>参考書</div>

児童文化特論			
担当教員：寺崎 恵子			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 4		コード： W2200303	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 遊びの理解 (1) 子ども期の特性としての遊び 02. 遊びの理解 (1) : ディスカッション 03. 遊びの理解 (2) ライフサイクルと余暇 04. 遊びの理解 (2) : ディスカッション 05. 遊び論 (1) 楽しさと経験 06. 遊び論 (1) : ディスカッション 07. 遊び論 (2) 参加（融合性と社交性） 08. 遊び論 (2) : ディスカッション 09. 遊び論 (3) 反映と学び 10. 遊び論 (3) : ディスカッション 11. 遊び論 (4) 象徴と記号 12. 遊び論 (4) : ディスカッション 13. 遊びの特性 (1) 同調性 14. 遊びの特性 (1) : ディスカッション 15. 遊びの特性 (2) 周縁性 16. 遊びの特性 (2) : ディスカッション 17. 遊びの特性 (3) 中動相 18. 遊びの特性 (3) : ディスカッション 19. 遊びの構造 (1) 隠れる・隠す、見える・見えない 20. 遊びの構造 (1) : ディスカッション 21. 遊びの構造 (2) : 円形と方形 22. 遊びの構造 (2) : ディスカッション 23. 遊びの構造 (3) 揺れる 24. 遊びの構造 (3) : ディスカッション 25. 遊びの構造 (4) 繰り返す 26. 遊びの構造 (4) : ディスカッション 27. 遊びの時空 (1) 記憶 28. 遊びの時空 (1) : ディスカッション 29. 遊びの時空 (2) 完成可能性 30. 遊びの時空 (2) : ディスカッション	
(1) 内容		児童文化のありようと可能性について、遊びに注目して考察する。フレーベルは「遊びは人生の鏡である」と述べた。また、ルソーは「遊びは仕事である」と述べた。その真意をどう理解しようか。 津守真は「子ども自身の世界の本質があらわれるような遊びがあるということ、すなわち、子どもが十分に遊ぶことができるということは、あたりまえのようでありながら簡単なことではない。それにはおとなの支えが必要である」（『子ども学のはじまり』8頁）と言う。時と場に応じて生まれ発展する遊びは、時と場に応じて変化し、衰退・消滅することもある。遊びの生と死を、子どもに添い立つ者である私たちはどう把握しようか。岡本夏木は「遊びは文化の産物であるとともに、現実の文化を超えていく力を、また文化が人間をむしばんでゆくのに抵抗する力を宿していたはず」だ（『幼児期』111頁）と言う。私たちは、遊ぶ子どもの傍で微笑んで眺めているだけではない。遊びは創造的であるとともに破壊的である。その両義性と力動性を、私たちはどう把握しようか。様々な遊び論を読み解きながら、ときには遊びの世界に巻き込まれながら、児童文化研究の可能性を開きたい。	
(2) 学びの意義と目標		「遊びは文化をつくる」と言われる。では、子どもも大人もともにしあわせに生きることにおいて、文化はどのような可能性をもつと言えるだろうか。人間としての生き方・経験をひらく可能性について考えることを学びの意義とする。遊び研究の考察と理解を通じて、小手先の研究に陥ることに対抗して、自らの研究を達観し、深めて広げる機会をもつことを、学びの目標とする。	
受講者に対する要望		報告の準備への積極的な取り組みと、ディスカッションへの積極的な参加を望む。	
学びのキーワード		・遊びと文化 ・人間としての生き方・ウェル ビーイング ・人生における余暇 ・遊びの特性と構造 ・子どもと大人の関係構造	
		教科書 使用しない。プリントを配布する。	
		参考書 内容に合わせて、適宜 紹介する。絵本を多用する。	
		準備学習(予習) 報告の準備をする	
		準備学習(復習) 報告とディスカッションの内容をまとめておく	
		評価方法 (1) 報告 35% (2) ディスカッションへの参加 35% (3) 期末レポート 30%	

児童福祉特論

担当教員： 中谷 茂一

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 4 コード： W2200404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。
1. 子ども家庭福祉の基礎概念 2. 子ども家庭福祉を取り巻く状況 3. 子どもの権利保障 4. 子ども家庭福祉の展開 5. 子ども家庭福祉行政のしくみと機関・施設 6. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実際 7. 子ども家庭福祉に関連する地域活動 8. 子ども家庭福祉サービスを支える人 9. 子ども虐待・「子ども虐待」をとりまく神話・「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」・子ども虐待に関する人々の意識とまなざし・その社会的対応と限界・子ども家庭福祉におけるジェンダー問題 10. スクールソーシャルワークの実際

(2) 学びの意義と目標

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。

受講者に対する要望

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

学びのキーワード

- こども虐待
- 子育て支援
- 児童養護施設
- 社会的養護

授業計画

01. 子ども家庭福祉における「子ども」観①
02. 子ども家庭福祉における「子ども」観②
03. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題①
04. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題②
05. 少子社会と福祉環境①
06. 少子社会と福祉環境②
07. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ①
08. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ②
09. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷①
10. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷②
11. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点①
12. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点②
13. 具体的なサービス内容と課題点①
14. 具体的なサービス内容と課題点②
15. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源①
16. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源②
17. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職①
18. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職②
19. 「子ども虐待」をとりまく神話①
20. 「子ども虐待」をとりまく神話②
21. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」①
22. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」②
23. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし①
24. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし②
25. 子ども虐待の社会的対応と限界①
26. 子ども虐待の社会的対応と限界②
27. スクールソーシャルワークの実際①
28. スクールソーシャルワークの実際②
29. ディスカッション①
30. ディスカッション②

準備学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

準備学習(復習)

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

評価方法

(1) 平常点	20
(2) ディスカッション参加状況	40
(3) レポート	40

出席率20%、ディスカッション参加状況40%、レポート40%の総合評価。

教科書

参考書

単位： 4 コード： W2200510

01. オリエンテーション 異文化間教育
02. 国際化する保育所・幼稚園・小学校
03. 異文化適応1：理論
04. 異文化適応2：中国帰国者の事例
05. コミュニケーション・ギャップ1：日系ブラジル人の事例
06. コミュニケーション・ギャップ2：親子の事例
07. 異文化間コミュニケーション1：理論
08. 異文化間コミュニケーション2：幼児の事例
09. 異文化間トレーニング1：理論
10. 異文化間トレーニング2：保育の事例
11. バイリンガル教育1：理論
12. バイリンガル教育2：児童・生徒の事例
13. アンチ・バイアスカリキュラム1：理論
14. アンチ・バイアスカリキュラム2：保育の事例
15. アンチ・バイアスカリキュラム3：小学校の事例
16. アンチ・バイアスカリキュラム4：海外の事例
17. ひょうたん島問題1：文化 教育
18. ひょうたん島問題2：多文化共生
19. 海外の子育て支援1：欧米
20. 海外の子育て支援2：アジア
21. 海外における保育の実践例
22. 海外における教育の実践例
23. 発表とディスカッション
24. 発表とディスカッション
25. 多文化保育
26. 多文化教育
27. 異文化間教育における保育者・教師の専門性
28. 小学校における異文化間教育の実践例
29. 異文化間教育の研究手法
30. 異文化間教育の課題

本講義では、児童教育学の中でも「異文化間教育」に焦点を当てる。現在、日本の保育所・幼稚園・小学校において、外国人の子どもたちや国際結婚の子どもたち、海外生まれ育った日本人の子どもたち等が増加している。このような現状を踏まえ、本講義では、異文化間教育・異文化適応・異文化間コミュニケーション等の理論と実践について検討する。

本講義では、関連する文献講読や、国内外の保育/教育に関する映像の視聴、発表等を通して、保育・教育に関する自身の枠組を広げること为目标とする。

配布する資料を事前に読んでおくこと。
発表準備に計画的に取り組むこと。

課題に取り組むこと。

(1) 平常点	60%
(2) 課題報告	20%
(3) レポート	20%

課題に丁寧に取り組むこと。
ディスカッション等に積極的に参加すること。

- ・ 児童教育学
- ・ 異文化間教育
- ・ 保育
- ・ 教育

咲間まり子編 『多文化保育・教育論』

児童音楽表現法特論

担当教員：村山 順吉

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：4 コード：W2200706

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義は、初めに音楽固有の特性について、いくつかの側面から探る。そのうえで＜子ども＞という他者との、音楽を通じての活きたかかわりを実現するために、様々な実践も取り入れながら進めていく。

(2) 学びの意義と目標

- ・音あるいは音楽を通して子どもとのかかわりを深めるには、その場においてどのような方法及びプロセスを大切にすべきなのかを見通すための視野を広げる。
- ・そのために必要な、様々な実践的な力を蓄えることを目標とする。

受講者に対する要望

実践的な活動を含むこともあるので、その時は動きやすい格好で受講していただくことを望む。その場合は、事前に指示をする。

学びのキーワード

- ・ 児童
- ・ 表現
- ・ 音楽創造

授業計画

01. 様々な音の位置付け①
02. 様々な音の位置付け②
03. 音楽における音に込められたメッセージ①
04. 音楽における音に込められたメッセージ②
05. 音楽の形式①
06. 音楽の形式②
07. 創作の試み(1)①
08. 創作の試み(1)②
09. 創作の試み(2)①
10. 創作の試み(2)②
11. 創作の試み(3)①
12. 創作の試み(3)②
13. 創作の試み(4)①
14. 創作の試み(4)②
15. 即興的音楽表現の試み(1)①
16. 即興的音楽表現の試み(1)②
17. 即興的音楽表現の試み(2)①
18. 即興的音楽表現の試み(2)②
19. 手作り楽器製作を通して①
20. 手作り楽器製作を通して②
21. 表現に関する様々な分野とのかかわり(1)①
22. 表現に関する様々な分野とのかかわり(1)②
23. 表現に関する様々な分野とのかかわり(2)①
24. 表現に関する様々な分野とのかかわり(2)②
25. 表現に関する様々な分野とのかかわり(3)①
26. 表現に関する様々な分野とのかかわり(3)②
27. 音楽と時間について①
28. 音楽と時間について②
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

楽譜を読む力はつけておくこと。

準備学習(復習)

楽器演奏のための練習課題、小さな曲の創作課題、その他課題を与えるので、毎回しっかり取り組むこと。

評価方法

- | | |
|----------|----|
| (1) 平常点 | 50 |
| (2) レポート | 50 |

平常点50%、レポート50%により総合的に評価する。

教科書

参考書

児童文学特論			
担当教員： 松本 祐子			
学期： 週間授 科目： 必修・選択：			単位： 4 コード： W2200807
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 児童「文学」以前:神話と伝説① 02. 児童「文学」以前:神話と伝説② 03. 児童「文学」以前:昔話① 04. 児童「文学」以前:昔話② 05. 児童文学に見られる子ども像① 06. 児童文学に見られる子ども像② 07. 児童文学の中の家族:母親像① 08. 児童文学の中の家族:母親像② 09. 児童文学の中の家族:父親像① 10. 児童文学の中の家族:父親像② 11. 児童文学における大人の役割① 12. 児童文学における大人の役割② 13. 児童文学における魔法:異世界ファンタジー① 14. 児童文学における魔法:異世界ファンタジー② 15. 児童文学における魔法:エブリディ・マジック① 16. 児童文学における魔法:エブリディ・マジック② 17. 児童文学の中の魔女たち① 18. 児童文学の中の魔女たち② 19. 児童文学の中の魔法使いたち① 20. 児童文学の中の魔法使いたち② 21. 児童文学に見られる主人公とその相棒① 22. 児童文学に見られる主人公とその相棒② 23. 児童文学創作の試み:キャラクター作り① 24. 児童文学創作の試み:キャラクター作り② 25. 児童文学創作の試み:小説の文体① 26. 児童文学創作の試み:小説の文体② 27. 児童文学に表現される食べ物① 28. 児童文学に表現される食べ物② 29. まとめ① 30. まとめ②	
(1) 内容			
近年、児童文学は、世界的ベストセラーが出たり、新旧の名作が次々に映画化されたり、その地位は一段と高まり、大きな影響力を持つジャンルとして注目されている。児童文学作品の中に描かれる子どもたちは、現実の子どもの姿を反映するものであると同時に、時代や空間を超えて、子どもの新しい価値や可能性を産み出しながら、我々に様々な示唆を与えてくれる。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
本講義では、いくつかのテーマに沿って多様な児童文学作品を読み解くことで、子どもへの理解を深め、物語を読む意味を探ることを目標とする。		毎回の課題に対して、きちんと準備してくること。	
		準備学習(復習)	
		授業中に扱った作品は読んでおくこと。	
受講者に対する要望		評価方法	
毎回の課題に沿って、じゅうぶんな準備をした上で、授業に臨んでほしい。		(1) 出席、平常点 20 (2) 発表 40 (3) レポート 40	
		出席・平常点20%、発表40%、レポート40%により、総合的に評価する。	
学びのキーワード		教科書	
・ 昔話と神話 ・ 物語の中の大人像、子ども像 ・ 物語の中の魔法		参考書	

生涯学習特論			
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 4		コード： W2201110	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション 02. 生涯学習社会の概念 03. 教育の三領域（学校教育・社会教育・家庭教育） 04. 「生涯教育」の概念 05. 教育改革のキイ概念としての「生涯教育」 06. 生涯教育の諸相（諸外国の生涯教育の実相） 07. 日本の生涯教育の概念の登場とその背景（1）社会の急速な変化と教育 08. 日本の生涯教育の概念の登場とその背景（2）平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題 09. 日本の生涯教育の概念の登場とその背景（3）学歴社会の是正 10. 日本の生涯教育の概念の登場とその背景（4）学歴社会は乗り越えられる 11. 生涯教育への批判 12. 生涯教育の理念の導入と社会教育行政 13. 「生涯教育」から「生涯学習」へ（「教育」と「学習」の違いは何を意味するか） 14. 教育改革の推進と生涯学習振興・社会教育行政（1） 15. 教育改革の推進と生涯学習振興・社会教育行政（2） 16. 教育改革の推進と生涯学習振興・社会教育行政（3） 17. 生涯学習の学習課題：「学習課題とは何か」 18. 学習者からみた学習関心・要求課題 19. 学習課題設定の視点（「学習要求」と「必要課題」）（1） 20. 学習課題設定の視点（「学習要求」と「必要課題」）（2） 21. 学習者の特性と学習（1） 22. 学習者の特性と学習（2） 23. 学習者の特性と学習（3） 24. 学習者の特性と学習（4） 25. 学習者の特性と学習（5） 26. 学習者の特性と学習（6） 27. 成人の学習を支援する教育学（アンドラゴジー）（1） 28. 成人の学習を支援する教育学（アンドラゴジー）（2） 29. 学習者を支える視点（まとめ） 30. 全体のまとめ	
(1) 内容			
生涯学習という概念が登場するに至った経緯を、歴史をおって論じる。またその中で、社会教育、生涯教育、生涯学習の概念の違いについて説明する。また、わが国の教育政策の中に、生涯学習が取り入れられるに至った経緯について説明を行う（ここでは、学歴社会の是非について検討する）。 成人の学習理論について論じ、子どもを導く学問であるペダゴジーとそれがどのような違いがあるかについて、説明を行う。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
わが国の教育政策に「生涯学習社会」が到達目標とされ、教育基本法第3条にも「生涯学習の理念」が示されるに至った。しかし、この概念については曖昧で、これがどのような意味を持ち、いかなる経緯から教育政策の中に反映されるに至ったかについては、よく知られていない。本講義では、生涯学習という言葉が、教育政策にどのような経緯をもって、どのような概念として登場したのかを理解することを第1の目標とする。 また、本講義では、成人の学習を支援する理論としてのアンドラゴジーの概念及びその内容について理解し、子どもの学びの支援と成人を対象とする学習の支援においてはどのような配慮が求められるかについて理解を深めることを第2の目標とする。		平常点を重視するので、講義で扱うテーマについては、事前に予習をして講義に臨むことを期待する。	
		準備学習(復習)	
		その時間内に扱った資料、参考図書を確実に自分のものにして次の講義に臨むことを期待する。	
受講者に対する要望		評価方法	
生涯学習や社会教育、あるいは成人の学習理論について関心のある者の受講を歓迎する。		(1) 平常点 50% (2) 課題レポート 50%	
学びのキーワード		教科書	
・生涯教育 ・学習と教育 ・学歴社会の是正と生涯教育 ・成人教育学（アンドラゴジー） ・ペダゴジー（子どもの学びを支援する科学としての理論）とアンドラゴジー（成人の学びを支援する科学としての理論）		講義の中で紹介する。	
		参考書	
		講義の中で、そのつど紹介する。	

臨床死生学特論

担当教員： 藤掛 明

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 4 コード： W2300110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

死生学の基礎的概念を概観し、グリーフ・カウンセリングとその周辺領域（自助グループ、闘病、自殺予防、心理テスト等）を臨床心理学の観点から学ぶ。学習にあたっては討議を重視する。

(2) 学びの意義と目標

現実に生と死の危機に直面し、苦しんでいる人々を理解し、援助の道筋を学ぶことが出来る。また自分にとっての「死生」の意味を考え、自分の死生にまつわる問題に対処する各人個別の死生観を探る場としたい。

受講者に対する要望

受講者として要望があればその都度申し出てほしい。その関心や臨床的理解力に応じて、授業計画の大枠の範囲内で、柔軟に対応する。

学びのキーワード

- ・グリーフ・カウンセリング
- ・自助グループ
- ・闘病体験
- ・自殺予防

授業計画

01. 死生学とは何か（死生学の歴史①）
02. 死生学とは何か（死生学の歴史②）
03. 死生学とは何か（病的悲嘆、回復過程①）
04. 死生学とは何か（病的悲嘆、回復過程②）
05. 文学作品にみる「死生」①（儀式、台風）
06. 文学作品にみる「死生」②（儀式、台風）
07. 文学作品にみる「死生」③（雨の庭、巨人の星）
08. 文学作品にみる「死生」④（雨の庭、巨人の星）
09. 文学作品にみる「死生」⑤（いま会いにゆきます、散りゆく花）
10. 文学作品にみる「死生」⑥（いま会いにゆきます、散りゆく花）
11. 死生学とは何か（ケア、カウンセリング、ワーク①）
12. 死生学とは何か（ケア、カウンセリング、ワーク②）
13. グリーフ・カウンセリングの実際①
14. グリーフ・カウンセリングの実際②
15. グリーフ・カウンセリングの実際③
16. グリーフ・カウンセリングの実際④
17. 自助グループの実際①
18. 自助グループの実際②
19. グリーフの特徴①（子を亡くす）
20. グリーフの特徴②（親を亡くす）
21. グリーフの特徴③（配偶者を亡くす）
22. グリーフの特徴④（友人を亡くす）
23. 闘病と「死生」①
24. 闘病と「死生」②
25. 自殺予防と「死生」①
26. 自殺予防と「死生」②
27. 心理テストと「死生」①
28. 心理テストと「死生」②
29. キリスト教と「死生」①
30. キリスト教と「死生」②、まとめ

準備学習（予習）

授業計画や授業内での予告を参考に、情報を集め、関連資料を読むなどしておくこと。

準備学習（復習）

毎回配布する資料や紹介する文献を授業後に読むことを期待している。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 授業態度 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

毎回関連資料を配付する

参考書

単位： 4 コード： W2300505

参考書

社会心理学特論			
担当教員： 中原 純			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 4		コード： W2301110	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 社会心理学とは 02. 自己概念 (1) 03. 自己概念 (2) 04. 自己概念 (3) 05. 文化的自己 06. 対人認知 (1) 07. 対人認知 (2) 08. 対人認知 (3) 09. 態度と態度変容 (1) 10. 態度と態度変容 (2) 11. 態度と態度変容 (3) 12. 態度と態度変容 (4) 13. 人間関係の進展 (1) 14. 人間関係の進展 (2) 15. 幸福感 (1) 16. 幸福感 (2) 17. 社会からの影響 (1) 18. 社会からの影響 (2) 19. 社会からの影響 (3) 20. 集団とリーダーシップ (1) 21. 集団とリーダーシップ (2) 22. 自己と集団 (1) 23. 自己と集団 (2) 24. 集団間関係 (1) 25. 集団間関係 (2) 26. 集団間関係 (3) 27. 現代的問題と社会心理学—インターネット— 28. 現代的問題と社会心理学—キャリア— 29. 現代的問題と社会心理学—超高齢社会— 30. まとめ	
(1) 内容			
「第1印象はどのように決まるのか」、「なぜ人はだまされてしまうのか」、「恋愛をするのはどういう時か」、「“イイネ”をたくさんもらおうと安心するのはなぜか」、「どうすれば少数派の意見を通すことができるか」といった身近な疑問から、「オレオレ詐欺」、「マインドコントロール」、「テロや戦争が起きるメカニズム」、「いじめ」といった重大な社会問題まで、社会心理学の観点から解説します。授業は一方向的な講義ではなく、常に受講生と対話しながら進めます。社会心理学の実験や調査を体験してもらうこともありますし、受講生自身が興味のあるトピックを調べ、発表し、討議を行うこともあります。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
この授業には、日常生活の中で私たちがどのように考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれています。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってください。		大まかな講義内容は事前にお知らせします。その内容について少し勉強してから授業に参加すると、より理解が深まります。また、講義内容と関係のありそうな自身の経験を振り返ってみることも大切です。	
		準備学習(復習)	
		日常の出来事を社会心理学から考えてみる癖をつけて下さい。それによって、勉強した知識を知識のまま終わらせるのではなく、様々な現場で実践に活かせるようになるはずです。	
受講者に対する要望		評価方法	
教員が講義している最中も、静聴する（静かに聴く）必要はありません。疑問に思ったり、気づいたことがあれば、いつでも発言し、積極的に授業に参加してください。		(1) 平常点 60% (2) レポート 40%	
学びのキーワード		教科書	
・ 自己概念 ・ 対人認知 ・ 態度変容 ・ 社会規範 ・ 集団心理		参考書	

人間福祉学研究科

研究法入門

担当教員：古谷野 亘

学期：集中講 科目：

必修・選択：

単位：2 コード：W1100101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では研究を行うために必要とされる技術、特に実証的な研究の技術である調査の方法について講義する。情報を集め分析するための枠組み作りから、文献の検索と収集、量的調査の計画と実施、論文の書き方までを解説して、オリジナルなデータによって修士論文を作成しようとする学生に必要な基礎知識を提供する。

(2) 学びの意義と目標

大学院では、専門領域の知識を獲得するだけでなく、みずから研究課題を定め、研究して、回答を得ていく技術の修得が求められる。本講義で取り扱うのはそのような研究の技術、特に実証的な研究の技術であって、技術の修得に向けて必要な予備知識を得ることが本講義の目的である。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・ 実証研究
- ・ 研究するための義実

授業計画

01. イントロダクション — 大学院で学ぶ
02. 研究のための技術
03. 社会・行動科学における法則的知識の限界 (1)
04. 社会・行動科学における法則的知識の限界 (2)
05. 文献の探し方と入手方法 (1)
06. 文献の探し方と入手方法 (2)
07. 研究のプロセスとモデル (1)
08. 研究のプロセスとモデル (2)
09. 調査の設計と現実的考慮 (1)
10. 調査の設計と現実的考慮 (2)
11. 論文の書き方、発表の仕方 (1)
12. 論文の書き方、発表の仕方 (2)
13. 修論作成までのプロセス (1)
14. 修論作成までのプロセス (2)
15. まとめと課題・総合討論

準備学習(予習)

授業は概ね教科書通りに進むので、次回に相当する箇所を読んでおくといよい。

準備学習(復習)

研究の遂行に必要な技術の修得のため復習が必須である。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

教科書

古谷野 亘、長田 久雄 『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』 (ワールドプランニング)

参考書

授業の中で指示する

単位：2 コード：W1110202

01.	はじめに		
02.	第一部	第一章 われわれの時代、われわれの国	
03.		第二章 弁証学のための「言葉」の獲得 (1)	
04.		第三章 弁証学のための「言葉」の獲得 (2) の1	
05.		第三章 弁証学のための「言葉」の獲得 (2) の2	
06.	第二部	第一章明治以降と日本の近代化の問題	明治維新は「神道のクーデター」——キ
07.		第二章明治神教と日本近代化の問題	2 GHQの神道指令——天皇の「人間宣言」
08.		第二章「神々の死」と「天皇の人間宣言」のもたらした「たましい」の問題	1 釈迦遺（折口信夫）における『神やふれたまふ』の歌
09.		第二章「神々の死」と「天皇の人間宣言」のもたらした「たましい」の問題	2 三島由紀夫における神の死の神学
10.		第五章現代状況への立ち寄り——第一次世界大戦後から第二次世界対戦へ	2 現代神学における弁証学的人間学
11.		第五章現代状況への立ち寄り——第一次世界大戦後から第二次世界対戦へ	3 アメリカ神学における弁証学的人間学——神学者ニーバー兄弟
12.		第六章日本における人間学の問題——和辻哲朗の「人間学」	
13.		第七章 戦後日本における人格の共同体形成への問い	
14.		第八章 弁証学としての人間学 総括	
15.	まとめ		

大木英夫著『人格と人権』を読む

授業はゼミ形式で受講者の発表とディスカッションを中心に行う。春学期だけなので上巻のみを取り上げることになる。

二、第三、第四、第五の五つの点から見て、その中で、最も重要なものは、第一に、教育の普及、第二に、教育の質の向上、第三に、教育の機会均等化、第四に、教育の国際化、第五に、教育の持続可能性の確保である。この五つの点を中心に、本論文では、日本の教育政策の現状と課題を分析し、今後の方向性を示す。

- ・敗戦からの問い
- ・基本的人権
- ・神と的人格関係
- ・民主主義
- ・新しい人間

大木英夫『人格と人権』（教文館）

調査研究法Ⅰ（量的研究）

担当教員：古谷野 亘

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：4 コード：W1110303

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

前半では、社会調査を行うにあたって必要な技術の説明と同時に、社会科学研究法としての調査の意義と限界について論じる。後半では、心理学的尺度構成法の手順を実例をあげつつ解説し、可能であれば履修者の関心に応じて調査票作成、データ分析、もしくは尺度開発の演習を行う。

(2) 学びの意義と目標

人間の意識や行動、社会現象に内在する法則性を発見するために用いられる社会・行動科学の研究手法である量的研究の技法、特に変数の測定方法について基礎的な知識を得ることを目標とする。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・社会・行動科学研究法
- ・社会調査
- ・計量分析
- ・モデル
- ・測定

授業計画

01. 社会調査の理論と方法 | サンプルング (1)
02. サンプルング (2)
03. データ収集の方法 (1)
04. データ収集の方法 (2)
05. 調査票の作成と質問文 (1)
06. 調査票の作成と質問文 (2)
07. 調査票の作成と質問文 (3)
08. 調査票の作成と質問文 (4)
09. 調査データの分析 | 統計の目的 (1)
10. 統計の目的 (2)
11. 1変数の分析 (1)
12. 1変数の分析 (2)
13. クロス表と関連度の係数 (1)
14. クロス表と関連度の係数 (2)
15. 相関と回帰 (1)
16. 相関と回帰 (2)
17. 推定と検定 (1)
18. 推定と検定 (2)
19. 多変量解析 (1)
20. 多変量解析 (2)
21. 多変量解析 (3)
22. 多変量解析 (4)
23. 測定法 | 測定の妥当性と信頼性 (1)
24. 測定の妥当性と信頼性 (2)
25. 構造方程式モデリング (1)
26. 構造方程式モデリング (2)
27. 構造方程式モデリング (3)
28. 構造方程式モデリング (4)
29. まとめと課題・総合討論 (1)
30. まとめと課題・総合討論 (2)

準備学習(予習)

授業は概ね教科書の通りに進むので、次回の箇所を予め読んでおくとうよい。

準備学習(復習)

量的研究は“数学っぽい”ことから敬遠されがちであるが、質的研究法より簡単で、基礎的である。ただし、知識・技術の修得には積み重ねが必要であるから、復習は必須である。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

教科書

古谷野 亘、長田 久雄 『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』 (ワールドプランニング)

参考書

授業の中で指示する

調査研究法II（質的研究）			
担当教員： 小倉 啓子			
学期： 週間授 科目： 必修・選択：			単位： 4 コード： W1110404
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. . イントロダクション 授業の説明 質的研究の意義と特性 02. 質的研究の概要・種類 03. 質的研究の概要・種類 04. 質的研究の概要・種類 05. M-GTAの概要. . . :概要・歴史・特性・適した研究・分析、理論の考え方・I 研究する人間 06. M-GTAの概要. . . :研究テーマ、分析テーマ、分析焦点者 07. M-GTAの概要. . . :データ収集 08. 質的論文購読 09. M-GTAの概要. . . :研究テーマ、分析テーマ、分析焦点者 受講生の問題意識 実践課題 10. 質的論文購読 11. M-GTAの概要. . . :データ収集 受講生のフィールド、データ収集について 12. . M-GTAの概要. . . :概念生成ー解釈、定義、概念名。継続比較分析。 13. 論文のサンプルデータを用いた概念生成の練習 14. 論文購読 論文と受講生の問題意識 15. 論文のサンプルデータを用いた概念生成の練習 16. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める 17. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める。 18. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める。 19. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める 20. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める 21. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める 22. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める 23. M-GTAの概要. . . :分析のまとめ方。カテゴリー化。 24. 分析のまとめ方。カテゴリー化。 ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。 25. 分析のまとめ方。カテゴリー化。 ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。 26. 分析のまとめ方。カテゴリー化。 ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。 27. 論文の評価。補足。 28. 質的研究と分析法について総合的な説明 29. 質的研究と分析法について総合的な説明 30. 質的研究と分析法について総合的な説明	
(1) 内容			
この授業の目標は、さまざまな領域で関心が高まっている質的研究についての基本的な事柄を理解し、質的研究法の一つである修正版グランデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）の分析方法を習得することである。 質的研究は、さまざまな領域で関心が高まっているが、質的研究方法は多様であるため、どの研究法を選択するかの判断が求められる。また、質的研究では言語による報告が主であるので、分析対象とした現象を言語化する力が必要である。 本講義では、まず、質的研究の意義、代表的な質的分析法の特徴の紹介、受講生が関心をもった現象を言語してとらえる練習、質的論文の購読など基本的な事柄を自分の問題意識と関連付けながら学ぶ。次に、広く対人援助領域で用いられている M-GTAの理論t的背景や方法論などを学び、それらをふまえたうえで、サンプルデータを使って実際の分析を行っていく。具体的には問題意識の明確化からテーマの絞り込み、データ収集、分析、まとめまでの過程を体験する。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
質的研究法はさまざまあり、それぞれが理論的背景と方法論をもっており、それに基づいた分析方法がある。そこで、どの方法を選択する場合も、自覚的な選択が必要となる。 本講義では、質的研究の基本的で共通する理論的t立場や分析法を学んだうえで、具体的にM^GTAについて理論的背景とそれに基づく具体的な分析方法を学ぶ。マニュアルとしてはなく、自分の問題意識の明確化から始まり、常にデータと自分の思考との対話を続け、データ解釈のプロセスをたどっていくことを体験的に学ぶ。自分自身を振り返りながら現象の理解を深めていく方法は、論文作成や実践現場での関わりを考えていくうえで有用と考えられる。		教科書を読んで、疑問点を明らかにすること。 日常生活の中で、関心のある事柄を端的にとらえて、言語化したことを授業で報告する。	
受講者に対する要望		準備学習(復習)	
何を何のために明らかにしたいのか、自分自身の問題意識を明確化すること、自分の考えや感性を大事にすること、物事を新たな目で深くとらえようとするすること、自分の思考過程を明確にして他者に説明すること、自分の判断に責任をもつこと、研究対象者への敬意の念をもつこと。		教科書としたM-GTA関連本の再読、疑問点の理解を確かめる。 実際の分析練習に入った後は、授業の振り返りをする。	
学びのキーワード		評価方法	
・ 質的研究 ・ 修正版グランデッド・セオリー・アプローチ ・ 対人援助領域 ・ 社会的相互作用 ・ 研究する人間		(1) レポート 50% (2) 実習参加レベル 50%	
		質的研究、M-GTAについて初めて学ぶ受講生が多いので、理解の速度や言語化の経緯の差は問題にしない。受講生なりに自分の問題意識や研究テーマと関連付けて授業に参加し、現象を深く解釈しようとする姿勢を養うことが求められる。	
		教科書	
		木下康仁（2007） ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法 修正版グランデッド・セオリー・アプローチのすべて。 弘文堂	
		参考書	
		授業で知らせる。	

担当教員：入江 礼子

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：4 コード：W1110512

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

「保育」がどのような原理で行われているかを理解した上で保育・教育実践研究の論文の分析及び「保育記録」を中心とした実践研究の手法等を学んでいく。さらに保育・教育実践現場での参加観察をもとにした実践報告を検討することでその手法を身につける。

(2) 学びの意義と目標

子どもと日々の生活を共にする保育者が、保育の当事者として、その日常から研究を立ち上げたものが保育・教育実践研究であるといえる。そこで本講義では、(1) 保育者が当事者として立ち上げた実践研究を課題として取り上げ、その内容および意味を考察すること(2) 保育・教育実践現場に参加観察をさせて頂き、保育の今日的課題及び保育者の当事者性について理解を深めるという二点に焦点を当て、保育の当事者が立ち上げる研究の可能性について考究していく。

受講者に対する要望

保育・教育の実践及び実践研究に興味を持ち、自ら課題を見出す努力ができること。

学びのキーワード

- ・ 保育実践研究
- ・ 保育の当事者性
- ・ 保育記録
- ・ 保育の原理
- ・ 保育の今日的課題

授業計画

01. はじめに「保育・教育実践研究」とは①
02. はじめに「保育・教育実践研究」とは②
03. 保育の原理 (1) ①
04. 保育の原理 (1) ②
05. 保育の原理 (2) ①
06. 保育の原理 (2) ②
07. 保育の原理 (3) ①
08. 保育の原理 (3) ②
09. 保育の原理 (4) ①
10. 保育の原理 (4) ②
11. 保育・教育実践研究の分析と検討 (1) ①
12. 保育・教育実践研究の分析と検討 (1) ②
13. 保育・教育実践研究の分析と検討 (2) ①
14. 保育・教育実践研究の分析と検討 (2) ②
15. 保育・教育実践研究の分析と検討 (3) ①
16. 保育・教育実践研究の分析と検討 (3) ②
17. 保育・教育実践研究の分析と検討 (4) ①
18. 保育・教育実践研究の分析と検討 (4) ②
19. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (1) ①
20. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (1) ②
21. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (2) ①
22. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (2) ②
23. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (3) ①
24. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (3) ②
25. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (4) ①
26. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (4) ②
27. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (5) ①
28. 保育・教育実践研究の検討と実践報告 (5) ②
29. 総括①
30. 総括②

準備学習(予習)

配布した論文・資料を指定した授業回までに必ず読みこんで出席すること。授業での報告等はレジュメ等を作成し、積極的に取り組むこと。

準備学習(復習)

授業後に自ら見出した課題への理解を深めること。

評価方法

- | | |
|----------|----|
| (1) 平常点 | 30 |
| (2) 課題 | 40 |
| (3) レポート | 30 |

本講義へ積極的参加30%、課題報告40%、レポート30%により総合的に評価する。

教科書

参考書

単位：4 コード：W1120105

01. 狭義・広義の社会福祉領域 (1) ①
02. 狭義・広義の社会福祉領域 (1) ②
03. 社会福祉の理論的枠組み——人間福祉への道①
04. 社会福祉の理論的枠組み——人間福祉への道②
05. 人間福祉の過去・現在・将来①
06. 人間福祉の過去・現在・将来②
07. 相互的人格主義の福祉における位置①
08. 相互的人格主義の福祉における位置②
09. 社会福祉の歴史的現実と諸政策①
10. 社会福祉の歴史的現実と諸政策②
11. 福祉目的と多元的規定力 (1) ①
12. 福祉目的と多元的規定力 (1) ②
13. 福祉目的と多元的規定力 (2) ①
14. 福祉目的と多元的規定力 (2) ②
15. 福祉形成過程における相互主義 (1) ①
16. 福祉形成過程における相互主義 (1) ②
17. 福祉形成過程における相互主義 (2) ①
18. 福祉形成過程における相互主義 (2) ②
19. ボランタリな人間存在の意味①
20. ボランタリな人間存在の意味②
21. 人格主体の形成と権利認定・援助責務①
22. 人格主体の形成と権利認定・援助責務②
23. 人格主体と自我主体の連結に関する考察①
24. 人格主体と自我主体の連結に関する考察②
25. 「潜在能力アプローチ」に基づく福祉システム①
26. 「潜在能力アプローチ」に基づく福祉システム②
27. ダイナミックな福祉パラダイムと危機からの離脱①
28. ダイナミックな福祉パラダイムと危機からの離脱②
29. 相互人格主義的人間福祉論①
30. 相互人格主義的人間福祉論②

[illegible]

この講義は、福祉原論という意味を持つ。したがって人間が生きている状況内全との問題に集約的に応える内容が提示される。もちろんあくまでも集約的な応答であるの受と講者、問題解決の視座が示されるのみである。しかし、受と講者、それである起点に思索を展開する道を開き、ここの論理的骨格とその展開方途を概略知ることができ、ここの理論的相互的人格主義や、共感共同論、さらには場合の理論等によって、福祉学の基底論理を展望を持って学ぶことができる。このような人間福祉学の学的基盤を学ぶことを目的とする。

當該の授業の希望と。そのことをいふ。その前に、事を論ずる。で、このように、教科書を用いて、その提議を、教員等

- ・相互的人格主義
- ・場の理論
- ・潜在能力
- ・多元的規定力
- ・中間ヤクタイ

教科書を用いるので、事前にその日の授業の該当箇所を読んでおくことを推奨する。その上で、疑問箇所の提示や皆で討論し深めたいと思う箇所等の提案ができるようにしておくこと

授業終了後、当日学んだ教科書の箇所を再読し理解を深める。教科書の註書きの部分にも理解を広げる。さらに紹介された参考文献をできれば手にとって読むように心掛ける。

(1) 平常点	20%	参加者に対する丁寧な指導を行い、これと併せて、参加者の参加のぶれをなく、参加意欲とその向上を刺激して行うこと。
(2) 貢献度	10%	授業に関する独自の資料の提示や、発言内容などを評価の際に重んじる。
(3) 参加意欲	20%	授業内容への問題意識、質問や教師・学生とのディスカッションなどから参考にして評価する。
(4) 単位レポートの成績	40%	単位レポートは、2009年以降実施している科目に対してこの「授業参加の評価」を明示して記入し、それをもとに授業参加の状況を確認する。
(5) 知識の幅の拡大	10%	授業で学んだ内容を自分の言葉で説明できるように、授業で習得した内容を、自己学習の場において、自分達の仲間や先生と共有することを目指す。その過程を通じて、授業に参加してほしい。

授業を基盤としてながら、それをどのように自己の課題研究に利用してゆかを重視して総合的に評価を行う。したがって、いつも研究意欲をもち、授業に参加してほしい。

978-4861890901 田津 信忠 社会福祉における相互的人格主義 (1) —人間の物象化からの離脱と真の主体化をめざして 囚美出版 図学で一括購入しない

978-4863451483 津津 信忠 鶴会福祉における場の究明—共感的共同からトポスへ至る現象学的考察 鶴会ブルーネット図学で一括購入しない

ソーシャルワーク研究 / ソーシャルワーク特論		
担当教員： 助川 征雄		
学期： 週間授 科目：		必修・選択：
学部教育の関連目		単位： 4 コード： W1120307
カリキュラム上の位置付け		授業計画
(1) 内容		01. オリエンテーションーいまわれわれはどこにいるか① 02. オリエンテーションーいまわれわれはどこにいるか② 03. これまでの内外の実践理論と新たな実践理論の動向① 04. これまでの内外の実践理論と新たな実践理論の動向② 05. ストレングスモデル（1）① 06. ストレングスモデル（1）② 07. ストレングスモデル（2）① 08. ストレングスモデル（2）② 09. ストレングスモデル（3）① 10. ストレングスモデル（3）② 11. ストレングスモデル（4）① 12. ストレングスモデル（4）② 13. ストレングスモデル（5）① 14. ストレングスモデル（5）② 15. ストレングスモデル（6）① 16. ストレングスモデル（6）② 17. リカバリー・イノベーション（1）イギリスの経年的動向を中心に① 18. リカバリー・イノベーション（1）イギリスの経年的動向を中心に② 19. リカバリー・イノベーション（2）ImROCKー行政構造改革① 20. リカバリー・イノベーション（2）ImROCKー行政構造改革② 21. リカバリー・イノベーション（3）IPSー新たな就労支援① 22. リカバリー・イノベーション（3）IPSー新たな就労支援② 23. リカバリー・イノベーション（4）Recovery College ① 24. リカバリー・イノベーション（4）Recovery College ② 25. リカバリー・イノベーション（5）Peer Support Worker① 26. リカバリー・イノベーション（5）Peer Support Worker② 27. リカバリー・イノベーション（6）わが国における応用の可能性① 28. リカバリー・イノベーション（6）わが国における応用の可能性② 29. まとめと課題① 30. まとめと課題②
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
社会情勢の変化の中で、わが国はこれまで幾度も社会福祉の在り方を見直してきたが、今後に向け、現場を担う専門職や当事者から実効性のある長期展望を提案することが不可欠である。本講ではこれらの課題を見据え、内外の将来性のある実践理論と現場経験との摺合せを以てその解決に挑戦するとともに、真のリーダー養成をめざす。		授業前には、教科書や配布資料の授業予定部分を予習し、その部分に関連する身近な実践事例やエピソード報告メモなど（提出不要）を準備しておくこと。
受講者に対する要望		準備学習(復習)
教科書の精読		教科書要点の再確認
学びのキーワード		評価方法
・ ソーシャルワーク ・ 精神障害者支援 ・ ストレングスモデル		(1) 平常点 30% (2) レポート 20% (3) 平常点（課題） 50% 平常点30%、レポート20%、平常点（課題）50%により総合評価する。
		教科書
		参考書

単位：4 コード：W1130108

参考書

高齢者保健福祉特論 / 高齢者福祉特論

担当教員：古谷野 亘

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：4 コード：W2100404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義では、高齢者保健福祉の歴史的変遷を、そのときどきの社会的諸条件と関連づけて取り上げ、現状と変化の方向を明らかにする。そしてその上で、最近の学会誌の論文の講読とあわせて、現在の問題とその解決に向けての方策を考究する。

(2) 学びの意義と目標

高齢者の保健福祉は現在急速に変化しつつある。介護保険の施行は本質的な変化であったが、制度の改変は今後もさらに続くものと予想される。このような中では、現在の制度について知るだけでは不十分であって、その成立の背景や条件を正確に理解して、将来の方向を見通す力が求められる。そのような理解を得ることが本講義の目的である。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・高齢化
- ・正常老化
- ・介護保険制度
- ・地域包括ケア

授業計画

01. 高齢者保健福祉の歴史から学ぶ| 歴史をみる視点 (1)
02. 歴史をみる視点 (2)
03. 老人ホームの歴史 (1)
04. 老人ホームの歴史 (2)
05. 老人医療費の推移 (1)
06. 老人医療費の推移 (2)
07. ホームヘルプ事業の変遷 (1)
08. ホームヘルプ事業の変遷 (2)
09. 介護保険導入の意味 (1)
10. 介護保険導入の意味 (2)
11. 介護保険導入によってわかった“福祉”の意 (1)
12. 介護保険導入によってわかった“福祉”の意 (2)
13. 文献講読と討議| 家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死” (1)
14. 家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死” (2)
15. 地域包括ケアの課題 (1)
16. 地域包括ケアの課題 (2)
17. 介護予防の可能性 (1)
18. 介護予防の可能性 (2)
19. 保健福祉サービスの利用を規定する要因 (1)
20. 保健福祉サービスの利用を規定する要因 (2)
21. 要介護認定の問題 (1)
22. 要介護認定の問題 (2)
23. 介護保険下における老人ホームの経営 (1)
24. 介護保険下における老人ホームの経営 (2)
25. 在宅サービス事業者の課題 (1)
26. 在宅サービス事業者の課題 (2)
27. 高齢者サービスを支える人の問題 (1)
28. 高齢者サービスを支える人の問題 (2)
29. まとめと課題、総合討論 (1)
30. まとめと課題、総合討論 (2)

準備学習(予習)

全体を通して、特に文献講読の際には当該文献と関連資料を精読するなどの予習が必要になる。

準備学習(復習)

全体を通して、積極的な討議への参加と振り返り（復習）が必要である。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

障害者福祉特論			
担当教員： 木下 大生			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
		単位：	4
		コード：	W2100505
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 障害者の置かれている状況① 02. 障害者の置かれている状況② 03. ノーマライゼーション原理の成立と発展① 04. ノーマライゼーション原理の成立と発展② 05. 国際連合の人権思想の展開① 06. 国際連合の人権思想の展開② 07. 日本の障害者福祉施策の歴史的展開―概要―① 08. 日本の障害者福祉施策の歴史的展開―概要―② 09. 大規模保護収容施設実現に至る道のり① 10. 大規模保護収容施設実現に至る道のり② 11. 日本の施設の整備促進と在宅福祉政策の萌芽① 12. 日本の施設の整備促進と在宅福祉政策の萌芽② 13. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（１）① 14. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（１）② 15. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（２）① 16. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（２）② 17. 現代の障害者福祉の課題（１）① 18. 現代の障害者福祉の課題（１）② 19. 現代の障害者福祉の課題（２）① 20. 現代の障害者福祉の課題（２）② 21. 障害者福祉の研究動向（１）① 22. 障害者福祉の研究動向（１）② 23. 障害者福祉の研究動向（２）① 24. 障害者福祉の研究動向（２）② 25. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（１）① 26. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（１）② 27. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（２）① 28. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（２）② 29. まとめと課題① 30. まとめと課題②	
(1) 内容		準備学習(予習)	
この講義では、障害のある人たちの「人権」を念頭に置きつつ、主として知的障害者施設入所者の地域移行促進の観点からこれまでの障害者政策を顧み、これらの障害者政策を考える。 今や障害者政策の大きな課題とされる施設入所者の地域移行促進の観点から、これまでの国連の取り組みや、日本の障害者政策を顧みる。関係法令の変遷、政策転換の契機となった審議会答申等の資料を手がかりとしつつ、収容主義から地域移行へ方向転換、近年の障害者施策による計画的・制度的な地域移行推進という流れを確認し、地域移行の必然性を検証する。さらに、今後の地域移行の進展に伴う障害者施設機能の変容を予測する。また、24回の講義を通じて履修者が特に興味を持ったトピックについて、各々文献等を利用し、まとめ、その内容を報告する。それにより研究の方法、研究成果の報告の方法、並びに障害者福祉についての理解を深める。		双方向的な授業とするため、院生から積極的な発言を期待する。そのため、授業前にはシラバスを毎回必ず確認し、テーマについて自分なりに理解を深める作業をしておくこと。	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(復習)	
現在の障害者福祉制度の成立過程と内容を理解し、障害者福祉に対する自身の価値を構築する。		配布した資料、授業内容の振り返りを各自行っていただきたい。	
受講者に対する要望		評価方法	
積極的な学習姿勢と発言を期待する。		(1) 講義への参加姿勢、課題への取り組み姿勢と報告 100	
学びのキーワード		教科書	
・ 人権 ・ 地域移行 ・ 障害者の権利条約		プリントを配布する	
		参考書	
		講義への参加姿勢、課題への取り組み姿勢と報告内容から総合的に評価する。	

単位： 4 コード： W2100707

01. 1. 精神保健福祉論総論 1) 精神障害者福祉の歴史的背景①
02. 1. 精神保健福祉論総論 1) 精神障害者福祉の歴史的背景②
03. 2) 精神障害者福祉における医療・施設・地域生活支援①
04. 2) 精神障害者福祉における医療・施設・地域生活支援②
05. 3) 精神障害者福祉におけるソーシャルワーク①
06. 3) 精神障害者福祉におけるソーシャルワーク②
07. 4) 欧米諸国における精神保健福祉①
08. 4) 欧米諸国における精神保健福祉②
09. 5) 精神障害者福祉から精神保健への拡大①
10. 5) 精神障害者福祉から精神保健への拡大②
11. I. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (1) セルフヘルプ・ピアサポート①
12. I. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (1) セルフヘルプ・ピアサポート②
13. II. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (2) ストレngthsとエンパワメント①
14. II. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (2) ストレngthsとエンパワメント②
15. I. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (3) リカバリー①
16. II. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開 (3) リカバリー②
17. 2) ソーシャルワークにおける当事者主体①
18. 2) ソーシャルワークにおける当事者主体②
19. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性 (1) アメリカのプロシューマーの動向と課題①
20. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性 (1) アメリカのプロシューマーの動向と課題②
21. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性 (2) 日本のプロシューマーの動向と課題①
22. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性 (2) 日本のプロシューマーの動向と課題②
23. 4) 専門職と当事者の協働の思想 (1) 支援するもの-されるもの (二元論的支援関係) からの脱却①
24. 4) 専門職と当事者の協働の思想 (1) 支援するもの-されるもの (二元論的支援関係) からの脱却②
25. 4) 専門職と当事者の協働の思想 (2) 循環的支援関係構築に向けて①
26. 4) 専門職と当事者の協働の思想 (2) 循環的支援関係構築に向けて②
27. 5) 欧米諸国における精神保健福祉ソーシャルワークの動向①
28. 5) 欧米諸国における精神保健福祉ソーシャルワークの動向②
29. III. 文献読誦および研究法 1) ソーシャルワークにおける研究・実践・理論の循環①
30. III. 文献読誦および研究法 1) ソーシャルワークにおける研究・実践・理論の循環②

精神保健福祉領域における総合的視野を身につけるとともに、ソーシャルワーク全般領域において応用できる実践力と現状について考究する力をつける。

授業内で指定する文献や課題についての準備を行い、ディスカッションが深められることを願います。

ディスカッションの内容等について振り返り、自らの意見や見解についてさらなる吟味を重ねることを願います。

(1) 平常点	30%
(2) 参加状況及びディスカッション	30%
(3) レポート	40%

1～3を総合的に判断する

受講者一人ひとりのこれまでの学びや経験を通して、本特論での取り上げていることについてディスカッションを展開したいと思います。自らのこれまでの経験を価値あるものとして差し出してください。

- ・ピアサポート
- ・プロシューマー/ピアスタッフ/ピアサポーター
- ・ソーシャルワーク
- ・精神保健福祉
- ・協働

参考書

相川章子 『精神障がいピアサポーター』 (中央法規出版)

福祉工学特論								
担当教員： 野口 祐子								
学期： 週間授 科目：		必修・選択： 単位： 4 コード： W2101010						
学部教育の関連目		授業計画 01. 少子高齢社会と住環境の歴史的展開① 02. 少子高齢社会と住環境の歴史的展開② 03. 少子高齢社会と住環境の現状① 04. 少子高齢社会と住環境の現状② 05. 福祉住環境整備の重要性① 06. 福祉住環境整備の重要性② 07. 高齢者・障がい者の障がい特性① 08. 高齢者・障がい者の障がい特性② 09. 高齢者・障がい者の自立と環境整備① 10. 高齢者・障がい者の自立と環境整備② 11. バリアフリーとユニバーサルデザイン① 12. バリアフリーとユニバーサルデザイン② 13. 福祉用具① 14. 福祉用具② 15. 環境整備に関する法制度① 16. 環境整備に関する法制度② 17. 環境整備の方法① 18. 環境整備の方法② 19. 環境整備の実際① 20. 環境整備の実際② 21. ライフスタイルの多様化と住まい① 22. ライフスタイルの多様化と住まい② 23. 福祉のまちづくりの歴史と現状① 24. 福祉のまちづくりの歴史と現状② 25. 福祉のまちづくりに関する法制度① 26. 福祉のまちづくりに関する法制度② 27. 福祉のまちづくりの実際① 28. 福祉のまちづくりの実際② 29. まとめ① 30. まとめ②						
カリキュラム上の位置付け								
(1) 内容 福祉工学特論では、障がい者、高齢者などが直面する生活上の様々な困難を環境の視点で捉え、生活の可能性を広げ、暮らしを豊かにするための環境整備について、工学的な方策や解決手法を学ぶ。								
(2) 学びの意義と目標 本講義では、建築や機器など物理的な環境を扱うが、その根本の理念は「人間福祉」にあり、医療、福祉サービス等と共に人の暮らしを支援し、豊かな生活を実現するための重要な手法である。福祉工学の実践に当たっては、人の生活を理解し、総合的にニーズを捉えることが求められる。本講義では、これらの理念を理解し、具体的な手法としての工学的な環境整備に関して学ぶ。		準備学習(予習) 授業の中で参考文献、資料等を紹介する。各回の授業のテーマに沿って関連した文献を読み、関心を持って授業に臨んでいただきたい。						
		準備学習(復習) 自ら参考文献を探したり、事例の見学や体験をして、理解を深めていき、関心を持ってレポートのテーマを見つけてほしい。						
受講者に対する要望 学生の理解度や関心に応じて、授業を展開していきたいと考えているので、積極的に参加してほしい。		評価方法 <table><tr><td>(1) 平常点</td><td>30%</td></tr><tr><td>(2) レポート</td><td>40%</td></tr><tr><td>(3) 発表</td><td>30%</td></tr></table> 1～3により総合的に評価する。	(1) 平常点	30%	(2) レポート	40%	(3) 発表	30%
(1) 平常点	30%							
(2) レポート	40%							
(3) 発表	30%							
学びのキーワード ・ 高齢者・障がい者 ・ バリアフリー□ ・ ユニバーサルデザイン ・ 環境整備 ・ 福祉のまちづくり		教科書 授業の中で指示する。 参考書						

臨床心理学特論	
担当教員：長谷川 恵美子	
学期：週間授	科目：必修・選択：単位：4コード：W2101111
学部教育の関連目	授業計画
カリキュラム上の位置付け	01. 臨床心理学とは① 02. 臨床心理学とは② 03. 臨床心理学の歴史① 04. 臨床心理学の歴史② 05. 精神分析学とは① 06. 精神分析学とは② 07. 交流分析とは① 08. 交流分析とは② 09. イメージの心理学とは① 10. イメージの心理学とは② 11. さまざまな芸術療法① 12. さまざまな芸術療法② 13. 行動療法とは① 14. 行動療法とは② 15. 認知にかかわる心理療法① 16. 認知にかかわる心理療法② 17. 心理アセスメントとは① 18. 心理アセスメントとは② 19. 心理アセスメント実習① 20. 心理アセスメント実習② 21. 学校現場における心理臨床① 22. 学校現場における心理臨床② 23. 産業領域における心理臨床① 24. 産業領域における心理臨床② 25. 医療現場における心理臨床① 26. 医療現場における心理臨床② 27. 事例検討とは① 28. 事例検討とは② 29. まとめ① 30. まとめ②
(1) 内容	準備学習(予習) 参考資料や文献を自主的に読むこと。授業時に割り当てられたテーマについてプレゼンテーション方法を含め準備すること。
臨床心理学の定義や理念、歴史などについて概説するとともに、実際の心理アセスメント、心理療法をロールプレイなどの体験を通して幅広く学ぶことを目的としている。また本授業では、各種心理療法の理念とその背景にある理論を紹介するとともに、学校、医療産業など、実社会における臨床心理学の特徴や課題について具体的に概説し、その理論と実践との結びつきを学習し、臨床心理学の特徴や課題について参加者と議論する。	
(2) 学びの意義と目標	
心理アセスメントと心理療法の基礎を体験しながら学ぶことを目標としている。	準備学習(復習) 授業での経験を振り返り、教科書や資料で復習すること。
受講者に対する要望	評価方法
積極的に参加することが望ましい	(1) 平常点(課題への取り組み、発表内容、ディスカ 30% 授業でとりあげた内容をふまえ、客観的根拠に基づいてのべられているか。
学びのキーワード	教科書 授業時に紹介する
・臨床心理学 ・心理療法 ・心理アセスメント ・うつ病予防	参考書 授業時に紹介する

健康教育学特論 A		HLTH-D-100
担当教員： 和田 雅史		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： W2101310
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 健康教育学とは何か 02. 学校保健や健康教育に関する課題 03. 学校における健康教育 04. 地域社会における健康教育 05. 職場における健康教育 06. 健康教育行政 07. 諸外国における健康教育 08. 健康教育のねらいと目標 09. 健康教育の方法 10. 健康教育の評価 11. 健康教育の実践 12. 健康教育の課題 13. 健康教育学研究－歴史研究 14. 健康教育学研究－現状と課題 15. 健康教育学研究－まとめ</div>
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>人間福祉学研究科の科目</div>		
<div>(1) 内容</div> <div>子どもの発育発達という視点から、子どもの健康や安全について考えていく。学校保健学あるいは健康教育学の基礎的知識を学び、現代的課題について論じていきたい。学生一人一人の興味・関心を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。 これらの過程を大切に、実際の体験を通して、学校保健学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。</div>		
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できる科学的認識の育成を図るとともに、健康の自治能力の育成を目指す。。歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方と、健康や生命は社会的に守られなくてはならないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。</div>		
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもの発育発達、青少年期の身体や健康問題に関心があり、健康の維持・増進をプロモートしようとする明確な意思があることを期待する。講義では、ディスカッションなどを多用することになるので、自らが考えること、積極的に発言することが重要である。</div>		
<div>学びのキーワード</div> <div><ul style="list-style-type: none">健康課題ヘルスプロモーション予防教育保健科学的認識</div>		<div>教科書</div> <div>授業の中で説明</div> <div>参考書</div>

健康教育学特論B		CHCL-D-300
担当教員： 和田 雅史		
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目		単位： 2 コード： W2101410
学部教育の関連目		授業計画
【D】資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う		
カリキュラム上の位置付け		
人間福祉学研究科の科目		01. 学校における健康・安全の課題 02. 地域社会における健康の課題 03. 職場における健康の課題 04. 健康教育学と教育保健学を考える 05. 各自の研究テーマの設定－設定の手順について 06. 各自が関心を持った研究テーマを発表する 07. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究の手引き 08. 各自の研究テーマに沿って調べる－仮説の設定 09. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究目的の立て方 10. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究方法について 11. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究結果のまとめ方 12. 自の研究テーマに沿って調べる－考察について 13. 各自のまとめを発表－討論の方法 14. 各自のまとめを発表－討論の実践 15. まとめと討論
(1) 内容		
健康教育学特論Aに継続し、子どもの発育発達という視点から、子どもの健康や安全について考えていく。学校保健学あるいは健康教育学の基礎的知識を学び、現代的課題について論じていきたい。学生一人一人の興味・関心を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。これらの過程を大切にし、実際の体験を通して、学校保健学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。		
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)
健康教育学特論Bに継続し、現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できる科学的認識の育成を図る。学校を中心として、地域、家庭が子ども達の健康の維持増進を図るヘルスプロモーティングスクールを構想することにより、将来受講者自身が活動していく場を想定し、その位置づけの一助になると考えられる。同時に受講者自身の健康維持を図ることにより、健康で長命な生涯を継続できる方法を考えていく。歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方と、健康や生命は社会的に守られなくてはならないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。		
受講者に対する要望		
現在教員として教育に関わっている人、将来、教員を目指す学生、教職を履修している学生はこの講座を必ず志望して欲しいと考えていますが、他の学生においても現代社会に出現している健康課題に関心がある者は自分自身の関心を一つの目標とし、積極的に志望して欲しい。		準備学習(復習)
学びのキーワード		
・学校保健 ・健康教育 ・表現スキル		
		教科書
		授業の中で説明
		参考書

児童文化特論			
担当教員：寺崎 恵子			
学期：週間授 科目：		必修・選択：	単位：4 コード：W2200303
学部教育の関連目		授業計画 01. 遊びの理解 (1) 子ども期の特性としての遊び 02. 遊びの理解 (1) : ディスカッション 03. 遊びの理解 (2) ライフサイクルと余暇 04. 遊びの理解 (2) : ディスカッション 05. 遊び論 (1) 楽しさと経験 06. 遊び論 (1) : ディスカッション 07. 遊び論 (2) 参加（融合性と社交性） 08. 遊び論 (2) : ディスカッション 09. 遊び論 (3) 反映と学び 10. 遊び論 (3) : ディスカッション 11. 遊び論 (4) 象徴と記号 12. 遊び論 (4) : ディスカッション 13. 遊びの特性 (1) 同調性 14. 遊びの特性 (1) : ディスカッション 15. 遊びの特性 (2) 周縁性 16. 遊びの特性 (2) : ディスカッション 17. 遊びの特性 (3) 中動相 18. 遊びの特性 (3) : ディスカッション 19. 遊びの構造 (1) 隠れる・隠す、見える・見えない 20. 遊びの構造 (1) : ディスカッション 21. 遊びの構造 (2) : 円形と方形 22. 遊びの構造 (2) : ディスカッション 23. 遊びの構造 (3) 揺れる 24. 遊びの構造 (3) : ディスカッション 25. 遊びの構造 (4) 繰り返す 26. 遊びの構造 (4) : ディスカッション 27. 遊びの時空 (1) 記憶 28. 遊びの時空 (1) : ディスカッション 29. 遊びの時空 (2) 完成可能性 30. 遊びの時空 (2) : ディスカッション	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容 児童文化のありようと可能性について、遊びに注目して考察する。フレーベルは「遊びは人生の鏡である」と述べた。また、ルソーは「遊びは仕事である」と述べた。その真意をどう理解しようか。 津守真は「子ども自身の世界の本質があらわれるような遊びがあるということ、すなわち、子どもが十分に遊ぶことができるということは、あたりまえのようでありながら簡単なことではない。それにはおとなの支えが必要である」（『子ども学のはじまり』8頁）と言う。時と場に応じて生まれ発展する遊びは、時と場に応じて変化し、衰退・消滅することもある。遊びの生と死を、子どもに添い立つ者である私たちはどう把握しようか。岡本夏木は「遊びは文化の産物であるとともに、現実の文化を超えていく力を、また文化が人間をむしばんでゆくのに抵抗する力を宿していたはず」だ（『幼児期』111頁）と言う。私たちは、遊ぶ子どもの傍で微笑んで眺めているだけではない。遊びは創造的であるとともに破壊的である。その両義性と力動性を、私たちはどう把握しようか。様々な遊び論を読み解きながら、ときには遊びの世界に巻き込まれながら、児童文化研究の可能性を開きたい。			
(2) 学びの意義と目標 「遊びは文化をつくる」と言われる。では、子どもも大人もともにしあわせに生きることにおいて、文化はどのような可能性をもつと言えるだろうか。人間としての生き方・経験をひらく可能性について考えることを学びの意義とする。遊び研究の考察と理解を通じて、小手先の研究に陥ることに対抗して、自らの研究を達観し、深めて広げる機会をもつことを、学びの目標とする。		準備学習(予習) 報告の準備をする	
		準備学習(復習) 報告とディスカッションの内容をまとめておく	
		評価方法 (1) 報告 35% (2) ディスカッションへの参加 35% (3) 期末レポート 30%	
受講者に対する要望 報告の準備への積極的な取り組みと、ディスカッションへの積極的な参加を望む。			
学びのキーワード ・遊びと文化 ・人間としての生き方・ウェル ビーイング ・人生における余暇 ・遊びの特性と構造 ・子どもと大人の関係構造		教科書 使用しない。プリントを配布する。 参考書 内容に合わせて、適宜 紹介する。絵本を多用する。	

児童福祉特論

担当教員： 中谷 茂一

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 4 コード： W2200404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。
1. 子ども家庭福祉の基礎概念 2. 子ども家庭福祉を取り巻く状況 3. 子どもの権利保障 4. 子ども家庭福祉の展開 5. 子ども家庭福祉行政のしくみと機関・施設 6. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実際 7. 子ども家庭福祉に関連する地域活動 8. 子ども家庭福祉サービスを支える人 9. 子ども虐待・「子ども虐待」をとりまく神話・「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」・子ども虐待に関する人々の意識とまなざし・その社会的対応と限界・子ども家庭福祉におけるジェンダー問題 10. スクールソーシャルワークの実際

(2) 学びの意義と目標

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。

受講者に対する要望

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

学びのキーワード

- こども虐待
- 子育て支援
- 児童養護施設
- 社会的養護

授業計画

01. 子ども家庭福祉における「子ども」観①
02. 子ども家庭福祉における「子ども」観②
03. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題①
04. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題②
05. 少子社会と福祉環境①
06. 少子社会と福祉環境②
07. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ①
08. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ②
09. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷①
10. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷②
11. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点①
12. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点②
13. 具体的なサービス内容と課題点①
14. 具体的なサービス内容と課題点②
15. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源①
16. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源②
17. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職①
18. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職②
19. 「子ども虐待」をとりまく神話①
20. 「子ども虐待」をとりまく神話②
21. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」①
22. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」②
23. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし①
24. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし②
25. 子ども虐待の社会的対応と限界①
26. 子ども虐待の社会的対応と限界②
27. スクールソーシャルワークの実際①
28. スクールソーシャルワークの実際②
29. ディスカッション①
30. ディスカッション②

準備学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

準備学習(復習)

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

評価方法

(1) 平常点	20
(2) ディスカッション参加状況	40
(3) レポート	40

出席率20%、ディスカッション参加状況40%、レポート40%の総合評価。

教科書

参考書

単位： 4 コード： W2200510

01. オリエンテーション・異文化間教育
02. 国際化する保育所・幼稚園・小学校
03. 異文化適応1：理論
04. 異文化適応2：中国帰国者の事例
05. コミュニケーション・ギャップ1：日系ブラジル人の事例
06. コミュニケーション・ギャップ2：親子の事例
07. 異文化間コミュニケーション1：理論
08. 異文化間コミュニケーション2：幼児の事例
09. 異文化間トレーニング1：理論
10. 異文化間トレーニング2：保育の事例
11. バイリンガル教育1：理論
12. バイリンガル教育2：児童・生徒の事例
13. アンチ・バイアスカリキュラム1：理論
14. アンチ・バイアスカリキュラム2：保育の事例
15. アンチ・バイアスカリキュラム3：小学校の事例
16. アンチ・バイアスカリキュラム4：海外の事例
17. ひょうたん島問題1：文化・教育
18. ひょうたん島問題2：多文化共生
19. 海外の子育て支援1：欧米
20. 海外の子育て支援2：アジア
21. 海外における保育の実践例
22. 海外における教育の実践例
23. 発表とディスカッション
24. 発表とディスカッション
25. 多文化保育
26. 多文化教育
27. 異文化間教育における保育者・教師の専門性
28. 小学校における異文化間教育の実践例
29. 異文化間教育の研究手法
30. 異文化間教育の課題

本講義では、児童教育学の中でも「異文化間教育」に焦点を当てる。現在、日本の保育所・幼稚園・小学校において、外国人の子どもたちや国際結婚の子どもたち、海外生まれ育った日本人の子どもたち等が増加している。このような現状を踏まえ、本講義では、異文化間教育・異文化適応・異文化間コミュニケーション等の理論と実践について検討する。

本講義では、関連する文献講読や、国内外の保育/教育に関する映像の視聴、発表等を通して、保育・教育に関する自身の枠組を広げることを目標とする。

配布する資料を事前に読んでおくこと。
発表準備に計画的に取り組むこと。

課題に取り組むこと。

(1) 平常点	60%
(2) 課題報告	20%
(3) レポート	20%

課題に丁寧に取り組むこと。
ディスカッション等に積極的に参加すること。

- ・ 児童教育学
- ・ 異文化間教育
- ・ 保育
- ・ 教育

咲間まり子編 『多文化保育・教育論』

児童音楽表現法特論

担当教員：村山 順吉

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 4 コード： W2200706

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本講義は、初めに音楽固有の特性について、いくつかの側面から探る。そのうえで＜子ども＞という他者との、音楽を通じての活きたかかわりを実現するために、様々な実践も取り入れながら進めていく。

(2) 学びの意義と目標

- ・音あるいは音楽を通して子どもとのかかわりを深めるには、その場においてどのような方法及びプロセスを大切にすべきなのかを見通すための視野を広げる。
- ・そのために必要な、様々な実践的な力を蓄えることを目標とする。

受講者に対する要望

実践的な活動を含むこともあるので、その時は動きやすい格好で受講していただくことを望む。その場合は、事前に指示をする。

学びのキーワード

- ・ 児童
- ・ 表現
- ・ 音楽創造

授業計画

01. 様々な音の位置付け①
02. 様々な音の位置付け②
03. 音楽における音に込められたメッセージ①
04. 音楽における音に込められたメッセージ②
05. 音楽の形式①
06. 音楽の形式②
07. 創作の試み(1)①
08. 創作の試み(1)②
09. 創作の試み(2)①
10. 創作の試み(2)②
11. 創作の試み(3)①
12. 創作の試み(3)②
13. 創作の試み(4)①
14. 創作の試み(4)②
15. 即興的音楽表現の試み(1)①
16. 即興的音楽表現の試み(1)②
17. 即興的音楽表現の試み(2)①
18. 即興的音楽表現の試み(2)②
19. 手作り楽器製作を通して①
20. 手作り楽器製作を通して②
21. 表現に関する様々な分野とのかかわり(1)①
22. 表現に関する様々な分野とのかかわり(1)②
23. 表現に関する様々な分野とのかかわり(2)①
24. 表現に関する様々な分野とのかかわり(2)②
25. 表現に関する様々な分野とのかかわり(3)①
26. 表現に関する様々な分野とのかかわり(3)②
27. 音楽と時間について①
28. 音楽と時間について②
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

楽譜を読む力はつけておくこと。

準備学習(復習)

楽器演奏のための練習課題、小さな曲の創作課題、その他課題を与えるので、毎回しっかり取り組むこと。

評価方法

- | | |
|----------|----|
| (1) 平常点 | 50 |
| (2) レポート | 50 |

平常点50%、レポート50%により総合的に評価する。

教科書

参考書

単位： 4 コード： W2200807

01. 児童「文学」以前:神話と伝説①
02. 児童「文学」以前:神話と伝説②
03. 児童「文学」以前:昔話①
04. 児童「文学」以前:昔話②
05. 児童文学に見られる子ども像①
06. 児童文学に見られる子ども像②
07. 児童文学の中の家族:母親像①
08. 児童文学の中の家族:母親像②
09. 児童文学の中の家族:父親像①
10. 児童文学の中の家族:父親像②
11. 児童文学における大人の役割①
12. 児童文学における大人の役割②
13. 児童文学における魔法:異世界ファンタジー①
14. 児童文学における魔法:異世界ファンタジー②
15. 児童文学における魔法:エブリディ・マジック①
16. 児童文学における魔法:エブリディ・マジック②
17. 児童文学の中の魔女たち①
18. 児童文学の中の魔女たち②
19. 児童文学の中の魔法使いたち①
20. 児童文学の中の魔法使いたち②
21. 児童文学に見られる主人公とその相棒①
22. 児童文学に見られる主人公とその相棒②
23. 児童文学創作の試み:キャラクター作り①
24. 児童文学創作の試み:キャラクター作り②
25. 児童文学創作の試み:小説の文体①
26. 児童文学創作の試み:小説の文体②
27. 児童文学に表現される食べ物①
28. 児童文学に表現される食べ物②
29. まとめ①
30. まとめ②

(1) 内容

近年、児童文学は、世界的ベストセラーが出たり、新旧の名作が次々に映画化されたり、その地位は一段と高まり、大きな影響力を持つジャンルとして注目されている。児童文学作品の中に描かれる子どもたちは、現実の子どもを反映するものであると同時に、時代や空間を超えて、子どもたちの新しい価値や可能性を産み出しながら、我々に様々な示唆を与えてくれる。

(2) 学びの意義と目標

児童の多様な理解を促すために、本講義では、いくつかのテーマに沿って多様な児童文学の作品を読み解くことを目指す。授業では、物語の読みと意味を探ることを目標とする。

童文学作品を読み解くことで、子どもへの理解を

毎回の課題に対して、きちんと準備してくること。

準備學習(復習)

授業中に扱った作品は読んでおくこと。

受講者に対する要望

毎回の課題に沿って、じゅうぶんな準備をした上で、授業に臨んでほしい。

評価方法

(1) 出席、平常点	20
(2) 発表	40
(3) レポート	40

出席・平常点20%、発表40%、レポート40%により、総合的に評価する。

学びのキーワード

- ・ 昔話と神話
- ・ 物語の中の大人像、子ども像
- ・ 物語の中の魔法

教科書

参考書

生涯学習特論			
担当教員： 小池 茂子			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 4		コード： W2201110	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション 02. 生涯学習社会の概念 03. 教育の三領域（学校教育・社会教育・家庭教育） 04. 「生涯教育」の概念 05. 教育改革のキイ概念としての「生涯教育」 06. 生涯教育の諸相（諸外国の生涯教育の実相） 07. 日本の生涯教育の概念の登場とその背景（1）社会の急速な変化と教育 08. 日本の生涯教育の概念の登場とその背景（2）平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題 09. 日本の生涯教育の概念の登場とその背景（3）学歴社会の是正 10. 日本の生涯教育の概念の登場とその背景（4）学歴社会は乗り越えられる 11. 生涯教育への批判 12. 生涯教育の理念の導入と社会教育行政 13. 「生涯教育」から「生涯学習」へ（「教育」と「学習」の違いは何を意味するか） 14. 教育改革の推進と生涯学習振興・社会教育行政（1） 15. 教育改革の推進と生涯学習振興・社会教育行政（2） 16. 教育改革の推進と生涯学習振興・社会教育行政（3） 17. 生涯学習の学習課題：「学習課題とは何か」 18. 学習者からみた学習関心・要求課題 19. 学習課題設定の視点（「学習要求」と「必要課題」）（1） 20. 学習課題設定の視点（「学習要求」と「必要課題」）（2） 21. 学習者の特性と学習（1） 22. 学習者の特性と学習（2） 23. 学習者の特性と学習（3） 24. 学習者の特性と学習（4） 25. 学習者の特性と学習（5） 26. 学習者の特性と学習（6） 27. 成人の学習を支援する教育学（アンドラゴジー）（1） 28. 成人の学習を支援する教育学（アンドラゴジー）（2） 29. 学習者を支える視点（まとめ） 30. 全体のまとめ	
(1) 内容			
生涯学習という概念が登場するに至った経緯を、歴史をおって論じる。またその中で、社会教育、生涯教育、生涯学習の概念の違いについて説明する。また、わが国の教育政策の中に、生涯学習が取り入れられるに至った経緯について説明を行う（ここでは、学歴社会の是非について検討する）。 成人の学習理論について論じ、子どもを導く学問であるペダゴジーとそれがどのような違いがあるかについて、説明を行う。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
わが国の教育政策に「生涯学習社会」が到達目標とされ、教育基本法第3条にも「生涯学習の理念」が示されるに至った。しかし、この概念については曖昧で、これがどのような意味を持ち、いかなる経緯から教育政策の中に反映されるに至ったかについては、よく知られていない。本講義では、生涯学習という言葉が、教育政策にどのような経緯をもって、どのような概念として登場したのかを理解することを第1の目標とする。 また、本講義では、成人の学習を支援する理論としてのアンドラゴジーの概念及びその内容について理解し、子どもの学びの支援と成人を対象とする学習の支援においてはどのような配慮が求められるかについて理解を深めることを第2の目標とする。		平常点を重視するので、講義で扱うテーマについては、事前に予習をして講義に臨むことを期待する。	
		準備学習(復習)	
		その時間内に扱った資料、参考図書を確実に自分のものにして次の講義に臨むことを期待する。	
受講者に対する要望		評価方法	
生涯学習や社会教育、あるいは成人の学習理論について関心のある者の受講を歓迎する。		(1) 平常点 50% (2) 課題レポート 50%	
学びのキーワード		教科書	
・生涯教育 ・学習と教育 ・学歴社会の是正と生涯教育 ・成人教育学（アンドラゴジー） ・ペダゴジー（子どもの学びを支援する科学としての理論）とアンドラゴジー（成人の学びを支援する科学としての理論）		講義の中で紹介する。	
		参考書	
		講義の中で、そのつど紹介する。	

臨床死生学特論

担当教員： 藤掛 明

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 4 コード： W2300110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

死生学の基礎的概念を概観し、グリーフ・カウンセリングとその周辺領域（自助グループ、闘病、自殺予防、心理テスト等）を臨床心理学の観点から学ぶ。学習にあたっては討議を重視する。

(2) 学びの意義と目標

現実に生と死の危機に直面し、苦しんでいる人々を理解し、援助の道筋を学ぶことが出来る。また自分にとっての「死生」の意味を考え、自分の死生にまつわる問題に対処する各人個別の死生観を探る場としたい。

受講者に対する要望

受講者として要望があればその都度申し出てほしい。その関心や臨床的理解力に応じて、授業計画の大枠の範囲内で、柔軟に対応する。

学びのキーワード

- ・グリーフ・カウンセリング
- ・自助グループ
- ・闘病体験
- ・自殺予防

授業計画

01. 死生学とは何か（死生学の歴史①）
02. 死生学とは何か（死生学の歴史②）
03. 死生学とは何か（病的悲嘆、回復過程①）
04. 死生学とは何か（病的悲嘆、回復過程②）
05. 文学作品にみる「死生」①（儀式、台風）
06. 文学作品にみる「死生」②（儀式、台風）
07. 文学作品にみる「死生」③（雨の庭、巨人の星）
08. 文学作品にみる「死生」④（雨の庭、巨人の星）
09. 文学作品にみる「死生」⑤（いま会いにゆきます、散りゆく花）
10. 文学作品にみる「死生」⑥（いま会いにゆきます、散りゆく花）
11. 死生学とは何か（ケア、カウンセリング、ワーク①）
12. 死生学とは何か（ケア、カウンセリング、ワーク②）
13. グリーフ・カウンセリングの実際①
14. グリーフ・カウンセリングの実際②
15. グリーフ・カウンセリングの実際③
16. グリーフ・カウンセリングの実際④
17. 自助グループの実際①
18. 自助グループの実際②
19. グリーフの特徴①（子を亡くす）
20. グリーフの特徴②（親を亡くす）
21. グリーフの特徴③（配偶者を亡くす）
22. グリーフの特徴④（友人を亡くす）
23. 闘病と「死生」①
24. 闘病と「死生」②
25. 自殺予防と「死生」①
26. 自殺予防と「死生」②
27. 心理テストと「死生」①
28. 心理テストと「死生」②
29. キリスト教と「死生」①
30. キリスト教と「死生」②、まとめ

準備学習(予習)

授業計画や授業内での予告を参考に、情報を集め、関連資料を読むなどしておくこと。

準備学習(復習)

毎回配布する資料や紹介する文献を授業後に読むことを期待している。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 授業態度 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

毎回関連資料を配付する

参考書

スピリチュアルケア特論			
担当教員： 安部 能成			
学期： 週間授	科目：	必修・選択：	単位： 4 コード： W2300505
学部教育の関連目	授業計画		
	01. 先行研究論文の読解I① 02. 先行研究論文の読解I② 03. 先行研究論文の読解I① 04. 先行研究論文の読解I② 05. 先行研究論文の読解III① 06. 先行研究論文の読解III② 07. 先行研究論文の分析I① 08. 先行研究論文の分析I② 09. 先行研究論文の分析II① 10. 先行研究論文の分析II② 11. 先行研究論文の分析III① 12. 先行研究論文の分析III② 13. 研究論文の執筆入門I① 14. 研究論文の執筆入門I② 15. 研究論文の執筆入門II① 16. 研究論文の執筆入門II② 17. 研究論文の執筆入門III① 18. 研究論文の執筆入門III② 19. 研究論文の執筆入門IV① 20. 研究論文の執筆入門IV② 21. 研究論文の発表I① 22. 研究論文の発表I② 23. 研究論文の発表II① 24. 研究論文の発表II② 25. 研究論文評価と発展I① 26. 研究論文評価と発展I② 27. 研究論文評価と発展II① 28. 研究論文評価と発展II② 29. まとめ① 30. まとめ②		
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容	自然・文化・民俗・宗教のスピリチュアリティを取りあげ、その特徴を明らかにし、臨床での応用について考える。受講生が臨床で出会う患者・家族・死に逝く人のケースを取りあげて、スピリチュアルケアの可能性を考える。また、スピリチュアルケアの実現化のための制度・人材養成・報酬のことにも触れる。		
(2) 学びの意義と目標	スピリチュアルケア全般を理解し、スピリチュアルケアの目的や本質を自分の言葉で表現できると。		
受講者に対する要望	好奇心、積極的研究心		
学びのキーワード	教科書		
・スピリチュアリティ	座寺 俊之『スピリチュアルケア入門』（三輪書店）		
・魂	座寺 俊之『スピリチュアルケア学序説』（三輪書店）		
・宗教学	座寺 俊之『スピリチュアルケア学概説（関西学院大学論文叢書）』（三輪書店）		
・ケア	ルース・L. コップ, Ruth Lewshenia Kopp, 大西 和子, 座寺 俊之『愛する人が死にゆくとき—ヒューマンケアへのアプローチ』（相川書房）		
・超越性	シャロン・フィッシュ, ジュディス・シェリー, 座寺 俊之, 福嶋 知恵子『スピリチュアルケアにおける看護師の役割』（いのちのこと		
	準備学習(予習)		
	春学期「スピリチュアルケア研究」の継続。エリザベス・ジョンストン・ティラー『スピリチュアルケア』（医学書院）を使用。		
	準備学習(復習)		
	講義を整理し、要点をまとめておく。		
	評価方法		
	(1) レポート 50		
	(2) 平常点 30		
	(3) 授業貢献度 20		
	提出物（レポート）50%、平常点30%、3授業での貢献度20%。		
	参考書		

キリスト教とカウンセリングI /キリスト教カウンセリング特論			
担当教員： 藤掛 明			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	単位： 4 コード： W2300606
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. 臨床の知、魂の知を考える（人を理解するための接近法）① 02. 臨床の知、魂の知を考える（人を理解するための接近法）② 03. 臨床の知、魂の知を考える（相互作用性と多義性）① 04. 臨床の知、魂の知を考える（相互作用性と多義性）② 05. 臨床の知、魂の知を考える（個別性）① 06. 臨床の知、魂の知を考える（個別性）② 07. 臨床の知、魂の知を考える（曖昧さや神秘体験の感受性）① 08. 臨床の知、魂の知を考える（曖昧さや神秘体験の感受性）② 09. 宗教者と人格障害問題（贖罪信仰と自己愛性病理）① 10. 宗教者と人格障害問題（贖罪信仰と自己愛性病理）② 11. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例1）① 12. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例1）② 13. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例2）① 14. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例2）② 15. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例3）① 16. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例3）② 17. 宗教者と依存・嗜癪問題（偶像礼拝と依存・嗜癪病理）① 18. 宗教者と依存・嗜癪問題（偶像礼拝と依存・嗜癪病理）② 19. 宗教者と依存・嗜癪問題（アルコール依存症）① 20. 宗教者と依存・嗜癪問題（アルコール依存症）② 21. 宗教者と依存・嗜癪問題（ギャンブル依存症）① 22. 宗教者と依存・嗜癪問題（ギャンブル依存症）② 23. 宗教者と依存・嗜癪問題（教会と自助グループ）① 24. 宗教者と依存・嗜癪問題（教会と自助グループ）② 25. 宗教者と発達心理（聖化と中年期危機）① 26. 宗教者と発達心理（聖化と中年期危機）② 27. 宗教者と発達心理（メンタルヘルス）① 28. 宗教者と発達心理（メンタルヘルス）② 29. まとめと課題① 30. まとめと課題②	
(1) 内容			
カウンセリングの一般的な原理、原則を学ぶことを目標とする。ただし、次のような観点から、深く掘り下げることで、現代社会における人間援助のあり方や、それに由来するグリーフやスピリチュアルなケアのあり方を理解することにも益するものとしたい。 第一に、近代科学主義では対応しきれない心や魂の問題を、カウンセリングはどのような原理、原則に拠って扱っていくのか。それらの原理、原則は、宗教やキリスト教信仰のあり方とどのような関連があるのか、を扱う。 第二に、現代社会の病理ともいえる「自己愛」「依存・嗜癪」「中年期の逸脱」などをとりあげ、これらに対するアセスメントとカウンセリングの実際を紹介するとともに、なぜ、信仰者、聖職者であっても、これらの病理に陥ってしまうことがあるのか、を扱う。			
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
カウンセリング的人間理解や技法論を、キリスト教という視点から眺め直し、それらを深くとらえ直すことができる。		授業計画や、授業内で行う予告を参考にインターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。	
		準備学習(復習)	
		受講生の臨床的理解力や要望も柔軟に考慮していく。授業で得た体験知を、毎回、配付資料や紹介文献を授業後に読むことを期待している。	
受講者に対する要望		評価方法	
カウンセリングについても、宗教についても、自分自身の生き方を重ね合わせていく姿勢が望まれる。		(1) 平常点(討議参加)	

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 4 コード： W2301110

授業計画

01. 社会心理学とは
02. 自己概念(1)
03. 自己概念(2)
04. 自己概念(3)
05. 文化的自己
06. 対人認知(1)
07. 対人認知(2)
08. 対人認知(3)
09. 態度と態度変容(1)
10. 態度と態度変容(2)
11. 態度と態度変容(3)
12. 態度と態度変容(4)
13. 人間関係の進展(1)
14. 人間関係の進展(2)
15. 幸福感(1)
16. 幸福感(2)
17. 社会からの影響(1)
18. 社会からの影響(2)
19. 社会からの影響(3)
20. 集団とリーダーシップ(1)
21. 集団とリーダーシップ(2)
22. 自己と集団(1)
23. 自己と集団(2)
24. 集団間関係(1)
25. 集団間関係(2)
26. 集団間関係(3)
27. 現代の問題と社会心理学(1)
28. 現代の問題と社会心理学(2)
29. 現代の問題と社会心理学(3)
30. まとめ

「第1印象はどのように決まるのか」、「なぜ人はだまされてしまうのか」、「恋愛をするのはどういう時か」、「“イイネ”をたくさんもらうと安心するのはなぜか」、「どうすれば少数派の意見を通すことができるか」といった身近な疑問から、「オレオレ詐欺」、「マインドコントロール」、「テロや戦争が起きるメカニズム」、「いじめ」といった重大な社会問題まで、社会心理学の観点から解説します。授業は一方的な講義ではなく、常に受講生と対話しながら進めます。社会心理学の実験や調査を体験してもらうこともありますし、受講生自身も興味のあるトピックを調べ、発表し、討議を行うこともあります。

この授業には、日常生活の中で私たちがどのような考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれています。この授業で学んだことを自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってください。

大まかな講義内容は事前にお知らせします。その内容について少し勉強してから授業に参加すると、より理解が深まります。また、講義内容と関係のありそうな自身の経験を振り返ってみることも大切です。

日常の出来事を社会心理学から考えてみる癖をつけて下さい。それによって、勉強した知識を知識のまま終わらせるのではなく、様々な現場で実践に活かせるようになるはずです。

(1) 平常点	60%
(2) レポート	40%

教員が講義している最中も、静聴する（静かに聴く）必要はありません。疑問に思ったり、気づいたことがあれば、いつでも発言し、積極的に授業に参加してください。

- ・ 自己概念
- ・ 対人認知
- ・ 態度変容
- ・ 社会規範
- ・ 集団心理

参考書

高齢者保健福祉研究演習Ⅰ / 高齢者福祉研究演習Ⅰ

担当教員：古谷野 亘

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：2 コード：W3100404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

高齢化と高齢社会、高齢者サービスの問題を取り上げ、修士課程での研究を始めた学生に対して、個別的な指導と並行して、中間発表と討論、相互批判の機会を提供する。

(2) 学びの意義と目標

先行研究の理解のうえに独自の研究を行い、その結果を論文にまとめられるようになることが本演習の目標である。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・ 高齢化
- ・ 介護保険制度
- ・ 地域包括ケア

授業計画

01. 科目オリエンテーション / 課程修了までのプロセスの確認
02. 基礎的文献の講読と討議 (1)
03. 基礎的文献の講読と討議 (2)
04. 基礎的文献の講読と討議 (3)
05. 基礎的文献の講読と討議 (4)
06. 基礎的文献の講読と討議 (5)
07. 基礎的文献の講読と討議 (6)
08. 基礎的文献の講読と討議 (7)
09. 基礎的文献の講読と討議 (8)
10. 研究の中間発表と討議 (1)
11. 研究の中間発表と討議 (2)
12. 研究の中間発表と討議 (3)
13. 研究の中間発表と討議 (4)
14. 研究の中間発表と討議 (5)
15. 中間のまとめ ー 研究演習Ⅱへの継続課題の確認

準備学習(予習)

独創的で高度な研究と内容のある議論を期待する。この期待に応えるためには相当の準備と真摯な取り組みが求められる。

準備学習(復習)

授業時間中の討議を自分の研究に生かせるよう理解し、考察することが必要である。

評価方法

(1) 平常点 100%

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

障害者福祉研究演習Ⅰ			
担当教員： 木下 大生			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
単位： 2		コード： W3100505	
学部教育の関連目		授業計画 01. オリエンテーション 02. 個別指導1 03. 個別指導2 04. 個別指導3 05. 個別指導4 06. 個別指導5 07. 個別指導6 08. 個別指導7 09. 個別指導8 10. 個別指導9 11. 個別指導10 12. 個別指導11 13. 個別指導12 14. 個別指導13 15. まとめ	
カリキュラム上の位置付け			
(1) 内容 修士論文のテーマを、障害がある人、とりわけ知的に障害がある人、もしくは関連する制度・政策に関連するものに定めている院生に対して研究指導を行う。			
(2) 学びの意義と目標 研究計画の立て方、研究方法と研究の進め方、論理的にまとめる方法を学び、自身の研究をまとめながら、その行程を経験することで、「研究とは何か」を知り、「研究の方法」を体得する。		準備学習(予習) 毎回出される課題に取り組む。	
		準備学習(復習) 個別指導になるため、毎回教員からなされる指導を振り返り、また出された課題に取り組んでくること。	
受講者に対する要望 自身のテーマを深め、研究課題を明らかにするための全てを行う、という気持ちで臨んでいただきたい。		評価方法 (1) 参加態度、姿勢、課題 100 授業への参加態度、研究に取り組む姿勢、その都度課す課題に取り組んだ成果物の内容によって評価する。	
学びのキーワード ・ 研究計画 ・ 研究方法 ・ 研究手続		教科書 授業の中で指示する 参考書	

学期： 週間授 科目： 必修・選択： 単位： 2 コード： W3120101

01. 研究計画の再確認（全般）
02. 研究計画の再確認（とくに研究目標について）
03. 研究計画の再確認（とくに方法論的考察）
04. 研究計画の再確認（とくに方法論的考察2）
05. 研究の進捗に応じた個別指導
06. 研究の進捗に応じた個別指導
07. 研究の進捗に応じた個別指導
08. 研究の進捗に応じた個別指導
09. 研究の進捗に応じた個別指導
10. 研究の進捗に応じた個別指導
11. 研究の進捗に応じた個別指導
12. 研究の進捗に応じた個別指導
13. 全体構成の確認
14. 論の整合性に関して
15. 全体の再確認と今後の研究の展望

978-4654075997 □ パート ピンカー, Robert Pinker, 星野 政明, 牛津 信忠 信託会福祉三つのモデル—福祉原理論の探求 啓明書房 図学で一括購入しない
978-4863451483 田津 信忠 信託会福祉における場の究明—共感的共同からトボスへ至る現象学的考察 西書プラネット 図学で一括購入しない

ソーシャルワーク研究演習Ⅰ			
担当教員： 助川 征雄			
学期： 週間授		科目：	必修・選択：
		単位：	2
		コード：	W3120203
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション（テーマおよび研究法について） 02. 個別指導（1） 03. 個別指導（2） 04. 個別指導（3） 05. 個別指導（4） 06. 個別指導（5） 07. 中間発表・討議 08. 個別指導（6） 09. 個別指導（7） 10. 個別指導（8） 11. 個別指導（9） 12. 個別指導（10） 13. 個別指導（11） 14. 全体発表・討議 15. まとめ	
(1) 内容 広く社会福祉領域のテーマを修士論文とする院生に対し研究指導を行う。特に今後の福祉実践を切り開くための論考に重点を置く。具体的には、まず、基礎理論として、ストレングス理論やリカバリー理論の要点の習得を求める。同時に、研究テーマに沿い、個別指導の形で論文作成のための論考を進める。 なお、本職のPSW経験を活かす意味で、精神保健福祉領域のテーマを有する学生諸君を特に歓迎する。			
(2) 学びの意義と目標 基幹科目「ソーシャルワーク研究」において学ぶ、新たな実践理論の応用。 身近な実践や研究課題を見出し、新たな視点で探求し、深化させること。		準備学習(予習)	
		1ヶ月に1～2度のペースで、個別指導を行うので、その都度、疑問点を整理し発表準備をすること。	
		準備学習(復習)	
		不確かな専門用語や概念については、その日のうちに調べておくこと。	
受講者に対する要望 教科書「ストレングスモデル」の精読		評価方法	
		(1) 論文準備、中間発表 100 論文準備（完成）度、および「中間発表会」への参加度（内容）などにより評価する。	
学びのキーワード ・ ソーシャルワーク ・ ソーシャルワークの歴史 ・ 関わり ・ ストレングス（強み）の視点 ・ リカバリーイノベーションの視点		教科書 <small>チャールズ・M・ラップ、リチャード・J・ゴスチャ、田中 英樹 監訳 『ストレングスモデル[第3版]—リカバリー志向の精神保健福祉サービス』（金剛出版）</small>	
		参考書	

健康教育学研究演習Ⅰ		HLTH-D-100	
担当教員： 和田 雅史			
学期： 週間授 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目		単位： 2 コード： W3120510	
<div>学部教育の関連目</div> <div>【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける</div>		<div>授業計画</div> <div>01. 学校における健康・安全とは 02. 地域社会における健康教育について 03. 職場における健康教育について 04. 教育保健の立場から健康考える 05. 各自の研究テーマの設定¥設定の手順についての説明 06. 各自が関心を持った研究テーマの設定 07. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究の手引き 08. 各自の研究テーマに沿って調べる－仮説の設定 09. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究方法の学び 10. 各自の研究テーマに沿って調べる－まとめ方 11. 各自の研究テーマに沿って調べる－発表の方法 12. 各自のまとめを発表－発表の方法 13. 各自のまとめを発表－討論の方法 14. 各自のまとめを発表－討論の実践 15. まとめ方の討論</div>	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <div>人間福祉学研究科の科目</div>			
<div>(1) 内容</div> <div>健康教育学特論A・Bとの関連領域として、子どもの発育発達という視点から、子どもの健康や安全について考えていく。学校保健学あるいは健康教育学の基礎的学びの延長として、現代的健康課題について論じていく中で、一人一人の興味・関心を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する学習を通じて、研究論文作成へとつなげていく。これらの過程を大切にし、実際の体験を通して、健康教育学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。</div>			
<div>(2) 学びの意義と目標</div> <div>健康教育学特論A・Bの継続として現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できる科学的認識の育成を図ると同時に、健康の自治能力の育成を図ることが教育としての健康の学びと考えている。歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方と、健康や生命は社会的に守られなくてはならないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。</div>		<div>準備学習(予習)</div> <div>授業計画を参照し、講義で扱われる内容について、事前に情報を集めて、授業に臨むこと。</div>	
<div>受講者に対する要望</div> <div>子どもの発育発達、青少年期の身体や健康問題に関心があり、健康の維持・増進をプロモートしようとする明確な意思があることを期待する。講義では、ディスカッションなどを多用することになるので、自らが考えること、積極的に発言することが重要である。</div>		<div>準備学習(復習)</div> <div>講義で扱った内容を検討し、次回の講義までに自身の考えをまとめておく。</div>	
<div>学びのキーワード</div> <div><div>・健康課題</div><div>・ヘルスプロモーション</div><div>・予防</div><div>・教育保健</div><div>・科学的認識</div></div>		<div>評価方法</div> <div><div>(1) 授業への姿勢</div><div>50%</div><div>(2) 到達度評価のまとめ</div><div>50%</div></div>	
		<div>教科書</div> <div>授業の中で説明</div>	
		<div>参考書</div>	

単位： 2 コード： W3130108

01. 児童を研究することの意味
02. 研究関心の模索
03. 問題の所在の確認
04. 研究テーマに対する研究方法論の種類と方法
05. 研究テーマに対する先行研究
06. 研究テーマに対する先行研究の分析
07. 研究テーマに対する基礎文献
08. 基礎文献の検討
09. 先行研究の調査①保育制度史
10. 先行研究の調査②保育実践史
11. 先行研究の調査③今日の保育実践分析
12. 資料検討と課題報告
13. 資料検討と課題分析
14. 研究計画の立案と検討
15. 総括

参考書

児童福祉研究演習Ⅰ			
担当教員： 中谷 茂一			
学期： 週間授 科目：		必修・選択：	
学部教育の関連目		授業計画	
カリキュラム上の位置付け		01. オリエンテーション	
		02. テーマ設定と論文作成について	
(1) 内容		03. 研究計画作成	
		04. 論文章立て作成	
		05. 個別論文指導	
		06. 個別論文指導	
		07. 個別論文指導	
		08. 個別論文指導	
		09. 個別論文指導	
		10. 個別論文指導	
		11. 個別論文指導	
		12. 個別論文指導	
		13. 個別論文指導	
		14. 個別論文指導	
		15. 個別論文指導	
(2) 学びの意義と目標		準備学習(予習)	
修士論文について、子どもや家庭に関連するテーマで研究を予定している学生を対象としている。自らの研究テーマに沿ってレポートを発表してもらい、それを素材として学生及び教員でディスカッションをしながら研究視点、方法の検討と考察を深めていく。問題意識の整理からスタートして、先行研究の知見の把握・理解を深め、科学的な思考、検証方法を修得し、論文作成につなげる主体的な研究方法を身につけることを目標とする。		自分の研究テーマに関する文献の検索およびレビューを継続的に取り組む。	
		準備学習(復習)	
		本演習時に受けたアドバイスを次回に反映させる。	
		評価方法	
		(1) 平常点	20
		(2) 修士論文	80
受講者に対する要望			
児童福祉特論を受講済みであることが望ましいが、1年次の途中からのテーマの変更などの場合、平行履修も可とする。			
学びのキーワード		教科書	
・ 修士論文 ・ 子ども家庭福祉			
		参考書	

児童教育学研究演習Ⅰ

担当教員：佐藤 千瀬

学期：週間授 科目：

必修・選択：

単位：2 コード：W3200510

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本演習は、児童教育学の中でも「異文化間教育」に関するテーマで修士論文を書く院生を対象にした演習である。「異文化間教育」とは、2つ以上の文化の狭間で生活する人を対象にして、その人間形成や発達について、他者との関係性を通して把握することと同時に、人間形成や発達をどのように組織していくかを検討していくことである。

(2) 学びの意義と目標

本演習では、各自の研究テーマに関する先行研究の整理、研究目的の設定、異文化間教育の研究手法、研究計画の立て方について、実践演習を通して学ぶことを目標とする。

受講者に対する要望

先行研究の収集等、計画的に取り組むこと。

学びのキーワード

- ・ 修士論文
- ・ 先行研究
- ・ 研究方法
- ・ 児童教育学
- ・ 異文化間教育

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究テーマ
03. 先行研究の検索・収集
04. 先行研究の検討
05. 先行研究の検討
06. 先行研究の整理
07. 研究目的の設定
08. 研究方法
09. 研究方法
10. 研究方法
11. 研究計画
12. 研究計画
13. 論文の作成
14. 論文の作成
15. 総括

準備学習(予習)

授業で指示された文献や配布資料を必ず読むこと。
課題の準備を計画的に行うこと。

準備学習(復習)

授業で指摘された箇所について、必ず修正し提出すること。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 課題 | 70% |

教科書

参考書

臨床死生学・グリーフケア研究演習Ⅰ / 臨床死生学研究演習

担当教員： 藤掛 明

学期： 週間授 科目：

必修・選択：

単位： 2 コード： W3300110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 内容

本演習では、修士論文を作成する学生に対して研究指導を行う。研究テーマは、生と死の危機に直面し、苦しんでいる人々を対象としたもので、その心理的問題を臨床心理学的手法により解明することを目指す。主に数量的リサーチおよび事例研究を想定している。

(2) 学びの意義と目標

人生の危機にある人の心理的側面を臨床心理学的な手法により明らかにすることを学ぶ。また、そのことを通して人間理解や対人援助の新しい視点を獲得する。

受講者に対する要望

受講者としての要望をその都度申し出て欲しい。修士論文の構想に向けて、柔軟に対応する。

学びのキーワード

- ・ 臨床心理学
- ・ 統計論文
- ・ 事例研究論文

授業計画

01. 研究方法の学習①
02. 研究方法の学習②
03. 事例研究（面接過程の分析）によるアプローチの実際①
04. 事例研究（面接過程の分析）によるアプローチの実際②
05. 統計によるアプローチの実際①
06. 統計によるアプローチの実際②
07. KJ法によるアプローチの実際①
08. 受講生による研究のテーマ報告と討議①
09. 受講生による研究のテーマ報告と討議②
10. 受講生による先行研究論文の紹介①
11. 受講生による先行研究論文の紹介②
12. 研究を発表する方法
13. 受講生による研究の中間報告と討議①
14. 受講生による研究の中間報告と討議②
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、個別に指定する課題を次回までに達成することが期待される。多くは関係論文の抄読を指定する予定である。

準備学習(復習)

毎回の指導内容を振り返り、自らの周囲論文作成に生かすこと。

評価方法

(1) 平常点

100%

教科書

毎回、関連する資料等を配布する。

参考書

単位：4 コード：W4200410

参考書



2016 年度シラバス 聖学院大学

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎 1 番 1 号

TEL 048-780-1801 (教務課)